(19)日本国特許庁(JP)

(12)特許公報(B2)

(11)特許番号
特許第7034554号
(P7034554)

(45)発行日　令和4年3月14日(2022.3.14)

(24)登録日　令和4年3月4日(2022.3.4)

(51)国際特許分類
Ａ６３Ｆ　7/02　(2006.01)

ＦＩ
Ａ６３Ｆ　7/02　３３４
Ａ６３Ｆ　7/02　３０４Ｄ

請求項の数　1　（全832頁）

(21)出願番号　特願2018-202550(P2018-202550)
(22)出願日　平成30年10月29日(2018.10.29)
(65)公開番号　特開2020-68835(P2020-68835A)
(43)公開日　令和2年5月7日(2020.5.7)
審査請求日　令和2年12月22日(2020.12.22)

(73)特許権者　000148922
株式会社大一商会
愛知県北名古屋市沖村西ノ川１番地
(72)発明者　市原　高明
愛知県北名古屋市沖村西ノ川１番地　株式会社大一商会内
(72)発明者　坂根　渉
愛知県北名古屋市沖村西ノ川１番地　株式会社大一商会内
審査官　永田　美佐

最終頁に続く

(54)【発明の名称】　遊技機

(57)【特許請求の範囲】
【請求項１】
所定の始動条件が成立することに基づいて図柄の変動表示を行い、該図柄の変動表示の結果に基づいて遊技者に利益を付与する遊技機において、
所定の遊技領域が形成される遊技盤と、
前記遊技盤に設けられ、遊技機前方側から視認可能な所定の装飾部を発光装飾する発光部と、
前記発光部とは別の別発光部と、
遊技機の状態を検出する状態検出部と、
前記発光部の発光態様および前記別発光部の発光態様を制御する発光制御手段と、
所定の光量調整操作に基づいて、光量を調整可能な光量調整手段と、
遊技機の後方に膨出する後方膨出部に設けられる透光部と、を備え、
前記透光部は、前記発光部が発光しているときに、該発光部から発せられる光を透光するように設けられており、
前記発光部は、通常の状態であるときには前記光量調整操作に基づく光量の変化が可能であるが、前記状態検出部の検出結果に基づき遊技機の状態が異常状態と判断されると、前記光量調整操作に基づく光量の変化が不能になり、
前記別発光部は、前記状態検出部の検出結果に基づき遊技機の状態が異常状態と判断されるか否かにかかわらず前記光量調整操作に基づく光量の変化が不能であり、
前記発光制御手段は、前記状態検出部の検出結果に基づき遊技機の状態が異常状態と判断

された場合に、前記発光部の発光態様を変更するものであって、
前記発光部から発せられる光を前記別発光部から発せられる光よりも前記透光部から透光しやすくなるようにしたものであり、
さらに、前記発光部が実装される発光基板を具備し、
前記透光部から透光する光を発する前記発光基板の基板面には、光反射効率を高めうる白色の塗膜が設けられる
ことを特徴とする遊技機。
【発明の詳細な説明】
【技術分野】
【０００１】
本発明は、遊技機に関するものである。
【背景技術】
【０００２】
従来の遊技機は、遊技ホールに設けられる島設備に設置されるのが一般であり、具体的には、島設備の片面側に複数の遊技機が列を成して並ぶように設置されたり、島設備の両面側に複数の遊技機が列を成して並ぶように設置されることが知られている（例えば、特許文献１参照）。
【先行技術文献】
【特許文献】
【０００３】
【文献】特開２０１４－１４７５４５号公報
【発明の概要】
【発明が解決しようとする課題】
【０００４】
しかしながら、従来の遊技機は、その裏面側に十分な工夫が施されておらず、島設備に設置される遊技機の事情が何ら考慮されていなかった。
【０００５】
本発明は、このような事情に鑑みてなされたものであり、その目的とするところは、裏面側を新たな態様にした遊技機を提供することにある。
【課題を解決するための手段】
【０００６】
上述の目的を達成するための有効な解決手段を以下に示す。なお、必要に応じてその作用等の説明を行う。また、理解の容易のため、発明の実施の形態において対応する構成等についても適宜示すが、何ら限定されるものではない。
【０００７】
本発明は、
所定の始動条件が成立することに基づいて図柄の変動表示を行い、該図柄の変動表示の結果に基づいて遊技者に利益を付与する遊技機において、
所定の遊技領域が形成される遊技盤と、
前記遊技盤に設けられ、遊技機前方側から視認可能な所定の装飾部を発光装飾する発光部と、
前記発光部とは別の別発光部と、
遊技機の状態を検出する状態検出部と、
前記発光部の発光態様および前記別発光部の発光態様を制御する発光制御手段と、
所定の光量調整操作に基づいて、光量を調整可能な光量調整手段と、
遊技機の後方に膨出する後方膨出部に設けられる透光部と、を備え、
前記透光部は、前記発光部が発光しているときに、該発光部から発せられる光を透光するように設けられており、
前記発光部は、通常の状態であるときには前記光量調整操作に基づく光量の変化が可能であるが、前記状態検出部の検出結果に基づき遊技機の状態が異常状態と判断されると、前

記光量調整操作に基づく光量の変化が不能になり、
前記別発光部は、前記状態検出部の検出結果に基づき遊技機の状態が異常状態と判断されるか否かにかかわらず前記光量調整操作に基づく光量の変化が不能であり、
前記発光制御手段は、前記状態検出部の検出結果に基づき遊技機の状態が異常状態と判断された場合に、前記発光部の発光態様を変更するものであって、
前記発光部から発せられる光を前記別発光部から発せられる光よりも前記透光部から透光しやすくなるようにしたものであり、
さらに、前記発光部が実装される発光基板を具備し、
前記透光部から透光する光を発する前記発光基板の基板面には、光反射効率を高めうる白色の塗膜が設けられる
ことを特徴とする。
【発明の効果】
【０００８】
本発明によれば、裏面側を新たな態様にした遊技機を提供することができる。
【図面の簡単な説明】
【０００９】
【図１】本発明の一実施形態であるパチンコ機の正面図である。
【図２】パチンコ機の右側面図である。
【図３】パチンコ機の左側面図である。
【図４】パチンコ機の背面図である。
【図５】パチンコ機を右前から見た斜視図である。
【図６】パチンコ機を左前から見た斜視図である。
【図７】パチンコ機を後ろから見た斜視図である。
【図８】演出操作ユニットの押圧操作部が上昇位置の時のパチンコ機の正面図である。
【図９】演出操作ユニットの押圧操作部が上昇位置の時のパチンコ機を右前から見た斜視図である。
【図１０】本体枠から扉枠を開放させると共に、外枠から本体枠を開放させた状態で前から見たパチンコ機の斜視図である。
【図１１】パチンコ機を扉枠、遊技盤、本体枠、及び外枠に分解して前から見た分解斜視図である。
【図１２】パチンコ機を扉枠、遊技盤、本体枠、及び外枠に分解して後ろから見た分解斜視図である。
【図１３】パチンコ機における外枠の正面図である。
【図１４】外枠の背面図である。
【図１５】外枠の右側面図である。
【図１６】外枠を前から見た斜視図である。
【図１７】外枠を後ろから見た斜視図である。
【図１８】外枠を主な部材毎に分解して前から見た分解斜視図である。
【図１９】外枠の外枠左組立体及び外枠右組立体を夫々分解して前から見た分解斜視図である。
【図２０】外枠の外枠下組立体を分解して前から見た分解斜視図である。
【図２１】（ａ）は外枠の外枠上ヒンジ組立体を分解して前上から見た分解斜視図であり、（ｂ）は（ａ）を前下から見た分解斜視図である。
【図２２】パチンコ機における扉枠の正面図である。
【図２３】扉枠の背面図である。
【図２４】扉枠の左側面図である。
【図２５】扉枠の右側面図である。
【図２６】扉枠を右前から見た斜視図である。
【図２７】扉枠を左前から見た斜視図である。
【図２８】扉枠を後ろから見た斜視図である。

【図２９】扉枠を主な部材毎に分解して前から見た分解斜視図である。
【図３０】扉枠を主な部材毎に分解して後ろから見た分解斜視図である。
【図３１】（ａ）は扉枠の扉枠ベースユニットを前から見た斜視図であり、（ｂ）は扉枠ベースユニットを後ろから見た斜視図である。
【図３２】扉枠ベースユニットを主な部材毎に分解して前から見た分解斜視図である。
【図３３】扉枠ベースユニットを主な部材毎に分解して後ろから見た分解斜視図である。
【図３４】（ａ）は扉枠ベースユニットの球送給ユニットを前から見た斜視図であり、（ｂ）は球送給ユニットを後ろから見た斜視図である。
【図３５】（ａ）は球送給ユニットを分解して前から見た分解斜視図であり、（ｂ）は球送給ユニットの後ケースと不正防止部材を外して後から見た分解斜視図である。
【図３６】（ａ）は扉枠ベースユニットのファールカバーユニットを前から見た斜視図であり、（ｂ）はファールカバーユニットを後ろから見た斜視図である。
【図３７】蓋部材を外した状態のファールカバーユニットの正面図である。
【図３８】（ａ）は扉枠におけるハンドルユニットを分解して前から見た分解斜視図であり、（ｂ）はハンドルユニットを分解して後ろから見た分解斜視図である。
【図３９】扉枠の皿ユニットを見た斜視図である。
【図４０】皿ユニットを後ろから見た斜視図である。
【図４１】皿ユニットを主な部材毎に分解して前から見た分解斜視図である。
【図４２】皿ユニットを主な部材毎に分解して後ろから見た分解斜視図である。
【図４３】皿ユニットにおける皿ベースユニットを前から見た斜視図である。
【図４４】皿ユニットにおける皿ベースユニットを後ろから見た斜視図である。
【図４５】皿ベースユニットを主な部材毎に分解して前から見た分解斜視図である。
【図４６】皿ベースユニットを主な部材毎に分解して後ろから見た分解斜視図である。
【図４７】皿ユニットにおける皿装飾ユニットを前から見た斜視図である。
【図４８】皿装飾ユニットを後ろから見た斜視図である。
【図４９】皿装飾ユニットを主な部材毎に分解して前から見た分解斜視図である。
【図５０】皿装飾ユニットを主な部材毎に分解して後ろから見た分解斜視図である。
【図５１】皿ユニットにおける演出操作ユニットを演出操作部ボタンユニットの進退方向から見た平面図である。
【図５２】（ａ）は演出操作ユニットを前から見た斜視図であり、（ｂ）は演出操作ユニットを後ろから見た斜視図である。
【図５３】演出操作ユニットを主な部材毎に分解して前から見た分解斜視図である。
【図５４】演出操作ユニットを主な部材毎に分解して後ろから見た分解斜視図である。
【図５５】（ａ）は演出操作ユニットの演出操作リングを上前から見た斜視図であり、（ｂ）は演出操作リングを下前から見た斜視図である。
【図５６】（ａ）は演出操作リングを分解して上前から見た分解斜視図であり、（ｂ）は演出操作リングを分解して下前から見た分解斜視図である。
【図５７】（ａ）は演出操作ユニットの回転駆動ユニットを前から見た斜視図であり、（ｂ）は回転駆動ユニットを後ろから見た斜視図である。
【図５８】回転駆動ユニットを分解して右前から見た分解斜視図である。
【図５９】回転駆動ユニットを分解して左前から見た分解斜視図である。
【図６０】演出操作ユニットの演出操作ボタンユニットを分解して前上から見た分解斜視図である。
【図６１】演出操作ボタンユニットを分解して前下から見た分解斜視図である。
【図６２】（ａ）は押圧操作部が下降位置の時の演出操作ボタンユニットの断面図であり、（ｂ）押圧操作部が上昇位置の時の演出操作ボタンユニットの断面図である。
【図６３】演出操作ユニットの左側面図において演出操作リングと回転駆動ユニットとの関係を示す説明図である。
【図６４】演出操作ユニットを押圧操作部の押圧方向から見た平面図において演出操作リングと演出操作リング装飾基板との関係を示す説明図である。

【図６５】（ａ）は通常の状態で示す皿ユニットの正面図であり、（ｂ）は押圧操作部が上昇位置の時の皿ユニットの正面図であり、（ｃ）は押圧操作部の中央押圧操作部を押圧した時の皿ユニットの正面図である。
【図６６】（ａ）は扉枠の扉枠左サイドユニットを前から見た斜視図であり、（ｂ）は扉枠左サイドユニットを後ろから見た斜視図である。
【図６７】扉枠左サイドユニットを分解して前から見た分解斜視図である。
【図６８】扉枠左サイドユニットを分解して後ろから見た分解斜視図である。
【図６９】（ａ）は扉枠の扉枠右サイドユニットを前から見た斜視図であり、（ｂ）は扉枠右サイドユニットを後ろから見た斜視図である。
【図７０】扉枠右サイドユニットを分解して前から見た分解斜視図である。
【図７１】扉枠右サイドユニットを分解して後ろから見た分解斜視図である。
【図７２】（ａ）は扉枠における扉枠トップユニットを前から見た斜視図であり、（ｂ）は扉枠トップユニットを後ろから見た斜視図であり、（ｃ）はトップ下カバーを外した状態で示す扉枠トップユニットの底面図である。
【図７３】扉枠トップユニットを分解して前上から見た分解斜視図である。
【図７４】扉枠トップユニットを分解して前下から見た分解斜視図である。
【図７５】各装飾基板と共に示す扉枠の正面図である。
【図７６】パチンコ機における本体枠の正面図である。
【図７７】パチンコ機における本体枠の背面図である。
【図７８】本体枠を右前から見た斜視図である。
【図７９】本体枠を左前から見た斜視図である。
【図８０】本体枠を後ろから見た斜視図である。
【図８１】本体枠を主な部材毎に分解して前から見た分解斜視図である。
【図８２】本体枠を主な部材毎に分解して後ろから見た分解斜視図である。
【図８３】（ａ）は本体枠における正面左下隅を示す拡大斜視図であり、（ｂ）は本体枠に対して扉枠を開いた時の本体枠の正面左下隅を示す拡大斜視図である。
【図８４】（ａ）～（ｃ）は本体枠に対する扉枠の開閉時における本体枠の接続ケーブル案内部材の動作を示す説明図である。
【図８５】（ａ）は本体枠における球発射装置を前から見た斜視図であり、（ｂ）は球発射装置を後ろから見た斜視図である。
【図８６】（ａ）は本体枠の払出ベースユニットを前から見た斜視図であり、（ｂ）は払出ベースユニットを後ろから見た斜視図である。
【図８７】（ａ）は本体枠における払出ユニットを前から見た斜視図であり、（ｂ）は払出ユニットを後ろから見た斜視図である。
【図８８】（ａ）は払出ユニットを主な構成毎に分解して前から見た分解斜視図であり、（ｂ）は払出ユニットを主な構成毎に分解して後ろから見た分解斜視図である。
【図８９】払出ユニットの払出装置を払出羽根の前後方向中央で切断した背面断面図である。
【図９０】（ａ）は球抜可動片が開状態の時に払出装置を払出羽根の前後方向中央で切断した背面断面図であり、（ｂ）は（ａ）におけるＡ－Ａ線で切断した断面図である。
【図９１】扉枠のファールカバーユニットと下部満タン球経路ユニットとの関係を示す説明図である。
【図９２】本体枠における遊技球の流れを示す説明図である。
【図９３】（ａ）は本体枠の基板ユニットを前から見た斜視図であり、（ｂ）は基板ユニットを後ろから見た斜視図である。
【図９４】基板ユニットを後ろ下から見た斜視図である。
【図９５】基板ユニットを主な構成毎に分解して前から見た分解斜視図である。
【図９６】基板ユニットを主な構成毎に分解して後ろから見た分解斜視図である。
【図９７】左右方向中央で切断したパチンコ機の下部を示す拡大側面断面図である。
【図９８】（ａ）は本体枠の施錠ユニットを前から見た斜視図であり、（ｂ）は施錠ユニ

ットを後ろから見た斜視図である。
【図９９】（ａ）は本体枠の平面図であり、（ｂ）は（ａ）におけるＢ－Ｂ線で切断した断面図である。
【図１００】本体枠を後ろから見た斜視図において上部を拡大して示す拡大図である。
【図１０１】（ａ）は球タンクにタンクレール等を組立てた状態で前上から見た斜視図であり、（ｂ）は（ａ）を前下から見た斜視図である。
【図１０２】図１０１（ａ）を分解して前から見た分解斜視図である。
【図１０３】本体枠上部における球タンクから溢れた遊技球が流通する領域を示す説明図である。
【図１０４】本体枠上部における球タンクから溢れた遊技球の流れを示す説明図である。
【図１０５】本体枠上部における迂回通路への遊技球の流れを示す説明図である。
【図１０６】本体枠をヒンジ側の後ろから見た斜視図においてタンクレール付近を拡大して示す拡大図である。
【図１０７】パチンコ機において前構成部材、遊技パネル、及び表ユニット等を不透明にした遊技盤の正面図である。
【図１０８】図１０７の遊技盤を右前から見た斜視図である。
【図１０９】図１０７の遊技盤を左前から見た斜視図である。
【図１１０】遊技盤を後ろから見た斜視図である。
【図１１１】前構成部材、遊技パネル、及び表ユニット等を透明にした状態の遊技盤の正面図である。
【図１１２】遊技盤を主な部材毎に分解して前から見た分解斜視図である。
【図１１３】遊技盤を主な部材毎に分解して後ろから見た分解斜視図である。
【図１１４】図１０７におけるＣ－Ｃ線で切断した断面図である。
【図１１５】遊技パネルの面と平行に表ユニットを切断して遊技球が流通する遊技領域内と障害釘とを現した状態で示す遊技盤の正面図である。
【図１１６】（ａ）は遊技盤における前構成部材及び遊技パネルを前から見た斜視図であり、（ｂ）は前構成部材及び遊技パネルを後ろから見た斜視図である。
【図１１７】（ａ）は遊技盤における表ユニットを前から見た斜視図であり、（ｂ）は遊技盤における表ユニットを後ろから見た斜視図である。
【図１１８】（ａ）は表ユニットにおける始動口ユニットとサイドユニットを前から見た斜視図であり、（ｂ）は表ユニットにおける始動口ユニットとサイドユニットを後ろから見た斜視図であり、（ｃ）は始動口ユニットの左側面図であり（ｄ）はサイドユニットの左側面図である。
【図１１９】一般入賞口の前面の傾斜と、開状態の時の可変入賞口の扉部材の傾斜とを比較した説明図である。
【図１２０】遊技盤における始動口ユニット及びサイドユニットの部位を示す拡大正面図である。
【図１２１】（ａ）は表ユニットにおける第一アタッカユニットを前から見た斜視図であり、（ｂ）は表ユニットにおける第一アタッカユニットを後ろから見た斜視図である。
【図１２２】第一アタッカユニットを分解して前から見た分解斜視図である。
【図１２３】第一アタッカユニットを分解して後ろから見た分解斜視図である。
【図１２４】第一アタッカユニットにおける第一大入賞口扉の動きを左側面から示す説明図である。
【図１２５】第一アタッカユニットにおける遊技球の通路を断面で示す説明図である。
【図１２６】（ａ）は表ユニットのセンター役物を前から見た斜視図であり、（ｂ）は表ユニットのセンター役物を後ろから見た斜視図である。
【図１２７】センター役物の正面図である。
【図１２８】（ａ）は表ユニットにおける第二アタッカユニット、サイド右中ユニット、及びゲート部材を前から見た斜視図であり、（ｂ）は表ユニットにおける第二アタッカユニット、サイド右中ユニット、及びゲート部材を後ろから見た斜視図である。

【図１２９】第二アタッカユニット及びサイド右中ユニットにおける遊技球の通路を断面で示す説明図である。
【図１３０】図１１５において遊技領域内の右部を拡大した説明図である。
【図１３１】遊技盤における裏ユニットを前から見た斜視図である。
【図１３２】遊技盤における裏ユニットを後ろから見た斜視図である。
【図１３３】裏ユニットを主な構成毎に分解して前から見た分解斜視図である。
【図１３４】裏ユニットを主な構成毎に分解して後ろから見た分解斜視図である。
【図１３５】扉枠を透明にした状態で遊技盤の左上隅を拡大して示すパチンコ機の正面図である。
【図１３６】（ａ）は裏ユニットにおける裏誘導ユニットを前から見た斜視図であり、（ｂ）は裏ユニットにおける裏誘導ユニットを後ろから見た斜視図である。
【図１３７】（ａ）は裏ユニットにおける裏後演出ユニットを前から見た斜視図であり、（ｂ）は裏ユニットにおける裏後演出ユニットを後ろから見た斜視図である。
【図１３８】裏後演出ユニットを分解して前から見た分解斜視図である。
【図１３９】裏後演出ユニットを分解して後ろから見た分解斜視図である。
【図１４０】裏後演出ユニットの可動構成を正面から示す説明図である。
【図１４１】裏後演出ユニットの動きを示す説明図である。
【図１４２】裏後可動装飾体を裏後装飾基板と共に示す正面図である。
【図１４３】（ａ）は図１４２におけるＤ－Ｄ線で切断した断面図であり、（ｂ）は図１４２におけるＥ－Ｅ線で切断した断面図である。
【図１４４】（ａ）は裏後可動装飾体を前から見た斜視図であり、（ｂ）は裏後可動装飾体を後ろから見た斜視図である。
【図１４５】裏後可動装飾体を分解して前から見た分解斜視図である。
【図１４６】裏後可動装飾体を分解して後ろから見た分解斜視図である。
【図１４７】裏後可動装飾体の一部を拡大して示す正面図である。
【図１４８】図１４７の正面図に導光放射板と裏後装飾基板とを破線で示す説明図である。
【図１４９】（ａ）は裏後可動装飾体における装飾体の一部を示す正面図であり、（ｂ）は（ａ）の装飾体と同じ部位における装飾シートの一部を示す正面図であり、（ｃ）は（ａ）の装飾体と同じ部位における導光放射板と裏後装飾基板の一部を示す正　面図である。
【図１５０】図１４３（ａ）の上部を拡大して示す拡大断面図である。
【図１５１】図１５０の断面図を分解して示す分解図である。
【図１５２】裏後可動装飾体の正面の一部を拡大して装飾体及び装飾シートによる装飾と導光放射板及び裏後装飾基板との関係を示す説明図である。
【図１５３】（ａ）は第一ＬＥＤの部位における導光放射板と裏後装飾基板との関係を断面で示す説明図であり、（ｂ）は第一ＬＥＤの光軸上に第二ＬＥＤが位置している部位における導光放射板の作用を正面から示す説明図であり、（ｃ）は装飾体及び装飾シートにおける第二装飾部に対する導光放射板のＬＥＤ収容部及び裏後装飾基板の第一ＬＥＤの配置例を正面から示す説明図である。
【図１５４】裏後装飾基板の一部を拡大して回路パターンの銅箔と共に示す正面図である。
【図１５５】（ａ）は裏後装飾基板の正面図であり、（ｂ）は裏後装飾基板の背面図である。
【図１５６】（ａ）は裏後可動装飾体における装飾体の一部を示す拡大断面図であり、（ｂ）は（ａ）とは異なる形態の金属装飾部を有した装飾体の一部を示す拡大断面図であり、（ｃ）は（ａ）及び（ｂ）とは更に異なる形態の金属装飾部を有した装飾体の一部を示す拡大断面図である。
【図１５７】（ａ）は図１４２の裏後可動装飾体とは異なる第二実施形態の裏後可動装飾体の構成を断面で示す説明図であり、（ｂ）は第三実施形態の裏後可動装飾体の構成を断面で示す説明図であり、（ｃ）は第四実施形態の裏後可動装飾体の構成を断面で示す説明図である。
【図１５８】（ａ）は裏ユニットにおける裏下左演出ユニット及び裏下右演出ユニットを

前から見た斜視図であり、（ｂ）は裏ユニットにおける裏下左演出ユニット及び裏下右演出ユニットを後ろから見た斜視図である。
【図１５９】裏下左演出ユニット及び裏下右演出ユニットを分解して前から見た分解斜視図である。
【図１６０】裏下左演出ユニット及び裏下右演出ユニットを分解して後ろから見た分解斜視図である。
【図１６１】裏下左演出ユニット及び裏下右演出ユニットの可動構成を正面から示す説明図である。
【図１６２】（ａ）は裏ユニットにおける裏下中演出ユニットを前から見た斜視図であり、（ｂ）は裏ユニットにおける裏下中演出ユニットを後ろから見た斜視図である。
【図１６３】裏下中演出ユニットの裏下中昇降機構を分解して前から見た分解斜視図である。
【図１６４】裏下中演出ユニットの裏下中昇降機構を分解して前から見た分解斜視図である。
【図１６５】裏下中演出ユニットの裏下中装飾体ユニットを分解して前から見た分解斜視図である。
【図１６６】裏下中演出ユニットの裏下中装飾体ユニットを分解して後ろから見た分解斜視図である。
【図１６７】裏下中演出ユニットにおける裏下中昇降機構による裏下中装飾体ユニットの昇降を示す説明図である。
【図１６８】（ａ）は裏下中演出ユニットにおける裏下中装飾体ユニットの裏下中回転装飾体の回転にかかる構成を正面から示す説明図であり、（ｂ）は裏下中回転装飾体の停止位置と各検知センサとの関係を表で示す説明図である。
【図１６９】裏下中演出ユニットにおける裏下中装飾体ユニットのＬＥＤの配置を正面から示す説明図である。
【図１７０】（ａ）は裏ユニットにおける裏上演出ユニットを前から見た斜視図であり、（ｂ）は裏ユニットにおける裏上演出ユニットを後ろから見た斜視図である。
【図１７１】裏上演出ユニットを主な部材毎に分解して前から見た分解斜視図である。
【図１７２】裏上演出ユニットを主な部材毎に分解して後ろから見た分解斜視図である。
【図１７３】裏上演出ユニットにおける裏上昇降装飾体ユニットを分解して前から見た分解斜視図である。
【図１７４】裏ユニットにおける裏上昇降装飾体ユニットを分解して後ろから見た分解斜視図である。
【図１７５】裏上演出ユニットにおける裏上前回転装飾体の回転機構を正面から示す説明図である。
【図１７６】（ａ）は裏上演出ユニットにおける裏上昇降装飾体ユニットの昇降機構を正面から示す説明図であり、（ｂ）は裏上昇降装飾体ユニットを出現位置へ移動させた状態で裏上昇降装飾体ユニットの昇降機構と裏上後回転装飾体の回転機構とを正面から示す説明図である。
【図１７７】裏上演出ユニットにおいて裏上昇降装飾体ユニットを出現位置へ移動させた状態で装飾基板を正面から示す説明図である。
【図１７８】（ａ）は裏ユニットにおける裏後左演出ユニットを前から見た斜視図であり、（ｂ）は裏ユニットにおける裏後左演出ユニットを後ろから見た斜視図である。
【図１７９】裏後左演出ユニットを主な部材毎に分解して前から見た分解斜視図である。
【図１８０】裏後左演出ユニットを主な部材毎に分解して後ろから見た分解斜視図である。
【図１８１】裏後左演出ユニットの裏後左装飾体ユニットを分解して前から見た分解斜視図である。
【図１８２】裏後左演出ユニットの裏後左装飾体ユニットを分解して後ろから見た分解斜視図である。
【図１８３】裏後左演出ユニットの可動機構を正面から示す説明図である。

【図１８４】裏後左演出ユニットにおける裏後左装飾体ユニットの動きを示す説明図である。
【図１８５】（ａ）は裏ユニットにおける裏後右演出ユニットを前から見た斜視図であり、（ｂ）は裏ユニットにおける裏後右演出ユニットを後ろから見た斜視図である。
【図１８６】裏後右演出ユニットを主な部材毎に分解して前から見た分解斜視図である。
【図１８７】裏後右演出ユニットを主な部材毎に分解して後ろから見た分解斜視図である。
【図１８８】裏後右演出ユニットの裏後右装飾体ユニットを分解して前から見た分解斜視図である。
【図１８９】裏後右演出ユニットの裏後右装飾体ユニットを分解して後ろから見た分解斜視図である。
【図１９０】裏後右演出ユニットの可動機構を正面から示す説明図である。
【図１９１】裏後右演出ユニットにおける裏後右装飾体ユニットの動きを示す説明図である。
【図１９２】（ａ）は裏ユニットにおける裏前左演出ユニットを前から見た斜視図であり、（ｂ）は裏ユニットにおける裏前左演出ユニットを後ろから見た斜視図である。
【図１９３】裏前左演出ユニットにおける一つの裏前左装飾体ユニットを分解して前から見た分解斜視図である。
【図１９４】裏前左演出ユニットにおける一つの裏前左装飾体ユニットを分解して後ろから見た分解斜視図である。
【図１９５】（ａ）は裏前左演出ユニットにおいてシャッター群を閉状態で示す正面図であり、（ｂ）は裏前左演出ユニットにおいてシャッター群を開状態で示す正面図である。
【図１９６】（ａ）は裏ユニットにおける裏前右演出ユニットを前から見た斜視図であり、（ｂ）は裏ユニットにおける裏前右演出ユニットを後ろから見た斜視図である。
【図１９７】裏前右演出ユニットにおける一つの裏前右装飾体ユニットを分解して前から見た分解斜視図である。
【図１９８】裏前右演出ユニットにおける一つの裏前右装飾体ユニットを分解して後ろから見た分解斜視図である。
【図１９９】（ａ）は裏前右演出ユニットにおいてシャッター群を閉状態で示す正面図であり、（ｂ）は裏前右演出ユニットにおいてシャッター群を開状態で示す正面図である。
【図２００】裏後演出ユニットの裏後可動装飾体を退避位置から出現位置へ移動させた状態で示す遊技盤の正面図である。
【図２０１】裏下中演出ユニットの裏下中回転装飾体を下降位置から上昇位置へ移動させた状態で示す遊技盤の正面図である。
【図２０２】裏上後演出ユニットの裏上後回転装飾体を退避位置から出現位置へ、裏後左演出ユニットの裏後左回転装飾体を退避位置から第一出現位置へ、及び裏後右演出ユニットの裏後右回転装飾体を退避位置から第一出現位置へ、夫々移動された状態で示す遊技盤の正面図である。
【図２０３】裏後左演出ユニットの裏後左回転装飾体を退避位置から第二出現位置へ、及び裏後右演出ユニットの裏後右回転装飾体を退避位置から第二出現位置へ、夫々移動された状態で示す遊技盤の正面図である。
【図２０４】裏前左演出ユニットのシャッターユニットと、裏前右演出ユニットのシャッターユニットと、を夫々閉状態から開状態にして示す遊技盤の正面図である。
【図２０５】裏後演出ユニットの裏後可動装飾体を退避位置から出現位置へ、裏上後演出ユニットの裏上後回転装飾体を退避位置から出現位置へ、裏後左演出ユニットの裏後左回転装飾体を退避位置から第一出現位置へ、裏後右演出ユニットの裏後右回転装飾体を退避位置から第一出現位置へ、及び裏下中演出ユニットの裏下中回転装飾体を下降位置から上昇位置へ、夫々移動された状態で示す遊技盤の正面図である。
【図２０６】パチンコ機の制御構成を概略で示すブロック図である。
【図２０７】自立補助部材と共に示すパチンコ機の右側面図である。
【図２０８】本体枠に設けられる中継基板に実装されるドロワコネクタの正面斜視図（ａ

）であり、後面斜視図（ｂ）である。
【図２０９】本体枠側ドロワコネクタ（凹タイプ）の各端子の半田ブリッジを防止する図（ａ）～（ｃ）であり、本体枠側ドロワコネクタ（凹タイプ）と電気的に接続されるＤＩＰタイプの小型コネクタの各端子の半田ブリッジを防止する図（ｄ）～（ｆ）である。
【図２１０】図２０９（ｃ）の変形例を示す図（ａ）であり、図２０９（ｆ）の変形例を示す図（ｂ）である。
【図２１１】最終段の端子と半田逃げパターンとを所定距離だけ離間して形成する変形例を示す図である。
【図２１２】本体枠側ドロワコネクタ（凹タイプ）の各端子に施されるオーバーレジストの概略図（ａ）であり、（ａ）におけるＸ－Ｘ線の断面の概略図（ｂ）である。
【図２１３】表面実装タイプのコネクタが実装される基板の表面（実装面）側の銅箔面の概略図（ａ）であり、基板の表面（実装面）の概略図（ｂ）である。
【図２１４】図２１３の続きであり、図２１３（ｂ）のＡ部の拡大図であって表面実装タイプのコネクタの筐体固定ランドに施されるオーバーレジストの概略図（ｃ）であり、（ｃ）におけるＹ－Ｙ線の断面の概略図（ｄ）である。
【図２１５】変形例における表面実装タイプのコネクタが実装される基板の表面（実装面）側の銅箔面の概略図（ａ）であり、基板の表面（実装面）の概略図（ｂ）である。
【図２１６】図２１５の続きであり、図２１５（ｂ）のＢ部の拡大図であって表面実装タイプのコネクタの筐体固定ランドに施されるオーバーレジストの概略図（ｃ）であり、（ｃ）におけるＺ－Ｚ線の断面の概略図（ｄ）である。
【図２１７】周辺制御ユニットの正面分解斜視図である。
【図２１８】周辺制御ユニットの背面分解斜視図である。
【図２１９】周辺制御ユニットの正面図である。
【図２２０】ベース体に形成される断線防止リブ部の正面が周辺制御基板の裏面（ハンダ面）と当接した部分におけるベタグランドの形状を示す図であり、周辺制御基板の裏面（ハンダ面）の銅箔面の概略図（ａ）であり、周辺制御基板の裏面（ハンダ面）の概略図（ｂ）である。
【図２２１】周辺制御基板を半田槽へ流す場合にけるランドに対するレジストの形状を示す図である。
【図２２２】第２実施形態に係る周辺制御ユニットの正面分解斜視図である。
【図２２３】第２実施形態に係る周辺制御ユニットの背面分解斜視図である。
【図２２４】第２実施形態に係る周辺制御ユニットの正面図である。
【図２２５】第２実施形態に係る図２２４のＸ－Ｘ線の断面図である。
【図２２６】第２実施形態に係る図２２４のＡ矢視図である。
【図２２７】第３実施形態に係る周辺制御ユニットの正面分解斜視図である。
【図２２８】第３実施形態に係る周辺制御ユニットの背面分解斜視図である。
【図２２９】第３実施形態に係る図２２４のＡ矢視図である。
【図２３０】第３実施形態に係る周辺制御基板の裏面（ハンダ面）側のグランド（ＧＮＤ）と導電性弾性部材との接触を良好とする周辺制御基板の裏面（ハンダ面）側のグランド（ＧＮＤ）の取り出し方法を示す図であり、周辺制御基板の裏面（ハンダ面）の銅箔面の概略図（剥き出し例（ａ））、周辺制御基板の裏面（ハンダ面）の概略図（剥き出し例（ｂ））、周辺制御基板の裏面（ハンダ面）の銅箔面の概略図（ランドを有するスルーホールの複数配置した例（ｃ））、周辺制御基板の裏面（ハンダ面）の概略図（ランドを有するスルーホールの複数配置した例（ｄ））である。
【図２３１】第４実施形態に係る周辺制御ユニットの正面分解斜視図である。
【図２３２】第４実施形態に係る周辺制御ユニットの背面分解斜視図である。
【図２３３】第４実施形態に係る周辺制御基板等の取付手順を示す図である。
【図２３４】第４実施形態に係る周辺制御基板等の表面（実装面）側の貫通孔の周囲に形成されるランドを示す図（ａ）、箔抜き領域を示す図（ｂ）である。
【図２３５】第４実施形態に係る周辺制御基板等の裏面（ハンダ面）側の貫通孔の周囲に

形成されるランドを示す図（ａ）、ランド及びネジ止め指定記号を示す図（ｂ）、箔抜き領域を示す図（ｃ）である。
【図２３６】第５実施形態に係る周辺制御ユニットの正面分解斜視図である。
【図２３７】第５実施形態に係る周辺制御ユニットの背面分解斜視図である。
【図２３８】第５実施形態に係る周辺制御ユニットの背面斜視図の一部を示す図（ａ）、導電性弾性部材が挿入された状態が分かるように周辺制御ユニットを構成するベース体の一部を同図（ａ）におけるＣＬ線で切り取った周辺制御ユニットの背面斜視図の一部を示す図（ｂ）である。
【図２３９】図２３８の続きであって導電性弾性部材が演出表示装置１６００の金属製裏蓋に押し当てられて変形した状態が分かるように周辺制御ユニットの一部を切り取った周辺制御ユニットの背面斜視図の一部を示す図（ｃ）である。
【図２４０】第５実施形態に係るコンタクトプローブの先端部を挿入して接触させることができる開口部を有する周辺制御ユニットを構成するカバー体の正面部分拡大図である。
【図２４１】第５実施形態に係る特定の基板の裏面（ハンダ面）側のグランド（ＧＮＤ）と導電性弾性部材との接触を良好とする特定の基板の裏面（ハンダ面）側のグランド（ＧＮＤ）の取り出し方法を示す図であり、特定の基板の裏面（ハンダ面）の銅箔面の概略図（剥き出し例（ａ））、特定の基板の裏面（ハンダ面）の概略図（剥き出し例（ｂ））、特定の基板の裏面（ハンダ面）の銅箔面の概略図（ランドを有するスルーホールの複数配置した例（ｃ））、特定の基板の裏面（ハンダ面）の概略図（ランドを有するスルーホールの複数配置した例（ｄ））である。
【図２４２】フレキシブルフラットケーブルの正面斜視図である。
【図２４３】フレキシブルフラットケーブルが演出表示装置の裏面側のコネクタと電気的に接続された状態を示す図（ａ）であり、フレキシブルフラットケーブルが液晶出力基板のコネクタと電気的に接続された状態を示す図（ｂ）であり、（ａ）に示したＢ部及び（ｂ）に示したＣ部の一部拡大図であってフレキシブルフラットケーブルが各コネクタと電気的に接続された状態を切り欠き部を通して示す図（ｃ）である。
【図２４４】フレキシブルフラットケーブルが演出表示装置の裏面側のコネクタと電気的に正常に接続されていない状態を示す図（ａ）であり、フレキシブルフラットケーブルが液晶出力基板のコネクタと電気的に正常に接続されていない状態を示す図（ｂ）である。
【図２４５】中継基板のコネクタの配置を示す図（ａ）であり、中継基板のコネクタに対して配線やハーネスのコネクタが正常に接続された状態を示す図（ｂ）であり、中継基板のコネクタに対して配線やハーネスのコネクタが正常に接続されていない状態を示す図（ｃ）である。
【図２４６】図２４５の変形例であり、中継基板のコネクタの配置と部位品配置線とを示す図（ａ）であり、中継基板のコネクタに対して配線やハーネスのコネクタが正常に接続された状態を示す図（ｂ）であり、中継基板のコネクタに対して配線やハーネスのコネクタが正常に接続されていない状態を示す図（ｃ）である。
【図２４７】配線溝を取り付ける領域を説明する遊技盤を後ろから見た部分斜視図（ａ）、第１実施形態に係る配線溝が遊技盤の裏面側に装着された状態を示す図（ｂ）である。
【図２４８】図２４７の続きであり、第２実施形態に係る配線溝が遊技盤の裏面側に装着された状態を示す図（ｃ）である。
【図２４９】第１実施形態に係る配線溝を遊技盤の裏面側に装着された状態であって遊技盤を後ろから見た場合における各種配線の状態を示す斜視図である。
【図２５０】第１実施形態に係る配線溝を遊技盤の裏面側に装着された状態であって遊技盤を前から見た場合における各種配線の状態を示す斜視図である。
【図２５１】第２実施形態に係る配線溝を遊技盤の裏面側に装着された状態であって遊技盤を後ろから見た場合における各種配線の状態を示す斜視図である。
【図２５２】第２実施形態に係る配線溝を遊技盤の裏面側に装着された状態であって遊技盤を前から見た場合における各種配線の状態を示す斜視図である。
【図２５３】発光演出ユニットを前から見た斜視図である。

【図２５４】発光演出ユニットを後ろから見た斜視図である。
【図２５５】発光演出ユニットを分解して前から見た分解斜視図である。
【図２５６】発光演出ユニットを分解して後ろから見た分解斜視図である。
【図２５７】ＬＥＤベアチップと導光板との配置関係を示す正面図である。
【図２５８】導光板の表面に配置された拡散シートを示す正面図である。
【図２５９】フレキシブルフラットケーブルがＬＥＤ基板のコネクタと電気的に接続された状態を示す図（ａ）であり、（ａ）に示したＺ部の拡大図であってフレキシブルフラットケーブルのＬＥＤ基板のコネクタへの差込が正常である状態を示す図（ｂ）であり、（ａ）に示したＺ部の拡大図であってフレキシブルフラットケーブルのＬＥＤ基板のコネクタへの差込が不足する正常でない状態を示す図（ｃ）である。
【図２６０】扉枠に備える各装飾基板の電気的な接続を説明するブロック図である。
【図２６１】ＬＥＤ定電流駆動回路を１つ備える装飾基板の一例を示すブロック図である。
【図２６２】ＬＥＤ定電流駆動回路を２つ備える装飾基板の一例を示すブロック図である。
【図２６３】ＬＥＤ定電流駆動回路の配置方法の概要図である。
【図２６４】図２６３のＤ部におけるＬＥＤ非実装面から見た拡大図である。
【図２６５】第２実施形態に係る反射率低下等の対策の構成である。
【図２６６】第３実施形態に係る反射率低下等の対策の構成である。
【図２６７】図２６５のＤ’部又は図２６６のＤ’’部又は図２７０のＤ’’部におけるＬＥＤ非実装面から見た拡大図である。
【図２６８】第４実施形態に係る反射率低下等の対策の構成である。
【図２６９】図２６８のＤ’’’部におけるＬＥＤ非実装面から見た拡大図である。
【図２７０】第５実施形態に係る反射率低下等の対策の構成である。
【図２７１】装飾基板の前面（表面）に実装される複数のＬＥＤとそれぞれ対応するＬＥＤを特定可能とある表面表示部の配置方法であって、集中配置の場合（その１）（ａ）、分散配置の場合（その１）（ｂ）、集中配置の場合（その２）（ｃ）、分散配置の場合（その２）（ｄ）をそれぞれ示す概略図である。
【図２７２】磁気センサを分解して前から見た分解斜視図である。
【図２７３】磁気センサを分解して後ろから見た分解斜視図である。
【図２７４】主制御側電源投入時処理の一例を示すフローチャートである。
【図２７５】図２７４の主制御側電源投入時処理のつづきを示すフローチャートである。
【図２７６】主制御側タイマ割り込み処理の一例を示すフローチャートである。
【図２７７】設定変更処理の一例を示すフローチャートである。
【図２７８】エラー表示処理の一例を示すフローチャートである。
【図２７９】設定値確認表示処理の一例を示すフローチャートである。
【図２８０】払出制御部電源投入時処理の一例を示すフローチャートである。
【図２８１】図２８０の払出制御部電源投入時処理のつづきを示すフローチャートである。
【図２８２】図２８１に続いて払出制御部電源投入時処理のつづきを示すフローチャートである。
【図２８３】払出制御部タイマ割り込み処理の一例を示すフローチャートである。
【図２８４】周辺制御部電源投入時処理の一例を示すフローチャートである。
【図２８５】周辺制御部Ｖブランク割り込み処理の一例を示すフローチャートである。
【図２８６】周辺制御部１ｍｓタイマ割り込み処理の一例を示すフローチャートである。
【図２８７】周辺制御部コマンド受信割り込み処理の一例を示すフローチャートである。
【図２８８】周辺制御部停電予告信号割り込み処理の一例を示すフローチャートである。
【図２８９】同実施の形態の主制御ＭＰＵによって実行される特別図柄及び特別電動役物制御処理についてその手順を示すフローチャートである。
【図２９０】同実施の形態の主制御ＭＰＵによって実行される第一始動口通過処理についてその手順を示すフローチャートである。
【図２９１】同実施の形態の主制御ＭＰＵによって実行される事前判定処理についてその手順を示すフローチャートである。

【図２９２】同実施の形態の主制御ＭＰＵによって実行される第二始動口通過処理についてその手順を示すフローチャートである。
【図２９３】同実施の形態の主制御ＭＰＵによって実行される第一特別図柄プロセス処理についてその手順を示すフローチャートである。
【図２９４】同実施の形態の主制御ＭＰＵによって実行される第一特別図柄通常処理についてその手順を示すフローチャートである。
【図２９５】同実施の形態の主制御ＭＰＵによって実行される当り判定処理についてその手順を示すフローチャートである。
【図２９６】（Ａ）は、大当りについての抽選処理に用いられる当り判定テーブルであり、（Ｂ）は、大当りの種類についての抽選処理に用いられる大当り図柄図柄決定テーブルであり、（Ｃ）は、小当りの種類についての抽選処理に用いられる小当り図柄図柄決定テーブルである。
【図２９７】同実施の形態の主制御ＭＰＵによって実行される第一特別図柄停止図柄設定処理についてその手順を示すフローチャートである。
【図２９８】同実施の形態の主制御ＭＰＵによって実行される第一変動パターン設定処理についてその手順を示すフローチャートである。
【図２９９】同実施の形態の主制御ＭＰＵによって実行される第一特別図柄変動処理についてその手順を示すフローチャートである。
【図３００】同実施の形態の主制御ＭＰＵによって実行される第一特別図柄停止処理についてその手順を示すフローチャートである。
【図３０１】同実施の形態の主制御ＭＰＵによって実行される大当り制御処理についてその手順を示すフローチャートである。
【図３０２】（Ａ）可動装飾体の駆動時における制御状態について示すタイムチャートであり、（Ｂ）変形例における可動装飾体の駆動時における制御状態について示すタイムチャートである。
【図３０３】可動装飾体の駆動時における制御状態について示すタイムチャートである。
【図３０４】可動装飾体を演出表示装置の前方に表出させる演出の一例を示す説明図である。
【図３０５】遊技者参加型演出時における制御状態について示すタイムチャートである。
【図３０６】パチンコ機を側方から見て待機位置にある発光装飾体からの光を模式的に示す側面図である。
【図３０７】パチンコ機を側方から見て出現位置にある発光装飾体からの光を模式的に示す側面図である。
【図３０８】複数の孔が設けられた裏後装飾基板を示す図である。
【図３０９】パチンコ機の裏面側における発光領域を示す正面図である。
【図３１０】遊技盤を左前から見た側面側における発光領域を示す斜視図である。
【図３１１】遊技盤を左後から見た側面側における発光領域を示す斜視図である。
【図３１２】演出表示装置の裏面側に設けられた開口を示す図である。
【図３１３】図９９（ａ）のＣ－Ｃ線で切断した断面の一部を示す拡大模式図である。
【図３１４】変形例における遊技盤の正面図である。
【図３１５】（Ａ）ドットマトリクス表示器の正面斜視図であり、（Ｂ）は（Ａ）におけるＡ－Ａ線で切断した断面図であり、（Ｃ）及び（Ｄ）は変形例における基板の正面図である。
【図３１６】ドットマトリクス表示器の制御状態について示すタイムチャートである。
【図３１７】ドットマトリクス表示器の表示内容の一例を示す説明図である。
【図３１８】音響装飾基板と、左右の貫通孔と、反射シートと、の位置関係を説明するための模式図である。
【図３１９】遊技島に設置されたパチンコ機から発せられる光を視認しうる位置を説明するための模式図である。
【図３２０】遊技盤における主制御ユニットの詳細図である。

【図３２１】ハンドルタッチセンサの検出時における信号経路を説明するための図である。
【図３２２】周辺制御部定常処理にて実行される発射許可時コマンド関連処理の一例を示すフローチャートである。
【図３２３】設定値の設定変更中におけるパチンコ機の挙動を示すタイムチャートである。
【図３２４】設定値の設定変更中におけるパチンコ機の挙動の変形例を示すタイムチャートである。
【図３２５】主制御側タイマ割り込み処理にて実行される球数計数処理の一例を示すフローチャートである。
【図３２６】周辺制御部定常処理にて実行される設定示唆演出関連処理の一例を示すフローチャートである。
【図３２７】通常の実行パターンの選択時における設定示唆演出の具体的な演出例である。
【図３２８】制限実行パターンＡ、Ｂの選択時における設定示唆演出の具体的な演出例である。
【図３２９】スロットマシンの概略斜視図である。
【発明を実施するための形態】
【００１０】
［１．パチンコ機の全体構造］
本発明の一実施形態であるパチンコ機１について、図面を参照して詳細に説明する。まず、図１乃至図１２を参照して本実施形態のパチンコ機１の全体構成について説明する。図１は本発明の一実施形態であるパチンコ機の正面図である。図２はパチンコ機の右側面図であり、図３はパチンコ機の左側面図であり、図４はパチンコ機の背面図である。図５はパチンコ機を右前から見た斜視図であり、図６はパチンコ機を左前から見た斜視図であり、図７はパチンコ機を後ろから見た斜視図である。図８は演出操作ユニットの押圧操作部が上昇位置の時のパチンコ機の正面図であり、図９は演出操作ユニットの押圧操作部が上昇位置の時のパチンコ機を右前から見た斜視図である。また、図１０は、本体枠から扉枠を開放させると共に、外枠から本体枠を開放させた状態で前から見たパチンコ機の斜視図である。図１１はパチンコ機を扉枠、遊技盤、本体枠、及び外枠に分解して前から見た分解斜視図であり、図１２はパチンコ機を扉枠、遊技盤、本体枠、及び外枠に分解して後ろから見た分解斜視図である。
【００１１】
本実施形態のパチンコ機１は、遊技ホールの島設備（図示しない）に設置される枠状の外枠２と、外枠２の前面を開閉可能に閉鎖する扉枠３と、扉枠３を開閉可能に支持していると共に外枠２に開閉可能に取付けられている本体枠４と、本体枠４に前側から着脱可能に取付けられると共に扉枠３を通して遊技者側から視認可能とされ遊技者によって遊技球Ｂ（図９０を参照）が打込まれる遊技領域５ａを有した遊技盤５と、を備えている。
【００１２】
外枠２は、正面視の形状が上下に延びた四角形の枠に形成されている。外枠２は、左右に離間しており上下に延びている外枠左組立体１０及び外枠右組立体２０と、外枠左組立体１０及び外枠右組立体２０の上端同士を連結している外枠上部材３０と、外枠左組立体１０及び外枠右組立体２０の下端同士を連結している外枠下組立体４０と、外枠上部材３０の上面左端に取付けられている外枠上ヒンジ組立体５０と、外枠左組立体１０の右側面下部と外枠下組立体４０の上面左端に取付けられている外枠下ヒンジ部材６０と、を備えている。
【００１３】
外枠２は、パチンコ機１が設置される遊技ホールの島設備に取付けられ、外枠上ヒンジ組立体５０と外枠下ヒンジ部材６０とによって、本体枠４の本体枠上ヒンジ部材５１０と本体枠下ヒンジ組立体５２０とを同軸上で回転可能に支持して、本体枠４を正面視左側を中心にして前方へ開閉可能に取付けるためのものである。
【００１４】
また、扉枠３は、本体枠４を閉じた時に、外枠下組立体４０が、本体枠４における基板ユ

ニット６２０のスピーカユニット６２０ａと協働して、本体枠スピーカ６２２のエンクロージャ６２４の一部を形成し、本体枠スピーカ６２２の後方へ出力されたサウンドを、位相反転させて前方へ放射することで、より重低音のサウンドを遊技者に聴かせることができるものである。

【００１５】

扉枠３は、遊技球Ｂが打込まれる遊技盤５の遊技領域５ａを前側から視認可能に閉鎖し、遊技領域５ａ内に打込むための遊技球Ｂを貯留すると共に、貯留している遊技球Ｂを遊技領域５ａ内へ打込むために遊技者が操作するハンドル１８２を備えているものである。また、扉枠３は、パチンコ機１の前面全体を装飾するものである。

【００１６】

また、扉枠３は、ハンドル１８２とは別に遊技者が操作可能な演出操作部３０１を備えており、遊技者参加型演出が実行された際に、遊技者が演出操作部３０１を操作することで遊技者が演出に参加できるようになり、遊技球Ｂによる遊技に加えて、演出操作部３０１の操作によっても遊技者を楽しませることができるようにしている。

【００１７】

本体枠４は、後部が外枠２の枠内に挿入可能とされると共に遊技盤５の外周を支持可能とされた枠状の本体枠ベースユニット５００と、本体枠４を外枠２に対して開閉可能に取付けると共に扉枠３を開閉可能に取付けるための本体枠上ヒンジ部材５１０及び本体枠下ヒンジ組立体５２０と、本体枠ベースユニット５００を補強している本体枠補強フレーム５３０と、遊技盤５の遊技領域５ａ内に遊技球Ｂを打込むための球発射装置５４０と、遊技ホールの島設備から供給される遊技球Ｂを受取る払出ベースユニット５５０と、払出ベースユニット５５０で受取った遊技球Ｂを遊技者側へ払出すための払出ユニット５６０と、電源基板６３０や払出制御基板６３３を有している基板ユニット６２０と、本体枠ベース５０１に取付けられた遊技盤５の後側を覆う裏カバー６４０と、外枠２と本体枠４、及び扉枠３と本体枠４の間を施錠する施錠ユニット６５０と、を備えている。

【００１８】

本体枠４は、遊技球Ｂを打込むことで遊技が行われる遊技領域５ａを有した遊技盤５を保持すると共に、遊技球Ｂを遊技者側へ払出したり、遊技に使用された遊技球Ｂをパチンコ機１の後方（遊技ホールの島設備側）へ排出したり、するためのものである。本体枠４は、前方が開放された箱状に形成されており、内部に前方から遊技盤５が着脱可能に収容される。また、本体枠４は、正面左辺側前端の上下において、遊技ホールの島設備に取付けられる枠状の外枠２に開閉可能に取付けられると共に、開放された前面側が閉鎖されるように扉枠３が開閉可能に取付けられる。

【００１９】

遊技盤５は、遊技者の操作によって遊技球Ｂが行われる遊技領域５ａと、遊技領域５ａの外周を区画し外形が正面視略四角形状とされた前構成部材１０００と、前構成部材１０００の後側に取付けられており遊技領域５ａの後端を区画する板状の遊技パネル１１００と、遊技パネル１１００の後側下部に取付けられている基板ホルダ１２００と、基板ホルダ１２００の後面に取付けられており主制御基板１３１０を有している主制御ユニット１３００と、主制御基板１３１０からの制御信号に基づいて遊技状況を表示する機能表示ユニット１４００と、遊技パネル１１００の後側に配置されている周辺制御ユニット１５００（図１２を参照）と、正面視において遊技領域５ａの中央に配置されており所定の演出画像を表示可能な演出表示装置１６００と、遊技パネル１１００の前面に取付けられる表ユニット２０００と、遊技パネル１１００の後面に取付けられる裏ユニット３０００と、を備えている。裏ユニット３０００には、遊技状態に応じて可動演出や発光演出を行うことが可能な各種の演出ユニットを備えている。

【００２０】

遊技盤５の遊技領域５ａ内には、遊技球Ｂと当接し所定のゲージ配列で植設されている金色を有する複数の障害釘Ｎ（本実施形態では、真ちゅうを使用している。）と、遊技球Ｂの受入れ又は通過により遊技者に対して所定の特典（例えば、所定数の遊技球Ｂの払出し

）を付与する一般入賞口２００１、第一始動口２００２、ゲート部２００３、第二始動口２００４、第一大入賞口２００５、及び第二大入賞口２００６と、を備えている。金色を有する障害釘Ｎは、遊技パネル１１００の前面に植設されている。一般入賞口２００１、第一始動口２００２、ゲート部２００３、第二始動口２００４、第一大入賞口２００５、及び第二大入賞口２００６は、表ユニット２０００に備えられている。

【００２１】

遊技盤５の遊技領域５ａ内には、遊技者がハンドルユニット１８０のハンドル１８２を操作することで、遊技球Ｂを打込むことができる。これにより、遊技球Ｂが、遊技領域５ａ内の一般入賞口２００１、第一始動口２００２、ゲート部２００３、第二始動口２００４、第一大入賞口２００５、及び第二大入賞口２００６等に、受入れられたり通過したりするように、遊技者に対してハンドル１８２の打込操作を楽しませることができる。

【００２２】

また、遊技盤５は、遊技領域５ａ内に遊技球Ｂを打込むことで変化する遊技状態に応じて、演出表示装置１６００に所定の演出画像を表示させたり、裏後演出ユニット３１００、裏下左演出ユニット３２００、裏下右演出ユニット３２５０、裏下中演出ユニット３３００、裏上演出ユニット３４００、裏後左演出ユニット３５００、裏後右演出ユニット３６００、裏前左演出ユニット３７００、裏前右演出ユニット３８００、等により発光演出や可動演出等を行わせたりして、遊技者を楽しませることができる。

【００２３】

［２．外枠の全体構成］

パチンコ機１の外枠２について、図１３乃至図１８を参照して説明する。図１３はパチンコ機における外枠の正面図であり、図１４は外枠の背面図であり、図１５は外枠の右側面図である。また、図１６は外枠を前から見た斜視図であり、図１７は外枠を後ろから見た斜視図である。図１８は、外枠を主な部材毎に分解して前から見た分解斜視図である。外枠２は、遊技ホール等のパチンコ機１が設置される島設備（図示は省略）に取付けられるものである。外枠２は、正面視の形状が上下に延びた四角形の枠に形成されている。

【００２４】

外枠２は、図示するように、左右に離間しており上下に延びている外枠左組立体１０及び外枠右組立体２０と、外枠左組立体１０及び外枠右組立体２０の上端同士を連結している外枠上部材３０と、外枠左組立体１０及び外枠右組立体２０の下端同士を連結している外枠下組立体４０と、外枠上部材３０の上面左端に取付けられている外枠上ヒンジ組立体５０と、外枠左組立体１０の右側面下部と外枠下組立体４０の上面左端に取付けられている外枠下ヒンジ部材６０と、を備えている。

【００２５】

外枠２は、本体枠４を閉じた時に、外枠下組立体４０が、本体枠４における基板ユニット６２０のスピーカユニット６２０ａと協働して、本体枠スピーカ６２２のエンクロージャ６２４の一部を形成していると共に、本体枠スピーカ６２２の後方へ出力されたサウンドを、位相反転させて前方へ放射することができるものである。

【００２６】

外枠２は、外枠上ヒンジ組立体５０が、本体枠４の本体枠上ヒンジ部材５１０を着脱可能に支持することができる。外枠２は、外枠上ヒンジ組立体５０と外枠下ヒンジ部材６０とによって、本体枠４の本体枠上ヒンジ部材５１０と本体枠下ヒンジ組立体５２０とを同軸上で回転可能に支持することができ、本体枠４を正面視左側を中心にして前方へ開閉可能に取付けることができる。

【００２７】

［２－１．外枠左組立体及び外枠右組立体］

外枠２の外枠左組立体１０及び外枠右組立体２０について、主に図１９を参照して詳細に説明する。図１９は、外枠の外枠左組立体及び外枠右組立体を夫々分解して前から見た分解斜視図である。外枠２の外枠左組立体１０及び外枠右組立体２０は、夫々が上下に延びており、互いに左右に離間して配置されている。外枠左組立体１０及び外枠右組立体２０

は、本体枠４の本体枠上ヒンジ部材５１０及び本体枠下ヒンジ組立体５２０を同軸上で回転可能に支持して、外枠２に対して本体枠４を開閉可能に取付けるためのものである。

【００２８】

まず、外枠左組立体１０は、前後方向が一定の幅（奥行）で上下に延びている外枠左部材１１と、外枠左部材１１の右側面上端に取付けられている左上連結部材１２と、外枠左部材１１の右側面下端に取付けられている左下連結部材１３と、を備えている。

【００２９】

外枠左部材１１は、一定の断面形状で上下に延びており、アルミ合金の押出型材によって形成されている。外枠左部材１１は、左側面における前後方向を三等分したうちの後側の部位において平坦状に右方へ窪んでいる凹部１１ａと、右側面における凹部１１ａとは反対側の部位から右方へ膨出している膨出部１１ｂと、膨出部１１ｂを上下に貫通している空洞部１１ｃと、を備えている。外枠左部材１１は、凹部１１ａや膨出部１１ｂによって、強度・剛性が高められていると共に、空洞部１１ｃによって、重量が軽減されている。

【００３０】

また、外枠左部材１１は、左右両側面において、上下に延びた複数の溝が形成されている。左側面の複数の溝は、Ｖ字状に形成されており、右側面の複数の溝は、半円形状に形成されている。外枠左部材１１は、後述する外枠右組立体２０の外枠右部材２１と左右対称形状に形成されている。

【００３１】

左上連結部材１２は、外枠左部材１１の上端と外枠上部材３０の左端とを連結するためのものである。左上連結部材１２は、水平に延びた平板状の水平固定部１２ａと、水平固定部１２ａの左辺における前後方向の中間から上方へ延出している平板状の上横固定部１２ｂと、水平固定部１２ａの左辺における上横固定部１２ｂの前後両側から下方へ延出している平板状の一対の下横固定部１２ｃと、を備えている。左上連結部材１２は、平板状の金属板を屈曲させて形成されている。

【００３２】

左上連結部材１２は、後側の下横固定部１２ｃを外枠左部材１１の空洞部１１ｃ内に挿入させると共に、水平固定部１２ａを外枠左部材１１の上端に当接させ、更に、前側及び後側の下横固定部１２ｃを外枠左部材１１の右側面に当接させた状態で、外枠左部材１１の左側面の外側から下横固定部１２ｃにビスを捩じ込むことで、外枠左部材１１に取付けられる。また、左上連結部材１２は、水平固定部１２ａを外枠上部材３０の左端側の下面に当接させると共に、上横固定部１２ｂを外枠上部材３０の左側面の切欠部３０ａ内に挿入させた状態で、水平固定部１２ａ及び上横固定部１２ｂを通して外枠上部材３０にビスを捩じ込むことで、外枠上部材３０に取付けられる。

【００３３】

左下連結部材１３は、外枠左部材１１の下端と外枠下組立体４０（外枠下部材４１）の左端とを連結するためのものである。左下連結部材１３は、水平に延びた平板状の水平固定部１３ａと、水平固定部１３ａの左辺から上方へ延出していると共に水平固定部１３ａよりも後方へ延出している平板状の上横固定部１３ｂと、上横固定部１３ｂの下辺における水平固定部よりも後側の部位から下方へ延出している平板状の下横固定部１３ｃと、上横固定部１３ｂの後辺から右方へ短く延出している平板状の当接部１３ｄと、を備えている。左下連結部材１３は、平板状の金属板を屈曲させて形成されている。

【００３４】

左下連結部材１３は、当接部１３ｄの後面を外枠左部材１１の膨出部１１ｂの前面に当接させると共に、上横固定部１３ｂの左側面を外枠左部材１１の右側面に当接させ、水平固定部１３ａの下面を外枠左部材１１の下端と一致させた状態で、外枠左部材１１の左側面の外側から上横固定部１３ｂにビスを捩じ込むことで、外枠左部材１１に取付けられる。また、左下連結部材１３は、水平固定部１３ａを外枠下部材４１の左端側の上面に当接させると共に、下横固定部１３ｃを外枠下部材４１の左側面の切欠部４１ａに挿入させた状態で、水平固定部１３ａ及び下横固定部１３ｃを通して外枠下部材にビスを捩じ込むこと

で、外枠下部材４１に取付けられる。
【００３５】
次に、外枠右組立体２０は、前後方向が一定の幅（奥行）で上下に延びている外枠右部材２１と、外枠右部材２１の左側面上端に取付けられている右上連結部材２２と、外枠右部材２１の左側面下端に取付けられている右下連結部材２３と、外枠右部材２１の左側面上部に取付けられている上鉤掛部材２４と、外枠右部材２１の左側面下部に取付けられている下鉤掛部材２５と、を備えている。
【００３６】
外枠右部材２１は、一定の断面形状で上下に延びており、アルミ合金の押出型材によって形成されている。外枠右部材２１は、右側面における前後方向を三等分したうちの後側の部位において平坦状に左方へ窪んでいる凹部２１ａと、左側面における凹部２１ａとは反対側の部位から左方へ膨出している膨出部２１ｂと、膨出部２１ｂを上下に貫通している空洞部２１ｃと、を備えている。外枠右部材２１は、凹部２１ａや膨出部２１ｂによって、強度・剛性が高められていると共に、空洞部２１ｃによって、重量が軽減されている。
【００３７】
また、外枠右部材２１は、左右両側面において、上下に延びた複数の溝が形成されている。右側面の複数の溝は、Ｖ字状に形成されており、左側面の複数の溝は、半円形状に形成されている。外枠右部材２１は、外枠左組立体１０の外枠左部材１１と左右対称形状に形成されている。
【００３８】
右上連結部材２２は、外枠右部材２１の上端と外枠上部材３０の右端とを連結するためのものである。右上連結部材２２は、水平に延びた平板状の水平固定部２２ａと、水平固定部２２ａの右辺における前後方向の中間から上方へ延出している平板状の上横固定部２２ｂと、水平固定部２２ａの右辺における上横固定部２２ｂの前後両側から下方へ延出している平板状の一対の下横固定部２２ｃと、を備えている。右上連結部材２２は、平板状の金属板を屈曲させて形成されている。
【００３９】
右上連結部材２２は、後側の下横固定部２２ｃを外枠右部材２１の空洞部２１ｃ内に挿入させると共に、水平固定部２２ａを外枠右部材２１の上端に当接させ、更に、前側及び後側の下横固定部２２ｃを外枠右部材２１の左側面に当接させた状態で、外枠右部材２１の右側面の外側から下横固定部２２ｃにビスを捩じ込むことで、外枠右部材２１に取付けられる。また、右上連結部材２２は、水平固定部２２ａを外枠上部材３０の右端側の下面に当接させると共に、上横固定部２２ｂを外枠上部材３０の右側面の切欠部３０ａ内に挿入させた状態で、水平固定部２２ａ及び上横固定部２２ｂを通して外枠上部材３０にビスを捩じ込むことで、外枠上部材３０に取付けられる。
【００４０】
右下連結部材２３は、外枠右部材２１の下端と外枠下組立体４０（外枠下部材４１）の右端とを連結するためのものである。右下連結部材２３は、水平に延びた平板状の水平固定部２３ａと、水平固定部２３ａの右辺から上方へ延出していると共に水平固定部２３ａよりも後方へ延出している平板状の上横固定部２３ｂと、上横固定部２３ｂの下辺における水平固定部よりも後側の部位から下方へ延出している平板状の下横固定部２３ｃと、上横固定部２３ｂの後辺から左方へ短く延出している平板状の当接部２３ｄと、を備えている。右下連結部材２３は、平板状の金属板を屈曲させて形成されている。
【００４１】
右下連結部材２３は、当接部２３ｄの後面を外枠右部材２１の膨出部２１ｂの前面に当接させると共に、上横固定部２３ｂの右側面を外枠右部材２１の左側面に当接させ、水平固定部２３ａの下面を外枠右部材２１の下端と一致させた状態で、外枠右部材２１の右側面の外側から上横固定部２３ｂにビスを捩じ込むことで、外枠右部材２１に取付けられる。また、右下連結部材２３は、水平固定部２３ａを外枠下部材４１の右端側の上面に当接させると共に、下横固定部２３ｃを外枠下部材４１の右側面の切欠部４１ａに挿入させた状

態で、水平固定部２３ａ及び下横固定部２３ｃを通して外枠下部材にビスを捩じ込むことで、外枠下部材４１に取付けられる。

【００４２】

上鉤掛部材２４及び下鉤掛部材２５は、後述する本体枠４における施錠ユニット６５０の外枠用鉤６５３が掛止されるものである。上鉤掛部材２４は、前後方向に一定の幅で上下に延びており外枠右部材２１の左側面に取付けられる平板状の取付部２４ａと、取付部２４ａの前辺から左方へ延出しており上側の外枠用鉤６５３が掛止される平板状の掛止片部２４ｂと、を備えている。

【００４３】

下鉤掛部材２５は、前後方向に一定の幅で上下に延びており外枠右部材２１の左側面に取付けられる平板状の取付部２５ａと、取付部２５ａの前辺から左方へ延出しており下側の外枠用鉤６５３が掛止される平板状の掛止片部２５ｂと、掛止片部２５ｂを前後に貫通しており下側の外枠用鉤６５３が挿通可能な挿通口２５ｃと、を備えている。

【００４４】

［２－２．外枠上部材］

外枠２の外枠上部材３０について、主に図１８を参照して詳細に説明する。外枠上部材３０は、左右に離間している外枠左組立体１０及び外枠右組立体２０の上端同士を連結するためのものである。外枠上部材３０は、前後方向の幅が、外枠左部材１１及び外枠右部材２１の前後方向と略同じ幅で、上下方向の厚さが一定で、左右方向に延びており、木材によって形成されている。外枠上部材３０は、左右方向の長さが、後述する外枠下組立体４０の外枠下部材４１の左右方向の長さと同じに形成されている。

【００４５】

外枠上部材３０は、左右両側面における前後方向の中央において、上下に貫通した状態で左右方向中央側へ夫々窪んでいる切欠部３０ａを備えている。これら左右両端の切欠部３０ａには、左上連結部材１２の上横固定部１２ｂ及び右上連結部材２２の上横固定部２２ｂが夫々挿入された状態で取付けられる。

【００４６】

また、外枠上部材３０は、左側端部において、上面と前面が一般面よりも窪んだ取付段部３０ｂを備えている。この取付段部３０ｂには、後述する外枠上ヒンジ組立体５０が取付けられる。

【００４７】

［２－３．外枠下組立体］

外枠２の外枠下組立体４０について、主に図２０を参照して詳細に説明する。図２０は、外枠の外枠下組立体を分解して前から見た分解斜視図である。外枠下組立体４０は、左右に離間している外枠左組立体１０及び外枠右組立体２０の下端同士を連結すると共に、パチンコ機１において扉枠３よりも下側を閉鎖して装飾するためのものである。

【００４８】

外枠下組立体４０は、左右に離間している外枠左組立体１０及び外枠右組立体２０の下端同士を連結しており左右に延びている外枠下部材４１と、外枠下部材４１の前方に配置されており外枠下部材４１に沿って左右に延びていると共に後方が開放されている箱状の幕板前部材４２と、幕板前部材４２の後側に取付けられていると共に外枠下部材４１の上面に取付けられており前方が開放されている左右に延びた箱状の幕板後部材４３と、幕板後部材４３の上面における左端に形成されている球噛防止機構４４と、を備えている。

【００４９】

外枠下部材４１は、前後方向の幅が、外枠左部材１１及び外枠右部材２１の前後方向と略同じ幅で、上下方向の厚さが一定で、左右方向に延びており、木材によって形成されている。外枠下部材４１は、左右方向の長さが、外枠上部材３０の左右方向の長さと同じに形成されている。

【００５０】

外枠下部材４１は、左右両側面における前後方向の中央において、上下に貫通した状態で

左右方向中央側へ夫々窪んでいる切欠部４１ａを備えている。これら左右両端の切欠部４１ａには、左下連結部材１３の下横固定部１３ｃ及び右下連結部材２３の下横固定部２３ｃが夫々挿入された状態で取付けられる。これにより、外枠左部材１１及び外枠右部材２１の下端同士を連結することができる。

【００５１】

また、外枠下部材４１は、上面から凹んでおり、幕板後部材４３の下部が挿入される凹部４１ｂを備えている。凹部４１ｂは、左右に延びていると共に、前後方向中央の後ろ寄りの位置から前端側へ抜けている。この凹部４１ｂにより、幕板前部材４２及び幕板後部材４３により形成される幕板内部空間４０ａの容積を可及的に広くしている。

【００５２】

幕板前部材４２は、左右方向の長さが外枠下部材４１と同じ長さに延びており、高さに対して前後方向の奥行が短い横長の直方体状の箱状に形成されており、後側の全面が開放されている。幕板前部材４２は、開放されている後側を、幕板後部材４３によって閉鎖することで、幕板後部材４３と協働して本体枠スピーカ６２２のエンクロージャ６２４の一部となる幕板内部空間４０ａを形成する。幕板前部材４２は、右端付近の前面において、前後に貫通していると共に左右に延びている長孔状の開口部４２ａを備えている。

【００５３】

幕板後部材４３は、左右方向の長さが外枠下部材４１よりも若干短く延びており、前方が開放された箱状に形成されている。幕板後部材４３は、前面に幕板前部材４２を取付けることで、幕板前部材４２と協働して本体枠スピーカ６２２のエンクロージャ６２４の一部となる幕板内部空間４０ａを形成する。幕板後部材４３は、上面における左右方向中央部において、左右に延びていると共に上方へ突出しており幕板内部空間４０ａと連通している筒状の接続筒部４３ａを有している。接続筒部４３ａは、上端が、幕板後部材４３の一般的な上面と一致している前端側から後方へ向かうほど上方へ位置するように傾斜している。本実施形態では、接続筒部４３ａの上端は、４５度の角度で傾斜している。

【００５４】

この接続筒部４３ａは、左右方向の長さが、幕板後部材４３全体の約１／３の長さに形成されていると共に、前後方向の奥行が、幕板後部材４３全体の奥行よりも若干短く形成されている。接続筒部４３ａ内には、前端側と後端側とを結ぶ複数のリブ４３ｂが備えられている。この接続筒部４３ａの上端には、外枠２に対して本体枠４を閉じた時に、本体枠４における基板ユニット６２０のスピーカユニット６２０ａにおけるスピーカカバー６２１の接続部６２１ｃが接続されて、スピーカユニット６２０ａの内部空間と連通した状態となり、エンクロージャ６２４を形成する。

【００５５】

球噛防止機構４４は、幕板後部材４３の上面における左端において、外枠下ヒンジ部材６０の部位に遊技球Ｂが滞留することで、外枠２と本体枠４との間に遊技球Ｂが挟まれるのを防止するためのものである。

【００５６】

球噛防止機構４４は、幕板後部材４３の上面における左端に形成されており、後述する外枠下ヒンジ部材６０が際されるように平坦に形成された載置部４４ａと、載置部４４ａの左端において上方へ向かって開口している第一排出口４４ｂと、載置部４４ａにおける第一排出口４４ｂよりも右方で上方へ向かって開口している第二排出口４４ｃと、載置部４４ａの後辺及び右辺から上方へ延出している立壁部４４ｄと、立壁部４４ｄの上端から前方へ突出していると共に上面が後方へ向かうに従って上方に位置するように傾斜している上端突出部４４ｅと、を備えている。

【００５７】

第一排出口４４ｂは、後述する外枠下ヒンジ部材６０の排出孔６０ｄと一致する位置に形成されている。第一排出口４４ｂ及び第二排出口４４ｃは、遊技球Ｂが通過可能な大きさに形成されている。第一排出口４４ｂ及び第二排出口４４ｃは、幕板内部空間４０ａとは連通しておらず、幕板後部材４３の後面に開口している。従って、第一排出口４４ｂ及び

第二排出口４４ｃに進入した遊技球Ｂを、幕板後部材４３の後方へ排出することができる。
【００５８】
この球噛防止機構４４は、球噛防止機構４４は、外枠下ヒンジ部材６０と後述する本体枠下ヒンジ組立体５２０との間の隙間を通して、ピアノ線等の不正な工具が挿入された場合、載置部４４ａの後端から立上っている立壁部４４ｄにより、不正な工具の侵入を阻止することができる。仮に、不正な工具の先端が立壁部４４ｄに当接することで、上方へ曲がったとしても、立壁部４４ｄの上端に備えられている前方へ突出した上端突出部４４ｅに当接し、これ以上の侵入を阻止することができる。従って、外枠下ヒンジ部材６０の部位を介して、不正行為が行われるのを防止することができる。
【００５９】
ところで、載置部４４ａの後端に立壁部４４ｄを備えた場合、外枠２に対して本体枠４を開けた時に、何らかの理由により載置部４４ａ上に落下した遊技球Ｂが、立壁部４４ｄによって外枠２の後方への移動が阻止されるため、載置部４４ａ上に遊技球Ｂが滞留し易くなる。そして、載置部４４ａ上に遊技球Ｂが滞留していると、外枠２に対して本体枠４を閉じる際に、外枠２と本体枠４との間に遊技球Ｂが挟み込まれてしまい、本体枠４を閉じることができなくなる問題が発生する。
【００６０】
これに対して、本実施形態の球噛防止機構４４では、外枠下ヒンジ部材６０上や載置部４４ａ上に落下した遊技球Ｂを、外枠下ヒンジ部材６０の排出孔６０ｄと第一排出口４４ｂを通して、又は、第二排出口４４ｃを通して、遊技球Ｂを幕板後部材４３の後方（外枠２の後方）へ排出することができ、外枠２と本体枠４との間に遊技球Ｂが挟まれるのを防止することができる。
【００６１】
外枠下組立体４０は、幕板前部材４２及び幕板後部材４３の上面に左右に離間して配置されている一対の案内部材４５と、幕板前部材４２の開口部４２ａを後側から閉鎖している平板状のグリル部材４６と、グリル部材４６を挟んで開口部４２ａを閉鎖するように幕板前部材４２の内部に取付けられており前後に延びた二つの円筒を有したポート部材４７と、幕板後部材４３の接続筒部４３ａの上端に配置される枠状のシール部材４８と、を備えている。
【００６２】
一対の案内部材４５は、外枠２に対して本体枠４を閉じた時に、扉枠３の下端が当接するものである。案内部材４５は、摩擦抵抗の低い低摩擦材料によって形成されており、本体枠４の下端を滑り易くして、開閉を容易にしている。
【００６３】
グリル部材４６は、無数の小穴を有したパンチングメタルにより形成されている。ポート部材４７は、二つの円筒により、グリル部材４６を介して幕板内部空間４０ａ（エンクロージャ６２４）と外枠２の前方とを連通させている。ポート部材４７は、二つの円筒が、所定の内径で所定の長さに形成されており、ヘルムホルツ共鳴の原理により本体枠スピーカ６２２から後方（エンクロージャ６２４内）へ発せられた低音を共振・増幅させて、豊かな低音を外枠２の前方（遊技者側）へ放射することができる。つまり、本実施形態では、本体枠スピーカ６２２のエンクロージャ６２４がバスレフ型とされており、遊技者に対して重低音を聞かせることができる。
【００６４】
シール部材４８は、外枠２に対して本体枠４を閉じた時に、接続筒部４３ａの上端と本体枠４におけるスピーカカバー６２１の接続部６２１ｃの下端との間に挟まれて圧縮されるものであり、接続筒部４３ａと接続部６２１ｃとの間から本体枠スピーカ６２２のエンクロージャ６２４内の音が漏れるのを防止するものである。
【００６５】
［２－４．外枠上ヒンジ組立体］
外枠２の外枠上ヒンジ組立体５０について、主に図２１を参照して詳細に説明する。図２

１（ａ）は外枠の外枠上ヒンジ組立体を分解して前上から見た分解斜視図であり、（ｂ）は（ａ）を前下から見た分解斜視図である。外枠上ヒンジ組立体５０は、外枠左組立体１０の上端と外枠上部材３０の左端に取付けられるものであり、外枠２に対して本体枠４をヒンジ回転可能に取付けるためのものである。外枠上ヒンジ組立体５０は、外枠左部材１１の凹部１１ａの上端と外枠上部材３０の取付段部３０ｂとに取付けられる外枠上ヒンジ部材５１と、外枠上ヒンジ部材５１に取付けられているロック部材５２と、ロック部材５２を外枠上ヒンジ部材５１に取付けている取付ビス５３と、を備えている。

【００６６】

外枠上ヒンジ部材５１は、水平に延びた平板状で外枠上部材３０の取付段部３０ｂの上面に取付けられる上固定部５１ａと、上固定部５１ａの前辺から前方へ延出している平板状の前方延出部５１ｂと、前方延出部５１ｂの右辺の途中から前方へ向かうに従って前方延出部５１ｂの左右中央へ延びており上下に貫通している軸受溝５１ｃと、上固定部５１ａの左辺から下方へ延びている平板状の横固定部５１ｄと、前方延出部５１ｂの左辺から前辺を周って軸受溝５１ｃが開口している部位までの端縁から下方へ延びており横固定部５１ｄと連続している平板状の端縁壁部５１ｅと、を備えている。外枠上ヒンジ部材５１は、金属板をプレス成型により打抜き・屈曲させて形成されている。外枠上ヒンジ部材５１は、軸受溝５１ｃ内において、本体枠上ヒンジ部材５１０の後述する本体枠上ヒンジピン５１２を回転可能に支持することができる。

【００６７】

ロック部材５２は、前後に延びている帯板状のロック本体５２ａと、ロック本体５２ａの後端から右方へ突出している操作片５２ｂと、ロック本体５２ａの後端から左方へ延びた後に斜め左前方へ延びている弾性変形可能な棒状の弾性部５２ｃと、ロック本体５２ａの後端付近で上下に貫通している取付孔５２ｄと、を備えている。ロック部材５２は、合成樹脂によって形成されている。ロック部材５２は、取付ビス５３によって、外枠上ヒンジ部材５１における前方延出部５１ｂの下面で、軸受溝５１ｃよりも後側の部位に回動可能に取付けられる。

【００６８】

ロック部材５２は、外枠上ヒンジ部材５１に取付けた状態で、ロック本体５２ａが、平面視で軸受溝５１ｃを遮ることができると共に、前端付近の右側面が、外枠上ヒンジ部材５１の端縁壁部５１ｅにおける軸受溝５１ｃの開口まで延びている部位と当接可能となるように前方へ延びている。また、ロック本体５２ａの後端から左方へ延びている弾性部５２ｃの先端は、外枠上ヒンジ部材５１における端縁壁部５１ｅの内周面に当接している。このロック部材５２は、弾性部５２ｃの付勢力によって取付孔５２ｄを中心に、前端が左方へ回動する方向に付勢されている。従って、通常の状態では、ロック部材５２のロック本体５２ａの前端付近の右側面が、端縁壁部５１ｅに当接している。この状態では、軸受溝５１ｃにおけるロック本体５２ａよりも前側の部位に、本体枠上ヒンジ部材５１０の本体枠上ヒンジピン５１２を収容可能な空間が形成される。

【００６９】

このロック部材５２は、操作片５２ｂを操作することで、弾性部５２ｃの付勢力に抗してロック本体５２ａを回動させることができる。そして、操作片５２ｂの操作によって、ロック本体５２ａを、その前端が左方へ移動する方向へ回動させることで、平面視において軸受溝５１ｃからロック本体５２ａを後退させることができ、軸受溝５１ｃが全通している状態とすることができる。これにより、軸受溝５１ｃ内に本体枠上ヒンジピン５１２を挿入したり、軸受溝５１ｃ内から本体枠上ヒンジピン５１２を外したりすることができる。

【００７０】

［２－５．外枠下ヒンジ部材］

外枠２の外枠下ヒンジ部材６０について、主に図１８を参照して詳細に説明する。外枠下ヒンジ部材６０は、水平に延びた平板状の水平部６０ａと、水平部６０ａの左辺において前後方向中央よりも後側の部位から上方へ立上っている平板状の立上部６０ｂと、水平部６０ａの前端付近から上方へ突出している外枠下ヒンジピン６０ｃと、水平部６０ａを上

下に貫通しており遊技球Ｂが一つのみ通過可能な大きさの排出孔６０ｄと、を備えている。この外枠下ヒンジ部材６０は、金属板をプレス成型により打抜き・屈曲させて形成されている。

【００７１】

外枠下ヒンジ部材６０の水平部６０ａは、平面視において、左辺を底辺とした台形に形成されている。外枠下ヒンジピン６０ｃは、円柱状で、上下方向中央よりも上部が、上端が窄まった円錐台状に形成されている。この外枠下ヒンジピン６０ｃは、水平部６０ａの前端付近における左寄りの位置に取付けられている。排出孔６０ｄは、水平部６０ａにおいて、立上部６０ｂの前後方向中央の部位と接し、水平部６０ａの左辺から右方へ逆Ｕ字状に延びるように形成されている。この排出孔６０ｄは、外枠下組立体４０における球噛防止機構４４の第一排出口４４ｂと、略同じ大きさに形成されている。

【００７２】

外枠下ヒンジ部材６０は、外枠２に組立てた状態で、水平部６０ａの後部が、外枠下組立体４０における幕板後部材４３の載置部４４ａ上に載置され、図示しないビスによって幕板後部材４３に固定されている。また、立上部６０ｂが、外枠左部材１１の右側面における膨出部１１ｂよりも前側の部位に、図示しないビスによって取付けられている。この外枠下ヒンジ部材６０は、外枠下ヒンジピン６０ｃを、本体枠４の本体枠下ヒンジ組立体５２０における外枠用下ヒンジ孔５２１ａに挿通させることで、外枠上ヒンジ部材５１と協働して本体枠４を開閉可能に取付けることができる。

【００７３】

また、外枠２を組立てた状態では、排出孔６０ｄが、外枠下組立体４０における球噛防止機構４４の第一排出口４４ｂと一致している。これにより、水平部６０ａ上の遊技球Ｂを、排出孔６０ｄ及び第一排出口４４ｂを通して、外枠２の後方へ落下（排出）させることができる。詳述すると、外枠２に対して本体枠４を閉じる時に、外枠２と本体枠４との間に落下した遊技球Ｂが、本体枠４が閉じられるのに従って、外枠２と本体枠４との間が徐々に狭くなることから、間隔が広い後方側へ転動とすることとなり、排出孔６０ｄから排出させることができる。この際に、排出孔６０ｄが、パチンコ機１に組立てた状態で、外枠２に対して本体枠４を閉じた時に、本体枠４の後端と略同じとなる位置に形成されているため、外枠２と本体枠４との間に落下した遊技球Ｂを、排出孔６０ｄから排出させることで本体枠４よりも後側へ転動するのを阻止し易くすることができ、外枠下ヒンジ部材６０の部位に遊技球Ｂが留まり難くすることができる。

【００７４】

［３．扉枠の全体構成］

パチンコ機１の扉枠３について、主に図２２乃至図３０を参照して詳細に説明する。図２２はパチンコ機における扉枠の表面図であり、図２３は扉枠の背面図であり、図２４は扉枠の左側面図であり、図２５は扉枠の右側面図である。図２６は扉枠を右前から見た斜視図であり、図２７は扉枠を左前から見た斜視図であり、図２８は扉枠を後ろから見た斜視図である。図２９は扉枠を主な部材毎に分解して前から見た分解斜視図であり、図３０は扉枠を主な部材毎に分解して後ろから見た分解斜視図である。

【００７５】

扉枠３は、外枠２の枠内と略同じ大きさで正面視において上下に延びた四角形に形成されており、本体枠４を介して外枠２の枠内を前側から開閉可能に取付けられている。扉枠３は、遊技球Ｂが打込まれる遊技盤５の遊技領域５ａを前側から視認可能に閉鎖し、遊技領域５ａ内に打込むための遊技球Ｂを貯留すると共に、貯留している遊技球Ｂを遊技領域５ａ内へ打込むために遊技者が操作するハンドル１８２を備えているものである。また、扉枠３は、パチンコ機１の前面全体を装飾するものである。

【００７６】

扉枠３は、正面視の外形が上下に延びた四角形で枠状の扉枠ベースユニット１００と、扉枠ベースユニット１００に着脱可能に取付けられており本体枠４に取付けられた遊技盤５の遊技領域５ａを前方から視認可能に閉鎖しているガラスユニット１６０と、ガラスユニ

ット１６０の下部を後側から覆うように扉枠ベースユニット１００に取付けられている防犯カバー１７０と、扉枠ベースユニット１００の前面右下隅に取付けられているハンドルユニット１８０と、扉枠ベースユニット１００の前面下部に取付けられている皿ユニット２００と、皿ユニット２００の上側で扉枠ベースユニット１００の前面左部に取付けられている扉枠左サイドユニット４００と、皿ユニットの上側で扉枠ベースユニット１００の前面右部に取付けられている扉枠右サイドユニット４１０と、扉枠左サイドユニット４００及び扉枠右サイドユニット４１０の上側で扉枠ベースユニット１００の前面上部に取付けられている扉枠トップユニット４５０と、を備えている。

【００７７】

扉枠ベースユニット１００は、正面視の外形が上下に延びた四角形（長方形）に形成されており前後に貫通している扉窓１０１ａを有した扉枠ベース１０１と、扉枠ベース１０１の前面右下に取付けられているハンドル取付部材１０２と、扉枠ベース１０１の後側で背面視右下隅に取付けられているスピーカダクト１０３と、扉枠ベース１０１の後側の下部における背面視右端付近に取付けられている扉枠主中継基板１０４と、扉枠主中継基板１０４の背面視左方に取付けられている扉枠副中継基板１０５と、扉枠副中継基板１０５の背面視左方に取付けられているハンドル後中継基板１０６と、扉枠主中継基板１０４と扉枠副中継基板１０５の一部とを後側から被覆する扉枠中継基板カバー１０７と、ハンドル後中継基板１０６を後側から被覆するハンドル後中継基板カバー１０８と、配線ケーブルを被覆するケーブルカバー１０９と、を備えている。

【００７８】

また、扉枠ベースユニット１００は、扉枠ベース１０１の後側に取付けられている枠状の扉枠補強ユニット１１０と、扉枠補強ユニット１１０に取付けられている扉枠上ヒンジ組立体１２０及び扉枠下ヒンジ部材１２５と、扉枠補強ユニット１１０に取付けられている開閉用のシリンダ錠１３０と、扉枠ベース１０１の後側でハンドル後中継基板１０６の上方に取付けられている球送給ユニット１４０と、扉枠ベース１０１の後側の下部における背面視右側に取付けられているファールカバーユニット１５０と、を備えている。

【００７９】

扉枠補強ユニット１１０は、扉枠ベース１０１の後側に取付けられることで、扉枠ベース１０１を補強して剛性を付与するものである。扉枠上ヒンジ組立体１２０及び扉枠下ヒンジ部材１２５は、扉枠３を本体枠４に対して開閉可能に取付けるためのものである。シリンダ錠１３０は、本体枠４の施錠ユニット６５０と協働して、扉枠３と本体枠４との開閉、及び、外枠２と本体枠４との開閉施錠に使用されるものである。なお、以下、扉枠３と本体枠４とから構成される枠体を「前面枠」と記載する場合がある。

【００８０】

また、球送給ユニット１４０は、上皿２０１内の遊技球Ｂを一つずつ本体枠４の球発射装置５４０へ供給するためのものである。ファールカバーユニット１５０は、球発射装置５４０により発射されて遊技盤５の遊技領域５ａ内に到達しなかった遊技球Ｂ（ファール球）を、下皿２０２に誘導すると共に、払出装置５８０から払出された遊技球Ｂを、上皿２０１又は下皿２０２に誘導するためのものである。

【００８１】

ガラスユニット１６０は、透明なガラス板１６２を有しており扉枠ベース１０１の扉窓１０１ａを閉鎖している。防犯カバー１７０は、ガラスユニット１６０の下部を後方から覆うように扉枠ベース１０１に取付けられている。ハンドルユニット１８０は、遊技者が回転操作可能なハンドル１８２を備えており、ハンドル１８２を操作することで、上皿２０１内の遊技球Ｂを、球発射装置５４０によって遊技盤５の遊技領域５ａ内に打込む遊技を行うためのものである。

【００８２】

［３－１．扉枠ベースユニットの全体構成］

扉枠３の扉枠ベースユニット１００について、主に図３１乃至図３３を参照して詳細に説明する。図３１（ａ）は扉枠の扉枠ベースユニットを前から見た斜視図であり、（ｂ）は

扉枠ベースユニットを後ろから見た斜視図である。図３２は扉枠ベースユニットを主な部材毎に分解して前から見た分解斜視図であり、図３３は扉枠ベースユニットを主な部材毎に分解して後ろから見た分解斜視図である。

【００８３】

扉枠ベースユニット１００は、正面視左辺側が本体枠４に対してヒンジ回転可能に取付けられ、本体枠４の前面を開閉可能に閉鎖していると共に、本体枠４に取付けられている遊技盤の遊技領域を前方から視認可能としている。扉枠ベースユニット１００は、外形が上下に延びた四角形で平板状の扉枠ベース１０１と、扉枠ベース１０１の前面右下に取付けられておりハンドルユニット１８０を取付けるためのハンドル取付部材１０２と、扉枠ベース１０１の後側で背面視右下隅に取付けられているスピーカダクト１０３と、を備えている。

【００８４】

また、扉枠ベースユニット１００は、扉枠ベース１０１の後側の下部における背面視右端付近に取付けられている扉枠主中継基板１０４と、扉枠ベース１０１の後側の下部における扉枠主中継基板１０４の背面視左方に取付けられている扉枠副中継基板１０５と、扉枠ベース１０１の後側の下部における扉枠副中継基板１０５の背面視左方に取付けられているハンドル後中継基板１０６と、扉枠ベース１０１の後側に取付けられており扉枠主中継基板１０４と扉枠副中継基板１０５の一部とを後側から被覆する扉枠中継基板カバー１０７と、扉枠ベース１０１の後側に取付けられておりハンドル後中継基板１０６を後側から被覆するハンドル後中継基板カバー１０８と、扉枠ベース１０１の後側に取付けられており配線ケーブルを被覆するケーブルカバー１０９と、を備えている。

【００８５】

更に、扉枠ベースユニット１００は、扉枠ベース１０１の後側に取付けられている枠状の扉枠補強ユニット１１０と、扉枠補強ユニット１１０に取付けられている扉枠上ヒンジ組立体１２０及び扉枠下ヒンジ部材１２５と、扉枠補強ユニット１１０に取付けられている開閉用のシリンダ錠１３０と、扉枠ベース１０１の後側でハンドル後中継基板１０６の上方に取付けられている球送給ユニット１４０と、扉枠ベース１０１の後側の下部における背面視右側に取付けられているファールカバーユニット１５０と、を備えている。

【００８６】

この扉枠ベースユニット１００には、前面下隅にハンドルユニット１８０が、扉窓１０１ａの下側前面に皿ユニット２００が、扉窓１０１ａの左外側前面に扉枠左サイドユニット４００が、扉窓１０１ａの右外側前面に扉枠右サイドユニット４１０が、扉窓１０１ａの上外側前面に扉枠トップユニット４５０が、夫々取付けられるものである。

【００８７】

また、扉枠ベースユニット１００には、扉窓１０１ａを後方から閉鎖するようにガラスユニット１６０が取付けられると共に、ガラスユニット１６０の下部を後方から覆うように透明な防犯カバー１７０が取付けられるものである。

【００８８】

［３－１ａ．扉枠ベース］

扉枠３における扉枠ベースユニット１００の扉枠ベース１０１について、主に図３１乃至図３３を参照して詳細に説明する。扉枠ベース１０１は、正面視の外形が上下に延びた四角形（長方形）に形成されている。扉枠ベース１０１は、前後に貫通しており、正面視における内周形状が上下に延びた略四角形に形成された扉窓１０１ａを備えている。扉窓１０１ａは、内周を形成している上辺及び左右両辺が、扉枠ベース１０１の外周辺に夫々接近しており、内周を形成している下辺が、扉枠ベース１０１の下端から上下方向の約１／３の高さに位置している。このように、扉枠ベース１０１は、前後に貫通している扉窓１０１ａにより全体が枠状に形成されている。この扉枠ベース１０１は、合成樹脂により一体成形されている。

【００８９】

扉枠ベース１０１は、前面における正面視右下隅に形成されており左端側が右端側よりも

前方へやや突出するように傾斜しているハンドル取付座面１０１ｂと、ハンドル取付座面１０１ｂと扉窓１０１ａとの間で正面視右端付近に後面から前方へ向かって窪み、扉枠補強ユニット１１０のシリンダ取付フレーム１１５が挿入される挿入凹部１０１ｃと、挿入凹部１０１ｃにおいて前後に貫通しておりシリンダ錠１３０のシリンダ本体１３１が挿通されるシリンダ挿通孔１０１ｄと、シリンダ挿通孔１０１ｄ及びハンドル取付座面１０１ｂの正面視左側で前後に貫通しており球送給ユニット１４０の進入口１４１ａ及び球抜口１４１ｂを前方に臨ませるための球送給開口１０１ｅと、を備えている。

【００９０】

また、扉枠ベース１０１は、左右方向中央より左寄りで且つハンドル取付座面１０１ｂと略同じ高さで前後に貫通しておりファールカバーユニット１５０の球放出口１５０ｄを前方に臨ませる下皿用球通過口１０１ｆと、正面視左端付近で扉窓１０１ａの下辺に隣接するように前後に貫通しておりファールカバーユニット１５０の貫通球通路１５０ａを前方に臨ませる上皿用球通過口１０１ｇと、扉窓１０１ａの内周に沿って後面から前方へ向かって窪み、ガラスユニット１６０のガラス枠１６１が挿入されるガラスユニット取付部１０１ｈと、を備えている。

【００９１】

また、扉枠ベース１０１は、正面視左下隅（上皿用球通過口１０１ｇの下方）に形成されており前後に貫通した縦長の複数のスリット１０１ｉを、備えている。複数のスリット１０１ｉの後側にスピーカダクト１０３が取付けられる。また、複数のスリット１０１ｉは、パチンコ機１を組立てた状態で、前方に皿ユニット２００における皿ユニットベース２１１のスピーカ口２１１ｂが位置していると共に、後方に本体枠４のスピーカユニット６２０ａにおける本体枠スピーカ６２２が位置しており、本体枠スピーカ６２２からの音を前方へ放射することができる。

【００９２】

更に、扉枠ベース１０１は、扉窓１０１ａの下方でハンドル取付座面１０１ｂの上方において、前後に貫通している貫通孔１０１ｊを備えている。この貫通孔１０１ｊは、扉枠ベースユニット１００側と皿ユニット２００側とを接続する配線ケーブル（図示は省略）が挿通されるものであり、後述する扉枠補強ユニット１１０における中間補強フレーム１１４の貫通部１１４ｂと一致するように形成されている。

【００９３】

［３－１ｂ．ハンドル取付部材］

扉枠ベースユニット１００のハンドル取付部材１０２について、主に図３１乃至図３３を参照して詳細に説明する。ハンドル取付部材１０２は、扉枠ベース１０１の前面にハンドルユニットを取付けるためのものであり、扉枠ベース１０１の前面のハンドル取付座面１０１ｂに取付けられる。

【００９４】

ハンドル取付部材１０２は、前後方向へ延びた円筒状の筒部１０２ａと、筒部１０２ａの後端から筒部１０２ａの軸に対して直角方向外方へ延びた円環状のフランジ部１０２ｂと、筒部１０２ａ内に突出していると共に筒部１０２ａの軸方向全長に亘って延びており筒部１０２ａの周方向に対して不等間隔に配置された複数（本実施形態では三つ）の突条１０２ｃと、筒部１０２ａの外周面とフランジ部１０２ｂの前面とを繋ぎ、筒部１０２ａの周方向に対して複数配置された補強リブ１０２ｄと、を備えている。

【００９５】

ハンドル取付部材１０２は、フランジ部１０２ｂの後面を、扉枠ベース１０１におけるハンドル取付座面１０１ｂの前面に当接させた状態で、ビスによってハンドル取付座面１０１ｂに取付けられる。

【００９６】

筒部１０２ａは、内径がハンドルユニット１８０におけるハンドルベース１８１の基部１８１ａの外径よりも若干大きく形成されている。三つの突条１０２ｃは、一つが筒部１０２ａの上部に備えられており、残り二つが筒部１０２ａの下部に備えられている。これら

三つの突条１０２ｃは、ハンドルベース１８１における三つの溝部１８１ｃと対応する位置に形成されている。従って、ハンドル取付部材１０２は、三つの突条１０２ｃと、ハンドルベース１８１の三つの溝部１８１ｃとを一致させた状態でのみ、筒部１０２ａ内にハンドルベース１８１の基部１８１ａを挿入させることができ、扉枠ベース１０１に対してハンドルベース１８１（ハンドルユニット１８０）の回転位置を規制することができる。

【００９７】

なお、ハンドル取付部材１０２は、フランジ部１０２ｂの後面に対して、筒部１０２ａの軸線が垂直に延びていることから、扉枠ベース１０１の傾斜しているハンドル取付座面１０１ｂに取付けることで、筒部１０２ａの軸線が右前方へ延びるように傾いた状態となり、ハンドルユニット１８０を同様に傾いた状態で扉枠ベース１０１に取付けることができる。

【００９８】

［３－１ｃ．スピーカダクト］

扉枠ベースユニット１００のスピーカダクト１０３について、主に図３１乃至図３３を参照して詳細に説明する。このスピーカダクト１０３は、筒状に形成されており、扉枠ベース１０１の後側において複数のスリット１０１ｉが形成されている部位に取付けられる。スピーカダクト１０３は、パチンコ機１を組立てた状態で、筒状の部位の後端が、本体枠４の本体枠スピーカ６２２の前方に位置している。これにより、本体枠４の本体枠スピーカ６２２から放射（出力）された音（サウンド）を、拡散させることなく前方へ誘導することができ、扉枠ベース１０１の複数のスリット１０１ｉ及び皿ユニット２００の皿ユニットベース２１１におけるスピーカ口２１１ｂを通して、パチンコ機１の前方（遊技者側）へ良好に誘導することができる。

【００９９】

また、スピーカダクト１０３は、筒状の部位の下方の後面に、接続ケーブル５０３を保持するケーブルホルダ１０３ａを備えている。ケーブルホルダ１０３ａは、扉枠中継基板カバー１０７よりも正面視左方に配置されており、扉枠主中継基板１０４及び扉枠副中継基板１０５に接続されている接続ケーブル５０３を、扉枠３の左端側へ延びるように保持している。

【０１００】

［３－１ｄ．扉枠主中継基板・扉枠副中継基板・ハンドル後中継基板］

扉枠ベースユニット１００の扉枠主中継基板１０４、扉枠副中継基板１０５、ハンドル後中継基板１０６について、主に図３２及び図３３等を参照して説明する。扉枠主中継基板１０４は、外形が上下に延びた四角形に形成されており、扉枠ベース１０１の後側の下部における背面視右下隅に取付けられる。扉枠主中継基板１０４は、ハンドル後中継基板１０６と本体枠４の基板ユニット６２０におけるインターフェイス基板６３５との接続を中継するためのものであり、本体枠４から延びている接続ケーブル５０３（図８３及び図８４を参照）の一部が接続される。

【０１０１】

扉枠副中継基板１０５は、外形が、上下に延びた四角形の上部の正面視右側に左右に延びた四角形が組み合された逆Ｌ字状に形成されており、上下に延びているが扉枠主中継基板１０４の背面視左方に隣接するように、扉枠ベース１０１の後側に取付けられている。扉枠副中継基板１０５は、ハンドルユニット１８０のハンドル装飾基板１８４、皿ユニット２００の皿ユニット中継基板２１４、扉枠左サイドユニット４００の扉枠左サイド装飾基板４０２、扉枠右サイドユニット４１０のサイド窓内装飾部装飾基板４１３及び扉枠右サイド装飾基板４１８、扉枠トップユニット４５０の扉枠トップ中継基板４６７等と、本体枠４の各種基板との接続を中継するためのものであり、本体枠４から延びている接続ケーブル５０３の残りが接続される。

【０１０２】

扉枠主中継基板１０４及び扉枠副中継基板１０５は、接続端子が後方へ向かって突出するように、扉枠ベース１０１に取付けられる。扉枠主中継基板１０４及び扉枠副中継基板１

０５は、扉枠ベースユニット１００を組立てた状態で、扉枠主中継基板１０４と扉枠副中継基板１０５の上下に延びている部位とが、扉枠中継基板カバー１０７によって後側が被覆された状態となり、扉枠副中継基板１０５の残りの部位が、ファールカバーユニット１５０によって後側が被覆された状態となる。

【０１０３】

ハンドル後中継基板１０６は、外形が左右に延びた四角形に形成されており、扉枠ベース１０１の後側における球送給開口１０１ｅの下方でハンドル取付座面１０１ｂの後側に取付けられる。ハンドル後中継基板１０６は、扉枠主中継基板１０４とハンドルユニット１８０のハンドル回転検知センサ１８９、ハンドルタッチセンサ１９２、単発ボタン操作センサ１９４、及び球送給ユニット１４０の球送給ソレノイド１４５との接続を中継するためのものである。ハンドル後中継基板１０６は、扉枠ベースユニット１００を組立てた状態で、ハンドル後中継基板カバー１０８によって後側が被覆された状態となる。

【０１０４】

［３－１ｅ．扉枠中継基板カバー・ハンドル後中継基板カバー・ケーブルカバー］

扉枠ベースユニット１００の扉枠中継基板カバー１０７、ハンドル後中継基板カバー１０８、及びケーブルカバー１０９について、主に図３１乃至図３３を参照して説明する。扉枠中継基板カバー１０７は、扉枠ベース１０１の後側に取付けることで、扉枠主中継基板１０４と扉枠副中継基板の一部（逆Ｌ字状の上下に延びている部位）の後側を被覆するものである。扉枠中継基板カバー１０７は、前方及び正面視左方が開放された箱状に形成されている。扉枠ベースユニット１００に組立てた状態では、後側を被覆している扉枠主中継基板１０４及び扉枠副中継基板１０５の接続端子が扉枠中継基板カバー１０７の内部に露出しており、開放されている左側から接続ケーブル５０３を内部に挿入して、それら端子に接続することができる。

【０１０５】

ハンドル後中継基板カバー１０８は、ハンドル後中継基板１０６の後側を被覆するように扉枠ベース１０１の後側に取付けられるものである。ケーブルカバー１０９は、扉枠補強ユニット１１０における中間補強フレーム１１４の後側に取付けられ、扉枠主中継基板１０４と皿ユニット２００の球貸操作ユニット２２０とを接続する配線ケーブル（図示は省略）を被覆するためのものである。ケーブルカバー１０９は、左右に延びた箱状に形成されており、前面の左端付近と下面の左右方向中央に、配線ケーブルを通すための開口が形成されている。

【０１０６】

［３－１ｆ．扉枠補強ユニット］

扉枠ベースユニット１００の扉枠補強ユニット１１０について、主に図３１乃至図３３を参照して詳細に説明する。扉枠補強ユニット１１０は、扉枠ベース１０１の後側に取付けられることで、平板状の扉枠ベース１０１を補強して、扉枠ベースユニット１００に剛性を付与している。扉枠補強ユニット１１０は、左右に離間して配置されている上下に延びた左補強フレーム１１１及び右補強フレーム１１２と、左補強フレーム１１１及び右補強フレーム１１２の上端同士を連結している左右に延びた上補強フレーム１１３と、左補強フレーム１１１の下端から上寄りの位置に左端側が取付けられており右補強フレーム１１２付近まで右方へ延びた中間補強フレーム１１４と、中間補強フレーム１１４の右端と右補強フレーム１１２とを連結しているシリンダ取付フレーム１１５と、右補強フレーム１１２の後側に上下に離間して複数取付けられており本体枠４の施錠ユニット６５０の扉枠用鉤６５２が掛止される鉤掛部材１１６と、を備えている。

【０１０７】

左補強フレーム１１１及び右補強フレーム１１２は、左右方向が一定の幅で、扉枠ベース１０１の上下の高さと略同じ長さで上下に延びている。右補強フレーム１１２には、上下方向に離間しており、前後方向に貫通している複数の挿通孔が形成されている。これら挿通孔は、本体枠４に対して扉枠３を閉めた時に、施錠ユニット６５０の扉枠用鉤６５２の先端が挿通される。上補強フレーム１１３は、上下方向が一定の幅で、扉枠ベース１０１

の左右の幅と略同じ長さで左右に延びている。
【０１０８】
中間補強フレーム１１４は、上下方向が上補強フレーム１１３の上下の幅よりも広い幅で左右に延びている。中間補強フレーム１１４は、左端付近において上端から下方へ四角く切欠かれた切欠部１１４ａと、右端付近において前後に貫通している貫通部１１４ｂと、を有している。切欠部１１４ａは、扉枠ベース１０１の上皿用球通過口１０１ｇと、貫通部１１４ｂは、扉枠ベース１０１の貫通孔１０１ｊと、夫々一致する位置に形成されている。
【０１０９】
シリンダ取付フレーム１１５は、左右に離間して配置されており正面視において上下に延びた四角形の平板状に形成されている一対の後片部と、一対の後片部の対面している夫々の辺から前方へ平板状に延出している一対の側片部と、一対の前方延出部の前端の辺同士を連結している平板状の前片部と、を備えている。このシリンダ取付フレーム１１５は、平面視の形状が前方へ突出した凸形状に形成されている。シリンダ取付フレーム１１５は、左側の後片部が中間補強フレーム１１４の右端に取付けられ、右側の後片部が右補強フレーム１１２に取付けられる。このシリンダ取付フレーム１１５は、前片部にシリンダ錠１３０が取付けられる。
【０１１０】
鉤掛部材１１６は、右補強フレーム１１２の後側において、前後に貫通している挿通孔の部位に取付けられている。これら鉤掛部材１１６は、施錠ユニット６５０の扉枠用鉤６５２が掛止される。
【０１１１】
扉枠補強ユニット１１０を構成している左補強フレーム１１１、右補強フレーム１１２、上補強フレーム１１３、中間補強フレーム１１４、シリンダ取付フレーム１１５、及び鉤掛部材１１６は、金属板をプレス成型によって打抜き・屈曲することで形成されている。これらは、リベットによって組立てられている。
【０１１２】
扉枠補強ユニット１１０は、左補強フレーム１１１、右補強フレーム１１２、及び上補強フレーム１１３が、扉枠ベース１０１の左辺、右辺、及び上辺に沿うように組立てられていると共に、中間補強フレーム１１４が、扉枠ベース１０１の扉窓１０１ａの下方に位置するように組立てられている。
【０１１３】
扉枠補強ユニット１１０は、図示しない複数のビスにより扉枠ベース１０１の後側に取付けられる。この扉枠補強ユニット１１０は、扉枠ベース１０１に取付けた状態で、中間補強フレーム１１４の切欠部１１４ａ及び貫通部１１４ｂが、扉枠ベース１０１の上皿用球通過口１０１ｇ及び貫通孔１０１ｊと一致した状態となると共に、シリンダ取付フレーム１１５が、扉枠ベース１０１の挿入凹部１０１ｃ内に挿入された状態となる。
【０１１４】
［３－１ｇ．扉枠上ヒンジ組立体］
扉枠ベースユニット１００の扉枠上ヒンジ組立体１２０について、主に図３１乃至図３３を参照して説明する。扉枠上ヒンジ組立体１２０は、扉枠補強ユニット１１０の正面視左上隅に取付けられる。扉枠上ヒンジ組立体１２０は、扉枠３を、扉枠下ヒンジ部材１２５と協働して本体枠４に対してヒンジ回転可能に取付けるためのものである。扉枠上ヒンジ組立体１２０は、扉枠補強ユニット１１０に取付けられるヒンジブラケット１２１と、ヒンジブラケット１２１に上下方向へ移動可能に取付けられる扉枠上ヒンジピン１２２と、扉枠上ヒンジピン１２２に取付けられる鍔部材１２３と、扉枠上ヒンジピン１２２を上方へ移動するように付勢しているロックバネ１２４と、を備えている。
【０１１５】
ヒンジブラケット１２１は、正面視四角形の平板状の取付片１２１ａと、取付片１２１ａの上辺及び下辺から前方へ延出している平板状の突出片１２１ｂと、を備えている。ヒン

ジブラケット１２１は、取付片１２１ａが扉枠補強ユニット１１０に取付けられる。ヒンジブラケット１２１は、金属板を屈曲させて形成されている。

【０１１６】

扉枠上ヒンジピン１２２は、円柱状の金属棒をＬ字状に屈曲させたものである。扉枠上ヒンジピン１２２は、扉枠上ヒンジ組立体１２０に組立てた状態で、上下に延びている部位が、ヒンジブラケット１２１における一対の突出片１２１ｂの前端付近において下方から貫通し、上端が上側の突出片１２１ｂよりも上方へ延び出していると共に、水平に延びている部位が下側の突出片１２１ｂの下面に当接している。扉枠上ヒンジピン１２２は、上端が本体枠４の本体枠上ヒンジ部材５１０における上ヒンジ本体５１１の扉枠用上ヒンジ孔５１１ａに回転可能に挿通される。

【０１１７】

鍔部材１２３は、Ｅリングとされており、扉枠上ヒンジピン１２２における一対の突出片１２１ｂの間となる部位に取付けられている。ロックバネ１２４は、コイル状に形成されており、鍔部材１２３とヒンジブラケット１２１における下側の突出片１２１ｂとの間において扉枠上ヒンジピン１２２の上下に延びている部位の周りに被せられている。このロックバネ１２４により、鍔部材１２３を介して扉枠上ヒンジピン１２２が上方へ付勢されている。

【０１１８】

扉枠上ヒンジ組立体１２０は、扉枠上ヒンジピン１２２がロックバネ１２４により上方へ付勢された状態となっており、扉枠上ヒンジピン１２２における下端の水平に延びている部位が下側の突出片１２１ｂの下面に当接することで、これ以上の上方への移動が規制されている。この状態では、扉枠上ヒンジピン１２２の上端が、上側の突出片１２１ｂの上面よりも所定量上方に突出している。

【０１１９】

扉枠上ヒンジ組立体１２０は、扉枠上ヒンジピン１２２における下端の水平に延びている部位を、ロックバネ１２４の付勢力に抗してその部位を下方へ移動させると、扉枠上ヒンジピン１２２を全体的に下方へ移動させることができ、扉枠上ヒンジピン１２２の上端を、上側の突出片１２１ｂの上面よりも下方へ没入させることができる。従って、扉枠上ヒンジ組立体１２０は、扉枠上ヒンジピン１２２の上端を、本体枠上ヒンジ部材５１０の扉枠用上ヒンジ孔５１１ａに対して下方から挿入させたり、下方へ抜いたりすることができる。これにより、扉枠上ヒンジピン１２２の上端を、本体枠上ヒンジ部材５１０の扉枠用上ヒンジ孔５１１ａに挿入させることで、扉枠３の正面視上部左端を、本体枠４に対してヒンジ回転可能に支持させることができる。

【０１２０】

また、扉枠上ヒンジ組立体１２０は、扉枠上ヒンジピン１２２における上下に延びている部位が、後述する扉枠下ヒンジ部材１２５の扉枠下ヒンジピン１２６と同軸上に位置している。これにより、扉枠上ヒンジピン１２２と扉枠下ヒンジピン１２６とによって、扉枠３を本体枠４に対して良好な状態でヒンジ回転させることができる。

【０１２１】

［３－１ｈ．扉枠下ヒンジ部材］

扉枠ベースユニット１００の扉枠下ヒンジ部材１２５について、主に図３１乃至図３３を参照して説明する。扉枠下ヒンジ部材１２５は、扉枠補強ユニット１１０の正面視左下隅に取付けられる。扉枠下ヒンジ部材１２５は、扉枠３を、扉枠上ヒンジ組立体１２０と協働して本体枠４に対してヒンジ回転可能に取付けるためのものである。

【０１２２】

扉枠下ヒンジ部材１２５は、扉枠補強ユニット１１０に取付けられ正面視四角形で平板状の取付片１２５ａと、取付片１２５ａの下辺から前方へ延出している平板状の突出片１２５ｂと、突出片１２５ｂの前端付近の下面から下方へ突出している扉枠下ヒンジピン１２６（図２２等を参照）と、を備えている。

【０１２３】

扉枠下ヒンジ部材１２５の取付片１２５ａ及び突出片１２５ｂは、金属板を屈曲させて形成されている。扉枠下ヒンジピン１２６は、円柱状の金属棒で、下端部の外周にテーパ状の面取りが施されている。この扉枠下ヒンジピン１２６は、扉枠ベースユニット１００に組立てた状態で、突出片１２５ｂにおける扉枠上ヒンジ組立体１２０の扉枠上ヒンジピン１２２の上下に延びている部位と同軸上となる部位に取付けられている。

【０１２４】

この扉枠下ヒンジ部材１２５は、扉枠下ヒンジピン１２６を本体枠側下ヒンジ部材の扉枠用ヒンジ孔に挿入することで、扉枠３を本体枠４に対してヒンジ回転可能に支持することができる。

【０１２５】

［３－１ｉ．シリンダ錠］

扉枠ベースユニット１００のシリンダ錠１３０について、主に図３１乃至図３３を参照して詳細に説明する。シリンダ錠１３０は、扉枠補強ユニット１１０のシリンダ取付フレーム１１５に取付けられ、後述する施錠ユニット６５０と協働して、扉枠３と本体枠４との開閉、及び、外枠２と本体枠４との開閉施錠に使用されるものである。シリンダ錠１３０は、前後に延びた円柱状のシリンダ本体１３１と、シリンダ本体１３１の前端面に形成されている鍵穴１３２と、シリンダ本体１３１の後側に取付けられており鍵穴１３２に挿入され正規の鍵を回転させると一緒に回転する回転伝達部材１３３と、を備えている。

【０１２６】

シリンダ錠１３０のシリンダ本体１３１は、シリンダ取付フレーム１１５の前片部を後方から貫通して後端が前片部に取付けられている。回転伝達部材１３３は、後方が開放された円筒状（詳しくは、後方へ向かうに従って直径が大きくなる円錐筒状）に形成されており、中心軸を挟んで対向した位置に後端から前方へ向かって切欠かれた一対の切欠部を有している。回転伝達部材１３３は、本体枠４における施錠ユニット６５０の伝達シリンダ６５４が後方から挿入されるように形成されており、伝達シリンダ６５４の一対の突起が一対の切欠部内に挿入されることで、回転伝達部材１３３（鍵穴１３２に挿入された鍵）の回転を、伝達シリンダ６５４に伝達させて回転させることができる。

【０１２７】

シリンダ錠１３０は、扉枠３に組立てた状態で、シリンダ本体１３１の前端が皿ユニット２００における皿ユニット本体２５２のシリンダ挿通口２５２ｈの前端と略一致した状態となる（図２２等を参照）。

【０１２８】

［３－１ｊ．球送給ユニット］

扉枠ベースユニット１００の球送給ユニット１４０について、主に図３４及び図３５を参照して詳細に説明する。図３４（ａ）は扉枠ベースユニットの球送給ユニットを前から見た斜視図であり、（ｂ）は球送給ユニットを後ろから見た斜視図である。図３５（ａ）は球送給ユニットを分解して前から見た分解斜視図であり、（ｂ）は球送給ユニットの後ケースと不正防止部材を外して後から見た分解斜視図である。球送給ユニット１４０は、皿ユニット２００の上皿２０１から供給される遊技球Ｂを一つずつ本体枠４の球発射装置５４０へ供給することができると共に、上皿２０１内に貯留された遊技球Ｂを、上皿球抜ボタン２２２の操作によって下皿２０２へ抜くことができるものである。

【０１２９】

球送給ユニット１４０は、皿ユニット２００の上皿２０１から遊技球Ｂが供給され前後方向に貫通している進入口１４１ａ、及び進入口１４１ａの下側に開口する球抜口１４１ｂを有し後方が開放された箱状の前カバー１４１と、前カバー１４１の後端を閉鎖すると共に前方が開放された箱状で、前後方向に貫通している前カバー１４１の進入口１４１ａから進入した遊技球Ｂを球発射装置５４０へ供給するための打球供給口１４２ａを有した後カバー１４２と、後カバー１４２及び前カバー１４１の間で前後方向へ延びた軸周りに回動可能に軸支され前カバー１４１の後側で進入口１４１ａと球抜口１４１ｂとの間を仕切る仕切部１４３ａを有した球抜部材１４３と、球抜部材１４３の仕切部１４３ａ上の遊技

球Ｂを一つずつ後カバー１４２の打球供給口１４２ａへ送り、前カバー１４１と後カバー１４２との間で上下方向へ延びた軸周りに回動可能に支持された球送給部材１４４と、球送給部材１４４を回動させる球送給ソレノイド１４５と、を備えている。

【０１３０】

この球送給ユニット１４０は、図示するように、正面視で、球送給部材１４４が進入口１４１ａの右側に配置されており、球送給部材１４４の左側に球抜部材１４３が、球送給部材１４４の右側に球送給ソレノイド１４５が夫々配置されている。

【０１３１】

球送給ユニット１４０の前カバー１４１は、正面視で球抜口１４１ｂの左側に、球抜部材１４３の回転中心に対して同心円状に形成された円弧状のスリット１４１ｃを備えており、このスリット１４１ｃから後述する球抜部材１４３の作動棹１４３ｃが前方へ延びだすようになっている。また、前カバー１４１は、進入口１４１ａの上縁から上側が上方へ延びだしており、扉枠３を組立てた際に、上皿球抜後ユニット２４０における後ベース２４１の球送給誘導路２４１ｂ及び球抜誘導路２４１ｃの上流端側の後方へ開放されている部位を後側から閉鎖するように形成されている。

【０１３２】

球抜部材１４３は、進入口１４１ａよりも下側で進入口１４１ａと球抜口１４１ｂとの間を仕切り上面が球送給部材１４４の方向へ向かって低くなる仕切部１４３ａと、仕切部１４３ａの球送給部材１４４とは反対側の端部から下方へ延出すると共に上下方向の中間付近から球抜口１４１ｂの下側中央へ向かってく字状に屈曲し下端が前後方向へ延びた軸周りに回動可能に支持される回動棹部１４３ｂと、回動棹部１４３ｂの上端から前方へ向かって突出する棒状の作動棹１４３ｃと、作動棹１４３ｃよりも下側で回動棹部１４３ｂの側面から仕切部１４３ａとは反対側へ突出した錘部１４３ｄと、を備えている。球抜部材１４３の作動棹１４３ｃは、前カバー１４１に形成された円弧状のスリット１４１ｃを通して前方へ突出するように形成されている（図３４（ａ）を参照）。作動棹１４３ｃは、扉枠ベース１０１の球送給開口１０１ｅを介して皿ユニット２００の上皿球抜ボタン２２２の押圧操作によって下方へ移動する上皿球抜スライダ２４２の作動伝達部２４２ｂの上端（上面）と当接する。

【０１３３】

球送給部材１４４は、進入口１４１ａ及び球抜部材１４３の仕切部１４３ａの方を向き上下方向へ延びた回転軸芯を中心とした平面視が扇状の遮断部１４４ａと、遮断部１４４ａの後端から回転軸芯側へ円弧状に窪んだ球保持部１４４ｂと、球保持部１４４ｂの後端から下方へ延出する棒状の棹部１４４ｃと、を備えている。球送給部材１４４における遮断部１４４ａと球保持部１４４ｂは、夫々回転軸芯を中心とした約１８０°の角度範囲内に隣接して形成されている。また、球送給部材１４４の球保持部１４４ｂは、一つの遊技球Ｂを保持可能な大きさとされている。球送給部材１４４は、球送給ソレノイド１４５の駆動によって回転軸芯と偏芯した位置に配置された棹部１４４ｃが左右方向へ移動させられることで、回転軸芯周りに回動する。

【０１３４】

この球送給部材１４４は、遮断部１４４ａが仕切部１４３ａの方向を向くと同時に球保持部１４４ｂが打球供給口１４２ａと連通した方向を向いた供給位置と、球保持部１４４ｂが仕切部１４３ａの方向へ向いた保持位置との間で回動するようになっている。球送給部材１４４が供給位置の時には、球保持部１４４ｂに保持された遊技球Ｂが、打球供給口１４２ａから球発射装置５４０へ供給されると共に、進入口１４１ａから仕切部１４３ａ上に進入した遊技球Ｂが、遮断部１４４ａによって球保持部１４４ｂ（打球供給口１４２ａ）側への移動が遮断されて仕切部１４３ａ上に留まった状態となる。一方、球送給部材１４４が保持位置へ回動すると、球保持部１４４ｂが仕切部１４３ａの方向を向くと共に、球保持部１４４ｂの棹部１４４ｃ側の端部が打球供給口１４２ａを閉鎖した状態となり、仕切部１４３ａ上の遊技球Ｂが一つだけ球保持部１４４ｂ内に保持される。

【０１３５】

また、球送給ユニット１４０は、球送給ソレノイド１４５の駆動（通電）によって先端が上下方向へ揺動する球送給作動棹１４６と、球送給作動棹１４６における上下方向へ揺動する先端の動きによって前後方向へ延びた軸周りに回動すると共に、球送給部材１４４を上下方向へ延びた軸周りに回動させる球送給クランク１４７と、を備えている。

【０１３６】

球送給作動棹１４６は、球送給ソレノイド１４５の下方の部位に鉄板１４６ａを備えている。球送給作動棹１４６は、左右に延びており、球送給クランク１４７とは反対側の端部（右端部）が前後に延びた軸周りに回転可能に前カバー１４１及び後カバー１４２に取付けられている。球送給作動棹１４６は、球送給ソレノイド１４５が駆動されると、発生する磁力によって鉄板１４６ａが球送給ソレノイド１４５の方（上方）へ引寄せられ、右端部を中心にして球送給クランク１４７に近い左端部側が上方へ移動するように回動する。その後、球送給ソレノイド１４５の駆動が解除されると、磁力が消滅することによって鉄板１４６ａの自重が作用して、右端部を中心にして球送給クランク１４７に近い左端部側が下方へ移動するように回動して初めの状態に復帰する。これにより、球送給作動棹１４６は、球送給ソレノイド１４５によって、球送給クランク１４７に近い左端部（先端）が上下方向に揺動することとなる。

【０１３７】

球送給クランク１４７は、球送給作動棹１４６の上下動する先端と係合可能とされ左右方向へ延びた係合部１４７ａと、係合部１４７ａの球送給作動棹１４６と係合する側とは反対側に配置され前カバー１４１と後カバー１４２との間で前後方向へ延びた軸周りに回動可能に軸支される軸部１４７ｂと、軸部１４７ｂから上方へ延出しており、球送給部材１４４における回動中心に対して偏芯した位置から下方へ突出する棒状の棹部１４４ｃ（図３５（ｂ）を参照）と係合する伝達部１４７ｃと、を備えている。

【０１３８】

この球送給ユニット１４０は、球送給ソレノイド１４５の駆動により球送給作動棹１４６の先端（左端）を上方へ移動させることで、球送給作動棹１４６を介して球送給クランク１４７を前後に延びた軸周りに回動させることができる。

【０１３９】

球送給ユニット１４０は、球送給ソレノイド１４５の非駆動時（通常時）では、球送給作動棹１４６が球送給ソレノイド１４５の下端から離れて先端が下方へ位置した状態となり、この状態では球送給部材１４４が供給位置に位置した状態となる。また、球送給ソレノイド１４５の駆動時では、球送給作動棹１４６が球送給ソレノイド１４５の下端に吸引されて先端（左端）が上方へ位置した状態となり、球送給部材１４４が保持位置へ回動する。つまり、球送給ソレノイド１４５が駆動される（ＯＮの状態）と、球送給部材１４４が遊技球Ｂを一つ受入れ、球送給ソレノイド１４５の駆動が解除される（ＯＦＦの状態）と、球送給部材１４４が受入れた遊技球Ｂを球発射装置５４０側へ送る（供給する）ことができる。この球送給ユニット１４０における球送給ソレノイド１４５の駆動は、払出制御基板６３３の発射制御部６３３ｂ（図２０６を参照）により発射ソレノイド５４２の駆動制御と同期して制御される。

【０１４０】

また、球送給ユニット１４０は、回動可能に軸支されている球抜部材１４３か、錘部１４３ｄによって正面視反時計周りの方向へ回転するようなモーメントがかかるようになっている。しかしながら、球抜部材１４３の前方へ突出している作動棹１４３ｃが、皿ユニット２００の上皿球抜ボタン２２２の押圧操作によって動作する上皿球抜スライダ２４２の作動伝達部２４２ｂの上端と当接することで、その回動が規制されているため、通常の状態では、球抜部材１４３の仕切部１４３ａが進入口１４１ａと球抜口１４１ｂとの間に位置して仕切っており、球抜口１４１ｂ側へ遊技球Ｂが侵入することはない。

【０１４１】

そして、遊技者が、皿ユニット２００の上皿球抜ボタン２２２を下方へ押圧操作すると、上皿球抜スライダ２４２が作動伝達部２４２ｂと共に下方へスライドし、作動伝達部２４

２ｂの下方への移動に伴って作動棹１４３ｃも相対的に下方へ移動することとなる。作動伝達部２４２ｂと共に作動棹１４３ｃが下方へ移動すると、球抜部材１４３が正面視反時計周りの方向へ回動し、仕切部１４３ａが進入口１４１ａと球抜口１４１ｂとの間から移動して仕切りが解除される。これにより、進入口１４１ａから進入した遊技球Ｂが、球抜口１４１ｂ側へ落下し、球抜口１４１ｂから皿ユニット２００における上皿球抜後ユニット２４０の球抜誘導路２４１ｃへと排出され、下皿球供給口２１１ｃを介して下皿２０２へ排出（供給）させることができる。

【０１４２】

なお、球抜部材１４３の作動棹１４３ｃが当接する作動伝達部２４２ｂが形成されている上皿球抜スライダ２４２は、バネ２４３によって上方へ付勢されているので、仕切部１４３ａ上に遊技球Ｂが勢い良く供給されても、その衝撃を、作動棹１４３ｃを介してバネ２４３によって吸収させることができ、球抜部材１４３等が破損するのを防止することができると共に、遊技球Ｂが仕切部１４３ａで跳ね返るのを防止することができる。

【０１４３】

また、球送給ユニット１４０は、後カバー１４２における打球供給口１４２ａの背面視で右上に前方へ窪んだ矩形状の取付凹部１４２ｂ（図３５（ｂ）等を参照）が形成されていると共に、その取付凹部１４２ｂ内に不正防止部材１４８が取付けられている。球送給ユニット１４０の不正防止部材１４８は、工具鋼やステンレス等の硬質の金属板により形成されており、後カバー１４２の取付凹部１４２ｂ内に対して後側から脱着可能に取付けられている。

【０１４４】

不正防止部材１４８は、正面視の外形が左右に延びた長方形状に形成されており、右辺から左方へ所定距離の間において、上下方向略中央で上下に分離している上片部１４８ａ及び下片部１４８ｂと、上片部１４８ａ及び下片部１４８ｂの互いに対向している辺の先端側（正面視右端側）でＣ面取り状に夫々形成されている傾斜部１４８ｃと、を備えている。不正防止部材１４８の上片部１４８ａは、不正防止部材１４８の一般面に対して、正面視右端が後方へ突出するように屈曲させられている。下片部１４８ｂは、不正防止部材１４８の一般面と同一面上に延びている。これにより、平面視において、上片部１４８ａと下片部１４８ｂとによって、右方に向かうに従って広がるＶ字状の溝を形成している。

【０１４５】

不正防止部材１４８は、後カバー１４２の取付凹部１４２ｂに取付けられることで、上片部１４８ａと下片部１４８ｂとで形成されるＶ字状の溝が、打球供給口１４２ａ内と連通した状態となる。

【０１４６】

この不正防止部材１４８によれば、紐を取付けた不正な遊技球Ｂを、上皿から球送給ユニット１４０を介して球発射装置５４０により遊技領域５ａ内に打込み、不正な遊技球Ｂに取付けられた紐を操作して、不正な遊技球Ｂを第一始動口２００２等に出し入れさせるような不正行為が行われる際に、球発射装置５４０により発射（打球）された不正な遊技球Ｂの勢いによって、不正な遊技球Ｂに取付けられた紐を、上片部１４８ａと下片部１４８ｂとの間に挿入させた上で、上片部１４８ａと下片部１４８ｂとによって形成されたＶ字状の狭くなった部位により切断させることができ、紐を取付けた不正な遊技球Ｂを用いた不正行為が行われるのを防止することができる。

【０１４７】

［３－１ｋ．ファールカバーユニット］

扉枠ベースユニット１００のファールカバーユニット１５０について、主に図３６及び図３７を参照して詳細に説明する。図３６（ａ）は扉枠ベースユニットのファールカバーユニットを前から見た斜視図であり、（ｂ）はファールカバーユニットを後ろから見た斜視図である。また、図３７は、蓋部材を外した状態のファールカバーユニットの正面図である。ファールカバーユニット１５０は、扉枠ベース１０１の後側の下部における背面視右側に取付けられている。ファールカバーユニット１５０は、球発射装置５４０により発射

されて遊技盤５の遊技領域５ａ内に到達しなかった遊技球Ｂ（ファール球）を、下皿２０２に誘導すると共に、払出装置５８０から払出された遊技球Ｂを、上皿２０１又は下皿２０２に誘導するためのものである。ファールカバーユニット１５０は、図示するように、扉枠ベース１０１の後側に取付けられ前側が開放された浅い箱状のユニット本体１５１と、ユニット本体１５１の前面に取付けられている平板状の蓋部材１５２と、を備えている。

【０１４８】

ファールカバーユニット１５０は、正面視左上隅において前後に貫通しており本体枠４の下部満タン球経路ユニット６１０の下部通常払出通路６１０ａと皿ユニット２００の上皿球供給口２１１ａとを連通させる貫通球通路１５０ａと、貫通球通路１５０ａの正面視右下側で後方へ向かって開口しており本体枠４の下部満タン球経路ユニット６１０の下部満タン払出通路６１０ｂと連通可能な満タン球受口１５０ｂと、を備えている。

【０１４９】

また、ファールカバーユニット１５０は、満タン球受口１５０ｂの正面視右側で上方へ向かって開口しており本体枠４の球発射装置５４０により発射されにも関わらず遊技領域５ａ内へ到達しなかった遊技球Ｂ（ファール球）を受けるファール球受口１５０ｃと、正面視右下隅付近で前方へ向かって開口しており満タン球受口１５０ｂ及びファール球受口１５０ｃに受入れられた遊技球Ｂを前方へ放出すると共に皿ユニット２００の下皿球供給口２１１ｃと連通する球放出口１５０ｄと、を備えている。

【０１５０】

更に、ファールカバーユニット１５０は、ユニット本体１５１及び蓋部材１５２によって、満タン球受口１５０ｂ及びファール球受口１５０ｃと球放出口１５０ｄとの間に形成されており所定量の遊技球Ｂを貯留可能な広さを有している貯留通路１５０ｅを、備えている。

【０１５１】

貫通球通路１５０ａは、ユニット本体１５１と蓋部材１５２の両方に跨って形成されている。満タン球受口１５０ｂ及びファール球受口１５０ｃは、ユニット本体１５１に形成されている。球放出口１５０ｄは、蓋部材１５２に形成されている。貯留通路１５０ｅは、ユニット本体１５１と蓋部材１５２とで形成されている。

【０１５２】

また、ファールカバーユニット１５０は、貯留通路１５０ｅの内壁の一部を構成しており下端が回動可能にユニット本体１５１及び蓋部材１５２に取付けられている平板状の可動片１５３と、可動片１５３の貯留通路１５０ｅから遠ざかる方向への回動を検知する満タン検知センサ１５４と、可動片１５３を貯留通路１５０ｅ側へ付勢しているバネ１５５と、を備えている。

【０１５３】

このファールカバーユニット１５０は、皿ユニット２００の下皿２０２内が遊技球Ｂで一杯になって、球放出口１５０ｄから遊技球Ｂが下皿２０２側へ放出されなくなると、貯留通路１５０ｅ内にある程度の数の遊技球Ｂを貯留することができる。そして、貯留通路１５０ｅ内にある程度の数の遊技球Ｂが貯留されると、遊技球Ｂの重さによって可動片１５３の上端がバネ１５５の付勢力に抗して貯留通路１５０ｅから遠ざかる方向へ移動するように可動片１５３が回動し、その回動が満タン検知センサ１５４によって検知される。これにより、下皿２０２が遊技球Ｂで満タンになっていると判断することができるため、満タン検知センサ１５４により満タンが検知されると、これ以上の遊技球Ｂの払出しを停止させると共に、その旨を遊技者や遊技ホールの係員等に報知して、下皿２０２の満タンを解消させるように促すことができる。

【０１５４】

また、ファールカバーユニット１５０は、ユニット本体１５１の後側で貫通球通路１５０ａの下側に取付けられており、本体枠４の後述する払出ユニット５６０における下部満タン球経路ユニット６１０の払出通路開閉扉６１３の作動突部６１３ａが当接可能な扉開閉当接部１５０ｆを備えている（図９１を参照）。扉開閉当接部１５０ｆは、後面が下方へ

向かうに従って前方へ移動するように傾斜している。この扉開閉当接部１５０ｆに払出通路開閉扉６１３の作動突部６１３ａが当接することで、払出通路開閉扉６１３を回動させて下部通常払出通路６１０ａ及び下部満タン払出通路６１０ｂの下流端（前側開口）を開放させることができる。

【０１５５】

［３－２．ガラスユニット］

扉枠３におけるガラスユニット１６０について、主に図２９及び図３０等を参照して詳細に説明する。ガラスユニット１６０は、扉枠ベースユニット１００における扉枠ベース１０１の扉窓１０１ａを閉鎖するように、後方からガラスユニット取付部１０１ｈ内に挿入されて着脱可能に取付けられている。このガラスユニット１６０は、扉枠３を本体枠４に対して閉めた時に、本体枠４に取付けられている遊技盤５の遊技領域５ａを遊技者側（前方）から視認可能とすると共に、遊技領域５ａの前方を閉鎖するものである。

【０１５６】

ガラスユニット１６０は、扉枠ベース１０１の扉窓１０１ａの内周形状よりも大きくガラスユニット取付部１０１ｈに取付可能な枠状のガラス枠１６１と、ガラス枠１６１の枠内を閉鎖し外周がガラス枠１６１に取付けられている透明な二つのガラス板１６２と、扉枠ベースユニット１００における扉枠ベース１０１の後側に回転可能に取付けられガラス枠１６１を扉枠ベース１０１に取付けるための一対のガラスユニット取付部材１６３と、を備えている。

【０１５７】

ガラス枠１６１は、正面視左右上隅よりも下側の位置から外方へ平板状に延出している一対の取付片１６１ａと、下端から下方へ突出していると共に下辺に沿って延びている帯板状の係止片１６１ｂと、を有している。ガラス枠１６１の取付片１６１ａは、ガラスユニット取付部材１６３の突出部１６３ｂと当接可能とされている。係止片１６１ｂは、扉枠ベース１０１と扉枠補強ユニット１１０の中間補強フレーム１１４との間の空間内に挿入可能とされている（図９７を参照）。二つのガラス板１６２は、ガラス枠１６１の前端側と後端側とに夫々取付けられており、互いの間に空間が形成されるように前後に離間している（図９７を参照）。

【０１５８】

ガラスユニット取付部材１６３は、扉枠ベース１０１の後側で前後に延びた軸線周りに対して回転可能に取付けられる円盤状の基部１６３ａと、基部１６３ａから回転軸線に対して直角方向へ棒状に突出している突出部１６３ｂと、を有している。ガラスユニット取付部材１６３は、扉枠ベース１０１の後面における扉窓１０１ａの四隅のうち上側の二つの隅の外側に、夫々回転可能に取付けられる。

【０１５９】

ガラスユニット１６０を扉枠ベース１０１に取付けるには、まず、扉枠ベース１０１に取付けられているガラスユニット取付部材１６３を、突出部１６３ｂが基部１６３ａよりも上方に位置するように回転させた状態とする。そして、扉枠ベース１０１の後側から、ガラスユニット１６０のガラス枠１６１の係止片１６１ｂを、扉枠ベース１０１と扉枠補強ユニット１１０の中間補強フレーム１１４との間の隙間に上方から挿入した上で、ガラス枠１６１の前端を扉枠ベース１０１のガラスユニット取付部１０１ｈの後面に当接させる。その後、ガラスユニット取付部材１６３を、突出部１６３ｂが基部１６３ａよりも下方に位置するように回転させて、突出部１６３ｂをガラス枠１６１の取付片１６１ａの後面と当接させる。これにより、ガラスユニット１６０が扉枠ベース１０１に取付けられる。

【０１６０】

ガラスユニット１６０を扉枠ベース１０１から取外す場合は、上記と逆の手順により、取外すことができる。これにより、ガラスユニット１６０は、扉枠ベース１０１（扉枠ベースユニット１００）に対して着脱可能となっている。

【０１６１】

なお、ガラスユニット１６０では、ガラスユニット取付部材１６３の突出部１６３ｂが、

基部１６３ａよりも下方に位置している回転位置の時に、突出部１６３ｂによりガラス枠１６１の後方への移動を規制しているため、ガラスユニット取付部材１６３に振動等が作用しても、突出部１６３ｂが基部１６３ａよりも上方となるように位置へ回転することはない。従って、ガラス枠１６１の後方への移動の規制が自然に解除されることはなく、ガラスユニット１６０が扉枠ベース１０１から自然に外れることはない。

【０１６２】

［３－３．防犯カバー］

扉枠３における防犯カバー１７０について、主に図２９及び図３０等を参照して詳細に説明する。防犯カバー１７０は、ガラスユニット１６０の後面下部を覆うように扉枠ベースユニット１００の後側に取付けられ、透明な合成樹脂により形成されている。防犯カバー１７０は、外周が所定形状に形成された平板状の本体部１７１と、本体部１７１の外周縁に沿って後方へ短く突出した平板状の後方突片１７２と、左右に離間して配置され本体部１７１よりも前方に突出し、扉枠ベース１０１の後側に係止可能とされている一対の係止片１７３と、を備えている。

【０１６３】

防犯カバー１７０の本体部１７１は、扉枠ベースユニット１００に取付けた状態で下端がガラスユニット１６０の下端よりも下方へ突出するように形成されている。また、本体部１７１は、上端が、パチンコ機１に組立てた状態で、遊技盤５における遊技領域５ａの下端に沿った形状に形成されている。詳述すると、本体部１７１の上端は、後述する前構成部材１０００の内レール１００２の一部、アウト誘導部１００３、右下レール１００４の一部、及び右レール１００５に沿った形状に形成されており、パチンコ機１に組立てた状態で遊技領域５ａ内に突出しないように形成されている。

【０１６４】

後方突片１７２は、本体部１７１の外周縁の略全周に亘って形成されている。従って、防犯カバー１７０は、本体部１７１と後方突片１７２とによって、後方へ開放された浅い箱状に形成されており、強度・剛性が高くなっている。また、後方突片１７２は、本体部１７１の外周縁とは異なる本体部１７１の後面の一部からも後方に突出している。この本体部１７１の後面の一部から後方に突出している後方突片１７２は、パチンコ機１に組立てた状態で遊技盤５の前構成部材１０００における外レール１００１の一部と沿うように形成されている。

【０１６５】

なお、後方突片１７２は、パチンコ機１に組立てた状態で、遊技盤５における外レール１００１と内レール１００２との間に位置する部位には形成されていない。これにより、外レール１００１と内レール１００２との間を通る遊技球Ｂ（球発射装置５４０により発射された遊技球Ｂ）が、防犯カバー１７０の後方突片１７２に当接することはなく、遊技領域５ａ内への遊技球Ｂの打込みを阻害することはない。

【０１６６】

一対の係止片１７３は、扉枠ベースユニット１００（スピーカダクト１０３及びケーブルカバー１０９）の後側に弾性係止される。これにより、防犯カバー１７０は、扉枠ベースユニット１００に対して容易に着脱することができる。

【０１６７】

防犯カバー１７０は、パチンコ機１に組立てた状態で、本体部１７１の前面がガラスユニット１６０の後面（ガラス枠１６１の後端）と当接し、本体部１７１の下辺から後方へ突出している部位を除いた後方突片１７２が、前構成部材１０００の防犯凹部１００９内に挿入された状態となる。また、防犯カバー１７０は、本体部１７１の下辺から後方に突出している後方突片１７２が、前構成部材１０００の下面と接するように前構成部材１０００の前面よりも後方へ突出している状態となる。これにより、防犯カバー１７０と遊技盤５（前構成部材１０００）との間が、防犯カバー１７０の後方突片１７２と前構成部材１０００の防犯凹部１００９とによって複雑に屈曲した状態となるため、遊技盤５の前面下方より防犯カバー１７０と前構成部材１０００との間を通してピアノ線等の不正な工具を

遊技領域５ａ内に侵入させようとしても、後方突片１７２や防犯凹部１００９に阻まれることとなり、遊技領域５ａ内への不正な工具の侵入を阻止することができる。

【０１６８】

［３－４．ハンドルユニット］

扉枠３におけるハンドルユニット１８０について、主に図３８等を参照して詳細に説明する。図３８（ａ）は扉枠におけるハンドルユニットを分解して前から見た分解斜視図であり、（ｂ）はハンドルユニットを分解して後ろから見た分解斜視図である。ハンドルユニット１８０は、扉枠ベースユニット１００のハンドル取付部材１０２に取付けられ、遊技者が操作することで、上皿２０１内の遊技球Ｂを遊技盤５の遊技領域５ａ内に打込むことができるものである。

【０１６９】

ハンドルユニット１８０は、扉枠ベースユニット１００におけるハンドル取付部材１０２の筒部１０２ａに取付けられるハンドルベース１８１と、ハンドルベース１８１の前端に回転可能に取付けられるハンドル１８２と、ハンドル１８２の前端側を覆うようにハンドルベース１８１に取付けられる円盤状のカバー台座１８３と、カバー台座１８３の前側に取付けられており前面（以下、「表面（実装面）」と記載する場合がある。）に複数のＬＥＤが実装されているハンドル装飾基板１８４と、ハンドル装飾基板１８４の前側を覆うようにカバー台座１８３に取付けられている透明なハンドルカバー１８５と、を備えている。ハンドル装飾基板１８４の表面（実装面）に実装されている複数のＬＥＤは、表面実装タイプであって多色発光可能なフルカラーＬＥＤである。

【０１７０】

また、ハンドルユニット１８０は、ハンドル１８２の後側でハンドルベース１８１の前面に取付けられるインナーベース１８６と、前端にハンドル１８２が取付けられると共にインナーベース１８６とハンドルベース１８１とによって回転可能に取付けられ外周に駆動ギア部１８７ａを有している軸部材１８７と、軸部材１８７の駆動ギア部１８７ａと噛合している伝達ギア１８８と、伝達ギア１８８と一体回転する検知軸１８９ａを有しハンドルベース１８１とインナーベース１８６との間に挟持されているハンドル回転検知センサ１８９と、を備えている。

【０１７１】

更に、ハンドルユニット１８０は、一端側がハンドルベース１８１に取付けられると共に他端側がハンドル１８２に取付けられハンドル１８２を初期回転位置（正面視で反時計周りの方向への回転端）へ復帰させるように付勢しているハンドル復帰バネ１９０と、一端側がインナーベース１８６に取付けられると共に他端側が伝達ギア１８８に取付けられ伝達ギア１８８を介してハンドル回転検知センサ１８９の検知軸１８９ａを正面視で時計回りの方向へ付勢している補助バネ１９１と、を備えている。

【０１７２】

また、ハンドルユニット１８０は、インナーベース１８６の後方でハンドルベース１８１に取付けられているハンドルタッチセンサ１９２と、先端側がハンドルベース１８１の前端外周面の正面視おける左側から外方に突出していると共に基端側がインナーベース１８６の後方でハンドルベース１８１に前後に延びた軸周りに回転可能に取付けられている単発ボタン１９３と、単発ボタン１９３の押圧操作を検知しハンドルベース１８１に取付けられている単発ボタン操作センサ１９４と、を備えている。

【０１７３】

ハンドルユニット１８０のハンドルベース１８１は、前後に延びた円筒状の基部１８１ａと、基部１８１ａの前端から半径方向へ突出している円盤状の前端部１８１ｂと、円筒状の基部１８１ａの外周面から窪んでいると共に軸方向に延びており周方向へ不等間隔で三つ形成されている溝部１８１ｃと、を備えている。ハンドルベース１８１の基部１８１ａは、外径がハンドル取付部材１０２の筒部１０２ａの内径よりも若干小さく形成されている。また、三つの溝部１８１ｃは、ハンドル取付部材１０２における筒部１０２ａの三つの突条１０２ｃと対応した位置に形成されている。従って、三つの溝部１８１ｃを三つの

突条１０２ｃと一致させた状態で、基部１８１ａをハンドル取付部材１０２の筒部１０２ａ内に挿入させることができると共に、三つの溝部１８１ｃ内に夫々突条１０２ｃが挿入されることで、ハンドルベース１８１がハンドル取付部材１０２に対して相対回転不能な状態となる。

【０１７４】

ハンドル１８２は、外周面から周方向に離れて外方へ突出している四つの第一突起１８２ａ、第二突起１８２ｂ、第三突起１８２ｃ、及び第四突起１８２ｄと、回転軸（軸部材１８７）を中心として円弧状に延びていると共に前後方向に貫通している二つのスリット１８２ｅと、スリット１８２ｅよりも回転中心に対して内側の位置から後方に突出しておりハンドル復帰バネ１９０の他端側が係止される係止突部１８２ｆと、を備えている。

【０１７５】

四つの第一突起１８２ａ、第二突起１８２ｂ、第三突起１８２ｃ、及び第四突起１８２ｄは、正面視において時計回りの方向に順番に備えられている。詳述すると、第一突起１８２ａは、ハンドル１８２の一般外周面から最も突出した部位の正面視時計回りの方向の側面が、外側へ膨らむように膨出しており、反対側である反都決周りの方向の側面が、内側へ湾曲するように凹んでいる（抉れている）。第二突起１８２ｂは、ハンドル１８２の一般外周面から最も突出した部位が、第一突起１８２ａの最も突出した部位から時計回りの方向へ約８５度の回転角度で離れており、第一突起１８２ａよりはやや低く突出している。この第二突起１８２ｂは、最も突出した部位の正面視時計回りの方向の側面が、外側へ膨らむように膨出しており、反対側である反時計周りの方向の側面が、内側へ湾曲するように凹んでおり、第一突起１８２ａと相似した形状に形成されている。

【０１７６】

第三突起１８２ｃは、ハンドル１８２の一般外周面から最も突出した部位が、第二突起１８２ｂの最も突出した部位から時計回りの方向へ約７０度の回転角度で離れており、第一突起１８２ａの約半分の高さで突出している。この第三突起１８２ｃは、両側の側面が略直線状に傾斜しており、時計回りの方向の側面が反対側である反時計回りの方向の側面よりもなだらかに傾斜している。第四突起１８２ｄは、ハンドル１８２の一般外周面から最も突出した部位が、第三突起１８２ｃの最も突出した部位から時計回りの方向へ約５５度の回転角度で離れており、第一突起１８２ａよりもやや高く突出している。この第四突起１８２ｄは、両側の側面が略直線状に傾斜しており、略二等辺三角形に形成されている。

【０１７７】

カバー台座１８３は、円盤状に形成されており、後面から後方へ突出している三つの取付ボス１８３ａを備えている。三つの取付ボス１８３ａは、ハンドル１８２のスリット１８２ｅを前方から貫通してハンドルベース１８１の前面に取付けられる。ハンドルカバー１８５の取付ボス１８３ａが、ハンドル１８２のスリット１８２ｅを貫通していることから、取付ボス１８３ａがスリット１８２ｅの周方向端部に当接することとなり、ハンドル１８２の回転角度を規制している。本実施形態では、ハンドル１８２を、約１２０度の回転角度の範囲内で回転させることができる。

【０１７８】

ハンドルカバー１８５は、前面が前方へ丸く膨出しており、透明に形成されている。ハンドルカバー１８５の裏面であってハンドルカバー１８５の内部には、透明な部材で立体的に形成されたインナーレンズ１８５ａが取り付けられている。インナーレンズ１８５ａの表面は、レンズカットが施されて（多面体に形成されて）光を乱屈折することができるようになっており、インナーレンズ１８５ａの後方に配置されるハンドル装飾基板１８４の表面（実装面）に実装されている複数のＬＥＤが遊技者側から明確に視認し難くなっている。なお、インナーレンズ１８５ａの表面と共に裏面には、レンズカットが施されていてもよいし（多面体に形成されていてもよいし）、インナーレンズ１８５ａの表面に代えて裏面には、レンズカットが施されていてもよい（多面体に形成されていてもよい）。ハンドルカバー１８５は、ハンドル装飾基板１８４の前面のＬＥＤを適宜発光させることで、発光装飾させられる。なお、ハンドルカバー１８５の表面には、レンズカットが施されて

いてもよいし（多面体に形成されていてもよいし）、ハンドルカバー１８５の表面と共に裏面には、レンズカットが施されていてもよいし（多面体に形成されていてもよいし）、ハンドルカバー１８５の裏面には、レンズカットが施されていてもよい（多面体に形成されていてもよい）。

【０１７９】

このハンドルユニット１８０は、扉枠ベース１０１のハンドル取付座面１０１ｂに対して、ハンドル取付部材１０２を介して取付けられる。この扉枠ベース１０１のハンドル取付座面１０１ｂは、平面視において、右端側が左端側よりも後方に位置するように傾斜しており、外側（開放側）を向いているため、ハンドル取付部材１０２を介して取付けられるハンドルユニット１８０も平面視で外側に傾斜（換言すると、パチンコ機１の前面に直交する線に対してその先端部がパチンコ機１の外側に向かうように傾斜している。）して扉枠３に取付固定される。これにより、遊技者がハンドルユニット１８０のハンドル１８２が握り易く、違和感がなく回動操作を行わせることができる。

【０１８０】

ハンドルユニット１８０のハンドル回転検知センサ１８９は、可変抵抗器とされており、ハンドル１８２を回転させると、軸部材１８７及び伝達ギア１８８を介してハンドル回転検知センサ１８９の検知軸１８９ａが回転する。この検知軸１８９ａの回転角度に応じてハンドル回転検知センサ１８９の内部抵抗が変化し、ハンドル回転検知センサ１８９の内部抵抗に応じて後述する球発射装置５４０における発射ソレノイド５４２の駆動力が変化して、ハンドル１８２の回転角度に応じた強さで遊技球Ｂが遊技領域５ａ内へ打込まれる。

【０１８１】

ハンドルタッチセンサ１９２は、ハンドルユニット１８０に作用する静電気を検知するものであり、遊技者がハンドル１８２等に接触することで、遊技者から作用する静電気を検知し、遊技者のハンドル１８２等への接触を検出する。そして、ハンドルタッチセンサ１９２が遊技者の接触を検出している時に、ハンドル１８２を回動させると、ハンドル回転検知センサ１８９の検知が受付けられ、ハンドル１８２の回転角度に応じた強さで発射ソレノイド５４２の駆動が制御されて、遊技球Ｂを打込むことができる。つまり、遊技者がハンドル１８２に触れずに、何らかの方法でハンドル１８２を回転させて遊技球Ｂを遊技領域５ａ内に打込もうとしても、ハンドルタッチセンサ１９２が遊技者の接触を検知していないことから、発射ソレノイド５４２は駆動されず、遊技球Ｂを打込むことができないようになっている。これにより、遊技者が本来とは異なる方法でハンドル１８２を回転させて遊技が行われるのを防止することができ、パチンコ機１を設置する遊技ホールに係る負荷（負担）を軽減させることができる。

【０１８２】

また、ハンドルユニット１８０は、遊技者がハンドル１８２を回転操作中に、単発ボタン１９３を押圧すると、単発ボタン操作センサ１９４が単発ボタン１９３の操作を検知し、払出制御基板６３３の発射制御部６３３ｂによって発射ソレノイド５４２の駆動が停止させられる。これにより、ハンドル１８２の回転操作を戻さなくても、遊技球Ｂの発射を一時的に停止させることができると共に、単発ボタン１９３の押圧操作を解除することで、単発ボタン１９３を操作する前の打込強さで再び遊技球Ｂを遊技領域５ａ内に打込むことができる。

【０１８３】

更に、ハンドルユニット１８０は、ハンドル１８２に、四つの第一突起１８２ａ、第二突起１８２ｂ、第三突起１８２ｃ、及び第四突起１８２ｄを備えており、ハンドル１８２を正面視時計回りの方向へ最も回転させて、遊技球Ｂを最も強く遊技領域５ａ内に打込むようにした（所謂、「右打ち」した）時に、第四突起１８２ｄが、ハンドル１８２を回転させていない時の第一突起１８２ａの位置と、略同じ位置となるため、第四突起１８２ｄを第一突起１８２ａとしてハンドル１８２を持ち替えることで、遊技者が楽な状態で「右打ち」の位置でハンドル１８２を維持させることができ、遊技者の疲労感を軽減させて遊技に対する興趣の低下を抑制させることができる。

【０１８４】
［３－５．皿ユニットの全体構成］
扉枠３における皿ユニット２００について、主に図３９乃至図４２を参照して詳細に説明する。図３９は扉枠の皿ユニットを見た斜視図であり、図４０は皿ユニットを後ろから見た斜視図である。図４１は皿ユニットを主な部材毎に分解して前から見た分解斜視図であり、図４２は皿ユニットを主な部材毎に分解して後ろから見た分解斜視図である。皿ユニット２００は、扉枠ベースユニット１００の扉枠ベース１０１の前面における扉窓１０１ａよりも下側の部位に取付けられる。皿ユニット２００は、遊技領域５ａ内に打込むための遊技球Ｂを貯留する上皿２０１と、上皿２０１の下側に配置されており上皿２０１やファールカバーユニット１５０から供給される遊技球Ｂを貯留可能な下皿２０２と、を備えている。
【０１８５】
皿ユニット２００は、上皿２０１を有しており扉枠ベースユニット１００の扉枠ベース１０１の前面に取付けられている皿ベースユニット２１０と、皿ベースユニット２１０の前面に取付けられており下皿２０２を有している皿装飾ユニット２５０と、皿装飾ユニット２５０及び皿ベースユニット２１０の前面に取付けられており遊技者が操作可能な演出操作ユニット３００と、を備えている。
【０１８６】
皿ベースユニット２１０は、左右に延びた平板状の皿ユニットベース２１１と、皿ユニットベース２１１の前面上部に取付けられ上皿２０１を有している上皿本体２１２と、上皿本体２１２の右方に取付けられており前方へ突出している取付ベース２１３と、取付ベース２１３の右方に取付けられている皿ユニット中継基板２１４と、取付ベース２１３の上面に取付けられている球貸操作ユニット２２０と、取付ベース２１３の下方に取付けられている上皿球抜前ユニット２３０と、上皿球抜前ユニット２３０の後方に取付けられている上皿球抜後ユニット２４０と、を備えている。
【０１８７】
皿装飾ユニット２５０は、皿ユニットベース２１１の前面下部に取付けられており下皿２０２を有している下皿本体２５１と、下皿本体２５１の外周を覆うように皿ユニットベース２１１の前面に取付けられる皿ユニット本体２５２と、下皿本体２５１の下面に取付けられている下皿球抜ユニット２６０と、皿ユニット本体２５２の前面上部に左右に離間して夫々取付けられている皿左上装飾ユニット２７０及び皿右上装飾ユニット２７５と、皿左上装飾ユニット２７０及び皿右上装飾ユニット２７５の夫々の下方に取付けられている皿左下装飾ユニット２８０及び皿右下装飾ユニット２８５と、を備えている。
【０１８８】
演出操作ユニット３００は、遊技者が操作可能な演出操作部３０１として、遊技者が回転操作可能な透明な回転操作部３０２と、遊技者が押圧操作可能な透明な押圧操作部３０３と、を備えている。演出操作ユニット３００は、皿装飾ユニット２５０の前面に取付けられる演出操作部カバーユニット３１０と、演出操作部カバーユニット３１０に内に収容される操作部ベース３２０と、操作部ベース３２０の上面に取付けられており回転操作部３０２を有している円環状の演出操作リング３３０と、回転操作部３０２を回転させる回転駆動ユニット３４０と、回転駆動ユニット３４０の回転を回転操作部３０２に伝達させる操作リング用伝達ギア３５０と、操作リング用伝達ギア３５０を回転可能に取付けているギア取付部材３５１と、を備えている。
【０１８９】
また、演出操作ユニット３００は、演出操作リング３３０を発光装飾させる演出操作リング装飾基板３５２と、演出操作リング装飾基板３５２の上側を覆う装飾基板カバー３５３と、操作部ベース３２０の下面に取付けられている振動スピーカ３５４と、演出操作リング３３０の環内に臨むように操作部ベース３２０に取付けられている演出操作ボタンユニット３６０と、操作部ベース３２０の後面に取付けられている操作部中継基板ユニット３９０と、を備えている。

【０１９０】
皿ユニット２００は、全体が前方へ膨出しており、左右方向中央において演出操作部３０１の上面が斜め上前方を向くように演出操作ユニット３００が配置されており、上面における演出操作ユニット３００の左側に上皿２０１が演出操作ユニット３００の右側に球貸操作ユニット２２０が配置されていると共に、上皿２０１の下側で演出操作ユニット３００の左側に下皿２０２が配置されている。
【０１９１】
［３－５ａ．上皿］
皿ユニット２００の上皿２０１について、主に図３９乃至図４２等を参照して詳細に説明する。上皿２０１は、皿ユニットベース２１１と上皿本体２１２とによって形成されており、正面視左右の中央より左側の方が大きく前方へ膨出し、上方へ開放された容器状に形成されている。上皿２０１（上皿本体２１２）は、扉枠３の左右方向の幅に対して左端から右方へ約１／３の部位が最も前方に膨出している。上皿２０１は、最も膨出した部位から正面視右方へ向かうに従って、前端が後方へ後退しており、前後方向の奥行が遊技球Ｂの外径よりも若干大きい誘導通路部２０１ａ（図４６を参照）を有している。上皿２０１は、誘導通路部２０１ａを含む底面の全体が、右端側が低くなるように傾斜しており、誘導通路部２０１ａの正面視右端側が、球貸操作ユニット２２０の下方へ潜り込んでいる。
【０１９２】
上皿２０１は、皿ユニット２００に組立てた状態で、その底面が、皿ユニットベース２１１の上皿球供給口２１１ａよりも下側の位置から上皿球送給口２１１ｅの上端に対して遊技球Ｂの外径よりも若干下側の位置へ向かって低くなるように傾斜している。これにより、上皿球供給口２１１ａから前方へ放出された遊技球Ｂが、上皿２０１内に受けられて貯留させることができると共に、受けられた遊技球Ｂを誘導通路部２０１ａの右端側から上皿球送給口２１１ｅを通って球送給ユニット１４０側へ供給させることができる。
【０１９３】
なお、誘導通路部２０１ａには、パチンコ機１において電気的に接地（アース）されている金属製のアース金具２０１ｂが備えられており、遊技球Ｂが接触（転動）することで、遊技球Ｂに帯電した静電気を除去させることができる。
【０１９４】
［３－５ｂ．下皿］
皿ユニット２００の下皿２０２について、主に図３９乃至図４２等を参照して詳細に説明する。下皿２０２は、上皿２０１の下方で、正面視おいて皿ユニット２００（扉枠３）の左右方向中央よりも左側に配置されている。下皿２０２は、下皿本体２５１と皿ユニットベース２１１とで形成されている。下皿２０２は、遊技球Ｂを貯留可能な容器状に形成されており、底壁に上下に貫通し遊技球Ｂを排出可能とされた下皿球抜孔２０２ａを備えている。下皿２０２の下皿球抜孔２０２ａは、下皿球抜ユニット２６０によって開閉可能に閉鎖されている。
【０１９５】
下皿２０２は、平面視の形状が左右に延びた略四角形に形成されており、左右方向中央より左側の前端が右側よりも前方へ突出している。下皿２０２は、上下に貫通している下皿球抜孔２０２ａが、右端付近の前端付近に配置されている。この下皿２０２は、底面が下皿球抜孔２０２ａへ向かって低くなるように傾斜している。下皿２０２の下皿球抜孔２０２ａは、皿ユニット２００に組立てた状態で、下皿球供給口２１１ｃの前方で演出操作ユニット３００の下方に位置している。
【０１９６】
下皿２０２は、下皿球抜孔２０２ａを閉鎖している状態で、下皿球供給口２１１ｃから前方へ放出された遊技球Ｂを貯留することができると共に、下皿球抜孔２０２ａを開放することで貯留されている遊技球Ｂを皿ユニット２００の下方（例えば、ドル箱）へ排出させることができる。また、下皿２０２の下皿球抜孔２０２ａが開放されている状態では、下皿球抜孔２０２ａが下皿球供給口２１１ｃの前方に配置されていることから、下皿球供給

口２１１ｃから前方へ放出された遊技球Ｂを、最短距離の移動で速やかに下皿球抜孔２０２ａから下方へ排出させることができる。

【０１９７】

［３－５ｃ．皿ベースユニット］

皿ユニット２００における皿ベースユニット２１０について、主に図４３乃至図４６を参照して詳細に説明する。図４３は皿ユニットにおける皿ベースユニットを前から見た斜視図であり、図４４は皿ユニットにおける皿ベースユニットを後ろから見た斜視図である。また、図４５は皿ベースユニットを主な部材毎に分解して前から見た分解斜視図であり、図４６は皿ベースユニットを主な部材毎に分解して後ろから見た分解斜視図である。皿ベースユニット２１０は、扉枠ベースユニット１００の扉枠ベース１０１の前面における扉窓１０１ａの下方に取付けられると共に、前面に、皿装飾ユニット２５０及び演出操作ユニット３００が取付けられるものである。

【０１９８】

皿ベースユニット２１０は、扉枠ベースユニット１００の前面下部に取付けられ左右に延びた平板状の皿ユニットベース２１１と、皿ユニットベース２１１の前面上部に取付けられ上皿２０１を有している上皿本体２１２と、皿ユニットベース２１１の前面上部における上皿本体２１２の右方に取付けられており前方へ突出している取付ベース２１３と、皿ユニットベース２１１の前面で取付ベース２１３の右方に取付けられている皿ユニット中継基板２１４と、を備えている。

【０１９９】

また、皿ベースユニット２１０は、取付ベース２１３の上面に取付けられている球貸操作ユニット２２０と、取付ベース２１３の下方で皿ユニットベース２１１の前面に取付けられている上皿球抜前ユニット２３０と、上皿球抜前ユニット２３０の後方で皿ユニットベース２１１の後側に取付けられている上皿球抜後ユニット２４０と、を備えている。

【０２００】

［３－５ｃ－１．皿ユニットベース］

皿ベースユニット２１０の皿ユニットベース２１１について、主に図４５及び図４６を参照して詳細に説明する。皿ユニットベース２１１は、扉枠ベースユニット１００の扉枠ベース１０１の前面における扉窓１０１ａの下方に取付けられ、扉枠ベース１０１の全幅に亘って左右に延びた平板状（後方が開放された浅い箱状）に形成されている。

【０２０１】

皿ユニットベース２１１は、正面視左上隅付近で前後に貫通していると共に後方へ筒状に延びている上皿球供給口２１１ａと、上皿球供給口２１１ａの下方で前後に貫通しており前側にパンチングメタルが取付けられているスピーカ口２１１ｂと、正面視左右中央に対して左寄りの下部において前後に貫通していると共に後方へ筒状に延びている下皿球供給口２１１ｃと、下皿球供給口２１１ｃの後方へ筒状に延びている部位の右側壁において遊技球Ｂが通過可能な大きさに切欠かれている切欠部２１１ｄと、下皿球供給口２１１ｃの正面視右上側で前後に貫通していると共に上下に延びており上部が上皿本体２１２の右端に位置する上皿球送給口２１１ｅと、を備えている。

【０２０２】

また、皿ユニットベース２１１は、上皿球送給口２１１ｅの右方で前方へ突出しており取付ベースが載置される載置突部２１１ｆと、上皿球送給口２１１ｅの左方で上皿本体の下方において前後に貫通しており上皿球抜後ユニット２４０における上皿球抜スライダ２４２の作動伝達部２４２ｂが挿通されるスライダ挿通口２１１ｇと、正面視右下隅で前後に貫通しており扉枠ベースユニット１００のハンドル取付部材１０２の筒部１０２ａが挿通されるハンドル挿通口２１１ｈと、正面視右隅付近で前後に貫通しておりシリンダ錠１３０のシリンダ本体１３１が挿通されるシリンダ挿通口２１１ｉと、を備えている。

【０２０３】

皿ユニットベース２１１の上皿球供給口２１１ａは、扉枠３に組立てた状態で、前端が上皿２０１の後壁に開口し、筒状の後端が扉枠ベース１０１の上皿用球通過口１０１ｇを前

側から貫通してファールカバーユニット１５０の貫通球通路１５０ａの前端と接続している。これにより、払出ユニット５６０の払出装置５８０から払出された遊技球Ｂが、上皿球供給口２１１ａを通って上皿２０１内に供給（払出）される。

【０２０４】

下皿球供給口２１１ｃは、扉枠３に組立てた状態で、前端が下皿２０２の後壁に開口し、筒状の後端が扉枠ベース１０１の下皿用球通過口１０１ｆを前側から貫通してファールカバーユニット１５０の球放出口１５０ｄの前端と接続している。これにより、ファールカバーユニット１５０の貯留通路１５０ｅ内を流通する遊技球Ｂが、下皿球供給口２１１ｃを通って下皿２０２内に供給される。また、下皿球供給口２１１ｃの筒状に延びている部位に形成されている切欠部２１１ｄには、上皿球抜後ユニット２４０の後ベース２４１における球抜誘導路２４１ｃの下流端が接続されている。これにより、上皿２０１に貯留されている遊技球Ｂが、上皿球抜ボタン２２２の操作により、上皿球送給口２１１ｅ、球送給ユニット１４０の進入口１４１ａ及び球抜口１４１ｂ、上皿球抜後ユニット２４０の球送給誘導路２４１ｂ及び球抜誘導路２４１ｃ、及び切欠部２１１ｄを介して、下皿球供給口２１１ｃから下皿２０２内に排出される。

【０２０５】

上皿球送給口２１１ｅは、皿ベースユニット２１０に組立てた状態で、上皿球抜後ユニット２４０における後ベース２４１の球受口２４１ａの前方に位置しており、上皿２０１内の遊技球Ｂが、上皿球抜後ユニット２４０の球受口２４１ａから球送給誘導路２４１ｂへ供給される。

【０２０６】

［３－５ｃ－２．上皿本体］

皿ベースユニット２１０の上皿本体２１２について、主に図４５及び図４６等を参照して詳細に説明する。上皿本体２１２は、皿ユニットベース２１１の前面に取付けられ、皿ユニットベース２１１と協働して上皿２０１を形成するものである。上皿本体２１２は、上方及び後方が開放された容器状（皿状）に形成されている。上皿本体２１２は、左右に延びており、正面視左右の中央より左側の方が大きく前方へ膨出している。上皿本体２１２は、最も前方へ膨出した部位から正面視右方へ向かうに従って、前端が後方へ後退しており、前後方向の奥行が遊技球Ｂの外径よりも若干大きい幅に形成されている。上皿本体２１２の底面は、右端が最も低くなるように傾斜している。上皿本体２１２は、右端付近の上方が閉鎖されている。

【０２０７】

上皿本体２１２は、皿ユニット２００に組立てた状態で、右端付近の上方が閉鎖されている部位が、球貸操作ユニット２２０の下方に潜り込むように取付けられている。また、上皿本体２１２は、上部における左右方向の中間部に、演出操作ユニット取付部２１２ａが形成されており、この演出操作ユニット取付部２１２ａに演出操作ユニット３００の一部が取付けられる。

【０２０８】

［３－５ｃ－３．取付ベース］

皿ベースユニット２１０の取付ベース２１３について、主に図４５及び図４６を参照して詳細に説明する。取付ベース２１３は、皿ユニットベース２１１の載置突部２１１ｆの上面に載置された状態で皿ユニットベース２１１の前面に取付けられると共に、上側に球貸操作ユニット２２０が取付けられるものである。取付ベース２１３は、上方が開放された浅い箱状に形成されている。取付ベース２１３は、左端付近において上下に貫通している挿通口２１３ａと、後端右隅において上下に貫通している貫通口２１３ｂと、を備えている。

【０２０９】

取付ベース２１３の挿通口２１３ａは、上皿球抜前ユニット２３０の前スライダ２３２が挿通されるものである。また、貫通口２１３ｂは、球貸操作ユニット２２０と扉枠主中継基板１０４とを接続するための配線ケーブルが挿通されるものである。

【０２１０】
［３－５ｃ－４．皿ユニット中継基板］
皿ベースユニット２１０の皿ユニット中継基板２１４は、扉枠ベースユニット１００における扉枠副中継基板１０５と、皿左上装飾基板２７３、皿右上装飾基板２７８、皿左下装飾基板２８３、皿右下装飾基板２８８、及び操作部中継基板３９２との接続を中継するためのものである。皿ユニット中継基板２１４は、皿ユニットベース２１１の前面における載置突部２１１ｆより右側に取付けられる。この皿ユニット中継基板２１４は、皿ユニットベース２１１に取付けた状態では、後面が皿ユニットベース２１１の後側に臨んでいる。
【０２１１】
［３－５ｃ－５．球貸操作ユニット］
皿ベースユニット２１０の球貸操作ユニット２２０について、主に図３９乃至図４６等を参照して詳細に説明する。球貸操作ユニット２２０は、取付ベース２１３を介して皿ユニットベース２１１の前面に取付けられている。この球貸操作ユニット２２０は、上皿２０１に貯留されている遊技球Ｂを下皿２０２へ排出したり、パチンコ機１に隣接して設けられた球貸機（例えば、ＣＲユニット）（図示は省略）に対して現金やプリペイドカードを投入した上で、所定数の遊技球Ｂを皿ユニット２００の上皿２０１内へ貸出したり、球貸機に投入された現金やプリペイドカードの残量を表示したり、球貸機に投入された現金やプリペイドカードを貸出された遊技球Ｂの分を差し引いて返却したり、演出に関する音量を大きく調節したり又は小さく調節したりするためのものである。
【０２１２】
球貸操作ユニット２２０は、取付ベース２１３の上側に取付けられるベース部２２１と、ベース部２２１の上面の左端付近に配置されている上皿球抜ボタン２２２と、ベース部２２１の上面における上皿球抜ボタン２２２の右方に配置されており透光性を有した円盤状の球貸操作ベース２２３と、ベース部２２１の上面における上皿球抜ボタン２２２の右下方であって球貸操作ベース２２３の左下方に配置される音量アップボタン２２６と、ベース部２２１の上面における音量アップボタン２２６の下方に配置される音量ダウンボタン２２７と、球貸操作ベース２２３の前部左側に配置されている球貸ボタン２２４と、球貸操作ベース２２３の前部右側に配置されている返却ボタン２２５と、球貸操作ベース２２３の後部下方に配置されている球貸表示部（図示は省略）と、を備えている。
【０２１３】
上皿球抜ボタン２２２は、ベース部２２１の上面から円柱状に上方へ突出しており、遊技者が押圧操作することで下方へ移動することができる。球貸ボタン２２４は、円形状に形成されており、遊技者が押圧操作することでやや下方へ移動して（遊技者が押圧操作することで上皿球抜ボタン２２２が下方へ移動する距離寸法と比べると小さい。）球貸ボタン用タクタイルスイッチ２２４ａ（リードタイプ）の押圧操作部がやや下方へ押し込まれて球貸ボタン用タクタイルスイッチ２２４ａがＯＮすることができる一方、遊技者が押圧操作を解除することで球貸ボタン２２４が上方の元の位置へ移動して球貸ボタン用タクタイルスイッチ２２４ａの押圧操作部が上方へ戻り球貸ボタン用タクタイルスイッチ２２４ａがＯＦＦすることができる。返却ボタン２２５は、三角形状に形成されており、遊技者が押圧操作することでやや下方へ移動して（遊技者が押圧操作することで上皿球抜ボタン２２２が下方へ移動する距離寸法と比べると小さい。）返却ボタン用タクタイルスイッチ２２５ａ（リードタイプ）の押圧操作部がやや下方へ押し込まれて返却ボタン用タクタイルスイッチ２２５ａがＯＮすることができる一方、遊技者が押圧操作を解除することで返却ボタン２２５が上方の元の位置へ移動して返却ボタン用タクタイルスイッチ２２５ａの押圧操作部が上方へ戻り返却ボタン用タクタイルスイッチ２２５ａがＯＦＦすることができる。球貸表示部は、三つの７セグメントＬＥＤ（リードタイプ）により構成されており、発光している状態で透明な球貸操作ベース２２３を通して視認することができる。
【０２１４】
球貸操作ユニット２２０は、上皿球抜ボタン２２２を押圧操作することで、上皿２０１に貯留されている遊技球Ｂを下皿へ排出することができる。また、球貸機に現金や残金のあ

るプリペイドカードを投入した上で、球貸ボタン２２４を押圧操作すると、所定数の遊技球Ｂが上皿２０１に供給される。返却ボタン２２５を押圧操作すると、球貸機に投入されている現金やプリペイドカードに対して、貸出された遊技球Ｂの分を差し引いて返却する。球貸表示部には、球貸機に投入されている現金やプリペイドカードの残量が表示される。また、球貸表示部には、球貸機が故障した時にエラーコードが表示される。

【０２１５】

音量アップボタン２２６は、三角形状に形成されており、３つの頂点のうち一の頂点が上向きとなるように配置され、遊技者が押圧操作することでやや下方へ移動して（遊技者が押圧操作することで上皿球抜ボタン２２２が下方へ移動する距離寸法と比べると小さい。）音量アップボタン用タクタイルスイッチ２２６ａ（表面実装タイプ）の押圧操作部がやや下方へ押し込まれて音量アップボタン用タクタイルスイッチ２２６ａがＯＮすることができる一方、遊技者が押圧操作を解除することで音量アップボタン２２６が上方の元の位置へ移動して音量アップボタン用タクタイルスイッチ２２６ａの押圧操作部が上方へ戻り音量アップボタン用タクタイルスイッチ２２６ａがＯＦＦすることができる。音量ダウンボタン２２７は、三角形状に形成されており、３つの頂点のうち一の頂点が下向きとなるように配置され、遊技者が押圧操作することでやや下方へ移動して（遊技者が押圧操作することで上皿球抜ボタン２２２が下方へ移動する距離寸法と比べると小さい。）音量ダウンボタン用タクタイルスイッチ２２７ａ（表面実装タイプ）の押圧操作部がやや下方へ押し込まれて音量ダウンボタン用タクタイルスイッチ２２７ａがＯＮすることができる一方、遊技者が押圧操作を解除することで音量ダウンボタン２２７が上方の元の位置へ移動して音量ダウンボタン用タクタイルスイッチ２２７ａの押圧操作部が上方へ戻り音量ダウンボタン用タクタイルスイッチ２２７ａがＯＦＦすることができる。

【０２１６】

球貸ボタン用タクタイルスイッチ２２４ａ、返却ボタン用タクタイルスイッチ２２５ａ、及び三つの７セグメントＬＥＤは、球貸操作ユニット２２０内に収容される球貸基板２２８の上面（前面又は表面）に実装されており、扉枠３側の扉枠主中継基板１０４、本体枠４側のインターフェイス基板６３５を介して、パチンコ機１に隣接して設けられた球貸機（例えば、ＣＲユニット）と電気的に接続されているのに対して、音量アップボタン用タクタイルスイッチ２２６ａ、及び音量ダウンボタン用タクタイルスイッチ２２７ａは、球貸操作ユニット２２０内に収容される音量調節基板２２９の上面（前面又は表面）に実装されており、扉枠３側の扉枠副中継基板１０５、本体枠４側のインターフェイス基板６３５を介すことなく、本体枠４側の駆動基板ユニット１７００（後述する周辺制御基板１５１０からのコマンドに応じて表ユニット２０００や裏ユニット３０００に備えられている装飾基板、駆動モータ及び駆動ソレノイド等を駆動させる後述する演出駆動基板１７２０）を介して、遊技盤５側の周辺制御ユニット１５００（演出の進行を制御することができる後述する周辺制御基板１５１０）と電気的に接続されている。球貸基板２２８及び音量調節基板２２９は、球貸操作ユニット２２０内に隣り合った状態で球貸操作ユニット２２０内に収容されている。

【０２１７】

このように、球貸ボタン用タクタイルスイッチ２２４ａ、返却ボタン用タクタイルスイッチ２２５ａ、及び三つの７セグメントＬＥＤが実装される球貸操作ユニット２２０内に収容される球貸基板２２８と電気的に接続される扉枠３側の扉枠主中継基板１０４と、音量アップボタン用タクタイルスイッチ２２６ａ、及び音量ダウンボタン用タクタイルスイッチ２２７ａが実装される球貸操作ユニット２２０内に収容される音量調節基板２２９と電気的に接続される扉枠３側の扉枠副中継基板１０５と、は、全く異なる中継基板となっており、扉枠３側の各種中継基板において、球貸ボタン用タクタイルスイッチ２２４ａ、返却ボタン用タクタイルスイッチ２２５ａ、及び三つの７セグメントＬＥＤに対する信号伝送経路と、音量アップボタン用タクタイルスイッチ２２６ａ、及び音量ダウンボタン用タクタイルスイッチ２２７ａに対する信号伝送経路と、が同一の中継基板に混在しない構成となっている。これは、球貸ボタン用タクタイルスイッチ２２４ａ、返却ボタン用タクタ

イルスイッチ２２５ａ、及び三つの７セグメントＬＥＤに対する信号伝送経路は、いわゆる主側の信号が伝送される経路となるため、扉枠３側の扉枠主中継基板１０４を経由する構成となっているのに対して、音量アップボタン用タクタイルスイッチ２２６ａ、及び音量ダウンボタン用タクタイルスイッチ２２７ａに対する信号伝送経路は、いわゆる主側の信号が伝送される経路ではないため、扉枠３側の扉枠副中継基板１０５を経由する構成となっている。

【０２１８】

球貸基板２２８の上面（前面又は表面）には、球貸ボタン用タクタイルスイッチ２２４ａ、返却ボタン用タクタイルスイッチ２２５ａ、及び三つの７セグメントＬＥＤが半田付けされるパッド、スルーホール、ランド等を除いた全域において、緑色のレジスト液が塗布されて形成される緑色塗膜（以下、単に「ベタ塗りされた緑色のレジスト」と記載する場合がある。）により緑色のレジスト層が形成されている。球貸基板２２８の下面（後面又は裏面）には、図示しないコネクタ（リードタイプ）が実装される領域が半田付けされるパッド、スルーホール、ランド等を除いた全域において、ベタ塗りされた緑色のレジストにより緑色のレジスト層が形成されている。更に、球貸基板２２８の上面（前面又は表面）には、図示は省略するが、実装されている球貸ボタン用タクタイルスイッチ２２４ａ、返却ボタン用タクタイルスイッチ２２５ａ、及び三つの７セグメントＬＥＤ等の表面側電子部品の近傍に、表面側電子部品の部品番号、表面側電子部品を配置する位置を示す領域等の表面側電子部品の属性（さらに、表面側電子部品の形状、表面側電子部品の大きさ、表面側電子部品の実装向き（実装方向）、表面側電子部品の型式を含む場合がある。）を示す表面側表記部が、緑色に対して目立ち易い白色の塗料で、ベタ塗りされた緑色のレジスト上にシルク印刷により印刷されている。球貸基板２２８の下面（後面又は裏面）には、図示は省略するが、コネクタ（表面実装タイプ）等の裏面側電子部品の近傍に、裏面側電子部品の部品番号、裏面側電子部品を配置する位置を示す領域等の裏面側電子部品の属性（さらに、裏面側電子部品の形状、裏面側電子部品の大きさ、裏面側電子部品の実装向き（実装方向）、裏面側電子部品の型式を含む場合がある。）を示す裏面側表記部が、緑色に対して目立ち易い白色の塗料で、ベタ塗りされた緑色のレジスト上にシルク印刷により印刷されている。

【０２１９】

これに対して、音量調節基板２２９の上面（前面又は表面）には、音量アップボタン用タクタイルスイッチ２２６ａ、及び音量ダウンボタン用タクタイルスイッチ２２７ａが半田付けされるパッド、スルーホール、ランド等を除いた全域において、白色のレジスト液が塗布されて形成される白色塗膜（以下、単に「ベタ塗りされた白色のレジスト」と記載する場合がある。）により白色のレジスト層が形成されている。音量調節基板２２９の下面（後面又は裏面）には、図示しないコネクタが実装される領域が半田付けされるパッド、スルーホール、ランド等を除いた全域において、ベタ塗りされた白色のレジストにより白色のレジスト層が形成されている。更に、音量調節基板２２９の上面（前面又は表面）には、図示は省略するが、実装されている音量アップボタン用タクタイルスイッチ２２６ａ、及び音量ダウンボタン用タクタイルスイッチ２２７ａ等の表面側電子部品の近傍に、表面側電子部品の部品番号、表面側電子部品を配置する位置を示す領域等の表面側電子部品の属性（さらに、表面側電子部品の形状、表面側電子部品の大きさ、表面側電子部品の実装向き（実装方向）、表面側電子部品の型式を含む場合がある。）を示す表面側表記部が、白色に対して目立ち難い明色である黄色の塗料で、ベタ塗りされた白色のレジスト上にシルク印刷により印刷されている。音量調節基板２２９の下面（後面又は裏面）には、図示は省略するが、コネクタ等の裏面側電子部品の近傍に、裏面側電子部品の部品番号、裏面側電子部品を配置する位置を示す領域等の裏面側電子部品の属性（さらに、裏面側電子部品の形状、裏面側電子部品の大きさ、裏面側電子部品の実装向き（実装方向）、裏面側電子部品の型式を含む場合がある。）を示す裏面側表記部が、白色に対して目立ち難い明色である黄色の塗料で、ベタ塗りされた白色のレジスト上にシルク印刷により印刷されている。

【０２２０】
このように、球貸操作ユニット２２０内に隣り合った状態で球貸操作ユニット２２０内に収容されている球貸基板２２８及び音量調節基板２２９に塗布されるレジスト液の色が異なっている。これについて、説明すると、球貸ボタン用タクタイルスイッチ２２４ａ、返却ボタン用タクタイルスイッチ２２５ａ、及び三つの７セグメントＬＥＤに対する信号伝送経路は、上述したように、いわゆる主側の信号が伝送される経路となるため、球貸ボタン用タクタイルスイッチ２２４ａ、返却ボタン用タクタイルスイッチ２２５ａ、及び三つの７セグメントＬＥＤは、球貸操作ユニット２２０内に収容される球貸基板２２８の上面（前面又は表面）に実装されており、扉枠３側のの扉枠主中継基板１０４、本体枠４側のインターフェイス基板６３５を介して、パチンコ機１に隣接して設けられた球貸機（例えば、ＣＲユニット）と電気的に接続されているのに対して、音量アップボタン用タクタイルスイッチ２２６ａ、及び音量ダウンボタン用タクタイルスイッチ２２７ａに対する信号伝送経路は、上述したように、いわゆる主側の信号が伝送される経路ではないため、音量アップボタン用タクタイルスイッチ２２６ａ、及び音量ダウンボタン用タクタイルスイッチ２２７ａは、球貸操作ユニット２２０内に収容される音量調節基板２２９の上面（前面又は表面）に実装されており、扉枠３側の扉枠副中継基板１０５、本体枠４側のインターフェイス基板６３５を介すことなく、本体枠４側の駆動基板ユニット１７００（後述する周辺制御基板１５１０からのコマンドに応じて表ユニット２０００や裏ユニット３０００に備えられている装飾基板、駆動モータ及び駆動ソレノイド等を駆動させる後述する演出駆動基板１７２０）を介して、遊技盤５側の周辺制御ユニット１５００（演出の進行を制御することができる後述する周辺制御基板１５１０）と電気的に接続されている。

【０２２１】
つまり、本実施形態では、パチンコ機１内の制御装置である遊技盤５側の周辺制御ユニット１５００（演出の進行を制御することができる後述する周辺制御基板１５１０）と電気的に接続される音量調節基板２２９と、パチンコ機１外の制御装置である球貸機（例えば、ＣＲユニット）と電気的に接続される球貸基板２２８と、がパチンコ機１の球貸操作ユニット２２０内に隣り合うように配置されているものの、音量調節基板２２９は白色のレジスト液が塗布されて白色塗膜が形成されているのに対して、球貸基板２２８は白色と異なる緑色のレジスト液が塗布されて緑色塗膜が形成されているため、配線接続を行う作業者が、このように形成されている塗膜の色（つまり、レジストの色）を目印として、音量調節基板２２９と電気的に接続される配線と、球貸基板２２８と電気的に接続される配線と、の誤接続の防止に寄与することができる。したがって、配線の誤接続の防止に寄与することができる。

【０２２２】
また、音量調節基板２２９には、遊技者が演出に関する音量を大きく調節することができる音量アップボタン用タクタイルスイッチ２２６ａと、遊技者が演出に関する音量を小さく調節することができる音量ダウンボタン用タクタイルスイッチ２２７ａと、が実装され、音量アップボタン用タクタイルスイッチ２２６ａ、及び音量ダウンボタン用タクタイルスイッチ２２７ａによる検出結果（ＯＮによるＯＮ信号、ＯＦＦによるＯＦＦ信号）がパチンコ機１内の制御装置である遊技盤５側の周辺制御ユニット１５００（演出の進行を制御することができる後述する周辺制御基板１５１０）へ伝わり、球貸基板２２８には、遊技者が球貸による遊技球Ｂの払出を要求することができる球貸ボタン用タクタイルスイッチ２２４ａと、球貸機（例えば、ＣＲユニット）に対して現金やプリペイドカードの返却を要求することができる返却ボタン用タクタイルスイッチ２２５ａと、球貸機に投入された現金やプリペイドカードの残量を表示することができる三つの７セグメントＬＥＤと、が実装され、球貸ボタン用タクタイルスイッチ２２４ａ、及び返却ボタン用タクタイルスイッチ２２５ａによる検出結果（ＯＮによるＯＮ信号、ＯＦＦによるＯＦＦ信号）がパチンコ機１外の制御装置である球貸機（例えば、ＣＲユニット）へ伝わる。なお、球貸機（例えば、ＣＲユニット）からの駆動信号が球貸基板２２８に伝わることで、球貸基板２２８に実装される三つの７セグメントＬＥＤにより構成される球貸表示部において、球貸機

に投入された現金やプリペイドカードの残量が表示されるのに対して、遊技盤５側の周辺制御ユニット１５００（演出の進行を制御することができる後述する周辺制御基板１５１０）から音量調節基板２２９に対して駆動信号が出力されず、音量調節基板２２９において、遊技盤５側の周辺制御ユニット１５００（演出の進行を制御することができる後述する周辺制御基板１５１０）から駆動信号に基づいて表示される表示部を構成する電子部品が何ら実装されていない。このように、遊技者の操作の位置が、パチンコ機１内の制御装置である遊技盤５側の周辺制御ユニット１５００（演出の進行を制御することができる後述する周辺制御基板１５１０）へ伝わる経路と、パチンコ機１外の制御装置であるパチンコ機１に隣接して設けられた球貸機（例えば、ＣＲユニット）へ伝わる経路と、があるため、音量調節基板２２９と電気的に接続される配線と、球貸基板２２８と電気的に接続される配線と、が誤接続されると、遊技者に意図しない不利益が生ずる場合がある。そこで、本実施形態では、球貸基板２２８に対しては白色のレジスト液が塗布されて白色塗膜が形成されるものとし、球貸基板２２８に対しては白色と異なる緑色のレジスト液が塗布される緑色塗膜が形成されるものとすることで、誤接続を防止している。

【０２２３】

また、音量調節基板２２９に実装される音量アップボタン用タクタイルスイッチ２２６ａ、及び音量ダウンボタン用タクタイルスイッチ２２７ａとして表面実装タイプの電子部品が採用されているのに対して、球貸基板２２８に実装される球貸ボタン用タクタイルスイッチ２２４ａ、返却ボタン用タクタイルスイッチ２２５ａ、及び三つの７セグメントＬＥＤがリードタイプの電子部品が採用されているため、基板に実装される電子部品のタイプ（リードタイプ又は表面実装タイプのうちいずれか一方のタイプ）に基づいて、音量調節基板２２９と電気的に接続される配線と、球貸基板２２８と電気的に接続される配線と、を判別することができ、配線の誤接続の防止に寄与することができる。

【０２２４】

ところで、光の反射率は、白色が最も高く、暗色が低くなるものの、上述したように、表示部が設けられていない音量調節基板２２９が白色のレジスト液が塗布されて白色塗膜が形成されているのに対して、球貸表示部が設けられている球貸基板２２８が暗色である緑色のレジスト液が塗布されて緑色塗膜が形成されている。これにより、球貸表示部による発光が球貸基板２２８の上面（前面又は表面）において反射する効率を低下させることにより、球貸表示部を除いた演出装置による演出の妨げとならないようにすることができる。なお、本実施形態では、暗色として緑色を採用したが、緑色に代えて、紫色や黒色としてもよい。

【０２２５】

なお、本実施形態では、球貸基板２２８は、扉枠３側の扉枠主中継基板１０４、本体枠４側のインターフェイス基板６３５を介して、パチンコ機１に隣接して設けられた球貸機（例えば、ＣＲユニット）と電気的に接続されているのに対して、音量調節基板２２９は、扉枠３側の扉枠副中継基板１０５、本体枠４側のインターフェイス基板６３５を介すことなく、本体枠４側の駆動基板ユニット１７００（後述する周辺制御基板１５１０からのコマンドに応じて表ユニット２０００や裏ユニット３０００に備えられている装飾基板、駆動モータ及び駆動ソレノイド等を駆動させる後述する演出駆動基板１７２０）を介して、本体枠４側のインターフェイス基板６３５を介して、遊技盤５側の周辺制御ユニット１５００（演出の進行を制御することができる後述する周辺制御基板１５１０）と電気的に接続されている。つまり、扉枠３側には、扉枠主中継基板１０４、扉枠副中継基板１０５が存在する。そこで、扉枠３側の扉枠主中継基板１０４の前面（表面）に対しては、球貸基板２２８に塗布されるレジスト液の色と同一色を採用し、緑色のレジスト液が塗布されて緑色塗膜が形成されるよう構成し、扉枠３側の扉枠副中継基板１０５の前面（表面）に対しては、音量調節基板２２９に塗布されるレジスト液の色と同一色を採用し、白色のレジスト液が塗布されて白色塗膜が形成されるよう構成することが好ましい。なお、白色のレジスト液が塗布された形成される白色塗膜は、緑色のレジスト液が塗布されて形成される緑色塗膜と比べて、脆く、１枚の定尺の銅張積層板（基材）から複数の基板を配置して切

り出して製造する際に、割れたり、裂けたりする場合がある。
【０２２６】
ところで、基板を製造するときは、上述したように、１枚の定尺の銅張積層板（基材）から複数の基板を配置して切り出して製造するため、シルクの塗料の色やレジスト液の色が同一となり、同一の色を有する複数の基板が製造されることとなる。このため、例えば、白色を有する基板を調べることで同一の定尺の銅張積層板（基材）から製造されたものであるか否かを判別できる場合があり、白色を有する基板に不具合が発見されると、他に不具合を確認する際に、まず白色を有する他の基板を１つずつ辿って（探し出して）調べればよく、不具合の早期発見に寄与することができるという利点がある。
【０２２７】
なお、音量アップボタン２２６に基づく演出に関する音量を大きく調節したり又は音量ダウンボタン２２７に基づく演出に関する音量を小さく調節したりする音量調節操作は、一定期間（例えば、パチンコ機１に電源が投入されてから周辺制御ＭＰＵ（以下、周辺制御ＭＰＵの機能を併せ持つものに対しては、周辺制御ＭＰＵに代えて「周辺制御ＩＣ」と記載する場合がある。）が起動するまでの一定期間、変動表示される特別図柄停止する前後の一定期間、のうちの一方又は両方など）を除いて常に周辺制御ＭＰＵ（又は周辺制御ＩＣ）により実行可能とされるものであってもよいし、客待ち状態となって周辺制御ＭＰＵ（又は周辺制御ＩＣ）により演出表示装置１６００によるデモンストレーションを行っている期間などの特定の条件が成立している場合にのみ周辺制御ＭＰＵ（又は周辺制御ＩＣ）により実行可能とされるものであってもよい。また、音量アップボタン２２６に基づく演出に関する音量を大きく調節したり又は音量ダウンボタン２２７に基づく演出に関する音量を小さく調節したりする音量調節操作に基づく音量調節結果を、即時に周辺制御ＭＰＵ（又は周辺制御ＩＣ）が反映してもよいし、又は周辺制御ＭＰＵ（又は周辺制御ＩＣ）が状況（変動表示中か否か、演出の進行等）に応じて音量調節操作のタイミングよりも遅れたタイミングで反映してもよい。
【０２２８】
因みに、従来より、複数の基板を有する遊技機が提案されている（例えば、特開２０１８－０７９１６３号公報（段落［００４７］、及び図５）。ところが、複数の基板のうち、互いに隣り合うように配置されている場合には、配線接続作業を行う者は、一方の基板と電気的に接続する配線と、他方の基板と電気的に接続する配線と、を誤接続するおそれがあった。
【０２２９】
［３－５ｃ－６．上皿球抜前ユニット及び上皿球抜後ユニット］
皿ベースユニット２１０における上皿球抜前ユニット２３０及び上皿球抜後ユニット２４０について、主に図４５及び図４６等を参照して詳細に説明する。上皿球抜前ユニット２３０及び上皿球抜後ユニット２４０は、球貸操作ユニット２２０の上皿球抜ボタン２２２が押圧操作された時に、球送給ユニット１４０と協働して、上皿２０１内に貯留されている遊技球Ｂを下皿２０２へ排出させるためのものである。
【０２３０】
上皿球抜前ユニット２３０は、皿ユニットベース２１１の前面における載置突部２１１ｆの左方で球貸操作ユニット２２０の下方に取付けられる。上皿球抜後ユニット２４０は、皿ユニットベース２１１の後面における上皿球抜前ユニット２３０の後方となる部位に取付けられる。
【０２３１】
上皿球抜前ユニット２３０は、皿ユニットベース２１１の前面に取付けられており上下に延びた筒状の前ベース２３１と、前ベース２３１の筒内に上下方向へ移動可能に挿入されている前スライダ２３２と、を備えている。前ベース２３１は、皿ユニットベース２１１の前面における上皿球送給口２１１ｅ及びスライダ挿通口２１１ｇの前方付近に取付けられている。前スライダ２３２は、上下に延びており、上端が上皿球抜ボタン２２２の下端と当接していると共に、下端が上皿球抜後ユニット２４０の上皿球抜スライダ２４２の作

動受部２４２ａの上面と当接している。
【０２３２】
上皿球抜後ユニット２４０は、上皿球送給口２１１ｅ及びスライダ挿通口２１１ｇを後方から閉鎖するように皿ユニットベース２１１の後面に取付けられる後ベース２４１と、後ベース２４１の前面に上下方向へスライド可能に取付けられている上皿球抜スライダ２４２と、上皿球抜スライダ２４２を上方へ付勢しているバネ２４３と、後ベース２４１の後側に取付けられている後カバー２４４と、を備えている。
【０２３３】
後ベース２４１は、上皿球抜スライダ２４２をスライド可能に取付ける部位から上方へ突出していると共に前方へ向かって開口しており遊技球Ｂが通過可能な球受口２４１ａと、球受口２４１ａに受入れられた遊技球Ｂを後ベース２４１の後面において下方へ誘導した後に後方へ誘導する球送給誘導路２４１ｂと、後ベース２４１の後面において球送給誘導路２４１ｂよりも下側の位置から遊技球Ｂを下方へ誘導した後に背面視右方へ誘導する球抜誘導路２４１ｃと、を備えている。
【０２３４】
球受口２４１ａは、皿ベースユニット２１０に組立てた状態で、上皿２０１の誘導通路部２０１ａ下流端（正面視右端）において、皿ユニットベース２１１の上皿球送給口２１１ｅを通して前方へ向かって開口する位置に形成されている。球送給誘導路２４１ｂは、扉枠３に組立てた状態で、下部の後方に球送給ユニット１４０の進入口１４１ａが位置するように形成されている。これにより、上皿２０１に供給された遊技球Ｂが、球受口２４１ａ及び球送給誘導路２４１ｂを通って球送給ユニット１４０の進入口１４１ａに進入するようになっている。
【０２３５】
球抜誘導路２４１ｃの左右に延びている部位は、上皿球抜スライダ２４２をスライド可能に取付けている部位よりも背面視右方へ突出していると共に、背面視右端側が低くなるように傾斜しており、背面視右側面に開口している。球抜誘導路２４１ｃの左右に延びている部位は、後側が後カバー２４４によって閉鎖される。球抜誘導路２４１ｃは、扉枠３に組立てた状態で、球送給誘導路２４１ｂの下方で上下に延びている部位の上部が、球送給ユニット１４０の球抜口１４１ｂの前方に位置すると共に、左右に延びている部位の背面視右端が皿ユニットベース２１１における下皿球供給口２１１ｃの切欠部２１１ｄに接続されるように形成されている。これにより、球送給ユニット１４０の球抜口１４１ｂから排出された遊技球Ｂは、球抜誘導路２４１ｃ及び切欠部２１１ｄを介して下皿球供給口２１１ｃから下皿２０２内へ放出される。
【０２３６】
上皿球抜スライダ２４２は、正面視の形状が四角形に形成されており、左上隅から前方へ突出している作動受部２４２ａと、作動受部２４２ａの後側となる後面から後方へ突出している作動伝達部２４２ｂと、を備えている。作動受部２４２ａは、上面が平坦に形成されている。また、作動伝達部２４２ｂは、上面が後方へ向かうに従って下方へ位置するように傾斜しており、上面の後端と繋がるように下面が水平に延びている。
【０２３７】
上皿球抜スライダ２４２は、扉枠３に組立てた状態で、作動受部２４２ａが、皿ユニットベース２１１のスライダ挿通口２１１ｇを後側から貫通して前方へ突出していると共に、作動受部２４２ａの上面に上皿球抜前ユニット２３０の前スライダ２３２の下端が当接している。また、上皿球抜スライダ２４２は、扉枠３に組立てた状態で、作動伝達部２４２ｂが、後ベース２４１の後方に突出していると共に、上面に球送給ユニット１４０の球抜部材１４３における作動棹１４３ｃが当接している。
【０２３８】
バネ２４３は、上端が後ベース２４１に取付けられていると共に、下端が上皿球抜スライダ２４２に取付けられており、上皿球抜スライダ２４２を上方へ付勢している。従って、上皿球抜スライダ２４２は、バネ２４３の付勢力により上方への移動端に位置しており、

バネ２４３の付勢力に抗することで下方へ移動することができる。
【０２３９】
上皿球抜前ユニット２３０及び上皿球抜後ユニット２４０は、バネ２４３の付勢力により、上皿球抜スライダ２４２が上方への移動端に位置させていると共に、上皿球抜スライダ２４２の作動受部２４２ａの上面に当接している前スライダ２３２を介して上皿球抜ボタン２２２を上方へ移動端に位置させている。また、バネ２４３の付勢力により、上皿球抜スライダ２４２が上方への移動端に位置させていることから、作動伝達部２４２ｂの上面に当接している作動棹１４３ｃの下方への移動を阻止しており、球抜部材１４３の仕切部１４３ａを進入口１４１ａと球抜口１４１ｂとの間に位置させて、両者の間を仕切っている。
【０２４０】
従って、上皿球抜ボタン２２２を押圧していない状態では、球送給ユニット１４０において進入口１４１ａと球抜口１４１ｂとの間が仕切られており、上皿２０１から球受口２４１ａへ送られた遊技球Ｂを、進入口１４１ａ及び球送給部材１４４を介して打球供給口１４２ａから球発射装置５４０側へ送ることができる。
【０２４１】
一方、上皿球抜ボタン２２２を、バネ２４３の付勢力に抗して下方へ押圧すると、前スライダ２３２を介して上皿球抜スライダ２４２が下方へ移動し、上皿球抜スライダ２４２の作動伝達部２４２ｂの上面に当接している球抜部材１４３の作動棹１４３ｃが下方へ移動できるようになり、球抜部材１４３の錘部１４３ｄの荷重により球抜部材１４３が回動して仕切部１４３ａが進入口１４１ａと球抜口１４１ｂとの間から後退する。これにより、上皿２０１から球受口２４１ａ及び球送給誘導路２４１ｂを通って進入口１４１ａに進入した遊技球Ｂが、進入口１４１ａの下方に開口している球抜口１４１ｂから前方へ排出されることとなる。そして、球抜口１４１ｂから前方へ排出された遊技球Ｂは、球抜誘導路２４１ｃを通って切欠部２１１ｄから下皿球供給口２１１ｃ内へ誘導された後に、下皿球供給口２１１ｃから下皿２０２内へ放出され、上皿２０１内の遊技球Ｂが下皿２０２内へ排出されることとなる。
【０２４２】
上皿球抜ボタン２２２の下方への押圧を解除すると、バネ２４３の付勢力により上皿球抜スライダ２４２が上方へ移動し、作動受部２４２ａと当接している前スライダ２３２を介して上皿球抜ボタン２２２が上昇すると共に、作動伝達部２４２ｂと当接している作動棹１４３ｃにより球抜部材１４３が回動して進入口１４１ａと球抜口１４１ｂとの間に仕切部１４３ａが位置して元の状態に復帰することとなる。
【０２４３】
このように、上皿球抜前ユニット２３０及び上皿球抜後ユニット２４０によって、上皿２０１内の遊技球Ｂを、球送給ユニット１４０を介して球発射装置５４０側へ送給したり、下皿２０２側へ排出したりすることができる。
【０２４４】
［３－５ｄ．皿装飾ユニット］
皿ユニット２００における皿装飾ユニット２５０について、主に図４７乃至図５０等を参照して詳細に説明する。図４７は皿ユニットにおける皿装飾ユニットを前から見た斜視図であり、図４８は皿装飾ユニットを後ろから見た斜視図である。また、図４９は皿装飾ユニットを主な部材毎に分解して前から見た分解斜視図であり、図５０は皿装飾ユニットを主な部材毎に分解して後ろから見た分解斜視図である。皿装飾ユニット２５０は、下皿２０２を有しており皿ベースユニット２１０の前面に取付けられると共に、左右方向中央に前方から演出操作ユニット３００が取付けられるものである。皿装飾ユニット２５０は、皿ユニット２００の略全体を装飾している。
【０２４５】
皿装飾ユニット２５０は、皿ユニットベース２１１の前面下部に取付けられ皿ユニットベース２１１と協働して下皿２０２を形成する下皿本体２５１と、下皿本体２５１の外周を

覆うように皿ユニットベース２１１の前面に取付けられる皿ユニット本体２５２と、下皿本体２５１の下面に取付けられている下皿球抜ユニット２６０と、皿ユニット本体２５２の前面上部に左右に離間して夫々取付けられている皿左上装飾ユニット２７０及び皿右上装飾ユニット２７５と、皿ユニット本体２５２の全面で皿左上装飾ユニット２７０及び皿右上装飾ユニット２７５の夫々の下方に取付けられている皿左下装飾ユニット２８０及び皿右下装飾ユニット２８５と、を備えている。

【０２４６】

［３－５ｄ－１．下皿本体］

皿装飾ユニット２５０における下皿本体２５１について、主に図４７乃至図５０等を参照して詳細に説明する。下皿本体２５１は、皿ベースユニット２１０の皿ユニットベース２１１と協働して下皿２０２を形成するものである。下皿本体２５１は、左右に延びていると共に、上方及び後方が開放された容器状（皿状）に形成されている。この下皿本体２５１は、皿ユニットベース２１１の前面下部における左右方向中央より左側の部位に、開放されている後方が閉鎖されるように取付けられる。

【０２４７】

下皿本体２５１は、平面視の形状が左右に延びた略四角形に形成されており、左右方向中央より左側の前端が右側よりも前方へ突出している。下皿本体２５１には、平面視において、右端の前端付近において、上下に貫通している下皿球抜孔２０２ａが形成されている。下皿本体２５１は、底面が、下皿球抜孔２０２ａへ向かって低くなるように傾斜している。下皿球抜孔２０２ａは、下皿球抜ユニット２６０の下皿球抜蓋２６５によって開閉可能に閉鎖される。

【０２４８】

下皿本体２５１は、皿装飾ユニット２５０に組立てた状態で、外周と下面の一部とが皿ユニット本体２５２に覆われた状態となる。また、下皿本体２５１は、皿ユニット２００に組立てた状態で、底面が皿ユニットベース２１１の下皿球供給口２１１ｃよりも下方に位置していると共に、下皿球抜孔２０２ａが下皿球供給口２１１ｃの前方に位置している。これにより、下皿球供給口２１１ｃから前方へ放出された遊技球Ｂを、貯留することができる。

【０２４９】

［３－５ｄ－２．皿ユニット本体］

皿装飾ユニット２５０における皿ユニット本体２５２について、主に図４７乃至図５０等を参照して詳細に説明する。皿ユニット本体２５２は、皿ベースユニット２１０における皿ユニットベース２１１の前面に取付けられ、皿ユニット２００の前面を装飾するものである。皿ユニット本体２５２は、上部側では左右方向の中央が前方へ突出するように膨出しており、下部側では左右方向の左側が前方へ突出するように膨出している。また、皿ユニット本体２５２は、上面が、左右方向の中央が最も低くなるように湾曲している。皿ユニット本体２５２は、後方へ開放された箱状に形成されている。

【０２５０】

皿ユニット本体２５２は、上部において左右両端から左右方向中央へ向かうに従って前方へ膨出していると共に下方へ延びており左右に離間している上部サイド膨出部２５２ａと、下部において左右方向中央より左側が下皿本体２５１の外周を被覆するように前方へ膨出している下部前面装飾部２５２ｂと、下部前面装飾部２５２ｂの下端から後方へ平板状に延びている底板部２５２ｃと、を備えている。

【０２５１】

左右の上部サイド膨出部２５２ａは、後方が開放された箱状に形成されており、夫々の前面に皿左上装飾ユニット２７０及び皿左下装飾ユニット２８０と皿右上装飾ユニット２７５及び皿右下装飾ユニット２８５が取付けられる。左側の上部サイド膨出部２５２ａは、下面の右端が下部前面装飾部２５２ｂと接続されている。また、右側の上部サイド膨出部２５２ａは、下端が下部前面装飾部２５２ｂと接続されている。

【０２５２】

皿ユニット本体２５２は、左側の上部サイド膨出部２５２ａと下部前面装飾部２５２ｂとの間で前後に貫通している下皿開口部２５２ｄが形成されている。下皿開口部２５２ｄは、遊技者の手指が挿入可能な大きさで、左方へ向かうに従って上下が広くなるように形成されている。下皿開口部２５２ｄは、下皿本体２５１と左側の上部サイド膨出部２５２ａの下面とによって、前後に延びた筒状に形成されている。

【０２５３】

また、皿ユニット本体２５２は、下部前面装飾部２５２ｂにおける下皿本体２５１の外周を被覆している部位の前面下端から上方へ切欠かれている前面切欠部２５２ｅと、底板部２５２ｃにおける下皿本体２５１の下方となる部位において切欠かれている底面切欠部２５２ｆと、を備えている。前面切欠部２５２ｅ及び底面切欠部２５２ｆには、下皿球抜ユニット２６０が挿入される。

【０２５４】

更に、皿ユニット本体２５２は、下部前面装飾部２５２ｂの右下隅において前後に貫通しておりハンドル取付部材１０２の筒部１０２ａが挿通されるハンドル挿通口２５２ｇと、ハンドル挿通口２５２ｇの上方で下部前面装飾部２５２ｂを前後に貫通しておりシリンダ錠１３０のシリンダ本体１３１が挿通されるシリンダ挿通口２５２ｈと、左右方向中央となる一対の上部サイド膨出部２５２ａの間に形成されており演出操作ユニット３００が取付けられる演出操作ユニット取付部２５２ｉと、を備えている。演出操作ユニット取付部２５２ｉは、皿ユニット本体２５２の左右方向の幅の約１／３の幅に形成されている。

【０２５５】

皿ユニット本体２５２は、皿ユニット２００に組立てた状態で、皿ベースユニット２１０の前面を全体的に覆うように形成されており、下皿開口部２５２ｄを通してスピーカ口２１１ｂが前方へ臨んだ状態となる。また、皿装飾ユニット２５０に組立てた状態では、前面切欠部２５２ｅから下皿球抜ユニット２６０の下皿球抜ボタン２６３が前方へ臨むと共に、下皿球抜ユニット２６０の下皿球抜ベース２６１が底面切欠部２５２ｆを閉鎖して下面同士が同一面上の状態となる。

【０２５６】

［３－５ｄ－３．下皿球抜ユニット］

皿装飾ユニット２５０における下皿球抜ユニット２６０について、主に図４７乃至図５０等を参照して詳細に説明する。下皿球抜ユニット２６０は、下皿本体２５１の下面に取付けられ、下皿球抜孔２０２ａを開閉させることで、下皿２０２に遊技球Ｂを貯留させたり、下皿２０２から遊技球Ｂを排出させたりするためのものである。

【０２５７】

下皿球抜ユニット２６０は、下皿本体２５１の下面に取付けられており平面視右前隅に上下に貫通している貫通孔を有した平板状の下皿球抜ベース２６１と、下皿球抜ベース２６１の上面側において前後へスライド可能に取付けられているスライダ２６２と、スライダ２６２の前端に取付けられている下皿球抜ボタン２６３と、スライダ２６２を前方へ付勢しているバネ２６４と、スライダ２６２の前後方向への移動によって貫通孔を開閉する下皿球抜蓋２６５と、スライダ２６２を介して下皿球抜蓋２６５を開状態に保持する保持機構２６６と、を備えている。

【０２５８】

下皿球抜ベース２６１は、皿ユニット本体２５２の底面切欠部２５２ｆを閉鎖する大きさに形成されており、下皿２０２（下皿本体２５１）の下皿球抜孔２０２ａと一致する位置に上下に貫通している貫通孔が形成されている。下皿球抜ベース２６１の貫通孔は、下皿球抜孔２０２ａと同じ大きさに形成されている。スライダ２６２は、前後に延びた平板状に形成されており、下皿球抜ベース２６１における左右方向中央から左寄りの部位に、前後へスライド可能に取付けられている。スライダ２６２は、上方へ円柱状に突出している突ピンを備えている。

【０２５９】

下皿球抜蓋２６５は、左端側が、スライダ２６２よりも左方の位置で、上下に延びた軸周

りに対して回転可能に下皿球抜ベース２６１に取付けられており、右端側が、スライダ２６２を越えて右方へ延出しており右端側が貫通孔を閉鎖可能に形成されている。下皿球抜蓋２６５には、スライダ２６２の突ピンが摺動可能に挿入される左右に延びたスリットが形成されている。

【０２６０】

下皿球抜ユニット２６０は、皿装飾ユニット２５０に組立てた状態で、下皿球抜ベース２６１が皿ユニット本体２５２の底面切欠部２５２ｆを閉鎖していると共に、下皿球抜ベース２６１の下面が底板部２５２ｃの下面と同一面上に位置している。また、下皿球抜ボタン２６３が、皿ユニット本体２５２の前面切欠部２５２ｅから前方に臨んでいる。下皿球抜ユニット２６０は、通常の状態では、スライダ２６２がバネ２６４の付勢力により前方側の移動端に位置していると共に、下皿球抜蓋２６５の右端側が貫通孔の直上に位置しており、貫通孔（下皿球抜孔２０２ａ）を閉鎖している。

【０２６１】

この通常の状態では、下皿球抜孔２０２ａが下皿球抜蓋２６５によって閉鎖されており、下皿２０２に遊技球Ｂを貯留させることができる。また、通常の状態では、下皿球抜ボタン２６３の前面が、下部前面装飾部２５２ｂの前面における前面切欠部２５２ｅの周囲の前面と略一致している。

【０２６２】

通常の状態において、下皿球抜ボタン２６３を後方へ押圧して、バネ２６４の付勢力に抗して後方へ移動させると、下皿球抜ボタン２６３と伴にスライダ２６２が後方へ移動することとなる。このスライダ２６２が後方へ移動することで、スライダ２６２の突ピンがスリットを介して下皿球抜蓋２６５を後方へ押圧し、下皿球抜蓋２６５が左端側を中心にして右端側が後方へ移動する方向へ回動することとなる。そして、貫通孔の直上に位置していた下皿球抜蓋２６５の右端側が、貫通孔の位置から後方へ移動することで、貫通孔が開放されて下皿球抜孔２０２ａが開いた状態となり、下皿球抜孔２０２ａを通して下皿２０２内の遊技球Ｂを皿ユニット２００の下方へ排出させることができる。

【０２６３】

なお、下皿球抜ボタン２６３の押圧によりスライダ２６２を後方へ移動させると、スライダ２６２の後端が保持機構２６６によって保持されるようになっており、下皿球抜ボタン２６３の押圧を解除しても、スライダ２６２がバネ２６４の付勢力によって前方へ移動することはない。これにより、下皿球抜蓋２６５の右端側が後方へ回動したままの状態となり、下皿球抜孔２０２ａが開放されたままの状態で維持され、下皿２０２内の遊技球Ｂを連続して下方へ排出させることができる。

【０２６４】

この状態から下皿球抜孔２０２ａを閉鎖するには、下部前面装飾部２５２ｂの前面よりも後退している下皿球抜ボタン２６３を後方へ押圧すると、保持機構２６６によるスライダ２６２の保持が解除される。そして、下皿球抜ボタン２６３の押圧を放すと、スライダ２６２がバネ２６４の付勢力により前方へ移動し、下皿球抜ボタン２６３の前面が下部前面装飾部２５２ｂの前面と一致した状態に復帰すると共に、下皿球抜蓋２６５が回動して右端側が貫通孔の直上に位置し、下皿球抜孔２０２ａが下皿球抜蓋２６５により閉鎖された状態となる。これにより、下皿２０２内に遊技球Ｂを貯留させることができる。

【０２６５】

［３－５ｄ－４．皿左上装飾ユニット及び皿右上装飾ユニット］

皿装飾ユニット２５０における皿左上装飾ユニット２７０及び皿右上装飾ユニット２７５について、主に図４７乃至図５０等を参照して詳細に説明する。皿左上装飾ユニット２７０及び皿右上装飾ユニット２７５は、皿ユニット本体２５２の上部サイド膨出部２５２ａにおける前面の上部に取付けられる。皿左上装飾ユニット２７０及び皿右上装飾ユニット２７５は、皿ユニット２００の上部で演出操作ユニット３００の左右両側を装飾するものである。

【０２６６】

皿左上装飾ユニット２７０は、半円筒状で左右に延びている透明な皿左上装飾体２７１と、皿左上装飾体２７１の後側に取付けられている透明な皿左上インナーレンズ２７２と、皿左上インナーレンズ２７２の後側に取付けられており前面（以下、「表面（実装面）」と記載する場合がある。）に複数のＬＥＤが実装されている皿左上装飾基板２７３と、を備えている。

【０２６７】

皿左上装飾体２７１は、左端から右端へ向かうに従って、前方へ移動すると共に下方へ移動するように曲線状に延びており、左側の上部サイド膨出部２５２ａの上部に取付けられる。皿左上装飾体２７１は、前方へ膨出した半円弧が、左端では中心軸が斜め左上に延びていると共に、右端では中心軸が左右に延びており、半円筒が捩れているような形状に形成されている。この皿左上装飾体２７１は、透明に形成されている。なお、皿左上装飾体２７１の表面には、レンズカットが施されていてもよいし（多面体に形成されていてもよいし）、皿左上装飾体２７１の表面と共に裏面には、レンズカットが施されていてもよいし（多面体に形成されていてもよいし）、皿左上装飾体２７１の裏面には、レンズカットが施されていてもよい（多面体に形成されていてもよい）。

【０２６８】

皿左上インナーレンズ２７２は、皿左上装飾体２７１の内部に後方から挿入されている。皿左上装飾基板２７３に実装されている複数のＬＥＤは、表面実装タイプであって多色発光可能なフルカラーＬＥＤとされており、発光させることで、皿左上装飾体２７１を発光装飾させることができる。皿左上インナーレンズ２７２は、透明に形成されている。皿左上インナーレンズ２７２の表面は、レンズカットが施されて（多面体に形成されて）光を乱屈折することができるようになっており、皿左上インナーレンズ２７２の後方に配置される皿左上装飾基板２７３の表面（実装面）に実装されている複数のＬＥＤが遊技者側から明確に視認し難くなっている。なお、皿左上インナーレンズ２７２の表面と共に裏面には、レンズカットが施されていてもよいし（多面体に形成されていてもよいし）、皿左上インナーレンズ２７２の表面に代えて裏面には、レンズカットが施されていてもよい（多面体に形成されていてもよい）。

【０２６９】

皿左上装飾ユニット２７０は、扉枠３に組立てた状態で、左端が扉枠左サイドユニット４００の下端と連続し、右端が演出操作ユニット３００におけるユニット前カバー３１２の皿中央上装飾体３１２ａの左端と連続している。皿左上装飾ユニット２７０は、皿左上装飾体２７１において長手方向の途中にリブを有していないことから、皿左上装飾基板２７３の複数のＬＥＤを発光させると、皿左上装飾体２７１の前面全体を略均一に発光装飾させることができ、蛍光灯が埋め込まれているように見せることができる。

【０２７０】

皿右上装飾ユニット２７５は、半円筒状で左右に延びている透明な皿右上装飾体２７６と、皿右上装飾体２７６の後側に取付けられている透明な皿右上インナーレンズ２７７と、皿右上インナーレンズ２７７の後側に取付けられており前面（以下、「表面（実装面）」と記載する場合がある。）に複数のＬＥＤが実装されている皿右上装飾基板２７８と、を備えている。

【０２７１】

皿右上装飾体２７６は、右端から左端へ向かうに従って、前方へ移動すると共に下方へ移動するように曲線状に延びており、右側の上部サイド膨出部２５２ａの上部に取付けられる。皿右上装飾体２７６は、前方へ膨出した半円弧が、右端では中心軸が斜め右上に延びていると共に、左端では中心軸が左右に延びており、半円筒が捩れているような形状に形成されている。この皿右上装飾体２７６は、透明に形成されている。なお、皿右上装飾体２７６の表面には、レンズカットが施されていてもよいし（多面体に形成されていてもよいし）、皿右上装飾体２７６の表面と共に裏面には、レンズカットが施されていてもよいし（多面体に形成されていてもよいし）、皿右上装飾体２７６の裏面には、レンズカットが施されていてもよい（多面体に形成されていてもよい）。

【０２７２】
皿右上インナーレンズ２７７は、皿右上装飾体２７６の内部に後方から挿入されている。皿右上装飾基板２７８に実装されている複数のＬＥＤは、表面実装タイプであって多色発光可能なフルカラーＬＥＤとされており、発光させることで、皿右上装飾体２７６を発光装飾させることができる。皿右上インナーレンズ２７７は、透明に形成されている。皿右上インナーレンズ２７７の表面は、レンズカットが施されて（多面体に形成されて）光を乱屈折することができるようになっており、皿右上インナーレンズ２７７の後方に配置される皿右上装飾基板２７８の表面（実装面）に実装されている複数のＬＥＤが遊技者側から明確に視認し難くなっている。なお、皿右上インナーレンズ２７７の表面と共に裏面には、レンズカットが施されていてもよいし（多面体に形成されていてもよいし）、皿右上インナーレンズ２７７の表面に代えて裏面には、レンズカットが施されていてもよい（多面体に形成されていてもよい）。
【０２７３】
皿右上装飾ユニット２７５は、扉枠３に組立てた状態で、右端が扉枠右サイドユニット４１０の下端と連続し、左端が演出操作ユニット３００におけるユニット前カバー３１２の皿中央上装飾体３１２ａの右端と連続している。皿右上装飾ユニット２７５は、皿右上装飾体２７６において長手方向の途中にリブを有していないことから、皿右上装飾基板２７８の複数のＬＥＤを発光させると、皿右上装飾体２７６の前面全体を略均一に発光装飾させることができ、蛍光灯が埋め込まれているように見せることができる。
【０２７４】
皿左上装飾ユニット２７０及び皿右上装飾ユニット２７５は、扉枠３に組立てた状態で、皿装飾ユニット２５０の皿ユニット本体２５２における上部サイド膨出部２５２ａの前端よりも一部が上方へ突出しており、上部サイド膨出部２５２ａとの間で皿左上装飾ユニット２７０及び皿右上装飾ユニット２７５側が高くなった段差を形成することができる。これにより、皿左上装飾ユニット２７０及び皿右上装飾ユニット２７５と上部サイド膨出部２５２ａとの段差を利用して、遊技者が指を引掛けることができ、上皿２０１内の遊技球Ｂを均したり、後述する演出操作部３０１を操作したり、する際の指掛りとすることができる。また、皿左上装飾ユニット２７０及び皿右上装飾ユニット２７５と上部サイド膨出部２５２ａとの段差により、上部サイド膨出部２５２ａ上の遊技球Ｂが、前方へ流出することを防止することができる。
【０２７５】
［３－５ｄ－５．皿左下装飾ユニット及び皿右下装飾ユニット］
皿装飾ユニット２５０における皿左下装飾ユニット２８０及び皿右下装飾ユニット２８５について、主に図４７乃至図５０等を参照して詳細に説明する。皿左下装飾ユニット２８０及び皿右下装飾ユニット２８５は、皿左上装飾ユニット２７０及び皿右上装飾ユニット２７５に夫々沿って延びるように、皿ユニット本体２５２の上部サイド膨出部２５２ａにおける前面の下部に取付けられる。皿左下装飾ユニット２８０及び皿右下装飾ユニット２８５は、皿左上装飾ユニット２７０及び皿右上装飾ユニット２７５と協働して、皿ユニット２００の前面と演出操作ユニット３００の左右両側を装飾するものである。
【０２７６】
皿左下装飾ユニット２８０は、半円筒状で左右に延びている透明な皿左下装飾体２８１と、皿左下装飾体２８１の後側に取付けられている透明な皿左下インナーレンズ２８２と、皿左下インナーレンズ２８２の後側に取付けられており前面（以下、「表面（実装面）」と記載する場合がある。）に複数のＬＥＤが実装されている皿左下装飾基板２８３と、を備えている。
【０２７７】
皿左下装飾体２８１は、左端から右端へ向かうに従って、前方へ移動すると共に下方へ移動するように曲線状に延びていると共に、平面視において後方に中心を有した円弧状に延びており、左側の上部サイド膨出部２５２ａの下部に取付けられる。皿左下装飾体２８１は、皿左上装飾体２７１及び皿右上装飾体２７６よりも小さい半径で前方へ膨出した半円

弧が、左端では中心軸がやや斜め左上後方に延びていると共に、右端では中心軸が左右に延びており、半円筒が曲げられているような形状に形成されている。皿左下装飾体２８１は、左端が球面状に形成されている。皿左下装飾体２８１は、左端側へ向かうに従って細くなるように半円弧の曲率が変化している。この皿左下装飾体２８１は、透明に形成されている。なお、皿左下装飾体２８１の表面には、レンズカットが施されていてもよいし（多面体に形成されていてもよいし）、皿左下装飾体２８１の表面と共に裏面には、レンズカットが施されていてもよいし（多面体に形成されていてもよいし）、皿左下装飾体２８１の裏面には、レンズカットが施されていてもよい（多面体に形成されていてもよい）。

【０２７８】

皿左下インナーレンズ２８２は、皿左下装飾体２８１の内部に後方から挿入されている。皿左下装飾基板２８３に実装されている複数のＬＥＤは、表面実装タイプであって多色発光可能なフルカラーＬＥＤとされており、発光させることで、皿左下装飾体２８１を発光装飾させることができる。皿左下インナーレンズ２８２は、透明に形成されている。皿左下インナーレンズ２８２の表面は、レンズカットが施されて（多面体に形成されて）光を乱屈折することができるようになっており、皿左下インナーレンズ２８２の後方に配置される皿左下装飾基板２８３の表面（実装面）に実装されている複数のＬＥＤが遊技者側から明確に視認し難くなっている。なお、皿左下インナーレンズ２８２の表面と共に裏面には、レンズカットが施されていてもよいし（多面体に形成されていてもよいし）、皿左下インナーレンズ２８２の表面に代えて裏面には、レンズカットが施されていてもよい（多面体に形成されていてもよい）。

【０２７９】

皿左下装飾ユニット２８０は、扉枠３に組立てた状態で、左端が皿左上装飾ユニット２７０の左端の下方に位置し、右端が演出操作ユニット３００におけるユニット前カバー３１２の皿中央下装飾体３１２ｂの左端と連続している。皿左下装飾ユニット２８０は、皿左下装飾体２８１の左端が球面状に形成されていることから、左端が扉枠３内へ潜り込んでいるように見える。皿左下装飾ユニット２８０は、皿左下装飾体２８１において長手方向の途中にリブを有していないことから、皿左下装飾基板２８３の複数のＬＥＤを発光させると、皿左下装飾体２８１の前面全体を略均一に発光装飾させることができ、蛍光灯が埋め込まれているように見せることができる。

【０２８０】

皿右下装飾ユニット２８５は、半円筒状で左右に延びている透明な皿右下装飾体２８６と、皿右下装飾体２８６の後側に取付けられている透明な皿右下インナーレンズ２８７と、皿右下インナーレンズ２８７の後側に取付けられており前面（以下、「表面（実装面）」と記載する場合がある。）に複数のＬＥＤが実装されている皿右下装飾基板２８８と、を備えている。

【０２８１】

皿右下装飾体２８６は、右端から左端へ向かうに従って、前方へ移動すると共に下方へ移動するように曲線状に延びていると共に、平面視において後方に中心を有した円弧状に延びており、右側の上部サイド膨出部２５２ａの下部に取付けられる。皿右下装飾体２８６は、皿左上装飾体２７１及び皿右上装飾体２７６よりも小さい半径で前方へ膨出した半円弧が、右端では中心軸がやや斜め右上後方に延びていると共に、左端では中心軸が左右に延びており、半円筒が曲げられているような形状に形成されている。皿右下装飾体２８６は、右端が球面状に形成されている。皿右下装飾体２８６は、右端側へ向かうに従って細くなるように半円弧の曲率が変化している。この皿右下装飾体２８６は、透明に形成されている。なお、皿右下装飾体２８６の表面には、レンズカットが施されていてもよいし（多面体に形成されていてもよいし）、皿右下装飾体２８６の表面と共に裏面には、レンズカットが施されていてもよいし（多面体に形成されていてもよいし）、皿右下装飾体２８６の裏面には、レンズカットが施されていてもよい（多面体に形成されていてもよい）。

【０２８２】

皿右下インナーレンズ２８７は、皿右下装飾体２８６の内部に後方から挿入されている。

皿右下装飾基板２８８に実装されている複数のＬＥＤは、表面実装タイプであって多色発光可能なフルカラーＬＥＤとされており、発光させることで、皿右下装飾体２８６を発光装飾させることができる。皿右下インナーレンズ２８７は、透明に形成されている。皿右下インナーレンズ２８７の表面は、レンズカットが施されて（多面体に形成されて）光を乱屈折することができるようになっており、皿右下インナーレンズ２８７の後方に配置される皿右下装飾基板２８８の表面（実装面）に実装されている複数のＬＥＤが遊技者側から明確に視認し難くなっている。レンズカットが施されていてもよいし（多面体に形成されていてもよいし）、なお、皿右下インナーレンズ２８７の表面と共に裏面には、レンズカットが施されていてもよいし（多面体に形成されていてもよいし）、皿右下インナーレンズ２８７の表面に代えて裏面には、レンズカットが施されていてもよい（多面体に形成されていてもよい）。

【０２８３】

皿右下装飾ユニット２８５は、扉枠３に組立てた状態で、右端が皿右上装飾ユニット２７５の右端の下方に位置し、左端が演出操作ユニット３００におけるユニット前カバー３１２の皿中央下装飾体３１２ｂの右端と連続している。皿右下装飾ユニット２８５は、皿右下装飾体２８６の右端が球面状に形成されていることから、右端が扉枠３内へ潜り込んでいるように見える。皿右下装飾ユニット２８５は、皿右下装飾体２８６において長手方向の途中にリブを有していないことから、皿右下装飾基板２８８の複数のＬＥＤを発光させると、皿右下装飾体２８６の前面全体を略均一に発光装飾させることができ、蛍光灯が埋め込まれているように見せることができる。

【０２８４】

［３－５ｅ．演出操作ユニットの全体構成］

皿ユニット２００における演出操作ユニット３００の全体構成について、主に図５１乃至図５４等を参照して詳細に説明する。図５１は、皿ユニットにおける演出操作ユニットを演出操作ボタンの進退方向から見た平面図である。図５２（ａ）は演出操作ユニットを前から見た斜視図であり、（ｂ）は演出操作ユニットを後ろから見た斜視図である。図５３は演出操作ユニットを主な部材毎に分解して前から見た分解斜視図であり、図５４は演出操作ユニットを主な部材毎に分解して後ろから見た分解斜視図である。演出操作ユニット３００は、皿ユニット２００における左右方向中央に備えられており、皿ユニット２００を装飾していると共に、遊技者参加型演出が実行された際に遊技者が操作して演出に参加することができるものである。演出操作ユニット３００は、皿ベースユニット２１０と皿装飾ユニット２５０とに取付けられている。

【０２８５】

演出操作ユニット３００は、遊技者が操作可能な演出操作部３０１を備えている。演出操作部３０１は、遊技者が回転操作可能な透明な回転操作部３０２と、遊技者が押圧操作可能な透明な押圧操作部３０３と、から構成されている。演出操作部３０１は、回転操作部３０２が、外径に対して約３／５の大きさの内径を有した円環状に形成されており、その環内に押圧操作部３０３が配置されている。押圧操作部３０３は、回転操作部３０２の中心に配置され、回転操作部３０２の内径の半分よりも若干大きい直径の透明な中央押圧操作部３０３ａと、中央押圧操作部３０３ａの外周と回転操作部３０２の内周との間に配置されている透明な円環状の外周押圧操作部３０３ｂとで構成されている。

【０２８６】

演出操作ユニット３００は、皿装飾ユニット２５０の前面に取付けられる演出操作部カバーユニット３１０と、演出操作部カバーユニット３１０に内に収容される操作部ベース３２０と、操作部ベース３２０の上面に取付けられており回転操作部３０２を有している円環状の演出操作リング３３０と、演出操作リング３３０の回転操作部３０２を回転させる回転駆動ユニット３４０と、回転駆動ユニット３４０と演出操作リング３３０の回転操作部３０２との間で回転を伝達させる操作リング用伝達ギア３５０と、操作リング用伝達ギア３５０を回転可能に操作部ベース３２０に取付けているギア取付部材３５１と、を備えている。

【０２８７】
また、演出操作ユニット３００は、演出操作リング３３０の下方で操作部ベース３２０の上面に取付けられており上面に複数のＬＥＤが実装されている演出操作リング装飾基板３５２と、演出操作リング装飾基板３５２の上側を覆うように操作部ベース３２０に取付けられている装飾基板カバー３５３と、操作部ベース３２０の下面に取付けられている振動スピーカ３５４と、演出操作リング３３０の環内に臨むように操作部ベース３２０に取付けられている演出操作ボタンユニット３６０と、操作部ベース３２０の後面に取付けられている操作部中継基板ユニット３９０と、を備えている。
【０２８８】
［３－５ｅ－１．演出操作部カバーユニット］
演出操作ユニット３００の演出操作部カバーユニット３１０について、主に図５３及び図５４等を参照して詳細に説明する。演出操作部カバーユニット３１０は、皿装飾ユニット２５０の皿ユニット本体２５２の演出操作ユニット取付部２５２ｉに取付けられ、皿ユニット２００の左右方向中央で演出操作ユニット３００の前面を装飾するものである。演出操作部カバーユニット３１０は、上方及び後方が開放された容器状に形成されている。
【０２８９】
演出操作部カバーユニット３１０は、下方へ窪んだ半球状のユニット下カバー３１１と、ユニット下カバー３１１の前側上端に取付けられており前方へ膨出した半円環状のユニット前カバー３１２と、ユニット前カバー３１２の皿中央上装飾体３１２ａ内に後方から取付けられている透明な皿中央上インナーレンズ３１３と、皿中央上インナーレンズ３１３の後側に取付けられており前方へ向かって光を照射可能な複数のＬＥＤが実装されている皿中央上装飾基板３１４と、ユニット前カバー３１２の皿中央下装飾体３１２ｂ内に後方から取付けられている透明な皿中央下インナーレンズ３１５と、皿中央下インナーレンズ３１５の後側に取付けられており前方へ向かって光を照射可能な複数のＬＥＤが実装されている皿中央下装飾基板３１６と、を備えている。
【０２９０】
ユニット下カバー３１１は、ユニット下カバー３１１は、前後方向中央後寄りから前側が、下方へ膨出した半球面状に形成されており、これより後側が、皿ユニット本体２５２の演出操作ユニット取付部２５２ｉに、上方から載置されるように取付けられる。ユニット下カバー３１１は、前部の半円弧状に延びている上端縁に形成される仮想の平面に垂直な軸線が、上方へ向かうに従って前方へ位置するように、傾斜した状態で取付けられる。本実施形態では、鉛直線に対して約１８度（１８．６５度）の角度で傾斜している。ユニット下カバー３１１は、皿ユニット２００に組立てた時に、最も低くなる部位に複数の排水孔３１１ａが形成されている。
【０２９１】
ユニット前カバー３１２は、ユニット前カバー３１２は、平面視の形状がユニット下カバー３１１の前端に沿うように前方へ膨出した半円弧状に形成されており、ユニット下カバー３１１の前部上端に取付けられている。ユニット前カバー３１２は、前方へ膨出した半円弧がユニット下カバー３１１の前端に沿うように半円弧状に延びている透明な皿中央上装飾体３１２ａと、皿中央上装飾体３１２ａの下方で前方へ膨出した半円弧がユニット下カバー３１１の前端に沿うように半円弧状に延びている透明な皿中央下装飾体３１２ｂと、を備えている。ユニット前カバー３１２は、皿中央下装飾体３１２ｂの下端がユニット下カバー３１１に取付けられている。
【０２９２】
ユニット前カバー３１２の皿中央上装飾体３１２ａと皿中央下装飾体３１２ｂは、略同じ太さ（半径）の円筒を、半割にした上で割面を中心側へ向けて半円弧状に延びるように屈曲させた形状に形成されている。皿中央上装飾体３１２ａに対して皿中央下装飾体３１２ｂは、大きい曲率で半円弧状に延びていると共に、皿中央上装飾体３１２ａに対して皿中央下装飾体３１２ｂは、若干細い太さの半円筒状に形成されている。ユニット前カバー３１２は、皿ユニット２００に組立てた状態で、皿中央上装飾体３１２ａの前端が、皿中央

下装飾体３１２ｂの前端よりも前方へ突出している。また、皿ユニット２００に組立てた状態では、皿中央上装飾体３１２ａの左右両端が、皿左上装飾ユニット２７０の右端及び皿右上装飾ユニット２７５の左端と夫々連続していると共に、皿中央下装飾体３１２ｂの左右両端が、皿左下装飾ユニット２８０の右端及び皿右下装飾ユニット２８５の左端と夫々連続している。ユニット前カバー３１２は、透明に形成されている。

【０２９３】

また、ユニット前カバー３１２は、扉枠３に組立てた状態で、その前端が扉枠３の前端となっており、扉枠ベース１０１の前面からユニット前カバー３１２の前端までの距離が、扉枠ベース１０１の左右方向の全幅の約１／２の距離となっている。

【０２９４】

皿中央上インナーレンズ３１３は、前方へ膨出した半円弧状に形成されており、ユニット前カバー３１２の皿中央上装飾体３１２ａ内に後方から挿入されて取付けられる。皿中央上装飾基板３１４は、皿中央上装飾体３１２ａに沿うように半円弧状に形成されており、上面（以下、「表面（実装面）」と記載する場合がある。）に前方（外側）へ向かって光を照射可能な複数のＬＥＤが実装されている。皿中央上装飾基板３１４の複数のＬＥＤは、表面実装タイプであって多色発光可能なフルカラーＬＥＤとされており、発光させることで皿中央上装飾体３１２ａを発光装飾させることができる。なお、皿中央上装飾体３１２ａの表面には、レンズカットが施されていてもよいし（多面体に形成されていてもよいし）、皿中央上装飾体３１２ａの表面と共に裏面には、レンズカットが施されていてもよいし（多面体に形成されていてもよいし）、皿中央上装飾体３１２ａの裏面には、レンズカットが施されていてもよい（多面体に形成されていてもよい）。

【０２９５】

皿中央上インナーレンズ３１３は、透明に形成されている。皿中央上インナーレンズ３１３の表面は、レンズカットが施されて（多面体に形成されて）光を乱屈折することができるようになっており、皿中央上インナーレンズ３１３の下方（又は後方）に配置される皿中央上装飾基板３１４の表面（実装面）に実装されている複数のＬＥＤが遊技者側から明確に視認し難くなっている。なお、皿中央上インナーレンズ３１３の表面と共に裏面には、レンズカットが施されていてもよいし（多面体に形成されていてもよいし）、皿中央上インナーレンズ３１３の表面に代えて裏面には、レンズカットが施されていてもよい（多面体に形成されていてもよい）。

【０２９６】

皿中央下インナーレンズ３１５は、前方へ膨出した半円弧状に形成されており、ユニット前カバー３１２の皿中央下装飾体３１２ｂ内に後方から挿入されて取付けられる。皿中央下装飾基板３１６は、皿中央下装飾体３１２ｂに沿うように半円弧状に形成されており、上面（以下、「表面（実装面）」と記載する場合がある。）に前方（外側）へ向かって光を照射可能な複数のＬＥＤが実装されている。皿中央下装飾基板３１６の複数のＬＥＤは、表面実装タイプであって多色発光可能なフルカラーＬＥＤとされており、発光させることで皿中央下装飾体３１２ｂを発光装飾させることができる。なお、皿中央下装飾体３１２ｂの表面には、レンズカットが施されていてもよいし（多面体に形成されていてもよいし）、皿中央下装飾体３１２ｂの表面と共に裏面には、レンズカットが施されていてもよいし（多面体に形成されていてもよいし）、皿中央下装飾体３１２ｂの裏面には、レンズカットが施されていてもよい（多面体に形成されていてもよい）。

【０２９７】

皿中央下インナーレンズ３１５は、透明に形成されている。皿中央下インナーレンズ３１５の表面は、レンズカットが施されて（多面体に形成されて）光を乱屈折することができるようになっており、皿中央下インナーレンズ３１５の下方（又は後方）に配置される皿中央下装飾基板３１６の表面（実装面）に実装されている複数のＬＥＤが遊技者側から明確に視認し難くなっている。なお、皿中央下インナーレンズ３１５の表面と共に裏面には、レンズカットが施されていてもよいし（多面体に形成されていてもよいし）、皿中央下インナーレンズ３１５の表面に代えて裏面には、レンズカットが施されていてもよい（多

面体に形成されていてもよい）。
【０２９８】
演出操作部カバーユニット３１０は、ユニット前カバー３１２の皿中央上装飾体３１２ａ及び皿中央下装飾体３１２ｂにおいて、半円弧状に延びている途中に補強用のリブを有していないことから、皿中央上装飾基板３１４のＬＥＤ及び皿中央下装飾基板３１６のＬＥＤを発光させると、夫々の全体を略均一に発光装飾させることができ、蛍光灯が埋め込まれているように見せることができる。
【０２９９】
演出操作部カバーユニット３１０は、皿ユニット２００に組立てた状態で、前端が、上皿２０１や下皿２０２よりも前方へ大きく突出している。また、演出操作部カバーユニット３１０は、皿中央上装飾体３１２ａが皿左上装飾体２７１及び皿右上装飾体２７６と連続していると共に、皿中央下装飾体３１２ｂが皿左下装飾体２８１及び皿右下装飾体２８６と連続している。これにより、演出操作ユニット３００を目立たせていると共に、一体的な装飾により見栄えを良くしている。
【０３００】
［３－５ｅ－２．操作部ベース］
演出操作ユニット３００の操作部ベース３２０について、主に図５３及び図５４等を参照して詳細に説明する。操作部ベース３２０は、演出操作部カバーユニット３１０内に上方から挿入され、下端が演出操作部カバーユニット３１０に取付けられると共に、上部後端が皿ベースユニット２１０における上皿本体２１２の演出操作ユニット取付部２１２ａに取付けられる。操作部ベース３２０は、上方が開放された容器状に形成されていると共に、透光性を有して（例えば、乳白色に）形成されている。
【０３０１】
操作部ベース３２０は、外形が略立方体の箱状に形成されており上方が開放されている本体部３２１と、本体部３２１の上端から外方へ延出しており外周が円形状に形成されているフランジ部３２２と、本体部３２１の底面から下方へ突出している複数（ここでは四つ）の脚部３２３と、フランジ部３２２の後端に形成されており皿ベースユニット２１０に取付けられる上部取付部３２４と、本体部３２１の左外側でフランジ部３２２を貫通して上方に開口しており操作リング用伝達ギア３５０を回転可能に支持するためのギア軸受部３２５と、を備えている。
【０３０２】
操作部ベース３２０は、本体部３２１が、内部に演出操作ボタンユニット３６０を収容可能な大きさに形成されている。本体部３２１は、底壁に下側から振動スピーカ３５４が取付けられると共に、下面における振動スピーカ３５４が取付けられる部位が平坦面に形成されている。本体部３２１の底壁は、振動スピーカ３５４からの振動に対して共振し易く形成されており、振動を増幅させることができると共に、振動を音声や音楽等のサウンドに変換して出力させることができる。
【０３０３】
本体部３２１の底壁の上面には、演出操作ボタンユニット３６０におけるボタンユニットベース３６１の脚部３６１ｂが取付けられる。また、本体部３２１は、底壁の外周縁において、本体部３２１内に侵入した液体を排出させる貫通孔が形成されている。本体部３２１は、左側壁外側に回転駆動ユニット３４０が取付けられると共に、後側壁外側に操作部中継基板ユニット３９０が取付けられる。
【０３０４】
フランジ部３２２は、外周がユニット前カバー３１２の皿中央上装飾体３１２ａの内周と略一致する直径に形成されている。フランジ部３２２の上面には、演出操作リング装飾基板３５２及び装飾基板カバー３５３が取付けられると共に、演出操作リング３３０のリング取付ベース３３１が取付けられる。複数の脚部３２３は、下端が演出操作部カバーユニット３１０におけるユニット下カバー３１１の上面に取付けられる。
【０３０５】

ギア軸受部３２５は、ギア取付部材と協働して操作リング用伝達ギアを、左右に延びた軸周りに対して回転可能に取付けることができる。ギア軸受部３２５に操作リング用伝達ギア３５０を取付けた状態では、操作リング用伝達ギア３５０の上部が上方へ突出した状態となると共に、操作リング用伝達ギア３５０の駆動側ギア部３５０ｂがフランジ部３２２の下方において外側に露出した状態となる。

【０３０６】

操作部ベース３２０は、演出操作ユニット３００に組立てた状態で、フランジ部３２２の上面が、ユニット前カバー３１２の皿中央上装飾体３１２ａの上面よりも若干下方に位置している。また、演出操作ユニット３００に組立てた状態では、本体部３２１の下面に振動スピーカ３５４が接した状態で取付けられている。

【０３０７】

［３－５ｅ－３．演出操作リング］

演出操作ユニット３００の演出操作リング３３０について、主に図５５及び図５６等を参照して詳細に説明する。図５５（ａ）は演出操作ユニットの演出操作リングを上前から見た斜視図であり、（ｂ）は演出操作リングを下前から見た斜視図である。図５６（ａ）は演出操作リングを分解して上前から見た分解斜視図であり、（ｂ）は演出操作リングを分解して下前から見た分解斜視図である。演出操作リング３３０は、操作部ベース３２０におけるフランジ部３２２の上面に取付けられ、遊技者が回転操作可能な透明な回転操作部３０２を有している。演出操作リング３３０（回転操作部３０２）は、直径（外径）が上皿２０１の前後方向の寸法の約２倍の大きさとされており、内径が外径の約３／５の大きさの円環状に形成されている。本実施形態では、演出操作リング３３０の外径が約１３ｃｍとされている。

【０３０８】

演出操作リング３３０は、操作部ベース３２０のフランジ部３２２の上面に取付けられる円環状のリング取付ベース３３１と、リング取付ベース３３１に回転可能に載置される円環状の回転ベース３３２と、回転ベース３３２の外周面と当接しリング取付ベース３３１に上下に延びた軸周りに回転可能に取付けられている複数のブッシュ３３３と、リング取付ベース３３１に取付けられており回転ベース３３２の上方への移動を規制しているリング抜止部材３３４と、を備えている。リング取付ベース３３１、回転ベース３３２、ブッシュ３３３、及びリング抜止部材３３４は、夫々透明に形成されている。

【０３０９】

また、演出操作リング３３０は、回転ベース３３２の上面に取付けられており回転操作部３０２の一部を構成しているリング外上カバー３３５と、リング外上カバー３３５の下側に取付けられており回転操作部３０２の一部を構成しているリング外下カバー３３６と、リング外上カバー３３５の内周側で回転ベース３３２の上面に取付けられており回転操作部３０２の一部を構成しているリング内カバー３３７と、を備えている。リング外上カバー３３５、リング外下カバー３３６、及びリング内カバー３３７は、夫々透明な円環状に形成されている。

【０３１０】

リング取付ベース３３１は、外径が操作部ベース３２０のフランジ部３２２の外径よりも若干大きく、内径がフランジ部３２２の内径と略同じ大きさに形成されている。リング取付ベース３３１は、内周縁に沿った上面側に回転ベース３３２が周方向へ摺動可能に載置される載置部３３１ａと、上面における載置部３３１ａよりも外側で周方向へ離間して複数（ここでは四つ）の部位から上方へ円筒状に突出しておりブッシュ３３３を回転可能に取付けるためのボス部３３１ｂと、上面における載置部３３１ａよりも外側で周方向へ間隔をあけて複数の部位において上下に貫通している貫通口３３１ｃと、を備えている。複数の貫通口３３１ｃは、演出操作リング装飾基板３５２のＬＥＤと対応する位置に形成されている。

【０３１１】

回転ベース３３２は、外径がリング取付ベース３３１の載置部３３１ａの直径（外径）よ

りも若干小さく、内径がリング取付ベース３３１の内径よりも小さく形成されている。回転ベース３３２は、下面から下方へ突出していると共に周方向へ延びているリングギア３３２ａを備えている。リングギア３３２ａは、回転ベース３３２の中心側へ向かうに従って下方へ突出するように傘歯車に形成されている。リングギア３３２ａは、リング取付ベース３３１の内径よりも外径が小さく形成されており、演出操作リング３３０に組立てた状態では、リング取付ベース３３１の内周側から下方へ臨んだ状態となる。このリングギア３３２ａは、演出操作ユニット３００に組立てた状態で、操作リング用伝達ギア３５０のリング側ギア部３５０ａと噛合する。

【０３１２】

リング外上カバー３３５は、円形における外部且つ上部を構成している円弧が円環状に延びている外上表面部３３５ａと、外上表面部３３５ａに立体的に形成されており周方向へ複数配置されている装飾部３３５ｂと、外上表面部３３５ａの内周端から下方へ延出した後に中心側へ延出しており周方向へ複数配置されている外上カバー取付部３３５ｃと、を備えている。リング外上カバー３３５の外上表面部３３５ａは、円の１／４の範囲の円弧が円環状に延びた形状に形成されている。装飾部３３５ｂは、外形が六角形に形成されている。外上カバー取付部３３５ｃは、外上表面部３３５ａの下端よりも若干下方へ延出しており、回転ベース３３２の上面に取付けられるものである。

【０３１３】

リング外下カバー３３６は、円形における外部且つ下部を構成している円弧が円環状に延びている外下表面部３３６ａと、外下表面部３３６ａの内側から上方且つ中心側へ突出し周方向に複数配置されている外下カバー取付部３３６ｂと、を備えている。リング外下カバー３３６の外下表面部３３６ａは、円の１／８の範囲の円弧が円環状に延びた形状に形成されている。外下カバー取付部３３６ｂは、リング外上カバー３３５に取付けられるものである。

【０３１４】

リング内カバー３３７は、円形における内部且つ上部を構成している円弧が円環状に延びている内表面部３３７ａと、内表面部３３７ａの内側端部から中心軸に平行に下方へ延びている筒状の筒表面部３３７ｂと、筒表面部３３７ｂの外周に形成されており周方向へ複数配置されている内カバー取付部３３７ｃと、を備えている。リング内カバー３３７の内表面部３３７ａは、円の１／８の範囲の円弧が円環状に延びた形状に形成されている。筒表面部３３７ｂは、円筒状の内径が回転ベース３３２の内径と同じ大きさである。内カバー取付部３３７ｃは、回転ベース３３２の上面に取付けられるものである。

【０３１５】

リング外上カバー３３５、リング外下カバー３３６、及びリング内カバー３３７は、演出操作リング３３０に組立てた状態で、外上表面部３３５ａ、外下表面部３３６ａ、及び内表面部３３７ａが、連続するように形成されており、外上表面部３３５ａ、外下表面部３３６ａ、及び内表面部３３７ａによって、円の１／２以上の範囲の部位を構成し、全体がドーナツ状となる。演出操作リング３３０は、演出操作リング装飾基板３５２によって発光装飾可能とされている。

【０３１６】

［３－５ｅ－４．回転駆動ユニット］

演出操作ユニット３００における回転駆動ユニット３４０について、主に図５７乃至図５９等を参照して詳細に説明する。図５７（ａ）は演出操作ユニットの回転駆動ユニットを前から見た斜視図であり、（ｂ）は回転駆動ユニットを後ろから見た斜視図である。図５８は回転駆動ユニットを分解して右前から見た分解斜視図であり、図５９は回転駆動ユニットを分解して左前から見た分解斜視図である。回転駆動ユニット３４０は、演出操作リング３３０の回転操作部３０２を回転駆動させたり、回転操作部３０２の回転操作を検知したりするためのものである。回転駆動ユニット３４０は、操作部ベース３２０の本体部３２１における左側面の外側に取付けられる。

【０３１７】

回転駆動ユニット３４０は、操作部ベース３２０の本体部３２１に取付けられる回転駆動ベース３４１と、回転駆動ベース３４１の右側面後部に回転軸が左方へ突出するように取付けられる操作リング駆動モータ３４２と、操作リング駆動モータ３４２の回転軸に取付けられる駆動ギア３４３と、駆動ギア３４３により回転させられる変速ギア３４４と、変速ギア３４４により回転させられると共に操作リング用伝達ギア３５０を回転させる伝達検知ギア部材３４５と、変速ギア３４４及び伝達検知ギア部材３４５を回転駆動ベースと協働して回転可能に取付けていると共に駆動ギア３４３、変速ギア３４４及び伝達検知ギア部材３４５左方から被覆しているギアカバー３４６と、を備えている。

【０３１８】

また、回転駆動ユニット３４０は、ギアカバー３４６に取付けられており伝達検知ギア部材３４５の回転位置を検知している第一回転検知センサ３４７及び第二回転検知センサ３４８と、第一回転検知センサ３４７及び第二回転検知センサ３４８を左方から覆うようにギアカバー３４６に取付けられているセンサカバー３４９と、を備えている。

【０３１９】

回転駆動ベース３４１は、左右方向が短く前後方向へ長く延びており左方へ開放されている浅い箱状に形成されている。操作リング駆動モータ３４２は、ステッピングモータとされている。駆動ギア３４３は、平歯車とされている。変速ギア３４４は、駆動ギアと噛合する平歯車状の第一ギア３４４ａと、第一ギア３４４ａと一体回転すると共に大径に形成されている平歯車状の第二ギア３４４ｂと、から構成されている。変速ギア３４４の第二ギア３４４ｂは、伝達検知ギア部材３４５のギア部３４５ａと噛合する。

【０３２０】

伝達検知ギア部材３４５は、変速ギア３４４よりも大径（第二ギア３４４ｂの直径の２倍の大きさ）のギア部３４５ａと、ギア部３４５ａの左側面から左方へ突出しており周方向に一定の間隔で列設されている複数の検知片３４５ｂと、を備えている。ギア部３４５ａは、変速ギア３４４の第二ギア３４４ｂと噛合すると共に、操作リング用伝達ギア３５０の駆動側ギア部３５０ｂと噛合する。複数の検知片３４５ｂは、周方向の長さが周方向へ離間している間隔と同じ長さとされている。本実施形態では、検知片３４５ｂは、４５度の回転角度の間隔で、周方向に八つ配置されている。これら検知片３４５ｂは、第一回転検知センサ３４７及び第二回転検知センサ３４８によって検知される。

【０３２１】

第一回転検知センサ３４７及び第二回転検知センサ３４８は、伝達検知ギア部材３４５の検知片３４５ｂを検知するものである。第一回転検知センサ３４７及び第二回転検知センサ３４８は、周方向へ列設されている検知片３４５ｂの間隔に対して、整数倍とは異なる間隔で周方向へ離間して配置されている。本実施形態では、第一回転検知センサ３４７及び第二回転検知センサ３４８は、１０１．２５度の回転角度で離間している。これにより、伝達検知ギア部材３４５が回転した時に、第一回転検知センサ３４７及び第二回転検知センサ３４８が同じタイミングで検知片３４５ｂを検知することはなく、一方が先に検知片３４５ｂを検知するようになっている。これにより、伝達検知ギア部材３４５を介して演出操作リング３３０における回転操作部３０２の回転方向や回転速度を検知することができる。

【０３２２】

回転駆動ユニット３４０は、組立てた状態で、伝達検知ギア部材３４５のギア部３４５ａの上部が上方へ露出しており、ギア部３４５ａの露出した部位が操作リング用伝達ギア３５０の駆動側ギア部３５０ｂと噛合する。また、回転駆動ユニット３４０は、演出操作ユニット３００に組立てた状態で、全体が演出操作部カバーユニット３１０内に位置している。

【０３２３】

回転駆動ユニット３４０は、操作リング駆動モータ３４２の駆動により、駆動ギア３４３、変速ギア３４４、伝達検知ギア部材３４５、及び操作リング用伝達ギアを介して、演出操作リング３３０の回転操作部３０２を任意の方向へ回転させることができる。また、回

転駆動ユニット３４０は、操作リング駆動モータ３４２により駆動ギア３４３を、所定の回転角度の範囲で正転・逆転を繰返させることで、回転操作部３０２を往復回動させて振動させることができる。

【０３２４】

また、回転駆動ユニット３４０は、遊技者により演出操作リング３３０の回転操作部３０２が回転させられると、操作リング用伝達ギア３５０を介して伝達検知ギア部材３４５が回転し、伝達検知ギア部材３４５の検知片３４５ｂが第一回転検知センサ３４７及び第二回転検知センサ３４８によって検知され、回転操作部３０２の回転操作を検知することができる。従って、回転操作部３０２の回転方向に応じて遊技者参加型演出の内容を変化させることができる。

【０３２５】

また、回転駆動ユニット３４０では、第一回転検知センサ３４７及び第二回転検知センサ３４８によって回転操作部３０２の回転操作を検知することができるため、回転操作された回転方向と同じ方向へ操作リング駆動モータ３４２を駆動させることで、遊技者の回転操作をアシストすることができる。或いは、回転操作部３０２の回転方向とは反対の方向へ操作リング駆動モータ３４２を駆動させることで、遊技者の回転操作に負荷を与えることができる。従って、これらを適宜組合せることで、回転操作部３０２に、遊技者参加型演出の内容に応じた操作感を付与したり、クリック感を付与したりすることができる。

【０３２６】

［３－５ｅ－５．操作リング用伝達ギア］

演出操作ユニット３００の操作リング用伝達ギア３５０について、主に図５３及び図５４等を参照して詳細に説明する。操作リング用伝達ギア３５０は、回転駆動ユニット３４０の伝達検知ギア部材３４５と演出操作リング３３０の回転操作部３０２の回転ベース３３２との間で回転を伝達させるものであり、操作部ベース３２０のギア軸受部３２５に回転可能に取付けられるものである。

【０３２７】

操作リング用伝達ギア３５０は、演出操作リング３３０の回転ベース３３２におけるリングギア３３２ａと噛合する傘歯車状のリング側ギア部３５０ａと、リング側ギア部３５０ａと一体回転し回転駆動ユニット３４０の伝達検知ギア部材３４５におけるギア部３４５ａと噛合する平歯車状の駆動側ギア部３５０ｂと、を備えている。リング側ギア部３５０ａと駆動側ギア部３５０ｂは、ピッチ円が同じ直径に形成されている。傘歯車状のリング側ギア部３５０ａは、回転ベース３３２の回転軸の方向へ窄まっている。

【０３２８】

操作リング用伝達ギア３５０は、回転軸が左右方向へ延びていると共に、演出操作リング３３０の回転ベース３３２の回転軸と交わるように、操作部ベース３２０に取付けられる。操作リング用伝達ギア３５０は、操作部ベース３２０のギア軸受部３２５に上方から挿入された上で、ギア取付部材３５１が操作部ベース３２０に取付けられることで、操作部ベース３２０に回転可能に取付けられる。

【０３２９】

操作リング用伝達ギア３５０は、演出操作ユニット３００に組立てられた状態で、リング側ギア部３５０ａが演出操作リング３３０における回転ベース３３２のリングギア３３２ａと噛合していると共に、駆動側ギア部３５０ｂが回転駆動ユニット３４０における伝達検知ギア部材３４５のギア部３４５ａと噛合している。従って、操作リング用伝達ギア３５０は、演出操作リング３３０の回転操作部３０２の回転操作を回転駆動ユニット３４０側へ伝達させることができると共に、回転駆動ユニット３４０の操作リング駆動モータ３４２の回転駆動を演出操作リング３３０の回転操作部３０２に伝達させて回転させることができる。

【０３３０】

［３－５ｅ－６．演出操作リング装飾基板］

演出操作ユニット３００における演出操作リング装飾基板３５２について、主に図５３及

び図５４等を参照して説明する。演出操作リング装飾基板３５２は、操作部ベース３２０におけるフランジ部３２２の上面に取付けられ、上面に複数のＬＥＤが実装されている。演出操作リング装飾基板３５２は、演出操作リング３３０の下方に取付けられており、複数のＬＥＤを適宜発光させることで演出操作リング３３０（回転操作部３０２）を発光装飾させることができる。

【０３３１】

演出操作リング装飾基板３５２は、円環を前後に分割したような形態に形成されており、前側の前装飾基板３５２ａと、後側の後装飾基板３５２ｂとで構成されている。前装飾基板３５２ａ及び後装飾基板３５２ｂの上面（以下、「表面（実装面）」と記載する場合がある。）の夫々に、複数のＬＥＤが外周に沿って列設されている。演出操作リング装飾基板３５２の複数のＬＥＤは、表面実装タイプであって多色発光可能なフルカラーＬＥＤとされている。

【０３３２】

演出操作リング装飾基板３５２は、演出操作ユニット３００に組立てた状態で、演出操作リング３３０のリング取付ベース３３１の下方に位置している。演出操作リング装飾基板３５２は、その上側が、透明な装飾基板カバー３５３によって被覆されている。装飾基板カバー３５３は、演出操作リング装飾基板３５２と同様に、前後に分割された形態に形成されており、前装飾基板３５２ａを上側から覆い操作部ベース３２０のフランジ部３２２に取付けられる前基板カバー３５３ａと、後装飾基板３５２ｂを上側から覆い操作部ベース３２０のフランジ部３２２に取付けられる後基板カバー３５３ｂと、で構成されている。

【０３３３】

演出操作リング装飾基板３５２は、上面に実装されている複数のＬＥＤを発光させることで、装飾基板カバー３５３及びリング取付ベース３３１が透明に形成されているため、装飾基板カバー３５３及びリング取付ベース３３１を通して、又は装飾基板カバー３５３及びリング取付ベース３３１の貫通口３３１ｃを通して、透明な回転操作部３０２を構成している透明なリング外上カバー３３５、透明なリング外下カバー３３６、及び透明なリング内カバー３３７を、内部から発光装飾させることができる。従って、回転操作部３０２内にＬＥＤが備えられているような発光装飾を遊技者に見せることができる。

【０３３４】

［３－５ｅ－７．振動スピーカ］

演出操作ユニット３００における振動スピーカ３５４について、主に図５３及び図５４等を参照して詳細に説明する。振動スピーカ３５４は、操作部ベース３２０における本体部３２１の下面に出力方向を上方へ向けて取付けられており、音声や音楽等のサウンドに加えて、多彩な周波数の振動を出力することができるものである。

【０３３５】

振動スピーカ３５４は、操作部ベース３２０の底壁を振動板として振動させることで、音声や音楽等のサウンド（音）を出力することができる。また、振動スピーカ３５４は、操作部ベース３２０を介して演出操作ユニット３００全体を振動させることができる。この振動スピーカ３５４は、偏芯させた錘をモータで回転させる振動装置と比較して、様々な周波数の振動を発生させることができ、より多彩な演出を遊技者に提示することができる。

【０３３６】

［３－５ｅ－８．演出操作ボタンユニット］

演出操作ユニット３００における演出操作ボタンユニット３６０について、主に図６０乃至図６２等を参照して詳細に説明する。図６０は演出操作ユニットの演出操作ボタンユニットを分解して前上から見た分解斜視図であり、図６１は演出操作ボタンユニットを分解して前下から見た分解斜視図である。図６２（ａ）は押圧操作部が下降位置の時の演出操作ボタンユニットの断面図であり、（ｂ）押圧操作部が上昇位置の時の演出操作ボタンユニットの断面図である。演出操作ボタンユニット３６０は、演出操作リング３３０の環内に臨むように操作部ベース３２０に取付けられており、遊技者が押圧操作可能な透明な押圧操作部３０３を有している。演出操作ボタンユニット３６０の押圧操作部３０３は、透

明な円柱状の中央押圧操作部３０３ａと、中央押圧操作部３０３ａの外周を覆うように形成されている透明な円筒状の外周押圧操作部３０３ｂと、で構成されている。
【０３３７】
演出操作ボタンユニット３６０は、外周が略円形状に形成されており操作部ベース３２０の本体部３２１内に取付けられるボタンユニットベース３６１と、ボタンユニットベース３６１の中心軸を境にして対象に配置されており上方へ円柱状に延出している一対のガイドシャフト３６２と、一対のガイドシャフト３６２の上端同士を連結しており外周がボタンユニットベース３６１よりも小さい円形状に形成されている円盤状の上部ベース３６３と、上部ベース３６３とボタンユニットベース３６１との間において一対のガイドシャフト３６２によって上下方向へ移動可能に取付けられており外周がボタンユニットベース３６１と略同じ大きさの円形状に形成されている円盤状の昇降ベース３６４と、一対のガイドシャフト３６２が夫々挿通されており昇降ベース３６４を上方へ付勢している一対の昇降バネ３６５と、を備えている。
【０３３８】
また、演出操作ボタンユニット３６０は、ボタンユニットベース３６１の中心から上方へ円柱状に延出しており上端が上部ベース３６３に取付けられている中央シャフト３６６と、ボタンユニットベース３６１の下面に回転軸が上方へ突出するように取付けられている操作ボタン昇降駆動モータ３６７と、操作ボタン昇降駆動モータ３６７の回転軸に取付けられている平歯車状の昇降駆動ギア３６８と、昇降駆動ギア３６８と噛合しておりボタンユニットベース３６１の上側に回転可能に取付けられている平歯車状の従動ギア３６９と、従動ギア３６９により回転させられ中央シャフト３６６が挿通されて回転可能に取付けられている昇降カム駆動ギア部材３７０と、昇降カム駆動ギア部材３７０と下端が連結されていると共に中央シャフト３６６が挿通されて回転可能に取付けられており回転することで昇降ベース３６４を昇降させる昇降カム部材３７１と、昇降駆動ギア３６８、従動ギア３６９、及び昇降カム駆動ギア部材３７０を上方から覆うようにボタンユニットベース３６１の上側に取付けられている円盤状のギアカバー３７２と、を備えている。
【０３３９】
更に、演出操作ボタンユニット３６０は、内径が上部ベースよりも大径で上下に延びた有底筒状に形成されており昇降ベース３６４より上側で一対のガイドシャフト３６２によって上下方向へ移動可能に取付けられている透明な中央ボタン本体３７３と、中央ボタン本体３７３と昇降ベース３６４との間に配置されており中央ボタン本体３７３を上方へ付勢している一対のボタンバネ３７４と、中央ボタン本体３７３と略同じ径で上端側が閉鎖された有底筒状に形成されており上部ベース３６３の上方を覆うように中央ボタン本体３７３の上端に取付けられている透明な中央ボタンカバー３７５と、上部ベース３６３の上面に取付けられており上方へ光を照射可能な複数のＬＥＤが実装されている中央ボタン装飾基板３７６と、を備えている。演出操作ボタンユニット３６０は、中央ボタン本体３７３と中央ボタンカバー３７５とで中央押圧操作部３０３ａを構成している。
【０３４０】
また、演出操作ボタンユニット３６０は、昇降ベース３６４の上面における中央ボタン本体３７３よりも外側の部位に取付けられており上面に複数のＬＥＤが実装されている円環状の外周ボタン装飾基板３７７と、外周ボタン装飾基板３７７の上側を覆うと共に中央ボタン本体３７３の外周を覆うように昇降ベース３６４に取付けられている透明な外周基板カバー３７８と、外周基板カバー３７８における中央ボタン本体３７３の外周を覆っている部位の外周側で外周ボタン装飾基板３７７の上方に配置されており立体的な装飾が施された透明な円筒状の外周装飾インナーレンズ３７９と、外周装飾インナーレンズ３７９の外周及び上面を覆うように昇降ベース３６４に取付けられており中央において中央ボタンカバー３７５が上方へ臨む透明な外周ボタンカバー３８０と、を備えている。演出操作ボタンユニット３６０は、外周基板カバー３７８と外周装飾インナーレンズ３７９と外周ボタンカバー３８０とで、外周押圧操作部３０３ｂを構成している。
【０３４１】

また、演出操作ボタンユニット３６０は、ボタンユニットベース３６１に取付けられており押圧操作部３０３の押圧操作を検知する押圧検知センサ３８１と、ボタンユニットベース３６１に取付けられており昇降カム駆動ギア部材３７０の回転位置を検知することで昇降ベース３６４の昇降を検知する昇降検知センサ３８２と、を備えている。

【０３４２】

ボタンユニットベース３６１は、円盤状に形成されているベース本体３６１ａと、ベース本体３６１ａから下方へ突出している複数の脚部３６１ｂと、を備えている。ボタンユニットベース３６１のベース本体３６１ａは、外径が、操作部ベース３２０における本体部３２１の内周径よりも若干小さい大きさに形成されている。このベース本体３６１ａは、上面に、一対のガイドシャフト３６２、中央シャフト３６６、従動ギア３６９、昇降カム駆動ギア部材３７０、及びギアカバー３７２が取付けられ、下面に、押圧検知センサ３８１及び昇降検知センサ３８２が取付けられる。ボタンユニットベース３６１は、脚部３６１ｂの下端が操作部ベース３２０における本体部３２１の底壁に取付けられる。

【０３４３】

一対のガイドシャフト３６２は、ボタンユニットベース３６１のベース本体３６１ａの上面において、中心から前方及び後方へ、ベース本体３６１ａの直径の半分の距離の位置に夫々取付けられている。一対のガイドシャフト３６２及び中央シャフト３６６は、金属棒によって形成されている。一対のガイドシャフト３６２は、中央シャフト３６６よりも太く形成されている。

【０３４４】

上部ベース３６３は、外径がボタンユニットベース３６１のベース本体３６１ａの外径の約１／２の大きさに形成されている。一対の昇降バネ３６５は、コイルスプリングとされており、下端がボタンユニットベース３６１のベース本体３６１ａに当接していると共に、上端が昇降ベース３６４に当接している。昇降バネ３６５は、ボタンバネ３７４よりも付勢力の強いバネとされている。

【０３４５】

昇降ベース３６４は、外径がボタンユニットベース３６１のベース本体３６１ａの外径と略同じ大きさに形成されている。昇降ベース３６４は、一対のガイドシャフト３６２が夫々摺動可能に挿入される一対のガイド孔３６４ａと、中央において昇降カム部材３７１が通過可能な大きさで上下に貫通している中央孔３６４ｂと、中央孔３６４ｂの周縁から上方へ円筒状に突出している立壁部３６４ｃと、立壁部３６４ｃの下端付近において中央孔３６４ｂの内へ互いに対向するように突出している一対の案内ピン３６４ｄと、を備えている。一対の案内ピン３６４ｄは、同一軸芯上で互いに対向していると共に、軸芯周りに回転可能に取付けられている。

【０３４６】

昇降ベース３６４は、一対のガイド孔３６４ａに一対のガイドシャフト３６２が挿通されることで、上下方向へ昇降可能に案内される。昇降ベース３６４は、立壁部３６４ｃの上端が上部ベース３６３に当接することで、上方への移動が規制されると共に、上部ベース３６３との間に中央ボタン本体３７３の底部３７３ｂが移動可能な空間を形成している。また、昇降ベース３６４は、一対の案内ピン３６４ｄが、昇降カム部材３７１のカム部３７１ａに案内されることで、上下方向へ移動させられる。

【０３４７】

昇降カム駆動ギア部材３７０は、従動ギア３６９と噛合する平歯車状のギア部３７０ａと、ギア部３７０ａから上方へ突出しており昇降カム部材３７１の下端が連結される連結部３７０ｂと、ギア部３７０ａから下方へ筒状に突出していると共に対向している二箇所が切欠かれており昇降検知センサ３８２により検知される昇降検知片３７０ｃと、を備えている。昇降カム駆動ギア部材３７０は、ギア部３７０ａの中心に中央シャフト３６６が挿入されることで、回転可能に取付けられる。

【０３４８】

昇降カム部材３７１は、中心に中央シャフト３６６が挿通されることで、回転可能に取付

けられる。昇降カム部材３７１は、円柱状の外周面において周方向へ１８０度離間しており、外方へ突出している一対のカム部３７１ａを備えている。一対のカム部３７１ａは、昇降ベース３６４の案内ピン３６４ｄを案内するものである。

【０３４９】

カム部３７１ａは、下端付近において軸芯に対して直角方向へ延びている第一カム３７１ｂと、第一カム３７１ｂの中間で上方へ窪んでいる係止部３７１ｃと、第一カム３７１ｂの一方の端部から軸芯と平行に上方へ延びている第二カム３７１ｄと、第一カム３７１ｂの第二カム３７１ｄとは反対側の端部から螺旋状に上方へ延びている第三カム３７１ｅと、を備えている（図６２を参照）。第二カム３７１ｄと第三カム３７１ｅは、同じ高さまで上方へ延びており、隣接するカム部３７１ａ同士の間では、昇降ベース３６４の案内ピン３６４ｄの直径よりも小さい距離で離間している。

【０３５０】

また、昇降カム部材３７１は、下端に昇降カム駆動ギア部材３７０の連結部３７０ｂと連結する被連結部３７１ｆを備えている。

【０３５１】

昇降カム部材３７１は、カム部３７１ａにおいて、第二カム３７１ｄが、昇降カム部材３７１を平面視において反時計回りの方向へ回転させた時に、第一カム３７１ｂの後端側から上方へ延出するように形成されている。昇降カム部材３７１は、回転することで、カム部３７１ａにより昇降ベース３６４の案内ピン３６４ｄを案内して昇降ベース３６４を昇降させることができる。

【０３５２】

中央ボタン本体３７３は、中央ボタン本体３７３は、上下に延びた円筒状の筒部３７３ａと、筒部３７３ａの下端側を閉鎖している底部３７３ｂと、底部３７３ｂを貫通しており一対のガイドシャフト３６２が摺動可能に挿入される一対のガイド孔３７３ｃと、底部３７３ｂの中央において昇降ベース３６４の立壁部３６４ｃの外径よりも大きい径で貫通している中央口３７３ｄと、底部３７３ｂから下方へ突出しており押圧検知センサ３８１により検知される押圧検知片３７３ｅと、底部３７３ｂから後方へ円柱状に突出しておりボタンバネ３７４に挿通される一対のガイドボス３７３ｆと、を備えている。

【０３５３】

中央ボタン本体３７３は、筒部３７３ａと底部３７３ｂとによって、有底筒状に形成されている。中央ボタン本体３７３は、底部３７３ｂが上部ベース３６３と昇降ベース３６４との間に配置されると共に、筒部３７３ａの上端が上部ベース３６３よりも上方へ突出するように形成されている。中央口３７３ｄは、下方へ短く延びた円筒状に形成されており、下端が昇降ベース３６４の上面に当接することで、中央ボタン本体３７３の下方への移動が規制される。中央ボタン本体３７３の中央口３７３ｄを通って、昇降ベース３６４の立壁部３６４ｃの上端が上部ベース３６３に当接する。

【０３５４】

中央ボタン本体３７３は、一対のガイドボス３７３ｆが挿通されている一対のボタンバネ３７４によって上方へ付勢されている。一対のガイドボス３７３ｆは、下端が昇降ベース３６４を貫通して下方へ延出するように形成されており、下端にワッシャが挿通されたビスが取付けられる。ガイドボス３７３ｆの下端に取付けられたワッシャが昇降ベース３６４の下面に当接することで、中央ボタン本体３７３の上方への移動が規制される。

【０３５５】

中央ボタン本体３７３の押圧検知片３７３ｅは、一対のボタンバネ３７４の付勢力に抗して中央ボタン本体３７３の底部３７３ｂ（中央口３７３ｄの下端）が昇降ベース３６４の上面に当接した時に、昇降ベース３６４を貫通して下方へ突出するように形成されている。この中央ボタン本体３７３は、不透明に形成されている。一対のボタンバネ３７４は、昇降バネ３６５よりも付勢力の弱いコイルバネとされている。

【０３５６】

中央ボタンカバー３７５は、中央ボタン本体３７３の筒部３７３ａと略同じ直径の円盤状

の天板部３７５ａと、天板部３７５ａの外周から下方へ延出している筒状の周壁部３７５ｂと、を備えており、透明に形成されている。中央ボタンカバー３７５は、天板部３７５ａと周壁部３７５ｂとによって有底筒状に形成されている。この中央ボタンカバー３７５は、周壁部３７５ｂの下端が中央ボタン本体３７３における筒部３７３ａの上端に取付けられる。

【０３５７】

中央ボタン装飾基板３７６は、上面（以下、「表面（実装面）」と記載する場合がある。）に実装されている複数のＬＥＤが表面実装タイプであって多色発光可能なフルカラーＬＥＤとされている。中央ボタン装飾基板３７６は、複数のＬＥＤを適宜発光させることで、中央ボタンカバー３７５を発光装飾させることができる。外周ボタン装飾基板３７７は、上面（以下、「表面（実装面）」と記載する場合がある。）に実装されている複数のＬＥＤが表面実装タイプであって多色発光可能なフルカラーＬＥＤとされている。外周ボタン装飾基板３７７は、複数のＬＥＤを適宜発光させることで、外周装飾インナーレンズ３７９及び外周ボタンカバー３８０を発光装飾させることができる。

【０３５８】

外周基板カバー３７８は、外周ボタン装飾基板３７７の上側を覆い昇降ベース３６４に取付けられる円環状の基板部３７８ａと、基板部３７８ａの内周から上方へ筒状に延出しており中央ボタン本体３７３の外周を覆う円筒部３７８ｂと、を備えている。外周基板カバー３７８は、透明に形成されている。

【０３５９】

外周装飾インナーレンズ３７９は、上方へ向かうに従って周方向へ移動するように延びている捩れた部位が、周方向に一定の間隔で列設されている。外周装飾インナーレンズ３７９は、外周基板カバー３７８における基板部３７８ａの上側に取付けられている。外周ボタンカバー３８０は、外周装飾インナーレンズ３７９の外周を覆う円筒状の筒状部３８０ａと、筒状部３８０ａの上端から中心側へ延出している円環状の環状部３８０ｂと、を備えている。外周ボタンカバー３８０は、筒状部３８０ａの下端が昇降ベース３６４に取付けられる。環状部３８０ｂは、内径が外周基板カバー３７８の円筒部３７８ｂと略同じ大きさに形成されている。

【０３６０】

演出操作ボタンユニット３６０は、組立てた状態では、図６２（ａ）に示すように、昇降ベース３６４が一対の昇降バネ３６５によって上方へ付勢された状態で、昇降ベース３６４の案内ピン３６４ｄが、昇降カム部材３７１のカム部３７１ａにおける係止部３７１ｃに下方から挿入されている。この状態では、昇降ベース３６４が下方へ移動した下降位置の状態となっており、一対の昇降バネ３６５が圧縮されている。また、この状態では、中央ボタン本体３７３がボタンバネ３７４の付勢力により上方側への移動端に位置しており、中央ボタンカバー３７５の上面が、外周ボタンカバー３８０の上面よりも上方へ突出した状態となっている。

【０３６１】

従って、演出操作ユニット３００に組立てた状態では、外周ボタンカバー３８０の上面が演出操作リング３３０の上面よりも僅かに上方へ突出していると共に、中央ボタンカバー３７５の上面が外周ボタンカバー３８０の上面よりも上方へ突出している（図６３等を参照）。

【０３６２】

この状態（図６２（ａ）の状態）で、中央ボタンカバー３７５（中央押圧操作部３０３ａ）を下方へ押圧して、ボタンバネ３７４の付勢力に抗して下方へ移動させると、中央ボタン本体３７３の押圧検知片３７３ｅが押圧検知センサ３８１により検知され、中央押圧操作部３０３ａの押圧操作が検知される。中央押圧操作部３０３ａを押圧操作した状態では、中央ボタンカバー３７５の上面が、外周ボタンカバー３８０の上面と略一致した高さとなっている（図６５（ｃ）を参照）。

【０３６３】

また、この状態で、外周ボタンカバー３８０（外周押圧操作部３０３ｂ）を下方へ押圧操作しても、外周ボタンカバー３８０は下方へ移動することはなく、中央ボタン本体３７３の押圧検知片３７３ｅが押圧検知センサ３８１に検知されることもない。つまり、押圧操作部３０３の押圧操作が検知されない。

【０３６４】

この下降位置の状態で、操作ボタン昇降駆動モータ３６７により昇降駆動ギア３６８を平面視において反時計回りの方向へ回転させると、昇降駆動ギア３６８と噛合している従動ギア３６９を介して昇降カム駆動ギア部材３７０が平面視反時計回りの方向へ回転し、昇降カム駆動ギア部材３７０と連結されている昇降カム部材３７１も同じ方向へ回転することとなる。この昇降カム部材３７１が反時計回りの方向へ回転すると、図６２において正面に見えているカム部３７１ａが右方へ移動することとなり、昇降ベース３６４の案内ピン３６４ｄが、係止部３７１ｃから第一カム３７１ｂにおける係止部３７１ｃの左方の部位へ転動すると共に、案内ピン３６４ｄを介して昇降ベース３６４が昇降バネ３６５の付勢力に抗して下方へ移動する。

【０３６５】

そして、昇降カム部材３７１の回転に伴って、第一カム３７１ｂに沿って相対的に左方へ転動する案内ピン３６４ｄが、第一カム３７１ｂの左端から第二カム３７１ｄ側へ位置すると、第二カム３７１ｄが第一カム３７１ｂに対して垂直に上方へ延びていることから、昇降バネ３６５の付勢力により案内ピン３６４ｄが第二カム３７１ｄに沿って上方へ移動することとなり、案内ピン３６４ｄと一緒に昇降ベース３６４が上昇して上昇位置の状態となる。

【０３６６】

上昇位置の状態では、図６２（ｂ）に示すように、昇降ベース３６４の案内ピン３６４ｄが、一方のカム部３７１ａの第二カム３７１ｄと残りのカム部３７１ａの第三カム３７１ｅとに接した状態となっている。この状態で、操作ボタン昇降駆動モータ３６７の駆動が一旦停止される。

【０３６７】

上昇位置の状態では、昇降ベース３６４の立壁部３６４ｃの上端が上部ベース３６３の下面に当接しており、昇降ベース３６４のこれ以上の上方への移動が規制されている。また、上昇位置の状態では、下降位置の時の中央ボタンカバー３７５（中央押圧操作部３０３ａ）と外周ボタンカバー３８０（外周押圧操作部３０３ｂ）との位置関係が保持されており、中央ボタンカバー３７５及び外周ボタンカバー３８０を含む押圧操作部３０３全体が上方へ移動していると共に、中央ボタンカバー３７５の上面が外周ボタンカバー３８０の上面よりも上方へ突出している。

【０３６８】

演出操作ユニット３００に組立てた状態で、上昇位置へ移動させると、中央ボタンカバー３７５及び外周ボタンカバー３８０が、演出操作リング３３０の上面よりも大きく突出した状態となる（図６５（ｂ）等を参照）。

【０３６９】

この上昇位置の状態で、中央ボタンカバー３７５（中央押圧操作部３０３ａ）を、ボタンバネ３７４の付勢力よりも強い力で下方へ押圧した場合、中央ボタンカバー３７５及び中央ボタン本体３７３がボタンバネ３７４の付勢力に抗して下方へ移動し、中央ボタン本体３７３が昇降ベース３６４に当接することとなる。中央ボタン本体３７３が昇降ベース３６４に当接している状態では、中央ボタン本体３７３の押圧検知片３７３ｅが昇降ベース３６４よりも下方へ突出した状態となっているが、昇降ベース３６４がボタンユニットベース３６１から離れているため、押圧検知片３７３ｅが押圧検知センサ３８１によって検知されることはない。

【０３７０】

中央ボタンカバー３７５（中央押圧操作部３０３ａ）を、昇降バネ３６５の付勢力よりも強い力で下方へ押圧した場合、中央ボタンカバー３７５及び中央ボタン本体３７３がボタ

ンバネ３７４の付勢力に抗して、中央ボタン本体３７３が昇降ベース３６４に当接した上で、昇降ベース３６４が、昇降バネ３６５の付勢力に抗して下方へ移動し、昇降ベース３６４の下端がボタンユニットベース３６１に当接することとなる。昇降ベース３６４がボタンユニットベース３６１に当接することで、昇降ベース３６４が下降位置の状態となり、昇降ベース３６４と共に外周ボタンカバー３８０（外周押圧操作部３０３ｂ）も下降位置の状態となる。

【０３７１】

このように、中央ボタン本体３７３が昇降ベース３６４に当接した状態で、昇降ベース３６４がボタンユニットベース３６１に当接すると、昇降ベース３６４から下方へ突出している中央ボタン本体３７３の押圧検知片３７３ｅが、押圧検知センサ３８１に検知された状態となり、中央ボタンカバー３７５（中央押圧操作部３０３ａ）の押圧が検知される。

【０３７２】

一方、上昇位置の状態で、外周ボタンカバー３８０（外周押圧操作部３０３ｂ）を、昇降バネ３６５の付勢力よりも力で下方へ押圧した場合、外周ボタンカバー３８０を介して昇降ベース３６４が昇降バネ３６５の付勢力に抗して下方へ移動し、昇降ベース３６４の下端がボタンユニットベース３６１に当接することとなる。この状態では、昇降ベース３６４と共に外周ボタンカバー３８０が下降位置の状態となるが、中央ボタンカバー３７５（中央押圧操作部３０３ａ）がボタンバネ３７４の付勢力により上方へ突出していることから、中央ボタン本体３７３の押圧検知片３７３ｅが昇降ベース３６４から下方へ突出しておらず、押圧検知片３７３ｅが押圧検知センサ３８１により検知されない。

【０３７３】

中央ボタンカバー３７５及び外周ボタンカバー３８０を（押圧操作部３０３を）、上昇位置から下降位置へ戻すには、操作ボタン昇降駆動モータ３６７により、昇降カム部材３７１を平面視反時計回りの方向へ回転させると、図６２（ｂ）において、昇降ベース３６４の案内ピン３６４ｄの左上と当接している第三カム３７１ｅが、右方（案内ピン３６４ｄの方向）へ移動することとなるため、第三カム３７１ｅによって案内ピン３６４ｄが下方へ押圧され、案内ピン３６４ｄを介して昇降ベース３６４が昇降バネ３６５の付勢力に抗して下方へ移動することとなる。

【０３７４】

そして、昇降カム部材３７１の回転に伴って案内ピン３６４ｄが第三カム３７１ｅの下端から第一カム３７１ｂ側へ移動すると、昇降ベース３６４の下方への移動が停止し、案内ピン３６４ｄが第一カム３７１ｂに沿って転動する。その後、案内ピン３６４ｄが第一カム３７１ｂの途中の係止部３７１ｃの位置に到達すると、昇降バネ３６５の付勢力により案内ピン３６４ｄが上方へ窪んだ係止部３７１ｃ内に挿入されると共に、操作ボタン昇降駆動モータ３６７による昇降カム部材３７１の回転を停止させることで、元の下降位置の状態となる。

【０３７５】

［３－５ｅ－９．操作部中継基板ユニット］

演出操作ユニット３００における操作部中継基板ユニット３９０について、主に図５３及び図５４等を参照して詳細に説明する。操作部中継基板ユニット３９０は、操作部ベース３２０の後面に取付けられている。操作部中継基板ユニット３９０は、操作部ベース３２０における本体部３２１の後面に取付けられる箱状の基板ボックス３９１と、基板ボックス３９１内に取付けられている操作部中継基板３９２と、を備えている。

【０３７６】

基板ボックス３９１は、演出操作ユニット３００に組立てた時に、回転駆動ユニット３４０の操作リング駆動モータ３４２を後側から覆うモータカバー部３９１ａを有している。操作部中継基板３９２は、皿中央上装飾基板３１４、皿中央下装飾基板３１６、操作リング駆動モータ３４２、第一回転検知センサ３４７、第二回転検知センサ３４８、演出操作リング装飾基板３５２、振動スピーカ３５４、操作ボタン昇降駆動モータ３６７、中央ボタン装飾基板３７６、外周ボタン装飾基板３７７、押圧検知センサ３８１、及び昇降検知

センサ３８２と、皿ベースユニット２１０の皿ユニット中継基板２１４との接続を中継している。

【０３７７】

［３－５ｅ－１０．演出操作ユニットの作用］

次に、演出操作ユニット３００の作用について、主に図６３乃至図６５等を参照して詳細に説明する。図６３は、演出操作ユニットの左側面図において演出操作リングと回転駆動ユニットとの関係を示す説明図である。図６４は、演出操作ユニットを押圧操作部の押圧方向から見た平面図において演出操作リングと演出操作リング装飾基板との関係を示す説明図である。図６５（ａ）は通常の状態で示す皿ユニットの正面図であり、（ｂ）は押圧操作部が上昇位置の時の皿ユニットの正面図であり、（ｃ）は押圧操作部の中央押圧操作部を押圧した時の皿ユニットの正面図である。

【０３７８】

演出操作ユニット３００は、上面に遊技者が操作可能な演出操作部３０１を備えている。演出操作部３０１は、大きな円環状の回転操作部３０２と、回転操作部３０２の環内に配置されている押圧操作部３０３とで構成されている。押圧操作部３０３は、回転操作部３０２の中心に位置する円柱状の中央押圧操作部３０３ａと、中央押圧操作部３０３ａと回転操作部３０２との間に配置されている円環状の外周押圧操作部３０３ｂとで構成されている。

【０３７９】

回転操作部３０２は、演出操作リング３３０のリング外上カバー３３５、リング外下カバー３３６、及びリング内カバー３３７によって形成されている。中央押圧操作部３０３ａは、演出操作ボタンユニット３６０の中央ボタンカバー３７５及び中央ボタン本体３７３によって形成されており、外周押圧操作部３０３ｂは、外周ボタンカバー３８０及び外周基板カバー３７８によって形成されている。

【０３８０】

演出操作ユニット３００は、円環状の回転操作部３０２（演出操作リング３３０）の上面によって形成される仮想の平面の前方側が低くなるように傾斜した状態で皿ユニット２００に組立てられる。従って、回転操作部３０２の環内に配置されている押圧操作部３０３の押圧方向が、下方へ向かうに従って後方へ移動する（換言すると、上方へ向かうに従って前方へ移動する）ように傾斜している。

【０３８１】

演出操作ユニット３００は、通常の状態では、回転操作部３０２の上面よりも押圧操作部３０３が僅かに上方へ突出した状態となっている。詳しくは、演出操作リング３３０の上面よりも外周ボタンカバー３８０の上面が僅かに上方へ突出していると共に、外周ボタンカバー３８０の上面よりも中央ボタンカバー３７５の上面が上方へ突出した状態となっている（図６３等を参照）。

【０３８２】

この通常の状態で、回転駆動ユニット３４０の操作リング駆動モータ３４２により、伝達検知ギア部材３４５を左側面視で時計回りの方向へ回転させると、操作リング用伝達ギア３５０を介して演出操作リング３３０の回転操作部３０２が、平面視において時計周りの方向へ回転する。一方、操作リング駆動モータ３４２により、伝達検知ギア部材３４５を左側面視で反時計周りの方向へ回転させると、演出操作リング３３０の回転操作部３０２が平面視において反時計回りの方向へ回転する。

【０３８３】

操作リング駆動モータ３４２は、ステッピングモータとされており、所定の回転角度の範囲で正転・逆転を繰返させることで、回転操作部３０２を往復回動させて振動させることができる。この振動は、振動スピーカ３５４による振動とは異なり、回転操作部３０２のみが振動する。

【０３８４】

演出操作リング３３０の回転操作部３０２は、操作リング駆動モータ３４２により回転さ

せられるだけでなく、遊技者によっても回転させることができる。回転操作部３０２を平面視において時計回りの方向へ回転させると、操作リング用伝達ギア３５０を介して回転駆動ユニット３４０の伝達検知ギア部材３４５が左側面視において時計回りの方向へ回転し、回転操作部３０２を平面視において反時計回りの方向へ回転させると、伝達検知ギア部材３４５が左側面視において反時計回りの方向へ回転する。この伝達検知ギア部材３４５は、第一回転検知センサ３４７と第二回転検知センサ３４８の二つのセンサによって回転を検知している。

【０３８５】

伝達検知ギア部材３４５の回転は、複数の検知片３４５ｂを第一回転検知センサ３４７及び第二回転検知センサ３４８によって検知することで、回転を検知している。詳述すると、周方向に等間隔で列設されている複数の検知片３４５ｂの間隔に対して、周方向に離間している第一回転検知センサ３４７と第二回転検知センサ３４８との間隔が、整数倍とならない間隔とされている。これにより、第一回転検知センサ３４７と第二回転検知センサ３４８とが、同じタイミングで検知片３４５ｂを検知しないように構成されている。

【０３８６】

本実施形態では、伝達検知ギア部材３４５が左側面視において時計回りの方向へ回転すると、第二回転検知センサ３４８が検知片３４５ｂを検知してから第一回転検知センサ３４７が検知片３４５ｂを検知する。これに対して、伝達検知ギア部材３４５が左側面視において反時計回りの方向へ回転すると、第一回転検知センサ３４７が検知片３４５ｂを検知してから第二回転検知センサ３４８が検知片３４５ｂを検知する。従って、第一回転検知センサ３４７と第二回転検知センサ３４８とが、検知片３４５ｂを検知する順番によって、伝達検知ギア部材３４５（回転操作部３０２）の回転方向を検知することができる。また、第一回転検知センサ３４７及び第二回転検知センサ３４８における検知片３４５ｂの検知時間によって、伝達検知ギア部材３４５（回転操作部３０２）の回転速度を検知することができる。

【０３８７】

このように、回転操作部３０２の回転操作を検知することができるため、回転操作部３０２の回転方向に応じて遊技者参加型演出の内容を変化させることができる。また、回転操作部３０２の回転操作を検知した時に、操作リング駆動モータ３４２により、回転操作部３０２を回転操作方向と同じ方向へ回転駆動させることで、回転操作を軽くしてアシストすることができる。或いは、操作リング駆動モータ３４２により、回転操作部３０２を回転操作方向と反対方向へ回転駆動させることで、回転操作を重くしたり、クリック感を付与したりすることができる。

【０３８８】

演出操作リング３３０の回転操作部３０２は、リング外上カバー３３５、リング外下カバー３３６、及びリング内カバー３３７によって形成されており、円の半分以上の円弧が環状に延びている形状に形成されている。換言すると、回転操作部３０２がドーナツ状に形成されている。そして、回転操作部３０２は、図示するように、外周面、上面、及び内周面の一部、が露出した状態で取付けられているため、遊技者の手で掴み易い形状に形成されている。

【０３８９】

これにより、回転操作部３０２に対して遊技者が様々な方向から触れることができるため、遊技者のやり易い思い思いの仕方で回転操作部３０２を回転操作させることができ、回転操作部３０２の操作性が高められている。また、回転操作部３０２は、押圧操作部３０３が下降位置又は上昇位置の何れの状態の時でも、回転操作することができる。なお、回転操作部３０２は、下面側が操作部ベース３２０に取付けられているため、自動車のハンドルのように握ることはできない。

【０３９０】

演出操作ユニット３００は、図６４に示すように、演出操作リング３３０の下方に、複数のＬＥＤが円環状に列設されている演出操作リング装飾基板３５２を備えている。これに

より、演出操作リング装飾基板３５２のＬＥＤを発光させることで、演出操作リング３３０の回転操作部３０２を発光装飾させることができる。また、演出操作リング装飾基板３５２では、複数のＬＥＤを回転操作部３０２に沿って環状に列設しているため、回転操作部３０２の回転に合わせて、列設されている複数のＬＥＤを順次発光させることで、回転している回転操作部３０２の特定の部位のみを発光装飾させることができる。これにより、回転する回転操作部３０２内に、ＬＥＤ（装飾基板）が備えられているように遊技者を錯覚させることができる。

【０３９１】

演出操作ユニット３００は、通常の状態では、図６５（ａ）に示すように、回転操作部３０２の環内に配置されている押圧操作部３０３が、その上面が回転操作部３０２の上面よりも僅かに上方に突出した下降位置の状態となっている。この状態では、回転操作部３０２を回転させることができると共に、押圧操作部３０３における中央押圧操作部３０３ａを押圧操作することができる。中央押圧操作部３０３ａを下方へ押圧操作すると、中央押圧操作部３０３ａ（中央ボタンカバー３７５）の上面が、外周押圧操作部３０３ｂ（外周ボタンカバー３８０）の上面と略同じ高さまで下降し、押圧検知センサ３８１により押圧が検知される。

【０３９２】

この通常（下降位置）の状態では、押圧操作部３０３における外周押圧操作部３０３ｂを下方へ押圧しても、外周押圧操作部３０３ｂ（外周ボタンカバー３８０）が下方へ移動することはなく、押圧検知センサ３８１により押圧が検知されることはない。

【０３９３】

通常の状態で、操作ボタン昇降駆動モータ３６７により、昇降カム部材３７１を平面視において反時計回りの方向へ回転させると、昇降ベース３６４の案内ピン３６４ｄがカム部３７１ａ（第一カム３７１ｂ）から外れて、一対の昇降バネ３６５の付勢力により、昇降ベース３６４と共に押圧操作部３０３が勢いよく上方へ突出して上昇位置の状態となる（図６５（ｂ）を参照）。この上昇位置の状態では、押圧操作部３０３の上面が回転操作部３０２の上面よりも大きく上方に位置している。換言すると、中央ボタンカバー３７５及び外周ボタンカバー３８０が、演出操作リング３３０の上面よりも大きく上方へ突出している。

【０３９４】

押圧操作部３０３が上昇位置の状態で、中央押圧操作部３０３ａを下方へ押圧すると、まず、ボタンバネ３７４の付勢力に抗して中央押圧操作部３０３ａが下方へ移動し、中央押圧操作部３０３ａの上面と外周押圧操作部３０３ｂの上面とが略同じ高さの状態となる。この状態では、押圧検知センサ３８１が押圧を検知しない。更に、昇降バネ３６５の付勢力に抗して中央押圧操作部３０３ａが外周押圧操作部３０３ｂと一緒に下方へ移動し、中央押圧操作部３０３ａ及び外周押圧操作部３０３ｂの上面が回転操作部３０２の上面と略同じ高さの状態となる（図６５（ｃ）を参照）。この状態では、押圧検知センサ３８１が押圧を検知する。

【０３９５】

また、押圧操作部３０３が上昇位置の状態で、外周押圧操作部３０３ｂを下方へ押圧すると、中央押圧操作部３０３ａの上面が外周押圧操作部３０３ｂの上面よりも上方へ突出している状態のまま、外周押圧操作部３０３ｂと中央押圧操作部３０３ａとが下方へ移動し、外周押圧操作部３０３ｂの上面が回転操作部３０２の上面と略同じ高さの状態となる（図６５（ａ）を参照）。この状態では、押圧検知センサ３８１が押圧を検知しない。

【０３９６】

このように、本実施形態の押圧操作部３０３は、下降位置或いは上昇位置に関わらず、中央押圧操作部３０３ａを、下方への移動端まで押圧しないと、押圧検知センサ３８１により検知されないようになっている。従って、遊技者に対して、中央押圧操作部３０３ａをしっかりと押圧操作させることを促すことが可能となるため、遊技者参加型演出において演出操作部３０１の操作に注意を引付けさせることができ、遊技者参加型演出をより楽し

ませることができる。
【０３９７】
なお、押圧操作部３０３が上昇位置の状態でも、回転操作部３０２を回転させることができる。従って、押圧操作部３０３を上昇位置の状態とした時では、遊技者によっては、押圧操作部３０３を手がかりにして回転操作が楽になったり、押圧操作部３０３が邪魔になって回転操作がし難くなったりすることから、回転操作部３０２の操作性を変化させることができ、より多彩な操作を楽しませることができる。
【０３９８】
［３－６．扉枠左サイドユニット］
扉枠３における扉枠左サイドユニット４００について、主に図６６乃至図６８を参照して詳細に説明する。図６６（ａ）は扉枠の扉枠左サイドユニットを前から見た斜視図であり、（ｂ）は扉枠左サイドユニットを後ろから見た斜視図である。図６７は扉枠左サイドユニットを分解して前から見た分解斜視図であり、図６８は扉枠左サイドユニットを分解して後ろから見た分解斜視図である。扉枠左サイドユニット４００は、皿ユニット２００の上側で扉枠ベースユニット１００の前面左部に取付けられており、正面視において遊技領域５ａの左外側を装飾するものである。
【０３９９】
扉枠左サイドユニット４００は、扉枠ベースユニット１００の扉枠ベース１０１の前面における扉窓１０１ａの左外側に取付けられる扉枠左サイドベース４０１と、扉枠左サイドベース４０１の前面に取付けられており前面（以下、「表面（実装面）」と記載する場合がある。）に複数のＬＥＤが実装されている扉枠左サイド装飾基板４０２と、扉枠左サイド装飾基板４０２の前側を覆うように扉枠左サイドベース４０１に取付けられている透明な左サイドインナーレンズ４０３と、左サイドインナーレンズ４０３の前側を覆うように扉枠左サイドベース４０１に取付けられている透明な扉枠左サイド装飾体４０４と、を備えている。
【０４００】
扉枠左サイドベース４０１は、上下に延びており前方へ開放された箱状に形成されている。扉枠左サイド装飾基板４０２は、上下に延びた帯板状に形成されており、左サイド上装飾基板４０２ａと左サイド下装飾基板４０２ｂとで構成されている。扉枠左サイド装飾基板４０２は、前面に実装されている複数のＬＥＤが、表面実装タイプであって多色発光可能なフルカラーＬＥＤとされている。扉枠左サイド装飾基板４０２は、複数のＬＥＤを適宜発光させることで、扉枠左サイド装飾体４０４を発光装飾させることができる。
【０４０１】
左サイドインナーレンズ４０３は、透明に形成されている。左サイドインナーレンズ４０３の表面は、レンズカットが施されて（多面体に形成されて）光を乱屈折することができるようになっており、左サイドインナーレンズ４０３の後方に配置される扉枠左サイド装飾基板４０２の表面（実装面）に実装されている複数のＬＥＤが遊技者側から明確に視認し難くなっている。なお、左サイドインナーレンズ４０３の表面と共に裏面には、レンズカットが施されていてもよいし（多面体に形成されていてもよいし）、左サイドインナーレンズ４０３の表面に代えて裏面には、レンズカットが施されていてもよい（多面体に形成されていてもよい）。扉枠左サイド装飾体４０４は、透明に形成されている。扉枠左サイド装飾体４０４は、前方へ膨出した半円弧が上下に延びた形態に形成されている。これにより、扉枠左サイド装飾体４０４は、後方へ開放された半チューブ状に形成されている。なお、扉枠左サイド装飾体４０４の表面には、レンズカットが施されていてもよいし（多面体に形成されていてもよいし）、扉枠左サイド装飾体４０４の表面と共に裏面には、レンズカットが施されていてもよいし（多面体に形成されていてもよいし）、扉枠左サイド装飾体４０４の裏面には、レンズカットが施されていてもよい（多面体に形成されていてもよい）。
【０４０２】
扉枠左サイドユニット４００は、下端が皿ユニット２００における皿左上装飾ユニット２

７０の皿左上装飾体２７１の左端と連続するように形成されており、上端が扉枠トップユニット４５０の扉枠トップ装飾体４５３の左側下端と連続するように形成されている。
【０４０３】
扉枠左サイドユニット４００は、左右方向の幅と前後方向の奥行が、略同じ距離に形成されている。扉枠左サイドユニット４００は、扉枠３に組立てた状態で、扉枠ベース１０１の扉窓１０１ａの左外側を装飾しており、円柱状の蛍光灯が埋め込まれているように見せている。
【０４０４】
［３－７．扉枠右サイドユニット］
扉枠３における扉枠右サイドユニット４１０について、主に図６９乃至図７１を参照して詳細に説明する。図６９（ａ）は扉枠の扉枠右サイドユニットを前から見た斜視図であり、（ｂ）は扉枠右サイドユニットを後ろから見た斜視図である。図７０は扉枠右サイドユニットを分解して前から見た分解斜視図であり、図７１は扉枠右サイドユニットを分解して後ろから見た分解斜視図である。扉枠右サイドユニット４１０は、皿ユニット２００の上側で扉枠ベースユニット１００の前面右部に取付けられており、正面視において遊技領域５ａの右外側を装飾するものである。
【０４０５】
扉枠右サイドユニット４１０は、扉枠３の右辺から皿ユニット２００の上皿２０１や下皿２０２と略同じ位置まで前方へ平板状に延出しており、左右方向へ貫通しているサイド窓４１０ａと、サイド窓４１０ａ内に複数配置されている発光可能なサイド窓内装飾部４１０ｂと、を備えている。この扉枠右サイドユニット４１０は、パチンコ機１が設置された遊技ホール等において、右側に配置されているパチンコ機の遊技領域内を見え難くしたり、右側のパチンコ機で遊技している遊技者から本パチンコ機１の遊技領域５ａ内を見え難くしたりすることができ、遊技のプライバシーを保護するような遊技者のパーソナル空間を形成することができる。
【０４０６】
扉枠右サイドユニット４１０は、扉枠ベースユニット１００の扉枠ベース１０１の前面における扉窓１０１ａの右外側に取付けられ上下に延びている扉枠右サイドベース４１１と、扉枠右サイドベース４１１の前面に取付けられており前方へ円筒状に延出し上下に列設されている透明な複数のサイド窓内装飾部４１０ｂを有する透明なサイド窓内装飾部材４１２と、前面におけるサイド窓内装飾部材４１２の複数のサイド窓内装飾部４１０ｂと対応する部位に複数のＬＥＤが実装されており扉枠右サイドベース４１１の前側に取付けられているサイド窓内装飾部装飾基板４１３と、サイド窓内装飾部材４１２の複数のサイド窓内装飾部４１０ｂの内部に夫々挿入されている透明な内部インナーレンズ４１４と、を備えている。
【０４０７】
また、扉枠右サイドユニット４１０は、サイド窓内装飾部材４１２の前端よりも前方に配置されており上下に延びている透明な右サイドインナーレンズ４１５と、扉枠右サイドベース４１１に取付けられており扉枠右サイドベース４１１と右サイドインナーレンズ４１５の右側面を被覆するように上下方向及び前後方向へ平板状に延びていると共に左右方向へ貫通しサイド窓４１０ａを構成する貫通口４１６ａが形成されている扉枠右サイド外パネル４１６と、扉枠右サイドベース４１１及び右サイドインナーレンズ４１５に取付けられており扉枠右サイドベース４１１と右サイドインナーレンズ４１５の左側面を被覆するように上下方向及び前後方向へ平板状に延びていると共に左右方向へ貫通しサイド窓４１０ａを構成する貫通口４１７ａが形成されている扉枠右サイド内パネル４１７と、を備えている。
【０４０８】
更に、扉枠右サイドユニット４１０は、右サイドインナーレンズ４１５の後面に取付けられており前面（以下、「表面（実装面）」と記載する場合がある。）に複数のＬＥＤが実装されている扉枠右サイド装飾基板４１８と、右サイドインナーレンズ４１５の前側を覆

うように右サイドインナーレンズ４１５に取付けられている透明な扉枠右サイド装飾体４１９と、を備えている。

【０４０９】

扉枠右サイドベース４１１は、上下に延びており後方へ開放された箱状に形成されている。サイド窓内装飾部材４１２は、上下方向に列設されている複数（ここでは三つ）のサイド窓内装飾部４１０ｂの下端同士を連結している平板状の連結ベース４１２ａを有している。サイド窓内装飾部材４１２のサイド窓内装飾部４１０ｂは、前端側が後端側よりも外径がやや小さくなった円錐台状の円筒に形成されていると共に、円筒の前端が半球状に形成されている。サイド窓内装飾部材４１２は、サイド窓内装飾部４１０ｂの前端が扉枠右サイド外パネル４１６に取付けられる。サイド窓内装飾部材４１２は、扉枠右サイドベース４１１の前面において、上下方向中央に対して下寄りの位置から上側の部位に取付けられる。サイド窓内装飾部材４１２は、透明に形成されている。なお、サイド窓内装飾部材４１２の複数のサイド窓内装飾部４１０ｂの表面には、レンズカットが施されていてもよいし（多面体に形成されていてもよいし）、サイド窓内装飾部材４１２の複数のサイド窓内装飾部４１０ｂの表面と共に裏面には、レンズカットが施されていてもよいし（多面体に形成されていてもよいし）、サイド窓内装飾部材４１２の複数のサイド窓内装飾部４１０ｂの裏面には、レンズカットが施されていてもよい（多面体に形成されていてもよい）。

【０４１０】

サイド窓内装飾部装飾基板４１３は、扉枠右サイドベース４１１の前面において、サイド窓内装飾部材４１２の連結ベース４１２ａの後方となる部位に取付けられる。サイド窓内装飾部装飾基板４１３の前面（以下、「表面（実装面）」と記載する場合がある。）に実装されている複数のＬＥＤは、表面実装タイプであって多色発光可能なフルカラーＬＥＤとされている。サイド窓内装飾部装飾基板４１３は、複数のサイド窓内装飾部４１０ｂの夫々の後方となる部位に、四つのＬＥＤがサイド窓内装飾部４１０ｂの軸芯を中心として上下左右の十字状に配置されている。

【０４１１】

内部インナーレンズ４１４は、正面視の形状がＸ状に形成されており、挿入されるサイド窓内装飾部４１０ｂの内面に沿うように前後方向に延びている。内部インナーレンズ４１４は、サイド窓内装飾部４１０ｂの内部を、上下左右の四つに仕切っている。内部インナーレンズ４１４は、透明に形成されている。内部インナーレンズ４１４の表面は、レンズカットが施されて（多面体に形成されて）光を乱屈折することができるようになっており、内部インナーレンズ４１４の後方に配置されるサイド窓内装飾部装飾基板４１３の表面（実装面）に実装されている複数のＬＥＤが遊技者側から明確に視認し難くなっている。なお、内部インナーレンズ４１４の表面と共に裏面には、レンズカットが施されていてもよいし（多面体に形成されていてもよいし）、内部インナーレンズ４１４の表面に代えて裏面には、レンズカットが施されていてもよい（多面体に形成されていてもよい）。

【０４１２】

右サイドインナーレンズ４１５は、扉枠右サイドベース４１１と同じ高さで上下に延びており、前後方向の形状が、上端から下端へ向かうに従って、前方へ移動した後に後方へ移動するような波状に形成されている。右サイドインナーレンズ４１５は、透明に形成されている。右サイドインナーレンズ４１５の表面は、レンズカットが施されて（多面体に形成されて）光を乱屈折することができるようになっており、右サイドインナーレンズ４１５の後方に配置される扉枠右サイド装飾基板４１８の表面（実装面）に実装されている複数のＬＥＤが遊技者側から明確に視認し難くなっている。なお、右サイドインナーレンズ４１５の表面と共に裏面には、レンズカットが施されていてもよいし（多面体に形成されていてもよいし）、右サイドインナーレンズ４１５の表面に代えて裏面には、レンズカットが施されていてもよい（多面体に形成されていてもよい）。

【０４１３】

扉枠右サイド外パネル４１６は、平板状で上下及び前後に延びており、後辺が鉛直に直線状に延びていると共に、前辺が右サイドインナーレンズ４１５に沿って波状に延びている

。扉枠右サイド外パネル４１６は、左右方向へ貫通している貫通口４１６ａが、上下に延びた変楕円形状に形成されていると共に、サイド窓内装飾部材４１２の連結ベース４１２ａの前側と扉枠右サイド装飾基板４１８（右サイドインナーレンズ４１５）の後側とを被覆可能に形成されている。扉枠右サイド外パネル４１６は、不透光性に形成されている。

【０４１４】

扉枠右サイド内パネル４１７は、平板状で上下及び前後に延びており、後辺が鉛直に直線状に延びていると共に、前辺が右サイドインナーレンズ４１５に沿って波状に延びている。扉枠右サイド内パネル４１７は、左右方向へ貫通している貫通口４１７ａが、上下に延びた変楕円形状に形成されていると共に、サイド窓内装飾部材４１２の連結ベース４１２ａの前側と扉枠右サイド装飾基板４１８（右サイドインナーレンズ４１５）の後側とを被覆可能に形成されている。扉枠右サイド内パネル４１７は、不透光性に形成されている。

【０４１５】

扉枠右サイド装飾基板４１８は、上下に延びた帯板状に形成されており、右サイド上装飾基板４１８ａと、右サイド下装飾基板４１８ｂとで構成されている。扉枠右サイド装飾基板４１８は、前面に実装されている複数のＬＥＤが、表面実装タイプであって多色発光可能なフルカラーＬＥＤとされている。扉枠右サイド装飾基板４１８は、複数のＬＥＤを適宜発光させることで、扉枠右サイド装飾体４１９を発光装飾させることができる。

【０４１６】

扉枠右サイド装飾体４１９は、透明に形成されている。扉枠右サイド装飾体４１９は、前方へ膨出した半円弧が、右サイドインナーレンズ４１５に沿うように波状に上下に延びた形態に形成されている。これにより、扉枠右サイド装飾体４１９は、後方へ開放された半チューブ状に形成されている。なお、扉枠右サイド装飾体４１９の表面には、レンズカットが施されていてもよいし（多面体に形成されていてもよいし）、扉枠右サイド装飾体４１９の表面と共に裏面には、レンズカットが施されていてもよいし（多面体に形成されていてもよいし）、扉枠右サイド装飾体４１９の裏面には、レンズカットが施されていてもよい（多面体に形成されていてもよい）。

【０４１７】

扉枠右サイドユニット４１０は、下端が皿ユニット２００における皿右上装飾ユニット２７５の皿右上装飾体２７６の右端と連続するように形成されていると共に、上端が扉枠トップユニット４５０の扉枠トップ装飾体４５３の右側下端と連続するように形成されている。

【０４１８】

扉枠右サイドユニット４１０は、扉枠３に組立てた状態で、扉枠ベース１０１の扉窓１０１ａの右外側を装飾しており、扉枠右サイド装飾体４１９の部位が円柱状の蛍光灯が埋め込まれているように見える。扉枠右サイドユニット４１０は、上から１／４の部位が最も前方へ突出するように前端（前辺）が波状に前方へ延びており、衝立状に形成されている。扉枠右サイドユニット４１０は、左右方向へ貫通しているサイド窓４１０ａを有しており、サイド窓４１０ａを通して反対側を視認することができる。

【０４１９】

扉枠右サイドユニット４１０は、サイド窓４１０ａ内に、前後に延びた円筒状（円柱状）のサイド窓内装飾部４１０ｂを備えており、サイド窓内装飾部装飾基板４１３のＬＥＤを発光させることで、サイド窓内装飾部４１０ｂを発光装飾させることができる。そして、サイド窓内装飾部４１０ｂを発光装飾させることで、サイド窓４１０ａ内を眩しくすることができ、サイド窓４１０ａを通して反対側を見え難くすることができる。

【０４２０】

本実施形態の扉枠右サイドユニット４１０によれば、通常の状態では、複数のサイド窓内装飾部４１０ｂを発光装飾させるサイド窓内装飾部装飾基板４１３のＬＥＤが消灯しているため、サイド窓４１０ａにおける三つのサイド窓内装飾部４１０ｂの間を通して、本パチンコ機１の横（島設備の端）から遊技領域５ａ内を視認することができる。従って、遊技をするパチンコ機として本パチンコ機１（本遊技盤５）を探している遊技者が、島設備

に沿って本パチンコ機１の前方まで移動しなくても、本パチンコ機１を簡単に見つけることができ、本パチンコ機１での遊技に対する期待感を高めさせて興趣の低下を抑制させることができる。

【０４２１】

また、扉枠右サイドユニット４１０にサイド窓４１０ａが貫通していてもサイド窓内装飾部４１０ｂを含むその他の部位によって、近隣に位置している遊技者の視線を遮ることができるため、他の遊技者から遊技領域５ａの全体を見え辛くすることができ、他の遊技者から見られているような感じを受け難くすることで他の遊技者に気兼ねすることなく遊技を行わせることができる。

【０４２２】

更に、サイド窓内装飾部装飾基板４１３のＬＥＤにより三つのサイド窓内装飾部４１０ｂを発光させると、その光によりサイド窓４１０ａ内を眩しくすることができ、サイド窓４１０ａを通した視認性を変化させる。この際に、三つのサイド窓内装飾部４１０ｂを、円柱状としていることから、光が帯状且つ放射状に放射されることとなるため、サイド窓内装飾部４１０ｂを眩しくさせて間から反対側を視認し難くすることができ、隣等の他の遊技者から遊技領域５ａ内を覗かれ難くすることができる。このように、遊技領域５ａ内を覗かれ難くすることができることから、他の遊技者が本パチンコ機１に注目するのを回避させることができるため、注目されることで他の遊技者が気になって遊技に専念できないことから不快感を覚えたり、ミスが誘発されることで損した気分になったりするのを防止することができ、遊技者を遊技に専念させることで遊技をより楽しませて興趣の低下を抑制させることができる。

【０４２３】

［３－８．扉枠トップユニット］

扉枠３における扉枠トップユニット４５０について、主に図７２乃至図７４等を参照して詳細に説明する。図７２（ａ）は扉枠における扉枠トップユニットを前から見た斜視図であり、（ｂ）は扉枠トップユニットを後ろから見た斜視図であり、（ｃ）はトップ下カバーを外した状態で示す扉枠トップユニットの底面図である。図７３は扉枠トップユニットを分解して前上から見た分解斜視図であり、図７４は扉枠トップユニットを分解して前下から見た分解斜視図である。扉枠トップユニット４５０は、扉枠左サイドユニット４００及び扉枠右サイドユニット４１０の上側で扉枠ベースユニット１００の前面上部に取付けられるものである。

【０４２４】

扉枠トップユニット４５０は、扉枠ベースユニット１００の扉枠ベース１０１の前面における扉窓１０１ａよりも上側に取付けられる透光性を有する（例えば、乳白色を有する）扉枠トップベース４５１と、扉枠トップベース４５１の左右両側と前面上部を覆うように扉枠トップベース４５１に取付けられている透光性を有する（例えば、乳白色を有する）トップ上カバー４５２と、トップ上カバー４５２の前端に取付けられている透明な扉枠トップ装飾体４５３と、扉枠トップ装飾体４５３の下端と扉枠トップベース４５１の下端とを連結している透光性を有する（例えば、乳白色を有する）扉枠トップ底板４５４と、を備えている。なお、本実施形態では、扉枠トップベース４５１、トップ上カバー４５２、扉枠トップ底板４５４は、透光性を有する（例えば、乳白色を有する）を有して構成されているが、扉枠トップベース４５１の左右両側と前面上部を覆うように扉枠トップベース４５１にトップ上カバー４５２が取付けられていると共に、透明な扉枠トップ装飾体４５３の下端と扉枠トップベース４５１の下端とを扉枠トップ底板４５４が連結しているため、扉枠トップベース４５１を透光性を有する（例えば、乳白色を有する）ものに代えて、透明なものとして構成してもよい。

【０４２５】

また、扉枠トップユニット４５０は、扉枠トップ装飾体４５３の後方でトップ上カバー４５２の前面中央に取付けられており前面に複数のＬＥＤが実装されている扉枠トップ中央装飾基板４５５と、扉枠トップ装飾体４５３の後方でトップ上カバー４５２の前面におけ

る扉枠トップ中央装飾基板４５５の左方に取付けられており前面に複数のＬＥＤが実装されている扉枠トップ左装飾基板４５６と、扉枠トップ装飾体４５３の後方でトップ上カバー４５２の前面における扉枠トップ中央装飾基板４５５の右方に取付けられており前面に複数のＬＥＤが実装されている扉枠トップ右装飾基板４５７と、を備えている。

【０４２６】

また、扉枠トップユニット４５０は、扉枠トップ装飾体４５３と扉枠トップ中央装飾基板４５５との間に配置され（つまり、扉枠トップ装飾体４５３の後方に配置されると共に扉枠トップ中央装飾基板４５５の前方に配置され）トップ上カバー４５２の前面に取付けられている透明なトップ中央インナーレンズ４５８と、扉枠トップ装飾体４５３と扉枠トップ左装飾基板４５６との間に配置され（つまり、扉枠トップ装飾体４５３の後方に配置されると共に扉枠トップ左装飾基板４５６の前方に配置され）トップ上カバー４５２の前面に取付けられている透明なトップ左インナーレンズ４５９と、扉枠トップ装飾体４５３と扉枠トップ右装飾基板４５７との間に配置され（つまり、扉枠トップ装飾体４５３の後方に配置されると共に扉枠トップ右装飾基板４５７の前方に配置され）トップ上カバー４５２の前面に取付けられている透明なトップ右インナーレンズ４６０と、を備えている。

【０４２７】

更に、扉枠トップユニット４５０は、扉枠トップ底板４５４の上面中央に取付けられている中央スピーカボックス４６１と、中央スピーカボックス４６１に下方へ向けて取付けられている一対のトップ中央スピーカ４６２と、扉枠トップベース４５１の前面左右両端付近に取付けられている一対のスピーカブラケット４６３と、一対のスピーカブラケット４６３に夫々取付けられている一対のトップサイドスピーカ４６４と、扉枠トップ底板４５４を下方から覆うように扉枠トップ底板４５４に取付けられているトップ下カバー４６５と、トップ下カバー４６５の外周縁を下方から押圧するように扉枠トップ底板４５４に取付けられている透光性を有する（例えば、乳白色を有する）下カバー枠４６６と、扉枠トップベース４５１の上部右端付近に取付けられている扉枠トップ中継基板４６７と、扉枠トップベース４５１の上方を覆うようにトップ上カバー４５２に取付けられている透光性を有する（例えば、乳白色を有する）扉枠トップ天板４６８と、を備えている。

【０４２８】

扉枠トップベース４５１は、扉枠ベースユニット１００の扉枠ベース１０１の左右方向の幅と同じ長さで左右に延びている平板状の本体部４５１ａと、本体部４５１ａの前面における左右両端付近から前方へ突出している前方突出部４５１ｂと、を備えている。本体部４５１ａは、下辺が、扉枠ベース１０１における扉窓１０１ａの上縁と沿うように、左右方向の中央が上方へ位置するような湾曲状に形成されている。左右の前方突出部４５１ｂは、前端が下方へ向かうに従って後方へ移動するように傾斜しており、後方へ開放された箱状に形成されている。正面視右側の前方突出部４５１ｂは、上方にも開放されている。

【０４２９】

トップ上カバー４５２は、正面視の形状が、扉枠トップベース４５１と略同じ形状に形成されている。トップ上カバー４５２は、扉枠トップベース４５１の左右の前方突出部４５１ｂの夫々の外側を覆うと共に、左右の前方突出部４５１ｂの前端上部の間を結ぶような形状に形成されている。トップ上カバー４５２の前端は、左右方向中央が前方へ最も突出しており、左右方向中央から左右方向両端へ向かうに従って、下方及び後方へ移動するように湾曲状に延びている。また、トップ上カバー４５２は、上面に後端から前方へ向かって大きく切欠かれた開口部４５２ａを有している。この開口部４５２ａは、扉枠トップ天板４６８によって閉鎖される。

【０４３０】

扉枠トップ装飾体４５３は、透明に形成されている。扉枠トップ装飾体４５３は、前方へ膨出した半円弧が、左右両端から左右方向中央へ向かうに従って曲率が小さくなると共に、トップ上カバー４５２の前端に沿うように、左右方向へ延びた形態に形成されている。これにより、扉枠トップ装飾体４５３は、後方へ開放された半チューブ状に形成されている。扉枠トップ装飾体４５３は、左右方向の両端が下方へ延びるように向いており、扉枠

左サイド装飾体４０４及び扉枠右サイド装飾体４１９の上端と夫々連続するように形成されている。なお、扉枠トップ装飾体４５３の表面には、レンズカットが施されていてもよいし（多面体に形成されていてもよいし）、扉枠トップ装飾体４５３の表面と共に裏面には、レンズカットが施されていてもよいし（多面体に形成されていてもよいし）、扉枠トップ装飾体４５３の裏面には、レンズカットが施されていてもよい（多面体に形成されていてもよい）。

【０４３１】

扉枠トップ底板４５４は、扉枠トップ装飾体４５３の下端と扉枠トップベース４５１の本体部４５１ａの下端同士を連結するように前後方向へ延びていると共に、左右方向中央が上方へ膨出するように左右方向へ延びている。扉枠トップ底板４５４は、前後方向の中央が下方へ突出するように折れ曲がった形態に形成されている。扉枠トップ底板４５４は、左右方向へ離間しており前端と後端とを結ぶと共に上方へ平板状に延びている一対の補強リブ４５４ａと、一対の補強リブ４５４ａの間において上下に貫通しておりトップ中央スピーカ４６２が臨む一対の中央スピーカ口４５４ｂと、一対の補強リブ４５４ａの夫々の左右方向外側において上下に貫通しておりトップサイドスピーカ４６４が臨む一対のサイドスピーカ口４５４ｃと、を有している。扉枠トップ底板４５４の上面における一対の補強リブ４５４ａの間に中央スピーカボックス４６１が取付けられる。

【０４３２】

扉枠トップ中央装飾基板４５５は、左右に延びた帯板状に形成されている。扉枠トップ中央装飾基板４５５は、前面（以下、「表面（実装面）」と記載する場合がある。）に実装されている複数のＬＥＤが、表面実装タイプであって多色発光可能なフルカラーＬＥＤとされている。この扉枠トップ中央装飾基板４５５は、複数のＬＥＤを適宜発光させることで、扉枠トップ装飾体４５３の中央部分を発光装飾させることができる。

【０４３３】

扉枠トップ左装飾基板４５６は、左右に延びた帯板状に形成されている。扉枠トップ左装飾基板４５６は、前面（以下、「表面（実装面）」と記載する場合がある。）に実装されている複数のＬＥＤが、表面実装タイプであって多色発光可能なフルカラーＬＥＤとされている。この扉枠トップ左装飾基板４５６は、複数のＬＥＤを適宜発光させることで、扉枠トップ装飾体４５３の左部分を発光装飾させることができる。

【０４３４】

扉枠トップ右装飾基板４５７は、左右に延びた帯板状に形成されている。扉枠トップ右装飾基板４５７は、前面（以下、「表面（実装面）」と記載する場合がある。）に実装されている複数のＬＥＤが、表面実装タイプであって多色発光可能なフルカラーＬＥＤとされている。この扉枠トップ右装飾基板４５７は、複数のＬＥＤを適宜発光させることで、扉枠トップ装飾体４５３の右部分を発光装飾させることができる。

【０４３５】

トップ中央インナーレンズ４５８、トップ左インナーレンズ４５９、及びトップ右インナーレンズ４６０は、夫々左右方向に延びており、透明に形成されている。トップ中央インナーレンズ４５８、トップ左インナーレンズ４５９、及びトップ右インナーレンズ４６０の表面は、夫々レンズカットが施されて（多面体に形成されて）光を乱屈折することができるようになっており、トップ中央インナーレンズ４５８の後方に配置される扉枠トップ中央装飾基板４５５の表面（実装面）に実装されている複数のＬＥＤ、トップ左インナーレンズ４５９の後方に配置される扉枠トップ左装飾基板４５６の表面（実装面）に実装されている複数のＬＥＤ、及びトップ右インナーレンズ４６０の後方に配置される扉枠トップ右装飾基板４５７の表面（実装面）に実装されている複数のＬＥＤが遊技者側から明確に視認し難くなっている。なお、トップ中央インナーレンズ４５８、トップ左インナーレンズ４５９、及びトップ右インナーレンズ４６０の表面と共に裏面には、夫々レンズカットが施されていてもよいし（多面体に形成されていてもよいし）、トップ中央インナーレンズ４５８、トップ左インナーレンズ４５９、及びトップ右インナーレンズ４６０の表面に代えて裏面には、夫々レンズカットが施されていてもよい（多面体に形成されていても

よい）。
【０４３６】
中央スピーカボックス４６１は、左右に延びた箱状に形成され、一対のトップ中央スピーカ４６２が下前を向くように取付けられる。この中央スピーカボックス４６１は、扉枠トップ底板４５４の上面における一対の補強リブ４５４ａの間に取付けられる。トップ中央スピーカ４６２は、フルレンジスピーカとされており、広い周波数帯域で音声や音楽等のサウンドを出力するものである。
【０４３７】
スピーカブラケット４６３は、扉枠トップベース４５１における左右の前方突出部４５１ｂの下面に取付けられる。トップサイドスピーカ４６４は、ツイータとされており、音声や音楽等のサウンドの高音域を出力するものである。
【０４３８】
トップ下カバー４６５は、無数の貫通孔を有した金属板からなるパンチングメタルによって形成されている。トップ下カバー４６５を通して、トップ中央スピーカ４６２やトップサイドスピーカ４６４から出力されたサウンドが、前方且つ下方へ向けて放射される。
【０４３９】
扉枠トップ中継基板４６７は、扉枠トップ中央装飾基板４５５、扉枠トップ左装飾基板４５６、扉枠トップ右装飾基板４５７、トップ中央スピーカ４６２、及びトップサイドスピーカ４６４と、扉枠ベースユニット１００の扉枠副中継基板１０５との接続を中継するためのものである。
【０４４０】
扉枠トップ天板４６８は、トップ上カバー４５２の開口部４５２ａを閉鎖するものであり、前端がトップ上カバー４５２に係止されると共に、後端が扉枠ベースユニット１００に取付けられる。
【０４４１】
扉枠トップユニット４５０は、扉枠３に組立てた状態で、扉枠ベース１０１の扉窓１０１ａの上外側を装飾している。扉枠トップユニット４５０は、扉枠トップ装飾体４５３の左右両端が、扉枠左サイド装飾体４０４及び扉枠右サイド装飾体４１９の上端と夫々連続しており、一体的な装飾を形成している。また、扉枠トップユニット４５０は、一対のトップ中央スピーカ４６２及び一対のトップサイドスピーカ４６４によって、音声や音楽等のサウンドを遊技者側へ出力することができる。
【０４４２】
［トップサイドスピーカによる電飾］
次に、図７２～図７４に示した扉枠トップユニット４５０における一対のスピーカブラケット４６３の前面にそれぞれ取付けられている一対のトップサイドスピーカ４６４の構造について簡単に説明する。トップサイドスピーカ４６４は、振動板、及びセンターキャップ等の振動部が透光性を有する樹脂製（例えば、乳白色を有するポリプロピレン等）により形成されると共に、マグネット、及びヨーク等の磁気回路部が前後に貫通している貫通孔を有する円柱状に形成され、振動部と磁気回路部とが筐体部により保持されている。この筐体部には、周方向に複数の開口が形成されている。円柱状に形成される磁気回路部の貫通孔は、前方に配置されるセンターキャップに覆われているのに対して、後方が開放されている。
【０４４３】
スピーカブラケット４６３の前面には、図示しない取付部にトップサイドスピーカ４６４が取付けられると共に、スピーカブラケット４６３の後面には、スピーカブラケット４６３の後面から後方へ向かって所定距離寸法（本実施形態では、約１８ｍｍ）延出された図示しない４つの基板取付屈曲板に形成される取付部に音響装飾基板４６９が取付けられる。また、音響装飾基板４６９の後面（裏面）側を覆うように図示しない透明板が音響装飾基板４６９と共に上述した図示しない４つの基板取付屈曲板に形成される取付部に取付けられている。この透明板は、音響装飾基板４６９の後面（裏面）側を他の部材が接触して

電気的なトラブルが生じないように保護するものである。このように、スピーカブラケット４６３の前面にトップサイドスピーカ４６４が取付けられると共に、スピーカブラケット４６３の後面に音響装飾基板４６９及び透明板が取付けられることにより、スピーカ電飾ユニットが組み立てられる。換言すると、スピーカ電飾ユニットは、スピーカブラケット４６３、トップサイドスピーカ４６４、音響装飾基板４６９、及び透明板から構成されている。

【０４４４】

スピーカブラケット４６３の前面にトップサイドスピーカ４６４が取付けられると共に、スピーカブラケット４６３の後面に音響装飾基板４６９が取付けられる状態においては、音響装飾基板４６９の前面（表面）がトップサイドスピーカ４６４の磁気回路部の後面を臨むように配置されると共に、音響装飾基板４６９の前面（表面）がトップサイドスピーカ４６４の磁気回路部の後方を覆う配置となる。

【０４４５】

音響装飾基板４６９の前面（表面）及び後面（裏面）には、白色のレジスト液が塗布されて形成される白色塗膜（以下、単に「ベタ塗りされた白色のレジスト」と記載する場合がある。）により白色のレジスト層が形成されている。音響装飾基板４６９の前面（表面）に複数のＬＥＤ（本実施形態では、多色発光可能なフルカラーＬＥＤ）４６９ａが実装されている。音響装飾基板４６９の後面（裏面）に図示しないコネクタが実装されている。音響装飾基板４６９の前面（表面）に実装される複数のＬＥＤ４６９ａは、扉枠トップ中継基板４６７に実装される図示しないＬＥＤ定電流駆動回路により制御された定電流が流れるようになっている。なお、扉枠トップ中継基板４６７に実装される図示しないＬＥＤ定電流駆動回路は、周辺制御基板１５１０からシリアル出力される発光データ、クロック信号が入力されており、これに基づいて、音響装飾基板４６９の前面（表面）に実装される複数のＬＥＤ４６９ａへ流す定電流を制御することにより、音響装飾基板４６９の前面（表面）に実装される複数のＬＥＤ４６９ａの点灯、消灯、点滅、階調点灯等の多様な発光態様を実現している。

【０４４６】

周辺制御基板１５１０は、パチンコ機１に異常（例えば、球タンク５５２、タンクレール５５３、球誘導ユニット５７０、及び払出装置５８０等の球詰まりの発生、不正行為の検知、扉枠３の開放、本体枠４の開放、配線の断線等）または不具合（各種可動装飾体（可動体）の作動に関する不具合、各種可動装飾体（可動体）の原位置（待機位置）の検知不可等））が生じていないときには、通常時として演出態様の発光態様となる発光データをクロック信号に基づいて、扉枠トップ中継基板４６７に実装される図示しないＬＥＤ定電流駆動回路に出力する。これに対して、周辺制御基板１５１０は、パチンコ機１に異常（例えば、球タンク５５２、タンクレール５５３、球誘導ユニット５７０、及び払出装置５８０等の球詰まりの発生、不正行為の検知、扉枠３の開放、本体枠４の開放、配線の断線等）または不具合（各種可動装飾体（可動体）の作動に関する不具合、各種可動装飾体（可動体）の原位置（待機位置）の検知不可等））が生じているときには、上述した通常時と異なる態様として報知態様となる発光データをクロック信号に基づいて、扉枠トップ中継基板４６７に実装される図示しないＬＥＤ定電流駆動回路に出力する。

【０４４７】

なお、演出態様の発光態様（通常時）では、点灯、消灯、点滅、階調点灯等を組み合わせた多彩な発光態様となるものであって、主制御基板１３１０が機能表示ユニット１４００に制御信号を出力し、この制御信号に基づく複数のＬＥＤを用いて図柄を変動表示し、図柄を変動表示するときに設定される変動パターンと対応するコマンドを主制御基板１３１０が周辺制御基板１５１０へ送信し、このコマンドに基づいて周辺制御基板１５１０が所定の演出用発光（通常時）として演出態様の発光態へ制御するものである。これに対して、報知態様（通常時と異なる態様）では、予め定めた色（本実施形態では、赤色）が最大輝度で点灯する発光態様となるものであって、払出制御ＭＰＵは、扉枠開放スイッチからの検出信号に基づいて本体枠４に対する扉枠３の開放を検出すると、その旨を伝える扉枠

開放コマンドを主制御基板１３１０へ送信し、この扉枠開放コマンドを受信した主制御基板１３１０は、本体枠４に対する扉枠３の開放の旨を伝える扉枠開放コマンドに所定情報（主制御基板１３１０から周辺制御基板１５１０へコマンドを送信する形式を整えるための情報）を付加して周辺制御基板１５１０へ送信し、このようなコマンドを受信した周辺制御基板１５１０は、予め定めた報知態様（通常時と異なる態様）へ制御するものである。

【０４４８】

音響装飾基板４６９の前面（表面）には、図示は省略するが、実装されている複数のＬＥＤ７６９ａ等の表面側電子部品の近傍に、表面側電子部品の部品番号、表面側電子部品を配置する位置を示す領域等の表面側電子部品の属性（さらに、表面側電子部品の形状、表面側電子部品の大きさ、表面側電子部品の実装向き（実装方向）、表面側電子部品の型式を含む場合がある。）を示す表面側表記部が、白色に対して目立ち難い明色である黄色の塗料で、ベタ塗りされた白色のレジスト上にシルク印刷により印刷されている。音響装飾基板４６９の後面（裏面）には、図示は省略するが、コネクタ等の裏面側電子部品の近傍に、裏面側電子部品の部品番号、裏面側電子部品を配置する位置を示す領域等の裏面側電子部品の属性（さらに、裏面側電子部品の形状、裏面側電子部品の大きさ、裏面側電子部品の実装向き（実装方向）、裏面側電子部品の型式を含む場合がある。）を示す裏面側表記部が、白色に対して目立ち難い明色である黄色の塗料で、ベタ塗りされた白色のレジスト上にシルク印刷により印刷されている。

【０４４９】

ここで、レジスト液の色として白色のものを採用し、シルク印刷の塗料として黄色を採用した理由について説明する。まず、反射率は、白色に近いほど高くなるのに対して、黒色に近づくと低くなる。黄色の反射率は赤色の反射率と比べると白色の反射率に非常に近く、赤色の反射率は黄色の反射率と比べて白色の反射率に非常に遠い。黄色の反射率は白色塗膜の白色の反射率と比べて低いものの高い反射率を有している。このため、白色と赤色との組み合わせでは、背景が白色であると赤色が目立つこととなり、表面側表記部（裏面側表記部）を赤色とする場合には白色のレジストに対して赤色の表面側表記部（白色のレジストに対して赤色の裏面側表記部）が目立つのに対して、白色と黄色との組み合わせ（本実施形態の構成）では、背景が白色であると黄色が目立たず、表面側表記部（裏面側表記部）を黄色とする場合には白色のレジストに対して黄色の表面側表記部（白色のレジストに対して黄色の裏面側表記部）が目立ち難い。

【０４５０】

また、パチンコ機１は各装飾基板に実装される複数のＬＥＤ等の発光部による電飾により煌びやかに発光演出が行われるため、音響装飾基板４６９の前面（表面）に実装される複数のＬＥＤは、上述したように、多色発光可能なフルカラーＬＥＤであり、点灯（発光）したり、消灯したりすることによって発光態様がさまざまに変化する。このため、音響装飾基板４６９の前面（表面）には、複数のＬＥＤが半田付けされるパッド、スルーホール、ランド等を除いた全域において、白色のレジスト液が塗布されて形成される白色塗膜（以下、単に「ベタ塗りされた白色のレジスト」と記載する場合がある。）により白色のレジスト層が形成され、さらに、このベタ塗りされた白色のレジスト上に多色発光可能なフルカラーＬＥＤを特定可能にする表面側表記部が黄色の塗料でシルク印刷により印刷されることにより、多色発光可能なフルカラーＬＥＤの消灯時において白色のレジストに対して黄色の表面側表記部を目立たないようにすることができることに加えて、さらに、多色発光可能なフルカラーＬＥＤの点灯時（発光時）において、反射率の高いベタ塗りされた白色のレジストと、白色の反射率に非常に近い黄色の塗料でシルク印刷により印刷される表面側表記部と、による組み合わせによって裏後装飾基板３１１４の表面（前面）の反射率を高く維持することができる。

【０４５１】

なお、シルク印刷の塗料として黄色を採用した場合には、シルク印刷により印刷された黄色が印刷機によるバラツキにより薄い黄色となったり、濃い黄色となったりする場合もあれば、橙色に見えたりする場合もある。また、シルク印刷の塗料を供給するインク会社に

も黄色に幅（明るい側に寄る黄色、暗い側による黄色）があるため、同一の基板製造会社や複数の基板会社に対してシルク印刷の塗料として黄色を指定しても、完全同一の黄色とならず（完全同一の黄色とすることが難しく）、黄色に幅がある色となる。

【０４５２】

スピーカブラケット４６３の前面にトップサイドスピーカ４６４が取付けられると共に、スピーカブラケット４６３の後面に音響装飾基板４６９が取付けられる状態において、音響装飾基板４６９の前面（表面）がトップサイドスピーカ４６４の磁気回路部の後方を覆う配置となるため、音響装飾基板４６９の前面（表面）に実装される複数のＬＥＤ４６９ａが発光すると、トップサイドスピーカ４６４の円柱形状に形成される磁気回路部の貫通孔を通って、透光性を有するセンターキャップから光が出射すると共に、筐体部の周方向に形成される複数の開口を通って、透光性を有する振動板から光りが出射することによりトップサイドスピーカ４６４の電飾を行うことができるようになっている。トップ下カバー４６５は、上述したように、無数の貫通孔を有した金属板からなるパンチングメタルによって形成されているため、トップ下カバー４６５の貫通孔を通して、トップサイドスピーカ４６４の前面やその周囲を視認することができると共に、トップサイドスピーカ４６４の電飾を視認することができる。

【０４５３】

さらに、音響装飾基板４６９の前面（表面）に実装される複数のＬＥＤ４６９ａが発光すると、トップサイドスピーカ４６４の裏面（円柱形状に形成される磁気回路部を構成するヨークの裏面）で反射してトップサイドスピーカ４６４の裏面と音響装飾基板４６９の前面（表面）との間を繰り返し反して、トップサイドスピーカ４６４の後方、つまり音響装飾基板４６９の後面（裏面）から後方へ向かって出射する。換言すると、音響装飾基板４６９の前面（表面）に実装される複数のＬＥＤ４６９ａが発光すると、音響装飾基板４６９の周りの少なくとも一部から複数のＬＥＤ４６９ａが漏光する。また、音響装飾基板４６９の背面側となる音響装飾基板４６９の後面（裏面）を覆う図示しない透明板を通して（透して）音響装飾基板４６９の周りの少なくとも一部から複数のＬＥＤ４６９ａが漏光する。

【０４５４】

スピーカブラケット４６３は、上述したように、扉枠トップベース４５１における左右の前方突出部４５１ｂの下面に取付けられる。扉枠トップベース４５１には、左右のスピーカブラケット４６３が取付けられる位置と対応する位置であってスピーカブラケット４６３の後面に取付けられる音響装飾基板４６９が露出するように、音響装飾基板４６９の外周より大きい形状を有すると共に前後に貫通する貫通孔４５１ｂａがそれぞれ形成されている。音響装飾基板４６９の前面（表面）に実装される複数のＬＥＤ４６９ａが発光すると、トップサイドスピーカ４６４の後方、つまり音響装飾基板４６９の後面（裏面）から後方へ向かって出射し（換言すると、音響装飾基板４６９の前面（表面）に実装される複数のＬＥＤ４６９ａが発光すると、音響装飾基板４６９の周りの少なくとも一部から複数のＬＥＤ４６９ａが漏光し（音響装飾基板４６９の背面側となる音響装飾基板４６９の後面（裏面）を覆う図示しない透明板を通して（透して）音響装飾基板４６９の周りの少なくとも一部から複数のＬＥＤ４６９ａが漏光し））、そして音響装飾基板４６９の外周と扉枠トップベース４５１に形成される貫通孔４５１ｂａの内周とによるすき間を通って、扉枠トップベース４５１の後方へ出射する。

【０４５５】

扉枠トップベース４５１は、上述したように、扉枠ベースユニット１００の扉枠ベース１０１の前面における扉窓１０１ａよりも上側に取付けられる。扉枠ベース１０１には、扉枠トップベース４５１に形成される左右の貫通孔４５１ｂａと対応する位置に、貫通孔４５１ｂａの外周より大きい形状又は同一の形状を有すると共に、前後に貫通する貫通孔１０１ｋがそれぞれ形成されている。これにより、音響装飾基板４６９の前面（表面）に実装される複数のＬＥＤ４６９ａが発光すると、トップサイドスピーカ４６４の後方、つまり音響装飾基板４６９の後面（裏面）から後方へ向かって出射し（換言すると、音響装飾

基板４６９の前面（表面）に実装される複数のＬＥＤ４６９ａが発光すると、音響装飾基板４６９の周りの少なくとも一部から複数のＬＥＤ４６９ａが漏光し（音響装飾基板４６９の背面側となる音響装飾基板４６９の後面（裏面）を覆う図示しない透明板を通して（透して）音響装飾基板４６９の周りの少なくとも一部から複数のＬＥＤ４６９ａが漏光し））、音響装飾基板４６９の外周と扉枠トップベース４５１に形成される貫通孔４５１ｂａの内周とによるすき間、そして扉枠ベース１０１に形成される貫通孔１０１ｋを通って、扉枠ベースユニット１００の扉枠ベース１０１の後方へ出射する。

【０４５６】

扉枠３が本体枠４に対して閉鎖された状態においては、扉枠ベースユニット１００の扉枠ベース１０１に形成される左右の貫通孔１０１ｋを通った、音響装飾基板４６９の前面（表面）に実装される複数のＬＥＤ４６９ａからの光は、本体枠４に装着された遊技盤５に備える遊技領域５ａの外周を区画し外形が正面視略四角形状とされた前構成部材１０００の左上側領域及び右上側領域にそれぞれ反射することとなる。本実施形態では、前構成部材１０００が透明な樹脂製であるが黒色の樹脂製としてもよい。なお、以下、扉枠３を本体枠４に対して開閉する際に扉枠３と本体枠４との開閉軸側を「扉枠３の軸支側」又は「本体枠４の軸支側」と記載し、この開閉軸側の反対側を「扉枠３の開放側」又は「本体枠４の開放側」と記載する場合がある。

【０４５７】

［前構成部材の左上側領域］

前構成部材１０００の左上側領域の前面（表面）には、遊技状況を表示する機能表示ユニット１４００（本実施形態では、複数のＬＥＤの点灯態様を確認するそれぞれの透明領域を除いて黒色を有している。）が設けられる場合は、機能表示ユニット１４００が配置される領域を除いて、反射率の高い白色又は白色に近い色を有する白色印刷部である反射シート１０００ａが貼られている。

【０４５８】

反射シート１０００ａが貼られる前構成部材１０００の左上側領域の前面（表面）の領域は、遊技盤５に形成された遊技領域５ａの外部の領域であって、扉枠３を本体枠４に対して閉鎖した状態において、機能表示ユニット１４００が配置される領域を除いて、扉枠ベースユニット１００の扉枠ベース１０１により覆われるようになっており、反射シート１０００ａが扉枠３の扉窓１０１ａを通して視認困難となる。つまり、遊技演出の内容に全く関係がない反射シート１０００ａの存在を隠すことができるため、遊技の目障りとならない。

【０４５９】

また、扉枠３を本体枠４に対して閉鎖した状態においては、左側の音響装飾基板４６９と対応する位置に反射シート１０００ａが遊技盤５の前構成部材１０００の左上側領域に配置され、パチンコ機１を正面から見ると、扉枠３の軸支側（本体枠４の軸支側）において、扉枠ベース１０１に形成される左側の貫通孔１０１ｋを通った左側の音響装飾基板４６９の前面（表面）に実装される複数のＬＥＤ４６９ａからの光を、左側の音響装飾基板４６９と別体に設けた（扉枠３側に設けた部材と別体に設けた）遊技盤５側に設けた反射シート１０００ａで反射して、前方へ向けて出射し、扉枠ベース１０１に形成される左側の貫通孔１０１ｋ、左側の音響装飾基板４６９の外周と扉枠トップベース４５１に形成される左側の貫通孔４５１ｂａの内周とによるすき間、そして左側のトップサイドスピーカ４６４の筐体部の周方向に形成される複数の開口を通って、左側のトップサイドスピーカ４６４の透光性を有する振動板から光りが出射するため、左側の音響装飾基板４６９の前面（表面）に実装される複数のＬＥＤ４６９ａからの光を効率良く遊技演出や報知態様として利用することができる。なお、扉枠３を本体枠４に対して閉鎖した状態においては、扉枠ベース１０１に形成される左側の貫通孔１０１ｋを通った左側の音響装飾基板４６９の前面（表面）に実装される複数のＬＥＤ４６９ａからの光を、左側の音響装飾基板４６９と別体に設けた（扉枠３側に設けた部材と別体に設けた）遊技盤５側に設けた反射シート１０００ａで反射して、前方へ向けて出射するため、扉枠ベース１０１に形成される左側

の貫通孔１０１ｋを通った左側の音響装飾基板４６９の前面（表面）に実装される複数のＬＥＤ４６９ａからの光が遊技領域５ａ内へ向かって出射しないし、遊技盤５の後方に対しても出射しない。つまり扉枠３を本体枠４に対して閉鎖した状態においては、扉枠ベース１０１に形成される左側の貫通孔１０１ｋを通った左側の音響装飾基板４６９の前面（表面）に実装される複数のＬＥＤ４６９ａからの光が遊技領域５ａ内へ向かって漏れ出ないし、遊技盤５の後方へ向かって漏れ出ない。

【０４６０】

このように、反射シート１０００ａは、扉枠３を本体枠４に対して閉鎖した状態（扉枠３が閉鎖状態）にあるときにおいて、パチンコ機１を正面から見て、左側の音響装飾基板４６９と対応する位置に遊技盤５の前構成部材１０００の左上側領域の前面に設けられると共に、左側の音響装飾基板４６９が発した光を反射シート１０００ａの前方へ向かって反射することができるようになっているため、左側の音響装飾基板４６９から後方へ向かって漏れた光（漏光）を反射シート１０００ａの前方へ向かって反射することで左側の音響装飾基板４６９の前方へ向かって出射することができる反射部材として機能することができるようになっている。これにより、左側の音響装飾基板４６９の漏光を遊技盤５の後方へ向かって進むことを抑制することができる。したがって、遊技盤５の後方へ向かう光を抑制することができる。

【０４６１】

反射シート１０００ａ上には、図示しないが、遊技盤５の機種を特定する番号（管理番号）と、遊技盤５の製造日等の遊技盤５の属性情報が記憶されるＱＲコード（登録商標）と、が暗色である黒色の塗料で所定位置にそれぞれ印刷されている。反射シート１０００ａ、遊技盤５の機種を特定する番号（管理番号）、及び遊技盤５の製造日等の遊技盤５の属性情報が記憶されるＱＲコード（登録商標）により、パチンコ機１に関する特定情報（つまり、遊技盤５の機種を特定する番号、遊技盤５の製造日等の遊技盤５の属性情報が記憶されるＱＲコード（登録商標））が表示される特定情報表示部が構成されている。扉枠３が本体枠４に対して開放された状態では、前構成部材１０００が透明な樹脂製であるため（前構成部材１０００を黒色の樹脂製とする場合には、背景が黒色となり）、白色の反射シート１０００ａが目立つため、誘目性により、遊技ホールの店員等の係員の視線を自然と反射シート１０００ａへ向けることができる。

【０４６２】

また、反射シート１０００ａが貼られる前構成部材１０００の左上側領域の前面（表面）の領域は、上述したように、遊技盤５に形成された遊技領域５ａの外部の領域であって、扉枠３を本体枠４に対して閉鎖した状態において、機能表示ユニット１４００が配置される領域を除いて、扉枠ベースユニット１００の扉枠ベース１０１により覆われるようになっており、反射シート１０００ａが扉枠３の扉窓１０１ａを通して視認困難となるため、反射シート１０００ａ上に印刷された管理番号とＱＲコード（登録商標）とが扉枠３の扉窓１０１ａを通して視認困難となる。

【０４６３】

さらに、反射シート１０００ａにおいては、反射シート１０００ａが白色であるため、背景が白色であると、暗色である黒色が目立ち、管理番号とＱＲコード（登録商標）とを視認し易い。また、ＱＲコード（登録商標）は、パチンコ機１と別体の装置であって遊技ホールの店員等の係員が所持するコード読取装置により読み取られる際に、反射シート１０００ａが白色であることで背景が白色となり、暗色である黒色を有するＱＲコード（登録商標）を、読み取り易くすることができる。つまり、反射シート１０００ａの白色は、ＱＲコード（登録商標）の読み取り易さを向上することができるようになっている。なお、反射シート１０００ａの表面積は、左側の音響装飾基板４６９の前面（表面）又は後面（裏面）における面積と比べて大きい。また、ＱＲコード（登録商標）に代えて、１次元バーコードでもよいし、文字、数字、図形、及び記号等でもよいし、文字、数字、図形及び記号等を適宜組み合わせたものでもよい。

【０４６４】

なお、図示しないが、前構成部材１０００の左上側領域の前面（表面）であって、疑似釘が複数配置されている。反射シート１０００ａには、金色を有する疑似釘が配置される領域と対応する部分に貫通孔が形成されている。遊技盤５の遊技領域５ａの前面（表面）には、上述したように、金色を有する複数の障害釘Ｎが植設されている。疑似釘も、金色を有する金属製であるため、扉枠３を本体枠４に対して閉鎖した状態においては、反射シート１０００ａと同様に、反射部材として利用することができる。

【０４６５】

［音響装飾基板のＬＥＤから発せられる光について］

次に、前面（表面）に複数のＬＥＤ４６９ａが実装される音響装飾基板４６９と、扉枠トップベース４５１に形成される左右の貫通孔４５１ｂａと、前構成部材１０００の左上側領域の前面（表面）に貼られる反射シート１０００ａと、の位置関係について、図３１８を参照して説明する。図３１８は、音響装飾基板４６９と、左右の貫通孔４５１ｂａと、反射シート１０００ａと、の位置関係を説明するための模式図である。

【０４６６】

図３１８（Ａ）に示すように、音響装飾基板４６９の前面（表面）には、複数のＬＥＤ４６９ａが実装されており、音響装飾基板４６９の前面（表面）がトップサイドスピーカ４６４の磁気回路部の後方を覆う配置となっている。このため、上述したように、音響装飾基板４６９の前面（表面）に実装される複数のＬＥＤ４６９ａが発光すると、トップサイドスピーカ４６４の円柱形状に形成される磁気回路部の貫通孔を通って、透光性を有するセンターキャップから光が出射すると共に、筐体部の周方向に形成される複数の開口を通って、透光性を有する振動板から光りが出射することによりトップサイドスピーカ４６４の電飾を行うことができるようになっている。

【０４６７】

また、扉枠トップベース４５１には、音響装飾基板４６９の外周より大きい形状を有すると共に、前後に貫通する貫通孔４５１ｂａが形成されている。このため、上述したように、音響装飾基板４６９の前面（表面）に実装される複数のＬＥＤ４６９ａが発光すると、トップサイドスピーカ４６４の裏面（円柱形状に形成される磁気回路部を構成するヨークの裏面）で反射し、その反射した光が、トップサイドスピーカ４６４の後方、つまり音響装飾基板４６９の後面（裏面）から後方へ向かって出射し（換言すると、音響装飾基板４６９の前面（表面）に実装される複数のＬＥＤ４６９ａが発光すると、音響装飾基板４６９の周りの少なくとも一部から複数のＬＥＤ４６９ａが漏光し（音響装飾基板４６９の背面側となる音響装飾基板４６９の後面（裏面）を覆う図示しない透明板を通して（透して）音響装飾基板４６９の周りの少なくとも一部から複数のＬＥＤ４６９ａが漏光し））、そして音響装飾基板４６９の外周と扉枠トップベース４５１に形成される貫通孔４５１ｂａの内周とによるすき間を通って、扉枠トップベース４５１の後方へ出射することとなる。これにより、扉枠３を本体枠４に対して開放した状態においては、扉枠トップベース４５１に形成される貫通孔４５１ｂａを通して、音響装飾基板４６９の前面（表面）に実装される複数のＬＥＤ４６９ａからの光を、扉枠３の後方から視認することができる。

【０４６８】

なお、図示しないが、扉枠トップベース４５１は、扉枠ベースユニット１００の扉枠ベース１０１の前面における扉窓１０１ａよりも上側に取付けられており、扉枠ベース１０１には、扉枠トップベース４５１に形成される左右の貫通孔４５１ｂａと対応する位置に、貫通孔４５１ｂａの外周より大きい形状又は同一の形状を有すると共に、前後に貫通する貫通孔１０１ｋが形成されている。

【０４６９】

図３１８（Ｂ）に示すように、扉枠３を本体枠４に対して閉鎖した状態においては、左側の音響装飾基板４６９と対応する位置に反射シート１０００ａが遊技盤５の前構成部材１０００の左上側領域に配置されている。なお、反射シート１０００ａの表面積は、左側の音響装飾基板４６９の前面（表面）又は後面（裏面）における面積と比べて大きい。このため、上述したように、パチンコ機１を正面から見ると、扉枠３の軸支側（本体枠４の軸

支側）において、扉枠ベース１０１に形成される左側の貫通孔１０１ｋを通った左側の音響装飾基板４６９の前面（表面）に実装される複数のＬＥＤ４６９ａからの光が、左側の音響装飾基板４６９と別体に設けた（扉枠３側に設けた部材と別体に設けた）遊技盤５側に設けた反射シート１０００ａで反射して、前方へ向けて出射する。そして、扉枠ベース１０１に形成される左側の貫通孔１０１ｋ、左側の音響装飾基板４６９の外周と扉枠トップベース４５１に形成される左側の貫通孔４５１ｂａの内周とによるすき間、そして左側のトップサイドスピーカ４６４の筐体部の周方向に形成される複数の開口を通って、左側のトップサイドスピーカ４６４の透光性を有する振動板から出射することとなる。

【０４７０】

なお、反射シート１０００ａで反射した光については、左側のトップサイドスピーカ４６４の内部（筐体部の周方向に形成される複数の開口）を通るだけでなく、左側のトップサイドスピーカ４６４の外側を通ることによっても、前方に向けて出射することができる。また、左側のトップサイドスピーカ４６４の内部（筐体部の周方向に形成される複数の開口）を通った光については、トップ下カバー４６５の貫通孔を通ることで、パチンコ機１の前方に向けて光を出射しているが、左側のトップサイドスピーカ４６４の外側を通った光についても同様に、トップ下カバー４６５の貫通孔を通ることで、パチンコ機１の前方に向けて光を出射することができる。なお、トップ下カバー４６５は、上述したように、無数の貫通孔を有した金属板からなるパンチングメタルによって形成されている。ただし、パチンコ機１の前方から視認してトップ下カバー４６５の周囲の部材については、不透明の部材で構成されているが、透明または半透明の部材（透光性を有する部材）で構成してもよく、左側のトップサイドスピーカ４６４の外側を通った光については、その透明または半透明の部材を光装飾するための光として用いてもよい。これにより、左側の音響装飾基板４６９の前面（表面）に実装される複数のＬＥＤ４６９ａからの光については、トップサイドスピーカ４６４を発光装飾するだけでなく、トップ下カバー４６５の周囲の部材を発光装飾することができる。

【０４７１】

上記では、扉枠トップベース４５１において、音響装飾基板４６９の外周より大きい形状を有すると共に、前後に貫通する貫通孔４５１ｂａが形成されているが、貫通孔４５１ｂａについては、音響装飾基板４６９の前面（表面）に実装される複数のＬＥＤ４６９ａからの光が、音響装飾基板４６９の後面（裏面）から後方へ向かうことを可能とする構成であればよい。つまり、貫通孔４５１ｂａは、必ずしも音響装飾基板４６９の背後に位置している必要がなく、音響装飾基板４６９の背後の上下方向や左右方向など、音響装飾基板４６９の背後ではない部分に位置してもよい。

【０４７２】

図３１８（Ｃ）には、貫通孔４５１ｂａが、扉枠トップベース４５１における音響装飾基板４６９の背後の上方向と下方向にそれぞれ位置するように設けられた例を示す。このような場合にも、音響装飾基板４６９の前面（表面）に実装される複数のＬＥＤ４６９ａが発光すると、トップサイドスピーカ４６４の裏面で反射し、その反射した光が、トップサイドスピーカ４６４の後方、つまり音響装飾基板４６９の後面（裏面）から後方へ向かって出射し、そして音響装飾基板４６９の背後から位置ズレしている貫通孔４５１ｂａを通って、扉枠トップベース４５１の後方へ出射する。これにより、扉枠３を本体枠４に対して開放した状態においては、扉枠トップベース４５１に形成される貫通孔４５１ｂａを通して、音響装飾基板４６９の前面（表面）に実装される複数のＬＥＤ４６９ａからの光を、扉枠３の後方から視認することができる。一方、扉枠３を本体枠４に対して閉鎖した状態においては、左側の音響装飾基板４６９の前面（表面）に実装される複数のＬＥＤ４６９ａからの光が、左側の音響装飾基板４６９と別体に設けた（扉枠３側に設けた部材と別体に設けた）遊技盤５側に設けた反射シート１０００ａで反射して、前方へ向けて出射することとなる。

【０４７３】

また、本例では、音響装飾基板４６９の前面（表面）に実装される複数のＬＥＤ４６９ａ

からの光が、音響装飾基板４６９の後面（裏面）から後方へ向かうことを可能とする構成として、前後に貫通する貫通孔４５１ｂａを示したが、複数の孔が設けられた形状（例えば、メッシュ形状やパンチング形状）であってもよいし、扉枠トップベース４５１における音響装飾基板４６９の後方の少なくとも一部（音響装飾基板４６９の背後や、その周囲の部分）を透明部材で形成するものであってもよい。このような場合にも、音響装飾基板４６９の前面（表面）に実装される複数のＬＥＤ４６９ａが発光すると、トップサイドスピーカ４６４の裏面で反射し、その反射した光が、トップサイドスピーカ４６４の後方、つまり音響装飾基板４６９の後面（裏面）から後方へ向かって出射し、そして光の通過が可能な部分を通って、扉枠トップベース４５１の後方へ出射する。そして、扉枠３を本体枠４に対して閉鎖した状態においては、左側の音響装飾基板４６９の前面（表面）に実装される複数のＬＥＤ４６９ａからの光が、左側の音響装飾基板４６９と別体に設けた（扉枠３側に設けた部材と別体に設けた）遊技盤５側に設けた反射シート１０００ａで反射して、前方へ向けて出射することとなる。

【０４７４】

なお、音響装飾基板４６９には、前後方向に貫通した複数の孔が形成されてもよい。このような場合には、音響装飾基板４６９の前面（表面）に実装される複数のＬＥＤ４６９ａが発光すると、トップサイドスピーカ４６４の裏面で反射し、その反射した光が、トップサイドスピーカ４６４の後方へ向かって出射し、そして音響装飾基板４６９に形成される複数の孔を通って、扉枠トップベース４５１の後方へ出射することが可能となる。つまり、トップサイドスピーカ４６４の裏面で反射した光は、音響装飾基板４６９の外周と扉枠トップベース４５１に形成される貫通孔４５１ｂａの内周とによるすき間だけでなく、音響装飾基板４６９に形成される複数の孔を通ることができ、扉枠トップベース４５１の後方へ向けて効率よく光を出射することができる。また、反射シート１０００ａで反射した光についても同様に、音響装飾基板４６９に形成される複数の孔を通って前方へ向かうことができ、そして左側のトップサイドスピーカ４６４の内部（筐体部の周方向に形成される複数の開口）、トップ下カバー４６５の貫通孔を通ることで、パチンコ機１の前方に向けて光を出射することができる。

【０４７５】

また、本例では、反射シート１０００ａ上のうち、扉枠３を本体枠４に対して閉鎖した状態において、左側の音響装飾基板４６９の前面（表面）に実装される複数のＬＥＤ４６９ａからの光を受ける領域に、遊技盤５の機種を特定する番号（管理番号）と、遊技盤５の製造日等の遊技盤５の属性情報が記憶されるＱＲコード（登録商標）と、が暗色である黒色の塗料でそれぞれ印刷されている。ただし、管理番号とＱＲコード（登録商標）とは、反射シート１０００ａ上のうち、左側の音響装飾基板４６９の前面（表面）に実装される複数のＬＥＤ４６９ａからの光を受けない（受け難い）領域に印刷されてもよい。つまり、管理番号とＱＲコード（登録商標）とは、反射シート１０００ａ上のうち、扉枠トップベース４５１に形成される貫通孔４５１ｂａの背後ではない部分に位置するように印刷されてもよい。上記したように、管理番号とＱＲコード（登録商標）とは、反射シート１０００ａに暗色である黒色の塗料で印刷されており、その印刷された部分で光が反射しない。この点、反射シート１０００ａ上のうち、左側の音響装飾基板４６９の前面（表面）に実装される複数のＬＥＤ４６９ａからの光を受ける領域については、管理番号とＱＲコード（登録商標）とが印刷されていないことで、反射シート１０００ａで光を反射する際に、前方へ向けて効率よく光を出射することができる。

【０４７６】

次に、複数台のパチンコ機１が並列して設けられた遊技島において、パチンコ機１から発せられる光を視認しうる位置について、図３１９を参照して説明する。図３１９は、遊技島に設置されたパチンコ機１から発せられる光を視認しうる位置を説明するための模式図である。

【０４７７】

図３１９に示すように、遊技島には、パチンコ機１の前面側が外部を向くように、複数台

のパチンコ機１が並列して設けられている。そして、扉枠３で閉鎖されている遊技盤５などに対してメンテナンス作業を行う際には、扉枠３の軸支側（本体枠４の軸支側）を軸として、扉枠３を本体枠４に対して開放する必要がある。

【０４７８】

扉枠３の前面側においては、音響装飾基板４６９の前面（表面）に実装される複数のＬＥＤ４６９ａによってトップサイドスピーカ４６４を発光装飾することを可能とし、それらの光が、扉枠３の前方に向けて出射している。このため、扉枠３を本体枠４に対して開放した状態においては、扉枠３の前方に位置している人物が、扉枠３の前面側で発光しているトップサイドスピーカ４６４の発光態様を認識することができる。

【０４７９】

扉枠３の後面側においては、音響装飾基板４６９の前面（表面）に実装される複数のＬＥＤ４６９ａによってトップサイドスピーカ４６４を発光装飾するときに、それらの光が、音響装飾基板４６９の外周と扉枠トップベース４５１に形成される貫通孔４５１ｂａの内周とによるすき間、そして扉枠ベース１０１に形成される貫通孔１０１ｋを通って、扉枠３の後方に向けて出射している。このため、扉枠３を本体枠４に対して開放した状態においては、扉枠３の後方に人物が位置していても、扉枠３の後面側における貫通孔１０１ｋから漏光している光を視認することで、扉枠３の前面側で発光しているトップサイドスピーカ４６４の発光態様を認識することができる。

【０４８０】

そして、詳しくは上記したが、音響装飾基板４６９の前面（表面）に実装される複数のＬＥＤ４６９ａについては、遊技の状況に応じた発光態様で発光するようにしている。具体的には、パチンコ機１に異常（例えば、球タンク５５２、タンクレール５５３、球誘導ユニット５７０、及び払出装置５８０等の球詰まりの発生、不正行為の検知、扉枠３の開放、本体枠４の開放、配線の断線等）または不具合（各種可動装飾体（可動体）の作動に関する不具合、各種可動装飾体（可動体）の原位置（待機位置）の検知不可等））が生じていないときには、通常時の発光態様で、音響装飾基板４６９の前面（表面）に実装される複数のＬＥＤ４６９ａを発光している。これに対し、パチンコ機１に異常（例えば、球タンク５５２、タンクレール５５３、球誘導ユニット５７０、及び払出装置５８０等の球詰まりの発生、不正行為の検知、扉枠３の開放、本体枠４の開放、配線の断線等）または不具合（各種可動装飾体（可動体）の作動に関する不具合、各種可動装飾体（可動体）の原位置（待機位置）の検知不可等））が生じているときには、上述した通常時と異なる態様として報知態様で、音響装飾基板４６９の前面（表面）に実装される複数のＬＥＤ４６９ａを発光している。このような報知態様（通常時と異なる態様）では、予め定めた色（本実施形態では、赤色）が最大輝度で点灯する発光態様としている。これにより、扉枠３を本体枠４に対して開放した状態においては、扉枠３の前方あるいは後方のいずれに人物が位置していても、音響装飾基板４６９の前面（表面）に実装される複数のＬＥＤ４６９ａを用いての発光態様を認識することができ、パチンコ機１に異常または不具合が生じていないかどうかなど、遊技の状況がどのような状況にあるのかを把握することができる。

【０４８１】

詳しくは後述するが、パチンコ機１に設けられている遊技盤５には、複数の発光装飾体として、裏上前回転装飾体３４１０及び裏上前装飾体３４２１、裏上後装飾体３４５１、裏後可動装飾体３１１０等が設けられている。これらの発光装飾体に実装されているＬＥＤについては、パチンコ機１（遊技盤５）の前方に向けて出射している。このため、パチンコ機１の前方に位置している人物が、遊技盤５で発光している発光装飾体の発光状態を認識することができる。

【０４８２】

同じく、詳しくは後述するが、本例のパチンコ機１では、遊技盤５に設けられている複数の発光装飾体が、パチンコ機１の前面側を装飾目的で明るくすることに加え、裏面側や側面側も装飾以外の目的で明るくするように構成されている。具体的には、発光装飾体に実装されているＬＥＤからの光が、パチンコ機１の前面側だけでなく、裏面側や側面側にも

向かうようにし、その光が裏箱３０１０の透明部位を通過するように構成することで、パチンコ機１の裏面側におけるタンクレール５５３の透明部位付近の発光領域Ｌ１や、パチンコ機１の側面側における透明部位付近の発光領域Ｌ２や発光領域Ｌ３を明るくしている。このため、遊技島に設置されている一方のパチンコ機１に対面する他方のパチンコ機１の扉枠３を本体枠４に対して開放した状態においては、一方のパチンコ機１の裏面側を視認することが可能であるが、そのような他方のパチンコ機１の扉枠３を本体枠４に対して開放した人物が、一方のパチンコ機１の裏面側に漏光している光を視認することで、パチンコ機１の前面側で発光している発光装飾体の発光態様を認識することができる。

【０４８３】

そして、発光装飾体に実装されているＬＥＤについては、音響装飾基板４６９の前面（表面）に実装される複数のＬＥＤ４６９ａと同様に、遊技の状況に応じた発光態様で発光するようにしている。具体的には、パチンコ機１に異常（例えば、球タンク５５２、タンクレール５５３、球誘導ユニット５７０、及び払出装置５８０等の球詰まりの発生、不正行為の検知、扉枠３の開放、本体枠４の開放、配線の断線等）または不具合（各種可動装飾体（可動体）の作動に関する不具合、各種可動装飾体（可動体）の原位置（待機位置）の検知不可等））が生じていないときには、通常時の発光態様で、発光装飾体に実装されているＬＥＤを発光している。これに対し、パチンコ機１に異常（例えば、球タンク５５２、タンクレール５５３、球誘導ユニット５７０、及び払出装置５８０等の球詰まりの発生、不正行為の検知、扉枠３の開放、本体枠４の開放、配線の断線等）または不具合（各種可動装飾体（可動体）の作動に関する不具合、各種可動装飾体（可動体）の原位置（待機位置）の検知不可等））が生じているときには、上述した通常時と異なる態様として報知態様で、発光装飾体に実装されているＬＥＤを発光している。例えば、報知態様（通常時と異なる態様）では、予め定めた色（本実施形態では、赤色）が最大輝度で点灯する発光態様としている。これにより、遊技島に設置されている一方のパチンコ機１に対面する他方のパチンコ機１の扉枠３を本体枠４に対して開放した状態においては、そのような他方のパチンコ機１の扉枠３を本体枠４に対して開放した人物が、発光装飾体に実装されているＬＥＤを用いての発光態様を認識することができ、パチンコ機１に異常または不具合が生じていないかどうかなど、遊技の状況がどのような状況にあるのかを把握することができる。

【０４８４】

以上のことから、パチンコ機１に異常または不具合が生じていないかどうかなどの遊技の状況については、扉枠３を本体枠４に対して開放した状態において、扉枠３の前方だけでなく、扉枠３の後方からも把握することができ、さらにパチンコ機１の前方だけでなく、パチンコ機１の後方からも把握することができる。これにより、パチンコ機１に異常または不具合が生じているときには、その異常または不具合に対して素早く対処することができる。

【０４８５】

なお、パチンコ機１に異常が生じた際に、その異常が軽度の異常であるか、重度の異常であるかを判断し、軽度の異常である場合には、全ての方向からではなく一部の方向からのみ異常が生じたことを把握しうるように、一部のＬＥＤのみを報知態様（通常時と異なる態様）としてもよい。具体的には、パチンコ機１の異常のうち、軽度の異常（例えば、球タンク５５２、タンクレール５５３、球誘導ユニット５７０、及び払出装置５８０等の球詰まりの発生、扉枠３の開放、本体枠４の開放、配線の断線等）が生じしているときには、音響装飾基板４６９の前面（表面）に実装される複数のＬＥＤ４６９ａのみを報知態様（通常時と異なる態様）とし、発光装飾体に実装されているＬＥＤを報知態様（通常時と異なる態様）としない。つまり、軽度の異常が生じているときには、扉枠３の前方あるいは後方から把握できるものの、パチンコ機１の前方あるいは後方からは把握することができない。一方、パチンコ機１の異常のうち、軽度の異常（例えば、不正行為の検知等）が生じしているときには、音響装飾基板４６９の前面（表面）に実装される複数のＬＥＤ４６９ａと、発光装飾体に実装されているＬＥＤと、のいずれも報知態様（通常時と異なる

態様）としている。つまり、重度の異常が生じているときには、扉枠３の前方あるいは後方、パチンコ機１の前方あるいは後方のいずれからも把握することができる。このように、軽度の異常が生じているときには、重度の異常（不正行為の検知等）のように喫緊に対処するべき状況でないことから、扉枠３の前方あるいは後方からのみ把握することを可能とし、外部に対して過剰な報知を行わないようにしている。

【０４８６】

［前構成部材の右上側領域］

本体枠３の開放側であって、前構成部材１０００の右上側領域と右下側領域との前面（表面）側には、遊技盤５と本体枠４との装着状態を維持するための金属製止め具ＦＴ（図１０を参照。）がそれぞれ設けられている。つまり、扉枠３の開放側には、金属製止め具ＦＴが遊技盤５の前構成部材１０００の右上側領域と右下側領域との前面（表面）側にそれぞれ配置されている。特に、遊技盤５の前構成部材１０００の右上側領域の前面側は、右側の音響装飾基板４６９と対応する位置であって金属製止め具ＦＴが配置されている。この金属製止め具ＦＴは、その端部が本体枠４に形成される図示しない盤止め具挿入穴に挿入されて係合されるようになっている。

【０４８７】

また、扉枠ベースユニット１００の扉枠補強ユニット１１０は、金属製であり、上述したように、扉枠ベース１０１の後側に取付けられることで、平板状の扉枠ベース１０１を補強して、扉枠ベースユニット１００に剛性を付与し、左右に離間して配置されている上下に延びた左補強フレーム１１１及び右補強フレーム１１２と、左補強フレーム１１１及び右補強フレーム１１２の上端同士を連結している左右に延びた上補強フレーム１１３と、左補強フレーム１１１の下端から上寄りの位置に左端側が取付けられており右補強フレーム１１２付近まで右方へ延びた中間補強フレーム１１４と、中間補強フレーム１１４の右端と右補強フレーム１１２とを連結しているシリンダ取付フレーム１１５と、右補強フレーム１１２の後側に上下に離間して複数取付けられており本体枠４の施錠ユニット６５０の扉枠用鉤６５２が掛止される鉤掛部材１１６と、を備えている。つまり、扉枠３の後面側であって、扉枠３の開放側には、金属製の右補強フレーム１１２が配置されている。

【０４８８】

このように、本実施形態では、本体枠４の開放側においては、遊技盤５の前構成部材１０００の右上側領域と右下側領域との前面（表面）側に金属製止め具ＦＴがそれぞれ配置されていると共に、扉枠３の開放側においては、扉枠３の後面側に金属製の右補強フレーム１１２が配置されている。金属製止め具ＦＴと金属製の右補強フレーム１１２とは、ともに金属製であり、光沢を有している。このため、扉枠３を本体枠４に対して閉鎖した状態においては、扉枠ベースユニット１００の扉枠ベース１０１に形成される右側の貫通孔１０１ｋを通った右側の音響装飾基板４６９の前面（表面）に実装される複数のＬＥＤ４６９ａからの光を、遊技盤５の前構成部材１０００の右上側領域の前面側に配置される金属製止め具ＦＴと、金属製の右補強フレーム１１２と、により反射することができる。また、少しだけ扉枠３を本体枠４に対して開放したときにおいても、扉枠３の背面側の発光を視認し易くすることができる。なお、扉枠３を本体枠４に対して閉鎖した状態においては、扉枠ベース１０１に形成される右側の貫通孔１０１ｋを通った右側の音響装飾基板４６９の前面（表面）に実装される複数のＬＥＤ４６９ａからの光を、遊技盤５の前構成部材１０００の右上側領域の前面側に配置される金属製止め具ＦＴと、金属製の右補強フレーム１１２と、により反射するものの、扉枠ベース１０１に形成される右側の貫通孔１０１ｋを通った右側の音響装飾基板４６９の前面（表面）に実装される複数のＬＥＤ４６９ａからの光が遊技領域５ａへ向けて出射しないし、遊技盤５の後方に対しても出射しない。つまり扉枠３を本体枠４に対して閉鎖した状態においては、扉枠ベース１０１に形成される左側の貫通孔１０１ｋを通った左側の音響装飾基板４６９の前面（表面）に実装される複数のＬＥＤ４６９ａからの光が遊技領域５ａ内へ向かって漏れ出ないし、遊技盤５の後方へ向かって漏れ出ない。

【０４８９】

なお、前構成部材１０００が透明な樹脂製であるため、これに代えて、前構成部材１０００を黒色の樹脂製として構成してもよい。このように構成しても、扉枠３を本体枠４に対して閉鎖した状態においては、扉枠ベースユニット１００の扉枠ベース１０１に形成される右側の貫通孔１０１ｋを通った右側の音響装飾基板４６９の前面（表面）に実装される複数のＬＥＤ４６９ａからの光を、遊技盤５の前構成部材１０００の右上側領域の前面側に配置される金属製止め具ＦＴと、金属製の右補強フレーム１１２と、により反射することができるため、扉枠ベース１０１に形成される右側の貫通孔１０１ｋを通った右側の音響装飾基板４６９の前面（表面）に実装される複数のＬＥＤ４６９ａからの光が遊技領域５ａへ向けて出射しないし、遊技盤５の後方に対しても出射しない。つまり扉枠３を本体枠４に対して閉鎖した状態においては、扉枠ベース１０１に形成される左側の貫通孔１０１ｋを通った左側の音響装飾基板４６９の前面（表面）に実装される複数のＬＥＤ４６９ａからの光が遊技領域５ａ内へ向かって漏れ出ないし、遊技盤５の後方へ向かって漏れ出ない。

【０４９０】

また、遊技盤５の前構成部材１０００の右上側領域であって金属製止め具ＦＴが配置されている周辺領域に上述した白色の反射シート１０００ａの形状を適宜修正した白色の反射シートを貼るように構成してもよい。こうすれば、扉枠３を本体枠４に対して閉鎖した状態においては、扉枠ベースユニット１００の扉枠ベース１０１に形成される右側の貫通孔１０１ｋを通った右側の音響装飾基板４６９の前面（表面）に実装される複数のＬＥＤ４６９ａからの光を、遊技盤５の前構成部材１０００の右上側領域の前面側に配置される金属製止め具ＦＴと、金属製の右補強フレーム１１２と、白色の反射シートと、により反射することができるため、扉枠ベース１０１に形成される右側の貫通孔１０１ｋを通った右側の音響装飾基板４６９の前面（表面）に実装される複数のＬＥＤ４６９ａからの光が遊技領域５ａへ向けて出射しないし、遊技盤５の後方に対しても出射しない。つまり扉枠３を本体枠４に対して閉鎖した状態においては、扉枠ベース１０１に形成される左側の貫通孔１０１ｋを通った左側の音響装飾基板４６９の前面（表面）に実装される複数のＬＥＤ４６９ａからの光が遊技領域５ａ内へ向かって漏れ出ないし、遊技盤５の後方へ向かって漏れ出ない。

【０４９１】

ところで、遊技ホールの店員等の係員は、扉枠３を本体枠４に対して開放する場合に、シリンダ錠１３０に正規の鍵を差し込んで回動操作した後に、例えば、扉枠３に設けられる扉枠右サイドユニット４１０の透明な扉枠右サイド装飾体４１９等の装飾部材を手で掴み、扉枠３が本体枠４に対して閉鎖された状態から開放される状態となるまでに亘って、装飾部材を引っ張り続けているため、扉枠３を本体枠４に対して開放する作業が多くなるほど、装飾部材と扉枠３との結合部に負荷が繰り返しかかることにより扉枠が破損するおそれがある。

【０４９２】

そこで、本実施形態では、パチンコ機１を正面から見ると、扉枠３の開放側において、右側の音響装飾基板４６９の前面（表面）に実装される複数のＬＥＤ４６９ａからの光は、上述したように、扉枠ベースユニット１００の扉枠ベース１０１に形成される右側の貫通孔１０１ｋを通って後方へ出射するため、音響装飾基板４６９の前面（表面）に実装される複数のＬＥＤ４６９ａは、扉枠３の後方へ向かって発光することができる。扉枠３の開放側には扉枠３の後面側に金属製の右補強フレーム１１２が配置されると共に、本体枠４の開放側には遊技盤５の前構成部材１０００の右上側領域の前面（表面）側に金属製止め具ＦＴが配置され、どちらも金属製の部材であることから、遊技ホールの店員等の係員が扉枠３を本体枠３に対して開放する作業を行うと、扉枠３の開放側と本体枠４の開放側とに形成されるすき間を通して、金属製の右補強フレーム１１２及び金属製止め具ＦＴ等の金属製反射部により反射された光が漏れ出し、すき間を発光させる態様とすることができる。これにより、遊技ホールの店員等の係員は、扉枠３を本体枠４に対して開放する作業を行う場合に、例えば、扉枠３に設けられる扉枠右サイドユニット４１０の透明な扉枠右

サイド装飾体４１９等の装飾部材を手で掴み、すき間が発光する態様を目視できる程度にまで装飾部材を引っ張ると、装飾部材を引っ張るのを止めて、続いて、すき間に指を入れて扉枠３を開くことができるようになっている。装飾部材を手で掴んで引っ張る時間を短くするこができるため、装飾部材（扉枠右サイドユニット４１０）と扉枠３との接合部への負荷がかかる時間も短くすることができる。したがって、扉枠３の破損を抑制することができる。

【０４９３】

［扉枠の開放時］

ところで、パチンコ機１は、遊技者が遊技を行っている際に、遊技盤５の遊技領域５ａへ向かって発射した遊技球が流下しているときに他の遊技球と偶発的に障害釘に詰まる状態となることがある。この状態で遊技者が遊技球を遊技領域５ａへ向かって次々に打ち出すと、その詰まった遊技球の上にさらに遊技球が積まれ、ぶどう状に遊技球が集まった状態となる。遊技者は、ぶどう状に遊技球が集まった状態を解消するために、遊技ホールの店員等の係員を呼んでこのぶどう状に集まった遊技球を取り除いてもらうこととなる。遊技者に呼ばれた遊技ホールの店員等の係員は、扉枠３を本体枠４に対して開放するが、このとき、パチンコ機１が開放を検知すると、遊技盤５に備える各装飾基板に実装される複数のＬＥＤを全消灯する制御を行うと共に、遊技盤５に備える各可動体を、作動しているか否かを問わず、開放時における位置に維持するように制御を行うという「開放時における遊技盤の制御」を行う。このような開放時における遊技盤の制御と共に、又はこれに代えて、扉枠３に備える各装飾基板に実装される複数のＬＥＤのうち特定のＬＥＤ（例えば、音響装飾基板４６９の前面（表面）に実装される複数のＬＥＤ４６９ａ）を点灯する制御を行うと共に、扉枠３に可動体を備えている場合には、可動体を、作動しているか否かを問わず、開放時における位置に維持するように制御を行うという「開放時における扉枠の制御」を行う。

【０４９４】

扉枠３を本体枠４に対して開放する場合に、開放時における扉枠の制御を行うときには、遊技盤５に備える各装飾基板に実装される複数のＬＥＤが全消灯する状態、及び／又は扉枠３に備える各装飾基板に実装される複数のＬＥＤのうち特定のＬＥＤ（例えば、音響装飾基板４６９の前面（表面）に実装される複数のＬＥＤ４６９ａ）が扉開放を報知する報知態様で点灯する状態となる。音響装飾基板４６９の前面（表面）に実装される複数のＬＥＤ４６９ａが発光すると、上述したように、トップサイドスピーカ４６４の円柱形状に形成される磁気回路部の貫通孔を通って、透光性を有するセンターキャップから光が出射すると共に、筐体部の周方向に形成される複数の開口を通って、透光性を有する振動板から光りが出射する。さらに、トップサイドスピーカ４６４の裏面（円柱形状に形成される磁気回路部を構成するヨークの裏面）で反射してトップサイドスピーカ４６４の裏面と音響装飾基板４６９の前面（表面）との間を繰り返し反して、トップサイドスピーカ４６４の後方、つまり音響装飾基板４６９の後面（裏面）から後方へ向かって出射するため（換言すると、音響装飾基板４６９の前面（表面）に実装される複数のＬＥＤ４６９ａが発光すると、音響装飾基板４６９の周りの少なくとも一部から複数のＬＥＤ４６９ａが漏光するため（音響装飾基板４６９の背面側となる音響装飾基板４６９の後面（裏面）を覆う図示しない透明板を通して（透して）音響装飾基板４６９の周りの少なくとも一部から複数のＬＥＤ４６９ａが漏光するため））、音響装飾基板４６９の外周と扉枠トップベース４５１に形成される貫通孔４５１ｂａの内周とによるすき間、そして扉枠ベース１０１に形成される貫通孔１０１ｋを通って、扉枠ベースユニット１００の扉枠ベース１０１の後方へ出射する。

【０４９５】

つまり、音響装飾基板４６９の前面（表面）に実装される複数のＬＥＤ４６９ａは、扉枠３の前方へ向かって発光可能であると共に、扉枠３の後方へ向かって発光可能であるため、扉枠３が本体枠４に対して開放された状態（つまり、扉枠３の開放時）において、扉枠３の前面側を臨む方向と扉枠３の後面側を臨む方向とから音響装飾基板４６９の前面（表

面）に実装される複数のＬＥＤ４６９ａによる報知態様を視認することができる。換言すると、音響装飾基板４６９の前面（表面）に実装される複数のＬＥＤ４６９ａが報知態様で発光していることが扉枠３の前方からだけでなく扉枠３の後方からも視認できるように、音響装飾基板４６９の周りの少なくとも一部から複数のＬＥＤ４６９ａが漏光する配置とされている。これにより、遊技ホールにおいて、扉枠３の前面側を臨む通路側と、扉枠３の後面側を臨む通路側と、を通る遊技ホールの店員等の係員に音響装飾基板４６９の前面（表面）に実装される複数のＬＥＤ４６９ａによる報知態様を伝えることができる。したがって、扉枠３の開放時に扉枠３の前面側及び後面側から報知態様を視認することができる。また、遊技ホールにおいて、扉枠３の前面側を臨む通路側と、扉枠３の後面側を臨む通路側と、の両通路側から遊技ホールの店員等の係員に異常や不具合の発生（パチンコ機１に異常（例えば、球タンク５５２、タンクレール５５３、球誘導ユニット５７０、及び払出装置５８０等の球詰まりの発生、不正行為の検知、扉枠３の開放、本体枠４の開放、配線の断線等）または不具合（各種可動装飾体（可動体）の作動に関する不具合、各種可動装飾体（可動体）の原位置（待機位置）の検知不可等））を迅速に伝えることができ、遊技ホールの作業効率を向上させることができる。

【０４９６】

ところで、スピーカーの振動板を不正な工具でビリビリに破れば音が流れなくなるが、スピーカーの振動板がビリビリに破れていることを容易に視認できる一方、スピーカーの振動板に不正な工具で孔を開けるだけでは音が変化するものの音が流れることとなる。そこで、スピーカーの振動板を不正な工具で孔を開けてスピーカーの接続端子に接続されている配線を外したり、断線したりすることでスピーカーから音が流れないようにすると、磁石ゴトや叩きゴトを行って不正に遊技球を獲得する行為を遊技機が検知できたとしても、そもそも警告音がスピーカーから流れない。このような不正な行為を行う者が遊技機から離れると、遊技機は、遊技者待ち状態となって、無音のデモンストレーション（扉枠や遊技盤に備える複数のＬＥＤが遊技者待ち用発光態様に発光すると共に、演出画像を表示可能な演出表示装置に遊技者待ち用画像が表示される。）を繰り返し行うこととなる。そうすると、遊技ホールの店員等の係員は、このような遊技者待ち状態において、不正な工具によりスピーカーの振動板に孔が開けられてスピーカーの接続端子に接続されている配線が外されたり、断線されたりして、スピーカーから音が流れるか否かを判別することが困難となる。

【０４９７】

そこで、本実施形態では、トップサイドスピーカ４６４の振動板が針金で孔を開けられても、トップサイドスピーカ４６４の後方に音響装飾基板４６９が配置されているため、音響装飾基板４６９の前面（表面）に実装される複数のＬＥＤ４６９ａが発光すると、トップサイドスピーカ４６４の円柱形状に形成される磁気回路部の貫通孔を通って、透光性を有するセンターキャップから光が出射すると共に、筐体部の周方向に形成される複数の開口を通って、透光性を有する振動板から光りが出射する。トップサイドスピーカ４６４の振動板、及びセンターキャップが透光性を有する樹脂製（例えば、乳白色を有するポリプロピレン等）により形成されていることから、トップサイドスピーカ４６４の振動板に開けられた孔を通って出射する光は、振動板、及びセンターキャップから出射する光とくらべてスポットライト的に高輝度に輝いている存在となる。これにより、トップ下カバー４６５は、上述したように、無数の貫通孔を有した金属板からなるパンチングメタルによって形成されているため、無音のデモンストレーションを行っている場合に、トップ下カバー４６５の貫通孔を通して、トップサイドスピーカ４６４の振動板に開けられた孔の存在を、スポットライト的に高輝度に輝いている存在として発見することができる。したがって、トップサイドスピーカ４６４から音が流れているか否かの判別に寄与することができる。

【０４９８】

また、トップサイドスピーカ４６４の振動板が針金で孔を開けられて、無音のデモンストレーションを行っている場合に音響装飾基板４６９の前面（表面）に実装される複数のＬ

ＥＤ４６９ａが消灯する状態（たまたま消灯する状態を含む。）、又は無音のデモンストレーションが終了して再び無音のデモンストレーションを開始するまでの期間内において音響装飾基板４６９の前面（表面）に実装される複数のＬＥＤ４６９ａが消灯する状態であっても、トップサイドスピーカ４６４の後方に白色のレジスト液が塗布された白色塗膜が形成される音響装飾基板４６９が配置されているため、この白色塗膜により背景が白色となることによりトップサイドスピーカ４６４の振動板に開けられた孔、そしてトップ下カバー４６５に無数に形成される貫通孔を通して、白色塗膜の白色を視認することができ、トップサイドスピーカ４６４の振動板に不正に開けられた孔が視認し易くなっている。これにより、トップサイドスピーカ４６４の振動板に不正に孔が開けられているか否かを発見することができる。したがって、トップサイドスピーカ４６４から音が流れているか否かの判別に寄与することができる。

【０４９９】

また、扉枠３や遊技盤５に備える複数のＬＥＤが遊技者待ち用発光態様に発光すると共に、演出画像を表示可能な演出表示装置１６００に遊技者待ち用画像が表示されるという無音のデモンストレーションが行われることで複数のＬＥＤが遊技者待ち用発光態様に発光するため、トップサイドスピーカ４６４の振動板が針金で孔を不正に開けられても、音響装飾基板４６９の前面（表面）に実装される複数のＬＥＤ４６９ａが発する光がトップサイドスピーカ４６４の振動板に開けられた孔を通して漏れるため、トップサイドスピーカ４６４の振動板の一部が発光しているように見える。これにより、トップサイドスピーカ４６４の振動板に孔が開けられていることを発見することができる。

【０５００】

なお、トップサイドスピーカ４６４の振動板の前面に透光性を有するスピーカーネットを設けるようにしてもよい。スピーカーネットを設けることにより、トップサイドスピーカ４６４の振動板を針金で不正に侵入を妨げることができ、トップサイドスピーカ４６４の振動板に孔を開けようとする行為に時間がかかるようにすることで、このような不正行為の早期発見に寄与することができる。また、スピーカーネットが透光性を有しているため、トップサイドスピーカ４６４の透光性を有する振動板を通って出射する光の妨げとなり難い。

【０５０１】

また、トップサイドスピーカ４６４は、振動板、及びセンターキャップ等の振動部が透光性を有する樹脂製として例えば、乳白色を有するポリプロピレン等であったが、透光性を有する樹脂製として灰色有する（黒色に近い色）、赤色、桃色、空色、青色、緑色、黄色等を有するポリプロピレン等であってもよいし、透光性を有する樹脂製に代えて、透明な樹脂製としてもよい。

【０５０２】

因みに、従来より、発光装置が設けられる前枠を備える遊技機が提案されている（例えば、特開２０１８－０７９１６３号公報（段落［００２４］、及び図１））。発光装置は、遊技中に発生する演出やエラー報知等を行う。ところが、前枠を開放すると、前枠の正面側を臨む方向から発光装置の報知態様を視認することができる一方、前枠の後面側を臨む方向から発光装置の報知態様を視認することが難しいという問題があった。

【０５０３】

また、従来より、中枠に遊技盤を着脱可能に保持し、遊技盤の前面側を覆うように構成される前枠を備える遊技機が提案されている（例えば、特開２０１８－０７９１６３号公報（段落［００１９］、及び図１））。ところで、遊技ホールの店員等の係員は、前枠を開放する場合に、シリンダー錠にキーを差し込んで回動操作した後に、前枠に設けられる装飾部材を手で掴んで引っ張るため、前枠を開放する作業が多くなるほど、装飾部材と前枠との結合部に負荷が繰り返しかかることにより前枠が破損するおそれがあった。

【０５０４】

また、従来より、発光装置が設けられる前枠を備える遊技機が提案されている（例えば、特開２０１８－０７９１６３号公報（段落［００２４］、及び図１））。発光装置は、遊

技機に何らかの異常や不具合が生ずると、通常時と異なる特別な態様で発光し、異常や不具合の発生を外部に知らせることができる。ところが、従来と同様の態様では、異常や不具合の発生を外部に知らせることが十分であるとは言い難かった。

【０５０５】

また、従来より、発光装置が設けられる前枠を備える遊技機が提案されている（例えば、特開２０１８－０７９１６３号公報（段落［００１９］、及び図１））。発光装置は、遊技機に何らかの異常や不具合が生ずると、通常時と異なる特別な態様で発光し、異常や不具合の発生を外部に知らせることができる。ところが、遊技盤の後方へ向かう光が大きくなると、遊技機の前方へ向かう光が減少するため、異常や不具合の発生を外部に知らせることが十分であるとは言い難かった。

【０５０６】

また、従来より、遊技機に関する特定情報を遊技盤に設けた遊技機が提案されている（例えば、特開２０１７－０８０２７９号公報（段落［００３５］、及び図１４））。これにより、正規の遊技盤であるかどうかを外部から確認できるようになり、当該遊技機に対する不正な変更行為等を抑制することができる。ところが、従来と同様の態様では、遊技者側から特定情報が視認できることにより装飾性が低下し、遊技興趣の低下を招く虞があった。

【０５０７】

また、従来より、スピーカーを前枠に備える遊技機が提案されている（例えば、特開２０１８－０７９１６３号公報（段落［００２４］、及び図１））。この遊技機に備えるスピーカーから遊技中に発生する演出音が流れると共に、エラー報知音等も流れる。ところで、スピーカーの振動板を不正な工具でビリビリに破れば音が流れなくなるが、スピーカーの振動板がビリビリに破れていることを容易に視認できることとなる。スピーカーの振動板に不正な工具で孔を開けるだけでは音が変化するものの音が流れることとなる。そこで、スピーカーの振動板を不正な工具で孔を開けてスピーカーの接続端子に接続されている配線を外したり、断線したりすることでスピーカーから音が流れないようにすると、磁石ゴトや叩きゴトを行って不正に遊技球を獲得する行為を遊技機が検知できたとしても、警告音がスピーカーから流れない。このような不正な行為を行う者が遊技機から離れると、遊技機は、遊技者待ち状態となって、無音のデモンストレーション（発光装置が遊技者待ち用発光態様に発光すると共に、画像表示装置に遊技者待ち用画像が表示される。）を繰り返し行うこととなる。ところが、遊技ホールの店員等の係員は、このような遊技者待ち状態において、不正な工具によりスピーカーの振動板に孔が開けられてスピーカーの接続端子に接続されている配線が外されたり、断線されたりして、スピーカーから音が流れるか否かを判別することが困難であった。

【０５０８】

［３－９．扉枠の装飾］

扉枠３における装飾について、主に図７５等を参照して詳細に説明する。図７５は、各装飾基板と共に示す扉枠の正面図である。扉枠３は、図示するように、正面視中央に、ガラスユニット１６０の透明なガラス板１６２によって閉鎖されている上下に延びた略四角形の扉窓１０１ａを有している。扉枠３は、皿ユニット２００の皿左上装飾体２７１、皿右上装飾体２７６、演出操作ユニット３００の皿中央上装飾体３１２ａ、扉枠左サイドユニット４００の扉枠左サイド装飾体４０４、扉枠右サイドユニット４１０の扉枠右サイド装飾体４１９、及び扉枠トップユニット４５０の扉枠トップ装飾体４５３によって、扉窓１０１ａの外周が全周に亘って囲まれている。

【０５０９】

扉窓１０１ａの外周を囲っている皿左上装飾体２７１、皿右上装飾体２７６、皿中央上装飾体３１２ａ、扉枠左サイド装飾体４０４、扉枠右サイド装飾体４１９、及び扉枠トップ装飾体４５３は、半チューブ状に形成されているため、扉窓１０１ａの全周が蛍光灯で囲まれているような装飾を遊技者に見せることができる。

【０５１０】

扉枠３では、扉窓１０１ａの外周を囲っている皿左上装飾体２７１、皿右上装飾体２７６、皿中央上装飾体３１２ａ、扉枠左サイド装飾体４０４、扉枠右サイド装飾体４１９、及び扉枠トップ装飾体４５３の後方に、皿左上装飾基板２７３、皿右上装飾基板２７８、皿中央上装飾基板３１４、扉枠左サイド装飾基板４０２、扉枠右サイド装飾基板４１８、扉枠トップ中央装飾基板４５５、扉枠トップ左装飾基板４５６、及び扉枠トップ右装飾基板４５７が配置されているため、それら装飾基板のＬＥＤを適宜発光させることで、扉窓１０１ａの外周全体を発光装飾させたり、扉窓１０１ａの外周に沿って光が移動するように発光演出を遊技者に見せたり、することができる。

【０５１１】

扉枠３の皿ユニット２００では、上面に、上皿２０１の前後方向の距離よりも直径が大きい円環状でドーナツ形状の回転操作部３０２と、回転操作部３０２の環内に同軸状に配置された円筒状の外周押圧操作部３０３ｂと円柱状の中央押圧操作部３０３ａとからなる押圧操作部３０３とが取付けられていると共に、回転操作部３０２の下方に回転操作部３０２と同じような半円弧のドーナツ形状（半円筒状、若しくは、半チューブ状）で直径の大きな二つの皿中央上装飾体３１２ａ及び皿中央下装飾体３１２ｂが上下に二つ離間して取付けられていると共に、皿中央上装飾体３１２ａ及び皿中央下装飾体３１２ｂの両端と連続するように同じような形状の扉枠左サイドユニット４００の扉枠左サイド装飾体４０４、扉枠右サイドユニット４１０の扉枠右サイド装飾体４１９、及び扉枠トップユニット４５０の扉枠トップ装飾体４５３が遊技領域５ａの外周を囲むように扉枠ベース１０１の扉窓１０１ａの外側に取付けられている。

【０５１２】

これにより、皿ユニット２００において、回転操作部３０２と二つの皿中央上装飾体３１２ａ及び皿中央下装飾体３１２ｂとで三つのドーナツ形状の部材が上下に並んでいると共に、回転操作部３０２、外周押圧操作部３０３ｂ、及び中央押圧操作部３０３ａが同心円状に並んでいるため、見た目のインパクトを高めることができ、回転操作部３０２や押圧操作部３０３を目立たせることができる。

【０５１３】

また、皿左上装飾体２７１、皿右上装飾体２７６、及び皿中央上装飾体３１２ａの下方に配置されている皿左下装飾体２８１、皿右下装飾体２８６及び皿中央下装飾体３１２ｂを、半チューブ状のチューブの太さを若干細くしていると共に、皿中央下装飾体３１２ｂの下方に半球面状のユニット下カバー３１１を備えている。これにより、演出操作ユニット３００では下端から上方へ向かうほど大きくなっているため、上下方向に対する遠近感を強調することが可能となり、上側に配置されている遊技者が操作可能な回転操作部３０２や押圧操作部３０３を大きく見せることができ、遊技者の関心を皿ユニット２００の上面の演出操作ユニット３００における回転操作部３０２や押圧操作部３０３へ強く引付けさせて興趣の低下を抑制させることができる。

【０５１４】

更に、皿ユニット２００の上面に、ドーナツ形状の回転操作部３０２を上方へ向かうに従って前方へ位置するように延びている軸周りに回転可能に取付けており、回転操作部３０２の上面が、前端側が低くなるように傾斜した状態となるため、回転操作部３０２や押圧操作部３０３の上面が本パチンコ機１の前方に着座した遊技者の頭（顔）の方向を向くこととなり、遊技者から回転操作部３０２や押圧操作部３０３の全容を見え易くすることができ、回転操作部３０２や押圧操作部３０３を大きく見せることができる。また、上述したように、回転操作部３０２や押圧操作部３０３の全容が判り易くなるため、遊技者に対して回転操作部３０２がドーナツ形状であることを認識させ易くすることができる。従って、遊技者に対して、ドーナツ形状の回転操作部３０２が回転操作するものであることを即座に認識させることができるため、遊技者参加型演出が実行された時に、即座に遊技者が回転操作部３０２を回転操作することができ、回転操作部３０２の操作により遊技者参加型演出を楽しませて興趣の低下を抑制させることができる。

【０５１５】

また、回転操作部３０２の直径を上皿２０１の前後方向の距離よりも大きくしていると共に、皿中央上装飾体３１２ａ及び皿中央下装飾体３１２ｂの直径を回転操作部３０２よりも大きくしており、パチンコ機１の皿ユニット２００において、回転操作部３０２や皿中央上装飾体３１２ａ及び皿中央下装飾体３１２ｂの前端側が上皿２０１よりも前方へ大きく突出した状態となると共に、皿中央上装飾体３１２ａ及び皿中央下装飾体３１２ｂが回転操作部３０２の外周を装飾している状態となるため、回転操作部３０２や皿中央上装飾体３１２ａ及び皿中央下装飾体３１２ｂを大きく目立たせることができると同時に、皿中央上装飾体３１２ａ及び皿中央下装飾体３１２ｂによって回転操作部３０２周りの見栄えを良くすることができる。従って、遊技者に対して、一見して他のパチンコ機とは異なるパチンコ機１であることを認識させることができ、遊技者の関心を強く引付けさせることができると共に、遊技者に対する訴求力を高めることができ、遊技するパチンコ機として本パチンコ機１を選択させ易くすることができる。

【０５１６】

［４．本体枠の全体構成］

パチンコ機１における本体枠４の全体構成について、主に図７６乃至図８２を参照して詳細に説明する。図７６はパチンコ機における本体枠の正面図であり、図７７はパチンコ機における本体枠の背面図である。図７８は本体枠を右前から見た斜視図であり、図７９は本体枠を左前から見た斜視図であり、図８０は本体枠を後ろから見た斜視図である。図８１は本体枠を主な部材毎に分解して前から見た分解斜視図であり、図８２は本体枠を主な部材毎に分解して後ろから見た分解斜視図である。

【０５１７】

本体枠４は、遊技球Ｂを打込むことで遊技が行われる遊技領域５ａを有した遊技盤５を保持すると共に、遊技球Ｂを遊技者側へ払出したり、遊技に使用された遊技球Ｂをパチンコ機１の後方（遊技ホールの島設備側）へ排出したり、するためのものである。本体枠４は、図示するように、前方が開放された箱状に形成されており、内部に前方から遊技盤５が着脱可能に収容される。本体枠４は、正面左辺側前端の上下において、遊技ホールの島設備に取付けられる枠状の外枠２に開閉可能に取付けられると共に、開放された前面側が閉鎖されるように扉枠３が開閉可能に取付けられる。

【０５１８】

本体枠４は、後部が外枠２の枠内に挿入可能とされると共に遊技盤５の外周を支持可能とされた枠状の本体枠ベースユニット５００と、本体枠ベースユニット５００の正面視左側の上端に取付けられ外枠２の外枠上ヒンジ組立体５０に回転可能に取付けられると共に扉枠３の扉枠上ヒンジ組立体１２０が回転可能に取付けられる本体枠上ヒンジ部材５１０と、本体枠ベースユニット５００の正面視左側の下端に取付けられ外枠２の外枠下ヒンジ部材６０に回転可能に取付けられると共に扉枠３の扉枠下ヒンジ部材１２５が回転可能に取付けられる本体枠下ヒンジ組立体５２０と、を備えている。

【０５１９】

また、本体枠４は、本体枠ベースユニット５００の正面視左側面に取付けられる本体枠補強フレーム５３０と、本体枠ベースユニット５００の前面下部に取付けられており遊技盤５の遊技領域５ａ内に遊技球Ｂを打込むための球発射装置５４０と、本体枠ベースユニット５００の後側における正面視上辺及び左辺に沿って取付けられている逆Ｌ字状の払出ベースユニット５５０と、払出ベースユニット５５０の後側に取付けられており遊技者側へ遊技球Ｂを払出すための払出ユニット５６０と、本体枠ベースユニット５００の後面下部に取付けられている基板ユニット６２０と、本体枠ベースユニット５００の後側に開閉可能に取付けられ本体枠ベース５０１に取付けられた遊技盤５の後側を覆う裏カバー６４０と、本体枠ベースユニット５００の正面視右側面に取付けられており外枠２と本体枠４、及び扉枠３と本体枠４の間を施錠する施錠ユニット６５０と、を備えている。

【０５２０】

本体枠ベースユニット５００は、正面視の形状が上下に延びた長方形の枠状に形成されている本体枠ベース５０１と、扉枠３側と接続するための接続ケーブル５０３を案内する接

続ケーブル案内部材５０２と、遊技盤５を着脱可能に保持するための遊技盤ロック部材５０５と、を備えている。

【０５２１】

払出ベースユニット５５０は、本体枠ベースユニット５００の本体枠ベース５０１の後側に取付けられる払出ベース５５１と、払出ベース５５１に取付けられており左右に延びた箱状で上方へ開放されている球タンク５５２と、球タンク５５２の左側に取付けられており上方へ開放された溝状に左方へ延びているタンクレール５５３と、タンクレール５５３の上端に取付けられている第一レールカバー５５４と、第一レールカバー５５４から正面視左方に離間してタンクレール５５３の上端に取付けられている第二レールカバー５５５と、第一レールカバー５５４と第二レールカバー５５５の間の位置でタンクレール５５３の上端に取付けられている球整流部材５５６と、タンクレール５５３の下流側端に取付けられている球止部材５５７と、を備えている。

【０５２２】

払出ユニット５６０は、タンクレール５５３からの遊技球Ｂを蛇行状に下方へ誘導する球誘導ユニット５７０と、球誘導ユニット５７０により誘導された遊技球Ｂを払出制御基板６３３からの指示に基づいて一つずつ払出す払出装置５８０と、払出装置５８０を通った遊技球Ｂを下方へ誘導する上部満タン球経路ユニット６００と、上部満タン球経路ユニット６００を通った遊技球Ｂを扉枠３側又は基板ユニット６２０側へ誘導する下部満タン球経路ユニット６１０と、を備えている。

【０５２３】

基板ユニット６２０は、本体枠ベースユニット５００の本体枠ベース５０１に取付けられるスピーカユニット６２０ａと、本体枠ベース５０１の後面に取付けられるベースユニット６２０ｂと、ベースユニット６２０ｂの後側に取付けられている電源ユニット６２０ｃと、電源ユニット６２０ｃの後側に取付けられている払出制御ユニット６２０ｄと、スピーカユニット６２０ａの後面に取付けられているインターフェイスユニット６２０ｅと、を備えている。

【０５２４】

施錠ユニット６５０は、本体枠ベース５０１に取付けられるユニットベース６５１と、ユニットベース６５１から前方へ突出しており扉枠３と係止可能な複数の扉枠用鉤６５２と、ユニットベース６５１から後方へ突出しており外枠２と係止可能な複数の外枠用鉤６５３と、扉枠用鉤６５２又は外枠用鉤６５３を上下方向へ移動させる伝達シリンダ６５４と、扉枠用鉤６５２を下方へ付勢していると共に外枠用鉤６５３を上方へ付勢している錠バネ６５５と、外枠用鉤６５３を下方へ移動させる外枠用開錠レバー６５６と、を備えている。

【０５２５】

［４－１．本体枠ベースユニット］

本体枠４における本体枠ベースユニット５００について、主に図７６乃至図８４等を参照して詳細に説明する。図８３（ａ）は本体枠における正面左下隅を示す拡大斜視図であり、（ｂ）は本体枠に対して扉枠を開いた時の本体枠の正面左下隅を示す拡大斜視図である。図８４の（ａ）～（ｃ）は、本体枠に対する扉枠の開閉時における本体枠の接続ケーブル案内部材の動作を示す説明図である。本体枠ベースユニット５００は、前方から後部が外枠２の枠内に挿入されると共に、前方から挿入された遊技盤５の外周を保持するものである。

【０５２６】

本体枠ベースユニット５００は、正面視の形状が上下に延びた長方形の枠状に形成されている本体枠ベース５０１と、本体枠ベース５０１の前面における左下隅に取付けられており接続ケーブル５０３を案内する接続ケーブル案内部材５０２と、本体枠ベース５０１の前面下部に前後に延びた軸周りに回転可能に取付けられており遊技盤５を着脱可能に保持するための遊技盤ロック部材５０５と、を備えている。

【０５２７】

本体枠ベースユニット５００の本体枠ベース５０１は、正面視の形状が上下に延びた長方形に形成されているベース本体５０１ａと、ベース本体５０１ａの上端よりやや下側の位置から全高の約３／４の高さの範囲で前後に貫通しており遊技盤５が前側から挿入される遊技盤挿入口５０１ｂと、遊技盤挿入口５０１ｂの下辺を形成しており遊技盤５が載置される遊技盤載置部５０１ｃと、遊技盤載置部５０１ｃの左右方向中央から上方へ突出しており遊技盤５の下端の左右及び後方への移動を規制する遊技盤規制部５０１ｄと、を備えている。

【０５２８】

また、本体枠ベース５０１は、ベース本体５０１ａの前面における遊技盤載置部５０１ｃの正面視右下側で後方へ窪んでおり球発射装置５４０を取付けるための発射装置取付部５０１ｅと、発射装置取付部５０１ｅの正面視右側で前後に貫通しており施錠ユニット６５０の伝達シリンダ６５４が挿通されるシリンダ挿通口５０１ｆと、遊技盤載置部５０１ｃの正面視左下側で前後に貫通しており基板ユニット６２０におけるスピーカユニット６２０ａの本体枠スピーカ６２２を前方へ臨ませる円形状のスピーカ用開口部５０１ｇと、本体枠ベース５０１は、スピーカ用開口部５０１ｇの下方で後方へ窪んでいると共に左右に延びており接続ケーブル案内部材５０２が取付けられるケーブル取付凹部５０１ｈと、ケーブル取付凹部５０１ｈの正面視右端上部において前後に貫通しているケーブル挿通口５０１ｉと、を備えている。

【０５２９】

更に、本体枠ベース５０１は、ベース本体５０１ａにおける遊技盤挿入口５０１ｂの正面視右辺から後方へ板状に延出しており、右側面に施錠ユニット６５０が取付けられると共に、後端に裏カバー６４０が回動可能に取付けられる後方延出部５０１ｊと、ベース本体５０１ａの後面における正面視左端の上下両端部付近に形成されており、本体枠上ヒンジ部材５１０及び本体枠下ヒンジ組立体５２０を取付けるための上ヒンジ取付部５０１ｋ及び下ヒンジ取付部５０１ｌと、を備えている。

【０５３０】

本体枠ベース５０１には、前面における遊技盤載置部５０１ｃの下方でスピーカ用開口部５０１ｇの右方の位置に、遊技盤ロック部材５０５が前後に延びた軸周りに回転可能に取付けられる。遊技盤ロック部材５０５は、遊技盤挿入口５０１ｂに挿通された遊技盤５の前方への移動を規制可能とすることで、遊技盤挿入口５０１ｂに挿入された遊技盤５を着脱可能としている。

【０５３１】

本体枠ベース５０１のケーブル取付凹部５０１ｈは、下ヒンジ取付部５０１ｌの右端側からスピーカ用開口部５０１ｇよりも右方で遊技盤ロック部材５０５が取付けられ部位の下方の位置まで左右方向に延びている。ケーブル取付凹部５０１ｈは、接続ケーブル案内部材５０２を収容可能な大きさに形成されており、接続ケーブル案内部材５０２の右端側を上下に延びた軸周りに回転可能に取付けることができる。

【０５３２】

本体枠ベースユニット５００の接続ケーブル案内部材５０２は、左右に延びた平板状の案内本体５０２ａと、案内本体５０２ａの上下両辺において夫々前方へ突出していると共に案内本体５０２ａの右端よりも右方へ延出している帯板状の一対の枠片５０２ｂと、一対の枠片５０２ｂの右端同士を連結している円柱状の取付軸５０２ｃと、案内本体５０２ａの上下両端において前後に貫通していると共に左右方向へ列設されている複数の貫通孔５０２ｄと、を備えている。

【０５３３】

接続ケーブル案内部材５０２は、左右方向の長さが、本体枠ベース５０１のケーブル取付凹部５０１ｈの左右方向の長さよりも若干短い長さとされており、ケーブル取付凹部５０１ｈ内に収容可能な大きさに形成されている。接続ケーブル案内部材５０２は、取付軸５０２ｃが、ケーブル取付凹部５０１ｈ内における右端付近において上下に延びた軸周りに回転可能に取付けられる。これにより、接続ケーブル案内部材５０２は、左端側が前方へ

突出するように回動（ヒンジ回転）することができる。
【０５３４】
この接続ケーブル案内部材５０２は、接続ケーブル５０３を案内するためのものである。接続ケーブル５０３は、複数の配線コードからなり、一方の端部が基板ユニット６２０のインターフェイス基板６３５や本体枠４側の駆動基板ユニット１７００（後述する周辺制御基板１５１０からのコマンドに応じて表ユニット２０００や裏ユニット３０００に備えられている装飾基板、駆動モータ及び駆動ソレノイド等を駆動させる後述する演出駆動基板１７２０）に接続されると共に、反対側の端部が扉枠３の扉枠主中継基板１０４及び扉枠副中継基板１０５に接続される。
【０５３５】
続いて、接続ケーブル案内部材５０２による作用効果について説明する。接続ケーブル案内部材５０２は、図８４等に示すように、本体枠ベース５０１に対して、左右方向における扉枠３をヒンジ回転可能に取付ける側（左側）とは反対側の端部（右側端部）が、扉枠３のヒンジ軸と平行に延びた軸周りに回転可能に取付けられる。
【０５３６】
そして、本体枠４のインターフェイス基板６３５や本体枠４側の駆動基板ユニット１７００の後述する演出駆動基板１７２０と扉枠３の扉枠主中継基板１０４及び扉枠副中継基板１０５とを接続する接続ケーブル５０３は、インターフェイス基板６３５や本体枠４側の駆動基板ユニット１７００の後述する演出駆動基板１７２０に接続されている側が、接続ケーブル案内部材５０２の案内本体５０２ａの右方から左方へ延びるように案内本体５０２ａの前面に当接させた状態で、案内本体５０２ａの上下両端側に形成されている複数の貫通孔５０２ｄのうち左右方向が同じ位置の一組の貫通孔５０２ｄに挿通した結束バンド５０４により、案内本体５０２ａと一緒に締付けられることで、案内本体５０２ａに取付けられる。
【０５３７】
本体枠４の接続ケーブル案内部材５０２は、パチンコ機１に組立て扉枠３を本体枠４に対して閉じた状態で、扉枠３の扉枠主中継基板１０４及び扉枠副中継基板１０５の後方に位置している（図８４（ａ）を参照）。この状態では、接続ケーブル５０３が、接続ケーブル案内部材５０２から左方へ延び出した後、下ヒンジ取付部５０１ｌの前方で曲げ返されて扉枠３のケーブルホルダ１０３ａを通って扉枠中継基板カバー１０７内へ延出している。扉枠３のケーブルホルダ１０３ａは、接続ケーブル案内部材５０２の左端よりも左方に配置されている。
【０５３８】
この状態で、扉枠３を本体枠４に対して開くようにヒンジ回転させると、接続ケーブル案内部材５０２の左端側が、接続ケーブル５０３における扉枠３に取付けられている側によって前方へ引っ張られ、接続ケーブル案内部材５０２が右端の取付軸５０２ｃを中心にして回動することとなる。この際に、本実施形態では、扉枠３の開角度αと、接続ケーブル案内部材５０２の開角度βとの関係が、 α／２≧β （望ましくは、α／３≧β） を満たすように形成されている（図８４（ｂ）を参照）。
【０５３９】
接続ケーブル案内部材５０２の開角度βは、扉枠３が閉じている状態（扉枠３の開角度αが０度の状態）では、０度となっている。接続ケーブル案内部材５０２の開角度βは、扉枠３を開いて開角度αが大きくなるに従って、大きくなるが、開角度αがある程度（例えば、約９０度）よりも大きくなると、増加が停止するように推移する。本実施形態では、開角度βの最大角度が、４５度未満とされている。
【０５４０】
このように、扉枠３を開けた時に、接続ケーブル案内部材５０２の左端側が、本体枠ベース５０１よりも前方へ移動するように接続ケーブル案内部材５０２が回動するため、接続ケーブル案内部材５０２に接続ケーブル５０３が案内されることで、扉枠３と本体枠４との間で接続ケーブル５０３が垂れ下がってしまうのを防止することができる。

【０５４１】
開いた扉枠３を閉める時には、接続ケーブル５０３における扉枠３に取付けられている部位が相対的に後方へ移動することとなるため、接続ケーブル５０３によって接続ケーブル案内部材５０２の左端側が後方へ押圧され、接続ケーブル案内部材５０２が取付軸５０２ｃを中心にして左端側が後方へ移動するように回動することとなる。この際に、接続ケーブル案内部材５０２が、４５度未満の開角度βで開いているため、接続ケーブル案内部材５０２が扉枠３の閉じる方向への移動を阻害することはなく、扉枠３をスムーズに閉めることができる。また、接続ケーブル５０３が接続ケーブル案内部材５０２に案内されているため、扉枠３を閉める際に、接続ケーブル５０３が扉枠３と本体枠４との間に挟まれることはなく、接続ケーブル５０３に不具合が生じるのを防止することができる。

【０５４２】
また、本体枠４に対して扉枠３を閉じた時に、接続ケーブル案内部材５０２に案内されている接続ケーブル５０３を、１８０度折返していることから、接続ケーブル５０３の折返している部位に、折り癖を付けることができる。これにより、扉枠３を開くことで、接続ケーブル５０３の１８０度折返されている部位が開くように変化した時に、折り癖により接続ケーブル５０３に対して閉じようとする力が作用することとなるため、扉枠３を閉じる際に、その折り癖により接続ケーブル５０３（接続ケーブル案内部材５０２）が開く方向へ移動するのを阻止することができると共に、接続ケーブル５０３（接続ケーブル案内部材５０２）を閉じる方向へ誘導させることができ、扉枠３を円滑に閉じさせることができる。

【０５４３】
更に、扉枠３側において、折返されている接続ケーブル５０３を接続ケーブル案内部材５０２の先端よりも扉枠上ヒンジピン１２２及び扉枠下ヒンジピン１２６の中心軸（軸芯）に近い位置でケーブルホルダ１０３ａによって保持していることから、本体枠４に対して扉枠３を閉じる際に、ケーブルホルダ１０３ａによって保持されている接続ケーブル５０３により、接続ケーブル案内部材５０２の先端側を扉枠上ヒンジピン１２２及び扉枠下ヒンジピン１２６の中心軸（軸芯）側へ引寄せることができる。

【０５４４】
また、本実施形態では、接続ケーブル案内部材５０２の回転中心を通り、扉枠上ヒンジピン１２２及び扉枠下ヒンジピン１２６の中心軸（軸芯）を中心として、スピーカダクト１０３におけるケーブルホルダ１０３ａよりも扉枠上ヒンジピン１２２及び扉枠下ヒンジピン１２６の中心軸（軸芯）側で後方へ突出している部位（押圧部）を通る円に接する接線と、本体枠４の前面と交差する角度が、４５度以下となるように構成している。これにより、これにより、本体枠４に対して扉枠３を閉じる時に、押圧部が接続ケーブル５０３に当接することにより、接続ケーブル５０３を介して開いている接続ケーブル案内部材５０２の先端側を閉じる方向へ押圧することができるため、扉枠３の閉方向への移動に伴って接続ケーブル案内部材５０２をスムーズに閉じさせることができ、扉枠３を確実に閉じることができる。また、扉枠３の開閉に伴って回転（開閉）する接続ケーブル案内部材５０２の最大開角度βを、４５度以下とすることができるため、扉枠３を閉じる際に、接続ケーブル案内部材５０２を閉じる方向へ確実に回転させることができ、上述と同様の作用効果を奏することができる。

【０５４５】
［４－２．本体枠上ヒンジ部材］
本体枠４における本体枠上ヒンジ部材５１０について、主に図８１及び図８２等を参照して詳細に説明する。本体枠上ヒンジ部材５１０は、本体枠ベースユニット５００の本体枠ベース５０１における上ヒンジ取付部５０１ｋに取付けられ、外枠２の外枠上ヒンジ組立体５０に回転可能に取付けられると共に、扉枠３の扉枠上ヒンジ組立体１２０を回転可能に取付けるものである。

【０５４６】
本体枠上ヒンジ部材５１０は、水平に延びた平板状の板材の後部が下方へＬ字状に折り曲

げられている上ヒンジ本体５１１と、上ヒンジ本体５１１の前端から上方へ円柱状に突出しており外枠上ヒンジ組立体５０に軸支される本体枠上ヒンジピン５１２と、を備えている。上ヒンジ本体５１１は、水平に延びた部位における本体枠上ヒンジピン５１２の正面視左側で上下方向に貫通しており扉枠上ヒンジ組立体１２０を軸支するための扉枠用上ヒンジ孔５１１ａを備えている。

【０５４７】

本体枠上ヒンジ部材５１０は、上ヒンジ本体５１１における下方へ折り曲げられて上下に延びている部位が、本体枠ベースユニット５００の本体枠ベース５０１における上ヒンジ取付部５０１ｋに取付けられる。本体枠上ヒンジ部材５１０は、本体枠上ヒンジピン５１２が、外枠上ヒンジ組立体５０における外枠上ヒンジ部材５１の軸受溝５１ｃ内に挿入されて軸支される。上ヒンジ本体５１１の扉枠用上ヒンジ孔５１１ａには、扉枠３の扉枠上ヒンジ組立体１２０における扉枠上ヒンジピン１２２が下方から回転可能に挿入される。

【０５４８】

この本体枠上ヒンジ部材５１０は、本体枠下ヒンジ組立体５２０と協働して、本体枠４を外枠２に対してヒンジ回転可能に取付けることができると共に、本体枠４に対して扉枠３をヒンジ回転可能に取付けることができる。

【０５４９】

［４－３．本体枠下ヒンジ組立体］

本体枠４における本体枠下ヒンジ組立体５２０について、主に図８１及び図８２等を参照して詳細に説明する。本体枠下ヒンジ組立体５２０は、本体枠ベースユニット５００の本体枠ベース５０１における下ヒンジ取付部５０１ｌに取付けられ、外枠２の外枠下ヒンジ部材６０に回転可能に取付けられると共に、扉枠３の扉枠下ヒンジ部材１２５が回転可能に取付けられる。

【０５５０】

本体枠下ヒンジ組立体５２０は、水平に延びた平板状の板材の後部が上方へＬ字状に折り曲げられている下ヒンジ第一本体５２１と、下ヒンジ第一本体５２１の上側に配置されており水平に延びた平板状の板材の後部が上方へＬ字状に折り曲げられている下ヒンジ第二本体５２２と、を備えている。本体枠下ヒンジ組立体５２０は、下ヒンジ第一本体５２１の水平に延びている部位から上方へ間隔をあけて下ヒンジ第二本体５２２の水平に延びている部位が配置されていると共に、下ヒンジ第一本体５２１の垂直に延びている部位の前面に、下ヒンジ第二本体５２２の垂直に延びている部位が当接している。

【０５５１】

下ヒンジ第一本体５２１は、水平に延びている部位の前端付近で上下に貫通しており外枠２の外枠下ヒンジ部材６０における外枠下ヒンジピン６０ｃが下方から挿入される外枠用下ヒンジ孔５２１ａを有している。外枠用下ヒンジ孔５２１ａは、本体枠上ヒンジ部材５１０の本体枠上ヒンジピン５１２と同軸上に形成されている。

【０５５２】

下ヒンジ第二本体５２２は、水平に延びている部位の前端付近で上下に貫通しており扉枠３の扉枠下ヒンジ部材１２５の扉枠下ヒンジピン１２６が上方から挿入される扉枠用下ヒンジ孔５２２ａと、水平に延びている部位の左辺における扉枠用下ヒンジ孔５２２ａよりも後側の位置から上方へ延出しており扉枠３の回動範囲を規制するための規制片５２２ｂと、を備えている。扉枠用下ヒンジ孔５２２ａは、本体枠上ヒンジ部材５１０の上ヒンジ本体５１１における扉枠用上ヒンジ孔５１１ａと同軸上に形成されている。

【０５５３】

本体枠下ヒンジ組立体５２０は、下ヒンジ第一本体５２１と下ヒンジ第二本体５２２とにおける垂直に延びている部位が、本体枠ベースユニット５００の本体枠ベース５０１における下ヒンジ取付部５０１ｌに取付けられる。本体枠下ヒンジ組立体５２０は、本体枠上ヒンジ部材５１０と協働して、本体枠４を外枠２に対してヒンジ回転可能に取付けることができると共に、本体枠４に対して扉枠３をヒンジ回転可能に取付けることができる。

【０５５４】

［４－４．本体枠補強フレーム］
本体枠４における本体枠補強フレーム５３０について、主に図８１及び図８２等を参照して詳細に説明する。本体枠補強フレーム５３０は、本体枠ベースユニット５００における本体枠ベース５０１の左側面に取付けられる。本体枠補強フレーム５３０は、平面視の断面形状が、右側が開放されたコ字状に形成されており、一定の断面形状で上下に延びている。本実施形態では、本体枠補強フレーム５３０が、金属の押出型材によって形成されている。
【０５５５】
本体枠補強フレーム５３０には、前端から右方へ延びている部位の後側に、本体枠ベース５０１の遊技盤挿入口５０１ｂに挿入された遊技盤５が前方及び上下に移動するのを規制する左位置規制部材５３１が、上下に離間して二つ取付けられている。
【０５５６】
本体枠補強フレーム５３０は、平面視において右側が開放されたコ字状に形成されている前側に、右方へ開放されていると共に上下に延びている溝部５３０ａを有している。この溝部５３０ａは、本体枠４に対して扉枠３を閉じた時に、扉枠３における扉枠補強ユニット１１０の左補強フレーム１１１の後部左端が挿入されるものである。溝部５３０ａ内に左補強フレーム１１１が挿入されることで、平面視において、本体枠補強フレーム５３０と左補強フレーム１１１との間の隙間が蛇行した状態となり、パチンコ機１の左側面から不正な工具が内部に挿入されることを防止することができる。本体枠補強フレーム５３０は、本体枠ベースユニット５００の本体枠ベース５０１の左側（ヒンジ側）を補強していると共に、外枠２と本体枠４の間を通した左側からの本体枠４内（遊技盤５）への不正な工具の差し込みを防止している。
【０５５７】
［４－５．球発射装置］
本体枠４における球発射装置５４０について、主に図８５等を参照して詳細に説明する。図８５（ａ）は本体枠における球発射装置を前から見た斜視図であり、（ｂ）は球発射装置を後ろから見た斜視図である。球発射装置５４０は、本体枠ベースユニット５００の前面下部に取付けられており、扉枠３における皿ユニット２００の上皿２０１に貯留されている遊技球Ｂを、本体枠４に取付けられた遊技盤５の遊技領域５ａ内に打込むためのものである。球発射装置５４０は、扉枠３の前面右下隅のハンドルユニット１８０のハンドル１８２の回動角度に応じた強さで遊技球Ｂを打込むことができる。
【０５５８】
球発射装置５４０は、本体枠ベースユニット５００における本体枠ベース５０１の発射装置取付部５０１ｅに取付けられる平板状の発射ベース５４１と、発射ベース５４１の正面視右部の後面に取付けられており回動軸が発射ベース５４１を貫通して前方へ延出しているロータリーソレノイドからなる発射ソレノイド５４２と、発射ソレノイド５４２の回転軸に基端が取付けられている打球槌５４３と、打球槌５４３の先端付近から左斜め上方へ延出するように発射ベース５４１の前面に取付けられており遊技球Ｂが転動可能な発射レール５４４と、を備えている。
【０５５９】
球発射装置５４０は、扉枠３の球送給ユニット１４０から遊技球Ｂが発射レール５４４の上面右端に供給されるようになっており、発射レール５４４の上面右端に遊技球Ｂが供給されている状態で、ハンドル１８２を回動操作すると、その回動操作角度に応じた強さで発射ソレノイド５４２が駆動して、打球槌５４３により遊技球Ｂを打球する。そして、打球槌５４３により打たれた遊技球Ｂは、発射レール５４４を通って遊技盤５の外レール１００１及び内レール１００２に案内されて遊技領域５ａ内に打込まれる。
【０５６０】
なお、遊技球Ｂの打込強さ等の関係で、打球した遊技球Ｂが遊技領域５ａ内に到達しなかった場合は、発射レール５４４と遊技盤５（外レール１００１及び内レール１００２）との間から、下方のファールカバーユニット１５０のファール球受口１５０ｃへ落下し、フ

ァールカバーユニット１５０内を通って下皿２０２に排出される。
【０５６１】
［４－６．払出ベースユニット］
本体枠４における払出ベースユニット５５０について、主に図８６等を参照して詳細に説明する。図８６（ａ）は本体枠の払出ベースユニットを前から見た斜視図であり、（ｂ）は払出ベースユニットを後ろから見た斜視図である。払出ベースユニット５５０は、逆Ｌ字状に形成されており、本体枠ベースユニット５００の後側に取付けられる。
【０５６２】
払出ベースユニット５５０は、本体枠ベースユニット５００における本体枠ベース５０１の後側に取付けられる払出ベース５５１を備えている。払出ベース５５１は、前後方向が略一定の幅で左右に延びている天板部５５１ａと、天板部５５１ａの正面視左辺から前後方向の幅が天板部と略同じ幅で下方へ長く延びている左側板部５５１ｂと、天板部５５１ａの正面視右辺から前後方向の幅が天板部５５１ａと略同じ幅で下方へ短く延びている右側板部５５１ｃと、天板部５５１ａの後辺から右側板部５５１ｃの下辺と同じ位置まで下方へ延びている背板上部５５１ｄと、左側板部５５１ｂの後辺よりも前方寄りの位置から右方へ略一定の幅で下端付近まで延びている背板左部５５１ｅと、背板左部５５１ｅの右辺から後方へ左側板部５５１ｂの後辺と同じ位置まで延びている内側板部５５１ｆと、左側板部５５１ｂの下辺の前部から右方へ背板左部５５１ｅの右辺と略同じ位置まで延びている底板部５５１ｇと、底板部５５１ｇの右辺と内側板部５５１ｆの下辺とを連結している連結板部５５１ｈと、を備えている。払出ベース５５１は、正面視において逆Ｌ字状に形成されており、前方とＬ字の内方へ開放された箱状に形成されている。
【０５６３】
払出ベース５５１は、天板部５５１ａが本体枠ベース５０１の遊技盤挿入口５０１ｂの左右方向の幅と略同じ長さで左右に延びていると共に、左側板部５５１ｂが遊技盤挿入口５０１ｂの上下方向の高さと略同じ長さで上下に延びている。払出ベース５５１は、天板部５５１ａ、左側板部５５１ｂ、及び右側板部５５１ｃの前端が本体枠ベース５０１の後側に取付けられる。
【０５６４】
また、払出ベース５５１は、左側板部５５１ｂ、背板左部５５１ｅ、及び内側板部５５１ｆによって、後方へ開放されており上下に延びている浅い凹部状の部位を備えており、その部位に払出ユニット５６０が取付けられる。また、払出ベース５５１は、内側板部５５１ｆの正面視右側面の上部において右方へ突出しており、裏カバー６４０が取付けられる裏カバー取付部５５１ｉを有している。
【０５６５】
払出ベースユニット５５０は、払出ベース５５１の天板部５５１ａの上面に取付けられており左右に延びた箱状で上方へ開放されている球タンク５５２と、払出ベース５５１の左右に延びている部位の上側における球タンク５５２の左側に取付けられており上方へ開放された溝状に左方へ延びているタンクレール５５３と、を備えている。
【０５６６】
また、払出ベースユニット５５０は、タンクレール５５３の上端における左右方向の途中に取付けられている第一レールカバー５５４と、第一レールカバー５５４から正面視左方に離間してタンクレール５５３の上端に取付けられておりタンクレール５５３の左端まで延びている第二レールカバー５５５と、第一レールカバー５５４と第二レールカバー５５５の間の位置でタンクレール５５３の上端に取付けられている球整流部材５５６と、タンクレール５５３の下端における正面視左端付近に取付けられている球止部材５５７と、を備えている。
【０５６７】
球タンク５５２は、左右方向が払出ベース５５１の天板部５５１ａの左右方向の幅の約半分の長さに形成されていると共に、前後方向が天板部５５１ａの前後方向の奥行よりも短い長さに形成されている。球タンク５５２は、天板部５５１ａの上面において、左右方向

の右寄りの位置に取付けられている。球タンク５５２の底面は、左端側が低くなるように傾斜している。球タンク５５２は、左端側がタンクレール５５３と連通している。

【０５６８】

タンクレール５５３は、払出ベース５５１の天板部５５１ａの上面における左右方向中央より左側の後端付近に取付けられている。タンクレール５５３は、平面視の形状が、球タンク５５２と連通している右端から左方且つ後方へ斜めで前後方向の奥行が遊技球Ｂの外径の数倍の奥行から略一つ分の奥行になるように延びた後に、前後方向の奥行が遊技球Ｂの外径よりも若干大きい奥行で左方へ真直ぐに延びた形状に形成されている。タンクレール５５３は、左端側が低くなるように底面が傾斜しており、底面の左端が遊技球Ｂの外径よりも若干大きい大きさで下方へ向かって開口している。タンクレール５５３の底面の左端の開口が、払出ユニット５６０の球誘導ユニット５７０における誘導通路５７０ａの上端開口と連通している。

【０５６９】

また、タンクレール５５３は、左方へ真直ぐに延びている部位の上端が、左端側の高さが遊技球Ｂの外径よりも若干大きい高さとなるように、底面よりも水平に対して急な角度で左端側が低くなるように傾斜している。タンクレール５５３は、左方へ真直ぐに延びている部位の後端が、天板部５５１ａの後辺と略一致するように天板部５５１ａの上面に取付けられる。また、タンクレール５５３は、左方へ真直ぐ延びている部位の上端に、第一レールカバー５５４、第二レールカバー５５５、球整流部材５５６、及び球止部材５５７が取付けられる。

【０５７０】

第一レールカバー５５４及び第二レールカバー５５５は、タンクレール５５３における左方へ真直ぐに延びている部位の上端に取付けられる。第一レールカバー５５４及び第二レールカバー５５５は、タンクレール５５３の上端の前後方向の奥行が、タンクレール５５３内の遊技球Ｂの圧力によって、広がったり、狭くなったりするのを防止するためのものである。

【０５７１】

球整流部材５５６は、タンクレール５５３の上端における第一レールカバー５５４と第二レールカバー５５５との間に部位において、第一レールカバー５５４側の端部が前後方向に延びた軸周りに対して回転可能に取付けられている。球整流部材５５６は、タンクレール５５３内へ突出し左右方向に延びている整流片５５６ａを備えている（図９２を参照）。この整流片５５６ａによって上下二段になって流通している遊技球Ｂの上段側の遊技球Ｂの流れを遅らせて、下流側では一段となって流れるように整流することで、タンクレール５５３内の高さが低くなっても球詰りしないようにしている。

【０５７２】

球止部材５５７は、タンクレール５５３の下面における正面視左端付近において、左右方向へスライド可能に取付けられており、左方へスライドさせることで、タンクレール５５３の底面左端の開口を閉鎖して、タンクレール５５３から下流の払出ユニット側へ遊技球Ｂが流通しないようにすることができる。

【０５７３】

更に、払出ベースユニット５５０は、払出ベース５５１の左右に延びている部位の上面における球タンク５５２の正面視左方に取付けられている外部端子板５５８を、更に備えている。外部端子板５５８は、パチンコ機１とパチンコ機１が設置される遊技ホールの島設備との間で電気的な接続を行うためのものである。外部端子板５５８は、図示は省略するが、本体枠ベース５０１の遊技盤挿入口５０１ｂ側へ臨んだアース接続部を備えている。アース接続部には、遊技盤５側から延びたアース線が接続される。

【０５７４】

［４－７．払出ユニットの全体構成］

本体枠４における払出ユニット５６０の全体構成について、主に図８７及び図８８等を参照して詳細に説明する。図８７（ａ）は本体枠における払出ユニットを前から見た斜視図

であり、（ｂ）は払出ユニットを後ろから見た斜視図である。図８８（ａ）は払出ユニットを主な構成毎に分解して前から見た分解斜視図であり、（ｂ）は払出ユニットを主な構成毎に分解して後ろから見た分解斜視図である。払出ユニット５６０は、払出ベースユニット５５０の払出ベース５５１の背板左部５５１ｅの後面に取付けられるものである。

【０５７５】

払出ユニット５６０は、タンクレール５５３からの遊技球Ｂを蛇行状に下方へ誘導する球誘導ユニット５７０と、球誘導ユニット５７０の下側に配置されており球誘導ユニット５７０により誘導された遊技球Ｂを払出制御基板６３３からの指示に基づいて一つずつ払出す払出装置５８０と、払出装置５８０を通った遊技球Ｂを下方へ誘導する上部満タン球経路ユニット６００と、上部満タン球経路ユニット６００を通った遊技球Ｂを扉枠３側又は基板ユニット６２０側へ誘導する下部満タン球経路ユニット６１０と、を備えている。

【０５７６】

球誘導ユニット５７０は、タンクレール５５３により一列に整列された遊技球Ｂを、払出装置５８０へ供給する。払出装置５８０は、球誘導ユニット５７０から供給された遊技球Ｂが流通可能な払出通路５８０ａと、払出通路５８０ａの途中から分岐している球抜通路５８０ｂとを有しており、通常の状態では、払出制御基板６３３からの指示に基づいて払出通路５８０ａから上部満タン球経路ユニット６００側へ遊技球Ｂを放出し、球抜レバー５９３が操作される球抜通路５８０ｂから上部満タン球経路ユニット６００側へ遊技球Ｂを放出するものである。

【０５７７】

上部満タン球経路ユニット６００は、払出装置５８０の払出通路５８０ａから放出された遊技球Ｂと、球抜通路５８０ｂから放出された遊技球Ｂとを、分けて下方へ誘導するものである。下部満タン球経路ユニット６１０は、上部満タン球経路ユニット６００を介して、払出装置５８０の払出通路５８０ａから放出された遊技球Ｂを扉枠３側へ誘導し、球抜通路５８０ｂから放出された遊技球Ｂを基板ユニット６２０側へ誘導するものである。

【０５７８】

［４－７ａ．球誘導ユニット］

払出ユニット５６０における球誘導ユニット５７０について、主に図８７及び図８８等を参照して詳細に説明する。球誘導ユニット５７０は、払出ベースユニット５５０における払出ベース５５１の背板左部５５１ｅの後面上部に後方から取付けられ、タンクレール５５３からの遊技球Ｂを受取って払出装置５８０側へ遊技球Ｂを誘導するためのものである。

【０５７９】

球誘導ユニット５７０は、遊技球Ｂが流通可能な蛇行状に延びた誘導通路５７０ａを有しており前方へ開放されている箱状の誘導ユニットベース５７１と、誘導ユニットベース５７１の前側を閉鎖している平板状の誘導通路前蓋５７２と、誘導通路５７０ａ内を流通する遊技球Ｂにより可動する可動片部材５７３と、可動片部材５７３の可動を検知することで誘導通路５７０ａ内の遊技球Ｂの有無を検知する球切検知センサ５７４と、を備えている（図９２を参照）。

【０５８０】

球誘導ユニット５７０は、誘導ユニットベース５７１及び誘導通路前蓋５７２の正面視の形状が、上下に延びた四角形に形成されている。誘導通路５７０ａは、誘導ユニットベース５７１の上面の左端付近において上方へ開口しており、上端から誘導ユニットベース５７１の高さ方向中央付近まで垂直に下方へ延びた後に、右方へ屈曲し、誘導ユニットベース５７１の左右方向の幅の間で折返しを繰返しながら蛇行状に下方へ延びて、誘導ユニットベース５７１の下面の左端付近において下方へ開口している。

【０５８１】

誘導通路５７０ａは、遊技球Ｂが流通する流通方向に対して、前後右方の奥行と、左右方向の幅とが、遊技球Ｂの外径よりも若干大きく形成されており、遊技球Ｂを一列で誘導することができる。

【０５８２】

球誘導ユニット５７０は、上部付近において、可動片部材５７３が誘導通路５７０ａ内へ進退可能に取付けられている。詳しくは、可動片部材５７３は、上部が誘導通路５７０ａの正面視右外側の部位で前後に延びた軸周りに回転可能に取付けられており、自重により下端の一部が誘導通路５７０ａ内へ突出するように形成されている。この可動片部材５７３は、誘導通路５７０ａ内へ突出している部位に遊技球Ｂが当接することで、突出している部位が遊技球Ｂに押されて誘導通路５７０ａ内から後退して突出していない状態となる。

【０５８３】

球切検知センサ５７４は、可動片部材５７３の一部が誘導通路５７０ａ内へ突出している時には、可動片部材５７３を検知せず、可動片部材５７３の一部が誘導通路５７０ａ内から後退して突出していない時には、可動片部材５７３を検知する。従って、球切検知センサ５７４は、誘導通路５７０ａ内に遊技球Ｂが存在している時には検知の状態となり、誘導通路５７０ａ内に遊技球Ｂが存在していない時には非検知の状態となる。

【０５８４】

球誘導ユニット５７０は、本体枠４に組立てた状態で、誘導通路５７０ａの上流端が、タンクレール５５３の下流端と連通していると共に、誘導通路５７０ａの下流端が、払出装置５８０の払出通路５８０ａの上流端と連通している。球誘導ユニット５７０は、遊技球Ｂを誘導する誘導通路５７０ａが蛇行状に延びていることから、球誘導ユニット５７０の全高によりも誘導通路５７０ａが長く延びており、誘導通路５７０ａ内に多くの遊技球Ｂを貯留することができる。また、球誘導ユニット５７０は、球切検知センサ５７４によって誘導通路５７０ａ内の遊技球Ｂの有無を検知することができるため、誘導通路５７０ａを介して球タンク５５２内の遊技球Ｂの有無を検知することができる。

【０５８５】

［４－７ｂ．払出装置］

払出ユニット５６０における払出装置５８０について、主に図８７乃至図９０等を参照して詳細に説明する。図８９は、払出ユニットの払出装置を払出羽根の前後方向中央で切断した背面断面図である。図９０（ａ）は球抜可動片が開状態の時に払出装置を払出羽根の前後方向中央で切断した背面断面図であり、（ｂ）は（ａ）におけるＡ－Ａ線で切断した断面図である。払出装置５８０は、払出ベースユニット５５０の払出ベース５５１における背板左部５５１ｅの後面の球誘導ユニット５７０の下側に後方から着脱可能に取付けられる。

【０５８６】

払出装置５８０は、後方へ開放された箱状で遊技球Ｂが流通可能な払出通路５８０ａ及び払出通路５８０ａの途中から分岐している球抜通路５８０ｂを有している払出装置本体５８１と、払出装置本体５８１を後側から閉鎖している平板状の払出装置後蓋５８２と、払出装置本体５８１の前側に取付けられており後方へ開放された浅い箱状の払出装置前蓋５８３と、を備えている。

【０５８７】

また、払出装置５８０は、払出装置本体５８１の後面に取付けられており回転軸が払出装置本体５８１と払出装置前蓋５８３との間に突出している払出モータ５８４と、払出モータ５８４の回転軸に取付けられている平歯車状の駆動ギア５８５と、駆動ギア５８５と噛合しており払出装置本体５８１と払出装置前蓋５８３とによって回転可能に取付けられている平歯車状の第一伝達ギア５８６と、第一伝達ギア５８６と噛合しており払出装置本体５８１と払出装置前蓋５８３とによって回転可能に取付けられている平歯車状の第二伝達ギア５８７と、第二伝達ギア５８７と噛合している平歯車状の払出ギア５８８ａ及び払出ギア５８８ａよりも外方へ延出している複数の検知片５８８ｂを有し払出装置本体５８１と払出装置前蓋５８３との間で回転可能に取付けられている払出ギア部材５８８と、払出装置本体５８１と払出装置後蓋５８２との間で払出ギア部材５８８と一体回転し払出通路５８０ａ内に突出している複数の羽根片５８９ａを有した払出羽根５８９と、払出装置本体５８１の後側に取付けられており払出ギア部材５８８の検知片５８８ｂを検知する羽根回転検知センサ５９０と、を備えている。

【０５８８】
更に、払出装置５８０は、払出通路５８０ａの下流端において払出装置本体５８１と払出装置後蓋５８２とによって取付けられており遊技球Ｂを検知する払出検知センサ５９１と、払出装置本体５８１と払出装置後蓋５８２とによって払出通路５８０ａから分岐する部位で球抜通路５８０ｂを開閉可能に取付けられている球抜可動片５９２と、球抜可動片５９２が球抜通路５８０ｂを閉鎖している位置で保持可能とされており払出装置本体５８１と払出装置後蓋５８２とによって上下方向へスライド可能に取付けられている球抜レバー５９３と、を備えている。
【０５８９】
払出装置５８０は、平面視の形状が上下に延びた四角形に形成されている。払出装置５８０は、左右方向の幅が、球誘導ユニット５７０の左右方向の幅よりも正面視右方へ大きく形成されている。
【０５９０】
払出装置５８０の払出通路５８０ａは、図８９に示すように、背面視において、上流端が左右方向の中央から左寄りの位置で上方へ開口しており、下流端が左右方向の右端付近の位置で下方へ開口している。払出通路５８０ａは、上流端から下方へ向かうに従って少しずつ左方へ移動するように上から全高の約１／３の高さほど下方へ斜めに延び、そこから右方やや斜め下へ折れ曲がった後に、左右の幅の約１／３のところで折れ曲がって払出羽根５８９の中心（回転軸）へ向かうように下方へ略垂直に延びている。そして、払出羽根５８９の中心よりも上側において、遊技球Ｂの外径よりも若干大きい幅で背面視右方へ折れ曲がった後に、払出羽根５８９の外周との間に遊技球Ｂよりも若干大きい隙間が形成されるように払出羽根５８９と同心円の円弧状に下方へ延びた上で、払出羽根５８９の中心よりも背面視右方の位置で下流端まで下方へ垂直に延びている。
【０５９１】
払出通路５８０ａ内において、払出羽根５８９よりも下方で下流端の直上に払出検知センサ５９１が配置されている。
【０５９２】
球抜通路５８０ｂは、払出通路５８０ａ内における上流端から斜め下方へ延びて右方へ折れ曲がっている部位で分岐して、背面視左辺に沿って下端まで垂直に延びており、底面の背面視における左端付近で下方へ開口している。
【０５９３】
払出装置本体５８１及び払出装置後蓋５８２は、払出通路５８０ａと球抜通路５８０ｂとが分岐している部位における球抜可動片５９２が取付けられている側において、互いに対向し遊技球Ｂの外径よりも狭い隙間を形成するように夫々から後方及び前方へ突出していると共に、夫々が払出通路５８０ａと球抜通路５８０ｂの背面視における左側壁と連続するように形成されている本体側ガイド壁５８１ａ及び後蓋側ガイド壁５８２ａを備えている。本体側ガイド壁５８１ａ及び後蓋側ガイド壁５８２ａは、払出通路５８０ａにおける球抜通路５８０ｂと分岐して上から約１／３の高さの位置で背面視右方へ延びている部位の背面視左方の位置に形成されている。本体側ガイド壁５８１ａ及び後蓋側ガイド壁５８２ａは、背面視において左斜め上へ窪むように湾曲しており、主に球抜通路５８０ｂの側壁を構成するように形成されている。本体側ガイド壁５８１ａと後蓋側ガイド壁５８２ａとの間を通って球抜可動片５９２が回動する。
【０５９４】
払出モータ５８４は、払出装置本体５８１における払出通路５８０ａが上流端から斜め下方へ延びている部位の背面視右方に取付けられている。駆動ギア５８５、第一伝達ギア５８６、第二伝達ギア５８７、及び払出ギア部材５８８は、払出装置本体５８１の前方に配置されており、前側が払出装置前蓋５８３によって被覆されている。払出ギア部材５８８は、外方へ延出している平板状の検知片５８８ｂが、周方向へ１２０度の角度の間隔で三つ備えられている。
【０５９５】

払出羽根５８９は、払出装置本体５８１と払出装置後蓋５８２との間に配置されている。払出羽根５８９は、外方へ平板状に延出している複数の羽根片５８９ａが、周方向へ１２０度の角度の間隔で三つ備えられている。羽根片５８９ａは、払出通路５８０ａ内における上方から回転軸に向かって延びた後に背面視右方へ延びている部位において、払出通路の側壁との間が遊技球Ｂの外径よりも狭くなるように、払出通路５８０ａ内へ突出している。払出羽根５８９は、三つの羽根片５８９ａの間に、中心側へ遊技球Ｂの半径よりも若大きい半径の円弧で窪んだ球収容部５８９ｂを備えている。この球収容部５８９ｂには、遊技球Ｂを一つのみ収容可能とされている。これにより、払出羽根５８９は、羽根片５８９ａによって払出通路５８０ａ内の遊技球Ｂが、払出羽根５８９よりも下流側へ移動するのを規制することができると共に、背面視時計回りの方向へ回転することで球収容部５８９ｂに収容された遊技球Ｂを下流側へ移動させることができる。

【０５９６】

払出ギア部材５８８と払出羽根５８９は、払出装置後蓋５８２と払出装置前蓋５８３とによって同軸上で一体回転可能に取付けられている。羽根回転検知センサ５９０は、背面視において、払出ギア部材５８８の回転軸の背面視左方に配置されている。羽根回転検知センサ５９０は、払出羽根５８９と一体回転する払出ギア部材５８８の検知片５８８ｂを検知することで、払出羽根５８９の回転を検知するためのものである。

【０５９７】

球抜可動片５９２は、上端が、本体側ガイド壁５８１ａ及び後蓋側ガイド壁５８２ａの上端において前後に延びた軸周りに回転可能に取付けられている。球抜可動片５９２は、く字状に屈曲しており、窪んでいる側が払出通路５８０ａ内を向くように取付けられている。球抜可動片５９２は、前後方向の奥行が、本体側ガイド壁５８１ａと後蓋側ガイド壁５８２ａとの間の隙間よりも小さく形成されており、本体側ガイド壁５８１ａ及び後蓋側ガイド壁５８２ａの間の隙間を通って、球抜通路５８０ｂ内へ突出したり球抜通路５８０ｂ外へ後退したりすることができる。

【０５９８】

球抜レバー５９３は、球抜可動片５９２の上端付近の背面視左方において上下方向へスライド可能に、払出装置本体５８１及び払出装置後蓋５８２に取付けられている。球抜レバー５９３は、一部が払出装置後蓋５８２を貫通して後方へ突出しており、その突出している部位を操作することで、スライドさせることができる。球抜レバー５９３は、下降端に位置させることで、下部が球抜可動片５９２と当接可能となり、球抜可動片５９２の背面視時計回りの方向への回動を規制することができ、球抜可動片５９２によって球抜通路５８０ｂを閉鎖させることができる。また、球抜レバー５９３は、上昇端に位置させることで、球抜可動片５９２を球抜通路５８０ｂの外側へ回動できるようにすることができ、球抜通路５８０ｂを開くことができる（図９０を参照）。

【０５９９】

球抜レバー５９３を上昇させて球抜可動片５９２を回動可能な状態とすると、球抜可動片５９２の上流側で数珠繋ぎのような状態となっていた遊技球Ｂが、球抜可動片５９２を越えて球抜通路５８０ｂ側へ流下することとなる。この際に、球抜通路５８０ｂが払出通路５８０ａの上流側から真直ぐに直線状に延びているため、払出通路５８０ａの上流から流下してきた遊技球Ｂが、真直ぐに球抜通路５８０ｂ側へ流下すると共に、球抜通路５８０ｂの下流側が島設備側に連通していることから、払出羽根５８９のように遊技球Ｂの流れを抑制するようなものがないため、遊技球Ｂが払出通路５８０ａ側よりも早く流下することとなる。

【０６００】

このように、球抜可動片５９２を回動可能としている状態では、球抜通路５８０ｂ内を遊技球Ｂが早い速度で流下することから、球抜通路５８０ｂ内に突出している球抜可動片５９２の下端側に遊技球Ｂが勢い良く当接することとなるが、球抜可動片５９２が払出装置本体５８１の本体側ガイド壁５８１ａと払出装置後蓋５８２の後蓋側ガイド壁５８２ａとの間を通して球抜通路５８０ｂの内面よりも外側へ移動することができることから、その

当接の力によって球抜可動片５９２が球抜通路５８０ｂの外側へ移動することとなるため、球抜可動片５９２が球抜通路５８０ｂの壁面と遊技球Ｂとの間に挟まれることはなく、遊技球Ｂにより球抜可動片５９２に強い力が作用しないようにすることができ、遊技球Ｂの衝突による球抜可動片５９２の耐久性の低下や破損を抑制させることができる。

【０６０１】

このようなことから、球抜可動片５９２を破損し難くすることができることから、球抜通路５８０ｂの下流側の島設備側へより多くの遊技球Ｂをより早く排出させることができるため、パチンコ機１の交換やメンテナンス等にかかる時間の増加を抑制させることができ、遊技ホール側の負担を軽減させることができる。

【０６０２】

また、球抜可動片５９２が回動可能な状態の時に、球抜可動片５９２が遊技球Ｂよりも狭い間隔の本体側ガイド壁５８１ａと後蓋側ガイド壁５８２ａとの間を通して球抜通路５８０ｂの外側へ移動するため、球抜通路５８０ｂ内に突出している球抜可動片５９２に遊技球Ｂが当接することで球抜可動片５９２が本体側ガイド壁５８１ａと後蓋側ガイド壁５８２ａとの間を通して外側へ移動する際に、球抜可動片５９２と一緒に遊技球Ｂが本体側ガイド壁５８１ａと後蓋側ガイド壁５８２ａとの間側へ移動しても、遊技球Ｂよりも間隔の狭い本体側ガイド壁５８１ａと後蓋側ガイド壁５８２ａとの間により、遊技球Ｂのみが外側への移動を阻止することができる。

【０６０３】

そして、本体側ガイド壁５８１ａと後蓋側ガイド壁５８２ａとの間によって遊技球Ｂの外側への移動が阻止されることで、球抜可動片５９２から遊技球Ｂが離れることとなり、その後の球抜可動片５９２の移動が慣性力によることとなるため、球抜可動片５９２に対して強い力が作用することはなく、球抜可動片５９２を破損し難くすることができると共に、本体側ガイド壁５８１ａと後蓋側ガイド壁５８２ａとの間から遊技球Ｂが球抜通路５８０ｂの外側へ飛び出すことはなく、遊技球Ｂを球抜通路５８０ｂの下流側へ確実に流通させることができる。

【０６０４】

［４－７ｃ．上部満タン球経路ユニット］

払出ユニット５６０における上部満タン球経路ユニット６００について、主に図８７及び図８８等を参照して詳細に説明する。上部満タン球経路ユニット６００は、払出ベースユニット５５０における払出ベース５５１の背板左部５５１ｅの後面下部で払出装置５８０の下側に後方から取付けられる。上部満タン球経路ユニット６００は、払出装置５８０から下方へ放出され遊技球Ｂを、下部満タン球経路ユニット６１０へ誘導するためのものである。上部満タン球経路ユニット６００は、正面視の形状が上下に延びた四角形に形成されている。

【０６０５】

上部満タン球経路ユニット６００は、払出ベース５５１に取付けられ後側が開放された箱状の上部満タンベース６０１と、上部満タンベース６０１の後側に取付けられており前側が開放された箱状の上部満タンカバー６０２と、上部満タンカバー６０２の上端付近に回転可能に取付けられており払出装置５８０を上方へ押圧可能な払出装置押圧部材６０３と、を備えている。上部満タンベース６０１は、正面視右辺から右方へ突出しており、裏カバーを取付けるための裏カバー取付部６０１ａを備えている。

【０６０６】

また、上部満タン球経路ユニット６００は、上面における正面視左端付近において上方へ開口しており下から全高の約２／３の高さの位置まで左辺に沿って下方へ延出している上部払出球受通路６００ａと、上部払出球受通路６００ａと連通しており正面視右方へ全幅の約３／４ほど延びていると共に下から全高の約１／６の高さまで下方へ延出している上部球貯留通路６００ｂと、上部球貯留通路６００ｂの左右方向中央より正面視左側から下方へ延びており下面において下方へ開口している上部通常払出通路６００ｃと、上部通常払出通路６００ｃと隣接し上部球貯留通路６００ｂの左右方向中央より正面視右側から下

方へ延びており下面において下方へ開口している上部満タン払出通路６００ｄと、上面における正面視右端付近において上方へ開口して下方へ略垂直に延びた後に下面の右端付近において下方へ開口している上部球抜通路６００ｅと、を備えている（図９２を参照）。

【０６０７】

上部満タン球経路ユニット６００は、下面において、正面視左側から、上部通常払出通路６００ｃ、上部満タン払出通路６００ｄ、及び上部球抜通路６００ｅが、順に並んで下方へ開口している。上部満タン球経路ユニット６００は、払出ユニット５６０に組立てた状態で、上部払出球受通路６００ａの上流端が、払出装置５８０における払出通路５８０ａの下流端の直下で開口しており、上部球抜通路６００ｅの上流端が、払出装置５８０における球抜通路５８０ｂの下流端の直下で開口している。これにより、払出装置５８０の払出通路５８０ａから放出（払出）された遊技球Ｂは、上部払出球受通路６００ａ及び上部球貯留通路６００ｂを通って、上部通常払出通路６００ｃ又は上部満タン払出通路６００ｄの何れかから下方へ放出される。また、払出装置５８０の球抜通路５８０ｂから下方へ放出された遊技球Ｂは、上部球抜通路６００ｅを通って下方へ放出される。

【０６０８】

［４－７ｄ．下部満タン球経路ユニット］

払出ユニット５６０における下部満タン球経路ユニット６１０について、主に図８７及び図８８等を参照して詳細に説明する。下部満タン球経路ユニット６１０は、払出ベースユニット５５０における払出ベース５５１の底板部５５１ｇに載置されると共に、上部満タン球経路ユニット６００の下部に取付けられる。下部満タン球経路ユニット６１０は、上部満タン球経路ユニット６００から下方へ放出された遊技球Ｂを、扉枠３側へ誘導したり、基板ユニット６２０側へ誘導したりするものである。下部満タン球経路ユニット６１０は、前端側が低くなるように前後方向に延びていると共に、後端が上方へ延びている。

【０６０９】

下部満タン球経路ユニット６１０は、下部通常払出通路６１０ａ、下部満タン払出通路６１０ｂ、及び下部球抜通路６１０ｃを有しており前後方向に延びていると共に上方へ開放されている下部満タンベース６１１と、下部満タンベース６１１の上側に取付けられている下部満タンカバー６１２と、下部満タンベース６１１の前端に前後に延びた軸周りに回動可能に取付けられており下部通常払出通路６１０ａ及び下部満タン払出通路６１０ｂの下流端開口を開閉可能としている払出通路開閉扉６１３と、下部通常払出通路６１０ａ及び下部満タン払出通路６１０ｂの下流端開口を閉鎖する方向へ払出通路開閉扉６１３を付勢している閉鎖バネ６１４と、を備えている。

【０６１０】

下部満タン球経路ユニット６１０は、後端の上方へ延びている部位の上面に、正面視左から順に、下部通常払出通路６１０ａ、下部満タン払出通路６１０ｂ、及び下部球抜通路６１０ｃが並んだ状態で、夫々の上流端が上方へ向かって開口している。下部通常払出通路６１０ａ及び下部満タン払出通路６１０ｂは、左右に並んだ状態で前方へ延びた上で、下部満タン球経路ユニット６１０の前端において前方へ向かって開口している。下部満タン払出通路６１０ｂは、下部通常払出通路６１０ａよりも若干低い状態で前方へ延びている。下部球抜通路６１０ｃは、下部満タン払出通路６１０ｂの正面視右側面に沿って前方へ延びており、前後方向の途中において右方へ向かって開口している。

【０６１１】

払出通路開閉扉６１３は、下部通常払出通路６１０ａと下部満タン払出通路６１０ｂとの夫々の前端開口の間の位置で回動可能に取付けられている。この払出通路開閉扉６１３は、閉鎖バネ６１４によって正面視時計回りの方向へ付勢されており、通常の状態では、下部通常払出通路６１０ａ及び下部満タン払出通路６１０ｂの夫々の前端開口（下流端開口）を閉鎖している。払出通路開閉扉６１３は、前方へ突出している作動突部６１３ａを備えている。作動突部６１３ａは、正面視の形状が、払出通路開閉扉６１３の回動中心を中心とした短い円弧状に形成されており、前端面が、反時計回りの方向の端部側へ近付くに従って前方へ突出するように傾斜している。この作動突部６１３ａは、本体枠４に対して

扉枠３を閉めた時に、扉枠３におけるファールカバーユニット１５０の扉開閉当接部１５０ｆと当接するように形成されている。
【０６１２】
下部満タン球経路ユニット６１０は、払出ユニット５６０に組立てた状態で、後部上端において上方へ開口している下部通常払出通路６１０ａ、下部満タン払出通路６１０ｂ、下部球抜通路６１０ｃが、夫々上部満タン球経路ユニット６００の上部通常払出通路６００ｃ、上部満タン払出通路６００ｄ、及び上部球抜通路６００ｅの下流端の直下に位置している。これにより、上部通常払出通路６００ｃから下方へ放出された遊技球Ｂは、下部通常払出通路６１０ａを流通し、上部満タン払出通路６００ｄから下方へ放出された遊技球Ｂは下部満タン払出通路６１０ｂを流通し、上部球抜通路６００ｅから下方へ放出された遊技球Ｂは下部球抜通路６１０ｃを流通することとなる。
【０６１３】
また、下部満タン球経路ユニット６１０は、パチンコ機１に組立てた状態で、下部通常払出通路６１０ａ及び下部満タン払出通路６１０ｂの前端（下流端）が、扉枠３におけるファールカバーユニット１５０の貫通球通路１５０ａ及び満タン球受口１５０ｂの直後で開口している。また、下部球抜通路６１０ｃの下流端は、基板ユニット６２０のベースユニット６２０ｂにおける左方へ開口した球抜誘導部６２７と対向するように開口している。
【０６１４】
下部満タン球経路ユニット６１０は、通常の状態（本体枠４に対して扉枠３を閉じている状態）では、払出通路開閉扉６１３の作動突部６１３ａがファールカバーユニット１５０の扉開閉当接部１５０ｆと当接することで、閉鎖バネ６１４の付勢力に抗して正面視反時計回りの方向へ回動している。これにより、下部通常払出通路６１０ａ及び下部満タン払出通路６１０ｂの夫々の下流端の開口が開いた状態となっており、ファールカバーユニット１５０の貫通球通路１５０ａ及び満タン球受口１５０ｂと連通した状態となっている。
【０６１５】
一方、本体枠４に対して扉枠３を開いた状態とすると、払出通路開閉扉６１３の作動突部６１３ａがファールカバーユニット１５０の扉開閉当接部１５０ｆから離れることとなり、払出通路開閉扉６１３が閉鎖バネ６１４の付勢力によって正面視時計回りの方向へ回動し、下部通常払出通路６１０ａ及び下部満タン払出通路６１０ｂの夫々の下流端の開口が閉じられた状態となる。この状態では、下部通常払出通路６１０ａ及び下部満タン払出通路６１０ｂ内の遊技球Ｂが、夫々の前端開口から前方へ移動することができなくなる。これにより、本体枠４に対して扉枠３を開けても、下部通常払出通路６１０ａ及び下部満タン払出通路６１０ｂから遊技球Ｂがこぼれることはない。
【０６１６】
［４－７ｅ．払出ユニットにおける遊技球の流れ］
続いて、払出ユニット５６０における遊技球Ｂの流れについて、主に図９２を参照して詳細に説明する。払出ユニット５６０は、本体枠４に組立てた状態では、払出ベース５５１の後面に取付けられている。通常の状態では、払出装置５８０の球抜レバー５９３が下降端に位置しており、払出通路５８０ａから分岐している球抜通路５８０ｂを分岐部分において閉鎖している。また、下部満タン球経路ユニット６１０では、払出通路開閉扉６１３が開状態となっている。
【０６１７】
上方へ開放されている球タンク５５２には、パチンコ機１を設置している遊技ホール島設備から、例えば、球誘導ユニット５７０の球切検知センサ５７４による球切れの検知に基づいて、所定数の遊技球Ｂが供給される。球タンク５５２に供給・貯留された遊技球Ｂは、タンクレール５５３によって一列に整列された状態で、球誘導ユニット５７０の誘導通路５７０ａを通って払出装置５８０の払出通路５８０ａ内へと送られる。払出モータ５８４が回転していない状態では、遊技球Ｂが払出羽根５８９よりも下流側へ移動（流下）することができず、払出羽根５８９よりも上流側に複数の遊技球Ｂが滞留した状態となる。
【０６１８】

そして、球誘導ユニット５７０の誘導通路５７０ａ内の遊技球Ｂが可動片部材５７３を押圧し、球切検知センサ５７４が可動片部材５７３を検知することなる。これにより、少なくとも可動片部材５７３から払出羽根５８９までの間の通路内に遊技球Ｂが貯留されていることが判る。

【０６１９】

この状態で、払出モータ５８４により払出羽根５８９が背面視時計周りの方向へ回転すると、球収容部５８９ｂに収容された遊技球Ｂが背面視時計回りの方向へ移動し、払出通路５８０ａにおける払出羽根５８９よりも下流側へ放出される。そして、払出羽根５８９（球収容部５８９ｂ）から放出された遊技球Ｂは、払出検知センサ５９１に検知された後に、上部満タン球経路ユニット６００の上部払出球受通路６００ａへと送られる。

【０６２０】

上部満タン球経路ユニット６００の上部払出球受通路６００ａへ送られた遊技球Ｂは、通常の状態では、上部球貯留通路６００ｂを通って、上部払出球受通路６００ａの直下に配置されている上部通常払出通路６００ｃへと流下する。そして、上部通常払出通路６００ｃへと流下した遊技球Ｂは、下部満タン球経路ユニット６１０の下部通常払出通路６１０ａ、扉枠３のファールカバーユニット１５０の貫通球通路１５０ａを通って、皿ユニット２００における皿ユニットベース２１１の上皿球供給口２１１ａから上皿２０１内へ放出される。

【０６２１】

払出装置５８０から多くの遊技球Ｂが払出されて、上皿２０１内が遊技球Ｂで一杯になると、上皿球供給口２１１ａから前方へ遊技球Ｂを放出することができなくなるため、払出装置５８０から払出された遊技球Ｂが、下部満タン球経路ユニット６１０の下部通常払出通路６１０ａ内に滞留するようになり、更に遊技球Ｂが払出されると、下部通常払出通路６１０ａと上流側で連通している上部満タン球経路ユニット６００の上部通常払出通路６００ｃ内にも滞留することとなる。そして、上部通常払出通路６００ｃ内が遊技球Ｂで一杯になった状態で、更に遊技球Ｂが払出されると、上部通常払出通路６００ｃの上流側で連通している上部球貯留通路６００ｂ内に遊技球Ｂが滞留し始める共に、遊技球Ｂが上部通常払出通路６００ｃと隣接している上部満タン払出通路６００ｄ側へ流下し初める。

【０６２２】

そして、上部満タン払出通路６００ｄ側へ流下した遊技球Ｂは、下部満タン球経路ユニット６１０の下部満タン払出通路６１０ｂを通って、扉枠３のファールカバーユニット１５０における満タン球受口１５０ｂに受けられる。その後、満タン球受口１５０ｂに受けられた遊技球Ｂは、貯留通路１５０ｅ、球放出口１５０ｄ、及び皿ユニットベース２１１の下皿球供給口２１１ｃを通って下皿２０２内へ放出される。これにより、上皿２０１が遊技球Ｂで満タンになった状態で、更に遊技球Ｂが払出された場合、遊技球Ｂを自動的に下皿２０２へ払出させることができる。

【０６２３】

なお、下皿２０２が遊技球Ｂで一杯になって、下皿球供給口２１１ｃから前方へ遊技球Ｂを放出することができなくなった状態で、更に遊技球Ｂが払出されると、下皿球供給口２１１ｃの上流側のファールカバーユニット１５０の貯留通路１５０ｅ内に遊技球Ｂが滞留して貯留されることとなる。そして、貯留通路１５０ｅ内にある程度の数の遊技球Ｂが貯留されると、可動片１５３が可動して満タン検知センサ１５４に検知され、上皿２０１及び下皿２０２が遊技球Ｂで満杯（満タン）になっていることを遊技者に案内すると共に、払出装置５８０の払出モータ５８４を、満タン検知センサ１５４が非検知の状態となるまで一時的に停止させる。

【０６２４】

パチンコ機１のメンテナンスや交換等の際に、球タンク５５２内に貯留されている遊技球Ｂをパチンコ機１から排出する場合は、払出装置５８０の球抜レバー５９３を下降端の位置から上方へスライドさせて上昇端の位置の状態とする。その後、球抜可動片５９２の下端側が遊技球Ｂに押されて、背面視時計回りの方向へ回動することとなり、球抜可動片５

９２が本体側ガイド壁５８１ａと後蓋側ガイド壁５８２ａとの間を通って、球抜通路５８０ｂの外側へ押し出された状態となる。これにより、払出通路５８０ａから分岐している球抜通路５８０ｂへ遊技球Ｂが進入可能となり、上流側の遊技球Ｂが球抜通路５８０ｂを通って下方へ放出される。

【０６２５】

この際に、球抜可動片５９２の部位では、流下する遊技球Ｂが、球抜可動片５９２よりも本体側ガイド壁５８１ａ及び後蓋側ガイド壁５８２ａに強く当接するため、球抜可動片５９２が破損し難くなっている。

【０６２６】

そして、払出装置５８０の球抜通路５８０ｂから下方へ放出された遊技球Ｂは、上部満タン球経路ユニット６００の上部球抜通路６００ｅ、及び下部満タン球経路ユニット６１０の下部球抜通路６１０ｃを通って、下部球抜通路６１０ｃの下流端開口から基板ユニット６２０の球抜誘導部６２７へ放出された後に、排出球受部６２８及び球排出口６２９を通ってパチンコ機１の後方外部（遊技ホールの島設備側）に排出される。

【０６２７】

［４－８．基板ユニット］

本体枠４における基板ユニット６２０について、主に図９３乃至図９７等を参照して詳細に説明する。図９３（ａ）は本体枠の基板ユニットを前から見た斜視図であり、（ｂ）は基板ユニットを後ろから見た斜視図である。図９４は、基板ユニットを後ろ下から見た斜視図である。図９５は基板ユニットを主な構成毎に分解して前から見た分解斜視図であり、図９６は基板ユニットを主な構成毎に分解して後ろから見た分解斜視図である。図９７は、左右方向中央で切断したパチンコ機の下部を示す拡大側面断面図である。基板ユニット６２０は、本体枠ベースユニット５００の後面下部に取付けられている。

【０６２８】

基板ユニット６２０は、本体枠ベースユニット５００における本体枠ベース５０１の後面における遊技盤載置部５０１ｃよりも下側に取付けられるスピーカユニット６２０ａと、スピーカユニット６２０ａの一部を後方から覆うように本体枠ベース５０１の後面に取付けられるベースユニット６２０ｂと、ベースユニット６２０ｂの後側に取付けられている電源ユニット６２０ｃと、電源ユニット６２０ｃの後側に取付けられている払出制御ユニット６２０ｄと、払出制御ユニット６２０ｄの一部を後方から覆うようにスピーカユニット６２０ａの後面に取付けられているインターフェイスユニット６２０ｅと、を備えている。

【０６２９】

スピーカユニット６２０ａは、本体枠ベースユニット５００における本体枠ベース５０１の後面における遊技盤載置部５０１ｃよりも下側に取付けられるスピーカカバー６２１と、スピーカカバー６２１の後面における正面視左端付近において前方へ向けて取付けられている本体枠スピーカ６２２と、本体枠スピーカ６２２の後側を覆うようにスピーカカバー６２１の後側に取付けられており前方へ開放された容器状のスピーカボックス６２３と、を備えている。

【０６３０】

スピーカカバー６２１は、左右方向へ延びており、正面視左端付近において前後に貫通しており上下に延びた複数のスリットにより構成されている円形状のスピーカ取付部６２１ａと、スピーカ取付部６２１ａの正面視右方側で後方から前方へ膨出するように窪んでいる空間用前凹部６２１ｂと、空間用前凹部６２１ｂの下面から下方へ突出していると共に左右方向へ延びており斜め下後へ向けて開口している接続部６２１ｃと、を備えている。

【０６３１】

スピーカカバー６２１のスピーカ取付部６２１ａに、後側から本体枠スピーカ６２２が前方へ向けて取付けられる。また、スピーカカバー６２１の接続部６２１ｃは、下端が外枠２の外枠下組立体４０における幕板後部材４３の接続筒部４３ａの上端と一致するように４５度の角度で傾斜している。本体枠スピーカ６２２は、主に低音を出力するコーン型ス

ピーカとされている
【０６３２】
スピーカボックス６２３は、前方へ開放された容器状に形成されており、本体枠スピーカ６２２の後側となる部位が後方へ最も大きく突出しており、正面視右方へ向かうに従って、階段状に後方への突出が小さくなるように形成されている。これにより、スピーカボックス６２３の正面視中央より右側の後方の空間を十分に確保することができ、ベースユニット６２０ｂや電源ユニット６２０ｃ等が配置できるようにしている。スピーカボックス６２３は、スピーカカバー６２１の接続部６２１ｃを除いた後面の全体を被覆する（閉じる）ように形成されている。
【０６３３】
スピーカユニット６２０ａは、スピーカカバー６２１とスピーカボックス６２３とで本体枠スピーカ６２２から後方へ出力されるサウンドを封じ込めるエンクロージャ６２４の一部を形成している。このエンクロージャ６２４は、スピーカカバー６２１においてスピーカ取付部６２１ａの正面視右方に前方へ膨出した空間用前凹部６２１ｂが形成されていることから、スピーカボックス６２３が右方へ向かうに従って後方への突出量が小さくなるように階段状に形成されていても、本体枠スピーカ６２２よりも右方の空間を充分に広く確保されている。
【０６３４】
スピーカユニット６２０ａは、外枠２に対して本体枠４を閉じた状態とすると、スピーカカバー６２１の接続部６２１ｃがシール部材４８を挟むように接続筒部４３ａに接続され、本体枠スピーカ６２２の後方の空間と、外枠２の幕板内部空間４０ａとが連通した状態となる。従って、本体枠スピーカ６２２の後側に、スピーカカバー６２１、スピーカボックス６２３、幕板前部材４２、及び幕板後部材４３によって、広い空間のエンクロージャ６２４を形成することができ、本体枠スピーカ６２２の後方へ出力されたサウンドを幕板前部材４２の開口部４２ａから前方へ出力（放射）させることができる。
【０６３５】
詳述すると、上述したように、スピーカユニット６２０ａでは、本体枠スピーカ６２２の後方の空間（エンクロージャ６２４の一部）を、比較的広い奥行で正面視右方まで延出させて、接続部６２１ｃ及び接続筒部４３ａを介して外枠下組立体４０側へ連通させていることから、本体枠スピーカ６２２から後方へ出力されたサウンドにおいて、特に低音域を減衰させることなく、外枠下組立体４０側へ伝達させることができると共に、伝達された低音域を二つのポート部材４７を通すことで共振・増幅させて幕板前部材４２の開口部４２ａから前方へ放射することができる。
【０６３６】
この際に、幕板前部材４２の開口部４２ａから前方へ放射されるサウンドは、位相が反転された状態で、放射されるようにしているため、本体枠スピーカ６２２の前面から出力されて皿ユニット２００のスピーカ口２１１ｂから放射されたサウンドに対して、増幅させるように共振することとなり、本体枠スピーカ６２２の口径が小さくても重低音が響く大きなサウンドを出力することができる。
【０６３７】
つまり、本実施形態では、本体枠スピーカ６２２のエンクロージャ６２４がバスレフ型とされており、遊技者に対して重低音を聞かせることができる。これにより、本体枠スピーカ６２２の前面から出力されて皿ユニット２００のスピーカ口２１１ｂから放射されるサウンドと、本体枠スピーカ６２２の後面から出力されて外枠２のグリル部材４６から放射されるサウンドとによって、豊かな低音を有したサウンドを遊技者に聴かせることができる。
【０６３８】
また、スピーカユニット６２０ａは、スピーカカバー６２１に、スピーカ取付部６２１ａの下部と空間用前凹部６２１ｂとの間の位置で前後方向に貫通している貫通口６２１ｄが形成されていると共に、スピーカボックス６２３に、貫通口６２１ｄと連通して筒状に延

びており前後に貫通している貫通筒６２３ａが形成されている。スピーカユニット６２０ａに組立てた状態では、貫通口６２１ｄと貫通筒６２３ａが互いに連通し、エンクロージャ６２４とは独立した状態となる。これら貫通口６２１ｄ及び貫通筒６２３ａには、接続ケーブル５０３が挿通される。

【０６３９】

基板ユニット６２０のベースユニット６２０ｂは、スピーカボックス６２３の一部を後方から覆うように本体枠ベース５０１の後面に取付けられる前ベース６２５と、前ベース６２５の後側に取付けられており後面に電源ユニット６２０ｃが取付けられる後ベース６２６と、を備えている。

【０６４０】

また、ベースユニット６２０ｂは、前ベース６２５と後ベース６２６とで協働して形成しており、下部満タン球経路ユニット６１０の下部球抜通路６１０ｃから放出された遊技球Ｂを受取って正面視右方へ誘導する球抜誘導部６２７と、球抜誘導部６２７の下流側で正面視右方において上方へ開口しており遊技盤５から下方に排出された遊技球Ｂを受ける排出球受部６２８と、球抜誘導部６２７及び排出球受部６２８を通った遊技球Ｂを下方へ排出する球排出口６２９と、を備えている。

【０６４１】

球抜誘導部６２７は、上流端が正面視において左側面の上部に左方へ向けて開口しており、下流端が排出球受部６２８の左端側に開口している。球抜誘導部６２７は、本体枠４に組立てた状態で、上流端の開口が、下部満タン球経路ユニット６１０の下部球抜通路６１０ｃの下流端開口と一致するように対向しており、下部球抜通路６１０ｃから放出された遊技球Ｂを受取って、排出球受部６２８へ誘導することができる。

【０６４２】

排出球受部６２８は、上方へ開放されていると共に、左右に長く延びている。排出球受部６２８の底面は、正面視左端が球抜誘導部６２７の底面と連続しており、右方へ向かうに従って低くなるように傾斜している。

【０６４３】

ベースユニット６２０ｂは、球タンク５５２から抜かれた遊技球Ｂや、遊技盤５から排出された遊技球Ｂを、球抜誘導部６２７や排出球受部６２８によって正面視右方へ誘導した後に、球排出口６２９から下方へ排出するようにしているため、正面視において左右方向中央より左側の空間を広く確保し易くすることができる。これにより、スピーカユニット６２０ａのエンクロージャ６２４の空間を広くすることができ、従来のパチンコ機よりも豊かな低音を有したサウンドを遊技者に聴かせることができる。

【０６４４】

基板ユニット６２０の電源ユニット６２０ｃは、ベースユニット６２０ｂの後ベース６２６の後側に取付けられている電源基板６３０と、電源基板６３０の後側（以下、説明上、パチンコ機１を正面から見て電源基板６３０の後側となる面を電子部品が実装される「電源基板６３０の表面（実装面）」と記載する場合がある。）を覆うように後ベース６２６に取付けられている透明な電源基板カバー６３１と、を備えている。電源基板６３０の表面（実装面）が透明な電源基板カバー６３１により覆われることで透明な電源基板カバー６３１に収容された状態となる。電源基板６３０の表面（実装面）及び裏面（ハンダ面）は、緑色のレジスト液が塗布されて形成される緑色塗膜（以下、単に「ベタ塗りされた緑色のレジスト」と記載する場合がある。）により緑色のレジスト層が形成され、パチンコ機１の電源投入を行う操作部を有する電源スイッチ６３０ａが電源基板６３０の表面（実装面）に実装されている。電源基板６３０の表面（実装面）には、電源スイッチ６３０ａの他に、表面側電子部品の部品番号、表面側電子部品を配置する位置を示す領域等の表面側電子部品の属性（さらに、表面側電子部品の形状、表面側電子部品の大きさ、表面側電子部品の実装向き（実装方向）、表面側電子部品の型式を含む場合がある。）を示す表面側表記部が、緑色に対して目立ち易い白色の塗料で、ベタ塗りされた緑色のレジスト上にシルク印刷により印刷されている。電源スイッチ６３０ａは、透明な電源基板カバー６３

１から露出した状態となっている。また電源スイッチ６３０ａは、パチンコ機１の後側に設けられているため、遊技者から視認困難な位置に配置されている。

【０６４５】

払出制御ユニット６２０ｄは、電源ユニット６２０ｃにおける透明な電源基板カバー６３１の後側に着脱可能に取付けられる箱状の透明な払出制御基板ボックス６３２と、払出制御基板ボックス６３２内に収容されている払出制御基板６３３（図９７を参照）と、を備えている。払出制御基板６３３は、皿ユニット２００における球貸操作ユニット２２０の球貸ボタン２２４の押圧操作や、遊技盤５の主制御基板１３１０等からの払出コマンドに応じて、払出装置５８０の払出モータ５８４を制御して、指示された数の遊技球Ｂを遊技者側（上皿２０１又は下皿２０２）に払出すためのものである。払出制御基板ボックス６３２は、開閉の痕跡が残るように形成されている。これにより、払出制御基板６３３に対する不正な改造を察知することができ、不正行為に対する抑止力を高めている。

【０６４６】

インターフェイスユニット６２０ｅは、スピーカユニット６２０ａにおけるスピーカボックス６２３の後側に取付けられている基板ベース６３４と、基板ベース６３４の後面に取付けられているインターフェイス基板６３５と、インターフェイス基板６３５の後側を覆うように基板ベース６３４に取付けられているインターフェイス基板カバー６３６と、を備えている。

【０６４７】

基板ベース６３４は、スピーカボックス６２３の後面における本体枠スピーカ６２２の後方となる後方へ最も突出している部位に取付けられている。インターフェイス基板６３５は、接続ケーブル５０３の一方（本体枠４側）の端部が接続されている。インターフェイス基板６３５は、電源基板６３０、払出制御基板６３３、主制御基板１３１０、周辺制御基板１５１０、等が接続されると共に、パチンコ機１の外部に設置されているＣＲユニットと接続される。インターフェイス基板カバー６３６は、払出制御ユニット６２０ｄの一部を覆うように基板ベース６３４（インターフェイス基板６３５）よりも正面視右方へ延出している。

【０６４８】

［４－９．裏カバー］

本体枠４における裏カバー６４０について、主に図７６乃至図８２を参照して詳細に説明する。裏カバー６４０は、本体枠ベースユニット５００の本体枠ベース５０１の遊技盤挿入口５０１ｂ内に前方から挿入されて取付けられた遊技盤５の後側を覆うものである。裏カバー６４０は、正面視における右辺が、本体枠ベース５０１の後方延出部５０１ｊの上下に延びている後端に、上下に延びた軸周りに回転可能に取付けられ、左辺が、払出ベース５５１の裏カバー取付部５５１ｉと上部満タン球経路ユニット６００の裏カバー取付部６０１ａとに取付けられる。

【０６４９】

裏カバー６４０は、上下左右に延びた平板の正面視右辺側が前方へ折り曲げられたような形状に形成されており、本体枠４に組立てた状態で、後面が払出ベース５５１の背板上部５５１ｄの後面と略同一面上に位置するように形成されている。裏カバー６４０は、前後に貫通し上下に延びている複数のスリット６４１が形成されている。本実施形態では、裏カバー６４０は、透明な合成樹脂によって形成されており、パチンコ機１の後側から本体枠４内を視認することができる。

【０６５０】

［４－１０．施錠ユニット］

本体枠４における施錠ユニット６５０について、主に図９８を参照して詳細に説明する。図９８（ａ）は本体枠の施錠ユニットを前から見た斜視図であり、（ｂ）は施錠ユニットを後ろから見た斜視図である。施錠ユニット６５０は、本体枠４の本体枠ベース５０１に取付けられ、本体枠４と扉枠３、本体枠４と外枠２、との間を施錠するものである。

【０６５１】

施錠ユニット６５０は、本体枠ベース５０１の後方延出部５０１ｊの右側面に取付けられ上下に延びているユニットベース６５１と、ユニットベース６５１から前方へ突出しており扉枠３と係止可能な複数の扉枠用鉤６５２と、ユニットベース６５１から後方へ突出しており外枠２と係止可能な複数の外枠用鉤６５３と、ユニットベース６５１の前端下部から前方へ突出しており回転方向によって扉枠用鉤６５２又は外枠用鉤６５３を上下方向へ移動させる伝達シリンダ６５４と、を備えている。

【０６５２】

また、施錠ユニット６５０は、扉枠用鉤６５２を下方へ付勢していると共に外枠用鉤６５３を上方へ付勢している錠バネ６５５と、ユニットベース６５１の前端における伝達シリンダ６５４よりも上方の位置から前方へ突出しており下方へスライドさせることで、外枠用鉤６５３を下方へ移動させる外枠用開錠レバー６５６と、を備えている。

【０６５３】

施錠ユニット６５０は、本体枠４に組立てた状態で、複数（三つ）の扉枠用鉤６５２、伝達シリンダ６５４、及び外枠用開錠レバー６５６が、本体枠ベース５０１の前面よりも前方へ突出している。伝達シリンダ６５４は、本体枠ベース５０１のシリンダ挿通口５０１ｆを通って前方へ突出し、本体枠４に対して扉枠３を閉じた状態とすることで、前端が扉枠３のシリンダ錠１３０の回転伝達部材１３３と係合し、鍵穴１３２に挿入された鍵の回転が伝達されて回転する。

【０６５４】

施錠ユニット６５０は、複数（三つ）の扉枠用鉤６５２が、扉枠３の扉枠ベースユニット１００における扉枠補強ユニット１１０の鉤掛部材１１６に係止され、複数（二つ）の外枠用鉤６５３が、外枠２における外枠右組立体２０の上鉤掛部材２４と下鉤掛部材２５とに係止される。

【０６５５】

施錠ユニット６５０は、パチンコ機１に組立てた状態で、シリンダ錠１３０の鍵穴１３２に対応している鍵を差し込んで、正面視反時計回りの方向へ回転させると、伝達シリンダ６５４を介して複数の扉枠用鉤６５２が上方へ移動し、本体枠４に対して扉枠３が開錠される。一方、鍵を正面視時計回りの方向へ回転させると、伝達シリンダ６５４を介して複数の外枠用鉤６５３が下方へ移動し、外枠２に対して本体枠４が開錠される。本体枠４に対して扉枠３を開いた状態では、外枠用開錠レバー６５６を下方へスライドさせると、複数の外枠用鉤６５３が下方へ移動し、外枠２に対して本体枠４が開錠される。このようにして、本体枠４と扉枠３との間や、本体枠４と外枠２との間の施錠を、開錠することができる。

【０６５６】

本体枠４と扉枠３との間や、本体枠４と外枠２との間を施錠する場合は、扉枠用鉤６５２及び外枠用鉤６５３の先端側が細くなるように傾斜しているため、本体枠４に対して扉枠３を閉じたり、外枠２に対して本体枠４を閉じたりすると、扉枠用鉤６５２や外枠用鉤６５３が、鉤掛部材１１６や上鉤掛部材２４及び下鉤掛部材２５を乗り越えるように下方や上方へ移動した後に、錠バネ６５５の付勢力によって施錠状態となる。

【０６５７】

［４－１１．本体枠上部の詳細な構成］

続いて、本体枠４の上部の詳細な構成について、主に図９９乃至図１０６を参照して詳細に説明する。図９９（ａ）は本体枠の平面図であり、（ｂ）は（ａ）におけるＢ－Ｂ線で切断した断面図である。図１００は、本体枠を後ろから見た斜視図において上部を拡大して示す拡大図である。図１０１（ａ）は球タンクにタンクレール等を組立てた状態で前上から見た斜視図であり、（ｂ）は（ａ）を前下から見た斜視図である。図１０２は、図１０１（ａ）を分解して前から見た分解斜視図である。図１０３は、本体枠上部における球タンクから溢れた遊技球が流通する領域を示す説明図である。図１０４は、本体枠上部における球タンクから溢れた遊技球の流れを示す説明図である。図１０５は、本体枠上部における迂回通路への遊技球の流れを示す説明図である。図１０６は、本体枠をヒンジ側の

後ろから見た斜視図においてタンクレール付近を拡大して示す拡大図である。

【０６５８】

本体枠４は、上述したように、後部が外枠２の枠内に挿入可能とされると共に本体枠上ヒンジ部材５１０及び本体枠下ヒンジ組立体５２０により外枠２に対して着脱可能且つヒンジ回転可能に取付けられ遊技盤５の外周を支持可能とされた枠状の本体枠ベース５０１と、本体枠ベース５０１の後側における正面視上辺及び左辺に沿って取付けられている逆Ｌ字状の払出ベース５５１と、払出ベース５５１に取付けられており左右に延びた箱状（容器状）で上方へ開放されている球タンク５５２と、球タンク５５２の左側に取付けられており上方へ開放された溝状に左方へ延びているタンクレール５５３と、タンクレール５５３の上端の一部に取付けられている第一レールカバー５５４と、第一レールカバー５５４から正面視左方に離間してタンクレール５５３の上端に取付けられている第二レールカバー５５５と、第一レールカバー５５４と第二レールカバー５５５の間の位置でタンクレール５５３の上端に取付けられている球整流部材５５６と、タンクレール５５３の下流側端に取付けられている球止部材５５７と、払出ベース５５１の後側でタンクレール５５３の下流側に取付けられており遊技者側へ遊技球Ｂを払出すための払出装置５８０と、を備えている。

【０６５９】

球タンク５５２は、平面視の形状が左右方向へ延びた四角形に形成されており正面視において左側が低くなるように傾斜している底壁５５２ａと、底壁５５２ａの前辺及び後辺から夫々上方へ延びている前壁５５２ｂ及び後壁５５２ｃと、底壁５５２ａの左右両辺から夫々上方へ延びている左側壁５５２ｄ及び右側壁５５２ｅと、を有し、上側が開放されている容器状に形成されている。球タンク５５２には、パチンコ機１が設置される遊技ホール等の島設備から供給される遊技球Ｂが貯留される。

【０６６０】

また、球タンク５５２は、前壁５５２ｂにおいて上方から切欠いて残りの外周上端縁よりも低く形成されている越流部５５２ｆを有している。この越流部５５２ｆは、前壁５５２ｂにおける左側壁５５２ｄの端部側から反対側（右側壁５５２ｅ側）の端部へ向かって、前壁５５２ｂの左右方向の長さの約３／４の長さに亘って形成されている。

【０６６１】

タンクレール５５３は、正面視において右端側（上流側）が球タンク５５２の内部と連通していると共に、球タンク５５２から遠ざかるように下流側が左右方向の一方側（左方側）へ延びている。タンクレール５５３は、底部において上流付近から下流端まで延びており遊技球Ｂの流通方向に直交する幅方向が遊技球Ｂを一つのみ流通可能に形成されている樋状の主誘導部５５３ａを有している。主誘導部５５３ａは、正面視左方へ向かうほど低くなるように傾斜している。また、主誘導部５５３ａは、平面視において、右端側から左方へ左右方向に延びた軸線に対して平行に右端から左右方向の全長の約１／１０の位置まで延びた後に、左方へ向かうに従って後方へ移動するように右端から左右方向の全長の約４／１０の位置まで斜めに延び、そこから左右方向に延びた軸線に対して平行に左端まで延びたクランク状に形成されている。タンクレール５５３は、主誘導部５５３ａにおいて、左端から右方へ左右方向に延びた軸線に対して平行に延びている部位が、同じ幅で上端まで延びており、この部位の上端に第一レールカバー５５４、第二レールカバー５５５、及び球整流部材５５６が取付けられることで上側が閉鎖される。また、タンクレール５５３は、上側が閉鎖される部位において、遊技球Ｂが流通する流路の高さが下流端（左端）へ向かうに従って低くなるように形成されており、下流端では遊技球Ｂが一つのみ流通可能な高さ（遊技球Ｂの外径よりも若干高い高さ）に形成されている。

【０６６２】

また、タンクレール５５３は、主誘導部５５３ａよりも上方で上流端から上側が閉鎖される部位まで延びており、遊技球Ｂの流通方向に直交する幅方向へ遊技球Ｂが複数並ぶように主誘導部５５３ａの幅よりも広く膨出していると共に上流端から下流側へ向かって幅方向が狭くなって主誘導部５５３ａの幅と一致するように変化している膨出部５５３ｂを有

している。この膨出部５５３ｂによって、上流側では幅方向に広がっていた複数の遊技球Ｂを、下流側へ向かうに従って、幅方向を遊技球Ｂ一つ分の幅となるように整列させることができる。また、膨出部５５３ｂは、上端側から下方の主誘導部５５３ａへ向かうに従って幅方向が狭くなるように形成されている。このようなことから、タンクレール５５３は、膨出部５５３ｂを流通している複数の遊技球Ｂを、下流側及び下方側へ向かうに従って、幅方向が一列となるように整列させることができる。

【０６６３】

タンクレール５５３の膨出部５５３ｂは、曲率の中心が内部側に配置されており、三次元的に湾曲した形状に形成されている。膨出部５５３ｂは、湾曲している曲率の中心が、主誘導部５５３ａよりも上方に配置されているため、タンクレール５５３では、主誘導部５５３ａと膨出部５５３ｂとの境に、わずかに面取りされた角が形成されている。また、膨出部５５３ｂは、上流側よりも下流側の方が、湾曲している曲率が大きく形成されている。このようなことから、三次元的に湾曲している膨出部５５３ｂを流通する遊技球Ｂでは、当接する膨出部５５３ｂの位置によって、膨出部５５３ｂ側からの反力が作用する向きが様々に方向へ変化することとなり、膨出部５５３ｂ内において球ガミの発生を抑制させることができる。詳述すると、膨出部５５３ｂを一定に延びている形状に形成した場合、膨出部５５３ｂ内を流通する遊技球Ｂには、膨出部５５３ｂの内面から常に一定の方向へ反力が作用することとなり、反力が分散し難くなるため、内部の遊技球Ｂが常に一定の方向へ押されることで、遊技球Ｂが逃げ難くなり、球詰り（球ガミ）が発生し易くなる。これに対して、膨出部５５３ｂを三次元的な湾曲面としていることから、遊技球Ｂの位置によって膨出部５５３ｂの内面から作用する反力の向きが区々となるため、内部を流通する複数の遊技球Ｂの押される方向が分散されることで、押された遊技球Ｂを逃げ易くすることができ、球詰り（球ガミ）を発生し難くすることができる。

【０６６４】

また、タンクレール５５３は、透明な素材により形成されており、外側から内部を視認することができるように構成されている。これにより、仮に、タンクレール５５３内において球詰り（球ガミ）が発生しても、外側からタンクレール５５３内の遊技球Ｂの状態を見ることができるため、球詰りしている場所を素早く特定することができる。従って、タンクレール５５３内での球詰りを、素早く解消させることができるため、球詰りの発生による遊技の中断を可及的に短くすることができ、遊技の中断による遊技者の遊技に対する興趣の低下を抑制させることができる。また、タンクレール５５３を透明にしていることから、後方からタンクレール５５３を通して本体枠４に取付けられている遊技盤５の後側（裏ユニット３０００）を視認することができるため、遊技盤５の可動演出ユニット等において可動の不具合が発生した時に、遊技盤５を本体枠４に取付けたままの状態で、駆動モータやギアやベルト等の伝達機構の状況を確認することができ、上記と同様の作用効果を奏することができる。

【０６６５】

本体枠４は、球タンク５５２の前側に備えられ、前後方向へ延びていると共に左右方向におけるタンクレール５５３の下流側と同じ側（正面視において左側）が球タンク５５２の左側壁５５２ｄよりも外方（左方）へ延びており、球タンク５５２から前方へ溢れた遊技球Ｂを球タンク５５２へ戻すために後端側が越流部５５２ｆと同じ高さで前端側が高くなるように傾斜している越流面部５０１ｍと、越流面部５０１ｍの後端における球タンク５５２の左側壁５５２ｄの外側からタンクレール５５３における上側が開放されている膨出部５５３ｂの上方まで後方へ延び、後端側が低くなるように傾斜していると共に、左右方向において球タンク５５２から遠ざかっている側（左側）が低くなるように傾斜しており、球タンク５５２から越流面部５０１ｍに溢れた遊技球Ｂの一部を誘導する迂回通路５５２ｇと、を備えている。

【０６６６】

また、本体枠４は、迂回通路５５２ｇの左右方向両外側のうち球タンク５５２の左側壁５５２ｄとは反対側に備えられており、左右方向の間隔が遊技球の外径よりも広く、底面の

高さがタンクレール５５３における上側が開放されている部位よりも低い排出部５５１ｊと、排出部５５１ｊを間にして迂回通路５５２ｇとは反対側で、越流面部５０１ｍよりも低い位置に備えられており、後方から電気配線を接続可能とされている複数の電線接続端子５５８ａを有した外部端子板５５８と、複数の電線接続端子５５８ａ（外部端子板５５８）の上側を覆い、上面が越流面部５０１ｍよりも高い位置で水平に延びている端子カバー５５１ｋと、を備えている。

【０６６７】

越流面部５０１ｍは、本体枠ベース５０１に形成されている。越流面部５０１ｍは、正面視の形状が上下に延びた長方形に形成されているベース本体５０１ａの後面における上辺から遊技球Ｂの外径の２倍～４倍の距離低い位置から後方へ平板状に延出している。越流面部５０１ｍは、左右方向の長さが、本体枠ベース５０１の左右方向の長さの約１／３の長さに形成されており、正面視における左端が、本体枠ベース５０１の左端から左右方向の全長の１／３よりも右方に位置している。越流面部５０１ｍは、前端から後端までの高さが、遊技球Ｂの外径の約１／２の高さに形成されている。この越流面部５０１ｍは、本体枠４を外枠２に対して閉じた状態で、外枠上部材３０との間に、遊技球Ｂの外径の約２倍の距離の隙間が形成される。

【０６６８】

本体枠ベース５０１は、越流面部５０１ｍの左右両側に配置されており、越流面部５０１ｍの前端と同じ高さで略水平に延びている平板状の左段部５０１ｎ及び右段部５０１ｏと、左段部５０１ｎ及び右段部５０１ｏの夫々の左右方向両外側において左段部５０１ｎ及び右段部５０１ｏよりも上端が高く前後方向へ帯板状に延びており、左右方向へ遊技球Ｂの外径よりも狭い間隔で列設されている複数のリブ５０１ｐと、を有している。左段部５０１ｎは、前後方向の長さに対して、左右方向の長さが短く形成されている。また、左段部５０１ｎは、水平面に対して、正面視において後端右隅が僅かに低くなるように傾斜している。右段部５０１ｏは、前後方向の長さに対して、左右方向の長さが長く形成されている。また、右段部５０１ｏは、水平面に対して、正面視において後端左隅が僅かに低くなるように傾斜している。

【０６６９】

本体枠ベース５０１の複数のリブ５０１ｐは、端子カバー５５１ｋの上面よりも高く形成されており、本体枠４を外枠２に対して閉じた状態では、外枠２の外枠上部材３０の下面との間の隙間が、遊技球Ｂの外径よりも狭くなる高さに形成されている。

【０６７０】

本体枠ベース５０１は、本体枠４に組立てた状態で、正面視において、越流面部５０１ｍの右端が球タンク５５２における越流部５５２ｆの右端と左右方向が一致していると共に、越流面部５０１ｍの左端が迂回通路５５２ｇの左端と左右方向が度一致しており、右段部５０１ｏの右端が球タンク５５２の右側壁５５２ｅと左右方向が一致している。

【０６７１】

迂回通路５５２ｇは、球タンク５５２と一体に形成されている。なお、以下では、底壁５５２ａ、前壁５５２ｂ、後壁５５２ｃ、左側壁５５２ｄ、及び右側壁５５２ｅで囲まれた容器状の領域を、単に球タンク５５２とも称する。迂回通路５５２ｇは、球タンク５５２の左側壁５５２ｄの外側から左方へ平板状に延出しており前端が越流部５５２ｆと同じ高さで後端が低くなるように傾斜している通路面５５２ｈと、通路面５５２ｈにおける左側壁５５２ｄとは反対側の端辺から上方へ左側壁５５２ｄと同じ高さまで延出している堰部と、を有している。迂回通路５５２ｇの通路面５５２ｈの後端辺は、正面視において後端辺の左端側（堰部５５２ｉ側）が、球タンク５５２の後壁５５２ｃと同じ位置まで後方に延びており、その左端側から右端側へ向かうに従って前方へ移動するように斜めに延びている。なお、迂回通路５５２ｇの通路面５５２ｈは、左右方向の傾斜を水平にしても良い。

【０６７２】

迂回通路５５２ｇは、本体枠４に組立てた状態で、後端が、左右方向へクランク状に延びているタンクレール５５３において、左右方向に対して斜めに延びている部位の前端側と

沿うように延びている。つまり、迂回通路５５２ｇの後端は、左右方向に対して斜めに延びている。これにより、迂回通路５５２ｇにより後方へ誘導された遊技球Ｂは、斜めになっている後端より、その流通方向が斜めの後端に対して垂直方向となるように変化することとなる。迂回通路５５２ｇの斜めに延びている後端は、タンクレール５５３の斜めに延びている部位と、略平行（タンクレール５５３内における遊技球Ｂの流通方向）に延びている。従って、迂回通路５５２ｇの後端からは、タンクレール５５３の流通方向（幅方向）に対して略垂直な方向へ遊技球Ｂが放出されるため、タンクレール５５３で幅の広い部位で迂回通路５５２ｇからの遊技球Ｂを受けることができる。また、迂回通路５５２ｇからタンクレール５５３内へは、遊技球Ｂの流通方向に対して略垂直方向（直角方向）に遊技球Ｂが供給されるため、迂回通路５５２ｇからの遊技球Ｂによるタンクレール５５３内での球詰りを発生し難くすることができる。

【０６７３】

迂回通路５５２ｇは、後端が、タンクレール５５３の下流側へ向かうに従って後方へ移動するように、左右方向に対して斜めに延びているため、迂回通路５５２ｇからタンクレール５５３側へ遊技球Ｂが放出される際に、斜めに延びている後端により、遊技球Ｂを、タンクレール５５３の幅が狭くなっている下流側よりも幅の広くなっている上流側へ放出することができ、幅の広い部位に放出することでタンクレール５５３内での球ガミの発生を抑制することができる。

【０６７４】

また、迂回通路５５２ｇにより遊技球Ｂを誘導する部位は、タンクレール５５３において、球タンク５５２の左側壁５５２ｄの後部と後壁５５２ｃの正面視左部の外側に該当している。この部位には、球タンク５５２内から、球タンク５５２の案内面部５５２ｊの下側（開口部５５２ｋの天井側）を潜った遊技球Ｂが流通する。このようなことから、タンクレール５５３における迂回通路５５２ｇの後方となる部位では、上下方向に積み重なった複数の遊技球Ｂの高さが、開口部５５２ｋの天井の高さ（タンクレール５５３の壁の高さ）を越えることはない。従って、タンクレール５５３における球タンク５５２の下流側、つまり、迂回通路５５２ｇの後端側において、上側へ遊技球Ｂを積み重ねることが可能なスペース（空き）を確保することができるため、迂回通路５５２ｇにより後方へ誘導された遊技球Ｂを、タンクレール５５３において確実に受取ることができ、タンクレール５５３から遊技球Ｂが後方へこぼれることはない。

【０６７５】

球タンク５５２は、前壁５５２ｂ、後壁５５２ｃ、及び左側壁５５２ｄに囲まれた内側において、左側壁５５２ｄにおける越流部５５２ｆよりも若干低い位置から右方へ低くなるように延びている平板状の案内面部５５２ｊを有している。案内面部５５２ｊは、前後方向が前壁５５２ｂから後壁５５２ｃまで延びている。また、案内面部５５２ｊは、正面視において右端辺が、前壁５５２ｂにおける左端から前壁５５２ｂの左右方向の全長の約１／３の位置から、前壁５５２ｂにおける左端から前壁５５２ｂの左右方向の全長の約１／９で前壁５５２ｂから左側壁５５２ｄの前後方向の全長の約１／２付近の位置まで後方へ斜めに延びた後に、左側壁５５２ｄと平行に後壁５５２ｃの近傍まで延び、そこから後壁５５２ｃに平行に前後方向が一定の幅で後壁５５２ｃの左端から後壁５５２ｃの左右方向の全長の約１／３の位置まで延びた形状に形成されている。

【０６７６】

球タンク５５２には、平面視において、上記のような形状に形成されている案内面部５５２ｊの右端辺と、当該右端辺の前壁５５２ｂ側の端と後壁５５２ｃ側の端とを結んだ直線とで囲まれた領域が、上下方向に貫通するように形成された開口部５５２ｋを有している。また、球タンク５５２は、右側壁５５２ｅの前端側と迂回通路５５２ｇの堰部５５２ｉの前端側に、夫々前壁５５２ｂと同一面上で左右方向外方及び上下方向に延びている平板状のフランジ部５５２ｌを有している。球タンク５５２は、前壁５５２ｂにおける越流部５５２ｆを除いた部位の上端縁と、二つのフランジ部５５２ｌの上端縁の高さが、左側壁５５２ｄや後壁５５２ｃの上端縁（本体枠ベース５０１の左段部５０１ｎ及び右段部５０

１ｏの上面）よりも高く形成されている。
【０６７７】
球タンク５５２とタンクレール５５３は、互いに組立てた状態では、球タンク５５２の開口部５５２ｋに、タンクレール５５３の上流端（正面視において右端）が接続されている。また、平面視においてクランク状に左右方向へ延びているタンクレール５５３の斜めに延びている部位とその左側の左右方向へ真直ぐに延びている部位とは、球タンク５５２よりも後方に位置（突出）している。そして、球タンク５５２の左側壁５５２ｄの左側の迂回通路５５２ｇの後端辺は、クランク状に左右方向へ延びているタンクレール５５３の斜めに延びている部位の前端に位置している。
【０６７８】
排出部５５１ｊは、払出ベース５５１の上面に形成されている。排出部５５１ｊは、本体枠４に組立てた状態で、迂回通路５５２ｇよりも低い高さから球タンク５５２の底壁５５２ａと同じ高さまで後方へ向かって階段状に低くなるように、球タンク５５２における正面視左側のフランジ部５５２ｌの後側からタンクレール５５３まで後方へ延びた後に、タンクレール５５３に沿って左方へタンクレール５５３の上端よりも高くなる位置（第二レールカバー５５５の左右方向中央付近の位置）まで延びた上で、後方へ向かって延びている。
【０６７９】
外部端子板５５８は、後面に複数の電線接続端子５５８ａが左右方向へ並んだ状態で取付けられている。この電線接続端子５５８ａは、レバーの操作により把持部が開いて電気配線の先端を把持することができワンタッチターミナルである。外部端子板５５８は、本体枠４に組立てた状態で、タンクレール５５３における上側が第一レールカバー５５４、第二レールカバー５５５、及び球整流部材５５６により閉鎖される部位の前方に配置されている。外部端子板５５８（複数の電線接続端子５５８ａ）の上側を覆う端子カバー５５１ｋは、払出ベース５５１の上面に形成されている。端子カバー５５１ｋの上面は、球タンク５５２におけるフランジ部５５２ｌの上端と略同じ高さに形成されている。
【０６８０】
次に、パチンコ機１における本体枠４の上部の作用効果について説明する。まず、越流面部５０１ｍ、左段部５０１ｎ、右段部５０１ｏ、及び迂回通路５５２ｇは、図１０３において白抜きの矢印で示すように、越流面部５０１ｍと迂回通路５５２ｇは後端側が低くなるように傾斜しており、左段部５０１ｎは後端右隅が、右段部５０１ｏは後端左隅が、夫々低くなるように傾斜している。また、球タンク５５２の底壁５５２ａ及びタンクレール５５３（主誘導部５５３ａ）は、正面視において、夫々左端側が低くなるように傾斜している。また、球タンク５５２の案内面部５５２ｊは、底壁５５２ａとは逆方向の右端側が低くなるように傾斜している。
【０６８１】
そして、島設備から供給されることで球タンク５５２内に貯留されている遊技球Ｂの量が増えてくると、まず初めに、外周上端縁のうち最も高さの低い越流部５５２ｆを越えて球タンク５５２の外側（前方）へ流出させることができ、球タンク５５２から溢れた遊技球Ｂを越流面部５０１ｍに逃すことができると共に、球タンク５５２から前方の越流面部５０１ｍへ流出させた遊技球Ｂを、越流面部５０１ｍの傾斜により球タンク５５２内へ戻すことができる（図１０４を参照）。従って、球タンク５５２内でのこれ以上の遊技球Ｂの増加を防止することができるため、球タンク５５２内において遊技球Ｂ同士が強く押し合うこと（球圧の増加）を抑制させることができ、球タンク５５２内において遊技球Ｂ同士の噛み合いによる詰り（所謂、球ガミ）の発生を防止することができる。
【０６８２】
また、迂回通路５５２ｇを備えていることから、図１０５に示すように、球タンク５５２から越流面部５０１ｍに溢れた遊技球Ｂを、迂回通路５５２ｇを介してタンクレール５５３へ送ることができる。これにより、越流面部５０１ｍに溜った遊技球Ｂにより球タンク５５２内の遊技球Ｂに後方への押圧力が強く作用することを回避させることができ、球タ

ンク５５２内における遊技球Ｂの詰りを防止することができる。また、迂回通路５５２ｇを介して遊技球Ｂをタンクレール５５３へ送ることができるため、球タンク５５２や越流面部５０１ｍから溢れた遊技球Ｂが本体枠４の外側（後側）にこぼれるのを防止することができる。従って、本体枠４の外側にこぼれた遊技球Ｂが、外枠２と本体枠４との間に挟まれて本体枠４が開閉できなくなるような不具合の発生を回避させることができる。

【０６８３】

更に、球タンク５５２から越流面部５０１ｍに溢れた遊技球Ｂの一部を、迂回通路５５２ｇによりタンクレール５５３の下流側へ誘導することができると共に、球タンク５５２から遠ざかっている左側に沿った一定の位置から遊技球Ｂをタンクレール５５３へ送ることができるため、迂回通路５５２ｇによってタンクレール５５３へ送られた遊技球Ｂによる流れ（圧力）をタンクレール５５３の下流側へ向けさせることができ、タンクレール５５３内において遊技球Ｂ同士が強く押し合うのを抑制して遊技球Ｂが詰まるのを防止することができる。

【０６８４】

また、球タンク５５２の外周上端縁において、越流部５５２ｆ以外の残りの上端縁の高さを越流部５５２ｆよりも高くしていることから、球タンク５５２と迂回通路５５２ｇとの間の球タンク５５２における左右方向の一方側の左側壁５５２ｄの上端縁が、越流部５５２ｆ、つまり、越流面部５０１ｍの後端よりも高くなっている。これにより、球タンク５５２から越流部５５２ｆを越えて越流面部５０１ｍに溢れた上で、越流面部５０１ｍから迂回通路５５２ｇへ流通している遊技球Ｂが、球タンク５５２の一方側の左側壁５５２ｄにより遮られることで、迂回通路５５２ｇから球タンク５５２側へ戻ってしまうことを防止することができ、迂回通路５５２ｇ側の遊技球Ｂが球タンク５５２内の遊技球Ｂを押圧して球タンク５５２内において遊技球Ｂの詰りが発生することを防止することができる。

【０６８５】

更に、上述したように、球タンク５５２と迂回通路５５２ｇとの間の左側壁５５２ｄの上端縁が、越流面部５０１ｍの後端（迂回通路５５２ｇにおける遊技球Ｂが転動する通路面５５２ｈ）よりも高くなっているため、越流面部５０１ｍを介することなく遊技球Ｂが球タンク５５２から迂回通路５５２ｇへ溢れてしまうことを防止することができる。これにより、迂回通路５５２ｇに対して横（球タンク５５２）からの遊技球Ｂの流入を防止することができるため、迂回通路５５２ｇにおける遊技球Ｂの流れを、前端側の越流面部５０１ｍから後端側のタンクレール５５３へ向かう一定の方向の流れとすることができ、迂回通路５５２ｇからタンクレール５５３へ誘導される遊技球Ｂの圧力を一定方向とすることができる。従って、タンクレール５５３内において、遊技球Ｂにかかる圧力の向きがばらばらとなることで遊技球Ｂ同士が押し合って噛み込んでしまうことを防止することができ、遊技球Ｂの詰りの発生を防止することができる。

【０６８６】

また、タンクレール５５３の底部に、下流端まで延びている主誘導部５５３ａを備えていることから、タンクレール５５３内の遊技球Ｂが主誘導部５５３ａに到達することで、左右方向へ一列に並んだ状態となるため、タンクレール５５３内の遊技球Ｂを整列させることができ、遊技球Ｂを下流側の払出装置５８０へ確実に誘導することができる。また、タンクレール５５３における上側が開放されている部位において、複数の遊技球Ｂが並ぶことが可能な幅の広い膨出部５５３ｂを備えているため、迂回通路５５２ｇの後端から放出された遊技球Ｂを確実に受けることができ、上述した作用効果を確実に奏することができる。

【０６８７】

また、タンクレール５５３の膨出部５５３ｂを、上流端から上側が閉鎖されている部位まで延びるようにすると共に、上流端から下流側へ向かって幅方向が狭くなって主誘導部５５３ａの幅と一致するように変化させるようにしているため、複数の遊技球Ｂが膨出部５５３ｂ内において下流側へ向かうに従って、それらが幅方向に対して一列となるように整列させられることができる。また、タンクレール５５３における上側が閉鎖されている部

位を、遊技球Ｂが流通する流路の高さが下流端へ向かうに従って低くなるように形成しているため、上流側（球タンク５５２側）において高さ方向へ複数段に積み重なっていた複数の遊技球Ｂを、タンクレール５５３における上側が閉鎖されている部位を通って下流側へ流通させることで、高さ方向の段数を少なくして一列に整列させることができる。従って、タンクレール５５３により、複数の遊技球Ｂを、一列に整列させた状態で下流側（払出装置５８０側）へ誘導することができる。

【０６８８】

更に、越流面部５０１ｍ及び迂回通路５５２ｇを備えていることから、それらにおいて或る程度の数の遊技球Ｂを貯留することが可能となると共に、タンクレール５５３に膨出部５５３ｂを備えていることから、タンクレール５５３内の容積を大きくすることができるため、球タンク５５２と合わせてより多くの遊技球Ｂを貯留することができる。

【０６８９】

また、迂回通路５５２ｇ及び排出部５５１ｊを間にして球タンク５５２とは反対側に、電気配線が接続される複数の電線接続端子５５８ａを備えた外部端子板５５８と、複数の電線接続端子５５８ａ（外部端子板５５８）の上側を覆う端子カバー５５１ｋとを備えているため、島設備から遊技球Ｂが供給される球タンク５５２に対して、電線接続端子５５８ａ及び端子カバー５５１ｋを遠くすることができるため、島設備から供給された遊技球Ｂが、球タンク５５２や越流面部５０１ｍにおいて跳ねたり勢いよく供給されたりしても、電線接続端子５５８ａ等に到達（当接）し難くすることができ、遊技球Ｂの当接によりショートしたり電気配線が外れたりするような不具合が発生することはない。

【０６９０】

また、複数の電線接続端子５５８ａを後方へ向けると共に、端子カバー５５１ｋの上面を、越流面部５０１ｍよりも高くしているため、島設備から球タンク５５２に供給された遊技球Ｂが球タンク５５２や越流面部５０１ｍで跳ねても、端子カバー５５１ｋの上面に乗り難くすることができると共に、端子カバー５５１ｋの上面に遊技球Ｂが乗っても、後側から落下し難くすることができ上述したような不具合の発生を回避させ易くすることができる。

【０６９１】

更に、越流面部５０１ｍから球タンク５５２の案内面部５５２ｊに戻された遊技球Ｂは、案内面部５５２ｊの傾斜により球タンク５５２の上流側（図１０４において右方向）へ送られる。これにより、案内面部５５２ｊ上の遊技球Ｂが、球タンク５５２内の遊技球Ｂに対して下流方向へ押圧することを防止することができ、球タンク５５２内において遊技球Ｂの詰りが発生することを防止することができる。

【０６９２】

また、島設備から球タンク５５２に供給された遊技球Ｂが、球タンク５５２や越流面部５０１ｍで跳ねて、越流面部５０１ｍの左右両側にある左段部５０１ｎや右段部５０１ｏに乗っても、図１０４に示すように、それらの傾斜により遊技球Ｂを越流面部５０１ｍや迂回通路５５２ｇへ誘導することができ、本体枠４の外側に遊技球Ｂがこぼれることで不具合が発生するのを防止することができる。

【０６９３】

また、球タンク５５２からタンクレール５５３側へ遊技球Ｂが流通する際に、遊技球Ｂが案内面部５５２ｊの下側を通る構成としているため、案内面部５５２ｊによりタンクレール５５３において上側に積み重なる遊技球Ｂの量（高さ）を、案内面部５５２ｊの下面よりも高くならないように規制することができる。従って、タンクレール５５３における球タンク５５２（案内面部５５２ｊ）の下流側、つまり、迂回通路５５２ｇの後端側において、上側へ遊技球Ｂを積み重ねることが可能なスペース（空き）を確保することができ、迂回通路５５２ｇにより誘導された遊技球Ｂを確実に受取ることができる。

【０６９４】

更に、複数の電線接続端子５５８ａ及び端子カバー５５１ｋを、タンクレール５５３における上側が閉鎖されている部位の前方に配置しているため、端子カバー５５１ｋから後方

へ遊技球Ｂが落下しても、その遊技球Ｂがタンクレール５５３に受入られることはなく、当該遊技球Ｂがタンクレール５５３内の遊技球Ｂに影響を与えて不具合が発生することを防止することができる。

【０６９５】

［５．遊技盤の全体構成］

パチンコ機１における遊技盤５の全体構成について、主に図１０７乃至図１１５を参照して詳細に説明する。図１０７は、パチンコ機において前構成部材、遊技パネル、及び表ユニット等を不透明にした遊技盤の正面図である。図１０８は図１０７の遊技盤を右前から見た斜視図であり、図１０９は図１０７の遊技盤を左前から見た斜視図であり、図１１０は遊技盤を後ろから見た斜視図である。図１１１は、前構成部材、遊技パネル、及び表ユニット等を透明にした状態の遊技盤の正面図である。図１１２は遊技盤を主な部材毎に分解して前から見た分解斜視図であり、図１１３は遊技盤を主な部材毎に分解して後ろから見た分解斜視図である。図１１４は図１０７におけるＣ－Ｃ線で切断した断面図である。図１１５は、遊技パネルの面と平行に表ユニットを切断して遊技球が流通する遊技領域内と障害釘とを現した状態で示す遊技盤の正面図である。

【０６９６】

なお、以下では、装飾基板の面に対して垂直方向から見た時に、装飾基板に実装されたＬＥＤの形状が正方形の時には、当該ＬＥＤが装飾基板の面に対して垂直方向へ光を照射するもの（トップビューＬＥＤ）であり、装飾基板に実装されたＬＥＤの形状が長方形の時には、当該ＬＥＤが装飾基板の面に平行な方向へ光を照射するもの（サイドビューＬＥＤ）であることを表しており、詳細な説明は省略する。

【０６９７】

パチンコ機１の遊技盤５は、遊技者がハンドルユニット１８０のハンドル１８２を操作することで遊技球Ｂが打込まれる遊技領域５ａを有している。遊技領域５ａには、遊技球Ｂの受入れ又は通過により遊技者に対して所定の特典（例えば、所定数の遊技球Ｂの払出し）を付与する一般入賞口２００１、第一始動口２００２、ゲート部２００３、第二始動口２００４、第一大入賞口２００５、及び第二大入賞口２００６が備えられている。この遊技盤５は、遊技球Ｂが、遊技領域５ａ内の一般入賞口２００１、第一始動口２００２、ゲート部２００３、第二始動口２００４、第一大入賞口２００５、及び第二大入賞口２００６等に、受入れられる又は通過するように、ハンドル１８２の打込操作と遊技領域５ａ内での遊技球Ｂの流通とを楽しませる遊技を行うためのものである。

【０６９８】

遊技盤５は、遊技領域５ａの外周を区画し外形が正面視略四角形状とされた前構成部材１０００と、前構成部材１０００の後側に取付けられており遊技領域５ａの後端を区画する板状の遊技パネル１１００と、を備えている。遊技パネル１１００の前面における遊技領域５ａ内となる部位には、遊技球Ｂと当接する金色を有する複数の障害釘Ｎ（図１１５等を参照）が所定のゲージ配列で植設されている。また、遊技盤５は、遊技パネル１１００の後側下部に取付けられている基板ホルダ１２００と、基板ホルダ１２００の後面に取付けられており遊技球Ｂを遊技領域５ａ内へ打込むことで行われる遊技内容を制御する主制御基板１３１０（図１１４及び図２０６等を参照）を有している主制御ユニット１３００と、を備えている。

【０６９９】

また、遊技盤５は、主制御基板１３１０からの制御信号に基づいて遊技状況を表示し前構成部材１０００の左上隅に遊技者側へ視認可能に取付けられている機能表示ユニット１４００と、遊技パネル１１００の後側に配置されている周辺制御ユニット１５００と、正面視において遊技領域５ａの中央に配置されており所定の演出画像を表示可能な演出表示装置１６００と、遊技パネル１１００の後側に配置されている駆動基板ユニット１７００と、遊技パネル１１００の前面に取付けられる表ユニット２０００と、遊技パネル１１００の後面に取付けられる裏ユニット３０００と、を更に備えている。

【０７００】

裏ユニット３０００の後面に演出表示装置１６００が取付けられていると共に、演出表示装置１６００の後面に周辺制御ユニット１５００が取付けられている。また、演出表示装置１６００の後方で裏ユニット３０００の後面に、駆動基板ユニット１７００が取付けられている。

【０７０１】

前構成部材１０００は、全体が透明に形成されている。前構成部材１０００は、正面視の外形が略正方形とされ、内形が略円形状に前後方向へ貫通しており、内形の内周によって遊技領域５ａの外周を区画している。

【０７０２】

遊技パネル１１００は、外周が枠状の前構成部材１０００の内周よりもやや大きく形成されていると共に透明な平板状のパネル板１１１０と、パネル板１１１０の外周を保持しており前構成部材１０００の後側に取付けられると共に後面に裏ユニット３０００が取付けられる枠状のパネルホルダ１１２０（図１１６等を参照）と、を備えている。

【０７０３】

また、本実施形態では、遊技パネル１１００が透明なパネル板１１１０を有しているため、遊技パネル１１００の前方（つまり、遊技盤５の前方）から遊技パネル１１００を通して遊技パネル１１００の後方に配置される各種部材の存在を容易に視認することができるようになっている（以下、「透明な遊技パネル１１００」と記載する場合がある）。

【０７０４】

駆動基板ユニット１７００は、上述した扉枠副中継基板１０５と電気的に接続される各種基板（例えば、皿ユニット２００の皿ユニット中継基板２１４、扉枠左サイドユニット４００の扉枠左サイド装飾基板４０２、扉枠右サイドユニット４１０のサイド窓内装飾部装飾基板４１３及び扉枠右サイド装飾基板４１８、扉枠トップユニット４５０の扉枠トップ中継基板４６７等）のほかに、主制御基板１３１０と周辺制御基板１５１０との接続を中継しているパネル中継基板１７１０と、周辺制御基板１５１０からのコマンドに応じて表ユニット２０００や裏ユニット３０００に備えられている装飾基板、駆動モータ及び駆動ソレノイド等を駆動させる演出駆動基板１７２０と、パネル中継基板１７１０と演出駆動基板１７２０とを収容している駆動基板ボックス１７３０と、を備えている。駆動基板ボックス１７３０は、背面視左辺側が裏ユニット３０００における裏箱３０１０の後面にヒンジ回転可能に取付けられていると共に、背面視右辺側が演出表示装置１６００の後面に着脱可能に取付けられている。なお、例えば、演出駆動基板１７２０は、その表面（実装面）及び裏面（ハンダ面）に緑色のレジスト液が塗布されて形成される緑色塗膜（以下、単に「ベタ塗りされた緑色のレジスト」と記載する場合がある。）により緑色のレジスト層が形成されている。演出駆動基板１７２０の表面（実装面）には、複数の電子部品が実装され、これらの電子部品の近傍に、電子部品の部品番号、電子部品を配置する位置を示す領域等の電子部品の属性（さらに、電子部品の形状、電子部品の大きさ、電子部品の実装向き（実装方向）、電子部品の型式を含む場合がある。）を示す表記部が、緑色に対して目立ち易い白色の塗料で、ベタ塗りされた緑色のレジスト上にシルク印刷によりそれぞれ印刷されている。

【０７０５】

表ユニット２０００は、遊技領域５ａ内に打込まれた遊技球Ｂを受入可能に常時開口している複数（ここでは四つ）の一般入賞口２００１と、複数の一般入賞口２００１とは遊技領域５ａ内の異なる位置で遊技球Ｂを受入可能に常時開口している第一始動口２００２と、遊技領域５ａ内の所定位置に取付けられており遊技球Ｂの通過を検知するゲート部２００３と、遊技球Ｂがゲート部２００３を通過することにより抽選される普通抽選結果に応じて遊技球Ｂの受入れが可能となる第二始動口２００４と、第一始動口２００２又は第二始動口２００４への遊技球Ｂの受入れにより抽選される第一特別抽選結果又は第二特別抽選結果に応じて遊技球Ｂの受入れが可能となる第一大入賞口２００５と、第一始動口２００２又は第二始動口２００４への遊技球Ｂの受入れにより抽選される第一特別抽選結果又は第二特別抽選結果に応じて遊技球Ｂの受入れが可能となる第二大入賞口２００６と、を

備えている。
【０７０６】
また、表ユニット２０００は、遊技領域５ａの下端に設けられており遊技球Ｂを遊技領域５ａ内から排出するアウト口２０１０と、遊技領域５ａ内の上下方向の途中に設けられており遊技球Ｂを遊技領域５ａ内から排出する第一サブアウト口２０１１及び第二サブアウト口２０１２と、を備えている。
【０７０７】
また、表ユニット２０００は、遊技領域５ａ内の左右方向中央で遊技領域５ａの下端の直上に取付けられており第一始動口２００２を有している始動口ユニット２１００と、始動口ユニット２１００の正面視左方で内レール１００２に沿うように設けられており三つの一般入賞口２００１を有しているサイドユニット２２００と、サイドユニット２２００の正面視左方のやや上側に設けられているサイド左上ユニット２３００と、遊技領域５ａ内の正面視右下隅となる始動口ユニット２１００の正面視右方に設けられており第二始動口２００４、第一大入賞口２００５、及び第一サブアウト口２０１１を有している第一アタッカユニット２４００と、始動口ユニット２１００及びサイドユニット２２００よりも上方で、遊技領域５ａ内の正面視略中央やや上寄りに設けられている枠状のセンター役物２５００と、センター役物２５００の右方で第一アタッカユニット２４００の上方に設けられており第二大入賞口２００６を有している第二アタッカユニット２６００と、第二アタッカユニット２６００の上方に設けられており一つの一般入賞口２００１及び第二サブアウト口２０１２を有しているサイド右中ユニット２７００と、サイド右中ユニット２７００の上方に設けられておりゲート部２００３を有しているゲート部材２８００と、を備えている。
【０７０８】
裏ユニット３０００は、遊技パネル１１００のパネルホルダ１１２０の後面に取付けられ前方が開放されている箱状で後壁に四角い開口部３０１０ａを有している裏箱３０１０と、裏箱３０１０の後面に取付けられており演出表示装置１６００を着脱可能に取付けるためのロック機構３０２０と、を備えている。
【０７０９】
また、裏ユニット３０００は、裏箱３０１０の前端の左右両端付近に夫々設けられている平板状の裏前左装飾体３０３０及び裏前右装飾体３０４０と、裏箱３０１０内の前端の下部に設けられている裏誘導ユニット３０５０と、裏箱３０１０内の後端に設けられている裏後演出ユニット３１００と、裏箱３０１０内の下部における裏誘導ユニット３０５０の後方で左右に離隔して設けられている裏下左演出ユニット３２００及び裏下右演出ユニット３２５０と、裏箱３０１０内における裏下左演出ユニット３２００及び裏下右演出ユニット３２５０の後方に設けられている裏下中演出ユニット３３００と、を備えている。
【０７１０】
更に、裏ユニット３０００は、裏箱３０１０内の上部における裏後演出ユニット３１００の前方に設けられている裏上演出ユニット３４００と、裏箱３０１０内における裏前左装飾体３０３０の後方に設けられている裏後左演出ユニット３５００と、裏箱３０１０内における裏前右装飾体３０４０の後方に設けられている裏後右演出ユニット３６００と、裏箱３０１０内における裏前左装飾体３０３０と裏後左演出ユニット３５００との間に設けられている裏前左演出ユニット３７００と、裏箱３０１０内における裏前右装飾体３０４０と裏後右演出ユニット３６００との間に設けられている裏前右演出ユニット３８００と、を備えている。
【０７１１】
［５－１．前構成部材］
遊技盤５における前構成部材１０００について、主に図１１６を参照して詳細に説明する。図１１６（ａ）は遊技盤における前構成部材及び遊技パネルを前から見た斜視図であり、（ｂ）は前構成部材及び遊技パネルを後ろから見た斜視図である。
【０７１２】

前構成部材１０００は、全体が透明に形成されている。前構成部材１０００は、正面視の外形が略正方形とされ、内形が略円形状に前後方向へ貫通しており、内形の内周によって遊技領域５ａの外周を区画している。この前構成部材１０００は、正面視で左右方向中央から左寄りの下端から時計回りの周方向へ沿って円弧状に延び正面視左右方向中央上端を通り過ぎて右斜め上部まで延びた外レール１００１と、外レール１００１に略沿って前構成部材１０００の内側に配置され正面視左右方向中央下部から正面視左斜め上部まで円弧状に延びた内レール１００２と、内レール１００２の下端の正面視右側で遊技領域５ａの最も低くなった位置に形成されており後方（アウト口２０１０）へ向かって低くなるように傾斜しているアウト誘導部１００３と、を備えている。

【０７１３】

また、前構成部材１０００は、アウト誘導部１００３の正面視右端から前構成部材１０００の右辺付近まで右端側が僅かに高くなるように直線状に傾斜している右下レール１００４と、右下レール１００４の右端から前構成部材１０００の右辺に沿って外レール１００１の上端の下側まで延びており上部が前構成部材１０００の内側へ湾曲している右レール１００５と、右レール１００５の上端と外レール１００１の上端とを繋いでおり外レール１００１に沿って転動して来た遊技球Ｂが当接する衝止部１００６と、を備えている。

【０７１４】

また、前構成部材１０００は、内レール１００２の上端に回動可能に軸支され、外レール１００１との間を閉鎖するように内レール１００２の上端から上方へ延出した閉鎖位置と正面視時計回りの方向へ回動して外レール１００１との間を開放した開放位置との間でのみ回動可能とされると共に閉鎖位置側へ復帰するように図示しないバネによって付勢された逆流防止部材１００７を、備えている。

【０７１５】

更に、前構成部材１０００は、枠内における正面視左右方向中央下部で、アウト誘導部１００３の後端において前後に貫通しているアウト口２０１０を備えている。アウト口２０１０は、二つの遊技球Ｂが左右方向へ十分に並ぶ幅で貫通している。アウト誘導部１００３によって後方へ誘導された遊技球Ｂは、アウト口２０１０及び後述する裏ユニット３０００のアウト球検知部材３０８０を通って前構成部材１０００（遊技パネル１１００）の後方へ排出される。

【０７１６】

また、前構成部材１０００は、外レール１００１及び内レール１００２における下端から略垂直に延びた付近の部位の外側、アウト誘導部１００３及び右下レール１００４の下側、及び右レール１００５の外側、の夫々の部位において、前端から後方へ窪んだ防犯凹部１００９を備えている。この防犯凹部１００９は、遊技盤５を本体枠４に取付けて、本体枠４に対して扉枠３を閉じた状態とすると、扉枠３における防犯カバー１７０の後方へ突出した後方突片１７２が挿入された状態となる。これにより、防犯カバー１７０と遊技盤５（前構成部材１０００）との間が、防犯カバー１７０の後方突片１７２と前構成部材１０００の防犯凹部１００９とによって複雑に屈曲した状態となるため、遊技盤５の前面下方より防犯カバー１７０と前構成部材１０００との間を通してピアノ線等の不正な工具を遊技領域５ａ内に侵入させようとしても、後方突片１７２や防犯凹部１００９に阻まれることとなり、遊技領域５ａ内への不正な工具の侵入を阻止することができる。

【０７１７】

また、前構成部材１０００は、正面視左下隅において下端から上方へ切欠かれている切欠部１０１０を備えている。この切欠部１０１０は、遊技パネル１１００におけるパネルホルダ１１２０の切欠部１１２２と一致しており、遊技盤５を本体枠４に取付けた時に、切欠部１０１０及び切欠部を貫通して下部満タン球経路ユニット６１０の下部通常払出通路６１０ａ及び下部満タン払出通路６１０ｂの前端開口が前方へ臨むようになっている。

【０７１８】

更に、前構成部材１０００は、正面視において左上隅に形成されており、機能表示ユニット１４００が取付けられる機能表示ユニット取付部１０１１と、左下隅に形成されている

証紙貼付部１０１２と、を備えている。
【０７１９】
また、前構成部材１０００は、略全体が透明に形成されており、後側に配置されている遊技パネル１１００や裏ユニット３０００等を前方から視認することができる。この前構成部材１０００は、後側に取付けられる遊技パネル１１００と伴に透明に形成されているため、遊技盤５に組立てた時に、遊技領域５ａの境界が明瞭に見えることを低減させることができ、遊技者に対して開放感を与えることができると共に、実際の遊技領域５ａの大きさが変わらないものの、遊技者に対して遊技領域５ａを大きく（広く）見せることができる。
【０７２０】
また、前構成部材１０００を、遊技パネル１１００と伴に透明としているため、演出表示装置１６００、表ユニット２０００や裏ユニット３０００、等からの光を、前方（遊技者側）へ反射させたり屈折させたりすることで発光しているように見せることができ、遊技盤５の全体の装飾性をより高めることができる。
【０７２１】
［５－２．遊技パネル］
遊技盤５における遊技パネル１１００について、主に図１１６等を参照して詳細に説明する。遊技パネル１１００は、前構成部材１０００の後面に取付けられており、表ユニット２０００及び裏ユニット３０００が取付けられるものである。遊技パネル１１００は、外周が枠状の前構成部材１０００の内周よりもやや大きく形成されていると共に透明な合成樹脂で形成されている平板状のパネル板１１１０と、パネル板１１１０の外周を保持しており前構成部材１０００の後側に取付けられると共に後面に裏ユニット３０００が取付けられる枠状のパネルホルダ１１２０と、を備えている。遊技パネル１１００におけるパネル板１１１０の前面には、所定のゲージ配列で金色を有する複数の障害釘Ｎが植設されている（図１１５等を参照）。
【０７２２】
遊技パネル１１００のパネル板１１１０は、アクリル樹脂、ポリカーボネイト樹脂、ポリアリレート樹脂、メタクリル樹脂等の合成樹脂板や、ガラスや金属等の無機質板により形成されている。このパネル板１１１０の板厚は、パネルホルダよりも薄く、障害釘Ｎを前面に植設したり表ユニット２０００を取付けたりしても十分に保持可能な必要最低限の厚さ（８～１０ｍｍ）とされている。なお、本実施形態では、透明な合成樹脂板によってパネル板１１１０が形成されている。
【０７２３】
パネル板１１１０は、遊技領域５ａ内において最も低い位置となり前構成部材１０００のアウト口２０１０と対応した位置が、下端から上方へ窪んでいる。また、パネル板１１１０には、前後に貫通しており表ユニット２０００を取付けるための開口部１１１２が複数形成されている。
【０７２４】
また、図示は省略するが、パネル板１１１０は、前後に貫通した丸孔及び短い長孔に形成されている複数の位置決孔と、上縁と下縁とにおいて夫々左右方向へ離隔しており板厚が薄く形成されている複数の係合段部と、を備えている。位置決孔は、パネルホルダ１１２０の突出ピン（図示は省略）が挿入されることで、パネルホルダ１１２０との位置決めをするためのものである。係合段部は、パネルホルダ１１２０の係合爪（図示は省略）や係合片（図示は省略）に係合されることで、パネルホルダ１１２０に対して着脱可能に取付けられるためのものである。
【０７２５】
パネル板１１１０は、図１１６に示すように、センター役物２５００を取付けるための大きな開口部１１１２が、正面視において中央よりも右上にオフセットしている。これにより、パネル板１１１０が枠状となっており、正面視において、遊技球Ｂの流通方向（枠状の周方向）に対して直交している幅が、中央より左側と下側が複数の遊技球Ｂが並ぶこと

が可能な広い幅となっており、上側が複数の遊技球Ｂが並ぶことが不能な狭い幅となっている。

【０７２６】

遊技パネル１１００のパネルホルダ１１２０は、パネル板１１１０を包含する大きさで外形が略四角形状とされ、パネル板１１１０よりも厚く（本実施形態では、約２０ｍｍ）形成されている。パネルホルダ１１２０は、透明な合成樹脂（例えば、熱可塑性合成樹脂）により形成されている。このパネルホルダ１１２０は、パネル板１１１０と略同じ大きさで前面側から後方側に向かって凹んでいる保持段部（図示は省略）と、保持段部を略遊技領域５ａと同等の大きさで前後方向に貫通している貫通口１１２１を備えている。

【０７２７】

また、パネルホルダ１１２０は、正面視左下隅において下端から上方へ切欠かれている切欠部１１２２を備えている。この切欠部１１２２は、前構成部材１０００の切欠部１０１０と一致するように形成されており、遊技盤５を本体枠４に取付けた時に、切欠部１０１０及び切欠部を貫通して貫通して下部満タン球経路ユニット６１０の下部通常払出通路６１０ａ及び下部満タン払出通路６１０ｂの前端開口が前方へ臨むようになっている。

【０７２８】

更に、パネルホルダ１１２０には、下端からアウト口２０１０に対応した位置まで上方へ延びており、後面から前方へ向かって窪んでいるアウト凹部１１２３が形成されている。アウト凹部１１２３は、上部がアウト口２０１０と連通している。このアウト凹部１１２３には、後述する裏ユニット３０００の裏誘導ユニット３０５０におけるアウト球検知部材３０８０の筒部３０８１が挿入される。

【０７２９】

また、パネルホルダ１１２０は、図示は省略するが、保持段部から前方へ突出しておりパネル板１１１０の複数の位置決孔に夫々が挿入される複数の突出ピンと、保持段部よりも外側に配置されておりパネル板１１１０の上側と左下の傾斜している部位の係合段部に対して弾性係合する三つの係合爪と、保持段部の下外側から上方へ突出しておりパネル板１１１０の下辺の二つの係合段部と夫々係合する一対の係合片と、を備えている。パネルホルダ１１２０は、前方斜め上からパネル板１１１０の下辺の係合段部を、係合片に係合させた上で、パネル板１１１０の上部を後方へ移動させて、上側と左下の傾斜している部位の係合段部を係合爪に弾性係合させることで、パネル板１１１０を保持段部に収容した状態で着脱可能に取付けることができる。この際に、パネル板１１１０の位置決孔に、パネルホルダ１１２０の突出ピンが挿入され、パネル板１１１０がパネルホルダ１１２０に対して所定の位置に位置決めされる。

【０７３０】

この遊技パネル１１００は、前側に取付けられる前構成部材１０００と伴に透明に形成されているため、遊技盤５に組立てた時に、遊技領域５ａの境界が明瞭に見えることを低減させることができ、遊技者に対して開放感を与えることができると共に、実際の遊技領域５ａの大きさが変わらないものの、遊技者に対して遊技領域５ａを大きく（広く）見せることができる。

【０７３１】

また、遊技パネル１１００を、前構成部材１０００と伴に透明としているため、演出表示装置１６００、表ユニット２０００や裏ユニット３０００、等からの光を、前方（遊技者側）へ反射させたり屈折させたりすることで発光しているように見せることができ、遊技盤５の全体の装飾性をより高めることができる。

【０７３２】

また、遊技パネル１１００のにおける透明な平板状のパネル板１１１０の裏面側であって、遊技盤５を前から見て、始動口ユニット２１００の第一始動口２００２の右方近傍には、不正な磁気を検知する磁気センサ１１１１が取り付けられている（図１１３等を参照）。

【０７３３】

［５－３．基板ホルダ］

遊技盤５における基板ホルダ１２００について、主に図１１２及び図１１３等を参照して詳細に説明する。基板ホルダ１２００は、上方及び前方が開放された横長の箱状に形成されており、底面が左右方向中央へ向かって低くなるように傾斜している。基板ホルダ１２００は、底面における左右方向中央において、前端から後方へ向かって切欠かれている排出部１２０１を有している。この基板ホルダ１２００は、遊技盤５に組立てた状態で、遊技パネル１１００の後側に取付けられている裏ユニット３０００の下部を下側及び後側から覆っていると共に、後面に主制御ユニット１３００の透明な主制御基板ボックス１３２０が取付けられている。

【０７３４】

基板ホルダ１２００は、パチンコ機１に組立てた状態で、排出部１２０１が、本体枠４の基板ユニット６２０におけるベースユニット６２０ｂの排出球受部６２８の直上に位置していると共に、裏ユニット３０００のアウト球検知部材３０８０の直下に位置している。この基板ホルダ１２００は、表ユニット２０００及び裏ユニット３０００から下方へ排出された遊技球Ｂ、を全て受けることができ、底面に形成された排出部１２０１から下方の排出球受部６２８へ排出させることができる。

【０７３５】

［５－４．主制御基板ユニット］

遊技盤５における主制御ユニット１３００について、主に図１１２乃至図１１４等を参照して詳細に説明する。主制御ユニット１３００は、基板ホルダ１２００の後面に着脱可能に取付けられている。主制御ユニット１３００は、遊技内容及び遊技球Ｂの払出し等を制御する主制御基板１３１０（図２０６を参照）と、主制御基板１３１０を収容しており基板ホルダ１２００に取付けられる主制御基板ボックス１３２０と、を備えている。

【０７３６】

主制御基板ボックス１３２０は、複数の封印機構を備えており、一つの封印機構を用いて主制御基板ボックス１３２０を閉じると、次に、主制御基板ボックス１３２０を開けるためにはその封印機構を破壊する必要があり、主制御基板ボックス１３２０の開閉の痕跡を残すことができる。従って、開閉の痕跡を見ることで、主制御基板ボックス１３２０の不正な開閉を発見することができ、主制御基板１３１０への不正行為に対する抑止力が高められている。

【０７３７】

主制御ユニット１３００の主制御基板１３１０は、インターフェイス基板６３５、及び周辺制御基板１５１０と、接続されている。また、主制御基板１３１０は、機能表示ユニット１４００、第一始動口センサ３０５２、ゲートセンサ２８０１、第二始動口センサ２４０１、一般入賞口センサ３０５１、第一大入賞口センサ２４０２、第二大入賞口センサ２６０１、アウト口センサ３０５３、第一サブアウト口センサ２４０３、第二サブアウト口センサ３０５４、及び磁気センサ１１１１，２４０４，２６０２，３０５５、等と接続されている。

【０７３８】

［５－５．機能表示ユニット］

遊技盤５における機能表示ユニット１４００について、主に図１０７等を参照して詳細に説明する。機能表示ユニット１４００は、遊技領域５ａの外側で前構成部材１０００の左上隅に取付けられている。機能表示ユニット１４００は、パチンコ機１に組立てた状態で、扉枠３の扉窓１０１ａを通して前方（遊技者側）から視認することができる。この機能表示ユニット１４００は、主制御基板１３１０からの制御信号に基づき複数のＬＥＤを用いて、遊技状態（遊技状況）や、普通抽選結果や特別抽選結果等を表示するものである。

【０７３９】

機能表示ユニット１４００は、詳細な図示は省略脛が、遊技状態を表示する三つのＬＥＤからなる状態表示器と、ゲート部２００３での遊技球Ｂの通過により抽選される普通抽選結果を表示する二つのＬＥＤからなる普通図柄表示器と、ゲート部２００３での遊技球Ｂの通過に係る保留数を表示する二つのＬＥＤからなる普通保留表示器と、を備えている。

【０７４０】
また、機能表示ユニット１４００は、第一始動口２００２への遊技球Ｂの受入れにより抽選された第一特別抽選結果を表示する八つのＬＥＤからなる第一特別図柄表示器と、第一始動口２００２への遊技球Ｂの受入れに係る保留数を表示する二つのＬＥＤからなる第一特別保留数表示器と、第二始動口２００４への遊技球Ｂの受入れにより抽選された第二特別抽選結果を表示する八つのＬＥＤからなる第二特別図柄表示器と、第二始動口２００４への遊技球Ｂの受入れに係る保留数を表示する二つのＬＥＤからなる第二特別保留数表示器と、を備えている。
【０７４１】
更に、機能表示ユニット１４００は、第一特別抽選結果又は第二特別抽選結果が「当り」等の時に、第一大入賞口２００５又は第二大入賞口２００６の開閉パターンの繰返し回数（ラウンド数）を表示する五つのＬＥＤからなるラウンド表示器、を備えている。
【０７４２】
この機能表示ユニット１４００では、備えられているＬＥＤを、適宜、点灯、消灯、及び、点滅、等させることにより、保留数や図柄等を表示することができる。
【０７４３】
ここで、機能表示ユニット１４００の構成について簡単に説明する。機能表示ユニット１４００は、後方が開口されると共に開口部を有する箱体と、箱体に収容される機能表示基板と、開口部を塞ぐ平板状のカバー体と、を備えている。機能表示基板の外形は、箱体の外形と比べて小さくなっている。なお、本実施形態では、箱体とカバー体とが有色不透明（透光性を有しない）な樹脂（黒色の樹脂）により成型されている。有色不透明な樹脂としては、黒色のほかに、灰色、赤色、桃色、空色、青色、緑色、黄色等の樹脂であってもよい。また、箱体とカバー体とは、有色不透明な樹脂に代えて、乳白色を有する樹脂で成型されてもよいし、無色透明な樹脂で成型されてもよい。
【０７４４】
箱体には、機能表示基板の前面（表面）に実装される複数のＬＥＤ（本実施形態では、ＬＥＤベアチップ）と対応する位置に、その裏面側から後方へ向かってＬＥＤ用挿通孔がそれぞれ設けられている。各ＬＥＤ用挿通孔は、各ＬＥＤの点灯又は点滅した光が隣接するＬＥＤの点灯又は点滅した光と誤認されないように円筒状に形成されている。また、箱体の所定位置には、後述するカバー体の複数の取付片に形成される係止部が挿入される係止孔が形成されている。
【０７４５】
なお、箱体の前面には、白色を有する機能表示シールが貼られている。この機能表示シールには、箱体の前面に貼られた際に、各ＬＥＤ用挿通孔と対応する位置に対し円形状を有する透明部がそれぞれ形成されている。つまり、機能表示基板の前面（表面）に実装されるＬＥＤの点灯又は点滅は、ＬＥＤ用挿通孔に案内され透明部を介して視認することができるようになっている。また、機能表示シールにおける透明部の周囲は黒色（黒色以外の暗色であってもよい）とされており、透明部との対比によりＬＥＤの点灯状態を判別し易くなっている。
【０７４６】
機能表示基板の前面（表面）には、複数のＬＥＤ（本実施形態では、ＬＥＤベアチップ（「ＬＥＤ素子」とも言われる。））が実装されており、複数のＬＥＤ等の前面側電子部品（表面側電子部品）が半田付けされるパッドのほかに、スルーホール、ランド等を除いた全域において、白色のレジスト液が塗布されて形成される白色塗膜（以下、単に「ベタ塗りされた白色のレジスト」と記載する場合がある。）により白色のレジスト層が形成されている。なお、本実施形態では、機能表示基板の前面（表面）には、前面側電子部品（表面側電子部品）の部品番号、前面側電子部品（表面側電子部品）を配置する位置を示す領域等の前面側電子部品（表面側電子部品）の属性（さらに、前面側電子部品（表面側電子部品）の形状、前面側電子部品（表面側電子部品）の大きさ、前面側電子部品（表面側電子部品）の実装向き（実装方向）、前面側電子部品（表面側電子部品）の型式を含む場合

がある。）を示す前面側表記部（表面側表記部）が、所定の色（例えば、白色に対して目立ち難い明色である黄色）の塗料で、ベタ塗りされた白色のレジスト上にシルク印刷により全く印刷されていない。なお、少なくとも機能表示基板の実装面のうちＬＥＤ用挿通孔に対応する領域の周囲の領域については黒色のレジスト層を形成したり黒色の塗料をシルク印刷するものであってもよい。これによりＬＥＤの光がＬＥＤ用挿通孔の外部に漏れた場合であっても反射率の最も低い黒色の塗膜が形成されていることで光の拡散を抑制することが可能になる。

【０７４７】

機能表示基板の後面（裏面）には、電気配線が接続されるコネクタハウジングのほかに、各種ＩＣ、各種抵抗、各種コンデンサ等が実装されている場合もあり、コネクタハウジング、各種ＩＣ、各種抵抗、及び各種コンデンサ等の後面側電子部品（裏面側電子部品）が半田付けされるパッドのほかに、スルーホール、ランド等を除いた全域において、白色のレジスト液が塗布されて形成される白色塗膜（以下、単に「ベタ塗りされた白色のレジスト」と記載する場合がある。）により白色のレジスト層が形成されている。なお、本実施形態では、機能表示基板の後面（裏面）には、後面側電子部品（裏面側電子部品）の部品番号、後面側電子部品（裏面側電子部品）を配置する位置を示す領域等の後面側電子部品（裏面側電子部品）の属性（さらに、後面側電子部品（裏面側電子部品）の形状、後面側電子部品（裏面側電子部品）の大きさ、後面側電子部品（裏面側電子部品）の実装向き（実装方向）、後面側電子部品（裏面側電子部品）の型式を含む場合がある。）を示す後面側電子部品（裏面側電子部品）が、所定の色（例えば、白色に対して目立ち難い明色である黄色）の塗料で、ベタ塗りされた白色のレジスト上にシルク印刷により全く印刷されていない。

【０７４８】

このように、本実施形態では、機能表示基板の前面（表面）及び後面（裏面）には、ベタ塗りされた白色のレジスト上にシルク印刷が全く存在していない。また、本実施形態では、機能表示基板の前面（表面）には、配線パターンが形成される層（銅プレーン）において銅箔である配線パターンで前面側電子部品（表面側電子部品）がどのような電子部品であるかをそれぞれ特定するための情報がその情報の外側の周囲の銅箔を抜いて形成される箔抜き箔残しにより形成されてもいないし、機能表示基板の後面（裏面）には、配線パターンが形成される層（銅プレーン）において銅箔である配線パターンで後面側電子部品（裏面側電子部品）がどのような電子部品であるかをそれぞれ特定するための情報がその情報の外側の周囲の銅箔を抜いて形成される箔抜き箔残しにより形成されてもいない。つまり、本実施形態では、機能表示基板の前面（表面）に実装される前面側電子部品（表面側電子部品）がどのような電子部品であるかを特定するための情報が機能表示基板の前面（表面）に何ら表記されていないと共に、機能表示基板の後面（裏面）に実装される後面側電子部品（裏面側電子部品）がどのような電子部品であるかを特定するための情報が機能表示基板の後面（裏面）に何ら表記されていない。

【０７４９】

カバー体の後面（裏面）には、機能表示ユニット１４００の製品管理番号（例えば、ＦＤＵ－ＴＹＰ－Ａ）が刻印されており、カバー体の前面（表面）の所定位置から前方へ向かって平板状の複数の取付片が延出されている。これら複数の取付片の先端外側には、係止部がそれぞれ突設形成されている。各係止部は、カバー体を箱体の開口部を塞ぐ際に、各係止部の一部を溶解させた状態で箱体の所定位置に形成される各係止孔にそれぞれ挿入されることでカバー体と箱体とを溶着する。このように機能表示ユニット１４００のカバー体と箱体とは強固に接着されており、カバー体と箱体との少なくとも一部を破壊しなければ機能表示基板を取り出すことができないようになっている。

【０７５０】

ところで、機能表示ユニット１４００は、主制御基板１３１０により抽選結果や遊技状態等を表示制御される重要なものであるため、機能表示ユニット１４００の箱体に収容される機能表示基板が不正に改変されると、抽選結果や遊技状態等を正しく表示することがで

きない。この場合、例えば、始動口ユニット２１００の第一始動口２００２に実際に遊技球が入球していないにもかかわらず、入球したかのように主制御基板１３１０に対して不正信号を入力させて抽選の機会を多く獲得する不正行為が行われても、機能表示ユニット１４００は、抽選結果や遊技状態等を正しく表示できず、遊技ホールの店員等の係員に気付き難い。

【０７５１】

そこで、本実施形態では、機能表示基板の前面（表面）及び後面（裏面）には、ベタ塗りされた白色のレジスト上にシルク印刷が全く存在していない。つまり、機能表示基板の前面（表面）及び後面（裏面）には、シルク印刷により印刷された前面側表記部（表面側表記部）及び後面側表記部（裏面側表記部）が全く形成されていない。また、本実施形態では、機能表示基板の前面（表面）には、配線パターンが形成される層（銅プレーン）において銅箔である配線パターンで前面側電子部品（表面側電子部品）がどのような電子部品であるかをそれぞれ特定するための情報がその情報の外側の周囲の銅箔を抜いて形成される箔抜き箔残しにより形成されてもいないし、機能表示基板の後面（裏面）には、配線パターンが形成される層（銅プレーン）において銅箔である配線パターンで後面側電子部品（裏面側電子部品）がどのような電子部品であるかをそれぞれ特定するための情報がその情報の外側の周囲の銅箔を抜いて形成される箔抜き箔残しにより形成されてもいない。これにより、機能表示基板に実装されている電子部品を特定して回路構成を把握することが困難とすることができる。

【０７５２】

本実施形態では、ＬＥＤベアチップが封入されたＬＥＤパッケージを機能表示基板の前面（表面）に実装するのではなく、ＬＥＤパッケージに封入されるＬＥＤベアチップを機能表示基板の前面（表面）に直接実装する構成を採用した。ＬＥＤベアチップ（「ＬＥＤ素子」とも言われる。）は、表面実装型（トップ型やサイド型）、チップオンボード型、及び砲弾型等のパッケージに封入されているものであり、極めて小さい電子部品である。このため、ＬＥＤパッケージを機能表示基板の前面（表面）に実装した場合と比べて、表面実装型（トップ型やサイド型）、チップオンボード型、及び砲弾型等のパッケージにおける奥行き距離寸法の分だけ小さくすることができ、機能表示ユニット１４００を小型化することができる。なお、ＬＥＤベアチップは極めてデリケートな電子部品であるため、遊技者が扉枠３等を叩いたりするドツキによる衝撃が扉枠３へ直接伝わっても、遊技盤５に備える機能表示ユニット１４００へのドツキによる衝撃が弱まることで、このようなドツキによる衝撃によって機能表示基板の前面（表面）に複数実装されるＬＥＤベアチップが破損する蓋然性が低い。

【０７５３】

ＬＥＤベアチップの電極を機能表示基板の前面（表面）の所定電極と電気的に接続する方法としては、ワイヤボンディング、フリップチップボンディング等を挙げることができるが、本実施形態では、フリップチップボンディングを採用した。このフリップチップボンディングでは、ワイヤボンディングのようにワイヤを用いてＬＥＤベアチップの電極と機能表示基板の前面（表面）の所定電極とを電気的に接続するのではなく、ＬＥＤベアチップの電極にバンブと呼ばれる突起部を形成して機能表示基板の前面（表面）の所定電極と電気的に接続する。この接続部はハンダや樹脂等で補強されている。

【０７５４】

また、本実施形態では、機能表示基板の前面（表面）及び後面（裏面）には、シルク印刷により印刷される領域が全く存在していない。これにより、シルク印刷という工程を省くことができるため、シルク印刷の版代や基板の製造工程数の削減により基板製造コストを下げることができる。

【０７５５】

なお、上述した本実施形態では、機能表示基板の前面（表面）及び後面（裏面）には、機能表示基板の前面（表面）に実装される前面側電子部品（表面側電子部品）がどのような電子部品であるかを特定するための情報が機能表示基板の前面（表面）に何ら表記されて

いないと共に、機能表示基板の後面（裏面）に実装される後面側電子部品（裏面側電子部品）がどのような電子部品であるかを特定するための情報が機能表示基板の後面（裏面）に何ら表記されていないが、機能表示基板の基板管理番号を機能表示基板の前面（表面）及び／又は後面（裏面）に表記してもよい。この基板管理番号を表記する方法としては、所定の色（例えば、白色に対して目立ち難い明色である黄色、白色に対して目立ち易い黒色や緑色）の塗料でシルク印刷により印刷されてもよいし、配線パターンが形成される層（銅プレーン）において銅箔である配線パターンで基板管理番号がその基板管理番号の外側の周囲の銅箔を抜いて形成される箔抜き箔残しにより形成されてもよい。

【０７５６】

また、上述した本実施形態では、機能表示基板の後面（裏面）に実装されるコネクタハウジングの型式が機能表示基板の後面（裏面）に何ら表記されていないが、コネクタハウジングの型式を機能表示基板の前面（表面）及び／又は後面（裏面）に表記してもよい。このコネクタハウジングの型式を表記する方法としては、所定の色（例えば、白色に対して目立ち難い明色である黄色、白色に対して目立ち易い黒色や緑色）の塗料でシルク印刷により印刷されてもよいし、配線パターンが形成される層（銅プレーン）において銅箔である配線パターンでコネクタハウジングの型式がそのコネクタハウジングの型式の外側の周囲の銅箔を抜いて形成される箔抜き箔残しにより形成されてもよい。

【０７５７】

また、上述した本実施形態では、カバー体の後面（裏面）には、機能表示ユニット１４００の製品管理番号が刻印されていたが、カバー体の後面（裏面）に代えて、箱体の左側壁、上側壁、右側壁、及び下側壁のうち、いずれかの側壁に機能表示ユニット１４００の製品管理番号が刻印されていてもよい。

【０７５８】

また、上述した本実施形態では、カバー体の後面（裏面）には、機能表示ユニット１４００の製品管理番号が刻印されていたが、刻印に代えて、機能表示ユニット１４００の製品管理番号を所定の色（白色、黒色、赤色、青色、緑色、黄色等）の塗料でカバー体の後面（裏面）に直接印刷してもよいし、無色透明なシート、有色透明なシート、又は不透明なシートに印刷されたものをカバー体の後面（裏面）に貼り付けるようにしてもよい。また、カバー体の後面（裏面）に代えて、箱体の左側壁、上側壁、右側壁、及び下側壁のうち、いずれかの側壁に対して、機能表示ユニット１４００の製品管理番号を所定の色（白色、黒色、赤色、青色、緑色、黄色等）の塗料で直接印刷してもよいし、無色透明なシート、有色透明なシート、又は不透明なシートに機能表示ユニット１４００の製品管理番号が印刷されたものを貼り付けるようにしてもよい。

【０７５９】

また、上述した本実施形態では、機能表示基板の前面（表面）及び後面（裏面）には、白色のレジスト液が塗布されて形成される白色塗膜により白色のレジスト層が形成されていたが、白色に代えて、緑色のレジスト液が塗布されて形成される緑色塗膜により緑色のレジスト層が形成されてもよいし、黒色のレジスト液が塗布されて形成される黒色塗膜により黒色のレジスト層が形成されてもよい。緑色のレジスト液は、通常使用する一般的なものであるため安価である。黒色のレジスト液を使用すると、機能表示基板の前面（表面）に実装される複数のＬＥＤが発した光による反射を防止することで、近傍に配置されるＬＥＤが発した光と混ざらないようにすることに寄与することができる。

【０７６０】

また、上述した本実施形態では、ＬＥＤベアチップが封入されたＬＥＤパッケージを機能表示基板の前面（表面）に実装するのではなく、ＬＥＤパッケージに封入されるＬＥＤベアチップを機能表示基板の前面（表面）に直接実装する構成を採用したが、ＬＥＤベアチップに代えて、表面実装型（トップ型やサイド型）、チップオンボード型、及び砲弾型等を有するＬＥＤパッケージを機能表示基板の前面（表面）に実装してもよい。

【０７６１】

また、上述した本実施形態では、ＬＥＤベアチップの電極を機能表示基板の前面（表面）

の所定電極と電気的に接続する方法としてフリップチップボンディングを採用したが、フリップチップボンディングに代えて、ワイヤボンディングを採用してもよい。

【０７６２】

また、上述した本実施形態では、機能表示基板の前面（表面）には、配線パターンが形成される層（銅プレーン）において銅箔である配線パターンで複数のＬＥＤである前面側電子部品（表面側電子部品）がどのような電子部品であるかをそれぞれ特定するための情報がその情報の外側の周囲の銅箔を抜いて形成される箔抜き箔残しにより形成されていなかったが、複数のＬＥＤの端子（アノード端子又はカソード端子）と対応する位置近傍に丸記号を作り丸記号の外側の周囲の銅箔を抜いて形成される箔抜き基準端子記号として機能表示基板の前面（表面）にそれぞれ形成され、機能表示基板の前面（表面）にベタ塗りされる白色（白色に代えて緑色や黒色であってもよい。）のレジストにより箔抜き基準端子記号がそれぞれ覆われるように構成してもよい。箔抜き基準端子記号を形成する配線パターンは、ＬＥＤと電気的に絶縁されて形成されている。なお、箔抜き基準端子記号としては、その周囲が、いわゆるベタグランド（基板グランド）である場合には、丸記号そのものを箔抜きとしてもよい。また、箔抜き基準端子記号としては、丸記号に代えて、ＬＥＤの極性を表す記号でもよい（回路図に使用する記号（アノード端子とカソード端子とが判別できる記号）でもよいし、回路図に使用する記号（アノード端子とカソード端子とが判別できる記号）を簡略化したものでもよい）。また、機能表示基板の前面（表面）に実装される複数のＬＥＤの実装向きがほぼ同一向きである場合（つまり、実装作業者又は自動機に対して、複数のＬＥＤの実装向きが同一向き（真逆に実装するものが存在しない）ルールが予め設けられている場合）は、複数のＬＥＤのうちいずれか１つのＬＥＤの端子と対応する位置近傍に箔抜き基準端子記号が機能表示基板の前面（表面）に形成されるようにしてもよいし、予め定め１つ以上のＬＥＤの端子と対応する位置近傍に箔抜き基準端子記号が機能表示基板の前面（表面）に形成されるようにしてもよい。この場合においても、箔抜き基準端子記号としては、丸記号に代えて、ＬＥＤの極性を表す記号でもよい（回路図に使用する記号（アノード端子とカソード端子とが判別できる記号）でもよいし、回路図に使用する記号（アノード端子とカソード端子とが判別できる記号）を簡略化したものでもよい）。

【０７６３】

［５－６．周辺制御ユニット］

遊技盤５における周辺制御ユニット１５００について、主に図１１０、図１１３、及び図１１４等を参照して説明する。周辺制御ユニット１５００は、裏ユニット３０００の裏箱３０１０の後面に取付けられている演出表示装置１６００の後側に取付けられている。周辺制御ユニット１５００は、主制御基板１３１０からの制御信号に基づいて遊技者に提示する演出を制御する周辺制御基板１５１０（図２０６を参照）と、周辺制御基板１５１０を収容している周辺制御基板ボックス１５２０と、を備えている。周辺制御基板１５１０は、発光演出、サウンド演出、及び可動演出、等を制御するための周辺制御部１５１１と、演出画像を制御するための演出表示制御部１５１２と、を備えている。

【０７６４】

周辺制御ユニット１５００の周辺制御基板１５１０は、主制御基板１３１０、演出操作ユニット３００、扉枠３側の各種装飾基板、演出表示装置１６００、等と接続されている。

【０７６５】

［５－７．演出表示装置］

遊技盤５における演出表示装置１６００について、主に図１１２及び図１１３等を参照して説明する。演出表示装置１６００は、正面視において遊技領域５ａの中央に配置されており、遊技パネル１１００の後側に、裏ユニット３０００の裏箱３０１０を介して取付けられている。演出表示装置１６００は、裏箱３０１０の後壁の略中央の後面に対して、着脱可能に取付けられている。演出表示装置１６００は、遊技盤５を組立てた状態で、枠状のセンター役物２５００の枠内を通して、前側（遊技者側）から視認することができる。演出表示装置１６００は、演出表示装置１６００の表示領域を除いて非導電性を有する透

明な樹脂により成型される保護カバー体１６０１により覆われている。保護カバー体１６０１の裏面側には、保護カバー体１６０１の上下方向に沿って各種配線を係止するためのＬ字状の配線処理片１６０１ａが複数形成されていると共に、上下方向に長い通風長孔が上下左右に整列した状態で複数形成されている。

【０７６６】

演出表示装置１６００は、白色ＬＥＤをバックライトとした１９ｉｎｃｈのフルカラーの液晶表示装置であり、裏箱３０１０における後壁の左右方向の幅と略同じ幅である。演出表示装置１６００は、周辺制御ユニット１５００に接続されており、所定の静止画像や動画を表示することができる。

【０７６７】

演出表示装置１６００は、上端面から上方へ突出している二つの上固定片１６０１ｂと、下端面から下方へ突出している一つの下固定片１６０１ｃと、を備えている。この演出表示装置１６００は、液晶画面を前方へ向けた状態で、後述する裏箱３０１０の枠状の液晶取付部３０１０ｂ内の上内周面に開口している二つの固定溝３０１０ｃに、裏箱３０１０の斜め後方から二つの上固定片１６０１ｂを挿入した上で、下固定片１６０１ｃ側を前方へ移動させて、下固定片１６０１ｃをロック機構３０２０の開口部内に挿入し、ロック機構３０２０を背面視において右方へスライドさせることにより、裏箱３０１０に取付けられる。

【０７６８】

［５－８．表ユニットの全体構成］

遊技盤５における表ユニット２０００について、主に図１１７を参照して詳細に説明する。図１１７（ａ）は遊技盤における表ユニットを前から見た斜視図であり、（ｂ）は遊技盤における表ユニットを後ろから見た斜視図である。表ユニット２０００は、遊技パネル１１００のパネル板１１１０に、前方から取付けられており、前端がパネル板１１１０の前面よりも前方へ突出していると共に、後端の一部がパネル板１１１０の開口部１１１２を貫通してパネル板１１１０の後面よりも後方へ突出している。

【０７６９】

表ユニット２０００は、遊技領域５ａ内に打込まれた遊技球Ｂを受入可能としており常時開口している複数（ここでは四つ）の一般入賞口２００１と、複数の一般入賞口２００１とは遊技領域５ａ内の異なる位置で遊技球Ｂを受入可能に常時開口している第一始動口２００２と、遊技領域５ａ内の所定位置に設けられており遊技球Ｂの通過を検知するゲート部２００３と、遊技球Ｂがゲート部２００３を通過することにより抽選される普通抽選結果に応じて遊技球Ｂの受入れが可能となる第二始動口２００４と、第一始動口２００２又は第二始動口２００４への遊技球Ｂの受入れにより抽選される第一特別抽選結果又は第二特別抽選結果に応じて遊技球Ｂの受入れが可能となる第一大入賞口２００５と、第一大入賞口２００５とは異なる位置に設けられており第一始動口２００２又は第二始動口２００４への遊技球Ｂの受入れにより抽選される第一特別抽選結果又は第二特別抽選結果に応じて遊技球Ｂの受入れが可能となる第二大入賞口２００６と、を備えている。

【０７７０】

複数（ここでは四つ）の一般入賞口２００１は、三つが遊技領域５ａ内の下部における左右方向中央に対して左側に配置されており、残りの一つが遊技領域５ａ内の右部における上下方向中央より上側に配置されている。第一始動口２００２は、遊技領域５ａ内の左右方向中央で最下端にあるアウト口２０１０の直上に配置されている。ゲート部２００３は、遊技領域５ａ内における正面視右端付近で上下方向の下から約３／４の高さに配置されている。第二始動口２００４は、遊技領域５ａの右下隅で左端の一般入賞口２００１よりも若干高い高さに配置されている。第一大入賞口２００５は、第一始動口２００２と第二始動口２００４との間に配置されている。第二大入賞口２００６は、第二始動口２００４の上方で右側の一般入賞口２００１の直下に配置されている。

【０７７１】

第一サブアウト口２０１１は、第二始動口２００４の下方に配置されており、第二サブア

ウト口２０１２は、右側の一般入賞口２００１の右側に配置されている。
【０７７２】
また、表ユニット２０００は、遊技領域５ａ内の左右方向中央で遊技領域５ａの下端の直上に取付けられており第一始動口２００２を有している始動口ユニット２１００と、始動口ユニット２１００の正面視左方で内レール１００２に沿うように設けられており三つの一般入賞口２００１を有しているサイドユニット２２００と、サイドユニット２２００の正面視左方のやや上側に設けられているサイド左上ユニット２３００と、遊技領域５ａ内の正面視右下隅となる始動口ユニット２１００の正面視右方に設けられており第二始動口２００４、第一大入賞口２００５、及び第一サブアウト口２０１１を有している第一アタッカユニット２４００と、始動口ユニット２１００及びサイドユニット２２００よりも上方で、遊技領域５ａ内の正面視略中央やや上寄りに設けられている枠状のセンター役物２５００と、を備えている。
【０７７３】
更に、表ユニット２０００は、センター役物２５００の右方で第一アタッカユニット２４００の上方に設けられており第二大入賞口２００６を有している第二アタッカユニット２６００と、第二アタッカユニット２６００の上方に設けられており一つの一般入賞口２００１及び第二サブアウト口２０１２を有しているサイド右中ユニット２７００と、サイド右中ユニット２７００の上方に設けられておりゲート部２００３を有しているゲート部材２８００と、を備えている。
【０７７４】
［５－８ａ．始動口ユニット］
表ユニット２０００の始動口ユニット２１００について、主に図１１８乃至図１２０等を参照して詳細に説明する。図１１８（ａ）は表ユニットにおける始動口ユニットとサイドユニットを前から見た斜視図であり、（ｂ）は表ユニットにおける始動口ユニットとサイドユニットを後ろから見た斜視図であり、（ｃ）は始動口ユニットの左側面図であり、（ｄ）はサイドユニットの左側面図である。図１１９は、一般入賞口の前面の傾斜と、開状態の時の可変入賞口の扉部材の傾斜とを比較した説明図である。図１２０は、遊技盤における始動口ユニット及びサイドユニットの部位を示す拡大正面図である。表ユニット２０００の始動口ユニット２１００は、遊技領域５ａ内において、左右方向中央の下端部付近でアウト口２０１０の直上に配置されており、遊技パネル１１００に前方から取付けられている。始動口ユニット２１００は、遊技球Ｂが一つのみ受入可能な幅で上方へ向かって常時開口している第一始動口２００２を有している。
【０７７５】
始動口ユニット２１００は、遊技領域５ａ（遊技パネル１１００）の面と平行に延びている前壁部２１０１と、前壁部２１０１の周縁から後方へ延出している周壁部２１０２と、周壁部２１０２の前後方向の途中から左右方向外方へ延出している平板状のフランジ部２１０３と、を備えており、全体が透明な部材により形成されている。前壁部２１０１は、正面視の形状が、左右に長い長方形の部位と、その長方形の部位の下辺を弦とした半円形の部位と、を組合せたような形状に形成されている。周壁部２１０２は、前壁部２１０１の上辺を除いた周縁から後方へ延出しており、上方が開放された樋状に形成されている。この周壁部２１０２の底面は、後端側が低くなるように傾斜しており、遊技球Ｂを後方へ誘導することができる。
【０７７６】
始動口ユニット２１００は、周壁部２１０２の途中から左右方向へ延出したフランジ部２１０３が遊技パネル１１００のパネル板１１１０の前面に当接させられた状態で、パネル板１１１０に取付けられる。始動口ユニット２１００は、パネル板１１１０に取り付けられた状態で、パネル板１１１０よりも前方へ突出している前壁部２１０１と周壁部２１０２とにより、遊技球Ｂを受入可能な第一始動口２００２を形成している。
【０７７７】
始動口ユニット２１００は、遊技パネル１１００に取付けることで、第一始動口２００２

が、遊技パネル１１００の前面よりも前方に突出した上で、上方へ開放された状態となり、センター役物２５００のステージ２５１３の中央の直下に位置する。従って、ステージ２５１３の中央放出部２５１３ａから下方へ遊技球Ｂが放出されると、極めて高い確率で第一始動口２００２に受入れられる。

【０７７８】

始動口ユニット２１００は、遊技パネル１１００に取付けた状態で、第一始動口２００２に受入れられた遊技球Ｂを、樋状の周壁部２１０２の傾斜により遊技パネル１１００の後方へ誘導し、裏ユニット３０００における裏誘導ユニット３０５０の第一受渡口３０６１に受け渡すことができる。裏誘導ユニット３０５０の第一受渡口３０６１に受け渡された遊技球Ｂは、第一始動口センサ３０５２により検知された上で、下方の基板ホルダ１２００上に排出される。

【０７７９】

なお、図示は省略するが、前壁部２１０１の前面には、装飾用のシールが貼り付けられており、サイドユニット２２００の一般入賞口２００１よりも目立つようになっている。これにより、遊技者の関心を一般入賞口２００１よりも第一始動口２００２へ向けさせることができ、遊技者に対して第一始動口２００２を狙った遊技球Ｂの打込操作を促すことができると共に、第一始動口２００２に遊技球Ｂを受入れさせることにより、「大当り」遊技等の遊技者が有利となる有利遊技状態が発生する特別抽選結果（第一特別抽選結果）の抽選が行われるため、第一始動口２００２への遊技球Ｂの受入れにより抽選される特別抽選結果に対する期待感を高めさせることができ、遊技者の興趣の低下を抑制させることができる。

【０７８０】

この始動口ユニット２１００は、遊技球Ｂを後方へ誘導する周壁部２１０２の底面が、サイドユニット２２００の第一前壁部２２０３の傾斜している部位よりも緩い角度（水平に近い角度）で傾斜しているため、相対的に後方への遊技球Ｂの移動速度（転動速度）が遅くなっている。従って、第一始動口２００２に遊技球Ｂが受入れられると、一般入賞口２００１に受入れられた遊技球Ｂよりも長い時間、受入れられた遊技球Ｂが見えることとなるため、遊技者に対して遊技球Ｂが第一始動口２００２に受入れられたことを確実に認識させることができると共に、第一始動口２００２に遊技球Ｂが受入れられたことに対する喜び（優越感）を、一般入賞口２００１に受入れられた時よりも長い時間味わわせることができる。

【０７８１】

また、始動口ユニット２１００は、遊技盤５に組立てた状態では、図１２０に示すように、後方に裏ユニット３０００の裏下中演出ユニット３３００が位置し、裏下中演出ユニット３３００に設けられている裏下中装飾体ユニット３３２０の裏下中第一装飾基板３３２２や裏下中第二装飾基板３３２９等のＬＥＤからの光により、発光装飾されるようになっている。

【０７８２】

更に、詳細な図示は省略するが、始動口ユニット２１００において、第一始動口２００２における前壁部２１０１と周壁部２１０２の底部とに跨るリブを設けるようにしても良い。このリブは、側面視において三角形（一部分が丸みを帯びていてもよい）に形成されており、上面が、サイドユニット２２００における右側から二つの一般入賞口２００１の第一前壁部２２０３における傾斜している部分と、略同じ角度で傾斜させると共に、第一前壁部２２０３の上端までの距離を、サイドユニット２２００の第一前壁部２２０３において上端から傾斜している部位までの距離よりも長くしている（リブの位置を第一前壁部２２０３における傾斜している部位よりも下方にしている）。これにより、第一始動口２００２に受入れられた遊技球Ｂが、リブに当接して後方へ誘導されるタイミングを、一般入賞口２００１に受入れられた遊技球Ｂが、第一前壁部２２０３における傾斜している部位に当接して後方へ誘導されるタイミングよりも遅くすることができ、上述と同様の作用効果を奏することができる。

【０７８３】
［５－８ｂ．サイドユニット］
表ユニット２０００におけるサイドユニット２２００について、主に図１１８乃至図１２０等を参照して詳細に説明する。表ユニット２０００のサイドユニット２２００は、遊技領域５ａ内において、始動口ユニット２１００の左方で内レール１００２に沿うように延びており、遊技パネル１１００に前方から取付けられている。サイドユニット２２００は、遊技球Ｂを常時受入可能に開口している三つの一般入賞口２００１を備えている。サイドユニット２２００の三つの一般入賞口２００１は、内レール１００２に沿うように円弧状に列設されている。右側の二つの一般入賞口２００１は上方へ向けて開口しており、左側の一般入賞口２００１は左上へ向けて開口している。
【０７８４】
サイドユニット２２００は、平板状の台板と、台板から前後に樋状に延出していると共に前端が下方へ向かうに従って後方へ移動するように傾斜しており左右に離隔している二つ第一誘導樋と、二つの第一誘導樋の夫々の前端側を閉鎖している第一前壁部と、二つの第一誘導樋よりも左方において台板から前後に樋状に延出している第二誘導樋と、第二誘導樋の前端側を閉鎖している第二前壁部と、を備えている。サイドユニット２２００は、全体が透明な部材により形成されている。
【０７８５】
第一誘導樋２２０２及び第二誘導樋２２０４は、断面がＵ字状に形成されている。第一誘導樋２２０２は、Ｕ字の開放されている部位が上方へ向けられており、第二誘導樋２２０４は、Ｕ字の開放されている部位が左上へ向けられている。第一誘導樋２２０２の前端は、下から約３／４の高さの部位を境にして、上側が垂直に延びていると共に、下側が下方へ向かうに従って後方へ移動するように台板２２０１付近まで斜めに延びている。従って、第一誘導樋２２０２の前端側を閉鎖している第一前壁部２２０３は、下から約３／４の高さの位置で、下側が後方へ折れ曲がった形状となっている。
【０７８６】
第二誘導樋２２０４は、前端側が垂直となっている。従って、第二誘導樋２２０４の前端側を閉鎖している第二前壁部２２０５は、台板２２０１と平行に垂直に延びている。
【０７８７】
このサイドユニット２２００は、台板２２０１が遊技パネル１１００のパネル板１１１０の前面に当接させられた状態で、パネル板１１１０に取付けられる。そして、第一誘導樋２２０２及び第二誘導樋２２０４におけるパネル板１１１０よりも前方に突出している部位と、第一前壁部２２０３及び第二前壁部２２０５とで、遊技球Ｂを受入可能な一般入賞口２００１を形成している。また、サイドユニット２２００は、パネル板１１１０に取付けた状態では、第一誘導樋２２０２及び第二誘導樋２２０４における台板２２０１よりも後方に突出している部位が、パネル板１１１０の開口部１１１２を貫通してパネル板１１１０の後面よりも後方に突出している。これら第一誘導樋２２０２及び第二誘導樋２２０４は、底面が後方へ向かって低くなるように傾斜しており、一般入賞口２００１に受入れられた遊技球Ｂを後方へ誘導することができる。
【０７８８】
サイドユニット２２００は、遊技盤５に組立てた状態で、三つの一般入賞口２００１が遊技パネル１１００の前面よりも前方に突出している。このサイドユニット２２００は、一般入賞口２００１に受入れられた遊技球Ｂを、遊技パネル１１００の後方に誘導し、裏ユニット３０００における裏誘導ユニット３０５０の第二受渡口３０６２、第三受渡口３０６３、及び第四受渡口３０６４の何れかに受け渡すことができる。裏誘導ユニット３０５０の第二受渡口３０６２、第三受渡口３０６３、及び第四受渡口３０６４の何れかに受け渡された遊技球Ｂは、一般入賞口センサ３０５１により検知された上で、下方の基板ホルダ１２００上に排出される。
【０７８９】
サイドユニット２２００は、始動口ユニット２１００とは異なり、一般入賞口２００１の

前面を形成している第一前壁部２２０３や第二前壁部２２０５に装飾用のシールが貼り付けられておらず、第一始動口２００２よりは目立たないようになっている。なお、サイドユニット２２００における二つの一般入賞口２００１では、前端を傾斜させているため、それら一般入賞口２００１の立体感を強調することができ、前面に装飾用のシールを貼り付けていなくても、見栄えが悪くなることはない。

【０７９０】

サイドユニット２２００は、遊技盤５に組立てた状態では、図１２０に示すように、後方に裏ユニット３０００の裏下左演出ユニット３２００が位置しており、裏下左演出ユニット３２００における裏下左装飾基板３２０３のＬＥＤからの光により発光装飾することができると共に、裏下左回転装飾体３２０１を良好な状態で視認させることができる。また、サイドユニット２２００は、二つの一般入賞口２００１の前端を夫々形成している第一前壁部２２０３に傾斜している部位を有しているため、当該部位により裏ユニット３０００における裏下左演出ユニット３２００の裏下左装飾基板３２０３から前方へ照射された光を、パチンコ機１の前方に着座している遊技者の頭部付近へ反射（又は屈折）させることができ、パチンコ機１の見栄えを良くすることができる。

【０７９１】

このサイドユニット２２００は、第一前壁部２２０３における折れ曲がって斜めに延びている部位が、始動口ユニット２１００における周壁部２１０２の底面よりも急な角度で傾斜しているため、相対的に後方への遊技球Ｂの移動速度（転動速度）が速くなっている。なお、第一誘導樋２２０２及び第二誘導樋２２０４の底面は、始動口ユニット２１００における周壁部２１０２の底面と、略同じ角度で傾斜している。従って、一般入賞口２００１に遊技球Ｂが受入れられると、第一始動口２００２に受入れられた遊技球Ｂよりも短い時間で、受入れられた遊技球Ｂが見えなくなる。これにより、遊技者に対して一般入賞口２００１への遊技球Ｂの受入れを確実に認識させつつ、遊技者の関心が一般入賞口２００１に対して無用に長く引き付けられることを抑制することが可能となるため、遊技者の関心を次の遊技球Ｂや第一始動口２００２、第一大入賞口２００５及び第二大入賞口２００６等の他の入賞口へ向けさせ易くすることができ、引き続き遊技領域５ａ内での遊技を楽しませて興趣の低下を抑制させることができる。

【０７９２】

換言すると、サイドユニット２２００の第一前壁部２２０３における折れ曲がって斜めに延びている部位を、始動口ユニット２１００における周壁部２１０２の底面よりも急な角度で傾斜させているため、一般入賞口２００１に受入れられた遊技球Ｂの転動速度よりも、第一始動口２００２に受入れられた遊技球Ｂの転動速度を遅くすることができる。従って、第一始動口２００２に遊技球Ｂが受入れられると、一般入賞口２００１に受入れられた遊技球Ｂよりも長い時間、受入れられた遊技球Ｂが見えることとなるため、遊技者に対して遊技球Ｂが第一始動口２００２に受入れられたことを確実に認識させることができると共に、第一始動口２００２に遊技球Ｂが受入れられたことに対する喜び（優越感）を、一般入賞口２００１に受入れられた時よりも長い時間味わわせることができる。

【０７９３】

ところで、サイドユニット２２００では、二つの一般入賞口２００１の前端を夫々形成している第一前壁部２２０３を傾斜させているため、第一誘導樋２２０２の側方から、第一前壁部２２０３の傾斜している部位の前方を遊技球Ｂが通過することが可能となる。遊技球Ｂが第一前壁部２２０３の前方を通過した場合、正面から見ると遊技球Ｂが一般入賞口２００１と重なって見えるため、遊技者によっては遊技球Ｂが一般入賞口２００１に受入れられたと錯覚してしまい、遊技球Ｂの払出しが行われないことでパチンコ機１や遊技ホール側への不信感を覚えてしまい、遊技に対する興趣を低下させてしまう恐れがある。これに対して、本実施形態のサイドユニット２２００では、上述したように、第一前壁部２２０３の傾斜している部位と第一誘導樋２２０２とで、一般入賞口２００１に受入れられて後方へ誘導される遊技球Ｂを、短時間ながら遊技者に視認させることができるため、遊技球Ｂが一般入賞口２００１に受入れられたことを認識させることができる。従って、第

一前壁部２２０３の前方を通過した遊技球Ｂが一般入賞口２００１に受入れられたと錯覚しても、直ちに錯覚であると認識させることができる。

【０７９４】

また、このサイドユニット２２００では、第一前壁部２２０３の前方を遊技球Ｂの一部が通過可能とするようにしているため、一般入賞口２００１の第一前壁部２２０３の前方を遊技球Ｂが通過した時に、正面視において、遊技球Ｂの大部分（少なくとも遊技球Ｂの半分以上）が一般入賞口２００１と重なっていると、遊技者によっては当該遊技球Ｂが一般入賞口２００１に受入れられたかのように錯覚させることができ、遊技者を楽しませることができる。この際に、遊技球Ｂの一部が一般入賞口２００１と重なっていないことから、遊技球Ｂが一般入賞口２００１に受入れられたと強く認識することはなく、錯覚であったとも思わせることができるため、その後に特典（遊技球Ｂの払出しや第一特別抽選結果の抽選）が付与されなくても、パチンコ機１や遊技ホール側に対して不信感を抱いてしまうことを回避させることができ、遊技者に対して引続き遊技を楽しませて興趣の低下を抑制させることができる。

【０７９５】

また、サイドユニット２２００は、三つの一般入賞口２００１のうち、最も左側（左端）の一般入賞口２００１の前端を、第二前壁部２２０５により遊技パネル１１００（パネル板１１１０）と平行に延びており、始動口ユニット２１００の第一始動口２００２と同じような形状としている。これにより、左端の一般入賞口２００１に遊技球Ｂが受入れられると、遊技者によっては始動口に受入れられたと錯覚させることができる。そして、始動口であると錯覚した一般入賞口２００１に遊技球Ｂが受入れられても、特別抽選結果の抽選が行われないため、パチンコ機１や遊技ホール側に対して不信感を覚えてしまう恐れがある。しかしながら、当該一般入賞口２００１を、左右方向中央の第一始動口２００２から左方へ離れたサイドユニット２２００の左端（「右打ち」では受入れさせることができない位置）に設けていると共に、第二前壁部２２０５の前面に始動口を示すような装飾用のシールが貼り付けられていないため、始動口ではないと再確認させることができ、遊技者が不信感を覚えることで遊技に対する興趣を低下させてしまうことを回避させることができる。

【０７９６】

また、サイドユニット２２００は、二つの一般入賞口２００１の前端を傾斜させているため、それらの前端を遊技パネル１１００の面と平行にした場合と比較して、サイドユニット２２００に必要な素材の量を低減させることができると共に、一般入賞口２００１の前面に装飾用のシールを貼り付けないようにしているため、パチンコ機１にかかるコストを低減させることができる。

【０７９７】

なお、サイドユニット２２００（一般入賞口２００１）の第一前壁部２２０３における水平からの傾斜角度は、図示は省略するが、大入賞口や役物入賞口等の可変入賞口を開閉可能に閉鎖する入賞口扉が、遊技球Ｂを入賞口側へ誘導するように、上辺が前方へ移動するように下辺を中心に回動して開状態となった時の水平からの傾斜角度よりも大きい角度としている。詳述すると、遊技者によっては、可変入賞口への遊技球Ｂの受入れにより払出される遊技球Ｂの数を一般入賞口２００１よりも多くした場合、当該可変入賞口への遊技球Ｂの多くの入賞を願うようになる。或いは、規定入賞数が定められている可変入賞口（大入賞口）であっても、規定数以上の入賞を願うようになる。従って、当該可変入賞口の入賞口扉の傾斜を、一般入賞口２００１（第一前壁部２２０３）よりも緩くしていることで、入賞口扉上を転動する遊技球Ｂの速度が遅くなり、上述したように、可変入賞口に遊技球Ｂが受入れられると、一般入賞口２００１に受入れられた遊技球Ｂよりも長い時間、受入れられた遊技球Ｂが見えることとなるため、遊技者に対して遊技球Ｂが可変入賞口に受入れられたことを確実に認識させることができると共に、可変入賞口に遊技球Ｂが受入れられたことに対する喜び（優越感）を、一般入賞口２００１に受入れられた時よりも長い時間味わわせることができる。また、開状態の時の入賞口扉の角度が緩いことから、開

状態の入賞口扉が閉状態となるまでの時間が長くなるため、遊技者に対して規定数以上に遊技球Ｂが入賞するように思わせることができる。

【０７９８】

また、サイドユニット２２００における右側の二つの一般入賞口２００１では、第一前壁部２２０３における上端から下方へ垂直に延びている部位の距離よりも、当該部位の下端から斜め下方へ延びている部位の距離の方が長く形成されている。これにより、当該入賞口が一般入賞口２００１であることから、遊技球Ｂの払出しは行われるものの普通抽選や特別抽選等の抽選は行われないので、一般入賞口２００１に受入れられた遊技球Ｂを早期に遊技者の視界から見えなくすることができる。

【０７９９】

更に、上記の実施形態では、サイドユニット２２００において、複数ある一般入賞口２００１のうち特定の一般入賞口２００１の前面を傾斜させたものを示したが、これに限定するものではなく、全ての一般入賞口２００１の前面を傾斜させるようにしても良い。また、本実施形態では、前面を傾斜させていない一般入賞口２００１を、通常の遊技状態の時の発射位置（所謂、「左打ち」）に発射された遊技球Ｂが入球可能とされる位置に設けたものを示したが、これに限定するものではなく、前面を傾斜させていない一般入賞口２００１を、有利遊技状態（「時短」や「確変」や「大当り」中）のときの発射位置（所謂、「右打ち」）に発射された遊技球Ｂが入球可能とされる位置に設けるようにしても良いし、両方に設けるようにしても良い。

【０８００】

また、図１１９に示すように、前面に傾斜を設けた一般入賞口２００１の傾斜角度は、可変入賞口（例えば、大入賞口）が閉鎖しているときから開放させたときの開放角度よりも狭い角度としている。大入賞口への入賞したときの遊技球Ｂの払出し個数を一般入賞口２００１よりも多くした場合、規定入賞数が定められている大入賞口であっても規定数以上の入賞を遊技者は願う。そのため、大入賞口へ入賞した遊技球Ｂが奥側に転がるときの速度は、前面を傾斜させた一般入賞口２００１に入賞した遊技球Ｂが奥側に転がるときの速度よりも遅いとされている。言い換えると、大入賞口へ入賞したときの払出し数よりも少ない一般入賞口２００１へ入賞した場合には、大入賞口へ入賞した遊技球Ｂが奥側に転がるときの速度に比べて速いとされている。つまり、払出しが多い入賞口ほど、遊技者の視界から消える時間が遅い、ということが言える。これにより、払出しが多い入賞口ほど、入賞したときの喜びの時間を長く提供することができる。

【０８０１】

［５－８ｃ．サイド左上ユニット］

表ユニット２０００におけるサイド左上ユニット２３００について、主に図１１７等を参照して詳細に説明する。表ユニット２０００のサイド左上ユニット２３００は、遊技領域５ａ内において、サイドユニット２２００の左方で内レール１００２に接するように、遊技パネル１１００に前方から取付けられている。サイド左上ユニット２３００は、右方へ低くなるように傾斜した棚部２３０１を有している。このサイド左上ユニット２３００は、全体が透明に形成されている。

【０８０２】

サイド左上ユニット２３００は、遊技盤５に組立てた状態で、棚部２３０１が遊技パネル１１００の前面よりも前方へ突出している。サイド左上ユニット２３００は、センター役物２５００の左側を流下してきた遊技球Ｂを、棚部２３０１により、センター役物２５００の下方となる右方側へ誘導することができる。

【０８０３】

［５－８ｄ．第一アタッカユニット］

表ユニット２０００における第一アタッカユニット２４００について、主に図１２１乃至図１２５等を参照して詳細に説明する。図１２１（ａ）は表ユニットにおける第一アタッカユニットを前から見た斜視図であり、（ｂ）は表ユニットにおける第一アタッカユニットを後ろから見た斜視図である。図１２２は第一アタッカユニットを分解して前から見た

分解斜視図であり、図１２３は第一アタッカユニットを分解して後ろから見た分解斜視図である。図１２４は、第一アタッカユニットにおける第一大入賞口扉の動きを左側面から示す説明図である。図１２５は、第一アタッカユニットにおける遊技球の通路を断面で示す説明図である。

【０８０４】

表ユニット２０００の第一アタッカユニット２４００は、遊技領域５ａ内において、正面視右下隅となる始動口ユニット２１００の正面視右方に配置されており、遊技パネル１１００のパネル板１１１０の前面に前方から取付けられている。この第一アタッカユニット２４００は、第二始動口２００４、第一大入賞口２００５、及び第一サブアウト口２０１１を備えている（図１３０等を参照）。第一アタッカユニット２４００では、正面視において、第二始動口２００４が左右方向中央から右寄りの上部に設けられており、第一大入賞口２００５が左右方向中央より左側で第二始動口２００４よりも低い位置に設けられており、第一サブアウト口２０１１が第二始動口２００４の下方で第一大入賞口２００５よりも低い位置に設けられている。

【０８０５】

また、第一アタッカユニット２４００は、第二始動口２００４に受入れられた遊技球Ｂを検知する第二始動口センサ２４０１と、第一大入賞口２００５に受入れられた遊技球Ｂを検知する第一大入賞口センサ２４０２と、第一サブアウト口２０１１に受入れられた遊技球Ｂを検知する第一サブアウト口センサ２４０３と、不正な磁気を検知する磁気センサ２４０４と、を備えている。第一大入賞口センサ２４０２と磁気センサ２４０４は、夫々二つずつ設けられている。

【０８０６】

第一アタッカユニット２４００は、パネル板１１１０に取付けられるユニットベース２４１１と、ユニットベース２４１１の前側に取付けられ遊技球Ｂの流路を形成している前カバー２４１２と、ユニットベース２４１１の後側に取付けられている後カバー２４１３と、ユニットベース２４１１に取付けられており第二始動口２００４を閉鎖可能な第二始動口扉２４１４と、第二始動口扉２４１４を可動させて第二始動口２００４を開閉させるための始動口ソレノイド２４１５と、始動口ソレノイド２４１５を覆っているソレノイドカバー２４１６と、ユニットベース２４１１に取付けられており第一大入賞口２００５を閉鎖可能な第一大入賞口扉２４１７と、第一大入賞口扉２４１７を可動させて第一大入賞口２００５を開閉させるための第一アタッカソレノイド２４１８と、第一アタッカソレノイド２４１８の進退を伝達して第一大入賞口扉２４１７を可動させる伝達部材２４１９と、を備えている。

【０８０７】

また、第一アタッカユニット２４００は、後カバー２４１３に取付けられており第一大入賞口２００５を発光装飾させるための第一大入賞口装飾基板２４２０と、後カバー２４１３の後面に取付けられており、第二始動口センサ２４０１、第一大入賞口センサ２４０２、第一サブアウト口センサ２４０３、磁気センサ２４０４、始動口ソレノイド２４１５、第一アタッカソレノイド２４１８、及び第一大入賞口装飾基板２４２０とパネル中継基板１７１０との接続を中継するための第一アタッカ中継基板２４２１と、を備えている。

【０８０８】

ユニットベース２４１１は、透明な部材により形成されている。ユニットベース２４１１は、左右方向中央から右寄りの上端付近において前後に貫通している第一開口部２４１１ａと、第一開口部２４１１ａの下方で前後に貫通している第一誘導孔２４１１ｂと、左右方向中央より左側の上部において左右に長く前後に貫通している第二開口部２４１１ｃと、第二開口部２４１１ｃの下方で左右に並んで前後に貫通している二つの第二誘導孔２４１１ｄと、第一誘導孔２４１１ｂの下方で前後に貫通している第一サブアウト口２０１１と、を有している。

【０８０９】

ユニットベース２４１１の第一開口部２４１１ａは、左右の幅が遊技球Ｂの直径よりも若

干長く形成されており、第二始動口扉２４１４の扉部２４１４ａが挿通される。第一誘導孔２４１１ｂは、上下方向中央より下側の位置に設けられている。第一誘導孔２４１１ｂは、筒状に後方へ突出しており、後端側が低くなるように傾斜している。第二開口部２４１１ｃは、遊技球Ｂの直径の４倍～６倍の長さで左右に延びており、第一大入賞口扉２４１７の扉部２４１７ａが挿通される。第二誘導孔２４１１ｄは、夫々が筒状に後方へ突出しており、後端側が低くなるように傾斜している。

【０８１０】

また、ユニットベース２４１１は、第二開口部２４１１ｃの上辺に沿って左右に並んでおり、三角形状に前方へ突出した二つの当接部２４１１ｅを有している。これら当接部２４１１ｅは、第一大入賞口２００５が閉状態の時に、第一大入賞口扉２４１７の扉部２４１７ａ上を転動している遊技球Ｂを、前カバー２４１２の当接部と協働して、前後方向へ大きくジグザグ状に流通させるものである。

【０８１１】

ユニットベース２４１１には、第一誘導孔２４１１ｂの直上において、ユニットベース２４１１の前面から検知孔を前方へ突出させた状態で第二始動口センサ２４０１が取付けられている。また、二つの第二誘導孔２４１１ｄの夫々の直上において、ユニットベース２４１１の前面から検知孔を前方へ突出させた状態で第一大入賞口センサ２４０２が取付けられている。更に、第一サブアウト口２０１１の後端において、検知孔が一致するように第一サブアウト口センサ２４０３がユニットベース２４１１に取付けられている。また、ユニットベース２４１１の後面における第一誘導孔２４１１ｂよりも左側の部位と、二つの第二誘導孔２４１１ｄよりも右側の部位とに、夫々磁気センサ２４０４が取付けられている。

【０８１２】

前カバー２４１２は、後方へ開放された箱状に形成されており、透明に部材に形成されている。前カバー２４１２は、ユニットベース２４１１の前面に、遊技球Ｂの通路を形成するためのものである。前カバー２４１２は、図１２５に示すように、正面視において、右上隅付近から左方へ低くなるように延びている第一棚部２４１２ａと、第一棚部２４１２ａの左端から左方へ遊技球Ｂの直径よりも若干長く間隔をあけると共に第一棚部２４１２ａの左端よりも低い位置から左方へ低くなるように第一棚部２４１２ａよりも短く延びており、第一棚部２４１２ａとの間で第二始動口２００４を形成している第二棚部２４１２ｂと、第二棚部２４１２ｂの左端よりも左方で遊技球Ｂの直径よりも低い位置から左方へ低くなるように第二棚部２４１２ｂよりも短く延びている第三棚部２４１２ｃと、第三棚部２４１２ｃの左端から左方へ遊技球Ｂの直径の４倍～６倍の長さの間隔をあけると共に第三棚部２４１２ｃよりも低い位置から左方へ低くなるように延びており、第三棚部２４１２ｃとの間で第一大入賞口２００５を形成している第四棚部２４１２ｄと、を有している。

【０８１３】

第一棚部２４１２ａの右端は、前カバー２４１２の右辺から、遊技球Ｂの直径よりも若干長く左方へ離れている。第一棚部２４１２ａ、第二棚部２４１２ｂ、第三棚部２４１２ｃは、夫々が同じ角度で傾斜しており、第四棚部２４１２ｄは、第一棚部２４１２ａ等よりも急な角度で傾斜している。

【０８１４】

また、前カバー２４１２は、第一棚部２４１２ａの右端から下方へ垂直に延びている第一立壁部２４１２ｅと、第一棚部２４１２ａの左端から下方へ垂直に第一立壁部２４１２ｅの下端と同じ高さまで延びている第二立壁部２４１２ｆと、第二棚部２４１２ｂの右端から下方へ垂直に第一立壁部２４１２ｅの下端と同じ高さまで延びている第三立壁部２４１２ｇと、第三棚部２４１２ｃの右端から下方へ垂直に前カバー２４１２の下辺まで延びている第四立壁部２４１２ｈと、第三棚部２４１２ｃの左端から下方へ延びている第五立壁部２４１２ｉと、第四棚部２４１２ｄの右端から下方へ延びている第六立壁部２４１２ｊと、第四棚部２４１２ｄの左端から下方へ延びている第七立壁部２４１２ｋと、を有して

いる。
【０８１５】
第五立壁部２４１２ｉは、第三棚部２４１２ｃの左端から下方へ第四棚部２４１２ｄよりも低い位置まで延びた後に左方へ低くなるように遊技球Ｂの直径よりも若干長く延びた上で、更に下方へ前カバー２４１２の下辺まで延びている。また、第六立壁部２４１２ｊは、第四棚部２４１２ｄの右端から下方へ第四棚部２４１２ｄよりも低い位置まで延びた後に右方へ低くなるように遊技球Ｂの直径よりも若干長く延びた上で、更に下方へ前カバー２４１２の下辺まで延びている。第五立壁部２４１２ｉと第六立壁部２４１２ｊとの下部同士の左右方向の間隔は、遊技球Ｂの直径の２倍よりも長い間隔である。
【０８１６】
更に、前カバー２４１２は、第一立壁部２４１２ｅ、第二立壁部２４１２ｆ、及び第三立壁部２４１２ｇの下端同士を連結している第一横壁部２４１２ｌと、前カバー２４１２の右辺における第一立壁部２４１２ｅの下端よりも低い位置から、第一横壁部２４１２ｌとの間で遊技球Ｂが流通可能な間隔をあけて左方へ低くなるように傾斜した後に左方の第四立壁部２４１２ｈの途中へ向かって高くなるように傾斜している第二横壁部２４１２ｍと、を有している。第一横壁部２４１２ｌは、ユニットベース２４１１における第一誘導孔２４１１ｂの下端と同じ高さに設けられている。第二横壁部２４１２ｍは、第二始動口２００４の下方の第一サブアウト口２０１１の部位が最も低くなるように形成されている。
【０８１７】
また、前カバー２４１２は、第五立壁部２４１２ｉ及び第六立壁部２４１２ｊの夫々の下部付近から、互いに接近する方向へ、夫々第五立壁部２４１２ｉと第六立壁部２４１２ｊとの間の中央付近まで延びている第三横壁部２４１２ｎと、二つの第三横壁部２４１２ｎの対向している夫々の端部同士を連結していると共に上方へ延出している仕切部２４１２ｏと、を有している。第三横壁部２４１２ｎは、ユニットベース２４１１における第二誘導孔２４１１ｄの下端と同じ高さに設けられている。
【０８１８】
更に、前カバー２４１２は、前カバーの上辺に沿って左方へ低くなるように階段状に延びており、第二棚部２４１２ｂ及び第三棚部２４１２ｃの間で遊技球Ｂが流通可能な間隔をあけて設けられている。上棚部２４１２ｐを、有している。上棚部２４１２ｐは、右端が第一棚部２４１２ａの左端の直上に位置しており、左端が第四棚部２４１２ｄの右端よりも若干右方に位置している。また、上棚部２４１２ｐは、右端付近が右方へ低くなるように傾斜している。
【０８１９】
また、前カバー２４１２は、図示は省略するが、ユニットベース２４１１の当接部２４１１ｅの前方となると共に、ユニットベース２４１１の二つの当接部２４１１ｅに対して左右方向へ互い違いとなる部位に、三角形状に後方へ突出している二つの当接部を、有している。これら当接部は、第一大入賞口２００５が閉状態の時に、第一大入賞口扉２４１７の扉部２４１７ａ上を転動している遊技球Ｂを、ユニットベース２４１１の当接部２４１１ｅと協働して、前後方向へ大きくジグザグ状に流通させるものである。
【０８２０】
後カバー２４１３は、前方へ開放された箱状に形成されており、透明な部材により形成されている。後カバー２４１３は、ユニットベース２４１１と協働して、第二始動口扉２４１４、ソレノイドカバー２４１６、第一大入賞口扉２４１７、第一アタッカソレノイド２４１８、等を保持している。また、後カバー２４１３は、前カバー２４１２と協働して、第二始動口センサ２４０１、第一大入賞口センサ２４０２、及び第一サブアウト口センサ２４０３を、挟持するように保持している。
【０８２１】
第二始動口扉２４１４は、平板状の扉部２４１４ａと、扉部２４１４ａから下方へ延出しているアーム部２４１４ｂと、アーム部２４１４ｂの下端から左右方向へ延出しており、ユニットベース２４１１に対して回転可能に取付けられる回転軸２４１４ｃと、アーム部

２４１４ｂの下部における回転軸２４１４ｃから離れた部位に設けられており始動口ソレノイド２４１５のプランジャの先端と接続させる接続部２４１４ｄと、を有している。

【０８２２】

第二始動口扉２４１４の扉部２４１４ａは、左端側が低くなるように傾斜している。第二始動口扉２４１４のアーム部２４１４ｂは、扉部２４１４ａの後端から下方へ延びた後に、扉部２４１４ａの前端と略同じ位置まで前方へ屈曲している。接続部２４１４ｄは、アーム部２４１４ｂにおける回転軸２４１４ｃよりも扉部２４１４ａに近い側に設けられている。

【０８２３】

この第二始動口扉２４１４は、扉部２４１４ａにより第二始動口２００４を閉鎖することができる。第二始動口扉２４１４は、始動口ソレノイド２４１５のプランジャの前後方向への進退により、回転軸２４１４ｃを中心として回転（回動）することで、扉部２４１４ａが前後方向へ移動して、第二始動口２００４を開閉することができる。

【０８２４】

始動口ソレノイド２４１５は、プランジャが突出している向きを前方へ向けて取付けられている。この始動口ソレノイド２４１５は、通電していない状態では図示しないバネの付勢力によってプランジャが前方へ突出しており、通電することによりプランジャが後退する。

【０８２５】

第一大入賞口扉２４１７は、左右に長い平板状の扉部２４１７ａと、扉部２４１７ａの左右方向両端から夫々下方へ延出している一対のアーム部２４１７ｂと、一対のアーム部２４１７ｂの夫々の下端から互いに同軸上で左右方向へ夫々が延出している回転軸２４１７ｃと、右側のアーム部２４１７ｂの下部から右方へ突出している円柱状のリンクピン２４１７ｄと、を有している。

【０８２６】

第一大入賞口扉２４１７の扉部２４１７ａは、左端側が低くなるように傾斜している。一対のアーム部２４１７ｂは、扉部２４１７ａの後端から下方へ延びた後に、扉部２４１７ａの前端と略同じ位置まで前方へ屈曲している。リンクピン２４１７ｄは、アーム部２４１７ｂの下部における回転軸２４１７ｃよりも扉部２４１７ａに近い側に設けられている。このリンクピン２４１７ｄは、後述する伝達部材２４１９の上下に延びているスリット２４１９ｃ内に、摺動可能に挿入される。

【０８２７】

この第一大入賞口扉２４１７は、扉部２４１７ａにより第一大入賞口２００５を閉鎖することができる。第一大入賞口扉２４１７は、第一アタッカソレノイド２４１８のプランジャの前後方向への進退により、回転軸２４１７ｃを中心として回転（回動）することで、扉部２４１７ａが前後方向へ移動して、第一大入賞口２００５を開閉することができる。

【０８２８】

第一アタッカソレノイド２４１８は、プランジャが突出している向きを前方へ向けて取付けられている。この第一アタッカソレノイド２４１８は、通電していない状態では図示しないバネの付勢力によってプランジャが前方へ突出しており、通電することによりプランジャが後退する。

【０８２９】

伝達部材２４１９は、第一アタッカソレノイド２４１８のプランジャの先端に取付けられる基部２４１９ａと、基部２４１９ａから前方へ延出している延出部２４１９ｂと、延出部２４１９ｂの前端付近で左右方向へ貫通していると共に上下に延びているスリット２４１９ｃと、を有している。伝達部材２４１９のスリット２４１９ｃ内には、第一大入賞口扉２４１７のリンクピン２４１７ｄが摺動可能に挿入される。

【０８３０】

第一大入賞口装飾基板２４２０は、前方へ光を照射可能な複数のＬＥＤが前面に実装されている。第一大入賞口装飾基板２４２０の複数のＬＥＤは、表面実装タイプであって多色

発光可能なフルカラーＬＥＤである。第一大入賞口装飾基板２４２０は、複数のＬＥＤを発光させることで、第一大入賞口２００５を発光装飾させることができる。

【０８３１】

第一アタッカユニット２４００は、通常の状態では、始動口ソレノイド２４１５及び第一アタッカソレノイド２４１８が、夫々非通電（ＯＦＦ）の状態となっている。この通常の状態では、始動口ソレノイド２４１５のプランジャが、図示しないバネの付勢力により前方へ突出していると共に、第二始動口扉２４１４の扉部２４１４ａがユニットベース２４１１の第一開口部２４１１ａを通って前方へ突出している。この状態では、第二始動口扉２４１４の扉部２４１４ａが、第二始動口２００４の上方に位置しており、扉部２４１４ａにより第二始動口２００４への遊技球Ｂの受入れが不能な状態となっている。つまり、第二始動口２００４が第二始動口扉２４１４（扉部２４１４ａ）により閉鎖されている（図１２５を参照）。

【０８３２】

また、通常の状態では、第一アタッカソレノイド２４１８のプランジャが、図示しないバネの付勢力により前方へ突出していると共に、第一大入賞口扉２４１７の扉部２４１７ａがユニットベース２４１１の第二開口部２４１１ｃを通って前方へ突出している。この状態では、第一大入賞口扉２４１７の扉部２４１７ａが、第一大入賞口２００５の上方に位置しており、扉部２４１７ａにより第一大入賞口２００５への遊技球Ｂの受入れが不能な状態となっている。つまり、第一大入賞口２００５が第一大入賞口扉２４１７（扉部２４１７ａ）により閉鎖されている（図１２４及び図１２５を参照）。

【０８３３】

この通常の状態で、第一棚部２４１２ａ上に遊技球Ｂが流下すると、第一棚部２４１２ａの傾斜により遊技球Ｂが左方へ転動し、第二始動口扉２４１４の扉部２４１４ａの上面、及び第二棚部２４１２ｂを転動した上で、第二棚部２４１２ｂの左端から左方へ放出される。第二棚部２４１２ｂから左方へ放出された遊技球Ｂは、その勢いに応じて、第三棚部２４１２ｃ又は第一大入賞口扉２４１７の扉部２４１７ａ上に落下し、それらの傾斜により左方へ転動する。なお、第二棚部２４１２ｂから左方へ放出された遊技球Ｂが、上棚部２４１２ｐの下面に当接して右方へ跳ね返ると、第二棚部２４１２ｂと第三棚部２４１２ｃとの間の隙間に進入することがある。

【０８３４】

この際に、第一大入賞口２００５を閉鎖している扉部２４１７ａ上を転動している遊技球Ｂは、ユニットベース２４１１の当接部２４１１ｅと前カバー２４１２の当接部に対して、交互に当接することとなり、前後方向へジグザグしながら左方へ転動することとなる。扉部２４１７ａ上を左方へ転動した遊技球Ｂは、第四棚部２４１２ｄを転動した後に、その左端から第一アタッカユニット２４００外へ放出される。

【０８３５】

この第一アタッカユニット２４００では、第一棚部２４１２ａよりも右方に遊技球Ｂが流下すると、第一立壁部２４１２ｅの右側を通り、第二横壁部２４１２ｍの右端付近に落下し、第二横壁部２４１２ｍの傾斜により左方へ転動して第一サブアウト口２０１１に進入する。また、遊技球Ｂが、第二棚部２４１２ｂと第三棚部２４１２ｃとの間の隙間に進入すると、第三立壁部２４１２ｇと第四立壁部２４１２ｈとの間を通って第二横壁部２４１２ｍの左端付近に落下し、第二横壁部２４１２ｍの傾斜により右方へ転動して第一サブアウト口２０１１に進入する。

【０８３６】

第一サブアウト口２０１１に進入した遊技球Ｂは、第一サブアウト口センサ２４０３により検知された上で、遊技領域５ａ内に戻されることなく裏ユニット３０００における裏誘導ユニット３０５０の第五受渡口３０６５に受け渡され、裏誘導ユニット３０５０から下方の基板ホルダ１２００上に排出される。この第一アタッカユニット２４００では、第一棚部２４１２ａの右側を流通した遊技球Ｂと、第二棚部２４１２ｂと第三棚部２４１２ｃの間の隙間を通った遊技球Ｂとが、何れも第一サブアウト口２０１１に進入するように形

成されており、実質的に第一サブアウト口２０１１が二つ設けられている。
【０８３７】
この通常の状態において、ゲート部２００３を遊技球Ｂが通過することで抽選された普通抽選結果に応じて、始動口ソレノイド２４１５に通電（ＯＮ）されると、バネの付勢力に抗してプランジャが後退し、第二始動口扉２４１４のアーム部２４１４ｂにおける回転軸２４１４ｃよりも上側（扉部２４１４ａ側）の接続部２４１４ｄが、プランジャの先端により後方へ引っ張られる。これにより、第二始動口扉２４１４が、回転軸２４１４ｃを中心として、扉部２４１４ａが後方に移動する方向へ回動することとなる。そして、扉部２４１４ａがユニットベース２４１１の前面から後退するように回動することにより、第二始動口２００４の上方が開放された状態となり、第二始動口２００４への遊技球Ｂの受入れが可能となる。つまり、第二始動口２００４が開状態となる。
【０８３８】
第二始動口２００４が開状態の時に、遊技球Ｂが第二始動口２００４に受入れられると、第二立壁部２４１２ｆと第三立壁部２４１２ｇとの間を流下し、第二始動口センサ２４０１に検知された後に、第一横壁部２４１２ｌ上に落下する。この第一横壁部２４１２ｌにおける第二立壁部２４１２ｆと第三立壁部２４１２ｇとの間の部位は、後方へ低くなるように傾斜しており、その傾斜により遊技球Ｂが後方へ転動し、ユニットベース２４１１の第一誘導孔２４１１ｂに進入し、その後端から後方へ放出される。第一誘導孔２４１１ｂの後端から後方へ放出された遊技球Ｂは、裏ユニット３０００における裏誘導ユニット３０５０の第五受渡口３０６５に受け渡され、裏誘導ユニット３０５０から下方の基板ホルダ１２００上に排出される。
【０８３９】
一方、通常の状態において、第一始動口２００２や第二始動口２００４に遊技球Ｂが受入れられることで抽選された特別抽選結果（第一特別抽選結果や第二特別抽選結果）に応じて、第一アタッカソレノイド２４１８に通電（ＯＮ）されると、バネの付勢力に抗してプランジャが、その先端に取付けられている伝達部材２４１９と一緒に後退する。この伝達部材２４１９が後退すると、伝達部材２４１９のスリット２４１９ｃに挿入されている第一大入賞口扉２４１７のリンクピン２４１７ｄが、スリット２４１９ｃ内を摺動しながらスリット２４１９ｃの内壁により後方へ押圧されることとなる。
【０８４０】
これにより、第一大入賞口扉２４１７が、回転軸２４１７ｃを中心にして扉部２４１７ａが後方へ移動するように回動することとなり、扉部２４１７ａの前端がユニットベース２４１１の前面よりも後方へ移動することとなる。この第一大入賞口扉２４１７の扉部２４１７ａが、ユニットベース２４１１の前面よりも後方へ移動することにより、第一大入賞口２００５が上方へ開放された状態となり、第一大入賞口２００５への遊技球Ｂの受入れが可能な状態となる（図１２４を参照）。つまり、第一大入賞口２００５が開状態となる。
【０８４１】
第一大入賞口２００５が開状態の時に、遊技球Ｂが第一大入賞口２００５に受入れられると、第五立壁部２４１２ｉと第六立壁部２４１２ｊとの間を通った上で、第五立壁部２４１２ｉと仕切部２４１２ｏとの間、又は、第六立壁部２４１２ｊと仕切部２４１２ｏとの間を通って、二つの第一大入賞口センサ２４０２のうちの一つに検知された上で、第三横壁部２４１２ｎ上に落下する。この第三横壁部２４１２ｎは、上面から後方へ向かって低くなるように傾斜しており、第三横壁部２４１２ｎ上に落下した遊技球Ｂは、その傾斜により後方へ転動し、ユニットベース２４１１の第二誘導孔２４１１ｄを通って後方へ放出される。第二誘導孔２４１１ｄから後方へ放出された遊技球Ｂは、裏ユニット３０００における裏誘導ユニット３０５０の第六受渡口３０６６に受け渡され、裏誘導ユニット３０５０から下方の基板ホルダ１２００上に排出される。
【０８４２】
このように、本実施形態の第一アタッカユニット２４００によれば、第一大入賞口２００５を開閉する第一大入賞口扉２４１７において、第一大入賞口２００５を閉鎖する扉部２

４１７ａの前端付近と前後方向が同じ位置で左右に延びた回転軸２４１７ｃを中心として扉部２４１７ａを回転させることにより、第一大入賞口２００５を開閉させるようにしているため、第一大入賞口２００５（第一アタッカユニット２４００）にかかる前後方向の奥行を可及的に短くすることができる。この効果は、第二始動口扉２４１４により開閉される第二始動口２００４においても同じである。これにより、第一アタッカユニット２４００の後方のスペースを相対的に広くすることができる。

【０８４３】

また、第一アタッカユニット２４００では、第一大入賞口２００５ら受入れられた遊技球Ｂを仕切部２４１２ｏにより二つに分けて、夫々を異なる第一大入賞口センサ２４０２により検知してユニットベース２４１１の後方へ放出するようにしているため、第一大入賞口２００５と第一大入賞口センサ２４０２との間で遊技球Ｂが滞ることを抑制させることができると共に、短時間で多くの遊技球Ｂを受入れることができる。

【０８４４】

［５－８ｅ．センター役物］

次に、表ユニット２０００のセンター役物２５００について、主に図１２６及び図１２７等を参照して詳細に説明する。図１２６（ａ）は表ユニットのセンター役物を前から見た斜視図であり、（ｂ）は表ユニットのセンター役物を後ろから見た斜視図である。図１２７は、センター役物の正面図である。表ユニット２０００のセンター役物２５００は、遊技領域５ａ内において、始動口ユニット２１００よりも上方で、正面視略中央やや上寄りに配置されており、遊技パネル１１００におけるパネル板１１１０の前面に取付けられている。センター役物２５００は、透明な枠状に形成されており、遊技パネル１１００の後方に設けられた演出表示装置１６００や裏ユニット３０００に備えられている各種演出ユニット等を前方から視認することができる。

【０８４５】

枠状のセンター役物２５００は、全周に亘って遊技パネル１１００の前面よりも前方へ突出している部位を有しており、遊技領域５ａ内に打込まれた遊技球Ｂが、枠内に侵入できないようになっている。

【０８４６】

センター役物２５００は、前後方向に延びている枠状の周壁部２５０１（センターフレームとも称する）と、周壁部２５０１の外周から突出しており遊技パネル１１００のパネル板１１１０の前面に当接する平板状のフランジ部２５０２と、周壁部２５０１の内周から突出している平板状のサポート部２５０３と、を有している。周壁部２５０１は、遊技盤５に組立てた状態で、後端が遊技パネル１１００のパネル板１１１０の後面と一致する位置まで後方に延びている。また、周壁部２５０１は、パネル板１１１０におけるセンター役物２５００が挿入される開口部１１１２の内周に沿うような形状に形成されている。この周壁部２５０１は、遊技盤５に組立てた状態で、センター役物２５００の外側から枠内の内側への遊技球Ｂの侵入を防止することができる。

【０８４７】

フランジ部２５０２とサポート部２５０３の厚さは、パネル板１１１０の厚さよりも薄く（パネル板１１１０の厚さの１／４～１／５の厚さ）形成されている。フランジ部２５０２とサポート部２５０３は、前後方向の同じ位置で周壁部２５０１から突出している。従って、サポート部２５０３（フランジ部２５０２）の後面から周壁部２５０１の後端までの距離が、パネル板１１１０の厚さと同じである。

【０８４８】

サポート部２５０３は、周壁部２５０１の内周において、部分的に複数設けられている。また、サポート部２５０３は、周壁部２５０１におけるフランジ部２５０２の突出していない部位に設けられており、周壁部２５０１を補強している。また、サポート部２５０３は、周壁部２５０１から突出した端辺が、周壁部２５０１の正面形状に倣った形状、若しくは、直線状に形成されており、サポート部２５０３が目立たないようにしている。このサポート部２５０３は、周壁部２５０１からの突出量を、サポート部２５０３の厚さ～パ

ネル板１１１０の厚さ（１ｍｍ～１０ｍｍ）、の範囲内としており、補強としての効果を発揮させつつ遊技者から目立ち難いようにしている。

【０８４９】

更に詳述すると、センター役物２５００のサポート部２５０３は、複数設けられている。例えば、後述するワープ入口２５１１よりも上方で、周壁部２５０１が最も左方に突出した部位に設けられているサポート部２５０３では、当該部位における周壁部２５０１の形状が、上下に延びた部位の中間が左方へ膨出したような形状となっている。そして、サポート部２５０３の先端辺は、周壁部２５０１の左方へ膨出した部位の上下両側では、周壁部２５０１に沿った形状に形成され、周壁部２５０１の左方へ膨出した部位では、周壁部２５０１とは異なる形状で、上下両側の部位を繋ぐように直線状に形成されている（図１３５を参照）。この部位のサポート部２５０３は、遊技盤５に組立てた状態で、サポート部２５０３の先端辺における上下に直線状に延びている部位が、後方に設けられている裏ユニット３０００における裏前左装飾体３０３０の右辺の一部に略沿っている。従って、サポート部２５０３の先端辺が、裏前左装飾体３０３０の辺縁と一致していることで、サポート部２５０３が判別し辛くなり、相対的に、後方に設けられている裏前左装飾体３０３０の装飾を目立たせることができる。

【０８５０】

また、複数のサポート部２５０３のうち、ワープ入口２５１１の下側のサポート部２５０３は、周壁部２５０１が斜めに延びているのに対して、四角形に右方へ延出している。この部位のサポート部２５０３は、遊技盤５に組立てた状態で、裏ユニット３０００の裏前左演出ユニット３７００における第三裏前左装飾体ユニット３７１０Ｃの前方に位置している（図１０７等を参照）。このサポート部２５０３の左右に延びている先端辺は、第三裏前左装飾体ユニット３７１０Ｃにおけるシャッターユニット３７３０の複数のシャッター３７３２と平行に延びていることから、シャッター３７３２の形状に一部のように見え、サポート部２５０３が判別し辛くなっている（図１１１を参照）。

【０８５１】

センター役物２５００は、周壁部２５０１における正面視左側で遊技パネル１１００（パネル板１１１０）の前面よりも前画の部位において、遊技領域５ａ内の遊技球Ｂが進入可能に開口しているワープ入口２５１１と、ワープ入口２５１１に進入した遊技球Ｂを放出可能とされ遊技パネル１１００の前面よりも後側で枠内に開口しているワープ出口２５１２と、ワープ出口２５１２から放出された遊技球Ｂを左右方向に転動させた後に遊技領域５ａ内へ放出可能なステージ２５１３と、ステージ２５１３の上方を覆うように設けられているステージカバー２５１５と、を備えている（図１２７等を参照）。ステージカバー２５１５は、ステージ２５１３上で跳ねた遊技球Ｂをステージ２５１３側へ跳ね返すことで、センター役物２５００の枠外から枠内への遊技球Ｂの侵入を防止するためのものである。

【０８５２】

センター役物２５００のステージ２５１３は、左右方向の中央側が窪んだ湾曲状で、始動口ユニット２１００の第一始動口２００２の直上と対応した位置、つまり、センター役物２５００を遊技パネル１１００のパネル板１１１０に取付けた状態で左右方向の略中央の位置が、その左右両側よりも若干高くなるような波状（Ｗ字状）に形成されている。このステージ２５１３は、左右方向中央の左右両側よりも若干高くなっている部位（中央放出部２５１３ａ）と、その左右両側の最も低くなっている部位（サイド放出部２５１３ｂ）とが、前方へ向かって低くなるように傾斜しており、それらの部位から遊技球Ｂを遊技領域５ａ内へ放出させることができる。

【０８５３】

センター役物２５００は、遊技盤５に組立てた状態で、ステージ２５１３の左右方向中央の高くなっている部位（中央放出部２５１３ａ）が、始動口ユニット２１００の第一始動口２００２の直上に位置している。これにより、ステージ２５１３の中央の中央放出部２５１３ａから遊技球Ｂが放出されると、極めて高い確率で第一始動口２００２に受入れら

れる。
【０８５４】
また、センター役物２５００は、右上隅に設けられており遊技球Ｂが流通可能な二つの通路からなる案内通路群２５２０を備えている。このセンター役物２５００は、遊技盤５に組立てた状態で、案内通路群２５２０の右端（センター役物２５００の右上隅の端部）が、遊技領域５ａの内周縁（前構成部材１０００の衝止部１００６付近の右レール１００５）に略接しており、センター役物２５００の上方の右側に打込まれた遊技球Ｂが、必ず案内通路群２５２０を通るように形成されている。
【０８５５】
案内通路群２５２０は、上下方向の長さが、遊技領域５ａの全高に対して、約１／７の長さである。この案内通路群２５２０は、何れも前方へ開放された溝状に形成されており、内部を流通する遊技球Ｂを、前方から良好な状態で視認することができる。
【０８５６】
案内通路群２５２０は、センター役物２５００における周壁部２５０１の外側に設けられており、周壁部２５０１から離れている第一案内通路２５２１と、第一案内通路２５２１の右方で周壁部２５０１に沿って延びている第二案内通路２５２２と、から構成されている。第一案内通路２５２１の入口と第二案内通路２５２２の入口は、左右に離隔している。また、第一案内通路２５２１の出口と第二案内通路２５２２の出口は、左右に隣接しており、右レール１００５上部の円弧に沿うように斜め右下へ向かって開口している。
【０８５７】
案内通路群２５２０は、センター役物２５００を遊技盤５に組立てた状態で、ゲート部２００３の上方に位置している。また、第一案内通路２５２１は、その入口の右端が前構成部材１０００の衝止部１００６の下端の直下に位置しており、衝止部１００６に当接した遊技球Ｂの殆どが第一案内通路２５２１へ進入するように形成されている。
【０８５８】
また、センター役物２５００は、周壁部２５０１の右下隅から右方へ突出しており、上方からの遊技球Ｂを右方へ誘導した後に下方へ放出する右下案内通路２５３０を、備えている。この右下案内通路２５３０は、入口が左右方向の前幅に亘って上方へ開口しており、出口が遊技球Ｂ一つ分の幅で斜め左下へ向かって開口している。
【０８５９】
この右下案内通路２５３０は、遊技盤５に組立てた状態で、右端が右レール１００５に略接しており、第一アタッカユニット２４００と第二アタッカユニット２６００との間に位置している。従って、案内通路群２５２０と右下案内通路２５３０との間には、第二アタッカユニット２６００、サイド右中ユニット２７００、及びゲート部材２８００が、配置されている。
【０８６０】
本実施形態のセンター役物２５００によれば、周壁部２５０１から内側へ突出したサポート部２５０３を設けるようにしていることから、サポート部２５０３を設けた部位では、周壁部２５０１がセンター役物２５００の外縁となるため、周壁部２５０１の内側（センター役物２５００の枠内）を相対的に広くすることができ、センター役物２５００の枠内を通して後方の演出表示装置１６００の演出画像や、裏ユニット３０００の装飾等をより見え易くすることができる。
【０８６１】
また、周壁部２５０１におけるフランジ部２５０２が設けられていない部位に内側へ突出したサポート部２５０３を設けているため、周壁部２５０１の強度を補強することができる。これにより、周壁部２５０１におけるサポート部２５０３が設けられている部位の外側に遊技球Ｂが当接しても、周壁部２５０１が変形したり破損したりすることを防止することができる。また、サポート部２５０３によりセンター役物２５００の強度を高めることができるため、センター役物２５００を変形させることなく射出成形型から脱型することができる。

【０８６２】
また、透明なサポート部２５０３を周壁部２５０１の内周から短く突出させていると共に、周壁部２５０１の全周に対して部分的に設けているため、サポート部２５０３が後方に設けられている裏ユニット３０００の装飾体や演出表示装置１６００の演出画像等の視認性を妨げることを低減させることができる。また、サポート部２５０３等のセンター役物２５００を透明としていると共に、センター役物２５００の後面に対して可及的に近い位置に裏ユニット３０００の裏前左装飾体３０３０や裏前左演出ユニット３７００を配置しているため、透明なセンター役物２５００によるレンズ効果により後側の裏前左装飾体３０３０や裏前左演出ユニット３７００の装飾がぼやけてしまうことを抑制することができる。このようなことから、本実施形態のセンター役物２５００によれば、後方に設けられている装飾体等の視認性を向上させることができ、それらによる装飾効果を確実に発揮させることができる。
【０８６３】
更に、サポート部２５０３等を透明としていると共に、サポート部２５０３を発光装飾可能な装飾体や演出表示装置１６００の前方に設けているため、それらからの光によって発光装飾することができ、見栄えを良くすることができる。詳述すると、図１３５等に示すように、サポート部２５０３（図１３５においてクロスハッチング部分）の後方には、裏ユニット３０００における裏前左演出ユニット３７００や演出表示装置１６００等が設けられているため、裏前左演出ユニット３７００における裏前左装飾基板３７１４のＬＥＤや演出表示装置１６００等から前方へ照射された光を、透過させたり反射させたり屈折させたり拡散させたりして煌びやかな発光装飾を遊技者に見せることができる。なお、サポート部２５０３に段差や切欠き等を設けるようにしても良く、段差などにより後方からの光を拡散させることができ、より煌びやかに見せることができる。
【０８６４】
また、サポート部２５０３を設けることにより、周壁部２５０１から外方へ突出しているフランジ部２５０２が設けられていない部位を有するようにしているため、遊技パネル１１００（パネル板１１１０）におけるサポート部２５０３に近い部位では、周壁部２５０１に対して可及的に接近した位置に障害釘Ｎを植設することができる。これにより、遊技領域５ａ内において複数の障害釘Ｎによる遊技の領域を可及的に広くすることができ、本来の遊技を楽しませられるパチンコ機１とすることができる。
【０８６５】
また、周壁部２５０１をパネル板１１１０の開口部１１１２の内周形状と同じような形状とした上で、周壁部２５０１の後端をパネル板１１１０の後面と同一面上としていると共に、サポート部２５０３をパネル板１１１０の前面と略同一面上に設けているため、遊技者に対してサポート部２５０３を目立ち難くすることができると共に、センター役物２５００がパネル板１１１０と一体化しているように見せることができる。
【０８６６】
更に、センター役物２５００の全周の一部にサポート部２５０３を設けているため、全周に亘ってサポート部２５０３を設けるようにした場合と比較して、センター役物２５００の枠内をより広くすることができ、後方に設けられている演出表示装置１６００の表示画面をより見え易くすることができる。換言すると、センター役物２５００の周壁部２５０１（センターフレーム）により区画される非流通領域（枠の内側）を大きく見せたい場合、サポート部２５０３を、周壁部２５０１の全周の一部に設けるようにしても良い。或いは、サポート部２５０３を、正面視において、後方に設けられている演出表示装置１６００の表示画面とは重ならない程度の延出量とすることが好ましい。
【０８６７】
なお、サポート部２５０３の辺縁を、後方に設けられている裏前左演出ユニット３７００の前カバー３７１１の形状（装飾体の形状）と同じような形状としても良い。これにより、サポート部２５０３が後方の装飾と異なることで、サポート部２５０３が目立って後方の装飾体の装飾性を低下させてしまうことを抑制することができると同時に、サポート部

２５０３によっても装飾性を高めることができる。
【０８６８】
また、上記の実施形態では、サポート部２５０３を、後方に設けられている裏ユニット３０００の裏前左装飾体３０３０や裏前左演出ユニット３７００に近い位置に設けて、レンズ効果によりそれらの装飾がぼやけて見えてしまうことを抑制するようにしたものを示したが、これに限定するものではなく、サポート部２５０３を、後方の裏ユニット３０００から遠ざかった周壁部２５０１の前端付近に設けるようにして、意図的に、後方に設けられている裏ユニット３０００の裏前左装飾体３０３０や裏前左演出ユニット３７００がぼやけて見えるようにしても良い。
【０８６９】
また、上記の実施形態では、遊技パネル１１００のパネル板１１１０に貫通した開口部１１１２を有し、センター役物２５００の周壁部２５０１の後側を開口部１１１２に挿入したものを示したが、これに限定するものではなく、周壁部２５０１における開口部１１１２に挿入される後側の部位が無いものとしても良く、この場合、開口部１１１２を有していない遊技パネル１１００に取付けるようにしても良い。また、センター役物２５００を、開口部１１１２を有していない遊技パネル１１００に取付ける場合、サポート部２５０３を遊技パネル１１００に取付けても良く、この場合、センター役物２５００にフランジ部２５０２を設けないようにしても良い。
【０８７０】
［５－８ｆ．第二アタッカユニット］
続いて、表ユニット２０００の第二アタッカユニット２６００について、主に図１２８及び図１２９等を参照して詳細に説明する。図１２８（ａ）は表ユニットにおける第二アタッカユニット、サイド右中ユニット、及びゲート部材を前から見た斜視図であり、（ｂ）は表ユニットにおける第二アタッカユニット、サイド右中ユニット、及びゲート部材を後ろから見た斜視図である。図１２９は、第二アタッカユニット及びサイド右中ユニットにおける遊技球の通路を断面で示す説明図である。
【０８７１】
表ユニット２０００の第二アタッカユニット２６００は、センター役物２５００の周壁部２５０１における右辺よりも右側で、右下案内通路２５３０と遊技領域５ａの上下方向の中央との間に配置されており、遊技パネル１１００におけるパネル板１１１０の前面に取付けられている。第二アタッカユニット２６００は、左方へ向けて開閉可能に開口している第二大入賞口２００６を備えている（図１２９を参照）。
【０８７２】
第二アタッカユニット２６００は、第二大入賞口２００６に受入れられた遊技球Ｂを検知する第二大入賞口センサ２６０１と、第二大入賞口２００６付近に作用する不正な時期を検知する磁気センサ２６０２と、を備えている。また、第二アタッカユニット２６００は、第二大入賞口２００６を開閉可能に閉鎖するための第二大入賞口扉２６１１と、第二大入賞口扉２６１１を可動させて第二大入賞口２００６を開閉するための第二アタッカソレノイド２６１２と、第二アタッカソレノイド２６１２のプランジャの進退を伝達させて第二大入賞口扉２６１１を可動させる伝達部材（図示は省略）と、第二大入賞口２００６に受入れられた遊技球Ｂを誘導して後方へ放出する誘導通路２６１３と、を有している。
【０８７３】
第二アタッカユニット２６００は、第二大入賞口２００６が左右方向中央から右寄りの位置で左方へ向かって開口しており、その第二大入賞口２００６を左方から閉鎖するように第二大入賞口扉２６１１が設けられている。
【０８７４】
第二大入賞口扉２６１１は、下方へ膨出した半円形状の下辺と、下辺の右端に接して上方へ直線状に延びている右辺と、右辺の上端から左方へ膨出するように下辺の左側に接している円弧状の左辺と、で構成された、所謂羽根状に形成されている。第二大入賞口扉２６１１は、半円形状の下辺の中心を軸芯として前後方向に延びた円柱状の回転軸２６１１ａ

と、回転軸よりも離れた位置から後方へ円柱状に突出しているリンクピン（図示は省略）と、を有している。第二大入賞口扉２６１１は、上端が左方へ移動するように、下部の回転軸が回転可能に取付けられている。

【０８７５】

第二アタッカソレノイド２６１２は、詳細な図示は省略するが、プランジャが下方へ突出する向きで取付けられている。図示しない伝達部材は、第二アタッカソレノイド２６１２のプランジャの先端に取付けられる基部と、前後方向に貫通していると共に左右方向に延びており第二大入賞口扉２６１１のリンクピンが摺動可能に挿入されるスリットと、を有しており、上下方向へスライド可能に取付けられている。

【０８７６】

第二アタッカユニット２６００は、遊技盤５に組立てた状態で、右辺が前構成部材１０００の右レール１００５に略接するように位置しており、第二大入賞口２００６とセンター役物２５００の周壁部２５０１における右辺側との間に、遊技球Ｂが流通可能な空間を形成している。また、第二アタッカユニット２６００は、遊技盤５に組立てた状態で、誘導通路２６１３の後端を含む後面が、遊技パネル１１００におけるパネル板１１１０の後面よりも後方へ突出している。

【０８７７】

この第二アタッカユニット２６００は、通常の状態では、第二アタッカソレノイド２６１２が非通電（ＯＦＦ）の状態となっており、プランジャが自身の自重と伝達部材の自重とにより下方へ突出している。この状態では、第二大入賞口扉２６１１が直立しており、第二大入賞口２００６が第二大入賞口扉２６１１により閉鎖されている。つまり、通常の状態では、第二大入賞口２００６に対して遊技球Ｂが受入不能となっている。

【０８７８】

この通常の状態において、第一始動口２００２や第二始動口２００４に遊技球Ｂが受入れられることで抽選された特別抽選結果（第一特別抽選結果や第二特別抽選結果）に応じて、第二アタッカソレノイド２６１２に通電（ＯＮ）されると、プランジャと一緒に伝達部材が上方へ移動し、伝達部材のスリット内に挿入されている第二大入賞口扉２６１１のリンクピンが、上方へ引き上げられると共に、スリット内を摺動することで、第二大入賞口扉２６１１が回転軸２６１１ａを中心として反時計回りの方向へ回動することとなる。

【０８７９】

これにより、第二大入賞口扉２６１１の上端が左方へ移動して、第二大入賞口２００６が左方へ開放された状態となると共に、第二大入賞口扉２６１１の右端側が低くなるように傾斜した状態となる。つまり、第二大入賞口２００６が開状態となる。この状態で、流下してきた遊技球Ｂが第二大入賞口扉２６１１に当接すると、その傾斜により右方へ転動して、第二大入賞口２００６に受入れられることとなる。第二大入賞口２００６に受入れられた遊技球Ｂは、第二大入賞口センサ２６０１により検知された後に、誘導通路２６１３により誘導されて後方へ放出される。誘導通路２６１３から後方へ放出された遊技球Ｂは、裏ユニット３０００における裏誘導ユニット３０５０の第七受渡口３０６７に受け渡され、裏誘導ユニット３０５０から下方の基板ホルダ１２００上に排出される。

【０８８０】

［５－８ｇ．サイド右中ユニット］

次に、表ユニット２０００におけるサイド右中ユニット２７００について、主に図１２８及び図１２９等を参照して詳細に説明する。表ユニット２０００のサイド右中ユニット２７００は、遊技領域５ａ内において、第二アタッカユニット２６００の直上に配置されており、遊技パネル１１００におけるパネル板１１１０の前面に取付けられている。このサイド右中ユニット２７００は、一つの一般入賞口２００１と、第二サブアウト口２０１２と、を備えている。

【０８８１】

サイド右中ユニット２７００は、左右方向が遊技球Ｂ一つの分の幅で上方へ向かって一般入賞口２００１が常時開口していると共に、一般入賞口２００１の右側に隣接して、左右

方向が遊技球Ｂ二つの分の幅で上方へ向かって第二サブアウト口２０１２が常時開口している。

【０８８２】

また、サイド右中ユニット２７００は、一般入賞口２００１に受入れられた遊技球Ｂを後方へ誘導する第一誘導通路２７０１と、第二サブアウト口２０１２に受入れられた遊技球Ｂを後方へ誘導する第二誘導通路２７０２と、を有している。第一誘導通路２７０１は、一般入賞口２００１から後方へ延出した後に、右方へ屈曲した上で更に後方へ屈曲した、クランク状に形成されている。第二誘導通路２７０２は、第二サブアウト口２０１２から第一誘導通路２７０１よりも下方へ延出した後に、後方へ屈曲している。第一誘導通路２７０１の出口と第二誘導通路２７０２の出口は、上下に並んでいる。

【０８８３】

このサイド右中ユニット２７００は、遊技盤５に組立てた状態で、第一誘導通路２７０１及び第二誘導通路２７０２の夫々の後端が、遊技パネル１１００におけるパネル板１１１０の後面よりも後方へ突出している。

【０８８４】

また、サイド右中ユニット２７００は、遊技盤５に組立てた状態で、右端が前構成部材１０００の右レール１００５と略接していると共に、下端が第二アタッカユニット２６００の上端と略接しており、左端とセンター役物２５００における周壁部２５０１の右辺との間に遊技球Ｂが流通可能な空間を形成している。このサイド右中ユニット２７００は、一般入賞口２００１が第二大入賞口２００６よりも若干左方の位置で上方に開口しており、第二サブアウト口２０１２が一般入賞口２００１と右レール１００５との間の略全体に亘って上方に開口している（図１３０等を参照）。

【０８８５】

サイド右中ユニット２７００は、一般入賞口２００１に受入れられた遊技球Ｂを、第一誘導通路２７０１により遊技パネル１１００のパネル板１１１０よりも後側へ誘導した上で、後方に設けられている裏ユニット３０００における裏誘導ユニット３０５０の第八受渡口３０６８に受け渡すことができる。第八受渡口３０６８に受け渡された遊技球Ｂは、一般入賞口センサ３０５１により検知された上で、下方の基板ホルダ１２００上に排出される。また、サイド右中ユニット２７００は、第二サブアウト口２０１２に受入れられた遊技球Ｂを、第二誘導通路２７０２によりパネル板１１１０よりも後側へ誘導した上で、後方に設けられている裏ユニット３０００における裏誘導ユニット３０５０の第九受渡口３０６９に受け渡すことができる。第九受渡口３０６９に受け渡された遊技球Ｂは、第二サブアウト口センサ３０５４により検知された上で、下方の基板ホルダ１２００上に排出される。

【０８８６】

［５－８ｈ．ゲート部材］

次に、表ユニット２０００におけるゲート部材２８００について、主に図１１７及び図１２８等を参照して詳細に説明する。表ユニット２０００のゲート部材２８００は、遊技領域５ａ内において、センター役物２５００の案内通路群２５２０とサイド右中ユニット２７００との間に配置されており、遊技パネル１１００におけるパネル板１１１０の前面に取付けられている。ゲート部材２８００は、遊技球Ｂの通過により第二始動口２００４を開閉させる普通抽選結果の抽選が行われるゲート部２００３と、ゲート部２００３を遊技牛Ｂが通過したことを検知するためのゲートセンサ２８０１と、を有している。ゲートセンサ２８０１における遊技球Ｂを検知するための検知孔を、ゲート部２００３としている。

【０８８７】

ゲート部材２８００は、下面の右端付近から斜め左下へ向かって突出している誘導片２８０２を有している。誘導片２８０２は、ゲート部２００３を通過した遊技球Ｂを左下へ誘導するためのものである。この誘導片２８０２は、遊技盤５に組立てた状態で、その延長線が、サイド右中ユニット２７００における一般入賞口２００１の左端付近を通るように傾斜している。

【０８８８】
ゲート部材２８００は、遊技盤５に組立てた状態で、前構成部材１０００の右レール１００５とセンター役物２５００の周壁部２５０１の右辺との間の略中央に位置しており、左右両外側に遊技球Ｂが流通可能な隙間を形成している。このゲート部材２８００は、センター役物２５００の案内通路群２５２０における第一案内通路２５２１の直下よりもやや左寄りに位置していると共に、サイド右中ユニット２７００の一般入賞口２００１の直上よりも右寄りに位置している。
【０８８９】
［５－８ｉ．遊技領域内での遊技球の流れ］
次に、遊技領域５ａ内での遊技球Ｂの流れについて、主に図１１５及び図１３０等を参照して詳細に説明する。図１３０は、図１１５において遊技領域内の右部を拡大した説明図である。遊技盤５に組立てた状態では、センター役物２５００が遊技領域５ａの略中央に設けられている。遊技領域５ａ内において、センター役物２５００の左右両外側の部位と下側の部位に、複数の障害釘Ｎが所定のゲージ配列で植設されている。また、センター役物２５００の左側でサイド左上ユニット２３００の上方に、遊技球Ｂの当接により回転する風車Ｗが設けられている。
【０８９０】
センター役物２５００の左側に植設されている複数の障害釘Ｎは、センター役物２５００の左側に打込まれた遊技球Ｂを、風車Ｗの中心よりも右側の部位、へ主に進入するように調整されていると共に、それらより低い確率で、風車Ｗの中心よりも左側の部位へ進入するように調整されている。これにより、遊技球Ｂが、センター役物２５００の左側を流下するように打込むことにより、ある程度の確率で、センター役物２５００のワープ入口２５１１に進入させることができる。
【０８９１】
センター役物２５００の案内通路群２５２０とゲート部材２８００との間に植設されている複数の障害釘Ｎは、案内通路群２５２０の右側の第一案内通路２５２１を流通した遊技球Ｂよりも、案内通路群２５２０の左側の第二案内通路２５２２を流通した遊技球Ｂの方が、高い確率でゲート部２００３を通過するように調整されている。また、案内通路群２５２０とゲート部材２８００との間に植設されている複数の障害釘Ｎは、主に、ゲート部材２８００の右側の部位よりも左側を遊技球Ｂが流通するように調整されている。
【０８９２】
ゲート部材２８００とサイド右中ユニット２７００との間に植設されている複数の障害釘Ｎは、主に、サイド右中ユニット２７００よりも左側を遊技球Ｂが流通するように調整されている。
【０８９３】
遊技領域５ａ内には、遊技球Ｂが、外レール１００１と内レール１００２とに案内されて左側から遊技領域５ａの周縁に沿って上部に打込まれる。遊技領域５ａ内に対してセンター役物２５００の左側を流通するように遊技球Ｂを打込んだ場合、図１１５に示すように、センター役物２５００の左側に植設されている複数の障害釘Ｎにより、センター役物２５００のワープ入口２５１１、又は、風車Ｗの中心よりも右側の部位、の何れかに進入するように誘導され、それらよりも低い確率で風車Ｗの中心よりも左側の部位に進入するように誘導される。
【０８９４】
風車Ｗの中心よりも左側の部位に誘導された遊技球Ｂは、サイド左上ユニット２３００の棚部２３０１により、右方へ誘導されてサイドユニット２２００へ流下する。そして、サイドユニット２２００に設けられている三つの一般入賞口２００１に受入れられる可能性がある。一般入賞口２００１に受入れられた遊技球Ｂは、遊技パネル１１００の後方へ誘導された後に、裏ユニット３０００における裏誘導ユニット３０５０の第二受渡口３０６２、第三受渡口３０６３、及び第四受渡口３０６４の何れかに受け渡されて、一般入賞口センサ３０５１により検知された上で基板ホルダ１２００上に排出される。一般入賞口セ

ンサ３０５１により遊技球Ｂが検知されると、所定数の遊技球Ｂが払出される特典が付与される。風車Ｗの中心よりも左側の部位へ誘導された遊技球Ｂは、第一始動口２００２に受入れられることは殆んどない。そして、一般入賞口２００１に受入れられなかった遊技球Ｂは、アウト口２０１０から遊技領域５ａ外へ排出される。

【０８９５】

風車Ｗの中心よりも右側に誘導された遊技球Ｂは、センター役物２５００の下辺に沿って斜めに列設されている複数の障害釘Ｎにより、左右方向の中央（第一始動口２００２）側へ誘導され、第一始動口２００２に受入れられる可能性がある。また、風車Ｗの中心よりも右側に誘導された遊技球Ｂは、斜めに列設されている複数の障害釘Ｎの間を通って、サイドユニット２２００上へ流下することがあり、サイドユニット２２００の一般入賞口２００１に受入れられる可能性がある。

【０８９６】

センター役物２５００のワープ入口２５１１に進入した（受入れられた）遊技球Ｂは、ワープ出口２５１２からステージ２５１３に供給される。ステージ２５１３に供給された遊技球Ｂは、ステージ２５１３上を転動して左右に行ったり来たりして、左右方向中央部分から前方へ放出される。ステージ２５１３の中央の中央放出部２５１３ａから遊技球Ｂが遊技領域５ａ内に放出されると、その中央放出部２５１３ａが第一始動口２００２の直上に位置していることから、高い確率で第一始動口２００２に受入れられる。中央放出部２５１３ａの左右両側のサイド放出部２５１３ｂから遊技球Ｂが放出されると、或る程度の確率で第一始動口２００２に受入れられる。

【０８９７】

第一始動口２００２に受入れられた遊技球Ｂは、遊技パネル１１００の後方へ誘導された後に、裏ユニット３０００における裏誘導ユニット３０５０の第一受渡口３０６１に受け渡されて、第一始動口センサ３０５２により検知された上で基板ホルダ１２００上に排出される。第一始動口センサ３０５２により遊技球Ｂが検知されると、第一特別抽選結果の抽選が行われると共に所定数の遊技球Ｂが払出される等の特典が付与される。ステージ２５１３から放出されて第一始動口２００２に受入れられなかった遊技球Ｂは、アウト口２０１０から遊技領域５ａ外へ排出される。

【０８９８】

なお、遊技領域５ａ内におけるセンター役物２５００の左側を流通した遊技球Ｂは、ゲート部２００３を通過したり、第二始動口２００４、第一大入賞口２００５及び第二大入賞口２００６に受入れられたりする可能性はない。

【０８９９】

本実施形態の遊技盤５では、センター役物２５００の右側へ打込んだ遊技球Ｂが第二始動口２００４に受入れられる確率に対して、センター役物２５００の左側へ打込んだ遊技球Ｂが第一始動口２００２に受入れられる確率の方が、高く設定されている。これにより、第一大入賞口２００５や第二大入賞口２００６が開状態でない時には、センター役物２５００の左側への遊技球Ｂの打込操作（「左打ち」）を促すことができる。

【０９００】

本実施形態の遊技盤５では、センター役物２５００の周壁部２５０１の上辺における左右方向中央付近から右方へ向かって低くなる部位の上方に、遊技球Ｂが進入する強さで遊技球Ｂを打込むと、案内通路群２５２０の第一案内通路２５２１又は第二案内通路２５２２の何れかを遊技球Ｂが流通する。

【０９０１】

具体的に詳述すると、遊技球Ｂを、遊技領域５ａの周縁の一部を構成する外レール１００１から内方へ突出している衝止部１００６に当接する強さで打込む（所謂、右打ちする）と、衝止部１００６に当接した遊技球Ｂが第一案内通路２５２１に進入する。この第一案内通路２５２１に進入した遊技球Ｂは、ゲート部２００３の直上よりもやや右寄りの位置で下方へ放出される。

【０９０２】

第一案内通路２５２１の出口から下方へ放出された遊技球Ｂは、案内通路群２５２０とゲート部材２８００との間に植設されている複数の障害釘Ｎにより、ゲート部材２８００の左側、ゲート部２００３、ゲート部材２８００の右側、の順に確率が低くなるように誘導されて、サイド右中ユニット２７００側へ流下する。

【０９０３】

一方、センター役物２５００の上部の右側に打込まれた遊技球Ｂが第二案内通路２５２２の入口に進入して、第二案内通路２５２２を流通すると、第一案内通路２５２１の出口よりも左側から下方へ放出される。第二案内通路２５２２の出口から下方へ放出された遊技球Ｂは、ゲート部２００３とゲート部材２８００の左側とが略同じ確率で、ゲート部材２８００の右側がそれらよりも低い確率となるように誘導されて、サイド右中ユニット２７００側へ流下する。

【０９０４】

ゲート部材２８００の右側を通った遊技球Ｂは、第二サブアウト口２０１２に受入れられる。第二サブアウト口２０１２に受入れられた遊技球Ｂは、遊技パネル１１００の後方へ誘導されて、裏ユニット３０００における裏誘導ユニット３０５０の第九受渡口３０６９に受け渡された後に、第二サブアウト口センサ３０５４により検知された上で遊技領域５ａ外へ排出される。また、ゲート部２００３を通過した遊技球Ｂは、ゲートセンサ２８０１により検知された後に、サイド右中ユニット２７００側へ放出される。このゲートセンサ２８０１による遊技球Ｂの検知により、第二始動口２００４が開閉する普通抽選結果の抽選が行われる。

【０９０５】

ゲート部２００３及びゲート部材２８００の左側を通った遊技球Ｂは、ゲート部材２８００とサイド右中ユニット２７００との間に植設されている複数の障害釘Ｎにより、高い確率でサイド右中ユニット２７００の左側を流下し、たまにサイド右中ユニット２７００の一般入賞口２００１に受入れられたり、まれに第二サブアウト口２０１２に受入れられたりする。サイド右中ユニット２７００の一般入賞口２００１に受入れられた遊技球Ｂは、遊技パネル１１００の後方へ誘導された後に、裏ユニット３０００における裏誘導ユニット３０５０の第八受渡口３０６８に受け渡されて、一般入賞口センサ３０５１により検知された上で基板ホルダ１２００上に排出される。この際に、所定数の遊技球Ｂが払出される特典が付与される。

【０９０６】

サイド右中ユニット２７００の左側を流下する遊技球Ｂは、サイド右中ユニット２７００の左側に植設されている複数の障害釘Ｎに誘導されて、第二アタッカユニット２６００における第二大入賞口２００６の左方を流下する。

【０９０７】

この際に、第一始動口２００２や第二始動口２００４に遊技球Ｂが受入れられて第一特別抽選結果や第二特別抽選結果として「小当り」が抽選されている場合、第二大入賞口２００６が所定のパターンで開閉するため、サイド右中ユニット２７００の左側を流下した遊技球Ｂが、高い確率で第二大入賞口２００６に受入れられる。

【０９０８】

第二大入賞口２００６に受入れられた遊技球Ｂは、第二大入賞口センサ２６０１に検知された上で、遊技領域５ａ外となる遊技パネル１１００の後方へ誘導された後に、裏ユニット３０００における裏誘導ユニット３０５０の第七受渡口３０６７に受け渡されて基板ホルダ１２００上に排出される。この第二大入賞口センサ２６０１による遊技球Ｂの検知により、所定数の遊技球Ｂが払出される特典が付与される。

【０９０９】

第二大入賞口２００６に受入れられずに、第二大入賞口２００６の左方を流下した遊技球Ｂは、センター役物２５００の右下案内通路２５３０に進入し、右下案内通路２５３０の出口から第一アタッカユニット２４００側へ放出される。

【０９１０】

センター役物２５００の右下案内通路２５３０から下方（斜め左下）へ放出された遊技球Ｂは、第一アタッカユニット２４００の第一棚部２４１２ａ上に流下する。なお、右下案内通路２５３０と第一アタッカユニット２４００との間には、複数の障害釘Ｎが植設されているため、遊技球Ｂが、右下案内通路２５３０から直接第一アタッカユニット２４００における第一立壁部２４１２ｅの右側へ流下することはない。

【０９１１】

第一アタッカユニット２４００の第一棚部２４１２ａに流下した遊技球Ｂは、その傾斜により左方へ転動して、第二始動口扉２４１４の扉部２４１４ａの上面、及び第二棚部２４１２ｂを転動した上で、第二棚部２４１２ｂの左端から左方へ放出される。そして、第二棚部２４１２ｂから左方へ放出された遊技球Ｂは、その勢いに応じて、第三棚部２４１２ｃ又は第一大入賞口扉２４１７の扉部２４１７ａ上に落下し、それらの傾斜により左方へ転動し、扉部２４１７ａから第四棚部２４１２ｄを転動した後に、第四棚部２４１２ｄから第一アタッカユニット２４００外となる左方へ放出される。

【０９１２】

なお、センター役物２５００の右下案内通路２５３０から放出された遊技球Ｂの勢いによっては、複数の障害釘Ｎに当接することで、第一棚部２４１２ａに流下せずに、上棚部２４１２ｐに流下することがある。そして、上棚部２４１２ｐに流下した遊技球Ｂは、その傾斜により左方へ転動して上棚部２４１２ｐの左端から左方へ放出された上で、左方に植設されている障害釘Ｎに当接して下方へ向きを変えて、第一大入賞口扉２４１７における扉部２４１７ａの上面の左端付近に流下した後に、扉部２４１７ａ及び第四棚部２４１２ｄを左方へ転動して第一アタッカユニット２４００外へ放出される。従って、遊技球Ｂが上棚部２４１２ｐ上を転動した場合でも、上棚部２４１２ｐから遊技球Ｂが放出されるタイミングと、第一大入賞口２００５が開状態となるタイミングとによっては、第一大入賞口２００５に受入れられることがある。

【０９１３】

また、センター役物２５００の右下案内通路２５３０から放出された遊技球Ｂの勢いによっては、障害釘Ｎや上棚部２４１２ｐの右端への当接等により、右方へ跳ね返って第一棚部２４１２ａ上に流下することで、第一棚部２４１２ａをその傾斜に抗して右方へ転動して、第一棚部２４１２ａの右端から右方（下方）へ放出されることがある。第一棚部２４１２ａの右端から右方へ放出された遊技球Ｂは、第一立壁部２４１２ｅと前構成部材１０００の右レール１００５との間を通って、第二横壁部２４１２ｍの右端付近に流下し、第二横壁部２４１２ｍの傾斜により左方へ転動して第一サブアウト口２０１１に受入れられる。第一サブアウト口２０１１に受入れられた遊技球Ｂは、第一サブアウト口センサ２４０３により検知された上で、遊技領域５ａ内に戻されることなく裏ユニット３０００における裏誘導ユニット３０５０の第五受渡口３０６５に受け渡され、裏誘導ユニット３０５０から下方の基板ホルダ１２００上に排出される。

【０９１４】

センター役物２５００の右下案内通路２５３０から遊技球Ｂが放出された際に、ゲート部２００３での遊技球Ｂの通過により普通抽選結果として「普通当り」が抽選されている場合、第二始動口扉２４１４が可動して第二始動口２００４が所定のパターンで開状態となるため、第一棚部２４１２ａを左方へ転動している遊技球Ｂが、第二始動口２００４に受入れられる可能性がある。そして、遊技球Ｂが第二始動口２００４に受入れられると、第二始動口センサ２４０１に検知された後に、遊技領域５ａ外となる基板ホルダ１２００上に排出される。第二始動口センサ２４０１により遊技球Ｂが検知されると、第二特別抽選結果の抽選が行われると共に所定数の遊技球Ｂが払出される等の特典が付与される。

【０９１５】

また、第二棚部２４１２ｂから左方へ遊技球Ｂが放出された際に、第一始動口２００２や第二始動口２００４に遊技球Ｂが受入れられて第一特別抽選結果や第二特別抽選結果として「大当り」が抽選されている場合、第一大入賞口扉２４１７が可動して第一大入賞口２００５が所定のパターンで開閉するため、第二棚部２４１２ｂから左方へ放出された遊技

球Ｂが、高い確率で第一大入賞口２００５に受入れられることとなる。第一大入賞口２００５に受入れられた遊技球Ｂは、第一大入賞口センサ２４０２により検知された上で、遊技領域５ａ外の基板ホルダ１２００上に排出される。この第一大入賞口センサ２４０２による遊技球Ｂの検知により、所定数の遊技球Ｂが払出される特典が付与される。

【０９１６】

なお、第二棚部２４１２ｂから左方へ放出された遊技球Ｂの勢いによっては、上棚部２４１２ｐの下面の段差に当接することで、斜め右下へ流下して第二棚部２４１２ｂと第三棚部２４１２ｃとの間の隙間に遊技球Ｂが進入することがある。第二棚部２４１２ｂと第三棚部２４１２ｃとの間の隙間に進入した遊技球Ｂは、第三立壁部２４１２ｇと第四立壁部２４１２ｈとの間を通って第二横壁部２４１２ｍの左端付近に落下し、第二横壁部２４１２ｍの傾斜により右方へ転動して第一サブアウト口２０１１に受入れられる。

【０９１７】

センター役物２５００の右下案内通路２５３０から第一アタッカユニット２４００側へ放出された遊技球Ｂが、第二始動口２００４、第一大入賞口２００５、及び第一サブアウト口２０１１の何れにも受け入れられなかった場合は、遊技領域５ａの下端のアウト口２０１０ら、遊技領域５ａ外となる遊技パネル１１００の後方の下方へ排出される。

【０９１８】

このようなことから、第一大入賞口２００５や第二大入賞口２００６を開閉させるためには、第一始動口２００２又は第二始動口２００４に遊技球Ｂを受入れさせて、「小当り」や「大当り」等の第一特別抽選結果又は第二特別抽選結果の抽選を行わせる必要がある。第一始動口２００２は常時開口しているのに対して、第二始動口２００４はゲート部２００３に遊技球Ｂを通過させて普通抽選結果としての「普通当り」を抽選させる（引き当てる）必要があるため、第二始動口２００４へ遊技球Ｂを受入れさせる機会は、第一始動口２００２よりも低くなっている。

【０９１９】

従って、通常の状態では、遊技者に対して、第一始動口２００２に遊技球Ｂが受入れられるように、センター役物２５００の左側を遊技球Ｂが流下するように、遊技球Ｂの打込操作を行わせることができ、複数の障害釘Ｎにより案内される遊技球Ｂの動きを見せてパチンコ機１による本来の遊技を楽しませることができると共に、第一始動口２００２への遊技球Ｂの受入れに対する期待感を高めさせることができる。

【０９２０】

そして、第一始動口２００２へ遊技球Ｂが受入れられることで、第一特別抽選結果として「小当り」や「大当り」が抽選されると、第一大入賞口２００５又は第二大入賞口２００６が開閉するため、第一大入賞口２００５又は第二大入賞口２００６に遊技球Ｂが受入れられるように、遊技球Ｂの打込操作を「右打ち」に変更させて、第一大入賞口２００５又は第二大入賞口２００６への遊技球Ｂの受入れに対する期待感を高めさせることができる。

【０９２１】

この際に、センター役物２５００の右上隅に第一案内通路２５２１と第二案内通路２５２２とからなる案内通路群２５２０が設けられており、流通させる案内通路によって、ゲート部２００３を通過させ易かったり、第二サブアウト口２０１２に受入れられ易かったりするため、所望の案内通路を遊技球Ｂが流通するように、遊技球Ｂの打込強さを調整させることができ、遊技者に対して遊技球Ｂの打込操作を楽しませることができる。

【０９２２】

また、「右打ち」を行うことで、ゲート部２００３に遊技球Ｂを通過させることで、第二始動口２００４が開状態となる「普通当り」が抽選される可能性があり、開状態の第二始動口２００４に遊技球Ｂを受入れさせて、「小当り」や「大当り」が抽選される可能性があるため、遊技に対する期待感を高めさせることができ、興趣の低下を抑制させることができる。

【０９２３】

［５－９．裏ユニットの全体構成］

遊技盤５における裏ユニット３０００の全体構成について、主に図１３１乃至図１３４等を参照して詳細に説明する。図１３１は遊技盤における裏ユニットを前から見た斜視図であり、図１３２は遊技盤における裏ユニットを後ろから見た斜視図である。図１３３は裏ユニットを主な構成毎に分解して前から見た分解斜視図であり、図１３４は裏ユニットを主な構成毎に分解して後ろから見た分解斜視図である。遊技盤５における裏ユニット３０００は、遊技パネル１１００の後面に取付けられており、後側に演出表示装置１６００及び駆動基板ユニット１７００が取付けられている。

【０９２４】

裏ユニット３０００は、遊技パネル１１００におけるパネルホルダ１１２０の後面に取付けられ前方が開放されている箱状で後壁に四角い開口部３０１０ａを有している裏箱３０１０と、裏箱３０１０の後面に取付けられており演出表示装置１６００を着脱可能に取付けるためのロック機構３０２０と、を備えている。

【０９２５】

また、裏ユニット３０００は、裏箱３０１０の前端の左右両端付近に夫々設けられている平板状の裏前左装飾体３０３０及び裏前右装飾体３０４０と、裏箱３０１０内の前端の下部に設けられている裏誘導ユニット３０５０と、裏箱３０１０内の後端に設けられている裏後演出ユニット３１００と、裏箱３０１０内の下部における裏誘導ユニット３０５０の後方で左右に離隔して設けられている裏下左演出ユニット３２００及び裏下右演出ユニット３２５０と、裏箱３０１０内における裏下左演出ユニット３２００及び裏下右演出ユニット３２５０の後方に設けられている裏下中演出ユニット３３００と、を備えている。

【０９２６】

更に、裏ユニット３０００は、裏箱３０１０内の上部における裏後演出ユニット３１００の前方に設けられている裏上演出ユニット３４００と、裏箱３０１０内における裏前左装飾体３０３０の後方に設けられている裏後左演出ユニット３５００と、裏箱３０１０内における裏前右装飾体３０４０の後方に設けられている裏後右演出ユニット３６００と、裏箱３０１０内における裏前左装飾体３０３０と裏後左演出ユニット３５００との間に設けられている裏前左演出ユニット３７００と、裏箱３０１０内における裏前右装飾体３０４０と裏後右演出ユニット３６００との間に設けられている裏前右演出ユニット３８００と、を備えている。

【０９２７】

［５－９ａ．裏箱］

裏ユニット３０００の裏箱３０１０について、主に図１３１乃至図１３４等を参照して説明する。裏箱３０１０は、遊技パネル１１００におけるパネルホルダ１１２０の後面に取付けられるものである。この裏箱３０１０内には、裏前左装飾体３０３０及び裏前右装飾体３０４０や、各種演出ユニットが取付けられると共に、後側に演出表示装置１６００及び駆動基板ユニット１７００が取付けられる。この裏箱３０１０は、透明に合成樹脂により形成されている。

【０９２８】

裏ユニット３０００の裏箱３０１０は、前方が開放されている箱状で後壁に四角く貫通している開口部３０１０ａと、開口部３０１０ａの周縁から間隔を開けて後方へ突出している平板枠状の液晶取付部３０１０ｂと、液晶取付部３０１０ｂにおける上辺において枠内の内側から上方へ向かって窪んでおり演出表示装置１６００の上固定片１６０１ｂが挿入される二つの固定溝３０１０ｃと、液晶取付部３０１０ｂの下辺の左右方向中央付近において後端から裏箱３０１０の後壁まで切欠かれロック機構３０２０が取付けられる切欠部３０１０ｄと、を備えている。

【０９２９】

裏箱３０１０の開口部３０１０ａは、演出表示装置１６００の表示画面と略同じ大きさに形成されている。また、液晶取付部３０１０ｂは、枠内に演出表示装置１６００を嵌め込むことが可能な大きさに形成されている。裏箱３０１０は、後面における切欠部３０１０ｄの背面視左側にロック機構３０２０が左右にスライド可能に取付けられる。

【０９３０】
また、裏箱３０１０は、前端から外方へ延出している平板状の固定片部３０１０ｅを備えている。この固定片部３０１０ｅは、前面が遊技パネル１１００の後面に当接した状態で、遊技パネル１１００に取付けられる。裏箱３０１０は、装飾体や演出ユニット等を取付けるためのボスや取付孔等が適宜位置に形成されている。
【０９３１】
また、裏箱３０１０は、開口部３０１０ａの下辺と左右両辺とに沿って取付けられている金属板からなる帯板状の補強板３０１１を有している。この補強板３０１１により、液晶取付部３０１０ｂが補強されている。
【０９３２】
［５－９ｂ．裏前左装飾体及び裏前右装飾体］
続いて、裏ユニット３０００における裏前左装飾体３０３０及び裏前右装飾体３０４０について、主に図１３１乃至図１３５等を参照して詳細に説明する。図１３５は、扉枠を透明にした状態で遊技盤の左上隅を拡大して示すパチンコ機の正面図である。裏ユニット３０００の裏前左装飾体３０３０及び裏前右装飾体３０４０は、裏箱３０１０の前端に、左右に離隔して取付けられているものである。
【０９３３】
裏前左装飾体３０３０は、上下に延びている平板状のベース３０３１と、ベース３０３１の前面に貼り付けられている装飾シール３０３２と、を備えている。ベース３０３１は、裏箱３０１０の開口部３０１０ａと同じ高さで上下に延びており、左端側が裏箱３０１０の前端に取付けられている。装飾シール３０３２は、図示は省略するが、パチンコ機１（遊技盤５）のコンセプト（つまり、パチンコ機１（遊技盤５）の世界観）に沿った装飾が施されている。この裏前左装飾体３０３０は、不透明に形成されており、後方の部材を前方から視認不能とすることができる。
【０９３４】
裏前右装飾体３０４０は、上下に延びている平板状のベース３０４１と、ベース３０４１の前面に貼り付けられている装飾シール３０４２と、を備えている。ベース３０４１は、裏箱３０１０の上端から上下方向の中央付近まで延びており、右端側が裏箱３０１０の前端に取付けられている。装飾シール３０４２は、図示は省略するが、パチンコ機１（遊技盤５）のコンセプト（つまり、パチンコ機１（遊技盤５）の世界観）に沿った装飾が施されている。この裏前右装飾体３０４０は、不透明に形成されており、後方の部材を前方から視認不能とすることができる。
【０９３５】
裏前左装飾体３０３０及び裏前右装飾体３０４０は、遊技盤５に組立てた状態で、外側となる外周縁が、正面視において遊技領域５ａよりも外側に位置するように、平板状に延出している（図１１１及び図１３５等を参照）。更に、裏前左装飾体３０３０及び裏前右装飾体３０４０は、パチンコ機１に組立てた時に、外側となる外周縁が、扉枠３における扉窓１０１ａよりも外側に位置するように、平板状に延出している。
【０９３６】
詳述すると、例えば、図１３５に示すように、正面視において、裏前左装飾体３０３０を、裏後左演出ユニット３５００の左上隅に設けられている裏後左昇降駆動モータ３５５４の下から半分の位置まで延出させている。換言すると、裏前左装飾体３０３０を、正面視において、前構成部材１０００の左上隅に取付けられている機能表示ユニット１４００よりも外側へ延出させている。更に、換言すると、裏前左装飾体３０３０を、扉枠３における扉窓１０１ａよりも外側へ延出させている。
【０９３７】
これにより、遊技盤５に組立てた状態では、裏後左昇降駆動モータ３５５４の下半分を裏前左装飾体３０３０（図１３５において網掛け部分）により覆うことができ、遊技者側から裏後左昇降駆動モータ３５５４を見え難くすることができる。また、パチンコ機１に組立てた状態では、裏後左昇降駆動モータ３５５４の下半分を覆っている裏前左装飾体３０

３０が、扉枠３（図１３５においてハッチング部分）の扉窓１０１ａよりも外側へ延出しているため、裏前左装飾体３０３０と扉枠３とで裏後左昇降駆動モータ３５５４を遊技者側から視認不能とする（見えなくする）ことができる。従って、裏前左装飾体３０３０の後方に設けられている駆動モータや駆動ソレノイド等の機能部品を、遊技者側から視認不能とすることができ、遊技盤５（パチンコ機１）の見栄えを良くすることができる。

【０９３８】

また、裏前左装飾体３０３０では、裏後左昇降駆動モータ３５５４の一部（下半分）を覆うように延出させており、遊技盤５に組立てた状態では裏後左昇降駆動モータ３５５４の一部（上半分）が前方から見えることとなるが、パチンコ機１に組立てることで、裏後左昇降駆動モータ３５５４の上半分を扉枠３により覆って隠すことができる。従って、裏前左装飾体３０３０を、裏後左昇降駆動モータ３５５４の全体を覆うように延出させる必要が無く、裏前左装飾体３０３０が無用に大きくなることを抑制することができ、パチンコ機１にかかるコストを低減させることができる。

【０９３９】

更に、裏前左装飾体３０３０を、機能表示ユニット１４００よりも外側へ延出させているため、前構成部材１０００において正面視左上隅に機能表示ユニット１４００が取付けられていなくても、機能表示ユニット１４００の替りに裏前左装飾体３０３０によって、後方に設けられている裏後左昇降駆動モータ３５５４（機能部品）等を隠すことができる。

【０９４０】

一方、裏前右装飾体３０４０では、正面視において、裏後右演出ユニット３６００における裏後右昇降駆動モータ３６５４の全体を覆うように、裏箱３０１０の右上隅まで延出しており、透明な前構成部材１０００及び透明な遊技パネル１１００を通しても、裏後右昇降駆動モータ３６５４を前方（遊技者側）から視認不能としている。従って、裏前右装飾体３０４０の後方に設けられている駆動モータや駆動ソレノイド等の機能部品を、遊技者側から視認不能とすることで、遊技盤５（パチンコ機１）の見栄えを良くすることができ、裏前左装飾体３０３０と同様の作用効果を発揮することができる。

【０９４１】

このように、本実施形態の裏前左装飾体３０３０及び裏前右装飾体３０４０によれば、後方に設けられている駆動モータや駆動ソレノイド等の機能部品の少なくとも一部を覆うようにしているため、遊技者側から機能部品を見え辛くすることができ、遊技盤５（パチンコ機１）の見栄えを良くすることができる。

【０９４２】

また、上述したように、裏前左装飾体３０３０及び裏前右装飾体３０４０により後方に設けられている機能部品の前方を覆うことができるため、前構成部材１０００及び遊技パネル１１００を透明にしても、機能部品を遊技者側から視認不能とすることができる。つまり、前構成部材１０００及び遊技パネル１１００を透明にすることができる。従って、透明な前構成部材１０００及び遊技パネル１１００により、遊技領域５ａの境界が明瞭に見えることを低減させることができ、遊技者に対して開放感を与えることができると共に、実際の遊技領域５ａの大きさが変わらないものの、遊技者に対して遊技領域５ａを大きく（広く）見せることができる。この際に、所定の装飾が施されている裏前左装飾体３０３０の装飾シール３０３２及び裏前右装飾体３０４０の装飾シール３０４２における遊技領域５ａ外の部位が、前構成部材１０００及び遊技パネル１１００を通して前方から視認することができるため、それらによって遊技領域５ａ外も装飾することができると共に、遊技領域５ａを実際よりも大きく見せることができ、遊技者の関心を強く引付けることが可能な遊技盤５（パチンコ機１）とすることができる。

【０９４３】

また、上述したように、裏前左装飾体３０３０及び裏前右装飾体３０４０により、前構成部材１０００及び遊技パネル１１００を透明とすることができるため、演出表示装置１６００、表ユニット２０００や裏ユニット３０００、等からの光を、前構成部材１０００及び遊技パネル１１００によって前方（遊技者側）へ反射させたり屈折させたりすることが

でき、前構成部材１０００や遊技パネル１１００が発光しているように見せることができ、遊技盤５の全体の装飾性をより高めることができる。

【０９４４】

なお、裏前左装飾体３０３０及び裏前右装飾体３０４０における遊技領域５ａよりも外側へ延出させた部位により、後方に設けられている駆動モータや駆動ソレノイド等の機能部品を遊技者側から視認不能とすることができることから、全ての機能部品を正面視において遊技領域５ａ外へ設けるようにしても良い。この際に、遊技盤５の大きさには限りがあることから、全ての機能部品を遊技領域５ａ外に設けるためのスペースを確保しようとすると、相対的に遊技領域５ａの大きさを小さくしなければならない課題が発生する恐れがあるため、本実施形態のように、遊技盤５の大きさに対して遊技領域５ａを大きく採れるようなバランスで、機能部品の一部を遊技領域５ａ外に設けることが望ましい。

【０９４５】

また、裏前左装飾体３０３０及び裏前右装飾体３０４０の装飾を、正面視において、遊技領域５ａ内の装飾（デザイン）と関連した装飾とすることが望ましい。これにより、遊技領域５ａ内から遊技領域５ａ外まで延びる裏前左装飾体３０３０及び裏前右装飾体３０４０により、遊技領域５ａ内のデザインを遊技領域５ａ外まで延長させることができるため、遊技領域５ａを実際よりも大きく見せることができ、遊技者の関心を強く引付けることが可能なパチンコ機１とすることができる。

【０９４６】

［５－９ｃ．裏誘導ユニット］

次に、裏ユニット３０００における裏誘導ユニット３０５０について、主に図１３６等を参照して詳細に説明する。図１３６（ａ）は裏ユニットにおける裏誘導ユニットを前から見た斜視図であり、（ｂ）は裏ユニットにおける裏誘導ユニットを後ろから見た斜視図である。裏ユニット３０００の裏誘導ユニット３０５０は、裏箱３０１０内における前端の下部に取付けられており、左右に延びた両端が上方へ屈曲されたような形状に形成されている。裏誘導ユニット３０５０は、略全体が透明に形成されている。

【０９４７】

裏誘導ユニット３０５０は、一般入賞口２００１に受入れられた遊技球Ｂを検知する一般入賞口センサ３０５１と、第一始動口２００２に受入れられた遊技球Ｂを検知する第一始動口センサ３０５２と、アウト口２０１０に受入れられた遊技球Ｂを検知するアウト口センサ３０５３と、第二サブアウト口２０１２に受入れられた遊技球Ｂを検知する第二サブアウト口センサ３０５４と、センター役物２５００のワープ入口２５１１の後方となる部位に設けられており不正な磁気を検知する磁気センサ３０５５と、を備えている。

【０９４８】

また、裏誘導ユニット３０５０は、始動口ユニット２１００の第一始動口２００２に受入れられた遊技球Ｂが受け渡される第一受渡口３０６１と、サイドユニット２２００の右側の一般入賞口２００１に受入れられた遊技球Ｂが受け渡される第二受渡口３０６２と、サイドユニット２２００の中側の一般入賞口２００１に受入れられた遊技球Ｂが受け渡される第三受渡口３０６３と、サイドユニット２２００の左側の一般入賞口２００１に受入れられた遊技球Ｂが受け渡される第四受渡口３０６４と、第一アタッカユニット２４００の第二始動口２００４及び第一サブアウト口２０１１に受入れられた遊技球Ｂが受け渡される第五受渡口３０６５と、第一アタッカユニット２４００の第一大入賞口２００５に受入れられた遊技球Ｂが受け渡される第六受渡口３０６６と、第二アタッカユニット２６００の第二大入賞口２００６に受入れられた遊技球Ｂが受け渡される第七受渡口３０６７と、サイド右中ユニット２７００の一般入賞口２００１に受入れられた遊技球Ｂが受け渡される第八受渡口３０６８と、サイド右中ユニット２７００の第二サブアウト口２０１２に受入れられた遊技球Ｂが受け渡される第九受渡口３０６９と、を備えている。

【０９４９】

更に、裏誘導ユニット３０５０は、詳細な図示は省略するが、第一受渡口３０６１に受け渡された遊技球Ｂを右方へ誘導した上で下方へ排出する第一排出路と、第二受渡口３０６

２に受け渡された遊技球Ｂと第三受渡口３０６３に受け渡された遊技球Ｂとを、合流させた上で下方へ排出する第二排出路と、第四受渡口３０６４に受け渡され遊技球Ｂを、下方へ誘導した上で斜め右下へ排出する第三排出路と、第八受渡口３０６８に受け渡された遊技球Ｂを第六受渡口３０６６よりも下側となる位置まで下方へ誘導した上で、第六受渡口３０６６よりも左側となる位置まで左方へ誘導した後に、斜め左下へ放出する第四排出路と、を備えている。この第四排出路には、第五受渡口３０６５、第六受渡口３０６６、第七受渡口３０６７、及び第九受渡口３０６９が、連通している。

【０９５０】

始動口ユニット２１００の第一始動口２００２に受入れられて第一受渡口３０６１に受け渡された遊技球Ｂは、第一排出路の途中で第一始動口センサ３０５２により検知された後に下方へ排出される。サイドユニット２２００の右側の一般入賞口２００１に受入れられて第二受渡口３０６２に受け渡された遊技球Ｂと、中側の一般入賞口２００１に受入れられて第三受渡口３０６３に受け渡され遊技球Ｂとは、第二排出路において合流した上で、一般入賞口２００１に検知された後に下方へ排出される。サイドユニット２２００の左側の一般入賞口２００１に受入れられて第四受渡口３０６４に受け渡された遊技球Ｂは、第三排出路の途中で一般入賞口２００１に検知された後に下方へ排出される。

【０９５１】

第一アタッカユニット２４００の第二始動口２００４又は第一サブアウト口２０１１に受入れられて第五受渡口３０６５に受け渡され遊技球Ｂと、第一アタッカユニット２４００の第一大入賞口２００５に受入れられて第六受渡口３０６６に受け渡された遊技球Ｂと、第二アタッカユニット２６００の第二大入賞口２００６に受入れられて第七受渡口３０６７に受け渡された遊技球Ｂとは、第四排出路を通って排出される。

【０９５２】

サイド右中ユニット２７００の一般入賞口２００１に受入れられて第八受渡口３０６８に受け渡された遊技球Ｂは、第四排出路における第九受渡口３０６９と連通している部位よりも上流側で一般入賞口センサ３０５１に検知され、第四排出路を通って排出される。サイド右中ユニット２７００の第二サブアウト口２０１２に受入れられて第九受渡口３０６９に受け渡された遊技球Ｂは、第二サブアウト口センサ３０５４により検知された後に第四排出路と合流し、第四排出路を通って排出される。

【０９５３】

この裏誘導ユニット３０５０は、アウト口２０１０に受入れられた遊技球Ｂを検知するアウト球検知部材３０８０を備えている。アウト球検知部材３０８０は、遊技領域５ａ内に打込まれ、一般入賞口２００１、第一始動口２００２、第二始動口２００４、第一大入賞口２００５、及び第二大入賞口２００６に受入れられなかった遊技球Ｂ（特典が付与されなかった遊技球Ｂ、「アウト球」とも称する）のうち、遊技領域５ａの下端に開口しているアウト口２０１０に受入れられた遊技球Ｂを検知するためのものである。

【０９５４】

アウト球検知部材３０８０は、遊技パネル１１００におけるパネルホルダ１１２０のアウト凹部１１２３内に後方から挿入され、遊技球Ｂが流通可能に前後方向へ筒状に延びている筒部３０８１と、筒部３０８１の内部を左右に分割している仕切部３０８２と、筒部３０８１の後端の外周から左右方向へ平板状に突出しているフランジ部３０８３と、筒部３０８１の後端と連続し遊技球Ｂを下方へ誘導して排出可能な後カバー３０８４と、を備えている（図１１４を参照）。アウト球検知部材３０８０は、筒部３０８１と後カバー３０８４との間にアウト口センサ３０５３が設けられている。

【０９５５】

筒部３０８１は、アウト口２０１０と略同じ大きさであり、左右方向の幅が二つの遊技球Ｂが十分に並ぶ幅（遊技球Ｂが三つは並ばない幅）で、下側の内面が後方側へ向かって低くなるように傾斜している。仕切部３０８２は、筒部３０８１の後端付近に設けられており、左右両側において遊技球Ｂが一つ通過可能な大きさに仕切っている。仕切部３０８２は、前端側が、下方へ向かうに従って前方へ突出するように湾曲しており、遊技球Ｂの直

径よりも短く前方へ突出している。
【０９５６】
アウト球検知部材３０８０では、アウト口センサ３０５３が左右に並んで二つ設けられている。左側のアウト口センサ３０５３は、筒部３０８１内における仕切部３０８２の左側を流通した遊技球Ｂを検知するものであり、右側のアウト口センサ３０５３は、筒部３０８１内における仕切部３０８２の右側を流通した遊技球Ｂを検知するものである。アウト口センサ３０５３は、非接触タイプの電磁式の近接スイッチである。
【０９５７】
二つのアウト口センサ３０５３は、遊技球Ｂの検知方向（遊技球Ｂが通過する検知孔の軸方向）が、筒部３０８１の下側の内面と平行になるように設けられている。これにより、筒部３０８１内を流通する遊技球Ｂの流通方向がアウト口センサ３０５３の部位でも変わらないため、アウト口センサ３０５３に対して遊技球Ｂをスムーズに検知させることができ、遊技球Ｂを速やかに排出してアウト口センサ３０５３の前側で滞ることを抑制させることができる。
【０９５８】
このアウト球検知部材３０８０は、遊技盤５に組立てた状態で、筒部３０８１が遊技パネル１１００におけるパネルホルダ１１２０のアウト凹部１１２３内に挿入されている（図１１４を参照）。
【０９５９】
アウト球検知部材３０８０は、遊技盤５に組立てた状態で、筒部３０８１の前端上部が、前構成部材１０００のアウト誘導部１００３の後端よりも前方に突出している（図１１４を参照）。つまり、筒部３０８１内に、アウト誘導部１００３の後端が挿入されている。また、後カバー３０８４の下端は、基板ホルダ１２００の排出部１２０１を通って基板ホルダ１２００の下面よりも下方に突出している。
【０９６０】
このアウト球検知部材３０８０は、遊技領域５ａ内において、前構成部材１０００の内レール１００２又は右下レール１００４の下流端まで流下した後に、アウト誘導部１００３により後方へ誘導されてアウト口２０１０に受入れられた遊技球Ｂを、筒部３０８１内を通して、二つのアウト口センサ３０５３の何れかで検知した上で、後カバー３０８４により下方へ誘導して排出する。アウト球検知部材３０８０は、遊技球Ｂを、基板ホルダ１２００上に当接させることなく、本体枠４の排出球受部６２８へ排出する。
【０９６１】
本実施形態のアウト球検知部材３０８０によれば、左右に備えられている二つのアウト口センサ３０５３の間を仕切部３０８２で仕切っているため、センター役物２５００の左側を流下した遊技球Ｂを左側のアウト口センサ３０５３側へ誘導することができると共に、センター役物２５００の右側を流下してきた遊技球Ｂを右側のアウト口センサ３０５３側へ誘導することができる。従って、左右のアウト口センサ３０５３の夫々において、時間当りに検知される遊技球Ｂの数により、遊技者が「左打ち」の傾向にあるのか「右打ち」の傾向にあるのかを判別することができ、その判別に基づいて、遊技状況に最適な打込操作を促して、意図した遊技を楽しませることができる。
【０９６２】
また、アウト球検知部材３０８０では、仕切部３０８２の前方への突出を短くして遊技球Ｂが乗り越え易いものとしているため、時間当りに多くの遊技球Ｂがアウト口２０１０に進入した時に、仕切部３０８２の比較的遊技球Ｂの流通量が少ない左側又は右側へ遊技球Ｂを逃がすことができ、アウト口２０１０において遊技球Ｂが滞ることなく排出することができる。
【０９６３】
また、後カバー３０８４の下端を、基板ホルダ１２００の排出部１２０１よりも下方へ突出させているため、一般入賞口２００１、第一始動口２００２、第二始動口２００４、第一大入賞口２００５、第二大入賞口２００６、第一サブアウト口２０１１、及び第二サブ

アウト口２０１２に受入れられて基板ホルダ１２００上に排出された遊技球Ｂが、アウト球検知部材３０８０で逆流してアウト口センサ３０５３で検知されてしまうことを防止することができ、アウト口２０１０に受入れられた「アウト球」のみを正確に検知することができる。

【０９６４】

なお、本実施形態では、アウト球検知部材３０８０を、裏ユニット３０００に設けたものを示したが、これに限定するものではなく、アウト球検知部材３０８０を遊技パネル１１００に取付けるものとしても良い。この際に、遊技パネル１１００として、アウト凹部１１２３を有しているものであれば、アウト球検知部材３０８０を取付けることができるため、アウト凹部１１２３を有した既存の遊技パネル１１００に対応することができると共に、既存の遊技盤５に対して後付けすることができる。

【０９６５】

また、本実施形態によれば、遊技領域５ａ内に打込まれ、一般入賞口２００１、第一始動口２００２、第二始動口２００４、第一大入賞口２００５、及び第二大入賞口２００６の何れにも受入れられなかった遊技球Ｂ（「アウト球」）を、アウト口センサ３０５３、第一サブアウト口センサ２４０３、及び第二サブアウト口センサ３０５４により検知することができるため、例えば、特定の入賞口への遊技球Ｂの受入れが継続的に検知されているのにも関わらず、「アウト球」が検知されないような場合、特定の入賞口に対して不正行為が行われていることとなり、不正行為が行われている旨を報知することができる。

【０９６６】

また、「アウト球」の検知により、その数をカウントすることができるため、一般入賞口２００１、第一始動口２００２、第二始動口２００４、第一大入賞口２００５、及び第二大入賞口２００６に受入れられた遊技球Ｂの検知によりカウントされた「入賞球」の数と、「アウト球」の数と、一般入賞口２００１、第一始動口２００２、第二始動口２００４、第一大入賞口２００５、及び第二大入賞口２００６への遊技球Ｂの受入れにより払出された「セーフ球」の数とから、パチンコ機１における「出玉率」を知ることができる。なお、図示は省略するが、遊技盤５の後側には、「出玉率」を表示する表示部が設けられている。

【０９６７】

また、遊技盤５において、遊技領域５ａ内に打込まれた全ての遊技球Ｂ（「全球」）を検知するようにしたり、遊技領域５ａ内から排出された全ての遊技球Ｂ（「全球」）を検知するようにしたりした場合、アウト口センサ３０５３、第一サブアウト口センサ２４０３、及び第二サブアウト口センサ３０５４により「アウト球」のみを検知しているため、「アウト球」、「入賞球」、及び「全球」、の夫々の数を比較することで、遊技盤５内における球詰りの発生を検知することができる。

【０９６８】

［５－９ｄ．裏後演出ユニット］

次に、裏ユニット３０００における裏後演出ユニット３１００について、主に図１３７乃至図１４１等を参照して詳細に説明する。図１３７（ａ）は裏ユニットにおける裏後演出ユニットを前から見た斜視図であり、（ｂ）は裏ユニットにおける裏後演出ユニットを後ろから見た斜視図である。図１３８は裏後演出ユニットを分解して前から見た分解斜視図であり、図１３９は裏後演出ユニットを分解して後ろから見た分解斜視図である。図１４０は、裏後演出ユニットの可動構成を正面から示す説明図である。図１４１は、裏後演出ユニットの動きを示す説明図である。

【０９６９】

裏ユニット３０００の裏後演出ユニット３１００は、裏箱３０１０内の最も後方（後壁の前面）に取付けられている。裏後演出ユニット３１００は、正面視の形状が下方へ開放されているコ字状で、裏箱３０１０の内形と略同じ大きさに形成されている。裏後演出ユニット３１００は、左右方向へ延びている裏後可動装飾体３１１０と、裏後可動装飾体３１１０を上下方向へ移動させる裏後可動機構３１２０と、を備えている。

【０９７０】
裏後可動装飾体３１１０は、左右方向へ延びており前面にレリーフ状の装飾が施されている透明平板状の装飾体３１１１と、装飾体３１１１の後方に設けられており前面に複数の第一ＬＥＤ３１１４ａ及び第二ＬＥＤ３１１４ｂが実装されている裏後装飾基板３１１４と、裏後装飾基板３１１４の後側を覆うように装飾体３１１１に取付けられている装飾体ベース３１１５と、を備えている。裏後装飾基板３１１４に実装されている複数の第一ＬＥＤ３１１４ａ及び第二ＬＥＤ３１１４ｂは、夫々が表面実装タイプであって多色発光可能なフルカラーＬＥＤである。裏後装飾基板３１１４の複数の第一ＬＥＤ３１１４ａ及び第二ＬＥＤ３１１４ｂにより、装飾体３１１１（裏後可動装飾体３１１０）を発光装飾させることができる。

【０９７１】
また、裏後可動装飾体３１１０は、装飾体３１１１よりも左側で上下延びている左スライダ３１１６と、装飾体３１１１よりも右側で上下に延びている右スライダ３１１７と、を備えている。左スライダ３１１６は、下端付近から左方へ突出している可動用突起３１１６ａと、上端付近から左方へ三角形状に突出しているロック用突起３１１６ｂと、上端に設けられている検知片３１１６ｃと、を有している。

【０９７２】
裏後可動機構３１２０は、正面視の形状が下方へ開放されたコ字状に形成されており裏箱３０１０内に取付けられるユニットベース３１２１と、ユニットベース３１２１の左辺において円柱状に上下方向へ延びており裏後可動装飾体３１１０の左スライダ３１１６を上下方向へ移動可能に支持しているスライドシャフト３１２２と、スライドシャフト３１２２よりも左側でスライドシャフト３１２２と平行に上下に延びており、外周にスパイラル状の溝が形成されているスパイラルシャフト３１２３と、を備えている。

【０９７３】
また、裏後可動機構３１２０は、スパイラルシャフト３１２３の下端に取付けられている平歯車状の伝達ギア３１２４と、伝達ギア３１２４と噛合している平歯車状のモータギア３１２５と、モータギア３１２５が回転軸に取付けられている裏後駆動モータ３１２６と、裏後駆動モータ３１２６をユニットベース３１２１の左辺の下端に取付けているモータベース３１２７と、スパイラルシャフト３１２３の上端を回転可能にユニットベース３１２１に取付けている上軸受部材３１２８と、スパイラルシャフト３１２３の下端付近を回転可能にユニットベース３１２１に取付けている下軸受部材３１２９と、を備えている。

【０９７４】
また、裏後可動機構３１２０は、スパイラルシャフト３１２３に螺合されており裏後可動装飾体３１１０の可動用突起３１１６ａに対して下方から当接可能なスライドガイド３１３０と、スパイラルシャフト３１２３よりも左側で上下に延びていると共に昇降可能とされており下端側が上方からスライドガイド３１３０に当接可能とされている伝達スライダ３１３１と、伝達スライダ３１３１を上方へ付勢しているバネ３１３２と、伝達スライダ３１３１の昇降により前後方向の軸周りに回動するリンク部材３１３３と、リンク部材３１３３の回動により左右方向へスライドし裏後可動装飾体３１１０のロック用突起３１１６ｂと当接可能なロック部材３１３４と、を備えている。

【０９７５】
更に、裏後可動機構３１２０は、裏後可動装飾体３１１０の検知片３１１６ｃを検知する裏後上検知センサ３１３５と、スライドガイド３１３０の検知片３１３０ａを検知する裏後下検知センサ３１３６と、裏後可動装飾体３１１０の左端側を前方から覆うようにユニットベース３１２１の左辺に取付けられている前左カバー３１３７と、裏後可動装飾体３１１０の右端側を前方から覆うようにユニットベース３１２１の右辺に取付けられている前右カバー３１３８と、前左カバー３１３７の前面下部に取付けられており裏後駆動モータ３１２６、裏後上検知センサ３１３５、及び裏後下検知センサ３１３６と演出駆動基板１７２０との接続を中継している裏後左中継基板３１３９と、ユニットベース３１２１と前右カバー３１３８との間に取付けられており裏後可動装飾体３１１０の裏後装飾基板３

１１４と演出駆動基板１７２０との接続を中継している裏後右中継基板３１４０と、を備えている。

【０９７６】

ユニットベース３１２１は、下方へ移動した裏後可動装飾体３１１０の左スライダ３１１６の下面、及び右スライダ３１１７の下面、と当接して衝撃を吸収する衝撃吸収部材３１２１ａを有している。スライドシャフト３１２２は、上端と下端とがユニットベース３１２１と前左カバー３１３７とで挟持されている。

【０９７７】

スライドガイド３１３０は、下端付近から右方へ突出しており、裏後下検知センサ３１３６により検知される検知片３１３０ａを有している。スライドガイド３１３０は、ユニットベース３１２１と前左カバー３１３７との間で上下方向へ摺動可能に設けられており、それらに接することでスパイラルシャフト３１２３の軸周りに対して回転不能とされている。スライドガイド３１３０は、上端面に裏後可動装飾体３１１０の可動用突起３１１６ａの下面が当接可能とされている。また、スライドガイド３１３０は、下面に伝達スライダ３１３１の下突部３１３１ａの上端面が当接可能とされている。

【０９７８】

伝達スライダ３１３１は、ユニットベース３１２１と前左カバー３１３７との間で上下方向へ移動可能に取付けられている。伝達スライダ３１３１は、前左カバー３１３７により、所定範囲内でのみ上下方向へ移動可能とされている。伝達スライダ３１３１は、下端側において右方へ突出している下突部３１３１ａと、上端側において右方へ突出している上突部３１３１ｂと、上突部３１３１ｂの上端付近から後方へ円柱状に突出している突起ピン３１３１ｃと、を備えている。伝達スライダ３１３１は、下突部３１３１ａの上面に、スライドガイド３１３０の下面が当接可能とされている。また、伝達スライダ３１３１は、突起ピン３１３１ｃが、リンク部材３１３３の第一スリット３１３３ａ内に摺動可能に挿入される。

【０９７９】

バネ３１３２は、上端側がユニットベース３１２１に取付けられていると共に、下端側が伝達スライダ３１３１の上突部３１３１ｂに取付けられており、伝達スライダ３１３１を上方へ付勢している。

【０９８０】

リンク部材３１３３は、正面視の形状が、各頂点がＲ面取りされた三角形に形成されている。リンク部材３１３３は、一つの頂点付近でユニットベース３１２１に前後方向の軸周りに対して回転可能に取付けられている。リンク部材３１３３は、回転軸から左方の頂点付近において回転軸の方向へ延びた長孔状の第一スリット３１３３ａと、回転軸から上方の頂点付近において回転軸の方向へ延びた長孔状の第二スリット３１３３ｂと、を有している。リンク部材３１３３は、第一スリット３１３３ａに伝達スライダ３１３１の突起ピン３１３１ｃが摺動可能に挿入されると共に、第二スリット３１３３ｂにロック部材３１３４の伝達ピン３１３４ａが摺動可能に挿入される。

【０９８１】

ロック部材３１３４は、ユニットベース３１２１と前左カバー３１３７との間で、前左カバー３１３７により左右方向へスライド可能に取付けられている。

ロック部材３１３４は、後方へ円柱状に突出しており、リンク部材３１３３の第二スリット３１３３ｂ内に摺動可能に挿入される伝達ピン３１３４ａと、平坦状の上端面を形成していると共に左右方向へ延びており裏後可動装飾体３１１０のロック用突起３１１６ｂの下面が当接可能な当接面３１３４ｂと、当接面３１３４ｂの右端から下方へ向かうに従って左方へ移動するように傾斜しており、ロック用突起３１１６ｂが当接可能な案内面３１３４ｃと、を有している。

【０９８２】

前右カバー３１３８は、ユニットベース３１２１と協働して裏後可動装飾体３１１０の右スライダ３１１７を上下方向へ摺動可能に支持している。

【０９８３】
続いて、裏後演出ユニット３１００の動作について説明する。裏後演出ユニット３１００は、通常の状態では、図１４０（図１４１（ａ））に示すように、裏後可動装飾体３１１０が、上方へ移動した退避位置の状態となっており、スライドガイド３１３０がスパイラルシャフト３１２３の上端付近に位置していると共に、ロック部材３１３４が右方へ移動してロック位置に位置している。この状態では、スライドガイド３１３０の上端面に裏後可動装飾体３１１０の左スライダ３１１６の可動用突起３１１６ａの下面が当接していると共に、ロック部材３１３４の当接面３１３４ｂに、裏後可動装飾体３１１０のロック用突起３１１６ｂの下面が当接している。
【０９８４】
通常の状態では、伝達スライダ３１３１がバネ３１３２の付勢力により上方への移動端に位置している。そして、伝達スライダ３１３１の突起ピン３１３１ｃがリンク部材３１３３の第一スリット３１３３ａに挿入されていると共に、リンク部材３１３３の第二スリット３１３３ｂにロック部材３１３４の伝達ピン３１３４ａが挿入されていることから、バネ３１３２の付勢力が、リンク部材３１３３が回転軸を中心として時計回りの方向へ作用していると共に、ロック部材３１３４が右方へスライドする方向へ付勢されている。従って、ロック部材３１３４が、バネ３１３２の付勢力により、ロック位置の状態に維持されている。
【０９８５】
この状態では、裏後可動装飾体３１１０が、スライドガイド３１３０とロック部材３１３４の二つにより、下方への移動が規制されている。従って、何らかの理由（不具合）により、スライドガイド３１３０及びロック部材３１３４の何れかが、当該位置から移動しても、残りにより裏後可動装飾体３１１０の下方への移動（落下）を阻止することができる。
【０９８６】
また、通常の状態では、リンク部材３１３３の第一スリット３１３３ａがリンク部材３１３３の回転軸よりも上方に位置していると共に、ロック部材３１３４の伝達ピン３１３４ａが挿入されている第二スリット３１３３ｂが回転軸よりも右方に位置している。また、裏後上検知センサ３１３５が裏後可動装飾体３１１０の検知片３１１６ｃを検知していると共に、裏後下検知センサ３１３６がスライドガイド３１３０の検知片３１３０ａを非検知としている。
【０９８７】
裏後演出ユニット３１００は、退避位置の通常の状態では、裏上演出ユニット３４００の後方に位置しており、前方（遊技者側）から視認不能となっている。
【０９８８】
この通常の状態で、裏後駆動モータ３１２６によりスパイラルシャフト３１２３を所定方向（ここでは、平面視において反時計回りの方向）へ回転させると、スパイラルシャフト３１２３に螺合されているスライドガイド３１３０が下方へ移動する。このスライドガイド３１３０が下方へ移動しても、裏後可動装飾体３１１０のロック用突起３１１６ｂがロック部材３１３４と当接しているため、裏後可動装飾体３１１０は退避位置から下方へ移動することはなく、スライドガイド３１３０のみが裏後可動装飾体３１１０の可動用突起３１１６ａから離れて下方へ移動することとなる。
【０９８９】
そして、スパイラルシャフト３１２３の回転によりスライドガイド３１３０が下方へ移動して、その検知片３１３０ａが裏後下検知センサ３１３６により検知されると、スライドガイド３１３０の下面が伝達スライダ３１３１の下突部３１３１ａの上端面に当接する（図１４１（ｂ）を参照）。裏後下検知センサ３１３６がスライドガイド３１３０の検知片３１３０ａを検知としている状態で、更にスライドガイド３１３０が下方へ移動すると、スライドガイド３１３０が、伝達スライダ３１３１の下突部３１３１ａを下方へ押圧し、伝達スライダ３１３１がバネ３１３２の付勢力に抗してスライドガイド３１３０と一緒に下方へ移動することとなる。

【０９９０】
この伝達スライダ３１３１が下方へ移動することで、伝達スライダ３１３１の突起ピン３１３１ｃが挿入されているリンク部材３１３３の第一スリット３１３３ａが下方へ押圧され、リンク部材３１３３がその回転軸を中心として反時計回りの方向へ回動することとなる。そして、リンク部材３１３３が反時計周りの方向へ回動することにより、リンク部材３１３３の第二スリット３１３３ｂが左方へ移動することとなり、第二スリット３１３３ｂに挿入されている伝達ピン３１３４ａを介してロック部材３１３４が左方へ移動することとなる（図１４１（ｃ）を参照）。
【０９９１】
ロック部材３１３４が裏後可動装飾体３１１０のロック用突起３１１６ｂよりも左方へ移動すると、ロック部材３１３４によるロック（下方への規制）が解除され、裏後可動装飾体３１１０が落下する。この際に、下方へ移動しているスライドガイド３１３０の検知片３１３０ａが、裏後下検知センサ３１３６に対して非検知の状態となり、裏後駆動モータ３１２６の回転が停止する。
【０９９２】
そして、落下した裏後可動装飾体３１１０は、ユニットベース３１２１の衝撃吸収部材３１２１ａに当接することにより、落下が停止して出現位置の状態となる（図１４１（ｃ）を参照）。この出現位置の状態では、スライドガイド３１３０が、裏後可動装飾体３１１０の左スライダ３１１６の下端よりも下方に位置しており、裏後可動装飾体３１１０が当接することはない。
【０９９３】
裏後演出ユニット３１００は、裏後可動装飾体３１１０が落下した出現位置の状態では、裏後可動装飾体３１１０が前方（遊技者側）から視認可能となる。この状態で、裏後装飾基板３１１４に実装されている複数のＬＥＤを適宜発光させることで、裏後可動装飾体３１１０（装飾体３１１１）を発光装飾させることができ、裏後可動装飾体３１１０の発光装飾により遊技者を楽しませることができる。
【０９９４】
裏後可動装飾体３１１０を下方の移動端の出現位置から、通常の状態の退避位置へ復帰させる場合は、裏後駆動モータ３１２６によりスパイラルシャフト３１２３を逆方向（ここでは、平面視において時計回りの方向）へ回転させて、スライドガイド３１３０を上方へ移動させる。このスライドガイド３１３０が上方へ移動すると、スライドガイド３１３０と一緒に、伝達スライダ３１３１がバネ３１３２の付勢力により上方へスライドする。そして、伝達スライダ３１３１が上方へ移動することで、上記とは逆に、リンク部材３１３３が時計回りの方向へ回動すると共に、ロック部材３１３４が右方へ移動し、ロック位置で停止することとなる。
【０９９５】
また、スライドガイド３１３０が上方へ移動することで、下突部３１３１ａの上端面が裏後可動装飾体３１１０の可動用突起３１１６ａの下面に当接することとなり、スライドガイド３１３０が可動用突起３１１６ａを上方へ押圧することで、裏後可動装飾体３１１０が上方へ移動することとなる（図１４１（ｄ）を参照）。
【０９９６】
そして、スライドガイド３１３０により裏後可動装飾体３１１０が退避位置付近まで上方へ移動すると、ロック用突起３１１６ｂがロック部材３１３４の案内面３１３４ｃに下方から当接することとなる。ロック用突起３１１６ｂが案内面３１３４ｃに下方から当接して、ロック用突起３１１６ｂが案内面３１３４ｃを上方へ押圧すると、案内面３１３４ｃの傾斜により、ロック部材３１３４に左方へ移動させようとする力が作用することとなり、伝達スライダ３１３１及びリンク部材３１３３を介して右方へ移動させようとするバネ３１３２の付勢力に抗して、ロック部材３１３４が右方へスライドする。
【０９９７】
裏後可動装飾体３１１０の上方への移動により、ロック用突起３１１６ｂがロック部材３

１３４の案内面３１３４ｃの上端よりも上方に位置すると、案内面３１３４ｃに対するロック用突起３１１６ｂによる上方への押圧が無くなり、ロック部材３１３４がバネ３１３２の付勢力により右方へスライドしてロック位置の状態となる。これにより、裏後可動装飾体３１１０のロック用突起３１１６ｂの下方に、ロック部材３１３４の当接面３１３４ｂの右端側が位置した状態となり、ロック部材３１３４により裏後可動装飾体３１１０の下方への移動を規制することができる。

【０９９８】

この際に、裏後可動装飾体３１１０の検知片３１１６ｃが裏後上検知センサ３１３５により検知され、裏後駆動モータ３１２６の回転が停止する。このようにして、裏後可動装飾体３１１０が、出現位置から、通常の状態である退避位置の状態に復帰することができる。

【０９９９】

本実施形態の裏後演出ユニット３１００によれば、左右に延びた裏後可動装飾体３１１０を、遊技者側から視認不能な退避位置の状態から、視認可能となる出現位置の状態へ落下させることができるため、遊技者に対して強いインパクトを与えることができ、遊技者の関心を強く引付けさせることができる。

【１０００】

また、裏後可動装飾体３１１０を退避位置の状態でロック（規制）しているロック部材３１３４を、左方へ移動させることでロックを解除するようにしているため、前後方向の軸周りに回動させてロックを解除するようにした場合と比較して、ロックの解除の際に裏後可動装飾体３１１０が上方へ移動することなく落下させることができる。

【１００１】

［５－９ｄ－１．裏後可動装飾体］

続いて、裏後演出ユニット３１００における裏後可動装飾体３１１０について、主に図１４２乃至図１５６を参照して詳細に説明する。図１４２は、裏後可動装飾体を裏後装飾基板と共に示す正面図である。図１４３（ａ）は図１４２におけるＤ－Ｄ線で切断した断面図であり、（ｂ）は図１４２におけるＥ－Ｅ線で切断した断面図である。図１４４（ａ）は裏後可動装飾体を前から見た斜視図であり、（ｂ）は裏後可動装飾体を後ろから見た斜視図である。図１４５は裏後可動装飾体を分解して前から見た分解斜視図であり、図１４６は裏後可動装飾体を分解して後ろから見た分解斜視図である。図１４７は裏後可動装飾体の一部を拡大して示す正面図であり、図１４８は図１４７の正面図に導光放射板と裏後装飾基板とを破線で示す説明図である。図１４９（ａ）は裏後可動装飾体における装飾体の一部を示す正面図であり、（ｂ）は（ａ）の装飾体と同じ部位における装飾シートの一部を示す正面図であり、（ｃ）は（ａ）の装飾体と同じ部位における導光放射板と裏後装飾基板の一部を示す正面図である。

【１００２】

また、図１５０は、図１４３（ａ）の上部を拡大して示す拡大断面図である。図１５１は、図１５０の断面図を分解して示す分解図である。図１５２は、裏後可動装飾体の正面の一部を拡大して装飾体及び装飾シートによる装飾と導光放射板及び裏後装飾基板との関係を示す説明図である。図１５３（ａ）は第一ＬＥＤの部位における導光放射板と裏後装飾基板との関係を断面で示す説明図であり、（ｂ）は第一ＬＥＤの光軸上に第二ＬＥＤが位置している部位における導光放射板の作用を正面から示す説明図であり、（ｃ）は装飾体及び装飾シートにおける第二装飾部に対する導光放射板のＬＥＤ収容部及び裏後装飾基板の第一ＬＥＤの配置例を正面から示す説明図である。図１５４は、裏後装飾基板の一部を拡大して回路パターンの銅箔と共に示す正面図である。図１５５（ａ）は裏後装飾基板の正面図であり、（ｂ）は裏後装飾基板の背面図である。図１５６（ａ）は裏後可動装飾体における装飾体の一部を示す拡大断面図であり、（ｂ）は（ａ）とは異なる形態の金属装飾部を有した装飾体の一部を示す拡大断面図であり、（ｃ）は（ａ）及び（ｂ）とは更に異なる形態の金属装飾部を有した装飾体の一部を示す拡大断面図である。

【１００３】

裏後可動装飾体３１１０は、図１４２等に示すように、左右方向に延びており、前方から

見た時に所定の装飾からなる装飾部３１５０が施されている。詳述すると、裏後可動装飾体３１１０の装飾部３１５０は、正面視において、左右両端付近に夫々設けられている二つの第一装飾部３１５１と、二つの第一装飾部３１５１の間で左右方向へ列設されている複数の第二装飾部３１５２と、を有している。第一装飾部３１５１は、夫々一つの桜の花を模している。また、第二装飾部３１５２は、図示は省略するが、夫々が所定の文字を模しており、左右に列設されていることで本パチンコ機１（遊技盤５）のコンセプト（つまり、パチンコ機１（遊技盤５）の世界観）に沿った所定のロゴを形成している。このように、裏後可動装飾体３１１０は、二つの桜の花の間にロゴをあしらったが装飾が施されている。

【１００４】

裏後演出ユニット３１００における裏後可動装飾体３１１０は、図１４２乃至図１４６等に示すように、左右方向へ延びており浮彫状（レリーフ状）の凹凸により装飾部３１５０の一部を構成する装飾を有している透明平板状の装飾体３１１１と、装飾体３１１１の後方に設けられ装飾部３１５０の残りを構成している装飾（絵柄）が施された透光性を有する部位（領域）と透明な部位（領域）とを有するシート状の装飾シート３１１２と、装飾シート３１１２の後方に設けられている透明平板状の導光放射板３１１３と、導光放射板３１１３の後方に設けられており前面（以下、「表面（実装面）」と記載する場合がある。）に複数の第一ＬＥＤ及び第二ＬＥＤが実装されている裏後装飾基板３１１４と、裏後装飾基板３１１４の後側を覆うように装飾体３１１１に取付けられている平板状の装飾体ベース３１１５と、装飾体３１１１よりも左側で上下に延びている左スライダ３１１６と、装飾体３１１１よりも右側で上下に延びている右スライダ３１１７と、を備えている。

【１００５】

なお、裏後装飾基板３１１４の表面（実装面）に実装される複数の第一ＬＥＤ及び第二ＬＥＤ等の表面側電子部品の部品番号、表面側電子部品を配置する位置を示す領域等の表面側電子部品の属性（さらに、表面側電子部品の形状、表面側電子部品の大きさ、表面側電子部品の実装向き（実装方向）、表面側電子部品の型式を含む場合がある。）を示す表面側表記部が裏後装飾基板３１１４の表面（実装面）に所定の塗料の色でシルク印刷により印刷されると共に、透明平板状の装飾体３１１１の後方には、透光性を有する部位（領域）と透明な部位（領域）とを有するシート状の装飾シート３１１２、透明平板状の導光放射板３１１３、そして裏後装飾基板３１１４が順番に配置されているため、装飾シート３１１２に透光性を有する部位（領域）が存在するものの、裏後装飾基板３１１４の表面（実装面）にシルク印刷により印刷される所定の塗料の色が導光放射板３１１３、シート状の装飾シート３１１２、そして装飾体３１１１を介して、視認可能となっており、第一ＬＥＤ及び第二ＬＥＤが消灯している状態において、透光性を有する部位（領域）と対応する領域であって所定の塗料の色を視認できる場合には所定の塗料の色の存在を確認することができる程度であり、所定の塗料の色が、文字や記号を示しているのか、形状を示しているか、判別することができないのに対して、透明な部位（領域）と対応する領域であって所定の塗料の色を視認できる場合には所定の塗料の色により文字、記号、形状（つまり、表面側表記部が示す表面側電子部品の属性）を判別することができる。

【１００６】

［５－９ｄ－２．裏後可動装飾体の装飾体］

装飾体３１１１は、前面側及び後面側の一般面が平坦に形成されている。装飾体３１１１は、前面側の一般面から前方へ突出している第一装飾突部３１１１ａと、第一装飾突部３１１１ａよりも短く前方へ突出している第二装飾突部３１１１ｂと、第二装飾突部３１１１ｂよりも短く前方へ突出している第三装飾突部３１１１ｃと、を有している。第一装飾突部３１１１ａは、第一装飾部３１５１や第二装飾部３１５２の輪郭となる部位に設けられている。第一装飾部３１５１の部位における第一装飾突部３１１１ａは、桜の花を模した第一装飾部３１５１の花弁の外周と、中央の雄しべ及び雌しべを模した部位と、に夫々が形成されている。第二装飾部３１５２の部位における第一装飾突部３１１１ａは、夫々の第二装飾部３１５２の外周を二重（二条）に囲むように形成されている。第一装飾突部

３１１１ａは、前面が前方へ膨出するように湾曲している。
【１００７】
第二装飾突部３１１１ｂは、第一装飾部３１５１や第二装飾部３１５２の外側に設けられている。第二装飾突部３１１１ｂは、第一装飾部３１５１よりも小さい桜の花や花弁を模した形状に形成されている。第二装飾突部３１１１ｂは、前面が前方へ膨出するように湾曲している。
【１００８】
第三装飾突部３１１１ｃは、第一装飾突部３１１１ａの枠内に設けられている。第一装飾部３１５１に対応している部位の第三装飾突部３１１１ｃは、前面が湾曲している。また、第二装飾部３１５２に対応している部位の第三装飾突部３１１１ｃは、前面が平坦である。
【１００９】
装飾体３１１１の第一装飾突部３１１１ａ及び第三装飾突部３１１１ｃは、装飾部３１５０における第一装飾部３１５１と第二装飾部３１５２の夫々の一部を構成している。
【１０１０】
また、装飾体３１１１は、第一装飾突部３１１１ａにおける第二装飾突部３１１１ｂよりも前方に突出している部位（第一箔押領域（図１５６（ａ）を参照））に金属光沢を持った金属装飾部３１１１ｄ（図１４７乃至図１４９において、濃淡の濃い網掛け部分）を有している。装飾体３１１１は、金属装飾部３１１１ｄを除いた全体が、無色透明に形成されている。本実施形態の金属装飾部３１１１ｄは、図１５０及び図１５６（ａ）等に示すように、第一装飾突部３１１１ａの湾曲している前面の部位に設けられており、第一装飾突部３１１１ａの側面の部位には設けられていない。これにより、第一装飾突部３１１１ａの側面にも金属装飾部３１１１ｄを設けた場合と比較して、装飾体３１１１の金属装飾部３１１１ｄから裏後装飾基板３１１４までの沿面距離ＥＬをより長くすることができ、静電気等の放電やショートに対する絶縁性を高めることができる。
【１０１１】
装飾体３１１１は、前方へ突出した第一装飾突部３１１１ａの湾曲している前面に沿って金属装飾部３１１１ｄが設けられているため、金属装飾部３１１１ｄの金属光沢により高級感を付与することができると共に、金属装飾部３１１１ｄの湾曲により第一装飾突部３１１１ａの立体感をより強調することができる。金属装飾部３１１１ｄは、第二装飾部３１５２において、図１４８等に示すように、裏後装飾基板３１１４の第一ＬＥＤ３１１４ａの前方となる部位に設けられており、第一ＬＥＤ３１１４ａや導光放射板３１１３の第一ＬＥＤ収容部３１１３ｃを、前方から見え難くしている。
【１０１２】
また、金属装飾部３１１１ｄを、第一装飾突部３１１１ａの前面にのみ設けているため、後方の裏後装飾基板３１１４の第一ＬＥＤ３１１４ａ等からの光を、金属装飾部３１１１ｄの裏面（後面）により後方へ反射させて、後方に設けられている装飾シート３１１２の前面を照らすことができ、装飾シート３１１２の装飾（第一輪郭部３１１２ａ）をより見え易くすることができる。
【１０１３】
この金属装飾部３１１１ｄは、所定色（本実施形態では金色）の金属箔を、ホットスタンピングによる箔押しによって形成したものである。詳述すると、まず、合成樹脂の射出成形により装飾体３１１１の完成前の中間品を成形する。形成した装飾体３１１１の中間品を、第一装飾突部３１１１ａ等が突出している前面側を上方へ向けた状態で、ホットスタンプ装置の所定位置に装着する。この際に、装飾体３１１１の中間品の上方には、所望の金属箔を有した転写シートと、下面側が弾性を有し所定の温度に加熱された平板状のホットプレートとが配置されている。そして、ホットプレートを、装飾体３１１１の中間品における第一装飾突部３１１１ａの上端から下方へ所定距離の位置（第二装飾突部３１１１ｂの上端よりも高い位置）まで下降させて、ホットプレートの熱により転写シートの金属箔を第一装飾突部３１１１ａに転写（箔押し）する。これにより、装飾体３１１１におけ

る第二装飾突部３１１１ｂよりも上方（前方）の第一箔押領域ＦＳ１の部位に、金属装飾部３１１１ｄが形成された状態となる（図１５６（ａ）を参照）。

【１０１４】

本実施形態の金属装飾部３１１１ｄの形成に用いるホットスタンプ装置のホットプレートは、転写シートの金属箔の転写先となる装飾体３１１１と当接する部位が、弾性を有しているため、転写先（第一装飾突部３１１１ａの前面）が、平坦でなく湾曲していても、その面に沿って弾性変形することができ、湾曲面等の立体的な形状の部位にも金属箔を良好な状態で転写させる（箔押しさせる）ことができる。これにより、金属装飾部３１１１ｄを、メッキや蒸着により形成する場合と比較して、大がかりな設備を必要とせず、容易に形成することができ、コストの増加を抑制させることができる。

【１０１５】

なお、上記の実施形態では、装飾体３１１１において、第一装飾突部３１１１ａの先端部分にのみ金属装飾部３１１１ｄを設けたものを示したが、これに限定するものではない。例えば、ホットスタンプ装置により金属装飾部３１１１ｄを形成する際に、ホットプレートを、第二装飾突部３１１１ｂよりも低く、第三装飾突部３１１１ｃよりも高い位置まで下降させることで、第一装飾突部３１１１ａと第二装飾突部３１１１ｂの先端部分に金属装飾部３１１１ｄを設け装飾体３１１１を形成することができる。

【１０１６】

或いは、装飾体３１１１の完成前の中間品を、ホットスタンプ装置に装着した状態で、初めに、所定の色の金属箔（第一金属箔）を有した転写シートを用いてホットプレートを、第二装飾突部３１１１ｂよりも低く第三装飾突部３１１１ｃよりも高い位置（第二箔押領域ＦＳ２）まで下降させて、第一装飾突部３１１１ａと第二装飾突部３１１１ｂの先端部分に第一金属箔を転写する。続いて、第一金属箔とは異なる色の金属箔（第二金属箔）を有した転写シートを用いてホットプレートを、第一装飾突部３１１１ａよりも低く第二装飾突部３１１１ｂよりも高い位置（第一箔押領域ＦＳ１）まで下降させて、第一装飾突部３１１１ａの先端部分に第二金属箔を転写する（図１５６（ｂ）を参照）。これにより、装飾体３１１１の中間品に対してマスキング処理を行うことなく、第一装飾突部３１１１ａと第二装飾突部３１１１ｂとで異なる色の金属装飾部３１１１ｄを備えた装飾体３１１１を形成することができる。

【１０１７】

また、上記の実施形態では、装飾体３１１１の金属装飾部３１１１ｄを、ホットスタンピング（箔押し）により形成したものを示したが、これに限定するものではない。例えば、装飾体３１１１の完成前の中間品の表面に、メッキや蒸着により金属膜を形成した後に、レーザー光により第一装飾突部３１１１ａを除いた部位の金属膜を剥離（レーザー剥離）させて、第一装飾突部３１１１ａに金属装飾部３１１１ｄを有した装飾体３１１１を形成するようにしても良い。この際に、図１５６（ｃ）に示すように、金属装飾部３１１１ｄが、第一装飾突部３１１１ａの先端部分に加えて側面の部位にも設けられていても良い。

【１０１８】

裏後可動装飾体３１１０の装飾体３１１１は、後面側の一般面から前方へ向かって凹んでいる後凹部３１１１ｅを有している。後凹部３１１１ｅは、第一装飾突部３１１１ａ、第二装飾突部３１１１ｂ、及び第三装飾突部３１１１ｃ、と対応するように設けられている。この後凹部３１１１ｅにより、装飾体３１１１の板厚を均等化して、射出成形時の樹脂のヒケによる変形を抑制することができるようにしている。

【１０１９】

装飾体３１１１の後凹部３１１１ｅは、平坦な後面における第一装飾突部３１１１ａ、第二装飾突部３１１１ｂ、及び第三装飾突部３１１１ｃと対応している部位に、前方へ凹むように設けていることから、後凹部３１１１ｅを除いた後面の平坦な部位が、装飾シート３１１２における後述する第一輪郭部３１１２ａの前面に当接することとなる。これにより、装飾体３１１１の後面と装飾シート３１１２の第一輪郭部３１１２ａとが密着することとなるため、装飾体３１１１の後面と第一輪郭部３１１２ａとの間で光が乱反射するこ

とはなく、透明な装飾体３１１１を通して装飾シート３１１２の第一輪郭部３１１２ａの絵柄等を鮮明に視認させることができる。

【１０２０】

また、後凹部３１１１ｅは、第三装飾突部３１１１ｃと対応している部位に設けられていることから、装飾シート３１１２における後述する第一光拡散部３１１２ｃ及び第二光拡散部３１１２ｄの前方となる部位に設けられている。これにより、後凹部３１１１ｅの部位では、装飾シート３１１２の前面との間に隙間が形成されることとなるため、その隙間によって、前方から装飾体３１１１の後凹部３１１１ｅの部位に照射された光が、装飾シート３１１２の前面と後凹部３１１１ｅの後面との間で乱反射することとなり、前方からの光により後凹部３１１１ｅの部位が明るくなる。これにより、裏後装飾基板３１１４の第一ＬＥＤ３１１４ａや第二ＬＥＤ３１１４ｂを発光させていなくても、前方からの光によって装飾シート３１１２における第一光拡散部３１１２ｃ及び第二光拡散部３１１２ｄの部位、つまり、桜の花を模した第一装飾部３１５１とロゴを構成している複数の第二装飾部３１５２とが明るくなり、前方から見え易くなる。

【１０２１】

更に、装飾体３１１１は、後面から後方へ円柱状に突出している複数の取付ボス３１１１ｆを有している。取付ボス３１１１ｆは、装飾体３１１１の後側に装飾体ベース３１１５を取付けるためのものである。取付ボス３１１１ｆは、第三装飾突部３１１１ｃの真後ろとなる部位に設けられている。これにより、第三装飾突部３１１１ｃのレンズ作用により前方（遊技者側）から取付ボス３１１１ｆが見え辛いようになっている。換言すると、取付ボス３１１１ｆの前方となる部位に第三装飾突部３１１１ｃを設けており、第三装飾突部３１１１ｃのレンズ作用により取付ボス３１１１ｆを前方から視認し難いようにしている。

【１０２２】

［５－９ｄ－３．裏後可動装飾体の装飾シート］

装飾シート３１１２は、薄いシート状で、装飾体３１１１の外形と略同じ大きさの外形に形成されている。装飾シート３１１２は、透明な樹脂シートの後面に、絵柄を施したものである。装飾シート３１１２は、第一装飾部３１５１及び第二装飾部３１５２よりも外側で装飾体３１１１の第二装飾突部３１１１ｂの後方を除いた部位と第一装飾部３１５１の中央部分とに設けられている第一輪郭部３１１２ａと、第二装飾部３１５２と対応し装飾体３１１１の二重に形成されている第一装飾突部３１１１ａの間となる部位に設けられている第二輪郭部３１１２ｂと、第一装飾部３１５１と対応し装飾体３１１１の第一装飾突部３１１１ａの内側となる部位（第三装飾突部３１１１ｃの後方となる部位）に設けられている第一光拡散部３１１２ｃと、第二装飾部３１５２と対応し装飾体３１１１の二重に設けられている第一装飾突部３１１１ａの内側となる部位（第三装飾突部３１１１ｃの後方となる部位）に設けられている第二光拡散部３１１２ｄと、を有している。

【１０２３】

また、装飾シート３１１２は、装飾体３１１１における第一装飾突部３１１１ａ、第二装飾突部３１１１ｂ、及び第三装飾突部３１１１ｃの後方となる部位に設けられている透明な透過部３１１２ｅを、更に有している。

【１０２４】

装飾シート３１１２の第一輪郭部３１１２ａは、図１４９（ｂ）等に示すように、第一装飾部３１５１とよりも小さい桜の花を模した絵柄の部位を有しており、残りの部位が、ホログラムにより光の干渉縞が表示される部位とされている。第一輪郭部３１１２ａは、不透明に形成されている。本実施形態では、第一輪郭部３１１２ａにおけるホログラムの部位は、装飾体３１１１の金属装飾部３１１１ｄと同じ金色とされている。また、第一輪郭部３１１２ａにおける桜の花を模した部位は、白色や桃色（本実施形態における桃色は、パチンコ機１（遊技盤５）のコンセプト（つまり、パチンコ機１（遊技盤５）の世界観）に沿った色となっている。）を用いて着色されている。なお、絵柄等に用いられるインク（塗料）に、粒子状にキラキラ光るグリッターを有したものを用いても良い。

【１０２５】
この第一輪郭部３１１２ａは、裏後可動装飾体３１１０を正面から見た時に、装飾体３１１１の第一装飾突部３１１１ａ（金属装飾部３１１１ｄ）よりも外側の後方に位置していると共に、金属装飾部３１１１ｄと同じような色（本実施形態では、金色）の部位を有しているため、第一輪郭部３１１２ａと金属装飾部３１１１ｄとによる装飾に対する連続性を付与することができる。従って、第一輪郭部３１１２ａと金属装飾部３１１１ｄとの遠近感を強調することができ、裏後可動装飾体３１１０の薄さを感じさせ難くすることができる。
【１０２６】
また、第一輪郭部３１１２ａは、後面側が明るい灰色又は白色に形成されている。これにより、前面側の絵柄やホログラムの発色を良くしている。また、第一輪郭部３１１２ａの明るい灰色又は白色からなる後面により、導光放射板３１１３から前方へ放射された光を後方へ反射させて導光放射板３１１３へ戻すことができることから、導光放射板３１１３をより明るく発光させることができるため、装飾シート３１１２における透光性を有する部位から前方へ放射される光量をより多くすることができ、裏後可動装飾体３１１０をより明るく発光装飾させることができると共に、裏後可動装飾体３１１０の装飾部３１５０をより均一に発光装飾させることができる。
【１０２７】
更に、第一輪郭部３１１２ａは、装飾体３１１１における第一装飾突部３１１１ａや第二装飾突部３１１１ｂの外側に設けられていることから、装飾体３１１１の後面における後凹部３１１１ｅを除いた平坦な部位の後方に設けられている。これにより、第一輪郭部３１１２ａの前面に透明な装飾体３１１１の平坦な後面が面で当接して密着することとなるため、装飾体３１１１の後面と第一輪郭部３１１２ａとの間で光が乱反射することはなく、透明な装飾体３１１１を通して装飾シート３１１２の第一輪郭部３１１２ａの絵柄やホログラムを前方から鮮明に視認することができる。
【１０２８】
装飾シート３１１２の第二輪郭部３１１２ｂは、図示するように、所定幅の黒色の線状に形成されている。この第二輪郭部３１１２ｂは、第二装飾部３１５２における装飾体３１１１の二重に設けられている第一装飾突部３１１１ａ（金属装飾部３１１１ｄ）の間の部位の後方に位置している。つまり、黒色の第二輪郭部３１１２ｂを、二重に形成されている金色の金属装飾部３１１１ｄの間に設けているため、第二輪郭部３１１２ｂの黒色により、二重の金属装飾部３１１１ｄを引き立たせることができ、当該金属装飾部３１１１ｄの装飾効果をより高めさせることができる。
【１０２９】
装飾シート３１１２の第一光拡散部３１１２ｃは、透光性を有しており、光を撹乱可能な複数の微細な凹凸により形成されている。詳述すると、第一光拡散部３１１２ｃは、ランダムな方向へ短く線状に延びた複数の突条により梨肌状のパターンに形成されている。本実施形態では、第一光拡散部３１１２ｃの部位に、図１４９（ｂ）等に示すように、第一装飾部３１５１により摸されている桜の花の一つの花弁において、花弁の中央から周縁へ向かうに従って、濃淡が濃くなる（透明度が低くなる）なるようにパチンコ機１（遊技盤５）のコンセプト（つまり、パチンコ機１（遊技盤５）の世界観）に沿った所定色（本実施形態では桃色）の複数のドットが印刷により施されている。このようなことから、第一光拡散部３１１２ｃに後方から光を放射するための裏後装飾基板３１１４の第一ＬＥＤ３１１４ａを発光させると、第一光拡散部３１１２ｃの梨肌状のパターンにより、僅かな濃淡が現れることとなり、桜の花を模した第一装飾部３１５１の発光装飾に立体感を付与することができる。
【１０３０】
装飾シート３１１２の第二光拡散部３１１２ｄは、透光性を有しており、光を撹乱可能な複数の微細な凹凸により形成されている。この第二光拡散部３１１２ｄは、図１４７乃至図１４９において、濃淡の薄い網掛けにより示すように、夫々の第二装飾部３１５２にお

ける装飾体３１１１の第一装飾突部３１１１ａの内側の全体に設けられている。第二光拡散部３１１２ｄは、透光性を有しており、光を撹乱可能な複数の微細な凹凸により形成されている。第二光拡散部３１１２ｄを形成している複数の微細な凹凸は、縦横に対して一定の間隔で網点状のパターンに形成されている。本実施形態の第二光拡散部３１１２ｄは、半透明の乳白色に形成されている。このようなことから、第二光拡散部３１１２ｄに後方から光を放射するための裏後装飾基板３１１４の第一ＬＥＤ３１１４ａを発光させると、第二光拡散部３１１２ｄの網点状のパターンにより、所定の文字からなる第二装飾部３１５２を均一な明るさで発光装飾させることができる。

【１０３１】

装飾シート３１１２の第一光拡散部３１１２ｃ及び第二光拡散部３１１２ｄは、装飾体３１１１における第一装飾突部３１１１ａの内側となる部位の後方に設けられており、装飾体３１１１の当該部位の後面には前方へ凹んだ後凹部３１１１ｅが設けられている。従って、装飾シート３１１２を装飾体３１１１の後面に当接させると、第一光拡散部３１１２ｃ及び第二光拡散部３１１２ｄの部位では、装飾体３１１１の後凹部３１１１ｅの存在により、前面に隙間が形成された状態となる。その隙間によって、前方から装飾体３１１１の後凹部３１１１ｅの部位に照射された光が、装飾シート３１１２の前面と後凹部３１１１ｅの後面との間で乱反射することとなり、前方からの光により第一光拡散部３１１２ｃ及び第二光拡散部３１１２ｄが明るくなる。これにより、裏後装飾基板３１１４の第一ＬＥＤ３１１４ａや第二ＬＥＤ３１１４ｂを発光させていなくても、前方からの光によって装飾シート３１１２における第一光拡散部３１１２ｃ及び第二光拡散部３１１２ｄの部位、つまり、桜の花を模した第一装飾部３１５１とロゴを構成している複数の第二装飾部３１５２とが明るくなり、前方から見え易くなる。

【１０３２】

装飾シート３１１２は、第一輪郭部３１１２ａ、第二輪郭部３１１２ｂ、第一光拡散部３１１２ｃ、及び第二光拡散部３１１２ｄによって、所定の絵柄を形成しており、裏後可動装飾体３１１０の装飾部３１５０における装飾体３１１１による装飾を除いた残りを構成している。本実施形態の装飾シート３１１２は、第一輪郭部３１１２ａ、第二輪郭部３１１２ｂ、第一光拡散部３１１２ｃ、及び第二光拡散部３１１２ｄが、ベースとなる透明なシートの後面側に設けられている。装飾シート３１１２の第一輪郭部３１１２ａ及び第二輪郭部３１１２ｂは、印刷により形成されている。また、装飾シート３１１２の第一光拡散部３１１２ｃ及び第二光拡散部３１１２ｄは、所定の光拡散フィルム（ディフューザーフィルム）の貼付けにより形成されている。なお、第一光拡散部３１１２ｃ及び第二光拡散部３１１２ｄを、レンズフィルムやプリズムフィルムとしても良い。

【１０３３】

装飾シート３１１２の透過部３１１２ｅは、透明に形成されている。この透過部３１１２ｅは、装飾体３１１１の第一装飾突部３１１１ａ（金属装飾部３１１１ｄ）の後方に設けられていることから、裏後装飾基板３１１４の第一ＬＥＤ３１１４ａの発光により導光放射板３１１３から前方へ放射された光の一部を透過させて、第一装飾突部３１１１ａに照射させることができる。この際に、前方へ突出している第一装飾突部３１１１ａでは、前面側のみに金属装飾部３１１１ｄが設けられ、側面側が透明なままであるため、透過部３１１２ｅを通して後方から第一装飾突部３１１１ａへ照射された光が、第一装飾突部３１１１ａの側面から外部に漏れることとなる。このようなことから、透過部３１１２ｅを透過した光により、第一装飾突部３１１１ａ（金属装飾部３１１１ｄ）に後光がさしているような発光装飾を遊技者に見せることができる。また、透過部３１１２ｅを透過して第一装飾突部３１１１ａの側面から外部へ放射された光により、第一装飾突部３１１１ａの外側に位置している第一輪郭部３１１２ａを前方から照らすことができるため、第一輪郭部３１１２ａに設けられている絵柄やホログラムをより見え易くすることができ、第一輪郭部３１１２ａによる装飾効果をより発揮させ易くすることができる。

【１０３４】

本実施形態の装飾シート３１１２は、装飾体３１１１と略同じ大きさに形成されているた

め、絵柄やホログラムを有した第一輪郭部３１１２ａにより、装飾体３１１１の外周縁まで装飾することができ、裏後可動装飾体３１１０の装飾を大きく見せることができる。また、装飾シート３１１２を装飾体３１１１と略同じ大きさにしていることから、裏後可動装飾体３１１０の装飾が縁取りされていない状態となるため、裏後可動装飾体３１１０を出現位置へ移動させた時に、後方に設けられている演出表示装置１６００に裏後可動装飾体３１１０の装飾と連続するような演出画像を表示させることで、一体感のある演出を遊技者に見せることができ、遊技者に見た目のインパクトを与えて注目させることができると共に、大きな装飾を楽しませることができ、遊技者の興趣の低下を抑制させることができる。

【１０３５】

なお、上記の実施形態の装飾シート３１１２では、装飾体３１１１の金属装飾部３１１１ｄ（第一装飾突部３１１１ａ）の後方に透明な透過部３１１２ｅを設けたものを示したが、これに限定するものではない。例えば、第一輪郭部３１１２ａを、金属装飾部３１１１ｄの後方となる部位にも設けるようにしても良い。これにより、裏後可動装飾体３１１０を斜め前方から見た時に、装飾体３１１１における第一装飾突部３１１１ａの透明な側面と装飾シート３１１２における透明な透過部３１１２ｅとを通して後方が見えてしまうことで、裏後可動装飾体３１１０の装飾部３１５０の見栄えが悪くなることを回避させることができる。また、第一輪郭部３１１２ａを金属装飾部３１１１ｄの後方の部位まで設けるようにすることで、装飾体３１１１における第一装飾突部３１１１ａの透明な側面を通して、第一輪郭部３１１２ａにおける第一装飾突部３１１１ａの後方に位置している部位が見えることとなるため、第一輪郭部３１１２ａの当該部位により第一装飾突部３１１１ａの側面を装飾することができ、金属装飾部３１１１ｄが第一装飾突部３１１１ａの前面にのみ設けられていても、装飾部３１５０の見栄えを良くすることができる。

【１０３６】

［５－９ｄ－４．裏後可動装飾体の導光放射板］

導光放射板３１１３は、図１４５及び図１４６等に示すように、左右に延びた透明平板状の本体部３１１３ａと、本体部３１１３ａの外周縁から後方へ延出しているフランジ部３１１３ｂと、本体部３１１３ａを前後方向に貫通しており裏後装飾基板３１１４の第一ＬＥＤ３１１４ａが挿入される複数の第一ＬＥＤ収容部３１１３ｃと、本体部３１１３ａを前後方向に貫通しており裏後装飾基板３１１４の第二ＬＥＤ３１１４ｂが挿入される複数の第二ＬＥＤ収容部３１１３ｄと、本体部３１１３ａの後面の略全面に亘って設けられている複数の反射部３１１３ｅと、本体部３１１３ａの後面における第一ＬＥＤ収容部３１１３ｃの周縁から後方へ突出している脚部３１１３ｆと、脚部３１１３ｆにおける第一ＬＥＤ収容部３１１３ｃとは反対側の後端辺に沿って設けられている補助反射部３１１３ｇと、を有している。

【１０３７】

また、導光放射板３１１３は、本体部３１１３ａの正面視右端から下方へ延出している右スライダ前部３１１３ｈを、有している。

【１０３８】

導光放射板３１１３の本体部３１１３ａは、装飾シート３１１２の後面が当接する前面が平坦に形成されている。フランジ部３１１３ｂは、本体部３１１３ａの厚さの１．５倍ほど後方へ突出している。このフランジ部３１１３ｂは、図１５０等に示すように、裏後可動装飾体３１１０に組立てた状態で、後端が裏後装飾基板３１１４よりも後方に突出している。

【１０３９】

第一ＬＥＤ収容部３１１３ｃは、内周形状が長方形に形成されている。複数の第一ＬＥＤ収容部３１１３ｃは、図１４８に示すように、裏後可動装飾体３１１０を前方から見た時に、装飾部３１５０における透明度の低い部位の後方に設けられている。詳述すると、第一装飾部３１５１の部位では、複数の第一ＬＥＤ収容部３１１３ｃが、装飾シート３１１２の第一光拡散部３１１２ｃにおけるドットによる桃色の濃淡の濃くなっている部位の後

方に設けられている。詳述すると、第一装飾部３１５１の部位に設けられている第一ＬＥＤ収容部３１１３ｃは、桜の花を摸した五つの花弁の夫々において、装飾体３１１１の第一装飾突部３１１１ａよりも中心側で、内周が長方形の長辺の中央が、花弁の中心線上に位置するように設けられている。

【１０４０】

一方、第二装飾部３１５２の部位に設けられている複数の第一ＬＥＤ収容部３１１３ｃは、装飾体３１１１の金属装飾部３１１１ｄ及び装飾シート３１１２の第二輪郭部３１１２ｂの後方に位置するように設けられている。このようなことから、複数の第一ＬＥＤ収容部３１１３ｃ（第一ＬＥＤ３１１４ａ）が、前方から視認し難いようになっている。

【１０４１】

また、複数の第一ＬＥＤ収容部３１１３ｃは、第二装飾部３１５２の部位において、第二装飾部３１５２の外周を囲むように設けられている。また、複数の第一ＬＥＤ収容部３１１３ｃは、互いがある程度接近している場合、図１４９（ｃ）及び図１５３（ｃ）等に示すように、夫々の第一ＬＥＤ収容部３１１３ｃ同士が互いに繋がった状態に形成されている。接近している第一ＬＥＤ収容部３１１３ｃ同士を繋げていることで、本体部３１１３ａにおいてその厚さよりも細くなる部位が形成されてしまうことを回避させることができ、導光放射板３１１３を破損し難いものとすることができる。

【１０４２】

ところで、第一ＬＥＤ収容部３１１３ｃは、内周が長方形で本体部３１１３ａを貫通している。これにより、本体部３１１３ａの内部（板厚内）で本体部３１１３ａの面（前面や後面）に沿った方向へ導光されている光が、第一ＬＥＤ収容部３１１３ｃに到達すると、その光の一部が、第一ＬＥＤ収容部３１１３ｃの内周面により本体部３１１３ａの内部側へ真直ぐに反射させられると共に、残りが、第一ＬＥＤ収容部３１１３ｃの内周面を通って第一ＬＥＤ収容部３１１３ｃの内側へ放射されることとなる。そして、第一ＬＥＤ収容部３１１３ｃの内周面の四面の一つから内部に放射された光が、内周面の別の面に到達すると、当該面において一部が第一ＬＥＤ収容部３１１３ｃの内側へ反射し、残りが本体部３１１３ａの内部に入射することとなる。つまり、本体部３１１３ａの内部において、本体部３１１３ａの面に沿った方向へ導光されている光が、第一ＬＥＤ収容部３１１３ｃを通過しようとすると、第一ＬＥＤ収容部３１１３ｃの内側へ放射する内周面の部位と、第一ＬＥＤ収容部３１１３ｃにおける本体部３１１３ａ側へ入射する内周面の部位とで、当該光の一部が夫々反射するため、第一ＬＥＤ収容部３１１３ｃを通過した光の光量は、通過する前と比較して大きく減少することとなる。

【１０４３】

このようなことから、第一ＬＥＤ収容部３１１３ｃによって、本体部３１１３ａの内部において本体部３１１３ａの面に沿った方向へ導光されている光を遮ることができる。なお、この第一ＬＥＤ収容部３１１３ｃの内部には、裏後装飾基板３１１４の第一ＬＥＤ３１１４ａが収容されるため、第一ＬＥＤ収容部３１１３ｃを通過しようとする光を、第一ＬＥＤ３１１４ａにより遮ることができ、第一ＬＥＤ３１１４ａが収容されている部位では、第一ＬＥＤ収容部３１１３ｃの反対側へ光が通過しないようになっている。これにより、第二装飾部３１５２の外周形状に対して、第一ＬＥＤ収容部３１１３ｃを最適な位置に設けることで、当該第一ＬＥＤ収容部３１１３ｃに収容されている第一ＬＥＤ３１１４ａからの光が、別の第二装飾部３１５２へ導光されて発光装飾させてしまうことを回避させることができ、複数の第二装飾部３１５２において所望の第二装飾部３１５２のみを確実に発光装飾させることができる。

【１０４４】

上記のような第一ＬＥＤ収容部３１１３ｃの作用について更に詳述すると、例えば、図１５３（ｃ）に示すように、「い」「ろ」「は」「☆」の複数の第二装飾部３１５２を発光装飾させるために、夫々の第二装飾部３１５２の外周に第一ＬＥＤ収容部３１１３ｃを設けると共に、夫々の第一ＬＥＤ収容部３１１３ｃ内に第二装飾部３１５２の内側へ向けて光が照射されるように第一ＬＥＤ３１１４ａを設ける。この実施形態では、「い」と「ろ

」の間と、「ろ」と「は」の間に設けられている第一ＬＥＤ収容部３１１３ｃが、互いに接近していることから、夫々が互いに繋がって一つの孔となっている。これにより、導光放射板３１１３の本体部３１１３ａにおいて、破損し易い細い部位が形成されることはない。また、この実施形態では、「い」の下方に配置されている「☆」を発光装飾させるための第一ＬＥＤ収容部３１１３ｃ及び第一ＬＥＤ３１１４ａを、「☆」の下側に設けている。そのため、「☆」を発光装飾させるための第一ＬＥＤ３１１４ａを発光させると、「☆」の上方に設けられている「い」が発光装飾されてしまう恐れがあるが、「☆」の左上に設けられている「い」の一部を発光装飾させるための第一ＬＥＤ３１１４ａが収容されている第一ＬＥＤ収容部３１１３ｃに、「☆」の上方を覆うように延出している延出部３１１３ｊを設けている。この延出部３１１３ｊにより、「☆」を発光装飾させるための第一ＬＥＤ３１１４ａからの光が、「い」側へ導光されてしまうことを低減させる（遮る）ことができる。これにより、「☆」を発光装飾させても、「い」が発光装飾されることはない。また、「い」を発光装飾させるための光が、「☆」側へ導光されることを、当該延出部３１１３ｊによって低減させる（遮る）ことができる。「い」や「☆」等の所望の第二装飾部３１５２のみを確実に発光装飾させることができ、所望の演出効果を十分に発揮させることができる。

【１０４５】

第二ＬＥＤ収容部３１１３ｄは、図１５２等に示すように、内周が円形に形成されている。複数の第二ＬＥＤ収容部３１１３ｄは、桜の花を模した第一装飾部３１５１において、中央の周囲に設けられている雄しべを模した五つの円形の部位の後方に設けられている。詳述すると、第二ＬＥＤ収容部３１１３ｄは、桜の花を模した五つの花弁の夫々において、当該花弁の中心線上に位置している雄しべを模した円形の部位の後方に設けられている。これにより、五つの花弁の夫々において、花弁の中心線上に、第一ＬＥＤ収容部３１１３ｃと第二ＬＥＤ収容部３１１３ｄとが、一つずつ設けられている。

【１０４６】

この第二ＬＥＤ収容部３１１３ｄは、内周が円形で本体部３１１３ａを貫通している。これにより、本体部３１１３ａの内部（板厚内）で本体部３１１３ａの面（前面や後面）に沿った方向へ導光されている光が、第二ＬＥＤ収容部３１１３ｄに到達すると、その光の一部が、第二ＬＥＤ収容部３１１３ｄの内周面により本体部３１１３ａの内部側へ扇状に拡散するように反射させられる。本実施形態では、桜の花を模した第一装飾部３１５１における五つの花弁の夫々において、第一ＬＥＤ３１１４ａの光軸上に、第二ＬＥＤ収容部３１１３ｄを設けているため、図１５３（ｂ）に示すように、当該第一ＬＥＤ３１１４ａから本体部３１１３ａの内部に照射された光が、第二ＬＥＤ収容部３１１３ｄの円形の内周面により、当該第一ＬＥＤ３１１４ａ側へ扇状に反射することとなり、その反射光により花弁をより明るく発光装飾させることができる。

【１０４７】

複数の反射部３１１３ｅは、一つが四角錘に形成されており、縦横へ連続するように列設されている。複数の反射部３１１３ｅは、本体部３１１３ａの後面におけるフランジ部３１１３ｂの部位と、第一ＬＥＤ収容部３１１３ｃ及び第二ＬＥＤ収容部３１１３ｄの周辺の部位と、右スライダ前部３１１３ｈの部位と、を除いた略全面に形成されている。複数の反射部３１１３ｅは、本体部３１１３ａの板厚内において、板面に沿った方向へ照射された光を主に前方へ反射させて本体部３１１３ａの前面から前方へ放射させることができる。本実施形態の導光放射板３１１３は、複数の反射部３１１３ｅの存在により、前方から見た時に後方が視認し難いように形成されている。

【１０４８】

また、導光放射板３１１３の複数の反射部３１１３ｅは、本体部３１１３ａの後面の略全面に設けられていることから、略全面から光を前方へ放射させることができるため、機種の変更や設計変更等により、装飾体３１１１及び装飾シート３１１２による装飾部３１５０のデザインを変更しても、導光放射板３１１３を変更する必要はなく、設計変更等に対して容易に対応することができ、コストの増加を抑制させることができる。

【１０４９】
脚部３１１３ｆは、第一ＬＥＤ収容部３１１３ｃの内面における挿入される第一ＬＥＤ３１１４ａの発光面と対面する部位の後端側から後方へ突出している。脚部３１１３ｆは、図１５０等に示すように、第一ＬＥＤ収容部３１１３ｃ側の面が、第一ＬＥＤ収容部３１１３ｃの内面と同一面上に設けられている。これにより、第一ＬＥＤ３１１４ａから照射された光を、本体部３１１３ａ内へ受けるための受光部３１１３ｉの面積を広くすることができ、第一ＬＥＤ３１１４ａからの光をより多く本体部３１１３ａ内へ照射させることができる。また、脚部３１１３ｆは、裏後可動装飾体３１１０に組立てた状態では、後面が裏後装飾基板３１１４の前面に当接し、本体部３１１３ａの後面と裏後装飾基板３１１４の前面との間に隙間を形成することができる。
【１０５０】
補助反射部３１１３ｇは、脚部３１１３ｆの後端における第一ＬＥＤ収容部３１１３ｃとは反対側の辺に沿ってＣ面取り状に設けられている。この補助反射部３１１３ｇは、第一ＬＥＤ３１１４ａから脚部３１１３ｆに照射された光を、前方へ反射させるためのものである。
【１０５１】
右スライダ前部３１１３ｈは、装飾体ベース３１１５の後述する右スライダ後部３１１５ｄと協働して右スライダ３１１７を構成するためのものである。
【１０５２】
本実施形態の導光放射板３１１３は、裏後可動装飾体３１１０に組立てた時に、フランジ部３１１３ｂにより裏後装飾基板３１１４の外周を覆っているため、フランジ部３１１３ｂによって裏後装飾基板３１１４の外周面を見え難くすることができ、見栄えが悪くなることを防止することができる。また、導光放射板３１１３は、裏後装飾基板３１１４よりも後方へ突出しているフランジ部３１１３ｂを有しているため、装飾体３１１１の前面に設けられている金属装飾部３１１１ｄから裏後装飾基板３１１４（銅箔３１１４ｄや電子部品３１１４ｅ）までの沿面距離ＥＬをより長くすることができ、金属装飾部３１１１ｄにおいて蓄積された静電気が裏後装飾基板３１１４に流れて、裏後装飾基板３１１４が破損してしまうことを防止することができる。
【１０５３】
本実施形態の導光放射板３１１３は、第一ＬＥＤ収容部３１１３ｃ及び第二ＬＥＤ収容部３１１３ｄを、本体部３１１３ａを貫通した孔としているため、第一ＬＥＤ収容部３１１３ｃに収容されている第一ＬＥＤ３１１４ａや第二ＬＥＤ収容部３１１３ｄに収容されている第二ＬＥＤ３１１４ｂからの熱を、本体部３１１３ａの前方へ逃すことができ、裏後装飾基板３１１４における熱影響を低減させることができる。
【１０５４】
また、第一ＬＥＤ収容部３１１３ｃ及び第二ＬＥＤ収容部３１１３ｄを貫通孔としているため、第一ＬＥＤ収容部３１１３ｃ及び第二ＬＥＤ収容部３１１３ｄの前側が、装飾シート３１１２や装飾体３１１１等によって塞がれていても、第一ＬＥＤ収容部３１１３ｃ及び第二ＬＥＤ収容部３１１３ｄを貫通しない有底の凹状（溝状）に形成した場合と比較して、第一ＬＥＤ収容部３１１３ｃ及び第二ＬＥＤ収容部３１１３ｄの容積（熱容量）を大きくすることができる。これにより、収容されている第一ＬＥＤ３１１４ａや第二ＬＥＤ３１１４ｂからの熱による急激な温度上昇を緩和させることができ、裏後装飾基板３１１４等に対する熱影響を抑制させることができる。また、接近して互いに繋がっている第一ＬＥＤ収容部３１１３ｃや、延出部３１１３ｊを有している第一ＬＥＤ収容部３１１３ｃでは、当該第一ＬＥＤ収容部３１１３ｃの容積が大きくなっているため、上記と同様の理由により、第一ＬＥＤ３１１４ａからの熱をより多く放熱させたり、急激な温度上昇をより緩和させたりすることができる。
【１０５５】
また、導光放射板３１１３は、裏後装飾基板３１１４の前面に実装されている第一ＬＥＤ３１１４ａ及び第二ＬＥＤ３１１４ｂが後方から挿入される第一ＬＥＤ収容部３１１３ｃ

及び第二ＬＥＤ収容部３１１３ｄを有しているため、第一ＬＥＤ収容部３１１３ｃ及び第二ＬＥＤ収容部３１１３ｄに第一ＬＥＤ３１１４ａ及び第二ＬＥＤ３１１４ｂを挿入させることで、本体部３１１３ａの後面を裏後装飾基板３１１４の前面へ可及的に接近させることができ、裏後可動装飾体３１１０の前後方向の厚さをより薄くすることができる。

【１０５６】

更に、導光放射板３１１３は、本体部３１１３ａの後面から後方へ突出している脚部３１１３ｆを有しているため、脚部３１１３ｆの後端を裏後装飾基板３１１４の前面に当接させることで、本体部３１１３ａの後面と裏後装飾基板３１１４の前面との間に隙間を形成させることができる。これにより、当該隙間を通して裏後装飾基板３１１４の前面に実装されている第一ＬＥＤ３１１４ａや第二ＬＥＤ３１１４ｂ等からの熱を逃がすことができ、裏後装飾基板３１１４における温度上昇を抑制して熱による影響を低減させることができる。なお、本体部３１１３ａと裏後装飾基板３１１４の基板本体３１１４ｃとの間の隙間を、「基板本体３１１４ｃの前面から第一ＬＥＤ３１１４ａの発光部までの距離の半分」～「基板本体３１１４ｃの前面から第一ＬＥＤ３１１４ａの前面までの距離」、の範囲内とすることが望ましい。これよりも隙間が小さいと、本体部３１１３ａと裏後装飾基板３１１４との間の隙間を通して熱を十分に排出させることができなくなる恐れがあるためである。また、これよりも隙間が大きいと、第一ＬＥＤ３１１４ａからの導光放射板３１１３の本体部３１１３ａ内へ入射される光量が低下することで、装飾体３１１１及び装飾シート３１１２を十分な明るさで発光装飾させることができなくなる恐れがあるためである。

【１０５７】

また、導光放射板３１１３は、裏後装飾基板３１１４の複数の所定位置に実装されている第一ＬＥＤ３１１４ａからの光を導光して、本体部３１１３ａの後面の略全面に反射部３１１３ｅにより前方へ放射させることができるため、本体部３１１３ａにおける後方に裏後装飾基板３１１４が設けられていない部位でも、第一ＬＥＤ３１１４ａからの光を前方へ放射させることができる。換言すると、本体部３１１３ａの大きさよりも裏後装飾基板３１１４を小さくしても、本体部３１１３ａの略全面から光を前方へ放射させることができる。従って、裏後装飾基板３１１４を本体部３１１３ａよりも小さくすることができるため、本体部３１１３ａの外周と裏後装飾基板３１１４の外周との間の距離をより長くすることができ、装飾体３１１１の前面の金属装飾部３１１１ｄからの沿面距離ＥＬをより長くして上述した作用効果をより発揮させ易くすることができる。

【１０５８】

［５－９ｄ－５．裏後可動装飾体の裏後装飾基板］

裏後装飾基板３１１４の表面（前面）には、表面実装タイプであってサイドビュータイプの複数の第一ＬＥＤ３１１４ａと、表面実装タイプであってトップビュータイプの複数の第二ＬＥＤ３１１４ｂと、表面実装タイプのコネクタ３１１４ｇ（図１５５（ａ）には、裏後装飾基板３１１４の表面（前面）右側に表面実装タイプのコネクタ３１１４ｇが一つ配置されている。）と、が実装されている。複数の第一ＬＥＤ３１１４ａと複数の第二ＬＥＤ３１１４ｂとは、それぞれのパッケージが白色（白色と同色であると認められる色）の樹脂製となっているとともに、コネクタ３１１４ｇは、そのハウジングが白色（ナチュラル色とも言われ、白色（ナチュラル色）と同色であると認められる色）の樹脂製となっている。裏後装飾基板３１１４の裏面（後面）には、ＬＥＤドライバＩＣや抵抗器等の電子部品３１１４ｅ（図１５５（ｂ）を参照）が実装されている。また、裏後装飾基板３１１４は、平板状の基板本体３１１４ｃを有し、この平板状の基板本体３１１４ｃの表面（前面）と裏面（後面）に所定の回路パターンが形成される銅箔３１１４ｄ（図１５４等を参照）を夫々有している。

【１０５９】

また、裏後装飾基板３１１４の表面（前面）には、基板本体３１１４ｃの表面（前面）であって第一ＬＥＤ３１１４ａ（表面実装タイプ）、第二ＬＥＤ３１１４ｂ（表面実装タイプ）、及びコネクタ３１１４ｇ（表面実装タイプ）が半田付けされるパッド、スルーホー

ル、ランド等を除いた全域において、白色のレジスト液が塗布されて形成される白色塗膜（以下、単に「ベタ塗りされた白色のレジスト」と記載する場合がある。）により白色のレジスト層が形成されている。裏後装飾基板３１１４の裏面（後面）には、基板本体３１１４ｃの裏面（後面）であって電子部品３１１４ｅ（表面実装タイプ）が実装される領域が半田付けされるパッド、スルーホール、ランド等を除いた全域において、ベタ塗りされた白色のレジストにより白色のレジスト層が形成されている。更に、裏後装飾基板３１１４の表面（前面）には、図示は省略するが、実装されている第一ＬＥＤ３１１４ａ、第二ＬＥＤ３１１４ｂ、及びコネクタ３１１４ｇ等の表面側電子部品の近傍に、表面側電子部品の部品番号、表面側電子部品を配置する位置を示す領域等の表面側電子部品の属性（さらに、表面側電子部品の形状、表面側電子部品の大きさ、表面側電子部品の実装向き（実装方向）、表面側電子部品の型式を含む場合がある。）を示す表面側表記部が、白色に対して目立ち難い明色である黄色の塗料で、ベタ塗りされた白色のレジスト上にシルク印刷により印刷されている。裏後装飾基板３１１４の裏面（後面）には、図示は省略するが、電子部品３１１４ｅ等の裏面側電子部品の近傍に、裏面側電子部品の部品番号、裏面側電子部品を配置する位置を示す領域等の裏面側電子部品の属性（さらに、裏面側電子部品の形状、裏面側電子部品の大きさ、裏面側電子部品の実装向き（実装方向）、裏面側電子部品の型式を含む場合がある。）を示す裏面側表記部が、白色に対して目立ち難い明色である黄色の塗料で、ベタ塗りされた白色のレジスト上にシルク印刷により印刷されている。

【１０６０】

ここで、レジスト液の色として白色のものを採用し、シルク印刷の塗料として黄色を採用した理由について説明する。まず、反射率は、白色に近いほど高くなるのに対して、黒色に近づくと低くなる。黄色の反射率は赤色の反射率と比べると白色の反射率に非常に近く、赤色の反射率は黄色の反射率と比べて白色の反射率に非常に遠い。黄色の反射率は白色塗膜の白色の反射率と比べて低いものの高い反射率を有している。このため、白色と赤色との組み合わせでは、背景が白色であると赤色が目立つこととなり、表面側表記部（裏面側表記部）を赤色とする場合には白色のレジストに対して赤色の表面側表記部（白色のレジストに対して赤色の裏面側表記部）が目立つのに対して、白色と黄色との組み合わせ（本実施形態の構成）では、背景が白色であると黄色が目立たず、表面側表記部（裏面側表記部）を黄色とする場合には白色のレジストに対して黄色の表面側表記部（白色のレジストに対して黄色の裏面側表記部）が目立ち難い。

【１０６１】

また、パチンコ機１は各装飾基板に実装される複数のＬＥＤ等の発光部による電飾により煌びやかに発光演出が行われるため、複数の第一ＬＥＤ３１１４ａと複数の第二ＬＥＤ３１１４ｂとは、上述したように、多色発光可能なフルカラーＬＥＤであり、点灯（発光）したり、消灯したりすることによって発光態様がさまざまに変化する。このため、裏後装飾基板３１１４の表面（前面）には、上述したように、基板本体３１１４ｃの表面（前面）であって第一ＬＥＤ３１１４ａ、第二ＬＥＤ３１１４ｂ、及びコネクタ３１１４ｇが半田付けされるパッド、スルーホール、ランド等を除いた全域において、白色のレジスト液が塗布されて形成される白色塗膜（以下、単に「ベタ塗りされた白色のレジスト」と記載する場合がある。）により白色のレジスト層が形成され、さらに、このベタ塗りされた白色のレジスト上に多色発光可能なフルカラーＬＥＤを特定可能にする表面側表記部が黄色の塗料でシルク印刷により印刷されることにより、多色発光可能なフルカラーＬＥＤの消灯時において白色のレジストに対して黄色の表面側表記部を目立たないようにすることができることに加えて、さらに、多色発光可能なフルカラーＬＥＤの点灯時（発光時）において、反射率の高いベタ塗りされた白色のレジストと、白色の反射率に非常に近い黄色の塗料でシルク印刷により印刷される表面側表記部と、による組み合わせによって裏後装飾基板３１１４の表面（前面）の反射率を高く維持することができる。

【１０６２】

なお、シルク印刷の塗料として黄色を採用した場合には、シルク印刷により印刷された黄色が印刷機によるバラツキにより薄い黄色となったり、濃い黄色となったりする場合もあ

れば、橙色に見えたりする場合もある。また、シルク印刷の塗料を供給するインク会社にも黄色に幅（明るい側に寄る黄色、暗い側による黄色）があるため、同一の基板製造会社や複数の基板会社に対してシルク印刷の塗料として黄色を指定しても、完全同一の黄色とならず（完全同一の黄色とすることが難しく）、黄色に幅がある色となる。

【１０６３】

裏後装飾基板３１１４は、外周形状が、導光放射板３１１３におけるフランジ部３１１３ｂの内周に略沿った形状で、フランジ部３１１３ｂとの間に、フランジ部３１１３ｂの厚さよりも若干大きい隙間が、略一定に形成される大きさに形成されている。また、裏後装飾基板３１１４は、外周形状が、後述する装飾体ベース３１１５におけるフランジ部３１１５ｂの内周に略沿った形状で、当該フランジ部３１１５ｂの内周との間に、若干の隙間が略一定に形成される大きさに形成されている。つまり、裏後装飾基板３１１４は、装飾体ベース３１１５におけるフランジ部３１１５ｂの内側に収容される大きさに形成されている。

【１０６４】

複数の第一ＬＥＤ３１１４ａにおける第一装飾部３１５１の部位では、図１５２等に示すように、桜の花を模している五つの花弁の夫々の中心線上において、装飾体３１１１の第一装飾突部３１１１ａ（金属装飾部３１１１ｄ）よりも内側の先端付近で、花の中央へ向けて光が照射されるように設けられている。これにより、第一装飾部３１５１の部位の第一ＬＥＤ３１１４ａにより、桜の花を模した五つの花弁の一つずつを発光装飾させることができる。

【１０６５】

また、複数の第一ＬＥＤ３１１４ａにおける第二装飾部３１５２の部位では、左右に列設されている各第二装飾部３１５２の夫々において、装飾体３１１１の二重に設けられている第一装飾突部３１１１ａの後方付近で、第二装飾部３１５２の内側へ向けて光が照射されるように設けられている。これにより、第二装飾部３１５２の部位の第一ＬＥＤ３１１４ａにより、左右に列設されている複数の第二装飾部３１５２を一つずつ発光装飾させることができる。

【１０６６】

複数の第二ＬＥＤ３１１４ｂは、図１５２等に示すように、第一装飾部３１５１において、桜の花を模した中央部分で、五つの花弁の中心線上に位置している雄しべを模した円形の部位の後方に設けられている。つまり、第二ＬＥＤ３１１４ｂは、第一装飾部３１５１における桜の花を模した一つの花弁に対応している第一ＬＥＤ３１１４ａの光軸上に設けられている。これにより、第二ＬＥＤ３１１４ｂによって、第一装飾部３１５１における中央部分の雄しべを模した五つの部位を、夫々発光装飾させることができる。

【１０６７】

第二ＬＥＤ３１１４ｂは、前方へ向けて光を照射可能なトップビュータイプであることから、第二ＬＥＤ３１１４ｂを発光させると、第一装飾部３１５１の中央部分の雄しべを模した部位を、他の部位よりも高輝度で点発光させることができ、遊技者の関心を強く引付けさせることができる。従って、装飾部３１５０の発光装飾において、第一ＬＥＤ３１１４ａにより面状に発光する部位と、第二ＬＥＤ３１１４ｂにより点状に発光する部位とを、設けることができるため、それらの発光を適宜組合せることで多彩な発光演出を行うことができ、遊技者を飽きさせ難くすることができる。

【１０６８】

基板本体３１１４ｃは、厚さが導光放射板３１１３の本体部３１１３ａよりも若干薄いリジッド基板である。本実施形態の基板本体３１１４ｃは、ガラスコンポジット基材を用いている。

【１０６９】

銅箔３１１４ｄは、基板本体３１１４ｃの前面と後面の略全面に設けられている。銅箔３１１４ｄは、所定の厚さ（１８μｍ～７０μｍ）に形成されており、エッチング処理により回路パターンを構成している（図１５４における網掛け部分）。銅箔３１１４ｄは、図

１５４に示すように、外周縁が基板本体３１１４ｃの外周縁から所定距離ＳＬ（０．５ｍｍ～３ｍｍ）（本実施形態では、ＳＬ＝１ｍｍ）内側へ離れた位置に設けられている。この所定距離ＳＬにより、裏後装飾基板３１１４の外部の導電性部材（例えば、装飾体３１１１の金属装飾部３１１１ｄ）から銅箔３１１４ｄまでの沿面距離ＥＬや空間距離を稼いで、静電気等の放電やショートに対する絶縁性を高めることができ、放電等による裏後装飾基板３１１４の破損を抑制できるようにしている。

【１０７０】

また、銅箔３１１４ｄの外周縁を、第一ＬＥＤ３１１４ａ、第二ＬＥＤ３１１４ｂ、及び電子部品３１１４ｅの有無に関わらず、基板本体３１１４ｃの外周縁から所定距離内側の部位まで設けており、銅箔３１１４ｄの面積を可及的に広くしている。これにより、第一ＬＥＤ３１１４ａ、第二ＬＥＤ３１１４ｂ、及び電子部品３１１４ｅにおいて発生する熱の一部を、銅箔３１１４ｄに伝達させることで、銅箔３１１４ｄから放熱させることができ、第一ＬＥＤ３１１４ａ、第二ＬＥＤ３１１４ｂ、及び電子部品３１１４ｅに対する冷却効果を高めて熱による破損を防止することができる。

【１０７１】

また、裏後装飾基板３１１４は、前面側におけるサイドビュータイプの第一ＬＥＤ３１１４ａの発光面側に、第一ＬＥＤ３１１４ａから基板本体３１１４ｃ側へ照射された光を前方へ反射させ易くするための所定広さの光反射補助領域３１１４ｆを、有している（図１５４において破線で囲んだ領域）。本実施形態の光反射補助領域３１１４ｆは、図１５１及び図１５３（ａ）に示すように、銅箔３１１４ｄが設けられていない。これにより、光反射補助領域３１１４ｆの前面が、第一ＬＥＤ３１１４ａが実装されている銅箔３１１４ｄの前面よりも低くなるため、光反射補助領域３１１４ｆに銅箔３１１４ｄを設けた場合と比較して、第一ＬＥＤ３１１４ａから光反射補助領域３１１４ｆ内へ照射される光の角度が、基板本体３１１４ｃの前面の垂直線に近付くような角度となり、基板本体３１１４ｃ側へ照射された光を前方へ反射させ易くすることができる。

【１０７２】

更に、図１５３（ａ）等に示すように、光反射補助領域３１１４ｆ内に銅箔３１１４ｄを設けないようにした上で、導光放射板３１１３の後方へ突出している脚部３１１３ｆの後端を当接させるようにしているため、銅箔３１１４ｄの厚さの分だけ、脚部３１１３ｆを後方へ長くすることができる。従って、第一ＬＥＤ３１１４ａからの光を受ける受光部３１１３ｉを大きくすることができ、導光放射板３１１３から前方へ放射される光（光量）を多くして、裏後可動装飾体３１１０（装飾体３１１１及び装飾シート３１１２）をより明るく発光装飾させることができる。

【１０７３】

また、光反射補助領域３１１４ｆ内において、導光放射板３１１３の後方へ突出している脚部３１１３ｆの後端が当接するようにしている（図１５３（ａ）等を参照）。これにより、脚部３１１３ｆの当接により表面に施されている白色塗膜（白色のレジスト）が摩耗したり捲れたりしても、基板本体３１１４ｃの前面が露出するだけで、銅箔３１１４ｄが露出することはない。従って、銅箔３１１４ｄの露出により絶縁性が低下して、静電気等のショートによる破損を抑制することができる。

【１０７４】

本実施形態の裏後装飾基板３１１４は、図１５０等に示すように、裏後可動装飾体３１１０に組立てることにより、装飾体ベース３１１５の後述するフランジ部３１１５ｂと、導光放射板３１１３のフランジ部３１１３ｂとで、外周が二重に囲まれた状態となるため、外部から外周面が見え辛くなり、見栄えの悪化が防止されている。また、裏後装飾基板３１１４を裏後可動装飾体３１１０に組立てた状態では、裏後装飾基板３１１４の外周が、一定の隙間をあけて導光放射板３１１３のフランジ部３１１３ｂにより囲まれている上に、導光放射板３１１３のフランジ部３１１３ｂとの間の隙間に、後方から装飾体ベース３１１５のフランジ部３１１５ｂが挿入されて、当該フランジ部３１１５ｂによっても囲まれている。これにより、装飾体３１１１の前面の金属装飾部３１１１ｄから裏後装飾基板

３１１４までの面に沿った最短ルートが、装飾体ベース３１１５のフランジ部３１１５ｂの存在により導光放射板３１１３のフランジ部３１１３ｂを回り込むように蛇行することとなるため、沿面距離ＥＬをより長くすることができ、金属装飾部３１１１ｄにおいて蓄積された静電気が裏後装飾基板３１１４に流れて、裏後装飾基板３１１４が破損してしまうことを防止することができる。なお、本実施形態では、この沿面距離ＥＬを、１０ｍｍ以上、或いは、１０ｋＶの放電圧に対応できる距離としている。

【１０７５】

また、裏後装飾基板３１１４は、導光放射板３１１３の後方に設けられているため、裏後装飾基板３１１４により、裏後可動装飾体３１１０の後方に設けられている部材（本実施形態では、演出表示装置１６００）からの光を遮ることができる。これにより、後方に設けられている演出表示装置１６００等からの光が装飾シート３１１２や装飾体３１１１に照射されることを防止することができるため、装飾部３１５０が意図しない状態で発光装飾させられてしまうことを回避させることができ、裏後可動装飾体３１１０に対して確実に所望の発光演出を行わせることができる。また、裏後装飾基板３１１４を導光放射板３１１３の後方に設けているため、裏後装飾基板３１１４により導光放射板３１１３を通して後方が見えてしまうことを防止することができ、裏後可動装飾体３１１０の見栄えの悪化を抑制させることができる。

【１０７６】

また、裏後装飾基板３１１４は、導光放射板３１１３の第一ＬＥＤ収容部３１１３ｃ及び第二ＬＥＤ収容部３１１３ｄに対して後方から収容される第一ＬＥＤ３１１４ａ及び第二ＬＥＤ３１１４ｂのみを前面に設けるようにしているため、第一ＬＥＤ３１１４ａ及び第二ＬＥＤ３１１４ｂを第一ＬＥＤ収容部３１１３ｃ及び第二ＬＥＤ収容部３１１３ｄに挿入させることで、裏後装飾基板３１１４の前面を本体部３１１３ａの後面へ可及的に接近させることができ、裏後可動装飾体３１１０の前後方向の厚さをより薄くすることができる。

【１０７７】

更に、裏後装飾基板３１１４は、ＬＥＤドライバＩＣや抵抗器等の電子部品３１１４ｅを、後面に実装している。電子部品３１１４ｅとしてのＬＥＤドライバＩＣや抵抗器等は、一般的に黒色の部品であるため、電子部品３１１４ｅを裏後装飾基板３１１４の後面に設けることで、前方から黒色の電子部品３１１４ｅを見えなくすることができ、裏後可動装飾体３１１０の見栄えを良くすることができる。また、黒色の電子部品３１１４ｅを、前方から見えない裏後装飾基板３１１４の後面に設けているため、電子部品３１１４ｅに対して見え難くするための白色等の色の塗料を塗布する必要が無く、裏後装飾基板３１１４にかかるコストを低減させることができる。

【１０７８】

［５－９ｄ－６．裏後可動装飾体の装飾体ベース］

装飾体ベース３１１５は、全体が透明に形成されている。装飾体ベース３１１５は、裏後装飾基板３１１４の後側を覆う平板状の被覆板部３１１５ａと、被覆板部３１１５ａの外周縁から前方へ突出しているフランジ部３１１５ｂと、被覆板部３１１５ａを貫通している複数の開口部３１１５ｃと、被覆板部３１１５ａの正面視右端から下方へ延出している右スライダ後部３１１５ｄと、を備えている。

【１０７９】

被覆板部３１１５ａは、外周形状が、導光放射板３１１３におけるフランジ部３１１３ｂの内周に略沿った形状で、当該フランジ部３１１３ｂの内周との間に、若干の隙間が略一定に形成される大きさに形成されている。つまり、被覆板部３１１５ａ（装飾体ベース３１１５）は、導光放射板３１１３におけるフランジ部３１１３ｂの内側に収容され得る大きさに形成されている。この被覆板部３１１５ａにより、裏後装飾基板３１１４の後側を覆っているため、他の部材が後方から裏後装飾基板３１１４に当接することを回避させて裏後装飾基板３１１４を保護することができ、裏後装飾基板３１１４の破損を防止することができる。

【１０８０】
フランジ部３１１５ｂは、図１５０等に示すように、導光放射板３１１３のフランジ部３１１３ｂと裏後装飾基板３１１４の外周との間の空間へ進入して、裏後装飾基板３１１４よりも前方に前端が位置するように突出している。このフランジ部３１１５ｂは、裏後装飾基板３１１４の外周を覆うように形成されており、外部から裏後装飾基板３１１４の外周面を見え難くして、見栄えを良くしている。また、フランジ部３１１５ｂは、裏後可動装飾体３１１０に組立てた状態では、導光放射板３１１３のフランジ部３１１３ｂと裏後装飾基板３１１４の外周との間の空間に挿入された状態となるため、装飾体３１１１の前面の金属装飾部３１１１ｄから裏後装飾基板３１１４までの最短ルートを、装飾体ベース３１１５のフランジ部３１１５ｂの存在により導光放射板３１１３のフランジ部３１１３ｂを回り込むように蛇行させることがでる。従って、沿面距離ＥＬをより長くすることができ、金属装飾部３１１１ｄにおいて蓄積された静電気が裏後装飾基板３１１４に流れて、裏後装飾基板３１１４が破損してしまうことを防止することができる。
【１０８１】
複数の開口部３１１５ｃは、左右に長いスリット状の部位と、スリット状の部位よりも大きく開口している部位とを有している。これら複数の開口部３１１５ｃにより、裏後装飾基板３１１４の後面に実装されている電子部品３１１４ｅからの熱を、裏後可動装飾体３１１０の外部へ逃すことができ、裏後装飾基板３１１４における熱影響を低減させることができる。
【１０８２】
右スライダ後部３１１５ｄは、導光放射板３１１３の右スライダ前部３１１３ｈと協働して、右スライダ３１１７を構成するためのものである。
【１０８３】
また、装飾体ベース３１１５は、被覆板部３１１５ａの前面から僅かに突出している複数の突部３１１５ｅを有している。複数の突部３１１５ｅは、裏後装飾基板３１１４の後面における外周縁付近の銅箔３１１４ｄが設けられていない部位に当接するように配置されている。複数の突部３１１５ｅは、その前面に、裏後装飾基板３１１４の後面を当接させることにより、裏後装飾基板３１１４の後面と被覆板部３１１５ａの前面との間に隙間を形成することができる。これにより、裏後装飾基板３１１４の後面と被覆板部３１１５ａの前面との間の隙間を通して、電子部品３１１４ｅからの熱を逃がし易くすることができる。
【１０８４】
［５－９ｄ－７．裏後可動装飾体の主な作用効果］
続いて、本実施形態における裏後可動装飾体３１１０の主な作用効果について説明する。本実施形態の裏後可動装飾体３１１０は、装飾体３１１１の後面と導光放射板３１１３の本体部３１１３ａの前面との間に装飾シート３１１２を挟んでいると共に、導光放射板３１１３と装飾体ベース３１１５との間に裏後装飾基板３１１４を挟んでいる状態で、装飾体３１１１の取付ボス３１１１ｆが装飾体ベース３１１５に取付けられることにより組立てられている（図１４３等を参照）。これにより、裏後可動装飾体３１１０の前後方向の厚さを、比較的薄いものとしている。
【１０８５】
裏後可動装飾体３１１０は、透明平板状の装飾体３１１１に、前方へ突出している第一装飾突部３１１１ａ、第二装飾突部３１１１ｂ、及び第三装飾突部３１１１ｃを有していると共に、装飾体３１１１の後側の装飾シート３１１２に、絵柄や光の干渉縞が表示されるホログラムを備えた第一輪郭部３１１２ａを有しているため、裏後可動装飾体３１１０の装飾部３１５０に対して、第一装飾突部３１１１ａ、第二装飾突部３１１１ｂ、及び第三装飾突部３１１１ｃにより立体感を付与することができると共に、第二装飾突部３１１１ｂ及び第三装飾突部３１１１ｃによるレンズ効果とホログラムにより奥行感を付与することができる。これにより、裏後可動装飾体３１１０の前後方向の厚さが薄くても、遊技者に対して薄さを感じさせることはなく、裏後可動装飾体３１１０の装飾部３１５０による

装飾効果を十分に発揮させて、遊技者を楽しませることができる。
【１０８６】
また、上述したように、第一装飾突部３１１１ａ、第二装飾突部３１１１ｂ、及び第三装飾突部３１１１ｃや、第一輪郭部３１１２ａ等により、立体感や奥行感を付与することができるため、裏後可動装飾体３１１０の前後方向の厚さを、より薄くすることができる。これにより、裏後可動装飾体３１１０の設置にかかるスペースを小さくすることができるため、裏後可動装飾体３１１０の配置自由度を高めることができ、遊技盤５の内部におけるより効果的な部位に裏後可動装飾体３１１０を設けて、遊技者を楽しませられるパチンコ機１を具現化し易くすることができる。また、裏後可動装飾体３１１０を薄くすることができることから、相対的に、他の装飾体を配置するためのスペースを確保し易くすることができるため、他の装飾体を備えることで、より見栄えの良いパチンコ機１を提供したり、多彩な演出を楽しませられるパチンコ機１を提供したりすることができ、遊技者に対する訴求力が高くより差別化することが可能なパチンコ機１を提供することができる。
【１０８７】
裏後可動装飾体３１１０は、第一装飾部３１５１や第二装飾部３１５２の外周を形成している装飾体３１１１の第一装飾突部３１１１ａの前面に、金属箔からなる金属装飾部３１１１ｄを有しているため、金属装飾部３１１１ｄの金属光沢により、第一装飾部３１５１や第二装飾部３１５２を目立たせることができ、遊技者の関心を強く引付けさせることができる。また、第一装飾突部３１１１ａの湾曲している前面に金属装飾部３１１１ｄを設けているため、金属装飾部３１１１ｄに対して立体感を付与することができると共に高級感を付与することができる。これにより、裏後可動装飾体３１１０が、遊技者から視認不能な退避位置から、視認可能な出現位置へ移動した時に、高級感のある装飾部３１５０が見えることで、遊技者に対してプレミアム感を与えることが可能となるため、遊技者に対して何か良いことがあるのではないかと強く思わせることができ、遊技に対する期待感を高めさせて興趣の低下を抑制させることができる。
【１０８８】
また、裏後可動装飾体３１１０は、装飾体３１１１の後面を平坦にして、装飾シート３１１２を装飾体３１１１の外周と略同じ大きさとしているため、絵柄やホログラムを有した第一輪郭部３１１２ａにより、装飾体３１１１の外周縁まで装飾することができ、裏後可動装飾体３１１０の装飾を大きく見せることができる。また、裏後可動装飾体３１１０は、装飾シート３１１２を装飾体３１１１と略同じ大きさにしていることから、裏後可動装飾体３１１０の装飾が縁取りされていない状態となるため、裏後可動装飾体３１１０を出現位置へ移動させた時に、後方に設けられている演出表示装置１６００に裏後可動装飾体３１１０の装飾と連続するような演出画像を表示させることで、一体感のある演出を遊技者に見せることができ、遊技者に見た目のインパクトを与えて注目させることができると共に、大きな装飾を楽しませることができ、遊技者の興趣の低下を抑制させることができる。
【１０８９】
また、裏後可動装飾体３１１０は、装飾体３１１１の金属装飾部３１１１ｄや装飾シート３１１２の第二輪郭部３１１２ｂの後方となる部位に、第一ＬＥＤ３１１４ａを設けているため、金属装飾部３１１１ｄや第二輪郭部３１１２ｂによって前方から第一ＬＥＤ３１１４ａを見え難くすることができ、装飾部３１５０の見栄えの悪化を抑制して装飾効果を十分に発揮させることができる。
【１０９０】
更に、裏後可動装飾体３１１０は、第一装飾部３１５１や複数の第二装飾部３１５２の夫々において、夫々の外周を囲むように複数の第一ＬＥＤ３１１４ａを設けているため、第一装飾部３１５１や第二装飾部３１５２を夫々個別に発光装飾させることができる。これにより、左右に列設されている複数の第二装飾部３１５２を順番に発光装飾させたり、特定の第一装飾部３１５１や第二装飾部３１５２のみを発光装飾させたりすることができるため、第一装飾部３１５１や複数の第二装飾部３１５２を適宜発光装飾させることで、多

彩な発光演出を遊技者に見せることができ、遊技者を飽きさせ難くして興趣の低下を抑制させることができる。

【１０９１】

また、裏後可動装飾体３１１０は、サイドビュータイプの第一ＬＥＤ３１１４ａにより、導光放射板３１１３の本体部３１１３ａの板厚内において、その面に沿った方向へ光を照射させた上で、複数の反射部３１１３ｅにより前方へ光を放射して、装飾体３１１１や装飾シート３１１２を発光装飾させるようにしているため、第一ＬＥＤからの光が導光放射板３１１３の前面から前方へ放射されるまでの距離を長くすることができる。これにより、第一ＬＥＤからの光を十分に拡散させて導光放射板３１１３から前方へ放射させることができるため、裏後可動装飾体３１１０の前後方向の厚さが薄くても、装飾体３１１１や装飾シート３１１２をムラなく均一に発光装飾させることができ、見栄えの良い発光装飾により遊技者を楽しませることができる。また、導光放射板３１１３とサイドビュータイプの第一ＬＥＤ３１１４ａとにより、装飾体３１１１や装飾シート３１１２を均一に発光装飾させることができるため、裏後可動装飾体３１１０の前後方向の厚さをより薄くすることができ、上述した作用効果を奏するパチンコ機１を確実に具現化することができる。

【１０９２】

また、裏後可動装飾体３１１０は、第一ＬＥＤ３１１４ａをサイドビュータイプとして面状発光に用いるようにしていると共に、第二ＬＥＤ３１１４ｂをトップビュータイプとしているため、裏後可動装飾体３１１０（装飾部３１５０）の発光装飾（発光演出）において、第一ＬＥＤ３１１４ａにより面状に発光装飾されている部位に、第二ＬＥＤ３１１４ｂにより高輝度で点状に発光する部位を付加することができる。これにより、第二ＬＥＤ３１１４ｂの発光により発光演出にメリハリを付けることができるため、遊技状態に応じた最適な発光演出を提示し易くすることができ、遊技者をより楽しませることができると共に、遊技に対する期待感を高めさせることができ、遊技者の興趣の低下を抑制させることができる。

【１０９３】

また、裏後可動装飾体３１１０は、導光放射板３１１３に、サイドビュータイプの第一ＬＥＤ３１１４ａが挿入される第一ＬＥＤ収容部３１１３ｃを設けて、第一ＬＥＤ収容部３１１３ｃの内周面の受光部３１１３ｉに、第一ＬＥＤ３１１４ａからの光を照射して、本体部３１１３ａの内部へ光を入射されるようにしている。これにより、第一ＬＥＤ３１１４ａにより発光装飾させたい所望の部位に対して、第一ＬＥＤ収容部３１１３ｃを接近させた位置に設けることで、所望の部位をより明るく発光装飾させることができ、より演出効果の高い発光装飾を遊技者に楽しませることができる。

【１０９４】

更に、裏後可動装飾体３１１０は、導光放射板３１１３に、裏後装飾基板３１１４に実装されている第一ＬＥＤ３１１４ａ及び第二ＬＥＤ３１１４ｂが後方から挿入される第一ＬＥＤ収容部３１１３ｃ及び第二ＬＥＤ収容部３１１３ｄを有しているため、第一ＬＥＤ収容部３１１３ｃ及び第二ＬＥＤ収容部３１１３ｄに第一ＬＥＤ３１１４ａ及び第二ＬＥＤ３１１４ｂを挿入させることで、本体部３１１３ａの後面を裏後装飾基板３１１４の前面へ可及的に接近させることができ、裏後可動装飾体３１１０の前後方向の厚さをより薄くすることができる。

【１０９５】

また、裏後可動装飾体３１１０は、導光放射板３１１３の後方へ突出している脚部３１１３ｆが、裏後装飾基板３１１４の前面に当接して、本体部３１１３ａと裏後装飾基板３１１４との間に隙間が形成されるようにしているため、当該隙間を通して裏後装飾基板３１１４の前面に実装されている第一ＬＥＤ３１１４ａや第二ＬＥＤ３１１４ｂ等からの熱を逃がすことができ、裏後装飾基板３１１４における温度上昇を抑制して熱による影響を低減させることができる。なお、導光放射板３１１３の本体部３１１３ａと裏後装飾基板３１１４の基板本体３１１４ｃとの間の隙間を、「基板本体３１１４ｃの前面から第一ＬＥＤ３１１４ａの発光部までの距離の半分」～「基板本体３１１４ｃの前面から第一ＬＥＤ

３１１４ａの前面までの距離」、の範囲内とすることが望ましい。これよりも隙間が小さいと、本体部３１１３ａと裏後装飾基板３１１４との間の隙間を通して熱を十分に排出させることができなくなる恐れがあるためである。また、これよりも隙間が大きいと、第一ＬＥＤ３１１４ａからの導光放射板３１１３の本体部３１１３ａ内へ入射される光量が低下することで、装飾体３１１１及び装飾シート３１１２を十分な明るさで発光装飾させることができなくなる恐れがあるためである。

【１０９６】

また、裏後可動装飾体３１１０は、脚部３１１３ｆにより導光放射板３１１３の本体部３１１３ａと裏後装飾基板３１１４との間に隙間を形成することができると共に、装飾体ベース３１１５に複数の開口部３１１５ｃを有しているため、裏後可動装飾体３１１０を昇降させることで、当該隙間や開口部３１１５ｃを通して裏後装飾基板３１１４の表面を換気することができ、第一ＬＥＤ３１１４ａや第二ＬＥＤ３１１４ｂ、及び電子部品３１１４ｅ等からの熱を逃がして、裏後装飾基板３１１４の温度上昇を抑制させることができる。

【１０９７】

なお、裏後可動装飾体３１１０に温度センサを設けて、裏後可動装飾体３１１０（裏後装飾基板３１１４）が所定の温度よりも高くなった時に、裏後可動装飾体３１１０が昇降する可動演出が実行される頻度（確率）を高くするようにしても良い。これにより、裏後可動装飾体３１１０が昇降することで、裏後装飾基板３１１４の表面を換気することができ、裏後装飾基板３１１４を冷却して熱による不具合の発生を抑制させることができる。

【１０９８】

更に、裏後可動装飾体３１１０は、裏後装飾基板３１１４の外周を、装飾体ベース３１１５のフランジ部３１１５ｂにより後側から囲んでいると共に、そのフランジ部３１１５ｂの外周を、導光放射板３１１３のフランジ部３１１３ｂにより囲んでいる。これにより、装飾体３１１１の前面に設けられている金属箔の金属装飾部３１１１ｄから裏後装飾基板３１１４までの面に沿った最短ルートが、装飾体ベース３１１５のフランジ部３１１５ｂの存在により導光放射板３１１３のフランジ部３１１３ｂを回り込むように蛇行することとなるため、長い沿面距離ＥＬとすることができ、金属装飾部３１１１ｄにおいて蓄積された静電気が裏後装飾基板３１１４に流れて、裏後装飾基板３１１４が破損してしまうことを防止することができる。

【１０９９】

また、裏後可動装飾体３１１０は、裏後装飾基板３１１４において、回路を構成している銅箔３１１４ｄを、基板本体３１１４ｃの外周から所定距離ＳＬ内側へ離れた位置に設けるようにしているため、この所定距離ＳＬによっても沿面距離ＥＬや空間距離を長くすることができ、静電気等の放電やショートに対する絶縁性を高めて、放電等による裏後装飾基板３１１４の破損を抑制することができる。

【１１００】

また、裏後可動装飾体３１１０は、装飾体３１１１の前面に設けられている金属装飾部３１１１ｄを、第一装飾突部３１１１ａの前面にのみ設けており、第一装飾突部３１１１ａの側面に設けていない。これにより、第一装飾突部３１１１ａの側面の長さの分だけ、裏後装飾基板３１１４までの沿面距離ＥＬを長くすることができ、上述と同様の作用効果を奏することができる。また、第一装飾突部３１１１ａの側面に金属装飾部３１１１ｄを設けていないため、第一装飾突部３１１１ａの側面に金属装飾部３１１１ｄを設けた場合と比較して、金属装飾部３１１１ｄの面積を小さくすることができ、金属装飾部３１１１ｄに蓄積される静電気の量を少なくすることができる。従って、放電圧を低くすることができるため、仮に裏後装飾基板３１１４へ放電が生じても、その影響を少なくすることができる。

【１１０１】

ところで、裏後可動装飾体３１１０は、上述したように、裏後駆動モータ３１２６の駆動により、上方へ移動した退避位置と下方へ移動した出現位置との間で、昇降（可動）するものであることから、昇降するたびに左スライダ３１１６や右スライダ３１１７等において

摩擦が起こり、その摩擦によって発生した静電気が裏後可動装飾体３１１０の表面に蓄積され易い。この裏後可動装飾体３１１０は、表面を構成している装飾体３１１１や装飾体ベース３１１５が、導電性の低い合成樹脂で形成されているため、多くの静電気が蓄積されても、それらの表面全体に蓄積された静電気が一気に放電され難い。これに対して、装飾体３１１１の金属箔からなる金属装飾部３１１１ｄでは、導電性が高いため、金属装飾部３１１１ｄの表面全体に蓄積された静電気が一気に放電され易い。このようなことから、本実施形態の裏後可動装飾体３１１０は、装飾体３１１１の前面の金属装飾部３１１１ｄにおいて、静電気が蓄積され易いものであるが、上述したように、金属装飾部３１１１ｄから裏後装飾基板３１１４までの沿面距離ＥＬが十分に長いため、静電気の放電により裏後装飾基板３１１４が破損することはなく、裏後可動装飾体３１１０が昇降する可動演出と、裏後可動装飾体３１１０が発光装飾される発光演出との両方を楽しませられるパチンコ機１を提供することができる。

【１１０２】

なお、静電気が蓄積される金属装飾部３１１１ｄの面積が、所定以上（例えば、１００ｃｍ２以上）の時は、当該金属装飾部３１１１ｄをＧＮＤ（グラウンド）に接続することが望ましい。これにより、金属装飾部３１１１ｄにおいて蓄積された静電気が裏後装飾基板３１１４へ放電されてしまうことを確実に防止することができる。

【１１０３】

［５－９ｄ－８．裏後可動装飾体の別の実施形態］

次に、上記の裏後可動装飾体３１１０とは異なる実施形態の裏後可動装飾体３１６０、裏後可動装飾体３１７０、及び裏後可動装飾体３１８０、等について、主に図１５７を参照して詳細に説明する。図１５７（ａ）は図１４２の裏後可動装飾体とは異なる第二実施形態の裏後可動装飾体の構成を断面で示す説明図であり、（ｂ）は第三実施形態の裏後可動装飾体の構成を断面で示す説明図であり、（ｃ）は第四実施形態の裏後可動装飾体の構成を断面で示す説明図である。

【１１０４】

第二実施形態の裏後可動装飾体３１６０は、図１５７（ａ）において模式的に示すように、前面に所定の装飾が施されている装飾体３１６１と、装飾体３１６１の後側に設けられ所定の装飾が施されているシート状の装飾シート３１６２と、装飾シート３１６２の後側に設けられ内部において前面に沿った方向の光を前方へ放射させる導光放射板３１６３と、導光放射板３１６３の内部に対して前面に沿った方向へ光を照射する複数のＬＥＤ３１６４ａが前面に実装されている裏後装飾基板３１６４と、を備えている。

【１１０５】

裏後可動装飾体３１６０の装飾体３１６１は、透明平板状の本体部３１６１ａと、本体部３１６１ａの外周縁から後方へ延出しているフランジ部３１６１ｂと、本体部３１６１ａの前面に設けられている金属装飾部３１６１ｃと、を有している。本体部３１６１ａは、平坦であっても良いし、凹凸のあるレリーフ状の装飾が施されていても良い。金属装飾部３１６１ｃは、本体部３１６１ａの前面の一部に設けられており、所定の装飾を構成している。この金属装飾部３１６１ｃは、箔押しにより形成されているものであっても良いし、メッキにより形成されているものであっても良いし、蒸着により形成されているものであっても良い。

【１１０６】

装飾シート３１６２は、透明なシートに所定の装飾（絵柄）が印刷されているものである。この装飾シート３１６２は、裏後装飾基板３１６４のＬＥＤ３１６４ａの前方となる部位に、装飾における透明度の低い部位が位置している（図示は省略）。これにより、前方からＬＥＤ３１６４ａを見え難く隠すようにしている。装飾シート３１６２は、装飾体３１６１におけるフランジ部３１６１ｂの内周形状よりも小さい大きさに形成されている。

【１１０７】

導光放射板３１６３は、装飾シート３１６２と同じ大きさの平板状に形成されており、裏後装飾基板３１６４のＬＥＤ３１６４ａが後方から挿入されるＬＥＤ収容部３１６３ａと

、後面の設けられている複数の反射部３１６３ｂと、を有している。ＬＥＤ収容部３１６３ａは、導光放射板３１６３を前後方向に貫通している孔とされており、内周が、ＬＥＤ３１６４ａの外周に沿った四角形に形成されている。複数の反射部３１６３ｂは、夫々が断面三角形状に前方へ窪んでおり、所定の部位にのみ設けられている。複数の反射部３１６３ｂは、夫々が決められたＬＥＤ収容部３１６３ａからの光を前方へ反射させるように設けられており、決められたＬＥＤ収容部３１６３ａを中心とした同心円の扇状に配置されている。つまり、複数の反射部３１６３ｂは、特定の方向からの光を強く前方へ反射させるように形成されている。なお、複数の反射部３１６３ｂを、上記の裏後可動装飾体３１１０の導光放射板３１１３の反射部３１１３ｅと同様に、不特定の方向からの光を前方へ反射させることができるようにしても良いし、後面の略全面に設けるようにしても良い。

【１１０８】

裏後装飾基板３１６４は、装飾シート３１６２及び導光放射板３１６３と同じ大きさに形成されている。裏後装飾基板３１６４は、導光放射板３１６３のＬＥＤ収容部３１６３ａに後方から挿入されるサイドビュータイプのＬＥＤ３１６４ａが前面に複数実装されている。裏後装飾基板３１６４は、図示は省略するが、前面と後面とにおける裏後装飾基板３１６４の外周から所定距離ＳＬ内側の部位に、銅箔により所定の回路パターンが形成されている。また、裏後装飾基板３１６４は、表面（両面）に白色のレジストからなる白色塗膜が形成されている。

【１１０９】

本実施形態の裏後可動装飾体３１６０は、組立てた状態では、装飾体３１６１の本体部３１６１ａの後面に装飾シート３１６２が当接していると共に、装飾シート３１６２の後面に導光放射板３１６３の前面が当接しており、更に、導光放射板３１６３の後面に裏後装飾基板３１６４の前面が当接している。これにより、裏後可動装飾体３１６０の前後方向の厚さが、薄いものとなっている。装飾体３１６１のフランジ部３１６１ｂは、裏後装飾基板３１６４の後面と同じ位置まで後方へ延出している。これにより、裏後可動装飾体３１６０では、装飾シート３１６２、導光放射板３１６３、及び裏後装飾基板３１６４の外周が、フランジ部３１６１ｂにより覆われており、外部からそれらの外周面を見え難くして、見栄えを良くしている。

【１１１０】

この裏後可動装飾体３１６０は、装飾体３１６１の本体部３１６１ａから、裏後装飾基板３１６４の外周を覆うようにフランジ部３１６１ｂが後方へ延出しているため、本体部３１６１ａの前面の金属装飾部３１６１ｃから裏後装飾基板３１６４（の銅箔）までの沿面距離ＥＬを、十分な距離とすることができ、金属装飾部３１６１ｃにおいて蓄積された静電気が裏後装飾基板３１６４に流れて、裏後装飾基板３１６４が破損してしまうことを防止することができる。

【１１１１】

このように、本実施形態の裏後可動装飾体３１６０によれば、上記の裏後可動装飾体３１１０と同様の作用効果を奏することができる。なお、裏後可動装飾体３１６０において、裏後装飾基板３１６４の後側を覆う装飾体ベースを設けるようにしても良い。

【１１１２】

続いて、第三実施形態の裏後可動装飾体３１７０は、図１５７（ｂ）において模式的に示すように、枠状に形成されている外装飾体３１７１と、外装飾体３１７１の内側（枠内）を閉鎖している透光性を有する平板状の内装飾体３１７２と、内装飾体３１７２の後方に設けられ内部において全面に沿った方向の光を前方へ放射させる導光放射板３１７３と、導光放射板３１７３の内部に対して前面に沿った方向へ光を照射する複数のＬＥＤ３１７４ａが前面に実装されている裏後装飾基板３１７４と、を備えている。

【１１１３】

裏後可動装飾体３１７０の外装飾体３１７１は、枠状で前後に延びている本体部３１７１ａと、本体部３１７１ａの内周面から内側へ平板状に突出している支持部３１７１ｂと、本体部３１７１ａの前面に設けられている金属装飾部３１７１ｃと、を有している。本体

部３１７１ａの前端から支持部３１７１ｂの前面までの距離は、内装飾体３１７２の前後方向の厚さと同じである。金属装飾部３１７１ｃは、本体部３１７１ａの前面の一部に設けられており、所定の装飾を構成している。この金属装飾部３１７１ｃは、箔押しにより形成されているものであっても良いし、メッキにより形成されているものであっても良いし、蒸着により形成されているものであっても良い。

【１１１４】

内装飾体３１７２は、図示は省略するが、凹凸のあるレリーフ状の装飾が形成されている。内装飾体３１７２は、枠状の外装飾体３１７１の前側の開口を閉鎖するように取付けられている。

【１１１５】

導光放射板３１７３は、内装飾体３１７２と略同じ大きさに形成されている。導光放射板３１７３は、外装飾体３１７１の枠内に挿入されて、前面の外周が支持部３１７１ｂの後面に当接している。導光放射板３１７３は、裏後装飾基板３１７４のＬＥＤ３１７４ａが後方から挿入されるＬＥＤ収容部３１７３ａと、後面の設けられている複数の反射部３１７３ｂと、を有している。ＬＥＤ収容部３１７３ａは、導光放射板３１７３を前後方向に貫通している孔とされており、内周が、ＬＥＤ３１７４ａの外周に沿った四角形に形成されている。反射部３１７３ｂは、決められたＬＥＤ収容部３１７３ａを中心として円弧状に延びていると共に、同心円状に複数設けられている。反射部３１７３ｂは、断面が三角形に形成されている。複数の反射部３１７３ｂは、夫々が決められたＬＥＤ収容部３１７３ａからの光を前方へ反射させるように設けられている。つまり、複数の反射部３１７３ｂは、特定の方向からの光を強く前方へ反射させるように形成されている。なお、複数の反射部３１７３ｂを、上記の裏後可動装飾体３１１０の導光放射板３１１３の反射部３１１３ｅと同様に、不特定の方向からの光を前方へ反射させることができるようにしても良いし、後面の略全面に設けるようにしても良い。

【１１１６】

裏後装飾基板３１７４は、導光放射板３１７３と同じ大きさに形成されている。裏後装飾基板３１７４は、導光放射板３１７３のＬＥＤ収容部３１７３ａに後方から挿入されるサイドビュータイプのＬＥＤ３１７４ａが前面に複数実装されている。裏後装飾基板３１７４は、図示は省略するが、前面と後面とにおける裏後装飾基板３１７４の外周から所定距離ＳＬ内側の部位に、銅箔により所定の回路パターンが形成されている。また、裏後装飾基板３１７４は、表面（両面）に白色のレジストからなる白色塗膜が形成されている。

【１１１７】

本実施形態の裏後可動装飾体３１７０は、組立てた状態では、外装飾体３１７１の枠内に内装飾体３１７２が前方から嵌め込まれており、外装飾体３１７１の前面と内装飾体３１７２の前面とが略一致していると共に、支持部３１７１ｂの前面に内装飾体３１７２の後面の外周付近が当接している。また、裏後可動装飾体３１７０は、外装飾体３１７１の枠内に、後方から導光放射板３１７３及び裏後装飾基板３１７４が挿入されており、支持部３１７１ｂの後面に導光放射板３１７３の前面の外周付近が当接していると共に、導光放射板３１７３の後面に裏後装飾基板３１７４の前面が当接している。これにより、裏後可動装飾体３１７０の前後方向の厚さが、薄いものとなっている。なお、裏後可動装飾体３１７０では、内装飾体３１７２と導光放射板３１７３との間には、支持部３１７１ｂの厚さの隙間が形成されている。

【１１１８】

外装飾体３１７１の本体部３１７１ａは、裏後装飾基板３１７４の後面と同じ位置まで後方へ延出している。この裏後可動装飾体３１６０では、内装飾体３１７２、導光放射板３１７３、及び裏後装飾基板３１７４の外周が、外装飾体３１７１の本体部３１７１ａにより覆われており、外部からそれらの外周面を見え難くして、見栄えを良くしている。

【１１１９】

この裏後可動装飾体３１７０は、外装飾体３１７１の後方へ延びている本体部３１７１ａにより、裏後装飾基板３１７４の外周を覆うようにしているため、本体部３１７１ａの前

面の金属装飾部３１７１ｃから裏後装飾基板３１７４（の銅箔）までの沿面距離ＥＬを、十分な距離とすることができ、金属装飾部３１７１ｃにおいて蓄積された静電気が裏後装飾基板３１７４に流れて、裏後装飾基板３１７４が破損してしまうことを防止することができる。

【１１２０】

このように、本実施形態の裏後可動装飾体３１７０によれば、上記の裏後可動装飾体３１１０と同様の作用効果を奏することができる。なお、内装飾体３１７２の前面にも金属装飾部を設けるようにしても良い。また、裏後可動装飾体３１７０において、裏後装飾基板３１７４の後側を覆う装飾体ベースを設けるようにしても良い。

【１１２１】

続いて、第四実施形態の裏後可動装飾体３１８０は、図１５７（ｃ）において模式的に示すように、枠状に形成されている外装飾体３１８１と、外装飾体３１８１の内側（枠内）を閉鎖している透光性を有した内装飾体３１８２と、内装飾体３１８２の後方に設けられ前方へ光を照射可能な複数のＬＥＤ３１８３ａが前面に実装されている裏後装飾基板３１８３と、を備えている。

【１１２２】

裏後可動装飾体３１８０の外装飾体３１８１は、平板枠状の本体部３１８１ａと、本体部３１８１ａの外周から後方へ延出しているフランジ部３１８１ｂと、本体部３１８１ａ及びフランジ部３１８１ｂの表面全体を被覆している金属装飾部３１８１ｃと、を有している。金属装飾部３１８１ｃは、外装飾体３１８１の表面全体に設けられている。この金属装飾部３１８１ｃは、メッキにより形成されているものであっても良いし、蒸着により形成されているものであっても良い。

【１１２３】

内装飾体３１８２は、透明な部材により形成されている。内装飾体３１８２は、外形が外装飾体３１８１の枠状の本体部３１８１ａの内周よりも大きく、フランジ部３１８１ｂの内周よりも小さい平板状の本体部３１８２ａと、本体部３１８２ａの外周から後方へ延出しているフランジ部３１８２ｂと、を有している。本体部３１８２ａは、図示は省略するが、凹凸のあるレリーフ状の装飾が、略全面に形成されている。

【１１２４】

裏後装飾基板３１８３は、外形が、内装飾体３１８２におけるフランジ部３１８２ｂの内周よりも小さい大きさに形成されている。つまり、裏後装飾基板３１８３は、外周と内装飾体３１８２のフランジ部３１８２ｂの内周との間に、所定以上の距離の隙間が形成される大きさに形成されている。裏後装飾基板３１８３は、前面に、トップビュータイプのＬＥＤ３１８３ａが複数実装されている。裏後装飾基板３１８３は、図示は省略するが、前面と後面とにおける裏後装飾基板３１８３の外周から所定距離ＳＬ内側の部位に、銅箔により所定の回路パターンが形成されている。また、裏後装飾基板３１８３は、表面（両面）に白色のレジストからなる白色塗膜が形成されている。

【１１２５】

本実施形態の裏後可動装飾体３１８０は、組立てた状態では、枠状の外装飾体３１８１の枠内に、後方から内装飾体３１８２と裏後装飾基板３１８３とが挿入されている。裏後可動装飾体３１８０は、外装飾体３１８１の本体部３１８１ａの後面に、内装飾体３１８２の外周付近の前面が当接しており、内装飾体３１８２のフランジ部３１８２ｂが、外装飾体３１８１のフランジ部３１８１ｂの後端と同じ位置まで後方へ延出している。つまり、外装飾体３１８１のフランジ部３１８１ｂの内周側が、内装飾体３１８２のフランジ部３１８２ｂにより覆われている。換言すると、内装飾体３１８２のフランジ部３１８２ｂの外周が、外装飾体３１８１のフランジ部３１８１ｂにより覆われている。従って、外装飾体３１８１のフランジ部３１８１ｂにより、内装飾体３１８２及び裏後装飾基板３１８３の外周が、外部から見えないようになっている。

【１１２６】

この裏後可動装飾体３１８０は、金属装飾部３１８１ｃが設けられている外装飾体３１８

１のフランジ部３１８１ｂの内側に、内装飾体３１８２のフランジ部３１８２ｂが設けられていると共に、内装飾体３１８２の本体部３１８２ａの後側に設けられている裏後装飾基板３１８３の外周が、内装飾体３１８２のフランジ部３１８２ｂの内周から離れているため、金属装飾部３１８１ｃから裏後装飾基板３１８３（の銅箔）までの沿面距離ＥＬを、十分な距離とすることができ、金属装飾部３１８１ｃにおいて蓄積された静電気が裏後装飾基板３１８３に流れて、裏後装飾基板３１８３が破損してしまうことを防止することができる。

【１１２７】

このように、本実施形態の裏後可動装飾体３１８０によれば、上記の裏後可動装飾体３１１０と同様の作用効果を奏することができる。なお、内装飾体３１８２の本体部３１８２ａの前面にも金属装飾部を設けるようにしても良い。また、裏後可動装飾体３１８０において、裏後装飾基板３１８３の後側を覆う装飾体ベースを設けるようにしても良い。

【１１２８】

［５－９ｅ．裏下左演出ユニット及び裏下右演出ユニット］

次に、裏ユニット３０００における裏下左演出ユニット３２００及び裏下右演出ユニット３２５０について、主に図１５８乃至図１６１等を参照して詳細に説明する。図１５８（ａ）は裏ユニットにおける裏下左演出ユニット及び裏下右演出ユニットを前から見た斜視図であり、（ｂ）は裏ユニットにおける裏下左演出ユニット及び裏下右演出ユニットを後ろから見た斜視図である。図１５９は裏下左演出ユニット及び裏下右演出ユニットを分解して前から見た分解斜視図であり、図１６０は裏下左演出ユニット及び裏下右演出ユニットを分解して後ろから見た分解斜視図である。図１６１は、裏下左演出ユニット及び裏下右演出ユニットの可動構成を正面から示す説明図である。

【１１２９】

裏ユニット３０００の裏下左演出ユニット３２００及び裏下右演出ユニット３２５０は、裏箱３０１０内における開口部３０１０ａよりも下側で、裏後演出ユニット３１００の下端に取付けられている。裏下左演出ユニット３２００及び裏下右演出ユニット３２５０は、遊技盤５に組立てた状態で、裏下中演出ユニット３３００の裏下中装飾体ユニット３３２０の左右両側に位置しており、正面からは透明な遊技パネル１１００や表ユニット２０００等を通して視認可能とされている。

【１１３０】

まず、裏下左演出ユニット３２００について説明する。裏下左演出ユニット３２００は、後方へ突出した軸シャフト３２０１ａを有した透明な裏下左回転装飾体３２０１と、裏下左回転装飾体３２０１の後方に設けられている透明な裏下左装飾体３２０２と、裏下左装飾体３２０２の後方に設けられており、前面（以下、「表面（実装面）」と記載する場合がある。）に複数のＬＥＤが実装されている裏下左装飾基板３２０３と、裏下左装飾基板３２０３の後方に設けられており、裏下左回転装飾体３２０１が回転可能に取付けられていると共に裏下左装飾体３２０２が取付けられており、裏後演出ユニット３１００の左辺の下端に取付けられるユニットベース３２０４と、を備えている。

【１１３１】

また、裏下左演出ユニット３２００は、ユニットベース３２０４の前面に回転軸が後方へ突出するように取付けられている裏下左駆動モータ３２０５と、裏下左駆動モータ３２０５の回転軸に取付けられている平歯車状の駆動ギア３２０６と、駆動ギア３２０６と噛合しておりユニットベース３２０４に回転可能に取付けられている平歯車状の第一伝達ギア３２０７と、第一伝達ギア３２０７と噛合しておりユニットベース３２０４に回転可能に取付けられている平歯車状の第二伝達ギア３２０８と、第二伝達ギア３２０８と噛合しており裏下左回転装飾体３２０１の軸シャフト３２０１ａの後端に取付けられている平歯車状の第三伝達ギア３２０９と、裏下左装飾体３２０２よりも下側でユニットベース３２０４の前面に取付けられている前カバー３２１０と、を備えている。

【１１３２】

裏下左回転装飾体３２０１は、桜の花を模した形状に形成されている。裏下左回転装飾体

３２０１の後面の中央から後方へ突出している軸シャフト３２０１ａは、裏下左装飾体３２０２、裏下左装飾基板３２０３、及びユニットベース３２０４を貫通する長さに形成されている。裏下左装飾体３２０２は、裏下左回転装飾体３２０１と同じ大きさの二つの桜の花を、前後に重ねた上で後側の花弁が、前側の花弁同士の間に位置するように回転させたような形状に形成されている。

【１１３３】

裏下左回転装飾体３２０１及び裏下左装飾体３２０２は、透明に形成されると共に、光を撹乱可能な複数の微細な凹凸が形成されている。詳述すると、裏下左回転装飾体３２０１及び裏下左装飾体３２０２は、ランダムな方向へ短く線状に延びた複数の突条により梨肌状のパターンに形成されており、裏下左回転装飾体３２０１及び裏下左装飾体３２０２により摸されている桜の花の一つの花弁において、花弁の中央から周縁へ向かうに従って、濃淡が濃くなる（透明度が低くなるもの）なるようにパチンコ機１（遊技盤５）のコンセプト（つまり、パチンコ機１（遊技盤５）の世界観）に沿った所定色（本実施形態では桃色）の複数のドットが印刷により施されているが、裏下左回転装飾体３２０１及び裏下左装飾体３２０２を通して（花弁の周縁部においても）、裏下左装飾体３２０２の後方に配置される裏下左装飾基板３２０３の表面（実装面）を視認することができるようになっている。

【１１３４】

裏下左装飾基板３２０３は、前面に実装されている複数のＬＥＤが、表面実装タイプであって多色発光可能なフルカラーＬＥＤである。裏下左装飾基板３２０３は、後面に第三伝達ギア３２０９の検知片３２０９ａを検知する裏下左検知センサ３２０３ａ（リードタイプ）が設けられている。裏下左検知センサ３２０３ａは、ユニットベース３２０４を貫通して後方へ突出している。第三伝達ギア３２０９は、前方へ突出し裏下左装飾基板３２０３の裏下左検知センサ３２０３ａに検知される検知片３２０９ａを有している。第三伝達ギア３２０９の検知片３２０９ａが裏下左検知センサ３２０３ａにより検知されている状態では、裏下左回転装飾体３２０１が一つの花弁を上方へ向けた状態となっている（図１６１を参照）。

【１１３５】

本実施形態の裏下左演出ユニット３２００は、裏下左駆動モータ３２０５により駆動ギア３２０６を回転されると、第一伝達ギア３２０７、第二伝達ギア３２０８、及び第三伝達ギア３２０９を介して裏下左回転装飾体３２０１を前後方向の軸周りに回転させることができる。また、裏下左演出ユニット３２００は、裏下左装飾基板３２０３の表面（実装面）に実装される複数のＬＥＤを発光させることで、裏下左回転装飾体３２０１及び裏下左装飾体３２０２を発光装飾させることができる。

【１１３６】

なお、裏下左装飾基板３２０３の表面（実装面）に実装される複数のＬＥＤやコネクタ等の表面側電子部品の部品番号、表面側電子部品を配置する位置を示す領域等の表面側電子部品の属性（さらに、表面側電子部品の形状、表面側電子部品の大きさ、表面側電子部品の実装向き（実装方向）、表面側電子部品の型式を含む場合がある。）を示す表面側表記部が裏下左装飾基板３２０３の表面（実装面）に所定の塗料の色でシルク印刷により印刷されると共に、透明な裏下左回転装飾体３２０１の後方には、透明な裏下左装飾体３２０２、そして裏下左装飾基板３２０３が順番に配置されているため、裏下左装飾基板３２０３の表面（実装面）にシルク印刷により印刷される所定の塗料の色が裏下左装飾体３２０２、そして裏下左回転装飾体３２０１を介して、視認可能となっており、複数のＬＥＤが消灯している状態において、所定の塗料の色を視認できる場合には所定の塗料の色により文字、記号、形状（つまり、表面側表記部が示す表面側電子部品の属性）を判別することができる。

【１１３７】

また、裏下左装飾基板３２０３の表面（実装面）に実装される複数のＬＥＤは、それぞれのパッケージが白色（白色と同色であると認められる色）の樹脂製となっており、コネク

タは、そのハウジングが白色（ナチュラル色とも言われ、白色（ナチュラル色）と同色であると認められる色）の樹脂製となっている。

【１１３８】

次に、裏下右演出ユニット３２５０について説明する。裏下右演出ユニット３２５０は、後方へ突出した軸シャフト３２５１ａを有した透明な裏下右回転装飾体３２５１と、裏下右回転装飾体３２５１の後方に設けられている透明な裏下右装飾体３２５２と、裏下右装飾体３２５２の後方に設けられており、前面（以下、「表面（実装面）」と記載する場合がある。）に複数のＬＥＤが実装されている裏下右装飾基板３２５３と、裏下右装飾基板３２５３の後方に設けられており、裏下右回転装飾体３２５１が回転可能に取付けられていると共に裏下右装飾体３２５２が取付けられており、裏後演出ユニット３１００の右辺の下端に取付けられるユニットベース３２５４と、を備えている。

【１１３９】

また、裏下右演出ユニット３２５０は、ユニットベース３２５４の前面に回転軸が後方へ突出するように取付けられている裏下右駆動モータ３２５５と、裏下右駆動モータ３２５５の回転軸に取付けられている平歯車状の駆動ギア３２５６と、駆動ギア３２５６と噛合しておりユニットベース３２５４に回転可能に取付けられている平歯車状の第一伝達ギア３２５７と、第一伝達ギア３２５７と噛合しておりユニットベース３２５４に回転可能に取付けられている平歯車状の第二伝達ギア３２５８と、第二伝達ギア３２５８と噛合しており裏下右回転装飾体３２５１の軸シャフト３２５１ａの後端に取付けられている平歯車状の第三伝達ギア３２５９と、裏下右装飾体３２５２よりも下側でユニットベース３２５４の前面に取付けられている前カバー３２６０と、を備えている。

【１１４０】

裏下右回転装飾体３２５１は、桜の花を模した形状に形成されている。裏下右回転装飾体３２５１の後面の中央から後方へ突出している軸シャフト３２５１ａは、裏下右装飾体３２５２、裏下右装飾基板３２５３、及びユニットベース３２５４を貫通する長さに形成されている。裏下右装飾体３２５２は、裏下右回転装飾体３２５１と同じ大きさの二つの桜の花を、前後に重ねた上で後側の花弁が、前側の花弁同士の間に位置するように回転させたような形状に形成されている。

【１１４１】

裏下右回転装飾体３２５１及び裏下右装飾体３２５２は、透明に形成されると共に、光を撹乱可能な複数の微細な凹凸が形成されている。詳述すると、裏下右回転装飾体３２５１及び裏下右装飾体３２５２は、ランダムな方向へ短く線状に延びた複数の突条により梨肌状のパターンに形成されており、裏下右回転装飾体３２５１及び裏下右装飾体３２５２により摸されている桜の花の一つの花弁において、花弁の中央から周縁へ向かうに従って、濃淡が濃くなる（透明度が低くなるもの）なるようにパチンコ機１（遊技盤５）のコンセプト（つまり、パチンコ機１（遊技盤５）の世界観）に沿った所定色（本実施形態では桃色）の複数のドットが印刷により施されているが、裏下右回転装飾体３２５１及び裏下右装飾体３２５２を通して（花弁の周縁部においても）、裏下右装飾体３２５２の後方に配置される裏下右装飾基板３２５３の表面（実装面）を視認することができるようになっている。

【１１４２】

裏下右装飾基板３２５３は、前面に実装されている複数のＬＥＤが、表面実装タイプであって多色発光可能なフルカラーＬＥＤである。裏下右装飾基板３２５３は、後面に第三伝達ギア３２５９の検知片３２５９ａを検知する裏下右検知センサ３２５３ａ（リードタイプ）が設けられている。裏下右検知センサ３２５３ａは、ユニットベース３２５４を貫通して後方へ突出している。第三伝達ギア３２５９は、前方へ突出し裏下右装飾基板３２５３の裏下右検知センサ３２５３ａに検知される検知片３２５９ａを有している。第三伝達ギア３２５９の検知片３２５９ａが裏下右検知センサ３２５３ａにより検知されている状態では、裏下右回転装飾体３２５１が一つの花弁を上方へ向けた状態となっている（図１６１を参照）。

【１１４３】
本実施形態の裏下右演出ユニット３２５０は、裏下右駆動モータ３２５５により駆動ギア３２５６を回転されると、第一伝達ギア３２５７、第二伝達ギア３２５８、及び第三伝達ギア３２５９を介して裏下右回転装飾体３２５１を前後方向の軸周りに回転させることができる。また、裏下右演出ユニット３２５０は、裏下右装飾基板３２５３の複数のＬＥＤを発光させることで、裏下右回転装飾体３２５１及び裏下右装飾体３２５２を発光装飾させることができる。
【１１４４】
なお、裏下右装飾基板３２５３の表面（実装面）に実装される複数のＬＥＤやコネクタ等の表面側電子部品の部品番号、表面側電子部品を配置する位置を示す領域等の表面側電子部品の属性（さらに、表面側電子部品の形状、表面側電子部品の大きさ、表面側電子部品の実装向き（実装方向）、表面側電子部品の型式を含む場合がある。）を示す表面側表記部が裏下右装飾基板３２５３の表面（実装面）に所定の塗料の色でシルク印刷により印刷されると共に、透明な裏下右回転装飾体３２５１の後方には、透明な裏下右装飾体３２５２、そして裏下右装飾基板３２５３が順番に配置されているため、裏下右装飾基板３２５３の表面（実装面）にシルク印刷により印刷される所定の塗料の色が裏下右装飾体３２５２、そして裏下右回転装飾体３２５１を介して、視認可能となっており、複数のＬＥＤが消灯している状態において、所定の塗料の色を視認できる場合には所定の塗料の色により文字、記号、形状（つまり、表面側表記部が示す表面側電子部品の属性）を判別することができる。
【１１４５】
また、下右装飾基板３２５３の表面（実装面）に実装される複数のＬＥＤは、それぞれのパッケージが白色（白色と同色であると認められる色）の樹脂製となっており、コネクタは、そのハウジングが白色（ナチュラル色とも言われ、白色（ナチュラル色）と同色であると認められる色）の樹脂製となっている。
【１１４６】
裏下左装飾基板３２０３及び裏下右装飾基板３２５３の表面（前面）には、複数のＬＥＤ（表面実装タイプ）、コネクタ（表面実装タイプ）、裏下左検知センサ３２０３ａ（リードタイプ）及び裏下右検知センサ３２５３ａ（リードタイプ）が半田付けされるパッド、スルーホール、ランド等を除いた全域において、白色のレジスト液が塗布されて形成される白色塗膜（以下、単に「ベタ塗りされた白色のレジスト」と記載する場合がある。）により白色のレジスト層が形成されている。裏下左装飾基板３２０３及び裏下右装飾基板３２５３の裏面（後面）には、裏下左検知センサ３２０３ａ（リードタイプ）及び裏下右検知センサ３２５３ａ（リードタイプ）が半田付けされるパッド、スルーホール、ランド等を除いた全域において、ベタ塗りされた白色のレジストにより白色のレジスト層が形成されている。更に、裏下左装飾基板３２０３及び裏下右装飾基板３２５３の表面（前面）には、図示は省略するが、実装されている複数のＬＥＤ、コネクタ等の表面側電子部品の近傍に、表面側電子部品の部品番号、表面側電子部品を配置する位置を示す領域等の表面側電子部品の属性（さらに、表面側電子部品の形状、表面側電子部品の大きさ、表面側電子部品の実装向き（実装方向）、表面側電子部品の型式を含む場合がある。）を示す表面側表記部が、白色に対して目立ち難い明色である黄色の塗料で、ベタ塗りされた白色のレジスト上にシルク印刷により印刷されている。裏下左装飾基板３２０３及び裏下右装飾基板３２５３の裏面（後面）には、図示は省略するが、裏下左検知センサ３２０３ａ及び裏下右検知センサ３２５３ａ等の裏面側電子部品の近傍に、裏面側電子部品の部品番号、裏面側電子部品を配置する位置を示す領域等の裏面側電子部品の属性（さらに、裏面側電子部品の形状、裏面側電子部品の大きさ、裏面側電子部品の実装向き（実装方向）、裏面側電子部品の型式を含む場合がある。）を示す裏面側表記部が、白色に対して目立ち難い明色である黄色の塗料で、ベタ塗りされた白色のレジスト上にシルク印刷により印刷されている。
【１１４７】

ここで、レジスト液の色として白色のものを採用し、シルク印刷の塗料として黄色を採用した理由について説明する。まず、反射率は、白色に近いほど高くなるのに対して、黒色に近づくと低くなる。黄色の反射率は赤色の反射率と比べると白色の反射率に非常に近く、赤色の反射率は黄色の反射率と比べて白色の反射率に非常に遠い。黄色の反射率は白色塗膜の白色の反射率と比べて低いものの高い反射率を有している。このため、白色と赤色との組み合わせでは、背景が白色であると赤色が目立つこととなり、表面側表記部（裏面側表記部）を赤色とする場合には白色のレジストに対して赤色の表面側表記部（白色のレジストに対して赤色の裏面側表記部）が目立つのに対して、白色と黄色との組み合わせ（本実施形態の構成）では、背景が白色であると黄色が目立たず、表面側表記部（裏面側表記部）を黄色とする場合には白色のレジストに対して黄色の表面側表記部（白色のレジストに対して黄色の裏面側表記部）が目立ち難い。

【１１４８】

また、パチンコ機１は各装飾基板に実装される複数のＬＥＤ等の発光部による電飾により煌びやかに発光演出が行われるため、複数のＬＥＤは、上述したように、多色発光可能なフルカラーＬＥＤであり、点灯（発光）したり、消灯したりすることによって発光態様がさまざまに変化する。このため、裏下左装飾基板３２０３及び裏下右装飾基板３２５３の表面（前面）には、上述したように、複数のＬＥＤ、コネクタが半田付けされるパッド、スルーホール、ランド等を除いた全域において、白色のレジスト液が塗布されて形成される白色塗膜（以下、単に「ベタ塗りされた白色のレジスト」と記載する場合がある。）により白色のレジスト層が形成され、さらに、このベタ塗りされた白色のレジスト上に多色発光可能なフルカラーＬＥＤを特定可能にする表面側表記部が黄色の塗料でシルク印刷により印刷されることにより、多色発光可能なフルカラーＬＥＤの消灯時において白色のレジストに対して黄色の表面側表記部を目立たないようにすることができることに加えて、さらに、多色発光可能なフルカラーＬＥＤの点灯時（発光時）において、反射率の高いベタ塗りされた白色のレジストと、白色の反射率に非常に近い黄色の塗料でシルク印刷により印刷される表面側表記部と、による組み合わせによって裏下左装飾基板３２０３及び裏下右装飾基板３２５３の表面（前面）の反射率を高く維持することができる。

【１１４９】

なお、シルク印刷の塗料として黄色を採用した場合には、シルク印刷により印刷された黄色が印刷機によるバラツキにより薄い黄色となったり、濃い黄色となったりする場合もあれば、橙色に見えたりする場合もある。また、シルク印刷の塗料を供給するインク会社にも黄色に幅（明るい側に寄る黄色、暗い側による黄色）があるため、同一の基板製造会社や複数の基板会社に対してシルク印刷の塗料として黄色を指定しても、完全同一の黄色とならず（完全同一の黄色とすることが難しく）、黄色に幅がある色となる。

【１１５０】

［５－９ｆ．裏下中演出ユニット］

続いて、裏ユニット３０００における裏下中演出ユニット３３００について、主に図１６２乃至図１６９等を参照して詳細に説明する。図１６２（ａ）は裏ユニットにおける裏下中演出ユニットを前から見た斜視図であり、（ｂ）は裏ユニットにおける裏下中演出ユニットを後ろから見た斜視図である。図１６３は裏下中演出ユニットの裏下中昇降機構を分解して前から見た分解斜視図であり、図１６４は裏下中演出ユニットの裏下中昇降機構を分解して前から見た分解斜視図である。図１６５は裏下中演出ユニットの裏下中装飾体ユニットを分解して前から見た分解斜視図であり、図１６６は裏下中演出ユニットの裏下中装飾体ユニットを分解して後ろから見た分解斜視図である。図１６７は、裏下中演出ユニットにおける裏下中昇降機構による裏下中装飾体ユニットの昇降を示す説明図である。図１６８（ａ）は裏下中演出ユニットにおける裏下中装飾体ユニットの裏下中回転装飾体の回転にかかる構成を正面から示す説明図であり、（ｂ）は裏下中回転装飾体の停止位置と各検知センサとの関係を表で示す説明図である。図１６９は、裏下中演出ユニットにおける裏下中装飾体ユニットのＬＥＤの配置を正面から示す説明図である。

【１１５１】

裏ユニット３０００の裏下中演出ユニット３３００は、裏箱３０１０内における開口部３０１０ａよりも下側に配置されている。裏下中演出ユニット３３００は、裏下左演出ユニット３２００及び裏下右演出ユニット３２５０の後側に取付けられている。裏下中演出ユニット３３００は、前後方向の軸周りに回転可能な透明な裏下中回転装飾体３３１０を有する裏下中装飾体ユニット３３２０と、裏下中装飾体ユニット３３２０を昇降させる裏下中昇降機構３３５０と、を備えている。

【１１５２】

裏下中演出ユニット３３００の裏下中回転装飾体３３１０は、正面視の形状が、正六角形に形成されている。この裏下中回転装飾体３３１０は、全面に「１」～「６」までのレリーフ状に形成された六つの数字装飾が、中央を中心にして時計回りの方向へ６０度の角度毎に円周上に配置されている。この裏下中回転装飾体３３１０は、後面に後述する裏下中装飾体ユニット３３２０における透明なインナーレンズ（拡散レンズ）３３２１、裏下中第一装飾基板３３２２、及び基板固定部材３３２３の前端側、を収容可能な凹部３３１１を有している。

【１１５３】

裏下中回転装飾体３３１０は、透明に形成されており、六つの数字装飾のそれぞれの外周部が前方に突出し、さらに円周上に配置された六つの数字装飾をリング状態に繋ぐリブ部が前方に突出して形成されている。これらの突出する外周部とリブ部とには、金属光沢を持った金属装飾部３３１０ａが形成されている。換言すると、裏下中回転装飾体３３１０の近傍に金属光沢を持った金属装飾部３３１０ａが配置されている。本実施形態では、金属光沢を持った金属装飾部３３１０ａが形成されている外周部とリブ部とは、裏下中回転装飾体３３１０と一体的に成型されているが、外周部とリブ部とを裏下中回転装飾体３３１０と別体にそれぞれ成型して、この成型した外周部及びリブ部と裏下中回転装飾体３３１０とを組み立てるように構成してもよい。この場合、外周部とリブ部とにそれぞれ金属光沢を持った金属装飾部３３１０ａが形成されることとなる。

【１１５４】

金属装飾部３３１０ａの金属光沢により高級感を付与することができると共に、裏下中回転装飾体３３１０を目立たせることができ、裏下中回転装飾体３３１０の存在感をより強調することができるようになっている。金属装飾部３３１０ａは、所定色（本実施形態では金色）の金属箔を、上述したホットスタンピングによる箔押しによって形成されている。裏下中回転装飾体３３１０は、その前面に突出する外周部とリブ部とのみ金属装飾部３３１０ａが形成されており、裏下中回転装飾体３３１０の側面に金属装飾部３３１０ａが全く形成されていない。これにより、少なくとも、裏下中回転装飾体３３１０の側面の長さの分だけ、裏下中回転装飾体３３１０の金属装飾部３３１０ａから裏下中第一装飾基板３３２２までの沿面距離をより長くすることができるため、金属装飾部３３１０ａにおいて蓄積された静電気が裏下中第一装飾基板３３２２に流れて、裏下中第一装飾基板３３２２が破損してしまうことを防止することができる。したがって、静電気等の放電やショートに対する絶縁性を高めることができる。

【１１５５】

なお、裏下中回転装飾体３３１０は、上述したように、円周上に配置された六つの数字装飾をリング状態に繋ぐリブ部が前方に突出して形成されている。裏下中回転装飾体３３１０は、リブ部が裏下中回転装飾体３３１０の前面に突出された周縁側部分（周縁側根元部分）から裏下中回転装飾体３３１０の前面周縁、そして裏下中回転装飾体３３１０の側面後縁までに亘って透明に形成されると共に、光を撹乱可能な複数の微細な凹凸が形成されている。詳述すると、裏下中回転装飾体３３１０は、リブ部が裏下中回転装飾体３３１０の前面に突出された周縁側部分（周縁側根元部分）から裏下中回転装飾体３３１０の前面周縁、そして裏下中回転装飾体３３１０の側面後縁までに亘ってランダムな方向へ短く線状に延びた複数の突条により梨肌状のパターンに形成されており、リブ部が裏下中回転装飾体３３１０の前面に突出された周縁側部分（周縁側根元部分）から裏下中回転装飾体３３１０の前面周縁、そして裏下中回転装飾体３３１０の側面後縁へ向かうに従って、濃淡

が濃くなる（透明度が低くなるもの）なるようにパチンコ機１（遊技盤５）のコンセプト（つまり、パチンコ機１（遊技盤５）の世界観）に沿った所定色（本実施形態では桃色）の複数のドットが印刷により施されている。

【１１５６】

裏下中装飾体ユニット３３２０は、図１６５及び図１６６等に示すように、裏下中回転装飾体３３１０の後方に設けられている透明なインナーレンズ（拡散レンズ）３３２１と、インナーレンズ（拡散レンズ）３３２１の後方に設けられており、前面（以下、「表面（実装面）」と記載する場合がある。）に複数のＬＥＤが実装されている裏下中第一装飾基板３３２２と、裏下中第一装飾基板３３２２を後側から挟むようにインナーレンズ（拡散レンズ）３３２１に取付けられており後方へ円柱状に突出している軸部３３２３ａを有する基板固定部材３３２３と、基板固定部材３３２３の軸部３３２３ａが相対回転可能に挿入される軸孔３３２４ａを有しており裏下中回転装飾体３３１０の後側に取付けられる回転ベース３３２４と、を備えている。

【１１５７】

インナーレンズ（拡散レンズ）３３２１の表面は、レンズカットが施されて（多面体に形成されて）光を乱屈折することができるようになっており、インナーレンズ（拡散レンズ）３３２１の後方に配置される裏下中第一装飾基板３３２２の前面に実装されている複数のＬＥＤが遊技者側から明確に視認し難くなっている。なお、インナーレンズ（拡散レンズ）３３２１の表面と共に裏面には、レンズカットが施されていてもよいし（多面体に形成されていてもよいし）、インナーレンズ（拡散レンズ）３３２１の表面に代えて裏面には、レンズカットが施されていてもよい（多面体に形成されていてもよい）。

【１１５８】

また、裏下中装飾体ユニット３３２０は、回転ベース３３２４の後面から後方へ突出しており軸孔３３２４ａと同軸上の半円弧に延びている領域検知片３３２５と、領域検知片３３２５と同軸の円周上で回転ベース３３２４から複数突出している位置検知片３３２６と、回転ベース３３２４の後面に設けられている平歯車状の回転ギア３３２７と、を備えている。

【１１５９】

更に、裏下中装飾体ユニット３３２０は、回転ベース３３２４の後方に設けられていると共に領域検知片３３２５及び位置検知片３３２６が通過可能な貫通した円形状の開口部３３２８ａを有しており、この円形状の開口部３３２８ａの中心を中心点として放射状に開口部３３２８ａから外周へ向かって複数の直線状の溝部が形成される透明な裏下中装飾体３３２８と、裏下中装飾体３３２８の後方に設けられており前面（以下、「表面（実装面）」と記載する場合がある。）に複数のＬＥＤが実装されている裏下中第二装飾基板３３２９と、裏下中第二装飾基板３３２９の前面に取付けられており、領域検知片３３２５を検知可能な複数の領域特定センサ３３３０（リードタイプ）と、裏下中第二装飾基板３３２９の前面に取付けられており、位置検知片３３２６を検知可能な位置特定センサ３３３１（リードタイプ）と、を備えている。

【１１６０】

また、裏下中装飾体ユニット３３２０は、裏下中第二装飾基板３３２９の後方に設けられており、基板固定部材３３２３の軸部３３２３ａの後端が取付けられると共に裏下中装飾体３３２８が取付けられる可動ベース３３３２と、可動ベース３３３２の後面に回転軸が前方へ突出するように取付けられている裏下中回転駆動モータ３３３３と、裏下中回転駆動モータ３３３３の回転軸に取付けられていると共に回転ギア３３２７と噛合している平歯車状の駆動ギア３３３４と、可動ベース３３３２の後側に取付けられている後カバー３３３５と、可動ベース３３３２の後側に取付けられており裏下中昇降機構３３５０のスライドレール３３６０により上下方向へスライド可能に案内される昇降スライダ３３３６と、を備えている。

【１１６１】

インナーレンズ（拡散レンズ）３３２１、裏下中第一装飾基板３３２２、及び基板固定部

材３３２３の前端側は、組立てた状態で、裏下中回転装飾体３３１０と回転ベース３３２４との間に位置して、裏下中回転装飾体３３１０の凹部３３１１内に収容された状態となっており、裏下中回転装飾体３３１０及び回転ベース３３２４の何れにも接触していない。裏下中第一装飾基板３３２２の複数のＬＥＤを適宜発光させることで、裏下中回転装飾体３３１０における数字の装飾（レリーフ）の部位を発光装飾させることができる。裏下中第一装飾基板３３２２の表面（実装面）に実装される複数のＬＥＤは、表面実装タイプであって多色発光可能なフルカラーＬＥＤである。また、裏下中第二装飾基板３３２９の表面（実装面）に実装される複数のＬＥＤは、表面実装タイプであって多色発光可能なフルカラーＬＥＤである。

【１１６２】

領域検知片３３２５は、回転ギア３３２７よりも大きい直径で回転ベース３３２４の後面から後方へ突出している。領域検知片３３２５は、図１６８（ａ）に示すように、裏下中回転装飾体３３１０における「２」と「３」の数字装飾の間から、「３」、「４」、「５」の数字装飾を通って、「５」と「６」の数字装飾の間まで、回転軸を中心として１８０度の範囲で円弧状に形成されている。

【１１６３】

複数（ここでは、六個）の位置検知片３３２６は、夫々が、領域検知片３３２５よりも大きい直径の円周上で回転ベース３３２４の後面から後方へ突出している。各位置検知片３３２６は、夫々が裏下中回転装飾体３３１０の数字の装飾の中央に位置するように、周方向へθ度（ここでは、６０度）の角度で等間隔に設けられている。本実施形態では、一つの位置検知片３３２６は、回転軸を中心として所定角度α度（２０度～２５度、ここでは、２３．３４度）の範囲で円弧状に形成されており、隣の位置検知片３３２６との間は、回転軸を中心として、２×β度（θ度－α度（ここでは、３６．６６度））の間隔があいている（図１６８（ａ）を参照）。

【１１６４】

複数（ここでは、三個）の領域特定センサ３３３０は、裏下中回転装飾体３３１０の回転軸を中心にして、θ度（６０度）の角度の間隔で並ぶように設けられている。三つの領域特定センサ３３３０は、時計回りの順に、第一領域特定センサ３３３０ａ、第二領域特定センサ３３３０ｂ、及び第三領域特定センサ３３３０ｃ、の順番に設けられている。本実施形態では、３つの領域特定センサ３３３０が、裏下中回転装飾体３３１０の「１」の装飾を回転中心の直上に位置させた状態で、「３」、「４」、「５」の数字装飾と対応する位置に設けられている（図１６８（ａ）を参照）。

【１１６５】

位置特定センサ３３３１は、第一領域特定センサ３３３０ａから裏下中回転装飾体３３１０の回転軸を中心にして反時計回りの方向へ、γ度（ここでは、３０度）の角度の位置に設けられている。

【１１６６】

可動ベース３３３２は、後面の下部から後方へ円柱状に突出している昇降ピン３３３２ａを有している。この昇降ピン３３３２ａは、裏下中昇降機構３３５０における昇降アーム３３５７の第二スリット３３５７ｂ内に摺動可能に挿入されるものである。裏下中回転駆動モータ３３３３は、回転位置を検知可能なステッピングモータである。

【１１６７】

この裏下中装飾体ユニット３３２０は、裏下中回転駆動モータ３３３３により駆動ギア３３３４を回転させることで、回転ギア３３２７を介して裏下中回転装飾体３３１０を前後方向の軸周りに回転させることができる。また、裏下中装飾体ユニット３３２０は、裏下中第一装飾基板３３２２及び裏下中第二装飾基板３３２９に夫々実装されている複数のＬＥＤを発光させることで、裏下中回転装飾体３３１０及び裏下中装飾体３３２８を発光装飾させることができる。

【１１６８】

なお、裏下中第一装飾基板３３２２の表面（実装面）に実装される複数のＬＥＤ等の表面

側電子部品の部品番号、表面側電子部品を配置する位置を示す領域等の表面側電子部品の属性（さらに、表面側電子部品の形状、表面側電子部品の大きさ、表面側電子部品の実装向き（実装方向）、表面側電子部品の型式を含む場合がある。）を示す表面側表記部が裏下中第一装飾基板３３２２の表面（実装面）に所定の塗料の色でシルク印刷により印刷されると共に、透明な裏下中回転装飾体３３１０の後方には、インナーレンズ（拡散レンズ）３３２１、そして裏下中第一装飾基板３３２２が順番に配置されているため、裏下中第一装飾基板３３２２の表面（実装面）にシルク印刷により印刷される所定の塗料の色がインナーレンズ（拡散レンズ）３３２１、そして裏下中回転装飾体３３１０を介して、視認可能となっており、複数のＬＥＤが消灯している状態において、所定の塗料の色を視認できる場合には所定の塗料の色により文字、記号、形状（つまり、表面側表記部が示す表面側電子部品の属性）を判別することができる。

【１１６９】

また、裏下中第一装飾基板３３２２の表面（実装面）に実装される複数のＬＥＤは、それぞれのパッケージが白色（白色と同色であると認められる色）の樹脂製となっている。

【１１７０】

裏下中第一装飾基板３３２２の表面（前面）には、複数のＬＥＤ（表面実装タイプ）が半田付けされるパッド、スルーホール、ランド等を除いた全域において、白色のレジスト液が塗布されて形成される白色塗膜（以下、単に「ベタ塗りされた白色のレジスト」と記載する場合がある。）により白色のレジスト層が形成されている。裏下中第一装飾基板３３２２の裏面（後面）には、コネクタ（表面実装タイプ）が半田付けされるパッド、スルーホール、ランド等を除いた全域において、ベタ塗りされた白色のレジストにより白色のレジスト層が形成されている。更に、裏下中第一装飾基板３３２２の表面（前面）には、図示は省略するが、実装されている複数のＬＥＤ等の表面側電子部品の近傍に、表面側電子部品の部品番号、表面側電子部品を配置する位置を示す領域等の表面側電子部品の属性（さらに、表面側電子部品の形状、表面側電子部品の大きさ、表面側電子部品の実装向き（実装方向）、表面側電子部品の型式を含む場合がある。）を示す表面側表記部が、白色に対して目立ち難い明色である黄色の塗料で、ベタ塗りされた白色のレジスト上にシルク印刷により印刷されている。裏下中第一装飾基板３３２２の裏面（後面）には、図示は省略するが、コネクタ等の裏面側電子部品の近傍に、裏面側電子部品の部品番号、裏面側電子部品を配置する位置を示す領域等の裏面側電子部品の属性（さらに、裏面側電子部品の形状、裏面側電子部品の大きさ、裏面側電子部品の実装向き（実装方向）、裏面側電子部品の型式を含む場合がある。）を示す裏面側表記部が、白色に対して目立ち難い明色である黄色の塗料で、ベタ塗りされた白色のレジスト上にシルク印刷により印刷されている。

【１１７１】

また、裏下中第二装飾基板３３２９の表面（実装面）に実装される複数のＬＥＤ、領域特定センサ３３３０、及び位置特定センサ３３３１等の表面側電子部品の部品番号、表面側電子部品を配置する位置を示す領域等の表面側電子部品の属性（さらに、表面側電子部品の形状、表面側電子部品の大きさ、表面側電子部品の実装向き（実装方向）、表面側電子部品の型式を含む場合がある。）を示す表面側表記部が裏下中第二装飾基板３３２９の表面（実装面）に所定の塗料の色でシルク印刷により印刷されると共に、透明な裏下中装飾体３３２８の後方には、裏下中第二装飾基板３３２９が配置されているため、裏下中第二装飾基板３３２９の表面（実装面）にシルク印刷により印刷される所定の塗料の色が裏下中装飾体３３２８を介して、視認可能となっており、複数のＬＥＤが消灯している状態において、所定の塗料の色を視認できる場合には所定の塗料の色により文字、記号、形状（つまり、表面側表記部が示す表面側電子部品の属性）を判別することができる。

【１１７２】

また、裏下中第二装飾基板３３２９の表面（実装面）の表面（実装面）に実装される複数のＬＥＤは、それぞれのパッケージが白色（白色と同色であると認められる色）の樹脂製となっている。

【１１７３】

裏下中第二装飾基板３３２９の表面（前面）には、複数のＬＥＤ（表面実装タイプ）、領域特定センサ３３３０（リードタイプ）、及び位置特定センサ３３３１（リードタイプ）が半田付けされるパッド、スルーホール、ランド等を除いた全域において、白色のレジスト液が塗布されて形成される白色塗膜（以下、単に「ベタ塗りされた白色のレジスト」と記載する場合がある。）により白色のレジスト層が形成されている。裏下中第二装飾基板３３２９の裏面（後面）には、領域特定センサ３３３０（リードタイプ）、位置特定センサ３３３１（リードタイプ）、及び複数のコネクタ（表面実装タイプ）が半田付けされるパッド、スルーホール、ランド等を除いた全域において、ベタ塗りされた白色のレジストにより白色のレジスト層が形成されている。更に、裏下中第二装飾基板３３２９の表面（前面）には、図示は省略するが、実装されている複数のＬＥＤ等の表面側電子部品の近傍に、表面側電子部品の部品番号、表面側電子部品を配置する位置を示す領域等の表面側電子部品の属性（さらに、表面側電子部品の形状、表面側電子部品の大きさ、表面側電子部品の実装向き（実装方向）、表面側電子部品の型式を含む場合がある。）を示す表面側表記部が、白色に対して目立ち難い明色である黄色の塗料で、ベタ塗りされた白色のレジスト上にシルク印刷により印刷されている。裏下中第二装飾基板３３２９の裏面（後面）には、図示は省略するが、コネクタ等の裏面側電子部品の近傍に、裏面側電子部品の部品番号、裏面側電子部品を配置する位置を示す領域等の裏面側電子部品の属性（さらに、裏面側電子部品の形状、裏面側電子部品の大きさ、裏面側電子部品の実装向き（実装方向）、裏面側電子部品の型式を含む場合がある。）を示す裏面側表記部が、白色に対して目立ち難い明色である黄色の塗料で、ベタ塗りされた白色のレジスト上にシルク印刷により印刷されている。

【１１７４】

ここで、レジスト液の色として白色のものを採用し、シルク印刷の塗料として黄色を採用した理由について説明する。まず、反射率は、白色に近いほど高くなるのに対して、黒色に近づくと低くなる。黄色の反射率は赤色の反射率と比べると白色の反射率に非常に近く、赤色の反射率は黄色の反射率と比べて白色の反射率に非常に遠い。黄色の反射率は白色塗膜の白色の反射率と比べて低いものの高い反射率を有している。このため、白色と赤色との組み合わせでは、背景が白色であると赤色が目立つこととなり、表面側表記部（裏面側表記部）を赤色とする場合には白色のレジストに対して赤色の表面側表記部（白色のレジストに対して赤色の裏面側表記部）が目立つのに対して、白色と黄色との組み合わせ（本実施形態の構成）では、背景が白色であると黄色が目立たず、表面側表記部（裏面側表記部）を黄色とする場合には白色のレジストに対して黄色の表面側表記部（白色のレジストに対して黄色の裏面側表記部）が目立ち難い。

【１１７５】

また、パチンコ機１は各装飾基板に実装される複数のＬＥＤ等の発光部による電飾により煌びやかに発光演出が行われるため、複数のＬＥＤは、上述したように、多色発光可能なフルカラーＬＥＤであり、点灯（発光）したり、消灯したりすることによって発光態様がさまざまに変化する。このため、裏下中第一装飾基板３３２２及び裏下中第二装飾基板３３２９の表面（前面）には、上述したように、複数のＬＥＤ等が半田付けされるパッド、スルーホール、ランド等を除いた全域において、白色のレジスト液が塗布されて形成される白色塗膜（以下、単に「ベタ塗りされた白色のレジスト」と記載する場合がある。）により白色のレジスト層が形成され、さらに、このベタ塗りされた白色のレジスト上に多色発光可能なフルカラーＬＥＤを特定可能にする表面側表記部が黄色の塗料でシルク印刷により印刷されることにより、多色発光可能なフルカラーＬＥＤの消灯時において白色のレジストに対して黄色の表面側表記部を目立たないようにすることができることに加えて、さらに、多色発光可能なフルカラーＬＥＤの点灯時（発光時）において、反射率の高いベタ塗りされた白色のレジストと、白色の反射率に非常に近い黄色の塗料でシルク印刷により印刷される表面側表記部と、による組み合わせによって裏下中第一装飾基板３３２２及び裏下中第二装飾基板３３２９の表面（前面）の反射率を高く維持することができる。

【１１７６】

なお、シルク印刷の塗料として黄色を採用した場合には、シルク印刷により印刷された黄色が印刷機によるバラツキにより薄い黄色となったり、濃い黄色となったりする場合もあれば、橙色に見えたりする場合もある。また、シルク印刷の塗料を供給するインク会社にも黄色に幅（明るい側に寄る黄色、暗い側による黄色）があるため、同一の基板製造会社や複数の基板会社に対してシルク印刷の塗料として黄色を指定しても、完全同一の黄色とならず（完全同一の黄色とすることが難しく）、黄色に幅がある色となる。

【１１７７】

裏下中昇降機構３３５０は、図１６３及び図１６４等に示すように、左右に延びており両端側が裏下左演出ユニット３２００及び裏下右演出ユニット３２５０に取付けられるユニットベース３３５１と、ユニットベース３３５１の前面に回転軸が後方へ突出するように取付けられる裏下中昇降駆動モータ３３５２と、裏下中昇降駆動モータ３３５２の回転軸に取付けられ一部がユニットベース３３５１の前面側に臨んでいる平歯車状の駆動ギア３３５３と、駆動ギア３３５３と噛合しておりユニットベース３３５１の前面に回転可能に取付けられている平歯車状の第一伝達ギア３３５４と、第一伝達ギア３３５４と噛合しておりユニットベース３３５１の前面に回転可能に取付けられている平歯車状の第二伝達ギア３３５５と、第二伝達ギア３３５５と噛合している平歯車状のギア部３３５６ａ、及びギア部３３５６ａの前面の外周付近から円柱状に前方へ突出している駆動ピン３３５６ｂを有しており、ユニットベース３３５１の前面における左右方向の中央上部で回転可能に取付けられている昇降カムギア３３５６と、を備えている。

【１１７８】

また、裏下中昇降機構３３５０は、左右方向へ延びている基端側がユニットベース３３５１の前面に回転可能に取付けられており、昇降カムギア３３５６の駆動ピン３３５６ｂが摺動可能に挿入される長手方向へ延びた第一スリット３３５７ａ、第一スリット３３５７ａよりも先端側で長手方向へ延びており裏下中装飾体ユニット３３２０における可動ベース３３３２の昇降ピン３３３２ａが摺動可能に挿入される第二スリット３３５７ｂ、及び先端に設けられている検知片３３５７ｃ、を有している昇降アーム３３５７と、昇降アーム３３５７の検知片３３５７ｃを検知可能な裏下中昇降検知センサ３３５８ａが設けられており、ユニットベース３３５１の前面に取付けられている裏下中中継基板３３５８と、を備えている。

【１１７９】

更に、裏下中昇降機構３３５０は、第一伝達ギア３３５４、第二伝達ギア３３５５、昇降カムギア３３５６、及び昇降アーム３３５７を前側から覆うようにユニットベース３３５１の前面に取付けられており、裏下中装飾体ユニット３３２０における可動ベース３３３２の昇降ピン３３３２ａが挿通される上下に延びた昇降スリット３３５９ａを有する前カバー３３５９と、前カバー３３５９の前面に取付けられており、裏下中装飾体ユニット３３２０における昇降スライダ３３３６を上下方向へ案内するスライドレール３３６０と、駆動ギア３３５３を後方から覆うようにユニットベース３３５１の後側に取付けられているギアカバー３３６１と、昇降アーム３３５７の先端側が上方に移動方向（正面視に対して時計回りの方向）へ昇降アーム３３５７が回動するように付勢しているバネ３３６２と、を備えている。

【１１８０】

裏下中昇降駆動モータ３３５２は、ユニットベース３３５１の左右方向中央よりも左側の下部に取付けられている。昇降アーム３３５７は、基端側が昇降カムギア３３５６の右方で昇降カムギア３３５６の中心と同じ高さで回転可能に取付けられている。昇降アーム３３５７は、先端側が昇降カムギア３３５６よりも左方へ延びている。

【１１８１】

裏下中中継基板３３５８は、裏下中第一装飾基板３３２２、裏下中第二装飾基板３３２９、領域特定センサ３３３０、位置特定センサ３３３１、裏下中回転駆動モータ３３３３、裏下中昇降駆動モータ３３５２、裏下中昇降検知センサ３３５８ａと、演出駆動基板１７２０との接続を中継している。

【１１８２】
前カバー３３５９は、ユニットベース３３５１の左右方向の中央に取付けられており、昇降スリット３３５９ａがユニットベース３３５１の左右方向中央よりも左側に設けられている。前カバー３３５９の昇降スリット３３５９ａには、裏下中装飾体ユニット３３２０における可動ベース３３３２の昇降ピン３３３２ａが摺動可能に挿入される。スライドレール３３６０は、前カバー３３５９におけるユニットベース３３５１の左右方向中央よりも右側に設けられている。この昇降スリット３３５９ａとスライドレール３３６０とにより、裏下中装飾体ユニット３３２０を、上下方向へ真直ぐにスライドするように支持することができる。
【１１８３】
この裏下中昇降機構３３５０は、裏下中昇降駆動モータ３３５２により駆動ギア３３５３を回転させると、第一伝達ギア３３５４、第二伝達ギア３３５５、及び昇降カムギア３３５６のギア部３３５６ａを介して昇降カムギア３３５６を回転させることができる。そして、昇降カムギア３３５６の回転により公転する駆動ピン３３５６ｂにより、駆動ピン３３５６ｂが摺動可能に挿入されている第一スリット３３５７ａを介して昇降アーム３３５７を回動させることができ、昇降アーム３３５７の第二スリット３３５７ｂに摺動可能に挿入されている可動ベース３３３２の昇降ピン３３３２ａを介して裏下中装飾体ユニット３３２０を裏下中回転装飾体３３１０と伴に昇降させることができる。
【１１８４】
次に、裏下中演出ユニット３３００における裏下中回転装飾体３３１０や裏下中装飾体ユニット３３２０の動きについて、詳細に説明する。裏下中演出ユニット３３００は、通常の状態では、裏下中装飾体ユニット３３２０が最も下方へ移動した下降位置の状態となっている。この通常の状態では、裏下中昇降機構３３５０における昇降アーム３３５７が、先端側が基端側よりも下方に位置しており、先端の検知片３３５７ｃが、裏下中中継基板３３５８の裏下中昇降検知センサ３３５８ａに検知されている（図１６７（ａ）を参照）。
【１１８５】
この通常の状態では、昇降カムギア３３５６の駆動ピン３３５６ｂが、その公転中心よりも下方に位置していると共に、昇降アーム３３５７の第一スリット３３５７ａ内における基端側の端部付近に位置している。詳述すると、駆動ピン３３５６ｂにおける第一スリット３３５７ａとの接点を通る法線が、昇降カムギア３３５６の回転中心を通るように延びている。これにより、バネ３３６２により昇降アーム３３５７を時計回りの方向へ回動させようとする付勢力が作用していても、その付勢力の力線が、第一スリット３３５７ａに当接している駆動ピン３３５６ｂを介して、昇降カムギア３３５６の回転中心を通るため、昇降カムギア３３５６は回転することはない。従って、昇降カムギア３３５６の駆動ピン３３５６ｂも公転しないため、昇降アーム３３５７が回動することはなく、裏下中装飾体ユニット３３２０が下降位置からバネ３３６２の付勢力により移動することはないと共に、バネ３３６２の付勢力が昇降アーム３３５７等を介して裏下中昇降駆動モータ３３５２に作用することはない。
【１１８６】
なお、通常の状態において、昇降カムギア３３５６の駆動ピン３３５６ｂを、第一スリット３３５７ａの基端側の端部に当接させるようにしても良い。これにより、バネ３３６２の付勢力により昇降アーム３３５７が時計回りの方向へ回動しようとすると、第一スリット３３５７ａから駆動ピン３３５６ｂを介して作用する力により、昇降カムギア３３５６が反時計回りの方向へ回転しようとする。この際に、駆動ピン３３５６ｂが昇降アーム３３５７の基端側へ移動するように公転しようとすることとなるが、駆動ピン３３５６ｂが第一スリット３３５７ａの基端側の端部に当接しているため、駆動ピン３３５６ｂが公転することができず、昇降アーム３３５７の回動がロックされて、裏下中装飾体ユニット３３２０の上方への移動を阻止することができる。
【１１８７】
裏下中演出ユニット３３００は、通常の状態では、裏下中回転装飾体３３１０における複

数の数字装飾のうち、最も上側に位置している数字装飾が、センター役物２５００の枠内よりも内側に位置しており、前方（遊技者側）から良好に視認することができる（図１１１等を参照）。また、通常の状態では、最も下側に位置している数字装飾が、始動口ユニット２１００の第一始動口２００２の後方に位置しており、裏下中第一装飾基板３３２２や裏下中第二装飾基板３３２９のＬＥＤを発光させることで、裏下中回転装飾体の発光装飾に加えて、透明部材で形成された第一始動口２００２をも発光装飾させることができる（図１２０等を参照）。

【１１８８】

この通常の状態で、裏下中昇降駆動モータ３３５２により、駆動ギア３３５３を正面視において反時計回りの方向へ回転させると、第一伝達ギア３３５４、第二伝達ギア３３５５、及びギア部３３５６ａを介して、昇降カムギア３３５６が時計回りの方向へ回転することとなり、昇降カムギア３３５６の駆動ピン３３５６ｂが時計回りの方向へ公転することとなる。この駆動ピン３３５６ｂが公転することで、駆動ピン３３５６ｂと当接している第一スリット３３５７ａの内面が上方へ押圧され、駆動ピン３３５６ｂが第一スリット３３５７ａ内を先端側へ摺動すると共に、昇降アーム３３５７の先端側が上方へ移動するように、基端側を中心として時計回りの方向へ回動することとなる。

【１１８９】

この昇降アーム３３５７が時計回りの方向へ回動することにより、昇降アーム３３５７の先端側の第二スリット３３５７ｂ内に挿入されている可動ベース３３３２の昇降ピン３３３２ａが、第二スリット３３５７ｂの内面により上方へ押圧され、昇降ピン３３３２ａを介して裏下中装飾体ユニット３３２０が上方へ移動することとなる。そして、駆動ピン３３５６ｂが、公転中心よりも上方へ移動すると、駆動ピン３３５６ｂが第一スリット３３５７ａ内を基端側へ向かって摺動するようになる。この際に、昇降アーム３３５７では、バネ３３６２により時計回りの方向への付勢力が作用しているため、その付勢力により裏下中装飾体ユニット３３２０の上方への移動がアシストされ、裏下中昇降駆動モータ３３５２にかかる負荷を軽減させている。

【１１９０】

この駆動ピン３３５６ｂが更に時計回りの方向へ公転して、第一スリット３３５７ａの基端側の端部付近に到達すると、裏下中昇降駆動モータ３３５２による駆動ギア３３５３の回転が停止すると同時に、駆動ピン３３５６ｂの公転が停止する。これにより、昇降アーム３３５７による裏下中装飾体ユニット３３２０の移動が停止し、裏下中装飾体ユニット３３２０が最も上方へ移動した上昇位置の状態となる。

【１１９１】

裏下中装飾体ユニット３３２０が上昇位置の状態では、駆動ピン３３５６ｂにおける第一スリット３３５７ａとの接点を通る法線が、昇降カムギア３３５６の回転中心を通るように延びている。これにより、裏下中装飾体ユニット３３２０の自重により昇降アーム３３５７を反時計回りの方向へ回動させようとする力が作用していても、その力の力線が、第一スリット３３５７ａに当接している駆動ピン３３５６ｂを介して、昇降カムギア３３５６の回転中心を通るため、昇降カムギア３３５６は回転することはない。従って、昇降カムギア３３５６の駆動ピン３３５６ｂも公転しないため、昇降アーム３３５７が回動することはなく、裏下中装飾体ユニット３３２０が上昇位置から下方へ移動することはないと共に、裏下中装飾体ユニット３３２０の自重が昇降アーム３３５７等を介して裏下中昇降駆動モータ３３５２に作用することはない。

【１１９２】

なお、裏下中装飾体ユニット３３２０が上昇位置の状態において、昇降カムギア３３５６を更に公転させて、駆動ピン３３５６ｂを第一スリット３３５７ａの基端側の端部に当接させるようにしても良い。これにより、裏下中装飾体ユニット３３２０の自重により昇降アーム３３５７が反時計回りの方向へ回動しようとすると、第一スリット３３５７ａから駆動ピン３３５６ｂを介して作用する力により、昇降カムギア３３５６が時計回りの方向へ回転しようとする。この際に、駆動ピン３３５６ｂが昇降アーム３３５７の基端側へ移

動するように公転しようとすることとなるが、駆動ピン３３５６ｂが第一スリット３３５７ａの基端側の端部に当接しているため、駆動ピン３３５６ｂが公転することができず、昇降アーム３３５７の回動がロックされて、裏下中装飾体ユニット３３２０の下方への移動を阻止することができる。

【１１９３】

裏下中装飾体ユニット３３２０を上昇位置へ移動させた状態では、裏下中回転装飾体３３１０の殆どが、センター役物２５００の枠内に位置（さらには、遊技領域５ａを転動する遊技球Ｂがセンターフレーム（周壁部２５０１）の外側から内側へと跳ね返ることを防止するセンター役物２５００に設けられた跳ね返り防止部材（ステージカバー２５１５）よりも上側に位置）しており、前方（遊技者側）から良好に、全ての数字装飾を視認することができる（図２０１を参照）。

【１１９４】

裏下中装飾体ユニット３３２０を上昇位置へ移動させた状態から、下降位置へ復帰させる場合は、裏下中昇降駆動モータ３３５２により駆動ギア３３５３を上記とは逆方向に回転させると、昇降アーム３３５７が反時計回りの方向へ回動して裏下中装飾体ユニット３３２０が上昇位置から下方へ移動する。そして、昇降アーム３３５７の先端の検知片３３５７ｃが、裏下中中継基板３３５８の裏下中昇降検知センサ３３５８ａにより検知されたら、裏下中昇降駆動モータ３３５２により駆動ギア３３５３の回転を停止させることにより、裏下中装飾体ユニット３３２０を通常の状態である下降位置（さらには、遊技領域５ａを転動する遊技球Ｂがセンターフレーム（周壁部２５０１）の外側から内側へと跳ね返ることを防止するセンター役物２５００に設けられた跳ね返り防止部材（ステージカバー２５１５）をパチンコ機１において正面視した場合に重なる位置）に復帰させることができる。

【１１９５】

本実施形態の裏下中演出ユニット３３００は、裏下中装飾体ユニット３３２０における裏下中回転駆動モータ３３３３により駆動ギア３３３４を回転させることで、回転ギア３３２７を介して裏下中回転装飾体３３１０を前後方向の軸周りに回転させることができる。この裏下中回転装飾体３３１０を回転させることで、前面に設けられている六つの数字装飾がルーレットのように回転する。裏下中回転装飾体３３１０は、裏下中装飾体ユニット３３２０が下降位置や上昇位置等の何れの位置においても、裏下中回転駆動モータ３３３３により回転させることができる。

【１１９６】

本実施形態の裏下中演出ユニット３３００は、通常の状態では、裏下中回転装飾体３３１０における複数（ここでは、６個）の数字装飾の一つが、回転中心の直上（停止位置）に位置している。例えば、図１６８（ａ）に示すように、裏下中回転装飾体３３１０における「１」の数字装飾が上に位置している状態では、回転ベース３３２４の領域検知片３３２５を、第一領域特定センサ３３３０ａ、第二領域特定センサ３３３０ｂ、及び第三領域特定センサ３３３０ｃの三つの領域特定センサ３３３０により検知していると共に、複数（ここでは、６個）の位置検知片３３２６を、位置特定センサ３３３１が検知していない。

【１１９７】

ここで、まず、三つの領域特定センサ３３３０と、裏下中回転装飾体３３１０の六つの停止位置との関係について説明する。「１」の数字装飾を停止位置とした状態では、上記のように、第一領域特定センサ３３３０ａ、第二領域特定センサ３３３０ｂ、及び第三領域特定センサ３３３０ｃが、回転ベース３３２４の領域検知片３３２５を検知している。つまり、図１６８（ｂ）に示すように、第一領域特定センサ３３３０ａ、第二領域特定センサ３３３０ｂ、及び第三領域特定センサ３３３０ｃが検知の時には、「１」の数字装飾が、停止位置を中心とした±３０度の領域の範囲内に位置している。

【１１９８】

また、第一領域特定センサ３３３０ａ及び第二領域特定センサ３３３０ｂが検知、第三領域特定センサ３３３０ｃが非検知の時には、「２」の数字装飾が、停止位置を中心とした

±３０度の領域の範囲内に位置している。
【１１９９】
また、第一領域特定センサ３３３０ａが検知、第二領域特定センサ３３３０ｂ及び第三領域特定センサ３３３０ｃが非検知の時には、「３」の数字装飾が、停止位置を中心とした±３０度の領域の範囲内に位置している。
【１２００】
更に、第一領域特定センサ３３３０ａ、第二領域特定センサ３３３０ｂ、及び第三領域特定センサ３３３０ｃが非検知の時には、「４」の数字装飾が、停止位置を中心とした±３０度の領域の範囲内に位置している。
【１２０１】
また、第一領域特定センサ３３３０ａ及び第二領域特定センサ３３３０ｂが非検知、第三領域特定センサ３３３０ｃが検知の時には、「５」の数字装飾が、停止位置を中心とした±３０度の領域の範囲内に位置している。
【１２０２】
また、第一領域特定センサ３３３０ａが非検知、第二領域特定センサ３３３０ｂ及び第三領域特定センサ３３３０ｃが検知の時には、「６」の数字装飾が、停止位置を中心とした±３０度の領域の範囲内に位置している。
【１２０３】
このように、第一領域特定センサ３３３０ａ、第二領域特定センサ３３３０ｂ、及び第三領域特定センサ３３３０ｃの三つの領域特定センサ３３３０の検知・非検知の組合せにより、何れの数字装飾が、停止位置を含む停止領域内に位置しているのかを、知る（検知する）ことができる。
【１２０４】
そして、本実施形態の裏下中回転駆動モータ３３３３は、ステッピングモータとされていることから、領域特定センサ３３３０が領域検知片３３２５を検知してから、３０度回転した時に、裏下中回転駆動モータ３３３３の回転を停止させることにより、裏下中回転装飾体３３１０の所望の数字装飾を、停止位置で停止させることが可能となる。しかしながら、そのような制御を行う場合、三つの領域特定センサ３３３０により停止位置の領域を特定させつつ、停止位置で停止させるための原点の認識を行わせなければならず、裏下中回転装飾体３３１０の回転停止にかかる制御が複雑になり、負荷が高くなる問題がある。
そこで、本実施形態では、停止位置を特定するための複数の位置検知片３３２６と、位置検知片３３２６を検知する位置特定センサ３３３１と、を設けており、位置特定センサ３３３１により原点を認識させることで、裏下中回転装飾体３３１０の回転停止にかかる制御の複雑化を抑制して、負荷を軽減させている。
【１２０５】
具体的に詳述すると、裏下中回転装飾体３３１０を、所望の数字装飾を停止位置で停止させたい場合、裏下中回転装飾体３３１０が回転して三つの領域特定センサ３３３０が所望の停止位置を充足する組合せとなると、位置特定センサ３３３１が、第一領域特定センサ３３３０ａに対し、３０度の角度で回転方向へズレているため、位置特定センサ３３３１が位置検知片３３２６の中央を検知している。この状態では、所望の数字が、停止位置から３０度の回転角度で離れている。
【１２０６】
この状態で、裏下中回転装飾体３３１０が、位置検知片３３２６の長さとなるα／２度（ここでは、１１．６７度）、更に回転すると、位置検知片３３２６が位置特定センサ３３３１から離れて、位置特定センサ３３３１が非検知となる。この位置特定センサ３３３１が非検知となった角度を原点とする。そして、そこから（原点から）、β度（ここでは、１８．３３度）回転した時に、裏下中回転駆動モータ３３３３による裏下中回転装飾体３３１０の回転を停止させることで、所望の数字装飾を停止位置に正確に停止させることができる。
【１２０７】

なお、上記では、裏下中回転装飾体３３１０の回転停止を、角度により説明したが、ステッピングモータからなる裏下中回転駆動モータ３３３３の回転ｓｔｅｐにより回転停止させるようにしても良い。例えば、１回転を３９６ｓｔｅｐとした場合、三つの領域特定センサ３３３０が所望の停止位置を充足する組合せとなった状態で、裏下中回転装飾体３３１０が、１３ｓｔｅｐ更に回転すると、位置検知片３３２６が位置特定センサ３３３１から離れて、位置特定センサ３３３１が非検知となる。この位置特定センサ３３３１が非検知となった角度を原点として、２０ｓｔｅｐ回転した時に、裏下中回転駆動モータ３３３３による裏下中回転装飾体３３１０の回転を停止させることで、所望の数字装飾を停止位置に正確に停止させることができる。

【１２０８】

次に、裏下中演出ユニット３３００における発光装飾について説明する。裏下中演出ユニット３３００は、図１６９に示すように、裏下中装飾体ユニット３３２０に、裏下中回転装飾体３３１０を発光装飾させるための複数のＬＥＤが実装された、裏下中第一装飾基板３３２２と裏下中第二装飾基板３３２９とを備えている。裏下中第一装飾基板３３２２の複数のＬＥＤは、裏下中回転装飾体３３１０における六つの数字装飾の後方に位置しており、夫々の数字装飾を、独立して発光装飾させることができる。

【１２０９】

一方、裏下中第二装飾基板３３２９の複数のＬＥＤは、裏下中回転装飾体３３１０における複数の数字装飾よりも外側の部位の後方に位置しており、裏下中回転装飾体３３１０の外周縁を発光装飾させることができる。

【１２１０】

この裏下中演出ユニット３３００は、上述したように、三つの領域特定センサ３３３０により裏下中回転装飾体３３１０の回転位置をある程度、検知することができるため、領域特定センサ３３３０の検知に基づいて、裏下中第一装飾基板３３２２の複数のＬＥＤを適宜発光させることにより、特定の数字装飾のみを発光装飾させた状態や、夫々の数字装飾を異なる色で発光装飾させた状態で、回転させることができ、遊技者の関心を強く引付けられる演出を遊技者に見せることができる。

【１２１１】

また、裏下中装飾体ユニット３３２０が下降位置の状態では、裏下中回転装飾体３３１０の下側の数字装飾が、始動口ユニット２１００の第一始動口２００２の後方に位置しているため、裏下中第一装飾基板３３２２における当該部位のＬＥＤを発光させることにより、第一始動口２００２を発光装飾させることができる。これにより、遊技者の関心を第一始動口２００２へ向けさせることができる。また、第一始動口２００２へ遊技球Ｂが入賞したことを契機に、裏下中第一装飾基板３３２２のＬＥＤを発光（または、複数の発光態様の中から一の発光態様を決定して発光）させるようにしても良い。

【１２１２】

このように、本実施形態の裏下中演出ユニット３３００によれば、これにより、６つの停止位置を有した回転する裏下中回転装飾体３３１０に、三つの停止位置に亘る長さの領域検知片３３２５と、各停止位置に対応している六つの位置検知片３３２６と、を設けると共に、領域検知片３３２５を検知する三つ領域特定センサ３３３０と、位置検知片３３２６を検知する一つの位置特定センサ３３３１と、を設けるようにしているため、裏下中回転装飾体３３１０が回転すると、領域検知片３３２５を検知する三つの領域特定センサ３３３０が、回転方向の一方側から順番に増加した後に減少することを繰り返すこととなり、裏下中回転装飾体３３１０が次の停止位置へ回転するまでの間でも、一旦全ての領域特定センサ３３３０が非検知となることはなく、領域検知片３３２５を検知している領域特定センサ３３３０の組合せにより、裏下中回転装飾体３３１０の現在の回転位置を大まかに把握することができる。

【１２１３】

そして、裏下中回転装飾体３３１０に、夫々の停止位置に対応している六つの位置検知片３３２６を備えているため、三つの領域特定センサ３３３０による領域検知片３３２５の

検知により裏下中回転装飾体３３１０の任意の停止位置への回転を大まかに検知した上で、一つの位置特定センサ３３３１による位置検知片３３２６の検知により、停止位置を正確に検知することができ、停止位置のズレを可及的に少なくして複数の停止位置を有する裏下中回転装飾体３３１０の停止位置を正確に把握することができる。

【１２１４】

また、裏下中回転装飾体３３１０の停止位置を正確に把握することができるため、裏下中回転装飾体３３１０を任意の停止位置に正確に停止させることができ、停止位置がズレることで遊技者に対して違和感を与えてしまうことを防止することが可能となり、裏下中回転装飾体３３１０による演出（可動演出）を楽しませて興趣の低下を抑制させることができる。

【１２１５】

更に、裏下中回転装飾体３３１０の停止位置を正確に把握することができるため、裏下中回転装飾体３３１０の回転速度を速くしても停止位置のズレを抑制することができると共に、裏下中回転装飾体３３１０を回転するものとすることで、裏下中回転装飾体３３１０を往復するものとした場合と比較して、裏下中回転装飾体３３１０の移動速度（回転速度）をより速くすることができる。従って、速く回転する裏下中回転装飾体３３１０により遊技者に対して強いインパクトを与えることができ、遊技者の関心を強く引付けさせることができると共に、裏下中回転装飾体３３１０の回転を楽しませることができ、遊技者の遊技に対する興趣の低下を抑制させることができる。

【１２１６】

また、裏下中回転装飾体３３１０を前後方向の軸周りに回転するものとしていると共に、前面に複数の数字装飾を設けていることから、グルグル回転した後に任意の停止位置で回転停止するルーレットのような演出を遊技者に見せることができるため、所望の数字装飾が停止位置で回転停止するか否かによって遊技者をドキドキ・ワクワクさせることができ、裏下中回転装飾体３３１０による可動演出を楽しませて興趣の低下を抑制させることができる。

【１２１７】

また、裏下中回転装飾体３３１０の停止位置の数を偶数としているため、任意の停止位置への移動の検知に必要な最小限の領域特定センサ３３３０の数により対応可能な停止位置の数と、裏下中回転装飾体３３１０の停止位置との数とが同じとなり、複数の領域特定センサ３３３０による能力（停止位置の把握）を最大限に引き出すことができ、より多くの停止位置を有した裏下中回転装飾体３３１０により遊技者を楽しませて興趣の低下を抑制させることができる。

【１２１８】

更に、領域検知片３３２５や位置検知片３３２６を、裏下中回転装飾体３３１０と一緒に回転する回転ベース３３２４に設けているため、領域検知片３３２５や位置検知片３３２６の半径（直径）を可及的に大きくすることができ、停止位置の位置決め精度をより高くすることができる。

【１２１９】

なお、上記の実施形態では、裏下中回転装飾体３３１０と一体的に（一緒に）回転する回転ベース３３２４に、領域検知片３３２５や位置検知片３３２６を設けたものを示したが、これに限定するものではなく、駆動ギア３３３４のように裏下中回転装飾体３３１０の回転に伴って回転する部材に領域検知片３３２５や位置検知片３３２６を設けるようにしても良い。

【１２２０】

［５－９ｇ．裏上演出ユニット］

続いて、裏ユニット３０００における裏上演出ユニット３４００について、主に図１７０乃至図１７７等を参照して詳細に説明する。図１７０（ａ）は裏ユニットにおける裏上演出ユニットを前から見た斜視図であり、（ｂ）は裏ユニットにおける裏上演出ユニットを後ろから見た斜視図である。図１７１は裏上演出ユニットを主な部材毎に分解して前から

見た分解斜視図であり、図１７２は裏上演出ユニットを主な部材毎に分解して後ろから見た分解斜視図である。図１７３は裏上演出ユニットにおける裏上昇降装飾体ユニットを分解して前から見た分解斜視図であり、図１７４は裏ユニットにおける裏上昇降装飾体ユニットを分解して後ろから見た分解斜視図である。

【１２２１】

図１７５は、裏上演出ユニットにおける裏上前回転装飾体の回転機構を正面から示す説明図である。図１７６（ａ）は裏上演出ユニットにおける裏上昇降装飾体ユニットの昇降機構を正面から示す説明図であり、（ｂ）は裏上昇降装飾体ユニットを出現位置へ移動させた状態で裏上昇降装飾体ユニットの昇降機構と裏上後回転装飾体の回転機構とを正面から示す説明図である。図１７７は、裏上演出ユニットにおいて裏上昇降装飾体ユニットを出現位置へ移動させた状態で装飾基板を正面から示す説明図である。

【１２２２】

裏ユニット３０００の裏上演出ユニット３４００は、裏箱３０１０内における開口部３０１０ａよりも上方で、裏後演出ユニット３１００の前側に取付けられるものである。裏上演出ユニット３４００は、図１７１及び図１７２に示すように、後面の中央から後方へ突出した軸シャフト３４１０ａを有している透明な裏上前回転装飾体３４１０と、裏上前回転装飾体３４１０の軸シャフト３４１０ａが左右方向の中央で貫通している左右に延びた透明な裏上前装飾体３４２１と、裏上前装飾体３４２１の後方に設けられており前面（以下、「表面（実装面）」と記載する場合がある。）に複数のＬＥＤが実装されている裏上前装飾基板３４２２と、裏上前装飾基板３４２２の後方に設けられていると共に前面に裏上前装飾体３４２１が取付けられており裏上前回転装飾体３４１０の軸シャフト３４１０ａを回転可能に支持しているユニットベース３４２３と、を備えている。

【１２２３】

また、裏上演出ユニット３４００は、ユニットベース３４２３の後面との間に空間を形成するように取付けられている後カバー３４２４と、後カバー３４２４の後面に回転軸が前方のユニットベース３４２３との間の空間内に突出するように取付けられている裏上前回転駆動モータ３４２５と、裏上前回転駆動モータ３４２５の回転軸に取付けられている平歯車状の駆動ギア３４２６と、駆動ギア３４２６と噛合している平歯車状で裏上前回転装飾体３４１０の軸シャフト３４１０ａの後端に取付けられていると共に前方へ突出した検知片３４２７ａを有している回転ギア３４２７と、裏上前装飾基板３４２２の後面に取付けられており回転ギア３４２７の検知片３４２７ａを検知可能な裏上回転検知センサ３４２８（リードタイプ）と、を備えている。

【１２２４】

また、裏上演出ユニット３４００は、後カバー３４２４の後面に回転軸が前方のユニットベース３４２３との間の空間内に突出するように取付けられている裏上昇降駆動モータ３４２９と、裏上昇降駆動モータ３４２９の回転軸に取付けられている平歯車状のモータギア３４３０と、モータギア３４３０と噛合しているギア部３４３１ａ、ギア部３４３１ａの円周よりも外方へ突出した部位から後カバー３４２４を貫通して後方へ円柱状に突出している駆動ピン３４３１ｂ、及びギア部３４３１ａの外周付近から前方へ突出している検知片３４３１ｃ、を有しており後カバー３４２４に回転可能に取付けられている昇降カムギア３４３１と、裏上前装飾基板３４２２の後面に取付けられており昇降カムギア３４３１の検知片３４３１ｃを検知可能な裏上昇降検知センサ３４３２（リードタイプ）と、裏上後回転装飾体３４４０が設けられている先端側が昇降カムギア３４３１の駆動ピン３４３１ｂの公転により昇降するように、基端側が後カバー３４２４の後面に前後方向の軸周りに回動可能に取付けられている裏上昇降装飾体ユニット３４５０と、裏上昇降装飾体ユニット３４５０を先端側が上方へ移動する方向へ回動するように付勢しているバネ３４３３と、後カバー３４２４の後側に取付けられており、裏上昇降装飾体ユニット３４５０の上方への移動を規制している棒状の規制部材３４３４と、を備えている。

【１２２５】

裏上昇降装飾体ユニット３４５０は、図１７３及び図１７４に示すように、透明な裏上後

回転装飾体３４４０の後面の中央から後方へ突出している軸シャフト３４４０ａが中央で貫通している透明な裏上後装飾体３４５１と、裏上後装飾体３４５１の後方に設けられており前面（以下、「表面（実装面）」と記載する場合がある。）に複数のＬＥＤが実装されている裏上後装飾基板３４５２と、裏上後装飾基板３４５２の後方から裏上後装飾体３４５１が前面に取付けられていると共に、ユニットベース３４２３に回転可能に取付けられ、裏上後回転装飾体３４４０の軸シャフト３４４０ａを回転可能に支持している昇降ユニットベース３４５３と、を備えている。

【１２２６】

また、裏上昇降装飾体ユニット３４５０は、昇降ユニットベース３４５３の前面に回転軸が後方へ突出するように取付けられている裏上後回転駆動モータ３４５４と、裏上後回転駆動モータ３４５４の回転軸に取付けられている平歯車状の駆動ギア３４５５と、駆動ギア３４５５と噛合しており昇降ユニットベース３４５３に回転可能に取付けられている平歯車状の第一伝達ギア３４５６と、第一伝達ギア３４５６と噛合しており昇降ユニットベース３４５３に回転可能に取付けられている平歯車状の第二伝達ギア３４５７と、第二伝達ギア３４５７と噛合しており裏上後回転装飾体３４４０の軸シャフト３４４０ａの後端に取付けられている平歯車状の回転ギア３４５８と、を備えている。

【１２２７】

更に、裏上昇降装飾体ユニット３４５０は、駆動ギア３４５５、第一伝達ギア３４５６、第二伝達ギア３４５７、及び回転ギア３４５８を後方から覆うように昇降ユニットベース３４５３の後面に取付けられているギアカバー３４５９と、裏上後回転駆動モータ３４５４を前方から覆うように昇降ユニットベース３４５３の前面に取付けられているモータカバー３４６０と、を備えている。

【１２２８】

裏上演出ユニット３４００の裏上前回転装飾体３４１０は、桜の花を模した形状に形成されている。裏上前回転装飾体３４１０の後面の中央から後方へ突出している軸シャフト３４１０ａは、裏上前装飾体３４２１、裏上前装飾基板３４２２、及びユニットベース３４２３を貫通して、ユニットベース３４２３と後カバー３４２４との間の空間まで延びている。裏上前装飾体３４２１は、左右方向の中央に、裏上前回転装飾体３４１０と同じ大きさの二つの桜の花を、前後に重ねた上で後側の花弁が、前側の花弁同士の間に位置するように回転させたような形状の装飾を有している。

【１２２９】

裏上前装飾基板３４２２は、裏上前装飾体３４２１の左右方向の略全長に亘って左右に延びている。裏上前装飾基板３４２２の表面（実装面）に実装される複数のＬＥＤを発光させることで、裏上前回転装飾体３４１０及び裏上前装飾体３４２１を発光装飾させることができる。裏上前装飾基板３４２２の表面（実装面）に実装されている複数のＬＥＤは、表面実装タイプであって多色発光可能なフルカラーＬＥＤである。

【１２３０】

裏上前回転装飾体３４１０及び裏上前装飾体３４２１は、透明に形成されており、光を撹乱可能な複数の微細な凹凸が形成されている。詳述すると、裏上前回転装飾体３４１０は、ランダムな方向へ短く線状に延びた複数の突条により梨肌状のパターンに形成されており、裏上前回転装飾体３４１０及び裏上前装飾体３４２１により摸されている桜の花の一つの花弁において、花弁の中央から周縁へ向かうに従って、濃淡が濃くなる（透明度が低くなるもの）なるようにパチンコ機１（遊技盤５）のコンセプト（つまり、パチンコ機１（遊技盤５）の世界観）に沿った所定色（本実施形態では桃色）の複数のドットが印刷により施されていると共に、裏上前装飾体３４２１のうち裏上前回転装飾体３４１０と対応する領域を除いた領域では一定の濃淡となるように（花弁の周縁部における濃淡の濃さと比べて濃淡が薄く、透明度が高くなるように）パチンコ機１（遊技盤５）のコンセプト（つまり、パチンコ機１（遊技盤５）の世界観）に沿った所定色（本実施形態では桃色）の複数のドットが印刷により施されているが、裏上前回転装飾体３４１０及び裏上前装飾体３４２１を通して（花弁の周縁部においても）、裏上前装飾体３４２１の後方に配置され

る裏上前装飾基板３４２２の表面（実装面）を視認することができるようになっている。
【１２３１】
なお、裏上前装飾基板３４２２の表面（実装面）に実装される複数のＬＥＤ等の表面側電子部品の部品番号、表面側電子部品を配置する位置を示す領域等の表面側電子部品の属性（さらに、表面側電子部品の形状、表面側電子部品の大きさ、表面側電子部品の実装向き（実装方向）、表面側電子部品の型式を含む場合がある。）を示す表面側表記部が裏上前装飾基板３４２２の表面（実装面）に所定の塗料の色でシルク印刷により印刷されると共に、透明な裏上前回転装飾体３４１０の後方には、透明な裏上前装飾体３４２１、そして裏上前装飾基板３４２２が順番に配置されているため、裏上前装飾基板３４２２の表面（実装面）にシルク印刷により印刷される所定の塗料の色が裏上前装飾体３４２１を介して、又は裏上前装飾体３４２１、そして裏上前回転装飾体３４１０を介して、視認可能となっており、複数のＬＥＤが消灯している状態において、所定の塗料の色を視認できる場合には所定の塗料の色により文字、記号、形状（つまり、表面側表記部が示す表面側電子部品の属性）を判別することができる。
【１２３２】
また、裏上前装飾基板３４２２の表面（実装面）の表面（実装面）に実装される複数のＬＥＤは、それぞれのパッケージが白色（白色と同色であると認められる色）の樹脂製となっている。
【１２３３】
裏上前装飾基板３４２２の表面（前面）には、複数のＬＥＤ（表面実装タイプ）、裏上回転検知センサ３４２８（リードタイプ）、及び裏上昇降検知センサ３４３２（リードタイプ）が半田付けされるパッド、スルーホール、ランド等を除いた全域において、白色のレジスト液が塗布されて形成される白色塗膜（以下、単に「ベタ塗りされた白色のレジスト」と記載する場合がある。）により白色のレジスト層が形成されている。裏上前装飾基板３４２２の裏面（後面）には、複数のコネクタ（表面実装タイプ）、裏上回転検知センサ３４２８（リードタイプ）、及び裏上昇降検知センサ３４３２（リードタイプ）が半田付けされるパッド、スルーホール、ランド等を除いた全域において、ベタ塗りされた白色のレジストにより白色のレジスト層が形成されている。更に、裏上前装飾基板３４２２の表面（前面）には、図示は省略するが、実装されている複数のＬＥＤ等の表面側電子部品の近傍に、表面側電子部品の部品番号、表面側電子部品を配置する位置を示す領域等の表面側電子部品の属性（さらに、表面側電子部品の形状、表面側電子部品の大きさ、表面側電子部品の実装向き（実装方向）、表面側電子部品の型式を含む場合がある。）を示す表面側表記部が、白色に対して目立ち難い明色である黄色の塗料で、ベタ塗りされた白色のレジスト上にシルク印刷により印刷されている。裏上前装飾基板３４２２の裏面（後面）には、図示は省略するが、コネクタ等の裏面側電子部品の近傍に、裏面側電子部品の部品番号、裏面側電子部品を配置する位置を示す領域等の裏面側電子部品の属性（さらに、裏面側電子部品の形状、裏面側電子部品の大きさ、裏面側電子部品の実装向き（実装方向）、裏面側電子部品の型式を含む場合がある。）を示す裏面側表記部が、白色に対して目立ち難い明色である黄色の塗料で、ベタ塗りされた白色のレジスト上にシルク印刷により印刷されている。
【１２３４】
ユニットベース３４２３は、裏上前装飾基板３４２２の後面に取付けられている裏上回転検知センサ３４２８及び裏上昇降検知センサ３４３２が夫々挿通される貫通孔３４２３ａを有している。後カバー３４２４は、裏上前回転装飾体３４１０の軸シャフト３４１０ａと同軸上で、後面から後方へ突出している円柱状の支持軸３４２４ａと、昇降カムギア３４３１の駆動ピン３４３１ｂが挿通される円弧状に延びたスリット３４２４ｂと、を有している。後カバー３４２４の支持軸３４２４ａは、裏上昇降装飾体ユニット３４５０を回動可能に支持するためのものであり、昇降ユニットベース３４５３の軸孔３４５３ａ内に挿入される。
【１２３５】

回転ギア３４２７の検知片３４２７ａは、ユニットベース３４２３の貫通孔３４２３ａを貫通して後方へ突出した裏上回転検知センサ３４２８に検知される。昇降カムギア３４３１は、ギア部３４３１ａが半円弧状に形成されており、ギア部３４３１ａの反対側から外方へ膨出した部位に後方へ突出した駆動ピン３４３１ｂが設けられている。昇降カムギア３４３１の駆動ピン３４３１ｂは、後カバー３４２４のスリット３４２４ｂを貫通して裏上昇降装飾体ユニット３４５０における昇降ユニットベース３４５３のスリット３４５３ｂ内に摺動可能に挿入される。また、昇降カムギア３４３１の検知片３４３１ｃは、ユニットベース３４２３の貫通孔３４２３ａを貫通して後方へ突出した裏上昇降検知センサ３４３２に検知される。

【１２３６】

裏上後回転装飾体３４４０は、桜の花を模した形状に形成されている。裏上後回転装飾体３４４０の後面の中央から後方へ突出している軸シャフト３４４０ａは、裏上後装飾体３４５１、裏上後装飾基板３４５２、及び昇降ユニットベース３４５３を貫通して、昇降ユニットベース３４５３の後側まで延びている。裏上後装飾体３４５１は、裏上後回転装飾体３４４０と同じ大きさの二つの桜の花を、前後に重ねた上で後側の花弁が、前側の花弁同士の間に位置するように回転させたような形状の装飾を有している。

【１２３７】

裏上後装飾基板３４５２は、前面に実装されている複数のＬＥＤを発光させることで、裏上後回転装飾体３４４０及び裏上後装飾体３４５１を発光装飾させることができる。裏上後装飾基板３４５２の表面（実装面）に実装される複数のＬＥＤは、表面実装タイプであって多色発光可能なフルカラーＬＥＤである。

【１２３８】

裏上後回転装飾体３４４０及び裏上後装飾体３４５１は、透明に形成されており、光を撹乱可能な複数の微細な凹凸が形成されている。詳述すると、裏上後回転装飾体３４４０及び裏上後装飾体３４５１は、ランダムな方向へ短く線状に延びた複数の突条により梨肌状のパターンに形成されており、裏上後回転装飾体３４４０及び裏上後装飾体３４５１により摸されている桜の花の一つの花弁において、花弁の中央から周縁へ向かうに従って、濃淡が濃くなる（透明度が低くなるもの）なるようにパチンコ機１（遊技盤５）のコンセプト（つまり、パチンコ機１（遊技盤５）の世界観）に沿った所定色（本実施形態では桃色）の複数のドットが印刷により施されているが、裏上後回転装飾体３４４０及び裏上後装飾体３４５１を通して（花弁の周縁部においても）、裏上後装飾体３４５１の後方に配置される裏上後装飾基板３４５２の表面（実装面）を視認することができるようになっている。

【１２３９】

なお、裏上後装飾基板３４５２の表面（実装面）に実装される複数のＬＥＤやコネクタ等の表面側電子部品の部品番号、表面側電子部品を配置する位置を示す領域等の表面側電子部品の属性（さらに、表面側電子部品の形状、表面側電子部品の大きさ、表面側電子部品の実装向き（実装方向）、表面側電子部品の型式を含む場合がある。）を示す表面側表記部が裏上後装飾基板３４５２の表面（実装面）に所定の塗料の色でシルク印刷により印刷されると共に、透明な裏上後回転装飾体３４４０の後方には、透明な裏上後装飾体３４５１、そして裏上後装飾基板３４５２が順番に配置されているため、裏上後装飾基板３４５２の表面（実装面）にシルク印刷により印刷される所定の塗料の色が裏上後装飾体３４５１を介して、又は裏上後装飾体３４５１、そして裏上後回転装飾体３４４０を介して、視認可能となっており、複数のＬＥＤが消灯している状態において、所定の塗料の色を視認できる場合には所定の塗料の色により文字、記号、形状（つまり、表面側表記部が示す表面側電子部品の属性）を判別することができる。

【１２４０】

また、裏上後装飾基板３４５２の表面（実装面）に実装される複数のＬＥＤは、それぞれのパッケージが白色（白色と同色であると認められる色）の樹脂製となっており、コネクタは、そのハウジングが白色（ナチュラル色とも言われ、白色（ナチュラル色）と同色で

あると認められる色）の樹脂製となっている。
【１２４１】
裏上後装飾基板３４５２の表面（前面）には、複数のＬＥＤ（表面実装タイプ）が半田付けされるパッド、スルーホール、ランド等を除いた全域において、白色のレジスト液が塗布されて形成される白色塗膜（以下、単に「ベタ塗りされた白色のレジスト」と記載する場合がある。）により白色のレジスト層が形成されている。裏上後装飾基板３４５２の裏面（後面）には、コネクタ（表面実装タイプ）が半田付けされるパッド、スルーホール、ランド等を除いた全域において、ベタ塗りされた白色のレジストにより白色のレジスト層が形成されている。更に、裏上後装飾基板３４５２の表面（前面）には、図示は省略するが、実装されている複数のＬＥＤの表面側電子部品の近傍に、表面側電子部品の部品番号、表面側電子部品を配置する位置を示す領域等の表面側電子部品の属性（さらに、表面側電子部品の形状、表面側電子部品の大きさ、表面側電子部品の実装向き（実装方向）、表面側電子部品の型式を含む場合がある。）を示す表面側表記部が、白色に対して目立ち難い明色である黄色の塗料で、ベタ塗りされた白色のレジスト上にシルク印刷により印刷されている。裏上後装飾基板３４５２の裏面（後面）には、図示は省略するが、コネクタの裏面側電子部品の近傍に、裏面側電子部品の部品番号、裏面側電子部品を配置する位置を示す領域等の裏面側電子部品の属性（さらに、裏面側電子部品の形状、裏面側電子部品の大きさ、裏面側電子部品の実装向き（実装方向）、裏面側電子部品の型式を含む場合がある。）を示す裏面側表記部が、白色に対して目立ち難い明色である黄色の塗料で、ベタ塗りされた白色のレジスト上にシルク印刷により印刷されている。
【１２４２】
昇降ユニットベース３４５３は、基端側（正面視において右端側）に前後に貫通し後カバー３４２４の支持軸３４２４ａが相対回転可能に挿入される軸孔３４５３ａと、軸孔３４５３ａの右方に設けられており軸孔３４５３ａの中心を通る線上に沿って延びている長孔状のスリット３４５３ｂと、を有している。昇降ユニットベース３４５３のスリット３４５３ｂ内には、昇降カムギア３４３１の駆動ピン３４３１ｂが摺動可能に挿入される。モータカバー３４６０は、前面に桜の花を模した装飾が形成されている。
【１２４３】
ここで、レジスト液の色として白色のものを採用し、シルク印刷の塗料として黄色を採用した理由について説明する。まず、反射率は、白色に近いほど高くなるのに対して、黒色に近づくと低くなる。黄色の反射率は赤色の反射率と比べると白色の反射率に非常に近く、赤色の反射率は黄色の反射率と比べて白色の反射率に非常に遠い。黄色の反射率は白色塗膜の白色の反射率と比べて低いものの高い反射率を有している。このため、白色と赤色との組み合わせでは、背景が白色であると赤色が目立つこととなり、表面側表記部（裏面側表記部）を赤色とする場合には白色のレジストに対して赤色の表面側表記部（白色のレジストに対して赤色の裏面側表記部）が目立つのに対して、白色と黄色との組み合わせ（本実施形態の構成）では、背景が白色であると黄色が目立たず、表面側表記部（裏面側表記部）を黄色とする場合には白色のレジストに対して黄色の表面側表記部（白色のレジストに対して黄色の裏面側表記部）が目立ち難い。
【１２４４】
また、パチンコ機１は各装飾基板に実装される複数のＬＥＤ等の発光部による電飾により煌びやかに発光演出が行われるため、複数のＬＥＤは、上述したように、多色発光可能なフルカラーＬＥＤであり、点灯（発光）したり、消灯したりすることによって発光態様がさまざまに変化する。このため、裏上前装飾基板３４２２及び裏上後装飾基板３４５２の表面（前面）には、上述したように、複数のＬＥＤ等が半田付けされるパッド、スルーホール、ランド等を除いた全域において、白色のレジスト液が塗布されて形成される白色塗膜（以下、単に「ベタ塗りされた白色のレジスト」と記載する場合がある。）により白色のレジスト層が形成され、さらに、このベタ塗りされた白色のレジスト上に多色発光可能なフルカラーＬＥＤを特定可能にする表面側表記部が黄色の塗料でシルク印刷により印刷されることにより、多色発光可能なフルカラーＬＥＤの消灯時において白色のレジストに

対して黄色の表面側表記部を目立たないようにすることができることに加えて、さらに、多色発光可能なフルカラーＬＥＤの点灯時（発光時）において、反射率の高いベタ塗りされた白色のレジストと、白色の反射率に非常に近い黄色の塗料でシルク印刷により印刷される表面側表記部と、による組み合わせによって裏上前装飾基板３４２２及び裏上後装飾基板３４５２の表面（前面）の反射率を高く維持することができる。

【１２４５】

なお、シルク印刷の塗料として黄色を採用した場合には、シルク印刷により印刷された黄色が印刷機によるバラツキにより薄い黄色となったり、濃い黄色となったりする場合もあれば、橙色に見えたりする場合もある。また、シルク印刷の塗料を供給するインク会社にも黄色に幅（明るい側に寄る黄色、暗い側による黄色）があるため、同一の基板製造会社や複数の基板会社に対してシルク印刷の塗料として黄色を指定しても、完全同一の黄色とならず（完全同一の黄色とすることが難しく）、黄色に幅がある色となる。

【１２４６】

次に、裏上演出ユニット３４００における裏上前回転装飾体３４１０、裏上後回転装飾体３４４０、及び裏上昇降装飾体ユニット３４５０の動きについて説明する。裏上演出ユニット３４００は、通常の状態では、裏上前回転装飾体３４１０の軸シャフト３４１０ａに取付けられている回転ギア３４２７の検知片３４２７ａが、裏上回転検知センサ３４２８により検知されており、裏上前回転装飾体３４１０が、一つの花弁を上方へ向けた状態となっている（図１７５を参照）。この状態で、裏上前回転駆動モータ３４２５により駆動ギア３４２６を回転させると、回転ギア３４２７を介して裏上前回転装飾体３４１０を前後方向の軸周りに回転させることができる。

【１２４７】

また、通常の状態では、先端側に裏上後回転装飾体３４４０が設けられている裏上昇降装飾体ユニット３４５０が、左右方向へ延びた状態となっており、先端側を除いた全体が、裏上前装飾体３４２１の後方に位置して前方から視認不能な退避位置の状態となっている（図１７６（ａ）を参照）。なお、裏上昇降装飾体ユニット３４５０の裏上前装飾体３４２１よりも左方へ突出している部位は、遊技盤５に組立てた状態で、裏前左演出ユニット３７００の後方に位置しており、前方から視認不能となっている。

【１２４８】

この通常の状態では、昇降カムギア３４３１の検知片３４３１ｃが、裏上昇降検知センサ３４３２により検知されている。また、昇降カムギア３４３１の駆動ピン３４３１ｂが、その公転中心よりも下方に位置していると共に、裏上昇降装飾体ユニット３４５０の昇降ユニットベース３４５３のスリット３４５３ｂ内における軸孔３４５３ａから遠い端部付近に位置している。

【１２４９】

詳述すると、昇降カムギア３４３１の駆動ピン３４３１ｂにおけるスリット３４５３ｂとの接点を通る法線が、昇降カムギア３４３１の回転中心を通るように延びている。これにより、裏上昇降装飾体ユニット３４５０の自重により昇降ユニットベース３４５３を、先端側が下方へ移動するように反時計回りの方向へ回動させようとする力が作用していても、その力の力線が、スリット３４５３ｂに当接している駆動ピン３４３１ｂを介して、昇降カムギア３４３１の回転中心を通るため、昇降カムギア３４３１は回転することはない。従って、昇降カムギア３４３１の駆動ピン３４３１ｂも公転しないため、昇降ユニットベース３４５３が回動することはなく、裏上昇降装飾体ユニット３４５０が退避位置から、先端側が下方へ移動するように回動することはない。そのため、裏上昇降装飾体ユニット３４５０の自重が、昇降ユニットベース３４５３及び昇降カムギア３４３１を介して裏上昇降駆動モータ３４２９に作用することはない。

【１２５０】

なお、通常の状態において、昇降カムギア３４３１の駆動ピン３４３１ｂを、スリット３４５３ｂの軸孔３４５３ａから遠い端部に当接させるようにしても良い。これにより、裏上昇降装飾体ユニット３４５０の自重により昇降ユニットベース３４５３が反時計回りの

方向へ回動しようとすると、スリット３４５３ｂから駆動ピン３４３１ｂを介して作用する力により、昇降カムギア３４３１が反時計回りの方向へ回転しようとする。この際に、駆動ピン３４３１ｂが昇降ユニットベース３４５３の軸孔３４５３ａから遠ざかる方向へ移動するように公転しようとすることとなるが、駆動ピン３４３１ｂがスリット３４５３ｂの軸孔３４５３ａから遠い端部に当接しているため、駆動ピン３４３１ｂが公転することができず、昇降ユニットベース３４５３の回動がロックされて、裏上昇降装飾体ユニット３４５０の反時計回りの方向への回動を阻止することができる。

【１２５１】

この通常の状態で、裏上昇降駆動モータ３４２９によりモータギア３４３０を反時計回りの方向へ回転させると、モータギア３４３０に噛合しているギア部３４３１ａにより、昇降カムギア３４３１が時計回りの方向へ回転することとなり、昇降カムギア３４３１の駆動ピン３４３１ｂが時計回りの方向へ公転することとなる。この駆動ピン３４３１ｂが時計回りの方向へ公転することで、駆動ピン３４３１ｂが左方且つ上方へ移動することとなり、駆動ピン３４３１ｂがスリット３４５３ｂ内を軸孔３４５３ａの方向へ向かって摺動すると共に、裏上昇降装飾体ユニット３４５０の自重により昇降ユニットベース３４５３が、その先端側が下方へ移動するように軸孔３４５３ａを中心として反時計回りの方向へ回動することとなる。

【１２５２】

昇降カムギア３４３１の駆動ピン３４３１ｂが時計回りの方向へ公転して、昇降カムギア３４３１の回転中心と昇降ユニットベース３４５３の軸孔３４５３ａの中心とを結んだ直線よりも上方へ移動すると、駆動ピン３４３１ｂがスリット３４５３ｂ内を、軸孔３４５３ａから遠ざかる方向へ摺動するようになる。そして、駆動ピン３４３１ｂが更に時計回りの方向へ公転して、スリット３４５３ｂにおける軸孔３４５３ａから遠い端部付近に到達すると、裏上昇降駆動モータ３４２９によりモータギア３４３０の回転が停止すると同時に、駆動ピン３４３１ｂの公転が停止する。

【１２５３】

これにより、昇降ユニットベース３４５３を介した裏上昇降装飾体ユニット３４５０の反時計回りの方向への回動が停止し、裏上後回転装飾体３４４０を含む裏上昇降装飾体ユニット３４５０の先端側が、裏上前装飾体３４２１よりも下方へ移動した出現位置の状態となる（図１７６（ｂ）を参照）。この出現位置の状態では、裏上昇降装飾体ユニット３４５０の中央付近よりも先端側が、裏上前装飾体３４２１よりも下方に位置しているため、裏上後回転装飾体３４４０等が前方から視認可能な状態となる。

【１２５４】

裏上昇降装飾体ユニット３４５０が出現位置の状態では、駆動ピン３４３１ｂにおけるスリット３４５３ｂとの接点を通る法線が、昇降カムギア３４３１の回転中心を通るように延びている。これにより、裏上昇降装飾体ユニット３４５０の自重により昇降ユニットベース３４５３を更に反時計回りの方向へ回動させようとする力が作用していても、その力の力線が、スリット３４５３ｂに当接している駆動ピン３４３１ｂを介して、昇降カムギア３４３１の回転中心を通るため、昇降カムギア３４３１は回転することはない。従って、昇降カムギア３４３１の駆動ピン３４３１ｂも公転しないため、昇降ユニットベース３４５３が回動することはなく、裏上昇降装飾体ユニット３４５０が出現位置から更に、先端側が下方へ移動するように反時計回りの方向へ回動することはないと共に、裏上昇降装飾体ユニット３４５０の自重が昇降カムギア３４３１を介して裏上昇降駆動モータ３４２９に作用することはない。

【１２５５】

なお、裏上昇降装飾体ユニット３４５０が出現位置の状態において、昇降カムギア３４３１を更に公転させて、駆動ピン３４３１ｂをスリット３４５３ｂの軸孔３４５３ａから遠い端部に当接させるようにしても良い。これにより、裏上昇降装飾体ユニット３４５０の自重により昇降ユニットベース３４５３が更に反時計回りの方向へ回動しようとすると、スリット３４５３ｂから駆動ピン３４３１ｂを介して作用する力により、昇降カムギア３

４３１が時計回りの方向へ回転しようとする。この際に、駆動ピン３４３１ｂが昇降ユニットベース３４５３の軸孔３４５３ａから遠ざかる方向へ移動するように公転しようとすることとなるが、駆動ピン３４３１ｂがスリット３４５３ｂの軸孔３４５３ａから遠い端部に当接しているため、駆動ピン３４３１ｂは公転することができず、昇降ユニットベース３４５３の回動がロックされて、裏上昇降装飾体ユニット３４５０の反時計回りの方向への回動を阻止することができる。

【１２５６】

裏上昇降装飾体ユニット３４５０を退避位置から出現位置側へ移動させた状態では、先端側に設けられている裏上後回転装飾体３４４０が前方から視認可能となる。裏上昇降装飾体ユニット３４５０では、裏上後回転駆動モータ３４５４により駆動ギア３４５５を回転させると、第一伝達ギア３４５６、第二伝達ギア３４５７、及び回転ギア３４５８を介して、裏上後回転装飾体３４４０を前後方向の軸周りに回転させることができる（図１７６（ｂ）を参照）。従って、裏上後回転装飾体３４４０が前方から視認可能な時に、裏上後回転駆動モータ３４５４により駆動ギア３４５５を回転させると、回転している裏上後回転装飾体３４４０を視認させることができる。

【１２５７】

裏上昇降装飾体ユニット３４５０を出現位置から退避位置へ復帰させる場合は、裏上昇降駆動モータ３４２９によりモータギア３４３０を上記とは逆方向へ回転させることで、昇降カムギア３４３１の駆動ピン３４３１ｂが、昇降ユニットベース３４５３のスリット３４５３ｂの内面を下方へ押圧し、昇降ユニットベース３４５３が時計回りの方向へ回動して、裏上昇降装飾体ユニット３４５０の先端側が上方へ移動する。そして、昇降カムギア３４３１の検知片３４３１ｃが、裏上昇降検知センサ３４３２により検知されたら、裏上昇降駆動モータ３４２９によるモータギア３４３０の回転を停止させることにより、裏上昇降装飾体ユニット３４５０を退避位置に復帰させることができる。

【１２５８】

この際に、バネ３４３３が、裏上昇降装飾体ユニット３４５０を時計回りの方向へ付勢しており、裏上昇降装飾体ユニット３４５０の退避位置側への回動をアシストして、裏上昇降駆動モータ３４２９にかかる負荷を軽減させている。

【１２５９】

本実施形態の裏上演出ユニット３４００は、図１７７に示すように、裏上前回転装飾体３４１０及び裏上前装飾体３４２１の後方に、裏上前装飾基板３４２２が設けられているため、裏上前装飾基板３４２２に実装されている複数のＬＥＤを適宜発光させることで、裏上前回転装飾体３４１０及び裏上前装飾体３４２１を発光装飾させることができる。また、裏上後回転装飾体３４４０及び裏上後装飾体３４５１の後方に、裏上後装飾基板３４５２が設けられているため、裏上後装飾基板３４５２に実装されている複数のＬＥＤを適宜発光させることで、裏上後回転装飾体３４４０及び裏上後装飾体３４５１を発光装飾させることができる。

【１２６０】

この際に、裏上昇降装飾体ユニット３４５０を退避位置から出現位置側へ回動させた状態で、裏上後装飾基板３４５２のＬＥＤを発光させることで、発光装飾されている裏上後回転装飾体３４４０及び裏上後装飾体３４５１を遊技者に見せることができる。

【１２６１】

［５－９ｈ．裏後左演出ユニット］

続いて、裏ユニット３０００における裏後左演出ユニット３５００について、主の図１７８乃至図１８４等を参照して、詳細に説明する。図１７８（ａ）は裏ユニットにおける裏後左演出ユニットを前から見た斜視図であり、（ｂ）は裏ユニットにおける裏後左演出ユニットを後ろから見た斜視図である。図１７９は裏後左演出ユニットを主な部材毎に分解して前から見た分解斜視図であり、図１８０は裏後左演出ユニットを主な部材毎に分解して後ろから見た分解斜視図である。図１８１は裏後左演出ユニットの裏後左装飾体ユニットを分解して前から見た分解斜視図であり、図１８２は裏後左演出ユニットの裏後左装飾

体ユニットを分解して後ろから見た分解斜視図である。図１８３は、裏後左演出ユニットの可動機構を正面から示す説明図である。図１８４は、裏後左演出ユニットにおける裏後左装飾体ユニットの動きを示す説明図である。

【１２６２】

裏ユニット３０００の裏後左演出ユニット３５００は、裏箱３０１０内の左端付近で、裏後演出ユニット３１００の左辺の前方に設けられている。裏後左演出ユニット３５００は、前後方向の軸周りに回転可能な透明な裏後左回転装飾体３５１０と、下端側において裏後左回転装飾体３５１０を回転可能に支持している裏後左装飾体ユニット３５２０と、裏後左装飾体ユニット３５２０の上端側を前後方向の軸周りに回動させ、裏箱３０１０内に取付けられている裏後左駆動ユニット３５５０と、を備えている。

【１２６３】

裏後左演出ユニット３５００の裏後左回転装飾体３５１０は、桜の花を模した形状に形成されている。裏後左回転装飾体３５１０は、後面の中央から後方へ円柱状に突出している軸シャフト３５１０ａを有している（図１８２を参照）。

【１２６４】

裏後左装飾体ユニット３５２０は、図１８１及び図１８２に示すように、透明な裏後左回転装飾体３５１０の軸シャフト３５１０ａが中央で貫通している透明な裏後左装飾体３５２１と、裏後左装飾体３５２１の後方に設けられており前面（以下、「表面（実装面）」と記載する場合がある。）に複数のＬＥＤが実装されている裏後左装飾基板３５２２と、裏後左装飾基板３５２２の後方から裏後左装飾体３５２１の後側に取付けられていると共に、裏後左回転装飾体３５１０の軸シャフト３５１０ａを回転可能に支持している前カバー３５２３と、前カバー３５２３の後側に取付けられていると共に、上端側が裏後左駆動ユニット３５５０に回転可能に取付けられる可動ベース３５２４と、を備えている。

【１２６５】

また、裏後左装飾体ユニット３５２０は、可動ベース３５２４の後面に回転軸が可動ベース３５２４と前カバー３５２３との間へ突出するように取付けられている裏後左回転駆動モータ３５２５と、裏後左回転駆動モータ３５２５の回転軸に取付けられている平歯車状の駆動ギア３５２６と、駆動ギア３５２６と噛合しており裏後左回転装飾体３５１０の軸シャフト３５１０ａの後端に取付けられている平歯車状の回転ギア３５２７と、を備えている。

【１２６６】

裏後左装飾体ユニット３５２０の裏後左装飾体３５２１は、裏後左回転装飾体３５１０と同じ大きさの二つの桜の花を、前後に重ねた上で後側の花弁が、前側の花弁同士の間に位置するように回転させたような形状に形成されている。裏後左装飾基板３５２２の表面（実装面）に実装される複数のＬＥＤは、表面実装タイプであって多色発光可能なフルカラーＬＥＤである。

【１２６７】

裏後左回転装飾体３５１０及び裏後左装飾体３５２１は、透明に形成されると共に、光を撹乱可能な複数の微細な凹凸が形成されている。詳述すると、裏後左回転装飾体３５１０及び裏後左装飾体３５２１は、ランダムな方向へ短く線状に延びた複数の突条により梨肌状のパターンに形成されており、裏後左回転装飾体３５１０及び裏後左装飾体３５２１により摸されている桜の花の一つの花弁において、花弁の中央から周縁へ向かうに従って、濃淡が濃くなる（透明度が低くなるもの）なるようにパチンコ機１（遊技盤５）のコンセプト（つまり、パチンコ機１（遊技盤５）の世界観）に沿った所定色（本実施形態では桃色）の複数のドットが印刷により施されているが、裏後左回転装飾体３５１０及び裏後左装飾体３５２１を通して（花弁の周縁部においても）、裏後左装飾体３５２１の後方に配置される裏後左装飾基板３５２２の表面（実装面）を視認することができるようになっている。

【１２６８】

なお、裏後左装飾基板３５２２の表面（実装面）に実装される複数のＬＥＤ等の表面側電

子部品の部品番号、表面側電子部品を配置する位置を示す領域等の表面側電子部品の属性（さらに、表面側電子部品の形状、表面側電子部品の大きさ、表面側電子部品の実装向き（実装方向）、表面側電子部品の型式を含む場合がある。）を示す表面側表記部が裏後左装飾基板３５２２の表面（実装面）に所定の塗料の色でシルク印刷により印刷されると共に、透明な裏後左回転装飾体３５１０の後方には、透明な裏後左装飾体３５２１、そして裏後左装飾基板３５２２が順番に配置されているため、裏後左装飾基板３５２２の表面（実装面）にシルク印刷により印刷される所定の塗料の色が裏後左装飾体３５２１、そして裏後左回転装飾体３５１０を介して、視認可能となっており、複数のＬＥＤが消灯している状態において、所定の塗料の色を視認できる場合には所定の塗料の色により文字、記号、形状（つまり、表面側表記部が示す表面側電子部品の属性）を判別することができる。

【１２６９】

また、裏後左装飾基板３５２２の表面（実装面）に実装される複数のＬＥＤは、それぞれのパッケージが白色（白色と同色であると認められる色）の樹脂製となっている。

【１２７０】

裏後左装飾基板３５２２の表面（前面）には、複数のＬＥＤ（表面実装タイプ）が半田付けされるパッド、スルーホール、ランド等を除いた全域において、白色のレジスト液が塗布されて形成される白色塗膜（以下、単に「ベタ塗りされた白色のレジスト」と記載する場合がある。）により白色のレジスト層が形成されている。裏後左装飾基板３５２２の裏面（後面）には、コネクタ（表面実装タイプ）が半田付けされるパッド、スルーホール、ランド等を除いた全域において、ベタ塗りされた白色のレジストにより白色のレジスト層が形成されている。更に、裏後左装飾基板３５２２の表面（前面）には、図示は省略するが、実装されている複数のＬＥＤ等の表面側電子部品の近傍に、表面側電子部品の部品番号、表面側電子部品を配置する位置を示す領域等の表面側電子部品の属性（さらに、表面側電子部品の形状、表面側電子部品の大きさ、表面側電子部品の実装向き（実装方向）、表面側電子部品の型式を含む場合がある。）を示す表面側表記部が、白色に対して目立ち難い明色である黄色の塗料で、ベタ塗りされた白色のレジスト上にシルク印刷により印刷されている。裏後左装飾基板３５２２の裏面（後面）には、図示は省略するが、コネクタ等の裏面側電子部品の近傍に、裏面側電子部品の部品番号、裏面側電子部品を配置する位置を示す領域等の裏面側電子部品の属性（さらに、裏面側電子部品の形状、裏面側電子部品の大きさ、裏面側電子部品の実装向き（実装方向）、裏面側電子部品の型式を含む場合がある。）を示す裏面側表記部が、白色に対して目立ち難い明色である黄色の塗料で、ベタ塗りされた白色のレジスト上にシルク印刷により印刷されている。

【１２７１】

ここで、レジスト液の色として白色のものを採用し、シルク印刷の塗料として黄色を採用した理由について説明する。まず、反射率は、白色に近いほど高くなるのに対して、黒色に近づくと低くなる。黄色の反射率は赤色の反射率と比べると白色の反射率に非常に近く、赤色の反射率は黄色の反射率と比べて白色の反射率に非常に遠い。黄色の反射率は白色塗膜の白色の反射率と比べて低いものの高い反射率を有している。このため、白色と赤色との組み合わせでは、背景が白色であると赤色が目立つこととなり、表面側表記部（裏面側表記部）を赤色とする場合には白色のレジストに対して赤色の表面側表記部（白色のレジストに対して赤色の裏面側表記部）が目立つのに対して、白色と黄色との組み合わせ（本実施形態の構成）では、背景が白色であると黄色が目立たず、表面側表記部（裏面側表記部）を黄色とする場合には白色のレジストに対して黄色の表面側表記部（白色のレジストに対して黄色の裏面側表記部）が目立ち難い。

【１２７２】

また、パチンコ機１は各装飾基板に実装される複数のＬＥＤ等の発光部による電飾により煌びやかに発光演出が行われるため、複数のＬＥＤは、上述したように、多色発光可能なフルカラーＬＥＤであり、点灯（発光）したり、消灯したりすることによって発光態様がさまざまに変化する。このため、裏後左装飾基板３５２２の表面（前面）には、上述したように、複数のＬＥＤが半田付けされるパッド、スルーホール、ランド等を除いた全域に

おいて、白色のレジスト液が塗布されて形成される白色塗膜（以下、単に「ベタ塗りされた白色のレジスト」と記載する場合がある。）により白色のレジスト層が形成され、さらに、このベタ塗りされた白色のレジスト上に多色発光可能なフルカラーＬＥＤを特定可能にする表面側表記部が黄色の塗料でシルク印刷により印刷されることにより、多色発光可能なフルカラーＬＥＤの消灯時において白色のレジストに対して黄色の表面側表記部を目立たないようにすることができることに加えて、さらに、多色発光可能なフルカラーＬＥＤの点灯時（発光時）において、反射率の高いベタ塗りされた白色のレジストと、白色の反射率に非常に近い黄色の塗料でシルク印刷により印刷される表面側表記部と、による組み合わせによって裏後左装飾基板３５２２の表面（前面）の反射率を高く維持することができる。

【１２７３】

なお、シルク印刷の塗料として黄色を採用した場合には、シルク印刷により印刷された黄色が印刷機によるバラツキにより薄い黄色となったり、濃い黄色となったりする場合もあれば、橙色に見えたりする場合もある。また、シルク印刷の塗料を供給するインク会社にも黄色に幅（明るい側に寄る黄色、暗い側による黄色）があるため、同一の基板製造会社や複数の基板会社に対してシルク印刷の塗料として黄色を指定しても、完全同一の黄色とならず（完全同一の黄色とすることが難しく）、黄色に幅がある色となる。

【１２７４】

前カバー３５２３は、正面視の形状が、裏後左装飾体３５２１の外形と同じ形状の部位と、当該部位の左上から上方へ四角形に延びている部位とを、組み合わせた形状に形成されている。前カバー３５２３は、上方へ四角形に延びている部位の前面に複数の桜の花の装飾が形成されている。前カバー３５２３は、後方へ開放された浅い容器状に形成されている。

【１２７５】

可動ベース３５２４は、前カバー３５２３の開放されている後側を閉鎖するように形成されており、上端側が前カバー３５２３の上端よりも上方へ延出している。可動ベース３５２４は、上端側において前後に貫通している軸孔３５２４ａと、軸孔３５２４ａから離れた位置で前方へ円柱状に突出している作動ピン３５２４ｂと、を有している。可動ベース３５２４の軸孔３５２４ａは、裏後左駆動ユニット３５５０の補強板３５５１の支持軸３５５１ａが相対回転可能に挿入される。また、作動ピン３５２４ｂは、軸孔３５２４ａの下方且つ右方の位置で、前方へ突出している。

【１２７６】

この裏後左装飾体ユニット３５２０は、裏後左回転駆動モータ３５２５により駆動ギア３５２６を回転させると、駆動ギア３５２６と噛合している回転ギア３５２７を介して裏後左回転装飾体３５１０を、前後方向の軸周りに回転させることができる。

【１２７７】

裏後左駆動ユニット３５５０は、図１７９及び図１８０に示すように、裏後左装飾体ユニット３５２０を回転可能に支持する支持軸３５５１ａを有している上下に延びた平板状の補強板３５５１と、補強板３５５１の前面に取付けられており裏箱３０１０内に取付けられる上下に延びたユニットベース３５５２と、ユニットベース３５５２の前面に取付けられているユニットカバー３５５３と、ユニットカバー３５５３の前面上部に回転軸がユニットベース３５５２とユニットカバー３５５３との間へ突出するように取付けられている裏後左昇降駆動モータ３５５４と、裏後左昇降駆動モータ３５５４の回転軸に取付けられている平歯車状のモータギア３５５５と、を備えている。

【１２７８】

また、裏後左駆動ユニット３５５０は、モータギア３５５５と噛合しておりユニットカバー３５５３に回転可能に取付けられている平歯車状の伝達ギア３５５６と、伝達ギア３５５６と噛合する平歯車状のギア部３５５７ａ、ギア部３５５７ａの外周付近から後方へ円柱状に突出している駆動ピン３５５７ｂ、及びギア部３５５７ａの前面外周付近から前方へ突出している検知片３５５７ｃ、を有している昇降カムギア３５５７と、昇降カムギア

３５５７の駆動ピン３５５７ｂが摺動可能に挿入される左右に延びた第一スリット３５５８ａ、及び第一スリット３５５８ａの下方で左右に延びており裏後左装飾体ユニット３５２０における可動ベース３５２４の作動ピン３５２４ｂが摺動可能に挿入される第二スリット３５５８ｂ、を有しており、ユニットベース３５５２とユニットカバー３５５３との間で上下方向へスライド可能に取付けられているリンク部材３５５８と、を備えている。

【１２７９】

更に、裏後左駆動ユニット３５５０は、リンク部材３５５８を上方へ付勢しているバネ３５５９と、リンク部材３５５８と昇降カムギア３５５７との間に設けられている平板状の仕切板３５６０と、ユニットカバー３５５３の前面に取付けられている裏後左中継基板３５６１と、裏後左中継基板３５６１の後面に取付けられており、昇降カムギア３５５７の検知片３５５７ｃを検知可能な裏後左昇降検知センサ３５６２（リードタイプ）と、を備えている。

【１２８０】

なお、裏後左中継基板３５６１の前面及び後面には、各種コネクタや裏後左昇降検知センサ３５６２が半田付けされるパッド、スルーホール、ランド等を除いた全域において、白色のレジスト液が塗布されて形成される白色塗膜（以下、単に「ベタ塗りされた白色のレジスト」と記載する場合がある。）により白色のレジスト層がそれぞれ形成されている。また、裏後左中継基板３５６１の表面（前面）には、図示は省略するが、実装されている複数のコネクタ等の表面側電子部品の近傍に、表面側電子部品の部品番号、表面側電子部品を配置する位置を示す領域等の表面側電子部品の属性（さらに、表面側電子部品の形状、表面側電子部品の大きさ、表面側電子部品の実装向き（実装方向）、表面側電子部品の型式を含む場合がある。）を示す表面側表記部が、白色に対して目立ち難い明色である黄色の塗料で、ベタ塗りされた白色のレジスト上にシルク印刷により印刷されている。裏後左中継基板３５６１の裏面（後面）には、図示は省略するが、コネクタ、裏後左昇降検知センサ３５６２等の裏面側電子部品の近傍に、裏面側電子部品の部品番号、裏面側電子部品を配置する位置を示す領域等の裏面側電子部品の属性（さらに、裏面側電子部品の形状、裏面側電子部品の大きさ、裏面側電子部品の実装向き（実装方向）、裏面側電子部品の型式を含む場合がある。）を示す裏面側表記部が、白色に対して目立ち難い明色である黄色の塗料で、ベタ塗りされた白色のレジスト上にシルク印刷により印刷されている。裏後左中継基板３５６１は、装飾基板でなく、ＬＥＤが実装されていないものの、遊技盤５内に設けられている基板であるため、裏後左中継基板３５６１の前面及び後面を反射板（レフ板）として機能させることにより、遊技盤５内に設けられる各種装飾基板に実装されるＬＥＤが発した光が遊技盤５内部で屈折した場合に、この光を遊技盤５の前方へ向けて発光演出に寄与することができるようになっている。

【１２８１】

裏後左駆動ユニット３５５０の補強板３５５１は、上下に延びた金属板であり、上部において支持軸３５５１ａが前方へ突出している。補強板３５５１の支持軸３５５１ａは、裏後左装飾体ユニット３５２０における可動ベース３５２４の軸孔３５２４ａに、相対回転可能に挿入される。

【１２８２】

ユニットベース３５５２は、上下方向の中央付近に補強板３５５１の支持軸３５５１ａが位置するように、補強板３５５１よりも上下方向へ長く延びている。ユニットカバー３５５３は、ユニットベース３５５２と略同じ長さで上下に延びており、後方へ開放された浅い容器状に形成されている。

【１２８３】

昇降カムギア３５５７は、駆動ピン３５５７ｂが仕切板３５６０のスリット３５６０ａを貫通してリンク部材３５５８の第一スリット３５５８ａに摺動可能に挿入される。検知片３５５７ｃは、ユニットカバー３５５３を貫通して後方へ突出した裏後左昇降検知センサ３５６２により検知される。リンク部材３５５８は、上下に延びており、上端付近に第一スリット３５５８ａが設けられていると共に、下端に第二スリット３５５８ｂが設けられ

ている。バネ３５５９は、下端がリンク部材３５５８に取付けられており、上端が仕切板３５６０に取付けられている。

【１２８４】

仕切板３５６０は、昇降カムギア３５５７の駆動ピン３５５７ｂが挿通される半円弧状に延びたスリット３５６０ａを有している。裏後左中継基板３５６１は、裏後左装飾基板３５２２、裏後左回転駆動モータ３５２５、裏後左昇降駆動モータ３５５４、及び裏後左昇降検知センサ３５６２と、演出駆動基板１７２０との接続を中継するためのものである。

【１２８５】

続いて、裏後左演出ユニット３５００の動作について説明する。裏後左演出ユニット３５００は、通常の状態では、図１８３及び図１８４（ａ）に示すように、下端側（先端側）に裏後左回転装飾体３５１０が設けられている裏後左装飾体ユニット３５２０が垂下した退避位置の状態となっている。この通常の状態では、裏後左装飾体ユニット３５２０（裏後左回転装飾体３５１０）が、裏前左演出ユニット３７００の後方に位置しており、前方（遊技者側）から視認不能な状態となっている。

【１２８６】

また、遊技盤５に組立てた通常の状態では、裏後左演出ユニット３５００の殆どが、裏前左装飾体３０３０及び裏前左演出ユニット３７００の後方に位置しており、裏後左昇降駆動モータ３５５４の一部のみが前方へ臨んでいる（図１３１等を参照）。なお、裏後左昇降駆動モータ３５５４の前方へ臨んでいる部位は、パチンコ機１に組立てた状態では、扉枠３の扉窓１０１ａよりも外側の部位により前方が覆われた状態となり、遊技者側から視認不能となる（図１３５を参照）。

【１２８７】

この通常の状態では、昇降カムギア３５５７の検知片３５５７ｃが、裏後左昇降検知センサ３５６２により検知されている。また、通常の状態では、昇降カムギア３５５７の駆動ピン３５５７ｂが、昇降カムギア３５５７の回転中心の直下に位置していると共に、リンク部材３５５８における第一スリット３５５８ａ内の左端付近に位置している。また、通常の状態では、リンク部材３５５８が下方の移動端に位置しており、裏後左装飾体ユニット３５２０における可動ベース３５２４の軸孔３５２４ａよりも右方に位置している作動ピン３５２４ｂが、リンク部材３５５８の第二スリット３５５８ｂ内の左端付近に位置している。

【１２８８】

この通常の状態では、バネ３５５９により、リンク部材３５５８が上方へ移動する方向へ付勢されているが、昇降カムギア３５５７の駆動ピン３５５７ｂにおける第一スリット３５５８ａと接している接点を通る法線が、昇降カムギア３５５７の回転中心（駆動ピン３５５７ｂの公転中心）を通っているため、バネ３５５９の付勢力により第一スリット３５５８ａを介して駆動ピン３５５７ｂに上方への力が作用しても、駆動ピン３５５７ｂは何れの方向へも公転することはなく、リンク部材３５５８が上方へ移動することはない。従って、リンク部材３５５８が上方へ移動しないため、裏後左装飾体ユニット３５２０（裏後左回転装飾体３５１０）が、退避位置の状態から可動ベース３５２４の軸孔３５２４ａ（支持軸３５５１ａ）を中心として回動することはないと共に、バネ３５５９の付勢力が、リンク部材３５５８及び昇降カムギア３５５７等を介して裏後左昇降駆動モータ３５５４に作用することはない。

【１２８９】

なお、通常の状態において、昇降カムギア３５５７の駆動ピン３５５７ｂを、第一スリット３５５８ａの左端に当接させるようにしても良い。これにより、バネ３５５９の付勢力によりリンク部材３５５８が上方へ移動しようとすると、第一スリット３５５８ａから駆動ピン３５５７ｂを介して作用する力により、昇降カムギア３５５７が時計回りの方向へ回転しようとする。この際に、昇降カムギア３５５７の駆動ピン３５５７ｂが、左方へ移動する方向へ公転しようとすることとなるが、駆動ピン３５５７ｂが第一スリット３５５８ａの左端に当接していることで、駆動ピン３５５７ｂが公転することができず、昇降カ

ムギア３５５７を介してリンク部材３５５８の上方への移動がロックされて、裏後左装飾体ユニット３５２０の退避位置からの回動を阻止することができる。

【１２９０】

この通常の状態で、裏後左昇降駆動モータ３５５４によりモータギア３５５５を反時計回りの方向へ回転させると、伝達ギア３５５６及びギア部３５５７ａを介して昇降カムギア３５５７が反時計回りの方向へ回転することとなり、昇降カムギア３５５７の駆動ピン３５５７ｂが反時計回りの方向へ公転することとなる。この駆動ピン３５５７ｂが反時計回りの方向へ公転すると、第一スリット３５５８ａの内面を上方へ押圧しながら、第一スリット３５５８ａ内を右方へ摺動することとなり、リンク部材３５５８が上方へ移動することとなる。

【１２９１】

リンク部材３５５８が上方へ移動すると、支持軸３５５１ａの下方且つ右方で突出している裏後左装飾体ユニット３５２０の可動ベース３５２４の作動ピン３５２４ｂが、リンク部材３５５８の第二スリット３５５８ｂの内面により上方へ押圧され、作動ピン３５２４ｂが第二スリット３５５８ｂ内を右方へ摺動しながら、可動ベース３５２４が支持軸３５５１ａを中心として反時計回りの方向へ回動し、裏後左装飾体ユニット３５２０が退避位置から反時計回りの方向へ回動することとなる（図１８４（ａ）及び（ｂ）を参照）。この際に、バネ３５５９の付勢力によりリンク部材３５５８の上方への移動をアシストしており、裏後左昇降駆動モータ３５５４にかかる負荷を軽減させている。

【１２９２】

このようにして裏後左装飾体ユニット３５２０が支持軸３５５１ａを中心として反時計回りの方向へ回動することで、下端側に設けられている裏後左回転装飾体３５１０が右方へ移動しつつ上方へ移動することとなり、裏後左回転装飾体３５１０が裏前左演出ユニット３７００よりも右方へ移動して、前方（遊技者側）から視認可能な状態となる。

【１２９３】

本実施形態の裏後左演出ユニット３５００では、昇降カムギア３５５７が、通常の状態（退避位置の状態）から反時計回りの方向へ約９０度回転した時の裏後左装飾体ユニット３５２０の回動位置を、第一出現位置としている（図１８４（ｂ）を参照）。この第一出現位置の状態では、裏後左装飾体ユニット３５２０が、退避位置の状態から反時計回りの方向へ約４４度回動している。

【１２９４】

そして、第一出現位置の状態から、昇降カムギア３５５７が更に反時計回りの方向へ回転すると、駆動ピン３５５７ｂが、第一スリット３５５８ａ内を左方へ摺動するようになる。そして、駆動ピン３５５７ｂが、公転中心の直上まで移動すると（通常の状態から１８０度公転すると）、裏後左昇降駆動モータ３５５４によるモータギア３５５５の回転が停止すると同時に、駆動ピン３５５７ｂの公転が停止する。

【１２９５】

これにより、リンク部材３５５８の上方への移動が停止し、裏後左装飾体ユニット３５２０の反時計回りの方向への回動が停止して、第二出現位置の状態となる（図１８４（ｃ）を参照）。この第二出現位置の状態では、裏後左装飾体ユニット３５２０が、退避位置の状態から反時計回りの方向へ約７４度回動している。

【１２９６】

裏後左装飾体ユニット３５２０が第二出現位置の状態では、駆動ピン３５５７ｂが、昇降カムギア３５５７の回転中心の直上に位置している。この状態では、裏後左装飾体ユニット３５２０の自重により、裏後左装飾体ユニット３５２０が支持軸３５５１ａを中心にして時計回りの方向へ回動しようとする力が作用し、その力により可動ベース３５２４の作動ピン３５２４ｂ及び第二スリット３５５８ｂを介してリンク部材３５５８が下方へ移動しようとすることとなるが、第一スリット３５５８ａに挿入されている駆動ピン３５５７ｂが公転中心の直上に位置しているため、駆動ピン３５５７ｂが何れの方向へも公転することはない。

【１２９７】
従って、駆動ピン３５５７ｂが公転しないことから昇降カムギア３５５７も回転することはないため、リンク部材３５５８が下方へ移動することはなく、裏後左装飾体ユニット３５２０が第二出現位置の状態から回動することはないと共に、裏後左装飾体ユニット３５２０の自重による力が、リンク部材３５５８及び昇降カムギア３５５７等を介して裏後左昇降駆動モータ３５５４に作用することはない。
【１２９８】
なお、裏後左装飾体ユニット３５２０が第二出現位置の状態において、昇降カムギア３５５７を更に反時計回りの方向へ回転させて、駆動ピン３５５７ｂを第一スリット３５５８ａの左端に当接させるようにしても良い。これにより、裏後左装飾体ユニット３５２０が自重により支持軸３５５１ａを中心として時計回りの方向へ回動しようとすることで、作動ピン３５２４ｂを介してリンク部材３５５８が下方へ移動しようとすると、第一スリット３５５８ａから駆動ピン３５５７ｂを介して作用する力により、昇降カムギア３５５７が反時計回りの方向へ回転しようとする。この際に、駆動ピン３５５７ｂが左方へ移動するように公転しようとすることとなるが、駆動ピン３５５７ｂが第一スリット３５５８ａの左端に当接しているため、駆動ピン３５５７ｂは公転することができず、リンク部材３５５８の下方への移動が阻止され、裏後左装飾体ユニット３５２０が第二出現位置の状態で回動不能にロックすることができる。
【１２９９】
裏後左装飾体ユニット３５２０を、退避位置から第一出現位置及び第二出現位置へ回動させた状態では、下端側に設けられている裏後左回転装飾体３５１０が前方（遊技者側）から視認可能となる。
【１３００】
この裏後左装飾体ユニット３５２０では、裏後左回転駆動モータ３５２５により駆動ギア３５２６を回転させることで、駆動ギア３５２６と噛合している回転ギア３５２７を介して裏後左回転装飾体３５１０を、前後方向の軸周りに回転させることができる（図１８３を参照）。従って、裏後左回転装飾体３５１０が前方（遊技者側）から視認可能な時に、裏後左回転駆動モータ３５２５により駆動ギア３５２６を回転させると、回転している裏後左回転装飾体３５１０を遊技者に視認させることができる。
【１３０１】
裏後左装飾体ユニット３５２０を第一出現位置や第二出現位置の状態から、通常の状態である退避位置へ復帰させる場合は、裏後左昇降駆動モータ３５５４によりモータギア３５５５を、上記とは逆の方向へ回転させることで、昇降カムギア３５５７の駆動ピン３５５７ｂの公転によりリンク部材３５５８を下方へ移動させることができ、リンク部材３５５８の下方への移動に伴って、裏後左装飾体ユニット３５２０が退避位置の方向（時計回りの方向）へ回動することとなる。そして、昇降カムギア３５５７の検知片３５５７ｃが、裏後左昇降検知センサ３５６２により検知されたら、裏後左昇降駆動モータ３５５４によるモータギア３５５５の回転を停止させることにより、裏後左装飾体ユニット３５２０を退避位置の状態に復帰させることができる。
【１３０２】
本実施形態の裏後左演出ユニット３５００は、図１８３に示すように、裏後左回転装飾体３５１０及び裏後左装飾体３５２１の後方に、裏後左装飾基板３５２２が設けられているため、裏後左装飾基板３５２２に実装されている複数のＬＥＤを適宜発光させることで、裏後左回転装飾体３５１０及び裏後左装飾体３５２１を発光装飾させることができる。この際に、裏後左装飾体ユニット３５２０を、退避位置から第一出現位置及び第二出現位置側へ回動させた状態で、裏後左装飾基板３５２２のＬＥＤを発光させることで、発光装飾されている裏後左回転装飾体３５１０及び裏後左装飾体３５２１を遊技者に見せることができる。
【１３０３】
［５－９ｉ．裏後右演出ユニット］

続いて、裏ユニット３０００における裏後右演出ユニット３６００について、主の図１８５乃至図１９１等を参照して、詳細に説明する。図１８５（ａ）は裏ユニットにおける裏後右演出ユニットを前から見た斜視図であり、（ｂ）は裏ユニットにおける裏後右演出ユニットを後ろから見た斜視図である。図１８６は裏後右演出ユニットを主な部材毎に分解して前から見た分解斜視図であり、図１８７は裏後右演出ユニットを主な部材毎に分解して後ろから見た分解斜視図である。図１８８は裏後右演出ユニットの裏後右装飾体ユニットを分解して前から見た分解斜視図であり、図１８９は裏後右演出ユニットの裏後右装飾体ユニットを分解して後ろから見た分解斜視図である。図１９０は、裏後右演出ユニットの可動機構を正面から示す説明図である。図１９１は、裏後右演出ユニットにおける裏後右装飾体ユニットの動きを示す説明図である。

【１３０４】

裏ユニット３０００の裏後右演出ユニット３６００は、裏箱３０１０内の右端付近で、裏後演出ユニット３１００の右辺の前方に設けられている。裏後右演出ユニット３６００は、前後方向の軸周りに回転可能な透明な裏後右回転装飾体３６１０と、下端側において裏後右回転装飾体３６１０を回転可能に支持している裏後右装飾体ユニット３６２０と、裏後右装飾体ユニット３６２０の上端側を前後方向の軸周りに回動させ、裏箱３０１０内に取付けられている裏後右駆動ユニット３６５０と、を備えている。

【１３０５】

裏後右演出ユニット３６００の裏後右回転装飾体３６１０は、桜の花を模した形状に形成されている。裏後右回転装飾体３６１０は、後面の中央から後方へ円柱状に突出している軸シャフト３６１０ａを有している（図１８８を参照）。

【１３０６】

裏後右装飾体ユニット３６２０は、図１８８及び図１８９に示すように、透明な裏後右回転装飾体３６１０の軸シャフト３６１０ａが中央で貫通している透明な裏後右装飾体３６２１と、裏後右装飾体３６２１の後方に設けられており前面（以下、「表面（実装面）」と記載する場合がある。）に複数のＬＥＤが実装されている裏後右装飾基板３６２２と、裏後右装飾基板３６２２の後方から裏後右装飾体３６２１の後側に取付けられていると共に、裏後右回転装飾体３６１０の軸シャフト３６１０ａを回転可能に支持している前カバー３６２３と、前カバー３６２３の後側に取付けられていると共に、上端側が裏後右駆動ユニット３６５０に回転可能に取付けられる可動ベース３６２４と、を備えている。

【１３０７】

また、裏後右装飾体ユニット３６２０は、可動ベース３６２４の後面に回転軸が可動ベース３６２４と前カバー３６２３との間へ突出するように取付けられている裏後右回転駆動モータ３６２５と、裏後右回転駆動モータ３６２５の回転軸に取付けられている平歯車状の駆動ギア３６２６と、駆動ギア３６２６と噛合しており裏後右回転装飾体３６１０の軸シャフト３６１０ａの後端に取付けられている平歯車状の回転ギア３６２７と、を備えている。

【１３０８】

裏後右装飾体ユニット３６２０の裏後右装飾体３６２１は、裏後右回転装飾体３６１０と同じ大きさの二つの桜の花を、前後に重ねた上で後側の花弁が、前側の花弁同士の間に位置するように回転させたような形状に形成されている。裏後右装飾基板３６２２の表面（実装面）に実装される複数のＬＥＤは、表面実装タイプであって多色発光可能なフルカラーＬＥＤである。

【１３０９】

裏後右回転装飾体３６１０及び裏後右装飾体３６２１は、透明に形成されると共に、光を撹乱可能な複数の微細な凹凸が形成されている。詳述すると、裏後右回転装飾体３６１０及び裏後右装飾体３６２１は、ランダムな方向へ短く線状に延びた複数の突条により梨肌状のパターンに形成されており、裏後右回転装飾体３６１０及び裏後右装飾体３６２１により摸されている桜の花の一つの花弁において、花弁の中央から周縁へ向かうに従って、濃淡が濃くなる（透明度が低くなるもの）なるようにパチンコ機１（遊技盤５）のコンセ

プト（つまり、パチンコ機１（遊技盤５）の世界観）に沿った所定色（本実施形態では桃色）の複数のドットが印刷により施されているが、裏後右回転装飾体３６１０及び裏後右装飾体３６２１を通して（花弁の周縁部においても）、裏後右装飾体３６２１の後方に配置される裏後右装飾基板３６２２の表面（実装面）を視認することができるようになっている。

【１３１０】

なお、裏後右装飾基板３６２２の表面（実装面）に実装される複数のＬＥＤ等の表面側電子部品の部品番号、表面側電子部品を配置する位置を示す領域等の表面側電子部品の属性（さらに、表面側電子部品の形状、表面側電子部品の大きさ、表面側電子部品の実装向き（実装方向）、表面側電子部品の型式を含む場合がある。）を示す表面側表記部が裏後右装飾基板３６２２の表面（実装面）に所定の塗料の色でシルク印刷により印刷されると共に、透明な裏後右回転装飾体３６１０の後方には、透明な裏後右装飾体３６２１、そして裏後右装飾基板３６２２が順番に配置されているため、裏後右装飾基板３６２２の表面（実装面）にシルク印刷により印刷される所定の塗料の色が裏後右装飾体３６２１、そして裏後右回転装飾体３６１０を介して、視認可能となっており、複数のＬＥＤが消灯している状態において、所定の塗料の色を視認できる場合には所定の塗料の色により文字、記号、形状（つまり、表面側表記部が示す表面側電子部品の属性）を判別することができる。

【１３１１】

また、裏後右装飾基板３６２２の表面（実装面）に実装される複数のＬＥＤは、それぞれのパッケージが白色（白色と同色であると認められる色）の樹脂製となっている。

【１３１２】

裏後右装飾基板３６２２の表面（前面）には、複数のＬＥＤ（表面実装タイプ）が半田付けされるパッド、スルーホール、ランド等を除いた全域において、白色のレジスト液が塗布されて形成される白色塗膜（以下、単に「ベタ塗りされた白色のレジスト」と記載する場合がある。）により白色のレジスト層が形成されている。裏後右装飾基板３６２２の裏面（後面）には、コネクタ（表面実装タイプ）が半田付けされるパッド、スルーホール、ランド等を除いた全域において、ベタ塗りされた白色のレジストにより白色のレジスト層が形成されている。更に、裏後右装飾基板３６２２の表面（前面）には、図示は省略するが、実装されている複数のＬＥＤ等の表面側電子部品の近傍に、表面側電子部品の部品番号、表面側電子部品を配置する位置を示す領域等の表面側電子部品の属性（さらに、表面側電子部品の形状、表面側電子部品の大きさ、表面側電子部品の実装向き（実装方向）、表面側電子部品の型式を含む場合がある。）を示す表面側表記部が、白色に対して目立ち難い明色である黄色の塗料で、ベタ塗りされた白色のレジスト上にシルク印刷により印刷されている。裏後右装飾基板３６２２の裏面（後面）には、図示は省略するが、コネクタ等の裏面側電子部品の近傍に、裏面側電子部品の部品番号、裏面側電子部品を配置する位置を示す領域等の裏面側電子部品の属性（さらに、裏面側電子部品の形状、裏面側電子部品の大きさ、裏面側電子部品の実装向き（実装方向）、裏面側電子部品の型式を含む場合がある。）を示す裏面側表記部が、白色に対して目立ち難い明色である黄色の塗料で、ベタ塗りされた白色のレジスト上にシルク印刷により印刷されている。

【１３１３】

ここで、レジスト液の色として白色のものを採用し、シルク印刷の塗料として黄色を採用した理由について説明する。まず、反射率は、白色に近いほど高くなるのに対して、黒色に近づくと低くなる。黄色の反射率は赤色の反射率と比べると白色の反射率に非常に近く、赤色の反射率は黄色の反射率と比べて白色の反射率に非常に遠い。黄色の反射率は白色塗膜の白色の反射率と比べて低いものの高い反射率を有している。このため、白色と赤色との組み合わせでは、背景が白色であると赤色が目立つこととなり、表面側表記部（裏面側表記部）を赤色とする場合には白色のレジストに対して赤色の表面側表記部（白色のレジストに対して赤色の裏面側表記部）が目立つのに対して、白色と黄色との組み合わせ（本実施形態の構成）では、背景が白色であると黄色が目立たず、表面側表記部（裏面側表記部）を黄色とする場合には白色のレジストに対して黄色の表面側表記部（白色のレジス

トに対して黄色の裏面側表記部）が目立ち難い。
【１３１４】
また、パチンコ機１は各装飾基板に実装される複数のＬＥＤ等の発光部による電飾により煌びやかに発光演出が行われるため、複数のＬＥＤは、上述したように、多色発光可能なフルカラーＬＥＤであり、点灯（発光）したり、消灯したりすることによって発光態様がさまざまに変化する。このため、裏後右装飾基板３６２２の表面（前面）には、上述したように、複数のＬＥＤが半田付けされるパッド、スルーホール、ランド等を除いた全域において、白色のレジスト液が塗布されて形成される白色塗膜（以下、単に「ベタ塗りされた白色のレジスト」と記載する場合がある。）により白色のレジスト層が形成され、さらに、このベタ塗りされた白色のレジスト上に多色発光可能なフルカラーＬＥＤを特定可能にする表面側表記部が黄色の塗料でシルク印刷により印刷されることにより、多色発光可能なフルカラーＬＥＤの消灯時において白色のレジストに対して黄色の表面側表記部を目立たないようにすることができることに加えて、さらに、多色発光可能なフルカラーＬＥＤの点灯時（発光時）において、反射率の高いベタ塗りされた白色のレジストと、白色の反射率に非常に近い黄色の塗料でシルク印刷により印刷される表面側表記部と、による組み合わせによって裏後右装飾基板３６２２の表面（前面）の反射率を高く維持することができる。
【１３１５】
なお、シルク印刷の塗料として黄色を採用した場合には、シルク印刷により印刷された黄色が印刷機によるバラツキにより薄い黄色となったり、濃い黄色となったりする場合もあれば、橙色に見えたりする場合もある。また、シルク印刷の塗料を供給するインク会社にも黄色に幅（明るい側に寄る黄色、暗い側による黄色）があるため、同一の基板製造会社や複数の基板会社に対してシルク印刷の塗料として黄色を指定しても、完全同一の黄色とならず（完全同一の黄色とすることが難しく）、黄色に幅がある色となる。
【１３１６】
前カバー３６２３は、正面視の形状が、裏後右装飾体３６２１の外形と同じ形状の部位と、当該部位の右上から上方へ四角形に延びている部位とを、組み合わせた形状に形成されている。前カバー３６２３は、上方へ四角形に延びている部位の前面に複数の桜の花の装飾が形成されている。前カバー３６２３は、後方へ開放された浅い容器状に形成されている。
【１３１７】
可動ベース３６２４は、前カバー３６２３の開放されている後側を閉鎖するように形成されており、上端側が前カバー３６２３の上端よりも上方へ延出している。可動ベース３６２４は、上端側において前後に貫通している軸孔３６２４ａと、軸孔３６２４ａから離れた位置で前方へ円柱状に突出している作動ピン３６２４ｂと、を有している。可動ベース３６２４の軸孔３６２４ａは、裏後右駆動ユニット３６５０の補強板３６５１の支持軸３６５１ａが相対回転可能に挿入される。また、作動ピン３６２４ｂは、軸孔３６２４ａの下方且つ左方の位置で、前方へ突出している。
【１３１８】
この裏後右装飾体ユニット３６２０は、裏後右回転駆動モータ３６２５により駆動ギア３６２６を回転させると、駆動ギア３６２６と噛合している回転ギア３６２７を介して裏後右回転装飾体３６１０を、前後方向の軸周りに回転させることができる。
【１３１９】
裏後右駆動ユニット３６５０は、図１８６及び図１８７に示すように、裏後右装飾体ユニット３６２０を回転可能に支持する支持軸３６５１ａを有している上下に延びた平板状の補強板３６５１と、補強板３６５１の前面に取付けられており裏箱３０１０内に取付けられる上下に延びたユニットベース３６５２と、上部がユニットベース３６５２の前面に取付けられている上下に延びたユニットカバー３６５３と、ユニットカバー３６５３の前面上部に回転軸がユニットベース３６５２とユニットカバー３６５３との間へ突出するように取付けられている裏後右昇降駆動モータ３６５４と、裏後右昇降駆動モータ３６５４の

回転軸に取付けられている平歯車状のモータギア３６５５と、を備えている。
【１３２０】
また、裏後右駆動ユニット３６５０は、モータギア３６５５と噛合している平歯車状のギア部３６５７ａ、ギア部３６５７ａの外周付近から後方へ円柱状に突出している駆動ピン３６５７ｂ、及びギア部３６５７ａの前面外周付近から前方へ突出している検知片３６５７ｃ、を有している昇降カムギア３６５７と、昇降カムギア３６５７の駆動ピン３６５７ｂが摺動可能に挿入される左右に延びた第一スリット３６５８ａ、及び第一スリット３６５８ａの下方で左右に延びており裏後右装飾体ユニット３６２０における可動ベース３６２４の作動ピン３６２４ｂが摺動可能に挿入される第二スリット３６５８ｂ、を有しており、ユニットベース３６５２とユニットカバー３６５３との間で上下方向へスライド可能に取付けられているリンク部材３６５８と、を備えている。
【１３２１】
更に、裏後右駆動ユニット３６５０は、リンク部材３６５８を上方へ付勢しているバネ３６５９と、リンク部材３６５８と昇降カムギア３６５７との間に設けられている平板状の仕切板３６６０と、ユニットカバー３６５３の前面に取付けられている裏後右中継基板３６６１と、裏後右中継基板３６６１の後面に取付けられており、昇降カムギア３６５７の検知片３６５７ｃを検知可能な裏後右昇降検知センサ３６６２（リードタイプ）と、ユニットベース３６５２の下方で補強板３６５１の前面に取付けられていると共に、前面にユニットカバー３６５３の下部が取付けられている下部ベース３６６３と、を備えている。
【１３２２】
なお、裏後右中継基板３６６１の前面及び後面には、各種コネクタや裏後右昇降検知センサ３６６２が半田付けされるパッド、スルーホール、ランド等を除いた全域において、白色のレジスト液が塗布されて形成される白色塗膜（以下、単に「ベタ塗りされた白色のレジスト」と記載する場合がある。）により白色のレジスト層がそれぞれ形成されている。また、裏後右中継基板３６６１の表面（前面）には、図示は省略するが、実装されている複数のコネクタ等の表面側電子部品の近傍に、表面側電子部品の部品番号、表面側電子部品を配置する位置を示す領域等の表面側電子部品の属性（さらに、表面側電子部品の形状、表面側電子部品の大きさ、表面側電子部品の実装向き（実装方向）、表面側電子部品の型式を含む場合がある。）を示す表面側表記部が、白色に対して目立ち難い明色である黄色の塗料で、ベタ塗りされた白色のレジスト上にシルク印刷により印刷されている。裏後右中継基板３６６１の裏面（後面）には、図示は省略するが、複数のコネクタ、裏後右昇降検知センサ３６６２等の裏面側電子部品の近傍に、裏面側電子部品の部品番号、裏面側電子部品を配置する位置を示す領域等の裏面側電子部品の属性（さらに、裏面側電子部品の形状、裏面側電子部品の大きさ、裏面側電子部品の実装向き（実装方向）、裏面側電子部品の型式を含む場合がある。）を示す裏面側表記部が、白色に対して目立ち難い明色である黄色の塗料で、ベタ塗りされた白色のレジスト上にシルク印刷により印刷されている。裏後右中継基板３６６１は、装飾基板でなく、ＬＥＤが実装されていないものの、遊技盤５内に設けられている基板であるため、裏後右中継基板３６６１の前面及び後面を反射板（レフ板）として機能させることにより、遊技盤５内に設けられる各種装飾基板に実装されるＬＥＤが発した光が遊技盤５内部で屈折した場合に、この光を遊技盤５の前方へ向けて発光演出に寄与することができるようになっている。
【１３２３】
裏後右駆動ユニット３６５０の補強板３６５１は、上下に延びた金属板であり、上部において支持軸３６５１ａが前方へ突出している。補強板３６５１の支持軸３６５１ａは、裏後右装飾体ユニット３６２０における可動ベース３６２４の軸孔３６２４ａに、相対回転可能に挿入される。
【１３２４】
ユニットベース３６５２は、下端付近に補強板３６５１の支持軸３６５１ａが位置するように、補強板３６５１よりも上方へ延びている。ユニットカバー３６５３は、ユニットベース３６５２の上端から補強板３６５１（下部ベース３６６３）の下端までと略同じ長さ

で上下に延びており、後方へ開放された浅い容器状に形成されている。
【１３２５】
昇降カムギア３６５７は、駆動ピン３６５７ｂが仕切板３６６０のスリット３６６０ａを貫通してリンク部材３６５８の第一スリット３６５８ａに摺動可能に挿入される。検知片３６５７ｃは、ユニットカバー３６５３を貫通して後方へ突出した裏後右昇降検知センサ３６６２により検知される。リンク部材３６５８は、上下に延びており、上端付近に第一スリット３６５８ａが設けられていると共に、下端に第二スリット３６５８ｂが設けられている。バネ３６５９は、下端がリンク部材３６５８に取付けられており、上端が仕切板３６６０に取付けられている。
【１３２６】
仕切板３６６０は、昇降カムギア３６５７の駆動ピン３６５７ｂが挿通される半円弧状に延びたスリット３６６０ａを有している。裏後右中継基板３６６１は、裏後右装飾基板３６２２、裏後右回転駆動モータ３６２５、裏後右昇降駆動モータ３６５４、及び裏後右昇降検知センサ３６６２と、演出駆動基板１７２０との接続を中継するためのものである。
【１３２７】
続いて、裏後右演出ユニット３６００の動作について説明する。裏後右演出ユニット３６００は、通常の状態では、図１９０及び図１９１（ａ）に示すように、下端側（先端側）に裏後右回転装飾体３６１０が設けられている裏後右装飾体ユニット３６２０が垂下した退避位置の状態となっている。この通常の状態では、裏後右装飾体ユニット３６２０（裏後右回転装飾体３６１０）が、裏前右演出ユニット３８００の後方に位置しており、前方（遊技者側）から視認不能な状態となっている。
【１３２８】
また、遊技盤５に組立てた通常の状態では、裏後右演出ユニット３６００が、裏前右装飾体３０４０及び裏前右演出ユニット３８００の後方に位置しており、全体が前方（遊技者側）から視認不能となっている。
【１３２９】
この通常の状態では、昇降カムギア３６５７の検知片３６５７ｃが、裏後右昇降検知センサ３６６２により検知されている。また、通常の状態では、昇降カムギア３６５７の駆動ピン３６５７ｂが、昇降カムギア３６５７の回転中心の直下に位置していると共に、リンク部材３６５８における第一スリット３６５８ａ内の右端付近に位置している。また、通常の状態では、リンク部材３６５８が下方の移動端に位置しており、裏後右装飾体ユニット３６２０における可動ベース３６２４の軸孔３６２４ａよりも左方に位置している作動ピン３６２４ｂが、リンク部材３６５８の第二スリット３６５８ｂ内の右端付近に位置している。
【１３３０】
この通常の状態では、バネ３６５９により、リンク部材３６５８が上方へ移動する方向へ付勢されているが、昇降カムギア３６５７の駆動ピン３６５７ｂにおける第一スリット３６５８ａと接している接点を通る法線が、昇降カムギア３６５７の回転中心（駆動ピン３６５７ｂの公転中心）を通っているため、バネ３６５９の付勢力により第一スリット３６５８ａを介して駆動ピン３６５７ｂに上方への力が作用しても、駆動ピン３６５７ｂは何れの方向へも公転することはなく、リンク部材３６５８が上方へ移動することはない。従って、リンク部材３６５８が上方へ移動しないため、裏後右装飾体ユニット３６２０（裏後右回転装飾体３６１０）が、退避位置の状態から可動ベース３６２４の軸孔３６２４ａ（支持軸３６５１ａ）を中心として回動することはないと共に、バネ３６５９の付勢力が、リンク部材３６５８及び昇降カムギア３６５７等を介して裏後右昇降駆動モータ３６５４に作用することはない。
【１３３１】
なお、通常の状態において、昇降カムギア３６５７の駆動ピン３６５７ｂを、第一スリット３６５８ａの右端に当接させるようにしても良い。これにより、バネ３６５９の付勢力によりリンク部材３６５８が上方へ移動しようとすると、第一スリット３６５８ａから駆

動ピン３６５７ｂを介して作用する力により、昇降カムギア３６５７が反時計回りの方向へ回転しようとする。この際に、昇降カムギア３６５７の駆動ピン３６５７ｂが、右方へ移動する方向へ公転しようとすることとなるが、駆動ピン３６５７ｂが第一スリット３６５８ａの右端に当接していることで、駆動ピン３６５７ｂが公転することができず、昇降カムギア３６５７を介してリンク部材３６５８の上方への移動がロックされて、裏後右装飾体ユニット３６２０の退避位置からの回動を阻止することができる。

【１３３２】

この通常の状態で、裏後右昇降駆動モータ３６５４によりモータギア３６５５を反時計回りの方向へ回転させると、ギア部３６５７ａを介して昇降カムギア３６５７が時計回りの方向へ回転することとなり、昇降カムギア３６５７の駆動ピン３６５７ｂが時計回りの方向へ公転することとなる。この駆動ピン３６５７ｂが時計回りの方向へ公転すると、第一スリット３６５８ａの内面を上方へ押圧しながら、第一スリット３６５８ａ内を左方へ摺動することとなり、リンク部材３６５８が上方へ移動することとなる。

【１３３３】

リンク部材３６５８が上方へ移動すると、支持軸３６５１ａの下方且つ左方で突出している裏後右装飾体ユニット３６２０の可動ベース３６２４の作動ピン３６２４ｂが、リンク部材３６５８の第二スリット３６５８ｂの内面により上方へ押圧され、作動ピン３６２４ｂが第二スリット３６５８ｂ内を左方へ摺動しながら、可動ベース３６２４が支持軸３６５１ａを中心として時計回りの方向へ回動し、裏後右装飾体ユニット３６２０が退避位置から時計回りの方向へ回動することとなる（図１９１（ａ）及び（ｂ）を参照）。この際に、バネ３６５９の付勢力によりリンク部材３６５８の上方への移動をアシストしており、裏後右昇降駆動モータ３６５４にかかる負荷を軽減させている。

【１３３４】

このようにして裏後右装飾体ユニット３６２０が支持軸３６５１ａを中心として時計回りの方向へ回動することで、下端側に設けられている裏後右回転装飾体３６１０が左方へ移動しつつ上方へ移動することとなり、裏後右回転装飾体３６１０が裏前右演出ユニット３８００よりも左方へ移動して、前方（遊技者側）から視認可能な状態となる。

【１３３５】

本実施形態の裏後右演出ユニット３６００では、昇降カムギア３６５７が、通常の状態（退避位置の状態）から時計回りの方向へ約９０度回転した時の裏後右装飾体ユニット３６２０の回動位置を、第一出現位置としている（図１９１（ｂ）を参照）。この第一出現位置の状態では、裏後右装飾体ユニット３６２０が、退避位置の状態から時計回りの方向へ約４４度回動している。

【１３３６】

そして、第一出現位置の状態から、昇降カムギア３６５７が更に時計回りの方向へ回転すると、駆動ピン３６５７ｂが、第一スリット３６５８ａ内を右方へ摺動するようになる。そして、駆動ピン３６５７ｂが、公転中心の直上まで移動すると（通常の状態から１８０度公転すると）、裏後右昇降駆動モータ３６５４によるモータギア３６５５の回転が停止すると同時に、駆動ピン３６５７ｂの公転が停止する。

【１３３７】

これにより、リンク部材３６５８の上方への移動が停止し、裏後右装飾体ユニット３６２０の時計回りの方向への回動が停止して、第二出現位置の状態となる（図１９１（ｃ）を参照）。この第二出現位置の状態では、裏後右装飾体ユニット３６２０が、退避位置の状態から時計回りの方向へ約７４度回動している。

【１３３８】

裏後右装飾体ユニット３６２０が第二出現位置の状態では、駆動ピン３６５７ｂが、昇降カムギア３６５７の回転中心の直上に位置している。この状態では、裏後右装飾体ユニット３６２０の自重により、裏後右装飾体ユニット３６２０が支持軸３６５１ａを中心にして反時計回りの方向へ回動しようとする力が作用し、その力により可動ベース３６２４の作動ピン３６２４ｂ及び第二スリット３６５８ｂを介してリンク部材３６５８が下方へ移

動しようとすることとなるが、第一スリット３６５８ａに挿入されている駆動ピン３６５７ｂが公転中心の直上に位置しているため、駆動ピン３６５７ｂが何れの方向へも公転することはない。

【１３３９】

従って、駆動ピン３６５７ｂが公転しないことから昇降カムギア３６５７も回転することはないため、リンク部材３６５８が下方へ移動することはなく、裏後右装飾体ユニット３６２０が第二出現位置の状態から回動することはないと共に、裏後右装飾体ユニット３６２０の自重による力が、リンク部材３６５８及び昇降カムギア３６５７等を介して裏後右昇降駆動モータ３６５４に作用することはない。

【１３４０】

なお、裏後右装飾体ユニット３６２０が第二出現位置の状態において、昇降カムギア３６５７を更に時計回りの方向へ回転させて、駆動ピン３６５７ｂを第一スリット３６５８ａの右端に当接させるようにしても良い。これにより、裏後右装飾体ユニット３６２０が自重により支持軸３６５１ａを中心として反時計回りの方向へ回動しようとすることで、作動ピン３６２４ｂを介してリンク部材３６５８が下方へ移動しようとすると、第一スリット３６５８ａから駆動ピン３６５７ｂを介して作用する力により、昇降カムギア３６５７が時計回りの方向へ回転しようとする。この際に、駆動ピン３６５７ｂが右方へ移動するように公転しようとすることとなるが、駆動ピン３６５７ｂが第一スリット３６５８ａの右端に当接しているため、駆動ピン３６５７ｂは公転することができず、リンク部材３６５８の下方への移動が阻止され、裏後右装飾体ユニット３６２０が第二出現位置の状態で回動不能にロックすることができる。

【１３４１】

裏後右装飾体ユニット３６２０を、退避位置から第一出現位置及び第二出現位置へ回動させた状態では、下端側に設けられている裏後右回転装飾体３６１０が前方（遊技者側）から視認可能となる。

【１３４２】

この裏後右装飾体ユニット３６２０では、裏後右回転駆動モータ３６２５により駆動ギア３６２６を回転させることで、駆動ギア３６２６と噛合している回転ギア３６２７を介して裏後右回転装飾体３６１０を、前後方向の軸周りに回転させることができる（図１９０を参照）。従って、裏後右回転装飾体３６１０が前方（遊技者側）から視認可能な時に、裏後右回転駆動モータ３６２５により駆動ギア３６２６を回転させると、回転している裏後右回転装飾体３６１０を遊技者に視認させることができる。

【１３４３】

裏後右装飾体ユニット３６２０を第一出現位置や第二出現位置の状態から、通常の状態である退避位置へ復帰させる場合は、裏後右昇降駆動モータ３６５４によりモータギア３６５５を、上記とは逆の方向へ回転させることで、昇降カムギア３６５７の駆動ピン３６５７ｂの公転によりリンク部材３６５８を下方へ移動させることができ、リンク部材３６５８の下方への移動に伴って、裏後右装飾体ユニット３６２０が退避位置の方向（反時計回りの方向）へ回動することとなる。そして、昇降カムギア３６５７の検知片３６５７ｃが、裏後右昇降検知センサ３６６２により検知されたら、裏後右昇降駆動モータ３６５４によるモータギア３６５５の回転を停止させることにより、裏後右装飾体ユニット３６２０を退避位置の状態に復帰させることができる。

【１３４４】

本実施形態の裏後右演出ユニット３６００は、図１９０に示すように、裏後右回転装飾体３６１０及び裏後右装飾体３６２１の後方に、裏後右装飾基板３６２２が設けられているため、裏後右装飾基板３６２２に実装されている複数のＬＥＤを適宜発光させることで、裏後右回転装飾体３６１０及び裏後右装飾体３６２１を発光装飾させることができる。この際に、裏後右装飾体ユニット３６２０を、退避位置から第一出現位置及び第二出現位置側へ回動させた状態で、裏後右装飾基板３６２２のＬＥＤを発光させることで、発光装飾されている裏後右回転装飾体３６１０及び裏後右装飾体３６２１を遊技者に見せることが

できる。
【１３４５】
［５－９ｊ．裏前左演出ユニット］
続いて、裏ユニット３０００における裏前左演出ユニット３７００について、主に図１９２乃至図１９５等を参照して詳細に説明する。図１９２（ａ）は裏ユニットにおける裏前左演出ユニットを前から見た斜視図であり、（ｂ）は裏ユニットにおける裏前左演出ユニットを後ろから見た斜視図である。図１９３は裏前左演出ユニットにおける一つの裏前左装飾体ユニットを分解して前から見た分解斜視図であり、図１９４は裏前左演出ユニットにおける一つの裏前左装飾体ユニットを分解して後ろから見た分解斜視図である。図１９５（ａ）は裏前左演出ユニットにおいてシャッター群を閉状態で示す正面図であり、（ｂ）は裏前左演出ユニットにおいてシャッター群を開状態で示す正面図である。
【１３４６】
裏ユニット３０００における裏前左演出ユニット３７００は、裏箱３０１０内において、左端付近が裏前左装飾体３０３０の後方に位置するように、裏後左演出ユニット３５００の前側に取付けられている。裏前左演出ユニット３７００は、上から順に、第一裏前左装飾体ユニット３７１０Ａ、第二裏前左装飾体ユニット３７１０Ｂ、及び第三裏前左装飾体ユニット３７１０Ｃ、の三つの裏前左装飾体ユニット３７１０により構成されている。
【１３４７】
裏前左演出ユニット３７００では、図１９５に示すように、第一裏前左装飾体ユニット３７１０Ａは、第二裏前左装飾体ユニット３７１０Ｂ及び第三裏前左装飾体ユニット３７１０Ｃと比較して、上端側が右方へ移動するように、斜めに傾斜させられている。また、第一裏前左装飾体ユニット３７１０Ａは、後カバー３７１５の形状が、第二裏前左装飾体ユニット３７１０Ｂ及び第三裏前左装飾体ユニット３７１０Ｃのものとは若干異なっている。
【１３４８】
裏前左演出ユニット３７００の裏前左装飾体ユニット３７１０は、図１９３及び図１９４に示すように、前後に貫通した枠状の前カバー３７１１と、前カバー３７１１の後側に取付けられている枠状のシャッター支持部材３７１２と、シャッター支持部材３７１２の前面において上下方向へ列設されていると共に夫々が左右方向の軸周りに回動可能に支持されて前カバー３７１１の枠内を開閉可能としているシャッターユニット３７３０と、を備えている。
【１３４９】
また、裏前左装飾体ユニット３７１０は、シャッター支持部材３７１２の枠内を後方から閉鎖しており、透明平板状の裏前左装飾体３７１３と、裏前左装飾体３７１３の後方に設けられており、前面（以下、「表面（実装面）」と記載する場合がある。）に複数のＬＥＤが実装されている裏前左装飾基板３７１４と、裏前左装飾基板３７１４を後方から覆うように前カバー３７１１に取付けられており裏後左演出ユニット３５００の前面に取付けられる後カバー３７１５と、を備えている。
【１３５０】
更に、裏前左装飾体ユニット３７１０は、シャッター支持部材３７１２の左辺側に取付けられている金属板からなる支持板３７１６と、支持板３７１６に取付けられている裏前左駆動ソレノイド３７１７と、裏前左駆動ソレノイド３７１７におけるプランジャの先端に取付けられている伝達部材３７１８と、支持板３７１６に左右方向の軸周りに回動可能に取付けられており、裏前左駆動ソレノイド３７１７による伝達部材３７１８の進退により回動するリンク部材３７１９と、リンク部材３７１９の回動により上下方向へスライドしてシャッターユニット３７３０を開閉させる開閉スライダ３７２０と、を備えている。
【１３５１】
裏前左装飾体ユニット３７１０の前カバー３７１１は、外形が、「凸」字を右に倒して角を丸めたような形状（「松」を図案化した形状）に形成されている。前カバー３７１１の前面には、金属光沢を持った金属装飾部３７１１ａが形成されている部位が配置されている。換言すると、前カバー３７１１の近傍に金属光沢を持った金属装飾部３７１１ａを有

する部位が配置されている。本実施形態では、金属光沢を持った金属装飾部３７１１ａを有する部位は、前カバー３７１１と一体的に成型されているが、前カバー３７１１と別体に成型して、この成型した部位と前カバー３７１１とを組み立てるように構成してもよい。

【１３５２】

金属装飾部３７１１ａの金属光沢により高級感を付与することができると共に、前カバー３７１１を目立たせることができ、前カバー３７１１の存在感をより強調することができるようになっている。金属装飾部３７１１ａは、所定色（本実施形態では金色）の金属箔を、上述したホットスタンピングによる箔押しによって形成されている。前カバー３７１１は、その前面にのみ金属装飾部３７１１ａが形成されており、前カバー３７１１の側面に金属装飾部３７１１ａが全く形成されていない。これにより、少なくとも、前カバー３７１１の側面の長さの分だけ、前カバー３７１１の金属装飾部３７１１ａから裏前左装飾基板３７１４までの沿面距離をより長くすることができるため、金属装飾部３７１１ａにおいて蓄積された静電気が裏前左装飾基板３７１４に流れて、裏前左装飾基板３７１４が破損してしまうことを防止することができる。したがって、静電気等の放電やショートに対する絶縁性を高めることができる。

【１３５３】

シャッター支持部材３７１２は、前面にシャッターユニット３７３０における各シャッター部材３７３１の軸部３７３３を回転可能に支持する軸受部３７１２ａが複数設けられている。また、シャッター支持部材３７１２は、前面の左端付近から円筒状に前方へ突出しているボス部３７１２ｂを有している。このボス部３７１２ｂは、開閉スライダ３７２０のスリット３７２０ｂ内に摺動可能に挿入されると共に、先端に支持板３７１６が取付けられる。

【１３５４】

シャッターユニット３７３０は、複数（ここでは、８個）のシャッター部材３７３１により構成されている。シャッター部材３７３１は、左右に延びた平板状のシャッター３７３２と、シャッター３７３２の左右方向両端から円柱状に延びている軸部３７３３と、左側の軸部３７３３の先端から軸直角方向へ突出した後に左方へ円柱状に延びているクランク軸３７３４と、を有している。

【１３５５】

シャッター３７３２は、前カバー３７１１の枠内の形状に対して、シャッター部材３７３１が配置されている高さに応じた長さ及び形状に、形成されている。軸部３７３３は、シャッター３７３２の面を前方へ向けた状態でシャッター３７３２の上端付近から突出している。クランク軸３７３４は、軸部３７３３よりも後方に位置している。

【１３５６】

シャッター部材３７３１は、軸部３７３３が、シャッター支持部材３７１２の軸受部３７１２ａにより回転可能に支持されることで、軸部３７３３を中心として左右方向の軸周りに回動することができる。クランク軸３７３４は、開閉スライダ３７２０の伝達溝３７２０ａ内に摺動可能に挿入される。

【１３５７】

裏前左装飾体３７１３は、図示は省略するが、パチンコ機１（遊技盤５）のコンセプト（つまり、パチンコ機１（遊技盤５）の世界観）に沿ったキャラクタ、アイテム、ロゴ、等の絵柄が施されている。裏前左装飾体３７１３は、裏前左装飾基板３７１４のＬＥＤからの光を拡散させることができるインナーレンズとして機能している。インナーレンズである裏前左装飾体３７１３の表面は、レンズカットが施されて（多面体に形成されて）光を乱屈折することができるようになっており、裏前左装飾体３７１３の後方に配置される裏前左装飾基板３７１４の前面に実装されている複数のＬＥＤが遊技者側から明確に視認し難くなっている。なお、裏前左装飾体３７１３の表面と共に裏面には、レンズカットが施されていてもよいし（多面体に形成されていてもよいし）、裏前左装飾体３７１３の表面に代えて裏面には、レンズカットが施されていてもよい（多面体に形成されていてもよい）。裏前左装飾基板３７１４の表面（実装面）に実装される複数のＬＥＤは、表面実装タ

イプであって多色発光可能なフルカラーＬＥＤである。
【１３５８】
前カバー３７１１の枠内が開放された開状態では、後述するように、シャッターユニット３７３０の後方に設けられている裏前左装飾体３７１３が前方から視認可能な状態となる。この開状態において、裏前左装飾体３７１３が透明に形成されているため、裏前左装飾体３７１３を通して、裏前左装飾体３７１３の後方に配置される裏前左装飾基板３７１４の表面（実装面）を視認することができるようになっている。
【１３５９】
なお、裏前左装飾基板３７１４の表面（実装面）に実装される複数のＬＥＤ等の表面側電子部品の部品番号、表面側電子部品を配置する位置を示す領域等の表面側電子部品の属性（さらに、表面側電子部品の形状、表面側電子部品の大きさ、表面側電子部品の実装向き（実装方向）、表面側電子部品の型式を含む場合がある。）を示す表面側表記部が裏前左装飾基板３７１４の表面（実装面）に所定の塗料の色でシルク印刷により印刷されると共に、透明な裏前左装飾体３７１３の後方には、裏前左装飾基板３７１４が配置されているため、前カバー３７１１の枠内が開放された開状態では、裏前左装飾基板３７１４の表面（実装面）にシルク印刷により印刷される所定の塗料の色が裏前左装飾体３７１３を介して、視認可能となっており、複数のＬＥＤが消灯している状態において、所定の塗料の色を視認できる場合には所定の塗料の色により文字、記号、形状（つまり、表面側表記部が示す表面側電子部品の属性）を判別することができる。
【１３６０】
また、裏前左装飾基板３７１４の表面（実装面）に実装される複数のＬＥＤは、それぞれのパッケージが白色（白色と同色であると認められる色）の樹脂製となっている。
【１３６１】
裏前左装飾基板３７１４の表面（前面）には、複数のＬＥＤ（表面実装タイプ）が半田付けされるパッド、スルーホール、ランド等を除いた全域において、白色のレジスト液が塗布されて形成される白色塗膜（以下、単に「ベタ塗りされた白色のレジスト」と記載する場合がある。）により白色のレジスト層が形成されている。裏前左装飾基板３７１４の裏面（後面）には、各種コネクタ（表面実装タイプ）が半田付けされるパッド、スルーホール、ランド等を除いた全域において、ベタ塗りされた白色のレジストにより白色のレジスト層が形成されている。更に、裏前左装飾基板３７１４の表面（前面）には、図示は省略するが、実装されている複数のＬＥＤ等の表面側電子部品の近傍に、表面側電子部品の部品番号、表面側電子部品を配置する位置を示す領域等の表面側電子部品の属性（さらに、表面側電子部品の形状、表面側電子部品の大きさ、表面側電子部品の実装向き（実装方向）、表面側電子部品の型式を含む場合がある。）を示す表面側表記部が、白色に対して目立ち難い明色である黄色の塗料で、ベタ塗りされた白色のレジスト上にシルク印刷により印刷されている。裏前左装飾基板３７１４の裏面（後面）には、図示は省略するが、複数のコネクタ等の裏面側電子部品の近傍に、裏面側電子部品の部品番号、裏面側電子部品を配置する位置を示す領域等の裏面側電子部品の属性（さらに、裏面側電子部品の形状、裏面側電子部品の大きさ、裏面側電子部品の実装向き（実装方向）、裏面側電子部品の型式を含む場合がある。）を示す裏面側表記部が、白色に対して目立ち難い明色である黄色の塗料で、ベタ塗りされた白色のレジスト上にシルク印刷により印刷されている。
【１３６２】
ここで、レジスト液の色として白色のものを採用し、シルク印刷の塗料として黄色を採用した理由について説明する。まず、反射率は、白色に近いほど高くなるのに対して、黒色に近づくと低くなる。黄色の反射率は赤色の反射率と比べると白色の反射率に非常に近く、赤色の反射率は黄色の反射率と比べて白色の反射率に非常に遠い。黄色の反射率は白色塗膜の白色の反射率と比べて低いものの高い反射率を有している。このため、白色と赤色との組み合わせでは、背景が白色であると赤色が目立つこととなり、表面側表記部（裏面側表記部）を赤色とする場合には白色のレジストに対して赤色の表面側表記部（白色のレジストに対して赤色の裏面側表記部）が目立つのに対して、白色と黄色との組み合わせ（

本実施形態の構成）では、背景が白色であると黄色が目立たず、表面側表記部（裏面側表記部）を黄色とする場合には白色のレジストに対して黄色の表面側表記部（白色のレジストに対して黄色の裏面側表記部）が目立ち難い。

【１３６３】

また、パチンコ機１は各装飾基板に実装される複数のＬＥＤ等の発光部による電飾により煌びやかに発光演出が行われるため、複数のＬＥＤは、上述したように、多色発光可能なフルカラーＬＥＤであり、点灯（発光）したり、消灯したりすることによって発光態様がさまざまに変化する。このため、裏前左装飾基板３７１４の表面（前面）には、上述したように、複数のＬＥＤが半田付けされるパッド、スルーホール、ランド等を除いた全域において、白色のレジスト液が塗布されて形成される白色塗膜（以下、単に「ベタ塗りされた白色のレジスト」と記載する場合がある。）により白色のレジスト層が形成され、さらに、このベタ塗りされた白色のレジスト上に多色発光可能なフルカラーＬＥＤを特定可能にする表面側表記部が黄色の塗料でシルク印刷により印刷されることにより、多色発光可能なフルカラーＬＥＤの消灯時において白色のレジストに対して黄色の表面側表記部を目立たないようにすることができることに加えて、さらに、多色発光可能なフルカラーＬＥＤの点灯時（発光時）において、反射率の高いベタ塗りされた白色のレジストと、白色の反射率に非常に近い黄色の塗料でシルク印刷により印刷される表面側表記部と、による組み合わせによって裏前左装飾基板３７１４の表面（前面）の反射率を高く維持することができる。

【１３６４】

なお、シルク印刷の塗料として黄色を採用した場合には、シルク印刷により印刷された黄色が印刷機によるバラツキにより薄い黄色となったり、濃い黄色となったりする場合もあれば、橙色に見えたりする場合もある。また、シルク印刷の塗料を供給するインク会社にも黄色に幅（明るい側に寄る黄色、暗い側による黄色）があるため、同一の基板製造会社や複数の基板会社に対してシルク印刷の塗料として黄色を指定しても、完全同一の黄色とならず（完全同一の黄色とすることが難しく）、黄色に幅がある色となる。

【１３６５】

支持板３７１６は、左右方向へ板面を向けた状態で上下に延びていると共に、前端側が右方へ屈曲された形状に形成されている。支持板３７１６は、前端側の右方へ屈曲された部位が、シャッター支持部材３７１２のボス部３７１２ｂの前面に取付けられ、残りの部位が、シャッター支持部材３７１２の左方を通って後方へ突出している。また、支持板３７１６は、下端付近から右方へ円柱状に突出している支持ピン３７１６ａを有している。この支持ピン３７１６ａは、リンク部材３７１９を回動可能に支持するためのものである。

【１３６６】

裏前左駆動ソレノイド３７１７は、プランジャが下方へ進退する向きで支持板３７１６に取付けられている。裏前左駆動ソレノイド３７１７は、バネによりプランジャが下方へ突出する方向へ付勢されている。リンク部材３７１９は、支持板３７１６の支持ピン３７１６ａが挿入されることで、支持ピン３７１６ａを中心として左右方向の軸周りに回動することができる。このリンク部材３７１９は、支持ピン３７１６ａが挿入される部位を間にして、伝達部材３７１８に接続される第一接続部３７１９ａが後側に設けられていると共に、開閉スライダ３７２０に接続される第二接続部３７１９ｂが前側に設けられている。

【１３６７】

開閉スライダ３７２０は、複数のシャッター部材３７３１からなるシャッターユニット３７３０の高さと略同じ長さで上下に延びており、シャッターユニット３７３０の各クランク軸３７３４が前後方向へ摺動可能に挿入される伝達溝３７２０ａと、シャッター支持部材３７１２のボス部３７１２ｂが上下方向へ摺動可能に挿入されるスリット３７２０ｂと、を有している。

【１３６８】

次に、裏前左演出ユニット３７００の動作について説明する。裏前左演出ユニット３７００は、通常の状態では、図１９５（ａ）に示すように、シャッターユニット３７３０のシ

ャッター部材３７３１のシャッター３７３２が、その板面を前方へ向けた状態となっており、複数のシャッター３７３２により前カバー３７１１の枠内が閉鎖された閉状態となっている。この通常の状態では、シャッターユニット３７３０の後方に設けられている裏前左装飾体３７１３が前方（遊技者側）から視認不能となっている。なお、図示は省略するが、シャッターユニット３７３０が閉状態の時に、シャッターユニット３７３０（複数のシャッター３７３２）の前面に、後方の裏前左装飾体３７１３に施されている絵柄とは異なる絵柄が施されている。

【１３６９】

通常の状態では、裏前左駆動ソレノイド３７１７が非通電（ＯＦＦ）の状態となっており、バネの付勢力によりプランジャが下方へ突出している。また、通常の状態では、開閉スライダ３７２０が上方の移動端に位置していると共に、各シャッター部材３７３１のクランク軸３７３４が軸部３７３３よりも上方に位置している。

【１３７０】

この通常の状態で、裏前左駆動ソレノイド３７１７が通電（ＯＮ）されると、バネの付勢力に抗してプランジャが上方へ移動すると同時に、プランジャの先端に取付けられている伝達部材３７１８が上方へ移動する。この伝達部材３７１８が上方へ移動することで、伝達部材３７１８に接続されているリンク部材３７１９の第一接続部３７１９ａが上方へ移動することとなり、リンク部材３７１９が支持ピン３７１６ａを中心として回動することで、第一接続部３７１９ａとは反対側の第二接続部３７１９ｂが下方へ移動することとなる。そして、リンク部材３７１９の第二接続部３７１９ｂの下方への移動により、第二接続部３７１９ｂに接続されている開閉スライダ３７２０が下方へ移動することとなる。

【１３７１】

この開閉スライダ３７２０が下方へ移動することにより、伝達溝３７２０ａに挿入されているシャッター部材３７３１のクランク軸３７３４が下方へ押圧され、クランク軸３７３４が軸部３７３３よりも下方へ位置するように、シャッター部材３７３１が軸部３７３３を中心として回動することとなる。これにより、シャッター３７３２の板面が上下方向を向いた状態となるため、複数のシャッター３７３２により前カバー３７１１の枠内が開放された開状態となり、シャッターユニット３７３０の後方に設けられている裏前左装飾体３７１３が前方から視認可能な状態となる（図１９５（ｂ）を参照）。

【１３７２】

その後、裏前左駆動ソレノイド３７１７を非通電（ＯＦＦ）とすることで、上方へ移動していたプランジャがバネの付勢力により下方へ移動することとなり、上記とは逆の動きをすることで、開状態のシャッターユニット３７３０が通常の状態である閉状態に復帰することができる。

【１３７３】

このように、本実施形態の裏前左演出ユニット３７００によれば、裏前左駆動ソレノイド３７１７によりシャッターユニット３７３０を開閉させることで、シャッターユニット３７３０の装飾（絵柄）から、裏前左装飾体３７１３の装飾（絵柄）に切換えることができ、遊技者に対して装飾の変化を楽しませることができる。

【１３７４】

また、シャッターユニット３７３０及び裏前左装飾体３７１３の後方に裏前左装飾基板３７１４を設けているため、シャッターユニット３７３０が閉状態の時に、裏前左装飾基板３７１４の複数のＬＥＤを発光させることで、発光装飾されたシャッターユニット３７３０を遊技者に見せることができ、シャッターユニット３７３０が開状態の時に、裏前左装飾基板３７１４の複数のＬＥＤを発光させることで、発光装飾された裏前左装飾体３７１３を遊技者に見せることができる。

【１３７５】

更に、裏前左演出ユニット３７００では、第一裏前左装飾体ユニット３７１０Ａ、第二裏前左装飾体ユニット３７１０Ｂ、及び第三裏前左装飾体ユニット３７１０Ｃ、の三つの裏前左装飾体ユニット３７１０を、夫々独立してシャッターユニット３７３０を開閉させた

り、発光装飾させたりすることができるため、三つの裏前左装飾体ユニット３７１０による演出を適宜組合せることで、多彩な演出を遊技者に見せることができる。

【１３７６】

［５－９ｋ．裏前右演出ユニット］

続いて、裏ユニット３０００における裏前右演出ユニット３８００について、主に図１９６乃至図１９９等を参照して詳細に説明する。図１９６（ａ）は裏ユニットにおける裏前右演出ユニットを前から見た斜視図であり、（ｂ）は裏ユニットにおける裏前右演出ユニットを後ろから見た斜視図である。図１９７は裏前右演出ユニットにおける一つの裏前右装飾体ユニットを分解して前から見た分解斜視図であり、図１９８は裏前右演出ユニットにおける一つの裏前右装飾体ユニットを分解して後ろから見た分解斜視図である。図１９９（ａ）は裏前右演出ユニットにおいてシャッター群を閉状態で示す正面図であり、（ｂ）は裏前右演出ユニットにおいてシャッター群を開状態で示す正面図である。

【１３７７】

裏ユニット３０００における裏前右演出ユニット３８００は、裏箱３０１０内において、右端付近の上部が裏前右装飾体３０４０の後方に位置するように、裏後右演出ユニット３６００の前側に取付けられている。裏前右演出ユニット３８００は、上から順に、第一裏前右装飾体ユニット３８１０Ａ、第二裏前右装飾体ユニット３８１０Ｂ、及び第三裏前右装飾体ユニット３８１０Ｃ、の三つの裏前右装飾体ユニット３８１０により構成されている。

【１３７８】

裏前右演出ユニット３８００では、図１９９に示すように、第一裏前右装飾体ユニット３８１０Ａは、第二裏前右装飾体ユニット３８１０Ｂ及び第三裏前右装飾体ユニット３８１０Ｃと比較して、上端側が左方へ移動するように、斜めに傾斜させられている。また、第一裏前右装飾体ユニット３８１０Ａは、後カバー３８１５の形状が、第二裏前右装飾体ユニット３８１０Ｂ及び第三裏前右装飾体ユニット３８１０Ｃのものとは若干異なっている。

【１３７９】

裏前右演出ユニット３８００の裏前右装飾体ユニット３８１０は、図１９７及び図１９８に示すように、前後に貫通した枠状の前カバー３８１１と、前カバー３８１１の後側に取付けられている枠状のシャッター支持部材３８１２と、シャッター支持部材３８１２の前面において上下方向へ列設されていると共に夫々が左右方向の軸周りに回動可能に支持されて前カバー３８１１の枠内を開閉可能としているシャッターユニット３８３０と、を備えている。

【１３８０】

また、裏前右装飾体ユニット３８１０は、シャッター支持部材３８１２の枠内を後方から閉鎖しており、透明平板状の裏前右装飾体３８１３と、裏前右装飾体３８１３の後方に設けられており、前面（以下、「表面（実装面）」と記載する場合がある。）に複数のＬＥＤが実装されている裏前右装飾基板３８１４と、裏前右装飾基板３８１４を後方から覆うように前カバー３８１１に取付けられており裏後右演出ユニット３６００の前面に取付けられる後カバー３８１５と、を備えている。

【１３８１】

更に、裏前右装飾体ユニット３８１０は、シャッター支持部材３８１２の右辺側に取付けられている金属板からなる支持板３８１６と、支持板３８１６に取付けられている裏前右駆動ソレノイド３８１７と、裏前右駆動ソレノイド３８１７におけるプランジャの先端に取付けられている伝達部材３８１８と、支持板３８１６に左右方向の軸周りに回動可能に取付けられており、裏前右駆動ソレノイド３８１７による伝達部材３８１８の進退により回動するリンク部材３８１９と、リンク部材３８１９の回動により上下方向へスライドしてシャッターユニット３８３０を開閉させる開閉スライダ３８２０と、を備えている。

【１３８２】

裏前右装飾体ユニット３８１０の前カバー３８１１は、外形が、「凸」字を左に倒して角を丸めたような形状（「松」を図案化した形状）に形成されている。前カバー３８１１の

前面には、金属光沢を持った金属装飾部３８１１ａが形成されている部位が配置されている。換言すると、前カバー３８１１の近傍に金属光沢を持った金属装飾部３８１１ａを有する部位が配置されている。本実施形態では、金属光沢を持った金属装飾部３８１１ａを有する部位は、前カバー３８１１と一体的に成型されているが、前カバー３８１１と別体に成型して、この成型した部位と前カバー３８１１とを組み立てるように構成してもよい。

【１３８３】

金属装飾部３８１１ａの金属光沢により高級感を付与することができると共に、前カバー３８１１を目立たせることができ、前カバー３８１１の存在感をより強調することができるようになっている。金属装飾部３８１１ａは、所定色（本実施形態では金色）の金属箔を、上述したホットスタンピングによる箔押しによって形成されている。前カバー３８１１は、その前面にのみ金属装飾部３８１１ａが形成されており、前カバー３８１１の側面に金属装飾部３８１１ａが全く形成されていない。これにより、少なくとも、前カバー３８１１の側面の長さの分だけ、前カバー３８１１の金属装飾部３８１１ａから裏前右装飾基板３８１４までの沿面距離をより長くすることができるため、金属装飾部３８１１ａにおいて蓄積された静電気が裏前右装飾基板３８１４に流れて、裏前右装飾基板３８１４が破損してしまうことを防止することができる。したがって、静電気等の放電やショートに対する絶縁性を高めることができる。

【１３８４】

シャッター支持部材３８１２は、前面にシャッターユニット３８３０における各シャッター部材３８３１の軸部３８３３を回転可能に支持する軸受部３８１２ａが複数設けられている。また、シャッター支持部材３８１２は、前面の右端付近から円筒状に前方へ突出しているボス部３８１２ｂを有している。このボス部３８１２ｂは、開閉スライダ３８２０のスリット３８２０ｂ内に摺動可能に挿入されると共に、先端に支持板３８１６が取付けられる。

【１３８５】

シャッターユニット３８３０は、複数（ここでは、８個）のシャッター部材３８３１により構成されている。シャッター部材３８３１は、左右に延びた平板状のシャッター３８３２と、シャッター３８３２の左右方向両端から円柱状に延びている軸部３８３３と、右側の軸部３８３３の先端から軸直角方向へ突出した後に右方へ円柱状に延びているクランク軸３８３４と、を有している。

【１３８６】

シャッター３８３２は、前カバー３８１１の枠内の形状に対して、シャッター部材３８３１が配置されている高さに応じた長さ及び形状に、形成されている。軸部３８３３は、シャッター３８３２の面を前方へ向けた状態でシャッター３８３２の上端付近から突出している。クランク軸３８３４は、軸部３８３３よりも後方に位置している。

【１３８７】

シャッター部材３８３１は、軸部３８３３が、シャッター支持部材３８１２の軸受部３８１２ａにより回転可能に支持されることで、軸部３８３３を中心として左右方向の軸周りに回動することができる。クランク軸３８３４は、開閉スライダ３８２０の伝達溝３８２０ａ内に摺動可能に挿入される。

【１３８８】

裏前右装飾体３８１３は、図示は省略するが、パチンコ機１（遊技盤５）のコンセプト（つまり、パチンコ機１（遊技盤５）の世界観）に沿ったキャラクタ、アイテム、ロゴ、等の絵柄が施されている。裏前右装飾体３８１３は、裏前右装飾基板３８１４のＬＥＤからの光を拡散させることができるインナーレンズとして機能している。インナーレンズである裏前右装飾体３８１３の表面は、レンズカットが施されて（多面体に形成されて）光を乱屈折することができるようになっており、裏前右装飾体３８１３の後方に配置される裏前右装飾基板３８１４の前面に実装されている複数のＬＥＤが遊技者側から明確に視認し難くなっている。なお、裏前右装飾体３８１３の表面と共に裏面には、レンズカットが施されていてもよいし（多面体に形成されていてもよいし）、裏前右装飾体３８１３の表面

に代えて裏面には、レンズカットが施されていてもよい（多面体に形成されていてもよい）。裏前右装飾基板３８１４の表面（実装面）に実装される複数のＬＥＤは、表面実装タイプであって多色発光可能なフルカラーＬＥＤである。

【１３８９】

前カバー３８１１の枠内が開放された開状態では、後述するように、シャッターユニット３８３０の後方に設けられている裏前右装飾体３８１３が前方から視認可能な状態となる。この開状態において、裏前右装飾体３８１３が透明に形成されているため、裏前右装飾体３８１３を通して、裏前右装飾体３８１３の後方に配置される裏前右装飾基板３８１４の表面（実装面）を視認することができるようになっている。

【１３９０】

なお、裏前右装飾基板３８１４の表面（実装面）に実装される複数のＬＥＤ等の表面側電子部品の部品番号、表面側電子部品を配置する位置を示す領域等の表面側電子部品の属性（さらに、表面側電子部品の形状、表面側電子部品の大きさ、表面側電子部品の実装向き（実装方向）、表面側電子部品の型式を含む場合がある。）を示す表面側表記部が裏前右装飾基板３８１４の表面（実装面）に所定の塗料の色でシルク印刷により印刷されると共に、透明な裏前右装飾体３８１３の後方には、裏前右装飾基板３８１４が配置されているため、前カバー３８１１の枠内が開放された開状態では、裏前右装飾基板３８１４の表面（実装面）にシルク印刷により印刷される所定の塗料の色が裏前右装飾体３８１３を介して、視認可能となっており、複数のＬＥＤが消灯している状態において、所定の塗料の色を視認できる場合には所定の塗料の色により文字、記号、形状（つまり、表面側表記部が示す表面側電子部品の属性）を判別することができる。

【１３９１】

また、裏前右装飾基板３８１４の表面（実装面）に実装される複数のＬＥＤは、それぞれのパッケージが白色（白色と同色であると認められる色）の樹脂製となっている。

【１３９２】

裏前右装飾基板３８１４の表面（前面）には、複数のＬＥＤ（表面実装タイプ）が半田付けされるパッド、スルーホール、ランド等を除いた全域において、白色のレジスト液が塗布されて形成される白色塗膜（以下、単に「ベタ塗りされた白色のレジスト」と記載する場合がある。）により白色のレジスト層が形成されている。裏前右装飾基板３８１４の裏面（後面）には、各種コネクタ（表面実装タイプ）が半田付けされるパッド、スルーホール、ランド等を除いた全域において、ベタ塗りされた白色のレジストにより白色のレジスト層が形成されている。更に、裏前右装飾基板３８１４の表面（前面）には、図示は省略するが、実装されている複数のＬＥＤ等の表面側電子部品の近傍に、表面側電子部品の部品番号、表面側電子部品を配置する位置を示す領域等の表面側電子部品の属性（さらに、表面側電子部品の形状、表面側電子部品の大きさ、表面側電子部品の実装向き（実装方向）、表面側電子部品の型式を含む場合がある。）を示す表面側表記部が、白色に対して目立ち難い明色である黄色の塗料で、ベタ塗りされた白色のレジスト上にシルク印刷により印刷されている。裏前右装飾基板３８１４の裏面（後面）には、図示は省略するが、複数のコネクタ等の裏面側電子部品の近傍に、裏面側電子部品の部品番号、裏面側電子部品を配置する位置を示す領域等の裏面側電子部品の属性（さらに、裏面側電子部品の形状、裏面側電子部品の大きさ、裏面側電子部品の実装向き（実装方向）、裏面側電子部品の型式を含む場合がある。）を示す裏面側表記部が、白色に対して目立ち難い明色である黄色の塗料で、ベタ塗りされた白色のレジスト上にシルク印刷により印刷されている。

【１３９３】

ここで、レジスト液の色として白色のものを採用し、シルク印刷の塗料として黄色を採用した理由について説明する。まず、反射率は、白色に近いほど高くなるのに対して、黒色に近づくと低くなる。黄色の反射率は赤色の反射率と比べると白色の反射率に非常に近く、赤色の反射率は黄色の反射率と比べて白色の反射率に非常に遠い。黄色の反射率は白色塗膜の白色の反射率と比べて低いものの高い反射率を有している。このため、白色と赤色との組み合わせでは、背景が白色であると赤色が目立つこととなり、表面側表記部（裏面

側表記部）を赤色とする場合には白色のレジストに対して赤色の表面側表記部（白色のレジストに対して赤色の裏面側表記部）が目立つのに対して、白色と黄色との組み合わせ（本実施形態の構成）では、背景が白色であると黄色が目立たず、表面側表記部（裏面側表記部）を黄色とする場合には白色のレジストに対して黄色の表面側表記部（白色のレジストに対して黄色の裏面側表記部）が目立ち難い。

【１３９４】

また、パチンコ機１は各装飾基板に実装される複数のＬＥＤ等の発光部による電飾により煌びやかに発光演出が行われるため、複数のＬＥＤは、上述したように、多色発光可能なフルカラーＬＥＤであり、点灯（発光）したり、消灯したりすることによって発光態様がさまざまに変化する。このため、裏前右装飾基板３８１４の表面（前面）には、上述したように、複数のＬＥＤが半田付けされるパッド、スルーホール、ランド等を除いた全域において、白色のレジスト液が塗布されて形成される白色塗膜（以下、単に「ベタ塗りされた白色のレジスト」と記載する場合がある。）により白色のレジスト層が形成され、さらに、このベタ塗りされた白色のレジスト上に多色発光可能なフルカラーＬＥＤを特定可能にする表面側表記部が黄色の塗料でシルク印刷により印刷されることにより、多色発光可能なフルカラーＬＥＤの消灯時において白色のレジストに対して黄色の表面側表記部を目立たないようにすることができることに加えて、さらに、多色発光可能なフルカラーＬＥＤの点灯時（発光時）において、反射率の高いベタ塗りされた白色のレジストと、白色の反射率に非常に近い黄色の塗料でシルク印刷により印刷される表面側表記部と、による組み合わせによって裏前右装飾基板３８１４の表面（前面）の反射率を高く維持することができる。

【１３９５】

なお、シルク印刷の塗料として黄色を採用した場合には、シルク印刷により印刷された黄色が印刷機によるバラツキにより薄い黄色となったり、濃い黄色となったりする場合もあれば、橙色に見えたりする場合もある。また、シルク印刷の塗料を供給するインク会社にも黄色に幅（明るい側に寄る黄色、暗い側による黄色）があるため、同一の基板製造会社や複数の基板会社に対してシルク印刷の塗料として黄色を指定しても、完全同一の黄色とならず（完全同一の黄色とすることが難しく）、黄色に幅がある色となる。

【１３９６】

支持板３８１６は、左右方向へ板面を向けた状態で上下に延びていると共に、前端側が左方へ屈曲された形状に形成されている。支持板３８１６は、前端側の左方へ屈曲された部位が、シャッター支持部材３８１２のボス部３８１２ｂの前面に取付けられ、残りの部位が、シャッター支持部材３８１２の右方を通って後方へ突出している。また、支持板３８１６は、下端付近から左方へ円柱状に突出している支持ピン３８１６ａを有している。この支持ピン３８１６ａは、リンク部材３８１９を回動可能に支持するためのものである。

【１３９７】

裏前右駆動ソレノイド３８１７は、プランジャが下方へ進退する向きで支持板３８１６に取付けられている。裏前右駆動ソレノイド３８１７は、バネによりプランジャが下方へ突出する方向へ付勢されている。リンク部材３８１９は、支持板３８１６の支持ピン３８１６ａが挿入されることで、支持ピン３８１６ａを中心として左右方向の軸周りに回動することができる。このリンク部材３８１９は、支持ピン３８１６ａが挿入される部位を間にして、伝達部材３８１８に接続される第一接続部３８１９ａが後側に設けられていると共に、開閉スライダ３８２０に接続される第二接続部３８１９ｂが前側に設けられている。

【１３９８】

開閉スライダ３８２０は、複数のシャッター部材３８３１からなるシャッターユニット３８３０の高さと略同じ長さで上下に延びており、シャッターユニット３８３０の各クランク軸３８３４が前後方向へ摺動可能に挿入される伝達溝３８２０ａと、シャッター支持部材３８１２のボス部３８１２ｂが上下方向へ摺動可能に挿入されるスリット３８２０ｂと、を有している。

【１３９９】

次に、裏前右演出ユニット３８００の動作について説明する。裏前右演出ユニット３８００は、通常の状態では、図１９９（ａ）に示すように、シャッターユニット３８３０のシャッター部材３８３１のシャッター３８３２が、その板面を前方へ向けた状態となっており、複数のシャッター３８３２により前カバー３８１１の枠内が閉鎖された閉状態となっている。この通常の状態では、シャッターユニット３８３０の後方に設けられている裏前右装飾体３８１３が前方（遊技者側）から視認不能となっている。なお、図示は省略するが、シャッターユニット３８３０が閉状態の時に、シャッターユニット３８３０（複数のシャッター３８３２）の前面に、後方の裏前右装飾体３８１３に施されている絵柄とは異なる絵柄が施されている。

【１４００】

通常の状態では、裏前右駆動ソレノイド３８１７が非通電（ＯＦＦ）の状態となっており、バネの付勢力によりプランジャが下方へ突出している。また、通常の状態では、開閉スライダ３８２０が上方の移動端に位置していると共に、各シャッター部材３８３１のクランク軸３８３４が軸部３８３３よりも上方に位置している。

【１４０１】

この通常の状態で、裏前右駆動ソレノイド３８１７が通電（ＯＮ）されると、バネの付勢力に抗してプランジャが上方へ移動すると同時に、プランジャの先端に取付けられている伝達部材３８１８が上方へ移動する。この伝達部材３８１８が上方へ移動することで、伝達部材３８１８に接続されているリンク部材３８１９の第一接続部３８１９ａが上方へ移動することとなり、リンク部材３８１９が支持ピン３８１６ａを中心として回動することで、第一接続部３８１９ａとは反対側の第二接続部３８１９ｂが下方へ移動することとなる。そして、リンク部材３８１９の第二接続部３８１９ｂの下方への移動により、第二接続部３８１９ｂに接続されている開閉スライダ３８２０が下方へ移動することとなる。

【１４０２】

この開閉スライダ３８２０が下方へ移動することにより、伝達溝３８２０ａに挿入されているシャッター部材３８３１のクランク軸３８３４が下方へ押圧され、クランク軸３８３４が軸部３８３３よりも下方へ位置するように、シャッター部材３８３１が軸部３８３３を中心として回動することとなる。これにより、シャッター３８３２の板面が上下方向を向いた状態となるため、複数のシャッター３８３２により前カバー３８１１の枠内が開放された開状態となり、シャッターユニット３８３０の後方に設けられている裏前右装飾体３８１３が前方から視認可能な状態となる（図１９９（ｂ）を参照）。

【１４０３】

その後、裏前右駆動ソレノイド３８１７を非通電（ＯＦＦ）とすることで、上方へ移動していたプランジャがバネの付勢力により下方へ移動することとなり、上記とは逆の動きをすることで、開状態のシャッターユニット３８３０が通常の状態である閉状態に復帰することができる。

【１４０４】

このように、本実施形態の裏前右演出ユニット３８００によれば、裏前右駆動ソレノイド３８１７によりシャッターユニット３８３０を開閉させることで、シャッターユニット３８３０の装飾（絵柄）から、裏前右装飾体３８１３の装飾（絵柄）に切換えることができ、遊技者に対して装飾の変化を楽しませることができる。

【１４０５】

また、シャッターユニット３８３０及び裏前右装飾体３８１３の後方に裏前右装飾基板３８１４を設けているため、シャッターユニット３８３０が閉状態の時に、裏前右装飾基板３８１４の複数のＬＥＤを発光させることで、発光装飾されたシャッターユニット３８３０を遊技者に見せることができ、シャッターユニット３８３０が開状態の時に、裏前右装飾基板３８１４の複数のＬＥＤを発光させることで、発光装飾された裏前右装飾体３８１３を遊技者に見せることができる。

【１４０６】

更に、裏前右演出ユニット３８００では、第一裏前右装飾体ユニット３８１０Ａ、第二裏

前右装飾体ユニット３８１０Ｂ、及び第三裏前右装飾体ユニット３８１０Ｃ、の三つの裏前右装飾体ユニット３８１０を、夫々独立してシャッターユニット３８３０を開閉させたり、発光装飾させたりすることができるため、三つの裏前右装飾体ユニット３８１０による演出を適宜組合せることで、多彩な演出を遊技者に見せることができる。

【１４０７】

［５－１０．遊技盤における演出］

次に、遊技盤５における主な演出（可動演出）について、主に図２００乃至図２０５等を参照して詳細に説明する。図２００は、裏後演出ユニットの裏後可動装飾体を退避位置から出現位置へ移動させた状態で示す遊技盤の正面図である。図２０１は、裏下中演出ユニットの裏下中回転装飾体を下降位置から上昇位置へ移動させた状態で示す遊技盤の正面図である。図２０２は、裏上後演出ユニットの裏上後回転装飾体を退避位置から出現位置へ、裏後左演出ユニットの裏後左回転装飾体を退避位置から第一出現位置へ、及び裏後右演出ユニットの裏後右回転装飾体を退避位置から第一出現位置へ、夫々移動された状態で示す遊技盤の正面図である。図２０３は、裏後左演出ユニットの裏後左回転装飾体を退避位置から第二出現位置へ、及び裏後右演出ユニットの裏後右回転装飾体を退避位置から第二出現位置へ、夫々移動された状態で示す遊技盤の正面図である。図２０４は、裏前左演出ユニットのシャッターユニットと、裏前右演出ユニットのシャッターユニットと、を夫々閉状態から開状態にして示す遊技盤の正面図である。

【１４０８】

図２０５は、裏後演出ユニットの裏後可動装飾体を退避位置から出現位置へ、裏上後演出ユニットの裏上後回転装飾体を退避位置から出現位置へ、裏後左演出ユニットの裏後左回転装飾体を退避位置から第一出現位置へ、裏後右演出ユニットの裏後右回転装飾体を退避位置から第一出現位置へ、及び裏下中演出ユニットの裏下中回転装飾体を下降位置から上昇位置へ、夫々移動された状態で示す遊技盤の正面図である。

【１４０９】

本実施形態の遊技盤５は、遊技領域５ａの外周を区画している前構成部材１０００、遊技領域５ａの後端側を区画している遊技パネル１１００、始動口ユニット２１００、サイドユニット２２００、サイド左上ユニット２３００、第一アタッカユニット２４００、センター役物２５００、第二アタッカユニット２６００、サイド右中ユニット２７００、及びゲート部材２８００が、略全体的に透明に形成されていることから、通常の状態では、図１１１に示すように、それらを通して、遊技パネル１１００の後方に配置されている裏ユニット３０００における裏前左装飾体３０３０、裏前右装飾体３０４０、裏下左演出ユニット３２００の裏下左回転装飾体３２０１、裏下右演出ユニット３２５０の裏下右回転装飾体３２５１、裏下中演出ユニット３３００の裏下中回転装飾体３３１０、裏上演出ユニット３４００の裏上前回転装飾体３４１０及び裏上前装飾体３４２１、裏前左演出ユニット３７００の前カバー３７１１及びシャッターユニット３７３０、裏前右演出ユニット３８００の前カバー３８１１及びシャッターユニット３８３０、等を良好に視認することができると共に、センター役物２５００の枠内を通して、演出表示装置１６００に表示されている演出画像を、良好に視認することができる。

【１４１０】

更に、詳述すると、裏前左装飾体３０３０は、センター役物２５００よりも左側に位置していると共に、裏前右装飾体３０４０は、前構成部材１０００の衝止部１００６から右レール１００５に沿ってサイド右中ユニット２７００付近までの間に位置している。また、裏後演出ユニット３１００の裏後可動装飾体３１１０は、裏上演出ユニット３４００の後方に位置しており、遊技者側から視認不能となっている。

【１４１１】

また、裏下左回転装飾体３２０１は、センター役物２５００の枠内よりも下方でサイドユニット２２００の中央と左側の一般入賞口２００１の後方に位置していると共に、裏下右回転装飾体３２５１は、センター役物２５００の枠内よりも下方で第一アタッカユニット２４００の第一大入賞口２００５の後方に位置している。裏下左回転装飾体３２０１及び

裏下右回転装飾体３２５１は、透明な遊技パネル１１００及び表ユニット２０００を通して、遊技者側から視認可能となっている。

【１４１２】

また、裏下中回転装飾体３３１０は、下降位置の状態となっており、上部がセンター役物２５００の枠内に突出するように、始動口ユニット２１００の第一始動口２００２の後方に位置している。この裏下中回転装飾体３３１０は、パチンコ機１の前方に着座した遊技者からは、斜め上方からの視点となるため、センター役物２５００の枠内を通して、回転中心よりも上側の数字装飾を良好に視認することができる。

【１４１３】

更に、裏上演出ユニット３４００の裏上前装飾体３４２１は、正面視において、遊技領域５ａの上部で左右に延びており、左右方向中央より左側の上部が、透明な遊技パネル１１００及びセンター役物２５００を通して視認することができると共に、残りがセンター役物２５００の枠内を通して良好に視認することができる。裏上前回転装飾体３４１０は、裏上前装飾体３４２１の前方における左右方向中央で、一つの花弁を上方へ向けた状態となっており、センター役物２５００の枠内を通して遊技者側から良好に視認することができる。裏上演出ユニット３４００の裏上後回転装飾体３４４０を有する裏上昇降装飾体ユニット３４５０は、通常の状態では、裏上前装飾体３４２１の後方となる退避位置の状態となっており、遊技者側から視認不能となっている。

【１４１４】

また、裏後左演出ユニット３５００の裏後左回転装飾体３５１０を有する裏後左装飾体ユニット３５２０は、通常の状態では、裏前左演出ユニット３７００の後方となる退避位置の状態となっており、遊技者側から視認不能となっている。また、裏後右演出ユニット３６００の裏後右回転装飾体３６１０を有する裏後右装飾体ユニット３６２０は、通常の状態では、裏前右演出ユニット３８００の後方となる退避位置の状態となっており、遊技者側から視認不能となっている。

【１４１５】

また、裏前左演出ユニット３７００の三つの裏前左装飾体ユニット３７１０は、遊技パネル１１００の左辺に沿うように上下に並んでおり、正面視において、遊技領域５ａ内に位置し、透明な遊技パネル１１００及びセンター役物２５００、センター役物２５００の枠内、を通して遊技者側から視認可能となっている。三つの裏前左装飾体ユニット３７１０のうちの上側の第一裏前左装飾体ユニット３７１０Ａは、正面視において、殆どが、透明な遊技パネル１１００及びセンター役物２５００の後方に位置しており、下部がセンター役物２５００の枠内に位置している。中側の第二裏前左装飾体ユニット３７１０Ｂは、正面視において、センター役物２５００の枠内に位置している。下側の第三裏前左装飾体ユニット３７１０Ｃは、正面視において、殆どが、透明な遊技パネル１１００及びセンター役物２５００の後方に位置しており、右部がセンター役物２５００の枠内に位置している。

【１４１６】

裏前左演出ユニット３７００は、通常の状態では、三つの裏前左装飾体ユニット３７１０の夫々において、シャッターユニット３７３０が閉状態となっており、裏前左装飾体３７１３が視認不能となっていると共に、シャッターユニット３７３０の装飾が視認可能となっている。

【１４１７】

更に、裏前右演出ユニット３８００の三つの裏前右装飾体ユニット３８１０は、遊技パネル１１００の右辺に沿うように上下に並んでおり、正面視において、遊技領域５ａ内に位置し、透明な遊技パネル１１００及びセンター役物２５００、センター役物２５００の枠内、を通して遊技者側から視認可能となっている。三つの裏前右装飾体ユニット３８１０のうちの上側の第一裏前右装飾体ユニット３８１０Ａは、正面視において、右側が、透明な遊技パネル１１００及びセンター役物２５００の後方に位置しており、左側がセンター役物２５００の枠内に位置している。中側の第二裏前右装飾体ユニット３８１０Ｂ及び下側の第三裏前右装飾体ユニット３８１０Ｃは、正面視において、左右方向中央よりも左寄

りの部位から右側が、透明な遊技パネル１１００及びセンター役物２５００の後方に位置しており、残りの左側がセンター役物２５００の枠内に位置している。
【１４１８】
裏前右演出ユニット３８００は、通常の状態では、三つの裏前右装飾体ユニット３８１０の夫々において、シャッターユニット３８３０が閉状態となっており、裏前右装飾体３８１３が視認不能となっていると共に、シャッターユニット３８３０の装飾が視認可能となっている。
【１４１９】
遊技盤５は、第一始動口２００２や第二始動口２００４に遊技球Ｂが受入れられることで抽選される第一特別抽選結果や第二特別抽選結果に応じて、裏ユニット３０００の裏後演出ユニット３１００、裏下左演出ユニット３２００、裏下右演出ユニット３２５０、裏下中演出ユニット３３００、裏上演出ユニット３４００、裏後左演出ユニット３５００、裏後右演出ユニット３６００、裏前左演出ユニット３７００、及び裏前右演出ユニット３８００が、所定の演出（可動演出や発光演出）を行う。
【１４２０】
具体的には、裏ユニット３０００の裏後演出ユニット３１００を用いた演出としては、例えば、図２００に示すように、裏後駆動モータ３１２６によりスライドガイド３１３０を下方へ移動させることで、ロック部材３１３４によるロックを解除して、裏後可動装飾体３１１０を退避位置から出現位置へ落下させる。これにより、演出表示装置１６００の表示画面を左右方向へ跨ぐ大きな裏後可動装飾体３１１０が、演出表示装置１６００の表示画面を遮りながら自由落下する演出（可動演出）を遊技者に見せることができるため、遊技者に対して強いインパクトを与えることができ、遊技者を楽しませることができると共に、遊技者に対して遊技者が有利となる有利遊技状態（例えば、「大当り」遊技）が発生するのではないかと思わせることができ、遊技に対する期待感を高めさせることができる。
【１４２１】
この裏後演出ユニット３１００では、図示は省略するが、裏後可動装飾体３１１０を出現位置へ落下させた後に、裏後駆動モータ３１２６によりスライドガイド３１３０を上方へ移動させて、裏後可動装飾体３１１０を退避位置へ復帰させる際に、裏後駆動モータ３１２６の正転・逆転を適宜変化させることで、スライドガイド３１３０を介して裏後可動装飾体３１１０を、演出表示装置１６００の表示画面の上下方向中央付近において、上下に往復移動させるようにしても良い。これにより、演出表示装置１６００の表示画面の上下方向中央を遮りながら、裏後可動装飾体３１１０が上下に移動するため、遊技者の関心を裏後可動装飾体３１１０に強く引付けさせて裏後可動装飾体３１１０に注目させることができ、裏後可動装飾体３１１０の動きを楽しませることができる。
【１４２２】
裏ユニット３０００における裏下中演出ユニット３３００を用いた演出としては、例えば、図２０１に示すように、裏下中昇降駆動モータ３３５２により昇降アーム３３５７を回動させて、裏下中装飾体ユニット３３２０を下降位置から上昇位置へ移動させると共に、裏下中回転駆動モータ３３３３により裏下中回転装飾体３３１０を前後方向の軸周りに回転させる。これにより、裏下中回転装飾体３３１０が、演出表示装置１６００の演出画像の一部を遮るように、上方へ移動してセンター役物２５００の枠内に位置することとなり、遊技者側から良好に視認できると共に、グルグルと回転するため、遊技者に対して強いインパクトを与えることができ、遊技者を楽しませることができる。
【１４２３】
この裏下中回転装飾体３３１０には、六つの数字装飾が設けられているため、裏下中回転装飾体３３１０を回転させることで、遊技者に対して恰もルーレットが回転しているような印象を与えることができる。従って、裏下中回転装飾体３３１０を回転させる際に、演出表示装置１６００に、「双六」のような演出画像を表示させると共に、回転停止した裏下中回転装飾体３３１０の数字装飾の数字に応じて、「駒」が進むようにしても良い。これにより、「駒」が所望の「升」へ進むように、回転している裏下中回転装飾体３３１０

が、所望の数字装飾の位置で回転停止するか否かによって、遊技者をハラハラ・ドキドキさせることができ、遊技者を楽しませることができる。また、遊技者に対して、「駒」が進むことで、期待値が高まりつつあるような気分にさせることができ、遊技に対する期待感を高めさせることができる。

【１４２４】

裏ユニット３０００における裏下左演出ユニット３２００、裏下右演出ユニット３２５０、裏上演出ユニット３４００、裏後左演出ユニット３５００、及び裏後右演出ユニット３６００を用いた演出としては、例えば、図２０２に示すように、裏下左演出ユニット３２００において裏下左駆動モータ３２０５により裏下左回転装飾体３２０１を回転させると共に、裏下右演出ユニット３２５０において裏下右駆動モータ３２５５により裏下右回転装飾体３２５１を回転させる。また、裏上演出ユニット３４００においては、裏上前回転駆動モータ３４２５により裏上前回転装飾体３４１０を回転させると共に、裏上昇降駆動モータ３４２９により裏上昇降装飾体ユニット３４５０を退避位置から下方の出現位置へ回動させると同時に、裏上後回転駆動モータ３４５４により裏上後回転装飾体３４４０回転させる。更に、裏後左演出ユニット３５００において裏後左昇降駆動モータ３５５４により裏後左装飾体ユニット３５２０を退避位置からやや右上の第一出現位置へ移動させると共に、裏後左回転駆動モータ３５２５により裏後左回転装飾体３５１０を回転させる。また、裏後右演出ユニット３６００において裏後右昇降駆動モータ３６５４により裏後右装飾体ユニット３６２０を退避位置からやや左上の第一出現位置へ移動させると共に、裏後右回転駆動モータ３６２５により裏後右回転装飾体３６１０を回転させる。

【１４２５】

これにより、裏上後回転装飾体３４４０、裏後左回転装飾体３５１０、及び裏後右回転装飾体３６１０が、演出表示装置１６００の前方へ移動して視認可能となると共に、裏下左回転装飾体３２０１、裏下右回転装飾体３２５１、裏上前回転装飾体３４１０、裏上後回転装飾体３４４０、裏後左回転装飾体３５１０、及び裏後右回転装飾体３６１０、が夫々回転するため、六つの装飾体がグルグル回転することで、遊技者に対して強いインパクトを与えることができ、何か良いことが起こるのではないかと思わせて遊技に対する期待感を高めさせることができる。

【１４２６】

この際に、裏上昇降駆動モータ３４２９、裏後左昇降駆動モータ３５５４、及び裏後右昇降駆動モータ３６５４を、正転・逆転を適宜繰り返して、裏上昇降装飾体ユニット３４５０、裏後左装飾体ユニット３５２０、及び裏後右装飾体ユニット３６２０を、夫々揺動させるようにしても良い。これにより、裏上後回転装飾体３４４０、裏後左回転装飾体３５１０、及び裏後右回転装飾体３６１０が、フラフラと揺れながら回転するため、遊技者の関心を強く引付けさせることができ、遊技者を楽しませることができる。

【１４２７】

また、この際に、裏下中回転装飾体３３１０を回転させるようにしても良い。これにより、七つの装飾体がグルグルと回転するため、遊技者に対して遊技者が有利となる有利遊技状態（例えば、「大当り」遊技）が発生するのではないかと強く思わせることができ、遊技に対する期待感を高めさせることができる。

【１４２８】

裏ユニット３０００における裏後左演出ユニット３５００及び裏後右演出ユニット３６００を用いた演出としては、例えば、図２０３に示すように、裏後左演出ユニット３５００において裏後左昇降駆動モータ３５５４により裏後左装飾体ユニット３５２０を退避位置から右上の第二出現位置へ移動させると共に、裏後左回転駆動モータ３５２５により裏後左回転装飾体３５１０を回転させる。また、裏後右演出ユニット３６００において裏後右昇降駆動モータ３６５４により裏後右装飾体ユニット３６２０を退避位置から左上の第二出現位置へ移動させると共に、裏後右回転駆動モータ３６２５により裏後右回転装飾体３６１０を回転させる。これにより、パチンコ機１の前方に着座した遊技者の目と、略の高さの位置で二つの装飾体がグルグルと回転することとなるため、遊技者を驚かせて何か良

いことがあるのではないかと思わせることができ、遊技に対する期待感を高めさせることができる。

【１４２９】

この際に、演出表示装置１６００において、第二出現位置の裏後左回転装飾体３５１０及び裏後右回転装飾体３６１０の位置が、パチンコ機１（遊技盤５）のコンセプト（つまり、パチンコ機１（遊技盤５）の世界観）に沿った所定のキャラクタの顔の目の位置となるような演出画像を表示させるようにしても良い。これにより、キャラクタの目がグルグル回っているような演出を遊技者に見せることができ、遊技者を楽しませることができる。

【１４３０】

裏ユニット３０００における裏前左演出ユニット３７００及び裏前右演出ユニット３８００を用いた演出として、例えば、図２０４に示すように、裏前左演出ユニット３７００において裏前左駆動ソレノイド３７１７によりシャッターユニット３７３０を閉状態から開状態とすると共に、裏前右演出ユニット３８００において裏前右駆動ソレノイド３８１７によりシャッターユニット３８３０を閉状態から開状態とする。これにより、シャッターユニット３７３０の後方の裏前左装飾体３７１３及びシャッターユニット３８３０の後方の裏前右装飾体３８１３が、遊技者側から視認可能となるため、裏前左装飾体３７１３及び裏前右装飾体３８１３の装飾を遊技者に見せることができ、遊技者に対して装飾の変化を楽しませることができる。

【１４３１】

なお、裏前左演出ユニット３７００及び裏前右演出ユニット３８００を用いた演出としては、夫々において三つの裏前左装飾体ユニット３７１０及び三つの裏前右装飾体ユニット３８１０を有していることから、裏前左装飾体ユニット３７１０のシャッターユニット３７３０や、裏前右装飾体ユニット３８１０のシャッターユニット３８３０を、夫々において個々に開閉させるようにしても良く、開閉させるシャッターユニット３７３０及びシャッターユニット３８３０の組合せにより、多彩な演出を遊技者に見せることができ、遊技者を飽きさせ難くすることができる。

【１４３２】

裏ユニット３０００における裏後演出ユニット３１００、裏下左演出ユニット３２００、裏下右演出ユニット３２５０、裏下中演出ユニット３３００、裏上演出ユニット３４００、裏後左演出ユニット３５００、裏後右演出ユニット３６００、裏前左演出ユニット３７００、及び裏前右演出ユニット３８００を用いた演出として、例えば、図２０５に示すように、全ての装飾体等を可動させるようにしても良い。これにより、全ての装飾体が可動することで、遊技者に対して有利遊技状態（例えば、「大当り」遊技状態）が発生すると確信させることができ、有利遊技状態に対する期待感を高めさせることができる。なお、この場合、裏後左演出ユニット３５００及び裏後右演出ユニット３６００では、裏後左装飾体ユニット３５２０及び裏後右装飾体ユニット３６２０を、退避位置から第一出現位置まで移動させた状態とすることで、裏後可動装飾体３１１０との接触を回避させる。

【１４３３】

なお、上記では、各装飾体の可動について説明したが、各装飾体を可動させる際に、後方に設けられている装飾基板のＬＥＤを適宜発光させることで、装飾体の発光演出を遊技者に見せることができ、遊技者の関心をより一層引付けることができる。

【１４３４】

また、本実施形態の遊技盤５では、上記したような可動演出と発光演出とを適宜組合せることができる共に、演出表示装置１６００の表示画面に表示される演出画像（表示演出）とも組合せることができる。これにより、発光演出、可動演出、表示演出、等を適宜組合せることで多彩なパターンの演出を遊技者に提示することができ、遊技者を飽きさせ難くすることができると共に、各種の演出によって遊技者を楽しませることができ、遊技者の遊技に対する興趣が低下するのを抑制することができる。

【１４３５】

［５－１１．遊技盤の主な作用効果］

次に、上記のような構成を備えた本実施形態の遊技盤５の主な作用効果について説明する。本実施形態の遊技盤５は、前側に遊技領域５ａが設けられる遊技パネル１１００に、貫通した開口部１１１２を有するようにした上で、遊技領域５ａを遊技球Ｂが流通可能な流通領域と流通不能な非流通領域とに区画し開口部１１１２の内周に沿った形状に形成されているセンター役物２５００の枠状の周壁部２５０１を、前端を遊技パネル１１００の前面から前方へ突出させた状態で後側を開口部１１１２内に挿入していることから、蓋然的に、周壁部２５０１の外側が流通領域となり、内側が非流通領域となる。そして、周壁部２５０１における遊技パネル１１００の前面と前後方向が同じ位置から非流通領域側（内側）へ遊技パネル１１００のパネル板１１１０の厚さよりも薄い平板状のサポート部２５０３を延出させていると共に、周壁部２５０１におけるサポート部２５０３が設けられていない部位から流通領域側（外側）へ遊技パネル１１００のパネル板１１１０の前面に当接するフランジ部２５０２を設けるようにしていることから、周壁部２５０１におけるサポート部２５０３が設けられている部位の流通領域側には何も延出させていないため、周壁部２５０１に対して可及的に接近させた位置に障害釘Ｎを植設することが可能となり、実質的な流通領域を周壁部２５０１に接する位置までとすることができ、従来のパチンコ機よりも実質的な流通領域を大きくすることができる。つまり、センター役物２５００の周壁部２５０１により区画される非流通領域（センター役物２５００の枠内）を大きくしても、従来のパチンコ機のように実質的な流通領域が小さくなることはない。従って、遊技領域５ａ内において遊技球Ｂが流通する流通領域が実質的に小さくなることを抑制しつつ、センター役物２５００の周壁部２５０１により区画される非流通領域を大きくすることで、非流通領域の後方に設けられた演出装置としての演出表示装置１６００の演出画像や演出ユニットの可動体や装飾体等をより見え易くすることができ、遊技球Ｂによる流通領域での遊技と非流通領域での演出との何れをも楽しませることが可能なパチンコ機１を提供することができる。

【１４３６】

また、センター役物２５００では、サポート部２５０３によって周壁部２５０１を非流通領域側（内側）から補強することができると共に、サポート部２５０３が設けられていない部位に設けられているフランジ部２５０２によって周壁部２５０１を流通領域側（外側）から補強することができる上に、フランジ部２５０２を介してセンター役物２５００を遊技パネル１１００のパネル板１１１０に取付けることで、周壁部２５０１の強度が向上するため、遊技領域５ａ内の遊技球Ｂが、周壁部２５０１におけるサポート部２５０３が設けられている部位に接触（当接）したとしても、サポート部２５０３等により周壁部２５０１の強度を保つことができ、周壁部２５０１（センター役物２５００）の変形や破損を防止することができる。

【１４３７】

また、サポート部２５０３やフランジ部２５０２、及び遊技パネル１１００への取付け、等によりセンター役物２５００の周壁部２５０１の強度・剛性を高められることから、遊技球Ｂが当接した時に、周壁部２５０１が弾性変形して弾性体（ゴムやバネ）のように遊技球Ｂを弾いてしまうことを防止することができる。従って、遊技領域５ａ内を流通する遊技球Ｂが、周壁部２５０１に当接することで従来とは異なる変な動きをしてしまうことを防止することができ、遊技者に不快感を与えてしまうのを防止して興趣の低下を抑制させることができる。

【１４３８】

更に、サポート部２５０３を含むセンター役物２５００を透明にしていることから、周壁部２５０１から非流通領域側へ延出しているサポート部２５０３を、見え辛くすることができると共に、サポート部２５０３（センター役物２５００）を通して後方に設けられている演出装置としての演出表示装置１６００の演出画像や裏ユニット３０００に設けられている演出ユニットの可動体や装飾体等が見えることとなるため、非流通領域の後方に設けられている演出画像や可動体や装飾体等が見える範囲をより大きくすることができ、演出装置による演出効果をより発揮させ易くすることができると共に、非流通領域の後方に

設けられている演出表示装置１６００の演出画像や可動体や装飾体等の見える範囲が大きいことで、本パチンコ機１を目立たせることができ、遊技者に対する訴求力の高いパチンコ機１とすることができる。

【１４３９】

また、サポート部２５０３を含むセンター役物２５００を透明にしているため、透明な部位により、本パチンコ機１が設置されている遊技ホール内の照明の光や、本パチンコ機１に設けられている発光手段（ＬＥＤや演出表示装置１６００等）からの光を、反射させたり屈折させたり拡散させたり透過させたりすることが可能となるため、サポート部２５０３や周壁部２５０１等の透明な部位を煌びやかに見せることができ、見栄えを良くして遊技者に対する訴求力を高めることができる。この際に、透明なサポート部２５０３に段差や切欠き等を設けて、より拡散効果を高めるようにしても良い。

【１４４０】

更に、サポート部２５０３を含むセンター役物２５００を透明にしているため、サポート部２５０３の後方に設けられた可動体（例えば、裏前左演出ユニット３７００や裏後左演出ユニット３５００）に備えられた発光手段（ＬＥＤ）による発光によって、上記のような効果が得られると共に、透明なサポート部２５０３により可動体の存在を遊技者に認識させることが可能となる。

【１４４１】

また、透明なサポート部２５０３を、周壁部２５０１における遊技パネル１１００の前面と前後方向が同じ位置で、遊技パネル１１００の厚さよりも薄い平板状に延出させているため、サポート部２５０３を遊技パネル１１００と同じ厚さで延出させた時と比較して、サポート部２５０３によるレンズ効果を低減させることができると共に、サポート部２５０３が後方の裏前左装飾体３０３０や演出装置（演出表示装置１６００等）に接近するため、透明なサポート部２５０３によるレンズ効果が更に低くなり、裏前左装飾体３０３０や演出装置の演出画像や可動体や装飾体等におけるサポート部２５０３の後方にある部位（デザイン）の視認性を向上させることができ、裏前左装飾体３０３０や演出画像等をより見え易くすることができる。

【１４４２】

更に、サポート部２５０３における少なくとも一部の先端辺を、周壁部２５０１とは異なる形状に形成していることから、サポート部２５０３の先端辺における周壁部２５０１とは異なる形状の部位では、サポート部２５０３の先端辺により周壁部２５０１とは異なるラインを見せることができるため、周壁部２５０１に沿った形状とした場合と比較して、単一的なデザインに見え難くなり、細部にまで拘ったような深みのあるデザインを有したパチンコ機１を提供することができる。

【１４４３】

また、サポート部２５０３における少なくとも一部の先端辺を、周壁部２５０１とは異なる形状にしているため、サポート部２５０３の当該部位では、周壁部２５０１からの延出量が一定ではなく、異なることとなるため、周壁部２５０１の形状に応じた延出量とすることにより、サポート部２５０３による周壁部２５０１の補強効果を向上させることができる。

【１４４４】

更に、サポート部２５０３を、周壁部２５０１における遊技パネル１１００の前面と前後方向が同じ位置から延出させているため、遊技者に対してサポート部２５０３が遊技パネル１１００のパネル板１１１０一部であるかのように錯覚させることができ、サポート部２５０３の存在に気付かせ難くすることができる。

【１４４５】

また、サポート部２５０３を遊技パネル１１００のパネル板１１１０の前面と前後方向が同じ位置に設けており、周壁部２５０１の前後方向の中間（途中）から延出させているため、周壁部２５０１の後端側からサポート部２５０３を延出させるようにした場合と比較して、周壁部２５０１の先端側に対するサポート部２５０３による補強効果の低下を低減

させることができるため、周壁部２５０１の強度を十分に保つことができ、遊技媒体が当接しても周壁部２５０１（センター役物２５００）が変形したり破損したりすることを防止することができる。

【１４４６】

更に、センター役物２５００の周壁部２５０１を、遊技パネル１１００の開口部１１１２の内周に沿った形状として後側を開口部１１１２に挿入させるようにしているため、遊技パネル１１００の開口部１１１２の内周面を、周壁部２５０１により隠したり装飾したり見え難くしたりすることができる。

【１４４７】

また、センター役物２５００の周壁部２５０１の外形を、遊技パネル１１００の開口部１１１２の内周に沿った形状としているため、センター役物２５００を遊技パネル１１００に取付けた状態では、周壁部２５０１が開口部１１１２の周縁から前方へ突出しているように見え、周壁部２５０１（センター役物２５００）と遊技パネル１１００とに対して一体感を付与することができ、遊技領域５ａ内の見栄えの良いパチンコ機１を提供することができる。

【１４４８】

また、センター役物２５００を遊技パネル１１００の開口部１１１２に取付けているため、遊技パネル１１００が透明であっても不透明であっても、遊技パネル１１００の開口部１１１２内である周壁部２５０１により区画される非流通領域の後方に設けられている演出表示装置１６００の演出画像や演出ユニットの可動体や装飾体等を、前方（遊技者側）から良好に視認させることができ、演出表示装置１６００等による演出効果を十分に発揮させることが可能なパチンコ機１を提供することができる。

【１４４９】

更に、センター役物２５００の周壁部２５０１の前端を、遊技パネル１１００の前面よりも前方へ突出させていることから、遊技領域５ａを斜めから見ると、遊技パネル１１００の前面から周壁部２５０１が前方へ突出して見えるため、遊技者に対して周壁部２５０１の存在に気付かせ易くすることができると共に、周壁部２５０１により区画される流通領域や非流通領域を認識させ易くすることができる。

【１４５０】

また、センター役物２５００の周壁部２５０１におけるサポート部２５０３が延出していない部位に、流通領域側（外側）へ延出するフランジ部２５０２を設けており、フランジ部２５０２が設けられている部位には、非流通領域側（内側）へ延出するサポート部２５０３を設けていないため、当該サポート部２５０３が演出装置（演出表示装置１６００や裏ユニット３０００の演出ユニット）の視認性の邪魔をすることはなく、演出表示装置１６００の演出画像や演出ユニットの可動体等が見える領域を大きくすることができ、演出装置による演出効果をより発揮させ易くすることができると共に、遊技者に対して演出装置による演出を楽しませて興趣の低下を抑制させることができる。

【１４５１】

更に、センター役物２５００では、サポート部２５０３及びフランジ部２５０２により周壁部２５０１の強度を、従来品と同等に保つことができるため、周壁部２５０１とサポート部２５０３とを一体に樹脂成形して金型から抜く時に、成形品の変形を防止することができる。

【１４５２】

また、サポート部２５０３を、遊技パネル１１００の厚さよりも薄い平板状に延出させているため、センター役物２５００を合成樹脂により一体成形した時に、サポート部２５０３の部位のみが他の部位との収縮量の差が大きくなることを回避させることができ、成形時におけるセンター役物２５００の変形を防止することができる。

【１４５３】

更に、本実施形態によると、遊技領域５ａの外周を区画している枠状の前構成部材１０００と、前構成部材１０００の枠内を後側から閉鎖している平板状の遊技パネル１１００と

を、夫々透明とすると共に、遊技パネル１１００の後側の、裏ユニット３０００における裏後左演出ユニット３５００の機能部品としての裏後左昇降駆動モータ３５５４及び裏後右演出ユニット３６００の裏後右昇降駆動モータ３６５４を、正面視において、少なくとも一部が遊技領域５ａ外となるように配置し、遊技パネル１１００と裏後左昇降駆動モータ３５５４及び裏後右昇降駆動モータ３６５４との間に、裏後左昇降駆動モータ３５５４及び裏後右昇降駆動モータ３６５４における遊技領域５ａ内の部位を少なくとも覆うように、遊技領域５ａ内から遊技領域５ａ外まで延びた裏前左装飾体３０３０や裏前右装飾体３０４０を備えるようにしているため、裏前左装飾体３０３０及び裏前右装飾体３０４０によって裏後左昇降駆動モータ３５５４及び裏後右昇降駆動モータ３６５４の少なくとも一部を覆って隠すことが可能となり、透明な前構成部材１０００及び遊技パネル１１００や遊技領域５ａ内を通して、遊技者側から裏後左昇降駆動モータ３５５４及び裏後右昇降駆動モータ３６５４を見え難くすることができ、パチンコ機１全体の見栄えが悪くなるのを抑制することができると共に、裏後左昇降駆動モータ３５５４及び裏後右昇降駆動モータ３６５４の代わりに前側の裏前左装飾体３０３０及び裏前右装飾体３０４０が見えることで、パチンコ機１全体の見栄えを良くすることができ、遊技者に対する訴求力を高められるパチンコ機１とすることができる。

【１４５４】

また、前構成部材１０００及び遊技パネル１１００を透明としていることから、前構成部材１０００及び遊技パネル１１００により区画される遊技領域５ａの境界が判り辛くなるため、遊技領域５ａの外周が区画されていないように見えることで開放感を与えることができ、遊技領域５ａが従来のパチンコ機と同じ大きさであっても、遊技領域５ａをより大きく見せることができる。従って、従来のパチンコ機よりも遊技領域５ａが大きく見えることで、遊技者に対して強いインパクトを与えることができ、本パチンコ機１での遊技に対する期待感を高めさせることができると共に、遊技するパチンコ機として本パチンコ機１を選択させ易くすることができ、遊技者に対する訴求力を高められるパチンコ機１とすることができる。

【１４５５】

また、裏前左装飾体３０３０及び裏前右装飾体３０４０を、裏後左昇降駆動モータ３５５４及び裏後右昇降駆動モータ３６５４等の機能部品の前方の少なくとも遊技領域５ａ内の部位を覆うようにしていることから、裏前左装飾体３０３０及び裏前右装飾体３０４０によって、遊技領域５ａ内で機能部品が見えることを防止することができるため、遊技領域５ａ内の見栄えを良くすることができ、上述と同様の作用効果を奏することができる他に、遊技領域５ａの中央側から斜めから見た時でも機能部品を見え難くすることができる。

【１４５６】

更に、裏前左装飾体３０３０及び裏前右装飾体３０４０に、全面に亘って連続した装飾を有するようにしており、正面視において、遊技領域５ａ内から遊技領域５ａ外まで延びている裏前左装飾体３０３０及び裏前右装飾体３０４０の装飾が、全面に亘って連続しているため、連続した装飾により遊技領域５ａの外周の境界を判り辛くすることができ、開放感を与えて遊技領域５ａの大きさを実際の大きさよりも大きく見せることができると共に、裏前左装飾体３０３０及び裏前右装飾体３０４０の装飾によりパチンコ機１の見栄えを良くすることができ、パチンコ機１を目立たせて遊技者に対する訴求力をより高めることができる。

【１４５７】

また、裏前左装飾体３０３０及び裏前右装飾体３０４０を不透明にしているため、裏前左装飾体３０３０及び裏前右装飾体３０４０を通して後側に設けられている裏後左演出ユニット３５００及び裏後右演出ユニット３６００等が見えることを防止することができ、前構成部材１０００及び遊技パネル１１００を通して当該裏後左演出ユニット３５００及び裏後右演出ユニット３６００等が遊技者側から見えることで見栄えが悪くなるのを防止して、パチンコ機１の見栄えを良くすることができる。

【１４５８】

また、正面視において遊技領域５ａ外に、機能部品としての裏後左昇降駆動モータ３５５４及び裏後右昇降駆動モータ３６５４の少なくとも一部を配置するようにしている（裏後左昇降駆動モータ３５５４では完全に（全体を）遊技領域５ａ外に配置している）ため、裏後左昇降駆動モータ３５５４及び裏後右昇降駆動モータ３６５４を配置するために前構成部材１０００と遊技領域５ａの外周との間のスペースを大きくしなくても、裏後左昇降駆動モータ３５５４及び裏後右昇降駆動モータ３６５４を配置することができ、裏後左昇降駆動モータ３５５４及び裏後右昇降駆動モータ３６５４の配置のバランスを取ることで遊技領域５ａのスペースが小さくなることを抑制することができる。換言すると、裏後右昇降駆動モータ３６５４の一部を、正面視において遊技領域５ａ内に配置するようにしているため、前構成部材１０００と遊技領域５ａの外周との間のスペースを小さくすることが可能となり、相対的に、遊技領域５ａのスペースを大きくすることができ、上述した作用効果をより一層発揮させることが可能なパチンコ機１とすることができる。また、遊技領域５ａ内で可動する役物の駆動源（モータやソレノイド等）の一部を遊技領域５ａ外に設けることで、遊技領域５ａ内のスペースを大きくすることもでき、その場合には遊技領域５ａ内で行われる演出の幅が広がる。遊技領域５ａ内で可動する役物の全ての駆動源（モータやソレノイド等）を遊技領域５ａ外に配置するようにしても良い。

【１４５９】

更に、前構成部材１０００及び遊技パネル１１００を透明としているため、本パチンコ機１が設置される遊技ホール内の照明の光や、パチンコ機１に設けられている各種のＬＥＤや演出表示装置１６００等からの光を、透過させたり反射させたり屈折させたり拡散させたりすることが可能となり、あたかも前構成部材１０００や遊技パネル１１００が発光しているかのように見せることができ、パチンコ機１の全体の見栄えを良くすることができる。また、裏前左装飾体３０３０及び裏前右装飾体３０４０には不透明な装飾シール３０３２及び装飾シール３０４２が施されるものの、裏前左装飾体３０３０及び裏前右装飾体３０４０の夫々のベース３０３１及びベース３０４１（装飾シール３０３２及び装飾シール３０４２を含めても良い）は透明部材で形成しているため、パチンコ機１に設けられている各種のＬＥＤからの光が裏前左装飾体３０３０または裏前右装飾体３０４０に届いて裏前左装飾体３０３０及び裏前右装飾体３０４０が発光するような印象を与えることができる。パチンコ機１に設けられている各種のＬＥＤからの光が届く位置に裏前左装飾体３０３０及び裏前右装飾体３０４０が配置されているとも言える。

【１４６０】

また、裏前左装飾体３０３０により機能部品としての裏後左昇降駆動モータ３５５４の少なくとも一部を覆うようにしているため、全部を覆わなくてもある程度覆うことで、機能部品であることが判り辛くなり、装飾の一部のように見せることができる。従って、裏前左装飾体３０３０を、裏後左昇降駆動モータ３５５４の全体を覆うような大きさにしなくても、上述と同様の作用効果を奏することが可能となるため、裏前左装飾体３０３０にかかるコストを低減させつつ、遊技領域５ａを大きく見せることができる。なお、裏前左装飾体３０３０及び裏前右装飾体３０４０によって裏後左昇降駆動モータ３５５４及び裏後右昇降駆動モータ３６５４の少なくとも一部を覆って隠しているが、当該一部は、パチンコ機１の中心から近い部分（遊技領域５ａ内と遊技領域５ａ外とを区画する境界線からより近い部分）としたほうが望ましい。また、遊技領域５ａ外に駆動源がない所定の箇所（図１３１における左下の箇所等、つまり、遊技盤５における左下隅の箇所等）に対しても遊技領域５ａ内から遊技領域５ａ外まで延びる装飾体を設けることで遊技領域５ａを大きく見せることができる。

【１４６１】

また、遊技領域５ａの外周を区画している前構成部材１０００の枠内を、透明な遊技パネル１１００により後方から閉鎖するようにしており、遊技パネル１１００の前側に遊技領域５ａが位置することとなるため、裏前左装飾体３０３０及び裏前右装飾体３０４０が遊技領域５ａよりも後側に設けられることとなる。従って、正面視において、遊技領域５ａ内から遊技領域５ａ外まで延びている裏前左装飾体３０３０及び裏前右装飾体３０４０に

より、遊技領域５ａの内外を後方から装飾することができ、上述と同様の作用効果を奏することができると共に、遊技領域５ａ内において裏前左装飾体３０３０及び裏前右装飾体３０４０が遊技球Ｂの邪魔になることはなく、遊技領域５ａ内での遊技を円滑に楽しませて興趣の低下を抑制させることができる。

【１４６２】

また、裏前左装飾体３０３０及び裏前右装飾体３０４０を、正面視において、扉枠３の扉窓１０１ａよりも外側まで延ばすようにしているため、扉窓１０１ａ内において、裏前左装飾体３０３０及び裏前右装飾体３０４０の後方の裏後左演出ユニット３５００及び裏後右演出ユニット３６００等を見えなくすることができ、パチンコ機１の外観の見栄えを良くすることができる。また、裏前左装飾体３０３０を、機能部品としての裏後左昇降駆動モータ３５５４における扉窓１０１ａの内側の部位が隠れる程度に延ばしていることから、裏前左装飾体３０３０により裏後左昇降駆動モータ３５５４の全体を覆わなくても、覆われていない部位を枠状の扉枠３により覆うことができるため、裏前左装飾体３０３０が必要以上に長くなることを回避させることができ、裏前左装飾体３０３０（パチンコ機１）にかかるコストを低減させることができる。

【１４６３】

更に、本実施形態によると、遊技盤５の表ユニット２０００におけるサイドユニット２２００の右から二つの一般入賞口２００１では前面を形成している第一前壁部２２０３を遊技パネル１１００へ向かって傾斜させているのに対して、始動口ユニット２１００における第一始動口２００２では前面を形成している前壁部２１０１を遊技パネル１１００と平行にしていると共に、前面に透光性を有した装飾を施す（シールを貼り付ける）ようにしているため、第一始動口２００２の前面が前方（遊技者側）へ向くこととなり、一般入賞口２００１よりも第一始動口２００２を目立たせることができる。従って、遊技者の意識を一般入賞口２００１よりも第一始動口２００２へ向けさせ易くすることができるため、第一始動口２００２に受入れられる遊技球Ｂの数が減少する（若しくは、第一始動口２００２よりも一般入賞口２００１へと遊技者の意識が集中してしまう）ことを回避させることができ、第一始動口２００２への遊技球Ｂの受入れにより行われる第一特別抽選結果の抽選に対する期待感を高めさせて興趣の低下を抑制させることができると共に、遊技者が狙うべき第一始動口２００２の位置を確実に認識させることができ、遊技者に第一始動口２００２を狙った遊技を楽しませることができる。

【１４６４】

そして、遊技領域５ａ内の遊技球Ｂが、第一始動口２００２に受入れられるか否かによって、遊技者をハラハラさせることができる上に、第一始動口２００２に遊技球Ｂが受入れられると、第一特別抽選結果の抽選により有利遊技状態が発生する当選（例えば、「大当り」）が抽選されるか否かによって、遊技者をドキドキ・ワクワクさせることができ、遊技に対する期待感を高めさせて興趣の低下を抑制させることができる。その後、第一特別抽選結果の抽選により当選が抽選されると、第一大入賞口２００５や第二大入賞口２００６が所定のパターンで開閉する有利遊技状態が発生するため、遊技者を大いに楽しませることができ、遊技に対する興趣の低下を抑制させることができる。この際に、第一始動口２００２を狙った遊技球Ｂが、一般入賞口２００１に受入れられた場合、第一特別抽選結果の抽選は行われないものの特典として遊技球Ｂの払出しが行われるため、遊技者を落胆させることはなく、引続き遊技を楽しませて興趣の低下を抑制させることができる。

【１４６５】

また、一般入賞口２００１の第一前壁部２２０３を遊技パネル１１００の面に対して傾斜させていると共に、第一始動口２００２の前壁部２１０１を遊技パネル１１００の面に対して平行にしており、一般入賞口２００１と第一始動口２００２との形態（外観）が大きく異なることとなるため、第一始動口２００２の前面にシールを貼り付け、一般入賞口２００１の前面にはシールを貼り付けなくても、遊技者に対して違和感を与えることはなく、パチンコ機１の見栄えが悪くなることを防止することができ、遊技者に本パチンコ機１での遊技を楽しませて興趣の低下を抑制させることができる。

【１４６６】
また、一般入賞口２００１及び第一始動口２００２を、透明な部材により形成していることから、一般入賞口２００１や第一始動口２００２に受入れられた遊技球Ｂを、透明な部材を通して視認することができるため、遊技者に対して、遊技球Ｂが一般入賞口２００１や第一始動口２００２に受入れられたことを確実に認識させることができ、受入れられたことによる喜びを十分に味わわせることで興趣の低下を抑制させることができる。また、一般入賞口２００１及び第一始動口２００２を透明な部材により形成していることから、本パチンコ機１が設置される遊技ホール内の照明の光や、パチンコ機１に設けられている発光手段（装飾基板のＬＥＤ）からの光を、反射させたり屈折させたり拡散させたりすることが可能となるため、一般入賞口２００１及び第一始動口２００２を煌びやかに見せることができ、見栄えを良くして遊技者に対する訴求力を高めることができる。
【１４６７】
更に、一般入賞口２００１では、前面を形成している第一前壁部２２０３を遊技パネル１１００へ向かって傾斜させていると共に、第一始動口２００２では、受入れられた遊技球Ｂを一般入賞口２００１に受入れられた遊技球Ｂよりも遅く後方へ誘導するようにしてことから、第一特別抽選結果の抽選が行われる第一始動口２００２に受入れられた遊技球Ｂを、一般入賞口２００１に受入れられた遊技球Ｂよりも、遅いタイミングで後方へ誘導することができるため、第一始動口２００２に受入れられた遊技球Ｂを相対的に長い時間、遊技者に見せることができる。従って、第一特別抽選結果の抽選が行われる第一始動口２００２に遊技球Ｂが受入れられると、第一始動口２００２へ遊技球Ｂが受入れられたことによる喜び（優越感）を、一般入賞口２００１へ遊技球Ｂが受入れられた時よりも長い時間、遊技者に味わわせることができ、遊技者を楽しませて興趣の低下を抑制させることができる。
【１４６８】
また、一般入賞口２００１の前面を形成している第一前壁部２２０３を、遊技パネル１１００へ向かって傾斜させていることから、一般入賞口２００１に受入れられた遊技球Ｂを、直ちに後方（遊技パネル１１００側）へ誘導して、第一始動口２００２に受入れられた遊技球Ｂよりも速く排出することができるため、遊技球Ｂが一般入賞口２００１に受入れられたことに対して、無用に長い時間実感させることを抑制することが可能となり、遊技者の関心を次の遊技球Ｂへ向けさせることができ、遊技をサクサクと進めさせて興趣の低下を抑制させることができる。
【１４６９】
更に、一般入賞口２００１では、前面を形成している第一前壁部２２０３を遊技パネル１１００に対して傾斜させた上で、第一前壁部２２０３の前方を遊技球Ｂの一部が通過可能とするようにしているため、一般入賞口２００１の第一前壁部２２０３の前方を遊技球Ｂが通過した時に、正面視において、遊技球Ｂの大部分が一般入賞口２００１と重なっていると、遊技者によっては、当該遊技球Ｂが一般入賞口２００１に受入れられたかのように錯覚させることができ、遊技者を楽しませることができる。この際に、遊技球Ｂの一部が一般入賞口２００１と重なっていないことから、遊技球Ｂが一般入賞口２００１に受入れられたと強く認識することはなく、錯覚であったとも思わせることができるため、その後に特典（第一特別抽選結果の抽選）が付与されなくても、パチンコ機１や遊技ホール側に対して不信感を抱いてしまうことを回避させることができ、遊技者に対して引続き遊技を楽しませて興趣の低下を抑制させることができる。
【１４７０】
また、一般入賞口２００１の第一前壁部２２０３を遊技パネル１１００へ向かって傾斜させているため、一般入賞口２００１（サイドユニット２２００）にかかる素材の量を低減させることができると共に、一般入賞口２００１の前面にシール等の装飾を省略することができる。従って、一般入賞口２００１にかかるコストを低減させることができるため、その分を演出装置等に回すことで、より遊技者を楽しませられるパチンコ機１とすることができる。

【１４７１】
更に、本実施形態によると、裏ユニット３０００における裏下中演出ユニット３３００の裏下中装飾体ユニット３３２０において、偶数箇所の複数（ここでは６箇所）の停止位置を有した回転する裏下中回転装飾体３３１０に、停止位置の半数に亘る長さの領域検知片３３２５と、各停止位置に対応している複数（ここでは六つ）の位置検知片３３２６と、を設けると共に、領域検知片３３２５を検知する停止位置の半数からなる複数（ここでは三つ）の領域特定センサ３３３０と、位置検知片３３２６を検知する一つの位置特定センサ３３３１と、からなる複数（ここでは四つ）のセンサを設けるようにしているため、裏下中回転装飾体３３１０が回転すると、領域検知片３３２５を検知する複数の領域特定センサ３３３０が、回転方向の一方側から順番に増加した後に減少することを繰り返すこととなり、領域検知片３３２５を検知している領域特定センサ３３３０の組合せにより、裏下中回転装飾体３３１０の現在の回転位置を大まかに把握することができる。
【１４７２】
詳述すると、回転方向へ第一停止位置から第六停止位置までの６箇所の停止位置を有した裏下中回転装飾体３３１０の場合、領域検知片３３２５が半数となる３つの並んだ停止位置に亘る長さとなると共に、任意の停止位置への移動の検知に必要な最小限の領域特定センサ３３３０の数が停止位置の数の半数の三つとなる。そして、三つの領域特定センサ３３３０を、回転方向へ第一領域特定センサ３３３０ａ、第二領域特定センサ３３３０ｂ、及び第三領域特定センサ３３３０ｃとすると共に、裏下中回転装飾体３３１０が第一停止位置（「３」の装飾数字の位置）の時に第一領域特定センサ３３３０ａのみが領域検知片３３２５を検知している状態とする。この状態から裏下中回転装飾体３３１０が第二停止位置（「２」の装飾数字の位置）へ回転すると、第一領域特定センサ３３３０ａと第二領域特定センサ３３３０ｂとが領域検知片３３２５を検知する。更に、裏下中回転装飾体３３１０が第三停止位置（「１」の装飾数字の位置）へ回転すると、第一領域特定センサ３３３０ａと第二領域特定センサ３３３０ｂと第三領域特定センサ３３３０ｃとが領域検知片３３２５を検知する。
【１４７３】
更に、裏下中回転装飾体３３１０が第四停止位置（「６」の装飾数字の位置）へ回転すると、第一領域特定センサ３３３０ａが非検知となり、第二領域特定センサ３３３０ｂと第三領域特定センサ３３３０ｃとが領域検知片３３２５を検知する。更に、裏下中回転装飾体３３１０が第五停止位置（「５」の装飾数字の位置）へ回転すると、第二領域特定センサ３３３０ｂが非検知となり、第三領域特定センサ３３３０ｃのみが領域検知片３３２５を検知する。そして、裏下中回転装飾体３３１０が第六停止位置（「４」の装飾数字の位置）へ回転すると、第三領域特定センサ３３３０ｃも非検知となり、全ての領域特定センサ３３３０が領域検知片３３２５を検知していない状態となる。その後、更に、裏下中回転装飾体３３１０が回転すると第一停止位置（「３」の装飾数字の位置）へと回転することとなり、第一領域特定センサ３３３０ａのみが領域検知片３３２５を検知している最初の状態となり、裏下中回転装飾体３３１０の回転に伴って上記のような領域特定センサ３３３０の検知・非検知が繰り返されることとなる。
【１４７４】
このように、停止位置の数の半数の停止位置に亘る長さの領域検知片３３２５を備えているため、複数の領域特定センサ３３３０による領域検知片３３２５の検知の組合せにより、裏下中回転装飾体３３１０の回転を検知することができると共に、裏下中回転装飾体３３１０が次の停止位置へ回転するまでの間でも、全ての領域特定センサ３３３０が非検知となることはないため、裏下中回転装飾体３３１０の現在位置を大まかに把握することができる。
【１４７５】
そして、裏下中回転装飾体３３１０に、夫々の停止位置に対応している複数（ここでは六つ）の位置検知片３３２６を備えているため、複数の領域特定センサ３３３０による領域検知片３３２５の検知により裏下中回転装飾体３３１０の任意の停止位置への回転を大ま

かに検知した上で、一つの位置特定センサ３３３１による位置検知片３３２６の検知により、停止位置を正確に検知することができ、停止位置のズレを可及的に少なくして複数の停止位置を有する裏下中回転装飾体３３１０の停止位置を正確に把握することができる。

【１４７６】

また、裏下中回転装飾体３３１０の停止位置を正確に把握することができるため、裏下中回転装飾体３３１０を任意の停止位置に正確に停止させることができ、停止位置がズレることで遊技者に対して違和感（不快感）を与えてしまうことを防止することが可能となり、裏下中回転装飾体３３１０による演出（可動演出）を楽しませて興趣の低下を抑制させることができると共に、遊技者に対して不快感を与えない可動体（裏下中回転装飾体３３１０）の動作を実現可能なパチンコ機１とすることができる。

【１４７７】

更に、裏下中回転装飾体３３１０の停止位置を正確に把握することができるため、裏下中回転装飾体３３１０の回転速度を速くしても停止位置のズレを抑制することができると共に、裏下中回転装飾体３３１０を回転するものとすることで、裏下中回転装飾体３３１０を往復するものとした場合と比較して、裏下中回転装飾体３３１０の移動速度（回転速度）をより速くすることができる。従って、速く回転する裏下中回転装飾体３３１０により遊技者に対して強いインパクトを与えることができ、遊技者の関心を強く引付けさせることができると共に、裏下中回転装飾体３３１０の回転を楽しませることができ、遊技者の遊技に対する興趣の低下を抑制させることができる。

【１４７８】

また、裏下中回転装飾体３３１０を前後方向の軸周りに回転するものとすることで、裏下中回転装飾体３３１０の回転面が前方の遊技者側を向くこととなり、グルグル回転した後に任意の停止位置で回転停止するルーレットのような演出を遊技者に見せることができるため、所望の停止位置で裏下中回転装飾体３３１０が回転停止するか否かによって遊技者をドキドキ・ワクワクさせることができ、裏下中回転装飾体３３１０による可動演出を楽しませて興趣の低下を抑制させることができる。

【１４７９】

また、裏下中回転装飾体３３１０の停止位置の数を偶数としているため、任意の停止位置への移動の検知に必要な最小限のセンサ（領域特定センサ３３３０）の数により対応可能な停止位置の数と、裏下中回転装飾体３３１０の停止位置との数とが同じとなり、複数のセンサ（領域特定センサ３３３０及び位置特定センサ３３３１）による能力（停止位置の把握）を最大限に引き出すことができ、より多くの停止位置を有した裏下中回転装飾体３３１０により遊技者を楽しませて興趣の低下を抑制させることができる。

【１４８０】

なお、上記の実施形態では、裏ユニット３０００の裏下中演出ユニット３３００における裏下中回転装飾体３３１０として、６箇所の停止位置を有したものを示したが、これに限定するものではなく、４箇所～１０箇所の停止位置を有するものとしても良い。

【１４８１】

また、上記の実施形態では、複数の停止位置を有する可動体（裏下中回転装飾体３３１０）として回転するものを示したが、これに限定するものではなく、複数の停止位置を有する可動体として、「周回するもの」、「直線状に移動するもの」、「円弧状に移動するもの」、「曲線状の移動するもの」、等としても良い。

【１４８２】

［６．制御構成］

次に、パチンコ機１の各種制御を行う制御構成について、図２０６を参照して説明する。図２０６は、パチンコ機の制御構成を概略で示すブロック図である。パチンコ機１の主な制御構成は、図示するように、遊技盤５に取付けられる主制御基板１３１０及び周辺制御基板１５１０と、本体枠４に取付けられる払出制御基板６３３と、から構成されており、夫々の制御が分担されている。主制御基板１３１０は、遊技動作（遊技の進行）を制御する。周辺制御基板１５１０は、主制御基板１３１０からのコマンドに基づいて遊技中の各

種演出を制御する周辺制御部１５１１と、周辺制御部１５１１からのコマンドに基づいて演出表示装置１６００での演出画像の表示を制御する演出表示制御部１５１２と、を備えている。払出制御基板６３３は、遊技球Ｂの払出し等を制御する払出制御部６３３ａと、ハンドル１８２の回転操作による遊技球Ｂの発射を制御する発射制御部６３３ｂと、を備えている。

【１４８３】

［６－１．主制御基板］

遊技の進行を制御する主制御基板１３１０は、基板ホルダ１２００の後面に取付けられる主制御ユニット１３００に収容されるものであり、説明上、パチンコ機１を正面から見て基板ホルダ１２００の後面を臨む主制御基板１３１０の前側と反対側の面（つまり後側となる面）を電子部品が実装される「主制御基板１３１０の表面（実装面）」と記載する場合がある。遊技の進行を制御する主制御基板１３１０は、詳細な図示は省略するが、その表面（実装面）及び裏面（ハンダ面）に緑色のレジスト液が塗布されて形成される緑色塗膜（以下、単に「ベタ塗りされた緑色のレジスト」と記載する場合がある。）により緑色のレジスト層が形成され、各種処理プログラムや各種コマンドを記憶するＲＯＭや一時的にデータを記憶するＲＡＭ等が内蔵されるマイクロプロセッサである主制御ＭＰＵと、入出力デバイス（Ｉ／Ｏデバイス）としての主制御Ｉ／Ｏポートと、各種検出スイッチからの検出信号が入力される主制御入力回路と、各種ソレノイドを駆動するための主制御ソレノイド駆動回路と、主制御ＭＰＵに内蔵されているＲＡＭに記憶された情報を完全に消去するための押圧操作部を有するＲＡＭクリアスイッチと、を備えている。主制御ＭＰＵは、その内蔵されたＲＯＭやＲＡＭのほかに、その動作（システム）を監視するウォッチドックタイマや不正を防止するための機能等も内蔵されている。主制御基板１３１０の表面（実装面）には、ＲＡＭクリアスイッチの他に、表面側電子部品の部品番号、表面側電子部品を配置する位置を示す領域等の表面側電子部品の属性（さらに、表面側電子部品の形状、表面側電子部品の大きさ、表面側電子部品の実装向き（実装方向）、表面側電子部品の型式を含む場合がある。）を示す表面側表記部が、緑色に対して目立ち易い白色の塗料で、ベタ塗りされた緑色のレジスト上にシルク印刷により印刷されている。ＲＡＭクリアスイッチは、主制御基板１３１０を収容する透明な主制御基板ボックス１３２０から露出した状態となっている。主制御基板１３１０は、遊技盤５の後側に設けられるため、遊技者から視認困難な位置に配置されている。

【１４８４】

主制御基板１３１０の主制御ＭＰＵは、第一始動口２００２に受入れられた遊技球Ｂを検出する第一始動口センサ３０５２、ゲート部２００３を通過した遊技球Ｂを検知するゲートセンサ２８０１、第二始動口２００４に受入れられた遊技球Ｂを検出する第二始動口センサ２４０１、一般入賞口２００１に受入れられた遊技球Ｂを検出する一般入賞口センサ３０５１、第一大入賞口２００５に受入れられた遊技球Ｂを検知する第一大入賞口センサ２４０２、第二大入賞口２００６に受入れられた遊技球Ｂを検知する第二大入賞口センサ２６０１、アウト口２０１０に受入れられた遊技球Ｂを検知するアウト口センサ３０５３、第一サブアウト口２０１１に受入れられた遊技球Ｂを検知する第一サブアウト口センサ２４０３、第二サブアウト口２０１２に受入れられた遊技球Ｂを検知する第二サブアウト口センサ３０５４、及び遊技領域５ａ内における不正な磁気を検知する磁気センサ１１１１，２４０４，２６０２，３０５５、等からの検出信号が夫々主制御Ｉ／Ｏポートを介して入力される。

【１４８５】

主制御ＭＰＵは、これらの検出信号に基づいて、主制御Ｉ／Ｏポートから主制御ソレノイド駆動回路に制御信号を出力することにより、始動口ソレノイド２４１５、第一アタッカソレノイド２４１８、及び第二アタッカソレノイド２６１２、等に駆動信号を出力したり、主制御Ｉ／Ｏポートから機能表示ユニット１４００の状態表示器、普通図柄表示器、普通保留表示器、第一特別図柄表示器、第一特別保留数表示器、第二特別図柄表示器、第二特別保留数表示器、ラウンド表示器、等に駆動信号を出力したりする。

【１４８６】
なお、本実施形態おいて、第一始動口センサ３０５２、第二始動口センサ２４０１、ゲートセンサ２８０１、第一大入賞口センサ２４０２、第二大入賞口センサ２６０１、アウト口センサ３０５３には、非接触タイプの電磁式の近接スイッチを用いているのに対して、一般入賞口センサ３０５１、第一サブアウト口センサ２４０３、及び第二サブアウト口センサ３０５４には、接触タイプのＯＮ／ＯＦＦ動作式のメカニカルスイッチを用いている。これは、遊技球Ｂが、第一始動口２００２や第二始動口２００４、ゲート部２００３、には頻繁に入球又は通過するため、第一始動口センサ３０５２、第二始動口センサ２４０１、及びゲートセンサ２８０１による遊技球Ｂの検出も頻繁に発生する。このため、第一始動口センサ３０５２、第二始動口センサ２４０１、及びゲートセンサ２８０１には、耐久性が高く寿命の長い近接スイッチを用いている。
【１４８７】
また、遊技者にとって有利となる有利遊技状態（「大当り」遊技、等）が発生すると、第一大入賞口２００５や第二大入賞口２００６が開放されて遊技球Ｂが頻繁に入球するため、第一大入賞口センサ２４０２や第二大入賞口センサ２６０１による遊技球Ｂの検出も頻繁に発生する。このため、第一大入賞口センサ２４０２や第二大入賞口センサ２６０１にも、耐久性が高く寿命の長い近接スイッチを用いている。これに対して、遊技球Ｂが頻繁に入球しない一般入賞口２００１には、一般入賞口センサ３０５１による検出も頻繁に発生しない。このため、一般入賞口センサ３０５１には、近接スイッチより寿命が短いメカニカルスイッチを用いている。
【１４８８】
更に、アウト口２０１０には遊技球Ｂが頻繁に入球するため、アウト口センサ３０５３には耐久性が高く寿命の長い近接スイッチを用いている。一方、第一サブアウト口２０１１及び第二サブアウト口２０１２には、遊技球Ｂが頻繁に入球しないため、第一サブアウト口センサ２４０３及び第二サブアウト口センサ３０５４には近接スイッチより寿命が短いメカニカルスイッチを用いている。
【１４８９】
また、主制御ＭＰＵは、遊技に関する各種情報（遊技情報）及び払出しに関する各種コマンド等を払出制御基板６３３に送信したり、この払出制御基板６３３からのパチンコ機１の状態に関する各種コマンド等を受信したりする。更に、主制御ＭＰＵは、遊技演出の制御に関する各種コマンド及びパチンコ機１の状態に関する各種コマンドを、主制御Ｉ／Ｏポートを介して周辺制御基板１５１０の周辺制御部１５１１に送信したりする。なお、主制御ＭＰＵは、その詳細な説明は後述するが、払出制御基板６３３からパチンコ機１の状態に関する各種コマンドを受信すると、これらの各種コマンドを整形して周辺制御部１５１１に送信する。
【１４９０】
主制御基板１３１０には、詳細な説明は後述するが、基板ユニット６２０の電源基板６３０から各種電圧が供給されている。この主制御基板１３１０に各種電圧を供給する電源基板６３０は、電源遮断時にでも所定時間、主制御基板１３１０に電力を供給するためのバックアップ電源としての電気二重層キャパシタ（以下、単に「キャパシタ」と記載する。）を備えている。このキャパシタにより主制御ＭＰＵは、電源遮断時にでも電源断時処理において各種情報をＲＡＭに記憶することができる。この記憶した各種情報は、電源投入時に主制御基板１３１０のＲＡＭクリアスイッチの押圧操作部が操作されると、ＲＡＭから完全に消去（クリア）される。このＲＡＭクリアスイッチの押圧操作部の操作信号（検出信号）は、払出制御基板６３３にも出力される。
【１４９１】
また、主制御基板１３１０には、停電監視回路が設けられている。この停電監視回路は、電源基板６３０から供給される各種電圧の低下を監視しており、それらの電圧が停電予告電圧以下となると、停電予告として停電予告信号を出力する。この停電予告信号は、主制御Ｉ／Ｏポートを介して主制御ＭＰＵに入力される他に、払出制御基板６３３等にも出力

されている。
【１４９２】
［６－２．払出制御基板］
遊技球Ｂの払出し等を制御する払出制御基板６３３は、電源ユニット６２０ｃにおける透明な電源基板カバー６３１の後側に着脱可能に取付けられる払出制御基板ボックス６３２に収容されるものであり、説明上、パチンコ機１を正面から見て電源基板カバー６３１の後面を臨む払出制御基板６３３の前側と反対側の面（つまり後側となる面）を電子部品が実装される「払出制御基板６３３の表面（実装面）」と記載する場合がある。遊技球Ｂの払出し等を制御する払出制御基板６３３は、その表面（実装面）及び裏面（ハンダ面）に緑色のレジスト液が塗布されて形成される緑色塗膜（以下、単に「ベタ塗りされた緑色のレジスト」と記載する場合がある。）により緑色のレジスト層が形成され、払出しに関する各種制御を行う払出制御部６３３ａと、発射ソレノイド５４２による発射制御を行うとともに、球送給ソレノイド１４５による球送給制御を行う発射制御部６３３ｂと、パチンコ機１の状態を表示するエラーＬＥＤ表示器と、エラーＬＥＤ表示器に表示されているエラーを解除するための押圧操作部を有するエラー解除スイッチと、メンテナンスの際に、球タンク５５２、タンクレール５５３、球誘導ユニット５７０、及び払出装置５８０内の遊技球Ｂを、パチンコ機１の外部（上皿２０１）に排出して、球抜き動作を開始するための球抜スイッチと、を備えている。払出制御基板６３３の表面（実装面）には、エラー解除スイッチの他に、表面側電子部品の部品番号、表面側電子部品を配置する位置を示す領域等の表面側電子部品の属性（さらに、表面側電子部品の形状、表面側電子部品の大きさ、表面側電子部品の実装向き（実装方向）、表面側電子部品の型式を含む場合がある。）を示す表面側表記部が、緑色に対して目立ち易い白色の塗料で、ベタ塗りされた緑色のレジスト上にシルク印刷により印刷されている。エラー解除スイッチは、払出制御基板６３３を収容する透明な払出制御基板ボックス６３２から露出した状態となっている。エラー解除スイッチは、パチンコ機１の後側に設けられているため、遊技者から視認困難な位置に配置されている。
【１４９３】
［６－２ａ．払出制御部］
払出制御基板６３３における払出しに関する各種制御を行う払出制御部６３３ａは、詳細な図示は省略するが、各種処理プログラムや各種コマンドを記憶するＲＯＭや一時的にデータを記憶するＲＡＭ等が内蔵されるマイクロプロセッサである払出制御ＭＰＵと、Ｉ／Ｏデバイスとしての払出制御Ｉ／Ｏポートと、払出制御ＭＰＵが正常に動作しているか否かを監視するための外部ＷＤＴ（外部ウォッチドックタイマ）と、払出装置５８０の払出モータ５８４に駆動信号を出力するための払出モータ駆動回路と、払出しに関する各種検出スイッチからの検出信号が入力される払出制御入力回路と、を備えている。払出制御ＭＰＵには、その内蔵されたＲＯＭやＲＡＭのほかに、不正を防止するため機能等も内蔵されている。
【１４９４】
払出制御部６３３ａの払出制御ＭＰＵは、主制御基板１３１０からの遊技に関する各種情報（遊技情報）及び払い出しに関する各種コマンドを払出制御Ｉ／Ｏポートを介してシリアル方式で受信したり、主制御基板１３１０からのＲＡＭクリアスイッチの押圧操作部の操作信号（検出信号）が払出制御Ｉ／Ｏポートを介して入力されたりする他に、満タン検知センサ１５４からの検出信号が入力されたり、球切検知センサ５７４、払出検知センサ５９１、及び羽根回転検知センサ５９０からの検出信号が入力される。
【１４９５】
球誘導ユニット５７０の球切検知センサ５７４、払出装置５８０の払出検知センサ５９１及び羽根回転検知センサ５９０からの検出信号は、払出制御入力回路に入力され、払出制御Ｉ／Ｏポートを介して払出制御ＭＰＵに入力される。
【１４９６】
また、本体枠４に対する扉枠３の開放を検出する扉枠開放スイッチ、及び外枠２に対する

本体枠４の開放を検出する本体枠開放スイッチからの検出信号は、払出制御入力回路に入力され、払出制御Ｉ／Ｏポートを介して払出制御ＭＰＵに入力される。払出制御ＭＰＵは、扉枠開放スイッチからの検出信号に基づいて本体枠４に対する扉枠３の開放を検出すると、その旨を伝える扉枠開放コマンドを主制御基板１３１０へ送信したり、本体枠開放スイッチからの検出信号に基づいて外枠２に対する本体枠４の開放を検出すると、その旨を伝える本体枠開放コマンドを主制御基板１３１０へ送信したりする。このようなコマンドを受信した主制御基板１３１０は、本体枠４に対する扉枠３の開放の旨を伝える扉枠開放コマンドに所定情報（主制御基板１３１０から周辺制御基板１５１０へコマンドを送信する形式を整えるための情報）を付加して周辺制御基板１５１０へ送信したり、外枠２に対する本体枠４の開放の旨を伝える本体枠開放コマンドに所定情報（主制御基板１３１０から周辺制御基板１５１０へコマンドを送信する形式を整えるための情報）を付加して周辺制御基板１５１０へ送信したりする。このようなコマンドを受信した周辺制御基板１５１０は、例えば、扉枠３の発光態様を報知態様に制御する。なお、扉枠開放スイッチからの検出信号と本体枠開放スイッチからの検出信号とに基づいて、本体枠４に対する扉枠３の開放、外枠２に対する本体枠４の開放のうち、いずれか一方又は両方を検出すると、統一コマンドとして枠開放コマンドを主制御基板１３１０へ送信するようにしてもよい。この場合、主制御基板１３１０は、枠開放コマンドに所定情報（主制御基板１３１０から周辺制御基板１５１０へコマンドを送信する形式を整えるための情報）を付加して周辺制御基板１５１０へ送信する。この枠開放コマンドを受信した周辺制御基板１５１０は、例えば、扉枠３の発光態様を報知態様に制御する。

【１４９７】

また、ファールカバーユニット１５０の満タン検知センサ１５４からの検出信号は、払出制御入力回路に入力され、払出制御Ｉ／Ｏポートを介して払出制御ＭＰＵに入力される。

【１４９８】

払出制御ＭＰＵは、払出モータ５８４を駆動するための駆動信号を、払出制御Ｉ／Ｏを介して払出モータ５８４に出力したり、パチンコ機１の状態をエラーＬＥＤ表示器に表示するための信号を、払出制御Ｉ／Ｏポートを介してエラーＬＥＤ表示器に出力したり、パチンコ機１の状態を示すためのコマンドを、払出制御Ｉ／Ｏポートを介して主制御基板１３１０にシリアル方式で送信したり、実際に払出した遊技球Ｂの球数を払出制御Ｉ／Ｏポートを介して外部端子板５５８に出力したりする。この外部端子板５５８は、遊技ホール側に設置されたホールコンピュータに接続されている。このホールコンピュータは、パチンコ機１が払出した遊技球Ｂの球数やパチンコ機１の遊技情報等を把握することにより遊技者の遊技を監視している。

【１４９９】

エラーＬＥＤ表示器（図示は省略）は、セグメント表示器であり、英数字や図形等を表示してパチンコ機１の状態を表示している。エラーＬＥＤ表示器が表示して報知する内容としては、次のようなものがある。例えば、図形「－」が表示されているときには「正常」である旨を報知し、数字「０」が表示されているときには「接続異常」である旨（具体的には、主制御基板１３１０と払出制御基板６３３との基板間の電気的な接続に異常が生じている旨）を報知し、数字「１」が表示されているときには「球切れ」である旨（具体的には、球切検知センサ５７４からの検出信号に基づいて払出装置５８０内に遊技球Ｂがない旨）を報知し、数字「２」が表示されているときには「球がみ」である旨（具体的には、羽根回転検知センサ５９０からの検出信号に基づいて払出装置５８０の払出通路５８０ａと払出羽根５８９との間に遊技球Ｂがかみ込んで払出羽根５８９が回転困難となっている旨）を報知し、数字「３」が表示されているときには「計数スイッチエラー」である旨（具体的には、払出検知センサ５９１からの検出信号に基づいて払出検知センサ５９１に不具合が生じている旨）を報知し、数字「５」が表示されているときには「リトライエラー」である旨（具体的には、払出し動作のリトライ回数が予め設定された上限値に達した旨）を報知し、数字「６」が表示されているときには「満タン」である旨（具体的には、満タン検知センサ１５４からの検出信号に基づいてファールカバーユニット１５０内に貯

留された遊技球Ｂで満タンである旨）を報知し、数字「７」が表示されているときには「ＣＲ未接続」である旨（払出制御基板６３３からＣＲユニットまでに亘るいずれかにおいて電気的な接続が切断されている旨）を報知し、数字「９」が表示されているときには「ストック中」である旨（具体的には、まだ払出していない遊技球Ｂの球数が予め定めた球数に達している旨）を報知している。

【１５００】

球貸ボタン２２４からの遊技球Ｂの球貸要求信号、及び返却ボタン２２５からのプリペイドカードの返却要求信号は、ＣＲユニットに入力される。ＣＲユニットは、球貸要求信号に従って貸し出す遊技球Ｂの球数を指定した信号を、払出制御基板６３３にシリアル方式で送信し、この信号が払出制御Ｉ／Ｏポートで受信されて払出制御ＭＰＵに入力される。またＣＲユニットは、貸出した遊技球Ｂの球数に応じて挿入されたプリペイドカードの残度を更新するとともに、その残度の表示信号を球貸操作ユニット２２０へ出力し、この信号が球貸操作ユニット２２０の球貸表示部に入力されて表示される。

【１５０１】

［６－２ｂ．発射制御部］

発射制御部６３３ｂは、発射ソレノイド５４２による発射制御と、球送給ソレノイド１４５による球送給制御と、を行う。発射制御部６３３ｂは、詳細に図示は省略するが、発射に関する各種検出スイッチからの検出信号が入力される発射制御入力回路と、定時間毎にクロック信号を出力する発振回路と、このクロック信号に基づいて遊技球Ｂを遊技領域５ａに向かって打ち出すための発射基準パルスを出力する発射タイミング制御回路と、この発射基準パルスに基づいて発射ソレノイド５４２に駆動信号を出力する発射ソレノイド駆動回路と、発射基準パルスに基づいて球送給ソレノイド１４５に駆動信号を出力する球送給ソレノイド駆動回路と、を備えている。発射タイミング制御回路は、発振回路からのクロック信号に基づいて、１分当たり１００個の遊技球Ｂが遊技領域５ａに向かって打ち出されるよう発射基準パルスを生成して発射ソレノイド駆動回路に出力するとともに、発射基準パルスを所定数倍した球送基準パルスを生成して球送給ソレノイド駆動回路に出力する。

【１５０２】

ハンドルユニット１８０の関係では、ハンドル１８２に手のひらや指が触れているか否かを検出するハンドルタッチセンサ１９２、及び遊技者の意志によって遊技球Ｂの打ち出しを強制的に停止するか否かを検出する単発ボタン操作センサ１９４からの検出信号は、発射制御入力回路に入力された後に、発射タイミング制御回路に入力される。またＣＲユニットとＣＲユニット接続端子板とが電気的に接続されると、ＣＲ接続信号として発射制御入力回路に入力され、発射タイミング制御回路に入力される。ハンドル１８２の回転位置に応じて遊技球Ｂを遊技領域５ａに向かって打ち出す強度を電気的に調節するハンドル回転検知センサ１８９からの信号は、発射ソレノイド駆動回路に入力され。

【１５０３】

この発射ソレノイド駆動回路は、ハンドル回転検知センサ１８９からの信号に基づいて、ハンドル１８２の回転位置に見合う打ち出し強度で遊技球Ｂを遊技領域５ａに向かって打ち出すための駆動電流を、発射基準パルスが入力されたことを契機として、発射ソレノイド５４２に出力する。一方、球送給ソレノイド駆動回路は、球送基準パルスが入力されたことを契機として、球送給ソレノイド１４５に一定電流を出力することにより、皿ユニット２００の上皿２０１に貯留された遊技球Ｂを球送給ユニット１４０内に１球受入れ、その球送基準パルスの入力が終了したことを契機として、その一定電流の出力を停止することにより受入れた遊技球Ｂを球発射装置５４０側へ送る。このように、発射ソレノイド駆動回路から発射ソレノイド５４２に出力される駆動電流は可変に制御されるのに対して、球送給ソレノイド駆動回路から球送給ソレノイド１４５に出力される駆動電流は一定に制御されている。

【１５０４】

なお、払出制御基板６３３に各種電圧を供給する電源基板６３０は、電源遮断時にでも所

定時間、主制御基板１３１０に電力を供給するためのバックアップ電源としてのキャパシタを備えている。このキャパシタにより払出制御ＭＰＵは、電源遮断時にでも電源断時処理において各種情報を払出制御基板６３３のＲＡＭに記憶することができる。この記憶した各種情報は、電源投入時に主制御基板１３１０のＲＡＭクリアスイッチの押圧操作部が操作されると、払出制御基板６３３のＲＡＭから完全に消去（クリア）される。

【１５０５】

［６－３．周辺制御基板］

周辺制御基板１５１０は、その表面（実装面）及び裏面（ハンダ面）に緑色のレジスト液が塗布されて形成される緑色塗膜（以下、単に「ベタ塗りされた緑色のレジスト」と記載する場合がある。）により緑色のレジスト層が形成され、図２０６に示すように、主制御基板１３１０からのコマンドに基づいて演出制御を行う周辺制御部１５１１と、この周辺制御部１５１１からの制御データに基づいて、演出表示装置１６００の描画制御を行う演出表示制御部１５１２と、を備えている。周辺制御基板１５１０の表面（実装面）には、周辺制御部１５１１及び演出表示制御部１５１２を構成する複数の電子部品の近傍に、電子部品の部品番号、電子部品を配置する位置を示す領域等の電子部品の属性（さらに、電子部品の形状、電子部品の大きさ、電子部品の実装向き（実装方向）、電子部品の型式を含む場合がある。）を示す表記部が、緑色に対して目立ち易い白色の塗料で、ベタ塗りされた緑色のレジスト上にシルク印刷によりそれぞれ印刷されている。

【１５０６】

［６－３ａ．周辺制御部］

周辺制御基板１５１０における演出制御を行う周辺制御部１５１１は、詳細な図示は省略するが、マイクロプロセッサとしての周辺制御ＭＰＵと、各種処理プログラムや各種コマンドを記憶する周辺制御ＲＯＭと、高音質の演奏を行う音源ＩＣと、この音源ＩＣが参照する音楽、音声、及び効果音等の音情報が記憶されている音ＲＯＭと、を備えている。

【１５０７】

周辺制御ＭＰＵは、パラレルＩ／Ｏポート、シリアルＩ／Ｏポート等を複数内蔵しており、主制御基板１３１０から各種コマンドを受信すると、この各種コマンドに基づいて、遊技盤５の各装飾基板に設けられたカラーＬＥＤ等への点灯信号、点滅信号又は階調点灯信号を出力するための遊技盤側発光データをランプ駆動基板用シリアルＩ／Ｏポートから遊技盤５の各装飾基板に送信したり、遊技盤５に設けられた各種演出ユニットを作動させる駆動モータへの駆動信号を出力するための遊技盤側駆動データを遊技盤装飾駆動基板用シリアルＩ／Ｏポートから遊技盤５の駆動モータ或いは駆動ソレノイドに送信したり、扉枠３に設けられた操作リング駆動モータ３４２、及び操作ボタン昇降駆動モータ３６７等への駆動信号を出力するための扉側駆動データと、扉枠３の各装飾基板に設けられたカラーＬＥＤ等への点灯信号、点滅信号又は階調点灯信号を出力するための扉側発光データと、から構成される扉側駆動発光データを枠装飾駆動基板用シリアルＩ／Ｏポートから扉枠３側に送信したり、演出表示装置１６００に表示させる画面を示す制御データ（表示コマンド）を表示制御部用シリアルＩ／Ｏポートから演出表示制御部１５１２に送信したり、するほかに、音ＲＯＭから音情報を抽出するための制御信号（音コマンド）を音源ＩＣに出力したりする。

【１５０８】

また、扉枠３に設けられた演出操作ユニット３００の押圧検知センサ３８１、第一回転検知センサ３４７及び第二回転検知センサ３４８からの検知信号は、周辺制御ＭＰＵに入力されている。

【１５０９】

また周辺制御ＭＰＵは、演出表示制御部１５１２が正常に動作している旨を伝える信号（動作信号）が演出表示制御部１５１２から入力されており、この動作信号に基づいて演出表示制御部１５１２の動作を監視している。

【１５１０】

音源ＩＣは、周辺制御ＭＰＵからの制御データ（音コマンド）に基づいて音ＲＯＭから音

情報を抽出し、扉枠３や本体枠４等に設けられた振動スピーカ３５４、トップ中央スピーカ４６２、トップサイドスピーカ４６４や、本体枠４の本体枠スピーカ６２２等から各種演出に合せた音楽及び効果音等のサウンドが流れるように制御を行う。なお、周辺制御基板１５１０が収容された周辺制御基板ボックスから後方へ突出しているボリュームを回転操作することで、音量を調整することができるようになっている。本実施形態では、扉枠３側のトップ中央スピーカ４６２、トップサイドスピーカ４６４と、本体枠４の低音用の本体枠スピーカ６２２とに、音情報としての音響信号（例えば、２ｃｈステレオ信号、４ｃｈステレオ信号、２．１ｃｈサラウンド信号、或いは、４．１ｃｈサラウンド信号、等）を送ることで、従来よりも臨場感のある音響効果（音響演出）を提示することができる。

【１５１１】

なお、周辺制御部１５１１は、周辺制御ＭＰＵに内蔵された内蔵ＷＤＴ（ウォッチドックタイマ）のほかに、図示しない、外部ＷＤＴ（ウォッチドックタイマ）も備えており、周辺制御ＭＰＵは、内蔵ＷＤＴと外部ＷＤＴとを併用して自身のシステムが暴走しているか否かを診断している。

【１５１２】

この周辺制御ＭＰＵから演出表示制御部１５１２に出力される表示コマンドはシリアル入出力ポートにより行われ、本実施形態では、ビットレート（単位時間あたりに送信できるデータの大きさ）として１９．２キロ（ｋ）ビーピーエス（ｂｉｔｓ ｐｅｒ ｓｅｃｏｎｄ、以下、「ｂｐｓ」と記載する）が設定されている。一方、周辺制御ＭＰＵから遊技盤５側に出力される、初期データ、扉枠側点灯点滅コマンド、遊技盤側点灯点滅コマンド、可動体駆動コマンド等は、表示コマンドと異なる複数のシリアル入出力ポートにより行われ、本実施形態では、ビットレートとして２５０ｋｂｐｓが設定されている。

【１５１３】

［６－３ｂ．演出表示制御部］

演出表示制御部１５１２は、演出表示装置１６００の描画制御を行うものである。演出表示制御部１５１２は、詳細な図示は省略するが、マイクロプロセッサとしての表示制御ＭＰＵと、各種処理プログラム、各種コマンド及び各種データを記憶する表示制御ＲＯＭと、演出表示装置１６００を表示制御するＶＤＰ（Ｖｉｄｅｏ Ｄｉｓｐｌａｙ Ｐｒｏｃｅｓｓｏｒの略）と、演出表示装置１６００に表示される画面の各種データを記憶する画像ＲＯＭと、この画像ＲＯＭに記憶されている各種データが転送されてコピーされる画像ＲＡＭと、を備えている。

【１５１４】

この表示制御ＭＰＵは、パラレルＩ／Ｏポート、シリアルＩ／Ｏポート等を内蔵しており、周辺制御部１５１１からの制御データ（表示コマンド）に基づいてＶＤＰを制御して演出表示装置１６００の描画制御を行っている。なお、表示制御ＭＰＵは、正常に動作していると、その旨を伝える動作信号を周辺制御部１５１１に出力する。また表示制御ＭＰＵは、ＶＤＰから実行中信号が入力されており、この実行中信号の出力が１６ｍｓごとに停止されたことを契機として、割り込み処理を行っている。

【１５１５】

表示制御ＲＯＭは、演出表示装置１６００に描画する画面を生成するための各種プログラムのほかに、周辺制御部１５１１からの制御データ（表示コマンド）と対応するスケジュールデータ、その制御データ（表示コマンド）と対応する非常駐領域転送スケジュールデータ等を複数記憶している。スケジュールデータは、画面の構成を規定する画面データが時系列に配列されて構成されており、演出表示装置１６００に描画する画面の順序が規定されている。非常駐領域転送スケジュールデータは、画像ＲＯＭに記憶されている各種データを画像ＲＡＭの非常駐領域に転送する際に、その順序を規定する非常駐領域転送データが時系列に配列されて構成されている。この非常駐領域転送データは、スケジュールデータの進行に従って演出表示装置１６００に描画される画面データを、前もって、画像ＲＯＭから画像ＲＡＭの非常駐領域に各種データを転送する順序が規定されている。

【１５１６】

表示制御ＭＰＵは、周辺制御部１５１１からの制御データ（表示コマンド）と対応するスケジュールデータの先頭の画面データを表示制御ＲＯＭから抽出してＶＤＰに出力した後に、先頭の画面データに続く画面データを表示制御ＲＯＭから抽出してＶＤＰに出力する。このように、表示制御ＭＰＵは、スケジュールデータに時系列に配列された画面データを、先頭の画面データから１つずつ表示制御ＲＯＭから抽出してＶＤＰに出力する。

【１５１７】

ＶＤＰは、表示制御ＭＰＵから出力された画面データが入力されると、この入力された画面データに基づいて画像ＲＡＭからスプライトデータを抽出して演出表示装置１６００に表示する描画データを生成し、この生成した描画データを、演出表示装置１６００に出力する。またＶＤＰは、演出表示装置１６００が、表示制御ＭＰＵからの画面データを受入れないときに、その旨を伝える実行中信号を表示制御ＭＰＵに出力する。なお、ＶＤＰは、ラインバッファ方式が採用されている。この「ラインバッファ方式」とは、演出表示装置１６００の左右方向を描画する１ライン分の描画データをラインバッファに保持し、このラインバッファに保持した１ライン分の描画データを、演出表示装置１６００に出力する方式である。

【１５１８】

画像ＲＯＭには、極めて多くのスプライトデータが記憶されており、その容量が大きくなっている。画像ＲＯＭの容量が大きくなると、つまり、演出表示装置１６００に描画するスプライトの数が多くなると、画像ＲＯＭのアクセス速度が無視できなくなり、演出表示装置１６００に描画する速度に影響することとなる。そこで、本実施形態では、アクセス速度の速い画像ＲＡＭに、画像ＲＯＭに記憶されているスプライトデータを転送してコピーし、この画像ＲＡＭからスプライトデータを抽出している。なお、スプライトデータは、スプライトをビットマップ形式に展開する前のデータである基データであり、圧縮された状態で画像ＲＯＭに記憶されている。

【１５１９】

ここで、「スプライト」について説明すると、「スプライト」とは、演出表示装置１６００に、纏まった単位として表示されるイメージである。例えば、演出表示装置１６００に、種々の人物（キャラクタ）を表示させる場合には、夫々の人物を描くためのデータを「スプライト」と呼ぶ。これにより、演出表示装置１６００に複数人の人物を表示させる場合には、複数のスプライトを用いることとなる。また人物のほかに、背景を構成する家、山、道路等もスプライトであり、背景全体を１つのスプライトとすることもできる。これらのスプライトは、画面に配置される位置やスプライト同士が重なる場合の上下関係（以下、「スプライトの重ね合わせの順序」と記載する。）が設定されて演出表示装置１６００に描画される。

【１５２０】

なお、スプライトは縦横それぞれ６４画素の矩形領域を複数張り合わせて構成されている。この矩形領域を描くためのデータを「スプライトキャラクタ」と呼ぶ。小さなスプライトの場合には１つのスプライトキャラクタを用いて表現することができるし、人物など比較的大きいスプライトの場合には、例えば横２×縦３などで配置した合計６個のスプライトキャラクタを用いて表現することができる。背景のように更に大きいスプライトの場合には更に多数のスプライトキャラクタを用いて表現することができる。このように、スプライトキャラクタの数及び配置は、スプライトごとに任意に指定することができるようになっている。

【１５２１】

演出表示装置１６００は、その正面から見て左から右に向かって順次、画素に沿った一方向に画素ごとの表示状態を設定する主走査と、その一方向と交差する方向に主走査を繰り返し行う副走査と、によって駆動される。演出表示装置１６００は、演出表示制御部１５１２から出力された１ライン分の描画データが入力されると、主走査として演出表示装置１６００の正面から見て左から右に向かって順次、１ライン分の画素にそれぞれ出力する。そして１ライン分の出力が完了すると、演出表示装置１６００は、副走査として直下の

ラインに移行し、同様に次ライン分の描画データが入力されると、この次ライン分の描画データに基づいて主走査として演出表示装置１６００の正面から見て左から右に向かって順次、１ライン分の画素にそれぞれ出力する。

【１５２２】

［７．遊技内容］

本実施形態のパチンコ機１による遊技内容について、図１１５及び図１３０等を参照して説明する。本実施形態のパチンコ機１は、扉枠３の前面右下隅に配置されたハンドルユニット１８０のハンドル１８２を遊技者が回転操作することで、皿ユニット２００の上皿２０１に貯留された遊技球Ｂが、遊技盤５における外レール１００１と内レール１００２との間を通って遊技領域５ａ内の上部へと打ち込まれて、遊技球Ｂによる遊技が開始される。遊技領域５ａ内の上部へ打ち込まれた遊技球Ｂは、その打込強さによってセンター役物２５００の左側、或いは、右側の何れかを流下する。なお、遊技球Ｂの打込強さは、ハンドル１８２の回転量によって調整することができ、時計回りの方向へ回転させるほど強く打込むことができ、連続で一分間に最大１００個の遊技球Ｂ、つまり、０．６秒間隔で遊技球Ｂを打込むことができる。

【１５２３】

また、遊技領域５ａ内には、適宜位置に所定のゲージ配列で複数の障害釘Ｎが遊技パネル１１００の前面に植設されており、遊技球Ｂが障害釘Ｎに当接することで、遊技球Ｂの流下速度が抑制されると共に、遊技球Ｂに様々な動きが付与されて、その動きを楽しませられるようになっている。また、遊技領域５ａ内には、障害釘Ｎの他に、遊技球Ｂの当接により回転する風車Ｗがサイド左上ユニット２３００の上方でセンター役物２５００の左方に設けられている。

【１５２４】

センター役物２５００の上部へ打込まれた遊技球Ｂは、センター役物２５００の外周面のうち、最も高くなった部位よりも正面視左側へ進入すると、複数の障害釘Ｎに当接しながら、センター役物２５００よりも左側の領域を流下することとなる。そして、センター役物２５００の左側の領域を流下する遊技球Ｂが、センター役物２５００の周壁部２５０１に開口しているワープ入口２５１１に進入すると、ワープ出口２５１２からステージ２５１３に供給される。

【１５２５】

ステージ２５１３に供給された遊技球Ｂは、ステージ２５１３上を転動して左右に行ったり来たりして、左右方向中央部分から前方へ放出される。ステージ２５１３の中央の中央放出部２５１３ａから遊技球Ｂが遊技領域５ａ内に放出されると、その中央放出部２５１３ａが第一始動口２００２の直上に位置していることから、高い確率で第一始動口２００２に受入れられる。この第一始動口２００２に遊技球Ｂが受入れられると、主制御基板１３１０及び払出制御基板６３３を介して払出装置５８０から所定数（例えば、３個）の遊技球Ｂが、上皿２０１に払出されると共に、主制御基板１３１０において、遊技者に有利な有利遊技状態（例えば、「大当り」、「中当り」、「小当り」、「確率変動（確変）当り」、「時間短縮（時短）当り」、を発生させる特別抽選結果（第一特別抽選結果）の抽選が行われる。

【１５２６】

センター役物２５００のステージ２５１３から遊技領域５ａ内に放出された遊技球Ｂは、始動口ユニット２１００の第一始動口２００２に受入れられる可能性がある。

【１５２７】

ところで、センター役物２５００の左側へ流下した遊技球Ｂが、ワープ入口２５１１に進入しなかった場合、サイド左上ユニット２３００の棚部２３０１や障害釘Ｎにより左右方向中央側へ寄せられ、サイドユニット２２００の一般入賞口２００１、或いは、始動口ユニット２１００の第一始動口２００２等、に受入れられる可能性がある。そして、一般入賞口２００１に遊技球Ｂが受入れられると、主制御基板１３１０及び払出制御基板６３３を介して払出装置５８０から所定数（例えば、１０個）の遊技球Ｂが、上皿２０１に払出

される。
【１５２８】
一方、遊技領域５ａ内においてセンター役物２５００の上部に打込まれた遊技球Ｂが、センター役物２５００の周壁部２５０１の最も高くなった部位よりも右側に進入すると、センター役物２５００の案内通路群２５２０の第一案内通路２５２１又は第二案内通路２５２２の何れかを通って、ゲート部２００３の上方に放出され、案内通路群２５２０とゲート部２００３との間に植設されている複数の障害釘Ｎに当接した上で、ある程度の確率でゲート部２００３を通過する。
【１５２９】
センター役物２５００の案内通路群２５２０は、衝止部１００６の近傍に入口が開口している第一案内通路２５２１と、第一案内通路２５２１の入口から左方へ間隔をあけて入口が開口している第二案内通路２５２２と、から構成されている。これにより、衝止部１００６に当接する強さで遊技球Ｂを打込む（所謂、右打ちする）と、第一案内通路２５２１に進入し、衝止部１００６に当接しない強さ（右打ちよりもある程度弱い強さ）で遊技球Ｂを打込むと、高い確率で第二案内通路２５２２に進入する。つまり、センター役物２５００の上部の右側に打込まれた遊技球Ｂは、その打込強さに応じて、第一案内通路２５２１又は第二案内通路２５２２の何れかを流通する。
【１５３０】
本実施形態では、第一案内通路２５２１よりも第二案内通路２５２２を流通させた方が、高い確率でゲート部２００３を遊技球Ｂが通過するように構成されている。また、第一案内通路２５２１よりも第二案内通路２５２２を流通させた方が、高い確率でゲート部２００３及びゲート部２００３の左側を通過するように構成されている。
【１５３１】
このゲート部２００３を遊技球Ｂが通過してゲートセンサ２８０１により検知されると、主制御基板１３１０において普通抽選が行われ、抽選された普通抽選結果が「普通当り」の場合、第一アタッカユニット２４００における閉鎖されている第二始動口２００４が所定時間（例えば、０．３～１０秒）の間、開状態となり、第二始動口２００４への遊技球Ｂの受入れが可能となる。
【１５３２】
本実施形態では、ゲート部２００３を遊技球Ｂが通過することで行われる普通抽選において、普通抽選を開始してから普通抽選結果を示唆するまでにある程度の時間を設定している（例えば、０．０１～６００秒、普通変動時間とも称す）。この普通抽選結果の示唆は、遊技盤５の機能表示ユニット１４００に表示される。第二始動口２００４では、普通変動時間の経過後に開状態となる。なお、普通抽選を開始してから普通抽選結果を示唆するまでの普通変動時間は通常時（非時短状態）には比較的長い時間（本例では６００秒）に設定されており、時短時（時短状態）には短時間に変更されるようになっている。これにより、時短時（時短状態）には普通抽選結果の導出が頻繁に行われるようになり、これによって第二始動口２００４が頻繁に開状態とされるようになる。このように、時短時（時短状態）では第二始動口２００４が頻繁に開状態とされるため、第二始動口２００４への遊技球の入球を狙った遊技（いわゆる「右打ち」）を行うことになる。
【１５３３】
なお、遊技球Ｂがゲート部２００３を通過してから普通抽選結果が示唆されるまでの間に、遊技球Ｂがゲート部２００３を通過すると、普通抽選結果の示唆を開始することができないため、普通抽選結果の示唆の開始を、先の普通抽選結果の示唆が終了するまで保留するようにしている。また、普通抽選結果の保留数は、４つまでを上限とし、それ以上については、ゲート部２００３に遊技球Ｂが通過しても、保留せずに破棄している。これにより、保留が貯まることで遊技ホール側の負担の増加を抑制している。
【１５３４】
ゲート部２００３及びゲート部２００３の左側を通った遊技球Ｂは、ゲート部２００３とサイド右中ユニット２７００との間に植設されている複数の障害釘Ｎにより、高い確率で

サイド右中ユニット２７００の左側を流下し、たまにサイド右中ユニット２７００の一般入賞口２００１に受入れられたり、まれに第二サブアウト口２０１２に受入れられたりする。遊技球Ｂがサイド右中ユニット２７００の一般入賞口２００１に受入れられると、サイドユニット２２００の一般入賞口２００１と同様に、所定数の遊技球Ｂが払出される。一方、遊技球Ｂが第二サブアウト口２０１２に受入れられると、第二大入賞口２００６、第二始動口２００４や第一大入賞口２００５に受入れられる機会もなく、遊技領域５ａ外へ排出される。

【１５３５】

また、ゲート部２００３の右側を通った遊技球Ｂは、サイド右中ユニット２７００の第二サブアウト口２０１２に受入れられ、サイド右中ユニット２７００の一般入賞口２００１、第二大入賞口２００６、第二始動口２００４や第一大入賞口２００５に受入れられる機会もなく、遊技領域５ａ外へ排出される。

【１５３６】

このように、案内通路群２５２０の下流側の第二サブアウト口２０１２に遊技球Ｂが受入れられると、当該遊技球Ｂが遊技領域５ａ外へ排出されてしまうため、遊技者に対して第二サブアウト口２０１２に遊技球Ｂが受けられないような、打込操作を促すことができる。本実施形態では、センター役物２５００の案内通路群２５２０において、第一案内通路２５２１よりも第二案内通路２５２２の方が、第二サブアウト口２０１２の遊技球Ｂの受入確率が低くなっているため、第二案内通路２５２２を狙った遊技球Ｂの打込操作を促すことができる。つまり、遊技球Ｂが衝止部１００６に当接するような「右打ち」よりも、ハンドル１８２の回転操作に微妙な調整が必要な打込操作を促すことができ、遊技球Ｂの打込操作をメインとしたパチンコ機１本来の遊技を楽しませることができる。

【１５３７】

サイド右中ユニット２７００の左側を通った遊技球Ｂは、サイド右中ユニット２７００の左側に植設されている複数の障害釘Ｎに誘導されて、第二アタッカユニット２６００における第二大入賞口２００６の左方を通った後に、センター役物２５００の右下案内通路２５３０を介して第一アタッカユニット２４００側へ放出される。

【１５３８】

この際に、第一始動口２００２や第二始動口２００４に遊技球Ｂが受入れられて第一特別抽選結果や第二特別抽選結果として「小当り」が抽選されている場合、第二大入賞口２００６が所定のパターンで開閉するため、サイド右中ユニット２７００の左側を流下した遊技球Ｂが、高い確率で第二大入賞口２００６に受入れられる。第二大入賞口２００６が開状態の時に、第二大入賞口２００６に遊技球Ｂが受入れられると、主制御基板１３１０及び払出制御基板６３３によって払出装置５８０から所定数（例えば、１０個、又は、１３個）の遊技球Ｂが、上皿２０１に払出される。

【１５３９】

第二大入賞口２００６の左方を通って第一アタッカユニット２４００側へ放出された遊技球Ｂは、第一棚部２４１２ａ、第二始動口扉２４１４、及び第二棚部２４１２ｂ、上を左方へ転動した後に、左方へ放出され、更に、第三棚部２４１２ｃ、第一大入賞口扉２４１７、及び第四棚部２４１２ｄ、上を左方へ転動して遊技領域５ａ内へ放出される。

【１５４０】

そして、遊技球Ｂが第二始動口扉２４１４上を転動している時に、ゲート部２００３での遊技球Ｂの通過により抽選された普通抽選結果が「普通当り」で、第二始動口扉２４１４が後退していると、当該遊技球Ｂが第二始動口２００４に遊技球Ｂが受入れられる。この第二始動口２００４に遊技球Ｂが受入れられると、主制御基板１３１０及び払出制御基板６３３を介して払出装置５８０から所定数（例えば、４個）の遊技球Ｂが、上皿２０１に払出されると共に、主制御基板１３１０において、遊技者に有利な有利遊技状態（例えば、「大当り」、「中当り」、「小当り」、「確率変動（確変）当り」、「時間短縮（時短）当り」、を発生させる特別抽選結果（第一特別抽選結果）の抽選が行われる。

【１５４１】

また、遊技球Ｂが第一大入賞口扉２４１７上を転動している際に、第一始動口２００２及び第二始動口２００４への遊技球Ｂの受入れにより抽選された特別抽選結果（第一特別抽選結果及び第二特別抽選結果）が、有利遊技状態を発生させる特別抽選結果（例えば、「大当り」）の場合、特別変動時間の経過後に、第一大入賞口２００５が所定の開閉パターンで遊技球Ｂの受入れが可能な状態となる。第一大入賞口２００５が開状態の時に、第一大入賞口２００５に遊技球Ｂが受入れられると、主制御基板１３１０及び払出制御基板６３３によって払出装置５８０から所定数（例えば、１０個、又は、１３個）の遊技球Ｂが、上皿２０１に払出される。従って、第一大入賞口２００５が遊技球Ｂを受入可能としている時に、第一大入賞口２００５に遊技球Ｂを受入れさせることで、多くの遊技球Ｂを払出させることができ、遊技者を楽しませることができる。

【１５４２】

本実施形態のパチンコ機１は、第一始動口２００２及び第二始動口２００４に遊技球Ｂが受入れられると、主制御基板１３１０において、遊技者に有利な有利遊技状態（例えば、「大当り」、「中当り」、「小当り」、「確率変動（確変）当り」、「時間短縮（時短）当り」、を発生させる特別抽選結果の抽選が行われる。そして、抽選された特別抽選結果を、所定時間（例えば、０．１～３６０秒、特別変動時間とも称す）かけて遊技者に示唆する。なお、第一始動口２００２及び第二始動口２００４に遊技球Ｂが受入れられることで抽選される特別抽選結果には、「ハズレ」、「小当り」、「２Ｒ大当り」、「５Ｒ大当り」、「１５Ｒ大当り」、「確変（確率変更）当り」、「時短（時間短縮）当り」、「確変時短当り」、「確変時短無し当り」、「第二大当り」、等がある。

【１５４３】

特別抽選結果が「小当り」の場合、第二大入賞口２００６が、所定短時間（例えば、０．２秒～０．６秒の間）の間、遊技球Ｂを受入可能な開状態となってから閉鎖する開閉パターンを複数回（例えば、２回）繰返す。一方、特別抽選結果が「大当り」の場合、第一大入賞口２００５が、遊技球Ｂを受入可能な開状態となった後に、所定時間（例えば、約３０秒）経過、或いは、第一大入賞口２００５への所定個数（例えば、１０個）の遊技球Ｂの受入れ、の何れかの条件が充足すると、遊技球Ｂを受入不能な閉状態とする開閉パターン（一回の開閉パターンを１ラウンドと称す）を、所定回数（所定ラウンド数）繰返す。例えば、「２Ｒ大当り」であれば２ラウンド、「５Ｒ大当り」であれば５ラウンド、「１５Ｒ大当り」であれば１５ラウンド、夫々繰返して、遊技者に有利な有利遊技状態を発生させる。

【１５４４】

なお、「大当り」では、大当り遊技の終了後に、「大当り」等の特別抽選結果が抽選される確率を変更（「確変当り」）したり、特別抽選結果を示唆する演出画像の表示時間を変更（「時短当り」）したりする「当り」がある。

【１５４５】

特別抽選結果（例えば、第二特別抽選結果）が「第二大当り」の場合、第一大入賞口２００５が、所定のパターンで遊技球Ｂを受入可能とした後に、有利遊技状態としてＳＴ（スペシャル・タイム）を発生させる。このＳＴとは、予め決められた特定の変動回数の間、確変や時短の状態を維持するものである。

【１５４６】

本実施形態では、第一始動口２００２及び第二始動口２００４への遊技球Ｂの受入れにより特別抽選の開始から抽選された特別抽選結果が示唆されるまでの間に、第一始動口２００２及び第二始動口２００４に遊技球Ｂが受入れられると、特別抽選結果の示唆を開始することができないため、先に抽選された特別抽選結果の示唆が完了するまで、特別抽選結果の示唆の開始が保留される。この保留される特別抽選結果の保留数は、第一始動口２００２及び第二始動口２００４に対して、夫々４つまでを上限とし、それ以上については、第一始動口２００２及び第二始動口２００４に遊技球Ｂが受入れられても特別抽選結果を保留せずに、破棄している。これにより、保留が貯まることで遊技ホール側の負担の増加を抑制している。

【１５４７】
この特別抽選結果の示唆は、機能表示ユニット１４００と演出表示装置１６００とで行われる。機能表示ユニット１４００では、主制御基板１３１０によって直接制御されて特別抽選結果の示唆が行われる。機能表示ユニット１４００での特別抽選結果の示唆は、複数のＬＥＤを、点灯・消灯を繰返して所定時間点滅させ、その後に、点灯しているＬＥＤの組合せによって特別抽選結果を示唆する。
【１５４８】
一方、演出表示装置１６００では、主制御基板１３１０からの制御信号に基づいて、周辺制御基板１５１０によって間接的に制御され演出画像として特別抽選結果の示唆が行われる。演出表示装置１６００での特別抽選結果を示唆する演出画像は、複数の絵柄からなる絵柄列を、左右方向へ三つ並べて表示した状態で、各絵柄列を変動させ、変動表示されている絵柄列を順次停止表示させ、停止表示される三つの絵柄列の絵柄が、特別抽選結果と対応した組合せとなるように夫々の絵柄列が停止表示される。特別抽選結果が「ハズレ」以外の場合は、三つの絵柄列が停止して各絵柄が停止表示された後に、特別抽選結果を示唆する確定画像が演出表示装置１６００に表示されて、抽選された特別抽選結果に応じた有利遊技状態（例えば、「小当り」遊技、「大当り」遊技、等）が発生する。
【１５４９】
なお、機能表示ユニット１４００での特別抽選結果を示唆する時間（ＬＥＤの点滅時間（変動時間））と、演出表示装置１６００での特別抽選結果を示唆する時間（絵柄列が変動して確定画像が表示されるまでの時間）とは、異なっており、機能表示ユニット１４００の方が長い時間に設定されている。
【１５５０】
また、周辺制御基板１５１０では、演出表示装置１６００による特別抽選結果を示唆するための演出画像の表示の他に、抽選された特別抽選結果に応じて、扉枠３における演出操作ユニット３００における演出操作部３０１の回転操作部３０２や押圧操作部３０３を操作させる遊技者参加型演出を行うことができる。遊技者参加型演出では、操作リング駆動モータ３４２により回転操作部３０２を回転させたり、振動させたり、回転操作をアシストしたり、回転操作を阻害したりすることができると共に、操作ボタン昇降駆動モータ３６７により押圧操作部３０３を上昇させて目立たせることができ、演出操作部３０１の操作により遊技者参加型演出を楽しませることができる。
【１５５１】
また、周辺制御基板１５１０では、扉枠３に備えられている各装飾基板や、遊技盤５に備えられている各装飾基板、演出表示装置１６００、及び裏ユニット３０００の裏後演出ユニット３１００、裏下左演出ユニット３２００、裏下右演出ユニット３２５０、裏下中演出ユニット３３００、裏上演出ユニット３４００、裏後左演出ユニット３５００、裏後右演出ユニット３６００、裏前左演出ユニット３７００、及び裏前右演出ユニット３８００、等を適宜用いて、発光演出や表示演出等を行うことが可能であり、各種の演出によっても遊技者を楽しませることができ、遊技者の遊技に対する興趣が低下するのを抑制することができる。
【１５５２】
更に、周辺制御基板１５１０では、回転操作部３０２や押圧操作部３０３を操作する遊技者参加型演出において、遊技者が操作すべき操作を間違えたり、行わなかったりした時に、正しい操作を行わせるように遊技者にその旨を告知する。具体的には、例えば、中央押圧操作部３０３ａの押圧操作が要求されている時に、外周押圧操作部３０３ｂを押圧操作したり、回転操作部３０２を回転操作した場合、振動スピーカ３５４により振動させたり演出表示装置１６００にその旨を表示させたりする。
【１５５３】
［８．自立補助部材］
続いて、本パチンコ機１における自立補助部材７について、主に図２０７を参照して説明する。図２０７は、自立補助部材と共に示すパチンコ機の右側面図である。パチンコ機１

の自立補助部材７は、扉枠３における皿ユニット２００の下面と、パチンコ機１が設置される遊技ホールにおける島設備の膳板８との間に装着され、パチンコ機１を島設備に設置する（取付ける）際に、パチンコ機１の自立を補助して転倒することを防止するものである。この自立補助部材７は、ブロック状に形成されている。また、自立補助部材７は、硬質の発泡樹脂、プラスチック、段ボール紙、木材、パルプモウルド、等の少なくとも一つを用いて形成されている。

【１５５４】

本実施形態のパチンコ機１は、詳細な図示は省略するが、扉枠３における皿ユニット２００の下面に、自立補助部材７を取付けるための装着部が設けられている。一方、自立補助部材７には、皿ユニット２００の装着部に装着される被装着部が設けられている。本実施形態では、皿ユニット２００に装着部として、前後に延びた溝が設けられていると共に、自立補助部材７に被装着部として、皿ユニット２００の溝内に挿入される突条が設けられている。これにより、皿ユニット２００に対して自立補助部材７を前後方向へスライドさせて、皿ユニット２００の装着部に、自立補助部材７の被装着部を挿入することで、皿ユニット２００に自立補助部材７を取付ける（装着する）ことができる。これにより、扉枠３の皿ユニット２００に自立補助部材７を取付けた状態で、パチンコ機１を島設備に取付けた時に、自立補助部材７を前方へスライドさせることで、簡単に取外すことができる。また、島設備に取り付けられたパチンコ機１を取外す時に、自立補助部材７を取外した時とは逆方向へスライドさせることで、簡単に取付けることができる。

【１５５５】

なお、皿ユニット２００の装着部と自立補助部材７の被装着部との取付け（装着）としては、上記のものに限定するものではなく、「孔への突起の挿入によるもの」、「爪の係止によるもの」、「磁石による磁着によるもの」、「面ファスナーによるもの」、「吸着盤によるもの」、「剥離可能な粘着材によるもの」、等としても良い。また、皿ユニット２００における装着部を設ける位置としては、上記のような皿ユニット２００の下面に限定するものではなく、「内部」、「少なくとも左右一方の側面」、「前面」、等としても良い。

【１５５６】

この自立補助部材７は、パチンコ機１を島設備に設置した後には、皿ユニット２００の装着部から取外して、遊技ホール側において保管し、本パチンコ機１を島設備から取外す際に、再び皿ユニット２００に装着して使用する。なお、自立補助部材７は、メーカー側から遊技ホール側へパチンコ機１を出荷する際に、予め皿ユニット２００に取付けておいても良いし、設置作業の時に取付けても良い。

【１５５７】

本実施形態のパチンコ機１によれば、扉枠３には、前方へ大きく突出している皿ユニット２００、扉枠右サイドユニット４１０、及び扉枠トップユニット４５０を有していることから、前方へ倒れ易くなっているが、皿ユニット２００の下側の装着部に自立補助部材７を装着することで、パチンコ機１の自立を補助して、前方へ倒れることを防止することができる。これにより、パチンコ機１を遊技ホールの島設備に設置する際に、皿ユニット２００の装着部に自立補助部材７を装着しておくことで、皿ユニット２００と島設備の膳板８との間に位置している自立補助部材７により、パチンコ機１が前方へ転倒することを防止することができるため、パチンコ機１の島設備への設置する時に、パチンコ機１が転倒しないように抑えておく必要が無く、設置作業にかかる手間が容易なパチンコ機１となっている。

【１５５８】

また、皿ユニット２００の装着部に自立補助部材７を装着することで、パチンコ機１の転倒を防止することができるため、転倒によるパチンコ機１の破損を回避させることができ、遊技ホールやメーカー側の負担を軽減させることが可能なパチンコ機１となっている。

【１５５９】

更に、扉枠３の皿ユニット２００に自立補助部材７を取付けるための装着部を設けている

ことから、皿ユニット２００の装着部に自立補助部材７を取付けることで、パチンコ機１の自立を補助して前方へ転倒することを防止することができるため、扉枠３に設けられる演出装置や装飾部材等を、より大きくしたり、より前方へ突出させたりすることが可能となり、これまでのパチンコ機とは外観が大きく異なるパチンコ機を構成し易くすることができ、遊技者に対する訴求力の高いパチンコ機１を提供することができる。従って、本パチンコ機１では、扉枠３において、皿ユニット２００等を大きく前方へ突出させており、訴求力の高いパチンコ機１となっている。

【１５６０】

なお、上記の実施形態では、自立補助部材７を前後方向へスライドさせることで、皿ユニット２００の装着部から着脱できるものを示したが、これに限定するものではなく、自立補助部材７を扉枠３の皿ユニット２００に対して、左右方向へスライドさせることで、着脱できるようにしても良い。

【１５６１】

また、自立補助部材７を、扉枠３（皿ユニット２００）の装着部に対して着脱可能とした上で、扉枠３に着脱可能に設けた機能部材（例えば、上皿２０１又は下皿２０２、扉枠左サイドユニット４００、扉枠右サイドユニット４１０、扉枠トップユニット４５０、等）と兼用するようしても良い。これにより、パチンコ機１を島設備に取付けたり島設備から取外したりする時には、扉枠３から取外された機能部材を、自立補助部材７として扉枠３の皿ユニット２００に取付けて、パチンコ機１が安定した状態で自立できるようにする。一方、パチンコ機１が島設備に取付けられている状態では、扉枠３の皿ユニット２００から取外した自立補助部材７を、機能部材として扉枠３に取付けることで、パチンコ機１の一部を構成する機能部材として機能させることができる。具体的には、例えば、自立補助部材７と兼用する機能部材として扉枠３における扉窓１０１ａの左側から前方へ膨出している扉枠左サイドユニット４００とした場合、扉枠３から取外した扉枠左サイドユニット４００を皿ユニット２００の下側に取付けることで自立補助部材７として機能させることができ、皿ユニット２００の下側から取外して扉窓１０１ａの左側に取付けることで機能部材として機能させることができる。このようなことから、自立補助部材７を着脱可能とした時に、取外した自立補助部材７を別途に保管しておく必要が無く、取外された自立補助部材７が紛失しないように管理する手間をなくすことができ、遊技ホール側の負担を軽減させることができる。

【１５６２】

或いは、自立補助部材７を、扉枠３（皿ユニット２００）に対して着脱可能とした上で、本体枠４に着脱可能に設けた機能部材（例えば、「基板を覆う基板カバー」、「配線を保持する配線保持部材」、「演出表示装置や可動装飾体等の後方を保護する保護カバー」、「遊技媒体が貯留される貯留タンク」、「遊技媒体が流通する誘導部材」、等）と兼用するようにしても良い。これにより、パチンコ機１を島設備に取付けたり島設備から取外したりする時には、本体枠４から取外された自立補助部材７を扉枠３（皿ユニット２００）に取付けて、パチンコ機１が安定した状態で自立できるようにする。一方、パチンコ機１が島設備に取付けられている状態では、扉枠３から取外した自立補助部材７を、本体枠４の所定の部位に取付けることで、パチンコ機１の一部を構成する機能部材として機能させることができる。このようなことから、自立補助部材７を着脱可能とした時に、取外した自立補助部材７を別途に保管しておく必要が無く、取外された自立補助部材７が紛失しないように管理する手間をなくすことができ、遊技ホール側の負担を軽減させることができる。なお、自立補助部材７を、本体枠４に設けられている機能部材と兼用するようにした場合、機能部材が本体枠４に取付けられている状態では、着脱可能な機能部材を遊技者が触れることはできないため、遊技者が起因となって機能部材が外れしまうことを回避させることができ、遊技者に不快感を与えることのないパチンコ機１とすることができる。

【１５６３】

また、自立補助部材７を、扉枠３や本体枠４に設けられている機能部材と兼用するようにした場合、自立補助部材７を、機能部材と兼用しない場合と比較して、パチンコ機１にか

かる部品点数を少なくすることができ、コストの増加を抑制させることができる。
【１５６４】
更に、自立補助部材７を、扉枠３の皿ユニット２００内に収容可能に設けるようにしても良い。これにより、パチンコ機１を島設備に取付けて自立させる必要の無い時には、自立補助部材７を扉枠３の皿ユニット２００内に収容することで、自立補助部材７の存在によりパチンコ機１の見栄えが悪くなったり、自立補助部材７が遊技の邪魔になったりすることを回避させることができる。一方、パチンコ機１を島設備に取付けたり島設備から取外したりする時には、扉枠３の皿ユニット２００内に収容されている自立補助部材７を取出して、パチンコ機１が自立できるようにすることで、パチンコ機１の設置作業や取外作業を容易にすることができる。また、この場合、自立補助部材７を取外して別途に保管するようにした場合と比較して、自立補助部材７を保管しておく必要が無く、自立補助部材７が紛失しないように管理する手間をなくすことができ、遊技ホール側の負担を軽減させることができる。
【１５６５】
なお、上記の実施形態では、皿ユニット２００の装着部に取付けられる被装着部を有した自立補助部材７を示したが、これに限定するものではなく、被装着部を有していないものとしても良い。
【１５６６】
また、皿ユニット２００の装着部に対して着脱可能な自立補助部材７を示したが、これに限定するものではなく、自立補助部材７が、皿ユニット２００（扉枠３）に内蔵されていて、島設備に設置する際に、自立補助部材７を下方へ突出させて膳板８に当接させるようにしても良い。これにより、パチンコ機１を島設備に設置した後に、自立補助部材７を取外して別途に保管しておく必要が無く、遊技ホール側の管理にかかる手間を軽減させることができる。
【１５６７】
［９．本実施形態と本発明の関係］
本実施形態の裏後演出ユニット３１００における裏後可動装飾体３１１０の装飾体３１１１、装飾シート３１１２、及び導光放射板３１１３は本発明の装飾部材に、本実施形態における装飾体３１１１及び装飾シート３１１２は本発明の装飾板体に、本実施形態における導光放射板３１１３は本発明の放射板に、本実施形態における導光放射板３１１３のフランジ部３１１３ｂは本発明の周壁部に、本実施形態における裏後装飾基板３１１４は本発明の装飾基板に、本実施形態における第一ＬＥＤ３１１４ａ及び第二ＬＥＤ３１１４ｂは本発明のＬＥＤに、本実施形態における第一ＬＥＤ３１１４ａは本発明の特定ＬＥＤに、夫々相当している。
【１５６８】
［１０．本実施形態の特徴的な作用効果］
このように、本実施形態のパチンコ機１によると、裏後演出ユニット３１００の裏後可動装飾体３１１０において、複数の第一ＬＥＤ３１１４ａ及び第二ＬＥＤ３１１４ｂが実装されている裏後装飾基板３１１４の前側に、装飾部材を構成している装飾体３１１１と導光放射板３１１３とを配置していると共に、装飾体３１１１の前側に金属装飾部３１１１ｄを設けていることから、裏後装飾基板３１１４と金属装飾部３１１１ｄとの間に装飾体３１１１における金属装飾部３１１１ｄを除いた部位と装飾シート３１１２と導光放射板３１１３とが位置することとなるため、金属装飾部３１１１ｄにおいて蓄積された静電気が、金属装飾部３１１１ｄから裏後装飾基板３１１４へ直線的に放電してしまうことを防止することができる。また、金属装飾部３１１１ｄの静電気が、裏後装飾基板３１１４に対して放電しようとしても、当該静電気が装飾体３１１１や導光放射板３１１３等の内部を通過することができないことから、装飾体３１１１の前面に沿った上で外周を通り、導光放射板３１１３から後方へ突出しているフランジ部３１１３ｂの後端を迂回してフランジ部３１１３ｂの内側（裏後装飾基板３１１４側）へ流れなければならず、装飾体３１１１及び導光放射板３１１３等によって金属装飾部３１１１ｄから裏後装飾基板３１１４ま

での沿面距離ＥＬを十分に取ることができる。
【１５６９】
この際に、裏後装飾基板３１１４の外周が、導光放射板３１１３のフランジ部３１１３ｂにより囲まれるように装飾体３１１１等の外周に対して所定よりも小さく形成されているため、フランジ部３１１３ｂの内側へ迂回した静電気が、裏後装飾基板３１１４が小さい分だけ導光放射板３１１３の後面に沿って流れる必要があり、金属装飾部３１１１ｄから裏後装飾基板３１１４までの沿面距離ＥＬを更に長くすることができ、裏後装飾基板３１１４へ放電されてしまうことを抑制させることができる。従って、金属装飾部３１１１ｄに蓄積された静電気が、裏後装飾基板３１１４へ放電されてしまうことを防止することができるため、放電（スパーク）により裏後装飾基板３１１４に実装されている第一ＬＥＤ３１１４ａや第二ＬＥＤ３１１４ｂ等が破損してしまうことを回避させることが可能となり、金属装飾部３１１１ｄを有した装飾体３１１１を、裏後装飾基板３１１４の第一ＬＥＤ３１１４ａや第二ＬＥＤ３１１４ｂにより確実に発光装飾させることができ、遊技者に装飾体３１１１及び装飾シート３１１２の発光装飾（発光演出）を楽しませて興趣の低下を抑制させることができる。
【１５７０】
また、裏後装飾基板３１１４において回路を構成している銅箔３１１４ｄを、基板本体３１１４ｃの外周縁から所定距離ＳＬ内側へ控えて設けているため、静電気が裏後装飾基板３１１４の外周側から銅箔３１１４ｄへ放電しようとしても、基板本体３１１４ｃの外周から銅箔３１１４ｄまでの所定距離ＳＬの分だけ沿面距離ＥＬを更に長くすることができ、裏後装飾基板３１１４（銅箔３１１４ｄ）へ放電されてしまうことを抑制させることができる。従って、金属装飾部３１１１ｄから静電気が裏後装飾基板３１１４へ放電されてしまうことを防止することができるため、放電（スパーク）により裏後装飾基板３１１４に実装されている複数の第一ＬＥＤ３１１４ａや第二ＬＥＤ３１１４ｂが破損してしまうことを回避させることができ、上述と同様の作用効果を奏することができる。
【１５７１】
また、裏後装飾基板３１１４の外周を囲むフランジ部３１１３ｂを導光放射板３１１３に設けるようにしているため、前方から装飾体３１１１を見た時に、装飾体３１１１よりも外側にフランジ部３１１３ｂが突出することはなく、装飾体３１１１の見栄えを良くすることができる。
【１５７２】
更に、本実施形態のパチンコ機１によると、裏後演出ユニット３１００の裏後可動装飾体３１１０における裏後装飾基板３１１４の両側を、装飾体３１１１、装飾シート３１１２及び導光放射板３１１３と、装飾体ベース３１１５とで覆っているため、裏後装飾基板３１１４の面に対して垂直方向から静電気が放電されることを防止することができる。また、裏後装飾基板３１１４において、基板本体３１１４ｃの前面に電子部品としての複数の第一ＬＥＤ３１１４ａや第二ＬＥＤ３１１４ｂを実装させ、基板本体３１１４ｃの両側の面で回路を構成している銅箔３１１４ｄを、基板本体３１１４ｃの外周縁から所定距離ＳＬ内側へ控えて設けようにした上で、裏後装飾基板３１１４の前側の面を装飾体３１１１、装飾シート３１１２及び導光放射板３１１３（導光放射板３１１３の本体部３１１３ａ）により覆うと共に、裏後装飾基板３１１４の後側の面を装飾体ベース３１１５の被覆板部３１１５ａで覆い、更に、導光放射板３１１３の本体部３１１３ａから裏後装飾基板３１１４の外周を囲むフランジ部３１１３ｂを後側へ、装飾体ベース３１１５の被覆板部３１１５ａから裏後装飾基板３１１４の外周を囲むフランジ部３１１５ｂを前側へ、夫々延出させているため、装飾体３１１１における裏後装飾基板３１１４とは反対側の面に設けられている金属装飾部３１１１ｄから裏後装飾基板３１１４の銅箔３１１４ｄまでの静電気が放電される沿面距離ＥＬのルートが、フランジ部３１１３ｂの外側において後側へ進み、フランジ部３１１３ｂの先端（後端）においてフランジ部３１１３ｂの内側へ折返して、フランジ部３１１３ｂとフランジ部３１１５ｂとの間を前側へ進み、フランジ部３１１５ｂの先端（前端）においてフランジ部３１１５ｂの内側へ折返すような蛇行したルー

トとなり、金属装飾部３１１１ｄから裏後装飾基板３１１４の銅箔３１１４ｄまでの沿面距離ＥＬを十分に長いものとすることができ、裏後装飾基板３１１４へ放電されてしまうことを抑制させることができる。従って、金属装飾部３１１１ｄに蓄積された静電気が、裏後装飾基板３１１４へ放電されてしまうことを防止することができるため、放電（スパーク）により裏後装飾基板３１１４に実装されている複数の第一ＬＥＤ３１１４ａ、第二ＬＥＤ３１１４ｂ、電子部品３１１４ｅ等が破損してしまうことを回避させることが可能となり、金属装飾部３１１１ｄを有した装飾体３１１１を、裏後装飾基板３１１４の複数の第一ＬＥＤ３１１４ａや第二ＬＥＤ３１１４ｂにより確実に発光装飾させることができ、遊技者に装飾体３１１１及び装飾シート３１１２（裏後可動装飾体３１１０）の発光装飾（発光演出）を楽しませて興趣の低下を抑制させることができる。

【１５７３】

また、裏後装飾基板３１１４の基板本体３１１４ｃにおける銅箔３１１４ｄが設けられている表面に被覆膜（図示は省略）を設けているため、当該被覆膜によっても静電気が銅箔３１１４ｄへ放電されることを阻害することができ、上述した作用効果を確実に奏するパチンコ機１を提供することができる。

【１５７４】

また、裏後装飾基板３１１４における銅箔３１１４ｄが設けられていない部位に、導光放射板３１１３の脚部３１１３ｆ及び装飾体ベース３１１５の突部３１１５ｅを当接させるようにしている。換言すると、裏後装飾基板３１１４における導光放射板３１１３及び装飾体ベース３１１５が当接する部位に、銅箔３１１４ｄを設けないようにしている。これにより、金属装飾部３１１１ｄに蓄積された静電気が、裏後装飾基板３１１４における導光放射板３１１３や装飾体ベース３１１５が当接する部位を伝って銅箔３１１４ｄへ放電されてしまうことを抑制させることができ、上記と同様の作用効果を奏することができる。

【１５７５】

更に、裏後装飾基板３１１４における導光放射板３１１３や装飾体ベース３１１５が当接する部位に、銅箔３１１４ｄを設けないようにしているため、パチンコ機１内の振動や裏後可動装飾体３１１０の移動による振動により導光放射板３１１３や装飾体ベース３１１５と裏後装飾基板３１１４との間で摩擦が生じても、当該摩擦により銅箔３１１４ｄが摩耗したり剥離したりすることはない。従って、複数の第一ＬＥＤ３１１４ａや第二ＬＥＤ３１１４ｂ、及び電子部品３１１４ｅ等を接続している回路が断線したり、剥離した銅箔３１１４ｄにより回路がショートしたりするような不具合の発生を回避させることができ、電子部品３１１４ｅ等を確実に機能させて上記と同様の作用効果を奏することができる。

【１５７６】

また、上述したように、裏後装飾基板３１１４の両側を導光放射板３１１３と装飾体ベース３１１５とで覆うことで、裏後装飾基板３１１４の面に対して垂直方向からの静電気の放電を阻止することができるため、被覆膜による耐放電性能を低くすることが可能となり、被覆膜を可及的に薄くすることができ、被覆膜にかかるコストを低減させることができる。

【１５７７】

更に、本実施形態のパチンコ機１によると、裏後演出ユニット３１００の裏後可動装飾体３１１０における裏後装飾基板３１１４に実装されている複数の第一ＬＥＤ３１１４ａを発光させると、第一ＬＥＤ３１１４ａから裏後装飾基板３１１４の前面に沿った方向へ照射された光が、導光放射板３１１３における第一ＬＥＤ３１１４ａが収容されている第一ＬＥＤ収容部３１１３ｃの内面における第一ＬＥＤ３１１４ａの発光面と対面している部位から本体部３１１３ａ内に入射され、本体部３１１３ａの後面に設けられている複数の反射部３１１３ｅにより前方へ反射されられて本体部３１１３ａの前面から放射されることとなり、導光放射板３１１３の前側に設けられている透光性を有した装飾体３１１１及び装飾シート３１１２が発光装飾させることとなる。この際に、装飾体３１１１及び導光放射板３１１３を平板状としていることから、装飾体３１１１の前面から裏後装飾基板３１１４の後面までの前後方向の厚さを薄くすることが可能となり、裏後可動装飾体３１１

０の厚さを薄くすることができる。また、導光放射板３１１３の本体部３１１３ａから、第一ＬＥＤ収容部３１１３ｃの内面における第一ＬＥＤ３１１４ａからの光が照射される部位と連続するように脚部３１１３ｆを後方へ突出させていることから、導光放射板３１１３における第一ＬＥＤ３１１４ａからの光を受ける受光部３１１３ｉを広くすることができるため、第一ＬＥＤ３１１４ａからの光をより多く本体部３１１３ａ内へ入射させることができ、前方へ放射される光を多くして装飾体３１１１や装飾シート３１１２をより明るく発光装飾させることができる。そして、導光放射板３１１３の本体部３１１３ａでは、裏後装飾基板３１１４の前面に沿った方向の光を複数の反射部３１１３ｅにより前方へ反射させるようにしていることから、第一ＬＥＤ３１１４ａを前方へ向けて光を照射させるようにした場合と比較して、第一ＬＥＤ３１１４ａの発光面から導光放射板３１１３における光が前方へ放射される前面の部位までの距離が長くなり、第一ＬＥＤ３１１４ａからの光を広く拡散させて前方へ放射させることができる。従って、装飾体３１１１や装飾シート３１１２の全体をムラなく明るく発光装飾させることができ、装飾体３１１１等における発光装飾の見栄えが損なわれることはなく、装飾体３１１１等による演出効果を十分に発揮させることができる。このように、裏後可動装飾体３１１０の前後方向の寸法（厚さ）を小さくすることができることから、パチンコ機１内における裏後可動装飾体３１１０の配置自由度を高めることができるため、従来のパチンコ機では配置されないような部位に裏後可動装飾体３１１０を配置することが可能となり、予想しない部位に裏後可動装飾体３１１０が配置されていることで、遊技者の関心を強く引付けさせることができ、遊技するパチンコ機として遊技者に選択され易くすることができると共に、遊技者に対する訴求力の高いパチンコ機１を提供することができる。

【１５７８】

また、裏後装飾基板３１１４の前面の複数の第一ＬＥＤ３１１４ａを、導光放射板３１１３の本体部３１１３ａを貫通している第一ＬＥＤ収容部３１１３ｃ内に収容させているため、第一ＬＥＤ３１１４ａからの熱を第一ＬＥＤ収容部３１１３ｃ内へ拡散させることができ、第一ＬＥＤ３１１４ａの温度上昇を抑制させることができる。また、導光放射板３１１３の本体部３１１３ａから後方へ突出させている脚部３１１３ｆにより、本体部３１１３ａと裏後装飾基板３１１４との間に隙間を形成するようにしているため、当該隙間を通して第一ＬＥＤ３１１４ａからの熱を排出させることができ、第一ＬＥＤ３１１４ａからの熱が蓄積されることを抑制させることができる。従って、導光放射板３１１３と裏後装飾基板３１１４との間で蓄積された熱により、第一ＬＥＤ３１１４ａの発光が不安定になったり破損したりすることを低減させることができ、第一ＬＥＤ３１１４ａを意図したように確実に発光させることができると共に、第一ＬＥＤ３１１４ａにより装飾体３１１１及び装飾シート３１１２（裏後可動装飾体３１１０）を確実に発光装飾させることができ、裏後可動装飾体３１１０による発光装飾（発光演出）を遊技者に楽しませて興趣の低下を抑制させることができる。

【１５７９】

更に、導光放射板３１１３の脚部３１１３ｆにおける第一ＬＥＤ収容部３１１３ｃとは反対側に、第一ＬＥＤ３１１４ａからの光を前方へ反射可能な補助反射部３１１３ｇを有していることから、補助反射部３１１３ｇにより、脚部３１１３ｆにおける第一ＬＥＤ収容部３１１３ｃの内面側から入射された光が、反対側の面から脚部３１１３ｆ（本体部３１１３ａ）外へ放射されて、第一ＬＥＤ３１１４ａからの光が脚部３１１３ｆを素通りしてしまうことを低減させることができるため、第一ＬＥＤ３１１４ａからの光をより多く本体部３１１３ａ内へ入射させることができ、上述した作用効果を確実に奏することができる。

【１５８０】

また、裏後装飾基板３１１４の前面と後面の略全体に、複数の第一ＬＥＤ３１１４ａ（及び第二ＬＥＤ３１１４ｂ）を発光させるための回路を構成している銅箔３１１４ｄを設けており、当該銅箔３１１４ｄが熱伝導性に優れているため、第一ＬＥＤ３１１４ａからの熱を、銅箔３１１４ｄを通して広く拡散させることができると共に、銅箔３１１４ｄから

放熱させることができ、第一ＬＥＤ３１１４ａからの熱を蓄積され難くして上述した作用効果を確実に発揮させることができる。

【１５８１】

また、裏後装飾基板３１１４の前面において、銅箔３１１４ｄを設けないことで第一ＬＥＤ３１１４ａの発光面側で後方へ窪んでいる光反射補助領域３１１４ｆを設けた上で、当該光反射補助領域３１１４ｆに、導光放射板３１１３における基板本体３１１４ｃの前面に実装されている第一ＬＥＤ３１１４ａからの光を受ける受光部３１１３ｉの一部を構成している脚部３１１３ｆを当接させているため、導光放射板３１１３の本体部３１１３ａと裏後装飾基板３１１４との間の隙間を広げることなく、後方への脚部３１１３ｆの突出量を大きくすることが可能となり、第一ＬＥＤ３１１４ａからの光をより多く本体部３１１３ａ内へ入射させることができ、装飾体３１１１及び装飾シート３１１２（裏後可動装飾体３１１０）をより明るく発光装飾させることができる。

【１５８２】

また、裏後装飾基板３１１４の前面から後方へ凹んだ光反射補助領域３１１４ｆを設けていることから、第一ＬＥＤ３１１４ａから光反射補助領域３１１４ｆの底面へ照射される角度を、裏後装飾基板３１１４の前面に対して垂直に近付く角度にすることができるため、光反射補助領域３１１４ｆの底面により第一ＬＥＤ３１１４ａからの光を前方へ反射させ易くすることができ、装飾体３１１１及び装飾シート３１１２をより明るく発光装飾させて上記と同様の作用効果を奏することができる。

【１５８３】

更に、裏後装飾基板３１１４において後方へ凹ませた光反射補助領域３１１４ｆにより第一ＬＥＤ３１１４ａからの光の一部を前方へ反射させるようにしているため、裏後装飾基板３１１４の前面における第一ＬＥＤ３１１４ａの発光面側に反射用の突起を前方へ突出させた場合と比較して、裏後装飾基板３１１４の前面に第一ＬＥＤ３１１４ａからの光による突起の影が落ちて当該影の部位が暗くなることはなく、裏後可動装飾体３１１０の全体を均一な明るさで発光装飾させることができる。

【１５８４】

また、裏後装飾基板３１１４の光反射補助領域３１１４ｆを、銅箔３１１４ｄを設けていないことで形成していることから、第一ＬＥＤ３１１４ａ及び第二ＬＥＤ３１１４ｂを発光させるための回路を形成する際に、光反射補助領域３１１４ｆを一緒に形成することができるため、基板本体３１１４ｃを切削やプレス等により物理的に凹ませる場合と比較して、容易に光反射補助領域３１１４ｆを形成することができ、パチンコ機１にかかるコストの増加を抑制させることができる。

【１５８５】

また、銅箔３１１４ｄを設けないことにより形成された光反射補助領域３１１４ｆ内に、導光放射板３１１３の脚部３１１３ｆを当接させるようにしており、脚部３１１３ｆが裏後装飾基板３１１４の銅箔３１１４ｄに接触することはないため、パチンコ機１内の振動により脚部３１１３ｆと光反射補助領域３１１４ｆとの間で摩擦が生じても、当該摩擦により銅箔３１１４ｄ（及び被覆膜）が摩耗したり剥離したりすることはない。従って、第一ＬＥＤ３１１４ａ等を発光させるための回路が断線したり、剥離した銅箔３１１４ｄにより回路がショートしたりするような不具合の発生を回避させることができ、第一ＬＥＤ３１１４ａ等を確実に発光させて所望の発光演出を遊技者に見せることができる。

【１５８６】

更に、裏後装飾基板３１１４の前面及び後面に、白色の被覆膜を設けているため、被覆膜の白色により、裏後装飾基板３１１４の前面側へ照射された光を前方へ反射させることができ、裏後装飾基板３１１４の前面を明るくして装飾体３１１１及び装飾シート３１１２（裏後可動装飾体３１１０）をより明るく発光装飾させることができる。

【１５８７】

また、白色の被覆膜により、裏後装飾基板３１１４の前面に設けられている第一ＬＥＤ３１１４ａや第二ＬＥＤ３１１４ｂ、回路パターン等を、装飾体３１１１、装飾シート３１

１２、及び導光放射板３１１３を通して前方から見え難くすることができるため、裏後可動装飾体３１１０の装飾の見栄えを良くすることができ、装飾効果を十分に発揮させることが可能なパチンコ機１を提供することができる。

【１５８８】

更に、本実施形態のパチンコ機１によると、裏後演出ユニット３１００の裏後可動装飾体３１１０の装飾体３１１１（装飾シート３１１２）と裏後装飾基板３１１４との間に設けられている平板状の導光放射板３１１３に、裏後装飾基板３１１４の前面に実装されている第一ＬＥＤ３１１４ａや第二ＬＥＤ３１１４ｂが挿入される貫通した第一ＬＥＤ収容部３１１３ｃや第二ＬＥＤ収容部３１１３ｄを設けているため、第一ＬＥＤ３１１４ａや第二ＬＥＤ３１１４ｂが挿入される第一ＬＥＤ収容部３１１３ｃや第二ＬＥＤ収容部３１１３ｄを貫通していない有底の凹状に形成した場合と比較して、第一ＬＥＤ３１１４ａや第二ＬＥＤ３１１４ｂが挿入される空間の容積（熱容積）を大きくすることができ、第一ＬＥＤ３１１４ａや第二ＬＥＤ３１１４ｂからの熱を拡散させることができる。この際に、隣接（接近）している第一ＬＥＤ収容部３１１３ｃ同士を繋げるようにしているため、第一ＬＥＤ３１１４ａが挿入される空間の容積（熱容積）をより大きくすることができる、第一ＬＥＤ３１１４ａからの熱を拡散させ易くすることができる。従って、第一ＬＥＤ３１１４ａや第二ＬＥＤ３１１４ｂからの熱を蓄積され難くすることができるため、蓄積された熱により第一ＬＥＤ３１１４ａや第二ＬＥＤ３１１４ｂの発光が不安定になったり第一ＬＥＤ３１１４ａや第二ＬＥＤ３１１４ｂが破損したりすることを低減させることができ、第一ＬＥＤ３１１４ａや第二ＬＥＤ３１１４ｂを意図したように確実に発光させることができると共に、第一ＬＥＤ３１１４ａや第二ＬＥＤ３１１４ｂにより装飾体３１１１（裏後可動装飾体３１１０）を確実に発光装飾させることができ、裏後可動装飾体３１１０による発光装飾（発光演出）を遊技者に楽しませて興趣の低下を抑制させることができる。

【１５８９】

また、前面に沿った方向へ光を照射する第一ＬＥＤ３１１４ａが挿入されている第一ＬＥＤ収容部３１１３ｃにおける第一ＬＥＤ３１１４ａからの光が照射される内面と連続するように、導光放射板３１１３の本体部３１１３ａから後方へ突出している脚部３１１３ｆを、裏後装飾基板３１１４の基板本体３１１４ｃの前面に当接させて、導光放射板３１１３の本体部３１１３ａと裏後装飾基板３１１４の基板本体３１１４ｃとの間に隙間を形成するようにしているため、当該隙間を通して第一ＬＥＤ３１１４ａや第二ＬＥＤ３１１４ｂからの熱を排出させることができる。これにより、第一ＬＥＤ３１１４ａや第二ＬＥＤ３１１４ｂからの熱が蓄積されるのを防止して発光が不安定になったり破損したりすることを低減させることができ、第一ＬＥＤ３１１４ａや第二ＬＥＤ３１１４ｂを意図したように確実に発光させることができると共に、第一ＬＥＤ３１１４ａや第二ＬＥＤ３１１４ｂにより装飾体３１１１や装飾シート３１１２を確実に発光装飾させることができ、裏後可動装飾体３１１０による発光装飾（発光演出）を遊技者に楽しませて興趣の低下を抑制させることができる。

【１５９０】

また、裏後装飾基板３１１４、導光放射板３１１３、及び装飾体３１１１を、裏後可動装飾体３１１０に設けるようにしていることから、裏後可動装飾体３１１０を動かすことで、風の発生により裏後装飾基板３１１４の前側や後側を換気して第一ＬＥＤ３１１４ａや第二ＬＥＤ３１１４ｂ及び電子部品３１１４ｅからの熱を逃がすことができるため、第一ＬＥＤ３１１４ａや第二ＬＥＤ３１１４ｂ等からの熱を蓄積され難くすることが可能となり、蓄積された熱により第一ＬＥＤ３１１４ａや第二ＬＥＤ３１１４ｂの発光が不安定になったり第一ＬＥＤ３１１４ａや第二ＬＥＤ３１１４ｂが破損したりすることを低減させることができ、上記と同様の作用効果を奏することができる。

【１５９１】

更に、第一ＬＥＤ３１１４ａや第二ＬＥＤ３１１４ｂを発光させるための電子部品３１１４ｅを、基板本体３１１４ｃの後面に実装するようにしているため、電子部品３１１４ｅ

からの熱が第一ＬＥＤ３１１４ａや第二ＬＥＤ３１１４ｂに影響を与えてしまうことを低減させることができ、電子部品３１１４ｅからの熱により第一ＬＥＤ３１１４ａや第二ＬＥＤ３１１４ｂに不具合が発生することを防止して上記と同様の作用効果を奏することができる。

【１５９２】

また、隣接（接近）している第一ＬＥＤ収容部３１１３ｃ同士を互いに繋げているため、導光放射板３１１３の本体部３１１３ａにおいて、第一ＬＥＤ収容部３１１３ｃ同士の間に細い部位が形成されてしまうことを回避させることができ、導光放射板３１１３を破損し難いものとすることができる。

【１５９３】

また、電子部品３１１４ｅを基板本体３１１４ｃの後面に実装させるようにしているため、基板本体３１１４ｃの前面に実装されている複数の第一ＬＥＤ３１１４ａや第二ＬＥＤ３１１４ｂを、導光放射板３１１３における夫々対応している第一ＬＥＤ収容部３１１３ｃや第二ＬＥＤ収容部３１１３ｄに挿入させることで、導光放射板３１１３（本体部３１１３ａ）の後面と基板本体３１１４ｃの前面とを可及的に接近させることができ、装飾体３１１１の前面から裏後装飾基板３１１４の後面まで（裏後可動装飾体３１１０）の前後方向の寸法（厚さ）を小さくすることができる。

【１５９４】

また、電子部品３１１４ｅを基板本体３１１４ｃの後面に実装させるようにしているため、電子部品３１１４ｅとして黒色のような暗い色のものを用いても、装飾体３１１１及び導光放射板３１１３を通して前方から見えることはなく、装飾体３１１１（裏後可動装飾体３１１０）の見栄えが悪くなることを防止することができ、裏後可動装飾体３１１０の見栄えを良くして装飾効果を十分に発揮させることができる。

【１５９５】

更に、本実施形態のパチンコ機１によると、裏後演出ユニット３１００の裏後可動装飾体３１１０の装飾体３１１１における複数の第三装飾突部３１１１ｃを夫々囲んでいる第一装飾突部３１１１ａ（金属装飾部３１１１ｄ）の後側に、導光放射板３１１３の第一ＬＥＤ収容部３１１３ｃを間にして第一ＬＥＤ３１１４ａを裏後装飾基板３１１４に実装しており、金属装飾部３１１１ｄを前方から後方が視認し難いように形成しているため、金属装飾部３１１１ｄにより第一ＬＥＤ３１１４ａや第一ＬＥＤ収容部３１１３ｃを前方から見え難くすることができ、前方（遊技者側）から第一ＬＥＤ３１１４ａや第一ＬＥＤ収容部３１１３ｃが見えることで装飾体３１１１（裏後可動装飾体３１１０）の装飾性が損なわれて見栄えが悪くなってしまうことを回避させることができると共に、装飾体３１１１による装飾効果を確実に発揮させることができ、遊技者に装飾体３１１１の装飾を楽しませて興趣の低下を抑制させることができる。

【１５９６】

また、導光放射板３１１３の第一ＬＥＤ収容部３１１３ｃを、装飾体３１１１の第一装飾突部３１１１ａに沿った形状としているため、装飾体３１１１を通して第一ＬＥＤ収容部３１１３ｃが見えたとしても、第一ＬＥＤ収容部３１１３ｃが第一装飾突部３１１１ａに沿っていることで、第一ＬＥＤ収容部３１１３ｃが第一装飾突部３１１１ａによる装飾の一部のように見えることとなり、遊技者に対して第一ＬＥＤ収容部３１１３ｃの存在に気付かせ難くすることができ、装飾体３１１１の装飾性が損なわれて見栄えが悪くなってしまうことを回避させることができると共に、装飾体３１１１による装飾効果を確実に発揮させることができ、上述と同様の作用効果を奏するパチンコ機１を提供することができる。

【１５９７】

更に、第三装飾突部３１１１ｃの外周を第一装飾突部３１１１ａ（金属装飾部３１１１ｄ）で囲むようにしているため、金属装飾部３１１１ｄが枠の作用をすることで第三装飾突部３１１１ｃを目立たせることができる。そして、複数の第一ＬＥＤ３１１４ａを導光放射板３１１３の本体部３１１３ａにおける第三装飾突部３１１１ｃの後方となる部位へ光を照射するように実装して、第一ＬＥＤ３１１４ａから導光放射板３１１３の前面に沿っ

た方向で本体部３１１３ａ内へ光を照射させると共に、本体部３１１３ａの複数の反射部３１１３ｅにより内部に照射された前面に沿った方向の光を前方へ放射させるようにしているため、第一ＬＥＤ３１１４ａからの光を、本体部３１１３ａ内における第三装飾突部３１１１ｃの後方の部位において可及的に広い範囲へ拡散させた上で前方へ放射させることができ、装飾体３１１１の第三装飾突部３１１１ｃの広い範囲を均一な明るさで発光装飾させることができると共に、装飾体３１１１における金属装飾部３１１１ｄで囲まれている第三装飾突部３１１１ｃをより目立たせて、装飾体３１１１の装飾効果をより発揮させることができ、遊技者に装飾体３１１１（裏後可動装飾体３１１０）の装飾を楽しませて興趣の低下を抑制させることができる。この際に、導光放射板３１１３の前面に沿った方向へ第一ＬＥＤ３１１４ａから光を照射させるようにしているため、装飾体３１１１を通して第一ＬＥＤ３１１４ａの点状の光源が前方から見えてしまうことを低減させることができる。このようなことから、装飾体３１１１の複数の第三装飾突部３１１１ｃをムラなく発光装飾させることができるため、遊技者に対して装飾体３１１１の発光装飾を楽しませることができ、遊技に対する興趣の低下を抑制させることができる。

【１５９８】

また、複数の第一ＬＥＤ３１１４ａにより装飾体３１１１の第三装飾突部３１１１ｃを発光装飾させる際に、導光放射板３１１３の第一ＬＥＤ収容部３１１３ｃの内周面における裏後装飾基板３１１４の第一ＬＥＤ３１１４ａからの光が照射される部位に、後方へ突出した脚部３１１３ｆを設けるようにしているため、脚部３１１３ｆにより第一ＬＥＤ３１１４ａからの光が照射される部位（受光部３１１３ｉ）の面積を広くすることができ、第一ＬＥＤ３１１４ａからの光をより多く導光放射板３１１３の本体部３１１３ａ内へ入射させることができる。従って、導光放射板３１１３の本体部３１１３ａによって、第一ＬＥＤ３１１４ａからの光をより多く前方へ放射させることが可能となるため、装飾体３１１１の第三装飾突部３１１１ｃをより明るく発光装飾させることができ、より演出効果の高い発光装飾を遊技者に見せて興趣の低下を抑制させることができる。

【１５９９】

また、導光放射板３１１３の本体部３１１３ａにおいて、金属装飾部３１１１ｄの後側で金属装飾部３１１１ｄに沿った形状で前後方向に貫通している複数の第一ＬＥＤ収容部３１１３ｃを設けているため、複数の第一ＬＥＤ収容部３１１３ｃ（金属装飾部３１１１ｄ）を境にして発光装飾の明るさを異ならせることができる。詳述すると、導光放射板３１１３の本体部３１１３ａの内部において、前面に沿った方向へ進んでいる光が、前後に貫通した第一ＬＥＤ収容部３１１３ｃの部位（内周面）に到達すると、その内周面により一部が本体部３１１３ａの内部側へ反射し、残りが第一ＬＥＤ収容部３１１３ｃの内側へ放射されることとなる。そして、第一ＬＥＤ収容部３１１３ｃの内側へ放射された光が、第一ＬＥＤ収容部３１１３ｃの反対側の内周面に到達すると、その内周面により一部が第一ＬＥＤ収容部３１１３ｃの内側へ反射し、残りが本体部３１１３ａの内部へ入射することとなる。これにより、本体部３１１３ａ内の光が第一ＬＥＤ収容部３１１３ｃを通過しようとすると、その光量が大きく減少して反対側へ導光されることとなり、第一ＬＥＤ収容部３１１３ｃの反対側が暗くなる。このようなことから、第一ＬＥＤ収容部３１１３ｃに対して両側に第一ＬＥＤ３１１４ａを設けるようにした場合、一方側の第一ＬＥＤ３１１４ａのみを発光させると第一ＬＥＤ収容部３１１３ｃよりも一方側が明るくなると共に他方側が暗くなり、他方側の第一ＬＥＤ３１１４ａのみを発光させると第一ＬＥＤ収容部３１１３ｃよりも他方側が明るくなると共に一方側が暗くなり、両方の第一ＬＥＤ３１１４ａを発光させると第一ＬＥＤ収容部３１１３ｃの両側が明るくなる。そして、複数の第一ＬＥＤ収容部３１１３ｃが金属装飾部３１１１ｄの後側に設けられているため、上述したように、第一ＬＥＤ３１１４ａを適宜発光させることで、金属装飾部３１１１ｄを境にして、一方側のみを明るくしたり、他方側のみを明るくしたり、両側を明るくしたりすることが可能となり、多彩な発光演出を遊技者に見せることができ、遊技者を飽きさせ難くして興趣の低下を抑制させることができる。

【１６００】

そして、金属装飾部３１１１ｄ（第一装飾突部３１１１ａ）により複数の第三装飾突部３１１１ｃの夫々を囲んでいることから、第三装飾突部３１１１ｃ同士の間には第一装飾突部３１１１ａが位置しており、当該部の後方に設けられている導光放射板３１１３の第一ＬＥＤ収容部３１１３ｃにより、他の第三装飾突部３１１１ｃを発光装飾させるための第一ＬＥＤ３１１４ａからの光を届き難くすることができるため、所定の第三装飾突部３１１１ｃ（装飾シート３１１２における第一光拡散部３１１２ｃや第二光拡散部３１１２ｄ）のみを良好な状態で発光装飾させることができる。従って、複数の第三装飾突部３１１１ｃを所定の順番で発光装飾させたり、特別な第三装飾突部３１１１ｃを発光装飾させることで遊技者に対して所定のメッセージを示唆させたりすることができるため、より多彩な発光演出を遊技者に見せることができ、遊技者を飽きさせ難くして興趣の低下を抑制させることができる。

【１６０１】

また、裏後装飾基板３１１４の第二ＬＥＤ３１１４ｂを発光させると、その光が導光放射板３１１３の貫通している第二ＬＥＤ収容部３１１３ｄを通って装飾体３１１１（装飾シート３１１２）の後面に直接照射されることとなり、装飾体３１１１における第二ＬＥＤ３１１４ｂからの光が照射される部位を、第一ＬＥＤ３１１４ａにより発光装飾される部位よりも明るく点状に発光装飾させることができる。従って、第一ＬＥＤ３１１４ａにより面状に発光装飾される部位と第二ＬＥＤ３１１４ｂにより点状に発光装飾される部位とを遊技者に見せることができるため、装飾体３１１１の発光装飾にメリハリを付けることができ、遊技者の関心を強く引付けさせることができると共に、発光装飾による演出効果をよりたかめることができ、遊技者を楽しませて興趣の低下を抑制させることができる。

【１６０２】

また、上述したように、金属装飾部３１１１ｄにより第一ＬＥＤ３１１４ａや第一ＬＥＤ収容部３１１３ｃを前方から見え難くすることができるため、装飾体３１１１の前面から裏後装飾基板３１１４の後面までの前後方向の寸法（厚さ）を小さくしても、装飾体３１１１（及び装飾シート３１１２）の装飾性が損なわれることはなく、装飾体３１１１の装飾効果を十分に発揮させることができる。従って、裏後可動装飾体３１１０における装飾体３１１１の前面から裏後装飾基板３１１４の後面までの前後方向の寸法（厚さ）を小さくすることができることから、パチンコ機１内における裏後可動装飾体３１１０の配置自由度を高めることができる。

【１６０３】

更に、本実施形態のパチンコ機１によると、裏後演出ユニット３１００の裏後可動装飾体３１１０における透明な装飾体３１１１において、最も前方へ大きく突出している第一装飾突部３１１１ａと、第一装飾突部３１１１ａよりも小さく突出している第二装飾突部３１１１ｂと、第二装飾突部３１１１ｂよりも小さく突出している第三装飾突部３１１１ｃと、の夫々の前面が湾曲している三つの装飾突部における、第一装飾突部３１１１ａの前面に、箔押しにより金属装飾部３１１１ｄを有するようにしているため、金属装飾部３１１１ｄを設けていない部位が透明なままの状態となっている。つまり、金属装飾部３１１１ｄと透明な部位（透光装飾部）とを有した一つの装飾体３１１１としているため、従来のように、金属装飾部と透光装飾部とを組立てるような構造とする必要が無く、組立構造がないことから前後方向の寸法が大きくなることを抑制させることができ、結果的に前後方向の厚さを小さくすることができる。従って、パチンコ機１内における装飾体３１１１（裏後可動装飾体３１１０）の配置自由度を高めることができるため、従来のパチンコ機では配置されないような部位に装飾体３１１１を配置することが可能となり、予想しない部位に装飾体３１１１が配置されていることで、遊技者の関心を強く引付けさせることができ、遊技するパチンコ機として遊技者に選択され易くすることができると共に、遊技者に対する訴求力の高いパチンコ機１を提供することができる。

【１６０４】

また、装飾体３１１１における三つの装飾突部における第一装飾突部３１１１ａの湾曲している前面に金属装飾部３１１１ｄを設けるようにしており、第一装飾突部３１１１ａの

前面に倣って金属装飾部３１１１ｄが湾曲しているため、本パチンコ機１内の光や、本パチンコ機１が設置されている遊技ホール内の光を、様々な方向へ反射させることができ、金属装飾部３１１１ｄをキラキラと輝かせることができると共に、金属装飾部３１１１ｄ（第一装飾突部３１１１ａ）の立体感を強調させることができ、立体感のある金属装飾部３１１１ｄにより高級感（プレミアム感）を付与して遊技者の関心を強く引付けさせることができる。

【１６０５】

なお、第一装飾突部３１１１ａと第二装飾突部３１１１ｂの両方に金属装飾部３１１１ｄを設けるようにした場合、装飾体３１１１の装飾に前後方向の異なる金属光沢を有した部位が見えることとなるため、当該装飾に対して奥行感をより増させることができ、立体的な装飾により遊技者の関心をより引付けさせ易くすることができる。

【１６０６】

また、透明な装飾体３１１１に、前方への突出量が異なる第一装飾突部３１１１ａ、第二装飾突部３１１１ｂ、及び第三装飾突部３１１１ｃを有し、第一装飾突部３１１１ａの前面に金属装飾部３１１１ｄを設けるようにしているため、突出量の異なる三つの装飾突部により装飾体３１１１の装飾に対して立体感を付与することができる。これにより、奥行感のある立体的な装飾を遊技者に見せることができるため、装飾体３１１１の厚さ（前後方向の寸法）を薄くしても装飾効果が低下することはなく、装飾体３１１１の前後方向の寸法を小さくすることができ、装飾体３１１１の配置自由度を高めることができると共に、装飾体３１１１による装飾効果を十分に発揮させることができ、遊技者の関心を強く引付けることが可能な訴求力の高いパチンコ機１とすることができる。

【１６０７】

また、装飾体３１１１の装飾突部における最も前方へ突出した第一装飾突部３１１１ａに金属装飾部３１１１ｄを設けるようにしており、金属装飾部３１１１ｄの部位が最も前方へ突出しているため、金属装飾部３１１１ｄをより目立たせることができると共に、金属装飾部３１１１ｄと金属装飾部３１１１ｄ以外の部位との見かけの落差を大きく見せることができ、装飾体３１１１の装飾に対してより立体感を付与することができる。従って、装飾体３１１１の前後方向の寸法を小さくしても立体的な装飾を見せることができるため、装飾体３１１１の前後方向の寸法を小さくすることができ、上述したような作用効果を確実に奏することが可能なパチンコ機１を具現化し易くすることができる。

【１６０８】

更に、上述したように、装飾体３１１１の前後方向の寸法を小さくして（厚さを薄くして）配置自由度を高めることができることから、本装飾体３１１１の前側や後側に演出部材を設けることができるため、多くの演出部材を備えることで多彩な演出を遊技者に提示することができ、遊技者を飽きさせ難くして興趣の低下を抑制させることができる。

【１６０９】

また、第一装飾突部３１１１ａに金属装飾部３１１１ｄを設けるようにしているため、金属装飾部３１１１ｄが設けられていない第二装飾突部３１１１ｂ及び第三装飾突部３１１１ｃでは、前方へ突出していることによるレンズ効果により、後方に設けられている装飾シート３１１２の装飾の絵柄に対して奥行感が付与されることとなり、装飾体３１１１及び装飾シート３１１２によってより立体感のある装飾を遊技者に見せることができる。また、装飾シート３１１２をシート状としているため、装飾体３１１１の後側に装飾シート３１１２を設けても、前後方向の厚さ（寸法）の増加を抑制させることができる。このようなことから、前後方向の厚さが薄い装飾体３１１１と装飾シート３１１２とからなる演出部材（裏後可動装飾体３１１０）を提供することができ、上記と同様の作用効果を奏するパチンコ機１とすることができる。

【１６１０】

また、装飾体３１１１の後側に補助装飾部（第一輪郭部３１１２ａ及び第二輪郭部３１１２ｂ）を有した装飾シート３１１２を設けているため、第一輪郭部３１１２ａや第二輪郭部３１１２ｂにより第一装飾突部３１１１ａの透明な側面を通して装飾体３１１１の後側

が見えてしまうことを低減させることができる。従って、装飾体３１１１を斜め前方から見ても、第一輪郭部３１１２ａや第二輪郭部３１１２ｂにより装飾体３１１１の後側を見え難くすることができるため、装飾体３１１１の装飾の見栄えが悪くなることを回避させることができ、装飾体３１１１の装飾による装飾効果を十分に発揮させることができる。

【１６１１】

また、装飾体３１１１の後側に設けられる装飾シート３１１２に第一輪郭部３１１２ａや第二輪郭部３１１２ｂを有しているため、第一輪郭部３１１２ａや第二輪郭部３１１２ｂにより第一装飾突部３１１１ａの側面に金属装飾部３１１１ｄが設けられているように遊技者を錯覚させることができる。また、装飾シート３１１２の第一輪郭部３１１２ａや第二輪郭部３１１２ｂを、正面視において金属装飾部３１１１ｄの外側に設けていることで、第一輪郭部３１１２ａや第二輪郭部３１１２ｂにより金属装飾部３１１１ｄを広く見せることができる。このようなことから、装飾体３１１１及び装飾シート３１１２により、より装飾効果の高い装飾を遊技者に見せることができ、遊技者の関心を強く引付けることが可能な訴求力の高いパチンコ機１を提供することができる。

【１６１２】

更に、装飾体３１１１における金属装飾部３１１１ｄを箔押しにより形成しているため、メッキ槽に浸漬させたり気化金属を蒸着させたりする場合と比較して、金属装飾部３１１１ｄを容易に形成することができ、パチンコ機１にかかるコストの増加を抑制させることができる。

【１６１３】

また、金属装飾部３１１１ｄを箔押しするためのホットスタンプ装置に、弾性を有している平板状のホットプレートを備えているため、ホットプレートが装飾体３１１１の第一装飾突部３１１１ａの前面に当接した時に、ホットプレートの面が弾性変形することで、湾曲した第一装飾突部３１１１ａの前面に倣った形状となり、転写シートの金属箔を、第一装飾突部３１１１ａの湾曲している前面に対して密着するように良好な状態で転写する（箔押しする）ことができる。また、ホットスタンプ装置を用いて箔押しにより金属装飾部３１１１ｄを形成しているため、金属箔を有した転写シートが最初に第一装飾突部３１１１ａの前面に接触することで、転写シートが引っ張られて皺が生じ難くなり、皺の無い状態で綺麗に金属箔を転写することができ、見栄えの良い金属装飾部３１１１ｄとすることができる。

【１６１４】

また、ホットプレートにおける装飾体３１１１側を向いている側の面を、弾性を有した平面としているため、第一装飾突部３１１１ａの形状が異なっていても、ホットプレートを交換することなく転写シートの金属箔を転写させることができる。従って、機種変更や設計変更等に対して容易に対応することができ、コストの増加を抑制させることができる。

【１６１５】

更に、ホットプレートにおける装飾体３１１１側を向いている面を、弾性を有するようにしているため、ホットプレートを装飾体３１１１側へ移動させる距離に応じて、つまり、ホットプレートを第一装飾突部３１１１ａに押し当てる強さに応じて、ホットプレートに対して第一装飾突部３１１１ａの没入する量（深さ）を異ならせることができ、第一装飾突部３１１１ａ（装飾体３１１１）におけるホットプレートが当接する部位の範囲を広くしたり狭くしたりすることができる。つまり、装飾体３１１１（前方へ突出している装飾突部）に対して箔押しされる範囲を自由に変化させることができる。これにより、機種変更や設計変更等により金属装飾部３１１１ｄが設けられる範囲を変更したい時に、ホットプレートの相対的な移動量を変更することで、金属装飾部３１１１ｄの範囲を容易に変更することができる。

【１６１６】

また、上述したように、ホットプレートの弾性を有した面により、装飾体３１１１（第一装飾突部３１１１ａ等）に対して箔押しされる範囲を自由に変更することができるため、例えば、第二装飾突部３１１１ｂにも金属装飾部３１１１ｄを設けるようにした場合、第

一装飾突部３１１１ａと第二装飾突部３１１１ｂとで金属装飾部３１１１ｄの色を異ならせることができる。詳述すると、従来の技術では、一つの部材（装飾体）に対して、色の異なる金属装飾部を形成しようとすると、例えば、全体に第一の色の金属層を形成した後に、マスキング処理をして全体に第二の色の金属層を形成し、マスキングを除去することで、マスキングした部位としていない部位とで色を異ならせることができる。或いは、全体に第一の色の金属層を形成した後に、その上から第二の色の金属層を形成し、第二の色の金属層の一部をレーザー剥離等により剥離させることで、剥離させた部位と剥離させていない部位とで色を異ならせることができる。しかしながら、上記のような何れの技術を用いても、装飾体の製造に手間がかかり、コストが増加する問題がある。これに対して、本実施形態では、ホットプレートの弾性を有した面により、装飾体３１１１の第一装飾突部３１１１ａ等に対して箔押しされる範囲を自由に変更することができるため、第一の色の金属箔を有した転写シートを用いて、第二装飾突部３１１１ｂの前面まで没入するようにホットプレートを移動させて第一の色の金属箔を第二装飾突部３１１１ｂ及び第一装飾突部３１１１ａに転写し、次に、第二の色の金属箔を有した転写シートを用いて、第二装飾突部３１１１ｂの前面に当接させずに第一装飾突部３１１１ａのみが没入するようにホットプレートを移動させて第二の色の金属箔を第一装飾突部３１１１ａに転写させる。これにより、第一装飾突部３１１１ａと第二装飾突部３１１１ｂとで異なる色の金属装飾部３１１１ｄを簡単に形成することができ、コストの増加を抑制させることができると共に、より装飾性の優れた装飾体３１１１を備えることができ、遊技者に対する訴求力の高いパチンコ機１を提供することができる。

【１６１７】

更に、金属装飾部３１１１ｄを箔押しにより形成しているため、レーザー剥離を用いて金属装飾部３１１１ｄを残すようにした場合と比較して、金属装飾部３１１１ｄ以外の部位に金属箔の剥離残しが発生することはなく、装飾体３１１１の見栄えの悪化を低減させることができる。詳述すると、レーザー剥離を用いた場合、剥離対象となる装飾体３１１１の前面に第一装飾突部３１１１ａ等のような凹凸を有していると、装飾体３１１１の位置によってレーザーの焦点距離が異なることとなるため、焦点距離に対して所定以上離れた（又は近付いた）部位では、金属層が十分に剥離されず、剥離残しが生じて見栄えが悪くなってしまう恐れがある。これに対して、本実施形態では、箔押しにより必要な部位にのみ金属装飾部３１１１ｄを設けるようにしており、箔押しの後に金属箔を剥離させて透明な部分を形成する必要がなく、見栄えの良い装飾体３１１１を形成することができる。

【１６１８】

また、上述したように、前後方向の厚さを薄くすることができることで、配置自由度を高めることができることから、装飾体３１１１及び装飾シート３１１２を、遊技者側から視認不能な待機位置（退避位置）と遊技者側から視認可能な出現位置との間で移動可能な裏後可動装飾体３１１０としているため、裏後可動装飾体３１１０を出現位置へ移動させることで、金属装飾部３１１１ｄを有した装飾性の高い裏後可動装飾体３１１０（装飾体３１１１）が出現する（見える）ことで、遊技者に対して何か良いことがあるのではないかと思わせることができ、遊技に対する期待感を高めさせて興趣の低下を抑制させることができる。

【１６１９】

更に、本実施形態のパチンコ機１によると、裏後演出ユニット３１００の裏後可動装飾体３１１０において、前面に金属装飾部３１１１ｄを有した平板状の装飾体３１１１に、平板状の導光放射板３１１３と裏後装飾基板３１１４を設けた上で、導光放射板３１１３の外周から裏後装飾基板３１１４の外周を囲むフランジ部３１１３ｂを後方へ延出させると共に、裏後装飾基板３１１４の後側を覆っている装飾体ベース３１１５からフランジ部３１１３ｂと裏後装飾基板３１１４の外周との間にフランジ部３１１５ｂを前方へ向かって延出させているため、金属装飾部３１１１ｄから裏後装飾基板３１１４までの沿面距離ＥＬのルートが、フランジ部３１１３ｂの外側において後方へ進み、そのフランジ部３１１３ｂの後端においてフランジ部３１１３ｂの内側へ折返して、フランジ部３１１３ｂとフ

ランジ部３１１５ｂとの間を前方へ進み、フランジ部３１１５ｂの前端においてフランジ部３１１５ｂの内側へ折返すような蛇行したルートとなり、金属装飾部３１１１ｄから裏後装飾基板３１１４までの沿面距離ＥＬを十分に長い（１０ｍｍ以上、或いは、少なくとも１０ｋＶの放電圧を阻止することが可能な距離）ものとすることができる。この際に、前面に金属装飾部３１１１ｄを有している装飾体３１１１と、装飾体３１１１を発光装飾させるための複数の第一ＬＥＤ３１１４ａ及び第二ＬＥＤ３１１４ｂが実装されている裏後装飾基板３１１４と、裏後装飾基板３１１４の後側を覆っている装飾体ベース３１１５とを、上下方向へ移動することで静電気の発生し易い裏後可動装飾体３１１０に設けているため、裏後可動装飾体３１１０において静電気が蓄積され易く、金属装飾部３１１１ｄに静電気が蓄積されると、導電性が高いことから蓄積された静電気が一気に放電されることとなり、放電圧が高くなることで第一ＬＥＤ３１１４ａや第二ＬＥＤ３１１４ｂ等の電子部品を破損させてしまう恐れがあるが、上述したように、金属装飾部３１１１ｄから裏後装飾基板３１１４までの沿面距離ＥＬを十分に長いものとすることができるため、金属装飾部３１１１ｄに蓄積された静電気が、裏後装飾基板３１１４へ放電されてしまうことを確実に防止することができ、裏後装飾基板３１１４に実装されている第一ＬＥＤ３１１４ａや第二ＬＥＤ３１１４ｂ等の破損を防止することで、金属装飾部３１１１ｄを有した装飾体３１１１及び装飾シート３１１２を確実に発光装飾させることが可能となり、遊技者に装飾体３１１１及び装飾シート３１１２（裏後可動装飾体３１１０）の発光装飾（発光演出）を楽しませて興趣の低下を抑制させることができる。

【１６２０】

また、裏後可動装飾体３１１０の装飾体３１１１において、所定の装飾を構成するように前方へ突出している第一装飾突部３１１１ａの前面に、金属装飾部３１１１ｄを設けており、第一装飾突部３１１１ａの側面には金属装飾部３１１１ｄを設けていないため、第一装飾突部３１１１ａにおける側面の前後方向の長さの分だけ、金属装飾部３１１１ｄから裏後装飾基板３１１４までの沿面距離ＥＬをより長くすることができ、上述した作用効果を確実に奏することが可能なパチンコ機１を提供することができる。

【１６２１】

また、裏後装飾基板３１１４の後側を装飾体ベース３１１５により覆っているため、装飾体３１１１の金属装飾部３１１１ｄから裏後装飾基板３１１４の後面へ静電気が放電されてしまうことを防止することができると共に、装飾体ベース３１１５の後方の設けられている他の部材（例えば、演出表示装置１６００）において蓄積された静電気が、裏後装飾基板３１１４へ放電されてしまうことも防止することができ、静電気の放電による裏後装飾基板３１１４の第一ＬＥＤ３１１４ａや第二ＬＥＤ３１１４ｂ等の破損の防止をより確実なものとすることができる。

【１６２２】

更に、裏後装飾基板３１１４において回路パターンを構成している銅箔３１１４ｄが、光反射補助領域３１１４ｆにより導光放射板３１１３（の脚部３１１３ｆ）と当接しないようにしているため、金属装飾部３１１１ｄから裏後装飾基板３１１４の銅箔３１１４ｄまでの沿面距離ＥＬを、少しでも長くすることができ、上述と同様の作用効果を奏することができる。

【１６２３】

また、裏後装飾基板３１１４の銅箔３１１４ｄを、光反射補助領域３１１４ｆにより導光放射板３１１３の脚部３１１３ｆと当接しないように設けていることから、パチンコ機１の内外からの振動が作用しても、脚部３１１３ｆと銅箔３１１４ｄとの間で摩擦が発生することはなく、当該摩擦により銅箔３１１４ｄが摩耗して回路が断線してしまうことはないため、回路の断線により第一ＬＥＤ３１１４ａや第二ＬＥＤ３１１４ｂが発光しなくなるような不具合の発生を防止することができ、装飾体３１１１及び装飾シート３１１２を発光装飾させて所望の演出効果を確実に発揮させることができる。

【１６２４】

また、装飾体３１１１に、金属装飾部３１１１ｄと、裏後装飾基板３１１４の第一ＬＥＤ

３１１４ａや第二ＬＥＤ３１１４ｂからの光を透過させる第二装飾突部３１１１ｂや第三装飾突部３１１１ｃとを、有しているため、金属装飾部３１１１ｄの金属の輝きにより高級感を付与することができ、パチンコ機１の見栄えを良くすることができると共に、第一ＬＥＤ３１１４ａや第二ＬＥＤ３１１４ｂからの光により第二装飾突部３１１１ｂや第三装飾突部３１１１ｃが発光装飾されることで装飾体３１１１（裏後可動装飾体３１１０）を目立たせることができ、遊技者の関心を強く引付けられるパチンコ機１を提供することができる。

【１６２５】

更に、金属装飾部３１１１ｄを、所定の装飾の形状で前方へ突出している第一装飾突部３１１１ａの前面に有するようにしているため、金属装飾部３１１１ｄに立体感が付与されることとなり、金属装飾部３１１１ｄをより目立たせることができると共に、金属装飾部３１１１ｄによる高級感をより高めることができ、遊技者の関心を強く引付けることが可能なパチンコ機１を提供することができる。

【１６２６】

また、導光放射板３１１３のフランジ部３１１３ｂと、装飾体ベース３１１５のフランジ部３１１５ｂとで、裏後装飾基板３１１４の外周を二重に囲んでいるため、裏後装飾基板３１１４の外周をフランジ部３１１３ｂとフランジ部３１１５ｂとで隠して遊技者側から見えなくすることができ、裏後可動装飾体３１１０の見栄えを良くすることができる。

【１６２７】

更に、裏後可動装飾体３１１０に、光を拡散させる導光放射板３１１３を設けていることから、裏後装飾基板３１１４の複数の第一ＬＥＤ３１１４ａや第二ＬＥＤ３１１４ｂからの光を拡散させて、後方から装飾体３１１１の金属装飾部３１１１ｄや第二装飾突部３１１１ｂや第三装飾突部３１１１ｃへ照射させることができるため、装飾体３１１１（装飾シート３１１２）の全体を均一な明るさで発光装飾させることができ、発光装飾の見栄えを良くすることができると共に、裏後可動装飾体３１１０の発光演出による演出効果をより高めることができ、遊技者を楽しませて興趣の低下を抑制させることができる。

【１６２８】

また、第一ＬＥＤ３１１４ａや第二ＬＥＤ３１１４ｂからの光を拡散させて前方へ放射する導光放射板３１１３から、裏後装飾基板３１１４の外周を囲むフランジ部３１１３ｂを後方へ延出させているため、導光放射板３１１３の内部に入射された光の一部がフランジ部３１１３ｂから外部へ放射されてフランジ部３１１３ｂも発光装飾させることができ、フランジ部３１１３ｂの発光装飾により裏後装飾基板３１１４の外周を遊技者側からより見え難くすることができると共に、フランジ部３１１３ｂも発光装飾されることで裏後可動装飾体３１１０の発光装飾の見栄えをより良くすることができ、遊技者を楽しませて興趣の低下を抑制させることができる。

【１６２９】

なお、裏後可動装飾体３１６０、裏後可動装飾体３１７０、及び裏後可動装飾体３１８０においても、上記と同様の作用効果を奏することができる。

【１６３０】

更に、本実施形態のパチンコ機１によると、裏後演出ユニット３１００における裏後可動装飾体３１１０では、装飾体３１１１と装飾シート３１１２とから構成されている装飾部材の後方に、透明な導光放射板３１１３と裏後装飾基板３１１４とが設けられており、導光放射板３１１３の後面に形成されている複数の第一ＬＥＤ収容部３１１３ｃの夫々に、裏後装飾基板３１１４の前面に実装されているサイドビュータイプの第一ＬＥＤ３１１４ａが収容されるように挿入されている。この裏後装飾基板３１１４に実装されている複数の第一ＬＥＤ３１１４ａを発光させると、第一ＬＥＤ３１１４ａからの光が、第一ＬＥＤ収容部３１１３ｃの内面から導光放射板３１１３の板厚内における板面に沿った方向へ照射され、導光放射板３１１３の後面の略全面に形成されている複数の反射部３１１３ｅにより前方へ反射させられ、導光放射板３１１３の前面から前方へ放射されることとなる。そして、導光放射板３１１３から前方へ放射された光が、装飾部材を構成している装飾シ

ート３１１２及び装飾体３１１１を通って前方へ照射されることで、装飾部３１５０が設けられている透光性を有する装飾部材（装飾体３１１１及び装飾シート３１１２）が発光装飾されることとなる。

【１６３１】

この際に、第一ＬＥＤ３１１４ａから導光放射板３１１３の板面に沿った方向へ照射された光を、導光放射板３１１３の板厚内において複数の反射部３１１３ｅにより前方へ反射させて装飾体３１１１及び装飾シート３１１２を発光装飾させるようにしているため、第一ＬＥＤ３１１４ａを前方へ向けて光を照射するようにした場合と比較して、第一ＬＥＤ３１１４ａの光が導光放射板３１１３の前面から前方へ放射されるまでの距離を長くすることができ、第一ＬＥＤ３１１４ａからの光を広く拡散させて導光放射板３１１３から前方へ放射させることができる。従って、第一ＬＥＤ３１１４ａを発光させた時に、第一ＬＥＤ３１１４ａからの光を広く拡散させることができると共に、点状に発光しているように見えることを抑制することができるため、装飾体３１１１及び装飾シート３１１２をムラなく発光装飾させて綺麗に見せることができ、遊技者を楽しませて興趣の低下を抑制させることができる。

【１６３２】

また、裏後可動装飾体３１１０では、平板状の装飾部材（装飾体３１１１及び装飾シート３１１２）と導光放射板３１１３の後方に裏後装飾基板３１１４を設けているため、前後方向の寸法を薄くすることができ、裏後可動装飾体３１１０を配置するスペースを確保し易くすることができると共に、他の演出部材（裏上前回転装飾体３４１０、裏上後回転装飾体３４４０、等）を配置するスペースも確保し易くすることができ、多様な演出部材を備えることで遊技者をより楽しませられるパチンコ機１を提供することができる。

【１６３３】

更に、装飾部３１５０が設けられている装飾部材（裏後可動装飾体３１１０）を、第一装飾突部３１１１ａ、第二装飾突部３１１１ｂ、及び第三装飾突部３１１１ｃ等の浮彫部を有した装飾体３１１１と、第一輪郭部３１１２ａ等の絵柄を有した装飾シート３１１２とで構成しているため、浮彫部により装飾部３１５０に立体感を付与することができると共に、浮彫部の浮彫りによるレンズ効果により後方に設けられている装飾シート３１１２の絵柄に奥行感を付与することができる。従って、装飾体３１１１の浮彫部と装飾シート３１１２の絵柄とによって、奥行感のある立体的な装飾（装飾部３１５０）を遊技者に見せることができるため、裏後可動装飾体３１１０の厚さ（前後方向の寸法）を薄くしても装飾効果が低下することはなく、遊技者の関心を引付けたり楽しませたりすることができると共に、裏後可動装飾体３１１０をより薄くすることができ、上述した作用効果を確実に奏することができる。

【１６３４】

また、第一装飾突部３１１１ａ、第二装飾突部３１１１ｂ、及び第三装飾突部３１１１ｃ等の浮彫部を有した装飾体３１１１の後方に、第一輪郭部３１１２ａ等の絵柄を有した装飾シート３１１２を設けているため、透明な装飾体３１１１に着色しなくても、装飾シート３１１２の絵柄の色により装飾体３１１１が着色されているように見せることができ、装飾体３１１１にかかるコストを低減させることができる。また、装飾シート３１１２の絵柄を変更することで、装飾体３１１１（裏後可動装飾体３１１０）の装飾（装飾部３１５０）を容易に変更することができるため、機種変更や設計変更等に対して対応し易いパチンコ機１とすることができる。

【１６３５】

また、装飾シート３１１２の第一輪郭部３１１２ａに、光の干渉縞により装飾部３１５０としての絵柄の一部が表示されるホログラムの部位を有するようにしており、裏後装飾基板３１１４の第一ＬＥＤ３１１４ａからの光、本パチンコ機１に設けられている他のＬＥＤや演出表示装置１６００等からの光、本パチンコ機１を設置している遊技ホール内の光、等が第一輪郭部３１１２ａのホログラムの部位に当たることで、光の干渉縞により所定のホログラムを見せることができるため、ホログラムにより装飾部３１５０の見栄えを良

くすることができ、遊技者の関心を強く引付けさせることができると共に、ホログラムにより裏後可動装飾体３１１０の装飾部３１５０の一部に立体感を付与することができ、裏後可動装飾体３１１０を薄くしても遊技者に薄さを感じさせないようにすることができる。

【１６３６】

更に、装飾シート３１１２の第一輪郭部３１１２ａにおける絵柄の一部をホログラムにより構成するようにしていることから、ホログラムが第一装飾突部３１１１ａ、第二装飾突部３１１１ｂ、及び第三装飾突部３１１１ｃ等の浮彫部を有した透明な装飾体３１１１を通して見えることとなるため、浮彫部によるレンズ効果によりホログラム等の絵柄に奥行感を付与することができ、遊技者の関心を強く引付けることが可能な装飾部３１５０を遊技者に見せることができる。また、装飾シート３１１２の第一輪郭部３１１２ａにホログラムの部位を有するようにしているため、ホログラムの部位の形成に印刷技術を用いることが可能となり、コストの増加を抑制することができる。

【１６３７】

また、装飾体３１１１及び装飾シート３１１２からなる装飾部材において、装飾体３１１１の後面を平坦にして、装飾シート３１１２の外形を装飾体３１１１の外形と同じ大きさにしていることから、透明な装飾体３１１１の外周縁まで装飾シート３１１２の絵柄により装飾することができ、装飾（装飾部３１５０）の外周に枠のようなものがないため、裏後可動装飾体３１１０の装飾に対して開放感を付与することができると共に、装飾を大きく見せることができる。従って、裏後可動装飾体３１１０の装飾（装飾シート３１１２の絵柄等）をより目立たせることができ、裏後可動装飾体３１１０の装飾効果を十分に発揮させることができると共に、裏後可動装飾体３１１０の装飾により遊技者の関心を強く引付けさせることができ、遊技者を楽しませられるパチンコ機１を提供することができる。

【１６３８】

また、透明な装飾体３１１１の後面を平坦にしていることから、装飾体３１１１の後面に装飾シート３１１２が接触（当接）した状態となるため、装飾体３１１１と装飾シート３１１２との間で光が乱反射することはなく、透明な装飾体３１１１を通して装飾シート３１１２の第一輪郭部３１１２ａの絵柄をより見え易くすることができ、装飾シート３１１２の絵柄による装飾効果を十分に発揮させることができる。また、装飾体３１１１の後面を平坦にしていることから、装飾体３１１１と装飾シート３１１２とで構成されている装飾部材の前後方向の寸法を可及的に小さくすることが可能となるため、裏後可動装飾体３１１０の厚さを薄くすることができ、上述した作用効果を具現化することが可能なパチンコ機１を提供することができる。

【１６３９】

更に、装飾シート３１１２を、装飾体３１１１の外形と同じ大きさに形成するようにしており、装飾シート３１１２の絵柄により裏後可動装飾体３１１０（装飾体３１１１）の外周縁まで装飾することができるため、当該裏後可動装飾体３１１０と隣接している部材の装飾態様を、当該裏後可動装飾体３１１０の装飾と連続するような装飾とすることにより、一体感のある大きな装飾を遊技者に見せることができ、遊技者に見た目のインパクトを与えて注目させることができると共に、大きな装飾を楽しませることができ、遊技者の興趣の低下を抑制させることができる。

【１６４０】

また、導光放射板３１１３に、裏後装飾基板３１１４の第一ＬＥＤ３１１４ａが後方から収容される複数の第一ＬＥＤ収容部３１１３ｃを有するようにしているため、導光放射板３１１３の第一ＬＥＤ収容部３１１３ｃに後方から第一ＬＥＤ３１１４ａを収容させることで、導光放射板３１１３の後面と裏後装飾基板３１１４の前面とを可及的に接近させることが可能となり、裏後可動装飾体３１１０の前後方向の厚さを薄くすることができ、上述した作用効果を奏するパチンコ機１を確実に具現化することができる。

【１６４１】

また、導光放射板３１１３の第一ＬＥＤ収容部３１１３ｃに裏後装飾基板３１１４の第一ＬＥＤ３１１４ａを収容して、第一ＬＥＤ収容部３１１３ｃの内面から板厚内へ第一ＬＥ

Ｄ３１１４ａからの光を照射するようにしているため、導光放射板３１１３の外周面から光を照射するようにした場合と比較して、外周面からの光が届き難い導光放射板３１１３の部位（例えば、中央部分）でも、当該部位に第一ＬＥＤ収容部３１１３ｃを設けてその内面から光を照射するようにすることで、当該部位を明るく発光させることができ、裏後可動装飾体３１１０（装飾体３１１１及び装飾シート３１１２）をムラなく発光装飾させることができる。

【１６４２】

更に、裏後装飾基板３１１４の第一ＬＥＤ３１１４ａをサイドビュータイプのものとしているため、導光放射板３１１３の第一ＬＥＤ収容部３１１３ｃに第一ＬＥＤ３１１４ａを収容して発光させるだけで、第一ＬＥＤ収容部３１１３ｃの内面（受光部３１１３ｉ）から導光放射板３１１３の板厚内における板面に沿った方向へ光を照射することができ、上述した作用効果を奏するパチンコ機１を確実に具現化することができる。

【１６４３】

また、導光放射板３１１３の後面の略全面に複数の反射部３１１３ｅを有するようにしており、装飾体３１１１及び装飾シート３１１２の略全体に光を放射することができるため、装飾体３１１１及び装飾シート３１１２に設けられている装飾（装飾部３１５０）を変更しても反射部３１１３ｅを変更する必要はなく、装飾体３１１１及び装飾シート３１１２の装飾の変更に対して容易に対応することができ、機種変更や設計変更等に対して対応し易いパチンコ機１を提供することができる。

【１６４４】

なお、裏後可動装飾体３１６０及び裏後可動装飾体３１７０においても、上記と同様の作用効果を奏することができる。

【１６４５】

以上、本発明について好適な実施形態を挙げて説明したが、本発明はこれらの実施形態に限定されるものではなく、以下に示すように、本発明の要旨を逸脱しない範囲において、種々の改良及び設計の変更が可能である。

【１６４６】

すなわち、上記の実施形態では、遊技機としてパチンコ機１に適用したものを示したが、これに限定するものではなく、パチンコ機とパチスロ機とを融合させてなる遊技機（パロット機）に、適用しても良く、この場合でも、上記と同様の作用効果を奏することができる。

【１６４７】

また、上記の実施形態では、裏後可動装飾体３１１０の装飾部３１５０として、装飾体３１１１の第一装飾突部３１１１ａ、第二装飾突部３１１１ｂ、第三装飾突部３１１１ｃ、及び金属装飾部３１１１ｄによる装飾と、装飾シート３１１２の第一輪郭部３１１２ａ、第二輪郭部３１１２ｂ、第一光拡散部３１１２ｃ、及び第二光拡散部３１１２ｄによる装飾と、で構成したものを示したが、これに限定するものではない。例えば、装飾体３１１１と装飾シート３１１２とを一つの装飾部材とし、その装飾部材に装飾部３１５０を施すようにしても良い。

【１６４８】

なお、パチンコ機等の遊技機は、遊技者の操作によって遊技媒体が打込まれる遊技領域に、遊技媒体を受入可能な受入口（一般入賞口、始動口、可変入賞口（可変始動口、大入賞口、役物入賞口）、Ｖ入賞口、等）を備えており、受入口に遊技媒体が受入れられると、遊技者に対して特典（遊技媒体の払出し、可変入賞口の開閉動作等の遊技者が有利となる有利遊技状態の発生、等）が付与されるため、遊技者に対して遊技媒体が所望の受入口へ受入られるように、遊技媒体の打込操作を楽しませられるようにしている。この種の遊技機として、表面に金属メッキが施され前後に貫通している切欠部が透明なレンズ部により閉鎖されている装飾部材と、装飾部材の後側に設けられておりレンズ部を通して前方へ光を照射可能な複数のＬＥＤが実装されている装飾基板と、を備えたものが提案されている（例えば、特開２０１５－２２３４８５号公報）。この文献の技術によれば、装飾部材に

おける金属メッキの輝きにより、装飾部材の見栄えを良くすることができると共に、ＬＥＤの発光により装飾部材（レンズ部）を発光装飾させることにより、遊技者の関心を引付けせて楽しませることができる。ところで、この文献の技術のように、表面に金属メッキによる金属装飾部が施されている装飾部材では、装飾部材の表面において静電気が蓄積されると、金属装飾部の部位では導電性が高いことから、表面の全体に蓄積された静電気が一気に放電されることとなり、放電（スパーク）の電圧（放電圧）が高いものとなる。そして、この文献の技術では、金属メッキが施されている装飾部材の後側に装飾基板を設けていることから、金属メッキと装飾基板とが可及的に接近しているため、装飾部材（金属メッキ）と装飾基板との間で、金属メッキにおいて蓄積された静電気が放電されてスパークが発生する恐れがある。従って、金属メッキと装飾基板との間でスパーク（放電）が発生することにより、装飾基板に実装されているＬＥＤが破損してしまい、装飾部材の発光装飾（発光演出）を行うことができなくなることで、遊技者を楽しませることができなくなって、遊技者の興趣を低下させてしまう恐れがあった。

【１６４９】

［本体枠と遊技盤５との電気的な接続方法］

次に、本体枠４と遊技盤５との電気的な接続方法について、図２０８を参照して説明する。図２０８は本体枠に設けられる中継基板に実装されるドロワコネクタの正面斜視図（ａ）であり、後面斜視図（ｂ）である。ドロワコネクタは、遊技盤５を本体枠４に装着するだけで自動的に本体枠４と遊技盤５との電気的接続を行うことができるコネクタであり、遊技盤５の後面の所定位置に配置される遊技盤側中継基板に遊技盤側ドロワコネクタ（凸タイプ）が設けられると共に、本体枠４の前面の所定位置に配置される本体枠側中継基板に本体枠側ドロワコネクタ（凹タイプ）が設けられている。

【１６５０】

遊技盤５を本体枠４に装着すると、図示しない遊技盤５の遊技盤側ドロワコネクタ（凸タイプ）が本体枠４の本体枠側ドロワコネクタ（凹タイプ）ＤＣＮに案内されて遊技盤５の遊技盤側ドロワコネクタ（凸タイプ）の各端子と、本体枠４の本体枠側ドロワコネクタ（凹タイプ）ＤＣＮの各端子ＰＮと、が電気的に接続されるようになっている。

【１６５１】

例えば、本体枠４の本体枠側ドロワコネクタ（凹タイプ）ＤＣＮについて説明すると、本体枠側ドロワコネクタ（凹タイプ）ＤＣＮは、非導電性を有する樹脂により形成され、正面側が矩形形状に開口されると共に左右方向に長い箱状本体ＤＣＮａを有し、箱状本体ＤＣＮａの後面側に左右方向に長い板状のベース体ＤＣＮｂが一体に形成されて全体として英字Ｔ形に形成された形状となっている。

【１６５２】

箱状本体ＤＣＮａの開口部ＤＣＮａａの周囲には、この開口部ＤＣＮａａの前面から箱状本体ＤＣＮａの底面へ向かって所定距離までに亘って、遊技盤５の遊技盤側ドロワコネクタ（凸タイプ）を箱状本体ＤＣＮａの底面へ向かって案内するための傾斜部ＤＣＮａａａがそれぞれ形成されている。箱状本体ＤＣＮａの開口部ＤＣＮａａの内側上面の中央部分（１カ所）と内側上面の左右部分（左部分に１カ所、右部分に１カ所）とには、遊技盤５の遊技盤側ドロワコネクタ（凸タイプ）が正規の向きと異なる上下方向ひっくり返して本体枠側ドロワコネクタ（凹タイプ）ＤＣＮに挿入されることを防止すると共に、遊技盤５の遊技盤側ドロワコネクタ（凸タイプ）が正規の向きで本体枠側ドロワコネクタ（凹タイプ）ＤＣＮに挿入された際に遊技盤５の遊技盤側ドロワコネクタ（凸タイプ）と本体枠側ドロワコネクタ（凹タイプ）ＤＣＮとの左右方向の位置ズレを防止して遊技盤５の遊技盤側ドロワコネクタ（凸タイプ）と本体枠側ドロワコネクタ（凹タイプ）ＤＣＮとの嵌合を高める溝ＤＣＮａａｂが箱状本体ＤＣＮａの開口部ＤＣＮａａの前面近傍から箱状本体ＤＣＮａの底面へ向かってそれぞれ形成されている。

【１６５３】

箱状本体ＤＣＮａの底面には、この底面に対して垂直方向に、左右方向に２列に並んだピンタイプの各端子ＰＮ（左右方向に１列に６つのピンタイプの端子ＰＮが並んでいる。）

が箱状本体ＤＣＮａ及びベース体ＤＣＮｂを貫通している。
【１６５４】
ベース体ＤＣＮｂの左側及び右側には、取付貫通穴ＤＣＮｂａ，ＤＣＮｂａがそれぞれ形成されている。取付貫通穴ＤＣＮｂａ，ＤＣＮｂａには、本体枠側中継基板ＫＢ（図２０９を参照。）に本体枠側ドロワコネクタ（凹タイプ）ＤＣＮを実装する場合に、まず本体枠側ドロワコネクタ（凹タイプ）ＤＣＮの前方から図示しないリベットがそれぞれ挿入されて本体枠側中継基板ＫＢ（図２０９を参照。）の裏面（ハンダ面）において端部がカシメられて塑性変形される。これにより、本体枠側ドロワコネクタ（凹タイプ）ＤＣＮは、本体枠側中継基板ＫＢ（図２０９を参照。）に固定される。
【１６５５】
また、ベース体ＤＣＮｂの裏面には、本体枠側中継基板ＫＢ（図２０９を参照。）に本体枠側ドロワコネクタ（凹タイプ）ＤＣＮを実装する際に、本体枠側中継基板に本体枠側ドロワコネクタ（凹タイプ）ＤＣＮの正規の向きに実装されるように円柱状の突出部ＤＣＮｂｂが形成されている。
【１６５６】
本体枠側中継基板ＫＢ（図２０９を参照。）は、本体枠側ドロワコネクタ（凹タイプ）ＤＣＮのほかに、この本体枠側ドロワコネクタ（凹タイプ）ＤＣＮと電気的に接続されるＤＩＰ（Ｄｕａｌ　Ｉｎｌｉｎｅ　Ｐａｃｋａｇｅ）タイプの小型コネクタが実装され、図示しない配線（ハーネス）を介して、払出制御基板６３３と電気的に接続されている。遊技盤５を本体枠４に装着すると、遊技盤５の遊技盤側ドロワコネクタ（凸タイプ）が本体枠４の本体枠側ドロワコネクタ（凹タイプ）ＤＣＮに案内され、遊技盤側ドロワコネクタ（凸タイプ）の各端子と本体枠側ドロワコネクタ（凹タイプ）ＤＣＮの各端子ＰＮとが電気的に接続されることにより、ＤＩＰタイプの小型コネクタ、そして図示しない配線（ハーネス）を介して、遊技盤５に備える主制御基板１３１０と本体枠４に備える払出制御基板６３３とによる各種制御信号を伝える制御信号ラインが形成されることとなる。
【１６５７】
なお、本体枠側ドロワコネクタ（凹タイプ）ＤＣＮは、遊技盤５に備える主制御基板１３１０と本体枠４に備える払出制御基板６３３とを電気的に接続すると共に、電源基板６３０からの各種電源を遊技盤５に備える各種基板へ供給する各種電源供給ライン（グランド（ＧＮＤ）を含む。）と電気的に接続するものであり、本体枠側ドロワコネクタ（凹タイプ）ＤＣＮとは別にもう一つ図示しない本体枠側ドロワコネクタ（凹タイプ）ＤＣＮ’が本体枠側中継基板ＫＢとは別の図示しない本体枠側中継基板ＫＢ’に設けられている。この本体枠側中継基板ＫＢ’は、本体枠側ドロワコネクタ（凹タイプ）ＤＣＮ’のほかに、この本体枠側ドロワコネクタ（凹タイプ）ＤＣＮ’と電気的に接続されるＤＩＰ（Ｄｕａｌ　Ｉｎｌｉｎｅ　Ｐａｃｋａｇｅ）タイプの小型コネクタが実装され、図示しない配線（ハーネス）を介して、扉枠３に備える各装飾基板や各種センサ等と電気的に接続されている。遊技盤５を本体枠４に装着すると、本体枠側ドロワコネクタ（凹タイプ）ＤＣＮと電気的に接続される遊技盤５の遊技盤側ドロワコネクタ（凸タイプ）とは別の他の遊技盤側ドロワコネクタ（凸タイプ）が本体枠４の図示しない本体枠側ドロワコネクタ（凹タイプ）ＤＣＮ’に案内され、他の遊技盤側ドロワコネクタ（凸タイプ）の各端子と図示しない本体枠側ドロワコネクタ（凹タイプ）ＤＣＮ’の各端子ＰＮとが電気的に接続されることにより、ＤＩＰタイプの小型コネクタ、そして図示しない配線（ハーネス）を介して、遊技盤５に備える周辺制御基板１５１０と、扉枠３に備える各装飾基板、各種センサ、及び各種スピーカ等と、による各種制御信号や検出信号を伝える制御信号ラインが形成されることとなる。図示しない本体枠側ドロワコネクタ（凹タイプ）ＤＣＮ’の構造は、本体枠側ドロワコネクタ（凹タイプ）ＤＣＮと同一の構造となっており、また図示しない本体枠側ドロワコネクタ（凹タイプ）ＤＣＮ’の図示しない本体枠側中継基板ＫＢ’への固定方法は、本体枠側ドロワコネクタ（凹タイプ）ＤＣＮの本体枠側中継基板ＫＢへの固定方法（リベットを利用する固定方法）と同一となっている。
【１６５８】

また、本体枠４の本体枠側ドロワコネクタ（凹タイプ）ＤＣＮに案内される遊技盤５の遊技盤側ドロワコネクタ（凸タイプ）の図示しない遊技盤側中継基板への固定方法、本体枠４の本体枠側ドロワコネクタ（凹タイプ）ＤＣＮ’に案内される遊技盤５の他の遊技盤側ドロワコネクタ（凸タイプ）の図示しない他の遊技盤側中継基板（この他の遊技盤側中継基板は、本体枠４の本体枠側ドロワコネクタ（凹タイプ）ＤＣＮに案内される遊技盤５の遊技盤側ドロワコネクタ（凸タイプ）が実装される図示しない遊技盤側中継基板と異なるものである。）への固定方法は、本体枠側ドロワコネクタ（凹タイプ）ＤＣＮの本体枠側中継基板ＫＢへの固定方法（リベットを利用する固定方法）と同一となっている。

【１６５９】

本体枠側ドロワコネクタ（凹タイプ）ＤＣＮを本体枠側中継基板ＫＢ（図２０９を参照。）に固定する場合にリベットを用いているのは、ドロワコネクタを利用することで、遊技盤５を本体枠４に装着するだけで自動的に本体枠４と遊技盤５との電気的接続を行うことができるものの、遊技盤５を本体枠４に装着する際に、遊技盤５の遊技盤側ドロワコネクタ（凸タイプ）から本体枠側ドロワコネクタ（凹タイプ）ＤＣＮの箱状本体ＤＣＮａに大きな力が付与される場合があるため、この大きな力により本体枠側ドロワコネクタ（凹タイプ）ＤＣＮにおけるピンタイプの各端子ＰＮが本体枠側中継基板ＫＢ（図２０９を参照。）の裏面（ハンダ面）においてハンダ付けされた面が剥離することを防止するためである。なお、ボルトとナットとを用いて、本体枠側ドロワコネクタ（凹タイプ）ＤＣＮを本体枠側中継基板ＫＢ（図２０９を参照。）に固定する場合や遊技盤側ドロワコネクタ（凸タイプ）を図示しない遊技盤側中継基板に固定する場合では、遊技盤５を本体枠４に装着したり、取り外したりすることでナットが緩む場合があるという欠点がある。

【１６６０】

本実施形態では、本体枠側ドロワコネクタ（凹タイプ）ＤＣＮの各端子ＰＮとしてピンタイプのものを利用したが、ターミナル及びコンタクトを用いるベローズタイプを利用すると、次のような問題がある。例えば、遊技盤５の遊技盤側ドロワコネクタ（凸タイプ）の各端子をターミナルとし、本体枠４の本体枠側ドロワコネクタ（凹タイプ）ＤＣＮの各端子をコンタクトとする場合において、パチンコ機１に電源が投入された状態で遊技盤５を本体枠４に装着すると、ターミナルとコンタクトとの接点（具体的には、各種電源供給ライン用接点では大電流（突入電流）が流れる）が溶着することとなる。この溶着した状態のまま、遊技盤５を本体枠４に無理に押し込んで装着しようとすると、本体枠側ドロワコネクタ（凹タイプ）ＤＣＮのコンタクトが折れ曲がって壊れたり、この遊技盤５を本体枠４から取り外すときに、コンタクトが本体枠側ドロワコネクタ（凹タイプ）ＤＣＮから剥がれて破損したりして、本体枠側ドロワコネクタ（凹タイプ）ＤＣＮが使用できなくなるという問題。

【１６６１】

また、ターミナルとコンタクトとが溶着すると、コネクタの破損にともない、各種制御基板が誤動作したり、各種制御基板に実装された電子部品が破損したりするおそれもあるため、溶着を防止する専用回路を設ける必要があるという問題。

【１６６２】

本実施形態では、本体枠側ドロワコネクタ（凹タイプ）ＤＣＮの各端子ＰＮとしてピンタイプのものを利用することで、上述した問題が全く発生しない。つまり、仮に作業員が誤ってパチンコ機１に電源が投入された状態で遊技盤５を本体枠４に装着したとしても、遊技盤５の遊技盤側ドロワコネクタ（凸タイプ）の各端子と本体枠４の本体枠側ドロワコネクタ（凹タイプ）ＤＣＮの各端子ＰＮとが溶着することがなし、溶着を防止する専用回路を設ける必要もない。

【１６６３】

［ハンダ短絡防止］

次に、ハンダ短絡防止について図２０９を参照して説明する。図２０９は本体枠側ドロワコネクタ（凹タイプ）の各端子の半田ブリッジを防止する図（ａ）～（ｃ）であり、本体枠側ドロワコネクタ（凹タイプ）と電気的に接続されるＤＩＰタイプの小型コネクタの各

端子の半田ブリッジを防止する図（ｄ）～（ｆ）である。なお、図２０９には、各種配線パターン、基板グランド（ＧＮＤ）（以下、「ベタグランド」と記載する場合がある。）を図面の見易さから省略した。また、図２０９において、実線で示した矢印は、基板を半田槽に流した際にハンダが流れる方向を示し、一点鎖線で示した矢印は、基板を半田槽に流す方向を示している。

【１６６４】

本体枠４の前面の所定位置に配置される本体枠側中継基板ＫＢは、上述したように、本体枠４の本体枠側ドロワコネクタ（凹タイプ）ＤＣＮのほかに、この本体枠側ドロワコネクタ（凹タイプ）ＤＣＮと電気的に接続されるＤＩＰタイプの小型コネクタが実装されている。このＤＩＰタイプの小型コネクタの端子は、２列に並んだピンタイプのものである。本体枠側ドロワコネクタ（凹タイプ）ＤＣＮは、本体枠側中継基板ＫＢにおける左右方向の同一直線上に本体枠側ドロワコネクタ（凹タイプ）ＤＣＮのベース体ＤＣＮｂに形成される取付貫通穴ＤＣＮｂａ，ＤＣＮｂａ及び円柱状の突出部ＤＣＮｂｂが配置されている（ドロワコネクタ用所定位置）のに対して、ＤＩＰタイプの小型コネクタは、本体枠側中継基板ＫＢにおける上下方向となるように、つまり、ＤＩＰタイプの小型コネクタの２列に並ぶ各端子が本体枠側ドロワコネクタ（凹タイプ）ＤＣＮの２列に並ぶ各端子ＰＮと９０度回転させた位置となるように配置されている（小型コネクタ用所定位置）。

【１６６５】

本体枠側中継基板ＫＢは、その表面（実装面）ＫＢｘに、本体枠側ドロワコネクタ（凹タイプ）ＤＣＮがドロワコネクタ用所定位置に置かれると、本体枠側ドロワコネクタ（凹タイプ）ＤＣＮの各端子ＰＮがランドを有するスルーホールＫＴＨ１（以下、単に「ランドＫＴＨ１」と記載する場合がある。）にそれぞれ挿通され、本体枠側ドロワコネクタ（凹タイプ）ＤＣＮの円柱状の突出部ＤＣＮｂｂが位置決め穴ＫＢｂに挿通され、本体枠側ドロワコネクタ（凹タイプ）ＤＣＮの取付貫通穴ＤＣＮｂａ，ＤＣＮｂａと、この取付貫通穴ＤＣＮｂａ，ＤＣＮｂａ対応する位置に形成される取付穴ＫＢａ，ＫＢａと、が連通して本体枠側ドロワコネクタ（凹タイプ）ＤＣＮの前方から図示しないリベットが取付貫通穴ＤＣＮｂａ，ＤＣＮｂａへそれぞれ挿入されて本体枠側中継基板ＫＢの裏面（ハンダ面）ＫＢｙにおいて端部がカシメられて固定される。そして、本体枠側中継基板ＫＢは、その表面（実装面）ＫＢｘに、ＤＩＰタイプの小型コネクタが小型コネクタ用所定位置に置かれると、ＤＩＰタイプの小型コネクタの各端子がランドを有するスルーホールＫＴＨ２（以下、単に「ランドＫＴＨ２」と記載する場合がある。）にそれぞれ挿通される。

【１６６６】

本体枠側中継基板ＫＢの表面（実装面）ＫＢｘに本体枠側ドロワコネクタ（凹タイプ）ＤＣＮがドロワコネクタ用所定位置に置かれると、上下方向に２段となり、下から１段目となる第１列の６つの端子ＰＮと、下から２段目となる第２列の６つの端子ＰＮと、が平行に並ぶこととなる。これに対して、本体枠側中継基板ＫＢの表面（実装面）ＫＢｘにＤＩＰタイプの小型コネクタが小型コネクタ用所定位置に置かれると、上下方向に６段となり、下から１段目となる第１列の２つの端子ＰＮと、下から２段目となる第２列の２つの端子ＰＮと、下から３段目となる第３列の２つの端子ＰＮと、下から４段目となる第４列の２つの端子ＰＮと、下から５段目となる第５列の２つの端子ＰＮと、下から６段目となる第６列の２つの端子ＰＮと、がそれぞれ平行に並ぶこととなる。

【１６６７】

本体枠側中継基板ＫＢは、その表面（実装面）ＫＢｘに、本体枠側ドロワコネクタ（凹タイプ）ＤＣＮがドロワコネクタ用所定位置に置かれると共に、ＤＩＰタイプの小型コネクタが小型コネクタ用所定位置に置かれると、その裏面（ハンダ面）ＫＢｙから本体枠側ドロワコネクタ（凹タイプ）ＤＣＮの各端子ＰＮとＤＩＰタイプの小型コネクタの各端子とが突出した状態となる。このような状態で本体枠側中継基板ＫＢをその裏面（ハンダ面）ＫＢｙを半田槽へ流すことで本体枠側ドロワコネクタ（凹タイプ）ＤＣＮの各端子ＰＮと各ランドＫＴＨ１とを本体枠側中継基板ＫＢの裏面（ハンダ面）ＫＢｙにハンダ付けすることができると共に、ＤＩＰタイプの小型コネクタの各端子と各ランドＫＴＨ２とを本体

枠側中継基板ＫＢの裏面（ハンダ面）ＫＢｙにハンダ付けすることができる。
【１６６８】
本体枠側中継基板ＫＢの裏面（ハンダ面）ＫＢｙを半田槽へ流す方向は、本体枠側ドロワコネクタ（凹タイプ）ＤＣＮの下から２段目となる第２列の６つの端子ＰＮから下から１段目となる第１列の６つの端子ＰＮへ向かう方向となっていると共に、ＤＩＰタイプの小型コネクタの下から６段目となる第６列の２つの端子から下から１段目となる第１列の２つの端子へ向かう方向となっている。つまり、本体枠側ドロワコネクタ（凹タイプ）ＤＣＮでは、下から１段目となる第１列の６つの端子ＰＮが最終段の端子となり、ＤＩＰタイプの小型コネクタでは、下から１段目となる第１列の２つの端子が最終段の端子となる。
【１６６９】
基板の裏面（ハンダ面）を半田槽へ流す場合において、本体枠側ドロワコネクタ（凹タイプ）ＤＣＮやＤＩＰタイプの小型コネクタの各端子のように、ピンタイプのものが整列された状態で半田槽へ流すと、流す方向に沿って半田ブリッジが発生するおそれがあり、特に最終段の端子とその手前の段の端子とで半田ブリッジが発生する。そこで、最終段の端子には、半田逃げパターンが形成される。
【１６７０】
本体枠側ドロワコネクタ（凹タイプ）ＤＣＮでは、上述したように、下から１段目となる第１列の６つの端子ＰＮが最終段の端子であるため、第１列の６つの端子ＰＮの各ランドＫＴＨ１と、上下方向に長く幅がランドＫＴＨ１の外径の大きさとなる矩形形状を有する半田逃げパターンＫＮＰ１と、がそれぞれ接続されるように（つまり、第１列の６つの端子ＰＮの各ランドＫＴＨ１と各半田逃げパターンＫＮＰ１とがそれぞれ電気的に接続されるように）本体枠側中継基板ＫＢの裏面（ハンダ面）ＫＢｙの銅箔面にそれぞれ形成されている。
【１６７１】
ＤＩＰタイプの小型コネクタでは、上述したように、下から１段目となる第１列の２つの端子が最終段の端子であるため、第１列の２つの端子ＰＮの各ランドＫＴＨ２と、上下方向に長く幅がランドＫＴＨ２の外径の大きさとなる矩形形状を有する半田逃げパターンＫＮＰ２と、がそれぞれ接続されるように（つまり、第１列の２つの端子の各ランドＫＴＨ２と各半田逃げパターンＫＮＰ２とがそれぞれ電気的に接続されるように）、本体枠側中継基板ＫＢの裏面（ハンダ面）ＫＢｙの銅箔面にそれぞれ形成されている。
【１６７２】
このように、最終段の端子に半田逃げパターンを形成することで最終段の端子における半田ブリッジの発生を抑制してハンダ短絡防止に寄与することができるものの、最終段の端子以外にも半田ブリッジが発生するおそれがある。そこで、本実施形態では、半田ブリッジの発生を抑制することができる方法として、レジストの上にシルク印刷により水平線を各段の境界にそれぞれ印刷する方法（シルク印刷による対策１）、レジストの上にシルク印刷により水平線を各段の境界にそれぞれ印刷すると共に垂直線を左右方向に隣り合う各端子のランド及び半田逃げパターンの境界にそれぞれ印刷する方法（シルク印刷による対策２）、レジストの上にシルク印刷により各端子のランド及び半田逃げパターンを所定の図形で囲みその領域を塗りつぶす方法（シルク印刷による対策３）を挙がることができる。
【１６７３】
［シルク印刷による対策１］
まず、半田ブリッジの発生を抑制することができる方法として、レジストの上にシルク印刷により水平線を各段の境界にそれぞれ印刷する方法（シルク印刷による対策１）について説明する。
【１６７４】
本体枠側ドロワコネクタ（凹タイプ）ＤＣＮでは、図２０９（ａ）に示すように、下から１段目となる第１列の６つの端子ＰＮと、下から２段目となる第２列の６つの端子ＰＮと、の境界にシルク印刷により水平線ＫＳＨ１を本体枠側中継基板ＫＢの裏面（ハンダ面）ＫＢｙに対して印刷する。つまり、本体枠側中継基板ＫＢの裏面（ハンダ面）ＫＢｙにお

けるレジストの上にシルク印刷により水平線ＫＳＨ１が印刷されることとなるため、レジストの面から見ると、水平線ＫＳＨ１が山脈のような縦壁が連なっている状態となる。これにより、本体枠側中継基板ＫＢの裏面（ハンダ面）ＫＢｙを半田槽へ流すと、ハンダがレジストの上を流れて水平線ＫＳＨ１という山脈のような縦壁を越えて流れる必要があるため、下から２段目となる第２列の６つの端子ＰＮ及びランドＫＴＨ１と、下から１段目となる第１列の６つの端子ＰＮ及びランドＫＴＨ１と、の境界における水平線ＫＳＨ１という山脈のような縦壁によりレジストにハンダが留まろうとすることでハンダが分離される力が働くことにより、上下方向に隣り合う各端子ＰＮ及びランドＫＴＨ１において半田ブリッジを抑制することができる。

【１６７５】

ＤＩＰタイプの小型コネクタの各端子では、図２０９（ｄ）に示すように、下から６段目となる第６列の２つの端子と、下から５段目となる第５列の２つの端子と、の境界にシルク印刷により水平線ＫＳＨ２を本体枠側中継基板ＫＢの裏面（ハンダ面）ＫＢｙに対して印刷し、下から５段目となる第５列の２つの端子と、下から４段目となる第４列の２つの端子と、の境界にシルク印刷により水平線ＫＳＨ２を本体枠側中継基板ＫＢの裏面（ハンダ面）ＫＢｙに対して印刷し、下から４段目となる第４列の２つの端子と、下から３段目となる第３列の２つの端子と、の境界にシルク印刷により水平線ＫＳＨ２を本体枠側中継基板ＫＢの裏面（ハンダ面）ＫＢｙに対して印刷し、下から３段目となる第３列の２つの端子と、下から２段目となる第２列の２つの端子と、の境界にシルク印刷により水平線ＫＳＨ２を本体枠側中継基板ＫＢの裏面（ハンダ面）ＫＢｙに対して印刷し、下から２段目となる第２列の２つの端子と、下から１段目となる第１列の２つの端子と、の境界にシルク印刷により水平線ＫＳＨ２を本体枠側中継基板ＫＢの裏面（ハンダ面）ＫＢｙに対して印刷する。つまり、本体枠側中継基板ＫＢの裏面（ハンダ面）ＫＢｙにおけるレジストの上にシルク印刷により水平線ＫＳＨ２が印刷されることとなるため、レジストの面から見ると、水平線ＫＳＨ２が山脈のような縦壁が連なっている状態となる。これにより、例えば、本体枠側中継基板ＫＢの裏面（ハンダ面）ＫＢｙを半田槽へ流すと、ハンダがレジストの上を流れて水平線ＫＳＨ２という山脈のような縦壁を越えて流れる必要があるため、下から６段目となる第６列の２つの端子及びランドＫＴＨ２と、下から５段目となる第５列の２つの端子及びランドＫＴＨ２と、の境界における水平線ＫＳＨ２という山脈のような縦壁によりレジストにハンダが留まろうとすることでハンダが分離される力が働くことにより、上下方向に隣り合う各端子において半田ブリッジを抑制することができる。下から５段目となる第５列の２つの端子及びランドＫＴＨ２と、下から４段目となる第４列の２つの端子及びランドＫＴＨ２と、の境界における水平線ＫＳＨ２、下から４段目となる第４列の２つの端子及びランドＫＴＨ２と、下から３段目となる第３列の２つの端子及びランドＫＴＨ２と、の境界における水平線ＫＳＨ２、下から３段目となる第３列の２つの端子及びランドＫＴＨ２と、下から２段目となる第２列の２つの端子及びランドＫＴＨ２と、の境界における水平線ＫＳＨ２、及び下から２段目となる第２列の２つの端子及びランドＫＴＨ２と、下から１段目となる第１列の２つの端子及びランドＫＴＨ２と、の境界における水平線ＫＳＨ２についても、下から６段目となる第６列の２つの端子及びランドＫＴＨ２と、下から５段目となる第５列の２つの端子及びランドＫＴＨ２と、の境界における水平線ＫＳＨ２と同様に、水平線ＫＳＨ２という山脈のような縦壁によりレジストにハンダが留まろうとすることでハンダが分離される力が働くことにより、上下方向に隣り合う各端子及びランドＫＴＨ２において半田ブリッジを抑制することができる。

【１６７６】

［シルク印刷による対策２］

次に、半田ブリッジの発生を抑制することができる方法として、レジストの上にシルク印刷により水平線を各段の境界にそれぞれ印刷すると共に垂直線を左右方向に隣り合う各端子のランド及び半田逃げパターンの境界にそれぞれ印刷する方法（シルク印刷による対策２）について説明する。このシルク印刷による対策２は、上述したシルク印刷による対策１に対して、さらに、シルク印刷により垂直線を左右方向に隣り合う各端子のランドと左

右方向に隣り合う半田逃げパターンの境界とに印刷する方法であるため、シルク印刷による対策１に対する説明を省略する。

【１６７７】

本体枠側ドロワコネクタ（凹タイプ）ＤＣＮでは、図２０９（ａ）に示したシルク印刷により印刷された水平線ＫＳＨ１に加えて、さらに、図２０９（ｂ）に示すように、下から１段目となる第１列の６つの端子ＰＮ及びランドＫＴＨ１と、下から２段目となる第２列の６つの端子ＰＮ及びランドＫＴＨ１と、のうち、左右方向に隣り合う各端子ＰＮ及びランドＫＴＨ１と、左右方向に隣り合う半田逃げパターンＫＮＰ１と、の境界にシルク印刷により垂直線ＫＳＶ１を本体枠側中継基板ＫＢの裏面（ハンダ面）ＫＢｙに対してそれぞれ印刷する。つまり、本体枠側中継基板ＫＢの裏面（ハンダ面）ＫＢｙにおけるレジストの上にシルク印刷により垂直線ＫＳＶ１がそれぞれ印刷されることとなるため、レジストの面から見ると、垂直線ＫＳＶ１が山脈のような縦壁が連なっている状態となる。これにより、本体枠側中継基板ＫＢの裏面（ハンダ面）ＫＢｙを半田槽へ流すと、ハンダがレジストの上を流れて垂直線ＫＳＶ１という山脈のような縦壁に沿って流れることができると共に、垂直線ＫＳＶ１という山脈のような縦壁上を流れるハンダが垂直線ＫＳＶ１という山脈のような縦壁を境として縦壁の左方又は縦壁の右方へ流れることによりレジストに留まろうとすることでハンダが分離される力が働くことにより、左右方向に隣り合う各端子ＰＮ及びランドＫＴＨ１と、左右方向に隣り合う半田逃げパターンＫＮＰ１と、において半田ブリッジをそれぞれ抑制することができる。

【１６７８】

ＤＩＰタイプの小型コネクタの各端子では、図２０９（ｄ）に示したシルク印刷により印刷された水平線ＫＳＨ２に加えて、さらに、図２０９（ｅ）に示すように、下から１段目となる第１列の２つの端子及びランドＫＴＨ２から下から６段目となる第６列の２つの端子及びランドＫＴＨ２までに亘って、左右方向に隣り合う各端子及びランドＫＴＨ２と、左右方向に隣り合う半田逃げパターンＫＮＰ２と、の境界にシルク印刷により垂直線ＫＳＶ２を本体枠側中継基板ＫＢの裏面（ハンダ面）ＫＢｙに対して印刷する。つまり、本体枠側中継基板ＫＢの裏面（ハンダ面）ＫＢｙにおけるレジストの上にシルク印刷により垂直線ＫＳＶ２が印刷されることとなるため、レジストの面から見ると、垂直線ＫＳＶ２が山脈のような縦壁が連なっている状態となる。これにより、本体枠側中継基板ＫＢの裏面（ハンダ面）ＫＢｙを半田槽へ流すと、ハンダがレジストの上を流れて垂直線ＫＳＶ２という山脈のような縦壁に沿って流れることができると共に、垂直線ＫＳＶ２という山脈のような縦壁上を流れるハンダが垂直線ＫＳＶ２という山脈のような縦壁を境として縦壁の左方又は縦壁の右方へ流れることによりによりレジストに留まろうとすることでハンダが分離される力が働くことにより、左右方向に隣り合う各端子及びランドＫＴＨ２と、左右方向に隣り合う半田逃げパターンＫＮＰ２と、において半田ブリッジをそれぞれ抑制することができる。

【１６７９】

［シルク印刷による対策３］

次に、半田ブリッジの発生を抑制することができる方法として、レジストの上にシルク印刷により各端子のランド及び半田逃げパターンを所定の図形で囲みその領域を塗りつぶす方法（シルク印刷による対策３）について説明する。

【１６８０】

本体枠側ドロワコネクタ（凹タイプ）ＤＣＮでは、図２０９（ｃ）に示すように、本体枠側ドロワコネクタ（凹タイプ）ＤＣＮの各端子ＰＮが挿通されるランドＫＴＨ１と、各半田逃げパターンＫＮＰ１と、を本体枠側中継基板ＫＢの裏面（ハンダ面）ＫＢｙにシルク印刷により左右方向に長い矩形形状で囲み、この矩形形状に囲まれた領域ＫＳＡ１のうち、各ランドＫＴＨ１と各半田逃げパターンＫＮＰ１とを除いた領域を塗りつぶすように印刷する。つまり、本体枠側中継基板ＫＢの裏面（ハンダ面）ＫＢｙにおけるレジストの上にシルク印刷により各ランドＫＴＨ１と各半田逃げパターンＫＮＰ１とが矩形形状に囲まれた領域ＫＳＡ１のうち、各ランドＫＴＨ１と各半田逃げパターンＫＮＰ１とを除いた領

域が塗りつぶすように印刷されることとなるため、シルク印刷された領域ＫＳＡ１の表面から各ランドＫＴＨ１と各半田逃げパターンＫＮＰ１とを見ると、各ランドＫＴＨ２と各半田逃げパターンＫＮＰ１とが窪んだ領域となるし、また、レジストの面から見ると、シルク印刷された領域ＫＳＡ１が小高い台地の領域となる。これにより、本体枠側中継基板ＫＢの裏面（ハンダ面）ＫＢｙを半田槽へ流すと、ハンダがレジストの上を流れてシルク印刷された領域ＫＳＡ１という小高い台地を越えて流れる必要があるため、シルク印刷された領域ＫＳＡ１上を流れるハンダの量を抑制することができると共に、シルク印刷された領域ＫＳＡ１という小高い台地に形成される窪んだ領域となる各ランドＫＴＨ１と各半田逃げパターンＫＮＰ１とにハンダが流れると、窪んだ領域となる各ランドＫＴＨ１と各半田逃げパターンＫＮＰ１とからシルク印刷された領域ＫＳＡ１という小高い台地を乗り越えることができずに留まろうとすることでハンダが分離される力が働くことにより、上下左右方向に隣り合う各端子ＰＮ及びランドＫＴＨ１と、左右方向に隣り合う半田逃げパターンＫＮＰ１と、において半田ブリッジをそれぞれ抑制することができる。

【１６８１】

ＤＩＰタイプの小型コネクタの各端子では、図２０９（ｆ）に示すように、ＤＩＰタイプの小型コネクタの各端子が挿通されるランドＫＴＨ２と、各半田逃げパターンＫＮＰ２と、を本体枠側中継基板ＫＢの裏面（ハンダ面）ＫＢｙにシルク印刷により上下方向に長い矩形形状で囲み、この矩形形状に囲まれた領域ＫＳＡ２のうち、各ランドＫＴＨ２と各半田逃げパターンＫＮＰ２とを除いた領域を塗りつぶすように印刷する。つまり、本体枠側中継基板ＫＢの裏面（ハンダ面）ＫＢｙにおけるレジストの上にシルク印刷により各ランドＫＴＨ２と各半田逃げパターンＫＮＰ２とが矩形形状に囲まれた領域ＫＳＡ２のうち、各ランドＫＴＨ２と各半田逃げパターンＫＮＰ２とを除いた領域が塗りつぶすように印刷されることとなるため、シルク印刷された領域ＫＳＡ２の表面から各ランドＫＴＨ２と各半田逃げパターンＫＮＰ２とを見ると、各ランドＫＴＨ２と各半田逃げパターンＫＮＰ２とが窪んだ領域となるし、また、レジストの面から見ると、シルク印刷された領域ＫＳＡ２が小高い台地の領域となる。これにより、本体枠側中継基板ＫＢの裏面（ハンダ面）ＫＢｙを半田槽へ流すと、ハンダがレジストの上を流れてシルク印刷された領域ＫＳＡ２という小高い台地を越えて流れる必要があるため、シルク印刷された領域ＫＳＡ２上を流れるハンダの量を抑制することができると共に、シルク印刷された領域ＫＳＡ２という小高い台地に形成される窪んだ領域となる各ランドＫＴＨ２と各半田逃げパターンＫＮＰ２とにハンダが流れると、窪んだ領域となる各ランドＫＴＨ２と各半田逃げパターンＫＮＰ２とからシルク印刷された領域ＫＳＡ２という小高い台地をハンダが留まろうとすることでハンダが分離される力が働くことにより、上下左右方向に隣り合う各端子及びランドＫＴＨ２と、左右方向に隣り合う半田逃げパターンＫＮＰ２と、において半田ブリッジをそれぞれ抑制することができる。

【１６８２】

上述したシルク印刷による対策１～対策３が施されたコネクタは、シルク印刷による対策１～対策３が施されていないコネクタと比べると、シルク印刷された部分が極めて目立つため、基板に半田ブリッジが発生しているか否かを目視により確認する作業を行う場合には、作業者が基板のどこに注視すればよいか目印となるため、素早く視線を向けることができる。

【１６８３】

［変形例］

なお、本実施形態では、基板を半田槽に流す場合に上述したシルク印刷による対策１～対策３を施して半田ブリッジの発生を防止してハンダ短絡防止を行っていたが、上述したシルク印刷による対策１～対策３を、作業者が直接基板にハンダ付けするコネクタがどのコネクタであるかを示す目印として利用することもできる。

【１６８４】

また、上述した実施形態では、基板を半田槽に流す場合に上述したシルク印刷による対策３を施して、本体枠側ドロワコネクタ（凹タイプ）ＤＣＮでは、図２０９（ｃ）に示した

矩形形状に囲まれた領域ＫＳＡ１、ＤＩＰタイプの小型コネクタの各端子では、図２０９（ｆ）に示した矩形形状に囲まれた領域ＫＳＡ２により半田ブリッジの発生を防止してハンダ短絡防止を行っていたが、矩形形状に代えて他の形状に囲まれた領域により半田ブリッジの発生を防止してハンダ短絡防止を行ってもよい。図２１０は図２０９（ｃ）の変形例を示す図（ａ）であり、図２０９（ｆ）の変形例を示す図（ｂ）である。なお、図２１０における図中の符号のうち図２０９と同一の構成部分については、同一の符号を付している。また、図２１０において、実線で示した矢印は、基板を半田槽に流した際にハンダが流れる方向を示し、一点鎖線で示した矢印は、基板を半田槽に流す方向を示している。

【１６８５】

本体枠側ドロワコネクタ（凹タイプ）ＤＣＮでは、図２１０（ａ）に示すように、本体枠側ドロワコネクタ（凹タイプ）ＤＣＮの各端子ＰＮが挿通されるランドＫＴＨ１と、各半田逃げパターンＫＮＰ１と、のそれぞれの形状より約３倍程度大きい形状で本体枠側中継基板ＫＢの裏面（ハンダ面）ＫＢｙにシルク印刷により囲み、この形状に囲まれた領域ＫＳＡ１’のうち、各ランドＫＴＨ１と各半田逃げパターンＫＮＰ１とを除いた領域を塗りつぶすように印刷する。また、レジストの面から見ると、シルク印刷された領域ＫＳＡ１’が小高い台地の領域となる。これにより、本体枠側中継基板ＫＢの裏面（ハンダ面）ＫＢｙを半田槽へ流すと、ハンダがレジストの上を流れてシルク印刷された領域ＫＳＡ１’という小高い台地を越えて流れる必要があるため、シルク印刷された領域ＫＳＡ１’上を流れるハンダの量を抑制することができると共に、シルク印刷された領域ＫＳＡ１’という小高い台地に形成される窪んだ領域となる各ランドＫＴＨ１と各半田逃げパターンＫＮＰ１とにハンダが流れると、窪んだ領域となる各ランドＫＴＨ１と各半田逃げパターンＫＮＰ１とからシルク印刷された領域ＫＳＡ１’という小高い台地を乗り越えることができずに留まろうとすることでハンダが分離される力が働くことにより、上下左右方向に隣り合う各端子ＰＮ及びランドＫＴＨ１と、左右方向に隣り合う半田逃げパターンＫＮＰ１と、において半田ブリッジをそれぞれ抑制することができる。

【１６８６】

また、ＤＩＰタイプの小型コネクタの各端子では、図２１０（ｂ）に示すように、ＤＩＰタイプの小型コネクタの各端子が挿通されるランドＫＴＨ２と、各半田逃げパターンＫＮＰ２と、のそれぞれの形状より約３倍程度大きい形状で本体枠側中継基板ＫＢの裏面（ハンダ面）ＫＢｙにシルク印刷により囲み、この形状に囲まれた領域ＫＳＡ２’のうち、各ランドＫＴＨ２と各半田逃げパターンＫＮＰ２とを除いた領域を塗りつぶすように印刷する。また、レジストの面から見ると、シルク印刷された領域ＫＳＡ２’が小高い台地の領域となる。これにより、本体枠側中継基板ＫＢの裏面（ハンダ面）ＫＢｙを半田槽へ流すと、ハンダがレジストの上を流れてシルク印刷された領域ＫＳＡ２’という小高い台地を越えて流れる必要があるため、シルク印刷された領域ＫＳＡ２’上を流れるハンダの量を抑制することができると共に、シルク印刷された領域ＫＳＡ２’という小高い台地に形成される窪んだ領域となる各ランドＫＴＨ２と各半田逃げパターンＫＮＰ２とにハンダが流れると、窪んだ領域となる各ランドＫＴＨ２と各半田逃げパターンＫＮＰ２とからシルク印刷された領域ＫＳＡ２’という小高い台地をハンダが留まろうとすることでハンダが分離される力が働くことにより、上下左右方向に隣り合う各端子及びランドＫＴＨ２と、左右方向に隣り合う半田逃げパターンＫＮＰ２と、において半田ブリッジをそれぞれ抑制することができる。

【１６８７】

また、上述した実施形態では、最終段の端子と半田逃げパターンとを接続して本体枠側中継基板ＫＢの裏面（ハンダ面）ＫＢｙの銅箔面にそれぞれ形成されていたが、所定距離だけ離間して形成してもよい。図２１１は、最終段の端子と半田逃げパターンとを所定距離だけ離間して形成する変形例を示す図である。

【１６８８】

本体枠側ドロワコネクタ（凹タイプ）ＤＣＮでは、図２１１（ａ）に示すように、本体枠側ドロワコネクタ（凹タイプ）ＤＣＮの最終段の端子ＰＮが挿通されるランドＫＴＨ１と

、上下方向に長く幅がランドＫＴＨ１の外径の大きさとなる矩形形状を有する半田逃げパターンＫＮＰ１’（一辺がランドＫＴＨ１の外径の大きさとなる四角形状を有するものであってもよい。）と、が所定距離（例えば、ランドＫＴＨ１の外径の３分の１から２分の１の長さ）だけ離間して本体枠側中継基板ＫＢの裏面（ハンダ面）ＫＢｙの銅箔面にそれぞれ形成されるようにしてもよい。この半田逃げパターンＫＮＰ１’は、各種配線パターンやベタグランドと電気的に接続されず、絶縁された状態となっている。

【１６８９】

ＤＩＰタイプの小型コネクタでは、図２１１（ａ）に示すように、ＤＩＰタイプの小型コネクタの最終段の端子が挿通されるランドＫＴＨ２と、左右方向に長く幅がランドＫＴＨ２の外径の大きさとなる矩形形状を有する半田逃げパターンＫＮＰ２’（一辺がランドＫＴＨ２の外径の大きさとなる四角形状を有するものであってもよい。）と、が所定距離（例えば、ランドＫＴＨ２の外径の３分の１から２分の１の長さ）だけ離間して本体枠側中継基板ＫＢの裏面（ハンダ面）ＫＢｙの銅箔面にそれぞれ形成されるようにしてもよい。この半田逃げパターンＫＮＰ２’は、各種配線パターンやベタグランドと電気的に接続されず、絶縁された状態となっている。

【１６９０】

また、本体枠側ドロワコネクタ（凹タイプ）ＤＣＮでは、図２１１（ｂ）に示すように、本体枠側ドロワコネクタ（凹タイプ）ＤＣＮの最終段の端子ＰＮが挿通されるランドＫＴＨ１と、上下方向に長く幅がランドＫＴＨ１の外径の大きさとなる矩形形状であってランドＫＴＨ１と反対側に半円形状を有する半田逃げパターンＫＮＰ１’’（一辺がランドＫＴＨ１の外径の大きさとなる四角形状を有するものであってランドＫＴＨ１と反対側に半円形状を有するものであってもよい。）と、が所定距離（例えば、ランドＫＴＨ１の外径の３分の１から２分の１の長さ）だけ離間して本体枠側中継基板ＫＢの裏面（ハンダ面）ＫＢｙの銅箔面にそれぞれ形成されるようにしてもよい。この半田逃げパターンＫＮＰ１’’は、各種配線パターンやベタグランドと電気的に接続されず、絶縁された状態となっている。

【１６９１】

ＤＩＰタイプの小型コネクタでは、図２１１（ｂ）に示すように、ＤＩＰタイプの小型コネクタの最終段の端子が挿通されるランドＫＴＨ２と、左右方向に長く幅がランドＫＴＨ２の外径の大きさとなる矩形形状であってランドＫＴＨ２と反対側に半円形状を有する半田逃げパターンＫＮＰ２’’（一辺がランドＫＴＨ２の外径の大きさとなる四角形状を有するものであってランドＫＴＨ２と反対側に半円形状を有するものであってもよい。）と、が所定距離（例えば、ランドＫＴＨ２の外径の３分の１から２分の１の長さ）だけ離間して本体枠側中継基板ＫＢの裏面（ハンダ面）ＫＢｙの銅箔面にそれぞれ形成されるようにしてもよい。この半田逃げパターンＫＮＰ２’’は、各種配線パターンやベタグランドと電気的に接続されず、絶縁された状態となっている。

【１６９２】

また、本体枠側ドロワコネクタ（凹タイプ）ＤＣＮでは、図２１１（ｃ）に示すように、本体枠側ドロワコネクタ（凹タイプ）ＤＣＮの最終段の端子ＰＮが挿通されるランドＫＴＨ１と、上下方向に長く幅がランドＫＴＨ１の外径の大きさとなる矩形形状であってランドＫＴＨ１と反対側に三角形状を有する半田逃げパターンＫＮＰ１’’’（一辺がランドＫＴＨ１の外径の大きさとなる四角形状を有するものであってランドＫＴＨ１と反対側に三角形状を有するものであってもよい。）と、が所定距離（例えば、ランドＫＴＨ１の外径の３分の１から２分の１の長さ）だけ離間して本体枠側中継基板ＫＢの裏面（ハンダ面）ＫＢｙの銅箔面にそれぞれ形成されるようにしてもよい。この半田逃げパターンＫＮＰ１’’’は、各種配線パターンやベタグランドと電気的に接続されず、絶縁された状態となっている。

【１６９３】

ＤＩＰタイプの小型コネクタでは、図２１１（ｃ）に示すように、ＤＩＰタイプの小型コネクタの最終段の端子が挿通されるランドＫＴＨ２と、左右方向に長く幅がランドＫＴＨ

２の外径の大きさとなる矩形形状であってランドＫＴＨ２と反対側に三角形状を有する半田逃げパターンＫＮＰ２’’’（一辺がランドＫＴＨ２の外径の大きさとなる四角形状を有するものであってランドＫＴＨ２と反対側に三角形状を有するものであってもよい。）と、が所定距離（例えば、ランドＫＴＨ２の外径の３分の１から２分の１の長さ）だけ離間して本体枠側中継基板ＫＢの裏面（ハンダ面）ＫＢｙの銅箔面にそれぞれ形成されるようにしてもよい。この半田逃げパターンＫＮＰ２’’’は、各種配線パターンやベタグランドと電気的に接続されず、絶縁された状態となっている。

【１６９４】

また、上述した実施形態では、最終段の端子が挿通されるランドＫＴＨ１（ＫＴＨ２）に矩形形状を有する半田逃げパターンＫＮＰ１（ＫＮＰ２）が接続されて形成されていたが、最終段の端子に接続されていない反対側の半田逃げパターンの形状を半円形状（図２１１（ｂ）の半円形状を参照。）や三角形状（図２１１（ｃ）の三角形状を参照。）としてもよい。

【１６９５】

また、実施形態では、図２０９に示したように、基板を半田槽に流す方向（つまり、図２０９（ａ）～（ｃ）の一点鎖線の矢印の方向）が予め決められていたが、この方向に加えてこの方向と反方向に基板を流すことができる場合には（つまり、基板を半田槽に両方向から流すことができる場合には）、上述したシルク印刷による対策１～対策３を施して半田ブリッジの発生を防止してハンダ短絡防止を行うようにしてもよい。この場合、流れの方向によって最終段の端子が挿通されるランドには矩形形状を有する半田逃げパターンが接続されて形成されることとなる。なお、最終段の端子に接続されていない反対側の半田逃げパターンの形状を半円形状（図２１１（ｂ）の半円形状を参照。）や三角形状（図２１１（ｃ）の三角形状を参照。）としてもよい。また、最終段の端子と半田逃げパターンとを所定距離だけ離間して形成してもよい。上述した半田逃げパターンは、基板を半田槽に流す方向に対して、コネクタの両端に形成されていればよい。また、基板設計時には基板をどの方向から流すのか解らない場合には、どちらの方向から流してもよいように両方向に上述した半田逃げパターンを形成する。

【１６９６】

因みに、従来より、遊技進行や遊技利益に関する制御を行う主制御基板、遊技の進行に伴って実行する演出に関する制御を行うサブ制御基板、画像表示装置等の表示制御を行う画像制御基板等の各種基板が裏側に配置される遊技機が提案されている（例えば、特開２０１７－２１７３８１号公報（段落［００５１］、及び図２））。ところで、この文献に記載される遊技機のように、各種基板を半田槽に流して部品の端子がハンダ付けされるものの、隣接する端子において半田ブリッジが形成されてハンダによる短絡が発生するという問題があった。

【１６９７】

［オーバーレジストによる剥離防止］

次に、オーバーレジストによる剥離防止ついて、図２１２～図２１４を参照して説明する。ここでは、まず本体枠側ドロワコネクタ（凹タイプ）ＤＣＮの各端子ＰＮに施されるオーバーレジストについて説明し、表面実装タイプのコネクタの筐体固定ランドに施されるオーバーレジストについて説明する。図２１２は本体枠側ドロワコネクタ（凹タイプ）の各端子に施されるオーバーレジストの概略図（ａ）であり、（ａ）におけるＸ－Ｘ線の断面の概略図（ｂ）である。図２１３は表面実装タイプのコネクタが実装される基板の表面（実装面）側の銅箔面の概略図（ａ）であり、基板の表面（実装面）の概略図（ｂ）である。図２１４は図２１３の続きであり、図２１３（ｂ）のＡ部の拡大図であって表面実装タイプのコネクタの筐体固定ランドに施されるオーバーレジストの概略図（ｃ）であり、（ｃ）におけるＹ－Ｙ線の断面の概略図（ｄ）である。なお、図２１２～図２１４には、各種配線パターンや基板グランド（ＧＮＤ）（以下、「ベタグランド」と記載する場合がある。）を図面の見易さから省略したものもある。

【１６９８】

［本体枠側ドロワコネクタ（凹タイプ）の各端子に施されるオーバーレジスト］
本体枠側ドロワコネクタ（凹タイプ）ＤＣＮの各端子ＰＮに施されるオーバーレジストについて説明すると、図２１２（ａ），（ｂ）に示すように、ランドを有するスルーホールＫＴＨ１（以下、単に「ランドＫＴＨ１」と記載する場合がある。）は、本体枠側中継基板ＫＢの基材ＫＢｏにスルーホールが形成されると共に、本体枠側中継基板ＫＢの表面（実装面）ＫＢｘの銅箔面と、本体枠側中継基板ＫＢの裏面（ハンダ面）ＫＢｙの銅箔面と、において銅箔を抜くことで外径ＫＴＨＤ１を有するランドがそれぞれ形成される。本実施形態では、本体枠側中継基板ＫＢの表面（実装面）ＫＢｘに形成されるランドの外径と本体枠側中継基板ＫＢの裏面（ハンダ面）ＫＢｙに形成されるランドの外径とが外径ＫＴＨＤ１であり同一の大きさとなっている。

【１６９９】
本体枠側中継基板ＫＢの表面（実装面）ＫＢｘの銅箔面の上には、レジスト液が塗布されて表面（実装面）側レジスト層ＫＢｘｒが形成されているものの、表面（実装面）側レジスト層ＫＢｘｒのうちランドＫＴＨ１と対応する領域には、ランドＫＴＨ１の外径ＫＴＨＤ１より小さい開口径ＫＢｘｒＤ１を有する表面（実装面）側レジスト開口部ＫＢｘｒａが形成されている。また、本体枠側中継基板ＫＢの裏面（ハンダ面）ＫＢｙの銅箔面上には、レジスト液が塗布されて裏面（ハンダ面）側レジスト層ＫＢｙｒが形成されているものの、裏面（ハンダ面）側レジスト層ＫＢｙｒのうちランドＫＴＨ１と対応する領域には、ランドＫＴＨ１の外径ＫＴＨＤ１より小さい開口径ＫＢｙｒＤ１を有する裏面（ハンダ面）側レジスト開口部ＫＢｙｒａが形成されている。

【１７００】
本実施形態では、表面（実装面）側レジスト開口部ＫＢｘｒａの開口径ＫＢｘｒＤ１と裏面（ハンダ面）側レジスト開口部ＫＢｙｒａの開口径ＫＢｙｒＤ１とが同一の大きさとなっている。なお、本体枠側中継基板ＫＢの表面（実装面）ＫＢｘに形成される基板グランド（ＧＮＤ）（つまり、ベタグランド）と本体枠側中継基板ＫＢの裏面（ハンダ面）ＫＢｙに形成される基板グランド（ＧＮＤ）（つまり、ベタグランド）とは図示しないスルーホールにより電気的に接続されて同一のグランド（ＧＮＤ）となっている。

【１７０１】
このように、本体枠側中継基板ＫＢの表面（実装面）ＫＢｘにおいて、表面（実装面）側レジスト層ＫＢｘｒのうちランドＫＴＨ１と対応する領域には、ランドＫＴＨ１の外径ＫＴＨＤ１より小さい開口径ＫＢｘｒＤ１を有する表面（実装面）側レジスト開口部ＫＢｘｒａが形成されているため、ランドＫＴＨ１の外径ＫＴＨＤ１の外周からランドＫＴＨ１の中心へ向かってランドＫＴＨ１の外周部分がレジストにより被さった状態となるオーバーレジストが施されている。これにより、本体枠側中継基板ＫＢの表面（実装面）ＫＢｘにおいて、ランドＫＴＨ１の外周部分全体にレジストが被さった状態とすることができるため、高い剥離強度をランドＫＴＨ１に対する多方向からの負荷に対して一様とすることができる。

【１７０２】
また、本体枠側中継基板ＫＢの裏面（ハンダ面）ＫＢｙにおいて、裏面（ハンダ面）側レジスト層ＫＢｙｒのうちランドＫＴＨ１と対応する領域には、ランドＫＴＨ１の外径ＫＴＨＤ１より小さい開口径ＫＢｙｒＤ１を有する裏面（ハンダ面）側レジスト開口部ＫＢｙｒａが形成されているため、ランドＫＴＨ１の外径ＫＴＨＤ１の外周からランドＫＴＨ１の中心へ向かってランドＫＴＨ１の外周部分がレジストにより被さった状態となるオーバーレジストが施されている。これにより、本体枠側中継基板ＫＢの裏面（ハンダ面）ＫＢｙにおいて、ランドＫＴＨ１の外周部分全体にレジストが被さった状態とすることができるため、高い剥離強度をランドＫＴＨ１に対する多方向からの負荷に対して一様とすることができる。

【１７０３】
本体枠側中継基板ＫＢの基材ＫＢｏの表面及び裏面は銅箔面が接着されて形成されるものの、基材ＫＢｏと銅箔面との接着と比べて、銅箔面に形成されるランドＫＴＨ１とハンダ

との接合の方が強い。
【１７０４】
ところで、本体枠側ドロワコネクタ（凹タイプ）ＤＣＮを本体枠側中継基板ＫＢに固定する場合には、上述したように、リベットを用いていた。これは、ドロワコネクタを利用することで、遊技盤５を本体枠４に装着するだけで自動的に本体枠４と遊技盤５との電気的接続を行うことができるものの、遊技盤５を本体枠４に装着する際に、遊技盤５の遊技盤側ドロワコネクタ（凸タイプ）から本体枠側ドロワコネクタ（凹タイプ）ＤＣＮの箱状本体ＤＣＮａに大きな力が付与される場合があるため、この大きな力により本体枠側ドロワコネクタ（凹タイプ）ＤＣＮにおけるピンタイプの各端子ＰＮが本体枠側中継基板ＫＢの裏面（ハンダ面）においてハンダ付けされた面が剥離することを防止するためである。
【１７０５】
しかし、ドロワコネクタを利用することで、本体枠側ドロワコネクタ（凹タイプ）ＤＣＮに外力が付与されることとなるため、本体枠側中継基板ＫＢの表面（実装面）ＫＢｘの銅箔面や本体枠側中継基板ＫＢの裏面（ハンダ面）ＫＢｘの銅箔面に形成されるランドＫＴＨ１が基材ＫＢｏから剥離したり、銅箔面に形成される各種配線パターンがランドＫＴＨ１と共に基材ＫＢｏから剥離したりする場合がある。
【１７０６】
そこで、本実施形態では、本体枠側中継基板ＫＢの表面（実装面）ＫＢｘと本体枠側中継基板ＫＢの裏面（ハンダ面）ＫＢｙとにおいて、さらに、ランドＫＴＨ１に対してオーバーレジストを施して銅箔面に形成される銅箔が基材ＫＢｏから剥離しないように剥離強度を高めることによって、ドロワコネクタを利用することで遊技盤５の装着や取り外しによる本体枠側ドロワコネクタ（凹タイプ）ＤＣＮに外力が加わっても、本体枠側中継基板ＫＢの表面（実装面）ＫＢｘの銅箔面や本体枠側中継基板ＫＢの裏面（ハンダ面）ＫＢｘの銅箔面に形成されるランドＫＴＨ１が基材ＫＢｏから剥離したり、銅箔面に形成される各種配線パターンがランドＫＴＨ１と共に基材ＫＢｏから剥離したりすることを確実に防止することができるようになっている。
【１７０７】
なお、オーバーレジストが施されているランドＫＴＨ１の外径ＫＴＨＤ１は、ランドＫＴＨ１に本体枠側ドロワコネクタ（凹タイプ）ＤＣＮの各端子ＰＮが挿通されてハンダ付けされる領域を加味されていると共に、オーバーレジストが施されてないランドの外径と比べると大きいものとなっている。これは、本体枠側ドロワコネクタ（凹タイプ）ＤＣＮの端子ＰＮがオーバーレジストが施されているランドＫＴＨ１にハンダ付けされた場合における接合面積は、本体枠側ドロワコネクタ（凹タイプ）ＤＣＮの端子ＰＮがオーバーレジストが施されてないランドにハンダ付けされた場合における接合面積以上とするためである。これにより、オーバーレジストが施されているランドＫＴＨ１への接合強度を、オーバーレジストが施されてないランドへの接合強度以上とすることができる。
【１７０８】
また、オーバーレジストの有無により、端子が挿通されるランドの外径が同一であっても、オーバーレジストを施さない場合には通常のサイズの外径を有するランドと、オーバーレジストを施す場合には通常サイズの外径より大きい外径を有するランドと、を基板設計段階で用意する必要があり、設計者が誤ってオーバーレジストを施すランドに対して、オーバーレジストを施さないランドを配置すると、端子とランドとの接合が不十分となりハンダ不良が発生する場合があるという問題がある。
【１７０９】
そこで、本実施形態では、オーバーレジストの有無に関係なく、オーバーレジストが施されるランドが１つでも存在する基板（例えば、本体枠側中継基板ＫＢ）に対しては、すべてのランドに対して、オーバーレジストを施すランドと同一のランドを、オーバーレジストを施さないランドとして、配置している。これにより、端子とランドとの接合が十分となりハンダ不良の発生を確実に防止することができる。
【１７１０】

なお、本体枠４の本体枠側ドロワコネクタ（凹タイプ）ＤＣＮに案内される遊技盤５の遊技盤側ドロワコネクタ（凸タイプ）が実装される図示しない遊技盤側中継基板に対しても、ランドに対して上述したオーバーレジストが施されている。また、本体枠側ドロワコネクタ（凹タイプ）ＤＣＮとは別にもう一つ図示しない本体枠側ドロワコネクタ（凹タイプ）ＤＣＮ’が本体枠側中継基板ＫＢとは別に図示しない本体枠側中継基板ＫＢ’に設けられており、この図示しない図示しない本体枠側中継基板ＫＢ’に対しても、ランドに対して上述したオーバーレジストが施されている。また、本体枠４の図示しない本体枠側ドロワコネクタ（凹タイプ）ＤＣＮ’に案内される他の遊技盤側ドロワコネクタ（凸タイプ）（この他の遊技盤ドロワコネクタ（凸タイプ）は、本体枠側ドロワコネクタ（凹タイプ）ＤＣＮと電気的に接続される遊技盤５の遊技盤側ドロワコネクタ（凸タイプ）と異なるものである。）が実装される図示しない他の遊技盤側中継基板（この他の遊技盤側中継基板は、本体枠４の本体枠側ドロワコネクタ（凹タイプ）ＤＣＮに案内される遊技盤５の遊技盤側ドロワコネクタ（凸タイプ）が実装される図示しない遊技盤側中継基板と異なるものである。）に対しても、ランドに対して上述したオーバーレジストが施されている。

【１７１１】

本実施形態では、本体枠側中継基板ＫＢの表面（実装面）ＫＢｘに形成されるランドの外径と本体枠側中継基板ＫＢの裏面（ハンダ面）ＫＢｙに形成されるランドの外径とが外径ＫＴＨＤ１であり同一の大きさとなっているが、本体枠側中継基板ＫＢの表面（実装面）ＫＢｘの銅箔面に形成されるランドの外径と比べて、本体枠側中継基板ＫＢの裏面（ハンダ面）ＫＢｙの銅箔面に形成されるランドの外径を大きくしてもよいし、小さくしてもよい。また、本実施形態では、表面（実装面）側レジスト開口部ＫＢｘｒａの開口径ＫＢｘｒＤ１と裏面（ハンダ面）側レジスト開口部ＫＢｙｒａの開口径ＫＢｙｒＤ１とが同一の大きさとなっているが、表面（実装面）側レジスト開口部ＫＢｘｒａの開口径ＫＢｘｒＤ１と比べて、裏面（ハンダ面）側レジスト開口部ＫＢｙｒａの開口径ＫＢｙｒＤ１を大きくしてもよいし、小さくしてもよい。

【１７１２】

［変形例］

なお、上述した実施形態では、オーバーレジストの有無に関係なく、オーバーレジストが施されるランドが１つでも存在する基板（例えば、本体枠側中継基板ＫＢ）に対しては、すべてのランドに対して、オーバーレジストを施すランドと同一のランドを、オーバーレジストを施さないランドとして、を配置したが、オーバーレジストを施さない場合には通常のサイズの外径を有するランド（つまり、オーバーレジストが施されているランドＫＴＨ１の外径ＫＴＨＤ１より小さい通常のサイズの外径を有するランド）を配置してもよい。つまり、オーバーレジストが施されるランドと、オーバーレジストを施さない場合には通常のサイズの外径を有するランドと、が混在してもよい。この場合、オーバーレジストの有無により、端子が挿通されるランドの外径が同一であっても、オーバーレジストを施さない場合には通常のサイズの外径を有するランドと、オーバーレジストを施す場合には通常サイズの外径より大きい外径を有するランドと、を基板設計段階で用意する必要がある。

【１７１３】

［表面実装タイプのコネクタの筐体固定ランドに施されるオーバーレジス］

基板ＫＣに実装される表面実装タイプのコネクタＫＣＮの筐体固定パッドＫＳＰＦに施されるオーバーレジストについて説明すると、図２１３（ａ），（ｂ）、及び図２１４（ｃ），（ｄ）に示すように、表面実装タイプのコネクタＫＣＮの各端子（例えば、６つの端子を有する。）がハンダ付けされる上下方向に細長い矩形形状を有するパッドＫＳＰ、各パッドＫＳＰとそれぞれ接続される各種配線パターン、表面実装タイプのコネクタＫＣＮの筐体の両側（左側と右側とにそれぞれ設けられる金属製の筐体固定部）を基板ＫＣの表面（実装面）にハンダ付けされて固定される上下方向に長い矩形形状を有する筐体固定パッドＫＳＰＦは、基板ＫＣの表面（実装面）ＫＣｘの銅箔面ＫＣｘｐにおいて銅箔を抜くことで各パッドＫＳＰ、各パッドＫＳＰと接続される各種配線パターン、各筐体固定パッ

ドＫＳＰＦがそれぞれ形成される。表面実装タイプのコネクタＫＣＮの筐体は、非導電性の樹脂により形成されている。表面実装タイプのコネクタＫＣＮの筐体の両側（左側と右側と）に金属製の筐体固定部が設けられている。

【１７１４】

各パッドＫＳＰ、各パッドＫＳＰと接続される各種配線パターンの周囲ＫＣｘａは、基板ＫＣの表面（実装面）ＫＣｘの銅箔面ＫＣｘｐにおいて銅箔を抜くことで基板グランド（ＧＮＤ）（つまり、ベタグランド）から電気的に接続されずに絶縁されている。これに対して、各筐体固定パッドＫＳＰＦの周囲のうち各筐体固定パッドＫＳＰＦの四隅は、基板ＫＣの表面（実装面）ＫＣｘの銅箔面ＫＣｘｐにおいて銅箔を抜くことで各筐体固定パッドＫＳＰＦが十字形状のパターンを介して基板グランド（ＧＮＤ）（つまり、ベタグランド）と電気的に接続されるサーマルパターンＫＣｘｂが施されている。このサーマルパターンＫＣｘｂにより、表面実装タイプのコネクタＫＣＮの筐体の両側（左側と右側とにそれぞれ設けられる金属製の筐体固定部）を基板ＫＣの表面（実装面）ＫＣｘの各筐体固定パッドＫＳＰＦにハンダ付けする際にハンダを溶かす熱が各筐体固定パッドＫＳＰＦの外周から奪われないようにすることができる。なお、表面実装タイプのコネクタＫＣＮの筐体の筐体の両側（左側と右側とにそれぞれ設けられる金属製の筐体固定部）を基板ＫＣの表面（実装面）ＫＣｘの各筐体固定パッドＫＳＰＦにハンダ付けされることにより、表面実装タイプのコネクタＫＣＮの各端子が単に基板ＫＣにハンダ付けされる場合と比べて、表面実装タイプのコネクタＫＣＮの基板ＫＣへの固定を強化することができるし、表面実装タイプのコネクタＫＣＮの筐体の筐体の両側（左側と右側とにそれぞれ設けられる金属製の筐体固定部）が基板ＫＣの基板グランド（ＧＮＤ）と電気的に接続され、表面実装タイプのコネクタＫＣＮの各端子に接続された信号に対してシールド効果を高めることもできる。

【１７１５】

基板ＫＣの表面（実装面）ＫＣｘの銅箔面ＫＣｘｐの上には、レジスト液が塗布されて表面（実装面）側レジスト層ＫＣｘｒが形成されているものの、表面（実装面）側レジスト層ＫＣｘｒのうち、各パッドＫＳＰと対応する領域には、各パッドＫＳＰと同一の形状を有するパッド用表面（実装面側）側レジスト開口部が形成されると共に、各筐体固定パッドＫＳＰＦと対応する領域には、各筐体固定パッドＫＳＰＦの矩形形状より小さい開口矩形形状を有する筐体固定パッド用表面（実装面）側レジスト開口部ＫＣｘｒａが形成されている。また、基板ＫＣの裏面（ハンダ面）ＫＣｙの銅箔面上には、レジスト液が塗布されて裏面（ハンダ面）側レジスト層ＫＣｙｒが形成されている。

【１７１６】

なお、基板ＫＣの表面（実装面）ＫＣｘに形成される基板グランド（ＧＮＤ）（つまり、ベタグランド）と基板ＫＣの裏面（ハンダ面）ＫＣｙに形成される基板グランド（ＧＮＤ）（つまり、ベタグランド）とは図示しないスルーホールにより電気的に接続されて同一のグランド（ＧＮＤ）となっている。

【１７１７】

このように、基板ＫＣの表面（実装面）ＫＣｘにおいて、表面（実装面）側レジスト層ＫＣｘｒのうち筐体固定パッドＫＳＰＦと対応する領域には、筐体固定パッドＫＳＰＦの矩形形状より小さい開口矩形形状を有する筐体固定パッド用表面（実装面）側レジスト開口部ＫＣｘｒａが形成されているため、筐体固定パッドＫＳＰＦの矩形形状の外周から筐体固定パッドＫＳＰＦの内側へ向かって筐体固定パッドＫＳＰＦの外周部分がレジストにより被さった状態となるオーバーレジストが施されている。これにより、基板ＫＣの表面（実装面）ＫＣｘにおいて、各筐体固定パッドＫＳＰＦの外周部分全体にレジストが被さった状態とすることができるため、高い剥離強度を各筐体固定パッドＫＳＰＦに対する多方向からの負荷に対して一様とすることができる。

【１７１８】

基板ＫＣの基材ＫＣｏの表面及び裏面は銅箔面が接着されて形成されるものの、基材ＫＣｏと銅箔面との接着と比べて、銅箔面に形成される各パッドＫＳＰや各筐体固定パッドＫ

ＳＰＦとハンダとの接合の方が強い。
【１７１９】
ところで、表面実装タイプのコネクタＫＣＮが実装される基板ＫＣとして、本実施形態では、例えば、主制御基板１３１０、払出制御基板６３３等の基板を挙げることができる。主制御基板１３１０、払出制御基板６３３等の基板に備える各種コネクタに接続される各種配線やハーネスは、パチンコ機１に積もった塵埃やタバコのヤニを取り除く作業を行う場合、各種点検を行う場合等、遊技ホールの店員等の係員により取り外した後に作業後に再び接続される。ところが、このような作業を行う遊技ホールの店員等の係員は、基板の扱いに不慣れな場合がほとんどであり、コネクタから各種配線やハーネスを取り外すときや、各種配線やハーネスをコネクタに接続するときには、力任せで（つまり、過度な力で）行う場合がある。
【１７２０】
そうすると、主制御基板１３１０、払出制御基板６３３等の基板ＫＣに備える複数のコネクタのうち、ＤＩＰタイプのコネクタもあれば、表面実装タイプのコネクタもあるため、例えば、上述した表面実装タイプのコネクタＫＣＮを基板ＫＣに実装して使用する場合には、遊技ホールの店員等の係員が上述した作業を行うと、表面実装タイプのコネクタＫＣＮへのハーネスの挿抜時に伴う力が表面実装タイプのコネクタＫＣＮに付与されるため、この大きな力により表面実装タイプのコネクタＫＣＮの筐体の両側（左側と右側とにそれぞれ設けられる金属製の筐体固定部）が基板ＫＣの表面（実装面）ＫＣｘの銅箔面ＫＣｘｐに形成される各筐体固定パッドＫＳＰＦが基材ＫＣｏから剥離し、これにともない、基板ＫＣの表面（実装面）ＫＣｘの銅箔面ＫＣｘｐに形成される各パッドＫＳＰが基材ＫＣｏから剥離したり、銅箔面ＫＣｘｐに形成される各種配線パターンが各パッドＫＳＰと共に基材ＫＣｏから剥離したりする場合がある。
【１７２１】
そこで、本実施形態では、基板ＫＣの表面（実装面）ＫＣｘにおいて、筐体固定パッドＫＳＰＦに対してオーバーレジストを施して銅箔面ＫＣｘｐに形成される銅箔が基材ＫＣｏから剥離しないように剥離強度を高めることによって、表面実装タイプのコネクタＫＣＮへのハーネスの挿抜時に伴う力が表面実装タイプのコネクタＫＣＮに付与されても、基板ＫＣの表面（実装面）ＫＣｘの銅箔面ＫＣｘｐに形成される筐体固定パッドＫＳＰＦが基材ＫＣｏから剥離せず、これにともない、基板ＫＣの表面（実装面）ＫＣｘの銅箔面ＫＣｘｐに形成される各パッドＫＳＰが基材ＫＣｏから剥離したり、銅箔面ＫＣｘｐに形成される各種配線パターンが各パッドＫＳＰと共に基材ＫＣｏから剥離したりすることを確実に防止することができるようになっている。
【１７２２】
［変形例］
なお、本実施形態では、外力が付与される表面実装タイプのコネクタＫＣＮが実装される基板ＫＣの筐体固定パッドＫＳＰＦに対して上述したオーバーレジストが施されていたが、主制御基板１３１０、払出制御基板６３３等の基板のほかに、各種配線やハーネスが挿抜される表面実装タイプのコネクタが実装される場合には、周辺制御基板１５１０、電源基板６３０、インターフェイス基板６３５、各種装飾基板、各種中継基板、各種駆動基板等の基板の筐体固定パッドに対して上述したオーバーレジストが施されていてもよいし、電気的駆動源の駆動により作動する可動体に基板が設けられる場合であって可動体の作動にともない可動体の基板と電気的に接続される配線やハーネスによる負荷が可動体の基板に付与される場合には、表面実装タイプのコネクタが実装される可動体の基板の筐体固定パッドに対して上述したオーバーレジストが施されていてもよいし、押圧操作部を有する各種スイッチであって基板の表面（実装面）に実装される表面実装タイプのものである場合には各種スイッチを固定するための基板の筐体固定パッドに対して上述したオーバーレジストが施されていてもよいし、何らかの外力が基板に付与される場合であって抵抗、コンデンサ、ダイオード、トランジスタ、ＩＣ等のリードタイプや表面実装タイプの電子部品の各種端子がハンダ付けされる基板のパッドに対して上述したオーバーレジストが施さ

れていてもよい。
【１７２３】
また、上述した実施形態では、基板ＫＣの表面（実装面）ＫＣｘにおいて、表面（実装面）側レジスト層ＫＣｘｒのうち筐体固定パッドＫＳＰＦと対応する領域には、筐体固定パッドＫＳＰＦの矩形形状より小さい開口矩形形状を有する筐体固定パッド用表面（実装面）側レジスト開口部ＫＣｘｒａが形成されているため、筐体固定パッドＫＳＰＦの矩形形状の外周から筐体固定パッドＫＳＰＦの内側へ向かって筐体固定パッドＫＳＰＦの外周部分がレジストにより被さった状態となるオーバーレジストが施されていたが、筐体固定パッドＫＳＰＦにオーバーレジストを施さず、筐体固定パッドＫＳＰＦの周囲にランドを有するスルーホールを複数形成して、各ランドにオーバーレジストを施すようにしてもよい。図２１５は変形例における表面実装タイプのコネクタが実装される基板の表面（実装面）側の銅箔面の概略図（ａ）であり、基板の表面（実装面）の概略図（ｂ）である。図２１６は図２１５の続きであり、図２１５（ｂ）のＢ部の拡大図であって表面実装タイプのコネクタの筐体固定ランドに施されるオーバーレジストの概略図（ｃ）であり、（ｃ）におけるＺ－Ｚ線の断面の概略図（ｄ）である。なお、図２１５及び図２１６には、各種配線パターンや基板グランド（ＧＮＤ）（以下、「ベタグランド」と記載する場合がある。）を図面の見易さから省略したものもある。
【１７２４】
筐体固定パッドＫＳＰＦにオーバーレジストを施さず、筐体固定パッドＫＳＰＦの周囲にランドを有するスルーホールを複数形成して、各ランドにオーバーレジストを施す変形例について説明すると、図２１５（ａ），（ｂ）、及び図２１６（ｃ），（ｄ）に示すように、表面実装タイプのコネクタＫＣＮの各端子（例えば、６つの端子を有する。）がハンダ付けされる上下方向に細長い矩形形状を有するパッドＫＳＰ、各パッドＫＳＰとそれぞれ接続される各種配線パターン、表面実装タイプのコネクタＫＣＮの筐体の両側（左側と右側とにそれぞれ設けられる金属製の筐体固定部）を基板ＫＣの表面（実装面）にハンダ付けされて固定される上下方向に長い矩形形状を有する筐体固定パッドＫＳＰＦ、ランドを有する複数のスルーホールＫＣＴＨ（以下、単に「ランドＫＣＴＨ」と記載する場合がある。）、筐体固定パッドＫＳＰＦとランドＫＣＴＨとベタグランドとを接続するベタグランド接続用配線パターンは、基板ＫＣの表面（実装面）ＫＣｘの銅箔面ＫＣｘｐにおいて銅箔を抜くことで各パッドＫＳＰ、各パッドＫＳＰと接続される各種配線パターン、各筐体固定パッドＫＳＰＦ、各ランドＫＣＴＨ、各ベタグランド接続用配線パターンがそれぞれ形成される。また、各ランドＫＣＴＨは、基板ＫＣの裏面（ハンダ面）ＫＣｙの銅箔面において銅箔を抜くことでそれぞれ形成される。本変形例では、基板ＫＣの表面（実装面）ＫＣｘに形成されるランドの外径と基板ＫＣの裏面（ハンダ面）ＫＣｙに形成されるランドの外径とが同一の大きさとなっている。なお、筐体固定パッドＫＳＰＦとランドＫＣＴＨとベタグランドとを接続するベタグランド接続用配線パターンは、筐体固定パッドＫＳＰＦのサーマルパターンとしての機能も有している。
【１７２５】
右側の筐体固定パッドＫＳＰＦに対しては、上下方向に沿って等間隔に３つのランドＫＣＴＨが配置され列が２列、筐体固定パッドＫＳＰＦの右方に隣り合うように配置されている。左側の筐体固定パッドＫＳＰＦに対しては、上下方向に沿って等間隔に３つのランドＫＣＴＨが配置され列が２列、筐体固定パッドＫＳＰＦの右方に隣り合うように配置されている。
【１７２６】
基板ＫＣの表面（実装面）ＫＣｘの銅箔面ＫＣｘｐの上には、レジスト液が塗布されて表面（実装面）側レジスト層ＫＣｘｒが形成されているものの、表面（実装面）側レジスト層ＫＣｘｒのうちランドＫＣＴＨと対応する領域には、ランドＫＣＴＨの外径より小さい開口径を有する表面（実装面）側レジスト開口部ＫＣｘｒａが形成されている。また、基板ＫＣの裏面（ハンダ面）ＫＣｙの銅箔面上には、レジスト液が塗布されて裏面（ハンダ面）側レジスト層ＫＣｙｒが形成されているものの、裏面（ハンダ面）側レジスト層ＫＣ

ｙｒのうちランドＫＣＴＨと対応する領域には、ランドＫＣＴＨの外径より小さい開口径を有する裏面（ハンダ面）側レジスト開口部ＫＣｙｒａが形成されている。本変形例では、表面（実装面）側レジスト開口部ＫＣｘｒａの開口径と裏面（ハンダ面）側レジスト開口部ＫＣｙｒａの開口径とが同一の大きさとなっている。なお、基板ＫＣの表面（実装面）ＫＣｘに形成される基板グランド（ＧＮＤ）（つまり、ベタグランド）と基板ＫＣの裏面（ハンダ面）ＫＣｙに形成される基板グランド（ＧＮＤ）（つまり、ベタグランド）とは図示しないスルーホールにより電気的に接続されて同一のグランド（ＧＮＤ）となっている。

【１７２７】

このように、基板ＫＣの表面（実装面）ＫＣｘにおいて、表面（実装面）側レジスト層ＫＣｘｒのうちランドＫＣＴＨと対応する領域には、ランドＫＣＴＨの外径より小さい開口径を有する表面（実装面）側レジスト開口部ＫＢｘｒａが形成されているため、ランドＫＣＴＨの外径の外周からランドＫＣＴＨの中心へ向かってランドＫＣＴＨの外周部分がレジストにより被さった状態となるオーバーレジストが施されている。また、基板ＫＣの裏面（ハンダ面）ＫＣｙにおいて、裏面（ハンダ面）側レジスト層ＫＣｙｒのうちランドＫＣＴＨと対応する領域には、ランドＫＣＴＨの外径より小さい開口径を有する裏面（ハンダ面）側レジスト開口部ＫＣｙｒａが形成されているため、ランドＫＣＴＨの外径の外周からランドＫＣＴＨの中心へ向かってランドＫＣＴＨの外周部分がレジストにより被さった状態となるオーバーレジストが施されている。これにより、各ランドＫＣＴＨに対してオーバーレジストを施して銅箔面ＫＣｘｐに形成される銅箔が基材ＫＣｏから剥離しないように剥離強度を高めることができる。

【１７２８】

右側の筐体固定パッドＫＳＰＦには、上述したように、上下方向に沿って等間隔に３つのランドＫＣＴＨが配置される列が２列、右側の筐体固定パッドＫＳＰＦの右方に隣り合うように配置されていると共に、左側の筐体固定パッドＫＳＰＦには、上述したように、上下方向に沿って等間隔に３つのランドＫＣＴＨが配置される列が２列、左側の筐体固定パッドＫＳＰＦの左方に隣り合うように配置されている。これにより、筐体固定パッドＫＳＰＦにオーバーレジストを施していなくても、各ランドＫＣＴＨにオーバーレジストを施しているため、筐体固定パッドＫＳＰＦと各ランドＫＣＴＨとが上述したベタグランド接続用配線パターンで接続されていることで、表面実装タイプのコネクタＫＣＮへのハーネスの挿抜時に伴う力が表面実装タイプのコネクタＫＣＮに付与されても、基板ＫＣの表面（実装面）ＫＣｘの銅箔面ＫＣｘｐに形成される筐体固定パッドＫＳＰＦが基材ＫＣｏから剥離しようとすると、これにともない、基板ＫＣの表面（実装面）ＫＣｘの銅箔面ＫＣｘｐに形成される各ランドＫＣＴＨによる剥離強度が高められていることにより筐体固定パッドＫＳＰＦが基材ＫＣｏから剥離し難くすることができる。

【１７２９】

なお、本変形例では、基板ＫＣの表面（実装面）ＫＣｘに形成されるランドの外径と基板ＫＣの裏面（ハンダ面）ＫＣｙに形成されるランドの外径とが同一の大きさとなっているが、基板ＫＣの表面（実装面）ＫＣｘの銅箔面ＫＣｘｐに形成されるランドの外径と比べて、基板ＫＣの裏面（ハンダ面）ＫＣｙの銅箔面に形成されるランドの外径を大きくしてもよいし、小さくしてもよい。また、本変形例では、表面（実装面）側レジスト開口部ＫＢｘｒａの開口径と裏面（ハンダ面）側レジスト開口部ＫＢｙｒａの開口径とが同一の大きさとなっているが、表面（実装面）側レジスト開口部ＫＢｘｒａの開口径と比べて、裏面（ハンダ面）側レジスト開口部ＫＢｙｒａの開口径を大きくしてもよいし、小さくしてもよい。

【１７３０】

また、本変形例では、右側の筐体固定パッドＫＳＰＦには、上述したように、上下方向に沿って等間隔に３つのランドＫＣＴＨが配置される列が２列、右側の筐体固定パッドＫＳＰＦの右方に隣り合うように配置されていると共に、左側の筐体固定パッドＫＳＰＦには、上述したように、上下方向に沿って等間隔に３つのランドＫＣＴＨが配置される列が２

列、左側の筐体固定パッドＫＳＰＦの左方に隣り合うように配置されているが、これに代えて又はこれと共に、右側の筐体固定パッドＫＳＰＦには、上下方向に沿って等間隔に２つのランドＫＣＴＨが配置される列が２列、右側の筐体固定パッドＫＳＰＦの上方又は／及び下方に隣り合うように配置してもよいし、左側の筐体固定パッドＫＳＰＦには、上下方向に沿って等間隔に２つのランドＫＣＴＨが配置される列が２列、左側の筐体固定パッドＫＳＰＦの上方又は／及び下方に隣り合うように配置してもよい。

【１７３１】

因みに、従来より、遊技進行や遊技利益に関する制御を行う主制御基板、遊技の進行に伴って実行する演出に関する制御を行うサブ制御基板、画像表示装置等の表示制御を行う画像制御基板等の各種基板が裏側に配置される遊技機が提案されている（例えば、特開２０１７－２１７３８１号公報（段落［００５１］、及び図２）。ところで、この文献に記載される遊技機のように、各種基板に設けられるコネクタには、配線の挿抜による負荷がかかるため、例えば、基板の扱いに不慣れな者がコネクタから配線を取り外すときや、配線をコネクタに接続するときに、過度な力で行う場合があり、コネクタへの負荷により基板の銅箔が剥離するという問題があった。

【１７３２】

［周辺制御ユニットの構成］

次に、遊技盤５に備える遊技パネル１１００の後側に配置される周辺制御ユニット１５００の全体構成について、図２１７～図２１９を参照して詳細に説明する。図２１７は周辺制御ユニットの正面分解斜視図であり、図２１８は周辺制御ユニットの背面分解斜視図であり、図２１９は周辺制御ユニットの正面図である。ここでは、パチンコ機１の背面側を周辺制御ユニット１５００の正面側として説明する。なお、図２１８には、各種コネクタの端子が周辺制御基板１５１０の表面（実装面）１５１０ｘから裏面（ハンダ面）１５１０ｙへ挿通され、各種コネクタの端子が周辺制御基板１５１０の裏面（ハンダ面）１５１０ｙから突出しているが、図面の見易さから省略した。

【１７３３】

周辺制御ユニット１５００は、図２１７及び図２１８に示すように、後方が開口されると共に上下方向と比べて左右方向に長いボックス形状を有するカバー体１５０１と、遊技の進行を制御する主制御ユニット１３００の主制御基板１３１０からのコマンドに基づいて演出の進行を制御することができる周辺制御基板１５１０と、周辺制御基板１５１０と電気的に接続される周辺データＲＯＭ基板１５２０と、周辺制御基板１５１０と電気的に接続される液晶出力基板１５３０と、カバー体１５０１の開口を塞ぐベース体１５０２と、を備えている。カバー体１５０１の内部空間内には、周辺制御基板１５１０、周辺データＲＯＭ基板１５２０、及び液晶出力基板１５３０等の各種基板がそれぞれ所定位置に取り付けられ、カバー体１５０１の開口をベース体１５０２により塞ぐことにより、カバー体１５０１とベース体１５０２とによる周辺制御基板ボックス１５０５（封印基板ボックス）が構成されている。

【１７３４】

［カバー体］

カバー体１５０１の内部空間内に取り付けられる各種基板には、周辺制御基板１５１０のほかに、周辺制御基板１５１０の制御対象となっている各種の制御情報（周辺データ）を記憶することができる周辺データＲＯＭ基板１５２０と、演出表示装置１６００に画像を描画するための描画データを出力することができる液晶出力基板１５３０と、がある。周辺制御基板１５１０は、カバー体１５０１を背面から見て、約３分の２の領域を有する横長の長方形状を有し、カバー体１５０１の左側に詰めて配置されている。周辺データＲＯＭ基板１５２０と液晶出力基板１５３０とは、カバー体１５０１を背面から見て、残り約３分の１の領域のうち、周辺データＲＯＭ基板１５２０が正方形状を有してカバー体１５０１の右上側に配置されている一方、液晶出力基板１５３０が周辺データＲＯＭ基板１５２０と比べて二回り大きい正方形状を有してカバー体１５０１の右下側に配置されている。

【１７３５】

周辺制御基板１５１０と周辺データＲＯＭ基板１５２０との基板間は、後述する基板間コネクタにより電気的に接続され、周辺制御基板１５１０と液晶出力基板１５３０との基板間は、後述する基板間コネクタにより電気的に接続されている。これにより、周辺制御基板１５１０のグランド（ＧＮＤ）ラインと、周辺データＲＯＭ基板１５２０のグランド（ＧＮＤ）ラインと、液晶出力基板１５３０のグランド（ＧＮＤ）ラインと、が電気的に接続され、同一のグランド（ＧＮＤ）となっている。なお、周辺制御基板１５１０、周辺データＲＯＭ基板１５２０、及び液晶出力基板１５３０のグランド（ＧＮＤ）ラインは、本体枠４の基板ユニット６２０における電源基板６３０のグランド（ＧＮＤ）ラインと電気的に接続されている。

【１７３６】

カバー体１５０１は、ポリカーボネートにカーボンを含有した導電性の樹脂製であり、不透明な黒色に成型され、その正面から見て、横長の長方形状のカバー平板１５０１ａ（板厚：２ｍｍ）の上辺、左辺、下辺、及び右辺にカバー側壁１５０１ｂ～１５０１ｅが後方（パチンコ機１の正面側）へ向かってそれぞれ突設されることにより開口を有するボックス形状に形成されている。

【１７３７】

カバー平板１５０１ａは、その正面から見て、その中央やや右上側であって、カバー平板１５０１ａの裏面側に取り付けられる周辺制御基板１５１０に備える周辺制御ＩＣ１５１０ａと対応する位置に、空冷ファンＦＡＮを取り付けるための正方形状を有するＦＡＮ取付凹部１５０１ａａがカバー体１５０１の開口側へ向かって突出されて形成されている。ＦＡＮ取付凹部１５０１ａａの底面には、この底面の上下左右方向の中心を中心点とする複数の同心円上に沿って、円弧形状のスリット孔１５０１ａａａが複数それぞれ形成されている。またＦＡＮ取付凹部１５０１ａａの底面の四隅には、正方形状を有する空冷ファンＦＡＮの四隅に形成される貫通孔ｔｈ１～ｔｈ４と対応する位置に、この貫通孔ｔｈ１～ｔｈ４に挿通される円柱形状の所定高さ（空冷ファンＦＡＮの奥行き方向の距離寸法より短い距離寸法）を有する案内突出部１５０１ａａｂ１～１５０１ａａｂ４がカバー体１５０１の開口側と反対側へ向かって突出されてそれぞれ形成されている。なお、円弧形状のスリット孔１５０１ａａａとして形成することにより、周辺制御基板１５１０に備える各種電子部品を、周辺制御基板１５１０から不正に取り出す不正行為を防止することができるようになっている。

【１７３８】

またカバー平板１５０１ａには、ＦＡＮ取付凹部１５０１ａａの近傍であって対角状に一対の取付孔１５０１ａａｃ１，ａａｃ２が形成されている。空冷ファンＦＡＮをＦＡＮ取付凹部１５０１ａａに押し込んで取り付けると、空冷ファンＦＡＮの正面側の面と、カバー体１５０１のカバー平板１５０１ａの正面側の面と、が同一の平面上に配置されるようになっている。この状態において、一対の取付孔１５０１ａａｃ１，ａａｃ２にそれぞれカバー平板１５０１ａの正面から後方へ向かって、図示しない金属製の座付きナベねじ（ナベ頭と平ワッシャーとを一体とした形状を有するねじ）をねじ込むことにより、座付きナベねじの座部分である平ワッシャーが空冷ファンＦＡＮの正面とカバー体１５０１のカバー平板１５０１ａの正面とに当接する状態となることによって、空冷ファンＦＡＮがＦＡＮ取付凹部１５０１ａａから飛び出すことを防止することができるようになっている。

【１７３９】

カバー平板１５０１ａの裏面側に周辺制御基板１５１０が固定されると、周辺制御ＩＣ１５１０ａの表面（品番や型式が印刷されている面）とＦＡＮ取付凹部１５０１ａａの後面とに所定の距離寸法を有する隙間（本実施形態では、２．３ｍｍ）が形成される状態となる。

【１７４０】

なお、カバー平板１５０１ａは、ＦＡＮ取付凹部１５０１ａａに連通すると共に、ＦＡＮ取付凹部１５０１ａａの底面と比べて高い位置（カバー平板１５０１ａの正面からＦＡＮ取付凹部１５０１ａａの底面までの距離寸法と比べて短い距離寸法を有する位置）に、配

線引出凹部１５０１ａｂがカバー体１５０１の開口部へ向かって突出されて形成されている。空冷ファンＦＡＮがＦＡＮ取付凹部１５０１ａａに取り付けられて固定されると、空冷ファンＦＡＮからの複数の配線を配線引出凹部１５０１ａｂから引き出せるようになっている。

【１７４１】

カバー平板１５０１ａは、その正面から見て、その下辺側に沿って、カバー平板１５０１ａの裏面側に取り付けられる、周辺制御基板１５１０の表面（実装面）１５１０ｘに備えるコネクタＣＮ１～ＣＮ７、及び音量調整スイッチ１５１０ｄと対応する位置を１つの閉じたほぼ横長の長方形領域（正確には、音量調整スイッチ１５１０ｄとコネクタＣＮ１とを上部とすると共に、コネクタＣＮ２～コネクタＣＮ７を下部とする凸状領域）としてコネクタ凹部１５０１ａｃがＦＡＮ取付凹部１５０１ａａの底面と比べて低い位置（カバー平板１５０１ａの正面からＦＡＮ取付凹部１５０１ａａの底面までの距離寸法と比べて長い距離寸法を有する位置）に、カバー体１５０１の開口側へ向かって突出されて形成されている。コネクタ凹部１５０１ａｃの底面には、周辺制御基板１５１０の表面（実装面）１５１０ｘに備えるコネクタＣＮ１～ＣＮ７、及び音量調整スイッチ１５１０ｄと対応する位置に、コネクタ穴１５０１ａｃ１～１５０１ａｃ７、及び音量調整穴１５０１ａｃ８がそれぞれ形成されている。なお、コネクタ凹部１５０１ａｃの底面は、カバー平板１５０１ａを正面から見て、右下側の領域を概ね占有している。このため、コネクタ凹部１５０１ａｃの底面の面積が大きくなることによって生ずるカバー体１５０１（カバー平板１５０１ａ）の強度不足及び反りの対策として、コネクタ凹部１５０１ａｃの底面には、コネクタ穴１５０１ａｃ１～１５０１ａｃ７、及び音量調整穴１５０１ａｃ８と干渉しない位置であって、上下方向に細長い２つの補強リブ１５１０ａｃｉ１，１５１０ａｃｉ２が所定間隔をあけて前方へ突出して形成されている。

【１７４２】

カバー平板１５０１ａの裏面側に周辺制御基板１５１０が固定されると、周辺制御基板１５１０の表面（実装面）１５１０ｘに備えるコネクタＣＮ１～ＣＮ７、及び音量調整スイッチ１５１０ｄは、コネクタ凹部１５０１ａｃの底面に形成されるコネクタ穴１５０１ａｃ１～１５０１ａｃ７、及び音量調整穴１５０１ａｃ８からそれぞれ露出する状態となる。

【１７４３】

カバー平板１５０１ａは、その正面から見て、その下辺側に沿って、カバー平板１５０１ａの裏面側に取り付けられる液晶出力基板１５３０の表面（実装面）１５３０ｘに備えるコネクタＣＮ８，ＣＮ９と対応する位置を１つの閉じた横長の長方形領域としてコネクタ凹部１５０１ａｄがＦＡＮ取付凹部１５０１ａａの底面と比べて低い位置（カバー平板１５０１ａの正面からＦＡＮ取付凹部１５０１ａａの底面までの距離寸法と比べて長い距離寸法を有する位置）に、カバー体１５０１の開口側へ向かって突出されて形成され、コネクタ凹部１５０１ａｄの底面とコネクタ凹部１５０１ａｃの底面とが同一の平面上に配置されている。コネクタ凹部１５０１ａｄの底面には、液晶出力基板１５３０の表面（実装面）１５３０ｘに備えるコネクタＣＮ８，ＣＮ９と対応する位置に、コネクタ穴１５０１ａｃ９，１５０１ａｃ１０がそれぞれ形成されている。

【１７４４】

カバー平板１５０１ａの裏面側に液晶出力基板１５３０が固定されると、液晶出力基板１５３０の表面（実装面）１５３０ｘに備えるコネクタＣＮ８，ＣＮ９は、コネクタ凹部１５０１ａｄの底面に形成されるコネクタ穴１５０１ａｃ９，１５０１ａｃ１０からそれぞれ露出する状態となる。

【１７４５】

またカバー平板１５０１ａは、その正面から見て、その左辺側に沿って、液晶出力基板１５３０の表面（実装面）１５３０ｘに備えるＣＮ１０と対応する位置に、配線引出開口部１５０１ａｅが形成されている。この配線引出開口部１５０１ａｅに連通すると共に、配線引出開口部１５０１ａｅを塞ぐことができる横長の長方形状を有する配線カバー体１５０３を取り付けるための取付凹部１５０１ａｆが上述したＦＡＮ取付凹部１５０１ａａの

底面と比べて高い位置（カバー平板１５０１ａの正面からＦＡＮ取付凹部１５０１ａａの底面までの距離寸法と比べて短い距離寸法を有する位置）に、カバー体１５０１の開口部へ向かって突出されて形成されている。取付凹部１５０１ａｆは、配線カバー体１５０３に形成される貫通穴１５０３ａと対応する位置に、この貫通穴１５０３ａに挿通される円柱形状の所定高さ（配線カバー体１５０３の奥行き方向の距離寸法より短い距離寸法）を有する突出部１５０１ａｆａがカバー体１５０１の開口側と反対側へ向かって突出されて形成されると共に、配線カバー体１５０３に形成される貫通孔１５０３ｂ１，１５０３ｂ２と対応する位置に、取付孔１５０１ａｆｂ１，１５０１ａｆｂ２がそれぞれ形成されている。

【１７４６】

配線カバー体１５０３を取付凹部１５０１ａｆに嵌め合わせると、配線カバー体１５０３の正面側の面と、カバー体１５０１のカバー平板１５０１ａの正面側の面と、が同一の平面上に配置されるようになっている。この状態において、配線カバー体１５０３に形成される貫通孔１５０３ｂ１，１５０３ｂ２に図示しない金属製のナベねじを挿入して取付孔１５０１ａｆｂ１，１５０１ａｆｂ２にそれぞれ配線カバー体１５０３の正面から後方へ向かってねじ込むことにより、配線カバー体１５０３を取付凹部１５０１ａｆに固定することができる。

【１７４７】

配線カバー体１５０３が取付凹部１５０１ａｆに固定されると、配線引出開口部１５０１ａｅを塞ぐと共に、液晶出力基板１５３０の表面（実装面）１５３０ｘに備えるコネクタＣＮ１０と接続されるフレキシブルフラットケーブル（ＦＦＣ（Ｆｌｅｘｉｂｌｅ　Ｆｌａｔ　Ｃａｂｌｅの略。フレキシブルフラットケーブルは、演出表示装置１６００に描画データを伝送するための複数の平型導体が平行に配置されると共に、これらの複数の平型導体が絶縁体で被覆されている。））を触れることができないように保護するカバーとして配線カバー体１５０３が機能することができるようになっている。配線カバー体１５０３は、ポリカーボネートにカーボンを含有した導電性の樹脂製であり、不透明な黒色に成型されている。

【１７４８】

カバー体１５０１を正面から見て、左側のカバー側壁１５０１ｃのカバー体１５０１の開口側近傍であって中央所定間隔をあけて上下それぞれ外側へ突出する板状の案内部１５０１ｃａ，１５０１ｃｂが形成されていると共に、案内部１５０１ｃａの上方に配置され外側へ突出するヒンジ掛け部１５０１ｃｃと、案内部１５０１ｃｂの下方に配置され外側へ突出するヒンジ掛け部１５０１ｃｄと、がそれぞれ形成されている。案内部１５０１ｃａ，１５０１ｃｂの左端の後面側は面取りが形成されている。これに対して、ヒンジ掛け部１５０１ｃｃ，１５０１ｃｄの左端の前面側に前方に対して突出するＬ字状の鉤部１５０１ｃｃａ，１５０１ｃｄａが形成されている。また、右側のカバー側壁１５０１ｅのカバー体１５０１の中央には、外側へ突出するカバー側封印部１５０１ｅａが形成されている。

【１７４９】

周辺制御基板１５１０がカバー体１５０１の背面の左側に詰めて配置されるように、カバー平板１５０１ａは、その背面から見て、周辺制御基板１５１０に形成される４つの貫通孔１５１０ｒ１～１５１０ｒ４と対応する位置に、４つの取付ボス孔１５０１ａｇ１～１５０１ａｇ４がカバー平板１５０１ａの裏面からカバー体１５０１の開口側へ向かって突出されて形成されている。周辺制御基板１５１０に形成される４つの貫通孔１５１０ｒ１～１５１０ｒ４の周囲は、周辺制御基板１５１０の表面（実装面）１５１０ｘ側に円形状を有するハンダ付け用銅箔（いわゆる、「ランド」）１５１０ｒｆ１～１５１０ｒｆ４と、周辺制御基板１５１０の裏面（ハンダ面）１５１０ｙ側に円形状を有するハンダ付け用銅箔（いわゆる、「ランド」）１５１０ｒｂ１～１５１０ｒｂ４と、がそれぞれ形成されると共に、これらのランド１５１０ｒｆ１～１５１０ｒｆ４，１５１０ｒｂ１～１５１０ｒｂ４は、それぞれ周辺制御基板１５１０のグランド（ＧＮＤ）ラインと電気的に接続されるように配線パターンが周辺制御基板１５１０に形成されている。また、これらのラン

ド１５１０ｒｆ１～１５１０ｒｆ４，１５１０ｒｂ１～１５１０ｒｂ４は、その表面である銅箔が剥き出しとならないようにそれぞれハンダ付けされている。

【１７５０】

周辺制御基板１５１０をカバー平板１５０１ａの裏面側に取り付けるときには、周辺制御基板１５０１の表面（実装面）１５１０ｘをカバー平板１５０１ａの裏面側へ向けると共に、周辺制御基板１５１０に形成される貫通孔１５１０ｒ１～１５１０ｒ４を、カバー平板１５０１ａの裏面側に形成される取付ボス孔１５０１ａｇ１～１５０１ａｇ４に合わせるように配置し、貫通孔１５１０ｒ１～１５１０ｒ４に図示しない金属製のナベねじを挿入して取付ボス孔１５０１ａｇ１～１５０１ａｇ４へ向かってねじ込むことにより周辺制御基板１５１０をカバー平板１５０１ａの裏面側に固定することができる。この状態において、周辺制御基板１５１０の表面（実装面）１５１０ｘ側に形成されるランド１５１０ｒｆ１～１５１０ｒｆ４と、カバー平板１５０１ａの裏面側に形成される取付ボス孔１５０１ａｇ１～１５０１ａｇ４の取付面（ボス面）と、がそれぞれ当接した状態となると共に、周辺制御基板１５１０の裏面（ハンダ面）１５１０ｙ側に形成されるランド１５１０ｒｂ１～１５１０ｒｂ４と、金属製のナベねじの座面と、がそれぞれ当接した状態となる。さらに、金属製のナベねじの軸（ネジ部）がカバー平板１５０１ａの裏面側に形成される取付ボス孔１５０１ａｇ１～１５０１ａｇ４にねじ込まれた状態となる。

【１７５１】

カバー体１５０１は、上述したように、ポリカーボネートにカーボンを含有した導電性の樹脂製であるため、金属製のナベねじを介して、カバー体１５０１（カバー平板１５０１ａ）が周辺制御基板１５１０に形成されるランド１５１０ｒｆ１～１５１０ｒｆ４，１５１０ｒｂ１～１５１０ｒｂ４と電気的に接続される状態となる。これにより、カバー体１５０１は、周辺制御基板１５１０のグランド（ＧＮＤ）と電気的に接続されることとなる。周辺制御基板１５１０のグランド（ＧＮＤ）ラインは、上述したように、周辺データＲＯＭ基板１５２０のグランド（ＧＮＤ）ラインと、液晶出力基板１５３０のグランド（ＧＮＤ）ラインと、が電気的に接続され、同一のグランド（ＧＮＤ）となっているため、カバー体１５０１は、金属製のナベねじを介して、周辺制御基板１５１０のグランド（ＧＮＤ）と電気的に接続されることにより、周辺データＲＯＭ基板１５２０のグランド（ＧＮＤ）と、液晶出力基板１５３０のグランド（ＧＮＤ）と、が電気的に接続されることとなり、同一のグランド（ＧＮＤ）となる。

【１７５２】

なお、周辺制御基板１５１０がカバー平板１５０１ａの裏面側に固定されると、貫通孔１５１０ｒ１～１５１０ｒ４に挿入されてねじ込んだ金属製のナベねじの頭部がカバー体１５０１のカバー側壁１５０１ｂ～１５０１ｅの開口側の端面より内側に（つまり、カバー側壁１５０１ｂ～１５０１ｅの開口側の端面より外側へ飛び出さないように）配置されるようになっている。

【１７５３】

周辺データＲＯＭ基板１５２０がカバー体１５０１の背面の右上側に配置されるように、カバー平板１５０１ａは、その背面から見て、周辺データＲＯＭ基板１５２０に形成される４つの貫通孔１５２０ｒ１～１５２０ｒ４と対応する位置に、一対の取付ボス孔１５０１ａｈ１，１５０１ａｈ２と、一対の取付ボス突出部１５０１ａｉ１，１５０１ａｉ２と、が対角状に、カバー平板１５０１ａの裏面からカバー体１５０１の開口側へ向かって突出されて形成されている。周辺データＲＯＭ基板１５２０に形成される４つの貫通孔１５２０ｒ１～１５２０ｒ４の周囲は、周辺データＲＯＭ基板１５２０の表面（実装面）１５２０ｘ側に円形状を有するハンダ付け用銅箔（いわゆる、「ランド」）１５２０ｒｆ１～１５２０ｒｆ４と、周辺データＲＯＭ基板１５２０の裏面（ハンダ面）１５２０ｙ側に円形状を有するハンダ付け用銅箔（いわゆる、「ランド」）１５２０ｒｂ１～１５２０ｒｂ４と、がそれぞれ形成されると共に、これらのランド１５２０ｒｆ１～１５２０ｒｆ４，１５２０ｒｂ１～１５２０ｒｂ４は、それぞれ周辺データＲＯＭ基板１５２０のグランド（ＧＮＤ）ラインと電気的に接続されるように配線パターンが周辺データＲＯＭ基板１５

２０に形成されている。また、これらのランド１５２０ｒｆ１～１５２０ｒｆ４，１５２０ｒｂ１～１５２０ｒｂ４は、その表面である銅箔が剥き出しとならないようにそれぞれハンダ付けされている。

【１７５４】

周辺データＲＯＭ基板１５２０をカバー平板１５０１ａの裏面側に取り付けるときには、周辺データＲＯＭ基板１５２０の表面（実装面）１５２０ｘをカバー平板１５０１ａの裏面側へ向けると共に、周辺データＲＯＭ基板１５２０に形成される貫通孔１５２０ｒ１，１５２０ｒ３を、カバー平板１５０１ａの裏面側に形成される取付ボス突出部１５０１ａｉ１，１５０１ａｉ２に挿入し、周辺データＲＯＭ基板１５２０に形成される貫通孔１５２０ｒ２，１５２０ｒ４に図示しない金属製のナベねじを挿入してカバー平板１５０１ａの裏面側に形成される取付ボス孔１５０１ａｈ１，１５０１ａｈ２へ向かってねじ込むことにより周辺データＲＯＭ基板１５２０をカバー平板１５０１ａの裏面側に固定することができる。この状態において、周辺データＲＯＭ基板１５２０の表面（実装面）１５２０ｘ側に形成されるランド１５２０ｒｆ１～１５２０ｒｆ４と、カバー平板１５０１ａの裏面側に形成される取付ボス突出部１５０１ｉ１，１５０１ｉ２の取付面（ボス面）及び取付ボス孔１５０１ａｈ１，１５０１ａｈ２の取付面（ボス面）と、がそれぞれ当接した状態となると共に、周辺データＲＯＭ基板１５２０の裏面（ハンダ面）１５２０ｙ側に形成されるランド１５２０ｒｂ１～１５２０ｒｂ４と、金属製のナベねじの座面と、がそれぞれ当接した状態となる。さらに、金属製のナベねじの軸（ネジ部）がカバー平板１５０１ａの裏面側に形成される取付ボス孔１５０１ａｈ１，１５０１ａｈ２にねじ込まれた状態となる。

【１７５５】

カバー体１５０１は、上述したように、ポリカーボネートにカーボンを含有した導電性の樹脂製であるため、金属製のナベねじを介して、カバー体１５０１（カバー平板１５０１ａ）が周辺データＲＯＭ基板１５２０に形成されるランド１５２０ｒｆ１～１５２０ｒｆ４，１５２０ｒｂ１～１５２０ｒｂ４と電気的に接続される状態となる。これにより、カバー体１５０１は、周辺データＲＯＭ基板１５２０のグランド（ＧＮＤ）と電気的に接続されることとなる。周辺データＲＯＭ基板１５２０のグランド（ＧＮＤ）ラインは、上述したように、周辺制御基板１５１０のグランド（ＧＮＤ）ラインと、液晶出力基板１５３０のグランド（ＧＮＤ）ラインと、が電気的に接続され、同一のグランド（ＧＮＤ）となっているため、カバー体１５０１は、金属製のナベねじを介して、周辺データＲＯＭ基板１５２０のグランド（ＧＮＤ）と電気的に接続されることにより、周辺制御基板１５１０のグランド（ＧＮＤ）と、液晶出力基板１５３０のグランド（ＧＮＤ）と、が電気的に接続されることとなり、同一のグランド（ＧＮＤ）となる。

【１７５６】

なお、周辺データＲＯＭ基板１５２０がカバー平板１５０１ａの裏面側に固定されると、貫通孔１５２０ｒ２，１５２０ｒ４に挿入されてねじ込んだ金属製のナベねじの頭部がカバー体１５０１のカバー側壁１５０１ｂ～１５０１ｅの開口側の端面より内側に（つまり、カバー側壁１５０１ｂ～１５０１ｅの開口側の端面より外側へ飛び出さないように）配置されると共に、周辺データＲＯＭ基板１５２０の裏面（ハンダ面）１５２０ｙと、カバー平板１５０１ａの裏面側に固定される周辺制御基板１５１０の裏面（ハンダ面）１５１０ｙと、が同一の平面上に配置されるようになっている。

【１７５７】

液晶出力基板１５３０がカバー体１５０１の背面の右下側に配置されるように、カバー平板１５０１ａは、その背面から見て、液晶出力基板１５３０に形成される４つの貫通孔１５３０ｒ１～１５３０ｒ４と対応する位置に、一対の取付ボス孔１５０１ａｍ１，１５０１ａｍ２と、一対の取付ボス突出部１５０１ａｎ１，１５０１ａｎ２と、が対角状に、カバー平板１５０１ａの裏面からカバー体１５０１の開口側へ向かって突出されて形成されている。液晶出力基板１５３０に形成される４つの貫通孔１５３０ｒ１～１５３０ｒ４の周囲は、液晶出力基板１５３０の表面（実装面）１５３０ｘ側に円形状を有するハンダ付

け用銅箔（いわゆる、「ランド」）１５３０ｒｆ１～１５３０ｒｆ４と、液晶出力基板１５３０の裏面（ハンダ面）１５３０ｙ側に円形状を有するハンダ付け用銅箔（いわゆる、「ランド」）１５３０ｒｂ１～１５３０ｒｂ４と、がそれぞれ形成されると共に、これらのランド１５３０ｒｆ１～１５３０ｒｆ４，１５３０ｒｂ１～１５３０ｒｂ４は、それぞれ液晶出力基板１５３０のグランド（ＧＮＤ）ラインと電気的に接続されるように配線パターンが液晶出力基板１５３０に形成されている。また、これらのランド１５３０ｒｆ１～１５３０ｒｆ４，１５３０ｒｂ１～１５３０ｒｂ４は、その表面である銅箔が剥き出しとならないようにそれぞれハンダ付けされている。

【１７５８】

液晶出力基板１５３０をカバー平板１５０１ａの裏面側に取り付けるときには、液晶出力基板１５３０の表面（実装面）１５３０をカバー平板１５０１ａの裏面側へ向けると共に、液晶出力基板１５３０に形成される貫通孔１５３０ｒ２，１５３０ｒ４を、カバー平板１５０１ａの裏面側に形成される取付ボス突出部１５０１ａｎ１，１５０１ａｎ２に挿入し、液晶出力基板１５３０に形成される貫通孔１５３０ｒ１，１５３０ｒ３に図示しない金属製のナベねじを挿入してカバー平板１５０１ａの裏面側に形成される取付ボス孔１５０１ａｍ１，１５０１ａｍ２へ向かってねじ込むことにより液晶出力基板１５３０をカバー平板１５０１ａの裏面側に固定することができる。この状態において、液晶出力基板１５３０の表面（実装面）１５３０ｘ側に形成されるランド１５３０ｒｆ１～１５３０ｒｆ４と、カバー平板１５０１ａの裏面側に形成される取付ボス突出部１５０１ｎ１，１５０１ｎ２の取付面（ボス面）及び取付ボス孔１５０１ａｍ１，１５０１ａｍ２の取付面（ボス面）と、がそれぞれ当接した状態となると共に、液晶出力基板１５３０の裏面裏面（ハンダ面）１５３０ｙ側に形成されるランド１５３０ｒｂ１～１５３０ｒｂ４と、金属製のナベねじの座面と、がそれぞれ当接した状態となる。さらに、金属製のナベねじの軸（ネジ部）がカバー平板１５０１ａの裏面側に形成される取付ボス孔１５０１ａｍ１，１５０１ａｍ２にねじ込まれた状態となる。

【１７５９】

カバー体１５０１は、上述したように、ポリカーボネートにカーボンを含有した導電性の樹脂製であるため、金属製のナベねじを介して、カバー体１５０１（カバー平板１５０１ａ）が液晶出力基板１５３０に形成されるランド１５３０ｒｆ１～１５３０ｒｆ４，１５３０ｒｂ１～１５３０ｒｂ４と電気的に接続される状態となる。これにより、カバー体１５０１は、液晶出力基板１５３０のグランド（ＧＮＤ）と電気的に接続されることとなる。液晶出力基板１５３０のグランド（ＧＮＤ）ラインは、上述したように、周辺制御基板１５１０のグランド（ＧＮＤ）ラインと、周辺データＲＯＭ基板１５２０のグランド（ＧＮＤ）ラインと、が電気的に接続され、同一のグランド（ＧＮＤ）となっているため、カバー体１５０１は、金属製のナベねじを介して、液晶出力基板１５３０のグランド（ＧＮＤ）と電気的に接続されることにより、周辺制御基板１５１０のグランド（ＧＮＤ）と、周辺データＲＯＭ基板１５２０のグランド（ＧＮＤ）と、が電気的に接続されることとなり、同一のグランド（ＧＮＤ）となる。

【１７６０】

なお、液晶出力基板１５３０がカバー平板１５０１ａの裏面側に固定されると、貫通孔１５３０ｒ１，１５３０ｒ３に挿入されてねじ込んだ金属製のナベねじの頭部がカバー体１５０１のカバー側壁１５０１ｂ～１５０１ｅの開口側の端面より内側に（つまり、カバー側壁１５０１ｂ～１５０１ｅの開口側の端面より外側へ飛び出さないように）配置されると共に、液晶出力基板１５３０の裏面（ハンダ面）１５３０ｙと、カバー平板１５０１ａの裏面側に固定される周辺制御基板１５１０の裏面（ハンダ面）１５１０ｙと、カバー平板１５０１ａの裏面側に固定される周辺データＲＯＭ基板１５２０の裏面（ハンダ面）１５２０ｙと、が同一の平面上に配置されるようになっている。

【１７６１】

このように、周辺制御基板１５１０、周辺データＲＯＭ基板１５２０、及び液晶出力基板１５３０等の各種基板がカバー平板１５０１ａの裏面側の所定位置に固定される状態にお

いては、各種基板の表面（カバー平板１５０１ａの裏面側と対向する面）とカバー平板１５０１ａの裏面との間に所定高さの距離寸法（本実施形態では、１４．８ｍｍ）を有する空間が形成される状態となる。この状態において、周辺制御ＩＣ１５１０ａの表面（品番や型式が印刷されている面）とＦＡＮ取付凹部１５０１ａａの後面とには、上述した所定の距離寸法を有する隙間（本実施形態では、２．３ｍｍ）が形成される状態となる。

【１７６２】

カバー体１５０１のカバー平板１５０１ａには、複数の円形状を有する通風孔１５０１ａｚがＦＡＮ取付凹部１５０１ａａの右側、右下側、左下側、及び左側にそれぞれ形成されている。ＦＡＮ取付凹部１５０１ａａに取り付けられる空冷ファンＦＡＮの羽部が回転すると、この回転により羽部を介して、カバー体１５０１の内側空間の空気を周辺制御ユニット１５００の外部へ向かってはき出すことにより、周辺制御ユニット１５００の外部から空気を、これらの通風孔１５０１ａｚを介して、取り込むことでカバー体１５０１の内側空間（特に、周辺制御ＩＣ１５１０ａ）を空冷することができる。これらの通風孔１５０１ａｚは、直径が３ｍｍ、左右方向のピッチ幅が６．５ｍｍ、上下方向のピッチ幅が６．０ｍｍ～６．５ｍｍを有して形成されている。

【１７６３】

カバー平板１５０１ａの裏面側に周辺制御基板１５１０が固定されると、周辺制御基板１５１０に備える７つのコネクタＣＮ１～ＣＮ７と、カバー体１５０１に形成される７つのコネクタ穴１５０１ａｃ１～１５０１ａｃ７と、にすき間が形成されると共に、周辺制御基板１５１０に備える音量調整スイッチ１５１０ｄと、カバー体１５０１に形成される音量調整穴１５０１ａｃ８と、にすき間が形成される。また、カバー平板１５０１ａの裏面側に液晶出力基板１５３０が固定されると、液晶出力基板１５３０に備える２つのコネクタＣＮ８，ＣＮ９と、カバー体１５０１に形成される２つのコネクタ穴１５０１ａｃ９，１５０１ａｃ１０と、にすき間が形成される。このため、ＦＡＮ取付凹部１５０１ａａに取り付けられる空冷ファンＦＡＮの羽部が回転すると、この回転により羽部を介して、カバー体１５０１の内側空間の空気を周辺制御ユニット１５００の外部へ向かってはき出すことにより、周辺制御ユニット１５００の外部から空気を、叙述した通風孔１５０１ａｚを介して、取り込むと共に、上述したすき間（周辺制御基板１５１０に備える７つのコネクタＣＮ１～ＣＮ７と、カバー体１５０１に形成される７つのコネクタ穴１５０１ａｃ１～１５０１ａｃ７と、に形成されるすき間、周辺制御基板１５１０に備える音量調整スイッチ１５１０ｄと、カバー体１５０１に形成される音量調整穴１５０１ａｃ８と、に形成されるすき間、そして液晶出力基板１５３０に備える２つのコネクタＣＮ８，ＣＮ９と、カバー体１５０１に形成される２つのコネクタ穴１５０１ａｃ９，１５０１ａｃ１０と、に形成されるすき間）を介して、取り込むこととなる。

【１７６４】

ＦＡＮ取付凹部１５０１ａａの底面に形成される複数の円弧形状のスリット孔１５０１ａａａにおけるそれぞれ面積を加えたもの（総面積）は、カバー体１５０１のカバー平板１５０１ａに複数形成される通風孔１５０１ａｚにおける面積と、上述したすき間（周辺制御基板１５１０に備える７つのコネクタＣＮ１～ＣＮ７と、カバー体１５０１に形成される７つのコネクタ穴１５０１ａｃ１～１５０１ａｃ７と、に形成されるすき間、周辺制御基板１５１０に備える音量調整スイッチ１５１０ｄと、カバー体１５０１に形成される音量調整穴１５０１ａｃ８と、に形成されるすき間、そして液晶出力基板１５３０に備える２つのコネクタＣＮ８，ＣＮ９と、カバー体１５０１に形成される２つのコネクタ穴１５０１ａｃ９，１５０１ａｃ１０と、に形成されるすき間）における面積と、を加えたものより小さくなっている。このため、ＦＡＮ取付凹部１５０１ａａに取り付けられる空冷ファンＦＡＮの羽部が回転すると、この回転により羽部を介して、カバー体１５０１の内側空間の空気を周辺制御ユニット１５００の外部へ向かってはき出すことにより、周辺制御ユニット１５００の外部から空気を、カバー体１５０１のカバー平板１５０１ａに複数形成される通風孔１５０１ａｚを介して、取り込む際に、カバー体１５０１のカバー平板１５０１ａに複数形成される通風孔１５０１ａｚのそれぞれに流入する空気の流速を小さく

抑えることができるようになっている。
【１７６５】
なお、ＦＡＮ取付凹部１５０１ａａに取り付けられる空冷ファンＦＡＮの羽部が回転すると、この回転により羽部を介して、カバー体１５０１の内側空間の空気を周辺制御ユニット１５００の外部へ向かってはき出すことにより、周辺制御ユニット１５００の外部から空気を、カバー体１５０１のカバー平板１５０１ａに複数形成される通風孔１５０１ａｚを介して、取り込む際に、カバー体１５０１のカバー平板１５０１ａに複数形成される通風孔１５０１ａｚのそれぞれに流入する空気の流速を小さく抑えることができるようになっているが、ＦＡＮ取付凹部１５０１ａａに取り付けられる空冷ファンＦＡＮの羽部が回転すると、この回転により羽部を介して、空気を吸い込んで周辺制御ＩＣ１５１０ａへ向かって空気を送り出すようにしてもよい。換言すると、空冷ファンＦＡＮを、カバー体１５０１とベース体１５０２との空間内における空気の交換を主目的とせず、単に周辺制御ＩＣ１５１０ａを空冷することを主目的としてもよい。
【１７６６】
［ベース体］
カバー体１５０１の開口を塞ぐベース体１５０２は、ポリカーボネートにカーボンを含有した導電性の樹脂製であり、不透明な黒色に成型され、その正面から見て、横長の長方形状のベース平板１５０２ａの上辺、左辺、下辺、及び右辺にベース側壁１５０２ｂ～１５０２ｅが前方（パチンコ機１の背面側）へ向かってそれぞれ突設されることにより開口を有するボックス形状に形成されている。ベース体１５０２のベース側壁１５０２ｂ～１５０２ｅにより形成される開口の大きさは、カバー体１５０１のカバー側壁１５０１ｂ～１５０１ｅにより形成される開口の大きさと比べると、一回り大きく形成されている。これにより、カバー体１５０１にベース体１５０２を被せることによりカバー体１５０１の開口をベース体１５０２で塞ぐ状態においては、ベース体１５０２のベース側壁１５０２ｂ～１５０２ｅの内側にカバー体１５０１のカバー側壁１５０１ｂ～１５０１ｅが嵌まると共に内接（面接触）する状態となる。
【１７６７】
ベース平板１５０２ａは、その正面から見て、下辺側に沿って、所定間隔をあけて、周辺制御基板１５１０の表面（実装面）１５１０ｘに備えるコネクタＣＮ２～ＣＮ７と干渉しない位置（つまり、周辺制御基板１５１０の表面（実装面）１５１０ｘに備えるコネクタＣＮ２～ＣＮ７の各端子が周辺制御基板１５１０の表面（実装面）１５１０ｘから裏面（ハンダ面）１５１０ｙへ挿通され、周辺制御基板１５１０の裏面（ハンダ面）１５１０ｙから突出しているため、この突出する各端子と干渉しない位置）に、これらのコネクタＣＮ２～ＣＮ７に対して配線を接続するためのコネクタを挿入するときの力により周辺制御基板１５１０が反って周辺制御基板１５１０に形成される電気配線パターンが断線するのを防ぐ上下方向に細長い断線防止リブ部１５０２ａａ１～１５０２ａａ３がそれぞれ形成されている。
【１７６８】
ベース体１５０２を正面から見て、左側のベース側壁１５０２ｃのベース体１５０２の開口側近傍には、外側へ突出する係合部１５０２ｃａが形成されている。この係合部１５０２ｃａには、カバー体１５０１に形成される板状の案内部１５０１ｃａ，１５０１ｃｂと対応する位置に案内受部１５０２ｃａａ，１５０２ｃａｂと、カバー体１５０１に形成されるヒンジ掛け部１５０１ｃｃ，１５０１ｃｄと対応する位置にヒンジ受け部１５０２ｃａｃ，１５０２ｃａｄと、がそれぞれ形成されている。ヒンジ受け部１５０２ｃａｃ，１５０２ｃａｄは、Ｕ字溝形状の袋部１５０２ｃａｅ，１５０２ｃａｆが形成されている。
【１７６９】
案内受部１５０２ｃａａ，１５０２ｃａｂに、上述したカバー体１５０１に形成される板状の案内部１５０１ｃａ，１５０１ｃｂを挿入すると共に、ヒンジ受け部１５０２ｃａｃ，１５０２ｃａｄのＵ字溝形状の袋部１５０２ｃａｅ，１５０２ｃａｆに、上述したカバー体１５０１に形成されるヒンジ掛け部１５０１ｃｃ，１５０１ｃｄのＬ字状の鉤部１５

０１ｃｃａ，１５０１ｃｄａを挿入する。そして、ヒンジ受け部１５０２ｃａｃ，１５０２ｃａｄのＵ字溝形状の袋部１５０２ｃａｅ，１５０２ｃａｆに、カバー体１５０１に形成されるヒンジ掛け部１５０１ｃｃ，１５０１ｃｄのＬ字状の鉤部１５０１ｃｃａ，１５０１ｃｄａが当接した状態で回り込ませることによって、ヒンジ受け部１５０２ｃａｃ，１５０２ｃａｄのＵ字溝形状の袋部１５０２ｃａｅ，１５０２ｃａｆに、カバー体１５０１に形成されるヒンジ掛け部１５０１ｃｃ，１５０１ｃｄのＬ字状の鉤部１５０１ｃｃａ，１５０１ｃｄａを引っ掛けて係合することができるようになっている。

【１７７０】

また、右側のベース側壁１５０２ｅの中央には、カバー体１５０１に形成されるカバー側封印部１５０１ｅａと対応する位置に外側へ突出するベース側封印部１５０２ｅａが形成されている。また右側のベース側壁１５０２ｅの上側及び下側には、周辺制御ユニット１５００を遊技盤５に備える遊技パネル１１００に取り付けるための貫通孔１５０２ｅｂ１，１５０２ｅｂ２がそれぞれ形成されている。

【１７７１】

［各種コネクタ］

カバー体１５０１の内部空間内に取り付けられる周辺制御基板１５１０の表面（実装面）１５１０ｘには、上述した周辺制御部１５１１（各種ＲＯＭの機能を除く。）と演出表示制御部１５１２（各種ＲＯＭの機能を除く。）との機能を併せ持つものであり、ＣＰＵ、ＲＡＭ、ＶＤＰ、音源、シリアルＡＴＡコントローラ（Ａｄｖａｎｃｅｄ　Ｔｅｃｈｎｏｌｏｇｙ　Ａｔｔａｃｈｍｅｎｔ、以下、「ＳＡＴＡコントローラ」と記載する。）、そして各種Ｉ／Ｏインターフェイス等が１つの半導体チップ上に集積される周辺制御ＩＣ１５１０ａと、遊技演出の進行やデモンストレーション（遊技者待ち状態となって行われるデモ演出）を制御することができる各種プログラムや演出の進行を規定する各種スケジュールデータを予め記憶する制御ＲＯＭ１５１０ｂ（上述した周辺制御部１５１１の周辺制御ＲＯＭの機能、及び上述した演出表示制御部１５１２の表示制御ＲＯＭの機能等を含む。）と、周辺データＲＯＭ基板１５２０に備える周辺データＲＯＭ１５２０ａに記憶される各種の制御情報（周辺データ）が転送されて記憶することができるＳＤＲＡＭ（Ｓｙｎｃｈｒｏｎｏｕｓ　Ｄｙｎａｍｉｃ　Ｒａｎｄｏｍ　Ａｃｃｅｓｓ　Ｍｅｍｏｒｙ）１５１０ｃ１，１５１０ｃ２から構成されるＳＤＲＡＭ１５１０ｃと、音量を調整することができるスライド方式の音量調整スイッチ１５１０ｄと、図示しないリアルタイムクロックＩＣに電源断時においても電源を供給することができるバックアップ電源１５１０ｅと、各種電源電圧を作成する図示しない電源作成回路と、各種コネクタＣＮ１～ＣＮ７と、を備えている。バックアップ電源１５１０ｅは図示しないホルダに収容されている。

【１７７２】

周辺制御基板１５１０に備える制御ＲＯＭ１５１０ｂは、１２８Ｍｂｉｔの記憶容量を有し、周辺制御基板１５１０に備えるＳＤＲＡＭ１５１０ｃ１，１５１０ｃ２は、それぞれ２Ｇｂｉｔの記憶容量を有している。周辺データＲＯＭ基板１５２０に備える周辺データＲＯＭ１５２０ａは、６２Ｇｂｉｔの記憶容量を有している。

【１７７３】

周辺制御基板１５１０の各種Ｉ／Ｏインターフェイスとしては、各種シリアルＩ／Ｏ、各種パラレルＩ／Ｏ等がある。各種シリアルＩ／Ｏとしては、ＳＰＩ（Ｓｅｒｉａｌ　Ｐｅｒｉｐｈｅｒａｌ　Ｉｎｔｅｒｆａｃｅ）通信、ＵＡＲＴ（Ｕｎｉｖｅｒｓａｌ　Ａｓｙｎｃｈｒｏｎｏｕｓ　Ｒｅｃｅｉｖｅｒ　Ｔｒａｎｓｍｉｔｔｅｒ）通信、及びＩ２Ｃ（Ｉｎｔｅｒ－Ｉｎｔｅｇｒａｔｅｄ　Ｃｉｒｃｕｉｔ）通信等である。

【１７７４】

本実施形態では、主制御基板１３１０からのコマンドを受信する通信方法としてＵＡＲＴ通信を採用し（コネクタＣＮ５を介して通信する。）、遊技盤５側に備える各種基板、扉枠側に備える各種基板に対して制御データを送信する通信方法としてＳＰＩ通信やＩ２Ｃ通信を採用している（コネクタＣＮ３、コネクタＣＮ６、及びコネクタＣＮ７のうち、対応するコネクタを介して通信している）。

【１７７５】
本実施形態では、ＳＰＩ通信やＩ２Ｃ通信を用いて、遊技盤５側に備える電気的駆動源（例えば、各種モータや各種ソレノイドであり、コネクタＣＮ６を介して通信している。）や、扉枠３側に備える電気的駆動源（例えば、各種モータや各種ソレノイドであり、コネクタＣＮ３を介して通信している。）を駆動する駆動制御ＩＣに対して駆動データを送信したり、遊技盤５側に備える複数のＬＥＤ（コネクタＣＮ７を介して通信している。）や扉枠３側に備える複数のＬＥＤ（コネクタＣＮ３を介して通信している。）に対してＬＥＤ制御ＩＣに対して発光データを送信したり、遊技盤５側に備える各種センサ（コネクタＣＮ６を介して通信している。）からの信号を検知データとして受信したり、扉枠３側に備える各種センサ（コネクタＣＮ３を介して通信している。）からの信号を検知データとして受信したりする。なお、本実施形態では、ＳＰＩ通信による転送速度は、２５０ｋｐｂｓに設定され、Ｉ２Ｃ通信による転送速度は、１ｋｂｐｓに設定されている。
【１７７６】
各種パラレルＩ／Ｏとしては、ＧＰＩＯ（Ｇｅｎｅｒａｌ　Ｐｕｒｐｏｓｅ　Ｉｎｐｕｔ／Ｏｕｔｐｕｔ、汎用ＩＯ）がある。本実施形態では、遊技盤５の周辺制御ユニット１５００に備える空冷ファンＦＡＮの回転状態を伝える空冷ファンＦＡＮからの信号が（コネクタＣＮ１を介して）ＧＰＩＯに入力されたり、遊技盤５側に備える図示しない制御対象の動作や原点位置を確認する各種センサからの信号が（コネクタＣＮ６を介して）ＧＰＩＯに入力されたり、遊技盤５側に備える図示しない制御対象に対する制御信号をＧＰＩＯから（コネクタＣＮ６を介して）出力したり、周辺制御ＩＣ１５１０ａが動作している旨を報知するための周辺制御基板１５１０に備えるＬＥＤＭＬ４に信号をＧＰＩＯから出力したりする。
【１７７７】
本実施形態では、例えば、コネクタＣＮ１にはＧＰＩＯが割り当てられ、コネクタＣＮ３にはＳＰＩ通信、及びＩ２Ｃ通信が割り当てられ（つまり、コネクタＣＮ３は、ＳＰＩ通信、及びＩ２Ｃ通信が併存するコネクタとして割り当てられ）、コネクタＣＮ５にはＵＡＲＴ通信が割り当てられ、コネクタＣＮ６にはＳＰＩ通信、及びＧＰＩＯが割り当てられ（つまり、コネクタＣＮ６は、ＳＰＩ通信、及びＧＰＩＯが併存するコネクタとして割り当てられ）、コネクタＣＮ７にはＳＰＩ通信が割り当てられている。
【１７７８】
周辺制御ＩＣ１５１０ａのＳＡＴＡコントローラは、周辺データＲＯＭ基板１５２０に備える周辺データＲＯＭ１５２０ａとＳＡＴＡ規格に準拠する通信を確立することができ、２Ｇｂｐｓという高速な転送速度（３Ｇｂｐｓまで対応。）を実現している。周辺制御ＩＣ１５１０ａのＳＡＴＡコントローラは、周辺制御ＩＣ１５１０ａのＣＰＵの指示により、周辺データＲＯＭ基板１５２０に備える周辺データＲＯＭ１５２０ａからの各種の制御情報（周辺データ）を、周辺制御ＩＣ１５１０ａのＲＡＭに高速に転送したり、ＳＤＲＡＭ１５１０ｃ１，１５１０ｃ２に高速に転送したりすることができるようになっている。
【１７７９】
ＳＤＲＡＭ１５１０ｃ１，１５１０ｃ２は、ＤＤＲ３　ＳＤＲＡＭ（Ｄｏｕｂｌｅ　Ｄａｔａ　Ｒａｔｅ３　Ｓｙｎｃｈｒｏｎｏｕｓ　Ｄｙｎａｍｉｃ　Ｒａｎｄｏｍ　Ａｃｃｅｓｓ　Ｍｅｍｏｒｙ）であり、高速なデータ通信速度を実現することができるものである。ＳＤＲＡＭ１５１０ｃ１，１５１０ｃ２は、周辺データＲＯＭ基板１５２０に備える周辺データＲＯＭ１５２０ａからの各種の制御情報（周辺データ）が周辺制御ＩＣ１５１０ａのＳＡＴＡコントローラにより高速に転送される。
【１７８０】
周辺制御基板１５１０の表面（実装面）１５１０ｘには、さらに、周辺データＲＯＭ基板１５２０と基板間接続するための特殊コネクタＳＣＮ１と、液晶出力基板１５３０と基板間接続するための特殊コネクタＳＣＮ２と、を備えている。周辺データＲＯＭ基板１５２０の表面（実装面）１５２０ｘは、周辺制御基板１５１０と基板間接続するための特殊コネクタＳＣＮ３を備えている。液晶出力基板１５３０の表面（実装面）１５３０ｘは、周

辺制御基板１５１０と基板間接続するための特殊コネクタＳＣＮ４を備えている。
【１７８１】
周辺制御基板１５１０は、演出表示装置等の表示装置に描画する画像の描画データを複数種類の映像信号の方式で特殊コネクタＳＣＮ２から出力する。この複数種類の映像信号の方式としては、例えば、ＲＧＢ方式、ＬＶＤＳ方式、ＭＩＰＩ（Ｍｏｂｉｌｅ　Ｉｎｄｕｓｔｒｙ　Ｐｒｏｃｅｓｓｏｒ　Ｉｎｔｅｒｆａｃｅ）方式、ｅＤＰ（ＥｍｂｅｄｄｅｄＤｉｓｐｌａｙＰｏｒｔ）方式及びクロックレス方式等の複数種類の方式があり、本実施形態では、ＲＧＢ方式を１系統、ＬＶＤＳ方式を２系統（第１のＬＶＤＳ方式、第２のＬＶＤＳ方式）、及びＭＩＰＩ方式という４つの方式（合計４系統）が採用されている。また、本実施形態では、演出表示装置１６００に入力される映像信号の方式として、２つのＬＶＤＳ方式の系統のうち、一方のＬＶＤＳ方式の系統（例えば、第１のＬＶＤＳ方式の系統）が採用されている。なお、ＭＩＰＩ方式に代えて例えばｅＤＰ方式を採用し、ＲＧＢ方式を１系統、ＬＶＤＳ方式を２系統（第１のＬＶＤＳ方式、第２のＬＶＤＳ方式）、及びｅＤＰ方式を１系統とする周辺制御基板１５１０を作成することもできる。
【１７８２】
また、周辺制御基板１５１０の表面（実装面）１５１０ｘには、さらに、制御ＲＯＭ１５１０ｂの近傍にＬＥＤＭＬ１と、ＳＤＲＡＭ１５１０ｃの近傍にＬＥＤＭＬ２と、特殊コネクタＳＣＮ１の近傍にＬＥＤＭＬ３と、特殊コネクタＳＣＮ２の近傍にＬＥＤＭＬ４と、を備えている。周辺制御基板１５１０は、基板ユニット６２０の電源基板６３０からの各種電圧（直流＋３７Ｖ、直流＋１２Ｖ、及び直流＋５Ｖ）が直接供給されている。ＬＥＤＭＬ１は、直流＋５Ｖが供給されている状態を確認（モニター）するものであり、直流＋５Ｖが供給されている状態において点灯状態が維持される。ＬＥＤＭＬ２は、直流＋１２Ｖが供給されている状態を確認（モニター）するものであり、直流＋１２Ｖが供給されている状態において点灯状態が維持される。ＬＥＤＭＬ３は、直流＋３７Ｖが供給されている状態を確認（モニター）するものであり、直流＋３７Ｖが供給されている状態において点灯状態が維持される。ＬＥＤＭＬ４は、周辺制御ＩＣ１５１０ａの動作を確認（モニター）するものであり、周辺制御ＩＣ１５１０ａが動作している状態において点灯状態が維持される。
【１７８３】
周辺制御基板１５１０、周辺データＲＯＭ基板１５２０、及び液晶出力基板１５３０等の各種基板がカバー平板１５０１ａの裏面側の所定位置に取り付けられて固定されると、上述したように、各種基板の表面（カバー平板１５０１ａの裏面側と対向する面）とカバー平板１５０１ａの裏面との間に所定高さの距離寸法（本実施形態では、１４．８ｍｍ）を有する空間が形成される状態となる。このように形成される空間内を、周辺制御基板１５１０の表面に備えるＬＥＤＭＬ１～ＬＥＤＭＬ４が点灯することによって、明るく照らすことができるようになっている。
【１７８４】
周辺制御基板１５１０の表面（実装面）１５１０ｘに備える特殊コネクタＳＣＮ１，ＳＣＮ２、周辺データＲＯＭ基板１５２０の表面（実装面）１５２０ｘに備える特殊コネクタＳＣＮ３、及び液晶出力基板１５３０の表面（実装面）１５３０ｘに備える特殊コネクタＳＣＮ４は、フローティング機構を備えている点で、周辺制御基板１５１０の表面（実装面）１５１０ｘに備えるコネクタＣＮ１～ＣＮ７、及び液晶出力基板１５３０の表面（実装面）１５３０ｘに備えるコネクタＣＮ８～ＣＮ１０と構造が全くことなっている。これらのコネクタＣＮ１～ＣＮ１０は、それぞれソケットであり、周辺制御基板１５１０及び液晶出力基板１５３０に対して垂直方向に、対応するコネクタのプラグを挿入して押し込むことによりソケットとプラグとが嵌合する。コネクタＣＮ１～ＣＮ１０のソケットは、この嵌合する際に、周辺制御基板１５１０及び液晶出力基板１５３０を正面から見てそれぞれ上下方向へ移動する量が全くない構造となっている。
【１７８５】
周辺制御基板１５１０の表面（実装面）１５１０ｘに備える特殊コネクタＳＣＮ１，ＳＣ

Ｎ２は、それぞれプラグであり、周辺データＲＯＭ基板１５２０の表面（実装面）１５２０ｘに備える特殊コネクタＳＣＮ３、及び液晶出力基板１５３０の表面（実装面）１５３０ｘに備える特殊コネクタＳＣＮ４は、それぞれソケットである。

【１７８６】

周辺データＲＯＭ基板１５２０の表面（実装面）１５２０ｘに備える特殊コネクタＳＣＮ３のソケットを、周辺制御基板１５１０の表面（実装面）１５１０ｘに備える特殊コネクタＳＣＮ１のプラグに挿入して押し込むことによりソケットとプラグとが嵌合する。周辺データＲＯＭ基板１５２０の表面（実装面）１５２０ｘに備える特殊コネクタＳＣＮ３のソケットは、この嵌合する際に、周辺データＲＯＭ基板１５２０（周辺制御基板１５１０）を正面から見てソケットが前後方向（パチンコ機１の背面と正面との方向）へ向かって所定距離範囲を動くことによって押し込む際に生ずる前後方向の誤差を吸収することができるというフローティング機構が設けられている構造となっている。なお、周辺データＲＯＭ基板１５２０の表面（実装面）１５２０ｘに備える特殊コネクタＳＣＮ３のソケットは、周辺データＲＯＭ基板１５２０がカバー体１５０１のカバー平板１５０１ａの裏面側の所定位置に取り付けられて固定される状態において、周辺データＲＯＭ基板１５２０（周辺制御基板１５１０）を正面から見て上述した所定距離範囲のうち、最大限動いたとしても、特殊コネクタＳＣＮ３のソケットの正面（上面）がカバー体１５０１のカバー平板１５０１ａの裏面に接触しないように、特殊コネクタＳＣＮ３のソケットの正面（上面）と、カバー体１５０１のカバー平板１５０１ａの裏面と、の間にすき間が形成されている。

【１７８７】

液晶出力基板１５３０の表面（実装面）１５３０ｘに備える特殊コネクタＳＣＮ４のソケットを、周辺制御基板１５１０の表面（実装面）１５１０ｘに備える特殊コネクタＳＣＮ２のプラグに挿入して押し込むことによりソケットとプラグとが嵌合する。液晶出力基板１５３０の表面（実装面）１５３０ｘに備える特殊コネクタＳＣＮ４のソケットは、この嵌合する際に、液晶出力基板１５３０（周辺制御基板１５１０）を正面から見てソケットが前後方向（パチンコ機１の背面と正面との方向）へ向かって所定距離範囲を可動することによって押し込む際に生ずる前後方向の誤差を吸収することができるというフローティング機構が設けられている構造となっている。なお、液晶出力基板１５３０の表面（実装面）１５３０ｘに備える特殊コネクタＳＣＮ４のソケットは、液晶出力基板１５３０がカバー体１５０１のカバー平板１５０１ａの裏面側の所定位置に取り付けられて固定される状態において、液晶出力基板１５３０（周辺制御基板１５１０）を正面から見て上述した所定距離範囲のうち、最大限動いたとしても、特殊コネクタＳＣＮ４のソケットの正面（上面）がカバー体１５０１のカバー平板１５０１ａの裏面に接触しないように、特殊コネクタＳＣＮ４のソケットの正面（上面）と、カバー体１５０１のカバー平板１５０１ａの裏面と、の間にすき間が形成されている。

【１７８８】

ここで、周辺データＲＯＭ基板１５２０に特殊コネクタＳＣＮ３、液晶出力基板１５３０に特殊コネクタＳＣＮ４を採用した理由について簡単に説明する。周辺データＲＯＭ基板１５２０には、周辺制御基板１５１０の制御対象となっている各種の制御情報（周辺データ）を記憶することができる周辺データＲＯＭ１５２０ａ（上述した演出表示制御部１５１２の画像ＲＯＭの機能等を含む。）を備えている。各種の制御情報（周辺データ）としては、演出表示装置１６００にさまざまな演出画像を描画するための背景画像、キャラクタ画像、図柄画像等の画像データ、扉枠３や遊技盤５に備える各種装飾基板に複数実装される各種ＬＥＤ等の発光態様（点灯、階調、点滅、消灯等）を規定する発光データ、音楽、音声、警告音、報知音等の音データ、扉枠３や遊技盤５に備える各種可動演出体を駆動制御するための駆動データ等を挙げることができる。

【１７８９】

周辺データＲＯＭ１５２０ａは、ＮＡＮＤ型フラッシュ（不揮発性）メモリであり、ＮＯＲ型フラッシュ（不揮発性）メモリと比べて安価であり、大容量であり、そして各種データの書き込みを高速に行うことができる。周辺データＲＯＭ１５２０ａは、動作電圧が低

く、消費電力を抑制することができと共に、ＳＡＴＡ規格に準拠する通信による高速な転送速度を実現することができる。

【１７９０】

このように、周辺データＲＯＭ１５２０ａとしてＮＡＮＤ型フラッシュ（不揮発性）メモリを採用することによって、コストダウンを実現すると共に、消費電力の抑制に寄与し、記憶した各種データを高速な転送速度により読み出すことができる。ところが、周辺データＲＯＭ１５２０ａは、その動作電圧が低いことにより消費電力を抑制することができるものの、動作電圧が低いことによってノイズの影響を受けやすい。また周辺データＲＯＭ基板１５２０から、周辺データＲＯＭ１５２０ａに記憶される各種データを周辺制御基板１５１０に対して、正確にかつ確実に伝送する必要がある。そこで、本実施形態では、周辺データＲＯＭ基板１５２０と周辺制御基板１５１０との基板間を、配線（ハーネス）を介して、電気的に接続するという構成を採用せず、周辺データＲＯＭ基板１５２０と周辺制御基板１５１０とを基板間コネクタにより電気的に接続するという構成を採用することで基板間伝送路に対して侵入するノイズの影響を低減している。

【１７９１】

カバー体１５０１の内部空間内に各種基板の取り付け手順については後述するが、周辺データＲＯＭ基板１５２０は、自身の表面（実装面）１５２０ｘに備える特殊コネクタＳＣＮ３のソケットを、周辺制御基板１５１０の表面（実装面）１５１０ｘに備える特殊コネクタＳＣＮ１のプラグに挿入して押し込んだ後に、周辺制御基板１５１０と共に、周辺データＲＯＭ基板１５２０及び液晶出力基板１５３０をカバー平板１５０１ａの裏面側に固定する必要があるため、上述したフローティング機構が設けられる特殊コネクタＳＣＮ３のソケットを採用することにより、この周辺制御基板１５１０と共に、周辺データＲＯＭ基板１５２０をカバー平板１５０１ａの裏面側に固定する際に生ずる前後方向の誤差を吸収することで、プラグとソケットとに複数形成される接続端子の破損を防止して、周辺制御基板１５１０と周辺データＲＯＭ基板１５２０との基板間における伝送路を確実に形成することができることができる。

【１７９２】

また、カバー体１５０１は、上述したように、ポリカーボネートにカーボンを含有した導電性の樹脂製であるため、設計寸法距離公差内であるものの、成型後にカバー体１５０１のカバー平板１５０１ａが反る場合がある。このような場合であっても、上述したフローティング機構が設けられる特殊コネクタＳＣＮ３のソケットを採用することにより、周辺制御基板１５１０と共に、周辺データＲＯＭ基板１５２０を、反ったカバー平板１５０１ａの裏面側に固定する際に生ずる前後方向の誤差を吸収することで、プラグとソケットとに複数形成される接続端子の破損を防止して、周辺制御基板１５１０と周辺データＲＯＭ基板１５２０との基板間における伝送路を確実に形成することができることができる。

【１７９３】

液晶出力基板１５３０は、周辺制御基板１５１０から伝送される演出表示装置１６００に描画する画像の描画データをコネクタＣＮ１０から出力することにより、演出表示装置１６００に遊技演出の進行（例えば、遊技者に対して通常状態と比べて有利な大当り遊技状態が発生する旨を伝える画像、大当り遊技状態が発生しない旨を伝える画像、大当り遊技状態が発生しないものの、通常状態と比べて大当り遊技状態が発生する状態へ近づいている旨を伝える画像等）やデモンストレーション（遊技者待ち状態となって行われるデモ演出）を画像として描画する重要な基板である。このため、周辺制御基板１５１０からの演出表示装置１６００に描画する画像の描画データを液晶出力基板１５３０に対して、正確にかつ確実に伝送する必要がある。そこで、本実施形態では、液晶出力基板１５３０と周辺制御基板１５１０との基板間を、配線（ハーネス）を介して、電気的に接続するという構成を採用せず、液晶出力基板１５３０と周辺制御基板１５１０とを基板間コネクタにより電気的に接続するという構成を採用することで基板間伝送路に対して侵入するノイズの影響を低減している。

【１７９４】

カバー体１５０１の内部空間内に各種基板の取り付け手順については後述するが、液晶出力基板１５３０は、自身の表面（実装面）１５３０ｘに備える特殊コネクタＳＣＮ４のソケットを、周辺制御基板１５１０の表面（実装面）１５１０ｘに備える特殊コネクタＳＣＮ２のプラグに挿入して押し込んだ後に、周辺制御基板１５１０と共に、周辺データＲＯＭ基板１５２０及び液晶出力基板１５３０をカバー平板１５０１ａの裏面側に固定する必要があるため、上述したフローティング機構が設けられる特殊コネクタＳＣＮ４のソケットを採用することにより、この周辺制御基板１５１０と共に、液晶出力基板１５３０をカバー平板１５０１ａの裏面側に固定する押し込む際に生ずる前後方向の誤差を吸収することで、プラグとソケットとに複数形成される接続端子の破損を防止して、周辺制御基板１５１０と液晶出力基板１５３０との基板間における伝送路を確実に形成することができることができる。

【１７９５】

また、カバー体１５０１は、上述したように、ポリカーボネートにカーボンを含有した導電性の樹脂製であるため、設計寸法距離公差内であるものの、成型後にカバー体１５０１のカバー平板１５０１ａが反る場合がある。このような場合であっても、上述したフローティング機構が設けられる特殊コネクタＳＣＮ４のソケットを採用することにより、周辺制御基板１５１０と共に、液晶出力基板１５３０を、反ったカバー平板１５０１ａの裏面側に固定する際に生ずる前後方向の誤差を吸収することで、プラグとソケットとに複数形成される接続端子の破損を防止して、周辺制御基板１５１０と液晶出力基板１５３０との基板間における伝送路を確実に形成することができることができる。

【１７９６】

なお、周辺制御基板１５１０、周辺データＲＯＭ基板１５２０、及び液晶出力基板１５３０がカバー平板１５０１ａの裏面側に固定されると、上述したように、周辺制御基板１５１０の裏面と、周辺データＲＯＭ基板１５２０の裏面と、液晶出力基板１５３０の裏面と、が同一の平面上に配置されるようになっているため、周辺制御基板１５１０に表面に対して周辺データＲＯＭ基板１５２０や液晶出力基板１５３０を配置するという立体配置を行う場合と比べると、周辺制御ユニット１５００の前後方向（つまり奥行き方向）の距離寸法を小さくすることができるため、例えば、遊技盤５に大型の可動演出ユニット（可動演出体を作動することができる電気的駆動源や駆動機構、及び原点位置や作動位置を検出するための各種センサ）を配置するための奥行き方向の距離寸法の確保に寄与することができる。

【１７９７】

［周辺制御ユニットの組み立て方法］

ここで、周辺制御ユニット１５００の組み立て方法について説明する。まず、周辺データＲＯＭ基板１５２０の表面（実装面）１５２０ｘに備える特殊コネクタＳＣＮ３のソケットを、周辺制御基板１５１０の表面（実装面）１５１０ｘに備える特殊コネクタＳＣＮ１のプラグに挿入して押し込む。続いて、液晶出力基板１５３０の表面（実装面）１５３０ｘに備える特殊コネクタＳＣＮ４のソケットを、周辺制御基板１５１０の表面（実装面）１５１０ｘに備える特殊コネクタＳＣＮ２のプラグに挿入して押し込む。

【１７９８】

続いて、周辺制御基板１５１０、周辺データＲＯＭ基板１５２０及び液晶出力基板１５３０をカバー平板１５０１ａの裏面側に取り付けるために、周辺制御基板１５１０の表面（実装面）１５１０ｘ、周辺データＲＯＭ基板１５２０の表面（実装面）１５２０ｘ及び液晶出力基板１５３０の表面（実装面）１５３０ｘをカバー平板１５０１ａの裏面側へ向けると共に、周辺データＲＯＭ基板１５２０に形成される貫通孔１５２０ｒ１，１５２０ｒ３を、カバー平板１５０１ａの裏面側に形成される取付ボス突出部１５０１ａｉ１，１５０１ａｉ２に挿入すると共に、液晶出力基板１５３０に形成される貫通孔１５３０ｒ２，１５３０ｒ４を、カバー平板１５０１ａの裏面側に形成される取付ボス突出部１５０１ａｎ１，１５０１ａｎ２に挿入する。これにより、周辺制御基板１５１０に形成される貫通孔１５１０ｒ１～１５１０ｒ４は、カバー平板１５０１ａの裏面側に形成される取付ボス

孔１５０１ａｇ１～１５０１ａｇ４と対応する配置となり、周辺データＲＯＭ基板１５２０に形成される貫通孔１５２０ｒ２，１５２０ｒ４は、カバー平板１５０１ａの裏面側に形成される取付ボス孔１５０１ａｈ１，１５０１ａｈ２と対応する配置となり、そして液晶出力基板１５３０に形成される貫通孔１５３０ｒ１，１５３０ｒ３は、カバー平板１５０１ａの裏面側に形成される取付ボス孔１５０１ａｍ１，１５０１ａｍ２と対応する配置となる。

【１７９９】

続いて、周辺データＲＯＭ基板１５２０に形成される貫通孔１５２０ｒ２，１５２０ｒ４に図示しない金属製のナベねじを挿入してカバー平板１５０１ａの裏面側に形成される取付ボス孔１５０１ａｈ１，１５０１ａｈ２へ向かってねじ込むことにより周辺データＲＯＭ基板１５２０をカバー平板１５０１ａの裏面側に固定し、液晶出力基板１５３０に形成される貫通孔１５３０ｒ１，１５３０ｒ３に図示しない金属製のナベねじを挿入してカバー平板１５０１ａの裏面側に形成される取付ボス孔１５０１ａｍ１，１５０１ａｍ２へ向かってねじ込むことにより液晶出力基板１５３０をカバー平板１５０１ａの裏面側に固定する。

【１８００】

続いて、周辺制御基板１５１０に形成される貫通孔１５１０ｒ１～１５１０ｒ４を、カバー平板１５０１ａの裏面側に形成される取付ボス孔１５０１ａｇ１～１５０１ａｇ４に合わせるように配置し、貫通孔１５１０ｒ１～１５１０ｒ４に図示しない金属製のナベねじを挿入して取付ボス孔１５０１ａｇ１～１５０１ａｇ４へ向かってねじ込むことにより周辺制御基板１５１０をカバー平板１５０１ａの裏面側に固定する。このように、周辺データＲＯＭ基板１５２０、液晶出力基板１５３０、及び周辺制御基板１５１０のうち、周辺制御基板１５１０を最後にカバー平板１５０１ａの裏面側に固定するようになっている。

【１８０１】

周辺データＲＯＭ基板１５２０は、カバー平板１５０１ａの裏面側に形成される取付ボス突出部１５０１ａｉ１，１５０１ａｉ２に挿入されことにより上下左右方向の移動が拘束されると共に、液晶出力基板１５３０は、カバー平板１５０１ａの裏面側に形成される取付ボス突出部１５０１ａｎ１，１５０１ａｎ２に挿入されることにより上下左右方向の移動が拘束されるのに対して、周辺制御基板１５１０には、上下左右方向を拘束するための取付ボス突出部がカバー平板１５０１ａの裏面側に形成されていない。これは、周辺データＲＯＭ基板１５２０、及び液晶出力基板１５３０をカバー平板１５０１ａの裏面側に固定することにより上下左右方向を拘束して、このような拘束による寸法誤差を、周辺制御基板１５１０をカバー平板１５０１ａの裏面側に固定する際に、周辺制御基板１５１０に形成される貫通孔１５１０ｒ１～１５１０ｒ４と、カバー平板１５０１ａの裏面側に形成される取付ボス孔１５０１ａｇ１～１５０１ａｇ４と、にそれぞれ持たせた寸法的な余裕により吸収することができるようになっているためである。

【１８０２】

続いて、カバー平板１５０１ａの裏面側に周辺データＲＯＭ基板１５２０、液晶出力基板１５３０、及び周辺制御基板１５１０が固定された状態において、カバー体１５０１に形成される板状の案内部１５０１ｃａ，１５０１ｃｂを、ベース体１５０２の係合部１５０２ｃａに形成される案内受部１５０２ｃａａ，１５０２ｃａｂに挿入すると共に、カバー体１５０１に形成されるヒンジ掛け部１５０１ｃｃ，１５０１ｃｄのＬ字状の鉤部１５０１ｃｃａ，１５０１ｃｄａを、ベース体１５０２の係合部１５０２ｃａに形成されるヒンジ受け部１５０２ｃａｃ，１５０２ｃａｄのＵ字溝形状の袋部１５０２ｃａｅ，１５０２ｃａｆに挿入する。

【１８０３】

続いて、ヒンジ受け部１５０２ｃａｃ，１５０２ｃａｄのＵ字溝形状の袋部１５０２ｃａｅ，１５０２ｃａｆに、カバー体１５０１に形成されるヒンジ掛け部１５０１ｃｃ，１５０１ｃｄのＬ字状の鉤部１５０１ｃｃａ，１５０１ｃｄａが当接した状態でベース体１５０２によりカバー体１５０１の開口側を覆うように回り込ませてそのままベース体１５０

２をカバー体１５０１に被せた状態において、カバー体１５０１に形成されるカバー側封印部１５０１ｅａに図示しない金属製のアンカーリベットが挿入された金属製ワンウェイネジを挿入してベース体１５０２に形成されるベース側封印部１５０２ｅａへ向かってねじ込む。金属製ワンウェイネジがねじ込まれることにより金属製アンカーリベットの先端面がベース側封印部１５０２ｅａにおいて外部へ向かって広がることによって、カバー体１５０１に形成されるカバー側封印部１５０１ｅａと、ベース体１５０２に形成されるベース側封印部１５０２ｅａと、が封印される状態となる。

【１８０４】

このような封印された状態においては、ベース体１５０２のベース側壁１５０２ｂ～１５０２ｅの内側にカバー体１５０１のカバー側壁１５０１ｂ～１５０１ｅが嵌まると共に内接（面接触）する状態となると共に、ベース体１５０２に形成される断線防止リブ部１５０２ａａ１～１５０２ａａ３の正面が周辺制御基板１５１０の裏面（ハンダ面）１５１０ｙと当接した状態となる。これにより、カバー体１５０１、及びベース体１５０２は、上述したように、ポリカーボネートにカーボンを含有した導電性の樹脂製であるため、カバー体１５０１、及びベース体１５０２が導通する状態となる。なお、このような封印された状態を解除する場合には、カバー体１５０１に形成されるカバー側封印部１５０１ｅａを工具により破壊しなければならい構造となっている。したがって、開閉の痕跡を見ることで、カバー体１５０１とベース体１５０２とから構成される周辺制御基板ボックス１５０５の不正な開閉を発見することができ、周辺制御基板ボックス１５０５への不正行為に対する抑止力が高められている。

【１８０５】

続いて、カバー体１５０１のカバー平板１５０１ａに形成されるＦＡＮ取付凹部１５０１ａａに空冷ファンＦＡＮを押し込み、空冷ファンＦＡＮからの複数の配線をカバー体１５０１のカバー平板１５０１ａに形成される配線引出凹部１５０１ａｂから引き出し、取付孔１５０１ａａｃ１，ａａｃ２にそれぞれカバー平板１５０１ａの正面から後方へ向かって、図示しない金属製の座付きナベねじ（ナベ頭と平ワッシャーとを一体とした形状を有するねじ）をねじ込む。

【１８０６】

続いて、液晶出力基板１５３０のコネクタＣＮ１０に対して、カバー体１５０１のカバー平板１５０１ａに形成される配線引出開口部１５０１ａｅを介して、演出表示装置１６００への複数の配線（ハーネス）を接続するためのコネクタを挿入して取り付けて、カバー体１５０１のカバー平板１５０１ａに形成される取付凹部１５０１ａｆに配線カバー体１５０３を嵌め合わせる。配線カバー体１５０３に形成される貫通孔１５０３ｂ１，１５０３ｂ２に図示しない金属製のナベねじを挿入して取付孔１５０１ａｆｂ１，１５０１ａｆｂ２にそれぞれ配線カバー体１５０３の正面から後方へ向かってねじ込むことにより、配線カバー体１５０３を取付凹部１５０１ａｆに固定する。これにより、複数の配線は、配線カバー体１５０３によりカバーされて触れることができない。

【１８０７】

このように組み立てられる周辺制御ユニット１５００を遊技盤５に備える遊技パネル１１００に取り付ける場合には、周辺制御ユニット１５００を正面から見て、周辺制御ユニット１５００の左辺側（周辺制御ユニット１５００のベース体１５０２に形成される係合部１５０２ｃａ側）を遊技パネル１１００に設けられる図示しない装着溝に挿入して周辺制御ユニット１５００のベース体１５０２に形成される貫通孔１５０２ｅｂ１，１５０２ｅｂ２に図示しない金属製のナベねじを挿入して遊技パネル１１００に設けられる図示しない取付孔へ向かってねじ込むことにより固定する。

【１８０８】

なお、上述した組み立て方法のうち、カバー体１５０１の内部空間内に各種基板の取り付け手順においては、例えば、まず周辺データＲＯＭ基板１５２０を周辺制御基板１５１０のカバー平板１５０１ａの裏面側における上述した所定位置（周辺データＲＯＭ基板１５２０は、カバー体１５０１を背面から見て、カバー体１５０１の右上側に配置されている

。）に固定すると共に、液晶出力基板１５３０を周辺制御基板１５１０のカバー平板１５０１ａの裏面側における上述した所定位置（液晶出力基板１５３０とは、カバー体１５０１を背面から見て、カバー体１５０１の右下側に配置されている。）に固定した後において、周辺データＲＯＭ基板１５２０の表面（実装面）１５２０ｘに備える特殊コネクタＳＣＮ３のソケットを、周辺制御基板１５１０の表面（実装面）１５１０ｘに備える特殊コネクタＳＣＮ１のプラグに挿入して押し込むと共に、液晶出力基板１５３０の表面（実装面）１５３０ｘに備える特殊コネクタＳＣＮ４のソケットを、周辺制御基板１５１０の表面（実装面）１５１０ｘに備える特殊コネクタＳＣＮ２のプラグに挿入して押し込み、周辺制御基板１５１０を上述した所定位置（周辺制御基板１５１０は、カバー体１５０１を背面から見て、カバー体１５０１の左側に詰めて配置されている。）に固定することもできる。このような各種基板の取り付け手順においても、上述したフローティング機構が設けられる特殊コネクタＳＣＮ３，ＳＣＮ４のソケットを採用することにより、この押し込む際に生ずる前後方向の誤差を吸収することで、プラグとソケットとに複数形成される接続端子の破損を防止して、周辺データＲＯＭ基板１５２０と周辺制御基板１５１０との基板間における伝送路を確実にそれぞれ形成することができることができると共に、液晶出力基板１５３０と周辺制御基板１５１０との基板間における伝送路を確実に形成することができることができる。

【１８０９】

ところで、パチンコ機に装着される遊技盤には、遊技仕様が異なる複数種類のものが存在する。本実施形態では、カバー体１５０１のカバー平板１５０１ａの裏面側に、周辺制御基板１５１０、周辺データＲＯＭ基板１５２０、及び液晶出力基板１５３０等の各種基板を３つに分割してそれぞれ取り付けることができるように構成すると共に、周辺制御基板１５１０はパチンコ機に装着される遊技盤の遊技仕様に依存されない共通に利用することができる基板とし、周辺データＲＯＭ基板１５２０は周辺データＲＯＭ１５２０ａに遊技盤の遊技仕様ごとに対応する周辺データが記憶されることで遊技盤の遊技仕様に依存される基板とし、液晶出力基板１５３０は演出表示装置１６００に入力される映像信号の方式に依存される基板としている。

【１８１０】

これにより、周辺制御基板１５１０は、遊技盤の遊技仕様に依存されない基板であって、かつ、演出表示装置１６００に入力される映像信号の方式に依存されない基板であり、共通化された基板となっているため、再利用（使い回し）することができる。また、遊技盤の遊技仕様ごとに対応する周辺データが記憶される周辺データＲＯＭ１５２０ａを備える周辺データＲＯＭ基板１５２０と周辺制御基板１５１０とが上述した基板間コネクタにより電気的に接続されるようになっているため、遊技盤の遊技仕様に合わせて、周辺データＲＯＭ基板１５２０を容易に交換することができる。

【１８１１】

演出表示装置等の表示装置に入力される映像信号の方式には、例えば、上述したように、ＲＧＢ方式、ＬＶＤＳ方式、ＭＩＰＩ方式、ｅＤＰ方式及びクロックレス方式等の複数種類の方式がある。これら複数種類の方式と対応する液晶出力基板１５３０と周辺制御基板１５１０とが上述した基板間コネクタにより電気的に接続されるようになっている。つまり、演出表示装置１６００に入力される映像信号の方式に合わせて、液晶出力基板１５３０を容易に交換することができる。本実施形態では、上述したように、演出表示装置１６００に入力される映像信号の方式として、２つのＬＶＤＳ方式の系統のうち、一方のＬＶＤＳ方式の系統（例えば、第１のＬＶＤＳ方式の系統）が採用されているため、演出表示装置１６００に入力される映像信号の方式（ＬＶＤＳ方式）に合わせた液晶出力基板１５３０が周辺制御基板１５１０と上述した基板間コネクタにより電気的に接続されている。

【１８１２】

また、本実施形態では、カバー体１５０１、ベース体１５０２、及び配線カバー体１５０３は、すべてポリカーボネートにカーボンを含有した導電性の樹脂製として構成されると共に、カバー体１５０１（カバー平板１５０１ａ）の裏面側に周辺制御基板１５１０、周

辺データＲＯＭ基板１５２０、及び液晶出力基板１５３０等の各種基板が金属製のナベねじによりそれぞれ固定されると、これらのグランド（ＧＮＤ）と電気的に接続されて同一のグランド（ＧＮＤ）となるように構成されているため、カバー体１５０１、ベース体１５０２、及び配線カバー体１５０３から侵入したノイズを基板グランド（各種基板のグランド（ＧＮＤ））へ流し、ノイズを除去することができるようになっている（以下、「導電性樹脂製の周辺制御基板ボックス１５０５によるノイズ対策効果」と記載する場合がある）。これにより、各種基板に、このようなノイズを除去する専用のフィルタをそれぞれ備える必要がなく、各種基板のコストダウンに寄与することができる。

【１８１３】

ここで、カバー体１５０１のカバー平板１５０１ａに形成される複数の円形状を有する通風孔１５０１ａｚの配置について説明する。これらの複数の円形状を有する通風孔１５０１ａｚは、上述したように、カバー体１５０１の内側空間を空冷することができると共に、不正の有無を確認することができる機能も有している。

【１８１４】

具体的には、周辺制御ユニット１５００が上述したように組み立てると、図２１９に示すように、ＦＡＮ取付凹部１５０１ａａの右側に形成される複数の円形状を有する通風孔１５０１ａｚは、周辺制御基板１５１０の表面（実装面）１５１０ｘに備える制御ＲＯＭ１５１０ｂの表面に印刷されている品番や型式（又は管理番号）と、制御ＲＯＭ１５１０ｂのＩＣピンの状態と、を視認することができるように、つまり多方向の角度から制御ＲＯＭ１５１０ｂの表面とＩＣピンの状態とを確認することができるように、制御ＲＯＭ１５１０ｂの形状より大きな領域となるようにそれぞれ分散して配置されている。これにより、制御ＲＯＭ１５１０ｂの改変を、複数の円形状を有する通風孔１５０１ａｚを介して、確認することができる。また、制御ＲＯＭ１５１０ｂの近傍に配置されるＬＥＤＭＬ１は、基板ユニット６２０の電源基板６３０からの直流＋５Ｖが供給されている状態において点灯状態が維持されるようになっているため、本来、直流＋５Ｖが供給されている状態を確認（モニター）する機能を有しているものの、制御ＲＯＭ１５１０ｂを明るく照らすというスポットライトとしての機能も更に有することによって、制御ＲＯＭ１５１０ｂの表面とＩＣピンの状態との視認性の向上に寄与することができるようになっている。

【１８１５】

また、ＦＡＮ取付凹部１５０１ａａの左側に形成される複数の円形状を有する通風孔１５０１ａｚは、周辺制御基板１５１０と周辺データＲＯＭ基板１５２０との基板間コネクタの接続状態を確認することができるように、基板間コネクタの形状（周辺制御基板１５１０の表面（実装面）１５１０ｘに備える特殊コネクタＳＣＮ１と周辺データＲＯＭ基板１５２０の表面（実装面）１５２０ｘに備える特殊コネクタＳＣＮ３とにより構成される形状）より大きな領域であって、さらに、周辺データＲＯＭ基板１５２０の表面（実装面）１５２０ｘに備える周辺データＲＯＭ１５２０ａの表面に印刷されている品番や型式（又は管理番号）と、周辺データＲＯＭ１５２０ａのＩＣピンの状態と、を視認することができるように、つまり多方向の角度から周辺データＲＯＭ１５２０ａの表面とＩＣピンの状態とをほぼ確認することができる大きな領域となるようにそれぞれ分散して配置されている。これにより、周辺制御基板１５１０の表面（実装面）１５１０ｘに備える特殊コネクタＳＣＮ１と周辺データＲＯＭ基板１５２０の表面（実装面）１５２０ｘに備える特殊コネクタＳＣＮ３とによる基板間コネクタの改変を、複数の円形状を有する通風孔１５０１ａｚを介して、確認することができる。また、特殊コネクタＳＣＮ１の近傍に配置されるＬＥＤＭＬ３は、基板ユニット６２０の電源基板６３０からの直流＋３７Ｖが供給されている状態において点灯状態が維持されるようになっているため、本来、直流＋３７Ｖが供給されている状態を確認（モニター）する機能を有しているものの、周辺制御基板１５１０の表面（実装面）１５１０ｘに備える特殊コネクタＳＣＮ１と周辺データＲＯＭ基板１５２０の表面（実装面）１５２０ｘに備える特殊コネクタＳＣＮ３とによる基板間コネクタを明るく照らすというスポットライトとしての機能も更に有することによって、周辺制御基板１５１０の表面（実装面）１５１０ｘに備える特殊コネクタＳＣＮ１と周辺データ

ＲＯＭ基板１５２０の表面（実装面）１５２０ｘに備える特殊コネクタＳＣＮ３とによる基板間コネクタの視認性の向上に寄与することができるようになっている。

【１８１６】

また、ＦＡＮ取付凹部１５０１ａａの左下側に形成される複数の円形状を有する通風孔１５０１ａｚは、周辺制御基板１５１０と液晶出力基板１５３０との基板間コネクタの接続状態を確認することができるように、基板間コネクタの形状（周辺制御基板１５１０の表面（実装面）１５１０ｘに備える特殊コネクタＳＣＮ２と液晶出力基板１５３０の表面（実装面）１５３０ｘに備える特殊コネクタＳＣＮ４とにより構成される形状）より大きな領域となるようにそれぞれ分散して配置されている。これにより、周辺制御基板１５１０の表面（実装面）１５１０ｘに備える特殊コネクタＳＣＮ２と液晶出力基板１５３０の表面（実装面）１５３０ｘに備える特殊コネクタＳＣＮ４とによる基板間コネクタの改変を、複数の円形状を有する通風孔１５０１ａｚを介して、確認することができる。また、特殊コネクタＳＣＮ２の近傍に配置されるＬＥＤＭＬ４は、周辺制御ＩＣ１５１０ａが動作している状態において点灯状態が維持されるようになっているため、本来、周辺制御ＩＣ１５１０ａの動作を確認（モニター）する機能を有しているものの、周辺制御基板１５１０の表面（実装面）１５１０ｘに備える特殊コネクタＳＣＮ２と液晶出力基板１５３０の表面（実装面）１５３０ｘに備える特殊コネクタＳＣＮ４とによる基板間コネクタを明るく照らすというスポットライトとしての機能を有することによって、周辺制御基板１５１０の表面（実装面）１５１０ｘに備える特殊コネクタＳＣＮ２と液晶出力基板１５３０の表面（実装面）１５３０ｘに備える特殊コネクタＳＣＮ４とによる基板間コネクタの視認性の向上に寄与することができるようになっている。

【１８１７】

また、ＦＡＮ取付凹部１５０１ａａの右下側に形成される複数の円形状を有する通風孔１５０１ａｚは、周辺制御基板１５１０の表面（実装面）１５１０ｘに備えるＳＤＲＡＭ１５１０ｃ１，１５１０ｃ２の表面に印刷されている品番や型式と、ＳＤＲＡＭ１５１０ｃ１，１５１０ｃ２のＩＣピンの状態と、を視認することができるように、つまり多方向の角度からＳＤＲＡＭ１５１０ｃ１，１５１０ｃ２の表面とＩＣピンの状態とを確認することができるように、ＳＤＲＡＭ１５１０ｃ１，１５１０ｃ２の形状より大きな領域となるようにそれぞれ分散して配置されている。これにより、ＳＤＲＡＭ１５１０ｃ１，１５１０ｃ２の改変を、複数の円形状を有する通風孔１５０１ａｚを介して、確認することができる。また、ＳＤＲＡＭ１５１０ｃ１，１５１０ｃ２から構成されるＳＤＲＡＭ１５１０ｃの近傍に配置されるＬＥＤＭＬ２は、基板ユニット６２０の電源基板６３０からの直流＋１２Ｖが供給されている状態において点灯状態が維持されるようになっているため、本来、直流＋１２Ｖが供給されている状態を確認（モニター）する機能を有しているものの、ＳＤＲＡＭ１５１０ｃを明るく照らすというスポットライトとしての機能も更に有することによって、ＳＤＲＡＭ１５１０ｃ（つまり、ＳＤＲＡＭ１５１０ｃ１，１５１０ｃ２）の表面とＩＣピンの状態との視認性の向上に寄与することができるようになっている。

【１８１８】

また、空冷ファンＦＡＮの羽部を構成する複数のブレードのうち、ブレードとブレードとのすき間（具体的には、検査人が空冷ファンＦＡＮの羽部を回転させることによりブレードとブレードとのすき間）から周辺制御基板１５１０の表面（実装面）１５１０ｘに備える周辺制御ＩＣ１５１０ａの品番を確認することができる。これにより、周辺制御ＩＣ１５１０ａの周囲に不正基板が配置されていないかを、複数の円形状を有する通風孔１５０１ａｚを介して、確認することができる。

【１８１９】

なお、本実施形態では、周辺制御基板１５１０の表面（実装面）１５１０ｘに備えるＬＥＤＭＬ１～ＬＥＤＭＬ４として、面実装型であって角度が１２０度程度というワイドなものであり、指向性の弱いタイプのものが採用されているため、照明としての用途にも適している。周辺制御基板１５１０、周辺データＲＯＭ基板１５２０、及び液晶出力基板１５３０等の各種基板がカバー平板１５０１ａの裏面側の所定位置に取り付けられて固定され

ると、上述したように、各種基板の表面（カバー平板１５０１ａの裏面側と対向する面）とカバー平板１５０１ａの裏面との間に所定高さの距離寸法（本実施形態では、１４．８ｍｍ）を有する空間が形成される状態となる。照明としての用途にも適している周辺制御基板１５１０の表面（実装面）１５１０ｘに備えるＬＥＤＭＬ１～ＬＥＤＭＬ４が点灯することによって、このように形成される空間内を明るく照らすことができる。

【１８２０】

また、周辺制御基板１５１０の表面（実装面）１５１０ｘに備えるＬＥＤＭＬ１～ＬＥＤＭＬ４の発光面とそれぞれ対向する、カバー体１５０１のカバー平板１５０１ａの裏面の領域及びその周囲に対しては、ＬＥＤＭＬ１～ＬＥＤＭＬ４が発した光を反射させて再び周辺制御基板１５１０の表面（実装面）１５１０ｘへ向かわせる図示しない反射部がそれぞれ形成されている。これらの図示しない反射部としては、白色などの明るい色の着色塗料のほかに光沢を有する着色塗料であってもよいし、光沢を有する金属製シートを貼り付けてもよい。

【１８２１】

また、遊技盤５の近傍には、遊技盤５の上方に球タンク５５２やタンクレール５５３が配置され、遊技盤５の側方に払出ユニット５６０が配置されるため、これらにより構成される球経路において遊技球が互いにこすれ合って帯電して静電放電することでノイズ源となる。このため、球経路が形成される遊技盤５の近傍は、遊技球からの静電放電によるノイズの影響を受ける環境が存在する。またパチンコ機１は、遊技ホールの島設備に背向かいで列設されているため、他のパチンコ機がノイズ源となってノイズの影響を受ける場合もある。このように、遊技盤５の周囲はノイズの影響を極めて受け易い環境下にある。そこで、本実施形態においては、カバー体１５０１、ベース体１５０２、及び配線カバー体１５０３を、上述したように、ポリカーボネートにカーボンを含有した導電性の樹脂製とすると共に、周辺制御基板１５１０、周辺データＲＯＭ基板１５２０、及び液晶出力基板１５３０と同一のグランド（ＧＮＤ）と電気的に接続する構成を採用した。これにより、遊技盤５の遊技パネル１１００の後側に取り付けられる周辺制御ユニット１５００のカバー体１５０１、及びベース体１５０２等を介して侵入するノイズを、周辺制御基板１５１０、周辺データＲＯＭ基板１５２０、及び液晶出力基板１５３０等の基板グランド（各種基板のグランド（ＧＮＤ））へ流し、ノイズを除去することができる。

【１８２２】

［ベタグランドの一部箔抜き］

ところで、周辺制御基板１５１０の表面（実装面）１５１０ｘは、制御信号を伝送する配線パターン、電源を供給する配線パターン、各種ランドパターンが形成される領域を除く他の領域をグランド（ＧＮＤ）とする、いわゆるベタグランド（基板グランド）（「ベタアース」ともいわれる。）として形成されているとともに、周辺制御基板１５１０の裏面（ハンダ面）１５１０ｙも、制御信号を伝送する配線パターン、電源を供給する配線パターン、各種ランドパターンが形成される領域を除く他の領域をグランド（ＧＮＤ）とする、いわゆるベタグランド（基板グランド）（「ベタアース」ともいわれる。）として形成されている。周辺制御基板１５１０の表面（実装面）１５１０ｘに形成されるベタグランド（基板グランド）と、周辺制御基板１５１０の裏面（ハンダ面）１５１０ｙに形成されるベタグランド（基板グランド）とは、周辺制御基板１５１０の両面（表面（実装面）及び裏面（ハンダ面））に形成される複数のスルーホール（周辺制御基板１５１０の両面（表面（実装面）及び裏面（ハンダ面））を貫通する孔（銅メッキされる孔））により電気的に接続されることにより、同一のグランド（ＧＮＤ）となっている。

【１８２３】

また、ベース平板１５０２ａは、上述したように、その正面から見て、下辺側に沿って、所定間隔をあけて、周辺制御基板１５１０の表面（実装面）１５１０ｘに備えるコネクタＣＮ２～ＣＮ７と干渉しない位置（つまり、周辺制御基板１５１０の表面（実装面）１５１０ｘに備えるコネクタＣＮ２～ＣＮ７の各端子が周辺制御基板１５１０の表面（実装面）１５１０ｘから裏面（ハンダ面）１５１０ｙへ挿通され、周辺制御基板１５１０の裏面

（ハンダ面）１５１０ｙから突出しているため、この突出する各端子と干渉しない位置）に、これらのコネクタＣＮ２～ＣＮ７に対して配線を接続するためのコネクタを挿入するときの力により周辺制御基板１５１０が反って周辺制御基板１５１０に形成される電気配線パターンが断線するのを防ぐ上下方向に細長い断線防止リブ部１５０２ａａ１～１５０２ａａ３がそれぞれ形成されている。

【１８２４】

また、周辺制御ユニット１５００が組み立てられ、カバー体１５０１に形成されるカバー側封印部１５０１ｅａと、ベース体１５０２に形成されるベース側封印部１５０２ｅａと、が封印される状態となると、上述したように、ベース体１５０２のベース側壁１５０２ｂ～１５０２ｅの内側にカバー体１５０１のカバー側壁１５０１ｂ～１５０１ｅが嵌まると共に内接（面接触）する状態となると共に、ベース体１５０２に形成される断線防止リブ部１５０２ａａ１～１５０２ａａ３の正面が周辺制御基板１５１０の裏面（ハンダ面）１５１０ｙと当接した状態となる。

【１８２５】

また、カバー体１５０１、ベース体１５０２、及び配線カバー体１５０３は、上述したように、すべてポリカーボネートにカーボンを含有した導電性の樹脂製として構成されると共に、カバー体１５０１（カバー平板１５０１ａ）の裏面側に周辺制御基板１５１０、周辺データＲＯＭ基板１５２０、及び液晶出力基板１５３０等の各種基板が金属製のナベねじによりそれぞれ固定されると、これらのグランド（ＧＮＤ）と電気的に接続されて同一のグランド（ＧＮＤ）となるように構成されているため、カバー体１５０１、ベース体１５０２、及び配線カバー体１５０３から侵入したノイズを基板グランド（各種基板のグランド（ＧＮＤ））へ流し、ノイズを除去することができるようになっている。

【１８２６】

ところで、ベース体１５０２に形成される断線防止リブ部１５０２ａａ１～１５０２ａａ３の正面が周辺制御基板１５１０の裏面（ハンダ面）１５１０ｙと当接した状態となっている。この当接した部分における周辺制御基板１５１０の裏面（ハンダ面）１５１０ｙにはベタグランドが形成されると共にベタグランドがレジストで覆われていたが、耐ノイズ試験において、この当接した部分における周辺制御基板１５１０の裏面（ハンダ面）１５１０ｙにベタグランドを形成してレジストで覆ったものと、この当接した部分における周辺制御基板１５１０の裏面（ハンダ面）１５１０ｙにベタグランドを形成せずレジストで覆ったものと、を試験したところ、この当接した部分における周辺制御基板１５１０の裏面（ハンダ面）１５１０ｙにベタグランドを形成せずレジストで覆ったものの方が、ノイズ耐性が高いことが得られた。

【１８２７】

ベース体１５０２を介して電磁波ノイズが侵入すると、ベース体１５０２に形成される断線防止リブ部１５０２ａａ１～１５０２ａａ３の正面が周辺制御基板１５１０の裏面（ハンダ面）１５１０ｙと当接した部分に高電圧がかかることにより電磁波ノイズがレジストを通り抜けてベタブランドへ侵入することとなる。このような予期しないルートを介して電磁波ノイズが侵入することにより、電磁波ノイズの影響を受けやすい電子部品やこの電子部品と電気的に接続された配線パターンがベース体１５０２に形成される断線防止リブ部１５０２ａａ１～１５０２ａａ３の正面が周辺制御基板１５１０の裏面（ハンダ面）１５１０ｙと当接した部分と隣接していると、誤動作や破損の原因となる。

【１８２８】

また、ベース体１５０２に形成される断線防止リブ部１５０２ａａ１～１５０２ａａ３の正面のうち、どの断線防止リブ部と当接する周辺制御基板１５１０の裏面（ハンダ面）１５１０ｙの部分におけるレジストを電磁波ノイズが通り抜けて侵入するか予測できないため、特定の断線防止リブ部に対して、電磁波ノイズの影響を受けやすい電子部品やこの電子部品と電気的に接続された配線パターンを遠ざけて配置することが困難である。

【１８２９】

なお、ベース体１５０２に形成される断線防止リブ部１５０２ａａ１～１５０２ａａ３の

正面が周辺制御基板１５１０の裏面（ハンダ面）１５１０ｙと当接した部分に高電圧がかかることにより電磁波ノイズがレジストを通り抜けてベタブランドへ侵入するため、断線防止リブ部１５０２ａａ１～１５０２ａａ３とベタグラントとがレジストを介して当接している場合に、この当接している部分にベース体１５０２に侵入した電磁波ノイズによる高電圧がかかることにより、断線防止リブ部からベタグランへ電磁波ノイズが侵入する不必要なループ配線が形成されていると考えられる。

【１８３０】

ここで、ベース体１５０２に形成される断線防止リブ部１５０２ａａ１～１５０２ａａ３の正面が周辺制御基板１５１０の裏面（ハンダ面）１５１０ｙと当接した部分における周辺制御基板１５１０の裏面（ハンダ面）１５１０ｙのベタグランドの形状について図２２０を参照して説明する。図２２０はベース体に形成される断線防止リブ部の正面が周辺制御基板の裏面（ハンダ面）と当接した部分におけるベタグランドの形状を示す図であり、周辺制御基板の裏面（ハンダ面）の銅箔面の概略図（ａ）であり、周辺制御基板の裏面（ハンダ面）の概略図（ｂ）である。

【１８３１】

ベース体１５０２に形成される断線防止リブ部１５０２ａａ１～１５０２ａａ３は、上述したように、上下方向に細長い形状を有しており、周辺制御基板の裏面（ハンダ面）における断線防止リブ部１５０２ａａ１～１５０２ａａ３とそれぞれ対応する位置とその周囲は、図２２０（ａ）に示すように、左右方向の距離寸法ｄｇｗと上下方向の距離寸法ｄｇｈとを有する上下方向に長い矩形状の箔抜き領域１５１０ｙａが銅箔面１５１０ｙｐにそれぞれ形成されている。つまり、周辺制御基板の裏面（ハンダ面）の下辺側には、ベタグランの一部が箔抜き（除去）されている領域が形成されている。

【１８３２】

これらの箔抜き領域１５１０ｙａは、その左辺と断線防止リブ部１５０２ａａ１～１５０２ａａ３の左側面との距離寸法ｄｇ０が断線防止リブ部１５０２ａａ１～１５０２ａａ３の左右方向の距離寸法（幅寸法）ｄｒｗ以上の長さにそれぞれ形成されている。これらの箔抜き領域１５１０ｙａの左辺と断線防止リブ部１５０２ａａ１～１５０２ａａ３の左側面との距離寸法ｄｇ０の長さとして断線防止リブ部１５０２ａａ１～１５０２ａａ３の左右方向の距離寸法（幅寸法）ｄｒｗの１．０倍～３．０倍程度の長さであり、本実施形態では、これらの箔抜き領域１５１０ｙａの左辺と断線防止リブ部１５０２ａａ１～１５０２ａａ３の左側面との距離寸法ｄｇ０が断線防止リブ部１５０２ａａ１～１５０２ａａ３の左右方向の距離寸法（幅寸法）ｄｒｗの１．５倍の長さとなっている。

【１８３３】

また、これらの箔抜き領域１５１０ｙａは、その右辺と断線防止リブ部１５０２ａａ１～１５０２ａａ３の右側面との距離寸法ｄｇ１が断線防止リブ部１５０２ａａ１～１５０２ａａ３の左右方向の距離寸法（幅寸法）ｄｒｗ以上の長さにそれぞれ形成されている。これらの箔抜き領域１５１０ｙａの右辺と断線防止リブ部１５０２ａａ１～１５０２ａａ３の右側面との距離寸法ｄｇ１の長さとして断線防止リブ部１５０２ａａ１～１５０２ａａ３の左右方向の距離寸法（幅寸法）ｄｒｗの１．０倍～３．０倍程度の長さであり、本実施形態では、これらの箔抜き領域１５１０ｙａの右辺と断線防止リブ部１５０２ａａ１～１５０２ａａ３の右側面との距離寸法ｄｇ１が断線防止リブ部１５０２ａａ１～１５０２ａａ３の左右方向の距離寸法（幅寸法）ｄｒｗの１．５倍の長さとなっている。

【１８３４】

また、これらの箔抜き領域１５１０ｙａは、その上辺と断線防止リブ部１５０２ａａ１～１５０２ａａ３の上側面との距離寸法ｄｇ２が断線防止リブ部１５０２ａａ１～１５０２ａａ３の左右方向の距離寸法（幅寸法）ｄｒｗ以上の長さにそれぞれ形成されている。これらの箔抜き領域１５１０ｙａの上辺と断線防止リブ部１５０２ａａ１～１５０２ａａ３の上側面との距離寸法ｄｇ２の長さとして断線防止リブ部１５０２ａａ１～１５０２ａａ３の左右方向の距離寸法（幅寸法）ｄｒｗの１．０倍～３．０倍程度の長さであり、本実施形態では、これらの箔抜き領域１５１０ｙａの上辺と断線防止リブ部１５０２ａａ１～

１５０２ａａ３の上側面との距離寸法ｄｇ２が断線防止リブ部１５０２ａａ１～１５０２ａａ３の左右方向の距離寸法（幅寸法）ｄｒｗの１．５倍の長さとなっている。
【１８３５】
つまり、周辺制御基板の裏面（ハンダ面）１５１０ｙにおいてベタグランドが形成される銅箔面１５１０ｙｐに箔抜き領域１５１０ｙａが形成されることにより、箔抜き領域１５１０ｙａがベタグランドと電気的に接続されず、絶縁された領域となっている。
【１８３６】
周辺制御基板の裏面（ハンダ面）１５１０ｙの銅箔面１５１０ｙｐにレジスト液が塗布されると、図２２０（ｂ）に示すように、箔抜き領域１５１０ｙａの上にもレジスト液が塗布されレジスト層１５１０ｙｒが形成される。ベース体１５０２に形成される断線防止リブ部１５０２ａａ１～１５０２ａａ３は、周辺制御基板の裏面（ハンダ面）１５１０ｙにおける箔抜き領域１５１０ｙａ上のレジスト層１５１０ｙｒに当接することとなる。なお、周辺制御基板の裏面（ハンダ面）１５１０ｙの箔抜き領域１５１０ｙａと対応する周辺制御基板の表面（実装面）１５１０ｘにおける銅箔面には、ベタグランドが形成されており、箔抜き領域１５１０ｙａと同一形状の箔抜き領域が全く形成されていない。
【１８３７】
カバー体１５０１、ベース体１５０２、及び配線カバー体１５０３は、上述したように、すべてポリカーボネートにカーボンを含有した導電性の樹脂製として構成されると共に、カバー体１５０１（カバー平板１５０１ａ）の裏面側に周辺制御基板１５１０、周辺データＲＯＭ基板１５２０、及び液晶出力基板１５３０等の各種基板が金属製のナベねじによりそれぞれ固定されると、これらのグランド（ＧＮＤ）と電気的に接続されて同一のグランド（ＧＮＤ）となるように構成されている。このため、本実施形態では、カバー体１５０１、ベース体１５０２、及び配線カバー体１５０３に侵入したノイズがベース体１５０２に形成される断線防止リブ部１５０２ａａ１～１５０２ａａ３から箔抜き領域１５１０ｙａを介して周辺制御基板の裏面（ハンダ面）１５１０ｙのベタグランドへ侵入することができない「ノイズが抜けないルート」が形成されると共に、カバー体１５０１、ベース体１５０２、及び配線カバー体１５０３に侵入したノイズが上述した金属製のナベねじを介して基板グランド（各種基板のグランド（ＧＮＤ））へ流れる「ノイズが抜けるルート」が形成されることにより、ノイズを除去することができるようになっている。
【１８３８】
［周辺制御基板の再利用］
周辺制御基板１５１０は、上述したように、遊技盤の遊技仕様に依存されない基板であって、かつ、演出表示装置１６００に入力される映像信号の方式に依存されない基板であり、共通化された基板となっているため、再利用（使い回し）することができる。
【１８３９】
周辺制御基板１５１０に形成される４つの貫通孔１５１０ｒ１～１５１０ｒ４の周囲は、上述したように、周辺制御基板１５１０の表面（実装面）１５１０ｘ側に円形状を有するハンダ付け用銅箔（いわゆる、「ランド」）１５１０ｒｆ１～１５１０ｒｆ４と、周辺制御基板１５１０の裏面（ハンダ面）１５１０ｙ側に円形状を有するハンダ付け用銅箔（いわゆる、「ランド」）１５１０ｒｂ１～１５１０ｒｂ４と、がそれぞれ形成される。周辺制御基板１５１０をカバー平板１５０１ａの裏面側に取り付けるときには、上述したように、周辺制御基板１５０１の表面（実装面）１５１０ｘをカバー平板１５０１ａの裏面側へ向けると共に、周辺制御基板１５１０に形成される貫通孔１５１０ｒ１～１５１０ｒ４を、カバー平板１５０１ａの裏面側に形成される取付ボス孔１５０１ａｇ１～１５０１ａｇ４に合わせるように配置し、貫通孔１５１０ｒ１～１５１０ｒ４に図示しない金属製のナベねじを挿入して取付ボス孔１５０１ａｇ１～１５０１ａｇ４へ向かってねじ込むことにより周辺制御基板１５１０をカバー平板１５０１ａの裏面側に固定する。このため、周辺制御基板１５１０の裏面（ハンダ面）１５１０ｙ側のランド１５１０ｒｂ１～１５１０ｒｂ４と金属製のナベねじのナベ部の座面（頭部の座面）とが当接した状態となる。
【１８４０】

このように、周辺制御基板１５１０の裏面（ハンダ面）１５１０ｙ側のランド１５１０ｒｂ１～１５１０ｒｂ４と金属製のナベねじのナベ部の座面（頭部の座面）とが当接した状態となるため、周辺制御基板１５１０を再利用することにより、金属製のナベねじによる繰り返しのねじ込みや取り外しで周辺制御基板１５１０の表面（実装面）１５１０ｘ側のランド１５１０ｒｆ１～１５１０ｒｆ４がカバー平板１５０１ａの裏面側に形成される取付ボス孔１５０１ａｇ１～１５０１ａｇ４の取付面（ボス面）と擦れて周辺制御基板１５１０の基材から剥がれたり、周辺制御基板１５１０の裏面（ハンダ面）１５１０ｙ側のランド１５１０ｒｂ１～１５１０ｒｂ４が金属製のナベねじのナベ部の座面（頭部の座面）と擦れて周辺制御基板１５１０の基材から剥がれたり、周辺制御基板１５１０の裏面（ハンダ面）１５１０ｙ側のランド１５１０ｒｂ１～１５１０ｒｂ４や周辺制御基板１５１０の裏面（ハンダ面）１５１０ｙ側のランド１５１０ｒｂ１～１５１０ｒｂ４ｙの銅箔が剥き出しになっていると、酸化して電気的に接続性が悪くなったりすることによって、周辺制御基板１５１０を再利用することが困難となるという問題がある。

【１８４１】

そこで、本実施形態では、周辺制御基板１５１０の表面（実装面）１５１０ｘ側のランド１５１０ｒｆ１～１５１０ｒｆ４と周辺制御基板１５１０の裏面（ハンダ面）１５１０ｙ側のランド１５１０ｒｂ１～１５１０ｒｂ４とには、その表面である銅箔が剥き出しとならないようにそれぞれハンダ付けされている。このハンダは、カバー平板１５０１ａの裏面側に形成される取付ボス孔１５０１ａｇ１～１５０１ａｇ４の取付面（ボス面）と周辺制御基板１５１０の表面（実装面）１５１０ｘ側のランド１５１０ｒｆ１～１５１０ｒｆ４とを電気的に接続可能に被覆していると共に、周辺制御基板１５１０の裏面（ハンダ面）１５１０ｙ側のランド１５１０ｒｂ１～１５１０ｒｂ４と金属製のナベねじのナベ部の座面（頭部の座面）とを電気的に接続可能に被覆している。これにより、周辺制御基板１５１０の表面（実装面）１５１０ｘ側のランド１５１０ｒｆ１～１５１０ｒｆ４がカバー平板１５０１ａの裏面側に形成される取付ボス孔１５０１ａｇ１～１５０１ａｇ４の取付面（ボス面）と擦れることを防止して周辺制御基板１５１０の基材から剥がれることを防止することができるし、周辺制御基板１５１０の裏面（ハンダ面）１５１０ｙ側のランド１５１０ｒｂ１～１５１０ｒｂ４が金属製のナベねじのナベ部の座面（頭部の座面）と擦れることを防止して周辺制御基板１５１０の基材から剥がれたりすることを防止することができるし、周辺制御基板１５１０の表面（実装面）１５１０ｘ側のランド１５１０ｒｆ１～１５１０ｒｆ４や周辺制御基板１５１０の裏面（ハンダ面）１５１０ｙ側のランド１５１０ｒｂ１～１５１０ｒｂ４の銅箔部分が剥き出した状態とならず酸化を防止することができるし、周辺制御基板１５１０の表面（実装面）１５１０ｘ側のランド１５１０ｒｆ１～１５１０ｒｆ４とカバー平板１５０１ａの裏面側に形成される取付ボス孔１５０１ａｇ１～１５０１ａｇ４の取付面（ボス面）との当接した状態における電気的な接続性を良好とすることができると共に、ハンダの粘度により周辺制御基板１５１０の裏面（ハンダ面）１５１０ｙ側のランド１５１０ｒｂ１～１５１０ｒｂ４と金属製のナベねじのナベ部の座面（頭部の座面）との当接した状態における電気的な接続性を良好とすることができる。

【１８４２】

これにより、周辺制御基板１５１０を再利用しても、カバー体１５０１、ベース体１５０２、及び配線カバー体１５０３に侵入したノイズが金属製のナベねじを介して基板グランド（各種基板のグランド（ＧＮＤ））へ流れる上述した「ノイズが抜けるルート」が確実に形成されることにより、導電性樹脂製の周辺制御基板ボックス１５０５によるノイズ対策効果を安定して維持することができる。

【１８４３】

また、本実施形態では、周辺制御基板１５１０の表面（実装面）１５１０ｘ側のランド１５１０ｒｆ１～１５１０ｒｆ４と周辺制御基板１５１０の裏面（ハンダ面）１５１０ｙ側のランド１５１０ｒｂ１～１５１０ｒｂ４とには、上述したように、その表面である銅箔が剥き出しとならないようにそれぞれハンダ付けされている。周辺制御基板１５１０の裏

面（ハンダ面）１５１０ｙ側のランド１５１０ｒｂ１～１５１０ｒｂ４は、上述したように、金属製のナベねじの座面が当接するため、ランド１５１０ｒｂ１～１５１０ｒｂ４の表面である銅箔にハンダ付けされる厚さを均一としないと（つまり、ハンダが盛り上がった部分があると）、周辺制御基板１５１０の裏面（ハンダ面）１５１０ｙ側のランド１５１０ｒｂ１～１５１０ｒｂ４と金属製のナベねじの座面とが当接する面積が減少して電気的な接続性が悪くなるという問題がある。また、周辺制御基板１５１０の表面（実装面）１５１０ｘ側のランド１５１０ｒｆ１～１５１０ｒｆ４は、上述したように、カバー平板１５０１ａの裏面側に形成される取付ボス孔１５０１ａｇ１～１５０１ａｇ４の取付面（ボス面）と当接するため、ランド１５１０ｒｆ１～１５１０ｒｆ４の表面である銅箔にハンダ付けされる厚さを均一としないと（つまり、ハンダが盛り上がった部分があると）、周辺制御基板１５１０の表面（実装面）１５１０ｘ側のランド１５１０ｒｆ１～１５１０ｒｆ４と、カバー平板１５０１ａの裏面側に形成される取付ボス孔１５０１ａｇ１～１５０１ａｇ４の取付面（ボス面）と、が当接する面積が減少して電気的な接続性が悪くなるという問題がある。なお、ランド１５１０ｒｆ１～１５１０ｒｆ４の表面である銅箔にハンダ付けされる厚さを均一としないと（つまり、ハンダが盛り上がった部分があると）、周辺制御基板１５１０に形成される貫通孔１５１０ｒ１～１５１０ｒ４に金属製のナベねじを挿入してカバー平板１５０１ａの裏面側に形成される取付ボス孔１５０１ａｇ１～１５０１ａｇ４へ向かってねじ込むことにより周辺制御基板１５１０をカバー平板１５０１ａの裏面側に固定する際に、周辺制御基板１５１０の歪みが生ずることとなり、各種配線パターンが断線する原因ともなる。

【１８４４】

そこで、本実施形態では、金属製のナベねじの座面が当接する周辺制御基板１５１０の裏面（ハンダ面）１５１０ｙ側のランド１５１０ｒｂ１～１５１０ｒｂ４の表面である銅箔に対しては、周辺制御基板１５１０の裏面（ハンダ面）１５１０ｙにメタルマスクを置いてメタルマスク上にスキージ（へらのようなもの）を用いて半田ペーストを広げることでメタルマスクに形成される穴から塗布し、周辺制御基板１５１０の裏面（ハンダ面）１５１０ｙをリフロー炉に入れて熱で半田ペーストを乾燥させることにより、ランド１５１０ｒｂ１～１５１０ｒｂ４の表面である銅箔にハンダ付けされる厚さをメタルマスクの板厚として均一とすることができる。また、カバー平板１５０１ａの裏面側に形成される取付ボス孔１５０１ａｇ１～１５０１ａｇ４の取付面（ボス面）と当接する周辺制御基板１５１０の表面（実装面）１５１０ｘ側のランド１５１０ｒｆ１～１５１０ｒｆ４の表面である銅箔に対しては、周辺制御基板１５１０の表面（実装面）１５１０ｘにメタルマスクを置いてメタルマスク上にスキージ（へらのようなもの）を用いて半田ペーストを広げることでメタルマスクに形成される穴から塗布し、周辺制御基板１５１０の表面（実装面）１５１０ｘをリフロー炉に入れて熱で半田ペーストを乾燥させることにより、ランド１５１０ｒｆ１～１５１０ｒｆ４の表面である銅箔にハンダ付けされる厚さをメタルマスクの板厚として均一とすることができる。

【１８４５】

［変形例］

なお、上述した本実施形態では、周辺制御基板１５１０の表面（実装面）１５１０ｘ側のランド１５１０ｒｆ１～１５１０ｒｆ４と周辺制御基板１５１０の裏面（ハンダ面）１５１０ｙ側のランド１５１０ｒｂ１～１５１０ｒｂ４とには、その表面である銅箔が剥き出しとならないようにそれぞれハンダ付けされていたが、金属製のナベねじのナベ部の座面（頭部の座面）と当接する周辺制御基板１５１０の裏面（ハンダ面）１５１０ｙ側のランド１５１０ｒｂ１～１５１０ｒｂ４の表面である銅箔にそれぞれハンダ付けされ、カバー平板１５０１ａの裏面側に形成される取付ボス孔１５０１ａｇ１～１５０１ａｇ４の取付面（ボス面）と当接する周辺制御基板１５１０の表面（実装面）１５１０ｘ側のランド１５１０ｒｆ１～１５１０ｒｆ４の表面である銅箔をレジスト液で塗布して覆ってもよい。周辺制御基板１５１０の表面（実装面）１５１０ｘ側のランド１５１０ｒｆ１～１５１０ｒｆ４の表面である銅箔は、周辺制御基板１５１０の表面（実装面）１５１０ｘ全体がレ

ジスト液で塗布される際に併せて塗布される。このように構成しても、周辺制御基板１５１０に形成される貫通孔１５１０ｒ１～１５１０ｒ４に金属製のナベねじを挿入してカバー平板１５０１ａの裏面側に形成される取付ボス孔１５０１ａｇ１～１５０１ａｇ４へ向かってねじ込むことにより周辺制御基板１５１０をカバー平板１５０１ａの裏面側に固定することで、金属製のナベねじを介して、周辺制御基板１５１０のグランド（ＧＮＤ）とカバー体１５０１とを電気的に接続された状態とすることができる。また、カバー平板１５０１ａの裏面側に形成される取付ボス孔１５０１ａｇ１～１５０１ａｇ４の取付面（ボス面）と当接する周辺制御基板１５１０の表面（実装面）１５１０ｘ側のランド１５１０ｒｆ１～１５１０ｒｆ４の表面である銅箔をレジスト液で塗布して覆うことにより、ランド１５１０ｒｆ１～１５１０ｒｆ４の表面に塗布されたレジスト層の厚みを均一とすることができる。これにより、周辺制御基板１５１０の表面（実装面）１５１０ｘ側のランド１５１０ｒｆ１～１５１０ｒｆ４とそれぞれ対応する部分のレジスト層の厚さが同一の厚さとなるため、周辺制御基板１５１０に形成される貫通孔１５１０ｒ１～１５１０ｒ４に金属製のナベねじを挿入してカバー平板１５０１ａの裏面側に形成される取付ボス孔１５０１ａｇ１～１５０１ａｇ４へ向かってねじ込むことにより周辺制御基板１５１０をカバー平板１５０１ａの裏面側に固定する際に、周辺制御基板１５１０の歪みを防止することができる。

【１８４６】

また、上述した実施形態では、カバー平板１５０１ａの裏面側に形成される取付ボス孔１５０１ａｇ１～１５０１ａｇ４の取付面（ボス面）と当接する周辺制御基板１５１０の表面（実装面）１５１０ｘ側のランド１５１０ｒｆ１～１５１０ｒｆ４の表面である銅箔に対しては、周辺制御基板１５１０の表面（実装面）１５１０ｘにメタルマスクを置いてメタルマスク上にスキージ（へらのようなもの）を用いて半田ペーストを広げることでメタルマスクに形成される穴から塗布し、周辺制御基板１５１０の表面（実装面）１５１０ｘをリフロー炉に入れて熱で半田ペーストを乾燥させるようにしていたが、周辺制御基板１５１０の表面（実装面）を半田槽へ流してハンダ付けしてもよい。この場合、周辺制御基板１５１０の表面（実装面）１５１０ｘ側のランド１５１０ｒｆ１～１５１０ｒｆ４と、カバー平板１５０１ａの裏面側に形成される取付ボス孔１５０１ａｇ１～１５０１ａｇ４の取付面（ボス面）と、が当接する面積が減少して電気的な接続性が悪くならないように、周辺制御基板１５１０の表面（実装面）のランド１５１０ｒｆ１～１５１０ｒｆ４の表面である銅箔には、ハンダ付けが一部に盛り上がらないように均一にする必要がある。図２２１は周辺制御基板を半田槽へ流す場合にけるランドに対するレジストの形状を示す図である。

【１８４７】

例えば、周辺制御基板１５１０の表面（実装面）のランド１５１０ｒｆ１～１５１０ｒｆ４の表面である銅箔には、その一部がレジスト液により塗布されて所定の形状に形成されるレジスト層１５１０ｘｒが形成され、周辺制御基板１５１０の表面（実装面）のランド１５１０ｒｆ１～１５１０ｒｆ４の表面である銅箔の所定の形状を有する領域にハンダ付けされることとなる。具体的には、「所定の形状」として、周辺制御基板１５１０の表面（実装面）のランド１５１０ｒｆ１～１５１０ｒｆ４の表面である銅箔に対して、図２２１（ａ）に示すように、レジストが所定幅を有する円が同心円状に複数形成される形状（レジストが所定幅を有する単一円が同心円状に形成される形状でもよい。）、図２２１（ｂ）に示すように、レジストが所定幅及び所定長さを有する矩形形状がランド１５１０ｒｆ１～１５１０ｒｆ４の中心として環状に複数配列された菊状に形成される形状、図２２１（ｃ）に示すように、レジストが所定幅を有する縦方向の線と横方向の線とから構成される格子状に形成される形状（レジストが所定幅を有する縦方向のみ線が所定距離寸法だけ離間して複数形成される形状でもよいし、レジストが所定幅を有する横方向のみ線が所定距離寸法だけ離間して複数形成される形状でもよい。）、図２２１（ｄ）に示すように、レジストが所定幅を有する線が所定距離だけ離間して右上がりの線が斜線状に複数形成される形状（レジストが所定幅を有する線が所定距離だけ離間して右下がりの線が斜線状

に複数形成される形状でもよい。）、図示しないが小さな円形状の集合した形状等を挙げることができる。

【１８４８】

このように、周辺制御基板１５１０の表面（実装面）のランド１５１０ｒｆ１～１５１０ｒｆ４の表面である銅箔の一部がレジスト液により塗布されて所定の形状に形成されるレジスト層１５１０ｘｒが形成され、周辺制御基板１５１０の表面（実装面）のランド１５１０ｒｆ１～１５１０ｒｆ４の表面である銅箔の所定の形状を有する領域にハンダ付けされるようになっているため、周辺制御基板１５１０の表面（実装面）のランド１５１０ｒｆ１～１５１０ｒｆ４の表面である銅箔にハンダ付けされるハンダの量を抑制することができる（換言すると、レジスト液により塗布されて所定の形状としては、周辺制御基板１５１０の表面（実装面）のランド１５１０ｒｆ１～１５１０ｒｆ４の表面である銅箔にハンダ付けされるハンダの量を抑制することができるという効果を発揮できるものであればよい）。これにより、周辺制御基板１５１０の表面（実装面）を半田槽へ流してハンダ付けする場合に、周辺制御基板１５１０の表面（実装面）のランド１５１０ｒｆ１～１５１０ｒｆ４の表面である銅箔には、ハンダ付けが一部に盛り上がらないように均一にすることができる。このようにハンダ付けされたハンダは、カバー平板１５０１ａの裏面側に形成される取付ボス孔１５０１ａｇ１～１５０１ａｇ４の取付面（ボス面）と周辺制御基板１５１０の表面（実装面）１５１０ｘ側のランド１５１０ｒｆ１～１５１０ｒｆ４とを電気的に接続可能に被覆している。

【１８４９】

なお、このようなレジストにより形成される所定の図形を、金属製のナベねじのナベ部の座面（頭部の座面）と当接する周辺制御基板１５１０の裏面（ハンダ面）１５１０ｙ側のランド１５１０ｒｂ１～１５１０ｒｂ４の表面である銅箔に対しても行ってもよい。このようにハンダ付けされたハンダは、周辺制御基板１５１０の裏面（ハンダ面）１５１０ｙ側のランド１５１０ｒｂ１～１５１０ｒｂ４と金属製のナベねじのナベ部の座面（頭部の座面）とを電気的に接続可能に被覆している。また、周辺制御基板１５１０の表面（実装面）を半田槽へ流してハンダ付けする場合に、周辺制御基板１５１０の表面（実装面）のランド１５１０ｒｆ１～１５１０ｒｆ４の表面である銅箔をレジスト液で塗布して覆うことにより、ランド１５１０ｒｆ１～１５１０ｒｆ４の表面に塗布されたレジスト層の厚みを均一としてもよい。

【１８５０】

また、上述した実施形態では、周辺制御基板１５１０をカバー平板１５０１ａの裏面側に固定する際に、金属製のナベねじを用いていたが、金属製のナベねじに平座金、ばね座金、歯付き座金（「菊座金」ともいう。）等の金属製の座金を通して周辺制御基板１５１０をカバー平板１５０１ａの裏面側に固定するようにしてもよい。

【１８５１】

また、上述した実施形態では、周辺制御基板１５１０を導電性の樹脂製のカバー１５０１に固定すると、周辺制御基板１５１０の表面（実装面）１５１０ｘ側に形成されるランド１５１０ｒｆ１～１５１０ｒｆ４と、カバー平板１５０１ａの裏面側に形成される取付ボス孔１５０１ａｇ１～１５０１ａｇ４の取付面（ボス面）と、がそれぞれ当接した状態となると共に、周辺制御基板１５１０の裏面（ハンダ面）１５１０ｙ側に形成されるランド１５１０ｒｂ１～１５１０ｒｂ４と、金属製のナベねじの座面と、がそれぞれ当接した状態となることで、金属製のナベねじを介して、カバー体１５０１（カバー平板１５０１ａ）が周辺制御基板１５１０に形成されるランド１５１０ｒｆ１～１５１０ｒｆ４，１５１０ｒｂ１～１５１０ｒｂ４と電気的に接続される状態となり、カバー体１５０１と周辺制御基板１５１０のグランド（ＧＮＤ）とが電気的に接続される状態となっていたが、導電性の樹脂製のカバー１５０１に代えて金属製のカバー１５０１’としてもよい。この場合、カバー体１５０１の開口を塞ぐベース体１５０２は、導電性の樹脂製のものでもよいし、導電性の樹脂製にものに代えて金属製のものでもよいし、また、カバー体１５０１の配線引出開口部１５０１ａｅを塞ぐ配線カバー体１５０３は、導電性の樹脂製のものでもよい

し、金属製のものでもよい。
【１８５２】
なお、各種音を増幅する回路を有するアンプ基板は、電力消費が大きく、発熱する。そこで、アンプ基板は、金属製のカバー体と金属製のベース体とから構成される金属製の基板ボックスに収容されたり、金属製の部分ケースに取り付けられたりする。アンプ基板が金属製の基板ボックスに収容されると、アンプ基板が発する熱により熱せられる空気やアンプ基板自身の熱を金属製の基板ボックスで効率良く外気へ放熱するようになっている。また、アンプ基板が金属製の部分ケースに取り付けられると、アンプ基板自身の熱を金属製の部分ケースで効率良く外気へ放熱することができるようになっている。
【１８５３】
アンプ基板は、金属製のカバー体と金属製のベース体とから構成される金属製の基板ボックスに収容されたり、金属製の部分ケースに取り付けられたりするため、金属製の基板ボックスや金属製の部分ケースにノイズが侵入する場合がある。そこで、上述した周辺制御基板１５１０のように（つまり、カバー体１５０１と周辺制御基板１５１０のグランド（ＧＮＤ）とが電気的に接続される状態となるように）、アンプ基板に形成される複数のランドと、金属製の基板ボックスの金属製のカバー体又は金属製の部分ケースの裏面側に形成される複数の取付ボス孔の取付面（ボス面）と、がそれぞれ当接した状態となると共に、アンプ基板の裏面（ハンダ面）側に形成される複数のランドと、金属製のナベねじの座面と、がそれぞれ当接した状態となることで、金属製のナベねじを介して、金属製の基板ボックスの金属製のカバー体又は金属製の部分ケースがアンプ基板に形成される複数のランドと電気的に接続される状態となり、金属製の基板ボックスの金属製のカバー体又は金属製の部分ケースとアンプ基板のグランド（ＧＮＤ）とが電気的に接続される状態とすることができる。また、アンプ基板自身の熱をアンプ基板のグランド（ＧＮＤ）から金属製のナベねじを介して金属製の基板ボックスの金属製のカバー体又は金属製の部分ケースへ伝えて効率良く外気へ放熱することもできる。
【１８５４】
また、上述した実施形態では、金属製のナベねじを介して、カバー体１５０１（カバー平板１５０１ａ）が周辺制御基板１５１０に形成されるランド１５１０ｒｆ１～１５１０ｒｆ４，１５１０ｒｂ１～１５１０ｒｂ４と電気的に接続される状態となり、カバー体１５０１と周辺制御基板１５１０のグランド（ＧＮＤ）とが電気的に接続される状態となっていたが、２階建て基板（いわゆる、「亀の子基板」）においても利用することができる。例えば、親基板の複数のランドが親基板のグランド（ＧＮＤ）と電気的に接続され、子基板の複数のランドが子基板のグランド（ＧＮＤ）と電気的に接続され、親基板の複数のランドと子基板の複数のランドとを金属製の支柱（スペーサ）の両端でそれぞれネジ止めすることで親基板の複数のランドと子基板の複数のランドと金属製の支柱（スペーサ）を介して電気的に接続された状態とすることができる。これにより、親基板のグランド（ＧＮＤ）と子基板のグランド（ＧＮＤ）とが金属製の支柱（スペーサ）を介して同一のグランド（ＧＮＤ）とすることができる。
【１８５５】
また、上述した実施形態では、導電性樹脂製の周辺制御基板ボックス１５０５に周辺制御基板１５１０が収容されていたが、主制御基板１３１０を収容する主制御基板ボックス１３２０や払出制御基板６３３を収容する払出制御基板ボックス６３２に対して導電性樹脂製のものとして構成すると、主制御基板ボックス１３２０や払出制御基板ボックス６３２が、規則上、透明である必要があり、導電性樹脂製のものを利用することができないものの、電源基板を収容する基板ボックスや各種中継基板を収容する各種中継基板ボックスに対して導電性樹脂製のものとして構成すると共に、周辺制御基板１５１０が周辺制御基板ボックスに固定される同一の方法で固定されるようにしてもよい。こうすれば、電源基板を収容する基板ボックスや各種中継基板を収容する各種中継基板ボックスに対して、上述した導電性樹脂製の周辺制御基板ボックス１５０５によるノイズ対策効果と同一の効果を奏することができる。

【１８５６】
また、上述した実施形態では、周辺制御ユニット１５００が取り付けられる遊技盤５の近傍には、図３に示したように、遊技盤５の上方に球タンク５５２やタンクレール５５３が配置され、遊技盤５の遊技パネル１１００の後側（裏ユニット３０００の裏箱３０１０の後面に取付けられている演出表示装置１６００の後側）に周辺制御ユニット１５００が取り付けられた状態においては、周辺制御基板１５１０に備える特殊コネクタＳＣＮ１と周辺データＲＯＭ基板１５２０に備える特殊コネクタＳＣＮ３とによる基板間コネクタと、周辺制御基板１５１０に備える特殊コネクタＳＣＮ２と液晶出力基板１５３０に備える特殊コネクタＳＣＮ４とによる基板間コネクタと、を球タンク５５２の中央寄りに配置することで、タンクレール５５３から離して配置することができるようになっている。タンクレール５５３は、上述したように、その下側（パチンコ機１を正面から見るとタンクレール５５３の後面下側）に複数形成される切り欠き部５５３ａａを介して外部へ遊技球Ｂの金属粉を落下することができるようになっているため、上述した基板間コネクタをタンクレール５５３から離して配置することにより、上述した基板間コネクタにおいて遊技球Ｂの金属粉による電気的なトラブルの発生を防止することができる。

【１８５７】
また、上述した実施形態では、周辺制御基板１５１０に備える特殊コネクタＳＣＮ１と周辺データＲＯＭ基板１５２０に備える特殊コネクタＳＣＮ３とによる基板間コネクタと、周辺制御基板１５１０に備える特殊コネクタＳＣＮ２と液晶出力基板１５３０に備える特殊コネクタＳＣＮ４とによる基板間コネクタと、は、遊技盤５の遊技パネル１１００の後側（裏ユニット３０００の裏箱３０１０の後面に取付けられている演出表示装置１６００の後側）に周辺制御ユニット１５００が取り付けられた状態において、図２１７に示したように、上下方向に長い配置とすることにより基板間コネクタの上側の面積を小さくすることができるため、塵、何らかの金属性を有する粉等が付着する面積を最小限とすることができる。なお、上述した基板間コネクタを左右方向に長い配置とする場合には、基板間コネクタの上側の面積が大きくなるため、塵、何らかの金属性を有する粉等が付着する面積が極めて増大することとなる。これに対して、周辺制御基板１５１０に備えるコネクタＣＮ１～ＣＮ７、及び液晶出力基板１５３０に備えるコネクタＣＮ８，ＣＮ９は、図２１７に示したように、左右方向に長い配置となり、各コネクタの上面の面積が大きくなって塵、何らかの金属性を有する粉等が付着する面積が極めて増大する配置となっているが、上述したように、コネクタ凹部１５０１ａｃの底面から見ると、コネクタ凹部１５０１ａｃの底面の上側がカバー平板１５０１ａという突出する壁により、コネクタＣＮ１～ＣＮ９に対応するプラグが挿入されても、プラグが隠れた状態となってカバー平板１５０１ａの表面から突出することができないようになっているため、カバー平板１５０１ａの上辺に設けられるカバー側壁１５０１ｂに付着した塵、何らかの金属性を有する粉等がカバー側壁１５０１ｂから落下しても、コネクタＣＮ１～ＣＮ９に付着することを防止することができるようになっている。このように、塵、何らかの金属性を有する粉等が各電気端子への付着を防止することができるように、上述した基板間コネクタを配置する向きと、コネクタＣＮ１～ＣＮ９を配置する向きと、が選択されている。

【１８５８】
なお、上述した実施形態では、周辺制御基板１５１０に特殊コネクタＳＣＮ１，ＳＣＮ２のプラグを備え、周辺データＲＯＭ基板１５２０に特殊コネクタＳＣＮ３のソケットを備え、液晶出力基板１５３０に特殊コネクタＳＣＮ４のソケットを備えていたが、情報や信号が流れる方向が視認できるように備えるように配置してもよい。このような場合には、情報や信号を送信する側をプラグ（又はソケット）とするとともに、これに対応して、情報や信号を受信する側をソケット（又はプラグ）とすることができる。例えば、上述した実施形態では、周辺データＲＯＭ基板１５２０に備える周辺データＲＯＭ１５２０ａに記憶される各種の制御情報（周辺データ）は、周辺データＲＯＭ基板１５２０から周辺制御基板１５１０へ転送されるため、周辺データＲＯＭ基板１５２０が送信側で周辺制御基板１５１０が受信側となる。このような場合には、周辺データＲＯＭ基板１５２０にプラグ

となる特殊コネクタ（又はソケットとなる特殊コネクタ）を備えるとともに、これに対応して、周辺制御基板１５１０にソケットとなると特殊コネクタ（又はプラグとなる特殊コネクタ）を備えることができる。また、上述した実施形態では、周辺制御基板１５１０から複数種類の映像信号の方式が液晶出力基板１５３０へ出力されるため、周辺制御基板１５１０が送信側で液晶出力基板１５３０が受信側となる。このような場合には、周辺制御基板１５１０にプラグとなる特殊コネクタ（又はソケットとなる特殊コネクタ）を備えるとともに、これに対応して、液晶出力基板１５３０にソケットとなると特殊コネクタ（又はプラグとなる特殊コネクタ）を備えることができる。

【１８５９】

また、上述した実施形態では、カバー体１５０１のカバー平板１５１０ａに通風孔１５０１ａｚを複数形成していたが、カバー体１５０１のカバー平板の上辺、左辺、下辺、及び右辺にそれぞれ設けられるカバー側壁１５０１ｂ～１５０１ｅのうち、上辺に設けられるカバー側壁１５０１ｂを除いて、いずれかに一つまたは組み合わせて通風孔１５０１ａｚを複数形成してもよい。例えば、左辺に設けられるカバー側壁１５０１ｃにのみ通風孔１５０１ａｚを複数形成してもよいし、下辺に設けられるカバー側壁１５０１ｄのみに通風孔１５０１ａｚを複数形成してもよいし、右辺に設けられるカバー側壁１５０１ｅのみに通風孔１５０１ａｚを複数形成してもよいし、カバー平板１５１０ａ、左辺、下辺、及び右辺にそれぞれ設けられるカバー側壁１５０１ｃ～１５０１ｅのうち複数組み合わせて通風孔１５０１ａｚをそれぞれ複数形成してもよい。このように構成しても、この通風孔１５０１ａｚを介して、周辺制御基板ボックス１５０５の内部へ向かって遊技球Ｂによって生ずる異物（例えば、遊技球Ｂの摩耗により生じた金属粉）が落下して侵入することを防止することができる。これにより、周辺制御基板ボックス１５０５の各種基板への落下異物による電気的なトラブルを防止することができる。したがって、タンクレール５５３からの落下異物による電気的なトラブルを防止することができる。なお、上辺に設けられるカバー側壁１５０１ｂに通風孔１５０１ａｚを形成しない理由としては、仮に、上辺に設けられるカバー側壁１５０１ｂに通風孔１５０１ａｚを形成すると、この通風孔１５０１ａｚを介して、周辺制御基板ボックス１５０５の内部へ向かって遊技球Ｂによって生ずる異物（例えば、遊技球Ｂの摩耗により生じた金属粉）が落下して侵入することにより、周辺制御基板ボックス１５０５の各種基板への落下異物による電気的なトラブルが生ずる蓋然性が高くなるからである。

【１８６０】

また、上述した実施形態では、カバー体１５０１のカバー平板１５１０ａに通風孔１５０１ａｚを複数形成していたが、カバー体１５０１のカバー平板の上辺、左辺、下辺、及び右辺にそれぞれ設けられるカバー側壁１５０１ｂ～１５０１ｅのうち、上辺に設けられるカバー側壁１５０１ｂを除いて、左辺、下辺、及び右辺にそれぞれ設けられるカバー側壁１５０１ｃ～１５０１ｅに通風孔１５０１ａｚを複数形成してもよい。こうすれば、左辺、下辺、及び右辺にそれぞれ設けられるカバー側壁１５０１ｃ～１５０１ｅに通風孔１５０１ａｚを複数形成することにより周辺制御基板ボックス１５０５の温度上昇を抑制することに寄与することができる。なお、上辺に設けられるカバー側壁１５０１ｂに通風孔１５０１ａｚを形成しない理由としては、上述したように、仮に、上辺に設けられるカバー側壁１５０１ｂに通風孔１５０１ａｚを形成すると、この通風孔１５０１ａｚを介して、周辺制御基板ボックス１５０５の内部へ向かって遊技球Ｂによって生ずる異物（例えば、遊技球Ｂの摩耗により生じた金属粉）が落下して侵入することにより、周辺制御基板ボックス１５０５の各種基板への落下異物による電気的なトラブルが生ずる蓋然性が高くなるからである。

【１８６１】

［周辺制御ユニットによる他のノイズ対策］

周辺制御ユニット１５００の周辺制御基板ボックス１５０５を構成するカバー体１５０１、及びベース体１５０２に加えて、配線カバー体１５０３は、上述したように、すべてポリカーボネートにカーボンを含有した導電性の樹脂製として構成されると共に、カバー体

１５０１（カバー平板１５０１ａ）の裏面側に周辺制御基板１５１０、周辺データＲＯＭ基板１５２０、及び液晶出力基板１５３０等の各種基板が金属製のナベねじによりそれぞれ固定されると、これら各種基板のグランド（ＧＮＤ）と電気的に接続されて同一のグランド（ＧＮＤ）となるように構成されているため、カバー体１５０１、ベース体１５０２、及び配線カバー体１５０３から侵入したノイズを各種基板のグランド（ＧＮＤ）へ流し、ノイズを除去することができるようになっている（以下、「第１実施形態に係る周辺制御基板ボックスによるノイズ対策の構成」と記載する）。周辺制御基板ボックス１５０５に侵入したノイズを除去することができるという周辺制御基板ボックスによるノイズ対策が講じられる本発明の他の構成（以下、「第２～第５実施形態に係る周辺制御基板ボックスによるノイズ対策の構成」と記載する。）について、図２２２～図２４１を参照して説明する。なお、図２２２～図２４１では、図２１７～図２１９に示した第１実施形態に係る周辺制御基板ボックスによるノイズ対策の構成において付した各種部材の符号と同じ符号を付して表すとともに、その説明を第２～第５実施形態に係る周辺制御基板ボックスによるノイズ対策の構成において一部を除いて省略する。

【１８６２】

第１実施形態に係る周辺制御基板ボックスによるノイズ対策の構成では、カバー体１５０１、及びベース体１５０２に加えて、配線カバー体１５０３は、上述したように、すべてポリカーボネートにカーボンを含有した導電性の樹脂製として構成されるのに対して、第２～第５実施形態に係る周辺制御基板ボックスによるノイズ対策の構成では、カバー体１５０１、及びベース体１５０２に加えて、配線カバー体１５０３は、透明な非導電性の樹脂製として構成されると共に、第２～第４実施形態に係る周辺制御基板ボックスによるノイズ対策の構成では周辺制御基板ボックス内に金属製のシールド板が収容される一方、第５実施形態に係る周辺制御基板ボックスによるノイズ対策の構成では周辺制御基板ボックス内に金属製のシールド板が収容されていない。

【１８６３】

図２２２～図２２６までは第２実施形態に係る周辺制御基板ボックスによるノイズ対策の構成であって、周辺制御基板１５１０等の表面（実装面）を金属製のシールド板で覆い、この金属製のシールド板の一部が演出表示装置１６００の金属製裏蓋に導電性弾性部材を介して当接する構成であり、図２２２は第２実施形態に係る周辺制御ユニットの正面分解斜視図であり、図２２３は第２実施形態に係る周辺制御ユニットの背面分解斜視図であり、図２２４は第２実施形態に係る周辺制御ユニットの正面図であり、図２２５は第２実施形態に係る図２２４のＸ－Ｘ線の断面図であり、図２２６は第２実施形態に係る図２２４のＡ矢視図である。

【１８６４】

図２２７～図２３０までは第３実施形態に係る周辺制御基板ボックスによるノイズ対策の構成であって、第２実施形態に係る周辺制御基板ボックスによるノイズ対策をさらに強化したものであり、周辺制御基板１５１０等の裏面（ハンダ面）のグランド（ＧＮＤ）の一部が露出する領域と演出表示装置１６００の金属製裏蓋とが導電性弾性部材を介してさらに当接する構成であり、図２２７は第３実施形態に係る周辺制御ユニットの正面分解斜視図であり、図２２８は第３実施形態に係る周辺制御ユニットの背面分解斜視図であり、図２２９は第３実施形態に係る図２２４のＡ矢視図であり、図２３０は周辺制御基板の裏面（ハンダ面）側のグランド（ＧＮＤ）と導電性弾性部材との接触を良好とする周辺制御基板の裏面（ハンダ面）側のグランド（ＧＮＤ）の取り出し方法を示す図であり、周辺制御基板の裏面（ハンダ面）の銅箔面の概略図（剥き出し例（ａ））、周辺制御基板の裏面（ハンダ面）の概略図（剥き出し例（ｂ））、周辺制御基板の裏面（ハンダ面）の銅箔面の概略図（ランドを有するスルーホールの複数配置した例（ｃ））、周辺制御基板の裏面（ハンダ面）の概略図（ランドを有するスルーホールの複数配置した例（ｄ））である。

【１８６５】

図２３１～図２３５までは第４実施形態に係る周辺制御基板ボックスによるノイズ対策の構成であって、周辺制御基板１５１０等の表面（実装面）を金属製の第１のシールド板で

覆うと共に、周辺制御基板１５１０等の裏面（ハンダ面）を金属製の第２シールド板で覆い、金属製の第１のシールド板と金属製の第２のシールド板とで周辺制御基板１５１０等を挟持し、金属製の第１のシールド板の一部と金属製の第２のシールド板の一部とが周辺制御基板１５１０等のグランド（ＧＮＤ）と電気的に接続される構成であり、図２３１は第４実施形態に係る周辺制御ユニットの正面分解斜視図であり、図２３２は第４実施形態に係る周辺制御ユニットの背面分解斜視図であり、図２３３は第４実施形態に係る周辺制御基板等の取付手順を示す図であり、図２３４は第４実施形態に係る周辺制御基板等の表面（実装面）側の貫通孔の周囲に形成されるランドを示す図（ａ）、箔抜き領域を示す図（ｂ）であり、図２３５は第４実施形態に係る周辺制御基板等の裏面（ハンダ面）側の貫通孔の周囲に形成されるランドを示す図（ａ）、ランド及びネジ止め指定記号を示す図（ｂ）、箔抜き領域を示す図（ｃ）である。なお、図２２７では演出表示装置１６００の金属製裏蓋と接触することができる基板用導電性弾性部材１５０７を図面の見易さから省略し、図２２８では演出表示装置１６００の金属製裏蓋と接触することができる基板用導電性弾性部材１５０７を図面の見易さから２点鎖線で示した。

【１８６６】

図２３６～図２４１までは第５実施形態に係る周辺制御基板ボックスによるノイズ対策の構成であって、周辺制御基板１５１０等の表面（実装面）及び裏面（ハンダ面）を金属製のシールド板で全く覆わず、周辺制御基板ボックスに収容される各種基板のうち、特定の基板のグランド（ＧＮＤ）の一部が露出する領域と演出表示装置１６００の金属製裏蓋とが導電性弾性部材を介して当接する構成であり、図２３６は第５実施形態に係る周辺制御ユニットの正面分解斜視図であり、図２３７は第５実施形態に係る周辺制御ユニットの背面分解斜視図であり、図２３８は第５実施形態に係る周辺制御ユニットの背面斜視図の一部を示す図（ａ）、導電性弾性部材が挿入された状態が分かるように周辺制御ユニットを構成するベース体の一部を同図（ａ）におけるＣＬ線で切り取った周辺制御ユニットの背面斜視図の一部を示す図（ｂ）であり、図２３９は図２３８の続きであって導電性弾性部材が演出表示装置１６００の金属製裏蓋に押し当てられて変形した状態が分かるように周辺制御ユニットの一部を切り取った周辺制御ユニットの背面斜視図の一部を示す図（ｃ）であり、図２４０はコンタクトプローブの先端部を挿入して接触させることができる開口部を有する周辺制御ユニットを構成するカバー体の正面部分拡大図であり、図２４１は特定の基板の裏面（ハンダ面）側のグランド（ＧＮＤ）と導電性弾性部材との接触を良好とする特定の基板の裏面（ハンダ面）側のグランド（ＧＮＤ）の取り出し方法を示す図であり、特定の基板の裏面（ハンダ面）の銅箔面の概略図（剥き出し例（ａ））、特定の基板の裏面（ハンダ面）の概略図（剥き出し例（ｂ））、特定の基板の裏面（ハンダ面）の銅箔面の概略図（ランドを有するスルーホールの複数配置した例（ｃ））、特定の基板の裏面（ハンダ面）の概略図（ランドを有するスルーホールの複数配置した例（ｄ））である。

【１８６７】

［第１実施形態に係る周辺制御基板ボックスによるノイズ対策の構成と第２実施形態に係る周辺制御基板ボックスによるノイズ対策の構成との対比］

第１実施形態に係る周辺制御基板ボックスによるノイズ対策の構成では、上述したように、カバー体１５０１、及びベース体１５０２に加えて、配線カバー体１５０３は、上述したように、すべてポリカーボネートにカーボンを含有した導電性の樹脂製として構成されると共に、カバー体１５０１（カバー平板１５０１ａ）の裏面側に周辺制御基板１５１０、周辺データＲＯＭ基板１５２０、及び液晶出力基板１５３０等の各種基板が金属製のナベねじによりそれぞれ固定されると、これら各種基板のグランド（ＧＮＤ）と電気的に接続されて同一のグランド（ＧＮＤ）となるように構成されていた。

【１８６８】

これに対して、第２実施形態に係る周辺制御基板ボックスによるノイズ対策の構成では、図２２２及び図２２３に示すように、後方が開口されると共に上下方向と比べて左右方向に長いボックス形状を有する透明な非導電性の樹脂製により成型されるカバー体１５０１と、遊技の進行を制御する主制御ユニット１３００の主制御基板１３１０からのコマンド

に基づいて演出の進行を制御することができる周辺制御基板１５１０と、周辺制御基板１５１０と電気的に接続される周辺データＲＯＭ基板１５２０と、周辺制御基板１５１０と電気的に接続される液晶出力基板１５３０と、周辺制御基板１５１０、周辺データＲＯＭ基板１５２０、及び液晶出力基板１５３０へ侵入するノイズ（電磁波ノイズ）を低減（抑制）することができる金属製のシールド板１５４０と、金属製のシールド板１５４０の所定箇所に取付けられる（接着される）導電性弾性部材１５４５と、カバー体１５０１の開口を塞ぐ透明な非導電性の樹脂製により成型されるベース体１５０２と、を備えている。カバー体１５０１の内部空間内には、周辺制御基板１５１０、周辺データＲＯＭ基板１５２０、及び液晶出力基板１５３０等の各種基板が金属製のシールド板１５４０と共にそれぞれ所定位置に取り付けられることにより金属製のシールド板１５４０がカバー体１５０１と各種基板とにより挟持され、カバー体１５０１の開口をベース体１５０２により塞ぐことにより、カバー体１５０１とベース体１５０２とによる周辺制御基板ボックス１５０５（封印基板ボックス）が構成されている。

【１８６９】

［第２実施形態に係る周辺制御基板ボックスのカバー体］

周辺制御基板１５１０をカバー平板１５０１ａの裏面側に取り付けるときには、後述する金属製のシールド板１５４０のＬ字状取付片１５４０ｃ１に形成される貫通孔１５４０ｃ１ａを、カバー平板１５０１ａの裏面側に形成される取付ボス孔１５０１ａｇ１に合わせるように配置し、後述する金属製のシールド板１５４０のＬ字状取付片１５４０ｃ２に形成される貫通孔１５４０ｃ２ａを、カバー平板１５０１ａの裏面側に形成される取付ボス孔１５０１ａｇ４に合わせるように配置する。そして、周辺制御基板１５１０に形成される貫通孔１５１０ｒ１～１５１０ｒ４のうち、貫通孔１５１０ｒ１，１５１０ｒ４を、金属製のシールド板１５４０のＬ字状取付片１５４０ｃ１に形成される貫通孔１５４０ｃ１ａ、金属製のシールド板１５４０のＬ字状取付片１５４０ｃ１に形成される貫通孔１５４０ｃ２ａ、及びカバー平板１５０１ａの裏面側に形成される取付ボス孔１５０１ａｇ１，１５０１ａｇ４に合わせるように配置すると共に、周辺制御基板１５１０に形成される貫通孔１５１０ｒ２，１５１０ｒ３を、カバー平板１５０１ａの裏面側に形成される取付ボス孔１５０１ａｇ２，１５０１ａｇ３に合わせるように配置する。そして、貫通孔１５１０ｒ１～１５１０ｒ４に図示しない金属製のナベねじを挿入して取付ボス孔１５０１ａｇ１～１５０１ａｇ４へ向かってねじ込むことにより周辺制御基板１５１０をカバー平板１５０１ａの裏面側に固定することができる。これにより、金属製のシールド板１５４０のＬ字状取付片１５４０ｃ１，１５４０ｃ２がカバー体１５０１と周辺制御基板１５１０とにより挟持される状態となる。この状態において、周辺制御基板１５１０の表面側に形成されるランド１５１０ｒｆ１～１５１０ｒｆ４のうち、ランド１５１０ｒｆ１，１５１０ｒｆ４と、金属製のシールド板１５４０のＬ字状取付片１５４０ｃ１，１５４０ｃ２の裏面と、がそれぞれ当接した状態となると共に、ランド１５１０ｒｆ２，１５１０ｒｆ３と、カバー平板１５０１ａの裏面側に形成される取付ボス孔１５０１ａｇ２，１５０１ａｇ３の取付面（ボス面）と、がそれぞれ当接した状態となる。また、周辺制御基板１５１０の裏面側に形成されるランド１５１０ｒｂ１～１５１０ｒｂ４と、金属製のナベねじの座面と、がそれぞれ当接した状態となる。さらに、金属製のナベねじの軸（ネジ部）がカバー平板１５０１ａの裏面側に形成される取付ボス孔１５０１ａｇ１～１５０１ａｇ４にねじ込まれた状態となる。

【１８７０】

これにより、金属製のシールド板１５４０のＬ字状取付片１５４０ｃ１，１５４０ｃ２は、周辺制御基板１５１０に形成されるランド１５１０ｒｆ１，１５１０ｒｆ４とそれぞれ電気的に接続される状態となることで金属製のシールド板１５４０が周辺制御基板１５１０のグランド（ＧＮＤ）へ接続されることとなる。周辺制御基板１５１０のグランド（ＧＮＤ）ラインは、上述したように、周辺データＲＯＭ基板１５２０のグランド（ＧＮＤ）ラインと、液晶出力基板１５３０のグランド（ＧＮＤ）ラインと、が電気的に接続され、同一のグランド（ＧＮＤ）となっているため、金属製のシールド板１５４０は、周辺制御

基板１５１０のグランド（ＧＮＤ）へ接続されることにより、周辺データＲＯＭ基板１５２０のグランド（ＧＮＤ）と、液晶出力基板１５３０のグランド（ＧＮＤ）と、へ接続されることとなる。また、周辺制御基板１５１０、周辺データＲＯＭ基板１５２０、及び液晶出力基板１５３０のグランド（ＧＮＤ）ラインは、上述したように、本体枠４の基板ユニット６２０における電源基板６３０のグランド（ＧＮＤ）ラインと電気的に接続されているため、金属製のシールド板１５４０は、周辺制御基板１５１０のグランド（ＧＮＤ）へ接続されることにより、電源基板６３０のグランド（ＧＮＤ）ラインへ接続されることとなる。

【１８７１】

周辺データＲＯＭ基板１５２０をカバー平板１５０１ａの裏面側に取り付けるときには、後述する金属製のシールド板１５４０のＬ字状取付片１５４０ｂ１に形成される貫通孔１５４０ｂ１ａを、カバー平板１５０１ａの裏面側に形成される取付ボス孔１５０１ａｈ２に合わせるように配置する。そして、周辺データＲＯＭ基板１５２０に形成される貫通孔１５２０ｒ１，１５２０ｒ３を、カバー平板１５０１ａの裏面側に形成される取付ボス突出部１５０１ａｉ１，１５０１ａｉ２に挿入する。そして、周辺データＲＯＭ基板１５２０に形成される貫通孔１５２０ｒ２，１５２０ｒ４に図示しない金属製のナベねじを挿入してカバー平板１５０１ａの裏面側に形成される取付ボス孔１５０１ａｈ１，１５０１ａｈ２へ向かってねじ込むことにより周辺データＲＯＭ基板１５２０をカバー平板１５０１ａの裏面側に固定することができる。これにより、金属製のシールド板１５４０のＬ字状取付片１５４０ｂ１がカバー体１５０１と周辺データＲＯＭ基板１５２０とにより挟持される状態となる。この状態において、周辺データＲＯＭ基板１５２０の表面側に形成されるランド１５２０ｒｆ１～１５２０ｒｆ４のうち、ランド１５２０ｒｆ４と、金属製のシールド板１５４０のＬ字状取付片１５４０ｂ１の裏面と、が当接した状態となると共に、ランド１５２０ｒｆ１～１５２０ｒｆ３と、カバー平板１５０１ａの裏面側に形成される取付ボス突出部１５０１ａｉ１，１５０１ａｉ２の取付面（ボス面）及び取付ボス孔１５０１ａｈ１の取付面（ボス面）と、がそれぞれ当接した状態となると共に、周辺データＲＯＭ基板１５２０の裏面側に形成されるランド１５３０ｒｂ１～１５３０ｒｂ４と、金属製のナベねじの座面と、がそれぞれ当接した状態となる。さらに、金属製のナベねじの軸（ネジ部）がカバー平板１５０１ａの裏面側に形成される取付ボス孔１５０１ａｈ１，１５０１ａｈ２にねじ込まれた状態となる。

【１８７２】

これにより、金属製のシールド板１５４０のＬ字状取付片１５４０ｂ１は、周辺データＲＯＭ基板１５２０に形成されるランド１５２０ｒｆ４と電気的に接続される状態となることで金属製のシールド板１５４０が周辺データＲＯＭ基板１５２０のグランド（ＧＮＤ）へ接続されることとなる。周辺データＲＯＭ基板１５２０のグランド（ＧＮＤ）ラインは、上述したように、周辺制御基板１５１０のグランド（ＧＮＤ）ラインと、液晶出力基板１５３０のグランド（ＧＮＤ）ラインと、が電気的に接続され、同一のグランド（ＧＮＤ）となっているため、金属製のシールド板１５４０は、周辺データＲＯＭ基板１５２０のグランド（ＧＮＤ）へ接続されることにより、周辺制御基板１５１０のグランド（ＧＮＤ）と、液晶出力基板１５３０のグランド（ＧＮＤ）と、へ接続されることとなる。また、周辺制御基板１５１０、周辺データＲＯＭ基板１５２０、及び液晶出力基板１５３０のグランド（ＧＮＤ）ラインは、上述したように、本体枠４の基板ユニット６２０における電源基板６３０のグランド（ＧＮＤ）ラインと電気的に接続されているため、金属製のシールド板１５４０は、周辺データＲＯＭ基板１５２０のグランド（ＧＮＤ）へ接続されることにより、電源基板６３０のグランド（ＧＮＤ）ラインへ接続されることとなる。

【１８７３】

液晶出力基板１５３０をカバー平板１５０１ａの裏面側に取り付けるときには、後述する金属製のシールド板１５４０のＬ字状取付片１５４０ｂ２に形成される貫通孔１５４０ｂ２ａを、カバー平板１５０１ａの裏面側に形成される取付ボス孔１５０１ａｍ１に合わせるように配置する。そして、液晶出力基板１５３０に形成される貫通孔１５３０ｒ２，１

５３０ｒ４を、カバー平板１５０１ａの裏面側に形成される取付ボス突出部１５０１ａｎ１，１５０１ａｎ２に挿入する。そして、液晶出力基板１５３０に形成される貫通孔１５３０ｒ１，１５３０ｒ３に図示しない金属製のナベねじを挿入してカバー平板１５０１ａの裏面側に形成される取付ボス孔１５０１ａｍ１，１５０１ａｍ２へ向かってねじ込むことにより液晶出力基板１５３０をカバー平板１５０１ａの裏面側に固定することができる。これにより、金属製のシールド板１５４０のＬ字状取付片１５４０ｂ２がカバー体１５０１と液晶出力基板１５３０とにより挟持される状態となる。この状態において、液晶出力基板１５３０の表面側に形成されるランド１５３０ｒｆ１～１５３０ｒｆ４のうち、ランド１５３０ｒｆ１と、金属製のシールド板１５４０のＬ字状取付片１５４０ｂ２の裏面と、が当接した状態となると共に、ランド１５３０ｒｆ２～１５３０ｒｆ４と、カバー平板１５０１ａの裏面側に形成される取付ボス突出部１５０１ａｎ１，１５０１ａｎ２の取付面（ボス面）及び取付ボス孔１５０１ａｍ２の取付面（ボス面）と、がそれぞれ当接した状態となると共に、液晶出力基板１５３０の裏面側に形成されるランド１５３０ｒｂ１～１５３０ｒｂ４と、金属製のナベねじの座面と、がそれぞれ当接した状態となる。さらに、金属製のナベねじの軸（ネジ部）がカバー平板１５０１ａの裏面側に形成される取付ボス孔１５０１ａｍ１，１５０１ａｍ２にねじ込まれた状態となる。

【１８７４】

これにより、金属製のシールド板１５４０のＬ字状取付片１５４０ｂ２は、液晶出力基板１５３０に形成されるランド１５３０ｒｆ１と電気的に接続される状態となることで金属製のシールド板１５４０が液晶出力基板１５３０のグランド（ＧＮＤ）へ接続されることとなる。液晶出力基板１５３０のグランド（ＧＮＤ）ラインは、上述したように、周辺制御基板１５１０のグランド（ＧＮＤ）ラインと、周辺データＲＯＭ基板１５２０のグランド（ＧＮＤ）ラインと、が電気的に接続され、同一のグランド（ＧＮＤ）となっているため、金属製のシールド板１５４０は、液晶出力基板１５３０のグランド（ＧＮＤ）へ接続されることにより、周辺制御基板１５１０のグランド（ＧＮＤ）と、周辺データＲＯＭ基板１５２０のグランド（ＧＮＤ）と、へ接続されることとなる。また、周辺制御基板１５１０、周辺データＲＯＭ基板１５２０、及び液晶出力基板１５３０のグランド（ＧＮＤ）ラインは、上述したように、本体枠４の基板ユニット６２０における電源基板６３０のグランド（ＧＮＤ）ラインと電気的に接続されているため、金属製のシールド板１５４０は、液晶出力基板１５３０のグランド（ＧＮＤ）へ接続されることにより、電源基板６３０のグランド（ＧＮＤ）ラインへ接続されることとなる。

【１８７５】

周辺制御基板１５１０、周辺データＲＯＭ基板１５２０、及び液晶出力基板１５３０等の各種基板が金属製のシールド板１５４０と共にそれぞれカバー平板１５０１ａの裏面側の所定位置に取り付けられることにより金属製のシールド板１５４０がカバー体１５０１と各種基板とにより挟持されて固定される状態において、周辺制御ＩＣ１５１０ａの表面（品番や型式が印刷されている面）とＦＡＮ取付凹部１５０１ａａの後面とには、上述した所定の距離寸法を有する隙間（２．３ｍｍ）が形成される状態となる。

【１８７６】

ＦＡＮ取付凹部１５０１ａａの底面に形成される複数の円弧形状のスリット孔１５０１ａａａにおけるそれぞれ面積を加えたもの（総面積）は、上述したように、カバー体１５０１のカバー平板１５０１ａに複数形成される通風孔１５０１ａｚにおける面積と、上述したすき間（周辺制御基板１５１０に備える７つのコネクタＣＮ１～ＣＮ７と、カバー体１５０１に形成される７つのコネクタ穴１５０１ａｃ１～１５０１ａｃ７と、に形成されるすき間、周辺制御基板１５１０に備える音量調整スイッチ１５１０ｄと、カバー体１５０１に形成される音量調整穴１５０１ａｃ８と、に形成されるすき間、そして液晶出力基板１５３０に備える２つのコネクタＣＮ８，ＣＮ９と、カバー体１５０１に形成される２つのコネクタ穴１５０１ａｃ９，１５０１ａｃ１０と、に形成されるすき間）における面積と、を加えたものより小さくなっている。このため、ＦＡＮ取付凹部１５０１ａａに取り付けられる空冷ファンＦＡＮの羽部が回転すると、この回転により羽部を介して、カバー

体１５０１の内側空間の空気を周辺制御ユニット１５００の外部へ向かってはき出すことにより、周辺制御ユニット１５００の外部から空気を、カバー体１５０１のカバー平板１５０１ａに複数形成される通風孔１５０１ａｚ、そしてカバー体１５０１とベース体１５０２との空間内に収容される金属製のシールド板１５４０に複数形成される通風孔１５４０ａｚを介して、取り込む際に、カバー体１５０１のカバー平板１５０１ａに複数形成される通風孔１５０１ａｚのそれぞれに流入する空気の流速を小さく抑えることができるようになっている。

【１８７７】

［第２実施形態に係る周辺制御基板ボックスのベース体］

ベース平板１５０２ａは、その正面から見て、右側であって、後述する金属製のシールド板１５４０に屈曲して形成されるＬ字状回路接続片１５４０ｄと対応する位置に、Ｌ字状回路接続片１５４０ｄの裏面形状より一回り大きい形状となる、上下方向に長い長方形状の貫通口１５０２ａｂが形成されている。

【１８７８】

なお、周辺制御基板１５１０の裏面（ハンダ面）側においては、ベース体１５０２に形成される断線防止リブ部１５０２ａａ１～１５０２ａａ３と対応する領域には、断線防止リブ部１５０２ａａ１～１５０２ａａ３の外形と比べて一回り大きい形状を有する箔抜き領域ＮＲ１，ＮＲ２，ＮＲ３がそれぞれ形成され、断線防止リブ部１５０２ａａ１～１５０２ａａ３の前面（当接面）が箔抜き領域ＮＲ１，ＮＲ，ＮＲ３にそれぞれ当接する。これらの箔抜き領域ＮＲ１，ＮＲ２，ＮＲ３は、ベース体１５０２に形成される断線防止リブ部１５０２ａａ１～１５０２ａａ３からノイズ（電磁波ノイズ）の侵入を阻止することができるように、周辺制御基板１５１０のグランド（ＧＮＤ）から隔離されている。換言すると、ノイズ（電磁波ノイズ）がベース体１５０２に形成される断線防止リブ部１５０２ａａ１～１５０２ａａ３から箔抜き領域ＮＲ１，ＮＲ２，ＮＲ３を介して、周辺制御基板１５１０のベタグランドへ侵入することができない「ノイズが抜けないルート」が形成される。

【１８７９】

［第２実施形態に係る周辺制御基板ボックスの金属製のシールド板］

周辺制御基板１５１０、周辺データＲＯＭ基板１５２０、及び液晶出力基板１５３０へ侵入するノイズ（電磁波ノイズ）を低減（抑制）することができる金属製のシールド板１５４０は、その正面から見て、横長の長方形状のシールド平板１５４０ａ（板厚：１．２ｍｍ）の左辺中央上側と左辺中央下側において所定距離寸法（本第２実施形態では、シールド平板１５４０ａの裏面から１２ｍｍ）だけ後方へ屈曲したＬ字状取付片１５４０ｂ１，１５４０ｂ２がそれぞれ形成されている。

【１８８０】

また、金属製のシールド板１５４０は、その正面から見て、横長の長方形状のシールド平板１５４０ａ（板厚：１．２ｍｍ）の右辺上側、及び右辺下側において所定距離寸法（本第２実施形態では、シールド平板１５４０ａの裏面から１２ｍｍ）だけ後方へ屈曲したＬ字状取付片１５４０ｃ１，１５４０ｃ２がそれぞれ形成されていると共に、横長の長方形状のシールド平板１５４０ａ（板厚：１．２ｍｍ）の中央であってＬ字状取付片１５４０ｃ１，１５４０ｃ２の間に所定距離寸法（本第２実施形態では、シールド平板１５４０ａの裏面から２１ｍｍ）だけ後方へ屈曲したＬ字状回路接続片１５４０ｄが形成されている。Ｌ字状回路接続片１５４０ｄの裏面には、その上端から下端までに亘って導電性弾性部材１５４５が取り付けられている（接着されている）。

【１８８１】

シールド平板１５４０ａは、その周囲に、カバー側壁１５０１ｂ～１５０１ｅと干渉しないように切り欠きがそれぞれ形成されていると共に、カバー平板１５０１ａのＦＡＮ取付凹部１５０１ａａ、及び配線引出凹部１５０１ａｂと対応する位置に、略正方形状の開口部１５４０ａａが形成されている。これにより、周辺制御基板１５１０、周辺データＲＯＭ基板１５２０、及び液晶出力基板１５３０等の各種基板が金属製のシールド板１５４０

と共にそれぞれカバー平板１５０１ａの裏面側の所定位置に取り付けられることによりシールド板１５４０がカバー体１５０１と各種基板とにより挟持されて固定される状態においては、カバー体１５０１のカバー側壁１５０１ｂ～１５０１ｅがシールド平板１５４０ａの外形周囲とそれぞれ干渉せず、カバー平板１５０１ａのＦＡＮ取付凹部１５０１ａａ、及び配線引出凹部１５０１ａｂがシールド平板１５４０ａの開口部１５４０ａａに接触することなく挿入される状態となる。

【１８８２】

金属製のシールド板１５４０は、Ｌ字状取付片１５４０ｂ１，１５４０ｂ２の裏面と、Ｌ字状取付片１５４０ｃ１，１５４０ｃ２の裏面と、が同一平面に配置されるように屈曲して形成されていると共に、Ｌ字状取付片１５４０ｂ１，１５４０ｂ２，１５４０ｃ１，１５４０ｃ２の裏面と、シールド平板１５４０ａの表面と、がそれぞれ平行な面となるように形成されている。なお、本第２実施形態では、シールド平板１５４０ａの表面からＬ字状取付片１５４０ｂ１，１５４０ｂ２，１５４０ｃ１，１５４０ｃ２の裏面までに亘る距離寸法が１３．２ｍｍとなっている。

【１８８３】

Ｌ字状取付片１５４０ｂ１，１５４０ｂ２には、上述したカバー体１５０１の裏面に形成される取付ボス孔１５０１ａｈ２，１５０１ａｍ１と対応する位置に、貫通孔１５４０ｂ１ａ，１５４０ｂ２ａがそれぞれ形成されている。取付ボス孔１５０１ａｈ２は、上述したように、周辺データＲＯＭ基板１５２０に形成される４つの貫通孔１５２０ｒ１～１５２０ｒ４と対応する位置に、カバー平板１５０１ａの裏面からカバー体１５０１の開口側へ向かって突出されて形成された一対の取付ボス孔１５０１ａｈ１，１５０１ａｈ２のうちの１つの取付ボス孔である。取付ボス孔１５０１ａｍ１は、上述したように、液晶出力基板１５３０に形成される４つの貫通孔１５３０ｒ１～１５３０ｒ４と対応する位置に、カバー平板１５０１ａの裏面からカバー体１５０１の開口側へ向かって突出されて形成された一対の取付ボス孔１５０１ａｍ１，１５０１ａｍ２のうちの１つの取付ボス孔である。

【１８８４】

Ｌ字状取付片１５４０ｃ１，１５４０ｃ２には、上述したカバー体１５０１の裏面に形成される取付ボス孔１５０１ａｇ１，１５０１ａｇ４と対応する位置に、貫通孔１５４０ｃ１ａ，１５４０ｃ２ａがそれぞれ形成されている。これらの取付ボス孔１５０１ａｇ１，１５０１ａｇ４は、上述したように、周辺制御基板１５１０に形成される４つの貫通孔１５１０ｒ１～１５１０ｒ４と対応する位置に、カバー平板１５０１ａの裏面からカバー体１５０１の開口側へ向かって突出されて形成された４つの取付ボス孔１５０１ａｇ１～１５０１ａｇ４のうちの２つの取付ボス孔である。

【１８８５】

周辺制御基板１５１０、周辺データＲＯＭ基板１５２０、及び液晶出力基板１５３０等の各種基板が金属製のシールド板１５４０と共にそれぞれカバー平板１５０１ａの裏面側の所定位置に取り付けられることによりシールド板１５４０がカバー体１５０１と各種基板とにより挟持されて固定される状態においては、各種基板の表面（カバー平板１５０１ａの裏面側と対向する面）とカバー平板１５０１ａの裏面との間に所定高さの距離寸法（本第２実施形態では、１４．８ｍｍ）を有する空間が形成される状態となり、この空間内に金属製のシールド板１５４０が配置されることで２つの空間が形成される状態となる。

【１８８６】

この２つの空間は、各種基板の表面（カバー平板１５０１ａの裏面側と対向する面）と後述する金属製のシールド板１５４０のシールド平板１５４０ａの裏面との間に第１の所定高さの距離寸法（本第２実施形態では、１２ｍｍ）を有する第１の空間１５０５ａ（図２２５を参照。）と、後述する金属製のシールド板１５４０のシールド平板１５４０ａの表面とカバー平板１５０１ａの裏面との間に第２の所定高さの距離寸法（本第２実施形態では、１．６ｍｍ）を有する第２の空間１５０５ｂ（図２２５を参照。）と、から構成されている。

【１８８７】

第１の空間１５０５ａには、周辺制御基板１５１０に備える各種電子部品等（周辺制御ＩＣ１５１０ａ、制御ＲＯＭ１５１０ｂ、ＳＤＲＡＭ１５１０ｃ、図示しないリアルタイムクロックＩＣ、バックアップ電源１５１０ｅ、図示しない電源作成回路、図示しない抵抗、図示しないコンデンサ、ＬＥＤＭＬ１～ＬＥＤＭＬ４、特殊コネクタＳＣＮ１，ＳＣＮ２等）、周辺データＲＯＭ基板１５２０に備える各種電子部品等（周辺データＲＯＭ１５２０ａ、図示しない抵抗、図示しないコンデンサ、特殊コネクタＳＣＮ３等）、及び液晶出力基板１５３０に備える各種電子部品等（図示しない抵抗、図示しないコンデンサ、特殊コネクタＳＣＮ４等）が収容されているのに対して、第２の空間１５０５ｂには、各種電子部品等が全く収容されていない。これは、ノイズ（電磁波ノイズ）の影響を受け易い各種電子部品等を第１の空間１５０５ａ内に収容することによりノイズ（電磁波ノイズ）の対策を講ずることができると共に、第２の空間１５０５ｂ内に熱を発する各種電子部品等を収容しないことで第１の空間１５０５ａ内における各種電子部品等から発する熱を、金属製のシールド板１５４０を介して、第２の空間１５０５ｂへ効率良く伝えるためである。つまり、金属製のシールド板１５４０は、ノイズ（電磁波ノイズ）の低減（抑制）する機能に加えて、放熱板としての機能も有している。

【１８８８】

シールド板１５４０のシールド平板１５４０ａには、カバー体１５０１のカバー平板１５０１ａに形成される複数の円形状を有する通風孔１５０１ａｚと対応する位置に、それぞれ同一形状の通風孔１５４０ａｚが形成されている。つまり、これらの通風孔１５４０ａｚは、通風孔１５０１ａｚと同様に、直径が３ｍｍ、左右方向のピッチ幅が６．５ｍｍ、上下方向のピッチ幅が６．０ｍｍ～６．５ｍｍを有して形成されている。カバー体１５０１のＦＡＮ取付凹部１５０１ａａに取り付けられる空冷ファンＦＡＮの羽部が回転すると、この回転により羽部を介して、カバー体１５０１の内側空間の空気を周辺制御ユニット１５００の外部へ向かってはき出すことにより、周辺制御ユニット１５００の外部から空気を、カバー体１５０１のカバー平板１５０１ａに形成される通風孔１５０１ａｚ、そしてシールド板１５４０のシールド平板１５４０ａに形成される通風孔１５４０ａｚを介して、取り込むことでカバー体１５０１の内側空間のうち第１の空間１５０５ａ（特に、周辺制御ＩＣ１５１０ａ）を空冷することができると共に、金属製のシールド板１５４０を空冷することができる。

【１８８９】

［第２実施形態に係る周辺制御基板ボックスの導電性弾性部材］

金属製のシールド板１５４０のＬ字状回路接続片１５４０ｄの裏面に取り付けられる（接着される）導電性弾性部材１５４５は、クッション性（弾性）を有する導電部材であり、導電性被覆部１５４５ａと、導電性被覆部１５４５ａにより被覆される芯材としての矩形形状を有する発泡体１５４５ｂと、導電性被覆部１５４５ａに貼られる導電性粘着テープ１５４５ｃと、から構成されている。被覆部１５４５ａとしては、例えば、ポリエステル織布に銅及びニッケルの金属被膜が形成されているもの、ポリイミドフィルムに銅及びニッケルの導電層が形成されるもの等を挙げることができる。発泡体１５４５ｂとしては、例えば、耐熱性を有するポリウレタンフォームを挙げることができる。導電性粘着テープ１５４５ｃとしては、例えば、アクリル系粘着剤が使用された導電性両面接着テープを挙がることができる。導電性粘着テープ１５４５ｃの表面は、使用されるまでピール紙により保護されており、導電性被覆部１５４５ａを他の部材へ取り付ける（接着する）ときにピール紙を剥がす。

【１８９０】

なお、導電性弾性部材１５４５の断面形状（輪切りにした形状）は、その幅が約５ｍｍ、その高さが約３ｍｍである長方形状（図２２６を参照。）を有し、導電性粘着テープ１５４５ｃは、その幅が約２ｍｍ、その高さが約０．０３５ｍｍである長方形状（図２２６を参照。）を有している。

【１８９１】

［第２実施形態に係る周辺制御基板ボックスの組み立て方法］

周辺制御ユニット１５００の組み立て方法について説明する。まず、周辺データＲＯＭ基板１５２０に備える特殊コネクタＳＣＮ３のソケットを、周辺制御基板１５１０に備える特殊コネクタＳＣＮ１のプラグに挿入して押し込む。続いて、液晶出力基板１５３０に備える特殊コネクタＳＣＮ４のソケットを、周辺制御基板１５１０に備える特殊コネクタＳＣＮ２のプラグに挿入して押し込む。

【１８９２】

続いて、周辺制御基板１５１０、周辺データＲＯＭ基板１５２０及び液晶出力基板１５３０をカバー平板１５０１ａの裏面側に取り付けるために、金属製のシールド板１５４０のＬ字状取付片１５４０ｃ１に形成される貫通孔１５４０ｃ１ａを、カバー平板１５０１ａの裏面側に形成される取付ボス孔１５０１ａｇ１に合わせるように配置し、金属製のシールド板１５４０のＬ字状取付片１５４０ｃ２に形成される貫通孔１５４０ｃ２ａを、カバー平板１５０１ａの裏面側に形成される取付ボス孔１５０１ａｇ４に合わせるように配置し、金属製のシールド板１５４０のＬ字状取付片１５４０ｂ１に形成される貫通孔１５４０ｂ１ａを、カバー平板１５０１ａの裏面側に形成される取付ボス孔１５０１ａｈ２に合わせるように配置し、金属製のシールド板１５４０のＬ字状取付片１５４０ｂ２に形成される貫通孔１５４０ｂ２ａを、カバー平板１５０１ａの裏面側に形成される取付ボス孔１５０１ａｍ１に合わせるように配置する。

【１８９３】

続いて、周辺データＲＯＭ基板１５２０に形成される貫通孔１５２０ｒ１，１５２０ｒ３を、カバー平板１５０１ａの裏面側に形成される取付ボス突出部１５０１ａｉ１，１５０１ａｉ２に挿入すると共に、液晶出力基板１５３０に形成される貫通孔１５３０ｒ２，１５３０ｒ４を、カバー平板１５０１ａの裏面側に形成される取付ボス突出部１５０１ａｎ１，１５０１ａｎ２に挿入する。これにより、周辺制御基板１５１０に形成される貫通孔１５１０ｒ１～１５１０ｒ４は、カバー平板１５０１ａの裏面側に形成される取付ボス孔１５０１ａｇ１～１５０１ａｇ４と対応する配置となり、周辺データＲＯＭ基板１５２０に形成される貫通孔１５２０ｒ２，１５２０ｒ４は、カバー平板１５０１ａの裏面側に形成される取付ボス孔１５０１ａｈ１，１５０１ａｈ２と対応する配置となり、そして液晶出力基板１５３０に形成される貫通孔１５３０ｒ１，１５３０ｒ３は、カバー平板１５０１ａの裏面側に形成される取付ボス孔１５０１ａｍ１，１５０１ａｍ２と対応する配置となる。

【１８９４】

続いて、周辺データＲＯＭ基板１５２０に形成される貫通孔１５２０ｒ２，１５２０ｒ４に図示しない金属製のナベねじを挿入してカバー平板１５０１ａの裏面側に形成される取付ボス孔１５０１ａｈ１，１５０１ａｈ２へ向かってねじ込むことにより周辺データＲＯＭ基板１５２０をカバー平板１５０１ａの裏面側に固定し、液晶出力基板１５３０に形成される貫通孔１５３０ｒ１，１５３０ｒ３に図示しない金属製のナベねじを挿入してカバー平板１５０１ａの裏面側に形成される取付ボス孔１５０１ａｍ１，１５０１ａｍ２へ向かってねじ込むことにより液晶出力基板１５３０をカバー平板１５０１ａの裏面側に固定する。これにより、金属製のシールド板１５４０のＬ字状取付片１５４０ｂ１がカバー体１５０１と周辺データＲＯＭ基板１５２０とにより挟持される状態となると共に、金属製のシールド板１５４０のＬ字状取付片１５４０ｂ２がカバー体１５０１と液晶出力基板１５３０とにより挟持される状態となる。

【１８９５】

続いて、周辺制御基板１５１０に形成される貫通孔１５１０ｒ１～１５１０ｒ４は、カバー平板１５０１ａの裏面側に形成される取付ボス孔１５０１ａｇ１～１５０１ａｇ４と対応する配置となっているため、そのまま、又は、微調整する必要がある場合には周辺制御基板１５１０に形成される貫通孔１５１０ｒ１～１５１０ｒ４を、カバー平板１５０１ａの裏面側に形成される取付ボス孔１５０１ａｇ１～１５０１ａｇ４に合わせるように配置し、貫通孔１５１０ｒ１～１５１０ｒ４に図示しない金属製のナベねじを挿入して取付ボス孔１５０１ａｇ１～１５０１ａｇ４へ向かってねじ込むことにより周辺制御基板１５１

０をカバー平板１５０１ａの裏面側に固定する。これにより、金属製のシールド板１５４０のＬ字状取付片１５４０ｃ１，１５４０ｃ２がカバー体１５０１と周辺制御基板１５１０とにより挟持される状態となる。つまり、周辺制御基板１５１０、周辺データＲＯＭ基板１５２０、及び液晶出力基板１５３０等の各種基板が金属製のシールド板１５４０と共にそれぞれカバー平板１５０１ａの裏面側の所定位置に取り付けられることによりシールド板１５４０がカバー体１５０１と各種基板とにより挟持されて固定される状態となる。

【１８９６】

このように、周辺データＲＯＭ基板１５２０、液晶出力基板１５３０、及び周辺制御基板１５１０のうち、周辺制御基板１５１０を最後にカバー平板１５０１ａの裏面側に固定するようになっている。

【１８９７】

周辺データＲＯＭ基板１５２０は、カバー平板１５０１ａの裏面側に形成される取付ボス突出部１５０１ａｉ１，１５０１ａｉ２に挿入されことにより上下左右方向の移動が拘束されると共に、液晶出力基板１５３０は、カバー平板１５０１ａの裏面側に形成される取付ボス突出部１５０１ａｎ１，１５０１ａｎ２に挿入されることにより上下左右方向の移動が拘束されるのに対して、周辺制御基板１５１０には、上下左右方向を拘束するための取付ボス突出部がカバー平板１５０１ａの裏面側に形成されていない。これは、周辺データＲＯＭ基板１５２０、及び液晶出力基板１５３０をカバー平板１５０１ａの裏面側に固定することにより上下左右方向を拘束して、このような拘束による寸法誤差を、周辺制御基板１５１０をカバー平板１５０１ａの裏面側に固定する際に、周辺制御基板１５１０に形成される貫通孔１５１０ｒ１～１５１０ｒ４と、カバー平板１５０１ａの裏面側に形成される取付ボス孔１５０１ａｇ１～１５０１ａｇ４と、にそれぞれ持たせた寸法的な余裕により吸収することができるようになっている。

【１８９８】

続いて、カバー平板１５０１ａの裏面側に周辺データＲＯＭ基板１５２０、液晶出力基板１５３０、及び周辺制御基板１５１０が固定された状態において、カバー体１５０１に形成される板状の案内部１５０１ｃａ，１５０１ｃｂを、ベース体１５０２の係合部１５０２ｃａに形成される案内受部１５０２ｃａａ，１５０２ｃａｂに挿入すると共に、カバー体１５０１に形成されるヒンジ掛け部１５０１ｃｃ，１５０１ｃｄのＬ字状の鉤部１５０１ｃｃａ，１５０１ｃｄａを、ベース体１５０２の係合部１５０２ｃａに形成されるヒンジ受け部１５０２ｃａｃ，１５０２ｃａｄのＵ字溝形状の袋部１５０２ｃａｅ，１５０２ｃａｆに挿入する。

【１８９９】

続いて、ヒンジ受け部１５０２ｃａｃ，１５０２ｃａｄのＵ字溝形状の袋部１５０２ｃａｅ，１５０２ｃａｆに、カバー体１５０１に形成されるヒンジ掛け部１５０１ｃｃ，１５０１ｃｄのＬ字状の鉤部１５０１ｃｃａ，１５０１ｃｄａが当接した状態でベース体１５０２によりカバー体１５０１の開口側を覆うように回り込ませ、金属製のシールド板１５４０のＬ字状回路接続片１５４０ｄがベース体１５０２の貫通口１５０２ａｂを通って、そのままベース体１５０２をカバー体１５０１に被せた状態において、Ｌ字状回路接続片１５４０ｄがベース体１５０２の裏面から突出する状態となり、カバー体１５０１に形成されるカバー側封印部１５０１ｅａに図示しない金属製のアンカーリベットが挿入された金属製ワンウェイネジを挿入してベース体１５０２に形成されるベース側封印部１５０２ｅａへ向かってねじ込む。金属製ワンウェイネジがねじ込まれることにより金属製アンカーリベットの先端面がベース側封印部１５０２ｅａにおいて外部へ向かって広がることによって、カバー体１５０１に形成されるカバー側封印部１５０１ｅａと、ベース体１５０２に形成されるベース側封印部１５０２ｅａと、が封印される状態となる。

【１９００】

このような封印された状態においては、ベース体１５０２のベース側壁１５０２ｂ～１５０２ｅの内側にカバー体１５０１のカバー側壁１５０１ｂ～１５０１ｅが嵌まると共に内接（面接触）する状態となる。また、このように封印された状態において、金属製のシー

ルド板１５４０のＬ字状回路接続片１５４０ｄがベース体１５０２の裏面から突出する状態となり、ベース体１５０２の裏面からＬ字状回路接続片１５４０ｄの裏面までに亘る距離寸法（突出長さ）が２．７ｍｍとなっている。

【１９０１】

なお、このような封印された状態を解除する場合には、カバー体１５０１に形成されるカバー側封印部１５０１ｅａを工具により破壊しなければならい構造となっている。したがって、開閉の痕跡を見ることで、カバー体１５０１とベース体１５０２とから構成される周辺制御基板ボックス１５０５の不正な開閉を発見することができ、周辺制御基板ボックス１５０５への不正行為に対する抑止力が高められている。

【１９０２】

続いて、カバー体１５０１のカバー平板１５０１ａに形成されるＦＡＮ取付凹部１５０１ａａに空冷ファンＦＡＮを押し込み、空冷ファンＦＡＮからの複数の配線をカバー体１５０１のカバー平板１５０１ａに形成される配線引出凹部１５０１ａｂから引き出し、取付孔１５０１ａａｃ１，ａａｃ２にそれぞれカバー平板１５０１ａの正面から後方へ向かって、図示しない金属製の座付きナベねじ（ナベ頭と平ワッシャーとを一体とした形状を有するねじ）をねじ込む。

【１９０３】

続いて、液晶出力基板１５３０のコネクタＣＮ１０に対して、カバー体１５０１のカバー平板１５０１ａに形成される配線引出開口部１５０１ａｅを介して、演出表示装置１６００への複数の配線（ハーネス）を接続するためのコネクタを挿入して取り付けて、カバー体１５０１のカバー平板１５０１ａに形成される取付凹部１５０１ａｆに配線カバー体１５０３を嵌め合わせる。配線カバー体１５０３に形成される貫通孔１５０３ｂ１，１５０３ｂ２に図示しない金属製のナベねじを挿入して取付孔１５０１ａｆｂ１，１５０１ａｆｂ２にそれぞれ配線カバー体１５０３の正面から後方へ向かってねじ込むことにより、配線カバー体１５０３を取付凹部１５０１ａｆに固定する。これにより、複数の配線は、配線カバー体１５０３によりカバーされて触れることができない。

【１９０４】

続いて、導電性弾性部材１５４５の導電性粘着テープ１５４５ｃのピール紙を剥がして、ベース体１５０２の裏面から突出する金属製のシールド板１５４０のＬ字状回路接続片１５４０ｄの裏面に導電性弾性部材１５４５の粘着テープ１５４５ｃを取り付ける（接着する）。

【１９０５】

このように組み立てられる周辺制御ユニット１５００を、遊技盤５に備える遊技パネル１１００の後側であって演出表示装置１６００を収容する透明な合成樹脂製ボックスの裏面側に形成される取付部に取り付ける場合には、周辺制御ユニット１５００を正面から見て、周辺制御ユニット１５００の左辺側（周辺制御ユニット１５００のベース体１５０２に形成される係合部１５０２ｃａ側）を、透明な合成樹脂製ボックスの裏面側に形成される取付部を構成する装着溝に挿入し、周辺制御ユニット１５００のベース体１５０２に形成される貫通孔１５０２ｅｂ１，１５０２ｅｂ２に図示しない金属製のナベねじを挿入して透明な合成樹脂製ボックスの裏面側に形成される取付部を構成する取付孔へ向かってねじ込むことにより固定する。

【１９０６】

演出表示装置１６００は、額縁状の金属製フレームと、この金属製フレームの後面全体を塞ぐ金属製裏蓋と、透明な合成樹脂製ボックスと、により構成されている。額縁状の金属製フレームには、液晶パネル、バックライト、駆動回路等が収容されている。この額縁状の金属製フレームの後面全体が金属製裏蓋により塞がれて固定されることで額縁状の金属製フレームと金属製裏蓋とが電気的に接続された状態となっており、非導電性を有する透明な合成樹脂製ボックス（上述した保護カバー体１６０１）に収容されている。また、演出表示装置１６００は、自身の後側に取付けられる周辺制御ユニット１５００により制御され、周辺制御ユニット１５００に収容される周辺制御基板１５１０等のグランド（ＧＮ

Ｄ）ラインと電気的に接続されることにより同一のグランド（ＧＮＤ）となるようになっている。周辺制御ユニット１５００を演出表示装置１６００の透明な合成樹脂製ボックスの裏面側に形成される取付部に取り付けると、ベース体１５０２の裏面から突出する金属製のシールド板１５４０のＬ字状回路接続片１５４０ｄが透明な合成樹脂製ボックスの裏面側に形成される図示しない貫通口を通って、図２２６に示すように、導電性弾性部材１５４５を介して、演出表示装置１６００の金属製裏蓋に当接した状態となる。このとき、導電性弾性部材１５４５が押し込まれて高さ方向につぶれる（本第２実施形態では、導電性弾性部材１５４５の高さが１ｍｍ～１．５ｍｍつぶれる）ことにより、寸法公差や組み付け誤差による寸法ズレを導電性弾性部材１５４５により吸収することができるようになっている。これにより、周辺制御ユニット１５００の金属製のシールド板１５４０と、演出表示装置１６００の金属製裏蓋と、が電気的に確実に接続される状態とし、周辺制御ユニット１５００に収容される周辺制御基板１５１０等のグランド（ＧＮＤ）ラインと電気的に接続されて、同一のグランド（ＧＮＤ）とすることができるため、ノイズ（電磁波ノイズ）に対して強い環境を周辺制御ユニット１５００（周辺制御基板１５１０、周辺データＲＯＭ基板１５２０、及び液晶出力基板１５３０等の各種基板）と周辺制御ユニット１５００（周辺制御基板１５１０、周辺データＲＯＭ基板１５２０、及び液晶出力基板１５３０等の各種基板）の周辺とに対して構築することができる。したがって、電磁波ノイズによる影響を低減することができる。

【１９０７】

第２実施形態に係る周辺制御基板ボックスにおけるカバー体１５０１、ベース体１５０２、及び配線カバー体１５０３は、透明な非導電性の樹脂製として成型されて構成され、カバー体１５０１の内部空間内には、周辺制御基板１５１０、周辺データＲＯＭ基板１５２０、及び液晶出力基板１５３０等の各種基板が金属製のシールド板１５４０と共にそれぞれ所定位置に取り付けられることによりシールド板１５４０がカバー体１５０１と各種基板とにより挟持されて固定されると、金属製のシールド板１５４０が各種基板のグランド（ＧＮＤ）へ接続されるように構成されている。また、周辺制御基板１５１０、周辺データＲＯＭ基板１５２０、及び液晶出力基板１５３０のグランド（ＧＮＤ）ラインは、上述したように、本体枠４の基板ユニット６２０における電源基板６３０のグランド（ＧＮＤ）ラインと電気的に接続されている。このため、カバー体１５０１、ベース体１５０２、及び配線カバー体１５０３から侵入したノイズ（電磁波ノイズ）や演出表示装置１６００に侵入したノイズ（電磁波ノイズ）を、金属製のシールド板１５４０を介して、基板グランド（各種基板のグランド（ＧＮＤ））へ導いて除去するという「ノイズが抜けるルート」が形成されることができるようになっている。これにより、各種基板（電源基板６３０を含む。）に、このようなノイズ（電磁波ノイズ）を除去する専用のフィルタをそれぞれ備える必要がなく、各種基板（電源基板６３０を含む。）のコストダウンに寄与することができる。

【１９０８】

ここで、カバー体１５０１のカバー平板１５０１ａに形成される複数の円形状を有する通風孔１５０１ａｚの配置と、金属製のシールド板１５４０のシールド平板１５４０ａに形成される複数の円形状を有する通風孔１５４０ａｚの配置と、について説明する。これらの複数の円形状を有する通風孔１５０１ａｚ，１５４０ａｚは、上述したように、カバー体１５０１の内側空間を空冷することができると共に、不正の有無を確認することができる機能も有している。

【１９０９】

具体的には、周辺制御ユニット１５００を上述したように組み立てると、図２２４に示すように、ＦＡＮ取付凹部１５０１ａａの右側に配置される複数の円形状を有する通風孔１５０１ａｚ，１５４０ａｚは、周辺制御基板１５１０に備える制御ＲＯＭ１５１０ｂの表面に印刷されている品番や型式（又は管理番号）と、制御ＲＯＭ１５１０ｂのＩＣピンの状態と、周辺制御基板１５１０にシルク印刷された内容（例えば、ＩＣの向き、部品番号、ピン番号等）と、を視認することができるように、つまり、制御ＲＯＭ１５１０ｂの表

面と、ＩＣピンの状態と、周辺制御基板１５１０にシルク印刷された内容と、を多方向の角度から確認することができるように、制御ＲＯＭ１５１０ｂの形状より大きな領域となるようにそれぞれ分散して配置されている。これにより、制御ＲＯＭ１５１０ｂと周辺制御基板１５１０にシルク印刷された内容との対応関係に加えて、制御ＲＯＭ１５１０ｂの改変を、複数の円形状を有する通風孔１５０１ａｚ，１５４０ａｚを介して、確認することができる。また、制御ＲＯＭ１５１０ｂの近傍に配置されるＬＥＤＭＬ１は、基板ユニット６２０の電源基板６３０からの直流＋５Ｖが供給されている状態において点灯状態が維持されるようになっているため、本来、直流＋５Ｖが供給されている状態を確認（モニター）する機能を有しているものの、制御ＲＯＭ１５１０ｂを明るく照らすというスポットライトとしての機能もさらに有することによって、制御ＲＯＭ１５１０ｂの表面の視認性の向上と、ＩＣピンの状態の視認性の向上と、周辺制御基板１５１０にシルク印刷された内容の視認性の向上と、に寄与することができるようになっている。

【１９１０】

また、ＦＡＮ取付凹部１５０１ａａの左側に配置される複数の円形状を有する通風孔１５０１ａｚ，１５４０ａｚは、周辺制御基板１５１０と周辺データＲＯＭ基板１５２０との基板間コネクタの接続状態を確認することができるように、基板間コネクタの形状（周辺制御基板１５１０に備える特殊コネクタＳＣＮ１と周辺データＲＯＭ基板１５２０に特殊コネクタＳＣＮ３とにより構成される形状）より大きな領域であって、さらに、周辺データＲＯＭ基板１５２０に備える周辺データＲＯＭ１５２０ａの表面に印刷されている品番や型式（又は管理番号）と、周辺データＲＯＭ１５２０ａのＩＣピンの状態と、周辺制御基板１５１０と周辺データＲＯＭ基板１５２０とにそれぞれシルク印刷された内容（例えば、コネクタのピン数、ＩＣの向き、部品番号、ピン番号等）を視認することができるように、つまり、周辺データＲＯＭ１５２０ａの表面と、ＩＣピンの状態と、周辺制御基板１５１０と周辺データＲＯＭ基板１５２０とにそれぞれにシルク印刷された内容と、を多方向の角度からほぼ確認することができる大きな領域となるようにそれぞれ分散して配置されている。これにより、周辺制御基板１５１０に備える特殊コネクタＳＣＮ１と周辺制御基板１５１０にシルク印刷された内容との対応関係、周辺データＲＯＭ基板１５２０に備える特殊コネクタＳＣＮ３と周辺データＲＯＭ基板１５２０にシルク印刷された内容との対応関係に加えて、周辺データＲＯＭ基板１５２０に備える周辺データＲＯＭ１５２０ａの改変、周辺制御基板１５１０に備える特殊コネクタＳＣＮ１と周辺データＲＯＭ基板１５２０に備える特殊コネクタＳＣＮ３とによる基板間コネクタの改変を、複数の円形状を有する通風孔１５０１ａｚを介して、確認することができる。また、特殊コネクタＳＣＮ１の近傍に配置されるＬＥＤＭＬ３は、基板ユニット６２０の電源基板６３０からの直流＋３５Ｖが供給されている状態において点灯状態が維持されるようになっているため、本来、直流＋３５Ｖが供給されている状態を確認（モニター）する機能を有しているものの、周辺制御基板１５１０に備える特殊コネクタＳＣＮ１と周辺データＲＯＭ基板１５２０に特殊コネクタＳＣＮ３とによる基板間コネクタを明るく照らすというスポットライトとしての機能もさらに有することによって、周辺データＲＯＭ１５２０ａの表面の視認性の向上と、ＩＣピンの状態の視認性の向上と、周辺制御基板１５１０と周辺データＲＯＭ基板１５２０とにそれぞれにシルク印刷された内容の視認性の向上と、周辺制御基板１５１０に備える特殊コネクタＳＣＮ１と周辺データＲＯＭ基板１５２０に備える特殊コネクタＳＣＮ３とによる基板間コネクタの視認性の向上と、に寄与することができるようになっている。

【１９１１】

また、ＦＡＮ取付凹部１５０１ａａの左下側に配置される複数の円形状を有する通風孔１５０１ａｚ，１５４０ａｚは、周辺制御基板１５１０と液晶出力基板１５３０との基板間コネクタの接続状態を確認することができるように、基板間コネクタの形状（周辺制御基板１５１０に備える特殊コネクタＳＣＮ２と液晶出力基板１５３０に特殊コネクタＳＣＮ４とにより構成される形状）より大きな領域であって、さらに、周辺制御基板１５１０と液晶出力基板１５３０とにそれぞれシルク印刷された内容（例えば、コネクタのピン数、

ＩＣの向き、部品番号、ピン番号等）を視認することができるように、それぞれ分散して配置されている。これにより、周辺制御基板１５１０に備える特殊コネクタＳＣＮ２と周辺制御基板１５１０にシルク印刷された内容との対応関係、液晶出力基板１５３０に備える特殊コネクタＳＣＮ４と液晶出力基板１５３０にシルク印刷された内容との対応関係に加えて、周辺制御基板１５１０に備える特殊コネクタＳＣＮ２と液晶出力基板１５３０に備える特殊コネクタＳＣＮ４とによる基板間コネクタの改変を、複数の円形状を有する通風孔１５０１ａｚ，１５４０ａｚを介して、確認することができる。また、特殊コネクタＳＣＮ２の近傍に配置されるＬＥＤＭＬ４は、周辺制御ＩＣ１５１０ａが動作している状態において点灯状態が維持されるようになっているため、本来、周辺制御ＩＣ１５１０ａの動作を確認（モニター）する機能を有しているものの、周辺制御基板１５１０に備える特殊コネクタＳＣＮ２と液晶出力基板１５３０に特殊コネクタＳＣＮ４とによる基板間コネクタを明るく照らすというスポットライトとしての機能を有することによって、周辺制御基板１５１０と液晶出力基板１５３０とにそれぞれにシルク印刷された内容の視認性の向上と、周辺制御基板１５１０に備える特殊コネクタＳＣＮ２と液晶出力基板１５３０に備える特殊コネクタＳＣＮ４とによる基板間コネクタの視認性の向上と、に寄与することができるようになっている。

【１９１２】

また、ＦＡＮ取付凹部１５０１ａａの右下側に配置される複数の円形状を有する通風孔１５０１ａｚ，１５４０ａｚは、周辺制御基板１５１０に備えるＳＤＲＡＭ１５１０ｃ１，１５１０ｃ２の表面に印刷されている品番や型式と、ＳＤＲＡＭ１５１０ｃ１，１５１０ｃ２のＩＣピンの状態と、周辺制御基板１５１０にシルク印刷された内容（例えば、ＩＣの向き、部品番号、ピン番号等）と、を視認することができるように、つまり、ＳＤＲＡＭ１５１０ｃ１，１５１０ｃ２の表面と、ＩＣピンの状態と、周辺制御基板１５１０にシルク印刷された内容と、を多方向の角度から確認することができるように、ＳＤＲＡＭ１５１０ｃ１，１５１０ｃ２の形状より大きな領域となるようにそれぞれ分散して配置されている。これにより、ＳＤＲＡＭ１５１０ｃ１，１５１０ｃ２と周辺制御基板１５１０にシルク印刷された内容との対応関係に加えて、ＳＤＲＡＭ１５１０ｃ１，１５１０ｃ２の改変を、複数の円形状を有する通風孔１５０１ａｚ，１５４０ａｚを介して、確認することができる。また、ＳＤＲＡＭ１５１０ｃ１，１５１０ｃ２から構成されるＳＤＲＡＭ１５１０ｃの近傍に配置されるＬＥＤＭＬ２は、基板ユニット６２０の電源基板６３０からの直流＋１２Ｖが供給されている状態において点灯状態が維持されるようになっているため、本来、直流＋１２Ｖが供給されている状態を確認（モニター）する機能を有しているものの、ＳＤＲＡＭ１５１０ｃを明るく照らすというスポットライトとしての機能もさらに有することによって、ＳＤＲＡＭ１５１０ｃ（つまり、ＳＤＲＡＭ１５１０ｃ１，１５１０ｃ２）の表面の視認性の向上と、ＩＣピンの状態の視認性の向上と、周辺制御基板１５１０にシルク印刷された内容の視認性の向上と、に寄与することができるようになっている。

【１９１３】

また、空冷ファンＦＡＮの羽部を構成する複数のブレードのうち、ブレードとブレードとのすき間（具体的には、検査人が空冷ファンＦＡＮの羽部を回転させることによりブレードとブレードとのすき間）から周辺制御基板１５１０に備える周辺制御ＩＣ１５１０ａの品番を確認することができる。これにより、周辺制御ＩＣ１５１０ａの周囲に不正基板が配置されていないかを、複数の円形状を有する通風孔１５０１ａｚを介して、確認することができる。

【１９１４】

なお、周辺制御基板１５１０に備えるＬＥＤＭＬ１～ＬＥＤＭＬ４として、面実装型であって角度が１２０度程度というワイドなものであり、指向性の弱いタイプのものが採用されているため、照明としての用途にも適している。周辺制御基板１５１０、周辺データＲＯＭ基板１５２０、及び液晶出力基板１５３０等の各種基板が金属製のシールド板１５４０と共にそれぞれカバー平板１５０１ａの裏面側の所定位置に取り付けられることにより

シールド板１５４０がカバー体１５０１と各種基板とにより挟持されて固定される状態においては、上述したように、各種基板の表面（カバー平板１５０１ａの裏面側と対向する面）とカバー平板１５０１ａの裏面との間に所定高さの距離寸法（本第２実施形態では、１４．８ｍｍ）を有する空間が形成される状態となり、この空間内に金属製のシールド板１５４０が配置されることで２つの空間が形成される状態となる。この２つの空間は、上述したように、各種基板の表面（カバー平板１５０１ａの裏面側と対向する面）と金属製のシールド板１５４０のシールド平板１５４０ａの裏面との間に第１の所定高さの距離寸法（本第２実施形態では、１２ｍｍ）を有する第１の空間１５０５ａ（図２２４を参照。）と、金属製のシールド板１５４０のシールド平板１５４０ａの表面とカバー平板１５０１ａの裏面との間に第２の所定高さの距離寸法（本第２実施形態では、１．６ｍｍ）を有する第２の空間１５０５ｂ（図２２４を参照。）と、から構成されている。第１の空間１５０５ａには、上述したように、周辺制御基板１５１０に備える各種電子部品等、周辺データＲＯＭ基板１５２０に備える各種電子部品等、及び液晶出力基板１５３０に備える各種電子部品等が収容されている。このように形成される第１の空間１５０５ａ内を、照明としての用途にも適している周辺制御基板１５１０の表面に備えるＬＥＤＭＬ１～ＬＥＤＭＬ４が点灯することによって、明るく照らすことができる。

【１９１５】

また、シールド板１５４０が金属製であるため、光沢を有しており、周辺制御基板１５１０に備えるＬＥＤＭＬ１～ＬＥＤＭＬ４の発光面とそれぞれ対向する、金属製のシールド板１５４０のシールド平板１５４０ａの裏面の領域及びその周囲に対しては、ＬＥＤＭＬ１～ＬＥＤＭＬ４が発した光を反射させて再び周辺制御基板１５１０へ向かわせることができる反射部としての機能も有している。これらの反射部には、光沢を有する着色塗料をさらに塗布するように構成してもよい。

【１９１６】

また、周辺制御ユニット１５００が取り付けられる遊技盤５の近傍には、図３に示したように、遊技盤５の上方に球タンク５５２やタンクレール５５３が配置され、遊技盤５の側方に払出ユニット５６０が配置されるため、これらにより構成される球経路において遊技球が互いにこすれ合って帯電して静電放電することでノイズ源となる。このため、球経路が形成される遊技盤５の近傍は、遊技球からの静電放電によるノイズ（電磁波ノイズ）の影響を受ける環境が存在する。またパチンコ機１は、遊技ホールの島設備に背向かいで列設されている。このように、遊技盤５の周囲はノイズ（電磁波ノイズ）の影響を極めて受け易い環境下にある。そこで、本第２実施形態においては、カバー体１５０１、ベース体１５０２、及び配線カバー体１５０３を、上述したように、非導電性の樹脂製として透明に成型されて構成し、カバー体１５０１の内部空間内に、周辺制御基板１５１０、周辺データＲＯＭ基板１５２０、及び液晶出力基板１５３０等の各種基板を金属製のシールド板１５４０と共にそれぞれ所定位置に取り付けてシールド板１５４０をカバー体１５０１と各種基板とにより挟持して固定することにより、金属製のシールド板１５４０を各種基板のグランド（ＧＮＤ）と電気的に接続するという構成を採用した。また、本第２実施形態においては、周辺制御基板１５１０、周辺データＲＯＭ基板１５２０、及び液晶出力基板１５３０のグランド（ＧＮＤ）ラインを、上述したように、本体枠４の基板ユニット６２０における電源基板６３０のグランド（ＧＮＤ）ラインと電気的に接続することにより、同一のグランド（ＧＮＤ）とする構成を採用した。

【１９１７】

これにより、遊技盤５の遊技パネル１１００の後側（裏ユニット３０００の裏箱３０１０の後面に取付けられている演出表示装置１６００の後側）に取り付けられる周辺制御ユニット１５００のカバー体１５０１、及びベース体１５０２から侵入したノイズ（電磁波ノイズ）を、金属製のシールド板１５４０を介して、周辺制御基板１５１０、周辺データＲＯＭ基板１５２０、及び液晶出力基板１５３０等の各種基板のグランド（ＧＮＤ）へ導いて除去することができる。換言すると、遊技盤５の遊技パネル１１００の後側（裏ユニット３０００の裏箱３０１０の後面に取付けられている演出表示装置１６００の後側）に取

り付けられる周辺制御ユニット１５００のカバー体１５０１、及びベース体１５０２から侵入したノイズ（電磁波ノイズ）を、金属製のシールド板１５４０を介して、基板グランド（各種基板のグランド（ＧＮＤ））へ導いて除去することができる。

【１９１８】

なお、本第２実施形態においては、周辺制御基板１５１０、周辺データＲＯＭ基板１５２０、及び液晶出力基板１５３０等の各種基板が金属製のシールド板１５４０と共にそれぞれカバー平板１５０１ａの裏面側の所定位置に取り付けられることによりシールド板１５４０がカバー体１５０１と各種基板とにより挟持されて固定される状態においては、各種基板の表面（カバー平板１５０１ａの裏面側と対向する面）とカバー平板１５０１ａの裏面との間に所定高さの距離寸法（本第２実施形態では、１４．８ｍｍ）を有する空間が形成される状態となり、この空間内に金属製のシールド板１５４０が配置されることで２つの空間が形成され、この２つの空間が、各種基板の表面（カバー平板１５０１ａの裏面側と対向する面）と金属製のシールド板１５４０のシールド平板１５４０ａの裏面との間に第１の所定高さの距離寸法（本第２実施形態では、１２ｍｍ）を有する第１の空間１５０５ａと、金属製のシールド板１５４０のシールド平板１５４０ａの表面とカバー平板１５０１ａの裏面との間に第２の所定高さの距離寸法（本第２実施形態では、１．６ｍｍ）を有する第２の空間１５０５ｂと、から構成されていた。換言すると、第１の所定高さの距離寸法が第２の所定高さの距離寸法より大きく形成されていた。遊技盤５に大型の演出ユニット（可動演出体を作動することができる電気的駆動源や駆動機構、及び原点位置や作動位置を検出すための各種センサ）を配置した場合であって奥行き方向の距離寸法に余裕がある場合には、第１の所定高さの距離寸法と第２の所定高さの距離寸法とを同一の所定高さの距離寸法として構成してもよいし、第２の所定高さの距離寸法を第１の所定高さの距離寸法と比べて大きくするように構成してもよい。このように構成しても、ノイズ（電磁波ノイズ）の影響を受け易い各種電子部品等を第１の空間１５０５ａ内に収容することにより電磁波ノイズの対策を講ずることができると共に、第２の空間１５０５ｂ内に熱を発する各種電子部品等を収容しないことで第１の空間１５０５ａ内における各種電子部品等から発する熱を、金属製のシールド板１５４０を介して、第２の空間１５０５ｂへ効率良く伝えることができる。

【１９１９】

また、本第２実施形態においては、金属製のシールド板１５４０には、円形状を有す複数の通風孔１５４０ａｚが形成されることにより、周辺制御基板１５１０に備える制御ＲＯＭ１５１０ｂの表面に印刷されている品番や型式（又は管理番号）と、制御ＲＯＭ１５１０ｂのＩＣピンの状態と、周辺制御基板１５１０にシルク印刷された内容（例えば、ＩＣの向き、部品番号、ピン番号等）と、を視認することができ、また周辺制御基板１５１０に備えるＳＤＲＡＭ１５１０ｃ１，１５１０ｃ２の表面に印刷されている品番や型式と、ＳＤＲＡＭ１５１０ｃ１，１５１０ｃ２のＩＣピンの状態と、周辺制御基板１５１０にシルク印刷された内容（例えば、ＩＣの向き、部品番号、ピン番号等）と、を視認することができ、また周辺データＲＯＭ基板１５２０に備える周辺データＲＯＭ１５２０ａの表面に印刷されている品番や型式（又は管理番号）と、周辺データＲＯＭ１５２０ａのＩＣピンの状態と、周辺制御基板１５１０と周辺データＲＯＭ基板１５２０とにそれぞれシルク印刷された内容（例えば、コネクタのピン数、ＩＣの向き、部品番号、ピン番号等）を視認することができるように構成されていたが、制御ＲＯＭ１５１０ｂ、ＳＤＲＡＭ１５１０ｃ１，１５１０ｃ２、周辺データＲＯＭ１５２０ａと対応する金属製のシールド板１５４０の位置に矩形状の開口部を設けるように構成することもできる。なお、制御ＲＯＭ１５１０ｂ、ＳＤＲＡＭ１５１０ｃ１，１５１０ｃ２、周辺データＲＯＭ１５２０ａに加えて、その周囲も視認することができるように、金属製のシールド板１５４０の位置に矩形状の開口部を設けるように構成することもできる。また、周辺制御基板１５１０と周辺データＲＯＭ基板１５２０との基板間コネクタの接続状態を確認することができるように、基板間コネクタの形状（周辺制御基板１５１０に備える特殊コネクタＳＣＮ１と周辺データＲＯＭ基板１５２０に特殊コネクタＳＣＮ３とにより構成される形状）より大きな領域

と対応する金属製のシールド板１５４０の位置に矩形状の開口部を設けるように構成することもできるし、周辺制御基板１５１０と液晶出力基板１５３０との基板間コネクタの接続状態を確認することができるように、基板間コネクタの形状（周辺制御基板１５１０に備える特殊コネクタＳＣＮ２と液晶出力基板１５３０に特殊コネクタＳＣＮ４とにより構成される形状）より大きな領域と対応する金属製のシールド板１５４０の位置に矩形状の開口部を設けるように構成することもできる。

【１９２０】

また、本第２実施形態においては、ＦＡＮ取付凹部１５０１ａａに取り付けられる空冷ファンＦＡＮの羽部が回転すると、この回転により羽部を介して、カバー体１５０１の内側空間の空気を周辺制御ユニット１５００の外部へ向かってはき出すことにより、周辺制御ユニット１５００の外部から空気を、カバー体１５０１のカバー平板１５０１ａに複数形成される通風孔１５０１ａｚ、そしてカバー体１５０１とベース体１５０２との空間内に収容される金属製のシールド板１５４０に複数形成される通風孔１５４０ａｚを介して、取り込む際に、カバー体１５０１のカバー平板１５０１ａに複数形成される通風孔１５０１ａｚのそれぞれに流入する空気の流速を小さく抑えることができるようになっているが、ＦＡＮ取付凹部１５０１ａａに取り付けられる空冷ファンＦＡＮの羽部が回転すると、この回転により羽部を介して、空気を吸い込んで周辺制御ＩＣ１５１０ａへ向かって空気を送り出すようにしてもよい。換言すると、空冷ファンＦＡＮを、カバー体１５０１とベース体１５０２との空間内における空気の交換を主目的とせず、単に周辺制御ＩＣ１５１０ａを空冷することを主目的としてもよい。

【１９２１】

なお、第２実施形態に係る周辺制御基板ボックスによるノイズ対策の構成においても、カバー平板１５０１ａの裏面側に形成される取付ボス孔１５０１ａｇ１～１５０１ａｇ４の取付面（ボス面）と当接する周辺制御基板１５１０の表面（実装面）１５１０ｘ側のランド１５１０ｒｆ１～１５１０ｒｆ４の表面である銅箔に対しては、周辺制御基板１５１０の表面（実装面）１５１０ｘにメタルマスクを置いてメタルマスク上にスキージ（へらのようなもの）を用いて半田ペーストを広げることでメタルマスクに形成される穴から塗布し、周辺制御基板１５１０の表面（実装面）１５１０ｘをリフロー炉に入れて熱で半田ペーストを乾燥させるようにしているが、周辺制御基板１５１０の表面（実装面）を半田槽へ流してハンダ付けしてもよい。この場合、周辺制御基板１５１０の表面（実装面）１５１０ｘ側のランド１５１０ｒｆ１～１５１０ｒｆ４と、カバー平板１５０１ａの裏面側に形成される取付ボス孔１５０１ａｇ１～１５０１ａｇ４の取付面（ボス面）と、が当接する面積が減少して電気的な接続性が悪くならないように、周辺制御基板１５１０の表面（実装面）のランド１５１０ｒｆ１～１５１０ｒｆ４の表面である銅箔には、ハンダ付けが一部に盛り上がらないように均一にする必要がある。

【１９２２】

例えば、周辺制御基板１５１０の表面（実装面）のランド１５１０ｒｆ１～１５１０ｒｆ４の表面である銅箔には、その一部がレジスト液により塗布されて所定の形状に形成されるレジスト層１５１０ｘｒが形成され、周辺制御基板１５１０の表面（実装面）のランド１５１０ｒｆ１～１５１０ｒｆ４の表面である銅箔の所定の形状を有する領域にハンダ付けされることとなる。具体的には、「所定の形状」として、周辺制御基板１５１０の表面（実装面）のランド１５１０ｒｆ１～１５１０ｒｆ４の表面である銅箔に対して、図２２１（ａ）に示したように、レジストが所定幅を有する円が同心円状に複数形成される形状（レジストが所定幅を有する単一円が同心円状に形成される形状でもよい。）、図２２１（ｂ）に示したように、レジストが所定幅及び所定長さを有する矩形形状がランド１５１０ｒｆ１～１５１０ｒｆ４の中心として環状に複数配列された菊状に形成される形状、図２２１（ｃ）に示したように、レジストが所定幅を有する縦方向の線と横方向の線とから構成される格子状に形成される形状（レジストが所定幅を有する縦方向のみ線が所定距離寸法だけ離間して複数形成される形状でもよいし、レジストが所定幅を有する横方向のみ線が所定距離寸法だけ離間して複数形成される形状でもよい。）、図２２１（ｄ）に示し

たように、レジストが所定幅を有する線が所定距離だけ離間して右上がりの線が斜線状に複数形成される形状（レジストが所定幅を有する線が所定距離だけ離間して右下がりの線が斜線状に複数形成される形状でもよい。）、図示しないが小さな円形状の集合した形状等を挙げることができる。

【１９２３】

このように、周辺制御基板１５１０の表面（実装面）のランド１５１０ｒｆ１～１５１０ｒｆ４の表面である銅箔の一部がレジスト液により塗布されて所定の形状に形成されるレジスト層１５１０ｘｒが形成され、周辺制御基板１５１０の表面（実装面）のランド１５１０ｒｆ１～１５１０ｒｆ４の表面である銅箔の所定の形状を有する領域にハンダ付けされるようになっているため、周辺制御基板１５１０の表面（実装面）のランド１５１０ｒｆ１～１５１０ｒｆ４の表面である銅箔にハンダ付けされるハンダの量を抑制することができる（換言すると、レジスト液により塗布されて所定の形状としては、周辺制御基板１５１０の表面（実装面）のランド１５１０ｒｆ１～１５１０ｒｆ４の表面である銅箔にハンダ付けされるハンダの量を抑制することができるという効果を発揮できるものであればよい）。これにより、周辺制御基板１５１０の表面（実装面）を半田槽へ流してハンダ付けする場合に、周辺制御基板１５１０の表面（実装面）のランド１５１０ｒｆ１～１５１０ｒｆ４の表面である銅箔には、ハンダ付けが一部に盛り上がらないように均一にすることができる。このようにハンダ付けされたハンダは、カバー平板１５０１ａの裏面側に形成される取付ボス孔１５０１ａｇ１～１５０１ａｇ４の取付面（ボス面）と周辺制御基板１５１０の表面（実装面）１５１０ｘ側のランド１５１０ｒｆ１～１５１０ｒｆ４とを電気的に接続可能に被覆している。

【１９２４】

なお、このようなレジストにより形成される所定の図形を、金属製のナベねじのナベ部の座面（頭部の座面）と当接する周辺制御基板１５１０の裏面（ハンダ面）１５１０ｙ側のランド１５１０ｒｂ１～１５１０ｒｂ４の表面である銅箔に対しても行ってもよい。このようにハンダ付けされたハンダは、周辺制御基板１５１０の裏面（ハンダ面）１５１０ｙ側のランド１５１０ｒｂ１～１５１０ｒｂ４と金属製のナベねじのナベ部の座面（頭部の座面）とを電気的に接続可能に被覆している。また、周辺制御基板１５１０の表面（実装面）を半田槽へ流してハンダ付けする場合に、周辺制御基板１５１０の表面（実装面）のランド１５１０ｒｆ１～１５１０ｒｆ４の表面である銅箔をレジスト液で塗布して覆うことにより、ランド１５１０ｒｆ１～１５１０ｒｆ４の表面に塗布されたレジスト層の厚みを均一としてもよい。

【１９２５】

また、第２実施形態に係る周辺制御基板ボックスによるノイズ対策の構成においても、周辺制御基板１５１０をカバー平板１５０１ａの裏面側に固定する際に、金属製のナベねじを用いていたが、金属製のナベねじに平座金、ばね座金、歯付き座金（「菊座金」ともいう。）等の金属製の座金を通して周辺制御基板１５１０をカバー平板１５０１ａの裏面側に固定するようにしてもよい。

【１９２６】

また、第２実施形態に係る周辺制御基板ボックスによるノイズ対策の構成においては、額縁状の金属製フレームの後面全体が金属製裏蓋により塞がれて固定されることで額縁状の金属製フレームと金属製裏蓋とが電気的に接続された状態となって透明な合成樹脂製ボックスに収容されており、この透明な合成樹脂製ボックスと、ベース体１５０２と、が別体としてそれぞれ成型されていたが、この透明な合成樹脂製ボックスにベース体１５０２を一体に成型するようにしてもよい。

【１９２７】

［第１実施形態に係る周辺制御基板ボックスによるノイズ対策の構成と第３実施形態に係る周辺制御基板ボックスによるノイズ対策の構成との対比］

第１実施形態に係る周辺制御基板ボックスによるノイズ対策の構成では、上述したように、カバー体１５０１、及びベース体１５０２に加えて、配線カバー体１５０３は、上述し

たように、すべてポリカーボネートにカーボンを含有した導電性の樹脂製として構成されると共に、カバー体１５０１（カバー平板１５０１ａ）の裏面側に周辺制御基板１５１０、周辺データＲＯＭ基板１５２０、及び液晶出力基板１５３０等の各種基板が金属製のナベねじによりそれぞれ固定されると、これら各種基板のグランド（ＧＮＤ）と電気的に接続されて同一のグランド（ＧＮＤ）となるように構成されていた。

【１９２８】

これに対して、第３実施形態に係る周辺制御基板ボックスによるノイズ対策の構成では、第３実施形態に係る周辺制御基板ボックスによるノイズ対策の構成をさらに強化したものであり、周辺制御基板１５１０等の裏面（ハンダ面）のグランド（ＧＮＤ）の一部が露出する領域と演出表示装置１６００の金属製裏蓋とが導電性弾性部材を介してさらに当接する構成が採用されている。

【１９２９】

［第３実施形態に係る周辺制御基板ボックスの金属製のシールド板］

具体的には、第３実施形態に係る周辺制御基板ボックスの金属製のシールド板１５４０は、第２実施形態に係る周辺制御基板ボックスの金属製のシールド板１５４０の形状と類似し、図２２７及び図２２８に示すように、カバー体１５０１のカバー平板の上辺、左辺、下辺、及び右辺にそれぞれ設けられるカバー側壁１５０１ｂ～１５０１ｅから侵入するノイズ（電磁波ノイズ）対策としてシールド平板１５４０ａの各辺を後方へ（周辺制御基板１５１０、周辺データＲＯＭ基板１５２０、及び液晶出力基板１５３０等の各種基板の表面（実装面）側へ向かって）屈曲させて側壁１５４０ａｅがそれぞれ形成されている。これらの側壁１５４０ａｅは、通風孔１５４０ａｚが全く形成されていない。また、これらの側壁１５４０ａｅは、周辺制御ユニット１５００が組み立てられた状態において、その端面が周辺制御基板１５１０、周辺データＲＯＭ基板１５２０、及び液晶出力基板１５３０等の各種基板の表面（実装面）から所定距離寸法（例えば、３．９ｍｍ）を有して離間しているため接触せず、各種基板に実装されている各種の電子部品と接触しないようになっている。なお、第３実施形態に係る周辺制御基板ボックスの金属製のシールド板１５４０は、上述した第２実施形態に係る周辺制御基板ボックスの金属製のシールド板１５４０の形状と類似しているため、その詳細な説明を省略する。

【１９３０】

［第３実施形態に係る周辺制御基板ボックスのベース体］

第３実施形態に係る周辺制御基板ボックスのベース体１５０２は、第２実施形態に係る周辺制御基板ボックスのベース体１５０２の形状と類似し、周辺制御基板１５１０、周辺データＲＯＭ基板１５２０、及び液晶出力基板１５３０等の各種基板の裏面（ハンダ面）のグランド（ＧＮＤ）の一部が露出する領域ＲＯＰと対応する位置に、演出表示装置１６００の金属製裏蓋と接触することができる基板用導電性弾性部材１５０７を挿入する正方形（上下方向の距離寸法と左右方向の距離寸法がともに約８ｍｍを有する形状）を有する挿入口１５０２ａｚがベース平板１５０２ａに複数形成されている。これらの挿入口１５０２ａｚは、ベース平板１５０２ａの前方側及び後方側に突出して形成されているものの、各挿入口１５０２ａｚの前端面が周辺制御基板１５１０、周辺データＲＯＭ基板１５２０、及び液晶出力基板１５３０等の各種基板の裏面（ハンダ面）と所定距離寸法（例えば、１．５ｍｍ）を有して離間して接触しないように形成されていると共に、各挿入口１５０２ａｚの後端面が金属製のシールド板１５４０のＬ字状回路接続片１５４０ｄの裏面と同一の平面上に配置されるように形成されている。

【１９３１】

周辺制御基板１５１０の裏面（ハンダ面）のグランド（ＧＮＤ）の一部が露出する領域ＲＯＰが７つあり、これに対応する位置にベース平板１５０２ａに７つの挿入口１５０２ａｚが形成され、周辺データＲＯＭ基板１５２０の裏面（ハンダ面）のグランド（ＧＮＤ）の一部が露出する領域ＲＯＰが１つあり、これに対応する位置にベース平板１５０２ａに１つの挿入口１５０２ａｚが形成され、液晶出力基板１５３０の裏面（ハンダ面）のグランド（ＧＮＤ）の一部が露出する領域ＲＯＰが２つあり、これに対応する位置にベース平

板１５０２ａに２つの挿入口１５０２ａｚが形成されている。つまり、周辺制御基板１５１０、周辺データＲＯＭ基板１５２０、及び液晶出力基板１５３０等の各種基板の裏面（ハンダ面）には、グランド（ＧＮＤ）の一部が露出する領域ＲＯＰが合計１１個設けられると共に、ベース平板１５０２ａには、各領域ＲＯＰと対応する位置に挿入口１５０２ａｚが合計１１個設けられている。また、ベース平板１５０２ａの裏面側であって各挿入口１５０２ａｚの近傍に通し番号１～通し番号１１が形成されている。この通し番号は、製造元の作業者が基板用導電性弾性部材１５０７を挿入する順番（作業手順）を指示している。ベース体１５０２は、上述したように、透明な非導電性の樹脂製として成型されているため、ベース平板１５０２ａの表面側からも通し番号１～通し番号１１を視認することができる。なお、第３実施形態に係る周辺制御基板ボックスのベース体１５０２は、上述した第２実施形態に係る周辺制御基板ボックスのベース体１５０２の形状と類似しているため、その詳細な説明を省略する。

【１９３２】

［第３実施形態に係る周辺制御基板ボックスの基板用導電性弾性部材］

第３実施形態に係る周辺制御基板ボックスでは、金属製のシールド板１５４０と演出表示装置１６００の金属製裏蓋とを電気的に接続することができる導電性弾性部材１５４５のほかに、さらに、周辺制御基板１５１０、周辺データＲＯＭ基板１５２０、及び液晶出力基板１５３０等の各種基板の裏面（ハンダ面）のグランド（ＧＮＤ）の一部が露出する領域ＲＯＰと演出表示装置１６００の金属製裏蓋とを電気的に接続することができる基板用導電性弾性部材１５０７を有している。この基板用導電性弾性部材１５０７は、クッション性（弾性）を有する導電部材であり、導電性被覆部１５０７ａと、導電性被覆部１５０７ａにより被覆される芯材としての矩形形状を有する発泡体１５０７ｂと、から構成されている。導電性被覆部１５０７ａとしては、例えば、ポリエステル織布に銅及びニッケルの金属被膜が形成されているもの、ポリイミドフィルムに銅及びニッケルの導電層が形成されるもの等を挙げることができる。発泡体１５０７ｂとしては、例えば、耐熱性を有するポリウレタンフォームを挙げることができる。

【１９３３】

基板用導電性弾性部材１５０７は、前後方向に長い直方体の形状（図２２８における基板用導電性弾性部材１５０７を右側方から見ると、幅が約１１ｍｍ、奥行きが約８ｍｍ、高さが約８ｍｍ）を有している。基板用導電性弾性部材１５０７が上述したベース体１５０２の挿入口１５０２ａｚに挿入されると、挿入口１５０２ａｚの内壁により案内されると共に、基板用導電性弾性部材１５０７がクッション性（弾性）を有することにより挿入口１５０２ａｚの内壁を押すことで基板用導電性弾性部材１５０７が挿入口１５０２ａｚから外れ難くなっている。

【１９３４】

［第３実施形態に係る周辺制御基板ボックスの各種基板のグランドの一部の露出領域］

ここで、周辺制御基板１５１０、周辺データＲＯＭ基板１５２０、及び液晶出力基板１５３０等の各種基板の裏面（ハンダ面）のグランド（ＧＮＤ）の一部が露出する領域ＲＯＰについて説明する。周辺データＲＯＭ基板１５２０、及び液晶出力基板１５３０等の各種基板の裏面（ハンダ面）のグランド（ＧＮＤ）の一部に形成される領域ＲＯＰは同一の構造であり、ここでは、周辺制御基板１５１０の裏面（ハンダ面）のグランド（ＧＮＤ）の一部に形成される領域ＲＯＰについて説明する。周辺制御基板１５１０の裏面（ハンダ面）のグランド（ＧＮＤ）の一部に形成される領域ＲＯＰは、図２３０（ａ），（ｂ）に示すように、周辺制御基板１５１０の裏面（ハンダ面）１５１０ｙの銅箔面１５１０ｙｐに形成される基板グランド（ＧＮＤ）（つまり、ベタグランド）の一部が基板用導電性弾性部材１５０７の前面形状より大きい形状で剥き出しとなるように、周辺制御基板１５１０の裏面（ハンダ面）１５１０ｙの銅箔面１５１０ｙｐ上にレジスト液が塗布されて裏面（ハンダ面）側レジスト層１５１０ｙｒが形成されている。

【１９３５】

なお、領域ＲＯＰとしてベタグランドを剥き出しとせずに、スルーホールを利用する方法

を採用することもできる。例えば、図２３０（ｃ），（ｄ）に示すように、周辺制御基板１５１０の裏面（ハンダ面）１５１０ｙにおける領域ＲＯＰには、周辺制御基板１５１０の表面（実装面）のベタグランドと電気的に接続するスルーホールを上下方向と左右方向とにそれぞれ複数並べると共に、周辺制御基板１５１０の裏面（ハンダ面）１５１０ｙの銅箔面１５１０ｙｐに各スルーホールの周囲にランドが形成されるように、この銅箔面１５１０ｙｐ上にレジスト液を塗布して裏面（ハンダ面）側レジスト層１５１０ｙｒを形成することができる。

【１９３６】

［第３実施形態に係る周辺制御基板ボックスの組み立て方法］

周辺制御ユニット１５００の組み立て方法は、第２実施形態に係る周辺制御基板ボックスの組み立て方法と基本的に同一であるため、上述した基板用導電性弾性部材１５０７の挿入手順について説明する。製造元の作業者は、遊技盤５に備える遊技パネル１１００の後側であって演出表示装置１６００を収容する透明な合成樹脂製ボックスの裏面側に形成される取付部に周辺制御ユニット１５００を取り付けるまえに、通し番号１～通し番号１１までを順番に基板用導電性弾性部材１５０７をその長手方向から上述したベース体１５０２の挿入口１５０２ａｚに挿入して押し込み、周辺制御基板１５１０、周辺データＲＯＭ基板１５２０、及び液晶出力基板１５３０等の各種基板の裏面（ハンダ面）のグランド（ＧＮＤ）の一部が露出する領域ＲＯＰと接触する状態とする作業を行う。

【１９３７】

演出表示装置１６００は、上述したように、額縁状の金属製フレームと、この金属製フレームの後面全体を塞ぐ金属製裏蓋と、透明な合成樹脂製ボックスと、により構成されている。額縁状の金属製フレームには、液晶パネル、バックライト、駆動回路等が収容されている。この額縁状の金属製フレームの後面全体が金属製裏蓋により塞がれて固定されることで額縁状の金属製フレームと金属製裏蓋とが電気的に接続された状態となっており、透明な合成樹脂製ボックスに収容されている。また、演出表示装置１６００は、上述したように、自身の後側に取付けられる周辺制御ユニット１５００により制御され、周辺制御ユニット１５００に収容される周辺制御基板１５１０等のグランド（ＧＮＤ）ラインと電気的に接続されることにより同一のグランド（ＧＮＤ）となるようになっている。

【１９３８】

周辺制御ユニット１５００を演出表示装置１６００の透明な合成樹脂製ボックスの裏面側に形成される取付部に取り付けると、ベース体１５０２の裏面から突出する金属製のシールド板１５４０のＬ字状回路接続片１５４０ｄが透明な合成樹脂製ボックスの裏面側に形成される図示しない貫通口を通って、図２２９に示すように、導電性弾性部材１５４５を介して、演出表示装置１６００の金属製裏蓋に当接した状態となる。このとき、導電性弾性部材１５４５が押し込まれて高さ方向につぶれる（本第３実施形態では、導電性弾性部材１５４５の高さが１ｍｍ～１．５ｍｍつぶれる）ことにより、寸法公差や組み付け誤差による寸法ズレを導電性弾性部材１５４５により吸収することができるようになっている。これにより、周辺制御ユニット１５００の金属製のシールド板１５４０と、演出表示装置１６００の金属製裏蓋と、が電気的に確実に接続される状態とし、周辺制御ユニット１５００に収容される周辺制御基板１５１０等のグランド（ＧＮＤ）ラインと電気的に接続されて、同一のグランド（ＧＮＤ）とすることができる。

【１９３９】

また、周辺制御基板１５１０、周辺データＲＯＭ基板１５２０、及び液晶出力基板１５３０等の各種基板の裏面（ハンダ面）のグランド（ＧＮＤ）の一部が露出する領域ＲＯＰと一方が接触する各基板用導電性弾性部材１５０７の他方は、対応する透明な合成樹脂製ボックスの裏面側に形成される図示しない貫通口をそれぞれ通って、図２２９に示すように、演出表示装置１６００の金属製裏蓋に当接した状態となる。このとき、基板用導電性弾性部材１５０７が押し込まれて高さ方向につぶれる（本第３実施形態では、基板用導電性弾性部材１５０７の高さが１ｍｍ～１．５ｍｍつぶれる）ことにより、寸法公差や組み付け誤差による寸法ズレを基板用導電性弾性部材１５０７により吸収することができるよう

になっている。これにより、基板用導電性弾性部材１５０７な長手方向に外力が加わった状態が維持されることで、その反発力として、基板用導電性弾性部材１５０７は、周辺制御基板１５１０、周辺データＲＯＭ基板１５２０、及び液晶出力基板１５３０等の各種基板の裏面（ハンダ面）のグランド（ＧＮＤ）の一部が露出する領域ＲＯＰとの接触面と、演出表示装置１６００の金属製裏蓋との接触面と、にそれぞれに加わった状態となり、電気的な接続を良好とする状態を維持し、周辺制御基板１５１０、周辺データＲＯＭ基板１５２０、及び液晶出力基板１５３０等の各種基板の裏面（ハンダ面）のグランド（ＧＮＤ）と、演出表示装置１６００の金属製裏蓋と、が電気的に確実に接続される状態とし、周辺制御ユニット１５００に収容される周辺制御基板１５１０等のグランド（ＧＮＤ）ラインと電気的に接続されて、同一のグランド（ＧＮＤ）とすることができる。このため、カバー体１５０１、ベース体１５０２、及び配線カバー体１５０３から侵入したノイズ（電磁波ノイズ）や演出表示装置１６００に侵入したノイズ（電磁波ノイズ）を、金属製のシールド板１５４０のほかに、さらに基板用導電性弾性部材１５０７を介して、基板グランド（各種基板のグランド（ＧＮＤ））へ導いて除去するという「ノイズが抜けるルート」が形成されることができるようになっている。これにより、各種基板（電源基板６３０を含む。）に、このようなノイズ（電磁波ノイズ）を除去する専用のフィルタをそれぞれ備える必要がなく、各種基板（電源基板６３０を含む。）のコストダウンに寄与することができる。

【１９４０】

なお、第３実施形態に係る周辺制御基板ボックスによるノイズ対策の構成においても、周辺制御基板１５１０の表面（実装面）１５１０ｘ側のランド１５１０ｒｆ１～１５１０ｒｆ４と周辺制御基板１５１０の裏面（ハンダ面）１５１０ｙ側のランド１５１０ｒｂ１～１５１０ｒｂ４とには、その表面である銅箔が剥き出しとならないようにそれぞれハンダ付けされているが、金属製のナベねじのナベ部の座面（頭部の座面）と当接する周辺制御基板１５１０の裏面（ハンダ面）１５１０ｙ側のランド１５１０ｒｂ１～１５１０ｒｂ４の表面である銅箔にそれぞれハンダ付けされ、カバー平板１５０１ａの裏面側に形成される取付ボス孔１５０１ａｇ１～１５０１ａｇ４の取付面（ボス面）と当接する周辺制御基板１５１０の表面（実装面）１５１０ｘ側のランド１５１０ｒｆ１～１５１０ｒｆ４の表面である銅箔をレジスト液で塗布して覆ってもよい。周辺制御基板１５１０の表面（実装面）１５１０ｘ側のランド１５１０ｒｆ１～１５１０ｒｆ４の表面である銅箔は、周辺制御基板１５１０の表面（実装面）１５１０ｘ全体がレジスト液で塗布される際に併せて塗布される。このように構成しても、周辺制御基板１５１０に形成される貫通孔１５１０ｒ１～１５１０ｒ４に金属製のナベねじを挿入してカバー平板１５０１ａの裏面側に形成される取付ボス孔１５０１ａｇ１～１５０１ａｇ４へ向かってねじ込むことにより周辺制御基板１５１０をカバー平板１５０１ａの裏面側に固定することで、金属製のナベねじを介して、周辺制御基板１５１０のグランド（ＧＮＤ）とカバー体１５０１とを電気的に接続された状態とすることができる。また、カバー平板１５０１ａの裏面側に形成される取付ボス孔１５０１ａｇ１～１５０１ａｇ４の取付面（ボス面）と当接する周辺制御基板１５１０の表面（実装面）１５１０ｘ側のランド１５１０ｒｆ１～１５１０ｒｆ４の表面である銅箔をレジスト液で塗布して覆うことにより、ランド１５１０ｒｆ１～１５１０ｒｆ４の表面に塗布されたレジスト層の厚みを均一とすることができる。これにより、周辺制御基板１５１０の表面（実装面）１５１０ｘ側のランド１５１０ｒｆ１～１５１０ｒｆ４とそれぞれ対応する部分のレジスト層の厚さが同一の厚さとなるため、周辺制御基板１５１０に形成される貫通孔１５１０ｒ１～１５１０ｒ４に金属製のナベねじを挿入してカバー平板１５０１ａの裏面側に形成される取付ボス孔１５０１ａｇ１～１５０１ａｇ４へ向かってねじ込むことにより周辺制御基板１５１０をカバー平板１５０１ａの裏面側に固定する際に、周辺制御基板１５１０の歪みを防止することができる。

【１９４１】

また、本第３実施形態においては、ＦＡＮ取付凹部１５０１ａａに取り付けられる空冷ファンＦＡＮの羽部が回転すると、この回転により羽部を介して、カバー体１５０１の内側

空間の空気を周辺制御ユニット１５００の外部へ向かってはき出すことにより、周辺制御ユニット１５００の外部から空気を、カバー体１５０１のカバー平板１５０１ａに複数形成される通風孔１５０１ａｚ、そしてカバー体１５０１とベース体１５０２との空間内に収容される金属製のシールド板１５４０に複数形成される通風孔１５４０ａｚを介して、取り込む際に、カバー体１５０１のカバー平板１５０１ａに複数形成される通風孔１５０１ａｚのそれぞれに流入する空気の流速を小さく抑えることができるようになっているが、ＦＡＮ取付凹部１５０１ａａに取り付けられる空冷ファンＦＡＮの羽部が回転すると、この回転により羽部を介して、空気を吸い込んで周辺制御ＩＣ１５１０ａへ向かって空気を送り出すようにしてもよい。換言すると、空冷ファンＦＡＮを、カバー体１５０１とベース体１５０２との空間内における空気の交換を主目的とせず、単に周辺制御ＩＣ１５１０ａを空冷することを主目的としてもよい。

【１９４２】

また、第３実施形態に係る周辺制御基板ボックスによるノイズ対策の構成においても、カバー平板１５０１ａの裏面側に形成される取付ボス孔１５０１ａｇ１～１５０１ａｇ４の取付面（ボス面）と当接する周辺制御基板１５１０の表面（実装面）１５１０ｘ側のランド１５１０ｒｆ１～１５１０ｒｆ４の表面である銅箔に対しては、周辺制御基板１５１０の表面（実装面）１５１０ｘにメタルマスクを置いてメタルマスク上にスキージ（へらのようなもの）を用いて半田ペーストを広げることでメタルマスクに形成される穴から塗布し、周辺制御基板１５１０の表面（実装面）１５１０ｘをリフロー炉に入れて熱で半田ペーストを乾燥させるようにしているが、周辺制御基板１５１０の表面（実装面）を半田槽へ流してハンダ付けしてもよい。この場合、周辺制御基板１５１０の表面（実装面）１５１０ｘ側のランド１５１０ｒｆ１～１５１０ｒｆ４と、カバー平板１５０１ａの裏面側に形成される取付ボス孔１５０１ａｇ１～１５０１ａｇ４の取付面（ボス面）と、が当接する面積が減少して電気的な接続性が悪くならないように、周辺制御基板１５１０の表面（実装面）のランド１５１０ｒｆ１～１５１０ｒｆ４の表面である銅箔には、ハンダ付けが一部に盛り上がらないように均一にする必要がある。

【１９４３】

例えば、周辺制御基板１５１０の表面（実装面）のランド１５１０ｒｆ１～１５１０ｒｆ４の表面である銅箔には、その一部がレジスト液により塗布されて所定の形状に形成されるレジスト層１５１０ｘｒが形成され、周辺制御基板１５１０の表面（実装面）のランド１５１０ｒｆ１～１５１０ｒｆ４の表面である銅箔の所定の形状を有する領域にハンダ付けされることとなる。具体的には、「所定の形状」として、周辺制御基板１５１０の表面（実装面）のランド１５１０ｒｆ１～１５１０ｒｆ４の表面である銅箔に対して、図２２１（ａ）に示したように、レジストが所定幅を有する円が同心円状に複数形成される形状（レジストが所定幅を有する単一円が同心円状に形成される形状でもよい。）、図２２１（ｂ）に示したように、レジストが所定幅及び所定長さを有する矩形形状がランド１５１０ｒｆ１～１５１０ｒｆ４の中心として環状に複数配列された菊状に形成される形状、図２２１（ｃ）に示したように、レジストが所定幅を有する縦方向の線と横方向の線とから構成される格子状に形成される形状（レジストが所定幅を有する縦方向のみ線が所定距離寸法だけ離間して複数形成される形状でもよいし、レジストが所定幅を有する横方向のみ線が所定距離寸法だけ離間して複数形成される形状でもよい。）、図２２１（ｄ）に示したように、レジストが所定幅を有する線が所定距離だけ離間して右上がりの線が斜線状に複数形成される形状（レジストが所定幅を有する線が所定距離だけ離間して右下がりの線が斜線状に複数形成される形状でもよい。）、図示しないが小さな円形状の集合した形状等を挙げることができる。

【１９４４】

このように、周辺制御基板１５１０の表面（実装面）のランド１５１０ｒｆ１～１５１０ｒｆ４の表面である銅箔の一部がレジスト液により塗布されて所定の形状に形成されるレジスト層１５１０ｘｒが形成され、周辺制御基板１５１０の表面（実装面）のランド１５１０ｒｆ１～１５１０ｒｆ４の表面である銅箔の所定の形状を有する領域にハンダ付けさ

れるようになっているため、周辺制御基板１５１０の表面（実装面）のランド１５１０ｒｆ１～１５１０ｒｆ４の表面である銅箔にハンダ付けされるハンダの量を抑制することができる（換言すると、レジスト液により塗布されて所定の形状としては、周辺制御基板１５１０の表面（実装面）のランド１５１０ｒｆ１～１５１０ｒｆ４の表面である銅箔にハンダ付けされるハンダの量を抑制することができるという効果を発揮できるものであればよい）。これにより、周辺制御基板１５１０の表面（実装面）を半田槽へ流してハンダ付けする場合に、周辺制御基板１５１０の表面（実装面）のランド１５１０ｒｆ１～１５１０ｒｆ４の表面である銅箔には、ハンダ付けが一部に盛り上がらないように均一にすることができる。このようにハンダ付けされたハンダは、カバー平板１５０１ａの裏面側に形成される取付ボス孔１５０１ａｇ１～１５０１ａｇ４の取付面（ボス面）と周辺制御基板１５１０の表面（実装面）１５１０ｘ側のランド１５１０ｒｆ１～１５１０ｒｆ４とを電気的に接続可能に被覆している。

【１９４５】

なお、このようなレジストにより形成される所定の図形を、金属製のナベねじのナベ部の座面（頭部の座面）と当接する周辺制御基板１５１０の裏面（ハンダ面）１５１０ｙ側のランド１５１０ｒｂ１～１５１０ｒｂ４の表面である銅箔に対しても行ってもよい。このようにハンダ付けされたハンダは、周辺制御基板１５１０の裏面（ハンダ面）１５１０ｙ側のランド１５１０ｒｂ１～１５１０ｒｂ４と金属製のナベねじのナベ部の座面（頭部の座面）とを電気的に接続可能に被覆している。また、周辺制御基板１５１０の表面（実装面）を半田槽へ流してハンダ付けする場合に、周辺制御基板１５１０の表面（実装面）のランド１５１０ｒｆ１～１５１０ｒｆ４の表面である銅箔をレジスト液で塗布して覆うことにより、ランド１５１０ｒｆ１～１５１０ｒｆ４の表面に塗布されたレジスト層の厚みを均一としてもよい。

【１９４６】

また、第３実施形態に係る周辺制御基板ボックスによるノイズ対策の構成においても、周辺制御基板１５１０をカバー平板１５０１ａの裏面側に固定する際に、金属製のナベねじを用いていたが、金属製のナベねじに平座金、ばね座金、歯付き座金（「菊座金」ともいう。）等の金属製の座金を通して周辺制御基板１５１０をカバー平板１５０１ａの裏面側に固定するようにしてもよい。

【１９４７】

また、第３実施形態に係る周辺制御基板ボックスによるノイズ対策の構成においては、額縁状の金属製フレームの後面全体が金属製裏蓋により塞がれて固定されることで額縁状の金属製フレームと金属製裏蓋とが電気的に接続された状態となって透明な合成樹脂製ボックスに収容されており、この透明な合成樹脂製ボックスと、ベース体１５０２と、が別体としてそれぞれ成型されていたが、この透明な合成樹脂製ボックスにベース体１５０２を一体に成型するようにしてもよい。

【１９４８】

［第１実施形態に係る周辺制御基板ボックスによるノイズ対策の構成と第４実施形態に係る周辺制御基板ボックスによるノイズ対策の構成との対比］

第１実施形態に係る周辺制御基板ボックスによるノイズ対策の構成では、上述したように、カバー体１５０１、及びベース体１５０２に加えて、配線カバー体１５０３は、上述したように、すべてポリカーボネートにカーボンを含有した導電性の樹脂製として構成されると共に、カバー体１５０１（カバー平板１５０１ａ）の裏面側に周辺制御基板１５１０、周辺データＲＯＭ基板１５２０、及び液晶出力基板１５３０等の各種基板が金属製のナベねじによりそれぞれ固定されると、これら各種基板のグランド（ＧＮＤ）と電気的に接続されて同一のグランド（ＧＮＤ）となるように構成されていた。

【１９４９】

これに対して、第４実施形態に係る周辺制御基板ボックスによるノイズ対策の構成では、図２３１及び図２３２に示すように、後方が開口されると共に上下方向と比べて左右方向に長いボックス形状を有する透明な非導電性の樹脂製により成型されるカバー体１５０１

と、遊技の進行を制御する主制御ユニット１３００の主制御基板１３１０からのコマンドに基づいて演出の進行を制御することができる周辺制御基板１５１０と、周辺制御基板１５１０と電気的に接続される周辺データＲＯＭ基板１５２０と、周辺制御基板１５１０と電気的に接続される液晶出力基板１５３０と、周辺制御基板１５１０、周辺データＲＯＭ基板１５２０、及び液晶出力基板１５３０等の各種基板へ侵入するノイズ（電磁波ノイズ）を低減（抑制）することができる各種基板の表面（実装面）側に配置される金属製の基板表面（実装面）側シールド板１５４０と、金属製の基板表面（実装面）側シールド板１５４０の所定箇所に取付けられる（接着される）導電性弾性部材１５４５と、周辺制御基板１５１０、周辺データＲＯＭ基板１５２０、及び液晶出力基板１５３０等の各種基板へ侵入するノイズ（電磁波ノイズ）を低減（抑制）することができる各種基板の裏面（ハンダ面）側に配置される金属製の基板裏面（ハンダ面）側シールド板１５５５と、カバー体１５０１の開口を塞ぐ透明な非導電性の樹脂製により成型されるベース体１５０２と、を備えている。カバー体１５０１の内部空間内には、周辺制御基板１５１０、周辺データＲＯＭ基板１５２０、及び液晶出力基板１５３０等の各種基板が金属製の基板表面（実装面）側シールド板１５４０と金属製の基板裏面（ハンダ面）側シールド板１５５５とに挟持されてカバー体１５０１の所定位置に取り付けられ、カバー体１５０１の開口をベース体１５０２により塞ぐことにより、カバー体１５０１とベース体１５０２とによる周辺制御基板ボックス１５０５（封印基板ボックス）が構成されている。

【１９５０】

［第４実施形態に係る周辺制御基板ボックスのカバー体］

まず、第４実施形態に係る周辺制御基板ボックスのカバー体１５０２では、第１実施形態に係る周辺制御基板ボックスのカバー体１５０２のカバー平板１５０１ａの裏面側に形成される取付ボス突出部１５０１ａｉ１，１５０１ａｉ２がカバー平板１５０１ａの裏面側に取付ボス孔１５０１ａｈ３，１５０１ａｈ４としてそれぞれ形成されるという点で相違していると共に、第１実施形態に係る周辺制御基板ボックスのカバー体１５０２のカバー平板１５０１ａの裏面側に形成される取付ボス突出部１５０１ａｎ１，１５０１ａｎ２がカバー平板１５０１ａの裏面側に取付ボス孔１５０１ａｍ３，１５０１ａｍ４としてそれぞれ形成されるという点で相違している。また、第４実施形態に係る周辺制御基板ボックスのカバー体１５０２では、周辺制御基板１５１０に備える図示しないリアルタイムクロックＩＣに電源断時においても電源を供給することができるバックアップ電源１５１０ｅが図示しないホルダから飛び出して図示しないリアルタイムクロックＩＣへの電源供給が遮断されないように、円筒形状を有する飛び出し防止部１５０１ａｗがカバー体１５０２のカバー平板１５０１ａの裏面側からバックアップ電源１５１０ｅの正面側へ向かって突出して形成されるという点で第１実施形態に係る周辺制御基板ボックスのカバー体１５０２と相違している。なお、飛び出し防止部１５０１ａｗの端面は、バックアップ電源１５１０ｅから所定距離寸法（例えば、１ｍｍ）だけ離間して配置されている。

【１９５１】

また、第１実施形態に係る周辺制御基板ボックスのカバー体１５０２の裏面側に周辺制御基板１５１０、周辺データＲＯＭ基板１５２０、及び液晶出力基板１５３０等の各種基板を取り付けるときには、周辺制御基板１５１０、周辺データＲＯＭ基板１５２０、及び液晶出力基板１５３０等の各種基板の貫通孔（取付ボス突出部が挿入されるものを除く。）に直接図示しない金属製のナベねじを挿入してカバー平板１５０１ａの裏面側に形成される取付ボス孔にねじ込むことで固定されていたが、第４実施形態に係る周辺制御基板ボックスのカバー体１５０２の裏面側に周辺制御基板１５１０、周辺データＲＯＭ基板１５２０、及び液晶出力基板１５３０等の各種基板を取り付けるときには、周辺制御基板１５１０、周辺データＲＯＭ基板１５２０、及び液晶出力基板１５３０等の各種基板における複数の貫通孔のうち特定の貫通孔に直接図示しない金属製のナベねじを挿入してカバー平板１５０１ａの裏面側に形成される取付ボス孔にねじ込むことで固定する第１固定方法を行った後に、周辺制御基板１５１０、周辺データＲＯＭ基板１５２０、及び液晶出力基板１５３０等の各種基板の裏面（ハンダ面）側を覆うように金属製の基板裏面（ハンダ面）側

シールド板１５５５のＬ字状取付片に形成される各貫通孔を、周辺制御基板１５１０、周辺データＲＯＭ基板１５２０、及び液晶出力基板１５３０等の各種基板における特定の貫通孔を除く他の貫通孔のうち対応する貫通孔に合わせるように配置し、カバー体１５０１の開口をベース体１５０２で塞いでベース平板１５０２ａの表面側に形成される取付ボスの貫通孔に図示しない金属製のナベねじを挿入し、金属製の基板裏面（ハンダ面）側シールド板１５５５のＬ字状取付片に形成される各貫通孔、周辺制御基板１５１０、周辺データＲＯＭ基板１５２０、及び液晶出力基板１５３０等の各種基板における他の貫通孔をそれぞれ通してカバー平板１５０１ａの裏面側に形成される取付ボス孔にそれぞれねじ込むことで固定する第２固定方法を行う。

【１９５２】

第１固定方法において、周辺制御基板１５１０をカバー平板１５０１ａの裏面側に取り付けるときには、後述する金属製の基板表面（実装面）側シールド板１５４０のＬ字状取付片１５４０ｃ１に形成される貫通孔１５４０ｃ１ａを、カバー平板１５０１ａの裏面側に形成される取付ボス孔１５０１ａｇ１に合わせるように配置し、後述する金属製の基板表面（実装面）側シールド板１５４０のＬ字状取付片１５４０ｃ２に形成される貫通孔１５４０ｃ２ａを、カバー平板１５０１ａの裏面側に形成される取付ボス孔１５０１ａｇ４に合わせるように配置する。そして、周辺制御基板１５１０に形成される貫通孔１５１０ｒ１～１５１０ｒ４のうち、貫通孔１５１０ｒ１，１５１０ｒ４を、金属製の基板表面（実装面）側シールド板１５４０のＬ字状取付片１５４０ｃ１に形成される貫通孔１５４０ｃ１ａ、金属製のシールド板１５４０のＬ字状取付片１５４０ｃ１に形成される貫通孔１５４０ｃ２ａ、及びカバー平板１５０１ａの裏面側に形成される取付ボス孔１５０１ａｇ１，１５０１ａｇ４に合わせるように配置すると共に、周辺制御基板１５１０に形成される貫通孔１５１０ｒ２，１５１０ｒ３を、カバー平板１５０１ａの裏面側に形成される取付ボス孔１５０１ａｇ２，１５０１ａｇ３に合わせるように配置する。

【１９５３】

第１固定方法において、周辺データＲＯＭ基板１５２０をカバー平板１５０１ａの裏面側に取り付けるときには、後述する金属製の基板表面（実装面）側シールド板１５４０のＬ字状取付片１５４０ｂ１に形成される貫通孔１５４０ｂ１ａを、カバー平板１５０１ａの裏面側に形成される取付ボス孔１５０１ａｈ２に合わせるように配置する。そして、周辺データＲＯＭ基板１５２０に形成される貫通孔１５２０ｒ１～１５２０ｒ４を、カバー平板１５０１ａの裏面側に形成される取付ボス孔１５０１ａｈ１～１５０１ａｈ４に合わせるように配置する。

【１９５４】

第１固定方法において、液晶出力基板１５３０をカバー平板１５０１ａの裏面側に取り付けるときには、後述する金属製の基板表面（実装面）側シールド板１５４０のＬ字状取付片１５４０ｂ２に形成される貫通孔１５４０ｂ２ａを、カバー平板１５０１ａの裏面側に形成される取付ボス孔１５０１ａｍ１に合わせるように配置する。そして、液晶出力基板１５３０に形成される貫通孔１５３０ｒ１～１５３０ｒ４を、カバー平板１５０１ａの裏面側に形成される取付ボス孔１５０１ａｎ１～１５０１ａｎ４に合わせるように配置する。

【１９５５】

そして、周辺制御基板１５１０の貫通孔１５１０ｒ１～１５１０ｒ４のうち特定の貫通孔として貫通孔１５１０ｒ２，１５１０ｒ３に図示しない金属製のナベねじを挿入して取付ボス孔１５０１ａｇ１～１５０１ａｇ４へ向かってねじ込むことにより周辺制御基板１５１０をカバー平板１５０１ａの裏面側に固定することができる。これにより、周辺制御基板１５１０の裏面（ハンダ面）側に形成されるランド１５１０ｒｂ１～１５１０ｒｂ４のうち、ランド１５１０ｒｂ２，１５１０ｒｂ３と、金属製のナベねじの座面と、がそれぞれ当接した状態となる。

【１９５６】

そして、周辺データＲＯＭ基板１５２０に形成される貫通孔１５２０ｒ１～１５２０ｒ４のうち特定の貫通孔として貫通孔１５２０ｒ１，１５２０ｒ４に図示しない金属製のナベ

ねじを挿入してカバー平板１５０１ａの裏面側に形成される取付ボス孔１５０１ａｈ３，１５０１ａｈ２へ向かってねじ込むことにより周辺データＲＯＭ基板１５２０をカバー平板１５０１ａの裏面側に固定することができる。これにより、周辺データＲＯＭ基板１５２０の裏面（ハンダ面）側に形成されるランド１５２０ｒｂ１，１５２０ｒｂ２，１５２０ｒｂ４のうち、ランド１５２０ｒｂ１，１５２０ｒｂ４と、金属製のナベねじの座面と、がそれぞれ当接した状態となる。また、金属製の基板表面（実装面）側シールド板１５４０のＬ字状取付片１５４０ｂ１は、周辺データＲＯＭ基板１５２０に形成されるランド１５２０ｒｆ４と電気的に接続される状態となることで金属製の基板表面（実装面）側シールド板１５４０が周辺データＲＯＭ基板１５２０のグランド（ＧＮＤ）へ接続されることとなる。周辺データＲＯＭ基板１５２０のグランド（ＧＮＤ）ラインは、周辺制御基板１５１０のグランド（ＧＮＤ）ラインと、液晶出力基板１５３０のグランド（ＧＮＤ）ラインと、が電気的に接続され、同一のグランド（ＧＮＤ）となっているため、金属製の基板表面（実装面）側シールド板１５４０は、周辺データＲＯＭ基板１５２０のグランド（ＧＮＤ）へ接続されることにより、周辺制御基板１５１０のグランド（ＧＮＤ）と、液晶出力基板１５３０のグランド（ＧＮＤ）と、へ接続されることとなる。また、周辺制御基板１５１０、周辺データＲＯＭ基板１５２０、及び液晶出力基板１５３０のグランド（ＧＮＤ）ラインは、本体枠４の基板ユニット６２０における電源基板６３０のグランド（ＧＮＤ）ラインと電気的に接続されているため、金属製の基板表面（実装面）側シールド板１５４０は、周辺データＲＯＭ基板１５２０のグランド（ＧＮＤ）へ接続されることにより、電源基板６３０のグランド（ＧＮＤ）ラインへ接続されることとなる。

【１９５７】

そして、液晶出力基板１５３０に形成される貫通孔１５３０ｒ１～１５３０ｒ４のうち特定の貫通孔として貫通孔１５３０ｒ１，１５３０ｒ４に図示しない金属製のナベねじを挿入してカバー平板１５０１ａの裏面側に形成される取付ボス孔１５０１ａｍ１，１５０１ａｍ４へ向かってねじ込むことにより液晶出力基板１５３０をカバー平板１５０１ａの裏面側に固定することができる。これにより、液晶出力基板１５３０の裏面（ハンダ面）側に形成されるランド１５３０ｒｂ１，１５３０ｒｂ３，１５３０ｒｂ４のうち、ランド１５３０ｒｂ１，１５３０ｒｂ４と、金属製のナベねじの座面と、がそれぞれ当接した状態となる。また、金属製の基板表面（実装面）側シールド板１５４０のＬ字状取付片１５４０ｂ２は、液晶出力基板１５３０に形成されるランド１５３０ｒｆ１と電気的に接続される状態となることで金属製のシールド板１５４０が液晶出力基板１５３０のグランド（ＧＮＤ）へ接続されることとなる。液晶出力基板１５３０のグランド（ＧＮＤ）ラインは、周辺制御基板１５１０のグランド（ＧＮＤ）ラインと、周辺データＲＯＭ基板１５２０のグランド（ＧＮＤ）ラインと、が電気的に接続され、同一のグランド（ＧＮＤ）となっているため、金属製の基板表面（実装面）側シールド板１５４０は、液晶出力基板１５３０のグランド（ＧＮＤ）へ接続されることにより、周辺制御基板１５１０のグランド（ＧＮＤ）と、周辺データＲＯＭ基板１５２０のグランド（ＧＮＤ）と、へ接続されることとなる。また、周辺制御基板１５１０、周辺データＲＯＭ基板１５２０、及び液晶出力基板１５３０のグランド（ＧＮＤ）ラインは、本体枠４の基板ユニット６２０における電源基板６３０のグランド（ＧＮＤ）ラインと電気的に接続されているため、金属製の基板表面（実装面）側シールド板１５４０は、液晶出力基板１５３０のグランド（ＧＮＤ）へ接続されることにより、電源基板６３０のグランド（ＧＮＤ）ラインへ接続されることとなる。

【１９５８】

この第１固定方法の後に、第２固定方法において、周辺制御基板１５１０、周辺データＲＯＭ基板１５２０、及び液晶出力基板１５３０等の各種基板の裏面（ハンダ面）側を覆うように後述する金属製の基板裏面（ハンダ面）側シールド板１５５５のＬ字状取付片１５５５ｂ１～１５５５ｂ４にそれぞれ形成される貫通孔１５５５ｂ１ａ～１５５５ｂ４ａを、周辺制御基板１５１０、周辺データＲＯＭ基板１５２０、及び液晶出力基板１５３０等の各種基板における特定の貫通孔を除く他の貫通孔のうち対応する貫通孔として、周辺制御基板１５１０の貫通孔１５１０ｒ１，１５１０ｒ４、周辺データＲＯＭ基板１５２０の

貫通孔１５２０ｒ２、及び液晶出力基板１５３０の貫通孔１５３０ｒ３に合わせるように配置し、カバー体１５０１の開口をベース体１５０２で塞いでベース平板１５０２ａの表面側に形成される後述する取付ボス１５０２ａｆ１～１５０２ａｆ６の貫通孔１５０２ａｇ１～１５０２ａｇ６に図示しない金属製のナベねじを挿入し、金属製の基板裏面（ハンダ面）側シールド板１５５５のＬ字状取付片１５５５ｂ１～１５５５ｂ４にそれぞれ形成される貫通孔１５５５ｂ１ａ～１５５５ｂ４ａ、そして周辺制御基板１５１０、周辺データＲＯＭ基板１５２０、及び液晶出力基板１５３０等の各種基板における特定の貫通孔を除く他の貫通孔のうち対応する貫通孔として、周辺制御基板１５１０の貫通孔１５１０ｒ１，１５１０ｒ４、周辺データＲＯＭ基板１５２０の貫通孔１５２０ｒ２，１５２０ｒ３、及び液晶出力基板１５３０の貫通孔１５３０ｒ２，１５３０ｒ３をそれぞれ通してカバー平板１５０１ａの裏面側に形成される取付ボス孔１５０１ａｇ１，１５０１ａｇ４，１５０１ａｈ１，１５０１ａｈ４，１５０１ａｍ３、１５０１ａｍ２にそれぞれねじ込むことで固定する。

【１９５９】

第１固定方法、そして第２固定方法を順番に行うことにより、周辺制御基板１５１０が金属製の基板表面（実装面）側シールド板１５４０のＬ字状取付片１５４０ｃ１，１５４０ｃ２の裏面と金属製の基板裏面（ハンダ面）側シールド板１５５５のＬ字状取付片１５５５ｂ１，１５５５ｂ２の表面とにより挟持される状態となる。この状態において、周辺制御基板１５１０の表面（実装面）側に形成されるランド１５１０ｒｆ１，１５１０ｒｆ４と、金属製の基板表面（実装面）側シールド板１５４０のＬ字状取付片１５４０ｃ１，１５４０ｃ２の裏面と、がそれぞれ当接した状態となると共に、周辺制御基板１５１０の裏面（ハンダ面）側に形成されるランド１５１０ｒｂ１，１５１０ｒｂ４と、金属製の基板裏面（ハンダ面）側シールド板１５５５のＬ字状取付片１５５５ｂ１，１５５５ｂ２の表面と、がそれぞれ当接した状態となる。これにより、金属製の基板表面（実装面）側シールド板１５４０のＬ字状取付片１５４０ｃ１，１５４０ｃ２は、周辺制御基板１５１０の表面（実装面）側に形成されるランド１５１０ｒｆ１，１５１０ｒｆ４とそれぞれ電気的に接続される状態となることで金属製の基板表面（実装面）側シールド板１５４０が周辺制御基板１５１０のグランド（ＧＮＤ）へ接続されることとなると共に、金属製の基板裏面（ハンダ面）側シールド板１５５５のＬ字状取付片１５５５ｂ１，１５５５ｂ２は、周辺制御基板１５１０の裏面（ハンダ面）側に形成されるランド１５１０ｒｂ１，１５１０ｒｂ４とそれぞれ電気的に接続される状態となることで金属製の基板裏面（ハンダ面）側シールド板１５５５が周辺制御基板１５１０のグランド（ＧＮＤ）へ接続されることとなる。周辺制御基板１５１０のグランド（ＧＮＤ）ラインは、周辺データＲＯＭ基板１５２０のグランド（ＧＮＤ）ラインと、液晶出力基板１５３０のグランド（ＧＮＤ）ラインと、が電気的に接続され、同一のグランド（ＧＮＤ）となっているため、金属製の基板表面（実装面）側シールド板１５４０、及び金属製の基板裏面（ハンダ面）側シールド板１５５５は、周辺制御基板１５１０のグランド（ＧＮＤ）へ接続されることにより、周辺データＲＯＭ基板１５２０のグランド（ＧＮＤ）と、液晶出力基板１５３０のグランド（ＧＮＤ）と、へ接続されることとなる。また、周辺制御基板１５１０、周辺データＲＯＭ基板１５２０、及び液晶出力基板１５３０のグランド（ＧＮＤ）ラインは、本体枠４の基板ユニット６２０における電源基板６３０のグランド（ＧＮＤ）ラインと電気的に接続されているため、金属製の基板表面（実装面）側シールド板１５４０、及び金属製の基板裏面（ハンダ面）側シールド板１５５５は、周辺制御基板１５１０のグランド（ＧＮＤ）へ接続されることにより、電源基板６３０のグランド（ＧＮＤ）ラインへ接続されることとなる。

【１９６０】

また、第１固定方法、そして第２固定方法を順番に行うことにより、周辺データＲＯＭ基板１５２０の裏面（ハンダ面）側に形成されるランド１５２０ｒｂ２と、金属製の基板裏面（ハンダ面）側シールド板１５５５のＬ字状取付片１５５５ｂ３の表面と、が当接した状態となる。これにより、金属製の基板裏面（ハンダ面）側シールド板１５５５のＬ字状取付片１５５５ｂ３は、周辺データＲＯＭ基板１５２０の裏面（ハンダ面）側に形成され

るランド１５２０ｒｂ２と電気的に接続される状態となることで金属製の基板裏面（ハンダ面）側シールド板１５５５が周辺データＲＯＭ基板１５２０のグランド（ＧＮＤ）へ接続されることとなる。これにより、周辺データＲＯＭ基板１５２０のグランド（ＧＮＤ）ラインは、周辺制御基板１５１０のグランド（ＧＮＤ）ラインと、液晶出力基板１５３０のグランド（ＧＮＤ）ラインと、が電気的に接続され、同一のグランド（ＧＮＤ）となっているため、金属製の基板裏面（ハンダ面）側シールド板１５５５は、周辺データＲＯＭ基板１５２０のグランド（ＧＮＤ）へ接続されることにより、周辺制御基板１５１０のグランド（ＧＮＤ）と、液晶出力基板１５３０のグランド（ＧＮＤ）と、へ接続されることとなる。また、周辺制御基板１５１０、周辺データＲＯＭ基板１５２０、及び液晶出力基板１５３０のグランド（ＧＮＤ）ラインは、本体枠４の基板ユニット６２０における電源基板６３０のグランド（ＧＮＤ）ラインと電気的に接続されているため、金属製の基板裏面（ハンダ面）側シールド板１５５５は、周辺データＲＯＭ基板１５２０のグランド（ＧＮＤ）へ接続されることにより、電源基板６３０のグランド（ＧＮＤ）ラインへ接続されることとなる。

【１９６１】

また、第１固定方法、そして第２固定方法を順番に行うことにより、液晶出力基板１５３０の裏面（ハンダ面）側に形成されるランド１５３０ｒｂ３と、金属製の基板裏面（ハンダ面）側シールド板１５５５のＬ字状取付片１５５５ｂ４の表面と、が当接した状態となる。これにより、金属製の基板裏面（ハンダ面）側シールド板１５５５のＬ字状取付片１５５５ｂ４は、液晶出力基板１５３０の裏面（ハンダ面）側に形成されるランド１５３０ｒｂ３と電気的に接続される状態となることで金属製の基板裏面（ハンダ面）側シールド板１５５５が液晶出力基板１５３０のグランド（ＧＮＤ）へ接続されることとなる。液晶出力基板１５３０のグランド（ＧＮＤ）ラインは、周辺制御基板１５１０のグランド（ＧＮＤ）ラインと、周辺データＲＯＭ基板１５２０のグランド（ＧＮＤ）ラインと、が電気的に接続され、同一のグランド（ＧＮＤ）となっているため、金属製の基板裏面（ハンダ面）側シールド板１５５５は、液晶出力基板１５３０のグランド（ＧＮＤ）へ接続されることにより、周辺制御基板１５１０のグランド（ＧＮＤ）と、周辺データＲＯＭ基板１５２０のグランド（ＧＮＤ）と、へ接続されることとなる。また、周辺制御基板１５１０、周辺データＲＯＭ基板１５２０、及び液晶出力基板１５３０のグランド（ＧＮＤ）ラインは、本体枠４の基板ユニット６２０における電源基板６３０のグランド（ＧＮＤ）ラインと電気的に接続されているため、金属製の基板裏面（ハンダ面）側シールド板１５５５は、液晶出力基板１５３０のグランド（ＧＮＤ）へ接続されることにより、電源基板６３０のグランド（ＧＮＤ）ラインへ接続されることとなる。

【１９６２】

また、第１固定方法、そして第２固定方法を順番に行うことにより、金属製の基板表面（実装面）側シールド板１５４０の所定箇所に取付けられる（接着される）導電性弾性部材１５４５が金属製の基板裏面（ハンダ面）側シールド板１５５５の表面側に押し当てられて接触した状態となる。これにより、金属製の基板表面（実装面）側シールド板１５４０と金属製の基板裏面（ハンダ面）側シールド板１５５５とが電気的に接続された状態となる。

【１９６３】

周辺制御基板１５１０、周辺データＲＯＭ基板１５２０、及び液晶出力基板１５３０等の各種基板が金属製の基板表面（実装面）側シールド板１５４０と共にそれぞれカバー平板１５０１ａの裏面側の所定位置に取り付けられることにより、周辺制御ＩＣ１５１０ａの表面（品番や型式が印刷されている面）とＦＡＮ取付凹部１５０１ａａの後面とには、上述した所定の距離寸法を有する隙間（２．３ｍｍ）が形成される状態となる。

【１９６４】

ＦＡＮ取付凹部１５０１ａａの底面に形成される複数の円弧形状のスリット孔１５０１ａａａにおけるそれぞれ面積を加えたもの（総面積）は、上述したように、カバー体１５０１のカバー平板１５０１ａに複数形成される通風孔１５０１ａｚにおける面積と、上述し

たすき間（周辺制御基板１５１０に備える７つのコネクタＣＮ１～ＣＮ７と、カバー体１５０１に形成される７つのコネクタ穴１５０１ａｃ１～１５０１ａｃ７と、に形成されるすき間、周辺制御基板１５１０に備える音量調整スイッチ１５１０ｄと、カバー体１５０１に形成される音量調整穴１５０１ａｃ８と、に形成されるすき間、そして液晶出力基板１５３０に備える２つのコネクタＣＮ８，ＣＮ９と、カバー体１５０１に形成される２つのコネクタ穴１５０１ａｃ９，１５０１ａｃ１０と、に形成されるすき間）における面積と、を加えたものより小さくなっている。このため、ＦＡＮ取付凹部１５０１ａａに取り付けられる空冷ファンＦＡＮの羽部が回転すると、この回転により羽部を介して、カバー体１５０１の内側空間の空気を周辺制御ユニット１５００の外部へ向かってはき出すことにより、周辺制御ユニット１５００の外部から空気を、カバー体１５０１のカバー平板１５０１ａに複数形成される通風孔１５０１ａｚ、そしてカバー体１５０１とベース体１５０２との空間内に収容される金属製の基板表面（実装面）側シールド板１５４０に複数形成される通風孔１５４０ａｚを介して、取り込む際に、カバー体１５０１のカバー平板１５０１ａに複数形成される通風孔１５０１ａｚのそれぞれに流入する空気の流速を小さく抑えることができるようになっている。

【１９６５】

［第４実施形態に係る周辺制御基板ボックスのベース体］

ベース体１５０２のベース平板１５０２ａの表面側には、カバー体１５０１のカバー平板１５０１ａの裏面側に形成される取付ボス孔１５０１ａｇ１，１５０１ａｇ４，１５０１ａｈ１，１５０１ａｈ４，１５０１ａｍ３、１５０１ａｍ２と対応する位置に、貫通孔１５０２ａｇ１～１５０２ａｇ６を有する取付ボス１５０２ａｆ１～１５０２ａｆ６がそれぞれ形成されている。これら取付ボス１５０２ａｆ１～１５０２ａｆ６の貫通孔１５０２ａｇ１～１５０２ａｇ６に図示しない金属製のナベねじが挿入されてねじ込まれ、ベース１５０２をカバー体１５０１に固定する。

【１９６６】

なお、周辺制御基板１５１０の裏面（ハンダ面）側においては、ベース体１５０２に形成される断線防止リブ部１５０２ａａ１～１５０２ａａ３と対応する領域には、断線防止リブ部１５０２ａａ１～１５０２ａａ３の外形と比べて一回り大きい形状を有する箔抜き領域ＮＲ１，ＮＲ２，ＮＲ３がそれぞれ形成され、断線防止リブ部１５０２ａａ１～１５０２ａａ３の前面（当接面）が箔抜き領域ＮＲ１，ＮＲ，ＮＲ３にそれぞれ当接する。これらの箔抜き領域ＮＲ１，ＮＲ２，ＮＲ３は、ベース体１５０２に形成される断線防止リブ部１５０２ａａ１～１５０２ａａ３からノイズ（電磁波ノイズ）の侵入を阻止することができるように、周辺制御基板１５１０のグランド（ＧＮＤ）から隔離されている。換言すると、ノイズ（電磁波ノイズ）がベース体１５０２に形成される断線防止リブ部１５０２ａａ１～１５０２ａａ３から箔抜き領域ＮＲ１，ＮＲ２，ＮＲ３を介して、周辺制御基板１５１０のベタグランドへ侵入することができない「ノイズが抜けないルート」が形成される。

【１９６７】

［第４実施形態に係る周辺制御基板ボックスの金属製の基板表面（実装面）側シールド板］

周辺制御基板１５１０、周辺データＲＯＭ基板１５２０、及び液晶出力基板１５３０等の各種基板へ侵入するノイズ（電磁波ノイズ）を低減（抑制）することができる各種基板の表面（実装面）側に配置される金属製の基板表面（実装面）側シールド板１５４０は、その正面から見て、横長の長方形状のシールド平板１５４０ａ（板厚：１．２ｍｍ）の左辺中央上側と左辺中央下側において所定距離寸法（本第４実施形態では、シールド平板１５４０ａの裏面から１２ｍｍ）だけ後方へ屈曲したＬ字状取付片１５４０ｂ１，１５４０ｂ２がそれぞれ形成されている。

【１９６８】

また、金属製の基板表面（実装面）側シールド板１５４０は、その正面から見て、横長の長方形状のシールド平板１５４０ａ（板厚：１．２ｍｍ）の右辺上側、及び右辺下側において所定距離寸法（本第４実施形態では、シールド平板１５４０ａの裏面から１２ｍｍ）

だけ後方へ屈曲したＬ字状取付片１５４０ｃ１，１５４０ｃ２がそれぞれ形成されていると共に、横長の長方形状のシールド平板１５４０ａ（板厚：１．２ｍｍ）の中央上寄りであってＬ字状取付片１５４０ｂ１の上側に所定距離寸法（本第４実施形態では、シールド平板１５４０ａの裏面から９．９ｍｍ）だけ後方へ屈曲したＬ字状回路接続片１５４０ｄが形成されている。Ｌ字状回路接続片１５４０ｄの裏面には、その上端から下端までに亘って導電性弾性部材１５４５が取り付けられている（接着されている）。

【１９６９】

シールド平板１５４０ａは、その周囲に、カバー側壁１５０１ｂ～１５０１ｅと干渉しないように切り欠きがそれぞれ形成されていると共に、カバー平板１５０１ａのＦＡＮ取付凹部１５０１ａａ、及び配線引出凹部１５０１ａｂと対応する位置に、略正方形状の開口部１５４０ａａが形成されている。これにより、周辺制御基板１５１０、周辺データＲＯＭ基板１５２０、及び液晶出力基板１５３０等の各種基板が金属製の基板表面（実装面）側シールド板１５４０と共にそれぞれカバー平板１５０１ａの裏面側の所定位置に取り付けられる状態においては、カバー体１５０１のカバー側壁１５０１ｂ～１５０１ｅがシールド平板１５４０ａの外形周囲とそれぞれ干渉せず、カバー平板１５０１ａのＦＡＮ取付凹部１５０１ａａ、及び配線引出凹部１５０１ａｂがシールド平板１５４０ａの開口部１５４０ａａに接触することなく挿入される状態となる。

【１９７０】

金属製の基板表面（実装面）側シールド板１５４０は、Ｌ字状取付片１５４０ｂ１，１５４０ｂ２の裏面と、Ｌ字状取付片１５４０ｃ１，１５４０ｃ２の裏面と、が同一平面に配置されるように屈曲して形成されていると共に、Ｌ字状取付片１５４０ｂ１，１５４０ｂ２，１５４０ｃ１，１５４０ｃ２の裏面と、シールド平板１５４０ａの表面と、がそれぞれ平行な面となるように形成されている。なお、本第４実施形態では、シールド平板１５４０ａの表面からＬ字状取付片１５４０ｂ１，１５４０ｂ２，１５４０ｃ１，１５４０ｃ２の裏面までに亘る距離寸法が１３．２ｍｍとなっている。

【１９７１】

Ｌ字状取付片１５４０ｂ１，１５４０ｂ２には、上述したカバー体１５０１の裏面に形成される取付ボス孔１５０１ａｈ２，１５０１ａｍ１と対応する位置に、貫通孔１５４０ｂ１ａ，１５４０ｂ２ａがそれぞれ形成されている。

【１９７２】

Ｌ字状取付片１５４０ｃ１，１５４０ｃ２には、上述したカバー体１５０１の裏面に形成される取付ボス孔１５０１ａｇ１，１５０１ａｇ４と対応する位置に、貫通孔１５４０ｃ１ａ，１５４０ｃ２ａがそれぞれ形成されている。

【１９７３】

周辺制御基板１５１０、周辺データＲＯＭ基板１５２０、及び液晶出力基板１５３０等の各種基板が金属製の基板表面（実装面）側シールド板１５４０と共にそれぞれカバー平板１５０１ａの裏面側の所定位置に取り付けられる状態においては、各種基板の表面（カバー平板１５０１ａの裏面側と対向する面）とカバー平板１５０１ａの裏面との間に所定高さの距離寸法（本第４実施形態では、１４．８ｍｍ）を有する空間が形成される状態となり、この空間内に金属製の基板表面（実装面）側シールド板１５４０が配置されることで２つの空間が形成される状態となる。

【１９７４】

この２つの空間は、各種基板の表面（カバー平板１５０１ａの裏面側と対向する面）と後述する金属製のシールド板１５４０のシールド平板１５４０ａの裏面との間に第１の所定高さの距離寸法（本第４実施形態では、１２ｍｍ）を有する第１の空間と、後述する金属製のシールド板１５４０のシールド平板１５４０ａの表面とカバー平板１５０１ａの裏面との間に第２の所定高さの距離寸法（本第４実施形態では、１．６ｍｍ）を有する第２の空間と、から構成されている。

【１９７５】

第１の空間には、周辺制御基板１５１０に備える各種電子部品等（周辺制御ＩＣ１５１０

ａ、制御ＲＯＭ１５１０ｂ、ＳＤＲＡＭ１５１０ｃ、図示しないリアルタイムクロックＩＣ、バックアップ電源１５１０ｅ、図示しない電源作成回路、図示しない抵抗、図示しないコンデンサ、ＬＥＤＭＬ１～ＬＥＤＭＬ４、特殊コネクタＳＣＮ１，ＳＣＮ２等）、周辺データＲＯＭ基板１５２０に備える各種電子部品等（周辺データＲＯＭ１５２０ａ、図示しない抵抗、図示しないコンデンサ、特殊コネクタＳＣＮ３等）、及び液晶出力基板１５３０に備える各種電子部品等（図示しない抵抗、図示しないコンデンサ、特殊コネクタＳＣＮ４等）が収容されているのに対して、第２の空間には、各種電子部品等が全く収容されていない。これは、ノイズ（電磁波ノイズ）の影響を受け易い各種電子部品等を第１の空間１５０５ａ内に収容することによりノイズ（電磁波ノイズ）の対策を講ずることができると共に、第２の空間１５０５ｂ内に熱を発する各種電子部品等を収容しないことで第１の空間内における各種電子部品等から発する熱を、金属製の基板表面（実装面）側シールド板１５４０を介して、第２の空間１５０５ｂへ効率良く伝えるためである。つまり、金属製の基板表面（実装面）側シールド板１５４０は、ノイズ（電磁波ノイズ）の低減（抑制）する機能に加えて、放熱板としての機能も有している。

【１９７６】

金属製の基板表面（実装面）側シールド板１５４０のシールド平板１５４０ａには、カバー体１５０１のカバー平板１５０１ａに形成される複数の円形状を有する通風孔１５０１ａｚと対応する位置に、それぞれ同一形状の通風孔１５４０ａｚが形成されている。つまり、これらの通風孔１５４０ａｚは、通風孔１５０１ａｚと同様に、直径が３ｍｍ、左右方向のピッチ幅が６．５ｍｍ、上下方向のピッチ幅が６．０ｍｍ～６．５ｍｍを有して形成されている。カバー体１５０１のＦＡＮ取付凹部１５０１ａａに取り付けられる空冷ファンＦＡＮの羽部が回転すると、この回転により羽部を介して、カバー体１５０１の内側空間の空気を周辺制御ユニット１５００の外部へ向かってはき出すことにより、周辺制御ユニット１５００の外部から空気を、カバー体１５０１のカバー平板１５０１ａに形成される通風孔１５０１ａｚ、そしてシールド板１５４０のシールド平板１５４０ａに形成される通風孔１５４０ａｚを介して、取り込むことでカバー体１５０１の内側空間のうち第１の空間１５０５ａ（特に、周辺制御ＩＣ１５１０ａ）を空冷することができると共に、金属製のシールド板１５４０を空冷することができる。

【１９７７】

また、金属製の基板表面（実装面）側シールド板１５４０のシールド平板１５４０ａには、カバー体１５０１のカバー平板の上辺、左辺、下辺、及び右辺にそれぞれ設けられるカバー側壁１５０１ｂ～１５０１ｅから侵入するノイズ（電磁波ノイズ）対策として、シールド平板１５４０ａの各辺を後方へ（周辺制御基板１５１０、周辺データＲＯＭ基板１５２０、及び液晶出力基板１５３０等の各種基板の表面（実装面）側へ向かって）屈曲させて側壁１５４０ａｅがそれぞれ形成されている。これらの側壁１５４０ａｅは、通風孔１５４０ａｚが全く形成されていない。また、これらの側壁１５４０ａｅは、周辺制御ユニット１５００が組み立てられた状態において、その端面が周辺制御基板１５１０、周辺データＲＯＭ基板１５２０、及び液晶出力基板１５３０等の各種基板の表面（実装面）から所定距離寸法（例えば、３．９ｍｍ）を有して離間しているため接触せず、各種基板に実装されている各種の電子部品と接触しないようになっている。

【１９７８】

また、金属製の基板表面（実装面）側シールド板１５４０のシールド平板１５４０ａには、カバー体１５０２のカバー平板１５０１ａの裏面側から突出して形成される円筒形状を有する飛び出し防止部１５０１ａｗを通す円形状を有する開口部１５４０ａｗが形成されている。

【１９７９】

［第４実施形態に係る周辺制御基板ボックスの金属製の基板裏面（ハンダ面）側シールド板］

周辺制御基板１５１０、周辺データＲＯＭ基板１５２０、及び液晶出力基板１５３０等の各種基板へ侵入するノイズ（電磁波ノイズ）を低減（抑制）することができる各種基板の

裏面（ハンダ面）側に配置される金属製の基板裏面（ハンダ面）側シールド板１５５５は、その正面から見て、横長の長方形状のシールド平板１５５５ａ（板厚：１．２ｍｍ）の左上側、左下側、右上側、及び右下側において所定距離寸法（本第４実施形態では、シールド平板１５５５ａの裏面から２．３ｍｍ）だけ後方へ屈曲したＬ字状取付片１５５５ｂ１～１５５５ｂ４がそれぞれ形成されている。これらのＬ字状取付片１５５５ｂ１～１５５５ｂ４は、それぞれの表面が同一平面に配置されるように屈曲して形成されている。

【１９８０】

シールド平板１５５５ａには、ベース体１５０２に形成される断線防止リブ部１５０２ａａ１～１５０２ａａ３とそれぞれ干渉しないように切り欠き部１５５５ａａ１～１５５５ａａａ３がそれぞれ形成されている。また、シールド平板１５５５ａには、ベース体１５０２のベース平板１５０２ａの表面側に形成される取付ボス１５０２ａｆ１～１５０２ａｆ６のうち、周辺データＲＯＭ基板１５２０の裏面（ハンダ面）側と当接する取付ボス１５０２ａｆ４と、液晶出力基板１５３０の裏面（ハンダ面）側と当接する取付ボス１５０２ａｆ５と、にそれぞれ干渉しないように切り欠き部１５５５ａａ５が形成されている。また、シールド平板１５５５ａの表面側には、シールド平板１５５５ａの形状と対応するように、周辺制御基板１５１０、周辺データＲＯＭ基板１５２０、及び液晶出力基板１５３０等の各種基板におけるグランド（ＧＮＤ）以外の電気的な接続による短絡を防止する図示しない透明な絶縁シートが取り付けられている（接着されている）。また、シールド平板１５５５ａには、金属製の基板表面（実装面）側シールド板１５４０のシールド平板１５４０ａに形成される側壁１５４０ａｅ、及び通風孔１５４０ａｚが全く形成されていない。

【１９８１】

なお、シールド平板１５５５ａの表面側における切り欠き部１５５５ａａ５の下側領域には、金属製の基板表面（実装面）側シールド板１５４０に形成されるＬ字状回路接続片１５４０ｄの裏面に取り付けられている（接着されている）導電性弾性部材１５４５が押し当てられて接触される領域となっている。

【１９８２】

周辺制御基板１５１０、周辺データＲＯＭ基板１５２０、及び液晶出力基板１５３０等の各種基板の裏面（ハンダ面）側を覆うに金属製の基板裏面（ハンダ面）側シールド板１５５５が取り付けられる状態においては、周辺制御基板１５１０、周辺データＲＯＭ基板１５２０、及び液晶出力基板１５３０等の各種基板の裏面側（ハンダ面）の近傍に金属製の基板裏面（ハンダ面）側シールド板１５５５が配置されることにより、各種電子部品等から発する熱を各種基板が吸収し、この吸収した熱を各種基板から金属製の基板裏面（ハンダ面）側シールド板１５５５から奪うことで効率良く各種基板を冷却することができる。つまり金属製の基板裏面（ハンダ面）側シールド板１５５５は、ノイズ（電磁波ノイズ）の低減（抑制）する機能に加えて、放熱板としての機能も有している。

【１９８３】

なお、周辺制御ユニット１５００が組み立てられると、金属製の基板裏面（ハンダ面）側シールド板１５５５の裏面側がベース体１５０２のベース平板１５０２ａの表面と当接した状態となっている。

【１９８４】

［第４実施形態に係る周辺制御基板ボックスの導電性弾性部材］

金属製の基板表面（実装面）側シールド板１５４０のＬ字状回路接続片１５４０ｄの裏面に取り付けられる（接着される）導電性弾性部材１５４５は、クッション性（弾性）を有する導電部材であり、導電性被覆部１５４５ａと、導電性被覆部１５４５ａにより被覆される芯材としての矩形形状を有する発泡体１５４５ｂと、導電性被覆部１５４５ａに貼られる導電性粘着テープ１５４５ｃと、から構成されている。導電性被覆部１５４５ａとしては、例えば、ポリエステル織布に銅及びニッケルの金属被膜が形成されているもの、ポリイミドフィルムに銅及びニッケルの導電層が形成されるもの等を挙げることができる。発泡体１５４５ｂとしては、例えば、耐熱性を有するポリウレタンフォームを挙げること

ができる。導電性粘着テープ１５４５ｃとしては、例えば、アクリル系粘着剤が使用された導電性両面接着テープを挙がることができる。導電性粘着テープ１５４５ｃの表面は、使用されるまでピール紙により保護されており、導電性被覆部１５４５ａを他の部材へ取り付ける（接着する）ときにピール紙を剥がす。

【１９８５】

なお、導電性弾性部材１５４５の断面形状（輪切りにした形状）は、その幅が約５ｍｍ、その高さが約３ｍｍである長方形状を有し、導電性粘着テープ１５４５ｃは、その幅が約２ｍｍ、その高さが約０．０３５ｍｍである長方形状を有している。

【１９８６】

［第４実施形態に係る周辺制御基板ボックスの組み立て方法］

周辺制御ユニット１５００の組み立て方法について説明する。まず、周辺データＲＯＭ基板１５２０に備える特殊コネクタＳＣＮ３のソケットを、周辺制御基板１５１０に備える特殊コネクタＳＣＮ１のプラグに挿入して押し込む。続いて、液晶出力基板１５３０に備える特殊コネクタＳＣＮ４のソケットを、周辺制御基板１５１０に備える特殊コネクタＳＣＮ２のプラグに挿入して押し込む。

【１９８７】

続いて、周辺制御基板１５１０、周辺データＲＯＭ基板１５２０及び液晶出力基板１５３０をカバー平板１５０１ａの裏面側に取り付けるために、金属製の基板表面（実装面）側シールド板１５４０のＬ字状取付片１５４０ｃ１に形成される貫通孔１５４０ｃ１ａを、カバー平板１５０１ａの裏面側に形成される取付ボス孔１５０１ａｇ１に合わせるように配置し、金属製の基板表面（実装面）側シールド板１５４０のＬ字状取付片１５４０ｃ２に形成される貫通孔１５４０ｃ２ａを、カバー平板１５０１ａの裏面側に形成される取付ボス孔１５０１ａｇ４に合わせるように配置し、金属製の基板表面（実装面）側シールド板１５４０のＬ字状取付片１５４０ｂ１に形成される貫通孔１５４０ｂ１ａを、カバー平板１５０１ａの裏面側に形成される取付ボス孔１５０１ａｈ２に合わせるように配置し、金属製の基板表面（実装面）側シールド板１５４０のＬ字状取付片１５４０ｂ２に形成される貫通孔１５４０ｂ２ａを、カバー平板１５０１ａの裏面側に形成される取付ボス孔１５０１ａｍ１に合わせるように配置する。

【１９８８】

続いて、周辺制御基板１５１０に形成される貫通孔１５１０ｒ１～１５１０ｒ４を、カバー平板１５０１ａの裏面側に形成される取付ボス孔１５０１ａｇ１～１５０１ａｇ４に合わせるように配置し、周辺データＲＯＭ基板１５２０に形成される貫通孔１５２０ｒ１，１５２０ｒ２，１５２０ｒ３，１５２０ｒ４を、カバー平板１５０１ａの裏面側に形成される取付ボス孔１５０１ａｈ３，１５０１ａｈ１，１５０１ａｈ４，１５０１ａｈ２に合わせるように配置し、液晶出力基板１５３０に形成される貫通孔１５３０ｒ１，１５３０ｒ２，１５３０ｒ３，１５３０ｒ４を、カバー平板１５０１ａの裏面側に形成される取付ボス孔１５０１ａｍ１，１５０１ａｍ３，１５０１ａｍ２，１５０１ａｍ４に合わせるように配置する。

【１９８９】

続いて、図２３３に示すように、第１固定方法により、周辺制御基板１５１０、周辺データＲＯＭ基板１５２０及び液晶出力基板１５３０等の各種基板の裏面（ハンダ面）側から直接図示しない金属製のナベねじを挿入してカバー平板１５０１ａの裏面側に形成される各種取付ボス孔にねじ込むことで固定する。この第１固定方法により、固定される貫通孔に対してネジ固定指示マークとネジ固定指示マークの近傍に通し番号とが各種基板の裏面（ハンダ面）にシルク印刷として印刷されている。この通し番号は、製造元の作業者が図示しない金属製のナベねじを挿入してねじ込んで固定する順番（作業手順）を指示している。なお、ネジ固定指示マークとネジ固定指示マークの近傍に通し番号とがシルク印刷として印刷される色は、周辺制御基板１５１０、周辺データＲＯＭ基板１５２０及び液晶出力基板１５３０等の各種基板の表面（実装面）に実装される各種電子部品を配置する位置（向きの指定も含む。）を示す領域やその部品番号がシルク印刷として印刷される色と同

一色（ここでは、白色）となっている。
【１９９０】
具体的には、周辺データＲＯＭ基板１５２０の貫通孔１５２０ｒ１には、周辺データＲＯＭ基板１５２０の裏面（ハンダ面）側のランド１５２０ｒｂ１の周囲を白色の太線の実線で囲むネジ固定指示マークＤＴＨ１がシルク印刷として印刷され、このネジ固定指示マークＤＴＨ１の近傍に白色の通し番号１が矩形状の白線で囲まれてシルク印刷として印刷されている。また、周辺データＲＯＭ基板１５２０の貫通孔１５２０ｒ４には、周辺データＲＯＭ基板１５２０の裏面（ハンダ面）側のランド１５２０ｒｂ４の周囲を白色の太線の実線で囲むネジ固定指示マークＤＴＨ２がシルク印刷として印刷され、このネジ固定指示マークＤＴＨ２の近傍に白色の通し番号２が矩形状の白線で囲まれてシルク印刷として印刷されている。
【１９９１】
また、液晶出力基板１５３０の貫通孔１５３０ｒ１には、液晶出力基板１５３０の裏面（ハンダ面）側のランド１５３０ｒｂ１の周囲を白色の太線の実線で囲むネジ固定指示マークＤＴＨ３がシルク印刷として印刷され、このネジ固定指示マークＤＴＨ３の近傍に白色の通し番号３が矩形状の白線で囲まれてシルク印刷として印刷されている。また、液晶出力基板１５３０の貫通孔１５３０ｒ４には、液晶出力基板１５３０の裏面（ハンダ面）側のランド１５３０ｒｂ４の周囲を白色の太線の実線で囲むネジ固定指示マークＤＴＨ４がシルク印刷として印刷され、このネジ固定指示マークＤＴＨ４の近傍に白色の通し番号４が矩形状の白線で囲まれてシルク印刷として印刷されている。
【１９９２】
また、周辺制御基板１５１０の貫通孔１５１０ｒ２には、周辺制御基板１５１０の裏面（ハンダ面）側のランド１５１０ｒｂ２の周囲を白色の太線の実線で囲むネジ固定指示マークＤＴＨ５がシルク印刷として印刷され、このネジ固定指示マークＤＴＨ５の近傍に白色の通し番号５が矩形状の白線で囲まれてシルク印刷として印刷されている。また、周辺制御基板１５１０の貫通孔１５１０ｒ３には、周辺制御基板１５１０の裏面（ハンダ面）側のランド１５１０ｒｂ３の周囲を白色の太線の実線で囲むネジ固定指示マークＤＴＨ６がシルク印刷として印刷され、このネジ固定指示マークＤＴＨ６の近傍に白色の通し番号６が矩形状の白線で囲まれてシルク印刷として印刷されている。
【１９９３】
製造元の作業者が通し番号１～通し番号４までを順番に図示しない金属製のナベねじを挿入してねじ込んで固定する作業を行うことにより、周辺制御基板１５１０に形成される貫通孔１５１０ｒ１～１５１０ｒ４は、カバー平板１５０１ａの裏面側に形成される取付ボス孔１５０１ａｇ１～１５０１ａｇ４から少しズレている場合がある。このような場合であっても、周辺データＲＯＭ基板１５２０、及び液晶出力基板１５３０をカバー平板１５０１ａの裏面側に固定することにより上下左右方向を拘束して、このような拘束による寸法誤差を、周辺制御基板１５１０をカバー平板１５０１ａの裏面側に固定する際に、周辺制御基板１５１０に形成される貫通孔１５１０ｒ１～１５１０ｒ４と、カバー平板１５０１ａの裏面側に形成される取付ボス孔１５０１ａｇ１～１５０１ａｇ４と、にそれぞれ持たせた寸法的な余裕により吸収することができるようになっているため、周辺制御基板１５１０の位置を微調整して周辺制御基板１５１０に形成される貫通孔１５１０ｒ１～１５１０ｒ４をカバー平板１５０１ａの裏面側に形成される取付ボス孔１５０１ａｇ１～１５０１ａｇ４に合わせることができる。
【１９９４】
製造元の作業者が通し番号１、そして通し番号２までを順番に図示しない金属製のナベねじを挿入してねじ込んで固定する作業を行うことにより、周辺データＲＯＭ基板１５２０の裏面（ハンダ面）側に形成されるランド１５２０ｒｂ１，１５２０ｒｂ４と、金属製のナベねじの座面と、がそれぞれ当接した状態となる。また、金属製の基板表面（実装面）側シールド板１５４０のＬ字状取付片１５４０ｂ１は、周辺データＲＯＭ基板１５２０の表面（実装面）側に形成されるランド１５２０ｒｆ４と電気的に接続される状態となるこ

とで金属製の基板表面（実装面）側シールド板１５４０が周辺データＲＯＭ基板１５２０のグランド（ＧＮＤ）へ接続されることとなる。

【１９９５】

製造元の作業者が通し番号３、そして通し番号４までを順番に図示しない金属製のナベねじを挿入してねじ込んで固定する作業を行うことにより、液晶出力基板１５３０の裏面（ハンダ面）側に形成されるランド１５３０ｒｂ１，１５３０ｒｂ４と、金属製のナベねじの座面と、がそれぞれ当接した状態となる。また、金属製の基板表面（実装面）側シールド板１５４０のＬ字状取付片１５４０ｂ２は、液晶出力基板１５３０に形成されるランド１５３０ｒｆ１と電気的に接続される状態となることで金属製のシールド板１５４０が液晶出力基板１５３０のグランド（ＧＮＤ）へ接続されることとなる。

【１９９６】

製造元の作業者が通し番号５、そして通し番号６までを順番に図示しない金属製のナベねじを挿入してねじ込んで固定する作業を行うことにより、周辺制御基板１５１０の裏面（ハンダ面）側に形成されるランド１５１０ｒｂ２，１５１０ｒｂ３と、金属製のナベねじの座面と、がそれぞれ当接した状態となる。

【１９９７】

なお、製造元の作業者が通し番号１～通し番号６までを順番に図示しない金属製のナベねじを挿入してねじ込んで固定する作業を行う際に、製造元の作業者が通し番号１～通し番号６までを順番に図示しない金属製のナベねじを挿入してねじ込んで固定する作業を行わずランダムに図示しない金属製のナベねじを挿入してねじ込んで固定する作業を行うと、通し番号１～通し番号６のうちいずれかの通し番号が指示するものに図示しない金属製のナベねじを挿入してねじ込んで固定し忘れるミスが発生する場合がある。このようなミスが発生すると、図示しない金属製のナベねじによる固定が不完全なまま周辺制御基板ボックス１５０５（周辺制御ユニット１５００）が出荷されることとなる。

【１９９８】

また、製造元の作業者が通し番号１～通し番号６が指示している周辺データＲＯＭ基板１５２０の貫通孔１５２０ｒ１，１５２０ｒ４、液晶出力基板１５３０の貫通孔１５３０ｒ１，１５３０ｒ４、及び周辺制御基板１５１０の貫通孔１５１０ｒ２，１５１０ｒ３以外の貫通孔、つまり周辺データＲＯＭ基板１５２０の貫通孔１５２０ｒ２，１５２０ｒ３、液晶出力基板１５３０の貫通孔１５３０ｒ２，１５３０ｒ３、及び周辺制御基板１５１０の貫通孔１５１０ｒ１，１５１０ｒ４のうち、いずれか１つ又は複数の貫通孔に直接図示しない金属製のナベねじを誤って挿入してカバー平板１５０１ａの裏面側に形成される取付ボス孔にねじ込むことで固定した後にベース体１５０２をカバー体１５０１に被せたとしても、ベース平板１５０２ａの表面側に形成される取付ボス１５０２ａｆ１～１５０２ａｆ６のうち、誤って挿入された金属製のナベねじと対応する取付ボスの取付面（ボス面）と誤って挿入された金属製のナベねじの頭部と必ず干渉するため、ベース体１５０２とカバー体１５０１とのすき間が形成されてカバー体１５０１をベース体１５０２に完全に塞ぐことができないようになっている。

【１９９９】

このように、周辺データＲＯＭ基板１５２０、液晶出力基板１５３０、及び周辺制御基板１５１０のうち、周辺制御基板１５１０を最後にカバー平板１５０１ａの裏面側に固定するようになっている。

【２０００】

続いて、周辺制御基板１５１０、周辺データＲＯＭ基板１５２０、及び液晶出力基板１５３０等の各種基板の裏面（ハンダ面）側を覆うように、金属製の基板裏面（ハンダ面）側シールド板１５５５のＬ字状取付片１５５５ｂ１に形成される貫通孔１５５５ｂ１ａ，１５５５ｂ２ａを周辺制御基板１５１０の貫通孔１５１０ｒ１，１５１０ｒ４に合わせるように配置し、金属製の基板裏面（ハンダ面）側シールド板１５５５のＬ字状取付片１５５５ｂ３に形成される貫通孔１５５５ｂ３ａを周辺データＲＯＭ基板１５２０の貫通孔１５２０ｒ２に合わせるように配置し、金属製の基板裏面（ハンダ面）側シールド板１５５５

のＬ字状取付片１５５５ｂ４に形成される貫通孔１５５５ｂ４ａを液晶出力基板１５３０の貫通孔１５３０ｒ３に合わせるように配置する。このように金属製の基板裏面（ハンダ面）側シールド板１５５５が周辺制御基板１５１０、周辺データＲＯＭ基板１５２０、及び液晶出力基板１５３０等の各種基板の裏面（ハンダ面）側を覆うように配置されると、金属製の基板裏面（ハンダ面）側シールド板１５５５のシールド平板１５５５ａには通気孔等の孔が全く形成されていないため、上述した、ネジ固定指示マークＤＴＨ１～ＤＴＨ６、及び通し番号１～通し番号６も金属製の基板裏面（ハンダ面）側シールド板１５５５により覆われて視認困難となる。換言すると、組み立てられた透明な非導電性の樹脂製として成型される周辺制御基板ボックス１５０５をさまざまな角度から周辺制御基板１５１０、周辺データＲＯＭ基板１５２０、及び液晶出力基板１５３０等の各種基板を覗き込んだとしても、周辺制御基板１５１０、周辺データＲＯＭ基板１５２０、及び液晶出力基板１５３０等の各種基板が上述した第１固定方法により固定されているという点が金属製の基板裏面（ハンダ面）側シールド板１５５５によりわからないようになっており、周辺制御基板ボックス１５０５のセキュリティーを向上することができる。

【２００１】

続いて、導電性弾性部材１５４５の導電性粘着テープ１５４５ｃのピール紙を剥がして、金属製の基板表面（実装面）側シールド板１５４０のＬ字状回路接続片１５４０ｄの裏面に導電性弾性部材１５４５の粘着テープ１５４５ｃを取り付ける（接着する）。

【２００２】

続いて、カバー体１５０１に形成される板状の案内部１５０１ｃａ，１５０１ｃｂを、ベース体１５０２の係合部１５０２ｃａに形成される案内受部１５０２ｃａａ，１５０２ｃａｂに挿入すると共に、カバー体１５０１に形成されるヒンジ掛け部１５０１ｃｃ，１５０１ｃｄのＬ字状の鉤部１５０１ｃｃａ，１５０１ｃｄａを、ベース体１５０２の係合部１５０２ｃａに形成されるヒンジ受け部１５０２ｃａｃ，１５０２ｃａｄのＵ字溝形状の袋部１５０２ｃａｅ，１５０２ｃａｆに挿入する。

【２００３】

続いて、ヒンジ受け部１５０２ｃａｃ，１５０２ｃａｄのＵ字溝形状の袋部１５０２ｃａｅ，１５０２ｃａｆに、カバー体１５０１に形成されるヒンジ掛け部１５０１ｃｃ，１５０１ｃｄのＬ字状の鉤部１５０１ｃｃａ，１５０１ｃｄａが当接した状態でベース体１５０２によりカバー体１５０１の開口側を覆うように回り込ませ、そのままベース体１５０２をカバー体１５０１に被せた状態において、第２固定方法により、ベース平板１５０２ａの表面側に形成される取付ボス１５０２ａｆ１～１５０２ａｆ６の貫通孔１５０２ａｇ１～１５０２ａｇ６に図示しない金属製のナベねじを挿入してねじ込んで固定する。

【２００４】

具体的には、ベース平板１５０２ａの表面側に形成される取付ボス１５０２ａｆ１の貫通孔１５０２ａｇ１に図示しない金属製のナベねじを挿入して金属製の基板裏面（ハンダ面）側シールド板１５５５のＬ字状取付片１５５５ｂ１に形成される貫通孔１５５５ｂ１ａ、周辺制御基板１５１０の貫通孔１５１０ｒ１、金属製の基板表面（実装面）側シールド板１５４０のＬ字状取付片１５４０ｃ１に形成される貫通孔１５４０ｃ１ａをそれぞれ通ってカバー平板１５０１ａの裏面側に形成される取付ボス孔１５０１ａｇ１にねじ込むことで固定する。また、ベース平板１５０２ａの表面側に形成される取付ボス１５０２ａｆ２の貫通孔１５０２ａｇ２に図示しない金属製のナベねじを挿入して金属製の基板裏面（ハンダ面）側シールド板１５５５のＬ字状取付片１５５５ｂ２に形成される貫通孔１５５５ｂ２ａ、周辺制御基板１５１０の貫通孔１５１０ｒ４、金属製の基板表面（実装面）側シールド板１５４０のＬ字状取付片１５４０ｃ２に形成される貫通孔１５４０ｃ２ａをそれぞれ通ってカバー平板１５０１ａの裏面側に形成される取付ボス孔１５０１ａｇ１にねじ込むことで固定する。これにより、周辺制御基板１５１０が金属製の基板表面（実装面）側シールド板１５４０のＬ字状取付片１５４０ｃ１，１５４０ｃ２の裏面と金属製の基板裏面（ハンダ面）側シールド板１５５５のＬ字状取付片１５５５ｂ１，１５５５ｂ２の表面とにより挟持される状態となる。この状態において、周辺制御基板１５１０の表面（

実装面）側に形成されるランド１５１０ｒｆ１，１５１０ｒｆ４と、金属製の基板表面（実装面）側シールド板１５４０のＬ字状取付片１５４０ｃ１，１５４０ｃ２の裏面と、がそれぞれ当接した状態となると共に、周辺制御基板１５１０の裏面（ハンダ面）側に形成されるランド１５１０ｒｂ１，１５１０ｒｂ４と、金属製の基板裏面（ハンダ面）側シールド板１５５５のＬ字状取付片１５５５ｂ１，１５５５ｂ２の表面と、がそれぞれ当接した状態となる。つまり、金属製の基板表面（実装面）側シールド板１５４０のＬ字状取付片１５４０ｃ１，１５４０ｃ２は、周辺制御基板１５１０の表面（実装面）側に形成されるランド１５１０ｒｆ１，１５１０ｒｆ４とそれぞれ電気的に接続される状態となることで金属製の基板表面（実装面）側シールド板１５４０が周辺制御基板１５１０のグランド（ＧＮＤ）へ接続されることとなると共に、金属製の基板裏面（ハンダ面）側シールド板１５５５のＬ字状取付片１５５５ｂ１，１５５５ｂ２は、周辺制御基板１５１０の裏面（ハンダ面）側に形成されるランド１５１０ｒｂ１，１５１０ｒｂ４とそれぞれ電気的に接続される状態となることで金属製の基板裏面（ハンダ面）側シールド板１５５５が周辺制御基板１５１０のグランド（ＧＮＤ）へ接続されることとなる。

【２００５】

また、ベース平板１５０２ａの表面側に形成される取付ボス１５０２ａｆ３の貫通孔１５０２ａｇ３に図示しない金属製のナベねじを挿入して金属製の基板裏面（ハンダ面）側シールド板１５５５のＬ字状取付片１５５５ｂ３に形成される貫通孔１５５５ｂ３ａ、周辺データＲＯＭ基板１５２０の貫通孔１５２０ｒ２、をそれぞれ通ってカバー平板１５０１ａの裏面側に形成される取付ボス孔１５０１ａｈ１にねじ込むことで固定する。これにより、周辺データＲＯＭ基板１５２０の裏面（ハンダ面）側に形成されるランド１５２０ｒｂ２と、金属製の基板裏面（ハンダ面）側シールド板１５５５のＬ字状取付片１５５５ｂ３の表面と、が当接した状態となる。つまり、金属製の基板裏面（ハンダ面）側シールド板１５５５のＬ字状取付片１５５５ｂ３は、周辺データＲＯＭ基板１５２０の裏面（ハンダ面）側に形成されるランド１５２０ｒｂ２と電気的に接続される状態となることで金属製の基板裏面（ハンダ面）側シールド板１５５５が周辺データＲＯＭ基板１５２０のグランド（ＧＮＤ）へ接続されることとなる。

【２００６】

また、ベース平板１５０２ａの表面側に形成される取付ボス１５０２ａｆ４の貫通孔１５０２ａｇ４に図示しない金属製のナベねじを挿入して周辺データＲＯＭ基板１５２０の貫通孔１５２０ｒ３を通ってカバー平板１５０１ａの裏面側に形成される取付ボス孔１５０１ａｈ４にねじ込むことで固定する。また、ベース平板１５０２ａの表面側に形成される取付ボス１５０２ａｆ５の貫通孔１５０２ａｇ５に図示しない金属製のナベねじを挿入して液晶出力基板１５３０の貫通孔１５３０ｒ２を通ってカバー平板１５０１ａの裏面側に形成される取付ボス孔１５０１ａｍ３にねじ込むことで固定する。

【２００７】

また、ベース平板１５０２ａの表面側に形成される取付ボス１５０２ａｆ６の貫通孔１５０２ａｇ６に図示しない金属製のナベねじを挿入して金属製の基板裏面（ハンダ面）側シールド板１５５５のＬ字状取付片１５５５ｂ４に形成される貫通孔１５５５ｂ４ａ、液晶出力基板１５３０の貫通孔１５３０ｒ３、をそれぞれ通ってカバー平板１５０１ａの裏面側に形成される取付ボス孔１５０１ａｍ２にねじ込むことで固定する。これにより、液晶出力基板１５３０の裏面（ハンダ面）側に形成されるランド１５３０ｒｂ３と、金属製の基板裏面（ハンダ面）側シールド板１５５５のＬ字状取付片１５５５ｂ４の表面と、が当接した状態となる。つまり、金属製の基板裏面（ハンダ面）側シールド板１５５５のＬ字状取付片１５５５ｂ４は、液晶出力基板１５３０の裏面（ハンダ面）側に形成されるランド１５３０ｒｂ３と電気的に接続される状態となることで金属製の基板裏面（ハンダ面）側シールド板１５５５が液晶出力基板１５３０のグランド（ＧＮＤ）へ接続されることとなる。

【２００８】

この第２固定方法により、ベース平板１５０２ａの表面側に形成される取付ボス１５０２

ａｆ１～１５０２ａｆ６の貫通孔１５０２ａｇ１～１５０２ａｇ６に図示しない金属製のナベねじを挿入してねじ込んで固定すると、金属製の基板表面（実装面）側シールド板１５４０に取付けられる（接着される）導電性弾性部材１５４５が金属製の基板裏面（ハンダ面）側シールド板１５５５の表面側に押し当てられて接触した状態となる。これにより、金属製の基板表面（実装面）側シールド板１５４０と金属製の基板裏面（ハンダ面）側シールド板１５５５とが電気的に接続された状態となる。このとき、導電性弾性部材１５４５が押し込まれて高さ方向につぶれる（本第４実施形態では、導電性弾性部材１５４５の高さが１ｍｍ～１．５ｍｍつぶれる）ことにより、寸法公差や組み付け誤差による寸法ズレを導電性弾性部材１５４５により吸収することができるようになっている。これにより、周辺制御基板１５１０、周辺データＲＯＭ基板１５２０、及び液晶出力基板１５３０等の各種基板を挟持する、金属製の基板表面（実装面）側シールド板１５４０と金属製の基板裏面（ハンダ面）側シールド板１５５５とが電気的に確実に接続される状態とし、金属製の基板表面（実装面）側シールド板１５４０と金属製の基板裏面（ハンダ面）側シールド板１５５５とにより挟持される周辺制御基板１５１０、周辺データＲＯＭ基板１５２０、及び液晶出力基板１５３０等の各種基板等のグランド（ＧＮＤ）ラインと電気的に接続されて、同一のグランド（ＧＮＤ）とすることができるため、ノイズ（電磁波ノイズ）に対して強い環境を周辺制御ユニット１５００（周辺制御基板１５１０、周辺データＲＯＭ基板１５２０、及び液晶出力基板１５３０等の各種基板）と周辺制御ユニット１５００（周辺制御基板１５１０、周辺データＲＯＭ基板１５２０、及び液晶出力基板１５３０等の各種基板）の周辺とに対して構築することができる。したがって、電磁波ノイズによる影響を低減することができる。

【２００９】

続いて、カバー体１５０１に形成されるカバー側封印部１５０１ｅａに図示しない金属製のアンカーリベットが挿入された金属製ワンウェイネジを挿入してベース体１５０２に形成されるベース側封印部１５０２ｅａへ向かってねじ込む。金属製ワンウェイネジがねじ込まれることにより金属製アンカーリベットの先端面がベース側封印部１５０２ｅａにおいて外部へ向かって広がることによって、カバー体１５０１に形成されるカバー側封印部１５０１ｅａと、ベース体１５０２に形成されるベース側封印部１５０２ｅａと、が封印される状態となる。

【２０１０】

このような封印された状態においては、ベース体１５０２のベース側壁１５０２ｂ～１５０２ｅの内側にカバー体１５０１のカバー側壁１５０１ｂ～１５０１ｅが嵌まると共に内接（面接触）する状態となる。

【２０１１】

なお、このような封印された状態を解除する場合には、カバー体１５０１に形成されるカバー側封印部１５０１ｅａを工具により破壊しなければならい構造となっている。したがって、開閉の痕跡を見ることで、カバー体１５０１とベース体１５０２とから構成される周辺制御基板ボックス１５０５の不正な開閉を発見することができ、周辺制御基板ボックス１５０５への不正行為に対する抑止力が高められている。

【２０１２】

続いて、カバー体１５０１のカバー平板１５０１ａに形成されるＦＡＮ取付凹部１５０１ａａに空冷ファンＦＡＮを押し込み、空冷ファンＦＡＮからの複数の配線をカバー体１５０１のカバー平板１５０１ａに形成される配線引出凹部１５０１ａｂから引き出し、取付孔１５０１ａａｃ１，ａａｃ２にそれぞれカバー平板１５０１ａの正面から後方へ向かって、図示しない金属製の座付きナベねじ（ナベ頭と平ワッシャーとを一体とした形状を有するねじ）をねじ込む。

【２０１３】

続いて、液晶出力基板１５３０のコネクタＣＮ１０に対して、カバー体１５０１のカバー平板１５０１ａに形成される配線引出開口部１５０１ａｅを介して、演出表示装置１６００への複数の配線（ハーネス）を接続するためのコネクタを挿入して取り付けて、カバー

体１５０１のカバー平板１５０１ａに形成される取付凹部１５０１ａｆに配線カバー体１５０３を嵌め合わせる。配線カバー体１５０３に形成される貫通孔１５０３ｂ１，１５０３ｂ２に図示しない金属製のナベねじを挿入して取付孔１５０１ａｆｂ１，１５０１ａｆｂ２にそれぞれ配線カバー体１５０３の正面から後方へ向かってねじ込むことにより、配線カバー体１５０３を取付凹部１５０１ａｆに固定する。これにより、複数の配線は、配線カバー体１５０３によりカバーされて触れることができない。

【２０１４】

このように組み立てられる周辺制御ユニット１５００を、遊技盤５に備える遊技パネル１１００の後側であって演出表示装置１６００を収容する透明な合成樹脂製ボックスの裏面側に形成される取付部に取り付ける場合には、周辺制御ユニット１５００を正面から見て、周辺制御ユニット１５００の左辺側（周辺制御ユニット１５００のベース体１５０２に形成される係合部１５０２ｃａ側）を、透明な合成樹脂製ボックスの裏面側に形成される取付部を構成する装着溝に挿入し、周辺制御ユニット１５００のベース体１５０２に形成される貫通孔１５０２ｅｂ１，１５０２ｅｂ２に図示しない金属製のナベねじを挿入して透明な合成樹脂製ボックスの裏面側に形成される取付部を構成する取付孔へ向かってねじ込むことにより固定する。

【２０１５】

第４実施形態に係る周辺制御基板ボックスにおけるカバー体１５０１、ベース体１５０２、及び配線カバー体１５０３は、透明な非導電性の樹脂製として成型されて構成され、カバー体１５０１の内部空間内には、周辺制御基板１５１０、周辺データＲＯＭ基板１５２０、及び液晶出力基板１５３０等の各種基板が金属製の基板表面（実装面）側シールド板１５４０、及び金属製の基板裏面（ハンダ面）側シールド板１５５５により挟持されて取り付けられると、金属製の基板表面（実装面）側シールド板１５４０、及び金属製の基板裏面（ハンダ面）側シールド板１５５５が各種基板のグランド（ＧＮＤ）へ接続されるように構成されている。また、周辺制御基板１５１０、周辺データＲＯＭ基板１５２０、及び液晶出力基板１５３０のグランド（ＧＮＤ）ラインは、上述したように、本体枠４の基板ユニット６２０における電源基板６３０のグランド（ＧＮＤ）ラインと電気的に接続されている。このため、カバー体１５０１、ベース体１５０２、及び配線カバー体１５０３から侵入したノイズ（電磁波ノイズ）を、金属製の基板表面（実装面）側シールド板１５４０、及び金属製の基板裏面（ハンダ面）側シールド板１５５５を介して、基板グランド（各種基板のグランド（ＧＮＤ））へ導いて除去することができるようになっている。これにより、各種基板（電源基板６３０を含む。）に、このようなノイズ（電磁波ノイズ）を除去する専用のフィルタをそれぞれ備える必要がなく、各種基板（電源基板６３０を含む。）のコストダウンに寄与することができる。

【２０１６】

ここで、カバー体１５０１のカバー平板１５０１ａに形成される複数の円形状を有する通風孔１５０１ａｚの配置と、金属製の基板表面（実装面）側シールド板１５４０のシールド平板１５４０ａに形成される複数の円形状を有する通風孔１５４０ａｚの配置と、について説明する。これらの複数の円形状を有する通風孔１５０１ａｚ，１５４０ａｚは、上述したように、カバー体１５０１の内側空間を空冷することができると共に、不正の有無を確認することができる機能も有している。

【２０１７】

具体的には、周辺制御ユニット１５００を上述したように組み立てると、ＦＡＮ取付凹部１５０１ａａの右側に配置される複数の円形状を有する通風孔１５０１ａｚ，１５４０ａｚは、周辺制御基板１５１０に備える制御ＲＯＭ１５１０ｂの表面に印刷されている品番や型式（又は管理番号）と、制御ＲＯＭ１５１０ｂのＩＣピンの状態と、周辺制御基板１５１０にシルク印刷された内容（例えば、ＩＣの向き、部品番号、ピン番号等）と、を視認することができるように、つまり、制御ＲＯＭ１５１０ｂの表面と、ＩＣピンの状態と、周辺制御基板１５１０にシルク印刷された内容と、を多方向の角度から確認することができるように、制御ＲＯＭ１５１０ｂの形状より大きな領域となるようにそれぞれ分散し

て配置されている。これにより、制御ＲＯＭ１５１０ｂと周辺制御基板１５１０にシルク印刷された内容との対応関係に加えて、制御ＲＯＭ１５１０ｂの改変を、複数の円形状を有する通風孔１５０１ａｚ，１５４０ａｚを介して、確認することができる。また、制御ＲＯＭ１５１０ｂの近傍に配置されるＬＥＤＭＬ１は、基板ユニット６２０の電源基板６３０からの直流＋５Ｖが供給されている状態において点灯状態が維持されるようになっているため、本来、直流＋５Ｖが供給されている状態を確認（モニター）する機能を有しているものの、制御ＲＯＭ１５１０ｂを明るく照らすというスポットライトとしての機能もさらに有することによって、制御ＲＯＭ１５１０ｂの表面の視認性の向上と、ＩＣピンの状態の視認性の向上と、周辺制御基板１５１０にシルク印刷された内容の視認性の向上と、に寄与することができるようになっている。

【２０１８】

また、ＦＡＮ取付凹部１５０１ａａの左側に配置される複数の円形状を有する通風孔１５０１ａｚ，１５４０ａｚは、周辺制御基板１５１０と周辺データＲＯＭ基板１５２０との基板間コネクタの接続状態を確認することができるように、基板間コネクタの形状（周辺制御基板１５１０に備える特殊コネクタＳＣＮ１と周辺データＲＯＭ基板１５２０に特殊コネクタＳＣＮ３とにより構成される形状）より大きな領域であって、さらに、周辺データＲＯＭ基板１５２０に備える周辺データＲＯＭ１５２０ａの表面に印刷されている品番や型式（又は管理番号）と、周辺データＲＯＭ１５２０ａのＩＣピンの状態と、周辺制御基板１５１０と周辺データＲＯＭ基板１５２０とにそれぞれシルク印刷された内容（例えば、コネクタのピン数、ＩＣの向き、部品番号、ピン番号等）を視認することができるように、つまり、周辺データＲＯＭ１５２０ａの表面と、ＩＣピンの状態と、周辺制御基板１５１０と周辺データＲＯＭ基板１５２０とにそれぞれにシルク印刷された内容と、を多方向の角度からほぼ確認することができる大きな領域となるようにそれぞれ分散して配置されている。これにより、周辺制御基板１５１０に備える特殊コネクタＳＣＮ１と周辺制御基板１５１０にシルク印刷された内容との対応関係、周辺データＲＯＭ基板１５２０に備える特殊コネクタＳＣＮ３と周辺データＲＯＭ基板１５２０にシルク印刷された内容との対応関係に加えて、周辺データＲＯＭ基板１５２０に備える周辺データＲＯＭ１５２０ａの改変、周辺制御基板１５１０に備える特殊コネクタＳＣＮ１と周辺データＲＯＭ基板１５２０に備える特殊コネクタＳＣＮ３とによる基板間コネクタの改変を、複数の円形状を有する通風孔１５０１ａｚを介して、確認することができる。また、特殊コネクタＳＣＮ１の近傍に配置されるＬＥＤＭＬ３は、基板ユニット６２０の電源基板６３０からの直流＋３５Ｖが供給されている状態において点灯状態が維持されるようになっているため、本来、直流＋３５Ｖが供給されている状態を確認（モニター）する機能を有しているものの、周辺制御基板１５１０に備える特殊コネクタＳＣＮ１と周辺データＲＯＭ基板１５２０に特殊コネクタＳＣＮ３とによる基板間コネクタを明るく照らすというスポットライトとしての機能もさらに有することによって、周辺データＲＯＭ１５２０ａの表面の視認性の向上と、ＩＣピンの状態の視認性の向上と、周辺制御基板１５１０と周辺データＲＯＭ基板１５２０とにそれぞれにシルク印刷された内容の視認性の向上と、周辺制御基板１５１０に備える特殊コネクタＳＣＮ１と周辺データＲＯＭ基板１５２０に備える特殊コネクタＳＣＮ３とによる基板間コネクタの視認性の向上と、に寄与することができるようになっている。

【２０１９】

また、ＦＡＮ取付凹部１５０１ａａの左下側に配置される複数の円形状を有する通風孔１５０１ａｚ，１５４０ａｚは、周辺制御基板１５１０と液晶出力基板１５３０との基板間コネクタの接続状態を確認することができるように、基板間コネクタの形状（周辺制御基板１５１０に備える特殊コネクタＳＣＮ２と液晶出力基板１５３０に特殊コネクタＳＣＮ４とにより構成される形状）より大きな領域であって、さらに、周辺制御基板１５１０と液晶出力基板１５３０とにそれぞれシルク印刷された内容（例えば、コネクタのピン数、ＩＣの向き、部品番号、ピン番号等）を視認することができるように、それぞれ分散して配置されている。これにより、周辺制御基板１５１０に備える特殊コネクタＳＣＮ２と周

辺制御基板１５１０にシルク印刷された内容との対応関係、液晶出力基板１５３０に備える特殊コネクタＳＣＮ４と液晶出力基板１５３０にシルク印刷された内容との対応関係に加えて、周辺制御基板１５１０に備える特殊コネクタＳＣＮ２と液晶出力基板１５３０に備える特殊コネクタＳＣＮ４とによる基板間コネクタの改変を、複数の円形状を有する通風孔１５０１ａｚ，１５４０ａｚを介して、確認することができる。また、特殊コネクタＳＣＮ２の近傍に配置されるＬＥＤＭＬ４は、周辺制御ＩＣ１５１０ａが動作している状態において点灯状態が維持されるようになっているため、本来、周辺制御ＩＣ１５１０ａの動作を確認（モニター）する機能を有しているものの、周辺制御基板１５１０に備える特殊コネクタＳＣＮ２と液晶出力基板１５３０に特殊コネクタＳＣＮ４とによる基板間コネクタを明るく照らすというスポットライトとしての機能を有することによって、周辺制御基板１５１０と液晶出力基板１５３０とにそれぞれにシルク印刷された内容の視認性の向上と、周辺制御基板１５１０に備える特殊コネクタＳＣＮ２と液晶出力基板１５３０に備える特殊コネクタＳＣＮ４とによる基板間コネクタの視認性の向上と、に寄与することができるようになっている。

【２０２０】

また、ＦＡＮ取付凹部１５０１ａａの右下側に配置される複数の円形状を有する通風孔１５０１ａｚ，１５４０ａｚは、周辺制御基板１５１０に備えるＳＤＲＡＭ１５１０ｃ１，１５１０ｃ２の表面に印刷されている品番や型式と、ＳＤＲＡＭ１５１０ｃ１，１５１０ｃ２のＩＣピンの状態と、周辺制御基板１５１０にシルク印刷された内容（例えば、ＩＣの向き、部品番号、ピン番号等）と、を視認することができるように、つまり、ＳＤＲＡＭ１５１０ｃ１，１５１０ｃ２の表面と、ＩＣピンの状態と、周辺制御基板１５１０にシルク印刷された内容と、を多方向の角度から確認することができるように、ＳＤＲＡＭ１５１０ｃ１，１５１０ｃ２の形状より大きな領域となるようにそれぞれ分散して配置されている。これにより、ＳＤＲＡＭ１５１０ｃ１，１５１０ｃ２と周辺制御基板１５１０にシルク印刷された内容との対応関係に加えて、ＳＤＲＡＭ１５１０ｃ１，１５１０ｃ２の改変を、複数の円形状を有する通風孔１５０１ａｚ，１５４０ａｚを介して、確認することができる。また、ＳＤＲＡＭ１５１０ｃ１，１５１０ｃ２から構成されるＳＤＲＡＭ１５１０ｃの近傍に配置されるＬＥＤＭＬ２は、基板ユニット６２０の電源基板６３０からの直流＋１２Ｖが供給されている状態において点灯状態が維持されるようになっているため、本来、直流＋１２Ｖが供給されている状態を確認（モニター）する機能を有しているものの、ＳＤＲＡＭ１５１０ｃを明るく照らすというスポットライトとしての機能もさらに有することによって、ＳＤＲＡＭ１５１０ｃ（つまり、ＳＤＲＡＭ１５１０ｃ１，１５１０ｃ２）の表面の視認性の向上と、ＩＣピンの状態の視認性の向上と、周辺制御基板１５１０にシルク印刷された内容の視認性の向上と、に寄与することができるようになっている。

【２０２１】

また、空冷ファンＦＡＮの羽部を構成する複数のブレードのうち、ブレードとブレードとのすき間（具体的には、検査人が空冷ファンＦＡＮの羽部を回転させることによりブレードとブレードとのすき間）から周辺制御基板１５１０に備える周辺制御ＩＣ１５１０ａの品番を確認することができる。これにより、周辺制御ＩＣ１５１０ａの周囲に不正基板が配置されていないかを、複数の円形状を有する通風孔１５０１ａｚを介して、確認することができる。

【２０２２】

なお、周辺制御基板１５１０に備えるＬＥＤＭＬ１～ＬＥＤＭＬ４として、面実装型であって角度が１２０度程度というワイドなものであり、指向性の弱いタイプのものが採用されているため、照明としての用途にも適している。周辺制御基板１５１０、周辺データＲＯＭ基板１５２０、及び液晶出力基板１５３０等の各種基板が金属製の基板表面（実装面）側シールド板１５４０、及び金属製の基板裏面（ハンダ面）側シールド板１５５５により挟持されてカバー平板１５０１ａの裏面側に取り付けられる状態においては、上述したように、各種基板の表面（カバー平板１５０１ａの裏面側と対向する面）とカバー平板１

５０１ａの裏面との間に所定高さの距離寸法（本第４実施形態では、１４．８ｍｍ）を有する空間が形成される状態となり、この空間内に金属製の基板表面（実装面）側シールド板１５４０が配置されることで２つの空間が形成される状態となる。この２つの空間は、上述したように、各種基板の表面（カバー平板１５０１ａの裏面側と対向する面）と金属製の基板表面（実装面）側シールド板１５４０のシールド平板１５４０ａの裏面との間に第１の所定高さの距離寸法（本第４実施形態では、１２ｍｍ）を有する第１の空間と、金属製の基板表面（実装面）側シールド板１５４０のシールド平板１５４０ａの表面とカバー平板１５０１ａの裏面との間に第２の所定高さの距離寸法（本第４実施形態では、１．６ｍｍ）を有する第２の空間と、から構成されている。第１の空間には、上述したように、周辺制御基板１５１０に備える各種電子部品等、周辺データＲＯＭ基板１５２０に備える各種電子部品等、及び液晶出力基板１５３０に備える各種電子部品等が収容されている。このように形成される第１の空間内を、照明としての用途にも適している周辺制御基板１５１０の表面に備えるＬＥＤＭＬ１～ＬＥＤＭＬ４が点灯することによって、明るく照らすことができる。

【２０２３】

また、金属製の基板表面（実装面）側シールド板１５４０が金属製であるため、光沢を有しており、周辺制御基板１５１０に備えるＬＥＤＭＬ１～ＬＥＤＭＬ４の発光面とそれぞれ対向する、金属製の基板表面（実装面）側シールド板１５４０のシールド平板１５４０ａの裏面の領域及びその周囲に対しては、ＬＥＤＭＬ１～ＬＥＤＭＬ４が発した光を反射させて再び周辺制御基板１５１０へ向かわせることができる反射部としての機能も有している。これらの反射部には、光沢を有する着色塗料をさらに塗布するように構成してもよい。

【２０２４】

また、周辺制御ユニット１５００が取り付けられる遊技盤５の近傍には、図３に示したように、遊技盤５の上方に球タンク５５２やタンクレール５５３が配置され、遊技盤５の側方に払出ユニット５６０が配置されるため、これらにより構成される球経路において遊技球が互いにこすれ合って帯電して静電放電することでノイズ源となる。このため、球経路が形成される遊技盤５の近傍は、遊技球からの静電放電によるノイズ（電磁波ノイズ）の影響を受ける環境が存在する。またパチンコ機１は、遊技ホールの島設備に背向かいで列設されている。このように、遊技盤５の周囲はノイズ（電磁波ノイズ）の影響を極めて受け易い環境下にある。そこで、本第４実施形態においては、カバー体１５０１、ベース体１５０２、及び配線カバー体１５０３を、上述したように、非導電性の樹脂製として透明に成型されて構成し、カバー体１５０１の内部空間内に、周辺制御基板１５１０、周辺データＲＯＭ基板１５２０、及び液晶出力基板１５３０等の各種基板が金属製の基板表面（実装面）側シールド板１５４０、及び金属製の基板裏面（ハンダ面）側シールド板１５５５により挟持された状態で取り付けられることにより、金属製の基板表面（実装面）側シールド板１５４０、及び金属製の基板裏面（ハンダ面）側シールド板１５５５を各種基板のグランド（ＧＮＤ）と電気的に接続するという構成を採用した。また、本第４実施形態においては、周辺制御基板１５１０、周辺データＲＯＭ基板１５２０、及び液晶出力基板１５３０のグランド（ＧＮＤ）ラインを、上述したように、本体枠４の基板ユニット６２０における電源基板６３０のグランド（ＧＮＤ）ラインと電気的に接続することにより、同一のグランド（ＧＮＤ）とする構成を採用した。

【２０２５】

これにより、遊技盤５の遊技パネル１１００の後側（裏ユニット３０００の裏箱３０１０の後面に取付けられている演出表示装置１６００の後側）に取り付けられる周辺制御ユニット１５００のカバー体１５０１、及びベース体１５０２から侵入したノイズ（電磁波ノイズ）を、金属製の基板表面（実装面）側シールド板１５４０や金属製の基板裏面（ハンダ面）側シールド板１５５５を介して、周辺制御基板１５１０、周辺データＲＯＭ基板１５２０、及び液晶出力基板１５３０等の各種基板のグランド（ＧＮＤ）へ導いて除去することができる。換言すると、遊技盤５の遊技パネル１１００の後側（裏ユニット３０００

の裏箱３０１０の後面に取付けられている演出表示装置１６００の後側）に取り付けられる周辺制御ユニット１５００のカバー体１５０１、及びベース体１５０２から侵入したノイズ（電磁波ノイズ）を、金属製の基板表面（実装面）側シールド板１５４０や金属製の基板裏面（ハンダ面）側シールド板１５５５を介して、基板グランド（各種基板のグランド（ＧＮＤ））へ導いて除去することができる。

【２０２６】

なお、本第４実施形態においては、周辺制御基板１５１０、周辺データＲＯＭ基板１５２０、及び液晶出力基板１５３０等の各種基板が金属製の基板表面（実装面）側シールド板１５４０、及び金属製の基板裏面（ハンダ面）側シールド板１５５５により挟持されてカバー平板１５０１ａの裏面側の所定位置に取り付けられる状態においては、各種基板の表面（カバー平板１５０１ａの裏面側と対向する面）とカバー平板１５０１ａの裏面との間に所定高さの距離寸法（本第４実施形態では、１４．８ｍｍ）を有する空間が形成される状態となり、この空間内に金属製の基板表面（実装面）側シールド板１５４０が配置されることで２つの空間が形成され、この２つの空間が、各種基板の表面（カバー平板１５０１ａの裏面側と対向する面）と金属製の基板表面（実装面）側シールド板１５４０のシールド平板１５４０ａの裏面との間に第１の所定高さの距離寸法（本第４実施形態では、１２ｍｍ）を有する第１の空間と、金属製の基板表面（実装面）側シールド板１５４０のシールド平板１５４０ａの表面とカバー平板１５０１ａの裏面との間に第２の所定高さの距離寸法（本第４実施形態では、１．６ｍｍ）を有する第２の空間と、から構成されていた。換言すると、第１の所定高さの距離寸法が第２の所定高さの距離寸法より大きく形成されていた。遊技盤５に大型の演出ユニット（可動演出体を作動することができる電気的駆動源や駆動機構、及び原点位置や作動位置を検出すための各種センサ）を配置した場合であって奥行き方向の距離寸法に余裕がある場合には、第１の所定高さの距離寸法と第２の所定高さの距離寸法とを同一の所定高さの距離寸法として構成してもよいし、第２の所定高さの距離寸法を第１の所定高さの距離寸法と比べて大きくするように構成してもよい。このように構成しても、ノイズ（電磁波ノイズ）の影響を受け易い各種電子部品等を第１の空間内に収容することにより電磁波ノイズの対策を講ずることができると共に、第２の空間内に熱を発する各種電子部品等を収容しないことで第１の空間内における各種電子部品等から発する熱を、金属製の基板表面（実装面）側シールド板１５４０を介して、第２の空間へ効率良く伝えることができる。

【２０２７】

また、本第４実施形態においては、金属製の基板表面（実装面）側シールド板１５４０には、円形状を有す複数の通風孔１５４０ａｚが形成されることにより、周辺制御基板１５１０に備える制御ＲＯＭ１５１０ｂの表面に印刷されている品番や型式（又は管理番号）と、制御ＲＯＭ１５１０ｂのＩＣピンの状態と、周辺制御基板１５１０にシルク印刷された内容（例えば、ＩＣの向き、部品番号、ピン番号等）と、を視認することができ、また周辺制御基板１５１０に備えるＳＤＲＡＭ１５１０ｃ１，１５１０ｃ２の表面に印刷されている品番や型式と、ＳＤＲＡＭ１５１０ｃ１，１５１０ｃ２のＩＣピンの状態と、周辺制御基板１５１０にシルク印刷された内容（例えば、ＩＣの向き、部品番号、ピン番号等）と、を視認することができ、また周辺データＲＯＭ基板１５２０に備える周辺データＲＯＭ１５２０ａの表面に印刷されている品番や型式（又は管理番号）と、周辺データＲＯＭ１５２０ａのＩＣピンの状態と、周辺制御基板１５１０と周辺データＲＯＭ基板１５２０とにそれぞれシルク印刷された内容（例えば、コネクタのピン数、ＩＣの向き、部品番号、ピン番号等）を視認することができるように構成されていたが、制御ＲＯＭ１５１０ｂ、ＳＤＲＡＭ１５１０ｃ１，１５１０ｃ２、周辺データＲＯＭ１５２０ａと対応する金属製の基板表面（実装面）側シールド板１５４０の位置に矩形状の開口部を設けるように構成することもできる。なお、制御ＲＯＭ１５１０ｂ、ＳＤＲＡＭ１５１０ｃ１，１５１０ｃ２、周辺データＲＯＭ１５２０ａに加えて、その周囲も視認することができるように、金属製の基板表面（実装面）側シールド板１５４０の位置に矩形状の開口部を設けるように構成することもできる。また、周辺制御基板１５１０と周辺データＲＯＭ基板１５２

０との基板間コネクタの接続状態を確認することができるように、基板間コネクタの形状（周辺制御基板１５１０に備える特殊コネクタＳＣＮ１と周辺データＲＯＭ基板１５２０に特殊コネクタＳＣＮ３とにより構成される形状）より大きな領域と対応する金属製の基板表面（実装面）側シールド板１５４０の位置に矩形状の開口部を設けるように構成することもできるし、周辺制御基板１５１０と液晶出力基板１５３０との基板間コネクタの接続状態を確認することができるように、基板間コネクタの形状（周辺制御基板１５１０に備える特殊コネクタＳＣＮ２と液晶出力基板１５３０に特殊コネクタＳＣＮ４とにより構成される形状）より大きな領域と対応する金属製の基板表面（実装面）側シールド板１５４０の位置に矩形状の開口部を設けるように構成することもできる。

【２０２８】

［第４実施形態に係る周辺制御基板ボックスの各種基板の貫通孔の周囲］

ここで、第４実施形態に係る周辺制御基板ボックスの各種基板に形成される貫通孔の周囲について説明する。周辺制御基板１５１０に形成される貫通孔１５１０ｒ１，１５１０ｒ４の周囲における周辺制御基板１５１０の表面（実装面）１５１０ｘには、図２３４（ａ）に示すように、金属製の基板表面（実装面）側シールド板１５４０のＬ字状取付片１５４０ｃ１，１５４０ｃ２の裏面と当接して電気的に接続されるランド１５１０ｒｆ１，１５１０ｒｆ４が形成される。また、周辺データＲＯＭ基板１５２０に形成される貫通孔１５２０ｒ４の周囲における周辺データＲＯＭ基板１５２０の表面（実装面）１５２０ｘには、図２３４（ａ）に示すように、金属製の基板表面（実装面）側シールド板１５４０のＬ字状取付片１５４０ｂ１の裏面と当接して電気的に接続されるランド１５２０ｒｆ４が形成される。また、液晶出力基板１５３０に形成される貫通孔１５３０ｒ１の周囲における液晶出力基板１５３０の表面（実装面）１５３０ｘには、図２３４（ａ）に示すように、金属製の基板表面（実装面）側シールド板１５４０のＬ字状取付片１５４０ｂ２の裏面と当接して電気的に接続されるランド１５３０ｒｆ１が形成される。

【２０２９】

これらのランド１５１０ｒｆ１，１５１０ｒｆ４，１５２０ｒｆ４，１５３０ｒｆ１は、金属製の基板表面（実装面）側シールド板１５４０のＬ字状取付片１５４０ｃ１，１５４０ｃ２，１５４０ｂ１，１５４０ｂ２の裏面と当接して電気的に接続されるため、金属製の基板表面（実装面）側シールド板１５４０に侵入したノイズ（電磁波ノイズ）が基板グランド（各種基板のグランド（ＧＮＤ））へ流れる「ノイズが抜けるルート」が形成される。なお、金属製の基板表面（実装面）側シールド板１５４０のＬ字状取付片１５４０ｃ１，１５４０ｃ２，１５４０ｂ１，１５４０ｂ２の表面は、カバー平板１５０１ａの裏面側に形成される取付ボス孔１５０１ａｇ１，１５０１ａｇ４，１５０１ａｈ２，１５０１ａｍ１の取付面（ボス面）がそれぞれ当接する。このため、ノイズ（電磁波ノイズ）がカバー平板１５０１ａの裏面側に形成される取付ボス孔１５０１ａｇ１，１５０１ａｇ４，１５０１ａｈ２，１５０１ａｍ１から金属製の基板表面（実装面）側シールド板１５４０のＬ字状取付片１５４０ｃ１，１５４０ｃ２，１５４０ｂ１，１５４０ｂ２、そしてランド１５１０ｒｆ１，１５１０ｒｆ４，１５２０ｒｆ４，１５３０ｒｆ１へ侵入しても、この侵入したノイズ（電磁波ノイズ）が基板グランド（各種基板のグランド（ＧＮＤ））へ流れる。

【２０３０】

また、周辺制御基板１５１０に形成される貫通孔１５１０ｒ２，１５１０ｒ３の周囲における周辺制御基板１５１０の表面（実装面）１５１０ｘには、図２３４（ｂ）に示すように、カバー平板１５０１ａの裏面側に形成される取付ボス孔１５０１ａｇ２，１５０１ａｇ３の外形円と比べて一回り大きい円の形状を有する箔抜き領域ＮＲ５，ＮＲ６が形成され、取付ボス孔１５０１ａｇ２，１５０１ａｇ３の取付面（ボス面）が箔抜き領域ＮＲ５，ＮＲ６にそれぞれ当接する。また、周辺データＲＯＭ基板１５２０に形成される貫通孔１５２０ｒ１，１５２０ｒ２，１５２０ｒ３の周囲における周辺データＲＯＭ基板１５２０の表面（実装面）１５２０ｘには、図２３４（ｂ）に示すように、カバー平板１５０１ａの裏面側に形成される取付ボス孔１５０１ａｈ３，１５０１ａｈ１，１５０１ａｈ４の

外形円と比べて一回り大きい円の形状を有する箔抜き領域ＮＲ７，ＮＲ８，ＮＲ９が形成され、取付ボス孔１５０１ａｈ３，１５０１ａｈ１，１５０１ａｈ４の取付面（ボス面）が箔抜き領域ＮＲ７，ＮＲ８，ＮＲ９にそれぞれ当接する。また、液晶出力基板１５３０に形成される貫通孔１５３０ｒ２，１５３０ｒ３，１５３０ｒ４の周囲における液晶出力基板１５３０の表面（実装面）１５３０ｘには、図２３４（ｂ）に示すように、カバー平板１５０１ａの裏面側に形成される取付ボス孔１５０１ａｍ３，１５０１ａｍ２，１５０１ａｍ４の外形円と比べて一回り大きい円の形状を有する箔抜き領域ＮＲ１０，ＮＲ１１，ＮＲ１２が形成され、取付ボス孔１５０１ａｍ３，１５０１ａｍ２，１５０１ａｍ４の取付面（ボス面）が箔抜き領域ＮＲ１０，ＮＲ１１，ＮＲ１２にそれぞれ当接する。

【２０３１】

これらの箔抜き領域ＮＲ５～ＮＲ１２は、カバー平板１５０１ａの裏面側に形成される取付ボス孔１５０１ａｇ２，１５０１ａｇ３，１５０１ａｈ３，１５０１ａｈ１，１５０１ａｈ４，１５０１ａｍ３，１５０１ａｍ２，１５０１ａｍ４からノイズ（電磁波ノイズ）の侵入を阻止することができるように、周辺制御基板１５１０、周辺データＲＯＭ基板１５２０、及び液晶出力基板１５３０等の各種基板のグランド（ＧＮＤ）とから隔離されている。換言すると、ノイズ（電磁波ノイズ）がカバー平板１５０１ａの裏面側に形成される取付ボス孔１５０１ａｇ２，１５０１ａｇ３，１５０１ａｈ３，１５０１ａｈ１，１５０１ａｈ４，１５０１ａｍ３，１５０１ａｍ２，１５０１ａｍ４から箔抜き領域ＮＲ５～ＮＲ１２を介して、周辺制御基板１５１０、周辺データＲＯＭ基板１５２０、及び液晶出力基板１５３０等の各種基板のベタグランドへ侵入することができない「ノイズが抜けないルート」が形成される。

【２０３２】

これに対して、周辺制御基板１５１０に形成される貫通孔１５１０ｒ１，１５１０ｒ４の周囲における周辺制御基板１５１０の裏面（ハンダ面）１５１０ｙには、図２３５（ａ）に示すように、金属製の基板裏面（ハンダ面）側シールド板１５５５のＬ字状取付片１５５５ｂ１，１５５５ｂ２の表面と当接して電気的に接続されるランド１５１０ｒｂ１，１５１０ｒｂ４が形成される。また、周辺データＲＯＭ基板１５２０に形成される貫通孔１５２０ｒ２の周囲における周辺データＲＯＭ基板１５２０の裏面（ハンダ面）１５２０ｙには、図２３５（ａ）に示すように、金属製の基板裏面（ハンダ面）側シールド板１５５５のＬ字状取付片１５５５ｂ３の表面と当接して電気的に接続されるランド１５２０ｒｂ２が形成される。また、液晶出力基板１５３０に形成される貫通孔１５３０ｒ３の周囲における液晶出力基板１５３０の裏面（ハンダ面）１５３０ｙには、図２３５（ａ）に示すように、金属製の基板裏面（ハンダ面）側シールド板１５５５のＬ字状取付片１５５５ｂ４の表面と当接して電気的に接続されるランド１５３０ｒｂ３が形成される。

【２０３３】

これらのランド１５１０ｒｂ１，１５１０ｒｂ４，１５２０ｒｂ２，１５３０ｒｂ３は、金属製の基板裏面（ハンダ面）側シールド板１５５５のＬ字状取付片１５５５ｂ１，１５５５ｂ２，１５５５ｂ３，１５５５ｂ４の表面と当接して電気的に接続されるため、金属製の基板裏面（ハンダ面）側シールド板１５５５に侵入したノイズ（電磁波ノイズ）が基板グランド（各種基板のグランド（ＧＮＤ））へ流れる「ノイズが抜けるルート」が形成される。なお、金属製の基板裏面（ハンダ面）側シールド板１５５５のＬ字状取付片１５５５ｂ１，１５５５ｂ２，１５５５ｂ３，１５５５ｂ４の裏面は、ベース平板１５０２ａの表面側に形成される取付ボス１５０２ａｆ１，１５０２ａｆ２，１５０２ａｆ３，１５０２ａｆ６の取付面（ボス面）がそれぞれ当接する。このため、ノイズ（電磁波ノイズ）がベース平板１５０２ａの表面側に形成される取付ボス１５０２ａｆ１，１５０２ａｆ２，１５０２ａｆ３，１５０２ａｆ６から金属製の基板裏面（ハンダ面）側シールド板１５５５のＬ字状取付片１５５５ｂ１，１５５５ｂ２，１５５５ｂ３，１５５５ｂ４、そしてランド１５１０ｒｂ１，１５１０ｒｂ４，１５２０ｒｂ２，１５３０ｒｂ３へ侵入しても、この侵入したノイズ（電磁波ノイズ）が基板グランド（各種基板のグランド（ＧＮＤ））へ流れる。

【２０３４】
また、周辺制御基板１５１０に形成される貫通孔１５１０ｒ２，１５１０ｒ３の周囲における周辺制御基板１５１０の裏面（ハンダ面）１５１０ｙには、図２３５（ｂ）に示すように、図示しない金属製のナベねじが直接挿入されてねじ込まれるランド１５１０ｒｂ２，１５１０ｒｂ３が形成されると共に、このランド１５１０ｒｂ２，１５１０ｒｂ３の周囲をそれぞれ白色の太線の実線で囲むネジ固定指示マークＤＴＨ５，ＤＴＨ６がシルク印刷として印刷される。また、周辺データＲＯＭ基板１５２０に形成される貫通孔１５２０ｒ１，１５２０ｒ４の周囲における周辺データＲＯＭ基板１５２０の裏面（ハンダ面）１５２０ｙには、図２３５（ｂ）に示すように、図示しない金属製のナベねじが直接挿入されてねじ込まれるランド１５２０ｒｂ１，１５２０ｒｂ４が形成されると共に、このランド１５２０ｒｂ１，１５２０ｒｂ４の周囲をそれぞれ白色の太線の実線で囲むネジ固定指示マークＤＴＨ１，ＤＴＨ２がシルク印刷として印刷される。また、液晶出力基板１５３０に形成される貫通孔１５３０ｒ１，１５３０ｒ４の周囲における液晶出力基板１５３０の裏面（ハンダ面）１５３０ｙには、図２３５（ｂ）に示すように、図示しない金属製のナベねじが直接挿入されてねじ込まれるランド１５３０ｒｂ１，１５３０ｒｂ４が形成されると共に、このランド１５３０ｒｂ１，１５３０ｒｂ４の周囲をそれぞれ白色の太線の実線で囲むネジ固定指示マークＤＴＨ３，ＤＴＨ４がシルク印刷として印刷される。
【２０３５】
なお、周辺制御基板１５１０に形成される貫通孔１５１０ｒ２，１５１０ｒ３に図示しない金属製のナベねじが直接挿入されてねじ込まれても、ネジ固定指示マークＤＴＨ５，ＤＴＨ６の白い太線の実線部分の領域のうち貫通孔１５１０ｒ２，１５１０ｒ３側に近い領域が図示しない金属製のナベねじの頭部と重なるものの、ネジ固定指示マークＤＴＨ５，ＤＴＨ６の白い太線の実線部分の領域のうち外周部分が図示しない金属製のナベねじの頭部の外形線より大きく形成されることによりネジ固定指示マークＤＴＨ５，ＤＴＨ６の白い太線の実線によって図示しない金属製のナベねじの頭部が目立つようになっており、図示しない金属製のナベねじを挿入してねじ込んで固定し忘れるというミス（うっかりミス）の抑制に寄与することができるようになっている。また、周辺データＲＯＭ基板１５２０に形成される貫通孔１５２０ｒ１，１５２０ｒ４に図示しない金属製のナベねじが直接挿入されてねじ込まれても、ネジ固定指示マークＤＴＨ１，ＤＴＨ２の白い太線の実線部分の領域のうち貫通孔１５２０ｒ１，１５２０ｒ４側に近い領域が図示しない金属製のナベねじの頭部と重なるものの、ネジ固定指示マークＤＴＨ１，ＤＴＨ２の白い太線の実線部分の領域のうち外周部分が図示しない金属製のナベねじの頭部の外形線より大きく形成されることによりネジ固定指示マークＤＴＨ１，ＤＴＨ２の白い太線の実線によって図示しない金属製のナベねじの頭部が目立つようになっており、図示しない金属製のナベねじを挿入してねじ込んで固定し忘れるというミス（うっかりミス）の抑制に寄与することができるようになっている。また、液晶出力基板１５３０に形成される貫通孔１５３０ｒ１，１５３０ｒ４に図示しない金属製のナベねじが直接挿入されてねじ込まれても、ネジ固定指示マークＤＴＨ３，ＤＴＨ４の白い太線の実線部分の領域のうち貫通孔１５３０ｒ１，１５３０ｒ４側に近い領域が図示しない金属製のナベねじの頭部と重なるものの、ネジ固定指示マークＤＴＨ１，ＤＴＨ２の白い太線の実線部分の領域のうち外周部分が図示しない金属製のナベねじの頭部の外形線より大きく形成されることによりネジ固定指示マークＤＴＨ３，ＤＴＨ４の白い太線の実線によって図示しない金属製のナベねじの頭部が目立つようになっており、図示しない金属製のナベねじを挿入してねじ込んで固定し忘れるというミス（うっかりミス）の抑制に寄与することができるようになっている。
【２０３６】
また、周辺データＲＯＭ基板１５２０に形成される貫通孔１５２０ｒ３の周囲における周辺データＲＯＭ基板１５２０の表面（実装面）１５２０ｘには、図２３５（ｃ）に示すように、ベース平板１５０２ａの表面側に形成される取付ボス１５０２ａｆ４の外形円と比べて一回り大きい円の形状を有する箔抜き領域ＮＲ１３が形成され、取付ボス１５０２ａｆ４の取付面（ボス面）が箔抜き領域ＮＲ１３にそれぞれ当接する。また、液晶出力基板

１５３０に形成される貫通孔１５３０ｒ２の周囲における液晶出力基板１５３０の表面（実装面）１５２０ｘには、図２３５（ｃ）に示すように、ベース平板１５０２ａの表面側に形成される取付ボス１５０２ａｆ５の外形円と比べて一回り大きい円の形状を有する箔抜き領域ＮＲ１４が形成され、取付ボス１５０２ａｆ５の取付面（ボス面）が箔抜き領域ＮＲ１４にそれぞれ当接する。

【２０３７】

これらの箔抜き領域ＮＲ１３，ＮＲ１４は、ベース平板１５０２ａの表面側に形成される取付ボス１５０２ａｆ４，１５０２ａｆ５からノイズ（電磁波ノイズ）の侵入を阻止することができるように、各種基板のグランド（ＧＮＤ）とから隔離されている。換言すると、ノイズ（電磁波ノイズ）がベース平板１５０２ａの表面側に形成される取付ボス１５０２ａｆ４，１５０２ａｆ５から箔抜き領域ＮＲ１３，ＮＲ１４を介して、周辺データＲＯＭ基板１５２０、及び液晶出力基板１５３０のベタグランドへ侵入することができない「ノイズが抜けないルート」が形成される。

【２０３８】

このように、白色の太線の実線で囲むネジ固定指示マークＤＴＨ１～ＤＴＨ６がシルク印刷としてそれぞれ印刷される周辺データＲＯＭ基板１５２０に形成される貫通孔１５２０ｒ１，１５２０ｒ４、液晶出力基板１５３０に形成される貫通孔１５３０ｒ１，１５３０ｒ４、及び周辺制御基板１５１０に形成される貫通孔１５１０ｒ２，１５１０ｒ３は、図示しない金属製のナベねじを直接挿入してねじ込んでカバー体１５０１に固定される貫通孔である。これに対して、ネジ固定指示マークがシルク印刷として全く印刷されていない周辺制御基板１５１０に形成される貫通孔１５１０ｒ１，１５１０ｒ４、周辺データＲＯＭ基板１５２０に形成される貫通孔１５２０ｒ２，１５２０ｒ３、及び液晶出力基板１５３０に形成される貫通孔１５３０ｒ２，１５３０ｒ３は、ベース体１５０２のベース平板１５０２ａの表面側に形成される取付ボス１５０２ａｆ１～１５０２ａｆ６の貫通孔１５０２ａｇ１～１５０２ａｇに図示しない金属製のナベねじを挿入してねじ込んでカバー体１５０１とベース体１５０２とを固定する際に、ベース体１５０１のベース平板１５０２ａの表面側に形成される取付ボス１５０２ａｆ１～１５０２ａｆ６の取付面（ボス面）と、カバー体１５０１のカバー平板１５０１ａの裏面側に形成される取付ボス孔１５０１ａｇ１，１５０１ａｇ４，１５０１ａｈ１，１５０１ａｈ４，１５０１ａｍ３、１５０１ａｍ２の取付面（ボス面）と、に挟持されて共締めされて固定される貫通孔である。

【２０３９】

つまり、周辺制御基板１５１０、周辺データＲＯＭ基板１５２０、及び液晶出力基板１５３０等の各種基板に設けられる複数の貫通孔に、金属製のナベねじを直接挿入してねじ込んでカバー体１５０１に固定される貫通孔と、カバー体１５０１とベース体１５０２とを固定する際に挟持されて共締めされて固定される貫通孔と、が混在する場合には、製造元の作業者が周辺データＲＯＭ基板１５２０にシルク印刷として印刷されるネジ固定指示マークＤＴＨ１，ＤＴＨ２、液晶出力基板１５３０にシルク印刷として印刷されるネジ固定指示マークＤＴＨ３，ＤＴＨ４、周辺制御基板１５１０にシルク印刷として印刷されるネジ固定指示マークＤＴＨ５，ＤＴＨ６を目視することで、金属製のナベねじを直接挿入してねじ込んでカバー体１５０１に固定される貫通孔である周辺制御基板１５１０の貫通孔１５１０ｒ２，１５１０ｒ３、周辺データＲＯＭ基板１５２０の貫通孔１５２０ｒ１，１５２０ｒ４、液晶出力基板１５３０の貫通孔１５３０ｒ１，１５３０ｒ４と、カバー体１５０１とベース体１５０２とを固定する際に挟持されて共締めされて固定される貫通孔である周辺制御基板１５１０の貫通孔１５１０ｒ１，１５１０ｒ４、周辺データＲＯＭ基板１５２０の貫通孔１５２０ｒ２，１５２０ｒ３、液晶出力基板１５３０の貫通孔１５３０ｒ２，１５３０ｒ３と、を判別することができるため、金属製のナベねじを直接挿入してねじ込んでカバー体１５０１に固定される貫通孔である周辺制御基板１５１０の貫通孔１５１０ｒ２，１５１０ｒ３、周辺データＲＯＭ基板１５２０の貫通孔１５２０ｒ１，１５２０ｒ４、液晶出力基板１５３０の貫通孔１５３０ｒ１，１５３０ｒ４への螺着作業（ねじ込んで固定する作業）を円滑に行うことができる。したがって、作業効率の向上に寄与

することができる。
【２０４０】
第４実施形態に係る周辺制御基板ボックスによるノイズ対策の構成においては、金属製の基板表面（実装面）側シールド板１５４０と金属製の基板裏面（ハンダ面）側シールド板１５５５とが電気的に接続されると共に、周辺制御基板１５１０、周辺データＲＯＭ基板１５２０、及び液晶出力基板１５３０等の各種基板のグランド（ＧＮＤ）と電気的に接続されており、金属製の基板表面（実装面）側シールド板１５４０と金属製の基板裏面（ハンダ面）側シールド板１５５５とのうちいずれか一方又は両方が演出表示装置１６００の金属製裏蓋に当接して電気的に接続されていない。この場合、周辺制御基板１５１０、周辺データＲＯＭ基板１５２０、及び液晶出力基板１５３０等の各種基板に対して電気的に浮いた状態となる。電気的に浮いた金属は、雑音を拾うアンテナとして機能してノイズ源となるおそれがあるため、電気的に浮いた金属を周辺制御基板１５１０、周辺データＲＯＭ基板１５２０、及び液晶出力基板１５３０等の各種基板に対して作らないようにする必要がある。そこで、第４実施形態に係る周辺制御基板ボックスによるノイズ対策の構成においては、演出表示装置１６００の金属製裏蓋と本体枠４の基板ユニット６２０における電源基板６３０のグランド（ＧＮＤ）ラインとを図示しない配線により電気的に接続する場合のほかに、演出表示装置１６００の金属製裏蓋と上述した金属製の本体枠補強フレーム５３０とを図示しない配線により電気的に接続する場合がある。この金属製の本体枠補強フレーム５３０は、上述したように、本体枠ベースユニット３００を補強して剛性を付与することができる機能に加えて本体枠金属アースとしても機能し、図示しない本体枠金属アース線を介して、上述した枠アース基板５５９と電気的に接続されている。枠アース基板５５９は、図示しない島設備アース線を介して、遊技ホールの島設備のアースと電気的に接続されている。
【２０４１】
なお、第４実施形態に係る周辺制御基板ボックスによるノイズ対策の構成においては、金属製の基板裏面（ハンダ面）側シールド板１５５５が周辺制御基板１５１０、周辺データＲＯＭ基板１５２０、及び液晶出力基板１５３０等の各種基板の裏面（ハンダ面）側を覆うように配置されると、上述したように、金属製の基板裏面（ハンダ面）側シールド板１５５５のシールド平板１５５５ａには通気孔等の孔が全く形成されていないため、ネジ固定指示マークＤＴＨ１～ＤＴＨ６、及び通し番号１～通し番号６も金属製の基板裏面（ハンダ面）側シールド板１５５５により覆われて視認困難となっていたが、金属製の基板裏面（ハンダ面）側シールド板１５５５のシールド平板１５５５ａに複数の孔を形成するようにしてもよい。こうすれば、製造元の作業者が複数の孔を通して周辺制御基板１５１０、周辺データＲＯＭ基板１５２０、及び液晶出力基板１５３０等の各種基板が上述した第１固定方法により固定されているか否か（つまり、ネジ固定指示マークＤＴＨ１～ＤＴＨ６がある部分に金属製のナベねじが挿入されて固定されているか否か）を目視にて確認することができる。
【２０４２】
また、第４実施形態に係る周辺制御基板ボックスによるノイズ対策の構成において、周辺制御基板１５１０に形成される貫通孔１５１０ｒ２，１５１０ｒ３の周囲における周辺制御基板１５１０の裏面（ハンダ面）１５１０ｙには、図２３５（ｂ）に示した図示しない金属製のナベねじが直接挿入されてねじ込まれるランド１５１０ｒｂ２，１５１０ｒｂ３の周囲をそれぞれ白色の太線の実線で囲むネジ固定指示マークＤＴＨ５，ＤＴＨ６がシルク印刷として印刷され、また、周辺データＲＯＭ基板１５２０に形成される貫通孔１５２０ｒ１，１５２０ｒ４の周囲における周辺データＲＯＭ基板１５２０の裏面（ハンダ面）１５２０ｙには、図２３５（ｂ）に示した図示しない金属製のナベねじが直接挿入されてねじ込まれるランド１５２０ｒｂ１，１５２０ｒｂ４の周囲をそれぞれ白色の太線の実線で囲むネジ固定指示マークＤＴＨ１，ＤＴＨ２がシルク印刷として印刷され、また、液晶出力基板１５３０に形成される貫通孔１５３０ｒ１，１５３０ｒ４の周囲における液晶出力基板１５３０の裏面（ハンダ面）１５３０ｙには、図２３５（ｂ）に示した図示しない

金属製のナベねじが直接挿入されてねじ込まれるランド１５３０ｒｂ１，１５３０ｒｂ４の周囲をそれぞれ白色の太線の実線で囲むネジ固定指示マークＤＴＨ３，ＤＴＨ４がシルク印刷として印刷されているが、白色の太線の実線に代えて白色の太線の鎖線（一点鎖線、二点鎖線）としてもよい。

【２０４３】

また、第４実施形態に係る周辺制御基板ボックスによるノイズ対策の構成において、ネジ固定指示マークＤＴＨ１～ＤＴＨ６と、通し番号１～通し番号６と、がシルク印刷として印刷される色は、周辺制御基板１５１０、周辺データＲＯＭ基板１５２０及び液晶出力基板１５３０等の各種基板の表面（実装面）に実装される各種電子部品を配置する位置（向きの指定も含む。）を示す領域やその部品番号がシルク印刷として印刷される色と同一色（白色）となっているが、各種基板の表面（実装面）に実装される各種電子部品を配置する位置（向きの指定も含む。）を示す領域やその部品番号がシルク印刷として印刷される色と異なる色としてもよい。例えば、各種基板の表面（実装面）に実装される各種電子部品を配置する位置（向きの指定も含む。）を示す領域やその部品番号がシルク印刷として印刷される色が白色である場合には、この白色と異なる色となるように、ネジ固定指示マークＤＴＨ１～ＤＴＨ６と、通し番号１～通し番号６と、がシルク印刷として印刷される色として、黄色や黒色としてもよい。

【２０４４】

また、第４実施形態に係る周辺制御基板ボックスによるノイズ対策の構成においては、周辺制御基板１５１０の表面（実装面）側に形成されるランド１５１０ｒｆ１，１５１０ｒｆ４と、金属製の基板表面（実装面）側シールド板１５４０のＬ字状取付片１５４０ｃ１，１５４０ｃ２の裏面と、がそれぞれ当接した状態となり、周辺データＲＯＭ基板１５２０の表面（実装面）側に形成されるランド１５２０ｒｆ４と、金属製の基板表面（実装面）側シールド板１５４０のＬ字状取付片１５４０ｂ１の裏面と、が当接した状態となり、そして液晶出力基板１５３０の表面（ハンダ面）側に形成されるランド１５３０ｒｆ１と、金属製の基板表面（実装面）側シールド板１５４０のＬ字状取付片１５４０ｂ２の裏面と、が当接した状態となっているが、これに代えて、金属製の基板表面（実装面）側シールド板１５４０のＬ字状取付片１５４０ｃ１，１５４０ｃ２の裏面を周辺制御基板１５１０の表面（実装面）側に形成されるランド１５１０ｒｆ１，１５１０ｒｆ４に当接させずに、金属製の基板裏面（ハンダ面）側シールド板１５５５の表面に当接するように構成し、金属製の基板表面（実装面）側シールド板１５４０のＬ字状取付片１５４０ｂ１の裏面を、周辺データＲＯＭ基板１５２０の表面（実装面）側に形成されるランド１５２０ｒｆ４に当接させずに、金属製の基板裏面（ハンダ面）側シールド板１５５５の表面に当接するように構成し、そして金属製の基板表面（実装面）側シールド板１５４０のＬ字状取付片１５４０ｂ２の裏面を、液晶出力基板１５３０の表面（ハンダ面）側に形成されるランド１５３０ｒｆ１に当接させずに、金属製の基板裏面（ハンダ面）側シールド板１５５５の表面に当接するように構成してもよい。これは、金属製の基板表面（実装面）側シールド板１５４０と金属製の基板裏面（ハンダ面）側シールド板１５５５とが上述した導電性弾性部材１５４５により電気的に接続された状態とすることができるからである。

【２０４５】

なお、このように構成する場合において、金属製の基板表面（実装面）側シールド板１５４０のＬ字状取付片１５４０ｃ１，１５４０ｃ２，１５４０ｂ１，１５４０ｂ２は、周辺制御基板１５１０、周辺データＲＯＭ基板１５２０、及び液晶出力基板１５３０等の各種基板と接触しないように構成される。また、金属製の基板裏面（ハンダ面）側シールド板１５５５には、金属製の基板表面（実装面）側シールド板１５４０のＬ字状取付片１５４０ｃ１，１５４０ｃ２，１５４０ｂ１，１５４０ｂ２にそれぞれ形成される貫通孔１５４０ｃ１ａ，１５４０ｃ２ａ，１５４０ｂ１ａ，１５４０ｂ２ａと対応する位置に貫通孔がそれぞれ形成される。また、ベース体１５０２には、金属製の基板表面（実装面）側シールド板１５４０のＬ字状取付片１５４０ｃ１，１５４０ｃ２，１５４０ｂ１，１５４０ｂ２にそれぞれ形成される貫通孔１５４０ｃ１ａ，１５４０ｃ２ａ，１５４０ｂ１ａ，１５

４０ｂ２ａと対応する位置に貫通孔がそれぞれ形成される。また、カバー体１５０１の裏面側には、金属製の基板表面（実装面）側シールド板１５４０のＬ字状取付片１５４０ｃ１，１５４０ｃ２，１５４０ｂ１，１５４０ｂ２にそれぞれ形成される貫通孔１５４０ｃ１ａ，１５４０ｃ２ａ，１５４０ｂ１ａ，１５４０ｂ２ａと対応する位置にネジ孔がそれぞれ形成される。これにより、金属製の基板表面（実装面）側シールド板１５４０のＬ字状取付片１５４０ｃ１，１５４０ｃ２，１５４０ｂ１，１５４０ｂ２と金属製の基板裏面（ハンダ面）側シールド板１５５５の表面とが当接した状態（つまり、金属製の基板表面（実装面）側シールド板１５４０と金属製の基板裏面（ハンダ面）側シールド板１５５５との電気的な接続性を良好とすることができる状態）でカバー体１５０１とベース体１５０２とに挟持されて固定されるように、ベース体１５０２に形成される貫通孔に図示しない金属製のナベねじをそれぞれ挿入してカバー体１５０１の裏面側に形成されるネジ孔へ向かってそれぞれねじ込んで固定することができる。

【２０４６】

また、本第４実施形態においては、ＦＡＮ取付凹部１５０１ａａに取り付けられる空冷ファンＦＡＮの羽部が回転すると、この回転により羽部を介して、カバー体１５０１の内側空間の空気を周辺制御ユニット１５００の外部へ向かってはき出すことにより、周辺制御ユニット１５００の外部から空気を、カバー体１５０１のカバー平板１５０１ａに複数形成される通風孔１５０１ａｚ、そしてカバー体１５０１とベース体１５０２との空間内に収容される金属製の基板表面（実装面）側シールド板１５４０に複数形成される通風孔１５４０ａｚを介して、取り込む際に、カバー体１５０１のカバー平板１５０１ａに複数形成される通風孔１５０１ａｚのそれぞれに流入する空気の流速を小さく抑えることができるようになっているが、ＦＡＮ取付凹部１５０１ａａに取り付けられる空冷ファンＦＡＮの羽部が回転すると、この回転により羽部を介して、空気を吸い込んで周辺制御ＩＣ１５１０ａへ向かって空気を送り出すようにしてもよい。換言すると、空冷ファンＦＡＮを、カバー体１５０１とベース体１５０２との空間内における空気の交換を主目的とせず、単に周辺制御ＩＣ１５１０ａを空冷することを主目的としてもよい。

【２０４７】

また、第４実施形態に係る周辺制御基板ボックスによるノイズ対策の構成においても、金属製の基板表面（実装面）側シールド板１５４０のＬ字状取付片１５４０ｃ１，１５４０ｃ２の裏面と当接する図２３４（ａ）に示した周辺制御基板１５１０の表面（実装面）１５１０ｘ側のランド１５１０ｒｆ１，１５１０ｒｆ４の表面である銅箔に対しては、周辺制御基板１５１０の表面（実装面）１５１０ｘにメタルマスクを置いてメタルマスク上にスキージ（へらのようなもの）を用いて半田ペーストを広げることでメタルマスクに形成される穴から塗布し、周辺制御基板１５１０の表面（実装面）１５１０ｘをリフロー炉に入れて熱で半田ペーストを乾燥させるようにしているが、周辺制御基板１５１０の表面（実装面）を半田槽へ流してハンダ付けしてもよい。この場合、周辺制御基板１５１０の表面（実装面）１５１０ｘ側のランド１５１０ｒｆ１，１５１０ｒｆ４と、金属製の基板表面（実装面）側シールド板１５４０のＬ字状取付片１５４０ｃ１，１５４０ｃ２の裏面と、が当接する面積が減少して電気的な接続性が悪くならないように、周辺制御基板１５１０の表面（実装面）のランド１５１０ｒｆ１，１５１０ｒｆ４の表面である銅箔には、ハンダ付けが一部に盛り上がらないように均一にする必要がある。

【２０４８】

例えば、周辺制御基板１５１０の表面（実装面）のランド１５１０ｒｆ１，１５１０ｒｆ４の表面である銅箔には、その一部がレジスト液により塗布されて所定の形状に形成されるレジスト層１５１０ｘｒが形成され、周辺制御基板１５１０の表面（実装面）のランド１５１０ｒｆ１，１５１０ｒｆ４の表面である銅箔の所定の形状を有する領域にハンダ付けされることとなる。具体的には、「所定の形状」として、周辺制御基板１５１０の表面（実装面）のランド１５１０ｒｆ１，１５１０ｒｆ４の表面である銅箔に対して、図２２１（ａ）に示したように、レジストが所定幅を有する円が同心円状に複数形成される形状（レジストが所定幅を有する単一円が同心円状に形成される形状でもよい。）、図２２１

（ｂ）に示したように、レジストが所定幅及び所定長さを有する矩形形状がランド１５１０ｒｆ１，１５１０ｒｆ４の中心として環状に複数配列された菊状に形成される形状、図２２１（ｃ）に示したように、レジストが所定幅を有する縦方向の線と横方向の線とから構成される格子状に形成される形状（レジストが所定幅を有する縦方向のみ線が所定距離寸法だけ離間して複数形成される形状でもよいし、レジストが所定幅を有する横方向のみ線が所定距離寸法だけ離間して複数形成される形状でもよい。）、図２２１（ｄ）に示したように、レジストが所定幅を有する線が所定距離だけ離間して右上がりの線が斜線状に複数形成される形状（レジストが所定幅を有する線が所定距離だけ離間して右下がりの線が斜線状に複数形成される形状でもよい。）、図示しないが小さな円形状の集合した形状等を挙げることができる。

【２０４９】

このように、周辺制御基板１５１０の表面（実装面）のランド１５１０ｒｆ１，１５１０ｒｆ４の表面である銅箔の一部がレジスト液により塗布されて所定の形状に形成されるレジスト層１５１０ｘｒが形成され、周辺制御基板１５１０の表面（実装面）のランド１５１０ｒｆ１，１５１０ｒｆ４の表面である銅箔の所定の形状を有する領域にハンダ付けされるようになっているため、周辺制御基板１５１０の表面（実装面）のランド１５１０ｒｆ１，１５１０ｒｆ４の表面である銅箔にハンダ付けされるハンダの量を抑制することができる（換言すると、レジスト液により塗布されて所定の形状としては、周辺制御基板１５１０の表面（実装面）のランド１５１０ｒｆ１，１５１０ｒｆ４の表面である銅箔にハンダ付けされるハンダの量を抑制することができるという効果を発揮できるものであればよい）。これにより、周辺制御基板１５１０の表面（実装面）を半田槽へ流してハンダ付けする場合に、周辺制御基板１５１０の表面（実装面）のランド１５１０ｒｆ１，１５１０ｒｆ４の表面である銅箔には、ハンダ付けが一部に盛り上がらないように均一にすることができる。このようにハンダ付けされたハンダは、金属製の基板表面（実装面）側シールド板１５４０のＬ字状取付片１５４０ｃ１，１５４０ｃ２の裏面と周辺制御基板１５１０の表面（実装面）１５１０ｘ側のランド１５１０ｒｆ１，１５１０ｒｆ４とを電気的に接続可能に被覆している。

【２０５０】

なお、このようなレジストにより形成される所定の図形を、周辺制御基板１５１０の裏面（ハンダ面）１５１０ｙ側のランド１５１０ｒｂ１～１５１０ｒｂ４の表面である銅箔に対しても行ってもよい。また、周辺制御基板１５１０の表面（実装面）を半田槽へ流してハンダ付けする場合に、周辺制御基板１５１０の表面（実装面）のランド１５１０ｒｆ１，１５１０ｒｆ４の表面である銅箔をレジスト液で塗布して覆うことにより、ランド１５１０ｒｆ１，１５１０ｒｆ４の表面に塗布されたレジスト層の厚みを均一としてもよい。

【２０５１】

また、第４実施形態に係る周辺制御基板ボックスによるノイズ対策の構成においても、周辺制御基板１５１０をカバー平板１５０１ａの裏面側に固定する際に、金属製のナベねじを用いていたが、金属製のナベねじに平座金、ばね座金、歯付き座金（「菊座金」ともいう。）等の金属製の座金を通して周辺制御基板１５１０をカバー平板１５０１ａの裏面側に固定するようにしてもよい。

【２０５２】

また、第４実施形態に係る周辺制御基板ボックスによるノイズ対策の構成においては、額縁状の金属製フレームの後面全体が金属製裏蓋により塞がれて固定されることで額縁状の金属製フレームと金属製裏蓋とが電気的に接続された状態となって透明な合成樹脂製ボックスに収容されており、この透明な合成樹脂製ボックスと、ベース体１５０２と、が別体としてそれぞれ成型されていたが、この透明な合成樹脂製ボックスにベース体１５０２を一体に成型するようにしてもよい。

【２０５３】

［第１実施形態に係る周辺制御基板ボックスによるノイズ対策の構成と第５実施形態に係る周辺制御基板ボックスによるノイズ対策の構成との対比］

第１実施形態に係る周辺制御基板ボックスによるノイズ対策の構成では、上述したように、カバー体１５０１、及びベース体１５０２に加えて、配線カバー体１５０３は、上述したように、すべてポリカーボネートにカーボンを含有した導電性の樹脂製として構成されると共に、カバー体１５０１（カバー平板１５０１ａ）の裏面側に周辺制御基板１５１０、周辺データＲＯＭ基板１５２０、及び液晶出力基板１５３０等の各種基板が金属製のナベねじによりそれぞれ固定されると、これら各種基板のグランド（ＧＮＤ）と電気的に接続されて同一のグランド（ＧＮＤ）となるように構成されていた。

【２０５４】

これに対して、第５実施形態に係る周辺制御基板ボックスによるノイズ対策の構成では、図２３６及び図２３７に示すように、後方が開口されると共に上下方向と比べて左右方向に長いボックス形状を有する透明な非導電性の樹脂製により成型されるカバー体１５０１と、遊技の進行を制御する主制御ユニット１３００の主制御基板１３１０からのコマンドに基づいて演出の進行を制御することができる周辺制御基板１５１０と、周辺制御基板１５１０と電気的に接続される周辺データＲＯＭ基板１５２０と、周辺制御基板１５１０と電気的に接続される液晶出力基板１５３０と、カバー体１５０１の開口を塞ぐ透明な非導電性の樹脂製により成型されるベース体１５０２と、を備えている。カバー体１５０１の内部空間内には、周辺制御基板１５１０、周辺データＲＯＭ基板１５２０、及び液晶出力基板１５３０等の各種基板がそれぞれ所定位置に取り付けられ、カバー体１５０１の開口をベース体１５０２により塞ぐことにより、カバー体１５０１とベース体１５０２とによる周辺制御基板ボックス１５０５（封印基板ボックス）が構成されている。

【２０５５】

第５実施形態に係る周辺制御基板ボックスによるノイズ対策の構成では、カバー体１５０１、ベース体１５０２、及び配線カバー体１５０３が透明な非導電性の樹脂製として構成されるという点のほかに、Ｔ字形状を有する基板用導電性弾性部材１５０８の一部がベース体１５０２の裏面から突出するようにベース平板１５０２ａの裏面側に基板用導電性弾性部材１５０８が嵌め込められるという点、液晶出力基板１５３０のグランド（ＧＮＤ）の一部が露出する領域ＲＯＰが液晶出力基板１５３０の裏面（ハンダ面）側に設けられているという点、液晶出力基板１５３０のグランド（ＧＮＤ）のテストパッドが液晶出力基板１５３０の表面（実装面）側に設けられているという点、及びカバー体１５０１にテストパッドにプローブを接触させる開口部が形成されているという点で第１実施形態に係る周辺制御基板ボックスによるノイズ対策の構成と相違している。

【２０５６】

［第５実施形態に係る周辺制御基板ボックスのベース体］

第５実施形態に係る周辺制御基板ボックスのベース体１５０２は、第１実施形態に係る周辺制御基板ボックスのベース体１５０２の形状と大部分が類似し、液晶出力基板１５３０の裏面（ハンダ面）のグランド（ＧＮＤ）の一部が露出する領域ＲＯＰと対応する位置に、演出表示装置１６００の金属製裏蓋と接触することができる基板用導電性弾性部材１５０８を嵌め込む上下方向に長い矩形状のリブ部１５０２ａｗがベース平板１５０２ａの表面から前方へ向かって所定距離寸法（液晶出力基板１５３０の裏面（ハンダ面）と接触しない距離寸法。）を有して突出して形成されている。この矩形状のリブ部１５０２ａｗの上下左右方向の中央におけるベース平板１５０２ａには、正方形（一辺が８ｍｍ）を有する挿入口１５０２ａｚが形成されている。Ｔ字形状を有する基板用導電性弾性部材１５０８は、クッション性（弾性）を有する導電部材であり、導電性被覆部１５０８ａと、導電性被覆部１５０８ａにより被覆される芯材としてのＴ字形状を有する発泡体１５０８ｂと、から構成されている。導電性被覆部１５０８ａとしては、例えば、ポリエステル織布に銅及びニッケルの金属被膜が形成されているもの、ポリイミドフィルムに銅及びニッケルの導電層が形成されるもの等を挙げることができる。発泡体１５０８ｂとしては、例えば、耐熱性を有するポリウレタンフォームを挙げることができる。Ｔ字形状を有する発砲体１５８０８ｂは、上下方向に長い直方体の形状を有するベース部（図２３７におけるＴ字形状を有する発砲体１５８０８ｂを右側方から見ると、幅が約３．５ｍｍ、奥行きが約８

ｍｍ、高さが約１６ｍｍ）の中央から後方へ向かって前後方向に長い直方体の形状を有する突出部（図２３７におけるＴ字形状を有する発砲体１５８０８ｂを右側方から見ると、幅が約１１．５ｍｍ、奥行きが約８ｍｍ、高さが約８ｍｍ）を有している。基板用導電性弾性部材１５０８は、周辺制御ユニット１５００の組み立てた後に（周辺制御ユニット１５００の組み立て方法は、第１実施形態に係る周辺制御基板ボックスの組み立て方法と同一であり、その説明を省略する。）、ベース体１５０２に形成される挿入口１５０２ａｚにＴ字形状を有する基板用導電性弾性部材１５０８の上下方向に長い直方体の形状を有するベース部を挿入して上下方向へ押し込んで嵌め込む。これにより、図２３８（ａ）に示すように、Ｔ字形状を有する基板用導電性弾性部材１５０８の前後方向に長い直方体の形状を有する突出部がベース平板１５０２ａの裏面側から後方へ向かって突出した状態となる。

【２０５７】

このようにＴ字形状を有する基板用導電性弾性部材１５０８の上下方向に長い直方体の形状を有するベース部がベース体１５０２に形成される挿入口１５０２ａｚに挿入されて押し込まれると、図２３８（ｂ）に示すように、上下方向に長い直方体の形状を有するベース部の前面が液晶出力基板１５３０の裏面（ハンダ面）のグランド（ＧＮＤ）の一部が露出する領域ＲＯＰを押し当てられて接触した状態となると共に、上下方向に長い直方体の形状を有するベース部の上裏面側及び下裏面側（つまり、前後方向に長い直方体の形状を有する突出部が接続されていない上下方向に長い直方体の形状を有するベース部の裏面）がベース平板１５０２ａの表面にそれぞれ係止された状態となる。

【２０５８】

このように、基板用導電性弾性部材１５０８をＴ字形状とすると共に、ベース体１５０２のベース平板１５０２ａにリブ部１５０２ａｗとリブ部１５０２ａｗの上下左右方向の中央に挿入口１５０２ａｚを形成するという極めて単純な構成により、基板用導電性弾性部材１５０８を挿入口１５０２ａｚに挿入して押し込んで嵌め込むと、上述したように、基板用導電性弾性部材１５０８における上下方向に長い直方体の形状を有するベース部の上裏面側及び下裏面側（つまり、前後方向に長い直方体の形状を有する突出部が接続されていない上下方向に長い直方体の形状を有するベース部の裏面）がベース平板１５０２ａの表面にそれぞれ係止された状態となるため、挿入口１５０２ａｚから基板用導電性弾性部材１５０８が外れ難くすることができるようになっており手扱いがよい。

【２０５９】

なお、周辺制御基板１５１０の裏面（ハンダ面）側においては、ベース体１５０２に形成される断線防止リブ部１５０２ａａ１～１５０２ａａ３と対応する領域には、断線防止リブ部１５０２ａａ１～１５０２ａａ３の外形と比べて一回り大きい形状を有する箔抜き領域ＮＲ１，ＮＲ２，ＮＲ３がそれぞれ形成され、断線防止リブ部１５０２ａａ１～１５０２ａａ３の前面（当接面）が箔抜き領域ＮＲ１，ＮＲ，ＮＲ３にそれぞれ当接する。これらの箔抜き領域ＮＲ１，ＮＲ２，ＮＲ３は、ベース体１５０２に形成される断線防止リブ部１５０２ａａ１～１５０２ａａ３からノイズ（電磁波ノイズ）の侵入を阻止することができるように、周辺制御基板１５１０のグランド（ＧＮＤ）から隔離されている。換言すると、ノイズ（電磁波ノイズ）がベース体１５０２に形成される断線防止リブ部１５０２ａａ１～１５０２ａａ３から箔抜き領域ＮＲ１，ＮＲ２，ＮＲ３を介して、周辺制御基板１５１０のベタグランドへ侵入することができない「ノイズが抜けないルート」が形成される。

【２０６０】

演出表示装置１６００は、上述したように、額縁状の金属製フレームと、この金属製フレームの後面全体を塞ぐ金属製裏蓋と、透明な合成樹脂製ボックスと、により構成されている。額縁状の金属製フレームには、液晶パネル、バックライト、駆動回路等が収容されている。この額縁状の金属製フレームの後面全体が金属製裏蓋により塞がれて固定されることで額縁状の金属製フレームと金属製裏蓋とが電気的に接続された状態となっており、透明な合成樹脂製ボックスに収容されている。周辺制御ユニット１５００を演出表示装置１

６００の透明な合成樹脂製ボックスの裏面側に形成される取付部に取り付けると、ベース体１５０２の裏面から突出する基板用導電性弾性部材１５０８の前後方向に長い直方体の形状を有する突出部が演出表示装置１６００の金属製裏蓋に当接して押しつぶされた状態（本第５実施形態では、基板用導電性弾性部材１５０８の前後方向に長い直方体の形状を有する突出部が前後方向へ約４．５ｍｍつぶれて上下方向へ広がる状態）となって、Ｔ字形状を有する基板用導電性弾性部材１５０８がＨ字形状に変形することにより、その反発力として、基板用導電性弾性部材１５０８は、液晶出力基板１５３０の裏面（ハンダ面）のグランド（ＧＮＤ）の一部が露出する領域ＲＯＰとの接触面と、演出表示装置１６００の金属製裏蓋との接触面と、にそれぞれに加わった状態となり、電気的な接続を良好とする状態を維持し、液晶出力基板１５３０の裏面（ハンダ面）のグランド（ＧＮＤ）と、演出表示装置１６００の金属製裏蓋と、が電気的に確実に接続される状態とし、周辺制御ユニット１５００に収容される液晶出力基板１５３０のグランド（ＧＮＤ）ライン（液晶出力基板１５３０のグランド（ＧＮＤ）は、周辺制御基板１５１０や周辺データＲＯＭ基板１５２０のグランド（ＧＮＤ）と電気的に接続されている。）と電気的に接続されて、同一のグランド（ＧＮＤ）とすることができる。これにより、演出表示装置１６００の金属製裏蓋を、基板用導電性弾性部材１５０８を介して、液晶出力基板１５３０のグランド（ＧＮＤ）ライン（液晶出力基板１５３０のグランド（ＧＮＤ）は、周辺制御基板１５１０や周辺データＲＯＭ基板１５２０のグランド（ＧＮＤ）と電気的に接続されている。）と電気的に接続される状態とし、周辺制御ユニット１５００に収容される周辺制御基板１５１０等のグランド（ＧＮＤ）ラインと電気的に接続されて、同一のグランド（ＧＮＤ）とすることができるため、ノイズ（電磁波ノイズ）に対して強い環境を周辺制御ユニット１５００（周辺制御基板１５１０、周辺データＲＯＭ基板１５２０、及び液晶出力基板１５３０等の各種基板）と周辺制御ユニット１５００（周辺制御基板１５１０、周辺データＲＯＭ基板１５２０、及び液晶出力基板１５３０等の各種基板）の周辺とに対して構築することができる。したがって、電磁波ノイズによる影響を低減することができる。

【２０６１】

第５実施形態に係る周辺制御基板ボックスにおけるカバー体１５０１、ベース体１５０２、及び配線カバー体１５０３は、透明な非導電性の樹脂製として成型されて構成され、カバー体１５０１の内部空間内には、周辺制御基板１５１０、周辺データＲＯＭ基板１５２０、及び液晶出力基板１５３０等の各種基板がそれぞれ所定位置に取り付けられたのち、Ｔ字形状を有する基板用導電性弾性部材１５０８の上下方向に長い直方体の形状を有するベース部がベース体１５０２に形成される挿入口１５０２ａｚに挿入されて、周辺制御ユニット１５００を演出表示装置１６００の透明な合成樹脂製ボックスの裏面側に形成される取付部に取り付けると、演出表示装置１６００の金属製裏蓋が、基板用導電性弾性部材１５０８を介して、液晶出力基板１５３０のグランド（ＧＮＤ）ライン（液晶出力基板１５３０のグランド（ＧＮＤ）は、周辺制御基板１５１０や周辺データＲＯＭ基板１５２０のグランド（ＧＮＤ）と電気的に接続されている。）へ接続されるように構成されている。また、周辺制御基板１５１０、周辺データＲＯＭ基板１５２０、及び液晶出力基板１５３０のグランド（ＧＮＤ）ラインは、上述したように、本体枠４の基板ユニット６２０における電源基板６３０のグランド（ＧＮＤ）ラインと電気的に接続されている。このため、演出表示装置１６００に侵入したノイズ（電磁波ノイズ）を、演出表示装置１６００の金属製裏蓋を介して、基板グランド（各種基板のグランド（ＧＮＤ））へ導いて除去するという「ノイズが抜けるルート」が形成されることができるようになっている。これにより、各種基板（電源基板６３０を含む。）に、このようなノイズ（電磁波ノイズ）を除去する専用のフィルタをそれぞれ備える必要がなく、各種基板（電源基板６３０を含む。）のコストダウンに寄与することができる。

【２０６２】

なお、液晶出力基板１５３０の表面（実装面）には、液晶出力基板１５３０（）のグランド（ＧＮＤ）（液晶出力基板１５３０（）のグランド（ＧＮＤ）は、周辺制御基板１５１０や周辺データＲＯＭ基板１５２０のグランド（ＧＮＤ）と電気的に接続されている。）

の図示しないテストパッドが液晶出力基板１５３０の表面（実装面）側に設けられている。カバー体１５０１には、図２４０に示すように、液晶出力基板１５３０の表面（実装面）側に設けられている図示しないテストパッドに対してコンタクトプローブの先端部（以下、単に「コンタクトプローブ」と記載する場合がある。いわゆる「テスタ」の導通チェックを行う「テストリード」であってもよい。）を挿入して接触させることができる開口部１５０１ａｔが形成されている。このコンタクトプローブをテストパットに接触させることで、パチンコ機１が遊技ホールに設置された状態においても、演出表示装置１６００の金属製裏蓋と液晶出力基板１５３０のグランド（ＧＮＤ）とが電気的に接続されているか否かの検査作業を検査業者が簡単に行うことができるようになっている。

【２０６３】

［第５実施形態に係る周辺制御基板ボックスの各種基板のグランドの一部の露出領域］

ここで、液晶出力基板１５３０の裏面（ハンダ面）のグランド（ＧＮＤ）の一部が露出する領域ＲＯＰについて説明する。液晶出力基板１５３０の裏面（ハンダ面）のグランド（ＧＮＤ）の一部に形成される領域ＲＯＰは、図２４１（ａ），（ｂ）に示すように、液晶出力基板１５３０の裏面（ハンダ面）１５３０ｙの銅箔面１５３０ｙｐに形成される基板グランド（ＧＮＤ）（つまり、ベタグランド）の一部が基板用導電性弾性部材１５０８の上下方向に長い直方体の形状を有するベース部の前面形状より大きい形状であってベース平板１５０２ａの表面に形成される矩形状のリブ部１５０２ａｗの内側に配置されて剥き出しとなるように、液晶出力基板１５３０の裏面（ハンダ面）１５３０ｙの銅箔面１５３０ｙｐ上にレジスト液が塗布されて裏面（ハンダ面）側レジスト層１５３０ｙｒが形成されている。

【２０６４】

なお、領域ＲＯＰとしてベタグランドを剥き出しとせずに、スルーホールを利用する方法を採用することもできる。例えば、図２４１（ｃ），（ｄ）に示すように、液晶出力基板１５３０の裏面（ハンダ面）１５３０ｙにおける領域ＲＯＰには、液晶出力基板１５３０の表面（実装面）のベタグランドと電気的に接続するスルーホールを上下方向と左右方向とにそれぞれ複数並べると共に、液晶出力基板１５３０の裏面（ハンダ面）１５３０ｙの銅箔面１５３０ｙｐに各スルーホールの周囲にランドが形成されるように、この銅箔面１５３０ｙｐ上にレジスト液を塗布して裏面（ハンダ面）側レジスト層１５３０ｙｒを形成することができる。

【２０６５】

また、本第５実施形態においては、ＦＡＮ取付凹部１５０１ａａに取り付けられる空冷ファンＦＡＮの羽部が回転すると、この回転により羽部を介して、カバー体１５０１の内側空間の空気を周辺制御ユニット１５００の外部へ向かってはき出すことにより、周辺制御ユニット１５００の外部から空気を、カバー体１５０１のカバー平板１５０１ａに複数形成される通風孔１５０１ａｚを介して、取り込む際に、カバー体１５０１のカバー平板１５０１ａに複数形成される通風孔１５０１ａｚのそれぞれに流入する空気の流速を小さく抑えることができるようになっているが、ＦＡＮ取付凹部１５０１ａａに取り付けられる空冷ファンＦＡＮの羽部が回転すると、この回転により羽部を介して、空気を吸い込んで周辺制御ＩＣ１５１０ａへ向かって空気を送り出すようにしてもよい。換言すると、空冷ファンＦＡＮを、カバー体１５０１とベース体１５０２との空間内における空気の交換を主目的とせず、単に周辺制御ＩＣ１５１０ａを空冷することを主目的としてもよい。

【２０６６】

なお、第５実施形態に係る周辺制御基板ボックスによるノイズ対策の構成においても、カバー平板１５０１ａの裏面側に形成される取付ボス孔１５０１ａｇ１～１５０１ａｇ４の取付面（ボス面）と当接する周辺制御基板１５１０の表面（実装面）１５１０ｘ側のランド１５１０ｒｆ１～１５１０ｒｆ４の表面である銅箔に対しては、周辺制御基板１５１０の表面（実装面）１５１０ｘにメタルマスクを置いてメタルマスク上にスキージ（へらのようなもの）を用いて半田ペーストを広げることでメタルマスクに形成される穴から塗布し、周辺制御基板１５１０の表面（実装面）１５１０ｘをリフロー炉に入れて熱で半田ペ

ーストを乾燥させるようにしているが、周辺制御基板１５１０の表面（実装面）を半田槽へ流してハンダ付けしてもよい。この場合、周辺制御基板１５１０の表面（実装面）１５１０ｘ側のランド１５１０ｒｆ１～１５１０ｒｆ４と、カバー平板１５０１ａの裏面側に形成される取付ボス孔１５０１ａｇ１～１５０１ａｇ４の取付面（ボス面）と、が当接する面積が減少して電気的な接続性が悪くならないように、周辺制御基板１５１０の表面（実装面）のランド１５１０ｒｆ１～１５１０ｒｆ４の表面である銅箔には、ハンダ付けが一部に盛り上がらないように均一にする必要がある。

【２０６７】

例えば、周辺制御基板１５１０の表面（実装面）のランド１５１０ｒｆ１～１５１０ｒｆ４の表面である銅箔には、その一部がレジスト液により塗布されて所定の形状に形成されるレジスト層１５１０ｘｒが形成され、周辺制御基板１５１０の表面（実装面）のランド１５１０ｒｆ１～１５１０ｒｆ４の表面である銅箔の所定の形状を有する領域にハンダ付けされることとなる。具体的には、「所定の形状」として、周辺制御基板１５１０の表面（実装面）のランド１５１０ｒｆ１～１５１０ｒｆ４の表面である銅箔に対して、図２２１（ａ）に示したように、レジストが所定幅を有する円が同心円状に複数形成される形状（レジストが所定幅を有する単一円が同心円状に形成される形状でもよい。）、図２２１（ｂ）に示したように、レジストが所定幅及び所定長さを有する矩形形状がランド１５１０ｒｆ１～１５１０ｒｆ４の中心として環状に複数配列された菊状に形成される形状、図２２１（ｃ）に示したように、レジストが所定幅を有する縦方向の線と横方向の線とから構成される格子状に形成される形状（レジストが所定幅を有する縦方向のみ線が所定距離寸法だけ離間して複数形成される形状でもよいし、レジストが所定幅を有する横方向のみ線が所定距離寸法だけ離間して複数形成される形状でもよい。）、図２２１（ｄ）に示したように、レジストが所定幅を有する線が所定距離だけ離間して右上がりの線が斜線状に複数形成される形状（レジストが所定幅を有する線が所定距離だけ離間して右下がりの線が斜線状に複数形成される形状でもよい。）、図示しないが小さな円形状の集合した形状等を挙げることができる。

【２０６８】

このように、周辺制御基板１５１０の表面（実装面）のランド１５１０ｒｆ１～１５１０ｒｆ４の表面である銅箔の一部がレジスト液により塗布されて所定の形状に形成されるレジスト層１５１０ｘｒが形成され、周辺制御基板１５１０の表面（実装面）のランド１５１０ｒｆ１～１５１０ｒｆ４の表面である銅箔の所定の形状を有する領域にハンダ付けされるようになっているため、周辺制御基板１５１０の表面（実装面）のランド１５１０ｒｆ１～１５１０ｒｆ４の表面である銅箔にハンダ付けされるハンダの量を抑制することができる（換言すると、レジスト液により塗布されて所定の形状としては、周辺制御基板１５１０の表面（実装面）のランド１５１０ｒｆ１～１５１０ｒｆ４の表面である銅箔にハンダ付けされるハンダの量を抑制することができるという効果を発揮できるものであればよい）。これにより、周辺制御基板１５１０の表面（実装面）を半田槽へ流してハンダ付けする場合に、周辺制御基板１５１０の表面（実装面）のランド１５１０ｒｆ１～１５１０ｒｆ４の表面である銅箔には、ハンダ付けが一部に盛り上がらないように均一にすることができる。このようにハンダ付けされたハンダは、カバー平板１５０１ａの裏面側に形成される取付ボス孔１５０１ａｇ１～１５０１ａｇ４の取付面（ボス面）と周辺制御基板１５１０の表面（実装面）１５１０ｘ側のランド１５１０ｒｆ１～１５１０ｒｆ４とを電気的に接続可能に被覆している。

【２０６９】

なお、このようなレジストにより形成される所定の図形を、金属製のナベねじのナベ部の座面（頭部の座面）と当接する周辺制御基板１５１０の裏面（ハンダ面）１５１０ｙ側のランド１５１０ｒｂ１～１５１０ｒｂ４の表面である銅箔に対しても行ってもよい。このようにハンダ付けされたハンダは、周辺制御基板１５１０の裏面（ハンダ面）１５１０ｙ側のランド１５１０ｒｂ１～１５１０ｒｂ４と金属製のナベねじのナベ部の座面（頭部の座面）とを電気的に接続可能に被覆している。また、周辺制御基板１５１０の表面（実装

面）を半田槽へ流してハンダ付けする場合に、周辺制御基板１５１０の表面（実装面）のランド１５１０ｒｆ１～１５１０ｒｆ４の表面である銅箔をレジスト液で塗布して覆うことにより、ランド１５１０ｒｆ１～１５１０ｒｆ４の表面に塗布されたレジスト層の厚みを均一としてもよい。

【２０７０】

また、第５実施形態に係る周辺制御基板ボックスによるノイズ対策の構成においても、周辺制御基板１５１０をカバー平板１５０１ａの裏面側に固定する際に、金属製のナベねじを用いていたが、金属製のナベねじに平座金、ばね座金、歯付き座金（「菊座金」ともいう。）等の金属製の座金を通して周辺制御基板１５１０をカバー平板１５０１ａの裏面側に固定するようにしてもよい。

【２０７１】

また、第５実施形態に係る周辺制御基板ボックスによるノイズ対策の構成においては、額縁状の金属製フレームの後面全体が金属製裏蓋により塞がれて固定されることで額縁状の金属製フレームと金属製裏蓋とが電気的に接続された状態となって透明な合成樹脂製ボックスに収容されており、この透明な合成樹脂製ボックスと、ベース体１５０２と、が別体としてそれぞれ成型されていたが、この透明な合成樹脂製ボックスにベース体１５０２を一体に成型するようにしてもよい。

【２０７２】

因みに、従来より、遊技進行や遊技利益に関する制御を行う主制御基板、遊技の進行に伴って実行する演出に関する制御を行うサブ制御基板、画像表示装置等の表示制御を行う画像制御基板等の基板が裏側に配置される遊技機が提案されている（例えば、特開２０１７－２１７３８１号公報（段落［００５１］、及び図２））。ところで、この文献に記載される遊技機のように、遊技機は、ホールに背向かいで複数列設されるため、背向かいの遊技機から発生したノイズの影響を電子部品が実装される基板が受ける環境下にあり、ノイズにより基板が誤動作するおそれがあった。

【２０７３】

また、従来より、図柄、各種背景画像、文字、キャラクタなどの画像データが記憶されるＲＯＭ、種々の画像を表示する表示装置を制御するＣＰＵ等が実装される演出制御基板等を備える遊技機が提案されている（例えば、特開２０１６－１１６６６７号公報（図２））。ところで、遊技ホールの島設備から遊技機に供給される遊技球は、遊技ホールの島設備と遊技機とを循環する際に遊技球が互いに擦れ合うことで静電気を帯びるため、遊技機には遊技球からの静電放電による電磁波ノイズの対策を講ずる必要がある。

【２０７４】

また、従来より、図柄、各種背景画像、文字、キャラクタなどの画像データが記憶されるＲＯＭ、種々の画像を表示する表示装置を制御するＣＰＵ等の電子部品が実装される基板を備える遊技機が提案されている（例えば、特開２０１６－１１６６６７号公報（図２））。ところで、遊技機に備える各種基板には、基板ボックスに収容されているものもあるため、基板を基板ボックスに収容するための作業を行う必要があり、作業効率の向上が求められていた。

【２０７５】

［フレキシブルフラットケーブルの取り付け方法］

次に、液晶出力基板１５３０の表面（実装面）１５３０ｘに備えるコネクタＣＮ１０と接続されるフレキシブルフラットケーブルについて、図２４２～図２４４を参照して説明する。図２４２はフレキシブルフラットケーブルの正面斜視図であり、図２４３はフレキシブルフラットケーブルが演出表示装置の裏面側のコネクタと電気的に接続された状態を示す図（ａ）であり、フレキシブルフラットケーブルが液晶出力基板のコネクタと電気的に接続された状態を示す図（ｂ）であり、（ａ）に示したＢ部及び（ｂ）に示したＣ部の一部拡大図であってフレキシブルフラットケーブルが各コネクタと電気的に接続された状態を切り欠き部を通して示す図（ｃ）であり、図２４４はフレキシブルフラットケーブルが演出表示装置の裏面側のコネクタと電気的に正常に接続されていない状態を示す図（ａ）

であり、フレキシブルフラットケーブルが液晶出力基板のコネクタと電気的に正常に接続されていない状態を示す図（ｂ）である。なお、図２４３（ｃ）において、図２４３（ｂ）に示すコネクタＣＮ１０の向きを９０度だけ反時計方向へ回転させた状態として表した。

【２０７６】

［フレキシブルフラットケーブルの形状］

液晶出力基板１５３０の表面（実装面）１５３０ｘに備えるコネクタＣＮ１０に電気的に接続されるフレキシブルフラットケーブルＬＦＣは、演出表示装置１６００に描画データを伝送するための複数の平型導体が平行に配置されると共に、これらの複数の平型導体が絶縁体で被覆されているものであり、通常の丸型電気配線と比べると、通常の丸型電気配線の厚み（直径）の３分の１から５分の１ぐらいの厚みを有し、図２４２に示すように、所定幅を有する上下方向に長い帯状の本体ＬＦＣａの上端側には本体ＬＦＣａの裏面側に複数の平型導体の電極ＬＦＣｂａが所定長さを有して剥き出しに配置され、本体ＬＦＣａの表面側に所定の厚さを有すると共に剥き出しされた複数の平型導体の電極ＬＦＣｂａの所定長さより長い矩形形状を有する電極ＬＦＣｂａを補強するための補強板ＬＦＣｃａが形成されているのに対して、この本体ＬＦＣａの下端側には本体ＬＦＣａの裏面側に複数の平型導体の電極ＬＦＣｂｂが所定長さを有して剥き出しに配置され、本体ＬＦＣａの表面側に所定の厚さを有すると共に剥き出しされた複数の平型導体の電極ＬＦＣｂｂの所定長さより長い矩形形状を有する電極ＬＦＣｂｂを補強するための補強板ＬＦＣｃｂが形成されている。

【２０７７】

この本体ＬＦＣａの上端側に形成される複数の平型導体の電極ＬＦＣｂａは、演出表示装置１６００における液晶パネル１６００ａの裏面上側を覆う金属製裏蓋１６００ｂに設けられるコントロール基板１６００ｃのコネクタ１６００ｃａ（図２４３（ａ）を参照。）と電気的に接続されるのに対して、この本体ＬＦＣａの下端側に形成される複数の平型導体の電極ＬＦＣｂｂは、液晶出力基板１５３０の表面（実装面）１５３０ｘに備えるコネクタＣＮ１０と電気的に接続される。

【２０７８】

フレキシブルフラットケーブルＬＦＣは、本体ＬＦＣａの上端から上下方向所定距離寸法を有する部分で左側へ９０度折り曲げられて形成されることで右上がり直線状の折り曲げ部ＬＦＣｄを有する（上下方向所定距離寸法は、本体ＬＦＣａの上端から右上がり直線の中心点までの距離寸法である。）と共に、この折り曲げ部ＬＦＣｄ（右上がり直線の中心点）から左右方向所定距離寸法（本実施形態では、上下方向所定距離寸法の１．５倍の距離寸法を有する。）において手前方向へ滑らかに曲げられて右方向へそのまま滑らかに曲げられる曲げ部ＬＦＣｅが形成されて前後方向（奥行き方向）で平行となるように形成されている。

【２０７９】

［フレキシブルフラットケーブルの演出表示装置への取り付け方法］

フレキシブルフラットケーブルＬＦＣの本体ＬＦＣａの上端側に形成される複数の平型導体の電極ＬＦＣｂａは、図２４３（ａ）に示すように、演出表示装置１６００における液晶パネル１６００ａの裏面上側を覆うコントロール基板１６００ｃのコネクタ１６００ｃａと電気的に接続される。このコントロール基板１６００ｃは、液晶出力基板１５３０の表面（実装面）１５３０ｘから伝送される描画データを復元して液晶パネル１６００ａに画像を表示する各種電子部品や液晶パネル１６００ａのバックライトを構成するＬＥＤ（又は、冷陰極管）の輝度を調整する各種電子部品が実装されるものである。

【２０８０】

フレキシブルフラットケーブルＬＦＣの本体ＬＦＣａの上端側に形成される複数の平型導体の電極ＬＦＣｂａがコネクタ１６００ｃａの奥まで正常に挿入されないことにより、複数の平型導体の電極ＬＦＣｂａと、複数の平型導体の電極ＬＦＣｂａと対応するコネクタ１６００ｃａの電極と、の電極間に接触不良が生ずる場合があるし、フレキシブルフラットケーブルＬＦＣの本体ＬＦＣａの上端側に形成される複数の平型導体の電極ＬＦＣｂａ

がコネクタ１６００ｃａに対して斜めに挿入されることにより、複数の平型導体の電極ＬＦＣｂａの一の電極ＬＦＣｂａが、この一の電極ＬＦＣｂａと対応するコネクタ１６００ｃａの電極と、この電極と隣り合う他の電極と、にそれぞれ接触することでショートし、コントロール基板１６００ｃやコントロール基板１６００ｃに実装される各種電子部品が破損する場合がある。

【２０８１】

そこで、本実施形態では、演出表示装置１６００における金属製裏蓋１６００ｂの裏面側に、フレキシブルフラットケーブルＬＦＣの本体ＬＦＣａの上端側に形成される複数の平型導体の電極ＬＦＣｂａをコネクタ１６００ｃａに正常に挿入するための目印となるように、フレキシブルフラットケーブルＬＦＣの本体ＬＦＣａの左端辺と対応する位置の左近傍（つまり、フレキシブルフラットケーブルＬＦＣの本体ＬＦＣａの左端辺と対応する位置の近傍左外側）に上下方向に直線状に延びる長い実線のガイドラインＧ１Ｌと、フレキシブルフラットケーブルＬＦＣの本体ＬＦＣａの右端辺と対応する位置の右近傍（つまり、フレキシブルフラットケーブルＬＦＣの本体ＬＦＣａの右端辺と対応する位置の近傍右外側）に上下方向に直線状に延びる長い実線のガイドラインＧ１Ｒと、が刻印されている。このガイドラインＧ１Ｌ，Ｇ１Ｒは、金属製裏蓋１６００ｂをプレス機でプレス加工の工程で打刻される。

【２０８２】

また、本実施形態では、演出表示装置１６００における金属製裏蓋１６００ｂの裏面側に、フレキシブルフラットケーブルＬＦＣの本体ＬＦＣａの上端側に形成される複数の平型導体の電極ＬＦＣｂａがコネクタ１６００ｃａに正常に挿入された後に、フレキシブルフラットケーブルＬＦＣの本体ＬＦＣａの上端側に形成される複数の平型導体の電極ＬＦＣｂａがコネクタ１６００ｃａから外れたり、フレキシブルフラットケーブルＬＦＣの本体ＬＦＣａの上端側に形成される複数の平型導体の電極ＬＦＣｂａと、それぞれの電極ＬＦＣｂａと対応するコネクタ１６００ｃａの電極と、が斜めにズレて隣り合う他の電極と接触してショートを防止するために、フレキシブルフラットケーブルＬＦＣを金属製裏蓋１６００ｂの裏面側に固定する左右方向に長い矩形形状を有する固定シールＳＦＣを貼り付ける領域として、固定シールＳＦＣの四隅と対応する位置から少し外側へ向かって離れたところに、鉤括弧（「）状のガイドラインＧ２がそれぞれ刻印されている。これらの４つの鉤括弧（「）状のガイドラインＧ２，Ｇ２，Ｇ２，Ｇ２は、金属製裏蓋１６００ｂをプレス機でプレス加工の工程で打刻される。フレキシブルフラットケーブルＬＦＣが固定シールＳＦＣにより金属製裏蓋１６００ｂの裏面側に固定されることで、フレキシブルフラットケーブルＬＦＣの姿勢を固定することができる。

【２０８３】

［フレキシブルフラットケーブルの液晶出力基板への取り付け方法］

フレキシブルフラットケーブルＬＦＣの本体ＬＦＣａの下端側に形成される複数の平型導体の電極ＬＦＣｂｂは、図２４３（ｂ）に示すように、液晶出力基板１５３０の表面（実装面）１５３０ｘに備えるコネクタＣＮ１０と電気的に接続される。この液晶出力基板１５３０は、コネクタＣＮ１０のほかに、上述したコネクタＣＮ８，ＣＮ９、及び周辺制御基板１５１０と基板間接続するための特殊コネクタＳＣＮ４なども実装されている。なお、液晶出力基板１５３０の特殊コネクタＳＣＮ４が上述した周辺制御基板１５１０の特殊コネクタＳＣＮ２に挿入されて電気的に接続されることにより、上述したように、周辺制御基板１５１０からの演出表示装置の表示装置に描画する画像の描画データが周辺制御基板１５１０からの特殊コネクタＳＣＮ２、そして液晶出力基板１５３０の特殊コネクタＳＣＮ４を介して液晶出力基板１５３０に入力され、液晶出力基板１５３０のコネクタＣＮ１０からフレキシブルフラットケーブルＬＦＣ、そして演出表示装置１６００における液晶パネル１６００ａの裏面上側を覆うコントロール基板１６００ｃのコネクタ１６００ｃａを介してコントロール基板１６００ｃに入力されることとなる。

【２０８４】

フレキシブルフラットケーブルＬＦＣの本体ＬＦＣａの下端側に形成される複数の平型導

体の電極ＬＦＣｂｂがコネクタＣＮ１０の奥まで正常に挿入されないことにより、複数の平型導体の電極ＬＦＣｂｂと、複数の平型導体の電極ＬＦＣｂｂと対応するコネクタＣＮ１０の電極と、の電極間に接触不良が生ずる場合があるし、フレキシブルフラットケーブルＬＦＣの本体ＬＦＣａの下端側に形成される複数の平型導体の電極ＬＦＣｂｂがコネクタＣＮ１０に対して斜めに挿入されることにより、複数の平型導体の電極ＬＦＣｂｂの一の電極ＬＦＣｂｂが、この一の電極ＬＦＣｂｂと対応するコネクタＣＮ１０の電極と、この電極と隣り合う他の電極と、にそれぞれ接触することでショートし、液晶出力基板１５３０や液晶出力基板１５３０と電気的に接続される周辺制御基板１５１０に実装される各種電子部品が破損する場合がある。

【２０８５】

そこで、本実施形態では、液晶出力基板１５３０の表面（実装面）１５３０ｘに、フレキシブルフラットケーブルＬＦＣの本体ＬＦＣａの下端側に形成される複数の平型導体の電極ＬＦＣｂｂをコネクタＣＮ１０に正常に挿入するための目印となるように、フレキシブルフラットケーブルＬＦＣの本体ＬＦＣａの上端辺と対応する位置の上近傍（つまり、フレキシブルフラットケーブルＬＦＣの本体ＬＦＣａの上端辺と対応する位置の近傍上外側）に左右方向に直線状に延びる長い実線のガイドラインＧ３Ｕと、フレキシブルフラットケーブルＬＦＣの本体ＬＦＣａの下端辺と対応する位置の下近傍（つまり、フレキシブルフラットケーブルＬＦＣの本体ＬＦＣａの下端辺と対応する位置の近傍下外側）に左右方向に直線状に延びる長い実線のガイドラインＧ３Ｌと、がシルク印刷により印刷されている。

【２０８６】

なお、本実施形態では、フレキシブルフラットケーブルＬＦＣの本体ＬＦＣａが配置される領域には、スルーホールが形成されていない。これは、フレキシブルフラットケーブルＬＦＣの本体ＬＦＣａが液晶出力基板１５３０の表面（実装面）１５３０ｘと擦れることにより、フレキシブルフラットケーブルＬＦＣの平型導体が露出しても、この露出したフレキシブルフラットケーブルＬＦＣの平型導体がスルーホールによりショートすることを防止するためである。

【２０８７】

［フレキシブルフラットケーブルの補強板とコネクタとの関係］

フレキシブルフラットケーブルＬＦＣの本体ＬＦＣａの上端側に形成される複数の平型導体の電極ＬＦＣｂａを、演出表示装置１６００における液晶パネル１６００ａの裏面上側を覆うコントロール基板１６００ｃのコネクタ１６００ｃａへ挿入するときは、平型導体の電極ＬＦＣｂａがコネクタ１６００ｃａの電極と対向する向きとなってフレキシブルフラットケーブルＬＦＣの裏面側となるのに対して、電極ＬＦＣｂａを補強するための補強板ＬＦＣｃａがフレキシブルフラットケーブルＬＦＣの表面側となる。これにより、フレキシブルフラットケーブルＬＦＣの本体ＬＦＣａの上端側に形成される複数の平型導体の電極ＬＦＣｂａが演出表示装置１６００における液晶パネル１６００ａの裏面上側を覆うコントロール基板１６００ｃのコネクタ１６００ｃａの奥まで正常に挿入された状態では、図２４３（ｃ）に示すように、補強板ＬＦＣｃａの下端辺と、コネクタ１６００ｃａの下端辺と、が前後方向に合致して重なる位置関係に配置されることとなる。なお、フレキシブルフラットケーブルＬＦＣの本体ＬＦＣａの上端側に形成される複数の平型導体の電極ＬＦＣｂａが演出表示装置１６００における液晶パネル１６００ａの裏面上側を覆うコントロール基板１６００ｃのコネクタ１６００ｃａの奥まで挿入されないと、つまり押し込み量が不足すると、電極ＬＦＣｂａを補強するための補強板ＬＦＣｃａの下端辺周辺部分がコネクタ１６００ｃａから露出した状態となる。

【２０８８】

また、フレキシブルフラットケーブルＬＦＣの本体ＬＦＣａの下端側に形成される複数の平型導体の電極ＬＦＣｂｂを、液晶出力基板１５３０の表面（実装面）１５３０ｘに備えるコネクタＣＮ１０へ挿入するときは、平型導体の電極ＬＦＣｂｂがコネクタＣＮ１０の電極と対向する向きとなってフレキシブルフラットケーブルＬＦＣの裏面側となるのに対

して、電極ＬＦＣｂｂを補強するための補強板ＬＦＣｃｂがフレキシブルフラットケーブルＬＦＣの表面側となる。これにより、フレキシブルフラットケーブルＬＦＣの本体ＬＦＣａの下端側に形成される複数の平型導体の電極ＬＦＣｂｂが液晶出力基板１５３０の表面（実装面）１５３０ｘに備えるコネクタＣＮ１０の奥まで正常に挿入された状態では、図２４３（ｃ）に示すように、補強板ＬＦＣｃｂの下端辺と、コネクタＣＮ１０の下端辺と、が前後方向に合致して重なる位置関係に配置されることとなる。なお、フレキシブルフラットケーブルＬＦＣの本体ＬＦＣａの下端側に形成される複数の平型導体の電極ＬＦＣｂｂが液晶出力基板１５３０の表面（実装面）１５３０ｘに備えるコネクタＣＮ１０の奥まで挿入されないと、つまり押し込み量が不足すると、電極ＬＦＣｂｂを補強するための補強板ＬＦＣｃｂの下端辺周辺部分がコネクタＣＮ１０から露出した状態となる。

【２０８９】

［フレキシブルフラットケーブルの正常に接続されていない状態］

フレキシブルフラットケーブルＬＦＣの本体ＬＦＣａの上端側に形成される複数の平型導体の電極ＬＦＣｂａが演出表示装置１６００における液晶パネル１６００ａの裏面上側を覆うコントロール基板１６００ｃのコネクタ１６００ｃａの奥まで正常に挿入されずに斜めに挿入された状態では、図２４４（ａ）に示すように、本体ＬＦＣａの左端辺が上下方向に直線状に延びるガイドラインＧ１Ｌを覆って視認することができず、本体ＬＦＣａの右端辺が上下方向に直線状に延びるガイドラインＧ１Ｒに対して傾斜を有する状態となると共に、電極ＬＦＣｂａを補強するための補強板ＬＦＣｃａの下端辺がコネクタ１６００ｂａの下端辺に対して傾斜を有する状態となり、電極ＬＦＣｂａを補強するための補強板ＬＦＣｃａの一部がコネクタ１６００ｂａから露出した状態となる。このように、ガイドラインＧ１Ｌ，Ｇ１Ｒと補強板ＬＦＣｃａとにより、フレキシブルフラットケーブルＬＦＣの本体ＬＦＣａの上端側に形成される複数の平型導体の電極ＬＦＣｂａが演出表示装置１６００における液晶パネル１６００ａの裏面上側を覆うコントロール基板１６００ｃのコネクタ１６００ｃａの奥まで正常に挿入されているか否かを目視にて容易に判断することができる。これにより、パチンコ機の製造元の組み立てラインにおいて、作業者は、フレキシブルフラットケーブルＬＦＣの本体ＬＦＣａの上端側に形成される複数の平型導体の電極ＬＦＣｂａを演出表示装置１６００における液晶パネル１６００ａの裏面上側を覆うコントロール基板１６００ｃのコネクタ１６００ｃａに挿入したとき、電極ＬＦＣｂａをコネクタ１６００ｃａの奥まで正常に挿入されているか否かを目視にて容易に判断することができる。したがって、確認作業の効率向上に寄与することができる。

【２０９０】

また、フレキシブルフラットケーブルＬＦＣの本体ＬＦＣａの下端側に形成される複数の平型導体の電極ＬＦＣｂｂが液晶出力基板１５３０の表面（実装面）１５３０ｘに備えるコネクタＣＮ１０の奥まで正常に挿入されずに斜めに挿入された状態では、図２４４（ｂ）に示すように、本体ＬＦＣａの上端辺が左右方向に直線状に延びるガイドラインＧ３Ｕを覆って視認することができず、本体ＬＦＣａの下端辺が左右方向に直線状に延びるガイドラインＧ３Ｌに対して傾斜を有する状態となると共に、電極ＬＦＣｂｂを補強するための補強板ＬＦＣｃｂの左端辺（図２４３（ｃ）では、補強板ＬＦＣｃｂ下端辺）がコネクタＣＮ１０の左端辺（図２４３（ｃ）では、コネクタＣＮ１０の下端辺）に対して傾斜を有する状態となり、電極ＬＦＣｂｂを補強するための補強板ＬＦＣｃｂの一部がコネクタＣＮ１０から露出した状態となる。このように、ガイドラインＧ３Ｕ，Ｇ３Ｌと補強板ＬＦＣｃｂとにより、フレキシブルフラットケーブルＬＦＣの本体ＬＦＣａの下端側に形成される複数の平型導体の電極ＬＦＣｂｂが液晶出力基板１５３０の表面（実装面）１５３０ｘに備えるコネクタＣＮ１０の奥まで正常に挿入されているか否かを目視にて容易に判断することができる。これにより、パチンコ機の製造元の組み立てラインにおいて、作業者は、フレキシブルフラットケーブルＬＦＣの本体ＬＦＣａの下端側に形成される複数の平型導体の電極ＬＦＣｂｂを液晶出力基板１５３０の表面（実装面）１５３０ｘに備えるコネクタＣＮ１０に挿入したとき、電極ＬＦＣｂｂをコネクタＣＮ１０の奥まで正常に挿入しているか否かを目視にて容易に判断することができる。したがって、確認作業の効率

向上に寄与することができる。
【２０９１】
［変形例］
なお、上述した実施形態では、フレキシブルフラットケーブルＬＦＣの本体ＬＦＣａの上端辺と対応する位置の上近傍（つまり、フレキシブルフラットケーブルＬＦＣの本体ＬＦＣａの上端辺と対応する位置の近傍上外側）に左右方向に直線状に延びる長い実線のガイドラインＧ３Ｕと、フレキシブルフラットケーブルＬＦＣの本体ＬＦＣａの下端辺と対応する位置の下近傍（つまり、フレキシブルフラットケーブルＬＦＣの本体ＬＦＣａの下端辺と対応する位置の近傍下外側）に左右方向に直線状に延びる長い実線のガイドラインＧ３Ｌと、がシルク印刷により印刷されていたが、ガイドラインＧ３Ｕを上辺、ガイドラインＧ３Ｌを下辺とする矩形形状の領域内をシルク印刷によりベタ塗り印刷されていてもよい。このように構成しても、ベタ塗りされた矩形形状の領域の上辺がガイドラインＧ３Ｕとして機能すると共に、ベタ塗りされた矩形形状の領域の下辺がガイドラインＧ３Ｌとして機能することができる。さらに、フレキシブルフラットケーブルＬＦＣの本体ＬＦＣａが液晶出力基板１５３０の表面（実装面）１５３０ｘと擦れることにより、フレキシブルフラットケーブルＬＦＣの平型導体が露出しても、液晶出力基板１５３０の表面（実装面）１５３０ｘがベタ塗りされた矩形形状の領域内のシルク印刷が剥がれることでレジストが剥がれることを防止してレジストに覆われた液晶出力基板１５３０の表面（実装面）１５３０ｘの銅箔面が露出せずに、露出したフレキシブルフラットケーブルＬＦＣの平型導体がショートすることを防止することができる。
【２０９２】
また、上述した実施形態では、フレキシブルフラットケーブルＬＦＣの本体ＬＦＣａの上端辺と対応する位置の上近傍（つまり、フレキシブルフラットケーブルＬＦＣの本体ＬＦＣａの上端辺と対応する位置の近傍上外側）に左右方向に直線状に延びる長い実線のガイドラインＧ３Ｕと、フレキシブルフラットケーブルＬＦＣの本体ＬＦＣａの下端辺と対応する位置の下近傍（つまり、フレキシブルフラットケーブルＬＦＣの本体ＬＦＣａの下端辺と対応する位置の近傍下外側）に左右方向に直線状に延びる長い実線のガイドラインＧ３Ｌと、がシルク印刷により印刷されていたが、ガイドラインＧ３Ｕを上辺、ガイドラインＧ３Ｌを下辺とする矩形形状の領域とその領域内とに対応する液晶出力基板１５３０の表面（実装面）１５３０ｘの銅箔面において箔抜き領域を形成してもよい。このように構成しても、箔抜きされた矩形形状の領域の上辺がガイドラインＧ３Ｕとして機能すると共に、箔抜きされた矩形形状の領域の下辺がガイドラインＧ３Ｌとして機能することができる。さらに、フレキシブルフラットケーブルＬＦＣの本体ＬＦＣａが液晶出力基板１５３０の表面（実装面）１５３０ｘと擦れることにより、フレキシブルフラットケーブルＬＦＣの平型導体が露出しても、液晶出力基板１５３０の表面（実装面）１５３０ｘのレジストが剥がれても銅箔面がそもそも存在せず、つまり液晶出力基板１５３０の非導電性の基材が露出するだけであるため、露出したフレキシブルフラットケーブルＬＦＣの平型導体がショートすることを防止することができる。
【２０９３】
また、上述した実施形態では、フレキシブルフラットケーブルＬＦＣの本体ＬＦＣａの上端辺と対応する位置の上近傍（つまり、フレキシブルフラットケーブルＬＦＣの本体ＬＦＣａの上端辺と対応する位置の近傍上外側）に左右方向に直線状に延びる長い実線のガイドラインＧ３Ｕと、フレキシブルフラットケーブルＬＦＣの本体ＬＦＣａの下端辺と対応する位置の下近傍（つまり、フレキシブルフラットケーブルＬＦＣの本体ＬＦＣａの下端辺と対応する位置の近傍下外側）に左右方向に直線状に延びる長い実線のガイドラインＧ３Ｌと、がシルク印刷により印刷されていたが、液晶出力基板１５３０の表面（実装面）１５３０ｘの銅箔面において一部の領域の銅箔を抜くことでガイドラインＧ３Ｕ，Ｇ３Ｌが形成されてもよいし、液晶出力基板１５３０の表面（実装面）１５３０ｘの銅箔面にレジスト液を塗布する場合に一部分の領域をレジスト液で塗布しないことでガイドラインＧ３Ｕ，Ｇ３Ｌが形成されてもよい。

【２０９４】
また、上述した実施形態では、液晶出力基板１５３０の表面（実装面）１５３０ｘに、フレキシブルフラットケーブルＬＦＣの本体ＬＦＣａの下端側に形成される複数の平型導体の電極ＬＦＣｂｂがコネクタＣＮ１０に正常に挿入された後に、フレキシブルフラットケーブルＬＦＣの本体ＬＦＣａの下端側に形成される複数の平型導体の電極ＬＦＣｂｂがコネクタＣＮ１０から外れたり、フレキシブルフラットケーブルＬＦＣの本体ＬＦＣａの下端側に形成される複数の平型導体の電極ＬＦＣｂｂと、それぞれの電極ＬＦＣｂｂと対応するコネクタＣＮ１０の電極とが斜めにズレて隣り合う他の電極と接触してショートを防止するために、フレキシブルフラットケーブルＬＦＣを液晶出力基板１５３０の表面（実装面）１５３０ｘに固定する上下方向に長い矩形形状を有する固定シールを貼り付けてもよい。この場合、液晶出力基板１５３０の表面（実装面）１５３０ｘに、固定シールを貼り付ける領域として、固定シールの四隅と対応する位置から少し外側へ向かって離れたところに、例えば、鉤括弧（「）状（線、記号等の図形でもよい。）のガイドラインがそれぞれシルク印刷により印刷されて形成されてもよいし、液晶出力基板１５３０の表面（実装面）１５３０ｘの銅箔面において一部の領域の銅箔を抜くことで鉤括弧（「）状（線、記号等の図形でもよい。）のガイドラインが形成されてもよいし、液晶出力基板１５３０の表面（実装面）１５３０ｘの銅箔面にレジスト液を塗布する場合に一部分の領域をレジスト液で塗布しないことで鉤括弧（「）状（線、記号等の図形でもよい。）のガイドラインが形成されてもよい。フレキシブルフラットケーブルＬＦＣが固定シールにより液晶出力基板１５３０の表面（実装面）１５３０ｘに固定されることで、フレキシブルフラットケーブルＬＦＣの姿勢を固定することができる。
【２０９５】
また、上述した実施形態では、液晶出力基板１５３０のコネクタＣＮ１０と、演出表示装置１６００における液晶パネル１６００ａの裏面上側を覆うコントロール基板１６００ｃのコネクタ１６００ｃａと、をフレキシブルフラットケーブルＬＦＣを用いて電気的に接続していたが、電気的駆動電の駆動により作動する可動体に基板が設けられる場合であって、この基板と駆動基板との基板間を電気的に接続する電気配線としてフレキシブルフラットケーブルを用いてもよい。可動体の作動にともなう電気配線による可動体に負荷がかかるため、この負荷が無視できないほど大きい場合がある。そこで、電気配線として配線やハーネスに代えて、フレキシブルフラットケーブルを用いることで、可動体の作動にともなうフレキシブルフラットケーブルによる可動体への負荷が抑制されることで、電気的駆動源の過負荷を防止することができる。
【２０９６】
また、上述した実施形態では、フレキシブルフラットケーブルＬＦＣの本体ＬＦＣａの上端辺と対応する位置の上近傍（つまり、フレキシブルフラットケーブルＬＦＣの本体ＬＦＣａの上端辺と対応する位置の近傍上外側）に左右方向に直線状に延びる長い実線のガイドラインＧ３Ｕと、フレキシブルフラットケーブルＬＦＣの本体ＬＦＣａの下端辺と対応する位置の下近傍（つまり、フレキシブルフラットケーブルＬＦＣの本体ＬＦＣａの下端辺と対応する位置の近傍下外側）に左右方向に直線状に延びる長い実線のガイドラインＧ３Ｌと、がシルク印刷により印刷されることで、パチンコ機の製造元の組み立てラインにおいて、作業者は、フレキシブルフラットケーブルＬＦＣの本体ＬＦＣａの下端側に形成される複数の平型導体の電極ＬＦＣｂｂを液晶出力基板１５３０の表面（実装面）１５３０ｘに備えるコネクタＣＮ１０に挿入したとき、電極ＬＦＣｂｂをコネクタＣＮ１０の奥まで正常に挿入しているか否かを目視にて容易に判断することができたが、例えば、電気的駆動電の駆動により作動する可動体の待機位置（原位置）を示すものとして可動体の待機位置（原位置）の近傍の基板に可動体の待機位置（原位置）を示す線、記号等の図形をシルク印刷により印刷されてもよい。こうすれば、遊技ホールの店員等の係員がパチンコ機の点検作業を行う際に、パチンコ機の電源を投入することなく、可動体を手動で待機位置（原位置）へ移動する際に、目印とすることができる。また、パチンコ機の電源が投入された状態であっても、可動体が待機位置（原位置）からズレているか否かの判断として

利用することもできるため、可動体の不具合のチェックに利用することもできる。
【２０９７】
また、上述した実施形態では、フレキシブルフラットケーブルＬＦＣの本体ＬＦＣａの左端辺と対応する位置の左近傍（つまり、フレキシブルフラットケーブルＬＦＣの本体ＬＦＣａの左端辺と対応する位置の近傍左外側）に上下方向に直線状に延びる長い実線のガイドラインＧ１Ｌと、フレキシブルフラットケーブルＬＦＣの本体ＬＦＣａの右端辺と対応する位置の右近傍（つまり、フレキシブルフラットケーブルＬＦＣの本体ＬＦＣａの右端辺と対応する位置の近傍右外側）に上下方向に直線状に延びる長い実線のガイドラインＧ１Ｒと、が演出表示装置１６００における金属製裏蓋１６００ｂの裏面側に形成されると共に、フレキシブルフラットケーブルＬＦＣの本体ＬＦＣａの上端辺と対応する位置の上近傍（つまり、フレキシブルフラットケーブルＬＦＣの本体ＬＦＣａの上端辺と対応する位置の近傍上外側）に左右方向に直線状に延びる長い実線のガイドラインＧ３Ｕと、フレキシブルフラットケーブルＬＦＣの本体ＬＦＣａの下端辺と対応する位置の下近傍（つまり、フレキシブルフラットケーブルＬＦＣの本体ＬＦＣａの下端辺と対応する位置の近傍下外側）に左右方向に直線状に延びる長い実線のガイドラインＧ３Ｌと、が液晶出力基板１５３０に形成されていたが、実線に代えて、一点鎖線や二点鎖線であってもよいし、挿入方向を示す矢印線であってもよい。
【２０９８】
また、上述した実施形態では、フレキシブルフラットケーブルＬＦＣの本体ＬＦＣａの左端辺と対応する位置の左近傍（つまり、フレキシブルフラットケーブルＬＦＣの本体ＬＦＣａの左端辺と対応する位置の近傍左外側）に上下方向に直線状に延びる長い実線のガイドラインＧ１Ｌと、フレキシブルフラットケーブルＬＦＣの本体ＬＦＣａの右端辺と対応する位置の右近傍（つまり、フレキシブルフラットケーブルＬＦＣの本体ＬＦＣａの右端辺と対応する位置の近傍右外側）に上下方向に直線状に延びる長い実線のガイドラインＧ１Ｒと、が演出表示装置１６００における金属製裏蓋１６００ｂの裏面側に形成されていたが、フレキシブルフラットケーブルＬＦＣの本体ＬＦＣａの左端辺と対応する位置の右近傍（つまり、フレキシブルフラットケーブルＬＦＣの本体ＬＦＣａの左端辺と対応する位置の近傍右内側）に上下方向に直線状に延びる長い実線のガイドラインＧ１Ｌと、フレキシブルフラットケーブルＬＦＣの本体ＬＦＣａの右端辺と対応する位置の左近傍（つまり、フレキシブルフラットケーブルＬＦＣの本体ＬＦＣａの右端辺と対応する位置の近傍左内側）に上下方向に直線状に延びる長い実線のガイドラインＧ１Ｒと、が演出表示装置１６００における金属製裏蓋１６００ｂの裏面側に形成されてもよい。この場合、実線に代えて、一点鎖線や二点鎖線であってもよいし、挿入方向を示す矢印線であってもよい。
また、上述した実施形態では、フレキシブルフラットケーブルＬＦＣの本体ＬＦＣａの上端辺と対応する位置の上近傍（つまり、フレキシブルフラットケーブルＬＦＣの本体ＬＦＣａの上端辺と対応する位置の近傍上外側）に左右方向に直線状に延びる長い実線のガイドラインＧ３Ｕと、フレキシブルフラットケーブルＬＦＣの本体ＬＦＣａの下端辺と対応する位置の下近傍（つまり、フレキシブルフラットケーブルＬＦＣの本体ＬＦＣａの下端辺と対応する位置の近傍下外側）に左右方向に直線状に延びる長い実線のガイドラインＧ３Ｌと、が液晶出力基板１５３０に形成されていたが、フレキシブルフラットケーブルＬＦＣの本体ＬＦＣａの上端辺と対応する位置の下近傍（つまり、フレキシブルフラットケーブルＬＦＣの本体ＬＦＣａの上端辺と対応する位置の近傍下内側）に左右方向に直線状に延びる長い実線のガイドラインＧ３Ｕと、フレキシブルフラットケーブルＬＦＣの本体ＬＦＣａの下端辺と対応する位置の上近傍（つまり、フレキシブルフラットケーブルＬＦＣの本体ＬＦＣａの下端辺と対応する位置の近傍上内側）に左右方向に直線状に延びる長い実線のガイドラインＧ３Ｌと、が液晶出力基板１５３０に形成されてもよい。この場合、実線に代えて、一点鎖線や二点鎖線であってもよいし、挿入方向を示す矢印線であってもよい。
【２０９９】
また、上述した実施形態では、フレキシブルフラットケーブルＬＦＣの本体ＬＦＣａの左

端辺と対応する位置の左近傍（つまり、フレキシブルフラットケーブルＬＦＣの本体ＬＦＣａの左端辺と対応する位置の近傍左外側）に上下方向に直線状に延びる長い実線のガイドラインＧ１Ｌと、フレキシブルフラットケーブルＬＦＣの本体ＬＦＣａの右端辺と対応する位置の右近傍（つまり、フレキシブルフラットケーブルＬＦＣの本体ＬＦＣａの右端辺と対応する位置の近傍右外側）に上下方向に直線状に延びる長い実線のガイドラインＧ１Ｒと、が演出表示装置１６００における金属製裏蓋１６００ｂの裏面側に形成されていたが、フレキシブルフラットケーブルＬＦＣの本体ＬＦＣａの左端辺と対応する位置に上下方向に直線状に延びる長い実線のガイドラインＧ１Ｌと、フレキシブルフラットケーブルＬＦＣの本体ＬＦＣａの右端辺と対応する位置に上下方向に直線状に延びる長い実線のガイドラインＧ１Ｒと、が演出表示装置１６００における金属製裏蓋１６００ｂの裏面側に形成されてもよい。つまり、フレキシブルフラットケーブルＬＦＣの本体ＬＦＣａの左端辺とガイドラインＧ１Ｌとが前後方向に合致して重なる位置関係となる共に、フレキシブルフラットケーブルＬＦＣの本体ＬＦＣａの右端辺とガイドラインＧ１Ｒとが前後方向に合致して重なる位置関係となる。この場合、実線に代えて、一点鎖線や二点鎖線であってもよいし、挿入方向を示す矢印線であってもよい。また、上述した実施形態では、フレキシブルフラットケーブルＬＦＣの本体ＬＦＣａの上端辺と対応する位置の上近傍（つまり、フレキシブルフラットケーブルＬＦＣの本体ＬＦＣａの上端辺と対応する位置の近傍上外側）に左右方向に直線状に延びる長い実線のガイドラインＧ３Ｕと、フレキシブルフラットケーブルＬＦＣの本体ＬＦＣａの下端辺と対応する位置の下近傍（つまり、フレキシブルフラットケーブルＬＦＣの本体ＬＦＣａの下端辺と対応する位置の近傍下外側）に左右方向に直線状に延びる長い実線のガイドラインＧ３Ｌと、が液晶出力基板１５３０に形成されていたが、フレキシブルフラットケーブルＬＦＣの本体ＬＦＣａの上端辺と対応する位置に左右方向に直線状に延びる長い実線のガイドラインＧ３Ｕと、フレキシブルフラットケーブルＬＦＣの本体ＬＦＣａの下端辺と対応する位置に左右方向に直線状に延びる長い実線のガイドラインＧ３Ｌと、が液晶出力基板１５３０に形成されてもよい。つまり、フレキシブルフラットケーブルＬＦＣの本体ＬＦＣａの上端辺とガイドラインＧ３Ｕとが前後方向に合致して重なる位置関係となると共に、フレキシブルフラットケーブルＬＦＣの本体ＬＦＣａの下端辺とガイドラインＧ３Ｌとが前後方向に合致して重なる位置関係となる。この場合、実線に代えて、一点鎖線や二点鎖線であってもよいし、挿入方向を示す矢印線であってもよい。

【２１００】

また、上述した実施形態では、フレキシブルフラットケーブルＬＦＣの本体ＬＦＣａの上端側に形成される複数の平型導体の電極ＬＦＣｂａが演出表示装置１６００における液晶パネル１６００ａの裏面上側を覆うコントロール基板１６００ｃのコネクタ１６００ｃａの奥まで正常に挿入された状態では、図２４３（ｃ）に示したように、補強板ＬＦＣｃａの下端辺と、コネクタ１６００ｃａの下端辺と、が前後方向に合致して重なる位置関係に配置されることにより、補強板ＬＦＣｃａの上端辺と下端辺との距離寸法は電極ＬＦＣｂａがコネクタ１６００ｃａの奥まで正常に挿入された長さ（挿入長）と同一となっていた。また、フレキシブルフラットケーブルＬＦＣの本体ＬＦＣａの下端側に形成される複数の平型導体の電極ＬＦＣｂｂが液晶出力基板１５３０の表面（実装面）１５３０ｘに備えるコネクタＣＮ１０の奥まで正常に挿入された状態では、図２４３（ｃ）に示したように、補強板ＬＦＣｃｂの下端辺と、コネクタＣＮ１０の下端辺と、が前後方向に合致して重なる位置関係に配置されることにより、補強板ＬＦＣｃｂの上端辺と下端辺との距離寸法は電極ＬＦＣｂｂがコネクタＣＮ１０の奥まで正常に挿入された長さ（挿入長）と同一となっていた。

【２１０１】

このように、上述した実施形態では、補強板ＬＦＣｃａの上端辺と下端辺との距離寸法は電極ＬＦＣｂａがコネクタ１６００ｃａの奥まで正常に挿入された長さ（挿入長）と同一となっていたが、補強板ＬＦＣｃａの上端辺と下端辺との距離寸法を電極ＬＦＣｂａがコネクタ１６００ｃａの奥まで正常に挿入された長さ（挿入長）と比べて長い場合、換言す

ると、フレキシブルフラットケーブルＬＦＣの本体ＬＦＣａの上端側に形成される複数の平型導体の電極ＬＦＣｂａが演出表示装置１６００における液晶パネル１６００ａの裏面上側を覆うコントロール基板１６００ｃのコネクタ１６００ｃａの奥まで正常に挿入された状態において、補強板ＬＦＣｃａの下端辺と、コネクタ１６００ｃａの下端辺と、が前後方向に合致せず補強板ＬＦＣｃａの下端辺がコネクタ１６００ｃａの下端辺から平行に離間する位置関係に配置される場合には、補強板ＬＦＣｃａの下端辺と、コネクタ１６００ｃａの下端辺と、が離間していることで電極ＬＦＣｂａがコネクタ１６００ｃａの奥まで正常に挿入されたか否かを、補強板ＬＦＣｃａの下端辺と、コネクタ１６００ｃａの下端辺と、を利用して判別することが困難となる。同様に、補強板ＬＦＣｃｂの上端辺と下端辺との距離寸法は電極ＬＦＣｂｂがコネクタＣＮ１０の奥まで正常に挿入された長さ（挿入長）と同一となっていたが、補強板ＬＦＣｃｂの上端辺と下端辺との距離寸法を電極ＬＦＣｂｂがコネクタＣＮ１０の奥まで正常に挿入された長さ（挿入長）と比べて長い場合、換言すると、フレキシブルフラットケーブルＬＦＣの本体ＬＦＣａの下端側に形成される複数の平型導体の電極ＬＦＣｂｂが液晶出力基板１５３０の表面（実装面）１５３０ｘに備えるコネクタＣＮ１０の奥まで正常に挿入された状態において、補強板ＬＦＣｃｂの下端辺と、コネクタＣＮ１０の下端辺と、が前後方向に合致せず、補強板ＬＦＣｃｂの下端辺がコネクタＣＮ１０の下端辺から平行に離間する位置関係に配置される場合には、補強板ＬＦＣｃｂの下端辺と、コネクタＣＮ１０の下端辺と、が離間していることで電極ＬＦＣｂｂがコネクタＣＮ１０の奥まで正常に挿入されたか否かを、補強板ＬＦＣｃｂの下端辺と、コネクタＣＮ１０の下端辺と、を利用して判別することが困難となる。

【２１０２】

そこで、このような場合には、電極ＬＦＣｂａがコネクタ１６００ｃａの奥まで正常に挿入された状態において、補強板ＬＦＣｃａの下端辺の位置を示すガイドラインとして、補強板ＬＦＣｃａの下端辺の延長線上であって、フレキシブルフラットケーブルＬＦＣの本体ＬＦＣａの左端辺と対応する位置の左近傍（つまり、フレキシブルフラットケーブルＬＦＣの本体ＬＦＣａの左端辺と対応する位置の近傍左外側）に左方向に直線状に延びる実線（実線に代えて、一点鎖線や二点鎖線であってもよいし、補強板ＬＦＣｃａの下端辺の位置を示す矢印線であってもよい。）のガイドラインＧ１Ｌ’（このガイドラインＧ１Ｌ’は、上述したガイドラインＧ１Ｌと交わってもよいし、上述したガイドラインＧ１Ｌと一体に形成されたＬ字状としてもよい。）と、フレキシブルフラットケーブルＬＦＣの本体ＬＦＣａの右端辺と対応する位置の右近傍（つまり、フレキシブルフラットケーブルＬＦＣの本体ＬＦＣａの右端辺と対応する位置の近傍右外側）に右方向に直線状に延びる実線（実線に代えて、一点鎖線や二点鎖線であってもよいし、補強板ＬＦＣｃａの下端辺の位置を示す矢印線であってもよい。）のガイドラインＧ１Ｒ’（このガイドラインＧ１Ｒ’は、上述したガイドラインＧ１Ｒと交わってもよいし、上述したガイドラインＧ１Ｒと一体に形成されたＬ字状としてもよい。）と、が演出表示装置１６００における金属製裏蓋１６００ｂの裏面側に刻印されていることが好ましい。

【２１０３】

また、電極ＬＦＣｂｂがコネクタＣＮ１０の奥まで正常に挿入された状態において、補強板ＬＦＣｃｂの下端辺の下端辺の位置を示すガイドラインとして、補強板ＬＦＣｃｂの下端辺の延長線上であって、フレキシブルフラットケーブルＬＦＣの本体ＬＦＣａの上端辺と対応する位置の上近傍（つまり、フレキシブルフラットケーブルＬＦＣの本体ＬＦＣａの上端辺と対応する位置の近傍上外側）に上方向に直線状に延びる実線（実線に代えて、一点鎖線や二点鎖線であってもよいし、補強板ＬＦＣｃｂの下端辺の位置を示す矢印線であってもよい。）のガイドラインＧ３Ｕ’（このガイドラインＧ３Ｕ’は、上述したガイドラインＧ３Ｕと交わってもよいし、上述したガイドラインＧ３Ｕと一体に形成されたＬ字状としてもよい。また、ガイドラインＧ３Ｕ’の上下方向の距離寸法と上述したガイドラインＧ３Ｕの左右方向の距離寸法とを有する矩形形状（その内部がシルク印刷によりベタ塗り印刷されてもよい。）にしてもよい。）と、フレキシブルフラットケーブルＬＦＣの本体ＬＦＣａの下端辺と対応する位置の下近傍（つまり、フレキシブルフラットケーブルＬ

ＦＣの本体ＬＦＣａの下端辺と対応する位置の近傍下外側）に下方向に直線状に延びる実線（実線に代えて、一点鎖線や二点鎖線であってもよいし、補強板ＬＦＣｃｂの下端辺の位置を示す矢印線であってもよい。）のガイドラインＧ３Ｌ’（このガイドラインＧ３Ｌ’は、上述したガイドラインＧ３Ｌと交わってもよいし、上述したガイドラインＧ３Ｌと一体に形成されたＬ字状としてもよい。また、ガイドラインＧ３Ｌ’の上下方向の距離寸法と上述したガイドラインＧ３Ｌの左右方向の距離寸法とを有する矩形形状（その内部がシルク印刷によりベタ塗り印刷されてもよい。）にしてもよい。）と、が液晶出力基板１５３０の表面（実装面）１５３０ｘにシルク印刷により印刷されていることが好ましい。

【２１０４】

なお、シルク印刷に代えて、上述した変形例のように、液晶出力基板１５３０の表面（実装面）１５３０ｘの銅箔面において一部の領域の銅箔を抜くことでガイドラインＧ３Ｕ’，Ｇ３Ｌ’が形成されてもよいし、液晶出力基板１５３０の表面（実装面）１５３０ｘの銅箔面にレジスト液を塗布する場合に一部分の領域をレジスト液で塗布しないことでガイドラインＧ３Ｕ’，Ｇ３Ｌ’が形成されてもよい。また、上述した変形例のように、液晶出力基板１５３０の表面（実装面）１５３０ｘの銅箔面において一部の領域の銅箔を抜いてガイドラインＧ３Ｌ’の上下方向の距離寸法と上述したガイドラインＧ３Ｌの左右方向の距離寸法とを有する矩形形状（この矩形形状の内部の銅箔も抜いてもよい。）が形成されることで、ガイドラインＧ３Ｕ，Ｇ３Ｌ、及びガイドラインＧ３Ｕ’，Ｇ３Ｌ’がそれぞれ形成されてもよい。

【２１０５】

［コネクタの接続方法］

次に、周辺制御基板１５１０への各種配線を中継する中継基板や主制御基板１３１０へ各種配線を中継する中継基板、払出制御基板６３３への各種配線を中継する中継基板に備えるコネクタに対して接続する配線やハーネスのコネクタについて図２４５を参照して説明する。図２４５は中継基板のコネクタの配置を示す図（ａ）であり、中継基板のコネクタに対して配線やハーネスのコネクタが正常に接続された状態を示す図（ｂ）であり、中継基板のコネクタに対して配線やハーネスのコネクタが正常に接続されていない状態を示す図（ｃ）である。

【２１０６】

ところで、中継基板のコネクタに対して配線やハーネスのコネクタが正常に挿入されないことにより、コネクタの電極間に接触不良が生ずる場合があるし、中継基板のコネクタに対して配線やハーネスのコネクタが斜めに挿入されることによりコネクタの隣り合う電極が接触することでショートし、中継基板や中継基板と電気的に接続される各種制御基板に実装される各種電子部品が破損する場合がある。

【２１０７】

本実施形態では、中継基板ＫＤの表面（実装面）ＫＤｘは、図２４５（ａ）に示すように、配線やハーネスＫＤＣＢＬのプラグ側のコネクタＰＬＧが挿入されるソケット側のコネクタＳＣＫが配置されている。ソケット側のコネクタＳＣＫは、ライトアングルタイプ（「サイド型」とも呼ばれる。）のものであり、左右方向に長い矩形形状を有する本体ＳＣＫａの下側面ＳＣＫａａに対して開口部ＳＣＫｂが形成される箱状に形成されている。この開口部ＳＣＫｂには、コネクタＰＬＧのプラグ部ＰＬＧａが挿入される。ソケット側のコネクタＳＣＫの開口部が形成される下側面ＳＣＫａａは、中継基板ＫＤの下端辺ＫＤｅｇから所定距離寸法ｄｗ１を有して中継基板ＫＤの表面（実装面）ＫＤｘに配置されている。プラグ側のコネクタＰＬＧは、左右方向に細長い矩形形状を有すると共に本体ＳＣＫａの左右方向の距離寸法と同一の距離寸法を有する本体ＰＬＧｂの上側面ＰＬＧｂａに対して、開口部ＳＣＫｂより小さい大きさ有し左右方向に長い矩形形状を有するプラグ部ＰＬＧａが一体に形成されている。なお、ソケット側のコネクタＳＣＫの開口部ＳＣＫｂが形成される下側面ＳＣＫａａは、上述したように、中継基板ＫＤの下端辺ＫＤｅｇから所定距離寸法ｄｗ１を有して中継基板ＫＤの表面（実装面）ＫＤｘに配置されているが、本実施形態では、所定距離寸法ｄｗ１として、プラグ側のコネクタＰＬＧの本体ＰＬＧｂの

上下方向の距離寸法（厚さ）ｄｃｗとなっている。
【２１０８】
プラグ側のコネクタＰＬＧのプラグ部ＰＬＧａがソケット側のコネクタＳＣＫの開口部ＳＣＫｂの奥まで正常に挿入されると、プラグ部ＰＬＧａと一体に形成される本体ＰＬＧｂの上側面ＰＬＧｂａ全体がソケット側のコネクタＳＣＫの開口部ＳＣＫｂが形成される下側面ＳＣＫａａと当接して面接触する状態となる。この状態では、図２４５（ｂ）に示すように、プラグ側のコネクタＰＬＧのプラグ部ＰＬＧａと一体に形成される本体ＰＬＧｂの上側面ＰＬＧｂａと反対側の面（つまり、プラグ側のコネクタＰＬＧの本体ＰＬＧｂの下側面ＰＬＧｂｂ）と、中継基板ＫＤの下端辺ＫＤｅｇ（つまり、中継基板ＫＤの基板端）と、が前後方向に合致して重なる位置関係に配置されることとなる。
【２１０９】
このように、ソケット側のコネクタＳＣＫは、中継基板ＫＤの下端辺ＫＤｅｇから所定距離寸法ｄｗ１として、プラグ側のコネクタＰＬＧの本体ＰＬＧｂの上下方向の距離寸法（厚さ）ｄｃｗを有して配置されているため、プラグ側のコネクタＰＬＧのプラグ部ＰＬＧａがソケット側のコネクタＳＣＫの開口部ＳＣＫｂの奥まで正常に挿入された状態では、プラグ側のコネクタＰＬＧのプラグ部ＰＬＧａと一体に形成される本体ＰＬＧｂの上側面ＰＬＧｂａと反対側の面（つまり、プラグ側のコネクタＰＬＧの本体ＰＬＧｂの下側面ＰＬＧｂｂ）と、中継基板ＫＤの下端辺ＫＤｅｇ（つまり、中継基板ＫＤの基板端）と、が前後方向に合致して重なる位置関係に配置されることとなる。これにより、パチンコ機の製造元の組み立てラインにおいて、作業者は、プラグ側のコネクタＰＬＧのプラグ部ＰＬＧａをソケット側のコネクタＳＣＫの開口部ＳＣＫｂの奥まで正常に挿入したとき、作用者の指に、プラグ側のコネクタＰＬＧのプラグ部ＰＬＧａと一体に形成される本体ＰＬＧｂの上側面ＰＬＧｂａと反対側の面（つまり、プラグ側のコネクタＰＬＧの本体ＰＬＧｂの下側面ＰＬＧｂｂ）と、中継基板ＫＤの下端辺ＫＤｅｇ（つまり、中継基板ＫＤの基板端）と、が触れることで同一の平面上に配置されているという手の触覚によって、プラグ側のコネクタＰＬＧのプラグ部ＰＬＧａをソケット側のコネクタＳＣＫの開口部ＳＣＫｂの奥まで正常に挿入しているか否かを容易に判断することができるし、また、遊技ホールの店員等の係員も、パチンコ機の点検作業を行う際に、上述した同一の平面上に配置されているという手の触覚によって、プラグ側のコネクタＰＬＧのプラグ部ＰＬＧａをソケット側のコネクタＳＣＫの開口部ＳＣＫｂの奥まで正常に挿入しているか否かを容易に判断することができる。したがって、確認作業の効率向上に寄与することができる。
【２１１０】
なお、プラグ側のコネクタＰＬＧのプラグ部ＰＬＧａがソケット側のコネクタＳＣＫの開口部ＳＣＫｂの奥まで正常に挿入されずに斜めに挿入された状態では、図２４５（ｃ）に示すように、プラグ側のコネクタＰＬＧのプラグ部ＰＬＧａと一体に形成される本体ＰＬＧｂの上側面ＰＬＧｂａと反対側の面（つまり、プラグ側のコネクタＰＬＧの本体ＰＬＧｂの下側面ＰＬＧｂｂ）が中継基板ＫＤの下端辺ＫＤｅｇ（つまり、中継基板ＫＤの基板端）からはみ出し量ｄＳＰを有してはみ出した配置となる。これにより、パチンコ機の製造元の組み立てラインにおける作業者やパチンコ機の点検作業を行う遊技ホールの店員等の係員は、はみ出し量ｄＳＰの分だけプラグ側のコネクタＰＬＧの本体ＰＬＧｂが中継基板ＫＤの下端辺ＫＤｅｇから突出することにより、作用者や遊技ホールの店員等の係員の指に、プラグ側のコネクタＰＬＧのプラグ部ＰＬＧａと一体に形成される本体ＰＬＧｂの上側面ＰＬＧｂａと反対側の面（つまり、プラグ側のコネクタＰＬＧの本体ＰＬＧｂの下側面ＰＬＧｂｂ）と、中継基板ＫＤの下端辺ＫＤｅｇ（つまり、中継基板ＫＤの基板端）と、が触れることで段差を有しているという手の触覚によって、プラグ側のコネクタＰＬＧのプラグ部ＰＬＧａをソケット側のコネクタＳＣＫの開口部ＳＣＫｂの奥まで正常に挿入していないことを容易に判断することができる。
【２１１１】
［変形例］
なお、上述した実施形態では、ソケット側のコネクタＳＣＫは、中継基板ＫＤの下端辺Ｋ

Ｄｅｇから所定距離寸法ｄｗ１として、プラグ側のコネクタＰＬＧの本体ＰＬＧｂの上下方向の距離寸法（厚さ）ｄｃｗを有して配置され、プラグ側のコネクタＰＬＧのプラグ部ＰＬＧａがソケット側のコネクタＳＣＫの開口部ＳＣＫｂの奥まで正常に挿入された状態において、プラグ側のコネクタＰＬＧのプラグ部ＰＬＧａと一体に形成される本体ＰＬＧｂの上側面ＰＬＧｂａと反対側の面（つまり、プラグ側のコネクタＰＬＧの本体ＰＬＧｂの下側面ＰＬＧｂｂ）と、中継基板ＫＤの下端辺ＫＤｅｇ（つまり、中継基板ＫＤの基板端）と、が前後方向に合致して重なる位置関係に配置されるようになっていたが、ソケット側のコネクタＳＣＫの部品位置を示す部品配置線がソケット側のコネクタＳＣＫの外形よりも大きい実線でシルク印刷により印刷されると共に、プラグ側のコネクタＰＬＧのプラグ部ＰＬＧａがソケット側のコネクタＳＣＫの開口部ＳＣＫｂの奥まで正常に挿入された状態において、プラグ側のコネクタＰＬＧのプラグ部ＰＬＧａと一体に形成される本体ＰＬＧｂの上側面ＰＬＧｂａと反対側の面（つまり、プラグ側のコネクタＰＬＧの本体ＰＬＧｂの下側面ＰＬＧｂｂ）と、ソケット側のコネクタＳＣＫの部品位置を示す部品配置線の下辺と、が合致するように配置されてもよい。図２４６は図２４５の変形例であり、中継基板のコネクタの配置と部位品配置線とを示す図（ａ）であり、中継基板のコネクタに対して配線やハーネスのコネクタが正常に接続された状態を示す図（ｂ）であり、中継基板のコネクタに対して配線やハーネスのコネクタが正常に接続されていない状態を示す図（ｃ）である。

【２１１２】

例えば、中継基板ＫＤの表面（実装面）ＫＤｘは、図２４６（ａ）に示すように、配線やハーネスＫＤＣＢＬのプラグ側のコネクタＰＬＧが挿入されるソケット側のコネクタＳＣＫが配置されている。ソケット側のコネクタＳＣＫは、左右方向に長い矩形形状を有する本体ＳＣＫａの下側面ＳＣＫａａに対して開口部ＳＣＫｂが形成される箱状に形成されている。この開口部ＳＣＫｂには、コネクタＰＬＧのプラグ部ＰＬＧａが挿入される。ソケット側のコネクタＳＣＫの開口部ＳＣＫｂが形成される下側面ＳＣＫａａは、中継基板ＫＤの下端辺ＫＤｅｇから第１距離寸法ｄｗ２（例えば、図２４５（ａ）に示したソケット側のコネクタＳＣＫが中継基板ＫＤの下端辺ＫＤｅｇから所定距離寸法ｄｗ１を有して配置されている距離寸法の約２倍程度であり、少なくとも５ｍｍ有している。）を有して中継基板ＫＤの表面（実装面）ＫＤｘに配置されている。

【２１１３】

ソケット側のコネクタＳＣＫの開口部ＳＣＫｂが形成される下側面ＳＣＫａａは、中継基板ＫＤの下端辺ＫＤｅｇから第１距離寸法ｄｗ２だけ離間して配置されている理由について、簡単に説明すると、マウンターで電子部品を実装する場合やハンダ槽へ基板を流す場合には、いわゆる「捨て板（電子部品搭載不可範囲）」を形成する必要があり、基板の各端辺から内側へ向かって３ｍｍ～５ｍｍまでに亘る範囲全体（基板の各端辺からその周囲に亘る範囲）に電子部品を実装することができない。この捨て板を形成することなく電子部品を実装する場合（つまり基板の各端辺からその周囲に亘る範囲に電子部品を実装する場合）には、基板を固定するための掴みジグや基板反り防止ジグを用いる必要があるが、この場合にも、掴みジグや基板反り防止ジグにより挟持される基板の領域は、基板の端辺から内側へ向かって５ｍｍ程度、電子部品を配置することができない。そこで、本実施形態では、中継基板ＫＤの下端辺ＫＤｅｇから第１距離寸法ｄｗ２として、図２４５（ａ）に示したソケット側のコネクタＳＣＫが中継基板ＫＤの下端辺ＫＤｅｇから所定距離寸法ｄｗ１を有して配置されている距離寸法の約２倍程度であり、少なくとも５ｍｍ有している。これにより、プラグ側のコネクタＰＬＧのプラグ部ＰＬＧａがソケット側のコネクタＳＣＫの開口部ＳＣＫｂの奥まで正常に挿入されると、プラグ側のコネクタＰＬＧのプラグ部ＰＬＧａと一体に形成される本体ＰＬＧｂの上側面ＰＬＧｂａと反対側の面（つまり、プラグ側のコネクタＰＬＧの本体ＰＬＧｂの下側面ＰＬＧｂｂ）が中継基板ＫＤの下端辺ＫＤｅｇの上方に配置されることとで、中継基板ＫＤの内部側に配置されることとなる。

【２１１４】

ソケット側のコネクタＳＣＫの周囲には、ソケット側のコネクタＳＣＫの部品位置を示す

矩形形状の部品配置線ＤＳＬＫが、少なくとも、ソケット側のコネクタＳＣＫの開口部ＳＣＫｂが形成される下側面ＳＣＫａａと、ソケット側のコネクタＳＣＫの部品配置線ＤＳＬＫの下辺ＤＳＬＫｅｇと、が第２距離寸法ｄｗ３を有して中継基板ＫＤの表面（実装面）ＫＤｘにシルク印刷により印刷されている。プラグ側のコネクタＰＬＧは、左右方向に細長い矩形形状を有すると共に本体ＳＣＫａの左右方向の距離寸法と同一の距離寸法を有する本体ＰＬＧｂの上側面ＰＬＧｂａに対して、開口部ＳＣＫｂより小さい大きさ有し左右方向に長い矩形形状を有するプラグ部ＰＬＧａが一体に形成されている。なお、ソケット側のコネクタＳＣＫの周囲には、上述したように、ソケット側のコネクタＳＣＫの部品位置を示す矩形形状の部品配置線ＤＳＬＫが、少なくとも、ソケット側のコネクタＳＣＫの開口部ＳＣＫｂが形成される下側面ＳＣＫａａと、ソケット側のコネクタＳＣＫの部品配置線ＤＳＬＫの下辺ＤＳＬＫｅｇと、が第２距離寸法ｄｗ３を有して中継基板ＫＤの表面（実装面）ＫＤｘにシルク印刷により印刷されているが、本実施形態では、第２距離寸法ｄｗ３として、図２４５（ａ）に示したソケット側のコネクタＳＣＫが中継基板ＫＤの下端辺ＫＤｅｇから所定距離寸法ｄｗ１を有して配置されている距離寸法と同一の距離寸法となっている（つまり、プラグ側のコネクタＰＬＧの本体ＰＬＧｂの上下方向の距離寸法（厚さ）ｄｃｗとなっている）。

【２１１５】

プラグ側のコネクタＰＬＧのプラグ部ＰＬＧａがソケット側のコネクタＳＣＫの開口部ＳＣＫｂの奥まで正常に挿入されると、プラグ部ＰＬＧａと一体に形成される本体ＰＬＧｂの上側面ＰＬＧｂａ全体がソケット側のコネクタＳＣＫの開口部ＳＣＫｂの下側面ＳＣＫａａと当接して面接触する状態となる。この状態では、図２４６（ｂ）に示すように、プラグ側のコネクタＰＬＧのプラグ部ＰＬＧａと一体に形成される本体ＰＬＧｂの上側面ＰＬＧｂａと反対側の面（つまり、プラグ側のコネクタＰＬＧの本体ＰＬＧｂの下側面ＰＬＧｂｂ）と、ソケット側のコネクタＳＣＫの部品配置線ＤＳＬＫの下辺ＤＳＬＫｅｇと、が合致して配置されることとなる。これにより、パチンコ機の製造元の組み立てラインにおける作業者やパチンコ機の点検作業を行う遊技ホールの店員等の係員は、プラグ側のコネクタＰＬＧのプラグ部ＰＬＧａをソケット側のコネクタＳＣＫの開口部ＳＣＫｂの奥まで正常に挿入されているか否かを目視にて容易に判断することができる。したがって、確認作業の効率向上に寄与することができる。

【２１１６】

なお、プラグ側のコネクタＰＬＧのプラグ部ＰＬＧａがソケット側のコネクタＳＣＫの開口部ＳＣＫｂの奥まで正常に挿入されずに斜めに挿入された状態では、図２４６（ｃ）に示すように、プラグ側のコネクタＰＬＧのプラグ部ＰＬＧａと一体に形成される本体ＰＬＧｂの上側面ＰＬＧｂａと反対側の面（つまり、プラグ側のコネクタＰＬＧの本体ＰＬＧｂの下側面ＰＬＧｂｂ）がソケット側のコネクタＳＣＫの部品配置線ＤＳＬＫの下辺からはみ出し量ｄＳＰを有してはみ出した配置となる。これにより、パチンコ機の製造元の組み立てラインにおける作業者やパチンコ機の点検作業を行う遊技ホールの店員等の係員は、はみ出し量ｄＳＰの分だけプラグ側のコネクタＰＬＧの本体ＰＬＧｂが部品配置線ＤＳＬＫの下辺ＤＳＬＫｅｇから突出することにより、プラグ側のコネクタＰＬＧのプラグ部ＰＬＧａをソケット側のコネクタＳＣＫの開口部ＳＣＫｂの奥まで正常に挿入していないことを目視にて容易に判断することができる。

【２１１７】

因みに、従来より、遊技進行や遊技利益に関する制御を行う主制御基板、遊技の進行に伴って実行する演出に関する制御を行うサブ制御基板、画像表示装置等の表示制御を行う画像制御基板等の各種基板が裏側に配置される遊技機が提案されている（例えば、特開２０１７－２１７３８１号公報（段落［００５１］、及び図２）。ところで、この文献に記載される遊技機のように、各種基板に設けられるコネクタには、配線が挿抜されたりするものや、一端が配線と電気的に接続されたコネクタが挿抜されたりするものがあるため、例えば、遊技機の製造元の作業者はコネクタへの接続作業においてコネクタへの電気的な確認を行う必要があり、確認作業に時間がかかっていた。

【２１１８】
［配線溝］
本実施形態では、遊技盤５が本体枠４に装着された状態において遊技盤５を正面側から見ると、遊技盤５の左側裏面には、上述したように、所定距離寸法だけ離間して払出ベースユニット５５０の払出ベース５５１における背板左部５５１ｅが配置されている。そして、遊技盤５の左側裏面上側には背板左部５５１ｅの後面に取り付けられた球誘導ユニット５７０が配置され、遊技盤５の左側裏面中央側には背板左部５５１ｅの後面に取り付けられた払出装置５８０が配置され、遊技盤５の左側裏面下側には背板左部５５１ｅの後面に取り付けられた上部満タン球経路ユニット６００が配置されている。
【２１１９】
このように、本実施形態では、遊技盤５の左側裏面後方から所定距離寸法だけ離間して配置された背板左部５５１ｅにより、遊技盤５の左側裏面と背板左部５５１ｅの前面とに空間が形成されている。この空間には、図１１０、及び図１１３に示したように、遊技盤５の演出表示装置１６００の表示領域を除いて覆う非導電性を有する透明な樹脂により成型される保護カバー体１６０１に複数形成されるＬ字状の配線処理片１６０１ａが保護カバー体１６０１の上下方向に沿って配置され、各種配線がＬ字状の配線処理片１６０１ａにより係止されている。
【２１２０】
遊技球Ｂは、遊技ホールの島設備において研磨されたり、島設備とパチンコ機１との循環において互いにこすれ合ったりして、帯電して静電気放電することにより電磁波ノイズを放出する。このため、遊技球Ｂを滞留することができる球タンク５５２、タンクレール５５３、球誘導ユニット５７０、払出装置５８０、及び上部満タン球経路ユニット６００が取り付けられた領域及びその周囲は静電気が溜まりやすい。
【２１２１】
つまり、背板左部５５１ｅの裏面に球誘導ユニット５７０、払出装置５８０、及び上部満タン球経路ユニット６００が取り付けられているため、背板左部５５１ｅの前面と遊技盤５の左側裏面とに形成される空間（以下、「配線引き回し空間」と記載する。）は、遊技球Ｂからの静電放電による電磁波ノイズの影響を受けやすい環境下となっている。
【２１２２】
また、配線引き回し空間に引き回される各種電線としては、例えば、制御信号を伝送する配線や各種電源を供給する配線があり、配線引き回し空間に複数の各種電線が混在している。制御信号を伝送する配線は、雑音に弱く電磁波ノイズによるトラブル（例えば、正規のデータが他のデータに変化してデータ化けしたり、本来出力していない信号であるにもかかわらず出力している信号となったり等を挙げることができる。）が生じるため電磁波ノイズの影響を受け易いのに対して、各種電源を供給する配線は、雑音に強く電磁波ノイズの影響を受け難い。
【２１２３】
そうすると、配線引き回し空間に引き回される各種配線のうち、電磁波ノイズの影響を受け易い制御信号を伝送する配線に対しては、電磁波ノイズによるトラブルを回避することができる電磁波ノイズの対策を講ずる必要があるのに対して、電磁波ノイズの影響を受け難い各種電源を供給する配線は電磁波ノイズの対策を講ずる必要がない。
【２１２４】
そこで、遊技盤５の左側裏面に各種配線を引き回す配線溝を設ける構成（以下、「第１～第２実施形態に係る配線溝」と記載する。）について図２４７～図２５２を参照して説明する。図２４７は配線溝を取り付ける領域を説明する遊技盤を後ろから見た部分斜視図（ａ）、第１実施形態に係る配線溝が遊技盤の裏面側に装着された状態を示す図（ｂ）であり、図２４８は図２４７の続きであり、第２実施形態に係る配線溝が遊技盤の裏面側に装着された状態を示す図（ｃ）であり、図２４９は第１実施形態に係る配線溝を遊技盤の裏面側に装着された状態であって遊技盤を後ろから見た場合における各種配線の状態を示す斜視図であり、図２５０は第１実施形態に係る配線溝を遊技盤の裏面側に装着された状態

であって遊技盤を前から見た場合における各種配線の状態を示す斜視図であり、図２５１は第２実施形態に係る配線溝を遊技盤の裏面側に装着された状態であって遊技盤を後ろから見た場合における各種配線の状態を示す斜視図であり、図２５２は第２実施形態に係る配線溝を遊技盤の裏面側に装着された状態であって遊技盤を前から見た場合における各種配線の状態を示す斜視図である。なお、図２４７（ｂ）及び図２４８（ｃ）では、図面の見やすさから第１～２電磁波ノイズ対策の配線溝に引き回される配線としてフレキシブルフラットケーブルのみ示して他の各種配線を省略した。また、図２４９～図２５２では、図面の見やすさから遊技盤を省略した。

【２１２５】

［配線溝を取り付ける領域］

上述した実施形態では、遊技盤５が本体枠４に装着された状態において遊技盤５を正面側から見ると、遊技盤５の左側裏面後方から所定距離寸法だけ離間して配置された背板左部５５１ｅにより、遊技盤５の左側裏面と背板左部５５１ｅの前面とに空間が形成されている。この空間には、各種配線が遊技盤５の演出表示装置１６００の表示領域を除いて覆う保護カバー体１６０１に形成されるＬ字状の配線処理片１６０１ａに係止される各種配線が保護カバー体１６０１の上下方向に沿って配置されている。第１～第２実施形態に係る配線溝では、図２４７（ａ）に示すように、保護カバー体１６０１に形成されるＬ字状の配線処理片１６０１ａに代えて保護カバー体１６０１に取付ボス孔１６０１ｄが上側に２つ、下側に２つそれぞれ形成されている。

【２１２６】

［第１実施形態に係る配線溝］

第１実施形態に係る配線溝は、図２４７（ｂ）、図２４９、及び図２５０に示すように、導電性を有する金属製配線溝１６０５であり、上下方向に長い薄肉金属平板（板厚２．０ｍｍ～２．６ｍｍ）の左側及び右側がプレス加工により屈曲されて断面コ字状を有する溝部１６０５ａが形成されると共に、この断面コ字状を有する溝部１６０５ａの左側壁及び右側壁には、上側及び下側にＬ字状の取付片１６０５ｂがそれぞれプレス加工により屈曲されて形成されている。断面コ字状を有する溝部１６０５ａの左側壁の上側及び下側にはＬ字状の取付片１６０５ｂがプレス加工によりそれぞれ形成されることでＬ字状の取付片１６０５ｂと対応する部分に切欠部１６０５ｃがそれぞれ形成されると共に、断面コ字状を有する溝部１６０５ａの右側壁の上側及び下側にはＬ字状の取付片１６０５ｂがプレス加工によりそれぞれ形成されることでＬ字状の取付片１６０５ｂと対応する部分に切欠部１６０５ｃがそれぞれ形成される。なお、Ｌ字状の取付片１６０５ｂの取付面１６０５ｂａの先端部には、切欠孔１６０５ｂｂがプレス加工によりそれぞれ形成されている。

【２１２７】

金属製配線溝１６０５は、図示しない配線を介して、基板グランド（ＧＮＤ）と電気的に接続されており、遊技盤５に備える各種基板のグランド（基板グランド（ＧＮＤ））と同一のグランド（ＧＮＤ）となっている。これは、導電性を有する金属製配線溝１６０５が遊技盤５に備える各種基板に対して電気的に浮いた状態とならないようになっている。つまり、電気的に浮いた金属は、雑音を拾うアンテナとして機能してノイズ源となるおそれがあるため、電気的に浮いた金属を遊技盤５に備える各種基板に対して作らないようにしている。

【２１２８】

金属製配線溝１６０５における４つのＬ字状の取付片１６０５ｂの取付面１６０５ｂａに形成される切欠孔１６０５ｂｂを保護カバー体１６０１に形成される４つの取付ボス孔１６０１ｄと対応するようにそれぞれ配置して切欠孔１６０５ｂｂに取付ボス孔１６０１ｄをそれぞれ挿通した後に（取付ボス孔１６０１ｄの高さ寸法（奥行き方向の距離寸法）は切欠孔１６０５ｂｂの板厚寸法と同一の寸法又は小さい寸法となっている。）、図示しない金属製のナベねじを、切欠孔１６０５ｂｂから取付ボス孔１６０１ｄへ向かってねじ込んで固定した状態では、保護カバー体１６０１の裏面と金属製配線溝１６０５の断面コ字状を有する溝部１６０５ａの底部外面１６０５ｄとの間に溝外空間が形成される。また、

金属製配線溝１６０５が固定された遊技盤５が本体枠４に装着された状態では、金属製配線溝１６０５における断面コ字状を有する溝部１６０５ａの開口側が上述した払出ベースユニット５５０の払出ベース５５１における背板左部５５１ｅの正面により封鎖されることで、金属製配線溝１６０５における断面コ字状を有する溝部１６０５ａ内に溝内空間が形成される。

【２１２９】

換言すると、保護カバー体１６０１の裏面と払出ベースユニット５５０の払出ベース５５１における背板左部５５１ｅの正面との空間を、金属製配線溝１６０５により、保護カバー体１６０１の裏面と金属製配線溝１６０５の断面コ字状を有する溝部１６０５ａの正面との間に溝外空間と、金属製配線溝１６０５における断面コ字状を有する溝部１６０５ａ内に溝内空間と、をそれぞれ形成することができるようになっている。つまり、保護カバー体１６０１の裏面と金属製配線溝１６０５の断面コ字状を有する溝部１６０５ａの正面との間に形成される溝外空間は、電磁波ノイズの発生源側を臨まない空間となっているのに対して、金属製配線溝１６０５における断面コ字状を有する溝部１６０５ａ内に溝内空間は、電磁波ノイズの発生源側を臨む空間となっている。なお、溝外空間の高さ寸法（奥行き方向の距離寸法）Ｈ１は、溝内空間の高さ寸法（奥行き方向の距離寸法）Ｈ２と比べて大きくなっている。

【２１３０】

背板左部５５１ｅの裏面に球誘導ユニット５７０、払出装置５８０、及び上部満タン球経路ユニット６００が取り付けられているため、背板左部５５１ｅの前面と遊技盤５の左側裏面とに形成される空間、つまり配線引き回し空間は、遊技球Ｂからの静電放電による電磁波ノイズの影響を受け易いものの、金属製配線溝１６０５が導電性を有するものであるため、電磁波ノイズを溝内空間から溝外空間へ向かって侵入することを防止することができるシールド部材として金属製配線溝１６０５が機能することができるようになっている。

【２１３１】

これにより、電磁波ノイズの影響を受け易い制御信号を伝送する配線を金属製配線溝１６０５により形成される溝外空間に引き回すことで電磁波ノイズによるトラブルを回避することができると共に、電磁波ノイズの影響を受け難い各種電源を供給する配線は金属製配線溝１６０５により形成される溝内空間に引き回すことができる。

【２１３２】

例えば、遊技領域５ａの中央に配置されて所定の演出画像を表示可能な演出表示装置１６００の他に所定の演出画像を表示可能な図示しないサブ演出表示装置が遊技盤５の下側に取り付けられる場合において、上述した周辺制御ユニット１５００の液晶出力基板１５３０からのフレキシブルフラットケーブル１６０６（ＦＦＣ（Ｆｌｅｘｉｂｌｅ　Ｆｌａｔ　Ｃａｂｌｅの略。フレキシブルフラットケーブルは、図示しないサブ演出表示装置に描画データ（制御信号）を伝送するための複数の平型導体が平行に配置されると共に、これらの複数の平型導体が絶縁体で被覆されている。））は、山折り、谷折りを複数回繰り返して屈曲されて立体的に形成されるものであり、図示しないサブ演出表示装置に対する描画データ（制御信号）を伝送する重要な配線であり、電磁波ノイズの影響を受けると、図示しないサブ演出表示装置に表示される演出画像が乱れたり、砂嵐のような画像となったりするトラブルを防止するために金属製配線溝１６０５により形成される溝外空間に引き回される。また、上述した周辺制御ユニット１５００の周辺制御基板１５１０から出力される各種制御信号を伝送する各種配線やプラス側配線及びマイナス側配線により制御信号を伝送するツイストペアケーブル、周辺制御ユニット１５００の周辺制御基板１５１０に入力される各種センサーからの検出信号が伝送される各種配線は、導体（単線材又は撚線材）の周囲が絶縁材により被覆されているものであり、電磁波ノイズの影響を受けると、周辺制御基板１５１０が出力した正規のデータが他のデータに変化してデータ化けして出力先で受信（入力）されたり、本来出力していない信号であるにもかかわらず出力している信号として出力先で受信（入力）されたり、各種センサーからの検出信号が正確に周辺制御基板１５１０に受信（入力）されたりするトラブルを防止するために金属製配線溝１６

０５により形成される溝外空間に引き回される。金属製配線溝１６０５により形成される溝外空間内に引き回されるツイストペアケーブルや各種配線は、この溝外空間内に沿って上方又は下方へ向かって引き回される。

【２１３３】

これに対して、上述した電源基板６３０で作成される＋２４Ｖ、＋１２Ｖ、及び＋５Ｖ等の各種電源（グランド（ＧＮＤ）も含めてもよい。）を供給する配線は、導体（単線材又は撚線材）の周囲が絶縁材により被覆されているものであり、各種電源（グランド（ＧＮＤ）も含めてもよい。）の電圧が安定化された状態となっているため、制御信号と比べると、電磁波ノイズの影響を受けたとしても、この影響による電圧の変動が極めて微弱であり、電磁波ノイズの影響を受け難いため、金属製配線溝１６０５により形成される溝内空間に引き回すことができる。

【２１３４】

電源基板６３０からの各種電源は、上述した本体枠側ドロワコネクタ（凹タイプ）から遊技盤５の遊技盤側ドロワコネクタ（凸タイプ）を介して電気的に接続される各種電源供給ラインにより遊技盤５に供給され、遊技盤５の遊技盤側ドロワコネクタ（凸タイプ）からの各種電源を供給する各種配線がフレキシブルフラットケーブル１６０６と接近して配置されないように導電性を有する金属製配線溝１６０５へ向かって引き回されると共に、この金属製配線溝１６０５の断面コ字状を有する溝部１６０５ａの右側壁及び左側壁の下側にそれぞれ形成される切欠部１６０５ｃを介して金属製配線溝１６０５により形成される溝内空間に引き回れ、この溝内空間内に沿って上方へ向かって引き回されて金属製配線溝１６０５の上端から遊技盤５に備える各種基板へ引き回される。

【２１３５】

このように、導電性を有する金属製配線溝１６０５により、配線を通す空間（配線を引き回す空間）を、電磁波ノイズの影響を受け易い制御信号を伝送する配線を引き回す溝外空間と、電磁波ノイズの影響を受け難い各種電源を供給する配線を引き回す溝内空間と、に分けた２階建として構成することができるようになっているため、上述した背板左部５５１ｅの前面と遊技盤５の左側裏面とに形成される空間（配線引き回し空間）における遊技球Ｂからの静電放電による電磁波ノイズに対する耐ノイズ性を向上することができる。

【２１３６】

ここで、フレキシブルフラットケーブル１６０６について説明する。フレキシブルフラットケーブル１６０６は、図示しないサブ演出表示装置に描画データ（制御信号）を伝送するための複数の平型導体が平行に配置されると共に、これらの複数の平型導体が絶縁体で被覆されているものであり、通常の丸型電気配線と比べると、通常の丸型電気配線の厚み（直径）の３分の１から５分の１ぐらいの厚みを有し、周辺制御ユニット１５００の液晶出力基板１５３０から遊技盤５の下側に取り付けられる図示しないサブ演出表示装置へ向かって山折り、谷折りを複数回繰り返して屈曲されて立体的に形成されるものであり、所定幅を有する左右方向に長い帯状の本体１６０６ａの左側となる上端側には本体１６０６ａの裏面側に複数の平型導体の電極１６０６ｂａが所定長さを有して剥き出しに配置され、本体１６０６ａの表面側に所定の厚さを有すると共に剥き出しされた複数の平型導体の電極１６０６ｂａの所定長さより長い矩形形状を有する電極１６０６ｂａを補強するための補強板１６０６ｃａが形成されているのに対して、この本体１６０６ａの下端側には本体１６０６ａの裏面側に複数の平型導体の電極１６０６ｂｂが所定長さを有して剥き出しに配置され、本体１６０６ａの表面側に所定の厚さを有すると共に剥き出しされた複数の平型導体の電極１６０６ｂｂの所定長さより長い矩形形状を有する電極１６０６ｂｂを補強するための補強板１６０６ｃｂが形成されている。

【２１３７】

この本体１６０６ａの上端側に形成される複数の平型導体の電極１６０６ｂａは、上述した液晶出力基板１５３０の表面（実装面）１５３０ｘに備える図示しないコネクタと電気的に接続されるのに対して、この本体１６０６ａの下端側に形成される複数の平型導体の電極１６０６ｂｂは、遊技盤５の下側に取り付けられる図示しないサブ演出表示装置にお

ける図示しない液晶パネルの裏面上側を覆う図示しない金属製裏蓋に設けられるコントロール基板のコネクタと電気的に接続される。

【２１３８】

なお、フレキシブルフラットケーブル１６０６が電気的に接続される液晶出力基板１５３０における電源ラインと基板グランド（ＧＮＤ）との間には、図示しないデカップリングコンデンサや図示しない電源用バイパスコンデンサ等のパスコンと呼ばれるコンデンサが実装されており、電源インピーダンスを下げることにより、遊技球Ｂからの静電放電による電磁波ノイズに対する耐ノイズ性を向上している。また、フレキシブルフラットケーブル１６０６が電気的に接続される図示しないサブ演出表示装置における図示しない液晶パネルの裏面上側を覆う図示しない金属製裏蓋に設けられるコントロール基板における電源ラインと基板グランド（ＧＮＤ）との間には、図示しないデカップリングコンデンサや図示しない電源用バイパスコンデンサ等のパスコンと呼ばれるコンデンサが実装されており、電源インピーダンスを下げることにより、遊技球Ｂからの静電放電による電磁波ノイズに対する耐ノイズ性を向上している。

【２１３９】

液晶出力基板１５３０の表面（実装面）１５３０ｘに備える図示しないコネクタと電気的に接続されたフレキシブルフラットケーブル１６０６は、上述した周辺制御ユニット１５００のベース体１５０２と、遊技盤５の演出表示装置１６００の表示領域を除いて覆う保護カバー体１６０１の裏面と、の間を通って導電性を有する金属製配線溝１６０５により形成される溝外空間に引き回れ、この溝外空間に沿って下方側へ誘導されてそのまま遊技盤５に裏面に取り付けられる基板ホルダ１２００内へ引き回されて図示しないサブ演出表示装置における液晶パネルの裏面上側を覆う金属製裏蓋に設けられるコントロール基板のコネクタと電気的に接続される。

【２１４０】

液晶出力基板１５３０の表面（実装面）１５３０ｘに備える図示しないコネクタと電気的に接続されたフレキシブルフラットケーブル１６０６は、上述したように、周辺制御ユニット１５００のベース体１５０２と、遊技盤５の演出表示装置１６００の表示領域を除いて覆う保護カバー体１６０１の裏面と、の間を通って導電性を有する金属製配線溝１６０５により形成される溝外空間に引き回れるようになっている。また、演出表示装置１６００は、上述したように、額縁状の金属製フレームの後面全体が金属製裏蓋により覆われている。これにより、演出表示装置１６００の金属製裏蓋は、周辺制御ユニット１５００のベース体１５０２と、遊技盤５の演出表示装置１６００の表示領域を除いて覆う保護カバー体１６０１の裏面と、の間を通っている領域においてフレキシブルフラットケーブル１６０６へ向かって侵入する電磁波ノイズを防止することができるシールド部材として機能することができるようになっている。

【２１４１】

［変形例］

なお、金属製配線溝１６０５は、図示しない配線を介して、基板グランド（ＧＮＤ）と電気的に接続されており、遊技盤５に備える各種基板のグランド（基板グランド（ＧＮＤ））と同一のグランド（ＧＮＤ）となっているが、これに代えて、又はこれと共にさらに、導電性を有する金属製配線溝１６０５の溝部１６０５ａの底部をＬ字状の接続片が保護カバー体１６０１へ向かってプレス加工により形成されると共に、保護カバー体１６０１に接続片開口部を設けることにより、このＬ字状の接続片の接続面を、保護カバー体１６０１に設けた接続片開口部を通して保護カバー体１６０１内における演出表示装置１６００の金属製裏蓋と当接して電気的に接続された状態としてもよし、このＬ字状の接続片の接続面に導電性弾性部材を取り付けて保護カバー体１６０１に設けた接続片開口部を通して保護カバー体１６０１内における演出表示装置１６００の金属製裏蓋と導電性弾性部材の面（Ｌ字状の接続片の接続面に取り付けられた面と反対側の面）が当接して電気的に接続された状態としてもよい（換言すると、Ｌ字状の接続片の接続面が保護カバー体１６０１に設けた接続片開口部を通して保護カバー体１６０１内における演出表示装置１６００の

金属製裏蓋と導電性弾性部材を介して当接して電気的にされた状態としてもよい）。導電性弾性部材は、クッション性（弾性）を有する導電部材であり、導電性被覆部と、導電性被覆部により被覆される芯材としての矩形形状を有する発泡体と、導電性被覆部に貼られる導電性粘着テープと、から構成されている。被覆部としては、例えば、ポリエステル織布に銅及びニッケルの金属被膜が形成されているもの、ポリイミドフィルムに銅及びニッケルの導電層が形成されるもの等を挙げることができる。発泡体としては、例えば、耐熱性を有するポリウレタンフォームを挙げることができる。導電性粘着テープとしては、例えば、アクリル系粘着剤が使用された導電性両面接着テープを挙がることができる。導電性粘着テープの表面は、使用されるまでピール紙により保護されており、導電性被覆部をＬ字状の接続片の接続面へ取り付ける（接着する）ときにピール紙を剥がす。

【２１４２】

また、遊技盤５を正面から見て左上隅に取り付けられる機能表示ユニット１４００に対して上述した主制御基板１３１０から出力される制御信号を伝送する配線を金属製配線溝１６０５により形成される溝外空間へ引き回し、この溝外空間内に沿って上方へ向かって引き回すようにしてもよい。こうすれば、機能表示ユニット１４００への配線に対して遊技球Ｂからの静電放電による電磁波ノイズに対する耐ノイズ性を向上することができる。

【２１４３】

また、金属製配線溝１６０５は、図示しない配線を介して、基板グランド（ＧＮＤ）と電気的に接続されており、遊技盤５に備える各種基板のグランド（基板グランド（ＧＮＤ））と同一のグランド（ＧＮＤ）となっているが、導電性を有する金属製配線溝１６０５が遊技盤５に備える各種基板に対して電気的に浮いた状態であっても、雑音を拾うアンテナとして機能してノイズ源となるおそれがない場合、又はノイズ源からの電磁波ノイズが無視できる程度小さい場合には、金属製配線溝１６０５を、図示しない配線を介して、基板グランド（ＧＮＤ）と電気的に接続せずに、電気的に浮いた状態としてもよい。

【２１４４】

また、導電性を有する金属製配線溝１６０５は、上下方向に長い薄肉金属平板をプレス加工により形成されているが、金属製配線溝１６０５と同一形状を有する非導電性を有する樹脂製配線溝１６０５’として構成してもよい。この場合、非導電性を有する樹脂製配線溝１６０５’の表裏全体を導電性のメッキ（例えば、クロムメッキや硬質金メッキ等の貴金属メッキ）が施されると共に、導電性のメッキが施された部分は、図示しない配線を介して、基板グランド（ＧＮＤ）と電気的に接続されて、遊技盤５に備える各種基板のグランド（基板グランド（ＧＮＤ））と同一のグランド（ＧＮＤ）となっている。このように構成しても、導電性のメッキが施された非導電性を有する樹脂製配線溝１６０５’は、上述した導電性を有する金属製配線溝１６０５と同一の効果（つまり、電磁波ノイズを溝内空間から溝外空間へ向かって侵入することを防止することができるシールド部材として機能することができる。）を奏することができる。なお、導電性のメッキが施された非導電性を有する樹脂製配線溝１６０５’が遊技盤５に備える各種基板に対して電気的に浮いた状態であっても、雑音を拾うアンテナとして機能してノイズ源となるおそれがない場合、又はノイズ源からの電磁波ノイズが無視できる程度小さい場合には、導電性のメッキを、図示しない配線を介して、基板グランド（ＧＮＤ）と電気的に接続せずに、電気的に浮いた状態としてもよい。

【２１４５】

また、導電性を有する金属製配線溝１６０５は、上下方向に長い薄肉金属平板をプレス加工により形成されているが、金属製配線溝１６０５と同一形状を有する導電性を有する樹脂製配線溝１６０５’’として構成してもよい。このように構成しても、導電性を有する樹脂製配線溝１６０５’’は、上述した導電性を有する金属製配線溝１６０５と同一の効果（つまり、電磁波ノイズを溝内空間から溝外空間へ向かって侵入することを防止することができるシールド部材として機能することができる。）を奏することができる。

【２１４６】

また、フレキシブルフラットケーブル１６０６は、制御信号を伝送するための複数の平型

導体が平行に配置されていたが、平型導体間に、基板グランド（ＧＮＤ）と電気的に接続される平型導体を配置して、制御信号を伝送する平型導体と、基板グランド（ＧＮＤ）と電気的に接続される平型導体と、が交互に配置されるように構成してもよい。こうすれば、制御信号を伝送する複数の平型導体に対して、遊技球Ｂからの静電放電による電磁波ノイズに対する耐ノイズ性を向上することができる。

【２１４７】

また、フレキシブルフラットケーブル１６０６は、制御信号を伝送するための複数の平型導体が平行に配置されていたが、特に電磁波ノイズの影響に弱い（つまり、電磁波ノイズの影響を受けやすい）制御信号を伝送する平型導体（以下、「電磁波ノイズの影響に弱い平型導体」と記載する。）については、この電磁波ノイズの影響に弱い平型導体と隣り合うように、基板グランド（ＧＮＤ）と電気的に接続される平型導体を配置して、この電磁波ノイズの影響に弱い平型導体が基板グランド（ＧＮＤ）と電気的に接続される平型導体により挟持されて配置されるように構成してもよい。こうすれば、電磁波ノイズの影響に弱い平型導体に対して、遊技球Ｂからの静電放電による電磁波ノイズに対する耐ノイズ性を向上することができる。

【２１４８】

また、フレキシブルフラットケーブル１６０６は、制御信号を伝送するための複数の平型導体が平行に配置されていたが、これらの複数の平型導体として、制御信号を伝送する平型導体のほかに、基板グランド（ＧＮＤ）と電気的に接続される平型導体、及び各種電源を供給する平型導体を含むように構成する場合であって、基板グランド（ＧＮＤ）と電源とが隣り合うように配置する場合には、この電源として、温度が上昇してある温度に達すると、急激に抵抗が上昇して電流を抑制するサーミスタ等の過電流保護素子、又は、定格電流以下で抵抗が小さく、遮断電流に達すると回路を遮断する過電流保護回路（例えば、リセッタブルヒューズとしてポリスイッチを有する回路。このポリスイッチは、素子抵抗と素子温度との関係において、特定温度から急激に抵抗値が増加して本体が発熱し、この熱により導電性が低下して電流を遮断し、本体が冷却されると導電性が戻り、復帰するものである。）を介して、供給されるものが優先されるようにすることが好ましい。これは、フレキシブルフラットケーブル１６０６は、上述したように、通常の丸型電気配線と比べると、通常の丸型電気配線の厚み（直径）の３分の１から５分の１ぐらいの厚みを有して薄いため、電源を供給する平型導体に過電流が流れた際にフレキシブルフラットケーブル１６０６の短絡を過電流保護回路や過電流保護回路により防止して安全を確保することができると共に破損を回避することができるからである。

【２１４９】

［第２実施形態に係る配線溝］

第２実施形態に係る配線溝は、図２４８（ｃ）、図２５１、及び図２５２に示すように、非導電性を有する樹脂製配線溝１６０８であり、上下方向に長い断面コ字状を有する溝部１６０８ａが形成されると共に、この断面コ字状を有する溝部１６０８ａの左側壁及び右側壁には、上側及び下側に外側へ向かって突出する取付片１６０８ｂが形成されて一体成型されている。なお、取付片１６０８ｂの取付面１６０８ｂａは、断面コ字状を有する溝部１６０８ａの底部外面１６０８ｃとは同一平面状に形成されていると共に、取付片１６０８ｂの先端部には、取付孔１６０８ｂｂがそれぞれ形成されている。また、断面コ字状を有する溝部１６０８ａを開口側から見て左側壁のほぼ中央部分に配線挿通用切欠部１６０８ｄが形成される。樹脂製配線溝１６０８は透明な非導電性を有する樹脂により成型されてもよいし、黒色等の有色の非導電性を有する樹脂により成型されてもよい。樹脂製配線溝１６０８の断面コ字状を有する溝部１６０８ａの厚さは２．０ｍｍ～２．６ｍｍであり、樹脂製配線溝１６０８の取付片１６０８ｂの高さは、４．０ｍｍ～５．０ｍｍである。

【２１５０】

樹脂製配線溝１６０８における４つの取付片１６０８ｂの取付面１６０８ｂａに形成される取付孔１６０８ｂｂを保護カバー体１６０１に形成される４つの取付ボス孔１６０１ｄと対応するようにそれぞれ配置して取付孔１６０８ｂｂに取付ボス孔１６０１ｄをそれぞ

れ挿通した後に（取付ボス孔１６０１ｄの高さ寸法（奥行き方向の距離寸法）は取付片１６０８ｂの高さ寸法（奥行き方向の距離寸法）と比べて小さい寸法となっている。）、図示しない金属製のナベねじを、取付孔１６０８ｂｂから取付ボス孔１６０１ｄへ向かってねじ込んで固定した状態では、保護カバー体１６０１の裏面と樹脂製配線溝１６０８の断面コ字状を有する溝部１６０８ａの底部外面１６０８ｃとが当接した状態となると共に、保護カバー体１６０１の裏面と取付片１６０８ｂの取付面１６０８ｂａとが当接した状態なる。また、樹脂製配線溝１６０８が固定された遊技盤５が本体枠４に装着された状態では、樹脂製配線溝１６０８における断面コ字状を有する溝部１６０８ａの開口側が上述した払出ベースユニット５５０の払出ベース５５１における背板左部５５１ｅの正面により封鎖されることで、樹脂製配線溝１６０８における断面コ字状を有する溝部１６０８ａ内に溝内空間が形成される。

【２１５１】

なお、樹脂製配線溝１６０８における取付片１６０８ｂの取付面１６０８ｂａから溝部１６０８ａの左側壁及び右側壁の開口側面までの高さ寸法（奥行き方向の距離寸法）と、金属製配線溝１６０５におけるＬ字状の取付片１６０５ｂの取付面１６０５ｂａから溝部１６０８ａの左側壁及び右側壁の開口側面までの高さ寸法（奥行き方向の距離寸法）と、は同一の寸法（奥行き方向の距離寸法）となっており、同一の高さとなっている。また、樹脂製配線溝１６０８により形成される溝内空間の高さ（奥行き方向の距離寸法）Ｈ３は、上述した第１実施形態に係る配線溝における金属製配線溝１６０５により形成される溝外空間の高さ寸法（奥行き方向の距離寸法）Ｈ１と、上述した第１実施形態に係る配線溝における金属製配線溝１６０５により形成される溝内空間の高さ寸法（奥行き方向の距離寸法）Ｈ２と、を加えた長さとなっている。

【２１５２】

背板左部５５１ｅの裏面に球誘導ユニット５７０、払出装置５８０、及び上部満タン球経路ユニット６００が取り付けられているため、背板左部５５１ｅの前面と遊技盤５の左側裏面とに形成される空間、つまり配線引き回し空間は、遊技球Ｂからの静電放電による電磁波ノイズの影響を受け易く、樹脂製配線溝１６０８が非導電性を有するものであるため、電磁波ノイズを樹脂製配線溝１６０８により形成される溝内空間へ向かって侵入することを防止することができるシールド部材として樹脂製配線溝１６０８が機能することができない。

【２１５３】

例えば、遊技領域５ａの中央に配置されて所定の演出画像を表示可能な演出表示装置１６００の他に所定の演出画像を表示可能な図示しないサブ演出表示装置が遊技盤５の下側に取り付けられる場合において、上述した周辺制御ユニット１５００の液晶出力基板１５３０からのフレキシブルフラットケーブル１６０９（ＦＦＣ（Ｆｌｅｘｉｂｌｅ　Ｆｌａｔ　Ｃａｂｌｅの略。フレキシブルフラットケーブルは、図示しないサブ演出表示装置に描画データ（制御信号）を伝送するための複数の平型導体が平行に配置されると共に、これらの複数の平型導体が絶縁体で被覆されている。））は、山折り、谷折りを複数回繰り返して屈曲されて立体的に形成されるものであり、上述した第１実施形態に係る配線溝におけるフレキシブルフラットケーブル１６０６と同一の形状を有しており、図示しないサブ演出表示装置に対する描画データ（制御信号）を伝送する重要な配線であり、電磁波ノイズの影響を受けると、図示しないサブ演出表示装置に表示される演出画像が乱れたり、砂嵐のような画像となったりするトラブルが生ずる。

【２１５４】

そこで、フレキシブルフラットケーブル１６０９の平たい両面のうち、一方の面全体に網状に編み込んだシールド線１６１０を設けると共に、このシールド線１６１０を覆うように透明な樹脂で被覆する特殊な構造を採用した。このシールド線１６１０は、フレキシブルフラットケーブル１６０９の上端側が接続される基板のグランド（基板グランド（ＧＮＤ））と電気的に接続されると共に、フレキシブルフラットケーブル１６０９の下端側が接続される基板のグランド（基板グランド（ＧＮＤ））と電気的に接続される。

【２１５５】
フレキシブルフラットケーブル１６０９は、山折り、谷折りを複数回繰り返して屈曲されて立体的に形成される際に、樹脂製配線溝１６０８における断面コ字状を有する溝部１６０８ａに形成される配線挿通用切欠部１６０８ｄを介して樹脂製配線溝１６０８により形成される溝内空間へ引き回れてこの溝内空間の下端側へ向かって屈曲された部分から溝内空間に下端側から所定距離寸法だけ延出した部分までに亘る部分については、シールド線１６１０が設けられる面が溝部１６０８ａの開口側へ向くように形成されている。つまり、樹脂製配線溝１６０８により形成される溝内空間のうち、樹脂製配線溝１６０８における断面コ字状を有する溝部１６０８ａの底部内面１６０８ｅとフレキシブルフラットケーブル１６０９にシールド線１６１０が設けられる面との間に形成される空間（つまり、フレキシブルフラットケーブル１６０９が配置される小さい空間）は、電磁波ノイズの発生源側を臨まない空間となっているのに対して、このフレキシブルフラットケーブル１６０９にシールド線１６１０が設けられる面から溝部１６０８ａの開口側までに形成される空間は、電磁波ノイズの発生源側を臨む空間となっている。
【２１５６】
背板左部５５１ｅの裏面に球誘導ユニット５７０、払出装置５８０、及び上部満タン球経路ユニット６００が取り付けられているため、背板左部５５１ｅの前面と遊技盤５の左側裏面とに形成される空間、つまり配線引き回し空間は、遊技球Ｂからの静電放電による電磁波ノイズの影響を受け易いものの、フレキシブルフラットケーブル１６０９は、シールド線１６１０が設けられる面を、電磁波ノイズが侵入してくる向きに対向するように形成されている。
【２１５７】
また、上述した電源基板６３０で作成される＋２４Ｖ、＋１２Ｖ、及び＋５Ｖ等の各種電源（グランド（ＧＮＤ）も含めてもよい。）を供給する配線は、導体（単線材又は撚線材）の周囲が絶縁材により被覆されているものであり、各種電源（グランド（ＧＮＤ）も含めてもよい。）の電圧が安定化された状態となっているため、制御信号と比べると、電磁波ノイズの影響を受けたとしても、この影響による電圧の変動が極めて微弱であり、電磁波ノイズの影響を受け難いため、樹脂製配線溝１６０８により形成される溝内空間に引き回すことができる。
【２１５８】
樹脂製配線溝１６０８により形成される溝内空間には、フレキシブルフラットケーブル１６０９と各種電源を供給する各種配線とが共存しているため、シールド線１６１０が設けられていないフレキシブルフラットケーブル１６０９の面を樹脂製配線溝１６０８における断面コ字状を有する溝部１６０８ａの底部内面１６０８ｅへ向けると共に、シールド線１６１０が設けられているフレキシブルフラットケーブル１６０９の面を樹脂製配線溝１６０８における断面コ字状を有する溝部１６０８ａの開口側へ向ける。そしてシールド線１６１０が設けられているフレキシブルフラットケーブル１６０９の面上に沿って電源基板６３０からの各種電源を配置する。
【２１５９】
電源基板６３０からの各種電源は、上述した本体枠側ドロワコネクタ（凹タイプ）から遊技盤５の遊技盤側ドロワコネクタ（凸タイプ）を介して電気的に接続される各種電源供給ラインにより遊技盤５に供給され、遊技盤５の遊技盤側ドロワコネクタ（凸タイプ）からの各種電源を供給する各種配線がシールド線１６１０が設けられているフレキシブルフラットケーブル１６０９の面上に沿って配置されるように非導電性を有する樹脂製配線溝１６０８へ向かって引き回されると共に、この樹脂製配線溝１６０８の断面コ字状を有する溝部１６０８ａの下方から樹脂製配線溝１６０８により形成される溝内空間に引き回れ、この溝内空間内に沿って上方へ向かって引き回されて樹脂製配線溝１６０８の上端から遊技盤５に備える各種基板へ引き回される。
【２１６０】
このように、非導電性を有する樹脂製配線溝１６０８により、配線を通す空間（配線を引

き回す空間）を、電磁波ノイズの影響を受け易い制御信号を伝送する配線であるフレキシブルフラットケーブル１６０９にはシールド線１６１０が設け、シールド線１６１０が設けられていないフレキシブルフラットケーブル１６０９の面を樹脂製配線溝１６０８における断面コ字状を有する溝部１６０８ａの底部内面１６０８ｅへ向けると共に、シールド線１６１０が設けられているフレキシブルフラットケーブル１６０９の面を樹脂製配線溝１６０８における断面コ字状を有する溝部１６０８ａの開口側へ向けることで上述した背板左部５５１ｅの前面と遊技盤５の左側裏面とに形成される空間（配線引き回し空間）における遊技球Ｂからの静電放電による電磁波ノイズに対する耐ノイズ性を向上することができる。

【２１６１】

また、シールド線１６１０が設けられているフレキシブルフラットケーブル１６０９の面上に沿って電源基板６３０からの各種電源を配置することで、電磁波ノイズの影響を受け易い制御信号を伝送する配線であるフレキシブルフラットケーブル１６０９と、電磁波ノイズの影響を受け難い各種電源を供給する各種配線と、を樹脂製配線溝１６０８により形成される溝内空間に共存して配置することができる。

【２１６２】

なお、第２実施形態に係る配線溝である非導電性を有する樹脂製配線溝１６０８では、上述した第２実施形態に係る配線溝である導電性を有する金属製配線溝１６０５と異なり、上述した周辺制御ユニット１５００の周辺制御基板１５１０から出力される各種制御信号を伝送する各種配線、プラス側配線及びマイナス側配線により制御信号を伝送するツイストペアケーブル、周辺制御ユニット１５００の周辺制御基板１５１０に入力される各種センサーからの検出信号が伝送される各種配線を、樹脂製配線溝１６０８自身を利用して引き回すことができない。

【２１６３】

ここで、フレキシブルフラットケーブル１６０９について説明する。フレキシブルフラットケーブル１６０９は、図示しないサブ演出表示装置に描画データ（制御信号）を伝送するための複数の平型導体が平行に配置されると共に、これらの複数の平型導体が絶縁体で被覆されているものであり、通常の丸型電気配線と比べると、通常の丸型電気配線の厚み（直径）の３分の１から５分の１ぐらいの厚みを有し、上述したように、フレキシブルフラットケーブル１６０９の平たい両面のうち、一方の面全体に網状に編み込んだシールド線１６１０を設けると共に、このシールド線１６１０を覆うように透明な樹脂で被覆する特殊な構造となっている。フレキシブルフラットケーブル１６０９は、周辺制御ユニット１５００の液晶出力基板１５３０から遊技盤５の下側に取り付けられる図示しないサブ演出表示装置へ向かって山折り、谷折りを複数回繰り返して屈曲されて立体的に形成されるものであり、所定幅を有する左右方向に長い帯状の本体１６０９ａの左側となる上端側には本体１６０９ａの裏面側に複数の平型導体の電極１６０９ｂａが所定長さを有して剥き出しに配置され、本体１６０９ａの表面側に所定の厚さを有すると共に剥き出しされた複数の平型導体の電極１６０９ｂａの所定長さより長い矩形形状を有する電極１６０９ｂａを補強するための補強板１６０９ｃａが形成されているのに対して、この本体１６０９ａの下端側には本体１６０９ａの裏面側に複数の平型導体の電極１６０９ｂｂが所定長さを有して剥き出しに配置され、本体１６０９ａの表面側に所定の厚さを有すると共に剥き出しされた複数の平型導体の電極１６０９ｂｂの所定長さより長い矩形形状を有する電極１６０９ｂｂを補強するための補強板１６０９ｃｂが形成されている。

【２１６４】

この本体１６０９ａの上端側に形成される複数の平型導体の電極１６０９ｂａは、上述した液晶出力基板１５３０の表面（実装面）１５３０ｘに備える図示しないコネクタと電気的に接続されると共に、この図示しないコネクタを介してシールド線１６１０が液晶出力基板１５３０のグランド（基板グランド（ＧＮＤ））と電気的に接続されるのに対して、この本体１６０９ａの下端側に形成される複数の平型導体の電極１６０９ｂｂは、遊技盤５の下側に取り付けられる図示しないサブ演出表示装置における図示しない液晶パネルの

裏面上側を覆う図示しない金属製裏蓋に設けられるコントロール基板のコネクタと電気的に接続されると共に、この図示しない金属製裏蓋に設けられるコントロール基板のコネクタを介してシールド線１６１０がコントロール基板のグランド（基板グランド（ＧＮＤ））と電気的に接続される。

【２１６５】

なお、フレキシブルフラットケーブル１６０９が電気的に接続される液晶出力基板１５３０における電源ラインと基板グランド（ＧＮＤ）との間には、図示しないデカップリングコンデンサや図示しない電源用バイパスコンデンサ等のパスコンと呼ばれるコンデンサが実装されており、電源インピーダンスを下げることにより、遊技球Ｂからの静電放電による電磁波ノイズに対する耐ノイズ性を向上している。また、フレキシブルフラットケーブル１６０９が電気的に接続される図示しないサブ演出表示装置における図示しない液晶パネルの裏面上側を覆う図示しない金属製裏蓋に設けられるコントロール基板における電源ラインと基板グランド（ＧＮＤ）との間には、図示しないデカップリングコンデンサや図示しない電源用バイパスコンデンサ等のパスコンと呼ばれるコンデンサが実装されており、電源インピーダンスを下げることにより、遊技球Ｂからの静電放電による電磁波ノイズに対する耐ノイズ性を向上している。

【２１６６】

液晶出力基板１５３０の表面（実装面）１５３０ｘに備える図示しないコネクタと電気的に接続されたフレキシブルフラットケーブル１６０９は、上述した周辺制御ユニット１５００のベース体１５０２と、遊技盤５の演出表示装置１６００の表示領域を除いて覆う保護カバー体１６０１の裏面と、の間を通って非導電性を有する樹脂製配線溝１６０８における断面コ字状を有する溝部１６０８ａに形成される配線挿通用切欠部１６０８ｄを介して溝内空間へ引き回れ、この溝内空間に沿って下方側へ誘導されてそのまま遊技盤５に裏面に取り付けられる基板ホルダ１２００内へ引き回されて図示しないサブ演出表示装置における液晶パネルの裏面上側を覆う金属製裏蓋に設けられるコントロール基板のコネクタと電気的に接続される。

【２１６７】

液晶出力基板１５３０の表面（実装面）１５３０ｘに備える図示しないコネクタと電気的に接続されたフレキシブルフラットケーブル１６０９は、上述したように、周辺制御ユニット１５００のベース体１５０２と、遊技盤５の演出表示装置１６００の表示領域を除いて覆う保護カバー体１６０１の裏面と、の間を通って非導電性を有する樹脂製配線溝１６０８における断面コ字状を有する溝部１６０８ａに形成される配線挿通用切欠部１６０８ｄを介して樹脂製配線溝１６０８に形成される溝内空間へ引き回れるようになっている。また、演出表示装置１６００は、上述したように、額縁状の金属製フレームの後面全体が金属製裏蓋により覆われている。これにより、演出表示装置１６００の金属製裏蓋は、周辺制御ユニット１５００のベース体１５０２と、遊技盤５の演出表示装置１６００の表示領域を除いて覆う保護カバー体１６０１の裏面と、の間を通っている領域においてフレキシブルフラットケーブル１６０９へ向かって侵入する電磁波ノイズを防止することができるシールド部材として機能することができるようになっている。

【２１６８】

［変形例］

なお、一方の面全体に網状に編み込んだシールド線１６１０が設けられるフレキシブルフラットケーブル１６０９は、所定幅を有する左右方向に長い帯状の本体１６０６ａを山折り、谷折りを複数回繰り返して屈曲されて立体的に形成されていたが、帯状の本体１６０６ａを山折り又は谷折りを１回行った短いフレキシブルフラットケーブル１６０９’の一方の面体に網状に編み込んだシールド線１６１０を設けるようにしてもよい。例えば、電磁波ノイズの影響を受ける環境下に２つの基板が配置される場合には、この２つの基板間を一方の面体に網状に編み込んだシールド線１６１０が設けられた短いフレキシブルフラットケーブル１６０９’で電気的に接続することにより遊技球Ｂからの静電放電による電磁波ノイズに対する耐ノイズ性を向上することができる。なお、このシールド線１６１０は、

フレキシブルフラットケーブル１６０９’の上端側が２つの基板のうち一方の基板のグランド（基板グランド（ＧＮＤ））と電気的に接続されると共に、フレキシブルフラットケーブル１６０９’の下端側が２つの基板のうち他方の基板のグランド（基板グランド（ＧＮＤ））と電気的に接続される。

【２１６９】

また、演出表示装置１６００の金属製裏蓋は、周辺制御ユニット１５００のベース体１５０２と、遊技盤５の演出表示装置１６００の表示領域を除いて覆う保護カバー体１６０１の裏面と、の間を通っている領域においてフレキシブルフラットケーブル１６０９へ向かって侵入する電磁波ノイズを防止することができるシールド部材として機能することができるようになっている。また、この領域において、シールド線１６１０が設けられたフレキシブルフラットケーブル１６０９の面を演出表示装置１６００の金属製裏蓋と対向する向きとなるように形成していた。そこで、この領域の前後においてフレキシブルフラットケーブル１６０９を山折り、谷折りを組み合わせることにより、この領域においてシールド線１６１０が設けられていないフレキシブルフラットケーブル１６０９の面を演出表示装置１６００の金属製裏蓋と対向する向きとするように形成すると共に、シールド線１６１０が設けられているフレキシブルフラットケーブル１６０９の面を周辺制御ユニット１５００のベース体１５０２と対向する向きとするように形成してもよい。こうすれば、周辺制御ユニット１５００のベース体１５０２と、遊技盤５の演出表示装置１６００の表示領域を除いて覆う保護カバー体１６０１の裏面と、の間を通っている領域において、シールド線１６１０が設けられていないフレキシブルフラットケーブル１６０９の面は演出表示装置１６００の金属製裏蓋というシールドによりフレキシブルフラットケーブル１６０９へ向かって侵入する電磁波ノイズを防止することができるし、シールド線１６１０が設けられているフレキシブルフラットケーブル１６０９の面はシールド線１６１０といシールドによりフレキシブルフラットケーブル１６０９へ向かって侵入する電磁波ノイズを防止することができる。

【２１７０】

また、遊技盤５の演出表示装置１６００の表示領域を除いて覆う保護カバー体１６０１と、非導電性を有する樹脂製配線溝１６０８と、は別体に構成されていたが、保護カバー体１６０１が非導電性を有する樹脂製であれば、保護カバー体１６０１と樹脂製配線溝１６０８とを一体成型して構成するようにしてもよい。

【２１７１】

また、フレキシブルフラットケーブル１６０９の本体１６０９ａの上端側に形成される複数の平型導体の電極１６０９ｂａは、上述した液晶出力基板１５３０の表面（実装面）１５３０ｘに備える図示しないコネクタと電気的に接続されると共に、この図示しないコネクタを介してシールド線１６１０が液晶出力基板１５３０のグランド（基板グランド（ＧＮＤ））と電気的に接続され、フレキシブルフラットケーブル１６０９の本体１６０９ａの下端側に形成される複数の平型導体の電極１６０９ｂｂは、遊技盤５の下側に取り付けられる図示しないサブ演出表示装置における図示しない液晶パネルの裏面上側を覆う図示しない金属製裏蓋に設けられるコントロール基板のコネクタと電気的に接続されると共に、この図示しない金属製裏蓋に設けられるコントロール基板のコネクタを介してシールド線１６１０がコントロール基板のグランド（基板グランド（ＧＮＤ））と電気的に接続されていた。そこで、例えば、平行に配置された複数の平型導体の電極１６０９ｂａのうち、両端側に配置された平型導体をシールド線１６１０と電気的にそれぞれ接続された構成としてもよい。このように構成しても、シールド線１６１０を、液晶出力基板１５３０の表面（実装面）１５３０ｘに備える図示しないコネクタを介して液晶出力基板１５３０のグランド（基板グランド（ＧＮＤ））と電気的に接続することができると共に、遊技盤５の下側に取り付けられる図示しないサブ演出表示装置における図示しない液晶パネルの裏面上側を覆う図示しない金属製裏蓋に設けられるコントロール基板のコネクタを介してコントロール基板のグランド（基板グランド（ＧＮＤ））と電気的に接続することができる。

【２１７２】

また、フレキシブルフラットケーブル１６０９は、制御信号を伝送するための複数の平型導体が平行に配置されていたが、平型導体間に、基板グランド（ＧＮＤ）と電気的に接続される平型導体を配置して、制御信号を伝送する平型導体と、基板グランド（ＧＮＤ）と電気的に接続される平型導体と、が交互に配置されるように構成してもよい。こうすれば、制御信号を伝送する複数の平型導体に対して、遊技球Ｂからの静電放電による電磁波ノイズに対する耐ノイズ性を向上することができる。

【２１７３】

また、フレキシブルフラットケーブル１６０９は、制御信号を伝送するための複数の平型導体が平行に配置されていたが、特に電磁波ノイズの影響に弱い（つまり、電磁波ノイズの影響を受けやすい）制御信号を伝送する平型導体（以下、「電磁波ノイズの影響に弱い平型導体」と記載する。）については、この電磁波ノイズの影響に弱い平型導体と隣り合うように、基板グランド（ＧＮＤ）と電気的に接続される平型導体を配置して、この電磁波ノイズの影響に弱い平型導体が基板グランド（ＧＮＤ）と電気的に接続される平型導体により挟持されて配置されるように構成してもよい。こうすれば、電磁波ノイズの影響に弱い平型導体に対して、遊技球Ｂからの静電放電による電磁波ノイズに対する耐ノイズ性を向上することができる。

【２１７４】

また、フレキシブルフラットケーブル１６０９は、制御信号を伝送するための複数の平型導体が平行に配置されていたが、これらの複数の平型導体として、制御信号を伝送する平型導体のほかに、基板グランド（ＧＮＤ）と電気的に接続される平型導体、及び各種電源を供給する平型導体を含むように構成する場合であって、基板グランド（ＧＮＤ）と電源とが隣り合うように配置する場合には、この電源として、温度が上昇してある温度に達すると、急激に抵抗が上昇して電流を抑制するサーミスタ等の過電流保護素子、又は、定格電流以下で抵抗が小さく、遮断電流に達すると回路を遮断する過電流保護回路（例えば、リセッタブルヒューズとしてポリスイッチを有する回路。このポリスイッチは、素子抵抗と素子温度との関係において、特定温度から急激に抵抗値が増加して本体が発熱し、この熱により導電性が低下して電流を遮断し、本体が冷却されると導電性が戻り、復帰するものである。）を介して、供給されるものが優先されるようにすることが好ましい。これは、フレキシブルフラットケーブル１６０９は、上述したように、通常の丸型電気配線と比べると、通常の丸型電気配線の厚み（直径）の３分の１から５分の１ぐらいの厚みを有して薄いため、電源を供給する平型導体に過電流が流れた際にフレキシブルフラットケーブル１６０９の短絡を過電流保護回路や過電流保護回路により防止して安全を確保することができると共に破損を回避することができるからである。

【２１７５】

［他の装飾装置］

本実施形態では、図１１２に示したように、遊技盤５の裏ユニット３０００における裏箱３０１０内の上部に裏上演出ユニット３４００が設けられていた。ここでは、この裏上演出ユニット３４００に代えて発光演出ユニット５０００を設ける場合について図２５３～図２５９を参照して説明する。図２５３は発光演出ユニットを前から見た斜視図であり、図２５４は発光演出ユニットを後ろから見た斜視図であり、図２５５は発光演出ユニットを分解して前から見た分解斜視図であり、図２５６は発光演出ユニットを分解して後ろから見た分解斜視図であり、図２５７はＬＥＤベアチップと導光板との配置関係を示す正面図であり、図２５８は導光板の表面に配置された拡散シートを示す正面図であり、図２５９はフレキシブルフラットケーブルがＬＥＤ基板のコネクタと電気的に接続された状態を示す図（ａ）であり、（ａ）に示したＺ部の拡大図であってフレキシブルフラットケーブルのＬＥＤ基板のコネクタへの差込が正常である状態を示す図（ｂ）であり、（ａ）に示したＺ部の拡大図であってフレキシブルフラットケーブルのＬＥＤ基板のコネクタへの差込が不足する正常でない状態を示す図（ｃ）である。なお、図２５３～図２５６、及び図２５９には、図面の見やすさから、フレキシブルフラットケーブルの下端側のみを示して他の部分を省略した。

【２１７６】
［発光演出ユニット］
発光演出ユニット５０００は、図２５３～図２５８に示すように、円形状を有する発光演出本体５０１０と、発光演出本体５０１０を裏箱３０１０内の上部に取り付けるＴ字状を有する本体取付部５０２０と、本体取付部５０２０の裏面側に沿って発光演出本体５０１０内へ案内されると共に上述した周辺制御ユニット１５００の周辺制御基板１５１０からのコマンドに応じて演出駆動基板１７２０から出力される制御信号を発光演出本体５０１０へ伝送するフレキシブルフラットケーブル５０３０（ＦＦＣ（Ｆｌｅｘｉｂｌｅ　Ｆｌａｔ　Ｃａｂｌｅの略。フレキシブルフラットケーブルは、山折り、谷折りを複数回繰り返して屈曲されて立体的に形成されるものであり、複数の平型導体が絶縁体で被覆されている。））と、を備えている。ここでは、まず、発光演出本体５０１０について説明し、本体取付部５０２０、フレキシブルフラットケーブル５０３０、発光演出ユニット５０００の組み立て方法について順番に説明する。
【２１７７】
［発光演出本体］
発光演出本体５０１０は、円形状の透明な樹脂で成型される装飾体５０４０と、装飾体５０４０の内部に収容されると共に上側一部に切欠を有する薄肉円形状の透明な樹脂板から加工されて成形される拡散シート５０５０と、拡散シート５０５０の裏面５０５０ｙ側に配置された状態で装飾体５０４０の内部に収容されると共に上側一部に切欠を有する円形状を有する透明な樹脂で成型される導光板５０６０と、導光板５０６０の裏面５０６０ｙ側に配置された状態で装飾体５０４０の内部に収容されると共に上側一部に切欠を有する円形状を有するＬＥＤ基板５０７０と、装飾体５０４０の後方開口部を塞ぐと共に上側一部に切欠を有する円形状を有する透明な樹脂で成型される蓋体５０８０と、を備えている。
【２１７８】
［装飾体］
円形状の透明な樹脂で成型される装飾体５０４０の表面５０４０ｘ中央には、キャラクタの外形に合わせた凸部５０４０ａが前方へ向かって突出しており、凸部５０４０ａの表面全体にキャラクタが印刷されている。装飾体５０４０の表面５０４０ｘのうち凸部５０４０ａのキャラクタが印刷された表面全体を除いた凸部５０４０ａの外周部と凸部５０４０ａを除く装飾体５０４０の表面５０４０ｘ全領域とには、キャラクタの世界観を現すデザインが施された図示しない背景模様が印刷されている。装飾体５０４０の表面５０４０ｘ全体がキャラクタや背景模様で印刷されているものの、ＬＥＤ基板５０７０による発光に応じて装飾体５０４０の表面５０４０ｘ全体の発光態様を発光演出ユニット５０００の前方から（つまりパチンコ機１の前方に着座する遊技者が）容易に視認することができるようになっており、装飾体５０４０の表面５０４０ｘ全体の発光態様の変化を遊技者に伝えることができるようになっている。
【２１７９】
装飾体５０４０の裏面５０４０ｙ側には、その上側を残して、上側一部に切欠を有する円形状を有すると共に拡散シート５０５０、導光板５０６０、及びＬＥＤ基板５０７０を収容する部材収容凹部５０４０ｂが形成されている。装飾体５０４０を後ろから見て部材収容凹部５０４０ｂの上側左寄りには、拡散シート５０５０、導光板５０６０、及びＬＥＤ基板５０７０の表面及び裏面をひっくり返して収容することを防止するための逆配置防止片５０４０ｃが部材収容凹部５０４０ｂの底部内面から装飾体５０４０の裏面５０４０ｙ側へ向かって第１距離寸法の長さを有して突出して形成されている。また、装飾体５０４０を後ろから見て部材収容凹部５０４０ｂの上側左右と下側とには、拡散シート５０５０、導光板５０６０、及びＬＥＤ基板５０７０の位置を規制すると共に部材収容凹部５０４０ｂを塞ぐ蓋体５０８０を装飾体５０４０の裏面５０４０ｙ側に固定する取付ボス孔５０４０ｄが部材収容凹部５０４０ｂの底部内面から装飾体５０４０の裏面５０４０ｙ側へ向かって第１距離寸法の長さを有して突出してそれぞれ形成されている（合計３つの取付ボス孔５０４０ｄ）。また、装飾体５０４０を後ろから見て装飾体５０４０の裏面５０４０

ｙ側の上側左右には、本体取付部５０２０を固定する取付ボス孔５０４０ｅが装飾体５０４０の裏面５０４０ｙから後方へ向かって第２距離寸法の長さを有して突出して形成されている（合計２つの取付ボス孔５０４０ｅ）。

【２１８０】

［ＬＥＤ基板］

上側一部に切欠を有する円形状を有するＬＥＤ基板５０７０は、装飾体５０４０の部材収容凹部５０４０ｂに形成される逆配置防止片５０４０ｃと対応する位置に切欠部５０７０ａが形成されると共に、装飾体５０４０の部材収容凹部５０４０ｂに形成される３つの取付ボス孔５０４０ｄと対応する位置に貫通孔５０７０ｂがそれぞれ形成されている。

【２１８１】

ＬＥＤ基板５０７０の表面（実装面）５０７０ｘには、複数のＬＥＤベアチップが実装されている。このＬＥＤベアチップ（「ＬＥＤ素子」とも言われる。）は、表面実装型、チップオンボード型、及び砲弾型等のパッケージに封入されているものであり、極めて小さい電子部品である。本実施形態では、ＬＥＤベアチップが封入されたＬＥＤパッケージをＬＥＤ基板５０７０の表面（実装面）５０７０ｘに実装するのではなく、ＬＥＤパッケージに封入されるＬＥＤベアチップをＬＥＤ基板５０７０の表面（実装面）５０７０ｘに直接実装する構成を採用した。

【２１８２】

ＬＥＤベアチップの電極をＬＥＤ基板５０７０の表面（実装面）５０７０ｘの所定電極と電気的に接続する方法としては、ワイヤボンディング、フリップチップボンディング等を挙げることができるが、本実施形態では、フリップチップボンディングを採用した。このフリップチップボンディングでは、ワイヤボンディングのようにワイヤを用いてＬＥＤベアチップの電極とＬＥＤ基板５０７０の表面（実装面）５０７０ｘの所定電極とを電気的に接続するのではなく、ＬＥＤベアチップの電極にバンブと呼ばれる突起部を形成してＬＥＤ基板５０７０の表面（実装面）５０７０ｘの所定電極と電気的に接続する。この接続部はハンダや樹脂等で補強されている。

【２１８３】

ＬＥＤ基板５０７０の表面（実装面）５０７０ｘには、ＬＥＤベアチップ５０７５を所定個数一列に所定距離寸法だけ離間して配置されるＬＥＤ列が上下方向に５段設けられており、下から１段目５０７０ｃ１及び下から５段目５０７０ｃ５にはＬＥＤベアチップ５０７５が左右方向に一列に並んで６つ配置され、下から２段目５０７０ｃ２及び下から４段目５０７０ｃ４にはＬＥＤベアチップ５０７５が左右方向に一列に並んで７つ配置され、下から３段目５０７０ｃ３にはＬＥＤベアチップ５０７５が左右方向に一列に並んで８つ配置されている。

【２１８４】

ＬＥＤ基板５０７０の表面（実装面）５０７０ｘの左右方向の中心線上には、３段目５０７０ｃ３のＬＥＤ列が配置されている。この中心線とＬＥＤ基板５０７０の上辺とのほぼ中点を通ると共にこの中心線とＬＥＤ基板５０７０の上辺とにそれぞれ平行な中間線上に３段目５０７０ｃ３のＬＥＤ列から１つ上方となる４段目５０７０ｃ４のＬＥＤ列が配置されている。そして、この中心線と、この中心線と平行であってＬＥＤ基板５０７０の円周最下点を通る直線と、のほぼ中点を通ると共にこの中心線と上述した直線とにそれぞれ平行な中間線上に３段目５０７０ｃ３のＬＥＤ列から１つ下方となる２段目５０７０ｃ２のＬＥＤ列が配置されている。３段目５０７０ｃ３のＬＥＤ列のうち左側から１番目のＬＥＤベアチップ５０７５と２番目のＬＥＤベアチップ５０７５との距離寸法の中点を通る上下方向の直線上に、４段目５０７０ｃ４のＬＥＤ列のうち１番目のＬＥＤベアチップ５０７５が配置されていると共に、２段目５０７０ｃ２のＬＥＤ列のうち１番目のＬＥＤベアチップ５０７５が配置されており、３段目５０７０ｃ３のＬＥＤ列の８つのＬＥＤベアチップ５０７５と４段目５０７０ｃ４のＬＥＤ列の７つのＬＥＤベアチップ５０７５とが上下方向に一列に並ばないように配置されていると共に、３段目５０７０ｃ３のＬＥＤ列の８つのＬＥＤベアチップ５０７５と２段目５０７０ｃ２のＬＥＤ列の７つのＬＥＤベア

チップ５０７５とが上下方向に一列に並ばないようにズレて配置されている。なお、４段目５０７０ｃ４のＬＥＤ列の７つのＬＥＤベアチップ５０７５と２段目５０７０ｃ２のＬＥＤ列の７つのＬＥＤベアチップ５０７５とが上下方向に一列に並んで配置されている。

【２１８５】

ＬＥＤ基板５０７０の表面（実装面）５０７０ｘには、ＬＥＤ基板５０７０の上辺側であって２つの貫通孔５０７０ｂの下方に４段目５０７０ｃ４のＬＥＤ列から１つ上方となる５段目５０７０ｃ５のＬＥＤ列が配置されていると共に、ＬＥＤ基板５０７０の円周最下点側であって１つの貫通孔５０７０ｂの上方に２段目５０７０ｃ２のＬＥＤ列から１つ下方となる１段目５０７０ｃ１のＬＥＤ列が配置されている。４段目５０７０ｃ４のＬＥＤ列のうち左側から１番目のＬＥＤベアチップ５０７５と２番目のＬＥＤベアチップ５０７５との距離寸法の中点を通る上下方向の直線と２段目５０７０ｃ２のＬＥＤ列のうち左側から１番目のＬＥＤベアチップ５０７５と２番目のＬＥＤベアチップ５０７５との距離寸法の中点を通る上下方向の直線が一致しており、この直線上に５段目５０７０ｃ５のＬＥＤ列のうち左側から１番目のＬＥＤベアチップ５０７５が配置されていると共に、１段目５０７０ｃ１のＬＥＤ列のうち左側から１番目のＬＥＤベアチップ５０７５が配置されており、４段目５０７０ｃ３のＬＥＤ列の７つのＬＥＤベアチップ５０７５と５段目５０７０ｃ５のＬＥＤ列の６つのＬＥＤベアチップ５０７５とが上下方向に一列に並ばないように配置されていると共に、２段目５０７０ｃ２のＬＥＤ列の７つのＬＥＤベアチップ５０７５と１段目５０７０ｃ１のＬＥＤ列の６つのＬＥＤベアチップ５０７５とが上下方向に一列に並ばないようにズレて配置されている。なお、上述した直線上には、５段目５０７０ｃ５のＬＥＤ列のうち左側から１番目のＬＥＤベアチップ５０７５と、１段目５０７０ｃ１のＬＥＤ列のうち左側から１番目のＬＥＤベアチップ５０７５と、が配置され、さらに、３段目５０７０ｃ３のＬＥＤ列のうち左側から２番目のＬＥＤベアチップ５０７５も配置されているため、５段目５０７０ｃ５のＬＥＤ列の６つのＬＥＤベアチップ５０７５と、３段目５０７０ｃ３のＬＥＤ列のうち２番目～７番目の６つのＬＥＤベアチップ５０７５と、１段目５０７０ｃ１のＬＥＤ列の６つのＬＥＤベアチップ５０７５と、が上下方向に一列に並んで配置されている。

【２１８６】

一方、ＬＥＤ基板５０７０の裏面（ハンダ面）５０７０ｙには、ＬＥＤ基板５０７０の表面（実装面）５０７０ｘに複数実装されるＬＥＤベアチップ５０７５を制御する制御信号を伝送するコネクタ５０７０ｄが実装されている。このコネクタ５０７０ｄは、フレキシブルフラットケーブル５０３０の下端側が挿入されて電気的に接続される。このフレキシブルフラットケーブル５０３０の上端側は、演出駆動基板１７２０の図示しないコネクタに挿入されて電気的に接続されている。演出駆動基板１７２０から出力される制御信号は、フレキシブルフラットケーブル５０３０を介して、ＬＥＤ基板５０７０に伝送され、ＬＥＤ基板５０７０の表面（実装面）５０７０ｘに複数実装されるＬＥＤベアチップ５０７５の発光態様が制御される。

【２１８７】

なお、ＬＥＤ基板５０７０の表面（実装面）５０７０ｘ及び裏面（ハンダ面）５０７０ｙは、緑色のレジスト液が各種ランドやスルーホールを除いて塗布されている。ＬＥＤ基板５０７０の表面（実装面）５０７０ｘは、さらに、各種ランドやスルーホールを除いて全体が白色のシルク印刷により印刷されている。つまり、ＬＥＤ基板５０７０の表面（実装面）５０７０ｘは白色であるのに対して、ＬＥＤ基板５０７０の裏面（ハンダ面）５０７０ｙは緑色となっており、同一基板でありながら表面と裏面との色が異なっている。ＬＥＤ基板５０７０の表面（実装面）５０７０ｘが白色となっている理由については、ＬＥＤ基板５０７０の表面（実装面）５０７０ｘに複数実装されるＬＥＤベアチップ５０７５が発した光が他の部材で屈折してＬＥＤ基板５０７０の表面（実装面）５０７０ｘへ向かって戻ってきた場合に、この戻ってきた光を効率良く前方へ再び屈折することができる反射シートとしての機能をＬＥＤ基板５０７０の表面（実装面）５０７０ｘに持たせるためである。

【２１８８】
［変形例］
ＬＥＤ基板５０７０は、演出駆動基板１７２０から制御信号がフレキシブルフラットケーブル５０３０を介して入力されることにより、ＬＥＤ基板５０７０の表面（実装面）５０７０ｘに複数実装されるＬＥＤベアチップ５０７５を駆動するようになっていた。つまり、周辺制御ユニット１５００の周辺制御基板１５１０からのコマンドに応じて演出駆動基板１７２０は、自身に実装されるＬＥＤ制御用の電子部品（例えば、ＬＥＤドライバ、階調制御ドライバなどのＩＣ）から制御信号をフレキシブルフラットケーブル５０３０を介してＬＥＤ基板５０７０へ出力していた。この演出駆動基板１７２０に実装されるＬＥＤ制御用の電子部品を、ＬＥＤ基板５０７０の裏面（ハンダ面）５０７０ｙに実装するように構成してもよい。ＬＥＤ基板５０７０の裏面（ハンダ面）５０７０ｙにはコネクタ５０７０ｄが実装されているため、コネクタ５０７０ｄの背丈と同程度の高さ寸法（奥行き方向の距離寸法）を有するＬＥＤ制御用の電子部品であれば、このＬＥＤ制御用の電子部品をＬＥＤ基板５０７０の裏面（ハンダ面）５０７０ｙに実装したとしても、装飾体５０４０や蓋体５０８０の寸法を変更することなくそのまま流用することができる。これにより、演出駆動基板１７２０の小型化に寄与することができる。また、このように構成することにより、周辺制御ユニット１５００の周辺制御基板１５１０から制御信号を、フレキシブルフラットケーブル５０３０を介して、ＬＥＤ基板５０７０に出力してＬＥＤベアチップ５０７５を駆動するように構成することもできる。
【２１８９】
また、ＬＥＤベアチップの電極をＬＥＤ基板５０７０の表面（実装面）５０７０ｘの所定電極と電気的に接続する方法としてフリップチップボンディングを採用したが、フリップチップボンディングに代えて、ワイヤボンディングを採用してもよい。
【２１９０】
［導光板］
上側一部に切欠を有する円形状を有する透明な樹脂で成型される導光板５０６０は、装飾体５０４０の部材収容凹部５０４０ｂに形成される逆配置防止片５０４０ｃと対応する位置に切欠部５０６０ａが形成されると共に、装飾体５０４０の部材収容凹部５０４０ｂに形成される３つの取付ボス孔５０４０ｄと対応する位置に貫通孔５０６０ｂがそれぞれ形成されている。
【２１９１】
導光板５０６０の裏面５０６０ｙは、ＬＥＤ基板５０７０の表面（実装面）５０７０ｘに当接する状態で装飾体５０４０の部材収容凹部５０４０ｂに収容される。導光板５０６０の裏面５０６０ｙ側には、ＬＥＤ基板５０７０の表面（実装面）５０７０ｘに複数実装されるＬＥＤベアチップ５０７５と対応する位置に、ＬＥＤベアチップ５０７５を覆い被さるように、上側一部に切欠を有する円柱形状（以下、「半円柱形状」と記載する。）を有すると共に、この半円柱の軸が導光板５０６０の裏面５０６０ｙに対してやや下方へ傾くことで半円柱形状の曲面が斜めに傾いた入射凹部５０６０ｃがそれぞれ形成されている。入射凹部５０６０ｃの底部は、導光板５０６０の表面５０７０ｘを貫通せず、導光板５０６０内に留まっている。なお、導光板５０６０の裏面５０６０ｙがＬＥＤ基板５０７０の表面（実装面）５０７０ｘに当接する状態で装飾体５０４０の部材収容凹部５０４０ｂに収容されると、半円柱の軸線上にＬＥＤベアチップ５０７５が配置されると共に、ＬＥＤベアチップ５０７５が入射凹部５０６０ｃに封入されている状態となる。
【２１９２】
導光板５０６０の裏面５０６０ｙは、半円柱の軸線が通る中心点から所定距離寸法だけ離間した同心円の位置までの区間において円柱形状を有する平らな面５０６０ｄが入射凹部５０６０ｃの開口側から形成されると共に、この円柱状を有する平らな面５０６０ｄの上側一部に切欠が形成されており、円柱状を有する平らな面５０６０ｄと入射凹部５０６０ｃの開口側とが相似している。
【２１９３】

導光板５０６０の裏面５０６０ｙは、半円柱の軸線が通る中心点から円柱状を有する平らな面５０６０ｄされる区間を越えると、同心円状に断面がほぼ三角形状を有するプリズムパターンが形成されると共に、この半円柱の軸線が通る中心点から離れるにつれて断面がほぼ三角形状を有するプリズムパターンの間隔が大きくなるプリズム部５０６０ｅが形成されている。プリズム部５０６０ｅの左右方向の距離寸法は、ＬＥＤ基板５０７０の表面（実装面）５０７０ｘに実装される隣り合うＬＥＤベアチップ５０７５の中央点間を結ぶ直線の距離寸法（以下、「左右方向のブロック基準距離寸法」と記載する場合がある。）と同一となっている。一方、プリズム部５０６０ｅの上下方向の距離寸法は、円柱状を有する平らな面５０６０ｄの上側一部に形成される切欠部分から、本入射凹部５０６０ｃに封入されるＬＥＤベアチップ５０７５の段から１つ下方となる段に配置される最も近いＬＥＤベアチップ中央点を通る最終段のプリズムパターンまでの距離寸法（以下、「上下方向のブロック基準距離寸法」と記載する場合がある。）となっている。

【２１９４】

導光板５０６０の裏面５０６０ｙには、ＬＥＤ基板５０７０の表面（実装面）５０７０ｘに複数実装されるＬＥＤベアチップ５０７５と対応する位置に、入射凹部５０６０ｃ、円柱状を有する平らな面５０６０ｄ、及びプリズム部５０６０ｅから構成される単一プリズムブロック５０６０ｆがそれぞれ形成され、プリズム面となっている。単一プリズムブロック５０６０ｆの左右方向の距離寸法は左右方向のブロック基準距離寸法となると共に、単一プリズムブロック５０６０ｆの上下方向の距離寸法は上下方向のブロック基準距離寸法となるものの、ＬＥＤ基板５０７０の表面（実装面）５０７０ｘに複数実装されるＬＥＤベアチップ５０７５のうち、ＬＥＤ基板５０７０の表面（実装面）５０７０ｘの左右外周部分に最も近いもの（１段目５０７０ｃ１のＬＥＤ列～５段目５０７０ｃ５のＬＥＤ列のうちそれぞれの左側から１番目のＬＥＤベアチップ５０７５、１段目５０７０ｃ１及び５断面のＬＥＤ列のうち左側から６番目のＬＥＤベアチップ５０７５、２段目５０７０ｃ２及び４段目５０７０ｃ４のＬＥＤ列のうち左側から７番目のＬＥＤベアチップ５０７５、３段目のＬＥＤ列のうち左側から８番目のＬＥＤベアチップ５０７５）については、単一プリズムブロック５０６０ｆの左右方向の距離寸法は左右方向のブロック基準距離寸法とならず、最終段のプリズムパターンが導光板５０６０の裏面５０６０ｙの外周端まで延長されて形成されている。

【２１９５】

これに対して、導光板５０６０の表面５０６０ｘ側には、導光板５０６０の裏面５０６０ｙ側には単一プリズムブロック５０６０ｆが複数形成されるのに対して、何ら加工が施されず平らな面となっている。

【２１９６】

本実施形態では、上述したように、ＬＥＤベアチップが封入されたＬＥＤパッケージをＬＥＤ基板５０７０の表面（実装面）５０７０ｘに実装するのではなく、ＬＥＤパッケージに封入されるＬＥＤベアチップをＬＥＤ基板５０７０の表面（実装面）５０７０ｘに直接実装する構成を採用した。これにより、導光板の板厚として、ＬＥＤパッケージをＬＥＤ基板５０７０の表面（実装面）５０７０ｘに実装した場合における導光板の板厚と比べて、表面実装型、チップオンボード型、及び砲弾型等のパッケージにおける奥行き距離寸法の分だけ、小さくすることができ、発光演出ユニット５０００の発光演出本体５０１０の奥行き距離寸法の大きさをより大きく確保して発光演出本体５０１０の立体的な造形に寄与することができる。なお、ＬＥＤベアチップは極めてデリケートな電子部品であるため、遊技者が扉枠３等を叩いたりするドツキによる衝撃が扉枠３へ直接伝わっても、遊技盤５に備える発光演出ユニット５０００へのドツキによる衝撃が弱まることで、このようなドツキによる衝撃によってＬＥＤ基板５０７０の表面（実装面）５０７０ｘに複数実装されるＬＥＤベアチップ５０７５が破損する蓋然性が低い。

【２１９７】

［変形例］

なお、本実施形態では、ＬＥＤベアチップが封入されたＬＥＤパッケージをＬＥＤ基板５

０７０の表面（実装面）５０７０ｘに実装するのではなく、ＬＥＤパッケージに封入されるＬＥＤベアチップをＬＥＤ基板５０７０の表面（実装面）５０７０ｘに直接実装する構成を採用したが、発光演出ユニット５０００の発光演出本体５０１０の奥行き距離寸法として、発光演出本体５０１０の立体的な造形に支障がなければ、ＬＥＤベアチップに代えて、サイド型の表面実装型を有するＬＥＤパッケージをＬＥＤ基板５０７０の表面（実装面）５０７０ｘに実装してもよい。この場合、入射凹部５０６０ｃ、円柱状を有する平らな面５０６０ｄ、及びプリズム部５０６０ｅから構成される単一プリズムブロック５０６０ｆの寸法距離が大きくなると共に、導光板の板厚も大きくなる。サイド型の表面実装型を有するＬＥＤパッケージの発光面は、拡散シート５０５０へ向かず、入射凹部５０６０ｃの下方へ向き、この発光面から出射した光は、プリズム部５０６０ｅを介して、プリズム部５０６０ｅから前方の拡散シート５０５０へ進む。

【２１９８】

［拡散シート］

上側一部に切欠を有する薄肉円形状の透明な樹脂板から加工されて成形される拡散シート５０５０は、装飾体５０４０の部材収容凹部５０４０ｂに形成される逆配置防止片５０４０ｃと対応する位置に切欠部５０５０ａが形成されると共に、装飾体５０４０の部材収容凹部５０４０ｂに形成される３つの取付ボス孔５０４０ｄと対応する位置に貫通孔５０５０ｂがそれぞれ形成されている。拡散シート５０５０は、その裏面側には白色塗料が塗布されて微細な凹凸を有する梨地状に加工されており、ＬＥＤ基板５０７０の表面（実装面）５０７０ｘに複数実装されるＬＥＤベアチップ５０７５からの光が導光板を通って入射されると、この入射した光を拡散することができるものである。

【２１９９】

拡散シート５０５０の裏面５０５０ｙは、透明な樹脂で成型される導光板５０６０の表面５０６０ｘに当接する状態で装飾体５０４０の部材収容凹部５０４０ｂに収容される。この導光板５０６０の裏面５０６０ｙは、ＬＥＤ基板５０７０の表面（実装面）５０７０ｘに当接する状態で装飾体５０４０の部材収容凹部５０４０ｂに収容される。導光板５０６０の裏面５０６０ｙ側には、上述したように、ＬＥＤ基板５０７０の表面（実装面）５０７０ｘに複数実装されるＬＥＤベアチップ５０７５と対応する位置に、ＬＥＤベアチップ５０７５を覆い被さるように、入射凹部５０６０ｃがそれぞれ形成されている。

【２２００】

ＬＥＤ基板５０７０の表面（実装面）５０７０ｘには、上述したように、ＬＥＤベアチップ５０７５を所定個数一列に所定距離寸法だけ離間して配置されるＬＥＤ列が上下方向に５段設けられており、各段のＬＥＤ列のＬＥＤベアチップ５０７５は、対応する導光板５０６０の裏面５０６０ｙ側に形成される入射凹部５０６０ｃにそれぞれ封入される。ＬＥＤベアチップ５０７５の発光面が発光すると、入射凹部５０６０ｃの空間が明るく照らされることにより、入射凹部５０６０ｃが形成されていない領域と比べると、各入射凹部５０６０ｃに封入された各段のＬＥＤ列のＬＥＤベアチップ５０７５からの光が透明な樹脂で成型される導光板５０６０内を通って導光板５０６０の表面５０６０ｘから出射して各入射凹部５０６０ｃの空間から発せられる光の輝度が高くなる。そうすると、各入射凹部５０６０ｃの空間が存在する領域が点光源のように配置された状態となり、導光板５０６０の表面５０６０ｘを均一に光らせることが難しい。

【２２０１】

そこで、拡散シート５０５０の裏面５０５０ｙ側には、白色塗料により塗布された左右方向に長い帯状を有する５つの白色帯領域５０５０ｃ１～５０５０ｃ５を各段のＬＥＤ列のＬＥＤベアチップ５０７５と対応する位置に形成すると共に、これらの５つ領域５０５０ｃ１～５０５０ｃ５を除く領域に白色塗料を点状に吹きかけて光を拡散する拡散領域５０５０ｄを形成する。この白色塗料により塗布された部分は拡散シート５０５０を介して後方又は前方を視認できない不透明な領域となる。なお、拡散シート５０５０の表面５０５０ｘ側には、何ら塗料が塗布されていない。

【２２０２】

具体的には、拡散シート５０５０の裏面５０５０ｙ側には、ＬＥＤ基板５０７０の１段目５０７０ｃ１のＬＥＤ列と対応する位置に白色帯領域５０５０ｃ１が形成され、ＬＥＤ基板５０７０の２段目５０７０ｃ２のＬＥＤ列と対応する位置に白色帯領域５０５０ｃ２が形成され、ＬＥＤ基板５０７０の３段目５０７０ｃ３のＬＥＤ列と対応する位置に白色帯領域５０５０ｃ３が形成され、ＬＥＤ基板５０７０の４段目５０７０ｃ４のＬＥＤ列と対応する位置に白色帯領域５０５０ｃ４が形成され、ＬＥＤ基板５０７０の５段目５０７０ｃ５のＬＥＤ列と対応する位置に白色帯領域５０５０ｃ５が形成される。

【２２０３】

白色帯領域５０５０ｃ１～５０５０ｃ５の上下方向の距離寸法は、同一の距離寸法を有しており、例えば、白色帯領域５０５０ｃ１の上下方向の距離寸法は、１段目５０７０ｃ１のＬＥＤ列と対応する位置にそれぞれ形成される上述した導光板５０６０の単一プリズムブロック５０６０ｆを構成する円柱状を有する平らな面５０６０ｄ全体を覆う距離寸法を有している。また、白色帯領域５０５０ｃ１～５０５０ｃ５の左右方向の距離寸法のうち、白色帯領域５０５０ｃ１，５０５０ｃ５の左右方向の距離寸法は、同一の距離寸法を有しており、例えば、白色帯領域５０５０ｃ１の左右方向の距離寸法は、１段目５０７０ｃ１のＬＥＤ列と対応する位置にそれぞれ形成される上述した導光板５０６０の単一プリズムブロック５０６０ｆを構成する円柱状を有する平らな面５０６０ｄ全体を覆う距離寸法を有している。また、白色帯領域５０５０ｃ１～５０５０ｃ５の左右方向の距離寸法のうち、白色帯領域５０５０ｃ２，５０５０ｃ４の左右方向の距離寸法は、同一の距離寸法を有しており、例えば、白色帯領域５０５０ｃ２の左右方向の距離寸法は、２段目５０７０ｃ２のＬＥＤ列と対応する位置にそれぞれ形成される上述した導光板５０６０の単一プリズムブロック５０６０ｆを構成する円柱状を有する平らな面５０６０ｄ全体を覆う距離寸法を有している。また、白色帯領域５０５０ｃ１～５０５０ｃ５の左右方向の距離寸法のうち、白色帯領域５０５０ｃ３の左右方向の距離寸法は、３段目５０７０ｃ３のＬＥＤ列と対応する位置にそれぞれ形成される上述した導光板５０６０の単一プリズムブロック５０６０ｆを構成する円柱状を有する平らな面５０６０ｄ全体を覆う距離寸法を有している。

【２２０４】

このように、拡散シート５０５０の裏面５０５０ｙ側に、白色塗料により塗布された左右方向に長い帯状を有する５つの白色帯領域５０５０ｃ１～５０５０ｃ５を各段のＬＥＤ列のＬＥＤベアチップ５０７５と対応する位置に形成することにより各入射凹部５０６０ｃから出射した光を５つの白色帯領域５０５０ｃ１～５０５０ｃ５で屈折して導光板５０６０へ向けることができるため、各入射凹部５０６０ｃの空間が存在する領域が点光源のように発光する状態を和らげることができる。

【２２０５】

また、ＬＥＤ基板５０７０の表面（実装面）５０７０ｘは、上述したように、白色となっているため、５つの白色帯領域５０５０ｃ１～５０５０ｃ５で屈折して導光板５０６０を通ってＬＥＤ基板５０７０の表面（実装面）５０７０ｘへ向かって戻ってきた光を効率良く前方へ再び屈折することができるようになっている。

【２２０６】

また、単一プリズムブロック５０６０ｆを構成するプリズム部５０６０ｅから出射した光は、拡散領域５０５０ｄにより拡散されるようになっている。つまり、各入射凹部５０６０ｃから出射した光を５つの白色帯領域５０５０ｃ１～５０５０ｃ５で屈折して導光板５０６０へ向けて各入射凹部５０６０ｃの空間が存在する領域が点光源のように発光する状態を和らげると共に、ＬＥＤ基板５０７０の表面（実装面）５０７０ｘへ向かって戻ってきた光を白色のＬＥＤ基板５０７０の表面（実装面）５０７０ｘで屈折して効率良く前方へ再び出射し、この出射した光がプリズム部５０６０ｅを通って拡散領域５０５０ｄにより拡散することができるようになっているため、導光板５０６０の表面５０６０ｘを均一に光らせる態様に寄与することができるようになっている。これにより、拡散シート５０５０を臨む導光板５０６０の面（表面５０６０ｘ）を均一に光らせることに寄与することができるため、装飾体５０４０の発光演出による違和感を遊技者に与え難い。したがって

、発光演出による遊技興趣の低下を抑制することができる。
【２２０７】
［蓋体］
上側一部に切欠を有する円形状を有する透明な樹脂で成型される蓋体５０８０は、装飾体５０４０の部材収容凹部５０４０ｂに形成される逆配置防止片５０４０ｃと対応する位置に切欠部５０８０ａが形成されると共に、装飾体５０４０の部材収容凹部５０４０ｂに形成される３つの取付ボス孔５０４０ｄと対応する位置に貫通孔５０８０ｂがそれぞれ形成されている。
【２２０８】
また、蓋体５０８０は、左右方向に長い通風長孔５０８０ｃが上下左右に整列した状態で複数形成されると共に、ＬＥＤ基板５０７０の裏面５０７０ｙに実装されるコネクタ５０７０ｄと対応する位置にフレキシブルフラットケーブル５０３０を通す配線開口部５０８０ｄが形成されている。
【２２０９】
また、蓋体５０８０を後ろから見て蓋体５０８０の裏面５０８０ｙ側の中央左右には、本体取付部５０２０を固定する取付ボス孔５０８０ｅが蓋体５０８０の裏面５０８０ｙから後方へ向かって第３距離寸法の長さを有して突出して形成されている（合計２つの取付ボス孔５０８０ｅ）。なお、蓋体５０８０の裏面５０８０ｙの中央左右に形成される２つの取付ボス孔５０８０ｅの外径は、上述した発光演出本体５０１０の装飾体５０４０の裏面５０４０ｙの上側左右に形成される２つの取付ボス孔５０４０ｅの外径と同一となっている。
【２２１０】
［本体取付部］
発光演出本体５０１０を裏箱３０１０内の上部に取り付けるＴ字状を有する本体取付部５０２０は、Ｔ字状平板の上側左右端を除いて側壁が後方へ向かってそれぞれ形成されるＴ字状溝部を有するベース体５０２０ａと、ベース体５０２０ａに形成されるＴ字状溝部のうち上側及び下側を除く側壁に沿ってベース体５０２０ａを補強する左右対称の形状を有する２つの金属製Ｌ字プレート５０２０ｂ，５０２０ｂと、ベース体５０２０ａに形成されるＴ字状溝部のうち上側の側壁に沿ってベース体５０２０ａを補強する金属製プレート５０２０ｃと、を備えている。
【２２１１】
ベース体５０２０ａに形成されるＴ字状溝部の底部には、発光演出本体５０１０の装飾体５０４０の裏面５０４０ｙの上側左右に形成される２つの取付ボス孔５０４０ｅと対応する位置と、発光演出本体５０１０の蓋体５０８０の裏面５０８０ｙの中央左右に形成される２つの取付ボス孔５０８０ｅと対応する位置と、に貫通孔５０２０ｄがそれぞれ形成されている。また、ベース体５０２０ａを後ろから見て、ベース体５０２０ａに形成されるＴ字状溝部の底部内面には、２つの金属製Ｌ字プレート５０２０ｂ，５０２０ｂと金属製プレート５０２０ｃとを固定するための複数の取付ボス孔５０２０ｅがベース体５０２０ａに形成されるＴ字状溝部の底部内面から後方へ向かって第４距離寸法の長さを有して突出してそれぞれ形成されている（合計１１個の取付ボス孔５０２０ｅ）。なお、取付ボス孔５０２０ｅの外径は、上述した蓋体５０８０の裏面５０８０ｙの中央左右に形成される２つの取付ボス孔５０８０ｅの外径（発光演出本体５０１０の装飾体５０４０の裏面５０４０ｙの上側左右に形成される２つの取付ボス孔５０４０ｅの外径）と比べて二回りほど小さいものとなっている。
【２２１２】
ベース体５０２０ａに形成されるＴ字状溝部の底部内面に取り付けられる２つの金属製Ｌ字プレート５０２０ｂ，５０２０ｂには、発光演出本体５０１０の装飾体５０４０の裏面５０４０ｙの上側左右に形成される２つの取付ボス孔５０４０ｅと対応する位置と、発光演出本体５０１０の蓋体５０８０の裏面５０８０ｙの中央左右に形成される２つの取付ボス孔５０８０ｅと対応する位置と、に貫通孔５０２０ｂａがそれぞれ形成されていると共

に、ベース体５０２０ａに形成されるＴ字状溝部の底部内面に形成される複数の取付ボス孔５０２０ｅと対応する位置に貫通孔５０２０ｂｂがそれぞれ形成されている。また、ベース体５０２０ａに形成されるＴ字状溝部の底部内面に取り付けられる金属製プレート５０２０ｃには、このＴ字状溝部の底部内面に形成される複数の取付ボス孔５０２０ｅと対応する位置に貫通孔５０２０ｃａがそれぞれ形成されている。

【２２１３】

また、ベース体５０２０ａを後ろから見て、ベース体５０２０ａに形成されるＴ字状溝部の底部と、この底部と接続されるベース体５０２０ａの下側の側壁と、には、フレキシブルフラットケーブル５０３０を通す配線開口部５０２０ｆが形成されている。なお、ベース体５０２０ａに形成されるＴ字状溝部の底部には、図示しないが、発光演出本体５０１０を裏箱３０１０内の上部に取り付ける貫通孔が複数形成されている。

【２２１４】

また、２つの金属製Ｌ字プレート５０２０ｂ，５０２０ｂと金属製プレート５０２０ｃとは、図示しない配線を介して、基板グランド（ＧＮＤ）と電気的に接続されており、遊技盤５に備える各種基板のグランド（基板グランド（ＧＮＤ））と同一のグランド（ＧＮＤ）となっている。

【２２１５】

［フレキシブルフラットケーブル］

フレキシブルフラットケーブル５０３０は、周辺制御ユニット１５００の周辺制御基板１５１０からのコマンドに応じて演出駆動基板１７２０から出力される制御信号を伝送するための複数の平型導体が平行に配置されると共に、これらの複数の平型導体が絶縁体で被覆されているものであり、通常の丸型電気配線と比べると、通常の丸型電気配線の厚み（直径）の３分の１から５分の１ぐらいの厚みを有し、図示しないが、演出駆動基板１７２０から発光演出本体５０１０までに亘って山折り、谷折りを複数回繰り返して屈曲されて立体的に形成されていると共に、さらに本体取付部５０２０のベース体５０２０ａに形成されるＴ字状溝部の底部内面に沿って２つの金属製Ｌ字プレート５０２０ｂ，５０２０ｂと金属製プレート５０２０ｃとの間を通って発光演出本体５０１０内へ向かって山折り、谷折りを複数回繰り返して屈曲されて立体的に形成されているものであり、所定幅を有する左右方向に長い帯状の本体５０３０ａの上端側には図示しないが本体５０３０ａの裏面側に複数の平型導体の電極が所定長さを有して剥き出しに配置され、本体５０３０ａの表面側に所定の厚さを有すると共に剥き出しされた複数の平型導体の電極の所定長さより長い矩形形状を有する電極を補強するための補強板が形成されているのに対して、この本体５０３０ａの下端側には本体５０３０ａの裏面側に複数の平型導体の電極５０３０ｂｂが所定長さを有して剥き出しに配置され、本体５０３０ａの表面側に所定の厚さを有すると共に剥き出しされた複数の平型導体の電極５０３０ｂｂの所定長さより長い矩形形状を有する電極５０３０ｂｂを補強するための補強板５０３０ｃｂが形成されている。

【２２１６】

この本体５０３０ａの上端側に形成される図示しない複数の平型導体の電極は、演出駆動基板１７２０に備える図示しないコネクタと電気的に接続されるのに対して、この本体５０３０ａの下端側に形成される複数の平型導体の電極５０３０ｂｂは、発光演出本体５０１０のＬＥＤ基板５０７０の裏面（ハンダ面）５０７０ｙに実装されるコネクタ５０７０ｄと電気的に接続される。

【２２１７】

なお、フレキシブルフラットケーブル５０３０が電気的に接続される演出駆動基板１７２０における電源ラインと基板グランド（ＧＮＤ）との間には、図示しないデカップリングコンデンサや図示しない電源用バイパスコンデンサ等のパスコンと呼ばれるコンデンサが実装されており、電源インピーダンスを下げることにより、遊技球Ｂからの静電放電による電磁波ノイズに対する耐ノイズ性を向上している。また、フレキシブルフラットケーブル５０３０が電気的に接続される発光演出本体５０１０のＬＥＤ基板５０７０における電源ラインと基板グランド（ＧＮＤ）との間には、図示しないデカップリングコンデンサや

図示しない電源用バイパスコンデンサ等のパスコンと呼ばれるコンデンサが実装されており、電源インピーダンスを下げることにより、遊技球Ｂからの静電放電による電磁波ノイズに対する耐ノイズ性を向上している。

【２２１８】

フレキシブルフラットケーブル５０３０は、上述したように、立体的に屈曲されて遊技盤５の遊技パネル１１００の後面に取付けられる裏ユニット３０００内部を引き回されているため、遊技パネル１１００の裏面近くにフレキシブルフラットケーブル５０３０が引き回される部分もある。遊技球Ｂは、上述したように、遊技ホールの島設備において研磨されたり、島設備とパチンコ機１との循環において互いにこすれ合ったりして、帯電して静電気放電することにより電磁波ノイズを放出する。このため、遊技球Ｂが遊技盤５の遊技領域５ａを流下する際に、遊技パネル１１００の裏面やその近くは、遊技球Ｂからの静電放電による電磁波ノイズの影響を受けやすい環境下となっている。制御信号を発光演出本体５０１０へ伝送するフレキシブルフラットケーブル５０３０は、雑音に弱く電磁波ノイズによるトラブル（例えば、正規のデータが他のデータに変化してデータ化けしたり、本来出力していない信号であるにもかかわらず出力している信号となったり等を挙げることができる。）が生じるため電磁波ノイズの影響を受け易いものの、上述したように、電磁波ノイズの影響を受けやすい遊技パネル１１００の裏面近くを引き回される部分もある。

【２２１９】

そこで、フレキシブルフラットケーブル５０３０の複数の平型導体の電極のうち、電磁波ノイズの発生源側を臨むフレキシブルフラットケーブル５０３０の幅方向における最端両側（以下、「最端両側」と記載する場合がある。）の平型導体の電極を共に電源線が配置されるように電源線としてグランド（ＧＮＤ）ラインとしている。これにより、複数の平型導体の電極のうち、最端両側の平型導体の電極を除く他の電極を、最端両側の平型導体の電極であるグランド（ＧＮＤ）ラインによって遊技球Ｂからの静電放電による電磁波ノイズの発生源と、最端両側の平型導体の電極を除く他の電極（制御信号を含む電極）と、の間にグランド（ＧＮＤ）ラインが配置されることで、最端両側の平型導体の電極を除く他の電極（制御信号を伝送するラインを含む電極）に対して、遊技球Ｂからの静電放電による電磁波ノイズに対する耐ノイズ性を向上することができる。

【２２２０】

また、フレキシブルフラットケーブル５０３０の複数の平型導体の電極のうち、最端両側の平型導体の電極を共に電源線が配置されるように電源線としてグランド（ＧＮＤ）ラインとすると共に、最端両側の平型導体の電極に隣り合う電極には電源ライン（例えば、＋５Ｖライン）が配置されている。電源ライン（例えば、＋５Ｖライン）は、雑音に強く電磁波ノイズの影響を受け難いため、フレキシブルフラットケーブル５０３０の複数の平型導体の電極のうち、最端両側の電極に近い電極に配置することが好ましい。なお、最端両側の平型導体の電極に隣り合う電極のうち、一の最端側の平型導体の電極に隣り合う電極と他の最端側の平型導体の電極に隣り合う電極との一方、又は一の最端側の平型導体の電極に隣り合う電極と他の最端側の平型導体の電極に隣り合う電極との両方には、電源ラインが配置されている。

【２２２１】

更に、フレキシブルフラットケーブル５０３０の複数の平型導体の電極のうち、最端両側の平型導体の電極を共にグランド（ＧＮＤ）ラインとすることに加えて、この最端両側の平型導体の電極が、遊技パネル１１００の裏面近くを引き回される部分において、発光演出本体５０１０の本体取付部５０２０のベース体５０２０ａに形成されるＴ字状溝部の底部内面に沿って２つの金属製Ｌ字プレート５０２０ｂ，５０２０ｂと金属製プレート５０２０ｃとの間を通るように引き回されるようになっている。つまり、フレキシブルフラットケーブル５０３は、電磁波ノイズの影響を受けやすい遊技パネル１１００の裏面近くを引き回される部分が２つの金属製Ｌ字プレート５０２０ｂ，５０２０ｂと金属製プレート５０２０ｃとによりシールドされているため、遊技球Ｂからの静電放電による電磁波ノイズに対する耐ノイズ性を向上することができる。

【２２２２】
フレキシブルフラットケーブル５０３０は、上述したように、複数の平型導体が絶縁体で被覆されている。この絶縁体の色は白色であり、フレキシブルフラットケーブル５０３０全体が白色となっている。白色を採用する理由としては、フレキシブルフラットケーブル５０３０は、遊技盤５の遊技パネル１１００の後面に取付けられる裏ユニット３０００内部を引き回されているため、裏ユニット３０００に備える各種装飾基板に実装されるＬＥＤが発した光を自身で反射するレフ板として機能することにより裏ユニット３０００の後方へ抜けて漏れる光を少しでも抑制し、ＬＥＤが発した光による発光演出による効果の低減に寄与するためである。
【２２２３】
［変形例］
遊技球Ｂからの静電放電による電磁波ノイズに対する耐ノイズ性を向上するために、フレキシブルフラットケーブル５０３０の複数の平型導体の電極のうち、最端両側の平型導体の電極を共に電源線が配置されるように電源線としてグランド（ＧＮＤ）ラインとしたが、グランド（ＧＮＤ）ラインに代えて電源線が配置されるように電源線として電源ライン（例えば、＋５Ｖライン）としてもよい。電源ライン（例えば、＋５Ｖライン）は、雑音に強く電磁波ノイズの影響を受け難いからである。この場合、最端両側の平型導体の電極に隣り合う電極のうち、一の最端側の平型導体の電極に隣り合う電極と他の最端側の平型導体の電極に隣り合う電極との一方、又は一の最端側の平型導体の電極に隣り合う電極と他の最端側の平型導体の電極に隣り合う電極との両方には、グランド（ＧＮＤ）ラインが配置されている。
【２２２４】
また、フレキシブルフラットケーブル５０３０の複数の平型導体の電極のうち、最端両側の平型導体の電極が、遊技パネル１１００の裏面近くを引き回される部分において、発光演出本体５０１０の本体取付部５０２０のベース体５０２０ａに形成されるＴ字状溝部の底部内面に沿って２つの金属製Ｌ字プレート５０２０ｂ，５０２０ｂと金属製プレート５０２０ｃとの間を通るように引き回されるようになっているが、少なくとも、フレキシブルフラットケーブル５０３０の最端両側の平型導体の電極のうち、一方の電極が２つの金属製Ｌ字プレート５０２０ｂ，５０２０ｂのうち一方の金属製Ｌ字プレート５０２０ｂに沿って引き回されるようにしてもよい。こうすれば、フレキシブルフラットケーブル５０３は、電磁波ノイズの影響を受けやすい遊技パネル１１００の裏面近くを引き回される部分が金属製Ｌ字プレート５０２０ｂに沿って引き回されることで金属製Ｌ字プレート５０２０ｂによりシールドされて遊技球Ｂからの静電放電による電磁波ノイズに対する耐ノイズ性の向上に寄与することができる。
【２２２５】
また、フレキシブルフラットケーブル５０３０は、制御信号を伝送するための複数の平型導体が平行に配置されていたが、平型導体間に、基板グランド（ＧＮＤ）と電気的に接続される平型導体を配置して、制御信号を伝送する平型導体と、基板グランド（ＧＮＤ）と電気的に接続される平型導体と、が交互に配置されるように構成してもよい。こうすれば、制御信号を伝送する複数の平型導体に対して、遊技球Ｂからの静電放電による電磁波ノイズに対する耐ノイズ性を向上することができる。
【２２２６】
また、フレキシブルフラットケーブル５０３０は、制御信号を伝送するための複数の平型導体が平行に配置されていたが、特に電磁波ノイズの影響に弱い（つまり、電磁波ノイズの影響を受けやすい）制御信号を伝送する平型導体（以下、「電磁波ノイズの影響に弱い平型導体」と記載する。）については、この電磁波ノイズの影響に弱い平型導体と隣り合うように、基板グランド（ＧＮＤ）と電気的に接続される平型導体を配置して、この電磁波ノイズの影響に弱い平型導体が基板グランド（ＧＮＤ）と電気的に接続される平型導体により挟持されて配置されるように構成してもよい。こうすれば、電磁波ノイズの影響に弱い平型導体に対して、遊技球Ｂからの静電放電による電磁波ノイズに対する耐ノイズ性

を向上することができる。
【２２２７】
また、フレキシブルフラットケーブル５０３０は、制御信号を伝送するための複数の平型導体が平行に配置されていたが、これらの複数の平型導体として、制御信号を伝送する平型導体のほかに、基板グランド（ＧＮＤ）と電気的に接続される平型導体、及び各種電源を供給する平型導体を含むように構成する場合であって、基板グランド（ＧＮＤ）と電源とが隣り合うように配置する場合には、この電源として、温度が上昇してある温度に達すると、急激に抵抗が上昇して電流を抑制するサーミスタ等の過電流保護素子、又は、定格電流以下で抵抗が小さく、遮断電流に達すると回路を遮断する過電流保護回路（例えば、リセッタブルヒューズとしてポリスイッチを有する回路。このポリスイッチは、素子抵抗と素子温度との関係において、特定温度から急激に抵抗値が増加して本体が発熱し、この熱により導電性が低下して電流を遮断し、本体が冷却されると導電性が戻り、復帰するものである。）を介して、供給されるものが優先されるようにすることが好ましい。これは、フレキシブルフラットケーブル５０３０は、上述したように、通常の丸型電気配線と比べると、通常の丸型電気配線の厚み（直径）の３分の１から５分の１ぐらいの厚みを有して薄いため、電源を供給する平型導体に過電流が流れた際にフレキシブルフラットケーブル５０３０の短絡を過電流保護回路や過電流保護回路により防止して安全を確保することができると共に破損を回避することができるからである。
【２２２８】
［発光演出ユニットの組み立て方法］
次に、発光演出ユニット５０００の組み立て方法について簡単に説明する。まず、装飾体５０４０の部材収容凹部５０４０ｂに形成される逆配置防止片５０４０ｃ、及び取付ボス孔５０４０ｄに合わせて拡散シート５０５０、導光板５０６０、そしてＬＥＤ基板５０７０を順番に配置し、最後に、部材収容凹部５０４０ｂを塞ぐ蓋体５０８０を配置する。この状態では、装飾体５０４０の裏面５０４０ｙと蓋体５０８０の裏面５０８０ｙとが同一の平面上に配置されて面一となると共に、逆配置防止片５０４０ｃの端面、及び取付ボス孔５０４０ｄの端面が蓋体５０８０の裏面５０８０ｙから突出せず、蓋体５０８０の表面５０８０ｘと裏面５０８０ｙとの間に収まるように、上述した第１距離寸法が予め設定されている。そして、図示しない金属製のナベねじを蓋体５０８０の裏面５０８０ｙ側に形成される貫通孔５０８０ｂから取付ボス孔５０４０ｄへ向かってねじ込んで固定する。これにより、装飾体５０４０の部材収容凹部５０４０ｂには、装飾体５０４０を前から見て、拡散シート５０５０、導光板５０６０、そしてＬＥＤ基板５０７０が配置されて収容された状態となる。
【２２２９】
続いて、２つの金属製Ｌ字プレート５０２０ｂ，５０２０ｂと金属製プレート５０２０ｃとを、本体取付部５０２０のベース体５０２０ａに形成されるＴ字状溝部の底部内面に形成される複数の取付ボス孔５０２０ｅに合わせて配置して図示しない金属製のナベねじを２つの金属製Ｌ字プレート５０２０ｂ，５０２０ｂに形成される貫通孔５０２０ｂｂから取付ボス孔５０２０ｅへ向かってねじ込んで固定すると共に、図示しない金属製のナベねじを金属製プレート５０２０ｃに形成される貫通孔５０２０ｃａから取付ボス孔５０２０ｅへ向かってねじ込んで固定する。取付ボス孔５０２０ｅの端面が２つの金属製Ｌ字プレート５０２０ｂ，５０２０ｂ、及び金属製プレート５０２０ｃの裏面から突出せず、２つの金属製Ｌ字プレート５０２０ｂ，５０２０ｂ、及び金属製プレート５０２０ｃの表面と裏面との間に収まるように、上述した第４距離寸法が予め設定されている。
【２２３０】
続いて、フレキシブルフラットケーブル５０３０の下端側を、蓋体５０８０に形成される配線開口部５０８０ｄを通して、ＬＥＤ基板５０７０の裏面（ハンダ面）５０７０ｙに実装されるコネクタ５０７０ｄに挿入する。そして、フレキシブルフラットケーブル５０３０の上端側を本体取付部５０２０に形成される配線開口部５０２０ｆに通す。なお、フレキシブルフラットケーブル５０３０のＬＥＤ基板５０７０への取り付け方法については後

述する。
【２２３１】
続いて、本体取付部５０２０のベース体５０２０ａを、装飾体５０４０の裏面５０４０ｙに形成される取付ボス孔５０４０ｅと、蓋体５０８０の裏面５０８０ｙに形成される取付ボス孔５０８０ｅと、に合わせて配置して図示しない金属製のナベねじを２つの金属製Ｌ字プレート５０２０ｂ，５０２０ｂに形成される貫通孔５０２０ｂａから取付ボス孔５０４０ｅ，５０８０ｅへ向かってねじ込んで固定する。取付ボス孔５０４０ｅ，５０８０ｅの端面が２つの金属製Ｌ字プレート５０２０ｂ，５０２０ｂの裏面から突出せず、２つの金属製Ｌ字プレート５０２０ｂ，５０２０ｂの表面と裏面との間に収まるように、上述した第２距離寸法、及び第３距離寸法が予め設定されている。
【２２３２】
続いて、フレキシブルフラットケーブル５０３０を、本体取付部５０２０のベース体５０２０ａに形成されるＴ字状溝部の底部内面に沿って２つの金属製Ｌ字プレート５０２０ｂ，５０２０ｂと金属製プレート５０２０ｃとの間を通るように引き回して、発光演出ユニット５０００の組み立てが完了する。
【２２３３】
因みに、従来より、遊技進行や遊技利益に関する制御を行う主制御基板、遊技の進行に伴って実行する演出に関する制御を行うサブ制御基板、画像表示装置等の表示制御を行う画像制御基板等の基板が裏側に配置されると共に、各種配線部材が引き回れている遊技機が提案されている（例えば、特開２０１７－２１７３８１号公報（段落［００５１］、及び図２））。ところで、遊技ホールの島設備から遊技機に供給される遊技球は、遊技ホールの島設備と遊技機とを循環する際に遊技球が互いに擦れ合うことで静電気を帯びるため、遊技機に引き回れる各種配線に対して遊技球からの静電放電による電磁波ノイズの対策を講ずる必要がある。
【２２３４】
［フレキシブルフラットケーブルのＬＥＤ基板への取り付け方法］
【２２３５】
ここで、フレキシブルフラットケーブル５０３０のＬＥＤ基板５０７０への取り付け方法について図２５９を参照して説明する。フレキシブルフラットケーブル５０３０の本体５０３０ａの下端側に形成される複数の平型導体の電極５０３０ｂｂは、ＬＥＤ基板５０７０の裏面（ハンダ面）５０７０ｙに実装されるコネクタ５０７０ｄに挿入されて奥まで差し込まれることで電気的に接続される。
【２２３６】
フレキシブルフラットケーブル５０３０の本体５０３０ａの下端側に形成される複数の平型導体の電極５０３０ｂｂがコネクタ５０７０ｄの奥まで正常に挿入されないことにより、複数の平型導体の電極５０３０ｂｂと、複数の平型導体の電極５０３０ｂｂと対応するコネクタ５０７０ｄの電極と、の電極間に接触不良が生ずる場合がある。
【２２３７】
そこで、ＬＥＤ基板５０７０の表面（実装面）５０７０ｘに、図２５９（ａ）に示すように、フレキシブルフラットケーブル５０３０の本体５０３０ａの下端側に形成される複数の平型導体の電極５０３０ｂｂをコネクタ５０７０ｄに正常に挿入して差し込まれる目印となるように、フレキシブルフラットケーブル５０３０の本体５０３０ａの下端側の上辺と対応する位置の上近傍（つまり、フレキシブルフラットケーブル５０３０の本体５０３０ａの上辺と対応する位置の近傍上外側）に左右方向に直線状に延びる長い実線のガイドラインＧ４Ｕと、フレキシブルフラットケーブル５０３０の本体５０３０ａの下端側の下辺と対応する位置の下近傍（つまり、フレキシブルフラットケーブル５０３０の本体５０３０ａの下辺と対応する位置の近傍下外側）に左右方向に直線状に延びる長い実線のガイドラインＧ４Ｌと、フレキシブルフラットケーブル５０３０の本体５０３０ａの下端側に形成される複数の平型導体の電極５０３０ｂｂを補強するための補強板５０３０ｃｂの左端辺５０３０ｃｂａの上下方向の直線と合致する直線状に延びる実線のガイドラインＧ４

Ｖと、がシルク印刷により印刷されている。
【２２３８】
なお、フレキシブルフラットケーブル５０３０の本体５０３０ａが配置される領域には、スルーホールが形成されていない。これは、フレキシブルフラットケーブル５０３０の本体５０３０ａがＬＥＤ基板５０７０の裏面（ハンダ面）５０７０ｙと擦れることにより、フレキシブルフラットケーブル５０３０の平型導体が露出しても、この露出したフレキシブルフラットケーブル５０３０の平型導体がスルーホールによりショートすることを防止するためである。
【２２３９】
［フレキシブルフラットケーブルの補強板とコネクタとの関係］
フレキシブルフラットケーブル５０３０の本体５０３０ａの下端側に形成される複数の平型導体の電極５０３０ｂｂを、ＬＥＤ基板５０７０の裏面（ハンダ面）５０７０ｙに実装されるコネクタ５０７０ｄへ挿入して差し込むときは、平型導体の電極５０３０ｂｂがコネクタ５０７０ｄの電極と対向する向きとなってフレキシブルフラットケーブル５０３０の裏面側となるのに対して、電極５０３０ｂｂを補強するための補強板５０３０ｃａがフレキシブルフラットケーブル５０３０の表面側となる。これにより、フレキシブルフラットケーブル５０３０の本体５０３０ａの下端側に形成される複数の平型導体の電極５０３０ｂｂがＬＥＤ基板５０７０の裏面（ハンダ面）５０７０ｙに実装されるコネクタ５０７０ｄの奥まで正常に挿入されて差し込まれた状態では、図２５９（ｂ）に示すように、補強板５０３０ｃｂの左端辺５０３０ｃｂａと、ガイドラインＧ４Ｖと、が上下方向に合致して重なる位置関係に配置されることとなる。なお、フレキシブルフラットケーブル５０３０の本体５０３０ａの下端側に形成される複数の平型導体の電極５０３０ｂｂがＬＥＤ基板５０７０の裏面（ハンダ面）５０７０ｙに備えるコネクタ５０７０ｄの奥まで挿入されないと、つまり差し込み量（押し込み量）が不足すると、図２５９（ｃ）に示すように、差し込み不足量ＳＲＴだけ電極５０３０ｂｂを補強するための補強板５０３０ｃｂの左端辺５０３０ｃｂａがガイドラインＧ４Ｖから離間した状態となる。このように、パチンコ機の製造元の組み立てラインにおいて、作業者は、フレキシブルフラットケーブル５０３０の本体５０３０ａの下端側に形成される複数の平型導体の電極５０３０ｂｂをＬＥＤ基板５０７０の裏面（ハンダ面）５０７０ｙに実装されるコネクタ５０７０ｄに挿入して差し込んだとき、電極５０３０ｂｂをコネクタ５０７０ｄの奥まで正常に挿入しているか否かを目視にて容易に判断することができる。したがって、確認作業の効率向上に寄与することができる。
【２２４０】
なお、フレキシブルフラットケーブル５０３０の本体５０３０ａの下端側に形成される複数の平型導体の電極５０３０ｂｂがＬＥＤ基板５０７０の裏面（ハンダ面）５０７０ｙに実装されるコネクタ５０７０ｄの奥まで正常に挿入されずに斜めに挿入された状態では、本体５０３０ａの下端側の上辺が左右方向に直線状に延びるガイドラインＧ４Ｕを覆って視認することができず、本体５０３０ａの下端側の下辺が左右方向に直線状に延びるガイドラインＧ４Ｌに対して傾斜を有する状態となる。このように、ガイドラインＧ４Ｕ，Ｇ４Ｌと補強板５０３０ｃｂとにより、フレキシブルフラットケーブル５０３０の本体５０３０ａの下端側に形成される複数の平型導体の電極５０３０ｂｂがＬＥＤ基板５０７０の裏面（ハンダ面）５０７０ｙに実装されるコネクタ５０７０ｄの奥まで正常に挿入されているか否かを目視にて容易に判断することができる。これにより、パチンコ機の製造元の組み立てラインにおいて、作業者は、フレキシブルフラットケーブル５０３０の本体５０３０ａの下端側に形成される複数の平型導体の電極５０３０ｂｂをＬＥＤ基板５０７０の裏面（ハンダ面）５０７０ｙに実装されるコネクタ５０７０ｄに挿入したとき、電極５０３０ｂｂをコネクタ５０７０ｄの奥まで正常に挿入しているか否かを目視にて容易に判断することができる。したがって、確認作業の効率向上に寄与することができる。
【２２４１】
［変形例］

なお、フレキシブルフラットケーブル５０３０の本体５０３０ａの下端側の上辺と対応する位置の上近傍（つまり、フレキシブルフラットケーブル５０３０の本体５０３０ａの上辺と対応する位置の近傍上外側）に左右方向に直線状に延びる長い実線のガイドラインＧ４Ｕと、フレキシブルフラットケーブル５０３０の本体５０３０ａの下端側の下辺と対応する位置の下近傍（つまり、フレキシブルフラットケーブル５０３０の本体５０３０ａの下辺と対応する位置の近傍下外側）に左右方向に直線状に延びる長い実線のガイドラインＧ４Ｌと、がシルク印刷により印刷されていたが、ガイドラインＧ４Ｕを上辺、ガイドラインＧ４Ｌを下辺とする矩形形状の領域内をシルク印刷によりベタ塗り印刷されていてもよい。このように構成しても、ベタ塗りされた矩形形状の領域の上辺がガイドラインＧ４Ｕとして機能すると共に、ベタ塗りされた矩形形状の領域の下辺がガイドラインＧ４Ｌとして機能することができる。さらに、フレキシブルフラットケーブル５０３０の本体５０３０ａがＬＥＤ基板５０７０の裏面（ハンダ面）５０７０ｙと擦れることにより、フレキシブルフラットケーブル５０３０の平型導体が露出しても、ＬＥＤ基板５０７０の裏面（ハンダ面）５０７０ｙがベタ塗りされた矩形形状の領域内のシルク印刷が剥がれることでレジストが剥がれることを防止してレジストに覆われたＬＥＤ基板５０７０の裏面（ハンダ面）５０７０ｙの銅箔面が露出せずに、露出したフレキシブルフラットケーブル５０３０の平型導体がショートすることを防止することができる。

【２２４２】

また、フレキシブルフラットケーブル５０３０の本体５０３０ａの下端側の上辺と対応する位置の上近傍（つまり、フレキシブルフラットケーブル５０３０の本体５０３０ａの上辺と対応する位置の近傍上外側）に左右方向に直線状に延びる長い実線のガイドラインＧ４Ｕと、フレキシブルフラットケーブル５０３０の本体５０３０ａの下端側の下辺と対応する位置の下近傍（つまり、フレキシブルフラットケーブル５０３０の本体５０３０ａの下辺と対応する位置の近傍下外側）に左右方向に直線状に延びる長い実線のガイドラインＧ４Ｌと、がシルク印刷により印刷されていたが、ガイドラインＧ４Ｕを上辺、ガイドラインＧ４Ｌを下辺とする矩形形状の領域とその領域内とに対応するＬＥＤ基板５０７０の裏面（ハンダ面）５０７０ｙの銅箔面において箔抜き領域を形成してもよい。このように構成しても、箔抜きされた矩形形状の領域の上辺がガイドラインＧ４Ｕとして機能すると共に、箔抜きされた矩形形状の領域の下辺がガイドラインＧ４Ｌとして機能することができる。さらに、フレキシブルフラットケーブル５０３０の本体５０３０ａがＬＥＤ基板５０７０の裏面（ハンダ面）５０７０ｙと擦れることにより、フレキシブルフラットケーブル５０３０の平型導体が露出してＬＥＤ基板５０７０の裏面（ハンダ面）５０７０ｙのレジストが剥がれても銅箔面がそもそも存在せず、つまりＬＥＤ基板５０７０の非導電性の基材が露出するだけであるため、露出したフレキシブルフラットケーブル５０３０の平型導体がショートすることを防止することができる。

【２２４３】

また、フレキシブルフラットケーブル５０３０の本体５０３０ａの下端側の上辺と対応する位置の上近傍（つまり、フレキシブルフラットケーブル５０３０の本体５０３０ａの上辺と対応する位置の近傍上外側）に左右方向に直線状に延びる長い実線のガイドラインＧ４Ｕと、フレキシブルフラットケーブル５０３０の本体５０３０ａの下端側の下辺と対応する位置の下近傍（つまり、フレキシブルフラットケーブル５０３０の本体５０３０ａの下辺と対応する位置の近傍下外側）に左右方向に直線状に延びる長い実線のガイドラインＧ４Ｌと、がシルク印刷により印刷されていたが、ＬＥＤ基板５０７０の裏面（ハンダ面）５０７０ｙの銅箔面において一部の領域の銅箔を抜くことでガイドラインＧ４Ｕ，Ｇ４Ｌが形成されてもよいし、ＬＥＤ基板５０７０の裏面（ハンダ面）５０７０ｙの銅箔面にレジスト液を塗布する場合に一部分の領域をレジスト液で塗布しないことでガイドラインＧ４Ｕ，Ｇ４Ｌが形成されてもよい。

【２２４４】

また、ＬＥＤ基板５０７００の裏面（ハンダ面）５０７０ｙに、フレキシブルフラットケーブル５０３０の本体５０３０ａの下端側に形成される複数の平型導体の電極５０３０ｂ

ｂがコネクタ５０７０ｄに正常に挿入された後に、フレキシブルフラットケーブル５０３０の本体５０３０ａの下端側に形成される複数の平型導体の電極５０３０ｂｂがコネクタ５０７０ｄから外れたり、フレキシブルフラットケーブル５０３０の本体５０３０ａの下端側に形成される複数の平型導体の電極５０３０ｂｂと、それぞれの電極５０３０ｂｂと対応するコネクタ５０７０ｄの電極と、が斜めにズレて隣り合う他の電極と接触してショートを防止するために、フレキシブルフラットケーブル５０３０をＬＥＤ基板５０７００の裏面（ハンダ面）５０７０ｙに固定する上下方向に長い矩形形状を有する固定シールを貼り付けてもよい。この場合、ＬＥＤ基板５０７００の裏面（ハンダ面）５０７０ｙに、固定シールを貼り付ける領域として、固定シールの四隅と対応する位置から少し外側へ向かって離れたところに、例えば、鉤括弧（「）状（線、記号等の図形でもよい。）のガイドラインがそれぞれシルク印刷により印刷されて形成されてもよいし、ＬＥＤ基板５０７００の裏面（ハンダ面）５０７０ｙの銅箔面において一部の領域の銅箔を抜くことで鉤括弧（「）状（線、記号等の図形でもよい。）のガイドラインが形成されてもよいし、ＬＥＤ基板５０７００の裏面（ハンダ面）５０７０ｙの銅箔面にレジスト液を塗布する場合に一部分の領域をレジスト液で塗布しないことで鉤括弧（「）状（線、記号等の図形でもよい。）のガイドラインが形成されてもよい。フレキシブルフラットケーブル５０３０が固定シールによりＬＥＤ基板５０７００の裏面（ハンダ面）５０７０ｙに固定されることで、フレキシブルフラットケーブル５０３０の姿勢を固定することができる。

【２２４５】

また、フレキシブルフラットケーブル５０３０の本体５０３０ａの下端側の上辺と対応する位置の上近傍（つまり、フレキシブルフラットケーブル５０３０の本体５０３０ａの上辺と対応する位置の近傍上外側）に左右方向に直線状に延びる長い実線のガイドラインＧ４Ｕと、フレキシブルフラットケーブル５０３０の本体５０３０ａの下端側の下辺と対応する位置の下近傍（つまり、フレキシブルフラットケーブル５０３０の本体５０３０ａの下辺と対応する位置の近傍下外側）に左右方向に直線状に延びる長い実線のガイドラインＧ４Ｌと、フレキシブルフラットケーブル５０３０の本体５０３０ａの下端側に形成される複数の平型導体の電極５０３０ｂｂを補強するための補強板５０３０ｃｂの左端辺５０３０ｃｂａの上下方向の直線と合致する直線状に延びる実線のガイドラインＧ４Ｖと、がＬＥＤ基板５０７０に形成されていたが、実線に代えて、一点鎖線や二点鎖線であってもよいし、ガイドラインＧ４Ｕ，Ｇ４Ｌについては挿入方向を示す矢印線であってもよいし、ガイドラインＧ４Ｖについては補強板５０３０ｃｂの左端辺５０３０ｃｂａの位置を示す矢印であってもよい。

【２２４６】

［扉枠に備える各装飾基板］

次に、図７５に示した扉枠３に備える各装飾基板について、図２６０～図２６４を参照して詳細に説明する。図２６０は扉枠に備える各装飾基板の電気的な接続を説明するブロック図であり、図２６１はＬＥＤ定電流駆動回路を１つ備える装飾基板の一例を示すブロック図であり、図２６２はＬＥＤ定電流駆動回路を２つ備える装飾基板の一例を示すブロック図であり、図２６３はＬＥＤ定電流駆動回路の配置方法の概要図であり、図２６４は図２６３のＤ部におけるＬＥＤ非実装面から見た拡大図である。ここでは、扉枠３に備える、各装飾基板と枠扉副中継基板との電気的な接続について説明し、ＬＥＤ定電流駆動回路の概要、ＬＥＤ定電流駆動回路を備える装飾基板、そしてＬＥＤ定電流駆動回路の配置方法について説明する。

【２２４７】

まず、扉枠３は、上述したように、扉窓１０１ａの外周を囲うように、皿左上装飾体２７１、皿右上装飾体２７６、皿中央上装飾体３１２ａ、扉枠左サイド装飾体４０４、サイド窓内装飾部材４１２のサイド窓内装飾部４１０ｂ、扉枠右サイド装飾体４１９、及び扉枠トップ装飾体４５３がそれぞれ配置されているとともに、皿左上装飾体２７１、皿右上装飾体２７６、及び皿中央上装飾体３１２ａの下方に皿左下装飾体２８１、皿右下装飾体２８６及び皿中央下装飾体３１２ｂがそれぞれ配置されている。

【２２４８】
皿左上装飾体２７１は、その後方に、皿左上装飾体２７１に沿うように左右に延びた細長い帯板状に形成される皿左上装飾基板２７３が配置され、皿左上装飾基板２７３に複数実装されるフルカラーＬＥＤ（本実施形態では、６個）により発光装飾される。皿右上装飾体２７６は、その後方に、皿右上装飾体２７６に沿うように左右に延びた細長い帯板状に形成される皿右上装飾基板２７８が配置され、皿右上装飾基板２７８に複数実装されるフルカラーＬＥＤ（本実施形態では、５個）により発光装飾される。皿中央上装飾体３１２ａは、その後方に、皿中央上装飾体３１２ａに沿うように半円弧状を有する細長い帯板状に形成される皿中央上装飾基板３１４が配置され、皿中央上装飾基板３１４に複数実装されるフルカラーＬＥＤ（本実施形態では、１０個）により発光装飾される。
【２２４９】
扉枠左サイド装飾体４０４は、その後方に、扉枠左サイド装飾体４０４に沿うように上下に延びた細長い帯板状に形成される、左サイド上装飾基板４０２ａと左サイド下装飾基板４０２ｂとから構成される扉枠左サイド装飾基板４０２が配置され、左サイド上装飾基板４０２ａと左サイド下装飾基板４０２ｂとにそれぞれ複数実装されるフルカラーＬＥＤ（本実施形態では、左サイド上装飾基板４０２ａには５個、左サイド下装飾基板４０２ｂには１０個）により発光装飾される。サイド窓内装飾部４１０ｂは、サイド窓内装飾部材４１２の上下方向に複数列設され、その後方に、サイド窓内装飾部材４１２に沿うように上下に延びた細長い帯板状に形成されるサイド窓内装飾部装飾基板４１３が配置され、サイド窓内装飾部装飾基板４１３に複数実装されるフルカラーＬＥＤ（本実施形態では、１２個）により発光装飾される。扉枠右サイド装飾体４１９は、その後方に、扉枠右サイド装飾体４１９に沿うように上下に延びた細長い帯板状に形成される、右サイド上装飾基板４１８ａと右サイド下装飾基板４１８ｂとから構成される扉枠右サイド装飾基板４１８が配置され、右サイド上装飾基板４１８ａと右サイド下装飾基板４１８ｂとにそれぞれ複数実装されるフルカラーＬＥＤ（本実施形態では、右サイド上装飾基板４１８ａには４個、右サイド下装飾基板４１８ｂには１０個）により発光装飾される。
【２２５０】
扉枠トップ装飾体４５３は、その後方に、扉枠トップ装飾体４５３の中央部分に沿うように左右に延びた細長い帯板状に形成される扉枠トップ中央装飾基板４５５が配置され、扉枠トップ装飾体４５３の左側部分に沿うように左右に延びた細長い帯板状に形成される扉枠トップ左装飾基板４５６が配置され、扉枠トップ装飾体４５３の右側部分に沿うように左右に延びた細長い帯板状に形成される扉枠トップ右装飾基板４５７が配置され、扉枠トップ中央装飾基板４５５、扉枠トップ左装飾基板４５６、及び扉枠トップ右装飾基板４５７にそれぞれ複数実装されるフルカラーＬＥＤ（本実施形態では、扉枠トップ中央装飾基板４５５には１１個、扉枠トップ左装飾基板４５６には７個、扉枠トップ右装飾基板４５７には６個）により発光装飾される。
【２２５１】
皿左下装飾体２８１は、その後方に、皿左下装飾体２８１に沿うように左右に延びた細長い帯板状に形成される皿左下装飾基板２８３が配置され、皿左下装飾基板２８３に複数実装されるフルカラーＬＥＤ（本実施形態では、６個）により発光装飾される。皿右下装飾体２８６は、その後方に、皿右下装飾体２８６に沿うように左右に延びた細長い帯板状に形成される皿右下装飾基板２８８が配置され、皿右下装飾基板２８８に複数実装されるフルカラーＬＥＤ（本実施形態では、６個）により発光装飾される。皿中央下装飾体３１２ｂは、その後方に、皿中央下装飾体３１２ｂに沿うように半円弧状を有する細長い帯板状に形成される皿中央下装飾基板３１６が配置され、皿中央下装飾基板３１６に複数実装されるフルカラーＬＥＤ（本実施形態では、１０個）により発光装飾される。
【２２５２】
なお、扉枠３における皿ユニット２００に備える図５３に示した演出操作ユニット３００は、上述したように、円環を前後に分割したような形態に形成される演出操作リング装飾基板３５２を備え、演出操作リング装飾基板３５２は、前側の半円弧状を有する細長い帯

板状に形成される前装飾基板３５２ａと、後側の半円弧状を有する細長い帯板状に形成される後装飾基板３５２ｂと、から構成されている。図５３に示した演出操作ユニット３００の回転操作部３０２は、前装飾基板３５２ａに複数実装されるフルカラーＬＥＤ（本実施形態では、９個）と、後装飾基板３５２ｂに複数実装されるフルカラーＬＥＤ（本実施形態では、９個）と、により発光装飾される。

【２２５３】

このように、扉枠３に備える各装飾基板は、細長い帯板状に形成されている。これにより、遊技盤５の上下方向及び左右方向の距離寸法を大きくすることで、図１０７に示した遊技盤５に可動体、装飾部材、表示装置等を複数設けることができるし、大型の可動体や大型の表示装置等も設けることができる。

【２２５４】

［各装飾基板と枠扉副中継基板との電気的な接続］

扉枠３に備える各種装飾体や装飾部に配置される、皿左上装飾基板２７３、皿右上装飾基板２７８、皿中央上装飾基板３１４、左サイド上装飾基板４０２ａ、左サイド下装飾基板４０２ｂ、サイド窓内装飾部装飾基板４１３、右サイド上装飾基板４１８ａ、右サイド下装飾基板４１８ｂ、扉枠トップ中央装飾基板４５５、扉枠トップ左装飾基板４５６、扉枠トップ右装飾基板４５７、皿左下装飾基板２８３、皿右下装飾基板２８８、皿中央下装飾基板３１６、前装飾基板３５２ａ、及び後装飾基板３５２ｂ等の扉枠側装飾基板と、図３２に示した扉枠３の扉枠ベースユニット１００に備える扉枠副中継基板１０５と、の電気的な接続について、図２６０を参照して簡単に説明する。

【２２５５】

扉枠３の扉枠ベースユニット１００に備える扉枠副中継基板１０５は、図２１７に示した周辺制御基板１５１０に備える周辺制御ＩＣ１５１０ａからシリアル出力される、扉枠側第１シリアル系統である発光データＳＤＡＴ１、クロック信号ＳＣＬＫ１と、扉枠側第２シリアル系統である発光データＳＤＡＴ２、クロック信号ＳＣＬＫ２と、がそれぞれ独立して入力されている。また、扉枠副中継基板１０５は、図９５に示した電源基板６３０から供給（出力）される＋１２Ｖ電源ラインと電気的に接続されて直流＋１２Ｖが入力されるとともに、電源基板６３０のグランド（ＧＮＤ）ラインと電気的に接続されてグランド（ＧＮＤ）に接地されている。

【２２５６】

［扉枠側第１シリアル系統］

扉枠副中継基板１０５に入力される、扉枠側第１シリアル系統（発光データＳＤＡＴ１、クロック信号ＳＣＬＫ１）、直流＋１２Ｖ、及びグランド（ＧＮＤ）は、図４０に示した皿ユニット２００の皿ユニット中継基板２１４に入力されるとともに、図３８に示したハンドルユニット１８０のハンドル装飾基板１８４に入力されている。

【２２５７】

皿ユニット中継基板２１４に入力される、扉枠側第１シリアル系統（発光データＳＤＡＴ１、クロック信号ＳＣＬＫ１）、直流＋１２Ｖ、及びグランド（ＧＮＤ）は、皿左下装飾基板２８３、皿右下装飾基板２８８、及び図５４に示した演出操作ユニット３００の操作部中継基板３９２にそれぞれ入力されている。

【２２５８】

皿左下装飾基板２８３に入力される、扉枠側第１シリアル系統（発光データＳＤＡＴ１、クロック信号ＳＣＬＫ１）、直流＋１２Ｖ、及びグランド（ＧＮＤ）は、皿左上装飾基板２７３にそれぞれ入力されている。つまり、皿左下装飾基板２８３が扉枠側第１シリアル系統（発光データＳＤＡＴ１、クロック信号ＳＣＬＫ１）、直流＋１２Ｖ、及びグランド（ＧＮＤ）を皿左上装飾基板２７３へ伝える橋渡し基板となることで、皿左下装飾基板２８３と皿左上装飾基板２７３とが電気的に数珠繋ぎされた状態となっている。橋渡し基板となる皿左下装飾基板２８３には、皿ユニット中継基板２１４からの扉枠側第１シリアル系統（発光データＳＤＡＴ１、クロック信号ＳＣＬＫ１）、直流＋１２Ｖ、及びグランド（ＧＮＤ）がそれぞれ入力される図示しない入力用コネクタが設けられているとともに、

扉枠側第１シリアル系統（発光データＳＤＡＴ１、クロック信号ＳＣＬＫ１）、直流＋１２Ｖ、及びグランド（ＧＮＤ）を皿左上装飾基板２７３へそれぞれ出力するための図示しない出力用コネクタが設けられている。これに対して、皿左下装飾基板２８３と電気的に数珠繋ぎされる（つまり、皿左下装飾基板２８３の後段であって最終段となる）皿左上装飾基板２７３には、皿左下装飾基板２８３の図示しない出力用コネクタからそれぞれ出力される扉枠側第１シリアル系統（発光データＳＤＡＴ１、クロック信号ＳＣＬＫ１）、直流＋１２Ｖ、及びグランド（ＧＮＤ）がそれぞれ入力される図示しない入力用コネクタのみが設けられている。

【２２５９】

皿右下装飾基板２８８に入力される、扉枠側第１シリアル系統（発光データＳＤＡＴ１、クロック信号ＳＣＬＫ１）、直流＋１２Ｖ、及びグランド（ＧＮＤ）は、皿右上装飾基板２７８にそれぞれ入力されている。つまり、皿右下装飾基板２８８が扉枠側第１シリアル系統（発光データＳＤＡＴ１、クロック信号ＳＣＬＫ１）、直流＋１２Ｖ、及びグランド（ＧＮＤ）を皿右上装飾基板２７８へ伝える橋渡し基板となることで、皿右下装飾基板２８８と皿右上装飾基板２７８とが電気的に数珠繋ぎされた状態となっている。橋渡し基板となる皿右下装飾基板２８８には、皿ユニット中継基板２１４からの扉枠側第１シリアル系統（発光データＳＤＡＴ１、クロック信号ＳＣＬＫ１）、直流＋１２Ｖ、及びグランド（ＧＮＤ）がそれぞれ入力される図示しない入力用コネクタが設けられているとともに、扉枠側第１シリアル系統（発光データＳＤＡＴ１、クロック信号ＳＣＬＫ１）、直流＋１２Ｖ、及びグランド（ＧＮＤ）を皿右上装飾基板２７８へそれぞれ出力するための図示しない出力用コネクタが設けられている。これに対して、皿右下装飾基板２８８と電気的に数珠繋ぎされる（つまり、皿右下装飾基板２８８の後段であって最終段となる）皿右上装飾基板２７８には、皿右下装飾基板２８８の図示しない出力用コネクタからそれぞれ出力される扉枠側第１シリアル系統（発光データＳＤＡＴ１、クロック信号ＳＣＬＫ１）、直流＋１２Ｖ、及びグランド（ＧＮＤ）が入力される図示しない入力用コネクタのみが設けられている。

【２２６０】

演出操作ユニット３００の操作部中継基板３９２に入力される、扉枠側第１シリアル系統（発光データＳＤＡＴ１、クロック信号ＳＣＬＫ１）、直流＋１２Ｖ、及びグランド（ＧＮＤ）は、皿中央上装飾基板３１４、皿中央下装飾基板３１６、及び演出操作リング装飾基板３５２の前装飾基板３５２ａにそれぞれ入力されている。

【２２６１】

前装飾基板３５２ａに入力される、扉枠側第１シリアル系統（発光データＳＤＡＴ１、クロック信号ＳＣＬＫ１）、直流＋１２Ｖ、及びグランド（ＧＮＤ）は、後装飾基板３５２ｂにそれぞれ入力されている。つまり、前装飾基板３５２ａが扉枠側第１シリアル系統（発光データＳＤＡＴ１、クロック信号ＳＣＬＫ１）、直流＋１２Ｖ、及びグランド（ＧＮＤ）を後装飾基板３５２ｂへ伝える橋渡し基板となることで、前装飾基板３５２ａと後装飾基板３５２ｂとが電気的に数珠繋ぎされた状態となっている。橋渡し基板となる前装飾基板３５２ａには、演出操作ユニット３００の操作部中継基板３９２からの扉枠側第１シリアル系統（発光データＳＤＡＴ１、クロック信号ＳＣＬＫ１）、直流＋１２Ｖ、及びグランド（ＧＮＤ）がそれぞれ入力される図示しない入力用コネクタが設けられているとともに、扉枠側第１シリアル系統（発光データＳＤＡＴ１、クロック信号ＳＣＬＫ１）、直流＋１２Ｖ、及びグランド（ＧＮＤ）を後装飾基板３５２ｂへそれぞれ出力するための図示しない出力用コネクタが設けられている。これに対して、前装飾基板３５２ａと電気的に数珠繋ぎされる（つまり、前装飾基板３５２ａの後段であって最終段となる）後装飾基板３５２ｂには、前装飾基板３５２ａの図示しない出力用コネクタからそれぞれ出力される扉枠側第１シリアル系統（発光データＳＤＡＴ１、クロック信号ＳＣＬＫ１）、直流＋１２Ｖ、及びグランド（ＧＮＤ）がそれぞれ入力される図示しない入力用コネクタのみが設けられている。

【２２６２】

ここで、例えば、皿ユニット中継基板２１４からの扉枠側第１シリアル系統（発光データＳＤＡＴ１、クロック信号ＳＣＬＫ１）、直流＋１２Ｖ、及びグランド（ＧＮＤ）が入力される皿左下装飾基板２８３について簡単に説明すると、皿左下装飾基板２８３は、ＬＥＤ定電流駆動回路２８３ａ、熱分散回路２８３ｃ、６個のフルカラーＬＥＤであるｓｄＬＥＤ１～ｓｄＬＥＤ６を備えている。ＬＥＤ定電流駆動回路２８３ａは、ｓｄＬＥＤ１～ｓｄＬＥＤ６に定電流を流すことができるシンク（吸い込み）タイプの定電流駆動回路２８３ｘと、ｓｄＬＥＤ１～ｓｄＬＥＤ６に流す電流の最大電流を設定することができる最大電流設定回路２８３ｙと、から主として構成されている。定電流駆動回路２８３ｘは、皿ユニット中継基板２１４からの扉枠側第１シリアル系統（発光データＳＤＡＴ１、クロック信号ＳＣＬＫ１）に基づいて、ｓｄＬＥＤ１～ｓｄＬＥＤ６に定電流を流す制御を行う。定電流駆動回路２８３ｘは、上述したように、シンク（吸い込み）タイプであるため、ｓｄＬＥＤ１～ｓｄＬＥＤ６に流れる定電流を吸い込むことにより発熱する。そこで、定電流駆動回路２８３ｘの発熱の一部を、熱分散回路２８３ｃで受け持つことにより、定電流駆動回路２８３ｘの発熱を分散することができるようになっている。

【２２６３】

また、例えば、皿左下装飾基板２８３からの扉枠側第１シリアル系統（発光データＳＤＡＴ１、クロック信号ＳＣＬＫ１）、直流＋１２Ｖ、及びグランド（ＧＮＤ）が入力される皿左上装飾基板２７３について簡単に説明すると、皿左上装飾基板２７３は、ＬＥＤ定電流駆動回路２７３ａ、熱分散回路２７３ｃ、６個のフルカラーＬＥＤであるｓｕＬＥＤ１～ｓｕＬＥＤ６を備えている。ＬＥＤ定電流駆動回路２７３ａは、皿左下装飾基板２８３のＬＥＤ定電流駆動回路２８３ａと同一の回路であり、ｓｕＬＥＤ１～ｓｕＬＥＤ６に定電流を流すことができるシンク（吸い込み）タイプの定電流駆動回路２７３ｘと、ｓｕＬＥＤ１～ｓｕＬＥＤ６に流す電流の最大電流を設定することができる最大電流設定回路２７３ｙと、から主として構成されている。定電流駆動回路２７３ｘは、皿左下装飾基板２８３からの扉枠側第１シリアル系統（発光データＳＤＡＴ１、クロック信号ＳＣＬＫ１）に基づいて、ｓｕＬＥＤ１～ｓｕＬＥＤ６に定電流を流す制御を行う。定電流駆動回路２７３ｘは、上述したように、シンク（吸い込み）タイプであるため、ｓｕＬＥＤ１～ｓｕＬＥＤ６に流れる定電流を吸い込むことにより発熱する。そこで、定電流駆動回路２７３ｘの発熱の一部を、熱分散回路２７３ｃで受け持つことにより定電流駆動回路２７３ｘの発熱を分散することができるようになっている。

【２２６４】

［扉枠側第２シリアル系統］

扉枠副中継基板１０５に入力される、扉枠側第２シリアル系統（発光データＳＤＡＴ２、クロック信号ＳＣＬＫ２）、直流＋１２Ｖ、及びグランド（ＧＮＤ）は、扉枠左サイド装飾基板４０２の左サイド下装飾基板４０２ｂに入力されるとともに、サイド窓内装飾部装飾基板４１３、扉枠右サイド装飾基板４１８の右サイド下装飾基板４１８ｂ、及び図７３に示した扉枠トップユニット４５０の扉枠トップ中継基板４６７にそれぞれ入力されている。

【２２６５】

扉枠左サイド装飾基板４０２の左サイド下装飾基板４０２ｂに入力される、直流＋１２Ｖ、及びグランド（ＧＮＤ）は、扉枠左サイド装飾基板４０２の左サイド上装飾基板４０２ａに入力されている。扉枠トップユニット４５０の扉枠トップ中継基板４６７に入力される、扉枠側第２シリアル系統（発光データＳＤＡＴ２、クロック信号ＳＣＬＫ２）、直流＋１２Ｖ、及びグランド（ＧＮＤ）は、扉枠トップ右装飾基板４５７に入力されている。

【２２６６】

扉枠トップ右装飾基板４５７に入力される、扉枠側第２シリアル系統（発光データＳＤＡＴ２、クロック信号ＳＣＬＫ２）、直流＋１２Ｖ、及びグランド（ＧＮＤ）は、扉枠トップ中央装飾基板４５５にそれぞれ入力されている。つまり、扉枠トップ右装飾基板４５７が扉枠側第２シリアル系統（発光データＳＤＡＴ２、クロック信号ＳＣＬＫ２）、直流＋１２Ｖ、及びグランド（ＧＮＤ）を扉枠トップ中央装飾基板４５５へ伝える橋渡し基板と

なることで、扉枠トップ右装飾基板４５７と扉枠トップ中央装飾基板４５５とが電気的に数珠繋ぎされた状態となっている。橋渡し基板となる扉枠トップ右装飾基板４５７には、扉枠トップユニット４５０の扉枠トップ中継基板４６７からの扉枠側第２シリアル系統（発光データＳＤＡＴ２、クロック信号ＳＣＬＫ２）、直流＋１２Ｖ、及びグランド（ＧＮＤ）がそれぞれ入力される図示しない入力用コネクタが設けられているとともに、扉枠側第２シリアル系統（発光データＳＤＡＴ２、クロック信号ＳＣＬＫ２）、直流＋１２Ｖ、及びグランド（ＧＮＤ）を扉枠トップ中央装飾基板４５５へそれぞれ出力するための図示しない出力用コネクタが設けられている。また、扉枠トップ右装飾基板４５７と電気的に数珠繋ぎされる（つまり、扉枠トップ右装飾基板４５７の後段となる）扉枠トップ中央装飾基板４５５には、扉枠トップ右装飾基板４５７の図示しない出力用コネクタからそれぞれ出力される扉枠側第２シリアル系統（発光データＳＤＡＴ２、クロック信号ＳＣＬＫ２）、直流＋１２Ｖ、及びグランド（ＧＮＤ）がそれぞれ入力される図示しない入力用コネクタが設けられているとともに、扉枠側第２シリアル系統（発光データＳＤＡＴ２、クロック信号ＳＣＬＫ２）、直流＋１２Ｖ、及びグランド（ＧＮＤ）を扉枠トップ左装飾基板４５６へそれぞれ出力するための図示しない出力用コネクタが設けられている。

【２２６７】

扉枠トップ中央装飾基板４５５に入力される、扉枠側第２シリアル系統（発光データＳＤＡＴ２、クロック信号ＳＣＬＫ２）、直流＋１２Ｖ、及びグランド（ＧＮＤ）は、扉枠トップ左装飾基板４５６にそれぞれ入力されている。つまり、扉枠トップ中央装飾基板４５５が扉枠側第２シリアル系統（発光データＳＤＡＴ２、クロック信号ＳＣＬＫ２）、直流＋１２Ｖ、及びグランド（ＧＮＤ）を扉枠トップ左装飾基板４５６へ伝える橋渡し基板となることで、扉枠トップ中央装飾基板４５５と扉枠トップ左装飾基板４５６とが電気的に数珠繋ぎされた状態となっている。これに対して、扉枠トップ中央装飾基板４５５と電気的に数珠繋ぎされる（つまり、扉枠トップ中央装飾基板４５５の後段であって最終段となる）扉枠トップ左装飾基板４５６には、扉枠トップ中央装飾基板４５５の図示しない出力用コネクタからそれぞれ出力される扉枠側第２シリアル系統（発光データＳＤＡＴ２、クロック信号ＳＣＬＫ２）、直流＋１２Ｖ、及びグランド（ＧＮＤ）がそれぞれ入力される図示しない入力用コネクタのみが設けられている。

【２２６８】

ここで、例えば、扉枠副中継基板１０５からの扉枠側第２シリアル系統（発光データＳＤＡＴ２、クロック信号ＳＣＬＫ２）、直流＋１２Ｖ、及びグランド（ＧＮＤ）が入力される扉枠左サイド装飾基板４０２の左サイド下装飾基板４０２ｂについて簡単に説明すると、左サイド下装飾基板４０２ｂは、２つのＬＥＤ定電流駆動回路４０２ｂａ，４０２ｂｂ、熱分散回路４０２ｂｃ、１０個のフルカラーＬＥＤであるｈｄＬＥＤ１～ｈｄＬＥＤ１０を備えている。

【２２６９】

ＬＥＤ定電流駆動回路４０２ｂａは、皿左下装飾基板２８３のＬＥＤ定電流駆動回路２８３ａ、及び皿左上装飾基板２７３のＬＥＤ定電流駆動回路２７３ａと同一の回路であり、ｈｄＬＥＤ１～ｈｄＬＥＤ８に定電流を流すことができるシンク（吸い込み）タイプの定電流駆動回路４０２ｂａｘと、ｈｄＬＥＤ１～ｈｄＬＥＤ８に流す電流の最大電流を設定することができる最大電流設定回路４０２ｂａｙと、から主として構成されている。定電流駆動回路４０２ｂａｘは、扉枠副中継基板１０５からの扉枠側第２シリアル系統（発光データＳＤＡＴ２、クロック信号ＳＣＬＫ２）に基づいて、８個のフルカラーＬＥＤであるｈｄＬＥＤ１～ｈｄＬＥＤ８に定電流を流す制御を行う。

【２２７０】

ＬＥＤ定電流駆動回路４０２ｂｂは、ＬＥＤ定電流駆動回路４０２ｂａ、皿左下装飾基板２８３のＬＥＤ定電流駆動回路２８３ａ、及び皿左上装飾基板２７３のＬＥＤ定電流駆動回路２７３ａと同一の回路であり、ｈｄＬＥＤ９，ｈｄＬＥＤ１０、及び左サイド上装飾基板４０２ａに実装される５個のフルカラーＬＥＤであるｈｕＬＥＤ１～ｈｕＬＥＤ５に定電流を流すことができるシンク（吸い込み）タイプの定電流駆動回路４０２ｂｂｘと、

ｈｄＬＥＤ９，ｈｄＬＥＤ１０、及び左サイド上装飾基板４０２ａのｈｕＬＥＤ１～ｈｕＬＥＤ５に流す電流の最大電流を設定することができる最大電流設定回路４０２ｂｂｙと、から主として構成されている。定電流駆動回路４０２ｂｂｘは、扉枠副中継基板１０５からの扉枠側第２シリアル系統（発光データＳＤＡＴ２、クロック信号ＳＣＬＫ２）に基づいて、自身が実装される基板（左サイド下装飾基板４０２ｂ）のｈｄＬＥＤ９，ｈｄＬＥＤ１０、及び左サイド上装飾基板４０２ａのｈｕＬＥＤ１～ｈｕＬＥＤ５に定電流を流す制御を行う。

【２２７１】

ＬＥＤ定電流駆動回路４０２ｂａの定電流駆動回路４０２ｂａｘは、上述したように、シンク（吸い込み）タイプであるため、ｈｕＬＥＤ１～ｈｕＬＥＤ８に流れる定電流を吸い込むことにより発熱する。ＬＥＤ定電流駆動回路４０２ｂｂの定電流駆動回路４０２ｂｂｘは、上述したように、シンク（吸い込み）タイプであるため、ｈｄＬＥＤ９，ｈｄＬＥＤ１０、ｈｕＬＥＤ１～ｈｕＬＥＤ５に流れる定電流を吸い込むことにより発熱する。そこで、定電流駆動回路４０２ｂａｘの発熱の一部を、熱分散回路４０２ｂｃで受け持つことにより定電流駆動回路４０２ｂａｘの発熱を分散することができるようになっている。また、定電流駆動回路４０２ｂｂｘの発熱の一部を、熱分散回路４０２ｂｃと、左サイド上装飾基板４０２ａの熱分散回路４０２ａｃと、により定電流駆動回路４０２ｂｂｘの発熱を分散することができるようになっている。

【２２７２】

このように、定電流駆動回路４０２ｂａｘの発熱の一部は、自身が実装される基板（左サイド下装飾基板４０２ｂ）の熱分散回路４０２ｂｃのみにより定電流駆動回路４０２ｂａｘの発熱を分散することができるようになっているのに対して、定電流駆動回路４０２ｂｂｘの発熱の一部は、自身が実装される基板（左サイド下装飾基板４０２ｂ）の熱分散回路４０２ｂｃに加えて、後続の基板となる左サイド上装飾基板４０２ａの熱分散回路４０２ａｃにより定電流駆動回路４０２ｂｂｘの発熱を分散することができるようになっている。

【２２７３】

定電流駆動回路４０２ｂｂｘは、自身が実装される基板（左サイド下装飾基板４０２ｂ）をまたいで後続の基板となる左サイド上装飾基板４０２ａに実装されるｈｕＬＥＤ１～ｈｕＬＥＤ５に定電流を流すように構成されている。このため、左サイド下装飾基板４０２ｂと左サイド上装飾基板４０２ａとの基板間を電気的に接続する作業が必ず伴う。この作業を行う作業者は、その指が左サイド下装飾基板４０２ｂのコネクタ、左サイド上装飾基板４０２ａのコネクタ、左サイド下装飾基板４０２ｂの熱分散回路４０２ｂｃ、又は左サイド上装飾基板４０２ａの熱分散回路４０２ａｃに触れるため、左サイド下装飾基板４０２ｂ、及び左サイド上装飾基板４０２ａが静電気による損傷を防止する必要がある。そこで、左サイド下装飾基板４０２ｂの熱分散回路４０２ｂｃと左サイド上装飾基板４０２ａの熱分散回路４０２ａｃとは、定電流駆動回路４０２ｂａｘ，４０２ｂｂｘの発熱を分散することができるという機能に加えて、静電気による電子部品の損傷を防止することができる機能も備えている。

【２２７４】

なお、左サイド上装飾基板４０２ａは、上述したように、左サイド下装飾基板４０２ｂからの直流＋１２Ｖ、及びグランド（ＧＮＤ）が入力されるほかに、５個のフルカラーＬＥＤであるｈｕＬＥＤ１～ｈｕＬＥＤ５に定電流を流すラインがそれぞれ入力されている。左サイド上装飾基板４０２ａは、上述したように、５個のフルカラーＬＥＤであるｈｕＬＥＤ１～ｈｕＬＥＤ５のほかに、熱分散回路４０２ａｃを備えている。熱分散回路４０２ａｃは、上述したように、定電流駆動回路４０２ｂｂｘの発熱を分散することができるという機能に加えて、静電気による電子部品の損傷を防止することができる機能も備えている。

【２２７５】

［発光データ］

ここで、周辺制御基板１５１０に備える周辺制御ＩＣ１５１０ａからシリアル出力される発光データＳＤＡＴ１，ＳＤＡＴ２について簡単に説明すると、発光データＳＤＡＴ１，ＳＤＡＴ２は、発光態様を指定するためのデータであり、ＩＤ情報と階調情報とから構成されている。ＩＤ情報は、扉枠３の各装飾基板に備えるＬＥＤ定電流駆動回路のうち、いずれのＬＥＤ定電流駆動回路を指定するものであるかを示す情報である。階調情報は、階調度０（ゼロ）～階調度１２７のうち、いずれの階調度を指定するものであるかを示す情報である。

【２２７６】

［ＬＥＤ定電流駆動回路の概要］

次に、ＬＥＤ定電流駆動回路の概要について、図２６１を参照して詳細に説明する。本実施形態では、扉枠３の各装飾基板に備えるＬＥＤ定電流駆動回路は、同一の回路であるため、ここでは、皿左下装飾基板２８３に備えるＬＥＤ定電流駆動回路２８３ａについて説明する。ＬＥＤ定電流駆動回路２８３ａは、上述したように、ｓｄＬＥＤ１～ｓｄＬＥＤ６に定電流を流すことができるシンク（吸い込み）タイプの定電流駆動回路２８３ｘと、ｓｄＬＥＤ１～ｓｄＬＥＤ６に流す電流の最大電流を設定することができる最大電流設定回路２８３ｙと、から主として構成されている。

【２２７７】

［定電流駆動回路］

定電流駆動回路は、出力チャンネルが２４本あり、チャンネルごとに、電流を出力することができるようになっている。本実施形態では、１つのフルカラーＬＥＤを構成する、赤色（Ｒ）に発光するＬＥＤ素子、緑色（Ｇ）に発光するＬＥＤ素子、及び青色（Ｂ）に発光するＬＥＤ素子に対して、出力チャンネルＬＲ，ＬＧ，ＬＢを個別に制御することにより３本の出力チャンネルを使用している。つまり、本実施形態では、１つの定電流駆動回路で最大８個のフルカラーＬＥＤに対して、出力チャンネルＬＲ１～ＬＲ８，ＬＧ１～ＬＧ８，ＬＢ１～ＬＢ８を個別に制御することにより発光態様を制御することができるようになっている。

【２２７８】

定電流駆動回路２８３ｘは、リニア電源２８３ｘａ、リセット部２８３ｘｂ、データライン用バッファ２８３ｘｃ、クロックライン用バッファ２８３ｘｄ、アドレス設定部２８３ｘｅ、発振器２８３ｘｆ、ロジック処理部２８３ｘｇ、ＰＷＭ部２８３ｘｈ、定電流駆動部２８３ｘｉから主として構成されている。

【２２７９】

［リニア電源］

リニア電源２８３ｘａは、＋１２Ｖ電源ラインからの直流＋１２Ｖが入力されて定電流駆動回路２８３ｘ内で利用する内部電源Ｖｒｅｇ（本実施形態では、直流＋５Ｖ）を作成して供給することができる回路である。リニア電源２８３ｘａにより作成される内部電源Ｖｒｅｇは、リセット部２８３ｘｂ、データライン用バッファ２８３ｘｃ、クロックライン用バッファ２８３ｘｄ、アドレス設定部２８３ｘｅ、発振器２８３ｘｆ、ロジック処理部２８３ｘｇ、ＰＷＭ部２８３ｘｈ、及び定電流駆動部２８３ｘｉにそれぞれ供給され、この内部電源Ｖｒｅｇによりリセット部２８３ｘｂ、データライン用バッファ２８３ｘｃ、クロックライン用バッファ２８３ｘｄ、アドレス設定部２８３ｘｅ、発振器２８３ｘｆ、ロジック処理部２８３ｘｇ、ＰＷＭ部２８３ｘｈ、及び定電流駆動部２８３ｘｉが動作することができるようになっている。

【２２８０】

定電流駆動回路２８３ｘは、図９５に示した電源基板６３０から供給（出力）される＋５Ｖ電源ラインと電気的に接続されず、独自に＋直流５Ｖを内部電源Ｖｒｅｇとして作成して定電流駆動回路２８３ｘ内において利用している。これは、電源基板６３０から供給（出力）される＋５Ｖ電源ラインを利用すると、この＋５Ｖ電源ラインを、電気配線を引き回して利用することとなるため、直流＋５Ｖを供給する＋５Ｖ電源ラインの長さが長くなってノイズが侵入し易くなる。そうすると、外来ノイズが＋５Ｖ電源ラインに伝わって直

流＋５Ｖが定電流駆動回路２８３ｘに入力されると、外来ノイズの影響を受けてＬＥＤのちらつきが発生するおそれがある。そこで、本実施形態では、電源基板６３０から供給（出力）される＋５Ｖ電源ラインを定電流駆動回路２８３ｘに不要とすることにより、＋５Ｖ電源ラインと比べて耐ノイズ性が極めて高い＋１２Ｖ電源ラインから定電流駆動回路２８３ｘのリニア電源２８３ｘａにおいて独自に直流＋５Ｖを内部電源Ｖｒｅｇとして作成するという構成を採用した。

【２２８１】

このように、本実施形態では、定電流駆動回路２８３ｘから他の基板へ向かって内部電源Ｖｒｅｇを出力せずに定電流駆動回路２８３ｘ内においてのみ利用することにより、外来ノイズが内部電源Ｖｒｅｇに伝わり難くすることができるため、内部電源Ｖｒｅｇを安定化することができるようになっている。これにより、内部電源Ｖｒｅｇが安定化されることで外来ノイズによるフルカラーＬＥＤであるｓｄＬＥＤ１～ｓｄＬＥＤ６のちらつき防止に寄与することができる。したがって、外来ノイズに強くすることできる。また、＋５Ｖ電源ラインに対する入力用電気配線と外部伝送用電気配線とが不要となり、コネクタの小型化に寄与することができる。

【２２８２】

［リセット部］

リセット部２８３ｘｂは、リニア電源２８３ｘａからの内部電源Ｖｒｅｇに基づいて内部リセット信号ＲＳＴを作成して定電流駆動回路２８３ｘ内に出力し、定電流駆動回路２８３ｘを初期化して定電流駆動回路２８３ｘを動作開始することができる、いわゆるパワーオンリセット回路である。リセット部２８３ｘｂから出力される内部リセット信号ＲＳＴは、データライン用バッファ２８３ｘｃ、クロックライン用バッファ２８３ｘｄ、アドレス設定部２８３ｘｅ、発振器２８３ｘｆ、ロジック処理部２８３ｘｇ、ＰＷＭ部２８３ｘｈ、及び定電流駆動部２８３ｘｉに入力されると、データライン用バッファ２８３ｘｃ、クロックライン用バッファ２８３ｘｄ、アドレス設定部２８３ｘｅ、発振器２８３ｘｆ、ロジック処理部２８３ｘｇ、ＰＷＭ部２８３ｘｈ、及び定電流駆動部２８３ｘｉを初期化して、データライン用バッファ２８３ｘｃ、クロックライン用バッファ２８３ｘｄ、アドレス設定部２８３ｘｅ、発振器２８３ｘｆ、ロジック処理部２８３ｘｇ、ＰＷＭ部２８３ｘｈ、及び定電流駆動部２８３ｘｉを動作開始する。

【２２８３】

定電流駆動回路２８３ｘは、例えば、図２０６に示した周辺制御基板１５１０からのリセット信号が入力されず、独自にリセット信号を内部リセット信号ＲＳＴとして作成して定電流駆動回路２８３ｘ内において利用している。これは、例えば、周辺制御基板１５１０からのリセット信号を伝送するライン（以下、「リセット信号伝送ライン」と記載する。）を利用すると、このリセット信号伝送ラインを、電気配線を引き回して利用することとなるため、リセット信号を伝えるリセット信号伝送ラインの長さが長くなってノイズが侵入し易くなる。そうすると、外来ノイズがリセット信号伝送ラインに伝わってリセット信号が定電流駆動回路２８３ｘに入力されると、外来ノイズの影響を受けて定電流駆動回路２８３ｘがリセットされてＬＥＤが消灯するおそれがある。そこで、本実施形態では、リセット信号伝送ラインを定電流駆動回路２８３ｘに不要とすることにより、定電流駆動回路２８３ｘのリセット部２８３ｘｂにおいて独自にリセット信号を内部リセット信号ＲＳＴとして作成するという構成を採用した。

【２２８４】

このように、本実施形態では、外部基板からリセット信号が入力されず、かつ、定電流駆動回路２８３ｘから他の基板へ向かって内部リセット信号ＲＳＴを出力せずに定電流駆動回路２８３ｘ内においてのみ利用することにより、外来ノイズが内部リセット信号ＲＳＴに伝わり難くすることができるため、内部リセット信号ＲＳＴを安定化することができるようになっている。これにより、内部リセット信号ＲＳＴが安定化される（つまり、定電流駆動回路２８３ｘの初期化が安定化される）ことで外来ノイズによる定電流駆動回路２８３ｘがリセットされず、出力チャンネルＬＲ１～ＬＲ８，ＬＧ１～ＬＧ８，ＬＢ１～Ｌ

Ｂ８に対応するフルカラーＬＥＤを構成するＬＥＤ素子の予期せぬ消灯やちらつき防止に寄与することができる。したがって、外来ノイズに強くすることできる。また、リセット信号伝送ラインに対する入力用電気配線と外部伝送用電気配線とが不要となり、コネクタの小型化に寄与することができる。

【２２８５】

［バッファ］

データライン用バッファ２８３ｘｃは、定電流駆動回路２８３ｘの外部からのシリアルデータ（ここでは、扉枠側第１シリアル系統の発光データＳＤＡＴ１）を伝送するライン（以下、「データライン」と記載する。）からシリアルデータが入力されてシリアルデータを伝える信号の波形を整形してロジック処理部２８３ｘｇと定電流駆動回路２８３ｘの外部とにそれぞれ出力することができる回路である。クロックライン用バッファ２８３ｘｄは、定電流駆動回路２８３ｘの外部からのクロック信号（ここでは、扉枠側第１シリアル系統のクロック信号ＳＣＬＫ１）を伝送するライン（以下、「クロックライン」と記載する。）からクロック信号が入力されてクロック信号の波形を整形してロジック処理部２８３ｘｇと定電流駆動回路２８３ｘの外部とにそれぞれ出力することができる回路である。

【２２８６】

データラインとクロックラインとは、上述したように、複数の基板や中継基板をまたいで伝送されている。このため、データラインとクロックラインとの長さがどちらも長くなってノイズが侵入し易くなる。そこで、本実施形態では、データライン用バッファ２８３ｘｃとクロックライン用バッファ２８３ｘｄとを定電流駆動回路２８３ｘに備えることで、定電流駆動回路２８３ｘに入力される直前におけるデータラインやクロックラインに侵入したノイズを、ロジック処理部２８３ｘｇ、そして後続の基板に伝えないように、データライン用バッファ２８３ｘｃとクロックライン用バッファ２８３ｘｄとにおいて波形を整形するという構成を採用した。

【２２８７】

このように、本実施形態では、データラインとクロックラインとの長さがどちらも長くなる場合であっても、ノイズに強い、データラインとクロックラインとを形成することができる。これにより、ノイズに強い信号伝送を実現することができる。したがって、外来ノイズに強くすることできる。

【２２８８】

［アドレス設定部］

アドレス設定部２８３ｘｅは、リニア電源２８３ｘａからの内部電源Ｖｒｅｇに基づいて、図示しない３つのＩＤ抵抗により６４通りのアドレスを定電流駆動回路２８３ｘのＩＤ（個体を識別することができるＩＤ）として設定することができるようになっている。

【２２８９】

このように、本実施形態では、定電流駆動回路２８３ｘの個体を識別することができるＩＤは、図示しない３つのＩＤ抵抗というハードウェアの構成によってアドレス設定部２８３ｘｅにより予め設定されるようになっているものであって、ソフトウェアによるデータを受信して適宜設定されるものでない。

【２２９０】

［発振器、ロジック処理部］

ロジック処理部２８３ｘｇは、データライン用バッファ２８３ｘｃにおいて整形された定電流駆動回路２８３ｘの外部からのシリアルデータ（ここでは、扉枠側第１シリアル系統の発光データＳＤＡＴ１）と、クロックライン用バッファ２８３ｘｄにおいて整形された定電流駆動回路２８３ｘの外部からのクロック信号（ここでは、扉枠側第１シリアル系統のクロック信号ＳＣＬＫ１）と、が入力されている。ロジック処理部２８３ｘｇは、アドレス設定部２８３ｘｅが設定する自身のＩＤであるアドレスに基づいて、シリアルデータ（扉枠側第１シリアル系統の発光データＳＤＡＴ１）のＩＤ情報に自身のＩＤが含まれているときには、このシリアルデータから階調情報を取り込み、その取り込んだ階調情報となるように、発振器２８３ｘｆからの信号（制御クロック信号）に基づいて、出力チャン

ネルにおける階調度をＰＷＭ部２８３ｘｈに設定する制御を行う一方、シリアルデータ（扉枠側第１シリアル系統の発光データＳＤＡＴ１）のＩＤ情報に自身のＩＤが含まれていないときには、このシリアルデータにおける階調情報を取り込まず、ＰＷＭ部２８３ｘｈに設定される現状の内容を維持する制御を行う。

【２２９１】

［ＰＷＭ部］

ＰＷＭ部２８３ｘｈは、各出力チャンネルにおけるＬＥＤの明るさ（階調度）を、消灯から点灯（最大輝度）までを階調度０（ゼロ）～階調度１２７という合計１２８段階で階調制御することができるものであり、１つの出力チャンネルに対して図示しない１つのＰＷＭ階調制御部により階調制御されるようになっている。つまりＰＷＭ部２８３ｘｈは、出力チャンネルＬＲ１～ＬＲ８，ＬＧ１～ＬＧ８，ＬＢ１～ＬＢ８と対応するＰＷＭ階調制御部１～ＰＷＭ階調制御部２４を個別（つまり２４個のＰＷＭ階調制御部）に備えている。これらのＰＷＭ階調制御部１～ＰＷＭ階調制御部２４は、階調度がそれぞれ設定されると、この設定された階調度となる電流を流すように定電流駆動部２８３ｘｉの制御を行う。

【２２９２】

［定電流駆動部］

定電流駆動部２８３ｘｉは、上述したＰＷＭ部２８３ｘｈに備えるＰＷＭ階調制御部１～ＰＷＭ階調制御部２４に設定される階調度となるように、１つの出力チャンネルに対して１つの図示しない定電流ドライバによりフルカラーＬＥＤを構成するＬＥＤ素子に定電流を流すものである。つまり定電流駆動部２８３ｘｉは、ＰＷＭ階調制御部１～ＰＷＭ階調制御部２４と対応して定電流ドライバ１～定電流ドライバ２４を個別（つまり２４個の定電流ドライバ）に備えている。

【２２９３】

定電流ドライバ１～定電流ドライバ８には、出力チャンネルＬＲ１～ＬＲ８までの８つの出力チャンネルにおけるフルカラーＬＥＤを構成する赤色（Ｒ）に発光するＬＥＤ素子に流す最大電流を設定する抵抗Ｒｒの一端が電気的に接続されるとともに抵抗Ｒｒの他端がグランド（ＧＮＤ）に接地されている。定電流ドライバ９～定電流ドライバ１６には、出力チャンネルＬＧ１～ＬＧ８までの８つの出力チャンネルにおけるフルカラーＬＥＤを構成する緑色（Ｇ）に発光するＬＥＤ素子に流す最大電流を設定する抵抗Ｒｇの一端が電気的に接続されるとともに抵抗Ｒｇの他端がグランド（ＧＮＤ）に接地されている。定電流ドライバ１７～定電流ドライバ２４には、出力チャンネルＬＢ１～ＬＢ８までの８つの出力チャンネルにおけるフルカラーＬＥＤを構成する青色（Ｂ）に発光するＬＥＤ素子に流す最大電流を設定する抵抗Ｒｂの一端が電気的に接続されるとともに抵抗Ｒｂの他端がグランド（ＧＮＤ）に接地されている。

【２２９４】

定電流ドライバ１～定電流ドライバ２４とそれぞれ対応するフルカラーＬＥＤを構成する、赤色（Ｒ）のＬＥＤ素子のアノード端子、緑色（Ｇ）のＬＥＤ素子のアノード端子、及び青色（Ｂ）のＬＥＤ素子のアノード端子は、＋１２Ｖ電源ラインと電気的に接続されて直流＋１２Ｖが入力されている。

【２２９５】

定電流ドライバ１～定電流ドライバ８とそれぞれ対応するフルカラーＬＥＤを構成する赤色（Ｒ）のＬＥＤ素子のカソード端子は、それぞれ対応する熱分散抵抗を介して、出力チャンネルＬＲ１～ＬＲ８（つまり定電流ドライバ１～定電流ドライバ８）と電気的にそれぞれ接続され、フルカラーＬＥＤを構成する赤色（Ｒ）のＬＥＤ素子に流れる定電流をそれぞれ定電流ドライバ１～定電流ドライバ８側へ吸い込むことができるようになっている。定電流ドライバ９～定電流ドライバ１６とそれぞれ対応するフルカラーＬＥＤを構成する緑色（ｇ）のＬＥＤ素子のカソード端子は、それぞれ対応する熱分散抵抗を介して、出力チャンネルＬＧ１～ＬＧ８（つまり定電流ドライバ９～定電流ドライバ１６）と電気的に接続され、フルカラーＬＥＤを構成する緑色（Ｇ）のＬＥＤ素子に流れる定電流をそれぞれ定電流ドライバ９～定電流ドライバ１６側へ吸い込むことができるようになっている

。定電流ドライバ１７～定電流ドライバ２４とそれぞれ対応するフルカラーＬＥＤを構成する青色（Ｂ）のＬＥＤ素子のカソード端子は、それぞれ対応する熱分散抵抗を介して、出力チャンネルＬＢ１～ＬＢ８（つまり定電流ドライバ１７～定電流ドライバ２４）と電気的に接続され、フルカラーＬＥＤを構成する青色（Ｂ）のＬＥＤ素子に流れる定電流をそれぞれ定電流ドライバ１７～定電流ドライバ２４側へ吸い込むことができるようになっている。

【２２９６】

定電流ドライバ１～定電流ドライバ８は、個別に設定されたフルカラーＬＥＤを構成する赤色（Ｒ）のＬＥＤ素子に流れる定電流をそれぞれ吸い込むことにより、フルカラーＬＥＤを構成する赤色（Ｒ）のＬＥＤ素子を発光することができる。定電流ドライバ９～定電流ドライバ１６は、個別に設定されたフルカラーＬＥＤを構成する緑色（Ｇ）のＬＥＤ素子に流れる定電流をそれぞれ吸い込むことにより、フルカラーＬＥＤを構成する緑色（Ｇ）のＬＥＤ素子を発光することができる。定電流ドライバ１７～定電流ドライバ２４は、個別に設定されたフルカラーＬＥＤを構成する青色（Ｂ）のＬＥＤ素子に流れる定電流をそれぞれ吸い込むことにより、フルカラーＬＥＤを構成する青色（Ｂ）のＬＥＤ素子を発光することができる。

【２２９７】

このように、ＬＥＤ定電流駆動回路は、ＬＥＤ素子を２４個、つまり８個のフルカラーＬＥＤを個別に設定された定電流で発光することにより調光点灯することができるため、このよう調光点灯により、消灯、一の階調による点灯、一の階調による点滅などを行うことができるようになっている。

【２２９８】

［最大電流設定回路］

最大電流設定回路は、上述した、出力チャンネルＬＲ１～ＬＲ８までの８つの出力チャンネルにおけるフルカラーＬＥＤを構成する赤色（Ｒ）に発光するＬＥＤ素子に流す最大電流を設定する抵抗Ｒｒと、出力チャンネルＬＧ１～ＬＧ８までの８つの出力チャンネルにおけるフルカラーＬＥＤを構成する緑色（Ｇ）に発光するＬＥＤ素子に流す最大電流を設定する抵抗Ｒｇと、出力チャンネルＬＢ１～ＬＢ８までの８つの出力チャンネルにおけるフルカラーＬＥＤを構成する青色（Ｂ）に発光するＬＥＤ素子に流す最大電流を設定する抵抗Ｒｂと、から構成されている。

【２２９９】

抵抗Ｒｒの一端は、上述したように、定電流駆動部２８３ｘｉに備える定電流ドライバ１～定電流ドライバ８と電気的に接続されるとともに、抵抗Ｒｒの他端がグランド（ＧＮＤ）に接地されている。抵抗Ｒｇの一端は、上述したように、定電流駆動部２８３ｘｉに備える定電流ドライバ９～定電流ドライバ１６と電気的に接続されるとともに、抵抗Ｒｇの他端がグランド（ＧＮＤ）に接地されている。抵抗Ｒｂの一端は、上述したように、定電流駆動部２８３ｘｉに備える定電流ドライバ１７～定電流ドライバ２４と電気的に接続されるとともに、抵抗Ｒｂの他端がグランド（ＧＮＤ）に接地されている。

【２３００】

［ＬＥＤ定電流駆動回路を備える装飾基板］

次に、ＬＥＤ定電流駆動回路を備える装飾基板について、図２６１及び図２６２を参照して詳細に説明する。ここでは、ＬＥＤ定電流駆動回路を１つ備える装飾基板について説明し、ＬＥＤ定電流駆動回路を２つ備える装飾基板について説明する。なお、扉枠３の各装飾基板に備える上述したＬＥＤ定電流駆動回路は、同一の回路として構成されている。このため、図２６１及び図２６２には、説明の便宜上、上述した出力チャンネルＬＲ１～ＬＲ８，ＬＧ１～ＬＧ８，ＬＢ１～ＬＢ８を同一の符号で示した。

【２３０１】

［ＬＥＤ定電流駆動回路を１つ備える装飾基板］

まず、ＬＥＤ定電流駆動回路を１つ備える装飾基板として、例えば、図２６１に示すように、皿左下装飾基板２８３は、ＬＥＤ定電流駆動回路２８３ａ、６個のフルカラーＬＥＤ

であるｓｄＬＥＤ１～ｓｄＬＥＤ６、熱分散回路２８３ｃを備えている。
【２３０２】
扉枠３の扉枠ベースユニット１００に備える扉枠副中継基板１０５は、上述したように、周辺制御基板１５１０に備える周辺制御ＩＣ１５１０ａからシリアル出力される扉枠側第１シリアル系統である発光データＳＤＡＴ１、クロック信号ＳＣＬＫ１が入力されている。また、扉枠副中継基板１０５は、上述したように、電源基板６３０の＋１２Ｖ電源ラインと電気的に接続されて直流＋１２Ｖが入力されるとともに、電源基板６３０のグランド（ＧＮＤ）ラインと電気的に接続されてグランド（ＧＮＤ）に接地されている。
【２３０３】
皿左下装飾基板２８３は、上述したように、扉枠副中継基板１０５からの扉枠側第１シリアル系統（発光データＳＤＡＴ１、クロック信号ＳＣＬＫ１）、直流＋１２Ｖ、及びグランド（ＧＮＤ）が皿ユニット２００の皿ユニット中継基板２１４介して入力されている。直流＋１２Ｖは、ＬＥＤ定電流駆動回路２８３ａに入力されるとともに、フルカラーＬＥＤであるｓｄＬＥＤ１～ｓｄＬＥＤ６を構成する、赤色（Ｒ）のＬＥＤ素子のアノード端子、緑色（Ｇ）のＬＥＤ素子のアノード端子、及び青色（Ｂ）のＬＥＤ素子のアノード端子にもそれぞれ入力されている。
【２３０４】
フルカラーＬＥＤであるｓｄＬＥＤ１～ｓｄＬＥＤ６を構成する赤色（Ｒ）のＬＥＤ素子のカソード端子は、それぞれ熱分散抵抗ｓｄＲｒ１～ｓｄＲｒ６を介して、ＬＥＤ定電流駆動回路２８３ａの出力チャンネルＬＲ１～ＬＲ６（上述した定電流ドライバ１～定電流ドライバ６）と電気的に接続されている。フルカラーＬＥＤであるｓｄＬＥＤ１～ｓｄＬＥＤ６を構成する緑色（Ｇ）のＬＥＤ素子のカソード端子は、それぞれ熱分散抵抗ｓｄＲｇ１～ｓｄＲｇ６を介して、ＬＥＤ定電流駆動回路２８３ａの出力チャンネルＬＧ１～ＬＧ６（上述した定電流ドライバ９～定電流ドライバ１４）と電気的に接続されている。フルカラーＬＥＤであるｓｄＬＥＤ１～ｓｄＬＥＤ６を構成する青色（Ｂ）のＬＥＤ素子のカソード端子は、それぞれ熱分散抵抗ｓｄＲｂ１～ｓｄＲｂ６を介して、ＬＥＤ定電流駆動回路２８３ａの出力チャンネルＬＢ１～ＬＢ６（上述した定電流ドライバ１７～定電流ドライバ２２）と電気的に接続されている。なお、ＬＥＤ定電流駆動回路２８３ａの出力チャンネルＬＲ７，ＬＲ８，ＬＧ７，ＬＧ８，ＬＢ７，ＬＢ８は、未接続となっている。
【２３０５】
ＬＥＤ定電流駆動回路２８３ａは、扉枠側第１シリアル系統（発光データＳＤＡＴ１、クロック信号ＳＣＬＫ１）に基づいて、発光データＳＤＡＴ１のＩＤ情報に自身のＩＤが含まれているときには、この発光データＳＤＡＴ１から階調情報を取り込み、その取り込んだ階調情報となるように、フルカラーＬＥＤであるｓｄＬＥＤ１～ｓｄＬＥＤ６を個別に制御して調光点灯する。
【２３０６】
ＬＥＤ定電流駆動回路２８３ａは、上述したように、シンク（吸い込み）タイプであるため、ｓｄＬＥＤ１～ｓｄＬＥＤ６に流れる定電流を吸い込むことにより発熱する。そこで、ＬＥＤ定電流駆動回路２８３ａ（正確には、定電流駆動回路２８３ｘ）の発熱の一部を、熱分散回路２８３ｃを構成する、熱分散抵抗ｓｄＲｒ１～ｓｄＲｒ６，ｓｄＲｇ１～ｓｄＲｇ６，ｓｄＲｂ１～ｓｄＲｂ６で受け持つことによりＬＥＤ定電流駆動回路２８３ａ（正確には、定電流駆動回路２８３ｘ）の発熱を分散することができるようになっている。
【２３０７】
なお、扉枠副中継基板１０５からの扉枠側第１シリアル系統（発光データＳＤＡＴ１、クロック信号ＳＣＬＫ１）は、ＬＥＤ定電流駆動回路２８３ａ（上述した定電流駆動回路２８３ｘ）を介して、皿左上装飾基板２７３に入力されるとともに、直流＋１２Ｖ、及びグランド（ＧＮＤ）は、皿左下装飾基板２８３を介して皿左上装飾基板２７３に入力される。これにより、ＬＥＤ定電流駆動回路２８３ａ（上述した定電流駆動回路２８３ｘ）に入力される直前におけるデータラインやクロックラインに侵入したノイズを、後続の基板である皿左上装飾基板２７３に伝えないように、ＬＥＤ定電流駆動回路２８３ａにおいて（

上述した定電流駆動回路２８３ｘに備えるデータライン用バッファ２８３ｘｃとクロックライン用バッファ２８３ｘｄとにおいて）波形を整形することができるようになっている。
【２３０８】
直流＋１２Ｖは、ＬＥＤ定電流駆動回路２７３ａに入力されるとともに、フルカラーＬＥＤであるｓｕＬＥＤ１～ｓｕＬＥＤ６を構成する、赤色（Ｒ）のＬＥＤ素子のアノード端子、緑色（Ｇ）のＬＥＤ素子のアノード端子、及び青色（Ｂ）のＬＥＤ素子のアノード端子にもそれぞれ入力されている。
【２３０９】
フルカラーＬＥＤであるｓｕＬＥＤ１～ｓｕＬＥＤ６を構成する赤色（Ｒ）のＬＥＤ素子のカソード端子は、それぞれ熱分散抵抗ｓｕＲｒ１～ｓｕＲｒ６を介して、ＬＥＤ定電流駆動回路２７３ａの出力チャンネルＬＲ１～ＬＲ６（上述した定電流ドライバ１～定電流ドライバ６）と電気的に接続されている。フルカラーＬＥＤであるｓｕＬＥＤ１～ｓｕＬＥＤ６を構成する緑色（Ｇ）のＬＥＤ素子のカソード端子は、それぞれ熱分散抵抗ｓｕＲｇ１～ｓｕＲｇ６を介して、ＬＥＤ定電流駆動回路２７３ａの出力チャンネルＬＧ１～ＬＧ６（上述した定電流ドライバ９～定電流ドライバ１４）と電気的に接続されている。フルカラーＬＥＤであるｓｕＬＥＤ１～ｓｕＬＥＤ６を構成する青色（Ｂ）のＬＥＤ素子のカソード端子は、それぞれ熱分散抵抗ｓｕＲｂ１～ｓｕＲｂ６を介して、ＬＥＤ定電流駆動回路２７３ａの出力チャンネルＬＢ１～ＬＢ６（上述した定電流ドライバ１７～定電流ドライバ２２）と電気的に接続されている。なお、ＬＥＤ定電流駆動回路２７３ａの出力チャンネルＬＲ７，ＬＲ８，ＬＧ７，ＬＧ８，ＬＢ７，ＬＢ８は、未接続となっている。
【２３１０】
ＬＥＤ定電流駆動回路２７３ａは、扉枠側第１シリアル系統（発光データＳＤＡＴ１、クロック信号ＳＣＬＫ１）に基づいて、発光データＳＤＡＴ１のＩＤ情報に自身のＩＤが含まれているときには、この発光データＳＤＡＴ１から階調情報を取り込み、その取り込んだ階調情報となるように、フルカラーＬＥＤであるｓｕＬＥＤ１～ｓｕＬＥＤ６を個別に制御して調光点灯する。
【２３１１】
ＬＥＤ定電流駆動回路２７３ａは、上述したように、シンク（吸い込み）タイプであるため、ｓｕＬＥＤ１～ｓｕＬＥＤ６に流れる定電流を吸い込むことにより発熱する。そこで、ＬＥＤ定電流駆動回路２７３ａ（正確には、定電流駆動回路２７３ｘ）の発熱の一部を、熱分散回路２７３ｃを構成する、熱分散抵抗ｓｕＲｒ１～ｓｕＲｒ６，ｓｕＲｇ１～ｓｕＲｇ６，ｓｕＲｂ１～ｓｕＲｂ６で受け持つことによりＬＥＤ定電流駆動回路２７３ａ（正確には、定電流駆動回路２７３ｘ）の発熱を分散することができるようになっている。
【２３１２】
なお、ＬＥＤ定電流駆動回路を１つ備える装飾基板として、皿左下装飾基板２８３、皿左上装飾基板２７３のほかに、皿右下装飾基板２８８、皿右上装飾基板２７８、扉枠トップ左装飾基板４５６、及び扉枠トップ右装飾基板４５７がある。
【２３１３】
［ＬＥＤ定電流駆動回路を２つ備える装飾基板］
次に、ＬＥＤ定電流駆動回路を２つ備える装飾基板として、例えば、図２６２に示すように、左サイド下装飾基板４０２ｂは、ＬＥＤ定電流駆動回路４０２ｂａ，４０２ｂｂ、１０個のフルカラーＬＥＤであるｈｄＬＥＤ１～ｈｄＬＥＤ１０、熱分散回路４０２ｂｃを備えている。
【２３１４】
扉枠３の扉枠ベースユニット１００に備える扉枠副中継基板１０５は、上述したように、周辺制御基板１５１０に備える周辺制御ＩＣ１５１０ａからシリアル出力される扉枠側第２シリアル系統である発光データＳＤＡＴ２、クロック信号ＳＣＬＫ２が入力されている。また、扉枠副中継基板１０５は、上述したように、電源基板６３０の＋１２Ｖ電源ラインと電気的に接続されて直流＋１２Ｖが入力されるとともに、電源基板６３０のグランド（ＧＮＤ）ラインと電気的に接続されてグランド（ＧＮＤ）に接地されている。

【２３１５】
左サイド下装飾基板４０２ｂは、上述したように、扉枠副中継基板１０５からの扉枠側第２シリアル系統（発光データＳＤＡＴ２、クロック信号ＳＣＬＫ２）、直流＋１２Ｖ、及びグランド（ＧＮＤ）が入力されている。直流＋１２Ｖは、ＬＥＤ定電流駆動回路４０２ｂａ，４０２ｂｂに入力されるとともに、フルカラーＬＥＤであるｈｄＬＥＤ１～ｈｄＬＥＤ１０を構成する、赤色（Ｒ）のＬＥＤ素子のアノード端子、緑色（Ｇ）のＬＥＤ素子のアノード端子、及び青色（Ｂ）のＬＥＤ素子のアノード端子にもそれぞれ入力されている。
【２３１６】
本実施形態では、上述したように、１つの定電流駆動回路で最大８個のフルカラーＬＥＤに対して、出力チャンネルＬＲ１～ＬＲ８，ＬＧ１～ＬＧ８，ＬＢ１～ＬＢ８を個別に制御することにより発光態様を制御することができるようになっている。このため、１０個のフルカラーＬＥＤであるｈｄＬＥＤ１～ｈｄＬＥＤ１０のうち、８個のフルカラーＬＥＤであるｈｄＬＥＤ１～ｈｄＬＥＤ８に対してはＬＥＤ定電流駆動回路４０２ｂａにより発光態様が制御されるとともに、残りの２個のフルカラーＬＥＤであるｈｄＬＥＤ９，ｈｄＬＥＤ１０に対してはＬＥＤ定電流駆動回路４０２ｂｂにより発光態様が制御されるようになっている。また、ＬＥＤ定電流駆動回路４０２ｂｂは、自身が実装される基板（つまり左サイド下装飾基板４０２ｂ）をまたいで後続の基板となる左サイド上装飾基板４０２ａに実装される５個のフルカラーＬＥＤであるｈｕＬＥＤ１～ｈｕＬＥＤ５の発光態様を制御するようになっている。
【２３１７】
１０個のフルカラーＬＥＤであるｈｄＬＥＤ１～ｈｄＬＥＤ１０のうち、８個のフルカラーＬＥＤであるｈｄＬＥＤ１～ｈｄＬＥＤ８に対して、フルカラーＬＥＤであるｈｄＬＥＤ１～ｓｄＬＥＤ８を構成する赤色（Ｒ）のＬＥＤ素子のカソード端子は、それぞれ熱分散抵抗ｈｄＲｒ１～ｈｄＲｒ８を介して、ＬＥＤ定電流駆動回路４０２ｂａの出力チャンネルＬＲ１～ＬＲ８（上述した定電流ドライバ１～定電流ドライバ８）と電気的に接続され、フルカラーＬＥＤであるｈｄＬＥＤ１～ｈｄＬＥＤ８を構成する緑色（Ｇ）のＬＥＤ素子のカソード端子は、それぞれ熱分散抵抗ｈｄＲｇ１～ｈｄＲｇ８を介して、ＬＥＤ定電流駆動回路４０２ｂａの出力チャンネルＬＧ１～ＬＧ８（上述した定電流ドライバ９～定電流ドライバ１６）と電気的に接続され、フルカラーＬＥＤであるｈｄＬＥＤ１～ｈｄＬＥＤ８を構成する青色（Ｂ）のＬＥＤ素子のカソード端子は、それぞれ熱分散抵抗ｈｄＲｂ１～ｈｄＲｂ８を介して、ＬＥＤ定電流駆動回路４０２ｂａの出力チャンネルＬＢ１～ＬＢ８（上述した定電流ドライバ１７～定電流ドライバ２４）と電気的に接続されている。
【２３１８】
１０個のフルカラーＬＥＤであるｈｄＬＥＤ１～ｈｄＬＥＤ１０のうち、２個のフルカラーＬＥＤであるｈｄＬＥＤ９，ｈｄＬＥＤ１０に対して、フルカラーＬＥＤであるｈｄＬＥＤ９，ｓｄＬＥＤ１０を構成する赤色（Ｒ）のＬＥＤ素子のカソード端子は、それぞれ熱分散抵抗ｈｄＲｒ９，ｈｄＲｒ１０を介して、ＬＥＤ定電流駆動回路４０２ｂｂの出力チャンネルＬＲ１，ＬＲ２（上述した定電流ドライバ１，定電流ドライバ２）と電気的に接続され、フルカラーＬＥＤであるｈｄＬＥＤ９，ｈｄＬＥＤ１０を構成する緑色（Ｇ）のＬＥＤ素子のカソード端子は、それぞれ熱分散抵抗ｈｄＲｇ９，ｈｄＲｇ１０を介して、ＬＥＤ定電流駆動回路４０２ｂｂの出力チャンネルＬＧ１，ＬＧ２（上述した定電流ドライバ９，定電流ドライバ１０）と電気的に接続され、フルカラーＬＥＤであるｈｄＬＥＤ９，ｈｄＬＥＤ１０を構成する青色（Ｂ）のＬＥＤ素子のカソード端子は、それぞれ熱分散抵抗ｈｄＲｂ９，ｈｄＲｂ１０を介して、ＬＥＤ定電流駆動回路４０２ｂｂの出力チャンネルＬＢ１，ＬＢ２（上述した定電流ドライバ１７，定電流ドライバ１８）と電気的に接続されている。
【２３１９】
また、左サイド下装飾基板４０２ｂの後続の基板となる左サイド上装飾基板４０２ａに実

装される５個のフルカラーＬＥＤであるｈｕＬＥＤ１～ｈｕＬＥＤ５に対して、フルカラーＬＥＤであるｈｕＬＥＤ１～ｈｕＬＥＤ５を構成する赤色（Ｒ）のＬＥＤ素子のカソード端子は、それぞれ、左サイド上装飾基板４０２ａにおける熱分散抵抗ｈｕＲｒ１ｂ～ｈｕＲｒ５ｂ、そして左サイド下装飾基板４０２ｂにおける熱分散抵抗ｈｕＲｒ１ａ～ｈｕＲｒ５ａを介して、ＬＥＤ定電流駆動回路４０２ｂｂの出力チャンネルＬＲ３～ＬＲ７（上述した定電流ドライバ３～定電流ドライバ７）と電気的に接続され、フルカラーＬＥＤであるｈｕＬＥＤ１～ｈｕＬＥＤ５を構成する緑色（Ｇ）のＬＥＤ素子のカソード端子は、それぞれ、左サイド上装飾基板４０２ａにおける熱分散抵抗ｈｕＲｇ１ｂ～ｈｕＲｇ５ｂ、そして左サイド下装飾基板４０２ｂにおける熱分散抵抗ｈｕＲｇ１ａ～ｈｕＲｇ５ａを介して、ＬＥＤ定電流駆動回路４０２ｂｂの出力チャンネルＬＧ３～ＬＧ７（上述した定電流ドライバ１１～定電流ドライバ１５）と電気的に接続され、フルカラーＬＥＤであるｈｕＬＥＤ１～ｈｕＬＥＤ５を構成する青色（Ｂ）のＬＥＤ素子のカソード端子は、それぞれ、左サイド上装飾基板４０２ａにおける熱分散抵抗ｈｕＲｂ１ｂ～ｈｕＲｂ５ｂ、そして左サイド下装飾基板４０２ｂにおける熱分散抵抗ｈｕＲｂ１ａ～ｈｕＲｂ５ａを介して、ＬＥＤ定電流駆動回路４０２ｂｂの出力チャンネルＬＢ３～ＬＢ７（上述した定電流ドライバ１９～定電流ドライバ２３）と電気的に接続されている。なお、ＬＥＤ定電流駆動回路４０２ｂｂの出力チャンネルＬＲ８，ＬＧ８，ＬＢ８は、未接続となっている。

【２３２０】

ＬＥＤ定電流駆動回路４０２ｂａは、扉枠側第２シリアル系統（発光データＳＤＡＴ２、クロック信号ＳＣＬＫ２）に基づいて、発光データＳＤＡＴ２のＩＤ情報に自身のＩＤが含まれているときには、この発光データＳＤＡＴ２から階調情報を取り込み、その取り込んだ階調情報となるように、１０個のフルカラーＬＥＤであるｈｄＬＥＤ１～ｈｄＬＥＤ１０のうち、８個のフルカラーＬＥＤであるｈｄＬＥＤ１～ｈｄＬＥＤ８を個別に制御して調光点灯する。

【２３２１】

ＬＥＤ定電流駆動回路４０２ｂｂは、ＬＥＤ定電流駆動回路４０２ｂａを構成する定電流駆動回路４０２ｂａｘにおけるデータライン用バッファ４０２ｂａｘｃ、クロックライン用バッファ４０２ｂａｘｄを介して入力される扉枠側第２シリアル系統（発光データＳＤＡＴ２、クロック信号ＳＣＬＫ２）に基づいて、発光データＳＤＡＴ２のＩＤ情報に自身のＩＤが含まれているときには、この発光データＳＤＡＴ２から階調情報を取り込み、その取り込んだ階調情報となるように、１０個のフルカラーＬＥＤであるｈｄＬＥＤ１～ｈｄＬＥＤ１０のうち、残りの２個のフルカラーＬＥＤであるｈｄＬＥＤ９，ｈｄＬＥＤ１０を個別に制御して調光点灯するとともに、左サイド下装飾基板４０２ｂの後続の基板となる左サイド上装飾基板４０２ａに実装される５個のフルカラーＬＥＤであるｈｕＬＥＤ１～ｈｕＬＥＤ５を個別に制御して調光点灯する。

【２３２２】

ＬＥＤ定電流駆動回路４０２ｂａは、上述したように、シンク（吸い込み）タイプであるため、１０個のフルカラーＬＥＤであるｈｄＬＥＤ１～ｈｄＬＥＤ１０のうち、８個のｈｄＬＥＤ１～ｈｄＬＥＤ８に流れる定電流を吸い込むことにより発熱する。そこで、ＬＥＤ定電流駆動回路４０２ｂａ（正確には、定電流駆動回路４０２ｂａｘ）の発熱の一部を、熱分散回路４０２ｂｃを構成する、熱分散抵抗ｈｄＲｒ１～ｈｄＲｒ８，ｈｄＲｇ１～ｈｄＲｇ８，ｈｄＲｂ１～ｈｄＲｂ８で受け持つことによりＬＥＤ定電流駆動回路４０２ｂａ（正確には、定電流駆動回路４０２ｂａｘ）の発熱を分散することができるようになっている。

【２３２３】

ＬＥＤ定電流駆動回路４０２ｂｂは、上述したように、シンク（吸い込み）タイプであるため、１０個のフルカラーＬＥＤであるｈｄＬＥＤ１～ｈｄＬＥＤ１０のうち、２個のｈｄＬＥＤ９，ｈｄＬＥＤ１０に流れる定電流を吸い込むとともに、左サイド下装飾基板４０２ｂの後続の基板となる左サイド上装飾基板４０２ａに実装される５個のフルカラーＬＥＤであるｈｕＬＥＤ１～ｈｕＬＥＤ５に流れる定電流を吸い込むことにより発熱する。

そこで、ＬＥＤ定電流駆動回路４０２ｂｂ（正確には、定電流駆動回路４０２ｂｂｘ）の発熱の一部を、１０個のフルカラーＬＥＤであるｈｄＬＥＤ１～ｈｄＬＥＤ１０のうち、２個のｈｄＬＥＤ９，ｈｄＬＥＤ１０に対しては、熱分散回路４０２ｂｃを構成する、熱分散抵抗ｈｄＲｒ９，ｈｄＲｒ１０，ｈｄＲｇ９，ｈｄＲｇ１０，ｈｄＲｂ９，ｈｄＲｂ１０で受け持つとともに、左サイド下装飾基板４０２ｂの後続の基板となる左サイド上装飾基板４０２ａに実装される５個のフルカラーＬＥＤであるｈｕＬＥＤ１～ｈｕＬＥＤ５に対しては、左サイド下装飾基板４０２ｂにおける熱分散回路４０２ｂｃを構成する、熱分散抵抗ｈｕＲｒ１ａ～ｈｕｄＲｒ５ａ，ｈｕＲｇ１ａ～ｈｕＲｇ５ａ，ｈｕＲｂ１ａ～ｈｕＲｂ５ａと、左サイド上装飾基板４０２ａにおける熱分散回路４０２ａｃを構成する、熱分散抵抗ｈｕＲｒ１ｂ～ｈｕｄＲｒ５ｂ，ｈｕＲｇ１ｂ～ｈｕＲｇ５ｂ，ｈｕＲｂ１ｂ～ｈｕＲｂ５ｂと、で受け持つことによりＬＥＤ定電流駆動回路４０２ｂｂ（正確には、定電流駆動回路４０２ｂｂｘ）の発熱を分散することができるようになっている。

【２３２４】

また、左サイド下装飾基板４０２ｂの熱分散回路４０２ｂｃと左サイド上装飾基板４０２ａの熱分散回路４０２ａｃとは、上述したように、ＬＥＤ定電流駆動回路４０２ｂｂ（正確には、定電流駆動回路４０２ｂｂｘ）の発熱を分散することができるという機能に加えて、静電気による電子部品の損傷を防止することができる機能も備えている。

【２３２５】

なお、ＬＥＤ定電流駆動回路を２つ備える装飾基板として、左サイド下装飾基板４０２ｂのほかに、皿中央上装飾基板３１４、皿中央下装飾基板３１６、サイド窓内装飾部装飾基板４１３、右サイド下装飾基板４１８ｂ、及び扉枠トップ中央装飾基板４５５がある。

【２３２６】

また、ＬＥＤ定電流駆動回路を全く備えない装飾基板として、左サイド上装飾基板４０２ａのほかに、右サイド上装飾基板４１８ａがある。

【２３２７】

［ＬＥＤ定電流駆動回路の配置方法］

次に、ＬＥＤ定電流駆動回路の配置方法について、図２６３及び図２６４を参照して詳細に説明する。本実施形態では、扉枠３の各装飾基板に備えるＬＥＤ定電流駆動回路は、上述したように、同一の回路である。ここでは、ＬＥＤ定電流駆動回路を構成する定電流駆動回路が１つの半導体チップ上に集積された電子部品として説明する。定電流駆動回路のＩＣパッケージの種類としては、平面形状が正方形状（横の長さ：６．０ｍｍ、縦の長さ：６．０ｍｍ）を有する表面実装型（ＳＭＤ、高さ：０．９ｍｍ）であり、いわゆるＶＱＦＮである。定電流駆動回路の４端辺のうち、１つの端辺が入力側、残りの３つの端辺がそれぞれ出力側１～出力側３となっている。なお、図２６４には、図面の見やすさから、各種電子部品を省略するとともに、一部のシルク印刷を省略して示した。

【２３２８】

本実施形態における扉枠３の各装飾基板は、上述したように、細長い帯板状に形成されており、ＬＥＤ定電流駆動回路を１つ備えるものと、ＬＥＤ定電流駆動回路を２つ備えるものと、がある。扉枠３の各装飾基板におけるＬＥＤ定電流駆動回路の配置方法はほぼ同一であるため、ここでは、ＬＥＤ定電流駆動回路を２つ備える、上下に延びた細長い帯板状に形成される左サイド下装飾基板４０２ｂと、半円弧状を有する細長い帯板状に形成される皿中央上装飾基板３１４と、について説明する。

【２３２９】

［左サイド下装飾基板］

左サイド下装飾基板４０２ｂは、図２６３（ａ）に示すように、ＬＥＤ定電流駆動回路４０２ｂａ，４０２ｂｂ、１０個のフルカラーＬＥＤであるｈｄＬＥＤ１～ｈｄＬＥＤ１０等を備えている。１０個のフルカラーＬＥＤであるｈｄＬＥＤ１～ｈｄＬＥＤ１０は、パチンコ機１の正面側となる左サイド下装飾基板４０２ｂのＬＥＤ実装面４０２ｂｘに実装されているのに対して、ＬＥＤ定電流駆動回路４０２ｂａ，４０２ｂｂは、パチンコ機１の背面側となる左サイド下装飾基板４０２ｂのＬＥＤ非実装面４０２ｂｙに実装されてい

る。なお、左サイド下装飾基板４０２ｂのＬＥＤ実装面４０２ｂｘにおける上端辺側には、左サイド上装飾基板４０２ａと電気配線を接続するためのコネクタＬＤＵＣＮが実装され、左サイド下装飾基板４０２ｂのＬＥＤ非実装面４０２ｂｙにおける下端辺側には、扉枠副中継基板１０５と電気配線を接続するためのコネクタＬＤＬＣＮが実装されている。

【２３３０】

左サイド下装飾基板４０２ｂのＬＥＤ実装面４０２ｂｘ，ＬＥＤ非実装面４０２ｂｙには、フルカラーＬＥＤ、抵抗、ＩＣ、コネクタ等の電子部品を半田付けするための電極（いわゆるパッド）、スルーホール、テストパッド、ランド等を除いた全域において、白色のレジスト液が塗布されて形成される白色塗膜（以下、単に「ベタ塗りされた白色のレジスト」と記載する場合がある。）により白色のレジスト層が形成されている。本実施形態では、左サイド下装飾基板４０２ｂのＬＥＤ実装面４０２ｂｘにベタ塗りされた白色のレジストにより、フルカラーＬＥＤであるｈｄＬＥＤ１～ｈｄＬＥＤ１０の発光による前方（つまりパチンコ機１の正面側）への反射率を高めることができるようになっている。

【２３３１】

左サイド下装飾基板４０２ｂのＬＥＤ実装面４０２ｂｘにベタ塗りされた白色のレジスト上には、フルカラーＬＥＤであるｈｄＬＥＤ１～ｈｄＬＥＤ１０と対応する部品番号と、フルカラーＬＥＤであるｈｄＬＥＤ１～ｈｄＬＥＤ１０を配置する位置を示す領域と、がシルク印刷として全く印刷されていない。また、左サイド下装飾基板４０２ｂのＬＥＤ実装面４０２ｂｘには、左サイド下装飾基板４０２ｂの基板管理番号が白色のレジストによる抜き文字としても形成されていない。

【２３３２】

これは、フルカラーＬＥＤと対応する部品番号、及びフルカラーＬＥＤを配置する位置を示す領域により、フルカラーＬＥＤであるｈｄＬＥＤ１～ｈｄＬＥＤ１０の発光による左サイド下装飾基板４０２ｂのＬＥＤ実装面４０２ｂｘにおける反射率が低下することを防止している。したがって、フルカラーＬＥＤであるｈｄＬＥＤ１～ｈｄＬＥＤ１０の発光による左サイド下装飾基板４０２ｂのＬＥＤ実装面４０２ｂｘにおける反射率が低下することを防止することができる。

【２３３３】

また、扉枠３に設けられる図７５に示した扉枠左サイド装飾体４０４は、上述したように、左サイドインナーレンズ４０３の前側を覆うように扉枠左サイドベース４０１に取付けられているため、扉枠左サイド装飾体４０４の後方に左サイドインナーレンズ４０３が取付けられている。左サイドインナーレンズ４０３は、上述したように、透明に形成され、レンズカットが施されて（多面体に形成されて）光を乱屈折することができるように形成されており、左サイドインナーレンズ４０３の後方に配置される扉枠左サイド装飾基板４０２の表面（実装面）に実装されている複数のＬＥＤが遊技者側から明確に視認し難くなっている。パチンコ機１の前方に着座した遊技者が頭（顔）を動かすことで頭（顔）の方向により視線が変化して、仮に、扉枠左サイド装飾体４０４に備える左サイド下装飾基板４０２ｂのＬＥＤ実装面４０２ｂｘを遊技者が視認することができる場合であっても、そもそも、左サイド下装飾基板４０２ｂのＬＥＤ実装面４０２ｂｘにベタ塗りされた白色のレジスト上には、フルカラーＬＥＤであるｈｄＬＥＤ１～ｈｄＬＥＤ１０と対応する部品番号と、フルカラーＬＥＤであるｈｄＬＥＤ１～ｈｄＬＥＤ１０を配置する位置を示す領域と、がシルク印刷として全く印刷されていないため、遊技者にとって遊技と全く関係を持たないフルカラーＬＥＤと対応する部品番号、及びフルカラーＬＥＤを配置する位置を示す領域が遊技者に視認されることを防止している。したがって、フルカラーＬＥＤであるｈｄＬＥＤ１～ｈｄＬＥＤ１０を特定する番号（つまり、フルカラーＬＥＤであるｈｄＬＥＤ１～ｈｄＬＥＤ１０と対応する部品番号）やフルカラーＬＥＤであるｈｄＬＥＤ１～ｈｄＬＥＤ１０の実装位置を示す補助線（つまり、フルカラーＬＥＤであるｈｄＬＥＤ１～ｈｄＬＥＤ１０を配置する位置を示す領域）を遊技者に視認困難とすることができる。

【２３３４】

なお、左サイド下装飾基板４０２ｂのＬＥＤ実装面４０２ｂｘにベタ塗りされた白色のレ

ジスト上には、コネクタＬＤＬＣＮと対応する部品番号と、コネクタＬＤＬＣＮを配置する位置を示す領域と、がシルク印刷として全く印刷されていない。これにより、遊技者にとって遊技と全く関係を持たないコネクタＬＤＬＣＮと対応する部品番号、コネクタＬＤＬＣＮを配置する位置を示す領域が遊技者に視認されることを防止している。

【２３３５】

また、左サイド下装飾基板４０２ｂのＬＥＤ実装面４０２ｂｘには、上述したように、ベタ塗りされた白色のレジストにより白色のレジスト層が形成されている。フルカラーＬＥＤであるｈｄＬＥＤ１～ｈｄＬＥＤ１０は、それぞれのパッケージが白色（白色と同色であると認められる色）の樹脂製であるとともに、コネクタＬＤＵＣＮは、そのハウジングが白色（ナチュラル色とも言われ、白色（ナチュラル色）と同色であると認められる色）の樹脂製である。つまり、左サイド下装飾基板４０２ｂのＬＥＤ実装面４０２ｂｘには、その全体が覆われる（ベタ塗りされる）白色のレジストと同一色（同色であると認められる色）のパッケージを有する電子部品であるフルカラーＬＥＤであるｈｄＬＥＤ１～ｈｄＬＥＤ１０と、その全体が覆われる（ベタ塗りされる）白色のレジストと同一色（同色であると認められる色）のハウジングを有するコネクタＬＤＵＣＮと、が実装されている。このように、本実施形態では、白色を有していない図示しない抵抗やコンデンサ等の電子部品や、白色を有していないコネクタは、左サイド下装飾基板４０２ｂのＬＥＤ実装面４０２ｂｘに全く実装されていない。換言すると、白色を有していない抵抗及びコンデンサ等の電子部品や、白色を有していないコネクタは、フルカラーＬＥＤの発光によるＬＥＤ実装面における反射率が低下するものであるため、ＬＥＤ実装面に全く実装されていない。

【２３３６】

また、左サイド下装飾基板４０２ｂのＬＥＤ実装面４０２ｂｘには、左サイド下装飾基板４０２ｂの基板管理番号が箔抜き文字（つまり、配線パターンが形成される層（銅プレーン）において銅箔である配線パターンで文字を作りその周囲の銅箔を抜いて形成される抜き文字）として形成されており、左サイド下装飾基板４０２ｂのＬＥＤ実装面４０２ｂｘにベタ塗りされる白色のレジストによりその箔抜き文字が覆われている。この箔抜き文字を形成する配線パターンは、電子部品と電気的に絶縁されて形成されている。なお、左サイド下装飾基板４０２ｂの基板管理番号は、左サイド下装飾基板４０２ｂのＬＥＤ実装面４０２ｂｘに代えて、左サイド下装飾基板４０２ｂのＬＥＤ非実装面４０２ｂｙに箔抜き文字（つまり、配線パターンが形成される層（銅プレーン）において銅箔である配線パターンで文字を作りその周囲の銅箔を抜いて形成される抜き文字）として形成されていてもよいし、左サイド下装飾基板４０２ｂのＬＥＤ実装面４０２ｂｘと左サイド下装飾基板４０２ｂのＬＥＤ非実装面４０２ｂｙとに箔抜き文字（つまり、配線パターンが形成される層（銅プレーン）において銅箔である配線パターンで文字を作りその周囲の銅箔を抜いて形成される抜き文字）としてそれぞれ形成されていてもよい。また、左サイド下装飾基板４０２ｂのＬＥＤ実装面４０２ｂｘ、ＬＥＤ非実装面４０２ｂｙは、後述するように、ベタアースとして形成されている。このため、左サイド下装飾基板４０２ｂの基板管理番号は、箔抜き文字（つまり、配線パターンが形成される層（銅プレーン）において銅箔である配線パターンで文字を作りその周囲の銅箔を抜いて形成される抜き文字）として形成せずに、ＬＥＤ実装面４０２ｂｘのベタアースとＬＥＤ非実装面４０２ｂｙのベタアースとのうち、いずれか一方の面又は両方の面において文字を抜いた抜き文字として形成されていてもよい。

【２３３７】

これに対して、左サイド下装飾基板４０２ｂのＬＥＤ非実装面４０２ｂｙにベタ塗りされた白色のレジスト上には、ＬＥＤ定電流駆動回路４０２ｂａを構成する定電流駆動回路４０２ｂａｘ、最大電流設定回路４０２ｂａｙの抵抗Ｒｒ，Ｒｂ，Ｒｇ、各種分散抵抗等の電子部品を配置する位置を示す領域がシルク印刷として黄色の実線（又は、黒色の実線）によりそれぞれ印刷されているとともに、これらの領域近傍に電子部品と対応する部品番号がシルク印刷として黄色（又は、黒色）でそれぞれ印刷されている。具体的には、例えば、定電流駆動回路４０２ｂａｘを配置する位置を示す領域がシルク印刷として黄色の実

線（又は、黒色の実線）ＬＳＬＫａ（図２６４（ａ）を参照。）で左サイド下装飾基板４０２ｂのＬＥＤ非実装面４０２ｂｙにベタ塗りされた白色のレジスト上に印刷されているとともに、この領域ＬＳＬＫａの近傍であって上方に定電流駆動回路４０２ｂａｘと対応する部品番号であるＩＣ１（図２６４（ａ）を参照。）がシルク印刷として黄色の実線（又は、黒色の実線）で左サイド下装飾基板４０２ｂのＬＥＤ非実装面４０２ｂｙにベタ塗りされた白色のレジスト上に印刷されている。そして、最大電流設定回路４０２ｂａｙの抵抗Ｒｒ，Ｒｂ，Ｒｇを配置する位置を示す領域がシルク印刷として黄色の実線（又は、黒色の実線）ＬＳＬＫｂ，ＬＳＬＫｃ，ＬＳＬＫｄ（図２６４（ａ）を参照。）で左サイド下装飾基板４０２ｂのＬＥＤ非実装面４０２ｂｙにベタ塗りされた白色のレジスト上にそれぞれ印刷されているとともに、これらの領域ＬＳＬＫｂ，ＬＳＬＫｃ，ＬＳＬＫｄの近傍であって右方に、最大電流設定回路４０２ｂａｙの抵抗Ｒｒ，Ｒｂ，Ｒｇと対応する部品番号であるＲ１，Ｒ２，Ｒ３（図２６４（ａ）を参照。）がシルク印刷として黄色（又は、黒色）で左サイド下装飾基板４０２ｂのＬＥＤ非実装面４０２ｂｙにベタ塗りされた白色のレジスト上にそれぞれ印刷されている。

【２３３８】

また、左サイド下装飾基板４０２ｂのＬＥＤ非実装面４０２ｂｙにベタ塗りされた白色のレジスト上には、左サイド下装飾基板４０２ｂのＬＥＤ実装面４０２ｂｘに実装されるフルカラーＬＥＤであるｈｄＬＥＤ１～ｈｄＬＥＤ１０と対応する領域がシルク印刷として黄色の鎖線（又は、黒色の鎖線）ＬＳＬＫ１～ＬＳＬＫ１０（図２６４（ａ）には、フルカラーＬＥＤであるｈｄＬＥＤ４，ｈｄＬＥＤ５と対応する鎖線ＬＳＬＫ４，ＬＳＬＫ５のみそれぞれ表した。）でそれぞれ印刷されているとともに、これらの領域ＬＳＬＫ１～ＬＳＬＫ１０の近傍であって上方又は下方にフルカラーＬＥＤであるｈｄＬＥＤ１～ｈｄＬＥＤ１０と対応する部品番号（図２６４（ａ）には、フルカラーＬＥＤであるｈｄＬＥＤ４，ｈｄＬＥＤ５と対応する部品番号であるＬＥＤ４，ＬＥＤ５のみそれぞれ表した。）がシルク印刷として黄色（又は、黒色）でそれぞれ印刷されている。

【２３３９】

なお、左サイド下装飾基板４０２ｂのＬＥＤ非実装面４０２ｂｙにベタ塗りされた白色のレジスト上には、左サイド下装飾基板４０２ｂのＬＥＤ実装面４０２ｂｘに実装されるコネクタＬＤＬＣＮを配置する位置を示す領域がシルク印刷として図示しない黄色の鎖線（又は、黒色の鎖線）で印刷されているとともに、この領域の近傍にコネクタＬＤＬＣＮと対応する部品番号がシルク印刷として図示しない黄色（又は、黒色）で印刷されている。

【２３４０】

また、左サイド下装飾基板４０２ｂのＬＥＤ非実装面４０２ｂｙに実装される抵抗及びコンデンサ等は白色を有していないし、また１つの半導体チップ上に集積された定電流駆動回路４０２ｂａｘ（４０２ｂｂｘ）はそのパッケージが黒色の樹脂製であり、またコネクタＬＤＬＣＮはそのハウジングが黒色、茶色、又は青色のうちいずれかの色を有する樹脂製である。このように、白色を有していない抵抗、コンデンサ、及びＩＣ等の電子部品や、白色を有していないコネクタは、フルカラーＬＥＤの発光による反射率が低下するものであるため、ＬＥＤ非実装面に実装されている。

【２３４１】

更に、左サイド下装飾基板４０２ｂのＬＥＤ非実装面４０２ｂｙには、左サイド下装飾基板４０２ｂのＬＥＤ実装面４０２ｂｘに実装されるフルカラーＬＥＤであるｈｄＬＥＤ１～ｈｄＬＥＤ１０への点灯検査を個別に行う（例えば、１つのフルカラーＬＥＤを構成する、赤色（Ｒ）に発光するＬＥＤ素子、緑色（Ｇ）に発光するＬＥＤ素子、及び青色（Ｂ）に発光するＬＥＤ素子に対して、ＬＥＤ素子ごとに行う）ことができる図示しない複数のチェックピンが配線パターンに接続されるテストパッド（又は、スルーホール）として形成され、複数のチェックピンの近傍に複数のチェックピンのそれぞれと対応する部品番号が、左サイド下装飾基板４０２ｂのＬＥＤ非実装面４０２ｂｙにベタ塗りされた白色のレジスト上に、シルク印刷として図示しない黄色（又は、黒色）で印刷されている。複数のチェックピンは、白色のレジストが塗られていない。これにより、検査を行う作業者が

図示しないブローブをチェックピンに接触させることで図示しないブローブとチェックピンとが電気的に接続されて導通する状態となって各種検査を行うことができる。なお、複数のチェックピンには、定電流駆動回路４０２ｂａｘや定電流駆動回路４０２ｂｂｘへのシリアルデータの内容を確認することができるものもある。

【２３４２】

なお、実施形態では、フルカラーＬＥＤの発光によるＬＥＤ実装面における反射率が低下する白色を有していない抵抗及びコンデンサ等の電子部品や、白色を有していないコネクタは、フルカラーＬＥＤの発光によるＬＥＤ実装面における反射率が低下するものであるため、ＬＥＤ実装面に全く実装されていなかったが、フルカラーＬＥＤの発光によるＬＥＤ実装面のうち、前方に配置される部材と対応する領域がＬＥＤ実装面における反射率に寄与することが困難である場合には、その領域に、白色を有していない抵抗及びコンデンサ等の電子部品や、白色を有していないコネクタを配置してもよい。この場合、ＬＥＤ非実装面にベタ塗りされた白色のレジスト上には、電子部品やコネクタを配置する位置を示す領域がシルク印刷として図示しない黄色の鎖線（又は、黒色の鎖線）で印刷されるとともに、この領域の近傍に、電子部品やコネクタと対応する部品番号がシルク印刷として図示しない黄色（又は、黒色）で印刷される。

【２３４３】

左サイド下装飾基板４０２ｂのＬＥＤ実装面４０２ｂｘ、ＬＥＤ非実装面４０２ｂｙは、電子部品やコネクタなどのランドパターンや配線パターンを除く領域をグランド（ＧＮＤ）に接地する、いわゆるベタアースとして形成されている。左サイド下装飾基板４０２ｂのＬＥＤ実装面４０２ｂｘに形成されるベタアースと、左サイド下装飾基板４０２ｂのＬＥＤ非実装面４０２ｂｙに形成されるベタアースは、図示しない複数のスルーホールにより電気的に接続されている。

【２３４４】

左サイド下装飾基板４０２ｂは、上述したように、上下に延びた細長い帯板状に形成されているため、左サイド下装飾基板４０２ｂのＬＥＤ実装面４０２ｂｘから見て、左サイド下装飾基板４０２ｂの左端辺４０２ｂｅｇ１から右端辺４０２ｂｅｇ２までに亘る幅寸法が定電流駆動回路４０２ｂａｘ，４０２ｂｂｘのランドパターンの左端辺から右端辺までの幅寸法の約１．７８倍程度しかない。このため、左サイド下装飾基板４０２ｂの左端辺４０２ｂｅｇ１と右端辺４０２ｂｅｇ２とに平行となるように定電流駆動回路４０２ｂａｘ，４０２ｂｂｘのランドパターンの端辺を配置すると、定電流駆動回路４０２ｂａｘ，４０２ｂｂｘのランドパターンの端辺と、左サイド下装飾基板４０２ｂの左端辺４０２ｂｅｇ１又は右端辺４０２ｂｅｇ２と、の距離寸法が極めて短くなるため、その端辺に配列されたランドパターンの各リードパッドから配線パターンを引き出そうとしても、配線パターンのパターン幅、配線パターンの隣り合う間隔に最小距離寸法の制限があるため、その端辺に配列されたランドパターンの各リードパッドからすべての配線パターンを引き出すことが困難となる。

【２３４５】

そこで、本実施形態では、定電流駆動回路４０２ｂａｘ，４０２ｂｂｘのランドパターンの端辺を、左サイド下装飾基板４０２ｂの左端辺４０２ｂｅｇ１と右端辺４０２ｂｅｇ２とに対して、４５度傾斜した状態として配置するという構成を採用した。

【２３４６】

本実施形態では、このような配置を採用することにより、左サイド下装飾基板４０２ｂのＬＥＤ非実装面４０２ｂｙから見て、定電流駆動回路４０２ｂａｘ，４０２ｂｂｘの４端辺のうち、右下端辺が入力側の端子となるよう左サイド下装飾基板４０２ｂの左端辺４０２ｂｅｇ１寄りに配置することにより、入力側の端子は、図２６２に示した、扉枠側第２シリアル系統（発光データＳＤＡＴ２、クロック信号ＳＣＬＫ２）、直流＋１２Ｖ、及びグランド（ＧＮＤ）、最大電流設定回路４０２ｂａｙ，４０２ｂｂｙの抵抗Ｒｒ，Ｒｇが入力され、左下端辺、左上端辺、及び右上端辺がそれぞれ主として出力側１の端子～出力側３の端子となり、出力側１の端子～出力側３の端子は、図２６２に示した、出力チャン

ネルＬＲ１～ＬＲ８，ＬＧ１～ＬＧ８，ＬＢ１～ＬＢ８、及び扉枠側第２シリアル系統（発光データＳＤＡＴ２、クロック信号ＳＣＬＫ２）等を出力する。なお、出力側１の端子は、最大電流設定回路４０２ｂａｙ，４０２ｂｂｙの抵抗Ｒｂが入力される端子を有し、出力側２及び出力側３は、グランド（ＧＮＤ）が入力される端子を有している。

【２３４７】

また、このような配置を採用したことにより、定電流駆動回路４０２ｂａｘ，４０２ｂｂｘのランドパターンの４端辺のうち、２端辺を左サイド下装飾基板４０２ｂの左端辺４０２ｂｅｇ１に対して４５度傾斜した状態として配置することができるとともに、残りの２端辺を左サイド下装飾基板４０２ｂの右端辺４０２ｂｅｇ２に対して４５度傾斜した状態として配置することができる。これにより、定電流駆動回路４０２ｂａｘ，４０２ｂｂｘのランドパターンの４端辺に配列されたランドパターンの各リードパッドから、配線パターンのパターン幅、配線パターンの隣り合う間隔に最小距離寸法の制限を受けても、すべての配線パターンを引き出すことができる。したがって、上下に延びた細長い帯板状に形成される左サイド下装飾基板４０２ｂにおいて定電流駆動回路４０２ｂａｘ，４０２ｂｂｘから配線（配線パターン）が引き出される領域を確保することができる。

【２３４８】

また、このような配置を採用したことにより、８個のフルカラーＬＥＤであるｈｄＬＥＤ１～ｈｄＬＥＤ８のうち、４個のフルカラーＬＥＤであるｈｄＬＥＤ１～ｈｄＬＥＤ４から構成されるグループ１と、４個のフルカラーＬＥＤであるｈｄＬＥＤ５～ｈｄＬＥＤ８から構成されるグループ２と、の間に定電流駆動回路４０２ｂａｘを配置することができるため、定電流駆動回路４０２ｂａｘからグループ１とグループ２とへの配線パターンを引き回す際に、その長さを均等に形成することができる。これにより、グループ１とグループ２とへの配線パターンを引き回す長さがグループ１又はグループ２のいずれか一方のグループに偏って長くなったり、短くなったりするということを防ぐことができるため、アートワークにおいて配線パターンの配置や引き回しの効率を高めることができる。

【２３４９】

また、このような配置を採用したことにより、定電流駆動回路４０２ｂａｘを、左サイド下装飾基板４０２ｂのＬＥＤ非実装面４０２ｂｙにおける上下方向の中央部分（図２６３（ａ）のフルカラーＬＥＤであるｈｄＬＥＤ６が配置される部分）と比べて下側寄りに配置することができるとともに、定電流駆動回路４０２ｂｂｘを、左サイド下装飾基板４０２ｂのＬＥＤ非実装面４０２ｂｙにおける上下方向の中央部分（図２６３（ａ）のフルカラーＬＥＤであるｈｄＬＥＤ６が配置される部分）と比べて上側寄りであって、定電流駆動回路４０２ｂａｘにより発光制御されるグループ２に構成されるフルカラーＬＥＤであるｈｄＬＥＤ８の上方に配置することができる。これにより、定電流駆動回路４０２ｂａｘから、８個のフルカラーＬＥＤであるｈｄＬＥＤ１～ｈｄＬＥＤ８への配線パターンの引き回し用の領域を左サイド下装飾基板４０２ｂに確保することができるとともに、定電流駆動回路４０２ｂｂｘから、２個のフルカラーＬＥＤであるｈｄＬＥＤ９，ｈｄＬＥＤ１０及び図２６２に示した５個の左サイド上装飾基板４０２ａに備えるフルカラーＬＥＤであるｈｕＬＥＤ１～ｈｕＬＥＤ５への配線パターンの引き回し用の領域を左サイド下装飾基板４０２ｂに確保することができる。

【２３５０】

なお、本実施形態では、最大電流設定回路４０２ｂａｙ，４０２ｂｂｙの抵抗Ｒｒ，Ｒｇ，Ｒｂのほかに、図示しないコンデンサが左サイド下装飾基板４０２ｂのＬＥＤ非実装面４０２ｂｙにハンダ付けされている。抵抗Ｒｒ，Ｒｇ，Ｒｂ、及び図示しないコンデンサは、平面形状が長方形状の表面実装型（ＳＭＤ）であり、いわゆるＥＩＡ形式で０８０５（呼称で２０１２、横の長さ：２．０ｍｍ、縦の長さ：１．２５ｍｍ）である。つまり、抵抗Ｒｒ，Ｒｇ，Ｒｂ、及び図示しないコンデンサの大きさは、定電流駆動回路４０２ｂａｘ，４０２ｂｂｘの大きさ（横の長さ：６．０ｍｍ、縦の長さ：６．０ｍｍ）と比べて極めて小さい。このため、抵抗Ｒｒ，Ｒｇ，Ｒｂ、及び図示しないコンデンサは、定電流駆動回路４０２ｂａｘ，４０２ｂｂｘと異なり、抵抗Ｒｒ，Ｒｇ，Ｒｂは、その長手方向

の一端辺が左サイド下装飾基板４０２ｂの左端辺４０２ｂｅｇ１と右端辺４０２ｂｅｇ２とに対して平行となるように配置され、図示しないコンデンサは、その長手方向の一端辺が左サイド下装飾基板４０２ｂの左端辺４０２ｂｅｇ１と右端辺４０２ｂｅｇ２とに対して垂直となるように配置されている。換言すると、ランドパターンの端辺が左サイド下装飾基板４０２ｂの左端辺４０２ｂｅｇ１と右端辺４０２ｂｅｇ２とに対して４５度傾斜した状態として配置される定電流駆動回路４０２ｂａｘ，４０２ｂｂｘの各端辺と、抵抗Ｒｒ，Ｒｇ，Ｒｂ、及び図示しないコンデンサの長手方向の一端辺と、が非平行となるように、左サイド下装飾基板４０２ｂのＬＥＤ非実装面４０２ｂｙにそれぞれ配置されている。

【２３５１】

また、扉枠３の各装飾基板におけるＬＥＤ定電流駆動回路の配置方法は、上述したように、定電流駆動回路のランドパターンの端辺を、装飾基板の左端辺と右端辺とに対して４５度傾斜した状態として配置した、ほぼ同一となっているものの、扉枠トップ装飾体４５３の扉枠トップ中央装飾基板４５５、扉枠トップ左装飾基板４５６、及び扉枠トップ右装飾基板４５７は、扉枠３の他の装飾基板と異なり、扉枠トップ中央装飾基板４５５、扉枠トップ左装飾基板４５６、及び扉枠トップ右装飾基板４５７が扉枠トップ装飾体４５３に配置された状態において装飾基板の上端辺から下端辺までに亘る幅寸法が大きいため、定電流駆動回路のランドパターンの端辺を、扉枠トップ中央装飾基板４５５、扉枠トップ左装飾基板４５６、及び扉枠トップ右装飾基板４５７の上端辺と下端辺とに平行となるよう配置されている。つまり、本実施形態では、定電流駆動回路のランドパターンの端辺が装飾基板の端辺と平行となるものと、定電流駆動回路のランドパターンの端辺が装飾基板の端辺と非平行となるものと、が混在している。本実施形態では、扉枠トップ中央装飾基板４５５は、自身に備える１１個のフルカラーＬＥＤに加えて、図示しない５個のフルカラーＬＥＤが実装される他の中央装飾基板を、図示しない自身に備える２つのＬＥＤ定電流駆動回路（第１のＬＥＤ定電流駆動回路（第１の定電流駆動回路、第１の最大電流設定回路）、第２のＬＥＤ定電流駆動回路（第２の定電流駆動回路、第２の最大電流設定回路））のうち１つのＬＥＤ定電流駆動回路（ここでは、第２のＬＥＤ定電流駆動回路（第２の定電流駆動回路、第２の最大電流設定回路））により図示しない自身に備える２つの熱分散回路（第１の定電流駆動回路は第１の熱分散回路（熱分散抵抗）、第２の定電流駆動回路は第２の熱分散回路（熱分散抵抗））を介して直接発光制御し、扉枠トップ左装飾基板４５６は、自身に備える７個のフルカラーＬＥＤに加えて、図示しない１個のフルカラーＬＥＤが実装される他の左装飾基板を、図示しない自身に備える１つのＬＥＤ定電流駆動回路（定電流駆動回路、最大電流設定回路）により図示しない自身に備える１つの熱分散回路（熱分散抵抗）を介して直接発光制御し、扉枠トップ右装飾基板４５７は、自身に備える６個のフルカラーＬＥＤに加えて、図示しない２個のフルカラーＬＥＤが実装される他の右装飾基板を、図示しない自身に備える１つのＬＥＤ定電流駆動回路（定電流駆動回路、最大電流設定回路）により図示しない自身に備える１つの熱分散回路（熱分散抵抗）を介して直接発光制御している。そして、他の中央装飾基板は、扉枠トップ装飾体４５３の中央部分に沿うように左右に延びた細長い帯板状に形成され、他の左装飾基板は、扉枠トップ装飾体４５３の左側部分に沿うように左右に延びた細長い帯板状に形成され、他の右装飾基板は、扉枠トップ装飾体４５３の右側部分に沿うように左右に延びた細長い帯板状に形成されている。他の中央装飾基板、他の左装飾基板、及び他の右装飾基板には、熱分散回路（熱分散抵抗）をそれぞれ設ける必要がある。扉枠トップ中央装飾基板４５５自身に備える熱分散回路（ここでは、第２の熱分散回路（熱分散抵抗））と他の中央装飾基板の熱分散回路とは、上述したように、扉枠トップ中央装飾基板４５５自身に備える第２のＬＥＤ定電流駆動回路（正確には、第２の定電流駆動回路）の発熱を分散することができるという機能に加えて、静電気による電子部品の損傷を防止することができる機能も備えている。また、扉枠トップ左装飾基板４５６自身に備える熱分散回路と他の左装飾基板の熱分散回路とは、上述したように、扉枠トップ左装飾基板４５６自身に備えるＬＥＤ定電流駆動回路（正確には、定電流駆動回路）の発熱を分散することができるという機能に加えて、静電気による電子部品の損傷を防止することができる機能も備えている。また、扉

枠トップ右装飾基板４５７自身に備える熱分散回路と他の右装飾基板の熱分散回路とは、上述したように、扉枠トップ右装飾基板４５７自身に備えるＬＥＤ定電流駆動回路（正確には、定電流駆動回路）の発熱を分散することができるという機能に加えて、静電気による電子部品の損傷を防止することができる機能も備えている。

【２３５２】

また、定電流駆動回路４０２ｂａｘ，４０２ｂｂｘのランドパターンの端辺を、左サイド下装飾基板４０２ｂの左端辺４０２ｂｅｇ１と右端辺４０２ｂｅｇ２とに対して４５度傾斜した状態として配置するとともに、１０個のフルカラーＬＥＤであるｈｄＬＥＤ１～ｈｄＬＥＤ１０を左サイド下装飾基板４０２ｂのＬＥＤ実装面４０２ｂｘから見て左サイド下装飾基板４０２ｂの右端辺４０２ｂｅｇ２寄りであって左サイド下装飾基板４０２ｂのＬＥＤ実装面４０２ｂｘの上下方向に沿って所定間隔を有して配置するのに対して、定電流駆動回路４０２ｂａｘ，４０２ｂｂｘを左サイド下装飾基板４０２ｂのＬＥＤ実装面４０２ｂｘから見て左サイド下装飾基板４０２ｂの左端辺４０２ｂｅｇ１寄りであって左サイド下装飾基板４０２ｂのＬＥＤ非実装面４０２ｂｙに配置するという構成を採用した。定電流駆動回路４０２ｂａｘ，４０２ｂｂｘは、上述したように、シンク（吸い込み）タイプであり、各ＬＥＤ素子に流れる定電流を吸い込むことにより発熱する。このため、上下に延びた細長い帯板状に形成される左サイド下装飾基板４０２ｂにおいても、定電流駆動回路４０２ｂａｘ，４０２ｂｂｘと、１０個のフルカラーＬＥＤであるｈｄＬＥＤ１～ｈｄＬＥＤ１０と、を離すことにより、定電流駆動回路４０２ｂａｘ，４０２ｂｂｘによる発熱が１０個のフルカラーＬＥＤであるｈｄＬＥＤ１～ｈｄＬＥＤ１０に影響が受け難くすることができる。

【２３５３】

また、定電流駆動回路４０２ｂａｘ，４０２ｂｂｘのランドパターンの端辺を、左サイド下装飾基板４０２ｂの左端辺４０２ｂｅｇ１と右端辺４０２ｂｅｇ２とに対して４５度傾斜した状態として配置したことにより、定電流駆動回路４０２ｂａｘ，４０２ｂｂｘのランドパターンの端辺を装飾基板の左端辺と右端辺とに平行となるよう配置するもの（つまり、扉枠トップ装飾体４５３の扉枠トップ中央装飾基板４５５、扉枠トップ左装飾基板４５６、及び扉枠トップ右装飾基板４５７）と比べて、定電流駆動回路４０２ｂａｘ，４０２ｂｂｘのランドパターンの端辺を装飾基板の左端辺と右端辺とに非平行と配置するものの方が装飾基板の左端辺から右端辺までに亘る幅寸法をより短くすることができる。これにより、遊技盤５の左右方向の距離寸法を大きくすることに寄与することができる。

【２３５４】

［皿中央上装飾基板］

皿中央上装飾基板３１４は、図２６３（ｂ）に示すように、ＬＥＤ定電流駆動回路３１４ａ，３１４ｂ、１０個のフルカラーＬＥＤであるｈＬＥＤ１～ｈＬＥＤ１０等を備えている。１０個のフルカラーＬＥＤであるｈＬＥＤ１～ｈＬＥＤ１０は、演出操作ユニット３００の上方へ向かう側となる皿中央上装飾基板３１４のＬＥＤ実装面３１４ｘに実装されているのに対して、ＬＥＤ定電流駆動回路３１４ａ，３１４ｂは、演出操作ユニット３００の上方へ向かう側となる皿中央上装飾基板３１４のＬＥＤ非実装面３１４ｙに実装されている。なお、図２６３（ｂ）に示す皿中央上装飾基板３１４を左側へ９０度回転させて見た場合に（つまり、皿中央上装飾基板３１４が皿中央上装飾体３１２ａに沿うよう実際に配置された状態）、皿中央上装飾基板３１４のＬＥＤ実装面３１４ｘにおける上端辺３１４ｅｇ１に沿う右側には、操作部中継基板３９２と電気配線を接続するためのコネクタＨＣＮが実装されている。

【２３５５】

皿中央上装飾基板３１４のＬＥＤ実装面３１４ｘ，ＬＥＤ非実装面３１４ｙには、フルカラーＬＥＤ、抵抗、ＩＣ、コネクタ等の電子部品を半田付けするための電極（いわゆるパッド）、スルーホール、テストパッド、ランド等を除いた全域において、白色のレジスト液が塗布されて形成される白色塗膜（以下、単に「ベタ塗りされた白色のレジスト」と記載する場合がある。）により白色のレジスト層が形成されている。本実施形態では、皿中

央上装飾基板３１４のＬＥＤ実装面３１４ｘにベタ塗りされた白色のレジストにより、フルカラーＬＥＤであるｈＬＥＤ１～ｈＬＥＤ１０の発光による前方（つまり演出操作ユニット３００の上方へ向かう側）への反射率を高めることができるようになっている。

【２３５６】

皿中央上装飾基板３１４のＬＥＤ実装面３１４ｘにベタ塗りされた白色のレジスト上には、フルカラーＬＥＤであるｈＬＥＤ１～ｈＬＥＤ１０と対応する部品番号と、フルカラーＬＥＤであるｈＬＥＤ１～ｈＬＥＤ１０を配置する位置を示す領域と、がシルク印刷として全く印刷されていない。また、皿中央上装飾基板３１４のＬＥＤ実装面３１４ｘには、皿中央上装飾基板３１４の基板管理番号が白色のレジストによる抜き文字としても形成されていない。

【２３５７】

これは、フルカラーＬＥＤと対応する部品番号、及びフルカラーＬＥＤを配置する位置を示す領域により、フルカラーＬＥＤであるｈＬＥＤ１～ｈＬＥＤ１０の発光による皿中央上装飾基板３１４のＬＥＤ実装面３１４ｘにおける反射率が低下することを防止している。したがって、フルカラーＬＥＤであるｈＬＥＤ１～ｈＬＥＤ１０の発光による皿中央上装飾基板３１４のＬＥＤ実装面３１４ｘにおける反射率が低下することを防止することができる。

【２３５８】

また、扉枠３に設けられる図７５に示したユニット前カバー３１２の皿中央上装飾体３１２ａは、上述したように、皿中央上装飾体３１２ａ内に後方から皿中央上インナーレンズ３１３が取付けられ、皿中央上インナーレンズ３１３の下方（又は後方）に皿中央上装飾基板３１４が取付けられている。皿中央上装飾体３１２ａは、上述したように、ユニット前カバー３１２が透明に形成されているため透明に形成されている。皿中央上インナーレンズ３１３は、上述したように、透明に形成され、レンズカットが施されて（多面体に形成されて）光を乱屈折することができるように形成されており、皿中央上インナーレンズ３１３の下方（又は後方）に配置される皿中央上装飾基板３１４の表面（実装面）に実装されている複数のＬＥＤが遊技者側から明確に視認し難くなっている。パチンコ機１の前方に着座した遊技者が頭（顔）を動かすことで頭（顔）の方向により視線が変化して、仮に、ユニット前カバー３１２の皿中央上装飾体３１２ａに備える皿中央上装飾基板３１４のＬＥＤ実装面３１４ｘを遊技者が視認することができる場合であっても、そもそも、皿中央上装飾基板３１４のＬＥＤ実装面３１４ｘにベタ塗りされた白色のレジスト上には、フルカラーＬＥＤであるｈＬＥＤ１～ｈＬＥＤ１０と対応する部品番号と、フルカラーＬＥＤであるｈＬＥＤ１～ｈＬＥＤ１０を配置する位置を示す領域と、がシルク印刷として全く印刷されていないため、遊技者にとって遊技と全く関係を持たないフルカラーＬＥＤと対応する部品番号、及びフルカラーＬＥＤを配置する位置を示す領域が遊技者に視認されることを防止している。したがって、フルカラーＬＥＤであるｈＬＥＤ１～ｈＬＥＤ１０を特定する番号（つまり、フルカラーＬＥＤであるｈＬＥＤ１～ｈＬＥＤ１０と対応する部品番号）やフルカラーＬＥＤであるｈＬＥＤ１～ｈＬＥＤ１０の実装位置を示す補助線（つまり、フルカラーＬＥＤであるｈＬＥＤ１～ｈＬＥＤ１０を配置する位置を示す領域）を遊技者に視認困難とすることができる。

【２３５９】

なお、皿中央上装飾基板３１４のＬＥＤ実装面３１４ｘにベタ塗りされた白色のレジスト上には、コネクタＨＣＮと対応する部品番号と、コネクタＨＣＮを配置する位置を示す領域と、がシルク印刷として全く印刷されていない。これにより、遊技者にとって遊技と全く関係を持たないコネクタＨＣＮと対応する部品番号、コネクタＨＣＮを配置する位置を示す領域が遊技者に視認されることを防止している。

【２３６０】

また、皿中央上装飾基板３１４のＬＥＤ実装面３１４ｘの全体が白色のレジストにより覆われている。フルカラーＬＥＤであるｈＬＥＤ１～ｈＬＥＤ１０は、それぞれのパッケージが白色（白色と同色であると認められる色）の樹脂製であるとともに、コネクタＨＣＮ

は、そのハウジングが白色（ナチュラル色とも言われ、白色（ナチュラル色）と同色であると認められる色）の樹脂製である。つまり、皿中央上装飾基板３１４のＬＥＤ実装面３１４ｘには、その全体が覆われる（ベタ塗りされる）白色のレジストと同一色（同色であると認められる色）のパッケージを有する電子部品であるフルカラーＬＥＤであるｈＬＥＤ１～ｈＬＥＤ１０と、その全体が覆われる（ベタ塗りされる）白色のレジストと同一色（同色であると認められる色）のハウジングを有するコネクタＨＣＮとが実装されている。このように、本実施形態では、白色を有していない図示しない抵抗やコンデンサ等の電子部品や、白色を有していないコネクタは、皿中央上装飾基板３１４のＬＥＤ実装面３１４ｘに全く実装されていない。換言すると、白色を有していない抵抗及びコンデンサ等の電子部品や、白色を有していないコネクタは、フルカラーＬＥＤの発光によるＬＥＤ実装面における反射率が低下するものであるため、ＬＥＤ実装面に全く実装されていない。

【２３６１】

また、皿中央上装飾基板３１４のＬＥＤ実装面３１４ｘには、皿中央上装飾基板３１４の基板管理番号が箔抜き文字（つまり、配線パターンが形成される層（銅プレーン）において銅箔である配線パターンで文字を作りその周囲の銅箔を抜いて形成される抜き文字）として形成されており、皿中央上装飾基板３１４のＬＥＤ実装面３１４ｘにベタ塗りされる白色のレジストによりその箔抜き文字が覆われている。この箔抜き文字を形成する配線パターンは、電子部品と電気的に絶縁されて形成されている。なお、皿中央上装飾基板３１４の基板管理番号は、皿中央上装飾基板３１４のＬＥＤ実装面３１４ｘに代えて、皿中央上装飾基板３１４のＬＥＤ非実装面３１４ｙに箔抜き文字（つまり、配線パターンが形成される層（銅プレーン）において銅箔である配線パターンで文字を作りその周囲の銅箔を抜いて形成される抜き文字）として形成されていてもよいし、皿中央上装飾基板３１４のＬＥＤ実装面３１４ｘと皿中央上装飾基板３１４のＬＥＤ非実装面３１４ｙとに箔抜き文字（つまり、配線パターンが形成される層（銅プレーン）において銅箔である配線パターンで文字を作りその周囲の銅箔を抜いて形成される抜き文字）としてそれぞれ形成されていてもよい。また、皿中央上装飾基板３１４のＬＥＤ実装面３１４ｘ、ＬＥＤ非実装面３１４ｙは、は、後述するように、ベタアースとして形成されている。このため、皿中央上装飾基板３１４の基板管理番号は、箔抜き文字（つまり、配線パターンが形成される層（銅プレーン）において銅箔である配線パターンで文字を作りその周囲の銅箔を抜いて形成される抜き文字）として形成せずに、ＬＥＤ実装面３１４ｘのベタアースとＬＥＤ非実装面３１４ｙのベタアースとのうち、いずれか一方の面又は両方の面において文字を抜いた抜き文字として形成されていてもよい。

【２３６２】

これに対して、皿中央上装飾基板３１４のＬＥＤ非実装面３１４ｙにベタ塗りされた白色のレジスト上には、ＬＥＤ定電流駆動回路３１４ａを構成する定電流駆動回路３１４ａｘ、最大電流設定回路３１４ａｙの抵抗Ｒｒ，Ｒｂ，Ｒｇ、各種分散抵抗等の電子部品を配置する位置を示す領域がシルク印刷として図示しない黄色の実線（又は、黒色の実線）によりそれぞれ印刷されているとともに、これらの領域近傍に電子部品と対応する部品番号がシルク印刷として図示しない黄色（又は、黒色）でそれぞれ印刷されている。

【２３６３】

また、皿中央上装飾基板３１４のＬＥＤ非実装面３１４ｙにベタ塗りされた白色のレジスト上には、皿中央上装飾基板３１４のＬＥＤ実装面３１４ｘに実装されるフルカラーＬＥＤであるｈＬＥＤ１～ｈＬＥＤ１０と対応する領域がシルク印刷として図示しない黄色の鎖線（又は、黒色の鎖線）ＨＳＬＫ１～ＨＳＬＫ１０でそれぞれ印刷されているとともに、これらの領域ＨＳＬＫ１～ＨＳＬＫ１０の近傍にフルカラーＬＥＤであるｈＬＥＤ１～ｈＬＥＤ１０と対応する部品番号がシルク印刷として図示しない黄色（又は、黒色）でそれぞれ印刷されている。

【２３６４】

なお、皿中央上装飾基板３１４のＬＥＤ非実装面３１４ｙにベタ塗りされた白色のレジスト上には、皿中央上装飾基板３１４のＬＥＤ実装面３１４ｘに実装されるコネクタＨＣＮ

を配置する位置を示す領域がシルク印刷として図示しない黄色の鎖線（又は、黒色の鎖線）で印刷されているとともに、この領域の近傍にコネクタＨＣＮと対応する部品番号がシルク印刷として図示しない黄色（又は、黒色）で印刷されている。

【２３６５】

また、皿中央上装飾基板３１４のＬＥＤ非実装面３１４ｙに実装される抵抗及びコンデンサ等は白色を有していないし、また１つの半導体チップ上に集積された定電流駆動回路３１４ａｘ（３１４ｂｘ）はそのパッケージが黒色の樹脂製である。このように、白色を有していない抵抗、コンデンサ、及びＩＣ等の電子部品は、フルカラーＬＥＤの発光による反射率が低下するものであるため、ＬＥＤ非実装面に実装されている。

【２３６６】

更に、皿中央上装飾基板３１４のＬＥＤ非実装面３１４ｙには、皿中央上装飾基板３１４のＬＥＤ実装面３１４ｘに実装されるフルカラーＬＥＤであるｈＬＥＤ１～ｈＬＥＤ１０への点灯検査を個別に行う（例えば、１つのフルカラーＬＥＤを構成する、赤色（Ｒ）に発光するＬＥＤ素子、緑色（Ｇ）に発光するＬＥＤ素子、及び青色（Ｂ）に発光するＬＥＤ素子に対して、ＬＥＤ素子ごとに行う）ことができる図示しない複数のチェックピンが配線パターンに接続されるテストパッド（又は、スルーホール）として形成され、複数のチェックピンの近傍に複数のチェックピンのそれぞれと対応する部品番号が、皿中央上装飾基板３１４のＬＥＤ非実装面３１４ｙにベタ塗りされた白色のレジスト上に、シルク印刷として図示しない黄色（又は、黒色）で印刷されている。複数のチェックピンは、白色のレジストが塗られていない。これにより、検査を行う作業者が図示しないブローブをチェックピンに接触させることで図示しないブローブとチェックピンとが電気的に接続されて導通する状態となって各種検査を行うことができる。なお、複数のチェックピンには、定電流駆動回路３１４ａｘや定電流駆動回路３１４ｂｘへのシリアルデータの内容を確認することができるものもある。

【２３６７】

皿中央上装飾基板３１４のＬＥＤ実装面３１４ｘ、ＬＥＤ非実装面３１４ｙは、電子部品やコネクタなどのランドパターンや配線パターンを除く領域をグランド（ＧＮＤ）に接地する、いわゆるベタアースとして形成されている。皿中央上装飾基板３１４のＬＥＤ実装面３１４ｘに形成されるベタアースと、皿中央上装飾基板３１４のＬＥＤ非実装面３１４ｙに形成されるベタアースは、図示しない複数のスルーホールにより電気的に接続されている。

【２３６８】

なお、本実施形態では、フルカラーＬＥＤの発光によるＬＥＤ実装面における反射率が低下する白色を有していない抵抗及びコンデンサ等の電子部品や、白色を有していないコネクタは、フルカラーＬＥＤの発光によるＬＥＤ実装面における反射率が低下するものであるため、ＬＥＤ実装面に全く実装されていなかったが、フルカラーＬＥＤの発光によるＬＥＤ実装面のうち、前方に配置される部材と対応する領域がＬＥＤ実装面における反射率に寄与することが困難である場合には、その領域に、白色を有していない抵抗及びコンデンサ等の電子部品や、白色を有していないコネクタを配置してもよい。この場合、ＬＥＤ非実装面にベタ塗りされた白色のレジスト上には、電子部品やコネクタを配置する位置を示す領域がシルク印刷として図示しない黄色の鎖線（又は、黒色の鎖線）で印刷されるとともに、この領域の近傍に、電子部品やコネクタと対応する部品番号がシルク印刷として図示しない黄色（又は、黒色）で印刷される。

【２３６９】

皿中央上装飾基板３１４は、上述したように、半円弧状を有する細長い帯板状に形成されているため、図２６３（ｂ）に示す皿中央上装飾基板３１４を左側へ９０度回転させて見た場合に（つまり、皿中央上装飾基板３１４が皿中央上装飾体３１２ａに沿うよう実際に配置された状態）、皿中央上装飾基板３１４のＬＥＤ実装面３１４ｘにおける上端辺３１４ｅｇ１から下端辺３１４ｅｇ２までに亘る幅寸法が定電流駆動回路３１４ａｘ，３１４ｂｘのランドパターンの左端辺から右端辺までの幅寸法の約１．７８倍程度しかない。こ

のため、皿中央上装飾基板３１４の上端辺３１４ｅｇ１と下端辺３１４ｅｇ２とに平行となるように定電流駆動回路３１４ａｘ，３１４ｂｘのランドパターンの端辺を配置すると、定電流駆動回路３１４ａｘ，３１４ｂｘのランドパターンの端辺と、皿中央上装飾基板３１４の上端辺３１４ｅｇ１又は下端辺３１４ｅｇ２と、の距離寸法が極めて短くなるため、その端辺に配列されたランドパターンの各リードパッドから配線パターンを引き出そうとしても、配線パターンのパターン幅、配線パターンの隣り合う間隔に最小距離寸法の制限があるため、その端辺に配列されたランドパターンの各リードパッドからすべての配線パターンを引き出すことが困難となる。

【２３７０】

そこで、本実施形態では、定電流駆動回路３１４ａｘ，３１４ｂｘのランドパターンの端辺を、皿中央上装飾基板３１４の上端辺３１４ｅｇ１と下端辺３１４ｅｇ２とに対して、４５度傾斜した状態として配置するという構成を採用した。

【２３７１】

本実施形態では、このような配置を採用することにより、皿中央上装飾基板３１４のＬＥＤ非実装面３１４ｙから見て、定電流駆動回路３１４ａｘ，３１４ｂｘの４端辺のうち、左下端辺が入力側の端子となるよう皿中央上装飾基板３１４の上端辺３１４ｅｇ１寄りに配置することにより、入力側の端子は、図２６０に示した、扉枠側第１シリアル系統（発光データＳＤＡＴ１、クロック信号ＳＣＬＫ１）、直流＋１２Ｖ、及びグランド（ＧＮＤ）、最大電流設定回路３１４ａｙ，３１４ｂｙの抵抗Ｒｒ，Ｒｇが入力され、左上端辺、右上端辺、及び右下端辺がそれぞれ主として出力側１の端子～出力側３の端子となり、出力側１の端子～出力側３の端子は、上述した、出力チャンネルＬＲ１～ＬＲ８，ＬＧ１～ＬＧ８，ＬＢ１～ＬＢ８、及び扉枠側第１シリアル系統（発光データＳＤＡＴ１、クロック信号ＳＣＬＫ１）等を出力する。なお、出力側１の端子は、最大電流設定回路３１４ａｙ，３１４ｂｙの抵抗Ｒｂが入力される端子を有し、出力側２及び出力側３は、グランド（ＧＮＤ）が入力される端子を有している。

【２３７２】

また、このような配置を採用したことにより、定電流駆動回路３１４ａｘ，３１４ｂｘのランドパターンの４端辺のうち、２端辺を皿中央上装飾基板３１４の上端辺３１４ｅｇ１に対して４５度傾斜した状態として配置することができるとともに、残りの２端辺を皿中央上装飾基板３１４の下端辺３１４ｅｇ２に対して４５度傾斜した状態として配置することができる。これにより、定電流駆動回路３１４ａｘ，３１４ｂｘのランドパターンの４端辺に配列されたランドパターンの各リードパッドから、配線パターンのパターン幅、配線パターンの隣り合う間隔に最小距離寸法の制限を受けても、すべての配線パターンを引き出すことができる。したがって、半円弧状を有する細長い帯板状に形成される皿中央上装飾基板３１４において定電流駆動回路３１４ａｘ，３１４ｂｘから配線（配線パターン）が引き出される領域を確保することができる。

【２３７３】

また、このような配置を採用したことにより、８個のフルカラーＬＥＤであるｈＬＥＤ１～ｈＬＥＤ８のうち、４個のフルカラーＬＥＤであるｈＬＥＤ１～ｈＬＥＤ４から構成されるグループ１と、４個のフルカラーＬＥＤであるｈＬＥＤ５～ｈＬＥＤ８から構成されるグループ２と、の間に定電流駆動回路３１４ａｘを配置することができるため、定電流駆動回路３１４ａｘからグループ１とグループ２とへの配線パターンを引き回す際に、その長さを均等に形成することができる。これにより、グループ１とグループ２とへの配線パターンを引き回す長さがグループ１又はグループ２のいずれか一方のグループに偏って長くなったり、短くなったりするということを防ぐことができるため、アートワークにおいて配線パターンの配置や引き回しの効率を高めることができる。

【２３７４】

また、このような配置を採用したことにより、図２６３（ｂ）に示す皿中央上装飾基板３１４を左側へ９０度回転させて見た場合に（つまり、皿中央上装飾基板３１４が皿中央上装飾体３１２ａに沿うよう実際に配置された状態）、定電流駆動回路３１４ａｘを、皿中

央上装飾基板３１４のＬＥＤ非実装面３１４ｙにおける半円弧状中央部分（図２６３（ｂ）のフルカラーＬＥＤであるｈＬＥＤ６が配置される部分）と比べて右側寄りに配置することができるとともに、定電流駆動回路３１４ｂｘを、皿中央上装飾基板３１４のＬＥＤ非実装面３１４ｙにおける半円弧状中央部分（図２６３（ｂ）のフルカラーＬＥＤであるｈｄＬＥＤ６が配置される部分）と比べて左側寄りであって、定電流駆動回路３１４ａｘにより発光制御されるグループ２に構成されるフルカラーＬＥＤであるｈＬＥＤ８の左方に配置することができる。これにより、定電流駆動回路３１４ａｘから、８個のフルカラーＬＥＤであるｈＬＥＤ１～ｈＬＥＤ８への配線パターンの引き回し用の領域を皿中央上装飾基板３１４に確保することができるとともに、定電流駆動回路３１４ｂｘから、２個のフルカラーＬＥＤであるｈＬＥＤ９，ｈＬＥＤ１０への配線パターンの引き回し用の領域を皿中央上装飾基板３１４に確保することができる。

【２３７５】

なお、本実施形態では、最大電流設定回路３１４ａｙ，３１４ｂｙの抵抗Ｒｒ，Ｒｇ，Ｒｂのほかに、図示しないコンデンサが皿中央上装飾基板３１４のＬＥＤ非実装面３１４ｙにハンダ付けされている。抵抗Ｒｒ，Ｒｇ，Ｒｂ、及び図示しないコンデンサは、平面形状が長方形状の表面実装型（ＳＭＤ）であり、いわゆるＥＩＡ形式で０８０５（呼称で２０１２、横の長さ：２．０ｍｍ、縦の長さ：１．２５ｍｍ）である。つまり、抵抗Ｒｒ，Ｒｇ，Ｒｂ、及び図示しないコンデンサの大きさは、定電流駆動回路３１４ａｘ，３１４ｂｘの大きさ（横の長さ：６．０ｍｍ、縦の長さ：６．０ｍｍ）と比べて極めて小さい。このため、抵抗Ｒｒ，Ｒｇ，Ｒｂ、及び図示しないコンデンサは、定電流駆動回路３１４ａｘ，３１４ｂｘと異なり、抵抗Ｒｒ，Ｒｇ，Ｒｂは、その長手方向の一端辺が皿中央上装飾基板３１４の上端辺３１４ｅｇ１と下端辺３１４ｅｇ２とに対して平行となるように配置され、図示しないコンデンサは、その長手方向の一端辺が皿中央上装飾基板３１４の上端辺３１４ｅｇ１と下端辺３１４ｅｇ２とに対して垂直となるように配置されている。換言すると、ランドパターンの端辺が皿中央上装飾基板３１４の上端辺３１４ｅｇ１と下端辺３１４ｅｇ２とに対して４５度傾斜した状態として配置される定電流駆動回路３１４ａｘ，３１４ｂｘの各端辺と、抵抗Ｒｒ，Ｒｇ，Ｒｂ、及び図示しないコンデンサの長手方向の一端辺と、が非平行となるように、皿中央上装飾基板３１４のＬＥＤ非実装面３１４ｙにそれぞれ配置されている。

【２３７６】

また、定電流駆動回路３１４ａｘ，３１４ｂｘのランドパターンの端辺を、皿中央上装飾基板３１４の上端辺３１４ｅｇ１と下端辺３１４ｅｇ２とに対して４５度傾斜した状態として配置するとともに、１０個のフルカラーＬＥＤであるｈＬＥＤ１～ｈＬＥＤ１０を皿中央上装飾基板３１４のＬＥＤ実装面３１４ｘから見て皿中央上装飾基板３１４の下端辺３１４ｅｇ２寄りであって皿中央上装飾基板３１４のＬＥＤ実装面３１４ｘの半円弧状に沿って所定間隔を有して配置するのに対して、定電流駆動回路３１４ａｘ，３１４ｂｘを皿中央上装飾基板３１４のＬＥＤ実装面３１４ｘから見て皿中央上装飾基板３１４の上端辺３１４ｅｇ１寄りであって皿中央上装飾基板３１４のＬＥＤ非実装面３１４ｙに配置するという構成を採用した。定電流駆動回路３１４ａｘ，３１４ｂｘは、左サイド下装飾基板４０２ｂの定電流駆動回路４０２ｂａｘ，４０２ｂｂｘと同様、上述したように、シンク（吸い込み）タイプであり、各ＬＥＤ素子に流れる定電流を吸い込むことにより発熱する。このため、半円弧状を有する細長い帯板状に形成される中央上装飾基板３１４においても、定電流駆動回路３１４ａｘ，３１４ｂｘと、１０個のフルカラーＬＥＤであるｈＬＥＤ１～ｈＬＥＤ１０と、を離すことにより、定電流駆動回路３１４ａｘ，３１４ｂｘによる発熱が１０個のフルカラーＬＥＤであるｈＬＥＤ１～ｈＬＥＤ１０に影響が受け難くすることができる。

【２３７７】

また、定電流駆動回路３１４ａｘ，３１４ｂｘのランドパターンの端辺を、皿中央上装飾基板３１４の上端辺３１４ｅｇ１と下端辺３１４ｅｇ２とに対して４５度傾斜した状態として配置したことにより、定電流駆動回路３１４ａｘ，３１４ｂｘのランドパターンの端

辺を装飾基板の左端辺と右端辺とに平行となるよう配置するもの（つまり、扉枠トップ装飾体４５３の扉枠トップ中央装飾基板４５５、扉枠トップ左装飾基板４５６、及び扉枠トップ右装飾基板４５７）と比べて、定電流駆動回路３１４ａｘ，３１４ｂｘのランドパターンの端辺を装飾基板の左端辺と右端辺とに非平行と配置するものの方が装飾基板の左端辺から右端辺までに亘る幅寸法をより短くすることができる。これにより、演出操作ユニット３００の左右方向の距離寸法や前後方向の距離寸法を大きくすることに寄与することができるため、大型の演出操作ユニット３００を扉枠３に備えることできるとともに、演出操作ユニット３００による発光演出を行うことができる。

【２３７８】

［定電流駆動回路のＩＣパッケージ底面における属パッド］

左サイド下装飾基板４０２ｂの定電流駆動回路４０２ｂａｘ，４０２ｂｂｘ、及び皿中央上装飾基板３１４の定電流駆動回路３１４ａｘ，３１４ｂｘである定電流駆動回路のＩＣパッケージの種類としては、上述したように、平面形状が正方形状を有する表面実装型であり、いわゆるＶＱＦＮである。ここでは、左サイド下装飾基板４０２ｂの定電流駆動回路４０２ｂａｘのＩＣパッケージについて、図２６４を参照して説明する。

【２３７９】

定電流駆動回路４０２ｂａｘのＩＣパッケージ底面の中央部分には、金属パッドＦＰが露出しており、いわゆる、Ｅｘｐｏｓｅｄ　Ｐａｄ（以下、「ＥＰａｄ」と記載する。）が形成されている。このＩＣパッケージは、基板にハンダ付けされることで、放熱性と接合性とを高くすることができるようになっている。

【２３８０】

定電流駆動回路４０２ｂａｘのランドパターンには、各リードパッドに加えて、正方形状を有するＥＰａｄ用ランドパターンＥＰが設けられている。ＥＰａｄ用ランドパターンＥＰは、左サイド下装飾基板４０２ｂのＬＥＤ非実装面４０２ｂｙのベタアースと電気的に接続されている。ＥＰａｄ用ランドパターンＥＰの領域内には、９つのサーマルビアＴＶが形成格子状に配列されている。これらのサーマルビアＴＶにより、ＥＰａｄ用ランドパターンＥＰと、左サイド下装飾基板４０２ｂのＬＥＤ実装面４０２ｂｘに形成されるベタアースと、が電気的に接続されることとなる。このため、ＥＰａｄ用ランドパターンＥＰの領域内には、各リードパッドからの配線パターンを引き出すことができない。

【２３８１】

定電流駆動回路４０２ｂａｘは、上述したように、シンク（吸い込み）タイプであり、各ＬＥＤ素子に流れる定電流を吸い込むことにより発熱する。つまり、定電流駆動回路４０２ｂａｘの発熱を、ＥＰａｄからＥＰａｄ用ランドパターンＥＰを介して、左サイド下装飾基板４０２ｂのＬＥＤ非実装面４０２ｂｙと、左サイド下装飾基板４０２ｂのＬＥＤ実装面４０２ｂｘと、に拡散することによって、左サイド下装飾基板４０２ｂ全体で放熱することができるようになっている。

【２３８２】

なお、ＥＰａｄ用ランドパターンＥＰと９つのサーマルビアＴＶとの関係について簡単に説明すると、定電流駆動回路のＥＰａｄ（金属パッドＦＰ）がＥＰａｄ用ランドパターンＥＰとハンダ付けされる接合領域は、定電流駆動回路のＥＰａｄ（金属パッドＦＰ）に対して５０％以上となるように、サーマルビアＴＶの数や直径の大きさが選定されている。これにより、定電流駆動回路のＥＰａｄ（金属パッドＦＰ）とＥＰａｄ用ランドパターンＥＰとがハンダ付けされる接合領域が大きくなりすぎずボイドの発生を防止するとともに、この接合領域が小さくなりすぎず安定した接合強度を得ることができるようになっている。なお、ＥＰａｄ用ランドパターンＥＰを格子状に分割して形成することもできるが、この場合においても、ボイドの発生の防止と安定した接合強度を得るために、上述したように、定電流駆動回路のＥＰａｄ（金属パッドＦＰ）がＥＰａｄ用ランドパターンＥＰとハンダ付けされる接合領域は、定電流駆動回路のＥＰａｄ（金属パッドＦＰ）に対して５０％以上となるようにする必要がある。

【２３８３】

また、左サイド下装飾基板４０２ｂの左端辺４０２ｂｅｇ１と右端辺４０２ｂｅｇ２とに平行となるように定電流駆動回路４０２ｂａｘ，４０２ｂｂｘのランドパターンの端辺を配置する場合に対し、定電流駆動回路４０２ｂａｘ，４０２ｂｂｘのランドパターンの端辺を、左サイド下装飾基板４０２ｂの左端辺４０２ｂｅｇ１と右端辺４０２ｂｅｇ２とに対して、４５度傾斜した状態として配置する場合は、定電流駆動回路４０２ｂａｘの発熱に対する放熱効果が高くなる。左サイド下装飾基板４０２ｂの左端辺４０２ｂｅｇ１と右端辺４０２ｂｅｇ２とに平行となるように定電流駆動回路４０２ｂａｘ，４０２ｂｂｘのランドパターンの端辺を配置する場合は、ＥＰａｄ用ランドパターンＥＰも同じように左サイド下装飾基板４０２ｂの左端辺４０２ｂｅｇ１と右端辺４０２ｂｅｇ２とに対して、平行に配置され、４５度傾斜した状態となるように定電流駆動回路４０２ｂａｘ，４０２ｂｂｘのランドパターンの端辺を配置する場合は、ＥＰａｄ用ランドパターンＥＰも４５度傾斜した状態で配置される。ＥＰａｄ用ランドパターンＥＰ端辺が、左サイド下装飾基板４０２ｂの左端辺４０２ｂｅｇ１と右端辺４０２ｂｅｇ２とに対して平行に配置されている場合は、ＥＰａｄ用ランドパターンＥＰ端辺と左サイド下装飾基板４０２ｂの左端辺４０２ｂｅｇ１又は右端辺４０２ｂｅｇ２と、の距離寸法が短くなり、基板端辺までの距離寸法が短くなっているということは、言い換えれば、基板上の放熱する余地が小さくなっていることになる。一方、ＥＰａｄ用ランドパターンＥＰ端辺が、左サイド下装飾基板４０２ｂの左端辺４０２ｂｅｇ１と右端辺４０２ｂｅｇ２とに対して４５度傾斜した状態で配置される場合の左サイド下装飾基板４０２ｂの左端辺４０２ｂｅｇ１又は右端辺４０２ｂｅｇ２と、の距離寸法はＥＰａｄ用ランドパターンＥＰの頂点と基板端辺との距離は短くなる部分となるがその頂点に接する二辺は基板端辺とは非平行となっているので、基板上の放熱する余地は広いので、ＥＰａｄ用ランドパターンＥＰ端辺と基板端辺とが平行となっている場合に比べて放熱効果が高いと言える。

【２３８４】

本実施形態における扉枠３の各装飾基板は、上述したように、細長い帯板状に形成されており、ＬＥＤ定電流駆動回路を１つ備えるものと、ＬＥＤ定電流駆動回路を２つ備えるものと、があり、本実施形態では、例として、上述したように、ＬＥＤ定電流駆動回路を２つ備える、上下に延びた細長い帯板状に形成される左サイド下装飾基板４０２ｂと、半円弧状を有する細長い帯板状に形成される皿中央上装飾基板３１４と、についてそれぞれ説明し、フルカラーＬＥＤと対応する部品番号、及びフルカラーＬＥＤを配置する位置を示す領域により、フルカラーＬＥＤの発光によるＬＥＤ実装面における反射率が低下することを防止することができるとともに、遊技者にとって遊技と全く関係を持たないフルカラーＬＥＤと対応する部品番号、及びフルカラーＬＥＤを配置する位置を示す領域が遊技者に視認されることを防止することができるという反射率低下等の対策が講じられている点について詳細に説明した。

【２３８５】

ここでは、反射率低下等の対策が講じられる本発明の他の構成（以下、「第２乃至第５実施形態に係る反射率低下等の対策の構成」と記載する。）について、図２６５乃至図２７０を参照して詳細に説明する。図２６５は第２実施形態に係る反射率低下等の対策の構成であり、図２６６は第３実施形態に係る反射率低下等の対策の構成であり、図２６７は図２６５のＤ’部又は図２６６のＤ’’部又は図２７０のＤ’’部におけるＬＥＤ非実装面から見た拡大図であり、図２６８は第４実施形態に係る反射率低下等の対策の構成であり、図２６９は図２６８のＤ’’’部におけるＬＥＤ非実装面から見た拡大図であり、図２７０は第５実施形態に係る反射率低下等の対策の構成である。なお、図２６５乃至図２７０では、図２６３及び図２６４に示した実施形態（以下、第１実施形態に係る反射率低下等の対策の構成」と記載する。）と同じ機能を奏するものに対しては、同じ符号を付して表した。また、図２６７には、図面の見やすさから、各種電子部品を省略するとともに、一部のシルク印刷を省略して示した。また、図２６９には、図面の見やすさから、各種電子部品を省略した。

【２３８６】

演出操作ユニット３００内における演出操作リング装飾基板３５２、中央ボタン装飾基板３７６、及び外周ボタン装飾基板３７７と、ハンドルユニット１８０内におけるハンドル装飾基板１８４と、には、上述した第１実施形態に係る反射率低下等の対策の構成（フルカラーＬＥＤと対応する部品番号、及びフルカラーＬＥＤを配置する位置を示す領域により、フルカラーＬＥＤの発光によるＬＥＤ実装面における反射率が低下することを防止することができるとともに、遊技者にとって遊技と全く関係を持たないフルカラーＬＥＤと対応する部品番号、及びフルカラーＬＥＤを配置する位置を示す領域が遊技者に視認されることを防止することができるという反射率低下等の対策が講じられている点）が採用されているが、後述する第２実施形態～第５実施形態に係る反射率低下等の対策の構成が採用されてもよい。

【２３８７】

［第１実施形態に係る反射率低下等の対策の構成と第２実施形態に係る反射率低下等の対策の構成との対比］

第１実施形態に係る反射率低下等の対策の構成では、上述したように、左サイド下装飾基板４０２ｂのＬＥＤ実装面４０２ｂｘにベタ塗りされた白色のレジスト上には、フルカラーＬＥＤであるｈｄＬＥＤ１～ｈｄＬＥＤ１０と対応する部品番号と、フルカラーＬＥＤであるｈｄＬＥＤ１～ｈｄＬＥＤ１０を配置する位置を示す領域と、がシルク印刷として全く印刷されていない。そして、左サイド下装飾基板４０２ｂのＬＥＤ非実装面４０２ｂｙにベタ塗りされた白色のレジスト上には、上述したように、ＬＥＤ定電流駆動回路４０２ｂａを構成する定電流駆動回路４０２ｂａｘ、最大電流設定回路４０２ｂａｙの抵抗Ｒｒ，Ｒｂ，Ｒｇ、各種分散抵抗等の電子部品を配置する位置を示す領域がシルク印刷として黄色の実線（又は、黒色の実線）によりそれぞれ印刷されているとともに、これらの領域近傍に電子部品と対応する部品番号がシルク印刷として黄色（又は、黒色）でそれぞれ印刷されている。また、左サイド下装飾基板４０２ｂのＬＥＤ非実装面４０２ｂｙにベタ塗りされた白色のレジスト上には、上述したように、左サイド下装飾基板４０２ｂのＬＥＤ実装面４０２ｂｘに実装されるフルカラーＬＥＤであるｈｄＬＥＤ１～ｈｄＬＥＤ１０と対応する領域がシルク印刷として黄色の鎖線（又は、黒色の鎖線）でそれぞれ印刷されているとともに、これらの領域近傍にフルカラーＬＥＤであるｈｄＬＥＤ１～ｈｄＬＥＤ１０と対応する部品番号がシルク印刷として黄色（又は、黒色）でそれぞれ印刷されている。

【２３８８】

また、第１実施形態に係る反射率低下等の対策の構成では、上述したように、皿中央上装飾基板３１４のＬＥＤ実装面３１４ｘにベタ塗りされた白色のレジスト上には、フルカラーＬＥＤであるｈＬＥＤ１～ｈＬＥＤ１０と対応する部品番号と、フルカラーＬＥＤであるｈＬＥＤ１～ｈＬＥＤ１０を配置する位置を示す領域と、がシルク印刷として全く印刷されていない。そして、皿中央上装飾基板３１４のＬＥＤ非実装面３１４ｙにベタ塗りされた白色のレジスト上には、上述したように、ＬＥＤ定電流駆動回路３１４ａを構成する定電流駆動回路３１４ａｘ、最大電流設定回路３１４ａｙの抵抗Ｒｒ，Ｒｂ，Ｒｇ、各種分散抵抗等の電子部品を配置する位置を示す領域がシルク印刷として図示しない黄色の実線（又は、黒色の実線）によりそれぞれ印刷されているとともに、これらの領域近傍に電子部品と対応する部品番号がシルク印刷として図示しない黄色（又は、黒色）でそれぞれ印刷されている。また、皿中央上装飾基板３１４のＬＥＤ非実装面３１４ｙにベタ塗りされた白色のレジスト上には、上述したように、皿中央上装飾基板３１４のＬＥＤ実装面３１４ｘに実装されるフルカラーＬＥＤであるｈＬＥＤ１～ｈＬＥＤ１０と対応する領域がシルク印刷として図示しない黄色の鎖線（又は、黒色の鎖線）ＨＳＬＫ１～ＨＳＬＫ１０でそれぞれ印刷されているとともに、これらの領域ＨＳＬＫ１～ＨＳＬＫ１０の近傍にフルカラーＬＥＤであるｈＬＥＤ１～ｈＬＥＤ１０と対応する部品番号がシルク印刷として図示しない黄色（又は、黒色）でそれぞれ印刷されている。

【２３８９】

これに対して、第２実施形態に係る反射率低下等の対策の構成では、図２６５（ａ）に示

すように、左サイド下装飾基板４０２ｂのＬＥＤ実装面４０２ｂｘにベタ塗りされた白色のレジスト上には、フルカラーＬＥＤであるｈｄＬＥＤ１～ｈｄＬＥＤ１０と対応する部品番号と、フルカラーＬＥＤであるｈｄＬＥＤ１～ｈｄＬＥＤ１０を配置する位置を示す領域と、がシルク印刷としてそれぞれ印刷されている。具体的には、フルカラーＬＥＤであるｈｄＬＥＤ１～ｈｄＬＥＤ１０を配置する位置を示す領域がシルク印刷として黄色の実線ＬＳＬＫ１～ＬＳＬＫ１０で左サイド下装飾基板４０２ｂのＬＥＤ実装面４０２ｂｘにベタ塗りされた白色のレジスト上にそれぞれ印刷されているとともに、これらの領域ＬＳＬＫ１～ＬＳＬＫ１０の近傍であって左方又は上方にフルカラーＬＥＤであるｈｄＬＥＤ１～ｈｄＬＥＤ１０と対応する部品番号であるＬＥＤ１～ＬＥＤ１０がシルク印刷として黄色で左サイド下装飾基板４０２ｂのＬＥＤ実装面４０２ｂｘにベタ塗りされた白色のレジスト上にそれぞれ印刷されている。

【２３９０】

なお、左サイド下装飾基板４０２ｂのＬＥＤ実装面４０２ｂｘにベタ塗りされた白色のレジスト上には、コネクタＬＤＬＣＮを配置する位置を示す領域がシルク印刷として図示しない黄色の実線で印刷されているとともに、この領域の近傍にコネクタＬＤＬＣＮと対応する部品番号がシルク印刷として図示しない黄色で印刷されている。

【２３９１】

また、左サイド下装飾基板４０２ｂのＬＥＤ実装面４０２ｂｘには、上述したように、ベタ塗りされた白色のレジストにより白色のレジスト層が形成されている。フルカラーＬＥＤであるｈｄＬＥＤ１～ｈｄＬＥＤ１０は、それぞれのパッケージが白色（白色と同色であると認められる色）の樹脂製であるとともに、コネクタＬＤＵＣＮは、そのハウジングが白色（ナチュラル色とも言われ、白色（ナチュラル色）と同色であると認められる色）の樹脂製である。つまり、左サイド下装飾基板４０２ｂのＬＥＤ実装面４０２ｂｘには、その全体が覆われる（ベタ塗りされる）白色のレジストと同一色（同色であると認められる色）のパッケージを有する電子部品であるフルカラーＬＥＤであるｈｄＬＥＤ１～ｈｄＬＥＤ１０と、その全体が覆われる（ベタ塗りされる）白色のレジストと同一色（同色であると認められる色）のハウジングを有するコネクタＬＤＵＣＮと、が実装されている。このように、第２実施形態では、白色を有していない図示しない抵抗やコンデンサ等の電子部品や、白色を有していないコネクタは、左サイド下装飾基板４０２ｂのＬＥＤ実装面４０２ｂｘに全く実装されていない。換言すると、白色を有していない抵抗及びコンデンサ等の電子部品や、白色を有していないコネクタは、フルカラーＬＥＤの発光によるＬＥＤ実装面における反射率が低下するものであるため、ＬＥＤ実装面に全く実装されていない。

【２３９２】

また、左サイド下装飾基板４０２ｂのＬＥＤ実装面４０２ｂｘには、左サイド下装飾基板４０２ｂのＬＥＤ実装面４０２ｂｘに実装されるフルカラーＬＥＤであるｈｄＬＥＤ１～ｈｄＬＥＤ１０への点灯検査を個別に行う（例えば、１つのフルカラーＬＥＤを構成する、赤色（Ｒ）に発光するＬＥＤ素子、緑色（Ｇ）に発光するＬＥＤ素子、及び青色（Ｂ）に発光するＬＥＤ素子に対して、ＬＥＤ素子ごとに行う）ことができる図示しない複数のチェックピンが配線パターンに接続されるテストパッド（又は、スルーホール）として形成され、複数のチェックピンの近傍に複数のチェックピンのそれぞれと対応する部品番号が、左サイド下装飾基板４０２ｂのＬＥＤ実装面４０２ｂｘにベタ塗りされた白色のレジスト上に、シルク印刷として図示しない黄色で印刷されている。複数のチェックピンは、白色のレジストが塗られていない。これにより、検査を行う作業者が図示しないブローブをチェックピンに接触させることで図示しないブローブとチェックピンとが電気的に接続されて導通する状態となって各種検査を行うことができる。なお、複数のチェックピンには、定電流駆動回路４０２ｂａｘや定電流駆動回路４０２ｂｂｘへのシリアルデータの内容を確認することができるものもある。

【２３９３】

ここで、左サイド下装飾基板４０２ｂのＬＥＤ実装面４０２ｂｘにベタ塗りされたレジス

ト液の色として白色のものを採用し、左サイド下装飾基板４０２ｂのＬＥＤ実装面４０２ｂｘにベタ塗りされた白色のレジスト上にシルク印刷された、フルカラーＬＥＤであるｈｄＬＥＤ１～ｈｄＬＥＤ１０を配置する位置を示す領域、フルカラーＬＥＤであるｈｄＬＥＤ１～ｈｄＬＥＤ１０と対応する部品番号のシルク印刷の塗料として黄色を採用した理由について説明する。まず、反射率は、白色に近いほど高くなるのに対して、黒色に近づくと低くなる。黄色の反射率は赤色の反射率と比べると白色の反射率に非常に近く、赤色の反射率は黄色の反射率と比べて白色の反射率に非常に遠い。黄色の反射率は白色塗膜の白色の反射率と比べて低いものの高い反射率を有している。このため、白色と赤色との組み合わせでは、背景が白色であると赤色が目立つこととなり、フルカラーＬＥＤであるｈｄＬＥＤ１～ｈｄＬＥＤ１０を配置する位置を示す領域、フルカラーＬＥＤであるｈｄＬＥＤ１～ｈｄＬＥＤ１０と対応する部品番号を赤色の塗料で左サイド下装飾基板４０２ｂのＬＥＤ実装面４０２ｂｘにベタ塗りされた白色のレジスト上にシルク印刷する場合には白色のレジストに対して赤色の塗料でシルク印刷された、フルカラーＬＥＤであるｈｄＬＥＤ１～ｈｄＬＥＤ１０を配置する位置を示す領域、フルカラーＬＥＤであるｈｄＬＥＤ１～ｈｄＬＥＤ１０と対応する部品番号が目立つのに対して、白色と黄色との組み合わせ（第２実施形態に係る反射率低下等の対策の構成）では、背景が白色であると黄色が目立たず、フルカラーＬＥＤであるｈｄＬＥＤ１～ｈｄＬＥＤ１０を配置する位置を示す領域、フルカラーＬＥＤであるｈｄＬＥＤ１～ｈｄＬＥＤ１０と対応する部品番号を黄色の塗料で左サイド下装飾基板４０２ｂのＬＥＤ実装面４０２ｂｘにベタ塗りされた白色のレジスト上にシルク印刷する場合には白色のレジストに対して黄色の塗料でシルク印刷された、フルカラーＬＥＤであるｈｄＬＥＤ１～ｈｄＬＥＤ１０を配置する位置を示す領域、フルカラーＬＥＤであるｈｄＬＥＤ１～ｈｄＬＥＤ１０と対応する部品番号が目立ち難い。なお、フルカラーＬＥＤであるｈｄＬＥＤ１～ｈｄＬＥＤ１０を配置する位置を示す領域、フルカラーＬＥＤであるｈｄＬＥＤ１～ｈｄＬＥＤ１０と対応する部品番号は、左サイド下装飾基板４０２ｂのＬＥＤ実装面４０２ｂｘに実装される表面側電子部品を特定可能とする表面側表記部（単に、「表記部」と記載する場合がある。）であり、表面側表記部は、表面側電子部品の部品番号、表面側電子部品を配置する位置を示す領域等の表面側電子部品の属性（さらに、表面側電子部品の形状、表面側電子部品の大きさ、表面側電子部品の実装向き（実装方向）、表面側電子部品の型式を含む場合がある。）を示すものである。

【２３９４】

また、パチンコ機１は各装飾基板に実装される複数のＬＥＤ等の発光部による電飾により煌びやかに発光演出が行われるため、フルカラーＬＥＤであるｈｄＬＥＤ１～ｈｄＬＥＤ１０は、多色発光可能なフルカラーＬＥＤであり、点灯（発光）したり、消灯したりすることによって発光態様がさまざまに変化する。このため、左サイド下装飾基板４０２ｂのＬＥＤ実装面４０２ｂｘには、上述したように、フルカラーＬＥＤ、抵抗、ＩＣ、コネクタ等の電子部品を半田付けするための電極（いわゆるパッド）、スルーホール、テストパッド、ランド等を除いた全域において、白色のレジスト液が塗布されて形成される白色塗膜（以下、単に「ベタ塗りされた白色のレジスト」と記載する場合がある。）により白色のレジスト層が形成され、さらに、このベタ塗りされた白色のレジスト上に多色発光可能なフルカラーＬＥＤを特定可能にする、フルカラーＬＥＤであるｈｄＬＥＤ１～ｈｄＬＥＤ１０を配置する位置を示す領域、フルカラーＬＥＤであるｈｄＬＥＤ１～ｈｄＬＥＤ１０と対応する部品番号が黄色の塗料でシルク印刷により印刷されることにより、多色発光可能なフルカラーＬＥＤの消灯時において白色のレジストに対して黄色の塗料でシルク印刷された、フルカラーＬＥＤであるｈｄＬＥＤ１～ｈｄＬＥＤ１０を配置する位置を示す領域、フルカラーＬＥＤであるｈｄＬＥＤ１～ｈｄＬＥＤ１０と対応する部品番号を目立たないようにすることができることに加えて、さらに、多色発光可能なフルカラーＬＥＤの点灯時（発光時）において、反射率の高いベタ塗りされた白色のレジストと、白色の反射率に非常に近い黄色の塗料でシルク印刷により印刷される、フルカラーＬＥＤであるｈｄＬＥＤ１～ｈｄＬＥＤ１０を配置する位置を示す領域、フルカラーＬＥＤであるｈｄＬ

ＥＤ１～ｈｄＬＥＤ１０と対応する部品番号と、による組み合わせによって左サイド下装飾基板４０２ｂのＬＥＤ実装面４０２ｂｘの反射率を高く維持することができる。

【２３９５】

なお、シルク印刷の塗料として黄色を採用した場合には、シルク印刷により印刷された黄色が印刷機によるバラツキにより薄い黄色となったり、濃い黄色となったりする場合もあれば、橙色に見えたりする場合もある。また、シルク印刷の塗料を供給するインク会社にも黄色に幅（明るい側に寄る黄色、暗い側による黄色）があるため、同一の基板製造会社や複数の基板会社に対してシルク印刷の塗料として黄色を指定しても、完全同一の黄色とならず（完全同一の黄色とすることが難しく）、黄色に幅がある色となる。

【２３９６】

一方、左サイド下装飾基板４０２ｂのＬＥＤ非実装面４０２ｂｙにベタ塗りされた白色のレジスト上には、図２６７に示すように、ＬＥＤ定電流駆動回路４０２ｂａを構成する定電流駆動回路４０２ｂａｘ、最大電流設定回路４０２ｂａｙの抵抗Ｒｒ，Ｒｂ，Ｒｇ、各種分散抵抗等の電子部品を配置する位置を示す領域がシルク印刷として黄色の実線（又は、黒色の実線）によりそれぞれ印刷されているとともに、これらの領域近傍に電子部品と対応する部品番号がシルク印刷として黄色（又は、黒色）でそれぞれ印刷されている。具体的には、例えば、定電流駆動回路４０２ｂａｘを配置する位置を示す領域がシルク印刷として黄色の実線（又は、黒色の実線）ＬＳＬＫａ（図２６７（ａ）を参照。）で左サイド下装飾基板４０２ｂのＬＥＤ非実装面４０２ｂｙにベタ塗りされた白色のレジスト上に印刷されているとともに、この領域ＬＳＬＫａの近傍であって上方に定電流駆動回路４０２ｂａｘと対応する部品番号であるＩＣ１（図２６７（ａ）を参照。）がシルク印刷として黄色の実線（又は、黒色の実線）で左サイド下装飾基板４０２ｂのＬＥＤ非実装面４０２ｂｙにベタ塗りされた白色のレジスト上に印刷されている。そして、最大電流設定回路４０２ｂａｙの抵抗Ｒｒ，Ｒｂ，Ｒｇを配置する位置を示す領域がシルク印刷として黄色の実線（又は、黒色の実線）ＬＳＬＫｂ，ＬＳＬＫｃ，ＬＳＬＫｄ（図２６７（ａ）を参照。）で左サイド下装飾基板４０２ｂのＬＥＤ非実装面４０２ｂｙにベタ塗りされた白色のレジスト上にそれぞれ印刷されているとともに、これらの領域ＬＳＬＫｂ，ＬＳＬＫｃ，ＬＳＬＫｄの近傍であって右方に、最大電流設定回路４０２ｂａｙの抵抗Ｒｒ，Ｒｂ，Ｒｇと対応する部品番号であるＲ１，Ｒ２，Ｒ３（図２６７（ａ）を参照。）がシルク印刷として黄色（又は、黒色）で左サイド下装飾基板４０２ｂのＬＥＤ非実装面４０２ｂｙにベタ塗りされた白色のレジスト上にそれぞれ印刷されている。

【２３９７】

また、左サイド下装飾基板４０２ｂのＬＥＤ非実装面４０２ｂｙに実装される抵抗及びコンデンサ等は白色を有していないし、また１つの半導体チップ上に集積された定電流駆動回路４０２ｂａｘ（４０２ｂｂｘ）はそのパッケージが黒色の樹脂製であり、またコネクタＬＤＬＣＮはそのハウジングが黒色、茶色、又は青色のうちいずれかの色を有する樹脂製である。このように、白色を有していない抵抗、コンデンサ、及びＩＣ等の電子部品や、白色を有していないコネクタは、フルカラーＬＥＤの発光による反射率が低下するものであるため、ＬＥＤ非実装面に実装されている。

【２３９８】

なお、第２実施形態に係る反射率低下等の対策の構成においても、左サイド下装飾基板４０２ｂのＬＥＤ実装面４０２ｂｘ，ＬＥＤ非実装面４０２ｂｙには、ベタ塗りされた白色のレジストにより白色のレジスト層が形成されている。これにより、左サイド下装飾基板４０２ｂのＬＥＤ実装面４０２ｂｘにベタ塗りされた白色のレジストにより、フルカラーＬＥＤであるｈｄＬＥＤ１～ｈｄＬＥＤ１０の発光による前方（つまりパチンコ機１の正面側）への反射率を高めることができるようになっている。

【２３９９】

また、第２実施形態に係る反射率低下等の対策の構成では、図２６５（ｂ）に示すように、皿中央上装飾基板３１４のＬＥＤ実装面３１４ｘにベタ塗りされた白色のレジスト上には、フルカラーＬＥＤであるｈＬＥＤ１～ｈＬＥＤ１０と対応する部品番号と、フルカラ

ーＬＥＤであるｈＬＥＤ１～ｈＬＥＤ１０を配置する位置を示す領域と、がシルク印刷としてそれぞれ印刷されている。具体的には、フルカラーＬＥＤであるｈＬＥＤ１～ｈＬＥＤ１０を配置する位置を示す領域がシルク印刷として黄色の実線ＨＳＬＫ１～ＨＳＬＫ１０で皿中央上装飾基板３１４のＬＥＤ実装面３１４ｘにベタ塗りされた白色のレジスト上にそれぞれ印刷されているとともに、これらの領域ＨＳＬＫ１～ＨＳＬＫ１０の近傍であって右方にフルカラーＬＥＤであるｈＬＥＤ１～ｈＬＥＤ１０と対応する部品番号であるＬＥＤ１～ＬＥＤ１０がシルク印刷として黄色で皿中央上装飾基板３１４のＬＥＤ実装面３１４ｘにベタ塗りされた白色のレジスト上にそれぞれ印刷されている。

【２４００】

なお、皿中央上装飾基板３１４のＬＥＤ実装面３１４ｘにベタ塗りされた白色のレジスト上には、コネクタＨＣＮを配置する位置を示す領域がシルク印刷として図示しない黄色の実線で印刷されているとともに、この領域の近傍にコネクタＨＣＮと対応する部品番号がシルク印刷として図示しない黄色で印刷されている。

【２４０１】

また、皿中央上装飾基板３１４のＬＥＤ実装面３１４ｘの全体が白色のレジストにより覆われている。フルカラーＬＥＤであるｈＬＥＤ１～ｈＬＥＤ１０は、それぞれのパッケージが白色（白色と同色であると認められる色）の樹脂製であるとともに、コネクタＨＣＮは、そのハウジングが白色（ナチュラル色とも言われ、白色（ナチュラル色）と同色であると認められる色）の樹脂製である。つまり、皿中央上装飾基板３１４のＬＥＤ実装面３１４ｘには、その全体が覆われる（ベタ塗りされる）白色のレジストと同一色（同色であると認められる色）のパッケージを有する電子部品であるフルカラーＬＥＤであるｈＬＥＤ１～ｈＬＥＤ１０と、その全体が覆われる（ベタ塗りされる）白色のレジストと同一色（同色であると認められる色）のハウジングを有するコネクタＨＣＮとが実装されている。このように、第２実施形態では、白色を有していない図示しない抵抗やコンデンサ等の電子部品や、白色を有していないコネクタは、皿中央上装飾基板３１４のＬＥＤ実装面３１４ｘに全く実装されていない。換言すると、白色を有していない抵抗及びコンデンサ等の電子部品や、白色を有していないコネクタは、フルカラーＬＥＤの発光によるＬＥＤ実装面における反射率が低下するものであるため、ＬＥＤ実装面に全く実装されていない。

【２４０２】

また、皿中央上装飾基板３１４のＬＥＤ実装面３１４ｘには、皿中央上装飾基板３１４のＬＥＤ実装面３１４ｘに実装されるフルカラーＬＥＤであるｈＬＥＤ１～ｈＬＥＤ１０への点灯検査を個別に行う（例えば、１つのフルカラーＬＥＤを構成する、赤色（Ｒ）に発光するＬＥＤ素子、緑色（Ｇ）に発光するＬＥＤ素子、及び青色（Ｂ）に発光するＬＥＤ素子に対して、ＬＥＤ素子ごとに行う）ことができる図示しない複数のチェックピンが配線パターンに接続されるテストパッド（又は、スルーホール）として形成され、複数のチェックピンの近傍に複数のチェックピンのそれぞれと対応する部品番号が、皿中央上装飾基板３１４のＬＥＤ実装面３１４ｘにベタ塗りされた白色のレジスト上に、シルク印刷として図示しない黄色で印刷されている。複数のチェックピンは、白色のレジストが塗られていない。これにより、検査を行う作業者が図示しないブローブをチェックピンに接触させることで図示しないブローブとチェックピンとが電気的に接続されて導通する状態となって各種検査を行うことができる。なお、複数のチェックピンには、定電流駆動回路３１４ａｘや定電流駆動回路３１４ｂｘへのシリアルデータの内容を確認することができるものもある。

【２４０３】

ここで、皿中央上装飾基板３１４のＬＥＤ実装面３１４ｘにベタ塗りされたレジスト液の色として白色のものを採用し、皿中央上装飾基板３１４のＬＥＤ実装面３１４ｘにベタ塗りされた白色のレジスト上にシルク印刷された、フルカラーＬＥＤであるｈＬＥＤ１～ｈＬＥＤ１０を配置する位置を示す領域、フルカラーＬＥＤであるｈＬＥＤ１～ｈＬＥＤ１０と対応する部品番号のシルク印刷の塗料として黄色を採用した理由について説明する。まず、反射率は、白色に近いほど高くなるのに対して、黒色に近づくと低くなる。黄色の

反射率は赤色の反射率と比べると白色の反射率に非常に近く、赤色の反射率は黄色の反射率と比べて白色の反射率に非常に遠い。黄色の反射率は白色塗膜の白色の反射率と比べて低いものの高い反射率を有している。このため、白色と赤色との組み合わせでは、背景が白色であると赤色が目立つこととなり、フルカラーＬＥＤであるｈＬＥＤ１～ｈＬＥＤ１０を配置する位置を示す領域、フルカラーＬＥＤであるｈＬＥＤ１～ｈＬＥＤ１０と対応する部品番号を赤色の塗料で皿中央上装飾基板３１４のＬＥＤ実装面３１４ｘにベタ塗りされた白色のレジスト上にシルク印刷する場合には白色のレジストに対して赤色の塗料でシルク印刷された、フルカラーＬＥＤであるｈＬＥＤ１～ｈＬＥＤ１０を配置する位置を示す領域、フルカラーＬＥＤであるｈＬＥＤ１～ｈＬＥＤ１０と対応する部品番号が目立つのに対して、白色と黄色との組み合わせ（第２実施形態に係る反射率低下等の対策の構成）では、背景が白色であると黄色が目立たず、フルカラーＬＥＤであるｈＬＥＤ１～ｈＬＥＤ１０を配置する位置を示す領域、フルカラーＬＥＤであるｈＬＥＤ１～ｈＬＥＤ１０と対応する部品番号を黄色の塗料で皿中央上装飾基板３１４のＬＥＤ実装面３１４ｘにベタ塗りされた白色のレジスト上にシルク印刷する場合には白色のレジストに対して黄色の塗料でシルク印刷された、フルカラーＬＥＤであるｈＬＥＤ１～ｈＬＥＤ１０を配置する位置を示す領域、フルカラーＬＥＤであるｈＬＥＤ１～ｈＬＥＤ１０と対応する部品番号が目立ち難い。なお、フルカラーＬＥＤであるｈＬＥＤ１～ｈＬＥＤ１０を配置する位置を示す領域、フルカラーＬＥＤであるｈＬＥＤ１～ｈＬＥＤ１０と対応する部品番号は、皿中央上装飾基板３１４のＬＥＤ実装面３１４ｘに実装される表面側電子部品を特定可能とする表面側表記部（単に、「表記部」と記載する場合がある。）であり、表面側表記部は、表面側電子部品の部品番号、表面側電子部品を配置する位置を示す領域等の表面側電子部品の属性（さらに、表面側電子部品の形状、表面側電子部品の大きさ、表面側電子部品の実装向き（実装方向）、表面側電子部品の型式を含む場合がある。）を示すものである。

【２４０４】

また、パチンコ機１は各装飾基板に実装される複数のＬＥＤ等の発光部による電飾により煌びやかに発光演出が行われるため、フルカラーＬＥＤであるｈＬＥＤ１～ｈＬＥＤ１０は、多色発光可能なフルカラーＬＥＤであり、点灯（発光）したり、消灯したりすることによって発光態様がさまざまに変化する。このため、皿中央上装飾基板３１４のＬＥＤ実装面３１４ｘには、上述したように、フルカラーＬＥＤ、抵抗、ＩＣ、コネクタ等の電子部品を半田付けするための電極（いわゆるパッド）、スルーホール、テストパッド、ランド等を除いた全域において、白色のレジスト液が塗布されて形成される白色塗膜（以下、単に「ベタ塗りされた白色のレジスト」と記載する場合がある。）により白色のレジスト層が形成され、さらに、このベタ塗りされた白色のレジスト上に多色発光可能なフルカラーＬＥＤを特定可能にする、フルカラーＬＥＤであるｈＬＥＤ１～ｈＬＥＤ１０を配置する位置を示す領域、フルカラーＬＥＤであるｈＬＥＤ１～ｈＬＥＤ１０と対応する部品番号が黄色の塗料でシルク印刷により印刷されることにより、多色発光可能なフルカラーＬＥＤの消灯時において白色のレジストに対して黄色の塗料でシルク印刷された、フルカラーＬＥＤであるｈＬＥＤ１～ｈＬＥＤ１０を配置する位置を示す領域、フルカラーＬＥＤであるｈＬＥＤ１～ｈＬＥＤ１０と対応する部品番号を目立たないようにすることができることに加えて、さらに、多色発光可能なフルカラーＬＥＤの点灯時（発光時）において、反射率の高いベタ塗りされた白色のレジストと、白色の反射率に非常に近い黄色の塗料でシルク印刷により印刷される、フルカラーＬＥＤであるｈＬＥＤ１～ｈＬＥＤ１０を配置する位置を示す領域、フルカラーＬＥＤであるｈＬＥＤ１～ｈＬＥＤ１０と対応する部品番号と、による組み合わせによって皿中央上装飾基板３１４のＬＥＤ実装面３１４ｘの反射率を高く維持することができる。

【２４０５】

なお、シルク印刷の塗料として黄色を採用した場合に、シルク印刷を印刷機によるバラツキにより薄い黄色となったり、濃い黄色となったりする場合もあれば、橙色に見えたりする場合もあるし、シルク印刷の塗料を供給するインク会社にも黄色に幅（明るい側に寄る

黄色、暗い側による黄色）があるため、同一の基板製造会社や複数の基板会社に対してシルク印刷の塗料として黄色を指定しても、完全同一の黄色とならず（完全同一の黄色とすることが難しく）、黄色に幅がある色となる。

【２４０６】

一方、皿中央上装飾基板３１４のＬＥＤ非実装面３１４ｙにベタ塗りされた白色のレジスト上には、ＬＥＤ定電流駆動回路３１４ａを構成する定電流駆動回路３１４ａｘ、最大電流設定回路３１４ａｙの抵抗Ｒｒ，Ｒｂ，Ｒｇ、各種分散抵抗等の電子部品を配置する位置を示す領域がシルク印刷として図示しない黄色の実線（又は、黒色の実線）によりそれぞれ印刷されているとともに、これらの領域近傍に電子部品と対応する部品番号がシルク印刷として図示しない黄色（又は、黒色）でそれぞれ印刷されている。

【２４０７】

第２実施形態では、皿中央上装飾基板３１４のＬＥＤ非実装面３１４ｙに実装される抵抗及びコンデンサ等は白色を有していないし、また１つの半導体チップ上に集積された定電流駆動回路３１４ａｘ（３１４ｂｘ）はそのパッケージが黒色の樹脂製である。このように、白色を有していない抵抗、コンデンサ、及びＩＣ等の電子部品は、フルカラーＬＥＤの発光による反射率が低下するものであるため、ＬＥＤ非実装面に実装されている。

【２４０８】

なお、第２実施形態に係る反射率低下等の対策の構成においても、皿中央上装飾基板３１４のＬＥＤ実装面３１４ｘ，ＬＥＤ非実装面３１４ｙには、ベタ塗りされた白色のレジストにより白色のレジスト層が形成されている。これにより、皿中央上装飾基板３１４のＬＥＤ実装面３１４ｘにベタ塗りされた白色のレジストにより、フルカラーＬＥＤであるｈＬＥＤ１～ｈＬＥＤ１０の発光による前方（つまり演出操作ユニット３００の上方へ向かう側）への反射率を高めることができるようになっている。

【２４０９】

このように、第１実施形態に係る反射率低下等の対策の構成では、左サイド下装飾基板４０２ｂのＬＥＤ実装面４０２ｂｘにベタ塗りされた白色のレジスト上には、フルカラーＬＥＤであるｈｄＬＥＤ１～ｈｄＬＥＤ１０と対応する部品番号と、フルカラーＬＥＤであるｈｄＬＥＤ１～ｈｄＬＥＤ１０を配置する位置を示す領域と、がシルク印刷として全く印刷されていないとともに、皿中央上装飾基板３１４のＬＥＤ実装面３１４ｘにベタ塗りされた白色のレジスト上には、フルカラーＬＥＤであるｈＬＥＤ１～ｈＬＥＤ１０と対応する部品番号と、フルカラーＬＥＤであるｈＬＥＤ１～ｈＬＥＤ１０を配置する位置を示す領域と、がシルク印刷として全く印刷されていないのに対して、第２実施形態に係る反射率低下等の対策の構成では、左サイド下装飾基板４０２ｂのＬＥＤ実装面４０２ｂｘにベタ塗りされた白色のレジスト上には、フルカラーＬＥＤであるｈｄＬＥＤ１～ｈｄＬＥＤ１０と対応する部品番号（黄色の文字及び黄色の数字）と、フルカラーＬＥＤであるｈｄＬＥＤ１～ｈｄＬＥＤ１０を配置する位置を示す領域（黄色の実線）と、がシルク印刷としてそれぞれ印刷されているとともに、皿中央上装飾基板３１４のＬＥＤ実装面３１４ｘにベタ塗りされた白色のレジスト上には、フルカラーＬＥＤであるｈＬＥＤ１～ｈＬＥＤ１０と対応する部品番号（黄色の文字及び黄色の数字）と、フルカラーＬＥＤであるｈＬＥＤ１～ｈＬＥＤ１０を配置する位置を示す領域（黄色の実線）と、がシルク印刷としてそれぞれ印刷されているという点で相違している。

【２４１０】

左サイド下装飾基板４０２ｂのＬＥＤ実装面４０２ｂｘにベタ塗りされた白色のレジストにより、フルカラーＬＥＤであるｈｄＬＥＤ１～ｈｄＬＥＤ１０の発光による前方（つまりパチンコ機１の正面側）への反射率を高めることができるようになっている。また、皿中央上装飾基板３１４のＬＥＤ実装面３１４ｘにベタ塗りされた白色のレジストにより、フルカラーＬＥＤであるｈＬＥＤ１～ｈＬＥＤ１０の発光による前方（つまり演出操作ユニット３００の上方へ向かう側）への反射率を高めることができるようになっている。このため、フルカラーＬＥＤと対応する部品番号、及びフルカラーＬＥＤを配置する位置を示す領域が、左サイド下装飾基板４０２ｂのＬＥＤ実装面４０２ｂｘにベタ塗りされた白

色のレジスト上に、シルク印刷として黒色で印刷されている場合には、黒色に印刷されたシルク印刷により、フルカラーＬＥＤの発光によるＬＥＤ実装面における反射率が低下することとなり、フルカラーＬＥＤの発光が効率良く使用されないという問題が生ずる。また、扉枠３に設けられる各種装飾体（例えば、図７５に示した、皿左上装飾体２７１、皿左下装飾体２８１、皿右上装飾体２７６、皿右下装飾体２８６、ユニット前カバー３１２の皿中央上装飾体３１２ａ及び皿中央下装飾体３１２ｂ、扉枠左サイド装飾体４０４、サイド窓内装飾部材４１２、扉枠右サイド装飾体４１９、扉枠トップ装飾体４５３）は、上述したように、透明に形成されており、パチンコ機１の前方に着座した遊技者が頭（顔）を動かすことで頭（顔）の方向により視線が変化するため、扉枠３に設けられる各種装飾体に備える各種装飾基板のＬＥＤ実装面を遊技者が視認することができる場合がある。そうすると、遊技者にとって遊技と全く関係を持たないフルカラーＬＥＤと対応する部品番号、及びフルカラーＬＥＤを配置する位置を示す領域が遊技者に視認されるという問題が生ずる。

【２４１１】

そこで、第２実施形態に係る反射率低下等の対策の構成では、遊技者にとって遊技と全く関係を持たないフルカラーＬＥＤと対応する部品番号、及びフルカラーＬＥＤを配置する位置を示す領域をシルク印刷として、黒色と異なり、明色である黄色でＬＥＤ実装面にベタ塗りされた白色のレジスト上に印刷することにより、ＬＥＤ実装面に形成される白色のレジスト上において、フルカラーＬＥＤの実装位置を示す補助線（つまり、フルカラーＬＥＤを配置する位置を示す領域）を見つけ出したり、フルカラーＬＥＤを特定する番号（つまり、フルカラーＬＥＤと対応する部品番号）を見つけ出したりすることを困難とすることができる。

【２４１２】

また、第２実施形態に係る反射率低下等の対策の構成では、フルカラーＬＥＤと対応する部品番号、及びフルカラーＬＥＤを配置する位置を示す領域をシルク印刷として、黒色と異なり、明色である黄色でＬＥＤ実装面にベタ塗りされた白色のレジスト上に印刷することにより、フルカラーＬＥＤの発光によるＬＥＤ実装面における反射率が低下することを防止することができる。

【２４１３】

第２実施形態に係る反射率低下等の対策の構成においても、第１実施形態に係る反射率低下等の対策の構成と同様な作用効果を奏することができる。つまり、フルカラーＬＥＤを特定する番号（つまり、フルカラーＬＥＤと対応する部品番号）やフルカラーＬＥＤの実装位置を示す補助線（つまり、フルカラーＬＥＤを配置する位置を示す領域）を遊技者に視認困難とすることができるとともに、フルカラーＬＥＤの発光によるＬＥＤ実装面における反射率が低下することを防止することができる。

【２４１４】

なお、第２実施形態に係る反射率低下等の対策の構成において、フルカラーＬＥＤの実装位置を示す補助線（つまり、フルカラーＬＥＤを配置する位置を示す領域をシルク印刷として、黒色と異なり、明色である黄色でＬＥＤ実装面にベタ塗りされた白色のレジスト上に印刷する際）に、フルカラーＬＥＤの極性を表す記号（回路図に使用する記号（アノード端子とカソード端子とが判別できる記号）でもよいし、回路図に使用する記号（アノード端子とカソード端子とが判別できる記号）を簡略化したものでもよい）を付加してフルカラーＬＥＤの実装向きを明示するように構成してもよい。

【２４１５】

また、第２実施形態では、フルカラーＬＥＤの発光によるＬＥＤ実装面における反射率が低下する白色を有していない抵抗及びコンデンサ等の電子部品や、白色を有していないコネクタは、フルカラーＬＥＤの発光によるＬＥＤ実装面における反射率が低下するものであるため、ＬＥＤ実装面に全く実装されていなかったが、フルカラーＬＥＤの発光によるＬＥＤ実装面のうち、前方に配置される部材と対応する領域がＬＥＤ実装面における反射率に寄与することが困難である場合には、その領域に、白色を有していない抵抗及びコン

デンサ等の電子部品や、白色を有していないコネクタを配置してもよい。この場合、ＬＥＤ実装面にベタ塗りされた白色のレジスト上には、電子部品やコネクタを配置する位置を示す領域がシルク印刷として図示しない黄色の実線で印刷されるとともに、この領域の近傍に、電子部品やコネクタと対応する部品番号がシルク印刷として図示しない黄色で印刷される。

【２４１６】

また、第２実施形態に係る反射率低下等の対策の構成では、フルカラーＬＥＤを配置する位置を示す領域がフルカラーＬＥＤの外形より大きい形状を有してシルク印刷として黄色の実線でＬＥＤ実装面にベタ塗りされた白色のレジスト上に印刷されて構成していたが、フルカラーＬＥＤを配置する位置を示す領域を、フルカラーＬＥＤの外形より小さい形状（例えば、フルカラーＬＥＤ本体より小さい四角形状、単に一本の太線）を有してシルク印刷として黄色の実線でＬＥＤ実装面にベタ塗りされた白色のレジスト上に印刷されるように構成してもよい。こうすれば、フルカラーＬＥＤがＬＥＤ実装面に実装された場合に、シルク印刷により印刷されたフルカラーＬＥＤを配置する位置を示す領域がフルカラーＬＥＤ本体により覆い被されるため、フルカラーＬＥＤ本体を囲む黄色の実線が存在しなくなり、ＬＥＤ実装面の反射率をさらに高めることに寄与することができる。

【２４１７】

［第１実施形態に係る反射率低下等の対策の構成と第３実施形態に係る反射率低下等の対策の構成との対比］

第１実施形態に係る反射率低下等の対策の構成では、上述したように、左サイド下装飾基板４０２ｂのＬＥＤ実装面４０２ｂｘにベタ塗りされた白色のレジスト上には、フルカラーＬＥＤであるｈｄＬＥＤ１～ｈｄＬＥＤ１０と対応する部品番号と、フルカラーＬＥＤであるｈｄＬＥＤ１～ｈｄＬＥＤ１０を配置する位置を示す領域と、がシルク印刷として全く印刷されていない。そして、左サイド下装飾基板４０２ｂのＬＥＤ非実装面４０２ｂｙにベタ塗りされた白色のレジスト上には、上述したように、ＬＥＤ定電流駆動回路４０２ｂａを構成する定電流駆動回路４０２ｂａｘ、最大電流設定回路４０２ｂａｙの抵抗Ｒｒ，Ｒｂ，Ｒｇ、各種分散抵抗等の電子部品を配置する位置を示す領域がシルク印刷として黄色の実線（又は、黒色の実線）によりそれぞれ印刷されているとともに、これらの領域近傍に電子部品と対応する部品番号がシルク印刷として黄色（又は、黒色）でそれぞれ印刷されている。また、左サイド下装飾基板４０２ｂのＬＥＤ非実装面４０２ｂｙにベタ塗りされた白色のレジスト上には、上述したように、左サイド下装飾基板４０２ｂのＬＥＤ実装面４０２ｂｘに実装されるフルカラーＬＥＤであるｈｄＬＥＤ１～ｈｄＬＥＤ１０と対応する領域がシルク印刷として黄色の鎖線（又は、黒色の鎖線）でそれぞれ印刷されているとともに、これらの領域近傍にフルカラーＬＥＤであるｈｄＬＥＤ１～ｈｄＬＥＤ１０と対応する部品番号がシルク印刷として黄色（又は、黒色）でそれぞれ印刷されている。

【２４１８】

また、第１実施形態に係る反射率低下等の対策の構成では、上述したように、皿中央上装飾基板３１４のＬＥＤ実装面３１４ｘにベタ塗りされた白色のレジスト上には、フルカラーＬＥＤであるｈＬＥＤ１～ｈＬＥＤ１０と対応する部品番号と、フルカラーＬＥＤであるｈＬＥＤ１～ｈＬＥＤ１０を配置する位置を示す領域と、がシルク印刷として全く印刷されていない。そして、皿中央上装飾基板３１４のＬＥＤ非実装面３１４ｙにベタ塗りされた白色のレジスト上には、上述したように、ＬＥＤ定電流駆動回路３１４ａを構成する定電流駆動回路３１４ａｘ、最大電流設定回路３１４ａｙの抵抗Ｒｒ，Ｒｂ，Ｒｇ、各種分散抵抗等の電子部品を配置する位置を示す領域がシルク印刷として図示しない黄色の実線（又は、黒色の実線）によりそれぞれ印刷されているとともに、これらの領域近傍に電子部品と対応する部品番号がシルク印刷として図示しない黄色（又は、黒色）でそれぞれ印刷されている。また、皿中央上装飾基板３１４のＬＥＤ非実装面３１４ｙにベタ塗りされた白色のレジスト上には、上述したように、皿中央上装飾基板３１４のＬＥＤ実装面３１４ｘに実装されるフルカラーＬＥＤであるｈＬＥＤ１～ｈＬＥＤ１０と対応する領域が

シルク印刷として図示しない黄色の鎖線（又は、黒色の鎖線）ＨＳＬＫ１～ＨＳＬＫ１０でそれぞれ印刷されているとともに、これらの領域ＨＳＬＫ１～ＨＳＬＫ１０の近傍にフルカラーＬＥＤであるｈＬＥＤ１～ｈＬＥＤ１０と対応する部品番号がシルク印刷として図示しない黄色（又は、黒色）でそれぞれ印刷されている。

【２４１９】

これに対して、第３実施形態に係る反射率低下等の対策の構成では、図２６６（ａ）に示すように、左サイド下装飾基板４０２ｂのＬＥＤ実装面４０２ｂｘには、フルカラーＬＥＤであるｈｄＬＥＤ１～ｈｄＬＥＤ１０と対応する部品番号が箔抜き文字（つまり、配線パターンが形成される層（銅プレーン）において銅箔である配線パターンで文字を作りその周囲の銅箔を抜いて形成される抜き文字（図２６６（ｃ）には、フルカラーＬＥＤであるｈｄＬＥＤ７と対応する部品番号として箔抜き文字ＬＥＤ７のみ表した。））として形成されるとともに、フルカラーＬＥＤであるｈｄＬＥＤ１～ｈｄＬＥＤ１０を配置する位置を示す領域が図示しない各端子及び図示しない配線パターンを除く箔抜き領域（つまり、配線パターンが形成される層（銅プレーン）において、各端子及び配線パターンを除いて、銅箔を抜いて形成される領域（図２６６（ｃ）には、フルカラーＬＥＤであるｈｄＬＥＤ７と対応する領域として箔抜き領域ＬＳＬＫ７のみ表した。））として形成されており、左サイド下装飾基板４０２ｂのＬＥＤ実装面４０２ｂｘにベタ塗りされる白色のレジストによりその箔抜き領域とその箔抜き文字とがそれぞれ覆われている。具体的には、フルカラーＬＥＤであるｈｄＬＥＤ１～ｈｄＬＥＤ１０を配置する位置を示す領域が箔抜き領域ＬＳＬＫ１～ＬＳＬＫ１０として左サイド下装飾基板４０２ｂのＬＥＤ実装面４０２ｂｘにそれぞれ形成されているとともに、これらの箔抜き領域ＬＳＬＫ１～ＬＳＬＫ１０の近傍であって左方又は上方にフルカラーＬＥＤであるｈｄＬＥＤ１～ｈｄＬＥＤ１０と対応する部品番号であるＬＥＤ１～ＬＥＤ１０が抜き文字として左サイド下装飾基板４０２ｂのＬＥＤ実装面４０２ｂｘにそれぞれ形成され、左サイド下装飾基板４０２ｂのＬＥＤ実装面４０２ｂｘにベタ塗りされる白色のレジストによりその箔抜き領域とその箔抜き文字とがそれぞれ覆われている。箔抜き文字を形成する配線パターンは、電子部品と電気的に絶縁されて形成されている。

【２４２０】

なお、左サイド下装飾基板４０２ｂのＬＥＤ実装面４０２ｂｘには、コネクタＬＤＬＣＮを配置する位置を示す領域が図示しない各端子及び図示しない配線パターンを除く図示しない箔抜き領域（つまり、配線パターンが形成される層（銅プレーン）において、各端子及び配線パターンを除いて、銅箔を抜いて形成される領域）として形成されているとともに、この領域の近傍にコネクタＬＤＬＣＮと対応する部品番号が図示しない箔抜き文字（つまり、配線パターンが形成される層（銅プレーン）において銅箔である配線パターンで文字を作りその周囲の銅箔を抜いて形成される抜き文字）として形成されている。

【２４２１】

また、左サイド下装飾基板４０２ｂのＬＥＤ実装面４０２ｂｘには、上述したように、ベタ塗りされた白色のレジストにより白色のレジスト層が形成されている。フルカラーＬＥＤであるｈｄＬＥＤ１～ｈｄＬＥＤ１０は、それぞれのパッケージが白色（白色と同色であると認められる色）の樹脂製であるとともに、コネクタＬＤＵＣＮは、そのハウジングが白色（ナチュラル色とも言われ、白色（ナチュラル色）と同色であると認められる色）の樹脂製である。つまり、左サイド下装飾基板４０２ｂのＬＥＤ実装面４０２ｂｘには、その全体が覆われる（ベタ塗りされる）白色のレジストと同一色（同色であると認められる色）のパッケージを有する電子部品であるフルカラーＬＥＤであるｈｄＬＥＤ１～ｈｄＬＥＤ１０と、その全体が覆われる（ベタ塗りされる）白色のレジストと同一色（同色であると認められる色）のハウジングを有するコネクタＬＤＵＣＮと、が実装されている。このように、第３実施形態では、白色を有していない図示しない抵抗やコンデンサ等の電子部品や、白色を有していないコネクタは、左サイド下装飾基板４０２ｂのＬＥＤ実装面４０２ｂｘに全く実装されていない。換言すると、白色を有していない抵抗及びコンデンサ等の電子部品や、白色を有していないコネクタは、フルカラーＬＥＤの発光によるＬＥ

Ｄ実装面における反射率が低下するものであるため、ＬＥＤ実装面に全く実装されていない。

【２４２２】

また、左サイド下装飾基板４０２ｂのＬＥＤ実装面４０２ｂｘには、左サイド下装飾基板４０２ｂのＬＥＤ実装面４０２ｂｘに実装されるフルカラーＬＥＤであるｈｄＬＥＤ１～ｈｄＬＥＤ１０への点灯検査を個別に行う（例えば、１つのフルカラーＬＥＤを構成する、赤色（Ｒ）に発光するＬＥＤ素子、緑色（Ｇ）に発光するＬＥＤ素子、及び青色（Ｂ）に発光するＬＥＤ素子に対して、ＬＥＤ素子ごとに行う）ことができる図示しない複数のチェックピンが配線パターンに接続されるテストパッド（又は、スルーホール）として形成され、複数のチェックピンの近傍に複数のチェックピンのそれぞれと対応する部品番号が図示しない箔抜き文字（つまり、配線パターンが形成される層（銅プレーン）において銅箔である配線パターンで文字を作りその周囲の銅箔を抜いて形成される抜き文字）として形成されている。複数のチェックピンは、白色のレジストが塗られていない。これにより、検査を行う作業者が図示しないブローブをチェックピンに接触させることで図示しないブローブとチェックピンとが電気的に接続されて導通する状態となって各種検査を行うことができる。なお、複数のチェックピンには、定電流駆動回路４０２ｂａｘや定電流駆動回路４０２ｂｂｘへのシリアルデータの内容を確認することができるものもある。

【２４２３】

一方、左サイド下装飾基板４０２ｂのＬＥＤ非実装面４０２ｂｙにベタ塗りされた白色のレジスト上には、図２６７に示すように、ＬＥＤ定電流駆動回路４０２ｂａを構成する定電流駆動回路４０２ｂａｘ、最大電流設定回路４０２ｂａｙの抵抗Ｒｒ，Ｒｂ，Ｒｇ、各種分散抵抗等の電子部品を配置する位置を示す領域がシルク印刷として黄色の実線（又は、黒色の実線）によりそれぞれ印刷されているとともに、これらの領域近傍に電子部品と対応する部品番号がシルク印刷として黄色（又は、黒色）でそれぞれ印刷されている。具体的には、例えば、定電流駆動回路４０２ｂａｘを配置する位置を示す領域がシルク印刷として黄色の実線（又は、黒色の実線）ＬＳＬＫａ（図２６７（ａ）を参照。）で左サイド下装飾基板４０２ｂのＬＥＤ非実装面４０２ｂｙにベタ塗りされた白色のレジスト上に印刷されているとともに、この領域ＬＳＬＫａの近傍であって上方に定電流駆動回路４０２ｂａｘと対応する部品番号であるＩＣ１（図２６７（ａ）を参照。）がシルク印刷として黄色の実線（又は、黒色の実線）で左サイド下装飾基板４０２ｂのＬＥＤ非実装面４０２ｂｙにベタ塗りされた白色のレジスト上に印刷されている。そして、最大電流設定回路４０２ｂａｙの抵抗Ｒｒ，Ｒｂ，Ｒｇを配置する位置を示す領域がシルク印刷として黄色の実線（又は、黒色の実線）ＬＳＬＫｂ，ＬＳＬＫｃ，ＬＳＬＫｄ（図２６７（ａ）を参照。）で左サイド下装飾基板４０２ｂのＬＥＤ非実装面４０２ｂｙにベタ塗りされた白色のレジスト上にそれぞれ印刷されているとともに、これらの領域ＬＳＬＫｂ，ＬＳＬＫｃ，ＬＳＬＫｄの近傍であって右方に、最大電流設定回路４０２ｂａｙの抵抗Ｒｒ，Ｒｂ，Ｒｇと対応する部品番号であるＲ１，Ｒ２，Ｒ３（図２６７（ａ）を参照。）がシルク印刷として黄色（又は、黒色）で左サイド下装飾基板４０２ｂのＬＥＤ非実装面４０２ｂｙにベタ塗りされた白色のレジスト上にそれぞれ印刷されている。

【２４２４】

また、左サイド下装飾基板４０２ｂのＬＥＤ非実装面４０２ｂｙに実装される抵抗及びコンデンサ等は白色を有していないし、また１つの半導体チップ上に集積された定電流駆動回路４０２ｂａｘ（４０２ｂｂｘ）はそのパッケージが黒色の樹脂製であり、またコネクタＬＤＬＣＮはそのハウジングが黒色、茶色、又は青色のうちいずれかの色を有する樹脂製である。このように、白色を有していない抵抗、コンデンサ、及びＩＣ等の電子部品や、白色を有していないコネクタは、フルカラーＬＥＤの発光による反射率が低下するものであるため、ＬＥＤ非実装面に実装されている。

【２４２５】

なお、第３実施形態に係る反射率低下等の対策の構成においても、左サイド下装飾基板４０２ｂのＬＥＤ実装面４０２ｂｘ，ＬＥＤ非実装面４０２ｂｙには、ベタ塗りされた白色

のレジストにより白色のレジスト層が形成されている。これにより、左サイド下装飾基板４０２ｂのＬＥＤ実装面４０２ｂｘにベタ塗りされた白色のレジストにより、フルカラーＬＥＤであるｈｄＬＥＤ１～ｈｄＬＥＤ１０の発光による前方（つまりパチンコ機１の正面側）への反射率を高めることができるようになっている。

【２４２６】

また、第３実施形態に係る反射率低下等の対策の構成では、図２６６（ｂ）に示すように、皿中央上装飾基板３１４のＬＥＤ実装面３１４ｘには、フルカラーＬＥＤであるｈＬＥＤ１～ｈＬＥＤ１０と対応する部品番号が箔抜き文字（つまり、配線パターンが形成される層（銅プレーン）において銅箔である配線パターンで文字を作りその周囲の銅箔を抜いて形成される抜き文字）として形成されるとともに、フルカラーＬＥＤであるｈＬＥＤ１～ｈＬＥＤ１０を配置する位置を示す領域が図示しない各端子及び図示しない配線パターンを除く箔抜き領域（つまり、配線パターンが形成される層（銅プレーン）において、各端子及び配線パターンを除いて、銅箔を抜いて形成される領域）として形成されており、皿中央上装飾基板３１４のＬＥＤ実装面３１４ｘにベタ塗りされる白色のレジストによりその箔抜き領域とその箔抜き文字とがそれぞれ覆われている。具体的には、フルカラーＬＥＤであるｈＬＥＤ１～ｈＬＥＤ１０を配置する位置を示す領域が箔抜き領域ＨＳＬＫ１～ＨＳＬＫ１０として皿中央上装飾基板３１４のＬＥＤ実装面３１４ｘにそれぞれ形成されているとともに、これらの箔抜き領域ＨＳＬＫ１～ＨＳＬＫ１０の近傍であって右方にフルカラーＬＥＤであるｈＬＥＤ１～ｈＬＥＤ１０と対応する部品番号であるＬＥＤ１～ＬＥＤ１０が抜き文字として皿中央上装飾基板３１４のＬＥＤ実装面３１４ｘにそれぞれ形成され、皿中央上装飾基板３１４のＬＥＤ実装面３１４ｘにベタ塗りされる白色のレジストによりその箔抜き領域とその箔抜き文字とがそれぞれ覆われている。箔抜き文字を形成する配線パターンは、電子部品と電気的に絶縁されて形成されている。

【２４２７】

なお、皿中央上装飾基板３１４のＬＥＤ実装面３１４ｘには、コネクタＨＣＮを配置する位置を示す領域が図示しない各端子及び図示しない配線パターンを除く図示しない箔抜き領域（つまり、配線パターンが形成される層（銅プレーン）において、各端子及び配線パターンを除いて、銅箔を抜いて形成される領域）として形成されているとともに、この領域の近傍にコネクタＨＣＮと対応する部品番号が図示しない箔抜き文字（つまり、配線パターンが形成される層（銅プレーン）において銅箔である配線パターンで文字を作りその周囲の銅箔を抜いて形成される抜き文字）として形成されている。

【２４２８】

また、皿中央上装飾基板３１４のＬＥＤ実装面３１４ｘの全体が白色のレジストにより覆われている。フルカラーＬＥＤであるｈＬＥＤ１～ｈＬＥＤ１０は、それぞれのパッケージが白色（白色と同色であると認められる色）の樹脂製であるとともに、コネクタＨＣＮは、そのハウジングが白色（ナチュラル色とも言われ、白色（ナチュラル色）と同色であると認められる色）の樹脂製である。つまり、皿中央上装飾基板３１４のＬＥＤ実装面３１４ｘには、その全体が覆われる（ベタ塗りされる）白色のレジストと同一色（同色であると認められる色）のパッケージを有する電子部品であるフルカラーＬＥＤであるｈＬＥＤ１～ｈＬＥＤ１０と、その全体が覆われる（ベタ塗りされる）白色のレジストと同一色（同色であると認められる色）のハウジングを有するコネクタＨＣＮとが実装されている。このように、第３実施形態では、白色を有していない図示しない抵抗やコンデンサ等の電子部品や、白色を有していないコネクタは、皿中央上装飾基板３１４のＬＥＤ実装面３１４ｘに全く実装されていない。換言すると、白色を有していない抵抗及びコンデンサ等の電子部品や、白色を有していないコネクタは、フルカラーＬＥＤの発光によるＬＥＤ実装面における反射率が低下するものであるため、ＬＥＤ実装面に全く実装されていない。

【２４２９】

また、皿中央上装飾基板３１４のＬＥＤ実装面３１４ｘには、皿中央上装飾基板３１４のＬＥＤ実装面３１４ｘに実装されるフルカラーＬＥＤであるｈＬＥＤ１～ｈＬＥＤ１０への点灯検査を個別に行う（例えば、１つのフルカラーＬＥＤを構成する、赤色（Ｒ）に発

光するＬＥＤ素子、緑色（Ｇ）に発光するＬＥＤ素子、及び青色（Ｂ）に発光するＬＥＤ素子に対して、ＬＥＤ素子ごとに行う）ことができる図示しない複数のチェックピンが配線パターンに接続されるテストパッド（又は、スルーホール）として形成され、複数のチェックピンの近傍に複数のチェックピンのそれぞれと対応する部品番号が図示しない箔抜き文字（つまり、配線パターンが形成される層（銅プレーン）において銅箔である配線パターンで文字を作りその周囲の銅箔を抜いて形成される抜き文字）として形成されている。複数のチェックピンは、白色のレジストが塗られていない。これにより、検査を行う作業者が図示しないブローブをチェックピンに接触させることで図示しないブローブとチェックピンとが電気的に接続されて導通する状態となって各種検査を行うことができる。なお、複数のチェックピンには、定電流駆動回路３１４ａｘや定電流駆動回路３１４ｂｘへのシリアルデータの内容を確認することができるものもある。

【２４３０】

一方、皿中央上装飾基板３１４のＬＥＤ非実装面３１４ｙにベタ塗りされた白色のレジスト上には、ＬＥＤ定電流駆動回路３１４ａを構成する定電流駆動回路３１４ａｘ、最大電流設定回路３１４ａｙの抵抗Ｒｒ，Ｒｂ，Ｒｇ、各種分散抵抗等の電子部品を配置する位置を示す領域がシルク印刷として図示しない黄色の実線（又は、黒色の実線）によりそれぞれ印刷されているとともに、これらの領域近傍に電子部品と対応する部品番号がシルク印刷として図示しない黄色（又は、黒色）でそれぞれ印刷されている。

【２４３１】

第３実施形態では、皿中央上装飾基板３１４のＬＥＤ非実装面３１４ｙに実装される抵抗及びコンデンサ等は白色を有していないし、また１つの半導体チップ上に集積された定電流駆動回路３１４ａｘ（３１４ｂｘ）はそのパッケージが黒色の樹脂製である。このように、白色を有していない抵抗、コンデンサ、及びＩＣ等の電子部品は、フルカラーＬＥＤの発光による反射率が低下するものであるため、ＬＥＤ非実装面に実装されている。

【２４３２】

なお、第３実施形態に係る反射率低下等の対策の構成においても、皿中央上装飾基板３１４のＬＥＤ実装面３１４ｘ，ＬＥＤ非実装面３１４ｙには、ベタ塗りされた白色のレジストにより白色のレジスト層が形成されている。これにより、皿中央上装飾基板３１４のＬＥＤ実装面３１４ｘにベタ塗りされた白色のレジストにより、フルカラーＬＥＤであるｈＬＥＤ１～ｈＬＥＤ１０の発光による前方（つまり演出操作ユニット３００の上方へ向かう側）への反射率を高めることができるようになっている。

【２４３３】

このように、第１実施形態に係る反射率低下等の対策の構成では、左サイド下装飾基板４０２ｂのＬＥＤ実装面４０２ｂｘにベタ塗りされた白色のレジスト上には、フルカラーＬＥＤであるｈｄＬＥＤ１～ｈｄＬＥＤ１０と対応する部品番号と、フルカラーＬＥＤであるｈｄＬＥＤ１～ｈｄＬＥＤ１０を配置する位置を示す領域と、がシルク印刷として全く印刷されていないとともに、皿中央上装飾基板３１４のＬＥＤ実装面３１４ｘにベタ塗りされた白色のレジスト上には、フルカラーＬＥＤであるｈＬＥＤ１～ｈＬＥＤ１０と対応する部品番号と、フルカラーＬＥＤであるｈＬＥＤ１～ｈＬＥＤ１０を配置する位置を示す領域と、がシルク印刷として全く印刷されていないのに対して、第３実施形態に係る反射率低下等の対策の構成では、左サイド下装飾基板４０２ｂのＬＥＤ実装面４０２ｂｘには、フルカラーＬＥＤであるｈｄＬＥＤ１～ｈｄＬＥＤ１０と対応する部品番号が箔抜き文字（つまり、配線パターンが形成される層（銅プレーン）において銅箔である配線パターンで文字を作りその周囲の銅箔を抜いて形成される抜き文字）として形成されるとともに、フルカラーＬＥＤであるｈｄＬＥＤ１～ｈｄＬＥＤ１０を配置する位置を示す領域が図示しない各端子及び図示しない配線パターンを除く箔抜き領域（つまり、配線パターンが形成される層（銅プレーン）において、各端子及び配線パターンを除いて、銅箔を抜いて形成される領域）として形成されており、左サイド下装飾基板４０２ｂのＬＥＤ実装面４０２ｂｘにベタ塗りされる白色のレジストによりその箔抜き領域とその箔抜き文字とがそれぞれ覆われ、さらに、皿中央上装飾基板３１４のＬＥＤ実装面３１４ｘには、フルカ

ラーＬＥＤであるｈＬＥＤ１～ｈＬＥＤ１０と対応する部品番号が箔抜き文字（つまり、配線パターンが形成される層（銅プレーン）において銅箔である配線パターンで文字を作りその周囲の銅箔を抜いて形成される抜き文字）として形成されるとともに、フルカラーＬＥＤであるｈＬＥＤ１～ｈＬＥＤ１０を配置する位置を示す領域が図示しない各端子及び図示しない配線パターンを除く箔抜き領域（つまり、配線パターンが形成される層（銅プレーン）において、各端子及び配線パターンを除いて、銅箔を抜いて形成される領域）として形成されており、皿中央上装飾基板３１４のＬＥＤ実装面３１４ｘにベタ塗りされる白色のレジストによりその箔抜き領域とその箔抜き文字とがそれぞれ覆われているという点で相違している。

【２４３４】

左サイド下装飾基板４０２ｂのＬＥＤ実装面４０２ｂｘにベタ塗りされた白色のレジストにより、フルカラーＬＥＤであるｈｄＬＥＤ１～ｈｄＬＥＤ１０の発光による前方（つまりパチンコ機１の正面側）への反射率を高めることができるようになっている。また、皿中央上装飾基板３１４のＬＥＤ実装面３１４ｘにベタ塗りされた白色のレジストにより、フルカラーＬＥＤであるｈＬＥＤ１～ｈＬＥＤ１０の発光による前方（つまり演出操作ユニット３００の上方へ向かう側）への反射率を高めることができるようになっている。このため、フルカラーＬＥＤと対応する部品番号、及びフルカラーＬＥＤを配置する位置を示す領域が、左サイド下装飾基板４０２ｂのＬＥＤ実装面４０２ｂｘにベタ塗りされた白色のレジスト上に、シルク印刷として黒色で印刷されている場合には、黒色に印刷されたシルク印刷により、フルカラーＬＥＤの発光によるＬＥＤ実装面における反射率が低下することとなり、フルカラーＬＥＤの発光が効率良く使用されないという問題が生ずる。また、扉枠３に設けられる各種装飾体（例えば、図７５に示した、皿左上装飾体２７１、皿左下装飾体２８１、皿右上装飾体２７６、皿右下装飾体２８６、ユニット前カバー３１２の皿中央上装飾体３１２ａ及び皿中央下装飾体３１２ｂ、扉枠左サイド装飾体４０４、サイド窓内装飾部材４１２、扉枠右サイド装飾体４１９、扉枠トップ装飾体４５３）は、上述したように、透明に形成されており、パチンコ機１の前方に着座した遊技者が頭（顔）を動かすことで頭（顔）の方向により視線が変化するため、扉枠３に設けられる各種装飾体に備える各種装飾基板のＬＥＤ実装面を遊技者が視認することができる場合がある。そうすると、遊技者にとって遊技と全く関係を持たないフルカラーＬＥＤと対応する部品番号、及びフルカラーＬＥＤを配置する位置を示す領域が遊技者に視認されるという問題が生ずる。

【２４３５】

そこで、第３実施形態に係る反射率低下等の対策の構成では、遊技者にとって遊技と全く関係を持たないフルカラーＬＥＤと対応する部品番号を箔抜き文字として形成するとともに、遊技者にとって遊技と全く関係を持たないフルカラーＬＥＤを配置する位置を示す領域を箔抜き領域として形成してＬＥＤ実装面にベタ塗りされる白色のレジストによりその箔抜き文字とその箔抜き領域とをそれぞれ覆うことにより、フルカラーＬＥＤの配線パターンと、フルカラーＬＥＤの実装位置を示す箔抜き領域（つまり、フルカラーＬＥＤを配置する位置を示す領域）と、フルカラーＬＥＤを特定する番号（つまり、フルカラーＬＥＤと対応する部品番号）と、が銅箔により形成されることで同一色とするとともに、ＬＥＤ実装面に形成される白色のレジストにより覆われることで、フルカラーＬＥＤの実装位置を示す箔抜き領域（つまり、フルカラーＬＥＤを配置する位置を示す領域）を見つけ出したり、フルカラーＬＥＤを特定する番号（つまり、フルカラーＬＥＤと対応する部品番号）を見つけ出したりすることを困難とすることができる。

【２４３６】

また、第３実施形態に係る反射率低下等の対策の構成では、遊技者にとって遊技と全く関係を持たないフルカラーＬＥＤと対応する部品番号を箔抜き文字として形成するとともに、遊技者にとって遊技と全く関係を持たないフルカラーＬＥＤを配置する位置を示す領域を箔抜き領域として形成してＬＥＤ実装面にベタ塗りされる白色のレジストによりその箔抜き文字とその箔抜き領域とをそれぞれ覆うことにより、フルカラーＬＥＤの発光による

ＬＥＤ実装面における反射率が低下することを防止することができる。
【２４３７】
第３実施形態に係る反射率低下等の対策の構成においても、第１実施形態に係る反射率低下等の対策の構成と同様な作用効果を奏することができる。つまり、フルカラーＬＥＤを特定する番号（つまり、フルカラーＬＥＤと対応する部品番号）やフルカラーＬＥＤの実装位置を示す箔抜き領域（つまり、フルカラーＬＥＤを配置する位置を示す領域）を遊技者に視認困難とすることができるとともに、フルカラーＬＥＤの発光によるＬＥＤ実装面における反射率が低下することを防止することができる。
【２４３８】
また、第３実施形態に係る反射率低下等の対策の構成では、ＬＥＤ実装面に対してシルク印刷という工程を省くことができるため、シルク印刷の版代や基板の製造工程数の削減により基板製造コストを下げることができる。
【２４３９】
なお、第３実施形態に係る反射率低下等の対策の構成において、フルカラーＬＥＤの実装位置を示す箔抜き領域（つまり、フルカラーＬＥＤを配置する位置を示す領域を箔抜き領域として形成する際）に、フルカラーＬＥＤの極性を表す記号（回路図に使用する記号（アノード端子とカソード端子とが判別できる記号）でもよいし、回路図に使用する記号（アノード端子とカソード端子とが判別できる記号）を簡略化したものでもよい）を付加してフルカラーＬＥＤの実装向きを明示するように構成してもよい。
【２４４０】
また、第３実施形態では、フルカラーＬＥＤの発光によるＬＥＤ実装面における反射率が低下する白色を有していない抵抗及びコンデンサ等の電子部品や、白色を有していないコネクタは、フルカラーＬＥＤの発光によるＬＥＤ実装面における反射率が低下するものであるため、ＬＥＤ実装面に全く実装されていなかったが、フルカラーＬＥＤの発光によるＬＥＤ実装面のうち、前方に配置される部材と対応する領域がＬＥＤ実装面における反射率に寄与することが困難である場合には、その領域に、白色を有していない抵抗及びコンデンサ等の電子部品や、白色を有していないコネクタを配置してもよい。この場合、ＬＥＤ実装面には、電子部品やコネクタを配置する位置を示す領域が図示しない各端子及び図示しない配線パターンを除く図示しない箔抜き領域（つまり、配線パターンが形成される層（銅プレーン）において、各端子及び配線パターンを除いて、銅箔を抜いて形成される領域）として形成されるとともに、この領域の近傍に、電子部品やコネクタと対応する部品番号が図示しない箔抜き文字（つまり、配線パターンが形成される層（銅プレーン）において銅箔である配線パターンで文字を作りその周囲の銅箔を抜いて形成される抜き文字）として形成される。
【２４４１】
また、第３実施形態に係る反射率低下等の対策の構成において、フルカラーＬＥＤの実装位置を示す箔抜き領域（つまり、フルカラーＬＥＤを配置する位置を示す領域を箔抜き領域として形成する際）に、フルカラーＬＥＤの外形より大きい形状を有して構成していたが、フルカラーＬＥＤの実装位置を示す箔抜き領域（つまり、フルカラーＬＥＤを配置する位置を示す領域を箔抜き領域として形成する際）に、フルカラーＬＥＤの外形より小さい形状（例えば、フルカラーＬＥＤ本体より小さい四角形状）を有して構成してもよい。この場合、抜き文字と箔抜き領域とが接続されず相互に独立した領域に形成されることとなる。こうすれば、フルカラーＬＥＤがＬＥＤ実装面に実装された場合に、フルカラーＬＥＤを配置する位置を示す箔抜き領域がフルカラーＬＥＤ本体により覆い被されるため、フルカラーＬＥＤ本体を囲む箔抜き領域が存在しなくなり、ＬＥＤ実装面の反射率をさらに高めることに寄与することができる。
【２４４２】
［第１実施形態に係る反射率低下等の対策の構成と第４実施形態に係る反射率低下等の対策の構成との対比］
第１実施形態に係る反射率低下等の対策の構成では、上述したように、左サイド下装飾基

板４０２ｂのＬＥＤ実装面４０２ｂｘにベタ塗りされた白色のレジスト上には、フルカラーＬＥＤであるｈｄＬＥＤ１～ｈｄＬＥＤ１０と対応する部品番号と、フルカラーＬＥＤであるｈｄＬＥＤ１～ｈｄＬＥＤ１０を配置する位置を示す領域と、がシルク印刷として全く印刷されていない。そして、左サイド下装飾基板４０２ｂのＬＥＤ非実装面４０２ｂｙにベタ塗りされた白色のレジスト上には、上述したように、ＬＥＤ定電流駆動回路４０２ｂａを構成する定電流駆動回路４０２ｂａｘ、最大電流設定回路４０２ｂａｙの抵抗Ｒｒ，Ｒｂ，Ｒｇ、各種分散抵抗等の電子部品を配置する位置を示す領域がシルク印刷として黄色の実線（又は、黒色の実線）によりそれぞれ印刷されているとともに、これらの領域近傍に電子部品と対応する部品番号がシルク印刷として黄色（又は、黒色）でそれぞれ印刷されている。また、左サイド下装飾基板４０２ｂのＬＥＤ非実装面４０２ｂｙにベタ塗りされた白色のレジスト上には、上述したように、左サイド下装飾基板４０２ｂのＬＥＤ実装面４０２ｂｘに実装されるフルカラーＬＥＤであるｈｄＬＥＤ１～ｈｄＬＥＤ１０と対応する領域がシルク印刷として黄色の鎖線（又は、黒色の鎖線）でそれぞれ印刷されているとともに、これらの領域近傍にフルカラーＬＥＤであるｈｄＬＥＤ１～ｈｄＬＥＤ１０と対応する部品番号がシルク印刷として黄色（又は、黒色）でそれぞれ印刷されている。

【２４４３】

また、第１実施形態に係る反射率低下等の対策の構成では、上述したように、皿中央上装飾基板３１４のＬＥＤ実装面３１４ｘにベタ塗りされた白色のレジスト上には、フルカラーＬＥＤであるｈＬＥＤ１～ｈＬＥＤ１０と対応する部品番号と、フルカラーＬＥＤであるｈＬＥＤ１～ｈＬＥＤ１０を配置する位置を示す領域と、がシルク印刷として全く印刷されていない。そして、皿中央上装飾基板３１４のＬＥＤ非実装面３１４ｙにベタ塗りされた白色のレジスト上には、上述したように、ＬＥＤ定電流駆動回路３１４ａを構成する定電流駆動回路３１４ａｘ、最大電流設定回路３１４ａｙの抵抗Ｒｒ，Ｒｂ，Ｒｇ、各種分散抵抗等の電子部品を配置する位置を示す領域がシルク印刷として図示しない黄色の実線（又は、黒色の実線）によりそれぞれ印刷されているとともに、これらの領域近傍に電子部品と対応する部品番号がシルク印刷として図示しない黄色（又は、黒色）でそれぞれ印刷されている。また、皿中央上装飾基板３１４のＬＥＤ非実装面３１４ｙにベタ塗りされた白色のレジスト上には、上述したように、皿中央上装飾基板３１４のＬＥＤ実装面３１４ｘに実装されるフルカラーＬＥＤであるｈＬＥＤ１～ｈＬＥＤ１０と対応する領域がシルク印刷として図示しない黄色の鎖線（又は、黒色の鎖線）ＨＳＬＫ１～ＨＳＬＫ１０でそれぞれ印刷されているとともに、これらの領域ＨＳＬＫ１～ＨＳＬＫ１０の近傍にフルカラーＬＥＤであるｈＬＥＤ１～ｈＬＥＤ１０と対応する部品番号がシルク印刷として図示しない黄色（又は、黒色）でそれぞれ印刷されている。

【２４４４】

これに対して、第４実施形態に係る反射率低下等の対策の構成では、図２６８（ａ）に示すように、左サイド下装飾基板４０２ｂのＬＥＤ実装面４０２ｂｘには、フルカラーＬＥＤであるｈｄＬＥＤ１～ｈｄＬＥＤ１０と対応する部品番号が２度塗りの白色のレジストを利用した白色レジスト抜き文字（図２６８（ｃ）には、フルカラーＬＥＤであるｈｄＬＥＤ７と対応する部品番号として白色レジスト抜き文字のみ表した。）として形成されるとともに、フルカラーＬＥＤであるｈｄＬＥＤ１～ｈｄＬＥＤ１０を配置する位置を示す領域が２度塗りの白色のレジストを利用した白色レジスト抜き領域（図２６８（ｃ）には、フルカラーＬＥＤであるｈｄＬＥＤ７と対応する領域として白色レジスト抜き領域ＬＳＬＫ７のみ表した。）として形成されている。具体的には、まず左サイド下装飾基板４０２ｂのＬＥＤ実装面４０２ｂｘは、２度塗りの白色のレジストのうち１度目として、左サイド下装飾基板４０２ｂのＬＥＤ実装面４０２ｂｘの全体が白色のレジストにより覆われる（つまり、２度塗りの白色のレジストのうち１度目として、左サイド下装飾基板４０２ｂのＬＥＤ実装面４０２ｂｘに白色のレジスト液が塗布されている）。そして、左サイド下装飾基板４０２ｂのＬＥＤ実装面４０２ｂｘは、２度塗りの白色のレジストのうち２度目として、フルカラーＬＥＤであるｈｄＬＥＤ１～ｈｄＬＥＤ１０を配置する位置を示す

領域（所定のピン番号の配置を指示する領域（切り欠き部）を含む。図２６８（ｃ）に示す、フルカラーＬＥＤであるｈｄＬＥＤ７と対応する領域として白色レジスト抜き領域ＬＳＬＫ７には、フルカラーＬＥＤであるｈｄＬＥＤ７の第５番ピンの配置を指示する切り欠きマークと対応する位置に切り欠き部が形成されている。）が白色レジスト抜き領域ＬＳＬＫ１～ＬＳＬＫ１０としてマスクされるとともに、これらの白色レジスト抜き領域ＬＳＬＫ１～ＬＳＬＫ１０の近傍であって左方又は上方にフルカラーＬＥＤであるｈｄＬＥＤ１～ｈｄＬＥＤ１０と対応する部品番号であるＬＥＤ１～ＬＥＤ１０が白色レジスト抜き文字としてマスクされる状態で、左サイド下装飾基板４０２ｂのＬＥＤ実装面４０２ｂｘの全体が白色のレジストにより覆われている。これにより、左サイド下装飾基板４０２ｂのＬＥＤ実装面４０２ｂｘには、２層の白色のレジストが形成されるものの、第１層目の白色のレジストにより全体が覆われるとともに、第２層目の白色のレジストによりマスクされた領域を除いて全体が覆われることにより、そのマスクされた領域が凹部として窪み、フルカラーＬＥＤであるｈｄＬＥＤ１～ｈｄＬＥＤ１０を配置する位置を示す領域が白色レジスト抜き領域ＬＳＬＫ１～ＬＳＬＫ１０として形成されているとともに、フルカラーＬＥＤであるｈｄＬＥＤ１～ｈｄＬＥＤ１０と対応する部品番号であるＬＥＤ１～ＬＥＤ１０が白色レジスト抜き文字として形成されている。

【２４４５】

第４実施形態では、左サイド下装飾基板４０２ｂのＬＥＤ実装面４０２ｂｘにおける、第１層目の白色のレジストの透過率と、第２層目の白色のレジストの透過率と、は同一のものを採用しているため、第１層目の白色のレジストと第２層目の白色のレジストとに濃淡が生じ、第２層目の白色のレジストを通して左サイド下装飾基板４０２ｂのＬＥＤ実装面４０２ｂｘの下地（銅箔部分、及び銅箔部分を除く領域、以下同じ。）を見ると、第２層目の白色のレジストと第１層目の白色のレジストとが重なる領域では第２層目の白色のレジストが濃く見えるのに対して、マスクされたことで第２層目の白色のレジストと第１層目の白色のレジストとが重ならない領域では第１層目の白色のレジストが第２層目の白色のレジストに覆われず剥き出しとなることにより第１層目の白色のレジストが淡く見えることとなる。つまり、第２層目の白色のレジストを通して左サイド下装飾基板４０２ｂのＬＥＤ実装面４０２ｂｘの下地を見ると、第１層目の白色のレジストにおける白色レジスト抜き文字を識別することができるようになっている。

【２４４６】

なお、左サイド下装飾基板４０２ｂのＬＥＤ実装面４０２ｂｘには、コネクタＬＤＬＣＮを配置する位置を示す領域が図示しない白色レジスト抜き領域として形成されているとともに、この領域の近傍にコネクタＬＤＬＣＮと対応する部品番号が図示しない白色レジスト抜き文字として形成されている。第４実施形態では、上述したように、第１層目の白色のレジストの透過率と、第２層目の白色のレジストの透過率と、は同一のものを採用しているため、第１層目の白色のレジストと第２層目の白色のレジストとに濃淡が生じ、第２層目の白色のレジストを通して左サイド下装飾基板４０２ｂのＬＥＤ実装面４０２ｂｘの下地を見ると、第２層目の白色のレジストと第１層目の白色のレジストとが重なる領域では第２層目の白色のレジストが濃く見えるのに対して、マスクされたことで第２層目の白色のレジストと第１層目の白色のレジストとが重ならない領域では第１層目の白色のレジストが第２層目の白色のレジストに覆われず剥き出しとなることにより第１層目の白色のレジストが淡く見えることとなる。これにより、第２層目の白色のレジストを通して左サイド下装飾基板４０２ｂのＬＥＤ実装面４０２ｂｘの下地を見ると、第１層目の白色のレジストにおける白色レジスト抜き領域を識別することができるようになっている。

【２４４７】

また、左サイド下装飾基板４０２ｂのＬＥＤ実装面４０２ｂｘには、白色のレジストが２度塗りされているため、第１層目の白色のレジストにおける白色レジスト抜き文字及び白色レジスト抜き領域と、第２層目の白色のレジストと、の光の屈折率が変わることとなる。これにより、第２層目の白色のレジストを通して左サイド下装飾基板４０２ｂのＬＥＤ実装面４０２ｂｘの下地を見ると、第１層目の白色のレジストにおける白色レジスト抜き

文字及び白色レジスト抜き領域を識別することができるようになっている。
【２４４８】
また、左サイド下装飾基板４０２ｂのＬＥＤ実装面４０２ｂｘの全体が白色のレジストにより覆われている。フルカラーＬＥＤであるｈｄＬＥＤ１～ｈｄＬＥＤ１０は、それぞれのパッケージが白色（白色と同色であると認められる色）の樹脂製であるとともに、コネクタＬＤＵＣＮは、そのハウジングが白色（ナチュラル色とも言われ、白色（ナチュラル色）と同色であると認められる色）の樹脂製である。つまり、左サイド下装飾基板４０２ｂのＬＥＤ実装面４０２ｂｘには、その全体が覆われる（ベタ塗りされる）白色のレジストと同一色（同色であると認められる色）のパッケージを有する電子部品であるフルカラーＬＥＤであるｈｄＬＥＤ１～ｈｄＬＥＤ１０と、その全体が覆われる（ベタ塗りされる）白色のレジストと同一色（同色であると認められる色）のハウジングを有するコネクタＬＤＵＣＮと、が実装されている。このように、第４実施形態では、白色を有していない図示しない抵抗やコンデンサ等の電子部品や、白色を有していないコネクタは、左サイド下装飾基板４０２ｂのＬＥＤ実装面４０２ｂｘに全く実装されていない。換言すると、白色を有していない抵抗及びコンデンサ等の電子部品や、白色を有していないコネクタは、フルカラーＬＥＤの発光によるＬＥＤ実装面における反射率が低下するものであるため、ＬＥＤ実装面に全く実装されていない。
【２４４９】
また、左サイド下装飾基板４０２ｂのＬＥＤ実装面４０２ｂｘには、左サイド下装飾基板４０２ｂのＬＥＤ実装面４０２ｂｘに実装されるフルカラーＬＥＤであるｈｄＬＥＤ１～ｈｄＬＥＤ１０への点灯検査を個別に行う（例えば、１つのフルカラーＬＥＤを構成する、赤色（Ｒ）に発光するＬＥＤ素子、緑色（Ｇ）に発光するＬＥＤ素子、及び青色（Ｂ）に発光するＬＥＤ素子に対して、ＬＥＤ素子ごとに行う）ことができる図示しない複数のチェックピンが配線パターンに接続されるテストパッド（又は、スルーホール）として形成され、複数のチェックピンの近傍に複数のチェックピンのそれぞれと対応する部品番号が図示しない白色レジスト抜き文字として形成されている。複数のチェックピンは、白色のレジストが塗られていない。これにより、検査を行う作業者が図示しないプローブをチェックピンに接触させることで図示しないプローブとチェックピンとが電気的に接続されて導通する状態となって各種検査を行うことができる。なお、複数のチェックピンには、定電流駆動回路４０２ｂａｘや定電流駆動回路４０２ｂｂｘへのシリアルデータの内容を確認することができるものもある。
【２４５０】
一方、左サイド下装飾基板４０２ｂのＬＥＤ非実装面４０２ｂｙには、図２６９に示すように、ＬＥＤ定電流駆動回路４０２ｂａを構成する定電流駆動回路４０２ｂａｘ、最大電流設定回路４０２ｂａｙの抵抗Ｒｒ，Ｒｂ，Ｒｇ、図示しない各種分散抵抗等の電子部品を配置する位置を示す領域が左サイド下装飾基板４０２ｂのＬＥＤ実装面４０２ｂｘと同様に２度塗りの白色のレジストを利用した白色レジスト抜き領域として形成されているとともに、これらの領域近傍に電子部品と対応する部品番号が左サイド下装飾基板４０２ｂのＬＥＤ実装面４０２ｂｘと同様に２度塗りの白色のレジストを利用した白色レジスト抜き文字として形成されている。具体的には、まず左サイド下装飾基板４０２ｂのＬＥＤ非実装面４０２ｂｙは、２度塗りの白色のレジストのうち１度目として、左サイド下装飾基板４０２ｂのＬＥＤ非実装面４０２ｂｙの全体が白色のレジストにより覆われる（つまり、２度塗りの白色のレジストのうち１度目として、左サイド下装飾基板４０２ｂのＬＥＤ非実装面４０２ｂｙに白色のレジスト液が塗布されている）。そして、左サイド下装飾基板４０２ｂのＬＥＤ非実装面４０２ｂｙは、２度塗りの白色のレジストのうち２度目として、例えば、定電流駆動回路４０２ｂａｘを配置する位置を示す領域（所定のピン番号の配置を指示する領域（切り欠き部）を含む。図２６９に示す、定電流駆動回路４０２ｂａｘと対応する領域として白色レジスト抜き領域ＬＳＬＫａには、定電流駆動回路４０２ｂａｘの第１番ピンと第３６番ピンとの配置を指示する切り欠きマークと対応する位置に切り欠き部が形成されている。）が白色レジスト抜き領域ＬＳＬＫａとしてマスクされると

ともに、これらの白色レジスト抜き領域ＬＳＬＫａの近傍であって上方に定電流駆動回路４０２ｂａｘと対応する部品番号であるＩＣ１（図２６９（ａ）を参照。）が白色レジスト抜き文字としてマスクされる状態で、左サイド下装飾基板４０２ｂのＬＥＤ非実装面４０２ｂｙの全体が白色のレジストにより覆われている。これにより、左サイド下装飾基板４０２ｂのＬＥＤ非実装面４０２ｂｙには、左サイド下装飾基板４０２ｂのＬＥＤ実装面４０２ｂｘと同様に、２層の白色のレジストが形成されるものの、第１層目の白色のレジストにより全体が覆われるとともに、第２層目の白色のレジストによりマスクされた領域を除いて全体が覆われることにより、そのマスクされた領域が凹部として窪み、定電流駆動回路４０２ｂａｘと対応する領域として白色レジスト抜き領域ＬＳＬＫａとして形成されているとともに、定電流駆動回路４０２ｂａｘと対応する部品番号であるＩＣ１が白色レジスト抜き文字として形成されている。

【２４５１】

なお、左サイド下装飾基板４０２ｂのＬＥＤ非実装面４０２ｂｙは、最大電流設定回路４０２ｂａｙの抵抗Ｒｒ，Ｒｂ，Ｒｇ、図示しない各種分散抵抗等の電子部品を配置する位置を示す領域が図示しない白色レジスト抜き領域として形成され、この領域の近傍に、左サイド下装飾基板４０２ｂのＬＥＤ非実装面４０２ｂｙに実装される抵抗Ｒｒ，Ｒｂ，Ｒｇと対応する部品番号が図示しない白色レジスト抜き文字Ｒ１，Ｒ２，Ｒ３として形成され、図示しない各種分散抵抗等抵抗やコンデンサ等の電子部品と対応する部品番号が図示しない白色レジスト抜き文字として形成されている。また、左サイド下装飾基板４０２ｂのＬＥＤ非実装面４０２ｂｙは、コネクタＬＤＬＣＮを配置する位置を示す領域が図示しない白色レジスト抜き領域として形成され、この領域の近傍に、コネクタＬＤＬＣＮと対応する部品番号が図示しない白色レジスト抜き文字として形成されている。

【２４５２】

第４実施形態では、左サイド下装飾基板４０２ｂのＬＥＤ非実装面４０２ｂｙにおける、第１層目の白色のレジストの透過率と、第２層目の白色のレジストの透過率と、は同一のものを採用しているため、第１層目の白色のレジストと第２層目の白色のレジストとに濃淡が生じ、第２層目の白色のレジストを通して左サイド下装飾基板４０２ｂのＬＥＤ非実装面４０２ｂｙの下地（銅箔部分、及び銅箔部分を除く領域、以下同じ。）を見ると、第２層目の白色のレジストと第１層目の白色のレジストとが重なる領域では第２層目の白色のレジストが濃く見えるのに対して、マスクされたことで第２層目の白色のレジストと第１層目の白色のレジストとが重ならない領域では第１層目の白色のレジストが第２層目の白色のレジストに覆われず剥き出しとなることにより第１層目の白色のレジストが淡く見えることとなる。これにより、第２層目の白色のレジストを通して左サイド下装飾基板４０２ｂのＬＥＤ非実装面４０２ｂｙの下地を見ると、第１層目の白色のレジストに形成される白色レジスト抜き文字を識別することができるようになっているとともに、白色レジスト抜き領域を識別することができるようになっている。

【２４５３】

また、左サイド下装飾基板４０２ｂのＬＥＤ非実装面４０２ｂｙには、白色のレジストが２度塗りされているため、第１層目の白色のレジストにおける白色レジスト抜き文字及び白色レジスト抜き領域と、第２層目の白色のレジストと、の光の屈折率が変わることとなる。これにより、第２層目の白色のレジストを通して左サイド下装飾基板４０２ｂのＬＥＤ非実装面４０２ｂｙの下地を見ると、第１層目の白色のレジストにおける白色レジスト抜き文字及び白色レジスト抜き領域を識別することができるようになっている。

【２４５４】

また、左サイド下装飾基板４０２ｂのＬＥＤ非実装面４０２ｂｙに実装される抵抗及びコンデンサ等は白色を有していないし、また１つの半導体チップ上に集積された定電流駆動回路４０２ｂａｘ（４０２ｂｂｘ）はそのパッケージが黒色の樹脂製であり、またコネクタＬＤＬＣＮはそのハウジングが黒色、茶色、又は青色のうちいずれかの色を有する樹脂製である。このように、白色を有していない抵抗、コンデンサ、及びＩＣ等の電子部品や、白色を有していないコネクタは、フルカラーＬＥＤの発光による反射率が低下するもの

であるため、ＬＥＤ非実装面に実装されている。
【２４５５】
なお、第４実施形態に係る反射率低下等の対策の構成においても、左サイド下装飾基板４０２ｂのＬＥＤ実装面４０２ｂｘ，ＬＥＤ非実装面４０２ｂｙには、ベタ塗りされた白色のレジストにより白色のレジスト層が形成されている。これにより、左サイド下装飾基板４０２ｂのＬＥＤ実装面４０２ｂｘにベタ塗りされた白色のレジストにより、フルカラーＬＥＤであるｈｄＬＥＤ１～ｈｄＬＥＤ１０の発光による前方（つまりパチンコ機１の正面側）への反射率を高めることができるようになっている。
【２４５６】
また、第４実施形態に係る反射率低下等の対策の構成では、図２６８（ｂ）に示すように、皿中央上装飾基板３１４のＬＥＤ実装面３１４ｘには、フルカラーＬＥＤであるｈＬＥＤ１～ｈＬＥＤ１０と対応する部品番号が２度塗りの白色のレジストを利用した白色レジスト抜き文字として形成されるとともに、フルカラーＬＥＤであるｈＬＥＤ１～ｈＬＥＤ１０を配置する位置を示す領域が２度塗りの白色のレジストを利用した白色レジスト抜き領域として形成されている。具体的には、まず皿中央上装飾基板３１４のＬＥＤ実装面３１４ｘは、２度塗りの白色のレジストのうち１度目として、皿中央上装飾基板３１４のＬＥＤ実装面３１４ｘの全体が白色のレジストにより覆われる（つまり、２度塗りの白色のレジストのうち１度目として、皿中央上装飾基板３１４のＬＥＤ実装面３１４ｘに白色のレジスト液が塗布されている）。そして、皿中央上装飾基板３１４のＬＥＤ実装面３１４ｘは、２度塗りの白色のレジストのうち２度目として、フルカラーＬＥＤであるｈＬＥＤ１～ｈＬＥＤ１０を配置する位置を示す領域（所定のピン番号の配置を指示する領域（切り欠き部）を含む。例えば、フルカラーＬＥＤであるｈＬＥＤ７と対応する領域として白色レジスト抜き領域ＨＳＬＫ７には、フルカラーＬＥＤであるｈＬＥＤ７の第５番ピンの配置を指示する切り欠きマークと対応する位置に切り欠き部が形成されている。）が白色レジスト抜き領域ＨＳＬＫ１～ＨＳＬＫ１０としてマスクされるとともに、これらの白色レジスト抜き領域ＨＳＬＫ１～ＨＳＬＫ１０の近傍であって右方にフルカラーＬＥＤであるｈＬＥＤ１～ｈＬＥＤ１０と対応する部品番号であるＬＥＤ１～ＬＥＤ１０が白色レジスト抜き文字としてマスクされる状態で、皿中央上装飾基板３１４のＬＥＤ実装面３１４ｘの全体が白色のレジストにより覆われている。これにより、皿中央上装飾基板３１４のＬＥＤ実装面３１４ｘには、２層の白色のレジストが形成されるものの、第１層目の白色のレジストにより全体が覆われるとともに、第２層目の白色のレジストによりマスクされた領域を除いて全体が覆われることにより、そのマスクされた領域が凹部として窪み、フルカラーＬＥＤであるｈＬＥＤ１～ｈＬＥＤ１０を配置する位置を示す領域が白色レジスト抜き領域ＨＳＬＫ１～ＨＳＬＫ１０として形成されているとともに、フルカラーＬＥＤであるｈＬＥＤ１～ｈＬＥＤ１０と対応する部品番号であるＬＥＤ１～ＬＥＤ１０が白色レジスト抜き文字として形成されている。
【２４５７】
第４実施形態では、皿中央上装飾基板３１４のＬＥＤ実装面３１４ｘにおける、第１層目の白色のレジストの透過率と、第２層目の白色のレジストの透過率と、は同一のものを採用しているため、第１層目の白色のレジストと第２層目の白色のレジストとに濃淡が生じ、第２層目の白色のレジストを通して皿中央上装飾基板３１４のＬＥＤ実装面３１４ｘの下地を見ると、第２層目の白色のレジストと第１層目の白色のレジストとが重なる領域では第２層目の白色のレジストが濃く見えるのに対して、マスクされたことで第２層目の白色のレジストと第１層目の白色のレジストとが重ならない領域では第１層目の白色のレジストが第２層目の白色のレジストに覆われず剥き出しとなることにより第１層目の白色のレジストが淡く見えることとなる。つまり、第２層目の白色のレジストを通して皿中央上装飾基板３１４のＬＥＤ実装面３１４ｘの下地を見ると、第１層目の白色のレジストにおける白色レジスト抜き文字を識別することができるようになっている。
【２４５８】
なお、皿中央上装飾基板３１４のＬＥＤ実装面３１４ｘには、コネクタＨＣＮを配置する

位置を示す領域が図示しない白色レジスト抜き領域として形成されているとともに、この領域の近傍にコネクタＨＣＮと対応する部品番号が図示しない白色レジスト抜き文字として形成されている。第４実施形態では、上述したように、第１層目の白色のレジストの透過率と、第２層目の白色のレジストの透過率と、は同一のものを採用しているため、第１層目の白色のレジストと第２層目の白色のレジストとに濃淡が生じ、第２層目の白色のレジストを通して皿中央上装飾基板３１４のＬＥＤ実装面３１４ｘの下地を見ると、第２層目の白色のレジストと第１層目の白色のレジストとが重なる領域では第２層目の白色のレジストが濃く見えるのに対して、マスクされたことで第２層目の白色のレジストと第１層目の白色のレジストとが重ならない領域では第１層目の白色のレジストが第２層目の白色のレジストに覆われず剥き出しとなることにより第１層目の白色のレジストが淡く見えることとなる。これにより、第２層目の白色のレジストを通して皿中央上装飾基板３１４のＬＥＤ実装面３１４ｘの下地を見ると、第１層目の白色のレジストにおける白色レジスト抜き領域を識別することができるようになっている。

【２４５９】

また、皿中央上装飾基板３１４のＬＥＤ実装面３１４ｘには、白色のレジストが２度塗りされているため、第１層目の白色のレジストにおける白色レジスト抜き文字及び白色レジスト抜き領域と、第２層目の白色のレジストと、の光の屈折率が変わることとなる。これにより、第２層目の白色のレジストを通して皿中央上装飾基板３１４のＬＥＤ実装面３１４ｘの下地を見ると、第１層目の白色のレジストにおける白色レジスト抜き文字及び白色レジスト抜き領域を識別することができるようになっている。

【２４６０】

また、皿中央上装飾基板３１４のＬＥＤ実装面３１４ｘの全体が白色のレジストにより覆われている。フルカラーＬＥＤであるｈＬＥＤ１～ｈＬＥＤ１０は、それぞれのパッケージが白色（白色と同色であると認められる色）の樹脂製であるとともに、コネクタＨＣＮは、そのハウジングが白色（ナチュラル色とも言われ、白色（ナチュラル色）と同色であると認められる色）の樹脂製である。つまり、皿中央上装飾基板３１４のＬＥＤ実装面３１４ｘには、その全体が覆われる（ベタ塗りされる）白色のレジストと同一色（同色であると認められる色）のパッケージを有する電子部品であるフルカラーＬＥＤであるｈＬＥＤ１～ｈＬＥＤ１０と、その全体が覆われる（ベタ塗りされる）白色のレジストと同一色（同色であると認められる色）のハウジングを有するコネクタＨＣＮとが実装されている。このように、第４実施形態では、白色を有していない図示しない抵抗やコンデンサ等の電子部品や、白色を有していないコネクタは、皿中央上装飾基板３１４のＬＥＤ実装面３１４ｘに全く実装されていない。換言すると、白色を有していない抵抗及びコンデンサ等の電子部品や、白色を有していないコネクタは、フルカラーＬＥＤの発光によるＬＥＤ実装面における反射率が低下するものであるため、ＬＥＤ実装面に全く実装されていない。

【２４６１】

また、皿中央上装飾基板３１４のＬＥＤ実装面３１４ｘには、皿中央上装飾基板３１４のＬＥＤ実装面３１４ｘに実装されるフルカラーＬＥＤであるｈＬＥＤ１～ｈＬＥＤ１０への点灯検査を個別に行う（例えば、１つのフルカラーＬＥＤを構成する、赤色（Ｒ）に発光するＬＥＤ素子、緑色（Ｇ）に発光するＬＥＤ素子、及び青色（Ｂ）に発光するＬＥＤ素子に対して、ＬＥＤ素子ごとに行う）ことができる図示しない複数のチェックピンが配線パターンに接続されるテストパッド（又は、スルーホール）として形成され、複数のチェックピンの近傍に複数のチェックピンのそれぞれと対応する部品番号が図示しない白色レジスト抜き文字として形成されている。複数のチェックピンは、白色のレジストが塗られていない。これにより、検査を行う作業者が図示しないプローブをチェックピンに接触させることで図示しないプローブとチェックピンとが電気的に接続されて導通する状態となって各種検査を行うことができる。なお、複数のチェックピンには、定電流駆動回路３１４ａｘや定電流駆動回路３１４ｂｘへのシリアルデータの内容を確認することができるものもある。

【２４６２】

一方、皿中央上装飾基板３１４のＬＥＤ非実装面３１４ｙには、ＬＥＤ定電流駆動回路３１４ａを構成する定電流駆動回路３１４ａｘ、最大電流設定回路３１４ａｙの抵抗Ｒｒ，Ｒｂ，Ｒｇ、図示しない各種分散抵抗等の電子部品を配置する位置を示す領域が皿中央上装飾基板３１４のＬＥＤ実装面３１４ｘと同様に２度塗りの白色のレジストを利用した白色レジスト抜き領域として形成されているとともに、これらの領域近傍に電子部品と対応する部品番号が皿中央上装飾基板３１４のＬＥＤ実装面３１４ｘと同様に２度塗りの白色のレジストを利用した白色レジスト抜き文字として形成されている。

【２４６３】

第４実施形態では、皿中央上装飾基板３１４のＬＥＤ非実装面３１４ｙにおける、第１層目の白色のレジストの透過率と、第２層目の白色のレジストの透過率と、は同一のものを採用しているため、第１層目の白色のレジストと第２層目の白色のレジストとに濃淡が生じ、第２層目の白色のレジストを通して皿中央上装飾基板３１４のＬＥＤ非実装面３１４ｙの下地を見ると、第２層目の白色のレジストと第１層目の白色のレジストとが重なる領域では第２層目の白色のレジストが濃く見えるのに対して、マスクされたことで第２層目の白色のレジストと第１層目の白色のレジストとが重ならない領域では第１層目の白色のレジストが第２層目の白色のレジストに覆われず剥き出しとなることにより第１層目の白色のレジストが淡く見えることとなる。これにより、第２層目の白色のレジストを通して皿中央上装飾基板３１４のＬＥＤ非実装面３１４ｙの下地を見ると、第１層目の白色のレジストに形成される白色レジスト抜き文字を識別することができるようになっているとともに、白色レジスト抜き領域を識別することができるようになっている。

【２４６４】

また、皿中央上装飾基板３１４のＬＥＤ非実装面３１４ｙには、白色のレジストが２度塗りされているため、第１層目の白色のレジストにおける白色レジスト抜き文字及び白色レジスト抜き領域と、第２層目の白色のレジストと、の光の屈折率が変わることとなる。これにより、第２層目の白色のレジストを通して皿中央上装飾基板３１４のＬＥＤ非実装面３１４ｙの下地を見ると、第１層目の白色のレジストにおける白色レジスト抜き文字及び白色レジスト抜き領域を識別することができるようになっている。

【２４６５】

また、皿中央上装飾基板３１４のＬＥＤ非実装面３１４ｙに実装される抵抗及びコンデンサ等は白色を有していないし、また１つの半導体チップ上に集積された定電流駆動回路３１４ａｘ（３１４ｂｘ）はそのパッケージが黒色の樹脂製である。このように、白色を有していない抵抗及びコンデンサ等の電子部品は、フルカラーＬＥＤの発光による反射率が低下するものであるため、ＬＥＤ非実装面に実装されている。

【２４６６】

なお、第４実施形態に係る反射率低下等の対策の構成においても、皿中央上装飾基板３１４のＬＥＤ実装面３１４ｘ，ＬＥＤ非実装面３１４ｙには、ベタ塗りされた白色のレジストにより白色のレジスト層が形成されている。これにより、皿中央上装飾基板３１４のＬＥＤ実装面３１４ｘにベタ塗りされた白色のレジストにより、フルカラーＬＥＤであるｈＬＥＤ１～ｈＬＥＤ１０の発光による前方（つまり演出操作ユニット３００の上方へ向かう側）への反射率を高めることができるようになっている。

【２４６７】

このように、第１実施形態に係る反射率低下等の対策の構成では、左サイド下装飾基板４０２ｂのＬＥＤ実装面４０２ｂｘにベタ塗りされた白色のレジスト上には、フルカラーＬＥＤであるｈｄＬＥＤ１～ｈｄＬＥＤ１０と対応する部品番号と、フルカラーＬＥＤであるｈｄＬＥＤ１～ｈｄＬＥＤ１０を配置する位置を示す領域と、がシルク印刷として全く印刷されていないとともに、皿中央上装飾基板３１４のＬＥＤ実装面３１４ｘにベタ塗りされた白色のレジスト上には、フルカラーＬＥＤであるｈＬＥＤ１～ｈＬＥＤ１０と対応する部品番号と、フルカラーＬＥＤであるｈＬＥＤ１～ｈＬＥＤ１０を配置する位置を示す領域と、がシルク印刷として全く印刷されていないのに対して、第４実施形態に係る反射率低下等の対策の構成では、左サイド下装飾基板４０２ｂのＬＥＤ実装面４０２ｂｘに

は、フルカラーＬＥＤであるｈｄＬＥＤ１～ｈｄＬＥＤ１０と対応する部品番号が２度塗りの白色のレジストを利用した白色レジスト抜き文字として形成されるとともに、フルカラーＬＥＤであるｈｄＬＥＤ１～ｈｄＬＥＤ１０を配置する位置を示す領域が２度塗りの白色のレジストを利用した白色レジスト抜き領域として形成されており、さらに、皿中央上装飾基板３１４のＬＥＤ実装面３１４ｘには、フルカラーＬＥＤであるｈＬＥＤ１～ｈＬＥＤ１０と対応する部品番号が２度塗りの白色のレジストを利用した白色レジスト抜き文字として形成されるとともに、フルカラーＬＥＤであるｈＬＥＤ１～ｈＬＥＤ１０を配置する位置を示す領域が２度塗りの白色のレジストを利用した白色レジスト抜き領域として形成されているという点で相違している。

【２４６８】

左サイド下装飾基板４０２ｂのＬＥＤ実装面４０２ｂｘにベタ塗りされた白色のレジストにより、フルカラーＬＥＤであるｈｄＬＥＤ１～ｈｄＬＥＤ１０の発光による前方（つまりパチンコ機１の正面側）への反射率を高めることができるようになっている。また、皿中央上装飾基板３１４のＬＥＤ実装面３１４ｘにベタ塗りされた白色のレジストにより、フルカラーＬＥＤであるｈＬＥＤ１～ｈＬＥＤ１０の発光による前方（つまり演出操作ユニット３００の上方へ向かう側）への反射率を高めることができるようになっている。このため、フルカラーＬＥＤと対応する部品番号、及びフルカラーＬＥＤを配置する位置を示す領域が、左サイド下装飾基板４０２ｂのＬＥＤ実装面４０２ｂｘにベタ塗りされた白色のレジスト上に、シルク印刷として黒色で印刷されている場合には、黒色に印刷されたシルク印刷により、フルカラーＬＥＤの発光によるＬＥＤ実装面における反射率が低下することとなり、フルカラーＬＥＤの発光が効率良く使用されないという問題が生ずる。また、扉枠３に設けられる各種装飾体（例えば、図７５に示した、皿左上装飾体２７１、皿左下装飾体２８１、皿右上装飾体２７６、皿右下装飾体２８６、ユニット前カバー３１２の皿中央上装飾体３１２ａ及び皿中央下装飾体３１２ｂ、扉枠左サイド装飾体４０４、サイド窓内装飾部材４１２、扉枠右サイド装飾体４１９、扉枠トップ装飾体４５３）は、上述したように、透明に形成されており、パチンコ機１の前方に着座した遊技者が頭（顔）を動かすことで頭（顔）の方向により視線が変化するため、扉枠３に設けられる各種装飾体に備える各種装飾基板のＬＥＤ実装面を遊技者が視認することができる場合がある。そうすると、遊技者にとって遊技と全く関係を持たないフルカラーＬＥＤと対応する部品番号、及びフルカラーＬＥＤを配置する位置を示す領域が遊技者に視認されるという問題が生ずる。

【２４６９】

そこで、第４実施形態に係る反射率低下等の対策の構成では、遊技者にとって遊技と全く関係を持たないフルカラーＬＥＤと対応する部品番号を２度塗りの白色のレジストを利用した白色レジスト抜き文字として形成するとともに、遊技者にとって遊技と全く関係を持たないフルカラーＬＥＤを配置する位置を示す領域を２度塗りの白色のレジストを利用した白色レジスト抜き領域として形成することにより、フルカラーＬＥＤの実装位置を示す白色レジスト抜き領域（つまり、フルカラーＬＥＤを配置する位置を示す領域）を見つけ出したり、フルカラーＬＥＤを特定する番号（つまり、フルカラーＬＥＤと対応する部品番号）を見つけ出したりすることを困難とすることができる。

【２４７０】

また、第４実施形態に係る反射率低下等の対策の構成では、遊技者にとって遊技と全く関係を持たないフルカラーＬＥＤと対応する部品番号を２度塗りの白色のレジストを利用した白色レジスト抜き文字として形成するとともに、遊技者にとって遊技と全く関係を持たないフルカラーＬＥＤを配置する位置を示す領域を２度塗りの白色のレジストを利用した白色レジスト抜き領域として形成することにより、フルカラーＬＥＤの発光によるＬＥＤ実装面における反射率が低下することを防止することができる。

【２４７１】

第４実施形態に係る反射率低下等の対策の構成においても、第１実施形態に係る反射率低下等の対策の構成と同様な作用効果を奏することができる。つまり、フルカラーＬＥＤを

特定する番号（つまり、フルカラーＬＥＤと対応する部品番号）やフルカラーＬＥＤの実装位置を示す２度塗りの白色のレジストを利用した白色レジスト抜き領域（つまり、フルカラーＬＥＤを配置する位置を示す領域）を遊技者に視認困難とすることができるとともに、フルカラーＬＥＤの発光によるＬＥＤ実装面における反射率が低下することを防止することができる。

【２４７２】

また、第４実施形態に係る反射率低下等の対策の構成では、ＬＥＤ実装面及びＬＥＤ非実装面に対してシルク印刷という工程をそれぞれ省くことができるため、シルク印刷の版代や基板の製造工程数の削減により基板製造コストを下げることに寄与することができる。

【２４７３】

なお、第４実施形態に係る反射率低下等の対策の構成において、フルカラーＬＥＤの実装位置を示す２度塗りの白色のレジストを利用した白色レジスト抜き領域（つまり、フルカラーＬＥＤを配置する位置を示す領域）を形成する際に、フルカラーＬＥＤの極性を表す記号（回路図に使用する記号（アノード端子とカソード端子とが判別できる記号）でもよいし、回路図に使用する記号（アノード端子とカソード端子とが判別できる記号）を簡略化したものでもよい）を付加してフルカラーＬＥＤの実装向きを明示するように構成してもよい。

【２４７４】

また、第４実施形態では、フルカラーＬＥＤの発光によるＬＥＤ実装面における反射率が低下する白色を有していない抵抗及びコンデンサ等の電子部品や、白色を有していないコネクタは、フルカラーＬＥＤの発光によるＬＥＤ実装面における反射率が低下するものであるため、ＬＥＤ実装面に全く実装されていなかったが、フルカラーＬＥＤの発光によるＬＥＤ実装面のうち、前方に配置される部材と対応する領域がＬＥＤ実装面における反射率に寄与することが困難である場合には、その領域に、白色を有していない抵抗及びコンデンサ等の電子部品や、白色を有していないコネクタを配置してもよい。この場合、ＬＥＤ実装面に実装される図示しない抵抗及びコンデンサ等の電子部品やコネクタを配置する位置を示す領域が図示しない各端子及び図示しない白色レジスト抜き領域として形成されるとともに、この領域の近傍に、ＬＥＤ実装面に実装される図示しない抵抗及びコンデンサ等の電子部品やコネクタと対応する部品番号が図示しない白色レジスト抜き文字として形成される。

【２４７５】

また、第４実施形態では、装飾基板のＬＥＤ実装面及びＬＥＤ非実装面には、２層の白色のレジストが形成されるものの、第１層目の白色のレジストにより全体が覆われるとともに、第２層目の白色のレジストによりマスクされた領域を除いて全体が覆われることにより、そのマスクされた領域が凹部として窪み、フルカラーＬＥＤやコネクタを配置する位置を示す領域が白色レジスト抜き領域として形成されているとともに、フルカラーＬＥＤやコネクタと対応する部品番号が白色レジスト抜き文字として形成されていたが、他の方法を用いて白色レジスト抜き領域と白色レジスト抜き文字とを形成するようにしてもよい。例えば、装飾基板のＬＥＤ実装面及びＬＥＤ非実装面に１回又は複数回だけ白色のレジストをベタ塗りした後に、この白色のレジストが乾燥する前に、フルカラーＬＥＤやコネクタを配置する位置を示す領域の版を押し当てることで白色レジスト抜き領域として形成するとともに、フルカラーＬＥＤやコネクタと対応する部品番号を示す版を押し当てることで白色レジスト抜き文字として形成するという方法、装飾基板のＬＥＤ実装面及びＬＥＤ非実装面に１回又は複数回だけ白色のレジストをベタ塗りした後に、この白色のレジストが乾燥した後に、レーザ照射により、フルカラーＬＥＤやコネクタを配置する位置を示す領域を白色レジスト抜き領域として形成するとともに、フルカラーＬＥＤやコネクタと対応する部品番号を白色レジスト抜き文字として形成するという方法を挙げることができる。

【２４７６】

また、第４実施形態に係る反射率低下等の対策の構成において、フルカラーＬＥＤの実装

位置を示す２度塗りの白色のレジストを利用した白色レジスト抜き領域（つまり、フルカラーＬＥＤを配置する位置を示す領域）を形成する際に、フルカラーＬＥＤを配置する位置を示す領域を、フルカラーＬＥＤの外形より大きい形状を有して構成していたが、フルカラーＬＥＤを配置する位置を示す領域を、フルカラーＬＥＤの外形より小さい形状（例えば、フルカラーＬＥＤ本体より小さい四角形状、単に一本の太線）を有して構成してもよい。こうすれば、フルカラーＬＥＤがＬＥＤ実装面に実装された場合に、フルカラーＬＥＤを配置する位置を示す領域がフルカラーＬＥＤ本体により覆い被されると共に、フルカラーＬＥＤ本体の周囲も第２層目の白色のレジストと第１層目の白色のレジストとが重なる領域となって第２層目の白色のレジストが濃くなるため、ＬＥＤ実装面の反射率をさらに高めることに寄与することができる。

【２４７７】

［第１実施形態に係る反射率低下等の対策の構成と第５実施形態に係る反射率低下等の対策の構成との対比］

第１実施形態に係る反射率低下等の対策の構成では、上述したように、左サイド下装飾基板４０２ｂのＬＥＤ実装面４０２ｂｘにベタ塗りされた白色のレジスト上には、フルカラーＬＥＤであるｈｄＬＥＤ１～ｈｄＬＥＤ１０と対応する部品番号と、フルカラーＬＥＤであるｈｄＬＥＤ１～ｈｄＬＥＤ１０を配置する位置を示す領域と、がシルク印刷として全く印刷されていない。そして、左サイド下装飾基板４０２ｂのＬＥＤ非実装面４０２ｂｙにベタ塗りされた白色のレジスト上には、上述したように、ＬＥＤ定電流駆動回路４０２ｂａを構成する定電流駆動回路４０２ｂａｘ、最大電流設定回路４０２ｂａｙの抵抗Ｒｒ，Ｒｂ，Ｒｇ、各種分散抵抗等の電子部品を配置する位置を示す領域がシルク印刷として黄色の実線（又は、黒色の実線）によりそれぞれ印刷されているとともに、これらの領域近傍に電子部品と対応する部品番号がシルク印刷として黄色（又は、黒色）でそれぞれ印刷されている。また、左サイド下装飾基板４０２ｂのＬＥＤ非実装面４０２ｂｙにベタ塗りされた白色のレジスト上には、上述したように、左サイド下装飾基板４０２ｂのＬＥＤ実装面４０２ｂｘに実装されるフルカラーＬＥＤであるｈｄＬＥＤ１～ｈｄＬＥＤ１０と対応する領域がシルク印刷として黄色の鎖線（又は、黒色の鎖線）でそれぞれ印刷されているとともに、これらの領域近傍にフルカラーＬＥＤであるｈｄＬＥＤ１～ｈｄＬＥＤ１０と対応する部品番号がシルク印刷として黄色（又は、黒色）でそれぞれ印刷されている。

【２４７８】

また、第１実施形態に係る反射率低下等の対策の構成では、上述したように、皿中央上装飾基板３１４のＬＥＤ実装面３１４ｘにベタ塗りされた白色のレジスト上には、フルカラーＬＥＤであるｈＬＥＤ１～ｈＬＥＤ１０と対応する部品番号と、フルカラーＬＥＤであるｈＬＥＤ１～ｈＬＥＤ１０を配置する位置を示す領域と、がシルク印刷として全く印刷されていない。そして、皿中央上装飾基板３１４のＬＥＤ非実装面３１４ｙにベタ塗りされた白色のレジスト上には、上述したように、ＬＥＤ定電流駆動回路３１４ａを構成する定電流駆動回路３１４ａｘ、最大電流設定回路３１４ａｙの抵抗Ｒｒ，Ｒｂ，Ｒｇ、各種分散抵抗等の電子部品を配置する位置を示す領域がシルク印刷として図示しない黄色の実線（又は、黒色の実線）によりそれぞれ印刷されているとともに、これらの領域近傍に電子部品と対応する部品番号がシルク印刷として図示しない黄色（又は、黒色）でそれぞれ印刷されている。また、皿中央上装飾基板３１４のＬＥＤ非実装面３１４ｙにベタ塗りされた白色のレジスト上には、上述したように、皿中央上装飾基板３１４のＬＥＤ実装面３１４ｘに実装されるフルカラーＬＥＤであるｈＬＥＤ１～ｈＬＥＤ１０と対応する領域がシルク印刷として図示しない黄色の鎖線（又は、黒色の鎖線）ＨＳＬＫ１～ＨＳＬＫ１０でそれぞれ印刷されているとともに、これらの領域ＨＳＬＫ１～ＨＳＬＫ１０の近傍にフルカラーＬＥＤであるｈＬＥＤ１～ｈＬＥＤ１０と対応する部品番号がシルク印刷として図示しない黄色（又は、黒色）でそれぞれ印刷されている。

【２４７９】

これに対して、第５実施形態に係る反射率低下等の対策の構成では、図２７０（ａ）に示

すように、左サイド下装飾基板４０２ｂのＬＥＤ実装面４０２ｂｘには、フルカラーＬＥＤであるｈｄＬＥＤ１～ｈｄＬＥＤ１０のそれぞれ１番端子～６番端子のうち１番端子と対応する位置近傍に箔抜き基準端子記号（つまり、配線パターンが形成される層（銅プレーン）において銅箔である配線パターンで基準端子記号として丸記号を作り丸記号の外側の周囲の銅箔を抜いて形成される箔抜き基準端子記号（図２７０（ｃ）には、フルカラーＬＥＤであるｈｄＬＥＤ７の１番端子～６番端子のうち１番端子と対応する位置近傍に箔抜き基準端子記号ＰＲＯのみ表した。））が形成されるとともに、フルカラーＬＥＤであるｈｄＬＥＤ１～ｈｄＬＥＤ１０を配置する位置を示す領域が図示しない各端子及び図示しない配線パターンを除く箔抜き領域（つまり、配線パターンが形成される層（銅プレーン）において、各端子及び配線パターンを除いて、銅箔を抜いて形成される領域（図２７０（ｃ）には、フルカラーＬＥＤであるｈｄＬＥＤ７と対応する領域として箔抜き領域ＬＳＬＫ７のみ表した。））として形成されており、左サイド下装飾基板４０２ｂのＬＥＤ実装面４０２ｂｘにベタ塗りされる白色のレジストによりその箔抜き領域とその箔抜き基準端子記号とがそれぞれ覆われている。具体的には、フルカラーＬＥＤであるｈｄＬＥＤ１～ｈｄＬＥＤ１０を配置する位置を示す領域が箔抜き領域ＬＳＬＫ１～ＬＳＬＫ１０として左サイド下装飾基板４０２ｂのＬＥＤ実装面４０２ｂｘにそれぞれ形成されているとともに、これらの箔抜き領域ＬＳＬＫ１～ＬＳＬＫ１０内であってフルカラーＬＥＤであるｈｄＬＥＤ１～ｈｄＬＥＤ１０の１番端子と対応する位置近傍に箔抜き基準端子記号として左サイド下装飾基板４０２ｂのＬＥＤ実装面４０２ｂｘにそれぞれ形成され、左サイド下装飾基板４０２ｂのＬＥＤ実装面４０２ｂｘにベタ塗りされる白色のレジストによりその箔抜き領域とその箔抜き基準端子記号とがそれぞれ覆われている。箔抜き基準端子記号を形成する配線パターンは、電子部品と電気的に絶縁されて形成されている。なお、フルカラーＬＥＤであるｈｄＬＥＤ１～ｈｄＬＥＤ１０を配置する位置を示す領域内に（つまり箔抜き領域ＬＳＬＫ１～ＬＳＬＫ１０内に）箔抜き基準端子記号が形成されず、いわゆるベタグランド（基板グランド）に形成されるように配置される場合には、丸記号そのものを箔抜きとして形成される。

【２４８０】

なお、左サイド下装飾基板４０２ｂのＬＥＤ実装面４０２ｂｘには、コネクタＬＤＬＣＮを配置する位置を示す領域が図示しない各端子及び図示しない配線パターンを除く図示しない箔抜き領域（つまり、配線パターンが形成される層（銅プレーン）において、各端子及び配線パターンを除いて、銅箔を抜いて形成される領域）として形成されているとともに、この領域内であってコネクタＬＤＬＣＮの各端子のうち１番端子と対応する位置近傍に箔抜き基準端子記号（つまり、配線パターンが形成される層（銅プレーン）において銅箔である配線パターンで基準端子記号として丸記号を作り丸記号の外側の周囲の銅箔を抜いて形成される箔抜き基準端子記号）が形成されている。

【２４８１】

また、左サイド下装飾基板４０２ｂのＬＥＤ実装面４０２ｂｘには、上述したように、ベタ塗りされた白色のレジストにより白色のレジスト層が形成されている。フルカラーＬＥＤであるｈｄＬＥＤ１～ｈｄＬＥＤ１０は、それぞれのパッケージが白色（白色と同色であると認められる色）の樹脂製であるとともに、コネクタＬＤＵＣＮは、そのハウジングが白色（ナチュラル色とも言われ、白色（ナチュラル色）と同色であると認められる色）の樹脂製である。つまり、左サイド下装飾基板４０２ｂのＬＥＤ実装面４０２ｂｘには、その全体が覆われる（ベタ塗りされる）白色のレジストと同一色（同色であると認められる色）のパッケージを有する電子部品であるフルカラーＬＥＤであるｈｄＬＥＤ１～ｈｄＬＥＤ１０と、その全体が覆われる（ベタ塗りされる）白色のレジストと同一色（同色であると認められる色）のハウジングを有するコネクタＬＤＵＣＮと、が実装されている。このように、第５実施形態では、白色を有していない図示しない抵抗やコンデンサ等の電子部品や、白色を有していないコネクタは、左サイド下装飾基板４０２ｂのＬＥＤ実装面４０２ｂｘに全く実装されていない。換言すると、白色を有していない抵抗及びコンデンサ等の電子部品や、白色を有していないコネクタは、フルカラーＬＥＤの発光によるＬＥ

Ｄ実装面における反射率が低下するものであるため、ＬＥＤ実装面に全く実装されていない。また、左サイド下装飾基板４０２ｂのＬＥＤ実装面４０２ｂｘには、シルク印刷により印刷される領域が全く存在していない。

【２４８２】

また、左サイド下装飾基板４０２ｂのＬＥＤ実装面４０２ｂｘには、左サイド下装飾基板４０２ｂのＬＥＤ実装面４０２ｂｘに実装されるフルカラーＬＥＤであるｈｄＬＥＤ１～ｈｄＬＥＤ１０への点灯検査を個別に行う（例えば、１つのフルカラーＬＥＤを構成する、赤色（Ｒ）に発光するＬＥＤ素子、緑色（Ｇ）に発光するＬＥＤ素子、及び青色（Ｂ）に発光するＬＥＤ素子に対して、ＬＥＤ素子ごとに行う）ことができる図示しない複数のチェックピンが配線パターンに接続されるテストパッド（又は、スルーホール）として形成されている。複数のチェックピンは、白色のレジストが塗られていない。これにより、検査を行う作業者が図示しないブローブをチェックピンに接触させることで図示しないブローブとチェックピンとが電気的に接続されて導通する状態となって各種検査を行うことができる。なお、複数のチェックピンには、定電流駆動回路４０２ｂａｘや定電流駆動回路４０２ｂｂｘへのシリアルデータの内容を確認することができるものもある。

【２４８３】

一方、第５実施形態に係る反射率低下等の対策の構成における左サイド下装飾基板４０２ｂのＬＥＤ非実装面４０２ｂｙの構成については、図２６７に示した、第３実施形態に係る反射率低下等の対策の構成における左サイド下装飾基板４０２ｂのＬＥＤ非実装面４０２ｂｙの構成と同一であり、その詳細な説明を省略する。

【２４８４】

なお、第５実施形態に係る反射率低下等の対策の構成においても、左サイド下装飾基板４０２ｂのＬＥＤ実装面４０２ｂｘ，ＬＥＤ非実装面４０２ｂｙには、ベタ塗りされた白色のレジストにより白色のレジスト層が形成されている。これにより、左サイド下装飾基板４０２ｂのＬＥＤ実装面４０２ｂｘにベタ塗りされた白色のレジストにより、フルカラーＬＥＤであるｈｄＬＥＤ１～ｈｄＬＥＤ１０の発光による前方（つまりパチンコ機１の正面側）への反射率を高めることができるようになっている。

【２４８５】

また、第５実施形態に係る反射率低下等の対策の構成では、図２７０（ｂ）に示すように、皿中央上装飾基板３１４のＬＥＤ実装面３１４ｘには、フルカラーＬＥＤであるｈＬＥＤ１～ｈＬＥＤ１０のそれぞれ１番端子～６番端子のうち１番端子と対応する位置近傍に箔抜き基準端子記号（つまり、配線パターンが形成される層（銅プレーン）において銅箔である配線パターンで基準端子記号として丸記号を作り丸記号の外側の周囲の銅箔を抜いて形成される箔抜き基準端子記号）が形成されるとともに、フルカラーＬＥＤであるｈＬＥＤ１～ｈＬＥＤ１０を配置する位置を示す領域が図示しない各端子及び図示しない配線パターンを除く箔抜き領域（つまり、配線パターンが形成される層（銅プレーン）において、各端子及び配線パターンを除いて、銅箔を抜いて形成される領域）として形成されており、皿中央上装飾基板３１４のＬＥＤ実装面３１４ｘにベタ塗りされる白色のレジストによりその箔抜き領域とその箔抜き基準端子記号とがそれぞれ覆われている。具体的には、フルカラーＬＥＤであるｈＬＥＤ１～ｈＬＥＤ１０を配置する位置を示す領域が箔抜き領域ＨＳＬＫ１～ＨＳＬＫ１０として皿中央上装飾基板３１４のＬＥＤ実装面３１４ｘにそれぞれ形成されているとともに、これらの箔抜き領域ＨＳＬＫ１～ＨＳＬＫ１０内であってフルカラーＬＥＤであるｈＬＥＤ１～ｈＬＥＤ１０の１番端子と対応する位置近傍に箔抜き基準端子記号として皿中央上装飾基板３１４のＬＥＤ実装面３１４ｘにそれぞれ形成され、皿中央上装飾基板３１４のＬＥＤ実装面３１４ｘにベタ塗りされる白色のレジストによりその箔抜き領域とその箔抜き基準端子記号とがそれぞれ覆われている。箔抜き基準端子記号を形成する配線パターンは、電子部品と電気的に絶縁されて形成されている。なお、フルカラーＬＥＤであるｈＬＥＤ１～ｈＬＥＤ１０を配置する位置を示す領域内に（つまり箔抜き領域ＨＳＬＫ１～ＨＳＬＫ１０内に）箔抜き基準端子記号が形成されず、いわゆるベタグランド（基板グランド）に形成されるように配置される場合には、丸記号

そのものを箔抜きとして形成される。
【２４８６】
なお、皿中央上装飾基板３１４のＬＥＤ実装面３１４ｘには、コネクタＨＣＮを配置する位置を示す領域が図示しない各端子及び図示しない配線パターンを除く図示しない箔抜き領域（つまり、配線パターンが形成される層（銅プレーン）において、各端子及び配線パターンを除いて、銅箔を抜いて形成される領域）として形成されているとともに、この領域内であってコネクタＨＣＮの各端子のうち１番端子と対応する位置近傍に箔抜き基準端子記号（つまり、配線パターンが形成される層（銅プレーン）において銅箔である配線パターンで基準端子記号として丸記号を作り丸記号の外側の周囲の銅箔を抜いて形成される箔抜き基準端子記号）が形成されている。
【２４８７】
また、皿中央上装飾基板３１４のＬＥＤ実装面３１４ｘの全体が白色のレジストにより覆われている。フルカラーＬＥＤであるｈＬＥＤ１～ｈＬＥＤ１０は、それぞれのパッケージが白色（白色と同色であると認められる色）の樹脂製であるとともに、コネクタＨＣＮは、そのハウジングが白色（ナチュラル色とも言われ、白色（ナチュラル色）と同色であると認められる色）の樹脂製である。つまり、皿中央上装飾基板３１４のＬＥＤ実装面３１４ｘには、その全体が覆われる（ベタ塗りされる）白色のレジストと同一色（同色であると認められる色）のパッケージを有する電子部品であるフルカラーＬＥＤであるｈＬＥＤ１～ｈＬＥＤ１０と、その全体が覆われる（ベタ塗りされる）白色のレジストと同一色（同色であると認められる色）のハウジングを有するコネクタＨＣＮとが実装されている。このように、第５実施形態では、白色を有していない図示しない抵抗やコンデンサ等の電子部品や、白色を有していないコネクタは、皿中央上装飾基板３１４のＬＥＤ実装面３１４ｘに全く実装されていない。換言すると、白色を有していない抵抗及びコンデンサ等の電子部品や、白色を有していないコネクタは、フルカラーＬＥＤの発光によるＬＥＤ実装面における反射率が低下するものであるため、ＬＥＤ実装面に全く実装されていない。また、皿中央上装飾基板３１４のＬＥＤ実装面３１４ｘには、シルク印刷により印刷される領域が全く存在していない。
【２４８８】
また、皿中央上装飾基板３１４のＬＥＤ実装面３１４ｘには、皿中央上装飾基板３１４のＬＥＤ実装面３１４ｘに実装されるフルカラーＬＥＤであるｈＬＥＤ１～ｈＬＥＤ１０への点灯検査を個別に行う（例えば、１つのフルカラーＬＥＤを構成する、赤色（Ｒ）に発光するＬＥＤ素子、緑色（Ｇ）に発光するＬＥＤ素子、及び青色（Ｂ）に発光するＬＥＤ素子に対して、ＬＥＤ素子ごとに行う）ことができる図示しない複数のチェックピンが配線パターンに接続されるテストパッド（又は、スルーホール）として形成されている。複数のチェックピンは、白色のレジストが塗られていない。これにより、検査を行う作業者が図示しないブローブをチェックピンに接触させることで図示しないブローブとチェックピンとが電気的に接続されて導通する状態となって各種検査を行うことができる。なお、複数のチェックピンには、定電流駆動回路３１４ａｘや定電流駆動回路３１４ｂｘへのシリアルデータの内容を確認することができるものもある。
【２４８９】
一方、第５実施形態に係る反射率低下等の対策の構成における皿中央上装飾基板３１４のＬＥＤ非実装面３１４ｙの構成については、上述した第３実施形態に係る反射率低下等の対策の構成における皿中央上装飾基板３１４のＬＥＤ非実装面３１４ｙの構成と同一であり、その詳細な説明を省略する。
【２４９０】
なお、第５実施形態に係る反射率低下等の対策の構成においても、皿中央上装飾基板３１４のＬＥＤ実装面３１４ｘ，ＬＥＤ非実装面３１４ｙには、ベタ塗りされた白色のレジストにより白色のレジスト層が形成されている。これにより、皿中央上装飾基板３１４のＬＥＤ実装面３１４ｘにベタ塗りされた白色のレジストにより、フルカラーＬＥＤであるｈＬＥＤ１～ｈＬＥＤ１０の発光による前方（つまり演出操作ユニット３００の上方へ向か

う側）への反射率を高めることができるようになっている。
【２４９１】
このように、第１実施形態に係る反射率低下等の対策の構成では、左サイド下装飾基板４０２ｂのＬＥＤ実装面４０２ｂｘにベタ塗りされた白色のレジスト上には、フルカラーＬＥＤであるｈｄＬＥＤ１～ｈｄＬＥＤ１０と対応する部品番号と、フルカラーＬＥＤであるｈｄＬＥＤ１～ｈｄＬＥＤ１０を配置する位置を示す領域と、がシルク印刷として全く印刷されていないとともに、皿中央上装飾基板３１４のＬＥＤ実装面３１４ｘにベタ塗りされた白色のレジスト上には、フルカラーＬＥＤであるｈＬＥＤ１～ｈＬＥＤ１０と対応する部品番号と、フルカラーＬＥＤであるｈＬＥＤ１～ｈＬＥＤ１０を配置する位置を示す領域と、がシルク印刷として全く印刷されていないのに対して、第５実施形態に係る反射率低下等の対策の構成では、左サイド下装飾基板４０２ｂのＬＥＤ実装面４０２ｂｘには、フルカラーＬＥＤであるｈｄＬＥＤ１～ｈｄＬＥＤ１０と対応する部品番号が全く形成されず、かつ、フルカラーＬＥＤであるｈｄＬＥＤ１～ｈｄＬＥＤ１０の１番端子と対応する位置近傍に箔抜き基準端子記号（つまり、配線パターンが形成される層（銅プレーン）において銅箔である配線パターンで基準端子記号として丸記号を作り丸記号の外側の周囲の銅箔を抜いて形成される箔抜き基準端子記号）が形成されるとともに、フルカラーＬＥＤであるｈｄＬＥＤ１～ｈｄＬＥＤ１０を配置する位置を示す領域が図示しない各端子及び図示しない配線パターンを除く箔抜き領域（つまり、配線パターンが形成される層（銅プレーン）において、各端子及び配線パターンを除いて、銅箔を抜いて形成される領域）として形成されており、左サイド下装飾基板４０２ｂのＬＥＤ実装面４０２ｂｘにベタ塗りされる白色のレジストによりその箔抜き領域とその箔抜き基準端子記号とがそれぞれ覆われ、さらに、皿中央上装飾基板３１４のＬＥＤ実装面３１４ｘには、フルカラーＬＥＤであるｈＬＥＤ１～ｈＬＥＤ１０と対応する部品番号が全く形成されず、かつ、フルカラーＬＥＤであるｈＬＥＤ１～ｈＬＥＤ１０のそれぞれ１番端子～６番端子のうち１番端子と対応する位置近傍に箔抜き基準端子記号（つまり、配線パターンが形成される層（銅プレーン）において銅箔である配線パターンで基準端子記号として丸記号を作り丸記号の外側の周囲の銅箔を抜いて形成される箔抜き基準端子記号）が形成されるとともに、フルカラーＬＥＤであるｈＬＥＤ１～ｈＬＥＤ１０を配置する位置を示す領域が図示しない各端子及び図示しない配線パターンを除く箔抜き領域（つまり、配線パターンが形成される層（銅プレーン）において、各端子及び配線パターンを除いて、銅箔を抜いて形成される領域）として形成されており、皿中央上装飾基板３１４のＬＥＤ実装面３１４ｘにベタ塗りされる白色のレジストによりその箔抜き領域とその箔抜き基準端子記号とがそれぞれ覆われているという点で相違している。
【２４９２】
左サイド下装飾基板４０２ｂのＬＥＤ実装面４０２ｂｘにベタ塗りされた白色のレジストにより、フルカラーＬＥＤであるｈｄＬＥＤ１～ｈｄＬＥＤ１０の発光による前方（つまりパチンコ機１の正面側）への反射率を高めることができるようになっている。また、皿中央上装飾基板３１４のＬＥＤ実装面３１４ｘにベタ塗りされた白色のレジストにより、フルカラーＬＥＤであるｈＬＥＤ１～ｈＬＥＤ１０の発光による前方（つまり演出操作ユニット３００の上方へ向かう側）への反射率を高めることができるようになっている。このため、フルカラーＬＥＤと対応する部品番号、及びフルカラーＬＥＤを配置する位置を示す領域が、左サイド下装飾基板４０２ｂのＬＥＤ実装面４０２ｂｘにベタ塗りされた白色のレジスト上に、シルク印刷として黒色で印刷されている場合には、黒色に印刷されたシルク印刷により、フルカラーＬＥＤの発光によるＬＥＤ実装面における反射率が低下することとなり、フルカラーＬＥＤの発光が効率良く使用されないという問題が生ずる。また、扉枠３に設けられる各種装飾体（例えば、図７５に示した、皿左上装飾体２７１、皿左下装飾体２８１、皿右上装飾体２７６、皿右下装飾体２８６、ユニット前カバー３１２の皿中央上装飾体３１２ａ及び皿中央下装飾体３１２ｂ、扉枠左サイド装飾体４０４、サイド窓内装飾部材４１２、扉枠右サイド装飾体４１９、扉枠トップ装飾体４５３）は、上述したように、透明に形成されており、パチンコ機１の前方に着座した遊技者が頭（顔）

を動かすことで頭（顔）の方向により視線が変化するため、扉枠３に設けられる各種装飾体に備える各種装飾基板のＬＥＤ実装面を遊技者が視認することができる場合がある。そうすると、遊技者にとって遊技と全く関係を持たないフルカラーＬＥＤと対応する部品番号、及びフルカラーＬＥＤを配置する位置を示す領域が遊技者に視認されるという問題が生ずる。

【２４９３】

そこで、第５実施形態に係る反射率低下等の対策の構成では、遊技者にとって遊技と全く関係を持たないフルカラーＬＥＤと対応する部品番号を全く形成せず、かつ、遊技者にとって遊技と全く関係を持たないフルカラーＬＥＤを配置する位置を示す領域を箔抜き領域として形成してＬＥＤ実装面にベタ塗りされる白色のレジストにより、箔抜き領域（この箔抜き領域内には、上述したように、フルカラーＬＥＤの１番端子と対応する位置近傍に箔抜き基準端子記号が形成されている。）を覆うことにより、フルカラーＬＥＤの配線パターンと、フルカラーＬＥＤの実装位置を示す箔抜き領域（つまり、フルカラーＬＥＤを配置する位置を示す領域）と、フルカラーＬＥＤの１番端子と対応する位置近傍に形成される箔抜き基準端子記号と、が銅箔により形成されることで同一色とするとともに、ＬＥＤ実装面に形成される白色のレジストにより覆われることで、フルカラーＬＥＤの実装位置を示す箔抜き領域（つまり、フルカラーＬＥＤを配置する位置を示す領域）を見つけ出したり、フルカラーＬＥＤの１番端子と対応する位置近傍に形成される箔抜き基準端子記号を見つけ出したりすることを困難とすることができる。

【２４９４】

また、第５実施形態に係る反射率低下等の対策の構成では、遊技者にとって遊技と全く関係を持たないフルカラーＬＥＤと対応する部品番号を全く形成せず、遊技者にとって遊技と全く関係を持たないフルカラーＬＥＤを配置する位置を示す領域を箔抜き領域として形成してＬＥＤ実装面にベタ塗りされる白色のレジストにより箔抜き領域を覆うことにより、フルカラーＬＥＤの発光によるＬＥＤ実装面における反射率が低下することを防止することができる。

【２４９５】

第５実施形態に係る反射率低下等の対策の構成においても、第１実施形態に係る反射率低下等の対策の構成と同様な作用効果を奏することができる。つまり、フルカラーＬＥＤを特定する番号（つまり、フルカラーＬＥＤと対応する部品番号）やフルカラーＬＥＤの実装位置を示す箔抜き領域（つまり、フルカラーＬＥＤを配置する位置を示す領域）を遊技者に視認困難とすることができるとともに、フルカラーＬＥＤの発光によるＬＥＤ実装面における反射率が低下することを防止することができる。

【２４９６】

また、第５実施形態に係る反射率低下等の対策の構成では、ＬＥＤ実装面に対してシルク印刷という工程を省くことができるため、シルク印刷の版代や基板の製造工程数の削減により基板製造コストを下げることができる。

【２４９７】

また、第５実施形態に係る反射率低下等の対策の構成では、フルカラーＬＥＤの各端子（１番端子～６番端子）のうち１番端子と対応する位置近傍に箔抜き基準端子記号（つまり、配線パターンが形成される層（銅プレーン）において銅箔である配線パターンで基準端子記号として丸記号を作り丸記号の外側の周囲の銅箔を抜いて形成される箔抜き基準端子記号）を形成することにより、ＬＥＤ実装面におけるフルカラーＬＥＤの実装向きを指示することもできる。また、コネクタの各端子のうち１番端子と対応する位置近傍に箔抜き基準端子記号（つまり、配線パターンが形成される層（銅プレーン）において銅箔である配線パターンで基準端子記号として丸記号を作り丸記号の外側の周囲の銅箔を抜いて形成される箔抜き基準端子記号）を形成することにより、ＬＥＤ実装面におけるコネクタの実装向きを指示することもできる。

【２４９８】

ここで、第５実施形態に係る反射率低下等の対策の構成において、左サイド下装飾基板４

０２ｂのＬＥＤ実装面４０２ｂｘ、及び皿中央上装飾基板３１４のＬＥＤ実装面３１４ｘには、フルカラーＬＥＤの各端子（１番端子～６番端子）のうち１番端子と対応する位置近傍に箔抜き基準端子記号（つまり、配線パターンが形成される層（銅プレーン）において銅箔である配線パターンで基準端子記号として丸記号を作り丸記号の外側の周囲の銅箔を抜いて形成される箔抜き基準端子記号）が形成される点について簡単に説明する。

【２４９９】

左サイド下装飾基板４０２ｂのＬＥＤ実装面４０２ｂｘ、及び皿中央上装飾基板３１４のＬＥＤ実装面３１４ｘ等の装飾基板のＬＥＤ実装面に複数のフルカラーＬＥＤが実装されると、装飾基板のＬＥＤ実装面には、複数のフルカラーＬＥＤと対応する部品番号として、例えば、ＬＥＤ１、ＬＥＤ２、・・・、ＬＥＤ５０等のようにフルカラーＬＥＤの近傍に配置する必要がある。

【２５００】

ところが、装飾基板のＬＥＤ実装面にフルカラーＬＥＤが多く実装されればされるほど、ＬＥＤ１、ＬＥＤ２、・・・、ＬＥＤ５０等の複数のフルカラーＬＥＤと対応する部品番号と、複数のフルカラーＬＥＤの各端子（１番端子～６番端子）のうち１番端子と対応する位置近傍に基準端子記号と、を配置する領域を確保する必要があり、この領域の確保が難しい。そこで、複数のフルカラーＬＥＤと対応する部品番号と、複数のフルカラーＬＥＤの各端子（１番端子～６番端子）のうち１番端子と対応する位置近傍に基準端子記号と、を兼用する表記方法として、フルカラーＬＥＤの各端子（１番端子～６番端子）のうち１番端子と対応する位置近傍に、ＬＥＤ１、ＬＥＤ２、・・・、ＬＥＤ５０等を箔抜き基準端子記号として表記する場合には、ＬＥＤ１、ＬＥＤ２、・・・、ＬＥＤ５０等の箔抜き基準端子記号と、配線パターンと、が接触して電気的に接続しないように離間する必要があり、ＬＥＤ１、ＬＥＤ２、・・・ＬＥＤ５０等の箔抜き基準端子記号を避けるように配線パターンを引き回す（配線パターンを屈曲させたり、スルーホールを設けたり等）必要があり、配線パターンの引き回しに制限を受けることとなる。

【２５０１】

そこで、第５実施形態に係る反射率低下等の対策の構成では、左サイド下装飾基板４０２ｂのＬＥＤ実装面４０２ｂｘ、及び皿中央上装飾基板３１４のＬＥＤ実装面３１４ｘには、フルカラーＬＥＤの各端子（１番端子～６番端子）のうち１番端子と対応する位置近傍に箔抜き基準端子記号（つまり、配線パターンが形成される層（銅プレーン）において銅箔である配線パターンで基準端子記号として丸記号を作り丸記号の外側の周囲の銅箔を抜いて形成される箔抜き基準端子記号）を形成することにより、箔抜き基準端子記号を配置する領域を小さく抑えることにより、箔抜き基準端子記号を避けるように配線パターンを引き回す必要が抑制されるため、配線パターンの引き回しに制限を受け難くしてアートワークを行う（デザイン）することができる。これにより、不要なスルーホールを左サイド下装飾基板４０２ｂのＬＥＤ実装面４０２ｂｘ、及び皿中央上装飾基板３１４に設ける必要がなくなることで、白色のレジスト液が塗布される領域の減少を抑制することができ、フルカラーＬＥＤの発光による前方（つまりパチンコ機１の正面側や演出操作ユニット３００の上方へ向かう側）への反射率を高めることに寄与することができる。

【２５０２】

なお、第５実施形態に係る反射率低下等の対策の構成において、フルカラーＬＥＤの実装位置を示す箔抜き領域（つまり、フルカラーＬＥＤを配置する位置を示す領域を箔抜き領域として形成する際）に、フルカラーＬＥＤの極性を表す記号（回路図に使用する記号（アノード端子とカソード端子とが判別できる記号）でもよいし、回路図に使用する記号（アノード端子とカソード端子とが判別できる記号）を簡略化したものでもよい）を付加してフルカラーＬＥＤの実装向きを明示するように構成してもよい。

【２５０３】

また、第５実施形態では、フルカラーＬＥＤの発光によるＬＥＤ実装面における反射率が低下する白色を有していない抵抗及びコンデンサ等の電子部品や、白色を有していないコネクタは、フルカラーＬＥＤの発光によるＬＥＤ実装面における反射率が低下するもので

あるため、ＬＥＤ実装面に全く実装されていなかったが、フルカラーＬＥＤの発光によるＬＥＤ実装面のうち、前方に配置される部材と対応する領域がＬＥＤ実装面における反射率に寄与することが困難である場合には、その領域に、白色を有していない抵抗及びコンデンサ等の電子部品や、白色を有していないコネクタを配置してもよい。この場合、ＬＥＤ実装面には、電子部品やコネクタを配置する位置を示す領域が図示しない各端子及び図示しない配線パターンを除く図示しない箔抜き領域（つまり、配線パターンが形成される層（銅プレーン）において、各端子及び配線パターンを除いて、銅箔を抜いて形成される領域）として形成されるとともに、この領域内に、電子部品やコネクタの各端子のうち１番端子と対応する位置近傍に図示しない箔抜き基準端子記号（つまり、配線パターンが形成される層（銅プレーン）において銅箔である配線パターンで基準端子記号として丸記号を作り丸記号の外側の周囲の銅箔を抜いて形成される箔抜き基準端子記号）が形成される。

【２５０４】

また、第５実施形態に係る反射率低下等の対策の構成において、フルカラーＬＥＤの実装位置を示す箔抜き領域（つまり、フルカラーＬＥＤを配置する位置を示す領域を箔抜き領域として形成する際）に、フルカラーＬＥＤの外形より大きい形状を有して構成していたが、フルカラーＬＥＤの実装位置を示す箔抜き領域（つまり、フルカラーＬＥＤを配置する位置を示す領域を箔抜き領域として形成する際）に、フルカラーＬＥＤの外形より小さい形状（例えば、フルカラーＬＥＤ本体より小さい四角形状）を有して構成してもよい。この場合、箔抜き基準端子記号（つまり、配線パターンが形成される層（銅プレーン）において銅箔である配線パターンで基準端子記号として丸記号を作り丸記号の外側の周囲の銅箔を抜いて形成される箔抜き基準端子記号）と箔抜き領域とが接続されず相互に独立した領域に形成されることとなる。こうすれば、フルカラーＬＥＤがＬＥＤ実装面に実装された場合に、フルカラーＬＥＤを配置する位置を示す箔抜き領域がフルカラーＬＥＤ本体により覆い被されるため、フルカラーＬＥＤ本体を囲む箔抜き領域が存在しなくなり、ＬＥＤ実装面の反射率をさらに高めることに寄与することができる。

【２５０５】

また、第５実施形態に係る反射率低下等の対策の構成において、ＬＥＤ実装面には、フルカラーＬＥＤの各端子のうち１番端子と対応する位置近傍に箔抜き基準端子記号が形成されていたが、ＬＥＤ実装面に実装される複数のフルカラーＬＥＤの実装向きがほぼ同一向き（つまり、実装作業者又は自動機に対して、複数のフルカラーＬＥＤの実装向きが同一向き（真逆に実装するものが存在しない）ルールが予め設けられている場合）は、複数のフルカラーＬＥＤのうちいずれか１つのフルカラーＬＥＤの各端子のうち１番端子と対応する位置近傍に箔抜き基準端子記号がＬＥＤ実装面に形成されるようにしてもよいし（例えば、図２７０（ａ），（ｃ）に示したフルカラーＬＥＤであるｈｄＬＥＤ７の１番端子～６番端子のうち１番端子と対応する位置近傍に箔抜き基準端子記号ＰＲＯ）、予め定め１つ以上のフルカラーＬＥＤの各端子のうち１番端子と対応する位置近傍に箔抜き基準端子記号がＬＥＤ実装面に形成されるようにしてもよい（例えば、図２７０（ａ）に示したフルカラーＬＥＤであるｈｄＬＥＤ１，ｈｄＬＥＤ２，ｈｄＬＥＤ９，ｈｄＬＥＤ１０の１番端子～６番端子のうち１番端子と対応する位置近傍に箔抜き基準端子記号）。

【２５０６】

また、第５実施形態に係る反射率低下等の対策の構成において、ＬＥＤ実装面には、フルカラーＬＥＤの各端子のうち１番端子と対応する位置近傍に箔抜き基準端子記号と、コネクタの各端子のうち１番端子と対応する位置近傍に箔抜き基準端子記号と、がそれぞれ形成されていた。つまり、同一の箔抜き基準端子記号が形成されていた。この箔抜き基準端子記号は、配線パターンが形成される層（銅プレーン）において銅箔である配線パターンで基準端子記号として丸記号を作り丸記号の外側の周囲の銅箔を抜いて形成されていた。そこで、フルカラーＬＥＤの各端子のうち１番端子と対応する位置近傍に箔抜き基準端子記号として、配線パターンが形成される層（銅プレーン）において銅箔である配線パターンで基準端子記号として丸記号を作り丸記号の外側の周囲の銅箔を抜いて形成するのに対して、コネクタの各端子のうち１番端子と対応する位置近傍に箔抜き基準端子記号として

、配線パターンが形成される層（銅プレーン）において銅箔である配線パターンで基準端子記号として四角記号作り四角記号の外側の周囲の銅箔を抜いて形成するようにしてもよい。この場合、フルカラーＬＥＤの部品番号やコネクタの部品番号を箔抜き基準端子記号に含めるように構成してもよい。

【２５０７】

例えば、図２７０（ａ）に示した左サイド下装飾基板４０２ｂのＬＥＤ実装面４０２ｂｘに実装されるフルカラーＬＥＤであるｈｄＬＥＤ１～ｈｄＬＥＤ１０の１番端子と対応する位置近傍に形成されるそれぞれの箔抜き基準端子記号に対しては、左サイド下装飾基板４０２ｂのＬＥＤ実装面４０２ｂｘの下側から上側へ向かって、１０個のフルカラーＬＥＤに対して、フルカラーＬＥＤの部品番号を数字１～数字１０の通し番号を丸記号の内側にそれぞれ配置されるようにする。つまり、数字を丸で囲った態様となる。この場合、丸記号の外側の周囲と、丸記号の外周に沿って所定距離だけ内側の部分から所定の大きさを有する数字の外周までに亘る領域と、数字を形成するために必要な部分（例えば、数字８であれば、上下２つの丸い形状を有する穴の部分）と、における銅箔を抜いて形成される。また左サイド下装飾基板４０２ｂのＬＥＤ実装面４０２ｂｘに実装されるコネクタＬＤＬＣＮに対しては、四角記号の内側に数字１を四角記号の内側に配置するようにする。つまり、数字を四角で囲った態様となる。この場合、四角記号の外側の周囲と、四角記号の外周に沿って所定距離だけ内側の部分から所定の大きさを有する数字の外周までに亘る領域と、数字を形成するために必要な部分（例えば、数字８であれば、上下２つの丸い形状を有する穴の部分）と、における銅箔を抜いて形成される。なお、数字に代えてアルファベットＡ～Ｚ（大文字）やアルファベットａ～ｚ（小文字）としてもよい。アルファベットであれば一文字で最大２６個の部品番号を表記することができるため、箔抜き基準端子記号による領域を小さく抑えることに寄与することができる。この態様を採用した左サイド下装飾基板４０２ｂのＬＥＤ実装面４０２ｂｘには、左サイド下装飾基板４０２ｂのＬＥＤ実装面４０２ｂｘに実装されるフルカラーＬＥＤであるｈｄＬＥＤ１～ｈｄＬＥＤ１０への点灯検査を個別に行う（例えば、１つのフルカラーＬＥＤを構成する、赤色（Ｒ）に発光するＬＥＤ素子、緑色（Ｇ）に発光するＬＥＤ素子、及び青色（Ｂ）に発光するＬＥＤ素子に対して、ＬＥＤ素子ごとに行う）ことができる図示しない複数のチェックピンが配線パターンに接続されるテストパッド（又は、スルーホール）として形成され、複数のチェックピンの近傍にフルカラーＬＥＤであるｈｄＬＥＤ１～ｈｄＬＥＤ１０のそれぞれと対応する箔抜き基準端子記号が形成されている。複数のチェックピンは、白色のレジストが塗られていない。これにより、検査を行う作業者が図示しないプローブをチェックピンに接触させることで図示しないプローブとチェックピンとが電気的に接続されて導通する状態となって各種検査を行うことができる。

【２５０８】

また、第５実施形態に係る反射率低下等の対策の構成において、ＬＥＤ実装面には、フルカラーＬＥＤの各端子のうち１番端子と対応する位置近傍に箔抜き基準端子記号が形成され、この箔抜き基準端子記号として、配線パターンが形成される層（銅プレーン）において銅箔である配線パターンで基準端子記号として丸記号を作り丸記号の外側の周囲の銅箔を抜いて形成されていた。この丸記号に代えて、例えば、図２７０（ａ）に示した左サイド下装飾基板４０２ｂのＬＥＤ実装面４０２ｂｘの下側から上側へ向かって、１０個のフルカラーＬＥＤに対して、数字１～数字１０の通し番号としてもよい。この場合、数字（通し番号）の外側の周囲と、数字を形成するために必要な部分（例えば、数字８であれば、上下２つの丸い形状を有する穴の部分）と、における銅箔を抜いて形成される。こうすれば、この通し番号は、フルカラーＬＥＤの各端子のうち１番端子の所在を示すことができると共に、１０個のフルカラーＬＥＤのうち一のフルカラーＬＥＤを特定する部品番号を示すことができる。なお、数字に代えてアルファベットＡ～Ｚ（大文字）やアルファベットａ～ｚ（小文字）としてもよい。アルファベットであれば一文字で最大２６個の部品番号を表記することができるため、箔抜き基準端子記号による領域を小さく抑えることに寄与することができる。この態様を採用した左サイド下装飾基板４０２ｂのＬＥＤ実装面

４０２ｂｘには、左サイド下装飾基板４０２ｂのＬＥＤ実装面４０２ｂｘに実装されるフルカラーＬＥＤであるｈｄＬＥＤ１～ｈｄＬＥＤ１０への点灯検査を個別に行う（例えば、１つのフルカラーＬＥＤを構成する、赤色（Ｒ）に発光するＬＥＤ素子、緑色（Ｇ）に発光するＬＥＤ素子、及び青色（Ｂ）に発光するＬＥＤ素子に対して、ＬＥＤ素子ごとに行う）ことができる図示しない複数のチェックピンが配線パターンに接続されるテストパッド（又は、スルーホール）として形成され、複数のチェックピンの近傍にフルカラーＬＥＤであるｈｄＬＥＤ１～ｈｄＬＥＤ１０のそれぞれと対応する箔抜き基準端子記号が形成されている。複数のチェックピンは、白色のレジストが塗られていない。これにより、検査を行う作業者が図示しないブローブをチェックピンに接触させることで図示しないブローブとチェックピンとが電気的に接続されて導通する状態となって各種検査を行うことができる。

【２５０９】

また、第５実施形態に係る反射率低下等の対策の構成において、左サイド下装飾基板４０２ｂのＬＥＤ非実装面４０２ｂｙの構成については、上述した第３実施形態に係る反射率低下等の対策の構成における左サイド下装飾基板４０２ｂのＬＥＤ非実装面４０２ｂｙの構成と同一であり、また皿中央上装飾基板３１４のＬＥＤ非実装面３１４ｙの構成については、上述した第３実施形態に係る反射率低下等の対策の構成における皿中央上装飾基板３１４のＬＥＤ非実装面３１４ｙの構成と同一であり、左サイド下装飾基板４０２ｂのＬＥＤ非実装面４０２ｂｙ、及び皿中央上装飾基板３１４のＬＥＤ非実装面３１４ｙには、電子部品を配置する位置を示す領域がシルク印刷として黄色の実線（又は、黒色の実線）によりそれぞれ印刷されているとともに、これらの領域近傍に電子部品と対応する部品番号がシルク印刷として黄色（又は、黒色）でそれぞれ印刷されている。これに対して、例えば、左サイド上装飾基板４０２ａのＬＥＤ実装面４０２ａに実装される５個のフルカラーＬＥＤであるｈｕＬＥＤ１～ｈｕＬＥＤ５は、上述したように、左サイド下装飾基板４０２ｂのＬＥＤ非実装面４０２ｂｙに実装されるＬＥＤ定電流駆動回路４０２ｂｂにより定電流が流れるように制御されており、ＬＥＤ定電流駆動回路が全く実装されていない。

【２５１０】

このため、第５実施形態に係る反射率低下等の対策の構成における左サイド上装飾基板４０２ａのＬＥＤ実装面には、第５実施形態に係る反射率低下等の対策の構成における左サイド下装飾基板４０２ｂのＬＥＤ実装面４０２ｂｘ、及び皿中央上装飾基板３１４のＬＥＤ実装面３１４ｘと同様に、フルカラーＬＥＤであるｈｕＬＥＤ１～ｈｕＬＥＤ５のそれぞれ１番端子～６番端子のうち１番端子と対応する位置近傍に箔抜き基準端子記号が形成されるとともに、フルカラーＬＥＤであるｈｕＬＥＤ１～ｈｕＬＥＤ５を配置する位置を示す領域が図示しない各端子及び図示しない配線パターンを除く箔抜き領域として形成されており、左サイド上装飾基板４０２ａのＬＥＤ実装面にベタ塗りされる白色のレジストによりその箔抜き領域とその箔抜き基準端子記号とがそれぞれ覆われている。また、第５実施形態に係る反射率低下等の対策の構成における左サイド上装飾基板４０２ａのＬＥＤ実装面には、図示しないコネクタの各端子のうち１番端子と対応する位置近傍に箔抜き基準端子記号がそれぞれ形成される。

【２５１１】

つまり、第５実施形態に係る反射率低下等の対策の構成における左サイド上装飾基板４０２ａのＬＥＤ非実装面には、上述したように、ＬＥＤ定電流駆動回路が全く実装されないため、第５実施形態に係る反射率低下等の対策の構成における左サイド上装飾基板４０２ａのＬＥＤ実装面にフルカラーＬＥＤであるｈｕＬＥＤ１～ｈｕＬＥＤ５を実装しても、フルカラーＬＥＤであるｈｕＬＥＤ１～ｈｕＬＥＤ５のそれぞれ１番端子～６番端子のうち１番端子と対応する位置近傍に箔抜き基準端子記号を形成したり、図示しないコネクタの各端子のうち１番端子と対応する位置近傍に箔抜き基準端子記号を形成したりしても、フルカラーＬＥＤであるｈｕＬＥＤ１～ｈｕＬＥＤ５、及び図示しないコネクタに対する配線パターンの引き回しが複雑なものとなり難く、箔抜き基準端子記号が配線パターン引き回しの邪魔となり難い。

【２５１２】
また、第５実施形態に係る反射率低下等の対策の構成における左サイド上装飾基板４０２ａのＬＥＤ実装面には、ベタ塗りされた白色のレジストにより白色のレジスト層が形成されている。５個のフルカラーＬＥＤであるｈｕＬＥＤ１～ｈｕＬＥＤ５は、それぞれのパッケージが白色（白色と同色であると認められる色）の樹脂製であるとともに、図示しないコネクタは、そのハウジングが白色（ナチュラル色とも言われ、白色（ナチュラル色）と同色であると認められる色）の樹脂製である。つまり、第５実施形態に係る反射率低下等の対策の構成における左サイド上装飾基板４０２ａのＬＥＤ実装面には、その全体が覆われる（ベタ塗りされる）白色のレジストと同一色（同色であると認められる色）のパッケージを有する電子部品であるフルカラーＬＥＤであるｈｕＬＥＤ１～ｈｕＬＥＤ５と、その全体が覆われる（ベタ塗りされる）白色のレジストと同一色（同色であると認められる色）のハウジングを有する図示しないコネクタと、が実装されている。
【２５１３】
熱分散回路４０２ａｃを構成する複数の熱分散抵抗は、白色を有していないため、第５実施形態に係る反射率低下等の対策の構成における左サイド上装飾基板４０２ａのＬＥＤ非実装面に実装されている。熱分散回路４０２ａｃを構成する複数の熱分散抵抗には、フルカラーＬＥＤであるｈｕＬＥＤ１～ｈｕＬＥＤ５と異なり、極性がないため、第５実施形態に係る反射率低下等の対策の構成における左サイド上装飾基板４０２ａのＬＥＤ非実装面には、複数の熱分散抵抗のそれぞれの位置近傍に箔抜き基準端子記号が全く形成されていないと共に、複数の熱分散抵抗と対応する部品番号がシルク印刷として黄色（又は、黒色）でそれぞれ全く印刷されていない。
【２５１４】
つまり、第５実施形態に係る反射率低下等の対策の構成における左サイド上装飾基板４０２ａのＬＥＤ実装面、及びＬＥＤ非実装面には、シルク印刷により印刷される領域が全く存在していない。これにより、シルク印刷という工程を省くことができるため、シルク印刷の版代や基板の製造工程数の削減により基板製造コストを下げることができる。
【２５１５】
また、第５実施形態に係る反射率低下等の対策の構成においても、左サイド上装飾基板４０２ａのＬＥＤ実装面，ＬＥＤ非実装面には、ベタ塗りされた白色のレジストにより白色のレジスト層が形成されている。これにより、左サイド上装飾基板４０２ａのＬＥＤ実装面にベタ塗りされた白色のレジストにより、フルカラーＬＥＤであるｈｕＬＥＤ１～ｈｕＬＥＤ５の発光による前方（つまりパチンコ機１の正面側）への反射率を高めることができるようになっている。
【２５１６】
なお、第５実施形態に係る反射率低下等の対策の構成における左サイド上装飾基板４０２ａのＬＥＤ実装面には、５個のフルカラーＬＥＤであるｈｕＬＥＤ１～ｈｕＬＥＤ５の各端子のうち１番端子と対応する位置近傍に箔抜き基準端子記号と、図示しないコネクタの各端子のうち１番端子と対応する位置近傍に箔抜き基準端子記号と、がそれぞれ形成されている。つまり、同一の箔抜き基準端子記号が形成されている。この箔抜き基準端子記号は、配線パターンが形成される層（銅プレーン）において銅箔である配線パターンで基準端子記号として丸記号作りを丸記号の外側の周囲の銅箔を抜いて形成されている。そこで、フルカラーＬＥＤであるｈｕＬＥＤ１～ｈｕＬＥＤ５の各端子のうち１番端子と対応する位置近傍に箔抜き基準端子記号として、配線パターンが形成される層（銅プレーン）において銅箔である配線パターンで基準端子記号として丸記号を作り丸記号の外側の周囲の銅箔を抜いて形成するのに対して、コネクタの各端子のうち１番端子と対応する位置近傍に箔抜き基準端子記号として、配線パターンが形成される層（銅プレーン）において銅箔である配線パターンで基準端子記号として四角記号作り四角記号の外側の周囲の銅箔を抜いて形成するようにしてもよい。この場合、フルカラーＬＥＤの部品番号やコネクタの部品番号を箔抜き基準端子記号に含めるように構成してもよい。
【２５１７】

例えば、左サイド上装飾基板４０２ａのＬＥＤ実装面に実装される５個のフルカラーＬＥＤであるｈｕＬＥＤ１～ｈｕＬＥＤ５の１番端子と対応する位置近傍に形成されるそれぞれの箔抜き基準端子記号に対しては、左サイド上装飾基板４０２ａのＬＥＤ実装面の下側から上側へ向かって、５個のフルカラーＬＥＤに対して、フルカラーＬＥＤの部品番号を数字１～数字５の通し番号を丸記号の内側にそれぞれ配置されるようにする。つまり、数字を丸で囲った態様となる。この場合、丸記号の外側の周囲と、丸記号の外周に沿って所定距離だけ内側の部分から所定の大きさを有する数字の外周までに亘る領域と、数字を形成するために必要な部分（例えば、数字４であれば、１つの三角形状の穴の部分）と、における銅箔を抜いて形成される。また左サイド上装飾基板４０２ａのＬＥＤ実装面に実装される図示しないコネクタに対しては、四角記号の内側に数字１を四角記号の内側に配置するようにする。つまり、数字を四角で囲った態様となる。この場合、四角記号の外側の周囲と、四角記号の外周に沿って所定距離だけ内側の部分から所定の大きさを有する数字の外周までに亘る領域と、数字を形成するために必要な部分（例えば、数字４であれば、１つの三角形状の穴の部分）と、における銅箔を抜いて形成される。なお、数字に代えてアルファベットＡ～Ｚ（大文字）やアルファベットａ～ｚ（小文字）としてもよい。アルファベットであれば一文字で最大２６個の部品番号を表記することができるため、箔抜き基準端子記号による領域を小さく抑えることに寄与することができる。

【２５１８】

また、第５実施形態に係る反射率低下等の対策の構成における左サイド上装飾基板４０２ａのＬＥＤ実装面には、５個のフルカラーＬＥＤであるｈｕＬＥＤ１～ｈｕＬＥＤ５の各端子のうち１番端子と対応する位置近傍に箔抜き基準端子記号と、図示しないコネクタの各端子のうち１番端子と対応する位置近傍に箔抜き基準端子記号と、がそれぞれ形成されている。つまり、同一の箔抜き基準端子記号が形成されている。この箔抜き基準端子記号は、配線パターンが形成される層（銅プレーン）において銅箔である配線パターンで基準端子記号として丸記号作りを丸記号の外側の周囲の銅箔を抜いて形成されている。そこで、この丸記号に代えて、例えば、左サイド上装飾基板４０２ａのＬＥＤ実装面の下側から上側へ向かって、５個のフルカラーＬＥＤに対して、数字１～数字５の通し番号としてもよい。この場合、数字（通し番号）の外側の周囲と、数字を形成するために必要な部分（例えば、数字４であれば、１つの三角形状の穴の部分）と、における銅箔を抜いて形成される。こうすれば、この通し番号は、フルカラーＬＥＤの各端子のうち１番端子の所在を示すことができると共に、５個のフルカラーＬＥＤのうち一のフルカラーＬＥＤを特定する部品番号を示すことができる。なお、数字に代えてアルファベットＡ～Ｚ（大文字）やアルファベットａ～ｚ（小文字）としてもよい。アルファベットであれば一文字で最大２６個の部品番号を表記することができるため、箔抜き基準端子記号による領域を小さく抑えることに寄与することができる。

【２５１９】

なお、上述した実施形態では、扉枠３の各装飾基板におけるＬＥＤ定電流駆動回路の配置方法はほぼ同一であり、図２６４に示したように、定電流駆動回路４０２ｂａｘのランドパターンの端辺を、左サイド下装飾基板４０２ｂの左端辺４０２ｂｅｇ１と右端辺４０２ｂｅｇ２とに対して、４５度傾斜した状態として配置するという構成を採用するとともに、所定個のフルカラーＬＥＤをグループ１とグループ２とに分けて、グループ１とグループ２との間に定電流駆動回路４０２ｂａｘを配置するという構成を採用したが、遊技盤５に備える細長い板状の装飾基板にも適用することができる。遊技盤５に備える細長い板状の装飾基板としては、例えば、遊技盤５の各種演出ユニットに備える装飾基板を挙げることができる。

【２５２０】

また、上述した実施形態では、扉枠３の各装飾基板におけるＬＥＤ定電流駆動回路は、８個のフルカラーＬＥＤに定電流を流して発光制御を行っていたが、フルカラーＬＥＤに限定されず、白色、赤色、緑色、黄色、橙色、青色、緑色等の単色のＬＥＤであってもよい。単色のＬＥＤを用いることもできる。この場合、１つのＬＥＤ定電流駆動回路で最大２

４個の単色のＬＥＤの発光制御を行うことができる。
【２５２１】
更に、上述した実施形態では、扉枠３の各装飾基板に備えるＬＥＤ素子のカソード端子には、電源基板６３０から供給（出力）される直流＋１２Ｖが入力されていたが、ＬＥＤ定電流駆動回路の定電流駆動回路に備えるリニア電源（図２６１に示した、ＬＥＤ定電流駆動回路２８３ａの定電流駆動回路２８３ｘに備えるリニア電源２８３ｘａ）で作成した内部電源Ｖｒｅｇ（直流＋５Ｖ）をリニア電源の電流許容範囲内でＬＥＤ点灯用の電圧として利用してもよい。例えば、上述した定電流駆動回路の出力チャンネルＬＲ１～ＬＲ８，ＬＧ１～ＬＧ８，ＬＢ１～ＬＢ８のうち、一の出力チャンネルに対してリニア電源の電流許容範囲内で最大１個の単色のＬＥＤ（例えば、赤色のＬＥＤを除くＬＥＤ）を電気的に接続した場合にはその単色のＬＥＤのアノード端子にリニア電源で作成した内部電源Ｖｒｅｇ（直流＋５Ｖ）が入力されるように構成するとともにその単色のＬＥＤのカソード端子が上述した熱分散抵回路の熱分散抵抗を介して一の出力チャンネルと電気的に接続されるように構成する。また、上述した定電流駆動回路の出力チャンネルＬＲ１～ＬＲ８，ＬＧ１～ＬＧ８，ＬＢ１～ＬＢ８のうち、一の出力チャンネルに対してリニア電源の電流許容範囲内で最大２個の単色のＬＥＤ（例えば、赤色のＬＥＤ）を電気的に直列接続した場合には初段のＬＥＤのアノード端子にリニア電源で作成した内部電源Ｖｒｅｇ（直流＋５Ｖ）が入力されるように構成するとともに最終段のＬＥＤのカソード端子が上述した熱分散抵回路の熱分散抵抗を介して一の出力チャンネルと電気的に接続されるように構成することができる。このように構成される装飾基板は、扉枠３のほかに、遊技盤５に備える装飾基板においても適用することができる。
【２５２２】
また、上述した実施形態では、扉枠３の各装飾基板に備えるＬＥＤ素子のカソード端子には、電源基板６３０から供給（出力）される直流＋１２Ｖが入力されるとともに、定電流駆動回路の出力チャンネルＬＲ１～ＬＲ８，ＬＧ１～ＬＧ８，ＬＢ１～ＬＢ８のうち、一の出力チャンネルに対して１個のフルカラーＬＥＤを構成するＬＥＤ素子のカソード端子が上述した熱分散抵回路の熱分散抵抗を介して電気的に接続されていたが、一の出力チャンネルに対して複数のフルカラーＬＥＤを電気的に直列接続してもよい。この場合、フルカラーＬＥＤの個数としては、２個～３個となる。なお、一の出力チャンネルに対してさらにフルカラーＬＥＤの個数を増加する必要がある場合には、電源基板６３０から供給（出力）される直流＋１２Ｖに代えて、電源基板６３０から供給（出力）される直流＋３５ＶをＬＥＤ点灯用の電圧として利用してもよい。このように構成される装飾基板は、扉枠３のほかに、遊技盤５に備える装飾基板においても適用することができる。
【２５２３】
更に、上述した実施形態では、扉枠トップ装飾体４５３の扉枠トップ中央装飾基板４５５、扉枠トップ左装飾基板４５６、及び扉枠トップ右装飾基板４５７は、扉枠トップ中央装飾基板４５５、扉枠トップ左装飾基板４５６、及び扉枠トップ右装飾基板４５７が扉枠トップ装飾体４５３に配置された状態において装飾基板の上端辺から下端辺までに亘る幅寸法が大きいため、定電流駆動回路のランドパターンの端辺を、扉枠トップ中央装飾基板４５５、扉枠トップ左装飾基板４５６、及び扉枠トップ右装飾基板４５７の上端辺と下端辺とに平行となるよう配置されているが、扉枠トップ中央装飾基板４５５、扉枠トップ左装飾基板４５６、及び扉枠トップ右装飾基板４５７のうち、いずれか１つの装飾基板、いずれか２つの装飾基板について、定電流駆動回路のランドパターンの端辺を、その装飾基板の上端辺と下端辺とに非平行となるよう配置されていてもよい。そして、扉枠トップ右装飾基板４５７は、自身に備えるフルカラーＬＥＤに加えて、例えば２個のフルカラーＬＥＤが実装される他の右装飾基板を、自身に備えるＬＥＤ定電流駆動回路により直接発光制御してもよいし、扉枠トップ左装飾基板４５６は、自身に備えるフルカラーＬＥＤに加えて、例えば１個のフルカラーＬＥＤが実装される他の左装飾基板を、自身に備えるＬＥＤ定電流駆動回路により直接発光制御してもよい。
【２５２４】

また、上述した実施形態では、左サイド下装飾基板４０２ｂのＬＥＤ実装面４０２ｂｘ及びＬＥＤ非実装面４０２ｂｙ、皿中央上装飾基板３１４のＬＥＤ実装面３１４ｘ及びＬＥＤ非実装面３１４ｙ等の扉枠３に設けられる各装飾体に備える各種装飾基板のＬＥＤ実装面及びＬＥＤ非実装面は、白色のレジストがベタ塗りされていたが、これに代えて、白色のシルク印刷により印刷されていてもよい。この場合、各種装飾基板のＬＥＤ実装面及びＬＥＤ非実装面を白色のシルク印刷で全体を印刷した後に、フルカラーＬＥＤと対応する部品番号、及びフルカラーＬＥＤを配置する位置を示す領域を、シルク印刷として黄色（又は、黒色）でそれぞれ印刷されることとなる。

【２５２５】

更に、上述した実施形態では、左サイド下装飾基板４０２ｂのＬＥＤ非実装面４０２ｂｙ、皿中央上装飾基板３１４のＬＥＤ非実装面３１４ｙ等の扉枠３に設けられる各装飾体に備える各種装飾基板のＬＥＤ非実装面において、各種装飾基板のＬＥＤ実装面に実装されるフルカラーＬＥＤと対応する領域をシルク印刷として黄色の鎖線（又は、黒色の鎖線）でそれぞれ印刷していたが、フルカラーＬＥＤの実装位置を示す補助線（つまり、フルカラーＬＥＤを配置する位置を示す領域をシルク印刷として、黄色の鎖線（又は、黒色の鎖線）で印刷する際）に、フルカラーＬＥＤの極性を表す記号（回路図に使用する記号（アノード端子とカソード端子とが判別できる記号）でもよいし、回路図に使用する記号（アノード端子とカソード端子とが判別できる記号）を簡略化したものでもよい）を付加してフルカラーＬＥＤの実装向きを明示するように構成してもよい。

【２５２６】

また、上述した実施形態では、図１０７～図２０５に示した遊技盤５に備える各装飾基板（例えば、裏後可動装飾体３１１０に備える裏後装飾基板３１１４、裏下左演出ユニット３２００に備える裏下左装飾基板３２０３、裏下右演出ユニット３２５０に備える裏下右装飾基板３２５３、裏下中装飾体ユニット３３２０に備える裏下中第一装飾基板３３２２及び裏下中第二装飾基板３３２９、裏上演出ユニット３４００に備える裏上前装飾基板３４２２及び裏上昇降装飾体ユニット３４５０の裏上後装飾基板３４５２、裏後左装飾体ユニット３５２０に備える裏後左装飾基板３５２２、裏後右装飾体ユニット３６２０に備える裏後右装飾基板３６２２、裏前左装飾体ユニット３７１０に備える裏前左装飾基板３７１４、裏前右装飾体ユニット３８１０に備える裏前右装飾基板３８１４）は、前面（表面）及び後面（裏面）が白色のレジスト液が塗布されて形成される白色塗膜（以下、単に「ベタ塗りされた白色のレジスト」と記載する場合がある。）により白色のレジスト層が形成されていると共に、各装飾基板の前面（表面）にベタ塗りされた白色のレジスト上に複数のＬＥＤ（多色発光可能なフルカラーＬＥＤ）を特定可能にする、フルカラーＬＥＤと対応する部品番号、フルカラーＬＥＤを配置する位置を示す領域等の表記部が黄色の塗料でシルク印刷により印刷されており、上述した第２実施形態に係る反射率低下等の対策の構成（フルカラーＬＥＤと対応する部品番号、及びフルカラーＬＥＤを配置する位置を示す領域により、フルカラーＬＥＤの発光によるＬＥＤ実装面における反射率が低下することを防止することができるとともに、遊技者にとって遊技と全く関係を持たないフルカラーＬＥＤと対応する部品番号、及びフルカラーＬＥＤを配置する位置を示す領域が遊技者に視認されることを防止することができるという反射率低下等の対策が講じられている点）と同一の構成であったが、図１０７～図２０５に示した遊技盤５に備える各装飾基板の後面（裏面）に、ＩＣ、抵抗、コンデンサ等の電子部品を実装する場合には、図１０７～図２０５に示した遊技盤５に備える各装飾基板の後面（裏面）にベタ塗りされた白色のレジスト上に、電子部品を配置する位置を示す領域がシルク印刷として黄色の実線（又は、黒色の実線）によりそれぞれ印刷されるとともに、これらの領域近傍に電子部品と対応する部品番号がシルク印刷として黄色（又は、黒色）でそれぞれ印刷されるようにしてもよいし、上述した第２実施形態に係る反射率低下等の対策の構成における変形例を採用してもよい。また、図１０７～図２０５に示した遊技盤５に備える各装飾基板に対して、上述した、第１実施形態に係る反射率低下等の対策の構成（変形例を含む。）、第３実施形態に係る反射率低下等の対策の構成（変形例を含む。）、第４実施形態に係る反射率低下等

の対策の構成（変形例を含む。）、及び第５実施形態に係る反射率低下等の対策の構成（変形例を含む。）のうちいずれかの構成を採用してもよい。

【２５２７】

因みに、従来より、電源基板からの電源から供給され、電飾の制御を行うことができる各種基板を備える遊技機が提案されている（例えば、特開２０１６－１９２９８９号公報（図８））。ところで、遊技機内は、各種基板に対して電源を伝えるラインや制御信号を伝えるラインが引き回され、そのラインの長さが長くなることにより、各種基板が外来ノイズによる影響を受けて誤動作するおそれがあった。

【２５２８】

また、従来より、遊技盤を透視保護板で前後に開口する窓口を覆うように構成される前枠を備える遊技機が提案されている（例えば、特開２０１６－１９２９８９号公報（段落［００１４］、及び図１））。ところで、遊技盤に形成される遊技領域を大きくすることにより前枠における左右サイドの太さが細くなって左右サイド内に収容する装飾基板も帯板状のものとなる。また、表示装置や可動体を遊技盤に設けることで遊技盤内における表示装置や可動体が占める領域が大きくなることで遊技盤に設ける装飾基板も帯板状のものとなる。ところが、帯板状の装飾基板に発光手段を制御する発光制御手段が設けられる場合には、発光制御手段から発光手段に対する配線を引き出す領域の確保が難しいという問題があった。

【２５２９】

また、従来より、演出表示装置の表示画面の前方の下方に待機して配置されるとともに、演出時に動作する可動役物装置を備える遊技機が提案されている（例えば、特開２０１５－０５８０６４号公報（段落［００４０］、図４、図８、及び図９））。可動役物装置内には、意匠面の発光部（レンズ）の裏面に対向する発光手段が実装される装飾基板が取り付けられている。ところが、遊技者にとって遊技と全く関係を持たない装飾基板に実装される発光手段を特定する番号や発光手段の実装位置を示す補助線等が発光部を通して遊技者に視認されるおそれがあった。

【２５３０】

また、従来より、発光手段が実装される装飾基板が取り付けられた遊技機が提案されている（例えば、特開２０１６－１５４６７６号公報（段落［００１９］、図５））。このような発光手段による発光演出を用いたバリエーションのある演出を遊技者に提供している。ところが、発光手段の発光を装飾基板の実装面で反射させる場合には、装飾基板に実装される発光手段を特定する番号や発光手段の実装位置を示す補助線等により反射率が低下して装飾基板を明るい発光面とすることが困難であった。

【２５３１】

また、従来より、発光部（レンズ）の裏面に対向する発光体（発光手段）等の電子部品が実装される装飾基板が枠側や遊技盤側に設けられる遊技機が提案されている（例えば、特開２０１５－０５８０６４号公報（段落［００１１］、段落［００４０］、図１、図２、図４、図８、及び図９））。ところが、遊技者にとって遊技と全く関係を持たない装飾基板に実装される電子部品を特定する補助記号が発光部を通して遊技者に視認されるおそれがあった。

【２５３２】

［遊技盤及び扉枠に備える各装飾基板の表面に形成される白色塗膜上に明色の塗料によるシルク印刷］

次に、各装飾基板の前面（表面）に形成される白色塗膜上に明色の塗料でシルク印刷により印刷し、各装飾基板を遊技盤５及び扉枠３に備える場合として、図１０７～図２０５に示した遊技盤５に備える各装飾基板（以下、「遊技盤５に備える各装飾基板」と記載する場合がある。）と、上述した第２実施形態に係る反射率低下等の対策の構成を採用した扉枠３に備える各装飾基板と、について説明する。

【２５３３】

［遊技盤に備える各装飾基板の表面に形成される白色塗膜上に明色の塗料によるシルク印

刷］
まず、図１０７～図２０５に示した遊技盤５に備える各装飾基板として、例えば、図１４５に示した裏後可動装飾体３１１０に備える裏後装飾基板３１１４、図１５９に示した裏下左演出ユニット３２００に備える裏下左装飾基板３２０３、図１５９に示した裏下右演出ユニット３２５０に備える裏下右装飾基板３２５３、図１６５に示した裏下中装飾体ユニット３３２０に備える裏下中第一装飾基板３３２２及び裏下中第二装飾基板３３２９、図１７１に示した裏上演出ユニット３４００に備える裏上前装飾基板３４２２、図１７３に示した裏上演出ユニット３４００に備える裏上昇降装飾体ユニット３４５０の裏上後装飾基板３４５２、図１８１に示した裏後左装飾体ユニット３５２０に備える裏後左装飾基板３５２２、図１８８に示した裏後右装飾体ユニット３６２０に備える裏後右装飾基板３６２２、図１９３に示した裏前左装飾体ユニット３７１０に備える裏前左装飾基板３７１４、図１９７に示した裏前右装飾体ユニット３８１０に備える裏前右装飾基板３８１４等があり、上述したように、前面（表面）及び後面（裏面）が白色のレジスト液が塗布されて形成される白色塗膜（以下、単に「ベタ塗りされた白色のレジスト」と記載する場合がある。）により白色のレジスト層が形成されていると共に、遊技盤５に備える各装飾基板の前面（表面）にベタ塗りされた白色のレジスト上に複数のＬＥＤ（多色発光可能なフルカラーＬＥＤ）を特定可能にする、フルカラーＬＥＤと対応する部品番号、フルカラーＬＥＤを配置する位置を示す領域等の表記部が黄色の塗料でシルク印刷により印刷されている。つまり、遊技盤５に備える各装飾基板は、上述した第２実施形態に係る反射率低下等の対策の構成と同一の構成を有しており、上述した第２実施形態に係る反射率低下等の対策の構成が有する効果、つまりフルカラーＬＥＤと対応する部品番号、及びフルカラーＬＥＤを配置する位置を示す領域により、フルカラーＬＥＤの発光によるＬＥＤ実装面における反射率が低下することを防止することができると共に、遊技者にとって遊技と全く関係を持たないフルカラーＬＥＤと対応する部品番号、及びフルカラーＬＥＤを配置する位置を示す領域が遊技者に視認されることを防止することができるという効果を有している（反射率低下等の対策が講じられている）。
【２５３４】
ここで、遊技盤５に備える各装飾基板の前面（表面）の前方に配置される部材について簡単に説明すると、裏後可動装飾体３１１０に備える裏後装飾基板３１１４の前面（表面）は、図１４５に示したように、前方へ向かって、透明平板状の導光放射板３１１３、透光性を有する部位（領域）と透明な部位（領域）とを有するシート状の装飾シート３１１２、そして透明平板状の装飾体３１１１という順番で配置され、導光放射板３１１３、シート状の装飾シート３１１２、及び装飾体３１１１等の遊技盤側透明部材により覆われている。裏下左演出ユニット３２００に備える裏下左装飾基板３２０３の前面（表面）は、図１５９に示したように、前方へ向かって、透明な裏下左装飾体３２０２、そして透明な裏下左回転装飾体３２０１という順番で配置され、裏下左装飾体３２０２、及び裏下左回転装飾体３２０１等の遊技盤側透明部材により覆われている。裏下右演出ユニット３２５０に備える裏下右装飾基板３２５３の前面（表面）は、図１５９に示したように、前方へ向かって、透明な裏下右装飾体３２５２、そして透明な裏下右回転装飾体３２５１という順番で配置され、裏下右装飾体３２５２、及び裏下右回転装飾体３２５１等の遊技盤側透明部材により覆われている。
【２５３５】
また、裏下中装飾体ユニット３３２０に備える裏下中第一装飾基板３３２２の前面（表面）は、図１６５に示したように、前方へ向かって、透明なインナーレンズ（拡散レンズ）３３２１、そして透明な裏下中回転装飾体３３１０という順番で配置され、インナーレンズ（拡散レンズ）３３２１、及び裏下中回転装飾体３３１０等の遊技盤側透明部材により覆われている。裏下中装飾体ユニット３３２０に備える裏下中第二装飾基板３３２９の前面（表面）は、図１６５に示したように、透明な裏下中装飾体３３２８が配置され、裏下中装飾体３３２８等の遊技盤側透明部材により覆われている。裏上演出ユニット３４００に備える裏上前装飾基板３４２２の前面（表面）は、図１７１に示したように、前方へ向

かって、透明な裏上前装飾体３４２１、又は透明な裏上前装飾体３４２１そして透明な裏上前回転装飾体３４１０という順番で配置され、裏上前装飾体３４２１、及び裏上前回転装飾体３４１０等の遊技盤側透明部材により覆われている。裏上演出ユニット３４００に備える裏上昇降装飾体ユニット３４５０の裏上後装飾基板３４５２の前面（表面）は、図１７３に示したように、前方へ向かって、透明な裏上後装飾体３４５１、そして透明な裏上後回転装飾体３４４０という順番で配置され、裏上後装飾体３４５１、及び裏上後回転装飾体３４４０等の遊技盤側透明部材により覆われている。

【２５３６】

また、裏後左装飾体ユニット３５２０に備える裏後左装飾基板３５２２の前面（表面）は、図１８１に示したように、前方へ向かって、透明な裏後左装飾体３５２１、そして透明な裏後左回転装飾体３５１０という順番で配置され、裏後左装飾体３５２１、及び裏後左回転装飾体３５１０等の遊技盤側透明部材により覆われている。裏後右装飾体ユニット３６２０に備える裏後右装飾基板３６２２の前面（表面）は、図１８８に示したように、前方へ向かって、透明な裏後右装飾体３６２１、そして透明な裏後右回転装飾体３６１０という順番で配置され、裏後右装飾体３６２１、及び裏後右回転装飾体３６１０等の遊技盤側透明部材により覆われている。裏前左装飾体ユニット３７１０に備える裏前左装飾基板３７１４の前面（表面）は、図１９３に示したように、前方へ向かって、透明平板状の裏前左装飾体３７１３、枠状のシャッター支持部材３７１２、シャッターユニット３７３０、そして枠状の前カバー３７１１という順番で配置され、裏前左装飾体３７１３等の遊技盤側透明部材により覆われている。裏前右装飾体ユニット３８１０に備える裏前右装飾基板３８１４の前面（表面）は、図１９７に示したように、前方へ向かって、透明平板状の裏前右装飾体３８１３、枠状のシャッター支持部材３８１２、シャッターユニット３８３０、そして枠状の前カバー３８１１という順番で配置され、裏前右装飾体３８１３等の遊技盤側透明部材により覆われている。

【２５３７】

このように、遊技盤５に備える各装飾基板の前面（表面）は、遊技盤側透明部材により覆われている。遊技盤５に備える各装飾基板の前面（表面）は、上述したように、白色のレジスト液が塗布されて白色塗膜が形成されて複数のＬＥＤ（多色発光可能なフルカラーＬＥＤ）が実装されている。つまり、遊技盤５に備える各装飾基板の前面（表面）が白色のレジスト液で塗布されて白色塗膜が形成されて遊技盤側透明部材により覆われている。

【２５３８】

パチンコ機１は各装飾基板に実装される複数のＬＥＤ等の発光部による電飾により煌びやかに発光演出が行われるため、遊技盤５に備える各装飾基板の前面（表面）に実装される複数のＬＥＤ（多色発光可能なフルカラーＬＥＤ）は、点灯（発光）したり、消灯したりすることによって発光態様がさまざまに変化する。このため、複数のＬＥＤが消灯した状態では、遊技者は、遊技盤５に備える各装飾基板の前面（表面）を、遊技盤側透明部材を通して視認することができる状態となり、遊技者が興ざめ遊技興趣が低下するおそれがあるし、消灯するＬＥＤが実装される装飾基板を備える演出部材が演出の進行に何ら寄与できないのも非効率である。

【２５３９】

そこで、本実施形態では、遊技盤５に備える各装飾基板の前面（表面）に実装される複数のＬＥＤ（多色発光可能なフルカラーＬＥＤ）が消灯している状態において遊技盤５に備える各装飾基板の前面（表面）に形成される白色塗膜により遊技盤側透明部材が白色部材であるかのように見えるようになっている。これにより、複数のＬＥＤ（多色発光可能なフルカラーＬＥＤ）が消灯する状態においては、遊技盤５に備える各装飾基板の前面（表面）に形成される白色塗膜が外光を効果的に反射して出射することができるため、さまざまな色の外光を遊技盤側透明部材から外部へ発することでパチンコ機１（遊技盤５）のコンセプト（つまり、パチンコ機１（遊技盤５）の世界観）が崩れ難い。したがって、遊技興趣の低下を抑制することができる。

【２５４０】

また、遊技盤５に備える各装飾基板の前面（表面）は、遊技盤側透明部材により覆われているため、遊技盤５に備える各装飾基板の前面（表面）に実装される複数のＬＥＤ（多色発光可能なフルカラーＬＥＤ）が消灯している状態において遊技盤５に備える各装飾基板の前面（表面）に形成される白色塗膜により遊技盤側透明部材が白色部材であるかのように見えるようになっている。これにより、遊技盤５に備える各装飾基板を遊技者に視認可能な装飾の一種として用いた場合であって、複数のＬＥＤ（多色発光可能なフルカラーＬＥＤ）が消灯する状態であっても、遊技盤５に備える各装飾基板の前面（表面）に形成される白色塗膜が外光を効果的に反射して出射することができるため、さまざまな色の外光を遊技盤側透明部材から外部へ発することでパチンコ機１（遊技盤５）のコンセプト（つまり、パチンコ機１（遊技盤５）の世界観）が崩れ難い。したがって、装飾性の低下を抑制することができる。

【２５４１】

また、遊技盤５に備える各装飾基板の前面（表面）は、上述したように、白色のレジスト液で塗布されて白色塗膜が形成されて遊技盤側透明部材により覆われている。遊技盤側透明部材のうち、装飾シート３１１２、裏下左回転装飾体３２０１、裏下左装飾体３２０２、裏下右回転装飾体３２５１、裏下右装飾体３２５２、裏下中回転装飾体３３１０、裏上前回転装飾体３４１０、裏上前装飾体３４２１、裏上後回転装飾体３４４０、裏上後装飾体３４５１、裏後左回転装飾体３５１０、裏後左装飾体３５２１、裏後右回転装飾体３６１０、及び裏後右装飾体３６２１は、上述したように、透明に形成されていると共に、光を撹乱可能な複数の微細な凹凸が形成されており、桜の花の一つの花弁において、花弁の中央から周縁へ向かうに従って、濃淡が濃くなる（透明度が低くなるもの）なるようにパチンコ機１（遊技盤５）のコンセプト（つまり、パチンコ機１（遊技盤５）の世界観）に沿った所定色（本実施形態では桃色）の複数のドットが印刷により施されている。換言すると、遊技盤側透明部材のうち、装飾シート３１１２、裏下左回転装飾体３２０１、裏下左装飾体３２０２、裏下右回転装飾体３２５１、裏下右装飾体３２５２、裏下中回転装飾体３３１０、裏上前回転装飾体３４１０、裏上前装飾体３４２１、裏上後回転装飾体３４４０、裏上後装飾体３４５１、裏後左回転装飾体３５１０、裏後左装飾体３５２１、裏後右回転装飾体３６１０、及び裏後右装飾体３６２１は、透明に形成され、桃色を有する濃淡領域が形成されている。これにより、複数のＬＥＤ（多色発光可能なフルカラーＬＥＤ）が消灯する状態においては、遊技盤５に備える各装飾基板の前面（表面）に形成される白色塗膜が白色の背景となることで、この白色の背景から桃色を有する濃淡領域が浮き上がり、装飾シート３１１２、裏下左回転装飾体３２０１、裏下左装飾体３２０２、裏下右回転装飾体３２５１、裏下右装飾体３２５２、裏下中回転装飾体３３１０、裏上前回転装飾体３４１０、裏上前装飾体３４２１、裏上後回転装飾体３４４０、裏上後装飾体３４５１、裏後左回転装飾体３５１０、裏後左装飾体３５２１、裏後右回転装飾体３６１０、及び裏後右装飾体３６２１による立体的な造形美を遊技者に提供することができる。

【２５４２】

なお、本実施形態では、上述したように、金属装飾部３１１１ｄ、金属装飾部３３１０ａ、金属装飾部３７１１ａ、金属装飾部３８１１ａ等の金属装飾部（金色素材）は、金色の金属箔をホットスタンピングによる箔押しによって形成されているのに対して、このような金属装飾部（金色素材）が形成される各装飾体の後方に配置される各装飾基板の前面（表面）にベタ塗りされた白色のレジスト上には、多色発光可能なフルカラーＬＥＤを特定可能にする表面側表記部が黄色の塗料によりシルク印刷により印刷されている。金色は、黄金のような色であり、黄金のように黄色に光る色であるため、表面側表記部が有する黄色は、金属装飾部３１１１ｄが有する金色と類似する色となっている。なお、遊技機では、金色の素材として、真ちゅうを使用した障害釘Ｎ、上述したホットスタンピングによる箔押しによって形成される金属装飾部にのほかに、例えば、銀色のメッキに黄色の素材（例えば、透光性を有す得る黄色の樹脂、黄色印刷物）をのせた部材、金色の印刷物等を挙げることができる。

【２５４３】

［黄色でシルク印刷された基板の前方に配置される透明な領域等を有する装飾シートの前方に金色素材（金属装飾部）を配置して透明な領域を金色素材（金属装飾部）により囲む例］
また、遊技盤５に備える各装飾基板として、例えば、裏後可動装飾体３１１０に備える裏後装飾基板３１１４、裏下中装飾体ユニット３３２０に備える裏下中第一装飾基板３３２２及び裏下中第二装飾基板３３２９、裏前左装飾体ユニット３７１０に備える裏前左装飾基板３７１４、裏前右装飾体ユニット３８１０に備える裏前右装飾基板３８１４の前面（表面）には、上述したように、白色のレジスト液が塗布されて形成される白色塗膜（以下、単に「ベタ塗りされた白色のレジスト」と記載する場合がある。）により白色のレジスト層が形成されていると共に、このベタ塗りされた白色のレジスト上に多色発光可能なフルカラーＬＥＤを特定可能にする表面側表記部が黄色の塗料でシルク印刷により印刷され、近傍に金属光沢を持った金属装飾部が配置されている。なお、表面側表記部は、上述したように、遊技盤５に備える各装飾基板の前面（表面）に実装される表面側電子部品を特定可能とするものであり、表面側電子部品の部品番号、表面側電子部品を配置する位置を示す領域等の表面側電子部品の属性（さらに、表面側電子部品の形状、表面側電子部品の大きさ、表面側電子部品の実装向き（実装方向）、表面側電子部品の型式を含む場合がある。）を示すものである。
【２５４４】
例えば、裏後可動装飾体３１１０に備える裏後装飾基板３１１４について説明すると、裏後可動装飾体３１１０に備える裏後装飾基板３１１４の前面（表面）は、図１４５に示したように、前方へ向かって、透明平板状の導光放射板３１１３、透光性を有する部位（領域）と透明な部位（領域）とを有するシート状の装飾シート３１１２、そして透明平板状の装飾体３１１１という順番で配置され、導光放射板３１１３、シート状の装飾シート３１１２、及び装飾体３１１１等の遊技盤側透明部材により覆われている。装飾体３１１１は、金属光沢を持った金属装飾部３１１１ｄを除いた全体が、無色透明に形成されている。金属装飾部３１１１ｄは、所定色（本実施形態では金色）を有しており、裏後装飾基板３１１４の前面（表面）にベタ塗りされた白色のレジスト上にシルク印刷により印刷される多色発光可能なフルカラーＬＥＤを特定可能にする表面側表記部が黄色を有しているため、表面側表記部が有する色（黄色）が金属装飾部３１１１ｄが有する色（金色）と類似する色となっている。
【２５４５】
なお、裏後可動装飾体３１１０に備える透明平板状の装飾体３１１１の金属装飾部３１１１ｄと対応する裏後装飾基板３１１４の前面（表面）には、多色発光可能なフルカラーＬＥＤが実装されていない一方、裏後装飾基板３１１４を除いた透明平板状の装飾体３１１１の透明な領域と対応する裏後装飾基板３１１４の前面（表面）には、多色発光可能なフルカラーＬＥＤが実装されている。
【２５４６】
多色発光可能なフルカラーＬＥＤが消灯する状態においては、裏後装飾基板３１１４の前面（表面）に形成される白色塗膜を、装飾体３１１１のうち金属光沢を持った金属装飾部３１１１ｄを除く透明となっている領域を通して、視認することができるものの、裏後装飾基板３１１４の前面（表面）に形成される白色塗膜が白色の背景となることで、金属装飾部３１１１ｄが有する色（金色）による誘目性によって裏後装飾基板３１１４の前面（表面）から装飾体３１１１に設けられる（形成される）金属装飾部３１１１ｄへ視線が自然に誘導されることとなる。これにより、装飾体３１１１に設けられる（形成される）金属装飾部３１１１ｄに目が引きつけられることで、裏後装飾基板３１１４の前面（表面）に形成される白色塗膜を視認し難くすることができるため、パチンコ機１（遊技盤５）のコンセプト（つまり、パチンコ機１（遊技盤５）の世界観）が崩れ難い。したがって、遊技興趣の低下を抑制することができる。
【２５４７】
また、多色発光可能なフルカラーＬＥＤが消灯する状態においては、裏後装飾基板３１１

４の前面（表面）に形成される白色塗膜を、装飾体３１１１のうち金属光沢を持った金属装飾部３１１１ｄを除く透明となっている領域を通して、視認することができるものの、裏後装飾基板３１１４の前面（表面）に形成される白色塗膜が白色の背景となることで、金属装飾部３１１１ｄが有する色（金色）による誘目性によって裏後装飾基板３１１４の前面（表面）から装飾体３１１１に設けられる（形成される）金属装飾部３１１１ｄへ視線が自然に誘導されることとなる。これにより、裏後装飾基板３１１４を遊技者に視認可能な装飾の一種として用いた場合であっても、装飾体３１１１に設けられる（形成される）金属装飾部３１１１ｄに目が引きつけられることで、裏後装飾基板３１１４の前面（表面）に形成される白色塗膜を視認し難くすることができるため、パチンコ機１（遊技盤５）のコンセプト（つまり、パチンコ機１（遊技盤５）の世界観）が崩れ難い。したがって、装飾性の低下を抑制することができる。

【２５４８】

また、多色発光可能なフルカラーＬＥＤが消灯する状態においては、裏後装飾基板３１１４の前面（表面）にベタ塗りされた白色のレジスト上にシルク印刷により印刷される多色発光可能なフルカラーＬＥＤを特定可能にする黄色を有する表面側表記部を、装飾体３１１１のうち金属光沢を持った金属装飾部３１１１ｄを除く透明となっている領域を通して、視認することができるものの、裏後装飾基板３１１４の前面（表面）に形成される白色塗膜が白色の背景となることで、金属装飾部３１１１ｄが有する色（金色）による誘目性によって裏後装飾基板３１１４の前面（表面）から装飾体３１１１に設けられる（形成される）金属装飾部３１１１ｄに視線が自然に誘導されるため、表面側表記部が金属装飾部３１１１ｄの色（金色）と類似する黄色でシルク印刷により印刷されていても、この黄色のシルク印刷の存在を分かり難くすることができるようになっている。

【２５４９】

また、裏後装飾基板３１１４の前面（表面）には、スルーホール、ランド等が形成されている。スルーホール、ランド等は、銅箔が剥き出しとなっているため、白色塗膜から目立つ存在となっているものの、金属装飾部３１１１ｄが有する色（金色）による誘目性によって裏後装飾基板３１１４の前面（表面）から装飾体３１１１に設けられる（形成される）金属装飾部３１１１ｄに視線が自然に誘導されるため、装飾体３１１１に設けられる（形成される）金属装飾部３１１１ｄに目が引きつけられることで、スルーホール、ランド等の存在を分かり難くすることができるため、裏後装飾基板３１１４の配線パターンを引き回すアートワークの作業を行う際に、スルーホールやランドの位置、大きさ、数に拘束されずに済み、裏後装飾基板３１１４の配線パターンの引き回しの自由度を高めることができると共に、アートワークの作業に要する時間を短縮することに寄与することもできる。

【２５５０】

［黄色でシルク印刷された基板の前方に配置される透明レンズの前方に金色素材（金属装飾部）を配置する例］

裏下中装飾体ユニット３３２０に備える裏下中第一装飾基板３３２２及び裏下中第二装飾基板３３２９について説明すると、裏下中装飾体ユニット３３２０に備える裏下中第一装飾基板３３２２の前面（表面）は、図１６５に示したように、前方へ向かって、透明なインナーレンズ（拡散レンズ）３３２１、そして透明な裏下中回転装飾体３３１０という順番で配置され、インナーレンズ（拡散レンズ）３３２１、及び裏下中回転装飾体３３１０等の遊技盤側透明部材により覆われている。裏下中装飾体ユニット３３２０に備える裏下中第二装飾基板３３２９の前面（表面）は、図１６５に示したように、透明な裏下中装飾体３３２８が配置され、裏下中装飾体３３２８等の遊技盤側透明部材により覆われている。裏下中回転装飾体３３１０は、金属光沢を持った金属装飾部３３１０ａを除いた全体が、透明に形成されている。金属装飾部３３１０ａは、所定色（本実施形態では金色）を有しており、裏下中第一装飾基板３３２２及び裏下中第二装飾基板３３２９の前面（表面）にベタ塗りされた白色のレジスト上にシルク印刷により印刷される多色発光可能なフルカラーＬＥＤを特定可能にする表面側表記部が黄色を有しているため、表面側表記部が有する色（黄色）が金属装飾部３３１０ａが有する色（金色）と類似する色となっている。

【２５５１】
なお、裏下中回転装飾体３３１０の金属装飾部３３１０ａと対応する裏下中第一装飾基板３３２２の前面（表面）には、多色発光可能なフルカラーＬＥＤが実装されていない一方、金属装飾部３３１０ａを除いた裏下中回転装飾体３３１０の透明な領域と対応する裏下中第一装飾基板３３２２の前面（表面）には、多色発光可能なフルカラーＬＥＤが実装されている。
【２５５２】
多色発光可能なフルカラーＬＥＤが消灯する状態においては、裏下中第一装飾基板３３２２の前面（表面）に形成される白色塗膜を、裏下中回転装飾体３３１０のうち金属光沢を持った金属装飾部３３１０ａを除く透明となっている領域を通して、視認することができるものの、裏下中第一装飾基板３３２２の前面（表面）に形成される白色塗膜が白色の背景となることで、金属装飾部３３１０ａが有する色（金色）による誘目性によって裏下中第一装飾基板３３２２の前面（表面）から裏下中回転装飾体３３１０に設けられる（形成される）金属装飾部３３１０ａへ視線が自然に誘導されることとなる。これにより、裏下中回転装飾体３３１０に設けられる（形成される）金属装飾部３３１０ａに目が引きつけられることで、裏下中第一装飾基板３３２２の前面（表面）に形成される白色塗膜を視認し難くすることができる。また、多色発光可能なフルカラーＬＥＤが消灯する状態においては、裏下中第二装飾基板３３２９の前面（表面）に形成される白色塗膜を、透明な裏下中装飾体３３２８を通して、視認することができるものの、裏下中装飾体３３２８の前方に金属光沢を持った金属装飾部３３１０ａが設けられる（形成される）裏下中回転装飾体３３１０が配置されているため、裏下中第二装飾基板３３２９の前面（表面）に形成される白色塗膜が白色の背景となることで、金属装飾部３３１０ａが有する色（金色）による誘目性によって裏下中第二装飾基板３３２９の前面（表面）から裏下中回転装飾体３３１０に設けられる（形成される）金属装飾部３３１０ａへ視線が自然に誘導されることとなる。これにより、裏下中回転装飾体３３１０に設けられる（形成される）金属装飾部３３１０ａに目が引きつけられることで、裏下中第二装飾基板３３２９の前面（表面）に形成される白色塗膜を視認し難くすることができる。このため、パチンコ機１（遊技盤５）のコンセプト（つまり、パチンコ機１（遊技盤５）の世界観）が崩れ難い。したがって、遊技興趣の低下を抑制することができる。
【２５５３】
また、多色発光可能なフルカラーＬＥＤが消灯する状態においては、裏下中第一装飾基板３３２２の前面（表面）に形成される白色塗膜を、裏下中回転装飾体３３１０のうち金属光沢を持った金属装飾部３３１０ａを除く透明となっている領域を通して、視認することができるものの、裏下中第一装飾基板３３２２の前面（表面）に形成される白色塗膜が白色の背景となることで、金属装飾部３３１０ａが有する色（金色）による誘目性によって裏下中第一装飾基板３３２２の前面（表面）から裏下中回転装飾体３３１０に設けられる（形成される）金属装飾部３３１０ａへ視線が自然に誘導されることとなる。これにより、裏下中第一装飾基板３３２２を遊技者に視認可能な装飾の一種として用いた場合であっても、裏下中回転装飾体３３１０に設けられる（形成される）金属装飾部３３１０ａに目が引きつけられることで、裏下中第一装飾基板３３２２の前面（表面）に形成される白色塗膜を視認し難くすることができる。また、多色発光可能なフルカラーＬＥＤが消灯する状態においては、裏下中第二装飾基板３３２９の前面（表面）に形成される白色塗膜を、透明な裏下中装飾体３３２８を通して、視認することができるものの、裏下中装飾体３３２８の前方に金属光沢を持った金属装飾部３３１０ａが設けられる（形成される）裏下中回転装飾体３３１０が配置されているため、裏下中第二装飾基板３３２９の前面（表面）に形成される白色塗膜が白色の背景となることで、金属装飾部３３１０ａが有する色（金色）による誘目性によって裏下中第二装飾基板３３２９の前面（表面）から裏下中回転装飾体３３１０に設けられる（形成される）金属装飾部３３１０ａへ視線が自然に誘導されることとなる。これにより、裏下中第二装飾基板３３２９を遊技者に視認可能な装飾の一種として用いた場合であっても、裏下中回転装飾体３３１０に設けられる（形成される）

金属装飾部３３１０ａに目が引きつけられることで、裏下中第二装飾基板３３２９の前面（表面）に形成される白色塗膜を視認し難くすることができる。このため、パチンコ機１（遊技盤５）のコンセプト（つまり、パチンコ機１（遊技盤５）の世界観）が崩れ難い。したがって、装飾性の低下を抑制することができる。

【２５５４】

また、多色発光可能なフルカラーＬＥＤが消灯する状態においては、裏下中第一装飾基板３３２２の前面（表面）にベタ塗りされた白色のレジスト上にシルク印刷により印刷される多色発光可能なフルカラーＬＥＤを特定可能にする黄色を有する表面側表記部を、裏下中回転装飾体３３１０のうち金属光沢を持った金属装飾部３３１０ａを除く透明となっている領域を通して、視認することができるものの、裏下中第一装飾基板３３２２の前面（表面）に形成される白色塗膜が白色の背景となることで、金属装飾部３３１０ａが有する色（金色）による誘目性によって裏下中第一装飾基板３３２２の前面（表面）から裏下中回転装飾体３３１０に設けられる（形成される）金属装飾部３３１０ａに視線が自然に誘導されるため、表面側表記部が金属装飾部３３１０ａの色（金色）と類似する黄色でシルク印刷により印刷されていても、この黄色のシルク印刷の存在を分かり難くすることができるようになっている。また、多色発光可能なフルカラーＬＥＤが消灯する状態においては、裏下中第二装飾基板３３２９の前面（表面）にベタ塗りされた白色のレジスト上にシルク印刷により印刷される多色発光可能なフルカラーＬＥＤを特定可能にする黄色を有する表面側表記部を、透明な裏下中装飾体３３２８を通して、視認することができるものの、裏下中装飾体３３２８の前方に金属光沢を持った金属装飾部３３１０ａが設けられる（形成される）裏下中回転装飾体３３１０が配置されているため、裏下中第二装飾基板３３２９の前面（表面）に形成される白色塗膜が白色の背景となることで、金属装飾部３３１０ａが有する色（金色）による誘目性によって裏下中第二装飾基板３３２９の前面（表面）から裏下中回転装飾体３３１０に設けられる（形成される）金属装飾部３３１０ａに視線が自然に誘導されるため、表面側表記部が金属装飾部３３１０ａの色（金色）と類似する黄色でシルク印刷により印刷されていても、この黄色のシルク印刷の存在を分かり難くすることができるようになっている。

【２５５５】

また、裏下中第一装飾基板３３２２の前面（表面）には、スルーホール、ランド等が形成されている。スルーホール、ランド等は、銅箔が剥き出しとなっているため、白色塗膜から目立つ存在となっているものの、金属装飾部３３１０ａが有する色（金色）による誘目性によって裏下中第一装飾基板３３２２の前面（表面）から裏下中回転装飾体３３１０に設けられる（形成される）金属装飾部３３１０ａに視線が自然に誘導されるため、裏下中回転装飾体３３１０に設けられる（形成される）金属装飾部３３１０ａに目が引きつけられることで、スルーホール、ランド等の存在を分かり難くすることができるため、裏下中第一装飾基板３３２２の配線パターンを引き回すアートワークの作業を行う際に、スルーホールやランドの位置、大きさ、数に拘束されずに済み、裏下中第一装飾基板３３２２の配線パターンの引き回しの自由度を高めることができると共に、アートワークの作業に要する時間を短縮することに寄与することもできる。また、裏下中第二装飾基板３３２９の前面（表面）には、スルーホール、ランド等が形成されている。スルーホール、ランド等は、銅箔が剥き出しとなっているため、白色塗膜から目立つ存在となっているものの、金属装飾部３３１０ａが有する色（金色）による誘目性によって裏下中第二装飾基板３３２９の前面（表面）から裏下中回転装飾体３３１０に設けられる（形成される）金属装飾部３３１０ａに視線が自然に誘導されるため、裏下中回転装飾体３３１０に設けられる（形成される）金属装飾部３３１０ａに目が引きつけられることで、スルーホール、ランド等の存在を分かり難くすることができるため、裏下中第二装飾基板３３２９の配線パターンを引き回すアートワークの作業を行う際に、スルーホールやランドの位置、大きさ、数に拘束されずに済み、裏下中第二装飾基板３３２９の配線パターンの引き回しの自由度を高めることができると共に、アートワークの作業に要する時間を短縮することに寄与することもできる。

【２５５６】
［黄色でシルク印刷された基板の前方に配置される透明な装飾体の前方に金色素材（金属装飾部）を配置して透明な装飾体の周囲を金色素材（金属装飾部）により囲む例］
裏前左装飾体ユニット３７１０に備える裏前左装飾基板３７１４について説明すると、裏前左装飾体ユニット３７１０に備える裏前左装飾基板３７１４の前面（表面）は、図１９３に示したように、前方へ向かって、透明平板状の裏前左装飾体３７１３、枠状のシャッター支持部材３７１２、シャッターユニット３７３０、そして枠状の前カバー３７１１という順番で配置され、裏前左装飾体３７１３等の遊技盤側透明部材により覆われている。枠状の前カバー３７１１の前面には、金属光沢を持った金属装飾部３７１１ａが形成されている。金属装飾部３７１１ａは、所定色（本実施形態では金色）を有しており、裏前左装飾基板３７１４の前面（表面）にベタ塗りされた白色のレジスト上にシルク印刷により印刷される多色発光可能なフルカラーＬＥＤを特定可能にする表面側表記部が黄色を有しているため、表面側表記部が有する色（黄色）が金属装飾部３７１１ａが有する色（金色）と類似する色となっている。
【２５５７】
なお、裏前左装飾体ユニット３７１０の金属装飾部３７１１ａと対応する裏前左装飾基板３７１４の前面（表面）には、多色発光可能なフルカラーＬＥＤが実装されていない一方、金属装飾部３７１１ａを除いた枠状の前カバー３７１１の枠内の領域と対応する裏前左装飾基板３７１４の前面（表面）には、多色発光可能なフルカラーＬＥＤが実装されている。
【２５５８】
シャッターユニット３７３０により前カバー３７１１の枠内が開放された開状態では、シャッターユニット３７３０の後方に設けられている裏前左装飾体３７１３が前方から視認可能な状態となる。この開状態において、多色発光可能なフルカラーＬＥＤが消灯する状態においては、裏前左装飾体３７１３が透明に形成されているため、裏前左装飾体３７１３の後方に配置される裏前左装飾基板３７１４の前面（表面）に形成される白色塗膜を、裏前左装飾体３７１３、シャッター支持部材３７１２の枠内、そしてシャッターユニット３７３０の枠内を通して、視認することができるものの、裏前左装飾基板３７１４の前面（表面）に形成される白色塗膜が白色の背景となることで、金属装飾部３７１１ａが有する色（金色）による誘目性によって裏前左装飾基板３７１４の前面（表面）から前カバー３７１１に設けられる（形成される）金属装飾部３７１１ａへ視線が自然に誘導されることとなる。これにより、前カバー３７１１に設けられる（形成される）金属装飾部３７１１ａに目が引きつけられることで、裏前左装飾基板３７１４の前面（表面）に形成される白色塗膜を視認し難くすることができるため、パチンコ機１（遊技盤５）のコンセプト（つまり、パチンコ機１（遊技盤５）の世界観）が崩れ難い。したがって、遊技興趣の低下を抑制することができる。
【２５５９】
また、シャッターユニット３７３０により前カバー３７１１の枠内が開放された開状態では、シャッターユニット３７３０の後方に設けられている裏前左装飾体３７１３が前方から視認可能な状態となる。この開状態において、多色発光可能なフルカラーＬＥＤが消灯する状態においては、裏前左装飾体３７１３が透明に形成されているため、裏前左装飾体３７１３の後方に配置される裏前左装飾基板３７１４の前面（表面）に形成される白色塗膜を、裏前左装飾体３７１３、シャッター支持部材３７１２の枠内、そしてシャッターユニット３７３０の枠内を通して、視認することができるものの、裏前左装飾基板３７１４の前面（表面）に形成される白色塗膜が白色の背景となることで、金属装飾部３７１１ａが有する色（金色）による誘目性によって裏前左装飾基板３７１４の前面（表面）から前カバー３７１１に設けられる（形成される）金属装飾部３７１１ａへ視線が自然に誘導されることとなる。これにより、裏前左装飾基板３７１４を遊技者に視認可能な装飾の一種として用いた場合であっても、前カバー３７１１に設けられる（形成される）金属装飾部３７１１ａに目が引きつけられることで、裏前左装飾基板３７１４の前面（表面）に形成

される白色塗膜を視認し難くすることができるため、パチンコ機１（遊技盤５）のコンセプト（つまり、パチンコ機１（遊技盤５）の世界観）が崩れ難い。したがって、装飾性の低下を抑制することができる。

【２５６０】

また、シャッターユニット３７３０により前カバー３７１１の枠内が開放された開状態において、多色発光可能なフルカラーＬＥＤが消灯する状態においては、裏前左装飾基板３７１４の前面（表面）にベタ塗りされた白色のレジスト上にシルク印刷により印刷される多色発光可能なフルカラーＬＥＤを特定可能にする黄色を有する表面側表記部を、裏前左装飾体３７１３、シャッター支持部材３７１２の枠内、そしてシャッターユニット３７３０の枠内を通して、視認することができるものの、裏前左装飾基板３７１４の前面（表面）に形成される白色塗膜が白色の背景となることで、金属装飾部３７１１ａが有する色（金色）による誘目性によって裏前左装飾基板３７１４の前面（表面）から前カバー３７１１に設けられる（形成される）金属装飾部３７１１ａに視線が自然に誘導されるため、表面側表記部が金属装飾部３７１１ａの色（金色）と類似する黄色でシルク印刷により印刷されていても、この黄色のシルク印刷の存在を分かり難くすることができるようになっている。

【２５６１】

また、裏前左装飾基板３７１４の前面（表面）には、スルーホール、ランド等が形成されている。スルーホール、ランド等は、銅箔が剥き出しとなっているため、白色塗膜から目立つ存在となっているものの、金属装飾部３７１１ａが有する色（金色）による誘目性によって裏前左装飾基板３７１４の前面（表面）から前カバー３７１１に設けられる（形成される）金属装飾部３７１１ａに視線が自然に誘導されるため、前カバー３７１１に設けられる（形成される）金属装飾部３７１１ａに目が引きつけられることで、スルーホール、ランド等の存在を分かり難くすることができるため、裏前左装飾基板３７１４の配線パターンを引き回すアートワークの作業を行う際に、スルーホールやランドの位置、大きさ、数に拘束されずに済み、裏前左装飾基板３７１４の配線パターンの引き回しの自由度を高めることができると共に、アートワークの作業に要する時間を短縮することに寄与することもできる。

【２５６２】

［黄色でシルク印刷された基板の前方に配置される透明な装飾体の前方に金色素材（金属装飾部）を配置して透明な装飾体の周囲を金色素材（金属装飾部）により囲む例］

裏前右装飾体ユニット３８１０に備える裏前右装飾基板３８１４について説明すると、裏前右装飾体ユニット３８１０に備える裏前右装飾基板３８１４の前面（表面）は、図１９７に示したように、前方へ向かって、透明平板状の裏前右装飾体３８１３、枠状のシャッター支持部材３８１２、シャッターユニット３８３０、そして枠状の前カバー３８１１という順番で配置され、裏前右装飾体３８１３等の遊技盤側透明部材により覆われている。枠状の前カバー３８１１の前面には、金属光沢を持った金属装飾部３８１１ａが形成されている。金属装飾部３８１１ａは、所定色（本実施形態では金色）を有しており、裏前右装飾基板３８１４の前面（表面）にベタ塗りされた白色のレジスト上にシルク印刷により印刷される多色発光可能なフルカラーＬＥＤを特定可能にする表面側表記部が黄色を有しているため、表面側表記部が有する色（黄色）が金属装飾部３８１１ａが有する色（金色）と類似する色となっている。

【２５６３】

なお、裏前右装飾体ユニット３８１０の金属装飾部３８１１ａと対応する裏前右装飾基板３８１４の前面（表面）には、多色発光可能なフルカラーＬＥＤが実装されていない一方、金属装飾部３８１１ａを除いた枠状の前カバー３８１１の枠内の領域と対応する裏前右装飾基板３８１４の前面（表面）には、多色発光可能なフルカラーＬＥＤが実装されている。

【２５６４】

シャッターユニット３８３０により前カバー３８１１の枠内が開放された開状態では、シ

ャッターユニット３８３０の後方に設けられている裏前右装飾体３８１３が前方から視認可能な状態となる。この開状態において、多色発光可能なフルカラーＬＥＤが消灯する状態においては、裏前右装飾体３８１３が透明に形成されているため、裏前右装飾体３８１３の後方に配置される裏前右装飾基板３８１４の前面（表面）に形成される白色塗膜を、裏前右装飾体３８１３、シャッター支持部材３８１２の枠内、そしてシャッターユニット３８３０の枠内を通して、視認することができるものの、裏前右装飾基板３８１４の前面（表面）に形成される白色塗膜が白色の背景となることで、金属装飾部３８１１ａが有する色（金色）による誘目性によって裏前右装飾基板３８１４の前面（表面）から前カバー３８１１に設けられる（形成される）金属装飾部３８１１ａへ視線が自然に誘導されることとなる。これにより、前カバー３８１１に設けられる（形成される）金属装飾部３８１１ａに目が引きつけられることで、裏前右装飾基板３８１４の前面（表面）に形成される白色塗膜を視認し難くすることができるため、パチンコ機１（遊技盤５）のコンセプト（つまり、パチンコ機１（遊技盤５）の世界観）が崩れ難い。したがって、遊技興趣の低下を抑制することができる。

【２５６５】

また、シャッターユニット３８３０により前カバー３８１１の枠内が開放された開状態では、シャッターユニット３８３０の後方に設けられている裏前右装飾体３８１３が前方から視認可能な状態となる。この開状態において、多色発光可能なフルカラーＬＥＤが消灯する状態においては、裏前右装飾体３８１３が透明に形成されているため、裏前右装飾体３８１３の後方に配置される裏前右装飾基板３８１４の前面（表面）に形成される白色塗膜を、裏前右装飾体３８１３、シャッター支持部材３８１２の枠内、そしてシャッターユニット３８３０の枠内を通して、視認することができるものの、裏前右装飾基板３８１４の前面（表面）に形成される白色塗膜が白色の背景となることで、金属装飾部３８１１ａが有する色（金色）による誘目性によって裏前右装飾基板３８１４の前面（表面）から前カバー３８１１に設けられる（形成される）金属装飾部３８１１ａへ視線が自然に誘導されることとなる。これにより、裏前右装飾基板３８１４を遊技者に視認可能な装飾の一種として用いた場合であっても、前カバー３８１１に設けられる（形成される）金属装飾部３８１１ａに目が引きつけられることで、裏前右装飾基板３８１４の前面（表面）に形成される白色塗膜を視認し難くすることができるため、パチンコ機１（遊技盤５）のコンセプト（つまり、パチンコ機１（遊技盤５）の世界観）が崩れ難い。したがって、装飾性の低下を抑制することができる。

【２５６６】

また、シャッターユニット３８３０により前カバー３８１１の枠内が開放された開状態において、多色発光可能なフルカラーＬＥＤが消灯する状態においては、裏前右装飾基板３８１４の前面（表面）にベタ塗りされた白色のレジスト上にシルク印刷により印刷される多色発光可能なフルカラーＬＥＤを特定可能にする黄色を有する表面側表記部を、裏前右装飾体３８１３、シャッター支持部材３８１２の枠内、そしてシャッターユニット３８３０の枠内を通して、視認することができるものの、裏前右装飾基板３８１４の前面（表面）に形成される白色塗膜が白色の背景となることで、金属装飾部３８１１ａが有する色（金色）による誘目性によって裏前右装飾基板３８１４の前面（表面）から前カバー３８１１に設けられる（形成される）金属装飾部３８１１ａに視線が自然に誘導されるため、表面側表記部が金属装飾部３８１１ａの色（金色）と類似する黄色でシルク印刷により印刷されていても、この黄色のシルク印刷の存在を分かり難くすることができるようになっている。

【２５６７】

また、裏前右装飾基板３８１４の前面（表面）には、スルーホール、ランド等が形成されている。スルーホール、ランド等は、銅箔が剥き出しとなっているため、白色塗膜から目立つ存在となっているものの、金属装飾部３８１１ａが有する色（金色）による誘目性によって裏前右装飾基板３８１４の前面（表面）から前カバー３８１１に設けられる（形成される）金属装飾部３８１１ａに視線が自然に誘導されるため、前カバー３８１１に設け

られる（形成される）金属装飾部３８１１ａに目が引きつけられることで、スルーホール、ランド等の存在を分かり難くすることができるため、裏前右装飾基板３８１４の配線パターンを引き回すアートワークの作業を行う際に、スルーホールやランドの位置、大きさ、数に拘束されずに済み、裏前右装飾基板３８１４の配線パターンの引き回しの自由度を高めることができると共に、アートワークの作業に要する時間を短縮することに寄与することもできる。

【２５６８】

［黄色でシルク印刷された基板の前方に配置される透明な装飾体を金色素材（金属装飾部）と金色素材（金属装飾部）との間に紛れて配置する例］

また、遊技盤５の遊技領域５ａには、図１１１に示したように、その下側に図１６３に示した裏下中演出ユニット３３００の裏下中装飾体ユニット３３２０が待機位置（原位置）で配置され、その上側に図１７１に示した裏上演出ユニット３４００が配置され、その左側に図１９３に示した裏前左演出ユニット３７００の裏前左装飾体ユニット３７１０が配置され、その右側に図１９７に示した裏前右演出ユニット３８００の裏前右装飾体ユニット３８１０が配置され、その左下側に図１５９に示した裏下左演出ユニット３２００が配置され、その右下側に図１５９に示した裏下右演出ユニット３２５０が配置されている。

【２５６９】

遊技盤５の遊技領域５ａの下側に配置される裏下中装飾体ユニット３３２０の裏下中回転装飾体３３１０、遊技盤５の遊技領域５ａの左側に配置される裏前左装飾体ユニット３７１０の前カバー３７１１、及び遊技盤５の遊技領域５ａの右側に配置される裏前右装飾体ユニット３８１０の前カバー３８１１には、金属装飾部３３１０ａ，３７１１ａ，３８１１ａが設けられ（形成され）、所定色としてすべて金色を有している。

【２５７０】

これに対して、遊技盤５の遊技領域５ａの上側に配置される裏上演出ユニット３４００の裏上前装飾体３４２１、及び裏上前回転装飾体３４１０は、透明に形成され、裏上前装飾基板３４２２の前面（表面）にベタ塗りされた白色のレジスト上にシルク印刷により印刷される多色発光可能なフルカラーＬＥＤを特定可能にする表面側表記部が黄色を有しており、表面側表記部が有する色（黄色）が、裏上演出ユニット３４００の左方に配置される裏前左装飾体ユニット３７１０の前カバー３７１１の金属装飾部３７１１ａと、裏上演出ユニット３４００の右方に配置される裏前右装飾体ユニット３８１０の前カバー３８１１の金属装飾部３８１１ａと、が有する金色と類似する色となっている。換言すると、金色と類似する黄色の表面側表記部を有する裏上前装飾基板３４２２が、裏前左装飾体ユニット３７１０の前カバー３７１１の金属装飾部３７１１ａと裏前右装飾体ユニット３８１０の前カバー３８１１の金属装飾部３８１１ａとに紛れて配置されているため（裏前左装飾体ユニット３７１０の前カバー３７１１の金属装飾部３７１１ａと裏前右装飾体ユニット３８１０の前カバー３７８１の金属装飾部３８１１ａとに近傍して配置されているため）、表面側表記部が有する色（黄色）が裏上前装飾体３４２１、又は、裏上前装飾体３４２１そして裏上前回転装飾体３４１０を通して、視認できる場合であっても、金色を有する金属装飾部３７１１ａ，３８１１ａによる誘目性によって、裏上前装飾基板３４２２の存在を分かり難くし、表面側表記部の存在を分かり難くすることができる。

【２５７１】

また、遊技盤５の遊技領域５ａの左下側に配置される裏下左演出ユニット３２００の裏下左装飾体３２０２、及び裏下左回転装飾体３２０１は、透明に形成され、裏下左装飾基板３２０３の前面（表面）にベタ塗りされた白色のレジスト上にシルク印刷により印刷される多色発光可能なフルカラーＬＥＤを特定可能にする表面側表記部が黄色を有しており、表面側表記部が有する色（黄色）が、裏下左演出ユニット３２００の左上方に配置される裏前左装飾体ユニット３７１０の前カバー３７１１の金属装飾部３７１１ａと、裏下左演出ユニット３２００の右下方に配置される裏下中装飾体ユニット３３２０の裏下中回転装飾体３３１０の金属装飾部３３１０ａと、が有する金色と類似する色となっている。換言すると、金色と類似する黄色の表面側表記部を有する裏下左装飾基板３２０３が、裏前左

装飾体ユニット３７１０の前カバー３７１１の金属装飾部３７１１ａと裏下中装飾体ユニット３３２０の裏下中回転装飾体３３１０の金属装飾部３３１０ａとに紛れて配置されているため（裏前左装飾体ユニット３７１０の前カバー３７１１の金属装飾部３７１１ａと裏下中装飾体ユニット３３２０の裏下中回転装飾体３３１０の金属装飾部３３１０ａとに近傍して配置されているため）、表面側表記部が有する色（黄色）が裏下左装飾体３２０２そして裏下左回転装飾体３２０１を通して、視認できる場合であっても、金色を有する金属装飾部３７１１ａ，３３１０ａによる誘目性によって、裏下左装飾基板３２０３の存在を分かり難くし、表面側表記部の存在を分かり難くすることができる。

【２５７２】

また、遊技盤５の遊技領域５ａの右下側に配置される裏下右演出ユニット３２５０の裏下右装飾体３２５２、及び裏下右回転装飾体３２５１は、透明に形成され、裏下右装飾基板３２５３の前面（表面）にベタ塗りされた白色のレジスト上にシルク印刷により印刷される多色発光可能なフルカラーＬＥＤを特定可能にする表面側表記部が黄色を有しており、表面側表記部が有する色（黄色）が、裏下右演出ユニット３２５０の右上方に配置される裏前右装飾体ユニット３８１０の前カバー３８１１の金属装飾部３８１１ａと、裏下左演出ユニット３２００の左下方に配置される裏下中装飾体ユニット３３２０の裏下中回転装飾体３３１０の金属装飾部３３１０ａと、が有する金色と類似する色となっている。換言すると、金色と類似する黄色の表面側表記部を有する裏下右装飾基板３２５３が、裏前右装飾体ユニット３８１０の前カバー３８１１の金属装飾部３８１１ａと裏下中装飾体ユニット３３２０の裏下中回転装飾体３３１０の金属装飾部３３１０ａとに紛れて配置されているため（裏前右装飾体ユニット３８１０の前カバー３８１１の金属装飾部３８１１ａと裏下中装飾体ユニット３３２０の裏下中回転装飾体３３１０の金属装飾部３３１０ａとに近傍して配置されているため）、表面側表記部が有する色（黄色）が裏下右装飾体３２５２そして裏下右回転装飾体３２５１を通して、視認できる場合であっても、金色を有する金属装飾部３８１１ａ，３３１０ａによる誘目性によって、裏下右装飾基板３２５３の存在を分かり難くし、表面側表記部の存在を分かり難くすることができる。

【２５７３】

［黄色でシルク印刷された基板の前方に配置される透明な装飾体の近くに障害釘を配置する例］

遊技盤５の遊技パネル１１００は、上述したように、外周が枠状の前構成部材１０００の内周よりもやや大きく形成されていると共に透明な平板状のパネル板１１１０と、パネル板１１１０の外周を保持しており前構成部材１０００の後側に取付けられると共に後面に裏ユニット３０００が取付けられる枠状のパネルホルダ１１２０と、を備えている。前構成部材１０００は、上述したように、遊技パネル１１００とともに透明に形成されている。これにより、前構成部材１０００の前方（つまり、遊技盤５の前方）から遊技パネル１１００を通して遊技パネル１１００の後方に配置される各種部材の存在を視認することができるようになっている（以下、「透明な遊技パネル１１００」と記載する場合がある）。

【２５７４】

また、遊技パネル１１００の前面に取付けられる表ユニット２０００は、上述したように、センター役物２５００が透明な枠状に形成され、始動口ユニット２１００が透明な部材により形成され、サイドユニット２２００が透明な部材により形成され、サイド左上ユニット２３００が透明に形成され、第一アタッカユニット２４００のユニットベース２４１１、前カバー２４１２、及び後カバー２４１３が透明な部材により形成されている。このため、例えば、図１１１に示したように、遊技パネル１１００の後方に配置される裏下左演出ユニット３２００、裏下右演出ユニット３２５０、及び裏下中演出ユニット３３００の存在を透明な遊技パネル１１００、そして表ユニット２０００の各種透明な部材を通して、視認することができるようになっている。

【２５７５】

例えば、裏下左演出ユニット３２００では、透明な遊技パネル１１００の後方には、裏下左回転装飾体３２０１、そして裏下左装飾体３２０２という透明な装飾体が配置され、こ

の透明な装飾体の後方に、裏下左装飾基板３２０３が配置されることとなる。裏下左装飾基板３２０３の前面（表面）には、多色発光可能な複数のフルカラーＬＥＤが実装されている。このように、透明な遊技パネル１１００の後方には、裏下左回転装飾体３２０１、そして裏下左装飾体３２０２という透明な装飾体、そして裏下左装飾基板３２０３という順番で配置されている。裏下左装飾基板３２０３の前面（表面）には、白色のレジスト液が塗布されて形成される白色塗膜（以下、単に「ベタ塗りされた白色のレジスト」と記載する場合がある。）により白色のレジスト層が形成されている。裏下左装飾基板３２０３の前面（表面）にベタ塗りされた白色のレジスト上に、複数のフルカラーＬＥＤ等の表面側電子部品の部品番号、表面側電子部品を配置する位置を示す領域等の表面側電子部品の属性（さらに、表面側電子部品の形状、表面側電子部品の大きさ、表面側電子部品の実装向き（実装方向）、表面側電子部品の型式を含む場合がある。）を示す表面側表記部が黄色（複数の障害釘Ｎ（本実施形態では、真ちゅうを使用している。）が有する金色と類似する色）でシルク印刷により印刷されている。

【２５７６】

遊技盤５の遊技領域５ａ内には、遊技球と当接し所定のゲージ配列で金色を有する複数の障害釘Ｎ（本実施形態では、真ちゅうを使用している。）が透明な遊技パネル１１００に植設されているため、金色を有する複数の障害釘Ｎによる誘目性を利用することができる。つまり、透明な遊技パネル１１００の前面に金色を有する複数の障害釘Ｎが植設されているため、金色を有する複数の障害釘Ｎによる誘目性によって、透明な遊技パネル１１００の後方に配置される裏下左回転装飾体３２０１、及び裏下左装飾体３２０２という透明な装飾体を通して、裏下左装飾基板３２０３の前面（表面）を視認することできる場合であっても、裏下左装飾基板３２０３にベタ塗りされた白色のレジスト上にシルク印刷により印刷される黄色（複数の障害釘Ｎが有する金色と類似する色）の表面側表記部の存在を分かり難くすることに寄与している。

【２５７７】

裏下左演出ユニット３２００と同様に、裏下右演出ユニット３２５０についても、表面側表記部の存在を分かり難くすることに寄与しているという点が成り立つ。つまり、透明な遊技パネル１１００の前面に金色を有する複数の障害釘Ｎが植設されているため、金色を有する複数の障害釘Ｎによる誘目性によって、透明な遊技パネル１１００の後方に配置される裏下右演出ユニット３２５０の裏下右回転装飾体３２５１及び裏下右装飾体３２５２という透明な装飾体を通して、裏下右演出ユニット３２５０の裏下右装飾基板３２５３の前面（表面）を視認することできる場合であっても、裏下右演出ユニット３２５０の裏下右装飾基板３２５３にベタ塗りされた白色のレジスト上にシルク印刷により印刷される黄色（複数の障害釘Ｎが有する金色と類似する色）の表面側表記部の存在を分かり難くすることに寄与している。

【２５７８】

また、裏下左演出ユニット３２００と同様に、裏下中演出ユニット３３００についても、表面側表記部の存在を分かり難くすることに寄与しているという点が成り立つ。つまり、透明な遊技パネル１１００の前面に金色を有する複数の障害釘Ｎが植設されているため、金色を有する複数の障害釘Ｎによる誘目性によって、透明な遊技パネル１１００の後方に配置される裏下中演出ユニット３３００の裏下中回転装飾体３３１０及びインナーレンズ（拡散レンズ）３３２１という透明な装飾体を通して、裏下中演出ユニット３３００の裏下中第一装飾基板３３２２の前面（表面）を視認することできる場合であっても、又は、透明な遊技パネル１１００の後方に配置される裏下中演出ユニット３３００の裏下中回転装飾体３３１０及び裏下中装飾体３３２８という透明な装飾体を通して、裏下中演出ユニット３３００の裏下中第二装飾基板３３２９の前面（表面）を視認することできる場合であっても、裏下右演出ユニット３２５０の裏下中第一装飾基板３３２２及び裏下中第二装飾基板３３２９にベタ塗りされた白色のレジスト上にシルク印刷により印刷される黄色（複数の障害釘Ｎが有する金色と類似する色）の表面側表記部の存在を分かり難くすることに寄与している。

【２５７９】
また、例えば、裏下左演出ユニット３２００の裏下左装飾基板３２０３の前面（表面）に実装される多色発光可能な複数のフルカラーＬＥＤが消灯する状態においては、裏下左装飾基板３２０３の表面に形成される白色塗膜上に金色と類似する黄色に形成される前面側表記部を、裏下左演出ユニット３２００の裏下左装飾体３２０２、そして裏下左回転装飾体３２０１という透明な装飾体、そして透明な遊技パネル１１００を通して、視認可能となるものの、裏下左装飾基板３２０３の表面に形成される白色塗膜が白色の背景となることで、裏下左装飾基板３２０３の表面の前方に配置される透明な遊技パネル１１００の表面に植設される金色を有する障害釘Ｎによる誘目性によって裏下左装飾基板３２０３の表面から金色を有する障害釘Ｎへ視線が自然と誘導されることとなる。これにより、裏下左装飾基板３２０３を遊技者に視認可能な装飾の一種として用いた場合であっても、金色を有する障害釘Ｎに目が引きつけられることで、裏下左装飾基板３２０３の表面に形成される白色塗膜を視認し難くすることができるため、遊技機の世界観が崩れ難い。したがって、装飾性の低下を抑制することができる。
【２５８０】
裏下左演出ユニット３２００と同様に、裏下右演出ユニット３２５０についても、装飾性の低下を抑制することができるという点が成り立つ。つまり、裏下右演出ユニット３２５０の裏下右装飾基板３２５３の前面（表面）に実装される多色発光可能な複数のフルカラーＬＥＤが消灯する状態においては、裏下右装飾基板３２５３の表面に形成される白色塗膜上に金色と類似する黄色に形成される前面側表記部を、裏下右演出ユニット３２５０の裏下右装飾体３２５２、そして裏下右回転装飾体３２５１という透明な装飾体、そして透明な遊技パネル１１００を通して、視認可能となるものの、裏下右装飾基板３２５３の表面に形成される白色塗膜が白色の背景となることで、裏下右装飾基板３２５３の表面の前方に配置される透明な遊技パネル１１００の表面に植設される金色を有する障害釘Ｎによる誘目性によって裏下右装飾基板３２５３の表面から金色を有する障害釘Ｎへ視線が自然と誘導されることとなる。これにより、裏下右装飾基板３２５３を遊技者に視認可能な装飾の一種として用いた場合であっても、金色を有する障害釘Ｎに目が引きつけられることで、裏下右装飾基板３２５３の表面に形成される白色塗膜を視認し難くすることができるため、遊技機の世界観が崩れ難い。したがって、装飾性の低下を抑制することができる。
【２５８１】
また、裏下左演出ユニット３２００と同様に、裏下中演出ユニット３３００についても、装飾性の低下を抑制することができるという点が成り立つ。つまり、裏下中演出ユニット３３００の裏下中第一装飾基板３３２２の前面（表面）に実装される多色発光可能な複数のフルカラーＬＥＤが消灯する状態においては、裏下中第一装飾基板３３２２の表面に形成される白色塗膜上に金色と類似する黄色に形成される前面側表記部を、裏下左演出ユニット３２００のインナーレンズ（拡散レンズ）３３２１、そして裏下中回転装飾体３３１０という透明な装飾体、そして透明な遊技パネル１１００を通して、視認可能となるものの、裏下中第一装飾基板３３２２の表面に形成される白色塗膜が白色の背景となることで、裏下中第一装飾基板３３２２の表面の前方に配置される透明な遊技パネル１１００の表面に植設される金色を有する障害釘Ｎによる誘目性によって裏下中第一装飾基板３３２２の表面から金色を有する障害釘Ｎへ視線が自然と誘導されることとなる。また、裏下中演出ユニット３３００の裏下中第二装飾基板３３２９の前面（表面）に実装される多色発光可能な複数のフルカラーＬＥＤが消灯する状態においては、裏下中第二装飾基板３３２９の表面に形成される白色塗膜上に金色と類似する黄色に形成される前面側表記部を、裏下左演出ユニット３２００の裏下中装飾体３３２８、そして裏下中回転装飾体３３１０という透明な装飾体、そして透明な遊技パネル１１００を通して、視認可能となるものの、裏下中第二装飾基板３３２９の表面に形成される白色塗膜が白色の背景となることで、裏下中第二装飾基板３３２９の表面の前方に配置される透明な遊技パネル１１００の表面に植設される金色を有する障害釘Ｎによる誘目性によって裏下中第二装飾基板３３２９の表面から金色を有する障害釘Ｎへ視線が自然と誘導されることとなる。これにより、裏下中第

一装飾基板３３２２及び裏下中第二装飾基板３３２９を遊技者に視認可能な装飾の一種として用いた場合であっても、金色を有する障害釘Ｎに目が引きつけられることで、裏下中第一装飾基板３３２２及び裏下中第二装飾基板３３２９の表面に形成される白色塗膜を視認し難くすることができるため、遊技機の世界観が崩れ難い。したがって、装飾性の低下を抑制することができる。

【２５８２】

なお、透明な遊技パネル１１００の前面に金色を有する複数の障害釘Ｎが植設されていたが、これに代えて、遊技パネル１１００の前面に、所定形状を有するセルシートが貼られ、このセルシートに金色（複数の障害釘Ｎが有する金色と同一の色または、この金色に近い色）にデザインされた部分があり、この金色にデザインされた部分による誘目性によって、例えば、この金色にデザインされた部分の後方に配置される裏下左演出ユニット３２００における裏下左回転装飾体３２０１、及び裏下左装飾体３２０２という透明な装飾体を通して、裏下左演出ユニット３２００における裏下左装飾基板３２０３の前面（表面）を視認することできる場合であっても、裏下左演出ユニット３２００における裏下左装飾基板３２０３にベタ塗りされた白色のレジスト上にシルク印刷により印刷される黄色（セルシートにデザインされた部分が有する金色と類似する色）の表面側表記部の存在を分かり難くすることに寄与している。裏下左演出ユニット３２００の裏下左装飾基板３２０３の前面（表面）に実装される多色発光可能な複数のフルカラーＬＥＤが消灯する状態においては、裏下左装飾基板３２０３の表面に形成される白色塗膜上に金色と類似する黄色に形成される前面側表記部を、裏下左演出ユニット３２００の裏下左装飾体３２０２、そして裏下左回転装飾体３２０１という透明な装飾体、そして透明な遊技パネル１１００を通して、視認可能となるものの、裏下左装飾基板３２０３の表面に形成される白色塗膜が白色の背景となることで、裏下左装飾基板３２０３の表面の前方に配置される透明な遊技パネル１１００の表面に貼られるセルシートにおける金色にデザインされた部分による誘目性によって裏下左装飾基板３２０３の表面からセルシートにおける金色にデザインされた部分へ視線が自然と誘導されることとなる。これにより、裏下左装飾基板３２０３を遊技者に視認可能な装飾の一種として用いた場合であっても、セルシートにおける金色にデザインされた部分に目が引きつけられることで、裏下左装飾基板３２０３の表面に形成される白色塗膜を視認し難くすることができるため、遊技機の世界観が崩れ難い。したがって、装飾性の低下を抑制することができる。

【２５８３】

また、裏下左演出ユニット３２００と同様に、遊技パネル１１００の前面に、所定形状を有するセルシートが貼られ、このセルシートに金色（複数の障害釘Ｎが有する金色と同一の色または、この金色に近い色）にデザインされた部分があり、この金色にデザインされた部分による誘目性によってこの金色にデザインされた部分の後方に配置される裏下右演出ユニット３２５０についても、装飾性の低下を抑制することができるという点が成り立つ。つまり、裏下右演出ユニット３２５０の裏下右装飾基板３２５３の前面（表面）に実装される多色発光可能な複数のフルカラーＬＥＤが消灯する状態においては、裏下右装飾基板３２５３の表面に形成される白色塗膜上に金色と類似する黄色に形成される前面側表記部を、裏下右演出ユニット３２５０の裏下右装飾体３２５２、そして裏下右回転装飾体３２５１という透明な装飾体、そして透明な遊技パネル１１００を通して、視認可能となるものの、裏下右装飾基板３２５３の表面に形成される白色塗膜が白色の背景となることで、裏下右装飾基板３２５３の表面の前方に配置される透明な遊技パネル１１００の表面に貼られるセルシートにおける金色にデザインされた部分による誘目性によって裏下右装飾基板３２５３の表面からセルシートにおける金色にデザインされた部分へ視線が自然と誘導されることとなる。これにより、裏下右装飾基板３２５３を遊技者に視認可能な装飾の一種として用いた場合であっても、セルシートにおける金色にデザインされた部分に目が引きつけられることで、裏下右装飾基板３２５３の表面に形成される白色塗膜を視認し難くすることができるため、遊技機の世界観が崩れ難い。したがって、装飾性の低下を抑制することができる。

【２５８４】
また、裏下左演出ユニット３２００と同様に、遊技パネル１１００の前面に、所定形状を有するセルシートが貼られ、このセルシートに金色（複数の障害釘Ｎが有する金色と同一の色または、この金色に近い色）にデザインされた部分があり、この金色にデザインされた部分による誘目性によってこの金色にデザインされた部分の後方に配置される裏下中演出ユニット３３００についても、装飾性の低下を抑制することができるという点が成り立つ。つまり、裏下中演出ユニット３３００の裏下中第一装飾基板３３２２の前面（表面）に実装される多色発光可能な複数のフルカラーＬＥＤが消灯する状態においては、裏下中第一装飾基板３３２２の表面に形成される白色塗膜上に金色と類似する黄色に形成される前面側表記部を、裏下左演出ユニット３２００のインナーレンズ（拡散レンズ）３３２１、そして裏下中回転装飾体３３１０という透明な装飾体、そして透明な遊技パネル１１００を通して、視認可能となるものの、裏下中第一装飾基板３３２２の表面に形成される白色塗膜が白色の背景となることで、裏下中第一装飾基板３３２２の表面の前方に配置される透明な遊技パネル１１００の表面に貼られるセルシートにおける金色にデザインされた部分による誘目性によって裏下中第一装飾基板３３２２の表面から金色を有する障害釘Ｎへ視線が自然と誘導されることとなる。また、裏下中演出ユニット３３００の裏下中第二装飾基板３３２９の前面（表面）に実装される多色発光可能な複数のフルカラーＬＥＤが消灯する状態においては、裏下中第二装飾基板３３２９の表面に形成される白色塗膜上に金色と類似する黄色に形成される前面側表記部を、裏下左演出ユニット３２００の裏下中装飾体３３２８、そして裏下中回転装飾体３３１０という透明な装飾体、そして透明な遊技パネル１１００を通して、視認可能となるものの、裏下中第二装飾基板３３２９の表面に形成される白色塗膜が白色の背景となることで、裏下中第二装飾基板３３２９の表面の前方に配置される透明な遊技パネル１１００の表面に貼られるセルシートにおける金色にデザインされた部分による誘目性によって裏下中第二装飾基板３３２９の表面から金色を有する障害釘Ｎへ視線が自然と誘導されることとなる。これにより、裏下中第一装飾基板３３２２及び裏下中第二装飾基板３３２９を遊技者に視認可能な装飾の一種として用いた場合であっても、セルシートにおける金色にデザインされた部分に目が引きつけられることで、裏下中第一装飾基板３３２２及び裏下中第二装飾基板３３２９の表面に形成される白色塗膜を視認し難くすることができるため、遊技機の世界観が崩れ難い。したがって、装飾性の低下を抑制することができる。

【２５８５】
［扉枠に備える各装飾基板の表面に形成される白色塗膜上に明色の塗料によるシルク印刷］
一方、上述した第２実施形態に係る反射率低下等の対策の構成を採用した扉枠３に備える各装飾基板（以下、「扉枠３に備える各種装飾基板」と記載する場合がある。）として、例えば、図３８に示したハンドルユニット１８０に備えるハンドル装飾基板１８４、図４９及び図５０に示した皿左上装飾ユニット２７０に備える皿左上装飾基板２７３、図４９及び図５０に示した皿右上装飾ユニット２７５に備える皿右上装飾基板２７８、図４９及び図５０に示した皿左下装飾ユニット２８０に備える皿左下装飾基板２８３、図４９及び図５０に示した皿右下装飾ユニット２８５に備える皿右下装飾基板２８８、図５４に示した演出操作ユニット３００の演出操作部カバーユニット３１０に備える皿中央上装飾基板３１４、図５４に示した演出操作ユニット３００の演出操作部カバーユニット３１０に備える皿中央下装飾基板３１６、図５４に示した演出操作ユニット３００に備える演出操作リング装飾基板３５２、図６０に示した演出操作ユニット３００の演出操作ボタンユニット３６０に備える中央ボタン装飾基板３７６、図６０に示した演出操作ユニット３００の演出操作ボタンユニット３６０に備える外周ボタン装飾基板３７７、図６７に示した扉枠左サイドユニット４００に備える扉枠左サイド装飾基板４０２、図７０に示した扉枠右サイドユニット４１０に備えるサイド窓内装飾部装飾基板４１３、図７０に示した扉枠右サイドユニット４１０に備える扉枠右サイド装飾基板４１８、図７４に示した扉枠トップユニット４５０に備える扉枠トップ中央装飾基板４５５、図７４に示した扉枠トップユニット４５０に備える扉枠トップ左装飾基板４５６、図７４に示した扉枠トップユニット４５

０に備える扉枠トップ右装飾基板４５７等があり、上述したように、前面（表面）及び後面（裏面）が白色のレジスト液が塗布されて形成される白色塗膜（以下、単に「ベタ塗りされた白色のレジスト」と記載する場合がある。）により白色のレジスト層が形成されていると共に、扉枠３に備える各装飾基板の前面（表面）にベタ塗りされた白色のレジスト上に複数のＬＥＤ（多色発光可能なフルカラーＬＥＤ）を特定可能にする、フルカラーＬＥＤと対応する部品番号、フルカラーＬＥＤを配置する位置を示す領域等の表記部が黄色の塗料でシルク印刷により印刷されているため、上述した第２実施形態に係る反射率低下等の対策の構成による効果、つまりフルカラーＬＥＤと対応する部品番号、及びフルカラーＬＥＤを配置する位置を示す領域により、フルカラーＬＥＤの発光によるＬＥＤ実装面における反射率が低下することを防止することができると共に、遊技者にとって遊技と全く関係を持たないフルカラーＬＥＤと対応する部品番号、及びフルカラーＬＥＤを配置する位置を示す領域が遊技者に視認されることを防止することができるという効果を有している（反射率低下等の対策が講じられている）。

【２５８６】

ここで、扉枠３に備える各装飾基板の前面（表面）又は上面（表面）の前方等に配置される部材について簡単に説明すると、ハンドルユニット１８０に備えるハンドル装飾基板１８４の前面（表面）は、図３８に示したように、前方へ向かって、透明なインナーレンズ１８５ａ、そして透明なハンドルカバー１８５という順番で配置され、インナーレンズ１８５ａ、及びハンドルカバー１８５等の扉枠側透明部材により覆われている。皿左上装飾ユニット２７０に備える皿左上装飾基板２７３の前面（表面）は、図４９及び図５０に示したように、前方へ向かって、透明な皿左上インナーレンズ２７２、そして透明な皿左上装飾体２７１という順番で配置され、皿左上インナーレンズ２７２、及び皿左上装飾体２７１等の扉枠側透明部材により覆われている。皿右上装飾ユニット２７５に備える皿右上装飾基板２７８の前面（表面）は、図４９及び図５０に示したように、前方へ向かって、透明な皿右上インナーレンズ２７７、そして透明な皿右上装飾体２７６という順番で配置され、皿右上インナーレンズ２７７、及び皿右上装飾体２７６等の扉枠側透明部材により覆われている。皿左下装飾ユニット２８０に備える皿左下装飾基板２８３の前面（表面）は、図４９及び図５０に示したように、前方へ向かって、透明な皿左下インナーレンズ２８２、そして透明な皿左下装飾体２８１という順番で配置され、皿左下インナーレンズ２８２、及び皿左下装飾体２８１等の扉枠側透明部材により覆われている。皿右下装飾ユニット２８５に備える皿右下装飾基板２８８の前面（表面）は、図４９及び図５０に示したように、前方へ向かって、透明な皿右下インナーレンズ２８７、そして透明な皿右下装飾体２８６という順番で配置され、皿右下インナーレンズ２８７、及び皿右下装飾体２８６等の扉枠側透明部材により覆われている。

【２５８７】

また、演出操作ユニット３００の演出操作部カバーユニット３１０に備える皿中央上装飾基板３１４の上面（表面）は、図５４に示したように、透明な皿中央上インナーレンズ３１３、そして透明な皿中央上装飾体３１２ａという順番で配置され、皿中央上インナーレンズ３１３、及び皿中央上装飾体３１２ａ等の扉枠側透明部材により覆われている。演出操作ユニット３００の演出操作部カバーユニット３１０に備える皿中央下装飾基板３１６の上面（表面）は、図５４に示したように、透明な皿中央下インナーレンズ３１５、そして透明な皿中央下装飾体３１２ｂという順番で配置され、皿中央下インナーレンズ３１５、及び皿中央下装飾体３１２ｂ等の扉枠側透明部材により覆われている。演出操作ユニット３００に備える演出操作リング装飾基板３５２の上面（表面）は、図５４に示したように、透明な装飾基板カバー３５３、透明なリング取付ベース３３１、そして透明な回転操作部３０２という順番で配置され、装飾基板カバー３５３、リング取付ベース３３１、及び回転操作部３０２等の扉枠側透明部材により覆われている。演出操作ユニット３００の演出操作ボタンユニット３６０に備える中央ボタン装飾基板３７６の上面（表面）は、図６０に示したように、透明な中央ボタンカバー３７５が配置され、中央ボタンカバー３７５等の扉枠側透明部材により覆われている。演出操作ユニット３００の演出操作ボタンユ

ニット３６０に備える外周ボタン装飾基板３７７の上面（表面）は、図６０に示したように、透明な外周基板カバー３７８、透明な外周装飾インナーレンズ３７９、そして透明な外周ボタンカバー３８０という順番で配置され、外周基板カバー３７８、外周装飾インナーレンズ３７９、及び外周ボタンカバー３８０等の扉枠側透明部材により覆われている。

【２５８８】

また、扉枠左サイドユニット４００に備える扉枠左サイド装飾基板４０２の前面（表面）は、図６７に示したように、前方へ向かって、透明な左サイドインナーレンズ４０３、そして透明な扉枠左サイド装飾体４０４という順番で配置され、左サイドインナーレンズ４０３、及び扉枠左サイド装飾体４０４等の扉枠側透明部材により覆われている。扉枠右サイドユニット４１０に備えるサイド窓内装飾部装飾基板４１３の前面（表面）は、図７０に示したように、前方へ向かって、透明な内部インナーレンズ４１４、そして透明なサイド窓内装飾部４１０ｂという順番で配置され、内部インナーレンズ４１４、及びサイド窓内装飾部４１０ｂ等の扉枠側透明部材により覆われている。扉枠右サイドユニット４１０に備える扉枠右サイド装飾基板４１８の前面（表面）は、図７０に示したように、前方へ向かって、透明な右サイドインナーレンズ４１５、そして透明な扉枠右サイド装飾体４１９という順番で配置され、右サイドインナーレンズ４１５、及び扉枠右サイド装飾体４１９等の扉枠側透明部材により覆われている。

【２５８９】

また、扉枠トップユニット４５０に備える扉枠トップ中央装飾基板４５５の前面（表面）は、図７４に示したように、前方へ向かって、透明なトップ中央インナーレンズ４５８、そして透明な扉枠トップ装飾体４５３という順番で配置され、トップ中央インナーレンズ４５８、及び扉枠トップ装飾体４５３等の扉枠側透明部材により覆われている。扉枠トップユニット４５０に備える扉枠トップ左装飾基板４５６の前面（表面）は、図７４に示したように、前方へ向かって、透明なトップ左インナーレンズ４５９、そして透明な扉枠トップ装飾体４５３という順番で配置され、トップ左インナーレンズ４５９、及び扉枠トップ装飾体４５３等の扉枠側透明部材により覆われている。扉枠トップユニット４５０に備える扉枠トップ右装飾基板４５７の前面（表面）は、図７４に示したように、前方へ向かって、透明なトップ右インナーレンズ４６０、そして透明な扉枠トップ装飾体４５３という順番で配置され、トップ右インナーレンズ４６０、及び扉枠トップ装飾体４５３等の扉枠側透明部材により覆われている。

【２５９０】

このように、扉枠３に備える各装飾基板の前面（表面）は、扉枠側透明部材により覆われている。扉枠３に備える各装飾基板の前面（表面）は、上述したように、白色のレジスト液が塗布されて白色塗膜が形成されて複数のＬＥＤ（多色発光可能なフルカラーＬＥＤ）が実装されている。つまり、扉枠３に備える各装飾基板の前面（表面）が白色のレジスト液で塗布されて白色塗膜が形成されて扉枠側透明部材により覆われている。

【２５９１】

パチンコ機１は各装飾基板に実装される複数のＬＥＤ等の発光部による電飾により煌びやかに発光演出が行われるため、扉枠３に備える各装飾基板の前面（表面）に実装される複数のＬＥＤ（多色発光可能なフルカラーＬＥＤ）は、点灯（発光）したり、消灯したりすることによって発光態様がさまざまに変化する。このため、複数のＬＥＤが消灯した状態では、遊技者は、扉枠３に備える各装飾基板の前面（表面）を、扉枠側透明部材を通して視認することができる状態となり、遊技者が興ざめ遊技興趣が低下するおそれがあるし、消灯するＬＥＤが実装される装飾基板を備える演出部材が演出の進行に何ら寄与できないのも非効率である。

【２５９２】

そこで、第２実施形態に係る反射率低下等の対策の構成を採用した扉枠３に備える各装飾基板では、扉枠３に備える各装飾基板の前面（表面）又は上面（表面）に実装される複数のＬＥＤ（多色発光可能なフルカラーＬＥＤ）が消灯している状態において扉枠３に備える各装飾基板の前面（表面）又は上面（表面）に形成される白色塗膜により扉枠側透明部

材が白色部材であるかのように見えるようになっている。これにより、複数のＬＥＤ（多色発光可能なフルカラーＬＥＤ）による発光演出が進行されていない状態であっても、扉枠３に備える各装飾基板の前面（表面）又は上面（表面）に形成される白色塗膜が外光を効果的に反射して出射することができるため、さまざまな色の外光を扉枠側透明部材から外部へ発することでパチンコ機１（遊技盤５）のコンセプト（つまり、パチンコ機１（遊技盤５）の世界観）が崩れ難い。したがって、遊技興趣の低下を抑制することができる。

【２５９３】

また、第２実施形態に係る反射率低下等の対策の構成を採用した扉枠３に備える各装飾基板では、扉枠３に備える各装飾基板の前面（表面）又は上面（表面）は、扉枠側透明部材により覆われているため、扉枠３に備える各装飾基板の前面（表面）又は上面（表面）に実装される複数のＬＥＤ（多色発光可能なフルカラーＬＥＤ）が消灯している状態において扉枠３に備える各装飾基板の前面（表面）又は上面（表面）に形成される白色塗膜により扉枠側透明部材が白色部材であるかのように見えるようになっている。これにより、扉枠３に備える各装飾基板を遊技者に視認可能な装飾の一種として用いた場合であって、複数のＬＥＤ（多色発光可能なフルカラーＬＥＤ）による発光演出が進行されていない状態であっても、扉枠３に備える各装飾基板の前面（表面）又は上面（表面）に形成される白色塗膜が外光を効果的に反射して出射することができるため、さまざまな色の外光を扉枠側透明部材から外部へ発することでパチンコ機１（遊技盤５）のコンセプト（つまり、パチンコ機１（遊技盤５）の世界観）が崩れ難い。したがって、装飾性の低下を抑制することができる。

【２５９４】

また、第２実施形態に係る反射率低下等の対策の構成を採用した扉枠３に備える各装飾基板の前面（表面）又は上面（表面）は、上述したように、白色のレジスト液で塗布されて白色塗膜が形成されて扉枠側透明部材により覆われている。扉枠側透明部材のうち、ハンドルカバー１８５、皿左上装飾体２７１、皿右上装飾体２７６、皿左下装飾体２８１、皿右下装飾体２８６、皿中央上装飾体３１２ａ、皿中央下装飾体３１２ｂ、回転操作部３０２、中央ボタンカバー３７５、外周ボタンカバー３８０、扉枠左サイド装飾体４０４、サイド窓内装飾部４１０ｂ、扉枠右サイド装飾体４１９、及び扉枠トップ装飾体４５３は、上述したように、透明に形成されている。これに対して、上述した遊技盤５に備える各装飾基板の前面（表面）に形成される白色塗膜を覆う遊技盤側透明部材のうち、装飾シート３１１２、裏下左回転装飾体３２０１、裏下左装飾体３２０２、裏下右回転装飾体３２５１、裏下右装飾体３２５２、裏下中回転装飾体３３１０、裏上前回転装飾体３４１０、裏上前装飾体３４２１、裏上後回転装飾体３４４０、裏上後装飾体３４５１、裏後左回転装飾体３５１０、裏後左装飾体３５２１、裏後右回転装飾体３６１０、及び裏後右装飾体３６２１にはパチンコ機１（遊技盤５）のコンセプト（つまり、パチンコ機１（遊技盤５）の世界観）に沿った所定色（本実施形態では桃色）の複数のドットが印刷により施されているという点で相違している。

【２５９５】

これについて簡単に説明すると、パチンコ機１は、遊技盤を入れ替えることにより世界観が異なる演出を遊技者に提供することができるようになっている。扉枠や遊技盤に備える各種基板の製造コストを抑制するために、通常、各種基板に塗布されるレジスト液として安価な緑色に統一されている。ところが、遊技盤による発光演出と扉枠による発光演出との協働によって遊技者に煌びやかな演出を提供する際に、複数のＬＥＤが消灯する状態において、扉枠に備える各装飾基板の前面（表面）に塗布されるレジスト液の緑色がそのまま視認されることで遊技盤の世界観にそぐわず遊技盤の世界観を崩れて遊技者が興ざめ遊技興趣が低下するおそれがある。

【２５９６】

そこで、第２実施形態に係る反射率低下等の対策の構成を採用した扉枠３に備える各装飾基板では、扉枠３に備える各装飾基板の前面（表面）又は上面（表面）に実装される複数のＬＥＤ（多色発光可能なフルカラーＬＥＤ）が消灯している状態において扉枠３に備え

る各装飾基板の前面（表面）又は上面（表面）に形成される白色塗膜により扉枠側透明部材が白色部材であるかのように見えるようになっている。これにより、複数のＬＥＤ（多色発光可能なフルカラーＬＥＤ）が消灯する状態においては、扉枠３に備える各装飾基板の前面（表面）又は上面（表面）に形成される白色塗膜を、さまざまな色に染まりやすい白色の背景とすることにより、遊技盤の世界観に染まりやすくして遊技盤の世界観が崩れ難くすることができる。換言すると、遊技ホールに設置される扉枠３に対して、遊技盤を入れ替えても、上述したように、扉枠３に備える各装飾基板の前面（表面）又は上面（表面）に実装される複数のＬＥＤ（多色発光可能なフルカラーＬＥＤ）が消灯している状態において扉枠３に備える各装飾基板の前面（表面）又は上面（表面）に形成される扉枠側透明部材が白色部材であるかのように見えるようになっていることにより、入れ替えた遊技盤の世界観をそぐわないようにすることができる。

【２５９７】

また、第２実施形態に係る反射率低下等の対策の構成を採用した扉枠３に備える各装飾基板の前面（表面）又は上面（表面）は、上述したように、白色のレジスト液が塗布されて形成される白色塗膜（以下、単に「ベタ塗りされた白色のレジスト」と記載する場合がある。）により白色のレジスト層が形成され、扉枠側透明部材により覆われている。扉枠側透明部材のうち、例えば、遊技者が回転操作可能な透明な回転操作部３０２と遊技者が押圧操作可能な透明な押圧操作部３０３とは、透明に形成されており、演出操作ユニット３００に備える演出操作リング装飾基板３５２、演出操作ユニット３００の演出操作ボタンユニット３６０に備える中央ボタン装飾基板３７６、演出操作ユニット３００の演出操作ボタンユニット３６０に備える外周ボタン装飾基板３７７等の表面（実装面）を、それぞれ対応する扉枠側透明部材を通して、遊技者に視認容易な位置に配置されている。反射率は、白色に近いほど高くなるのに対して、黒色に近づくと低くなる。黄色の反射率は白色塗膜の白色の反射率と比べて低いものの高い反射率を有している。このため、白色と黄色との組み合わせ（本実施形態の構成）では、背景が白色であると黄色が目立たず、表面側表記部を黄色とする場合には白色のレジストに対して黄色の表面側表記部が目立ち難い。なお、表面側表記部は、上述したように、扉枠３に備える各装飾基板の前面（表面）又は上面（表面）に実装される表面側電子部品を特定可能とするものであり、表面側電子部品の部品番号、表面側電子部品を配置する位置を示す領域等の表面側電子部品の属性（さらに、表面側電子部品の形状、表面側電子部品の大きさ、表面側電子部品の実装向き（実装方向）、表面側電子部品の型式を含む場合がある。）を示すものである。

【２５９８】

これに対して、電源基板６３０や主制御基板１３１０の表面（実装面）は、上述したように、緑色のレジスト液が塗布されて形成される緑色塗膜（以下、単に「ベタ塗りされた緑色のレジスト」と記載する場合がある。）により緑色のレジスト層が形成され、表面側電子部品の部品番号、表面側電子部品を配置する位置を示す領域等の表面側電子部品の属性（さらに、表面側電子部品の形状、表面側電子部品の大きさ、表面側電子部品の実装向き（実装方向）、表面側電子部品の型式を含む場合がある。）を示す表面側表記部が、白色の塗料で、ベタ塗りされた緑色のレジスト上にシルク印刷により印刷されている。電源基板６３０は、透明な電源基板カバー６３１に収容され、パチンコ機１の電源投入を行う電源スイッチ６３０ａが設けられて透明な電源基板カバー６３１から露出されている。主制御基板１３１０は、透明な主制御基板ボックス１３２０に収容され、ＲＡＭに記憶された情報を完全に消去するＲＡＭクリアスイッチが設けられて透明な主制御基板ボックス１３２０から露出されている。電源スイッチ６３０ａは、パチンコ機１の後側に配置されるため、遊技者から視認困難な位置に配置されているし、ＲＡＭクリアスイッチは、遊技盤５の後側に設けられているため、遊技者から視認困難な位置に配置されている。

【２５９９】

反射率は、白色に近いほど高くなるのに対して、黒色に近づくと低くなる。このため、背景が白色に比べて黒色に近い色の場合、白色が目立つこととなり、緑色と白色との組み合わせでは、背景が緑色であると白色が目立つこととなり、表面側表記部を白色とする場合

には緑色のレジストに対して緑色の表面側表記部が目立つ。つまり、電源基板６３０、及び主制御基板１３１０の表面（実装面）にベタ塗りされた緑色のレジストに対して白色の表面側表記部（緑色のレジストに対して白色の裏面側表記部）が目立つ。

【２６００】

換言すると、電源スイッチ６３０ａやＲＡＭクリアスイッチが遊技者から視認困難な位置に配置されているため、レジスト液の緑色に対してシルク印刷により印刷される塗料の白色が視認容易な組み合わせとなっていても、遊技者にとって遊技と全く関係を持たない電子部品番号等の表面側表記部が透明な電源基板カバー６３１や透明な主制御基板ボックス１３２０を通して遊技者に視認されずに済む。これに対して、遊技者が回転操作可能な透明な回転操作部３０２と遊技者が押圧操作可能な透明な押圧操作部３０３とが遊技者に視認容易な位置に配置されていると共に、レジスト液の白色に対してシルク印刷により印刷される塗料の黄色が視認容易でない組み合わせとなっているため、遊技者にとって遊技と全く関係を持たない電子部品番号等の表面側表記部が透明な回転操作部３０２や透明な押圧操作部３０３を通して遊技者に視認され難くすることができる。したがって、遊技興趣の低下を抑制することができる。

【２６０１】

また、演出操作ユニット３００に備える演出操作リング装飾基板３５２、演出操作ユニット３００の演出操作ボタンユニット３６０に備える中央ボタン装飾基板３７６、演出操作ユニット３００の演出操作ボタンユニット３６０に備える外周ボタン装飾基板３７７等の装飾基板を遊技者に視認可能な装飾の一種として用いた場合であっても、遊技者が回転操作可能な透明な回転操作部３０２と遊技者が押圧操作可能な透明な押圧操作部３０３とが遊技者に視認容易な位置に配置されていると共に、レジスト液の白色に対してシルク印刷により印刷される塗料の黄色が視認容易でない組み合わせとなっているため、遊技者にとって遊技と全く関係を持たない電子部品番号等の表面側表記部が透明な回転操作部３０２や透明な押圧操作部３０３を通して遊技者に視認され難くすることができる。したがって、装飾性の低下を抑制することができる。

【２６０２】

［遊技盤及び扉枠に備える各装飾基板の表面に形成される白色塗膜］

ところで、パチンコ機１は、遊技者が遊技を行っている際に、遊技盤５の遊技領域５ａへ向かって発射した遊技球が流下しているときに他の遊技球と偶発的に障害釘に詰まる状態となることがある。この状態で遊技者が遊技球を遊技領域５ａへ向かって次々に打ち出すと、その詰まった遊技球の上にさらに遊技球が積まれ、ぶどう状に遊技球が集まった状態となる。遊技者は、ぶどう状に遊技球が集まった状態を解消するために、遊技ホールの店員等の係員を呼んでこのぶどう状に集まった遊技球を取り除いてもらうこととなる。遊技者に呼ばれた遊技ホールの店員等の係員は、扉枠３を本体枠４に対して開放するが、このとき、パチンコ機１が開放を検知すると、遊技盤５に備える各装飾基板に実装される複数のＬＥＤを全消灯する制御を行うと共に、遊技盤５に備える各可動体を、作動しているか否かを問わず、開放時における位置に維持するように制御を行うという「開放時における遊技盤の制御」を行う。このような開放時における遊技盤の制御と共に、又はこれに代えて、扉枠３に備える各装飾基板に実装される複数のＬＥＤのうち特定のＬＥＤ（例えば、音響装飾基板４６９の前面（表面）に実装される複数のＬＥＤ４６９ａ）を点灯する制御を行うと共に、扉枠３に可動体を備えている場合には、可動体を、作動しているか否かを問わず、開放時における位置に維持するように制御を行うという「開放時における扉枠の制御」を行う。

【２６０３】

また、遊技ホールにおける島設備の遊技球供給用ノーズ内に遊技球が詰まると、遊技ホールにおける島設備からの遊技球がパチンコ機１に供給されなくなり遊技者に遊技球が払い出されなくなったり、図７７に示した球タンク５５２、タンクレール５５３、球誘導ユニット５７０、及び払出装置５８０等に球詰まりが発生して遊技者に遊技球が払い出されなくなったりすると、遊技者は、遊技ホールの店員等の係員を呼んで球詰まりを解消しても

らうこととなる。遊技者に呼ばれた遊技ホールの店員等の係員は、本体枠４を外枠２に対して開放するが、このとき、パチンコ機１が開放を検知すると、遊技盤５に備える各装飾基板に実装される複数のＬＥＤを全消灯する制御を行うと共に、遊技盤５に備える各可動体を、作動しているか否かを問わず、開放時における位置に維持するように制御を行うという上述した「開放時における遊技盤の制御」を行う。このような開放時における遊技盤の制御と共に、又はこれに代えて、扉枠３に備える各装飾基板に実装される複数のＬＥＤのうち特定のＬＥＤ（例えば、音響装飾基板４６９の前面（表面）に実装される複数のＬＥＤ４６９ａ）を点灯する制御を行うと共に、扉枠３に可動体を備えている場合には、可動体を、作動しているか否かを問わず、開放時における位置に維持するように制御を行うという上述した「開放時における扉枠の制御」を行う。

【２６０４】

扉枠３を本体枠４に対して開放する場合や本体枠４を外枠２に対して開放する場合（つまり、前面枠を開放する場合）に、開放時における遊技盤の制御及び／又は開放時における扉枠の制御を行うときには、遊技盤５に備える各装飾基板に実装される複数のＬＥＤ、及び／又は扉枠３に備える各装飾基板に実装される複数のＬＥＤのうち特定のＬＥＤ（例えば、音響装飾基板４６９の前面（表面）に実装される複数のＬＥＤ４６９ａ）を除いて全消灯する状態となるため、複数のＬＥＤが消灯した状態では、遊技者は、遊技盤５に備える各装飾基板の前面（表面）を、遊技盤側透明部材を通して視認することができる状態となり、及び／又は特定のＬＥＤ（例えば、音響装飾基板４６９の前面（表面）に実装される複数のＬＥＤ４６９ａ）が実装される扉枠３に備える装飾基板を除いた、扉枠３に備える他の各装飾基板の前面（表面）を、扉枠側透明部材を通して視認することができる状態となり、遊技者が興ざめ遊技興趣が低下するおそれがあるし、扉枠３を本体枠４に対して開放する場合や本体枠４を外枠２に対して開放している場合（つまり、前面枠を開放する場合）であっても、演出がスケジュールデータに沿って進行されている状態では、遊技者は、演出が進行する状態を全く視認することができないものの、消灯するＬＥＤが実装される装飾基板を備える演出部材によって遊技者にパチンコ機１（遊技盤５）のコンセプト（つまり、パチンコ機１（遊技盤５）の世界観）を伝えることができず、パチンコ機１（遊技盤５）の世界観を体験することができない期間を遊技者に作ってしまうおそれもある。

【２６０５】

そこで、本実施形態では、上述したように、遊技盤５に備える各装飾基板の前面（表面）及び第２実施形態に係る反射率低下等の対策の構成を採用した扉枠３に備える各装飾基板の前面（表面）（以下、「遊技盤５及び扉枠３に備える各装飾基板の前面（表面）」と記載する場合がある。）に実装される複数のＬＥＤ（多色発光可能なフルカラーＬＥＤ）が消灯している状態において遊技盤５及び扉枠３に備える各装飾基板の前面（表面）に形成される白色塗膜により遊技盤側透明部材及び扉枠側透明部材が白色部材であるかのように見えるようになっている。これにより、複数のＬＥＤ（多色発光可能なフルカラーＬＥＤ）が消灯する状態においては、遊技盤５及び扉枠３に備える各装飾基板の前面（表面）に形成される白色塗膜が外光を効果的に反射して出射することができるため、さまざまな色の外光を遊技盤側透明部材及び扉枠側透明部材から外部へ発することでパチンコ機１（遊技盤５）のコンセプト（つまり、パチンコ機１（遊技盤５）の世界観）を遊技者へ伝えて、パチンコ機１（遊技盤５）の世界観を体験することができるようになっている。

【２６０６】

なお、パチンコ機１に電源投入されていない状態では、複数のＬＥＤ（多色発光可能なフルカラーＬＥＤ）が消灯する状態となっているものの、上述したように、遊技盤５及び扉枠３に備える各装飾基板の前面（表面）に実装される複数のＬＥＤ（多色発光可能なフルカラーＬＥＤ）が消灯している状態において遊技盤５及び扉枠３に備える各装飾基板の前面（表面）に形成される白色塗膜により遊技盤側透明部材及び扉枠側透明部材が白色部材であるかのように見えるようになっている。これにより、複数のＬＥＤ（多色発光可能なフルカラーＬＥＤ）が消灯する状態においては、遊技盤５及び扉枠３に備える各装飾基板の前面（表面）に形成される白色塗膜が外光を効果的に反射して出射することができるた

め、さまざまな色の外光を遊技盤側透明部材及び扉枠側透明部材から外部へ発することでパチンコ機１（遊技盤５）のコンセプト（つまり、パチンコ機１（遊技盤５）の世界観）を遊技者へ伝えて、パチンコ機１（遊技盤５）の世界観を体験することができるようになっている。

【２６０７】

［変形例］

なお、上述した実施形態では、第２実施形態に係る反射率低下等の対策の構成を採用した扉枠３に備える各装飾基板の前面（表面）又は上面（表面）（以下、「扉枠３に備える各装飾基板の前面（表面）又は上面（表面）」と記載する場合がある。）に形成される白色塗膜を覆う扉枠側透明部材のうち、ハンドルカバー１８５、皿左上装飾体２７１、皿右上装飾体２７６、皿左下装飾体２８１、皿右下装飾体２８６、皿中央上装飾体３１２ａ、皿中央下装飾体３１２ｂ、回転操作部３０２、中央ボタンカバー３７５、外周ボタンカバー３８０、扉枠左サイド装飾体４０４、サイド窓内装飾部４１０ｂ、扉枠右サイド装飾体４１９、及び扉枠トップ装飾体４５３は、透明に形成されているのに対して、遊技盤５に備える各装飾基板の前面（表面）に形成される白色塗膜を覆う遊技盤側透明部材のうち、装飾シート３１１２、裏下左回転装飾体３２０１、裏下左装飾体３２０２、裏下右回転装飾体３２５１、裏下右装飾体３２５２、裏下中回転装飾体３３１０、裏上前回転装飾体３４１０、裏上前装飾体３４２１、裏上後回転装飾体３４４０、裏上後装飾体３４５１、裏後左回転装飾体３５１０、裏後左装飾体３５２１、裏後右回転装飾体３６１０、及び裏後右装飾体３６２１はパチンコ機１（遊技盤５）のコンセプト（つまり、パチンコ機１（遊技盤５）の世界観）に沿った所定色（本実施形態では桃色）の複数のドットが印刷により施されているという点で相違していたが、扉枠側透明部材のうち、ハンドルカバー１８５、皿左上装飾体２７１、皿右上装飾体２７６、皿左下装飾体２８１、皿右下装飾体２８６、皿中央上装飾体３１２ａ、皿中央下装飾体３１２ｂ、回転操作部３０２、中央ボタンカバー３７５、外周ボタンカバー３８０、扉枠左サイド装飾体４０４、サイド窓内装飾部４１０ｂ、扉枠右サイド装飾体４１９、及び扉枠トップ装飾体４５３に、パチンコ機１（遊技盤５）のコンセプト（つまり、パチンコ機１（遊技盤５）の世界観）に沿った所定色（本実施形態では桃色）の複数のドットが印刷により施されるようにしてもよい。

【２６０８】

つまり、扉枠３に備える各装飾基板の前面（表面）又は上面（表面）に形成される白色塗膜を覆う扉枠側透明部材のうち、ハンドルカバー１８５、皿左上装飾体２７１、皿右上装飾体２７６、皿左下装飾体２８１、皿右下装飾体２８６、皿中央上装飾体３１２ａ、皿中央下装飾体３１２ｂ、回転操作部３０２、中央ボタンカバー３７５、外周ボタンカバー３８０、扉枠左サイド装飾体４０４、サイド窓内装飾部４１０ｂ、扉枠右サイド装飾体４１９、及び扉枠トップ装飾体４５３と、遊技盤５に備える各装飾基板の前面（表面）に形成される白色塗膜を覆う遊技盤側透明部材のうち、装飾シート３１１２、裏下左回転装飾体３２０１、裏下左装飾体３２０２、裏下右回転装飾体３２５１、裏下右装飾体３２５２、裏下中回転装飾体３３１０、裏上前回転装飾体３４１０、裏上前装飾体３４２１、裏上後回転装飾体３４４０、裏上後装飾体３４５１、裏後左回転装飾体３５１０、裏後左装飾体３５２１、裏後右回転装飾体３６１０、及び裏後右装飾体３６２１と、にパチンコ機１（遊技盤５）のコンセプト（つまり、パチンコ機１（遊技盤５）の世界観）に沿った同一の所定色（本実施形態では桃色）の複数のドットが印刷により施されるようにしてもよい。こうすれば、扉枠３と遊技盤５との繋がりをひとつとすることでパチンコ機１（遊技盤５）のコンセプト（つまり、パチンコ機１（遊技盤５）の世界観）による世界観をより表現することができる。換言すると、パチンコ機１（遊技盤５）のコンセプト（つまり、パチンコ機１（遊技盤５）の世界観）に沿うように扉枠側透明部材と遊技盤側透明部材とに関連色（連想色）（例えば、グラデーションを有する色、海、空、宇宙に関する色、動植物に関する色、乗り物、ロボットに関する色、スポーツに関する色、炎に関する色、雨、雪に関する色、クリスマス、正月、夏休み、冬休み、春休み、海水浴場、温泉、スキー場に関する色等を挙げることができる）又は同一色を付与して扉枠３と遊技盤５との繋がりを

ひとつとし、パチンコ機１（遊技盤５）のコンセプト（つまり、パチンコ機１（遊技盤５）の世界観）による世界観をより表現することができる。

【２６０９】

また、上述した実施形態では、第２実施形態に係る反射率低下等の対策の構成を採用した扉枠３に備える各装飾基板の前面（表面）又は上面（表面）（以下、「扉枠３に備える各装飾基板の前面（表面）又は上面（表面）」と記載する場合がある。）に形成される白色塗膜を覆う扉枠側透明部材（例えば、ハンドルカバー１８５、皿左上装飾体２７１、皿右上装飾体２７６、皿左下装飾体２８１、皿右下装飾体２８６、皿中央上装飾体３１２ａ、皿中央下装飾体３１２ｂ、回転操作部３０２、中央ボタンカバー３７５、外周ボタンカバー３８０、扉枠左サイド装飾体４０４、サイド窓内装飾部４１０ｂ、扉枠右サイド装飾体４１９、及び扉枠トップ装飾体４５３）は、透明に形成されているが、扉枠側透明部材の輪郭部に対して金属光沢を持った金属装飾部（金色）や扉枠側透明部材の表面に対して平面的な意匠や立体的な意匠を施した金属光沢を持った金属装飾部（金色）を設ける（形成する）ようにしてもよい。こうすれば、多色発光可能なフルカラーＬＥＤが消灯する状態においては、扉枠３に備える各装飾基板の前面（表面）又は上面（表面）に形成される白色塗膜を、扉枠側透明部材を通して、視認することができるものの、扉枠３に備える各装飾基板の前面（表面）又は上面（表面）に形成される白色塗膜が白色の背景となることで、金属装飾部が有する色（金色）による誘目性によって扉枠３に備える各装飾基板の前面（表面）又は上面（表面）から扉枠側透明部材に設けられる（形成される）金属装飾部へ視線が自然に誘導されることとなる。これにより、扉枠側透明部材に設けられる（形成される）金属装飾部に目が引きつけられることで、扉枠３に備える各装飾基板の前面（表面）又は上面（表面）に形成される白色塗膜を視認し難くすることができる。このため、パチンコ機１（遊技盤５）のコンセプト（つまり、パチンコ機１（遊技盤５）の世界観）が崩れ難い。したがって、遊技興趣の低下を抑制することができる。

【２６１０】

また、上述した実施形態では、第２実施形態に係る反射率低下等の対策の構成を採用した扉枠３に備える各装飾基板の前面（表面）又は上面（表面）（以下、「扉枠３に備える各装飾基板の前面（表面）又は上面（表面）」と記載する場合がある。）に形成される白色塗膜を覆う扉枠側透明部材（例えば、ハンドルカバー１８５、皿左上装飾体２７１、皿右上装飾体２７６、皿左下装飾体２８１、皿右下装飾体２８６、皿中央上装飾体３１２ａ、皿中央下装飾体３１２ｂ、回転操作部３０２、中央ボタンカバー３７５、外周ボタンカバー３８０、扉枠左サイド装飾体４０４、サイド窓内装飾部４１０ｂ、扉枠右サイド装飾体４１９、及び扉枠トップ装飾体４５３）は、透明に形成されているが、扉枠側透明部材の輪郭部に対して金属光沢を持った金属装飾部（金色）や扉枠側透明部材の表面に対して平面的な意匠や立体的な意匠を施した金属光沢を持った金属装飾部（金色）を設ける（形成する）ようにしてもよい。こうすれば、多色発光可能なフルカラーＬＥＤが消灯する状態においては、扉枠３に備える各装飾基板の前面（表面）又は上面（表面）に形成される白色塗膜を、扉枠側透明部材を通して、視認することができるものの、扉枠３に備える各装飾基板の前面（表面）又は上面（表面）に形成される白色塗膜が白色の背景となることで、金属装飾部が有する色（金色）による誘目性によって扉枠３に備える各装飾基板の前面（表面）又は上面（表面）から扉枠側透明部材に設けられる（形成される）金属装飾部へ視線が自然に誘導されることとなる。これにより、扉枠３に備える各装飾基板を遊技者に視認可能な装飾の一種として用いた場合であっても、扉枠側透明部材に設けられる（形成される）金属装飾部に目が引きつけられることで、扉枠３に備える各装飾基板の前面（表面）又は上面（表面）に形成される白色塗膜を視認し難くすることができる。このため、パチンコ機１（遊技盤５）のコンセプト（つまり、パチンコ機１（遊技盤５）の世界観）が崩れ難い。したがって、装飾性の低下を抑制することができる。

【２６１１】

また、多色発光可能なフルカラーＬＥＤが消灯する状態においては、扉枠３に備える各装飾基板の前面（表面）又は上面（表面）にベタ塗りされた白色のレジスト上にシルク印刷

により印刷される多色発光可能なフルカラーＬＥＤを特定可能にする黄色を有する表面側表記部を、扉枠側透明部材を通して、視認することができるものの、扉枠３に備える各装飾基板の前面（表面）又は上面（表面）に形成される白色塗膜が白色の背景となることで、金属装飾部が有する色（金色）による誘目性によって扉枠３に備える各装飾基板の前面（表面）又は上面（表面）から扉枠側透明部材に設けられる（形成される）金属装飾部に視線が自然に誘導されるため、表面側表記部が金属装飾部の色（金色）と類似する黄色でシルク印刷により印刷されていても、この黄色のシルク印刷の存在を分かり難くすることができるようになっている。

【２６１２】

また、上述した実施形態では、図１４９（ａ），（ｂ）に示した裏後可動装飾体３１１０の装飾体３１１１における金属装飾部３１１１ｄ（装飾体３１１１の前方に設けられる（配置される）装飾シート３１１２における第一輪郭部３１１２ａにおけるホログラムの部位を含む。）、図１６３に示した裏下中回転装飾体３３１０における金属装飾部３３１０ａ、図１９３に示した裏前左装飾体ユニット３７１０の前カバー３７１１における金属装飾部３７１１ａ、図１９７に示した裏前右装飾体ユニット３８１０の前カバー３８１１における金属装飾部３８１１ａ等の遊技盤５に備える各装飾体における金属装飾部は、所定色としてすべて金色を有して構成されていたが、遊技盤５に備える各装飾体における金属装飾部は、所定色としてすべて不透明な金色を有して構成されていてもよいし、所定色としてすべて半透明な（透光性を有する）金色を有して構成されていてもよいし、所定色として不透明な金色を有するものと半透明な（透光性を有する）金色を有するものとを混在して構成されていてもよい。以下に示す変形例においても、同一であり、金属装飾部は、所定色としてすべて金色を有して構成されるが、遊技盤５又は扉枠３に備える各装飾体における金属装飾部は、所定色としてすべて不透明な金色を有して構成されていてもよいし、所定色としてすべて半透明な（透光性を有する）金色を有して構成されていてもよいし、所定色として不透明な金色を有するものと半透明な（透光性を有する）金色を有するものとを混在して構成されていてもよい。

【２６１３】

［黄色でシルク印刷された基板の前方に配置される透明な領域等を有する装飾シートの前方に金色素材（金属装飾部）を配置して透明な領域を金色素材（金属装飾部）により囲む変形例１］

また、上述した実施形態では、遊技盤５に備える各装飾基板として、例えば、裏後可動装飾体３１１０に備える裏後装飾基板３１１４について説明すると、裏後可動装飾体３１１０に備える裏後装飾基板３１１４の前面（表面）は、図１４５に示したように、前方へ向かって、透明平板状の導光放射板３１１３、透光性を有する部位（領域）と透明な部位（領域）とを有するシート状の装飾シート３１１２、そして透明平板状の装飾体３１１１という順番で配置され、導光放射板３１１３、シート状の装飾シート３１１２、及び装飾体３１１１等の遊技盤側透明部材により覆われている。装飾体３１１１は、金属光沢を持った金属装飾部３１１１ｄを除いた全体が、無色透明に形成されている。金属装飾部３１１１ｄは、所定色（本実施形態では金色）を有している。裏後装飾基板３１１４の前面（表面）には、上述したように、白色のレジスト液が塗布されて形成される白色塗膜（以下、単に「ベタ塗りされた白色のレジスト」と記載する場合がある。）により白色のレジスト層が形成されていると共に、このベタ塗りされた白色のレジスト上にシルク印刷により印刷される多色発光可能なフルカラーＬＥＤを特定可能にする表面側表記部が黄色を有している。このため、表面側表記部が有する色（黄色）が金属装飾部３１１１ｄが有する色（金色）と類似する色となっていた。そこで、さらに、装飾体３１１１の外周部分に対して、金属光沢を持った金属装飾部３１１１ｄを形成することにより、金属光沢を持った金属装飾部３１１１ｄを除いた全体が無色透明に形成されている領域を囲むように構成してもよい。

【２６１４】

この場合、装飾体３１１１の外周部分に対して、金属光沢を持った金属装飾部３１１１ｄ

を形成して金属装飾部３１１１ｄを除いた全体が無色透明に形成されている領域を囲むように、図１４７乃至図１４９に示した濃淡の濃い網掛け部分）の金属装飾部３１１１ｄやこれらの金属装飾部３１１１ｄに関連する他の部材の大きさや配置を適宜変更してもよい。

【２６１５】

このように構成しても、多色発光可能なフルカラーＬＥＤが消灯する状態においては、裏後装飾基板３１１４の前面（表面）に形成される白色塗膜を、装飾体３１１１のうち金属光沢を持った金属装飾部３１１１ｄを除く透明となっている領域を通して、視認することができるものの、裏後装飾基板３１１４の前面（表面）に形成される白色塗膜が白色の背景となることで、金属装飾部３１１１ｄが有する色（金色）による誘目性によって裏後装飾基板３１１４の前面（表面）から装飾体３１１１に設けられる（形成される）金属装飾部３１１１ｄへ視線が自然に誘導されることとなる。これにより、装飾体３１１１に設けられる（形成される）金属装飾部３１１１ｄに目が引きつけられることで、裏後装飾基板３１１４の前面（表面）に形成される白色塗膜を視認し難くすることができるため、パチンコ機１（遊技盤５）のコンセプト（つまり、パチンコ機１（遊技盤５）の世界観）が崩れ難い。したがって、遊技興趣の低下を抑制することができる。

【２６１６】

また、このように構成しても、多色発光可能なフルカラーＬＥＤが消灯する状態においては、裏後装飾基板３１１４の前面（表面）に形成される白色塗膜を、装飾体３１１１のうち金属光沢を持った金属装飾部３１１１ｄを除く透明となっている領域を通して、視認することができるものの、裏後装飾基板３１１４の前面（表面）に形成される白色塗膜が白色の背景となることで、金属装飾部３１１１ｄが有する色（金色）による誘目性によって裏後装飾基板３１１４の前面（表面）から装飾体３１１１に設けられる（形成される）金属装飾部３１１１ｄへ視線が自然に誘導されることとなる。これにより、裏後装飾基板３１１４を遊技者に視認可能な装飾の一種として用いた場合であっても、装飾体３１１１に設けられる（形成される）金属装飾部３１１１ｄに目が引きつけられることで、裏後装飾基板３１１４の前面（表面）に形成される白色塗膜を視認し難くすることができるため、パチンコ機１（遊技盤５）のコンセプト（つまり、パチンコ機１（遊技盤５）の世界観）が崩れ難い。したがって、装飾性の低下を抑制することができる。

【２６１７】

また、このように構成しても、多色発光可能なフルカラーＬＥＤが消灯する状態においては、裏後装飾基板３１１４の前面（表面）にベタ塗りされた白色のレジスト上にシルク印刷により印刷される多色発光可能なフルカラーＬＥＤを特定可能にする黄色を有する表面側表記部を、装飾体３１１１のうち金属光沢を持った金属装飾部３１１１ｄを除く透明となっている領域を通して、視認することができるものの、裏後装飾基板３１１４の前面（表面）に形成される白色塗膜が白色の背景となることで、金属装飾部３１１１ｄが有する色（金色）による誘目性によって裏後装飾基板３１１４の前面（表面）から装飾体３１１１に設けられる（形成される）金属装飾部３１１１ｄに視線が自然に誘導されるため、表面側表記部が金属装飾部３１１１ｄの色（金色）と類似する黄色でシルク印刷により印刷されていても、この黄色のシルク印刷の存在を分かり難くすることができる。

【２６１８】

［黄色でシルク印刷された基板の前方に配置される透明な領域等を有する装飾シートの前方に金色素材（金属装飾部）を配置して透明な領域を金色素材（金属装飾部）により囲む変形例２］

また、上述した実施形態では、遊技盤５に備える各装飾基板として、例えば、裏後可動装飾体３１１０に備える裏後装飾基板３１１４について説明すると、裏後可動装飾体３１１０に備える裏後装飾基板３１１４の前面（表面）は、図１４５に示したように、前方へ向かって、透明平板状の導光放射板３１１３、透光性を有する部位（領域）と透明な部位（領域）とを有するシート状の装飾シート３１１２、そして透明平板状の装飾体３１１１という順番で配置され、導光放射板３１１３、シート状の装飾シート３１１２、及び装飾体３１１１等の遊技盤側透明部材により覆われている。装飾体３１１１は、金属光沢を持っ

た金属装飾部３１１１ｄを除いた全体が、無色透明に形成されている。金属装飾部３１１１ｄは、所定色（本実施形態では金色）を有している。裏後装飾基板３１１４の前面（表面）には、上述したように、白色のレジスト液が塗布されて形成される白色塗膜（以下、単に「ベタ塗りされた白色のレジスト」と記載する場合がある。）により白色のレジスト層が形成されていると共に、このベタ塗りされた白色のレジスト上にシルク印刷により印刷される多色発光可能なフルカラーＬＥＤを特定可能にする表面側表記部が黄色を有している。このため、表面側表記部が有する色（黄色）が金属装飾部３１１１ｄが有する色（金色）と類似する色となっていた。そこで、さらに、表面側表記部に加えて、例えば、太い実線又は他の形状を有する図形により金属装飾部３１１１ｄを囲むように、裏後装飾基板３１１４の前面（表面）にベタ塗りされた白色のレジスト上にシルク印刷により黄色で印刷されるように構成してもよい。

【２６１９】

この場合、太い実線又は他の形状を有する図形が金属装飾部３１１１ｄを囲むように、裏後装飾基板３１１４の前面（表面）にベタ塗りされた白色のレジスト上にシルク印刷により黄色で印刷されるように、図１４７乃至図１４９に示した濃淡の濃い網掛け部分）の金属装飾部３１１１ｄやこれらの金属装飾部３１１１ｄに関連する他の部材の大きさや配置を適宜変更してもよい。

【２６２０】

このように構成しても、多色発光可能なフルカラーＬＥＤが消灯する状態においては、裏後装飾基板３１１４の前面（表面）に形成される白色塗膜を、装飾体３１１１のうち金属光沢を持った金属装飾部３１１１ｄを除く透明となっている領域を通して、視認することができるものの、裏後装飾基板３１１４の前面（表面）に形成される白色塗膜が白色の背景となることで、金属装飾部３１１１ｄが有する色（金色）による誘目性によって裏後装飾基板３１１４の前面（表面）から装飾体３１１１に設けられる（形成される）金属装飾部３１１１ｄへ視線が自然に誘導されることとなる。これにより、装飾体３１１１に設けられる（形成される）金属装飾部３１１１ｄに目が引きつけられることで、裏後装飾基板３１１４の前面（表面）に形成される白色塗膜を視認し難くすることができるため、パチンコ機１（遊技盤５）のコンセプト（つまり、パチンコ機１（遊技盤５）の世界観）が崩れ難い。したがって、遊技興趣の低下を抑制することができる。

【２６２１】

また、このように構成しても、多色発光可能なフルカラーＬＥＤが消灯する状態においては、裏後装飾基板３１１４の前面（表面）に形成される白色塗膜を、装飾体３１１１のうち金属光沢を持った金属装飾部３１１１ｄを除く透明となっている領域を通して、視認することができるものの、裏後装飾基板３１１４の前面（表面）に形成される白色塗膜が白色の背景となることで、金属装飾部３１１１ｄが有する色（金色）による誘目性によって裏後装飾基板３１１４の前面（表面）から装飾体３１１１に設けられる（形成される）金属装飾部３１１１ｄへ視線が自然に誘導されることとなる。これにより、裏後装飾基板３１１４を遊技者に視認可能な装飾の一種として用いた場合であっても、装飾体３１１１に設けられる（形成される）金属装飾部３１１１ｄに目が引きつけられることで、裏後装飾基板３１１４の前面（表面）に形成される白色塗膜を視認し難くすることができるため、パチンコ機１（遊技盤５）のコンセプト（つまり、パチンコ機１（遊技盤５）の世界観）が崩れ難い。したがって、装飾性の低下を抑制することができる。

【２６２２】

また、このように構成しても、多色発光可能なフルカラーＬＥＤが消灯する状態においては、裏後装飾基板３１１４の前面（表面）にベタ塗りされた白色のレジスト上にシルク印刷により印刷される多色発光可能なフルカラーＬＥＤを特定可能にする黄色を有する表面側表記部に加えて、太い実線又は他の形状を有する図形を、装飾体３１１１のうち金属光沢を持った金属装飾部３１１１ｄを除く透明となっている領域を通して、視認することができるものの、裏後装飾基板３１１４の前面（表面）に形成される白色塗膜が白色の背景となることで、金属装飾部３１１１ｄが有する色（金色）による誘目性によって裏後装飾

基板３１１４の前面（表面）から装飾体３１１１に設けられる（形成される）金属装飾部３１１１ｄに視線が自然に誘導されるため、表面側表記部に加えて、太い実線又は他の形状を有する図形が金属装飾部３１１１ｄの色（金色）と類似する黄色でシルク印刷により印刷されていても、この黄色のシルク印刷の存在を分かり難くすることができる。

【２６２３】

［黄色でシルク印刷された基板の前方に配置される透明枠側透明部材の繋ぎ目に金色素材（金属装飾部）を配置する変形例］

また、上述した実施形態では、第２実施形態に係る反射率低下等の対策の構成を採用した扉枠３に備える各装飾基板の前面（表面）又は上面（表面）（以下、「扉枠３に備える各装飾基板の前面（表面）又は上面（表面）」と記載する場合がある。）に形成される白色塗膜を覆う扉枠側透明部材（例えば、皿左上装飾体２７１、皿右上装飾体２７６、皿左下装飾体２８１、皿右下装飾体２８６、皿中央上装飾体３１２ａ、皿中央下装飾体３１２ｂ、扉枠左サイド装飾体４０４、扉枠右サイド装飾体４１９、及び扉枠トップ装飾体４５３）は、透明に形成されているが、扉枠トップ装飾体４５３の左側と扉枠左サイド装飾体４０４の上側との繋ぎ目（扉枠トップ装飾体４５３の左側と扉枠左サイド装飾体４０４の上側とがつながっているように見えるように意匠される部分）に金属光沢を持った金属装飾部（金色）を設ける（形成する）ようにし、扉枠左サイド装飾体４０４の下側と皿左上装飾体２７１の左側との繋ぎ目（扉枠左サイド装飾体４０４の下側と皿左上装飾体２７１の左側とがつながっているように見えるように意匠される部分）に金属光沢を持った金属装飾部（金色）を設ける（形成する）ようにし、皿左上装飾体２７１の右側と皿中央上装飾体３１２ａの左側との繋ぎ目（皿左上装飾体２７１の右側と皿中央上装飾体３１２ａの左側とがつながっているように見えるように意匠される部分）に金属光沢を持った金属装飾部（金色）を設ける（形成する）ようにし、皿中央上装飾体３１２ａの右側と皿右上装飾体２７６の左側との繋ぎ目（皿中央上装飾体３１２ａの右側と皿右上装飾体２７６の左側とがつながっているように見えるように意匠される部分）に金属光沢を持った金属装飾部（金色）を設ける（形成する）ようにし、皿右上装飾体２７６の右側と扉枠右サイド装飾体４１９の下側との繋ぎ目（皿右上装飾体２７６の右側と扉枠右サイド装飾体４１９の下側とがつながっているように見えるように意匠される部分）に金属光沢を持った金属装飾部（金色）を設ける（形成する）ようにし、扉枠右サイド装飾体４１９の上側と扉枠トップ装飾体４５３の右側との繋ぎ目（扉枠右サイド装飾体４１９の上側と扉枠トップ装飾体４５３の右側とがつながっているように見えるように意匠される部分）に金属光沢を持った金属装飾部（金色）を設ける（形成する）ようにしてもよい。また、皿左下装飾体２８１の右側と皿中央下装飾体３１２ｂの左側との繋ぎ目（皿左下装飾体２８１の右側と皿中央下装飾体３１２ｂの左側とがつながっているように見えるように意匠される部分）に金属光沢を持った金属装飾部（金色）を設ける（形成する）ようにし、皿中央下装飾体３１２ｂの右側と皿右下装飾体２８６の左側との繋ぎ目（皿中央下装飾体３１２ｂの右側と皿右下装飾体２８６の左側とがつながっているように見えるように意匠される部分）に金属光沢を持った金属装飾部（金色）を設ける（形成する）ようにしてもよい。このように、扉枠側透明部材の繋ぎ目（隣り合う扉枠側透明部材同士がつながっているように見えるように意匠される部分）として、金属光沢を持った金属装飾部（金色）を設ける（形成する）ことで、この繋ぎ目を目隠しすることができる。

【２６２４】

［黄色でシルク印刷された基板の前方に配置される透明な遊技パネル板の前方に金色素材（光沢シート部材）を配置する変形例］

また、上述した実施形態では、センター役物２５００は、枠状の周壁部２５０１（センターフレームとも称する）の外周から突出しており遊技パネル１１００の透明なパネル板１１１０の前面に当接する平板状のフランジ部２５０２を有していたが、このフランジ部２５０２の前面に、粒子状にキラキラ（金色に又は金色が混ざった色に）光るグリッターを有した光沢シート部材を設けると共に、この光沢シート部材の後方であって遊技パネル１１００の透明なパネル板１１１０の後面に多色発光可能な複数のフルカラーＬＥＤが実装

される装飾基板を配置してもよい。装飾基板の前面（表面）は、遊技パネル１１００の透明なパネル板１１１０の後面と平行に配置されている。装飾基板と光沢シート部材との位置関係では、遊技パネル１１００の透明なパネル板１１１０を正面から見て、光沢シート部材が装飾基板の前面（表面）の全部又は一部を覆って配置されてもよいし、装飾基板の前面（表面）を全く覆うことなく上下方向又は左右法方向に近接して配置されてもよいし、例えば、５ｍｍ～１０ｍｍ程度の距離寸法を有して上下方向左右方向に離間して配置されてもよい。装飾基板の前面（表面）は、白色のレジスト液が塗布されて形成される白色塗膜（以下、単に「ベタ塗りされた白色のレジスト」と記載する場合がある。）により白色のレジスト層が形成されていると共に、ベタ塗りされた白色のレジスト上に複数のＬＥＤ（多色発光可能なフルカラーＬＥＤ）を特定可能にする、フルカラーＬＥＤと対応する部品番号、フルカラーＬＥＤを配置する位置を示す領域等の表面側表記部が黄色の塗料でシルク印刷により印刷されている。また、遊技盤５の遊技領域５ａ内には、遊技球と当接し所定のゲージ配列で金色を有する複数の障害釘Ｎが植設されている。このように、装飾基板の前面（表面）の前方には、粒子状にキラキラ（金色に又は金色が混ざった色に）光るグリッターを有した光沢シート部材、金色を有する複数の障害釘Ｎが配置されているため、粒子状にキラキラ（金色に又は金色が混ざった色に）光るグリッターを有した光沢シート部材、金色を有する複数の障害釘Ｎによる誘目性によって、装飾基板の存在を分かり難くすることができるし、表面側表記部が有する色（黄色）が遊技パネル１１００の透明なパネル板１１１０を通して、視認できる場合であっても、装飾基板にベタ塗りされた白色のレジスト上にシルク印刷により印刷される黄色（光沢シート部材や障害釘Ｎが有する金色と類似する色）の表面側表記部の存在を分かり難くすることができる。

【２６２５】

［黄色でシルク印刷された基板の前方に配置される透明な遊技パネル板の前方に金色素材（金属装飾部）を配置する変形例］

また、上述した実施形態では、遊技パネル１１００の透明なパネル板１１１０の後面に多色発光可能な複数のフルカラーＬＥＤが実装される装飾基板を配置すると共に、透明なパネル板１１１０の後面と装飾基板との間に透明な部材で立体的に形成されたインナーレンズを配置してもよい。インナーレンズの表面は、レンズカットが一部の特定の領域に又は全体に施されて（多面体に形成されて）光を乱屈折することができるようになっており、レンズカットが施された領域により、インナーレンズの後方に配置される装飾基板の前面（表面）に実装されている複数のＬＥＤが遊技者側から明確に視認し難くなっている。また、装飾基板の前面（表面）は、遊技パネル１１００の透明なパネル板１１１０の後面と平行に配置されている。装飾基板とインナーレンズとの位置関係では、遊技パネル１１００の透明なパネル板１１１０を正面から見て、インナーレンズが装飾基板の前面（表面）の全部又は一部を覆って配置されてもよい。装飾基板の前面（表面）は、白色のレジスト液が塗布されて形成される白色塗膜（以下、単に「ベタ塗りされた白色のレジスト」と記載する場合がある。）により白色のレジスト層が形成されていると共に、ベタ塗りされた白色のレジスト上に複数のＬＥＤ（多色発光可能なフルカラーＬＥＤ）を特定可能にする、フルカラーＬＥＤと対応する部品番号、フルカラーＬＥＤを配置する位置を示す領域等の表面側表記部が黄色の塗料でシルク印刷により印刷されている。また、遊技盤５の遊技領域５ａ内には、遊技球と当接し所定のゲージ配列で金色を有する複数の障害釘Ｎが植設されている。装飾基板の前面（表面）の前方には、金色を有する複数の障害釘Ｎが配置されているものの、装飾基板にベタ塗りされた白色のレジスト上にシルク印刷により印刷される黄色（障害釘Ｎが有する金色と類似する色）の表面側表記部と装飾上何ら関係性を有していない。金色を有する複数の障害釘Ｎによる誘目性によって、装飾基板の存在を分かり難くすることができるし、表面側表記部が有する色（黄色）の存在をインナーレンズにレンズカットが施された領域により分かり難くすることができる。

【２６２６】

［黄色でシルク印刷された基板の前方に配置される透明部材の前方に金色素材（金属装飾部）を配置して透明な領域を金色素材（金属装飾部）で囲む変形例１］

また、上述した実施形態では、ロゴを有するロゴ装飾体（ロゴ装飾可動体）が作動するように遊技盤５に設けてもよい。ロゴ装飾体は、透明な前面装飾体の後方に透明なインナーレンズが配置され、このインナーレンズの後方に装飾基板が配置され、装飾基板の後方にベース部材等が配置されて構成されるものである。前面装飾体は、ロゴ領域（例えば、「ＡＢＣ」という文字部分の領域）が透明に形成されると共に、ロゴ領域を除く他の領域が金属光沢を持った金属装飾部（金色）として形成されている。つまり、金属光沢を持った金属装飾部（金色）によりロゴ領域が囲まれた状態となっている。インナーレンズの表面は、レンズカットが一部の特定の領域に又は全体に施されて（多面体に形成されて）光を乱屈折することができるようになっており、レンズカットが施された領域により、インナーレンズの後方に配置される装飾基板の前面（表面）に実装されている複数のＬＥＤが遊技者側から明確に視認し難くなっている。装飾基板の前面（表面）は、白色のレジスト液が塗布されて形成される白色塗膜（以下、単に「ベタ塗りされた白色のレジスト」と記載する場合がある。）により白色のレジスト層が形成されていると共に、ベタ塗りされた白色のレジスト上に複数のＬＥＤ（多色発光可能なフルカラーＬＥＤ）を特定可能にする、フルカラーＬＥＤと対応する部品番号、フルカラーＬＥＤを配置する位置を示す領域等の表面側表記部が黄色の塗料でシルク印刷により印刷されている。金属光沢を持った金属装飾部が有する金色による誘目性によって、装飾基板の存在を分かり難くすることができるし、表面側表記部が有する色（黄色）の存在をインナーレンズにレンズカットが施された領域により分かり難くすることができる。

【２６２７】

［黄色でシルク印刷された基板の前方に配置される透明部材の前方に金色素材（金属装飾部）を配置して透明な領域を金色素材（金属装飾部）で囲む変形例２］

また、上述した実施形態では、所定図形を有する図形装飾体（図形装飾可動体）が作動するように遊技盤５に設けてもよい。図形装飾体は、透明な前面装飾体の後方に透明なインナーレンズが配置され、このインナーレンズの後方に装飾基板が配置され、装飾基板の後方にベース部材等が配置されて構成されるものである。前面装飾体は、その外周部分に対して、金属光沢を持った金属装飾部（金色）を形成すると共に、一の領域（例えば中央部分）の外周部分に対して金属光沢を持った金属装飾部（金色）を形成する。そして、この一の領域（例えば中央部分）に、図形領域（例えば、人体の目玉のうちまぶたの部分、人体の口の部分、人体の耳の部分のほかに、文字、数字、図形、及び記号等、これら文字、数字、図形、及び記号等を適宜組み合わせたもの）が金属光沢を持った金属装飾部（金色）として形成される。さらに、前面装飾体は、その外周部分に対して形成される金属光沢を持った金属装飾部（金色）の内側から一の領域（例えば中央部分）の外周部分に対して形成される金属光沢を持った金属装飾部（金色）の外側までに亘る領域が透明に形成されている。また、前面装飾体は、一の領域（例えば中央部分）の外周部分に対して形成される金属光沢を持った金属装飾部（金色）の内側から一の領域（例えば中央部分）のうち金属光沢を持った金属装飾部（金色）として図形領域が形成される領域の外周部分の外側までに亘る領域が透明に形成されている。インナーレンズの表面は、レンズカットが一部の特定の領域に又は全体に施されて（多面体に形成されて）光を乱屈折することができるようになっており、レンズカットが施された領域により、インナーレンズの後方に配置される装飾基板の前面（表面）に実装されている複数のＬＥＤが遊技者側から明確に視認し難くなっている。装飾基板の前面（表面）は、白色のレジスト液が塗布されて形成される白色塗膜（以下、単に「ベタ塗りされた白色のレジスト」と記載する場合がある。）により白色のレジスト層が形成されていると共に、ベタ塗りされた白色のレジスト上に複数のＬＥＤ（多色発光可能なフルカラーＬＥＤ）を特定可能にする、フルカラーＬＥＤと対応する部品番号、フルカラーＬＥＤを配置する位置を示す領域等の表面側表記部が黄色の塗料でシルク印刷により印刷されている。

【２６２８】

つまり、前面装飾体は、その外周部分に対して形成される金属光沢を持った金属装飾部（金色）の内側から一の領域（例えば中央部分）の外周部分に対して形成される金属光沢を

持った金属装飾部（金色）の外側までに亘る領域が透明に形成されると共に、一の領域（例えば中央部分）の外周部分に対して形成される金属光沢を持った金属装飾部（金色）の内側から一の領域（例えば中央部分）のうち金属光沢を持った金属装飾部（金色）として図形領域が形成される領域の外周部分の外側までに亘る領域が透明に形成されているため、透明な領域が金属光沢を持った金属装飾部（金色）により囲まれた状態となっている。このように、金属光沢を持った金属装飾部が有する金色による誘目性によって、装飾基板の存在を分かり難くすることができるし、表面側表記部が有する色（黄色）の存在をインナーレンズにレンズカットが施された領域により分かり難くすることができる。

【２６２９】

［黄色でシルク印刷された基板の前方に配置される透明部材の前方に金色素材（金属装飾部）を配置して金色素材（金属装飾部）を囲む変形例］

また、上述した実施形態では、所定図形を有する図形装飾体（図形装飾可動体）が作動するように遊技盤５に設けてもよい。図形装飾体は、透明な前面装飾体の後方に透明なインナーレンズが配置され、このインナーレンズの後方に装飾基板が配置され、装飾基板の後方にベース部材等が配置されて構成されるものである。前面装飾体は、一の領域（例えば中央部分）に図形領域（例えば、人体の目玉のうちまぶたの部分、人体の口の部分、人体の耳の部分のほかに、六角形や八角形）が金属光沢を持った金属装飾部（金色）として形成されると共に、この一部の領域を取り囲む領域が透明に形成されている。つまり、金属光沢を持った金属装飾部（金色）が透明な領域に囲まれた状態となっている。なお、前面装飾体は、一の領域（例えば中央部分）に図形領域として、人体の目玉のうちまぶたとして形成される場合には、金属光沢を持った金属装飾部（金色）が上まぶたと下まぶたとなり、上まぶたが下まぶたから開き、この開いた部分と、上まぶたと下まぶたとを除く他の領域と、が透明に形成されている。つまり、金属光沢を持った金属装飾部（金色）である上まぶたと下まぶたとが透明な領域に囲まれた状態となっている。また、前面装飾体は、一の領域（例えば中央部分）に図形領域として、人体の口として形成される場合には、金属光沢を持った金属装飾部（金色）が上唇と下唇となり、上唇が下唇から開き、この開いた部分と、上唇と下唇とを除く他の領域と、が透明に形成されている。つまり、金属光沢を持った金属装飾部（金色）である上唇と下唇とが透明な領域に囲まれた状態となっている。また、前面装飾体は、一の領域（例えば中央部分）に図形領域として、人体の耳、六角形、八角形として形成される場合には、金属光沢を持った金属装飾部（金色）が耳の外周部分（耳の内側領域は透明に形成されてもよいし、所定色（赤、青、黒）により透光性を有して形成されてよいし不透明に形成されてもよい。）、六角形の外周部分（六角形の内側領域は透明に形成されてもよいし、所定色（赤、青、黒）により透光性を有して形成されてよいし不透明に形成されてもよい。）、八角形の外周部分（八角形の内側領域は透明に形成されてもよいし、所定色（赤、青、黒）により透光性を有して形成されてよいし不透明に形成されてもよい。）となり、人体の耳、六角形、八角形を除く他の領域が透明に形成されている。つまり、金属光沢を持った金属装飾部（金色）である人体の耳、六角形、八角形が透明な領域に囲まれた状態となっている。インナーレンズの表面は、レンズカットが一部の特定の領域に又は全体に施されて（多面体に形成されて）光を乱屈折することができるようになっており、レンズカットが施された領域により、インナーレンズの後方に配置される装飾基板の前面（表面）に実装されている複数のＬＥＤが遊技者側から明確に視認し難くなっている。装飾基板の前面（表面）は、白色のレジスト液が塗布されて形成される白色塗膜（以下、単に「ベタ塗りされた白色のレジスト」と記載する場合がある。）により白色のレジスト層が形成されていると共に、ベタ塗りされた白色のレジスト上に複数のＬＥＤ（多色発光可能なフルカラーＬＥＤ）を特定可能にする、フルカラーＬＥＤと対応する部品番号、フルカラーＬＥＤを配置する位置を示す領域等の表面側表記部が黄色の塗料でシルク印刷により印刷されている。つまり、金属光沢を持った金属装飾部（金色）が透明な領域に囲まれた状態となっているため、金属光沢を持った金属装飾部（金色）が装飾基板の前面（表面）にベタ塗りされた白色のレジストの白色により囲まれた状態となっている。このように、金属光沢を持った金属装飾部が有する金色による誘目

性によって、装飾基板の存在を分かり難くすることができるし、表面側表記部が有する色（黄色）の存在をインナーレンズにレンズカットが施された領域により分かり難くすることができる。

【２６３０】

なお、上述した実施形態では、図１１１に示したように、その下側に図１６３に示した裏下中演出ユニット３３００の裏下中回転装飾体３３１０が待機位置（原位置）で配置され、図２０１に示したように、裏下中装飾体ユニット３３２０を上昇位置へ移動させた状態では、裏下中回転装飾体３３１０が待機位置（原位置）で配置された領域には、装飾基板の存在がなくなることで、この領域での発光演出が行えなくなる。そこで、裏下中回転装飾体３３１０が待機位置（原位置）で配置され領域に、裏下中回転装飾体３３１０が待機位置（原位置）で配置された状態において裏下中回転装飾体３３１０と干渉しないように、裏下中回転装飾体３３１０の後方に装飾基板の前面（表面）をパチンコ機１（遊技盤５）の前方へ向けて配置してもよい。装飾基板の前面（表面）は、白色のレジスト液が塗布されて形成される白色塗膜（以下、単に「ベタ塗りされた白色のレジスト」と記載する場合がある。）により白色のレジスト層が形成されていると共に、ベタ塗りされた白色のレジスト上に複数のＬＥＤ（多色発光可能なフルカラーＬＥＤ）を特定可能にする、フルカラーＬＥＤと対応する部品番号、フルカラーＬＥＤを配置する位置を示す領域等の表面側表記部が黄色の塗料でシルク印刷により印刷されている。裏下中回転装飾体３３１０が待機位置（原位置）に存在する場合には、装飾基板の前面（表面）が裏下中回転装飾体３３１０により覆われるため、パチンコ機１を正面から見ると、装飾基板の存在が全く分からない。

【２６３１】

ところが、裏下中装飾体ユニット３３２０を上昇位置へ移動させるにつれて、裏下中回転装飾体３３１０の後方に配置される装飾基板が次第に現れ、視認することができるようになる。そこで、裏下中装飾体ユニット３３２０を上昇位置へ移動開始してから再び待機位置（原位置）へ戻ってくるまでに亘る期間において、装飾基板に実装される複数のＬＥＤが発光するように制御される。これにより、装飾基板に実装される複数のＬＥＤが発光するため、装飾基板の前面（表面）にベタ塗りされた白色のレジスト上にシルク印刷により印刷される黄色の表面側表記部の存在を分かり難くすることができる。また、装飾基板の前面（表面）にベタ塗りされた白色のレジスト上にシルク印刷により印刷される黄色の表面側表記部は、裏下中装飾体ユニット３３２０の裏下中回転装飾体３３１０の金属装飾部３３１０ａが有する金色と類似する色となっているし、さらに、裏下中装飾体ユニット３３２０を上昇位置へ移動されても、装飾基板の前面（表面）が裏下中回転装飾体３３１０の金属装飾部３３１０ａの近傍に配置された状態とすることができるため、金色を有する金属装飾部３３１０ａによる誘目性によって、裏下中装飾体ユニット３３２０を上昇位置へ移動開始されて装飾基板が視認可能な状態となっている場合であっても、装飾基板にベタ塗りされた白色のレジスト上にシルク印刷により印刷される黄色（金属装飾部３３１０ａが有する金色と類似する色）の表面側表記部の存在を分かり難くすることができる。また、遊技盤５の遊技領域５ａ内には、遊技球と当接し所定のゲージ配列で金色を有する複数の障害釘Ｎが植設されているため、金色を有する複数の障害釘Ｎによる誘目性によって、裏下中装飾体ユニット３３２０を上昇位置へ移動開始されて装飾基板が視認可能な状態となっている場合であっても、装飾基板にベタ塗りされた白色のレジスト上にシルク印刷により印刷される黄色（複数の障害釘Ｎが有する金色と類似する色）の表面側表記部の存在を分かり難くすることができる。

【２６３２】

［シルク印刷により印刷される表面側表示部の配置集中の回避］

次に、シルク印刷により印刷される表面側表示部の配置集中の回避について、図２７１を参照して簡単に説明する。図２７１は、装飾基板の前面（表面）に実装される複数のＬＥＤとそれぞれ対応するＬＥＤを特定可能とある表面表示部の配置方法であって、集中配置の場合（その１）（ａ）、分散配置の場合（その１）（ｂ）」をそれぞれ示す概略図であ

る。なお、図２７１（ａ）～（ｄ）には、パッド、スルーホールやランド等を省略した。また、図２７１（ａ）～（ｄ）の装飾基板ＫＣは、遊技盤５に備える各装飾基板、及び上述した第２実施形態に係る反射率低下等の対策の構成を採用した扉枠３に備える各装飾基板の一例として示した。

【２６３３】

装飾基板ＫＣの前面（表面）ＫＣｘには、白色のレジスト液が塗布されて形成される白色塗膜（以下、単に「ベタ塗りされた白色のレジスト」と記載する場合がある。）により白色のレジスト層が形成されていると共に、装飾基板ＫＣの前面（表面）ＫＣｘにベタ塗りされた白色のレジスト上に複数のＬＥＤ（多色発光可能なフルカラーＬＥＤ）を特定可能にする、フルカラーＬＥＤと対応する部品番号、フルカラーＬＥＤを配置する位置を示す領域等の電子部品の属性（さらに、電子部品の形状、電子部品の大きさ、電子部品の実装向き（実装方向）、電子部品の型式を含む場合がある。）を示す前面側表記部が黄色の塗料でシルク印刷により印刷されている。

【２６３４】

まず、装飾基板ＫＣの前面（表面）ＫＣｘに４つのフルカラーＬＥＤを相互に接近して配置する場合について考えてみると、装飾基板ＫＣの前面（表面）ＫＣｘには、４つのフルカラーＬＥＤを配置する位置を示す領域ＫＣｐ１～ＫＣｐ４と、４つのフルカラーＬＥＤと対応する部品番号ＫＣｎ１～ＫＣｎ４と、が黄色の塗料でシルク印刷によりそれぞれ印刷されることとなり、例えば、図２７１（ａ）に示すように、４つのフルカラーＬＥＤを配置する位置を示す領域ＫＣｐ１～ＫＣｐ４をすべて囲む領域内に、４つのフルカラーＬＥＤと対応する部品番号ＫＣｎ１～ＫＣｎ４を集中して配置するという集中配置の場合と、図２７１（ｂ）に示すように、４つのフルカラーＬＥＤを配置する位置を示す領域ＫＣｐ１～ＫＣｐ４をすべて囲む領域外に、４つのフルカラーＬＥＤと対応する部品番号ＫＣｎ１～ＫＣｎ４を集中せず分散して配置するという分散配置の場合と、について検討してみる。

【２６３５】

なお、集中配置の場合における装飾基板ＫＣの前面（表面）ＫＣｘに４つのフルカラーＬＥＤを配置する位置を示す領域ＫＣｐ１～ＫＣｐ４が配置される位置と、分散配置の場合における装飾基板ＫＣの前面（表面）ＫＣｘに４つのフルカラーＬＥＤを配置する位置を示す領域ＫＣｐ１～ＫＣｐ４が配置される位置と、は同一であることを前提としている。

【２６３６】

集中配置の場合も分散配置の場合も、４つのフルカラーＬＥＤを配置する位置を示す領域ＫＣｐ１～ＫＣｐ４と、４つのフルカラーＬＥＤと対応する部品番号ＫＣｎ１～ＫＣｎ４と、その他の電子部品（抵抗、コンデンサ、ＩＣのほかに、コネクタを含む場合がある。）と、が黄色の塗料でシルク印刷によりそれぞれ印刷されているため、黄色の塗料でシルク印刷によりそれぞれ印刷された領域における装飾基板ＫＣの前面（表面）ＫＣｘに対する割合（以下、「黄色占有率」と記載する。）は、同一である。

【２６３７】

また、黄色の塗料でシルク印刷によりそれぞれ印刷された領域を除いた領域（つまり、装飾基板ＫＣの前面（表面）ＫＣｘにベタ塗りされた白色のレジストのうち、黄色の塗料でシルク印刷によりそれぞれ印刷された領域を除いた）における装飾基板ＫＣの前面（表面）ＫＣｘに対する割合（以下、「白色占有率」と記載する。）は、黄色占有率と比べて大きくなっている。このように、白色のレジスト液が塗布されて形成される白色塗膜により白色が装飾基板ＫＣの表面を占有する白色占有率は、部品番号ＫＣｎ１～ＫＣｎ４等により黄色が装飾基板ＫＣの前面（表面）ＫＣｘを占有する黄色占有率と比べて大きくなっているため、装飾基板ＫＣ（白色塗膜）を遊技者に視認可能な装飾の一種として用いた場合であっても、シルク印刷により印刷された部品番号ＫＣｎ１～ＫＣｎ４等の黄色と比べて、遊技者に視認可能な装飾の一種となる白色塗膜の白色が遊技者の目に多く入って部品番号ＫＣｎ１～ＫＣｎ４等の存在に気付き難くすることに寄与することができる。したがって、装飾性の低下を抑制することができる。

【２６３８】
集中配置の場合においては、４つのフルカラーＬＥＤを配置する位置を示す領域ＫＣｐ１～ＫＣｐ４をすべて囲む領域内に、４つのフルカラーＬＥＤと対応する部品番号ＫＣｎ１～ＫＣｎ４を集中して配置している。具体的には、集中配置の場合には、フルカラーＬＥＤ１を配置する位置を示す領域ＫＣｐ１の下方にフルカラーＬＥＤ１と対応する部品番号ＫＣｎ１が配置され、フルカラーＬＥＤ２を配置する位置を示す領域ＫＣｐ２の下方にフルカラーＬＥＤ２と対応する部品番号ＫＣｎ２が配置され、フルカラーＬＥＤ３を配置する位置を示す領域ＫＣｐ３の上方にフルカラーＬＥＤ３と対応する部品番号ＫＣｎ３が配置され、そしてフルカラーＬＥＤ４を配置する位置を示す領域ＫＣｐ４の上方にフルカラーＬＥＤ４と対応する部品番号ＫＣｎ４が配置されている。
【２６３９】
このように、フルカラーＬＥＤ１～ＬＥＤ４を配置する位置を示す領域ＫＣｐ１～ＫＣｐ４をすべて囲む領域内に局所的に４つのフルカラーＬＥＤと対応する部品番号ＫＣｎ１～ＫＣｎ４が集中して配置される場合には、黄色の反射率は白色塗膜の白色の反射率と比べて低いものの高い反射率を有していても、反射効率が低下する反射率低下領域が形成されることとなる。また、フルカラーＬＥＤ１～ＬＥＤ４を配置する位置を示す領域ＫＣｐ１～ＫＣｐ４をすべて囲む領域内に局所的に４つのフルカラーＬＥＤと対応する部品番号ＫＣｎ１～ＫＣｎ４が集中して配置されるため、部品番号ＫＣｎ１～ＫＣｎ４の存在が目立つ。
【２６４０】
つまり、集中配置の場合においては、フルカラーＬＥＤ１～ＬＥＤ４を配置する位置を示す領域ＫＣｐ１～ＫＣｐ４をすべて囲む領域内という局所領域において、遊技者に視認可能な装飾の一種となる白色塗膜の白色と比べて、部品番号ＫＣｎ１～ＫＣｎ４の黄色が遊技者の目に多く入って部品番号ＫＣｎ１～ＫＣｎ４の存在に気付き易い。したがって、装飾性が低下するおそれがある。
【２６４１】
これに対して、分散配置の場合においては、４つのフルカラーＬＥＤを配置する位置を示す領域ＫＣｐ１～ＫＣｐ４をすべて囲む領域外に、４つのフルカラーＬＥＤと対応する部品番号ＫＣｎ１～ＫＣｎ４を集中せず分散して配置している。具体的には、分散配置の場合には、フルカラーＬＥＤ１を配置する位置を示す領域ＫＣｐ１の左上方にフルカラーＬＥＤ１と対応する部品番号ＫＣｎ１が配置され、フルカラーＬＥＤ２を配置する位置を示す領域ＫＣｐ２の右上方にフルカラーＬＥＤ２と対応する部品番号ＫＣｎ２が配置され、フルカラーＬＥＤ３を配置する位置を示す領域ＫＣｐ３の左下方にフルカラーＬＥＤ３と対応する部品番号ＫＣｎ３が配置され、そしてフルカラーＬＥＤ４を配置する位置を示す領域ＫＣｐ４の右下方にフルカラーＬＥＤ４と対応する部品番号ＫＣｎ４が配置されている。
【２６４２】
このように、フルカラーＬＥＤ１～ＬＥＤ４を配置する位置を示す領域ＫＣｐ１～ＫＣｐ４をすべて囲む領域内に局所的に４つのフルカラーＬＥＤと対応する部品番号ＫＣｎ１～ＫＣｎ４が集中して全く配置されず、フルカラーＬＥＤ１～ＬＥＤ４を配置する位置を示す領域ＫＣｐ１～ＫＣｐ４をすべて囲む領域外に４つのフルカラーＬＥＤと対応する部品番号ＫＣｎ１～ＫＣｎ４が分散して配置される場合には、４つのフルカラーＬＥＤと対応する部品番号ＫＣｎ１～ＫＣｎ４が集中して配置されて形成される上述した反射率低下領域が全く形成されないため、黄色の反射率は白色塗膜の白色の反射率と比べて低いものの、黄色の部品番号ＫＣｎ１～ＫＣｎ４による高い反射率を維持することができる。また、フルカラーＬＥＤ１～ＬＥＤ４を配置する位置を示す領域ＫＣｐ１～ＫＣｐ４をすべて囲む領域外に４つのフルカラーＬＥＤと対応する部品番号ＫＣｎ１～ＫＣｎ４が分散して配置されるため、部品番号ＫＣｎ１～ＫＣｎ４の存在が目立たない。
【２６４３】
換言すると、フルカラーＬＥＤ１～ＬＥＤ４を配置する位置を示す領域ＫＣｐ１～ＫＣｐ

４をすべて囲む領域内という局所領域において、集中配置の場合を採用した方が分散配置の場合を採用した方と比べて黄色占有率（黄色の塗料でシルク印刷によりそれぞれ印刷された部品番号ＫＣｎ１～ＫＣｎ４の領域における装飾基板ＫＣの前面（表面）ＫＣｘの局所領域に対する割合分だけ）が高くなるのに対して、分散配置の場合を採用した方が集中配置の場合を採用した方と比べて黄色占有率（黄色の塗料でシルク印刷によりそれぞれ印刷された部品番号ＫＣｎ１～ＫＣｎ４の領域における装飾基板ＫＣの前面（表面）ＫＣｘの局所領域に対する割合分だけ）が低くなる。このように、フルカラーＬＥＤ１～ＬＥＤ４を配置する位置を示す領域ＫＣｐ１～ＫＣｐ４をすべて囲む領域内という局所領域において、分散配置の場合を採用した方が、部品番号ＫＣｎ１～ＫＣｎ４の黄色と比べて、遊技者に視認可能な装飾の一種となる白色塗膜の白色が遊技者の目に多く入って部品番号ＫＣｎ１～ＫＣｎ４の存在に気付き難くすることができる。したがって、装飾性の低下を抑制することができる。

【２６４４】

なお、分散配置の場合を採用したとしても、フルカラーＬＥＤ１～ＬＥＤ４を配置する位置を示す領域ＫＣｐ１～ＫＣｐ４をすべて囲む領域内に、他の電子部品に配置の関係で、４つのフルカラーＬＥＤと対応する部品番号ＫＣｎ１～ＫＣｎ４のうちいずれか１つ又は２つを配置せざるを得ない場合もあるが、この場合でも、集中配置の場合の方が分散配置の場合の方と比べて黄色占有率（黄色の塗料でシルク印刷によりそれぞれ印刷された部品番号ＫＣｎ１～ＫＣｎ４の領域における装飾基板ＫＣの前面（表面）ＫＣｘの局所領域に対する割合分だけ）が高くなる。

【２６４５】

分散配置の場合には、フルカラーＬＥＤと対応する部品番号ＫＣｎ１～ＫＣｎ４の配置方法として、次のようなルールを設けてもよい。例えば、図２７１（ｂ）に示すように、例えば、４つのフルカラーＬＥＤのうち一のフルカラーＬＥＤ（他の電子部品であってもよい。）を基準として選び、この選んだ一のフルカラーＬＥＤの幅寸法と高さ寸法とを利用する。幅寸法Ｎｗと高さ寸法Ｎｈとを有するフルカラーＬＥＤ３と対応する部品番号ＫＣｎ３を基準として選ぶと、フルカラーＬＥＤ１～ＬＥＤ４の配置する位置を、フルカラーＬＥＤ１～ＬＥＤ４を配置する位置を示す領域ＫＣｐ１～ＫＣｐ４をすべて囲む領域外となるように、まずフルカラーＬＥＤ３を配置した後に、フルカラーＬＥＤ１を、フルカラーＬＥＤ３の高さ寸法Ｎｈを所定数倍した第１距離Ｐｈだけ離間してフルカラーＬＥＤ３の上方に配置し、フルカラーＬＥＤ４を、フルカラーＬＥＤ３の幅寸法Ｎｗを所定数倍した第２距離Ｐｗだけ離間してフルカラーＬＥＤ３の右方に配置し、フルカラーＬＥＤ２を、フルカラーＬＥＤ３の高さ寸法Ｎｈを所定数倍した第１距離Ｐｈ、及びフルカラーＬＥＤ３の幅寸法Ｎｗを所定数倍した第２距離Ｐｗだけ離間してフルカラーＬＥＤ３の右上方に配置する。なお、ＬＥＤ１，ＬＥＤ２，ＬＥＤ４の配置する位置は、上述した所定数倍の値を同一の値にしてもよいし、個別に値を変更してもよく、フルカラーＬＥＤ１～ＬＥＤ４の配置する位置を、フルカラーＬＥＤ１～ＬＥＤ４を配置する位置を示す領域ＫＣｐ１～ＫＣｐ４をすべて囲む領域外となるように選択すればよい。

【２６４６】

次に、装飾基板ＫＣの前面（表面）ＫＣｘに２つのフルカラーＬＥＤを相互に接近して配置する場合について考えてみると、装飾基板ＫＣの前面（表面）ＫＣｘには、隣り合う２つのフルカラーＬＥＤを配置する位置を示す領域ＫＣｐ１～ＫＣｐ２と、隣り合う２つのフルカラーＬＥＤと対応する部品番号ＫＣｎ１～ＫＣｎ２と、が黄色の塗料でシルク印刷によりそれぞれ印刷されることとなり、例えば、図２７１（ｃ）に示すように、隣り合う２つのフルカラーＬＥＤを配置する位置を示す領域ＫＣｐ１～ＫＣｐ２の近傍上側に、２つのフルカラーＬＥＤと対応する部品番号ＫＣｎ１～ＫＣｎ２をそれぞれ配置する、つまり領域ＫＣｐ１～ＫＣｐ２と部品番号ＫＣｎ１～ＫＣｎ２とを近傍に集中して配置するという集中配置の場合と、図２７１（ｄ）に示すように、隣り合う２つのフルカラーＬＥＤを配置する位置を示す領域ＫＣｐ１～ＫＣｐ２から離れた位置に、２つのフルカラーＬＥＤと対応する部品番号ＫＣｎ１～ＫＣｎ２をそれぞれ分散して配置するという分散配置の

場合と、について検討してみる。
【２６４７】
なお、集中配置の場合における装飾基板ＫＣの前面（表面）ＫＣｘに２つのフルカラーＬＥＤを配置する位置を示す領域ＫＣｐ１～ＫＣｐ２が配置される位置と、分散配置の場合における装飾基板ＫＣの前面（表面）ＫＣｘに２つのフルカラーＬＥＤを配置する位置を示す領域ＫＣｐ１～ＫＣｐ２が配置される位置と、は同一であることを前提としている。
【２６４８】
集中配置の場合も分散配置の場合も、２つのフルカラーＬＥＤを配置する位置を示す領域ＫＣｐ１～ＫＣｐ２と、２つのフルカラーＬＥＤと対応する部品番号ＫＣｎ１～ＫＣｎ２と、その他の電子部品（抵抗、コンデンサ、ＩＣのほかに、コネクタを含む場合がある。）と、が黄色の塗料でシルク印刷によりそれぞれ印刷されているため、黄色の塗料でシルク印刷によりそれぞれ印刷された領域における装飾基板ＫＣの前面（表面）ＫＣｘに対する割合（以下、「黄色占有率」と記載する。）は、同一である。
【２６４９】
また、黄色の塗料でシルク印刷によりそれぞれ印刷された領域を除いた領域（つまり、装飾基板ＫＣの前面（表面）ＫＣｘにベタ塗りされた白色のレジストのうち、黄色の塗料でシルク印刷によりそれぞれ印刷された領域を除いた）における装飾基板ＫＣの前面（表面）ＫＣｘに対する割合（以下、「白色占有率」と記載する。）は、黄色占有率と比べて大きくなっている。このように、白色のレジスト液が塗布されて形成される白色塗膜により白色が装飾基板ＫＣの表面を占有する白色占有率は、部品番号ＫＣｎ１～ＫＣｎ２等により黄色が装飾基板ＫＣの前面（表面）ＫＣｘを占有する黄色占有率と比べて大きくなっているため、装飾基板ＫＣ（白色塗膜）を遊技者に視認可能な装飾の一種として用いた場合であっても、シルク印刷により印刷された部品番号ＫＣｎ１～ＫＣｎ２等の黄色と比べて、遊技者に視認可能な装飾の一種となる白色塗膜の白色が遊技者の目に多く入って部品番号ＫＣｎ１～ＫＣｎ２等の存在に気付き難くすることに寄与することができる。したがって、装飾性の低下を抑制することができる。
【２６５０】
集中配置の場合においては、隣り合う２つのフルカラーＬＥＤを配置する位置を示す領域ＫＣｐ１～ＫＣｐ２の近傍上側に、２つのフルカラーＬＥＤと対応する部品番号ＫＣｎ１～ＫＣｎ２をそれぞれ配置する、つまり部品番号ＫＣｎ１～ＫＣｎ２が集中して配置している。具体的には、集中配置の場合には、フルカラーＬＥＤ１を配置する位置を示す領域ＫＣｐ１の近傍上方にフルカラーＬＥＤ１と対応する部品番号ＫＣｎ１が配置され、フルカラーＬＥＤ１と隣り合うフルカラーＬＥＤ２を配置する位置を示す領域ＫＣｐ２の近傍上方にフルカラーＬＥＤ２と対応する部品番号ＫＣｎ２が配置されている。
【２６５１】
このように、隣り合う２つのフルカラーＬＥＤを配置する位置を示す領域ＫＣｐ１～ＫＣｐ２の近傍上側に、２つのフルカラーＬＥＤと対応する部品番号ＫＣｎ１～ＫＣｎ２をそれぞれ配置すると、２つのフルカラーＬＥＤと対応する部品番号ＫＣｎ１～ＫＣｎ２が局所的に集中して配置されるため、黄色の反射率は白色塗膜の白色の反射率と比べて低いものの高い反射率を有していても、反射効率が低下する反射率低下領域が形成されることとなる。
【２６５２】
つまり、集中配置の場合においては、隣り合う２つのフルカラーＬＥＤ１～ＬＥＤ２を配置する位置を示す領域ＫＣｐ１～ＫＣｐ２の近傍上方という局所領域において、遊技者に視認可能な装飾の一種となる白色塗膜の白色と比べて、部品番号ＫＣｎ１～ＫＣｎ２の黄色が遊技者の目に多く入って部品番号ＫＣｎ１～ＫＣｎ２の存在に気付き易い。したがって、装飾性が低下するおそれがある。
【２６５３】
これに対して、分散配置の場合においては、隣り合う２つのフルカラーＬＥＤを配置する位置を示す領域ＫＣｐ１～ＫＣｐ２から離れた位置に、２つのフルカラーＬＥＤと対応す

る部品番号ＫＣｎ１～ＫＣｎ２を分散して配置している。具体的には、分散配置の場合には、フルカラーＬＥＤ１を配置する位置を示す領域ＫＣｐ１の左下方にフルカラーＬＥＤ１と対応する部品番号ＫＣｎ１が配置され、フルカラーＬＥＤ１と隣り合うフルカラーＬＥＤ２を配置する位置を示す領域ＫＣｐ２の右下方にフルカラーＬＥＤ２と対応する部品番号ＫＣｎ２が配置されている。

【２６５４】

このように、隣り合う２つのフルカラーＬＥＤを配置する位置を示す領域ＫＣｐ１～ＫＣｐ２から離れた位置に、２つのフルカラーＬＥＤと対応する部品番号ＫＣｎ１～ＫＣｎ２を分散して配置すると、２つのフルカラーＬＥＤと対応する部品番号ＫＣｎ１～ＫＣｎ２が局所的に集中して全く配置されず、上述した反射率低下領域が全く形成されないため、黄色の反射率は白色塗膜の白色の反射率と比べて低いものの、黄色の部品番号ＫＣｎ１～ＫＣｎ２による高い反射率を維持することができる。また、隣り合う２つのフルカラーＬＥＤを配置する位置を示す領域ＫＣｐ１～ＫＣｐ２から離れた位置に、２つのフルカラーＬＥＤと対応する部品番号ＫＣｎ１～ＫＣｎ２が分散してそれぞれ配置されるため、部品番号ＫＣｎ１～ＫＣｎ２の存在が目立たない。したがって、装飾性の低下を抑制することができる。

【２６５５】

なお、分散配置の場合には、フルカラーＬＥＤと対応する部品番号ＫＣｎ１～ＫＣｎ２の配置方法として、次のようなルールを設けてもよい。例えば、図２７１（ｄ）に示すように、例えば、２つのフルカラーＬＥＤのうち一のフルカラーＬＥＤ（他の電子部品であってもよい。）を基準として選び、この選んだ一のフルカラーＬＥＤの幅寸法と高さ寸法とを利用する。幅寸法Ｎｗと高さ寸法Ｎｈとを有するフルカラーＬＥＤ１と対応する部品番号ＫＣｎ１を基準として選ぶと、フルカラーＬＥＤ１～ＬＥＤ２の配置する位置を、フルカラーＬＥＤ１～ＬＥＤ２を配置する位置を示す領域ＫＣｐ１～ＫＣｐ２をすべて囲む領域外となるように、つまり、隣り合う２つのフルカラーＬＥＤを配置する位置を示す領域ＫＣｐ１～ＫＣｐ２から離れた位置に、２つのフルカラーＬＥＤと対応する部品番号ＫＣｎ１～ＫＣｎ２をそれぞれ分散した配置となるように、まずフルカラーＬＥＤ１と対応する部品番号ＫＣｎ１を配置した後に、フルカラーＬＥＤ２と対応する部品番号ＫＣｎ２を、フルカラーＬＥＤ１の幅寸法Ｎｗを左右方向用所定数倍した第２距離Ｐｗ’（第２距離Ｐｗ’は、少なくとも、フルカラーＬＥＤ１の最低限文字列の長さ分が離間する距離となるように、フルカラーＬＥＤ１の幅寸法Ｎｗより大きい又は等しい関係が成立する。）だけフルカラーＬＥＤ１と対応する部品番号ＫＣｎ１から離間してフルカラーＬＥＤ１の右方に配置する。なお、フルカラーＬＥＤ１の右方に配置したフルカラーＬＥＤ２の上下方向に沿った他の場所にフルカラーＬＥＤ２と対応する部品番号ＫＣｎ２を配置する（例えば、フルカラーＬＥＤ１と隣り合うフルカラーＬＥＤ２を配置する位置を示す領域ＫＣｐ２の右上方にフルカラーＬＥＤ２と対応する部品番号ＫＣｎ２を配置する）場合には、フルカラーＬＥＤ１の高さ寸法Ｎｈを上下方向用所定数倍した第２距離Ｐｈ’（第２距離Ｐｈ’は、少なくとも、フルカラーＬＥＤ１の最低限文字列の高さ分が離間する距離となるように、フルカラーＬＥＤ１の高さ寸法Ｎｈより大きい又は等しい関係が成立する。）だけフルカラーＬＥＤ１と対応する部品番号ＫＣｎ１から離間して配置する。なお、上述した左右方向用所定数倍の値と上述した上下方向用所定数倍の値とを同一の値にしてもよいし、個別に値を変更してもよく、隣り合う２つのフルカラーＬＥＤ１～ＬＥＤ２の配置する位置から離れた位置に、２つのフルカラーＬＥＤと対応する部品番号ＫＣｎ１～ＫＣｎ２を分散して配置するように選択すればよい。

【２６５６】

なお、分散配置の場合には、フルカラーＬＥＤと対応する部品番号ＫＣｎ１～ＫＣｎ２の配置方法として、例えば、装飾基板ＫＣの前面（表面）ＫＣｘに２つのフルカラーＬＥＤを相互に接近して配置する場合として、２つのフルカラーＬＥＤのうち、一のフルカラーＬＥＤに対して、一のフルカラーＬＥＤの右上、右下、左上、左下のいずれかに他のフルカラーＬＥＤを配置する場合について、上述したルールにより、２つのフルカラーＬＥＤ

のうち一のフルカラーＬＥＤ（他の電子部品であってもよい。）を基準として選び、この選んだ一のフルカラーＬＥＤの幅寸法と高さ寸法とを利用する。上述した第２距離Ｐｗ’及び／又は第２距離Ｐｈ’だけ２つのフルカラーＬＥＤと対応する部品番号ＫＣｎ１～ＫＣｎ２を相互に離間して配置することができるため、２つのフルカラーＬＥＤを配置する位置を示す領域ＫＣｐ１～ＫＣｐ２から離れた位置に、２つのフルカラーＬＥＤと対応する部品番号ＫＣｎ１～ＫＣｎ２を分散して配置することができる。

【２６５７】

因みに、従来より、発光手段が実装される装飾基板を備える遊技機が提案されている（例えば、特開２０１８－０７９１６３号公報（段落［００２４］、及び図１））。この遊技機に備える発光手段の前方には装飾基板を覆う装飾部材が配置されていた。ところで、装飾部材が透明なもので形成されていると、発光手段が消灯する状態において装飾基板の表面に塗布されるレジスト液の色がそのまま視認されることで遊技機の世界観が崩れて興ざめ遊技興趣が低下するおそれがあった。

【２６５８】

また、従来より、操作部が設けられる基板を備える遊技機が提案されている（例えば、特開２０１７－２０５３０４号公報（段落［０１０６］～段落［０１１２］、及び図９））。この基板は、収容部材に収容されていた。ところで、収容部材が透明なもの又は透光性を有するもので形成されていると、操作部が設けられる基板の面に形成される電子部品番号が収容部材を通して視認されることとなる。ところが、電子部品番号は、遊技者にとって遊技と全く関係を持たないものであるため、電子部品番号が収容部材を通して視認されることで遊技機の世界観が崩れて興ざめ遊技興趣が低下するおそれがあった。

【２６５９】

また、従来より、シルク印刷で部品番号等が示される基板を備える遊技機が提案されている（例えば、特開２００６－１４１６８３号公報（段落［００４７］、段落［００４８］、及び図３））。基板は、所定色のレジスト液が塗布されることで高反射率とする装飾性を高めるものもある。ところが、遊技者に視認可能な装飾の一種として基板を用いると、シルク印刷も遊技者に視認可能となり、装飾性が低下するおそれがあった。

【２６６０】

また、従来より、シルク印刷で部品番号等が示される基板を備える遊技機が提案されている（例えば、特開２００６－１４１６８３号公報（段落［００４７］、段落［００４８］、及び図３））。基板は、所定色のレジスト液が塗布されることで高反射率とする装飾性を高めるものもある。ところが、所定色のレジスト液が塗布された塗膜上にシルク印刷が設けられると、基板の反射率が低下するおそれがあった。

【２６６１】

［磁気センサの構造］

次に、始動口ユニット２１００の近傍であって遊技盤５の遊技パネル１１００における透明な平板状のパネル板１１１０の裏面側に取り付けられる磁気センサ１１１１、第一アタッカユニット２４００に備える磁気センサ２４０４、第二アタッカユニット２６００に備える磁気センサ２６０２、裏ユニット３０００の裏誘導ユニット３０５０に備える磁気センサ３０５５について説明する。ここでは、磁気センサ１１１１，２４０４，２６０２，３０５５が同一の構造を有しているため、磁気センサ１１１１について図２７２及び図２７３を参照して詳細に説明する。図２７２は磁気センサを分解して前から見た分解斜視図であり、図２７３は磁気センサを分解して後ろから見た分解斜視図である。

【２６６２】

磁気センサ１１１１は、後方が開口されると共に上下方向に長い矩形形状の開口部１１１１ａａを有する箱体１１１１ａと、箱体１１１１ａに収容される磁気センサ基板１１１１ｂと、開口部１１１１ａａを塞ぐ平板状のカバー体１１１１ｃと、を備えている。磁気センサ基板１１１１ｂの外形は、箱体１１１１ａの外形と比べて小さく、磁気センサ基板１１１１ｂを箱体１１１１ａに収容した状態では、磁気センサ基板１１１１ｂの外周と開口部１１１１ａａの内周との距離寸法（クリアランス）として約０．５ｍｍ～０．７ｍｍ程

度となっている。磁気センサ１１１１は、箱体１１１１ａの前面側が他の部材に面接触（当接）するように取り付けられるようになっており、上述したように、箱体１１１１ａの前面側が遊技盤５の遊技パネル１１００における透明な平板状のパネル板１１１０の裏面側に面接触（当接）した状態で取り付けられている。

【２６６３】

箱体１１１１ａは、無色透明な樹脂により成型されており、箱体１１１１ａの上側側壁には、後述する磁気センサ基板１１１１ｂの後面（裏面）に実装されるコネクタハウジングＭＣＮのソケット挿入口の一部が露出するように矩形形状のコネクタハウジング挿通穴１１１１ａｂが形成されている。また、箱体１１１１ａの左側壁及び右側壁には、後述するカバー体１１１１ｃの一対の取付片１１１１ｃａに形成される係止部１１１１ｃａａが挿入される上下方向に長い矩形形状の係止孔１１１１ａｃが形成されている。また、箱体１１１１ａの底部四隅には、箱体１１１１ａの補強を兼ねると共に、磁気センサ基板１１１１ｂの前面（表面）に実装される前面側電子部品（表面側電子部品）と、箱体１１１１ａの底部と、の接触を防止する三角柱状のスペーサー１１１１ａｄが形成されている。

【２６６４】

磁気センサ基板１１１１ｂの左辺中央及び右辺中央には、磁気センサ基板１１１１ｂが箱体１１１１ａに収容された状態でカバー体１１１１ｃが箱体１１１１ａの開口部１１１１ａａを塞ぐ際に、後述するカバー体１１１１ｃの一対の取付片１１１１ｃａと磁気センサ基板１１１１ｂとの干渉を防ぐために、一対の切り欠き部１１１１ｂａがそれぞれ形成されている。

【２６６５】

磁気センサ基板１１１１ｂの前面（表面）には、磁気を検出することができる磁気検出素子ＭＳＤのほかに、磁気検出素子ＭＳＤからの検出信号に基づいて磁気検出判定結果を外部へ出力することができるコントローラＣＴＲ、各種抵抗、及び各種コンデンサ等が実装されており、磁気検出素子ＭＳＤ、コントローラＣＴＲ、各種抵抗、及び各種コンデンサ等の前面側電子部品（表面側電子部品）が半田付けされるパッドのほかに、スルーホール、ランド等を除いた全域において、白色のレジスト液が塗布されて形成される白色塗膜（以下、単に「ベタ塗りされた白色のレジスト」と記載する場合がある。）により白色のレジスト層が形成されている。なお、本実施形態では、磁気センサ基板１１１１ｂの前面（表面）には、前面側電子部品（表面側電子部品）の部品番号、前面側電子部品（表面側電子部品）を配置する位置を示す領域等の前面側電子部品（表面側電子部品）の属性（さらに、前面側電子部品（表面側電子部品）の形状、前面側電子部品（表面側電子部品）の大きさ、前面側電子部品（表面側電子部品）の実装向き（実装方向）、前面側電子部品（表面側電子部品）の型式を含む場合がある。）を示す前面側表記部（表面側表記部）が、所定の色（例えば、白色に対して目立ち難い明色である黄色）の塗料で、ベタ塗りされた白色のレジスト上にシルク印刷により全く印刷されていない。

【２６６６】

磁気センサ基板１１１１ｂの後面（裏面）には、電気配線が接続されるコネクタハウジングＭＣＮのほかに、各種ＩＣ、各種抵抗、各種コンデンサ等が実装されており、コネクタハウジングＭＣＮ、各種ＩＣ、各種抵抗、及び各種コンデンサ等の後面側電子部品（裏面側電子部品）が半田付けされるパッドのほかに、スルーホール、ランド等を除いた全域において、白色のレジスト液が塗布されて形成される白色塗膜（以下、単に「ベタ塗りされた白色のレジスト」と記載する場合がある。）により白色のレジスト層が形成されている。なお、本実施形態では、磁気センサ基板１１１１ｂの後面（裏面）には、後面側電子部品（裏面側電子部品）の部品番号、後面側電子部品（裏面側電子部品）を配置する位置を示す領域等の後面側電子部品（裏面側電子部品）の属性（さらに、後面側電子部品（裏面側電子部品）の形状、後面側電子部品（裏面側電子部品）の大きさ、後面側電子部品（裏面側電子部品）の実装向き（実装方向）、後面側電子部品（裏面側電子部品）の型式を含む場合がある。）を示す後面側電子部品（裏面側電子部品）が、所定の色（例えば、白色に対して目立ち難い明色である黄色）の塗料で、ベタ塗りされた白色のレジスト上にシル

ク印刷により全く印刷されていない。
【２６６７】
コネクタハウジングＭＣＮのソケット挿入口には、磁気センサ基板１１１１ｂの後面（裏面）と平行となるように形成されると共に、磁気センサ基板１１１１ｂの後面（裏面）に対して平行となるように、４本の各種端子が一列に配置されている。つまり、コネクタハウジングＭＣＮのソケット挿入口に挿入される電気配線（ハーネス）の先端に接続されるコネクタソケットは、磁気センサ基板１１１１ｂの後面（裏面）と平行となる。これにより、磁気センサ基板１１１１ｂが箱体１１１１ａに収容されて箱体１１１１ａの開口部１１１１ａａがカバー体１１１１ｃにより塞がれた状態では、コネクタハウジングＭＣＮのソケット挿入口に挿入されたコネクタソケットに接続される電気配線（ハーネス）が磁気センサ基板１１１１ｂの後面（裏面）及び前面（表面）に被らないようにすることできる。
【２６６８】
なお、コントローラＣＴＲは、コネクタハウジングＭＣＮと電気的に接続されるように配線パターンが磁気センサ基板１１１１ｂに形成されており、コネクタハウジングＭＣＮが電気配線（ハーネス）を介して主制御基板１３１０と電気的に接続されることで、磁気センサ基板１１１１ｂのコントローラＣＴＲと主制御基板１３１０とが電気的に接続されることとなる。コネクタハウジングＭＣＮの４本の各種端子は、電源線（例えば、直流＋５Ｖ）、グランド（ＧＮＤ）線、信号線１、信号線２により構成されている。コントローラＣＴＲは、信号線１及び／又は信号線２を介して磁気の検出結果（磁石の接近の有無）を検出信号として主制御基板１３１０へ出力することができる。
【２６６９】
また、コントローラＣＴＲは、磁気センサ基板１１１１ｂの前面（表面）又は後面（裏面）に実装される各種抵抗により磁気検出素子ＭＳＤの磁気検知距離が予め設定されるように構成されている。例えば、コントローラＣＴＲの磁気検知距離設定端子が複数あり、予め定めた磁気検知距離となるように、コントローラＣＴＲの複数の磁気検知距離設定端子のうち、対応するコントローラＣＴＲの磁気検知距離設定端子に対しては、電源線と電気的に接続される電源供給ラインと一端が電気的に接続された抵抗の他端と電気的に接続され（いわゆる、「プルアップ抵抗」と電気的に接続され）、対応するコントローラＣＴＲの磁気検知距離設定端子に対しては、グランド（ＧＮＤ）線と電気的に接続されるグランド（ＧＮＤ）供給ラインと電気的に接続されたりする。なお、コントローラＣＴＲは、信号線１及び／又は信号線２を介して主制御基板１３１０からの制御信号に基づいて、磁気検出素子ＭＳＤの磁気検知距離を設定することができるように構成してもよい。
【２６７０】
このように、本実施形態では、磁気センサ基板１１１１ｂの前面（表面）及び後面（裏面）には、ベタ塗りされた白色のレジスト上にシルク印刷が全く存在していない。また、本実施形態では、磁気センサ基板１１１１ｂの前面（表面）には、配線パターンが形成される層（銅プレーン）において銅箔である配線パターンで前面側電子部品（表面側電子部品）がどのような電子部品であるかをそれぞれ特定するための情報がその情報の外側の周囲の銅箔を抜いて形成される箔抜き箔残しにより形成されてもいないし、磁気センサ基板１１１１ｂの後面（裏面）には、配線パターンが形成される層（銅プレーン）において銅箔である配線パターンで後面側電子部品（裏面側電子部品）がどのような電子部品であるかをそれぞれ特定するための情報がその情報の外側の周囲の銅箔を抜いて形成される箔抜き箔残しにより形成されてもいない。つまり、本実施形態では、磁気センサ基板１１１１ｂの前面（表面）に実装される前面側電子部品（表面側電子部品）がどのような電子部品であるかを特定するための情報が磁気センサ基板１１１１ｂの前面（表面）に何ら表記されていないと共に、磁気センサ基板１１１１ｂの後面（裏面）に実装される後面側電子部品（裏面側電子部品）がどのような電子部品であるかを特定するための情報が磁気センサ基板１１１１ｂの後面（裏面）に何ら表記されていない。
【２６７１】
カバー体１１１１ｃは、無色透明な樹脂により成型されており、カバー体１１１１ｃの後

面（裏面）には、磁気センサ１１１１の製品管理番号１１１１ｃｂ（ＡＢＣ－００１）が刻印されており、カバー体１１１１ｃの前面（表面）の左辺中央及び右辺中央から前方へ向かって平板状の一対の取付片１１１１ｃａが延出されている。一対の取付片１１１１ｃａの先端外側には、上下方向に長い矩形形状を有する係止部１１１１ｃａａが突設形成されている。係止部１１１１ｃａａは、カバー体１１１１ｃを箱体１１１１ａの開口部１１１１ａａを塞ぐ際に、箱体１１１１ａの左側壁及び右側壁に形成される係止孔１１１１ａｃにスムーズに挿入されるように、その前方の二角に面取が施されている。係止部１１１１ｃａａは、カバー体１１１１ｃを箱体１１１１ａの開口部１１１１ａａを塞ぐ際に、箱体１１１１ａの左側壁及び右側壁に形成される係止孔１１１１ａｃに挿入されることで係止される。

【２６７２】

箱体１１１１ａの左側壁及び右側壁に形成される一対の係止孔１１１１ａｃと、カバー体１１１１ｃの一対の取付片１１１１ｃａに形成される係止部１１１１ｃａａと、が上下方向に長い矩形形状を有する形成されているため、箱体１１１１ａの開口部１１１１ａａがカバー体１１１１ｃにより塞がれた状態では、箱体１１１１ａの左側壁及び右側壁に形成される一対の係止孔１１１１ａｃと、カバー体１１１１ｃの一対の取付片１１１１ｃａに形成される係止部１１１１ｃａａと、が係止されることにより、カバー体１１１１ｃは、一対の取付片１１１１ｃａに形成される係止部１１１１ｃａａが係止される箱体１１１１ａの一対の係止孔１１１１ａｃを主軸として回転することを防止することができるようになっている。

【２６７３】

ここで、磁気センサ１１１１の組み立て方法について簡単に説明する。まず磁気センサ基板１１１１ｂのコネクタハウジングＭＣＮが実装されていない面、つまり磁気センサ基板１１１１ｂの前面（表面）を箱体１１１１ａの開口部１１１１ａａに挿入して、箱体１１１１ａに形成されるコネクタハウジング挿通穴１１１１ａｂに磁気センサ基板１１１１ｂのコネクタハウジングＭＣＮを挿入してコネクタハウジングＭＣＮの一部を箱体１１１１ａから露出する状態として、磁気センサ基板１１１１ｂの前面（表面）の四隅と、箱体１１１１ａの底部四隅に形成されるスペーサー１１１１ａｄと、が面接触（当接）するまで磁気センサ基板１１１１ｂを箱体１１１１ａの底部へ送り込む。

【２６７４】

磁気センサ基板１１１１ｂの前面（表面）の四隅と、箱体１１１１ａの底部四隅に形成されるスペーサー１１１１ａｄと、が面接触（当接）する状態では、箱体１１１１ａの前面側と磁気センサ基板１１１１ｂの前面（表面）とが平行な位置関係となる。

【２６７５】

続いて、箱体１１１１ａの開口部１１１１ａａにカバー体１１１１ｃを覆う際に、カバー体１１１１ｃの一対の取付片１１１１ｃａを磁気センサ基板１１１１ｂの一対の切り欠き部１１１１ｂａに挿入してカバー体１１１１ｃを箱体１１１１ａの開口部１１１１ａａへ向かって押し込むと、カバー体１１１１ｃの一対の取付片１１１１ｃａに形成される係止部１１１１ｃａａが箱体１１１１ａの左側壁及び右側壁に形成される一対の係止孔１１１１ａｃに挿入されて係止される。これにより、箱体１１１１ａの開口部１１１１ａａがカバー体１１１１ｃにより塞がれる。この状態では、カバー体１１１１ｃの前面（表面）が磁気センサ基板１１１１ｂの後面（裏面）に実装されるコネクタハウジングＭＣＮの面と面接触（当接）する状態となり、磁気センサ基板１１１１ｂがカバー体１１１１ｃのスペーサー１１１１ａｄとカバー体１１１１ｃの前面（表面）とにより挟持された状態となる。これにより、遊技盤５の遊技領域５ａには遊技球が流下することによる振動、各種電気的駆動源（ソレノイド、モータ等）の作動による振動等により、磁気センサ１１１１の箱体１１１１ａに収容される磁気センサ基板１１１１ｂのグラつきを防止する（安定化させる）ことができるようになっている。

【２６７６】

また、箱体１１１１ａの開口部１１１１ａａがカバー体１１１１ｃにより塞がれた状態で

は、箱体１１１１ａの開口部１１１１ａａを構成する、箱体１１１１ａの上側側壁、箱体１１１１ａの左側側壁、箱体１１１１ａの下側側壁、及び箱体１１１１ａの右側側壁の後方端面と、カバー体１１１１ｃの後面（裏面）と、が同一の平面上に配置されて面一となるようになっている。

【２６７７】

ところで、磁気センサ１１１１は、不正な磁気を検知する重要なものであるため、不正に改変されると、磁石の接近を主制御基板１３１０へ伝えることができないため、磁石により遊技球を始動口ユニット２１００の第一始動口２００２に導いて入球させて少ない球数で抽選の機会を多く獲得する磁石ゴトが行われても、この磁石ゴトによる不正行為を主制御基板１３１０が発見することができない。磁気センサ１１１１は、上述したように、透明樹脂により箱体１１１１ａ及びカバー体１１１１ｃが成型されているため、磁気センサ基板１１１１ｂが箱体１１１１ａに収容されて箱体１１１１ａの開口部１１１１ａａがカバー体１１１１ｃにより塞がれた状態で、始動口ユニット２１００の近傍であって遊技盤５の遊技パネル１１００における透明な平板状のパネル板１１１０の裏面側に取り付けられると、遊技ホールの店員等の係員、遊技者は、パチンコ機１の前面から磁気センサ１１１１の磁気センサ基板１１１１ｂの前面（表面）の状態を視認することができるようになる。

【２６７８】

ところが、不正行為を行おうとする者は、磁気センサ基板１１１１ｂの前面（表面）の状態から、特に、シルク印刷により印刷された前面側電子部品（表面側電子部品）の部品番号、前面側電子部品（表面側電子部品）を配置する位置を示す領域等の前面側電子部品（表面側電子部品）の属性（さらに、前面側電子部品（表面側電子部品）の形状、前面側電子部品（表面側電子部品）の大きさ、前面側電子部品（表面側電子部品）の実装向き（実装方向）、前面側電子部品（表面側電子部品）の型式を含む場合がある。）を示す前面側表記部（表面側表記部）から、実装されている電子部品を特定して回路構成を把握して回路改変を行う情報源となるおそれがある。

【２６７９】

そこで、本実施形態では、磁気センサ基板１１１１ｂの前面（表面）及び後面（裏面）には、ベタ塗りされた白色のレジスト上にシルク印刷が全く存在していない。つまり、磁気センサ基板１１１１ｂの前面（表面）及び後面（裏面）には、シルク印刷により印刷された前面側表記部（表面側表記部）及び後面側表記部（裏面側表記部）が全く形成されていない。また、本実施形態では、磁気センサ基板１１１１ｂの前面（表面）には、配線パターンが形成される層（銅プレーン）において銅箔である配線パターンで前面側電子部品（表面側電子部品）がどのような電子部品であるかをそれぞれ特定するための情報がその情報の外側の周囲の銅箔を抜いて形成される箔抜き箔残しにより形成されてもいないし、磁気センサ基板１１１１ｂの後面（裏面）には、配線パターンが形成される層（銅プレーン）において銅箔である配線パターンで後面側電子部品（裏面側電子部品）がどのような電子部品であるかをそれぞれ特定するための情報がその情報の外側の周囲の銅箔を抜いて形成される箔抜き箔残しにより形成されてもいない。これにより、磁気センサ基板１１１１ｂに実装されている電子部品を特定して回路構成を把握することが困難とすることができる。

【２６８０】

また、本実施形態では、磁気センサ１１１１は、上述したように、透明樹脂により箱体１１１１ａ及びカバー体１１１１ｃが成型されているため、磁気センサ基板１１１１ｂが箱体１１１１ａに収容されて箱体１１１１ａの開口部１１１１ａａがカバー体１１１１ｃにより塞がれた状態で、始動口ユニット２１００の近傍であって遊技盤５の遊技パネル１１００における透明な平板状のパネル板１１１０の裏面側に取り付けられると、遊技ホールの店員等の係員は、パチンコ機１の前面から磁気センサ１１１１の磁気センサ基板１１１１ｂの前面（表面）の状態を視認することができるようになる。これにより、遊技ホールの店員等の係員は、パチンコ機１の前面から磁気センサ１１１１の磁気センサ基板１１１

１ｂの前面（表面）の状態を目視することにより磁気センサ基板１１１１ｂに対して不正の有無を確認することできる。なお、遊技ホールの店員等の係員は、本体枠４を外枠２に対して開放すると、遊技盤５を構成する各種部材が透明な樹脂により成型（形成）されていることにより、磁気センサ基板１１１１ｂの後面（裏面）の状態を視認することができるようになる。これにより、遊技ホールの店員等の係員は、パチンコ機１の前面から磁気センサ１１１１の磁気センサ基板１１１１ｂの後面（裏面）の状態を目視することにより磁気センサ基板１１１１ｂに対して不正の有無を確認することできる。

【２６８１】

また、本実施形態では、磁気センサ１１１１は、その箱体１１１１ａの前面側が始動口ユニット２１００の近傍であって遊技盤５の遊技パネル１１００における透明な平板状のパネル板１１１０の裏面側に取り付けられている。また、上述した、遊技盤５に備える各装飾基板の前面（表面）及び第２実施形態に係る反射率低下等の対策の構成を採用した扉枠３に備える各装飾基板の前面（表面）（以下、「遊技盤５及び扉枠３に備える各装飾基板の前面（表面）」と記載する場合がある。）に実装される複数のＬＥＤ（多色発光可能なフルカラーＬＥＤ）が消灯している状態において遊技盤５及び扉枠３に備える各装飾基板の前面（表面）に形成される白色塗膜により遊技盤側透明部材及び扉枠側透明部材が白色部材であるかのように見えるようになっているため、磁気センサ１１１１も、磁気センサ１１１１の磁気センサ基板１１１１ｂの前面（表面）に形成される白色塗膜により、始動口ユニット２１００の近傍であって遊技盤５の遊技パネル１１００における透明な平板状のパネル板１１１０の裏面側に取り付けられている磁気センサ１１１１の無色透明な樹脂により成型される箱体１１１１ａが白色部材であるかのように見えるようになっている。つまり、磁気センサ１１１１も、遊技盤側透明部材及び扉枠側透明部材に紛れる（同化する）ことで、遊技者の視覚の邪魔とならず遊技の目障りとなり難くすることができる。

【２６８２】

また、本実施形態では、磁気センサ１１１１が透明樹脂により箱体１１１１ａ及びカバー体１１１１ｃが成型されているため、磁気センサ基板１１１１ｂが箱体１１１１ａに収容されて箱体１１１１ａの開口部１１１１ａａがカバー体１１１１ｃにより塞がれた状態では、コネクタハウジングＭＣＮのソケット挿入口に挿入されたコネクタソケットに接続される電気配線（ハーネス）が磁気センサ基板１１１１ｂの前面（表面）及び後面（裏面）に被らないようにすることできる。これにより、始動口ユニット２１００の近傍であって遊技盤５の遊技パネル１１００における透明な平板状のパネル板１１１０の裏面側に磁気センサ１１１１が取り付けられて、磁気センサ基板１１１１ｂの前面（表面）及び後面（裏面）の状態を確認する際に、電気配線（ハーネス）が妨げ（目障り）とならない。

【２６８３】

なお、上述した本実施形態では、磁気センサ基板１１１１ｂの前面（表面）及び後面（裏面）には、磁気センサ基板１１１１ｂの前面（表面）に実装される前面側電子部品（表面側電子部品）がどのような電子部品であるかを特定するための情報が磁気センサ基板１１１１ｂの前面（表面）に何ら表記されていないと共に、磁気センサ基板１１１１ｂの後面（裏面）に実装される後面側電子部品（裏面側電子部品）がどのような電子部品であるかを特定するための情報が磁気センサ基板１１１１ｂの後面（裏面）に何ら表記されていないが、磁気センサ基板１１１１ｂの基板管理番号を磁気センサ基板１１１１ｂの前面（表面）及び／又は後面（裏面）に表記してもよい。この基板管理番号を表記する方法としては、所定の色（例えば、白色に対して目立ち難い明色である黄色、白色に対して目立ち易い黒色や緑色）の塗料でシルク印刷により印刷されてもよいし、配線パターンが形成される層（銅プレーン）において銅箔である配線パターンで基板管理番号がその基板管理番号の外側の周囲の銅箔を抜いて形成される箔抜き箔残しにより形成されてもよい。

【２６８４】

また、上述した本実施形態では、磁気センサ基板１１１１ｂの後面（裏面）に実装されるコネクタハウジングＭＣＮの型式が磁気センサ基板１１１１ｂの後面（裏面）に何ら表記されていないが、コネクタハウジングＭＣＮの型式を磁気センサ基板１１１１ｂの前面（

表面）及び／又は後面（裏面）に表記してもよい。このコネクタハウジングＭＣＮの型式を表記する方法としては、所定の色（例えば、白色に対して目立ち難い明色である黄色、白色に対して目立ち易い黒色や緑色）の塗料でシルク印刷により印刷されてもよいし、配線パターンが形成される層（銅プレーン）において銅箔である配線パターンでコネクタハウジングＭＣＮの型式がそのコネクタハウジングＭＣＮの型式の外側の周囲の銅箔を抜いて形成される箔抜き箔残しにより形成されてもよい。

【２６８５】

また、上述した本実施形態では、カバー体１１１１ｃの後面（裏面）には、磁気センサ１１１１の製品管理番号１１１１ｃｂ（ＡＢＣ－００１）が刻印されていたが、カバー体１１１１ｃの後面（裏面）に代えて、箱体１１１１ａの左側壁、上側壁、右側壁、及び下側壁のうち、いずれかの側壁に磁気センサ１１１１の製品管理番号１１１１ｃｂ（ＡＢＣ－００１）が刻印されていてもよい。

【２６８６】

また、上述した本実施形態では、カバー体１１１１ｃの後面（裏面）には、磁気センサ１１１１の製品管理番号１１１１ｃｂ（ＡＢＣ－００１）が刻印されていたが、刻印に代えて、磁気センサ１１１１の製品管理番号１１１１ｃｂ（ＡＢＣ－００１）を所定の色（白色、黒色、赤色、青色、緑色、黄色等）の塗料でカバー体１１１１ｃの後面（裏面）に直接印刷してもよいし、無色透明なシート、有色透明なシート、又は不透明なシートに印刷されたものをカバー体１１１１ｃの後面（裏面）に貼り付けるようにしてもよい。また、カバー体１１１１ｃの後面（裏面）に代えて、箱体１１１１ａの左側壁、上側壁、右側壁、及び下側壁のうち、いずれかの側壁に対して、磁気センサ１１１１の製品管理番号１１１１ｃｂ（ＡＢＣ－００１）を所定の色（白色、黒色、赤色、青色、緑色、黄色等）の塗料で直接印刷してもよいし、無色透明なシート、有色透明なシート、又は不透明なシートに磁気センサ１１１１の製品管理番号１１１１ｃｂ（ＡＢＣ－００１）が印刷されたものを貼り付けるようにしてもよい。

【２６８７】

また、上述した本実施形態では、コントローラＣＴＲは、磁気センサ基板１１１１ｂの前面（表面）又は後面（裏面）に実装される各種抵抗により磁気検出素子ＭＳＤの磁気検知距離が予め設定されるように構成されていたが、主制御基板１３１０からの制御信号（信号線１及び／又は信号線２を介して伝送される信号）に基づいて、磁気検出素子ＭＳＤの磁気検知距離を設定することができるように構成してもよい。こうすれば、磁石の接近をより早い段階で発見する場合には、磁気検知距離を大きく設定変更することができるし、磁石の接近を把握したときに遊技球の進路を変更できる程度にまで磁石が接近しているか否かを判別する場合には、磁気検知距離を小さく設定変更することができる。これにより、磁気検知距離を設定変更することにより磁石の接近の状態を主制御基板１３１０が把握することができ、磁石の接近に応じて、まず軽微な警告報知からを行い（例えば、扉枠３のフルカラーＬＥＤを赤色でゆっくり（例えば、１秒ごとに）点滅し）、段階的に強めた警告報知を行い（例えば、扉枠３のフルカラーＬＥＤを赤色で速く（例えば、０．５秒ごとに）点滅すると共に、警告音（例えば、「ビー、ビー、ビー」という音）が繰り返し流れ）、最終段階では磁石ゴトである旨の不正報知を行う（例えば、扉枠３のフルカラーＬＥＤを赤色に点灯すると共に、警告アナウンス（例えば、「不正行為が行われています。」という音声が繰り返し流れる）。

【２６８８】

また、上述した本実施形態では、磁気センサ１１１１は、始動口ユニット２１００の近傍であって遊技盤５の遊技パネル１１００における透明な平板状のパネル板１１１０の裏面側に取り付けられていたが、仮に、磁気センサ１１１１の取付位置として、可動体が作動する領域内の前方又は後方とする場合、可動体が作動する領域近傍の前方又は後方とする場合であっても、磁気センサ１１１１の箱体１１１１ａに収容される磁気センサ基板１１１１ｂの前面（表面）及び後面（裏面）には、ベタ塗りされた白色のレジスト上にシルク印刷が全く存在していないし（つまり、磁気センサ基板１１１１ｂの前面（表面）及び後

面（裏面）には、シルク印刷により印刷された前面側表記部（表面側表記部）及び後面側表記部（裏面側表記部）が全く形成されていないし）、また、磁気センサ基板１１１１ｂの前面（表面）には、配線パターンが形成される層（銅プレーン）において銅箔である配線パターンで前面側電子部品（表面側電子部品）がどのような電子部品であるかをそれぞれ特定するための情報がその情報の外側の周囲の銅箔を抜いて形成される箔抜き箔残しにより形成されてもいないし、磁気センサ基板１１１１ｂの後面（裏面）には、配線パターンが形成される層（銅プレーン）において銅箔である配線パターンで後面側電子部品（裏面側電子部品）がどのような電子部品であるかをそれぞれ特定するための情報がその情報の外側の周囲の銅箔を抜いて形成される箔抜き箔残しにより形成されてもいないため、可動体の筐体に磁気センサ基板１１１１ｂの前面（表面）の状態が映り込んだとしても、この映り込んだ内容から磁気センサ基板１１１１ｂに実装されている電子部品を特定して回路構成を把握することが困難とすることができる。

【２６８９】

また、上述した本実施形態では、磁気センサ基板１１１１ｂの前面（表面）には、配線パターンが形成される層（銅プレーン）において銅箔である配線パターンで前面側電子部品（表面側電子部品）がどのような電子部品であるかをそれぞれ特定するための情報がその情報の外側の周囲の銅箔を抜いて形成される箔抜き箔残しにより形成されてもいなかったし、磁気センサ基板１１１１ｂの後面（裏面）には、配線パターンが形成される層（銅プレーン）において銅箔である配線パターンで後面側電子部品（裏面側電子部品）がどのような電子部品であるかをそれぞれ特定するための情報がその情報の外側の周囲の銅箔を抜いて形成される箔抜き箔残しにより形成されてもいなかった。つまり、本実施形態では、磁気センサ基板１１１１ｂの前面（表面）に実装される前面側電子部品（表面側電子部品）がどのような電子部品であるかを特定するための情報が磁気センサ基板１１１１ｂの前面（表面）に何ら表記されていなかったと共に、磁気センサ基板１１１１ｂの後面（裏面）に実装される後面側電子部品（裏面側電子部品）がどのような電子部品であるかを特定するための情報が磁気センサ基板１１１１ｂの後面（裏面）に何ら表記されていなかった。そこで、前面側電子部品（表面側電子部品）と対応する位置近傍に丸記号を作り丸記号の外側の周囲の銅箔を抜いて形成される箔抜き基準端子記号として磁気センサ基板１１１１ｂの前面（表面）にそれぞれ形成され、磁気センサ基板１１１１ｂの前面（表面）にベタ塗りされる白色のレジストにより箔抜き基準端子記号がそれぞれ覆われるように構成してもよいし、後面側電子部品（裏面側電子部品）と対応する位置近傍に丸記号を作り丸記号の外側の周囲の銅箔を抜いて形成される箔抜き基準端子記号として磁気センサ基板１１１１ｂの後面（裏面）にそれぞれ形成され、磁気センサ基板１１１１ｂの後面（裏面）にベタ塗りされる白色のレジストにより箔抜き基準端子記号がそれぞれ覆われるように構成してもよい。これらの箔抜き基準端子記号を形成する配線パターンは、前面側電子部品（表面側電子部品）及び後面側電子部品（裏面側電子部品）と電気的に絶縁されてそれぞれ形成されている。なお、箔抜き基準端子記号としては、その周囲が、いわゆるベタグランド（基板グランド）である場合には、丸記号そのものを箔抜きとしてもよい。また、箔抜き基準端子記号としては、丸記号に代えて、前面側電子部品（表面側電子部品）や後面側電子部品（裏面側電子部品）の極性を表す記号でもよい（回路図に使用する記号でもよいし、回路図に使用する記号を簡略化したものでもよい）。また、磁気センサ基板１１１１ｂの前面（表面）に実装される前面側電子部品（表面側電子部品）のうち、特定の前面側電子部品（特定の表面側電子部品）の実装向きがほぼ同一向きである場合（つまり、実装作業者又は自動機に対して、特定の前面側電子部品（特定の表面側電子部品）の実装向きが同一向き（真逆に実装するものが存在しない）ルールが予め設けられている場合）は、複数の特定の前面側電子部品（特定の表面側電子部品）のうちいずれか１つの特定の前面側電子部品（特定の表面側電子部品）の端子と対応する位置近傍に箔抜き基準端子記号が磁気センサ基板１１１１ｂの前面（表面）に形成されるようにしてもよいし、予め定め１つ以上の特定の前面側電子部品（特定の表面側電子部品）の端子と対応する位置近傍に箔抜き基準端子記号が磁気センサ基板１１１１ｂの前面（表面）に形成されるようにしても

よい。この場合においても、箔抜き基準端子記号としては、丸記号に代えて、ＬＥＤの極性を表す記号でもよい（回路図に使用する記号でもよいし、回路図に使用する記号（アノード端子とカソード端子とが判別できる記号）を簡略化したものでもよい）。また、磁気センサ基板１１１１ｂの後面（裏面）に実装される後面側電子部品（裏面側電子部品）のうち、特定の後面側電子部品（特定の後面側電子部品）の実装向きがほぼ同一向きである場合（つまり、実装作業者又は自動機に対して、特定の後面側電子部品（特定の後面側電子部品）の実装向きが同一向き（真逆に実装するものが存在しない）ルールが予め設けられている場合）は、複数の特定の後面側電子部品（特定の後面側電子部品）のうちいずれか１つの特定の後面側電子部品（特定の後面側電子部品）の端子と対応する位置近傍に箔抜き基準端子記号が磁気センサ基板１１１１ｂの後面（裏面）に形成されるようにしてもよいし、予め定め１つ以上の特定の後面側電子部品（特定の後面側電子部品）の端子と対応する位置近傍に箔抜き基準端子記号が磁気センサ基板１１１１ｂの後面（裏面）に形成されるようにしてもよい。この場合においても、箔抜き基準端子記号としては、丸記号に代えて、ＬＥＤの極性を表す記号でもよい（回路図に使用する記号でもよいし、回路図に使用する記号（アノード端子とカソード端子とが判別できる記号）を簡略化したものでもよい）。

【２６９０】

以上説明した本実施形態のパチンコ機１によれば、装飾部材として図２５５の発光演出ユニット５０００を有している。この発光演出ユニット５０００は、基板として図２５５のＬＥＤ基板５０７０、導光部材として図２５５の導光板５０６０、透明部材として図２５５の拡散シート５０５０、装飾体として図２５５の装飾体５０４０を備えている。ＬＥＤ基板５０７０は、発光手段として図２５５のＬＥＤベアチップ５０７５が実装されるものである。導光板５０６０は、ＬＥＤ基板５０７０の前方に配置されると共に、ＬＥＤベアチップ５０７５が発した光を前方へ射出することができるものである。拡散シート５０５０は、導光板５０６０の前方に配置されるものである。装飾体５０４０は、拡散シート５０５０の前方に配置されている。拡散シート５０５０には、少なくともＬＥＤベアチップ５０７５と対応する位置に不透明領域として図２５８の拡散シート５０５０の裏面５０５０ｙ側に白色塗料により塗布された左右方向に長い帯状を有する５つの白色帯領域５０５０ｃ１～５０５０ｃ５が形成されている。

【２６９１】

このように、発光手段であるＬＥＤベアチップ５０７５が発した光は、導光部材である導光板５０６０を介して、透明部材である拡散シート５０５０へ出射されるものの、透明部材である拡散シート５０５０には発光手段であるＬＥＤベアチップ５０７５と対応する位置に不透明領域である拡散シート５０５０の裏面５０５０ｙ側に白色塗料により塗布された左右方向に長い帯状を有する５つの白色帯領域５０５０ｃ１～５０５０ｃ５が形成されているため、発光手段であるＬＥＤベアチップ５０７５が実装される位置が点光源のように装飾体である装飾体５０４０において明るく光らず不透明領域である拡散シート５０５０の裏面５０５０ｙ側に白色塗料により塗布された左右方向に長い帯状を有する５つの白色帯領域５０５０ｃ１～５０５０ｃ５により和らげられるようになっている。これにより、透明部材である拡散シート５０５０を臨む導光部材である導光板５０６０の面である表面５０６０ｘを均一に光らせることに寄与することができるため、装飾体である装飾体５０４０の発光演出による違和感を遊技者に与え難い。したがって、発光演出による遊技興趣の低下を抑制することができる。

【２６９２】

また、以上説明した本実施形態のパチンコ機１によれば、遊技を行うことができるものであり、導電性部材として図２４９の導電性を有する金属製配線溝１６０５、第１配線部材として図２４９の金属製配線溝１６０５により形成される溝外空間に引き回される配線、第２配線部材として図２４９の金属製配線溝１６０５により形成される溝内空間に引き回される配線を備えている。金属製配線溝１６０５は、導電性を有するものであり、金属製配線溝１６０５により形成される溝外空間に引き回される配線は、電磁波ノイズの影響に

弱いものであり、金属製配線溝１６０５により形成される溝内空間に引き回される配線は、金属製配線溝１６０５により形成される溝外空間に引き回される配線と比べて電磁波ノイズの影響に強いものである。

【２６９３】

電磁波ノイズの発生源側を臨む金属製配線溝１６０５の一方の面である図２４９の金属製配線溝１６０５の断面コ字状を有する溝部１６０５ａの底部内面には、金属製配線溝１６０５により形成される溝内空間に引き回される配線が配置されていると共に、電磁波ノイズの発生源側を臨まない導電性部材の他方の面である図２５０の金属製配線溝１６０５の断面コ字状を有する溝部１６０５ａの底部外面１６０５ｄには、金属製配線溝１６０５により形成される溝外空間に引き回される配線が配置されている。

【２６９４】

このように、第１配線部材である金属製配線溝１６０５により形成される溝外空間に引き回される配線と比べて電磁波ノイズの影響に強い第２配線部材である金属製配線溝１６０５により形成される溝内空間に引き回される配線は、電磁波ノイズの発生源側を臨む金属製配線溝１６０５の一方の面である金属製配線溝１６０５の断面コ字状を有する溝部１６０５ａの底部内面に配置されると共に、第２配線部材である金属製配線溝１６０５により形成される溝内空間に引き回される配線と比べて電磁波ノイズの影響に弱い第１配線部材である金属製配線溝１６０５により形成される溝外空間に引き回される配線は、電磁波ノイズの発生源側を臨まない金属製配線溝１６０５の他方の面である金属製配線溝１６０５の断面コ字状を有する溝部１６０５ａの底部外面１６０５ｄに配置されることにより、電磁波ノイズの影響を受ける空間内に、第１配線部材である金属製配線溝１６０５により形成される溝外空間に引き回される配線と、第２配線部材である金属製配線溝１６０５により形成される溝内空間に引き回される配線と、を混在して配置することができる。したがって、電磁波ノイズによる耐ノイズ性を向上することができる。

【２６９５】

また、以上説明した本実施形態のパチンコ機１によれば、遊技を行うことができるものであり、平面型配線部材として図２５４のフレキシブルフラットケーブル５０３０を備えている。フレキシブルフラットケーブル５０３０は、電源線であるグランド線と、制御線と、を含む複数の導体として複数の平型導体が平行に配置されて絶縁材により被覆されるものである。電磁波ノイズの発生源側を臨むフレキシブルフラットケーブル５０３０の幅方向における最端側の導体として最端両側の平型導体は、電源線であるグランド線として配置されている。換言すると、電源線であるグランド線と、制御線と、を含む複数の平型導体のうち、電磁波ノイズの発生源と制御線との間に電源線であるグランド線が配置されている。

【２６９６】

このように、平面型配線部材であるフレキシブルフラットケーブル５０３０には、電源線であるグランド線と、制御線と、を含む複数の導体である複数の平型導体が平行に配置されると共に、電源線であるグランド線と、制御線と、を含む複数の平型導体のうち、電磁波ノイズの発生源と制御線との間に電源線であるグランド線が配置されるようになっているため、最端側の導体として最端両側の平型導体を除く他の導体である平型導体に対して、電磁波ノイズによる耐ノイズ性を向上することができる。したがって、電磁波ノイズによる耐ノイズ性を向上することができる。

【２６９７】

また、以上説明した本実施形態のパチンコ機１によれば、遊技を行うことができるものであって、前枠として図１０の扉枠３、発光装置として図７３の扉枠トップユニット４５０の音響装飾基板４６９の前面（表面）に実装される複数のＬＥＤ４６９ａを有している。扉枠３は、開閉可能に設けられるものであり、扉枠トップユニット４５０の音響装飾基板４６９の前面（表面）に実装される複数のＬＥＤ４６９ａは、扉枠３の予め定めた位置として前面上部に設けられるものである。扉枠トップユニット４５０は、扉枠３の前方へ向かって発光することができるようになっていると共に、扉枠３の後方へ向かって発光する

ことができるようになっている。
【２６９８】
具体的には、扉枠トップユニット４５０における一対のスピーカブラケット４６３の前面にそれぞれ取付けられている一対のトップサイドスピーカ４６４は、振動板、及びセンターキャップ等の振動部が透光性を有する樹脂製（例えば、乳白色を有するポリプロピレン等）により形成されると共に、マグネット、及びヨーク等の磁気回路部が前後に貫通している貫通孔を有する円柱状に形成され、振動部と磁気回路部とが筐体部により保持されている。この筐体部には、周方向に複数の開口が形成されている。円柱状に形成される磁気回路部の貫通孔は、前方に配置されるセンターキャップに覆われているのに対して、後方が開放されている。スピーカブラケット４６３の後面には、スピーカブラケット４６３の後面から後方へ向かって所定距離寸法（本実施形態では、約１８ｍｍ）延出された図示しない４つの基板取付屈曲板に形成される取付部に音響装飾基板４６９が取付けられる。スピーカブラケット４６３の前面にトップサイドスピーカ４６４が取付けられると共に、スピーカブラケット４６３の後面に音響装飾基板４６９が取付けられる状態においては、音響装飾基板４６９の前面（表面）がトップサイドスピーカ４６４の磁気回路部の後面を臨むように配置されると共に、音響装飾基板４６９の前面（表面）がトップサイドスピーカ４６４の磁気回路部の後方を覆う配置となる。
【２６９９】
音響装飾基板４６９の前面（表面）に実装される複数のＬＥＤ４６９ａが発光すると、トップサイドスピーカ４６４の円柱形状に形成される磁気回路部の貫通孔を通って、透光性を有するセンターキャップから光が出射すると共に、筐体部の周方向に形成される複数の開口を通って、透光性を有する振動板から光りが出射することによりトップサイドスピーカ４６４の電飾を行うことができるようになっている。さらに、音響装飾基板４６９の前面（表面）に実装される複数のＬＥＤ４６９ａが発光すると、トップサイドスピーカ４６４の裏面（円柱形状に形成される磁気回路部を構成するヨークの裏面）で反射してトップサイドスピーカ４６４の裏面と音響装飾基板４６９の前面（表面）との間を繰り返し反して、トップサイドスピーカ４６４の後方、つまり音響装飾基板４６９の後面（裏面）から後方へ向かって出射する。
【２７００】
スピーカブラケット４６３は、上述したように、扉枠トップベース４５１における左右の前方突出部４５１ｂの下面に取付けられる。扉枠トップベース４５１には、左右のスピーカブラケット４６３が取付けられる位置と対応する位置であってスピーカブラケット４６３の後面に取付けられる音響装飾基板４６９が露出するように、音響装飾基板４６９の外周より大きい形状を有すると共に前後に貫通する貫通孔４５１ｂａがそれぞれ形成されている。音響装飾基板４６９の前面（表面）に実装される複数のＬＥＤ４６９ａが発光すると、トップサイドスピーカ４６４の後方、つまり音響装飾基板４６９の後面（裏面）から後方へ向かって出射し、そして音響装飾基板４６９の外周と扉枠トップベース４５１に形成される貫通孔４５１ｂａの内周とによるすき間を通って、扉枠トップベース４５１の後方へ出射する。
【２７０１】
扉枠トップベース４５１は、上述したように、扉枠ベースユニット１００の扉枠ベース１０１の前面における扉窓１０１ａよりも上側に取付けられる。扉枠ベース１０１には、扉枠トップベース４５１に形成される左右の貫通孔４５１ｂと対応する位置に、貫通孔４５１ｂの外周より大きい形状又は同一の形状を有すると共に、前後に貫通する貫通孔１０１ｋがそれぞれ形成されている。これにより、音響装飾基板４６９の前面（表面）に実装される複数のＬＥＤ４６９ａが発光すると、トップサイドスピーカ４６４の後方、つまり音響装飾基板４６９の後面（裏面）から後方へ向かって出射し、音響装飾基板４６９の外周と扉枠トップベース４５１に形成される貫通孔４５１ｂａの内周とによるすき間、そして扉枠ベース１０１に形成される貫通孔１０１ｋを通って、扉枠ベースユニット１００の扉枠ベース１０１の後方へ出射する。

【２７０２】
このように、扉枠３に設けられる扉枠トップユニット４５０の音響装飾基板４６９の前面（表面）に実装される複数のＬＥＤ４６９ａが扉枠３の前方へ向かって発光可能であると共に、扉枠３の後方へ向かって発光可能であるため、扉枠３が開放された状態において、扉枠３の前面側を臨む方向と、扉枠３の後面側を臨む方向と、から扉枠トップユニット４５０の音響装飾基板４６９の前面（表面）に実装される複数のＬＥＤ４６９ａの発光による報知態様を視認することができる。これにより、遊技ホールにおいて、扉枠３の前面側を臨む通路側と、扉枠３の後面側を臨む通路側と、を通る遊技ホールの店員等の係員に扉枠トップユニット４５０の音響装飾基板４６９の前面（表面）に実装される複数のＬＥＤ４６９ａによる報知態様を伝えることができる。したがって、扉枠３の開放時に扉枠３の前面側及び後面側からの音響装飾基板４６９の前面（表面）に実装される複数のＬＥＤ４６９ａの報知態様を視認することができる。
【２７０３】
また、以上説明した本実施形態のパチンコ機１によれば、遊技を行うことができるものであって、前枠として図１０の扉枠３、前枠発光手段として図７３のスピーカブラケット４６３、トップサイドスピーカ４６４、音響装飾基板４６９、及び透明板から構成されるスピーカ電飾ユニットを有している。扉枠３は、開閉可能に設けられるものであり、スピーカ電飾ユニットは、扉枠３に設けられ、パチンコ機１に異常または不具合が生じた際に通常時と異なる態様で発光可能なものであり、扉枠３が開放状態にあるときには、通常時と異なる態様で発光していることが扉枠３の前方からだけでなく扉枠３の後方からも視認できるように扉枠３に設けられている。
【２７０４】
具体的には、扉枠トップユニット４５０における一対のスピーカブラケット４６３の前面にそれぞれ取付けられている一対のトップサイドスピーカ４６４は、振動板、及びセンターキャップ等の振動部が透光性を有する樹脂製（例えば、乳白色を有するポリプロピレン等）により形成されると共に、マグネット、及びヨーク等の磁気回路部が前後に貫通している貫通孔を有する円柱状に形成され、振動部と磁気回路部とが筐体部により保持されている。この筐体部には、周方向に複数の開口が形成されている。円柱状に形成される磁気回路部の貫通孔は、前方に配置されるセンターキャップに覆われているのに対して、後方が開放されている。スピーカブラケット４６３の後面には、スピーカブラケット４６３の後面から後方へ向かって所定距離寸法（本実施形態では、約１８ｍｍ）延出された図示しない４つの基板取付屈曲板に形成される取付部に音響装飾基板４６９が取付けられる。このように、スピーカブラケット４６３の前面にトップサイドスピーカ４６４が取付けられると共に、スピーカブラケット４６３の後面に音響装飾基板４６９及び透明板が取付けられることにより、スピーカ電飾ユニットが組み立てられる。換言すると、スピーカ電飾ユニットは、スピーカブラケット４６３、トップサイドスピーカ４６４、音響装飾基板４６９、及び透明板から構成されている。スピーカブラケット４６３の前面にトップサイドスピーカ４６４が取付けられると共に、スピーカブラケット４６３の後面に音響装飾基板４６９が取付けられる状態においては、音響装飾基板４６９の前面（表面）がトップサイドスピーカ４６４の磁気回路部の後面を臨むように配置されると共に、音響装飾基板４６９の前面（表面）がトップサイドスピーカ４６４の磁気回路部の後方を覆う配置となる。
【２７０５】
音響装飾基板４６９の前面（表面）に実装される複数のＬＥＤ４６９ａが発光すると、トップサイドスピーカ４６４の円柱形状に形成される磁気回路部の貫通孔を通って、透光性を有するセンターキャップから光が出射すると共に、筐体部の周方向に形成される複数の開口を通って、透光性を有する振動板から光りが出射することによりトップサイドスピーカ４６４の電飾を行うことができるようになっている。さらに、音響装飾基板４６９の前面（表面）に実装される複数のＬＥＤ４６９ａが発光すると、トップサイドスピーカ４６４の裏面（円柱形状に形成される磁気回路部を構成するヨークの裏面）で反射してトップサイドスピーカ４６４の裏面と音響装飾基板４６９の前面（表面）との間を繰り返し反し

て、トップサイドスピーカ４６４の後方、つまり音響装飾基板４６９の後面（裏面）から後方へ向かって出射する。

【２７０６】

周辺制御基板１５１０は、パチンコ機１に異常（例えば、球タンク５５２、タンクレール５５３、球誘導ユニット５７０、及び払出装置５８０等の球詰まりの発生、不正行為の検知、扉枠３の開放、本体枠４の開放、配線の断線等）または不具合（各種可動装飾体（可動体）の作動に関する不具合、各種可動装飾体（可動体）の原位置（待機位置）の検知不可等））（以下、「異常や不具合の発生」と記載する場合がある。）が生じているときには、上述した通常時と異なる態様として報知態様となる発光データをクロック信号に基づいて、扉枠トップ中継基板４６７に実装される図示しないＬＥＤ定電流駆動回路に出力する。なお、演出態様の発光態様（通常時）では、点灯、消灯、点滅、階調点灯等を組み合わせた多彩な発光態様であるのに対して、報知態様（通常時と異なる態様）では、予め定めた色（本実施形態では、赤色）が最大輝度で点灯する発光態様となっている。

【２７０７】

従来の遊技機は、前枠である扉枠３が開放状態になると、扉枠３の正面側を臨む方向（前方）からは異常や不具合の発生を外部に知らせる発光を視認することができる一方、扉枠３の後面側を臨む方向（後方）からは異常や不具合の発生を外部に知らせる発光を視認することが難しくなるという問題があった。この点、本実施形態では、扉枠３が開放された状態において、扉枠３の前面側を臨む方向と、扉枠３の後面側を臨む方向の両方から、異常や不具合の発生を外部に知らせる発光を視認することができる（つまり、扉枠３の前面側を臨む方向と扉枠３の後面側を臨む方向との両方という新たな態様で異常や不具合の発生を外部に知らせることができる）。これにより、遊技ホールにおいて、扉枠３の前面側を臨む通路側と、扉枠３の後面側を臨む通路側と、の両通路側から遊技ホールの店員等の係員に異常や不具合の発生を迅速に伝えることができ、遊技ホールの作業効率を向上させることができる。

【２７０８】

また、以上説明した本実施形態のパチンコ機１によれば、始動条件の結果に基づいて抽選を行い、該抽選の結果に基づいて図柄の変動表示を行い、該図柄の変動表示の結果として所定の当り変動結果が導出されることで遊技者に特定の遊技利益を付与する遊技機であって、前記図柄の変動表示が行われる図柄表示装置を備えた遊技盤と、前記遊技盤が設けられる枠体と、前記枠体に対して開閉可能に設けられる前枠と、前記前枠の開閉状態を検出する検出手段と、前記前枠に設けられ、前記前枠の開状態が検出されることに基づいて、通常時と異なる特別態様で発光可能な前枠発光手段と、を備えている。

【２７０９】

具体的には、例えば、始動条件として図１１１の第一始動口２００２や第二始動口２００４に遊技球Ｂが受入れられ、図２０６の主制御基板１３１０において、遊技者に有利な有利遊技状態（例えば、「大当り」、「中当り」、「小当り」、「確率変動（確変）当り」、「時間短縮（時短）当り」）を発生させる特別抽選結果の抽選が行われる。主制御基板１３１０は、抽選の結果に基づいて、図１１１の機能表示ユニット１４００に制御信号を出力し、この制御信号に基づく複数のＬＥＤを用いて、図柄の変動表示を行う。図柄の変動表示の結果である特別抽選結果として所定の当り変動結果が導出されることで遊技者に有利な有利遊技状態（例えば、「大当り」、「中当り」、「小当り」、「確率変動（確変）当り」、「時間短縮（時短）当り」）を付与することができるようになっている。図柄の変動表示が行われる機能表示ユニット１４００を備えた遊技盤５と、図１１１の遊技盤５が設けられる枠体として図１０の本体枠４と、この本体枠４に対して開閉可能に設けられる前枠として図１０の扉枠３と、この扉枠３の開閉状態を検出する検出手段として本体枠４に対する扉枠３の開放を検出する扉枠開放スイッチと、扉枠３に設けられ、この扉枠３の開状態が検出されることに基づいて、通常時と異なる特別態様として報知態様で発光可能な前枠発光手段として図７３のスピーカブラケット４６３、トップサイドスピーカ４６４、音響装飾基板４６９、及び透明板から構成されるスピーカ電飾ユニット、を備えて

いる。なお、演出態様の発光態様（通常時）では、点灯、消灯、点滅、階調点灯等を組み合わせた多彩な発光態様であるのに対して、報知態様（通常時と異なる態様）では、予め定めた色（本実施形態では、赤色）が最大輝度で点灯する発光態様となっている。

【２７１０】

また、前記前枠発光手段は、当該遊技機の前方側を向いた基板面に発光部が実装された発光基板からなり、前記発光基板は、実装されている発光部が前記特別態様で発光しているときに、該発光部が前記特別態様で発光していることが前記前枠の前方からだけでなく前記前枠の後方からも視認できるように、当該発光基板の周りの少なくとも一部から該発光部が漏光する配置とされている。

【２７１１】

具体的には、例えば、前枠発光手段であるスピーカブラケット４６３、トップサイドスピーカ４６４、音響装飾基板４６９、及び透明板から構成されるスピーカ電飾ユニットは、パチンコ機１の前方側を向いた基板面に発光部として複数のＬＥＤ４６９ａが実装された発光基板として音響装飾基板４６９からなり、音響装飾基板４６９は、実装されている複数のＬＥＤ４６９ａが特別態様として報知態様で発光しているときに、複数のＬＥＤ４６９ａが報知態様で発光していることが前枠として扉枠３の前方からだけでなく前枠として扉枠３の後方からも視認できるように、音響装飾基板４６９の周りの少なくとも一部から複数のＬＥＤ４６９ａが漏光する配置とされている。

【２７１２】

さらに、前記前枠発光手段は、前記前枠の開状態が検出されていないときには、前記図柄が変動表示するときに設定される変動パターンに基づいて所定の演出用発光を行うものであり、前記前枠が閉状態にあるときの前記前扉発光手段の後方に対応する位置には、前記発光部の漏光を前方に反射させうる光反射部（白色印刷部、金属部材）が設けられている。

【２７１３】

具体的には、例えば、前枠発光手段であるスピーカブラケット４６３、トップサイドスピーカ４６４、音響装飾基板４６９、及び透明板から構成されるスピーカ電飾ユニットは、前枠として扉枠３の開状態が検出されていないときには（払出制御ＭＰＵは、扉枠開放スイッチからの検出信号に基づいて本体枠４に対する扉枠３の開放を検出すると、その旨を伝える扉枠開放コマンドを主制御基板１３１０へ送信し、この扉枠開放コマンドを主制御基板１３１０が受信していないときには）、主制御基板１３１０が機能表示ユニット１４００に制御信号を出力し、この制御信号に基づく複数のＬＥＤを用いて図柄を変動表示し、図柄を変動表示するときに設定される変動パターンと対応するコマンドを主制御基板１３１０が周辺制御基板１５１０へ送信し、このコマンドに基づいて周辺制御基板１５１０が所定の演出用発光（通常時）として演出態様の発光態様となる発光データをクロック信号に基づいて、扉枠トップ中継基板４６７に実装される図示しないＬＥＤ定電流駆動回路に出力して、点灯、消灯、点滅、階調点灯等を組み合わせた多彩な発光態様を行うものであり、前枠として扉枠３が閉状態にあるときのスピーカ電飾ユニットの後方に対応する位置には、発光部として音響装飾基板４６９に実装されている複数のＬＥＤ４６９ａの漏光を前方に反射させうる光反射部として図１０の反射シート１０００ａ（射率の高い白色又は白色に近い色を有する白色印刷部）や金属製止め具ＦＴ（金属製光沢を有する金属部材）等が設けられている。

【２７１４】

また、前記発光基板の背面側を構成する被覆部が透明部材であり、該透明部材を透して（通して）前記発光部の漏光を前記前枠の後方から視認可能にしている。

【２７１５】

具体的には、スピーカ電飾ユニットは、スピーカブラケット４６３、トップサイドスピーカ４６４、音響装飾基板４６９、及び透明板から構成され、発光基板である音響装飾基板４６９の背面側を構成する被覆部として透明板が透明部材であり、この透明部材である透明板を透して（通して）音響装飾基板４６９の複数のＬＥＤ４６９ａの漏光を扉枠３の後方から視認可能にしている。

【２７１６】
また、前枠発光手段を構成する発光基板は複数設けられ、前記複数の発光基板のうちの少なくとも１つは、前記前枠の開放端側に設けられる。
【２７１７】
具体的には、前枠発光手段としてスピーカブラケット４６３、トップサイドスピーカ４６４、音響装飾基板４６９、及び透明板から構成されるスピーカ電飾ユニットを構成する発光基板として音響装飾基板４６９は、パチンコ機１を正面から見て扉枠３の左上側と右上側とに配置されることにより複数設けられ、扉枠３の左上側に配置される音響装飾基板４６９と扉枠３の右上側に配置される音響装飾基板４６９とのうちの少なくとも１つは、パチンコ機１を正面から見て扉枠３の右上側に配置される音響装飾基板４６９が扉枠３の開放端側に設けられている。これにより、少しだけ扉枠３を開放したときにも扉枠３の背面側の発光を視認し易くすることができる。
【２７１８】
また、前記前枠発光手段を構成する前記発光基板は複数設けられ、前記光反射部は、前記複数の発光基板に対応して設けられる。
【２７１９】
具体的には、前枠発光手段としてスピーカブラケット４６３、トップサイドスピーカ４６４、音響装飾基板４６９、及び透明板から構成されるスピーカ電飾ユニットを構成する発光基板として音響装飾基板４６９は、パチンコ機１を正面から見て扉枠３の左上側と右上側とに配置されることにより複数設けられ、光反射部として図１０の反射シート１０００ａ（射率の高い白色又は白色に近い色を有する白色印刷部）は、パチンコ機１を正面から見て左側の音響装飾基板４６９と対応する位置に反射シート１０００ａが遊技盤５の前構成部材１０００の左上側領域に配置され、光反射部として図１０の遊技盤５の前構成部材１０００の右上側領域に配置される金属製止め具ＦＴは、パチンコ機１を正面から見て右側の音響装飾基板４６９と対応する位置に金属製止め具ＦＴが遊技盤５の前構成部材１０００の右上側領域に配置されている。
【２７２０】
また、前記光反射部は、前記遊技盤に設けられ、該遊技盤の遊技領域の外側に設けられる白色印刷部である。
【２７２１】
具体的には、光反射部として図１０の反射シート１０００ａ（射率の高い白色又は白色に近い色を有する白色印刷部）は、遊技盤５に設けられ、遊技盤５の遊技領域５ａの外側に設けられる白色印刷部である。
【２７２２】
前記白色印刷部は、前記発光基板よりも面積が大きい。具体的には、反射シート１０００ａの表面積は、パチンコ機１を正面から見て左側の音響装飾基板４６９の前面（表面）又は後面（裏面）における面積と比べて大きい。
【２７２３】
前記光反射部は、前記枠体に設けられる金属部材である。具体的には、光反射部として図１０の遊技盤５の前構成部材１０００の右上側領域に配置される金属製止め具ＦＴは、金属製（金属部材）であり、光沢を有している。
【２７２４】
また、以上説明した本実施形態のパチンコ機１によれば、遊技を行うことができるものであって、部品が実装されて回路が形成される複数の基板として図１１３及び図１１４の主制御ユニット１３００の透明な主制御基板ボックス１３２０に取り付けられる（収容される）主制御基板１３１０、図１１３の磁気センサ１１１１における無色透明な樹脂により成型される箱体１１１１ａに収容される磁気センサ基板１１１１ｂ等を備えている。複数の基板のうち、遊技者が視認困難な位置に配置される第１部材として透明な主制御基板ボックス１３２０であって、この透明な主制御基板ボックス１３２０に取り付けられる（収容される）基板として主制御基板１３１０に対しては、第１絶縁性塗料として緑色のレジ

スト液による塗膜として緑色塗膜が形成されていると共に、部品である電子部品（ＲＡＭクリアスイッチ等）を特定する表示部として部品番号が塗膜である白色塗膜上に第２絶縁性塗料としてシルク印刷により印刷される塗料（例えば、白色の塗料）により形成されている。これに対して、複数の基板のうち、遊技者が視認可能な位置に配置される第２部材として磁気センサ１１１１における無色透明な樹脂により成型される箱体１１１１ａであって、この磁気センサ１１１１における無色透明な樹脂により成型される箱体１１１１ａに取り付けられる（収容される）基板として磁気センサ基板１１１１ｂに対しては、第１絶縁性塗料として白色のレジスト液による塗膜として白色塗膜（つまり白色塗膜のみ）が形成されているため、遊技者が視認困難な位置に配置される第１部材に取り付けられる基板である主制御基板１３１０と比べて、部品である電子部品（例えば、図２７２の磁気検出素子ＭＳＤやコントローラＣＴＲ等の電子部品）が実装されて形成される回路の内容を推定し難くすることができるようになっている。

【２７２５】

このように、第１絶縁性塗料として緑色のレジスト液による緑色塗膜が形成されていると共に、部品である電子部品（ＲＡＭクリアスイッチ等）を特定する表示部である部品番号が緑色塗膜上に第２絶縁性塗料としてシルク印刷により印刷される塗料（例えば、白色の塗料）により形成されている主制御基板１３１０については、電子部品が実装されて形成される回路の内容を推定されるおそれがあるため、遊技者が視認困難な位置であるパチンコ機１の後側に配置される透明な主制御基板ボックス１３２０に取り付けられている（収容されている）。これに対して、電子部品が実装されて形成される回路の内容を推定し難くすることができるようになっている磁気センサ基板１１１１ｂについては、遊技者が視認可能な位置である始動口ユニット２１００の近傍であって遊技盤５の遊技パネル１１００における透明な平板状のパネル板１１１０の裏面側に面接触（当接）した状態で取り付けられて配置される磁気センサ１１１１における無色透明な樹脂により成型される箱体１１１１ａに取り付けられている（収容されている）。したがって、不正対策を講じることができる。

【２７２６】

また、第２部材である磁気センサ１１１１における無色透明な樹脂により成型される箱体１１１１ａであって、この磁気センサ１１１１における無色透明な樹脂により成型される箱体１１１１ａに取り付けられる（収容される）基板である磁気センサ基板１１１１ｂにおいて、部品の実装方向を特定する表示部としてが形成されている。具体的には、例えば、磁気センサ基板１１１１ｂの前面（表面）に実装される前面側電子部品（表面側電子部品）と対応する位置近傍に丸記号を作り丸記号の外側の周囲の銅箔を抜いて形成される箔抜き基準端子記号として磁気センサ基板１１１１ｂの前面（表面）にそれぞれ形成され、磁気センサ基板１１１１ｂの前面（表面）にベタ塗りされる白色のレジストにより箔抜き基準端子記号がそれぞれ覆われるように構成することができる。

【２７２７】

また、以上説明した本実施形態のパチンコ機１によれば、複数の基板として、例えば図１１３及び図１１４の主制御ユニット１３００の透明な主制御基板ボックス１３２０に取り付けられる（収容される）主制御基板１３１０、図１１０の周辺制御ユニット１５００の周辺制御基板１５１０、図１０７の機能表示ユニット１４００の機能表示基板、図１１３の磁気センサ１１１１における無色透明な樹脂により成型される箱体１１１１ａに収容される磁気センサ基板１１１１ｂ等が搭載されており、遊技の進行に関する複数のメイン側基板として、例えば、図１１３及び図１１４の主制御ユニット１３００の透明な主制御基板ボックス１３２０に取り付けられる（収容される）主制御基板１３１０、図１０７の機能表示ユニット１４００の機能表示基板、図１１３の磁気センサ１１１１における無色透明な樹脂により成型される箱体１１１１ａに収容される磁気センサ基板１１１１ｂを備えている。図１１３及び図１１４の主制御ユニット１３００の透明な主制御基板ボックス１３２０に取り付けられる（収容される）主制御基板１３１０は、実装された部品を特定可能な表示部が設けられている（第１のメイン側基板）。これに対して、図１０７の機能表

示ユニット１４００の機能表示基板、図１１３の磁気センサ１１１１における無色透明な樹脂により成型される箱体１１１１ａに収容される磁気センサ基板１１１１ｂは、実装された部品を特定可能な表示部が設けられていないため（第２のメイン側基板）、図１１３及び図１１４の主制御ユニット１３００の透明な主制御基板ボックス１３２０に取り付けられる（収容される）主制御基板１３１０（第１のメイン側基板）に比べて電子回路の内容を外部から推定し難くなっている。

【２７２８】

このように、遊技の進行に関する複数のメイン側基板には、実装された部品を特定可能な表示部を有する第１のメイン側基板である図１１３及び図１１４の主制御ユニット１３００の透明な主制御基板ボックス１３２０に取り付けられる（収容される）主制御基板１３１０と、実装された部品を特定可能な表示部を有さず、第１のメイン側基板に比べて電子回路の内容を外部から推定し難くした第２のメイン側基板である図１０７の機能表示ユニット１４００の機能表示基板、図１１３の磁気センサ１１１１における無色透明な樹脂により成型される箱体１１１１ａに収容される磁気センサ基板１１１１ｂと、がある。これにより、複数のメイン側基板のうち電子回路の内容を外部から推定されることを防止することができる基板として上述した第２のメイン側基板である図１０７の機能表示ユニット１４００の機能表示基板、図１１３の磁気センサ１１１１における無色透明な樹脂により成型される箱体１１１１ａに収容される磁気センサ基板１１１１ｂの構成を採用することにより不正対策を講じることができる。

【２７２９】

また、以上説明した本実施形態のパチンコ機１によれば、複数の基板として、例えば図１０７の機能表示ユニット１４００の機能表示基板、図１１３の磁気センサ１１１１における無色透明な樹脂により成型される箱体１１１１ａに収容される磁気センサ基板１１１１ｂ、図１１３及び図１１４の主制御ユニット１３００の透明な主制御基板ボックス１３２０に取り付けられる（収容される）主制御基板１３１０、図１１０の周辺制御ユニット１５００の周辺制御基板１５１０、図１１０の駆動基板ユニット１７００の演出駆動基板１７２０等が搭載されており、遊技の進行に関するメイン側基板である図１１３及び図１１４の主制御ユニット１３００の透明な主制御基板ボックス１３２０に取り付けられる（収容される）主制御基板１３１０、図１０７の機能表示ユニット１４００の機能表示基板、図１１３の磁気センサ１１１１における無色透明な樹脂により成型される箱体１１１１ａに収容される磁気センサ基板１１１１ｂ等と、遊技中に行われる演出に関するサブ側基板である図１１０の周辺制御ユニット１５００の周辺制御基板１５１０と、を備えている。メイン側基板とサブ側基板は、夫々複数設けられている。例えば、メイン側基板には、図１０７の機能表示ユニット１４００の機能表示基板、図１１３の磁気センサ１１１１における無色透明な樹脂により成型される箱体１１１１ａに収容される磁気センサ基板１１１１ｂ、図１１３及び図１１４の主制御ユニット１３００の透明な主制御基板ボックス１３２０に取り付けられる（収容される）主制御基板１３１０等が設けられ、サブ側基板には、図１１０の周辺制御ユニット１５００の周辺制御基板１５１０、図１１０の駆動基板ユニット１７００の演出駆動基板１７２０等が設けられている。サブ側基板である図１１０の周辺制御ユニット１５００の周辺制御基板１５１０、図１１０の駆動基板ユニット１７００の演出駆動基板１７２０等は、実装された部品を特定可能な表示部が設けられた基板のみで構成されている。これに対して、メイン側基板である図１０７の機能表示ユニット１４００の機能表示基板、図１１３の磁気センサ１１１１における無色透明な樹脂により成型される箱体１１１１ａに収容される磁気センサ基板１１１１ｂ、図１１３及び図１１４の主制御ユニット１３００の透明な主制御基板ボックス１３２０に取り付けられる（収容される）主制御基板１３１０のうち、図１０７の機能表示ユニット１４００の機能表示基板、図１１３の磁気センサ１１１１における無色透明な樹脂により成型される箱体１１１１ａに収容される磁気センサ基板１１１１ｂは、実装された部品を特定可能な表示部を有することなく、サブ側基板である図１１０の周辺制御ユニット１５００の周辺制御基板１５１０、図１１０の駆動基板ユニット１７００の演出駆動基板１７２０等に比べて電子

回路の内容を外部から推定し難くした特定のメイン側基板として構成されている。つまり、メイン側基板は、実装された部品を特定可能な表示部を有することなく、サブ側基板に比べて電子回路の内容を外部から推定し難くした特定のメイン側基板を有して構成されている。

【２７３０】

このように、遊技の進行に関するメイン側基板である、図１０７の機能表示ユニット１４００の機能表示基板、図１１３の磁気センサ１１１１における無色透明な樹脂により成型される箱体１１１１ａに収容される磁気センサ基板１１１１ｂ、図１１３及び図１１４の主制御ユニット１３００の透明な主制御基板ボックス１３２０に取り付けられる（収容される）主制御基板１３１０のうち、図１０７の機能表示ユニット１４００の機能表示基板、図１１３の磁気センサ１１１１における無色透明な樹脂により成型される箱体１１１１ａに収容される磁気センサ基板１１１１ｂは、実装された部品を特定可能な表示部を有することなく、遊技中に行われる演出に関するサブ側基板である図１１０の周辺制御ユニット１５００の周辺制御基板１５１０、図１１０の駆動基板ユニット１７００の演出駆動基板１７２０等に比べて電子回路の内容を外部から推定し難くした特定のメイン側基板として構成されている。これにより、メイン側基板のうち電子回路の内容を外部から推定されることを防止することができる特定のメイン側基板として、図１０７の機能表示ユニット１４００の機能表示基板、図１１３の磁気センサ１１１１における無色透明な樹脂により成型される箱体１１１１ａに収容される磁気センサ基板１１１１ｂの構成を採用することにより不正対策を講じることができる。

【２７３１】

［主制御基板の各種制御処理］

次に、パチンコ機１の遊技の進行に応じて、図１３７に示した主制御基板１３１０が行う各種制御処理について、図２７４～図２７９を参照して説明する。図２７４は主制御側電源投入時処理の一例を示すフローチャートであり、図２７５は図２７４の主制御側電源投入時処理のつづきを示すフローチャートであり、図２７６は主制御側タイマ割り込み処理の一例を示すフローチャートであり、図２７７は設定変更処理の一例を示すフローチャートであり、図２７８はエラー表示処理の一例を示すフローチャートであり、図２７９は設定値確認表示処理の一例を示すフローチャートである。まず、遊技制御に用いられる各種乱数について説明し、続いて初期値更新型のカウンタの動き、主制御側電源投入時処理、主制御側タイマ割り込み処理、設定変更処理、エラー表示処理、設定値確認表示処理について説明する。

【２７３２】

［各種乱数］

遊技制御に用いられる各種乱数として、大当り遊技状態や小当り遊技状態を発生させるか否かの決定に用いるための特別乱数と、この特別乱数の初期値の決定に用いるための当り判定用初期値決定乱数と、大当り遊技状態を発生させないときにリーチ（リーチはずれ）を発生させるか否かの決定に用いるためのリーチ判定用乱数と、機能表示ユニット１４００の第一特別図柄表示器及び第二特別図柄表示器で変動表示される特別図柄の変動表示パターンの決定に用いるための変動表示パターン用乱数と、大当り遊技状態を発生させるときに機能表示ユニット１４００の第一特別図柄表示器及び第二特別図柄表示器で導出表示される大当り図柄や小当り図柄の決定（当り種別の決定）に用いるための図柄乱数と、この図柄乱数の初期値の決定に用いるための大当り図柄用初期値決定用乱数等が用意されている。またこれらの乱数に加えて、第二始動口２００４の遊技球の受け入れが可能とする可動片を開閉動作させるか否かの決定に用いるための普通図柄当り判定用乱数と、この普通図柄当り判定用乱数の初期値の決定に用いるための普通図柄当り判定用初期値決定乱数と、機能表示ユニット１４００の普通図柄表示器で変動表示される普通図柄の変動表示パターンの決定に用いるための普通図柄変動表示パターン用乱数等が用意されている。

【２７３３】

このような遊技制御に用いられる各種乱数のうち、特別乱数はハードウェアにより更新さ

れるのに対して、他の各種乱数はソフトウェアにより更新されるようになっている。
【２７３４】
例えば、特別乱数は、主制御ＭＰＵに内蔵される主制御内蔵ハード乱数回路によりハードウェアにより直接更新されるようになっている。この主制御内蔵ハード乱数回路は、主制御ＭＰＵがリセットされると、まず、予め定めた数値範囲内における一の値を初期値として、主制御ＭＰＵに入力されるクロック信号に基づいて高速に予め定めた数値範囲内における他の値を次々に抽出し、予め定めた数値範囲内におけるすべての値を抽出し終えると、再び、予め定めた数値範囲内における一の値を抽出して、主制御ＭＰＵに入力されるクロック信号に基づいて高速に予め定めた数値範囲内における他の値を次々に抽出する。このような高速な抽選を主制御内蔵ハード乱数回路が繰り返し行い、主制御ＭＰＵは、主制御内蔵ハード乱数回路から値を取得する時点における主制御内蔵ハード乱数回路が抽出した値を特別乱数としてセットするようになっている。
【２７３５】
これに対して、普通図柄当り判定用乱数を更新するカウンタは、最小値から最大値までに亘る予め定めた固定数値範囲内において更新され、この最小値から最大値までに亘る範囲を、後述する主制御側タイマ割り込み処理が行われるごとに値１ずつ加算されることでカウントアップする。このカウンタは、普通図柄当り判定用初期値決定乱数から最大値に向かってカウントアップし、続いて最小値から普通図柄当り判定用初期値決定乱数に向かってカウントアップする。普通図柄当り判定用乱数の最小値から最大値までに亘る範囲をカウンタがカウントアップし終えると、普通図柄当り判定用初期値決定乱数は更新される。このようなカウンタの更新方法を「初期値更新型のカウンタ」という。普通図柄当り判定用初期値決定乱数は、普通図柄当り判定用乱数を更新するカウンタの固定数値範囲から一の値を抽選する初期値抽選処理を実行して得ることができるようになっている。
【２７３６】
なお、本実施形態では、主制御基板１３１０のＲＡＭクリアスイッチが電源投入時に操作された場合や、後述する、主制御側電源投入時処理において主制御ＭＰＵの主制御内蔵ＲＡＭに記憶されている各種情報を数値とみなしてその合計を算出して得たチェックサムの値（サム値）が主制御側電源断時処理（電源断時）において記憶されているチェックサムの値（サム値）と一致していない場合など、主制御内蔵ＲＡＭの全領域のうち特定領域を除いてをクリアする場合には、普通図柄当り判定用初期値決定乱数は、主制御ＭＰＵがその内蔵する不揮発性のＲＡＭからＩＤコードを取り出し、この取り出したＩＤコードに基づいて普通図柄当り判定用乱数を更新するカウンタの固定数値範囲から常に同一の固定値を導出する初期値導出処理を実行し、この導出した固定値がセットされる仕組みとなっている。つまり、普通図柄当り判定用初期値決定乱数は、初期値導出処理の実行によりＩＤコードに基づいて導出された同一の固定値が常に上書き更新されるようになっている。このように、普通図柄当り判定用初期値決定乱数にセットされる値は、ＩＤコードを利用して導出されており、主制御ＭＰＵを製造したメーカによって主制御ＭＰＵに内蔵する不揮発性のＲＡＭにＩＤコードを記憶させるとＩＤコードが外部装置を用いても書き換えられないという第１のセキュリティー対策と、主制御内蔵ＲＡＭの全領域のうち特定領域を除いてをクリアする場合に初期値導出処理を実行することによってＩＤコードに基づいて同一の固定値を導出するという第２のセキュリティー対策と、による２段階のセキュリティー対策が講じられることよって解析されるのを防止している。
【２７３７】
ここで、主制御ＭＰＵに内蔵する不揮発性のＲＡＭからＩＤコードを取り出し、この取り出したＩＤコードを普通図柄当り判定用初期値決定乱数として用いる利点について説明する。例えば、賞球として払い出される遊技球を不正に獲得しようとする者が何らかの方法で遊技盤５を入手して分解し、主制御ＭＰＵに内蔵する不揮発性のＲＡＭに予め記憶されているＩＤコードを不正に取得し、普通図柄当り判定用乱数を更新するカウンタの値と普通図柄当り判定値とが一致するタイミングを把握することができたとしても、そのＩＤコードが個体を識別するためのユニークな符号が付されたものであるため、他の遊技盤５’に

備える主制御ＭＰＵ’に内蔵する不揮発性のＲＡＭに予め記憶されているＩＤコードとまったく異なるものとなる。つまり他の遊技盤５’においては、普通図柄当り判定用乱数を更新するカウンタの値と普通図柄当り判定値とが一致するタイミングも、入手した遊技盤５のものとまったく異なる。換言すると、入手した遊技盤５を分解して解析して得たＩＤコードは、他の遊技盤５’、つまり他のパチンコ機１’において、まったく役に立たないものであるため、分解して解析した得た所定間隔ごとに瞬停を発生させ、その所定間隔ごとに、ゲート部２００３に遊技球を通過させたとしても、可動片を開閉動作させて第二始動口２００４へ遊技球が受入可能となる遊技状態を発生させることができない。

【２７３８】

［主制御側電源投入時処理］

まず、パチンコ機１に電源が投入されると、デフォルトとして予め定めたアドレスにスタックポインタが設定されるように主制御ＭＰＵが回路構成されている。このスタックポインタは、例えば、使用中の記憶素子（レジスタ）の内容を一時記憶するためにスタックに積んだアドレスを示したり、サブルーチンを終了して本ルーチンに復帰するときの本ルーチンの復帰アドレスを一時記憶するためにスタックに積んだアドレスを示したりするものであり、スタックが積まれるごとにスタックポインタが進む。

【２７３９】

主制御ＭＰＵによる制御の下、図２７４及び図２７５に示すように、主制御側電源投入時処理を行う。この主制御側電源投入時処理が開始されると、主制御ＭＰＵは、ＲＡＭアクセス許可の設定を行う（ステップＳ１０）。このＲＡＭアクセス許可の設定により主制御内蔵ＲＡＭに対する更新を行うことができる。

【２７４０】

ステップＳ１０に続いて、主制御ＭＰＵは、停電クリア処理を行う（ステップＳ１２）。この停電クリア処理では、ウェイトタイマ処理を行い、停電監視回路からの停電予告信号が入力されているか否かを判定する。電源投入時から所定電圧となるまでの間では電圧がすぐに上がらない。一方、停電又は瞬停（電力の供給が一時停止する現象）となるときでは電圧が下がり、停電予告電圧より小さくなると、停電監視回路から停電予告として停電予告信号が入力される。電源投入時から所定電圧に上がるまでの間では同様に電圧が停電予告電圧より小さくなると、停電監視回路から停電予告信号が入力される。そこで、ウェイトタイマ処理では、電源投入後、電圧が停電予告電圧より大きくなって安定するまで待つための処理であり、本実施形態では、待ち時間（ウェイトタイマ）として２００ミリ秒（ｍｓ）が設定されている。

【２７４１】

ステップＳ１２に続いて、主制御ＭＰＵは、ＲＡＭクリアスイッチが操作されているか否かを判定する（ステップＳ１４）。この判定では、主制御ＭＰＵは、ＲＡＭクリアスイッチからの操作信号（ＲＡＭクリア信号）の論理がＨＩであるときにはＲＡＭクリアを行うと判断してＲＡＭクリアスイッチが操作されていないと判定する一方、ＲＡＭクリアスイッチからの操作信号（ＲＡＭクリア信号）の論理がＬＯＷであるときにはＲＡＭクリアを行うと判断してＲＡＭクリアスイッチが操作されていると判定する。なお、本ルーチンである主制御側電源投入時処理が開始されてからステップＳ１４の判定までに亘る期間内において、極めて短時間であるため、実際には、ＲＡＭクリアスイッチの押圧操作部を押圧操作する者は、ＲＡＭクリアスイッチの押圧操作部を押圧操作しながらパチンコ機１の電源投入を行うこととなる。

【２７４２】

ステップＳ１４の判定において、主制御ＭＰＵは、ＲＡＭクリアスイッチが操作されていると判定したときには、ＲＡＭクリア報知フラグＲＣＬ－ＦＬＧに値１をセットする（ステップＳ１６Ａ）。一方、ステップＳ１４の判定において、主制御ＭＰＵは、ＲＡＭクリアスイッチが操作されていないと判定したときには、ＲＡＭクリア報知フラグＲＣＬ－ＦＬＧに値０をセットする（ステップＳ１６Ｂ）。つまり、主制御ＭＰＵは、電源投入時から所定時間に亘って、主制御ＭＰＵに内蔵されたＲＡＭ（つまり、主制御内蔵ＲＡＭ）の

初期化を行うＲＡＭクリア処理を実行可能な状態とする。上述したＲＡＭクリア報知フラグＲＣＬ－ＦＬＧは、主制御ＭＰＵの主制御内蔵ＲＡＭに記憶されている、確率変動、未払い出し賞球等の遊技に関する遊技情報、及びその他の情報（例えば、メイン賞球数情報出力判定用カウンタの値を示す情報等）を含む各種情報を消去するか否かを示すフラグであり、各種情報を消去するとき値１、各種情報を消去しないとき値０にそれぞれ設定される。なお、ステップＳ１６Ａ及びステップＳ１６ＢでセットされたＲＡＭクリア報知フラグＲＣＬ－ＦＬＧの値は、主制御ＭＰＵの汎用記憶素子（汎用レジスタ）に記憶される。

【２７４３】

ステップＳ１６Ａ又はステップＳ１６Ｂに続いて、本体枠４の開放及び設定キーのＯＮ操作があるか否かを判定する（ステップＳ１８）。この判定では、主制御ＭＰＵは、外枠２に対する本体枠４の開放を検出するための本体枠開放スイッチ４ｂからの検出信号と、設定キースイッチ１３１１ａの設定キーシリンダの差し込み口に設定キーが差し込まれ、設定キーシリンダが初期位置（つまり、設定キースイッチ１３１１ａをＯＦＦする設定キーシリンダの回転位置）から時計方向へ向かって６０度回動操作されて第１のＯＮ操作されることで設定キースイッチ１３１１ａが設定キーＯＮされ、設定キースイッチ１３１１ａからの設定キーＯＮの信号と、に基づいて行う。主制御ＭＰＵは、本体枠開放スイッチ４ｂからの検出信号により外枠２に対して本体枠４が開放されていると判定し、かつ、設定キーＯＮの信号により設定キースイッチ１３１１ａが設定キーＯＮされていると判定したことによって、予め定めた設定値変更許可条件が成立していると判定する一方、本体枠開放スイッチ４ｂからの検出信号により外枠２に対して本体枠４が開放されていないと判定し、及び／又は、設定キーＯＮの信号により設定キースイッチ１３１１ａが設定キーＯＮされていないと判定したことによって、予め定めた設定値変更許可条件が成立していないと判定する。

【２７４４】

ステップＳ１８の判定において、主制御ＭＰＵは、予め定めた設定値変更許可条件が成立していると判定したときには、設定変更許可フラグＣＳ－ＦＬＧに値１をセットする（ステップＳ２０Ａ）。一方、ステップＳ１８の判定において、主制御ＭＰＵは、予め定めた設定値変更許可条件が成立していないと判定したときには、設定変更許可フラグＣＳ－ＦＬＧに値０をセットする（ステップＳ２０Ｂ）。設定変更許可フラグＣＳ－ＦＬＧは、主制御ＭＰＵの主制御内蔵ＲＡＭの所定領域（後述する、特定領域における設定値専用領域）に格納されている現状の設定値（設定キースイッチ１３１１ａの設定キーシリンダが第１のＯＮ操作された時点における設定値１～設定値６のうち設定されている値）の設定変更を行うことを許可するか否かを示すフラグであり、設定値の設定変更を行うことを許可するとき値１、設定値の設定変更を行うことを許可しないとき値０にそれぞれ設定される。なお、ステップＳ２０Ａ及びステップＳ２０ＢでセットされたＣＳ－ＦＬＧの値は、主制御ＭＰＵの汎用記憶素子（汎用レジスタ）に記憶される。

【２７４５】

ステップＳ２０Ａ又はステップＳ２０Ｂに続いて、主制御ＭＰＵは、ウェイト時間待機処理を行う（ステップＳ２２）。このウェイト時間待機処理では、周辺制御基板１５１０の描画制御を行うシステムが起動する（ブートする）まで待っている。本実施形態では、ブートするまでの待機時間（ブートタイマ）として２．５秒（ｓ）が設定されている。周辺制御基板１５１０は、主制御ＭＰＵがウェイト時間待機処理を完了する時点において、主制御基板１３１０（主制御ＭＰＵ）からの各種コマンドを受信することができる状態となっている。なお、主制御ＭＰＵがウェイト時間待機処理を完了する時点において、払出制御基板６３３が周辺制御基板１５１０と比べて短時間でブート完了するため、払出制御基板６３３は、主制御基板１３１０（主制御ＭＰＵ）からの各種コマンドを受信することができる状態となっている。

【２７４６】

ステップＳ２２に続いて、主制御ＭＰＵは、停電予告信号が入力されているか否かを判定する（ステップＳ２４）。上述したように、パチンコ機１の電源を遮断したり、停電又は

瞬停したりするときには、電圧が停電予告電圧以下となると、停電予告として停電予告信号が停電監視回路から入力される。ステップＳ２４の判定は、この停電予告信号に基づいて行う。ステップＳ２４の判定において、主制御ＭＰＵは、停電予告信号の入力があると判定したときには、ステップＳ２４の判定に再び戻り、停電予告信号の入力があり続ける限り、ステップＳ２４の判定を繰り返し行う。なお、ステップＳ２４の判定がステップＳ２２のウェイト時間待機処理に続いて行われる点についての詳細な説明を後述する。

【２７４７】

ステップＳ２４の判定において、主制御ＭＰＵは、停電予告信号の入力がないと判定したときには、設定変更許可フラグＣＳ－ＦＬＧが値０であるか否かを判定する（ステップＳ２５）。設定変更許可フラグＣＳ－ＦＬＧは、設定値の設定変更を行うことを許可するとき値１、設定値の設定変更を行うことを許可しないとき値０にそれぞれ設定される。

【２７４８】

ステップＳ２５の判定において、主制御ＭＰＵは、設定変更許可フラグＣＳ－ＦＬＧが値０とき、つまり設定値の設定変更を行うことを許可しないときには、ＲＡＭクリア報知フラグＲＣＬ－ＦＬＧが値０である否かを判定する（ステップＳ２６）。ＲＡＭクリア報知フラグＲＣＬ－ＦＬＧは、上述したように、各種情報を消去するとき値１、各種情報を消去しないとき値０にそれぞれ設定される。ステップＳ２６の判定において、主制御ＭＰＵは、ＲＡＭクリア報知フラグＲＣＬ－ＦＬＧが値０であるとき、つまり各種情報を消去しないと判定したときには、チェックサムの算出を行う（ステップＳ２８）。このチェックサムは、主制御内蔵ＲＡＭに記憶されている各種情報を数値とみなしてその合計を算出するものである。

【２７４９】

ステップＳ２８に続いて、主制御ＭＰＵは、算出したチェックサムの値（サム値）が後述する主制御側電源断時処理（電源断時）において記憶されているチェックサムの値（サム値）と一致しているか否かを判定する（ステップＳ３０）。ステップＳ３０において、主制御ＭＰＵは、一致していると判定したときには、バックアップフラグＢＫ－ＦＬＧが値１であるか否かを判定する（ステップＳ３２）。このバックアップフラグＢＫ－ＦＬＧは、各種情報、チェックサムの値（サム値）及びバックアップフラグＢＫ－ＦＬＧの値等の遊技バックアップ情報を後述する主制御側電源断時処理において主制御内蔵ＲＡＭに記憶保持したか否かを示すフラグであり、主制御側電源断時処理を正常に終了したとき値１、主制御側電源断時処理を正常に終了していないとき値０にそれぞれ設定される。なお、主制御基板１３１０の製造ラインの検査工程において、検査のために製造してから最初に主制御基板１３１０が電源投入される際における、ステップＳ２８のチェックサムの算出と、ステップＳ３０の判定と、についての詳細な説明を後述する。

【２７５０】

ステップＳ３０の判定において、主制御ＭＰＵは、チェックサムの値（サム値）が一致していないと判定したときには、又はステップＳ３２の判定において、主制御ＭＰＵは、バックアップフラグＢＫ－ＦＬＧが値１でない（値０である）とき、つまり主制御側電源断時処理を正常に終了していないと判定したときには、エラー表示処理を行い（ステップＳ３３）、無限ループに入る。この無限ループにより、エラー表示処理が終了した状態を維持することとなり、遊技を進行することが全くできない状態となり、パチンコ機１の電源を遮断して、再び電源を投入することとなる。このエラー表示処理では、その詳細な説明を後述するが、主制御内蔵ＲＡＭの内容に異常があると判定した場合、又は、電源遮断時に主制御側電源断時処理が正常に終了していないと判定した場合には、主制御内蔵ＲＡＭに格納されている内容に異常がある（又は信用することができないものである）として、その旨を伝えるエラー表示を行う。本実施形態では、主制御ＭＰＵがエラー表示として英字Ｅを設定表示器１３１０ｇに表示するようになっている。

【２７５１】

なお、パチンコ機１の電源遮断を行い、外枠２に対して本体枠４が開放し、かつ、設定キーシリンダが初期位置（つまり、設定キースイッチ１３１１ａをＯＦＦする設定キーシリ

ンダの回転位置）から時計方向へ向かって６０度回動操作して第１のＯＮ操作したのちに、パチンコ機１の電源投入を行うことにより、再び本ルーチンである主制御側電源投入時処理が開始される。主制御ＭＰＵは、上述したステップＳ１８の判定において、本体枠開放スイッチ４ｂからの検出信号により外枠２に対して本体枠４が開放されていると判定し、かつ、設定キーＯＮの信号により設定キースイッチ１３１１ａが設定キーＯＮされていると判定したことによって、予め定めた設定値変更許可条件が成立していると判定して、上述したステップＳ２０Ａにおいて、設定変更許可フラグＣＳ－ＦＬＧに値１をセットするため、上述したステップＳ２５の判定において、設定変更許可フラグＣＳ－ＦＬＧが値１であるとして、つまり設定値の設定変更を行うことを許可すると判定して、後述するステップＳ３７の設定変更処理に続いて、後述するステップＳ３８の処理において、主制御内蔵ＲＡＭの全領域のうち特定領域を除いてクリアすることによりＲＡＭエラーを解除して遊技を進行することができるようになっている（以下、「第１のＲＡＭエラー解除方法」と記載する）。

【２７５２】

この第１のＲＡＭエラー解除方法とは別の方法として、パチンコ機１の電源遮断を行い、ＲＡＭクリアスイッチの押圧操作部を押圧操作しながらパチンコ機１の電源投入を行うことにより、再び本ルーチンである主制御側電源投入時処理が開始される。主制御ＭＰＵは、上述したステップＳ１４の判定において、ＲＡＭクリアスイッチが操作されていると判定して、上述したステップＳ１６Ａにおいて、ＲＡＭクリア報知フラグＲＣＬ－ＦＬＧに値１をセットするため、上述したステップＳ２６の判定において、ＲＡＭクリア報知フラグＲＣＬ－ＦＬＧが値１であるとして、つまり各種情報を消去すると判定して、後述するステップＳ３８の処理において、主制御内蔵ＲＡＭの全領域のうち特定領域を除いてクリアすることによりＲＡＭエラーを解除して遊技を進行することができるようになっている（以下、「第２のＲＡＭエラー解除方法」と記載する）。

【２７５３】

このように、本実施形態では、ステップＳ３０の判定において、主制御ＭＰＵは、チェックサムの値（サム値）が一致していないと判定したときには、又はステップＳ３２の判定において、主制御ＭＰＵは、バックアップフラグＢＫ－ＦＬＧが値１でない（値０である）とき、つまり主制御側電源断時処理を正常に終了していないと判定したときには、ステップＳ３３のエラー表示を行って、主制御内蔵ＲＡＭに格納されている内容に異常がある（又は信用することができないものである）の旨を伝える場合には、第１のＲＡＭエラー解除方法と第２のＲＡＭエラー解除方法との２つの解除方法により行うことができるようになっている。これにより、設定値の設定変更を全く行う必要がない場合には、ＲＡＭクリアスイッチによる第２のＲＡＭエラー解除方法を行うことによりＲＡＭエラーを解除することができるようになっている。

【２７５４】

一方、ステップＳ３２の判定において、主制御ＭＰＵは、バックアップフラグＢＫ－ＦＬＧが値１であるとき、つまり主制御側電源断時処理を正常に終了したと判定したときには、復電時として主制御内蔵ＲＡＭの作業領域を設定する（ステップＳ３４）。この設定は、主制御ＭＰＵに内蔵されたＲＯＭ（つまり、主制御内蔵ＲＯＭ）から復電時情報を読み出し、この復電時情報を主制御内蔵ＲＡＭの作業領域にセットする。これにより、遊技バックアップ情報から各種情報を読み出してこの各種情報に応じた各種コマンドを主制御内蔵ＲＡＭの所定記憶領域に記憶する。また、主制御ＭＰＵは、主制御内蔵ＲＡＭの特定領域における設定値専用領域に格納されている設定値に基づいて遊技を進行することとなる。なお、「復電」とは、電源を遮断した状態から電源を投入した状態のほかに、停電又は瞬停からその後の電力の復旧した状態、不正手段（例えば、不正行為者が腕の裾に隠した高周波出力装置）からの高周波が主制御基板１３１０に照射されて主制御ＭＰＵ自体がリセットし、その後に復帰した状態も含める。

【２７５５】

ステップＳ３４に続いて、主制御ＭＰＵは、バックアップフラグＢＫ－ＦＬＧに値０をセ

ットする（ステップＳ３６）。これにより、これ以後の各種処理が行われることにより各種情報、チェックサムの値（サム値）等が変更されるため、後述する主制御側電源断時処理を正常に終了してバックアップフラグＢＫ－ＦＬＧに値１がセットされないと、後述するように、主制御内蔵ＲＡＭの全領域のうち特定領域を除いてがクリアされることとなる。

【２７５６】

一方、ステップＳ２５の判定において、主制御ＭＰＵは、設定変更許可フラグＣＳ－ＦＬＧが値０でない（値１である）とき、つまり設定値の設定変更を行うことを許可するときには、設定変更処理を行う（ステップＳ３７）。この設定変更処理では、その詳細な説明を後述するが、設定変更基板１３１１の設定切替ボタンからの検出信号に基づいて、設定変更基板１３１１の設定切替ボタンの押圧操作部が押圧操作されるごとに、設定値を変更して設定表示器１３１０ｇに表示し、設定キースイッチ１３１１ａの設定キーシリンダが第１のＯＮ操作から第２のＯＮ操作されたことで設定キースイッチ１３１１ａからの決定キーＯＮの信号に基づいて、変更した設定値を決定し、主制御ＭＰＵに内蔵されているＲＡＭの所定領域に格納する。

【２７５７】

ステップＳ３７の処理、又はステップＳ２６の判定において、主制御ＭＰＵは、ＲＡＭクリア報知フラグＲＣＬ－ＦＬＧが値０でない（値１である）とき、つまり各種情報を消去すると判定したときには、主制御内蔵ＲＡＭの全領域のうち特定領域を除いてクリアする（ステップＳ３８）。ここでは、主制御ＭＰＵは、値０を主制御内蔵ＲＡＭの所定領域（主制御内蔵ＲＡＭの全領域のうち特定領域を除く領域。）に書き込むことよって行う。本実施形態では、ＲＡＭクリア報知フラグＲＣＬ－ＦＬＧが値０でない（値１である）とき、つまり各種情報を消去すると判定したときに加えて、設定変更処理を終了すると、必ず、主制御内蔵ＲＡＭの全領域のうち特定領域を除いて（主制御内蔵ＲＡＭの所定領域（主制御内蔵ＲＡＭの全領域のうち特定領域を除く領域。）を）クリアするようになっている。ここで、「特定領域」とは、設定値が格納される設定値専用領域と、遊技盤５に区画形成される遊技領域５ａに設けられるアウト口２０１０、第一サブアウト口２０１１及び第二サブアウト口２０１２により回収された遊技球の球数の計数結果（総数）が格納されるアウト球計数専用領域と、から構成されている。設定値専用領域は、後述する設定変更処理において設定変更される設定値が格納され、アウト球計数専用領域は、後述する球数計数処理において計数されるアウト口２０１０、第一サブアウト口２０１１及び第二サブアウト口２０１２により回収された遊技球の球数の計数結果（総数）が格納される。

【２７５８】

なお、主制御ＭＰＵは、初期値として主制御内蔵ＲＯＭから所定値を読み出して、セットしてもよい。また、主制御ＭＰＵは、ＲＡＭクリアスイッチからの操作信号（ＲＡＭクリア信号）の論理がＲＡＭクリアを指示するもので各種情報を消去するとき、サム値が一致していないとき、又は主制御側電源断時処理を正常に終了していないときには、主制御ＭＰＵの不揮発性のＲＡＭに予め記憶された固有のＩＤコードを取り出し、この取り出したＩＤコードに基づいて普通図柄当り判定用乱数を更新するカウンタの固定数値範囲から常に同一の固定値を導出する初期値導出処理を行い、この固定値を、上述した普通図柄当り判定用乱数の初期値の決定に用いるための普通図柄当り判定用初期値決定乱数にセットする。

【２７５９】

ステップＳ３８に続いて、主制御ＭＰＵは、初期設定として主制御内蔵ＲＡＭの作業領域を設定する（ステップＳ４０）。この設定は、主制御内蔵ＲＯＭから初期情報を読み出してこの初期情報を主制御内蔵ＲＡＭの作業領域にセットされることにより実施される。これにより、遊技バックアップ情報が初期化され、例えばメイン賞球数情報出力判定用カウンタの値は、初期値である値０に設定（セット）される。また、主制御ＭＰＵは、主制御内蔵ＲＡＭの特定領域における設定値専用領域に格納されている設定値に基づいて遊技を進行することとなる。

【２７６０】

ステップＳ３６又はステップＳ４０に続いて、主制御ＭＰＵは、主制御内蔵ＷＤＴの初期値設定及び起動設定を行う（ステップＳ４１）。ここでは、主制御ＭＰＵの動作（システム）が正常動作しているか否かを監視する主制御内蔵ＷＤＴに初期値を設定するために主制御ＭＰＵに内蔵されるウォッチドックタイマコントロールレジスタ（以下、「ＷＤＴコントロールレジスタ」と記載する。）にタイマ設定値を設定して主制御内蔵ＷＤＴを起動させて主制御ＭＰＵをリセットするまでの計時を開始する。主制御内蔵ＷＤＴが起動すると、主制御内蔵ＷＤＴによる計時が開始され、この計時された時間がタイマ設定値で設定された時間に達するまでに、主制御ＭＰＵに内蔵されるウォッチドックタイマクリアレジスタ（以下、「ＷＤＴクリアレジスタ」と記載する。）にタイマクリア設定値をセットしないと、主制御内蔵ＷＤＴにより主制御ＭＰＵが強制的にリセットされるようになっている。これに対して、主制御内蔵ＷＤＴが起動して計時が開始されると、この計時された時間がタイマ設定値で設定された時間に達するまでにＷＤＴクリアレジスタにタイマクリア設定値をセットすると、主制御内蔵ＷＤＴによる計時がクリアされて、再び計時が開始されるようになっている。このように、主制御内蔵ＷＤＴによる計時をタイマ設定値で設定された時間に達するまでにクリアして再び計時を開始するという処理を繰り返し行うことにより主制御ＭＰＵの動作（システム）が正常動作しているか否かを監視することができる。

【２７６１】

ステップＳ４１に続いて、主制御ＭＰＵは、割り込み初期設定を行う（ステップＳ４２）。この設定は、後述する主制御側タイマ割り込み処理が行われるときの割り込み周期を設定するものである。本実施形態では、４ミリ秒（ｍｓ）に設定されている。

【２７６２】

ステップＳ４２に続いて、主制御ＭＰＵは、シリアル通信初期設定を行う（ステップＳ４４）。ここでは、主制御ＭＰＵに内蔵される各種シリアル入出力ポート（例えば、払出制御基板６３３に対するシリアル入出力ポート（受信チャンネル及び送信チャンネル）、周辺制御基板１５１０に対するシリアル入出力ポート（受信チャンネル及び送信チャンネル）に対応する、送信シリアルポートプリスケーラに通信速度の設定やパリティ有無の設定等を行うとともに、送信シリアルポートコントロールレジスタに送信回路の初期化の設定や送信許可の設定等を行う。

【２７６３】

ステップＳ４４に続いて、主制御ＭＰＵは、試験信号出力ポート初期化設定を行う（ステップＳ４６）。ここでは、遊技機の試験機関において、各種検査情報を出力するための図示しない試験信号出力ポートを、電源投入時に初期化設定（ＯＦＦデータ出力に設定）等を行う。

【２７６４】

ステップＳ４６に続いて、主制御ＭＰＵは、主制御内蔵ハード乱数回路の起動設定を行う（ステップＳ４８）。ここでは、遊技に関する各種乱数のうち、大当り遊技状態を発生させるか否かの決定に用いるための特別乱数を、ハードウェアにより更新するために主制御ＭＰＵに内蔵されるハード乱数コントロールレジスタに乱数をラッチして取得するという設定等を行うとともに、ハード乱数設定レジスタに主制御内蔵ハード乱数回路の起動等を設定する。これらの設定により主制御内蔵ハード乱数回路が起動すると、主制御ＭＰＵに入力されるクロック信号に基づいて高速に予め定めた数値範囲内における他の値を重複することなく次々に抽出し、予め定めた数値範囲内におけるすべての値を抽出し終えると、再び、予め定めた数値範囲内における一の値を抽出して、主制御ＭＰＵに入力されるクロック信号に基づいて高速に予め定めた数値範囲内における他の値を重複することなく次々に抽出する。なお、主制御ＭＰＵは、主制御内蔵ハード乱数回路から乱数（乱数値）を取得するときには、主制御内蔵ハード乱数回路にラッチ信号を出力し、このラッチ信号が入力された際における主制御内蔵ハード乱数回路が抽出した乱数（乱数値）を、主制御ＭＰＵに内蔵されるハード乱数ラッチレジスタから取得するようになっている。主制御ＭＰＵは、この取得した乱数値を特別乱数としてセットする。

【２７６５】
ステップＳ４８に続いて、主制御ＭＰＵは、電源投入時に送信するコマンドの予約設定を行う（ステップＳ５０）。ここでは、ステップＳ３４の主制御内蔵ＲＡＭの作業領域の設定において主制御内蔵ＲＡＭの作業領域にセットされた復電時情報に基づいて、電源投入（復電）した旨を伝えるために、電源投入に区分される電源投入時状態コマンド、電源投入時主制御復帰先コマンド、そして電源投入時メイン賞球数情報出力判定用カウンタ通知コマンドを作成して送信情報として主制御内蔵ＲＡＭの送信情報記憶領域に記憶する。主制御内蔵ＲＡＭの送信情報記憶領域には、ステップＳ３４の主制御内蔵ＲＡＭの作業領域の設定において、遊技バックアップ情報から各種情報を読み出してこの各種情報に応じた各種コマンドが記憶されている場合もある。このような場合には、まず各種情報のうち遊技情報に応じた各種コマンドの送信完了後に、続いて電源投入時状態コマンド、電源投入時主制御復帰先コマンド、そして電源投入時メイン賞球数情報出力判定用カウンタ通知コマンドが送信されることとなる。これらのコマンドは、後述する主制御側タイマ割り込み処理において送信されるようになっている。なお、ステップＳ５０において電源投入時に送信するコマンドの予約設定が行われる点についての詳細な説明を後述する。
【２７６６】
ステップＳ５０に続いて、主制御ＭＰＵは、割り込み許可設定を行う（ステップＳ５２）。この設定によりステップＳ４２で設定した割り込み周期、つまり４ｍｓごとに後述する主制御側タイマ割り込み処理が繰り返し行われる。
【２７６７】
ステップＳ５２に続いて、主制御ＭＰＵは、停電予告信号が入力されているか否かを判定する（ステップＳ５４）。パチンコ機１の電源を遮断したり、停電又は瞬停したりするときには、上述したように、電圧が停電予告電圧以下となると、停電予告として停電予告信号が停電監視回路から主制御ＭＰＵに入力される。ステップＳ５４の判定は、この停電予告信号に基づいて行う。
【２７６８】
ステップＳ５４の判定において、主制御ＭＰＵは、停電予告信号の入力がないと判定したときには、非当落乱数更新処理を行う（ステップＳ５６）。この非当落乱数更新処理では、上述した、リーチ判定用乱数、変動表示パターン用乱数、大当り図柄用初期値決定用乱数、及び小当り図柄用初期値決定用乱数等を更新する。このように、非当落乱数更新処理では、当落判定（大当り判定）にかかわらない乱数をソフトウェアにより更新する。なお、上述した、普通図柄当り判定用乱数、普通図柄当り判定用初期値決定乱数及び普通図柄変動表示パターン用乱数等もこの非当落乱数更新処理により更新される。
【２７６９】
ステップＳ５６に続いて、再びステップＳ５４に戻り、主制御ＭＰＵは、停電予告信号の入力があるか否かを判定し、この停電予告信号の入力がなければ、ステップＳ５６で非当落乱数更新処理を行い、ステップＳ５４～ステップＳ５６を繰り返し行う。なお、このステップＳ５４～ステップＳ５６の処理を「主制御側メイン処理」という。
【２７７０】
一方、ステップＳ５４の判定において、主制御ＭＰＵは、停電予告信号の入力があったと判定したときには、割り込み禁止設定を行う（ステップＳ５８）。この設定により後述する主制御側タイマ割り込み処理が行われなくなり、主制御内蔵ＲＡＭへの書き込みを防ぎ、上述した、遊技情報、及びその他の情報を含む各種情報の書き換えを保護している。
【２７７１】
ステップＳ５８に続いて、主制御ＭＰＵは、停電クリア信号を出力開始する（ステップＳ６０）。ここでは、ステップＳ１２の停電クリア処理において停電クリア信号を出力開始した処理と同一の処理を行う。
【２７７２】
ステップＳ６０に続いて、主制御ＭＰＵは、例えば、機能表示ユニット１４００の各種表示器、始動口ソレノイド２４１５、第一アタッカソレノイド２４１８、第二アタッカソレ

ノイド２６１２、ベースモニタ等に出力している駆動信号を停止する（ステップＳ６２）。
【２７７３】
ステップＳ６２に続いて、主制御ＭＰＵは、チェックサムの算出を行ってこの算出した値を記憶する（ステップＳ６４）。このチェックサムは、上述したチェックサムの値（サム値）及びバックアップフラグＢＫ－ＦＬＧの値の記憶領域を除く、主制御内蔵ＲＡＭの作業領域の遊技情報を数値とみなしてその合計を算出する。
【２７７４】
ステップＳ６４に続いて、主制御ＭＰＵは、バックアップフラグＢＫ－ＦＬＧに値１をセットする（ステップＳ６６）。これにより、遊技バックアップ情報の記憶が完了する。
【２７７５】
ステップＳ６６に続いて、主制御ＭＰＵは、ＲＡＭアクセス禁止の設定を行う（ステップＳ６８）。このＲＡＭアクセス禁止の設定により主制御内蔵ＲＡＭに対するアクセスが行うことができなくなることよって主制御内蔵ＲＡＭの内容の更新を防止することができる。
【２７７６】
ステップＳ６８に続いて、無限ループに入る。この無限ループでは、ステップＳ４１において起動した主制御内蔵ＷＤＴに対して主制御ＭＰＵに内蔵されるＷＤＴクリアレジスタにタイマクリア設定値をセットし、主制御内蔵ＷＤＴによる計時をクリアして再び計時を開始させることができなくなることによって、主制御内蔵ＷＤＴにより主制御ＭＰＵが強制的にリセットされることとなる。その後、主制御ＭＰＵは、この主制御側電源投入時処理を再び行う。なお、ステップＳ５８～ステップＳ６８の処理及び無限ループを「主制御側電源断時処理」という。
【２７７７】
主制御ＭＰＵは、上述したように、電気的なノイズの影響を受けると、内蔵リセット回路による強制リセットがかかる。この場合、主制御ＭＰＵは、ステップＳ５４の判定を行うことができず、主制御側電源断時処理を行うことができない。このため、主制御ＭＰＵは、内蔵リセット回路による強制リセットがかかると、主制御側電源断時処理を実行することなく、リセットがかかり、再び、主制御側電源投入時処理を実行することとなる。つまり、主制御側電源断時処理が実行されないことにより、内蔵リセット回路による強制リセットがかかる直前に基づく主制御側電源断時処理におけるチェックサムの値（サム値）が記憶されていないため、前回電源遮断時において主制御側電源断時処理が実行されて記憶されたチェックサムの値（サム値）と、内蔵リセット回路による強制リセットがかかって再起動するときにステップＳ２８で算出したチェックサムの値（サム値）と、が一致するはずがなく、必ず主制御内蔵ＲＡＭのチェックサム（サム値）エラーとなって、ステップＳ３８の処理において主制御内蔵ＲＡＭの全領域のうち特定領域を除いて完全に消去（クリア）されることとなる。
【２７７８】
パチンコ機１（主制御ＭＰＵ）は、停電したとき又は瞬停したときにはリセットがかかり、その後の電力の復旧により、この主制御側電源投入時処理を行う。
【２７７９】
なお、ステップＳ３０では主制御内蔵ＲＡＭに記憶されている遊技バックアップ情報が正常なものであるか否かを検査し、続いてステップＳ３２では主制御側電源断時処理が正常に終了された否かを検査している。このように、主制御内蔵ＲＡＭに記憶されている遊技バックアップ情報を２重にチェックすることにより遊技バックアップ情報が不正行為により記憶されたものであるか否かを検査している。
【２７８０】
また、ステップＳ２５の判定において、設定変更許可フラグＣＳ－ＦＬＧが値０でない（値１である）とき、つまり設定値の設定変更を行うことを許可するときには、ステップＳ３７の設定変更処理を行い、ステップＳ３８の処理において主制御内蔵ＲＡＭの全領域のうち特定領域を除いて完全に消去（クリア）し、ステップＳ２６の判定において、ＲＡＭクリア報知フラグＲＣＬ－ＦＬＧが値０でない（値１である）とき、つまり各種情報を消

去すると判定したときには、ステップＳ３８の処理において主制御内蔵ＲＡＭの全領域のうち特定領域を除いて完全に消去（クリア）する。このように、復電時に押圧操作部が操作されている場合（正確には、ＲＡＭクリアスイッチの押圧操作部を押圧操作しながらパチンコ機１の電源投入を行う場合）、設定値を変更決定することができる設定変更を行う場合（主制御ＭＰＵが設定変更処理を行った場合）には、主制御ＭＰＵが主制御内蔵ＲＡＭの所定領域を必ずクリアする。これは、ＲＡＭクリアスイッチの押圧操作部が押圧操作される場合には、例えば、遊技ホールの営業が終了した際に、パチンコ機１が遊技者にとって有利な状態（例えば、確率変動（確変）当りとなっている状態等）である場合には、次の営業開始までに、上述した遊技バックアップ情報を消去（クリア）する必要があるため、遊技ホールの店員等の係員は、ＲＡＭクリアスイッチの押圧操作部を押圧操作しながらパチンコ機１の電源投入する必要がある。また、設定値を変更決定する場合には、設定変更処理が行われると、（結果的に現状の設定値が維持される場合であっても、設定変更処理が行われる前の設定値により得た遊技情報等の各種情報を含む遊技バックアップ情報を主制御内蔵ＲＡＭから消去（クリア）する必要がある。設定キーは、上述したように、設定値の変更のほかに、設定されている現状の設定値の確認等を行うことができる重要なキーであるため、遊技ホールの店長を含め限られた者のみ所持が許可され、２～３人に限定されている。本実施形態では、設定値が変更決定されなくても、つまり限定された特定の者だけが所持する設定キーがなくても、遊技ホールの店員等の係員は、遊技バックアップ情報を消去（クリア）する必要があるときにＲＡＭクリアスイッチの押圧操作部を押圧操作しながらパチンコ機１の電源投入を行うことにより、遊技バックアップ情報を主制御内蔵ＲＡＭから消去（クリア）することができるようになっている。

【２７８１】

ここで、ステップＳ２４の停電予告信号の有無の判定をステップＳ２２のウェイト時間待機処理に続いて行う点について説明する。まず、ステップＳ２４の停電予告信号の有無の判定がない場合における問題点について、つまりステップＳ２２のウェイト時間待機処理の後に、ステップＳ２６のＲＡＭクリアフラグの値の判定を行ってその後の処理をすすめる場合における問題点について説明する。

【２７８２】

主制御ＭＰＵの電源端子であるＶＤＤ端子には、上述したように、停電又は瞬停が発生して遊技ホールの島設備からの電源が遮断された場合に、電解コンデンサＭＣ２に充電された電荷が停電又は瞬停が発生してから約７ミリ秒（ｍｓ）という期間に亘って直流＋５Ｖとして印加されるようになっている。つまり、瞬停や停電により遊技ホールの島設備からの電源が遮断された状態であっても、電解コンデンサＭＣ２というハードウェアに充電された電荷が直流＋５Ｖとして印加されることにより、遊技ホールの島設備からの電源が遮断されてから約７ｍｓという時間が経過するまでの期間内に、主制御側電源断時処理を完了することができるようになっている。これは、遊技者が遊技を行っている際に、つまり、主制御側メイン処理又は後述する主制御側タイマ割り込み処理を行っている際に、停電又は瞬停が発生して遊技ホールの島設備からの電源が遮断された場合において、主制御側電源断時処理を確実に完了することができるようになっている。

【２７８３】

ところが、極めて稀な現象として、復電時にステップＳ２２のウェイト時間待機処理において、周辺制御基板１５１０の描画制御を行うシステムが起動する（ブートする）までの待機時間（ブートタイマ：本実施形態では、２．５秒が設定されている。）を計時開始し、その待機時間に達する直前で、仮に瞬停又は停電が発生すると、主制御ＭＰＵの電源端子であるＶＤＤ端子に電解コンデンサＭＣ２というハードウェアに充電された電荷が直流＋５Ｖとして印加されるものの、約７ｍｓという期間内に、ステップＳ４２で割り込み初期設定が行われ、その後、ステップＳ５２で割り込み許可設定が行われることにより、後述する主制御側タイマ割り込み処理が行われて、主制御内蔵ＲＡＭの内容が更新されても、主制御側電源投入時処理における主制御側電源断時処理を完了することができなくなる場合がある。このため、主制御内蔵ＲＡＭの内容に基づく、チェックサムを算出した値が

記憶されることなく再び復電時に主制御側電源投入時処理を開始することとなる。
【２７８４】
そうすると、今回の復電時において主制御側電源投入時処理を開始して、瞬停や停電が発生することなく、ステップＳ２２のウェイト時間待機処理を完了し、その後、ステップＳ２８で主制御内蔵ＲＡＭの内容に基づくチェックサムを算出した値と、瞬停又は停電が発生した直前における主制御内蔵ＲＡＭに記憶されている値と、をステップＳ３０で比較判定すると、チェックサムの値が一致するはずがなく、ステップＳ３８で主制御内蔵ＲＡＭの全領域のうち特定領域を除いてクリアすることなる。換言すると、復電時にＲＡＭクリアスイッチが遊技ホールの店員等の係員により操作されてＲＡＭクリアという遊技ホールの店員等の係員による意思表示がなくても、強制的に主制御内蔵ＲＡＭに記憶されている上述した遊技バックアップ情報を消去（クリア）することとなるという問題がある。
【２７８５】
そこで、本実施形態では、ステップＳ２２のウェイト時間待機処理の直後に、停電予告信号が入力されているか否かの判定を行う処理をステップＳ２４として設けて、停電予告信号が入力されているときには、ステップＳ２４の判定に再び戻り、停電予告信号の入力があり続ける限り、ステップＳ２４の判定を繰り返し行うようになっている。これにより、遊技の進行を行うことができないようになっている。ステップＳ２２のウェイト時間待機処理を行う前に、ステップＳ１６Ａ又はステップＳ１６ＢにおいてＲＡＭクリア報知フラグＲＣＬ－ＦＬＧに値が設定されるものの、ＲＡＭクリア報知フラグＲＣＬ－ＦＬＧの値は、上述したように、主制御ＭＰＵの汎用記憶素子（汎用レジスタ）に記憶されるため、ステップＳ１０でＲＡＭアクセス許可の設定が行われていても、主制御内蔵ＲＡＭの内容（遊技情報）が全く変更されない。
【２７８６】
このように、ステップＳ２２のウェイト時間待機処理の直後に、停電予告信号が入力されているか否かの判定を行う処理をステップＳ２４として設けて、停電予告信号が入力されているときには（つまり、ステップＳ２２のウェイト時間待機処理で待機した後にパチンコ機１への電源が遮断されるとステップＳ２４の判定により判定されたときには）、ステップＳ２４の判定に再び戻り、停電予告信号の入力があり続ける限り、ステップＳ２４の判定を繰り返し行うことにより、遊技の進行を行うことができず、遊技情報、及びその他の情報（例えば、メイン賞球数情報出力判定用カウンタの値を示す情報等）を含む各種情報が更新されることを防止することができ、チェックサムの算出結果に変動が生ずることがないようになっている。これにより、主制御基板１３１０の主制御ＭＰＵは、再起動した際に、ステップＳ２８のチェックサムの算出結果と、ステップＳ６４のチェックサムの算出記憶した値と、が一致していると判定することとなるため、主制御内蔵ＲＡＭに記憶保持される瞬停や停電が発生する直前の遊技情報を初期化することがない。したがって、復電時において、瞬停や停電が発生する直前の遊技情報が初期化されることを防止することができる。
【２７８７】
また、ステップＳ２２のウェイト時間待機処理の直後に、停電予告信号が入力されているか否かの判定を行う処理をステップＳ２４として設けて、停電予告信号が入力されていないときには（つまり、ステップＳ２２のウェイト時間待機処理で待機した後にパチンコ機１への電源が遮断されないとステップＳ２４の判定により判別されたときには）、主制御基板１３１０の主制御ＭＰＵが遊技の進行を行っている際に、パチンコ機１への電源が遮断されても、主制御ＭＰＵの電源端子であるＶＤＤ端子に、電解コンデンサＭＣ２による電源の供給により、この遊技の進行による遊技情報、及びその他の情報（例えば、メイン賞球数情報出力判定用カウンタの値を示す情報等）を含む各種情報を記憶するためのバックアップ処理であるステップＳ５８～ステップＳ６８の処理及び無限ループにより構成される主制御側電源断時処理を主制御基板１３１０の主制御ＭＰＵが完了することができるようになっているため、主制御ＭＰＵの主制御ＭＰＵは、再起動した際に、ステップＳ２８のチェックサムの算出結果と、バックアップ処理においてチェックサムの算出結果（つ

まり、ステップＳ６４のチェックサムの算出記憶した値）と、が一致していると判定することとなるため、主制御内蔵ＲＡＭに記憶保持される瞬停や停電が発生する直前の遊技情報を初期化することがない。つまり、瞬停や停電が発生する直前の遊技情報に復元されて主制御基板１３１０を起動することができるようになっている。

【２７８８】

更に、ステップＳ２２のウェイト時間待機処理の直後に、ステップＳ２４で停電予告信号が入力されていると判定したときには主制御内蔵ＷＤＴにより主制御ＭＰＵが強制的にリセットさせることで主制御内蔵ＲＡＭの内容を全く更新することなく再び主制御側電源断時処理を開始することができる一方、ステップＳ２２のウェイト時間待機処理の直後に、ステップＳ２４で停電予告信号が入力されていないと判定したときにはこれまで通りハードウェアによる約７ｍｓという「瞬停又は停電時電源確保期間」以内に主制御側電源断時処理を確実に完了することができるようになっている。つまり、本実施形態では、復電時に主制御側電源投入時処理を行っている際に瞬停や停電が発生して遊技ホールの島設備からの電源が遮断された場合であって、主制御ＭＰＵの電源端子であるＶＤＤ端子に、電解コンデンサＭＣ２に充電された電荷が停電又は瞬停が発生してから約７ミリ秒（ｍｓ）という期間に亘って直流＋５Ｖとして印加されるようになっているため、電解コンデンサＭＣ２というハードウェアによる約７ｍｓという「瞬停又は電源確保期間」内において主制御側電源断時処理を完了することができない場合においては、ステップＳ２２のウェイト時間待機処理の直後におけるステップＳ２４で停電予告信号が入力されているか否かの判定を行い、停電予告信号が入力されているときには、ステップＳ２４の判定に再び戻り、停電予告信号の入力があり続ける限り、ステップＳ２４の判定を繰り返し行うことにより、遊技の進行を行うことができないようになっている。

【２７８９】

このようなソフトウェアにより遊技の進行が行うことができないようにされることでステップＳ２４より後のステップ（具体的には、ステップＳ４２で割り込み初期設定を行って、その後に、ステップＳ５２で割り込み許可を設定して後述する主制御側タイマ割り込み処理を開始するという制御フロー）への進行を阻止することで主制御内蔵ＲＡＭの内容（遊技情報、及びその他の情報（例えば、メイン賞球数情報出力判定用カウンタの値を示す情報等）を含む各種情報）が更新されることを回避することができるという仕組みを採用した。このように停電又は瞬停が発生して遊技ホールの島設備からの電源が遮断された際に、主制御内蔵ＲＡＭの内容（遊技情報、及びその他の情報（例えば、メイン賞球数情報出力判定用カウンタの値を示す情報等）を含む各種情報）が全く変更されないようにソフトウェアで賄う部分と、主制御側電源断時処理を確実に完了して主制御内蔵ＲＡＭの内容（遊技情報、及びその他の情報（例えば、メイン賞球数情報出力判定用カウンタの値を示す情報等）を含む各種情報）が全く変更されないようにハードウェアで賄う部分と、に２つに分けて構成することにより、主制御内蔵ＲＡＭの内容（遊技情報、及びその他の情報（例えば、メイン賞球数情報出力判定用カウンタの値を示す情報等）を含む各種情報）が変更されることを確実に防止することができるようになっている。

【２７９０】

次に、ステップＳ５０において電源投入時に送信するコマンドの予約設定が行われる点について説明する。ステップＳ５０では、上述したように、ステップＳ３４の主制御内蔵ＲＡＭの作業領域の設定において主制御内蔵ＲＡＭの作業領域にセットされた復電時情報に基づいて、電源投入（復電）した旨を伝えるために、電源投入に区分される電源投入時状態コマンド、電源投入時主制御復帰先コマンド、そして電源投入時メイン賞球数情報出力判定用カウンタ通知コマンドを作成して送信情報として主制御内蔵ＲＡＭの送信情報記憶領域に記憶する。この電源投入時主制御復帰先コマンドは、始動口ソレノイド２４１５の駆動状態を指示する情報と、第一アタッカソレノイド２４１８及び第二アタッカソレノイド２６１２の駆動状態を指示する情報と、から主として構成されている。ここでは、まず電源投入時主制御復帰先コマンドに、始動口ソレノイド２４１５の駆動状態を指示する情報と、第一アタッカソレノイド２４１８及び第二アタッカソレノイド２６１２の駆動状態

を指示する情報と、が含まれていない場合における問題点、つまり、ステップＳ５０において電源投入時主制御復帰先コマンドが電源投入時に送信するコマンドの予約設定が行われない場合における問題点について説明する。

【２７９１】

例えば、周辺制御基板１５１０が大当り遊技状態の画面（例えば、大当り遊技演出の画面）を演出表示装置１６００の表示領域に表示制御している際に、主制御基板１３１０が第一アタッカソレノイド２４１８を駆動して第一大入賞口２００５が開閉部材により開放されているときや第二アタッカソレノイド２６１２を駆動して第二大入賞口２００６が開閉部材により開放されているときに瞬停や停電が発生して、その後に復電すると、主制御基板１３１０は、ステップＳ３４の主制御内蔵ＲＡＭの作業領域の設定において主制御内蔵ＲＡＭの作業領域にセットされた復電時情報に基づいて、瞬停又は停電が発生する直前の遊技状態に復元されることにより、第一アタッカソレノイド２４１８の駆動を開始して第一大入賞口２００５が開閉部材により閉鎖されている状態や第二アタッカソレノイド２６１２を駆動して第二大入賞口２００６が開閉部材により閉鎖されている状態から開放されている状態へ移行することとなる。

【２７９２】

ところが、瞬停や停電が発生すると、周辺制御基板１５１０は、復電時において、主制御基板１３１０からの各種コマンドを受信して復帰するようになっているため、瞬停や停電が発生して、その後に復電すると、周辺制御基板１５１０は、復電時において主制御基板１３１０から受信した電源投入時状態コマンドが指示する確率及び時短状態に基づいて復帰することができる。しかし、主制御基板１３１０が遊技状態として大当り遊技状態を発生させているときに、瞬停や停電が発生して、その後に復電すると、周辺制御基板１５１０は、復電時において主制御基板１３１０から受信した電源投入時状態コマンドが指示する確率及び時短状態に基づいて、確率及び時短状態に応じて画面を演出表示装置１６００の表示領域に表示して復帰することができても、大当り遊技状態のどのラウンドであるか全く表示することができない。つまり、例えば第一大入賞口２００５に遊技球が入球して第一大入賞口センサ２４０２によって検出され、第一大入賞口２００５に入球した遊技球の球数を伝える大入賞口１カウント表示コマンドを主制御基板１３１０が周辺制御基板１５１０に送信して周辺制御基板１５１０が受信したとしても、周辺制御基板１５１０は、確率及び時短状態に応じて画面に第一大入賞口２００５に入球した遊技球の球数が演出表示装置１６００の表示領域に表示することができても、大当り遊技状態のどのラウンド（つまり、何回目のラウンド）であるか全く表示することができない。

【２７９３】

このような状況において、主制御基板１３１０は、例えば大当り遊技状態の４ラウンド（４回目のラウンド）を終了するときには、第一アタッカソレノイド２４１８の駆動を停止して第一大入賞口２００５が開閉部材により開放されている状態から閉鎖されている状態へ移行する旨（つまり、第一アタッカユニット２４００の第一大入賞口２００５のラウンド間の閉鎖開始）を指示する大入賞口１閉鎖表示コマンドを主制御基板１３１０から周辺制御基板１５１０に送信し、主制御基板１３１０が大当り遊技状態の５ラウンド（５回目のラウンド）を開始するときには、第一アタッカソレノイド２４１８の駆動を開始して第一大入賞口２００５が開閉部材により閉鎖されている状態から開放されている状態へ移行する旨（つまり、第一大入賞口２００５の５回目のラウンドの開放開始）を指示する大入賞口開放５回目表示コマンドを主制御基板１３１０から周辺制御基板１５１０へ送信する。これにより、周辺制御基板１５１０は、大当り遊技状態の５ラウンドの開始という画面を、上述した確率及び時短状態に応じた画面からようやく切り替えて演出表示装置１６００の表示領域に表示することとなる。

【２７９４】

また、例えば、第二始動口２００４へ遊技球が受入可能となる遊技状態となって遊技者に有利な遊技状態となっている旨を伝える画面（例えば、可動片が開いている旨を遊技者に伝える画面）を周辺制御基板１５１０が演出表示装置１６００の表示領域に表示制御して

いる際に、主制御基板１３１０が始動口ソレノイド２４１５を駆動して可動片を開動作させて第二始動口２００４を開放する状態となっているときに瞬停や停電が発生して、その後に復電すると、主制御基板１３１０は、ステップＳ３４の主制御内蔵ＲＡＭの作業領域の設定において主制御内蔵ＲＡＭの作業領域にセットされた復電時情報に基づいて、瞬停又は停電が発生する直前の遊技状態に復元されることにより、始動口ソレノイド２４１５の駆動を開始して可動片を閉動作させて第二始動口２００４を閉鎖する状態へ移行することとなる。

【２７９５】

ところが、瞬停や停電が発生すると、周辺制御基板１５１０は、復電時において、主制御基板１３１０からの各種コマンドを受信して復帰するようになっているため、瞬停や停電が発生して、その後に復電すると、周辺制御基板１５１０は、復電時において主制御基板１３１０から受信した電源投入時状態コマンドに基づいて復帰することができる。しかし、主制御基板１３１０が遊技状態として第二始動口２００４へ遊技球が受入可能となる遊技状態となって遊技者に有利な遊技状態を発生させているときに、瞬停や停電が発生して、その後に復電すると、周辺制御基板１５１０は、復電時において主制御基板１３１０から受信した電源投入時状態コマンドが指示する確率及び時短状態に基づいて、確率及び時短状態に応じて画面を演出表示装置１６００の表示領域に表示して復帰することができても、第二始動口２００４へ遊技球が受入可能となる遊技状態となって遊技者に有利な遊技状態となっている旨を伝える画面を周辺制御基板１５１０が演出表示装置１６００の表示領域に全く表示することができない。このため、パチンコ機の前面に着座する遊技者は、瞬停や停電が発生したことに驚いて、復電時において、瞬停や停電が発生する直前における第二始動口２００４へ遊技球が受入可能となる遊技状態であることを忘れている場合もあり、このような場合には、復電時における遊技状態として第二始動口２００４へ遊技球が受入可能となる遊技状態に復帰されているにもかかわらず、復電時に演出表示装置１６００の表示領域に遊技を指示する画面（つまり、第二始動口２００４へ遊技球を入球させるという遊技を指示する画面）が表示されないことにより、遊技者がどのような遊技を行えば分からなくなるという問題もあった。

【２７９６】

このように、上述した２つの例においては、瞬停又は停電直前における遊技状態に、復電後、速やかに復帰することができないという問題があった。換言すると、パチンコ機の前面に着座する遊技者は、瞬停や停電が発生して、その後に復電すると、パチンコ機のシステムがかたまった状態、いわゆるフリーズした状態に見えて故障したと勘違いするという問題があった。

【２７９７】

そこで、本実施形態では、主制御基板１３１０が電源投入時（電源投入する場合のほかに、停電や瞬停が発生して電力が回復する復電時も含む。）において、電源投入時状態コマンドと電源投入時主制御復帰先コマンドとを周辺制御基板１５１０に送信するために、ステップＳ５０において、電源投入に区分される電源投入時状態コマンド、電源投入時主制御復帰先コマンド、そして電源投入時メイン賞球数情報出力判定用カウンタ通知コマンドを作成して送信情報として主制御内蔵ＲＡＭの送信情報記憶領域に記憶するようになっている。そして、これらのコマンドは、後述する主制御側タイマ割り込み処理において送信されるようになっている。

【２７９８】

これにより、周辺制御基板１５１０は、主制御基板１３１０から受信した電源投入時状態コマンドと電源投入時主制御復帰先コマンドとに基づいて、例えば、上述した例では、大当り遊技状態の４ラウンドにおいて、瞬停や停電が発して、その後に復電すると、主制御基板１３１０の復帰先として、第一アタッカソレノイド２４１８の駆動を開始して第一大入賞口２００５が開閉部材により閉鎖されている状態から開放されている状態へ移行する旨を周辺制御基板１５１０に伝えることができるため、周辺制御基板１５１０は、大当り遊技状態の４ラウンドである旨を特定した画面（つまり、何回目のラウンドであるかを示

す画面）を演出表示装置１６００の表示領域に表示することができないものの、大当り遊技状態であって第一アタッカソレノイド２４１８の駆動を開始して第一大入賞口２００５が開閉部材により開放されている状態である旨を伝える画面（例えば、「大当りです。大入賞口が開放されています。大入賞口に遊技球を入球させるように遊技を行ってください。」というメッセージを遊技者に伝える画面）を演出表示装置１６００の表示領域に表示してパチンコ機の前面に着座する遊技者に復電後において第一大入賞口２００５に遊技球を入球させるという遊技を指示することができるし、また例えば、上述した例では、第二始動口２００４へ遊技球が受入可能となる遊技状態となって遊技者に有利な遊技状態となっている状態において、瞬停や停電が発して、その後に復電すると、主制御基板１３１０の復帰先として、始動口ソレノイド２４１５の駆動を開始して可動片を開動作させて第二始動口２００４を開放させた状態となっている旨を伝える画面（例えば、「可動片が開いています。第二始動口に遊技球を入球させるように遊技を行ってください。」というメッセージを遊技者に伝える画面）を周辺制御基板１５１０が演出表示装置１６００の表示領域に表示してパチンコ機の前面に着座する遊技者に復電後において第二始動口２００４へ遊技球を入球させるという遊技を指示することができる。

【２７９９】

これにより、瞬停や停電が発して、その後に復電する際に、周辺制御基板１５１０の復帰先を主制御基板１３１０側で細かく指示することができる。したがって、瞬停又は停電直前における遊技状態に、復電後、速やかに復帰することができる。換言すると、パチンコ機の前面に着座する遊技者は、瞬停や停電が発生して、その後に復電すると、パチンコ機のシステムがかたまった状態、いわゆるフリーズした状態に見えて故障したと勘違いすることを防止することができる。

【２８００】

次に、主制御基板１３１０の製造ラインの検査工程である主制御基板検査工程において、検査のために製造してから最初に主制御基板１３１０が電源投入される際における、ステップＳ２８のチェックサムの算出と、ステップＳ３０の判定と、について説明する。主制御基板検査工程において、検査のために製造してから最初に主制御基板１３１０が電源投入されると、上述した、バックアップ処理であるステップＳ５８～ステップＳ６８の処理及び無限ループにより構成される主制御側電源断時処理を主制御基板１３１０の主制御ＭＰＵは、一度も実行していない状態であるため、ステップＳ２８で主制御内蔵ＲＡＭの内容に基づくチェックサムを算出しても、ステップＳ３０で比較判定において、チェックサムの値が一致するはずがなく、ステップＳ３８で主制御内蔵ＲＡＭの全領域のうち特定領域を除いて必ずクリアすることなる。

【２８０１】

これにより、ステップＳ５０において電源投入時に送信するコマンドの予約設定が行われると、電源投入に区分される電源投入時状態コマンド、電源投入時主制御復帰先コマンド、そして電源投入時メイン賞球数情報出力判定用カウンタ通知コマンドを作成して送信情報として主制御内蔵ＲＡＭの送信情報記憶領域に記憶することにより、電源投入時状態コマンド、電源投入時主制御復帰先コマンド、そして電源投入時メイン賞球数情報出力判定用カウンタ通知コマンドという３つのコマンドのみが送信情報として主制御内蔵ＲＡＭの送信情報記憶領域に記憶される状態となる。そして、これらのコマンドは、後述する主制御側タイマ割り込み処理において、まず電源投入時状態コマンドが送信され、続いて電源投入時主制御復帰先コマンドが送信され、続いて電源投入時メイン賞球数情報出力判定用カウンタ通知コマンドが送信されるようになっている。これを利用して、主制御基板検査工程においては、検査のために製造してから最初に主制御基板１３１０が電源投入されると、主制御基板１３１０から最初のコマンドとして電源投入時状態コマンドが主制御基板検査工程の検査装置へ送信されることとなる。

【２８０２】

ところで、電源投入時状態コマンドは、電源投入時（電源投入する場合のほかに、停電や瞬停が発生して電力が回復する復電時も含む。）に、ＲＡＭクリアスイッチが操作されて

ＲＡＭクリアを行う場合にその旨を指示する情報と、電源投入時（電源投入する場合のほかに、停電や瞬停が発生して電力が回復する復電時も含む。）に、上述した、低確率時短状態、高確率時短状態、低確率非時短状態、及び高確率非時短状態のうち、いずれの状態（確率及び時短状態）で復帰するかを指示する情報と、パチンコ機の機種コードを示す情報と、から構成されている。ここでは、電源投入時状態コマンドにパチンコ機の機種コードを示す情報が含まれていない場合における問題点について説明する。

【２８０３】

パチンコ機の機種コードは、パチンコ機１（正確には、主制御基板１３１０）として、いわゆる、マックスタイプ、ミドルタイプ、甘デジタイプをそれぞれ作成するときに、どの作品の版権に対するものであるのか、どのような遊技仕様（例えば、確率変動が生ずると、次回大当り遊技状態が発生するまでその状態が継続されるという遊技仕様のほかに、特別図柄の変動回数が限定（例えば、３０回や７０回）された状態で確率変動が生ずるという遊技仕様（いわゆる、ＳＴ機）など））であるのか、を特定することができるものである。

【２８０４】

パチンコ機１を製造するメーカの製造ラインにおいては、主制御基板１３１０を製造する際に、複数種類の作品の版権に対する主制御基板１３１０が混在する場合がある。そうすると、製造ラインの作業者は、複数種類の作品の版権（例えば、映画Ａ、映画Ｂ、ドラマＣ、映画Ｄ、漫画Ｅ、及び漫画Ｆという作品の版権）のうち、どの作品の版権に対する主制御基板１３１０を製造するために主制御基板１３１０が製造ラインに流れているのか分からなくなったり、複数種類の作品の版権のうち、一の版権（例えば、映画Ｄという作品の版権）に対する主制御基板１３１０を製造するために主制御基板１３１０が製造ラインに流れているにもかかわらず、他の版権（例えば、漫画Ｆという作品の版権）に対する主制御基板１３１０を製造するために主制御基板１３１０が製造ラインに流れているという思い込みや勘違いもある。

【２８０５】

このため、パチンコ機１を製造するメーカの製造ラインにおいて、主制御基板１３１０を製造する際に、複数種類の作品の版権に対する主制御基板１３１０が混在すると、製造ラインの作業者は、製造ラインで製造した主制御基板１３１０がどの作品の版権に対するものなのかを確認することができないし、同一作品の版権に対しても、どの機種タイプ（マックスタイプ、ミドルタイプ、甘デジタイプのうち、いずれのタイプ）であるのか、そしてどのような遊技仕様（確率変動が生ずると、次回大当り遊技状態が発生するまでその状態が継続されるという遊技仕様やＳＴ機）であるのかを確認することもできない。

【２８０６】

これにより、パチンコ機１を製造するメーカの製造ラインにおいて、主制御基板１３１０を製造する際に、複数種類の作品の版権に対する主制御基板１３１０が混在すると、複数種類の作品の版権に対する主制御基板１３１０が混在したまま、遊技盤５に主制御基板１３１０を取り付けるための遊技盤組立ラインへ送られることとなる。このため、遊技盤組立ラインの作業者は、作品の版権に対する遊技盤５と対応しない主制御基板１３１０を遊技盤５に取り付ける場合もあった。これにより、結果として、遊技盤５の生産効率が低下するという問題があった。

【２８０７】

そこで、本実施形態では、主制御基板１３１０が電源投入時（電源投入する場合のほかに、停電や瞬停が発生して電力が回復する復電時も含む。）において、パチンコ機の機種コードを示す情報を含む電源投入時状態コマンドを周辺制御基板１５１０に送信するために、ステップＳ５０において、電源投入に区分される電源投入時状態コマンド、電源投入時主制御復帰先コマンド、そして電源投入時メイン賞球数情報出力判定用カウンタ通知コマンドを作成して送信情報として主制御内蔵ＲＡＭの送信情報記憶領域に記憶するようになっている。そして、これらのコマンドは、後述する主制御側タイマ割り込み処理において送信されるようになっている。

【２８０８】
これにより、パチンコ機１を製造するメーカの製造ラインの作業者は、製造ラインの検査工程である主制御基板検査工程において、主制御基板１３１０を電源投入することにより、検査装置が主制御基板１３１０から受信した電源投入時状態コマンドに含まれるパチンコ機の機種コードを示す情報に基づいて、つまり、パチンコ機の機種コードを示す情報を構成する、上述した、機種タイプを示すマックスタイプ、ミドルタイプ、及び甘デジタイプのうち、いずれのタイプであるかを特定するためのシリーズコードと、作品の版権を特定するための版権コードと、遊技仕様（例えば、確率変動が生ずると、次回大当り遊技状態が発生するまでその状態が継続されるという遊技仕様のほかに、特別図柄の変動回数が限定された状態で確率変動が生ずるという遊技仕様（ＳＴ機）など）を特定するための遊技仕様コードと、に基づいて、検査モニタに表示する詳細な機種情報を目視することにより、主制御基板１３１０がどの作品の版権に対するものなのかを判別することができるとともに、同一作品の版権に対しても、どの機種タイプ（マックスタイプ、ミドルタイプ、及び甘デジタイプのうち、いずれのタイプ）であるのか、そしてどのような遊技仕様（確率変動が生ずると、次回大当り遊技状態が発生するまでその状態が継続されるという遊技仕様やＳＴ機）であるのかを判別することもできるようになっている。
【２８０９】
これにより、パチンコ機１を製造するメーカの製造ラインにおいて、主制御基板１３１０を製造する際に、複数種類の作品の版権に対する主制御基板１３１０が混在しても、製造ラインの主制御基板検査工程の作業者は、検査モニタを目視して主制御基板１３１０の機種タイプ、作品の版権、及び遊技仕様を正確に判別することができることによって、作品の版権に対する主制御基板１３１０ごとに分別して後続の遊技盤組立ラインへ送ることができる。そして、遊技盤組立ラインの作業者は、作品の版権に対する遊技盤５と対応する主制御基板１３１０を遊技盤５に確実に取り付けることができ、作品の版権に対する遊技盤５と対応しない主制御基板１３１０を遊技盤５に取り付けるという作業によって生ずる遊技盤５の生産効率の低下を防止することができる。したがって、遊技盤５の生産効率の向上に寄与することができる。
【２８１０】
［主制御側タイマ割り込み処理］
次に、主制御側タイマ割り込み処理について説明する。この主制御側タイマ割り込み処理は、図２７４及び図２７５に示した主制御側電源投入時処理において設定された割り込み周期（本実施形態では、４ｍｓ）ごとに繰り返し行われる。
【２８１１】
主制御側タイマ割り込み処理が開始されると、主制御ＭＰＵは、図２７６に示すように、レジスタバンクの切替を行う（ステップＳ１００）。主制御ＭＰＵの汎用記憶素子（汎用レジスタ）には、第１のレジスタバンクと第２のレジスタバンクとから構成される２つのレジスタバンクがある。第１のレジスタバンクは上述した主制御側電源投入時処理における主制御メイン処理において使用される一方、第２のレジスタバンクは本ルーチンである主制御側タイマ割り込み処理において使用される。ステップＳ１００では、本ルーチンである主制御側タイマ割り込み処理において第２のレジスタバンクを使用するため、主制御側電源投入時処理における主制御メイン処理において使用されている第１のレジスタバンクから第２のレジスタタンクへのレジスタバンクの切り替えを行う。なお、本実施形態では、本ルーチンである主制御側タイマ割り込み処理が開始されるときに、各レジスタをスタックに退避する処理は必要ないようになっている。
【２８１２】
ステップＳ１００に続いて、主制御ＭＰＵは、タイマ減算処理を行う（ステップＳ１０２）。このタイマ減算処理では、例えば、後述する特別図柄及び特別電動役物制御処理で決定される変動表示パターンに従って機能表示ユニット１４００の第一特別図柄表示器及び第二特別図柄表示器が点灯する時間、後述する普通図柄及び普通電動役物制御処理で決定される普通図柄変動表示パターンに従って機能表示ユニット１４００の普通図柄表示器が

点灯する時間のほかに、主制御基板１３１０（主制御ＭＰＵ）が送信した各種コマンドを払出制御基板６３３が正常に受信した旨を伝える払主ＡＣＫ信号が入力されているか否かを判定する際にその判定条件として設定されているＡＣＫ信号入力判定時間等の時間管理を行う。具体的には、変動表示パターン又は普通図柄変動表示パターンの変動時間が５秒間であるときには、タイマ割り込み周期が４ｍｓに設定されているので、このタイマ減算処理を行うごとに変動時間を４ｍｓずつ減算し、その減算結果が値０になることで変動表示パターン又は普通図柄変動表示パターンの変動時間を正確に計っている。

【２８１３】

本実施形態では、ＡＣＫ信号入力判定時間が１００ｍｓに設定されている。このタイマ減算処理を行うごとにＡＣＫ信号入力判定時間が４ｍｓずつ減算し、その減算結果が値０になることでＡＣＫ信号入力判定時間を正確に計っている。なお、これらの各種時間及びＡＣＫ信号入力判定時間は、時間管理情報として主制御内蔵ＲＡＭの時間管理情報記憶領域に記憶される。

【２８１４】

ステップＳ１０２に続いて、主制御ＭＰＵは、スイッチ入力処理を行う（ステップＳ１０４）。このスイッチ入力処理では、主制御ＭＰＵの各種入力ポートの入力端子に入力されている各種信号を読み取り、入力情報として主制御内蔵ＲＡＭの入力情報記憶領域に記憶する。具体的には、主制御ＭＰＵは、例えば、ゲートセンサ２８０１からの検出信号、一般入賞口センサ３０５１からの検出信号、第一始動口センサ３０５２からの検出信号、第二始動口センサ２４０１からの検出信号、第一大入賞口センサ２４０２からの検出信号、第二大入賞口センサ２６０１からの検出信号、アウト口センサ３０５３、第一サブアウト口センサ２４０３、及び第二サブアウト口センサ３０５４からの検出信号、磁気センサ１１１１，２４０４，２６０２，３０５５からの検出信号、ＲＡＭクリアスイッチからの操作信号（ＲＡＭクリア信号）、扉枠開放スイッチからの検出信号、本体枠開放スイッチ４ｂからの検出信号、設定キースイッチ１３１１ａからの信号、設定切替ボタンからの信号、後述する賞球制御処理で送信した賞球コマンドを払出制御基板６３３が正常に受信した旨を伝える払出制御基板６３３からの払主ＡＣＫ信号、をそれぞれ読み取り、入力情報として主制御内蔵ＲＡＭの入力情報記憶領域に記憶する。また、第一始動口センサ３０５２からの検出信号、第二始動口センサ２４０１からの検出信号をそれぞれ読み取ると、これと対応するその他に区分される始動口入賞コマンドを送信情報として主制御内蔵ＲＡＭの送信情報記憶領域に記憶する。つまり、第一始動口センサ３０５２からの検出信号があると、これと対応する始動口入賞コマンドが送信情報として主制御内蔵ＲＡＭの送信情報記憶領域に記憶されるし、第二始動口センサ２４０１からの検出信号があると、これと対応する始動口入賞コマンドが送信情報として主制御内蔵ＲＡＭの送信情報記憶領域に記憶されるようになっている。

【２８１５】

なお、本実施形態では、主制御ＭＰＵの各種入力ポートのすべての入力端子に入力されている状態（空き端子処理が施されているものも含める。）は、このスイッチ入力処理が開始されると、まず１回目としてそれぞれ読み取られ、所定時間（例えば、１０μｓ）経過した後、２回目としてそれぞれ再び読み取られる。そして、この２回目に読み取られた結果と、１回目に読み取られた結果と、を比較する。この比較結果のうち、同結果となっているものがあるか否かを判定する。同結果でないものについては、さらに、３回目として再び読み取られ、この３回目に読み取られた結果と、２回目に読み取られた結果と、を比較する。この比較結果のうち、同結果となっているものがあるか否かを再び判定する。同結果でないものについては、さらに、４回目として再び読み取られ、この４回目に読み取られた結果と、３回目に読み取られた結果と、を比較する。この比較結果のうち、同結果となっているものがあるか否かを再び判定する。同結果とならいものについては、遊技球の入球がないものとして、又は入力を無視するものとして扱う。

【２８１６】

このように、スイッチ入力処理では、主制御ＭＰＵの各種入力ポートのすべての入力端子

に入力されている状態（空き端子処理が施されているものも含める。）を、１回目～３回目に亘って比較する２度読み取りと、２回目～４回目に亘って比較する２度読み込みと、による計２回の２度読み取りを行うことによって、チャタリングやノイズ等の影響による誤検出を回避することができるようになっているため、ゲートセンサ２８０１からの検出信号、一般入賞口センサ３０５１からの検出信号、第一始動口センサ３０５２からの検出信号、第二始動口センサ２４０１からの検出信号、第一大入賞口センサ２４０２からの検出信号、第二大入賞口センサ２６０１からの検出信号、アウト口センサ３０５３、第一サブアウト口センサ２４０３、及び第二サブアウト口センサ３０５４からの検出信号、磁気センサ１１１１，２４０４，２６０２，３０５５からの検出信号、ＲＡＭクリアスイッチからの操作信号（ＲＡＭクリア信号）、扉枠開放スイッチからの検出信号、本体枠開放スイッチ４ｂからの検出信号、設定キースイッチ１３１１ａからの信号、設定切替ボタンからの信号、後述する賞球制御処理で送信した賞球コマンドを払出制御基板６３３が正常に受信した旨を伝える払出制御基板６３３からの払主ＡＣＫ信号の信頼性を高めることができる。

【２８１７】

ステップＳ１０４に続いて、主制御ＭＰＵは、入力端子不具合監視処理を行う（ステップＳ１０５）。この入力端子不具合監視処理では、主制御ＭＰＵの各種入力ポートの入力端子のうち、空き端子処理が施されているものの状態を、ステップＳ１０４のスイッチ入力処理において取得した情報に基づいて行う。具体的には、例えば、主制御ＭＰＵの入力ポートＰＡの入力端子ＰＡ７は、空き端子処理としてグランド（ＧＮＤ）に接地されているため、常に論理状態がＬＯＷとなっている。そこで、入力端子不具合監視処理では、各種入力ポートの入力端子のうち、空き端子処理が施されている入力端子の論理状態がＬＯＷとなっているか否かをステップＳ１０４のスイッチ入力処理において取得した情報に基づいて行う。主制御ＭＰＵは、空き端子処理が施されている入力端子の論理状態がＬＯＷとなっていないと判定したときには、主制御ＭＰＵの周辺回路に不具合が発生している旨を伝える報知表示に区分される不具合コマンドを送信情報として主制御内蔵ＲＡＭの送信情報記憶領域に記憶する。

【２８１８】

ステップＳ１０５に続いて、主制御ＭＰＵは、当落乱数更新処理を行う（ステップＳ１０６）。この当落乱数更新処理では、上述した、図柄乱数を更新する。またこれらの乱数に加えて、図２７５に示した主制御側電源投入時処理（主制御側メイン処理）におけるステップＳ５６の非当落乱数更新処理で更新される、大当り図柄用初期値決定用乱数、及び小当り図柄用初期値決定用乱数も更新する。これらの大当り図柄用初期値決定用乱数、及び小当り図柄用初期値決定用乱数は、主制御側メイン処理及びこの主制御側タイマ割り込み処理においてそれぞれ更新されることでランダム性をより高めている。これに対して、図柄乱数は、当落判定（当り判定）にかかわる乱数であるためこの当落乱数更新処理が行われるごとにのみ、それぞれのカウンタがカウントアップする。なお、上述した、普通図柄当り判定用乱数、普通図柄当り判定用初期値決定乱数もこの当落乱数更新処理により更新される。

【２８１９】

例えば、普通図柄当り判定用乱数を更新するカウンタは、上述したように、初期値更新型のカウンタであり、最小値から最大値までに亘る予め定めた固定数値範囲内において更新され、この最小値から最大値までに亘る範囲を、この主制御側タイマ割り込み処理が行われるごとに値１ずつ加算されることでカウントアップする。普通図柄当り判定用初期値決定乱数から最大値に向かってカウントアップし、続いて最小値から普通図柄当り判定用初期値決定乱数に向かってカウントアップする。普通図柄当り判定用乱数の最小値から最大値までに亘る範囲をカウンタがカウントアップし終えると、この当落乱数更新処理により当り判定用初期値決定乱数は更新される。普通図柄当り判定用初期値決定乱数は、普通図柄当り判定用乱数を更新するカウンタの固定数値範囲から一の値を抽選する初期値抽選処理を実行して得ることができるようになっている。

【２８２０】
本実施形態では、大当り図柄用初期値決定用乱数、及び小当り図柄用初期値決定用乱数を、図２７５に示した主制御側電源投入時処理（主制御側メイン処理）におけるステップＳ５６の非当落乱数更新処理、及び本ルーチンである主制御側タイマ割り込み処理におけるステップＳ１０６の当落乱数更新処理でそれぞれ更新しているが、割り込みタイマが発生するごとに本ルーチンの処理時間にムラが生じて次の割り込みタイマが発生するまでの残り時間内において主制御側メイン処理を繰り返し実行することによりステップＳ５６の非当落乱数更新処理の実行回数がランダムとなる場合には、大当り図柄用初期値決定用乱数、及び小当り図柄用初期値決定用乱数をステップＳ５６の非当落乱数更新処理においてのみ更新する仕組みとしてもよい。

【２８２１】
ステップＳ１０６に続いて、主制御ＭＰＵは、球数計数処理を行う（ステップＳ１０７）。この球数計数処理では、上述した入力情報記憶領域から入力情報を読み出してこの入力情報に基づいて、アウト口センサ３０５３からの検出信号が入力されて遊技盤５に区画形成される遊技領域５ａに設けられるアウト口２０１０により回収された遊技球をアウト口センサ３０５３が検出した場合にはアウト口２０１０により回収された遊技球の球数の計数をカウントする回収球カウンタの値に値１を加算する（インクリメントする）演算を行い、第一サブアウト口センサ２４０３からの検出信号が入力されて遊技盤５に区画形成される遊技領域５ａに設けられる第一サブアウト口２０１１により回収された遊技球を第一サブアウト口センサ２４０３が検出した場合には、第一サブアウト口２０１１により回収された遊技球の球数の計数をカウントする回収球カウンタの値に値１を加算する（インクリメントする）演算を行い、第二サブアウト口センサ３０５４からの検出信号が入力されて遊技盤５に区画形成される遊技領域５ａに設けられる第二サブアウト口２０１２により回収された遊技球を第二サブアウト口センサ３０５４が検出した場合には、第二サブアウト口２０１２により回収された遊技球の球数の計数をカウントする回収球カウンタの値に値１を加算する（インクリメントする）演算を行う。つまり、球数計数処理では、アウト口センサ３０５３がアウト口２０１０により回収された遊技球を検出し、第一サブアウト口センサ２４０３が第一サブアウト口２０１１により回収された遊技球を検出し、且つ第二サブアウト口センサ３０５４が第二サブアウト口２０１２により回収された遊技球を検出した場合には、回収球カウンタの値に値３を加算する演算を行う。主制御ＭＰＵは、演算結果である回収球カウンタの値を、アウト口２０１０、第一サブアウト口２０１１及び第二サブアウト口２０１２により回収された遊技球の球数の計数結果（総数）として、主制御内蔵ＲＡＭの特定領域におけるアウト球計数専用領域に格納するとともに、ベースモニタに表示する点灯信号の出力を設定し、出力情報として出力情報記憶領域に記憶する。また、主制御ＭＰＵは、回収球カウンタの値が値１０で割り切れる場合、つまり、アウト口２０１０、第一サブアウト口２０１１及び第二サブアウト口２０１２で回収される遊技球の球数が１０球に達するごとに、その旨を伝える球回収コマンドを作成し、送信情報として出力情報記憶領域に記憶する。なお、主制御ＭＰＵは、演算結果である回収球カウンタの値が最大値（本実施形態では、値６５５３５）に達して、さらに回収球カウンタの値に値１だけ加算（インクリメント）すると、回収球カウンタの値がオーバーフローして値０となり、この値０から加算する演算を行う。

【２８２２】
ステップＳ１０７に続いて、主制御ＭＰＵは、賞球制御処理を行う（ステップＳ１０８）。この賞球制御処理では、上述した入力情報記憶領域から入力情報を読み出してこの入力情報に基づいて遊技球を払い出すための賞球コマンドを作成したり、主制御基板１３１０と払出制御基板６３３との基板間の接続状態を確認するためのセルフチェックコマンドを作成したりする。そして作成した賞球コマンドやセルフチェックコマンドを主払シリアルデータとして払出制御基板６３３に送信する。例えば、第一大入賞口２００５に遊技球が１球、入球すると、賞球として１５球を払い出す賞球コマンドを作成するとともに、賞球として払い出す予定の遊技球の球数が１０球に達しているため、その旨を伝えるためにメ

イン賞球数情報出力信号の出力を設定し、出力情報として出力情報記憶領域に記憶し、賞球コマンドを払出制御基板６３３に送信したり、この賞球コマンドを払出制御基板６３３が正常に受信完了した旨を伝える払主ＡＣＫ信号が所定時間内に入力されないときには主制御基板１３１０と払出制御基板６３３との基板間の接続状態を確認するセルフチェックコマンドを作成して払出制御基板６３３に送信したりする。

【２８２３】

また、ステップＳ１０８の賞球制御処理では、上述した入力情報記憶領域から入力情報を読み出してこの入力情報に基づいて、賞球として払い出す予定の遊技球の球数が１０球に達している場合には、その旨を伝えるためにその他に区分されるメイン賞球数情報出力コマンドを作成し、送信情報として送信情報記憶領域に記憶する。メイン賞球数情報出力コマンドは、メイン賞球数情報出力判定用カウンタの値に基づいて作成されるようになっている。このメイン賞球数情報出力判定用カウンタの値は、上述した入力情報記憶領域から入力情報を読み出してこの入力情報に基づいて、つまり遊技盤５に設けられる一般入賞口２００１、ゲート部２００３、第一始動口２００２、第二始動口２００４、及び第一大入賞口２００５等の各種入賞口（以下、「遊技盤５に設けられる各種入賞口」と記載する。）に入球した遊技球に基づいて、賞球として払い出す予定の遊技球の球数をカウントするものであり、ステップＳ１０８の賞球制御処理において、主制御内蔵ＲＡＭの賞球予定情報記憶領域に記憶更新されるようになっている。ステップＳ１０８の賞球制御処理では、主制御内蔵ＲＡＭの賞球予定情報記憶領域に記憶されるメイン賞球数情報出力判定用カウンタの値を読み出し、この読み出したメイン賞球数情報出力判定用カウンタの値に、上述した入力情報記憶領域から入力情報を読み出してこの入力情報に基づいて、賞球として払い出す予定の遊技球の球数を加算し、この加算した球数を示す値が値１０を超えているときには（つまり、賞球として払い出す予定の遊技球の球数が１０球に達しているときには）、その旨を伝えるためにメイン賞球数情報出力コマンドを作成し、送信情報として出力情報記憶領域に記憶するとともに、その超えた球数を示す値を、メイン賞球数情報出力判定用カウンタの値として、上述した主制御内蔵ＲＡＭの賞球予定情報記憶領域に記憶更新するようになっている。

【２８２４】

ステップＳ１０８に続いて、主制御ＭＰＵは、枠コマンド受信処理を行う（ステップＳ１１０）。払出制御基板６３３は、状態表示に区分される１バイト（８ビット）の各種コマンド（例えば、枠状態１コマンド、エラー解除ナビコマンド、及び枠状態２コマンド）を送信する。枠コマンド受信処理では、各種コマンドを払主シリアルデータとして正常に受信すると、その旨を払出制御基板６３３に伝える情報を、出力情報として主制御内蔵ＲＡＭの出力情報記憶領域に記憶する。また、主制御ＭＰＵは、その正常に払主シリアルデータとして受信したコマンドを２バイト（１６ビット）のコマンドに整形し（状態表示に区分される各種コマンド（枠状態１コマンド、エラー解除ナビコマンド、及び枠状態２コマンド））、送信情報として上述した送信情報記憶領域に記憶する。

【２８２５】

ステップＳ１１０に続いて、主制御ＭＰＵは、不正行為検出処理を行う（ステップＳ１１２）。この不正行為検出処理では、賞球に関する異常状態を確認する。電波照射による不正行為（以下、「電波照射ゴト」と記載する。）が行われていると判断すると、電波照射ゴトカウンタの値を値１だけ加算（インクリメント）する。この電波ゴトカウンタの値は、不正行為検出処理において電波照射ゴトが行われると判断されるごとに、インクリメントされるものであり、ＲＡＭクリアされると、初期値として値０（ゼロ）がセットされるようになっている。電波照射ゴトカウンタの値が上限値に達すると（本実施形態では、不正行為検出処理が主制御側タイマ割り込み処理が行われる割り込み周期である４ｍｓに基づいて、上限値として値２５０が設定されている。）、電波照射ゴトが行われている旨を伝える報知表示に区分される電波照射ゴト報知コマンドを作成し、送信情報として上述した送信情報記憶領域に記憶する。

【２８２６】

また、ステップＳ１１２の不正行為検出処理では、上述した入力情報記憶領域から入力情報を読み出し、磁気センサ１１１１，２４０４，２６０２，３０５５からの検出信号が入力されているときには、磁石を用いた不正行為（以下、「磁石ゴト」と記載する。）が行われていると判断し、磁石ゴトカウンタの値を値１だけ加算（インクリメント）する。この磁石ゴトカウンタの値は、不正行為検出処理において電波照射ゴトが行われると判断されるごとに、インクリメントされるものであり、遊技バックアップ情報に含まれるものであり、ＲＡＭクリアされると、初期値として値０（ゼロ）がセットされるようになっている。磁石ゴトカウンタの値が上限値に達すると（本実施形態では、不正行為検出処理が主制御側タイマ割り込み処理が行われる割り込み周期である４ｍｓに基づいて、上限値として値２５０が設定されている。）、電波照射ゴトが行われている旨を伝える報知表示に区分される磁石ゴト報知コマンドを作成し、送信情報として上述した送信情報記憶領域に記憶する。本実施形態では、このような仕組みによって磁石ゴトを確実に検出して報知することにより、遊技ホールの店員等の係員が磁石ゴトを早い段階で発見することができることに寄与することができるようになっている。

【２８２７】

また、ステップＳ１１２の不正行為検出処理では、例えば、上述した入力情報記憶領域から入力情報を読み出し、大当り遊技状態でない場合に第一大入賞口センサ２４０２、又は第二大入賞口センサ２６０１からの検出信号が入力されているとき（第一大入賞口２００５又は第二大入賞口２００６に遊技球が入球するとき）等の大入賞口異常入賞発生には、異常状態として報知表示に区分される入賞異常表示コマンドを作成し、送信情報として上述した送信情報記憶領域に記憶する。

【２８２８】

なお、ステップＳ１１２の不正行為検出処理では、電波照射ゴト及び／又は、磁石ゴトを検出したときには、不正行為の検出として不正行為検出フラグＦＤ－ＦＬＧに値１をセットする一方、電波照射ゴト及び磁石ゴトを検出していないときには、不正行為の未検出として不正行為検出フラグＦＤ－ＦＬＧに値０をセットする。この不正行為検出フラグＦＤ－ＦＬＧは、遊技バックアップ情報に含まれるものであり、ＲＡＭクリアされると、初期値として値０（ゼロ）がセットされるようになっている。また、大入賞口異常入賞発生を検出したときにも、不正行為の検出として、不正行為検出フラグＦＤ－ＦＬＧに値１をセットするようにしてもよい。

【２８２９】

ステップＳ１１２に続いて、主制御ＭＰＵは、発射許可信号設定処理を行う（ステップＳ１１３）。この発射許可信号設定処理では、遊技球Ｂの発射を払出制御基板６３３の発射制御部６３３ｂに対して許可する旨を伝える発射許可信号の論理を設定する。具体的には、主制御ＭＰＵは、上述した不正行為検出フラグＦＤ－ＦＬＧの値に基づいて、不正行為検出フラグＦＤ－ＦＬＧが値０であるとき、つまり不正行為の未検出であると判定したときには発射許可信号の論理として発射許可論理に設定し、出力情報として上述した出力情報記憶領域に記憶する一方、不正行為検出フラグＦＤ－ＦＬＧが値０でない（値１である）とき、つまり不正行為の検出であると判定したときには発射許可信号の論理として発射許可論理を反転させた発射停止論理（発射非許可論理）に設定し、出力情報として上述した出力情報記憶領域に記憶する。なお、主制御ＭＰＵは、上述した入力情報記憶領域から入力情報を読み出してこの入力情報に基づいて、扉枠開放スイッチからの検出信号が入力されて本体枠４に対して扉枠３が開放されていると扉枠開放スイッチが検出した場合、本体枠開放スイッチ４ｂからの検出信号が入力されて外枠２に対して本体枠４が開放されていると本体枠開放スイッチ４ｂが検出した場合には、発射許可信号の論理として発射許可論理を反転させた発射停止論理（発射非許可論理）に設定し、出力情報として上述した出力情報記憶領域に記憶する。発射許可信号の論理は、初期値（デフォルト）として、パチンコ機１が電源投入されてから（復電してから）本ルーチンである主制御側タイマ割り込み処理におけるステップＳ１１３の発射許可信号設定処理が開始されるまでに亘って、発射許可論理を反転させた発射停止論理（発射非許可論理）に設定されるようにリセット機

能付き主制御出力回路を含むハードウェアにより構成されている。
【２８３０】
ステップＳ１１３に続いて、主制御ＭＰＵは、特別図柄及び特別電動役物制御処理を行う（ステップＳ１１４）。この特別図柄及び特別電動役物制御処理では、主制御内蔵ハード乱数回路にラッチ信号を出力し、ラッチ信号が入力された際における主制御内蔵ハード乱数回路が抽出した乱数（乱数値）を、主制御ＭＰＵに内蔵されるハード乱数ラッチレジスタから取得し、この取得した乱数値を特別乱数としてセットする。そして特別乱数（つまり、主制御ＭＰＵに内蔵されるハード乱数ラッチレジスタから取得した乱数値）と、主制御内蔵ＲＯＭに予め記憶されている大当り判定値と、が一致するか否かを判定（大当り遊技状態を発生させるか否かを判定（「特別抽選」という。））したり、図柄乱数を更新するカウンタの値を取り出して主制御内蔵ＲＯＭに大当り種別や小当り種別に応じて予め記憶されている当り種別判定値のいずれと一致するか否かを判定（当り種別を決定）したりする。
【２８３１】
これらの判定結果（抽選結果）が第一始動口センサ３０５２によるものである場合には特図１同調演出関連の各種コマンドを作成する一方、その判定結果（抽選結果）が第二始動口センサ２４０１によるものである場合には特図２同調演出関連の各種コマンドを作成し、送信情報として送信情報記憶領域に記憶するとともに、特別図柄の変動表示パターンを上述した変動表示パターン用乱数に基づいて決定し、その決定した特別図柄の変動表示パターンに従って機能表示ユニット１４００の第一特別図柄表示器又は第二特別図柄表示器を点灯させるよう機能表示ユニット１４００の第一特別図柄表示器又は第二特別図柄表示器への点灯信号の出力を設定し、出力情報として上述した出力情報記憶領域に記憶する。また、発生させる遊技状態に応じて、例えば大当り遊技状態となるときには、大当り関連に区分される各種コマンド（大当りオープニングコマンド、大入賞口１開放Ｎ回目表示コマンド、大入賞口１閉鎖表示コマンド、大入賞口１カウント表示コマンド、大当りエンディングコマンド、及び大当り図柄表示コマンド）を作成し、送信情報として送信情報記憶領域に記憶したり、例えば、開閉部材を開閉動作させるよう第一アタッカソレノイド２４１８への駆動信号の出力を設定し、出力情報として出力情報記憶領域に記憶したり、第一大入賞口２００５が閉鎖状態から開放状態となる回数（ラウンド）が２回であるときには、機能表示ユニット１４００のラウンド表示器の２ラウンド表示ランプを点灯させるよう２ラウンド表示ランプへの点灯信号の出力を設定し、出力情報として出力情報記憶領域に記憶したり、ラウンドが１５回であるときには、機能表示ユニット１４００のラウンド表示器の１５ラウンド表示ランプを点灯させるよう１５ラウンド表示ランプへの点灯信号の出力を設定し、出力情報として出力情報記憶領域に記憶したり、時短発生の有無を所定の色で点灯させるよう機能表示ユニット１４００の状態表示器への点灯信号の出力を設定し、出力情報として出力情報記憶領域に記憶したりする。
【２８３２】
ステップＳ１１４に続いて、主制御ＭＰＵは、普通図柄及び普通電動役物制御処理を行う（ステップＳ１１６）。この普通図柄及び普通電動役物制御処理では、上述した入力情報記憶領域から入力情報を読み出してこの入力情報に基づいて普通入賞口入賞処理を行う。この普通入賞口入賞処理では、入力情報からゲートセンサ２８０１からの検出信号が入力ポートの入力端子に入力されていたか否かを判定する。この判定結果に基づいて、検出信号が入力ポートの入力端子に入力されていたときには、上述した普通図柄当り判定用乱数を更新するカウンタの値等を抽出して普通入賞口入賞情報として主制御内蔵ＲＡＭの普通入賞口入賞情報記憶領域に記憶する。
【２８３３】
この普通入賞口入賞情報記憶領域には、第０区画～第３区画（４つの区画）が設けられており、第０区画、第１区画、第２区画、そして第３区画の順に普通入賞口入賞情報が格納されるようになっている。例えば普通入賞口入賞情報が普通入賞口入賞情報記憶の第０区画～第２区画に格納されている場合、ゲートセンサ２８０１からの検出信号が入力ポート

の入力端子に入力されていたときには普通入賞口入賞情報を普通入賞口入賞情報記憶の第３区画に格納する。

【２８３４】

普通入賞口入賞情報は普通入賞口入賞情報記憶の第０区画に格納されているものが主制御内蔵ＲＡＭの作業領域にセットされる。この普通入賞口入賞情報がセットされると、普通入賞口入賞情報記憶の第１区画の普通入賞口入賞情報が普通入賞口入賞情報記憶の第０区画に、普通入賞口入賞情報記憶の第２区画の普通入賞口入賞情報が普通入賞口入賞情報記憶の第１区画に、普通入賞口入賞情報記憶の第３区画の普通入賞口入賞情報が普通入賞口入賞情報記憶の第２区画に、それぞれシフトされて普通入賞口入賞情報記憶の第３区画が空き領域となる。例えば、普通入賞口入賞情報記憶の第１区画～第２区画に普通入賞口入賞情報が記憶されている場合には、普通入賞口入賞情報記憶の第１区画の普通入賞口入賞情報が普通入賞口入賞情報記憶の第０区画に、普通入賞口入賞情報記憶の第２区画の普通入賞口入賞情報が普通入賞口入賞情報記憶の第１区画にそれぞれシフトされて普通入賞口入賞情報記憶の第２区画及び普通入賞口入賞情報記憶の第３区画が空き領域となる。ここで、普通入賞口入賞情報記憶の第１区画～第３区画に普通入賞口入賞情報が格納されていると、格納された普通入賞口入賞情報の総数を保留球として機能表示ユニット１４００の普通保留表示器を点灯させるよう、上述した普通入賞口入賞情報に基づいて機能表示ユニット１４００の普通保留表示器の点灯信号の出力を設定し、出力情報として上述した出力情報記憶領域に記憶する。

【２８３５】

普通入賞口入賞処理に続いて、主制御内蔵ＲＡＭの作業領域にセットされた普通入賞口入賞情報を読み出し、この読み出した普通入賞口入賞情報から普通図柄当り判定用乱数の値を取り出して主制御内蔵ＲＯＭに予め記憶されている普通図柄当り判定値と一致するか否かを判定する（「普通抽選」という）。この判定結果（普通抽選による抽選結果）により可動片を開閉動作させるか否かが決定する。この決定で開閉動作をさせる場合には、可動片が開動作した状態となることで第二始動口２００４へ遊技球が受入可能となる遊技状態となって遊技者に有利な遊技状態なる。この決定と対応する普通図柄の変動表示パターンを上述した普通図柄変動表示パターン用乱数に基づいて決定し、普図同調演出関連に区分される各種コマンドを作成し、送信情報として上述した送信情報記憶領域に記憶するとともに、その決定した普通図柄の変動表示パターンに従って機能表示ユニット１４００の普通図柄表示器を点灯させるよう機能表示ユニット１４００の普通図柄表示器への点灯信号の出力を設定し、出力情報として上述した出力情報記憶領域に記憶する。

【２８３６】

また、例えばその取り出した普通図柄当り判定用乱数の値が主制御内蔵ＲＯＭに予め記憶されている普通図柄当り判定値と一致しているときには、普通電役演出関連の各種コマンドを作成し、送信情報として送信情報記憶領域に記憶するとともに、可動片を開閉動作させるよう始動口ソレノイド２４１５への駆動信号の出力を設定し、出力情報として上述した出力情報記憶領域に記憶する一方、その取り出した普通図柄当り判定用乱数の値が主制御内蔵ＲＯＭに予め記憶されている普通図柄当り判定値と一致していないときには、上述した普通図柄変動表示パターン用乱数に基づいて普通図柄変動表示パターンを決定し、普図同調演出関連に区分される各種コマンドを作成し、送信情報として上述した送信情報記憶領域に記憶するとともに、その決定した普通図柄変動表示パターンに従って機能表示ユニット１４００の普通図柄表示器を点灯させるよう機能表示ユニット１４００の普通図柄表示器への点灯信号の出力を設定し、出力情報として上述した出力情報記憶領域に記憶する。なお、本例では普通抽選の当選確率（普通当りとなる確率）は２分の１となっている。

【２８３７】

ステップＳ１１６に続いて、主制御ＭＰＵは、設定値確認表示処理を行う（ステップＳ１１７）。この設定値確認表示処理では、その詳細な説明を後述するが、上述した入力情報記憶領域から入力情報を読み出してこの入力情報に基づいて、外枠２に対する本体枠４の開放を検出するための本体枠開放スイッチ４ｂからの検出信号と、設定キースイッチ１３

１１ａの設定キーシリンダの差し込み口に設定キーが差し込まれ、設定キーシリンダが初期位置（つまり、設定キースイッチ１３１１ａをＯＦＦする設定キーシリンダの回転位置）から時計方向へ向かって６０度回動操作されて第１のＯＮ操作されることで設定キースイッチ１３１１ａが設定キーＯＮされ、設定キースイッチ１３１１ａからの設定キーＯＮの信号と、により、外枠２に対して本体枠４が開放されていると判定し、かつ、設定キーＯＮの信号により設定キースイッチ１３１１ａが設定キーＯＮされていると判定したことによって、予め定めた設定値表示許可条件が成立していると判定する一方、本体枠開放スイッチ４ｂからの検出信号により外枠２に対して本体枠４が開放されていないと判定し、及び／又は、設定キーＯＮの信号により設定キースイッチ１３１１ａが設定キーＯＮされていないと判定したことによって、予め定めた設定値表示許可条件が成立していないと判定する。設定値確認表示処理では、設定値表示許可条件が成立しているときには、主制御内蔵ＲＡＭの特定領域における設定値専用領域に格納されている設定値を設定表示器１３１０ｇに表示するための点灯信号の出力を設定し、出力情報として出力情報記憶領域に記憶する一方、設定値表示許可条件が成立しているときには、そのまま終了し、本ルーチンへ戻る。

【２８３８】

ステップＳ１１７に続いて、主制御ＭＰＵは、ポート出力処理を行う（ステップＳ１１８）。このポート出力処理では、主制御ＭＰＵの各種出力ポートの出力端子から、上述した出力情報記憶領域から出力情報を読み出してこの出力情報に基づいて各種信号を出力する。この主制御ＭＰＵは、例えば、出力情報に基づいて主制御ＭＰＵの所定の出力ポートの出力端子から、払出制御基板６３３からの各種コマンドを正常に受信完了したときには主払ＡＣＫ信号を払出制御基板６３３に出力したり、大当り遊技状態であるときには第一大入賞口２００５の開閉部材の開閉動作を行う第一アタッカソレノイド２４１８に駆動信号を出力したり、第二始動口２００４を開閉させるための可動片の開閉動作を行う始動口ソレノイド２４１５に駆動信号を出力したりするほかに、１５ラウンド大当り情報出力信号、２ラウンド大当り情報出力信号、小当り情報出力信号、特別図柄表示情報出力信号、普通図柄表示情報出力信号、時短中情報出力信号、始動口入賞情報出力信号等の遊技に関する各種情報（遊技情報）信号を払出制御基板６３３に出力したり、発射許可論理又は発射停止論理（発射非許可論理）に設定された発射許可信号を払出制御基板６３３に出力したり、アウト口２０１０、第一サブアウト口２０１１及び第二サブアウト口２０１２により回収された遊技球の球数の計数結果（総数）を表示するベースモニタに表示信号を出力したり、主制御内蔵ＲＡＭの特定領域における設定値専用領域に格納されている設定値を設定表示器１３１０ｇに表示するための点灯信号を出力したりする。

【２８３９】

ステップＳ１１８に続いて、主制御ＭＰＵは、周辺制御基板コマンド送信処理を行う（ステップＳ１２０）。この周辺制御基板コマンド送信処理では、上述した送信情報記憶領域から送信情報を読み出してこの送信情報を主周シリアルデータとして周辺制御基板１５１０に送信する。この送信情報には、本ルーチンである主制御側タイマ割り込み処理で作成した、特図１同調演出関連に区分される各種コマンド、特図２同調演出関連に区分される各種コマンド、大当り関連に区分される各種コマンド（例えば、第一大入賞口２００５に入球した遊技球を検出した際に第一大入賞口センサ２４０２からの検出信号に基づいて大入賞口カウントコマンドに相当する大入賞口１カウント表示コマンド）、電源投入に区分される各種コマンド、普図同調演出関連に区分される各種コマンド、普通電役演出関連に区分される各種コマンド、報知表示に区分される各種コマンド、状態表示に区分される各種コマンド、テスト関連に区分される各種コマンド及びその他に区分される各種コマンド（例えば、主制御基板１３１０が遊技盤５に設けられる各種入賞口に入球した遊技球に基づいて賞球として払い出す予定の遊技球の球数が１０球に達するごとにその旨をメイン賞球数情報としてメイン賞球数情報出力信号を、外部端子板５５８を介して、ホールコンピュータへ伝えることを指示するメイン賞球数情報出力コマンドなど）、及び特定履歴に区分される各種コマンド（例えば、アウト口２０１０、第一サブアウト口２０１１及び第二

サブアウト口２０１２で回収される遊技球の球数が１０球に達するごとにその旨を伝える球回収コマンド、設定値が設定変更された旨を伝える設定変更コマンド、主制御内蔵ＲＡＭに格納されている内容に異常がある（又は信用することができないものである）旨を伝えるエラー表示コマンド、主制御内蔵ＲＡＭの特定領域における後述する設定値専用領域に格納されている設定値を確認する旨を伝える設定キーのＯＮ操作コマンド等）が記憶されている。主周シリアルデータは、１パケットが３バイトに構成されている。具体的には、主周シリアルデータは、１バイト（８ビット）の記憶容量を有するコマンドの種類を示すステータスと、１バイト（８ビット）の記憶容量を有する演出のバリエーションを示すモードと、ステータス及びモードを数値とみなしてその合計を算出したサム値と、から構成されており、このサム値は、送信時に作成されている。

【２８４０】

この周辺制御基板コマンド送信処理では、主周シリアルデータとして各種コマンドを構成する、ステータス、モード、そしてサム値という順番で周辺制御基板１５１０に送信する。主制御ＭＰＵの電源端子であるＶＤＤ端子には、上述したように、停電又は瞬停が発生した場合に、電解コンデンサＭＣ２に充電された電荷が直流＋５Ｖとして印加されるようになっているため、主制御ＭＰＵに内蔵される主周シリアル送信ポートは、少なくとも、その送信バッファレジスタにセットされたコマンドをシリアル管理部により送信シフトレジスタに転送して送信シフトレジスタから主周シリアルデータとして送信完了することができるようになっている。パチンコ機１への電源投入するときや、電源投入後に停電又は瞬停が発生して電力が回復する復電時には、図２７５に示した主制御側電源投入時処理におけるステップＳ５０の電源投入時に送信するコマンドの予約設定において、復電した旨を伝えるために、電源投入に区分される電源投入時状態コマンド、電源投入時主制御復帰先コマンド、そして電源投入時メイン賞球数情報出力判定用カウンタ通知コマンドを作成して送信情報として主制御内蔵ＲＡＭの送信情報記憶領域に記憶しているため、主周シリアルデータとして、電源投入時状態コマンドを構成する、ステータス、モード、そしてサム値という順番で周辺制御基板１５１０に送信し、続いて電源投入時主制御復帰先コマンドを構成する、ステータス、モード、そしてサム値という順番で周辺制御基板１５１０に送信し、続いて電源投入時メイン賞球数情報出力判定用カウンタ通知コマンドを構成する、ステータス、モード、そしてサム値という順番で周辺制御基板１５１０に送信する。なお、主制御内蔵ＲＡＭの送信情報記憶領域には、主制御側電源投入時処理におけるステップＳ３４の主制御内蔵ＲＡＭの作業領域の設定において、遊技バックアップ情報から各種情報を読み出してこの各種情報に応じた各種コマンドが記憶されている場合もある。このような場合には、まず各種情報のうち遊技情報に応じた各種コマンドの送信完了後に、続いて電源投入時状態コマンド、電源投入時主制御復帰先コマンド、そして電源投入時メイン賞球数情報出力判定用カウンタ通知コマンドが送信されることとなる。

【２８４１】

なお、アウト口２０１０、第一サブアウト口２０１１及び第二サブアウト口２０１２で回収される遊技球の球数が１０球に達するごとにその旨を伝える球回収コマンドを周辺制御基板１５１０へ送信すると、周辺制御基板１５１０における周辺制御ＩＣ１５１０ａのＣＰＵは、受信した球回収コマンドごとに、アウト口２０１０、第一サブアウト口２０１１及び第二サブアウト口２０１２で回収される遊技球の球数を計数して、図示しないリアルタイムクロックＩＣの内蔵ＲＡＭに記憶保持される球回収情報（計数した値（つまりアウト口２０１０、第一サブアウト口２０１１及び第二サブアウト口２０１２で回収される遊技球の球数の総数）と更新した日時とを対応付けた情報）を更新する。なお、球回収コマンドを受信できずに、遊技ホールの営業時間が終了してパチンコ機１が電源遮断されると、結果的に、最後に計数した値（つまりアウト口２０１０、第一サブアウト口２０１１及び第二サブアウト口２０１２で回収される遊技球の球数の総数）と更新した日時とを対応付けた球回収情報が図示しないリアルタイムクロックＩＣの内蔵ＲＡＭに記憶保持される。遊技ホールの営業を開始するときにパチンコ機１が電源投入されると、周辺制御基板１５１０における周辺制御ＩＣ１５１０ａのＣＰＵは、図示しないリアルタイムクロックＩ

Ｃの内蔵ＲＡＭに記憶保持される球回収情報を、営業開始した日から再び球回収情報を作成するようになっており、図示しないリアルタイムクロックＩＣの内蔵ＲＡＭに球回収情報が球回収履歴情報として記憶保持されるようになっている。なお、図示しないリアルタイムクロックＩＣの内蔵ＲＡＭに球回収情報として記憶保持される計数した値は、その日に値０（ゼロ）から計数した値を用いてもよいし、その日に値０（ゼロ）から計数した値とこれまでの計数した値の総和との両方を用いてもよい。

【２８４２】

ステップＳ１２０に続いて、主制御ＭＰＵは、主制御内蔵ＷＤＴのクリアを行い（ステップＳ１２２）、このルーチンを終了する。ステップＳ１２２の主制御内蔵ＷＤＴのクリアは、主制御ＭＰＵに内蔵されるＷＤＴクリアレジスタにタイマクリア設定値をセットすることにより行う。これにより、主制御内蔵ＷＤＴによる計時がクリアされる。そして、主制御内蔵ＷＤＴによる計時が再び開始されることによって、主制御内蔵ＷＤＴにより主制御ＭＰＵが強制的にリセットされずに済む。

【２８４３】

なお、主制御基板１３１０は、上述したように、遊技の進行を行っている際に、パチンコ機１への電源が遮断される前に、遊技の進行による遊技情報を記憶するための上述したバックアップ処理を実行して完了することができるとともに、復電時において、主制御基板１３１０による遊技の進行の復帰先として、バックアップ処理を実行した遊技情報に基づいて、パチンコ機１への電源が遮断される際における、本ルーチンにおけるステップＳ１１８のポート出力処理による電気的駆動源である始動口ソレノイド２４１５や第一アタッカソレノイド２４１８の駆動状態を指示する電源投入時主制御復帰先コマンドを周辺制御基板１５１０へ出力することができるようになっている。つまり、主制御基板１３１０は、図２７５に示した主制御側電源投入時処理におけるステップＳ５０の電源投入時に送信するコマンドの予約設定において、図２７４に示した同処理におけるステップＳ３４の主制御内蔵ＲＡＭの作業領域の設定において主制御内蔵ＲＡＭの作業領域にセットされた復電時情報に基づいて、電源投入（復電）した旨を伝えるために、電源投入に区分される電源投入時状態コマンド、電源投入時主制御復帰先コマンド、そして電源投入時メイン賞球数情報出力判定用カウンタ通知コマンドを作成して送信情報として主制御内蔵ＲＡＭの送信情報記憶領域に記憶し、本ルーチンにおけるステップＳ１２０の周辺制御基板コマンド送信処理において、主周シリアルデータとして、電源投入時状態コマンドを構成する、ステータス、モード、そしてサム値という順番で周辺制御基板１５１０に送信し、続いて電源投入時主制御復帰先コマンドを構成する、ステータス、モード、そしてサム値という順番で周辺制御基板１５１０に送信し、続いて電源投入時メイン賞球数情報出力判定用カウンタ通知コマンドを構成する、ステータス、モード、そしてサム値という順番で周辺制御基板１５１０に送信する。

【２８４４】

このため、周辺制御基板１５１０は、主制御基板１３１０からの電源投入時主制御復帰先コマンドに基づいて、復電時における主制御基板１３１０による遊技の進行の復帰先を演出表示装置１６００の表示領域において演出表示することができる。これにより、遊技者が遊技を行っている際に、瞬停や停電が発生して、その後に復電するときに、瞬停又は停電直前における遊技状態に、復電後、速やかに復帰することができるとともに、主制御基板１３１０による遊技の進行の復帰先を演出表示装置１６００の表示領域において演出表示して報知することができるため、パチンコ機１のシステムがかたまった状態、いわゆるフリーズした状態に遊技者に見えて故障したと勘違いされることを防止することができる。したがって、瞬停又は停電直前における遊技状態に、復電後、速やかに復帰することにより、遊技者に故障したと勘違いされることを防止することができる。

【２８４５】

また、主制御基板１３１０の製造ラインの検査工程である主制御基板検査工程において、検査のために製造してから最初に主制御基板１３１０が電源投入されると、上述したように、図２７４に示した主制御側電源投入時処理におけるステップＳ３８で主制御内蔵ＲＡ

Ｍの全領域のうち特定領域を除いて必ずクリアすることなる。これにより、図２７５に示した同処理におけるステップＳ５０の電源投入時に送信するコマンドの予約設定において、電源投入時に送信するコマンドの予約設定が行われると、電源投入に区分される電源投入時状態コマンド、電源投入時主制御復帰先コマンド、そして電源投入時メイン賞球数情報出力判定用カウンタ通知コマンドを作成して送信情報として主制御内蔵ＲＡＭの送信情報記憶領域に記憶することにより、電源投入時状態コマンド、電源投入時主制御復帰先コマンド、そして電源投入時メイン賞球数情報出力判定用カウンタ通知コマンドという３つのコマンドのみが送信情報として主制御内蔵ＲＡＭの送信情報記憶領域に記憶される状態となり、本ルーチンにおけるステップＳ１２０の周辺制御基板コマンド送信処理において、主周シリアルデータとして、電源投入時状態コマンドを構成する、ステータス、モード、そしてサム値という順番で主制御基板検査工程の検査装置に送信し、続いて電源投入時主制御復帰先コマンドを構成する、ステータス、モード、そしてサム値という順番で主制御基板検査工程の検査装置に送信し、続いて電源投入時メイン賞球数情報出力判定用カウンタ通知コマンドを構成する、ステータス、モード、そしてサム値という順番で主制御基板検査工程の検査装置に送信する。主制御基板検査工程の検査装置は、主制御基板１３１０から受信した電源投入時状態コマンドに含まれるパチンコ機の機種コードを示す情報に基づいて、つまり、パチンコ機の機種コードを示す情報を構成する、上述した、機種タイプを示すマックスタイプ、ミドルタイプ、及び甘デジタイプのうち、いずれのタイプであるかを特定するためのシリーズコードと、作品の版権を特定するための版権コードと、遊技仕様（例えば、確率変動が生ずると、次回大当り遊技状態が発生するまでその状態が継続されるという遊技仕様のほかに、特別図柄の変動回数が限定された状態で確率変動が生ずるという遊技仕様（ＳＴ機）など）を特定するための遊技仕様コードと、に基づいて、主制御基板検査工程の検査モニタに詳細な機種情報を表示するようになっている。

【２８４６】

［設定変更処理］

次に、設定変更処理について説明する。この設定変更処理は、図２７４に示した主制御側電源投入時処理におけるステップＳ３７において行われる処理である。

【２８４７】

設定変更処理が開始されると、主制御ＭＰＵは、図２７７に示すように、現状の設置値を取得する（ステップＳ２００）。ここでは、主制御ＭＰＵは、主制御内蔵ＲＡＭの特定領域における設定値専用領域に格納されている設定値を取得する。この設定値を取得するときには、読み出してもよいし、取り出してもよいが、設定値を取り出す場合には、取り出した設定値を所定領域にセットする。

【２８４８】

ステップＳ２００に続いて、主制御ＭＰＵは、チェックサムの算出を行う（ステップＳ２０２）。このチェックサムは、主制御内蔵ＲＡＭに記憶されている各種情報を数値とみなしてその合計を算出するものであり、図２７４に示した主制御側電源投入時処理におけるステップＳ２８において行われるチェックサムの算出と同一の処理である。

【２８４９】

ステップＳ２０２に続いて、主制御ＭＰＵは、算出したチェックサムの値（サム値）が図２７５に示した主制御側電源投入時処理における主制御側電源断時処理（電源断時）において記憶されているチェックサムの値（サム値）と一致しているか否かを判定する（ステップＳ２０４）。ステップＳ２０４において、主制御ＭＰＵは、一致していると判定したときには、バックアップフラグＢＫ－ＦＬＧが値１であるか否かを判定する（ステップＳ２０６）。ステップＳ２０４の判定、及びステップＳ２０６の判定は、図２７４に示した主制御側電源投入時処理におけるステップＳ３０の判定、及びステップＳ３２の判定とそれぞれ同一の判定である。バックアップフラグＢＫ－ＦＬＧは、上述したように、各種情報、チェックサムの値（サム値）及びバックアップフラグＢＫ－ＦＬＧの値等の遊技バックアップ情報を後述する主制御側電源断時処理において主制御内蔵ＲＡＭに記憶保持したか否かを示すフラグであり、主制御側電源断時処理を正常に終了したとき値１、主制御側

電源断時処理を正常に終了していないとき値０にそれぞれ設定される。
【２８５０】
ステップＳ２０４の判定において、主制御ＭＰＵは、チェックサムの値（サム値）が一致していないと判定したときには、又はステップＳ２０６の判定において、主制御ＭＰＵは、バックアップフラグＢＫ－ＦＬＧが値１でない（値０である）とき、つまり主制御側電源断時処理を正常に終了していないと判定したときには、ステップＳ２００で取得した設定値が正常範囲であるか否かを判定する（ステップＳ２０８）。ここで、「正常範囲」とは、設定値が設定変更することができる値であり、本実施形態では、設定値１、設定値２、設定値３、設定値４、設定値５、及び設定値６までの値に予め設定されている。ステップＳ２０８の判定へフローチャートがすすむことにより、主制御内蔵ＲＡＭの内容に異常があると判定した場合、又は、電源遮断時に主制御側電源断時処理が正常に終了していないと判定した場合となっているため、主制御内蔵ＲＡＭに格納されている内容に異常がある（又は信用することができないものである）。そこで、ステップＳ２０８の判定において、主制御ＭＰＵは、ステップＳ２００で取得した、主制御内蔵ＲＡＭの特定領域における設定値専用領域に格納されている設定値が正常範囲である設定値１～設定値６のうちいずれかの値となっているか否かを判定し、正常範囲であると判定したときにはその設定値をそのまま使用する。
【２８５１】
一方、ステップＳ２０８の判定において、主制御ＭＰＵは、正常範囲でないと判定したときにはステップＳ２００で取得した設定値に対して初期値である設定値１を設定する（ステップＳ２１０）。なお、ステップＳ２０８の判定では、ステップＳ２００で取得した、主制御内蔵ＲＡＭの特定領域における設定値専用領域に格納されている設定値が正常範囲である設定値１～設定値６のうちいずれかの値となっているか否かを判定しているが、このステップＳ２０８の判定を行わずに、ステップＳ２０４の判定において、主制御ＭＰＵは、チェックサムの値（サム値）が一致していないと判定したときには、又はステップＳ２０６の判定において、主制御ＭＰＵは、バックアップフラグＢＫ－ＦＬＧが値１でない（値０である）とき、つまり主制御側電源断時処理を正常に終了していないと判定したときには、ステップＳ２１０の処理にすすみ、ステップＳ２００で取得した設定値に対して初期値である設定値１を設定するようにしてもよい。
【２８５２】
ステップＳ２０６の判定において、主制御ＭＰＵは、バックアップフラグＢＫ－ＦＬＧが値１であるとき、つまり主制御側電源断時処理を正常に終了したと判定したときには、又はステップＳ２０８の判定において、主制御ＭＰＵは、正常範囲であると判定したときには、又はステップＳ２１０に続いて、主制御ＭＰＵは、設定変更許可ランプ１３１０ｚに点灯信号を出力して設定変更許可ランプ１３１０ｚを点灯する（ステップＳ２１２）。
【２８５３】
ステップＳ２１２に続いて、主制御ＭＰＵは、設定値を設定表示器１３１０ｇに表示するための点灯信号を設定表示器１３１０ｇに出力して設定表示器１３１０ｇに対して設定値を表示する（ステップＳ２１４）。
【２８５４】
ステップＳ２１４に続いて、主制御ＭＰＵは、設定切替ボタンが操作されているか否かを判定する（ステップＳ２１６）。この判定は、設定切替ボタンからの検出信号を読み取り、設定切替ボタンからの検出信号が入力されているか否かを判定する。主制御ＭＰＵは、設定切替ボタンからの検出信号が入力されているときには設定切替ボタンが操作されていると判定する一方、設定切替ボタンからの検出信号が入力されていないときには設定切替ボタンが操作されていないと判定する。
【２８５５】
ステップＳ２１６の判定において、主制御ＭＰＵは、設定切替ボタンが操作されていると判定したときには、設定値に値１を加算する（インクリメントする）演算を行って更新する（ステップＳ２１８）。このとき、ステップＳ２００で設定値を取得するときにおいて

、主制御内蔵ＲＡＭの特定領域における設定値専用領域に格納されている設定値を取り出して所定領域にセットしている場合には、この所定領域にセットした設定値に値１を加算する（インクリメントする）こととなる。

【２８５６】

ステップＳ２１８に続いて、主制御ＭＰＵは、ステップＳ２１６で更新した設定値を設定表示器１３１０ｇに表示するための点灯信号を設定表示器１３１０ｇに出力して設定表示器１３１０ｇに対して更新した設定値を表示する（ステップＳ２２０）。

【２８５７】

ステップＳ２２０に続いて、又はステップＳ２１６の判定において、主制御ＭＰＵは、設定切替ボタンが操作されていないと判定したときには、主制御ＭＰＵは、決定キーが操作されたか否かを判定する（ステップＳ２２２）。この判定では、主制御ＭＰＵは、設定キースイッチ１３１１ａの設定キーシリンダの差し込み口に設定キーが差し込まれ、設定キースイッチ１３１１ａを設定キーＯＮした設定キーシリンダの回転位置から反時計方向へ向かって設定キーシリンダが１２０度回動操作されて（つまり、設定キースイッチ１３１１ａを設定キーＯＮした設定キーシリンダの回転位置から元の位置である初期位置（つまり、設定キースイッチ１３１１ａをＯＦＦする設定キーシリンダの回転位置）へ戻すように反時計方向へ向かって６０度回転操作されてＯＦＦ操作し、さらに反時計方向へ向かって６０度回転操作されて）第２のＯＮ操作することによりことで設定キースイッチ１３１１ａが決定キーＯＮされ、設定キースイッチ１３１１ａからの決定キーＯＮの信号に基づいて行い、設定キースイッチ１３１１ａからの決定キーＯＮの信号が入力されているときには決定キーが操作されたと判定する一方、設定キースイッチ１３１１ａからの決定キーＯＮの信号が入力されていないときには決定キーが操作されていないと判定する。

【２８５８】

ステップＳ２２２の判定において、主制御ＭＰＵは、決定キーが操作されていないと判定したときには、ステップＳ２１６の判定に再び戻り、設定切替ボタンが操作されているか否かを判定する。ステップＳ２１６の判定において、主制御ＭＰＵは、設定切替ボタンが操作されていると判定したときには、ステップＳ２１８、そしてステップＳ２２０の処理を再び行い、ステップＳ２２２の判定を行い、決定キーが操作されていないと判定したときには、ステップＳ２１６の判定に再び戻り、決定キーが操作されるまで、設定切替ボタンが操作されると、操作されるごとに設定値が値１ずつ加算され更新されて設定表示器１３１０ｇに表示され、設定切替ボタンが操作されないと、直前に設定切替ボタンが操作され更新された設定値が設定表示器１３１０ｇに表示される。なお、ステップＳ２２２の判定で決定キーが操作されたと判定されるまでに、仮に停電や瞬停が発生して復電しても、停電や瞬停が発生する直前に更新した設定値が主制御内蔵ＲＡＭの特定領域における設定値専用領域に格納されないため、破棄され、主制御内蔵ＲＡＭの特定領域における設定値専用領域に格納される設定値が変更されない。

【２８５９】

一方、ステップＳ２２２の判定において、主制御ＭＰＵは、決定キーが操作されたと判定したときには、主制御内蔵ＲＡＭの特定領域における設定値専用領域に更新した設定値を格納する（ステップＳ２２４）。このとき、ステップＳ２００で設定値を取得するときにおいて、主制御内蔵ＲＡＭの特定領域における設定値専用領域に格納されている設定値を取り出して所定領域にセットしている場合には、この所定領域にセットした設定値に対して更新されるため、この更新された設定値を、主制御内蔵ＲＡＭの特定領域における設定値専用領域へ戻すこととなる。このステップＳ２２４の処理完了の後に、仮に停電や瞬停が発生して復電しても、停電や瞬停が発生する前に決定キーが操作されたときにおける更新した設定値が主制御内蔵ＲＡＭの特定領域における設定値専用領域に格納されている。

【２８６０】

ステップＳ２２４に続いて、主制御ＭＰＵは、設定キーのＯＦＦ操作があるか否かを判定する（ステップＳ２２６）。この判定では、主制御ＭＰＵは、設定キースイッチ１３１１ａの設定キーシリンダの差し込み口に設定キーが差し込まれ、設定キースイッチ１３１１

ａを決定キーＯＮした設定キーシリンダの回転位置から初期位置（つまり、設定キースイッチ１３１１ａをＯＦＦする設定キーシリンダの回転位置）へ戻すように設定キーシリンダが時計方向へ向かって６０度回転操作されてしてＯＦＦ操作することで設定キースイッチ１３１１ａがＯＦＦされ、設定キースイッチ１３１１ａからのＯＦＦの信号に基づいて行い、設定キースイッチ１３１１ａからのＯＦＦの信号が入力されているときには設定キーがＯＦＦ操作されたと判定する一方、設定キースイッチ１３１１ａからのＯＦＦの信号が入力されていないときには設定キーがＯＦＦ操作されていないと判定する。

【２８６１】

ステップＳ２２６の判定において、主制御ＭＰＵは、設定キーがＯＦＦ操作されていないと判定したときには、ステップＳ２２６の判定に再び戻り、設定キーがＯＦＦ操作されるまで、ステップＳ２２６の判定を繰り返し行う。

【２８６２】

一方、ステップＳ２２６の判定において、主制御ＭＰＵは、設定キーがＯＦＦ操作されたと判定したときには、更新した設定値を設定表示器１３１０ｇに表示するための点灯信号の設定表示器１３１０ｇへの出力を停止して設定表示器１３１０ｇに対して更新した設定値を非表示とする（ステップＳ２２８）。

【２８６３】

ステップＳ２２８に続いて、主制御ＭＰＵは、設定変更許可ランプ１３１０ｚへの点灯信号を停止して設定変更許可ランプ１３１０ｚを消灯する（ステップＳ２３０）。

【２８６４】

ステップＳ２３０に続いて、主制御ＭＰＵは、設定変更許可フラグＣＳ－ＦＬＧに値０をセットする（ステップＳ２３２）。この設定変更許可フラグＣＳ－ＦＬＧは、上述したように、主制御内蔵ＲＡＭの特定領域における設定値専用領域に格納されている現状の設定値（設定キースイッチ１３１１ａの設定キーシリンダが第１のＯＮ操作された時点における設定値１～設定値６のうち設定されている値）の設定変更を行うことを許可するか否かを示すフラグであり、設定値の設定変更を行うことを許可するとき値１、設定値の設定変更を行うことを許可しないとき値０にそれぞれ設定される。ステップＳ２３２の処理では、設定変更許可フラグＣＳ－ＦＬＧに値０をセットすることにより、これより以後、設定値の設定変更を行うことを許可しない。

【２８６５】

ステップＳ２３２に続いて、主制御ＭＰＵは、ステップＳ２２４で格納した設定値が正常範囲であるか否かを判定する（ステップＳ２３３）。「正常範囲」とは、ステップＳ２０８の判定のものと同一であり、上述したように、本実施形態では、設定値１、設定値２、設定値３、設定値４、設定値５、及び設定値６までの値に予め設定されている。ステップＳ２３３の判定において、主制御ＭＰＵは、設定値が異常な値となっていないか再確認するために、ステップＳ２２４で主制御内蔵ＲＡＭの特定領域における設定値専用領域に格納した設定値が正常範囲である設定値１～設定値６のうちいずれかの値となっているか否かを判定し、正常範囲であると判定したときにはその設定値をそのまま使用する。

【２８６６】

ステップＳ２３３の判定において、主制御ＭＰＵは、正常範囲であると判定したときにはシリアル通信初期設定を行い（ステップＳ２３４）、続いて、設定変更コマンドを作成して送信情報を設定し（ステップＳ２３６）、続いて、ステップＳ２３６で設定した送信情報（設定変更コマンド）を主周シリアルデータとして周辺制御基板１５１０に送信する周辺制御基板送信コマンド送信処理を行い（ステップＳ２３８）、本ルーチンを終了する。ステップＳ２３４のシリアル通信初期設定は、図２７５に示した主制御側電源投入時処理におけるステップＳ４４のシリアル通信初期設定と同一の処理であり、ステップＳ２３８の周辺制御基板送信コマンド送信処理は、図２７６に示した主制御側タイマ割り込み処理におけるステップＳ１２０の周辺制御基板送信コマンド送信処理と同一の処理である。ここで、ステップＳ２３４のシリアル通信初期設では、ステップＳ４４のシリアル通信初期設より先に行って、ステップＳ２３８の周辺制御基板送信コマンド送信処理においてステ

ップＳ２３６で設定した送信情報（設定変更コマンド）を主周シリアルデータとして周辺制御基板１５１０に送信しているが、これは、図２７５に示した主制御側電源投入時処理におけるステップＳ５０において電源投入時に送信するコマンドの予約設定される前に、優先して、設定値が設定変更された旨を設定変更コマンドにより周辺制御基板１５１０へ伝えるためである。なお、設定変更コマンドは、設定変更された設定値と設定値格納完了とを伝えるコマンドである。周辺制御基板１５１０における周辺制御ＩＣ１５１０ａのＣＰＵは、設定変更コマンドを受信すると、図示しないリアルタイムクロックＩＣの内蔵ＲＡＭに記憶保持される設定値履歴情報（設定値と日時とを対応付けた情報）を更新する。

【２８６７】

一方、ステップＳ２３３の判定において、主制御ＭＰＵは、正常範囲でないと判定したときにはエラー表示処理を行い（ステップＳ２４０）、無限ループに入る。この無限ループにより、エラー表示処理が終了した状態を維持することとなり、遊技を進行することが全くできない状態となり、パチンコ機１の電源を遮断して、再び電源を投入することとなる。このエラー表示処理では、その詳細な説明を後述するが、主制御内蔵ＲＡＭの内容に異常があると判定した場合、又は、電源遮断時に主制御側電源断時処理が正常に終了していないと判定した場合には、主制御内蔵ＲＡＭに格納されている内容に異常がある（又は信用することができないものである）として、その旨を伝えるエラー表示を行う。本実施形態では、主制御ＭＰＵがエラー表示として英字Ｅを設定表示器１３１０ｇに表示するようになっている。

【２８６８】

［設定値確認表示処理］

次に、設定値確認表示処理について説明する。この設定値確認表示処理は、図２７６に示した主制御側タイマ割り込み処理におけるステップＳ１１７において行われる処理である。

【２８６９】

設定値確認表示処理が開始されると、主制御ＭＰＵは、図２７８に示すように、確認表示フラグＤＣＳ－ＦＬＧが値０であるか否かを判定する（ステップＳ３５０）。この確認表示フラグＤＣＳ－ＦＬＧは、主制御内蔵ＲＡＭの特定領域における設定値専用領域に格納されている設定値を確認するためのフラグであり、設定値を確認表示しているとき値１、設定値を確認表示していないとき値０にそれぞれ設定される。

【２８７０】

ステップＳ３５０の判定において、主制御ＭＰＵは、確認表示フラグＤＣＳ－ＦＬＧが値０であるとき、つまり設定値を確認表示していないときには、本体枠４の開放及び設定キーのＯＮ操作があるか否かを判定する（ステップＳ３５２）。この判定では、主制御ＭＰＵは、上述した入力情報記憶領域から入力情報を読み出してこの入力情報に基づいて、外枠２に対する本体枠４の開放を検出するための本体枠開放スイッチ４ｂからの検出信号と、設定キースイッチ１３１１ａの設定キーシリンダの差し込み口に設定キーが差し込まれ、設定キーシリンダが初期位置（つまり、設定キースイッチ１３１１ａをＯＦＦする設定キーシリンダの回転位置）から時計方向へ向かって６０度回動操作されて第１のＯＮ操作されることで設定キースイッチ１３１１ａが設定キーＯＮされ、設定キースイッチ１３１１ａからの設定キーＯＮの信号と、により、外枠２に対して本体枠４が開放されていると判定し、かつ、設定キーＯＮの信号により設定キースイッチ１３１１ａが設定キーＯＮされていると判定したことによって、予め定めた設定値表示許可条件が成立していると判定する一方、本体枠開放スイッチ４ｂからの検出信号により外枠２に対して本体枠４が開放されていないと判定し、及び／又は、設定キーＯＮの信号により設定キースイッチ１３１１ａが設定キーＯＮされていないと判定したことによって、予め定めた設定値表示許可条件が成立していないと判定する。

【２８７１】

ステップＳ３５２の判定において、主制御ＭＰＵは、予め定めた設定値表示許可条件が成立していないと判定したときには、そのまま本ルーチンを終了する一方、予め定めた設定値表示許可条件が成立していると判定したときには、設定値を確認表示するとして確認表

示フラグＤＣＳ－ＦＬＧに値１をセットし（ステップＳ３５４）、続いて、現状の設置値を取得する（ステップＳ３５６）。ここでは、主制御ＭＰＵは、主制御内蔵ＲＡＭの特定領域における設定値専用領域に格納されている設定値を取得する。

【２８７２】

ステップＳ３５６に続いて、主制御ＭＰＵは、ステップＳ３５６で取得した設定値が正常範囲であるか否かを判定する（ステップＳ３５７）。「正常範囲」とは、図１７８の設定変更処理におけるステップＳ２０８の判定、及びステップＳ２３３の判定のものと同一であり、上述したように、本実施形態では、設定値１、設定値２、設定値３、設定値４、設定値５、及び設定値６までの値に予め設定されている。ステップＳ３５７の判定において、主制御ＭＰＵは、設定値が異常な値となっていないか再確認するために、ステップＳ３５６で取得した設定値（つまり、主制御内蔵ＲＡＭの特定領域における設定値専用領域に格納されている設定値）が正常範囲である設定値１～設定値６のうちいずれかの値となっているか否かを判定し、正常範囲であると判定したときにはその設定値をそのまま使用する。

【２８７３】

ステップＳ３５７の判定において、主制御ＭＰＵは、正常範囲であると判定したときにはステップＳ３５６で取得した設定値を設定表示器１３１０ｇに表示するための点灯信号を設定表示器１３１０ｇに出力して設定表示器１３１０ｇに対して設定値を表示する（ステップＳ３５８）。

【２８７４】

ステップＳ３６０に続いて、主制御ＭＰＵは、設定キーのＯＮ操作コマンドを作成して送信情報として主制御内蔵ＲＡＭの送信情報記憶領域に記憶し、設定キーのＯＮ操作コマンドの設定を行い（ステップＳ３６０）、本ルーチンを終了する。この設定キーのＯＮ操作コマンドは、図２７６に示した主制御側タイマ割り込み処理におけるステップＳ１２０の周辺制御基板コマンド送信処理において送信されるようになっている。設定キーのＯＮ操作コマンドは、本ルーチンである設定値確認表示処理が開始された旨（つまり、主制御内蔵ＲＡＭの特定領域における設定値専用領域に格納されている設定値を確認する旨）を伝えるコマンドである。

【２８７５】

なお、周辺制御基板１５１０における周辺制御ＩＣ１５１０ａのＣＰＵは、設定キーのＯＮ操作コマンドを受信すると、図示しないリアルタイムクロックＩＣの内蔵ＲＡＭに記憶保持される設定キーのＯＮ操作履歴情報（設定値を確認した旨と日時とを対応付けた情報）を更新する。

【２８７６】

また、周辺制御基板１５１０における周辺制御ＩＣ１５１０ａのＣＰＵは、設定キーのＯＮ操作コマンドを受信すると、上述した、球回収履歴情報、設定値履歴情報、エラー表示履歴情報、及び設定キーのＯＮ操作履歴情報等の特定履歴情報を表示許可することができるという予め定めた特定履歴情報表示許可条件が成立する状態となる。周辺制御基板１５１０における周辺制御ＩＣ１５１０ａのＣＰＵは、この予め定めた特定履歴情報表示許可条件が成立する状態において特定履歴情報を確認する者が回転操作部３０２の回転操作及び押圧操作部３０３の押圧操作を行うことにより、これまで表示していた画像から特定履歴情報を選択表示する特定履歴情報表示画像へ切り替えて演出表示装置１６００の表示領域に表示する制御を行う。

【２８７７】

一方、ステップＳ３５０の判定において、主制御ＭＰＵは、確認表示フラグＤＣＳ－ＦＬＧが値０でない（値１である）とき、つまり設定値を確認表示しているときには、設定キーのＯＦＦ操作があるか否かを判定する（ステップＳ３６２）。この判定では、主制御ＭＰＵは、上述した入力情報記憶領域から入力情報を読み出してこの入力情報に基づいて、設定キースイッチ１３１１ａの設定キーシリンダの差し込み口に設定キーが差し込まれ、設定キースイッチ１３１１ａを決定キーＯＮした設定キーシリンダの回転位置から初期位

置（つまり、設定キースイッチ１３１１ａをＯＦＦする設定キーシリンダの回転位置）へ戻すように設定キーシリンダが時計方向へ向かって６０度回転操作されてしてＯＦＦ操作することで設定キースイッチ１３１１ａがＯＦＦされ、設定キースイッチ１３１１ａからのＯＦＦの信号により行い、設定キースイッチ１３１１ａからのＯＦＦの信号が入力されているときには設定キーがＯＦＦ操作されたと判定する一方、設定キースイッチ１３１１ａからのＯＦＦの信号が入力されていないときには設定キーがＯＦＦ操作されていないと判定する。

【２８７８】

ステップＳ３６２の判定において、主制御ＭＰＵは、設定キーがＯＦＦ操作されていないと判定したときには、そのまま本ルーチンを終了する一方、設定キーがＯＦＦ操作されたと判定したときには、設定値を確認表示しないとして確認表示フラグＤＣＳ－ＦＬＧに値０をセットし（ステップＳ３６４）、続いて、ステップＳ３５６で取得した設定値を設定表示器１３１０ｇに表示するための点灯信号の設定表示器１３１０ｇへの出力を停止して設定表示器１３１０ｇに対してその取得した設定値を非表示とし（ステップＳ３６６）、続いて、設定キーのＯＦＦ操作コマンドを作成して送信情報として主制御内蔵ＲＡＭの送信情報記憶領域に記憶し、設定キーのＯＦＦ操作コマンドの設定を行い（ステップＳ３６８）、本ルーチンを終了する。この設定キーのＯＦＦ操作コマンドは、図２７６に示した主制御側タイマ割り込み処理におけるステップＳ１２０の周辺制御基板コマンド送信処理において送信されるようになっている。設定キーのＯＦＦ操作コマンドは、本ルーチンである設定値確認表示処理が終了された旨（つまり、主制御内蔵ＲＡＭの特定領域における設定値専用領域に格納されている設定値を確認完了した旨）を伝えるコマンドである。

【２８７９】

なお、周辺制御基板１５１０における周辺制御ＩＣ１５１０ａのＣＰＵは、設定キーのＯＦＦ操作コマンドを受信すると、上述した予め定めた特定履歴情報表示許可条件が成立しない状態となる。このとき、周辺制御基板１５１０における周辺制御ＩＣ１５１０ａのＣＰＵは、上述した特定履歴情報表示画像を演出表示装置１６００の表示領域に表示する制御を行っていた場合には、特定履歴情報表示画像に切り替える直前まで演出表示装置１６００の表示領域に表示されていた画像へ切り替えて元へ戻す制御を行う。

【２８８０】

一方、ステップＳ３５７の判定において、主制御ＭＰＵは、正常範囲でないと判定したときには割り込み非許可設定を行う（ステップＳ３７０）。この設定により、４ｍｓごとに繰り返し行われていた図２７６に示した主制御側タイマ割り込み処理が停止されることとなる。

【２８８１】

ステップＳ３７０に続いて、主制御ＭＰＵは、エラー表示処理を行い（ステップＳ３７２）、続いて、主制御内蔵ＷＤＴのクリアを行い続ける無限ループに入る（ステップＳ３７４）。この無限ループにより、主制御内蔵ＷＤＴのクリアを行い続けることとなるが、これは、主制御内蔵ＷＤＴを一度起動すると停止することができないため、主制御内蔵ＷＤＴのクリアを行い続けることにより、主制御ＭＰＵに内蔵されるＷＤＴクリアレジスタにタイマクリア設定値をセットすることで主制御内蔵ＷＤＴによる計時がクリアされ、主制御内蔵ＷＤＴによる計時が再び開始されることによって、主制御内蔵ＷＤＴにより主制御ＭＰＵが強制的にリセットされずに済む。また、この無限ループにより、エラー表示処理が終了した状態を維持することとなり、遊技を進行することが全くできない状態となり、パチンコ機１の電源を遮断して、再び電源を投入することとなる。このエラー表示処理では、その詳細な説明を後述するが、主制御内蔵ＲＡＭの内容に異常があると判定した場合、又は、電源遮断時に主制御側電源断時処理が正常に終了していないと判定した場合には、主制御内蔵ＲＡＭに格納されている内容に異常がある（又は信用することができないものである）として、その旨を伝えるエラー表示を行う。本実施形態では、主制御ＭＰＵがエラー表示として英字Ｅを設定表示器１３１０ｇに表示するようになっている。

【２８８２】

［エラー表示処理］
次に、エラー表示処理について説明する。このエラー表示処理は、図２７４に示した主制御側電源投入時処理におけるステップＳ３３において行われる処理であり、図２７４に示した主制御側電源投入時処理におけるステップＳ３７において行われる処理（図２７７に示した設定変更処理におけるステップＳ２４０において行われる処理）であり、図２７８に示した設定値確認表示処理におけるステップＳ３７２において行われる処理である。
【２８８３】
エラー表示処理が開始されると、主制御ＭＰＵは、図２７９に示すように、発射許可信号の停止を行う（ステップＳ４００）。発射許可信号は、上述したように、遊技球Ｂの発射を払出制御基板６３３の発射制御部６３３ｂに対して許可する旨を伝えるものであり、その論理が発射許可論理に設定されると、発射を許可する旨を伝えることができる一方、その論理が発射許可論理を反転させた発射停止論理（発射非許可論理）に設定されると、発射を停止（非許可）する旨を伝えることができる。
【２８８４】
本ルーチンであるエラー表示処理が図２７４に示した主制御側電源投入時処理におけるステップＳ３３において行われる処理又は図２７４に示した主制御側電源投入時処理におけるステップＳ３７において行われる処理の一処理（具体的には、図２７７に示した設定変更処理におけるステップＳ２４０において行われる処理）として開始されると、主制御ＭＰＵは、図２７５に示した主制御側電源投入時処理におけるステップＳ５２の割り込み許可設定を行うことができないため、図２７６に示した主制御側タイマ割り込み処理を行うことができず、同処理におけるステップＳ１１３の発射許可信号設定処理を行うことができない。発射許可信号は、主制御ＭＰＵの所定の出力ポートの出力端子からリセット機能付き主制御出力回路を介して払出制御基板６３３の発射制御部６３３ｂに出力されるため、復電時において、リセット機能付き主制御出力回路がリセットされ、その論理は、発射許可論理を反転させた発射停止論理（発射非許可論理）となっている。
【２８８５】
そこで、本ルーチンであるエラー表示処理が図２７４に示した主制御側電源投入時処理におけるステップＳ３３において行われる処理又は図２７４に示した主制御側電源投入時処理におけるステップＳ３７において行われる処理の一処理（具体的には、図２７７に示した設定変更処理におけるステップＳ２４０において行われる処理）として開始されると、主制御ＭＰＵは、ステップＳ４００において、復電してから本ルーチンであるエラー表示処理が開始された後においても、遊技球Ｂが発射されることを確実に防止するために、発射許可信号の論理を発射停止論理（発射非許可論理）に設定して、その所定の出力ポートの出力端子からリセット機能付き主制御出力回路を介して払出制御基板６３３の発射制御部６３３ｂに出力する。
【２８８６】
本ルーチンであるエラー表示処理が図２７８に示した設定値確認表示処理におけるステップＳ３７２において行われる処理として開始されると、主制御ＭＰＵは、図２７８に示した設定値確認表示処理におけるステップＳ３５７の判定において主制御内蔵ＲＡＭの内容に異常があると判定している。主制御ＭＰＵは、図２７５に示した主制御側電源投入時処理におけるステップＳ５２の割り込み許可設定をすでに行っているものの、本ルーチンであるエラー表示処理が開始される前にすでに図２７８に示した設定値確認表示処理におけるステップＳ３７０において割り込み非許可設定が行われているため、本ルーチンであるエラー表示処理を終了すると、上述したように、無限ループに入るため、図２７６に示した主制御側タイマ割り込み処理を行うことができず、同処理におけるステップＳ１１３の発射許可信号設定処理を行うことができない。
【２８８７】
そこで、本ルーチンであるエラー表示処理が図２７８に示した設定値確認表示処理におけるステップＳ３７２において行われる処理として開始されると、主制御ＭＰＵは、ステップＳ４００において、主制御内蔵ＲＡＭの内容に異常がある状態で遊技球Ｂが発射される

ことを確実に防止するために、発射許可信号の論理を発射停止論理（発射非許可論理）に設定して、その所定の出力ポートの出力端子からリセット機能付き主制御出力回路を介して払出制御基板６３３の発射制御部６３３ｂに出力する。

【２８８８】

ステップＳ４００に続いて、エラー表示として英字Ｅを設定表示器１３１０ｇに表示するための点灯信号を設定表示器１３１０ｇに出力して設定表示器１３１０ｇに対してエラー表示する（ステップＳ４０２）。

【２８８９】

ステップＳ４０２に続いて、主制御ＭＰＵは、機能表示ユニット１４００に対してエラー表示を行う（ステップＳ４０４）。このステップＳ４０４では、機能表示ユニット１４００ののの各種表示器をすべて点灯するための点灯信号を機能表示ユニット１４００に出力して、機能表示ユニット１４００に対してエラー表示する。

【２８９０】

ステップＳ４０４に続いて、主制御ＭＰＵは、シリアル通信初期設定を行い（ステップＳ４０６）、続いて、エラー表示コマンドを作成して送信情報を設定し（ステップＳ４０８）、続いて、ステップＳ４０６で設定した送信情報（エラー表示コマンド）を主周シリアルデータとして周辺制御基板１５１０に送信する周辺制御基板送信コマンド送信処理を行い（ステップＳ４１０）、本ルーチンを終了する。

【２８９１】

ステップＳ４０６のシリアル通信初期設定は、図２７７に示した設定変更処理におけるステップＳ２３４のシリアル通信初期設定と、図２７５に示した主制御側電源投入時処理におけるステップＳ４４のシリアル通信初期設定と、同一の処理であり、ステップＳ４１０の周辺制御基板送信コマンド送信処理は、図２７７に示した設定変更処理におけるステップＳ２３８の周辺制御基板送信コマンド送信処理と、図２７６に示した主制御側タイマ割り込み処理におけるステップＳ１２０の周辺制御基板送信コマンド送信処理と同一の処理である。本ルーチンであるエラー表示処理が図２７４に示した主制御側電源投入時処理におけるステップＳ３３において行われる処理、図２７４に示した主制御側電源投入時処理におけるステップＳ３７において行われる処理（図２７７に示した設定変更処理におけるステップＳ２４０において行われる処理）、及び図２７８に示した設定値確認表示処理におけるステップＳ３７２において行われる処理としてそれぞれ開始されて終了すると、上述したように、無限ループに入り、この無限ループにより、エラー表示処理が終了した状態を維持することとなり、遊技を進行することが全くできない状態となる。

【２８９２】

そこで、本実施形態では、ステップＳ４０６のシリアル通信初期設を行って、ステップＳ４１０の周辺制御基板送信コマンド送信処理においてステップＳ４０８で設定した送信情報（エラー表示コマンド）を主周シリアルデータとして周辺制御基板１５１０に送信している。

【２８９３】

なお、エラー表示コマンドは、主制御内蔵ＲＡＭに格納されている内容に異常がある（又は信用することができないものである）旨を伝えるコマンドである。周辺制御基板１５１０における周辺制御ＩＣ１５１０ａのＣＰＵは、エラー表示コマンドを受信すると、図示しないリアルタイムクロックＩＣの内蔵ＲＡＭに記憶保持されるエラー表示履歴情報（エラー表示コマンドと受信した日時とを対応付けた情報）を更新する。

【２８９４】

また、周辺制御基板１５１０における周辺制御ＩＣ１５１０ａのＣＰＵは、エラー表示コマンドを受信すると、演出表示装置１６００の表示領域に、青色の背景画像に「ＲＡＭエラーが発生しました。係員をお呼びください。」という白色の文字のメッセージ画像を表示する制御を行うとともに、「ＲＡＭエラーが発生しました。係員をお呼びください。」というアナウンスを、周辺制御基板１５１０に備える音量調整スイッチが回転操作されることにより調整された音量に依存されず、最大音量となるように強制的に設定して各種ス

ピーカ（振動スピーカ３５４、トップ中央スピーカ４６２、トップサイドスピーカ４６４、本体枠スピーカ６２２等）から流す制御を行う。エラー表示コマンドによるＲＡＭエラー報知を行う処理は、優先順位が最も高い処理であり、周辺制御基板１５１０における周辺制御ＩＣ１５１０ａのＣＰＵが他のエラーを伝えるコマンドを受信した後にエラー表示コマンドを受信すると、ＲＡＭエラー報知を最優先で行う。

【２８９５】

［払出制御基板の各種制御処理］

次に、図１３７に示した払出制御基板６３３が行う各種制御処理について、図２８０～図２８３を参照して説明する。図２８０は払出制御部電源投入時処理の一例を示すフローチャートであり、図２８１は図２８０の払出制御部電源投入時処理のつづきを示すフローチャートであり、図２８２は図２８１に続いて払出制御部電源投入時処理のつづきを示すフローチャートであり、図２８３は払出制御部タイマ割り込み処理の一例を示すフローチャートである。まず、払出制御部電源投入時処理について説明し、続いて払出制御部タイマ割り込み処理について説明する。

【２８９６】

［払出制御部電源投入時処理］

まず、パチンコ機１に電源が投入されると、払出制御基板６３３における払出制御部６３３ａの払出制御ＭＰＵによる制御の下、図２８０～図２８２に示すように、払出制御部電源投入時処理を行う。この払出制御部電源投入時処理が開始されると、払出制御ＭＰＵは、割り込みモードの設定を行う（ステップＳ５００）。この割り込みモードは、払出制御ＭＰＵの割り込みの優先順位を設定するものである。本実施形態では、後述する払出制御部タイマ割り込み処理が優先順位として最も高く設定されており、この払出制御部タイマ割り込み処理の割り込みが発生すると、優先的にその処理を行う。

【２８９７】

ステップＳ５００に続いて、払出制御ＭＰＵは、入出力設定（Ｉ／Ｏの入出力設定）を行う（ステップＳ５０２）。このＩ／Ｏの入出力設定では、払出制御ＭＰＵの各種入力ポート及び各種出力ポートの設定等を行う。

【２８９８】

ステップＳ５０２に続いて、払出制御ＭＰＵは、ウェイトタイマ処理１を行い（ステップＳ５０６）、停電予告信号が入力されているか否かを判定する（ステップＳ５０８）。電源投入時から所定電圧となるまでの間では電圧がすぐに上がらない。一方、停電又は瞬停（電力の供給が一時停止する現象）となるときでは電圧が下がり、停電予告電圧より小さくなると、主制御基板１３１０の停電監視回路から停電予告として停電予告信号が入力される。電源投入時から所定電圧に上がるまでの間では同様に電圧が停電予告電圧より小さくなると主制御基板１３１０の停電監視回路から停電予告信号が入力される。そこで、ステップＳ５０６のウェイトタイマ処理１は、電源投入後、電圧が停電予告電圧より大きくなって安定するまで待つための処理であり、本実施形態では、待ち時間（ウェイトタイマ）として２００ミリ秒（ｍｓ）が設定されている。ステップＳ５０８の判定では、主制御基板１３１０の停電監視回路からの停電予告信号に基づいて行う。

【２８９９】

ステップＳ５０８に続いて、払出制御ＭＰＵは、主制御基板１３１０のＲＡＭクリアスイッチが操作されているか否かを判定する（ステップＳ５１２）。この判定は、ＲＡＭクリアスイッチからの操作信号の論理に基づいて、ＲＡＭクリアスイッチからの操作信号（ＲＡＭクリア信号）の論理がＨＩであるときにはＲＡＭクリアを行うことを指示するものではないと判断してＲＡＭクリアスイッチが操作されていないと判定する一方、ＲＡＭクリアスイッチからの操作信号（ＲＡＭクリア信号）の論理がＬＯＷであるときにはＲＡＭクリアを行うことを指示するものであると判断してＲＡＭクリアスイッチが操作されていると判定する。

【２９００】

ステップＳ５１２の判定において、払出制御ＭＰＵは、ＲＡＭクリアスイッチが操作され

ていると判定したときには、払出ＲＡＭクリア報知フラグＨＲＣＬ－ＦＬＧに値１をセットする（ステップＳ５１４）。つまり、払出制御ＭＰＵは、電源投入時から所定時間に亘って、払出制御ＭＰＵに内蔵されたＲＡＭ（つまり、払出制御内蔵ＲＡＭ）の初期化を行うＲＡＭクリア処理を実行可能な状態とする。

【２９０１】

一方、ステップＳ５１２の判定において、払出制御ＭＰＵは、ＲＡＭクリアスイッチが操作されていないと判定したときには、払出ＲＡＭクリア報知フラグＨＲＣＬ－ＦＬＧに値０をセットする（ステップＳ５１６）。この払出ＲＡＭクリア報知フラグＨＲＣＬ－ＦＬＧは、払出制御ＭＰＵの払出制御内蔵ＲＡＭに記憶されている、例えば、各種フラグ、各種情報記憶領域に記憶されている各種情報等（例えば、賞球情報記憶領域に記憶されている、賞球ストック数ＰＢＳ、実球計数ＰＢ、駆動指令数ＤＲＶ、不整合カウンタＩＮＣＣ等や、ＣＲ通信情報記憶領域に記憶されている、ＰＲＤＹ信号の論理の状態が設定されているＰＲＤＹ信号出力設定情報等）の払い出しに関する払出情報を消去するか否かを示すフラグであり、払出情報を消去するとき値１、払出情報を消去しないとき値０にそれぞれ設定される。なお、ステップＳ５１４及びステップＳ５１６でセットされた払出ＲＡＭクリア報知フラグＨＲＣＬ－ＦＬＧは、払出制御ＭＰＵの汎用記憶素子（汎用レジスタ）に記憶される。

【２９０２】

ステップＳ５１４又はステップＳ５１６に続いて、払出制御ＭＰＵは、払出制御内蔵ＲＡＭへのアクセスを許可する設定を行う（ステップＳ５１８）。この設定により払出制御内蔵ＲＡＭへのアクセスができ、例えば払出情報の書き込み（記憶）又は読み出しを行うことができる。

【２９０３】

ステップＳ５１８に続いて、払出制御ＭＰＵは、スタックポインタの設定を行う（ステップＳ５２０）。スタックポインタは、例えば、使用中の記憶素子（レジスタ）の内容を一時記憶するためにスタックに積んだアドレスを示したり、サブルーチンを終了して本ルーチンに復帰するときの本ルーチンの復帰アドレスを一時記憶するためにスタックに積んだアドレスを示したりするものであり、スタックが積まれるごとにスタックポインタが進む。ステップＳ５２０では、スタックポインタに初期アドレスをセットし、この初期アドレスから、レジスタの内容、復帰アドレス等をスタックに積んで行く。そして最後に積まれたスタックから最初に積まれたスタックまで、順に読み出すことによりスタックポインタが初期アドレスに戻る。

【２９０４】

ステップＳ５２０に続いて、払出制御ＭＰＵは、払出ＲＡＭクリア報知フラグＨＲＣＬ－ＦＬＧが値０である否かを判定する（ステップＳ５２２）。払出ＲＡＭクリア報知フラグＨＲＣＬ－ＦＬＧは、上述したように、払出情報を消去するとき値１、払出情報を消去しないとき値０にそれぞれ設定される。

【２９０５】

ステップＳ５２２の判定において、払出制御ＭＰＵは、払出ＲＡＭクリア報知フラグＨＲＣＬ－ＦＬＧが値０であるとき、つまり払出情報を消去しないと判定したときには、チェックサムの算出を行う（ステップＳ５２４）。このチェックサムは、払出制御内蔵ＲＡＭに記憶されている払出情報を数値とみなしてその合計を算出するものである。

【２９０６】

ステップＳ５２４に続いて、払出制御ＭＰＵは、算出したチェックサムの値が後述する払出制御部電源断時処理（電源断時）において記憶されているチェックサムの値と一致しているか否かを判定する（ステップＳ５２６）。ステップＳ５２６において、払出制御ＭＰＵは、一致していると判定したときには、払出バックアップフラグＨＢＫ－ＦＬＧが値１であるか否かを判定する（ステップＳ５２８）。この払出バックアップフラグＨＢＫ－ＦＬＧは、払出情報、チェックサムの値等の払出バックアップ情報を後述する払出制御部電源断時処理において払出制御内蔵ＲＡＭに記憶保持したか否かを示すフラグであり、払出

制御部電源断時処理を正常に終了したとき値１、払出制御部電源断時処理を正常に終了していないとき値０にそれぞれ設定される。

【２９０７】

ステップＳ５２８の判定において、払出制御ＭＰＵは、払出バックアップフラグＨＢＫ－ＦＬＧが値１であるとき、つまり払出制御部電源断時処理を正常に終了したと判定したときには、復電時として払出制御内蔵ＲＡＭの作業領域を設定する（ステップＳ５３０）。この設定では、払出バックアップフラグＨＢＫ－ＦＬＧに値０がセットされるほかに、払出制御ＭＰＵに内蔵されたＲＯＭ（つまり、払出制御内蔵ＲＯＭ）から復電時情報が読み出され、この復電時情報が払出制御内蔵ＲＡＭの作業領域にセットされる。これにより、払出制御内蔵ＲＡＭに記憶されている上述した払出バックアップ情報である、各種フラグ、各種情報記憶領域に記憶されている各種情報等（例えば、賞球情報記憶領域に記憶されている、賞球ストック数ＰＢＳ、実球計数ＰＢ、駆動指令数ＤＲＶ、不整合カウンタＩＮＣＣ等や、ＣＲ通信情報記憶領域に記憶されている、ＰＲＤＹ信号の論理の状態が設定されているＰＲＤＹ信号出力設定情報、時間管理情報記憶領域に記憶されている不整合カウンタリセット判定時間等）の払い出しに関する払出情報に基づいて各種処理に使用する情報が設定される。なお、「復電」とは、電源を遮断した状態から電源を投入した状態のほかに、停電又は瞬停からその後の電力の復旧した状態も含める。

【２９０８】

一方、ステップＳ５２２の判定において、払出制御ＭＰＵは、払出ＲＡＭクリア報知フラグＨＲＣＬ－ＦＬＧが値０でない（値１である）とき、つまり払出情報を消去すると判定したときには、又はステップＳ５２６の判定において、払出制御ＭＰＵは、チェックサムの値が一致していないと判定したときには、又はステップＳ５２８の判定において、払出制御ＭＰＵは、払出バックアップフラグＨＢＫ－ＦＬＧが値１でない（値０である）とき、つまり払出制御部電源断時処理を正常に終了していないと判定したときには、払出制御内蔵ＲＡＭの全領域をクリアする（ステップＳ５３２）。これにより、払出制御内蔵ＲＡＭに記憶されている払出バックアップ情報がクリアされる。

【２９０９】

ステップＳ５３２に続いて、払出制御ＭＰＵは、初期設定として払出制御内蔵ＲＡＭの作業領域を設定する（ステップＳ５３４）。この設定は、払出制御内蔵ＲＯＭから初期情報を読み出してこの初期情報を払出制御内蔵ＲＡＭの作業領域にセットする。

【２９１０】

ステップＳ５３０又はステップＳ５３４に続いて、払出制御ＭＰＵは、割り込み初期設定を行う（ステップＳ５３６）。この設定は、後述する払出制御部タイマ割り込み処理が行われるときの割り込み周期を設定するものである。本実施形態では、２ｍｓに設定されている。

【２９１１】

ステップＳ５３６に続いて、払出制御ＭＰＵは、割り込み許可設定を行う（ステップＳ５３８）。この設定によりステップＳ５３６で設定した割り込み周期、つまり２ｍｓごとに払出制御部タイマ割り込み処理が繰り返し行われる。

【２９１２】

ステップＳ５３８に続いて、払出制御ＭＰＵは、ウォッチドックタイマクリアレジスタＨＷＣＬに値Ａをセットする（ステップＳ５３９）。このウォッチドックタイマクリアレジスタＨＷＣＬに、値Ａ、値Ｂそして値Ｃを順にセットすることによりウォッチドックタイマがクリア設定される。

【２９１３】

ステップＳ５３９に続いて、払出制御ＭＰＵは、停電予告信号が入力されているか否かを判定する（ステップＳ５４０）。パチンコ機１の電源を遮断したり、停電又は瞬停したりするときには、上述したように、電圧が停電予告電圧以下となると、停電予告として停電予告信号が主制御基板１３１０の停電監視回路から入力される。ステップＳ５４０の判定は、この停電予告信号に基づいて行う。

【２９１４】
ステップＳ５４０の判定において、払出制御ＭＰＵは、停電予告信号の入力がないと判定したときには、２ｍｓ経過フラグＨＴ－ＦＬＧが値１であるか否かを判定する（ステップＳ５４２）。この２ｍｓ経過フラグＨＴ－ＦＬＧは、後述する、２ｍｓごとに処理される払出制御部タイマ割り込み処理で２ｍｓを計時するフラグであり、２ｍｓ経過したとき値１、２ｍｓ経過していないとき値０にそれぞれ設定される。
【２９１５】
ステップＳ５４２の判定において、払出制御ＭＰＵは、２ｍｓ経過フラグＨＴ－ＦＬＧが値０であるとき、つまり２ｍｓ経過していないと判定したときには、ステップＳ５４０に戻り、払出制御ＭＰＵは、停電予告信号が入力されているか否かを判定する。
【２９１６】
一方、ステップＳ５４２の判定において、払出制御ＭＰＵは、２ｍｓ経過フラグＨＴ－ＦＬＧが値１であるとき、つまり２ｍｓ経過したと判定したときには、２ｍｓ経過フラグＨＴ－ＦＬＧに値０をセットする（ステップＳ５４４）。
【２９１７】
ステップＳ５４４に続いて、払出制御ＭＰＵは、ウォッチドックタイマクリアレジスタＨＷＣＬに値Ｂをセットする（ステップＳ５４６）。このとき、ウォッチドックタイマクリアレジスタＨＷＣＬには、ステップＳ５３９においてセットされた値Ａに続いて値Ｂがセットされる。
【２９１８】
ステップＳ５４６に続いて、払出制御ＭＰＵは、ポート出力処理を行う（ステップＳ５４８）。このポート出力処理では、払出制御内蔵ＲＡＭの出力情報記憶領域から各種情報を読み出してこの各種情報に基づいて各種信号を払出制御ＭＰＵの各種出力ポートの出力端子から出力する。出力情報記憶領域には、例えば、主制御基板１３１０からの払い出しに関する各種コマンド（賞球コマンドやセルフチェックコマンド）を正常に受信した旨を伝える払主ＡＣＫ情報、払出モータ５８４への駆動制御を行う駆動情報、払出モータ５８４が実際に遊技球を払い出した球数の賞球数情報、エラーＬＥＤ表示器に表示するＬＥＤ表示情報等の各種情報が記憶されており、この出力情報に基づいて払出制御ＭＰＵの所定の出力ポートの出力端子から、主制御基板１３１０からの払い出しに関する各種コマンドを正常に受信したときには払主ＡＣＫ信号を主制御基板１３１０に出力したり、払出モータ５８４に駆動信号を出力したり、払出モータ５８４が実際に遊技球を払い出した球数を賞球数情報出力信号として外部端子板５５８に出力したり（本実施形態では、払出モータ５８４が実際に１０個の遊技球を払い出すごとに外部端子板５５８に賞球数情報出力信号を出力している。
【２９１９】
具体的には、賞球数情報を出力するか否かを判定するための賞球数情報出力判定用カウンタが設けられており、この賞球数情報出力判定用カウンタは、払出モータ５８４が実際に払い出した遊技球の球数を、後述するステップＳ５５０のポート入力処理で払出検知センサ５９１からの検出信号に基づいて、カウントするものであり、払出モータ５８４が実際に払い出した遊技球の球数を監視するための図示しない処理（プログラム）により払出制御内蔵ＲＡＭの賞球情報記憶領域に記憶更新されるようになっている。
【２９２０】
この払出モータ５８４が実際に払い出した遊技球の球数を監視するための図示しない処理（プログラム）では、払出制御内蔵ＲＡＭの賞球情報記憶領域に記憶される賞球数情報出力判定用カウンタの値に、後述するステップＳ５５０のポート入力処理で払出検知センサ５９１からの検出信号に基づいて、払出モータ５８４が実際に払い出した遊技球の球数を加算して記憶更新する。
【２９２１】
ステップＳ５４８のポート出力処理では、この賞球情報記憶領域から賞球数情報出力判定用カウンタの値を読み出し、この読み出した賞球数情報出力判定用カウンタの値が値１０

を超えているときには（つまり、払出モータ５８４が実際に払い出した遊技球の球数が１０球に達しているときには）外部端子板５５８に賞球数情報出力信号を出力するとともに（このとき、その超えた球数を示す値を、賞球数情報出力判定用カウンタの値として上述した払出制御内蔵ＲＡＭの賞球情報記憶領域に記憶更新する。）、エラーＬＥＤ表示器に表示信号を出力する。

【２９２２】

ステップＳ５４８に続いて、払出制御ＭＰＵは、ポート入力処理を行う（ステップＳ５５０）。このポート入力処理では、払出制御ＭＰＵの各種入力ポートの入力端子に入力されている各種信号を読み取り、入力情報として払出制御内蔵ＲＡＭの入力情報記憶領域に記憶する。例えば、ＲＡＭクリアスイッチの操作信号（ＲＡＭクリア信号）、羽根回転検知センサ５９０からの検出信号、払出検知センサ５９１からの検出信号、満タン検知センサ１５４からの検出信号、ＣＲユニットからのＢＲＱ信号、ＢＲＤＹ信号及びＣＲ接続信号、後述するコマンド送信処理で送信した各種コマンドを主制御基板１３１０が正常に受信した旨を伝える主制御基板１３１０からの主払ＡＣＫ信号等、をそれぞれ読み取り、入力情報として入力情報記憶領域に記憶する。

【２９２３】

ステップＳ５５０に続いて、払出制御ＭＰＵは、タイマ更新処理を行う（ステップＳ５５２）。このタイマ更新処理では、払出モータ５８４の回転軸の回転が伝達される払出羽根５８９による球ガミ状態が生じているか否かの判定を行う際にその判定条件として設定されている球ガミ判定時間、払出羽根５８９の定位置判定を行わない際に設定されているスキップ判定時間、下皿２０２が貯留された遊技球で満タンであるか否かの判定を行う際にその判定条件として設定されている満タン判定時間、球切検知センサ５７４からの検出信号により球誘導ユニット５７０の誘導通路５７０ａ内に取り込まれた遊技球の球数が所定数以上となっているか否かの判定を行う際にその判定条件として設定されている球切れ判定時間等の時間管理を行うほかに、払出羽根５８９の球収容部５８９ｂに受け止められて払い出された遊技球の球数と、実際に払出検知センサ５９１で検出された球数と、の不一致によるつじつまの合わない遊技球の払い出しを、繰り返し行っているか否かを監視するための不整合カウンタＩＮＣＣをリセットするか否かの判定を行う際にその判定条件と設定されている不整合カウンタリセット判定時間の時間管理を行う。例えば、球ガミ判定時間が５００５ｍｓに設定されているときには、タイマ割り込み周期が２ｍｓに設定されているので、このタイマ更新処理を行うごとに球ガミ判定時間を２ｍｓずつ減算し、その減算結果が値０になることで球ガミ判定時間を正確に計っている。なお、これらの各種判定時間は、時間管理情報として払出制御内蔵ＲＡＭの時間管理情報記憶領域に記憶される。

【２９２４】

ステップＳ５５２に続いて、払出制御ＭＰＵは、ＣＲ通信処理を行う（ステップＳ５５４）。このＣＲ通信処理では、上述した入力情報記憶領域から入力情報を読み出してこの入力情報に基づいて、ＣＲユニットからの各種信号（ＢＲＱ信号、ＢＲＤＹ信号及びＣＲ接続信号）が入力されているか否かを判定する。ＣＲユニットからの各種信号に基づいて、払出制御ＭＰＵは、ＣＲユニットと各種信号のやり取りを行う。ステップＳ５３０の払出制御内蔵ＲＡＭの作業領域を設定する処理において、上述したように、払出制御内蔵ＲＡＭに記憶されている払出バックアップ情報である、各種フラグ、各種情報記憶領域に記憶されている各種情報等（例えば、賞球情報記憶領域に記憶されている、賞球ストック数ＰＢＳ、実球計数ＰＢ、駆動指令数ＤＲＶ、不整合カウンタＩＮＣＣ等や、ＣＲ通信情報記憶領域に記憶されている、ＰＲＤＹ信号の論理の状態が設定されているＰＲＤＹ信号出力設定情報等）の払い出しに関する払出情報に基づいて各種処理に使用する情報が設定される。

【２９２５】

この処理によって、例えば、瞬停又は停電しても、復電時における、賞球ストック数ＰＢＳ、実球計数ＰＢ、駆動指令数ＤＲＶ、不整合カウンタＩＮＣＣ等の値を、払出バックアップ情報として記憶した、瞬停又は停電する直前における、賞球ストック数ＰＢＳ、実球

計数ＰＢ、駆動指令数ＤＲＶ、不整合カウンタＩＮＣＣ等の値に復元することができる。これにより、払出装置５８０による遊技球の払出動作を実行している際に、瞬停又は停電して払出動作を続行することができなくなっても、復電時に、その払出動作を続行することができるため、過不足なく遊技球を上皿２０１や下皿２０２に払い出すことができる。換言すれば、払出制御ＭＰＵは、ＣＲ通信処理において、ＣＲユニットと各種信号のやり取りを行いながら、遊技球を上皿２０１や下皿２０２に払い出している際に、瞬停又は停電してＣＲユニットと各種信号のやり取りが遮断され、遊技球の払い出しを続行することができなくなっても、復電時における、賞球ストック数ＰＢＳ、実球計数ＰＢ、駆動指令数ＤＲＶ、不整合カウンタＩＮＣＣ等の値が、払出バックアップ情報として記憶された、瞬停又は停電する直前における、賞球ストック数ＰＢＳ、実球計数ＰＢ、駆動指令数ＤＲＶ、不整合カウンタＩＮＣＣ等の値に復元されることによって、瞬停又は停電する直前における、パチンコ機１（払出制御ＭＰＵ）とＣＲユニットとによる各種信号のやり取りを、復電時から継続することができるとともに、遊技球の払い出しを引き続き行うことができるようになっている。

【２９２６】

このように、パチンコ機１（払出制御ＭＰＵ）とＣＲユニットとによる各種信号のやり取りは、瞬停又は停止しても、復電時に、瞬停又は停止する直前の状態に復元されるようになっており、瞬停又は停止による影響によってパチンコ機１（払出制御ＭＰＵ）とＣＲユニットとによる各種信号が変化しないようになっている。したがって、パチンコ機１（払出制御ＭＰＵ）とＣＲユニットとによる各種信号のやり取りの信頼性を高めることができる。

【２９２７】

また、ＣＲ通信情報記憶領域に記憶される各種情報は、払出バックアップ情報に含まれている。ＣＲ通信処理では、復電時に、ステップＳ５３０の払出制御内蔵ＲＡＭの作業領域を設定する処理において設定された、払出制御内蔵ＲＡＭに記憶されているＣＲ通信情報記憶領域からＰＲＤＹ信号出力設定情報を読み出してこの読み出したＰＲＤＹ信号出力設定情報が、例えば貸球を払い出すための払出動作が不可能である旨を伝えるＰＲＤＹ信号の論理の状態に設定されている場合には、そのＰＲＤＹ信号を払出制御ＭＰＵの所定の出力ポートの出力端子からＣＲユニットへ出力する。そして、主要動作設定処理の一処理として行われる、例えばリトライ動作監視処理において、払出バックアップ情報に含まれている、払出制御内蔵ＲＡＭに記憶されている賞球情報記憶領域の不整合カウンタＩＮＣＣの値に基づいて、この不整合カウンタＩＮＣＣの値が不整合しきい値ＩＮＣＴＨより小さいか否かを判定し、不整合カウンタＩＮＣＣの値が不整合しきい値ＩＮＣＴＨより小さくないときには、リトライ動作が異常動作していると判断して、つまり払出装置５８０による遊技球の払出動作が異常状態であると判断して、リトライエラーフラグＲＴＥＲＲ－ＦＬＧに値１をセットし、払出球ガミ動作判定設定処理において、ＣＲユニットへのエラー状態の出力の設定として、例えばＣＲユニットと通信中でないときには貸球を払い出すための払出動作が不可能である旨を伝えるＰＲＤＹ信号の論理の状態（ＬＯＷ）をＰＲＤＹ信号出力設定情報に設定してＣＲ通信情報記憶領域に記憶する。

【２９２８】

これにより、ＣＲ通信処理では、復電時から次のタイマ割り込みで、このＰＲＤＹ信号の論理の状態を、ＣＲ通信情報記憶領域から読み出してそのＰＲＤＹ信号を払出制御ＭＰＵの所定の出力ポートの出力端子からＣＲユニットへ出力する。このように、例えば、瞬停する直前において、払出装置５８０による遊技球の払出動作が異常状態であった場合には、復電時に、その状態が復元されるため、復電してから極めて早い段階で、貸球を払い出すための払出動作が不可能である旨を伝えるＰＲＤＹ信号を払出制御ＭＰＵの所定の出力ポートの出力端子からＣＲユニットへ出力することができ、ＣＲユニットに払出装置５８０による遊技球の払出動作が異常状態である旨を伝えることができる。これにより、復電時から極めて早い段階で、ＣＲユニットからの無駄な貸球要求信号であるＢＲＤＹが出力されるのを防止することができる。

【２９２９】
また、ＣＲ通信処理では、ステップＳ５５０のポート入力処理で、払出制御内蔵ＲＡＭの入力情報記憶領域からＣＲ接続信号を読み出してこのＣＲ接続信号に基づいて、その論理がＨＩであるとき、つまりパチンコ機１が電源投入されているときであって、払出制御基板６３３とＣＲユニットとが電気的に接続されているときには、貸球を払い出すための払出動作が可能である旨を伝えるために、ＰＲＤＹ信号の論理の状態をＨＩとして払出制御ＭＰＵの所定の出力ポートの出力端子からＣＲユニットへ出力する一方、その論理がＬＯＷであるとき、つまりパチンコ機１が電源投入されているときであって、払出制御基板６３３とＣＲユニットとが電気的に接続されていないときには、貸球を払い出すための払出動作が不可能である旨を伝えるために、ＰＲＤＹ信号の論理の状態をＬＯＷとして払出制御ＭＰＵの所定の出力ポートの出力端子からＣＲユニットへ出力する。なお、１回の払出動作を開始した旨又は終了した旨を伝えるＥＸＳ信号の論理の状態は、ＥＸＳ信号出力設定情報として払出制御内蔵ＲＡＭのＣＲ通信情報記憶領域に記憶され、払出制御基板６３３とＣＲユニットとが電気的に接続されているか否かを伝えるＣＲ接続信号は、ＣＲ接続情報として状態情報記憶領域に記憶されるようになっている。
【２９３０】
ステップＳ５５４に続いて、払出制御ＭＰＵは、満タン及び球切れチェック処理を行う（ステップＳ５５６）。この満タン及び球切れチェック処理では、上述した入力情報記憶領域から入力情報を読み出してこの入力情報に基づいて、満タン検知センサ１５４からの検出信号により上述した下皿２０２が貯留された遊技球で満タンとなっているか否かを判定したり、球切検知センサ５７４からの検出信号により上述した球誘導ユニット５７０の誘導通路５７０ａ内に取り込まれた遊技球の球数が所定数以上となっているか否かを判定したりする。例えば、下皿２０２が貯留された遊技球で満タンとなっているか否かの判定は、タイマ割り込み周期２ｍｓを利用して、今回の満タン及び球切れチェック処理で満タン検知センサ１５４からの検出信号がＯＮ、前回（２ｍｓ前）の満タン及び球切れチェック処理で満タン検知センサ１５４からの検出信号がＯＦＦとなったとき、つまり満タン検知センサ１５４からの検出信号がＯＦＦからＯＮに遷移したときには、ステップＳ５５２のタイマ更新処理で上述した満タン判定時間の計時を開始する。そしてタイマ更新処理で満タン判定時間が値０となったとき、つまり満タン判定時間となったときには、この満タン及び球切れチェック処理で満タン検知センサ１５４からの検出信号がＯＮであるか否かを判定する。この判定では、満タン検知センサ１５４からの検出信号がＯＮであるときには、下皿２０２が貯留された遊技球で満タンであるとしてその旨を伝える満タン情報を上述した状態情報記憶領域に記憶する。一方、満タン検知センサ１５４からの検出信号がＯＦＦであるときには、下皿２０２が貯留された遊技球で満タンでないとしてその旨を伝える満タン情報を状態情報記憶領域域に記憶する。
【２９３１】
球誘導ユニット５７０の誘導通路５７０ａ内に取り込まれた遊技球の球数が所定数以上となっているか否かの判定も、タイマ割り込み周期２ｍｓを利用して、今回の満タン及び球切れチェック処理で球切れスイッチからの検出信号がＯＮ、前回（２ｍｓ前）の満タン及び球切れチェック処理で球切れスイッチからの検出信号がＯＦＦとなったとき、つまり球切検知センサ５７４からの検出信号がＯＦＦからＯＮに遷移したときには、ステップＳ５５２のタイマ更新処理で上述した球切れ判定時間の計時を開始する。そしてタイマ更新処理で球切れ判定時間が値０となったとき、つまり球切れ判定時間となったときには、この満タン及び球切れチェック処理で球切検知センサ５７４からの検出信号がＯＮであるか否かを判定する。この判定では、球切検知センサ５７４からの検出信号がＯＮであるときには、球誘導ユニット５７０の誘導通路５７０ａ内に取り込まれた遊技球の球数が所定数以上であるとしてその旨を伝える球切れ情報を状態情報記憶領域に記憶する一方、球切検知センサ５７４からの検出信号がＯＦＦであるときには、球誘導ユニット５７０の誘導通路５７０ａ内に取り込まれた遊技球の球数が所定数以上でないとしてその旨を伝える球切れ情報を状態情報記憶領域に記憶する。

【２９３２】
ステップＳ５５６に続いて、払出制御ＭＰＵは、コマンド受信処理を行う（ステップＳ５５８）。このコマンド受信処理では、主制御基板１３１０からの払い出しに関する各種コマンド（賞球コマンドやセルフチェックコマンド）を受信する。この各種コマンドを正常に受信したときには、その旨を伝える払主ＡＣＫ情報を上述した出力情報記憶領域に記憶する。一方、各種コマンドを正常に受信できなかったときには、主制御基板１３１０と払出制御基板６３３との基板間の接続に異常が生じている（各種コマンド信号に異常が生じている）旨を伝える接続異常情報を上述した状態情報記憶領域に記憶する。
【２９３３】
ステップＳ５５８に続いて、払出制御ＭＰＵは、コマンド解析処理を行う（ステップＳ５６０）。このコマンド解析処理では、ステップＳ５５８で受信したコマンドの解析を行い、その解析したコマンドを受信コマンド情報として払出制御内蔵ＲＡＭの受信コマンド情報記憶領域に記憶する。
【２９３４】
ステップＳ５６０に続いて、払出制御ＭＰＵは、主要動作設定処理を行う（ステップＳ５６２）。この主要動作設定処理では、賞球、貸球、球抜き及び球ガミ等の動作設定を行ったり、リトライ動作の判定を行ったり、未払い出しの球数（賞球ストック数）を監視したりする。
【２９３５】
ステップＳ５６２に続いて、払出制御ＭＰＵは、ＬＥＤ表示データ作成処理を行う（ステップＳ５６４）。このＬＥＤ表示データ作成処理では、上述した状態情報記憶領域から各種情報を読み出し、払出制御基板６３３のエラーＬＥＤ表示器に表示する表示データを作成してＬＥＤ表示情報として上述した出力情報記憶領域に記憶する。例えば、状態情報記憶領域から上述した球切れ情報を読み出し、この球切れ情報に基づいて、球誘導ユニット５７０の誘導通路５７０ａ内に取り込まれた遊技球の球数が所定数以上でないときには、対応する表示データ（本実施形態では、表示値１（数字「１」））を作成してＬＥＤ表示情報を出力情報記憶領域に記憶する。
【２９３６】
ステップＳ５６４に続いて、払出制御ＭＰＵは、コマンド送信処理を行う（ステップＳ５６６）。このコマンド送信処理では、上述した状態情報記憶領域から各種情報を読み出し、この各種情報に基づいて状態表示に区分される各種コマンド（枠状態１コマンド、エラー解除ナビコマンド及び枠状態２コマンド）を作成して主制御基板１３１０に送信する。例えば、状態情報記憶領域から球切れ情報を読み出すと、この球切れ情報に基づいて、球誘導ユニット５７０の誘導通路５７０ａ内に取り込まれた遊技球の球数が所定数以上でないときには、枠状態１コマンドを作成して主制御基板１３１０に送信したりする。
【２９３７】
ステップＳ５６６に続いて、払出制御ＭＰＵは、ウォッチドックタイマクリアレジスタＨＷＣＬに値Ｃをセットする（ステップＳ５６８）。ステップＳ５６８でウォッチドックタイマクリアレジスタＨＷＣＬに値Ｃがセットされることにより、ウォッチドックタイマクリアレジスタＨＷＣＬには、ステップＳ５４６においてセットされた値Ｂに続いて値Ｃがセットされる。これにより、ウォッチドックタイマクリアレジスタＨＷＣＬには、値Ａ、値Ｂそして値Ｃが順にセットされ、ウォッチドックタイマがクリア設定される。
【２９３８】
ステップＳ５６８に続いて、再びステップＳ５３９に戻り、払出制御ＭＰＵは、ウォッチドックタイマクリアレジスタＨＷＣＬに値Ａをセットし、ステップＳ５４０で停電予告信号が入力されているか否かを判定し、この停電予告信号の入力がなければ、ステップＳ５４２で２ｍｓ経過フラグＨＴ－ＦＬＧが値１であるか否かを判定し、この２ｍｓ経過フラグＨＴ－ＦＬＧが値１であるとき、つまり２ｍｓ経過したときには、ステップＳ５４４で２ｍｓ経過フラグＨＴ－ＦＬＧに値０をセットし、ステップＳ５４６でウォッチドックタイマクリアレジスタＨＷＣＬに値Ｂをセットし、ステップＳ５４８でポート出力処理を行

い、ステップＳ５５０でポート入力処理を行い、ステップＳ５５２でタイマ更新処理を行い、ステップＳ５５４でＣＲ通信処理を行い、ステップＳ５５６で満タン及び球切れチェック処理を行い、ステップＳ５５８でコマンド受信処理を行い、ステップＳ５６０でコマンド解析処理を行い、ステップＳ５６２で主要動作設定処理を行い、ステップＳ５６４でＬＥＤ表示データ作成処理を行い、ステップＳ５６６でコマンド送信処理を行い、ステップＳ５６８でウォッチドックタイマクリアレジスタＨＷＣＬに値Ｃをセットし、ステップＳ５３９～ステップＳ５６８を繰り返し行う。なお、このステップＳ５３９～ステップＳ５６８の処理を「払出制御部メイン処理」という。

【２９３９】

主制御基板１３１０による遊技の進行に応じて払出制御部メイン処理の処理内容が異なってくる。このため、払出制御ＭＰＵの処理に要する時間が変動することとなる。そこで、払出制御ＭＰＵは、ステップＳ５４８のポート出力処理において、主制御基板１３１０からの払い出しに関する各種コマンドを正常に受信した旨を伝える払主ＡＣＫ信号を、優先して主制御基板１３１０に出力している。これにより、払出制御ＭＰＵは、変動する他の処理を十分に行えるよう、その処理時間を確保している。

【２９４０】

一方、ステップＳ５４０の判定において、払出制御ＭＰＵは、停電予告信号の入力があったと判定したときには、割り込み禁止設定を行う（ステップＳ５７０）。この設定により後述する払出制御部タイマ割り込み処理が行われなくなり、払出制御内蔵ＲＡＭへの書き込みを防ぎ、上述した払出情報の書き換えを保護している。

【２９４１】

ステップＳ５７０に続いて、払出制御ＭＰＵは、払出モータ５８４への駆動信号の出力を停止する（ステップＳ５７４）。これにより、遊技球の払い出しを停止する。

【２９４２】

ステップＳ５７４に続いて、払出制御ＭＰＵは、ウォッチドックタイマのクリア設定を行う（ステップＳ５７６）。このクリア設定は、上述したように、ウォッチドックタイマクリアレジスタＨＷＣＬに値Ａ、値Ｂそして値Ｃを順にセットすることにより行われる。

【２９４３】

ステップＳ５７６に続いて、払出制御ＭＰＵは、チェックサムの算出を行ってこの算出した値を記憶する（ステップＳ５７８）。このチェックサムは、ステップＳ５２４で算出したチェックサムの値及び払出バックアップフラグＨＢＫ－ＦＬＧの値の記憶領域を除く、払出制御内蔵ＲＡＭの作業領域の払出情報を数値とみなしてその合計を算出する。

【２９４４】

ステップＳ５７８に続いて、払出制御ＭＰＵは、払出バックアップフラグＨＢＫ－ＦＬＧに値１をセットする（ステップＳ５８０）。これにより、払出バックアップ情報の記憶が完了する。

【２９４５】

ステップＳ５８０に続いて、払出制御ＭＰＵは、払出制御内蔵ＲＡＭへのアクセスの禁止設定を行う（ステップＳ５８２）。この設定により払出制御内蔵ＲＡＭへのアクセスが禁止され書き込み及び読み出しができなくなり、払出制御内蔵ＲＡＭに記憶されている払出バックアップ情報が保護される。

【２９４６】

ステップＳ５８２に続いて、払出制御ＭＰＵは、無限ループに入る。この無限ループでは、ウォッチドックタイマクリアレジスタＨＷＣＬに値Ａ、値Ｂそして値Ｃを順にセットしないためウォッチドックタイマがクリア設定されなくなる。このため、払出制御ＭＰＵにリセットがかかり、その後、この払出制御部電源投入時処理を再び行う。なお、ステップＳ５７０～ステップＳ５８２の処理及び無限ループを「払出制御部電源断時処理」という。

【２９４７】

パチンコ機１（払出制御ＭＰＵ）は、停電したとき又は瞬停したときにはリセットがかかり、その後の電力の復旧により払出制御部電源投入時処理を行う。

【２９４８】
なお、ステップＳ５２６では払出制御内蔵ＲＡＭに記憶されている払出バックアップ情報が正常なものであるか否かを検査し、続いてステップＳ５２８では払出制御部電源断時処理が正常に終了されたか否かを検査している。このように、払出制御内蔵ＲＡＭに記憶されている払出バックアップ情報を２重にチェックすることにより払出バックアップ情報が不正行為により記憶されたものであるか否かを検査している。
【２９４９】
［払出制御部タイマ割り込み処理］
次に、払出制御部タイマ割り込み処理について説明する。この払出制御部タイマ割り込み処理は、図２８０～図２８２に示した払出制御部電源投入時処理において設定された割り込み周期（本実施形態では、２ｍｓ）ごとに繰り返し行われる。
【２９５０】
払出制御部タイマ割り込み処理が開始されると、払出制御ＭＰＵは、図２８３に示すように、タイマ割り込みを禁止に設定してレジスタの切替（退避）を行う（ステップＳ５９０）。ここでは、上述した払出制御部メイン処理で使用していた汎用記憶素子（汎用レジスタ）から補助レジスタに切り替える。この補助レジスタを払出制御部タイマ割り込み処理で使用することにより汎用レジスタの値が上書きされなくなる。これにより、払出制御部メイン処理で使用していた汎用レジスタの内容の破壊を防いでいる。
【２９５１】
ステップＳ５９０に続いて、払出制御ＭＰＵは、２ｍｓ経過フラグＨＴ－ＦＬＧに値１をセットする（ステップＳ５９２）。この２ｍｓ経過フラグＨＴ－ＦＬＧは、この払出制御部タイマ割り込み処理が行われるごとに、つまり２ｍｓごとに２ｍｓを計時するフラグであり、２ｍｓ経過したとき値１、２ｍｓ経過していないとき値０にそれぞれ設定される。
【２９５２】
ステップＳ５９２に続いて、払出制御ＭＰＵは、レジスタの切替（復帰）を行う（ステップＳ５９４）。この復帰は、払出制御部タイマ割り込み処理で使用していた補助レジスタから汎用記憶素子（汎用レジスタ）に切り替える。この汎用レジスタを払出制御部メイン処理で使用することにより補助レジスタの値が上書きされなくなる。これにより、払出制御部タイマ割り込み処理で使用していた補助レジスタの内容の破壊を防いでいる。
【２９５３】
ステップＳ５９４に続いて、払出制御ＭＰＵは、割り込み許可の設定を行い（ステップＳ５９６）、このルーチンを終了する。
【２９５４】
［周辺制御基板の各種制御処理］
次に、図１３７に示した、主制御基板１３１０（主制御ＭＰＵ）から各種コマンドを受信する周辺制御基板１５１０の各種処理について、図２８４～図２８８を参照して説明する。図２８４は周辺制御部電源投入時処理の一例を示すフローチャートであり、図２８５は周辺制御部Ｖブランク割り込み処理の一例を示すフローチャートであり、図２８６は周辺制御部１ｍｓタイマ割り込み処理の一例を示すフローチャートであり、図２８７は周辺制御部コマンド受信割り込み処理の一例を示すフローチャートであり、図２８８は周辺制御部停電予告信号割り込み処理の一例を示すフローチャートである。まず、周辺制御部電源投入時処理について説明し、続いて周辺制御部Ｖブランク割り込み処理、周辺制御部１ｍｓタイマ割り込み処理、周辺制御部コマンド受信割り込み処理、周辺制御部停電予告信号割り込み処理について説明する。なお、本実施形態では、割り込み処理の優先順位として、周辺制御部停電予告信号割り込み処理が最も高く設定され、続いて周辺制御部１ｍｓタイマ割り込み処理、周辺制御部コマンド受信割り込み処理、そして周辺制御部Ｖブランク割り込み処理という順番に設定されている。
【２９５５】
周辺制御基板１５１０の周辺制御ＩＣは、上述したように、ＣＰＵ、ＲＡＭ、ＶＤＰ、ＶＲＡＭ、音源、ＳＡＴＡコントローラ、そして各種Ｉ／Ｏインターフェイス等が１つの半

導体チップ上に集積されている。
【２９５６】
［周辺制御部電源投入時処理］
まず、周辺制御部電源投入時処理について、図２８４を参照して説明する。パチンコ機１に電源が投入されると、周辺制御基板１５１０の周辺制御ＩＣのＣＰＵによる制御の下、図２８４に示すように、周辺制御部電源投入時処理を行う。この周辺制御部電源投入時処理が開始されると、周辺制御ＩＣのＣＰＵは、初期設定処理を行う（ステップＳ１０００）。この初期設定処理では、周辺制御ＩＣ自身を初期化する処理と、ホットスタート／コールドスタートの判定処理と、リセット後のウェイトタイマを設定する処理、各種の制御情報（周辺データ）を転送する処理等を行う。周辺制御ＩＣのＣＰＵは、まず周辺制御ＩＣ自身を初期化する処理を行うが、周辺制御ＩＣを初期化する処理にかかる時間は、マイクロ秒（μｓ）オーダーであり、極めて短い時間で周辺制御ＩＣを初期化することができる。これにより、周辺制御ＩＣのＣＰＵは、割り込み許可が設定された状態となることによって、例えば、後述する周辺制御部コマンド受信割り込み処理において、主制御基板１３１０から出力される、遊技演出の制御に関するコマンドやパチンコ機１の状態に関するコマンド等の各種コマンドを受信することができる状態となる。
【２９５７】
ステップＳ１０００に続いて、周辺制御ＩＣのＣＰＵは、現在時刻情報取得処理を行う（ステップＳ１００２）。この現在時刻情報取得処理では、図示しないリアルタイムクロックＩＣの内蔵ＲＡＭから、年月日を特定するカレンダー情報と時分秒を特定する時刻情報とを取得して、周辺制御ＩＣのＲＡＭに、現在のカレンダー情報、現在の時刻情報をセットする。
【２９５８】
本実施形態では、周辺制御ＩＣのＣＰＵがリアルタイムクロックＩＣの内蔵ＲＡＭからカレンダー情報と時刻情報とを取得するのは、電源投入時の１回のみとなっている。また周辺制御ＩＣのＣＰＵは、この現在時刻情報取得処理を行った後に、図示しない外部ＷＤＴにクリア信号を出力して周辺制御ＩＣのＣＰＵにリセットがかからないようにしている。
【２９５９】
ステップＳ１００２に続いて、周辺制御ＩＣのＣＰＵは、Ｖブランク信号検出フラグＶＢ－ＦＬＧに値０をセットする（ステップＳ１００４）。このＶブランク信号検出フラグＶＢ－ＦＬＧは、後述する周辺制御部定常処理を実行するか否かを決定するためのフラグであり、周辺制御部定常処理を実行するとき値１、周辺制御部定常処理を実行しないとき値０にそれぞれ設定される。Ｖブランク信号検出フラグＶＢ－ＦＬＧは、周辺制御ＩＣのＣＰＵからの画面データ（画面の構成を規定する情報）を受け入れることができる状態である旨を伝えるＶブランク信号が周辺制御ＩＣのＶＤＰから入力されたことを契機として実行される後述する周辺制御部Ｖブランク信号割り込み処理において値１がセットされるようになっている。このステップＳ１００４では、Ｖブランク信号検出フラグＶＢ－ＦＬＧに値０をセットすることによりＶブランク信号検出フラグＶＢ－ＦＬＧを一度初期化している。また周辺制御ＩＣのＣＰＵは、このＶブランク信号検出フラグＶＢ－ＦＬＧに値０をセットした後に、外部ＷＤＴにクリア信号を出力して周辺制御ＩＣのＣＰＵにリセットがかからないようにしている。
【２９６０】
ステップＳ１００４に続いて、周辺制御ＩＣのＣＰＵは、Ｖブランク信号検出フラグＶＢ－ＦＬＧが値１であるか否かを判定する（ステップＳ１００６）。周辺制御ＩＣのＣＰＵは、Ｖブランク信号検出フラグＶＢ－ＦＬＧが値１でない（値０である）と判定したときには、再びステップＳ１００６に戻ってＶブランク信号検出フラグＶＢ－ＦＬＧが値１であるか否かを繰り返し判定する。このような判定を繰り返すことにより、周辺制御部定常処理を実行するまで待機する状態となる。また周辺制御ＩＣのＣＰＵは、このＶブランク信号検出フラグＶＢ－ＦＬＧが値１であるか否かを判定した後に、外部ＷＤＴにクリア信号を出力して周辺制御ＩＣのＣＰＵにリセットがかからないようにしている。

【２９６１】
ステップＳ１００６の判定において、周辺制御ＩＣのＣＰＵは、Ｖブランク信号検出フラグＶＢ－ＦＬＧが値１であるとき、つまり周辺制御部定常処理を実行すると判定したときには、まず定常処理中フラグＳＰ－ＦＬＧに値１をセットする（ステップＳ１００８）。この定常処理中フラグＳＰ－ＦＬＧは、周辺制御部定常処理を実行中であるとき値１、周辺制御部定常処理を実行完了したとき値０にそれぞれセットされる。
【２９６２】
ステップＳ１００８に続いて、周辺制御ＩＣのＣＰＵは、１ｍｓ割り込みタイマ起動処理を行う（ステップＳ１０１０）。この１ｍｓ割り込みタイマ起動処理では、後述する周辺制御部１ｍｓタイマ割り込み処理を実行するための１ｍｓ割り込みタイマを起動するとともに、この１ｍｓ割り込みタイマが起動して周辺制御部１ｍｓタイマ割り込み処理が実行された回数をカウントするための１ｍｓタイマ割り込み実行回数ＳＴＮに値１をセットして１ｍｓタイマ割り込み実行回数ＳＴＮの初期化も行う。この１ｍｓタイマ割り込み実行回数ＳＴＮは周辺制御部１ｍｓタイマ割り込み処理で更新される。
【２９６３】
ステップＳ１０１０に続いて、周辺制御ＩＣのＣＰＵは、演出操作ユニット監視処理を行う（ステップＳ１０１４）。この演出操作ユニット監視処理では、後述する周辺制御部１ｍｓタイマ割り込み処理における演出操作ユニット情報取得処理において、演出操作ユニット３００に設けられた第一回転検知センサ３４７、第二回転検知センサ３４８、押圧検知センサ３８１、昇降検知センサ３８２等の各種検知センサ（以下、「演出操作ユニット３００に設けられた各種センサ」と記載する。）からの検出信号に基づいて回転操作部３０２の回転（回転方向）及び押圧操作部３０３の操作等を取得した各種情報（例えば、演出操作ユニット３００に設けられた各種センサからの検出信号に基づいて作成する回転操作部３０２の回転（回転方向）履歴情報、及び押圧操作部３０３の操作履歴情報など。）がセットされる周辺制御ＩＣのＲＡＭに基づいて、回転操作部３０２の回転方向や押圧操作部３０３の操作有無を監視し、回転操作部３０２の回転方向や押圧操作部３０３の操作の状態を遊技演出に反映するか否かを適宜決定する。具体的には、演出操作ユニット情報取得処理で音量が調節されていれば調節後の音量に応じて音生成用スケジュールデータを書き換え、輝度が調節されていれば調節後の輝度に応じて発光態様生成用スケジュールデータを書き換える。これにより、音量や輝度の調節がリアルタイムに反映されて調節後の音量や輝度で演出が進行するようになる。
【２９６４】
なお、周辺制御ＩＣのＣＰＵは、演出操作ユニット監視処理の一処理としてランプパレット設定処理も行う。ランプパレット設定処理では、輝度指定値、通常パレット値、及び特殊パレット値から構成されるランプパレット設定テーブルに基づいて、直接光として用いられるＬＥＤの輝度と、間接光として用いられるＬＥＤの輝度と、をそれぞれ設定する。演出の進行中において、ランプパレット設定処理を実行して、遊技者（又は遊技ホールの店員等の係員）が演出操作部３０１（回転操作部３０２、押圧操作部３０３）を操作して、第１輝度指定値から最大輝度となる第３１輝度指定値までに亘る一の輝度指定値を設定した場合には、その設定した輝度指定値となるように、周辺制御ＩＣのＲＡＭにセットした上述した階調情報を更新することができるようになっている。
【２９６５】
ここで、ランプパレット設定テーブルを構成する輝度指定値、通常パレット値、及び特殊パレット値について簡単に説明する。輝度指定値は、最小輝度（消灯）となる第０（ゼロ）輝度指定値から最大輝度となる第３１輝度指定値までに亘る３２段階の範囲のうち、一の輝度指定値を設定することができる値であり、第０（ゼロ）輝度指定値～第３１輝度指定値と対応して後述する通常パレット値、及び特殊パレット値がそれぞれ予め設定されている。遊技者（又は遊技ホールの店員等の係員）は、操作可能な演出操作部３０１（回転操作部３０２、押圧操作部３０３）を操作して、第１輝度指定値から最大輝度となる第３１輝度指定値までに亘る一の輝度指定値を設定することができる。

【２９６６】
例えば、遊技者（又は遊技ホールの店員等の係員）は、回転操作部３０２を時計回りに回転操作する場合であって現状の輝度が仮に最小輝度（消灯）となる第０（ゼロ）輝度指定値の次に輝度が高い段階となる第１輝度指定値に設定されているときには、第１輝度指定値から最大輝度である第３１輝度指定値へ向かって予め定めた数式（例えば、直線的なトーンカーブ、又はスプライン曲線的なトーンカーブ）に沿って、間接光として用いられるＬＥＤの輝度と、直接光として用いられるＬＥＤの輝度と、を高くするように変化する一方、回転操作部３０２を反時計回りに回転操作する場合であって現状の輝度が最大輝度に設定されているときには、最大輝度である第３１輝度指定値から第１輝度指定値へ向かって予め定めた数式（例えば、直線的なトーンカーブ、又はスプライン曲線的なトーンカーブ）に沿って、間接光として用いられるＬＥＤの輝度と、直接光として用いられるＬＥＤの輝度と、を低くするように変化する。遊技者（又は遊技ホールの店員等の係員）が回転操作部３０２を回転操作して所望の輝度を選択して押圧操作部３０３を押圧操作すると、選択した所望の輝度が確定する。なお、本実施形態では、演出の進行中において、遊技者（又は遊技ホールの店員等の係員）が輝度を設定できる場合が予め用意されており、このときに、遊技者（又は遊技ホールの店員等の係員）が回転操作部３０２、及び押圧操作部３０３の操作により所望の輝度に設定することができるようになっている。また、演出の進行中における演出表示装置１６００の表示領域の所定位置には、遊技者（又は遊技ホールの店員等の係員）が回転操作部３０２を操作すると、第１輝度指定値～第３１輝度指定値までの位置を示す棒状のインジケータが表示されることで、遊技者（又は遊技ホールの店員等の係員）の所望の輝度がどの程度のものであるかを画像として視覚的に示すことができるようになっている。また、本実施形態では、初期値（デフォルト）として第１４輝度指定値が設定されるようになっている。
【２９６７】
通常パレット値は、直接光として照射される遊技盤側に設けられる各種装飾基板や扉枠側に設けられる各種装飾基板に実装される各種ＬＥＤの輝度が上述した階調情報として設定されるものである。通常パレット値は、最小値である最小パレット値（２０％）から最大値である最大パレット値（１００％）へ向かって５％刻みで１７段階のうち、一の段階が選択され、上述した輝度指定値である第０（ゼロ）輝度指定値～第３１輝度指定値までに亘る３２段階の範囲のうち、一の輝度指定と対応するパレット値が予め定めた数式（例えば、直線的なトーンカーブ、又はスプライン曲線的なトーンカーブ）に沿ってそれぞれ設定されている。
【２９６８】
最小パレット値（２０％）は、上述した輝度指定値である第０（ゼロ）輝度指定値～第３１輝度指定値までに亘る３２段階の範囲のうち、一の輝度指定と対応する最大パレット値（１００％）に対して２０％の値であり、他のパレット値も同様に、括弧書きに記載される値（％）が、上述した輝度指定値である第０（ゼロ）輝度指定値～第３１輝度指定値までに亘る３２段階の範囲のうち、一の輝度指定と対応する最大パレット値（１００％）に対しての値となる。
【２９６９】
本実施形態では、通常パレット値は、直接光として照射される遊技盤側に設けられる各種装飾基板や扉枠側に設けられる各種装飾基板に対して、最大パレット値（１００％）が予め選択され上述した階調情報として設定されていると共に、直接光として照射される遊技盤側に設けられる各種装飾基板のうち、図示しない特定の装飾基板（遊技者に眩しく感じられるＬＥＤ）に対して、パレット値（５０％）が予め選択され上述した階調情報として設定されている。
【２９７０】
特殊パレット値は、間接光として照射される導光板に利用される各種装飾基板に実装される各種ＬＥＤの輝度が上述した階調情報として設定されるものである。特殊パレット値は、通常パレット値と異なり、１段階のみ存在し、上述した輝度指定値である第０（ゼロ）

輝度指定値～第３１輝度指定値までに亘る３２段階の範囲のうち、一の輝度指定と対応するパレット値が予め定めた数式（例えば、直線的なトーンカーブ、又はスプライン曲線的なトーンカーブ）に沿って上述した階調情報として設定されている。

【２９７１】

間接光として用いられるＬＥＤの輝度は、上述したように、直接光として用いられるＬＥＤの輝度と同一のものとすると、導光板による間接光が直接光と比べて暗くなる。そこで、本実施形態では、間接光として用いられるＬＥＤの輝度は、直接光として用いられるＬＥＤの輝度に対して設定される通常パレット値を用いず、特殊パレット値を用いて設定されるようになっており、最小輝度（消灯）となる第０（ゼロ）輝度指定値の次に輝度が高い段階となる第１輝度指定値を、導光板が間接光により発光している状態を視認することができる最低の輝度として、通常パレット値が最大パレット値（１００％）に設定された場合における第１８輝度指定値とほぼ等しい値に設定され、第１輝度指定値から第３１輝度指定値までの範囲のうち、一の輝度指定値と対応するパレット値が予め定めた数式（例えば、直線的なトーンカーブ、又はスプライン曲線的なトーンカーブ）に沿って設定されるようになっている。

【２９７２】

このように、ランプパレット設定処理では、輝度指定値、通常パレット値、及び特殊パレット値から構成されるランプパレット設定テーブルに基づいて、直接光として用いられるＬＥＤの輝度と、間接光として用いられるＬＥＤの輝度と、をそれぞれ設定する際に、直接光として用いられるＬＥＤの輝度に対して、遊技者（又は遊技ホールの店員等の係員）が回転操作部３０２、及び押圧操作部３０３の操作による輝度指定値と対応する通常パレット値に沿って設定される一方、間接光として用いられるＬＥＤの輝度に対して、遊技者（又は遊技ホールの店員等の係員）が回転操作部３０２、及び押圧操作部３０３の操作による輝度指定値と対応する特殊パレット値に沿って設定されるようになっている。これにより、直接光として用いられるＬＥＤの輝度が眩しいと感じて、その輝度を小さくするために、遊技者が回転操作部３０２、及び押圧操作部３０３を操作して設定する場合において、直接光として用いられるＬＥＤの輝度を最も小さい輝度（つまり、最小輝度（消灯）となる第０（ゼロ）輝度指定値の次に輝度が高い段階となる第１輝度指定値）に設定し、これに連動して、間接光として用いられるＬＥＤの輝度も最も小さい輝度（つまり、最小輝度（消灯）となる第０（ゼロ）輝度指定値の次に輝度が高い段階となる第１輝度指定値）に設定したとしても、間接光として用いられるＬＥＤの輝度は、通常パレット値が最大パレット値（１００％）に設定された場合における第１８輝度指定値とほぼ等しい値に設定されるようになっているため、導光板が間接光により発光している状態を視認することができる最低の輝度が設定される。

【２９７３】

また、発光態様を設計するプログラマーは、直接光として用いられるＬＥＤに対して、遊技盤側に設けられる各種装飾基板や扉枠側に設けられる各種装飾基板に実装される各種ＬＥＤの輝度を個別に設定しなくても、演出の流れに伴う発光態様を設定して、遊技盤側に設けられる各種装飾基板や扉枠側に設けられる各種装飾基板に実装される各種ＬＥＤの発光態様による演出の流れを見てから、眩しすぎる（又は、少し暗い輝度の方が演出効果をより発揮できる）特定の装飾基板に対して通常パレット値を小さいパレット値（例えば、５０％）に設定するとともに、他の装飾基板に対して通常パレット値を最大パレット値（１００％）に設定することで、全体の発光態様のバランスを極めて簡単に変更することができる。つまり、遊技者（又は遊技ホールの店員等の係員）は、操作可能な演出操作部３０１（回転操作部３０２、押圧操作部３０３）を操作して第１輝度指定値から最大輝度となる第３１輝度指定値までに亘る一の輝度指定値を設定したとしても、特定の装飾基板に対しては一の輝度指定値と対応する小さいパレット値（例えば、５０％）が設定されるのに対して、他の装飾基板に対しては一の輝度指定値と対応する最大パレット値（１００％）がそれぞれ設定されるようになっているため、相互に設定された発光態様の関係（明るい、又は暗いという関係）を崩すことなく、極めて簡単に輝度調節を行うことができる。

【２９７４】
更に、導光板による間接光は、直接光と比べて輝度の調整が難しいものの、間接光として用いられるＬＥＤに対しては、通常パレット値と異なる（つまり、通常パレット値と独立した）特殊パレット値により輝度を設定することができるようになっている。これにより、間接光として用いられるＬＥＤの輝度は特殊パレット値により管理されるとともに、直接光として用いられるＬＥＤの輝度は通常パレット値により管理されるようになっているため、間接光として用いられるＬＥＤの輝度と、直接光として用いられるＬＥＤの輝度と、を容易にそれぞれ調整することができる。
【２９７５】
ステップＳ１０１４に続いて、周辺制御ＩＣのＣＰＵは、表示データ出力処理を行う（ステップＳ１０１６）。この表示データ出力処理では、後述する表示データ作成処理において、周辺制御ＩＣのＶＤＰが周辺制御ＩＣのＣＰＵからの指示に基づいてＳＤＲＡＭから画像データを読み出して周辺制御ＩＣのＶＲＡＭ上に生成した１画面分（１フレーム分）の描画データを液晶出力基板１５３０に出力する。これにより、演出表示装置１６００にさまざまな画面（画像）が描画（表示）される。なお、表示データ出力処理では、周辺制御ＩＣのＶＤＰの描画能力を超える描画を行った場合には、生成した１画面分（１フレーム分）の描画データを出力することをキャンセルするようになっている。これにより、処理時間の遅れを防止することができるが、いわゆるコマ落ちが発生することとなるものの、後述する音データ出力処理による、振動スピーカ３５４、トップ中央スピーカ４６２、トップサイドスピーカ４６４、本体枠スピーカ６２２等の各種スピーカ（以下、「各種スピーカ」と記載する。）から各種演出に合わせた音楽や効果音等の演出音による演出を優先することができる仕組みとなっている。
【２９７６】
ステップＳ１０１６に続いて、周辺制御ＩＣのＣＰＵは、音データ出力処理を行う（ステップＳ１０１８）。この音データ出力処理では、後述する音データ作成処理において、周辺制御ＩＣの音源が周辺制御ＩＣのＣＰＵからの指示に基づいてＳＤＲＡＭから音データを読み出し、設定される出力チャンネルから各種スピーカに出力する。これにより、各種スピーカから各種演出に合せた音楽及び効果音等のサウンドが流れる。
【２９７７】
ステップＳ１０１８に続いて、周辺制御ＩＣのＣＰＵは、スケジューラ更新処理を行う（ステップＳ１０２０）。このスケジューラ更新処理では、周辺制御ＩＣのＲＡＭにセットされた各種スケジュールデータを更新する。例えば、スケジューラ更新処理では、画面生成用スケジュールデータを構成する時系列に配列された画面データのうち、先頭の画面データから何番目の画面データを周辺制御ＩＣのＶＤＰに出力するのかを指示するために、ポインタを更新する。
【２９７８】
またスケジューラ更新処理では、発光態様生成用スケジュールデータを構成する時系列に配列された発光データのうち、先頭の発光データから何番目の発光データを出力対象とするのかを指示するために、ポインタを更新する。
【２９７９】
またスケジューラ更新処理では、音生成用スケジュールデータを構成する時系列に配列された、音楽や効果音等の演出音の音データ、報知音や告知音の音データを指示する音指令データのうち、先頭の音指令データから何番目の音指令データを周辺制御ＩＣの音源に出力するのかを指示するために、ポインタを更新する。
【２９８０】
またスケジューラ更新処理では、電気的駆動源スケジュールデータを構成する時系列に配列されたモータやソレノイド等の電気的駆動源の駆動データのうち、先頭の駆動データから何番目の駆動データを出力対象とするのかを指示するために、ポインタを更新する。電気的駆動源スケジュールデータを構成する時系列に配列されたモータやソレノイド等の電気的駆動源の駆動データは、後述する、１ｍｓタイマ割り込みが発生するごとに繰り返し

実行される周辺制御部１ｍｓタイマ割り込み処理におけるモータ及びソレノイド駆動処理で更新される。この１ｍｓタイマ割り込みが発生するごとに繰り返し実行されるモータ及びソレノイド駆動処理では、ポインタが指示する駆動データに従ってモータやソレノイド等の電気的駆動源を駆動するとともに、時系列に規定された次の駆動データにポインタを更新し、自身の処理を実行するごとに、ポインタを更新する。つまり、モータ及びソレノイド駆動処理において更新したポインタの指示する駆動データは、スケジューラ更新処理において強制的に更新される仕組みとなっているため、仮に、モータ及びソレノイド駆動処理においてポインタが何らかの原因で本来指示するはずの駆動データから他の駆動データを指示することとなっても、スケジューラ更新処理において本来指示するはずの駆動データに指示するように強制的に更新されるようになっている。

【２９８１】

ステップＳ１０２０に続いて、周辺制御ＩＣのＣＰＵは、受信コマンド解析処理を行う（ステップＳ１０２２）。この受信コマンド解析処理では、主制御基板１３１０から送信された各種コマンドを、後述する周辺制御部コマンド受信割り込み処理において受信してその受信した各種コマンドの解析を行うとともに、演出の各種設定に用いられる乱数（例えば保留先読み関連の演出に用いられる乱数）の更新を行う。主制御基板１３１０からの各種コマンドは、周辺制御部コマンド受信割り込み処理で受信されて周辺制御ＩＣのＲＡＭに記憶されるようになっており、この受信コマンド解析処理では、周辺制御ＩＣのＲＡＭに記憶された各種コマンドの解析を行う。周辺制御ＩＣのＣＰＵは、解析した各種コマンドに基づいて、画面生成用スケジュールデータ、発光態様生成用スケジュールデータ、音生成用スケジュールデータ、及び電気的駆動源スケジュールデータ等を、周辺制御ＲＯＭから読み出して（抽出して）周辺制御ＩＣのＲＡＭにセットする。

【２９８２】

なお、周辺制御ＩＣのＣＰＵは、受信コマンド解析処理の一処理としてランプパレット設定処理も行う。ランプパレット設定処理では、上述した輝度指定値、通常パレット値、及び特殊パレット値から構成されるランプパレット設定テーブルに基づいて、直接光として用いられるＬＥＤの輝度と、間接光として用いられるＬＥＤの輝度と、をそれぞれ設定する。周辺制御ＩＣは、主制御基板１３１０からの各種コマンドを解析し、この解析した各種コマンドに基づいて、発光態様生成用スケジュールデータを周辺制御ＲＯＭから読み出して（抽出して）、ランプパレット設定処理を実行して、遊技者（又は遊技ホールの店員等の係員）が演出操作部３０１（回転操作部３０２、押圧操作部３０３）を操作して、上述した、第１輝度指定値から最大輝度となる第３１輝度指定値までに亘る一の輝度指定値を設定した場合には、その設定した輝度指定値となるように、上述した階調情報を更新して周辺制御ＩＣのＲＡＭにセットすることができるようになっている。

【２９８３】

また、周辺制御ＩＣのＣＰＵは、この周辺制御部コマンド割り込み処理で受信された主制御基板１３１０からのコマンドが、例えば、始動口入賞演出の開始を指示するための始動口入賞コマンド、普通図柄の保留数（０～４個）を識別するための普通図柄記憶コマンド、特別図柄の変動表示に同期して演出表示装置１６００において装飾図柄の変動表示等の変動演出の開始を指示するための変動パターンコマンド、始動保留数が変化すると出力される図柄記憶コマンド、第一大入賞口２００５に遊技球が受け入れられる度に出力された大入賞口１カウント表示コマンドであるか否かを解析し、現在、どの遊技状態であるかを認識する。

【２９８４】

主制御基板１３１０からの各種コマンドは、周辺制御部コマンド受信割り込み処理で受信されて周辺制御ＩＣのＲＡＭに記憶されるようになっており、受信コマンド解析処理では、周辺制御ＩＣのＲＡＭに記憶された各種コマンドの解析を行う。各種コマンドには、特図１同調演出関連に区分される各種コマンド、特図２同調演出関連に区分される各種コマンド、大当り関連に区分される各種コマンド、電源投入に区分される各種コマンド、普図同調演出関連に区分される各種コマンド、普通電役演出関連に区分される各種コマンド、

報知表示に区分される各種コマンド、状態表示に区分される各種コマンド、テスト関連に区分される各種コマンド及びその他に区分される各種コマンドがある。また、周辺制御基板１５１０は受信したコマンドに基づいて予告等に関する抽選処理を実行し、該抽選結果に基づいて画面生成用スケジュールデータ、発光態様生成用スケジュールデータ、音生成用スケジュールデータ、及び電気的駆動源スケジュールデータ等を、周辺制御ＲＯＭから読み出して（抽出して）周辺制御ＩＣのＲＡＭにセットする。これにより周辺制御基板１５１０の抽選結果に応じた演出が実行されるようになる。

【２９８５】

なお、周辺制御ＲＯＭには、周辺制御部１５１１、周辺制御部１５１１等を制御する各種制御プログラム、各種データ、各種制御データ、及び各種スケジュールデータが予め記憶されている。各種スケジュールデータには、演出表示装置１６００に描画する画面を生成する画面生成用スケジュールデータ、各種ＬＥＤの発光態様を生成する発光態様生成用スケジュールデータ、音楽や効果音等の演出音を生成する音生成用スケジュールデータ、及びモータやソレノイド等の電気的駆動源の駆動態様を生成する電気的駆動源スケジュールデータ等がある。画面生成用スケジュールデータは、画面の構成を規定する画面データが時系列に配列されて構成されており、演出表示装置１６００に描画する画面の順序が規定されている。発光態様生成用スケジュールデータは、各種ＬＥＤの発光態様を規定する発光態様データが時系列に配列されて構成されている。音生成用スケジュールデータは、音指令データが時系列に配列されて構成されており、音楽や効果音が流れる順番が規定されている。この音指令データには、周辺制御ＩＣの内蔵音源における複数の出力チャンネルのうち、どの出力チャンネルを使用するのかを指示するための出力チャンネル番号と、周辺制御ＩＣの内蔵音源における複数のトラックのうち、どのトラックに音楽及び効果音等の音データを組み込むのかを指示するためのトラック番号と、が規定されている。電気的駆動源スケジュールデータは、モータやソレノイド等の電気的駆動源の駆動データが時系列に配列されて構成されており、モータやソレノイド等の電気的駆動源の動作が規定されている。

【２９８６】

ステップＳ１０２２に続いて、周辺制御ＩＣのＣＰＵは、警告処理を行う（ステップＳ１０２４）。この警告処理では、ステップＳ１０２２の受信コマンド解析処理で解析したコマンドに、報知表示に区分される各種コマンドが含まれているときには、各種異常報知を実行するための異常表示態様に設定されている、画面生成用スケジュールデータ、発光態様生成用スケジュールデータ、音生成用スケジュールデータ、及び電気的駆動源スケジュールデータ等を、周辺制御ＲＯＭから読み出して（抽出して）周辺制御ＩＣのＲＡＭにセットする。なお、警告処理では、複数の異常が同時に発生した場合には、予め登録した優先度の高い順から異常報知から行われ、その異常が解決して残っている他の異常報知に自動的に遷移するようになっている。これにより、一の異常が発生した後であってその異常を解決する前に他の異常が発生して一の異常が発生しているという情報を失うことなく、複数の異常を同時に監視することができる。

【２９８７】

ステップＳ１０２４に続いて、周辺制御ＩＣのＣＰＵは、ＲＣＴ取得情報更新処理を行う（ステップＳ１０２６）。このＲＴＣ取得情報更新処理では、ステップＳ１００２の現在時刻情報取得処理で取得して周辺制御ＩＣのＲＡＭに記憶されたカレンダー情報と時刻情報とを更新する。このＲＣＴ取得情報更新処理により、周辺制御ＩＣのＲＡＭに記憶される時刻情報である時分秒が更新され、この更新される時刻情報に基づいて周辺制御ＩＣのＲＡＭに記憶されるカレンダー情報である年月日が更新される。

【２９８８】

ステップＳ１０２６に続いて、周辺制御ＩＣのＣＰＵは、表示データ作成処理を行う（ステップＳ１０３０）。この表示データ作成処理では、ステップＳ１０２０のスケジューラ更新処理においてポインタが更新されて、画面生成用スケジュールデータを構成する時系列に配列された画面データのうち、そのポインタが示す画面データを、周辺制御ＲＯＭか

ら読み出して（抽出して）周辺制御ＩＣのＶＤＰに出力する。
【２９８９】
周辺制御ＩＣのＶＤＰは、周辺制御ＩＣのＣＰＵから画面データが入力されると、この入力された画面データに基づいて、ＳＤＲＡＭから画像データを読み出して演出表示装置１６００に描画（表示）する１画面分（１フレーム分）の描画データを内蔵ＶＲＡＭに生成する。
【２９９０】
ステップＳ１０３０に続いて、周辺制御ＩＣのＣＰＵは、音データ作成処理を行う（ステップＳ１０３２）。この音データ作成処理では、ステップＳ１０２０のスケジューラ更新処理においてポインタが更新されて、音生成用スケジュールデータを構成する時系列に配列された音指令データのうち、そのポインタが指示する音指令データを、周辺制御ＲＯＭから読み出して（抽出して）周辺制御ＩＣのＲＡＭにセットする。周辺制御ＩＣの音源は、周辺制御ＩＣのＣＰＵから音指令データが入力されると、ＳＤＲＡＭから音データを読み出して音指令データに規定されたトラック番号に従って音楽及び効果音等の音データを組み込むとともに、出力チャンネル番号に従って使用する出力チャンネルを設定する。
【２９９１】
なお、音データ作成処理では、この音データ作成処理を行うごとに（つまり、周辺制御部定常処理を行うごとに）、音量調整スイッチからの音量調整操作信号に基づいて、音量調整スイッチの回転位置を特定している。周辺制御ＩＣのＣＰＵは、音量調整スイッチの回転位置と対応する音量となるように、周辺制御ＩＣの音源を制御して、ステップＳ１０１８の音データ出力処理において、この音データ作成処理で設定した出力チャンネルから音データを各種スピーカに出力する。これにより、各種スピーカから各種演出に合せた音楽及び効果音等のサウンドが流れるようになっている。
【２９９２】
具体的には、音量調整スイッチを回動操作することにより抵抗値が可変し、音量スイッチの回転位置における抵抗値により分圧された電圧を、アナログ値からデジタル値に変換して、値０～値１０２３までの１０２４段階の値に変換している。本実施形態では、１０２４段階の値を７つに分割して基板ボリューム０～６として管理している。基板ボリューム０では消音、基板ボリューム６では最大音量に設定されており、基板ボリューム０から基板ボリューム６に向かって音量が大きくなるようにそれぞれ設定されている。基板ボリューム０～６に設定された音量となるように周辺制御ＩＣの音源を制御して扉枠３側のトップ中央スピーカ４６２、トップサイドスピーカ４６４と、本体枠４の低音用の本体枠スピーカ６２２から音楽や効果音が流れるようになっている。このように、音量調整スイッチの回動操作に基づく音量調整により扉枠３側のトップ中央スピーカ４６２、トップサイドスピーカ４６４と、本体枠４の低音用の本体枠スピーカ６２２から音楽や効果音が流れるようになっている。
【２９９３】
なお、音指令データには、音データを組み込むトラックの音量を調節するためのサブボリューム値も含まれており、周辺制御ＩＣの内蔵音源における複数のトラックには、音楽や効果音等の演出音の音データとその音量を調節するサブボリューム値のほかに、パチンコ機１の不具合の発生やパチンコ機１に対する不正行為をホールの店員等に報知するための報知音の音データとその音量を調節するサブボリューム値が組み込まれる。
【２９９４】
具体的には、演出音に対しては、上述した、音量調整スイッチが回動操作されて調節された基板ボリュームがサブボリューム値として設定され、報知音に対しては、音量調整スイッチの回動操作に基づく音量調整に全く依存されず最大音量がサブボリューム値として設定されるようになっている。演出音のサブボリューム値は、電源投入後の所定期間（具体的には周辺制御部が初期設定処理（ステップＳ１０００）及び現在時刻設定処理（ステップＳ１００２）を終了するまでの期間）や特別図柄表示器（第一特別図柄表示器、第二特別図柄表示器）において特別図柄（第一特別図柄、第二特別図柄）の変動表示を開始又は

停止するときの一定期間（この例では周辺制御部にて変動パターンコマンドを受信してから装飾図柄の変動表示開始後に０．５秒経過するまでや、周辺制御部にて停止表示コマンドを受信してから装飾図柄の確定表示後に０．５秒経過するまで）を除き、演出操作ユニット３００の回転操作部３０２や押圧操作部３０３を操作することで調節することができるようになっている。

【２９９５】

このように、本例のパチンコ機１では電源投入後の所定期間（具体的には周辺制御部が初期設定処理（ステップＳ１０００）及び現在時刻設定処理（ステップＳ１００２）を終了するまでの期間）や特別図柄表示器（第一特別図柄表示器、第二特別図柄表示器）において特別図柄（第一特別図柄、第二特別図柄）の変動表示を開始又は停止するときの一定期間（この例では周辺制御部にて変動パターンコマンドを受信してから装飾図柄の変動表示開始後に０．５秒経過するまでや、周辺制御部にて停止表示コマンドを受信してから装飾図柄の確定表示後に０．５秒経過するまで）を除き、演出操作ユニット３００の回転操作部３０２や押圧操作部３０３を操作することで、音データ作成処理において音量調整スイッチの回転位置における抵抗値により分圧された電圧を基板ボリューム０～６の７段階の値に変換し、さらに音量調整スイッチの回転位置における抵抗値により分圧された電圧に対して、演出操作ユニット３００の回転操作部３０２や押圧操作部３０３の操作に応じて所定値を加算又は減算することによって、基板ボリュームの値を増やしたり、又は減らしたりして基板ボリュームを設定することで演出音のサブボリューム値を調節できるようになっている。

【２９９６】

また、音指定データには、出力するチャンネルの音量を調節するためのマスターボリューム値も含まれており、周辺制御ＩＣの内蔵音源における複数の出力チャンネルには、周辺制御ＩＣの内蔵音源における複数のトラックうち、使用するトラックに組み込まれた演出音の音データと、使用するトラックに組み込まれた演出音の音量を調節するサブボリューム値と、を合成して、この合成した演出音の音量を、実際に、扉枠３側のトップ中央スピーカ４６２、トップサイドスピーカ４６４と、本体枠４の低音用の本体枠スピーカ６２２から流れる音量となるマスターボリューム値まで増幅し、この増幅した演出音をシリアル化してオーディオデータとして出力するようになっている。

【２９９７】

本実施形態では、マスターボリューム値は一定値に設定されており、合成した演出音の音量が最大音量であるときに、マスターボリューム値まで増幅されることにより、扉枠３側のトップ中央スピーカ４６２、トップサイドスピーカ４６４と、本体枠４の低音用の本体枠スピーカ６２２から流れる音量が許容最大音量となるように設定されている。具体的には、演出音に対しては、周辺制御ＩＣの内蔵音源における複数のトラックのうち、使用するトラックに組み込まれた演出音の音データと、使用するトラックに組み込まれた演出音の音量を調節するサブボリューム値として設定された音量調整スイッチが回動操作されて調節された基板ボリュームと、を合成して、この合成した演出音の音量を、実際に、扉枠３側のトップ中央スピーカ４６２、トップサイドスピーカ４６４と、本体枠４の低音用の本体枠スピーカ６２２から流れる音量となるマスターボリューム値まで増幅し、この増幅した演出音をシリアル化してオーディオデータとして出力し、報知音に対しては、使用するトラックに組み込まれた報知音の音データと、使用するトラックに組み込まれた報知音の音量を調節するサブボリューム値として設定された音量調整スイッチの回動操作に基づく音量調整に全く依存されず最大音量と、を合成して、この合成した報知音の音量を、実際に、扉枠３側のトップ中央スピーカ４６２、トップサイドスピーカ４６４と、本体枠４の低音用の本体枠スピーカ６２２から流れる音量となるマスターボリューム値まで増幅し、この増幅した報知音をシリアル化してオーディオデータとして出力する。

【２９９８】

ここで、演出音が扉枠３側のトップ中央スピーカ４６２、トップサイドスピーカ４６４と、本体枠４の低音用の本体枠スピーカ６２２から流れている場合に、パチンコ機１の不具

合の発生やパチンコ機１に対する不正行為をホールの店員等に報知するため報知音を流す制御について簡単に説明すると、まず演出音が組み込まれているトラックのサブボリューム値を強制的に消音に設定し、この演出音が組み込まれたトラックの音データと、その消音に設定したサブボリューム値と、報知音が組み込まれたトラックの音データと、報知音の音量が最大音量に設定されたサブボリューム値と、を合成し、この合成した演出音の音量と報知音の音量とを、実際に、扉枠３側のトップ中央スピーカ４６２、トップサイドスピーカ４６４と、本体枠４の低音用の本体枠スピーカ６２２から流れる音量となるマスターボリューム値まで増幅し、この増幅した演出音及び報知音をシリアル化してオーディオデータとして出力する。つまり、実際に、扉枠３側のトップ中央スピーカ４６２、トップサイドスピーカ４６４と、本体枠４の低音用の本体枠スピーカ６２２から流れる音は、最大音量の報知音だけが流れることとなる。このとき、演出音は消音となっているため、扉枠３側のトップ中央スピーカ４６２、トップサイドスピーカ４６４と、本体枠４の低音用の本体枠スピーカ６２２から流れないものの、演出音は、上述した音生成用スケジュールデータに従って進行している。

【２９９９】

本実施形態では、報知音は所定期間（例えば、９０秒）だけ扉枠３側のトップ中央スピーカ４６２、トップサイドスピーカ４６４と、本体枠４の低音用の本体枠スピーカ６２２から流れるようになっており、この所定期間経過すると、これまで消音に強制的に設定された音生成用スケジュールデータに従って進行している演出音の音量が、音量調整スイッチが回動操作されて調節された基板ボリュームがサブボリューム値として再び設定され（このとき、演出操作ユニット３００の回転操作部３０２や押圧操作部３０３を操作することで演出音の音量が調節されている場合には、その調節された演出音のサブボリューム値に設定され）、扉枠３側のトップ中央スピーカ４６２、トップサイドスピーカ４６４と、本体枠４の低音用の本体枠スピーカ６２２から流れるようになっている。

【３０００】

このように、演出音が扉枠３側のトップ中央スピーカ４６２、トップサイドスピーカ４６４と、本体枠４の低音用の本体枠スピーカ６２２から流れている場合に、パチンコ機１の不具合の発生やパチンコ機１に対する不正行為をホールの店員等に報知するため報知音が流れるときには、演出音の音量が消音になって報知音が扉枠３側のトップ中央スピーカ４６２、トップサイドスピーカ４６４と、本体枠４の低音用の本体枠スピーカ６２２から流れるものの、この消音となった演出音は、音生成用スケジュールデータに従って進行しているため、報知音が所定期間経過して扉枠３側のトップ中央スピーカ４６２、トップサイドスピーカ４６４と、本体枠４の低音用の本体枠スピーカ６２２から流れなくなると、演出音は、報知音が流れ始めたところから再び流れ始めるのではなく、報知音が流れ始めて所定期間経過した時点まで音生成用スケジュールデータに従って進行したところから再び流れ始めるようになっている。

【３００１】

また、報知音や告知音は、音量調整スイッチの回転操作に基づく音量調整に全く依存されずに流れる仕組みとなっており、消音から最大音量までの音量をプログラムにより周辺制御ＩＣのＣＰＵが周辺制御ＩＣの音源を制御して調整することができるようになっている。このプログラムにより調整される音量は、消音から最大音量までを滑らかに変化させることができるようになっている。例えば、遊技ホールの店員等の係員が音量調整スイッチを回転操作して音量を小さく設定した場合であっても、各種スピーカから流れる音楽や効果音等の演出音が小さくなるものの、パチンコ機１に不具合が発生しているときや遊技者が不正行為を行っているときには大音量（本実施形態では、最大音量）に設定した報知音を流すことができる。したがって、演出音の音量を小さくしても、報知音により遊技ホールの店員等の係員が不具合の発生や遊技者の不正行為を気付き難くなることを防止することができる。

【３００２】

ステップＳ１０３２に続いて、周辺制御ＩＣのＣＰＵは、バックアップ処理を行う（ステ

ップＳ１０３４）。このバックアップ処理では、周辺制御ＩＣのＲＡＭに記憶されている内容を周辺制御ＩＣのＲＡＭに設けられる定常処理用バックアップ領域にコピーしてバックアップするとともに、ＳＤＲＡＭに記憶されている内容をＳＤＲＡＭに設けられる定常処理用バックアップ領域にコピーしてバックアップする。

【３００３】

ステップＳ１０３４に続いて、周辺制御ＩＣのＣＰＵは、ＷＤＴクリア処理を行う（ステップＳ１０３６）。このＷＤＴクリア処理では、外部ＷＤＴにクリア信号を出力して周辺制御ＩＣのＣＰＵにリセットがかからないようにしている。

【３００４】

ステップＳ１０３６に続いて、周辺制御ＩＣのＣＰＵは、周辺制御部定常処理の実行完了として定常処理中フラグＳＰ－ＦＬＧに値０をセットし（ステップＳ１０３８）、再びステップＳ１００４に戻り、Ｖブランク信号検出フラグＶＢ－ＦＬＧに値０をセットして初期化し、後述する周辺制御部Ｖブランク信号割り込み処理においてＶブランク信号検出フラグＶＢ－ＦＬＧに値１がセットされるまで、ステップＳ１００６の判定を繰り返し行う。つまりステップＳ１００６では、Ｖブランク信号検出フラグＶＢ－ＦＬＧに値１がセットされるまで待機し、ステップＳ１００６でＶブランク信号検出フラグＶＢ－ＦＬＧが値１であると判定されると、ステップＳ１００８～ステップＳ１０３８の処理を行い、再びステップＳ１００４に戻る。このように、ステップＳ１００６でＶブランク信号検出フラグＶＢ－ＦＬＧが値１であると判定されると、ステップＳ１００８～ステップＳ１０３８の処理を行うようになっている。ステップＳ１００８～ステップＳ１０３８の処理を「周辺制御部定常処理」という。

【３００５】

この周辺制御部定常処理では、まずステップＳ１００８で周辺制御部定常処理を実行中であるとして定常処理中フラグＳＰ－ＦＬＧに値１をセットすることから開始し、ステップＳ１０１０で１ｍｓ割り込みタイマ起動処理を行い、ステップＳ１０１４、・・・、そしてステップＳ１０３６の各処理を行って最後にステップＳ１０３８において周辺制御部定常処理の実行完了として定常処理中フラグＳＰ－ＦＬＧに値０をセットすると、完了することとなる。周辺制御部定常処理は、ステップＳ１００６でＶブランク信号検出フラグＶＢ－ＦＬＧが値１であるときに実行される。このＶブランク信号検出フラグＶＢ－ＦＬＧは、上述したように、周辺制御ＩＣのＣＰＵからの画面データを受け入れることができる状態である旨を伝えるＶブランク信号が周辺制御ＩＣのＶＤＰから周辺制御ＩＣのＣＰＵに入力されたことを契機として実行される後述する周辺制御部Ｖブランク信号割り込み処理において値１がセットされるようになっている。本実施形態では、演出表示装置１６００のフレーム周波数（１秒間あたりの画面更新回数）として、上述したように、概ね秒間３０ｆｐｓに設定しているため、Ｖブランク信号が入力される間隔は、約３３．３ｍｓ（＝１０００ｍｓ÷３０ｆｐｓ）となっている。つまり、周辺制御部定常処理は、約３３．３ｍｓごとに繰り返し実行されるようになっている。

【３００６】

［周辺制御部Ｖブランク信号割り込み処理］

次に、周辺制御ＩＣのＣＰＵからの画面データを受け入れることができる状態である旨を伝えるＶブランク信号が周辺制御ＩＣのＶＤＰから入力されたことを契機として実行する周辺制御部Ｖブランク信号割り込み処理について説明する。この周辺制御部Ｖブランク信号割り込み処理が開始されると、周辺制御ＩＣのＣＰＵは、図２８５に示すように、定常処理中フラグＳＰ－ＦＬＧが値０であるかを判定する（ステップＳ１０４５）。この定常処理中フラグＳＰ－ＦＬＧは、上述したように、図２８４の周辺制御部電源投入時処理におけるステップＳ１００８～ステップＳ１０３８の周辺制御部定常処理を実行中であるとき値１、周辺制御部定常処理を実行完了したとき値０にそれぞれセットされる。

【３００７】

ステップＳ１０４５の判定において、周辺制御ＩＣのＣＰＵは、定常処理中フラグＳＰ－ＦＬＧが値０でない（値１である）とき、つまり周辺制御部定常処理を実行中であると判

定したときには、そのままこのルーチンを終了する。一方、ステップＳ１０４５の判定において、周辺制御ＩＣのＣＰＵは、定常処理中フラグＳＰ－ＦＬＧが値０であるとき、つまり周辺制御部定常処理を実行完了したと判定したときには、Ｖブランク信号検出フラグＶＢ－ＦＬＧに値１をセットし（ステップＳ１０５０）、このルーチンを終了する。このＶブランク信号検出フラグＶＢ－ＦＬＧは、上述したように、周辺制御部定常処理を実行するか否かを決定するためのフラグであり、周辺制御部定常処理を実行するとき値１、周辺制御部定常処理を実行しないとき値０にそれぞれ設定される。

【３００８】

本実施形態では、ステップＳ１０４５の判定で定常処理中フラグＳＰ－ＦＬＧが値０であるか否か、つまり周辺制御部定常処理を実行完了したか否かを判定し、周辺制御部定常処理を実行完了したときにはステップＳ１０５０でＶブランク信号検出フラグＶＢ－ＦＬＧに値１をセットするようになっているが、これは、周辺制御部定常処理を実行中であるときに、Ｖブランク信号が入力されてＶブランク信号検出フラグＶＢ－ＦＬＧに値１をセットすると、図２８４の周辺制御部電源投入時処理におけるステップＳ１００６の判定で周辺制御部定常処理を実行するものとして、現在実行中の周辺制御部定常処理を途中で強制的にキャンセルして周辺制御部定常処理を最初から実行開始するため、これを防止する目的で、図２８４の周辺制御部電源投入時処理（周辺制御部定常処理）におけるステップＳ１００８で定常処理中フラグＳＰ－ＦＬＧに値１をセットすることで周辺制御部定常処理を実行中である旨を、本ルーチンである周辺制御部Ｖブランク信号割り込み処理に伝えるとともに、図２８４の周辺制御部電源投入時処理（周辺制御部定常処理）におけるステップＳ１０３８で定常処理中フラグＳＰ－ＦＬＧに値０をセットすることで周辺制御部定常処理を実行完了した旨を、本ルーチンである周辺制御部Ｖブランク信号割り込み処理に伝えることにより、本ルーチンである周辺制御部Ｖブランク信号割り込み処理におけるステップＳ１０４５の判定で定常処理中フラグＳＰ－ＦＬＧが値０であるか否か、つまり周辺制御部定常処理を実行完了したか否かを判定するようになっている。換言すると、Ｖブランク信号が入力されて次のＶブランク信号が入力されるまでに周辺制御部定常処理を実行完了することができず、いわゆる処理落ちした場合の処置である。

【３００９】

これにより、今回の周辺制御部定常処理においては、約３３．３ｍｓという時間でその処理を完了できず処理落ちした場合には、図２８４の周辺制御部電源投入時処理におけるステップＳ１００６の判定で次回のＶブランク信号が入力されるまで待機する状態となる。つまり、処理落ちした今回の周辺制御部定常処理を実行するための時間が約６６．６ｍｓとなる。通常、図２８４の周辺制御部電源投入時処理（周辺制御部定常処理）におけるステップＳ１０１０で１ｍｓ割り込みタイマの起動により１ｍｓ割り込みタイマが発生するごとに繰り返し実行する、後述する周辺制御部１ｍｓタイマ割り込み処理は１回の周辺制御部定常処理に対して３２回だけ実行されるものの、上述した処理落ちした今回の周辺制御部定常処理が存在する場合には、周辺制御部１ｍｓタイマ割り込み処理が６４回ではなく、３２回だけ実行されるようになっている。つまり、周辺制御部定常処理が処理落ちした場合であっても、周辺制御部定常処理による演出の進行状態とタイマ割り込み制御である周辺制御部１ｍｓタイマ割り込み処理による演出の進行状態との整合性が崩れないようになっている。したがって、周辺制御部定常処理が処理落ちした場合であっても演出の進行状態を確実に整合させることができる。

【３０１０】

［周辺制御部１ｍｓタイマ割り込み処理］

次に、図２８４の周辺制御部電源投入時処理の周辺制御部定常処理におけるステップＳ１０１０で１ｍｓ割り込みタイマの起動により１ｍｓ割り込みタイマが発生するごとに繰り返し実行する周辺制御部１ｍｓタイマ割り込み処理について説明する。この周辺制御部１ｍｓタイマ割り込み処理が開始されると、周辺制御ＩＣのＣＰＵは、図２８６に示すように、１ｍｓタイマ割り込み実行回数ＳＴＮが３３回より小さいか否かを判定する（ステップＳ１１００）。この１ｍｓタイマ割り込み実行回数ＳＴＮは、上述したように、図２８

４の周辺制御部電源投入時処理の周辺制御部定常処理におけるステップＳ１０１０の１ｍｓ割り込みタイマ起動処理で１ｍｓ割り込みタイマが起動して本ルーチンである周辺制御部１ｍｓタイマ割り込み処理が実行された回数をカウントするカウンタである。本実施形態では、演出表示装置１６００のフレーム周波数（１秒間あたりの画面更新回数）として、上述したように、概ね秒間３０ｆｐｓに設定しているため、Ｖブランク信号が入力される間隔は、約３３．３ｍｓ（＝１０００ｍｓ÷３０ｆｐｓ）となっている。つまり、周辺制御部定常処理は、約３３．３ｍｓごとに繰り返し実行されるようになっているため、周辺制御部定常処理におけるステップＳ１０１０で１ｍｓ割り込みタイマを起動した後、次の周辺制御部定常処理が実行されるまでに、周辺制御部１ｍｓタイマ割り込み処理が３２回だけ実行されるようになっている。具体的には、周辺制御部定常処理におけるステップＳ１０１０で１ｍｓ割り込みタイマが起動されると、まず１回目の１ｍｓタイマ割り込みが発生し、２回目、・・・、そして３２回目の１ｍｓタイマ割り込みが順次発生することとなる。

【３０１１】

ステップＳ１１００の判定において、周辺制御ＩＣのＣＰＵは、１ｍｓタイマ割り込み実行回数ＳＴＮが３３回より小さくないとき、つまり３３回目の１ｍｓタイマ割り込みが発生してこの周辺制御部１ｍｓタイマ割り込み処理が開始されたと判定したときには、そのままこのルーチンを終了する。３３回目の１ｍｓタイマ割り込みの発生が次回のＶブランク信号の発生よりたまたま先行した場合には、本実施形態では、割り込み処理の優先順位として、周辺制御部１ｍｓタイマ割り込み処理の方が周辺制御部Ｖブランク割り込み処理と比べて高く設定されているものの、この３３回目の１ｍｓタイマ割り込みによる周辺制御部１ｍｓタイマ割り込み処理の開始を強制的にキャンセルするようになっている。換言すると、本実施形態では、Ｖブランク信号が周辺制御基板１５１０のシステム全体を支配する信号であるため、３３回目の１ｍｓタイマ割り込みの発生が次回のＶブランク信号の発生よりたまたま先行した場合には、周辺制御部Ｖブランク割り込み処理を実行するために３３回目の１ｍｓタイマ割り込みによる周辺制御部１ｍｓタイマ割り込み処理の開始が強制的にキャンセルさせられている。そして、Ｖブランク信号の発生により周辺制御部定常処理におけるステップＳ１０１０で１ｍｓ割り込みタイマを再び起動した後、新たに１回目の１ｍｓタイマ割り込みの発生による周辺制御部１ｍｓタイマ割り込み処理を開始するようになっている。

【３０１２】

一方、ステップＳ１１００の判定において、周辺制御ＩＣのＣＰＵは、１ｍｓタイマ割り込み実行回数ＳＴＮが３３回より小さいと判定したときには、１ｍｓタイマ割り込み実行回数ＳＴＮに値１だけ足す（インクリメントする、ステップＳ１１０２）。この１ｍｓタイマ割り込み実行回数ＳＴＮに値１が足されることにより、図２８４の周辺制御部電源投入時処理の周辺制御部定常処理におけるステップＳ１０１０の１ｍｓ割り込みタイマ起動処理で１ｍｓ割り込みタイマが起動して本ルーチンである周辺制御部１ｍｓタイマ割り込み処理が実行された回数が１回分だけ増えることとなる。

【３０１３】

ステップＳ１１０２に続いて、モータ及びソレノイド駆動処理を行う（ステップＳ１１０４）。このモータ及びソレノイド駆動処理では、周辺制御ＩＣのＲＡＭにセットされた電気的駆動源スケジュールデータを構成する時系列に配列されたモータやソレノイド等の電気的駆動源の駆動データのうち、ポインタが指示する駆動データに従って、モータやソレノイド等の電気的駆動源を駆動するとともに、時系列に規定された次の駆動データにポインタを更新し、このモータ及びソレノイド駆動処理を実行するごとに、ポインタを更新する。これにより、周辺制御ＩＣのＣＰＵが管理するモータやソレノイド等の電気的駆動源（例えば、扉枠３に設けられる電気的駆動源や遊技盤５に設けられる各種演出ユニットに備える電気的駆動源等）は、電気的駆動源スケジュールデータに従って駆動される。

【３０１４】

ステップＳ１１０４に続いて、周辺制御ＩＣのＣＰＵは、可動体情報取得処理を行う（ス

テップＳ１１０６）。この可動体情報取得処理では、遊技盤５に設けられる各種演出ユニットに備える各種センサからの検出信号が入力されているか否かを判定することにより各種センサからの検出信号の履歴情報（例えば、原位置履歴情報、可動位置履歴情報など。）を作成し、周辺制御ＩＣのＲＡＭにセットする。周辺制御ＩＣのＣＰＵは、周辺制御ＩＣのＲＡＭにセットされる各種センサからの検出信号の履歴情報に基づいて、遊技盤５に設けられる各種演出ユニットに備える各種可動体の原位置（待機位置）を設定したり、可動位置を取得したりすることにより、可動位置を把握する。

【３０１５】

ステップＳ１１０６に続いて、周辺制御ＩＣのＣＰＵは、演出操作ユニット情報取得処理を行う（ステップＳ１１０８）。この演出操作ユニット情報取得処理では、演出操作ユニット３００に設けられた各種センサからの検出信号が入力されているか否かを判定することにより各種センサからの検出信号の履歴情報（例えば、回転操作部３０２の回転（回転方向）履歴情報、及び押圧操作部３０３の操作履歴情報など。）を作成し、周辺制御ＩＣのＲＡＭにセットする。周辺制御ＩＣのＲＡＭにセットされる各種センサからの検出信号の履歴情報から回転操作部３０２の回転方向や押圧操作部３０３の操作有無を取得することができる。本実施形態のパチンコ機１では、演出操作部３０１を操作することにより、振動スピーカ３５４、トップ中央スピーカ４６２、トップサイドスピーカ４６４や、本体枠４の本体枠スピーカ６２２から出力される演出音の音量を調節したり、扉枠３や遊技盤５に備える各種装飾基板に複数実装される各種ＬＥＤの輝度を調節したりすることができるようになっている。

【３０１６】

ステップＳ１１０８に続いて、周辺制御ＩＣのＣＰＵは、バックアップ処理を行い（ステップＳ１１１０）、このルーチンを終了する。このバックアップ処理では、周辺制御ＩＣのＲＡＭに記憶されている内容を周辺制御ＩＣのＲＡＭに設けられる１ｍｓタイマ割り込み処理用バックアップ領域にコピーしてバックアップするとともに、ＳＤＲＡＭに記憶されている内容をＳＤＲＡＭに設けられる１ｍｓタイマ割り込み処理用バックアップ領域にコピーしてバックアップする。なお、本実施形態では、周辺制御ＩＣのＲＡＭに設けられる１ｍｓタイマ割り込み処理用バックアップ領域と、周辺制御ＩＣのＲＡＭに設けられる定常処理用バックアップ領域と、は異なる領域に設定されているとともに、ＳＤＲＡＭに設けられる１ｍｓタイマ割り込み処理用バックアップ領域と、ＳＤＲＡＭに設けられる定常処理用バックアップ領域と、は異なる領域に設定されている。

【３０１７】

このように、周辺制御部１ｍｓタイマ割り込み処理では、１ｍｓという期間内において、演出の進行としてステップＳ１１０４～ステップＳ１１０８の演出に関する各種処理を実行している。これに対して、図２８４の周辺制御部電源投入時処理における周辺制御部定常処理では、約３３．３ｍｓという期間内において、演出の進行としてステップＳ１０１４～ステップＳ１０３２の演出に関する各種処理を実行している。周辺制御部１ｍｓタイマ割り込み処理では、ステップＳ１１００で１ｍｓタイマ割り込み実行回数ＳＴＮが値３３より小さくないとき、つまり３３回目の１ｍｓタイマ割り込みが発生してこの周辺制御部１ｍｓタイマ割り込み処理が開始されたときには、そのままこのルーチンを終了するようになっているため、仮に、３３回目の１ｍｓタイマ割り込みの発生が次回のＶブランク信号の発生よりたまたま先行した場合でも、この３３回目の１ｍｓタイマ割り込みによる周辺制御部１ｍｓタイマ割り込み処理の開始を強制的にキャンセルし、Ｖブランク信号の発生により周辺制御部定常処理におけるステップＳ１０１０で１ｍｓ割り込みタイマを再び起動した後、新たに１回目の１ｍｓタイマ割り込みの発生による周辺制御部１ｍｓタイマ割り込み処理を開始するようになっている。つまり、周辺制御部定常処理による演出の進行状態とタイマ割り込み制御である周辺制御部１ｍｓタイマ割り込み処理による演出の進行状態との整合性が崩れないようになっている。したがって、演出の進行状態を確実に整合させることができる。

【３０１８】

また、上述したように、Ｖブランク信号が出力される間隔は、演出表示装置１６００の液晶サイズによって多少変化するし、周辺制御ＩＣが実装された周辺制御基板１５１０の製造ロットにおいてもＶブランク信号が出力される間隔が多少変化する場合もある。本実施形態では、Ｖブランク信号が周辺制御基板１５１０のシステム全体を支配する信号であるため、３３回目の１ｍｓタイマ割り込みの発生が次回のＶブランク信号の発生よりたまたま先行した場合には、周辺制御部Ｖブランク割り込み処理を実行するために３３回目の１ｍｓタイマ割り込みによる周辺制御部１ｍｓタイマ割り込み処理の開始が強制的にキャンセルさせられている。つまり本実施形態では、Ｖブランク信号が出力される間隔が多少変化する場合であっても、３３回目の１ｍｓタイマ割り込みによる周辺制御部１ｍｓタイマ割り込み処理の開始を強制的にキャンセルすることによって、このＶブランク信号が出力される間隔が多少変化することによる時間ズレを吸収することができるようになっている。

【３０１９】

［周辺制御部コマンド受信割り込み処理］

次に、主制御基板１３１０からの各種コマンドを受信する周辺制御部コマンド受信割り込み処理について説明する。周辺制御ＩＣのＣＰＵは、主制御基板１３１０からの各種コマンドがシリアルデータとして送信開始されると、これを契機として、主周シリアルデータを周辺制御ＩＣのシリアルＩ／Ｏポートで１バイト（８ビット）の情報を受信バッファに取り込み、この取り込みが完了すると、これを契機として割り込みが発生し、周辺制御部コマンド受信割り込み処理を行う。主周シリアルデータは、１パケットが３バイトに構成されており、１バイト目としてステータスが割り振られ、２バイト目としてモードが割り振られ、３バイト目としてステータスとモードとを数値とみなしてその合計を算出したサム値が割り振られている。

【３０２０】

周辺制御部コマンド受信割り込み処理が開始されると、周辺制御ＩＣのＣＰＵは、図２８７に示すように、１バイト受信期間タイマがタイムアウトしたか否かを判定する（ステップＳ１２００）。この１バイト受信期間タイマは、主制御基板１３１０から送信される主周シリアルデータのうち、１バイト（８ビット）の情報を受信し得る期間を設定するものである。

【３０２１】

ステップＳ１２００の判定において、周辺制御ＩＣのＣＰＵは、１バイト受信期間タイマがタイムアウトしていないとき、つまり主制御基板１３１０から送信される主周シリアルデータのうち、１バイト（８ビット）の情報を受信し得る期間内であると判定したときには、周辺制御ＩＣのシリアルＩ／Ｏポートの受信バッファから受信した１バイトの情報を取り込み（ステップＳ１２０２）、受信カウンタＳＲＸＣに値１を加える（インクリメントする、ステップＳ１２０４）。この受信カウンタＳＲＸＣは、受信バッファから取り出した回数を示すカウンタであり、主周シリアルデータの１バイト目であるステータスを受信バッファから取り出すと値１、主周シリアルデータの２バイト目であるモードを受信バッファから取り出すと値２、主周シリアルデータの３バイト目であるサム値を受信バッファから取り出すと値３となる。なお、受信カウンタＳＲＸＣは、電源投入時等に初期値０がセットされる。

【３０２２】

ステップＳ１２０４に続いて、受信カウンタＳＲＸＣが値３であるか否か、つまり主周シリアルデータの３バイト目であるサム値を受信バッファから取り出したか否かを判定する（ステップＳ１２０６）。この判定では、主周シリアルデータの１バイト目であるステータスに続いて、主周シリアルデータの２バイト目であるモード、そして主周シリアルデータの３バイト目であるサム値を、順に受信バッファから取り出したか否かを判定している。

【３０２３】

ステップＳ１２０６の判定において、周辺制御ＩＣのＣＰＵは、受信カウンタＳＲＸＣが値３でないとき、つまり主周シリアルデータの１バイト目であるステータスに続いて、まだ主周シリアルデータの２バイト目であるモード、そして主周シリアルデータの３バイト

目であるサム値を、順に受信バッファから取り出していないと判定したときには、１バイト受信期間タイマのセットを行い（ステップＳ１２０８）、このルーチンを終了する。ステップＳ１２０８で１バイト受信期間タイマがセットされることで、主周シリアルデータの２バイト目であるモード又は主周シリアルデータの３バイト目であるサム値を受信し得る期間が設定される。

【３０２４】

一方、ステップＳ１２０６の判定において、周辺制御ＩＣのＣＰＵは、受信カウンタＳＲＸＣが値３であるとき、つまり主周シリアルデータの１バイト目であるステータスに続いて、主周シリアルデータの２バイト目であるモード、そして主周シリアルデータの３バイト目であるサム値を、順に受信バッファから取り出したと判定したときには、受信カウンタＳＲＸＣに初期値０をセットし（ステップＳ１２１０）、サム値を算出する（ステップＳ１２１２）。この算出は、ステップＳ１２０２で受信バッファからすでに取り出した、主周シリアルデータの１バイト目であるステータスと、主周シリアルデータの２バイト目であるモードと、を数値とみなしてその合計（サム値）を算出する。

【３０２５】

ステップＳ１２１２に続いて、ステップＳ１２０２で受信バッファからすでに取り出した主周シリアルデータの３バイト目であるサム値と、ステップＳ１２１２で算出したサム値と、が一致しているか否かを判定する（ステップＳ１２１４）。ステップＳ１２０２で受信バッファからすでに取り出した主周シリアルデータの３バイト目であるサム値は、主制御基板１３１０からの主周シリアルデータのうち、主周シリアルデータの３バイト目として割り振られたサム値であるため、ステップＳ１２１２で算出したサム値と一致しているはずである。ところが、パチンコ機１は、遊技ホールの島設備から遊技球が供給されており、遊技球は、互いにこすれ合って帯電すると、静電放電してノイズを発生するため、パチンコ機１はノイズの影響を受けやすり環境下にある。

【３０２６】

そこで、本実施形態では、周辺制御基板１５１０側において、受信した主周シリアルデータの１バイト目として割り振られたステータスと、主周シリアルデータの２バイト目として割り振られたモードと、を数値とみなしてその合計（サム値）を算出し、この算出したサム値が、主制御基板１３１０からの主周シリアルデータのうち、主周シリアルデータの３バイト目として割り振られたサム値と一致しているか否かを判定している。これにより、周辺制御ＩＣのＣＰＵは、主制御基板１３１０と周辺制御基板１５１０との基板間において、主周シリアルデータがノイズの影響を受けて正規と異なる主周シリアルデータに変化したか否かを判定することができる。

【３０２７】

ステップＳ１２１４の判定において、周辺制御ＩＣのＣＰＵは、ステップＳ１２０２で受信バッファからすでに取り出した主周シリアルデータの３バイト目であるサム値と、ステップＳ１２１２で算出したサム値と、が一致していると判定したときには、受信した、主周シリアルデータの１バイト目として割り振られたステータスと、主周シリアルデータの２バイト目として割り振られたモードとを、周辺制御ＩＣのＲＡＭに記憶し（ステップＳ１２１６）、このルーチンを終了する。

【３０２８】

一方、ステップＳ１２００の判定において、周辺制御ＩＣのＣＰＵは、１バイト受信期間タイマがタイムアウトしていないとき、つまり主制御基板１３１０から送信される主周シリアルデータのうち、１バイト（８ビット）の情報を受信し得る期間を超えていると判定したときには、又はステップＳ１２１４の判定において、周辺制御ＩＣのＣＰＵは、ステップＳ１２０２で受信バッファからすでに取り出した主周シリアルデータの３バイト目であるサム値と、ステップＳ１２１２で算出したサム値と、が一致していないと判定したときには、そのままこのルーチンを終了する。

【３０２９】

［周辺制御部停電予告信号割り込み処理］

次に、主制御基板１３１０の停電監視回路からの停電予告信号が主制御基板１３１０から入力されたことを契機として実行する周辺制御部停電予告信号割り込み処理について説明する。この周辺制御部停電予告信号割り込み処理が開始されると周辺制御ＩＣのＣＰＵは、図２８８に示すように、まず２マイクロ秒タイマを起動し（ステップＳ１３００）、停電予告信号が入力されているか否かを判定する（ステップＳ１３０２）。ステップＳ１３０２の判定において、周辺制御ＩＣのＣＰＵは、停電予告信号が入力されていないと判定したときには、そのままこのルーチンを終了する。

【３０３０】

一方、ステップＳ１３０２の判定において、周辺制御ＩＣのＣＰＵは、停電予告信号が入力されていると判定したときには、２マイクロ秒経過したか否かを判定する（ステップＳ１３０４）。この判定では、ステップＳ１３００で起動したタイマが２マイクロ秒経過した否かを判定している。ステップＳ１３０４の判定において、周辺制御ＩＣのＣＰＵは、２マクロ秒経過していないときには、ステップＳ１３０２に戻り、停電予告信号が入力されているか否かを判定し、停電予告信号が入力されていないと判定したときにはそのままこのルーチンを終了する一方、停電予告信号が入力されていると判定したときには、再びステップＳ１３０４で２マイクロ秒経過したか否かを判定する。つまりステップＳ１３０４の判定では、本ルーチンである周辺制御部停電予告信号割り込み処理が開始されて２マイクロ秒間、停電予告信号が入力され続けているか否かを判定している。

【３０３１】

ステップＳ１３０４の判定において、周辺制御ＩＣのＣＰＵは、本ルーチンである周辺制御部停電予告信号割り込み処理が開始されて２マイクロ秒間、停電予告信号が入力され続けていると判定したときには、節電処理を行う（ステップＳ１３０６）。この節電処理では、演出表示装置１６００のバックライトの消灯、遊技盤５に設けられるモータやソレノイドへの励磁ＯＦＦ、各種ＬＥＤの消灯等を順次実行することによりパチンコ機１のシステム全体の消費電力を抑えることによって、パチンコ機１の電力が遮断されても周辺制御ＩＣのＣＰＵが動作可能な時間である２０ミリ秒の期間だけ安定動作を確保している。

【３０３２】

ステップＳ１３０６に続いて、周辺制御ＩＣのＣＰＵは、コマンド受信待機処理を行う（ステップＳ１３０８）。このコマンド受信待機処理では、主制御基板１３１０が送信中の各種コマンドがある場合を想定して、送信中のコマンドを周辺制御ＩＣが受信することができるように、少なくとも、１７ミリ秒の期間だけ待機するようになっている。コマンドを受信すると、上述した、周辺制御部コマンド受信割り込み処理が開始されて周辺制御ＩＣのＲＡＭに受信したコマンドが記憶される。

【３０３３】

ステップＳ１３０８に続いて、周辺制御ＩＣのＣＰＵは、コマンドのバックアップ処理を行う（ステップＳ１３１０）。このコマンドのバックアップ処理では、周辺制御ＩＣのＲＡＭに記憶されているコマンドを周辺制御ＩＣのＲＡＭに設けられる定常処理用バックアップ領域にコピーしてバックアップする。

【３０３４】

ステップＳ１３１０に続いて、周辺制御ＩＣのＣＰＵは、停電予告信号が入力されているか否かを判定する（ステップＳ１３１２）。ステップＳ１３１２の判定において、周辺制御ＩＣのＣＰＵは、停電予告信号が入力されていると判定したときには、ＷＤＴクリア処理を行う（ステップＳ１３１４）。このＷＤＴクリア処理では、外部ＷＤＴにクリア信号を出力して周辺制御ＩＣのＣＰＵにリセットがかからないようにする。

【３０３５】

一方、ステップＳ１３１２の判定において、周辺制御ＩＣのＣＰＵは、停電予告信号が入力されていないと判定したとき、又はステップＳ１３１４に続いて、再びステップＳ１３１２に戻り、停電予告信号が入力されているか否かを判定する。つまり、停電予告信号が入力されているか否かを無限に判定し続けることとなる。このように無限に判定し続けることにより、ステップＳ１３１２の判定において、周辺制御ＩＣのＣＰＵは、停電予告信

号が入力されていないと判定したときには、外部ＷＤＴにクリア信号を出力することができなくなり、周辺制御ＩＣのＣＰＵにリセットがかかる一方、ステップＳ１３１２の判定において、周辺制御ＩＣのＣＰＵは、停電予告信号が入力されていると判定したときには、ステップＳ１３１４でＷＤＴクリア処理を行い、周辺制御ＩＣのＣＰＵにリセットがかからない。なお、周辺制御ＩＣのＣＰＵにリセットがかかると、図２８４に示した周辺制御部電源投入時処理が再び開始されることとなる。

【３０３６】

このように、ステップＳ１３１２による判定で無限ループにおいて停電予告信号の入力が継続する場合には、ステップＳ１３１４でＷＤＴクリア処理が実行されることによって停電状態になる直前で周辺制御ＩＣのＣＰＵにリセットがかからないようになっている。これに対して、ステップＳ１３１２による判定で無限ループにおいて停電予告信号の入力が継続されず解除された場合には、ＷＤＴクリア処理が実行されないため、外部ＷＤＴにクリア信号を出力が中断されるようになっている。これにより、ノイズなどで本ルーチンである周辺制御部停電予告信号割り込み処理が誤って開始され、そのノイズが２マイクロ秒の期間を超えて発生することでステップＳ１３０２の判定を通過したとしても、ステップＳ１３１２による判定で無限ループにおいて停電予告信号の入力が継続されず解除された場合には、ステップＳ１３１４のＷＤＴクリア処理が実行されないことにより周辺制御ＩＣのＣＰＵにリセットがかかるようになっているため、そのようなノイズに対して自動的にリセット復帰することで対応することができるようになっている。

【３０３７】

［主制御基板の制御処理］

次に、主制御基板１３１０（特に主制御ＭＰＵ）で実行される制御処理の例について説明する。図２８９は、上記特別図柄及び特別電動役物制御処理（ステップＳ１１４）についてその手順を示すフローチャートである。

【３０３８】

いま、各種の抽選処理に供される乱数が更新されたとすると（ステップＳ１０６）、同図２８９に示されるように、この主制御基板１３１０の主制御ＭＰＵはまず、上記第一始動口センサ３０５２による検出信号がオン状態（第一始動口２００２への入球あり）にあることを条件に（ステップＳ２３１）、第一特別図柄の第一特別乱数を上記乱数カウンタから取得してこれをＲＡＭの第一特別図柄保留記憶領域に格納するなどの第一始動口通過処理を実行する（ステップＳ２３２）。また、上記第二始動口センサ２４０１による検出信号がオン状態（第二始動口２００４への入球あり）にあることを条件に（ステップＳ２３３）、第二特別図柄の第二特別乱数を上記乱数カウンタから取得してこれをＲＡＭの第二特別図柄保留記憶領域に格納するなどの第二始動口通過処理を実行する（ステップＳ２３４）。

【３０３９】

次いで、大当り遊技状態に制御している旨を示す大当り実行中フラグがセットされているか否かを判別し（ステップＳ２３５）、大当り実行中フラグがセットされていれば、大当り遊技状態の制御を行う大当り制御処理（ステップＳ２３５Ａ）を実行する。なお、大当り制御処理では、特別図柄（第一特別図柄、第二特別図柄）の変動表示停止時における表示態様についての抽選処理の結果が「１５Ｒ大当り」を示唆する態様となったときに、１５Ｒ大当り遊技状態に応じて第一大入賞口２００５を開閉制御する処理を実行する。また、「５Ｒ大当り」を示唆する態様となったときに、５Ｒ大当り遊技状態に応じて第一大入賞口２００５を開閉制御する処理を実行し、「２Ｒ大当り」を示唆する態様となったときに、２Ｒ大当り遊技状態に応じて第一大入賞口２００５を開閉制御する処理を実行する。

【３０４０】

また、大当り制御処理（ステップＳ２３５Ａ）では、第一大入賞口２００５の開放制御を行った後、時短フラグ、及び時短回数カウンタの各セット処理を実行する。時短フラグは、時短状態であることを示すフラグであり、時短状態中に第一特別図柄の変動停止時における抽選処理の結果が「２Ｒ大当り」を示唆する態様となったことに基づく２Ｒ大当り遊

技状態を終了するとき、「５Ｒ大当り」を示唆する態様となったことに基づく５Ｒ大当り遊技状態を終了するとき、時短状態中及び非時短状態中に１５Ｒ大当り遊技状態を終了するときにセットされる。そして、時短フラグは、次に大当りとなったとき、又は時短回数カウンタのカウンタ値が「０」になったときに後述する図３００に示す第一特別図柄停止処理又は図示しない第二特別図柄停止処理でリセットされる。

【３０４１】

また、時短回数カウンタは、時短状態の継続回数としての特別図柄（第一特別図柄及び第二特別図柄）の変動表示の残り回数を示すカウンタであり、大当り遊技状態の終了後に時短状態に制御する場合には当該大当り遊技状態を終了するときに、その時短状態の継続回数がセットされる。そして、時短回数カウンタは、そのカウンタ値が「０」になるまで特別図柄の変動表示を実行するごとにカウントダウンされるが、カウンタ値が「０」になるよりも前に次の大当りとなったときには、後述する図３００に示す第一特別図柄停止処理又は図示しない第二特別図柄停止処理でリセットされる（カウンタ値を「０」に戻す）。

【３０４２】

また、大当り実行中フラグがセットされていなければ、第二特別図柄保留記憶領域に記憶される第二特別乱数の個数を示す第二特別保留数カウンタの値が「０」であることを条件に（ステップＳ２３７）、第一特別図柄の変動表示停止時における表示態様にかかる抽選処理を含む第一特別図柄プロセス処理を実行し（ステップＳ２３８）、第二特別図柄保留記憶領域に記憶される第二特別乱数の個数を示す第二特別保留数カウンタの値が「０」でないことを条件に（ステップＳ２３７）、第二特別図柄の変動表示停止時における表示態様にかかる抽選処理を含む第二特別図柄プロセス処理を実行する（ステップＳ２３９）。このようにこの例では、第二特別保留数カウンタの値が「０」でないときには第二特別図柄の変動表示を優先的に実行するように構成されている。

【３０４３】

図２９０は、上記第一始動口通過処理（ステップＳ２３２）についてその手順を示すフローチャートである。

【３０４４】

いま、上記ステップＳ２３１の処理において、上記第一始動口センサ３０５２がオン状態にあり、上記第一始動口２００２への遊技球の入球があったと判断されたとすると、同図２９０に示されるように、上記主制御基板１３１０の主制御ＭＰＵは、ステップＳ２４１の処理として、まず、上記第一特別乱数、上記リーチ乱数、上記第一図柄乱数、上記変動乱数を上記乱数カウンタから取得する。

【３０４５】

次いで上記主制御基板１３１０の主制御ＭＰＵは、第一特別図柄保留記憶領域に記憶される第一特別乱数の個数を示す第一特別保留数カウンタによるカウンタ値を主制御内蔵ＲＡＭから取得し、このカウンタ値に基づいて上記第一保留記憶数がその最大値（上限値）である「４」であるか否かの判断を行う（ステップＳ２４２）。このステップＳ２４２の処理において、上記第一保留記憶数がその最大値でないと判断された場合には、上記第一特別図柄の変動表示制御を新たに保留の状態とすべく、以下のステップＳ２４３～Ｓ２４５の処理を行うこととなる。すなわち、まず、上記ステップＳ２４３の処理として、上記第一特別保留数カウンタをカウントアップ（１加算）する。次いで、ステップＳ２４４の処理として、上記ステップＳ２４１で取得された各乱数を、上記主制御内蔵ＲＡＭの記憶領域のうちの上記第一特別保留数カウンタによるカウンタ値に対応する第一特別図柄保留記憶領域に格納する。

【３０４６】

また、主制御基板１３１０の主制御ＭＰＵは、ステップＳ２４１で取得した上記第一特別乱数、上記リーチ乱数、上記第一図柄乱数、上記変動乱数に基づいて、第一特別図柄の変動表示の表示結果を大当りとするか否か、大当りとなる場合には大当りの種類、大当りとならない場合には演出表示装置１６００で実行される遊技演出としてリーチ演出を実行するか、実行する遊技演出の態様種別（変動パターンの種別）などの事前判定情報を、当該

始動入賞に応じた変動表示を開始する以前に判定する演出事前判定処理を実行した後（ステップＳ２４５）、処理を終了する。

【３０４７】

ただし、上記ステップＳ２４２の処理において、上記第一保留記憶数がその最大値であると判断された場合には、上記第一特別図柄の変動表示制御は新たに保留されない。すなわち、ステップＳ２４３～ステップＳ２４５の処理を実行することなく処理を終了することで、上記第一特別図柄の変動表示制御を新たに保留の状態としない。

【３０４８】

また、第一始動口２００２へ遊技球が入球したことに基づいて第一保留記憶数が変化すると機能表示ユニット１４００における第一特別保留数表示器の二つのＬＥＤの点灯状態を第一保留記憶数に対応するように更新するとともに、上記周辺制御基板コマンド送信処理（ステップＳ１２０）にて第一保留記憶数を指示するコマンド（第一保留数指定コマンド０～４（特別図柄１記憶コマンド０～４））をセットして周辺制御基板１５１０に送信するようになっている。なお、周辺制御基板１５１０の周辺制御ＩＣは第一保留数指定コマンド０～４（特別図柄１記憶コマンド０～４）を受信したことに基づいて第一保留記憶数を演出表示装置１６００に表示するようになっている。

【３０４９】

図２９１は、上記演出事前判定処理（ステップＳ２４５）についてその手順を示すフローチャートである。主制御基板１３１０の主制御ＭＰＵは、演出事前判定処理を開始すると、図示しない事前判定テーブルと上記ステップＳ２４１で取得した乱数、具体的には第一特別乱数、第一図柄乱数、リーチ乱数、変動乱数とを比較することにより大当りとなるか否か、大当りとなる場合には大当りの種類、大当りとならない場合には演出表示装置１６００で実行される遊技演出としてリーチ演出を実行するか、実行する遊技演出の態様種別、を特定する（ステップＳ２６１）。

【３０５０】

そして、特定した事前判定情報（大当りとなるか否か、大当りとなる場合には大当りの種類、大当りとならない場合には演出表示装置１６００で実行される遊技演出としてリーチ演出を実行するか、実行する遊技演出の態様種別など）と、取得した特別乱数の種別（第一特別乱数）と、取得した特別乱数に対応して記憶される保留記憶数（保留数カウンタの値）と、に応じた事前判定コマンドをセットする。例えば、第一始動口通過処理のステップＳ２４５で実行される第一特別図柄に関する演出事前判定処理では、特定した事前判定情報と、第一特別乱数を取得したことと、第一保留記憶数（第一特別保留数カウンタの値）と、に応じた第一特別図柄事前判定コマンドをセットする（ステップＳ２６２）。

【３０５１】

そして、上記周辺制御基板コマンド送信処理（ステップＳ１２０）で主制御基板１３１０から周辺制御基板１５１０に事前判定コマンドが送信されることにより、始動入賞が発生した第一始動口２００２に対応して記憶される保留記憶数に加え、発生した始動入賞に基づく特別図柄の変動表示の表示結果を大当りとするか否か、大当りとなる場合には大当りの種類、大当りとならない場合には演出表示装置１６００で実行される遊技演出としてリーチ演出を実行するか、実行する遊技演出の態様種別などの事前判定情報を、当該始動入賞に応じた変動表示を開始する以前に周辺制御基板１５１０に搭載される周辺制御ＩＣが把握できるようになる。

【３０５２】

なお、周辺制御基板１５１０に搭載される周辺制御ＩＣは主制御基板１３１０から事前判定コマンドを受信すると、受信した事前判定コマンドによって示される事前判定情報を記憶するようになっている。具体的には、周辺制御ＩＣのＲＡＭには、第一特別図柄の変動表示に関する事前判定情報を記憶する第一保留記憶領域が設けられている。

【３０５３】

また、第一保留記憶領域は保留記憶数に対応する１～４の記憶領域を有しており、周辺制御ＩＣは受信した事前判定コマンドによって示される事前判定情報を１番目（最先）の記

憶領域から順に格納する。そして、ｎ番目（ｎ＝１～３）の記憶領域に事前判定情報が格納されている場合に事前判定コマンドを受信するとｎ＋１番目（ｎ＝１～３）の記憶領域に通知された事前判定情報を格納し、第一特別図柄の変動表示開始を通知する第一変動パターンコマンドを受信すると受信した第一変動パターンコマンドに応じて第一保留記憶領域の１番目の記憶領域に格納されている事前判定情報を破棄してＮ番目（Ｎ＝２～４）の記憶領域に格納されている事前判定情報をＮ－１番目（Ｎ＝２～４）番目の記憶領域に移動させる（保留記憶領域に格納されている事前判定情報をシフトする）。これにより、上記第一特別図柄の事前判定情報が、変動表示開始の保留が発生した順序を特定可能に記憶されるとともに最先の事前判定情報から順に破棄されるようになる。

【３０５４】

このように変動表示制御が保留の状態とされた時点では、その変動表示制御を未実行の状態（保留状態）にて維持するにもかかわらず、その変動表示制御の大当り期待度（疑似当選確率）についてはこれを先行して、例えば、その保留表示の新規出力時や保留消化に応じた保留表示のシフト表示時などの予め定められたタイミングにて報知することが可能とされるようになる。

【３０５５】

図２９２は、上記第二始動口通過処理（ステップＳ２３４）についてその手順を示すフローチャートである。

【３０５６】

いま、上記ステップＳ２３３の処理において、上記第二始動口センサ２４０１がオン状態にあり、上記第二始動口２００４への遊技球の入球があったと判断されたとすると、同図２９２に示されるように、上記主制御基板１３１０の主制御ＭＰＵは、ステップＳ２５１の処理として、まず、上記第二特別乱数、上記リーチ乱数、上記第二図柄乱数、上記変動乱数を上記乱数カウンタから取得する。

【３０５７】

次いで上記主制御基板１３１０の主制御ＭＰＵは、上記第二特別保留数カウンタによるカウンタ値を主制御内蔵ＲＡＭから取得し、このカウンタ値に基づいて上記第二保留記憶数がその最大値（上限値）である「１」であるか否かの判断を行う（ステップＳ２５２）。このステップＳ２５２の処理において、上記第二保留記憶数がその最大値でないと判断された場合には、上記第二特別図柄の変動表示制御を新たに保留の状態とすべく、以下のステップＳ２５３～Ｓ２５４の処理を行うこととなる。すなわち、まず、上記ステップＳ２５３の処理として、上記第二特別保留数カウンタをカウントアップ（１加算）する。次いで、ステップＳ２５４の処理として、上記ステップＳ２５１で取得された各乱数を、上記主制御内蔵ＲＡＭの記憶領域のうちの上記第二特別保留数カウンタによるカウンタ値に対応する第二特別図柄保留記憶領域に格納する。

【３０５８】

ただし、上記ステップＳ２５２の処理において、上記第二保留記憶数がその最大値であると判断された場合には、上記第二特別図柄の変動表示制御は新たに保留されない。すなわち、ステップＳ２５３～ステップＳ２５４の処理を実行することなく処理を終了することで、上記第二特別図柄の変動表示制御を新たに保留の状態としない。

【３０５９】

また、第二始動口２００４へ遊技球が入球したことに基づいて第二保留記憶数が変化すると機能表示ユニット１４００における第二特別保留数表示器の二つのＬＥＤの点灯状態を第二保留記憶数に対応するように更新するとともに、上記周辺制御基板コマンド送信処理（ステップＳ１２０）にて第二保留記憶数を指示するコマンド（第二保留数指定コマンド０～１（特別図柄２記憶コマンド０～１））をセットして周辺制御基板１５１０に送信するようになっている。なお、周辺制御基板１５１０の周辺制御ＩＣは第二保留数指定コマンド０～１（特別図柄２記憶コマンド０～１）を受信したことに基づいて第二保留記憶数を演出表示装置１６００に表示するようになっている。

【３０６０】

このように、本例のパチンコ機１では第一始動口２００２へ遊技球が入球したことに基づく第一保留記憶数の上限は「４」にされる一方、第二始動口２００４へ遊技球が入球したことに基づく第二保留記憶数の上限は「１」にされている。なお、第二始動口２００４は時短状態中に多数の遊技球が入球可能になるものであり、第二特別図柄の変動時間が通常状態時よりも短縮されるため、第二保留記憶数の上限が「１」とされていても第二特別図柄の変動表示が行われない期間が長く続いたり、第二保留記憶数が上限となっている期間が長く続くことで第二始動口２００４に遊技球が入球しても大当りの抽選の機会が得られなかったりという遊技者に不利な状態となることは抑制されている。

【３０６１】

図２９３は、第一特別図柄プロセス処理（ステップＳ２３８）についてその手順を示すフローチャートである。なお、特別図柄プロセス処理のステップＳ２３８で実行される第一特別図柄プロセス処理と特別図柄プロセス処理のステップＳ２３９で実行される第二特別図柄プロセス処理とは同様のプログラムモジュールであり、判定に用いる乱数やテーブルが異なるだけであるため、ここでは特別図柄プロセス処理のステップＳ２３８で実行される第一特別図柄プロセス処理についてのみ説明する。第一特別図柄プロセス処理では、上述の第一特別図柄プロセスフラグに応じて、以下の５つのプロセス処理の１つを選択的に実行することとなる。

【３０６２】

１．主制御ＭＰＵのＲＡＭに格納されている第一特別乱数を読み出し、読み出した第一特別乱数に基づいて上記第一特別図柄の変動制御停止時における表示態様についての抽選処理などが行われる第一特別図柄通常処理（ステップＳ２８０）

２．第一特別図柄の変動制御停止時における表示態様についての抽選処理の結果に基づいて第一特別図柄の変動制御停止時の態様の決定処理などが行われる第一特別図柄停止図柄設定処理（ステップＳ２８１）

３．変動乱数に基づいて上記機能表示ユニット１４００の第一特別図柄表示器に表示される第一特別図柄の変動態様や、上記演出表示装置１６００に特別図柄に対応して実行される演出表示の変動態様についての抽選処理などが行われる第一変動パターン設定処理（ステップＳ２８２）

４．機能表示ユニット１４００の第一特別図柄表示器における上記第一特別図柄の変動表示が停止されるまで待機する第一特別図柄変動処理（ステップＳ２８３）

５．第一特別図柄の変動制御停止時における表示態様についての抽選処理の結果に基づいて決定された第一特別図柄の変動制御停止時の態様が上記機能表示ユニット１４００の第一特別図柄表示器に表示されるように上記第一特別図柄の変動表示を停止させる第一特別図柄停止処理（ステップＳ２８４）

【３０６３】

なお、上記第一特別図柄プロセスフラグは、上記主制御側電源投入時処理（図２７４参照）において、上記第一特別図柄通常処理（ステップＳ２８０）を行うべき旨を示すよう操作されている。

【３０６４】

図２９４は、上記第一特別図柄通常処理（ステップＳ２８０）についてその手順を示すフローチャートである。

【３０６５】

上記第一特別図柄プロセスフラグが当該第一特別図柄通常処理を行うべき旨を示しているときは、同図２９４に示されるように、上記主制御基板１３１０の主制御ＭＰＵは、まず、ステップＳ３０１の処理として、上記第一特別保留数カウンタによるカウンタ値に基づいて保留の状態にある第一特別図柄の変動表示制御があるか否かの判断を行う。この結果、保留の状態にある第一特別図柄の変動表示制御があると判断された場合には、次にステップＳ３０２の処理として、上記主制御ＭＰＵのＲＡＭの第一特別図柄保留記憶領域に格納されている第一特別図柄の表示態様に関わる乱数（例えば、第一特別乱数、第一図柄乱数、リーチ乱数、変動乱数）のうちの最先の記憶領域に格納された乱数を同ＲＡＭから読

み出す。そして次に、ステップＳ３０３及びＳ３０４の処理として、上記第一特別保留数カウンタをカウントダウンするとともに、上記主制御ＭＰＵのＲＡＭの第一特別図柄保留記憶領域の各記憶領域に格納されている上記第一特別図柄の変動表示停止時における表示態様に関わる乱数（第一特別乱数、第一図柄乱数、リーチ乱数、変動乱数）を先入れ先出し（Ｆｉｒｓｔ－Ｉｎ　Ｆｉｒｓｔ－Ｏｕｔ）の態様にてシフト操作する。

【３０６６】

具体的には、第一特別図柄保留記憶領域は１～４の４つの記憶領域を有し、始動入賞の発生に応じて抽出した乱数を１番目（最先）の領域から順に記憶する。そして、ｎ番目（ｎ＝１～３）の記憶領域に乱数が記憶されている場合に始動入賞が発生するとｎ＋１番目（ｎ＝１～３）の記憶領域に抽出した乱数を記憶し、１番目の記憶領域に格納された乱数に基づく変動表示の開始条件が成立すると１番目の記憶領域に記憶されている各種乱数を読み出すとともにＮ番目（Ｎ＝２～４）の記憶領域に記憶されている各種乱数をＮ－１番目（Ｎ＝２～４）番目の記憶領域に移動させる。これにより、上記第一特別図柄の変動表示制御の保留が発生した順序を特定可能に記憶されるとともに最先の保留（最も先に発生した保留）から順に変動表示制御の保留が解除されるようになる。

【３０６７】

そしてその後、ステップＳ３０５の処理として、上記読み出された第一特別図柄の第一特別乱数に基づいて上記大当りの当落についての抽選処理である当り判定処理を行う。その後、上記第一特別図柄停止図柄設定処理（ステップＳ２８１）にプロセス移行されるよう上述の第一特別図柄プロセスフラグが更新された時点で（ステップＳ３０６）、この処理を終了する。

【３０６８】

図２９５は、上記当り判定処理（ステップＳ３０５）についてその手順を示すフローチャートである。

【３０６９】

上記主制御基板１３１０の主制御ＭＰＵは、図１８５（Ａ）に示す当り判定テーブルと特別乱数（第一特別図柄通常処理を実行している場合にはステップＳ３０２で読み出した第一特別乱数、第二特別図柄通常処理を実行している場合には当該第二特別図柄通常処理で読みだした第二特別乱数）とを比較する（ステップＳ３１１）。

【３０７０】

図２９６（Ａ）に示す当り判定テーブルは、特別乱数の種類毎（第一特別乱数、第二特別乱数）に、遊技状態が低確率時（通常状態（低確率非時短状態）及び時短状態（低確率時短状態））の場合に使用する低確率時の大当り判定テーブルと、遊技状態が高確率時（高確率時短状態）の場合に使用する高確率時の大当り判定テーブルと、を備えている。そして、第一特別乱数と比較するために参照される低確率時の当り判定テーブルでは、設定値１である場合に１／３１９、設定値２である場合に１／３０９、設定値３である場合に１／２９９、設定値４である場合に１／２８９、設定値５である場合に１／２７９、設定値６である場合に１／２６９の大当り確率で第一特別乱数が大当りに当選したことを示す大当り判定値と一致し、３／３１９の小当り確率で第一特別乱数が小当りに当選したことを示す大当り判定値と一致し、それ以外の第一特別乱数が上記ハズレであることを示すハズレ判定値と一致するように上記第一特別乱数がそれぞれ関連付けされている。また、本例では第二特別図柄プロセス処理内において、第二特別乱数と比較するために参照される低確率時の当り判定テーブルでは、設定値１である場合に１／３１９、設定値２である場合に１／３０９、設定値３である場合に１／２９９、設定値４である場合に１／２８９、設定値５である場合に１／２７９、設定値６である場合に１／２６９の大当り確率で第二特別乱数が大当りに当選したことを示す大当り判定値と一致し、１４４／３１９の小当り確率で第二特別乱数が小当りに当選したことを示す小当り判定値と一致し、それ以外の第二特別乱数が上記ハズレであることを示すハズレ判定値と一致するように上記第二特別乱数がそれぞれ関連付けされている。即ち、第一特別乱数と比較するために参照される当り判定テーブルに比べて第二特別乱数と比較するために参照される当り判定テーブルでは、小

当りと判定される確率が高くなるように構成され、第一始動口２００２への始動入賞に基づく第一特別図柄の変動表示が実行された場合よりも第二始動口２００４への始動入賞に基づく第二特別図柄の変動表示が実行された場合の方が遊技者に有利な状態とされるようになっている。また、高確率時の当り判定テーブルでは、低確率時の当り判定テーブルに比べて設定値毎の大当り確率が１０倍に高められるように構成されている。

【３０７１】

上記主制御基板１３１０の主制御ＭＰＵは、上記当り判定テーブルと特別乱数（第一特別図柄通常処理のステップＳ３０２で読み出した第一特別乱数、または第二特別図柄通常処理で読みだした第二特別乱数）との比較の結果、大当りとすると判定した場合には（ステップＳ３１２）、当該変動が大当りに当選していることを示す大当りフラグをセットし（ステップＳ３１３）、当り判定処理を終了する。

【３０７２】

また、選択した当り判定テーブルと特別乱数（第一特別図柄通常処理のステップＳ３０２で読み出した第一特別乱数、または第二特別図柄通常処理で読みだした第二特別乱数）との比較の結果、小当りとすると判定した場合には（ステップＳ３１４）、当該変動が小当りに当選していることを示す小当りフラグをセットし（ステップＳ３１５）、当り判定処理を終了する。

【３０７３】

一方、大当りと小当りとのいずれにも当選していない場合、即ちハズレとすると判定した場合には、リーチ判定テーブルとステップＳ３０２で読み出したリーチ乱数とを比較する（ステップＳ３１６）。

【３０７４】

図示しないリーチ判定テーブルは、上記主制御内蔵ＲＯＭに記憶され、遊技状態が時短状態時の場合に使用する時短状態時のリーチ判定テーブルと、遊技状態が非時短状態時の場合に使用する非時短状態時のリーチ判定テーブルと、を備えている。そして、時短状態時のリーチ判定テーブルでは、１種類のリーチ乱数がリーチすることを示すリーチ判定値と一致し、７１種類のリーチ乱数がリーチしないことを示すリーチ判定値と一致するように上記リーチ乱数がそれぞれ関連付けされている。

【３０７５】

また、非時短状態時のリーチ判定テーブルでは、時短状態時のリーチ判定テーブルに設定されるリーチ乱数と同一のリーチ乱数を含む５種類のリーチ乱数がリーチすることを示すリーチ判定値と一致し、６７種類のリーチ乱数がリーチしないことを示すリーチ判定値と一致するように上記リーチ乱数がそれぞれ関連付けされている。このように、この実施の形態では、非時短状態時では、リーチすることを示すリーチ判定値が時短状態時よりも高められる。

【３０７６】

上記主制御基板１３１０の主制御ＭＰＵは、選択したリーチ判定テーブルとステップＳ３０２で読み出したリーチ乱数との比較の結果（ステップＳ３１６）、リーチハズレとすると判定した場合には（ステップＳ３１７）、当該変動がリーチとなることを示すリーチフラグをセットして処理を終了する（ステップＳ３１８）。

【３０７７】

図２９７は、上記第一特別図柄停止図柄設定処理（ステップＳ２８１）についてその手順を示すフローチャートである。

【３０７８】

上記第一特別図柄プロセスフラグが当該第一特別図柄停止図柄設定処理を行うべき旨を示しているときは、同図２９７に示されるように、上記主制御基板１３１０の主制御ＭＰＵは、まず、第一特別図柄の変動表示停止時における表示態様の抽選処理の結果、すなわち上記当り判定処理（ステップＳ３０５）の結果を判別する。抽選処理結果の判別は、大当りフラグがセットされているか否か（ステップＳ３２１）や小当りフラグがセットされているか否か（ステップＳ３２４）を判別することにより行う。

【３０７９】
主制御ＭＰＵは、ステップＳ３２１で大当りフラグがセットされていれば、第一特別図柄通常処理のステップＳ３０２で読み出した第一図柄乱数と図２９６（Ｂ）に示す大当り図柄決定テーブルとを比較することにより大当りの種類を決定し、該決定した大当りの種類に対応する第一特別図柄の変動制御停止時の態様（第一特別図柄の停止図柄）を決定する（ステップＳ３２２）。
【３０８０】
具体的には、
１．第一大入賞口２００５を長時間開放（例えば２９秒）した後又は第一大入賞口２００５に遊技球.が１０個入賞したことが上記第一大入賞口センサ２４０２で検出されたときに閉鎖させる開閉パターンを１５回（１５ラウンド）繰り返すことで遊技球が第一大入賞口２００５に入球可能（容易）な１５Ｒ大当り遊技状態に制御し、大当り遊技状態の終了後に特別図柄（第一特別図柄、第二特別図柄）の変動表示が７７回実行されるまで、当該変動表示の実行期間を通常よりも短縮させるとともに、通常よりも高い確率で特別抽選結果の抽選を行う高確率時短状態に制御する１５Ｒ確変大当り
２．第一大入賞口２００５を長時間開放（例えば２９秒）した後又は第一大入賞口２００５に遊技球が１０個入賞したことが上記第一大入賞口センサ２４０２で検出されたときに閉鎖させる開閉パターンを５回（５ラウンド）繰り返すことで遊技球が第一大入賞口２００５に入球可能（容易）な５Ｒ大当り遊技状態に制御し、大当り遊技状態の終了後に特別図柄（第一特別図柄、第二特別図柄）の変動表示が７７回実行されるまで、当該変動表示の実行期間を通常よりも短縮させる５Ｒ時短大当り、
３．第一大入賞口２００５を長時間開放（例えば２９秒）した後又は第一大入賞口２００５に遊技球が１０個入賞したことが上記第一大入賞口センサ２４０２で検出されたときに閉鎖させる開閉パターンを２回（２ラウンド）繰り返すことで遊技球が第一大入賞口２００５に入球可能（容易）な２Ｒ大当り遊技状態に制御し、２Ｒ大当り遊技状態の開始前に時短状態に制御されていれば大当り遊技状態の終了後に特別図柄（第一特別図柄、第二特別図柄）の変動表示が７７回実行されるまでの間に大当りとならなければ終了される時短状態に制御し、２Ｒ大当り遊技状態の開始前に非時短状態に制御されていれば大当り遊技状態の終了後に通常状態に制御する２Ｒ大当り、
の３種類の大当りの中からいずれかの大当りに決定する。
【３０８１】
また、第二特別図柄の変動制御停止時の態様（第二特別図柄の停止図柄）は、
具体的には、
１．第二大入賞口２００６を長時間開放（例えば２９秒）した後又は第二大入賞口２００６に遊技球.が１０個入賞したことが上記第二大入賞口センサ２６０１で検出されたときに閉鎖させる開閉パターンを１５回（１５ラウンド）繰り返すことで遊技球が第二大入賞口２００６に入球可能（容易）な１５Ｒ大当り遊技状態に制御し、大当り遊技状態の終了後に特別図柄（第一特別図柄、第二特別図柄）の変動表示が７７回実行されるまで、当該変動表示の実行期間を通常よりも短縮させるとともに、通常よりも高い確率で特別抽選結果の抽選を行う高確率時短状態に制御する１５Ｒ確変大当り
２．第二大入賞口２００６を長時間開放（例えば２９秒）した後又は第二大入賞口２００６に遊技球が１０個入賞したことが上記第二大入賞口センサ２６０１で検出されたときに閉鎖させる開閉パターンを５回（５ラウンド）繰り返すことで遊技球が第二大入賞口２００６に入球可能（容易）な５Ｒ大当り遊技状態に制御し、大当り遊技状態の終了後に特別図柄（第一特別図柄、第二特別図柄）の変動表示が７７回実行されるまで、当該変動表示の実行期間を通常よりも短縮させる５Ｒ時短大当り、
３．第二大入賞口２００６を長時間開放（例えば２９秒）した後又は第二大入賞口２００６に遊技球が１０個入賞したことが上記第二大入賞口センサ２６０１で検出されたときに閉鎖させる開閉パターンを２回（２ラウンド）繰り返すことで遊技球が第二大入賞口２００６に入球可能（容易）な２Ｒ大当り遊技状態に制御し、２Ｒ大当り遊技状態の開始前に

時短状態に制御されていれば大当り遊技状態の終了後に特別図柄（第一特別図柄、第二特別図柄）の変動表示が７７回実行されるまでの間に大当りとならなければ終了される時短状態に制御し、２Ｒ大当り遊技状態の開始前に非時短状態に制御されていれば大当り遊技状態の終了後に通常状態に制御する２Ｒ大当り、
の３種類の大当りの中からいずれかの大当りに決定する。
【３０８２】
なお、第一図柄乱数と比較される大当り図柄決定テーブルは、１５Ｒ確変大当りとなる場合に８個の判定値が振り分けられ、５Ｒ時短大当りとなる場合に１００個の判定値が振り分けられ、２Ｒ大当りとなる場合に９２個の判定値が振り分けられている。即ち、第一特別乱数に基づく抽選により大当りとする抽選結果が得られた場合には４％の確率で１５Ｒ大当りとなり、５０％の確率で５Ｒ大当りとなり、４６％の確率で２Ｒ大当りとなる。同様に、第二図柄乱数と比較される大当り図柄決定テーブルは、１５Ｒ確変大当りとなる場合に９２個の判定値が振り分けられ、５Ｒ時短大当りとなる場合に１００個の判定値が振り分けられ、２Ｒ大当りとなる場合に８個の判定値が振り分けられている。即ち、第二特別乱数に基づく抽選により大当りとする抽選結果が得られた場合には４６％の確率で１５Ｒ確変大当りとなり、５０％の確率で５Ｒ大当りとなり、４％の確率で２Ｒ大当りとなる。このように、本例のパチンコ機１では第一図柄乱数と比較される大当り図柄決定テーブルに比べて第二図柄乱数と比較される大当り図柄決定テーブルでは、１５Ｒ確変大当りと判定される確率が高くなるように構成され、第一始動口２００２への始動入賞に基づく第一特別図柄の変動表示よりも第二始動口２００４への始動入賞に基づく第二特別図柄の変動表示が実行された場合に遊技者に有利な状態となるようになっている。
【３０８３】
また、大当りの種類を決定すると大当りの種類に応じた停止図柄を第一特別図柄の停止時の態様として決定する。具体的には、２Ｒ大当りに決定した場合には大当り図柄として２Ｒ大当り図柄に決定し、５Ｒ大当りに決定した場合には大当り図柄として５Ｒ大当り図柄に決定し、１５Ｒ大当りに決定した場合には大当り図柄として１５Ｒ大当り図柄に決定する。
【３０８４】
また、主制御基板１３１０の主制御ＭＰＵは、ステップＳ１３１で大当りフラグがセットされていない場合に、小当りフラグがセットされていれば（ステップＳ３２４）、第一特別図柄通常処理のステップＳ３０２で読み出した第一図柄乱数と図２９６（Ｃ）に示す小当り図柄決定テーブルとを比較することにより小当りの種類を決定し、該決定した大当りの種類に対応する第一特別図柄の変動制御停止時の態様（第一特別図柄の停止図柄）を決定する（ステップＳ３２５）。
【３０８５】
具体的には、
１．第二大入賞口２００６を短時間開放（例えば８０ｍｓ）した後に閉鎖させる開閉パターンを２回実行して遊技球が第二大入賞口２００６に入球可能（容易）な小当り遊技状態に制御する第一小当り
２．第二大入賞口２００６を短時間開放（例えば８０ｍｓ）した後に閉鎖させる開閉パターンを９回実行して遊技球が第二大入賞口２００６に入球可能（容易）な小当り遊技状態に制御する第二小当り
の２種類の小当りの中からいずれかの大当りに決定する。
【３０８６】
なお、第一図柄乱数と比較される小当り図柄決定テーブルは、第一小当りとなる場合に２００個の判定値が振り分けらている。即ち、第一特別乱数に基づく抽選により小当りとする抽選結果が得られた場合には１００％の確率で第一小当りとなり、第二小当りには当選しない。一方、第二図柄乱数と比較される小当り図柄決定テーブルは、第一小当りとなる場合に２０個の判定値が振り分けられ、第二小当りとなる場合に１８０個の判定値が振り分けられている。即ち、第二特別乱数に基づく抽選により小当りとする抽選結果が得られ

た場合には、１０％の確率で第一小当りとなり、９０％の確率で第二小当りとなる。
【３０８７】
また、小当りの種類を決定すると小当りの種類に応じた停止図柄を第一特別図柄の停止時の態様として決定する。具体的には、第一小当りに決定した場合には小当り図柄として第一小当り図柄に決定し、第二小当りに決定した場合には小当り図柄として第二小当り図柄に決定する。
【３０８８】
主制御基板１３１０の主制御ＭＰＵは、大当りフラグと小当りフラグとのいずれもセットされていない場合には、はずれ図柄に決定する（ステップＳ３２７）。そして、こうして停止図柄についての決定処理が行われた後は、主制御基板１３１０の主制御ＭＰＵは、ステップＳ３２８の処理として、上記抽選結果（大当りの種類、小当り、リーチはずれ、はずれのいずれかを指示（第一特別図柄の停止図柄の態様を指示するものであってもよい））が上記周辺制御基板１５１０に送信されるよう抽選結果それぞれに応じた判定結果通知コマンドをセットする（ステップＳ３２８）。そしてその後は、ステップＳ３２９の処理として、上記第一変動パターン設定処理（ステップＳ２８２）にプロセス移行されるよう上記第一特別図柄プロセスフラグを更新した時点で、この処理を終了する。
【３０８９】
周辺制御部１５１１は、受信した判定結果通知コマンド及び変動パターンコマンドに基づいて演出表示装置１６００を表示制御する（左・中・右の装飾図柄を変動表示して左装飾図柄→右装飾図柄→中装飾図柄の順序で停止表示させる（なお左・中・右の装飾図柄を同一図柄で同期して変動表示し同時に停止表示する場合もある））。具体的には、周辺制御部１５１１は、演出表示装置１６００に表示される装飾図柄の変動停止時の態様（停止図柄）として、受信した判定結果通知コマンドから小当り又は２Ｒ大当りを特定した場合には小当り図柄（「最終決戦」）に決定し、５Ｒ時短大当りを特定した場合には５Ｒ時短大当り図柄（左・中・右の装飾図柄が「０」～「９」の図柄のうち同一の偶数図柄となる組合せ）に決定し、１５Ｒ確変大当りを特定した場合には１５Ｒ確変大当り図柄（左・中・右の装飾図柄が「０」～「９」の図柄のうち同一の奇数図柄となる組合せ）に決定する。また、リーチはずれを特定した場合にはリーチを伴ったはずれ図柄（左・右の装飾図柄が「０」～「９」の同一の図柄の組み合わせであって中装飾図柄が異なる図柄の組み合わせ；リーチハズレ図柄）に決定し、はずれを特定した場合には、リーチを伴わないはずれ図柄（左・中・右の装飾図柄のうち少なくとも左・右の装飾図柄が異なる図柄となる組合せ）に決定し、変動パターンコマンドから特定される変動時間の経過時（遊技演出の終了時）においてその決定された停止図柄を演出表示装置１６００に表示制御する。
【３０９０】
なお、本例のパチンコ機１では大当り遊技状態後に特別図柄（第一特別図柄、第二特別図柄）の変動表示が最大で７７回実行されるまで時短状態に制御可能とされるが、時短状態に移行制御された後に所定回数の大当りが発生したことに基づいて時短状態を終了させるようにしてもよい。具体的には、大当り遊技状態後に時短状態に制御し、その後に所定回数（例えば２回）の大当りが発生した場合には、所定回数目の大当り遊技状態の終了後に時短状態に制御することなく、通常状態に制御するようにしてもよい。また、大当りの発生回数が所定回数未満の場合であっても大当り遊技状態中は非時短状態に制御し、大当り遊技状態後に再び時短状態の制御を行うようにしてもよい。
【３０９１】
図２９８は、上記第一変動パターン設定処理（ステップＳ２８２）についてその手順を示すフローチャートである。
【３０９２】
上記第一特別図柄プロセスフラグが当該第一変動パターン設定処理を行うべき旨を示しているときは、同図２９８に示されるように、上記主制御基板１３１０の主制御ＭＰＵは、大当りフラグがセットされていれば（ステップＳ３４１）、第一特別図柄停止図柄設定処理のステップＳ３２３で決定した大当りの種類に応じた大当り時の変動パターンテーブル

（図示しない）を選択し（ステップＳ３４２）、小当りフラグがセットされて入れば（ステップＳ３４３）、第一特別図柄停止図柄設定処理のステップＳ３２５で決定した小当りの種類に応じた小当り時の変動パターンテーブル（図示しない）を選択し（ステップＳ３４４）、リーチフラグがセットされていれば（ステップＳ３４５）、リーチ時の変動パターンテーブル（図示しない）を選択し（ステップＳ３４６）、大当りフラグとリーチフラグとのいずれもセットされていない場合、すなわち通常のハズレ（リーチ演出を実行しないハズレ）となる場合には、ハズレ時の変動パターンテーブル（図示しない）を選択する（ステップＳ３４７）。

【３０９３】

そして、選択した変動パターンテーブルと第一特別図柄通常処理のステップＳ３０２で読み出した変動乱数とを比較することにより実行する変動パターンを決定し（ステップＳ３４８）、決定した変動パターンを開始することを周辺制御基板１５１０に通知する変動パターンコマンドをセットして機能表示ユニット１４００の第一特別図柄表示器に表示される第一特別図柄の変動表示を開始する（ステップＳ３４９）。また、主制御ＭＰＵは、変動パターンを決定すると決定した変動パターンに対応して設定されている変動時間を変動タイマに設定する（ステップＳ３５０）。これにより、こうして決定された変動時間だけ機能表示ユニット１４００の第一特別図柄表示器及び上記演出表示装置１６００にて演出制御が行われるようになる。

【３０９４】

なお、本例の変動パターンテーブルは、特別乱数（第一特別乱数、第二特別乱数）及び図柄乱数（第一図柄乱数、第二図柄乱数）に基づく判定結果毎に複数種類設けられている。また、各変動パターンテーブルに設定される変動パターンには上記特別図柄（第一特別図柄、第二特別図柄）の変動表示制御に要する所定の時間（変動時間）を示す複数の変動時間情報が上記変動乱数にそれぞれ対応して関連付けされるかたちで記憶されている。しかして、主制御ＭＰＵは、特別乱数及び図柄乱数に基づく判定結果に応じた複数種類の変動パターンテーブルのうち、選択した変動パターンテーブルと第一特別図柄通常処理のステップＳ３０２で読み出した変動乱数とを比較し、上記読み出した変動乱数に関連付けされている変動時間情報をこのテーブルから取得することで、上記特別図柄（第一特別図柄、第二特別図柄）の変動パターンを決定する。これにより、上記特別図柄（第一特別図柄、第二特別図柄）の変動パターンについての抽選処理が行われるようになる。なお、上記変動パターンテーブルは、上記主制御ＭＰＵのＲＯＭに記憶されている。

【３０９５】

また、本例のリーチ時の変動パターンテーブルでは、いずれのリーチ演出を実行するかを示す判定値と変動乱数とを比較することにより実行するリーチ演出の態様種別を決定するように設定されている。例えば、リーチ演出のうちスーパーリーチ演出は、ノーマルリーチ演出よりも大当り期待度が高く、スーパーリーチ演出が実行されたときには、大当り遊技状態に対する遊技者の期待度が高まるようになっている。

【３０９６】

また、第一特別図柄の変動表示制御が開始されると、次にステップＳ３５１の処理として、時短状態の継続回数がセットされる時短回数カウンタのカウンタ値が「０」であるか否かを判断する。そして、このカウンタ値が「０」でなければ、該時短回数カウンタをカウントダウンした後（ステップＳ３５２）、同時短回数カウンタのカウンタ値が「０」であるか否かをさらに判断する（ステップＳ３５３）。そしてこの結果、同カウンタ値が「０」であれば、上記時短状態の制御（時短制御）を終了することを示す時短終了フラグをセットする（ステップＳ３５４）。

【３０９７】

上記ステップＳ３５１の処理にて時短回数カウンタのカウンタ値が「０」であると判断された場合、上記ステップＳ３５３の処理にて時短回数カウンタが「０」でないと判断された場合には、その時点でステップＳ３５５の処理に移行する。そして、上記第一特別図柄変動処理（ステップＳ２８３）にプロセス移行されるよう上述の第一特別図柄プロセスフ

ラグを更新した時点で、この処理を終了する。
【３０９８】
本例では、はずれ時の変動パターンテーブルにおいて、時短状態時には１秒程度に設定された特別図柄の変動時間情報が上記特別図柄乱数（第一特別図柄、第二特別図柄）に関連付けされる一方、非時短状態時には１２秒程度に設定された特別図柄の変動時間情報が上記特別図柄乱数（第一特別図柄、第二特別図柄）に関連付けされるかたちで、特別図柄の変動パターンが設定されている。すなわち、時短状態時に選択されるはずれ時の変動パターンには、非時短状態時に選択されるはずれ時の変動パターンと比べると、上記特別図柄の変動表示制御に要する時間が極めて短時間となるよう、上記特別図柄の変動時間情報が設定されている。
【３０９９】
図２９９は、上記第一特別図柄変動処理（ステップＳ２８３）についてその手順を示すフローチャートである。
【３１００】
上記第一特別図柄プロセスフラグが当該第一特別図柄変動処理を行うべき旨を示しているときは、同図２９９に示されるように、上記主制御基板１３１０の主制御ＭＰＵは、まず、ステップＳ３７１の処理として、上記変動パターンについての抽選処理（ステップＳ２８２）で決定した変動パターンに応じた変動時間が設定される変動タイマを１減算する。そして、変動時間タイマが０、すなわち、上記抽選された変動時間が経過したと判断されると（ステップＳ３７２）、次にステップＳ３７３の処理に移行する。すなわち、このステップＳ３７３の処理において、上記第一特別図柄停止処理（ステップＳ２８４）にプロセス移行されるよう上述の第一特別図柄プロセスフラグを更新した時点で、この処理を終了する。
【３１０１】
図３００は、上記第一特別図柄停止処理（ステップＳ２８４）についてその手順を示すフローチャートである。
【３１０２】
上記第一特別図柄プロセスフラグが当該第一特別図柄停止処理を行うべき旨を示しているときは、同図３００に示されるように、上記主制御基板１３１０の主制御ＭＰＵは、まず、ステップＳ３８１の処理として、上記第一特別図柄停止図柄設定処理にて決定された停止図柄を上記機能表示ユニット１４００の第一特別図柄表示器に表示させるための表示制御を行うとともに、上記演出表示装置１６００に第一特別図柄の停止図柄に応じた装飾図柄の表示結果の導出表示を指示する停止表示コマンドを上記周辺制御基板１５１０へのコマンドとしてセットする（ステップＳ３８２）。
【３１０３】
次いで、主制御基板１３１０の主制御ＭＰＵは、上記時短終了フラグがセットされているときには（ステップＳ３８３）、時短終了フラグをリセットするとともに（ステップＳ３８４）、時短フラグをリセットする（ステップＳ３８５）。これにより特別図柄（第一特別図柄、第二特別図柄）の所定回数（本例では、７７回）の変動表示が実行されたときに時短制御（時短状態の制御）を終了させて非時短制御（通常状態の制御）を開始するようになる。
【３１０４】
また、上記主制御基板１３１０の主制御ＭＰＵは、上記大当りフラグがセットされているときは（ステップＳ３８６）、大当り遊技を開始することを示す大当り開始コマンドをセットし（ステップＳ３８７）、大当り遊技の開始までの待機時間（大当り遊技を開始する旨の表示等を行う時間）をインターバルタイマにセットする（ステップＳ３８８）。なお、図示しないがステップＳ３８８では大当りの種類に応じたラウンド数を、ラウンドの残り回数を示す大当り回数カウンタにセットする処理も実行される。大当り回数カウンタは後述する大当り制御処理においてラウンドの実行毎に１ずつ減算され、大当り回数カウンタが「０」になったときに主制御基板１３１０の主制御ＭＰＵが規定ラウンド数を実行し

たと判断して大当り遊技を終了させるように制御する。具体的には後述する大当り制御処理において大当り回数カウンタが「０」になるまでは大入賞口開放前処理（ステップＳ４０１）と大入賞口開放中処理（ステップＳ４０２）とを繰り返し実行し、大入賞口開放中処理（ステップＳ４０２）でラウンドを終了するときに大当り回数カウンタを１減算して「０」なったことに基づいて大入賞口開放後処理（ステップＳ４０３）に移行して大当り遊技を終了させる制御を実行する。

【３１０５】

そして、大当り遊技の実行中であることを示す大当り実行中フラグをセットする（ステップＳ３８９）。なお、大当り開始コマンドは、周辺制御基板１５１０に送信されるコマンドであり、大当りの種類に応じて個々に用意されている。ステップＳ３８７では、大当りの種類（１５Ｒ確変大当り、５Ｒ時短大当り、２Ｒ大当り）に応じた大当り開始コマンド（１５Ｒ確変大当り開始コマンド、５Ｒ時短大当り開始コマンド、２Ｒ大当り開始コマンド）をセットする。これにより、大当り開始コマンドによって指示された大当りの種類に応じた大当り遊技の演出が演出表示装置１６００、ランプ・ＬＥＤ及びスピーカ等により実行される。また、第二特別図柄プロセス処理の第二特別図柄停止処理でも同様に、大当りの種類（１５Ｒ確変大当り、５Ｒ時短大当り、２Ｒ大当り）に応じた大当り開始コマンド（１５Ｒ確変大当り開始コマンド、５Ｒ時短大当り開始コマンド、２Ｒ大当り開始コマンド）をセットするようになっている。

【３１０６】

また、大当り遊技の実行中であることを示す大当り実行中フラグは、大当り遊技を終了するとき、具体的には大当り制御処理（ステップＳ２３５Ａ）の大入賞口開放後処理（ステップＳ４０３）で大当りの種類に応じた第一大入賞口２００５の開閉制御（例えば第一大入賞口２００５を長時間開放（例えば２９秒）した後又は第一大入賞口２００５に遊技球が１０個入賞したことが上記第一大入賞口センサ２４０２で検出されたときに閉鎖させる開閉パターンを２回、５回、又は１５回繰り返す開閉制御）及び第二大入賞口２００６の開閉制御（例えば第一大入賞口２００５を長時間開放（例えば２９秒）した後又は第一大入賞口２００５に遊技球が１０個入賞したことが上記第二大入賞口センサ２６０１で検出されたときに閉鎖させる開閉パターンを２回、５回、又は１５回繰り返す開閉制御）を終了したとき（大当り遊技で実行可能な全てのラウンド）にリセットされる。大当り実行中フラグがリセットされることにより特別図柄及び特別電動役物制御処理（ステップＳ１１４）のステップＳ２３５で大当り制御処理（ステップＳ２３５Ａ）を実行しないようにされる一方、機能表示ユニット１４００の第一特別図柄表示器における第一特別図柄の変動表示及び機能表示ユニット１４００の第二特別図柄表示器における第二特別図柄の変動表示を実行可能な状態になる。

【３１０７】

また、大当りフラグがセットされていない場合に（ステップＳ３８６）、上記小当りフラグがセットされていれば（ステップＳ３９０）、主制御基板１３１０の主制御ＭＰＵは、小当り遊技を開始することを示す小当り開始コマンドをセットし（ステップＳ３９１）、小当り遊技の開始までの待機時間（小当り遊技を開始する旨の表示等を行う時間）をインターバルタイマにセットする（ステップＳ３９２）。そして、小当り遊技の実行中であることを示す小当り実行中フラグをセットする（ステップＳ３９３）。なお、小当り開始コマンドは、周辺制御基板１５１０に送信されるコマンドであり、小当りの種類に応じて個々に用意されている。ステップＳ３９１では、小当りの種類（第一小当り、第二小当り）に応じた小当り開始コマンド（第一小当り開始コマンド、第二小当り開始コマンド）をセットする。これにより、小当り開始コマンドによって指示された小当りの種類に応じた小当り遊技の演出が演出表示装置１６００、ランプ・ＬＥＤ及びスピーカ等により実行される。また、第二特別図柄プロセス処理の第二特別図柄停止処理でも同様に、小当りの種類（第一小当り、第二小当り）に応じた小当り開始コマンド（第一小当り開始コマンド、第二小当り開始コマンド）をセットするようになっている。

【３１０８】

また、小当り遊技の実行中であることを示す小当り実行中フラグは、小当り遊技を終了するとき、具体的には後述する小当り制御処理（ステップＳ２３６Ａ）の小当り中処理（ステップＳ４１１）で小当りの種類に応じた第二大入賞口２００６の開閉制御（例えば第二大入賞口２００６を短時間開放（例えば８０ｍｓ）した後に閉鎖させる開閉パターンを２回又は９回繰り返す開閉制御）を終了したときにリセットされる。小当り実行中フラグがリセットされることにより特別図柄及び特別電動役物制御処理（ステップＳ１１４）のステップＳ２３６で小当り制御処理（ステップＳ２３６Ａ）を実行しないようにされる一方、機能表示ユニット１４００の第一特別図柄表示器における第一特別図柄の変動表示及び機能表示ユニット１４００の第二特別図柄表示器における第二特別図柄の変動表示を実行可能な状態になる。

【３１０９】

また、小当りフラグがセットされていない場合、即ちハズレとなるときには次回の特別図柄の変動表示を開始するまでの待機時間（特別図柄の停止図柄を表示している時間）をインターバルタイマにセットし（ステップＳ３９４）、ステップＳ３９５に移行する。

【３１１０】

上記ステップＳ３８６～ステップＳ３９４の処理を実行すると、上記主制御基板１３１０の主制御ＭＰＵは、第一特別図柄プロセスフラグを初期値である第一特別図柄通常処理にプロセス移行されるように更新した時点で（ステップＳ３９５）、この処理を終了する。

【３１１１】

図３０１は、上記大当り制御処理（ステップＳ２３５Ａ）についてその手順を示すフローチャートである。大当り制御処理では、大当りプロセスフラグに応じて、以下の３つのプロセス処理のうち１つを選択的に実行することとなる。

【３１１２】

１．特別図柄（第一特別図柄、第二特別図柄）の変動表示停止時の態様が大当り図柄となったことに基づいて上記大当り遊技状態に移行する旨などの遊技者への報知が上記周辺制御基板１５１０によって行われるまで待機したり、次のラウンドが開始されるまで待機する大入賞口開放前処理（ステップＳ４０１）

２．特別図柄の変動表示停止時の態様が大当り図柄となったことに基づいて第一大入賞口２００５又は第二大入賞口２００６を開放状態に制御したり、次のラウンドが開始されることに基づいて第一大入賞口２００５又は第二大入賞口２００６を開放状態に制御し、第一大入賞口２００５を長時間開放（例えば２９秒）した後又は第一大入賞口２００５に遊技球が１０個入賞したことが上記第一大入賞口センサ２４０２で検出されたとき、又は第二大入賞口２００６を長時間開放（例えば２９秒）した後又は第二大入賞口２００６に遊技球が１０個入賞したことが上記第二大入賞口センサ２６０１で検出されたときに閉鎖させる大入賞口開放中処理（ステップＳ４０２）

３．全てのラウンドを終了するときに大当り遊技状態が終了する旨の遊技者への報知が上記周辺制御基板１５１０によって行われるまで待機する大入賞口開放後処理（ステップＳ４０３）

【３１１３】

なお、上記大当りプロセスフラグは、上記ステップＳ４２の処理において、上記大入賞口開放前処理（ステップＳ４０１）を行うべき旨を示すよう操作されている。また、上記大入賞口開放中処理（ステップＳ４０２）では、第一大入賞口２００５又は第二大入賞口２００６を開放状態に制御するラウンドの開始時に、そのラウンド数に応じた大当りラウンド開始コマンドをセットし、第一大入賞口２００５又は第二大入賞口２００６を閉鎖状態に制御するラウンドの終了時に、そのラウンド数に応じた大当りラウンド終了コマンドをセットする。なお、大当りラウンド開始コマンド及び大当りラウンド終了コマンドは、周辺制御基板１５１０に送信されるコマンドであり、大当りラウンド開始コマンド及び大当りラウンド終了コマンドによって指示されたラウンド数に応じた大当り遊技の演出が演出表示装置１６００、ランプ・ＬＥＤ及びスピーカ等により実行される。

【３１１４】

［インナーレンズ］
従来のパチンコ機１では、ＬＥＤ等の電子部品が実装される基板の実装面が遊技者に正対するように設けられて、発光装飾を行うようになっている。また、ＬＥＤ等の電子部品が実装される基板の実装面は、透明な装飾体で覆われ、基板に実装されているＬＥＤ等を様々な色で発光させて装飾体を発色させたり、装飾体を介してＬＥＤ等の発光を視認させるようになっている。
【３１１５】
また、従来のパチンコ機１の基板は緑色のレジストがべた塗されており、このレジストの上からさらにコネクタのピン数、ＩＣの向き、部品番号、ピン番号、電子部品が配置される外形線等、の情報が白色や黒色のシルクによってＬＥＤ等の電子部品に近接して印刷されている。これら基板上に形成される情報はＬＥＤの発光時には遊技者から視認し難い一方で、ＬＥＤの消灯時には遊技者から視認可能となっている。
【３１１６】
なお、近年のパチンコ機１では統一されたデザインが全体に施されるとともに、演出表示装置１６００の映像等を融合させてキャラクタやアニメ等の世界観を表現するようになっており、パチンコ機１の意匠性は非常に重要な要素となっている。しかしながら、従来のパチンコ機１において、基板上に記されるコネクタのピン数、ＩＣの向き、部品番号、ピン番号、電子部品が配置される外形線等の遊技と無関係の情報がＬＥＤの消灯時に視認されることにより、パチンコ機１の世界観が崩れて意匠性が低下し、遊技興趣を低下させるおそれがあった。
【３１１７】
このような課題に対して、ＬＥＤを基板の表面（実装面）に実装し、基板の裏面にコネクタのピン数、ＩＣの向き、部品番号、ピン番号、電子部品が配置される外形線等の情報を白色や黒色のシルクで印刷してこれらの情報を遊技者側から視認困難にしたり、ＬＥＤを実装する基板の表面（ＬＥＤ実装面）に所定色（本例では白であるが、緑や黒、紫など他の色でもよい）の塗料（レジストやシルク等）を塗布した後、凹凸や光の反射状態によってコネクタのピン数、ＩＣの向き、部品番号、ピン番号、電子部品が配置される外形線等の情報が認識可能になるようにこれら情報部分を除いて同一色の塗料を二重に塗布することでこれらの情報を遊技者に視認困難にするなどの対策がなされている。
【３１１８】
しかしながら、ＬＥＤの実装面とは異なる裏面にコネクタのピン数、ＩＣの向き、部品番号、ピン番号、電子部品が配置される外形線等の情報をシルク印刷する場合には、保守点検する際に基板の表面と裏面とを交互に見比べることでＬＥＤ等を特定しなければならず、作業性が低下するという欠点や、同一面にＬＥＤと該ＬＥＤに関わる情報とが設けられていないことでＬＥＤとコネクタのピン数、ＩＣの向き、部品番号、ピン番号、電子部品が配置される外形線等の情報との対応関係が分かり難くなり、シルク印刷される情報に対応するＬＥＤとは異なるＬＥＤを誤って特定してしまうというミスが発生するという欠点がある。また、凹凸や光の反射状態によってコネクタのピン数、ＩＣの向き、部品番号、ピン番号、電子部品が配置される外形線等の情報を視認可能にする場合には、これらの情報を示す部分（領域）とその他の部分（領域）とが同一色であることで識別し難く、保守点検する際の作業性が低下するという欠点がある。
【３１１９】
本例のパチンコ機１では保守点検する際などの作業性の低下を抑制しつつ、基板上に記されるコネクタのピン数、ＩＣの向き、部品番号、ピン番号、電子部品が配置される外形線等の遊技と無関係の情報が遊技者に視認されることを抑制することを可能にしている。以下、詳細に説明する。なお、基板上に記される遊技と無関係の情報として、コネクタのピン数、ＩＣの向き、部品番号、ピン番号、電子部品が配置される外形線等のうちいずれか１つが基板の表面（ＬＥＤ実装面）に記されているものであれば以下の発明を適用可能である。
【３１２０】

上記したように、本例のパチンコ機１ではＬＥＤの前方を覆う装飾体とＬＥＤを実装する基板との間にインナーレンズを配置している。具体的には、図３８に示すようにハンドルユニット１８０に備えられて複数のＬＥＤが実装されているハンドル装飾基板１８４の前面（表面）は、透明なハンドルカバー１８５によって覆われ、このハンドルカバー１８５とハンドル装飾基板１８４との間に透明なインナーレンズ１８５ａが配置され、図４９及び図５０に示すように、皿左上装飾ユニット２７０に備えられて複数のＬＥＤが実装されている皿左上装飾基板２７３の前面（表面）は、皿左上装飾体２７１によって覆われ、この皿左上装飾体２７１と皿左上装飾基板２７３との間に透明な皿左上インナーレンズ２７２が配置され、皿右上装飾ユニット２７５に備えられて複数のＬＥＤが実装されている皿右上装飾基板２７８の前面（表面）は、皿右上装飾体２７６によって覆われ、この皿右上装飾体２７６と皿右上装飾基板２７８との間に透明な皿右上インナーレンズ２７７が配置され、皿左下装飾ユニット２８０に備えられて複数のＬＥＤが実装されている皿左下装飾基板２８３の前面（表面）は、皿左下装飾体２８１によって覆われ、この皿左下装飾体２８１と皿左下装飾基板２８３との間に透明な皿左下インナーレンズ２８２が配置され、皿右下装飾ユニット２８５に備えられて複数のＬＥＤが実装されている皿右下装飾基板２８８の前面（表面）は、皿右下装飾体２８６によって覆われ、この皿右下装飾体２８６と皿右下装飾基板２８８との間に透明な皿右下インナーレンズ２８７が配置されている。

【３１２１】

また、図５３及び図５４に示すように、演出操作ユニット３００の演出操作部カバーユニット３１０に備えられて複数のＬＥＤが実装されている皿中央上装飾基板３１４の上面（表面）は、皿中央上装飾体３１２ａによって覆われ、この皿中央上装飾体３１２ａと皿中央上装飾基板３１４との間に透明な皿中央上インナーレンズ３１３が設けられ、演出操作ユニット３００の演出操作部カバーユニット３１０に備えられて複数のＬＥＤが実装されている皿中央下装飾基板３１６の上面（表面）は、皿中央下装飾体３１２ｂによって覆われ、この皿中央下装飾体３１２ｂと皿中央下装飾基板３１６との間に透明な皿中央下インナーレンズ３１５が設けられ、演出操作ユニット３００の演出操作ボタンユニット３６０に備えられて複数のＬＥＤが実装されている外周ボタン装飾基板３７７の上面（表面）は、外周ボタンカバー３８０によって覆われ、この外周ボタンカバー３８０と外周ボタン装飾基板３７７との間に透明な外周装飾インナーレンズ３７９が設けられている。

【３１２２】

また、図６７に示すように、扉枠左サイドユニット４００に備えられて複数のＬＥＤが実装されている扉枠左サイド装飾基板４０２の前面（表面）は、透明な扉枠左サイド装飾体４０４によって覆われ、この扉枠左サイド装飾体４０４と扉枠左サイド装飾基板４０２との間に透明な左サイドインナーレンズ４０３が配置され、図７０に示すように、扉枠右サイドユニット４１０に備えられて複数のＬＥＤが実装されているサイド窓内装飾部装飾基板４１３の前面（表面）は、透明な扉枠右サイド装飾体４１９によって覆われ、この扉枠右サイド装飾体４１９とサイド窓内装飾部装飾基板４１３との間に透明な右サイドインナーレンズ４１５が配置され、扉枠トップユニット４５０に備えられて複数のＬＥＤが実装されている扉枠トップ中央装飾基板４５５、扉枠トップ左装飾基板４５６、扉枠トップ右装飾基板４５７の前面（表面）は、透明な扉枠トップ装飾体４５３によって覆われ、この扉枠トップ装飾体４５３と扉枠トップ中央装飾基板４５５、扉枠トップ左装飾基板４５６、及び扉枠トップ右装飾基板４５７との間に透明なトップ中央インナーレンズ４５８と、トップ左インナーレンズ４５９と、トップ右インナーレンズ４６０と、が配置されている。

【３１２３】

また、図１６５及び図１６６に示すように裏下中装飾体ユニット３３２０に備えられて複数のＬＥＤが実装されている裏下中第一装飾基板３３２２の前面は、裏下中回転装飾体３３１０によって覆われ、この裏下中回転装飾体３３１０と裏下中第一装飾基板３３２２との間に透明なインナーレンズ（拡散レンズ）３３２１が配置され、図１９３及び図１９４に示すように、裏前左装飾体ユニット３７１０に備えられて複数のＬＥＤが実装されている裏前左装飾基板３７１４の前面は、前カバー３７１１によって覆われ、この前カバー３

７１１と裏下中第一装飾基板３３２２との間にインナーレンズとして機能している透明平板状の裏前左装飾体３７１３が配置され、図１９７及び図１９８に示すように、裏前右装飾体ユニット３８１０に備えられて複数のＬＥＤが実装されている裏前右装飾基板３８１４の前面は、前カバー３８１１によって覆われ、この前カバー３８１１と裏前右装飾基板３８１４との間にインナーレンズとして機能している透明平板状の裏前右装飾体３８１３が配置されている。

【３１２４】

このインナーレンズは、屈折率を不均一としたり、ＬＥＤからの光を不規則に拡散させるように表面が凹凸状に立体形成されており、装飾体の後方に所定間隔を空けて設けられている（装飾体から離間して設けられる）。そして、基板の実装面に記されるコネクタのピン数、ＩＣの向き、部品番号、ピン番号、電子部品が配置される外形線等の遊技と無関係の情報をインナーレンズを介して視認する場合には、凹凸状に立体形成される表面によってこれらの情報が歪んだ状態（ピントの合っていない状態、文字や情報として認識できない程度に歪んだ状態）で視認されるようになる。これにより、基板の実装面に記されるコネクタのピン数、ＩＣの向き、部品番号、ピン番号、電子部品が配置される外形線等の遊技と無関係の情報を、遊技者に情報として認識されることを抑制できるようになるため、パチンコ機１の世界観が崩れることを防止して意匠性の低下を抑止することができ、遊技興趣の低下を抑止できるようになる。なお、インナーレンズの表面を凹凸状に立体形成するものに限らず、これに替えて又はこれに加えてインナーレンズの厚みを不均一にすることで屈折率を不均一としたり、ＬＥＤからの光を不規則に拡散させるようにしてもよい。この場合にもインナーレンズを介して視認される、基板の実装面に記されるコネクタのピン数、ＩＣの向き、部品番号、ピン番号、電子部品が配置される外形線等の遊技と無関係の情報が歪んだ状態（ピントの合っていない状態）で視認されるようになる。

【３１２５】

本例のインナーレンズは無色透明の樹脂によって形成され、ＬＥＤの光を透過させるようになっている。なお、透光性を有する材料（樹脂等）によって形成されるものであれば、無色透明のものに限らず、透けて見える程度に着色される有色透明のものであってもよい。また、本例のインナーレンズの表面は、ダイヤモンドのカットのように角度の異なる小さな面を複数形成することで立体形成されており、インナーレンズが無色透明の樹脂で形成されるものの、表面の屈折率が不均一とされることでところどころ白濁しているような見た目を有している。

【３１２６】

また、本例の装飾体（ハンドルカバー１８５、皿左上装飾体２７１、皿右上装飾体２７６、皿左下装飾体２８１、皿右下装飾体２８６、皿中央上装飾体３１２ａ、皿中央下装飾体３１２ｂ、外周ボタンカバー３８０、扉枠左サイド装飾体４０４、扉枠右サイド装飾体４１９、扉枠トップ装飾体４５３、裏下中回転装飾体３３１０、前カバー３７１１、前カバー３８１１）は透明部材で形成されて比較的滑らかな表面を有している。なお、インナーレンズに加えて装飾体の表面や裏面も凹凸状に立体形成するようにしてもよく、この場合には装飾体とインナーレンズとを組み合わせて基板上のコネクタのピン数、ＩＣの向き、部品番号、ピン番号、電子部品が配置される外形線等の情報が遊技者に視認されることを確実に抑制することができるようになる。また、この場合には遊技者に近い側に配置される装飾体の表面の凹凸度合いをインナーレンズの表面の凹凸度合いよりも弱めるようにしてもよい。これにより、遊技者に近い側に配置される装飾体の透明度を低下させないようにすることができ、装飾体を介して透明度が低下して白濁しているような見た目のインナーレンズを視認させて奥行き感のある立体的な装飾を実現できるようになる。

【３１２７】

また、上記したように本例のパチンコ機１ではＬＥＤが実装される基板のレジストとして白色を採用しているため、基板の実装面と装飾体との間に設けられて白濁しているような見た目を有するインナーレンズは、白色のレジストと馴染み、違和感を与えないようになっている。すなわち、パチンコ機１の意匠性を低下させないようになっている。

【３１２８】
また、本例のパチンコ機１では、ＬＥＤを実装する基板の表面のレジストとして白色を採用するとともに、このＬＥＤ実装面にコネクタのピン数、ＩＣの向き、部品番号、ピン番号、電子部品が配置される外形線等の情報を黄色のシルクで印刷している。ここで、一般的に黄色と白色とは他の色と比較して最も反射率及び明度が近く、視覚的な差異（コントラスト）が少ないため、白色や黄色以外の色のシルクで印刷したものに比べて、基板を直接視認された場合であってもコネクタのピン数、ＩＣの向き、部品番号、ピン番号、電子部品が配置される外形線等の情報を識別され難い。なお、ＬＥＤ実装面（前面）にのみレジストとして白色を採用するとともに、黄色のシルクで各種情報を印刷するようにしてもよく、ＬＥＤ非実装面（裏面）はレジストとして白以外の色（例えば緑色や黒色）を採用してもよいし、黄色以外の色（例えば白色や黒色）のシルクで各種情報を印刷するようにしてもよい。
【３１２９】
一方、保守点検する際には、基板のレジストの色とは異なる色でコネクタのピン数、ＩＣの向き、部品番号、ピン番号、電子部品が配置される外形線等の情報が記されることで、これらの情報を容易に識別してその内容を理解することができることに加え、コネクタのピン数、ＩＣの向き、部品番号、ピン番号、電子部品が配置される外形線等の情報が対応するＬＥＤに近接して記されるため、ＬＥＤとコネクタのピン数、ＩＣの向き、部品番号、ピン番号、電子部品が配置される外形線等の情報との対応関係を明確にすることができる。
【３１３０】
なお、本例のパチンコ機１ではＬＥＤ非実装面（裏面）にＩＣや、抵抗、コンデンサ、コネクタ等を実装するようになっている。すなわち、基板の表面（ＬＥＤ実装面）にはＬＥＤだけが実装されるようになっている。これにより、照射される光が遊技者に向かうようにＬＥＤが実装されることで遊技者から視認され易い基板の表面側には、色や形、大きさなどから遊技者から視認され易いＩＣや、抵抗、コンデンサ、コネクタ等を実装することなく、遊技者から視認され難い基板の裏面側に実装することでＩＣや、抵抗、コンデンサ、コネクタ等の存在を気付かれ難くすることができる。また、ＬＥＤ実装面のレジストと同一の白色で形成されるコネクタ等を用いる場合には、ＬＥＤ実装面に実装するようにしてもよい。
【３１３１】
また、インナーレンズの表面の凹凸度合いを、インナーレンズと基板との距離に応じて異ならせるようにしてもよい。具体的には、インナーレンズと基板との距離が近い場合（例えば１ｃｍ未満）にはインナーレンズの立体形成の度合いを強めるようにし、インナーレンズと基板との距離が遠い場合（例えば１ｃｍ以上）にはインナーレンズの立体形成の度合いを弱めるようにしてもよい。これにより、基板との距離に応じて最適な掩蔽を行って、インナーレンズを通して基板の実装面に記されるコネクタのピン数、ＩＣの向き、部品番号、ピン番号、電子部品が配置される外形線等を視認されることを抑制でき、遊技と無関係の情報を、情報として遊技者に認識されることを抑制して、パチンコ機１の世界観が崩れることを防止し、意匠性の低下を抑止して遊技興趣の低下を抑止することができる。
なお、立体形成の度合いを変化させる方法としては、基板表面の凹凸を深くすることで立体形成の度合いを強めたり、基板表面の凹凸を浅くすることで立体形成の度合いを弱めたり、基板表面の造形（角度の異なる面）を小さくすることで凹凸度合いを強めたり、基板表面の造形（角度の異なる面）を大きくすることで凹凸度合いを弱めたりすること、等が挙げられる。
【３１３２】
また、上記インナーレンズは基板上に記される情報を視認困難にするものであればよく、基板上に記される情報の全てが視認困難にされるものに限らず、基板上に記される情報のうちの一部については情報として認識可能な程度（線や文字として認識可能な程度）に視認可能となっていてもよいし、基板上に記される情報の全て又は一部について何らかの情

報が記されていることを認識可能であるが、その記された情報を情報として認識することが困難な程度（線や文字を不鮮明な状態で視認可能になる程度）に視認困難とされているものであってもよいし、基板上に記される情報の全て又は一部について何らかの情報が記されていること自体も認識困難な程度（線や文字が全く視認できない程度）に視認困難とされているものであってもよい。

【３１３３】

また、上記した例ではインナーレンズとして表面を凹凸状に立体形成される樹脂成型部材を用いたが、樹脂成型部材に替えて又は樹脂成型部材に加えて、基板上に記される情報の全て又は一部を不鮮明にしたり、基板上に記される情報の全て又は一部について何らかの情報が記されていること自体を認識困難にする透光性のシートを用いるようにしてもよい。例えば、図２５５に示す発光演出ユニット５０００にに備えられて複数のＬＥＤが実装されているＬＥＤ基板５０７０と、該ＬＥＤ基板５０７０の表面を覆う装飾体５０４０と、の間に設けられ、薄肉円形状の透明な樹脂板から加工されて成形される拡散シート５０５０と同様のシートを用いるようにしてもよいし、すりガラス調の透光性シートや、クリスタル調の透光性シートなどの透明度を下げるシートを用いるようにしてもよい。この場合には、立体形成される部材を用いるものに比べてＬＥＤが実装される基板の実装面と装飾体との間の空間を狭くすることができるため、設計の自由度が高まる。

【３１３４】

また、上記した例では装飾体とインナーレンズとを別々に設けたが、これに限らず、装飾体自体をインナーレンズとして用いるようにしてもよい。これにより低コストでパチンコ機１の意匠性の低下を抑制することが可能になる。

【３１３５】

また、本例のパチンコ機１では客待ち状態となって演出表示装置１６００によるデモンストレーションを行っている期間などの遊技演出の非実行時以外では、パチンコ機１に設けられているＬＥＤ等の発光部材のうち、遊技者から常に視認可能とされる位置に設けられている複数の発光部材（この例では扉枠３に設けられているＬＥＤ、裏前左装飾体ユニット３７１０の裏前左装飾基板３７１４に実装されているＬＥＤ、裏上演出ユニット３４００の裏上前装飾基板３４２２に実装されているＬＥＤ、裏前右装飾体ユニット３８１０の裏前右装飾基板３８１４に実装されているＬＥＤ、裏下右演出ユニット３２５０の裏下右装飾基板３２５３に実装されているＬＥＤ、裏下左演出ユニット３２００の裏下左装飾基板３２０３に実装されているＬＥＤ、など）のそれぞれについて点灯状態とされる割合を、消灯状態とされる割合よりも高くなるようにしている。これにより、消灯状態とされている期間よりも点灯状態とされている期間を長くすることができ、点灯状態ではＬＥＤから照射される光によって各基板を視認され難くすることができるため、各基板に記されているコネクタのピン数、ＩＣの向き、部品番号、ピン番号、電子部品が配置される外形線等の遊技と無関係の情報が遊技者に視認され難くすることができる。また、これら遊技と無関係の情報が遊技者に視認され難くできることで、パチンコ機１の世界観が崩れることを防止して意匠性の低下を抑止することができ、遊技興趣の低下を抑止できるようになる。

【３１３６】

［可動装飾体に搭載される基板の掩蔽］

本例のパチンコ機１では、演出表示装置１６００の前方に表出する裏後可動装飾体３１１０、裏上後回転装飾体３４４０、裏後左装飾体３５２１、及び裏後右装飾体３６２１の後方に設けられて前面に複数のＬＥＤが実装されている基板に記されるコネクタのピン数、ＩＣの向き、部品番号、ピン番号、電子部品が配置される外形線等の情報についても遊技者から視認困難となるようにしている。以下、詳細に説明する。

【３１３７】

上記したように、裏後可動装飾体３１１０、裏上後回転装飾体３４４０、裏後左装飾体３５２１、及び裏後右装飾体３６２１は、通常時（非駆動時）は遊技者から視認困難な位置（待機位置）に収容されており、演出時（駆動時）に演出表示装置１６００の前方の遊技者から視認可能な位置（駆動位置）に移動して遊技者から視認可能となる。

【３１３８】
そのため、通常時（非駆動時）には、裏後可動装飾体３１１０の後方に設けられて前面に複数のＬＥＤが実装されている裏後装飾基板３１１４、裏上後回転装飾体３４４０の後方に設けられて前面に複数のＬＥＤが実装されている裏上後装飾基板３４５２、裏後左装飾体３５２１の後方に設けられて前面に複数のＬＥＤが実装されている裏後左装飾基板３５２２、及び裏後右装飾体３６２１の後方に設けられて前面に複数のＬＥＤが実装されている裏後右装飾基板３６２２のそれぞれに記されているコネクタのピン数、ＩＣの向き、部品番号、ピン番号、電子部品が配置される外形線等の情報を遊技者は視認困難となっている。
【３１３９】
一方、裏後可動装飾体３１１０、裏上後回転装飾体３４４０、裏後左装飾体３５２１、及び裏後右装飾体３６２１を演出表示装置１６００の前方に表出させる演出の実行時（駆動時）には、裏後可動装飾体３１１０、裏上後回転装飾体３４４０、裏後左装飾体３５２１、及び裏後右装飾体３６２１が遊技者から視認困難な待機位置から、遊技者から視認可能な駆動位置へと移動することで、裏後可動装飾体３１１０の後方に設けられて前面に複数のＬＥＤが実装されている裏後装飾基板３１１４、裏上後回転装飾体３４４０の後方に設けられて前面に複数のＬＥＤが実装されている裏上後装飾基板３４５２、裏後左装飾体３５２１の後方に設けられて前面に複数のＬＥＤが実装されている裏後左装飾基板３５２２、及び裏後右装飾体３６２１の後方に設けられて前面に複数のＬＥＤが実装されている裏後右装飾基板３６２２のそれぞれに記されているコネクタのピン数、ＩＣの向き、部品番号、ピン番号、電子部品が配置される外形線等の情報が遊技者から視認されるおそれがある。
【３１４０】
本例のパチンコ機１では、図３０２（Ａ）に示すように、裏後可動装飾体３１１０、裏上後回転装飾体３４４０、裏後左装飾体３５２１、及び裏後右装飾体３６２１を演出表示装置１６００の前方に表出させる場合に、裏後可動装飾体３１１０の後方に設けられる裏後装飾基板３１１４、裏上後回転装飾体３４４０の後方に設けられる裏上後装飾基板３４５２、裏後左装飾体３５２１の後方に設けられる裏後左装飾基板３５２２、及び裏後右装飾体３６２１の後方に設けられる裏後右装飾基板３６２２のそれぞれに実装されるＬＥＤを発光制御して、各基板を視認され難くする。
【３１４１】
すなわち、演出表示装置１６００で表示演出を開始した後、裏後駆動モータ３１２６を駆動して裏後可動装飾体３１１０を表出させたり、裏上後回転駆動モータ３４５４を駆動して裏上後回転装飾体３４４０を表出させたり、裏後左回転駆動モータ３５２５を駆動して裏後左装飾体３５２１を表出させたり、裏後右回転駆動モータ３６２５を駆動して裏後右装飾体３６２１を表出させたりする場合に、裏後駆動モータ３１２６、裏上後回転駆動モータ３４５４、裏後左回転駆動モータ３５２５及び裏後右回転駆動モータ３６２５を駆動するタイミングに合わせて裏後可動装飾体３１１０の後方に設けられる裏後装飾基板３１１４、裏上後回転装飾体３４４０の後方に設けられる裏上後装飾基板３４５２、裏後左装飾体３５２１の後方に設けられる裏後左装飾基板３５２２、及び裏後右装飾体３６２１の後方に設けられる裏後右装飾基板３６２２のそれぞれに実装されるＬＥＤを発光制御し、可動装飾体（裏後可動装飾体３１１０、裏上後回転装飾体３４４０、裏後左装飾体３５２１、裏後右装飾体３６２１）による可動演出や発光演出の終了後に可動装飾体を駆動位置から待機位置へと移動し終えたタイミング（裏後駆動モータ３１２６、裏上後回転駆動モータ３４５４、裏後左回転駆動モータ３５２５及び裏後右回転駆動モータ３６２５の駆動を停止するタイミング）に合わせて裏後可動装飾体３１１０の後方に設けられる裏後装飾基板３１１４、裏上後回転装飾体３４４０の後方に設けられる裏上後装飾基板３４５２、裏後左装飾体３５２１の後方に設けられる裏後左装飾基板３５２２、及び裏後右装飾体３６２１の後方に設けられる裏後右装飾基板３６２２のそれぞれに実装されるＬＥＤを消灯させる。

【３１４２】
これにより、裏後可動装飾体３１１０、裏上後回転装飾体３４４０、裏後左装飾体３５２１、及び裏後右装飾体３６２１は、それぞれに実装されているＬＥＤを発光制御させた状態で演出表示装置１６００の前方に表出されるようになるため、これらＬＥＤから照射される光によって各基板を視認され難くすることができ、各基板に記されているコネクタのピン数、ＩＣの向き、部品番号、ピン番号、電子部品が配置される外形線等の情報が遊技者に視認され難くなることで、パチンコ機１の世界観が崩れることを防止して意匠性の低下を抑止することができ、遊技興趣の低下を抑止できるようになる。すなわち、遊技者から視認可能な状態という遊技者に視認されやすい状況では各基板に実装されるＬＥＤを発光制御することで、遊技者は基板を視認し難くなる。

【３１４３】
また、本例のパチンコ機１では各基板においてＬＥＤの近傍にコネクタのピン数、ＩＣの向き、部品番号、ピン番号、電子部品が配置される外形線等の情報が記されている。そして、これらの情報の近傍にてＬＥＤを発光させるため、ＬＥＤから照射される光によって基板上のコネクタのピン数、ＩＣの向き、部品番号、ピン番号、電子部品が配置される外形線等の情報が記されている領域を視認し難くすることができる。このように、本例のパチンコ機１ではコネクタのピン数、ＩＣの向き、部品番号、ピン番号、電子部品が配置される外形線等の情報の近傍に光源（ＬＥＤ）を配置して、発光させるようにすることでこれらの情報を視認され難くすることができるようになっている。

【３１４４】
なお、ＬＥＤを発光制御させるタイミングは上記したものに限られるものではなく、図３０２（Ｂ）に示すように、少なくとも裏後可動装飾体３１１０、裏上後回転装飾体３４４０、裏後左装飾体３５２１、及び裏後右装飾体３６２１が演出表示装置１６００の前方の駆動位置に移動し終えたとき、すなわち駆動位置に到達して移動を停止したときに、裏後可動装飾体３１１０の後方に設けられる裏後装飾基板３１１４、裏上後回転装飾体３４４０の後方に設けられる裏上後装飾基板３４５２、裏後左装飾体３５２１の後方に設けられる裏後左装飾基板３５２２、及び裏後右装飾体３６２１の後方に設けられる裏後右装飾基板３６２２のそれぞれに実装されるＬＥＤを発光するように制御し、可動演出を終えて駆動位置から待機位置への移動を開始するときに裏後可動装飾体３１１０の後方に設けられる裏後装飾基板３１１４、裏上後回転装飾体３４４０の後方に設けられる裏上後装飾基板３４５２、裏後左装飾体３５２１の後方に設けられる裏後左装飾基板３５２２、及び裏後右装飾体３６２１の後方に設けられる裏後右装飾基板３６２２のそれぞれに実装されるＬＥＤを消灯させるようにしてもよい。

【３１４５】
すなわち、演出表示装置１６００で表示演出を開始した後、裏後駆動モータ３１２６を駆動して裏後可動装飾体３１１０を表出させたり、裏上後回転駆動モータ３４５４を駆動して裏上後回転装飾体３４４０を表出させたり、裏後左回転駆動モータ３５２５を駆動して裏後左装飾体３５２１を表出させたり、裏後右回転駆動モータ３６２５を駆動して裏後右装飾体３６２１を表出させたりする場合に、裏後可動装飾体３１１０、裏上後回転装飾体３４４０、裏後左装飾体３５２１、及び裏後右装飾体３６２１が駆動位置に表出されたことにより、裏後駆動モータ３１２６、裏上後回転駆動モータ３４５４、裏後左回転駆動モータ３５２５及び裏後右回転駆動モータ３６２５の駆動を停止するタイミングに合わせて裏後可動装飾体３１１０の後方に設けられる裏後装飾基板３１１４、裏上後回転装飾体３４４０の後方に設けられる裏上後装飾基板３４５２、裏後左装飾体３５２１の後方に設けられる裏後左装飾基板３５２２、及び裏後右装飾体３６２１の後方に設けられる裏後右装飾基板３６２２のそれぞれに実装されるＬＥＤを発光制御し、可動演出を終えて駆動位置から待機位置への移動を開始するタイミング（裏後駆動モータ３１２６、裏上後回転駆動モータ３４５４、裏後左回転駆動モータ３５２５及び裏後右回転駆動モータ３６２５の駆動を開始するタイミング）に合わせて裏後可動装飾体３１１０の後方に設けられる裏後装飾基板３１１４、裏上後回転装飾体３４４０の後方に設けられる裏上後装飾基板３４５２

、裏後左装飾体３５２１の後方に設けられる裏後左装飾基板３５２２、及び裏後右装飾体３６２１の後方に設けられる裏後右装飾基板３６２２のそれぞれに実装されるＬＥＤを消灯させるようにしてもよい。

【３１４６】

これにより、演出表示装置１６００の前方の駆動位置に表出して最も遊技者から視認され易い状態となったとき（裏後駆動モータ３１２６、裏上後回転駆動モータ３４５４、裏後左回転駆動モータ３５２５及び裏後右回転駆動モータ３６２５の駆動を停止したとき）に、裏後可動装飾体３１１０の後方に設けられる裏後装飾基板３１１４、裏上後回転装飾体３４４０の後方に設けられる裏上後装飾基板３４５２、裏後左装飾体３５２１の後方に設けられる裏後左装飾基板３５２２、及び裏後右装飾体３６２１の後方に設けられる裏後右装飾基板３６２２のそれぞれに実装されるＬＥＤを発光させて、各基板を視認され難くすることができる。また、ＬＥＤが消灯している場合には、裏後可動装飾体３１１０の後方に設けられる裏後装飾基板３１１４、裏上後回転装飾体３４４０の後方に設けられる裏上後装飾基板３４５２、裏後左装飾体３５２１の後方に設けられる裏後左装飾基板３５２２、及び裏後右装飾体３６２１の後方に設けられる裏後右装飾基板３６２２を視認され易い状態で遊技者から視認可能な位置に表出させることになるが、裏後可動装飾体３１１０、裏上後回転装飾体３４４０、裏後左装飾体３５２１、及び裏後右装飾体３６２１が移動しているために、遊技者は各基板を凝視することが困難であるため、各ＬＥＤを消灯していても各基板に記されているコネクタのピン数、ＩＣの向き、部品番号、ピン番号、電子部品が配置される外形線等の情報が遊技者に視認され難い。

【３１４７】

なお、裏後可動装飾体３１１０の後方に設けられる裏後装飾基板３１１４、裏上後回転装飾体３４４０の後方に設けられる裏上後装飾基板３４５２、裏後左装飾体３５２１の後方に設けられる裏後左装飾基板３５２２、及び裏後右装飾体３６２１の後方に設けられる裏後右装飾基板３６２２のそれぞれに実装されるＬＥＤを発光させるタイミングは、上記したものに限られるものではなく、裏後可動装飾体３１１０、裏上後回転装飾体３４４０、裏後左装飾体３５２１、及び裏後右装飾体３６２１を待機位置から駆動位置への移動途中、例えば裏後可動装飾体３１１０、裏上後回転装飾体３４４０、裏後左装飾体３５２１、及び裏後右装飾体３６２１が実際に遊技者から視認可能になるタイミングや駆動位置に到達する直前のタイミング等に各ＬＥＤを発光させるようにしてもよいし、裏後可動装飾体３１１０、裏上後回転装飾体３４４０、裏後左装飾体３５２１、及び裏後右装飾体３６２１の移動を開始するタイミングで各ＬＥＤを発光させる演出と、裏後可動装飾体３１１０、裏上後回転装飾体３４４０、裏後左装飾体３５２１、及び裏後右装飾体３６２１が駆動位置へ到達して各モータの駆動を停止するタイミングで各ＬＥＤを発光させる演出と、を実行するように、すなわち複数のタイミングのうちの１又は２以上を組み合わせて実行するようにしてもよい。

【３１４８】

また、本例においてＬＥＤが発光している状態とは、所定の発光パターンで発光制御されている状態を示すものであり、ＬＥＤが点灯し続けている状態に限らず、少なくとも点灯状態と消灯状態とに１回以上制御される点滅状態も含むものである。いずれの場合でも遊技者にＬＥＤの発光を眩しく感じさせることができるため、基板を視認され難くすることができ、各基板に記されているコネクタのピン数、ＩＣの向き、部品番号、ピン番号、電子部品が配置される外形線等の情報が遊技者に視認され難くなって、パチンコ機１の世界観が崩れることを防止して意匠性の低下を抑止することができるとともに、意匠性の低下に伴う遊技興趣の低下を抑止できる。

【３１４９】

また、裏後可動装飾体３１１０の後方に設けられる裏後装飾基板３１１４、裏上後回転装飾体３４４０の後方に設けられる裏上後装飾基板３４５２、裏後左装飾体３５２１の後方に設けられる裏後左装飾基板３５２２、及び裏後右装飾体３６２１の後方に設けられる裏後右装飾基板３６２２のそれぞれに実装されるＬＥＤを発光させる場合には、高輝度（本

例では設定可能な輝度の最大値（１００％）、なお設定可能な輝度範囲（本例では７０～１００％）の半分以上（本例では８５％以上）であってもよいし、演出表示装置１６００のバックライトよりも高い輝度としてもよい）で発光させるようにしてもよい。これにより、演出表示装置１６００よりも遊技者に近い位置でＬＥＤを高輝度で発光させるため、遊技者にこれらＬＥＤからの光を眩しく感じさせて各基板を視認され難くすることができる。また、演出表示装置１６００で行われる演出表示に注目している遊技者に向けて、演出表示装置１６００のバックライト以上の強い光を照射するため、演出表示装置１６００の明るさに慣れている遊技者が、眩しいと感じる蓋然性が高くなり、各基板を視認され難くする効果が高まる。

【３１５０】

上記したように本例のパチンコ機１では、裏後可動装飾体３１１０の後方に設けられる裏後装飾基板３１１４、裏上後回転装飾体３４４０の後方に設けられる裏上後装飾基板３４５２、裏後左装飾体３５２１の後方に設けられる裏後左装飾基板３５２２、及び裏後右装飾体３６２１の後方に設けられる裏後右装飾基板３６２２のそれぞれは、ＬＥＤ実装面（前面）のレジストとして白色を採用するとともに、このＬＥＤ実装面にコネクタのピン数、ＩＣの向き、部品番号、ピン番号、電子部品が配置される外形線等の情報を、白色と反射率及び明度が近く、視覚的な差異（コントラスト）が少ない黄色のシルクで印刷している。これにより、白色や黄色以外の色のシルクで印刷する場合に比べて、基板を視認された場合であってもコネクタのピン数、ＩＣの向き、部品番号、ピン番号、電子部品が配置される外形線等の情報を識別され難くなる。なお、本技術思想は演出表示装置１６００の前方に表出して最も視認され易い状態となったときに、裏後可動装飾体３１１０の後方に設けられる裏後装飾基板３１１４、裏上後回転装飾体３４４０の後方に設けられる裏上後装飾基板３４５２、裏後左装飾体３５２１の後方に設けられる裏後左装飾基板３５２２、及び裏後右装飾体３６２１の後方に設けられる裏後右装飾基板３６２２のそれぞれに実装されるＬＥＤを発光させて各基板を視認され難くするものであり、該技術に加えて、ＬＥＤ実装面（前面）のレジストとして白色を採用すること、及びＬＥＤ実装面に黄色のシルクで各種情報を印刷すること、によりその効果を高めることが可能であるものの、課題の解決にあたってこれらの技術は必須とされるものではない。

【３１５１】

また、本例のパチンコ機１では演出表示装置１６００にて行われる遊技演出において、実行中の変動表示や今後行われる変動表示（保留表示）の大当り期待度（大当りとなる可能性を）を示唆する期待度示唆演出を実行するようになっている。この期待度示唆演出では演出表示装置１６００に表示されるキャラクタ等の画像の種類や、色、模様等によって大当り期待度を示唆するようになっている。例えば、同一のキャラクタを表示する場合には、該キャラクタの色として、白＜青＜黄＜緑＜赤＜金の順に示唆される大当り期待度が高くなるようになっている。

【３１５２】

本例のパチンコ機１では、裏後可動装飾体３１１０の後方に設けられる裏後装飾基板３１１４、裏上後回転装飾体３４４０の後方に設けられる裏上後装飾基板３４５２、裏後左装飾体３５２１の後方に設けられる裏後左装飾基板３５２２、及び裏後右装飾体３６２１の後方に設けられる裏後右装飾基板３６２２のＬＥＤ実装面にコネクタのピン数、ＩＣの向き、部品番号、ピン番号、電子部品が配置される外形線等の情報を印刷するシルクの色として、上記大当り期待度の示唆に用いられる黄色を採用している。そのため、裏後可動装飾体３１１０、裏上後回転装飾体３４４０、裏後左装飾体３５２１、及び裏後右装飾体３６２１が視認可能に表出したときにこれらの基板に印刷される遊技と無関係の情報が記されていることを遊技者に明確に識別されないようにするものの、仮に何か黄色のものがあると認識された場合であっても、大当り期待度の示唆を想起させて遊技と無関係の情報が記されていることを認識され難くすることができる。

【３１５３】

また、大当り期待度の示唆に用いられる色のうち比較的大当り期待度が高いことを示唆す

る黄色を、ＬＥＤ実装面にコネクタのピン数、ＩＣの向き、部品番号、ピン番号、電子部品が配置される外形線等の情報を印刷するシルクの色として採用しているため、大当り期待度の示唆を想起した遊技者に、大当り期待度が高いと思わせることができ、遊技興趣の低下を抑止できる。また、シルクの色として採用している黄色は示唆される大当り期待度が非常に高い（大当り期待度７０％）金色とも近似する色であるため、裏後可動装飾体３１１０の後方に設けられる裏後装飾基板３１１４、裏上後回転装飾体３４４０の後方に設けられる裏上後装飾基板３４５２、裏後左装飾体３５２１の後方に設けられる裏後左装飾基板３５２２、及び裏後右装飾体３６２１の後方に設けられる裏後右装飾基板３６２２を一瞥しただけの遊技者は金色であると誤認する可能性もあり、何か金色のようなものがあると認識して大当りとなる可能性が非常に高いことが示唆されていると認識した遊技者の遊技興趣を向上させることができる。また、図１４９に示すように裏後可動装飾体３１１０は透明な部分（例えば装飾体３１１１の金属装飾部３１１１ｄを除く部分）と不透明な部分（金属装飾部３１１１ｄ）とを有し、不透明な部分は金色の金属装飾部３１１１ｄが形成されている。そして、裏後可動装飾体３１１０が視認可能に表出すると、金属装飾部３１１１ｄを一瞥した遊技者に大当り期待度が非常に高いことが示唆されたと認識させることができる。なお、金属装飾部３１１１ｄは大当り期待度を示唆する色のうち大当り期待度が高い金色と同一の色に限らず、金色と一見して同一と認識される程度に類似する色や、金色に類似する色（例えば黄色）等で形成されるものであってもよいし、裏後可動装飾体３１１０の後方に設けられる裏後装飾基板３１１４、裏上後回転装飾体３４４０の後方に設けられる裏上後装飾基板３４５２、裏後左装飾体３５２１の後方に設けられる裏後左装飾基板３５２２、及び裏後右装飾体３６２１の後方に設けられる裏後右装飾基板３６２２のＬＥＤ実装面に印刷されるシルクの色として上記した黄色以外にも大当り期待度を示唆する色のうち大当り期待度が高い金色と同一の色や金色と一見して同一と認識される程度に類似する色、金色に類似する色等を用いるようにしてもよい。

【３１５４】

また、上記したように裏後可動装飾体３１１０、裏上後回転装飾体３４４０、裏後左装飾体３５２１、及び裏後右装飾体３６２１は遊技者から視認困難な待機位置から演出表示装置１６００の前方の遊技者から視認可能な駆動位置に移動するようになっており、この移動中には裏後可動装飾体３１１０の後方に設けられる裏後装飾基板３１１４、裏上後回転装飾体３４４０の後方に設けられる裏上後装飾基板３４５２、裏後左装飾体３５２１の後方に設けられる裏後左装飾基板３５２２、及び裏後右装飾体３６２１の後方に設けられる裏後右装飾基板３６２２を凝視することは困難であるため、これらの基板を一瞥しただけの遊技者にコネクタのピン数、ＩＣの向き、部品番号、ピン番号、電子部品が配置される外形線等の情報が記されていることを認識され難く、大当り期待度の示唆を想起させ易い。これにより、意匠性の低下に伴う遊技興趣の低下を抑止することできる。

【３１５５】

また、裏後可動装飾体３１１０の後方に設けられる裏後装飾基板３１１４、裏上後回転装飾体３４４０の後方に設けられる裏上後装飾基板３４５２、裏後左装飾体３５２１の後方に設けられる裏後左装飾基板３５２２、及び裏後右装飾体３６２１の後方に設けられる裏後右装飾基板３６２２と、のそれぞれの前方に上記したインナーレンズと同様の部材を設けるようにしてもよい。これにより、ＬＥＤの発光時に仮にこれら基板が視認されたとしても基板上に記される遊技と無関係の情報を、遊技者に情報として認識されることを抑制することができるため、パチンコ機１の世界観が崩れることを防止して意匠性の低下を抑止することができ、遊技興趣の低下を抑止できるようになる。

【３１５６】

また、上記した例では、ＬＥＤが実装される基板を搭載する可動装飾体（裏後可動装飾体３１１０、裏上後回転装飾体３４４０、裏後左装飾体３５２１、及び裏後右装飾体３６２１）を遊技者から視認困難な待機位置から遊技者から視認可能な駆動位置に移動させる場合について示したが、可動装飾体を可動することで、ＬＥＤ基板が実装される基板を搭載する装飾体を遊技者から視認困難な状態と遊技者から視認可能な状態とに変化させるもの

であっても本技術思想は適用可能である。例えば、裏上前装飾体３４２１によって前方が覆われて通常時には遊技者から視認困難な裏後可動装飾体３１１０を、裏上前装飾体３４２１を上昇位置と下降位置とに移動させて裏後可動装飾体３１１０の前方を覆う遊技者から視認困難な状態から、裏後可動装飾体３１１０の前方が開放されて遊技者から視認可能な状態（露出させた状態）へと変化させて、裏後可動装飾体３１１０による発光演出や可動演出等を実行する場合であっても裏後可動装飾体３１１０の後方に設けられる裏後装飾基板３１１４に記されているコネクタのピン数、ＩＣの向き、部品番号、ピン番号、電子部品が配置される外形線等の情報が遊技者に視認され難くすることが可能である。

【３１５７】

具体的には、図３０３に示すように、演出表示装置１６００で表示演出を開始した後、モータを駆動して裏上前装飾体３４２１を上昇位置から下降位置に移動させる場合に、裏上前装飾体３４２１を可動させるモータを駆動するタイミングに合わせて裏後可動装飾体３１１０の後方に設けられる裏後装飾基板３１１４に実装されるＬＥＤを発光制御し、裏後可動装飾体３１１０による発光演出や可動演出の終了後に、裏上前装飾体３４２１を下降位置から上昇位置へと移動し終えたタイミング（裏上前装飾体３４２１を可動させるモータを停止するタイミング）に合わせて裏後可動装飾体３１１０の後方に設けられる裏後装飾基板３１１４に実装されるＬＥＤを消灯させるようにしてもよい。

【３１５８】

これにより、裏後可動装飾体３１１０の後方に設けられる裏後装飾基板３１１４に実装されているＬＥＤを発光制御させた状態で裏後可動装飾体３１１０を遊技者から視認困難な状態から遊技者から視認可能な状態へと変化する（裏後可動装飾体３１１０の後方に設けられる裏後装飾基板３１１４に実装されているＬＥＤを発光制御させた状態で遊技者から視認可能に表出される）ようになるため、裏後装飾基板３１１４に実装されているＬＥＤの発光によって裏後装飾基板３１１４を視認され難くすることができ、裏後装飾基板３１１４に記されているコネクタのピン数、ＩＣの向き、部品番号、ピン番号、電子部品が配置される外形線等の情報が遊技者に視認され難くなることで、パチンコ機１の世界観が崩れることを防止して意匠性の低下を抑止することができ、遊技興趣の低下を抑止できるようになる。

【３１５９】

なお、裏後装飾基板３１１４に実装されているＬＥＤを発光制御するタイミングは上記したものに限られるものではなく、裏上前装飾体３４２１の上昇位置から下降位置への移動途中、例えば裏後可動装飾体３１１０が実際に遊技者から視認可能になるタイミングや裏上前装飾体３４２１が下降位置に到達する直前のタイミング等であってもよいし、裏上前装飾体３４２１が下降位置に到達したタイミングであってもよい。すなわち、裏上前装飾体３４２１の移動中は遊技者は裏上前装飾体３４２１の移動に気を取られて裏後可動装飾体３１１０に注目する蓋然性が低いため、裏後可動装飾体３１１０に注目されやすい状態となったタイミングで裏後装飾基板３１１４に実装されているＬＥＤを発光制御するようにしてもよい。

【３１６０】

また、所定の待機位置と駆動位置とに移動可能な前側可動装飾体と、待機位置における前側可動装飾体の後方に設けられて前側可動装飾体の駆動位置への移動によって遊技者から視認困難な状態から遊技者から視認可能な状態へと変化するとともに、所定の態様（回転、振動等）で動作可能な後側可動装飾体と、を設けるような場合には、後側可動装飾体を所定の態様で動作させることで後側可動装飾体の裏側に設けられる基板に記されているコネクタのピン数、ＩＣの向き、部品番号、ピン番号、電子部品が配置される外形線等の情報が遊技者に視認され難くするようにしてもよい。

【３１６１】

例えば、裏上前装飾体３４２１を上昇位置と下降位置とに移動可能に構成するとともに、上昇位置における裏上前装飾体３４２１の後方に遊技者から視認困難な状態で裏上前回転装飾体３４１０を設けるようにした場合には、演出表示装置１６００で表示演出を開始し

た後、モータを駆動して裏上前装飾体３４２１を上昇位置から下降位置に移動させる場合に、裏上前装飾体３４２１を可動させるモータを駆動するタイミングに合わせて裏上前回転駆動モータ３４２５を駆動して裏上前回転装飾体３４１０を回転させ、裏上前回転装飾体３４１０による発光演出や可動演出の終了後に、裏上前装飾体３４２１を下降位置から上昇位置へと移動し終えたタイミング（裏上前装飾体３４２１を可動させるモータを停止するタイミング）に合わせて裏上前回転駆動モータ３４２５を停止させるようにしてもよい。

【３１６２】

これにより、裏上前回転装飾体３４１０を動作させた状態で裏上前回転装飾体３４１０が遊技者から視認困難な状態から遊技者から視認可能な状態へと変化するようになるため、裏上前回転装飾体３４１０の後方に設けられる裏上前装飾基板３４２２を凝視し難くなり、裏上前装飾基板３４２２に記されているコネクタのピン数、ＩＣの向き、部品番号、ピン番号、電子部品が配置される外形線等の情報が遊技者に視認され難くなることで、パチンコ機１の世界観が崩れることを防止して意匠性の低下を抑止することができ、遊技興趣の低下を抑止できるようになる。

【３１６３】

なお、本例において可動装飾体（この例では裏上前回転装飾体３４１０）が動作している状態とは、所定の動作態様で駆動制御されている状態を示すものであり、可動装飾体が停止することなく連続的に動いている状態に限らず、少なくとも動いている状態と停止している状態とに１回以上制御される間欠動作状態も含むものである。

【３１６４】

また、裏上前回転装飾体３４１０を動作させるタイミングは上記したものに限られるものではなく、裏上前装飾体３４２１の上昇位置から下降位置への移動途中、例えば裏上前回転装飾体３４１０が実際に遊技者から視認可能になるタイミングや裏上前装飾体３４２１が下降位置に到達する直前のタイミング等であってもよいし、裏上前装飾体３４２１が下降位置に到達したタイミングであってもよい。すなわち、裏上前装飾体３４２１の移動中は遊技者は裏上前装飾体３４２１の移動に気を取られて裏上前回転装飾体３４１０に注目する蓋然性が低いため、裏上前装飾体３４２１が移動して裏上前回転装飾体３４１０に注目されやすい状態となったタイミングで裏上前回転装飾体３４１０を動作させるようにしてもよい。

【３１６５】

［周囲の発光手段による掩蔽補助］

【３１６６】

次に、ＬＥＤが実装される基板に記されているコネクタのピン数、ＩＣの向き、部品番号、ピン番号、電子部品が配置される外形線等の情報を遊技者に視認され難くする例の変形例について説明する。本例のパチンコ機１では、特定の条件下において所定のＬＥＤを消灯させるようになっている。そして、この場合にはＬＥＤが消灯しているためにこのＬＥＤを実装している基板を視認されることによって該基板に記されるコネクタのピン数、ＩＣの向き、部品番号、ピン番号、電子部品が配置される外形線等の情報を遊技者から視認されるおそれがある。本例では、特定の条件下において所定のＬＥＤが消灯された場合であっても、このＬＥＤを実装している基板に記されている情報を遊技者から視認困難となるようにしている。以下、詳細に説明する。

【３１６７】

本例のパチンコ機１では、演出表示装置１６００で実行される表示演出で特定のリーチ演出が実行された場合に、演出表示装置１６００の周囲に設けられているＬＥＤを消灯させる。具体的には、図３０４に示すように、裏下中昇降駆動モータ３３５２により昇降アーム３３５７を回動させて裏下中装飾体ユニット３３２０を下降位置から上昇位置へ移動させる場合、裏上後回転装飾体３４４０を裏上前装飾体３４２１よりも下方の出現位置へ移動させる場合、裏後左回転装飾体３５１０を裏前左演出ユニット３７００よりも右方の第一出現位置又は第二出現位置へ移動させる場合、裏後右回転装飾体３６１０を裏前右演出

ユニット３８００よりも左方の第一出現位置又は第二出現位置へ移動させる場合、及び裏後駆動モータ３１２６によりスライドガイド３１３０を下方へ移動させることでロック部材３１３４によるロックを解除して裏後可動装飾体３１１０を退避位置から出現位置へ落下させる場合には、裏前左装飾体ユニット３７１０の裏前左装飾基板３７１４に実装されているＬＥＤ（図３０４においてＡの領域に配置されるＬＥＤ）と、裏上演出ユニット３４００の裏上前装飾基板３４２２に実装されているＬＥＤ（図３０４においてＢの領域に配置されるＬＥＤ）と、裏前右装飾体ユニット３８１０の裏前右装飾基板３８１４に実装されているＬＥＤ（図３０４においてＣの領域に配置されるＬＥＤ）と、裏下右演出ユニット３２５０の裏下右装飾基板３２５３に実装されているＬＥＤと（図３０４においてＤの領域に配置されるＬＥＤ）、裏下左演出ユニット３２００の裏下左装飾基板３２０３に実装されているＬＥＤ（図３０４においてＤの領域に配置されるＬＥＤ）と、を消灯させる。

【３１６８】

このように、本例のパチンコ機１では演出表示装置１６００の前方に可動装飾体（裏下中回転装飾体３３１０、裏上後回転装飾体３４４０、裏後左回転装飾体３５１０、裏後右回転装飾体３６１０、及び裏後可動装飾体３１１０）を表出させる演出を実行する場合に、演出表示装置１６００の周囲に設けられているＬＥＤを消灯することで、演出表示装置１６００の前方に表出する可動装飾体によって実行される演出の視認を妨げないようになっている。なお、裏下中装飾体ユニット３３２０を下降位置から上昇位置へ移動させない場合には、裏下中装飾体ユニット３３２０に備えられる裏下中第一装飾基板３３２２に実装されるＬＥＤを消灯させるようにしてもよい（図３０４においてＤの領域に配置されるＬＥＤ）。

【３１６９】

また、演出表示装置１６００の周囲に設けられているＬＥＤを消灯する場合には、扉枠３に設けられているＬＥＤ（本例では少なくとも扉枠左サイド装飾基板４０２、扉枠右サイド装飾基板４１８、扉枠トップ中央装飾基板４５５、扉枠トップ左装飾基板４５６、及び扉枠トップ右装飾基板４５７、なお皿左上装飾基板２７３、皿右上装飾基板２７８、皿中央上装飾基板３１４も発光制御するようにしてもよい。）を発光制御する。すなわち、演出表示装置１６００の周囲に設けられているＬＥＤを消灯させて、このＬＥＤを実装する基板を視認されやすい状況では、遊技盤５の遊技領域５ａを囲むように設けられている扉枠右サイドユニット４１０の扉枠右サイド装飾基板４１８に実装されているＬＥＤと、扉枠左サイドユニット４００の扉枠左サイド装飾基板４０２に実装されているＬＥＤと、扉枠トップユニット４５０の扉枠トップ中央装飾基板４５５、扉枠トップ左装飾基板４５６、及び扉枠トップ右装飾基板４５７のそれぞれに実装されているＬＥＤと、を発光制御するようになっている。

【３１７０】

また、図５に示すように、扉枠３の扉枠右サイドユニット４１０、扉枠左サイドユニット４００、及び扉枠トップユニット４５０は遊技盤５よりもパチンコ機１の前方（遊技者側）に突出して設けられている。すなわち、扉枠３に設けられているＬＥＤは遊技盤５よりも遊技者に近い位置で発光制御される。

【３１７１】

そのため、演出表示装置１６００の周囲に設けられているＬＥＤを消灯させた場合に、扉枠３の扉枠右サイドユニット４１０、扉枠左サイドユニット４００、及び扉枠トップユニット４５０に設けられているＬＥＤを発光制御することによって、遊技盤５の周囲を、遊技盤５よりも遊技者に近い位置で発光制御することができるため、ＬＥＤの発光を眩しく感じさせたり、遊技者に近い位置で通常よりも強調した発光制御を行うことで遊技者の注意を遊技盤５から扉枠３に向けさせてパチンコ機１方向を凝視することを抑制することができる。

【３１７２】

これにより、遊技者は演出表示装置１６００の周囲に設けられているＬＥＤを実装する基

板を視認し難くなり、各基板に記されているコネクタのピン数、ＩＣの向き、部品番号、ピン番号、電子部品が配置される外形線等の情報を遊技者に視認され難くすることが可能になるため、パチンコ機１の世界観が崩れることを防止して意匠性の低下を抑止することができ、遊技興趣の低下を抑止できるようになる。

【３１７３】

なお、扉枠３に設けられているＬＥＤを発光制御する際の発光態様としては、例えばＬＥＤを一定期間に亘って点灯し続けさせるもの、点灯状態と消灯状態とに１回以上切り替える点滅状態とするもの、通常よりも高輝度（本例では設定可能な輝度の最大値（１００％）、なお設定可能な輝度範囲（本例では７０～１００％）の半分以上（本例では８５％以上）であってもよいし、演出表示装置１６００のバックライトよりも高い輝度としてもよい）で点灯（一定期間に亘って点灯し続けさせるものだけでなく、点滅状態やフラッシュも含む）させるもの、等が挙げられる。いずれの場合でも扉枠３に設けられているＬＥＤの発光を眩しく感じさせたり、扉枠３に設けられているＬＥＤを通常よりも強調して発光制御することで遊技者の注意を遊技盤５から遊技盤５の周囲の扉枠３に向けさせて遊技者がパチンコ機１方向を凝視することを抑制したり、明暗の差がはっきりすることで他の領域に比べて暗くされている部分の視認を困難にすることができるため、遊技盤５に設けられているＬＥＤを実装する基板を視認され難くすることができる。これにより、遊技盤５に設けられているＬＥＤを実装する基板に記されているコネクタのピン数、ＩＣの向き、部品番号、ピン番号、電子部品が配置される外形線等の情報が遊技者に視認され難くなり、パチンコ機１の世界観が崩れることを防止して意匠性の低下を抑止することができるため、意匠性の低下に伴う遊技興趣の低下を抑止できる。

【３１７４】

また、特定の条件下において裏前左装飾体ユニット３７１０の裏前左装飾基板３７１４に実装されているＬＥＤと、裏上演出ユニット３４００の裏上前装飾基板３４２２に実装されているＬＥＤと、裏前右装飾体ユニット３８１０の裏前右装飾基板３８１４に実装されているＬＥＤと、裏下右演出ユニット３２５０の裏下右装飾基板３２５３に実装されているＬＥＤと、裏下左演出ユニット３２００の裏下左装飾基板３２０３に実装されているＬＥＤと、を消灯させた場合であっても、演出表示装置１６００のバックライトは点灯している。そのため、演出表示装置１６００のバックライトによる光と扉枠３に設けられているＬＥＤによる光とによって裏前左装飾体ユニット３７１０の裏前左装飾基板３７１４と、裏上演出ユニット３４００の裏上前装飾基板３４２２と、裏前右装飾体ユニット３８１０の裏前右装飾基板３８１４と、裏下右演出ユニット３２５０の裏下右装飾基板３２５３と、裏下左演出ユニット３２００の裏下左装飾基板３２０３と、を挟み込んでこれら基板の周囲から光を照射することができ、これによって基板の配置する領域と基板の周囲とに明暗を生じさせることができるため、周囲に比べて暗くされている基板部分の視認を困難にすることができる。

【３１７５】

また、表面にＬＥＤが実装される裏前左装飾体ユニット３７１０の裏前左装飾基板３７１４と、裏上演出ユニット３４００の裏上前装飾基板３４２２と、裏前右装飾体ユニット３８１０の裏前右装飾基板３８１４と、裏下右演出ユニット３２５０の裏下右装飾基板３２５３と、裏下左演出ユニット３２００の裏下左装飾基板３２０３と、のそれぞれの前方に上記したインナーレンズと同様の部材を設けるようにしてもよい。これにより、実装されるＬＥＤの消灯時にこれらの基板が仮に視認されたとしても基板上に記される遊技と無関係の情報を、遊技者に情報として認識されることを抑制することができるため、パチンコ機１の世界観が崩れることを防止して意匠性の低下を抑止することができ、遊技興趣の低下を抑止できるようになる。

【３１７６】

上記したように本例のパチンコ機１では、表面にＬＥＤが実装される裏前左装飾体ユニット３７１０の裏前左装飾基板３７１４と、裏上演出ユニット３４００の裏上前装飾基板３４２２と、裏前右装飾体ユニット３８１０の裏前右装飾基板３８１４と、裏下右演出ユニ

ット３２５０の裏下右装飾基板３２５３と、裏下左演出ユニット３２００の裏下左装飾基板３２０３と、のそれぞれは、ＬＥＤ実装面（前面）のレジストとして白色を採用するとともに、このＬＥＤ実装面にコネクタのピン数、ＩＣの向き、部品番号、ピン番号、電子部品が配置される外形線等の情報を、白色と反射率及び明度が近く、視覚的な差異（コントラスト）が少ない黄色のシルクで印刷している。これにより、白色や黄色以外の色のシルクで印刷する場合に比べて、基板を視認された場合であってもコネクタのピン数、ＩＣの向き、部品番号、ピン番号、電子部品が配置される外形線等の情報を識別され難くなる。なお、本技術思想はＬＥＤを消灯させた場合に該ＬＥＤを実装している基板の周囲を所定態様で発光制御することで各基板を視認され難くするものであり、該技術に加えて、ＬＥＤ実装面（前面）のレジストとして白色を採用すること、及びＬＥＤ実装面に黄色のシルクで各種情報を印刷すること、によりその効果を高めることが可能であるものの、課題の解決にあたってこれらの技術は必須とされるものではない。

【３１７７】

また、特定の条件下として演出表示装置１６００の前方に可動装飾体（裏下中回転装飾体３３１０、裏上後回転装飾体３４４０、裏後左回転装飾体３５１０、裏後右回転装飾体３６１０、及び裏後可動装飾体３１１０）を表出させる演出を実行する場合を例に説明したが、これに限られるものではなく、裏前左装飾体ユニット３７１０の裏前左装飾基板３７１４に実装されているＬＥＤ、裏上演出ユニット３４００の裏上前装飾基板３４２２に実装されているＬＥＤ、裏前右装飾体ユニット３８１０の裏前右装飾基板３８１４に実装されているＬＥＤ、裏下右演出ユニット３２５０の裏下右装飾基板３２５３に実装されているＬＥＤ、裏下左演出ユニット３２００の裏下左装飾基板３２０３に実装されているＬＥＤ、可動装飾体（裏下中回転装飾体３３１０、裏上後回転装飾体３４４０、裏後左回転装飾体３５１０、裏後右回転装飾体３６１０、及び裏後可動装飾体３１１０）に設けられているＬＥＤ、などの遊技盤５に設けられている複数のＬＥＤを消灯する一方で、演出表示装置１６００のバックライト及び扉枠３に設けられているＬＥＤを発光制御している状態（消灯していない状態）、例えば扉枠３の開放を検知した場合の扉開放エラー時などであっても本技術思想を適用可能である。また、特定の条件下においても、遊技盤５に設けられている発光部材（ランプ、ＬＥＤ等）のうち機能表示ユニット１４００などの遊技に関わる重要な情報を表示するものについては消灯させないようにしてもよい。

【３１７８】

［演出操作ユニットに搭載される基板の掩蔽］

次に、演出操作ユニット３００に設けられて、表面にＬＥＤが実装されている演出操作リング装飾基板３５２に記されているコネクタのピン数、ＩＣの向き、部品番号、ピン番号、電子部品が配置される外形線等の情報を遊技者に視認され難くする例について説明する。本例のパチンコ機１では、所定条件が成立すると演出操作リング装飾基板３５２に実装されているＬＥＤを消灯させる（消灯に限らず、通常よりも輝度を低下させるものでもよい）ようになっている。そして、この場合にはＬＥＤが消灯しているために演出操作リング装飾基板３５２を視認されることによって演出操作リング装飾基板３５２に記されるコネクタのピン数、ＩＣの向き、部品番号、ピン番号、電子部品が配置される外形線等の情報を遊技者から視認されるおそれがある。本例では、所定条件の成立に基づいて演出操作リング装飾基板３５２に実装されているＬＥＤが消灯されたり、通常よりも輝度を低下させた待機時点灯状態とされている場合であっても、演出操作リング装飾基板３５２に記されている情報を遊技者から視認困難となるようにしている。以下、詳細に説明する。

【３１７９】

本例のパチンコ機１では、演出操作ユニット３００における演出操作部３０１の回転操作部３０２や押圧操作部３０３を操作させる遊技者参加型演出を行う場合に、演出操作ユニット３００の演出操作ボタンユニット３６０内に設けられる中央ボタン装飾基板３７６及び外周ボタン装飾基板３７７の表面に実装されているＬＥＤと、演出操作リング３３０の下方に設けられる演出操作リング装飾基板３５２の表面に実装されているＬＥＤと、を発光制御して演出操作ボタンユニット３６０の中央ボタンカバー３７５、外周装飾レンズ３

７９、外周ボタンカバー３８０、及び演出操作リング３３０の回転操作部３０２を発光装飾させる。

【３１８０】

そして、演出操作ユニット３００における演出操作部３０１の回転操作部３０２や押圧操作部３０３を操作させる遊技者参加型演出を終了すると、演出操作ユニット３００の演出操作ボタンユニット３６０内に設けられる中央ボタン装飾基板３７６及び外周ボタン装飾基板３７７の表面に実装されているＬＥＤと、演出操作リング３３０の下方に設けられる演出操作リング装飾基板３５２の表面に実装されているＬＥＤと、を消灯させる。

【３１８１】

このように、本例のパチンコ機１では演出操作ユニット３００における演出操作部３０１の回転操作部３０２や押圧操作部３０３を操作させる遊技者参加型演出を行う場合に、演出操作ユニット３００を発光制御して演出操作ボタンユニット３６０の中央ボタンカバー３７５、外周装飾レンズ３７９、外周ボタンカバー３８０、及び演出操作リング３３０の回転操作部３０２を発光装飾するようになっており、これによって遊技者に演出操作ユニット３００における演出操作部３０１の回転操作部３０２や押圧操作部３０３に注目させてこれらの操作を促すようになっている。

【３１８２】

一方、演出操作ユニット３００における演出操作部３０１の回転操作部３０２や押圧操作部３０３を操作させる遊技者参加型演出を行わない通常時には、演出操作ユニット３００の演出操作ボタンユニット３６０内に設けられる中央ボタン装飾基板３７６及び外周ボタン装飾基板３７７の表面に実装されているＬＥＤと、演出操作リング３３０の下方に設けられる演出操作リング装飾基板３５２の表面に実装されているＬＥＤと、を消灯させる。

【３１８３】

また、本例のパチンコ機１では、遊技者参加型演出が行われていないことで演出操作ユニット３００の演出操作ボタンユニット３６０内に設けられる中央ボタン装飾基板３７６及び外周ボタン装飾基板３７７の表面に実装されているＬＥＤと、演出操作リング３３０の下方に設けられる演出操作リング装飾基板３５２の表面に実装されているＬＥＤと、が消灯されている通常時に、演出操作ユニット３００が操作されると、演出操作ユニット３００の演出操作ボタンユニット３６０内に設けられる中央ボタン装飾基板３７６及び外周ボタン装飾基板３７７の表面に実装されているＬＥＤを一定期間に亘って発光制御して演出操作ボタンユニット３６０の中央ボタンカバー３７５、外周装飾レンズ３７９、及び外周ボタンカバー３８０を発光装飾する。

【３１８４】

これにより、ＬＥＤから照射される光によって中央ボタン装飾基板３７６及び外周ボタン装飾基板３７７を視認され難くすることができ、これらの基板に記されているコネクタのピン数、ＩＣの向き、部品番号、ピン番号、電子部品が配置される外形線等の情報が遊技者に視認され難くなるため、パチンコ機１の世界観が崩れることを防止して意匠性の低下を抑止することができ、遊技興趣の低下を抑止できる。このように、演出操作ユニット３００における演出操作部３０１の回転操作部３０２や押圧操作部３０３を操作させる遊技者参加型演出を行っていない通常時に、演出操作部３０１が操作されて遊技者が演出操作部３０１に注目しているような状況では中央ボタン装飾基板３７６及び外周ボタン装飾基板３７７の表面に実装されているＬＥＤを発光制御して演出操作ボタンユニット３６０の中央ボタンカバー３７５と外周装飾レンズ３７９とを発光装飾することで、これら発光装飾される中央ボタンカバー３７５及び外周装飾レンズ３７９や、ＬＥＤから照射される光によって遊技者は中央ボタン装飾基板３７６及び外周ボタン装飾基板３７７を視認し難くなる。

【３１８５】

なお、通常時に演出操作部３０１が操作された場合に、中央ボタン装飾基板３７６の表面に実装されているＬＥＤを一定期間に亘って発光制御して演出操作ボタンユニット３６０の中央ボタンカバー３７５を発光装飾する制御と、外周ボタン装飾基板３７７の表面に実

装されているＬＥＤを一定期間に亘って発光制御して外周装飾レンズ３７９を発光装飾する制御と、演出操作リング３３０の下方に設けられる演出操作リング装飾基板３５２の表面に実装されているＬＥＤを一定期間に亘って発光制御して演出操作リング３３０の回転操作部３０２を発光装飾させる制御と、のいずれか１つ又は２以上の組み合わせ（全部でもよい）を実行するようにしてもよい。また一定期間が経過する以前に演出操作部３０１が再び操作された場合には該操作から一定期間が経過したときにこれらのＬＥＤを消灯させるようにしてもよい。すなわち、演出操作部３０１が操作されてから、演出操作部３０１の操作されていない期間が一定期間に達した場合にこれらのＬＥＤを消灯させるようにしてもよい。

【３１８６】

また、通常時に操作された演出操作ユニット３００の部位に応じて発光制御するＬＥＤを異ならせるようにしてもよく、例えば押圧操作部３０３が操作された場合には演出操作ユニット３００の演出操作ボタンユニット３６０内に設けられる中央ボタン装飾基板３７６及び外周ボタン装飾基板３７７の表面に実装されているＬＥＤを一定期間に亘って発光制御して演出操作ボタンユニット３６０の中央ボタンカバー３７５、外周装飾レンズ３７９、及び外周ボタンカバー３８０を発光装飾し、回転操作部３０２が操作された場合には演出操作リング３３０の下方に設けられる演出操作リング装飾基板３５２の表面に実装されているＬＥＤを一定期間に亘って発光制御して演出操作リング３３０の回転操作部３０２を発光装飾させるようにしてもよい。これにより、遊技者が注目している部位に設けられているＬＥＤを発光制御させることができ、このＬＥＤが実装されている基板を視認されることが抑制される。

【３１８７】

また、上記した例では遊技者参加型演出が行われていない通常時に演出操作ユニット３００の演出操作ボタンユニット３６０内に設けられる中央ボタン装飾基板３７６及び外周ボタン装飾基板３７７の表面に実装されているＬＥＤと、演出操作リング３３０の下方に設けられる演出操作リング装飾基板３５２の表面に実装されているＬＥＤと、を消灯させるものを示したが、消灯させるものに限らず、遊技者参加型演出で演出操作部３０１の操作を促す場合の演出時発光態様と、該演出時点灯状態に比べて輝度を低下させた待機時発光態様（点灯状態に限らず消灯状態とするものも含む）と、に切り替えて発光制御するものであれば本技術思想を適用可能である。

【３１８８】

また、遊技者参加型演出が行われていないことで演出操作ユニット３００の演出操作ボタンユニット３６０内に設けられる中央ボタン装飾基板３７６及び外周ボタン装飾基板３７７の表面に実装されているＬＥＤと、演出操作リング３３０の下方に設けられる演出操作リング装飾基板３５２の表面に実装されているＬＥＤと、を待機時発光態様で発光制御している通常時に、演出操作ユニット３００が操作された場合に、上記した待機時発光態様から演出時発光態様に切り替えて発光制御する処理と別に、又は該処理に加えて、操作ボタン昇降駆動モータ３６７を駆動制御して押圧操作部３０３を一定期間に亘って振動（上昇及び下降）させたり、操作リング駆動モータ３４２を駆動制御して回転操作部３０２を一定期間に亘って回転又は振動（左右に交互に回転させる）させたりするようにしてもよい。

【３１８９】

すなわち、遊技者参加型演出が行われていない通常時に演出操作ユニット３００が操作されたことに基づいて、演出操作ユニット３００の演出操作ボタンユニット３６０内に設けられる中央ボタン装飾基板３７６及び外周ボタン装飾基板３７７が凝視し難くなるように移動（本例では振動）させたり、演出操作リング装飾基板３５２の前方に重なって視界を遮るようにように演出操作リング３３０の回転操作部３０２を動作（本例では回転又は振動）させたり、するようにしてもよい。これにより、中央ボタン装飾基板３７６、外周ボタン装飾基板３７７、及び演出操作リング装飾基板３５２の実装面に記されているコネクタのピン数、ＩＣの向き、部品番号、ピン番号、電子部品が配置される外形線等の情報が

遊技者に視認され難くなるため、パチンコ機１の世界観が崩れることを防止して意匠性の低下を抑止することができ、遊技興趣の低下を抑止できる。

【３１９０】

なお、本例では内部に設けられる演出操作リング装飾基板３５２と、演出操作リング３３０の表面を構成して演出操作リング装飾基板３５２の前方を覆う回転操作部３０２と、から構成される演出操作リング３３０において回転操作部３０２を演出操作リング装飾基板３５２の前方で動作させるものを示したが、演出操作リング３３０とは別体で設けられる装飾体を、演出操作リング装飾基板３５２の前方で該演出操作リング装飾基板３５２と少なくとも一部が重なるように動作（振動や往復動作など）させることで演出操作リング装飾基板３５２の視認を遮るようにしてもよいし、演出操作ユニット３００の演出操作ボタンユニット３６０内に設けられる中央ボタン装飾基板３７６及び外周ボタン装飾基板３７７を移動させることなく、中央ボタン装飾基板３７６及び外周ボタン装飾基板３７７の表面を覆う中央ボタンカバー３７５及び外周ボタンカバー３８０のみを振動させることで中央ボタン装飾基板３７６及び外周ボタン装飾基板３７７の視認を困難にするようにしてもよい。

【３１９１】

また、押圧操作部３０３が操作されたことに基づいて押圧検知センサ３８１により演出操作ボタンユニット３６０の中央ボタンカバー３７５が通常（非操作時）の基準位置（原点）からずれた状態となっていることを検知した場合に中央ボタンカバー３７５を基準位置（原点）に戻す動作（原点復帰動作）を行うようにしてもよいし、演出操作ボタンユニット３６０が引っ張られたこと等により昇降検知センサ３８２により演出操作ボタンユニット３６０が通常（非可動時）の下降位置からずれた状態となっていることを検知した場合に、演出操作ボタンユニット３６０を基準位置（原点）に戻す動作（原点復帰動作）を行うようにしてもよいし、昇降検知センサ３８２により演出操作ボタンユニット３６０が通常（非可動時）の下降位置と可動時の上昇位置とのいずれでもない中途半端な位置となっていることを検知した場合に、演出操作ボタンユニット３６０を基準点（原点）に戻す動作（原点復帰動作）を行うようにしてもよい。

【３１９２】

この場合には、原点復帰動作に伴って演出操作ボタンユニット３６０内に設けられる中央ボタン装飾基板３７６及び外周ボタン装飾基板３７７が移動するため、これら基板の表面を凝視し難くするようになる。また、演出操作ボタンユニット３６０が操作された場合以外にも、上記した可動装飾体（裏後可動装飾体３１１０、裏上後回転装飾体３４４０、裏後左装飾体３５２１、裏後右装飾体３６２１等）が待機位置（原点）からずれた状態となっている場合にも、可動装飾体を待機位置（原点）戻す動作（原点復帰動作）を行うようにしてもよく、可動装飾体の原点復帰動作においても可動装飾体に搭載される基板が移動することでこれら基板の表面を凝視し難くすることができる。

【３１９３】

なお、上記した可動装飾体（裏下中回転装飾体３３１０、裏上後回転装飾体３４４０、裏後左回転装飾体３５１０、裏後右回転装飾体３６１０、及び裏後可動装飾体３１１０）が何らかの影響で待機位置や駆動位置からずれた状態となっていることを検知した場合にも、待機位置に戻す動作（原点復帰動作）を行うようにしてもよく、この場合にも可動装飾体（裏下中回転装飾体３３１０、裏上後回転装飾体３４４０、裏後左回転装飾体３５１０、裏後右回転装飾体３６１０、及び裏後可動装飾体３１１０）を移動させて搭載されている基板の表面を凝視し難くすることができる。即ち、裏上後回転装飾体３４４０、裏後左回転装飾体３５１０、裏後右回転装飾体３６１０、及び裏後可動装飾体３１１０等の遊技者から視認困難に配置される可動装飾体において、待機位置からずれた状態となって遊技者から搭載されている基板の表面を視認されるおそれがある状態では、この可動装飾体を動作させて基板を移動することで該基板の表面を凝視し難くするとともに、待機位置に移動させて基板の表面が視認可能な状態から視認困難な状態へと変化させるようにしてもよい。

【３１９４】
なお、上記した遊技者参加型演出では遊技演出の所定期間に亘って演出操作部３０１の回転操作部３０２及び押圧操作部３０３の操作が有効とされ、演出操作部３０１の回転操作部３０２又は押圧操作部３０３が操作されると、該操作に応じて演出表示装置１６００で実行される遊技演出の表示内容を変化させる。すなわち、遊技者参加型演出が実行されることによって遊技者は演出操作部３０１に注目するようになる。そのため、本例のパチンコ機１では、遊技者参加型演出にて演出操作部３０１の回転操作部３０２及び押圧操作部３０３の操作が有効とされる期間（操作有効期間）の開始以前に、演出操作ユニット３００の演出操作ボタンユニット３６０内に設けられる中央ボタン装飾基板３７６及び外周ボタン装飾基板３７７の表面に実装されているＬＥＤと、演出操作リング３３０の下方に設けられる演出操作リング装飾基板３５２の表面に実装されているＬＥＤと、を演出時発光態様で発光制御して演出操作ボタンユニット３６０の中央ボタンカバー３７５、外周装飾レンズ３７９、外周ボタンカバー３８０、及び演出操作リング３３０の回転操作部３０２を発光装飾することで、中央ボタン装飾基板３７６、外周ボタン装飾基板３７７、及び演出操作リング装飾基板３５２を視認され難くしている。
【３１９５】
具体的には、図３０５に示すように演出操作部３０１の操作が有効になる以前の遊技者参加型演出を開始するタイミングで、演出操作ユニット３００の演出操作ボタンユニット３６０内に設けられる中央ボタン装飾基板３７６及び外周ボタン装飾基板３７７の表面に実装されているＬＥＤと、演出操作リング３３０の下方に設けられる演出操作リング装飾基板３５２の表面に実装されているＬＥＤと、を発光制御して演出操作ボタンユニット３６０の中央ボタンカバー３７５、外周装飾レンズ３７９、外周ボタンカバー３８０、及び演出操作リング３３０の回転操作部３０２を発光装飾し、演出操作部３０１の回転操作部３０２及び押圧操作部３０３の操作が有効とされる期間（操作有効期間）が経過すると、これらのＬＥＤを消灯させる。これにより、遊技者が遊技者参加型演出が開始されることを認識して演出操作部３０１に注目する以前に演出操作ボタンユニット３６０の中央ボタンカバー３７５、外周装飾レンズ３７９、外周ボタンカバー３８０、及び演出操作リング３３０の回転操作部３０２を発光装飾することができ、中央ボタン装飾基板３７６、外周ボタン装飾基板３７７、及び演出操作リング装飾基板３５２が視認されることを抑制して、これら基板に記されているコネクタのピン数、ＩＣの向き、部品番号、ピン番号、電子部品が配置される外形線等の遊技と無関係の情報が視認されることを抑制できる。
【３１９６】
なお、操作有効期間開始前と操作有効期間中とでＬＥＤの発光態様を変化させるようにしてもよく、例えば操作有効期間開始前の発光態様と操作有効期間中の発光態様とで発光装飾する色を異ならせたり、ＬＥＤの輝度を異ならせたりすることで、演出操作部３０１の操作が有効であるか否かを判別可能にしてもよい。すなわち、遊技者参加型演出を開始するタイミングで演出操作ユニット３００の演出操作ボタンユニット３６０内に設けられる中央ボタン装飾基板３７６及び外周ボタン装飾基板３７７の表面に実装されているＬＥＤと、演出操作リング３３０の下方に設けられる演出操作リング装飾基板３５２の表面に実装されているＬＥＤと、を第１演出時発光態様で発光制御し、操作有効期間中は第１演出時発光態様から第２演出時発光態様に切り替えて発光制御するようにしてもよい。また、操作有効期間が経過したタイミングで第２演出時発光態様から第１演出時発光態様に切り替えて発光制御し、当該遊技演出後に第１演出時発光態様から待機時発光態様に切り替えて発光制御するようにしてもよい。
【３１９７】
また、遊技者参加型演出が開始されると演出表示装置１６００に演出操作部３０１の操作を促す表示を行う。本例では演出操作部３０１と同様の画像を表示するとともに、「ボタンを押せ！」を表示することで遊技者に演出操作部３０１を押圧操作することを促すようになっている。なお、演出表示装置１６００に表示される演出操作部３０１の画像の態様（本例では色や模様）を、変化させることで大当り期待度を示唆する期待度示唆演出を実

行するようにしてもよい。上記したように、本例では白＜青＜黄＜緑＜赤＜金の順に示唆する大当り期待度が高くなるように設定されており、演出操作部３０１の画像の態様をこれらのいずれかの色とすることで大当り期待度を示唆するようにしてもよい。

【３１９８】

また、演出操作ユニット３００の演出操作ボタンユニット３６０内に設けられる中央ボタン装飾基板３７６及び外周ボタン装飾基板３７７の表面に実装されているＬＥＤと、演出操作リング３３０の下方に設けられる演出操作リング装飾基板３５２の表面に実装されているＬＥＤと、を第２演出時発光態様で発光制御する場合には、演出表示装置１６００に表示される演出操作部３０１の画像と同じ（完全一致に限らずほぼ同じものも含む）色で発光制御するようにしてもよい。これにより、演出表示装置１６００で実行される期待度示唆演出に関連して演出操作部３０１を発光装飾することができ、臨場感が高まる。なお、演出表示装置１６００に演出操作部３０１の画像を表示するタイミング以前に演出操作ユニット３００の演出操作部３０１を発光装飾する場合には、演出表示装置１６００に演出表示部３０１の画像を表示するまでは通常（最も大当り期待度が低い色）の発光色（本例では白色）で演出操作部３０１を発光装飾し、演出表示装置１６００に演出操作部３０１の画像を表示したタイミング、又は該タイミングから所定期間経過後（数秒後など）に演出表示装置１６００に表示される演出操作部３０１の画像と同じ色に変化させて発光装飾するようにしてもよい。

【３１９９】

［ランプ・ＬＥＤの輝度調節］

本例のパチンコ機１は、上記演出操作ユニット３００における演出操作部３０１の回転操作部３０２を回転操作することで、扉枠３に設けられているＬＥＤ（本例では少なくとも扉枠左サイド装飾基板４０２、扉枠右サイド装飾基板４１８、扉枠トップ中央装飾基板４５５、扉枠トップ左装飾基板４５６、及び扉枠トップ右装飾基板４５７の表面に実装されている複数のＬＥＤ、なお皿左上装飾基板２７３、皿右上装飾基板２７８、皿中央上装飾基板３１４の表面に実装されている複数のＬＥＤについても輝度調節可能としてもよい。）と、遊技盤５に設けられているＬＥＤ（本例では少なくとも扉枠右サイド装飾基板４１８、扉枠左サイド装飾基板４０２、扉枠トップ中央装飾基板４５５、扉枠トップ左装飾基板４５６、扉枠トップ右装飾基板４５７に実装されている複数のＬＥＤ、なお、可動装飾体に搭載される裏後装飾基板３１１４、裏上後装飾基板３４５２、裏後左装飾基板３５２２、裏後右装飾基板３６２２の表面に実装されている複数のＬＥＤについても輝度調節可能としてもよいし、演出表示装置１６００のバックライドとしての複数のＬＥＤについても輝度調節可能としてもよい。ただし、遊技に関わる重要な情報を表示する表示器に設けられているＬＥＤ（例えば機能表示ユニット１４００に設けられているＬＥＤ）については輝度調節不可とすることが望ましい。）と、の輝度を７０％～１００％まで範囲に亘って５％刻みで調節することができるようになっている。

【３２００】

具体的には、回転操作部３０２を時計回りに回転操作すると、上記扉枠３に設けられているＬＥＤと上記遊技盤５に設けられているＬＥＤとの輝度を向上させ、回転操作部３０２を反時計回りに回転操作すると、上記扉枠３に設けられているＬＥＤと上記遊技盤５に設けられているＬＥＤとの輝度を低下させる。

【３２０１】

また、回転操作部３０２を操作して輝度を調節するときには演出表示装置１６００に現在の輝度に応じたバロメータを一定期間に亘って表示するようになっており、回転操作部３０２を時計回りに回転操作すると輝度が１００％に達するまでバロメータの目盛を増加させ、回転操作部３０２を反時計回りに回転操作すると輝度が７０％に達するまでバロメータの目盛を減少させるようになっている。このように、回転操作部３０２が操作されて輝度を調節する場合には、演出表示装置１６００の表示内容に注目するように仕向けることで、演出操作ユニット３００の演出操作ボタンユニット３６０内に設けられる中央ボタン装飾基板３７６及び外周ボタン装飾基板３７、演出操作リング３３０の下方に設けられる

演出操作リング装飾基板３５２と、を視認されることを抑制することができ、これらの基板に記されているコネクタのピン数、ＩＣの向き、部品番号、ピン番号、電子部品が配置される外形線等の情報が遊技者に視認され難くなるため、パチンコ機１の世界観が崩れることを防止して意匠性の低下を抑止することができ、遊技興趣の低下を抑止できる。

【３２０２】

また、上記したように遊技者参加型演出が行われていないことで演出操作ユニット３００の演出操作ボタンユニット３６０内に設けられる中央ボタン装飾基板３７６及び外周ボタン装飾基板３７７の表面に実装されているＬＥＤと、演出操作リング３３０の下方に設けられる演出操作リング装飾基板３５２の表面に実装されているＬＥＤと、が消灯されている通常時に、回転操作部３０２が操作されると、中央ボタン装飾基板３７６の表面に実装されているＬＥＤと、外周ボタン装飾基板３７７の表面に実装されているＬＥＤと、演出操作リング３３０の下方に設けられる演出操作リング装飾基板３５２の表面に実装されているＬＥＤと、を一定期間に亘って発光制御して演出操作ボタンユニット３６０の中央ボタンカバー３７５と外周装飾レンズ３７９と演出操作リング３３０の回転操作部３０２とを発光装飾させる。そして、演出操作部３０１の操作されない期間が一定期間に達すると、演出表示装置１６００のバロメータの表示を消失させるとともに、演出操作ユニット３００のＬＥＤを消灯させる。

【３２０３】

このように、回転操作部３０２を操作して輝度を調節しているときには演出操作ユニット３００に設けられているＬＥＤを発光制御することで、これらＬＥＤが実装されている中央ボタン装飾基板３７６と、外周ボタン装飾基板３７７と、演出操作リング装飾基板３５２と、の表面を、ＬＥＤから照射される光によって視認され難くすることができる。

【３２０４】

また、本例のパチンコ機１では演出操作ユニット３００の演出操作ボタンユニット３６０内に設けられる中央ボタン装飾基板３７６及び外周ボタン装飾基板３７７の表面に実装されているＬＥＤと、演出操作リング３３０の下方に設けられる演出操作リング装飾基板３５２の表面に実装されているＬＥＤと、については輝度調節できないようになっている。すなわち、遊技者に近い位置に設けられて注目されやすい演出操作ユニット３００に設けられるＬＥＤについては輝度調節できないようにされて、事前に設定されている輝度で発光制御されるようになっている。そのため、演出操作ユニット３００を上記演出時発光態様で発光装飾する場合には常に一定以上の輝度で中央ボタン装飾基板３７６、外周ボタン装飾基板３７７、及び演出操作リング装飾基板３５２の表面に実装されているＬＥＤを発光させることができ、遊技者が演出操作ユニット３００に注目する状況（遊技者参加型演出や音量調節が行われているなどの演出操作部３０１が操作される状況）においてＬＥＤから照射される光によって中央ボタン装飾基板３７６、外周ボタン装飾基板３７７、及び演出操作リング装飾基板３５２を視認され難くすることができ、これらの基板に記されているコネクタのピン数、ＩＣの向き、部品番号、ピン番号、電子部品が配置される外形線等の情報が遊技者に視認され難くなるため、パチンコ機１の世界観が崩れることを防止して意匠性の低下を抑止することができ、遊技興趣の低下を抑止できる。

【３２０５】

また、上記したように中央ボタン装飾基板３７６、外周ボタン装飾基板３７７、及び演出操作リング装飾基板３５２の実装面のレジストとして白色を採用するとともに、該実装面に黄色のシルクでコネクタのピン数、ＩＣの向き、部品番号、ピン番号、電子部品が配置される外形線等の情報を印刷している。このように、本例では白色に対して視覚的な差異（コントラスト）が少ない黄色のシルクでこれらの情報を基板の実装面に印刷しているため、ＬＥＤの点灯時はもちろん、ＬＥＤの消灯時であってもこれらの情報を識別され難くなっている。

【３２０６】

なお、回転操作部３０２の操作に基づく輝度調節は一定期間（例えば、パチンコ機１に電源が投入されてから周辺制御ＭＰＵが起動するまでの一定期間、変動表示される特別図柄

が停止する前後の一定期間、のうちの一方又は両方など）を除いて常に実行可能とされるものであってもよいし、客待ち状態となって演出表示装置１６００によるデモンストレーションを行っている期間などの特定の条件が成立している場合にのみ実行可能とされるものであってもよい。また、回転操作部３０２の操作に基づく輝度調節の結果を即時反映させるようにしてもよいし、状況（変動表示中か否か等）に応じて回転操作部３０２の操作に基づく輝度調節の結果を即時反映させる場合と回転操作部３０２の操作タイミングよりも遅れたタイミングで輝度調節の結果を反映させる場合とを変化させるようにしてもよい。

【３２０７】

本例では、回転操作部３０２の操作に基づく輝度調節は扉枠３が開放された状態においても実行可能とされている。また、扉枠３が開放された状態では、裏前左装飾体ユニット３７１０の裏前左装飾基板３７１４に実装されているＬＥＤ、裏上演出ユニット３４００の裏上前装飾基板３４２２に実装されているＬＥＤ、裏前右装飾体ユニット３８１０の裏前右装飾基板３８１４に実装されているＬＥＤ、裏下右演出ユニット３２５０の裏下右装飾基板３２５３に実装されているＬＥＤ、裏下左演出ユニット３２００の裏下左装飾基板３２０３に実装されているＬＥＤ、可動装飾体（裏下中回転装飾体３３１０、裏上後回転装飾体３４４０、裏後左回転装飾体３５１０、裏後右回転装飾体３６１０、及び裏後可動装飾体３１１０）に設けられているＬＥＤ、などの遊技盤５に設けられている複数のＬＥＤは消灯状態（点灯不可状態）とされ、扉枠３に設けられているＬＥＤ（本例では少なくとも扉枠左サイド装飾基板４０２、扉枠右サイド装飾基板４１８、扉枠トップ中央装飾基板４５５、扉枠トップ左装飾基板４５６、及び扉枠トップ右装飾基板４５７、なお皿左上装飾基板２７３、皿右上装飾基板２７８、皿中央上装飾基板３１４も発光制御するようにしてもよい。）は発光制御された状態（点灯可能状態）となっている。すなわち、扉枠３が開放された状態で回転操作部３０２が操作されて輝度調節を行う場合には、上記した遊技盤５に設けられている複数のＬＥＤが消灯された状態とされているため、これら複数のＬＥＤの発光状態によって輝度を判断することはできない。

【３２０８】

一方、扉枠３が開放されていない状態（扉枠３が閉鎖されている状態）では、裏前左装飾体ユニット３７１０の裏前左装飾基板３７１４に実装されているＬＥＤ、裏上演出ユニット３４００の裏上前装飾基板３４２２に実装されているＬＥＤ、裏前右装飾体ユニット３８１０の裏前右装飾基板３８１４に実装されているＬＥＤ、裏下右演出ユニット３２５０の裏下右装飾基板３２５３に実装されているＬＥＤ、裏下左演出ユニット３２００の裏下左装飾基板３２０３に実装されているＬＥＤ、可動装飾体（裏下中回転装飾体３３１０、裏上後回転装飾体３４４０、裏後左回転装飾体３５１０、裏後右回転装飾体３６１０、及び裏後可動装飾体３１１０）に設けられているＬＥＤ、などの遊技盤５に設けられている複数のＬＥＤを消灯状態とする制御を行わない（点灯可能状態）。そのため、扉枠３が閉鎖されている状態では、回転操作部３０２を操作して輝度調節を行った場合に、遊技盤５に設けられているＬＥＤの発光状態によって輝度を判断することができる。

【３２０９】

また、上記したように裏前左装飾基板３７１４、裏上前装飾基板３４２２、裏前右装飾基板３８１４、裏下右装飾基板３２５３、裏下左装飾基板３２０３、裏後装飾基板３１１４、裏上後装飾基板３４５２、裏後左装飾基板３５２２、及び裏後右装飾基板３６２２についても、実装面のレジストとして白色を採用するとともに、該実装面に黄色のシルクでコネクタのピン数、ＩＣの向き、部品番号、ピン番号、電子部品が配置される外形線等の情報を印刷している。そのため、扉枠３が開放されてこれらの基板に実装されているＬＥＤが点灯不可状態とされている場合であっても、これらの情報を識別され難くすることができる。

【３２１０】

［パチンコ機の裏面発光］

従来、パチンコ機の背面側等は、制御基板等が搭載されているだけであり、遊技者に認識させる部位でもないため、不正対策を除いて特に工夫が施されるものではなかった。この

点、本例のパチンコ機１では、パチンコ機１の背面側等に対する種々の作業効率を高めることができるように、従来にない斬新な構成を採用している。以下、図３０６～図３１１を参照して説明する。

【３２１１】

図３０６は、パチンコ機１を側方から見て待機位置にある発光装飾体からの光を模式的に示す側面図であり、図３０７は、パチンコ機１を側方から見て出現位置にある発光装飾体からの光を模式的に示す側面図であり、図３０８は、複数の孔が設けられた裏後装飾基板を示す図であり、図３０９は、パチンコ機の裏面側における発光領域を示す正面図であり、図３１０は、遊技盤を左前から見た側面側における発光領域を示す斜視図であり、図３１１は、遊技盤を左後から見た側面側における発光領域を示す斜視図である。

【３２１２】

（発光装飾体からの光について）

本例の遊技盤５には、所定の画像を表示することが可能な表示領域を有する演出表示装置１６００が設けられており、前面側から視認して、演出表示装置１６００の表示領域の周囲には、複数の発光装飾体が設けられている。また、裏ユニット３０００には、遊技パネル１１００のパネルホルダ１１２０の後面に取付けられ前方が開放されている箱状で後壁に四角い開口部３０１０ａを有している裏箱３０１０が設けられているが、演出表示装置１６００については、裏箱３０１０の後面に取り付けられているのに対し、発光装飾体を有する各種ユニットについては、裏箱３０１０の内部で、演出表示装置１６００よりも前方となる位置に取り付けられている。

【３２１３】

本例の発光装飾体としては、裏上前回転装飾体３４１０及び裏上前装飾体３４２１、裏上後装飾体３４５１、裏後可動装飾体３１１０等が設けられているが、これらの発光装飾体に実装されているＬＥＤについては、図柄が変動表示しているときの演出の一環として発光する場合と、図柄が変動表示していないときの遊技盤５の装飾として発光する場合と、がある。

【３２１４】

まず、裏上前回転装飾体３４１０及び裏上前装飾体３４２１について、図３０６及び図３０７を参照して説明する。詳しくは上述したが、遊技盤５の前面側から視認すると、演出表示装置１６００の表示領域の上側には、裏上演出ユニット３４００の裏上前装飾体３４２１が設けられており、裏上前装飾体３４２１の中央前側となる位置には、裏上前回転装飾体３４１０が取り付けられている。より詳細には、裏上前回転装飾体３４１０は、桜の花を模した形状に形成されており、非透光の部位と透光性のレンズ部位とで構成されている。また、裏上前装飾体３４２１は、左右方向の中央に、裏上前回転装飾体３４１０と同じ大きさの二つの桜の花を、前後に重ねた上で後側の花弁が、前側の花弁同士の間に位置するように回転させたような形状に形成されており、非透光の部位が殆どなく略全体が透光性のレンズ部位となっている。なお、「透光性のレンズ部位」とは、光を屈曲させるレンズカット形状を有した部位であり、前方から視認した際の発光装飾をより煌びやかにしている。

【３２１５】

図３０６に示すように、裏上前回転装飾体３４１０及び裏上前装飾体３４２１の後側には、前面に複数のＬＥＤが実装されている裏上前装飾基板３４２２が取り付けられている。裏上前装飾基板３４２２は、裏上前装飾体３４２１の左右方向の略全長に亘って左右に延びている。そして、裏上前装飾基板３４２２は、前面に実装されている複数のＬＥＤを発光させることで、複数のＬＥＤから前方に向かう光が裏上前回転装飾体３４１０及び裏上前装飾体３４２１のレンズ部位に達して、裏上前回転装飾体３４１０及び裏上前装飾体３４２１のレンズ部位を発光装飾させることができる。

【３２１６】

また、裏上前装飾基板３４２２の前面（遊技者に対向する前側を向いた面部）には、複数のＬＥＤとして、トップビュータイプのＬＥＤが実装されている。トップビュータイプの

ＬＥＤは、裏上前装飾基板３４２２の前方（遊技者側）に向けて光を照射することが可能である。このため、前方に位置する裏上前回転装飾体３４１０及び裏上前装飾体３４２１のレンズ部位に対して効率よく光を照射することができ、裏上前回転装飾体３４１０及び裏上前装飾体３４２１のレンズ部位を明るく発光装飾させることができる。

【３２１７】

また、裏上前装飾基板３４２２の前面のうち、実装されている複数のＬＥＤや、その他の実装部品等を除いた面部分には、白色のソルダーレジストからなる被覆膜が形成されている。白色のソルダーレジストからなる被覆膜は、他の色（赤や黒、緑など）よりも高い反射率で光を反射することが可能である。このため、裏上前回転装飾体３４１０及び裏上前装飾体３４２１のレンズ部位に対して効率よく光を照射することができ、裏上前回転装飾体３４１０及び裏上前装飾体３４２１のレンズ部位を明るく発光装飾させることができる。また、裏上前装飾基板３４２２は、特にＬＥＤが非発光の状態のとき等、裏上前回転装飾体３４１０及び裏上前装飾体３４２１のレンズ部位を通して裏上前装飾基板３４２２の前面が遊技者側から視認できてしまう可能性がある。この点、裏上前装飾基板３４２２の前面を白色のソルダーレジストからなる被覆膜を有するようにしておくことで、裏上前回転装飾体３４１０及び裏上前装飾体３４２１のレンズ部位を通しても、遊技者側からはレンズ部位が白色に認識できるにとどめることができ、裏上前装飾基板３４２２の前面が見えてしまうことによる興趣低下を抑制することができる。

【３２１８】

また、本例の裏上前装飾基板３４２２の後面（遊技機背面を向いた後ろ側の面）には、その上部に、複数のＬＥＤが実装されている。裏上前装飾基板３４２２の後面に実装されている複数のＬＥＤとしては、トップビュータイプのＬＥＤが実装されており、裏上前装飾基板３４２２の後方（遊技者側とは反対側。言い換えればパチンコ機１の背面側）に向けて光を照射することを可能にしている。

【３２１９】

また、裏上前装飾基板３４２２は、前面だけでなく後面についても、実装されている複数のＬＥＤや、その他の実装部品等を除いた面部分に、白色のソルダーレジストからなる被覆膜を有している。前述したように白色のソルダーレジストからなる被覆膜は、高い反射率で光を反射することが可能である。このため、裏上前装飾基板３４２２の後方に向けて効率よく光を照射することができる。

【３２２０】

図３０６に示すように、裏上後回転装飾体３４４０及び裏上後装飾体３４５１が退避位置にある状態では、裏上前装飾基板３４２２の左右方向の左側部分の後方に、裏上後回転装飾体３４４０及び裏上後装飾体３４５１が位置することから、裏上前装飾基板３４２２の後面に実装されている複数のＬＥＤからの光が、裏上後回転装飾体３４４０及び裏上後装飾体３４５１に向けて照射されることとなる。このような光の一部は、裏上後回転装飾体３４４０及び裏上後装飾体３４５１に反射して、裏上前装飾基板３４２２（裏上前回転装飾体３４１０及び裏上前装飾体３４２１）と、裏上後回転装飾体３４４０及び裏上後装飾体３４５１と、の間の隙間部から光が漏れ出した状態となり、そのような漏れ出した光（漏光）が、遊技者から視認可能となる。このように、裏上前回転装飾体３４１０及び裏上前装飾体３４２１が発光するだけでなく、裏上前回転装飾体３４１０及び裏上前装飾体３４２１の後面側においても光が漏れ出した状態となることから、遊技者に奥行き感を感じさせる発光演出を実行することができる。

【３２２１】

また、裏上後回転装飾体３４４０及び裏上後装飾体３４５１が退避位置にある状態では、裏上前装飾基板３４２２の左右方向の右側部分の後方に、裏上後回転装飾体３４４０及び裏上後装飾体３４５１が位置していない。また、裏後可動装飾体３１１０が退避位置にある状態では、裏上前装飾基板３４２２の上下方向の上側部分の後方に、裏後可動装飾体３１１０が位置していない。また、裏上前装飾基板３４２２の上下方向の上側部分の後方には、演出表示装置１６００が位置していない。このことから、裏上前装飾基板３４２２の

後面に実装されている複数のＬＥＤからの光の一部は、裏上後回転装飾体３４４０及び裏上後装飾体３４５１、裏後可動装飾体３１１０、演出表示装置１６００に遮断されることなく、裏上前装飾基板３４２２の後方に位置する裏箱３０１０やタンクレール５５３に向けて直接的に照射されることとなる。裏箱３０１０やタンクレール５５３は、一部に透明の部材（透明部位）を用いており、その透明部位が、高い透過率で光を通過させることが可能である。このため、裏上前装飾基板３４２２の後面に実装されている複数のＬＥＤからの光の一部は、裏箱３０１０の透明部位を通過して、さらにパチンコ機１の後方におけるタンクレール５５３の透明部位付近の発光領域Ｌ１を明るく視認させることができる。

【３２２２】

一方、図３０７に示すように、裏上後回転装飾体３４４０及び裏上後装飾体３４５１が出現位置にある状態では、裏上前装飾基板３４２２の左右方向の全ての部分の後方に、裏上後回転装飾体３４４０及び裏上後装飾体３４５１が位置していない。また、裏後可動装飾体３１１０が出現位置にある状態では、裏上前装飾基板３４２２の上下方向の上側部分の後方に、裏後可動装飾体３１１０が位置していない。また、裏上前装飾基板３４２２の上下方向の上側部分の後方には、演出表示装置１６００が位置していない。このことから、裏上前装飾基板３４２２の後面に実装されている複数のＬＥＤからの光は、裏上後回転装飾体３４４０及び裏上後装飾体３４５１、裏後可動装飾体３１１０、演出表示装置１６００に遮断されることなく、裏上前装飾基板３４２２の後方に位置する裏箱３０１０やタンクレール５５３に向けて照射されることとなる。裏箱３０１０やタンクレール５５３は、一部に透明の部材（透明部位）を用いており、その透明部位が、高い透過率で光を通過させることが可能である。このため、裏上前装飾基板３４２２の後面に実装されている複数のＬＥＤからの光の一部は、裏箱３０１０の透明部位を通過して、さらにパチンコ機１の後方におけるタンクレール５５３の透明部位付近の発光領域Ｌ１を明るく視認させることができる。

【３２２３】

次に、裏上後回転装飾体３４４０及び裏上後装飾体３４５１について、図３０６及び図３０７を参照して説明する。詳しくは上述したが、裏上前装飾体３４２１の後方には、裏上昇降装飾体ユニット３４５０の裏上後装飾体３４５１が設けられており、裏上後装飾体３４５１の前側となる位置には、裏上後回転装飾体３４４０が取り付けられている。より詳細には、裏上後回転装飾体３４４０は、桜の花を模した形状に形成されており、非透光の部位と透光性のレンズ部位とで構成されている。また、裏上後装飾体３４５１は、裏上後回転装飾体３４４０と同じ大きさの二つの桜の花を、前後に重ねた上で後側の花弁が、前側の花弁同士の間に位置するように回転させたような形状に形成されており、非透光の部位が殆どなく略全体が透光性のレンズ部位となっている。なお、「透光性のレンズ部位」とは、光を屈曲させるレンズカット形状を有した部位であり、前方から視認した際の発光装飾をより煌びやかにしている。

【３２２４】

図３０６に示すように、裏上後回転装飾体３４４０及び裏上後装飾体３４５１の後側には、前面に複数のＬＥＤが実装されている裏上後装飾基板３４５２が取り付けられている。裏上後装飾基板３４５２は、前面に実装されている複数のＬＥＤを発光させることで、複数のＬＥＤから前方に向かう光が裏上後回転装飾体３４４０及び裏上後装飾体３４５１のレンズ部位に達して、裏上後回転装飾体３４４０及び裏上後装飾体３４５１のレンズ部位を発光装飾させることができる。

【３２２５】

また、裏上後回転装飾体３４４０及び裏上後装飾体３４５１は、所定の演出条件の成立時において、退避位置から出現位置へ移動することを可能にしている。裏上後回転装飾体３４４０及び裏上後装飾体３４５１が退避位置にある状態では、裏上前装飾体３４２１の後方に位置し、遊技者から視認不能となっている。このとき、裏上後回転装飾体３４４０及び裏上後装飾体３４５１の上部における後方には、タンクレール５５３が位置しているのに対し、裏上後回転装飾体３４４０及び裏上後装飾体３４５１の下部における後方には、

演出表示装置１６００が位置している。また、裏上後回転装飾体３４４０及び裏上後装飾体３４５１が出現位置に移動した状態では、演出表示装置１６００の前方に位置し、遊技者から視認可能となっている。

【３２２６】

また、裏上後装飾基板３４５２の前面（遊技者に対向する前側を向いた面部）には、複数のＬＥＤとして、トップビュータイプのＬＥＤが実装されている。トップビュータイプのＬＥＤは、裏上後装飾基板３４５２の前方（遊技者側）に向けて光を照射することが可能である。このため、前方に位置する裏上後回転装飾体３４４０及び裏上後装飾体３４５１のレンズ部位に対して効率よく光を照射することができ、裏上後回転装飾体３４４０及び裏上後装飾体３４５１のレンズ部位を明るく発光装飾させることができる。

【３２２７】

また、裏上後装飾基板３４５２の前面のうち、実装されている複数のＬＥＤや、その他の実装部品等を除いた面部分には、白色のソルダーレジストからなる被覆膜が形成されている。白色のソルダーレジストからなる被覆膜は、他の色（赤や黒、緑など）よりも高い反射率で光を反射することが可能である。このため、裏上後回転装飾体３４４０及び裏上後装飾体３４５１のレンズ部位に対して効率よく光を照射することができ、裏上後回転装飾体３４４０及び裏上後装飾体３４５１のレンズ部位を明るく発光装飾させることができる。また、裏上後装飾基板３４５２は、特にＬＥＤが非発光の状態のとき等、裏上後回転装飾体３４４０及び裏上後装飾体３４５１のレンズ部位を通して裏上後装飾基板３４５２の前面が遊技者側から視認できてしまう可能性がある。この点、裏上後装飾基板３４５２の前面を白色のソルダーレジストからなる被覆膜を有するようにしておくことで、裏上後回転装飾体３４４０及び裏上後装飾体３４５１のレンズ部位を通しても、遊技者側からはレンズ部位が白色に認識できるにとどめることができ、裏上後装飾基板３４５２の前面が見えてしまうことによる興趣低下を抑制することができる。

【３２２８】

図３０６に示すように、裏上後回転装飾体３４４０及び裏上後装飾体３４５１が退避位置にある状態では、裏上後回転装飾体３４４０及び裏上後装飾体３４５１の前方に、裏上前回転装飾体３４１０及び裏上前装飾体３４２１が位置している。このことから、裏上後装飾基板３４５２の前面に実装されている複数のＬＥＤからの光は、裏上前回転装飾体３４１０及び裏上前装飾体３４２１に反射して、裏上後装飾基板３４５２の後方に位置する裏箱３０１０やタンクレール５５３に向けて照射されることとなる。裏箱３０１０やタンクレール５５３は、一部に透明の部材（透明部位）を用いており、その透明部位が、高い透過率で光を通過させることが可能である。このため、裏上前装飾基板３４５２の後面に実装されている複数のＬＥＤからの光の一部は、裏箱３０１０の透明部位を通過して、さらにパチンコ機１の後方におけるタンクレール５５３の透明部位付近の発光領域Ｌ１を明るく視認させることができる。

【３２２９】

また、本例の裏上後装飾基板３４５２の後面（遊技機背面を向いた後ろ側の面）には、その上部に、複数のＬＥＤが実装されている。裏上後装飾基板３４５２の後面に実装されている複数のＬＥＤとしては、トップビュータイプのＬＥＤが実装されており、裏上後装飾基板３４５２の後方（遊技者側とは反対側。言い換えればパチンコ機１の背面側）に向けて光を照射することを可能にしている。

【３２３０】

また、裏上後装飾基板３４５２は、前面だけでなく後面についても、後面に実装されている複数のＬＥＤや、その他の実装部品等を除いた面部分に、白色のソルダーレジストからなる被覆膜を有している。前述したように白色のソルダーレジストからなる被覆膜は、高い反射率で光を反射することが可能である。このため、裏上後装飾基板３４５２の後方に向けて効率よく光を照射することができる。

【３２３１】

図３０６に示すように、裏上後回転装飾体３４４０及び裏上後装飾体３４５１が退避位置

にある状態では、裏後可動装飾体３１１０が退避位置にあるか否かにかかわらず、裏上後装飾基板３４５２の上下方向の上側部分の後方に、裏後可動装飾体３１１０が位置していない。また、裏上後装飾基板３４５２の上下方向の上側部分の後方には、演出表示装置１６００が位置していない。このことから、裏上後装飾基板３４５２の後面に実装されている複数のＬＥＤからの光は、裏後可動装飾体３１１０、演出表示装置１６００に遮断されることなく、裏上後装飾基板３４５２の後方に位置する裏箱３０１０やタンクレール５５３に向けて直接的に照射されることとなる。裏箱３０１０やタンクレール５５３は、一部に透明の部材（透明部位）を用いており、その透明部位が、高い透過率で光を通過させることが可能である。このため、裏上後装飾基板３４５２の後面に実装されている複数のＬＥＤからの光は、裏箱３０１０の透明部位を通過して、さらにパチンコ機１の後方におけるタンクレール５５３の透明部位付近の発光領域Ｌ１を明るく視認させることができる。

【３２３２】

一方、図３０７に示すように、裏上後回転装飾体３４４０及び裏上後装飾体３４５１が出現位置にある状態では、演出表示装置１６００の前方に位置することから、裏上後装飾基板３４５２の後面に実装されている複数のＬＥＤからの光が、裏箱３０１０やタンクレール５５３に向けて照射されることがない。このため、裏上後回転装飾体３４４０及び裏上後装飾体３４５１が出現位置にある状態では、裏上後装飾基板３４５２の後面に実装されている複数のＬＥＤを発光しないように制御している。

【３２３３】

次に、裏後可動装飾体３１１０について、図３０６及び図３０７を参照して説明する。詳しくは上述したが、裏上後装飾体３４５１の後方には、裏後演出ユニット３１００の裏後可動装飾体３１１０が設けられている。より詳細には、裏後可動装飾体３１１０は、左右方向へ延びており浮彫状（レリーフ状）の凹凸により装飾部３１５０の一部を構成する装飾を有している透明平板状の装飾体３１１１と、装飾体３１１１の後方に設けられ装飾部３１５０の残りを構成している装飾（絵柄）が施された透光性を有するシート状の装飾シート３１１２と、装飾シート３１１２の後方に設けられている透明平板状の導光放射板３１１３と、導光放射板３１１３の後方に設けられており前面に複数の第一ＬＥＤ３１１４ａ及び第二ＬＥＤ３１１４ｂが実装されている裏後装飾基板３１１４と、を備えている。裏後装飾基板３１１４は、前面に実装されている複数の第一ＬＥＤ３１１４ａ及び第二ＬＥＤ３１１４ｂを発光させることで、複数のＬＥＤから前方に向かう光が装飾体３１１１に達して、装飾体３１１１（裏後可動装飾体３１１０）を発光装飾させることができる。

【３２３４】

図３０７に示すように、裏後可動装飾体３１１０は、所定の演出条件の成立時において、退避位置から出現位置へ移動することを可能にしている。裏後可動装飾体３１１０が退避位置にある状態では、裏上前装飾体３４２１の後方に位置し、遊技者から視認不能となっている。このとき、裏後可動装飾体３１１０の上部における後方には、タンクレール５５３が位置しているのに対し、裏後可動装飾体３１１０の下部における後方には、演出表示装置１６００が位置している。また、裏後可動装飾体３１１０が出現位置に移動した状態では、演出表示装置１６００の前方に位置し、遊技者から視認可能となっている。

【３２３５】

また、裏後装飾基板３１１４の前面（遊技者に対向する前側を向いた面部）には、複数のＬＥＤとして、サイドビュータイプの複数の第一ＬＥＤ３１１４ａと、トップビュータイプの複数の第二ＬＥＤ３１１４ｂとが実装されている。サイドビュータイプの第一ＬＥＤ３１１４ａは、裏後装飾基板３１１４の前方（遊技者側）に向けて光を照射することが可能であるのに対し、トップビュータイプの第二ＬＥＤ３１１４ｂは、裏後装飾基板３１１４の側方に向けて光を照射することが可能である。また、裏後可動装飾体３１１０には、透明平板状の導光放射板３１１３が設けられており、裏後装飾基板３１１４の第一ＬＥＤ３１１４ａ及び第二ＬＥＤ３１１４ｂが導光放射板３１１３に向けて光を照射することで、導光放射板３１１３が前方に向けて発光するようになり、装飾体３１１１に対して全体的に均一に光を照射することができ、装飾体３１１１（裏後可動装飾体３１１０）を視認

しやすく発光装飾させることができる。
【３２３６】
また、裏後装飾基板３１１４の前面のうち、実装されている複数のＬＥＤや、その他の実装部品等を除いた面部分には、白色のソルダーレジストからなる被覆膜が形成されている。白色のソルダーレジストからなる被覆膜は、他の色（赤や黒、緑など）よりも高い反射率で光を反射することが可能である。このため、装飾体３１１１に対して効率よく光を照射することができ、装飾体３１１１（裏後可動装飾体３１１０）を明るく発光装飾させることができる。また、裏後装飾基板３１１４は、特にＬＥＤが非発光の状態のとき等、裏後可動装飾体３１１０の装飾体３１１１を通して裏後装飾基板３１１４の前面が遊技者側から視認できてしまう可能性がある。この点、裏後装飾基板３１１４の前面を白色のソルダーレジストからなる被覆膜を有するようにしておくことで、裏後可動装飾体３１１０の装飾体３１１１を通しても、遊技者側からは装飾体３１１１が白色に認識できるにとどめることができ、裏後装飾基板３１１４の前面が見えてしまうことによる興趣低下を抑制することができる。
【３２３７】
図３０６に示すように、裏後可動装飾体３１１０が退避位置にある状態では、裏後可動装飾体３１１０の前方に、裏上前回転装飾体３４１０及び裏上前装飾体３４２１や、裏上後装飾体３４５１が位置している。このことから、裏後装飾基板３１１４の前面に実装されている複数のＬＥＤからの光は、裏上前回転装飾体３４１０及び裏上前装飾体３４２１や、裏上後装飾体３４５１に反射して、裏後可動装飾体３１１０の後方に位置する裏箱３０１０やタンクレール５５３に向けて照射されることとなる。裏箱３０１０やタンクレール５５３は、一部に透明の部材（透明部位）を用いており、その透明部位が、高い透過率で光を通過させることが可能である。このため、裏後可動装飾体３１１０の前面に実装されている複数のＬＥＤからの光は、裏箱３０１０の透明部位を通過して、さらにパチンコ機１の後方におけるタンクレール５５３の透明部位付近の発光領域Ｌ１を明るく視認させることができる。
【３２３８】
また、裏後装飾基板３１１４の前面に実装されている複数のＬＥＤからの光は、導光放射板３１１３において拡散されて、導光放射板３１１３の前方に向けて照射されるが、その導光放射板３１１３の上下左右の端部から、導光放射板３１１３の側方に向けても照射されることとなる。つまり、裏後装飾基板３１１４の前面に実装されている複数のＬＥＤからの光は、導光放射板３１１３を介して、導光放射板３１１３の上下左右の端部から、裏後装飾基板３１１４（導光放射板３１１３）の側方に位置する裏箱３０１０の側面に向けて照射されることとなる。裏箱３０１０は、一部に透明の部材（透明部位）を用いており、その透明部位が、高い透過率で光を通過させることが可能である。このため、裏後装飾基板３１１４の前面に実装されている複数のＬＥＤからの光は、導光放射板３１１３を介して、パチンコ機１の側方における裏箱３０１０の側面の透明部位付近の発光領域Ｌ２や発光領域Ｌ３を明るく視認させることができる。
【３２３９】
また、裏後装飾基板３１１４の前面に実装されている複数のＬＥＤからの光は、導光放射板３１１３の上下左右の端部から照射されるが、そのような導光放射板３１１３の上端部から照射される光の一部については、裏後装飾基板３１１４の上後方に向けて照射されることとなる。裏後可動装飾体３１１０が退避位置にある状態では、裏後装飾基板３１１４の上後方に、演出表示装置１６００が位置していない。つまり、裏後装飾基板３１１４の前面に実装されている複数のＬＥＤからの光は、導光放射板３１１３を介して、導光放射板３１１３の上端部から、演出表示装置１６００に遮断されることなく、裏後装飾基板３１１４（導光放射板３１１３）の上後方に位置する裏箱３０１０やタンクレール５５３に向けて照射されることとなる。裏箱３０１０やタンクレール５５３は、一部に透明の部材（透明部位）を用いており、その透明部位が、高い透過率で光を通過させることが可能である。このため、裏後装飾基板３１１４の前面に実装されている複数のＬＥＤからの光は

、裏箱３０１０の透明部位を通過して、さらにパチンコ機１の後方におけるタンクレール５５３の透明部位付近の発光領域Ｌ１を明るく視認させることができる。

【３２４０】

一方、図３０６に示すように、裏後可動装飾体３１１０が出現位置にある状態では、演出表示装置１６００の前方に位置することから、裏後可動装飾体３１１０の前面に実装されている複数のＬＥＤからの光が、裏箱３０１０やタンクレール５５３に向けて照射されることがない。

【３２４１】

なお、本例では、裏後可動装飾体３１１０において、透明平板状の導光放射板３１１３が設けられており、裏後装飾基板３１１４の前面に実装されている複数のＬＥＤからの光が、導光放射板３１１３において拡散されているが、導光放射板３１１３を設けないようにしてもよい。このような場合、裏後装飾基板３１１４の前面には、裏後装飾基板３１１４の側方や、裏後装飾基板３１１４の上後方に向けて光が照射されるように、サイドビュータイプの第一ＬＥＤ３１１４ａが設けられることが好ましい。これによっても、裏後装飾基板３１１４の前面に実装されている複数のＬＥＤからの光は、裏後装飾基板３１１４の側方に位置する裏箱３０１０の側面に向けて照射されて、パチンコ機１の側方における裏箱３０１０の側面の透明部位付近の発光領域Ｌ２や発光領域Ｌ３を明るく視認させることができる。また、裏後装飾基板３１１４の前面に実装されている複数のＬＥＤからの光は、裏後装飾基板３１１４の上後方に位置する裏箱３０１０やタンクレール５５３に向けて照射されて、裏箱３０１０の透明部位を通過して、さらにパチンコ機１の後方におけるタンクレール５５３の透明部位付近の発光領域Ｌ１を明るく視認させることができる。

【３２４２】

本例の裏箱３０１０は、一部に透明部位を設けているが、透明部位に代えて、裏箱３０１０に貫通部位を設けるようにしてもよい。このような場合にも、発光装飾体のＬＥＤからの光が、裏箱３０１０の貫通部位を通過することができる。例えば、裏上前装飾基板３４２２の後面に実装されている複数のＬＥＤからの光の一部については、裏箱３０１０の貫通明部位を通過して、さらにパチンコ機１の後方におけるタンクレール５５３の透明部位付近の発光領域Ｌ１を明るく視認させることができる。

【３２４３】

また、本例の裏箱３０１０は、透明部位である透光部位と、非透光の部位とが設けられているが、非透光の部位については、その裏面側（パチンコ機１の裏面側となる側）を白色の印刷や白色の塗装、あるいは、鏡面印刷や鏡面の加工を設けており、他の色（赤や黒、緑など）よりも高い反射率で光を反射することを可能にしている。これにより、非透光の部位に向けられた光は、パチンコ機１の裏面側に対して効率よく光を反射することができ、パチンコ機１の裏面側を明るく視認させることができる。

【３２４４】

また、上記した発光装飾体については、各種装飾基板の前面に実装されている複数のＬＥＤからの光が、パチンコ機１の前面側に向けて照射されるだけでなく、パチンコ機１の裏面側に位置する裏箱３０１０やタンクレール５５３に向けて照射されているが、演出に特化させるべき装飾基板（上記した発光装飾体以外の発光装飾体の装飾基板など）の前面に実装されている複数のＬＥＤからの光については、パチンコ機１の裏面側に位置する裏箱３０１０やタンクレール５５３に向けて照射されないように構成している。具体的に、演出に特化させるべき装飾基板については、その実装面を緑色や黒色のソルダーレジストからなる被覆膜で形成したり、ボックスに封入したりすることで、ＬＥＤからの光の拡散を抑えて点発光するようにし、そのＬＥＤからの光を明瞭に視認できるようにしている。

【３２４５】

別例として、裏後装飾基板３１１４には、前後方向に貫通した複数の孔が設けられてもよい。このような別例について、図３０８を参照して説明する。図３０８に示すように、裏後装飾基板３１１４の前面に実装されている複数のＬＥＤからの光は、裏上後装飾基板３４５２の前方に位置する装飾体３１１１に向けて照射されているが、装飾体３１１１に向

けて照射された光の一部が反射して、装飾体３１１１の後方に向かうようになる。そして、裏後装飾基板３１１４に複数の孔が設けられている場合、装飾体３１１１に向けて照射された光の反射光が、複数の孔を通過して、裏後装飾基板３１１４の後方に向かうことが可能となる。なお、裏後装飾基板３１１４の後側には、裏後装飾基板３１１４の後側を覆うように装飾体ベース３１１５が取り付けられているが、裏後装飾基板３１１４に設けられている複数の孔に対応する位置に、それぞれ孔が設けられている。これにより、裏後装飾基板３１１４の前面に実装されている複数のＬＥＤからの光は、その一部が装飾体３１１１に反射して、裏後装飾基板３１１４に設けられている複数の孔を介して、裏後装飾基板３１１４の後方に向けて効率よく光を照射することができる。つまり、裏後装飾基板３１１４の前面に実装されている複数のＬＥＤからの光は、その一部が装飾体３１１１に反射して、裏後装飾基板３１１４に設けられている複数の孔を介して、裏後装飾基板３１１４の後方（上後方）に位置する裏箱３０１０やタンクレール５５３に向けて照射されて、裏箱３０１０の透明部位を通過して、さらにパチンコ機１の後方におけるタンクレール５５３の透明部位付近の発光領域Ｌ１を明るく視認させることができる。

【３２４６】

上記において、裏後装飾基板３１１４には、前後方向に貫通した複数の孔が設けられているが、それらの孔の大きさは、できるだけ小さく、例えば、裏後装飾基板３１１４の前面に実装されているＬＥＤよりも小さく形成されることが好ましい。例えば、裏後装飾基板３１１４に設けられている孔の大きさが大きい場合には、裏後装飾基板３１１４の後方からの光（例えば、演出表示装置１６００から発せられる光）が、裏後装飾基板３１１４に設けられている孔を介して入り込みやすく、裏後装飾基板３１１４の前面に実装されているＬＥＤの消灯時であっても点灯時であるかのように見えてしまう虞があるが、裏後装飾基板３１１４に設けられている孔の大きさを小さくすることで、そのような弊害を少なくすることができる。

【３２４７】

同様に、裏後装飾基板３１１４には、前後方向に貫通した複数の孔が設けられているが、それらの孔の数は、できるだけ少なく、例えば、裏後装飾基板３１１４の前面に実装されているＬＥＤの数よりも少なく形成されることが好ましい。例えば、裏後装飾基板３１１４に設けられている孔の数を多くした場合には、裏後装飾基板３１１４の後方からの光（例えば、演出表示装置１６００から発せられる光）が、裏後装飾基板３１１４に設けられている孔を介して入り込みやすく、裏後装飾基板３１１４の前面に実装されているＬＥＤの消灯時であっても点灯時であるかのように見えてしまう虞があるが、裏後装飾基板３１１４に設けられている孔の数を少なくすることで、そのような弊害を少なくすることができる。

【３２４８】

上記では、裏後装飾基板３１１４において、前後方向に貫通した複数の孔が設けられているが、同様に、裏上前装飾基板３４２２や裏上後装飾基板３４５２についても、前後方向に貫通した複数の孔が設けられてもよい。これによっても、裏上前装飾基板３４２２の前面に実装されている複数のＬＥＤからの光は、その一部が裏上前回転装飾体３４１０及び裏上前装飾体３４２１に反射して、裏上前装飾基板３４２２に設けられている複数の孔を介して、裏上前装飾基板３４２２の後方に向けて効率よく光を照射することができる。また、裏上後装飾基板３４５２の前面に実装されている複数のＬＥＤからの光は、その一部が裏上後回転装飾体３４４０及び裏上後装飾体３４５１に反射して、裏上後装飾基板３４５２に設けられている複数の孔を介して、裏上後装飾基板３４５２の後方に向けて効率よく光を照射することができる。つまり、裏上前装飾基板３４２２や裏上後装飾基板３４５２の前面に実装されている複数のＬＥＤからの光は、その一部が反射光となり、裏上前装飾基板３４２２や裏上後装飾基板３４５２の後方に位置する裏箱３０１０やタンクレール５５３に向けて照射されて、裏箱３０１０の透明部位を通過して、さらにパチンコ機１の後方におけるタンクレール５５３の透明部位付近の発光領域Ｌ１を明るく視認させることができる。

【３２４９】
次に、裏前左装飾体３７１３や裏前右装飾体３８１３については、図３０６及び図３０７に図示していないが、以下に説明する。詳しくは上述したが、遊技盤５の前面側から視認すると、演出表示装置１６００の表示領域の左側には、裏前左装飾体ユニット３７１０の裏前左装飾体３７１３が設けられており、演出表示装置１６００の表示領域の右側には、裏前右装飾体ユニット３８１０の裏前右装飾体３８１３が設けられている。より詳細には、裏前左装飾体３７１３や裏前右装飾体３８１３は、パチンコ機１のコンセプトに沿ったキャラクタ、アイテム、ロゴ、等の絵柄が施されており、非透光の部位と透光性のレンズ部位とで構成されている。なお、「透光性のレンズ部位」とは、光を屈曲させるレンズカット形状を有した部位であり、前方から視認した際の発光装飾をより煌びやかにしている。
【３２５０】
裏前左装飾体３７１３の後側には、前面に複数のＬＥＤが実装されている裏前左装飾基板３７１４が取り付けられている。そして、裏前左装飾基板３７１４は、前面に実装されている複数のＬＥＤを発光させることで、複数のＬＥＤから前方に向かう光が裏前左装飾体３７１３のレンズ部位に達して、裏前左装飾体３７１３のレンズ部位を発光装飾させることができる。また、裏前左装飾基板３７１４は、特にＬＥＤが非発光の状態のとき等、裏前左装飾体３７１３のレンズ部位を通して裏前左装飾基板３７１４の前面が遊技者側から視認できてしまう可能性がある。この点、裏前左装飾基板３７１４の前面を白色のソルダーレジストからなる被覆膜を有するようにしておくことで、裏前左装飾体３７１３のレンズ部位を通しても、遊技者側からはレンズ部位が白色に認識できるにとどめることができ、裏前左装飾基板３７１４の前面が見えてしまうことによる興趣低下を抑制することができる。
【３２５１】
また、裏前左装飾基板３７１４の前面（遊技者に対向する前側を向いた面部）には、複数のＬＥＤとして、サイドビュータイプのＬＥＤが実装されている。サイドビュータイプのＬＥＤは、裏前左装飾基板３７１４の前面に光が反射して、裏前左装飾基板３７１４の前方（遊技者側）に向けて光を照射することが可能である。このため、前方に位置する裏前左装飾体３７１３のレンズ部位に対して効率よく光を照射することができ、裏前左装飾体３７１３のレンズ部位を明るく発光装飾させることができる。
【３２５２】
また、裏前左装飾基板３７１４の前面のうち、実装されている複数のＬＥＤや、その他の実装部品等を除いた面部分には、白色のソルダーレジストからなる被覆膜が形成されている。白色のソルダーレジストからなる被覆膜は、他の色（赤や黒、緑など）よりも高い反射率で光を反射することが可能である。このため、裏前左装飾体３７１３のレンズ部位に対して効率よく光を照射することができ、裏前左装飾体３７１３のレンズ部位を明るく発光装飾させることができる。
【３２５３】
上記において、裏前左装飾基板３７１４には、裏前左装飾基板３７１４の左側方に向けて光が照射されるように、サイドビュータイプのＬＥＤの方向が左方向に向いて設けられている。つまり、裏前左装飾基板３７１４の左側方には、裏箱３０１０の側面のうち、裏後装飾基板３１１４に近い側の裏箱３０１０の左側面が位置しており、サイドビュータイプのＬＥＤの方向は、その裏箱３０１０の左側面に向いて設けられている。このことから、裏前左装飾基板３７１４の前面に実装されている複数のＬＥＤからの光は、裏前左装飾基板３７１４の左側方に位置する裏箱３０１０の左側面に向けて照射されることとなる。裏箱３０１０は、一部に透明の部材（透明部位）を用いており、その透明部位が、高い透過率で光を通過させることが可能である。このため、図３１０に示すように、裏前左装飾基板３７１４の前面に実装されている複数のＬＥＤからの光は、パチンコ機１の後方における裏箱３０１０の左側面の透明部位付近の発光領域Ｌ２を明るく視認させることができる。
【３２５４】
なお、裏前右装飾体３８１３については、裏前左装飾体３７１３と同様の構成とし、裏前

右装飾基板３８１４の前面に実装されている複数のＬＥＤからの光は、裏前右装飾基板３８１４の右側方に位置する裏箱３０１０の右側面に向けて照射されるように構成している。このため、図３１１に示すように、裏前右装飾基板３８１４の前面に実装されている複数のＬＥＤからの光は、パチンコ機１の後方における裏箱３０１０の右側面の発光領域Ｌ３の透明部位付近を明るく視認させることができる。

【３２５５】

次に、裏下中回転装飾体３３１０について、図３０６及び図３０７を参照して説明する。詳しくは上述したが、遊技盤５の前面側から視認すると、演出表示装置１６００の表示領域の下側中央には、裏下中演出ユニット３３００の裏下中回転装飾体３３１０が設けられている。より詳細には、裏下中回転装飾体３３１０は、全面に「１」～「６」までのレリーフ状に形成された六つの数字装飾が、中央を中心にして時計回りの方向へ６０度の角度毎に円周上に配置されており、非透光の部位と透光性のレンズ部位とで構成されている。なお、「透光性のレンズ部位」とは、光を屈曲させるレンズカット形状を有した部位であり、前方から視認した際の発光装飾をより煌びやかにしている。

【３２５６】

図３０６に示すように、裏下中回転装飾体３３１０の後側には、前面に複数のＬＥＤが実装されている裏下中第一装飾基板３３２２が取り付けられている。そして、裏下中回転装飾体３３１０は、前面に実装されている複数のＬＥＤを発光させることで、複数のＬＥＤから前方に向かう光が裏下中回転装飾体３３１０のレンズ部位に達して、裏下中回転装飾体３３１０のレンズ部位を発光装飾させることができる。

【３２５７】

図３０７に示すように、裏下中回転装飾体３３１０は、所定の演出条件の成立時において、退避位置から出現位置へ移動することを可能にしている。裏下中回転装飾体３３１０が退避位置にある状態では、遊技領域５ａを形成する遊技パネル１１００の後方に位置し、遊技者から視認可能となっている。このとき、裏下中回転装飾体３３１０の後方には、裏箱３０１０や主制御ユニット１３００の主制御基板１３１０が位置している。また、裏下中回転装飾体３３１０が出現位置に移動した状態では、演出表示装置１６００の前方に位置し、遊技者から視認可能となっている。

【３２５８】

また、裏下中第一装飾基板３３２２の前面（遊技者に対向する前側を向いた面部）には、複数のＬＥＤとして、トップビュータイプのＬＥＤが実装されている。トップビュータイプのＬＥＤは、裏下中第一装飾基板３３２２の前方（遊技者側）に向けて光を照射することが可能である。このため、前方に位置する裏下中回転装飾体３３１０のレンズ部位に対して効率よく光を照射することができ、裏下中回転装飾体３３１０のレンズ部位を明るく発光装飾させることができる。

【３２５９】

また、裏下中第一装飾基板３３２２の前面のうち、実装されている複数のＬＥＤや、その他の実装部品等を除いた面部分には、白色のソルダーレジストからなる被覆膜が形成されている。白色のソルダーレジストからなる被覆膜は、他の色（赤や黒、緑など）よりも高い反射率で光を反射することが可能である。このため、裏下中回転装飾体３３１０のレンズ部位に対して効率よく光を照射することができ、裏下中回転装飾体３３１０のレンズ部位を明るく発光装飾させることができる。また、裏下中第一装飾基板３３２２は、特にＬＥＤが非発光の状態のとき等、裏下中回転装飾体３３１０のレンズ部位を通して裏下中第一装飾基板３３２２の前面が遊技者側から視認できてしまう可能性がある。この点、裏下中第一装飾基板３３２２の前面を白色のソルダーレジストからなる被覆膜を有するようにしておくことで、裏下中回転装飾体３３１０のレンズ部位を通しても、遊技者側からはレンズ部位が白色に認識できるにとどめることができ、裏下中第一装飾基板３３２２の前面が見えてしまうことによる興趣低下を抑制することができる。

【３２６０】

また、本例の裏下中第一装飾基板３３２２の後面（遊技機背面を向いた後ろ側の面）には

、その下部に、複数のＬＥＤが実装されている。裏下中回転装飾体３３１０の後面に実装されている複数のＬＥＤとしては、トップビュータイプのＬＥＤが実装されており、裏下中第一装飾基板３３２２の後方（遊技者側とは反対側。言い換えればパチンコ機１の背面側）に向けて光を照射することを可能にしている。

【３２６１】

図３０６に示すように、裏下中回転装飾体３３１０が退避位置にある状態では、裏下中第一装飾基板３３２２の後方に、裏箱３０１０や主制御ユニット１３００の主制御基板１３１０が位置している。裏箱３０１０は、一部に透明の部材（透明部位）を用いており、その透明部位が、高い透過率で光を通過させることが可能である。しかしながら、裏箱３０１０の後方には、主制御ユニット１３００の主制御基板１３１０が位置しており、裏下中第一装飾基板３３２２の後面に実装されている複数のＬＥＤからの光は、その後方における裏箱３０１０の透明部位付近の発光領域Ｌ４の付近を明るくするように照射されるものの、主制御ユニット１３００の主制御基板１３１０に遮断されることとなる。

【３２６２】

一方、図３０７に示すように、裏下中回転装飾体３３１０が出現位置にある状態では、演出表示装置１６００の前方に位置している。このため、裏下中回転装飾体３３１０が出現位置にある状態では、裏下中第一装飾基板３３２２の後面に実装されている複数のＬＥＤを発光しないように制御している。

【３２６３】

以上のことから、パチンコ機１の裏面側や側面側を明るくする発光装飾体としては、遊技盤５の上部において、裏上前回転装飾体３４１０及び裏上前装飾体３４２１、裏上後装飾体３４５１、裏後可動装飾体３１１０が設けられており、遊技盤５の左側において、三つの裏前左装飾体ユニット３７１０が設けられており、遊技盤５の右側において、三つの裏前右装飾体ユニット３８１０が設けられている。そして、図３０９に示すように、遊技盤５の上部に設けられた発光装飾体は、パチンコ機１の後方におけるタンクレール５５３の透明部位付近の発光領域Ｌ１を明るくし、図３１０に示すように、遊技盤５の左側に設けられた発光装飾体は、パチンコ機１を後方から視認して、裏箱３０１０の右側面（パチンコ機１の右側面）の透明部位付近の発光領域Ｌ２を明るくし、図３１１に示すように、遊技盤５の右側に設けられた発光装飾体は、パチンコ機１を後方から視認して、裏箱３０１０の左側面（パチンコ機１の左側面）の透明部位付近の発光領域Ｌ３を明るくしている。

【３２６４】

（パチンコ機の裏面側に発光領域を設ける利点について）

一般的に、パチンコ機１は、遊技ホールに設けられる島設備に設置される。具体的には、島設備の片面側に複数のパチンコ機１が列を成して並ぶように設置されたり、島設備の両面側に複数のパチンコ機１が列を成して並ぶように設置されたりする。そして、島設備にパチンコ機１が設置された状態では、その内部が閉塞されて暗くなっている。ところで、パチンコ機１の裏面側には、主制御基板１３１０や周辺制御基板１５１０等の制御部材、制御部材どうしをつなぐ配線、遊技に用いられる遊技球Ｂの供給機構、等が配設されており、パチンコ機１の裏面側の所定箇所に対してメンテナンスが必要になる場合がある。例えば、島設備の両面側に複数のパチンコ機１が列を成して並ぶように設置されている場合、島設備の片面側のパチンコ機１を開放して、他面側のパチンコ機１の裏面をメンテナンスすることが可能であるが、島設備の内部が暗いことから、メンテナンスすべき箇所の視認性が悪く、パチンコ機１の裏面側の目視作業が困難であった。また、パチンコ機１は、一側を軸として外枠２に対して本体枠４を開閉することが可能であり、メンテナンスが必要であるパチンコ機１については、外枠２に対して本体枠４を開放して、当該パチンコ機１の裏面をメンテナンスすることが可能である。しかしながら、外枠２に対して本体枠４が開放された状態で、パチンコ機１の裏面側のうち本体枠４の開放軸から遠い部分に対しては、外部からの光（ホールの光）が届きやすく、明るく視認することが可能であるのに対し、パチンコ機１の裏面側のうち本体枠４の開放軸から近い部分に対しては、外部からの光（ホールの光）が届きにくく、明るく視認することができない。つまり、メンテナン

スすべき箇所が、本体枠４の開放軸から近い部分である場合には、メンテナンスすべき箇所の視認性が悪く、パチンコ機１の裏面側の目視作業が困難であった。

【３２６５】

この点、本例のパチンコ機１では、遊技盤５に設けられている複数の発光装飾体が、パチンコ機１の前面側を装飾目的で明るくすることに加え、裏面側や側面側も装飾以外の目的で明るくするように構成されている。具体的には、発光装飾体に実装されているＬＥＤからの光が、パチンコ機１の前面側だけでなく、裏面側や側面側にも向かうようにし、その光が裏箱３０１０の透明部位を通過するように構成することで、パチンコ機１の裏面側におけるタンクレール５５３の透明部位付近の発光領域Ｌ１や、パチンコ機１の側面側における透明部位付近の発光領域Ｌ２や発光領域Ｌ３を明るくすることができる。例えば、裏箱３０１０やタンクレール５５３に対して照射している光については、その裏箱３０１０やタンクレール５５３の透明部位を通過して、さらにパチンコ機１の後方をも明るくすることができる。つまり、島設備にパチンコ機１が設置された状態では、その内部が閉塞されて暗くなっているが、パチンコ機１の後方を明るくすることで、島設備の内部を明るくすることができる。これにより、パチンコ機１の裏面をメンテナンスする際に、メンテナンスすべき箇所の視認性が良好となり、パチンコ機１の裏面側の目視作業の効率を向上させることができる。

【３２６６】

なお、本例では、遊技盤５に設けられている複数の発光装飾体が、パチンコ機１の前面側を明るくする役割と、パチンコ機１の裏面側や側面側を明るくする役割と、を兼用するように構成している。例えば、パチンコ機１の裏面側において、後方側に向けて発光することが可能なＬＥＤを設けることによって、パチンコ機１の後方を明るくすることが可能であるが、メンテナンス専用のＬＥＤを設けると、部品点数が多くなり、コストが増加することになる。この点、パチンコ機１の前面側を明るくしている複数の発光装飾体が、パチンコ機１の裏面側や側面側を明るくする役割を兼用することで、コストが増加することを抑止することができる。

【３２６７】

なお、本例では、遊技盤５に設けられている複数の発光装飾体のＬＥＤからの光が、パチンコ機１の裏面側や側面側を明るくするように構成しているが、パチンコ機１の裏面側や側面側のメンテナンス中において、ＬＥＤの光源が直視されることは望ましくないことから、パチンコ機１の裏面側や側面側を明るくするようにしたＬＥＤからの光については、ＬＥＤの光源が直視されない間接光となるように構成している。例えば、裏上前装飾体３４２１は、裏上前装飾基板３４２２の後面に実装されている複数のＬＥＤを有し、パチンコ機１の後方（裏面側）に向けて発光することを可能にしているが、パチンコ機１の裏面側から視認した際（例えば、タンクレール５５３の透明部位付近の発光領域Ｌ１を視認した際）に、ＬＥＤの光源が直視されないようにＬＥＤにカバー体を設けるようにし、ＬＥＤからの光が間接光となるように構成している。これにより、パチンコ機１をメンテナンスする際に、パチンコ機１の裏面側を明るくするようにしたＬＥＤからの光が、作業の妨げとなることを防止することができる。

【３２６８】

（本例の発光装飾体の特徴的な構成について）

本例の発光装飾体は、パチンコ機１の前面側を装飾目的で明るくするだけでなく、裏面側や側面側を装飾以外の目的で明るくするように、様々な工夫がなされている。詳しくは上記したが、具体的な構成としては、以下の構成が挙げられる。

【３２６９】

まず、裏後可動装飾体３１１０は、裏後装飾基板３１１４の前面に実装されている複数のＬＥＤを有し、パチンコ機１の前方（正面側）に向けて発光することを可能にしている。裏後可動装飾体３１１０が退避位置にある状態では、裏後可動装飾体３１１０の前方に、裏上前回転装飾体３４１０及び裏上前装飾体３４２１や、裏上後装飾体３４５１が位置している。このことから、裏後装飾基板３１１４の前面に実装されている複数のＬＥＤから

の光は、裏上前回転装飾体３４１０及び裏上前装飾体３４２１や、裏上後装飾体３４５１に反射して、裏後装飾基板３１１４の後方に位置する裏箱３０１０やタンクレール５５３に向けて間接的に照射されることとなる。これにより、裏後装飾基板３１１４の前面に実装されている複数のＬＥＤからの光は、裏後可動装飾体３１１０を発光装飾し、パチンコ機１の前面側を明るくする役割に加えて、裏箱３０１０を通過して、パチンコ機１の後方におけるタンクレール５５３の透明部位付近の発光領域Ｌ１を明るくし、パチンコ機１の裏面側を明るくする役割を果たすことができる。

【３２７０】

本例の裏後可動装飾体３１１０は、裏後装飾基板３１１４の前面に実装されている複数のＬＥＤからの光を受けて発光装飾しているが、裏後可動装飾体３１１０の前方において、裏上前回転装飾体３４１０及び裏上前装飾体３４２１や、裏上後装飾体３４５１のほうが、裏後可動装飾体３１１０よりも大きい面積を有している。このことから、裏後装飾基板３１１４の前面に実装されている複数のＬＥＤからの光は、裏上前回転装飾体３４１０及び裏上前装飾体３４２１や、裏上後装飾体３４５１に反射する際に、裏後可動装飾体３１１０よりも広い領域に拡散されることとなる。これにより、パチンコ機１の後方におけるタンクレール５５３の透明部位付近の発光領域Ｌ１を広くすることができ、パチンコ機１の裏面側を効率よく明るくすることができる。

【３２７１】

上記において、裏上前装飾体３４２１の後面や、裏上後装飾体３４５１の後面には、白色のソルダーレジストからなる被覆膜が形成されている。白色のソルダーレジストからなる被覆膜は、他の色（赤や黒、緑など）よりも高い反射率で光を反射することが可能である。このことから、裏後装飾基板３１１４の前面に実装されている複数のＬＥＤからの光は、裏上前装飾体３４２１の後面や、裏上後装飾体３４５１の後面において、高い反射率で反射して、裏後装飾基板３１１４の後方に位置する裏箱３０１０やタンクレール５５３に向けて効率よく照射されることとなる。これにより、パチンコ機１の後方におけるタンクレール５５３の透明部位付近の発光領域Ｌ１を明るくすることができ、パチンコ機１の裏面側を効率よく明るくすることができる。

【３２７２】

次に、裏後可動装飾体３１１０は、裏後装飾基板３１１４の前面に実装されている複数のＬＥＤを有し、パチンコ機１の前方（正面側）に向けて発光することを可能にしているが、別例として説明したように、裏後装飾基板３１１４に前後方向に貫通した複数の孔を設けることで、裏後可動装飾体３１１０の装飾体３１１１に向けて照射された光の反射光が、複数の孔を通過して、裏後装飾基板３１１４の後方に向かうことが可能となる。つまり、裏後装飾基板３１１４の前面に実装されている複数のＬＥＤからの光は、その一部が装飾体３１１１に反射して、裏後装飾基板３１１４に設けられている複数の孔を介して、裏後装飾基板３１１４の後方（上後方）に位置する裏箱３０１０やタンクレール５５３に向けて照射されることとなる。これにより、裏後装飾基板３１１４の前面に実装されている複数のＬＥＤからの光は、裏後可動装飾体３１１０を発光装飾し、パチンコ機１の前面側を明るくする役割に加えて、裏箱３０１０の透明部位を通過して、パチンコ機１の後方におけるタンクレール５５３の透明部位付近の発光領域Ｌ１を明るくし、パチンコ機１の裏面側を明るくする役割を果たすことができる。

【３２７３】

次に、裏上前装飾体３４２１は、裏上前装飾基板３４２２の後面に実装されている複数のＬＥＤを有し、パチンコ機１の後方（裏面側）に向けて発光することを可能にしている。裏上前装飾体３４２１の後方には、裏上後回転装飾体３４４０及び裏上後装飾体３４５１や、裏後可動装飾体３１１０が退避位置で位置している部分と、裏上後回転装飾体３４４０及び裏上後装飾体３４５１や、裏後可動装飾体３１１０が位置していない部分と、がある。このうち、裏上後回転装飾体３４４０及び裏上後装飾体３４５１や、裏後可動装飾体３１１０が退避位置で位置している部分については、裏上前装飾基板３４２２の後面に実装されている複数のＬＥＤからの光が、後方に位置する裏上後回転装飾体３４４０及び裏

上後装飾体３４５１や、裏後可動装飾体３１１０に反射して、パチンコ機１の前方（正面側）に向けて照射されることとなる。一方、裏上後回転装飾体３４４０及び裏上後装飾体３４５１や、裏後可動装飾体３１１０が位置していない部分については、裏上前装飾基板３４２２の後方に位置する裏箱３０１０やタンクレール５５３に向けて直接的に照射されることとなる。これにより、裏上前装飾基板３４２２の後面に実装されている複数のＬＥＤからの光は、パチンコ機１の前面側を明るくする役割に加えて、裏箱３０１０を通過して、パチンコ機１の後方におけるタンクレール５５３の透明部位付近の発光領域Ｌ１を明るくし、パチンコ機１の裏面側を明るくする役割を果たすことができる。

【３２７４】

次に、発光装飾体としては、遊技盤５の上部において、裏上前回転装飾体３４１０及び裏上前装飾体３４２１、裏上後装飾体３４５１、裏後可動装飾体３１１０が設けられており、遊技盤５の左側において、三つの裏前左装飾体ユニット３７１０が設けられており、遊技盤５の右側において、三つの裏前右装飾体ユニット３８１０が設けられており、それぞれが離間して設けられている。そして、遊技盤５の上部に設けられた発光装飾体は、パチンコ機１の後方におけるタンクレール５５３の透明部位付近の発光領域Ｌ１を明るくし、遊技盤５の左側に設けられた発光装飾体は、パチンコ機１を後方から視認して、裏箱３０１０の右側面（パチンコ機１の右側面）の透明部位付近の発光領域Ｌ２を明るくし、遊技盤５の右側に設けられた発光装飾体は、パチンコ機１を後方から視認して、裏箱３０１０の左側面（パチンコ機１の左側面）の透明部位付近の発光領域Ｌ３を明るくし、パチンコ機１の裏面側や側面側における複数領域を明るくすることを可能にしている。

【３２７５】

また、発光装飾体には、パチンコ機１の前方（正面側）に向けて発光することが可能なＬＥＤと、パチンコ機１の後方（裏面側）に向けて発光することが可能なＬＥＤと、が設けられている。そして、パチンコ機１の前方（正面側）に向けて発光することが可能なＬＥＤについては、それよりも前方に位置する部材に光が反射して、パチンコ機１の後方（裏面側）に向けて光が向かうようにし、その間接光によって、パチンコ機１の裏面側を明るくすることができる。一方、パチンコ機１の後方（裏面側）に向けて発光することが可能なＬＥＤについては、その直接光によって、パチンコ機１の裏面側を明るくすることができる。このとき、パチンコ機１の裏面側のうち、パチンコ機１の前方（正面側）に向けて発光することが可能なＬＥＤを用い、その間接光によって明るくすることが可能な領域と、パチンコ機１の後方（裏面側）に向けて発光することが可能なＬＥＤを用い、その直接光によって明るくすることが可能な領域と、を区分するように構成してもよい。

【３２７６】

上記において、ＬＥＤからの直接光によって明るくすることが可能な領域としては、パチンコ機１の裏面側のうち、ホール管理者等の作業者が作業を行うことが可能な部位を対象とすることが適している。詳しくは後述するが、ホール管理者等の作業者が作業を行うことが可能な部位としては、例えば、裏カバー６４０の操作部６４０ａおよび脱着部が挙げられる。裏カバー６４０の操作部６４０ａおよび脱着部は、ＬＥＤからの直接光を受けることが可能な位置に設けられることで、ＬＥＤからの直接光を受けて、間接光を受けるよりも明るく視認させることができる。これにより、遊技盤５に取り付けられている主制御基板１３１０等の各種基板に対して作業を行う際には、本体枠４に対して裏カバー６４０を開放する必要があるが、裏カバー６４０の操作部６４０ａおよび脱着部を明るく視認させることで、作業者が操作するべき対象を容易に確認することができ、本体枠４に対して裏カバー６４０の脱着を容易とし、ホール管理者の点検作業の容易化を図ることができる。

【３２７７】

なお、上記したような、ホール管理者等の作業者が作業を行うことが可能な部位に対して、ＬＥＤからの直接光を照射する場合には、そのようなＬＥＤが実装されている基板の実装面を、暗色（例えば、緑色や黒色）とすることが好ましい。暗色の実装面にした場合には、その暗色の実装面で光が反射しにくいため、ＬＥＤからの直接光があまり拡散せず、ＬＥＤからの直接光が照射される部位に対してピンポイントで光を照射することが可能に

なる。これにより、ＬＥＤからの直接光を受けることが可能な位置に、例えば、裏カバー６４０の操作部６４０ａおよび脱着部が設けられている場合には、ＬＥＤからの直接光をピンポイントで受けて、その周辺部との明暗の差により、裏カバー６４０の操作部６４０ａおよび脱着部を明瞭に視認させることができる。

【３２７８】

（パチンコ機の裏面側に設けられる発光領域の光量調節について）

なお、島設備が設けられているホール環境は様々であり、例えば、パチンコ機１の裏面側の明るさにかかわらず、島設備内を別途明るくするように構成していることも考えられる。この場合、本例のパチンコ機１は、裏面側を明るくする構成を備えているが、そのような裏面側を明るくする必要がない可能性がある。また、島設備内が暗いものの、島設備に設けられている遊技機として、裏面側を明るくするようにしたパチンコ機１の台数が少ない場合には、通常の明るさで裏面側を明るくしただけでは、島設備内を十分に明るくできない可能性がある。そこで、ホール環境に合わせてパチンコ機１の裏面側の明るさを調整することを可能にした例について、以下に説明する。

【３２７９】

本例の発光装飾体には、パチンコ機１の前方（正面側）に向けて発光することが可能なＬＥＤと、パチンコ機１の後方（裏面側）に向けて発光することが可能なＬＥＤと、が設けられているが、これらのＬＥＤについては、演出操作ユニット３００における演出操作部３０１の回転操作部３０２や押圧操作部３０３を用いた光量調整操作が行われることで、段階的に光量を調節することを可能にしている。例えば、ＬＥＤの光量の段階を１（最低の光量）→２→３→４→５（最大の光量）と調節することを可能にし、段階が大きくなるほど、ＬＥＤの光量が増加するようにしている。つまり、発光装飾体のＬＥＤについては、パチンコ機１の後方（裏面側）に向けて光が向かうようにし、パチンコ機１の裏面側を明るくする構成としているが、ＬＥＤの光量を調整可能にすることで、パチンコ機１の裏面側の明るさを変化させることができる。例えば、島設備内が明るいホール環境である場合には、ホール管理者等の作業者が、ＬＥＤの光量が少なくなるように調節することで、パチンコ機１の裏面側を暗くすればよく、一方、島設備内が暗いホール環境である場合には、ホール管理者等の作業者が、ＬＥＤの光量が多くなるように調節することで、パチンコ機１の裏面側を明るくすればよい。このように、ホール環境に合わせてパチンコ機１の裏面側の明るさの調節を可能にすることで、パチンコ機１の裏面をメンテナンスする際に、そのメンテナンスすべき箇所の視認性が良好となり、パチンコ機１の裏面側の目視作業の効率を向上させることができる。

【３２８０】

上記では、発光装飾体のＬＥＤの光量を調節可能にすることで、パチンコ機１の裏面側の明るさを変化可能とし、パチンコ機１の裏面側に対する視認態様の自由度が増している。しかしながら、遊技盤５の前面側に設けられている全ての発光装飾体について、一括してＬＥＤの光量が調節されるとすると、例えば、全ての発光装飾体のＬＥＤの光量を少なくした場合には、パチンコ機１の前面側が暗くなり過ぎ、ホール営業中に作業者が作業している間、発光装飾体を用いた本来の効果（客寄せ等）が失われてしまう可能性がある。また、作業者が発光装飾体のＬＥＤの光量を少なくした場合であって、その作業終了後にＬＥＤの光量を戻すことを怠った場合にも、発光装飾体を用いた本来の効果が低下してしまう可能性がある。この点、本例では、遊技盤５の前面側に設けられている装飾目的の発光装飾体のうち、裏上前回転装飾体３４１０及び裏上前装飾体３４２１、裏上後装飾体３４５１、裏後可動装飾体３１１０等については、上述したとおりパチンコ機１の裏面側を明るくする役割も併せて有するため、光量調整操作によるＬＥＤの光量の調節対象としているが、このうち、遊技盤５の前面側に設けられている装飾目的の発光装飾体のうち、第一大入賞口２００５を発光装飾させるための第一大入賞口装飾基板２４２０を有する発光装飾体等については、パチンコ機１の裏面側を明るくする役割を有さず、客寄せ目的を重視して明るくする発光装飾体とされており、光量調整操作によるＬＥＤの光量の調節対象外としている。つまり、装飾目的の発光装飾体のうち、少なくともパチンコ機１の裏面側を

明るくする役割を有する発光装飾体については、光量調整操作によるＬＥＤの光量の調節対象としている。これにより、発光装飾体のＬＥＤの光量を調節し、例えば、パチンコ機１の裏面側を暗くしたとしても、遊技盤５の前面側に設けられている客寄せ目的の発光装飾体については、その明るさが暗くなることがなく、客寄せ目的を良好に維持することができる。

【３２８１】

なお、発光装飾体のＬＥＤの光量調整操作は、図柄が変動表示していない待機状態中と、図柄が変動表示している変動表示中と、のいずれにおいても行うことができる。また、本例では、演出操作ユニット３００における演出操作部３０１の回転操作部３０２や押圧操作部３０３を用いて、遊技者が光量調整操作を行うことを可能にしているが、これ以外にも、パチンコ機１の裏面側において、ホール管理者が光量調節操作を行うことが可能な操作部を別に設けるようにしてもよい。このとき、ホール管理者用の操作部に対する光量調整操作によるＬＥＤの光量の調節対象は、遊技者用の操作部に対する光量調整操作によるＬＥＤの光量の調節対象と同じにしている。なお、遊技者用の操作部に対する光量調整操作は、最低の光量に調節したとしても、光量をゼロにはできず、ＬＥＤを完全に消灯することはできないが、ホール管理者用の操作部に対する光量調整操作については、最低の光量に調節した際に、光量をゼロとし、ＬＥＤを完全に消灯するようにしてもよい。

【３２８２】

（パチンコ機の側面側に設けられる配線の視認性について）

また、パチンコ機１の裏面側（裏箱３０１０の裏面側）には、各種基板や、各種基板どうしを接続する配線が設けられている。本例のパチンコ機１は、遊技盤５に設けられている発光装飾体からの光を用い、裏面側を明るくする構成を備えていることから、パチンコ機１の外側に露出している配線については、外部からの状態確認が容易であるが、パチンコ機１の外側に露出していない配線については、外部からの状態確認が困難になっている。そこで、パチンコ機１の外側に露出していない配線についても、外部からの状態確認を容易にすることを可能にした例について、以下に説明する。

【３２８３】

本例では、パチンコ機１の裏面側や側面側を明るくする発光装飾体として、遊技盤５の左側において、三つの裏前左装飾体ユニット３７１０が設けられており、遊技盤５の右側において、三つの裏前右装飾体ユニット３８１０が設けられている。そして、図３１０に示すように、遊技盤５の左側に設けられた発光装飾体は、パチンコ機１を後方から視認して、裏箱３０１０の右側面（パチンコ機１の右側面）の透明部位付近の発光領域Ｌ２を明るくし、図３１１に示すように、遊技盤５の右側に設けられた発光装飾体は、パチンコ機１を後方から視認して、裏箱３０１０の左側面（パチンコ機１の左側面）の透明部位付近の発光領域Ｌ３を明るくしている。

【３２８４】

また、裏箱３０１０の裏面には、周辺制御基板１５１０からのコマンドに応じて表ユニット２０００や裏ユニット３０００に備えられている装飾基板、駆動モータ及び駆動ソレノイド等を駆動させる演出駆動基板１７２０が取り付けられている。そして、演出駆動基板１７２０は、装飾基板、駆動モータ及び駆動ソレノイド等と複数の配線で電気的に接続されているが、それらの配線については、裏箱３０１０の内部における左側面や右側面に沿うように配置するようにした。この点、遊技盤５の左側に設けられた発光装飾体は、パチンコ機１を後方から視認して、裏箱３０１０の右側面（パチンコ機１の右側面）の透明部位付近の発光領域Ｌ２を明るくするように光を照射していることから、裏箱３０１０の内部における右側面に沿わせている配線については、どのような状態にあるかを良好に視認することができる。同様に、遊技盤５の右側に設けられた発光装飾体は、パチンコ機１を後方から視認して、裏箱３０１０の左側面（パチンコ機１の左側面）の透明部位付近の発光領域Ｌ３を明るくするように光を照射していることから、裏箱３０１０の内部における左側面に沿わせている配線については、どのような状態にあるかを良好に視認することができる。例えば、装飾基板、駆動モータ及び駆動ソレノイド等が正常に動作しなくなった

場合には、裏箱３０１０の内部における左側面や右側面に沿わせている配線が断線していたり接続端子から外れていたりする可能性があるが、そのような左側面や右側面を明るくするように光を照射することで、パチンコ機１の側面側からの配線の視認性が良好となり、配線の状態の確認作業の効率を向上させることができる。

【３２８５】

また、外枠２に対して本体枠４が開放された状態で、パチンコ機１の側面のうち、パチンコ機１を後方から視認して、本体枠４の開放軸から遠い部分であるパチンコ機１の左側面に対しては、外部からの光（ホールの光）が届きやすく、明るく視認することが可能であるのに対し、本体枠４の開放軸から近い部分であるパチンコ機１の右側面に対しては、外部からの光（ホールの光）が届きにくく、明るく視認することができない。このため、従来の遊技機のように裏面側や側面側を明るくする構成を備えていない場合には、本体枠４の開放軸から近い部分であるパチンコ機１の右側面の付近に配線を配置する必要が生じたときに、その配線の状態を確認することが特に困難になっていた。この点、本例では、裏箱３０１０の右側面の透明部位付近の発光領域Ｌ２を明るくするように光を照射することとし、パチンコ機１の右側面の付近に配置する必要がある配線については、その裏箱３０１０の内部における右側面に沿うように配置するようにした。これにより、裏箱３０１０の内部における右側面に沿わせている配線については、どのような状態にあるかを視認できない状況が生じることを防止することができる。

【３２８６】

なお、本例では、裏箱３０１０の内部における側面に沿わせている配線として、演出駆動基板１７２０と、装飾基板、駆動モータ及び駆動ソレノイド等とを接続する配線が挙げられているが、それ以外に、例えば、主制御基板１３１０と接続されている配線であってもよい。主制御基板１３１０は、遊技の進行を制御するものであり、例えば、主制御基板１３１０と配線で接続されている外部端子板５５８を介して、遊技に関する情報を外部（ホールコンピュータ）に出力することとしている。このとき、主制御基板１３１０と、外部端子板５５８とを接続する配線に対して不正が行われると、外部（ホールコンピュータ）において、遊技に関する情報を正常に把握することができず、パチンコ機１に対して不正が行いやすい状況が生じてしまう。つまり、各種配線のうち、主制御基板１３１０と接続されている配線については、遊技を進行するうえで、重要度の高い配線であるといえる。この点、パチンコ機１の側面を明るくするように光を照射することで、主制御基板１３１０と接続されている配線の視認性が良好となり、そのような配線に対して不正が行われることを防止することができる。

【３２８７】

また、裏箱３０１０の内部における左側面や右側面に沿わせている配線については、裏箱３０１０に一体形成されるフック部や、束ねワイヤーによって、複数の配線が束ねられている。これらのフック部や束ねワイヤーは、透光性を有する部材で形成しており、裏箱３０１０の左側面や右側面の透明部位を通して視認できる位置に設けられている。これにより、裏箱３０１０の左側面の透明部位付近の発光領域Ｌ２や、裏箱３０１０の左側面（パチンコ機１の左側面）の透明部位付近の発光領域Ｌ３を明るくするように光を照射する際に、フック部や束ねワイヤー自体を明るくし、配線がどのような状態にあるかを良好に視認することができる。また、裏箱３０１０の左側面の透明部位付近の発光領域Ｌ２や、裏箱３０１０の左側面（パチンコ機１の左側面）の透明部位付近の発光領域Ｌ３を明るくするように光を照射する際に、光の進行を妨げることがなく、そのような発光領域の明るさが減少することを防止することができる。

【３２８８】

また、裏箱３０１０の内部における左側面や右側面に沿わせている配線については、複数の配線によって裏箱３０１０の左側面や右側面の透明部位を塞いでしまうことがないように、その複数の配線が、裏箱３０１０の左側面や右側面の垂直方向に重畳したり、束ねたりして設けられている。例えば、裏箱３０１０の左側面や右側面に並行するように複数の配線が設けられていると、裏箱３０１０の左側面や右側面の透明部位が塞がれてしまい、

裏箱３０１０の左側面の透明部位付近の発光領域Ｌ２や、裏箱３０１０の左側面（パチンコ機１の左側面）の透明部位付近の発光領域Ｌ３の明るさを維持することが困難になるが、裏箱３０１０の左側面や右側面の透明部位を塞がないように複数の配線が設けられることで、そのような状況が発生することを防止することができる。

【３２８９】

（状態変化時における発光領域の視認態様の変化について）

また、島設備に複数のパチンコ機１が設置された状態において、パチンコ機１の本体枠４を開放してメンテナンス中である場合には、島設備の背面側にある他のパチンコ機１に対して異常が発生したとしても、異常が発生したパチンコ機１の前面側が視認しえないために、異常の発生に気付くことが困難になっている。そこで、パチンコ機１の裏面側からであっても、パチンコ機１の状態を認識することを可能にした例について、以下に説明する。

【３２９０】

本例では、発光装飾体として、遊技盤５の上部において、裏上前回転装飾体３４１０及び裏上前装飾体３４２１、裏上後装飾体３４５１、裏後可動装飾体３１１０が設けられており、遊技盤５の左側において、三つの裏前左装飾体ユニット３７１０が設けられており、遊技盤５の右側において、三つの裏前右装飾体ユニット３８１０が設けられている。また、これらの発光装飾体については、磁石や振動による不正を検知する等、何らかの異常が発生し、遊技を行うことができない状況になった場合に、異常が解消されるまでの間、発光装飾体に設けられているＬＥＤを点滅制御するようにしている。そして、パチンコ機１の裏面側には、発光装飾体により明るくすることが可能な発光領域として、タンクレール５５３の透明部位付近の発光領域Ｌ１、裏箱３０１０の右側面（パチンコ機１の右側面）の透明部位付近の発光領域Ｌ２、裏箱３０１０の左側面（パチンコ機１の左側面）の透明部位付近の発光領域Ｌ３を設けるようにし、発光装飾体に設けられているＬＥＤを点滅制御した際に、これらの発光領域が点滅することとした。これにより、島設備に複数のパチンコ機１が設置された状態において、パチンコ機１の本体枠４を開放してメンテナンス中であっても、島設備の背面側にある他のパチンコ機１に対して異常が発生した際に、その他のパチンコ機１の発光装飾体により明るくすることが可能な発光領域が点滅することで、島設備の内部を介して、異常の発生を認識することが可能になる。つまり、パチンコ機１の本体枠４を開放してメンテナンス中であっても、島設備の内部を介して、同じ島設備にある他のパチンコ機１に対する異常を早期に発見することができ、ひいては他のパチンコ機１に対して不正が行われることを防止することができる。

【３２９１】

また、発光装飾体のＬＥＤについては、演出操作ユニット３００における演出操作部３０１の回転操作部３０２や押圧操作部３０３を用いた光量調整操作が行われることで、段階的に光量を調節することを可能にしている。例えば、ＬＥＤの光量の段階を１（最低の光量）→２→３→４→５（最大の光量）と調節することを可能にし、段階が大きくなるほど、ＬＥＤの光量が増加するようにしている。そして、詳しくは上記したが、発光装飾体のＬＥＤについては、ＬＥＤの光量を調節可能にすることで、パチンコ機１の裏面側の明るさを変化させることができる。しかしながら、磁石や振動による不正を検知する等、何らかの異常が発生した際に、パチンコ機１の裏面側を明るくする発光装飾体のＬＥＤを、調節された光量で点滅制御するように構成すると、その調節された光量を暗くしている場合に、パチンコ機１の裏面側からでは、異常の発生に気付かないことがあった。また、作業者が発光装飾体のＬＥＤの光量を少なくした場合であって、その作業終了後にＬＥＤの光量を戻すことを怠った場合にも、ＬＥＤの光量が少なく、パチンコ機１の裏面側からでは、異常の発生に気付かないことがあった。この点、本例では、磁石や振動による不正を検知する等、何らかの異常が発生し、遊技を行うことができない期間については、パチンコ機１の裏面側を明るくする発光装飾体のＬＥＤの光量の調節を不能とし、所定の光量（例えば、正常時に調節可能な光量のうち上限の光量である段階５）でＬＥＤを点滅制御するようにした。これにより、パチンコ機１に対して異常が発生した場合において、発光装飾体により明るくすることが可能な発光領域が点滅する際に、その発光領域が暗くなりすぎ

ることがない。つまり、パチンコ機１の裏面側からであっても、異常の発生に気付かないことがなく、その異常を確実に発見することができ、ひいては他のパチンコ機１に対して不正が行われることを防止することができる。

【３２９２】

同様に、発光装飾体については、外枠３に対して本体枠４が開放された場合に、本体枠４が閉鎖されるまでの間、発光装飾体に設けられているＬＥＤを点滅制御するようにしている。そして、パチンコ機１の裏面側には、発光装飾体により明るくすることが可能な発光領域として、タンクレール５５３の透明部位付近の発光領域Ｌ１、裏箱３０１０の右側面（パチンコ機１の右側面）の透明部位付近の発光領域Ｌ２、裏箱３０１０の左側面（パチンコ機１の左側面）の透明部位付近の発光領域Ｌ３を設けるようにし、発光装飾体に設けられているＬＥＤを点滅制御した際に、これらの発光領域が点滅することとした。例えば、島設備に複数のパチンコ機１が設置された状態において、パチンコ機１の本体枠４を開放してメンテナンス中である場合には、島設備の背面側にある他のパチンコ機１の本体枠４を不正行為者が不正に開放したとしても、不正に開放したパチンコ機１の前面側が視認しえないために、不正に開放した行為に気付くことが困難になっている。しかしながら、本例では、島設備の背面側にある他のパチンコ機１の本体枠４を不正行為者が不正に開放した際に、その他のパチンコ機１の発光装飾体により明るくすることが可能な発光領域が点滅することで、島設備の内部を介して、不正に開放した行為を認識することが可能になる。つまり、パチンコ機１の本体枠４を開放してメンテナンス中であっても、島設備の内部を介して、同じ島設備にある他のパチンコ機１に対して不正に開放した行為を早期に発見することができ、ひいては他のパチンコ機１に対して不正が行われることを防止することができる。

【３２９３】

なお、発光装飾体については、外枠３に対して本体枠４が開放された場合に、本体枠４が閉鎖されるまでの間だけでなく、本体枠４が閉鎖された後に一定時間が経過するまでの間、発光装飾体に設けられているＬＥＤの点滅制御を継続するようにしてもよい。これにより、島設備の背面側にある他のパチンコ機１の本体枠４を不正行為者が不正に開放した際に、その開放が短時間であったとしても、その他のパチンコ機１の発光装飾体により明るくすることが可能な発光領域の点滅が一定時間継続するようになり、島設備の内部を介して、不正に開放した行為を見逃すといった事態を極力防止することができる。

【３２９４】

また、発光装飾体については、図柄変動が行われていない待機状態に移行した場合に、図柄変動が開始されて待機状態が終了するまでの間、発光装飾体に設けられているＬＥＤの光量を減少制御するようにしている。そして、パチンコ機１の裏面側には、発光装飾体により明るくすることが可能な発光領域として、タンクレール５５３の透明部位付近の発光領域Ｌ１、裏箱３０１０の右側面（パチンコ機１の右側面）の透明部位付近の発光領域Ｌ２、裏箱３０１０の左側面（パチンコ機１の左側面）の透明部位付近の発光領域Ｌ３を設けるようにし、発光装飾体に設けられているＬＥＤの光量を減少制御した際に、これらの発光領域が暗くなることとした。例えば、島設備に複数のパチンコ機１が設置された状態において、パチンコ機１の本体枠４を開放してメンテナンス中である場合には、島設備の背面側にある他のパチンコ機１の前面側が視認しえないために、そのパチンコ機１が遊技中であるかどうかを把握することが困難になっている。しかしながら、本例では、島設備の背面側にある他のパチンコ機１が待機状態に移行した際に、その他のパチンコ機１の発光装飾体により明るくすることが可能な発光領域を暗くすることで、島設備の内部を介して、遊技中であるかどうかを把握することが可能になる。つまり、パチンコ機１の本体枠４を開放してメンテナンス中あっても、島設備の内部を介して、同じ島設備にある他のパチンコ機１が遊技中であるかどうかを把握することができ、待機状態中に不正が行われないように監視を強化する必要があるかどうか等を判断することができる。

【３２９５】

（発光装飾体の動作時における発光領域の視認態様の変化について）

また、パチンコ機１の本体枠４を開放し、パチンコ機１の裏面側に対するメンテナンス中である場合には、パチンコ機１の前面側が視認しえないために、その前面側に設けられている可動体が正常に動作するかどうかを確認することが困難になっている。そこで、パチンコ機１の裏面側からであっても、可動体が正常に動作するかどうかを確認することを可能にした例について、以下に説明する。

【３２９６】

本例では、パチンコ機１の裏面側を明るくする発光装飾体として、遊技盤５の上部において、裏上前回転装飾体３４１０及び裏上前装飾体３４２１、裏上後回転装飾体３４４０及び裏上後装飾体３４５１、裏後可動装飾体３１１０が設けられており、遊技盤５の上部に設けられた発光装飾体は、パチンコ機１の後方におけるタンクレール５５３の透明部位付近の発光領域Ｌ１を明るくしている。このうち、裏上後回転装飾体３４４０及び裏上後装飾体３４５１や、裏後可動装飾体３１１０は、所定の演出条件の成立時において、退避位置から出現位置へ移動することを可能にしている。そして、裏上後回転装飾体３４４０及び裏上後装飾体３４５１や、裏後可動装飾体３１１０が出現位置に移動した状態では、これらの発光装飾体のＬＥＤからの光が、タンクレール５５３の透明部位付近の発光領域Ｌ１に対して到達しないようにした。特に、裏上後装飾体３４５１の後面に実装されているＬＥＤからの光が、タンクレール５５３の透明部位付近の発光領域Ｌ１に対して到達しないようにした。一方、裏上前装飾基板３４２２の後面に実装されているＬＥＤからの光については、裏上後回転装飾体３４４０及び裏上後装飾体３４５１や、裏後可動装飾体３１１０が出現位置に移動することで裏上前装飾基板３４２２の後方に位置せず、光が遮断されることがなくなり、タンクレール５５３の透明部位付近の発光領域Ｌ１に対して到達するようにした。つまり、複数の発光装飾体のうち、動作することが可能な発光装飾体の動作時には、タンクレール５５３の透明部位付近の発光領域Ｌ１における明るさが変化し、パチンコ機１の裏面側から視認される発光領域Ｌ１の視認態様を変化させることができる。これにより、パチンコ機１の裏面側からであっても、発光領域Ｌ１の視認態様が変化することで、発光装飾体が動作しているかどうかを把握することができる。

【３２９７】

また、パチンコ機１の電源投入時には、複数の発光装飾体のうち、動作することが可能な発光装飾体の初期動作が行われる。具体的には、裏上後回転装飾体３４４０及び裏上後装飾体３４５１や、裏後可動装飾体３１１０が、退避位置から出現位置へ移動した後に、出現位置から退避位置へ移動するという動作を繰り返し、これらの発光装飾体が出現位置に移動しうることを確認する動作が行われる。パチンコ機１の電源投入時には、外枠２に対して本体枠４を開放して、パチンコ機１の裏面側に設けられている電源基板の電源スイッチを操作する必要があるが、電源スイッチの操作時には、パチンコ機１の前面側から、発光装飾体の初期動作が正常に行われているかどうかを直接目視して確認することができず、その動作確認を行うことが特に困難になっていた。この点、本例では、発光装飾体の動作に伴い、タンクレール５５３の透明部位付近の発光領域Ｌ１の明るさを変化させるようにし、パチンコ機１の裏面側からであっても、発光領域Ｌ１の視認態様の変化を視認することで、発光装飾体の初期動作が正常に行われていることを確認することができるようにした。これにより、電源スイッチの操作時には、パチンコ機１の裏面側を視認しているものの、発光装飾体の初期動作が行われる際に、パチンコ機１の裏面側から、発光領域Ｌ１の視認態様が変化しているかどうかを確認すればよく、発光装飾体の初期動作に対する目視作業の効率を向上させることができる。

【３２９８】

なお、複数の発光装飾体のうち、動作することが可能な発光装飾体の動作時には、タンクレール５５３の透明部位付近の発光領域Ｌ１における明るさが変化するように構成しているが、特に、発光装飾体が退避位置にある状態と、出現位置にある状態とで、明るさの変化が大きくなるように構成することが好ましい。例えば、裏上前装飾基板３４２２の後面には、発光領域Ｌ１に向けて光が照射されるＬＥＤが実装されているが、裏上前装飾基板３４２２の後方に位置する裏上後回転装飾体３４４０及び裏上後装飾体３４５１や、裏後

可動装飾体３１１０が出現位置に移動した際には、裏上前装飾基板３４２２の後面に実装されているＬＥＤを消灯制御してもよく、また、裏上前装飾基板３４２２の後面にＬＥＤ自体を実装しないように構成してもよい。このような構成では、裏上前装飾基板３４２２の後方に位置する裏上後回転装飾体３４４０及び裏上後装飾体３４５１や、裏後可動装飾体３１１０が出現位置に移動した際に、裏上前装飾基板３４２２の後面に実装されているＬＥＤからの光が、タンクレール５５３の透明部位付近の発光領域Ｌ１に対して到達することがなく、発光領域Ｌ１の明るさを暗くすることができる。これにより、発光装飾体が退避位置にある状態と、出現位置にある状態とで、発光領域Ｌ１における明るさの変化が大きくなり、パチンコ機１の裏面側から、発光装飾体が動作しているかどうかを容易に把握することができる。

【３２９９】

（演出表示装置の裏面側からの光について）

また、本例のパチンコ機１は、遊技盤５に設けられている発光装飾体からの光を用い、裏面側を明るくする構成を備えているが、パチンコ機１の裏面側のうち、演出表示装置１６００の後方の領域については、演出表示装置１６００によって発光装飾体のＬＥＤからの光が遮断されてしまい、発光装飾体を用いるだけでは、パチンコ機１の裏面側の明るくしたい箇所を明るくできない可能性がある。例えば、演出表示装置１６００の後方の領域において、ホール管理者が作業する必要がある部位が暗くなっていると、その部位に対して作業することが困難になってしまう。そこで、パチンコ機１の裏面側のうち、演出表示装置１６００の後方の領域であっても、所定部位を明るくすることを可能にした例について、以下に説明する。

【３３００】

まず、演出表示装置１６００について、図３１２を参照して説明する説明する。図３１２は、演出表示装置の裏面側に設けられた開口を示す図である。図３１２に示すように、演出表示装置１６００は、前後に開口を有する箱状の箱体１６１１（金属製フレーム）と、箱体１６１１の前側の開口を塞ぐように設けられ、所定の画像を表示することが可能な液晶パネル１６１２と、液晶パネル１６１２の後方に設けられ、液晶パネル１６１２に向けて光を照射することが可能な透明平板状の導光板１６１３と、導光板１６１３の下方に設けられ、導光板１６１３に向けて光を照射することが可能な複数のＬＥＤが実装されている発光基板１６１５と、導光板１６１３の後方において箱体１６１１の後側の開口を塞ぐように設けられ、導光板１６１３から後方への光を遮断することが可能な金属製のバックパネル１６１４（金属製裏蓋）と、を備えている。また、図示しないが、演出表示装置１６００は、液晶パネル１６１２を駆動するパネル駆動基板を備えている。

【３３０１】

発光基板１６１５には、その上面において、複数のＬＥＤが並んで実装されている。発光基板１６１５の上面に実装されている複数のＬＥＤは、発光基板１６１５の上方に位置する導光板１６１３に向けて光を照射することが可能である。また、導光板１６１３は、発光基板１６１５の上面に実装されている複数のＬＥＤからの光を受けて、導光板１６１３の前面側を面発光することが可能であり、導光板１６１３の前方に位置する液晶パネル１６１２に向けて光を照射することが可能である。このため、液晶パネル１６１２に対して効率よく光を照射することができ、液晶パネル１６１２に対して表示される所定の画像を明るく視認させることができる。

【３３０２】

また、発光基板１６１５は、上面に実装されている複数のＬＥＤや、その他の実装部品等を除いた表面に、白色のソルダーレジストからなる被覆膜を有している。白色のソルダーレジストからなる被覆膜は、高い反射率で光を反射することが可能である。このため、液晶パネル１６１２に対して効率よく光を照射することができ、液晶パネル１６１２に対して表示される所定の画像を明るく視認させることができる。

【３３０３】

また、発光基板１６１５には、その上面において、演出駆動基板１７２０と電気的に接続

するためのコネクタ１６１５ａが実装されている。なお、コネクタ１６１５ａは、不透明の部材である。発光基板１６１５の上面に実装されているコネクタ１６１５ａは、端子面が後方を向いており、演出駆動基板１７２０からの配線が束ねられている配線側のコネクタと接続することで、発光基板１６１５と演出駆動基板１７２０とを電気的に接続することができる。これにより、演出駆動基板１７２０は、発光基板１６１５の上面に実装されている複数のＬＥＤの点灯の有無や、明るさ調整等を制御することができる。

【３３０４】

導光板１６１３は、発光基板１６１５の上面に実装されている複数のＬＥＤからの光を受けて、導光板１６１３の前面側が強く面発光するように構成されているが、導光板１６１３の前側だけでなく、導光板１６１３の後面側や側面側についても、弱く発光するように構成されている。上記したように、発光基板１６１５は、上面に実装されている複数のＬＥＤや、その他の実装部品等を除いた表面に、白色のソルダーレジストからなる被覆膜を有していることから、導光板１６１３の前側だけでなく、導光板１６１３の後面側や側面側についても、その発光が強くなることとなる。

【３３０５】

バックパネル１６１４は、複数のＬＥＤからの光を受けて発光している導光板１６１３から後方への光を遮断するように構成されているが、バックパネル１６１４には、導光板１６１３からの光を通過することが可能な複数の開口を、それぞれ所定の位置に意図的に設けるようにした。これにより、複数の開口からは、複数のＬＥＤからの光を受けて発光している導光板１６１３の後面側や側面側からの光を、後方（演出表示装置１６００の後方）に向けて照射することが可能である。

【３３０６】

具体的には、演出表示装置１６００の後方から視認して、バックパネル１６１４の開口Ａは、バックパネル１６１４の左下部に設けるようにし、開口Ｂは、バックパネル１６１４の右側やや中央寄りに２つ設けるようにし、開口Ｃは、バックパネル１６１４の右端に沿うように右側部に設けるようにし、開口Ｄは、バックパネル１６１４の上端に沿うように上側部に設けるようにした。

【３３０７】

まず、バックパネル１６１４の開口Ａは、発光基板１６１５に実装されているコネクタ１６１５ａの後方に対応する位置に設けられている。また、開口Ａは、コネクタ１６１５ａよりも一回り大きい開口とされている。これにより、開口Ａからは、発光基板１６１５に実装されているコネクタ１６１５ａを視認することができる。そして、開口Ａからは、複数のＬＥＤからの光を受けて発光している導光板１６１３の後面側や側面側からの光が照射されていることから、コネクタ１６１５ａの周囲の発光領域Ｌ５を明るく視認させることができる。これにより、発光基板１６１５の上面に実装されているコネクタ１６１５ａは、演出駆動基板１７２０からの配線が束ねられている配線側のコネクタ１６１５ａと接続する必要があるが、コネクタ１６１５ａの周囲の発光領域Ｌ５を明るく視認させることで、配線側のコネクタと正常に接続しているかどうかを容易に確認することができ、ホール管理者の点検作業の容易化を図ることができる。

【３３０８】

ところで、発光基板１６１５には、複数のＬＥＤが設けられているが、開口Ａからは、発光基板１６１５に実装されているコネクタ１６１５ａが視認可能であるのに対し、複数のＬＥＤのいずれもが視認不能となるように構成している。つまり、発光基板１６１５に実装されている複数のＬＥＤのうち、開口Ａに最近接するＬＥＤであっても、開口Ａから視認可能となる位置に設けないように構成している。例えば、開口Ａを介して、複数のＬＥＤのうち一部のＬＥＤからの光が直接的に照射されると、発光基板１６１５の上面に実装されているコネクタ１６１５ａに対して作業を行う際に、ＬＥＤからの直接的な光が作業者の目に入り、その作業を行うことが困難となる。これに対し、開口Ａを介して、複数のＬＥＤからの光が間接的にのみ照射されることで、発光基板１６１５の上面に実装されているコネクタ１６１５ａに対して作業を行うことが困難になることを防止することができ

る。なお、バックパネル１６１４の開口Ｂ～Ｄについても同様に、開口Ｂ～Ｄからは、発光基板１６１５に実装されている複数のＬＥＤのいずれもが視認不能となるように構成している。

【３３０９】

バックパネル１６１４の開口Ｂは、演出表示装置１６００の後方から視認して、バックパネル１６１４の右側で、開口Ｃよりもやや中央寄りとなる位置に上下離間して２つが並んで設けられている。演出表示装置１６００は、遊技盤５における裏箱３０１０の後面に、表示領域が正面を向くように取り付けられているが、遊技盤５を本体枠４に取り付けた状態では、遊技盤５の後側を覆うように裏カバー６４０が設けられている。裏カバー６４０は、パチンコ機１の後方から視認して、本体枠４の本体枠ベース５０１の左側を軸として開閉可能とされている。そして、裏カバー６４０の右側には、作業者が操作することが可能に上下離間して２つの操作部６４０ａが設けられている一方、本体枠４には、２つの操作部６４０ａのそれぞれに対応する位置に、２つの操作部６４０ａをそれぞれ脱着することが可能な２つの脱着部が設けられており、脱着部に対して操作部６４０ａを脱着することで、本体枠４に対して裏カバー６４０を開閉可能にしている。なお、裏カバー６４０（の操作部６４０ａ）および脱着部は、いずれも透明または半透明の部材である。

【３３１０】

そして、遊技盤５を本体枠４に取り付けた状態では、バックパネル１６１４の開口Ｂの後方（演出表示装置１６００の後方）に対応する位置に、裏カバー６４０の操作部６４０ａおよび脱着部が設けられている。つまり、開口Ｂからは、複数のＬＥＤからの光を受けて発光している導光板１６１３の後面側や側面側からの光が照射されていることから、裏カバー６４０の操作部６４０ａおよび脱着部は、そのような光を受けることが可能な位置に設けられている。これにより、裏カバー６４０の操作部６４０ａおよび脱着部は、開口Ｂからの光を受けて、裏カバー６４０の操作部６４０ａおよび脱着部の付近の発光領域Ｌ６を明るく視認させることができる。遊技盤５に取り付けられている主制御基板１３１０等の各種基板に対して作業を行う際には、本体枠４に対して裏カバー６４０を開放する必要があるが、裏カバー６４０の操作部６４０ａおよび脱着部の付近の発光領域Ｌ６を明るく視認させることで、作業者が操作するべき対象を容易に確認することができ、本体枠４に対して裏カバー６４０の脱着を容易とし、ホール管理者の点検作業の容易化を図ることができる。

【３３１１】

また、本体枠４は、パチンコ機１の後方から視認して、外枠２の右側に位置する本体枠上ヒンジ部材５１０及び本体枠下ヒンジ組立体５２０を軸として開閉可能とされている。つまり、裏カバー６４０の操作部６４０ａおよび脱着部は、本体枠４の開放軸から近い位置に設けられている。パチンコ機１は、複数台が遊技島に並んで設けられており、遊技島の内部が閉鎖された空間で暗くなっている。そして、外枠２に対して本体枠４が開放された状態では、パチンコ機１の裏面側のうち本体枠４の開放軸から遠い部分に対して、外部からの光（ホールの光）が届きやすく、明るく視認することが可能であるのに対し、パチンコ機１の裏面側のうち本体枠４の開放軸から近い部分に対して、外部からの光（ホールの光）が届きにくく、明るく視認することができない。この点、裏カバー６４０の操作部６４０ａおよび脱着部は、パチンコ機１の裏面側のうち本体枠４の開放軸から近い部分に位置し、外枠２に対して本体枠４が開放された状態であっても、外部からの光（ホールの光）が届きにくいが、開口Ｂからの光を受けることで、裏カバー６４０の操作部６４０ａおよび脱着部の付近の発光領域Ｌ６を明るく視認させることができる。

【３３１２】

バックパネル１６１４の開口Ｃは、演出表示装置１６００の後方から視認して、バックパネル１６１４の右端に沿うように右側部に設けられている。演出表示装置１６００は、遊技盤５における裏箱３０１０の後面に、表示領域が正面を向くように取り付けられているが、遊技盤５を本体枠４に取り付けた状態では、開口Ｃの後方となる位置に、払出ユニット５６０が設けられている。払出ユニット５６０は、タンクレール５５３からの遊技球Ｂ

を蛇行状に下方へ誘導する球誘導ユニット５７０と、球誘導ユニット５７０により誘導された遊技球Ｂを払出制御基板６３３からの指示に基づいて一つずつ払出す払出装置５８０と、払出装置５８０を通った遊技球Ｂを下方へ誘導する上部満タン球経路ユニット６００と、上部満タン球経路ユニット６００を通った遊技球Ｂを扉枠３側又は基板ユニット６２０側へ誘導する下部満タン球経路ユニット６１０と、を備えているが、開口Ｃの後方には、払出ユニット５６０のうち球誘導ユニット５７０、払出装置５８０、上部満タン球経路ユニット６００が位置している。なお、払出ユニット５６０のうち少なくとも球誘導ユニット５７０、払出装置５８０、上部満タン球経路ユニット６００は、透明の部材である。

【３３１３】

そして、開口Ｃからは、複数のＬＥＤからの光を受けて発光している導光板１６１３の後面側や側面側からの光が照射されていることから、払出ユニット５６０のうち球誘導ユニット５７０、払出装置５８０、上部満タン球経路ユニット６００の付近の発光領域Ｌ７を明るく視認させることができる。これにより、払出ユニット５６０においては、タンクレール５５３から下方へ遊技球Ｂを誘導する際に球詰まりを生じる可能性があるが、払出ユニット５６０の付近の発光領域Ｌ７を明るく視認させることで、遊技球Ｂを誘導する通路で球詰まりが生じているかどうかを容易に確認することができ、また、球詰まりが生じた際にその球詰まりの除去を容易に行うことができ、ホール管理者の点検作業の容易化を図ることができる。

【３３１４】

バックパネル１６１４の開口Ｄは、演出表示装置１６００の後方から視認して、バックパネル１６１４の上端に沿うように上側部に設けられている。演出表示装置１６００は、遊技盤５における裏箱３０１０の後面に、表示領域が正面を向くように取り付けられているが、遊技盤５を本体枠４に取り付けた状態では、開口Ｃの上後方となる位置に、タンクレール５５３が設けられている。なお、タンクレール５５３は、透明の部材を用いており、高い透過率で光を通過させることが可能である。そして、開口Ｄからは、複数のＬＥＤからの光を受けて発光している導光板１６１３の後面側や側面側からの光が照射されていることから、タンクレール５５３の透明部位付近の発光領域Ｌ１を明るく視認させることができる。

【３３１５】

詳しくは上記したが、遊技盤５に設けられている発光装飾体については、磁石や振動による不正を検知する等、何らかの異常が発生し、遊技を行うことができない状況になった場合に、異常が解消されるまでの間、発光装飾体に設けられているＬＥＤを点滅制御するようにしている。つまり、パチンコ機１の裏面側のうち、発光装飾体により明るくすることが可能な発光領域として、タンクレール５５３の透明部位付近の発光領域Ｌ１、裏箱３０１０の右側面（パチンコ機１の右側面）の透明部位付近の発光領域Ｌ２、裏箱３０１０の左側面（パチンコ機１の左側面）の透明部位付近の発光領域Ｌ３を設けるようにし、発光装飾体に設けられているＬＥＤを点滅制御することで、これらの発光領域が点滅することとしている。

【３３１６】

また、磁石や振動による不正を検知する等、何らかの異常が発生し、遊技を行うことができない状況になった場合には、パチンコ機１に異常が発生した場合には、外枠３に対して本体枠４を開放して、パチンコ機１の裏面側に設けられている部材に対してメンテナンスを行う必要がある場合がある。例えば、裏カバー６４０の内部に配置されている各種基板に対してメンテナンスを行うために、裏カバー６４０の操作部６４０ａを操作して、本体枠４に対して裏カバー６４０を開放する必要がある場合や、払出ユニット５６０において球詰まりが生じて、その球詰まりを除去する必要がある場合がある。しかしながら、パチンコ機１に異常が発生した際に、発光装飾体に設けられているＬＥＤと同じく、演出表示装置１６００の発光基板１６１５に設けられているＬＥＤを点滅制御するように構成すると、メンテナンスの作業対象に対する視認が困難になってしまう。この点、本例では、演出表示装置１６００について、磁石や振動による不正を検知する等、何らかの異常が発生

し、遊技を行うことができない状況になった場合であっても、演出表示装置１６００の発光基板１６１５に設けられているＬＥＤを点滅制御しないで、通常時と同じく常時点灯制御するようにした。つまり、パチンコ機１の裏面側のうち、演出表示装置１６００のバックパネル１６１４の開口からの光を受けて明るくすることが可能な発光領域として、発光基板１６１５に実装されているコネクタ１６１５ａの周囲の発光領域Ｌ５、裏カバー６４０の操作部６４０ａおよび脱着部の付近の発光領域Ｌ６、払出ユニット５６０の付近の発光領域Ｌ７、タンクレール５５３の透明部位付近の発光領域Ｌ１が設けられているが、演出表意時装置１６６０の発光基板１６１５に設けられているＬＥＤを通常時と同じく常時点灯制御することで、これらの発光領域に対する視認性が変化しないものとした。これにより、パチンコ機１に異常が発生した際に、発光装飾体に設けられているＬＥＤを点滅制御しているが、メンテナンスする必要性が高い箇所については、通常時と同じく常時点灯制御するようにした発光領域を設けることで、その視認性が変化しないで良好であり、パチンコ機１の裏面側における異常時のメンテナンス作業の効率を向上させることができる。

【３３１７】

（パチンコ機１の裏面側に設けられる制御基板どうしの隙間の視認性について）

また、パチンコ機１の裏面側（裏箱３０１０の裏面側）には、各種基板や、各種基板どうしを接続する配線が設けられている。本例のパチンコ機１は、遊技盤５に設けられている発光装飾体や、演出表示装置１６００におけるバックパネル１６１４の開口からの光を用い、裏面側を明るくする構成を備えているが、パチンコ機１の裏面側の全ての領域を明るくするように構成すると、島設備内において、ホール管理者がメンテナンス作業を行いやすくなる一方で、パチンコ機１の裏面側に設けられている各種基板に対して不正行為者が不正を行いやすくなってしまう。そこで、パチンコ機１の裏面側を明るくするように構成しながらも、パチンコ機１の裏面側に設けられている各種基板に対して不正行為者が不正を行いにくくした例について、以下に説明する。

【３３１８】

図３０９に示すように、パチンコ機１の裏面側や側面側を明るくする発光装飾体としては、遊技盤５の上部において、裏上前回転装飾体３４１０及び裏上前装飾体３４２１、裏上後装飾体３４５１、裏後可動装飾体３１１０が設けられており、遊技盤５の左側において、三つの裏前左装飾体ユニット３７１０が設けられており、遊技盤５の右側において、三つの裏前右装飾体ユニット３８１０が設けられている。そして、遊技盤５の上部に設けられた発光装飾体は、パチンコ機１の後方におけるタンクレール５５３の透明部位付近の発光領域Ｌ１を明るくし、遊技盤５の左側に設けられた発光装飾体は、パチンコ機１を後方から視認して、裏箱３０１０の右側面（パチンコ機１の右側面）の透明部位付近の発光領域Ｌ２を明るくし、遊技盤５の右側に設けられた発光装飾体は、パチンコ機１を後方から視認して、裏箱３０１０の左側面（パチンコ機１の左側面）の透明部位付近の発光領域Ｌ３を明るくしている。

【３３１９】

また、パチンコ機１の裏面側を明るくする特徴的な構成としては、演出表示装置１６００におけるバックパネル１６１４の開口が挙げられる。具体的には、バックパネル１６１４の左下側に開口Ａが設けられており、バックパネル１６１４の右側のやや中央寄りに開口Ｂが設けられており、バックパネル１６１４の右側に開口Ｃが設けられており、バックパネル１６１４の上側に開口Ｄが設けられている。そして、演出表示装置１６００のバックパネル１６１４の開口Ａからの光は、発光基板１６１５に実装されているコネクタ１６１５ａの周囲の発光領域Ｌ５を明るくし、開口Ｂからの光は、裏カバー６４０の操作部６４０ａおよび脱着部の付近の発光領域Ｌ６を明るくし、開口Ｃからの光は、払出ユニット５６０の付近の発光領域Ｌ７を明るくし、開口Ｄからの光は、タンクレール５５３の透明部位付近の発光領域Ｌ１を明るくしている。なお、演出表示装置１６００のバックパネル１６１４の開口Ａからの光は、発光基板１６１５に実装されているコネクタ１６１５ａの周囲の発光領域Ｌ６を明るくしているが、開口Ａの後方には、主制御ユニット１３００の主制御基板１３１０が位置しているため、主制御基板１３１０によって開口Ａからの光が遮

断されて、パチンコ機１の後方からは発光領域Ｌ６を視認することが困難になっている。
【３３２０】
また、パチンコ機１の裏面側のうち、裏箱３０１０の後面に取り付けられている主制御ユニット１３００の主制御基板１３１０、周辺制御ユニット１５００の周辺制御基板１５１０、駆動基板ユニット１７００のパネル中継基板１７１０や演出駆動基板１７２０には、それぞれ、パチンコ機１の裏面側から視認しうる位置にパイロットランプが設けられている。パイロットランプは、それぞれの基板が正常に動作しているかどうかをＬＥＤの発光態様によって知らせるための部材である。そして、周辺制御基板１５１０のパイロットランプからの光は、そのパイロットランプの付近の発光領域Ｌ８を明るくし、演出駆動基板１７２０のパイロットランプからの光は、そのパイロットランプの付近の発光領域Ｌ９を明るくし、主制御基板１３１０のパイロットランプからの光は、そのパイロットランプの付近の発光領域Ｌ１０を明るくしている。つまり、これらの構成についても、パチンコ機１の裏面側を明るくする構成として挙げることができる。
【３３２１】
上記した発光領域は、パチンコ機１の裏面側のうち、裏箱３０１０の後面に取り付けられている主制御ユニット１３００の主制御基板１３１０、周辺制御ユニット１５００の周辺制御基板１５１０、駆動基板ユニット１７００のパネル中継基板１７１０や演出駆動基板１７２０からなる制御基板群の周辺に設けるようにした。つまり、パチンコ機１の裏面側のうち、裏箱３０１０の後面に取り付けられている制御基板群を除いては、発光領域として明るくなるように構成している。これにより、島設備にパチンコ機１が設置された状態では、その内部が閉塞されて暗くなっているが、パチンコ機１の後方を明るくすることで、島設備の内部を明るくすることができる。
【３３２２】
一方、パチンコ機１の裏面側のうち、裏箱３０１０の後面に取り付けられている主制御ユニット１３００の主制御基板１３１０、周辺制御ユニット１５００の周辺制御基板１５１０、駆動基板ユニット１７００のパネル中継基板１７１０や演出駆動基板１７２０からなる制御基板群が設けられている領域には、発光領域を設けないようにした。つまり、パチンコ機１の裏面側のうち、制御基板群を構成する制御基板どうしの隙間（主制御基板１３１０と、パネル中継基板１７１０及び演出駆動基板１７２０との隙間や、周辺制御基板１５１０と、パネル中継基板１７１０及び演出駆動基板１７２０との隙間）については、暗くなるように構成している。パネル中継基板１７１０は、主制御基板１３１０と周辺制御基板１５１０との接続を中継する基板であり、主制御基板１３１０と配線で接続されているとともに、周辺制御基板１５１０と配線で接続されている。そして、そのような配線については、制御基板群を構成する制御基板どうしの隙間に配置されている。このうち、特に主制御基板１３１０は、遊技の進行を制御するものであることから、主制御基板１３１０と接続されている配線に対して不正が行われると、不正行為者が利益を得る等の不当な状況が生じてしまうという問題がある。この点、パチンコ機１の裏面側を明るくしながらも、制御基板群を構成する制御基板どうしの隙間については暗くすることで、その隙間に配置されている配線を視認することが困難となり、主制御基板１３１０と接続されている配線等に対する不正が行われることを防止することができる。
【３３２３】
（金属粉対策の構成に対する視認性について）
次に、タンクレール５５３の樋状の主誘導部５５３ａに複数形成される切り欠き部５５３ａａを介して主誘導部５５３ａから外部へ落下した遊技球Ｂの金属粉によって引き起こされる電気的なトラブル（短絡）を回避することができる金属粉対策の構成について、図３０９及び図３１３を参照して説明する。図３１３は、図９９（ａ）のＣ－Ｃ線で切断した断面の一部を示す拡大模式図であり、金属粉対策の構成の概要を示すものである。
【３３２４】
球タンク５５２からタンクレール５５３へ流入する遊技球Ｂは、遊技球Ｂが互いに衝突したり、擦れ合ったり等の摩耗により遊技球Ｂから金属粉が剥がれて落下する。このため、

遊技球Ｂの摩耗により生じた金属粉が主誘導部５５３ａに付着する状態となると、遊技球Ｂの下流方向への流れが妨げられることにより、遊技球Ｂを下流側へ向かってスムーズに供給することが困難となって、払出装置５８０による遊技球Ｂの払出しが停止することとなる。

【３３２５】

そこで、図３０９に示すように、本例では、主誘導部５５３ａに切り欠き部５５３ａａを複数形成し、遊技球Ｂの摩耗により生じた金属粉を主誘導部５５３ａから取り除くことができるように構成されている。これにより、例えば、遊技球Ｂの摩耗により生じた金属粉が切り欠き部５５３ａａを介して主誘導部５５３ａから外部へ自然に落下することで金属粉を主誘導部５５３ａから取り除くことができるし、主誘導部５５３ａを転動する遊技球Ｂの振動により主誘導部５５３ａに付着している遊技球Ｂの摩耗により生じた金属粉が切り欠き部５５３ａａを介して主誘導部５５３ａから外部へ落下することで金属粉を主誘導部５５３ａから取り除くことができるし、遊技ホールの店員等の係員により綿棒を切り欠き部５５３ａａに挿入して主誘導部５５３ａに付着している遊技球Ｂの摩耗により生じた金属粉を取り除く作業を行うことで金属粉を主誘導部５５３ａから取り除くことができる。

【３３２６】

ところで、タンクレール５５３の樋状の主誘導部５５３ａに複数形成される切り欠き部５５３ａａから落下する遊技球Ｂの金属粉（異物）がタンクレール５５３の下方に配置される周辺制御ユニット１５００に付着すると、電気的なトラブルが生じて周辺制御ユニット１５００に不具合が発生したり、誤動作したりする等の原因となる。例えば、周辺制御ユニット１５００の周辺制御基板１５１０には、後述する周辺制御ＩＣ、ＲＯＭ、ＳＤＲＡＭ等のＩＣを備え、後述する周辺データＲＯＭ基板には、周辺データＲＯＭ等のＩＣを備えている。これらのＩＣのピン間隔が小さくなっていると共に、周辺制御基板１５１０に備える各種コネクタ１６１５ａ、特殊コネクタ１６１５ａのピン間隔が狭くなり、周辺制御基板１５１０にコネクタ１６１５ａの数が増大することで各種コネクタ１６１５ａの間隔が狭くなり、コネクタ１６１５ａと特殊コネクタ１６１５ａとの間隔も狭くなっているため、タンクレールからの落下異物による電気的なトラブルの対策を講ずる必要がある。

【３３２７】

まず、タンクレール５５３の樋状の主誘導部５５３ａに複数形成される切り欠き部５５３ａａは、図３１３に示すように、遊技盤５の遊技パネル１１００の後側（裏ユニット３０００の裏箱３０１０の後面に取付けられている演出表示装置１６００の後側）に取り付けられる周辺制御ユニット１５００のカバー体１５０１と比べて後方へ向かってズレ（本実施形態では、遊技球Ｂの直径の約２分の１の距離寸法だけズレ）て配置されている。

【３３２８】

タンクレール５５３が配置される払出ベース５５１の天板部５５１ａの前後方向の断面形状は、上述したように、天板部５５１ａの前辺から後辺へ向かう（天板部５５１ａの前方から後方へ向かう）に従って下方へ複数屈曲した階段状に形成されている。また、図３１３に示す例ではこの天板部の下端部がタンクレール５５３の後面と略同一面上となるようにパチンコ機１の後方に延設された第一庇部５５１ｄａを構成している。また、裏カバー６４０が本体枠４に組立てた状態では、裏カバー６４０の上端部が第一庇部５５１ｄａの後面に面接触する当接した状態となっている。

【３３２９】

これにより、切り欠き部５５３ａａを介して主誘導部５５３ａから外部へ落下した遊技球Ｂの金属粉は、天板部５５１ａの第一庇部５５１ｄａにおいて受けられて付着することができるようになっている。即ち、天板部５５１ａの第一庇部５５１ｄａによって、切り欠き部５５３ａａを介して主誘導部５５３ａから外部へ落下した遊技球Ｂの金属粉が周辺制御ユニット１５００のカバー体１５０１、及びベース体１５０２へ向かって落下すること、ひいては切り欠き部５５３ａａを介して主誘導部５５３ａから外部へ落下した遊技球Ｂの金属粉が周辺制御ユニット１５００のカバー体１５０１内に進入することを抑制して、遊技球Ｂの金属粉が周辺制御基板１５１０に付着することによる電気的なトラブルの発生

を抑制できるようになっている。
【３３３０】
詳しくは上記したが、図３０９に示すように、本例では、パチンコ機１の裏面側を明るくする発光装飾体として、遊技盤５の上部において、裏上前回転装飾体３４１０及び裏上前装飾体３４２１、裏上後回転装飾体３４４０及び裏上後装飾体３４５１、裏後可動装飾体３１１０が設けられており、遊技盤５の上部に設けられた発光装飾体は、パチンコ機１の後方におけるタンクレール５５３の透明部位付近の発光領域Ｌ１を明るくしている。つまり、これらの発光装飾体のＬＥＤからの光は、タンクレール５５３の透明部位付近の発光領域Ｌ１に向けて照射されていることから、遊技球Ｂの摩耗により生じた金属粉が、タンクレール５５３の主誘導部５５３ａに付着している場合には、パチンコ機１の後方から透明部材であるタンクレール５５３を視認すると、その金属粉が黒点のように浮かび上がり、金属粉に対する視認性が良好なものとなっている。これにより、タンクレール５５３の主誘導部５５３ａに金属粉が付着しているかどうかを容易に確認することができ、主誘導部５５３ａの切り欠き部５５３ａａから金属粉を除去する作業についても、効率よく行うことができる。
【３３３１】
また、発光領域Ｌ１には、主誘導部５５３ａの下方に位置する天板部５５１ａの第一庇部５５１ｄａも含まれている。なお、天板部５５１ａの第一庇部５５１ｄａや、裏カバー６３０は、透明な部材である。つまり、遊技盤５の上部に設けられた発光装飾体のＬＥＤからの光は、発光領域Ｌ１における天板部５５１ａの第一庇部５５１ｄａに向けて照射されていることから、切り欠き部５５３ａａを介して主誘導部５５３ａから外部へ落下した遊技球Ｂの金属粉が、下方に位置する天板部５５１ａの第一庇部５５１ｄａに付着している場合には、パチンコ機１の後方から透明部材である天板部５５１ａの第一庇部５５１ｄａを視認すると、その金属粉が黒点のように浮かび上がり、金属粉に対する視認性が良好なものとなっている。これにより、天板部５５１ａの第一庇部５５１ｄａに金属粉が付着しているかどうかを容易に確認することができ、天板部５５１ａの第一庇部５５１ｄａから金属粉を除去する作業についても、効率よく行うことができる。
【３３３２】
なお、上記については、パチンコ機１の外枠３に対して本体枠４が閉鎖された状態であっても、その閉鎖されたパチンコ機１の後方におけるタンクレール５５３の透明部位付近の発光領域Ｌ１が明るいことから、島設備の背面側にある他のパチンコ機１の本体枠４を開放することで、閉鎖されたパチンコ機１において、遊技球Ｂの摩耗により生じた金属粉が、タンクレール５５３の主誘導部５５３ａや、天板部５５１ａの第一庇部５５１ｄａに付着しているかどうかを容易に確認することができる。なお、パチンコ機１の裏上前回転装飾体３４１０及び裏上前装飾体３４２１、裏上後回転装飾体３４４０及び裏上後装飾体３４５１、裏後可動装飾体３１１０のＬＥＤからの光は、タンクレール５５３の透明部位付近の発光領域Ｌ１に向けて照射されているが、パチンコ機１の裏面側のメンテナンス中において、ＬＥＤの光源が直視されることは望ましくないことから、パチンコ機１の裏面側を明るくするようにしたＬＥＤからの光については、ＬＥＤの光源が直視されない間接光となるように構成している。
【３３３３】
また、金属粉の付着を確認した後、タンクレール５５３の主誘導部５５３ａや、天板部５５１ａの第一庇部５５１ｄａから金属粉を除去する際には、パチンコ機１の後方におけるタンクレール５５３の透明部位付近の発光領域Ｌ１を明るくしている発光装飾体（裏上前回転装飾体３４１０及び裏上前装飾体３４２１、裏上後回転装飾体３４４０及び裏上後装飾体３４５１、裏後可動装飾体３１１０）からの光が、その除去する作業の妨げとなることも考えられる。このため、他のパチンコ機１の本体枠４を開放することで金属粉の付着を確認した後、金属粉を除去したいパチンコ機１の本体枠４を開放した場合には、パチンコ機１の後方におけるタンクレール５５３の透明部位付近の発光領域Ｌ１を明るくしている発光装飾体（裏上前回転装飾体３４１０及び裏上前装飾体３４２１、裏上後回転装飾体

３４４０及び裏上後装飾体３４５１、裏後可動装飾体３１１０）のＬＥＤを消灯し、パチンコ機１の裏面側を明るくしないように構成してもよい。加えて、発光領域Ｌ１を明るくしている発光装飾体だけでなく、その他、金属粉を除去する作業の妨げとなりうるＬＥＤの光を消灯するようにしてもよい。これにより、パチンコ機１の裏面側を明るくするようにしたＬＥＤからの光が、金属粉を除去する作業の妨げとなることを防止することができる。

【３３３４】

ただし、ホール環境によっては、ホールそのものが暗く、金属粉の除去等、パチンコ機１をメンテナンスする際に、パチンコ機１の裏面側が明るいほうが好ましい場合もある。そこで、パチンコ機１の本体枠４を開放した状態において、任意で、パチンコ機１の後方におけるタンクレール５５３の透明部位付近の発光領域Ｌ１を明るくする発光装飾体（裏上前回転装飾体３４１０及び裏上前装飾体３４２１、裏上後回転装飾体３４４０及び裏上後装飾体３４５１、裏後可動装飾体３１１０）のＬＥＤの発光を開始可能にした発光開始スイッチを設けるようにしてもよい。このような発光開始スイッチは、本体枠４を開放した状態でしか操作できない位置に設けられている。これにより、パチンコ機１の本体枠４を開放した状態において、パチンコ機１の裏面側を明るくするＬＥＤの発光を開始するかどうかをホール管理者が自在に操作することができ、ホール環境に合わせることができる。

【３３３５】

また、タンクレール５５３は、透明な素材（ポリカーボネート樹脂等）で成型されており、外側から内部を視認することができるように構成されている。これにより、仮に、タンクレール５５３内において球詰り（球ガミ）が発生しても、外側からタンクレール５５３内の遊技球Ｂの状態を見ることができるため、球詰りしている場所を素早く特定することができる。したがって、タンクレール５５３内での球詰りを、素早く解消させることができるため、球詰りの発生による遊技の中断を可及的に短くすることができ、遊技の中断による遊技者の遊技に対する興趣の低下を抑制させることができる。また、タンクレール５５３を透明にしていることから、後方からタンクレール５５３を通して本体枠４に取付けられている遊技盤５の後側（裏ユニット３０００）を視認することができるため、遊技盤５の可動演出ユニット等において可動の不具合が発生した時に、遊技盤５を本体枠４に取付けたままの状態で、駆動モータやギアやベルト等の伝達機構の状況を確認することができ、上述した相用効果と同様の作用効果を奏することができる。

【３３３６】

本例のパチンコ機１では更に、本体枠４に組立てた状態で、裏カバー６４０が周辺制御ユニット１５００のカバー体１５０１の後方の少なくとも一部を覆うように第一庇部５５１ｄａとの当接部から下方に延設されているため、切り欠き部５５３ａａを介して主誘導部５５３ａから外部へ落下して天板部５５１ａの第一庇部５５１ｄａに付着した遊技球Ｂの金属粉が天板部５５１ａの第一庇部５５１ｄａから落下した場合に、この金属粉が遊技盤５の遊技パネル１１００の後側（裏ユニット３０００の裏箱３０１０の後面に取付けられている演出表示装置１６００の後側）に取り付けられる周辺制御ユニット１５００のカバー体１５０１、及びベース体１５０２へ向かって落下すること、ひいては天板部５５１ａの第一庇部５５１ｄａから落下した遊技球Ｂの金属粉が周辺制御ユニット１５００のカバー体１５０１内に進入することを抑制して、遊技球Ｂの金属粉が周辺制御基板１５１０に付着することによる電気的なトラブルの発生を抑制できるようになっている。

【３３３７】

このように、払出ベース５５１の天板部５５１ａ、及び裏カバー６４０は、主誘導部５５３ａに複数形成される切り欠き部５５３ａａを介して主誘導部５５３ａから外部へ落下した遊技球Ｂの金属粉が遊技盤５の遊技パネル１１００の後側（裏ユニット３０００の裏箱３０１０の後面に取付けられている演出表示装置１６００の後側）に取り付けられる周辺制御ユニット１５００へ向かって落下することを防止することができる庇やカバー（覆い）として機能している。したがって、タンクレール５５３からの遊技球Ｂの金属粉による電気的なトラブルを防止することができる。

【３３３８】
また、本例のパチンコ機１では切り欠き部５５３ａａの下方に第一庇部５５１ｄａが設けられるため、裏カバー６４０の閉鎖時だけでなく裏カバー６４０の開放時にも切り欠き部５５３ａａを介して主誘導部５５３ａから外部へ落下した遊技球Ｂの金属粉が第一庇部５５１ｄａにおいて受けられて付着させることができ、切り欠き部５５３ａａを介して主誘導部５５３ａから外部へ落下した遊技球Ｂの金属粉が周辺制御ユニット１５００のカバー体１５０１、及びベース体１５０２へ向かって落下すること、ひいては切り欠き部５５３ａａを介して主誘導部５５３ａから外部へ落下した遊技球Ｂの金属粉が周辺制御ユニット１５００のカバー体１５０１内に進入することを抑制して、遊技球Ｂの金属粉が周辺制御基板１５１０に付着することによる電気的なトラブルの発生を抑制できるようになっている。
【３３３９】
なお、上記した例では本体枠４に組立てた状態では、裏カバー６４０の上端部が第一庇部５５１ｄａの後面に当接した状態となっているが、裏カバー６４０の上端部と第一庇部５５１ｄａとを離間して配置するようにしてもよい。即ち、裏カバー６４０と第一庇部５５１ｄａとが協働して切り欠き部５５３ａａを介して主誘導部５５３ａから外部へ落下した遊技球Ｂの金属粉が周辺制御ユニット１５００のカバー体１５０１内に進入することを抑制するものであれば裏カバー６４０と第一庇部５５１ｄａとの配置形態は問わない。
【３３４０】
また、本実施形態では、タンクレール５５３の樋状の主誘導部５５３ａに複数形成される切り欠き部５５３ａａと、遊技盤５の遊技パネル１１００の後側（裏ユニット３０００の裏箱３０１０の後面に取付けられている演出表示装置１６００の後側）に取り付けられる周辺制御ユニット１５００のカバー体１５０１と、がパチンコ機１の前後方向にズレ（本実施形態では、遊技球Ｂの直径の約２分の１の距離寸法だけズレ）た配置となっていることにより（つまり、切り欠き部５５３ａａの真下に周辺制御ユニット１５００が配置されない構造となっていることにより）、タンクレール５５３からの遊技球Ｂの金属粉による電気的なトラブルを防止することができる金属粉対策に効果がある。
【３３４１】
また、カバー体１５０１に複数形成される通風孔１５０１ａｚは、カバー体１５０１の後面（後述するカバー平板）に設けられているのに対して、カバー体１５０１（後述するカバー平板）の上辺、左辺、下辺、及び右辺にそれぞれ設けられる各カバー側壁に設けられていないため、仮に、カバー体１５０１の上側壁（後述するカバー平板の上辺に形成されるカバー側壁）に遊技球Ｂの金属粉が付着してもカバー体１５０１の内部へ侵入することが困難とすることができるようになっている。
【３３４２】
なお、カバー体１５０１のカバー平板の上辺、左辺、下辺、及び右辺にそれぞれ設けられるカバー側壁１５０１ｂ～１５０１ｅのうち、上辺に設けられるカバー側壁１５０１ｂを除いて、いずれかに一つまたは組み合わせて通風孔１５０１ａｚを複数形成してもよい。例えば、左辺に設けられるカバー側壁１５０１ｃにのみ通風孔１５０１ａｚを複数形成してもよいし、下辺に設けられるカバー側壁１５０１ｄのみに通風孔１５０１ａｚを複数形成してもよいし、右辺に設けられるカバー側壁１５０１ｅのみに通風孔１５０１ａｚを複数形成してもよいし、カバー平板１５１０ａ、左辺、下辺、及び右辺にそれぞれ設けられるカバー側壁１５０１ｃ～１５０１ｅのうち複数組み合わせて通風孔１５０１ａｚをそれぞれ複数形成してもよい。このように構成しても、この通風孔１５０１ａｚを介して、周辺制御基板ボックス１５０５の内部へ向かって遊技球Ｂによって生ずる異物（例えば、遊技球Ｂの摩耗により生じた金属粉）が落下して侵入することを防止することができる。これにより、周辺制御基板ボックス１５０５の各種基板への落下異物による電気的なトラブルを防止することができる。したがって、タンクレール５５３からの落下異物による電気的なトラブルを防止することができる。なお、上辺に設けられるカバー側壁１５０１ｂに通風孔１５０１ａｚを形成しない理由としては、仮に、上辺に設けられるカバー側壁１５

０１ｂに通風孔１５０１ａｚを形成すると、この通風孔１５０１ａｚを介して、周辺制御基板ボックス１５０５の内部へ向かって遊技球Ｂによって生ずる異物（例えば、遊技球Ｂの摩耗により生じた金属粉）が落下して侵入することにより、周辺制御基板ボックス１５０５の各種基板への落下異物による電気的なトラブルが生ずる蓋然性が高くなるからである。

【３３４３】

また、カバー体１５０１の上面に通風孔１５０１を設けない場合には、他の面に設けられる通風孔１５０１の数を増やしたり通風孔１５０１の面積を広げたりすることで放熱機能を補填するようにしてもよい。これにより、周辺制御基板ボックス１５０５の温度上昇を抑制することに寄与することができ、熱暴走等の電気的なトラブルが発生することを抑制できる。

【３３４４】

また、パチンコ機１に取り付けた状態におけるカバー体１５０１の上面は略水平な状態となっている。そのため、切り欠き部５５３ａａを介して遊技球Ｂの金属粉が主誘導部５５３ａから外部へ落下してカバー体１５０１の上面に付着した場合に、この金属粉をカバー体１５０１の上面に留めることができる。これによってカバー体１５０１の内部に遊技球Ｂの金属粉が進入することを抑制できる。なお、カバー体１５０１に形成される通風孔１５０１ａｚに向けて遊技球Ｂの金属粉を落下させないものであればカバー体１５０１の上面の一部又は全部を傾斜させた状態としてもよい。

【３３４５】

また、タンクレール５５３の下方に配置される第一庇部材５５１ａを、別部材（別の構造部品）として天板部５５１ａに取付けるようにしてもよい。

【３３４６】

また、天板部５５１ａの第一庇部５５１ｄａ又は／及び裏カバー６４０によって周辺制御ユニット１５００のカバー体１５０１の上部や後方を覆っている場合や、タンクレール５５３の樋状の主誘導部５５３ａに複数形成される切り欠き部５５３ａａと、周辺制御ユニット１５００のカバー体１５０１と、をパチンコ機１の前後方向にズレた配置とした場合など、主誘導部５５３ａに複数形成される切り欠き部５５３ａａを介して主誘導部５５３ａから外部へ落下した遊技球Ｂの金属粉が周辺制御ユニット１５００のカバー体１５０１に向かう蓋然性が低い場合には、パチンコ機１に取り付けた状態におけるカバー体１５０１の上面の一部（例えばカバー体１５０１の角部、カバー体１５０１の上面の大半は閉じられているものの一部については通風孔１５０１ａｚが形成されている等）に通風孔１５０１ａｚを設けてもよい。

【３３４７】

また、本技術思想は切り欠き部５５３ａａを介して主誘導部５５３ａから外部へ落下した遊技球Ｂの金属粉が周辺制御ユニット１５００のカバー体１５０１内に進入することを完全に防ぐものに限らず、従来のパチンコ機に比べて切り欠き部５５３ａａを介して主誘導部５５３ａから外部へ落下した遊技球Ｂの金属粉が周辺制御ユニット１５００のカバー体１５０１内に進入することを抑制するものであればよく、例えばパチンコ機１に取り付けた状態におけるカバー体１５０１の上面の一部（例えばカバー体１５０１の角部、カバー体１５０１の上面の大半は閉じられているものの一部については通風孔１５０１ａｚが形成されている等）に通風孔１５０１ａｚを設けるものも本技術思想に該当する。

【３３４８】

また、周辺制御ユニット１５００におけるカバー体１５０１には、複数のスリット孔が形成されている。また、カバー体１５０１は、その下辺側に沿って、カバー体１５０１の内側に取り付けられる周辺制御基板１５１０に備える後述する７つのコネクタ、及び音量調整スイッチと対応する位置に、７つのコネクタ穴、及び音量調整穴がそれぞれ形成されていると共に、後述する液晶出力基板に備える２つのコネクタと対応する位置に、２つのコネクタ穴がそれぞれ形成されている。カバー体１５０１の内側に周辺制御基板１５１０が取り付けられた状態では、周辺制御基板１５１０に備える７つのコネクタと、カバー体１

５０１に形成される７つのコネクタ穴と、にすき間が形成されて、これらの７つコネクタ穴から周辺制御基板１５１０に備える７つのコネクタがそれぞれ露出すると共に、周辺制御基板１５１０に備える音量調整スイッチと、カバー体１５０１に形成される音量調整穴と、にすき間が形成されて、この音量調整穴から周辺制御基板１５１０に備える音量調整スイッチが露出する。また、カバー体１５０１の内側に後述する液晶出力基板が取り付けられた状態では、液晶出力基板に備える２つのコネクタと、カバー体１５０１に形成される２つのコネクタ穴と、にすき間が形成されて、これらの２つコネクタ穴から液晶出力基板に備える２つのコネクタがそれぞれ露出する。

【３３４９】

周辺制御ユニット１５００におけるカバー体１５０１は、周辺制御ユニット１５００の外部から空気を、カバー体１５０１に複数形成される通風孔１５０１ａｚ、そしてカバー体１５０１とベース体１５０２との空間内に収容されるシールド板１５４０に複数形成される通風孔１５４０ａｚを介して、取り込むと共に、上述したすき間（周辺制御基板１５１０に備える７つのコネクタと、カバー体１５０１に形成される７つのコネクタ穴と、に形成されるすき間、周辺制御基板１５１０に備える音量調整スイッチと、カバー体１５０１に形成される音量調整穴と、に形成されるすき間、そして液晶出力基板に備える２つのコネクタと、カバー体１５０１に形成される２つのコネクタ穴と、に形成されるすき間）を介して、取り込むこととなる。

【３３５０】

因みに、周辺制御ユニット１５００におけるカバー体１５０１が、周辺制御ユニット１５００の外部の空気を取り込むときには、遊技球Ｂの金属粉という重い粉が空気の流れの影響を受けてカバー体１５０１の内側空間へ向かって吸い込まれる蓋然性が高くなり、吸い込んだ金属粉による電気的なトラブル（短絡）により、カバー体１５０１の内側に取り付けられる周辺データＲＯＭ基板１５２０、及び液晶出力基板１５３０等の各種基板に備える各種電子部品等に不具合（故障）が生ずることとなる。

【３３５１】

本例のパチンコ機１では、このような電気的なトラブル（短絡）を防止するために、周辺制御ユニット１５００におけるカバー体１５０１の上辺に沿って第一庇部５５１ｄａを形成することにより、遊技球Ｂの金属粉という重い粉がカバー体１５０１に複数形成される通風孔１５０１ａｚから周辺制御ユニット１５００のカバー体１５０１内に吸い込まれることを防止する庇としての機能を有するように構成することができる。なお、周辺制御ユニット１５００の構成についての詳細な説明を後述する。

【３３５２】

また、上述した実施形態では、タンクレール５５３における主誘導部５５３ａに切り欠き部５５３ａａを複数形成して遊技球Ｂの摩耗により生じた金属粉を主誘導部５５３ａから取り除くことができるように構成されていたが、遊技球Ｂが転動する球通路に対して切り欠き部５５３ａａと同様一の切り欠き部、孔、又は溝を形成してもよい。具体的には、タンクレール５５３からの遊技球Ｂを蛇行状に下方へ誘導する１条の誘導通路５７０ａを有する球誘導ユニット５７０において、誘導通路５７０ａにおける遊技球Ｂの金属粉を誘導通路５７０ａから外部へ取り除くことができる切り欠き部、孔、又は溝を誘導ユニット５７０の誘導ユニットベース５７１の後面に形成することができる。球誘導ユニット５７０の下方には、払出装置５８０、そして基板ユニット６２０等が配置されており、払出装置５８０は羽根回転検知センサ５９０が実装される基板等を有し、基板ユニット６２０は電源基板６３０、払出制御基板６３３、インターフェイス基板６３５等を有し、各種基板が配置されている。このため、誘導ユニットベース５７１の後面に切り欠き部、孔、又は溝を形成する場合には、誘導ユニットベース５７１の後面に形成される切り欠き部、孔、又は溝を介して落下する遊技球Ｂの金属粉が誘導ユニット５７０の下方に配置される各種基板へ付着することを防止する必要がある。そこで、払出装置５８０の払出装置後蓋５８２の上辺に沿って庇状の部材を後方へ向かって突出して形成して構成することができるし、誘導ユニットベース５７１の後面に形成される切り欠き部、孔、又は溝の位置と、払出装

置５８０における羽根回転検知センサ５９０が実装される基板等の各種基板の位置と、をズラして構成することができるし、両者を採用して構成することもできる。また、電源基板６３０の電源基板カバー６３１、払出制御基板６３３の払出制御基板ボックス６３２、インターフェイス基板６３５のインターフェイス基板カバー６３６等の上辺に沿って庇状の部材を後方へ向かって突出して形成して構成することができるし、誘導ユニットベース５７１の後面に形成される切り欠き部、孔、又は溝の位置と、電源基板カバー６３１、払出制御基板ボックス６３２、及びインターフェイス基板カバー６３６の位置と、をズラして構成することができるし、両者を採用して構成することもできる。

【３３５３】

［ドットマトリクス表示器］

次に、重要な機能を有する表示部として用いられるＬＥＤを搭載する基板について説明する。本例において重要な機能を有する表示部とは、遊技者の利益に関わる情報（例えば特別抽選結果、大当りや小当りの種類、特定の大当り（確変大当りや１５Ｒ大当り等）か否か、高確率状態の制御を実行しているか否か、時短制御を実行しているか否か等）を表示するものを示す。なお、上記したもの以外にも遊技者や遊技店の利益に関わる情報を表示するＬＥＤや、遊技の進行に関わる重要な情報を表示するＬＥＤを実装する基板を有する表示部を、重要な機能を有する表示部としてもよい。

【３３５４】

図３１４に示すようにこの例では、裏上演出ユニット３４００に代えて重要な機能を有する表示部としてのドットマトリクス表示器７０００を設けている。また図３１５（Ａ）に示すようにドットマトリクス表示器７０００は、透光性を有しない有色不透明（本例では白色）の樹脂等によって形成されるケース７１００と、ケース７１００内に設けられる基板７２００と、基板７２００の表面（前面）に配列して実装される複数のＬＥＤ７００１と、基板７２００の裏面（後面：ＬＥＤ非実装面）に実装されるコネクタ７００２と、ケース７１００の前面側に貼着されるフィルム７３００と、を有している。なお、基板７２００の表面に実装されている複数のＬＥＤ７００１は、多色発光可能なフルカラーＬＥＤであり、ＬＥＤパッケージに封入されるＬＥＤベアチップが基板７２００の表面（ＬＥＤ実装面）に直接実装されている。また、有色不透明な樹脂としては、白色のほかに、黒色、灰色、赤色、桃色、空色、青色、緑色、黄色等の樹脂であってもよい。

【３３５５】

また、ドットマトリクス表示器７０００の基板７２００に実装される複数のＬＥＤ７００１はそれぞれ別系統に分けられており、複数のＬＥＤ７００１を個々に独立して発光制御できるようになっている。これにより、ドットマトリクス表示器７０００の基板７２００に実装される複数のＬＥＤ７００１のうち所定のＬＥＤ７００１を発光させることで様々な文字や記号、図形などを表示することができるようになっている。なお、ＬＥＤを実装する基板が設けられて上記変動演出に関連して発光制御する発光装飾体（裏下中回転装飾体３３１０、裏上後回転装飾体３４４０、裏後左回転装飾体３５１０、裏後右回転装飾体３６１０、裏後可動装飾体３１１０、裏上前回転装飾体３４１０、裏上前装飾体３４２１、裏前左装飾体３７１３、裏前右装飾体３８１３等）等では、所定数（２個以上）のＬＥＤからなるグループ毎に発光制御されるようになっており、このグループに含まれる複数のＬＥＤを発光させることで発光装飾体の特定の領域（発光装飾体の全体でもよいし、一部でもよい）を面発光させるようになっている。本例のパチンコ機１では特別図柄（第１特別図柄、第２特別図柄）の抽選結果に基づいてドットマトリクス表示器７０００の基板７２００に実装される複数のＬＥＤ７００１それぞれを発光制御して所定の文字や記号、図形などを表示する。

【３３５６】

また、ドットマトリクス表示器７０００の表面（後述する表面カバー部７１１０の表面）には一部が半透明（本例では白濁した摺りガラス状）とされる透光性のフィルム７３００が貼着され、ＬＥＤ７００１の点灯状態をフィルム７３００を介して視認させるようになっている。なおドットマトリクス表示器７０００の前側にフィルム７３００を貼着せずに

、別の装飾部材の表面にフィルムを貼着したり別の装飾部材の表面に印刷したりするとともに、この装飾部材の後方にドットマトリクス表示器７０００を配置して別の装飾部材を介してＬＥＤ７００１の点灯状態を視認させるようにしてもよい。また、ドットマトリクス表示器７０００の前側にフィルム７３００を設けないようにしてもよいが、フィルム７３００を介してＬＥＤ７００１から照射される光を視認可能にすることで光源であるＬＥＤ７００１が直接視認されないようにして遊技者に眩しく感じさせないようにすることができるとともに、複数のＬＥＤ７００１をフィルム７３００によって個々に面発光させることができるため、複数のＬＥＤ７００１が発光したときに光源を目立ち難くすることができる。

【３３５７】

上記したように本例では発光装飾体に設けられて変動演出に関連して発光制御することで発光装飾体の特定の領域を面発光させるＬＥＤを実装する基板には、実装されているＬＥＤによる発光が基板の前面（ＬＥＤ実装面）において反射する効率を高めて輝度を向上させるように最も反射率の高い白色のレジスト液が塗布されて白色塗膜（ベタ塗りされた白色のレジスト、白色のレジスト層）が形成されている（白色のレジスト処理がなされている）。一方、本例のドットマトリクス表示器７０００のケース７１００内に設けられて複数のＬＥＤ７００１を個々に面発光させるＬＥＤ７００１を実装する基板７２００には、最も反射率の低い黒色のレジスト液が塗布されて黒色塗膜（ベタ塗りされた黒色のレジスト、黒色のレジスト層）が形成されている（黒色のレジスト処理がなされている）。これにより、ドットマトリクス表示器７０００による発光が基板７２００の前面（ＬＥＤ実装面）において反射する効率は低下するものの、ＬＥＤ７００１から直接前方（ＬＥＤの照射方向、基板７２００の正面方向）に向けて照射する光と基板７２００から反射して前方に向けて照射する光との干渉が抑制されて基板７２００に実装される複数のＬＥＤ７００１それぞれの発光を明瞭に視認できるようになっている。このように、本例ではＬＥＤを実装する基板の反射率を高めるために通常は白色のレジスト処理をして輝度を高めるようにするものの、複数のＬＥＤが個々に独立して発光制御されて１つ１つが重要な機能を有する複数のＬＥＤを実装する基板、本例ではドットマトリクス表示器７０００のＬＥＤ７００１が実装される基板７２００については、ＬＥＤを実装する他の基板とは異なる色の塗膜が形成されるようになっており、この基板に形成される塗膜（レジスト）の色によって当該基板に実装されているＬＥＤの役割を判別できるようになっている。すなわち、重要な機能を有するＬＥＤを実装する基板であるか否かを容易に判別することができるようにしている。

【３３５８】

このように、本例では上記変動演出に関連して複数のＬＥＤをグループ毎に発光制御する発光装飾体に設けられる基板のように、発光装飾体の輝度を向上させたいような基板については白色のレジスト処理をし、複数のＬＥＤを個々に独立して発光制御するドットマトリクス表示器７０００に設けられる基板７２００のように、実装される複数のＬＥＤ７００１それぞれの発光を明瞭に視認させたいような基板７２００については黒色のレジスト処理をするため、発光装飾体に設けられる基板については実装されるＬＥＤによって照射される光の反射率を高めてＬＥＤの発光時に発光装飾体の輝度の低下を抑制できるため、演出表示装置１６００で実行される変動演出の演出効果を向上させることができる。また、ドットマトリクス表示器７０００については複数のＬＥＤ７００１の発光時に光の反射を抑制してＬＥＤ７００１から直接前方に向けて照射する光と基板７２００から反射して前方に向けて照射する光との干渉を抑制できるとともに、黒色塗膜が形成されるＬＥＤ実装面との対比により複数のＬＥＤ７００１個々の発光を明瞭に視認させることができるようになっている。また、個々に発光制御されて遊技の進行に関わる重要な情報（例えば特別抽選結果）を表示するドットマトリクス表示器７０００に設けられる基板７２００と、所定数のＬＥＤ単位（所定数のＬＥＤからなるグループ毎）で発光制御されて遊技の進行に関わる重要な情報を表示しない（まれに表示するものであってもよい）発光装飾体に設けられる基板と、の異なる用途（特別抽選結果を示す用途と、演出表示装置１６００で実

行される変動演出を盛り上げるため（演出効果を向上させるため）の用途等）の基板のＬＥＤ実装面の色を異ならせることで、不具合が生じた基板に実装されるＬＥＤ等の発光手段が重要な情報を表示するものであるか否かの判別や、ＬＥＤの制御単位（所定数のＬＥＤ毎に制御されるか単独で制御されるか）の判別が容易となり、遊技の進行に関わる重要な情報を表示する発光手段に不具合が生じた場合に迅速に対応することができるようになるため、遊技興趣の低下を抑止できる。

【３３５９】

なお、上記した例ではドットマトリクス表示器７０００のケース７１００内に設けられる基板７２００として、黒色のレジスト液が塗布されて黒色塗膜が形成されるものを示したが、ドットマトリクス表示器７０００のケース７１００内に設けられる基板７２００に実装される複数のＬＥＤ７００１それぞれの発光を明瞭に視認できるようにするものであれば、黒色のレジスト液に限らず、例えば紫色や濃紺色、深緑色等の暗色のレジスト液を塗布して暗色塗膜（ベタ塗りされた暗色（紫色や濃紺色、深緑色等）のレジスト、暗色（紫色や濃紺色、深緑色等）のレジスト層）を形成するようにしてもよい。ただし、黒色のレジスト液を塗布して黒色塗膜が形成される基板は黒色以外の暗色のレジスト液を塗布して暗色塗膜が形成される基板に比べて反射率が低いため、黒色以外の暗色のレジスト液を塗布して暗色塗膜が形成される基板よりも、黒色のレジスト液を塗布して黒色塗膜が形成される基板の方がＬＥＤ７００１から直接前方に向けて照射する光と基板７２００から反射して前方に向けて照射する光との干渉を抑制でき、ＬＥＤ７００１それぞれの発光を明瞭に視認できるようになる。また、少なくとも基板７２００のＬＥＤ７００１を実装する面（ＬＥＤ実装面）に上記暗色塗膜を形成するものであればよく、基板７２００のＬＥＤ７００１を実装していない裏面（ＬＥＤ非実装面）には上記暗色塗膜とは異なる塗膜（例えば白色等の明色のレジスト液を塗布した明色塗膜）を形成するようにしてもよい。また、基板のＬＥＤ実装面とＬＥＤ非実装面とでレジスト処理の色を同一としてもよいし、基板のＬＥＤ実装面とＬＥＤ非実装面とでレジスト処理の色を異ならせるようにしてもよい。さらに、基板７２００のＬＥＤ実装面に形成される塗膜はレジスト液を塗布（ベタ塗り）したものに限らず、絶縁性の塗料を基板７２００（レジスト液の塗膜上にシルク印刷するものであってもよいし、レジスト液の塗膜を形成することなく直接基板７２００の表面にシルク印刷するものでもよい）のＬＥＤ実装面にシルク印刷（ベタ塗り）することで形成されるものであってもよい。

【３３６０】

また、図３１５（Ｂ）に示すように、ケース７１００は基板７２００の前面側の表面カバー部７１１０と基板７２００の裏面側の裏面カバー部７１２０とから構成され、表面カバー部７１１０と裏面カバー部７１２０とによって基板７２００を挟み込むようにしてケース７１００の内部に収容するようになっている。また、基板７２００のＬＥＤ実装面（基板７２００の前面）を覆う表面カバー部７１１０は、所定の厚み（本例では約５ｍｍ）を有するとともに、基板７２００に実装されるＬＥＤ７００１それぞれに対応するように筒状の貫通部７１１０ａが形成され、この貫通部７１１０ａ内に１個のＬＥＤ（１個のＬＥＤ素子）だけが配置されるように基板７２００を表面カバー部７１１０に密着させ、この状態で基板７２００を表面カバー部７１１０に固定する（取り付ける）ようになっている。これにより、基板７２００に実装される複数のＬＥＤ７００１がそれぞれ別々の貫通部７１１０ａ内に配置されるように基板７２００の前面（ＬＥＤ実装面）を区画して、複数のＬＥＤ７００１それぞれから照射される光が他の貫通部７１１０ａや基板７２００の後面側に漏れることが抑制されて、複数のＬＥＤ７００１それぞれから照射される光の干渉を抑制できるため、複数のＬＥＤ７００１それぞれから照射される光を個々に貫通部７１１０ａから放射でき、複数のＬＥＤ７００１から照射される光を個々に識別し易くなる。例えば、複数のＬＥＤ７００１のうちの第１のＬＥＤと第２のＬＥＤとを異なる色に発光させた場合であっても、これらの色が混ざってしまうことを抑制して複数のＬＥＤ７００１の発光色を個々に識別できるため、ドットマトリクス表示器７０００に表示する情報が、本来の情報とは異なって遊技者に伝わってしまうことを抑制できる。

【３３６１】
また、ケース７１００内に収容される基板７２００のＬＥＤ実装面には、複数のＬＥＤ７００１の他に、複数のＬＥＤ７００１それぞれの近傍に、ＬＥＤの部品番号や、ＬＥＤを配置する位置を示す領域等のＬＥＤの属性（さらに、ＬＥＤの形状、ＬＥＤの大きさ、ＬＥＤの実装向き（実装方向）、ＬＥＤの型式を含む場合がある。）を示す表記部が、黒色に対して目立ち易い白色（白色に限らず、反射率の高い明色（例えば黄色）であってもよい）の塗料で、ベタ塗りされた黒色のレジスト上にシルク印刷されている。そして、本例では貫通部７１１０ａ内にこのシルク印刷された表記部も含まれるように基板７２００のＬＥＤ実装面を区画するようになっている。具体的には、貫通部７１１０ａ内に１個のＬＥＤと、この１個のＬＥＤの近傍にシルク印刷されてこのＬＥＤの部品番号等を示す表記部と、が配置されるようになっている（表記部の全てが貫通部７１１０ａ内に収まるように配置するものでもよいし、表記部の一部が貫通部７１１０ａ内に収まるように配置するものでもよい）。これにより、最も反射率の高い白色の塗料でシルク印刷されて貫通部７１１０ａ内に配置する表記部によって基板７２００における貫通部７１１０ａの内側の領域（１個のＬＥＤ７００１が配置される領域）の反射率を高めることができ、ＬＥＤ７００１の発光時に貫通部７１１０ａ内の輝度の低下をさらに抑制できるため、１個のＬＥＤ７００１による発光を明瞭に視認させることができる。また、上記したように基板７２００のＬＥＤ実装面には最も反射率の低い黒色のレジストがベタ塗りされているため、貫通部７１１０ａの外側の領域については反射率の低い状態を維持することができ、仮に貫通部７１１０ａ内に配置するＬＥＤ７００１からの光が貫通部７１１０ａ外に漏れたとしてもこの光が拡散することを防止できる。この場合には、基板７２００における貫通部７１１０ａの外側の領域に占める表記部の割合を極力減らす（表記部の大半が貫通部７１１０ａ内に収まっていて一部が貫通部７１１０ａ外にわずかにはみ出すように配置される等）ようにすることで、光の拡散の防止効果をさらに高めることができる。
【３３６２】
なお、ケース７１００内に収容される基板７２００のＬＥＤ実装面に表記部をシルク印刷しないようにしてもよく、この場合にはＬＥＤ７００１の発光時に貫通部７１１０ａ内の輝度の低下を抑制する効果は弱まるものの、貫通部７１１０ａ内に配置するＬＥＤ７００１からの光が貫通部７１１０ａ外に拡散することを防止できる。この場合には、基板７２００の複数のＬＥＤ７００１が実装されないＬＥＤ非実装面（裏面）に表記部をシルク印刷してもよく、これにより貫通部７１１０ａ内に配置するＬＥＤ７００１からの光が貫通部７１１０ａ外に拡散することを防止できることに加えて、ＬＥＤの部品番号や、ＬＥＤを配置する位置を示す領域等のＬＥＤの属性の把握が容易になる。
【３３６３】
また、ケース７１００内に収容される基板７２００のＬＥＤ実装面のうち貫通部７１１０ａに対応する領域（貫通部７１１０ａの内側の領域）については白色（白色に限らず、反射率の高い明色（例えば黄色）であってもよい）とすることで反射率を向上させるようにしてもよい。例えば図３１５（Ｃ）に示すように、基板７２００のＬＥＤ実装面に黒色のレジスト液を塗布してレジスト層７２００Ａを形成し、基板７２００のＬＥＤ実装面のうち貫通部７１１０ａに対応する領域（貫通部７１１０ａの内側の領域）部分をレジスト層７２００Ａの上から白色塗料でベタ塗り（シルク印刷）してシルク印刷層７２００Ｂを形成するようにしてもよいし、図３１５（Ｄ）に示すように、基板７２００のＬＥＤ実装面に白のレジスト液を塗布してレジスト層７２００Ａを形成し、基板７２００のＬＥＤ実装面のうち貫通部７１１０ａに対応する領域（貫通部７１１０ａの内側の領域）部分を除いてレジスト層７２００Ａの上から黒色塗料でベタ塗り（シルク印刷）してシルク印刷層７２００Ｂを形成するようにしてもよい。
【３３６４】
すなわち、図３１５（Ｃ）では基板７２００のＬＥＤ実装面のうち貫通部７１１０ａに対応する領域の周囲に黒色のレジスト層７２００Ａが形成されるとともに、貫通部７１１０ａに対応する領域に白色のシルク印刷層７２００Ｂが形成される。また、図３１５（Ｄ）

では基板７２００のＬＥＤ実装面のうち貫通部７１１０ａに対応する領域の周囲に黒色のシルク印刷層７２００Ｂが形成されるとともに、貫通部７１１０ａに対応する領域に白色のレジスト層７２００Ａが形成される。このように、基板７２００のＬＥＤ実装面のうち貫通部７１１０ａに対応する領域の周囲に黒色の塗膜（黒色のレジスト層７２００Ａ、黒色のシルク印刷層７２００Ｂ）を形成し、貫通部７１１０ａに対応する領域に白色の塗膜（白色のシルク印刷層７２００Ｂ、白色のレジスト層７２００Ａ）を形成することで、基板７２００のＬＥＤ実装面のうち貫通部７１１０ａに対応する領域（１個のＬＥＤ７００１が配置される貫通部７１１０ａの内側の領域）の反射率を高めることができるため、ＬＥＤ７００１の発光時に貫通部７１１０ａ内の輝度の低下をさらに抑制して１個のＬＥＤ７００１による発光を明瞭に視認させることができるし、基板７２００のＬＥＤ実装面のうち貫通部７１１０ａに対応する領域の周囲については反射率の低い状態を維持することができるため、仮に貫通部７１１０ａ内に配置するＬＥＤ７００１からの光が貫通部７１１０ａ外に漏れたとしてもこの光が拡散することを防止できる。またこの場合には上記した表記部をシルク印刷しないようにしてもよいし、基板７２００のＬＥＤ７００１が実装されない裏面（ＬＥＤ非実装面）に表記部をシルク印刷するようにしてもよいし、ＬＥＤ実装面のうち貫通部７１１０ａに対応する領域の周囲に形成される黒色のレジスト層７２００Ａ上又は黒色のシルク印刷層７２００Ｂ上に白色や黄色などの反射率の高い明色の塗料を用いて表記部をシルク印刷するようにしてもよいし、ＬＥＤ実装面のうち貫通部７１１０ａに対応する領域に形成される白色のレジスト層７２００Ａ上又は白色のシルク印刷層７２００Ｂ上に黄色等の反射率が高い明色の塗料を用いて表記部をシルク印刷するようにしてもよい。

【３３６５】

また、上記した特定の条件下で扉枠３に設けられているＬＥＤのうちの少なくとも一部のＬＥＤを通常よりも高輝度（通常の輝度：遊技者による輝度調節の結果が反映された輝度、通常よりも高輝度：遊技者による輝度調節の結果が反映された輝度よりも高い輝度、遊技者が輝度調節可能な輝度範囲の最大輝度、遊技者が輝度調節可能な輝度範囲よりも高輝度（遊技者が輝度調節で設定できない高輝度）のうちのいずれか）に発光制御した場合等においてもドットマトリクス表示器７０００に設けられる複数のＬＥＤ７００１については通常の輝度を維持した状態で発光制御しても複数のＬＥＤ７００１それぞれから照射される光を個々に識別させることが可能であるため、ドットマトリクス表示器７０００で表示される重要な情報を認識させることができる。また、上記した特定の条件下では裏前左装飾体ユニット３７１０の裏前左装飾基板３７１４に実装されているＬＥＤ、裏上演出ユニット３４００の裏上前装飾基板３４２２に実装されているＬＥＤ、裏前右装飾体ユニット３８１０の裏前右装飾基板３８１４に実装されているＬＥＤ、裏下右演出ユニット３２５０の裏下右装飾基板３２５３に実装されているＬＥＤ、裏下左演出ユニット３２００の裏下左装飾基板３２０３に実装されているＬＥＤ等の遊技盤５に設けられる複数の発光手段（ＬＥＤ）のうち一部の発光手段（ＬＥＤ）を消灯させるため、ガラス枠１６１の内側の明るさが低下してドットマトリクス表示器７０００に設けられる複数のＬＥＤの発光状態（表示される情報）を判別し易くなっている。なお、扉枠３に設けられているＬＥＤのうちの少なくとも一部のＬＥＤを通常よりも高輝度に発光制御し、遊技盤５に設けられる装飾体（可動装飾体（裏下中回転装飾体３３１０、裏上後回転装飾体３４４０、裏後左回転装飾体３５１０、裏後右回転装飾体３６１０、及び裏後可動装飾体３１１０）、裏前左装飾体ユニット３７１０、裏上演出ユニット３４００、裏前右装飾体ユニット３８１０、裏下右演出ユニット３２５０、裏下左演出ユニット３２００、等の重要な情報を表示しない装飾体（重要な情報を表示する機能表示ユニット１４００を除く））に設けられる発光手段（ＬＥＤ）を消灯し、演出表示装置１６００のバックライトとしてのＬＥＤと、ドットマトリクス表示器７０００に設けられているＬＥＤ７００１と、を通常の輝度を維持した状態で発光制御するようにしてもよく（例えば演出表示装置１６００の表示内容に注目させたい場合（スーパーリーチやエラー状態の発生時等））、この場合にはガラス枠１６１の内側の明るさをさらに低下させることができるため、ドットマトリクス表示器７００

０に設けられる複数のＬＥＤの発光状態（表示される情報）を判別し易くなる。
【３３６６】
また、貫通部７１１０ａ内に設けられるＬＥＤ７００１からの光を当該貫通部７１１０ａ外に漏らすことなしに、全ての光を貫通部７１１０ａの前方から放射させることができるため、貫通部７１１０ａ内の輝度の低下を抑制することができる。なお、基板７２００を表面カバー部７１１０に強固（取外し困難、溶着等により表面カバー部７１１０や基板７２００の少なくとも一部を破壊しなければ取外しできない不可逆的な取付状態等）に取り付けるようにしてもよく、これにより基板７２００のＬＥＤ実装面を表面カバー部７１１０によって保護することができるため、いたずら等によって基板７２００に実装されるＬＥＤ７００１に不具合が生じることが抑制される。
【３３６７】
また、基板７２００のコネクタ７００２が実装される裏面（後面）を覆う裏面カバー部７１２０の一部には、基板７２００の裏面（ＬＥＤ非実装面）に実装されるコネクタ７００２を露出させる開口部が形成されている。なお、上記したように貫通部７１１０ａ内に１個のＬＥＤだけが配置されるように基板７２００を表面カバー部７１１０に密着させた状態で表面カバー部７１１０に固定するため、基板７２００の後面側への光漏れが抑制されて、裏面カバー部７１２０に形成されるコネクタ７００２を露出させる開口部からＬＥＤ７００１の光が漏れないようになっている。
【３３６８】
上記したように本例では変動演出に関連して発光制御するＬＥＤが設けられる発光装飾体は透光性を有する樹脂によって形成されて、ＬＥＤから照射される光によって面発光するようになっている。一方、ドットマトリクス表示器７０００のケース７１００は透光性を有しない有色不透明な白色（透光性を有しない不透明なものであれば白以外でもよく、例えば黒色や濃紺色、深緑色等としてもよい）の樹脂によって形成されて貫通部７１１０ａからのみＬＥＤ７００１の光を視認することができるようになっており、ケース７１００の他の部分からはＬＥＤ７００１の光を視認することはできないようになっている。また、ケース７１００の表面カバー部７１１０と裏面カバー部７１２０とは隙間なく密着した状態で強固に接着（溶着）されており、表面カバー部７１１０と裏面カバー部７１２０との接合部からの光漏れが抑制されている。このように、個々に発光制御されて遊技の進行に関わる重要な情報（例えば特別抽選結果）を表示するドットマトリクス表示器７０００に設けられる基板７２００を収容するケース７１００を透光性を有しない樹脂等によって形成する一方、所定数のＬＥＤ単位（所定数のＬＥＤからなるグループ毎）で発光制御されて遊技の進行に関わる重要な情報を表示しないＬＥＤが実装される基板を収容する発光装飾体を透過性を有する樹脂等によって形成するため、不具合が生じたＬＥＤ等の発光手段が重要な情報を表示するものであるか否かや、ＬＥＤの制御単位（所定数のＬＥＤ毎に制御されるか単独で制御されるか）等を外観から容易に判別可能となり、遊技の進行に関わる重要な情報を表示する発光手段に不具合が生じた場合に迅速に対応することができるようになるため、遊技興趣の低下を抑止できる。
【３３６９】
また、ケース７１００の表面カバー部７１１０と裏面カバー部７１２０とは溶着等により強固に接着されており、少なくともケース７１００の一部を破壊しなければ基板７２００をケース７１００内から取り出すことができないようになっている。また、上記したように主制御基板ボックス１３２０は複数の封印機構を備えており、複数の封印機構のうち一つの封印機構を破壊して主制御基板ボックス１３２０を開けた後、破壊した封印機構とは異なる一つの封印機構を用いて主制御基板ボックス１３２０を閉じることができるようになっている。一方、本例のケース７１００ではこのような封印機構を備えておらず、一度でもケース７１００の一部を破壊してケース７１００を取り出すとケース７１００を元の状態に戻すことができないようになっている。このように、基板７２００は少なくとも一部を破壊しなければ基板７２００を取り出す（露出させる）ことができないケース７１００に封入されて保護されるため、重要な機能を有するＬＥＤ７００１が物理的に破壊され

ることを抑制できる。一方、所定数のＬＥＤ単位（所定数のＬＥＤからなるグループ毎）で発光制御されて遊技の進行に関わる重要な情報を表示しないＬＥＤが実装される基板を収容する発光装飾体（裏下中回転装飾体３３１０、裏上後回転装飾体３４４０、裏後左回転装飾体３５１０、裏後右回転装飾体３６１０、裏後可動装飾体３１１０、裏上前回転装飾体３４１０、裏上前装飾体３４２１、裏前左装飾体３７１３、裏前右装飾体３８１３等）はネジ止め等によって着脱可能（可逆的）に形成されており、発光装飾体を破壊することなく基板を取り出すことができるようになっている。これにより、重要な情報を表示するＬＥＤが実装される基板を収容するケース７１００に収容される基板７２００については実装される電子部品（ＬＥＤ等）が物理的に破壊され難くして、重要な情報が表示されなくなることを抑制し、重要な情報を表示しないＬＥＤが実装される基板を収容する発光装飾体については電子部品（ＬＥＤ等）に不具合が生じた場合に直ぐに交換できるようになっている。

【３３７０】

また本例のドットマトリクス表示器７０００では、ケース７１００内に設けられるＬＥＤ７００１は予め設定されている一定の輝度とされており、演出操作部３０１（回転操作部３０２、押圧操作部３０３）を操作しても輝度調節できないようになっている。これにより、重要な機能を有するＬＥＤ７００１の輝度を一定に保つことができ、遊技者の利益に関わる情報等の重要な情報を確実に伝えることができるようになる。なお、上記した特定の条件下であっても重要な情報を表示するドットマトリクス表示器７０００については扉枠３に設けられているＬＥＤ（本例では少なくとも扉枠左サイド装飾基板４０２、扉枠右サイド装飾基板４１８、扉枠トップ中央装飾基板４５５、扉枠トップ左装飾基板４５６、及び扉枠トップ右装飾基板４５７に設けられるＬＥＤ、なお皿左上装飾基板２７３、皿右上装飾基板２７８、皿中央上装飾基板３１４に設けられるＬＥＤも含むものであってもよい。）と同様に消灯させることなしに発光制御するようにしてもよい。

【３３７１】

具体的には、演出表示装置１６００で実行される表示演出で特定のリーチ演出が実行されて、図３０１に示すように、裏下中昇降駆動モータ３３５２により昇降アーム３３５７を回動させて裏下中装飾体ユニット３３２０を下降位置から上昇位置へ移動させる場合、裏上後回転装飾体３４４０を裏上前装飾体３４２１よりも下方の出現位置へ移動させる場合、裏後左回転装飾体３５１０を裏前左演出ユニット３７００よりも右方の第一出現位置又は第二出現位置へ移動させる場合、裏後右回転装飾体３６１０を裏前右演出ユニット３８００よりも左方の第一出現位置又は第二出現位置へ移動させる場合、及び裏後駆動モータ３１２６によりスライドガイド３１３０を下方へ移動させることでロック部材３１３４によるロックを解除して裏後可動装飾体３１１０を退避位置から出現位置へ落下させる場合に、裏前左装飾体ユニット３７１０の裏前左装飾基板３７１４に実装されているＬＥＤ（図３０１においてＡの領域に配置されるＬＥＤ）と、裏上演出ユニット３４００の裏上前装飾基板３４２２に実装されているＬＥＤ（図３０１においてＢの領域に配置されるＬＥＤ）と、裏前右装飾体ユニット３８１０の裏前右装飾基板３８１４に実装されているＬＥＤ（図３０１においてＣの領域に配置されるＬＥＤ）と、裏下右演出ユニット３２５０の裏下右装飾基板３２５３に実装されているＬＥＤと（図３０１においてＤの領域に配置されるＬＥＤ）、裏下左演出ユニット３２００の裏下左装飾基板３２０３に実装されているＬＥＤ（図３０１においてＤの領域に配置されるＬＥＤ）と、を消灯させるが、ドットマトリクス表示器７０００については消灯させることなしに継続して発光制御するようにしてもよい。これにより、特定の条件下であっても遊技者の利益に関わる情報等の重要な情報については表示させることができ、遊技者等に不利益を与えない。

【３３７２】

本例では特定のリーチ演出が実行された場合に限らず、扉枠開放スイッチからの検出信号に基づいて本体枠４に対する扉枠３の開放を検出する等のエラー状態が発生して、裏前左装飾体ユニット３７１０の裏前左装飾基板３７１４に実装されているＬＥＤ、裏上演出ユニット３４００の裏上前装飾基板３４２２に実装されているＬＥＤ、裏前右装飾体ユニッ

ト３８１０の裏前右装飾基板３８１４に実装されているＬＥＤ、裏下右演出ユニット３２５０の裏下右装飾基板３２５３に実装されているＬＥＤ、裏下左演出ユニット３２００の裏下左装飾基板３２０３に実装されているＬＥＤ、可動装飾体（裏下中回転装飾体３３１０、裏上後回転装飾体３４４０、裏後左回転装飾体３５１０、裏後右回転装飾体３６１０、及び裏後可動装飾体３１１０）に設けられているＬＥＤ、などの遊技盤５に設けられている複数のＬＥＤのうちの少なくとも一部を消灯する場合にも、演出表示装置１６００のバックライトと、扉枠３に設けられているＬＥＤのうちの少なくとも一部のＬＥＤと、ドットマトリクス表示器７０００に設けられているＬＥＤ７００１とを消灯することなく発光制御するようになっている。これにより、エラー状態が発生したときに例えば遊技盤５に設けられている複数のＬＥＤのうちの少なくとも一部を消灯するとともに扉枠３に設けられているＬＥＤのうちの少なくとも一部を通常時とは異なるエラー時の態様（例えば通常時よりも高輝度で短時間に点滅発光させる）で発光制御する等によってエラー状態が発生したこと（例えば扉枠３が開放されていること）を通知したり、演出表示装置１６００でエラー状態となっていることを通知する表示（例えば「異常発生！」等）を行ったり、エラー状態が発生していることを音声出力（例えば「扉が開いています。」、「球を抜いてください。」等）によって通知したりする一方で、ドットマトリクス表示器７０００に設けられているＬＥＤ７００１を消灯することなく発光制御することで変動演出の実行中であれば遊技が中断することを抑制できるとともに、ドットマトリクス表示器７０００の更新表示（変動表示）が継続されることで、特別抽選結果が表示されないことへの不安や不信感を与えないようにすることができる。

【３３７３】

なお、エラー状態の種類（緊急性の度合い）に応じてドットマトリクス表示器７０００を消灯するか否かを異ならせるようにしてもよく、例えば遊技に対する影響が小さいエラー（軽微なエラー：本体枠４に対する扉枠３の開放を検出した場合、図示しない振動センサが所定期間（例えば３０秒）継続して遊技盤５の振動を検出した場合（パチンコ機１を叩く等の行為が行われていることを検出した場合）、満タン検知センサ１５４からの検出信号が入力された場合（皿２０２が遊技球Ｂで満タンになっていることを検出した場合）、球切検知センサ５７４からの検出信号が入力された場合（誘導通路５７０ａ内に遊技球Ｂが存在していないことを検出した場合等のゴト行為が行われている可能性の低いエラー）についてはドットマトリクス表示器７０００に設けられているＬＥＤ７００１を消灯することなく発光制御することで遊技の進行を中断させない一方、遊技に重大な影響を与えるエラー（重大なエラー：電波照射ゴトを検出したとき、磁石ゴトを検出したとき、第二始動口２００４が開放していない場合に第二始動口センサ２４０１からの検出信号が入力されたとき、大当り遊技状態や小当り遊技状態でない場合に第一大入賞口センサ２４０２、又は第二大入賞口センサ２６０１からの検出信号が入力されたとき等のゴト行為の行われている可能性の高いエラー）についてはドットマトリクス表示器７０００を消灯させるように制御することで、変動演出の実行中であっても当該変動演出を中断又は終了させるようにしてもよい。これにより、エラーの程度に応じてドットマトリクス表示器７０００の制御状態を異ならせることができ、遊技者及び遊技店に不利益を与えないようにすることができる。

【３３７４】

またエラー状態となった場合にエラー状態の種類に応じて、演出表示装置１６００でのエラー状態となっていることを通知する表示と、扉枠３に設けられているＬＥＤをエラー時の態様で発光制御することによる通知と、音声出力によるエラー状態が発生していることの通知と、のうちいずれか１つを実行するようにしてもよいし、任意の２つの組合せを実行するようにしてもよいし、全てを実行するようにしてもよい。例えば遊技に対する影響が小さい軽微なエラーが発生した場合には演出表示装置１６００でのエラー状態となっていることを通知する表示と、扉枠３に設けられているＬＥＤをエラー時の態様で発光制御することによる通知と、音声出力によるエラー状態が発生していることの通知と、のうちいずれか１つ又は任意の２つの組合せを実行し、遊技に重大な影響を与える重大なエラー

が発生した場合には演出表示装置１６００でのエラー状態となっていることを通知する表示と、扉枠３に設けられているＬＥＤをエラー時の態様で発光制御することによる通知と、音声出力によるエラー状態が発生していることの通知と、の全てを実行するようにしてもよい。

【３３７５】

また、本例のドットマトリクス表示器７０００は主制御基板１３１０の主制御ＭＰＵによって直接制御される。これにより、主制御基板１３１０からの制御信号に基づいて周辺制御基板１５１０の周辺制御ＭＰＵが制御する場合に比べて不具合（本来表示する内容とは異なる内容が表示される等）の発生を抑制でき、遊技者等に不利益を与えないようにすることができる。また、上記したように周辺制御基板１５１０の周辺制御ＭＰＵでは約３３．３ｍｓごとに周辺制御部定常処理を行うのに対し、主制御基板１３１０の主制御ＭＰＵでは４ｍｓごとに主制御側タイマ割り込み処理を行うため、主制御基板１３１０からの制御信号に基づいて周辺制御基板１５１０の周辺制御ＭＰＵがドットマトリクス表示器７０００を制御する場合に比べて短い周期でドットマトリクス表示器７０００の表示内容を更新することができ、仮に不具合が発生してドットマトリクス表示器７０００に本来表示する内容とは異なる内容が表示された場合であっても直ぐ（４ｍｓ後）に表示内容を更新して本来の表示内容に変更することができ、遊技者等に不利益を与えない。すなわち、重要な情報を表示する（重要度の高い）ドットマトリクス表示器７０００については重要な情報を表示しない（重要度の低い）発光装飾体よりも短い周期で制御信号を出力して発光手段（ＬＥＤ）の発光態様を更新するため、重要な情報を表示するドットマトリクス表示器７０００の表示内容（ＬＥＤ７００１の発光態様）に不具合が生じた場合であっても直ぐに正常な表示内容に変更することができ、本ライトは異なる内容が表示されて遊技者に不利益を与えることを抑制できる。また、主制御基板１３１０からの制御信号に基づいて周辺制御基板１５１０の周辺制御ＭＰＵがドットマトリクス表示器７０００を制御するように構成した場合には主制御基板１３１０と周辺制御基板１５１０との間で通信エラーが生じてドットマトリクス表示器７０００によって示される情報（ＬＥＤ７００１の発光状態）に不具合が発生するおそれがあるが、本例では主制御基板１３１０がドットマトリクス表示器７０００を直接制御するため、周辺制御基板１５１０の周辺制御ＭＰＵがドットマトリクス表示器７０００を制御する場合に比べてドットマトリクス表示器７０００によって示される情報（ＬＥＤ７００１の発光状態）に不具合が発生し難くなり、遊技者に不利益を与えることを抑制できる。

【３３７６】

また、ケース７１００の表面カバー部７１１０には上記したようにフィルム７３００が貼着されている。また、図３１５（Ａ）に示すようにフィルム７３００は半透明のシートによって構成されており、ケース７１００の貫通部７１１０ａに対応する領域の周囲の領域が不透明な黒色印刷（黒色に限らず貫通部７１１０ａに対応する領域での発光状態を視認し易くするような色（暗色等）としてもよい）されて光を透過させないようになっている。一方、貫通部７１１０ａに対応する領域には黒色印刷されずに透光性を有する半透明の状態とされており、ＬＥＤ７００１から照射される光によって面発光するようになっている。これにより、ＬＥＤ７００１を発光させて貫通部７１１０ａに対応する領域が面発光しているときに、貫通部７１１０ａに対応する領域の周囲が影のように暗く見えるようになり、貫通部７１１０ａに対応する領域と貫通部に対応する領域の周囲との対比によって貫通部７１１０ａに対応する領域の面発光（基板７２００に実装されるＬＥＤ７００１の発光状態）を視認し易くなり、ドットマトリクス表示器７０００にて様々な文字や記号、図形などを明瞭に表示することができることで、遊技者の利益に関わる情報等の重要な情報を確実に伝えることができる。また、貫通部７１１０ａに対応して面発光する領域のそれぞれの間に光を透過させない領域を設けることで、ＬＥＤ７００１の発光時に複数の貫通部７１１０ａから放射される光の干渉を抑制できるとともに、複数の貫通部７１１０ａそれぞれから異なる色の光が放射された場合であっても放射される様々な色の光が混ざり合うことを抑制して個々の色を明瞭に視認させることでき、ＬＥＤ７００１から照射する

光によって面発光される貫通部７１１０ａに対応する領域それぞれを別々の発光領域として識別させることが可能となるため、様々な文字や記号、図形などを明瞭に表示することができる。なお、フィルム７３００を設けることなく、少なくともケース７１００の表面カバー部７１１０自体を黒色等の暗色の樹脂で形成することでＬＥＤ７００１の発光時に貫通部７１１０ａから放射される光を視認し易くするようにしてもよく、この場合にもドットマトリクス表示器７０００にて様々な文字や記号、図形などを明瞭に表示することができるようになるため、遊技者の利益に関わる情報等の重要な情報を確実に伝えることができる。

【３３７７】

［ドットマトリクス表示器を用いた演出例］

次に上記したドットマトリクス表示器７０００を用いた演出例について説明する。図３１４に示すように、ドットマトリクス表示器７０００は裏ユニット３０００の裏箱３０１０内の上部に設けられている。そして、遊技の進行に関わる重要な情報を表示するようになっている。

【３３７８】

具体的には、図３１６に示すように第一始動口２００２への始動入賞及び第二始動口２００４への始動入賞に基づいて演出表示装置１６００で変動演出を実行する場合に、ドットマトリクス表示器７０００においても表示内容を更新表示（変動表示）する。そして、ドットマトリクス表示器７０００において表示内容の更新表示を開始してから所定期間（変動時間）が経過した時に所定の態様を表示する。

【３３７９】

本例では、図３１７（Ａ），（Ｂ）に示すように変動時間の経過時に「大当り」、「ハズレ」、などの当落に関わる情報を表示するようになっている。このように、本例のドットマトリクス表示器７０００はＬＥＤを実装する基板が設けられて上記変動演出に関連して発光制御する発光装飾体等とは異なり、特別抽選結果（第一特別抽選結果、第二特別抽選結果）を判別可能（少なくとも大当りである場合とはずれである場合とで異なる内容を表示するものであればよい）になっている。すなわち、ＬＥＤを実装する基板が設けられて上記変動演出に関連して発光制御する発光装飾体等の発光態様から特別抽選結果（第一特別抽選結果、第二特別抽選結果）を判別することは困難とされる一方で、ドットマトリクス表示器７０００に設けられている基板７２００に実装されているＬＥＤ７００１の発光態様から特別抽選結果（第一特別抽選結果、第二特別抽選結果）を判別することが可能とされている。なお、何らかの条件が成立した場合（例えば大当りとなることが確定していることを特別抽選結果の導出前に通知する大当り確定演出を実行する場合等）にはＬＥＤを実装する基板が設けられて上記変動演出に関連して発光制御する発光装飾体等の発光態様から特別抽選結果（第一特別抽選結果、第二特別抽選結果）を判別可能に発光制御するようにしてもよい。ただし、ドットマトリクス表示器７０００では特定条件下に限らず常に基板７２００に実装されているＬＥＤ７００１の発光態様から特別抽選結果（第一特別抽選結果、第二特別抽選結果）を判別することが可能とされており、ＬＥＤを実装する基板が設けられて上記変動演出に関連して発光制御する発光装飾体等の発光態様に不具合が生じてもドットマトリクス表示器７０００の発光態様から特別抽選結果（第一特別抽選結果、第二特別抽選結果）を判別することができるため、遊技者等に不利益を与えない。

【３３８０】

また、ドットマトリクス表示器７０００では大当り遊技状態中には大当り種別（１５Ｒ大当り、５Ｒ大当り、２Ｒ大当り）を表示するようになっている。なお、時短時である場合にその旨を表示したり、高確率状態である場合にその旨を表示するようにしてもよい。

【３３８１】

また本例のパチンコ機１では時短時（低確率時短状態（時短状態ともいう）、高確率時短状態（確変状態ともいう））に第二始動口２００４への遊技球の入球を狙った遊技（いわゆる「右打ち」）が行われるようになっている。また、上記したように時短時には第二始動口２００４が頻繁に開状態とされて、通常時（低確率非時短状態（通常状態ともいう）

、高確率非時短状態）よりも始動入賞（第一始動口２００２への遊技球の入賞、第二始動口２００４への遊技球の入賞）し易くなるため、遊技者に有利な状態となる。しかし、時短時に遊技者が第二始動口２００４への遊技球の入球を狙った遊技（いわゆる「右打ち」）を行わない場合にはこの有利な状態を享受できない。そのため、本例のパチンコ機１では図３１７（Ｃ）に示すように時短時には遊技者が第二始動口２００４への遊技球の入球を狙った遊技（いわゆる「右打ち」）を行うように通知する表示として「右打ち→」を表示するようになっている。これにより時短時であるにもかかわらず遊技者が有利な状態を享受できないことを防止し、遊技者に不利益を与えないようにすることができる。

【３３８２】

このように、本例のドットマトリクス表示器７０００は、ＬＥＤを実装する基板が設けられて上記変動演出に関連して発光制御する発光装飾体等とは異なり、遊技に関わる重要な情報を表示するようになっている。また、上記したようにドットマトリクス表示器７０００に設けられてＬＥＤ７００１が実装される基板７２００のＬＥＤ実装面は、発光装飾体等に設けられてＬＥＤが実装される基板とは異なる色のレジスト処理がなされているため、ＬＥＤのＬＥＤ実装面を視認した場合にＬＥＤ実装面の色によって遊技に関わる重要な情報を表示するためのＬＥＤが実装されている基板であるか否かを容易に判別できる。

【３３８３】

なお、本例ではドットマトリクス表示器７０００を外レール１００１及び内レール１００２の内側に設けるように構成したが、外レール１００１及び内レール１００２の外側に設けるようにしてもよい。これにより外レール１００１及び内レール１００２の内側の領域での設計の自由度が増し、構造物や可動物を設けて装飾性や演出効果を高めることができる。

【３３８４】

ところで、上記したようにパチンコ機１の後面側には遊技ホールの島設備から供給される遊技球Ｂを受取る払出ベースユニット５５０と、払出ベースユニット５５０で受取った遊技球Ｂを遊技者側へ払出すための払出ユニット５６０と、を備えている。また、払出ユニット５６０は、タンクレール５５３からの遊技球Ｂを蛇行状に下方へ誘導する球誘導ユニット５７０と、球誘導ユニット５７０により誘導された遊技球Ｂを払出制御基板６３３からの指示に基づいて一つずつ払出す払出装置５８０と、払出装置５８０を通った遊技球Ｂを下方へ誘導する上部満タン球経路ユニット６００と、上部満タン球経路ユニット６００を通った遊技球Ｂを扉枠３側又は基板ユニット６２０側へ誘導する下部満タン球経路ユニット６１０と、を備えている（図４参照）。

【３３８５】

また、払出ベースユニット５５０や払出ユニット５６０に供給される遊技球Ｂは、互いに擦れ合いながら下流側へと移動することで帯電し易くなっており、この遊技球Ｂから静電気放電が起こると近傍に配置される発光手段（ＬＥＤ等）に不具合が生じるおそれがある。上記したように本例では遊技に関わる重要な情報を表示するドットマトリクス表示器７０００に設けられる基板７２００に実装されているＬＥＤ７００１を主制御基板１３１０の主制御ＭＰＵによって直接制御し、４ｍｓごとに表示内容（ＬＥＤ７００１の点灯状態）を更新するため、遊技球Ｂから静電気放電が生じたことなどによってドットマトリクス表示器７０００の表示内容に不具合が生じても直ぐに正しい内容に更新表示させることができ、遊技者に等に不利益を与えないようになっている。

【３３８６】

このように、払出ベースユニット５５０や払出ユニット５６０の近傍の領域は、遊技球Ｂからの静電気放電等によるノイズの影響を受けやすくなっているが、本例では主制御基板１３１０の主制御ＭＰＵによって短期間（４ｍｓ）でドットマトリクス表示器７０００の表示内容を更新することで、ノイズの影響を受けやすい領域、例えば図１０７に示される遊技盤５における外レール１００１及び内レール１００２の外側の正面視左上部又は正面視左下部の領域等であってもドットマトリクス表示器７０００を配置することが可能になっている。即ち、本例のドットマトリクス表示器７０００はノイズの影響を受けやすい領

域に配置されても遊技者に不利益を与えることなく表示を行うことができるようになっている。

【３３８７】

上記実施形態によれば、電気部品用の回路基板に実装され、特別抽選結果に応じて発光制御される複数の発光手段（発光装飾体（裏下中回転装飾体３３１０、裏上後回転装飾体３４４０、裏後左回転装飾体３５１０、裏後右回転装飾体３６１０、裏後可動装飾体３１１０、裏上前回転装飾体３４１０、裏上前装飾体３４２１、裏前左装飾体３７１３、裏前右装飾体３８１３等）、扉枠３に設けられているＬＥＤ（本例では少なくとも扉枠左サイド装飾基板４０２、扉枠右サイド装飾基板４１８、扉枠トップ中央装飾基板４５５、扉枠トップ左装飾基板４５６、及び扉枠トップ右装飾基板４５７に設けられるＬＥＤ、なお皿左上装飾基板２７３、皿右上装飾基板２７８、皿中央上装飾基板３１４に設けられるＬＥＤも含むものであってもよい。）、ドットマトリクス表示器７０００、機能表示ユニット１４００、演出表示装置１６００等）を備え、複数の発光手段は、発光手段毎に別系統に分けられて個々に発光制御される第１発光手段（ドットマトリクス表示器７０００、機能表示ユニット１４００）と、所定数の発光手段毎に別系統に分けられて 所定数単位で発光制御される第２発光手段（発光装飾体（裏下中回転装飾体３３１０、裏上後回転装飾体３４４０、裏後左回転装飾体３５１０、裏後右回転装飾体３６１０、裏後可動装飾体３１１０、裏上前回転装飾体３４１０、裏上前装飾体３４２１、裏前左装飾体３７１３、裏前右装飾体３８１３等）に設けられるＬＥＤ、扉枠３に設けられているＬＥＤ（本例では少なくとも扉枠左サイド装飾基板４０２、扉枠右サイド装飾基板４１８、扉枠トップ中央装飾基板４５５、扉枠トップ左装飾基板４５６、及び扉枠トップ右装飾基板４５７に設けられるＬＥＤ、なお皿左上装飾基板２７３、皿右上装飾基板２７８、皿中央上装飾基板３１４に設けられるＬＥＤも含むものであってもよい。））と、を含み、前記第１発光手段が実装される回路基板と、前記前記第２発光手段が実装される回路基板と、の実装面の色を異ならせるため、回路基板の実装面の色を見ることで当該基板に実装されている発光手段の制御単位を判別でき、例えば個々に発光制御されて遊技の進行に支障を生じさせるような重要な役割を担う発光手段を実装する回路基板（ドットマトリクス表示器７０００に設けられる基板７２００、機能表示ユニット１４００に設けられる機能表示基板）と、他の回路基板（発光装飾体（裏下中回転装飾体３３１０、裏上後回転装飾体３４４０、裏後左回転装飾体３５１０、裏後右回転装飾体３６１０、裏後可動装飾体３１１０、裏上前回転装飾体３４１０、裏上前装飾体３４２１、裏前左装飾体３７１３、裏前右装飾体３８１３等）に設けられる基板、扉枠３に設けられているＬＥＤを実装する基板（本例では少なくとも扉枠左サイド装飾基板４０２、扉枠右サイド装飾基板４１８、扉枠トップ中央装飾基板４５５、扉枠トップ左装飾基板４５６、及び扉枠トップ右装飾基板４５７、なお皿左上装飾基板２７３、皿右上装飾基板２７８、皿中央上装飾基板３１４も含むものであってもよい。））と、の実装面の色を異ならせることで、不具合が生じた発光手段が重要な発光手段であるか否かの判別が容易となり、遊技の進行に支障が生じた場合に迅速に対応することができるようになるため、遊技興趣の低下を抑止できる。

【３３８８】

また、第１発光手段は、特別抽選結果を判別可能な発光態様で発光し、第２発光手段は、特別抽選結果を判別困難な発光態様で発光し、第１発光手段が実装される回路基板の実装面は、第２発光手段が実装される回路基板の実装面の色（白色）とは異なる特別色（黒色）とされるため、不具合が生じた発光手段が重要な役割を担う発光手段であるか否かの判別が容易となる。

【３３８９】

第１発光手段が実装される回路基板を収容する第１基板ケース（ドットマトリクス表示器７０００の基板７２００を収容するケース７１００、機能表示ユニットの機能表示基板を収容する箱体）と、第２発光手段が実装される回路基板を収容する第２基板ケース（皿ユニット２００の皿左上装飾体２７１、皿右上装飾体２７６、演出操作ユニット３００の皿中央上装飾体３１２ａ、扉枠左サイドユニット４００の扉枠左サイド装飾体４０４、扉枠

右サイドユニット４１０の扉枠右サイド装飾体４１９、扉枠トップユニット４５０の扉枠トップ装飾体４５３、裏上前回転装飾体３４１０、裏上前装飾体３４２１、裏前左装飾体３７１３、裏前右装飾体３８１３、裏下左回転装飾体３２０１、裏下右回転装飾体３２５１、裏下中回転装飾体３３１０、裏上前回転装飾体３４１０、裏上前装飾体３４２１等）と、をさらに備え、第１基板ケースは、透光性を有しない材料によって形成される第１本体部（ドットマトリクス表示器７０００の基板７２００を収容するケース７１００、機能表示ユニットの機能表示基板を収容する箱体）と、第１発光手段の発光状態を判別可能な第１表示部（ケース７１００の貫通部７１１０ａ、機能表示基板を収容する箱体のＬＥＤ用挿通孔）と、を有し、第２基板ケースは、透光性を有する材料によって形成される第２本体部（皿ユニット２００の皿左上装飾体２７１、皿右上装飾体２７６、演出操作ユニット３００の皿中央上装飾体３１２ａ、扉枠左サイドユニット４００の扉枠左サイド装飾体４０４、扉枠右サイドユニット４１０の扉枠右サイド装飾体４１９、扉枠トップユニット４５０の扉枠トップ装飾体４５３、裏上前回転装飾体３４１０、裏上前装飾体３４２１、裏前左装飾体３７１３、裏前右装飾体３８１３、裏下左回転装飾体３２０１、裏下右回転装飾体３２５１、裏下中回転装飾体３３１０、裏上前回転装飾体３４１０、裏上前装飾体３４２１等）を有するため、基板ケースの透光性の有無によっても発光手段の制御単位や重要な役割を担う発光手段であるか否かの判別が容易となる。

【３３９０】

第１基板ケースは、該第１基板ケースの一部を破壊することで回路基板を脱離可能な状態となり、第２基板ケースは、該第２基板ケースの一部を破壊することなく回路基板を脱離可能な状態となり、第１基板ケースの一部を破壊しなければ回路基板を離脱できないため、重要な役割を担う発光手段が物理的に破壊されることを抑制できる。一方、重要度の低い発光手段については物理的な交換が容易となる。

【３３９１】

所定数単位で発光制御されて所定の発光態様を表し得る第１発光手段（発光装飾体（裏下中回転装飾体３３１０、裏上後回転装飾体３４４０、裏後左回転装飾体３５１０、裏後右回転装飾体３６１０、裏後可動装飾体３１１０、裏上前回転装飾体３４１０、裏上前装飾体３４２１、裏前左装飾体３７１３、裏前右装飾体３８１３等）に設けられているＬＥＤ、扉枠３に設けられているＬＥＤ（本例では少なくとも扉枠左サイド装飾基板４０２、扉枠右サイド装飾基板４１８、扉枠トップ中央装飾基板４５５、扉枠トップ左装飾基板４５６、及び扉枠トップ右装飾基板４５７に設けられるＬＥＤ、なお皿左上装飾基板２７３、皿右上装飾基板２７８、皿中央上装飾基板３１４に設けられるＬＥＤも含むものであってもよい。））と、第１発光手段が実装される第１回路基板（発光装飾体（裏下中回転装飾体３３１０、裏上後回転装飾体３４４０、裏後左回転装飾体３５１０、裏後右回転装飾体３６１０、裏後可動装飾体３１１０、裏上前回転装飾体３４１０、裏上前装飾体３４２１、裏前左装飾体３７１３、裏前右装飾体３８１３等）に設けられる基板、扉枠３に設けられているＬＥＤを実装する基板（本例では少なくとも扉枠左サイド装飾基板４０２、扉枠右サイド装飾基板４１８、扉枠トップ中央装飾基板４５５、扉枠トップ左装飾基板４５６、及び扉枠トップ右装飾基板４５７、なお皿左上装飾基板２７３、皿右上装飾基板２７８、皿中央上装飾基板３１４も含むものであってもよい。））と、個々に発光制御されて所定の発光態様を表し得る第２発光手段（ドットマトリクス表示器７０００、機能表示ユニット１４００）と、第２発光手段が実装される第２回路基板（ドットマトリクス表示器７０００に設けられる基板７２００、機能表示ユニット１４００に設けられる機能表示基板）と、を備え、第１回路基板の第１発光手段が実装される実装面には白色塗膜が形成され、第２回路基板の第２発光手段が実装される実装面には暗色塗膜が形成されるため、第１回路基板の反射率が高まり第１発光手段の発光時の輝度の低下を抑制できる。また個々に発光制御される第２発光手段を実装する第２回路基板には暗色塗膜を形成するため、反射が抑制されるとともに暗色塗膜の実装面との対比により個々の発光を明瞭に視認させることができる。

【３３９２】

第２発光手段の複数の発光手段それぞれによる発光色の干渉を抑制する抑制部材（ケース７１００の貫通部７１１０ａ、機能表示基板を収容する箱体のＬＥＤ用挿通孔によって各発光手段が筒状に区画される）を備えるため、発光色の拡散や干渉が抑制されて、複数の発光手段の発光色を個々に識別しやすくなる。

【３３９３】

第２回路基板を収容する基板ケース（ドットマトリクス表示器７０００の基板７２００を収容するケース７１００、機能表示ユニットの機能表示基板を収容する箱体）をさらに備え、基板ケースは、複数の発光手段による発光状態を判別可能な表示部（ケース７１００の貫通部７１１０ａ、機能表示基板を収容する箱体のＬＥＤ用挿通孔）と、該表示部の周囲に形成される暗色の表示補助部（ケース７１００の貫通部７１１０ａに対応する領域の周囲が不透明な黒色されるフィルム７３００、透明部の周囲が黒色とされる黒色機能表示シール）と、を有するため、表示補助部との対比によって表示部における発光手段の発光状態の判別が容易になる。

【３３９４】

遊技が行われる遊技盤５と、該遊技盤５の前方に配置されて、遊技盤５を視認可能にする遊技窓部（扉窓１０１ａ）を備えた枠体（扉枠３）と、該枠体に設けられる複数の枠側発光手段（扉枠左サイド装飾基板４０２、扉枠右サイド装飾基板４１８、扉枠トップ中央装飾基板４５５、扉枠トップ左装飾基板４５６、及び扉枠トップ右装飾基板４５７に設けられるＬＥＤ、なお皿左上装飾基板２７３、皿右上装飾基板２７８、皿中央上装飾基板３１４に設けられるＬＥＤも含むものであってもよい。）と、遊技盤に設けられて、遊技窓部を通して視認可能な複数の盤側発光手段（ドットマトリクス表示器７０００、機能表示ユニット１４００、発光装飾体（裏下中回転装飾体３３１０、裏上後回転装飾体３４４０、裏後左回転装飾体３５１０、裏後右回転装飾体３６１０、裏後可動装飾体３１１０、裏上前回転装飾体３４１０、裏上前装飾体３４２１、裏前左装飾体３７１３、裏前右装飾体３８１３等）に設けられているＬＥＤ）と、を備え、予め決められている特定条件が成立すると、複数の枠側発光手段を通常よりも高輝度で発光させる一方、複数の盤側発光手段のうち少なくとも特定の盤側発光手段（ドットマトリクス表示器７０００、機能表示ユニット１４００）を通常の輝度を維持した状態で発光させるものであり、特定の盤側発光手段は、複数の発光素子（ＬＥＤ素子）と、該発光素子が実装される発光基板（基板７２００、機能表示基板）と、該発光基板に実装される複数の発光素子それぞれを区画する区画部材（ケース７１００の貫通部７１１０ａ、機能表示基板を収容する箱体のＬＥＤ用挿通孔によって各発光手段が筒状に区画される）と、を有するため、複数の発光素子による発光が干渉することを抑制して複数の発光素子それぞれの発光が視認し易くなるため、枠側発光手段が高輝度で発光している状況でも特定の盤側発光手段による発光状態を判別し易い。

【３３９５】

特定条件が成立したときに、複数の盤側発光手段のうち特定の盤側発光手段（ドットマトリクス表示器７０００、機能表示ユニット１４００）を除く所定数の盤側発光手段（発光装飾体（裏下中回転装飾体３３１０、裏上後回転装飾体３４４０、裏後左回転装飾体３５１０、裏後右回転装飾体３６１０、裏後可動装飾体３１１０、裏上前回転装飾体３４１０、裏上前装飾体３４２１、裏前左装飾体３７１３、裏前右装飾体３８１３等）に設けられているＬＥＤのうちのいずれか又は全部）を消灯させるため、遊技窓部内の明るさを落とすことができ、特定の盤側発光手段の発光状態を判別し易くなる。

【３３９６】

発光基板のうち区画手段で区画されて発光素子が配置する領域の周囲（基板７２００の貫通部７１１０ａに対応する領域の周囲、機能表示基板のに対応する領域の周囲）には反射率の低い暗色塗膜が形成されているため、発光素子から照射される光が区画部材によって区画される領域外に漏れた場合であっても光の拡散を抑制することができるとともに、暗色塗膜との対比によってより明確に視認できるようになる。

【３３９７】

所定の制御信号を受信して、該受信した制御信号に基づく発光態様で発光する第１発光手

段（発光装飾体（裏下中回転装飾体３３１０、裏上後回転装飾体３４４０、裏後左回転装飾体３５１０、裏後右回転装飾体３６１０、裏後可動装飾体３１１０、裏上前回転装飾体３４１０、裏上前装飾体３４２１、裏前左装飾体３７１３、裏前右装飾体３８１３等）に設けられているＬＥＤ、扉枠左サイド装飾基板４０２、扉枠右サイド装飾基板４１８、扉枠トップ中央装飾基板４５５、扉枠トップ左装飾基板４５６、及び扉枠トップ右装飾基板４５７に設けられるＬＥＤ、なお皿左上装飾基板２７３、皿右上装飾基板２７８、皿中央上装飾基板３１４に設けられるＬＥＤも含むものであってもよい。）と、該第１発光手段よりも重要度の高い情報を表し得る第２発光手段（ドットマトリクス表示器７０００、機能表示ユニット１４００）と、を備え、制御信号は、第１発光手段と第２発光手段とで異なる周期で出力されるため、不具合が生じたときに第１発光手段と第２発光手段との両方が本来の発光態様とは異なる発光態様で発光することを抑制できる。

【３３９８】

第１発光手段に制御信号を出力する第１発光制御手段（周辺制御基板１５１０の周辺制御ＭＰＵによって発光装飾体を発光制御する部分）と、第２発光手段に制御信号を出力する第２発光制御手段（主制御基板１３１０の主制御ＭＰＵによってドットマトリクス表示器７０００や機能表示ユニット１４００を発光制御する部分）と、をさらに備え、第２発光手段は、第１発光制御手段よりも短い周期で制御信号を出力するため、第２発光手段によって表される情報に不具合が発生することを抑制できる。

【３３９９】

第１発光制御手段は、特別抽選結果を判別困難な態様で第１発光手段を発光制御し、第２発光制御手段は、特別抽選結果を判別可能な態様で第２発光手段を発光制御し、抽選処理の結果を判別可能な態様で発光制御することで第１発光手段に対して重要度の高い第２発光手段を第１発光手段よりも短い周期で制御信号を出力して発光制御するため、第２発光手段によって表される情報に不具合が発生して遊技者に不利益を与えることを抑制できる。

【３４００】

第１発光制御手段を含み、遊技の進行を制御する遊技制御手段（主制御基板１３１０の主制御ＭＰＵ）と、第２発光制御手段を含み、遊技制御手段からの指令に基づいて演出を制御する演出制御手段（周辺制御基板１５１０の周辺制御ＭＰＵ）と、をさらに備え、第１発光手段を遊技制御手段で制御し、第２発光手段を演出制御手段で制御するため、第１発光手段の不具合の発生を確実に抑制できる。

【３４０１】

遊技の進行を制御する遊技制御手段（主制御基板１３１０の主制御ＭＰＵ）と、遊技の進行に伴って実行される遊技演出に関連して発光可能な複数の発光手段（ドットマトリクス表示器７０００、機能表示ユニット１４００、発光装飾体（裏下中回転装飾体３３１０、裏上後回転装飾体３４４０、裏後左回転装飾体３５１０、裏後右回転装飾体３６１０、裏後可動装飾体３１１０、裏上前回転装飾体３４１０、裏上前装飾体３４２１、裏前左装飾体３７１３、裏前右装飾体３８１３等）に設けられているＬＥＤ、扉枠左サイド装飾基板４０２、扉枠右サイド装飾基板４１８、扉枠トップ中央装飾基板４５５、扉枠トップ左装飾基板４５６、及び扉枠トップ右装飾基板４５７に設けられるＬＥＤ、なお皿左上装飾基板２７３、皿右上装飾基板２７８、皿中央上装飾基板３１４に設けられるＬＥＤも含むものであってもよい。）と、を備え、複数の発光手段は、用途（演出用途、遊技状態や特別表示結果の通知用途）に応じて異なる基板に実装されており、第１の用途に用いられる発光手段（ドットマトリクス表示器７０００、機能表示ユニット１４００）を実装する第１の基板（ドットマトリクス表示器７０００に設けられる基板７２００、機能表示ユニット１４００に設けられる機能表示基板）と、第１の用途とは異なる第２の用途に用いられる発光手段（発光装飾体（裏下中回転装飾体３３１０、裏上後回転装飾体３４４０、裏後左回転装飾体３５１０、裏後右回転装飾体３６１０、裏後可動装飾体３１１０、裏上前回転装飾体３４１０、裏上前装飾体３４２１、裏前左装飾体３７１３、裏前右装飾体３８１３等）に設けられているＬＥＤ、扉枠左サイド装飾基板４０２、扉枠右サイド装飾基板４１８、扉枠トップ中央装飾基板４５５、扉枠トップ左装飾基板４５６、及び扉枠トップ右装

飾基板４５７に設けられるＬＥＤ、なお皿左上装飾基板２７３、皿右上装飾基板２７８、皿中央上装飾基板３１４に設けられるＬＥＤも含むものであってもよい。）を実装する第２の基板（発光装飾体（裏下中回転装飾体３３１０、裏上後回転装飾体３４４０、裏後左回転装飾体３５１０、裏後右回転装飾体３６１０、裏後可動装飾体３１１０、裏上前回転装飾体３４１０、裏上前装飾体３４２１、裏前左装飾体３７１３、裏前右装飾体３８１３等）に設けられる基板、扉枠３に設けられているＬＥＤを実装する基板（本例では少なくとも扉枠左サイド装飾基板４０２、扉枠右サイド装飾基板４１８、扉枠トップ中央装飾基板４５５、扉枠トップ左装飾基板４５６、及び扉枠トップ右装飾基板４５７、なお皿左上装飾基板２７３、皿右上装飾基板２７８、皿中央上装飾基板３１４も含むものであってもよい。））と、の実装面の色を異ならせたため、用途に応じて発光手段の反射率を高めたり、低下させたりすることができる。例えば反射率を高めたい基板を明色として、光の拡散を抑制したい基板を暗色とすることにより遊技者に誤った情報が伝わることを抑制でき、遊技興趣の低下を抑止できる。

【３４０２】

第１の基板に実装される発光手段は、演出効果を高めるために用いられ、第２の基板に実装される発光手段は、抽選結果に関わる情報を表示するために用いられるものであり、所定の情報を表示する第２装飾基板の表面に暗色塗膜を形成することで光の干渉を抑制し、誤った情報が通知されることを抑制できる。

【３４０３】

第１の基板の表面には、白色塗膜が形成され、第２の基板の表面には、暗色塗膜が形成され、演出効果を高めるために用いられる発光手段が設けられる第１の基板の表面に白色塗膜を形成することで発光手段の反射率を高めることができるため、第１の基板に実装される発光手段の発光時における輝度を高めることができ、演出効果が高まる。一方、抽選結果に関わる情報を表示するための第２の基板の表面には暗色塗膜を形成することで発光手段それぞれから照射される光が拡散して干渉することを抑制できるため、発光手段それぞれの発光状態が明瞭となり、抽選結果に関わる情報が誤解されて伝わることを抑制できる。

【３４０４】

遊技球が転動する遊技領域５ａが前面に形成される遊技盤５と、該遊技盤５の前面を区画するレール部材（外レール１００１、内レール１００２）と、を備え、第１の基板は、レール部材の内側領域に配置され、第２の基板は、レール部材の外側領域に配置し、第１装飾基板の表面に白色塗膜を形成するため、遊技者が注目するレール部材の内側領域における光の反射率を高めて演出効果を高めることができる。

【３４０５】

［主制御基板ユニットの詳細について］

遊技盤５における主制御ユニット１３００について、主に図３２０等を参照して詳細に説明する。主制御ユニット１３００は、基板ホルダ１２００の後面に着脱可能に取付けられている。主制御ユニット１３００は、遊技内容及び遊技球Ｂの払出し等を制御する主制御基板１３１０と、遊技性能を設定することができる設定変更基板１３１１と、主制御基板１３１０と設定変更基板１３１１とを収容しており基板ホルダ１２００に取付けられる非導電性を有する樹脂製の主制御基板ボックス１３２０と、を備えている。

【３４０６】

主制御基板ボックス１３２０が基板ホルダ１２００の後面に取付けられた状態では、遊技盤５を後ろから見ると、左右方向に長い矩形状の主制御基板１３１０が主制御基板ボックス１３２０のカバー体の左辺、上辺、右辺、及び下辺により囲まれた領域のうち左辺から右辺へ向かって５分の４程度の領域を占有する大きさに形成されて配置されると共に、残りの５分の１程度の領域であって主制御基板ボックス１３２０のカバー体の上辺及び右辺が接続される角部分の領域に正方形状の設定変更基板１３１１が配置される。

【３４０７】

外枠２は、上述したように、外枠上ヒンジ組立体５０と外枠下ヒンジ部材６０とによって、本体枠４の本体枠上ヒンジ部３１０と本体枠下ヒンジ部３２０とを同軸上で回転可能に

支持して本体枠４を正面視左側を中心にして前方へ開閉することができるようになっているため、本体枠４の本体枠上ヒンジ部３１０と本体枠下ヒンジ部３２０とが配置される本体枠４の上下方向の正面視左辺側が本体枠４の軸支側（閉鎖側）となり、これと反対側となる本体枠４の上下方向の正面視右辺側が本体枠４の開放側となる。つまり、遊技盤５が本体枠４の本体枠ベース５０１に取付けられた状態では、本体枠４の開放側に主制御基板１３１０が配置されているのに対して、本体枠４の軸支側（閉鎖側）に設定変更基板１３１１が配置されている。

【３４０８】

また、本体枠４の本体枠ベースユニット３００の後側に開閉可能に取付けられる裏カバー６４０は、上述したように、本体枠４の本体枠ベース５０１に取付けられた遊技盤５の後側を覆うものである。つまり、遊技盤５が本体枠４の本体枠ベース５０１に取付けられた状態では、主制御基板ボックス１３２０が裏カバー６４０により覆われた状態となっている。また、裏カバー６４０は、上述したように、正面視における右辺が、本体枠ベース５０１の正面視後面右側端に、上下に延びた軸周りに回転可能に取付けられ、正面視における左辺が、払出ベース５５１の裏カバー取付部５５１ｉと上部満タン球経路ユニット６００の裏カバー取付部６０１ａとに取付けられるようになっているため、正面視右辺側が裏カバー６４０の軸支側（閉鎖側）となり、これと反対側となる正面視左辺側が裏カバー６４０の開放側となる。つまり、遊技盤５が本体枠４の本体枠ベース５０１に取付けられた状態では、裏カバー６４０の軸支側（閉鎖側）に主制御基板１３１０が配置されているのに対して、裏カバー開放側に設定変更基板１３１１が配置されている。

【３４０９】

本実施形態では、主制御基板１３１０のレジストとして緑色を採用しており、主制御基板１３１０の表面（実装面）全体及び裏面（ハンダ面）全体が緑色のレジストで各種ランドパターンを除いてベタ塗りされているのに対して、設定変更基板１３１１のレジストとして主制御基板１３１０のレジストと異なる色となる白色を採用し、設定基板１３１１の表面（実装面）及び裏面（ハンダ面）全体が白色のレジストで各種ランドパターンを除いてベタ塗りされている。

【３４１０】

ここで、設定変更基板１３１１のレジストとして主制御基板１３１０のレジストとして採用される色と異なる色を採用している点について説明する。主制御基板１３１０と設定変更基板１３１１とは、ともに主制御基板ボックス１３２０に収容される基板である。遊技ホールの店長、遊技ホールの店員等の係員は、主制御基板１３１０が遊技の進行を制御する（遊技内容及び遊技球Ｂの払出し等を制御する）防犯上重要度が高い基板であるという点についての認知度が非常に高い。このため、この基板が主制御基板１３１０であるという点を他の基板と区別して注意喚起する必要がない。これに対して、設定変更基板１３１１は、遊技性能を設定することができるというパチンコ機１において全く新しい機能を有する基板であるため、主制御基板ボックス１３２０に収容されるものの、防犯上重要度が高い基板であるという点についての認知度が極めて低い。このため、この基板が設定変更基板１３１１であるという点を他の基板と区別して注意喚起する必要がある。

【３４１１】

そこで、本実施形態では、基板のレジストとして一般に利用されている緑色を主制御基板１３１０のレジストとして採用し、設定変更基板１３１１のレジストとして主制御基板１３１０のレジストとして採用される色と異なる白色を採用した。これにより、主制御基板ボックス１３２０に収容される基板のうち、主制御基板１３１０と比べて設定変更基板１３１１が目立つ存在となり、主制御基板１３１０に加えて設定変更基板１３１１も防犯上重要度が高い基板であるという点についての認知度を高めることに寄与することができる。

【３４１２】

なお、上述した本実施形態では、設定変更基板１３１１のレジストとして主制御基板１３１０のレジストとして採用される緑色と異なる白色を採用したが、主制御基板１３１０と設定変更基板１３１１とを区別することができるものであれば、黄色、赤色、青色、及び

透明等にしてもよい。
【３４１３】
また、上述した本実施形態では、設定変更基板１３１１のレジストとして主制御基板１３１０のレジストとして採用される緑色と異なる白色を採用したが、設定変更基板１３１１のレジストに代えて、設定変更基板１３１１の表面（実装面）及び／又は裏面（ハンダ面）のほぼ全体を覆うように白色でシルク印刷として印刷してもよいし、黒色、青色、黄色、及び赤色のうちいずれかの色でシルク印刷として印刷してもよい。
【３４１４】
次に、主制御基板１３１０と設定変更基板１３１１とを収容する主制御基板ボックス１３２０について説明する。主制御基板ボックス１３２０は、非導電性を有する樹脂製のカバー体と、非導電性を有する樹脂製のベース体と、から構成されている。カバー体とベース体とは、ポリカーボネートの樹脂製であり、透明に成型されている。カバー体とベース体とにより形成される内部空間には、主制御基板１３１０及び設定変更基板１３１１を収容することができるようになっている。カバー体とベース体とがポリカーボネートの樹脂製により透明に成型されていることにより、主制御基板１３１０及び設定変更基板１３１１の表面側や裏面側の状態（不正な改変が行われているか否か、又は不正ＩＣが実装されているか否か）を、主制御基板ボックス１３２０の外側から確認することができるようになっている。また、主制御基板ボックス１３２０は、カバー体とベース体とにそれぞれ対応するように複数の封印機構を備えており、一つの封印機構を用いて主制御基板ボックス１３２０を閉じると、次に、主制御基板ボックス１３２０を開けるためにはその封印機構を破壊する必要があり、主制御基板ボックス１３２０の開閉の痕跡を残すことができる。したがって、開閉の痕跡を見ることで、主制御基板ボックス１３２０の不正な開閉を発見することができ、主制御基板１３１０及び設定変更基板１３１１への不正行為に対する抑止力が高められている。なお、カバー体には、主制御基板ボックス１３２０内の空気を外気へ放出することができる放熱用の通気孔が複数形成されている。
【３４１５】
主制御ユニット１３００の主制御基板１３１０は、インターフェイス基板６３５、及び周辺制御基板１５１０と、接続されている。また、主制御基板１３１０は、機能表示ユニット１４００、第一始動口センサ３０５２、ゲートセンサ２８０１、第二始動口センサ２４０１、一般入賞口センサ３０５１、第一大入賞口センサ２４０２、第二大入賞口センサ２６０１、アウト口センサ３０５３、第一サブアウト口センサ２４０３、第二サブアウト口センサ３０５４、及び磁気センサ２４０４，２６０２，３０５５、等と接続されている。
【３４１６】
主制御ユニット１３００の設定変更基板１３１１は、パチンコ機１の設定値の切り替えと設定値の確認とを行うことができる設定キースイッチ１３１１ａを備えている。設定変更基板１３１１のコネクタＳＭＣＮは、主制御基板１３１０のコネクタＭＳＣＮとコネクタ接続（基板間接続）されている（設定変更基板１３１１のコネクタＳＭＣＮと主制御基板１３１０のコネクタＭＳＣＮとのコネクタ間を、ハーネス（電気配線）を介して、電気的に接続してもよい。設定キースイッチ１３１１ａへの操作に伴う力をハーネス（電気配線）により吸収して（和らげて）設定変更基板１３１１から主制御基板１３１０へ伝わり難くすることができる）。このコネクタ接続（基板間接続）されることにより、設定キースイッチ１３１１ａからの信号は、主制御基板１３１０と電気的に接続される。なお、基板間接続であるコネクタ接続には、フローティング機構を備えていない通常コネクタを用いる接続と、フローティング機構を備えている特殊コネクタを用いる接続と、がある。フローティング機構を備えていない通常コネクタは、ソケットとプラグとから構成され、ソケットにプラグを挿入して押し込むことによりソケットとプラグとが嵌合するものであり、ソケットがプラグと嵌合する際に、プラグを挿入して押し込む方向に対して垂直方向（例えば、上下方向）へ移動する量が全くない構造となっている。これに対して、フローティング機構を備えている特殊コネクタは、ソケットとプラグとから構成され、ソケットをプラグに挿入して押し込むことによりソケットとプラグとが嵌合するものであり、ソケット

がプラグと嵌合する際に、ソケットを挿入して押し込む方向に対して垂直方向（例えば、上下方向）へ向かって所定距離範囲を動くことによって押し込む際に生ずる誤差（嵌合軸ズレ）を吸収することができる構造となっている。本実施形態では、基板間接続であるコネクタ接続として、フローティング機構を備えていない通常コネクタを採用しているが、フローティング機構を備えている特殊コネクタを採用してもよい。

【３４１７】

設定変更基板１３１１は、その一辺の距離寸法が主制御基板ボックス１３２０のカバー体の横方向の距離寸法の約５分の１程度を有して正方形状に形成され、その上辺が主制御基板１３１０の上辺と同一の直線上に配置されているとともに、その下辺が主制御基板１３１０の右辺と左辺とのそれぞれの中点を通る中心線より上方に配置されている。

【３４１８】

設定変更基板１３１１のコネクタＳＭＣＮは、設定変更基板１３１１の左辺に沿って、その上下方向の距離寸法の中心となる位置に配置されているとともに、主制御基板１３１０のコネクタＭＳＣＮは、主制御基板１３１０の右辺であって、設定変更基板１３１１のコネクタＳＭＣＮと対応する位置に配置されている。正方形状の設定変更基板１３１１の上下左右方向の各中心線が交わる中心点に設定キーが挿入されて回動操作される設定キーシリンダを有する設定キースイッチ１３１１ａが配置されている。主制御基板１３１０には、設定変更基板１３１１の左右方向の中心線上より上方であってコネクタＭＳＣＮ寄りに単色（例えば、赤色）に発光することができる設定変更許可ランプ１３１０ｚが配置されている。主制御基板１３１０の中心線より上方であってコネクタＭＳＣＮの近傍に小数点付き（いわゆる、ドット付き）７セグメントＬＥＤ表示器単体で構成される設定表示器１３１０ｇが配置され、主制御基板１３１０の中心線より下方であって中央から右辺へ向かって小数点付き（いわゆる、ドット付き）７セグメントＬＥＤ表示器が６つ一列に連なって構成されるベースモニタ１３１０ｈが配置されている。

【３４１９】

本実施形態では、設定キースイッチ１３１１ａの設定キーシリンダの前面に形成される差し込み口に設定キーが差し込まれる準備が整っている位置（例えば、矩形状を有する差し込み口の長手方向が上下方向へ沿う位置）において、初期位置として設定キースイッチ１３１１ａをＯＦＦとする状態となっている。設定キーシリンダが初期位置にあるときにおいて、差し込み口に金属製の設定キーを差し込むことができるとともに、差し込み口から金属製の設定キーを抜き取ることができるようになっている。なお、本実施形態では、遊技盤５の後側を覆う裏カバー６４０がパチンコ機１から何らかの理由により外れた状態であって、差し込み口に設定キーが差し込まれた状態のまま、外枠２に対して本体枠４を閉鎖したとしても、遊技ホールの島設備に背向かいで列設される他のパチンコ機の部材（又は遊技ホールの島設備の部材）と設定キーとが互いに干渉せずに損傷しないように設定キースイッチ１３１１ａの奥行き方向の距離寸法を採用している。

【３４２０】

設定キーシリンダが初期位置から時計方向へ向かって６０度回動操作されてＯＮ操作されることにより設定キースイッチ１３１１ａを設定キーＯＮとすることができ、この設定キーＯＮの信号が設定変更基板１３１１から主制御基板１３１０の主制御ＭＰＵ１３１０ａへ入力される。また、設定キースイッチ１３１１ａを設定キーＯＮした設定キーシリンダの回転位置から元の位置である初期位置（つまり、設定キースイッチ１３１１ａをＯＦＦする設定キーシリンダの回転位置）へ戻すように設定キーシリンダが反時計方向へ向かって６０度回転操作されてＯＦＦ操作されることにより設定キースイッチ１３１１ａをＯＦＦとすることができる。このＯＦＦの信号が設定変更基板１３１１から主制御基板１３１０の主制御ＭＰＵ１３１０ａへ入力される。

【３４２１】

［設定値の設定変更の手順、設定値の確認表示の手順］

次に、設定変更基板１３１１の設定キースイッチ１３１１ａ、払出制御基板６３３のＲＡＭクリアスイッチ、及び主制御基板１３１０の設定表示器１３１０ｇについて簡単に説明

する。ここで、まず設定値の設定変更を行う場合について簡単に説明し、現在の設定値の確認表示を行う場合について簡単に説明する。なお、設定キーは、設定値の変更のほかに、設定されている現状の設定値の確認等を行うことができる重要なキーであるため、遊技ホールの店長を含め限られた者のみ所持が許可され、２～３人に限定されている。

【３４２２】

設定値の設定変更を行う場合には、パチンコ機１の電源投入時や停電（瞬間的に停電が発生する瞬停）後の電力回復時における復電時において、外枠２に対して本体枠４が開放され、設定変更基板１３１１の設定キースイッチ１３１１ａの設定キーシリンダ１３１１ａｂの差し込み口１３１１ａｂａに設定キーが差し込まれ、設定キーシリンダ１３１１ａｂが時計方向へ向かって６０度回動操作されてＯＮ操作されることで設定キースイッチ１３１１ａが設定キーＯＮされ、かつ、払出制御基板６３３のＲＡＭクリアスイッチの押圧操作部が操作されているという「予め定めた設定値変更許可条件」が成立する必要がある。つまり、実際に設定値の設定変更を行う者は、まずパチンコ機１が電源投入されていない状態（パチンコ機１の電源が遮断されている状態）を確認してから、外枠２に対して本体枠４を開放する作業を行い、続いて設定キースイッチ１３１１ａの設定キーシリンダ１３１１ａｂの差し込み口１３１１ａｂａに金属製の設定キーを差し込んで時計方向へ向かって６０度回動操作してＯＮ操作することにより設定キースイッチ１３１１ａを設定キーＯＮし、続いてＲＡＭクリアスイッチの押圧操作部を操作しながら、電源スイッチ６３０ａを操作してパチンコ機１の電源投入を行うこととなる。

【３４２３】

設定値の設定変更を行う者は、まずパチンコ機１が電源投入されていない状態（パチンコ機１の電源が遮断されている状態）を確認してから、外枠２に対して本体枠４を開放する作業を行い、続いて設定キースイッチ１３１１ａの設定キーシリンダ１３１１ａｂの差し込み口１３１１ａｂａに金属製の設定キーを差し込み、設定キーシリンダを時計方向へ向かって６０度回動操作してＯＮ操作することにより設定キースイッチ１３１１ａを設定キーＯＮとする。続いてＲＡＭクリアスイッチの押圧操作部を操作しながら、電源スイッチ６３０ａを操作してパチンコ機１の電源投入を行う。これにより、設定キーＯＮの信号が設定変更基板１３１１から主制御基板１３１０の主制御ＭＰＵ１３１０ａへ入力される。主制御ＭＰＵ１３１０ａは、その内蔵されているＲＡＭの特定領域に格納されている現状の設定値（設定キースイッチ１３１１ａの設定キーシリンダ１３１１ａｂがＯＮ操作された時点における設定値１～設定値６のうち設定されている値）を設定表示器１３１０ｇに表示し、設定変更許可ランプ１３１０ｚを消灯した状態から点灯する状態へと切り替える。

【３４２４】

設定値の設定変更を行う者は、払出制御基板６３３のＲＡＭクリアスイッチの押圧操作部を押圧操作すると、ＲＡＭクリアスイッチからの検出信号が払出制御基板６３３から主制御基板１３１０の主制御ＭＰＵ１３１０ａへ入力される。設定値の設定変更を行う者がＲＡＭクリアスイッチの押圧操作部を押圧操作するごとに、主制御ＭＰＵ１３１０ａは、ＲＡＭクリアスイッチからの検出信号に基づいて、現状の設定値から値１ずつ増加し、最大値である設定値６に達すると、初期値である設定値１へ戻り、再び値１ずつ増加し、設定値を設定表示器１３１０ｇに表示する制御を行う。

【３４２５】

設定値の設定変更を行う者は、設定値を決定する場合には、設定キースイッチ１３１１ａを設定キーＯＮした設定キーシリンダの回転位置から元の位置である初期位置（つまり、設定キースイッチ１３１１ａをＯＦＦする設定キーシリンダの回転位置）へ戻すように反時計方向へ向かって６０度回転操作してＯＦＦ操作する。この設定キーＯＦＦの信号が設定変更基板１３１１から主制御基板１３１０の主制御ＭＰＵ１３１０ａへ入力される。これにより、主制御ＭＰＵ１３１０ａは、設定変更して決定した設定値を主制御ＭＰＵ１３１０ａに内蔵されているＲＡＭの特定領域に格納し、設定表示器１３１０ｇに対して設定値を表示する状態から非表示する状態へ切り替え、設定変更許可ランプ１３１０ｚを点灯する状態から消灯する状態へ切り替える。

【３４２６】
設定値の設定変更を行う者は、設定キースイッチ１３１１ａの設定キーシリンダ１３１１ａｂの差し込み口１３１１ａｂａから金属製の設定キーを抜き取り、外枠２に対して本体枠４を閉鎖する作業を行い、設定値の設定変更の作業を完了する。
【３４２７】
現在設定されている設定値の確認表示を行う場合には、パチンコ機１の電源投入時や停電（瞬間的に停電が発生する瞬停）後の電力回復された復電時において、外枠２に対して本体枠４が開放され、設定キースイッチ１３１１ａの設定キーシリンダ１３１１ａｂの差し込み口１３１１ａｂａに設定キーが差し込まれ、設定キーシリンダ１３１１ａｂが時計方向へ向かって６０度回動操作されてＯＮ操作されることで設定キースイッチ１３１１ａが設定キーＯＮされ、かつ、ＲＡＭクリアスイッチの押圧操作部が操作されていないという「予め定めた設定値表示許可条件」が成立する必要がある。つまり、実際に現在設定されている設定値の確認表示を行う者は、まずパチンコ機１が電源投入されていない状態（パチンコ機１の電源が遮断されている状態）を確認してから、外枠２に対して本体枠４を開放する作業を行い、続いて設定キースイッチ１３１１ａの設定キーシリンダ１３１１ａｂの差し込み口１３１１ａｂａに金属製の設定キーを差し込んで時計方向へ向かって６０度回動操作してＯＮ操作することにより設定キースイッチ１３１１ａを設定キーＯＮし、続いてＲＡＭクリアスイッチの押圧操作部を操作することなく、電源スイッチ６３０ａを操作してパチンコ機１の電源投入を行うこととなる。
【３４２８】
現在設定されている設定値の確認表示を行う者は、まずパチンコ機１が電源投入されていない状態（パチンコ機１の電源が遮断されている状態）を確認してから、外枠２に対して本体枠４を開放する作業を行い、続いて設定キースイッチ１３１１ａの設定キーシリンダ１３１１ａｂの差し込み口１３１１ａｂａに金属製の設定キーを差し込み、設定キーシリンダを時計方向へ向かって６０度回動操作してＯＮ操作することにより設定キースイッチ１３１１ａを設定キーＯＮとする。続いてＲＡＭクリアスイッチの押圧操作部を操作することなく、電源スイッチ６３０ａを操作してパチンコ機１の電源投入を行う。これにより、設定キーＯＮの信号が設定変更基板１３１１から主制御基板１３１０の主制御ＭＰＵ１３１０ａへ入力される。主制御ＭＰＵ１３１０ａは、その内蔵されているＲＡＭの特定領域に格納されている現状の設定値（設定キースイッチ１３１１ａの設定キーシリンダ１３１１ａｂがＯＮ操作された時点における設定値１～設定値６のうち設定されている値）を設定表示器１３１０ｇに表示する。このとき、設定変更許可ランプ１３１０ｚを消灯した状態が維持され、また現在設定されている設定値の確認表示を行う者がＲＡＭクリアスイッチの押圧操作部を押圧操作しても、この押圧操作に対応して設定値が全く変更されないし、設定表示器１３１０ｇに表示された内容も変更されない。
【３４２９】
現在設定されている設定値の確認表示を行う者は、現在設定されている設定値の確認を完了すると、設定キースイッチ１３１１ａを設定キーＯＮした設定キーシリンダの回転位置から元の位置である初期位置（つまり、設定キースイッチ１３１１ａをＯＦＦする設定キーシリンダの回転位置）へ戻すように反時計方向へ向かって６０度回転操作してＯＦＦ操作する。この設定キーＯＦＦの信号が設定変更基板１３１１から主制御基板１３１０の主制御ＭＰＵ１３１０ａへ入力される。これにより、主制御ＭＰＵ１３１０ａは、設定表示器１３１０ｇに対して設定値を表示する状態から非表示する状態へ切り替える。
【３４３０】
現在設定されている設定値の確認表示を行う者は、設定キースイッチ１３１１ａの設定キーシリンダ１３１１ａｂの差し込み口１３１１ａｂａから金属製の設定キーを抜き取り、外枠２に対して本体枠４を閉鎖する作業を行い、現在設定されている設定値の確認表示の作業を完了する。
【３４３１】
なお、予め定めた設定値変更許可条件は、上述したように、パチンコ機１の電源投入時や

停電（瞬間的に停電が発生する瞬停）後の電力回復時における復電時において、外枠２に対して本体枠４が開放され、設定キースイッチ１３１１ａの設定キーシリンダ１３１１ａｂの差し込み口１３１１ａｂａに設定キーが差し込まれ、設定キーシリンダ１３１１ａｂが時計方向へ向かって６０度回動操作されてＯＮ操作されることで設定キーＯＮ操作され、かつ、ＲＡＭクリアスイッチの押圧操作部が操作されていることが必要であるのに対して、予め定めた設定値表示許可条件は、上述したように、パチンコ機１の電源投入時や停電（瞬間的に停電が発生する瞬停）後の電力回復された復電時において、外枠２に対して本体枠４が開放され、設定キースイッチ１３１１ａの設定キーシリンダ１３１１ａｂの差し込み口１３１１ａｂａに設定キーが差し込まれ、設定キーシリンダ１３１１ａｂが時計方向へ向かって６０度回動操作されてＯＮ操作されることで設定キーＯＮ操作され、かつ、ＲＡＭクリアスイッチの押圧操作部が操作されていないことが必要である。このように、予め定めた設定値変更許可条件と予め定めた設定値表示許可条件とは、パチンコ機１の電源投入時や停電（瞬間的に停電が発生する瞬停）後の電力回復時における復電時において、外枠２に対して本体枠４が開放され、かつ、設定キースイッチ１３１１ａの設定キーシリンダ１３１１ａｂの差し込み口１３１１ａｂａに設定キーが差し込まれ、設定キーシリンダ１３１１ａｂが時計方向へ向かって６０度回動操作されてＯＮ操作されることで設定キーＯＮ操作されているという点で共通する要件があり、予め定めた設定値変更許可条件には「パチンコ機１の電源投入時や停電（瞬間的に停電が発生する瞬停）後の電力回復時における復電時に、ＲＡＭクリアスイッチの押圧操作部が操作されていること」を要件とするのに対して、予め定めた設定値表示許可条件には「パチンコ機１の電源投入時や停電（瞬間的に停電が発生する瞬停）後の電力回復時における復電時に、ＲＡＭクリアスイッチの押圧操作部が操作されていないこと」を要件とする点で相違する。

【３４３２】

ここで、設定値について簡単に説明すると、「設定値」とは、大当りか否かを抽選判定するための確率や小当りか否かを抽選判定するための確率のほかに、確変時から通常時へ移行する際に抽選判定するための確率、遊技者にとって有利となる領域への振り分け率等を変更することができるものであり、遊技者にとって有利となる（つまり、遊技者が獲得することができる遊技球の球数を増やすことができる）確率（有利度合い）が予め設定されているものである。本実施形態では、設定値として、設定値１、設定値２、設定値３、設定値４、設定値５、及び設定値６が予め用意されており、設定値１から設定値６へ向かって遊技者にとって有利となる確率（有利度合い）が予め設定されている。主制御基板１３１０の主制御ＭＰＵ１３１０ａは、設定値と対応付けた各種抽選判定で用いられる各種テーブル（例えば、大当りに当選したことを示す大当り判定値の割合が規定される大当り判定テーブル、大当り図柄の決定の判定値の割合が規定される大当り図柄決定テーブル、小当りに当選したことを示す小当り判定値の割合が規定される小当り判定テーブル、小当り図柄の決定の判定値の割合が規定される小当り図柄決定テーブル、確変時から通常時への移行決定の判定値の割合が規定される通常時移行判定テーブル等）を選択したり、設定値と対応付けた各種振り分け率で用いられる各種テーブル（例えば、振り分ける時間が規定される振り分けテーブル、モータやソレノイド等の電気的駆動源の駆動を管理するブロック等）を選択したりする。設定値と対応付けた各種抽選判定で用いられる各種テーブルには、各種判定値には所定の割合で割り振られている。なお、各種抽選判定で用いられる各種テーブルは、相互に少なくとも一部の値が異なるように設定され、各種振り分け率で用いられる各種テーブルは、相互に少なくとも一部の値が異なるように設定されているものもあれば、一の電気的駆動源の駆動を管理するブロックに対応するテーブルと他の電気的駆動源の駆動を管理するブロックに対応するテーブルとの関係性に基づいて値が異なるように設定されているものもある。また、上述した設定値としては、設定値１から設定値６までに亘る範囲の６つの設定値（整数）としていたが、これと比べて少ない範囲のものでもあってもよいし、多い範囲のものであってもよい。例えば、設定値１～設定値４までに亘る範囲の４つの設定値（整数）としてもよいし、設定値１～設定値８までに亘る範囲の８つの設定値（整数）としてもよい。

【３４３３】
設定表示器１３１０ｇは、上述したように、設定値の表示を行うほかに、主制御ＭＰＵ１３１０ａが復電時に自身に内蔵されているＲＡＭの内容をチェックして異常があるか否かを判定して異常があると判定した場合、電源遮断時に主制御側電源断時処理が正常に終了していない場合には、自身に内蔵されているＲＡＭに格納されている内容に異常がある（又は信用することができないものである）として、その旨を伝えるエラー表示を行う。本実施形態では、主制御ＭＰＵ１３１０ａがエラー表示として英字Ｅを設定表示器１３１０ｇに表示するようになっている。
【３４３４】
［ハンドルへの接触・非接触を用いた演出について］
本実施形態では、ハンドル１８２に手のひらや指が触れているか否かを検出するハンドルタッチセンサ１９２を用いた演出として、ハンドル１８２への接触に応じた演出や、ハンドル１８２への非接触が所定時間経過したことに応じた演出を実行している。なお、ハンドルタッチセンサ１９２は、ハンドルユニット１８０に作用する静電気を検知するものであり、遊技者がハンドル１８２等に接触することで、遊技者から作用する静電気を検知し、遊技者のハンドル１８２等への接触を検出するものである。
【３４３５】
まず、ハンドルタッチセンサ１９２の検出時における信号経路について、図３２１を参照して説明する。図３２１は、ハンドルタッチセンサ１９２の検出時における信号経路を説明するための図である。
【３４３６】
ハンドルタッチセンサ１９２からの検出信号は、ハンドル後中継基板１０６を介して、払出制御基板６３３の発射制御部６３３ｂに入力される。そして、発射制御部６３３ｂは、ハンドルタッチセンサ１９２からの検出信号を入力すると、その検出信号を主制御基板１３１０の主制御ＭＰＵに向けて出力する。
【３４３７】
主制御ＭＰＵは、上述した発射許可信号設定処理（ステップＳ１１３）を行い、遊技球Ｂの発射を払出制御基板６３３の発射制御部６３３ｂに対して許可する旨を伝える発射許可信号の論理を設定することを可能にしている。この処理においては、ハンドルタッチセンサ１９２からの検出信号を入力しているときには発射許可信号の論理として発射許可論理に設定することを可能にする一方、ハンドルタッチセンサ１９２からの検出信号を入力していないときには発射許可信号の論理として発射許可論理を反転させた発射停止論理（発射非許可論理）に設定している。つまり、ハンドル１８２への接触時には、払出制御基板６３３の発射制御部６３３ｂに向けて発射許可信号を出力することが可能である一方、ハンドル１８２への非接触時には、払出制御基板６３３の発射制御部６３３ｂに向けて発射許可信号を出力することがない。そして、発射制御部６３３ｂは、発射許可信号を受けている期間（ハンドルタッチセンサ１９２が遊技者の接触を検出している期間）において、ハンドル１８２を回動させると、ハンドル回転検知センサ１８９の検知が受付けられ、ハンドル１８２の回転角度に応じた強さで発射ソレノイド５４２の駆動が制御されて、遊技球Ｂを打込むことができる。一方、遊技者がハンドル１８２に触れずに、何らかの方法でハンドル１８２を回転させて遊技球Ｂを遊技領域５ａ内に打込もうとしても、発射許可信号を受けていない期間（ハンドルタッチセンサ１９２が遊技者の接触を検知していない期間）であることから、発射ソレノイド５４２は駆動されず、遊技球Ｂを打込むことができないようになっている。これにより、遊技者が本来とは異なる方法でハンドル１８２を回転させて遊技が行われるのを防止することができ、パチンコ機１を設置する遊技ホールに係る負荷（負担）を軽減させることができる。
【３４３８】
ただし、主制御ＭＰＵは、設定値の変更許可や設定値の確認表示が行われていない状態であると判定したときには発射許可信号の論理として発射許可論理に設定することを可能にする一方、設定値の変更許可や設定値の確認表示が行われている状態であると判定したと

きには発射許可信号の論理として発射許可論理を反転させた発射停止論理（発射非許可論理）に設定している。つまり、設定値の変更許可中や設定値の確認表示中には、ハンドル１８２への接触時であっても、払出制御基板６３３の発射制御部６３３ｂに向けて発射許可信号を出力することがない。このため、設定値の変更許可中や設定値の確認表示中には、ハンドル１８２を回転させて遊技球Ｂを遊技領域５ａ内に打込もうとしても、発射ソレノイド５４２は駆動されず、遊技球Ｂを打込むことができないようになっている。

【３４３９】

上記では、設定値の変更許可中や設定値の確認表示中には、払出制御基板６３３の発射制御部６３３ｂに向けて発射許可信号を出力することがないのに対し、設定値の変更許可や設定値の確認表示の終了後には、払出制御基板６３３の発射制御部６３３ｂに向けて発射許可信号を出力することを可能にしているが、設定値の変更許可や設定値の確認表示の終了前から終了後にかけて、ハンドル１８２に継続して接触している場合には、設定値の変更許可や設定値の確認表示の終了後であっても、発射許可信号を出力しないようにしている。このような場合には、設定値の変更許可や設定値の確認表示の終了後において、ハンドル１８２から一旦手を離して再び接触することで、発射許可信号を出力することができ、ハンドル１８２を回転させて遊技球Ｂを遊技領域５ａ内に打込むことができる。

【３４４０】

また、詳しくは上記したが、主制御ＭＰＵは、不正行為検出フラグＦＤ－ＦＬＧの値に基づいて、不正行為検出フラグＦＤ－ＦＬＧが値０であるとき、つまり不正行為の未検出であると判定したときには発射許可信号の論理として発射許可論理に設定することを可能にする一方、不正行為検出フラグＦＤ－ＦＬＧが値０でない（値１である）とき、つまり不正行為の検出であると判定したときには発射許可信号の論理として発射許可論理を反転させた発射停止論理（発射非許可論理）に設定している。つまり、不正行為の検出時には、ハンドル１８２への接触時であっても、払出制御基板６３３の発射制御部６３３ｂに向けて発射許可信号を出力することがない。このため、不正行為の検出時には、ハンドル１８２を回転させて遊技球Ｂを遊技領域５ａ内に打込もうとしても、発射ソレノイド５４２は駆動されず、遊技球Ｂを打込むことができないようになっている。

【３４４１】

主制御ＭＰＵは、ハンドルタッチセンサ１９２からの検出信号を入力し、払出制御基板６３３の発射制御部６３３ｂに向けて発射許可信号を出力する際には、発射許可信号の出力時である旨を伝える発射許可時コマンドを周辺制御基板１５１０の周辺制御ＭＰＵに向けて出力する。これにより、周辺制御ＭＰＵは、発射許可時コマンドを受けている期間において、ハンドル１８２への接触時であることを把握し、発射許可時コマンドを受けていない期間において、ハンドル１８２への非接触時であることを把握することができる。ただし、設定値の変更許可中や設定値の確認表示中には、ハンドル１８２への接触時であっても、払出制御基板６３３の発射制御部６３３ｂに向けて発射許可信号を出力することがなく、周辺制御基板１５１０の周辺制御ＭＰＵに向けて発射許可時コマンドを出力することもないことから、周辺制御ＭＰＵにおいては、ハンドル１８２への非接触時であるものとして把握されている。同様に、不正行為の検出時には、ハンドル１８２への接触時であっても、払出制御基板６３３の発射制御部６３３ｂに向けて発射許可信号を出力することがなく、周辺制御基板１５１０の周辺制御ＭＰＵに向けて発射許可時コマンドを出力することもないことから、周辺制御ＭＰＵにおいては、ハンドル１８２への非接触時であるものとして把握されている。

【３４４２】

なお、ハンドルタッチセンサ１９２からの検出信号を入力し続けている期間においては、主制御ＭＰＵから周辺制御ＭＰＵに向けて発射許可時コマンドの出力を継続するようにしてもよいが、ハンドルタッチセンサ１９２からの検出信号が非入力から入力に切り替わったときに発射許可時コマンドを出力し、ハンドルタッチセンサ１９２からの検出信号が入力から非入力に切り替わったときに発射停止時コマンドを出力するようにしてもよい。このような場合、周辺制御ＭＰＵは、発射許可時コマンドを受けてから発射停止時コマンド

を受けるまでの期間において、ハンドル１８２への接触時であることを把握することができる。

【３４４３】

次に、周辺制御ＭＰＵにおいては、発射許可時コマンドの入力の有無に応じて、ハンドル１８２への接触時であるか否かを把握し、ハンドル１８２への接触に応じた演出や、ハンドル１８２への非接触が所定時間経過したことに応じた演出を実行している。このような演出の実行制御について、図３２２を参照して説明する。図３２２は、周辺制御部定常処理にて実行される発射許可時コマンド関連処理の一例を示すフローチャートである。

【３４４４】

図３２２に示すように、周辺制御ＭＰＵは、まず、発射許可時コマンドを受けているか否かを判断する（ステップＳ１７０１）。そして、ステップＳ１７０１の処理において、発射許可時コマンドを受けていないと判断した場合には、ハンドル１８２への非接触時であるとして、ハンドル１８２への非接触時間を示す非接触時間カウンタに対してカウント（加算）する（ステップＳ１７０２）。この非接触時間カウンタは、発射許可時コマンドを受けていない状態が継続するほど、つまりハンドル１８２への非接触が継続するほど、増加するものであって、発射許可時コマンドを受けていない状態が所定時間継続するまでの間、つまりハンドル１８２への非接触時間として所定時間が経過するまでの間は、非接触時間カウンタが増加することを可能にしている。

【３４４５】

ステップＳ１７０２の処理に続いて、周辺制御ＭＰＵは、設定値の変更許可が行われている状態であるか否かを判断する（ステップＳ１７０３）。なお、設定値の変更許可の開始時には、主制御ＭＰＵから周辺制御ＭＰＵに向けて変更許可開始コマンドを出力し、設定値の変更許可の終了時には、主制御ＭＰＵから周辺制御ＭＰＵに向けて変更許可終了コマンドを出力することにより、周辺制御ＭＰＵにおいては、設定値の変更許可が行われている状態であるか否かを把握することができる。

【３４４６】

そして、ステップＳ１７０３の処理において、設定値の変更許可が行われていない状態であると判断した場合には、発射許可時コマンドを受けていない状態が所定時間継続したか否か、つまりハンドル１８２への非接触時間として所定時間が経過したか否かを判断する（ステップＳ１７０４）。このとき、発射許可時コマンドを受けていない状態が所定時間継続した、つまりハンドル１８２への非接触時間として所定時間が経過したと判断した場合には、ハンドル１８２への非接触が所定時間経過したことに応じた演出として、当該パチンコ機１の紹介などが行われるデモ演出（デモンストレーション演出）を開始して実行する（ステップＳ１７０５）。デモ演出としては、音声、表示、ランプ発光を用いて、例えば、Ａ→Ｂ→Ｃの演出を繰り返すように実行することとしている。

【３４４７】

なお、デモ演出については、ハンドル１８２への非接触が所定時間（例えば、３０秒）経過した場合に開始するものであるが、その所定時間が経過したタイミングが図柄の変動表示中や、図柄の変動表示の終了時から所定期間内であれば、デモ演出を開始することがなく、図柄の変動表示の終了時から所定期間経過した後において、デモ演出を開始するようにしている。これにより、図柄の変動表示中や、図柄の変動表示の終了時から所定期間内など、ハンドル１８２からの一時的な離間中において、デモ演出が開始されることを防止することができる。

【３４４８】

また、ステップＳ１７０３の処理において、設定値の変更許可が行われている状態であると判断した場合には、設定値の変更許可が行われている状態である旨を報知する変更許可時演出を開始して実行する（ステップＳ１７０６）。変更許可時演出としては、「設定変更中です」を繰り返す音声と、「設定変更中！」というメッセージ表示、設定値の設定変更中に対応した色でのランプ発光を実行することとしている。

【３４４９】

そして、ステップＳ１７０３の処理において、設定値の変更許可が行われている状態であると判断した場合にも、発射許可時コマンドを受けていない状態が所定時間継続したか否か、つまりハンドル１８２への非接触時間として所定時間が経過したか否かを判断する（ステップＳ１７０７）。このとき、発射許可時コマンドを受けていない状態が所定時間継続した、つまりハンドル１８２への非接触時間として所定時間が経過したと判断した場合には、デモ演出と変更許可時演出とを並行して実行するものの、デモ演出よりも変更許可時演出を優先して外部に現出させるようにすることで、外部から認識可能とされる演出としては変更許可時演出を継続させ、デモ演出については外部への現出タイミングを遅延させるべく所定の待機時間を計時するデモ演出待機タイマを開始する（ステップＳ１７０８）。なお、「デモ演出よりも変更許可時演出を優先して外部に現出させる」とは、デモ演出を外部からは認識させない態様でデモ演出の実行プログラム自体は、変更許可時演出の実行プログラムと並行して内部的に開始すること等が例示でき、より具体的には、デモ演出の実行プログラムによりデモ演出画像のレイヤと、変更許可時演出の実行プログラムにより変更許可時演出画像のレイヤと、のいずれも作成するものの、デモ演出画像のレイヤよりも変更許可時演出画像のレイヤを前面側のレイヤとすることで、演出表示装置１６００に表示される画像としては、変更許可時演出画像のみが視認されること等が例示できる。

【３４５０】

このように、設定値の変更許可が行われている状態において、ハンドル１８２への非接触時間として所定時間が経過したと判断した場合には、デモ演出よりも変更許可時演出を優先し、デモ演出を実行していないが、設定値の変更許可が行われている状態の終了後には、変更許可時演出を終了することから、デモ演出を実行することが可能になる。このとき、設定値の変更許可が行われている状態の終了後には、デモ演出を実行する際に、デモ演出待機タイマの時間の分だけデモ演出が進行したものとして、デモ演出の途中から実行されるようになっている。

【３４５１】

一方、ステップＳ１７０１の処理において、発射許可時コマンドを受けていると判断した場合には、ハンドル１８２への接触時であるとして、ハンドル１８２への非接触時間を示す非接触時間カウンタに対してカウント（加算）しない（ステップＳ１７０９）。つまり、ハンドル１８２への接触がある限りは、デモ演出を実行することがない。なお、発射許可時コマンドを受けていない状態から発射許可時コマンドを受けている状態への切り替え時には、発射許可時コマンドを受けていない状態にカウントしていた非接触時間カウンタをリセットするようにしている。

【３４５２】

ステップＳ１７０９の処理に続いて、周辺制御ＭＰＵは、図柄の変動表示が行われていない状態であるか否かを判断する（ステップＳ１７１０）。なお、特別図柄の変動表示の開始時には、主制御ＭＰＵから周辺制御ＭＰＵに向けて変動開始コマンドを出力し、特別図柄の変動表示の終了時には、主制御ＭＰＵから周辺制御ＭＰＵに向けて変動終了コマンドを出力することにより、周辺制御ＭＰＵにおいては、図柄の変動表示が行われている状態であるか否かを把握することができる。

【３４５３】

そして、ステップＳ１７１０の処理において、図柄の変動表示が行われていない状態であると判断した場合には、発射許可時コマンドを受けていない状態から発射許可時コマンドを受けている状態への切り替え時であるか否かを判断する（ステップＳ１７１１）。このとき、発射許可時コマンドを受けている状態への切り替え時であると判断した場合には、ハンドル１８２への接触に応じた演出として、ハンドル１８２に接触した状態への切り替えにより遊技を開始しうる状態に変化した旨を報知するハンドルタッチ演出を開始して実行する（ステップＳ１７１２）。ハンドルタッチ演出としては、１～２秒の演出であり、「遊技開始可能です」という音声と、「遊技開始！」というメッセージ表示、ハンドル１８２に接触した状態への切り替え時に対応した色でのランプ発光を実行することとしている。

【３４５４】
次に、設定値の変更許可が行われている状態におけるパチンコ機１の挙動について、図３２３を参照して説明する。図３２３は、設定値の設定変更中におけるパチンコ機１の挙動を示すタイムチャートである。このような設定値の設定変更が行われている状態では、設定値の設定変更が行われていない状態と比べて、パチンコ機１の挙動が異なるものとなっている。
【３４５５】
図３２３に示すように、設定値の設定変更を行う場合には、まず、パチンコ機１が電源投入されている状態であるか否かを確認し、パチンコ機１が電源投入されている状態である場合には、そのパチンコ機１の電源を遮断する必要がある。そして、パチンコ機１が電源投入されていない状態（パチンコ機１の電源が遮断されている状態）において、外枠２に対して本体枠４が閉鎖している状態である場合には、外枠２に対して本体枠４を開放する作業を行い（タイミングｔ１）、続いて設定キースイッチ１３１１ａの設定キーシリンダ１３１１ａｂの差し込み口１３１１ａｂａに金属製の設定キーを差し込み、設定キーシリンダを時計方向へ向かって６０度回動操作してＯＮ操作することにより設定キースイッチ１３１１ａを設定キーＯＮとする（タイミングｔ２）。そして、ＲＡＭクリアスイッチを操作しながら電源スイッチ６３０ａを操作してパチンコ機１の電源投入を行うことで（タイミングｔ３）、設定値の設定変更を行うことが可能な状態（変更許可状態）となる。このような変更許可状態では、設定切替ボタンの機能として作動するＲＡＭクリアスイッチを押圧操作するごとに、設定値（設定値１～６）を変更することが可能であり、その後に設定キースイッチ１３１１ａを設定キーＯＮした設定キーシリンダの回転位置から元の位置へ戻すように設定キーシリンダを反時計方向へ向かって６０度回転操作してＯＦＦ操作することにより設定キースイッチ１３１１ａをＯＦＦとする（タイミングｔ４）。つまり、タイミングｔ３からタイミングｔ４までの期間については、設定値の設定変更を行うことが可能な状態（変更許可状態）であり、設定キースイッチ１３１１ａをＯＦＦとしたタイミングｔ４の後には、設定値の設定変更を行うことが不能な状態（変更不能状態）となる。そして、設定キースイッチ１３１１ａの設定キーシリンダ１３１１ａｂの差し込み口１３１１ａｂａから金属製の設定キーを抜き取り、外枠２に対して本体枠４を閉鎖する作業を行うことで（タイミングｔ５）、遊技者が遊技を行うことが可能な状態となる。
【３４５６】
タイミングｔ３からタイミングｔ４までの期間である変更許可状態には、遊技球Ｂの発射を払出制御基板６３３の発射制御部６３３ｂに対して許可する旨を伝える発射許可信号の論理として発射許可論理を反転させた発射停止論理（発射非許可論理）に設定し、ハンドル１８２への接触時であるか否かにかかわらず、払出制御基板６３３の発射制御部６３３ｂに向けて発射許可信号を出力することがない。つまり、変更許可状態においては、ハンドル１８２に接触し、ハンドル１８２を回転させて遊技球Ｂを遊技領域５ａ内に打込もうとしても、発射ソレノイド５４２は駆動されず、遊技球Ｂを打込むことが不能な状態（発射不能状態）としている。そして、タイミングｔ４で設定キースイッチ１３１１ａをＯＦＦとした時点で、変更許可状態から変更不能状態に移行した後には、ハンドル１８２への接触時にハンドルタッチセンサ１９２からの検出信号を入力し、発射許可信号の論理として発射許可論理に設定し、払出制御基板６３３の発射制御部６３３ｂに向けて発射許可信号を出力している。つまり、変更不能状態においては、ハンドル１８２に接触し、ハンドル１８２を回転させて遊技球Ｂを遊技領域５ａ内に打込むことが可能な状態（発射可能状態）としている。
【３４５７】
また、タイミングｔ３からタイミングｔ４までの期間である変更許可状態には、第一始動口２００２、第二始動口２００４、大入賞口２００５などの各種入賞口やゲート部２００３に遊技球Ｂが入球した際に、各々に対応する検出センサによる遊技球Ｂの検出を無効なものとして扱うようにしている。これにより、設定値の設定変更作業中に何らかの事情で遊技球Ｂが第一始動口２００２や第二始動口２００４に入球したとしても、それによる遊

技進行を抑制することができる。一方、タイミングｔ４で設定キースイッチ１３１１ａをＯＦＦとした時点で、変更許可状態から変更不能状態に移行した後には、第一始動口２００２、第二始動口２００４、大入賞口２００５などの各種入賞口やゲート部２００３に遊技球Ｂが入球した際に、各々に対応する検出センサによる遊技球Ｂの検出を有効なものとして扱うようにしている。

【３４５８】

また、タイミングｔ３からタイミングｔ４までの期間である変更許可状態には、機能表示ユニット１４００の特別図柄表示器（第一特別図柄表示器、第二特別図柄表示器）における特別図柄（第一特別図柄、第二特別図柄）の変動表示を行うことが不能な状態（変動不能状態）としている。そして、タイミングｔ４で設定キースイッチ１３１１ａをＯＦＦとした時点で、変更許可状態から変更不能状態に移行した後には、機能表示ユニット１４００の特別図柄表示器における特別図柄の変動表示を行うことが可能な状態（変動可能状態）としている。

【３４５９】

また、タイミングｔ３でのパチンコ機１の電源投入時、厳密にはパチンコ機１の電源投入による周辺制御基板１５１０の制御開始時には、ハンドル１８２への非接触時間を示す非接触時間カウンタに対してカウント（加算）を開始する。そして、タイミングｔ３からタイミングｔ４までの期間である変更許可状態には、主制御ＭＰＵにおいて、ハンドル１８２への接触時であっても、払出制御基板６３３の発射制御部６３３ｂに向けて発射許可信号を出力することがなく、周辺制御基板１５１０の周辺制御ＭＰＵに向けて発射許可時コマンドを出力することもないことから、周辺制御ＭＰＵにおいては、ハンドル１８２への非接触時であるものとして把握し、ハンドル１８２への非接触時間を示す非接触時間カウンタに対してカウント（加算）している。しかしながら、変更許可状態では、ハンドル１８２への非接触時間として所定時間が経過した場合であっても、変更許可状態が終了するまでの間、デモ演出の実行を遅延している。つまり、タイミングｔ３からタイミングｔ４までの期間である変更許可状態には、デモ演出の実行を待機している状態（デモ演出待機状態）としている。

【３４６０】

そして、タイミングｔ４で設定キースイッチ１３１１ａをＯＦＦとした時点で、変更許可状態から変更不能状態に移行するが、変更許可状態において、ハンドル１８２への非接触時間として所定時間が経過している場合には、変更不能状態への移行後において、デモ演出の実行を遅延させた時間の分だけデモ演出の演出内容を実行せず、デモ演出の途中から実行している。一方、変更不能状態への移行後において、ハンドル１８２への非接触時間として所定時間が経過した場合には、その時点から、デモ演出を実行している。つまり、タイミングｔ４で設定キースイッチ１３１１ａをＯＦＦとした時点で、変更許可状態から変更不能状態に移行した後には、デモ演出を実行することが可能な状態（デモ演出実行可能状態）としている。

【３４６１】

また、タイミングｔ３からタイミングｔ４までの期間である変更許可状態には、主制御ＭＰＵにおいて、ハンドル１８２への接触時であっても、払出制御基板６３３の発射制御部６３３ｂに向けて発射許可信号を出力することがなく、周辺制御基板１５１０の周辺制御ＭＰＵに向けて発射許可時コマンドを出力することもないことから、周辺制御ＭＰＵにおいては、ハンドル１８２への非接触時であるものとして把握している。つまり、タイミングｔ３からタイミングｔ４までの期間である変更許可状態には、ハンドル１８２に接触した状態への切り替えがあっても、ハンドルタッチ演出を実行することが不能な状態（ハンドルタッチ演出実行不能状態）としている。

【３４６２】

そして、タイミングｔ４で設定キースイッチ１３１１ａをＯＦＦとした時点で、変更許可状態から変更不能状態に移行した後には、主制御ＭＰＵにおいて、ハンドル１８２への接触時に、払出制御基板６３３の発射制御部６３３ｂに向けて発射許可信号を出力し、周辺

制御基板１５１０の周辺制御ＭＰＵに向けて発射許可時コマンドを出力することが可能になる。つまり、タイミングｔ４で設定キースイッチ１３１１ａをＯＦＦとした時点で、変更許可状態から変更不能状態に移行した後には、図柄の変動表示が行われていない状態において、ハンドル１８２に接触した状態への切り替えがあった場合に、ハンドルタッチ演出を実行することが可能な状態（ハンドルタッチ演出実行可能状態）としている。

【３４６３】

上記したように、発射許可時コマンドを受けていない状態が所定時間継続した場合、つまりハンドル１８２への非接触時間として所定時間が経過した場合には、デモ演出を開始している。従来のように、第一始動口２００２や第二始動口２００４への入球がなく、図柄の変動表示が行われていない状態が所定時間継続した場合にデモ演出を開始すると、ハンドル１８２の操作中であっても（ハンドル１８２への接触があっても）、第一始動口２００２や第二始動口２００４へ入球しない状態が継続したときには、デモ演出が開始されてしまい、遊技者を苛立たせてしまうという欠点があった。この点、本例では、ハンドル１８２への非接触時間として所定時間が経過したと判断した場合にデモ演出を開始しているが、ハンドル１８２に接触している限りは、遊技を開始しようとする意志があるとみなし、デモ演出を開始しないことから、遊技者の苛立ちを防止することができる。

【３４６４】

また、設定値の変更許可中には、主制御ＭＰＵにおいて、ハンドル１８２への接触時であっても、払出制御基板６３３の発射制御部６３３ｂに向けて発射許可信号を出力することがなく、周辺制御基板１５１０の周辺制御ＭＰＵに向けて発射許可時コマンドを出力することもないことから、周辺制御ＭＰＵにおいては、ハンドル１８２への非接触時であるものとして把握されている。つまり、設定値の変更許可中には、周辺制御ＭＰＵにおいて、ハンドル１８２への接触時であっても、ハンドル１８２への非接触時であるものとして把握し、ハンドル１８２への非接触時間を示す非接触時間カウンタに対してカウント（加算）している。そして、設定値の変更許可が行われている状態の時間を含め、ハンドル１８２への非接触時間として所定時間が経過した場合には、デモ演出を開始している。これにより、電源投入時に設定値の変更許可が行われている状態とし、ホールの営業開始間近にホール管理者が設定値の設定変更を行ったとしても、営業開始時までにデモ演出を開始することができる。例えば、設定値の変更許可が行われている状態の時間を、ハンドル１８２への非接触時間に含めない場合には、その時間の分だけデモ演出の開始が遅れてしまうが、そのような状況の発生を防止することができる。

【３４６５】

また、設定値の変更許可中において、ハンドル１８２への非接触時間として所定時間が経過した場合には、デモ演出と変更許可時演出とを並行して実行するものの、デモ演出よりも変更許可時演出を優先して外部に現出させ、設定値の変更許可が行われている状態の終了後（変更許可時演出の終了後）、デモ演出について、外部に現出させることを可能にしている。つまり、設定値の変更許可中において、ハンドル１８２への非接触時間として所定時間が経過した場合であっても、設定値の変更許可が行われている状態が終了するまでの間、デモ演出については、外部への現出タイミングを遅延するようにしている。これにより、設定値の変更許可中には、デモ演出を実行することがなく、デモ演出によってホール管理者の設定変更作業が阻害されることを防止することができる。

【３４６６】

また、設定値の変更許可中において、ハンドル１８２への非接触時間として所定時間が経過した場合には、設定値の変更許可が行われている状態が終了するまでの間、デモ演出の実行を遅延させているが、そのデモ演出を実行する際には、デモ演出の実行を遅延させた時間の分だけデモ演出が進行したものとして、デモ演出の途中から実行するようにしている。デモ演出としては、例えば、Ａ→Ｂ→Ｃの演出を繰り返すように設定されているが、設定値の変更許可が行われている状態が終了するまでの間にデモ演出Ｂの途中までの時間が経過している場合には、設定値の変更許可が行われている状態の終了後において、そのデモ演出Ｂの途中から実行することとなる。また、ホールにおいては、遊技島に複数台の

パチンコ機１が並んで設けられており、営業開始前には、その遊技島に設けられた複数台のパチンコ機１に対して同時に電源が投入される。この点、電源投入時に一つのパチンコ機１に対して設定値の変更許可が行われている状態とし、設定値の設定変更が行われたとしても、設定値の変更許可が行われている状態の終了後には、他のパチンコ機１で実行されているデモ演出の進行状況と同じ進行状況で、デモ演出を実行することができる。これにより、ホールの営業開始後には、複数台のパチンコ機１に対するデモ演出の進行状況が変わらないことから、デモ演出を視認しただけでは、営業開始前にホール管理者の設定変更作業が行われたどうかを把握することができず、公平な遊技の提供を保つことができる。

【３４６７】

また、デモ演出としては、音声、表示、ランプ発光を用いて当該パチンコ機１の紹介などが行われている。そして、設定値の変更許可中において、ハンドル１８２への非接触時間として所定時間が経過した場合には、設定値の変更許可が行われている状態が終了するまでの間、デモ演出に基づいた音声、表示、ランプ発光の全てを行わないようにしている。これに対し、設定値の変更許可中において、ハンドル１８２への非接触時間として所定時間が経過した場合には、設定値の変更許可が行われている状態が終了するまでの間、デモ演出に基づいた音声、表示、ランプ発光のうち一部のみ行わないようにしてもよい。例えば、設定値の変更許可が行われている状態が終了するまでの間、デモ演出に基づいた音声、表示、ランプ発光のうち表示のみ行わない場合には、そのデモ演出に基づいた表示については、設定値の変更許可が行われている状態の終了後に実行されることとなる。これによっても、設定値の変更許可中には、デモ演出の一部を開始しないことから、デモ演出によってホール管理者の設定変更作業が阻害されることを抑制することができる。

【３４６８】

なお、本例では、設定値の確認表示中にも、設定値の変更許可中と同様に、主制御ＭＰＵにおいて、ハンドル１８２への接触時であるか否かにかかわらず、払出制御基板６３３の発射制御部６３３ｂに向けて発射許可信号を出力することがなく、周辺制御基板１５１０の周辺制御ＭＰＵに向けて発射許可時コマンドを出力していない。つまり、設定値の確認表示中にも、設定値の変更許可中と同様に、周辺制御ＭＰＵにおいて、ハンドル１８２への接触時であっても、ハンドル１８２への非接触時であるものとして把握し、ハンドル１８２への非接触時間を示す非接触時間カウンタに対してカウント（加算）している。そして、設定値の確認表示が行われている状態の時間を含め、ハンドル１８２への非接触時間として所定時間が経過した場合には、デモ演出を実行している。また、設定値の確認表示中において、ハンドル１８２への非接触時間として所定時間が経過した場合には、デモ演出よりも変更許可時演出を優先し、設定値の確認表示が行われている状態の終了後において、デモ演出を実行することを可能にしている。つまり、設定値の確認表示中において、ハンドル１８２への非接触時間として所定時間が経過した場合であっても、設定値の確認表示が行われている状態が終了するまでの間、デモ演出の実行を遅延するようにしている。これにより、設定値の確認表示中にも、デモ演出を実行することがなく、デモ演出によってホール管理者の設定確認作業が阻害されることを防止することができる。

【３４６９】

上記したように、図柄の変動表示が行われていない状態において、発射許可時コマンドを受けていない状態から発射許可時コマンドを受けている状態への切り替え時である場合、つまりハンドル１８２に接触した状態への切り替えがあった場合には、ハンドルタッチ演出を実行している。つまり、図柄の変動表示が行われている状態においては、ハンドル１８２に接触した状態への切り替えがあっても、ハンドルタッチ演出を実行することがない。これにより、図柄の変動表示中には、ハンドルタッチ演出を実行することがなく、ハンドルタッチ演出によって図柄の変動表示に対する視認が阻害されることを防止することができる。

【３４７０】

また、設定値の変更許可中には、主制御ＭＰＵにおいて、ハンドル１８２への接触時であっても、払出制御基板６３３の発射制御部６３３ｂに向けて発射許可信号を出力すること

がなく、周辺制御基板１５１０の周辺制御ＭＰＵに向けて発射許可時コマンドを出力することもないことから、周辺制御ＭＰＵにおいては、ハンドル１８２への非接触時であるものとして把握されている。このため、設定値の変更許可中については、図柄の変動表示を行うことが不能な状態であるが、ハンドル１８２に接触した状態への切り替えがあったとしても、ハンドルタッチ演出を実行することがない。これにより、設定値の変更許可中には、ハンドルタッチ演出を実行することがなく、ハンドルタッチ演出によってホール管理者の設定変更作業が阻害されることを防止することができる。

【３４７１】

また、ハンドルタッチ演出としては、「遊技開始可能です」という音声と、「遊技開始！」というメッセージ表示、ハンドル１８２に接触した状態への切り替え時に対応した色でのランプ発光を実行している。そして、設定値の変更許可中において、ハンドル１８２に接触した状態への切り替えがあった場合には、ハンドルタッチ演出に基づいた音声、表示、ランプ発光の全てを行わないようにしている。これに対し、設定値の変更許可中において、ハンドル１８２に接触した状態への切り替えがあった場合には、ハンドルタッチ演出に基づいた音声、表示、ランプ発光のうち一部のみ行わないようにしてもよい。例えば、ハンドルタッチ演出に基づいた音声、表示、ランプ発光のうち表示のみ行わないようにし、その他の音声やランプ発光については、行うようにしてもよい。これにより、設定値の変更許可中には、ハンドルタッチ演出の一部を実行しないことから、ハンドルタッチ演出によってホール管理者の設定変更作業が阻害されることを抑制することができる。

【３４７２】

また、設定値の変更許可中には、主制御ＭＰＵにおいて、払出制御基板６３３の発射制御部６３３ｂに向けて発射許可信号を出力することがなく、周辺制御基板１５１０の周辺制御ＭＰＵに向けて発射許可時コマンドを出力することがないのに対し、設定値の変更許可や設定値の確認表示の終了後には、払出制御基板６３３の発射制御部６３３ｂに向けて発射許可信号を出力することを可能とし、周辺制御基板１５１０の周辺制御ＭＰＵに向けて発射許可時コマンドを出力することを可能としている。このとき、設定値の変更許可の終了前から終了後にかけて、ハンドル１８２に継続して接触している場合には、設定値の変更許可の終了後であっても、発射許可信号を出力することがなく、発射許可時コマンドを出力することもない。このことから、設定値の変更許可の終了後には、終了前から継続してハンドル１８２への接触があったとしても、周辺制御ＭＰＵにおいて、ハンドル１８２への非接触時であるものとして把握し、ハンドルタッチ演出を実行することがない。このような場合には、設定値の変更許可や設定値の確認表示の終了後において、ハンドル１８２から一旦手を離して再び接触することで、発射許可信号や発射許可時コマンドを出力することができ、ハンドルタッチ演出を実行することができる。

【３４７３】

なお、本例では、設定値の確認表示中にも、設定値の変更許可中と同様に、主制御ＭＰＵにおいて、ハンドル１８２への接触時であるか否かにかかわらず、払出制御基板６３３の発射制御部６３３ｂに向けて発射許可信号を出力することがなく、周辺制御基板１５１０の周辺制御ＭＰＵに向けて発射許可時コマンドを出力していない。つまり、設定値の確認表示中についても、図柄の変動表示を行うことが不能な状態であるが、設定値の変更許可中と同様に、周辺制御ＭＰＵにおいて、ハンドル１８２に接触した状態への切り替えがあったとしても、ハンドル１８２への非接触時であるものとして把握し、ハンドルタッチ演出を実行することがない。これにより、設定値の確認表示中にも、ハンドルタッチ演出を実行することがなく、ハンドルタッチ演出によってホール管理者の確認表示作業が阻害されることを防止することができる。

【３４７４】

［ハンドルへの非接触時間のカウント開始タイミングの変形例について］

上記では、設定値の変更許可中には、周辺制御ＭＰＵにおいて、ハンドル１８２への接触時であるか否かにかかわらず、ハンドル１８２への非接触時間を示す非接触時間カウンタに対してカウント（加算）している。そして、設定値の変更許可が行われている状態の時

間を含め、ハンドル１８２への非接触時間として所定時間が経過した場合には、デモ演出を開始することを可能にしている。これに対し、設定値の変更許可中には、周辺制御ＭＰＵにおいて、ハンドル１８２への接触時であるか否かにかかわらず、ハンドル１８２への非接触時間を示す非接触時間カウンタに対してカウント（加算）しないようにし、設定値の変更許可の終了時において、非接触時間カウンタに対するカウント（加算）を開始してもよい。つまり、設定値の変更許可が行われている状態の時間を含めず、ハンドル１８２への非接触時間として所定時間が経過した場合に、デモ演出を開始するようにしてもよい。このような変形例について、図３２４を参照して説明する。図３２４は、設定値の設定変更中におけるパチンコ機１の挙動の変形例を示すタイムチャートである。

【３４７５】

まず、タイミングｔ３からタイミングｔ４までの期間である変更許可状態には、周辺制御ＭＰＵにおいて、ハンドル１８２への接触時であるか否かにかかわらず、ハンドル１８２への非接触時間を示す非接触時間カウンタに対してカウント（加算）することを禁止している。つまり、タイミングｔ３からタイミングｔ４までの期間である変更許可状態には、デモ演出を開始することが不能な状態（デモ演出待機状態）としている。

【３４７６】

そして、タイミングｔ４で設定キースイッチ１３１１ａをＯＦＦとした時点で、変更許可状態から変更不能状態に移行するが、このようなタイミングで、ハンドル１８２への非接触時間を示す非接触時間カウンタに対してカウント（加算）を開始している。そして、変更不能状態への移行後において、ハンドル１８２への非接触時間として所定時間が経過した場合には、その時点から、デモ演出を開始している。つまり、タイミングｔ４で設定キースイッチ１３１１ａをＯＦＦとした時点で、変更許可状態から変更不能状態に移行した後には、少なくともハンドル１８２への非接触時間として所定時間が経過するまでの間、デモ演出の実行を待機している状態（デモ演出待機状態）としている。

【３４７７】

そして、タイミングｔ４で設定キースイッチ１３１１ａをＯＦＦとした時点で、変更許可状態から変更不能状態に移行した後、所定時間が経過するまでの間にハンドル１８２への接触がなければ、ハンドル１８２への非接触時間として所定時間が経過し、デモ演出を実行する。つまり、タイミングｔ４で設定キースイッチ１３１１ａをＯＦＦとした時点で、変更許可状態から変更不能状態に移行し、その時点から所定時間が経過した後には、デモ演出を実行することが可能な状態（デモ演出実行可能状態）としている。

【３４７８】

このように、設定値の変更許可中には、ハンドル１８２への非接触時間を示す非接触時間カウンタに対してカウント（加算）することを禁止するようにし、設定値の変更許可の終了時から、非接触時間カウンタに対してカウント（加算）するようにしている。つまり、設定値の変更許可の終了を起点として、ハンドル１８２への非接触時間として所定時間が経過するまでの間、デモ演出を実行することがなく、その所定時間が経過した後において、デモ演出を実行することを可能にしている。これにより、設定値の変更許可中には、デモ演出を実行することがなく、デモ演出によってホール管理者の設定変更作業が阻害されることを防止することができる。

【３４７９】

また、デモ演出としては、例えば、Ａ→Ｂ→Ｃの演出を繰り返すように設定されているが、設定値の変更許可の終了を起点として、ハンドル１８２への非接触時間として所定時間が経過した後にデモ演出を実行することから、デモ演出の実行時には、最初の演出であるデモ演出Ａから実行することを可能にしている。これにより、設定値の変更許可の終了後において、デモ演出の最初から実行することができ、デモ演出の最初から視認したい遊技者を満足させることができる。

【３４８０】

また、タイミングｔ４で設定キースイッチ１３１１ａをＯＦＦとした時点で、変更許可状態から変更不能状態に移行するが、このようなタイミングで、本体枠４や遊技盤５に搭載

されている演出部材（例えば、演出操作部３０１、裏上後回転装飾体３４４０及び裏上後装飾体３４５１など）の初期動作を開始している。このような演出部材は、各々が初期位置と動作位置との間で動作することが可能な部材であり、演出部材の初期動作では、演出部材が初期位置（退避位置）から動作位置（出現位置）に向けて正常に動作するかの確認や、演出部材が初期位置で待機するように正確な位置合わせなどを行うこととしている。そして、演出部材の初期動作の終了後には、演出部材を用いた演出が実行されることを可能としている。例えば、主制御基板１３１０から周辺制御基板１５１０に送信される変動パターン（変動パターンコマンド）として、図柄変動中に演出部材を用いた演出が設定された変動パターンが送信されている場合には、図柄変動中の所定のタイミングで、演出部材を初期位置から動作位置に動作するようにしている。

【３４８１】

また、本変形例では、変更不能状態への移行後において、ハンドル１８２への非接触時間として所定時間が経過するよりも前に、演出部材の初期動作を完了するようにしている。つまり、変更不能状態への移行後にデモ演出が開始されるまでの所定時間については、変更不能状態への移行後に演出部材の初期動作を開始して完了するまでの時間よりも長くなるように設定している。このような場合には、変更不能状態への移行後において、演出部材の初期動作を完了した後に、デモ演出を開始することが可能になる。これにより、演出部材の初期動作については、演出部材の動作に不具合が発生した場合などに、目視による確認が必要になる場合もあるが、演出部材の初期動作中にデモ演出を開始しないことで、デモ演出によって演出部材の初期動作に対する目視作業が阻害されることを防止することができる。また、デモ演出として、演出部材の動作を行う場合には、デモ演出を開始するよりも前に演出部材の初期動作を完了していないと、デモ演出としての演出部材の動作を行うことができないが、デモ演出を開始するよりも前に演出部材の初期動作を完了させることで、そのような状況の発生を防止することができる。

【３４８２】

なお、本変形例では、変更不能状態に移行した時点で、演出部材の初期動作を開始しているが、変更不能状態に移行するよりも前（つまり、変更許可状態中）から、演出部材の初期動作を開始してもよい。このような場合には、変更不能状態に移行するよりも前から、演出部材の初期動作を開始したとしても、変更不能状態に移行した時点で、演出部材の初期動作を完了しておらず、変更不能状態への移行後において、演出部材の初期動作を完了する可能性がある。しかしながら、変更不能状態への移行後にデモ演出が開始されるまでの所定時間を設定することで、変更不能状態への移行後に継続している演出部材の初期動作中にデモ演出を開始しないようにでき、デモ演出によって演出部材の初期動作に対する目視作業が阻害されることを防止することができる。

【３４８３】

また、演出部材の初期動作では、演出部材が初期位置（退避位置）から動作位置（出現位置）に向けて正常に動作するかの確認や、演出部材が初期位置で待機するように正確な位置合わせなどが行われているが、その演出部材の初期動作で何ら異常がない場合に限り、変更不能状態への移行後にデモ演出が開始されるまでの所定時間が経過するよりも前に、演出部材の初期動作を完了するようにしてもよい。つまり、演出部材の初期動作で何らかの異常が発生した場合には、演出部材が初期位置から動作位置に向けて正常に動作するかの確認を繰り返したり、正確な位置合わせを繰り返したりするが、そのような場合には、演出部材の初期動作にかかる時間が長くなり、その長くなった演出部材の初期動作中にデモ演出を開始するようにしてもよい。このような場合にも、演出部材の初期動作で何ら異常がなければ、演出部材の初期動作中にデモ演出を開始することがなく、デモ演出によって演出部材の初期動作に対する目視作業が阻害されることを防止することができる。

【３４８４】

なお、本変形例では、設定値の確認表示中にも、設定値の変更許可中と同様に、ハンドル１８２への非接触時間を示す非接触時間カウンタに対してカウント（加算）することを禁止するようにし、設定値の確認表示の終了時から、非接触時間カウンタに対してカウント

（加算）するようにしている。つまり、設定値の確認表示の終了を起点として、ハンドル１８２への非接触時間として所定時間が経過するまでの間、デモ演出を開始することがなく、その所定時間が経過した後において、デモ演出を開始することを可能にしている。これにより、設定値の確認表示中にも、デモ演出を開始することがなく、デモ演出によってホール管理者の確認表示作業が阻害されることを防止することができる。

【３４８５】

［ベースモニタのカウント制限について］

次に、ベースモニタ１３１０ｈについて、図３２０を参照して説明する。遊技盤５に区画形成される遊技領域５ａには、遊技球Ｂが入球しうる複数の入球口が設けられている。複数の入球口のうち、入球により賞球を払い出す対象である入賞口としては、遊技領域５ａ内に打込まれた遊技球Ｂを受入可能に常時開口している複数（ここでは四つ）の一般入賞口２００１と、複数の一般入賞口２００１とは遊技領域５ａ内の異なる位置で遊技球Ｂを受入可能に常時開口している第一始動口２００２と、遊技球Ｂがゲート部２００３を通過することにより抽選される普通抽選結果に応じて遊技球Ｂの受入れが可能となる第二始動口２００４と、第一始動口２００２又は第二始動口２００４への遊技球Ｂの受入れにより抽選される第一特別抽選結果又は第二特別抽選結果に応じて遊技球Ｂの受入れが可能となる第一大入賞口２００５と、第一始動口２００２又は第二始動口２００４への遊技球Ｂの受入れにより抽選される第一特別抽選結果又は第二特別抽選結果に応じて遊技球Ｂの受入れが可能となる第二大入賞口２００６と、を備えている。

【３４８６】

また、複数の入球口のうち、入賞口に入球しなかった遊技球Ｂを回収するアウト口としては、遊技領域５ａの下端に設けられており遊技球Ｂを遊技領域５ａ内から排出するアウト口２０１０と、遊技領域５ａ内の上下方向の途中に設けられており遊技球Ｂを遊技領域５ａ内から排出する第一サブアウト口２０１１及び第二サブアウト口２０１２と、を備えている。

【３４８７】

また、遊技領域５ａに発射された遊技球のうち、一般入賞口２００１、第一始動口２００２、第二始動口２００４、第一大入賞口２００５、第二大入賞口２００６に入球した遊技球Ｂは、一般入賞口センサ３０５１、第一始動口センサ３０５２、第二始動口センサ２４０１、第一大入賞口センサ２４０２、第二大入賞口センサ２６０１で検出され、アウト口２０１０、第一サブアウト口２０１１、第二サブアウト口２０１２により回収された遊技球は、アウト口センサ３０５３、第一サブアウト口センサ２４０３、第二サブアウト口センサ３０５４で検出され、これらの検出信号がパネル中継基板１７１０を介して主制御ＭＰＵへ入力される。

【３４８８】

主制御ＭＰＵは、遊技盤５に区画形成される遊技領域５ａに設けられる入球口（入賞口、アウト口）に入球した遊技球Ｂの球数（入球数）、つまり遊技領域５ａ内から排出される遊技球Ｂの球数を計数している。また、主制御ＭＰＵは、入賞口への入球により払出装置５８０から払い出される遊技球Ｂの球数（払出数）を計数している。そして、主制御ＭＰＵは、入球数に対する払出数の割合を算出し、その算出結果を、内蔵されているＲＡＭの特定領域に格納するとともに、ベースモニタ１３１０ｈに表示するようにしている。なお、入球数に対する払出数の割合の算出式としては、（払出数÷入球数）×１００が挙げられる。例えば、入球数に対する払出数の割合が多くなり過ぎている場合には、入球口のうち、入球により賞球を払い出す対象である入賞口にばかりに入球している可能性があり、ベースモニタ１３１０ｈに表示される情報を監視することで、不正行為により入賞口に入球させていないかなどを把握することができる。

【３４８９】

なお、本例では、複数の遊技状態のうち、低確率非時短状態である場合のみ、入球口（入賞口、アウト口）に入球した遊技球Ｂの球数（入球数）と、払出装置５８０から払い出される遊技球Ｂの球数（払出数）と、を計数するようにし、ベースモニタ１３１０ｈへの表

示に反映させている。低確率時短状態（時短状態）や高確率時短状態（確変状態）では、第二始動口２００４に頻繁に入球することから、払出装置５８０から払い出される遊技球Ｂの球数も多くなり、入球数に対する払出数の割合が多くなる傾向にある。つまり、入球数に対する払出数の割合が多くなるか否かは、低確率時短状態（時短状態）や高確率時短状態（確変状態）としている期間に左右されることになるが、そのような期間を除外することで、不正行為などがなければ、入球数に対する払出数の割合を一定の範囲内に収めることができる。

【３４９０】

また、本例では、ベースモニタ１３１０ｈにおいて、入球数に対する払出数の割合を表示しているが、入球口（入賞口、アウト口）に入球した遊技球Ｂの球数（入球数）と、払出装置５８０から払い出される遊技球Ｂの球数（払出数）と、をそれぞれ表示することを可能にしてもよい。

【３４９１】

本例では、ハンドル１８２への接触の有無に応じて、入球口（入賞口、アウト口）に入球した遊技球Ｂの球数（入球数）を計数するか否かを異ならせている。このようなベースモニタ１３１０ｈに関する実行制御について、図３２５を参照して説明する。図３２５は。主制御側タイマ割り込み処理にて実行される球数計数処理の一例を示すフローチャートである。

【３４９２】

図３２５に示すように、主制御ＭＰＵは、まず、入球口（入賞口、アウト口）に入球があったか否かを判断する（ステップＳ１８０１）。そして、入球口（入賞口、アウト口）に入球があったと判断した場合には、ハンドルタッチセンサ１９２からの検出信号の入力が停止されてから所定時間（例えば、１０秒）が経過した後の入球であるか否かを判断する（ステップＳ１８０２）。ステップＳ１８０２の処理において、ハンドルタッチセンサ１９２からの検出信号の入力が停止されてから所定時間（例えば、１０秒）が経過した後の入球でないと判断した場合には、ハンドルタッチセンサ１９２からの検出信号が入力されている状態であるか、ハンドルタッチセンサ１９２からの検出信号の入力が停止されてから所定時間が経過していない状態での入球であり、そのような場合には、入球口（入賞口、アウト口）に入球した遊技球Ｂの球数を示す計数カウンタに対して計数する（ステップＳ１８０３）。つまり、ハンドル１８２に接触している状態での入球や、ハンドル１８２から手を離してから所定時間内の状態での入球については、入球口（入賞口、アウト口）に入球した遊技球Ｂの球数を示す計数カウンタに対して計数することを可能にしている。

【３４９３】

ステップＳ１８０２の処理において、ハンドルタッチセンサ１９２からの検出信号の入力が停止されてから所定時間（例えば、１０秒）が経過した後の入球であると判断した場合には、図柄（特別図柄）の変動表示中での入球であるか否かを判断する（ステップＳ１８０４）。そして、図柄（特別図柄）の変動表示中での入球でないと判断した場合には、図柄（特別図柄）の変動表示が停止されてから所定時間（例えば、１０秒）内の入球であるか否かを判断する（ステップＳ１８０５）。ステップＳ１８０４の処理において、図柄（特別図柄）の変動表示中での入球であると判断した場合や、ステップＳ１８０５の処理において、図柄（特別図柄）の変動表示が停止されてから所定時間内の入球であると判断した場合には、入球口（入賞口、アウト口）に入球した遊技球Ｂの球数を示す計数カウンタに対して計数する（ステップＳ１８０３）。

【３４９４】

ステップＳ１８０５の処理において、図柄（特別図柄）の変動表示が停止されてから所定時間内の入球でないと判断した場合には、入球口（入賞口、アウト口）に入球した遊技球の球数を示す計数カウンタに対して計数しない（ステップＳ１８０６）。つまり、ハンドルタッチセンサ１９２からの検出信号の入力が停止されてから所定時間が経過した後の入球のうち、図柄（特別図柄）の変動表示が停止されてから所定時間した後の入球については、入球口（入賞口、アウト口）に入球した遊技球Ｂの球数を示す計数カウンタに対して

計数していない。このような状況が発生したとき、つまり入球口（入賞口、アウト口）に入球があったにもかかわらず、計数カウンタに対して計数しない状況が発生したときには、演出表示装置１６００などを用いて、外部に対して異常の発生を伝える異常報知を行う（ステップＳ１８０７）。なお、入球口（入賞口、アウト口）に入球があったにもかかわらず、計数カウンタに対して計数しない状況が発生した場合には、そのような状況が発生する前に既に計数されている情報については、保持するようにしている。

【３４９５】

上記したように、ハンドル１８２に接触している状態での入球や、ハンドル１８２から手を離してから所定時間内の状態での入球については、入球口（入賞口、アウト口）に入球した遊技球Ｂの球数を示す計数カウンタに対して計数する対象としている。これは、ハンドル１８２に接触し、遊技球Ｂが発射されてから入球口（入賞口、アウト口）に入球するまでには、ある程度の時間がかかることから、ハンドル１８２から手を離してから所定時間内の状態での入球については、正規の遊技での入球である可能性が高い。このことから、ハンドル１８２から手を離してから所定時間内の状態での入球については、計数カウンタに対して計数したとしても、ベースモニタ１３１０ｈに表示される情報の正確性を保つことができる。

【３４９６】

一方、ハンドル１８２から手を離してから所定時間が経過した後の入球については、原則として、入球口（入賞口、アウト口）に入球した遊技球Ｂの球数を示す計数カウンタに対して計数する対象としていない。これは、ハンドル１８２に接触し、遊技球Ｂが発射されてから入球口（入賞口、アウト口）に入球するまでには、ある程度の時間がかかるが、そのような時間を超えている入球については、正規の遊技での入球である可能性が低い。例えば、入球口（入賞口、アウト口）のうち、磁石などを用いて不正に第一始動口２００２や第二始動口２００４に多くの遊技球Ｂを入球させた場合には、払出装置５８０から払い出される遊技球Ｂの球数が多くなることから、ベースモニタ１３１０ｈに表示される情報として、入球数に対する払出数の割合が多くなり、その不正な行為を把握することができる。しかしながら、入球口（入賞口、アウト口）に入球した全ての遊技球Ｂの球数を計数するようにすると、第一始動口２００２や第二始動口２００４に多くの遊技球Ｂを入球させた後に、ハンドル１８２から手を離し、扉枠３を開放するなどして不正にアウト口に多くの遊技球Ｂを入球させた場合には、入球数に対する払出数の割合が多くなり過ぎた状態から低くなり、ベースモニタ１３１０ｈに表示される情報から不正な行為を把握することが困難になる。この点、本例では、ハンドル１８２から手を離してから所定時間が経過した後の入球については、入球口（入賞口、アウト口）に入球した遊技球Ｂの球数を示す計数カウンタに対して計数する対象としないことから、ベースモニタ１３１０ｈに表示される情報の正確性を保つことができ、不正な行為が行われたことの痕跡を残すことができる。

【３４９７】

また、ハンドル１８２から手を離してから所定時間が経過した後の入球のうち、図柄（特別図柄）の変動表示中や、図柄（特別図柄）の変動表示が停止されてから所定時間内の入球については、入球口（入賞口、アウト口）に入球した遊技球の球数を示す計数カウンタに対して計数する対象としている。このような状況においては、図柄（特別図柄）の変動表示に対して注目する際に、ハンドル１８２から手を離して待機しているだけである可能性が高く、ハンドル１８２から手を離して不正に入球口（入賞口、アウト口）に入球させようとしているとは考えにくいためである。

【３４９８】

上記により、ハンドル１８２から手を離してから所定時間が経過した後において、入球口（入賞口、アウト口）のうち、磁石などを用いて不正に第一始動口２００２や第二始動口２００４に多くの遊技球Ｂを連続して入球させた場合には、その１球目の入球については、入球口（入賞口、アウト口）に入球した遊技球Ｂの球数を示す計数カウンタに対して計数する対象としていない。しかしながら、１球目から連続した２球目以降の入球については、１球目の入球に基づいて図柄（特別図柄）の変動表示が行われているため、計数カウ

ンタに対して計数する対象となってしまう。この点、例えば、計数カウンタに対して計数する対象としない入球があった場合には、その後に連続した入球について、計数カウンタに対して計数する対象としないようにしてもよい。これによれば、ハンドル１８２から手を離してから所定時間が経過した後において、不正に入球させた第一始動口２００２や第二始動口２００４への入球については、入球口（入賞口、アウト口）に入球した遊技球Ｂの球数を示す計数カウンタに対して計数する対象としないことから、ベースモニタ１３１０ｈに表示される情報の正確性を保つことができる。

【３４９９】

なお、本例では、ハンドル１８２から手を離してから所定時間が経過した後の入球については、原則として、入球口（入賞口、アウト口）に入球した遊技球Ｂの球数を示す計数カウンタに対して計数する対象としていないが、入球口（入賞口、アウト口）のうち一部のみ（入賞口のみ、アウト口のみ、入賞口の一部のみ、アウト口の一部のみ、のいずれも可）を対象として、計数カウンタに対して計数する対象としないようにしてもよい。例えば、入球口（入賞口、アウト口）のうちアウト口のみを対象とした場合には、ハンドル１８２から手を離し、扉枠３を開放するなどして不正にアウト口に入球させた遊技球Ｂの球数については除外することができ、ベースモニタ１３１０ｈに表示される情報の正確性を保つことができる。

【３５００】

また、本例では、ハンドル１８２から手を離してから所定時間が経過した後の入球については、原則として、入球口（入賞口、アウト口）に入球した遊技球Ｂの球数を示す計数カウンタに対して計数する対象としていないが、その入球口（入賞口、アウト口）に入球した遊技球Ｂの球数とは別に、ハンドル１８２から手を離してから所定時間が経過した後の入球を計数するようにし、その計数結果を、ベースモニタ１３１０ｈや、その他の表示装置に表示するようにしてもよい。このような場合には、ハンドル１８２から手を離してから所定時間が経過した後、入球口（入賞口、アウト口）に異常に入球した遊技球Ｂについて、その異常に入球した後であっても、詳細な情報を把握することができる。

【３５０１】

［設定示唆演出の実行制限について］

本実施形態では、現在設定されている設定値を示唆する設定示唆演出を実行している。本実施例では、遊技領域５ａの左側領域に設けられている第一始動口２００２や一般入賞口２００１（遊技領域５ａの右側領域に設けられている１つの一般入賞口２００１は除く）に入球したときには、スピーカからの音声出力として、第一始動口２００２や一般入賞口２００１に入球した旨を伝える入球音を出力しているが、第一始動口２００２や一般入賞口２００１に入球したときの一部で、単なる入球音の代わりに、設定示唆演出として、設定値を示唆する設定示唆音を出力している。このような入球音や設定示唆音の実行制御について、図３２６を参照して説明する。図３２６は、周辺制御部定常処理にて実行される設定示唆演出関連処理の一例を示すフローチャートである。

【３５０２】

図３２６に示すように、周辺制御ＭＰＵは、まず、設定示唆演出の実行対象の入球口への入球があったか否かを判断する。具体的には、本実施例では、第一始動口２００２や一般入賞口２００１に入球があったか否かを判断する（ステップＳ１９０１）。なお、第一始動口２００２や一般入賞口２００１への入球時には、主制御ＭＰＵから周辺制御ＭＰＵに向けて入球時コマンドを出力することにより、周辺制御ＭＰＵにおいては、第一始動口２００２や一般入賞口２００１に入球があったことを把握することができる。

【３５０３】

ステップＳ１９０１の処理において、第一始動口２００２や一般入賞口２００１に入球があったと判断した場合には、設定示唆演出の実行パターンの判定を行う（ステップＳ１９０２）。本実施例では、設定示唆演出の実行パターンとして、設定示唆演出の実行に関して何らの制限も行われていない通常の実行パターンと、設定示唆演出の実行に関して通常の実行パターンに一部制限が加えられた制限実行パターンＡと、設定示唆演出の実行に関

して制限実行パターンＡよりも大きい制限が加えられた制限実行パターンＢと、を有しており、これら実行パターンのいずれかを遊技者が選択し、選択した実行パターンに応じて設定示唆に関する各種の設定・出力処理が行われることにより、遊技進行過程における設定値の推測レベルを遊技者ニーズに合わせて変更できるようにしている。なお、設定示唆演出の実行に関する制限の詳細については後述する。

【３５０４】

ここで、本実施例の設定示唆演出について説明する。本実施例の設定示唆演出は、通常の遊技状態にて、第一始動口２００２や一般入賞口２００１に入球があったときに出力される入球音を利用したものであり、この入球音を通常と異なる特殊な態様で出力することにより、遊技者に設定値を示唆するようにしている。具体的には、設定示唆演出の実行対象の入球口である第一始動口２００２や一般入賞口２００１に入球があったときに周辺制御ＭＰＵで所定の示唆演出用乱数値Ｘ、示唆演出用乱数値Ｙを取得し、通常の入球音とは異なる音データからなる設定示唆音を出力するか否かの実行判定（実行抽選）を、取得した示唆演出用乱数値Ｘに基づいて行い、その実行判定の結果に基づいて通常の入球音あるいは設定示唆音を出力する。設定示唆音の実行判定においては、示唆演出用乱数値Ｘを用いて大当りになる確率よりも低い１／５００の確率で設定示唆音の出力可否を決定する。また、設定示唆音の出力を決定する場合には、低設定値を示唆する設定示唆音Ａ、高設定値を示唆する設定示唆音Ｂ、設定値６を示唆する設定示唆音Ｃのいずれかを、現在設定されている設定値と示唆演出用乱数値Ｙに応じて決定する。ここで、現在設定されている設定値が設定値１～３である場合には、低設定値を示唆する設定示唆音Ａを設定示唆音Ｂよりも高い確率（設定示唆音Ａ：設定示唆音Ｂ＝７：３の割合）で決定する低設定用演出振分テーブルを参照して示唆演出用乱数値Ｙの値に応じた演出決定が行われる。また、設定値４～５である場合には、高設定値を示唆する設定示唆音Ｂを設定示唆音Ａよりも高い確率（設定示唆音Ａ：設定示唆音Ｂ＝３：７の割合）で決定する高設定用演出振分テーブル１を参照して示唆演出用乱数値Ｙの値に応じた演出決定が行われる。また、設定値６である場合には、設定値１～５である場合に決定することがない設定値６を示唆する設定示唆音Ｃを含んで設定示唆音Ａ～Ｃを所定の確率（設定示唆音Ａ：設定示唆音Ｂ：設定示唆音Ｃ＝１：５：４の割合）で決定する高設定用演出振分テーブル２を参照して示唆演出用乱数値Ｙの値に応じた演出決定が行われる。つまり、設定示唆音Ａ、Ｂは、現在の設定値が何れであっても出力される可能性があることから、１回の出力で低設定あるいか高設定が確定するものではないが、設定示唆音Ｃを出力したときには、現在設定されている設定値が設定値６であることが確定する。このように、設定示唆音を出力したときには、その設定示唆音から把握しうる設定値の示唆に応じた期待をもつことができる。

【３５０５】

なお、本実施例では、通常の遊技状態（通常状態）において、遊技領域５ａの左側領域に設けられている第一始動口２００２や一般入賞口２００１（遊技領域５ａの右側領域に設けられている１つの一般入賞口２００１は除く）への入球を狙う遊技が行われている。そして、複数の遊技状態のうち通常の遊技状態（通常状態）でのみ、第一始動口２００２や一般入賞口２００１に入球があったときに入球音や設定示唆音を出力することを可能にしている。ただし、他の遊技状態である当り遊技状態中や時短状態（低確率時短状態、高確率時短状態）においても入球音や設定示唆音を出力することを可能にしてもよく、また、そうした場合には、遊技状態毎に設定示唆演出の実行対象の入球口を変更してもよい。例えば、当り遊技状態中においては、遊技領域５ａの右側領域に設けられている第一大入賞口２００５や第二大入賞口２００６への入球を狙う遊技が行われることから、設定示唆演出の実行対象の入球口を第一大入賞口２００５や第二大入賞口２００６としてもよく、また、時短状態（低確率時短状態、高確率時短状態）においては、遊技領域５ａの右側領域に設けられている第二始動口２００４への入球を狙う遊技が行われることから、設定示唆演出の実行対象の入球口を第二始動口２００４としてもよい。

【３５０６】

また、本実施例では、設定示唆演出の１つとして、少なくとも設定示唆音Ａ～Ｃが出力さ

れるときに、設定示唆音の出力タイミングであったことを伝える示唆演出実行通知を演出表示装置１６００に表示することとしている。この示唆演出実行通知は、設定示唆音とは異なり設定値そのものを示唆するものではないものの、設定示唆音により設定値を示唆したことを遊技者に伝えることを主としており、本実施例では、設定示唆音Ａ～Ｃの出力タイミングにて、例えば「示唆あり」という文字画像を表示するようにしている。また、この示唆演出実行通知は、設定示唆音を逃した遊技者へのアナウンスとしての位置づけられるため、設定示唆音が出力終了した後にも表示されるように、設定示唆音Ａ～Ｃの何れの出力期間よりも長い期間に亘って表示するように設定されている。また、この示唆演出実行通知は、設定示唆音の出力通知契機となった事象も遊技者に認識させるべく、設定示唆音の出力通知契機となった事象を表す所定の画像（後述する保留画像やオマケ賞球ゲット画像）の近傍に表示される。

【３５０７】

また、現在設定されている設定値は、主制御ＭＰＵに内臓されているＲＡＭの特定領域に記憶されているが、変動パターンが変動パターンコマンドとして周辺制御基板１５１０に送信されるタイミングで、現在の設定値がコマンドとして周辺制御基板１５１０に送信されることによって周辺制御ＭＰＵにも記憶されており、そうして記憶された情報に基づいて設定示唆音Ａ～Ｃを決定している。

【３５０８】

なお、設定示唆音を出力しない場合の通常の入球音の種類としては、第一始動口２００２への入球に対応してスピーカから「ポン」という音声が出力される音データと、一般入賞口２００１への入球に対応してスピーカから「ポコ」という音声が出力される音データと、が別々に設けられている。一方で、第一始動口２００２への入球に対応して出力される設定示唆音と、一般入賞口２００１に対応して出力される設定示唆音は、共通の音データが用いられており、低設定値を示唆する設定示唆音Ａとしては、スピーカから「ビー」という音声が出力がされる音データが用いられ、高設定値を示唆する設定示唆音Ｂとしては、スピーカから「ビービー」という音声が出力がされる音データが用いられ、設定値６を示唆する設定示唆音Ｃとしては、スピーカから「ビービービー」という音声が出力がされる音データが用いられる。このように、設定値の示唆ごとに設定示唆音を異ならせて出力することで、どのような設定値の示唆であるのかを把握することができる。なお、第一始動口２００２への入球に対応して出力される設定示唆音と、一般入賞口２００１に対応して出力される設定示唆音は、共通の音データでなく別々の音データにしてもよい。

【３５０９】

ステップＳ１９０２の処理において、遊技者により現在設定されている設定示唆演出の実行パターンの判定を行った後には、まず、その判定結果が通常の実行パターンであるか否かを判断する（ステップＳ１９０３）。そして、通常の実行パターンであった場合には、上述した設定示唆音の出力を可能としていることから、上述した設定示唆音を出力するか否かの実行判定（実行抽選）を行い（ステップＳ１９０４）、その実行判定の結果に応じて通常の入球音あるいは設定示唆音Ａ～Ｃの演出振分を設定して出力する（ステップＳ１９０５）。

【３５１０】

ステップＳ１９０３の処理において、通常の実行パターンでないと判断した場合には、設定示唆音の出力の制限に関する制限実行パターンＡであるか否かを判断する（ステップＳ１９０６）。そして、制限実行パターンＡでないと判断した場合には、一切の設定示唆演出を行わない制限実行パターンＢであることから、上述した設定示唆音の出力を含む全ての設定示唆演出を行わないようにしている（ステップＳ１９０８）。つまり、制限実行パターンＢが選択されている場合には、示唆演出用乱数値Ｘと示唆演出用乱数値Ｙの取得は行うものの、それらを用いた設定示唆音を出力するか否かの実行判定（実行抽選）や演出振分けは一切行わず、通常の入球音を択一的に実行するようにしている。

【３５１１】

また、ステップＳ１９０６の処理において、制限実行パターンＡであると判断した場合に

は、一部の設定示唆演出の制限として、設定示唆演出として上述した設定示唆音の出力のみを行なわないようにしている（ステップＳ１９０７）。つまり、制限実行パターンＡが選択されている場合にも、示唆演出用乱数値Ｘと示唆演出用乱数値Ｙの取得は行うものの、それらを用いた設定示唆音を出力するか否かの実行判定（実行抽選）や演出振分けは一切行わず、通常の入球音を択一的に実行するようにしている。ただし、制限実行パターンＡが選択されている場合には、制限実行パターンＢが選択されている場合とは異なり、設定示唆音の出力タイミングであったことを伝える示唆演出実行通知の表示については、通常の実行パターンと同様に、制限することなく行うようにしている。

【３５１２】

なお、本実施例では、図柄の変動表示中と図柄の変動停止中の何れであっても、演出操作部３０１を遊技者が操作することによって、前述した設定示唆演出の実行パターンを遊技者が選択することを可能にしている。つまり、演出操作部３０１を遊技者が操作することによって制限実行パターンＡ、Ｂが選択されて、設定示唆演出の全部或いは一部の実行が制限される場合には、その選択を直ちに遊技に反映させるようになっている。なお、遊技ホールが開店した直後（例えば、最初の始動入賞等）に遊技者に設定値が判明してしまうことは、当該遊技機や他の遊技機の稼動等を鑑みると好ましいとは言い難いため、本実施例では、当該遊技機の電源が投入されてからの特定期間（例えば１時間など）においては、一切の設定示唆演出を行わないように制限実行パターンＢが電源投入時のデフォルト値として選択されている。また、この特定期間は、演出操作部３０１を遊技者が操作したとしても設定示唆演出の実行パターンを遊技者が選択することを不能にしている。なお、当該遊技機の電源が投入されてから特定期間が経過した後には、遊技者による選択を可能にし、また、遊技者による選択がなされていなくても、特定期間の経過によって制限実行パターンＢが解除されて、全ての設定示唆演出が行われる通常の実行パターンに切り換わるようになっている。これにより、遊技ホールが開店して暫くした後に遊技者が当該遊技機に着座し、最初の始動入賞等によって設定値が判明する場合等の遊技者の興趣向上効果も発揮することができる。

【３５１３】

次に、設定示唆演出の実行パターンの選択および具体的な演出例について、図３２７及び図３２８を参照して説明する。図３２７は、通常の実行パターンが選択されたとき（設定示唆を一切制限しないとき）の具体的な演出例であり、図３２８は、制限実行パターンＡ、Ｂが選択されたとき（設定示唆の一部或いは全部を制限するとき）の具体的な演出例である。

【３５１４】

まず、図柄の変動表示中や図柄の変動停止中には、演出操作部３０１に対して遊技者が所定の操作を行ったときに、演出表示装置１６００において、設定示唆を制限するか否かを選択する選択画面を表示することを可能にしている（図３２７（Ａ））。そして、選択画面において、演出操作部３０１に対して遊技者が所定の操作を行い、「制限しない」を選択した場合には、その後に第一始動口２００２や一般入賞口２００１に入球したときに、設定示唆演出の実行を制限することなく、設定示唆音を含む全ての設定示唆演出の実行を可能にしている（図３２７（Ｂ、Ｂ´））。

【３５１５】

そして、設定示唆演出の実行を制限していない場合には、第一始動口２００２や一般入賞口２００１に入球し、設定示唆音を出力することを決定したタイミングで、スピーカからの音声出力として、低設定値を示唆する設定示唆音Ａ、高設定値を示唆する設定示唆音Ｂ、設定値６を示唆する設定示唆音Ｃ、のうち決定している設定示唆音を出力する。

【３５１６】

また、演出表示装置１６００には、第一始動口２００２に入球したことに基づいて保留表示を表示するが、その保留表示の上部において、設定示唆音の出力タイミングであったことを伝える示唆演出実行通知として、「示唆あり」のメッセージ表示を表示している。これにより、設定示唆音の出力によっては、設定値を遊技者に把握させることができ、示唆

演出実行通知の表示によっては、第一始動口２００２への入球に起因する設定示唆音により設定値を示唆したことのみを遊技者に把握させることができる。なお、保留表示については、保留を消化するごとに表示位置が移動し、保留の消化時に図柄の変動表示を終了するときに当該保留表示を消去するものであり、保留表示の上部に表示されている「示唆あり」のメッセージ表示については、保留表示の移動に伴って移動し、当該保留表示の消去に伴って、同時期に消去するようにしている。また、本実施例では、通常の遊技状態にて一般入賞口２００１に入球したことに基づいて少量の賞球が遊技者に付与されることを示す特典付与表示（おまけ賞球ゲット！の表示）を表示することとしており、この一般入賞口２００１に入球したことに基づいて設定示唆音を出力する場合には、特典付与保留表示の上部において、設定示唆音の出力タイミングであったことを伝える示唆演出実行通知として、「示唆あり」のメッセージ表示を表示している。これにより、第一始動口２００２に入球したときと同様に、設定示唆音の出力によっては、設定値を遊技者に把握させることができ、示唆演出実行通知の表示によっては、一般入賞口２００１への入球に起因する設定示唆音により設定値を示唆したことのみを遊技者に把握させることができる。なお、特典付与表示については、その表示が開始されてから所定期間（本実施例では３秒）後に消去するものであり、特典付与表示の上部に表示されている「示唆あり」のメッセージ表示については、特典付与表示の消去に伴って、同時期に消去するようにしている。

【３５１７】

一方、選択画面において、演出操作部３０１に対して遊技者が所定の操作を行い、「制限する」を選択した場合には、次の段階として、より具体的な制限内容を遊技者に選択させる選択画面を表示するようにしている（図３２８（Ｂ、Ｄ））。そして、具体的な制限内容を遊技者に選択させる選択画面において、演出操作部３０１に対して遊技者が所定の操作を行い、「制限Ａ」を選択した場合には、その後に第一始動口２００２や一般入賞口２００１に入球したときに、一部の設定示唆演出の実行を制限し、設定示唆音を出力することなく、設定値を示唆しない入球音の出力を可能にしている（図３２８（Ｃ、Ｃ´））。

【３５１８】

そして、「制限Ａ」を選択した場合には、第一始動口２００２や一般入賞口２００１に入球し、設定示唆音を出力することを決定したタイミングで、スピーカからの音声出力として、決定している設定示唆音を出力することなく、設定示唆音を出力しないことを決定した場合と同様に、設定値を示唆しない入球音を出力する。このとき、演出表示装置１６００には、設定示唆音を出力した場合と同様に、保留表示や特典付与表示の上部において、設定示唆音の出力タイミングであったことを伝える示唆演出実行通知として、「示唆あり」のメッセージ表示を表示している。このように、「制限Ａ」が選択された場合には、設定示唆音を出力しないことから、遊技者に設定値を把握させることができないものの、示唆演出実行通知の表示によっては、設定示唆音により設定値を示唆したことのみは遊技者に把握させることができる。

【３５１９】

また、具体的な制限内容を遊技者に選択させる選択画面において、演出操作部３０１に対して遊技者が所定の操作を行い、「制限Ｂ」を選択した場合には、その後に第一始動口２００２や一般入賞口２００１に入球したときに、一切の設定示唆演出の実行を制限し、設定示唆音を出力することなく、設定値を示唆しない入球音の出力を可能にしている（図３２８（Ｅ、Ｅ´））。

【３５２０】

そして、「制限Ｂ」を選択した場合には、第一始動口２００２や一般入賞口２００１に入球し、設定示唆音を出力することを決定したタイミングで、スピーカからの音声出力として、決定している設定示唆音を出力することなく、設定示唆音を出力しないことを決定した場合と同様に、設定値を示唆しない入球音を出力するとともに、示唆演出実行通知の実行も行わないようにしている。このように、「制限Ｂ」が選択された場合には、設定示唆音だけでなく、示唆演出実行通知も実行されなくなり、遊技者に設定値を把握させないばかりか、設定値の示唆が行われたかどうかも遊技者に把握させないようにすることができ

る。
【３５２１】
上記したように、本例では、予め、演出操作部３０１を遊技者が操作することによって、設定示唆演出の実行を制限するか否かを遊技者に選択させることを可能にしている。これにより、設定示唆演出により設定値を把握したい遊技者にとっては、設定示唆演出を制限しないように選択し、設定示唆演出により設定値を把握したくない遊技者にとっては、設定示唆演出を制限するように選択すればよく、設定値を示唆する構成でありながらも遊技者のニーズに合わせることができる。
【３５２２】
また、本例では、設定示唆演出の制限態様として、設定示唆演出の一部制限を伴う制限実行パターンＡを設け、設定値の推測に直結する可能性のある設定示唆音を出力しないが、何らかの設定示唆演出が行われたことを伝える示唆演出実行通知については、設定示唆音の出力を制限中でない場合と同様に、演出表示装置１６００に表示するようにしている。これにより、何らかの設定示唆演出が行われたことを伝える示唆演出実行通知だけを認識したい遊技者のニーズに合わせることができる。
【３５２３】
また、設定示唆演出の実行を制限するか否かの選択については、図柄の変動表示中や図柄の変動停止中のいずれであっても、演出操作部３０１に対して遊技者が所定の操作を行うことで、速やかに反映させることを可能にしている。これにより、遊技者の所望のタイミングで、設定示唆演出の実行を制限するか否かを切り替えることができ、遊技者のニーズに合わせることができる。
【３５２４】
なお、本例では、示唆演出実行通知として、保留表示や特典付与表示の上部に表示されている「示唆あり」のメッセージ表示については、当該保留表示や特典付与表示の消去に伴って消去しているが、当該保留表示をや特典付与表示を消去するよりも前にメッセージ表示を消去するようにしてもよい。例えば、当該保留表示にかかる図柄の変動表示を開始する時点で、メッセージ表示を消去するようにしてもよい。本例では、保留表示にかかる図柄の変動表示中においても、当該保留表示を表示しているが、例えば、当該保留表示に対してメッセージ表示が付随していると、当該保留表示にかかる図柄の変動表示に対して何らかの期待が付与されているのではないかと勘違いが生じる可能性がある。この点、保留表示にかかる図柄の変動表示を開始する時点で、メッセージ表示を消去することで、そのような状況が発生することを防止することができる。
【３５２５】
また、本例では、現在設定されている設定値を示唆する設定示唆演出として、第一始動口２００２や一般入賞口２００１に入球したときに、設定値を示唆する設定示唆音を出力することを可能にしているが、そのような設定示唆演出については、設定値を示唆するものであれば設定示唆音に限らず、音声、表示、ランプ発光のいずれを用いて実行してもよい。また、示唆演出実行通知についても、設定示唆演出の実行タイミングであったことを伝えるものであればよく、音声、表示、ランプ発光のいずれを用いて実行してもよい。このような場合にも、設定示唆演出の実行を制限するか否かを遊技者に選択させることで、上記と同様の効果を有することができる。
【３５２６】
また、本例では、設定示唆演出の実行を制限するか否かの選択により、設定示唆音の出力を制限することを可能にしているが、演出操作部３０１に対して遊技者が所定の操作を行うことによって、スピーカから音声出力される遊技音の音量を調節することを可能とし、遊技音の音量をゼロに調節したときに、設定示唆音の出力を制限する（出力しない）ようにしてもよい。ただし、遊技音の音量をゼロに調節したときには、第一始動口２００２や一般入賞口２００１への入球時において、設定値を示唆しない入球音の出力も制限する（出力しない）こととなる。
【３５２７】

また、図柄（装飾図柄）の変動表示中において、リーチ形成後のリーチ演出が期待度の高いリーチ演出を実行する場合には、その期待度の高いリーチ演出の実行中において、第一始動口２００２や一般入賞口２００１に入球したときに、設定値を示唆しない入球音の出力を制限する（出力しない）ようにしているが、設定示唆音の出力については制限していない。このように、期待度の高いリーチ演出の実行中においては、第一始動口２００２や一般入賞口２００１に入球したとしても、設定値を示唆しない入球音を出力することがなく、入球音によって期待度の高いリーチ演出に対する注目が邪魔されることがない。一方、期待度の高いリーチ演出の実行中においては、第一始動口２００２や一般入賞口２００１に入球したときに、設定示唆音の出力を可能にしているが、予め、設定示唆演出の実行を制限するように選択することで、設定示唆音を出力することがなくなり、設定示唆音によって期待度の高いリーチ演出に対する注目が邪魔されることを防止することができる。

【３５２８】

また、本例では、現在設定されている設定値を示唆する設定示唆演出として、第一始動口２００２や一般入賞口２００１に入球したときに、設定値を示唆する設定示唆音を出力することを可能にしているが、そのような設定示唆演出については、第一始動口２００２や一般入賞口２００１への入球時に限らず、演出の所定のタイミングで実行するようにしてもよい。例えば、図柄（装飾図柄）の変動表示中において、リーチ形成後のリーチ演出が期待度の高いリーチ演出を実行する場合のうち、停止図柄としてハズレ図柄を停止表示するハズレ時のリーチ演出を実行する場合には、ハズレ時のリーチ演出の終了時における仮停止期間において、停止時演出を実行しているが、そのような停止時演出の一環として設定示唆音を出力することを可能にしてもよい。なお、仮停止期間とは、装飾図柄の停止図柄が仮停止表示した後、装飾図柄の停止図柄が揺れ変動した状態（上下や左右に装飾図柄が小刻みに揺れた状態）から停止表示が確定するまでの期間（１～２秒程度）である。また、停止時演出を実行した時点で、ハズレ図柄が揺れ変動した状態から再び装飾図柄の変動表示を開始することがなく、ハズレ図柄で停止表示することが確定し、再び装飾図柄の変動表示を開始するか否かに対する期待が与えられないようになっている。

【３５２９】

具体的には、停止時演出において、設定示唆音を出力することを決定した場合にはキャラクタＡが出現し、設定示唆音を出力しないことを決定した場合にはキャラクタＢが出現するように構成されている。つまり、キャラクタＡは、設定示唆音により設定値を示唆するときに出現するキャラクタであり、キャラクタＢは、設定値を示唆しないときに出現するキャラクタであり、このうちキャラクタＡについては、設定示唆音の出力タイミングであったことを伝える示唆演出実行通知に相当している。そして、キャラクタＡが出現したときには、設定示唆音を出力するが、低設定値を示唆する設定示唆音としては、スピーカから「運任せ」という音声を出力し、高設定値を示唆する設定示唆音としては、スピーカから「チャンス」という音声を出力し、設定値６を示唆する設定示唆音としては、スピーカから「おめでとう」という音声を出力している。このような構成とした場合にも、設定示唆演出の実行を制限するか否かを遊技者に選択させることで、上記と同様の効果を有することができる。

【３５３０】

以上、本発明について好適な実施形態を挙げて説明したが、本発明はこれらの実施形態に限定されるものではなく、以下に示すように、本発明の要旨を逸脱しない範囲において、種々の改良及び設計の変更が可能である。

【３５３１】

例えば、上述した実施形態では、遊技機としてパチンコ機を例示したが、雀球機、アレンジボール機等の他の遊技機にも適用可能であり、さらには、遊技メダルを用いて複数のドラム（回胴又はリール）を回転させるスロットマシンにも適用可能である。ここで、スロットマシンについて図３２９を参照して説明する。図３２９はスロットマシンの概略斜視図である。

【３５３２】

スロットマシン６０００は、図３２９に示すように、前面扉（前面枠）６００２、本体部分（箱体）６００４を備えて構成されている。前面扉（前面枠）６００２と本体部分（箱体）６００４とは、図示しない蝶番を介して相互に連結されている。この蝶番を回転中心として、前面扉（前面枠）６００２の右側端に設けた金属製の施錠装置の鍵穴６００５に鍵を挿入して時計回りに回すことで、前面扉（前面枠）６００２を本体部分（箱体）６００４から開放することができるようになっている。

【３５３３】

金属製の施錠装置は、前面扉（前面枠）６００２の図示しない金属製の扉枠補強ユニットのシリンダ取付フレームに取付けられ、図示しない施錠ユニットと協働して、本体部分（箱体）６００４と前面扉（前面枠）６００２との開閉施錠に使用されるものである。金属製の施錠装置は、前後に延びた図示しない金属製の円柱状のシリンダ本体と、シリンダ本体の前端面に形成されている金属製の鍵穴６００５と、シリンダ本体の後側に取付けられており鍵穴６００５に挿入され正規の金属製の鍵を回転させると一緒に回転する図示しない金属製の回転伝達部材と、を備えている。金属製の施錠装置のシリンダ本体は、扉枠補強ユニットのシリンダ取付フレームの前片部を後方から貫通して後端が前片部に取付けられている。回転伝達部材は、後方が開放された円筒状（詳しくは、後方へ向かうに従って直径が大きくなる円錐筒状）に形成されており、中心軸を挟んで対向した位置に後端から前方へ向かって切欠かれた一対の切欠部を有している。回転伝達部材は、前面扉（前面枠）６００２が本体部分（箱体）６００４に対して閉鎖されると、図示しない金属製の施錠ユニットの金属製の伝達シリンダが後方から挿入されるように形成されており、伝達シリンダの一対の突起が一対の切欠部内に挿入されることで、回転伝達部材（鍵穴６００５に挿入された鍵）の回転を、伝達シリンダに伝達させて回転させることができる。前面扉（前面枠）６００２が本体部分（箱体）６００４に対して閉鎖された状態において金属製の施錠装置の回転伝達部材と施錠ユニットの伝達シリンダとが接触している場合には、金属製の施錠装置と施錠ユニットとが電気的に接続された状態となる。

【３５３４】

扉枠補強ユニットは、前面扉（前面枠）６００２を補強して剛性を付与することができる機能に加えて扉枠金属アースとしても機能し、図示しない扉枠金属アース線を介して本体部分（箱体）６００４の内部に設けられるアース基板と電気的に接続されている。つまり、金属製の扉枠補強ユニットが扉枠側のフレームグランドとなっている。この図示しないアース基板は、各所で生じた電磁波ノイズを一旦集約して遊技ホールの島設備に接地（アース）することができるものであり、図示しない島設備アース線を介して、遊技ホールの島設備のアースと電気的に接続されている。

【３５３５】

本体部分（箱体）６００４に対して前面扉（前面枠）６００２の開放を検知することができる図示しない開放スイッチは、本体部分（箱体）６００４又は前面扉（前面枠）６００２に配置されている。この開放スイッチは、金属製の施錠装置による開閉操作による電気的な信号が入力されたことに起因して、本体部分（箱体）６００４に対して前面扉（前面枠）６００２の開放を検出するものではなく、金属製の施錠装置による開閉操作と別個独立して、本体部分（箱体）６００４に対して前面扉（前面枠）６００２の開放を検出している。また、開放スイッチは、金属製の施錠装置の近傍周辺に配置されず、金属製の施錠装置へ侵入した電磁波ノイズの影響を受けないように、金属製の施錠装置の下方の位置であって本体部分（箱体）６００４又は前面扉（前面枠）６００２に開放スイッチが配置されている。このように、仮に金属製の施錠装置に電磁波ノイズが侵入したとしても、この電磁波ノイズの影響を、開放スイッチからの信号伝送ラインが受けないようになっている。

【３５３６】

前面扉（前面枠）６００２は、スロットマシン６０００の前面全体を装飾するものであり、各種装飾部を備えている。この各種装飾部には、装飾メッキが全く施されていないものもあれば、表裏全面に装飾メッキが施されているものもある。この装飾メッキは、クロムメッキや硬質金メッキ等の貴金属メッキであり、導電性を有しているため、電磁波ノイズ

が侵入する場合がある。各種装飾部のうち、表裏全面に装飾メッキが施されているものについては、図示しない配線を介して、前面扉６００２を構成する扉枠ベースユニットにおける金属製の扉枠補強ユニットと電気的に接続されている（各種装飾部には、図示しない配線を介して金属製の扉枠補強ユニットと電気的に接続されているものもあれば、導電性部材が直接金属製の扉枠補強ユニットに取り付けられて電気的に接続されているものもある）。これにより、各種装飾部へ侵入した電磁波ノイズを金属製の扉枠補強ユニットへ伝えることで各種装飾部に備える各種装飾基板の基板グランドへの侵入を防止することができるようになっている。また、各種装飾部のうち、表裏全面に装飾メッキが施されているものへ侵入した電磁波ノイズは、図示しない配線を介して、金属製の扉枠補強ユニットへ伝わると、扉枠金属アース線を介して、本体部分（箱体）６００４の内部に設けられるアース基板へ伝わり、そしてアース基板から島設備アース線を介して遊技ホールの島設備のアースへ伝わり、スロットマシン６０００から除去される。つまり、金属製の扉枠補強ユニットが上述したように扉枠側のフレームグランドとなっている。

【３５３７】

なお、前面扉（前面枠）６００２の前面の所定箇所に除電部として静電除去パッドを設けてもよいし、前面扉（前面枠）６００２を本体部分（箱体）６００４から開放する場合に、蝶番が配置される側（閉鎖側）と反対側となる開放側となる部分に除電部として静電除去パッドを設けてもよい。静電除去パッドは、静電気放電により生ずるノイズ（電磁波ノイズ）を除去することができるものである。

【３５３８】

また、前面扉（前面枠）６００２はスロットマシン６０００の前面全体を装飾するものであり、各種装飾部を備え、この各種装飾部には、装飾メッキが全く施されていないものもあれば、表裏全面に装飾メッキが施されているものもあり、各種装飾部のうち、表裏全面に装飾メッキが施されているものについては、図示しない配線を介して、金属製の扉枠補強ユニットと電気的に接続され、本体部分（箱体）６００４の内部に設けられるアース基板が島設備アース線を介して、遊技ホールの島設備のアースと電気的に接続されていたが、扉枠金属アース線をアース基板に電気的に接続せず、本体部分（箱体）６００４の内部に設けられる図示しない電源ユニットの電源基板の端子に電気的に接続して、金属製の扉枠補強ユニットと電源基板とを電気的に接続するようにしてもよい。電源基板は、遊技ホールの島設備から交流２４Ｖが供給されている。この交流２４ＶはＬ（ライブ）、Ｎ（ニュートラル）があり、Ｌ（ライブ）が入力される電源基板のＬ端子は、非接地側と接続されるものであり、Ｎ（ニュートラル）が入力される電源基板のＮ端子は、接地側と接続されるものである。そこで、過渡的に過大電圧から保護するサージ保護素子（サージアブソーバ）を電源基板に設ける。このサージ保護素子（サージアブソーバ）は、通常は抵抗値が高く電流をほとんど流さないものの、過大電圧（異常電圧）が侵入すると、瞬時に抵抗値が低くなって電流を流し、過大電圧がなくなると、元の通常の抵抗値（高い抵抗値）に戻る性能を有するものである。これにより、金属製の扉枠補強ユニットから伝わる電磁波ノイズは、電源基板の端子からサージ保護素子（サージアブソーバ）により電源基板のＮ端子から接地側（アース）へ伝わってスロットマシン６０００から除去される。

【３５３９】

前面扉（前面枠）６００２の上半分は遊技パネル６００６が設けられており、前面扉（前面枠）６００２の下半分は遊技パネル６００６から前方に突出した突出部が形成されている。この突出部にはメダル投入口６００８やベットボタン６０１０，６０１２、始動レバー６０１４、左停止ボタン６０１６、中停止ボタン６０１８、右停止ボタン６０２０等が遊技パネル６００６の下縁に沿って配置されている。また前面扉（前面枠）６００２の下半分には貯留精算ボタン６０２２や化粧板６０２４が配置されており、化粧板６０２４の下方には受け皿６０２６が設けられている。これらのベットボタン６０１０，６０１２、始動レバー６０１４、左停止ボタン６０１６、中停止ボタン６０１８、右停止ボタン６０２０、そして貯留精算ボタン６０２２等は、遊技の進行を制御する主制御基板１３１０に電気的に接続されている。主制御基板１３１０は、主制御ユニット１３００の主制御基板

ボックス１３２０に収容されて本体部分（箱体）６００４の内部に設けられる図示しない基板ホルダに取り付けて固定されている。

【３５４０】

この主制御基板ボックス１３２０には、主制御基板１３１０と共に、設定値の変更を行うことができる設定キースイッチ１３１１ａが実装される設定変更基板１３１１も収容されている。つまり、主制御基板１３１０は、主制御ユニット１３００の主制御基板ボックス１３２０に収容されて本体部分（箱体）６００４の内部に設けられる図示しない基板ホルダに取り付けて固定されているため、設定キースイッチ１３１１ａが本体部分（箱体）６００４の内部に配置されている。なお、設定変更基板１３１１は、主制御基板ボックス１３２０と別体の基板ボックスに収容されて本体部分（箱体）６００４の内部に設けられる図示しない基板ホルダに取り付けて固定されてもよいし、本体部分（箱体）６００４の内部に設けられる図示しない電源ユニットの筐体に取り付けて固定されてもよい。また、設定変更基板１３１１の表面（実装面）には、設定キースイッチ１３１１ａの他に、設定値を選択して切り替えるための設定切替ボタン、小数点付き（いわゆる、ドット付き）７セグメントＬＥＤ表示器単体で構成される設定表示器１３１０ｇ、及び上述した設定変更許可ランプ１３１０ｚ等を実装してもよい。

【３５４１】

遊技パネル６００６のほぼ中央位置には図示しない矩形の表示窓が形成されており、この表示窓を通してスロットマシン６０００の内部に設置された、図示しない３つの可変回転体と、図示しない演出装置等を透視することができるようになっている。図示しない３つの可変回転体は、本体部分（箱体）６００４の内部に設けられる図示しない本体側取付部材に取り付けられて固定されている。これに対して、図示しない演出装置は、前面扉（前面枠）６００２の裏面側に設けられる図示しない扉側取付部材に取り付けられて固定されている。

【３５４２】

これらの可変回転体には、図柄情報として複数種類の図柄（例えば、ベル、スイカ、チェリー、７、Ｖ等）が印刷された透光性を有する図柄帯がそれぞれの筒型の骨組みに貼られている。このような筒型の可変回転体は、スロットマシン等の遊技機においてリール又はドラムと呼ばれており、図示しないステッピングモータの出力軸と、各可変回転体と、が接続されている。これらのステッピングモータは、主制御基板１３１０により駆動制御されており、ステッピングモータの出力軸が回転することにより、上述した表示窓から複数種類の図柄が上から下に向かって連続的に変化するように見えるようになっている。

【３５４３】

演出装置は、図示しない複数の可動演出体と、上述した演出表示装置１６００と、図示しない複数のＬＥＤが実装された各種装飾基板と、上述した周辺制御ユニット１５００と、を備えている。周辺制御ユニット１５００は、主制御基板１３１０からの各種コマンドに基づいて、複数の可動演出体の作動制御、演出表示装置１６００の描画制御、各種装飾基板に実装される複数のＬＥＤの発光制御等の各種制御を行うことにより、演出の進行を制御している。周辺制御ユニット１５００は、上述した、周辺制御基板１５１０を備えている。

【３５４４】

主制御基板１３１０は、遊技媒体として所定数のメダルがメダル投入口６００８に投入され、始動レバー６０１４の操作に基づいて図柄情報の変動表示を開始し、左停止ボタン６０１６、中停止ボタン６０１８、右停止ボタン６０２０の操作あるいは所定時間の経過に基づいて図柄情報の変動表示を停止させる。そして、主制御基板１３１０は、図柄情報が予め定めた特定表示態様となることを条件として利益付与状態（大当り遊技状態）を発生させて遊技媒体としてのメダルを受け皿６０２６に多量に払い出す。

【３５４５】

なお、融合遊技機においては、メダル投入口６００８が球投入口６００８’となり、主制御基板１３１０は、遊技媒体として所定数の遊技球が球投入口６００８’に投入され、始動レ

バー６０１４の操作に基づいて図柄情報の変動表示を開始し、左停止ボタン６０１６、中停止ボタン６０１８、右停止ボタン６０２０の操作あるいは所定時間の経過に基づいて図柄情報の変動表示を停止させる。そして、主制御基板１３１０は、図柄情報が予め定めた特定表示態様となることを条件として利益付与状態（大当り遊技状態）を発生させて遊技媒体としての遊技球を受け皿６０２６に多量に払い出す。

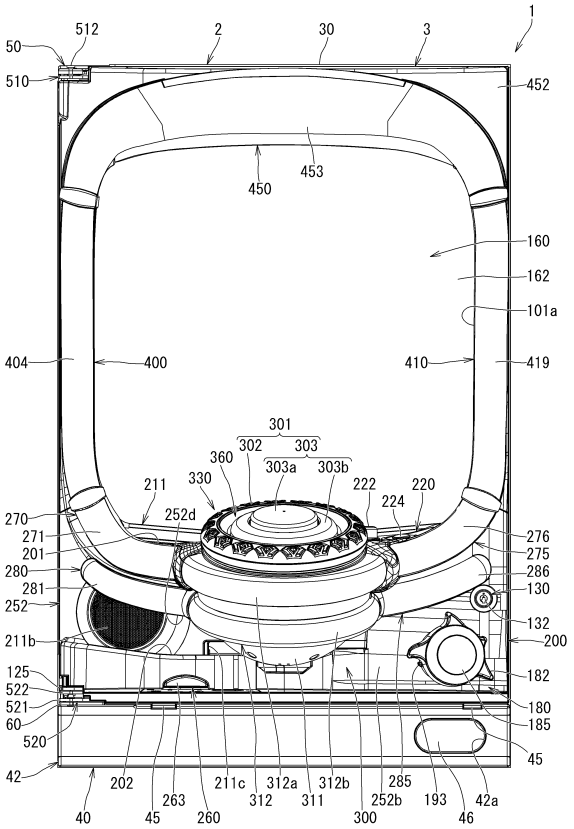
【符号の説明】

【３５４６】

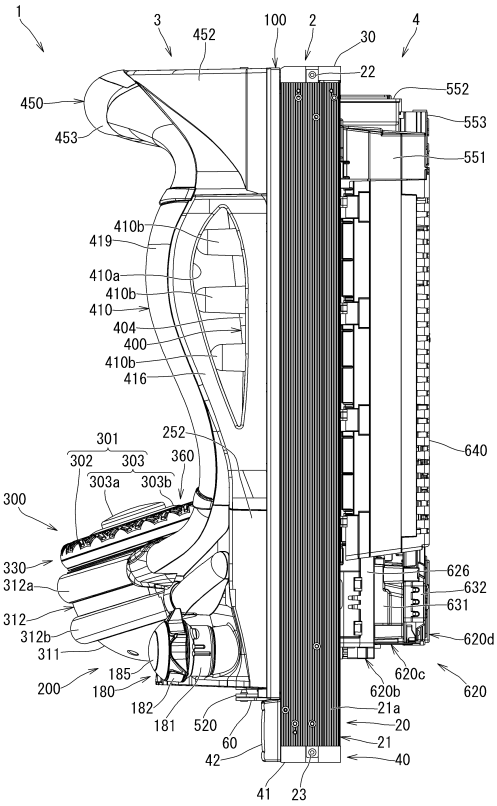
１　パチンコ機
３　扉枠
４　本体枠
５　遊技盤
５ａ　遊技領域
３０００　裏ユニット
３１００　裏後演出ユニット
３１１０　裏後可動装飾体
３１１１　装飾体（装飾部材、装飾板体）
３１１１ａ　第一装飾突部
３１１１ｄ　金属装飾部
３１１２　装飾シート（装飾部材、装飾板体）
３１１３　導光放射板（装飾部材、放射板）
３１１３ａ　本体部
３１１３ｂ　フランジ部（周壁部）
３１１３ｃ　第一ＬＥＤ収容部
３１１３ｄ　第二ＬＥＤ収容部
３１１３ｅ　反射部
３１１４　裏後装飾基板（装飾基板）
３１１４ａ　第一ＬＥＤ（ＬＥＤ、特定ＬＥＤ）
３１１４ｂ　第二ＬＥＤ（ＬＥＤ）
３１１４ｃ　基板本体
３１１４ｄ　銅箔
３１１４ｅ　電子部品
３１１５　装飾体ベース
３１１５ａ　被覆板部
３１１５ｂ　フランジ部
ＥＬ　沿面距離
ＳＬ　所定距離

【図面】

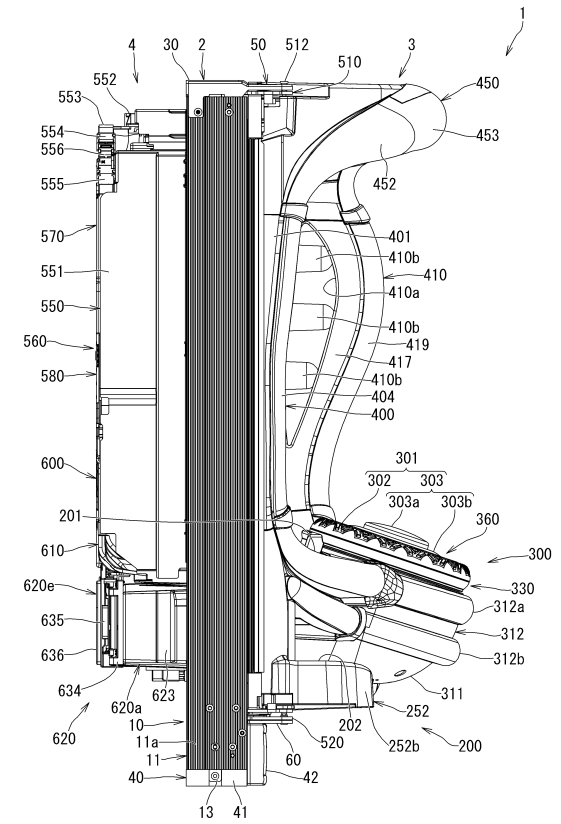
【図１】


1
512
2
30
3
50
510
452
450
453
160
162
101a
404
400
410
419
301
302
303
360
303a
303b
211
330
222
220
224
252d
270
271
201
280
281
252
276
275
286
130
132
211b
200
125
522
521
60
520
182
180
185
45
42
202
211c
312a
312b
285
263
312
311
252b
193
42a
40
45
260
300
46

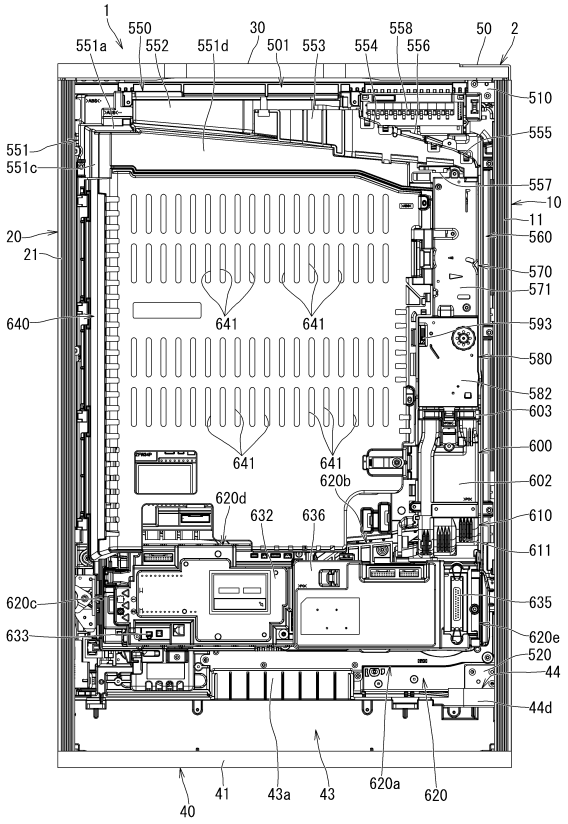
【図２】


1
3
452
100
2
30
4
22
552
450
553
453
551
410b
419
410a
410b
410
404
400
410b
416
301
252
640
302
303
360
303a
303b
300
330
626
312a
632
312
631
312b
620d
311
185
620c
200
180
620b
620
182
21a
181
520
20
60
21
42
40
41
23

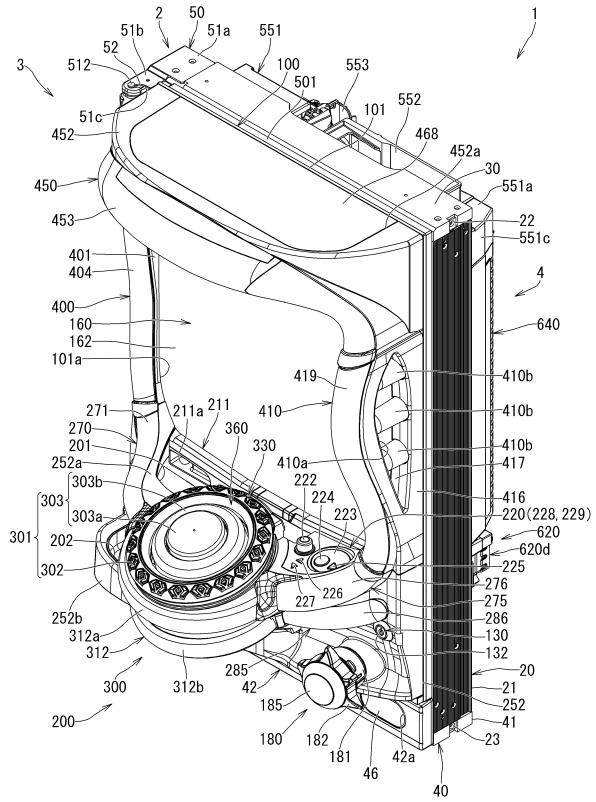
【図３】


1
4
30
2
50
512
510
3
552
450
553
453
554
556
452
555
401
570
410b
410
551
410a
550
410b
560
419
417
580
410b
404
400
301
600
302
303
303a
303b
201
360
610
300
620e
330
312a
635
312
636
312b
634
623
311
620a
252
620
10
202
11a
520
252b
200
11
60
40
42
13
41

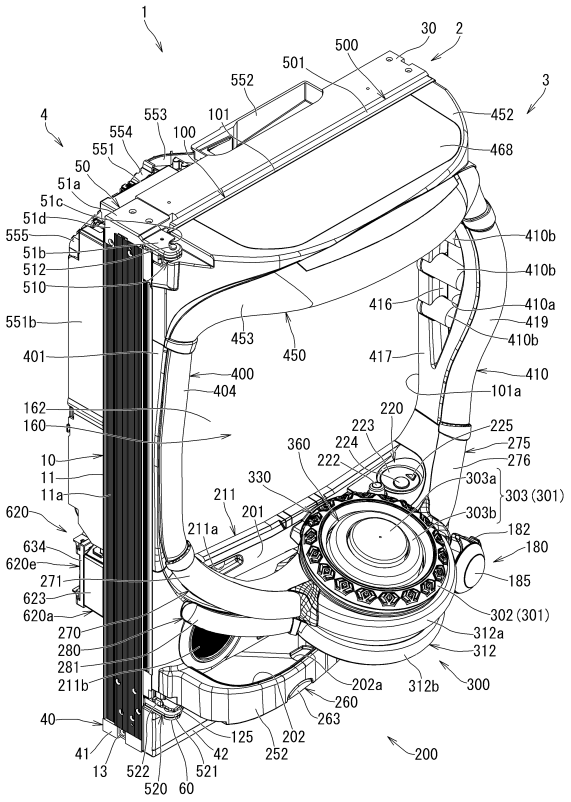
【図４】


1
550
551a
552
551d
30
501
553
554
558
556
50
2
510
555
551
551c
557
10
11
20
560
21
570
571
640
641
641
593
580
582
603
641
641
600
620b
602
620d
632
636
610
611
620c
635
633
620e
520
44
44d
40
41
43a
43
620a
620

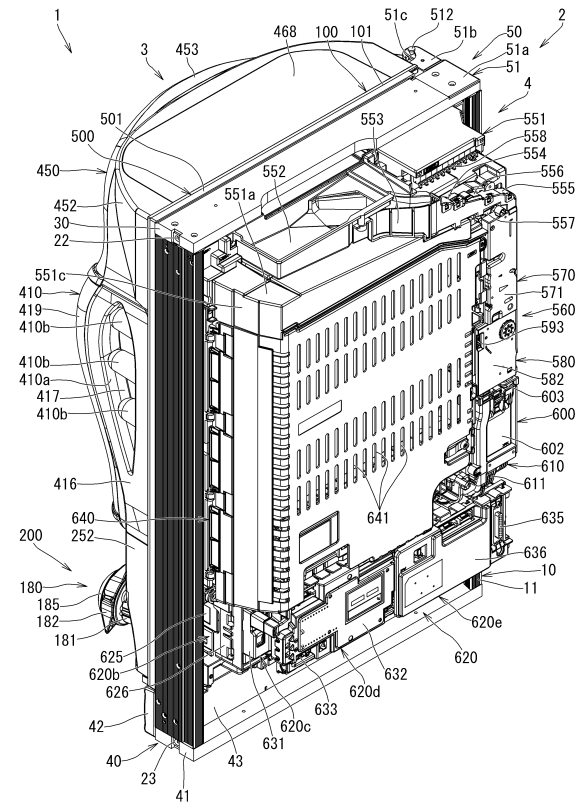
【図５】



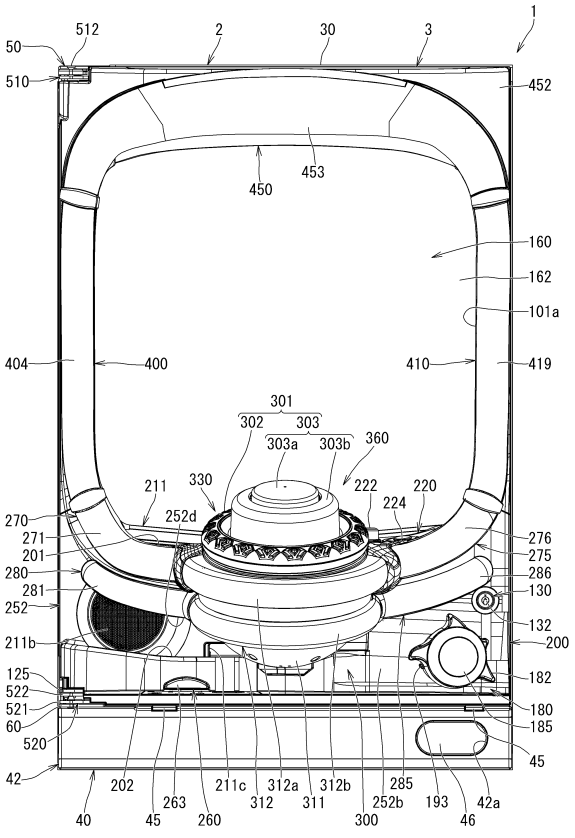
【図６】



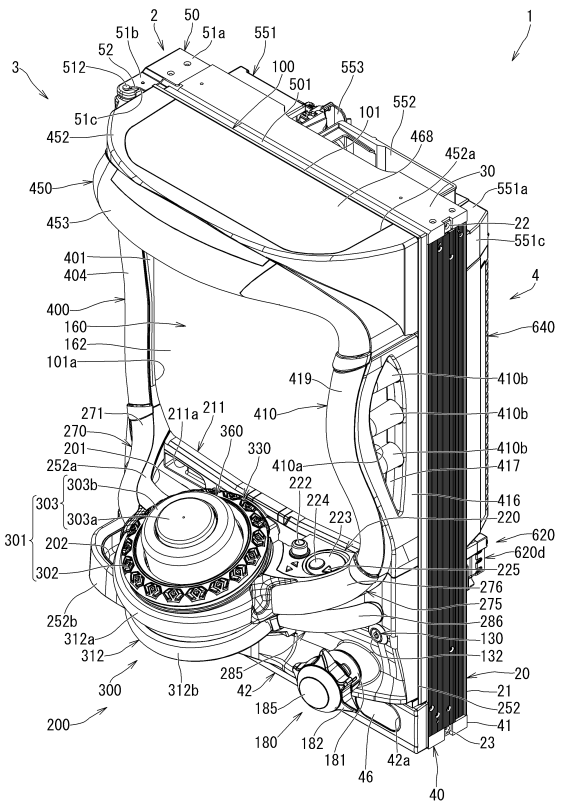
【図７】



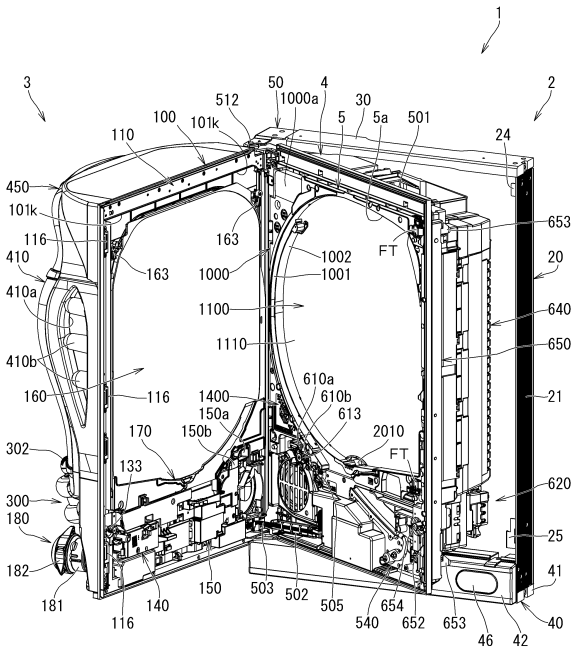
【図８】



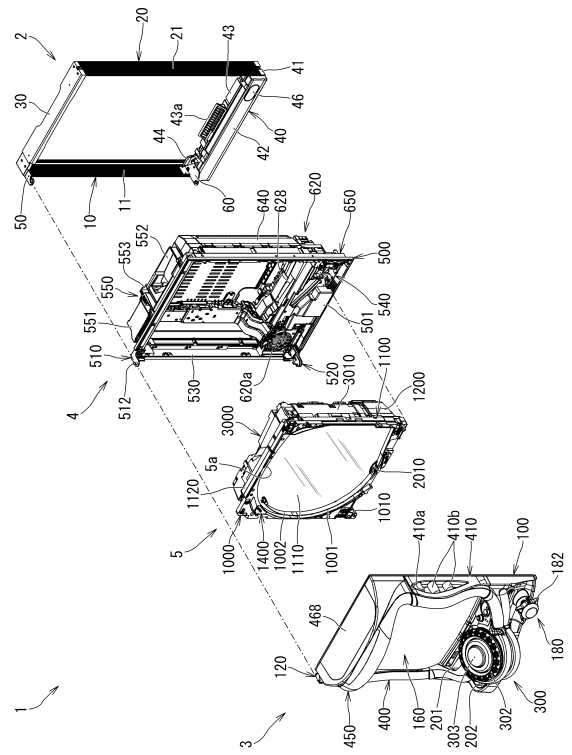
【図９】



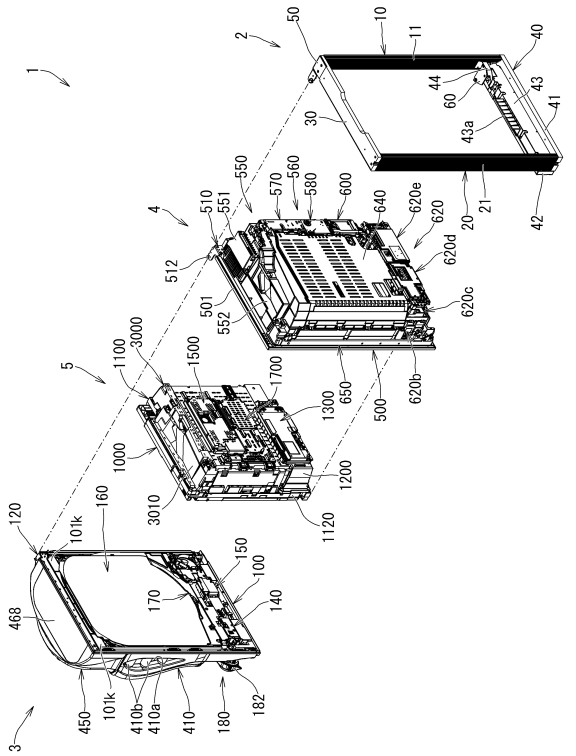
【図１０】



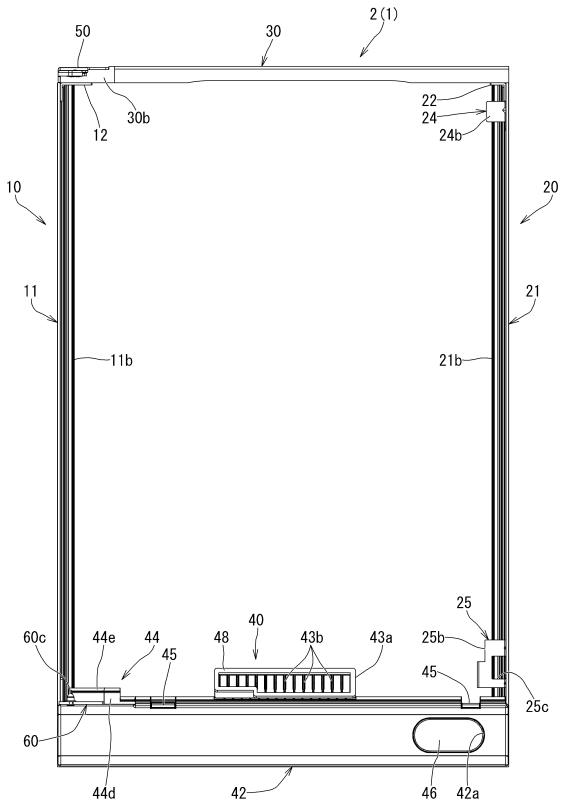
【図１１】



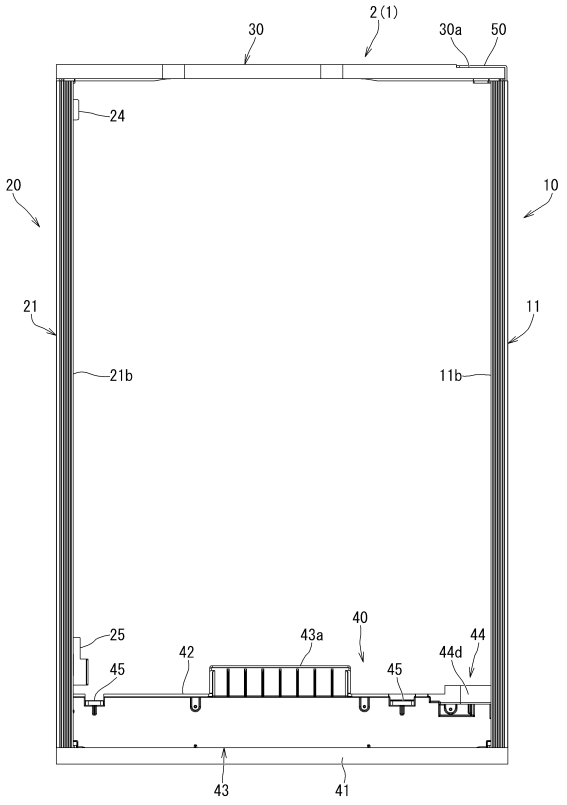
【図１２】



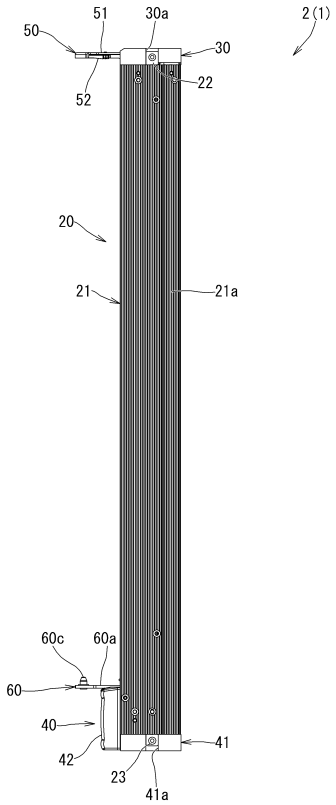
【図１３】



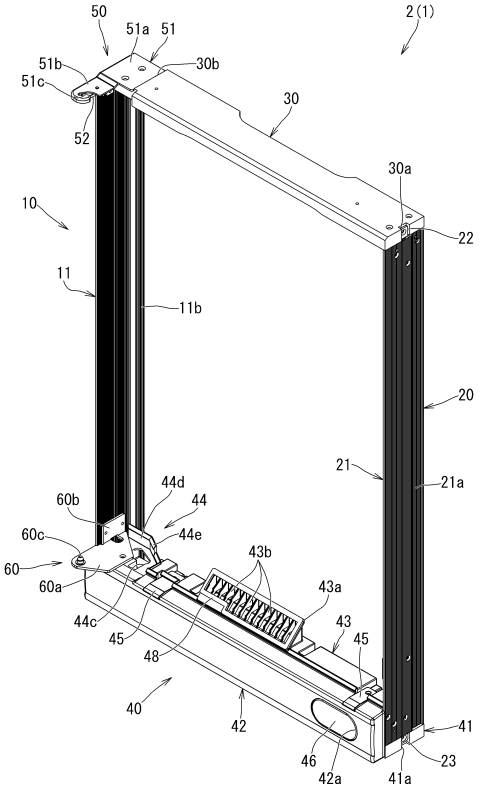
【図１４】



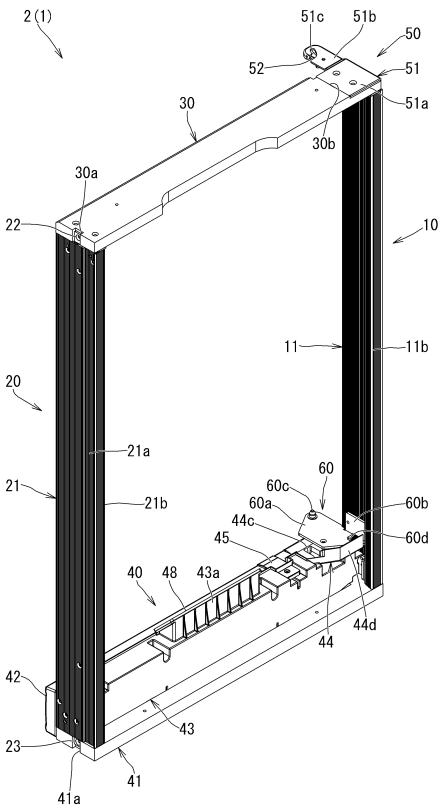
【図１５】



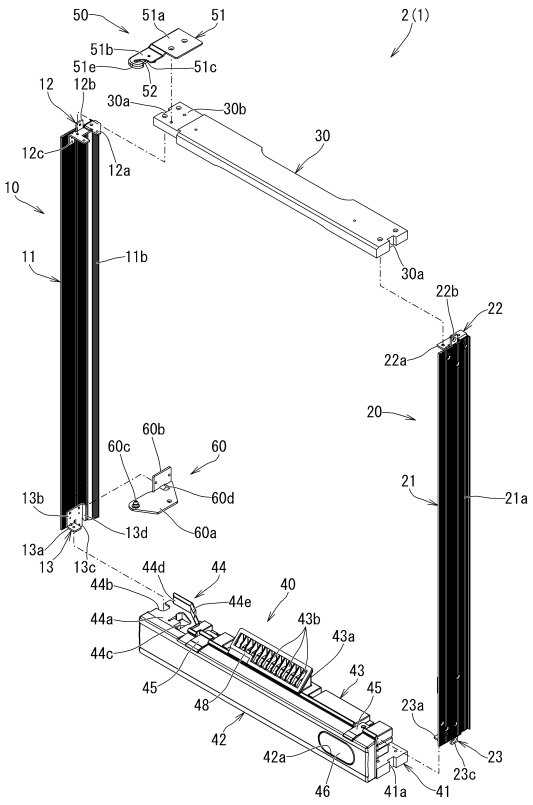
【図１６】



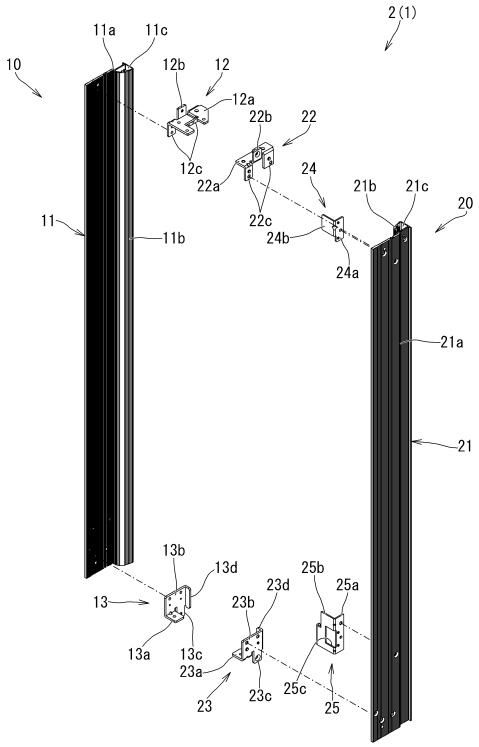
【図１７】



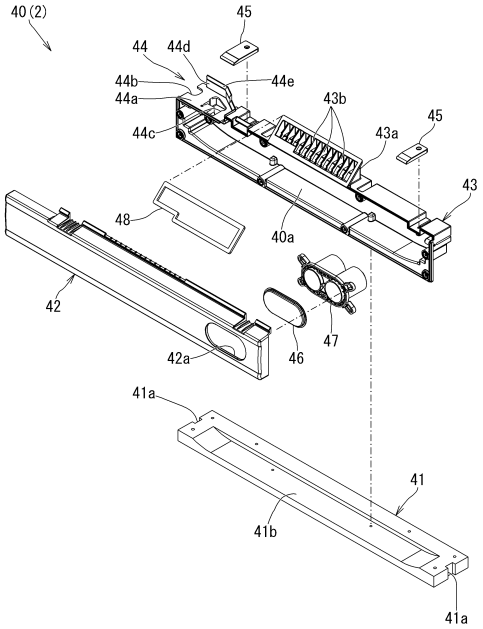
【図１８】



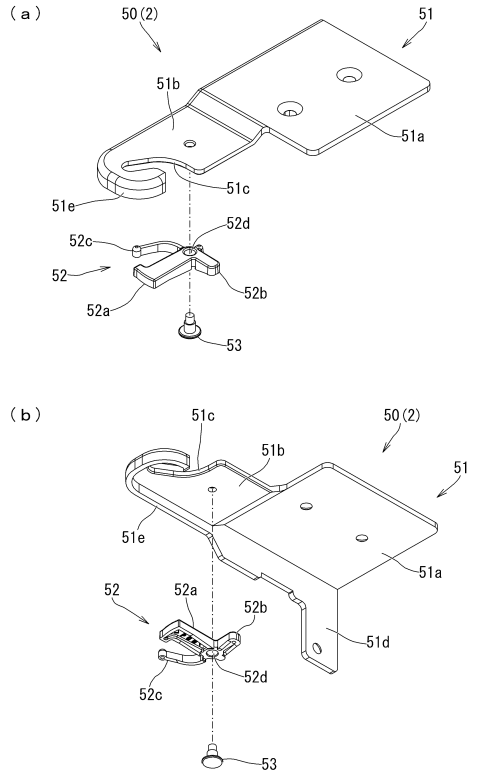
【図１９】



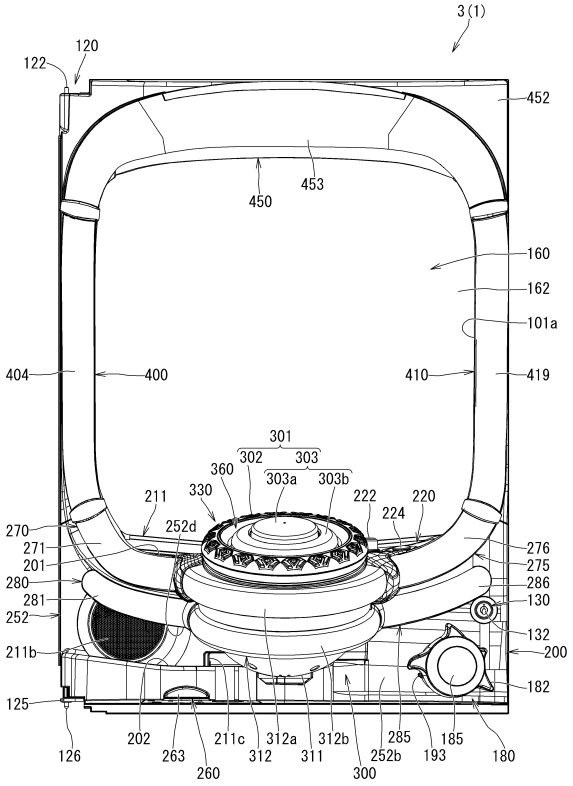
【図２０】



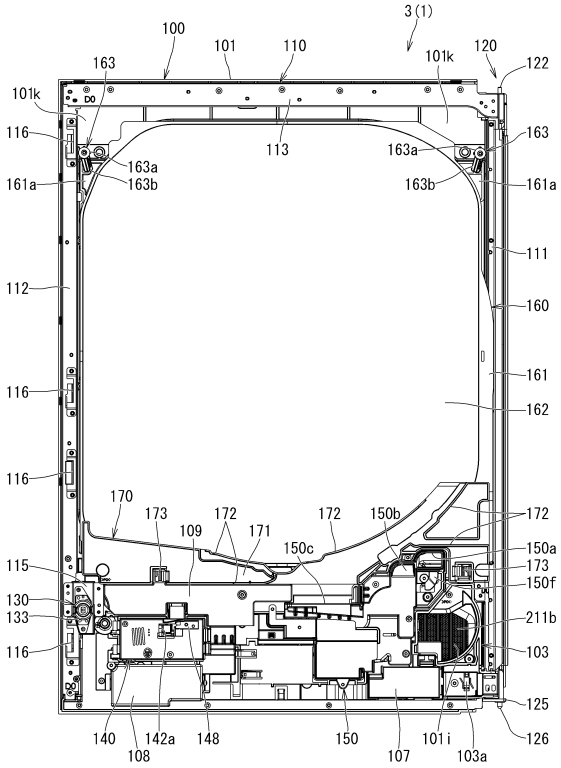
【図２１】



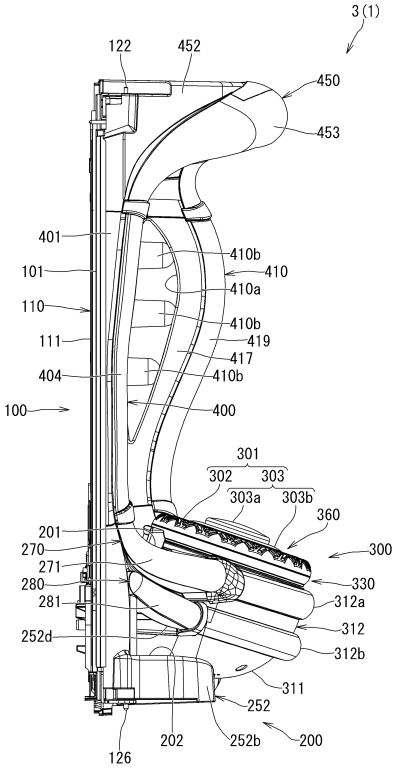
【図２２】



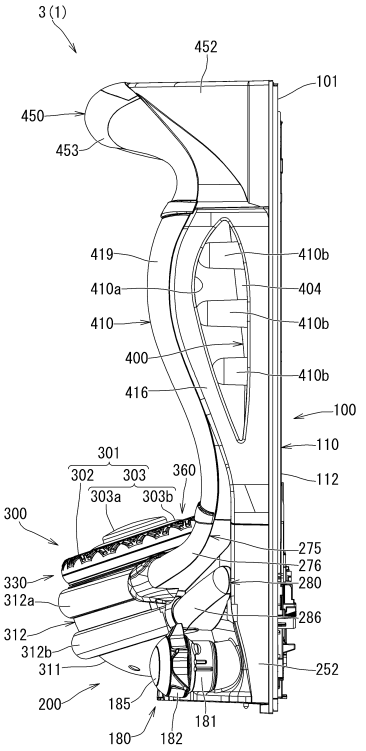
【図２３】



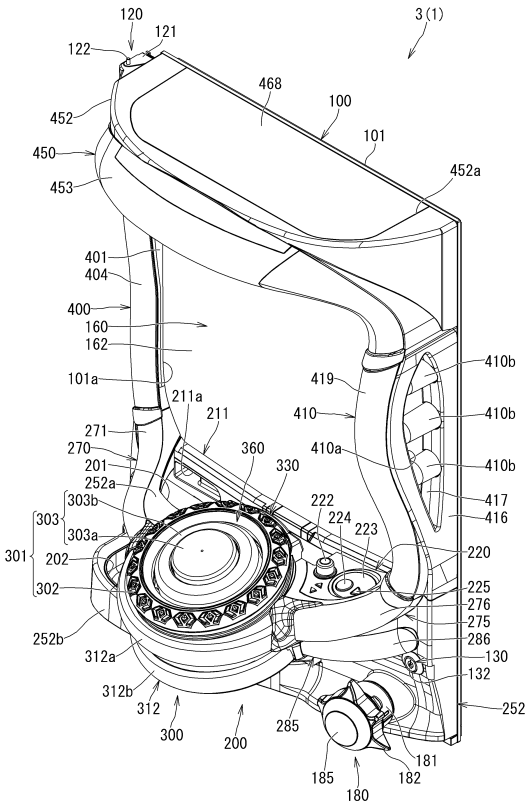
【図２４】



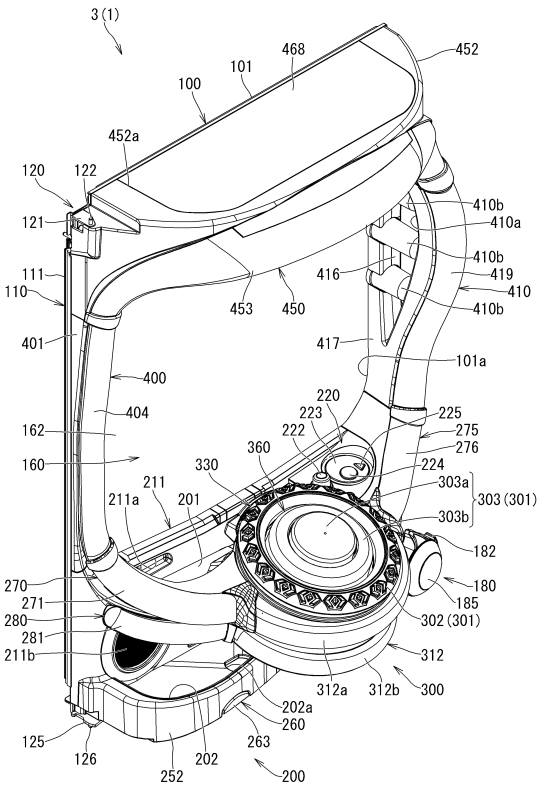
【図２５】



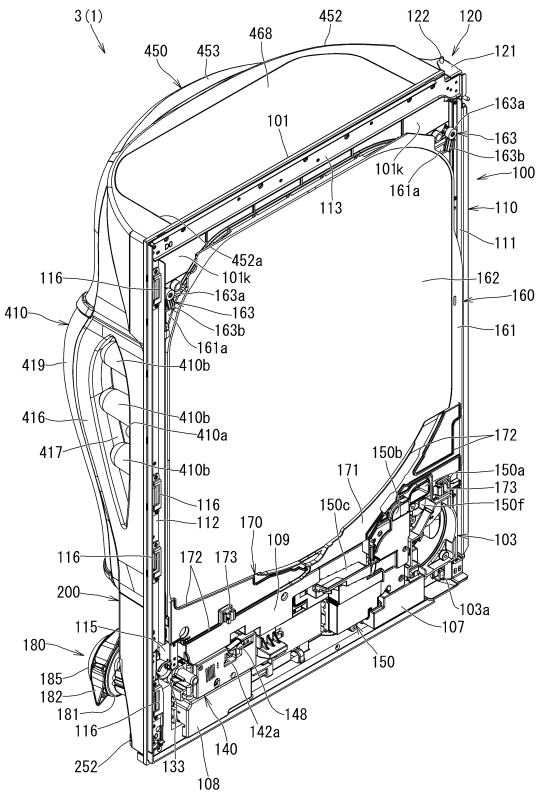
【図２６】



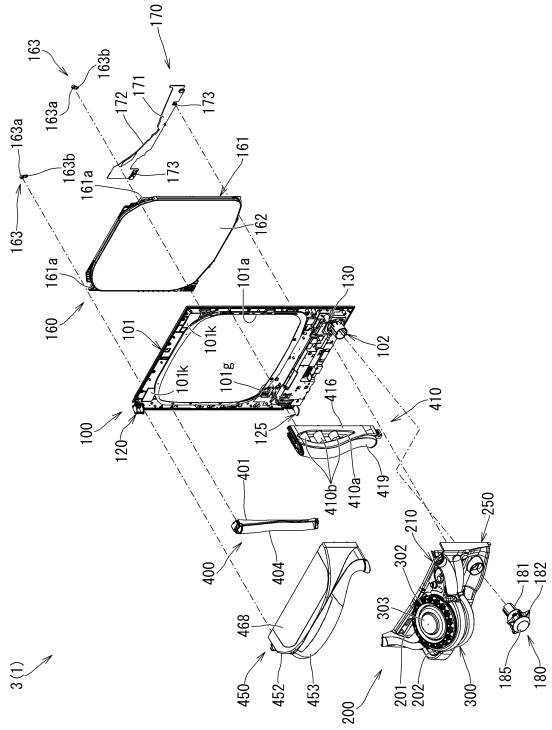
【図２７】



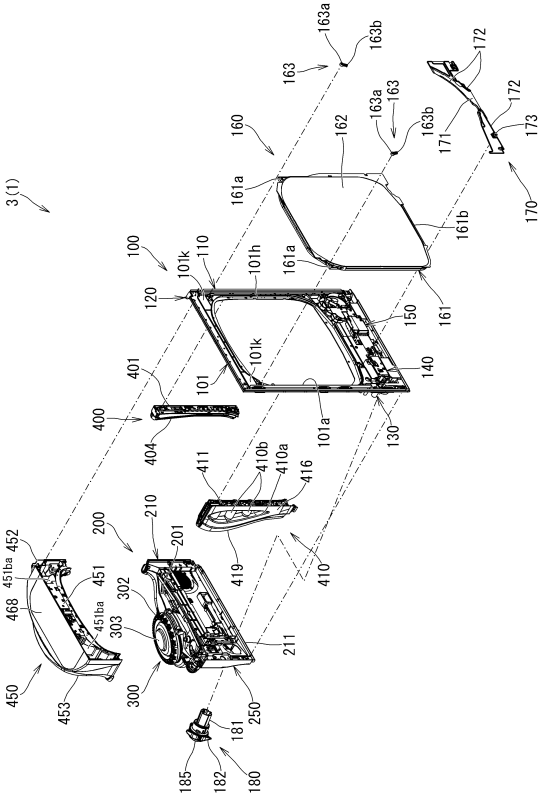
【図２８】



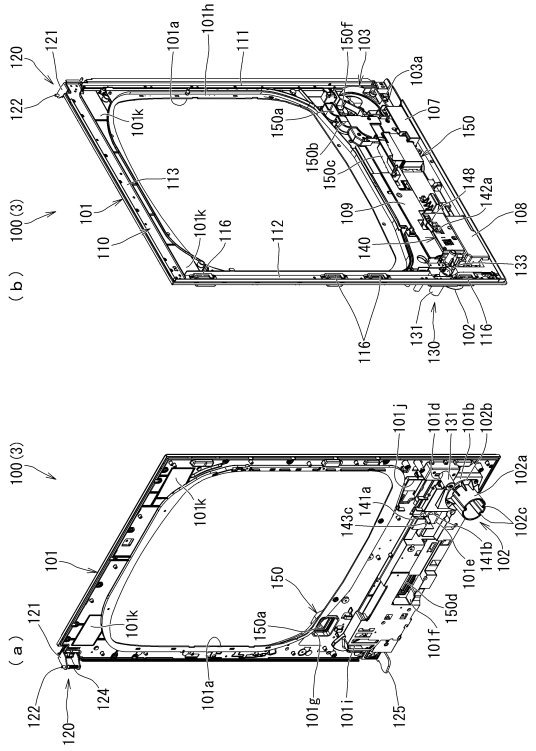
【図２９】



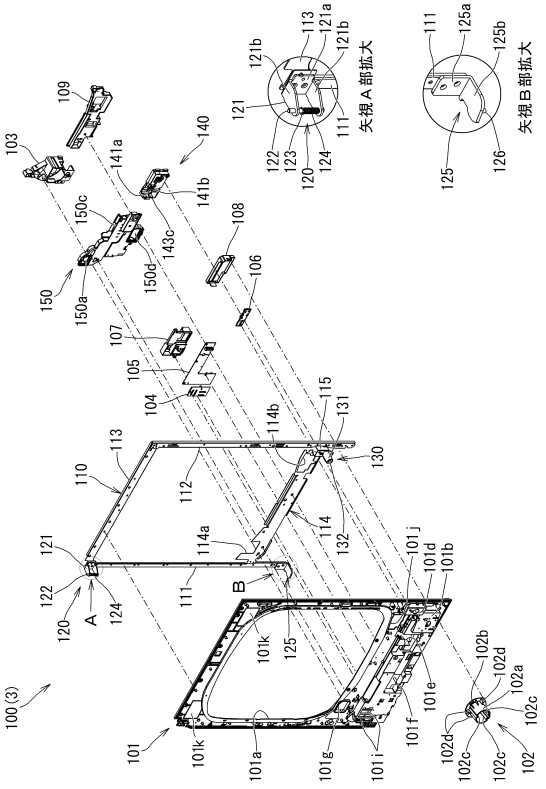
【図３０】



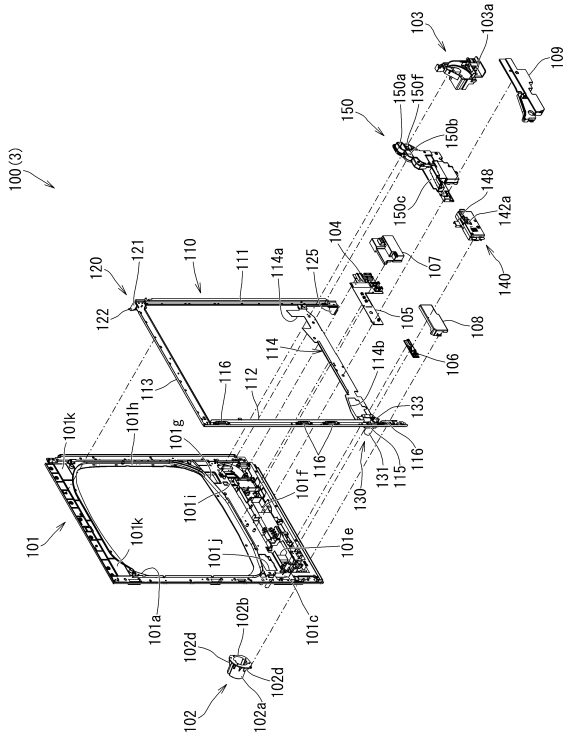
【図３１】



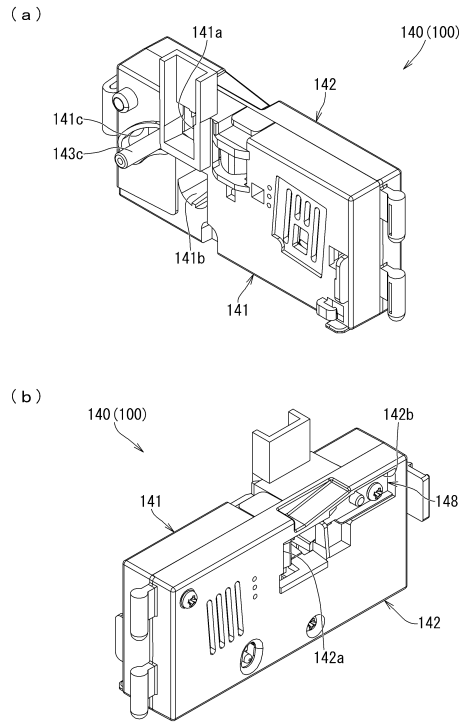
【図３２】



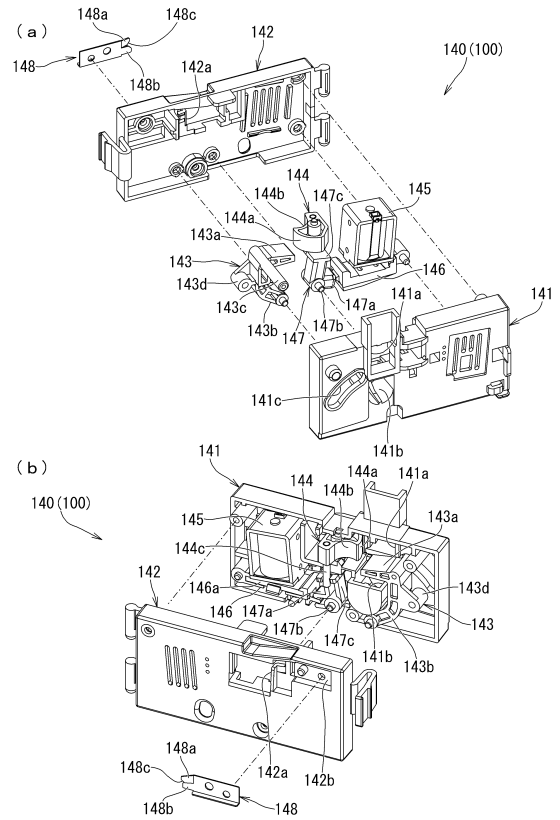
【図３３】



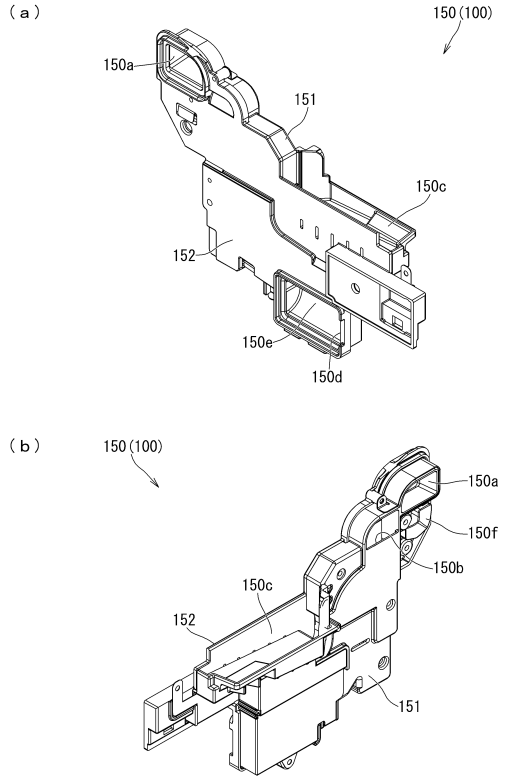
【図３４】



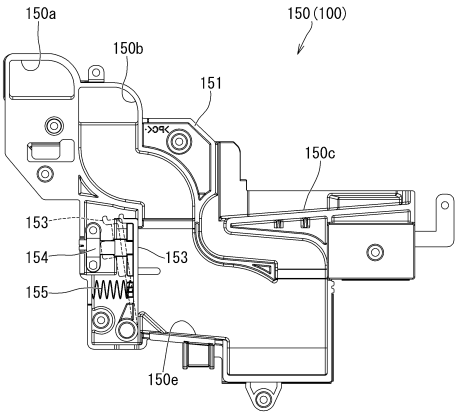
【図３５】



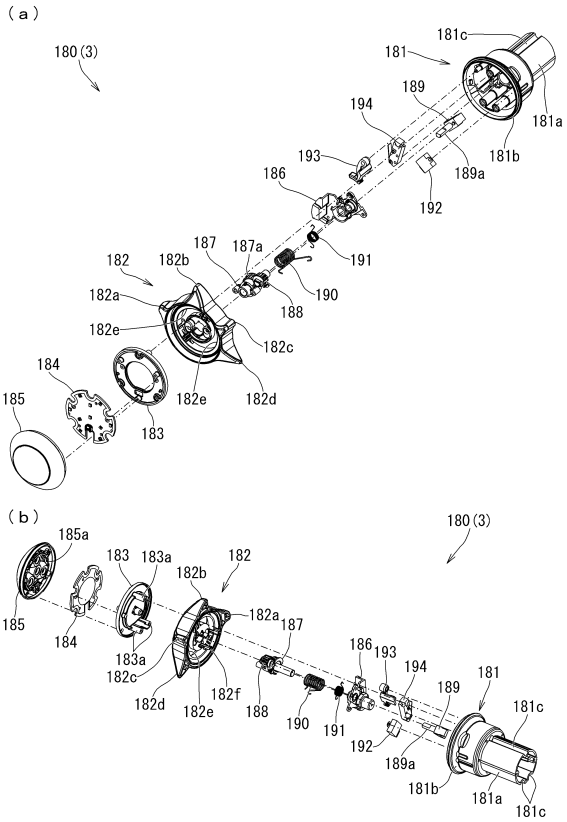
【図３６】



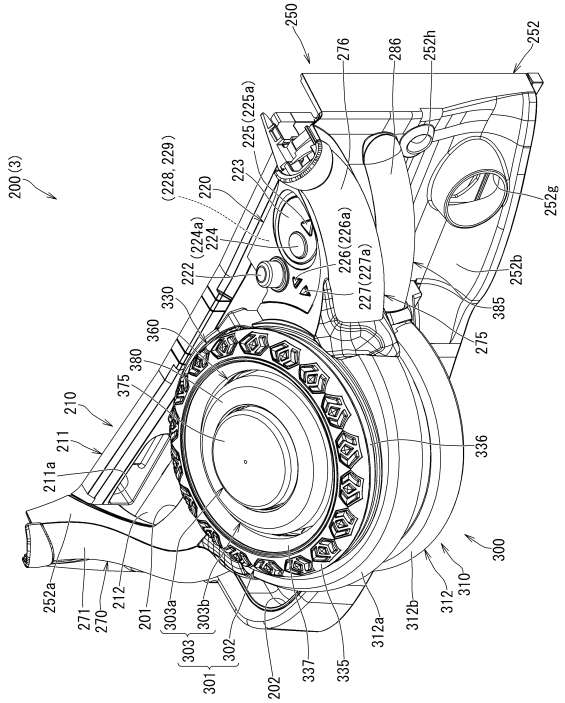
【図３７】



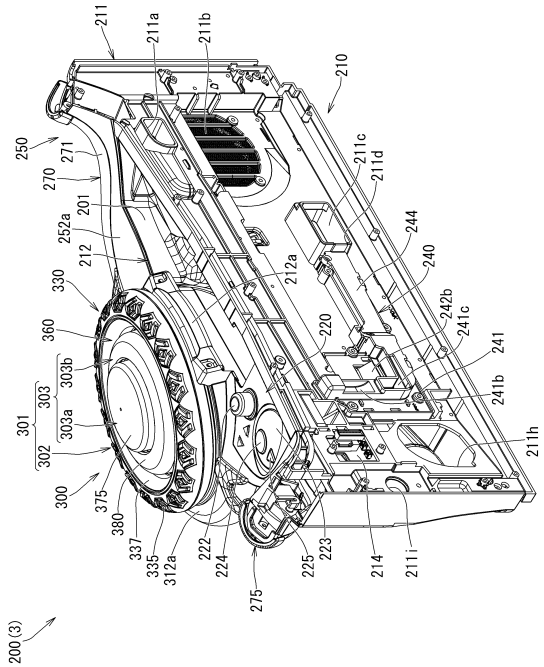
【図３８】



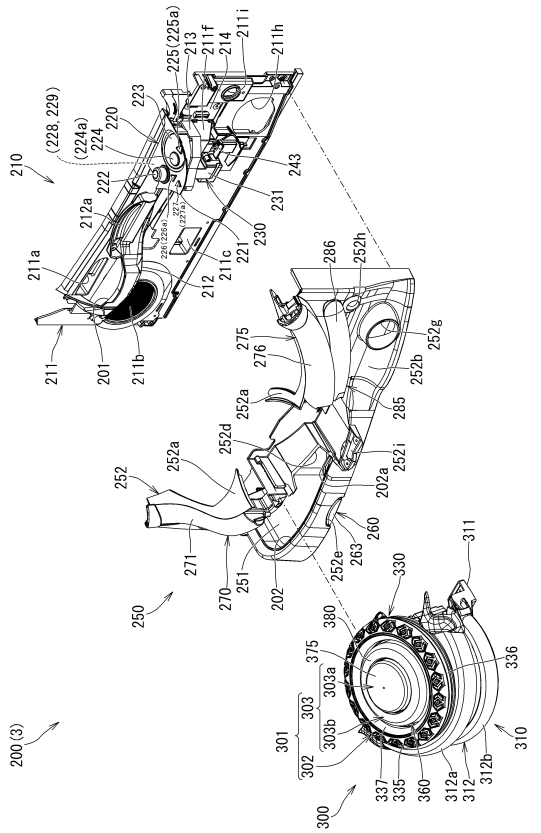
【図３９】



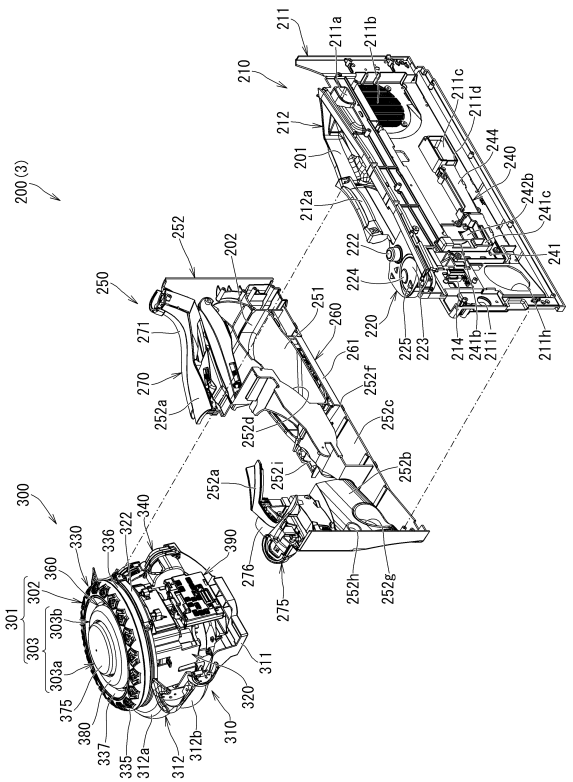
【図４０】



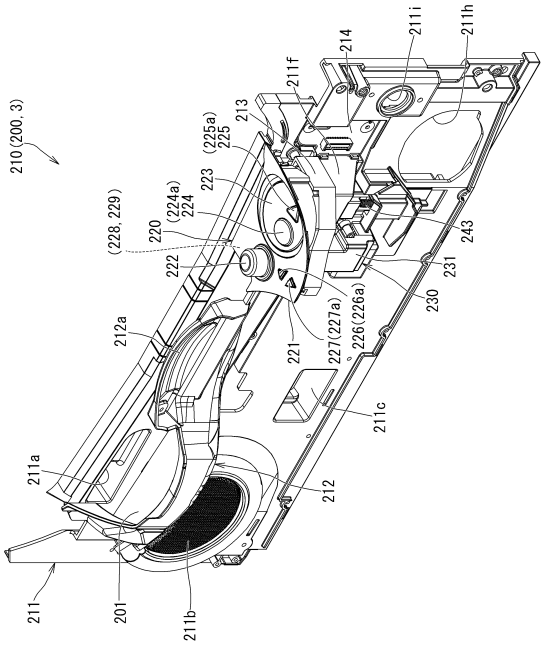
【図４１】



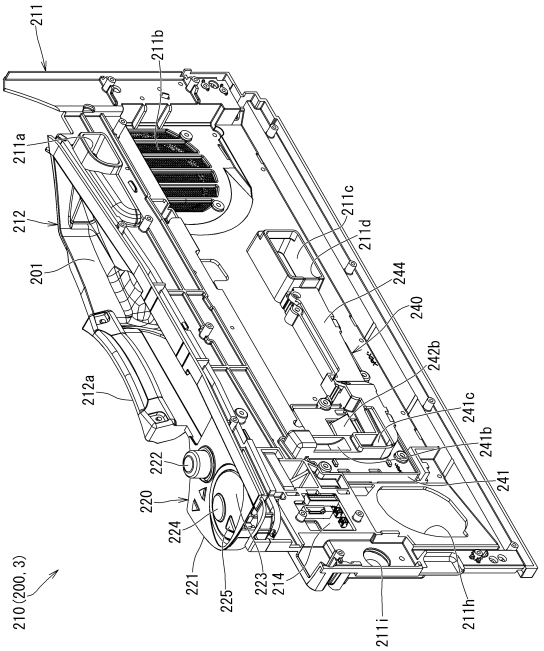
【図４２】



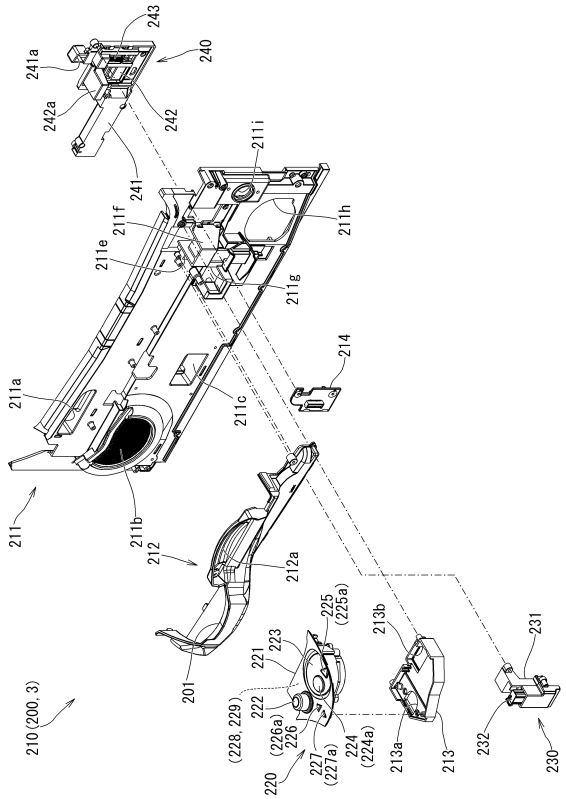
【図４３】



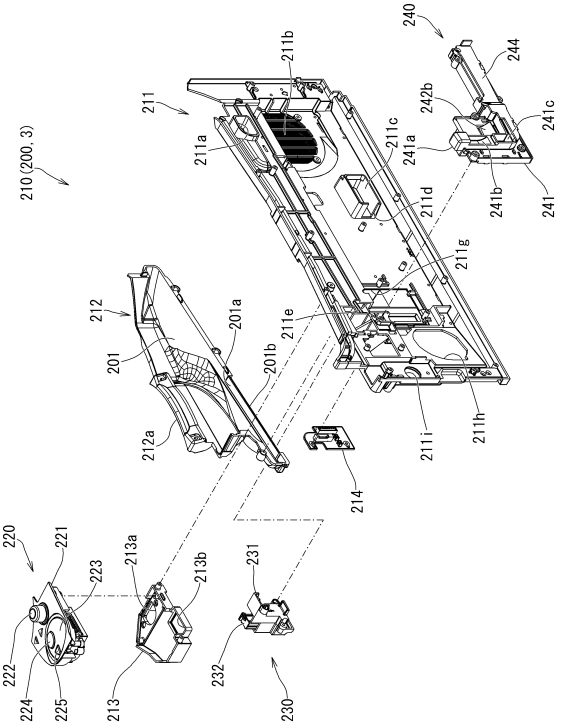
【図４４】



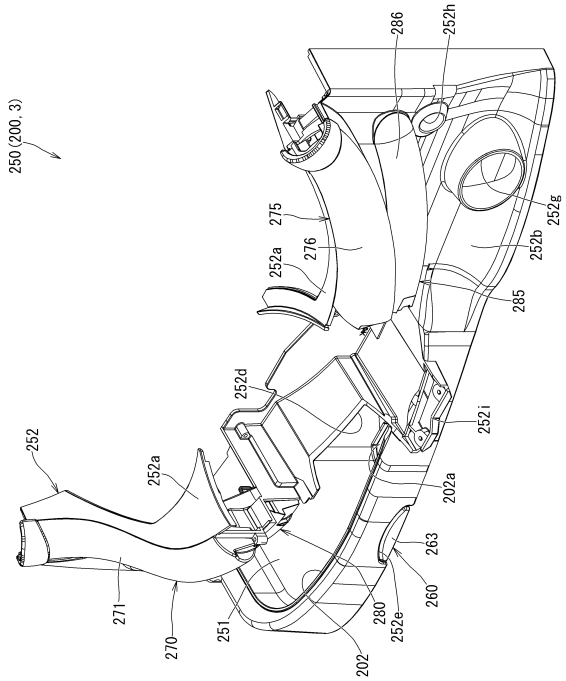
【図４５】



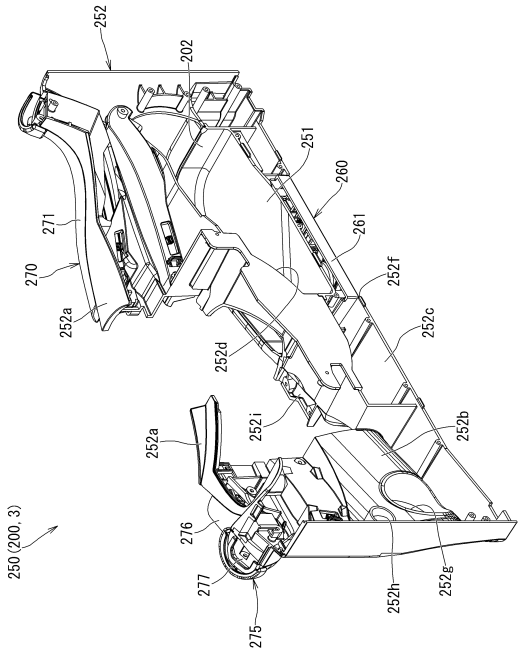
【図４６】



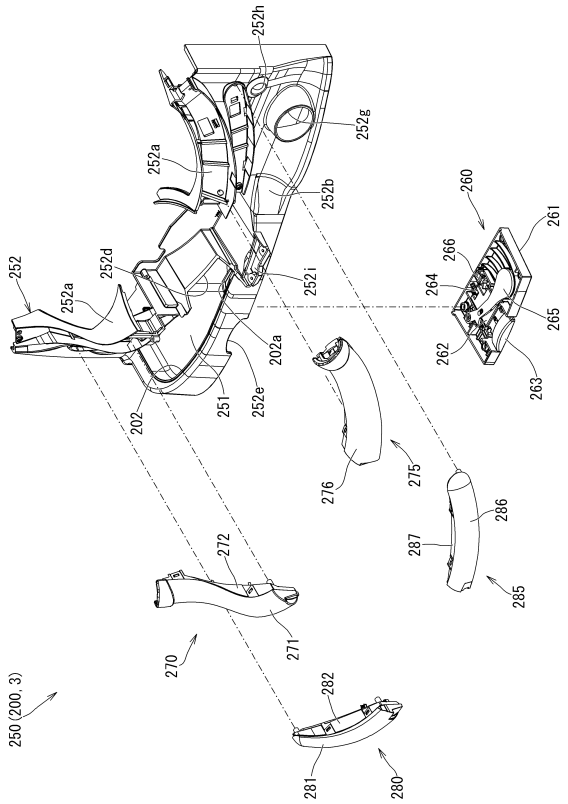
【図４７】



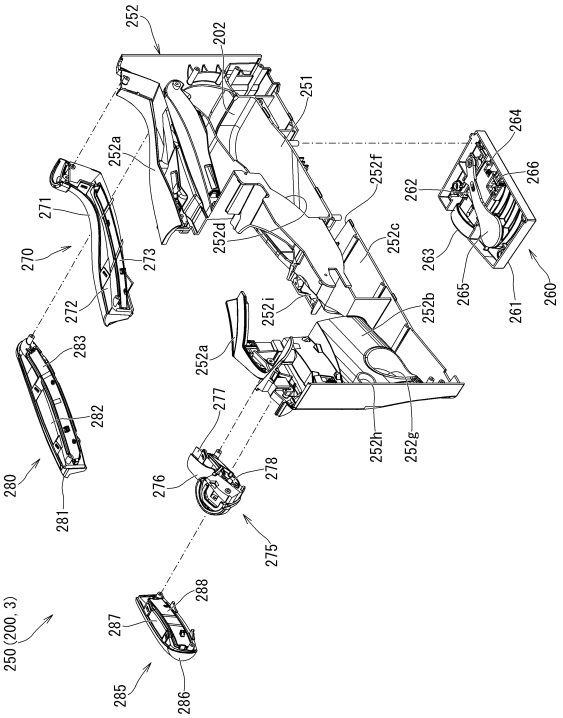
【図４８】



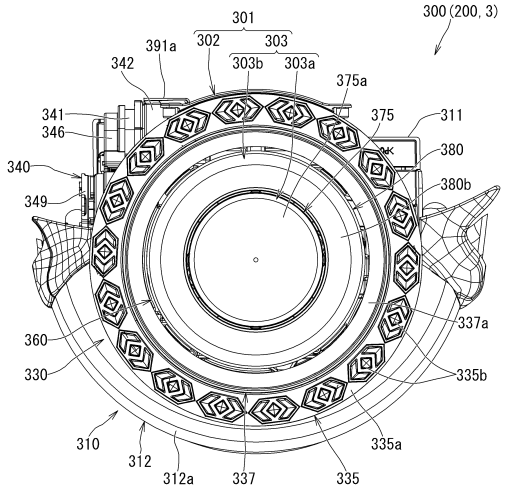
【図４９】



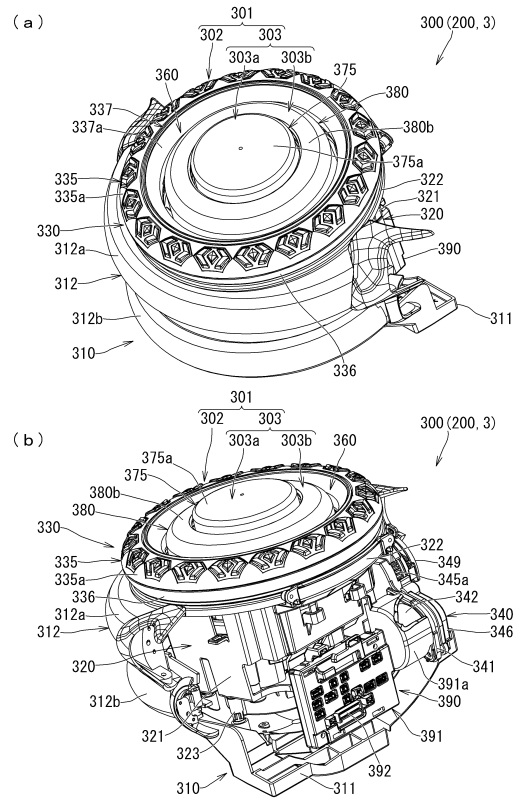
【図５０】



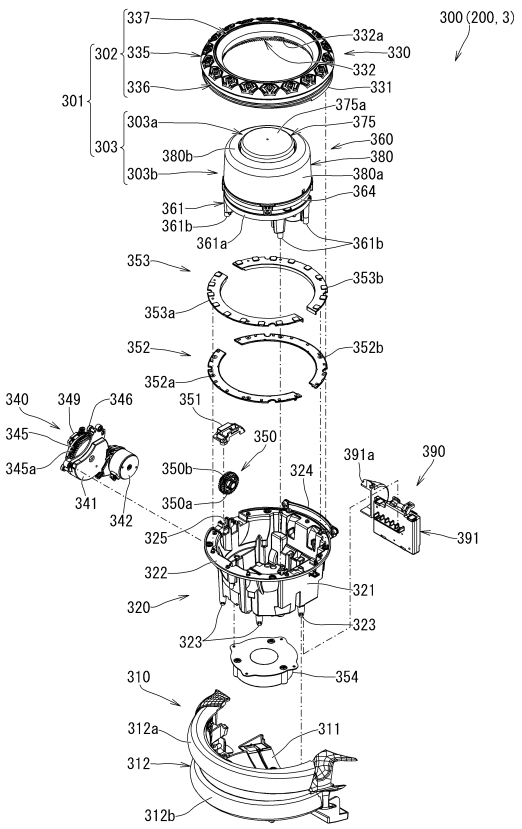
【図５１】



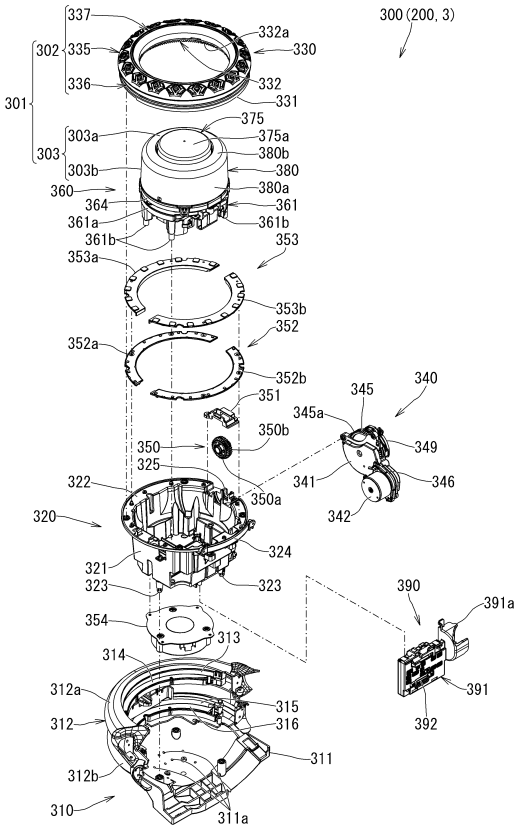
【図５２】



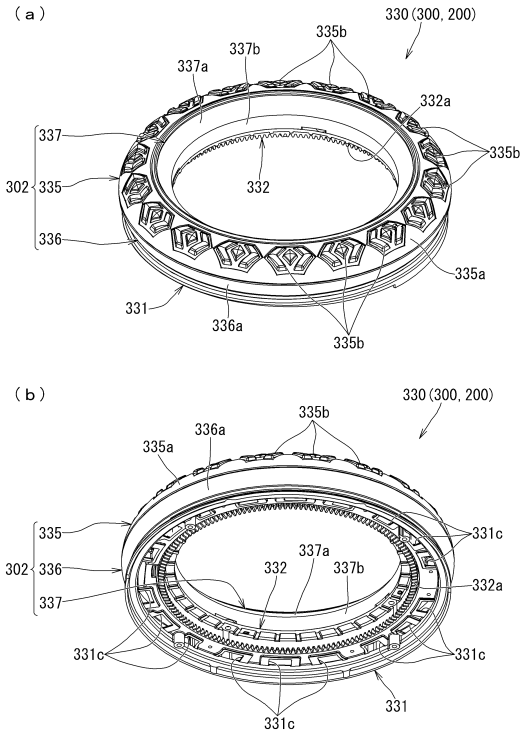
【図５３】



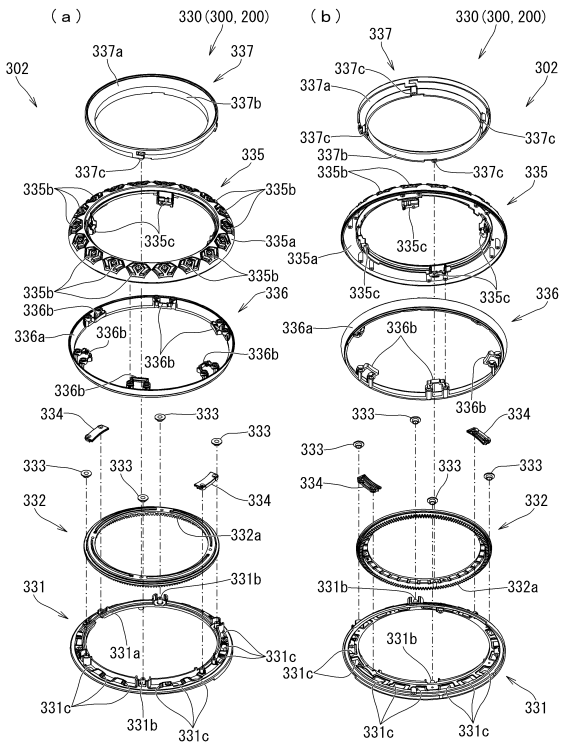
【図５４】



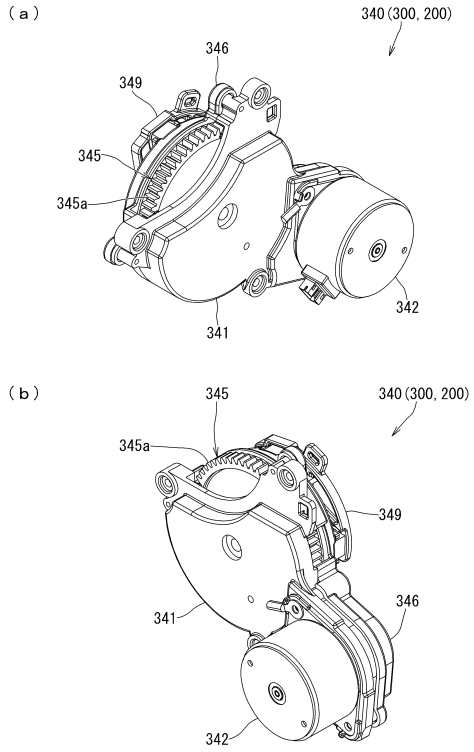
【図５５】



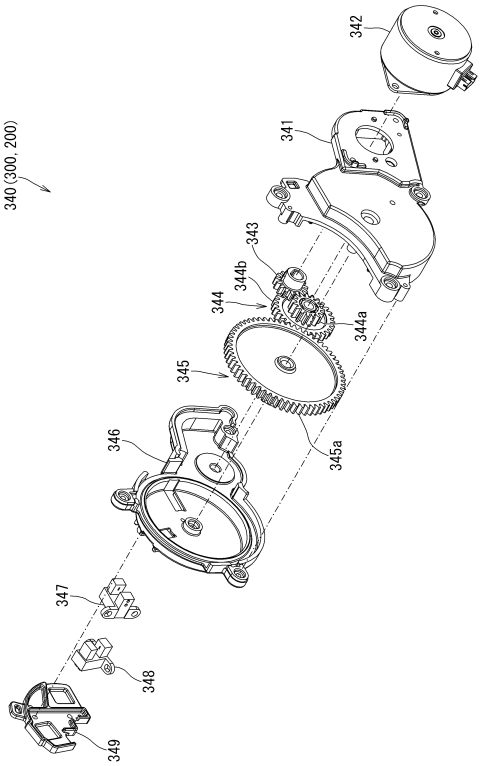
【図５６】



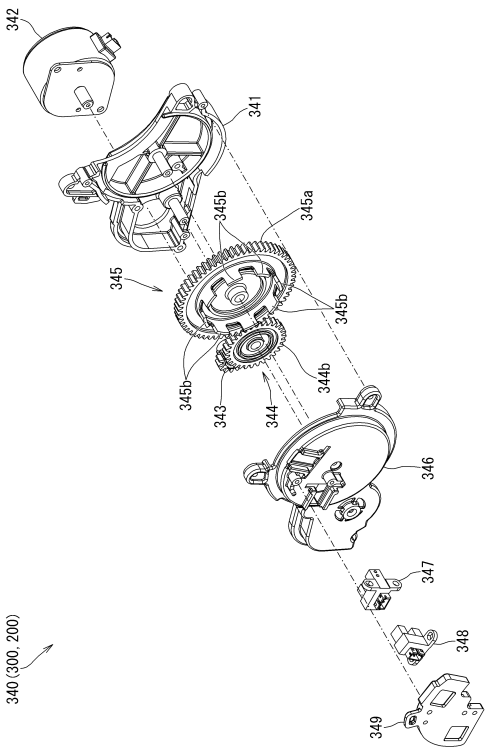
【図５７】



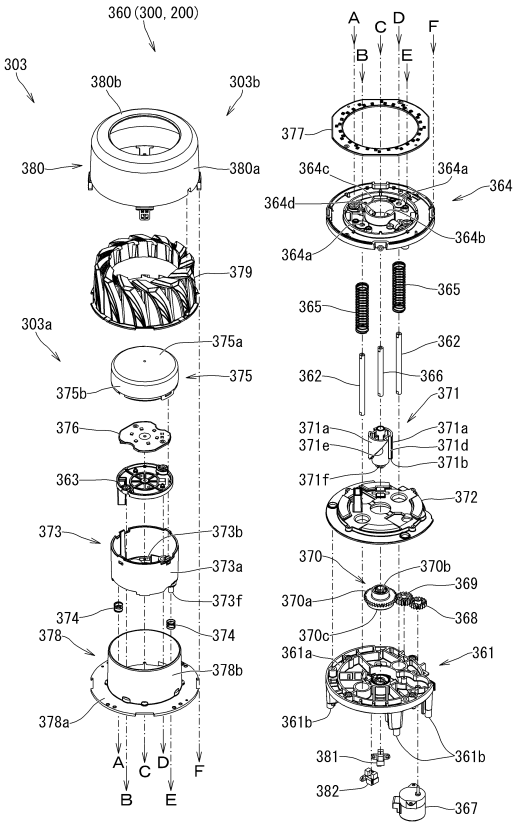
【図５８】



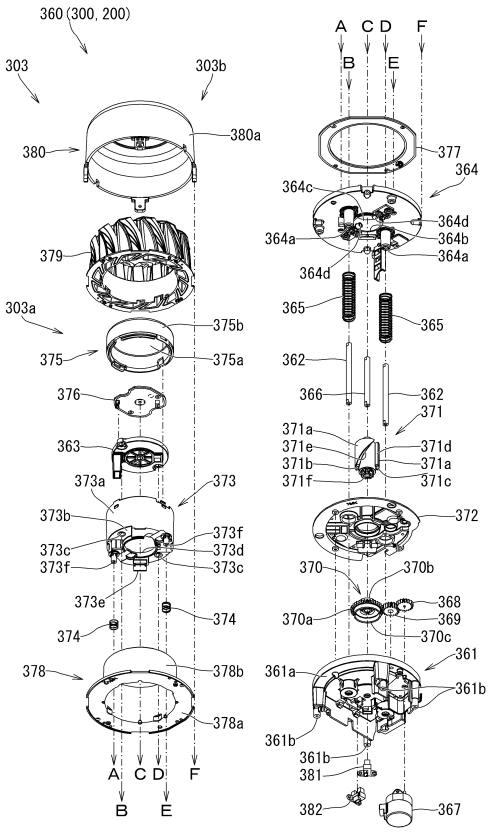
【図５９】



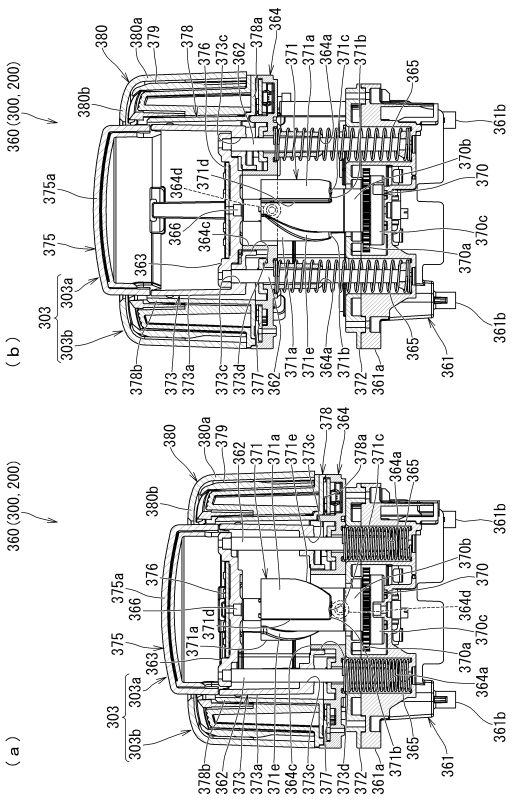
【図６０】



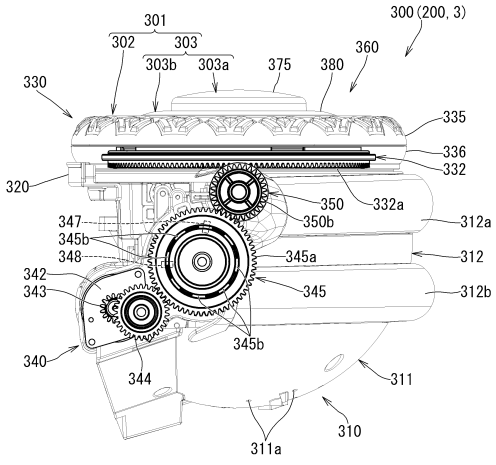
【図６１】



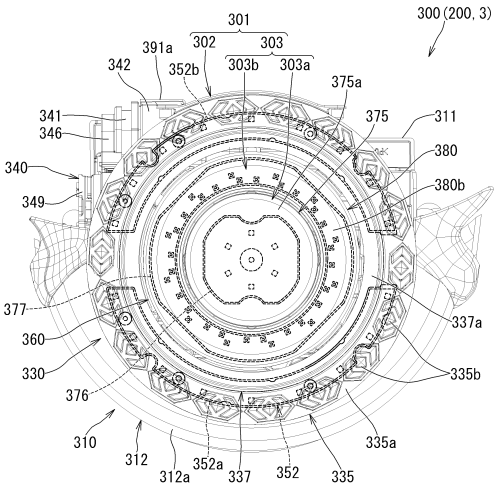
【図６２】



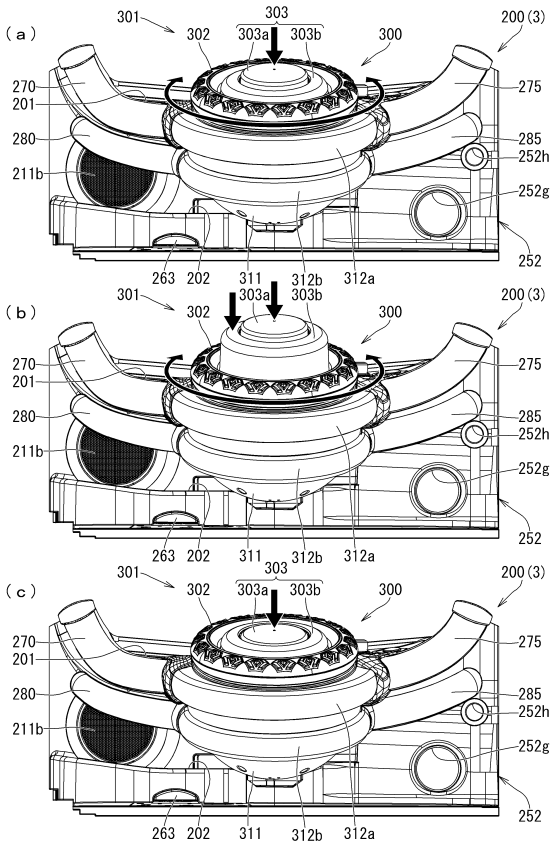
【図６３】



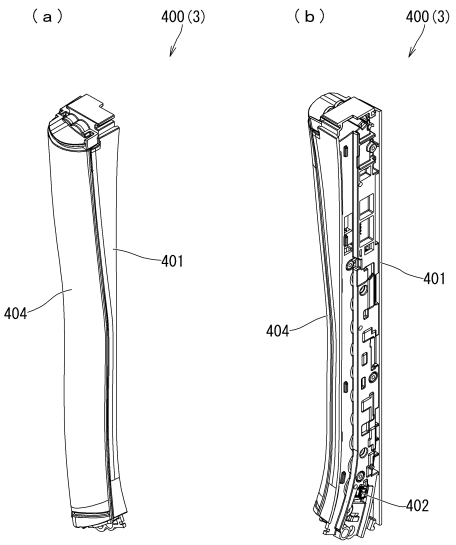
【図６４】



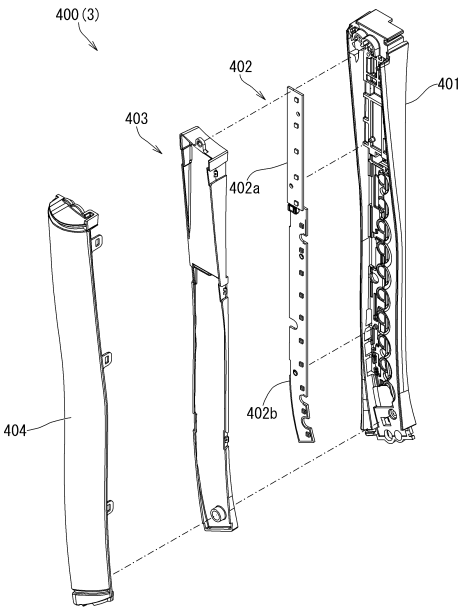
【図６５】



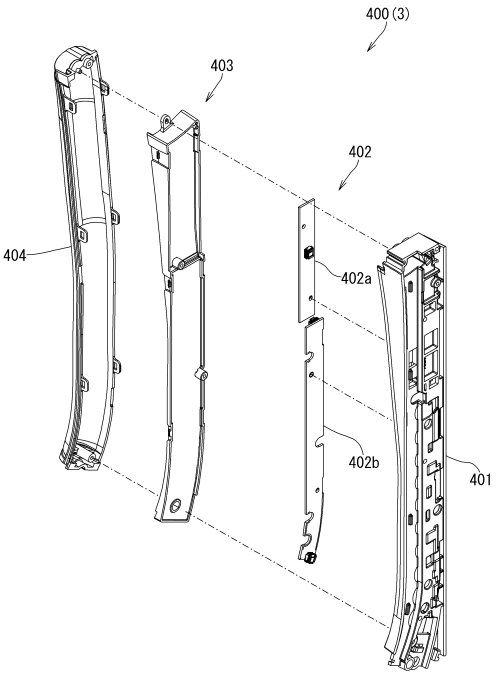
【図６６】



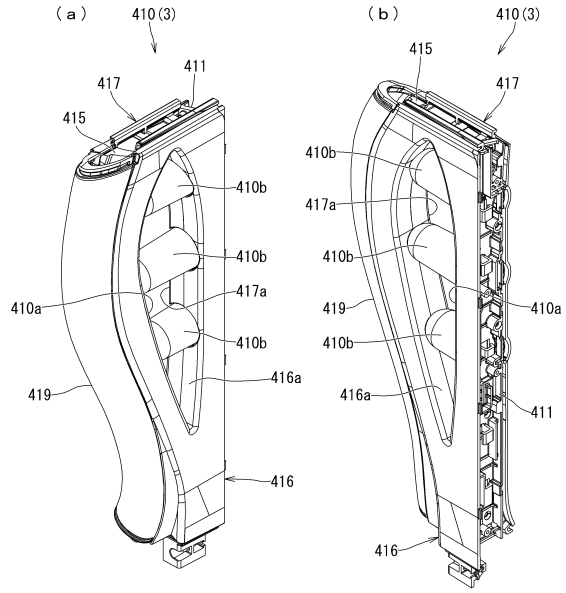
【図６７】



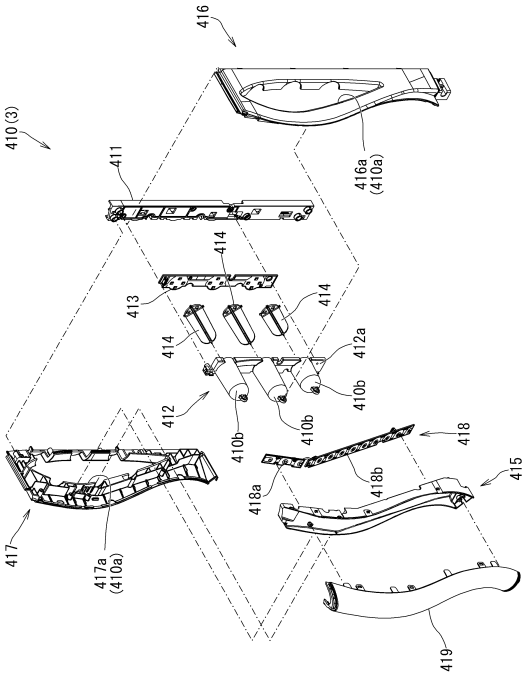
【図６８】



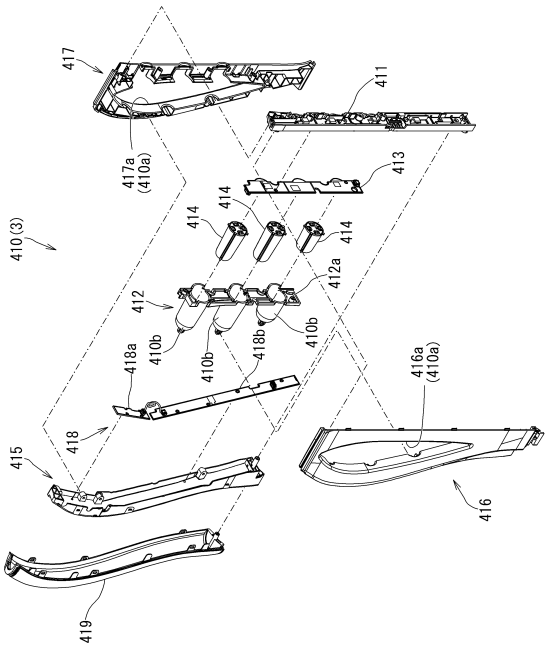
【図６９】



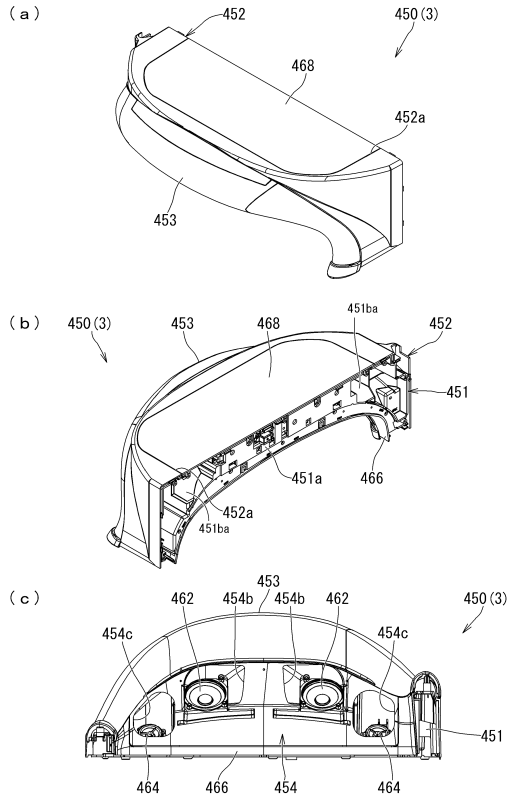
【図７０】



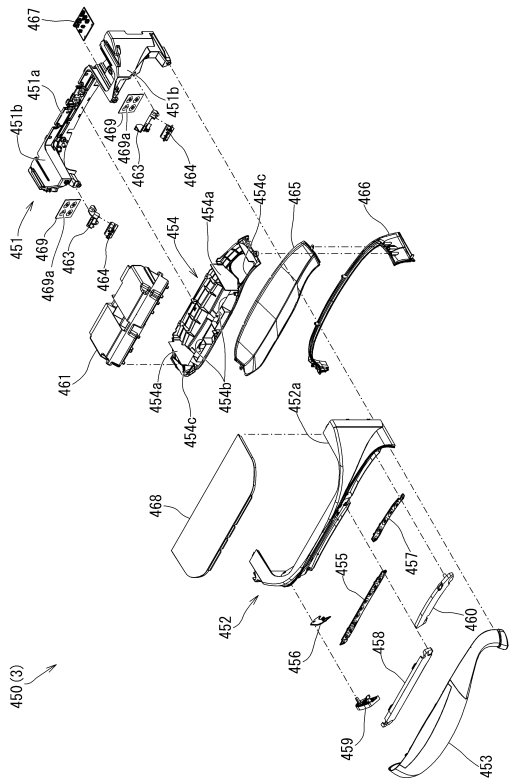
【図７１】



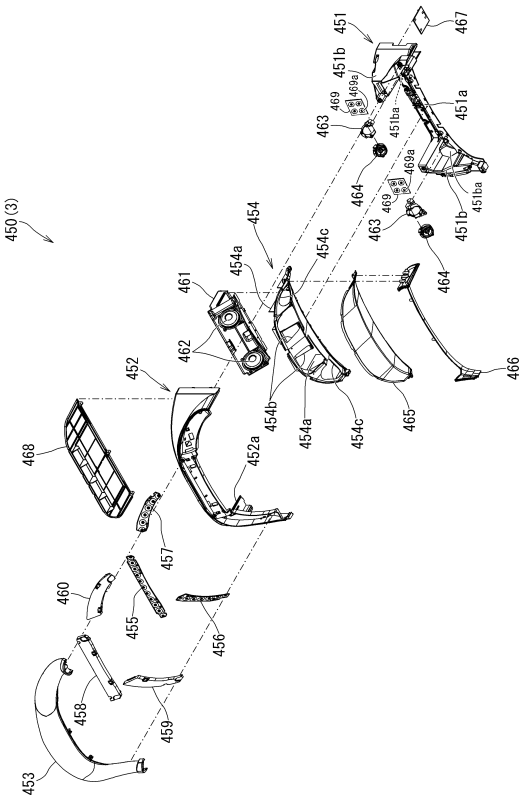
【図７２】



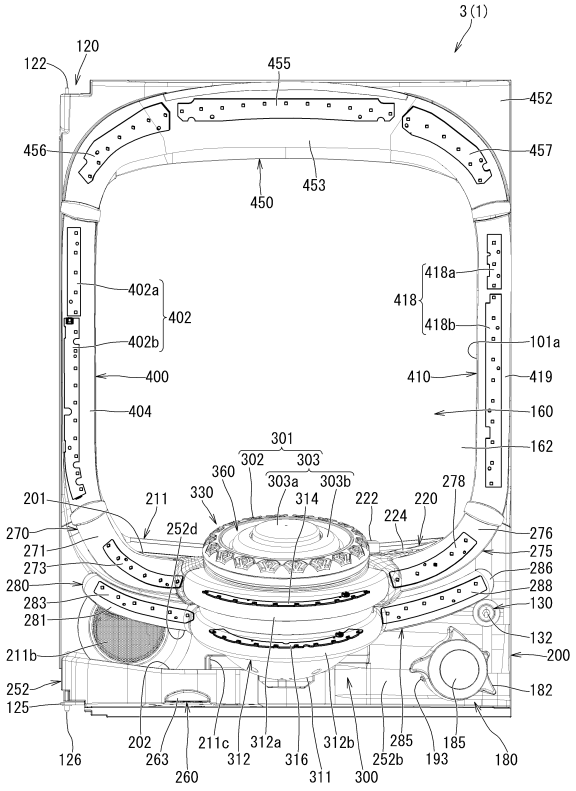
【図７３】



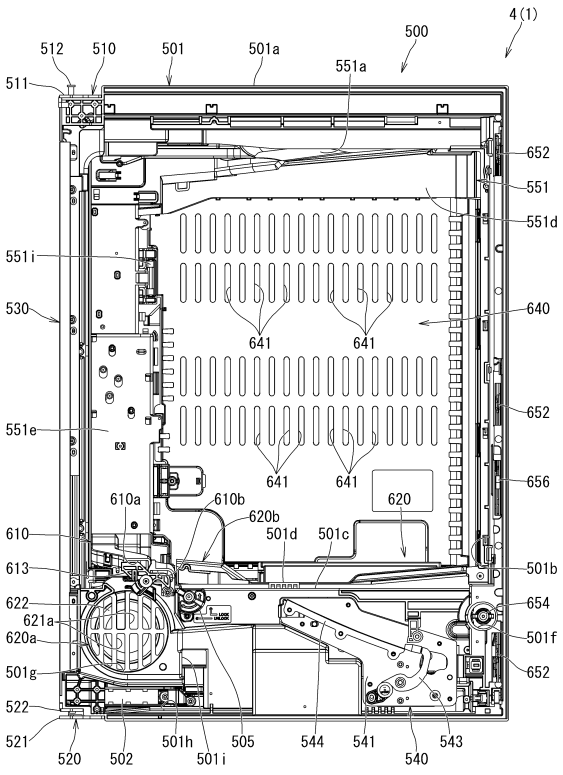
【図７４】



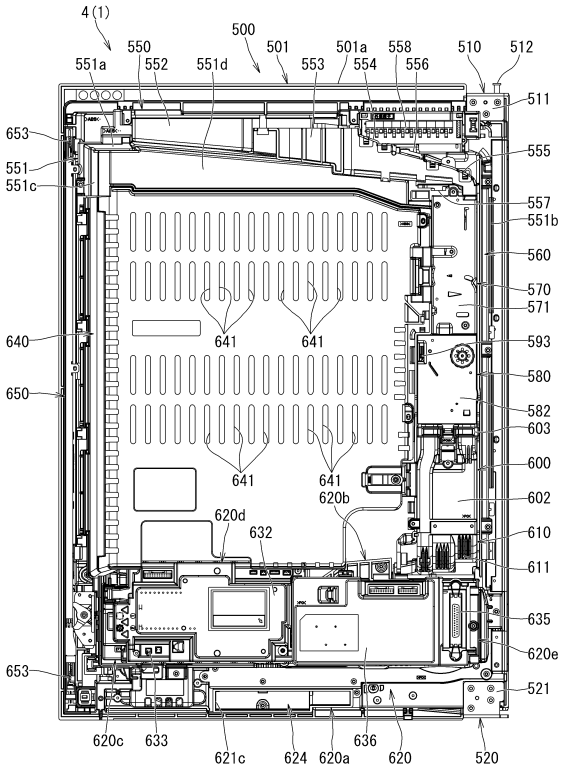
【図７５】



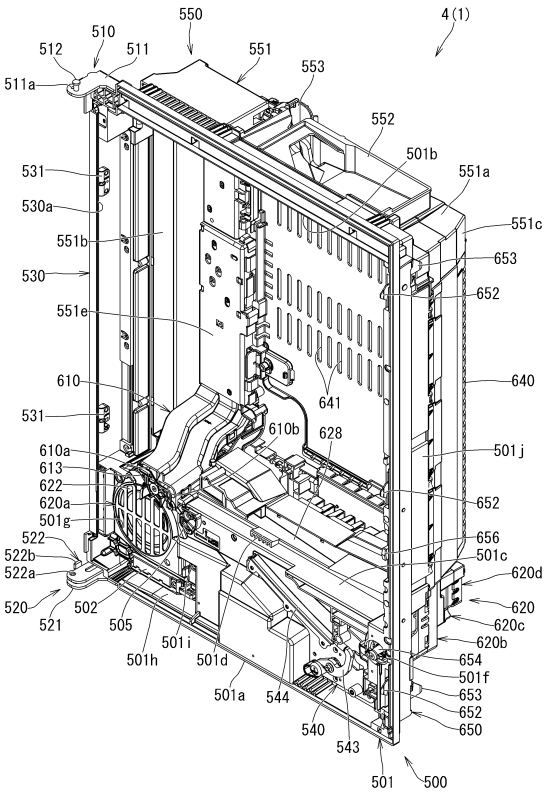
【図７６】



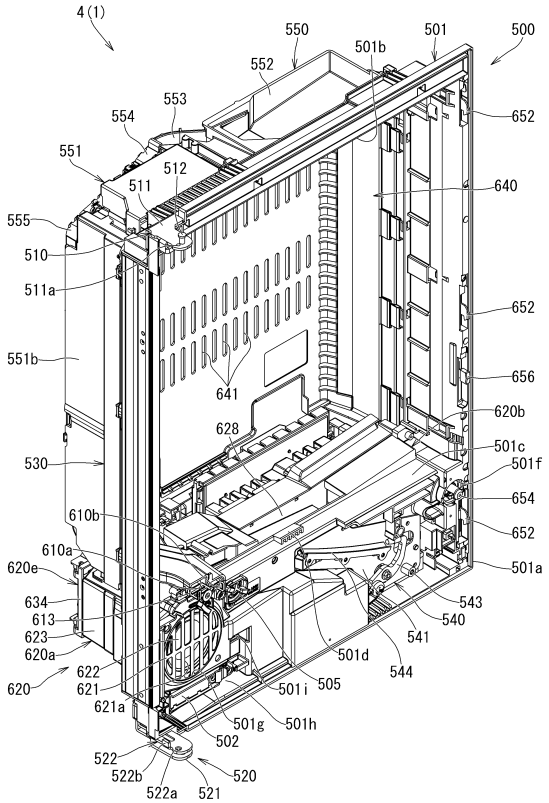
【図７７】



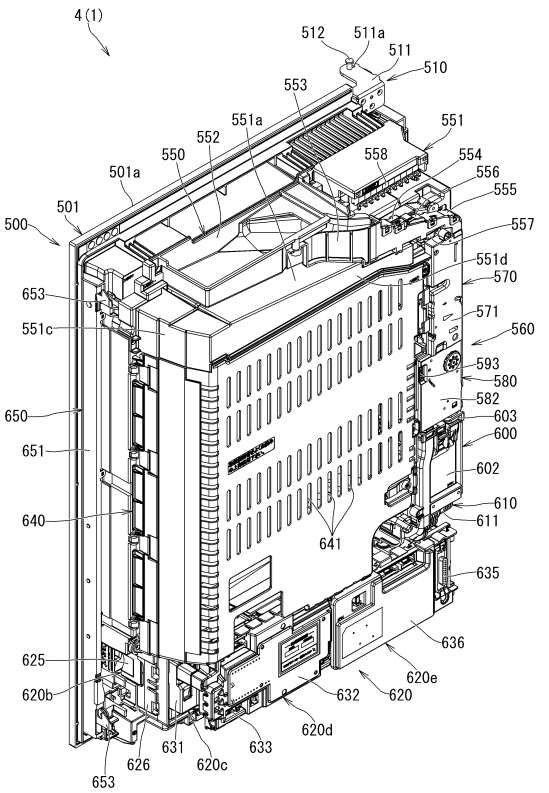
【図７８】



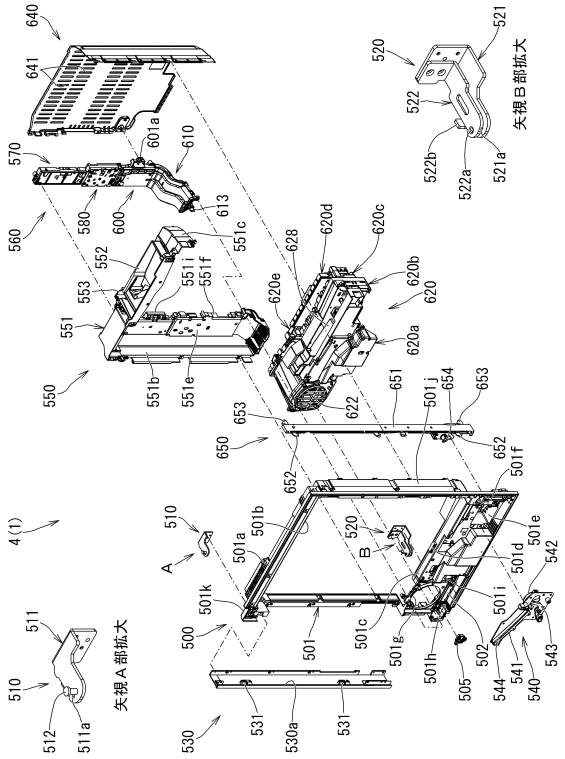
【図７９】



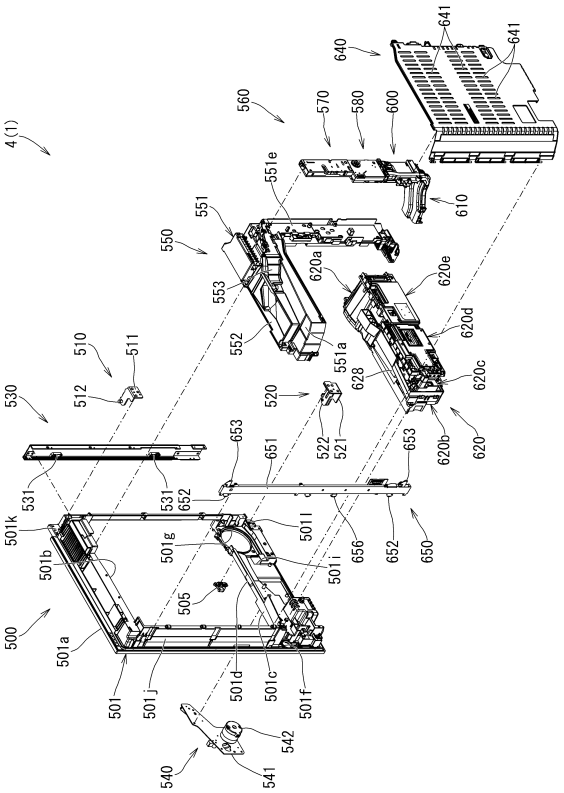
【図８０】



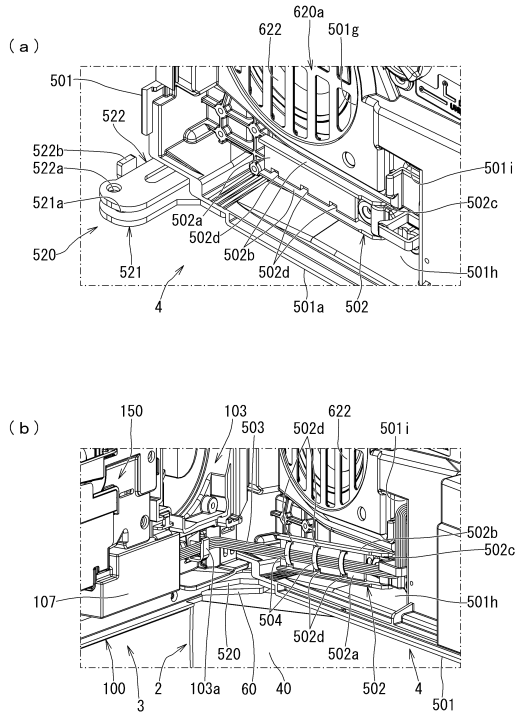
【図８１】



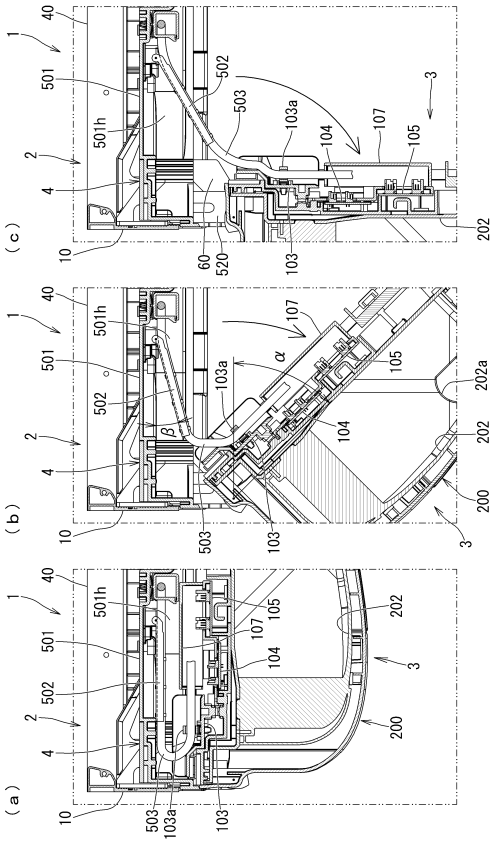
【図８２】



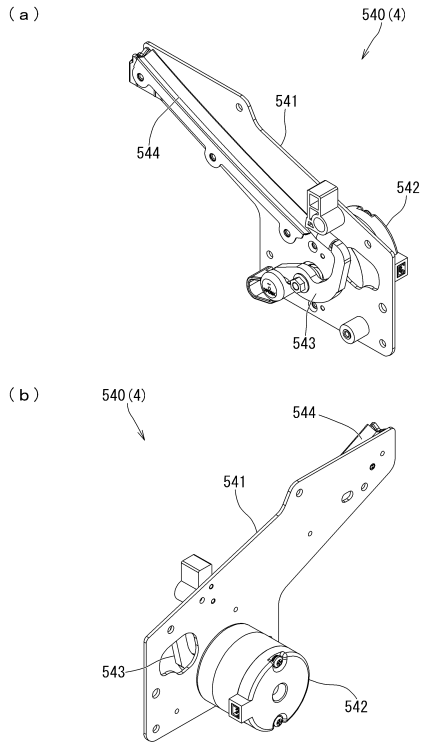
【図８３】



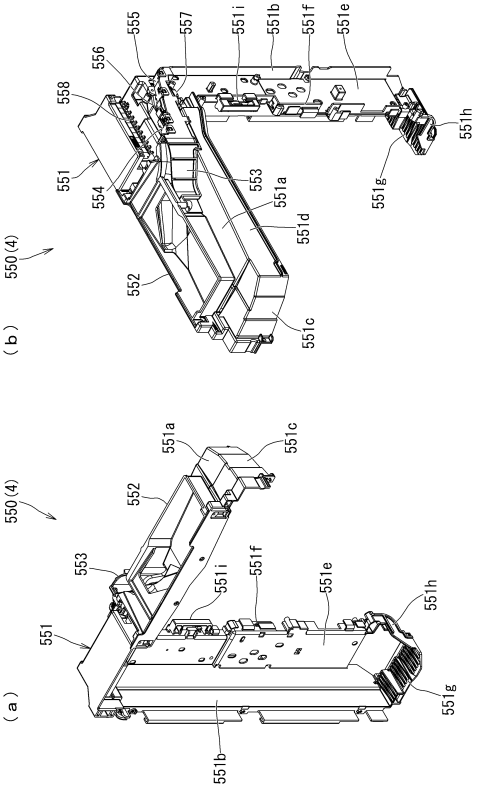
【図８４】



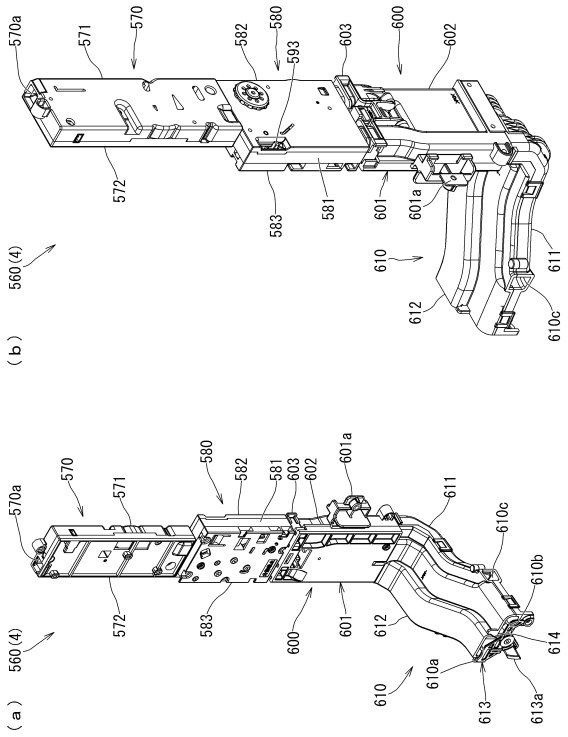
【図８５】



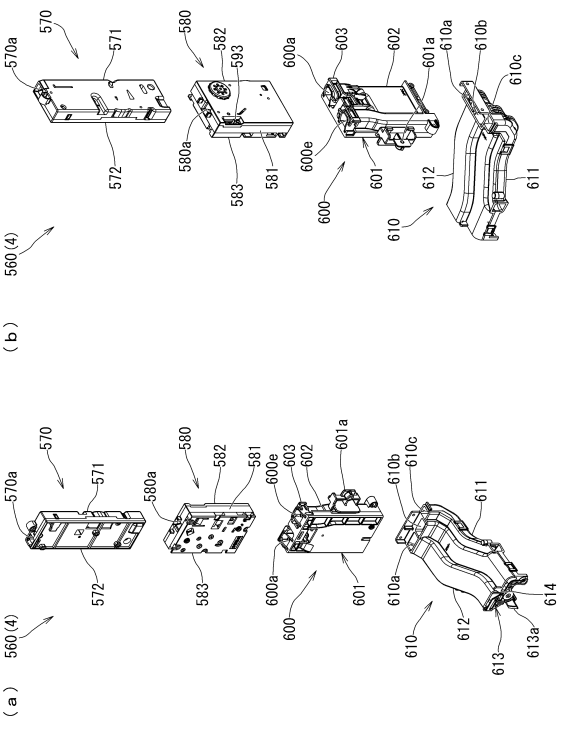
【図８６】



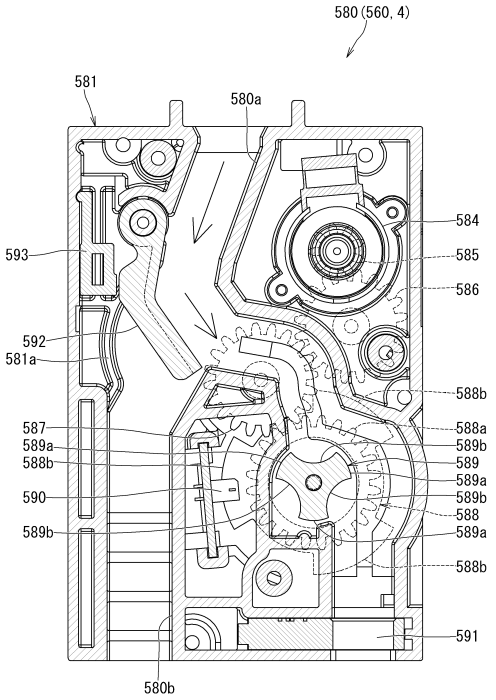
【図８７】



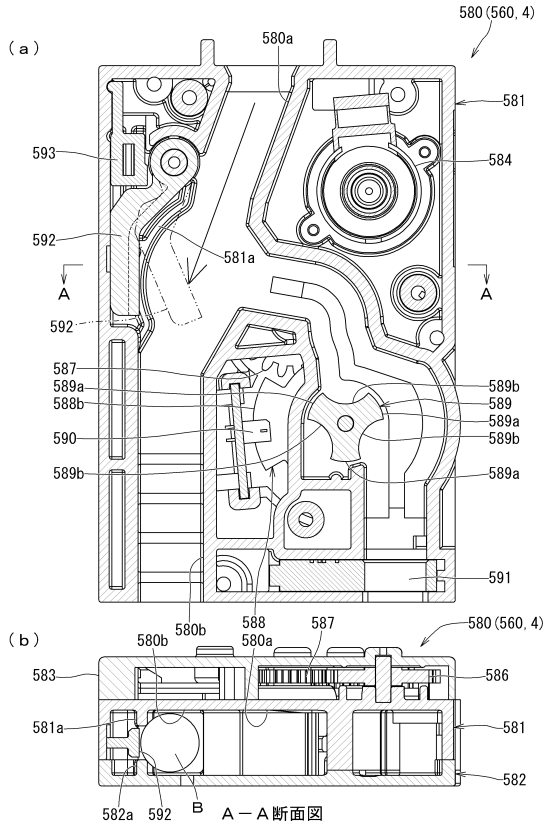
【図８８】



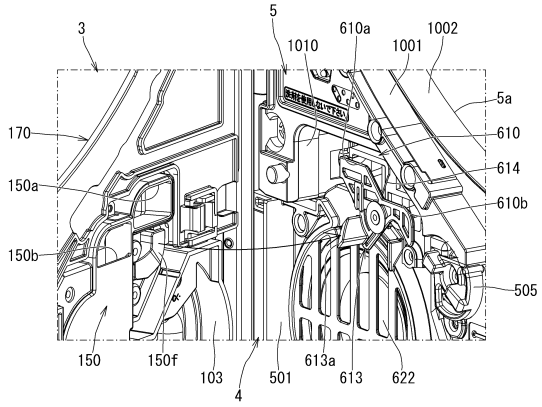
【図８９】



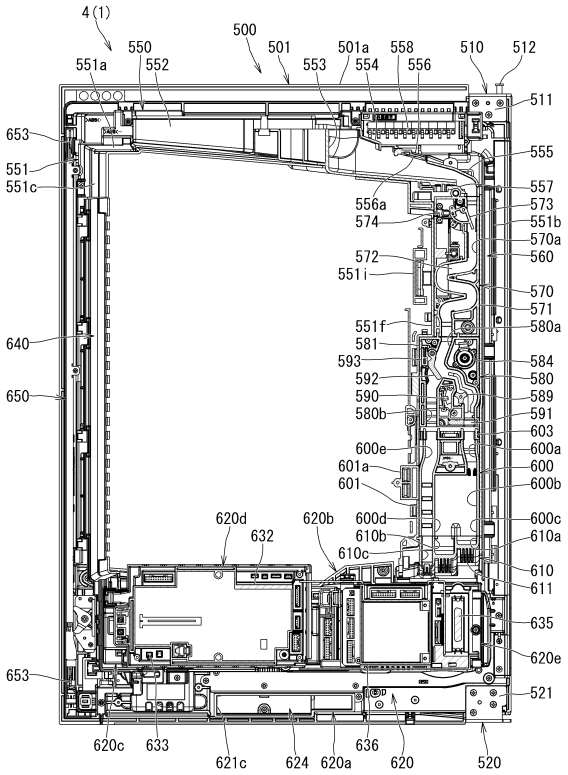
【図９０】



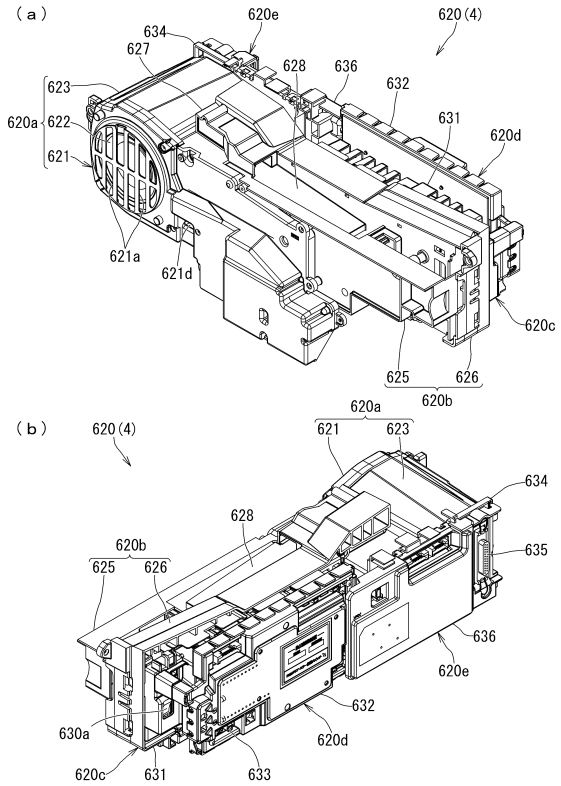
【図９１】



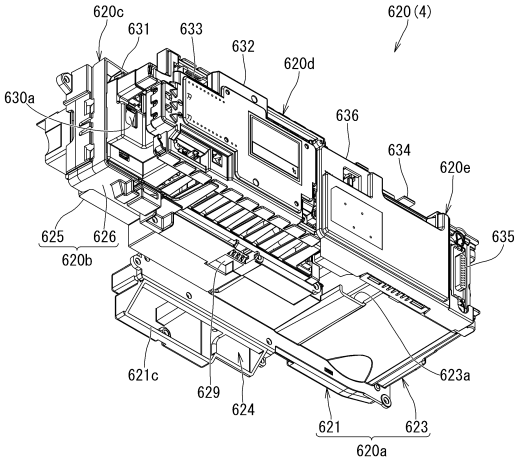
【図９２】



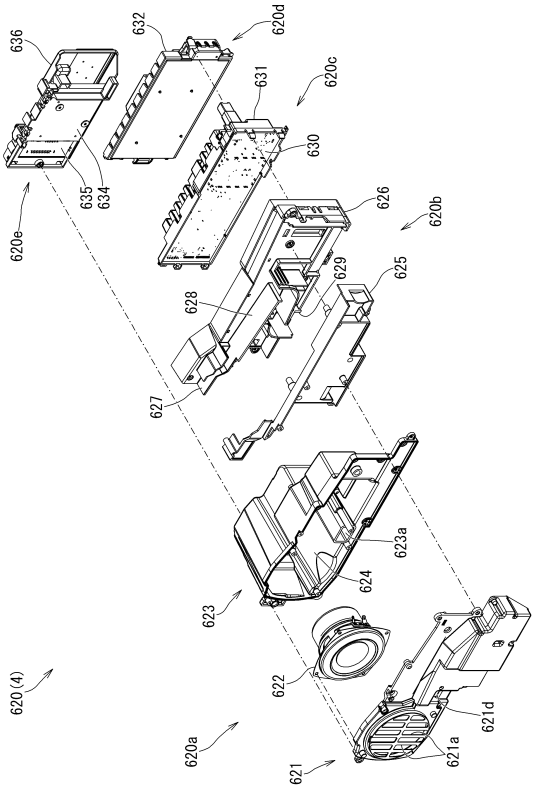
【図９３】



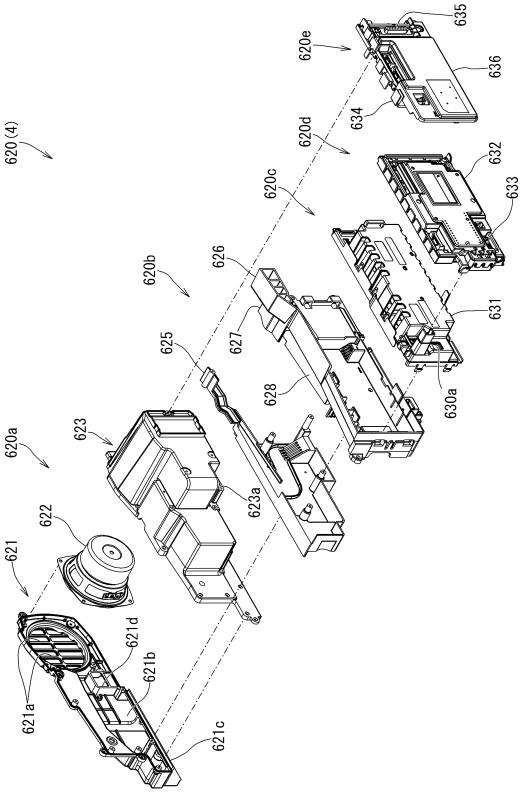
【図９４】



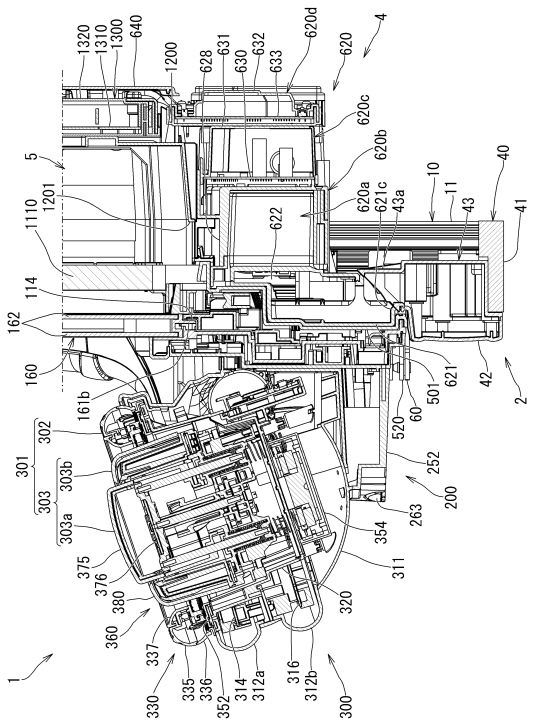
【図９５】



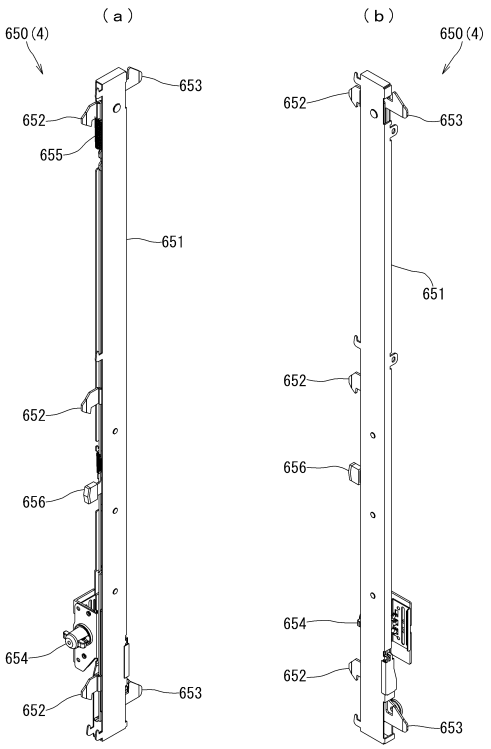
【図９６】



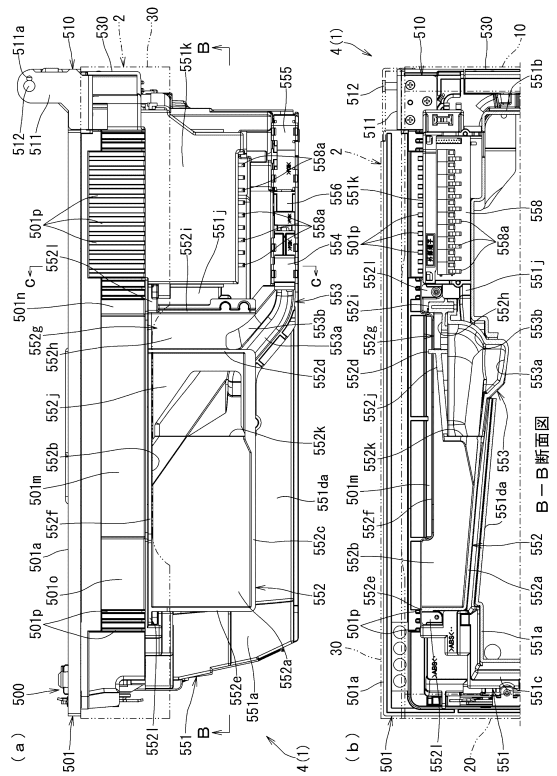
【図９７】



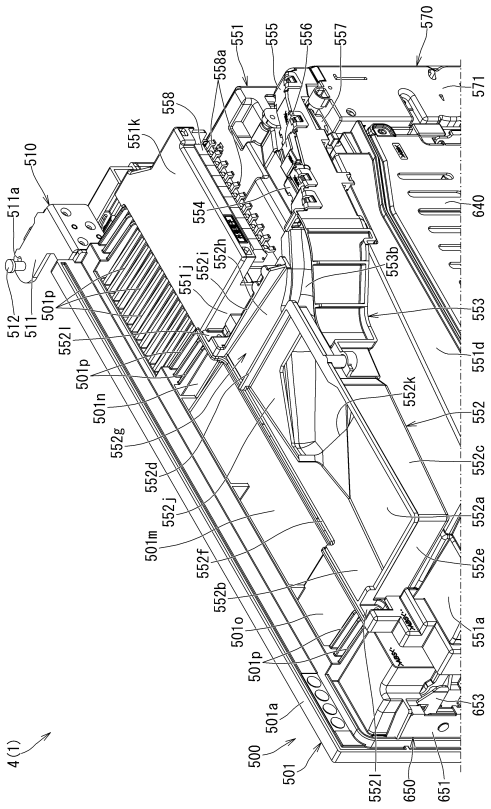
【図９８】



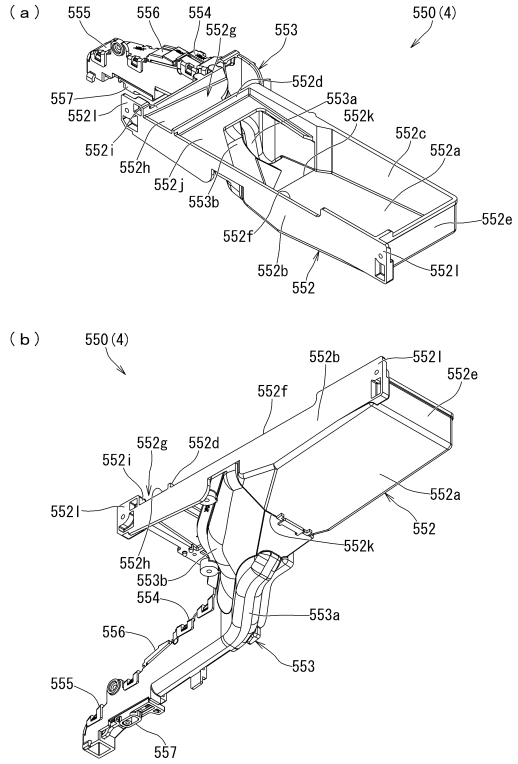
【図９９】



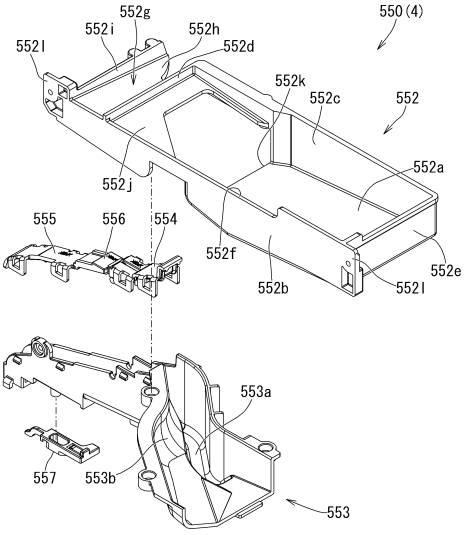
【図１００】



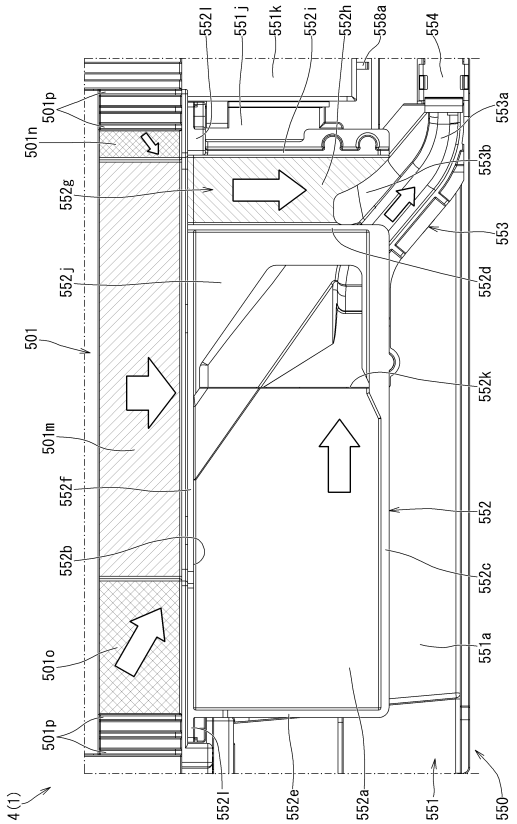
【図１０１】



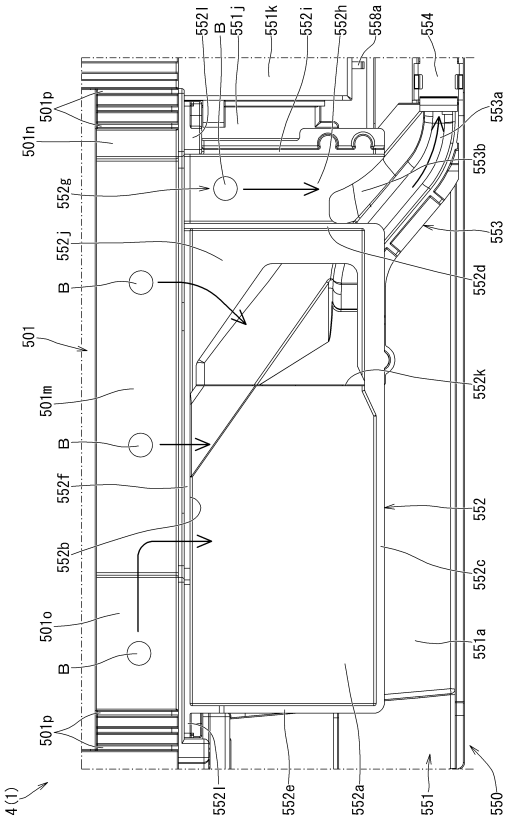
【図１０２】



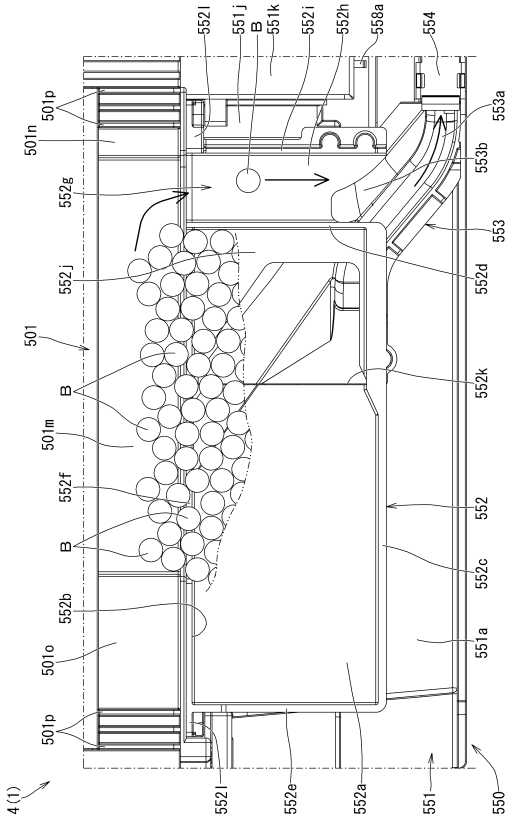
【図１０３】



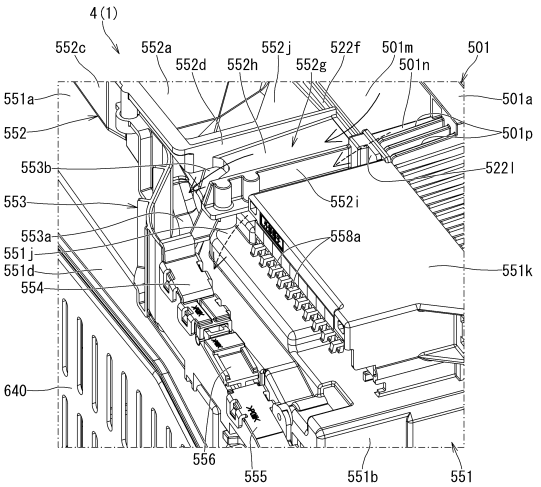
【図１０４】



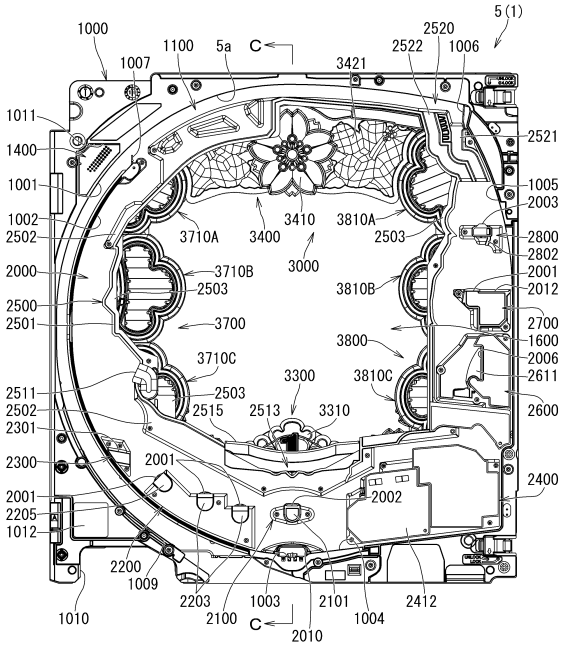
【図１０５】



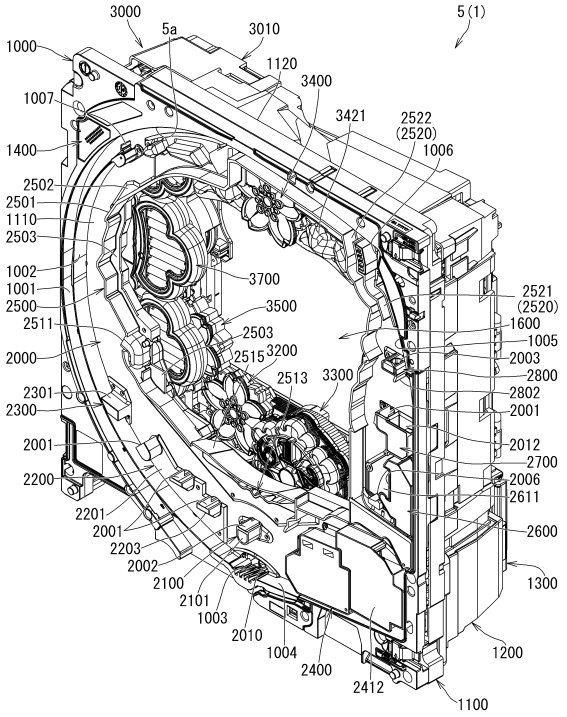
【図１０６】



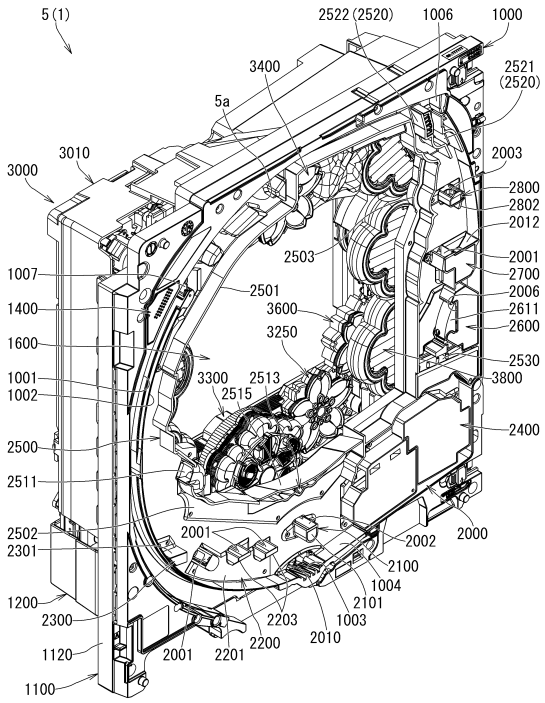
【図１０７】



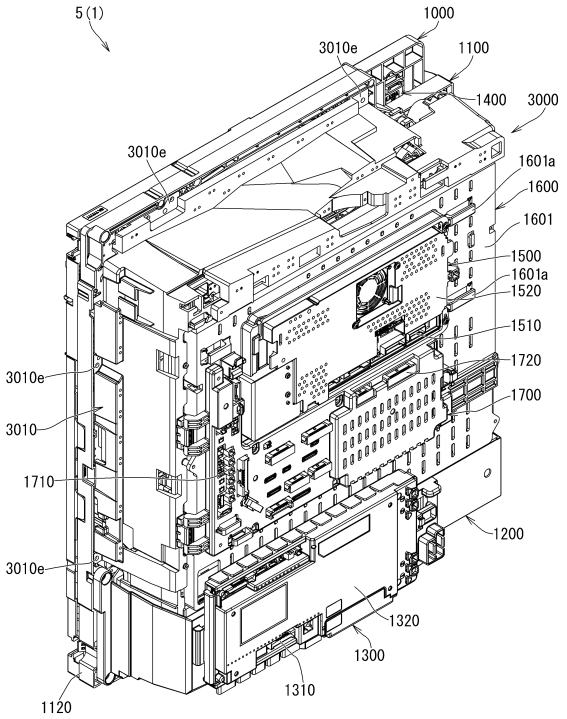
【図１０８】



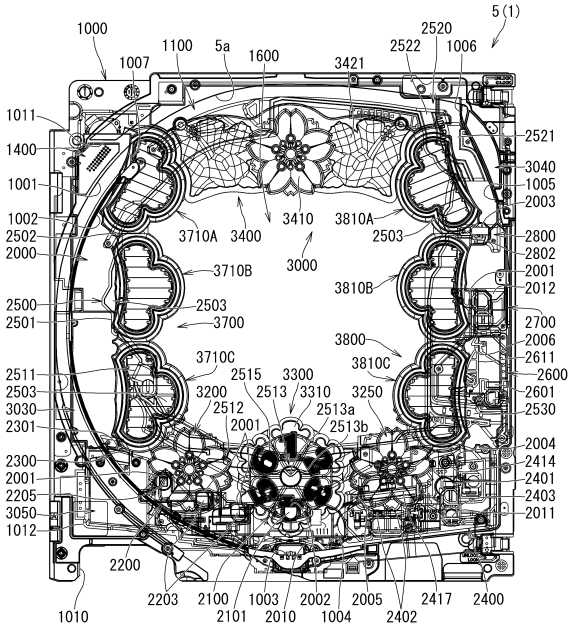
【図１０９】



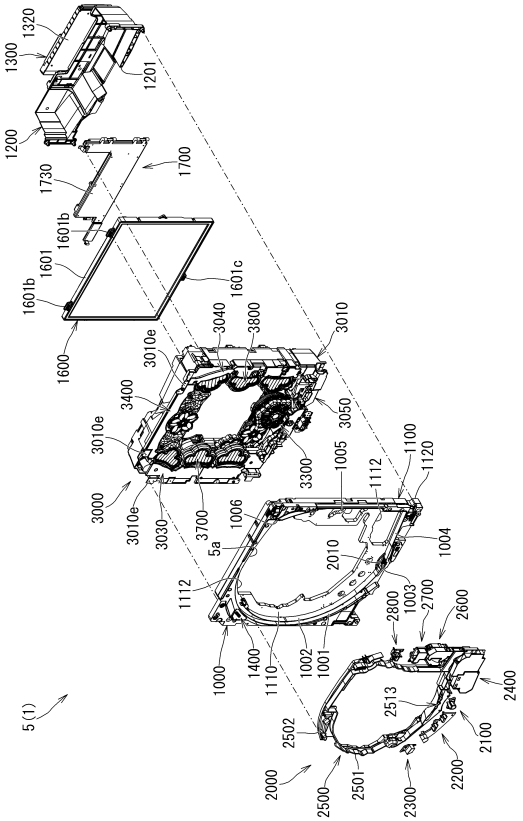
【図１１０】



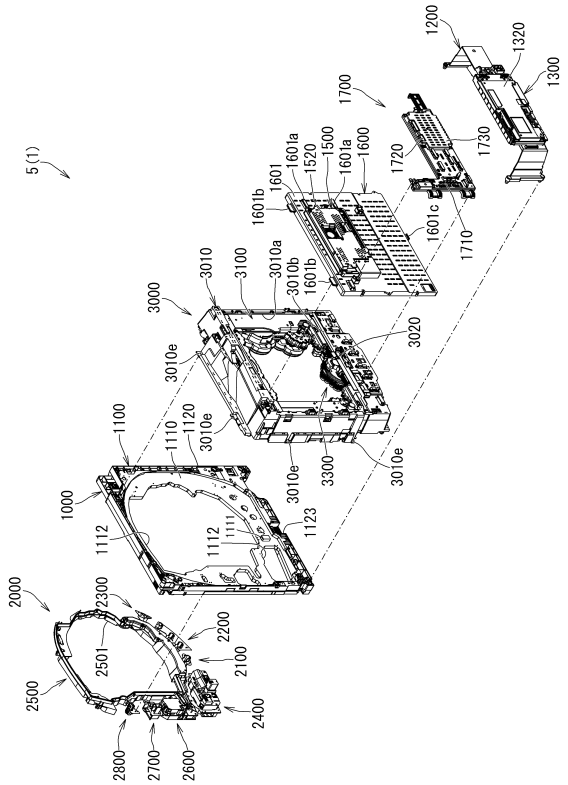
【図１１１】



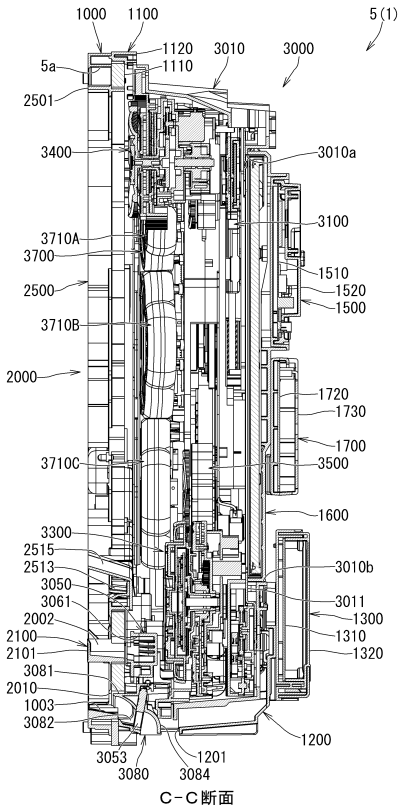
【図１１２】



【図１１３】

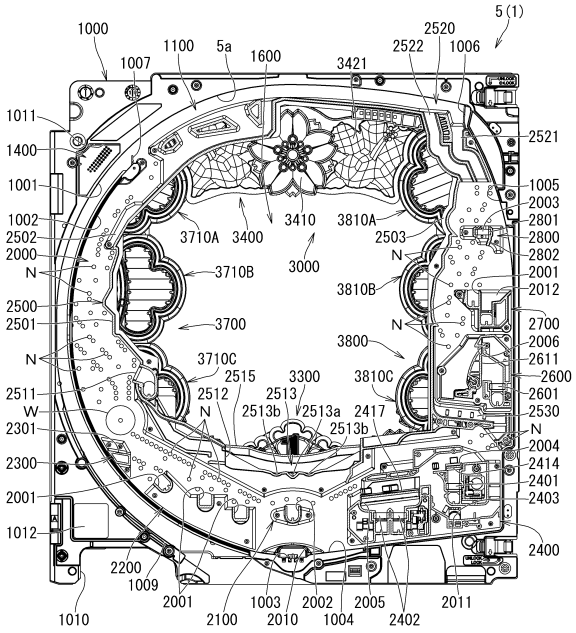


【図１１４】

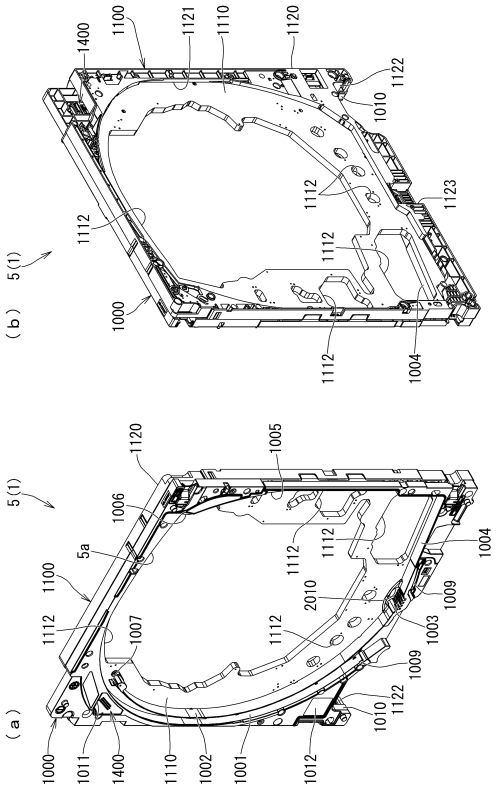


C－C断面

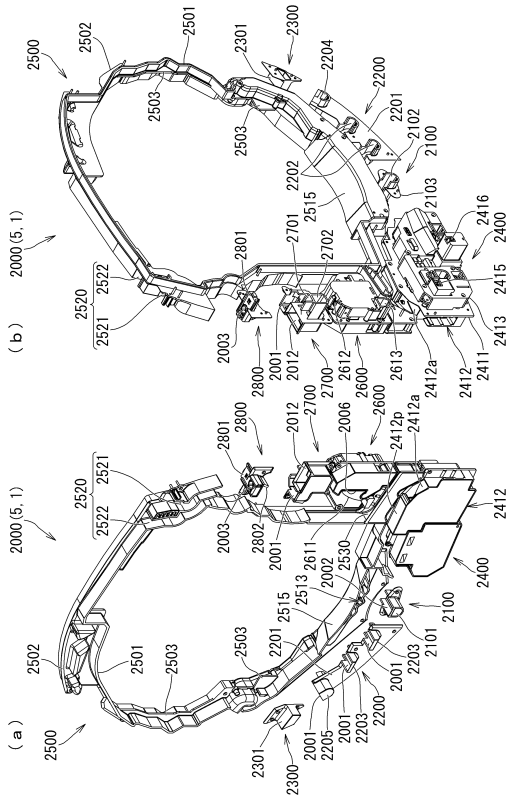
【図１１５】



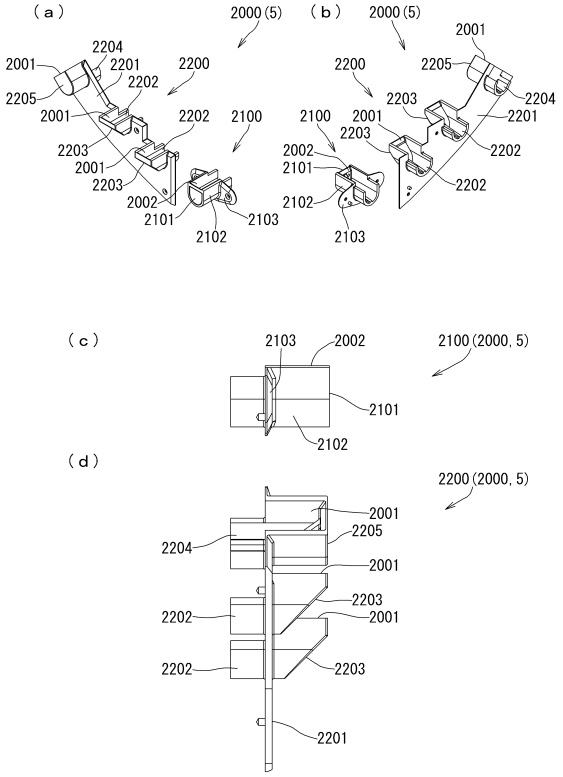
【図１１６】



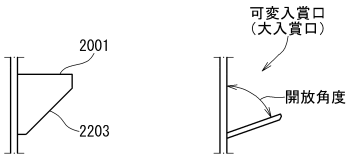
【図１１７】



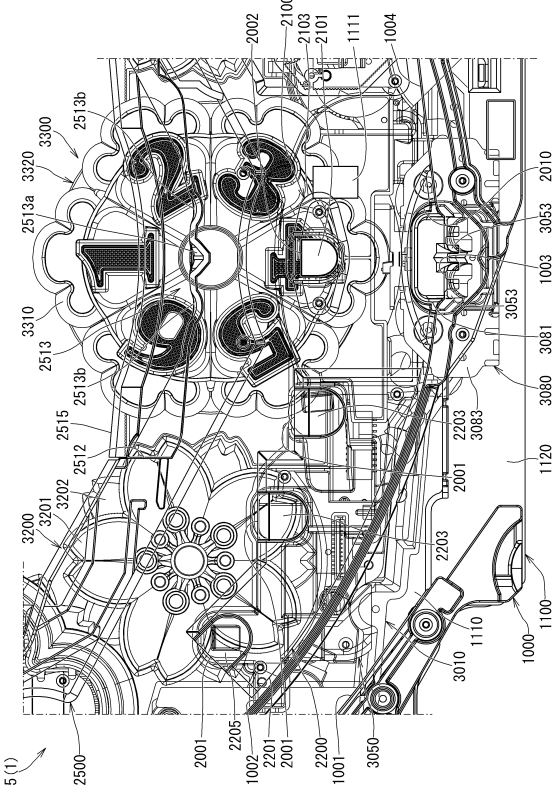
【図１１８】



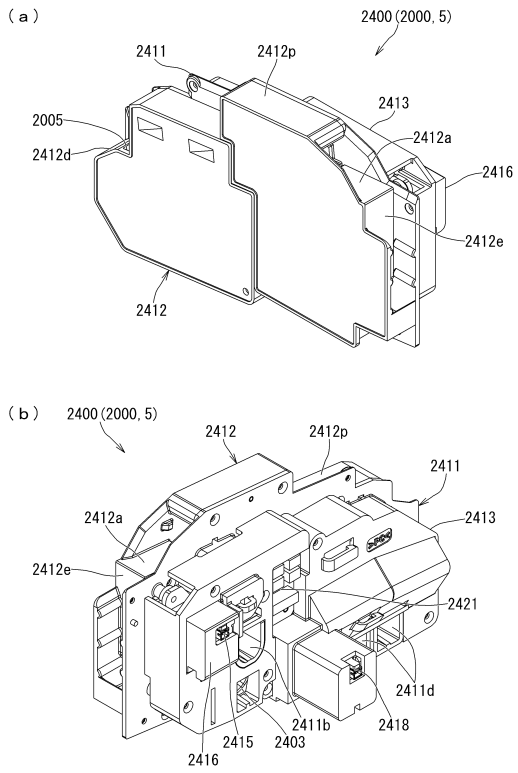
【図１１９】



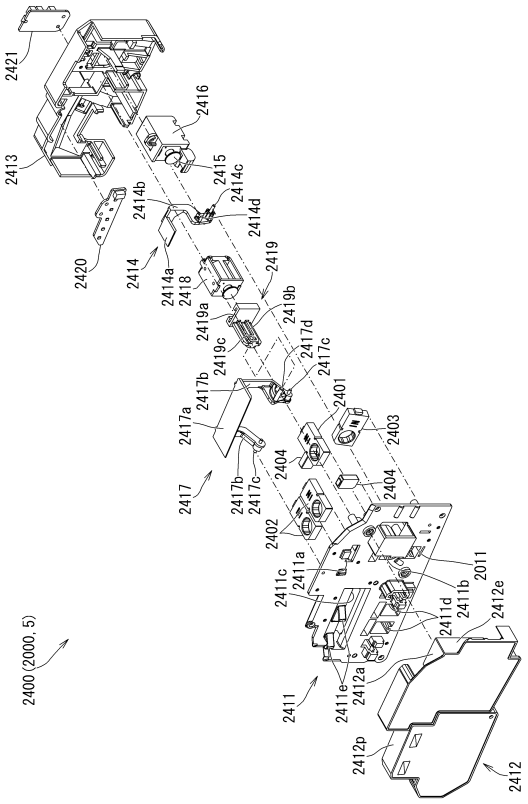
【図１２０】



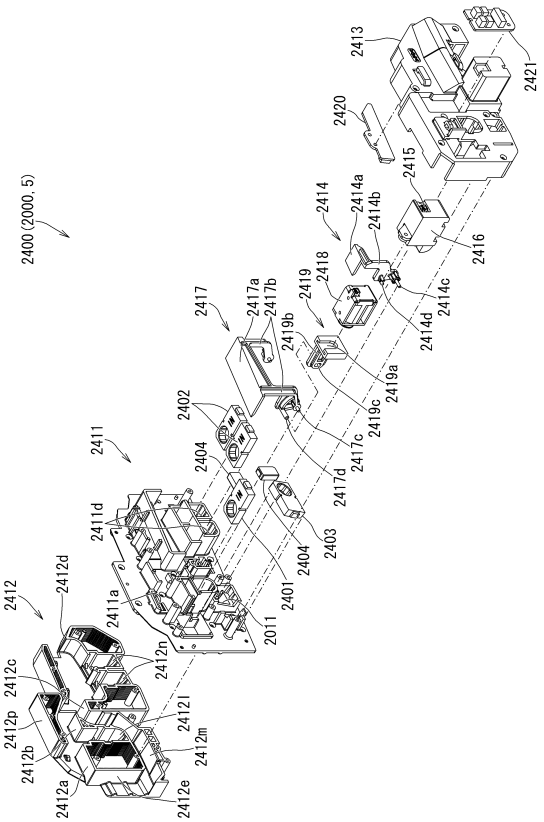
【図１２１】



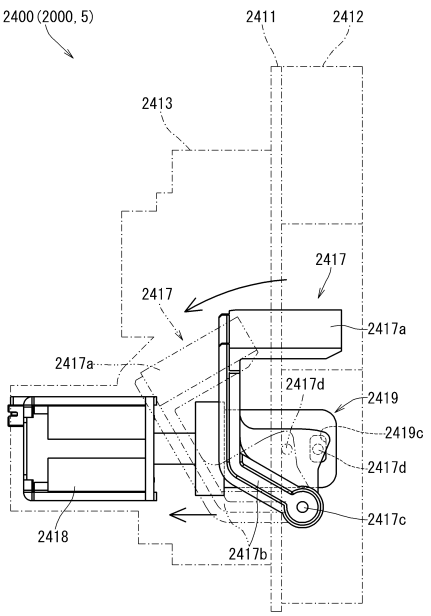
【図１２２】



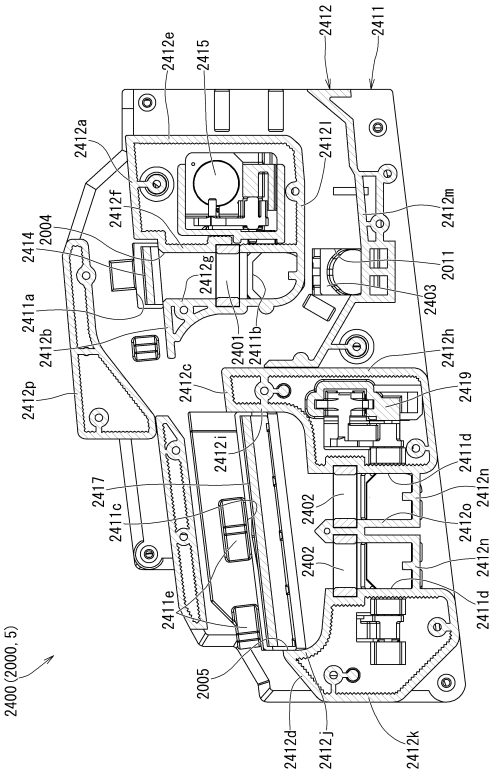
【図１２３】



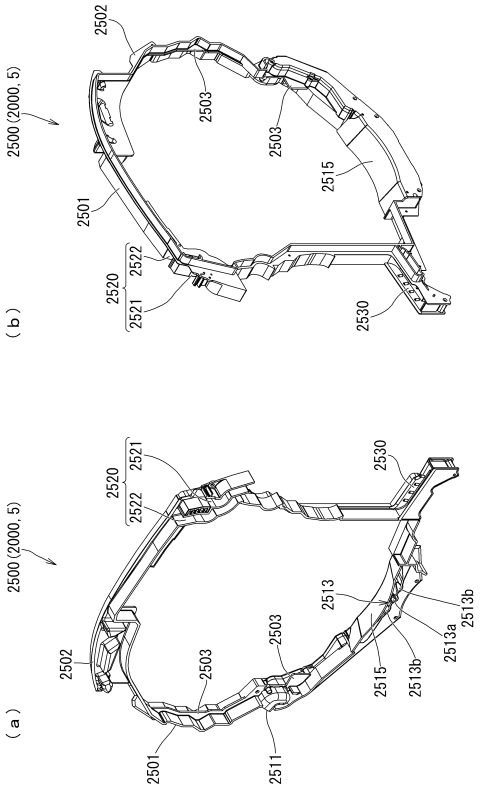
【図１２４】



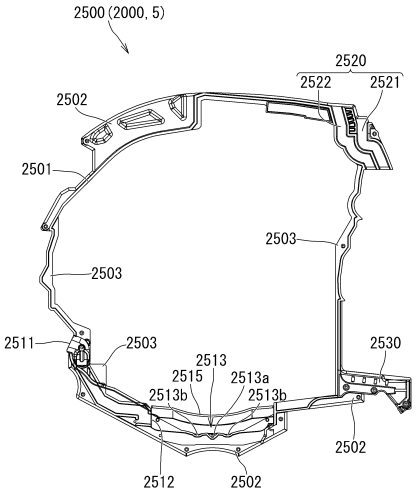
【図１２５】



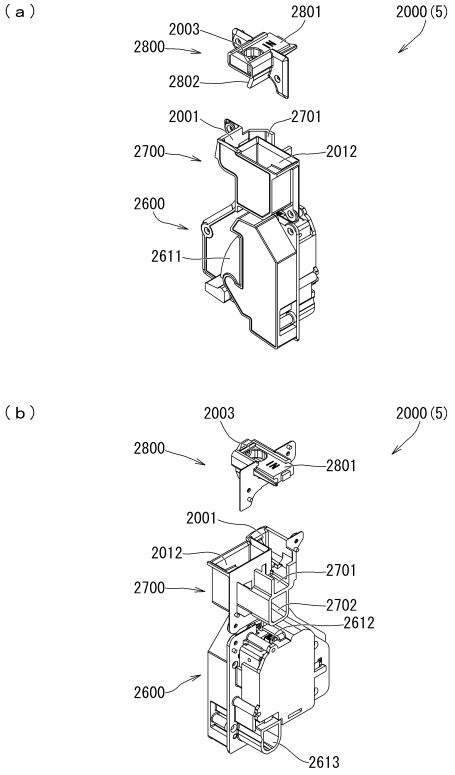
【図１２６】



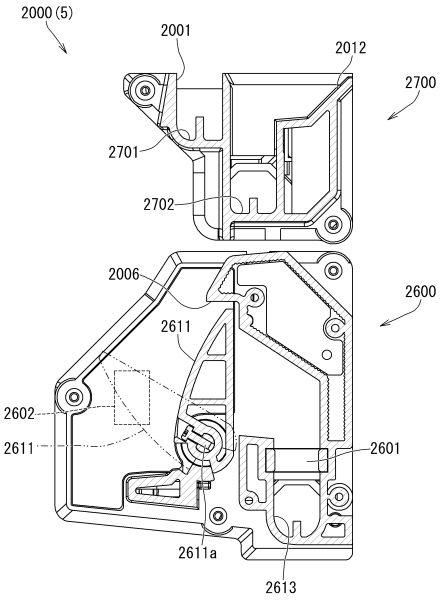
【図１２７】



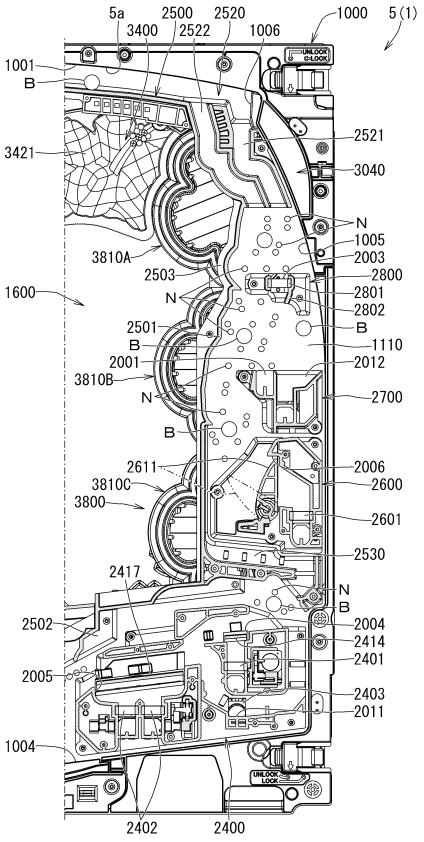
【図１２８】



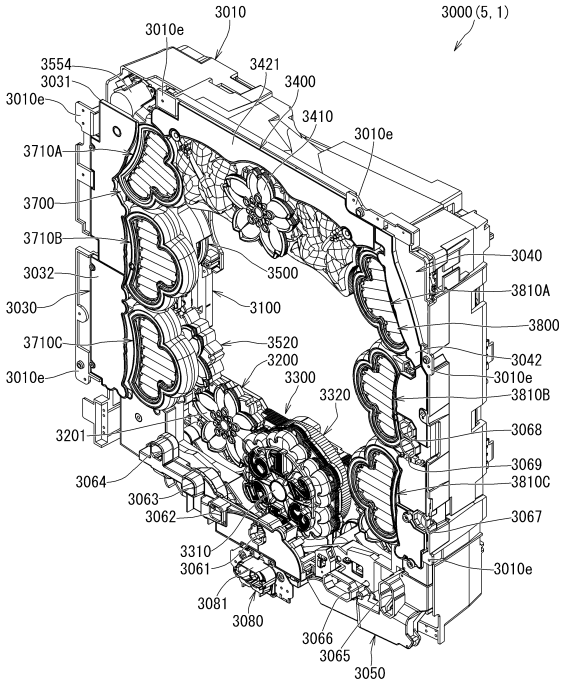
【図１２９】



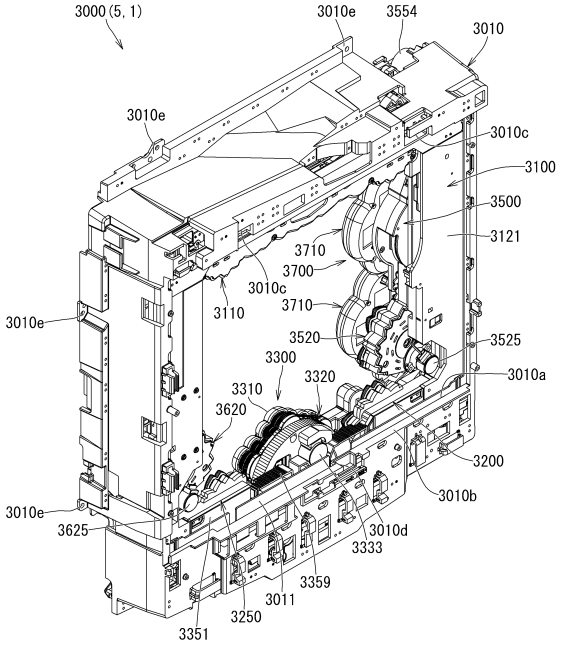
【図１３０】



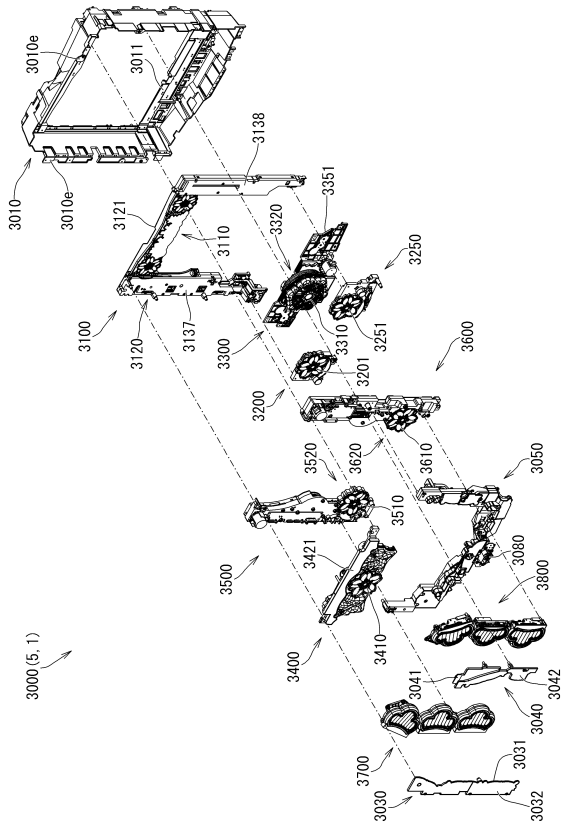
【図１３１】



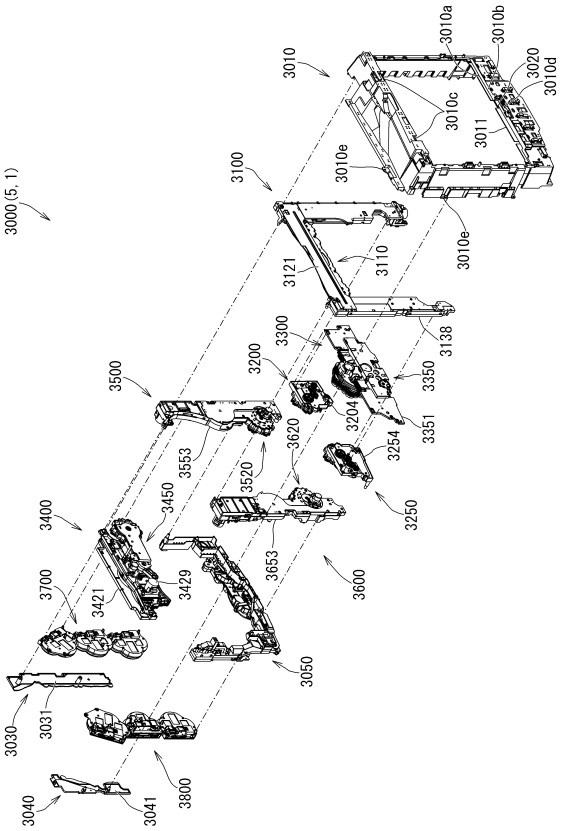
【図１３２】



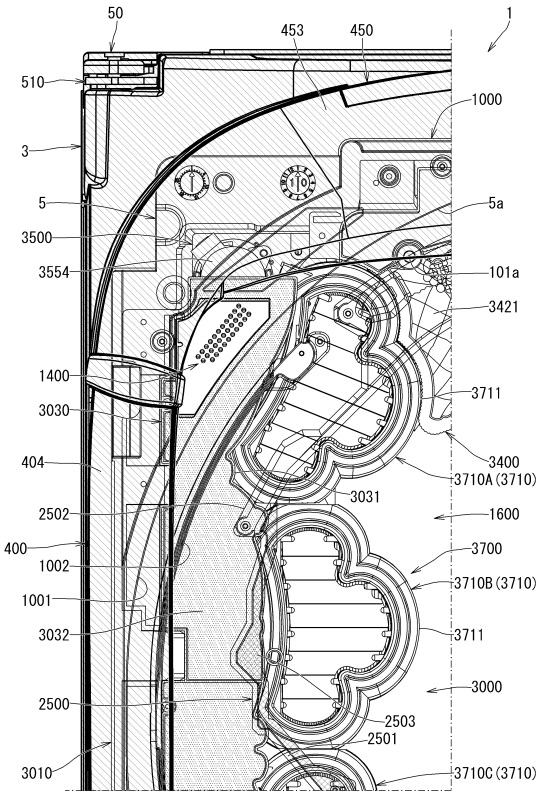
【図１３３】



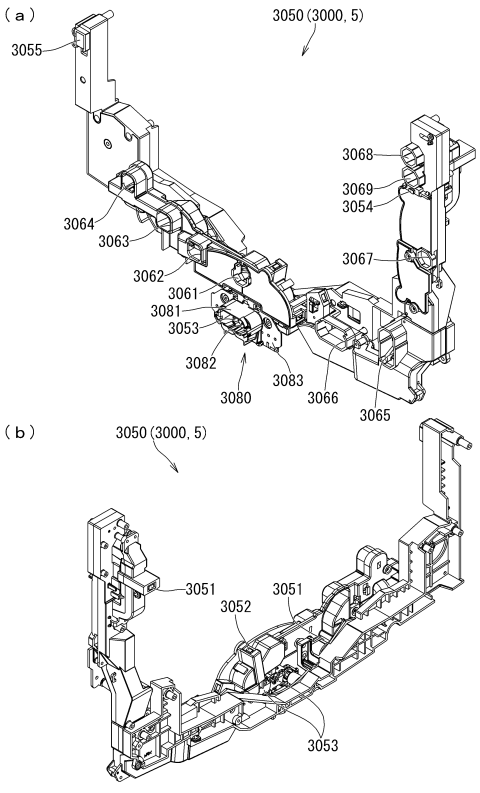
【図１３４】



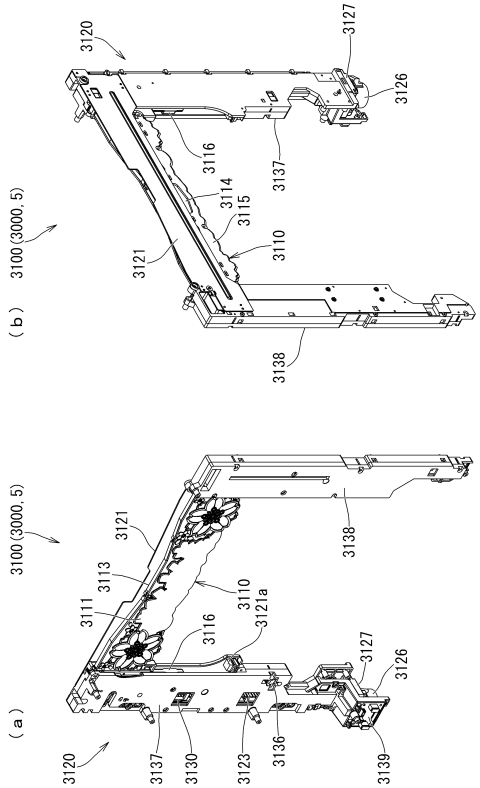
【図１３５】



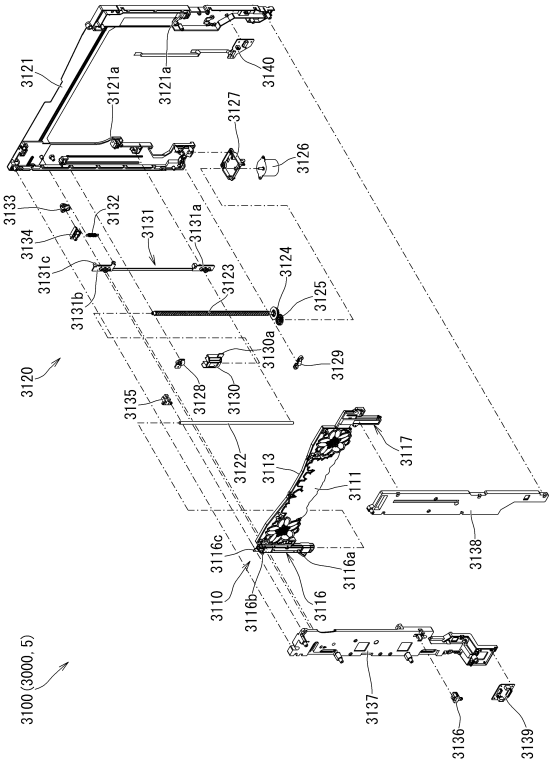
【図１３６】



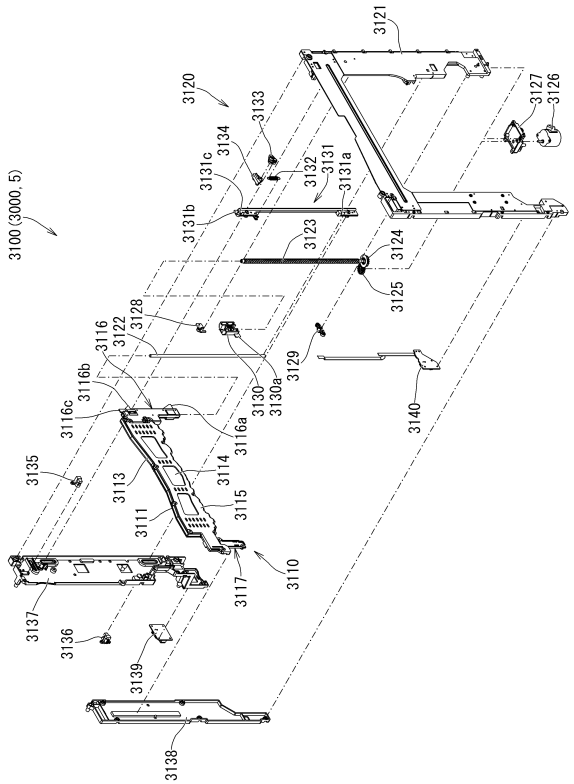
【図１３７】



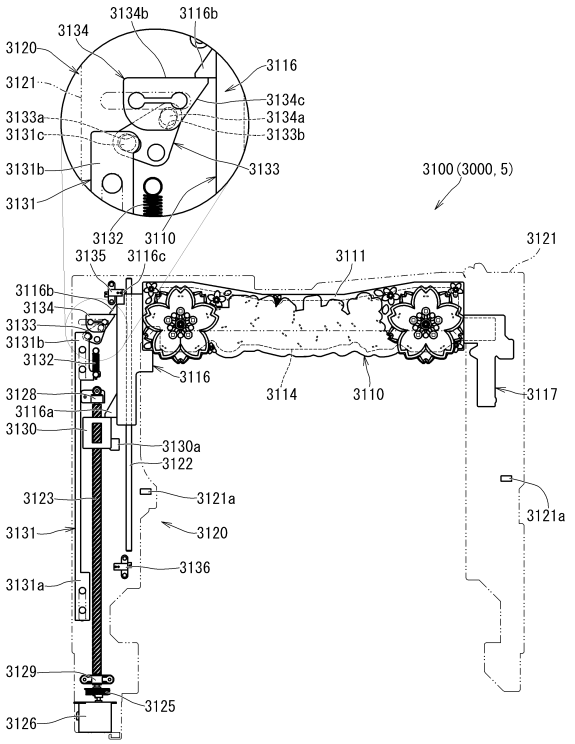
【図１３８】



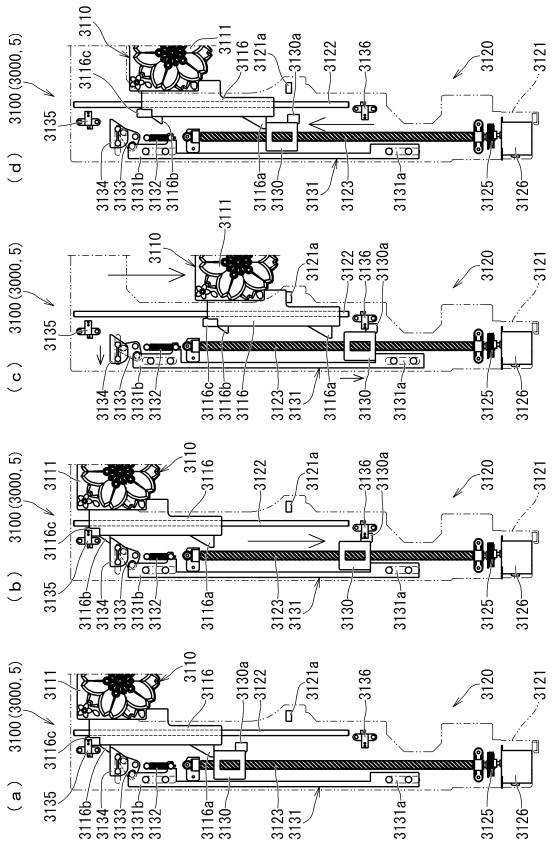
【図１３９】



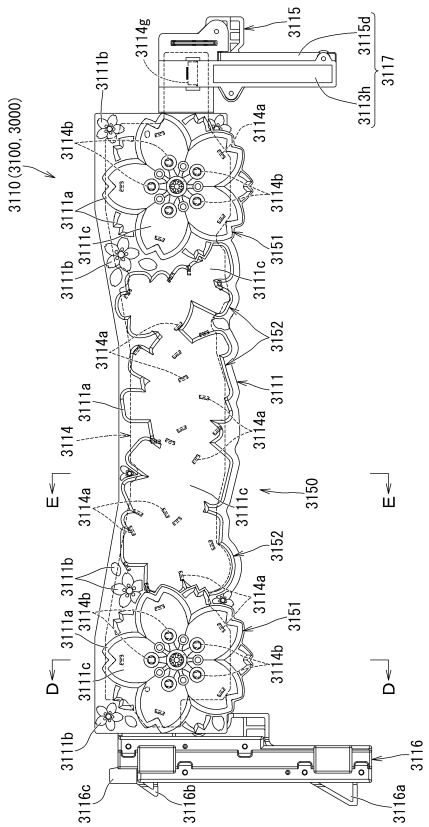
【図１４０】



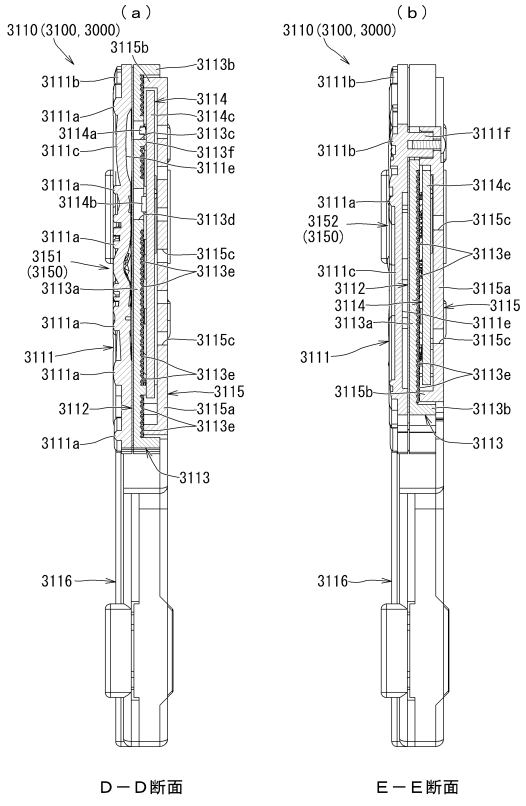
【図１４１】



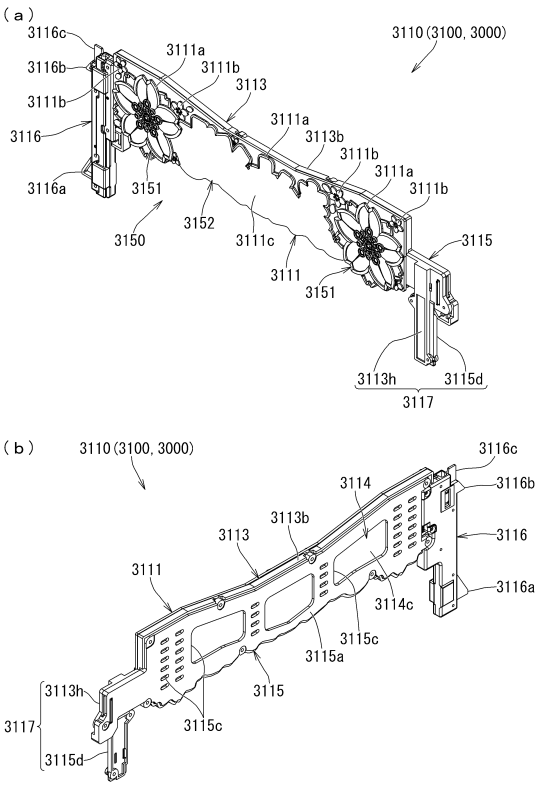
【図１４２】



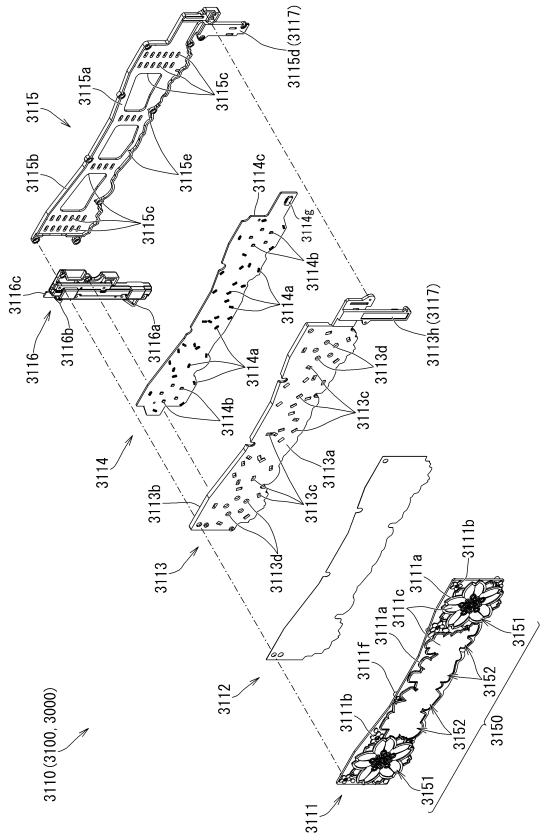
【図１４３】



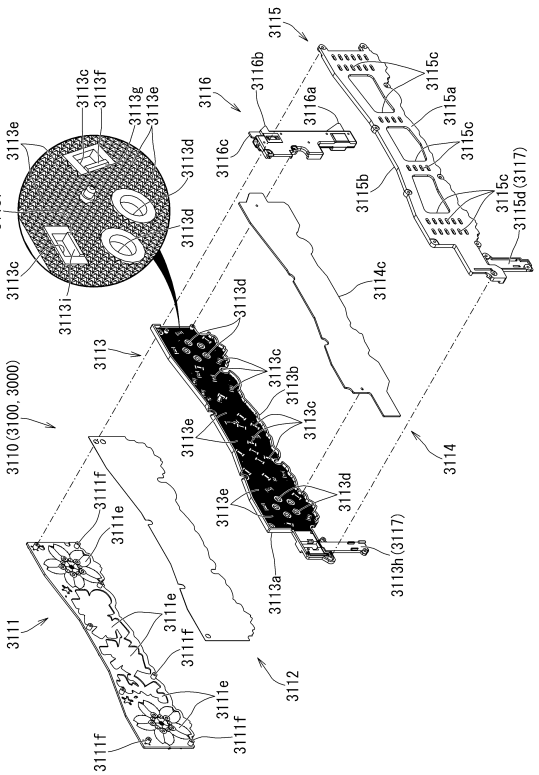
【図１４４】



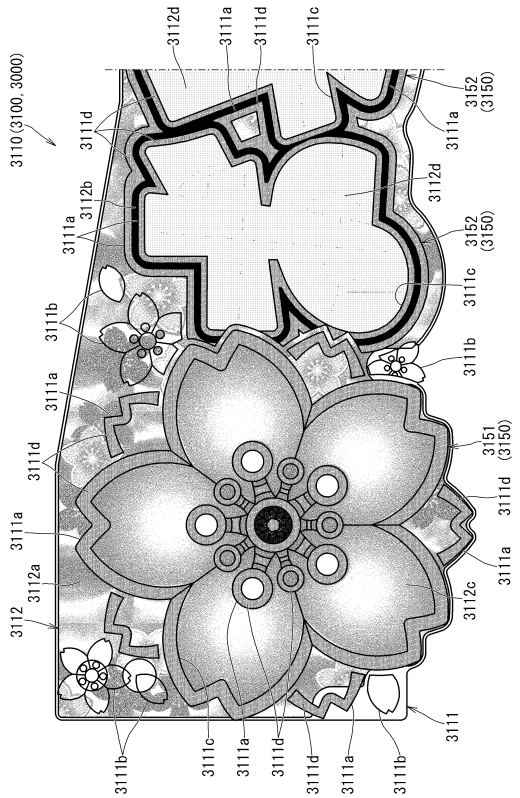
【図１４５】



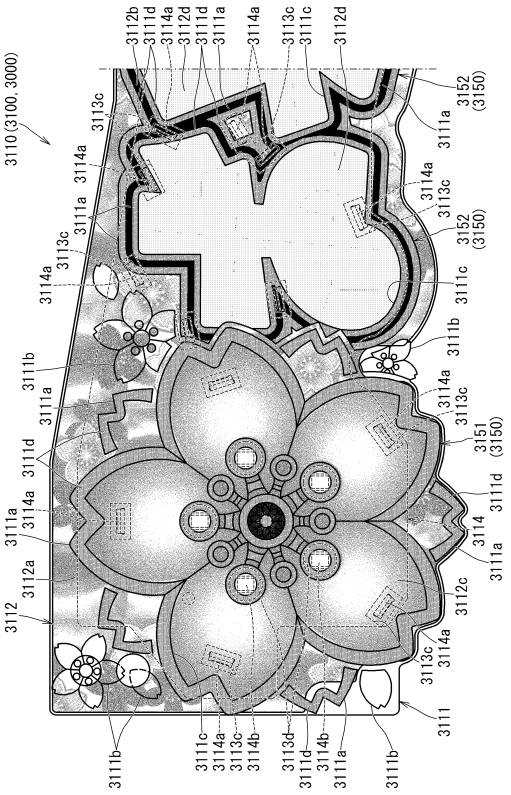
【図１４６】



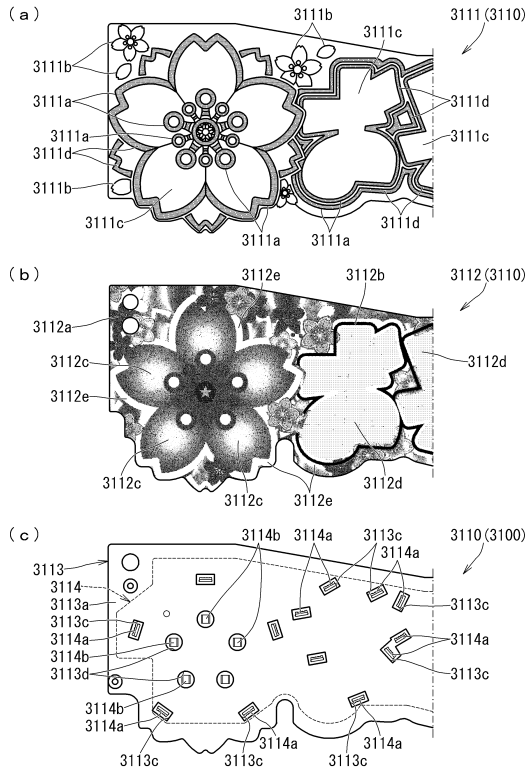
【図１４７】



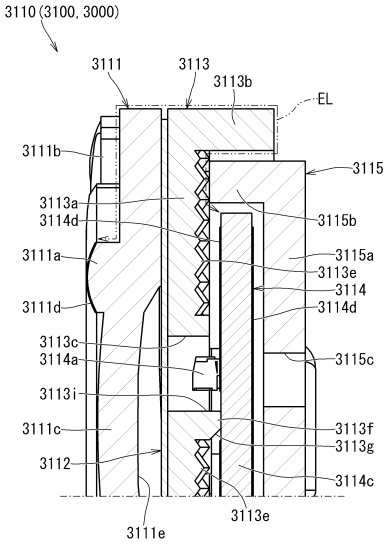
【図１４８】



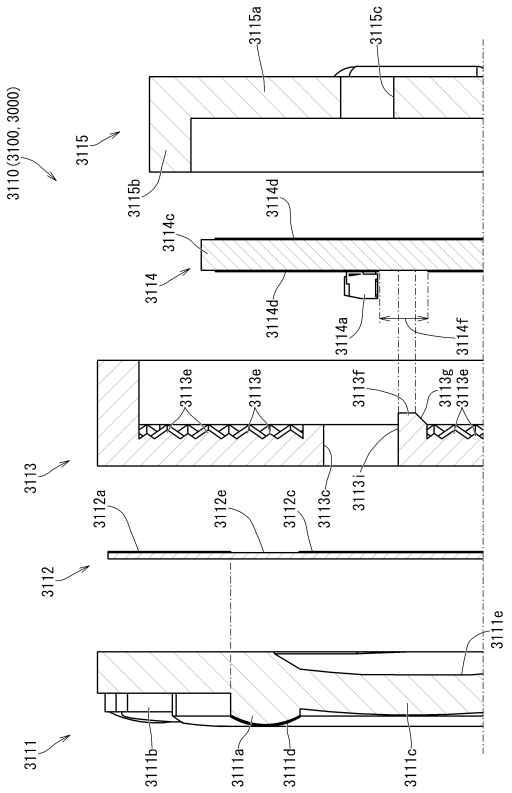
【図１４９】



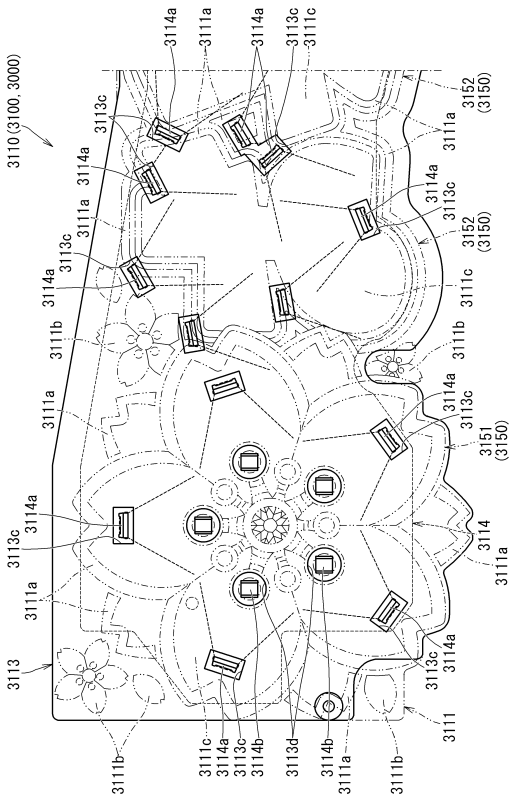
【図１５０】



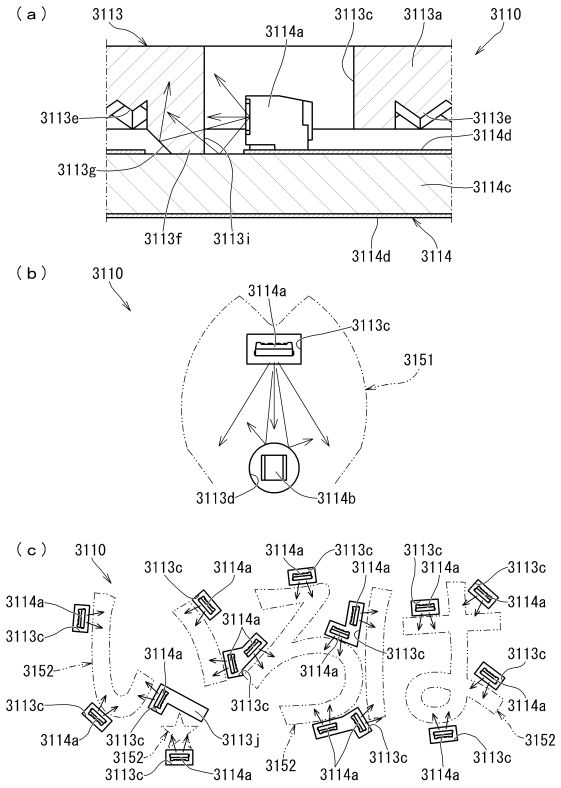
【図１５１】



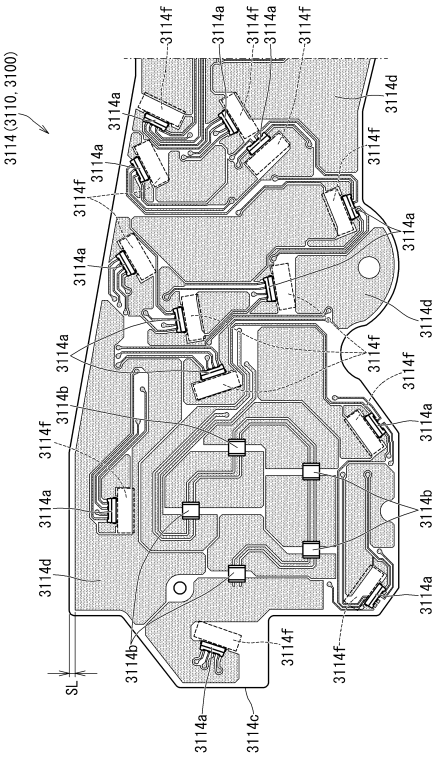
【図１５２】



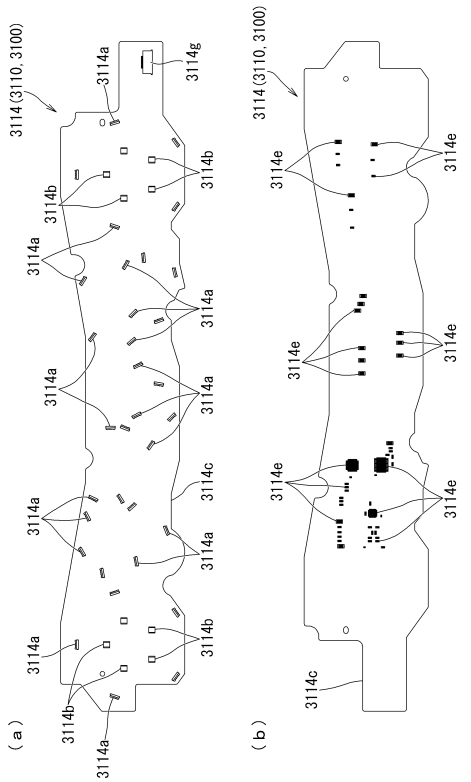
【図１５３】



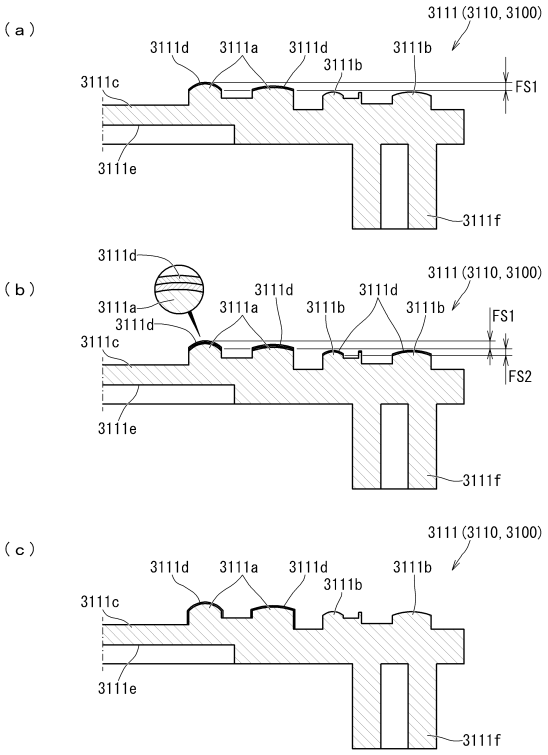
【図１５４】



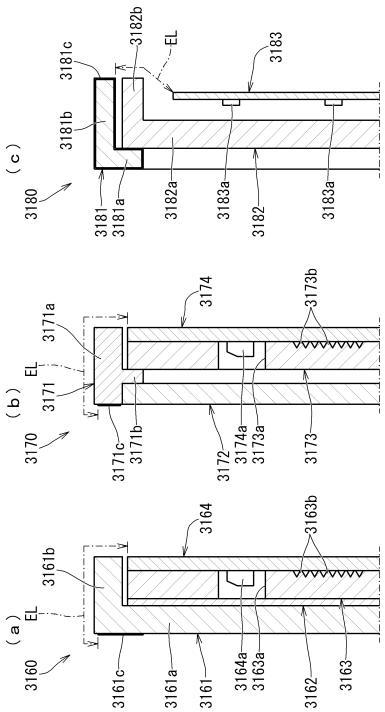
【図１５５】



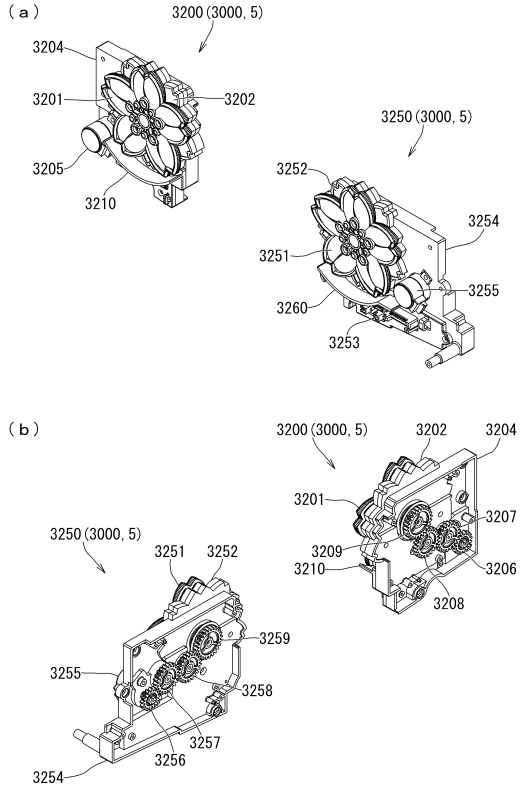
【図１５６】



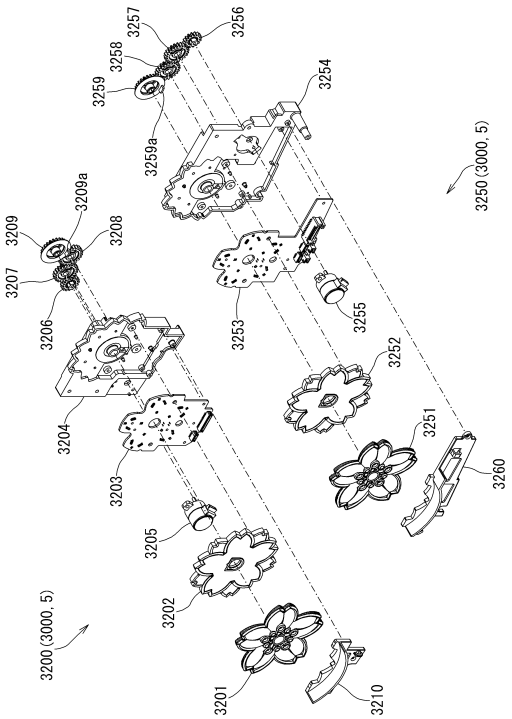
【図１５７】



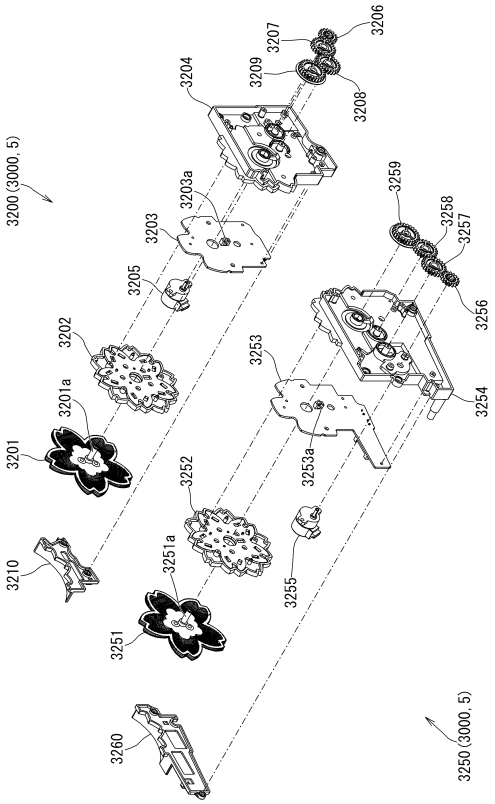
【図１５８】



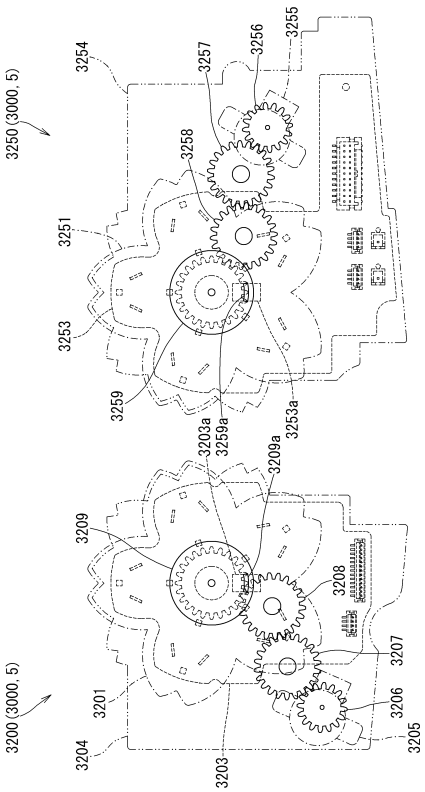
【図１５９】



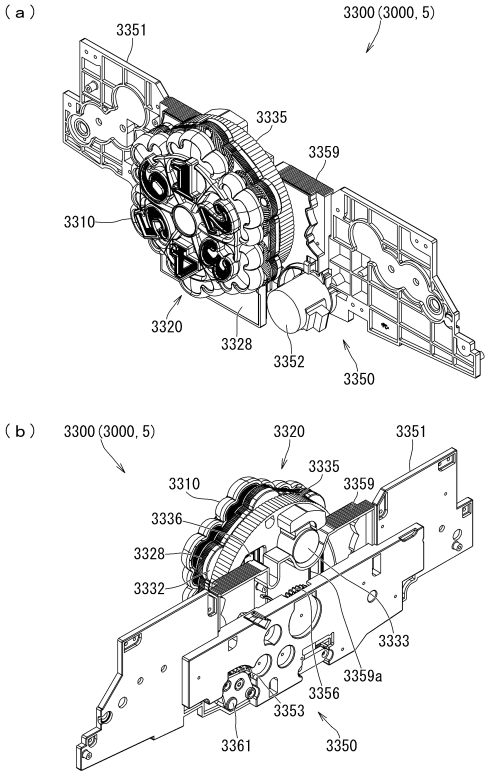
【図１６０】



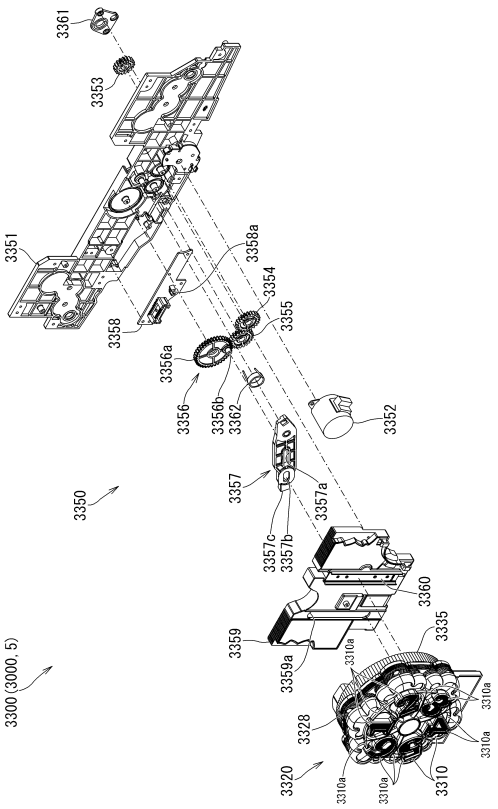
【図１６１】



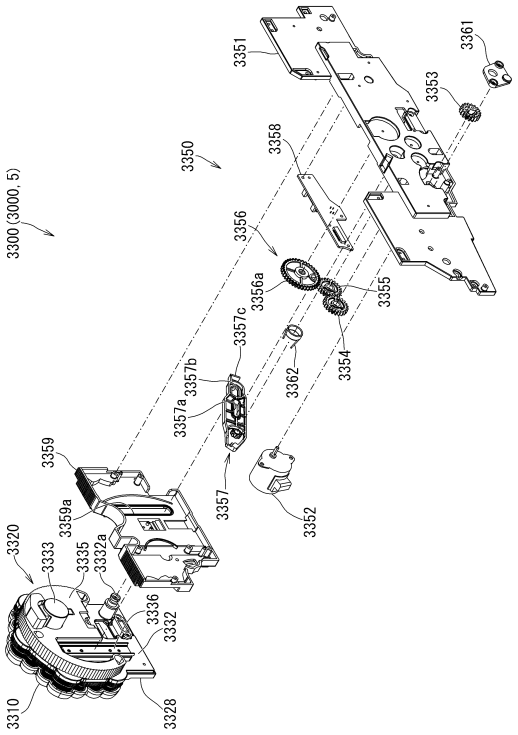
【図１６２】



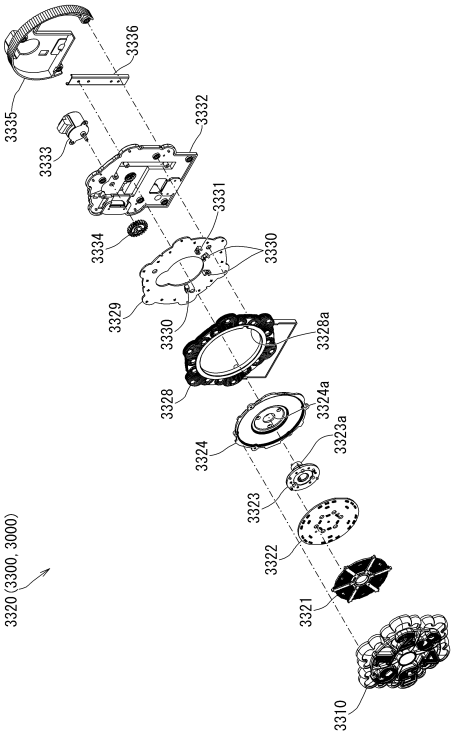
【図１６３】



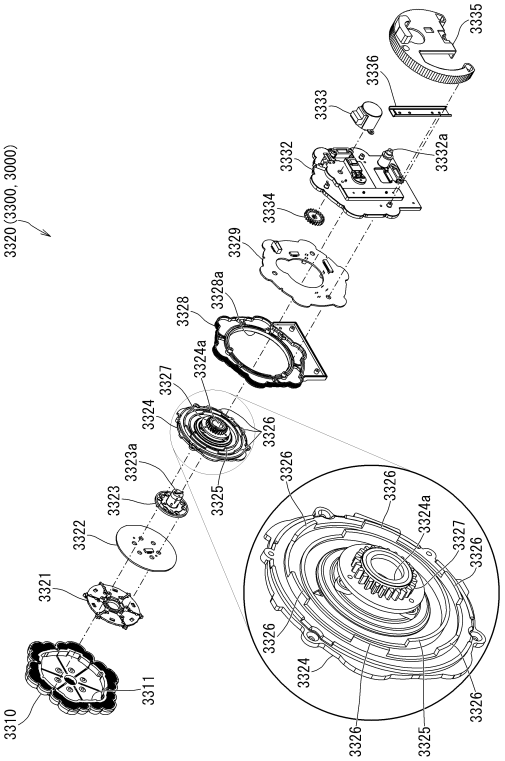
【図１６４】



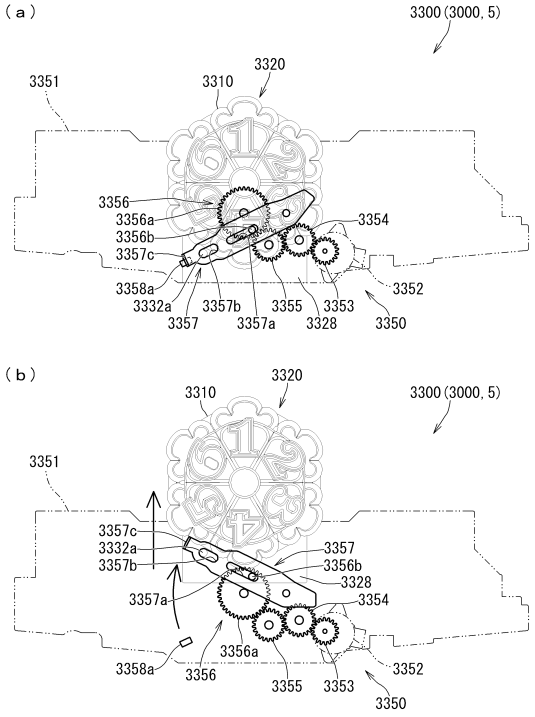
【図１６５】



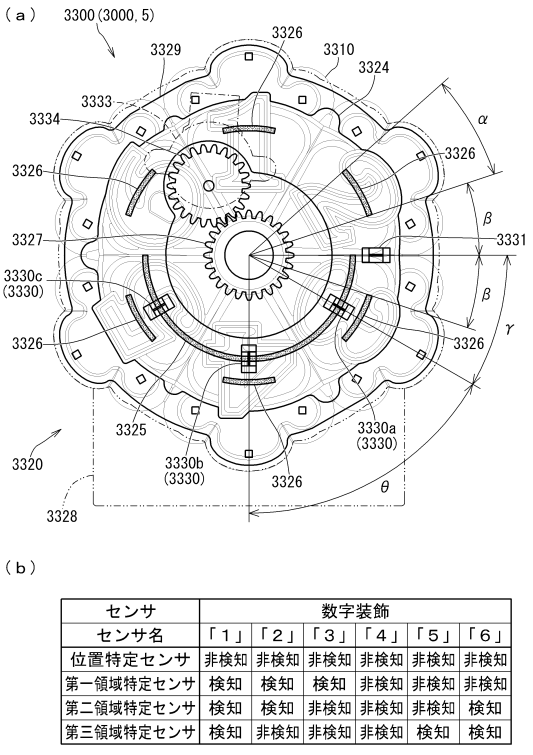
【図１６６】



【図１６７】

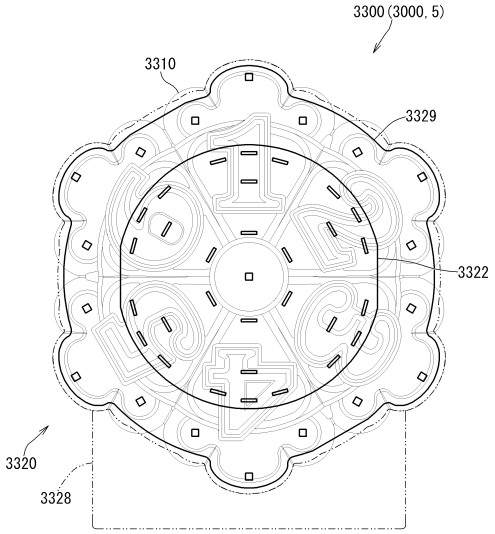


【図１６８】

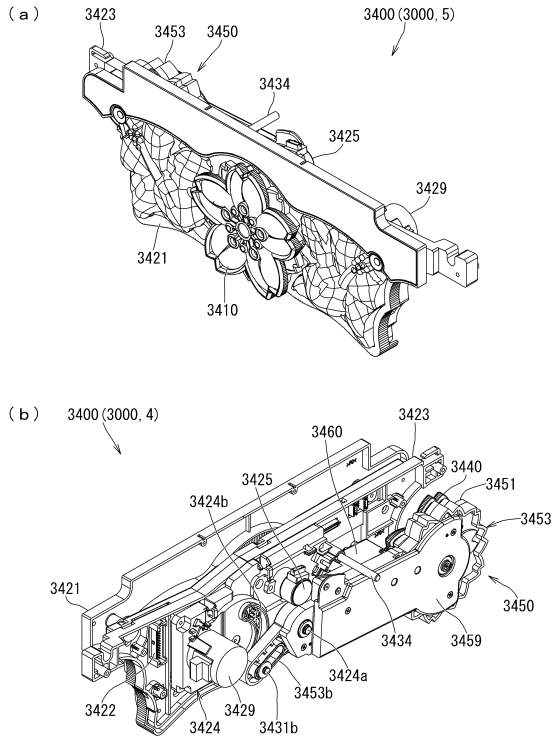


センサ	数字装飾					
センサ名	「１」	「２」	「３」	「４」	「５」	「６」
位置特定センサ	非検知	非検知	非検知	非検知	非検知	非検知
第一領域特定センサ	検知	検知	検知	非検知	非検知	非検知
第二領域特定センサ	検知	検知	非検知	非検知	非検知	検知
第三領域特定センサ	検知	非検知	非検知	非検知	検知	検知

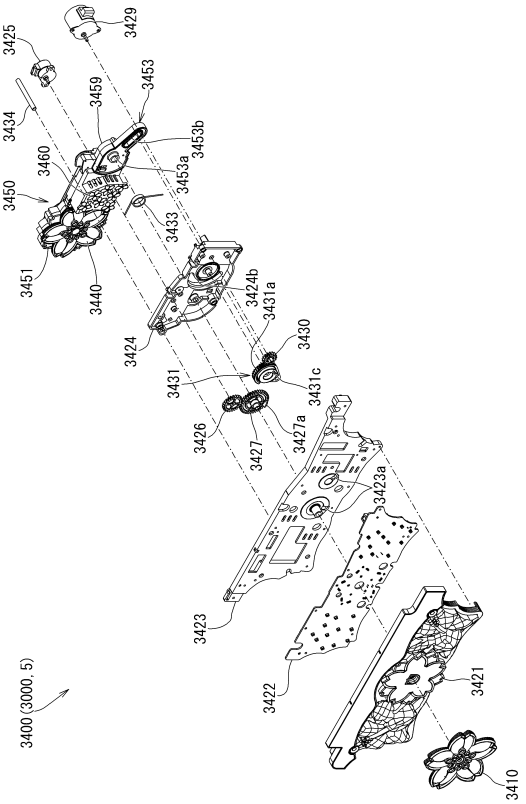
【図１６９】



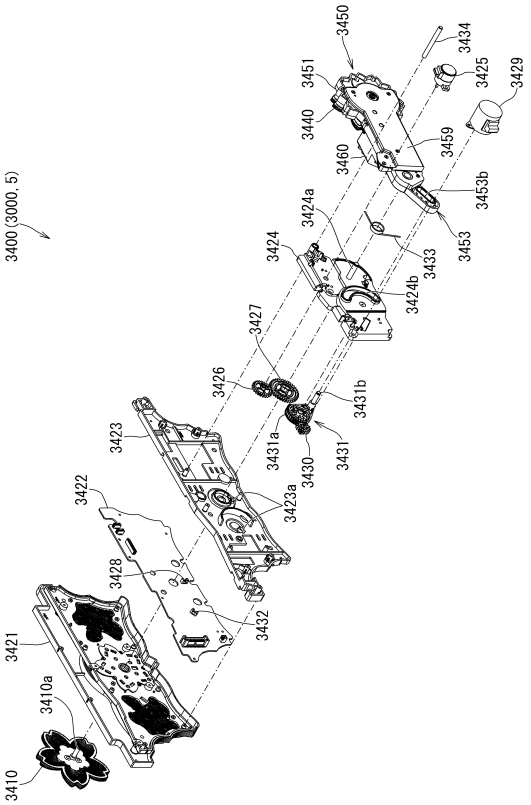
【図１７０】



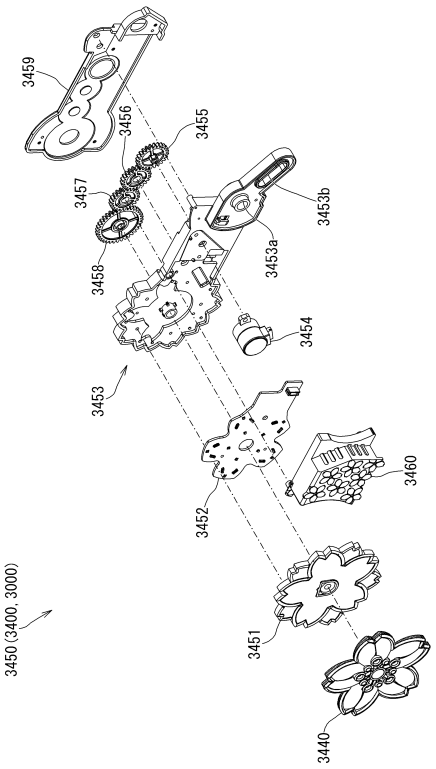
【図１７１】



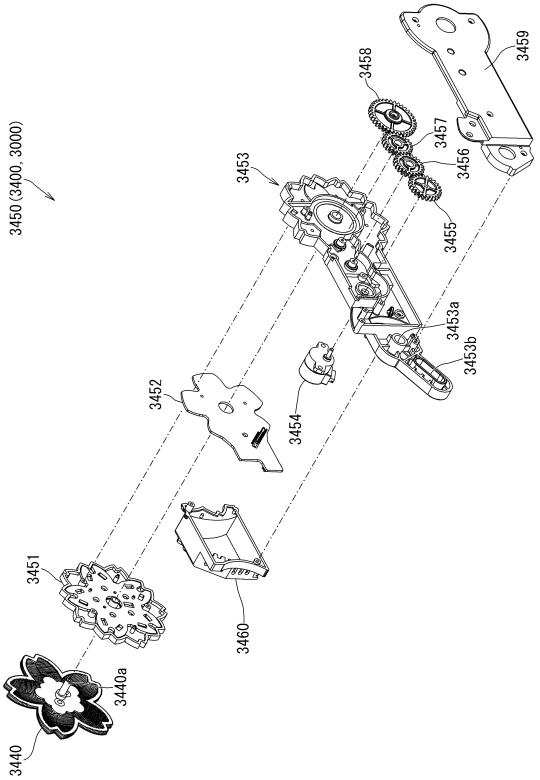
【図１７２】



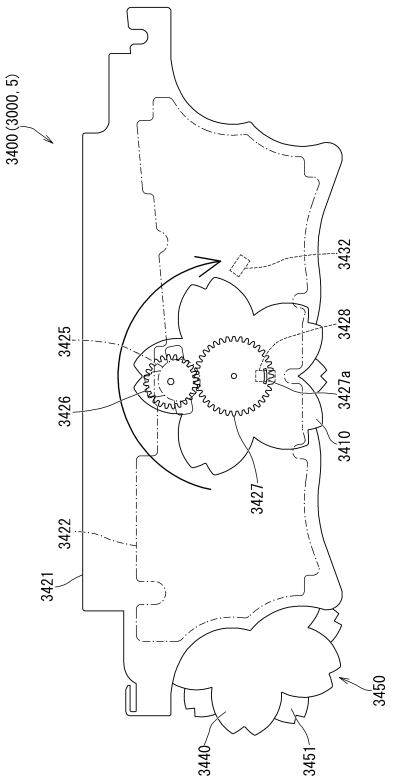
【図１７３】



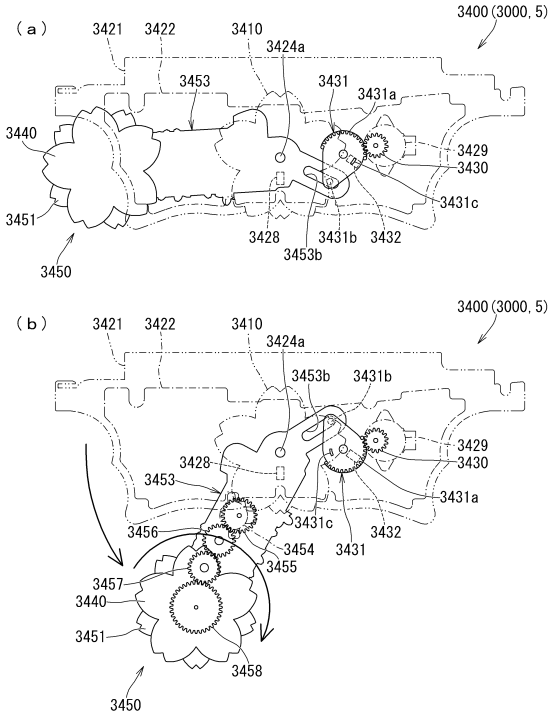
【図１７４】



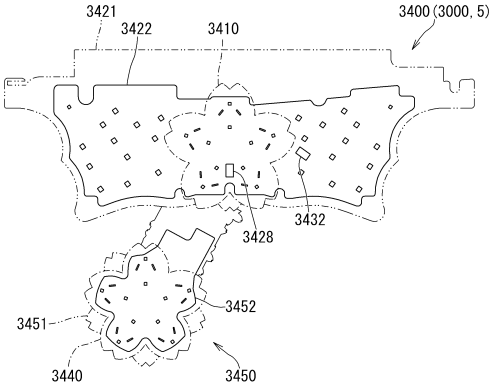
【図１７５】



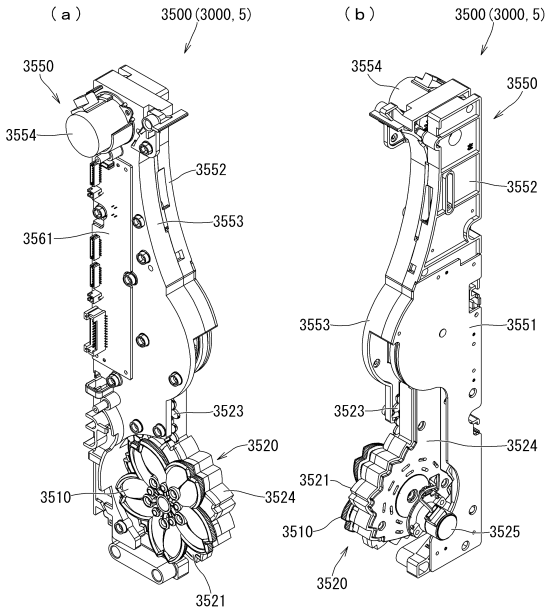
【図１７６】



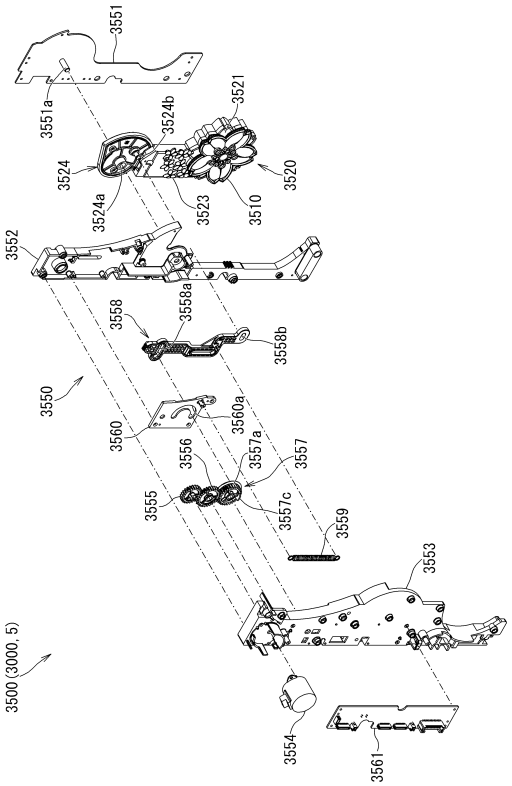
【図１７７】



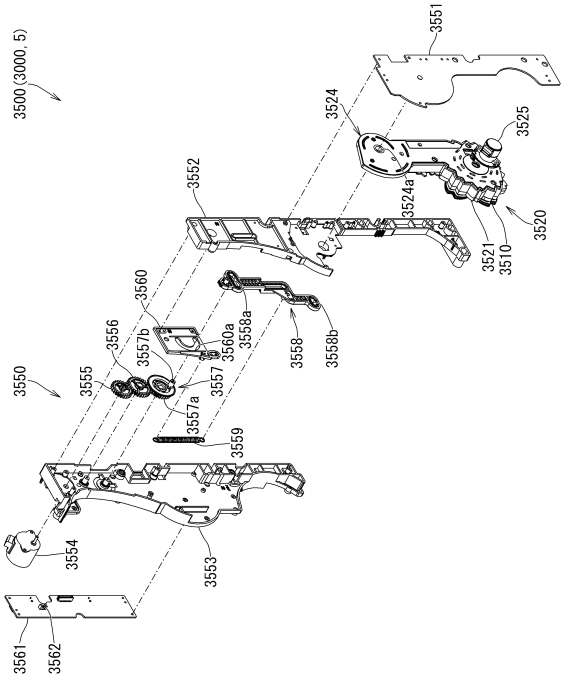
【図１７８】



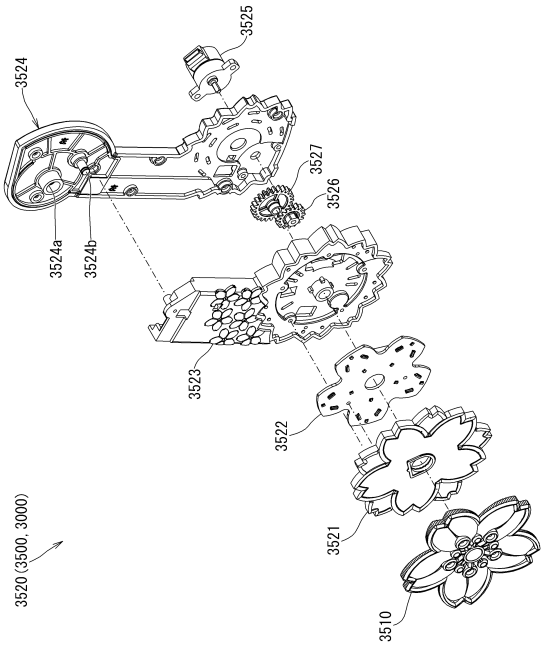
【図１７９】



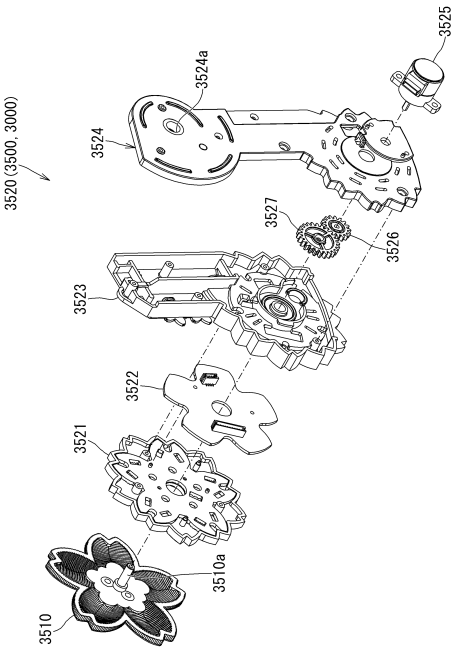
【図１８０】



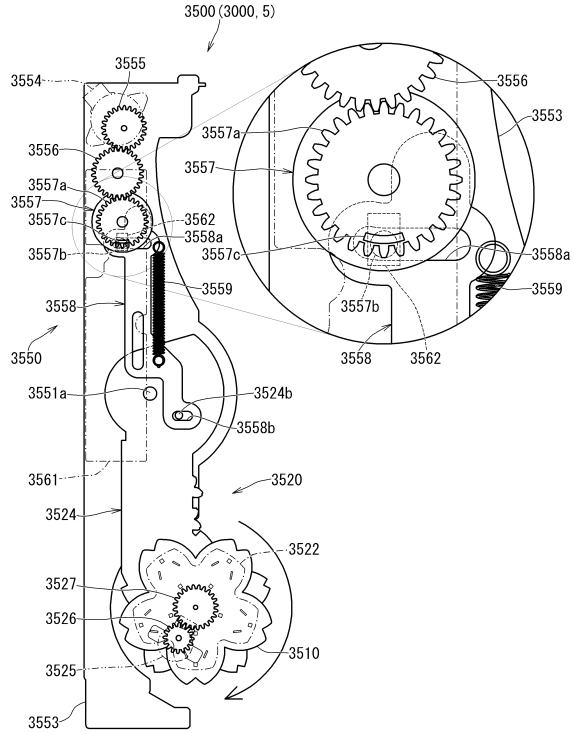
【図１８１】



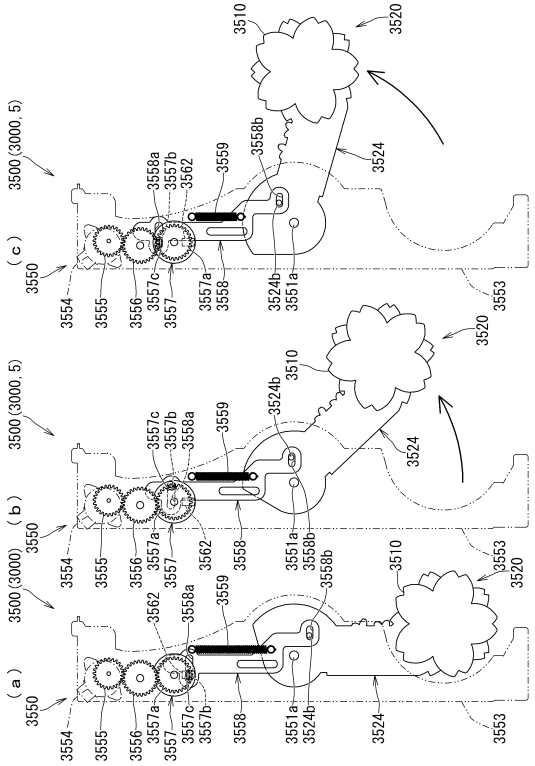
【図１８２】



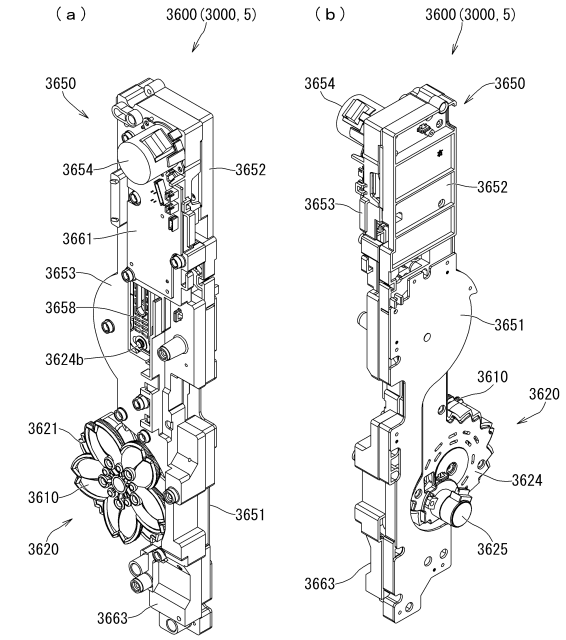
【図１８３】



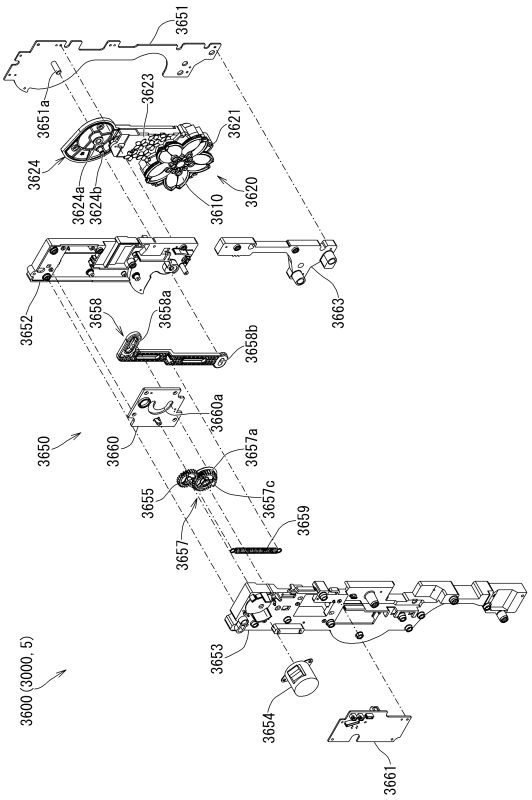
【図１８４】



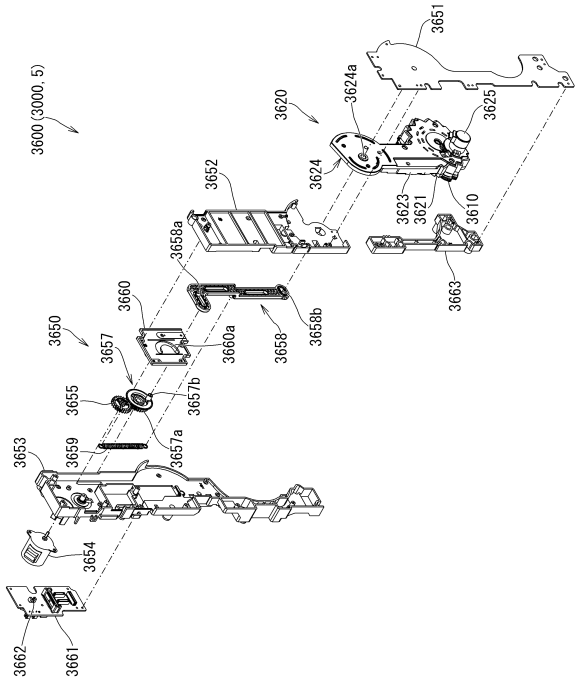
【図１８５】



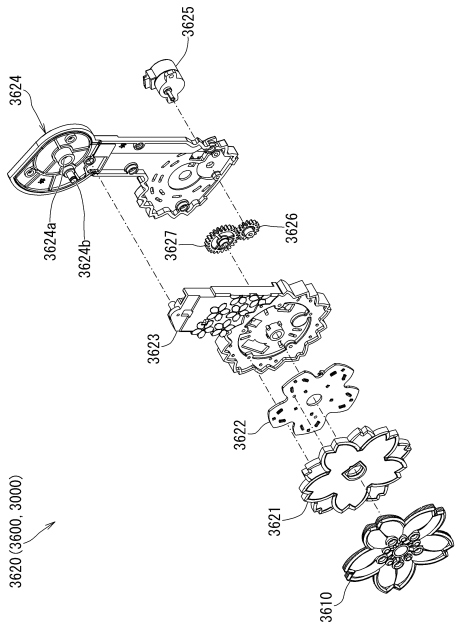
【図１８６】



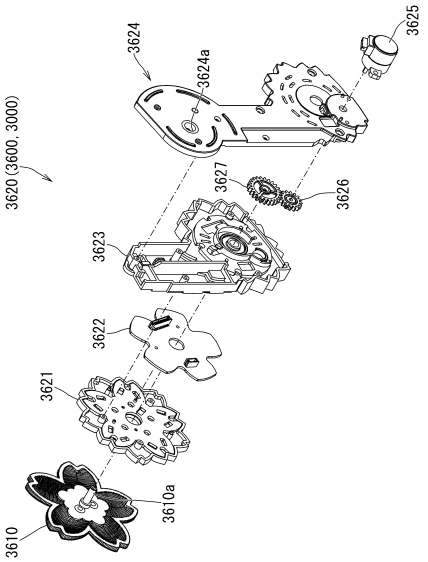
【図１８７】



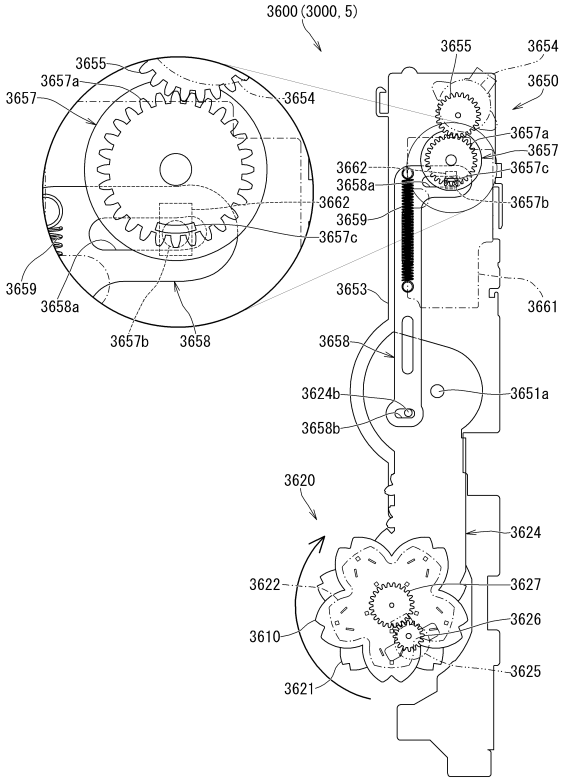
【図１８８】



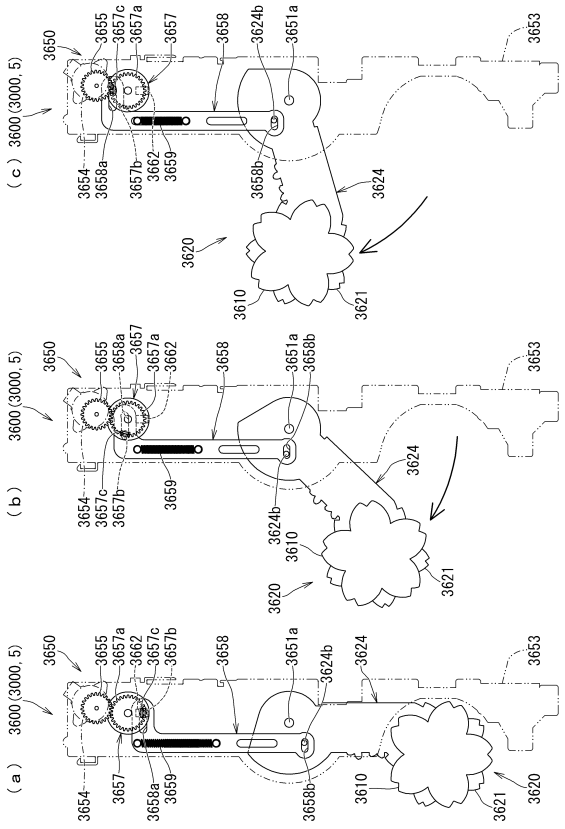
【図１８９】



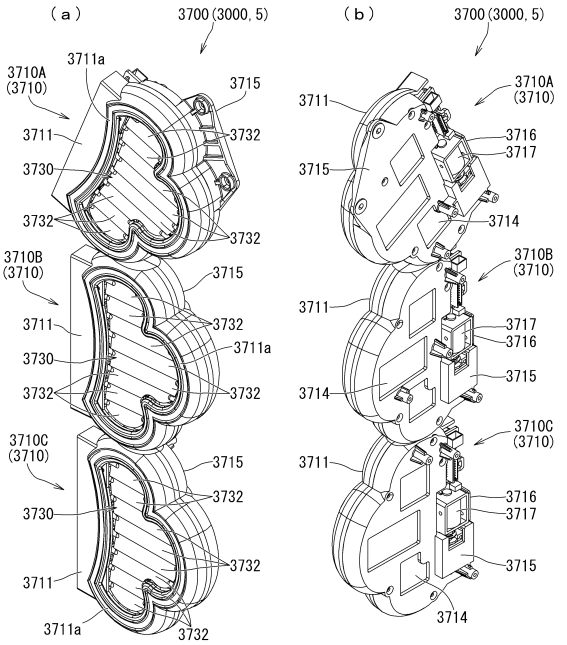
【図１９０】



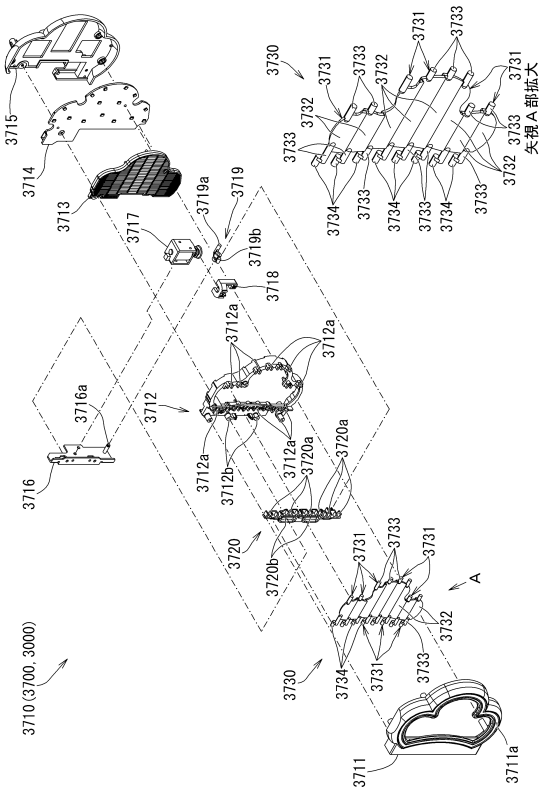
【図１９１】



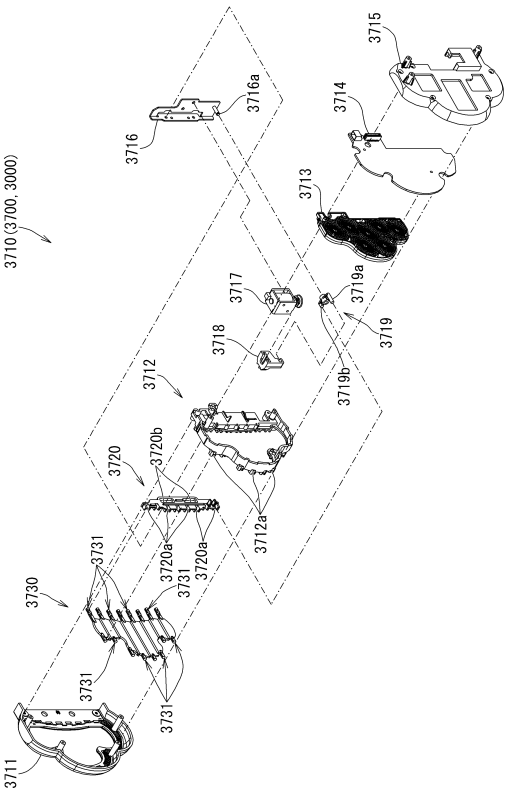
【図１９２】



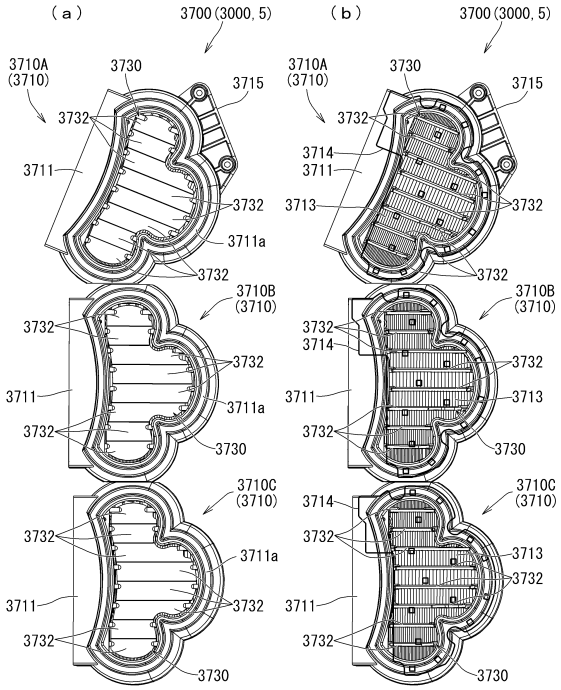
【図１９３】



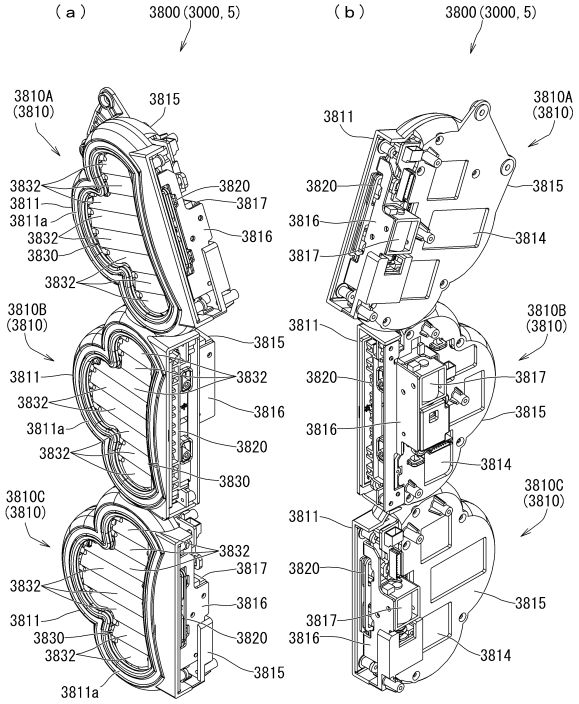
【図１９４】



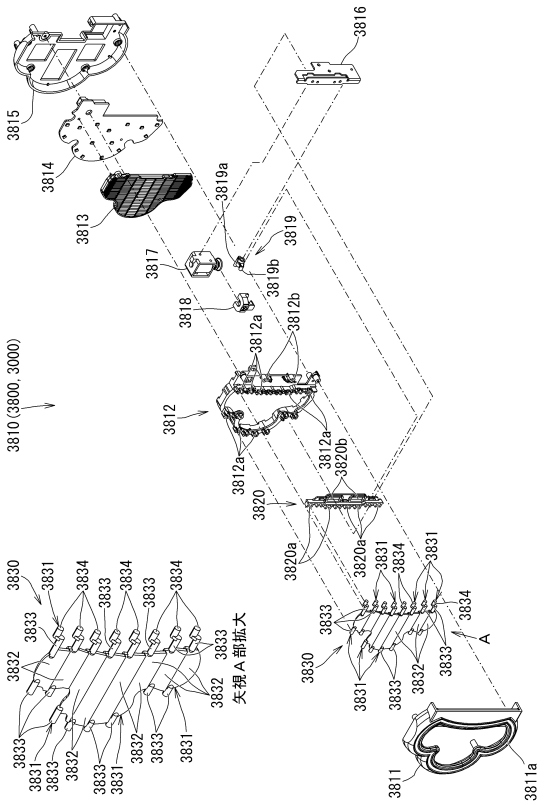
【図１９５】



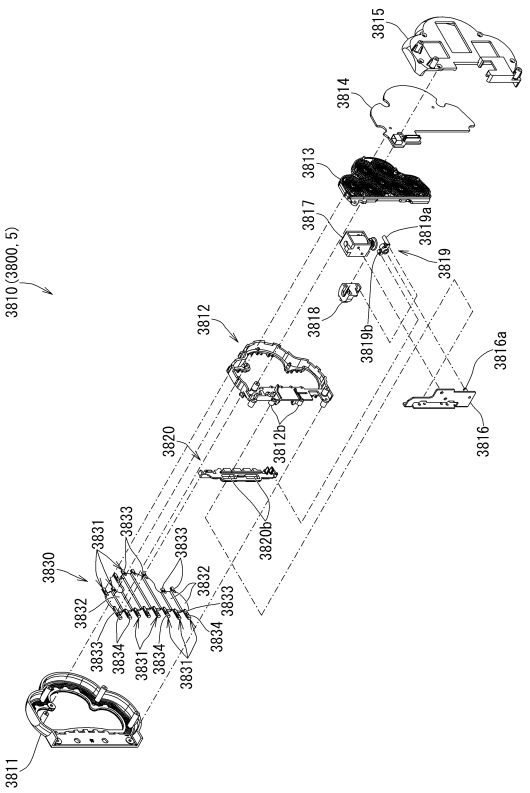
【図１９６】



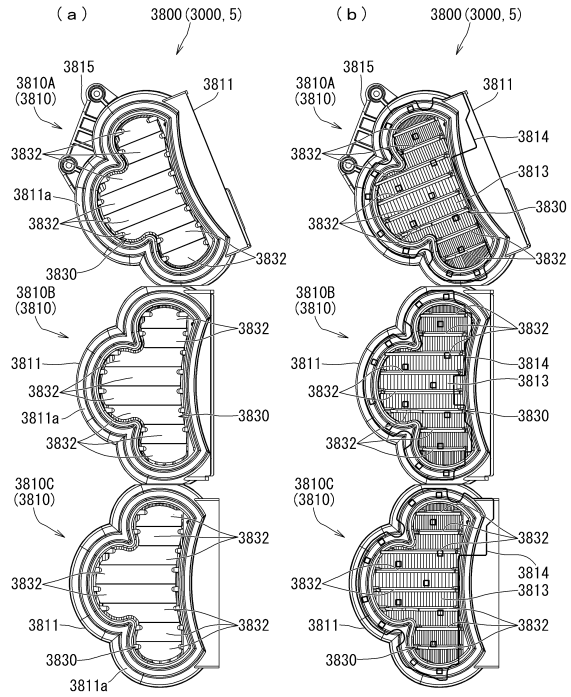
【図１９７】



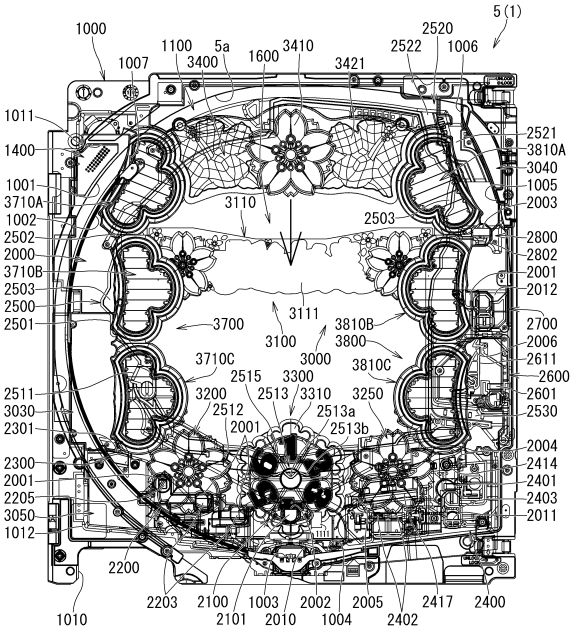
【図１９８】



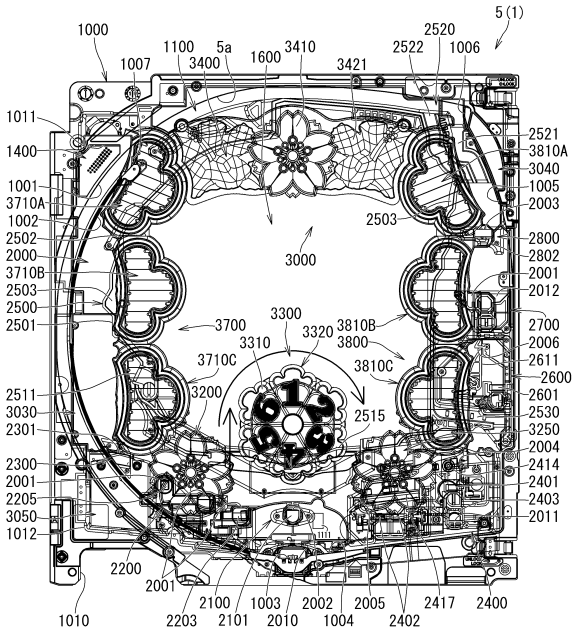
【図１９９】



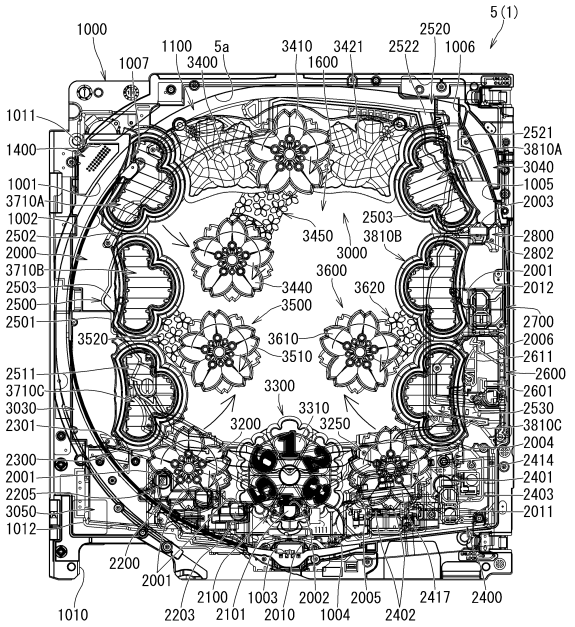
【図２００】



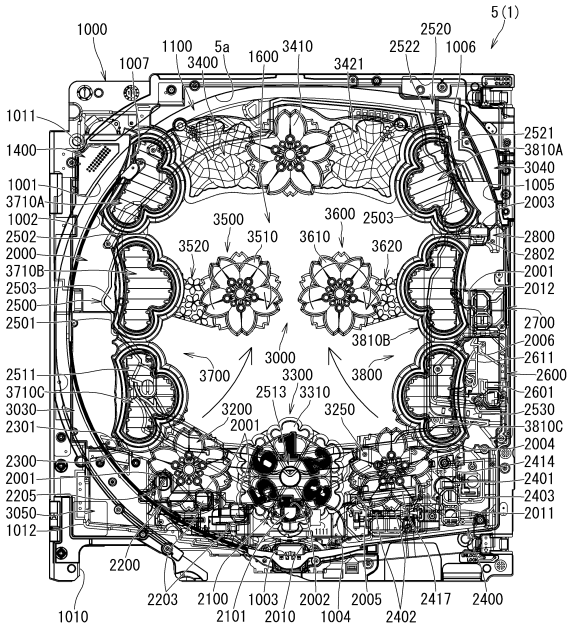
【図２０１】



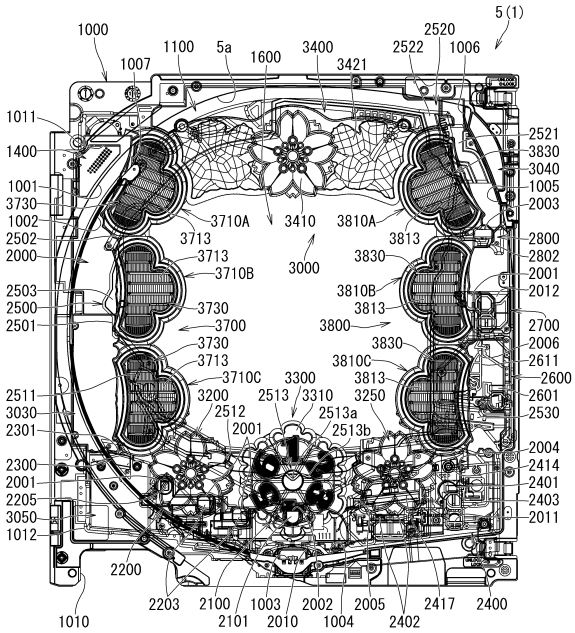
【図２０２】



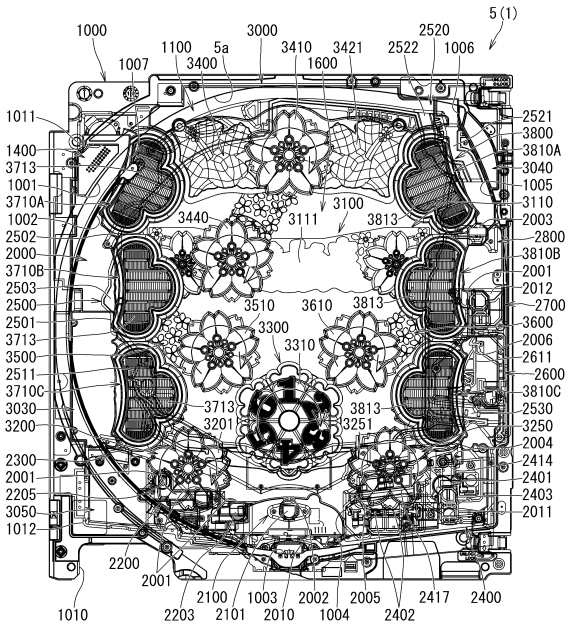
【図２０３】



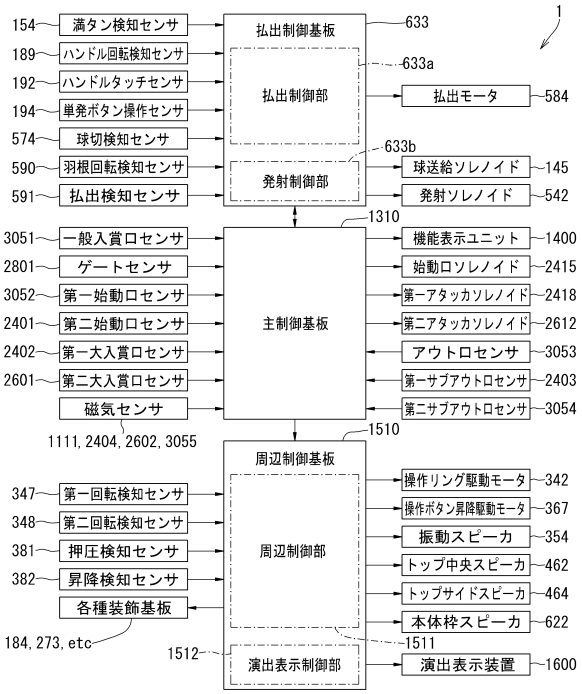
【図２０４】



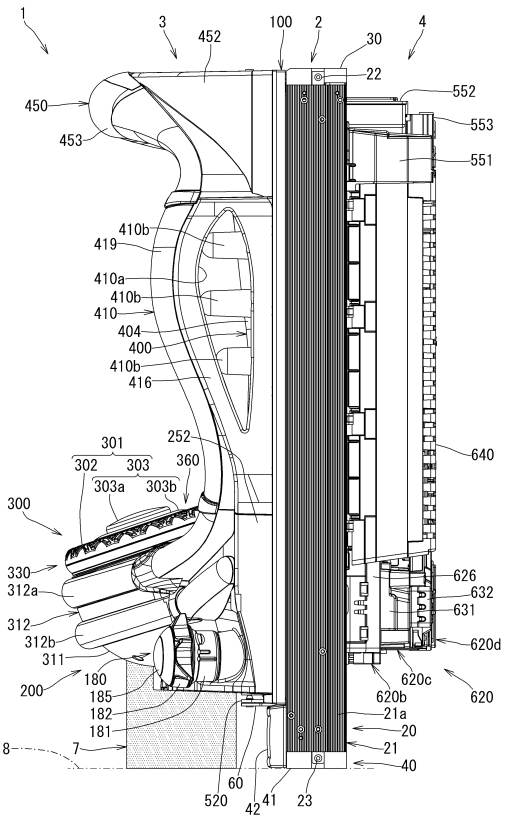
【図２０５】



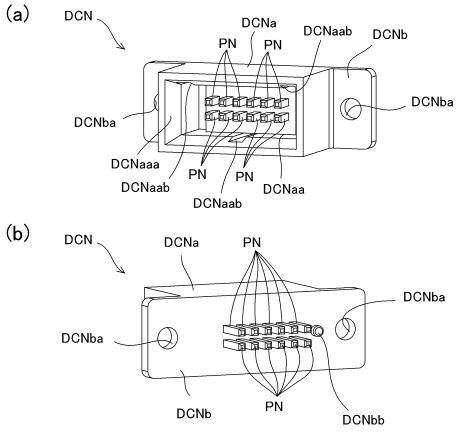
【図２０６】



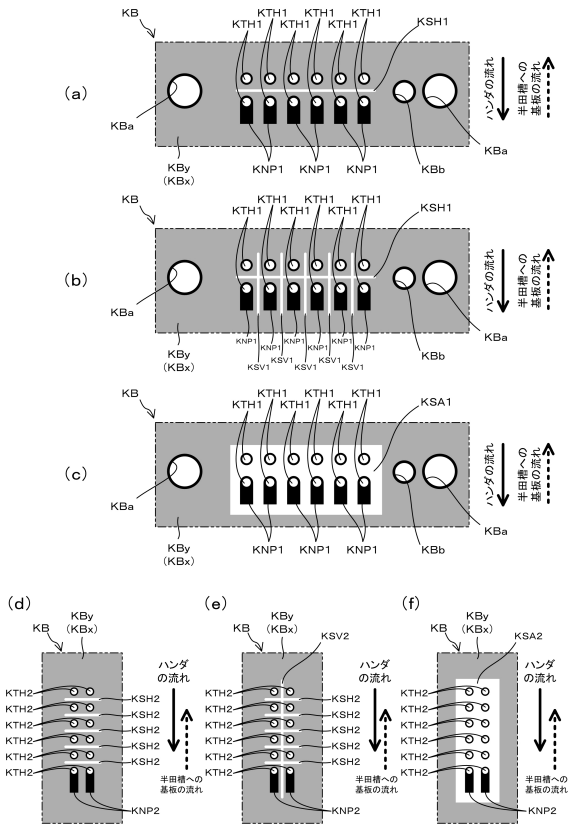
【図２０７】



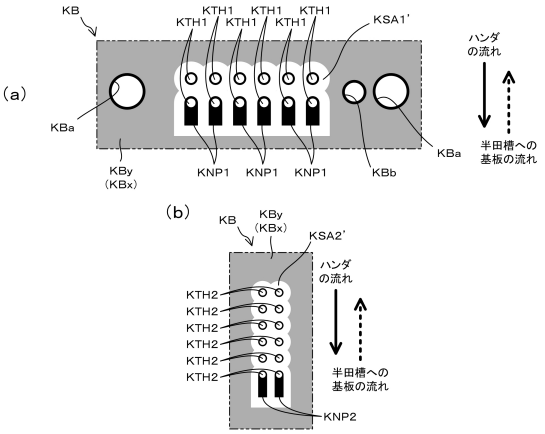
【図２０８】



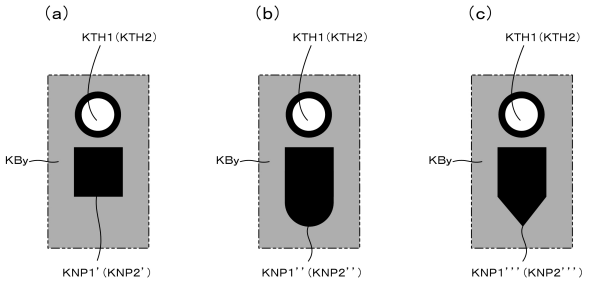
【図２０９】



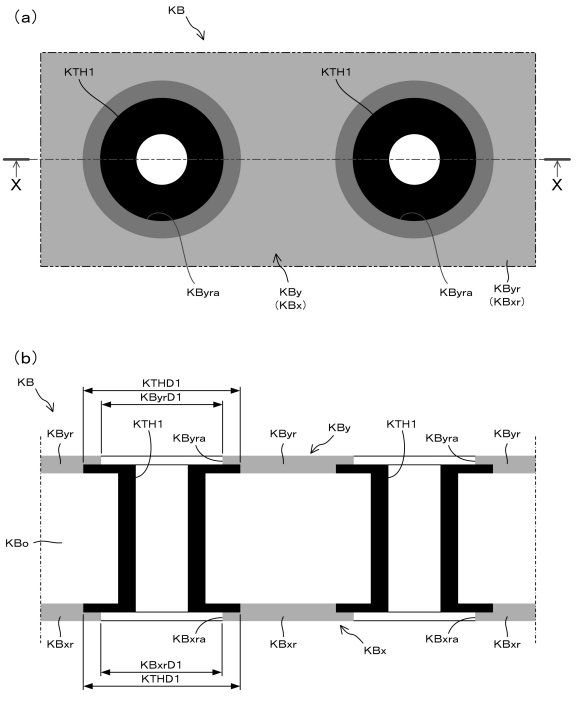
【図２１０】



【図２１１】

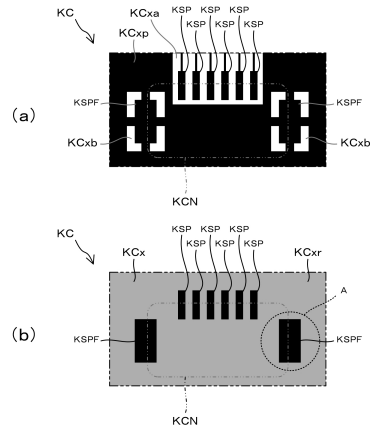


【図２１２】

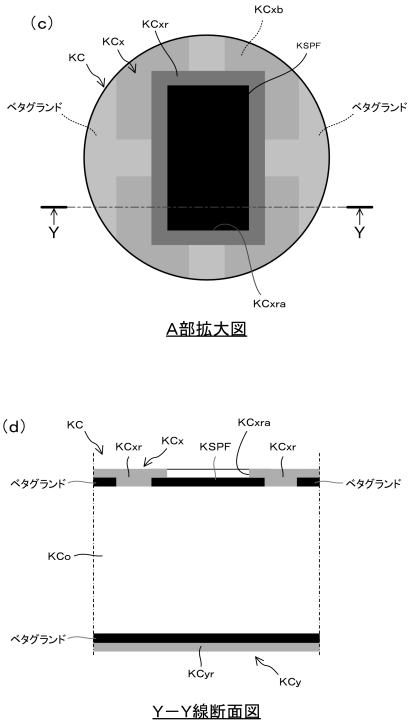


X－X線断面図

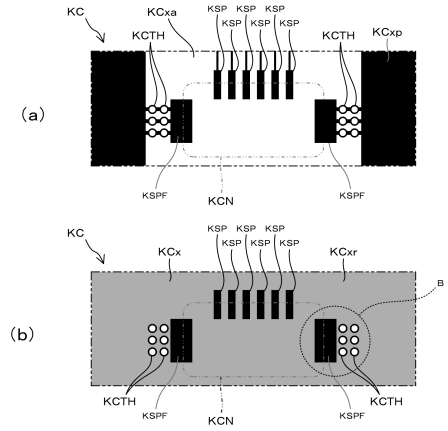
【図２１３】



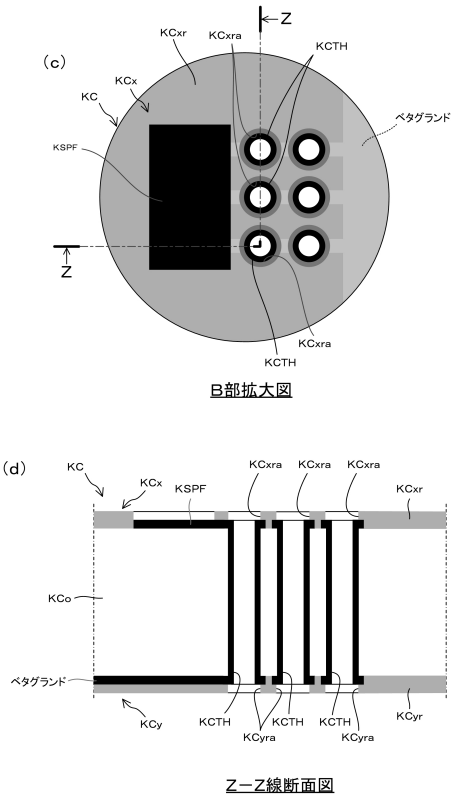
【図２１４】



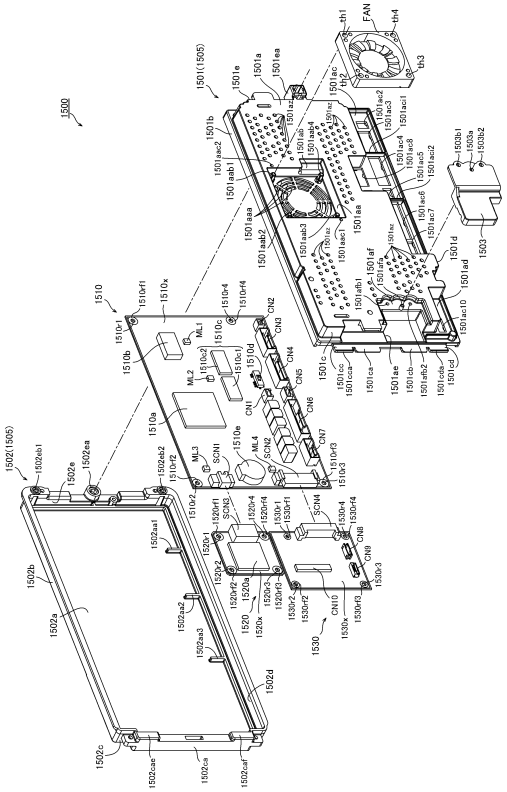
【図２１５】



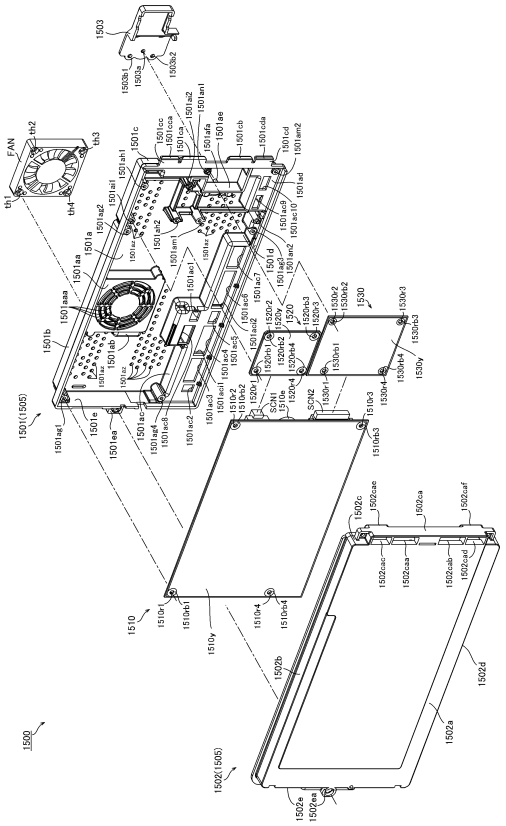
【図２１６】



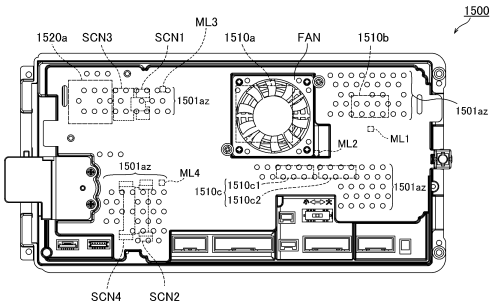
【図２１７】



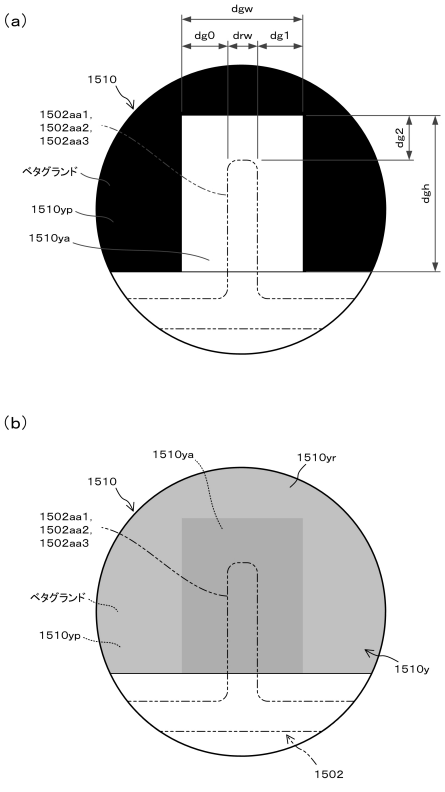
【図２１８】



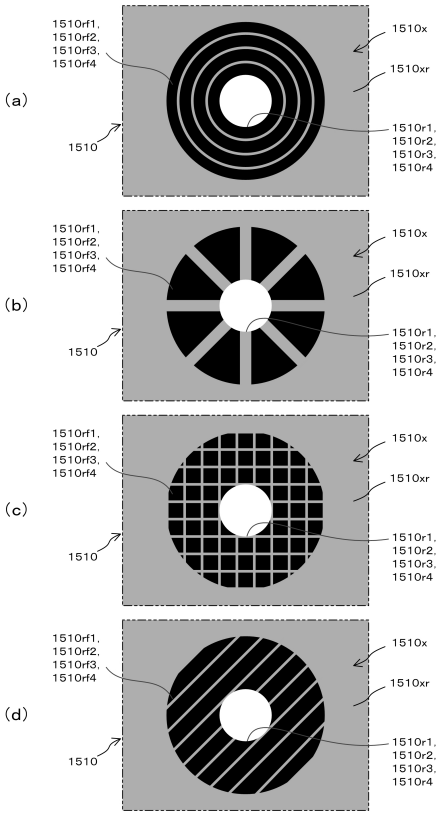
【図２１９】



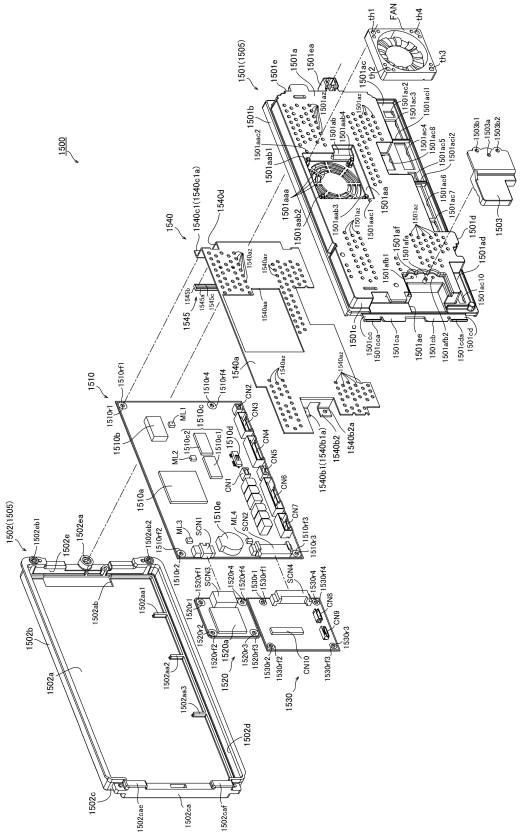
【図２２０】



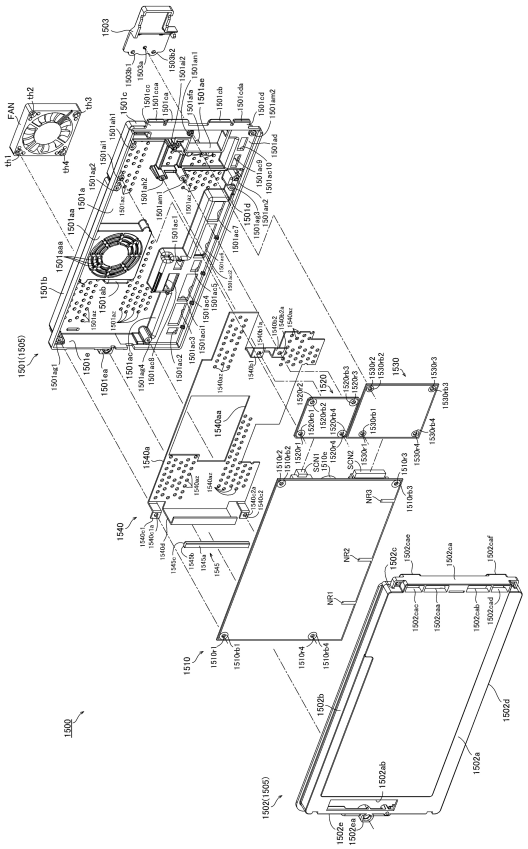
【図２２１】



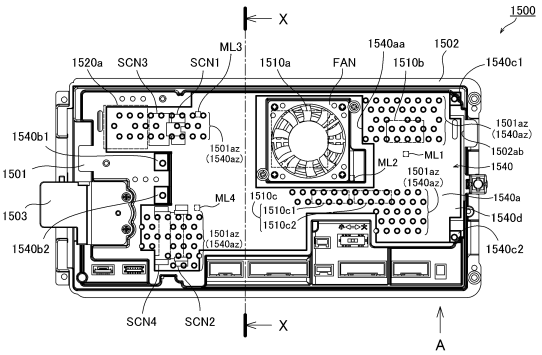
【図２２２】



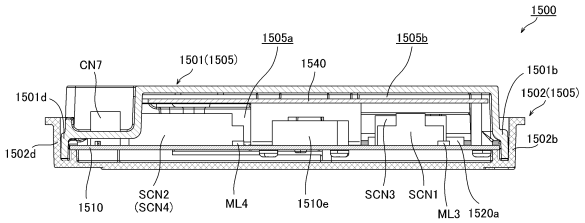
【図２２３】



【図２２４】

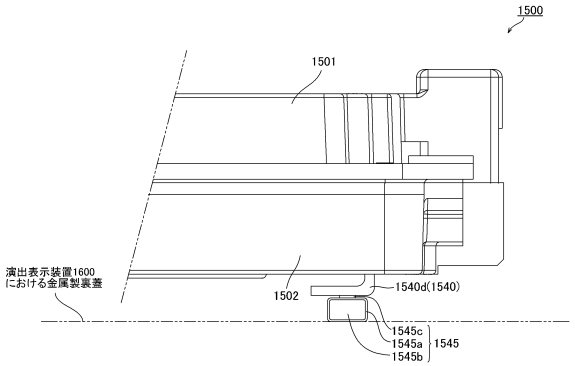


【図２２５】



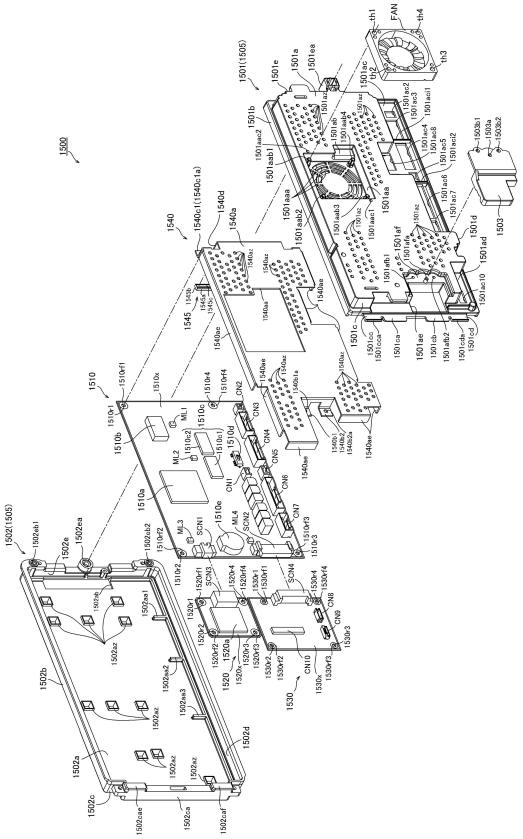
X-X断面図

【図２２６】

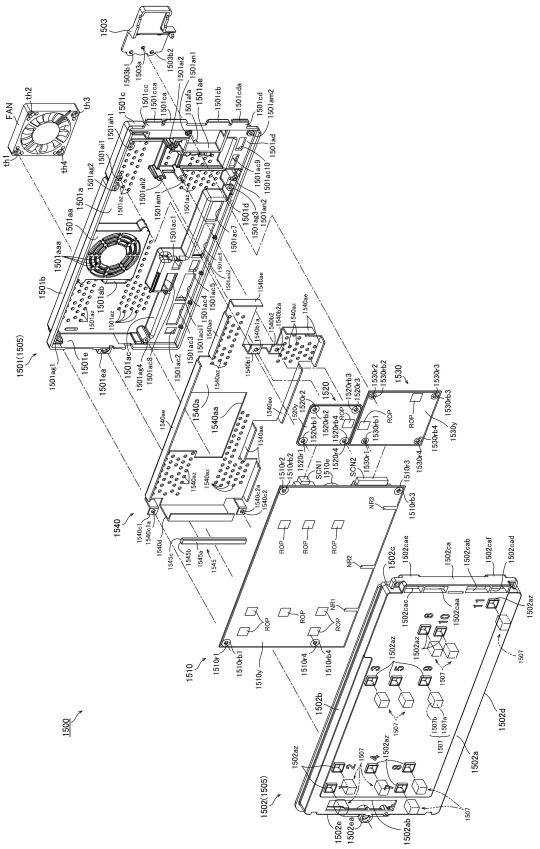


A矢視図

【図２２７】



【図２２８】



10

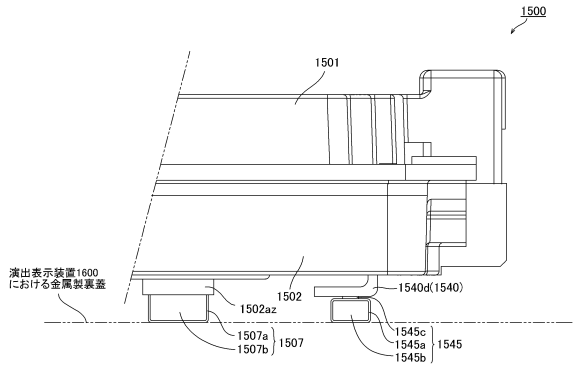
20

30

40

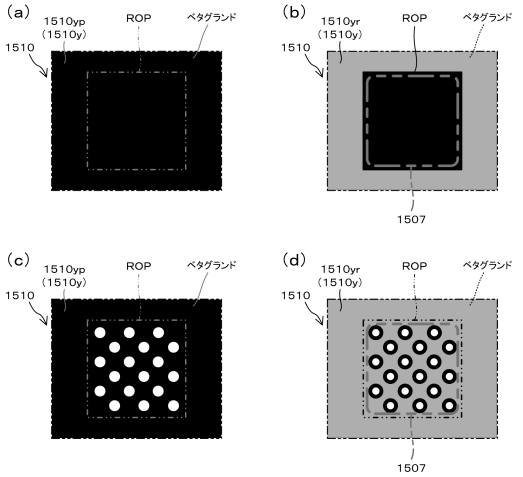
50

【図２２９】

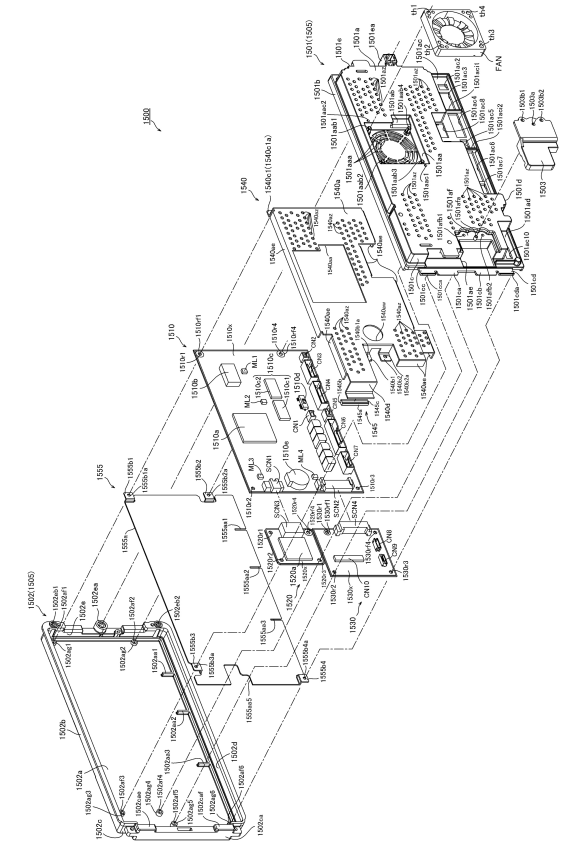


A矢視図

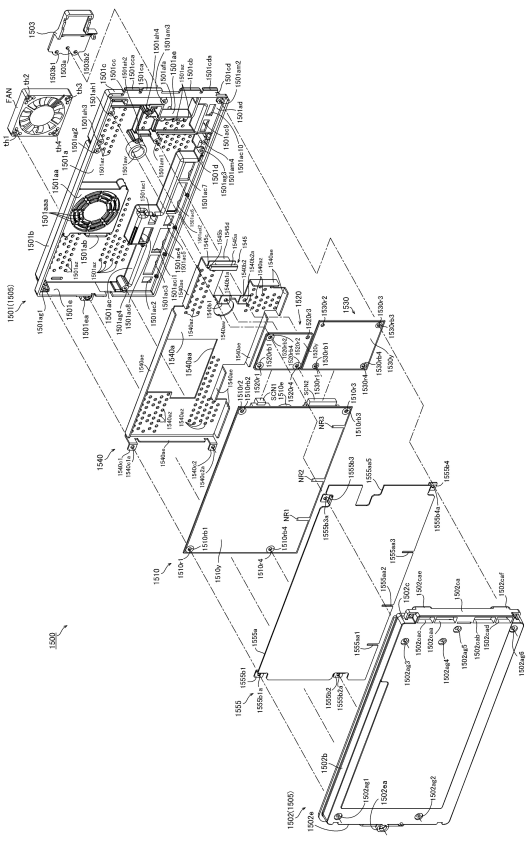
【図２３０】



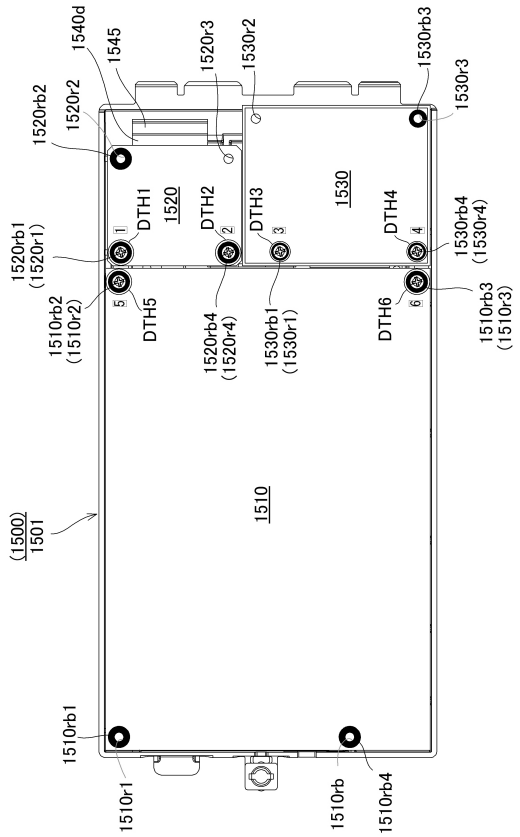
【図２３１】



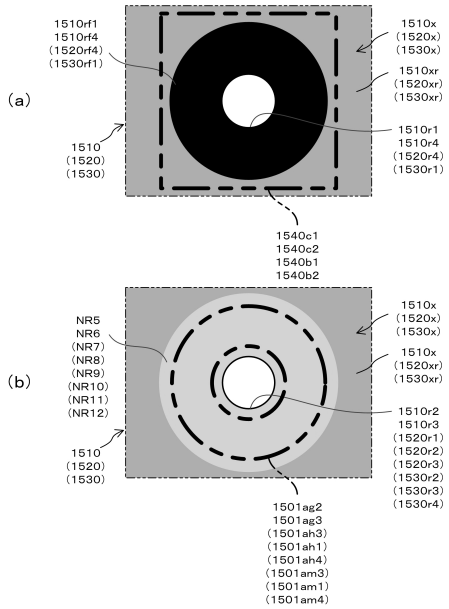
【図２３２】



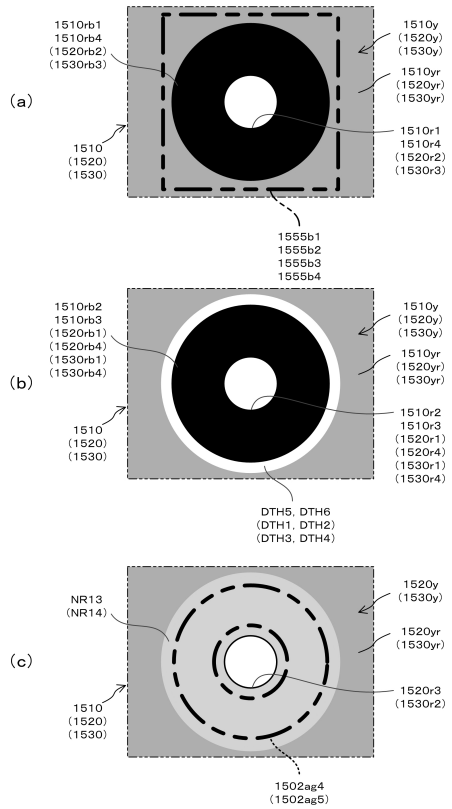
【図２３３】



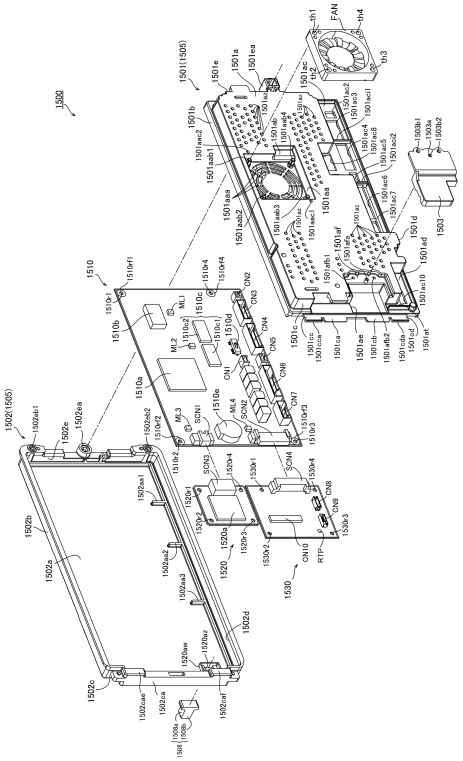
【図２３４】



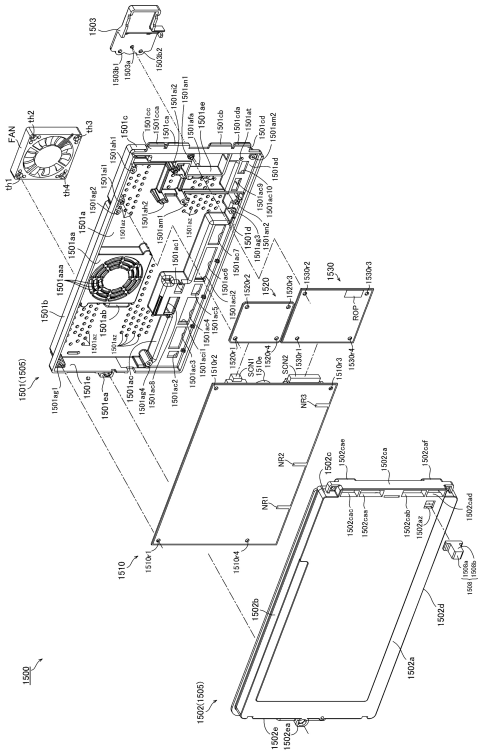
【図２３５】



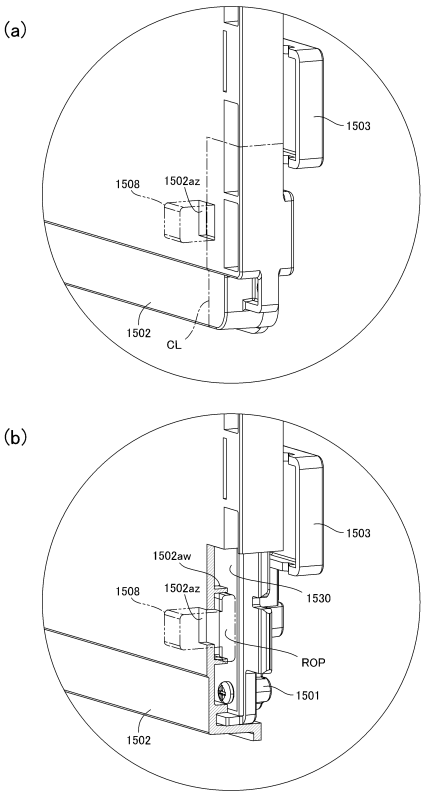
【図２３６】



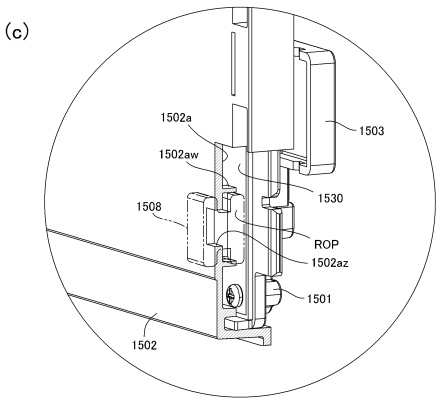
【図２３７】



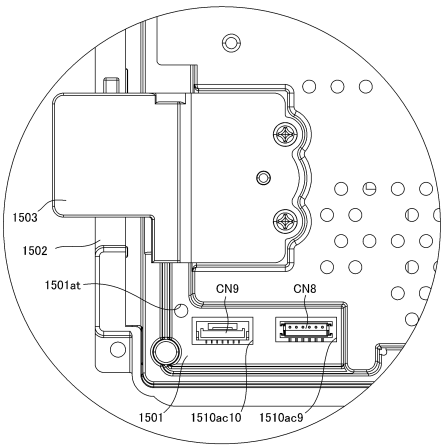
【図２３８】



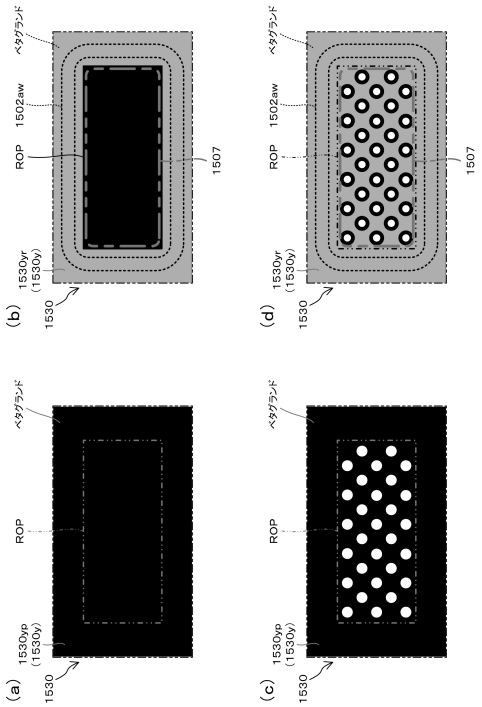
【図２３９】



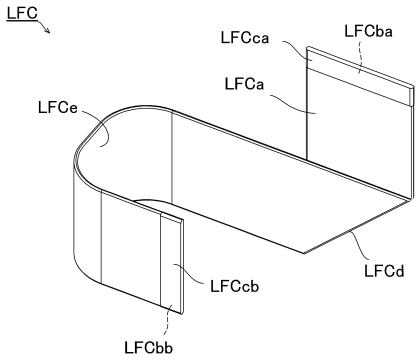
【図２４０】



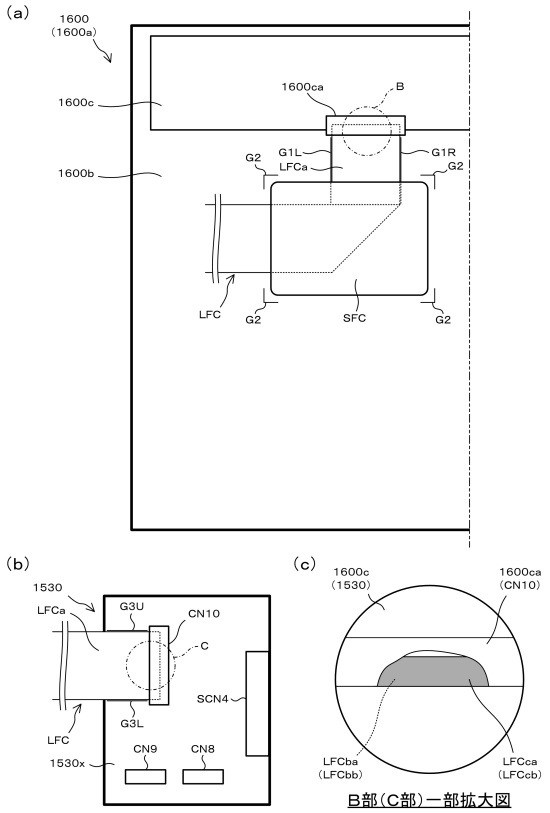
【図２４１】



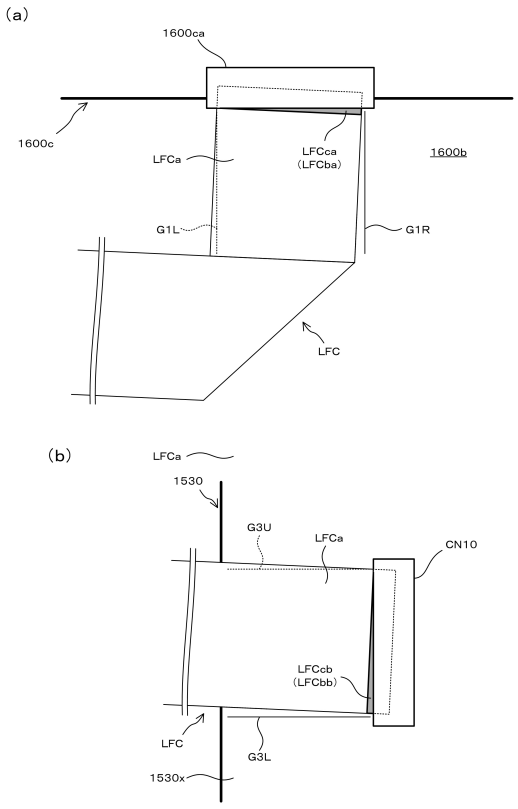
【図２４２】



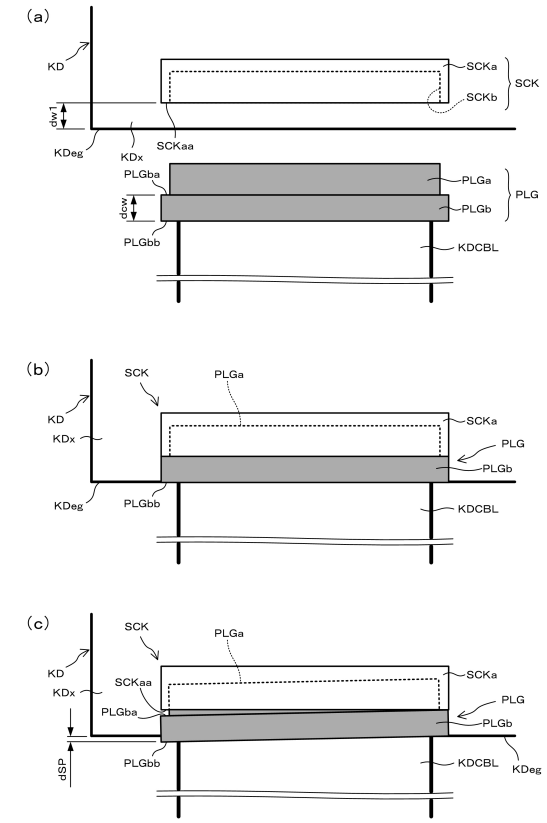
【図２４３】



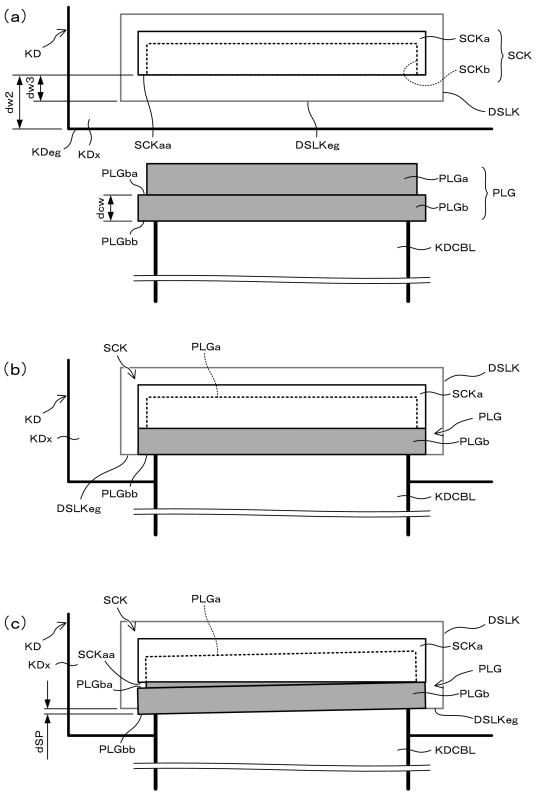
【図２４４】



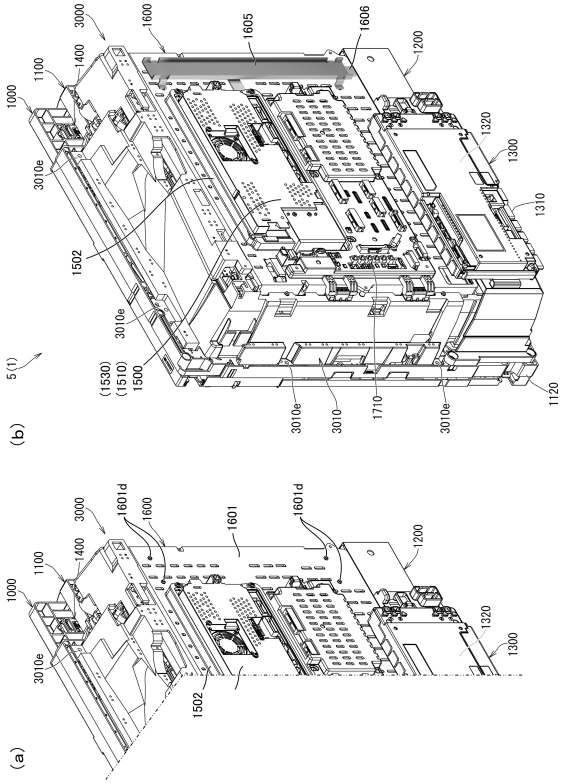
【図２４５】



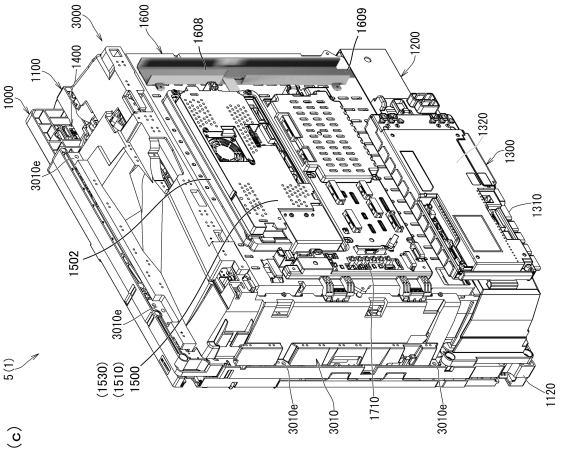
【図２４６】



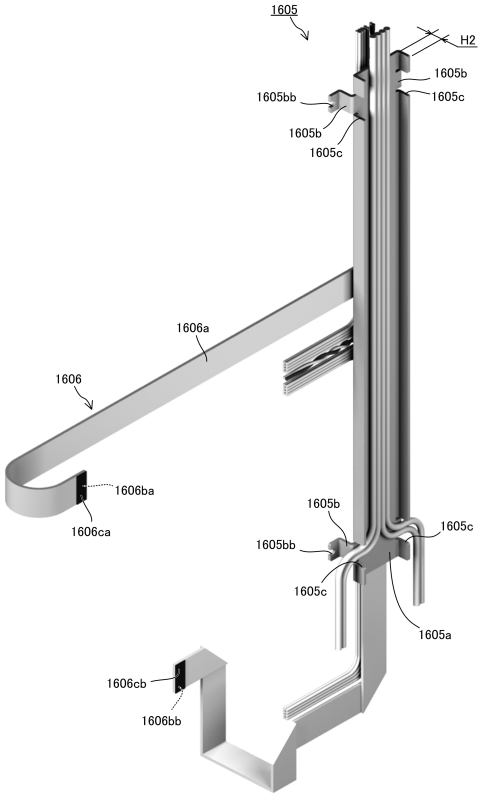
【図２４７】



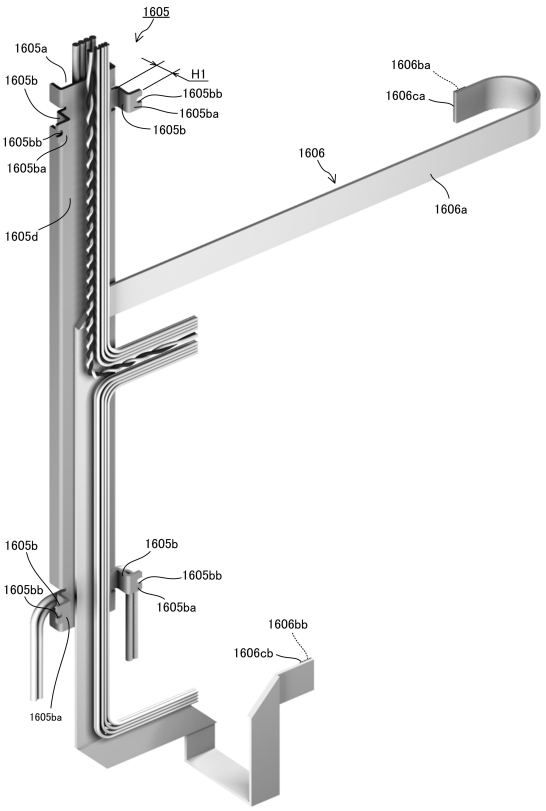
【図２４８】



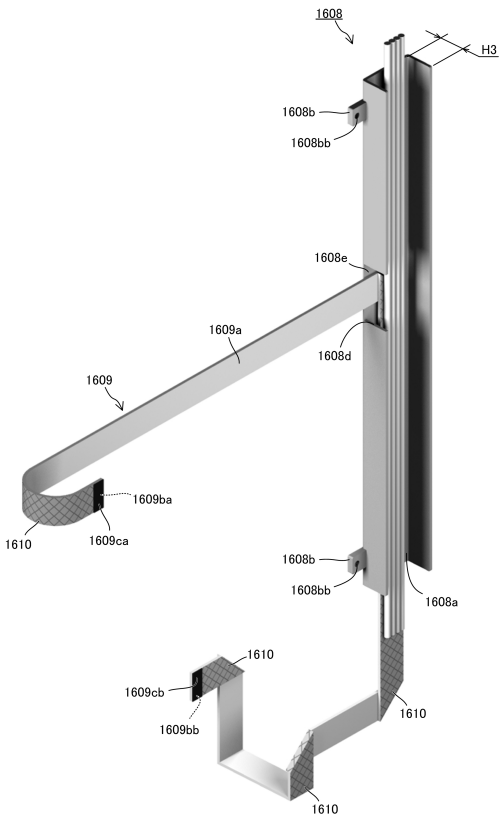
【図２４９】



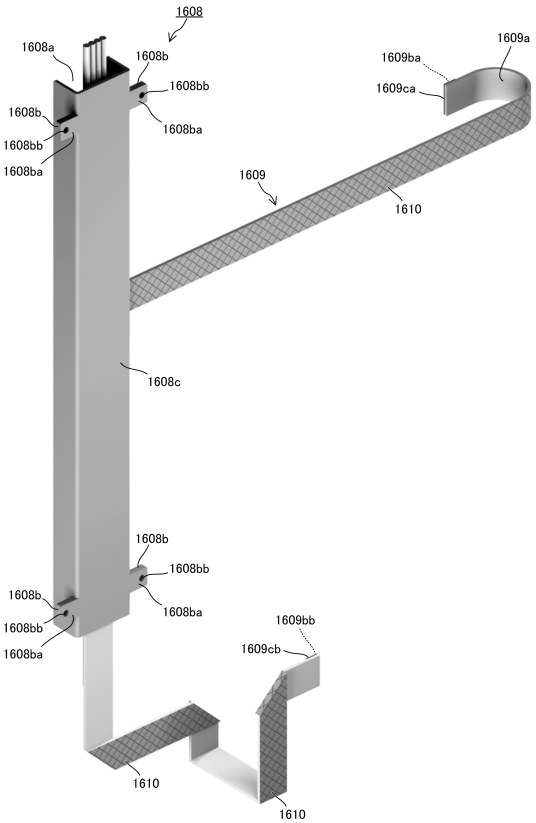
【図２５０】



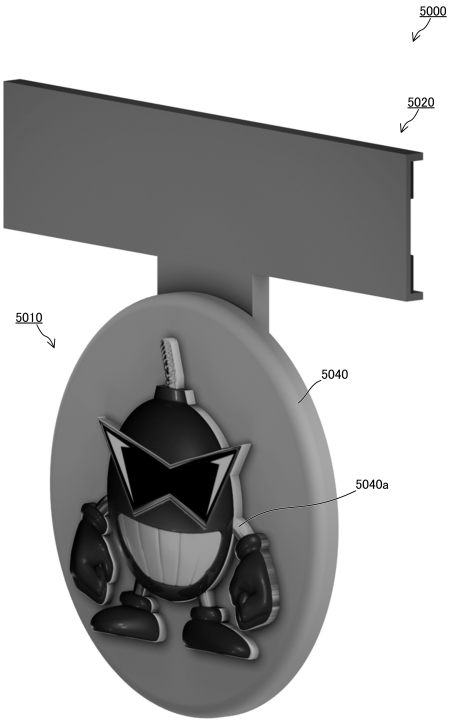
【図２５１】



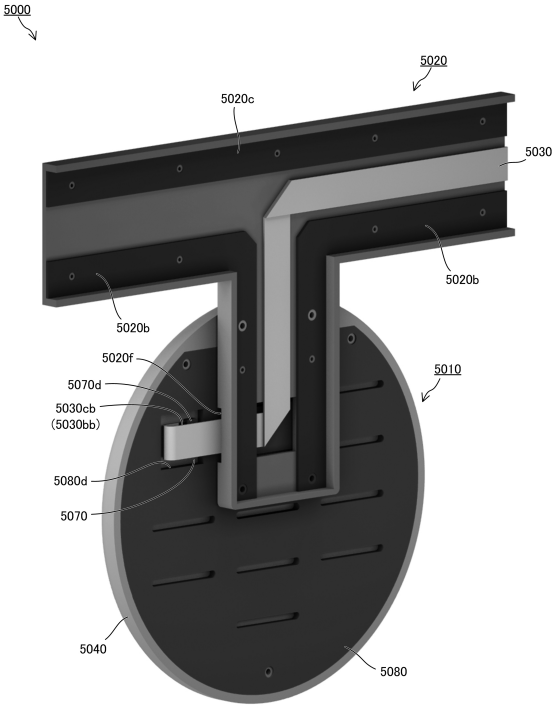
【図２５２】



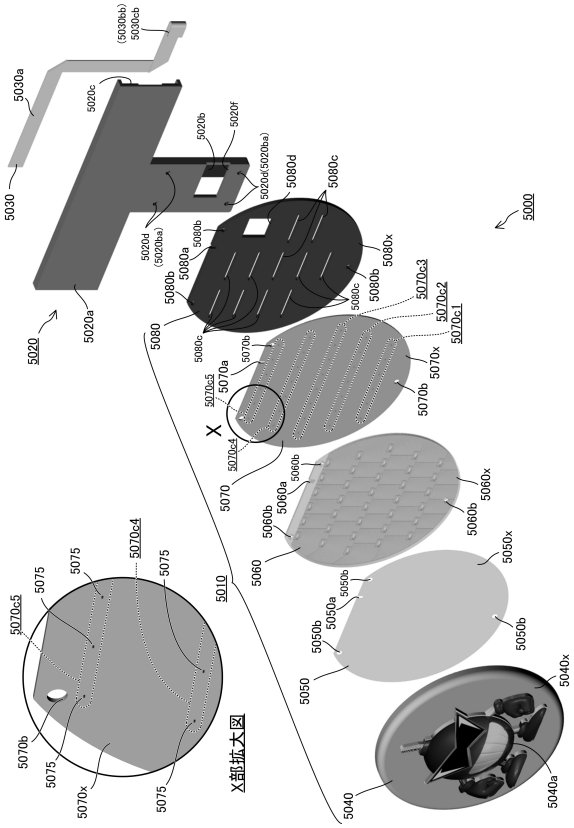
【図２５３】



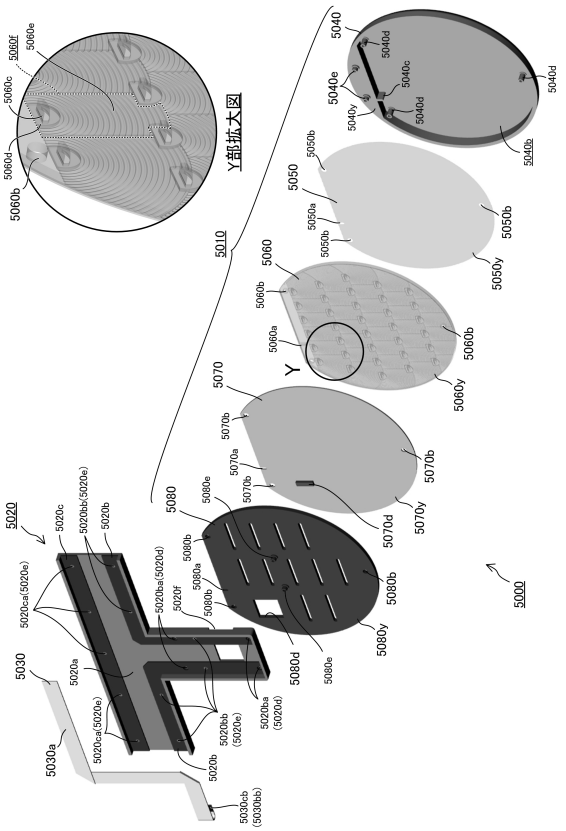
【図２５４】



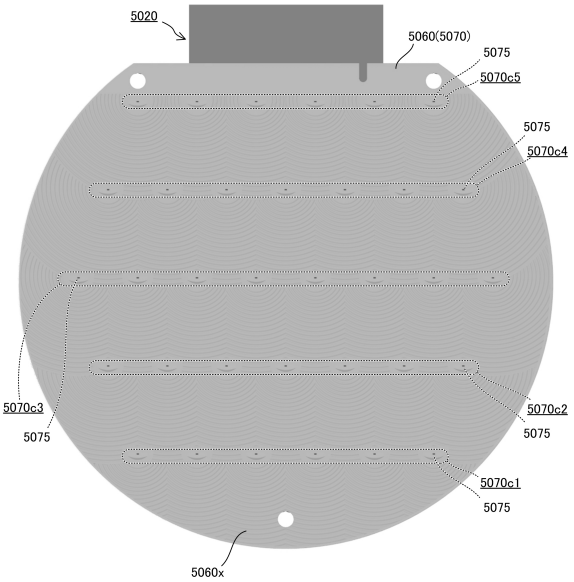
【図２５５】



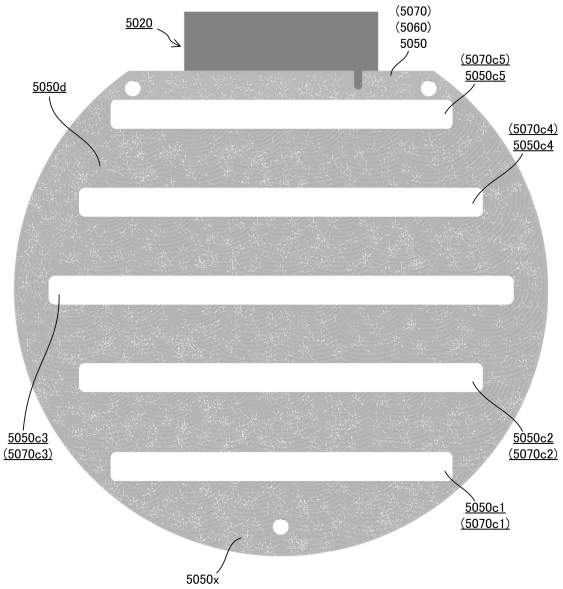
【図２５６】



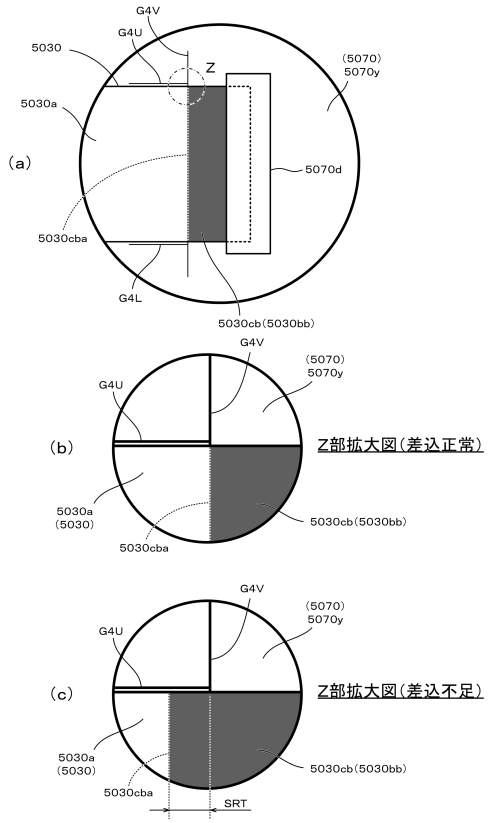
【図２５７】



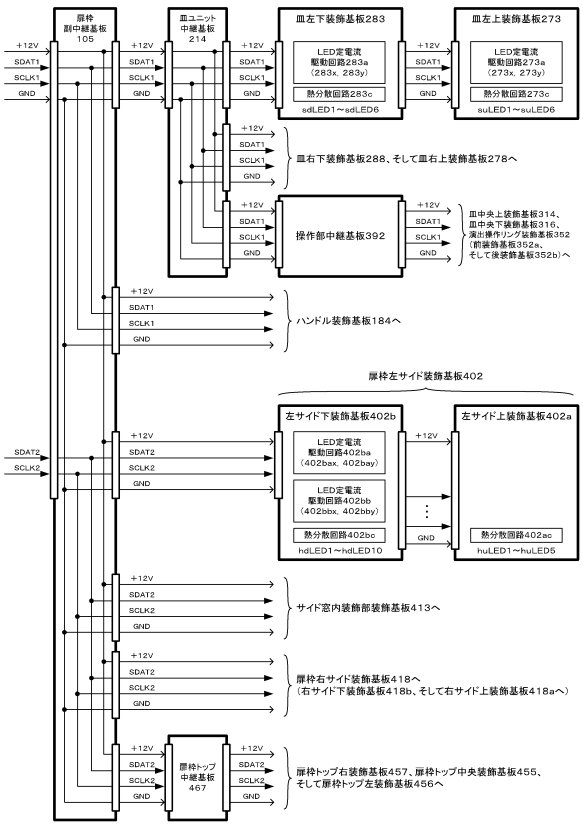
【図２５８】



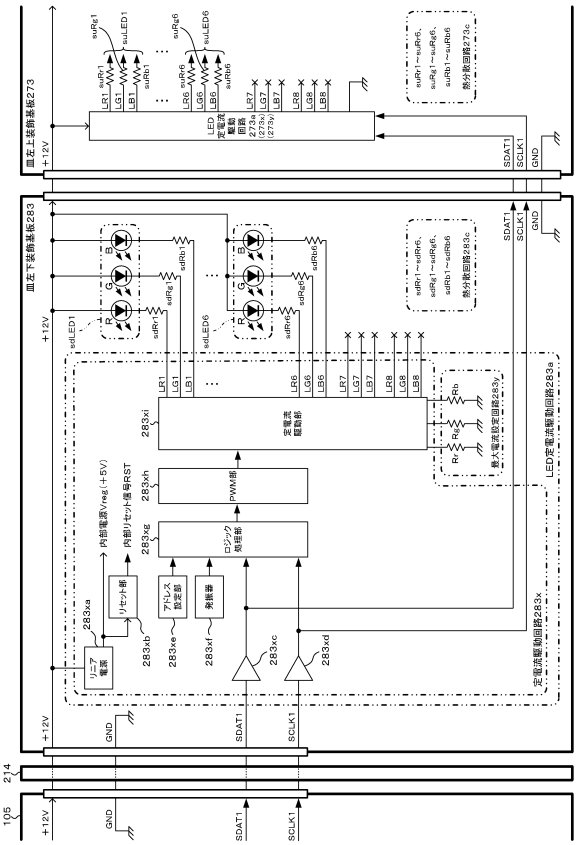
【図２５９】



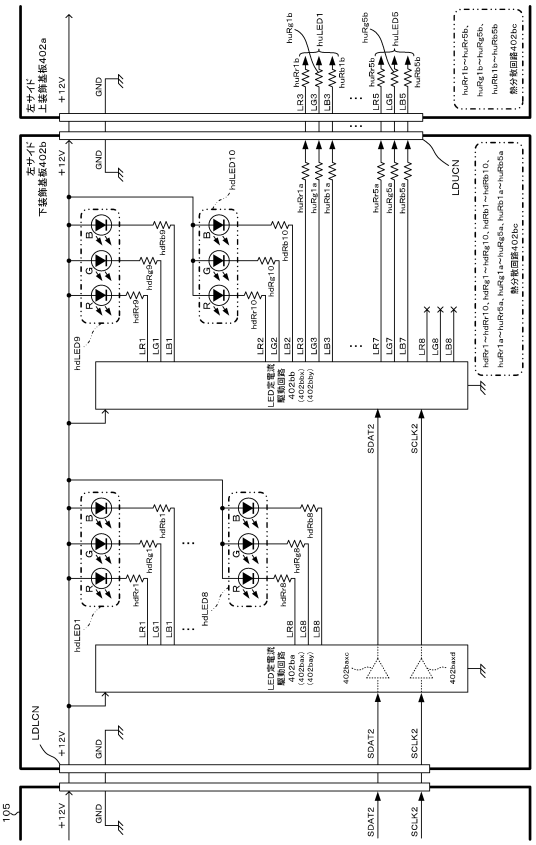
【図２６０】



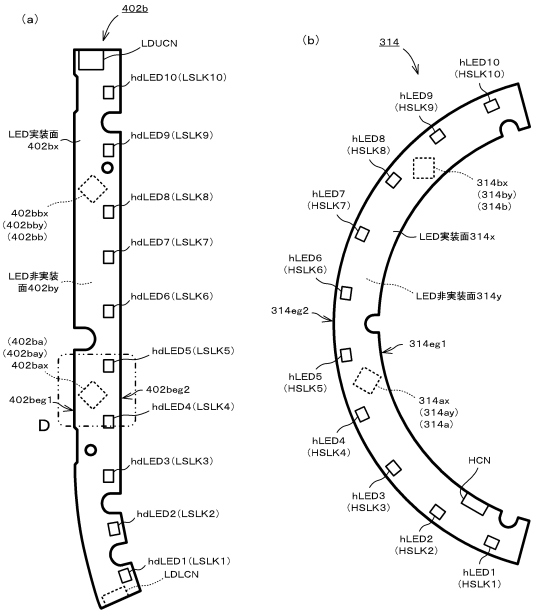
【図２６１】



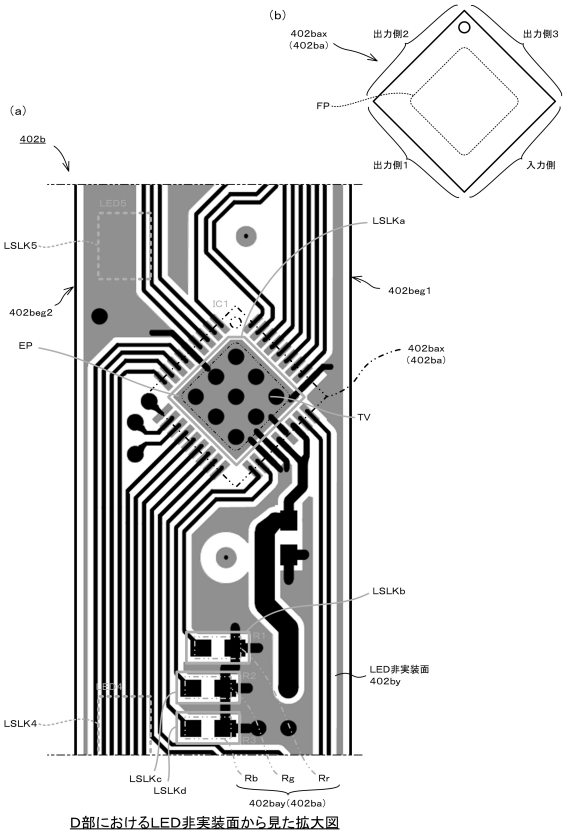
【図２６２】



【図２６３】

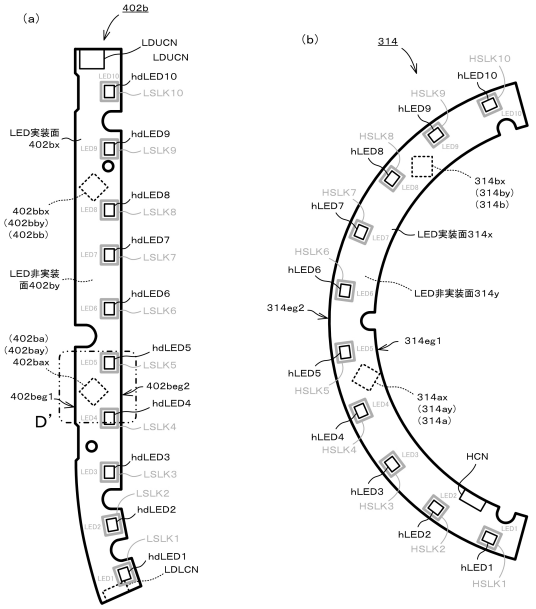


【図２６４】

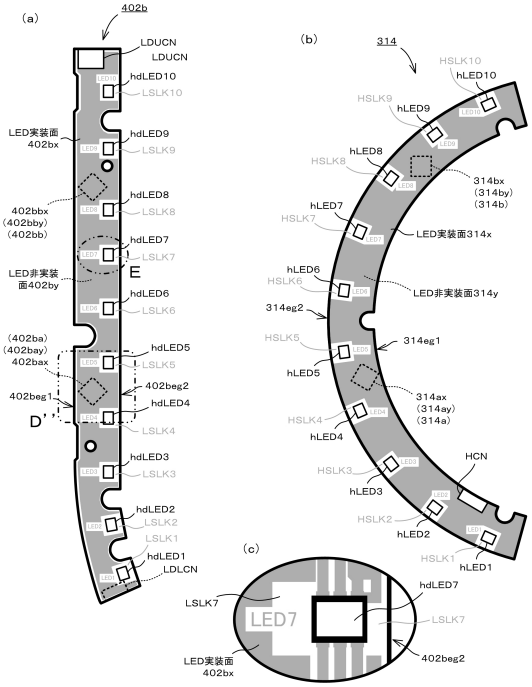


D部におけるLED非実装面から見た拡大図

【図２６５】

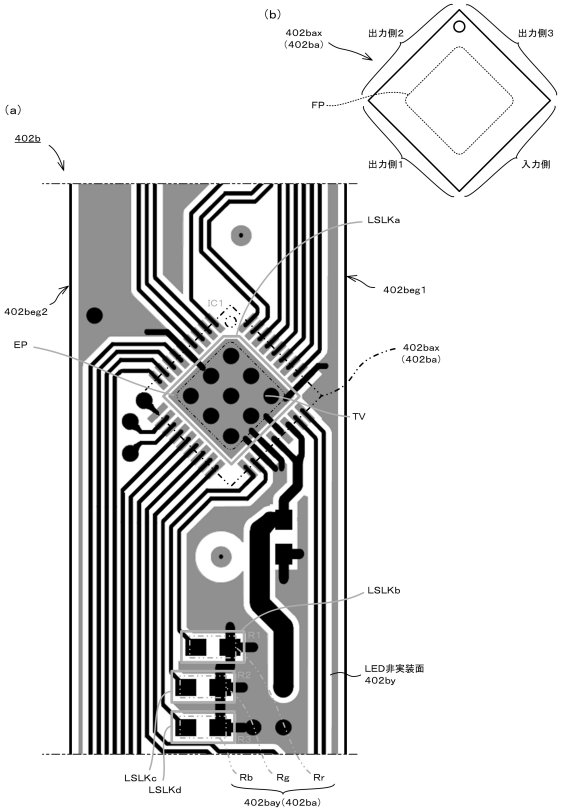


【図２６６】



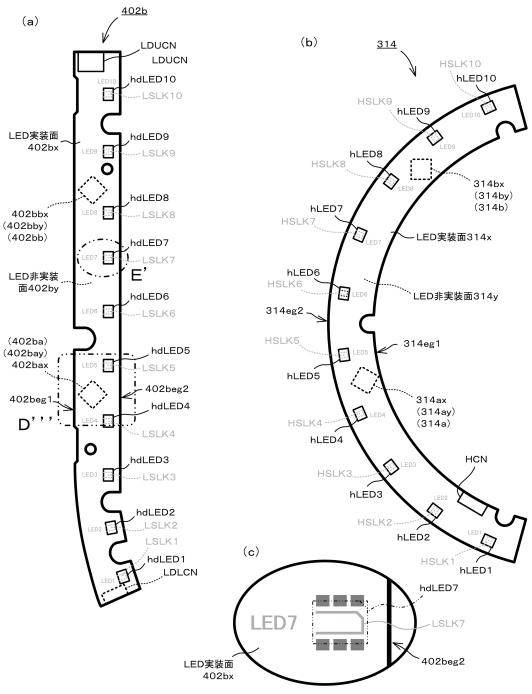
E部におけるLED実装面から見た拡大図

【図２６７】



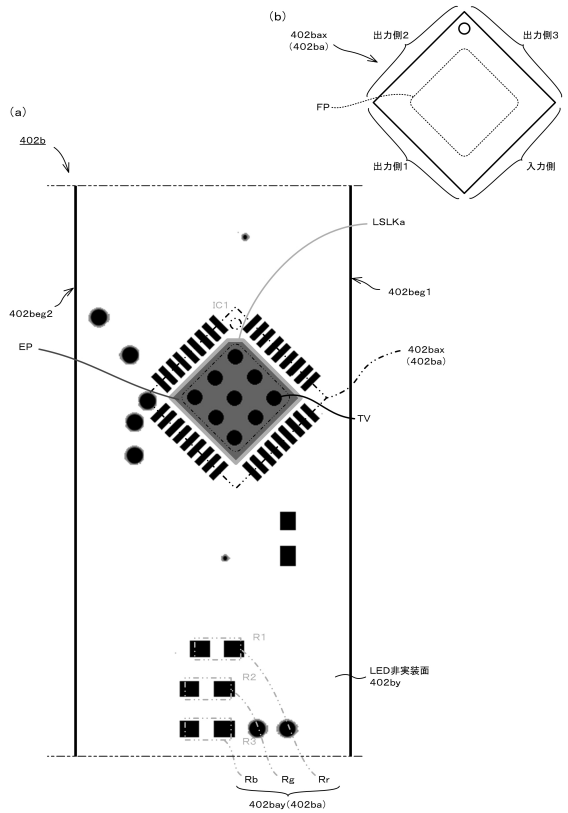
D'部又はD''部におけるLED非実装面から見た拡大図

【図２６８】



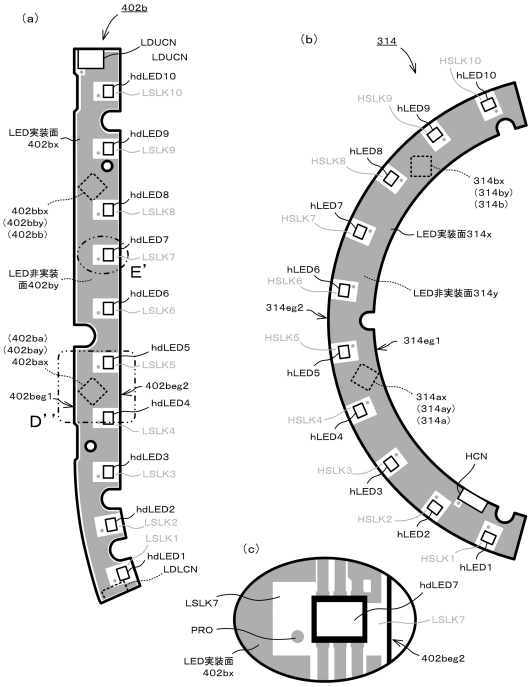
E'部におけるLED実装面から見た拡大図

【図２６９】



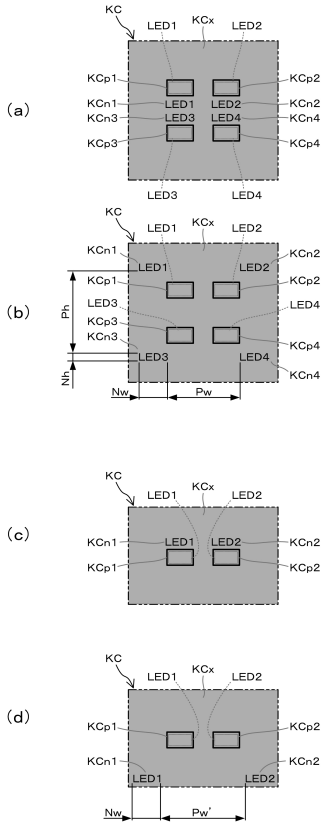
D'''部におけるLED非実装面から見た拡大図

【図２７０】

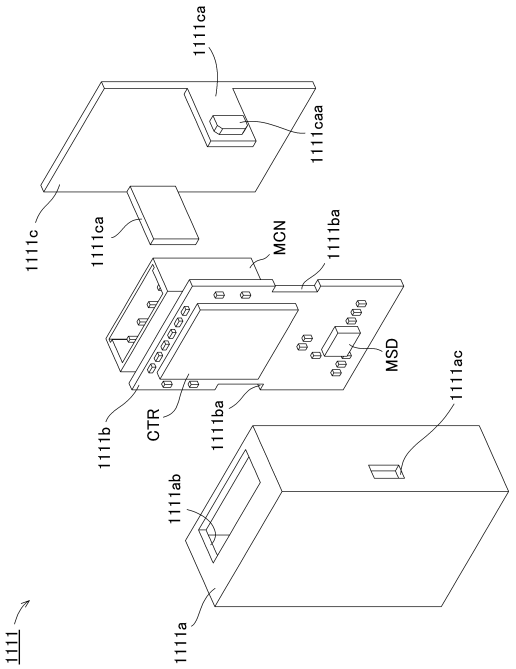


E'部におけるLED実装面から見た拡大図

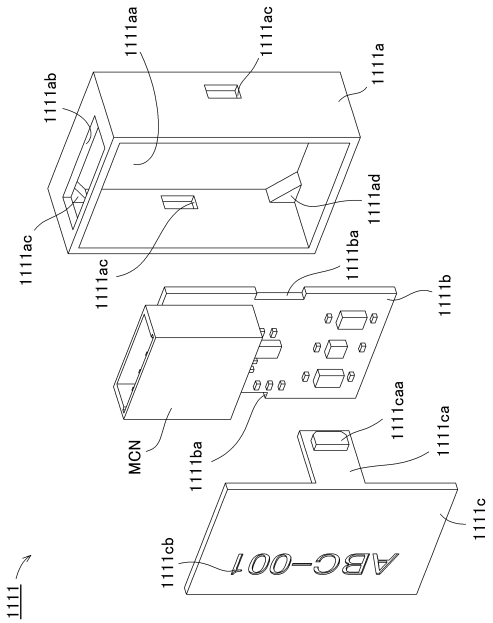
【図２７１】



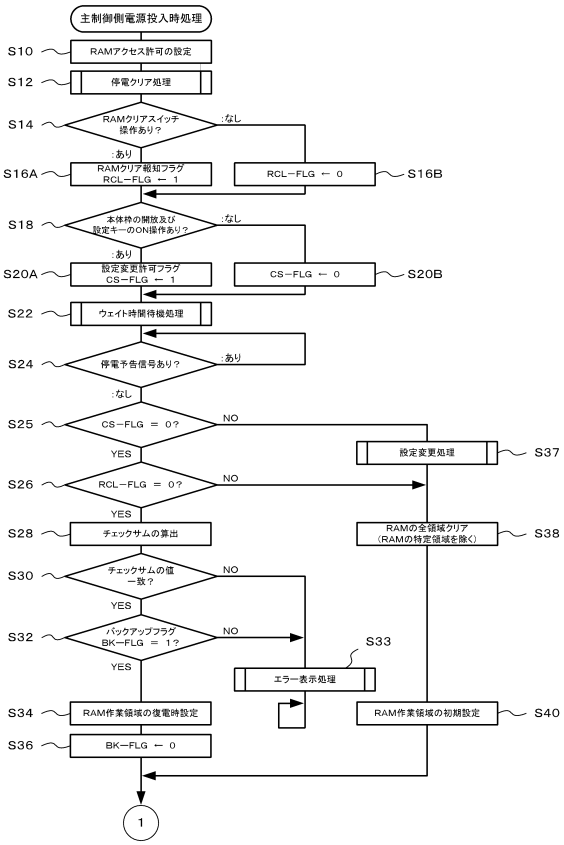
【図２７２】



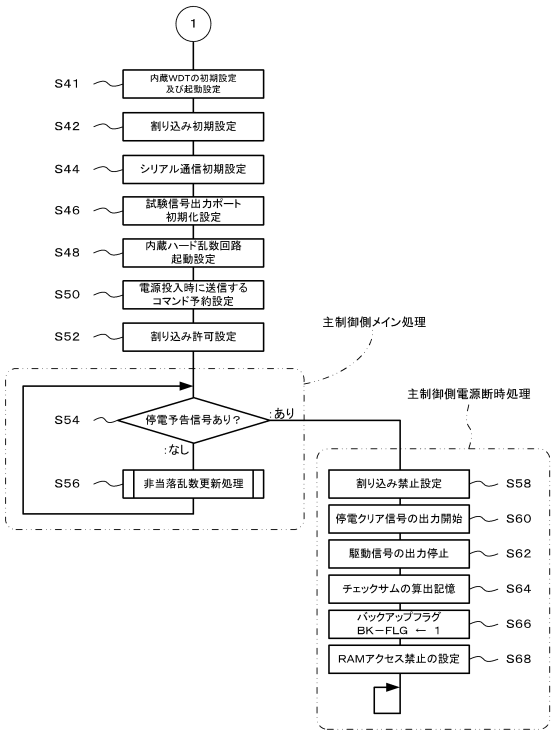
【図２７３】



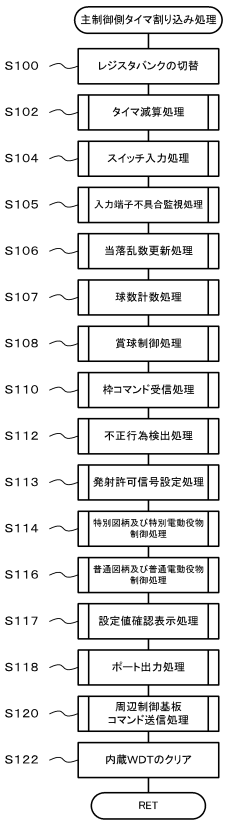
【図２７４】



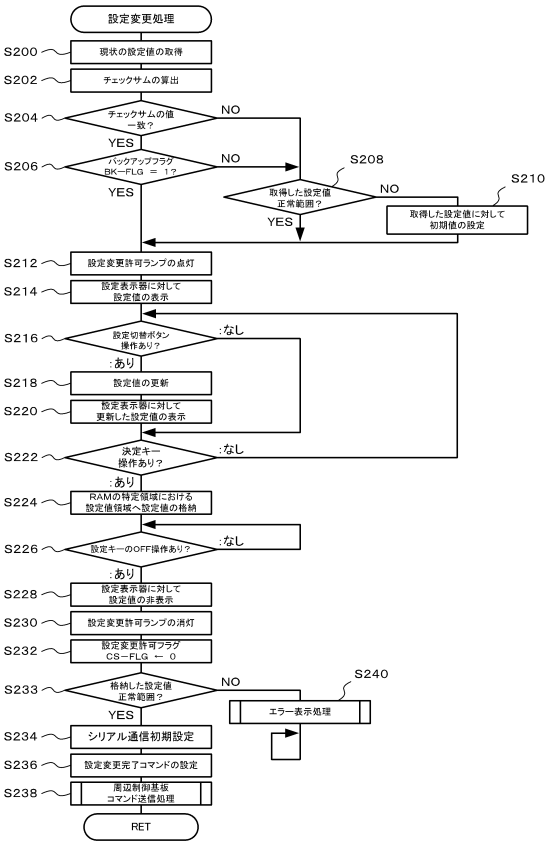
【図２７５】



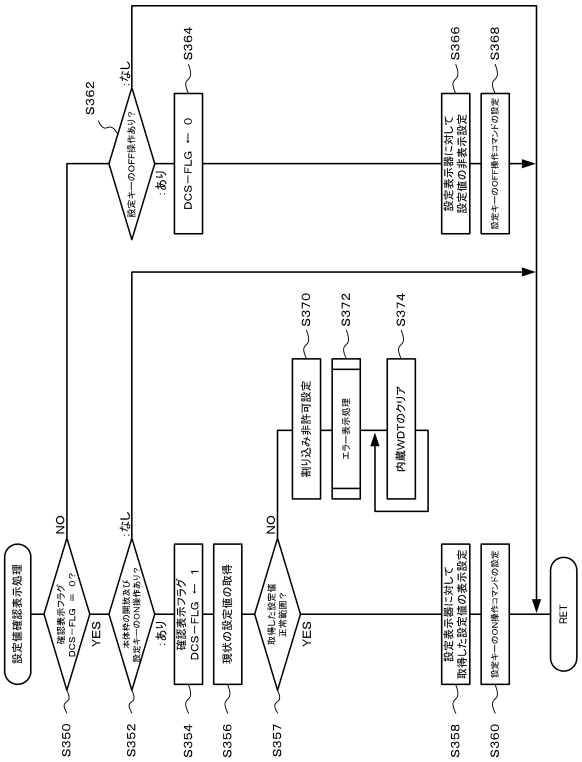
【図２７６】



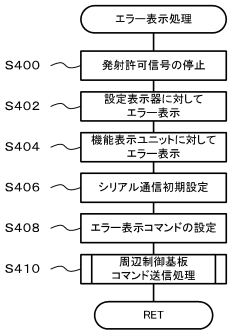
【図２７７】



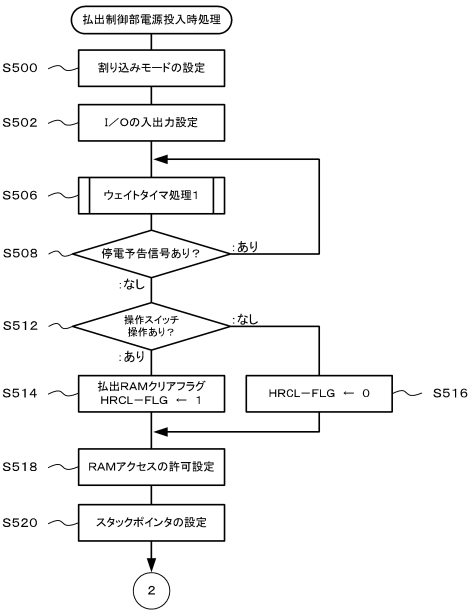
【図２７８】



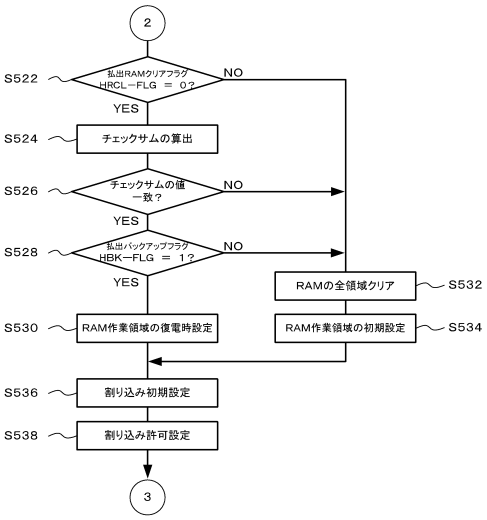
【図２７９】



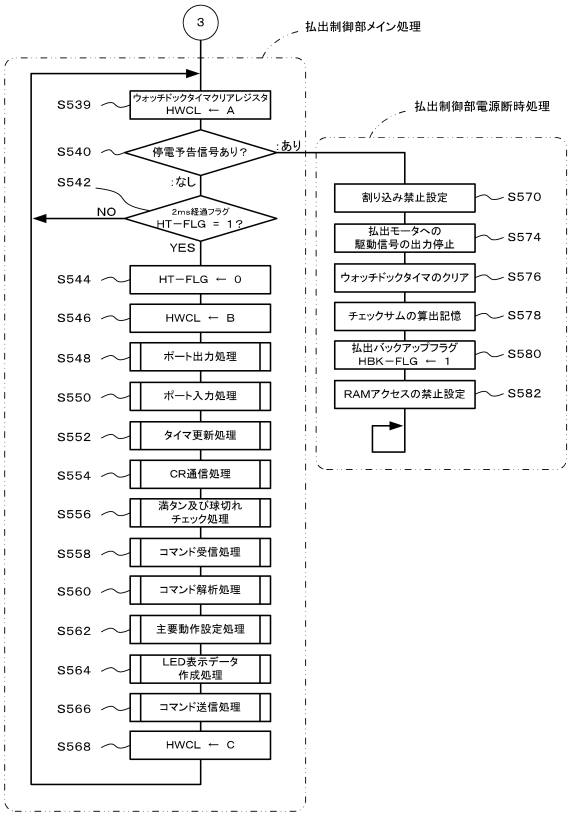
【図２８０】



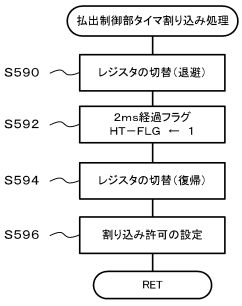
【図２８１】



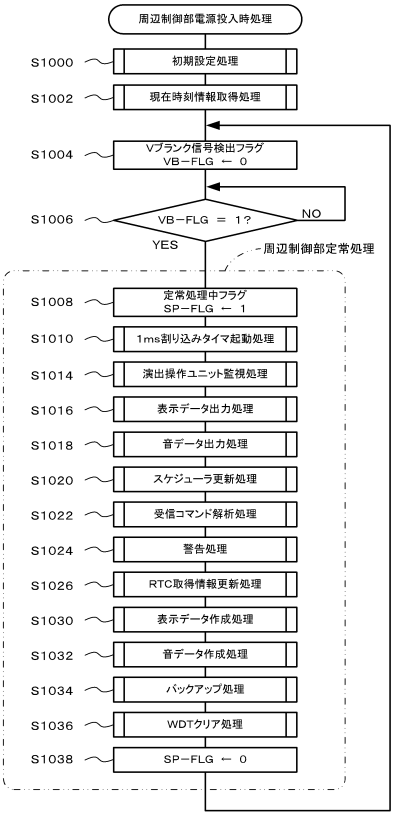
【図２８２】



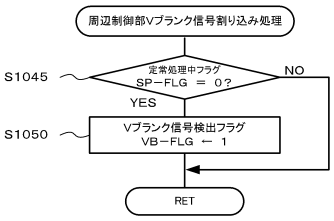
【図２８３】



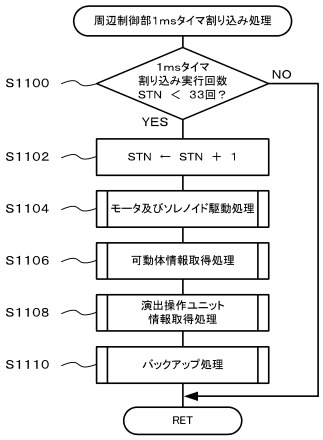
【図２８４】



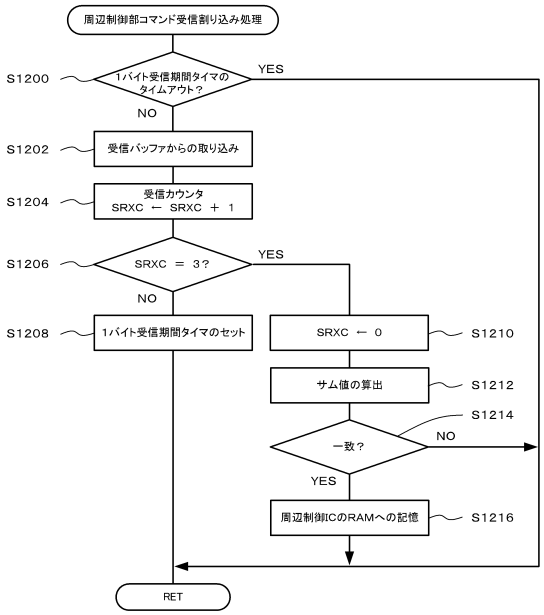
【図２８５】



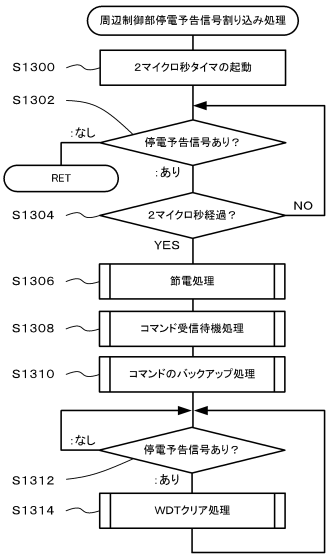
【図２８６】



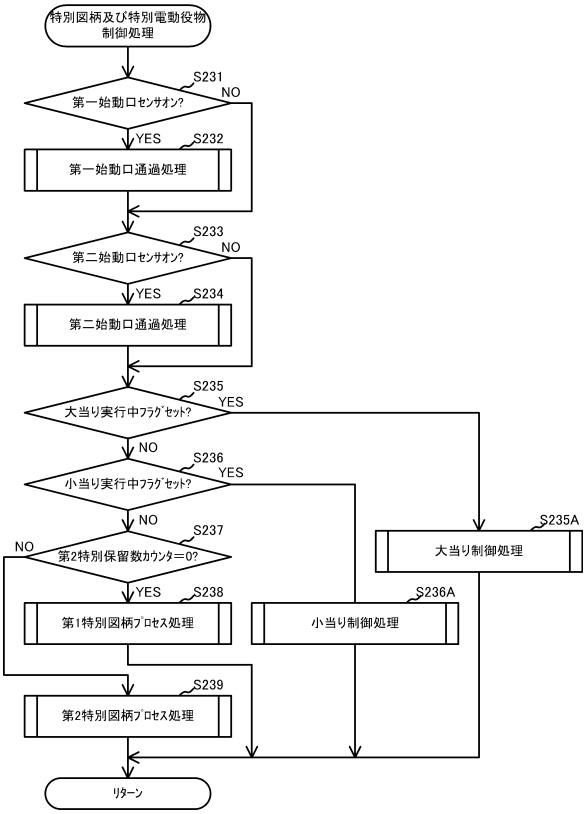
【図２８７】



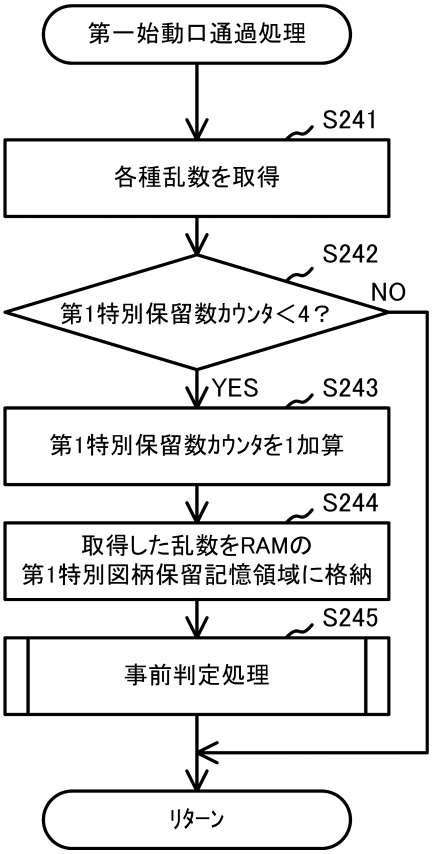
【図２８８】



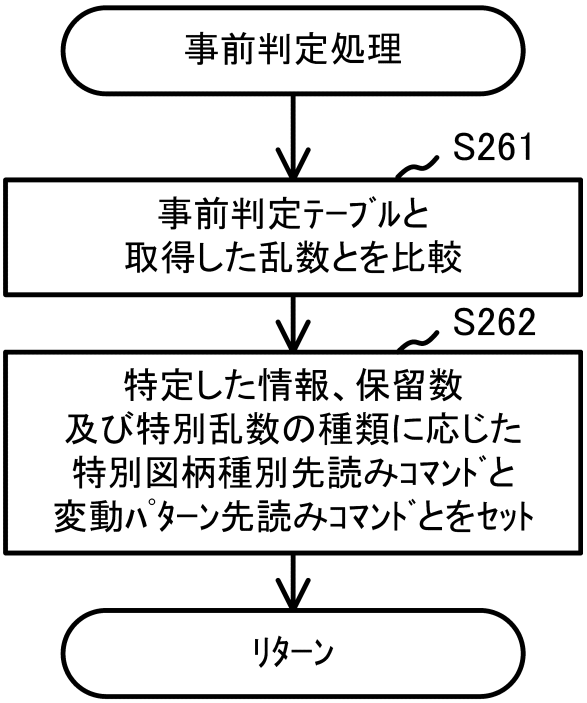
【図２８９】



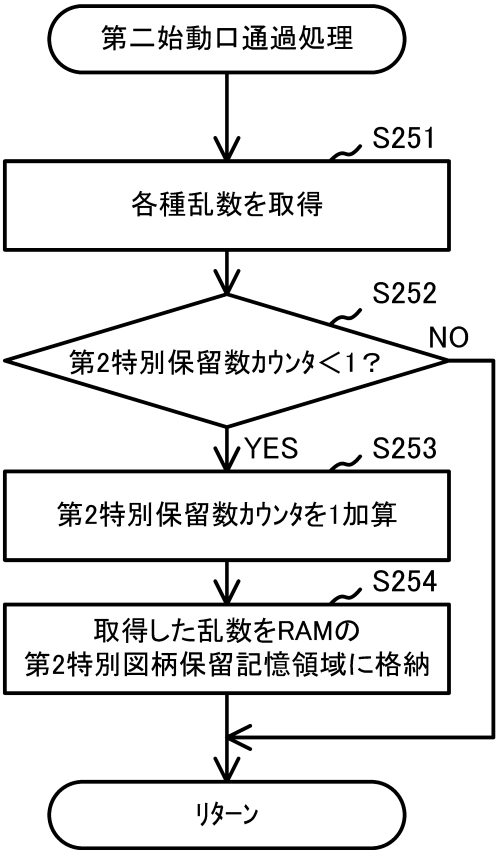
【図２９０】



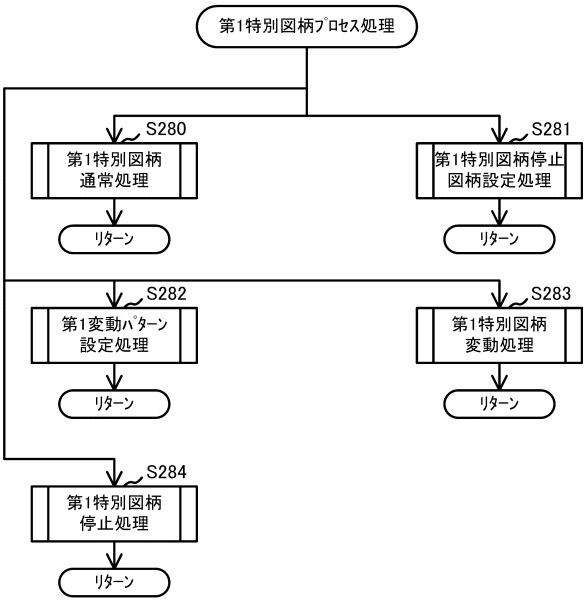
【図２９１】



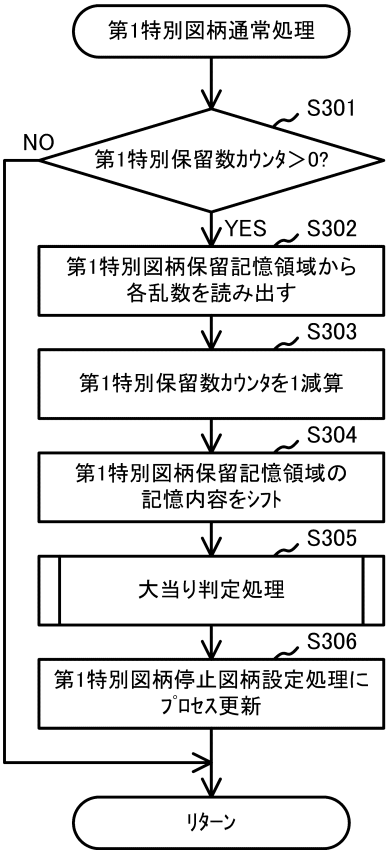
【図２９２】



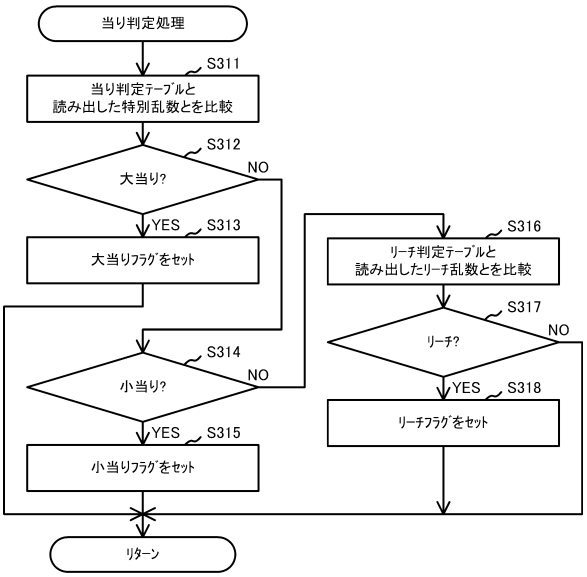
【図２９３】



【図２９４】



【図２９５】



【図２９６】

(A)当り判定テーブル

		設定1	設定2	設定3	設定4	設定5	設定6
第一特別乱数	大当り確率	1/319	1/309	1/299	1/289	1/279	1/269
	小当り確率	3/319	3/319	3/319	3/319	3/319	3/319
第二特別乱数	大当り確率	1/319	1/309	1/299	1/289	1/279	1/269
	小当り確率	144/319	144/319	144/319	144/319	144/319	144/319

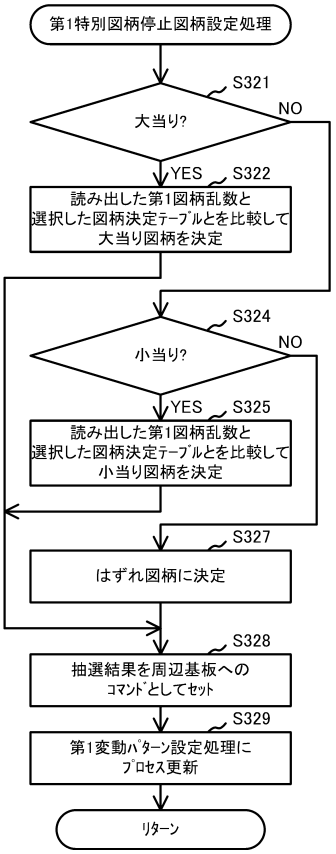
(B)大当り図柄決定テーブル:図柄乱数(0-199)

	2R大当り	5R時短大当り	15R確変大当り
第一図柄乱数	92	100	8
第二図柄乱数	8	100	92

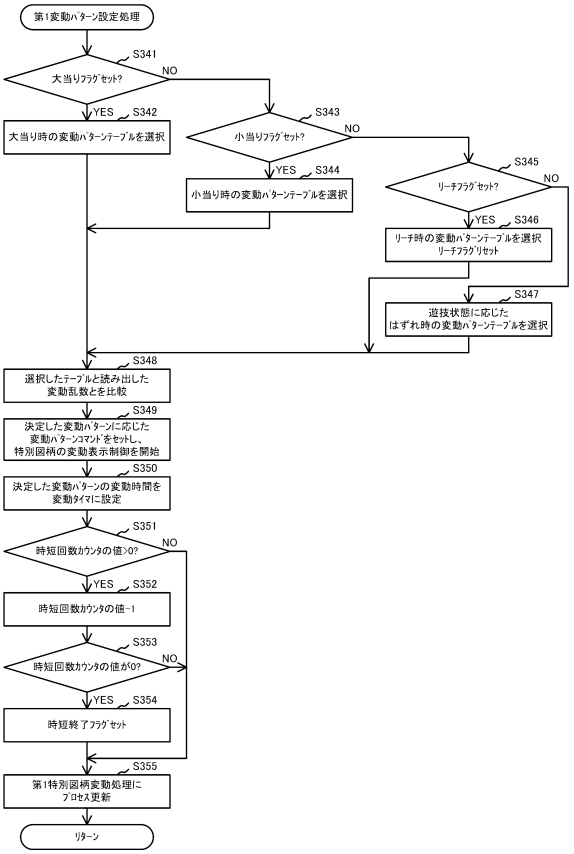
(C)小当り図柄決定テーブル:図柄乱数(0-199)

	第一小当り	第二小当り
第一図柄乱数	200	0
第二図柄乱数	20	180

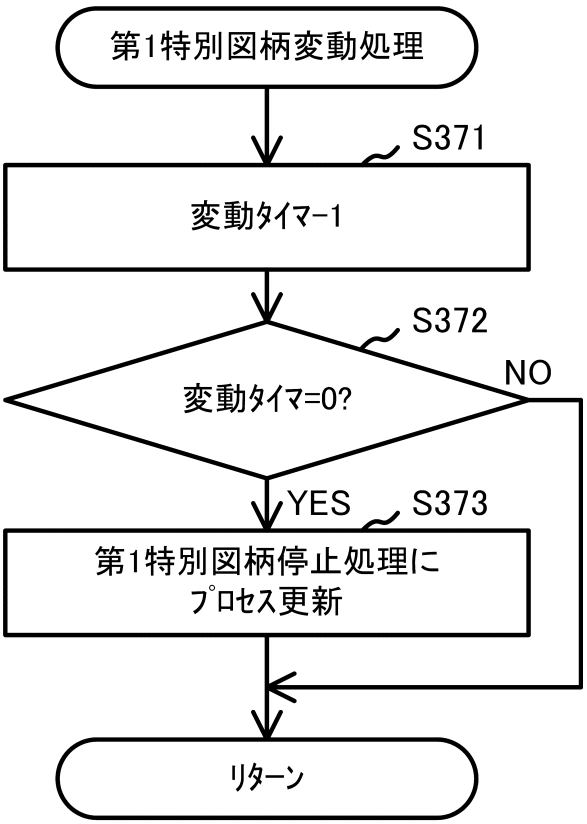
【図２９７】



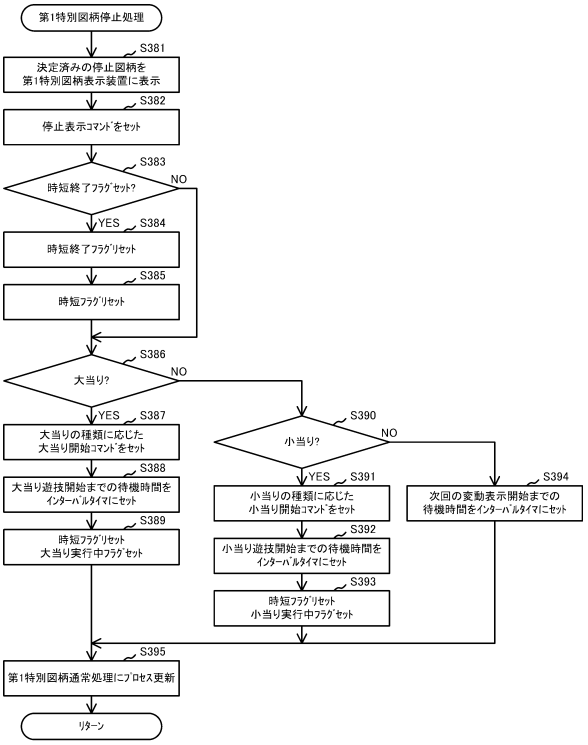
【図２９８】



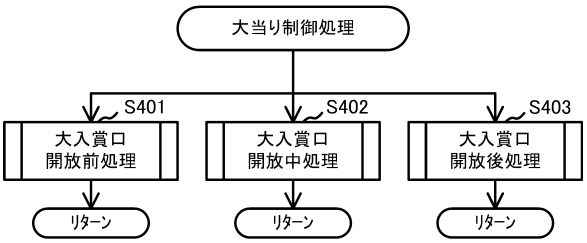
【図２９９】



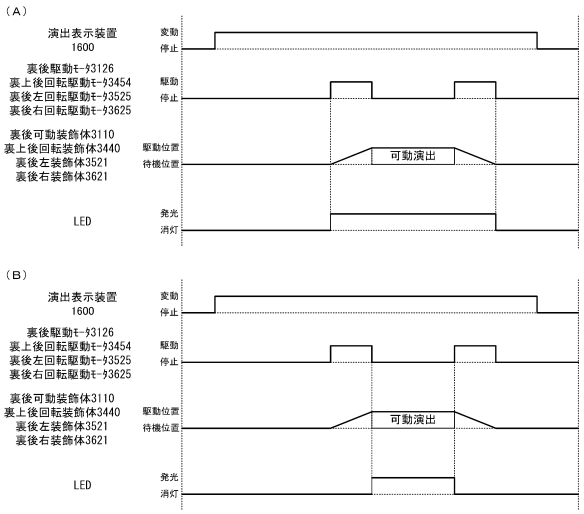
【図３００】



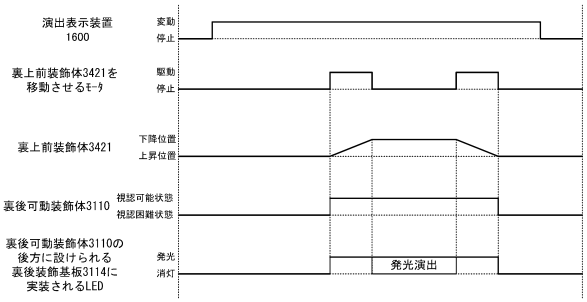
【図３０１】



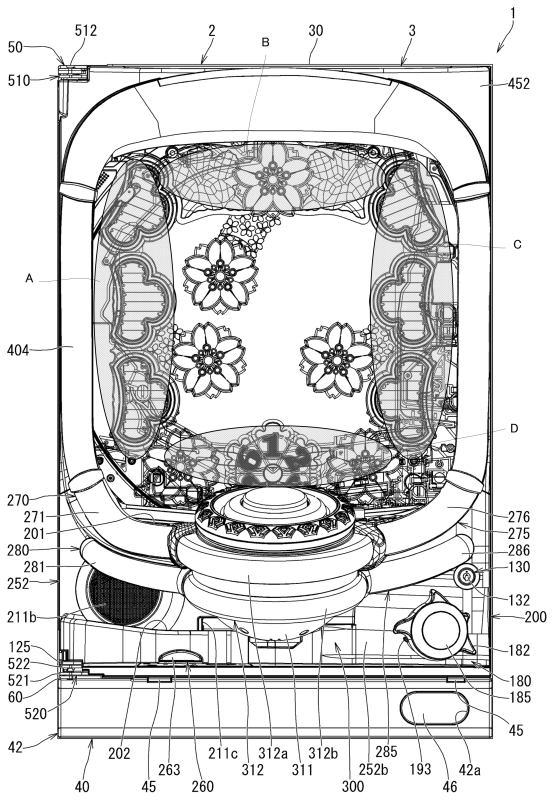
【図３０２】



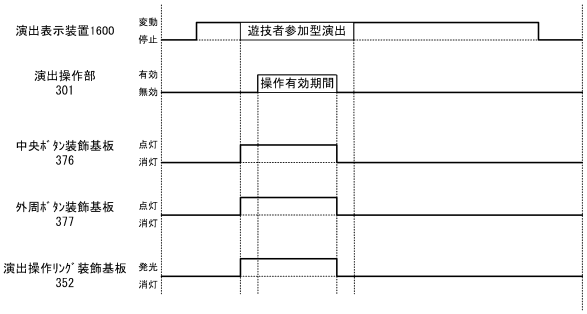
【図３０３】



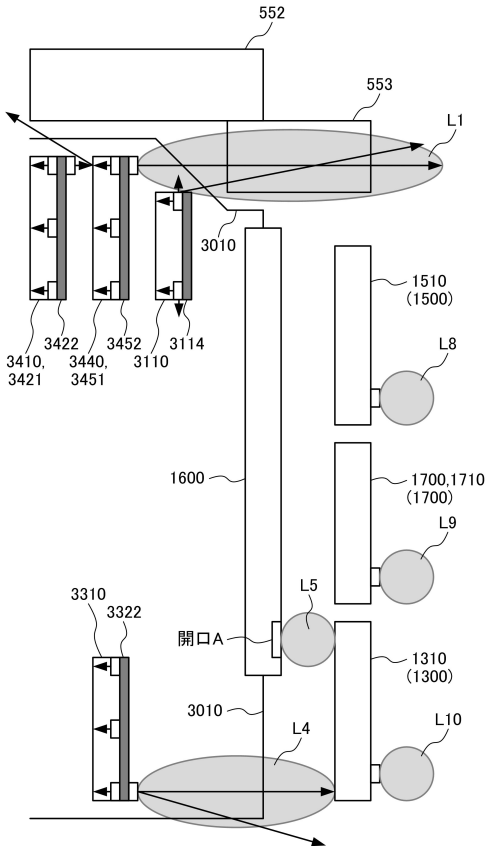
【図３０４】



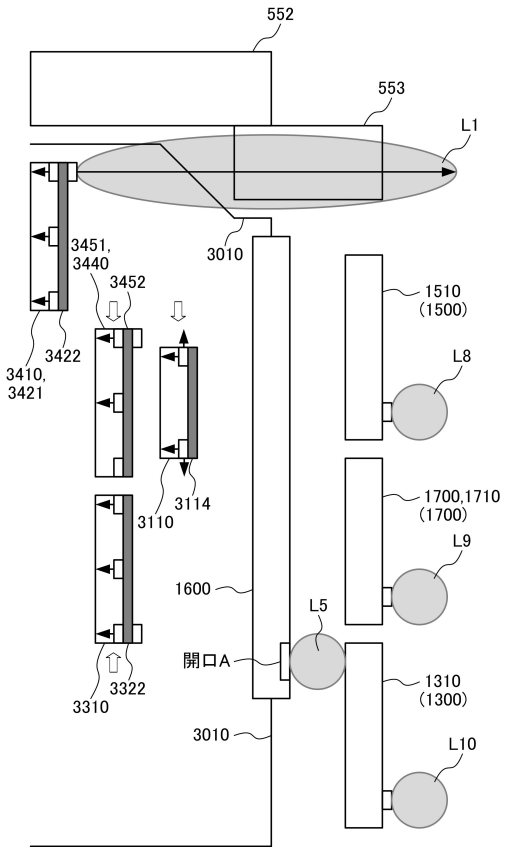
【図３０５】



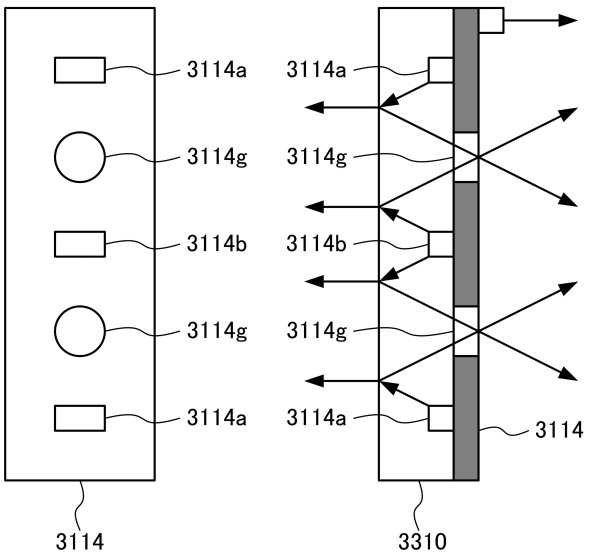
【図３０６】



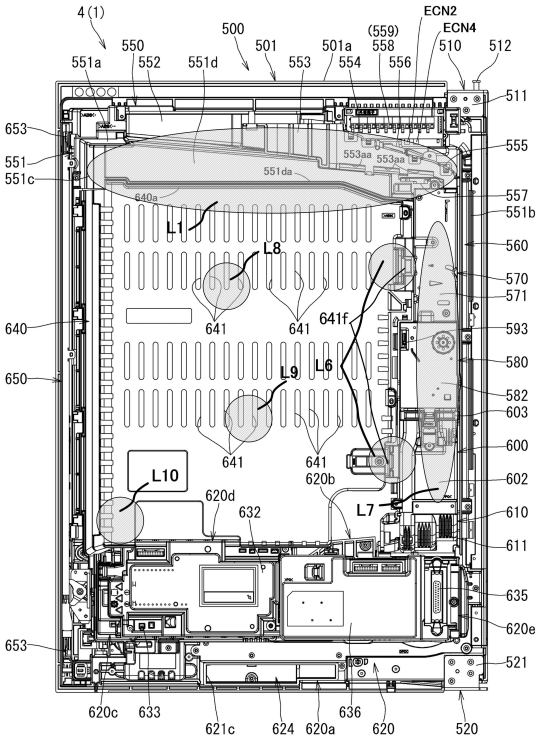
【図３０７】



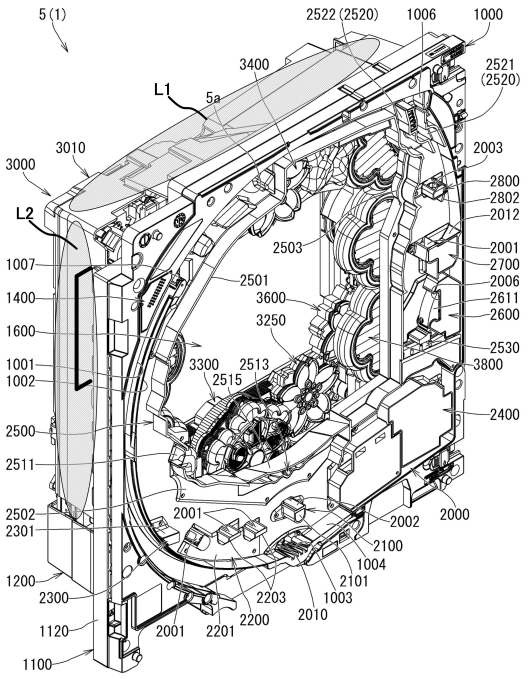
【図３０８】



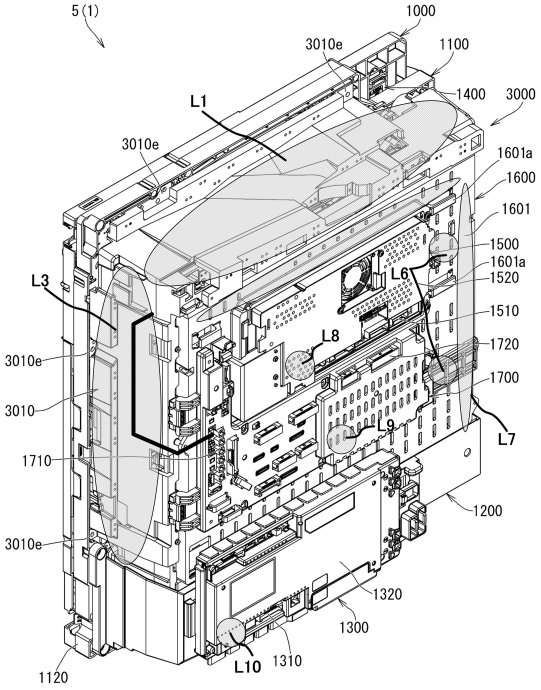
【図３０９】



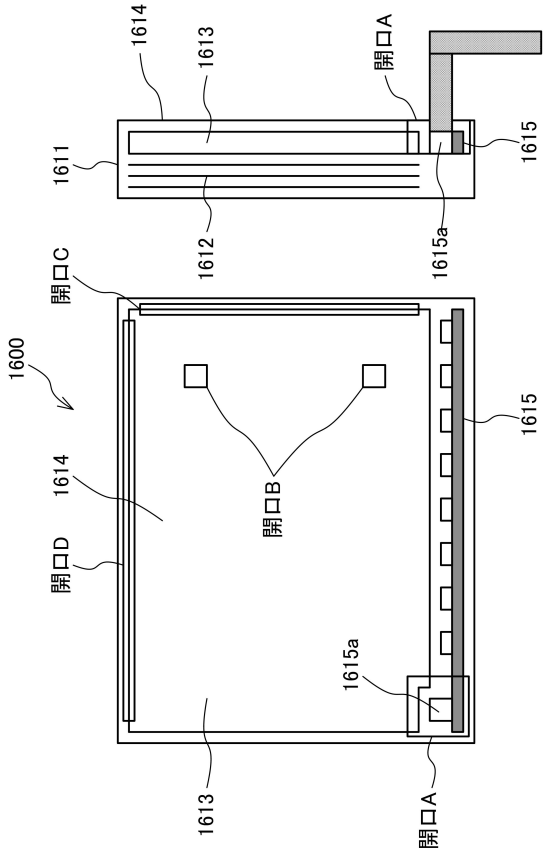
【図３１０】



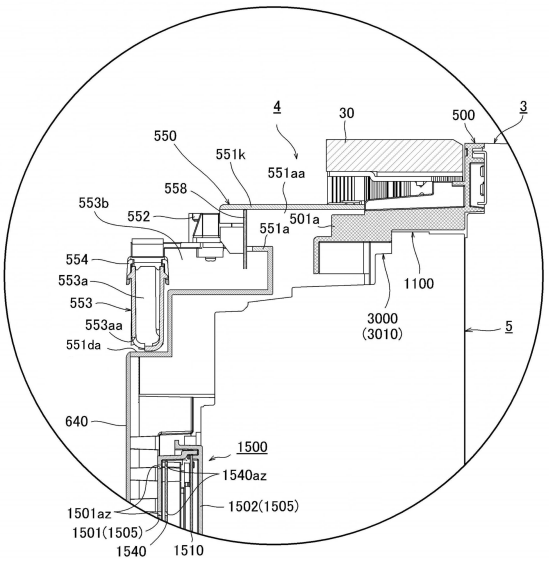
【図３１１】



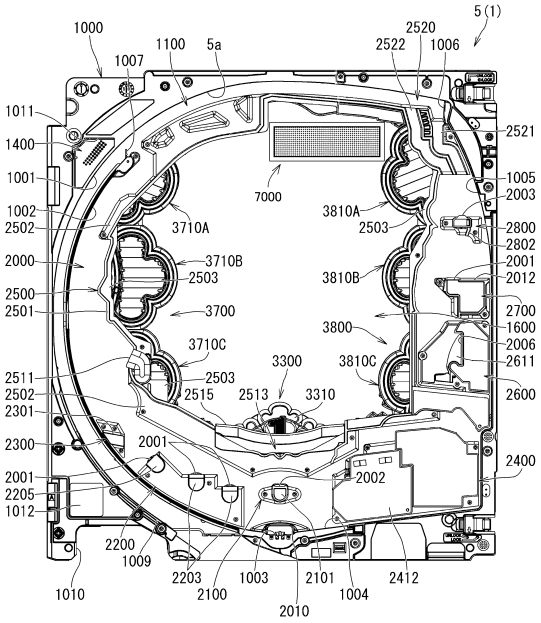
【図３１２】



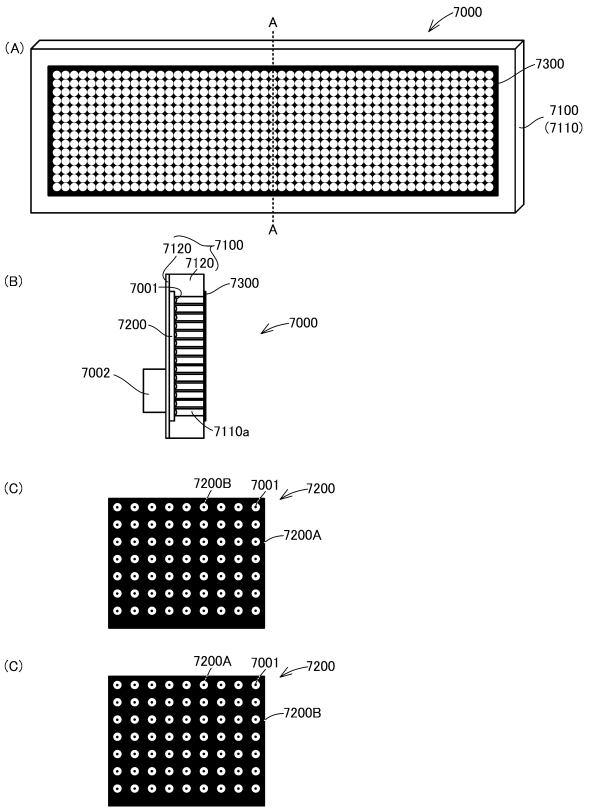
【図３１３】



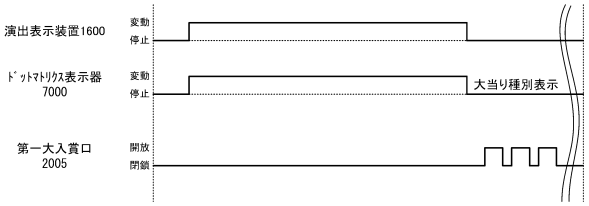
【図３１４】



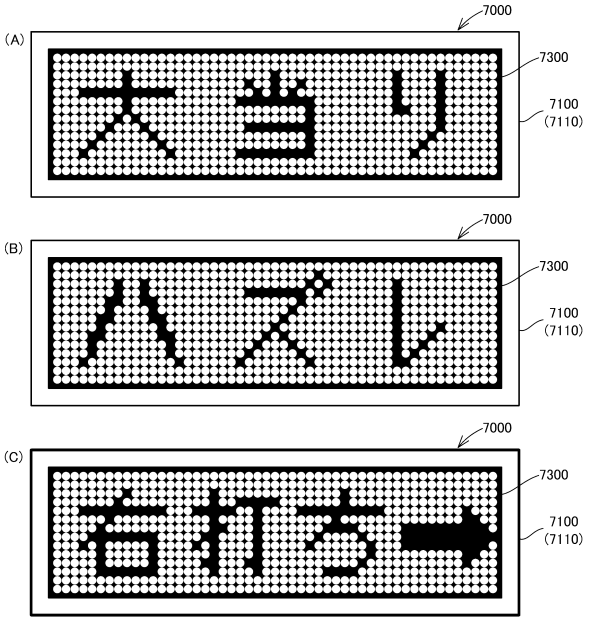
【図３１５】



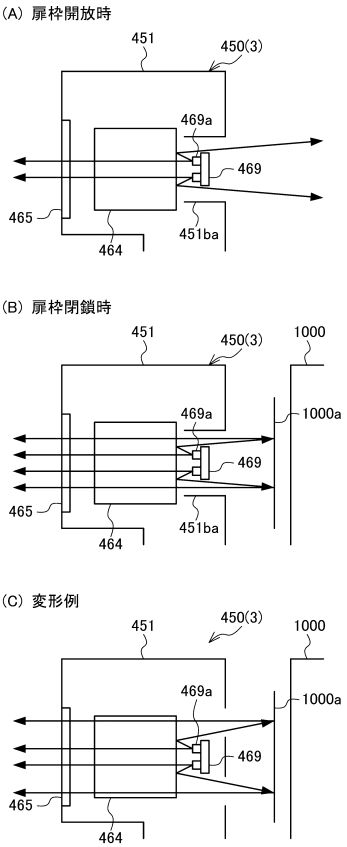
【図３１６】



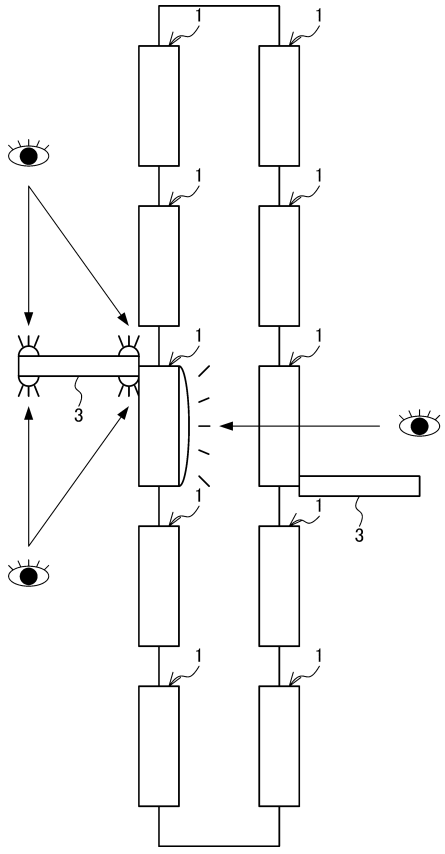
【図３１７】



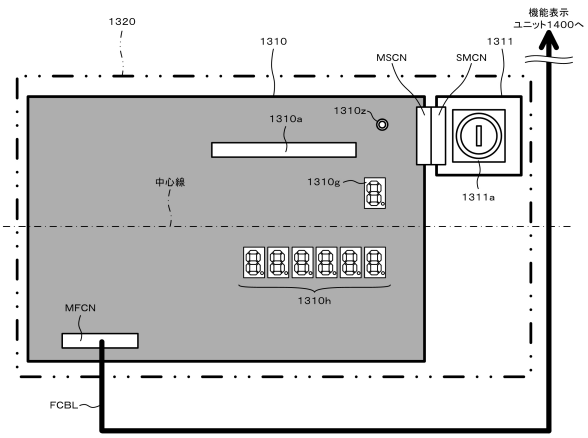
【図３１８】



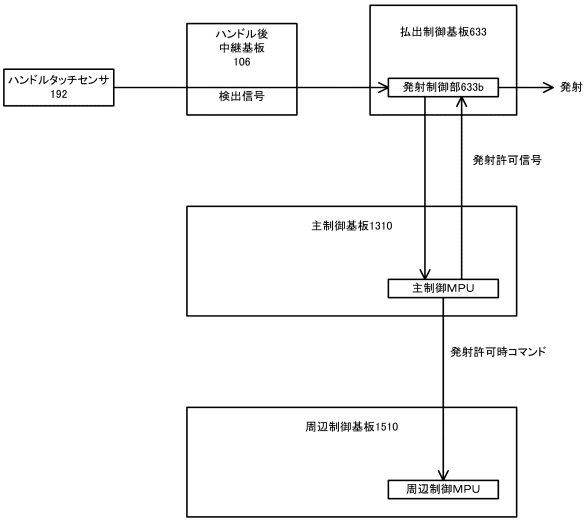
【図３１９】



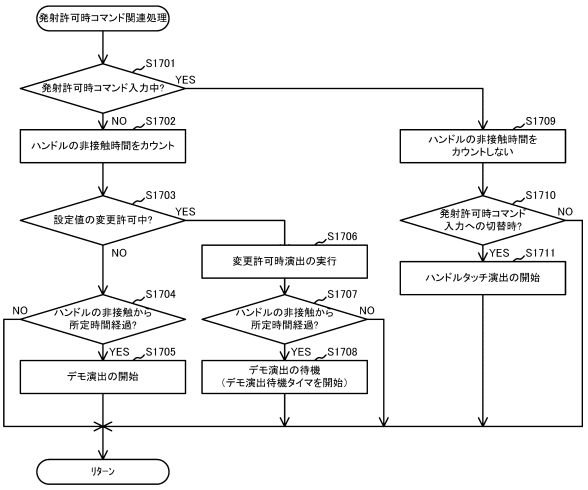
【図３２０】



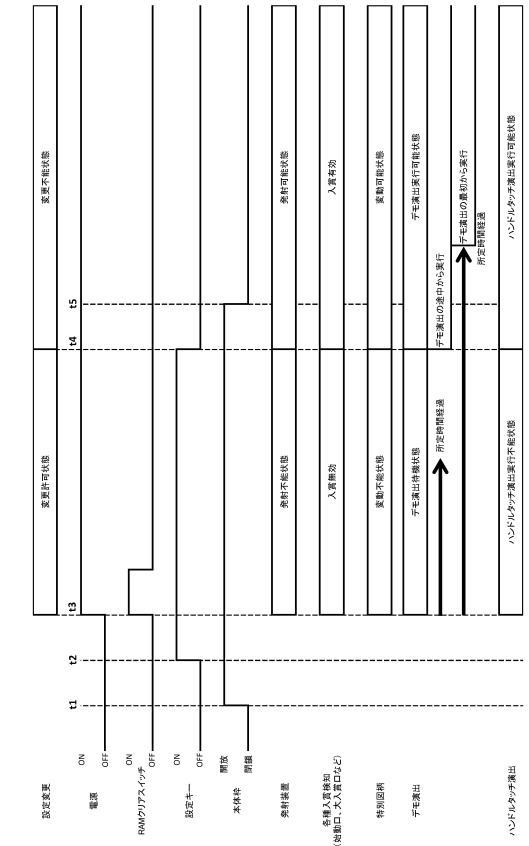
【図３２１】



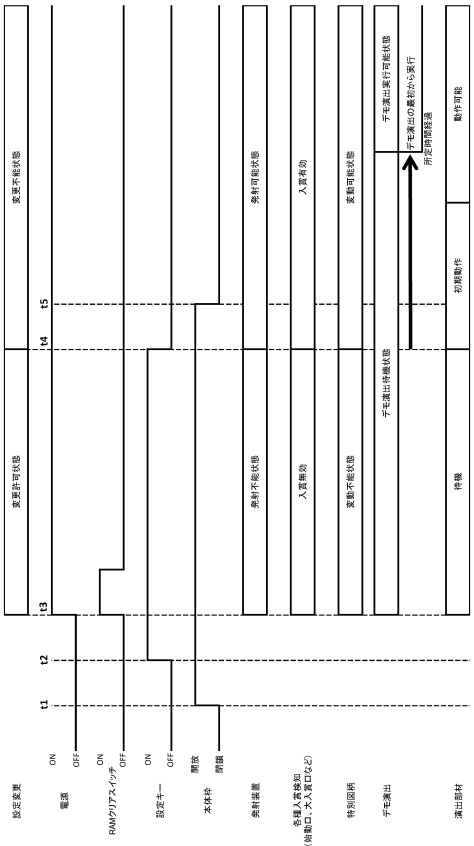
【図３２２】



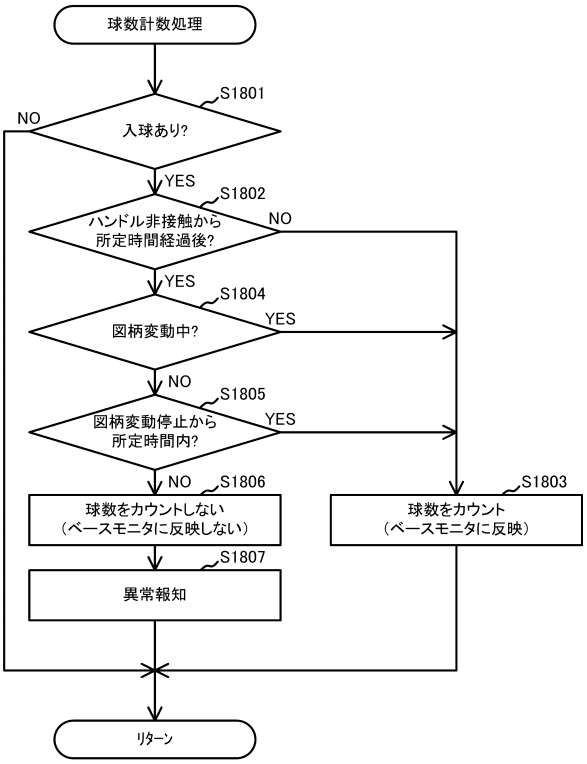
【図３２３】



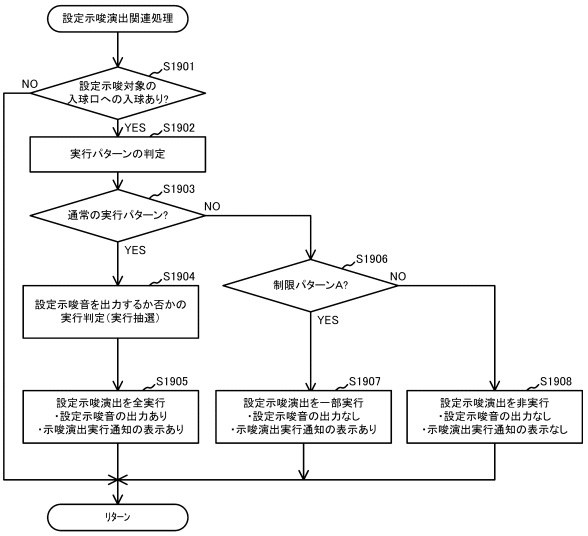
【図３２４】



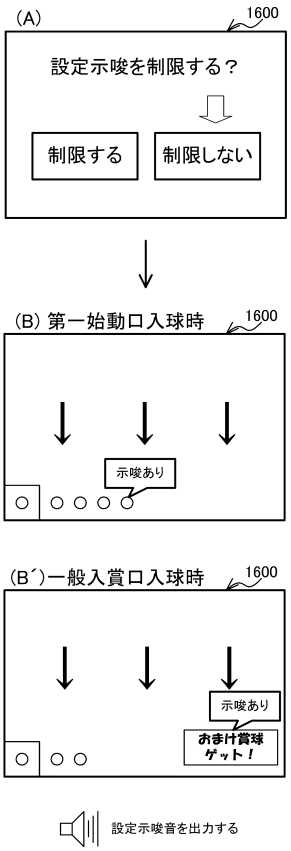
【図３２５】



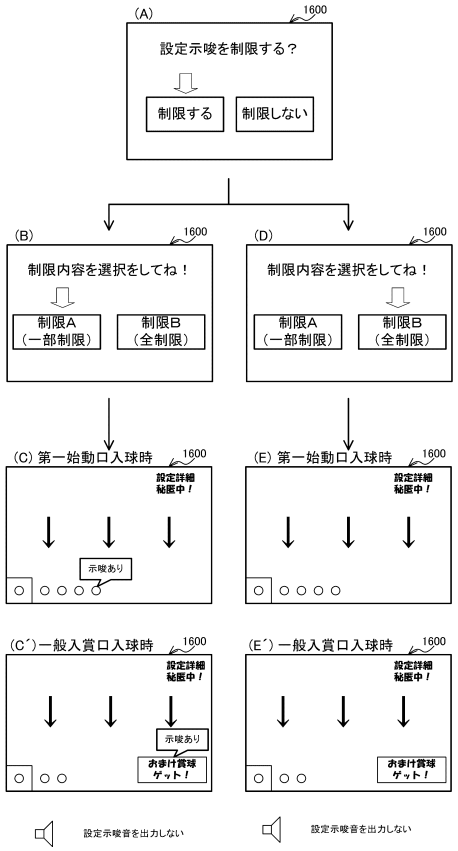
【図３２６】



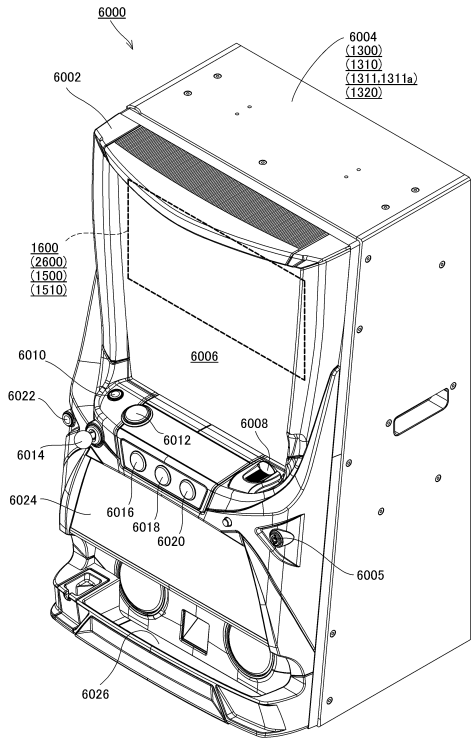
【図３２７】



【図３２８】



【図３２９】


6000
6004
(1300)
(1310)
(1311,1311a)
(1320)
6002
1600
(2600)
(1500)
(1510)
6010
6006
6022
6008
6012
6014
6024
6016
6018
6020
6005
6026

フロントページの続き

(56)参考文献　　特開２０１１－２１７９５６（ＪＰ，Ａ）
特開２００９－２１９９４１（ＪＰ，Ａ）
特開２０１４－１７１７３３（ＪＰ，Ａ）
特許第６５９８９３５（ＪＰ，Ｂ１）

(58)調査した分野　(Int.Cl.，ＤＢ名)
Ａ６３Ｆ　７／０２